ENCYCLOPAEDIA JUPITER



世界文化大百科事典

ENCYCLOPAEDIA JUPITER

8

テヒーハツキ



世界文化社



世界文化大百科事典
《ジュピター》

8

セット商品につき分冊販売不可

発行所　株式会社世界文化社
東京都千代田区九段北4-2-29
Tel(262)5111(代表)　〒102

発行者　鈴　木　勤
編　集　株式会社世界文化社
株式会社
日本アートセンター

印　刷　株式会社東京印書館
製　本　中央精版印刷株式会社
製　函　文京紙器株式会社
用　紙　神崎製紙株式会社
王子製紙株式会社
駿河製紙株式会社

表　紙　ダイニック株式会社

Printed in Japan　8211

凡　例

この《世界文化大百科事典　ジュピター》は，現代生活のあらゆる分野にわたって必要な項目約70,000を収録した。そして，項目の解説は，その記述内容が的確・敏速に把握できるよう，つとめて簡明・平易なものとしたが，各分野の基本的事項や現代社会における重要問題については特に約300の〈特別大項目〉を設け，一般項目との関連を保ちながら歴史的・体系的に解説し，総括的な理解が得られるようにしてある。また，カラー版による写真・図版約16,000点を全ページにわたって掲載し，内容の端的な理解に役だつようにした。

項目の見出し

1　各ページに収録されている項目を，そのページの上方欄外に示してある。偶数ページには最初の項目，奇数ページには最後の項目の，それぞれ第4音節めまでをかたかなで示した。ただし，促音〈っ〉・拗音〈ゃ〉〈ゅ〉〈ょ〉などの小字および濁音・半濁音は正音で示し，長音〈ー〉は除いた。

東　　京──→**トウキヨ**
ヨーロッパ──→**ヨロツハ**

2　項目の見出しは，〈かな見出し〉と〈本見出し〉とを示した。

かな見出し　　**本見出し**
げんじものがたり　【源氏物語】
エヌエイチケー　［NHK］
インキ　［ink］

1）国語読みおよびそれに準ずるものは，現代かなづかいによってひらがなの太字で示した。ただし，現代かなづかいの理解のうえで困難が予想される一部のものについては，〈見よ項目〉を立てて検索の便を図った。

ぬまず　【沼津】　⇨ぬまづ

2）外国語・外来語はかたかなの太字で示した。長音は〈ー〉で示し，〈ヴァ〉〈ヴィ〉〈ヴ〉〈ヴェ〉〈ヴォ〉〈ヂ〉〈ヅ〉は用いない。

ベートーベン　（ベートーヴェンとはしない）
ベネチア　（ヴェネチアとはしない）

ただし，外来語の意識が薄れて国語化されたものはひらがなで示した。

らしゃ　【羅紗】
らっぱ　【喇叭】

3）地名で，日本の行政区画および外国の国名・地域名，山・川・湖・砂漠などの名称のかな見出しは，検索の便を図って関連する項目を近くに集めるために固有名詞部分のみを示した。

おおさか　【大阪(府)】
おおさか　【大阪(市)】
ミシシッピ(州)
ミシシッピ(川)

4）中国・朝鮮の地名・人名は，原則として日本で慣用されている国語読みで示し，現地読みを本見出しのあとに併記した。

かほくしょう　【河北省】　ホーペイ省
ふざん　【釜山】　プサン
もうたくとう　【毛沢東】　マオツォートン

ただし，国内で現地読みが慣用されているものおよび国際慣用読みのものはそれに従った。

シャンハイ　【上海】
ペキン　【北京】
メイランファン　【梅蘭芳】

5）本見出しでは，かな見出しのひらがなの部分を代表的な漢字または漢字かな混じりで示し，外国語・外来語は原語のつづりを示した。

いれずみ　【入れ墨】　刺青・文身とも書く。
ウイスキー　［whisky］

ただし，原語のつづりでイタリック体は，植物を属名として取り上げた場合を示す。

アロエ　［*Aloe*］

項目の配列

1　かな見出しの五十音順に配列し，清音➔濁音➔半濁音の順とした。

{ **しんくう**　【真空】
　しんぐう　【新宮(市)】
　じんぐう　【神宮】

{ **はい**　【肺】
　ばい　【蛽】
　パイ　［pie］

2　促音・拗音などの小字は直音より前に配列した。

{ **じゅう**　【銃】
　じゆう　【自由】

3　長音の〈ー〉は音順から除外したが，同格の場合は長音のあるほうをあとにした。

{ **あへん**　【阿片】
　アーヘン　［Aachen］

4　同音のものは次の順とした。

a）見よ項目➔解説のある項目

{ **あか**　【赤】 ⇨色
　あか　【垢】

b）普通名詞➔固有名詞

{ **じゅんし**　【殉死】
　じゅんし　【荀子】

c）固有名詞では地名➔人名

d）町名などで同音の場合は北から南への順

e）人名などで同音の場合は生年の早い順

特別大項目

〈特別大項目〉はページを改め，各ページの上下にけい線を入れて一般項目と区別した。したがって，五十音順による項目配列の当該の位置には，その特別大項目のあるページ数を示した。

大項目の例

うちゅう

宇　宙

すべての天体とそれを含む全空間，いいかえれば物質・エネルギーが存在する……

用字用語

1　かなづかいは，歴史的かなづかいで示す必要のある場合を除き，すべて現代かなづかいを用いた。

2　送りがなは，原則として《送りがなのつけ方》(1959年内閣告示)によった。

3　漢字は，原則として《当用漢字音訓表》の範囲で用いた。ただし，固有名詞・歴史的用語・術語などは当用漢字以外のものも用い，（　）の中にその読み方をひらがなで示した。

4　生物の科名・種名および岩石・鉱物・元素・化合物などのうち，教科書・専門書でかたかなの表記が慣用になっているものは，それにならった。ただし，生活語として成語化されている語はかたかなの表記を用いない。

5　年代は，原則として西暦で示した。ただし，国内に関する記述の場合は，その項目の初出の箇所に年号を併記した。

6　外国地名の表記は，原則として文部省編《地名の呼び方と書き方》によった。人名も地名に準じた。

7　外国語・外来語の表記については，〈項目の見出し〉に準じた。

人口統計の数値

1　日本の都道府県市町村の人口は，自治省行政局編《昭和55年版住民基本台帳に基づく全国人口世帯数表》によった。ただし，10,000以上の場合は100の位で，10,000以下の場合は10の位で四捨五入した。

2　都道府県市の産業三大別人口比（農林水産業などの第1次産業，鉱業・建設業・製造業などの第2次産業，商業・金融業・運輸業・サービス業などの第3次産業の人口の割合）は，総理府統計局編《昭和50年国勢調査報告》によった。

3　外国およびその地域・主要都市の人口は，主として国際連合編《人口統計年鑑1976年版》によったが，他の資料によって補ったところも多い。

地　図

1　日本の都道府県と8地方，世界の独立国と6大州には多色刷り地図を設け，また日本の大都市や国立公園などには観光の便などを図って考案した地図が設けてある。

2　地図の記号は一般の地図記号に準じているが，都市記号の人口による段階は各図に凡例がつけてある。

3　都道府県と独立国の地図の地貌表現は，等高線段彩で示した。しかし，全貌をとらえやすくするために等高線示度を図によって変えてあり，その数値は各図中の等高線上に記入してある。

4　地図中の地名の表記は，本文の地名表記の基準に従っ

た。

符号・記号

解説文中に用いた，おもな符号・記号は次のとおりである。

⇨　指示した項目にこの項目の解説があることを示す。

かんさいべん　【関西弁】 ⇨方言
しょせき　【書籍】 ⇨図書
サイン　⇨正弦
ジンフイズ　⇨カクテル

→ ➔　解説文中または末尾につけて，参照・関連項目を示す。

抽象主義(→アブストラクト-アート)は，
従来の漢方(→東洋医学)を背景としたもの
あいいろ　【藍色】 ……(解説)……。➔色

*　解説文中の用語の右肩につけて，その語が項目として別に立てられていることを示す。

あんざんがん　【安山岩】 中性の火山岩*。
いほうじん　【異邦人】 カミュ*の小説。

〔 〕〈 〉解説文中に中見出し・小見出しを施し，解説内容の整理を図ったことを示す。

アイヌの場合
〔名称・歴史〕
〔生活〕
〔衣食〕
〔住居〕
〔風俗習慣〕
〔音楽〕
貨幣の場合
〔種類〕
〔制度〕
〔歴史〕〈西洋〉〈中国〉〈日本〉

〈 〉　引用文または強調する語であることを示す。

日本国憲法第９条に〈日本国民は，正義と ……
戦没者の塔や〈ひめゆりの塔〉などがあり， ……

《 》　書名・曲名・題名を示す。

《日本書紀》
《カルメン》

( )　語句の言い替え・補足説明や，年号の併記などを示す。

病変米(黄変米)
燃料ガス(都市ガス)
慶長年間(1596～1614)
1872年(明治５)

( )　読みがなであることを示す。

石川啄木(たくぼく)
伊豆(いず)半島
香港(ホンコン)

科学記号・略符号

本事典では，次の範囲で単位記号・略符号を用いた。ただし，必要に応じてこれら以外のものも用いた。

mμ	ミリミクロン	cal	カロリー
μ	ミクロン	Cal	大カロリー(栄養学で)
mm	ミリメートル	℃	セ氏温度
cm	センチメートル	°K	絶対温度
m	メートル	A	アンペア
km	キロメートル	V	ボルト
cm^2	平方センチメートル	W	ワット
m^2	平方メートル	kW	キロワット
km^2	平方キロメートル	kWh	キロワット時
cm^3	立方センチメートル	km/秒(分，時)	速さ
m^3	立方メートル	%	パーセント
cc	1/1000リットル	‰	パーミル
ml	ミリリットル	ppm	ピーピーエム
l	リットル	mmHg	水銀柱ミリメートル
g	グラム	pH	ピーエイチ
kg	キログラム	° ′ ″	度・分・秒(角度・緯度・経度)
t	トン		

装丁　田中一光

特別大項目目次　第8巻

てひ

デービー [Humphry Davy] (1778～1829) イギリスの化学者。コーンウォール州ペンザンスに生まれ，1801年王立研究所の実験助手となり，のち同教授。1807年電気分解法によってはじめてアルカリ金属およびアルカリ土類金属の分離に成功，カリウム・ナトリウム・カルシウム・ストロンチウム・バリウム・マグネシウムを遊離して，1808年最初のナポレオン賞を受賞。またハロゲン類の研究から塩素が単体であることを証明し，酸水素説の確立に貢献。このほか，1816年に発明されたデービーランプ(安全燈)は現在も用いられ，またボルタ電池による放電で最初の人工光の公開実験を行なった。ファラデー*を見いだしたことは有名。〔山下愛子〕

デービス(海峡) [Davis] 北アメリカ，グリーンランドとバフィン島の間にある海峡。北のバフィン湾から寒流のラブラドル海流が海峡を南下し，ニューファンドランド島付近まで及ぶ。両岸にはいくつものフィヨルドや，氷河が迫っている。1587年イギリスの探検家ジョン-デービスによって発見された。

デービス [Jefferson Davis] (1808～1889) アメリカの政治家。南北戦争*中の1861～1865年の間，アメリカ連合*の大統領。ケンタッキーに生まれ，1828年ウェスト-ポイント陸軍士官学校卒業後，故郷でプランテーションを経営。1845年民主党から連邦下院議員になったが，1846年アメリカ-メキシコ戦争勃発(ぼっぱつ)で辞任し従軍した。1847年上院議員，1853年ピアース大統領の陸軍長官となり，州権論と奴隷制拡大を擁護して，キューバ獲得を提唱した。南北戦争に際しては，ミシシッピ州の連邦脱退に従い上院議員を辞任し，南部連合大統領となり戦争を指揮した。1865年ジョージア州で捕虜となるが，1867年釈放された。以後《アメリカ連合の興亡》の執筆に専念した。〔折井一彦〕

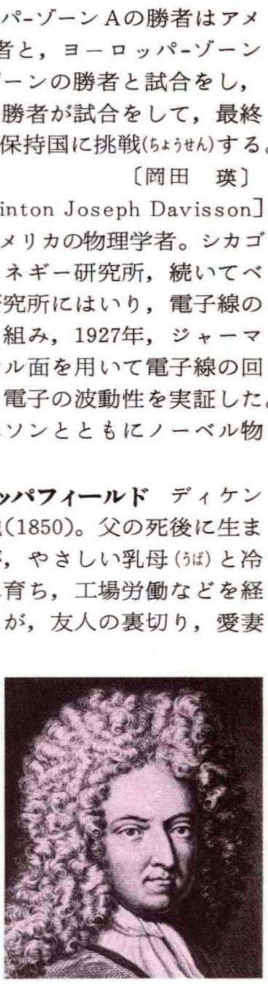
デービス [William Morris Davis] (1850～1934) アメリカの地理学者・地質学者。ハーバード大学卒業後，1890年以来同大学教授。地表の形態を進化の一段階として説明する侵食輪廻(りんね)説をうちたて，近代地形学の発達におおいに貢献。1904年アメリカ地理学者協会を創設，会長をつとめ，さらに1911年地質学会会長。主著に《地形の説明的記載》(1912)などがある。

デービス [Miles Davis] (1926～) アメリカのジャズ-トランペット奏者・作曲家。イリノイ州の生まれ。1940年代中ごろにD.ガレスピー*やC.パーカー*の影響を受けて登場，クール-ジャズの創造で注目された。1950年代中ごろにはハード-バップを，1950年代の終わりにはモード-ジャズを演奏してジャズ界をリードし，最近はロック-ビートや電気サウンドを導入，未来のジャズを示唆している。なおコンボ演奏だけでなく，作曲・編曲者ギル-エバンスと組んで《スケッチ-オブ-スペイン》などビッグバンド-ジャズでも独創的な作品をつくっている。代表作《クッキン》《ビッチェス-ブリュー》など。〔岩浪洋三〕

デビスカップ [Davis cup] イギリスとアメリカの間で行なわれていたテニスの対抗試合に，アメリカのテニス選手ドワイト-デビスが1900年に寄贈した純銀製の優勝杯。1883年以来イギリス・アメリカ間の非公式の試合が，デビス杯の寄贈を端緒にインターナショナル-ローンテニス-チャンピオンシップという公式戦として発足したが，ふつうデビスカップ-マッチ(デ杯戦)とよばれる。その後しだいに参加国がふえ，現在は国際庭球連盟主催のもとに50余か国が参加する大きな行事となった。試合は，各国が２～４人の代表選手を指名し，シングルス４試合とダブルス１試合を行なう。1966年以来ヨーロッパ(Ａ・Ｂ)・アメリカ・東洋の各ゾーンに分かれ，ゾーンの地域外の国はどのゾーンに参加することも自由である。各ゾーンごとに勝ち抜き戦で勝者を決定し，ヨーロッパ-ゾーンＡの勝者はアメリカ-ゾーンの勝者と，ヨーロッパ-ゾーンＢの勝者は東洋ゾーンの勝者と試合をし，さらにそれぞれの勝者が試合をして，最終勝者が前年のデ杯保持国に挑戦(ちょうせん)する。〔岡田 瑛〕

デービソン [Clinton Joseph Davisson] (1881～1958) アメリカの物理学者。シカゴ大学で学び，カーネギー研究所，続いてベルテレフォンの研究所にはいり，電子線の散乱の問題に取り組み，1927年，ジャーマーとともにニッケル面を用いて電子線の回折実験を行ない，電子の波動性を実証した。1937年，G.P.トムソンとともにノーベル物理学賞を受賞。

デービッド-コッパフィールド ディケンズ*の自叙伝的小説(1850)。父の死後に生まれたデービッドが，やさしい乳母(うば)と冷酷な義父のもとに育ち，工場労働などを経て文筆業にはいるが，友人の裏切り，愛妻の病死などに遭遇，しかし文名をあげ再婚するという物語。感受性豊かな青年の人生遍歴を数多くの登場人物を交えて描いたもので，教養小説*というよりは一種のピカレスク小説*となっている。誇張と異様な対照技法による性格描写が印象的な作品。〔長崎勇一〕



デフォー

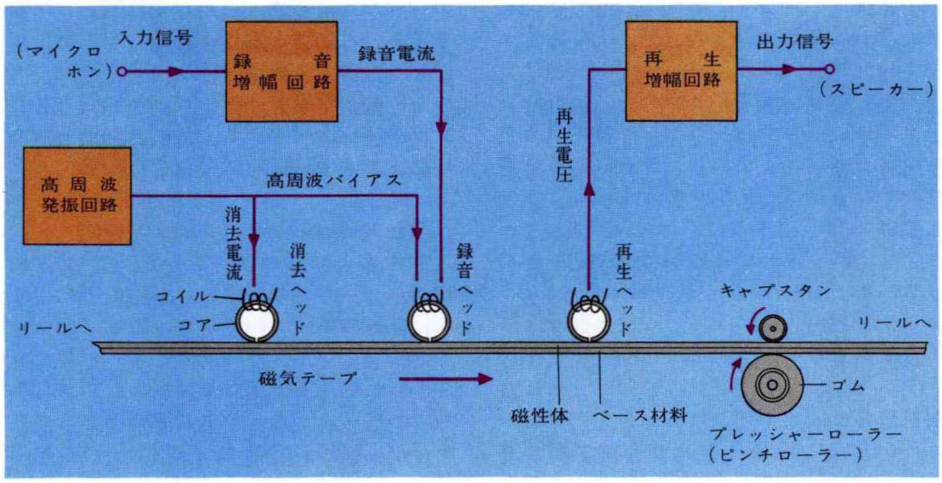
デヒドロゲナーゼ ⇨脱水素酵素

デフォー [Daniel Defoe] (1660？～1731) イギリスの小説家。肉屋の子に生まれ，数種の職についたのち，政治パンフレットの書き手として一流のジャーナリストであったが，筆禍事件で投獄され，さらし台にのせられたこともある。余技として手がけた小説類が好評で，《ロビンソン-クルーソー*》(1719)はのちに近代リアリズム(写実主義*)小説の元祖といわれるようになった。その後〈本当にあった話〉と称する作り話を次々と発表，いずれも時流に合って歓迎された。代表作は，女盗賊と娼婦(しょうふ)をヒロインとした《モル-フランダース》《ロクサナ》，17世紀末ヨーロッパに流行した疫病に取材した《疫病流行記》など。いずれも〈実録〉を称したため如実な描写に専念し，そこからリアリズム小説が生まれたが，一方プロテスタントの倫理性が濃厚である。〔沢村 灌〕

てぶくろ 【手袋】 手にはめる袋状のおおい。５本の指に分かれているもの(グラブ)と，親指のみ分かれているもの(ミトン)とがあり，ミトンは婦人用の指先のない長手袋をいうこともある。今日のグラブ状になったのは12世紀ごろからである。防寒用・装飾用・礼装用に使われるほか，作業用・スポーツ用(野球やボクシングなど)・医療用のものもあり，武具の籠手(こて)なども含まれる。現在ではフォーマルな装いに欠かせないアクセサリーで，男子の礼服には白のキッド，モーニングには白絹を用いる。女子もフォーマルな場合は白のキッドか，腕までおおう白絹を用い，ほかにはヤギ皮・布・毛糸・レースなどがある。〔小池千枝〕

デーブリン [Alfred Döblin] (1878～1957) ドイツのユダヤ系小説家。精神科医をつとめつつ，文芸誌《シュトルム(嵐(あらし))》によって活躍。その著作がナチスの焚書(ふんしょ)にあい，一時フランス・アメリカへ亡命した。初期作品は表現主義*的であったが，のちには事実性とその報告とを重視，《ベルリン-アレキサンダー広場》など新即物主義*を代表する作品を書いた。ほかに《山と海と巨人》や４部作《1918年11月》など。

テーブルさんご 【テーブル珊瑚】 腔腸(こうちょう)動物・花虫綱・六放亜綱・ミドリイシ科。亜熱帯・熱帯のサンゴ礁地方の浅海に普通に見いだされ，ミドリイシなどとともにサンゴ礁の重要な構成要素になっている。群体をなして，全体が円盤もしくはテーブル状になるのでこの名がある。群体は大きいものは直径数ｍにも達する。八放珊



テープレコーダー

珊亜綱のサンゴ類とは異なり，これらイシサンゴ類は装身具にはならないが，骨格を白くさらしてへやの装飾などに用いられる。〔向井　宏〕

テーブルスピーチ　会合の席でその場のふんい気を明るくなごやかにする目的で行なう短い話。卓上演説，５分間演説または単にスピーチともいう。結婚披露宴(ひろうえん)で行なうものが代表的。未知の人がいる席では自己紹介から始めることが多い。初会合などでは自己紹介そのものがスピーチの中心になる。あいさつが形式的・儀礼的であるのに対して，スピーチは個性的・内容的である。くつろいだふんい気をつくるのがねらいなので即興のよさが尊ばれ，その場で原稿を読み上げるような型は避けようとする人が多い。しかし，緊張や不慣れのために堅くなり，話のまとまりがつかなくなるという場合もあるから，初心者は軽妙さばかりをねらわないほうがよい。スピーチを求められそうな席へ出るときは，話の要点をメモするくらいの準備はしておく。心得としては時間は３分程度とし，堅すぎる話や個人の品位を傷つける話は避けることなどである。〔芳賀　綏〕

デフレギャップ　deflationary gapの略称。国民所得分析において，総需要が完全雇用の生産能力に及ばず不足しているとき，この需要の不足分をいう。デフレギャップが存在するとき，経済は過少雇用均衡の状態にあり失業者が発生する。したがって失業をなくし，完全雇用均衡の状態に達するには，適切な金融政策や財政政策またはそれらのミックスによって，ギャップを解消しなければならない。➔インフレギャップ〔富田重夫〕

テープレコーダー　［tape recorder］テープ式磁気録音器の俗称。プラスチック薄膜をテープ状に切ったベース材の上に，粉末状の磁性材料を塗布した磁気録音テープ(略して磁気テープ)を用いて，テープ上に音声信号を磁極の強さの変化として録音する録音再生装置である。

録音を行なうには，リールに巻いた磁気テープを，テープレコーダーの録音ヘッドの磁界空隙(くうげき)に接触させながら一定速度で走行させ，しだいに巻き取りリールに巻き取る。録音ヘッドは音声周波数の信号電流を起磁力の変化に変換する部分であって，録音ヘッドの磁界空隙に接触している磁気テープを磁化し，その結果，信号電流に比例した残留磁束密度として信号がテープ上に記録される。録音を行なう場合に，数10kHzから100kHzの高周波電流を信号電流と重畳して録音ヘッドに加えると性能のよい録音ができる。この方法を高周波バイアス法という。再生するには，録音したテープを録音時と同じ速度で再生ヘッドに接触させながら走行させると，再生ヘッドにはテープに記録されている残留磁束密度に比例した起電力が発生し，録音されている信号が電気信号に変換される。この再生出力を増幅し，スピーカーから放射すれば音響信号として聞くことができる。

市販されている磁気テープは，幅6.2mm，走行速度は19.05，9.53，4.76cm/秒の３種類があり，速いものほど性能のよい録音が行なえる。磁気テープの幅全面に同一の信号を録音するものをシングルトラック方式，上半分と下半分に別々の信号の録音ができる方式を２トラック方式とよび，これを用いた２通話路ステレオ録音用テープレコーダーがある。さらに，４トラック方式のものも採用されているが，トラック数が増加すると，１トラックあたりの磁気テープの幅が減少するので雑音対信号比が劣化することがある。〔伊藤　毅〕

デフレーション　［deflation］通貨量の縮小によって物価の下落，経済活動水準の低下が起こる現象をいう。実物価からみると，インフレーションが広範な需要過多の存在する状態であるのに対して，デフレーションは広範な供給過多の存在する状態をいう。また貨幣と実物の両面からみると，デフレーションとは通貨量が物資の流通量より少ない状態とされている。なお，デフレーションは景気の交替によって起こる循環的デフレーションと，インフレーション抑制のための政策的デフレーションとに区別される。政策的デフレーションは，公定歩合の引き上げ，中央銀行貸し出しの抑制と回収，公開市場における売りオペレーションなどの政策によって現金通貨の流通量を減少させ，これに伴う銀行組織の貸し出しの縮小と預金通貨量の減少とを図るものである。➔インフレーション〔富田重夫〕

デブレツェン　［Debrecen］ハンガリー東部の都市で，人口18万(1975)。鉄道交通の要点で，家畜*やタバコの取引が多く，肥料・農機具の生産を行なう。1588年創立の大学がある。

テーベ　［Thebes］古代ギリシアのポリス。テーバイともいう。ボイオチア地方南部平野にあり，ミケーネ時代には中部ギリシアの中心地であった。ペルシア戦争*ではペルシアと結んでデロス同盟に対抗し，ペロポネソス戦争*でもアテナイと戦った。ペロポネソス戦争後はスパルタと争い，エパメイノンダス*の下でBC371年レウクトラの戦いに勝って，ギリシアの覇権(はけん)を握った。しかしBC335年，アレクサンドロス大王に対し反乱を企てて失敗し，市は破壊された。なお，オイディプス*の悲劇の舞台として有名。〔高山高雄〕

テーベ　［Thebes］上エジプト，ナイル河畔にある古代エジプトの都市遺跡。中王国以後たびたび都が置かれ，政治・文化・宗教の中心地として栄えた。特に第18～19王朝は繁栄の絶頂期で，アジアに君臨する大帝国の都として，巨大な富が集中し，盛んな建築活動が営まれた。第19王朝以後政治の中心がデルタ地方に移ってからも，国家神アモンの信仰の総本山として，宗教・文化の中心地の地位を長く保持したが，BC668年アッシリア軍による占領破壊ののちは急激に衰え，地方都市となる。東岸にはカルナク神殿*・ルクソール神殿*，西岸には王家の谷*，王妃の谷，シャイク-アブデル-クルナなど王族・貴族の墓地，デル-エル-バハリ・ラメセウム・メディネト-ハブなどの王の葬祭殿がある。〔屋形禎亮〕

でべそ　**【出臍】**　⇨へそ

デーベライナー　［Johann Wolfgang Döbereiner］(1780～1849)　ドイツの化学者。イエナに近いホーフに生まれ，1810年イエナ大学教授。1829年三つ組み元素説を提唱し，元素の系統的分類，周期律発見への道をひらいた。また，白金の接触作用を研究，触媒研究の先駆をなし，これを応用してデーベライナーランプを製作。このほか鉱泉水の医療効果などの研究もある。

テヘラン　［Teheran］イランの首都。人口400万(1975)。エルブールズ山脈の南麓に位置し，標高約1,200ｍの扇状地にあ

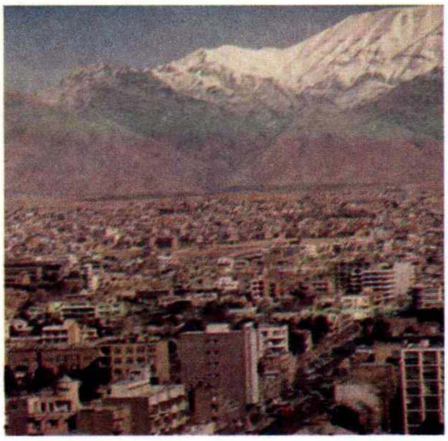
る。このため，気温の年較差は大きく，夏は乾燥して暑く日中は40℃にも達するが，冬は氷点下に下ることもある。石油産業以外では国内最大の工業都市で，セメント・精糖・タバコ・れんが・織物・食品加工などの工場がある。西アジア最大のバザールが古くからたっているように乾燥地帯の隊商路の要衝として発達し，現在でも国内の幹線道路・鉄道はすべてここを中心としている。1788年カジャール朝*の始祖アーガーモハメッドのときペルシアの首都となり，政治・文化の中心となった。袋小路の多い市街として知られているが，近年は近代的な都市建設が進められている。テヘラン大学があり，ペルシア古美術の収集で知られる国立博物館がある。第2次世界大戦中の1943年11～12月にはアメリカ・イギリス・ソ連の首脳による〈テヘラン会談*〉が行なわれた。　〔今井留吉〕

テヘランかいだん 【テヘラン会談】 第2次世界大戦中1943年11月28日から12月1日の間，イランの首都テヘランで開催された最初のアメリカ（ルーズベルト）・イギリス（チャーチル）・ソ連（スターリン）3巨頭会談。連合国戦争会議の一つ。①イランの主権・独立・領土保全を約束，ならびに経済援助，②ドイツ攻撃の第2戦線設定を確認，③戦後，平和機構として国際組織を設置することを取り決めた。このほか，チトーの率いるユーゴスラビア人ゲリラを武装化し，枢軸国への宣戦の布告をトルコに勧告することが協定で決められた。この会議でスターリンはドイツ降伏後の対日参戦をルーズベルトに約した。　〔折井一彦〕

デボンき 【デボン紀】 地質時代*のうちの古生代を6分した第4番めの時代。シルリア紀のあと，石炭紀のまえ。デボン紀の名称は，この時代の地層が発達するイギリスのデボン州に由来する。約4億年前から約3億4,000万年前までの約6,000万年の期間を代表する。この時代の地層の標準地域はイギリス・ドイツ・ベルギーである。

床板サンゴ類や層孔虫類が繁栄し，四射サンゴ類もしだいに栄えてきた。腕足類，特にスピリフェルの仲間が発展し，シルリア紀に出現したアンモナイトも発達しはじめた。他方，シルリア紀に全盛をきわめた筆石類はデボン紀前半で急激に衰微し，シルリア紀まで栄えたサンヨウチュウも漸次衰退した。魚類では多くの種類が出現し，本紀は魚類時代とよばれる。特にシルリア紀後半に出現した淡水～汽水生の甲冑(かっちゅう)魚類がデボン紀に大発展した。最古の両生類もこの時代にみられる。陸生植物は急激に発展して，鱗木(りんぼく)類が大森林を形成し，シダ類も繁栄した。

気候は全般的に温暖であったが，南半球では氷河も存在した。シルリア紀末からデボン紀前期にかけて世界各地に顕著な造山運動が起こり，ヨーロッパで起こったもの



テヘラン　市街の概観。乾燥した気候がよくうかがわれ，郊外の向こうには白雪をいただくエルブールズ山脈の山々が望まれる

はカレドニア変動とよばれる。デボン紀中期に北アメリカのアパラチア山地でも激しい地殻(ちかく)変動（アカディア変動）があった。特色ある地層として陸成ないし陸水成の赤色砂岩が世界各地に分布し，カレドニア造山運動*で隆起した地域（イギリスなど）に発達する旧赤色砂岩が代表的である。デボン紀中期に世界的規模の海進が行なわれた。地向斜*地域では海底火山活動が盛んであった。　〔田中啓策〕

てまえ 【点前】 茶を点(た)てる所作。手前とも書き，たて前ともいう。抹茶(まっちゃ)の点前の場合は，濃茶と薄茶の別がある。最も基本的なものを平点前といい，風炉や炉を用いずに，盆の上で点てる略式のものを盆点前という。冬春の炉，夏秋の風炉によって，点前の差がある。平点前より複雑で上位のものに，小習(こならい)・唐物点(からものだて)・茶通箱・台子などの点前があり，茶道の流儀によっても相違がある。炭をつぐ所作を炭手前という。➔茶道　〔桑田忠親〕

てまりばな ⇨オオデマリ

テミス ［Themis］ ギリシア神話の女神。元来は大地の女神ガイア*と同族の，ときには同一の女神と考えられ，プロメテウス*の母ともされる。ヘシオドスによればティタン*族の1人でゼウスの2番めの妃で，季節の女神ホライ，すなわちエウノミエ（秩序）・ディケ（正義）・エイレネ（平和）や運命の女神モイライの母とされる。その名が〈定められたるもの〉〈習慣〉〈法〉〈正義〉を意味するところから，これら抽象観念の神格化と考えられるようになった。〔左中庸博〕

テミストクレス ［Themistokles］ （BC528ごろ～BC462ごろ）アテナイの政治家・将軍。ペルシア戦争*のマラトンの戦いの勝利により，陸軍派の政敵アリステイデスを陶片追放（➔オストラキスモス）に処し，BC483年100隻の大艦隊を建造，アテナイを大海軍国とした。BC480年，ペルシア戦争のサラミスの海戦*でペルシア軍を破り大勝した。のちアテナイの城壁の拡張などに努力したが，BC470年ごろ親スパルタ派の陰謀で陶片追放を受け，ペルシア帝国治下の小アジアに亡命しそこで没した。　〔高山高雄〕

てみやどうくつ 【手宮洞窟】 北海道小樽(おたる)市北部の高島岬(たかしまみさき)にあり，海水の侵食によってつくられたもの。洞窟の内部に古代文字のようなものが発見されたが，まだ解読されていない。付近の景勝地とともに公園になっている。

デ-ミル ［Cecil Blount De Mille］ （1881～1959） アメリカ映画の製作者・監督。演劇から映画に転じ，スペクタクル映画*に才能を発揮した。サイレント時代の作品には《ジャンヌ-ダーク》《十戒》《キング-オブ-キングス》など，トーキーになってから《暴君ネロ》《クレオパトラ》《平原児》《サムソンとデリラ》《地上最大のショー》《十戒》などがある。

デミングしょう 【デミング賞】 日本の産業界で品質管理の研究・普及にすぐれた個人および企業に対して与えられる賞。日本工業の統計的品質管理の指導にあたったアメリカの統計学者デミングの名にちなむ。1951年（昭和26），日本科学技術連盟に創設。

テムズ（川） ［Thames］ イギリスの南東部を流れる川。グロースターシャーのコッツウォルド丘陵に発し，東流してオックスフォード・レジング・ロンドンを経て北海に注ぐ。全長336km。イギリス東岸と南部イン

テムズ川　ロンドン市内を流れるテムズ川。川に臨んで国会議事堂が立つ。川はこの下流（右手）で大きく東へ曲がる。橋はウェストミンスター橋



グランドの内陸部を結ぶ役割を果たし，外洋航海船も河口から100km上流のロンドンまで航行可能である。中・上流部の農村地帯と河口付近のサウスエンド地方は風光にすぐれ，保養地が多い。

デムン [d'emoeng] インドネシアのガンサ系楽器サロン*の一種。サロン群の中でも最大で，したがって最低オクターブをもつ金属製旋律打楽器。ガムラン音楽の合奏の主要旋律担当楽器の中でも音が大きいので，最も重要である。

でめきん **【出目金】** ⇨キンギョ

デメテル [Demeter] ギリシア神話の女神。クロノスとレアの娘。穀物をつかさどり大地の豊穣(ほうじょう)を象徴する。冥界(めいかい)の妃となったペルセポネの母。冥界の王ハデスがこの娘に恋して地獄へ拉致(らっち)したとき非常に悲しみ，娘を求めて世界を放浪する。ヘリオスに娘が冥界にいることを教えられると，怒って神々の世界から姿を隠したため，大地の実りがとだえた。ゼウスの計らいで，ペルセポネが年の3分の2の間は神々とともに暮らせるようになったので，その怒りも和らぎ，地上に実りがもどったという。〔松田 治〕

デメトリオス [Demetrios] (BC350ごろ～BC283ごろ) ギリシアの哲学者・政治家。ファレロンの人。寡頭政治が一般化した時代にマケドニア王カッサンドロスから，アテナイの政治を委任されたが，のちデメトリオス1世によってその地位を追われ，テーベからアレキサンドリアにのがれた。アレキサンドリアの大図書館は彼の示唆によってつくられたものという。ホメロスに関する著作などが多く，エジプトで没した。

デーメル [Richard Dehmel] (1863～1920) ドイツの詩人。社会改革の情熱に満ちた自然主義*者であり，他方ニーチェ*からも影響を受けた叙情詩人。その詩はエロスの力をたたえ，それによって孤独の世界から人間を救済しようとするものである。詩集《救済》《だが愛は》のほか，小説《ふたりの人間》などがある。

デモ ⇨示威運動

デモイン [Des Moines] アメリカ合衆国，アイオワ州の州都。人口19万4,000(1975)，大デモイン28万6,000(1975)。デモイン川とラクーン川との合流点に位置する。付近には炭田があり，農業地域を背景にして農機具製造と精肉・製粉・乳製品など農産加工業が発達し，また出版業も行なわれる。

デモクラシー ⇨民主主義

デモクリトス [Demokritos] (BC460ごろ～BC370ごろ) 古代ギリシアの哲学者。トラキアのアブデラの生まれ。非常に博学で〈ソフィア(知恵)〉とあだ名され，さらに世人の無思慮を嘲笑(ちょうしょう)するところから〈ゲラシーノス(笑う哲人)〉の名でよばれたともいわれる。レウキッポス*の弟子(でし)で，師の原子論を受け継いでこれを完成させた。究極的存在として不生不滅の原子〈アトモン(分割できないもの)〉が無数に存在し，さらにそれが存在し運動するための場所として，空虚〈ケノン〉も存在すると説いた。彼は原子の形・大きさ・配列などの相違によってさまざまな合成が行なわれ，多種多様な物体や世界ができると説明する。このことから，彼の思想は原子論的唯物論ともいわれる。倫理学・自然学・数学・天文学などの多方面にわたる膨大な著作があったらしいが，その大部分が失われた。この思想はのちにエピクロス*によって広められた。〔本橋正義〕

デモステネス [Demosthenes] (BC384～BC322) 古代ギリシアの弁論家・政治家。生まれつき声が小さく無器用であったのを，訓練のすえ克服して，ギリシア随一の弁論家となった。マケドニア王フィリッポスがギリシア征服を企てているのを知り，《フィリッポス弾劾(だんがい)演説》を3度にわたって試み，アテナイ人およびギリシア人を王の野望から守った。敵側についた裏切り演説家アイスキネス*告発は二者間の敵意を生み，BC330年の〈王冠について〉論争で頂点に達した。この訴訟はデモステネスの勝利に帰したが，アレクサンドロス大王の死の誤報を信じてアテナイに逃げてきた反マケドニアのバビロン王を助けたとがで，大王に追放された。大王の死とともに帰国し，ギリシア連合軍を組織したが，機熟せず，毒を仰いで自殺した。〔久保正彰〕

デーモン ⇨ダイモン

デモンストレーション ⇨示威運動

デモンストレーションこうか **【デモンストレーション効果】** 個々の家計の消費行動は，その家計の所得水準に依存するだけでなく，社会集団の他の家計の消費行動によって影響される。このように，消費行動の形成において家計相互間で影響し合うことをデモンストレーション効果という。低開発国が先進国の高い生活水準の影響を受け，消費性向を不つりあいに高めている場合もこれにあてはまる。

デュアメル [Georges Duhamel] (1884～1966) フランスの小説家。大学で医学を学び，第1次世界大戦に軍医として従軍，その体験に基づき短編集《殉教者の生涯(しょうがい)》を書いた。またロマン-ロラン*らと詩社〈アベイ〉を営み，共同生活をしながら文学修業に励んだが長くは続かなかった。大戦後は大河小説《サラバンの生涯と冒険*》を書き，市井の人サラバンを聖者の域にまで高めた。人間同士の友愛を重んじるヒューマニストの態度を貫いた人である。他に《パスキエ家年代記》10巻のほか，ソ連・アメリカ・日本などについての紀行文がある。〔池田公麿〕

デューイ [John Dewey] (1859～1952) アメリカの哲学者・教育学者。バーモント州バーリントンの生まれ。ミシガン・シカゴ・コロンビア各大学で教え，その間に日本・中国・トルコ・ソ連などを訪れて講義した。彼の哲学は，プラグマチズム*の方法を人間活動のあらゆる領域に適用しようとするもので，〈道具主義〉〈実験的経験論〉などと称する。人間は自然的および文化的環境との相互作用において自己を存続，成長させてゆく生物体であるが，思想や観念はその生命過程を制御し方向づけ，そこに生ずる問題を解決するための道具であり，その導き出した結果によって試験され評価され改造されるべきものであるとする。倫理学・社会哲学・教育学・論理学などにわたる著書のうち，《民主主義と教育》(1916)，《経験と自然》(1925)，《論理学—探究の理論》(1938)が代表的。〔石倉恒之〕

デュカ [Paul Dukas] (1865～1935) フランスの作曲家。パリ音楽院で，デュボアに和声学，ギローに作曲を学び，1888年カンタータ《ベレダ》でローマ賞に入賞し，次いで《ポリュクト序曲》(1892)，《交響曲ハ長調》(1896)などの作品を発表。1897年に初演された交響的スケルツォ《魔法使いの弟子(でし)》で世界的名声を得た。以後作曲のかたわら，パリ音楽院やエコール-ノルマルで教鞭(きょうべん)をとった。

デュ-ガール ⇨マルタン-デュ-ガール

デュギー [Léon Duguit] (1859～1928) フランスの法哲学者・公法学者。ボルドー大学卒業後，同大学教授・法学部長を歴任。法の構造を〈社会連帯〉という社会的事実によって解明し，真の法は国家とは無関係に社会において生成発展する〈客観的法*〉であり，これと矛盾する成文法*は無効であると主張した。また，〈客観的法〉に国家も個人も拘束されるとして，〈主観的法〉に基づく権利よりも義務を優位におき，ルソー*・ヘーゲル*・イエリネック*らを国家主義*者として批判し，みずからの学説を実証主義*と特色づけた。《憲法概論》《国家変遷論》などの著書がある。〔原田政洸〕

デュシャン [Marcel Duchamp] (1887～1968) フランスの画家。ノルマンディーに生まれ，パリに出てアカデミー-ジュリアンに学ぶ。初めセザンヌに強く影響されるが，しだいにフォービスム*からキュービスム*と興味を移し，1912年に《階段を降りる裸婦》を発表して話題をまいた。のち渡米，1915年にニューヨークでダダ*の先駆をなす作品を発表し，雑誌の発行や〈独立美術家協会〉の設立などの活動でダダおよびシュルレアリスム*の運動の中心的存在となった。その間，アッサンブラージュ(集合・寄せ集め)，コンセプチュアル-アート(概念芸術)など現代美術の先駆をなす作品および概念を発表して，以後の世代に大きな影響を与えた。代表作には《彼女の独身者たちによって裸にされた花嫁，さえも》，いわゆる〈手を加えたレディ-メイド〉の作品群の一つで

ある山羊(やぎ)ひげと口ひげをたくわえた《モナ-リザ》などがある。　〔吉田玲子〕

デュシャン-ビヨン　[Raymond Duchamp-Villon]　(1876〜1918)　フランスの立体派彫刻の先駆者。マルセル-デュシャン*・ジャック-ビヨンの長兄。はじめはロダン*の影響下にあったが，1912年から1914年にかけて，〈運動〉に関心をもち，ある種の立体派宣言ともいうべき《馬》の連作を行なった。現代前衛彫刻に与えた影響は大きい。なお，《馬》のうちの一点はパリ近代美術館に収蔵されている。

デューテリウム　[deuterium]　質量数2の水素の同位元素。Dまたは^{2}Hと記される。→重水素

デュナン　[Jean Henri Dunant]　(1828〜1910)　スイスの銀行家。赤十字社の創立者。かねてよりナイチンゲール*の活躍に感銘を受け，イタリア統一戦争*の際，ソルフェリーノの戦いを目撃することにより，負傷兵の救出を決意し，各国の世論に訴えて1864年国際的協定であるジュネーブ条約*(赤十字条約)を締結させた。YMCAの創始者のひとりでもある。1901年，第1回ノーベル平和賞を受けた。

デュパルク　[Marie Eugène Henri Duparc]　(1848〜1933)　フランスの作曲家。大学時代にフランク*に個人的にピアノと作曲を学び，以後フランクとともに近代フランス音楽の確立に貢献した。作品の数は決して少なくはなかったが，16曲の歌曲と交響詩《レオノーレ》などを残して，他の作品は全部彼自身が破棄してしまった。しかし《旅へのいざない》(ボードレール詩)などの歌曲は，フランス歌曲の典型として，フォーレやドビュッシーに多大の影響を与えた。　〔船山　隆〕

デュビビエ　[Julien Duvivier]　(1896〜1967)　フランスの映画監督。1930年から1940年にかけて活躍，フランス映画の黄金時代を築いたひとり。通俗的な題材を卓抜な技法で名作の域に高めた。ジャン-ギャバンをスターにした《地の果てを行く》や《望郷》などのほか《舞踏会の手帖(てちょう)》のようなオムニバス映画を得意とした。第2次世界大戦中ハリウッドに亡命したが不振に陥り，戦後は《パリの空の下セーヌは流れる》でわずかに往年のおもかげをしのばせたにすぎない。　〔蓮実重彦〕

デュビュッフェ　[Jean Dubuffet]　(1901〜　)　フランスの画家。1928年にパリに出て，短期間アカデミー-ジュリアンに通うが，ほとんど独学で絵を学ぶ。家庭の事情からしばらく絵画から離れていたが，第1次世界大戦後，灰や砂を使って画面に絵具を分厚く盛り上げた独特のスタイル(→アンフォルメル)で知られている。

デュファイ　[Guillaum Dufay]　(1400ごろ〜1474)　15世紀最大の作曲家。ブルゴーニュのエノ(現在のフランスとベルギーの国境)に生まれ，少年聖歌隊の隊員として教育を受け，はじめイタリアに出て，その後ヨーロッパ各地で活躍した。デュファイの作品には，ミサ曲・モテット・マニフィカート・シャンソンなど多数あるが，これらの作品で，ヨーロッパ大陸の伝統的な対位法の技術と，イギリスの明快な和声的なスタイルを統一して，フランドル楽派*の作風を確立した。　〔船山　隆〕



デュシャン《階段を下りる裸婦》1912



デュシャン-ビヨン《馬》1914　ニューヨーク近代美術館蔵



デュビュッフェ《婦人の肉体》

デュフィ　[Raoul Dufy]　(1877〜1953)　フランスの画家。1900年パリに出て美術学校にはいる。やがてフォービスム*の運動に加わり，キュービスムにもひかれたが，1910年代初めごろから独自のスタイルを発展させる。断片的な筆触とアラビアふうの装飾曲線を伴ったスケッチふうの手法を特徴とし，白い画面に薄く塗られた明るい色彩は，色ガラスのような輝きを見せる。1936〜1937年パリ万国博覧会の電気館に科学の発展をテーマとした壁画を制作した。　〔岸野悦子〕

デュプレ　[Jules Dupré]　(1811〜1889)　フランスの風景画家。素朴(そぼく)で情感にあふれた風景描写を得意とするバルビゾン派*の指導的メンバーのひとり。1831年にはイギリスに行き，カンスタブル*の作品



デュフィ《樹下の騎士》

から強い感銘を受ける。しかし彼はカンスタブルとは異なり，自然をより内省的・浪漫的にとらえようとする。《秋》《ノルマンディーの牧場》など。

デュプレクス [Joseph François Dupleix] (1697～1763) フランスのインド植民地総督・侯爵。1742年，インド総督に任命されると，オーストリア継承戦争*と並行して戦われたイギリスとの植民地争奪戦に活躍し，マドラスを占領，ポンディシェリーのイギリス勢力を駆逐し(1748)，また土着民の王族たちの争いに介入して，広大な地域を支配した。1754年に召還されて帰国し，失意のうちに没した。

デュ-ベレー [Joachim du Bellay] (1522～1560) フランスの詩人。没落貴族の家に生まれ，フランス-ルネサンス期にロンサール*とともに〈プレイアード派*〉の詩人として活躍。その著《フランス語の擁護と発揚》は同派の宣言ともなり，新しい詩法の確立を唱えた。理想の愛と郷愁を歌った詩集《オリーブ》《哀惜詩集》には，深い古典の教養が生かされ，近代叙情詩の先駆となっている。

デュ-ボア-レイモン [Emil du Bois-Reymond] (1818～1896) ドイツの生理学者。ベルリンに生まれ，ベルリンとボンで医学を学ぶ。J.P.ミュラー*の門下で，電気生理学の創始者のひとり。また，科学知識の普及者としても活躍した。

デュ-ボス [Charles Du Bos] (1882～1939) フランスの批評家。イギリス系の家に生まれて，ヨーロッパ各国語に通じ，その批評対象は広い。批評を創作とみなし，作家の内奥の魂に迫る批評作品を書いた。評論集《近似値》7巻のほか，《日記》9巻がある。

デュポン [E.I.Du Pont de Nemours & Co.] 世界最大のアメリカの総合化学メーカー。合成繊維・プラスチックのほか，広い分野にわたって医薬品や一般化学薬品を製造している。海外21か国に進出し，海外市場での売上高は12～13%ずつ年々増大し，各地に繊維工場を建設している。生産活動の中心は，農業化学品・合成繊維製品・プラスチック・顔料・写真材料・爆薬・石油化学製品など。研究開発では，高速処理医療用X線フィルムなどを発表，また処方医薬品インフルエンザ剤を発表した。日本では多くの会社が技術導入をしているが，合弁会社として，昭和電工(株)との昭和ネオプレン(株)，三井石油化学工業(株)との三井ポリケミカル(株)・三井フロロケミカル(株)・東レ(株)との東洋プロダクツ(株)(弾性系生産)がある。本社デラウェア州ウィルミントン。年間売上高36億2,000万ドル，従業員数11万8,000(1970)。

デュポンざいばつ 【デュポン財閥】 アメリカ八大財閥*の一。創始者エルテール-イレネ-デュポン(1771～1834)は，経済学者を父にパリで生まれ，17歳のとき，王室火薬工場にはいり，有名な化学者ラボアジエ*の教えを受け，父の経営する印刷工場で働いていた。おりからのフランス革命で同印刷工場が反革命のパンフレットを印刷していたことから工場は封鎖され，家族とともにアメリカに亡命，1802年デラウェア州ウィルミントンに小さな火薬の工場を建設した。これが今日世界の化学工業を牛耳る大デュポンの始まりである。創立当初は資金難から経営は困難をきわめたが，米英戦争で大量の政府注文を受け，これを契機に事業はしだいに発展し，1834年その火薬生産高は100万ポンドに達し，火薬工業界の指導的立場をとるに至った。彼の死後，事業はデュポン家代々に受け継がれ，南北戦争をはじめとして，数回の大戦争のたびに巨利を得，拡張に次ぐ拡張を続け，巨大なデュポン財閥が形成されていった。 〔片岡一郎〕



デュマ-ペール



デュマ-フィス



デューラー 《画家の父》

デュマ [Jean Baptiste André Dumas] (1800～1884) フランスの化学者。南フランスのモンペリエ市に生まれ，ジュネーブで薬剤師の徒弟をしながら化学を学んだ。1832年パリ大学教授，さらにエコール-ポリテクニク教授を経て1839年医科大学教授。気体密度測定法・窒素定量法を考案して有機分析法の確立に貢献，また水および大気の組成を精密に決定した。1834年置換の法則を発見し，有機化合物の構造について基型説を発展させた。これはベルツェリウスの電気化学的二元論を論破した。このほかナフタリンおよび鎖状アルコールの研究により，同族列分類法を展開。1848年2月革命以降，政治生活にはいり立法院議会の要職をつとめた。著書に《化学教科書》8巻(1828～1848)などがある。 〔山下愛子〕

デュマ [Alexandre Dumas(père)] (1802～1870) フランスの劇作家・小説家。フランス革命時代の軍人の子に生まれ，放縦な幼年期を過ごし，のちオルレアン公(ルイ-フィリップ)の秘書となった。シェークスピア・シラー・スコットらの影響を受け，処女作の史劇《アンリ3世とその宮廷》でデビュー。さらに《アントニー》などロマン派の戯曲を書いたが，やがてスコット*流の歴史小説に転じ，旺盛(おうせい)な想像力，物語づくりの巧みさ，会話の才などを生かして《三銃士*》《モンテ-クリスト伯*》など多数の長編小説によって大衆の人気を博した。ほかに短編・児童文学・随想・紀行文などがある。 〔立仙順朗〕

デュマ [Alexandre Dumas(fils)] (1824～1895) フランスの劇作家・小説家。デュマ*(ペール)の庶子で，ふつう〈デュマ-フィス〉とよばれる。小説《椿姫*(つばきひめ)》で文壇に出，その劇化でも成功し，劇作家の地位を確立した。風俗劇や社会問題を扱った戯曲《淪落の女たち》《金の問題》《私生児》《アルフォンス氏》などがある。

デューラー [Albrecht Dürer] (1471～1528) ドイツの最も偉大な画家。銅版・木版画家としてもきわめてすぐれていた。はじめ父の工房で金工家としての訓練を受け，のちボルゲムート(1434～1519)の門にはいり，絵画や版画の技術を学んだ。独立してからは各地を遍歴し，コルマール・バーゼルなどを経てベネチアまで足を伸ばした。1505年に工房をニュルンベルクに開き，盛んな制作活動を開始。同時に，当時の人文主義者らと交わり，旺盛(おうせい)な知的好奇心を示した。また，再度ベネチアを訪れ，ジョバンニ-ベルリーニ*を含むイタリアの盛期ルネサンスの画家に会い，見聞を広めた。1507年に帰国後，マキシミリアン皇帝の宮廷画家となり，そのきわめて高度な素

描技術に基づく表現で，ドイツ文化圏に高い名声をはせた。代表作は《自画像》《4人の使徒》《書斎の聖ヒエロニムス》《アダムとイブ》(銅版画)などがある。そのほか，美の客観的な理論的分析を意図してのさまざまな論述を残してもいる。彼の遠近法，人体均衡論などについての著述は，ドイツおよび北欧の画家たちに大きな影響を与えている。〔吉田玲子〕

デュラス ［Marguerite Duras］（1914～　）フランスの女流小説家。映画《二十四時間の情事》(原題《ヒロシマ，私の恋人》)のシナリオで世界的名声を博した。暗示的な会話，濃淡の変化に富んだ文体で人間の不条理な心の世界を描く。《雨のしのび逢(あ)い》(原題《モデラート-カンタービレ》)《夏の夜の十時半》など映画化された作品が多い。そのほか戯曲《セーヌ-エ-オワーズの陸橋》，シナリオ《かくも長き不在》など。

デュルケーム ［Emile Durkheim］（1858～1917）フランスの社会学者。ボルドー大学・ソルボンヌ大学の教授を歴任。社会的事実は個人心理から説明しえない独自の実在であるとし，これを〈物〉として考察するという実証主義的方法論(社会学主義)にたって，自己の社会学を展開した。アカデミズムへの影響力も大きく，M.モース・ブグレ(1870～1940)らのデュルケーム学派を築き，今日の構造主義に及ぼした理論的影響も大きいといわれている。主著に《社会分業論》《自殺論》《宗教生活の原初形態》がある。〔小林宏一〕

デュレンマット ［Friedrich Dürrenmatt］（1921～　）スイスの劇作家。神学・哲学を学び，ジャーナリストなどを経て作家となった。グロテスクなパロディーを得意とし，大胆な作劇法で現代世界の不条理を描いた喜劇作品が多い。《ロムルス大帝》《ミシシッピー氏の結婚》《貴婦人故郷に帰る》などの風刺劇のほか，《嫌疑(けんぎ)》《約束》など小説や放送劇もある。

デュロン ［Pierre Louis Dulong］（1785～1838）フランスの化学者・物理学者。最初医学を志し，パリの細民街で開業したが，まもなくベルトレの助手となり化学と物理学を学んだ。1820年エコール-ポリテクニク教授，1830年同学長。はじめリンおよび窒素化合物の化学的研究を行ない，酸の特質が成分中の水素によるとする水素酸説を最初に支持したひとりとなった。のち，屈折率，気体の比熱，物質の燃焼熱の測定など物理学と化学の境界ともいうべき分野を開拓。特にプチとの共同研究による原子量と固体元素に関する〈デュロン・プチの法則〉を発見したことは有名。〔山下愛子〕

デュロン・プチのほうそく ［デュロン・プチの法則］ 1モルあたり，常温での固体の比熱が約6(カロリー/℃)になるという法則。フランスの化学者・物理学者のデュロンとプチによって発見され，原子量の算定に用いられる。この法則は固体をつくる各原子を三つの自由度をもつ振動子とみなし，古典統計力学から導かれるエネルギー等分配則を適用することによって説明される。低温における固体の比熱はこの法則に比べて著しく小さくなるが，アインシュタインおよびデバイは量子論を適用してこれを解明した。➔アインシュタインの比熱理論〔中野藤生〕

テーラー ［Frederick Winslow Taylor］（1856～1915）アメリカの機械技術者。テーラー-システムの創始者として有名。フィラデルフィアに生まれ，1878年21歳でミッドバル製鋼会社に入社，のちベスレヘム製鋼所へ移ったが，この間科学的経営管理のテーラー-システムを考案。また，金属切削加工の研究で100以上の特許を得，特に1898年からM.ホワイトとの共同研究で，テーラー・ホワイト高速度鋼を発明した。➔科学的管理〔加藤邦興〕

てらい 【寺井(町)】 石川県南西部，能美(のみ)郡にある町。手取川の左岸に位置する。人口13,000。江戸時代には北陸街道の宿場町として栄えた。また九谷焼で知られ，ほかにかわら・衛生陶器・硬質陶器なども産し，窯業が盛んである。九谷祭(6月3～5日)には茶碗(ちゃわん)市がひらかれるので有名。北陸鉄道能美線と国道8号線が通り，自動車交通の要地になっている。

デラウェア(州) ［Delaware］ アメリカ合衆国東部，大西洋岸北部の州。面積5,120km²。人口57万3,000(1973)。州都ドーバー。アメリカ合衆国の独立宣言に加わった13州の一。州名はバージニア会社の総裁デラウェア卿の名にちなんだもの。面積は合衆国50州中ロードアイランド州に次いで2番めに小さい。牛乳，モモなどの果実，野菜などの近郊農業が盛ん。工業はデュポンなどの化学工業が第1で，自動車，冷凍・かんづめ・酪製品などの食品，衣服，ゴム，金属などもある。有名な海水浴場が多く，また，大西洋岸における航空輸送の基地になっている。主要都市，ウィルミントン・ドーバーなど。〔椙村大彬〕

てらうけせいど 【寺請制度】 江戸初期，幕府がキリシタン信仰を根絶するために設けた制度。戸ごとにその所属寺院を定めさせ，その寺院から檀家(だんか)(➔檀越(だんおつ))であることを証明する一種の身分証明書(寺請証文)を出させたもので，この証文を寺証文・宗旨手形・宗門送り状ともよび，婚姻・旅行・移住・奉公などに際してはこれを必要とした。このため寺院は一種の戸籍事務機関となり，幕府の庶民支配に重要な役割を果たした。〔岡山泰四〕

てらうちまさたけ 【寺内正毅】（1852～1919）軍人・政治家。山口県出身。1868年(明治1)長州藩隊士として箱館(はこだて)戦争に参加。1898年初代教育総監となり軍隊教育の体系を整えた。1902年第1次桂(かつら)内閣の陸相となり日露戦争を遂行。1910年陸相兼任の初代朝鮮総督として武断政治による植民地政策を断行した。1916年(大正5)大隈(おおくま)内閣から政権を藩閥の手に奪い寺内内閣を組織した。1918年シベリア出兵を強行したが，米騒動が起こり総辞職。〔安達利夫〕

テラコッタ ［terra-cotta］ 素焼きという意味であるが，粘土でつくった土器・人形などの像を保存のため焼き固めたもので，埴輪(はにわ)やギリシアのタナグラ人形などはこの方法によっている。手づくりか型づくりで粘土像をつくり，これをよく乾燥させてからかまに入れて焼成する。600℃前後の温度で焼成したものが，テラコッタらしい暖かみがあるといわれる。

てらこや 【寺子屋】 ⇨菅原伝授手習鑑(すがわらでんじゅてならいかがみ)

てらこや 【寺子屋】 わが国近世の庶民の初歩教育機関。起源は室町後期にまでさかのぼるが，著しく普及したのは商業資本主義の発展を基本条件として，庶民の間に読み書きや算盤(そろばん)を学習する必要が痛感された江戸中期以降である。その多くが，幕藩政治権力者の保護・統制を受けることなく，庶民自身の力で維持・経営された，いわば自然発生的な学校だった点に最大の特徴がみられる。寺子屋を経営し，師匠となった者は庶民が最も多かったが，軽輩の武士や浪人，僧侶(そうりょ)・神官・医者も少なくなかった。入学したのは，もっぱら庶民の子どもで，年齢は6～7歳から12～13歳程度，男女別では男児が多数を占めたが，都市では女児も相当の数にのぼった。教育内容は，手習いを中心に読み書き・算盤に及ぶのが普通であり，都市で女児の多かったところでは裁縫・茶・華(はな)・習礼の手ほどきなどもした。手習いは，今日のように芸術的情操を養うものではなく，あくまで実用主義に徹して，往来物の筆写を通して広く社会生活に要用の知識・教養・技術を学ばせるのをねらいとした。寺子屋が単なる習字塾(しゅうじじゅく)ではなく，小学校の前身と目される理由の一つはここにある。江戸後期の最盛期には50,000校にものぼったと推定されるが，明治以降の小学校の成立・普及に伴ってしだいに衰え，明治10年代にはそのほとんどが消滅した。〔石川松太郎〕

てらさきこうぎょう 【寺崎広業】（1866～1919）新南画の開拓につとめた日本画家。秋田県の生まれ。小室秀俊(ひでとし)・平福穂庵(すいあん)・菅原白龍(はくりゅう)に学び，広く諸流派を摂取，各派総合の上に独自の作風を築く。日本青年絵画協会・日本絵画協会などで活躍。第1回文展以来審査員をつとめ，また東京美術学校教授・帝室技芸員に任ぜられた。

テーラー-システム ［Taylor system］ アメリカの技術者テーラーが提唱した経営

管理法。➜科学的管理

てらじまむねのり【寺島宗則】(1832～1893) 明治前期の外交官。鹿児島県出身。1873年(明治6)新政府の参議・外務卿(きょう)を兼任して約6年間外交を担当。1875年樺太(からふと)千島交換条約*をロシア政府と締結した。この結果，サハリン(樺太)全島はロシア領，千島18島は日本領となった。1879年文部卿，1888年初代枢密院副議長となり，のち枢密顧問官。

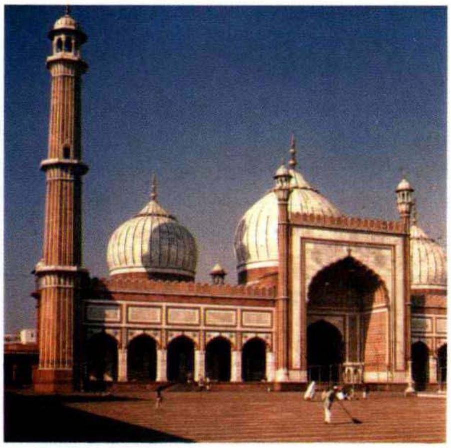
てらだとらひこ【寺田寅彦】(1878～1935) 物理学者・随筆家。筆名に吉村(よしむら)冬彦・藪柑子(やぶこうじ)・寅日子など。東京に生まれ，幼時を高知に過ごした。第五高等学校に入学，夏目漱石*(そうせき)の知遇を得，深い影響を受けた。1903年(明治36)東京大学物理学科を卒業，大学院に進んだのち，1909年東京大学助教授となりドイツへ留学，地球物理学を専攻した。1911年帰朝後，東京大学教授・航空研究所員・理化学研究所員・地震研究所員などをつとめた。潮汐(ちょうせき)の研究，間歇泉(かんけつせん)・音響学・気象学・実験物理学など，さまざまな分野にわたって功績をのこした。中でも尺八の音響学的研究は学位論文となり，また電気火花の構造に関する研究なども有名である。ラウエの斑点*(はんてん)の撮影方法の改良によって学士院恩賜賞を受賞。文人としても著名で，科学と芸術との関連を主題とする小品文，知性と風格をそなえた回想記・日常雑記などは，名文として高く評価された。その他，漱石の俳句の研究など芸術への関心は深い。主著に，随筆集《冬彦集》《藪柑子集》《万華鏡(カレイドスコープ)》などがある。〔藤村　淳〕

てらだやそうどう【寺田屋騒動】1862年(文久2)4月23日，京都伏見の船宿寺田屋で起こった事件。有馬新七・田中謙助ら薩摩藩の尊攘派(そんじょうは)志士は，上洛(じょうらく)した薩摩(さつま)藩主の父島津久光(ひさみつ)を擁して討幕の挙兵を企てた。しかし久光上洛の意図は，雄藩連合勢力を背景としての公武合体*・幕閣改造にあった。これを不満とする有馬らは関白九条尚忠(ひさただ)・京都所司代酒井忠義(さかいただあき)らを襲撃するため寺田屋に集結した。久光はこの暴発を止めるため奈良原喜八郎ら藩士9人を急派したが，有馬らは従わず乱闘となり，有馬ら6人は死に，田中ら2人は負傷し，翌日切腹を命ぜられた。〔松尾　涼〕

てらどまり【寺泊(町)】新潟県中部，三島(さんとう)郡にある町。日本海に臨む。人口14,000。上代には北陸街道の宿駅があったことで知られ，中世には佐渡(さど)への渡航地となり，近世には宿場町とともに西回り海運の港町として大いに栄えた。明治以降は漁港と観光の町として立っている。寺泊温泉や水族館があり，国鉄越後線大河津(おおこうづ)から越後交通のバスが通じる。



寺田寅彦



デリー　市の中心の南にあるジャムマスジット寺院。1644年に起工，1658年に完成した。市内には，ほかにイスラム寺院が数多く残る

デ-ラ-メア［Walter John De La Mare］(1873～1956) イギリスの詩人。長年石油会社に勤めながら詩作に励み，処女詩集《子供の歌》で注目された。夢幻的情緒を繊細な筆致と美しい韻律で表わし，独自の詩風を築いた。《耳をすます者》などの詩集や長詩《旅人》《翼ある車》のほか，小説《帰郷》がある。

テラロッサ［terra rossa］主として鉄・アルミニウムの水酸化物と粘土からなる石灰岩に特有の粘土質土壌(どじょう)。赤かっ色。一般に肥えているほうではない。地中海沿岸地方，アルプスの北側などにみられる。

テリー［Ellen Alice Terry］(1847～1928) 19世紀後半から20世紀初頭にかけてのイギリス最大の女優。両親とも有名な地方役者で，彼女自身も8歳で初舞台を踏んだ。1867年生涯(しょうがい)のよき協力者アービング*に出会い，1878年以降アービングのライシアム劇場で主演女優として活躍，数数の名演技を残した。特にシェークスピア劇女優として名高い。文才もすぐれ，自伝，ショー*との書簡集，講演記録などの著がある。演劇理論家・俳優・舞台美術家として有名なクレイグ*はむすこ。

デリー［Delhi］インド共和国北部の都市。ガンジス川の支流ジャムナ川の右岸にあり，パンジャブ地方とガンジス川流域との交通の要地にあたる。古くからこの地方の政治・文化・経済の中心地であった。17～18世紀にムガール朝*の首都になってから特に栄え，さらに1911年，当時の英領インドの首都がカルカッタからここに移されていっそう発展した。1931年に，市の南部に新首都ニューデリー*が建設されてからは，これに対してオールドデリーともよばれる。行政的にはニューデリーと合わせて連邦政府のデリー特別区をなしている。オールドデリーの市街は，古代からすでに7回建てかえられたが，現在のものは17世紀中ごろにシャージャハーン帝が建設した市街で，シャジャハナバードともいわれる。赤い砂岩の城壁をもつ有名なラルキラ城を中心に，多くの城門をもつ城郭で囲まれていた。その城門の一つカシミリゲート付近は，1857～1859年のセポイの反乱*の激戦地である。またジャムマスジット寺院をはじめイスラム寺院も数多い。カシミリゲートの南方に東西に延びる大通りが，デリーの商業の中心チャンドニチョーク街で，伝統色豊かな商業街として栄えている。オールドデリーは古い建物や民家が雑然と立ち並び，自動車から牛車に至るあらゆる交通機関が混じり合い，その間を人間と牛とが入り乱れている景観は人目をひく。ニューデリーを合わせた特別区の人口は，300万を越えるが，その80％はオールドデリーに集中している。〔別技篤彦〕

テリア［terrier］元来はイギリスで飼育され，ウサギ・ノネズミ・テン・イタチ・カワウソ・キツネなどの小害獣狩りに用いられた小形犬の総称。テリアはラテン語で地面を掘る意のテラを意味する。現在は愛玩(あいがん)犬になっているものが多く，エアデールテリア・スコッチテリア・ヨークシャーテリアなど多くの品種がある。➜イヌ

デーリー-エクスプレス［Daily Express］イギリスの有力な保守系大衆紙。1900年A.ピアソン*によって創刊され，ビーバーブルック系の主力紙として，イギリス連邦第一主義を標榜(ひょうぼう)した。ロンドン・マンチェスター・グラスゴーで印刷発行されている。発行部数約236万(1980)。

デリス［derris］双子葉植物・マメ科。東南アジア・インドネシア・ニューギニアなどに広く自生するつる性木本で，20mに達する。葉は9～13小葉からなる奇数羽状複葉で長さ20～30cm，葉腋(ようえき)に長さ20～30cmの花穂を出し，赤色の花をつける。豆果は長さ5～10cmで平たく，片側に狭い翼がある。根の皮にロテノンを含み，殺虫剤(デリス剤)に用いられる。ロテノンは接触剤で，空気中で酸化しやすく効力もあまり持続しないが，作物に対して薬害はまったくなく，ユリミミズ・サルハムシ・ウリバエ・アブラムシ類・ハダニ類・グンバイムシ・キスジノミハムシなどの駆除に使われる。主として粉剤の形で用いられるが，本剤は魚に対して毒性が強いので注意を要する。〔加藤僖重・深谷昌次〕

デリック ⇨クレーン

デーリー-テレグラフ-アンド-モーニング-ポスト [The Daily Telegraph & Morning Post] イギリスの日刊紙。1855年《デーリーテレグラフ》としてロンドンで創刊。論調は保守的で中立系。新聞標準定価4ペニーの時代に2ペニーに引き下げて販売し，いわゆるペニーペーパー時代の先駆となった。1937年《モーニング-ポスト》を合併して紙勢を拡大。ロンドン・マンチェスターで印刷発行されている。発行部数約151万(1980)。

デーリーミラー [Daily Mirror] イギリス最大の発行部数を有する大衆紙。1903年ノースクリフが《デーリー-メール》に続いて定価1ペニーの婦人向け新聞として創刊したが，のちに半ペニーに引き下げて写真主力の現在の形になった。タブロイド版で娯楽性に富む。現在，イギリス最大の出版会社インターナショナル-パブリッシング-カンパニー(IPC)がロンドンで発行している。政治的にはいちおう中立の立場をとるが，労働党色が強い。発行部数約365万(1980) 〔飯田良明〕

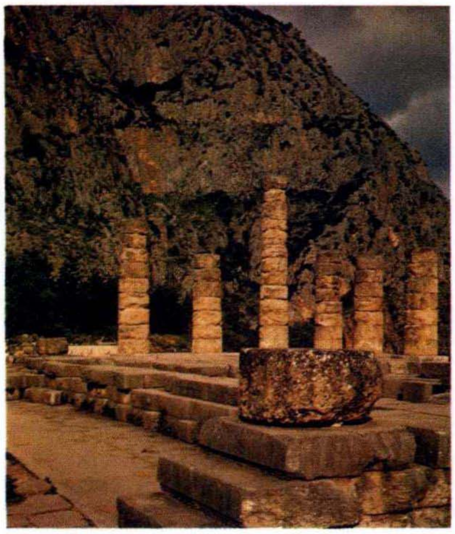
デーリー-メール-アンド-ニューズ-クロニクル [Daily Mail & News Chronicle] イギリスの保守系大衆紙。1896年ノースクリフが《デーリー-メール》として創刊。定価半ペニーの日刊紙としてイギリスに大衆新聞時代を開くきっかけをつくった。アメリカの大衆紙を手本にセンセーショナルな記事を掲載して発行部数を伸ばし，1960年に《ニューズ-クロニクル》を合併して現在に至る。発行部数約195万(1980)。

デリュック [Louis Delluc] (1890〜1924) フランスの映画理論家。第1次世界大戦直後《フォトジェニー》を著わして映像表現の可能性について説き，同時代の世界の映画，特にシュルレアリスム映画，アヴァンギャルド映画に大きな影響を与えた。さらに《映画劇》《映画社会》などの著作で映画理論を確立し，一方はじめての観客組織〈シネクラブ〉を創設して，フランス映画復興の基盤をつくった。

テリレン [Terylene] イギリスのICI社がはじめて工業化したポリエステル系合成繊維の商標。アメリカのデークロン，日本のテトロン・エステルなどの商標のものと同じ。

デリンジャーげんしょう **[デリンジャー現象]** 磁気嵐(じきあらし)の際電離層が著しく乱され，無線通信が途絶したり不調となる現象。電離層の電子密度が異常に増大し，電波を一時的に減衰させるために起こる。太陽の照射される地球半面すなわち昼間に生じ，数十分継続することが多い。

テルアビブ-ジャファ [Tel Aviv Jaffa] イスラエルの地中海岸に位置し，同国最大の都市。古来からの港ジャファの北隣に1909年シオニストによってテルアビブがつくられた。1948年にイスラエルが独立すると急速に発展し，アラブ的なジャファとは対照的な近代的高層ビルが並ぶ新興都市となり，両市は，1950年に合併した。ジャファ-オレンジの名で欧州各地に知られる柑橘(かんきつ)類はここから輸出されている。人口35万4,000(1975)。 〔今井留吉〕



デルフォイ　中部ギリシアのパルナソス山の西南斜面にある古代ギリシアの聖地

デルジャービン [Gavrila Romanovich Derzhávin] (1743〜1816) ロシアの詩人。貧しい貴族の家に生まれ，長く軍隊に勤務。頌詩(しょうし)《フェリーツァ》によって文名を得て，エカテリーナ2世に厚遇され要職を歴任。古典主義の代表的詩人であるが，その制約を破り，口語や口碑的要素を詩に導入し，風俗や人物を具体的に，すぐれて感性的にとらえて詩壇に大きな影響を与えた。

テルスターえいせい **[テルスター衛星]** ⇨通信衛星

デルタ ⇨三角州

デルタよく **[デルタ翼]** 平面が三角形の翼。超音速の飛行機は，離着陸前後の低速から超音速に至る間に，飛行に不都合な現象が起こる遷音速を通過しなければならない。デルタ翼は遷音速時に生ずる空気力学的特性の変化が最も少ないので，超音速機の主翼に最も適している。亜音速における性能は，アスペクト比(翼幅の2乗を翼面積で割った商)の大きい翼に比べるとかなり劣っている。デルタ形の主翼の飛行機では水平尾翼をもたない場合が多い。この場合には主翼の後縁に装備するフラップが昇降舵(しょうこうだ)と補助翼との働きを兼ね，エレボンとよばれる。 〔中口　博〕

テルトゥリアヌス [Quintus Septimius Florens Tertullianus] (160ごろ〜222) 教父。教父哲学の初期は異端に対する護教的関心の強い時代であったが，その時期を代表する人物。カルタゴの人。はじめプラトンやストア派の哲学を学んだが，のちキリスト教に改宗し，グノーシス派とその源泉であるギリシア哲学を排撃した。しかし晩年には，熱狂的なモンタヌス運動に加わって，教会の信仰から離れた。彼のことばとして伝えられている〈不合理であるがゆえに，我は信じる〉は有名。 〔広川洋一〕

テルビウム [terbium] 周期律表第III族に属する希土類元素の一つで，存在量はきわめて少ない。原子番号65，記号Tb，原子量158.925。クラーク数 8×10^{-5}(第59位)。融点1,450±50℃。無水の塩化物を溶融アルカリで還元してつくる。

デルフォイ [Delphoi] 古代ギリシアのパルナソス山麓(さんろく)にある聖地。アポロン信仰の中心で高所に神殿があり，この神託は全ギリシアで尊崇された。この聖地を中心に隣保同盟が結ばれ，ギリシア四大競技の一つであるピティア競技も開かれた。また，有力ポリスや富裕者が財宝を神殿にあずけたので金融の中心ともなった。ローマ時代にスラやネロに破壊され，さらにキリスト教が国教となるに及び，神託が禁じられて廃墟(はいきょ)となった。

テルフォード [Thomas Telford] (1757〜1834) イギリスの土木技術者。スコットランドに生まれ，15歳より左官職の徒弟として働くかたわら，独学で土木・建築技術を学んだ。1784年各所の官庁建築の工事を監督。1793年，当時〈人間の発明技術の最も大胆な試み〉といわれたエルスメーア運河の建設に成功。また1800年以後，スコットランドの開発事業では，18年間に920マイルの国道と120の橋梁(きょうりょう)を建設。1826年メナイ海峡の架橋を完成。1820年イギリス土木学会の初代会長。 〔加藤邦興〕

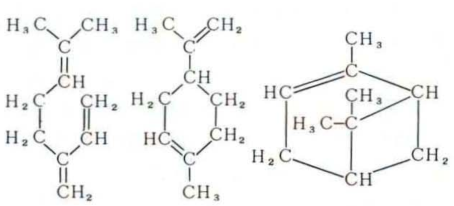
デルフト [Delft] オランダ，ハーグの南方8kmにある都市。人口80,000(1967)。14世紀にはリンネル織りで知られたが，現在は16世紀以降に発達した陶器〈デルフト焼〉で世界的に有名である。また家畜・乳製品の取引も行なわれる。1075年に建設の起源をもち，16〜17世紀には貿易の中心地として栄えたが，のちロッテルダムにその地位を奪われた。13世紀に建造の教会など古い建物が残っており，工業大学がある。国際法の祖と称される法学者H.グロチウスの生地である。 〔梶川勇作〕

デルフトとうき **[デルフト陶器]** 16世紀以来オランダ，デルフトにおいて製造されたスズ-エナメル釉(ゆう)陶器の通称。イタリアのマジョリカ陶器の製法・彩画手法を伝習したもので，彩画には多彩とコバルト単彩の2種を用い，人物・植物・風景・動物・船舶などを描いている。また，中国明(みん)代の赤絵と染付(そめつけ)，およびわが国の伊万里(いまり)焼・柿右衛門(かきえもん)手の作品を巧みに模倣したものも製された。

デルブリュック [Max Delbrück] (1906〜1981) 現代アメリカの微生物学者。ベルリンに生まれ，チュービンゲン・ボン・ベ

ルリンで学び，物理学者として出発した。1937年アメリカに渡り，カリフォルニア工科大学教授。以後，微生物遺伝学の世界的指導者として活躍した。多くの後進を育成したほか，彼じしんの業績としては，細菌の遺伝的変異が高等動植物の突然変異と同一であることの証明(ルリアと共同研究，1943)，また，バクテリオファージの増殖過程の解明(エリスと共同研究，1938)があげられる。これらの業績により分子遺伝学の基礎がつくられた。〔中村禎里〕

テルペン　[terpenes]　構造的にはイソプレンの重合体$(C_5H_8)_n$と考えられる一群の化合物の総称。植物界には種々の精油成分が広く見いだされているが，その大部分がテルペンであるといっても過言ではない。nの数により，モノテルペン($n=2$)，セスキテルペン($n=3$)，ジテルペン($n=4$)，トリテルペン($n=6$)とよばれ，さらに大きなものとしては樹脂やゴム類(ポリテルペン)もこの類に属する。また，鎖状構造のもの(ミルセン・オシメン)はまれで，一般には環状構造をなしており，その数により単環性テルペン(リモネン・テルピネン)，双環性テルペン(ピネン・カンフェン・サビネン)，三環性テルペンに分かれる。その他，テルペンに水が付加した形のテルペンアルコール(リナロール・ゲラニオール・シトロネロール・メントール・シネオール・ボルネオール)およびその酸化物に相当するテルペンアルデヒド(シトラール・シトロネラール)やテルペンケトン(メントン・樟脳(しょうのう))といった誘導体が多数知られている。代表例をそれぞれかっこ内に示したが，ビタミンA(ジテルペン)・カロチン(テトラテルペン)もテルペン類に数えられる。テルペン類は古くから香料・医薬品として常用されており，また，α-ピネンや樟脳のように種種の化合物の合成原料として重要なものもある。〔石戸良治・荒木洋之助〕



ミルセン　鎖状テルペン　α-リモネン単環性テルペン　α-ピネン双環性テルペン

テルミット　[thermit]　鉄の酸化物とアルミニウム粉との等量混合物。$3Fe_3O_4+8\ Al=4\ Al_2O_3+9Fe+702.5kcal$の反応により鉄とアルミニウムが同時に酸化還元反応を起こし多量の熱を出す。この熱および溶鉄を用いて鉄または鋼材の衝合溶接を行なう方法をテルミット溶接とよぶ。同じ原理を利用して金属酸化物の還元冶金(やきん)を行なう方法をテルミット法とよび，クロム・コバルト・マンガン・バナジウム・ウランなどの冶金に応用される。〔草川隆次〕

テルミドールのはんどう　**[**テルミドールの反動**]**　フランス革命において1794年7月27日(テルミドール9日)，クーデターによって山岳党*の指導者ロベスピエール*らが捕えられ，翌日処刑され，それ以後国民公会*が反動政治へと転じた事件をいう。当時，山岳党の小ブルジョア的独裁政治に対して，ブルジョア層やサン-キュロット*の反感が高まってこの事件となったのである。これ以後，ジロンド派・ダントン派・エベール派などの反ロベスピエール派のブルジョアジーは，一方で革命政府を解体して急進主義を阻止し，他方でアンシャン-レジーム*の復活を警戒しつつブルジョア的安定をはかっていった。これをもってフランス革命の終末とみる人もいる。〔喜多迅鷹〕

デル-モナコ　[Mario del Monaco]　(1915～　)　イタリアのテノール歌手。フィレンツェの生まれ。ペザロで美術学校に学びながら，ロッシーニ音楽院にも通い，卒業後にローマ歌劇場の研究生となった。1939年にペザロでデビューしたが，2年後ミラノで上演した《蝶々(ちょうちょう)夫人》のピンカートン役で好評を博し，以後スカラ座をはじめヨーロッパの主要歌劇場に進出した。1950年にはアメリカで成功した。1959年と1961年にはイタリア歌劇団の一員として，1969年には単独で来日。〔向坂正久〕

テルモピレーのたたかい　**[**テルモピレーの戦い**]**　BC480年，第3回ペルシア戦争*における激戦の一。テッサリア北方から南下して中部ギリシアをめざすペルシアの大軍を山と海の間の天険で，レオニダス王の率いる約300人のスパルタ軍が奮戦し進撃を食い止めたが，ペルシア軍は農夫から間道を聞きスパルタ軍をはさみうちにし全滅させた。

テルル　[tellurium]　周期律表第Ⅵ族に属する酸素族元素の一。テルリウムともいう。原子番号52，原子量127.60。1782年ドイツのミュラーによりビスマス鉱から単離された。酸素族元素中存在量は最も少なく，クラーク数2×10^{-7}(第78位)。無定形テルルと金属テルルの二同位体が存在する。無定形テルルは灰色粉末。融点450℃/18mmHg，沸点1,087℃。金属テルルは金属光沢のある結晶。比重6.236。セレンよりさらに金属性が増し，原子価は－2，＋4，＋6，空気中で燃焼して二酸化テルルを生ずる。〔古屋　弘〕

テレタイプ　[teletype]　タイプライターで文字を打つと，自動的に電信符号に翻訳されて送られ，受信側では逆の操作で文字に翻訳されて出てくる電信装置。印刷電信機ともいう。

テレックス　[telex]　加入者がダイヤルで希望する加入者を呼び出し，印刷電信機により直接通信ができる仕組みの装置。加入電話ともいう。電話の長所である，いつ，どの加入者とも接続できる点と，電信の特色である記録性がある点を兼備した電気通信方法で，通信は電信用交換機を経由し全国にネットされた加入電信網を通じて運ばれる(いわゆるテレタイプは加入電信網を利用できないので，つねに特定の相手としか通信できない)。記録通信であるため，①証拠が残る，②正確度が高い，③相手不在時でも通信できる，④通信速度が速い，などの利点があり，最近は事務連絡用や，伝票送受のみでなく，受信さん孔装置により受信テープをコンピューターの入力として用いた資料集中処理など多角的に利用され，そのための周辺機器も多く開発されている。また外国との直接通信も可能である。欧米では，1930年代から国内通信で実用に供され，第2次世界大戦後は国際テレックスも発達した。日本では1956年(昭和31)東京・大阪で128の加入者でサービスが開始され，現在約350都市で35,000の加入数となっているが，近年需要の伸びは著しく電電公社への申し込みはつねに架設数を上回っている。〔滝　誠〕

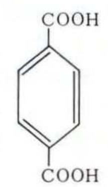
デレッダ　[Grazia Deledda]　(1871～1936)　イタリアの女流作家。少女時代より小説を書きはじめ，ベリズモ(真実主義)の手法で，生まれ故郷サルジニア島の風土・人間などを鋭く描き出した。代表作は《エリアス-ポルトルー》《灰》《常春藤(きづた)》《風にそよぐ葦(あし)》《母》《オリーブ畑の火事》など。1926年ノーベル文学賞を受賞。

テレパシー　[telepathy]　言語や表情などの感覚的手がかりなしに，人の心の内容を直接に知ること。1882年にイギリスの心霊研究家F. W. H. マイヤーズが命名したもので，以心伝心・精神感応・思念伝達などとよばれるものはこれに相当する。イギリス心霊研究協会は，ある人間の死に際して，その死を知らない人が体験した幻覚について調査し，これが経験される頻度(ひんど)は偶然に起こるものを統計的に有意に上回ると報告した。実験的にテレパシーを証明したのはJ. B. ラインである。超心理学においては，透視*・予知*とともにESP*に総括され研究されている。

テレビジョン　⇨16ページ

テレビンゆ　**[**テレビン油**]**　松の生松脂を蒸留して得られる精油。主産地は北アメリカで，フランス・ギリシアなどにも産し，日本でもとれる。無色の液体で特異な臭気がある。直接香料に用いることはまれで，合成樟脳(しょうのう)をはじめ龍脳(りゅうのう)・テルピネオール・ワニス・ペイントなどのほか，油絵の具の溶剤，くつ墨などの製造原料として用いられる。

テレフタルさん　**[**テレフタル酸**]**　ベンゼン-p-ジカルボン酸のこと。p-キシレンを酸化すると得られる。昇華点300℃。ポリエステル系合成繊維(テトロン)および合成樹脂の製造原料として工業的に重要である。



テレマン ［Georg Philipp Telemann］(1681〜1767) バロック時代のドイツの作曲家。幼時から音楽の才能をあらわしたが，母の希望でライプチヒ大学で法律学を修めた。まもなく音楽に転向し，23歳のときライプチヒのノイエ-キルへのオルガン奏者となり，さらに1704年現ポーランド領ゾーラウのプロームニッツ伯の楽長，1709年アイゼナハの宮廷合奏長に就任，バッハと知り合った。1711年自由都市フランクフルト-アム-マインに移り，10年にわたって教会楽長，市の音楽監督として活躍し，またコレギウム-ムジクムを組織した。1721年以後はハンブルクにとどまり，この地で五つの教会の音楽監督などをつとめた。彼は当時バッハやヘンデル以上に高く評価されており，また多作家としても有名であった。その作品は，45曲のオペラ，46曲の受難曲，15のミサ，23年分の教会カンタータ，1,000曲以上の管弦楽組曲，数百曲のコンチェルトおよびソナタなど膨大な数に及んでいるが，中でも《食卓音楽》は広く親しまれている。彼は当時のヨーロッパの種々の国民的スタイル，すなわち，ドイツのポリフォニーとフランス的な旋律や和声の美しさ，イタリアやポーランドのいきいきとしたリズムとをみごとに総合して独自のスタイルを築き，当時の新しい市民階級におおいにアピールした。今日，その真価が見なおされつつある。〔寺田兼文〕

デ-レ-メタリカ ⇨アグリコラ

テレンチウス ［Publius Terentius Afer］(BC195ごろ〜BC159) 古代ローマの喜劇詩人。北アフリカのカルタゴに生まれ，奴隷としてローマに来たが，才能を認められ自由人となった。貴族社会の文学サークルにはいり，BC166年に最初の喜劇《アンドロスの女》を発表。これは先人メナンドロス*の同名の新喜劇のひき写しと攻撃されたため，作者はやむなく序言を付して上演した。BC160年《兄弟》を上演。BC159年ギリシアへ旅行し，その地で客死したらしい。彼の作品は新喜劇に負うところが大きかったが，洗練された文体は比類なく，都会ふうな人間模様を描く筆致，性格の描き分け方は独創的である。〔久保正彰〕

デロ ⇨ドロノキ

デロスどうめい 【デロス同盟】 ペルシア海軍の来襲に備えアテナイを盟主として結成された同盟。ペルシア戦争*後もペルシアの脅威は去らなかったのでアテナイのアリスティデス*は，各ポリスが軍艦または資金を出して海軍同盟を結成するように提唱(BC478年)し，イオニア・アイオリス・サモスなどの諸都市が加盟した。同盟諸国はデロス島のアポロン神殿に資金を保管し，またここで会議を開いたのでこの名がある。BC477年アテナイの指導権が確立，BC454年アテナイは金庫を自国内に移してこれを私物化し，また同盟諸都市にアテナイ式の



出羽三山神社 羽黒山にある月山神社・湯殿山神社・出羽神社の合祭殿

民主政・度量衡・貨幣を強制し，いわゆるアテナイ帝国を形成した。これが同盟諸都市の反感，スパルタのねたみを買い，ペロポネソス戦争*の一因となった。〔高山高雄〕

テロリズム ［terrorism］ 権力者が虐殺などの暴力的手段によって大衆に恐怖心を起こさせ，その政治的支配を貫徹しようとすること，ないしは，有力政治家を暗殺することによって一定の政治的目的を達成しようとすること。前者の場合には虐殺を含む恐怖手段が公然と組織的に行使される恐怖政治*となり，後者の場合には非合法的に行なわれるが，右翼*による左翼政治家の暗殺が多い。➔暗殺

でわ 【出羽(国)】 山形県および秋田県の大部分にまたがる旧国名。正しくは〈いでわ〉といった。羽州。東山道に属する。もと蝦夷*(えぞ)の地であったが，708年(和銅1)越後*(えちご)国出羽郡を建て，712年陸奥*(むつ)国最上(もがみ)・置賜(おきたま)2郡とあわせて出羽国を置いた。以後しだいに北方に境域を拡張し，平安初期には上記のほか田川・村上・飽海(あくみ)・雄勝・平鹿(ひらか)・山本・河辺(かわのべ)・秋田など計11郡が置かれた。国府は出羽郡(山形県東田川郡)，国分寺は飽海郡(同県同郡)にあった。8世紀中葉秋田城*が築造されて秋田城介(じょうのすけ)が出羽の鎮定にあたったが，平安中期には前九年の役*前後清原氏，後三年の役*後奥州藤原氏の支配に属したが，源頼朝(よりとも)は藤原氏討滅後葛西清重(かさいきよしげ)を奥州総奉行*(ぶぎょう)とし，実朝(さねとも)のとき安達景盛(あだちかげもり)を城介とした。南北朝時代以降足利(あしかが)氏の一族である最上氏が探題*となったが，ほかに伊達(だて)・秋田その他群雄が割拠して乱れた。近世には秋田(佐竹氏)・米沢(よねざわ)(上杉(うえすぎ)氏)・山形(譜代諸氏)・鶴岡(つるおか)(酒井氏)のほか10余の小藩が置かれたが，明治維新後数次の変遷を経て，1871年(明治4)置賜(おきたま)・山形・鶴岡3県を合して山形県とし，秋田・岩崎・本庄(ほんじょう)など5県を合して秋田県となり今日に至る。〔黛　弘道〕

でわさんざんじんじゃ 【出羽三山神社】 山形県東田川郡の出羽三山にある月山神社・湯殿山神社・出羽神社。古来，山伏修験(しゅげん)道場として九州の英彦(ひこ)山，和歌山の熊野(くまの)三山*と並称された。月山頂上にある月山神社は月読命(つきよみのみこと)を祭り，積雪期を除いて夏季のみ開く小社殿を置く。湯殿山一帯は羽黒山伏の信仰の中心地であり，特に仙人(せんにん)沢とよばれる修験道場は，断食行によって生きながらにミイラとなる即身仏修行者の峻烈(しゅんれつ)な行場として知られる。湯殿山奥の院付近にある湯殿山神社は，大山祇命(おおやまずみのみこと)・大己貴命(おおなむちのみこと)・少彦名命(すくなひこなのみこと)を祭る。羽黒山には伊氐波神(いではのかみ)・稲倉魂神(うがのみたまのかみ)を祭る出羽神社があり，また三山の山神をも合祭する。これは湯殿山・月山が冬期積雪のため閉山されるため，最も里に近く，年間を通じて登拝できる羽黒山に合祭殿が設けられたものである。太陽の神使鳥であるカラスを象徴する陽の山羽黒山，陽に対する陰の山である月山，そして人界の行場としての湯殿山，この三山を合わせて，陽と陰と人との和合，天地人三才の結合をもって山岳修験の秘地と考えたものであろう。

羽黒山は593年(推古1)，崇峻(すしゅん)天皇の第一子蜂子(はちのこ)皇子が海路出羽(山形県)に至り開山したと伝えられ，その墓所は出羽神社境内に設けられてある。また社前にある鏡池からは，参詣者(さんけいしゃ)が祈願のために投じた古鏡500面余が出土しており，うち190面が宝物殿に収蔵されている。これを時代別にみると平安時代91面，鎌倉時代56面，室町時代2面，桃山・江戸時代が各1面，他は不明で，平安末には，新興の山岳仏教，真言宗と結びついた羽黒修験信仰が高潮期に達していたものと推定される。最盛期における規模は《羽黒三山古実集覧記》によると〈往古は当山麓(さんろく)七千余坊，衆徒三百余院，諸国散在修験八千余院，行派寺九百余〉と伝えている。江戸時代にはいると，幕府の宗教政策によって修験道に統制が加えられたが，羽黒山第50代別当の天宥(てんゆう)が真言を捨てて天台奉仕に改め三山信仰の普及振興に努めて，奥羽・関八州に講を広めていった。明治にはいって神仏分離により山内の坊のほとんどが廃棄されたが，三山駈(が)けなどの山中修行の行事は現在にまで引き継がれている。〔佐野文哉〕

でわさんち 【出羽山地】 東北地方西部の日本海側を青森・秋田・山形の3県にわたって南北に走る低い山地。岩木川・米代(よねしろ)川・雄物川・最上(もがみ)川などが山地を横切って横谷をつくり，また多数の盆地をはさんで，山地は断続的に連なっていて，東方の奥羽山脈のような連続性がない。おもに第三紀層からなり，この上に鳥海火山帯の山々が噴出している。冬の積雪を含めて年間の降水量が多く，豊かな森林資源を

➔20ページ

テレビジョン

［television］

時間的に変化している映像を音とともに電気信号に変え，無線通信または有線通信を用いて遠隔地に伝達し，即時的に再現するシステム。テレビ・TVと略称される。不特定多数の視聴者に映像を送る放送用テレビジョンと，限られた相手だけと通信する閉回路テレビジョンとがあり，後者は産業用・教育用・医学用および特殊通信に使用されている。また近時，有線通信を利用して映像情報とともに，その他の多くの情報を送受できるCATV（ケーブルテレビジョン）が注目され，情報化社会の重大な一翼をになうことになるものと思われる。

【沿革】 テレビジョンで行なわれる映像と電気信号との相互変換については，光を電気エネルギーに変換する光電効果*が発見されたころ（19世紀末）から研究の歴史が始まるが，実質的な発展をみたのは1920年代の光電管*の発明以後で，イギリス・アメリカ・ドイツなどでテレビジョンの実験放送が開始されている。わが国でも，同じころ早稲田(わせだ)大学の川原田政太郎や浜松工専の高柳健次郎らによって研究されていたが，これらはいずれも機械走査方式を用いたものであって，実用化するに至らなかった。1933年ツボリキンのアイコノスコープ（→撮像管）の発明に伴う電子走査方式テレビジョンの実現によって本格的な実用化が始まった。イギリス・アメリカでは，正式放送が戦前にスタートし，わが国でもNHKによって実験放送が行なわれていたが，第2次世界大戦中の中断と戦後の混乱のために正式放送は1953年（昭和28）に開始されることになった。その後マイクロ波中継網による全国中継や，人工衛星を利用した全世界中継などによってテレビジョンはマスコミの中心媒体の位置を占め，またその間にカラーテレビジョンの放映が始まり，急速に普及しつつある。

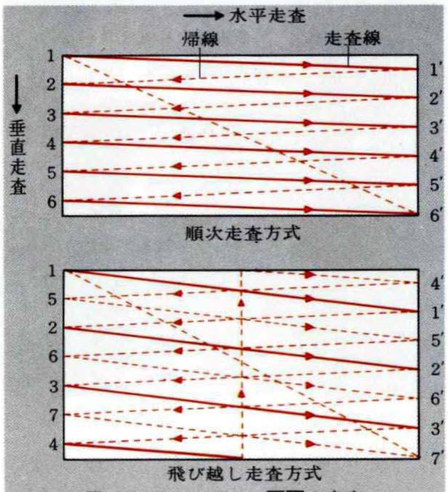


図-1　テレビジョン画面の走査

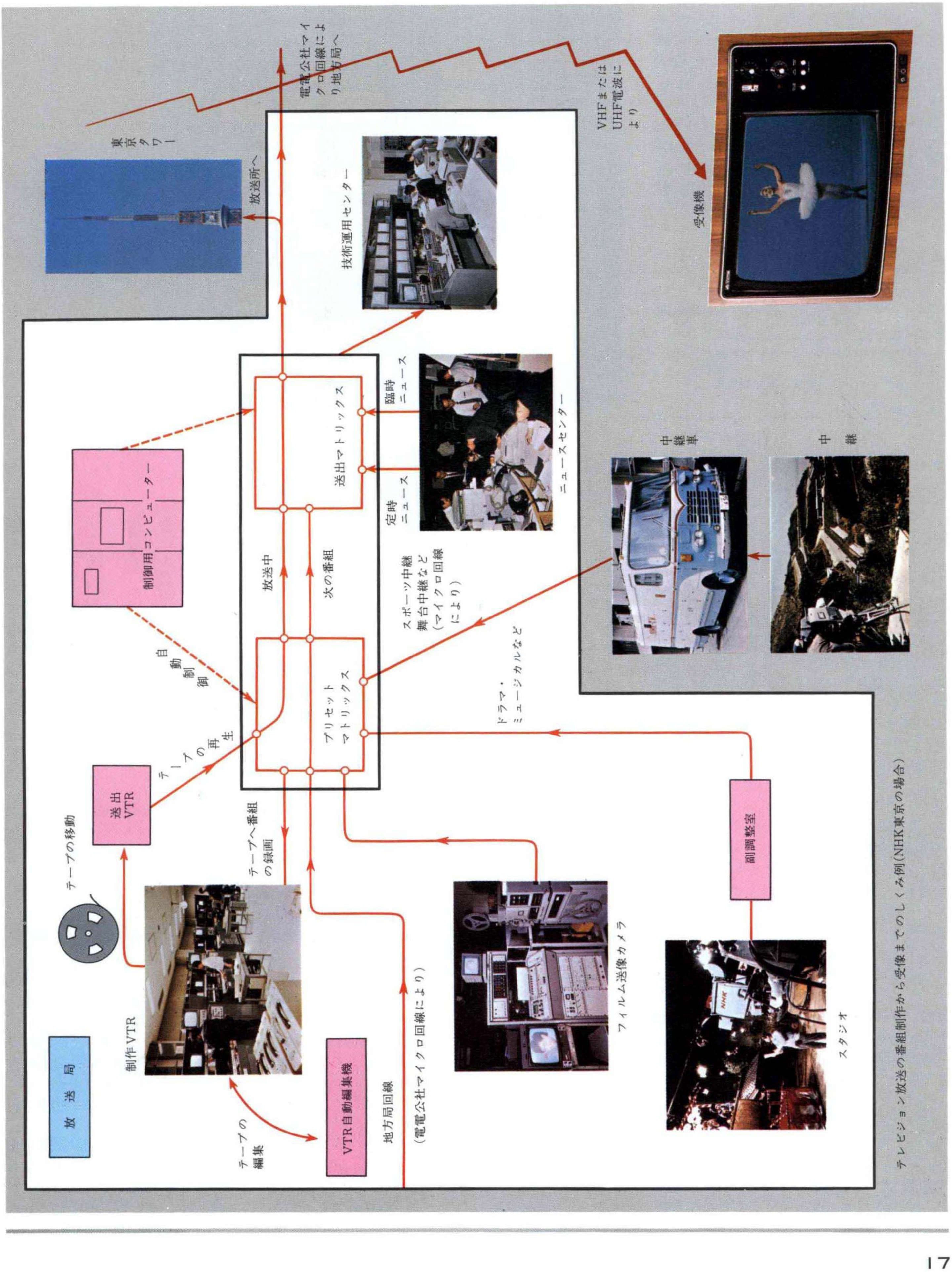
【テレビジョンの原理】 映像は最終的に人間の視覚によって認知され，目の網膜上の各細胞が受ける光の強弱（明暗）および波長（色彩）の時間的変化として構成されている。しかし，視覚には短い時間間隔で断続した映像を連続した映像として認知する残像現象と，離れた2点を1点と感ずる分解能*の限界がある。テレビジョンではこれらの性質を利用し，まず映像を残像時間以内の短い時間で断続し，さらに各映像を目の分解能以下の多数の点に分解する。これらの諸点の明暗および色彩は，同時に送ることは事実上不可能であるから，順次走査して送られるが，目はこれを時間的にも空間的にも連続した映像として知覚する。

わが国の放送テレビジョンでは，1/30秒ごとに1枚の画面を送り，各画面は図-1のように細い多数の線（走査線）に分割され，各線上の明暗および色彩を左端のものから順次送っていき（水平走査），また各水平線はそれぞれ上のものから順次送られることになる（垂直走査）。しかし，このような1回の走査では画面のちらつきが多いため，実際には水平走査線を一つ置きに飛び越して走査し，2回の垂直走査で一つの映像が完成する飛び越し走査を行なってちらつきを

世界各国の標準方式一覧

方式	走査線数	チャネル幅［MHz］	映像信号帯幅［MHz］	映像／音声搬送波間隔［MHz］	残留側波帯幅［MHz］	映像変調	音声変調	この方式を採用しているおもな国［（　）内は，UHF帯テレビジョンで採用を計画している国］
A	405	5	3	−3.6	0.75	正	AM	イギリス・アイルランド
B	625	7	5	＋5.5	0.75	負	FM	オーストラリア・オーストリア・デンマーク・スペイン・フィンランド・イタリア・ノルウェー・パキスタン・オランダ・ドイツ・スイス・ユーゴスラビア・アラブ連合・アルジェリア
C	625	7	5	＋5.5	0.75	正	AM	ベルギー
D	625	8	6	＋6.5	0.75	負	FM	ソ連・ルーマニア・ブルガリア・ポーランド・チェコスロバキア
E	819	14	10	±11.15	2	正	AM	フランス・アルジェリア
F	819	8	5	＋ 5.5	0.75	正	AM	ベルギー・ルクセンブルク
G	625	5	5	＋ 5.5	0.75	負	FM	イタリア・オランダ・ドイツ・ユーゴスラビア・ルーマニア・（オーストリア・スウェーデン・スイス・デンマーク・スペイン・フィンランド）
H	625	8	5	＋ 5.5	1.25	負	FM	（ベルギー・ルクセンブルク）
I	625	8	5.5	＋ 6	1.25	負	FM	（アイルランド・南アフリカ）
K, K1	625	8	6	＋ 6.5	0.75	負	FM	ソ連・（ブルガリア・ポーランド・ルーマニア・チェコスロバキア）
L	625	8	6	＋ 6.5	.125	正	AM	フランス
M	525	6	4.2	＋ 4.5	0.75	負	FM	日本・アメリカ・カナダ・韓国・メキシコ・パナマ・イラン・サウジアラビア・ベネズエラ
N	625	6	4.2	＋ 4.5	0.75	負	FM	ウルグアイ・アルゼンチン

注）①フィールド周波数：Mが60Hz，他のすべての方式が50Hz
②フレーム周波数：Mが30Hz，他のすべての方式が25Hz
③線周波数：Aが10.125kHz，EとFが20.475kHz，Mが15.75kHz，その他のすべての方式が15.625kHz
④映像/音声搬送波間隔で，（＋）は映像搬送波のほうが音声搬送波よりも低い周波数であることを，（−）はその逆に音声搬送波のほうが映像搬送波よりも低い周波数であることを示している。Eで（±）になっているのは同一チャネル混信軽減のためにインバースチャネル方式を採用していることを示している



テレビジョン放送の番組制作から受像までのしくみ例(NHK東京の場合)

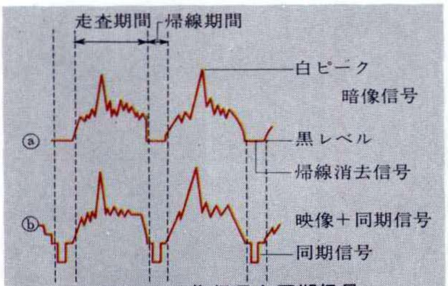
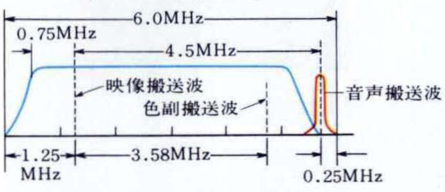
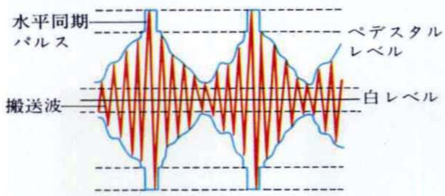


図-2　映像信号と同期信号



ⓐテレビジョン電波の周波数帯域



ⓑ負変調波

図-3　テレビジョン電波の変調方式

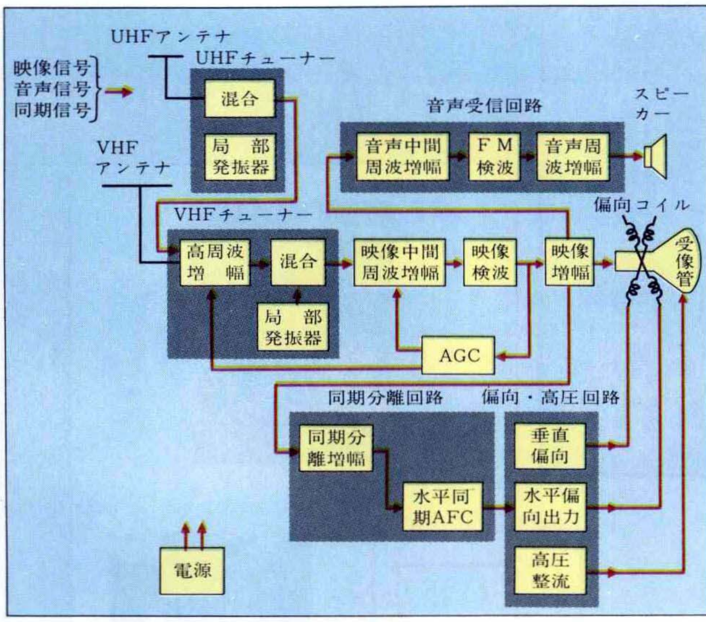
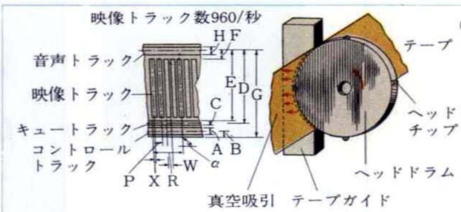
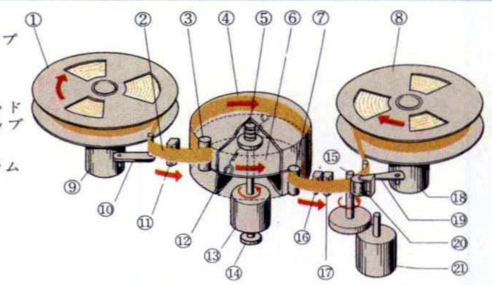


図-4　白黒受像機の構成



記号	寸　法〔mm〕	記号	寸　法〔mm〕
A	1.14±0.13	G	49.81±0.10
B	0.56±0.05	H	1.78±0.10
C	0.56±0.05	P	R/4
D	48.11±0.05	R	0.588±0.025
E	$47.55^{+0.13}_{-0.00}$	W	0.254±0.013
F	$1.45^{+0.00}_{-0.13}$	X	W/2±0.005
		α	90°30′±3′

ⓐ4ヘッド式



①供給リール　②ビデオテープ　③テープガイド　④シリンダー　⑤スリップリング　⑥回転ヘッド円板　⑦テープガイド　⑧巻き取りリール　⑨供給トルクモーター　⑩テンションアーム　⑪全幅音消去ヘッド　⑫映像ヘッド　⑬ヘッドモーター　⑭白黒リング　⑮キャプスタン　⑯音声消去ヘッド　⑰音声およびコントロールヘッド　⑱巻き取りトルクモーター　⑲テンションアーム　⑳ピンチローラー　㉑キャプスタンモーター

ⓑ回転2ヘッド式

図-5　VTRの機構模式図

低減させている。なお，帰線が画面に現われないように帰線消去が行なわれ，その時間を利用して同期信号(図-2)を送り，受像側ではこれを受けて走査を開始させ，送像側と一致した映像を再生する。映像信号・色彩信号・同期信号のほかに音声信号を混ぜて，VHF(超短波)またはUHF(極超短波)電波を変調してテレビジョン視聴者に放送する。これらの信号方式は各国によって異なり，異方式間では方式変換の必要を生ずる。主要な方式を表に示す。

〈撮像装置〉 映像は，まずイメージオルシコン・プランビコンやビジコンのような撮像管*およびレンズ系を主体とするテレビカメラで捕えられ，電気信号に変換される。撮像管はレンズによって光電面または光電導面上に外景像をつくり，これを電子ビームで走査することにより映像信号を取り出す。テレビジョンの毎秒映像数と異なるこま数の映画フィルムを送像する場合は，特別な映写機を用いて映像を補正する。

〈送信装置〉 テレビジョンを無線で放送するとき，その信号周波数帯域が広い(6MHz［メガヘルツ］)ので搬送周波数も高くなり，VHFやUHFが使用される。VHFの放送用チャンネル数は12で，UHFでは約30である。ただし，同一地域では混信を防ぐために隣合う周波数のチャネルを使用しない。映像信号は，同期信号と合わせて振幅変調(→変調)で送られるが，周波数帯域を少なくするため，図-3ⓐに示す下側帯波の大部分を切り取った残留側帯波方式とし，さらに映像が明るくなると搬送波の振幅を減少させる負変調(図-3ⓑ)を用いて画面のパルス性ノイズを目だたなくし，映像信号のひずみを少なく保つ。音声信号は映像信号の搬送波から4.5MHz離れた周波数を中心とする周波数変調で送信し，よい音質が得られるようになっている。

〈中継装置〉 各テレビジョン放送局が同時に同じ番組を放送したり，番組を交換するための中継にはマイクロ波通信が用いられ，日本では電電公社の回線を利用し，端局および中継局間は4GHz帯，放送局と端局とを結ぶSTリンクは11GHz帯で，いずれもFMである。後者は同軸ケーブルを用いることもある。

国際テレビジョン中継は静止衛星(インテルサット)を利用したマイクロ波中継で，アメリカ大陸とは茨城衛星通信所を通して太平洋上の衛星(インテルサットIII号系F4)で，ヨーロッパ方面には山口衛星通信所を通してインド洋上の衛星(インテルサットIII号系F3)で結ばれている。ヨーロッパ諸国と日本のようにテレビジョン標準方式が異なる場合には，中継の際に方式変換を行なう必要がある。

競技場や劇場などから局への番組中継は市内中継とよばれ，同軸ケーブルやマイクロ波を利用する。大都市では各テレビ局が共用する市内中継センターがあり，番組を中継している。中継設備が常設されていない場所には局外中継用自動車を出張させて中継する。これらのほか，現地でVTRに録画してしまうこともある。

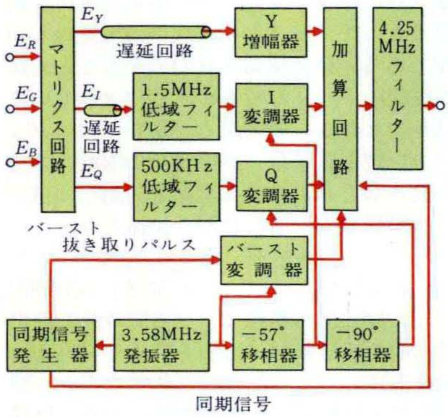
放送局から離れた所や山間部など受信電界の弱い地域には，親放送局の放送電波を受信し，その周波数を変えて再放送するサテライト中継局や，そのまま増幅して放送

するブースター中継局を置いて受信者へのサービスを行なっている。

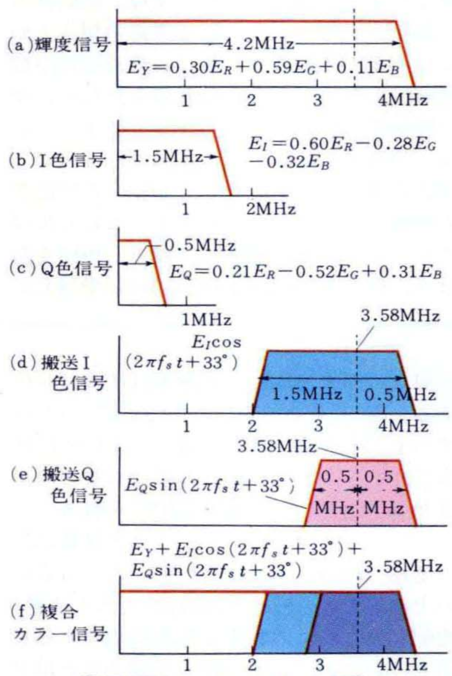
《受像装置》テレビジョン受像機は図-4に示すように，スーパーヘテロダイン(→変調)受信方式であるが，UHFとVHFとでは周波数がかけ離れているから別個のアンテナとチューナーで受信して希望のチャネルを選択し，中間周波信号(映像58.75MHz，音声54.25MHz)に変換する。中間周波増幅部では音声信号が映像回路に混入しないようトラップを設け，十分に減衰させる(インターキャリヤ方式)。検波した映像信号はブラウン管の制御グリッドに与えられ，信号の強弱に応じ電子ビームの量を加減して画面の明暗をつくる。一方，映像信号から水平同期信号と垂直同期とが同期分離回路により分離されて水平偏向信号と垂直偏向信号とを発生し，それぞれブラウン管の水平偏向コイルと垂直偏向コイルとに与えられてブラウン管の電子ビームを走査し，螢光(けいこう)面上に送信されたものとまったく相似の映像を再現する。音声信号は，検波された映像信号内に搬送波4.5MHzのFM波として含まれているので，これを増幅して復調したのちスピーカーを駆動させ，音声を再生する。なお，最近の受像機の多くは，ブラウン管を除きすべての回路に半導体*を用い，真空管の使用は少なくなっている。

《録画装置》テレビジョンでは，映画撮影装置と映画フィルムを用いたフィルム録画のほかに，磁気録画装置(VTR)を用いた磁気録画が行なわれる。テレビ信号は，低周波から最高4MHz(メガヘルツ)までの周波数成分を含むため，音声の磁気録音と同様の方法は使用できず，磁気テープが送行するとともに磁気ヘッドが回転する方法を用いる。図-5ⓐは放送用に使われる4ヘッド式VTRの原理図で，幅50.8mmの磁気テープが毎秒38.1cmの速さで送行し，それと直交して4個の磁気ヘッドをもった直径50.8mmのヘッドドラムが毎秒240回転し，テープとヘッドの相対速度は38.1m/秒になる。4個のヘッドの中でテープに接している一つに映像信号が送られ録画される。工業用や家庭用のVTRは，より簡易な図-5ⓑの回転2ヘッド式VTRが用いられ，テープを斜め方向に走査して録画する。

【カラーテレビジョン】たいていの色は赤・緑・青の三原色を加色混合すれば再生できることが古くから知られている。したがって，三原色別に映像信号を伝送すればカラーテレビジョンは実現できるわけであるが，これでは周波数帯域が広がって実用にならない。そこで，実際には周波数帯域幅を6MHz(日本・アメリカ)または7MHz(ヨーロッパ)以内におさえ，さらに白黒用受像機で受信したときには白黒の映像として観賞できる方法がとられている。白黒テレビジョンとの両立性をもつカラーテレビジョン標準方式としてNTSC(日本・アメリカ合衆国)・PAL(西ドイツ・イギリスなど)・SECAM(フランス・ソ連)の3方式が現用されている。



ⓐNTSCカラーテレビジョン信号の発生



ⓑNTSCカラーテレビジョン信号の周波数スペクトル

図-6 カラーテレビジョン信号

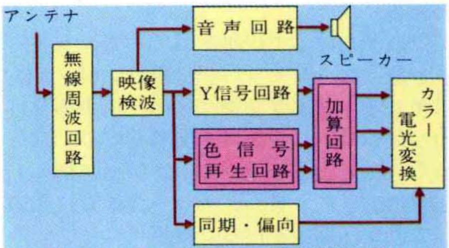
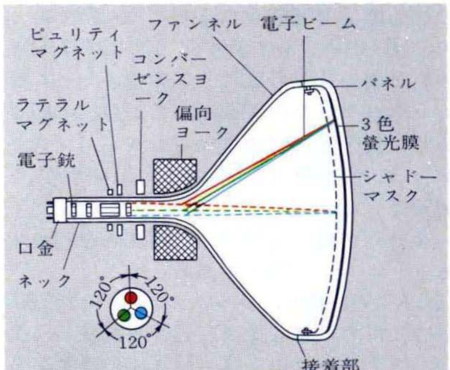
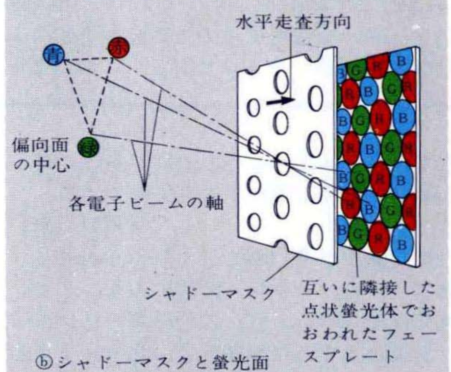


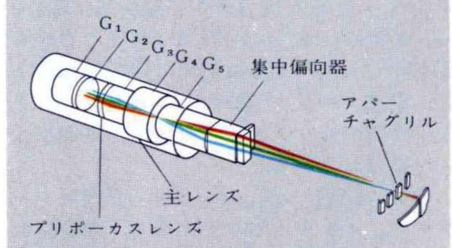
図-7 カラーテレビジョン受像機の原理



ⓐシャドーマスク管の構造



ⓑシャドーマスクと螢光面



ⓒトリニトロン管の構造

図-8 カラーテレビジョン受像管の構造

NTSC方式では，画面上の細かい部分の色差に対する視力が明暗差に対する視力よりはるかに低く，またきわめて小さい物体の色はすべて赤オレンジ系と青緑系の色であるかのように感じるという視覚の特性を利用して，映像のすべてを三原色で表わさず①画面上で比較的大きな部分(映像周波数で0.5MHz以下)だけ三色で再生する信号を送り，②比較的小さい部分(0.5〜1.5MHz)については明るさの信号と赤オレンジ系と青緑系の色信号(I信号)だけで再生し，③非常に細かい部分(1.5MHz以上)は明暗だけを送るようにして周波数帯域を節約している。図-6ⓐに示すようにまず三原色別の信号E_R，E_G，E_Bをカメラから取り出し，明暗を表わす輝度信号$E_Y=0.30E_R+0.59E_G+0.11E_B$をつくる。色信号は1.5MHzまでの信号$E_I=0.60E_R-0.28E_G-0.32E_B$と0.5MHzまでの$E_Q=0.21E_R-0.52E_G+0.31E_B$をつくり，映像信号を妨害しないよう選ばれたカラー副搬送波$f_s=3.579545$MHzを2相変調する。その結果，カラー信号は図-6ⓑに示すようになり$E_Y+E_I\cos(2\pi f_s t+33°)+E_Q\sin(2\pi f_s t+33°)$と表

テレビジョン

わせる。

このようにして伝送されてくるカラー信号を受け取ったカラー受像機は，図-7に示すように白黒受像機に色信号再生部を付加したもので，色信号を分離してE_I, E_QをつくりE_Yとともにマトリクス回路に加えて三原色信号にもどし，カラー受像管に印加してカラー画像を得る。実用になっているカラー受像管はR，G，Bの三色発光体に対応した3本の電子ビームをもち，それぞれの原色信号で制御される3ビーム型であって，図-8ⓐ，ⓑに示すように120°に配置された電子銃から出た3本の電子ビームをシャドウマスクの孔を通して，点状に配置された螢光体に射突させるシャドーマスク型カラー受像管と，図-8ⓒに示す水平に並んだ3本の電子ビームでアパーチャグリルを通して縦じま状の三色螢光体を刺激するトリニトロン管とがある。

【CATV】最近，テレビジョンの難視聴解消のための共同受信方式から発展し，そのシステム内での自主番組送出の機能をもったCATVが出現した。これは，伝送路にケーブルを使用するので周波数帯域に十分な余裕があり，テレビジョンだけでなく加入者に奉仕する他のあらゆる通信にも利用でき，また加入者相互間の情報交換も可能である。今後情報化社会の発達とともに情報網の中心になるものと期待されている。

【テレビジョンの効用と応用】テレビジョンの出現と普及は，娯楽番組の家庭への持ち込みなどにより映画産業を斜陽化に追い込む結果をもたらしたが，全体のコミニュケーションの様相を一変させてしまった（テレビジョン放送については〈放送〉の項参照）。たとえば，報道番組における同時性と臨場感は他の報道機関の追随を許さない。また教育面における効用はきわめて大きく，幼児向け・学校向けの教育番組，あるいは成人向けの教養番組があり，多大の成果をあげている。小・中学校などでは，時間割の一部にテレビジョンによる学習を組み入れているところもある。また，放送局が学校設置者となって通信高校教育を行ない，その授業の大部分をテレビジョンによっている。さらに文部省ではテレビジョンによる放送大学の設立を計画しており，実験放送の開始もまもないと思われる。これらには，テレビジョン受像機さえあれば，場所を選ばず，そのうえVTRを併用すれば受講者のつごうのよい時刻を選べる特徴をもっている。しかも，十分に準備された教育内容が，すべてのテレビ的手法を駆使して放映されるので，教師と生徒間の親密性はないが，教室における教育と同等以上の教育効果をあげうる。

テレビジョンは，放送用以外に産業・教育・交通制御・学術・医学・家庭・軍事用など多数の分野に応用されている。これらは，情報伝達が特定の対象に限定されていることから閉回路テレビジョン（CCTV）とか，また産業面に多く使用されているため産業用テレビジョン（ITV）とよばれる。閉回路テレビジョンは，人間の目の代用をするだけでなく，視覚の限界を越えて拡張することが可能である。たとえば，宇宙や人体内など，人の行けない場所の観察，原子炉内のような有害危険箇所の監視，赤外線・X線などの不可視像の観察，プラントの制御などの多数箇所の集中監視，教育や案内サービスなど多数箇所への表示などに用いられている。なお，閉回路テレビジョンの方式は，放送用と同一である必然性はなく，その目的に適合した自由な方式や設備を選択することができる。〔小原啓義〕

もち，特にスギやヒバの美林が多い。銅・石油などの地下資源にも恵まれている。〔高野　繁〕

テワンテペク（地峡）［Tehuntepec］ 北アメリカ，メキシコ南部にあり，メキシコ湾側カンペチェ湾と太平洋側テワンテペク湾にはさまれた地峡部で，北アメリカと中央アメリカを区分する。最狭部は幅180km。高度200m前後の平原であるところから，太平洋と大西洋を結ぶ運河の建設計画があり，現在メキシコ湾側のプエルトメヒコと太平洋側のサリナクルース間は，鉄道によって結ばれている。

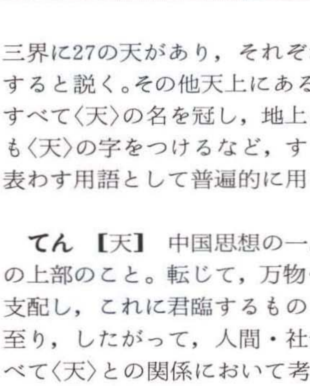
テン【貂】 哺乳（ほにゅう）類・食肉目・イタチ科。イタチに似るが大形で，頭胴長44～50cm，尾長17～23cm，夏毛と冬毛で毛の色はひどく異なる。日本と朝鮮の特産で，本州・四国・九州にホンドテン，対馬（つしま）にはツシマテンが分布する。山地の森林に生息し，木登りはリスのようにうまく，ネズミ・小鳥・リス・モモンガ・トカゲなどを食べる。またカキなどの実も食べ，秋にはこれらが主食となる。毛皮はつやがあり，美しいので高価である。

てん【天】 ペルシア・インド・モンゴル・中国などの古代遊牧民族の神話にみられる宗教的信仰対象としての天空。のちに天上に住する男性神をも意味するようになった。インドでは早くから〈天（デーバ）〉を具象化し神の呼称とするとともに，その神の住む最勝・最楽・最善・最妙・最高の場所ともした。仏教の《倶舎論（くしゃろん）》では三界に27の天があり，それぞれに諸天が住すると説く。その他天上にある香華（こうげ）はすべて〈天〉の名を冠し，地上のよいものにも〈天〉の字をつけるなど，すぐれたものを表わす用語として普遍的に用いられる。〔北条賢三〕

てん【天】 中国思想の一。もとはものの上部のこと。転じて，万物・万人を生育・支配し，これに君臨するものを意味するに至り，したがって，人間・社会のことはすべて〈天〉との関係において考えられるようになった。➔天下　➔天命説　➔理気説

てん【点】 ギリシア時代にユークリッドは，点を〈位置だけあって大きさのないもの〉と定義した。今日の幾何学基礎論では，点を直線とともに無定義術語として，その内容を公理*によって規定している。

でんあつ【電圧】 電位差*のこと。電位差のある2点間に電荷*の移動しやすい条件を与えると，電荷の移動が起こり，電流*が発生する。このことは，その場所に電荷を移動させる一つの電気的な圧力が存在しているものと考えられるので，特に電圧という名がつけられている。単位はボルト（V）。



テ　ン

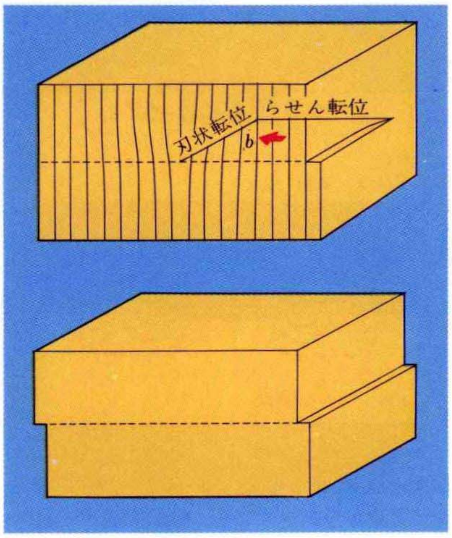
でんあつけい【電圧計】 電圧をはかる計器。ふつう指示形計器のみを特に電圧計という。しかし，微小電圧を測定する指示形計器は精度が悪く，測定精度を要求されるときには可動コイル形・可動磁針形の直流検流計を用いる。このように，はかろうとする電圧によって直流では，適当な形・級・定格を選ばねばならない。たとえば，可動コイル形を用いても，計器抵抗の高いことを要求される場合には静電電圧計を用いる。ただし，10V以上の電圧に対しては電位計でなければ測定できない。交流では，①商用周波には可動鉄片形，直流と比較するときは，電流力計形・静電形が使用される。②可聴周波には整流電圧計・真空管電圧計，③高周波では真空管電圧計が用いられ，これは静電形と同様に計器抵抗が高い。高電圧の場合には，適当な変圧器，抵抗分圧器・容量分圧器・容量電圧変成器などにより，分圧・変圧して前述の方法で測定する。〔堀内和夫〕

てんあんもん【天安門】 テンアンメン 中国，北京（ペキン）の紫禁城を含む旧皇城の南正門。門外には金水橋がかかり，北は紫禁城の正門である午門と，南は内城の正陽門と対する。中華人民共和国になって門の前面一帯に大広場がつくられるとともに，付

近には人民大会堂などの大建築が建てられた。天安門広場は国慶節など国家の記念行事やメーデーなどの集会が行なわれる場所として有名である。

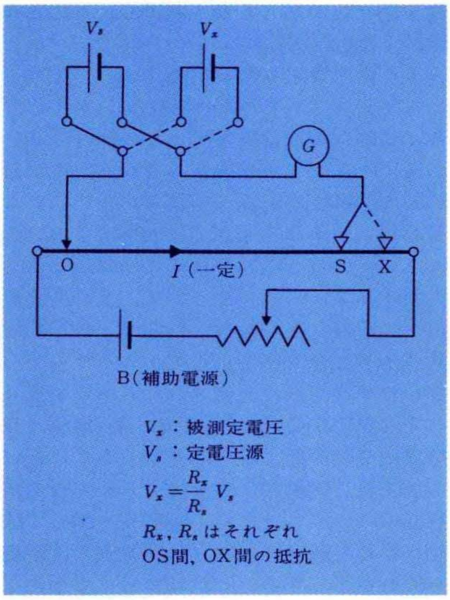
てんい【転移】腫瘍(しゅよう)細胞または病原体などが原発巣から離れて他の部位に運ばれ，そこで新しく発育・増殖して原発巣と同様の病変を起こすこと。転移経路によって次の3種に分類される。リンパ流を介するリンパ行性転移，血行を介する血行性転移，体腔(たいこう)内に遊離して種をまいたように散布される播種(はしゅ)性転移。

てんい【転位】ディスロケーションともいい，結晶中の代表的格子(こうし)欠陥の一。結晶内のある原子面がある方向にすべりを起こすために現われるもので，転位は線状をなしている。結晶はきわめて小さい応力の下で格子面に沿ってすべる。結晶内の原子間のずれは格子面上の一曲線(転位線)の回りに集中し，それを境としてベクトル**b**だけすべった部分とまだすべらない部分とが隣合っている。転位が移動して結晶全体を通過すれば，これは格子面に沿って結晶全体がすべったのと同じ効果を生ずる。転位が**b**に垂直および平行な場合をそれぞれ刃状転位およびらせん転位という。らせん転位はしばしば結晶の成長過程にみられる。転位の理論は結晶体の可塑性を説明するために1934年テイラーが提唱し，その後広い範囲に発展・拡張されている。〔飼沼芳郎〕



転　位

でんい【電位】電気的な位置エネルギー。電気ポテンシャルともいう。電界*中に正電荷*を置くと，電界の方向に力を受ける。したがって，この電荷は仕事*をする能力をもっている。すなわち，この電荷は位置のエネルギーをもっている。正電荷を無限遠に置くとこれには力が働かないから，仕事をする能力をもたず，位置エネルギーは0である。また，逆に，無限遠から点Aまでこの正電荷を運ぶのには仕事を必要とし，Aまで運ばれた正電荷はなされた仕事だけの位置のエネルギーを獲得する。正電荷として単位正電荷(1クーロン)を選んだときのエネルギーを，点Aの電位とよぶ。エネルギーの単位はジュール(J)，1(ジュール/クーロン)＝1Vだから，電位の単位はボルト(V)。すなわち，もとからあった電界をE(V/m)とすると，点Aの電位V_Aは$V_A=-\int_{\infty}^{A}E\cdot dr$(V)。負号は電界に逆らって運ぶことを意味する。〔堀内和夫〕



電位差計 原理図

てんいげんそ【転移元素】遷移(せんい)元素ともいう。メンデレーフが周期律表を作成したとき，鉄族元素の鉄・コバルト・ニッケル，白金族元素のルテニウム・ロジウム・パラジウム・オスミウム・イリジウム・白金の諸元素は陰性なハロゲンを含む第Ⅶ族から陽性のきわめて強いアルカリ金属を含む第Ⅰ族への遷位過程の元素であるとしてこのように命名した。電子構造に基づいて分類するときは，前記9元素の前後の原子番号をもつものも，これに含めているが，その範囲は一定しない。転移元素はいずれも金属であって，数種類の原子価を有し，化合物は着色していることが多い。錯塩をつくりやすい。➔元素〔古屋　弘〕

でんいさ【電位差】電位*の差。電場*Eの作用する場において，2点A，Bにおける電位がそれぞれV_A，V_Bボルトと決まるならば，A，Bを結ぶいかなる曲線上の積分

$$\int_{A}^{B}E\cdot dr$$

によっても電位差の同一の値V_A-V_B(V)が与えられる。電位とは，その点の位置エネルギーであるから，電位差のある2点間には位置エネルギーに差があり，電位の高いほうの点に置かれたqクーロンの電荷*は，電位の低いほうの点まで移動することによって，ちょうど$q(V_A-V_B)$ジュールだけの仕事がなされることになる。〔堀内和夫〕

でんいさけい【電位差計】測定しようとする2点間の電位差を，すでに知られている起電力と比較することによって求める計測器。これは測定する電位差の源から電流を取り出すことなくはかることができるので小容量の起電力や，その他一定の電流を通じた場合のインピーダンス*・抵抗の測定に適している。

てんいてん【転移点】ある物質の結晶形などが，一定の圧力のもとで変化を起こす温度。鉄は1気圧，910℃においてα状態からγ状態に転移し，イオウは95.6℃で斜方晶系から単斜晶系に転移する。

でんえんこうきょうきょく【田園交響曲】ベートーベン*作曲の交響曲第6番，ヘ長調，作品番号68。ベートーベン自身によって〈田園〉と名づけられた。初演は1808年12月で，そのときは第5番となっていたが，出版後は第6番となった。曲は5楽章からなる。第1楽章〈田園に着いたときの愉快な感情の目ざめ〉，第2楽章〈小川のほとりの情景〉，第3楽章〈いなかの人たちの楽しいつどい〉，第4楽章〈雷雨・嵐(あらし)〉，第5楽章〈牧人の歌，嵐のあとの喜びと感謝の気持ち〉。〔向坂正久〕

でんえんとし【田園都市】原則として大都市への通勤者をもたないが，産業活動・社会生活に自律性のある田園地帯に囲まれた中程度の都市*。これが発展して独立した経済機能・行政組織・社会関係をもつ衛星都市の概念が生まれた。➔ニュータウン

でんえんのゆううつ【田園の憂鬱】佐藤春夫*(はるお)の短編小説。1917年(大正6)6月，前半を《病める薔薇(ばら)》として発表し，その後改作増補し1919年6月定本《田園の憂鬱》として刊行。神経を病んだ詩人が妻と犬を2匹伴って，武蔵野(むさしの)の一隅(いちぐう)に過ごす田園生活を描いたもの。自然の風物も詩人の倦怠(けんたい)感・幻想・憂悶(ゆうもん)にいろどられている。作者の出世作で散文詩風の心象風景の作。

てんか【天下】中国では，古来この現実界を，天*が生育し君臨・支配するものと考え，これを天下とよんだ。具体的には万物・万人の総合であり，この総合の秩序法則を〈天道〉とよぶ。その天道を維持する任務を負うものが〈天子〉で，天子は君として統治すると同時に父として仁愛すると考えられた。これは家族主義的国家観の所産である。➔天命説

でんか【電荷】その存在ないしはその運動によってすべての電磁気現象をひき起こす実体をいう。正・負の2種類があり，同種間には斥力，異種間には引力が働く。この力(クーロン力)の大きさから電荷の値，すなわち電気量を求めることができる。電荷は物体に付随しているものであり，物体のもつ電気量は電子のもつ電荷e(電気素量)の整数倍に限られる。同量の正電荷と負電荷を有する物体は電気的に中性であり，電気的に中性な2種の物体を摩擦すると発生する電荷は，電子が一方の物体から他方

の物体に移行した結果である。したがって，両物体の電荷は等しく正・負を示す。クーロン(C)を単位とし，1Aの電流が1秒間に運ぶ電気量に等しい。〔伊藤糾次〕

てんかい【天海】（1536？〜1643） 江戸初期の天台宗の僧。名は随風。号は南光坊・智楽院(ちらくいん)。陸奥(むつ)(福島県)会津の人といわれる。延暦(えんりゃく)寺・園城(おんじょう)寺・興福寺などで修行。徳川家康(いえやす)の帰依厚く，武蔵(むさし)(埼玉県)川越の喜多院に入寺し，次いで下野(しもつけ)(栃木県)日光山を賜わった。家康の葬礼について崇伝と争って勝ち，東照大権現位を勅許されるとともに，日光輪王寺の建立(こんりゅう)に力を尽くし，仏教と神道を融合した一実神道の立場から，家康の遺体を駿河(するが)(静岡県)久能山から日光山に移した。また2代将軍秀忠(ひでただ)・3代将軍家光(いえみつ)に信任されて幕政に関与した。1625年(寛永2)江戸城の鬼門にあたる忍岡(しのぶがおか)に寛永寺を創建してその開山となり，またわが国最初の大蔵経(一切経)の開版(天海版)を行なった。没後，慈眼(じげん)大師の諡号(しごう)を勅賜され，慈恵大師良源とともに両大師としてあがめられた。〔岡山泰四〕

てんがい【天蓋】 仏堂装厳具の一。堂内に安置される仏像の頭上を飾る蓋(おおい)で，普通は天井からつり下げる。インドの王侯・貴族の外出の際に用いられた，暑熱を避けるための日傘(ひがさ)に起因するらしい。形状によって，箱形天蓋と宝相華(ほうそうげ)や蓮華(れんげ)をかたどった円形天蓋に大別される。箱形天蓋は奈良時代以前に流行し，法隆寺金堂内陣中間と西間の天蓋が現存最古の遺例である。円形天蓋は平安時代以後に多くみられ，教王護国寺御影堂の天人彩絵蓮華形天蓋や中尊寺金色堂の宝相華文透彫(すかしぼり)の天蓋が著名である。〔河田 貞〕

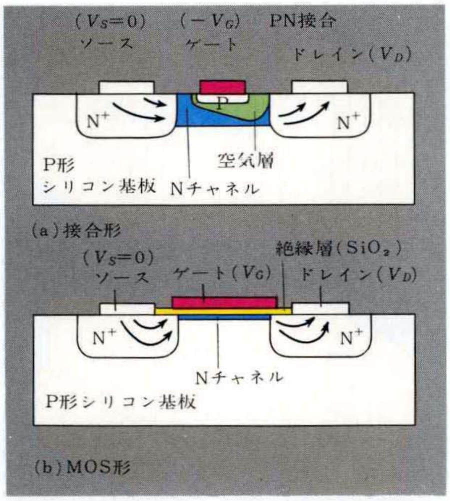
でんかい【電解】 ⇨電気分解

でんかい【電界】 ⇨電場

でんかいアルカリこうぎょう【電解アルカリ工業】 食塩電解工業ともよばれ，食塩水を電気分解して水酸化ナトリウム(苛性(かせい)ソーダ)・塩素・水素をつくる代表的な化学工業。その反応式は，

$$NaCl+H_2O=NaOH+\frac{1}{2}Cl_2+\frac{1}{2}H_2$$

である。この際，陽極と陰極の生成物であるCl_2とNaOHが反応してNaClOとなるのを避けるために，電解槽(でんかいそう)には，隔膜法と水銀法がある。①隔膜法は，陽極(人造黒鉛)と陰極の間に隔膜をおいて陰極に鉄などの金網を用い，陽極で発生するCl_2は陽極室から排出させ，陰極で生成するNaOH溶液とH_2は陰極室から排出させる。このNaOH溶液には未反応のNaClを含むから蒸発濃縮し，NaClを晶析分離して濾過(ろか)する。②水銀法は，無隔膜であるが陽極に黒鉛，陰極に水銀を用いるからNa^+はナトリウムアマルガムとなる。このアマルガムは循環して電解槽外に導かれ，水と黒鉛片を満たした解こう塔を通過し，このとき黒鉛｜水(NaOH溶液)｜ナトリウムアマルガム　の形をとる電池反応によってアマルガムが分解されてNaOH溶液とH_2を生成する。この水銀法は隔膜法よりも純度の高い水酸化ナトリウムが得られること，電気分解の電流密度が高く規模効率がよいことなどの利点があり，現在では90%がこの方法によっている。なお陽極の人造黒鉛はCl_2の発生によって消耗するので，不浸透性黒鉛への改良などが行なわれたが，最近耐塩素性不溶性金属電極としてルテニウムめっきしたチタン板が開発された。〔向 正夫〕



電界効果トランジスター　構造。接合形とMOS形では，ゲート電圧の符号が異なっている

でんかいかこう【電解加工】 電解研摩の方法を表面仕上げや形をつくるのに用いる加工法。電解中に電解面付近にできる電解抵抗の大きい液層を，電解液を激しく流動させたり振動させたりして除去し，電流を流れやすくする。これによって実用的な加工速度を得て，型彫りや電解研削などを行なう。電解液には塩化ナトリウム水溶液がよく用いられる。加工面と電極の間隙(かんげき)を0.1mm程度に狭くし，その間隙に電解液を高速に流して穴あけ・型彫りなどを行なう。加工機は電解面と電極の間隙を一定に維持するために，電極の送り制御に意が払われている。〔葉山房夫〕

でんかいこうかトランジスター【電界効果トランジスター】 半導体の内部または表面に形成されたチャネル(電子または正孔の通路)の電導度を，チャネルに垂直な方向に電界を加えることによって，制御するようにしたトランジスター。電界効果トランジスター(FET)には，チャネルの電導度を制御するため，逆バイアスしたPN接合の空乏層の厚さが，バイアス電圧に依存することを利用して，チャネルの厚さを変化させる接合形FETと，半導体の表面に絶縁層を介して電極を配置し，電極に加える電圧によって，半導体表面に形成されるチャネルの電導度を制御する絶縁ゲート形FETとがある。特に後者では，半導体としてシリコンを用い，その表面に形成した酸化シリコン膜を絶縁層として利用した，MOS構造のFETが実用化されている。

チャネルの電導度を制御するための電圧を印加する部分をゲート，チャネルへの電流の流入部および流出部を，それぞれ，ソースおよびドレインとよぶ。FETは，ドレイン電流を電圧によって制御する素子であり，ドレイン電流対電圧特性ならびにゲートの入力インピーダンスなどの点で，真空管に類似した半導体素子である。〔伊藤糾次〕

でんかいコンデンサー【電解コンデンサー】 誘電体として金属アルミニウムの酸化皮膜を用いるコンデンサー。この皮膜はアルミニウム箔(はく)を電解質中で陽極処理してつくられる。小形低耐圧大容量コンデンサーで，主として電源回路の平滑用，または電子管回路のカソードバイパスコンデンサーとして用いられる。電解質を陰極とするため，一般に極性があり，高周波での損失や漏電が比較的多いため，直流および低周波回路のみに用いられる。アルミニウムの代わりにタンタルを使ったものは，高周波特性・温度特性がよく，さらに小形化することが可能である。〔堀内和夫〕

でんかいしつ【電解質】 水または他の溶媒(液体アンモニア・フッ化水素など)に溶解してイオン化(解離)し，その溶液中のイオンによって電気を導くような物質。電離の大小により強電解質(強酸・強塩基，多くの塩類)，弱電解質(弱酸・弱塩基)に分類される。質量作用の法則，オストワルドの希釈律は，強電解質溶液には適用できない。その他$Al(OH)_3$のように酸性・アルカリ性の両方の性質を示すものやアミノ酸・タンパク質のように一つの分子に酸性の−COOH基，塩基性の$-NH_2$基の両方をもつ両性電解質もある。電解質に対しショ糖・アルコールなどのように電離せず分子のままとけ，電気を導かない物質を非電解質という。〔三輪誠・青木勝〕

てんかいず【展開図】 立体の表面を適当な線に沿って切り開いて，平面上に広げた図形。たとえば，多面体を適当な辺に沿って切り開くと，平面上に広げられる連結した図形になる。また，円柱や円錐(えんすい)も1本の母線と底面の周に沿って切れば，平面図形が得られる。このような平面図形をもとの立体の展開図という。

円錐の展開図をつくると，その側面は頂点を中心，母線を半径とする扇形で，そのときの中心角θは，$\theta=360°\times r/l$となる。ただし，rは底面の半径，lは母線の長さを表わす。また，立方体の展開図はいずれも7個の辺を切ってつくられ，図に示したように11種類になる。〔菊池兵一〕

でんかいせいれん【電解精練】 電解の原理を応用した金属の精練法。電解冶金(や

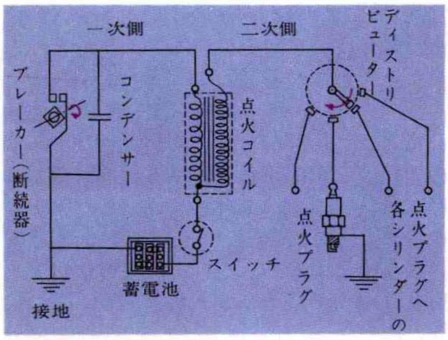
きん)ともいう。乾式法で得られた粗金属を陽極として電解し，目的の金属を陰極に分離析出させる電解精製法と，目的金属を電解液中に抽出し，不溶性陽極を用いて電解し，純粋な金属を陰極に還元析出させる電解採取法とに大別される。また，電解液の種類によって水溶液電解・非水溶液電解・溶融塩電解に分類される。これらの方法は他の乾式法と競争する立場にあるが，簡単に高純度の金属を得る方法として重要で，電解精製法は銅・鉛・スズ・銀などに，電解採取法は亜鉛・ニッケルなどに用いられている。溶融塩電解は，アルミニウムを代表として精製・採取に分けられるが，この電解法の出現によってはじめてアルミニウムの工業的大量生産が可能となった。〔藤瀬直正〕

でんかいぶんせき【電解分析】電解現象すなわち電極反応を伴う定量分析*。電気分析*のうちの一。古くは電解により析出した物質を秤量(ひょうりょう)して分析を行なう重量分析が電解分析とよばれたが，電子工学の技術の進歩とともに定電圧や定電流の装置が自動化され，電解に要した電気量の測定や，電極電位がある値に達するまでの時間の測定などによる広い応用方面が開けてきている。また，電気滴定やポーラログラフィーでは，反応自身にはほとんど電力を要しないが，電解分析では相当大きい電力を消費して金属を析出させる点が異なっている。〔三輪誠・野宮健司〕

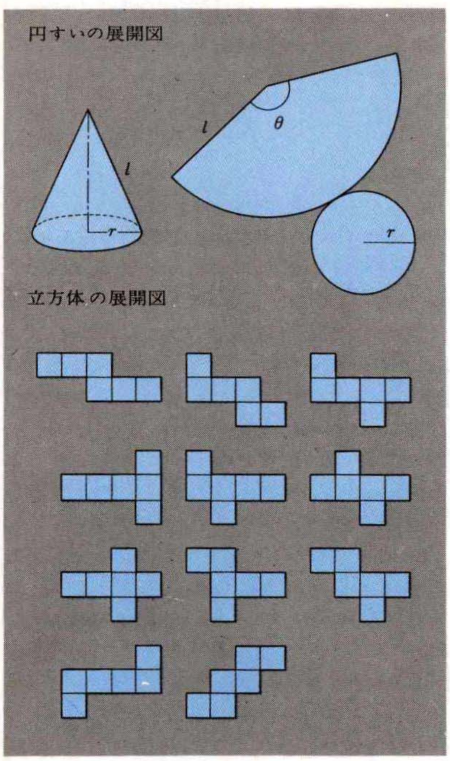
でんがく【田楽】豆腐田楽の略。豆腐を長方形に切ってくしに刺し，みそを塗って焼いたもの。田楽法師(→次項)が棒に乗って飛ぶ姿に似ているのでこの名があるといわれる。豆腐のほかにサトイモ・八つ頭(がしら)・ナス・こんにゃく・トウガラシなども用いられ，魚を使う魚田もある。みそは砂糖・酒・煮出しじるを火に掛けて練り，すった木の芽を混ぜてつくる。なお，おでん*(煮込みおでん)は，田楽の変化したものといわれる。〔塩川ふみ〕

でんがく【田楽】田植えに際し豊作を祈願する田遊びから発達した神事芸能。古代・中世芸能の一つで，《日本書紀》にみえる田舞は田楽の前身といわれる。古くは，地方の神田での田植えのときに笛・太鼓の囃子(はやし)で踊った。平安末期から鎌倉末期にかけて〈田楽法師〉という専従者が現われ，風流(ふりゅう)化した田楽が都会に進出し流行した。彼らは本座・新座などの座*を組んで，ささらと太鼓で踊る歌舞，高足のような軽業(かるわざ)，散楽*・獅子舞*(ししまい)などを取り入れた。鎌倉時代には，北条(ほうじょう)高時に愛好されるなど田楽は舞楽*に代わって代表的芸能となり，鎌倉中期に猿楽*(さるがく)の能*の出現に影響を受けて田楽能を演じた。室町時代には，将軍足利義持(あしかがよしもち)に寵愛(ちょうあい)を受けた本座の一忠とか新座の増阿弥(ぞあみ)らの名人が出て，猿楽とその覇(は)を争ったが，猿楽に圧倒され室町末期に衰えた。現在では，民俗芸能としてほぼ全国にわたって残っており，神社の祭礼，寺院の法会(ほうえ)などに行なわれている。

てんかそうち【点火装置】点火栓(てんかせん)ともいう。火花点火機関において，点火プラグに電気火花を飛ばし，空気とガソリンの混合気に点火するための電気装置。蓄電池式とマグネト式とがある。蓄電池式は蓄電池と高圧コイルの1次側を直列に結び，この間に断続器を入れて電流を断続すると，コイルの2次側に高電圧(10～15kV)が誘起され，これに結ばれた点火プラグに火花が飛ぶ。マグネト式は高圧磁石発電機で，永久磁石の間で回転するコイルに高電圧を発生させ，これによって点火する。多シリンダー機関では，各シリンダーに適時点火させるため，高電圧を配分する分配器(ディストリビューター)をもっている。点火プラグは碍子(がいし)によって絶縁された中心電極と本体に接地された対向電極とからなり，この間で放電する。〔斎藤　孟〕



点火装置　配線例(電池式)



展開図

てんがぢゃや【天下茶屋】⇨敵討天下茶屋聚(かたきうちてんがぢゃやむら)

てんかとう【転化糖】ショ糖を酸または酵素で加水分解すると，ブドウ糖と果糖の混合物となる。この現象を転化といい，できたものを転化糖という。転化糖はもとのショ糖より甘味が強く，また吸湿性がある。この性質を利用して，菓子の甘さに〈こく〉をつけたり，製品のかわくのを防ぐために使用される。また，この転化糖を土台にしてかおりをつけたり，はちみつに混和したりしてはちみつを模造したものもある。

てんかふん【天瓜粉】キカラスウリまたはオオカラスウリの塊根の皮を除いたものを括楼根(かろこん)といい，それからとったデンプンを天瓜粉という。古くから散布剤として，おもに乳幼児のあせも・ただれなどの予防・治療に用いられていた。現在では亜鉛華とデンプンを混合した亜鉛華デンプンや，さらに塩化ベンゼトニウムなどの殺菌剤を加えたものが用いられている。

てんかん【癲癇】発作的に現われる意識障害と痙攣(けいれん)を主徴候とする疾患群。外因が考えられず，遺伝的負因によってひき起こされる真性癲癇と，脳疾患および中毒などに起因する症候性癲癇とがある。癲癇発作の定型的なものは，突然に意識を失い，全身の筋肉に強直性，次いで間代性の痙攣が起こる。痙攣はふつう数分で終わり，しだいに意識を回復するが，そのまま睡眠に移行することもある。また，発作の起こるまえに種々の前兆があることが多く，症状は一般に大発作・小発作・精神運動発作などの3症型に分けられる。①大発作：定型的なものは意識消失を伴う全身痙攣であるが，意識消失を伴わない大発作の頓挫(とんざ)型もある。前兆のあとにしばしば叫び声をあげ，顔面蒼白(そうはく)となって卒倒し，全身に筋肉の強直痙攣が起こる。この際，歯をかみ合わせて後ろにのけぞる姿勢を示す者が多く，次いで全身の筋肉が律動的で，攣縮・弛緊(しきん)を反復する間代運動が起こる。呼吸は一時停止し，心臓の搏動(はくどう)も止まり，汗・唾液(だえき)の分泌が亢進(こうしん)して尿失禁がしばしば起こる。次いで弛緩期に移行し，呼吸とともに生気を回復して深眠にはいる。②小発作：痙攣発作をまったく伴わないか，あるいは身体の一部に限局した痙攣を伴う発作で，1秒から数秒の意識消失を示す発作をいう(意識消失発作のみのものをアプサンスという)。発作は突如として起こり，意識・運動は一瞬完全に停止する。発作中は視線を固定し，異様な表情を示して顔面蒼白となるが，突然頭をがっくり下げたり，しりもちをついたり，卒倒するような発作を起こす者もある。③精神運動発作：比較的長時間強いもうろう状態が続く。治療には，フェノバル

ビタール・ジフェニルヒダントインなどの抗痙攣剤が使用されるほか，症候性癲癇には原因療法が行なわれる。〔岩井　寛〕

でんかん【田漢】 テンハン（1898～　）中国現代の劇作家。田寿昌(でんじゅしょう)ともいう。湖南省の出身。日本に留学，はじめ郭沫若(かくまつじゃく)らとともに創造社という文学団体を結成したが，のちこれを去り，妻とともに南国社を組織して左翼的な新劇運動を推進した。1931年，逮捕されて転向し，そのため左翼文壇の一部からは国民党政権の御用作家と目されたが，日中戦争中は，演劇活動の面で抗戦に貢献した。新中国成立後，演劇文化面の要職にあったが，文化大革命で評論家の周揚(1908～　)らとともにきびしい批判を受けた。《田漢戯曲集》(5巻)に，戦前の作品が多く収められているほか，翻訳物も多い。〔今村与志雄〕

てんかんかぶしき【転換株式】 将来他の種類の株式に転換できることを保証された株式。転換株式の発行は定款にあらかじめ転換権・転換条件・転換期間および転換によって発行すべき株式の内容などを定めることが条件とされる(商法222条ノ二)。株式の転換は，株主が転換請求書に株券を添付して会社に提出した時点で行なわれ，転換によって新たに発行された株式の発行価額は，転換株式の発行価額と同額とされる(商法222条ノ三～六)。株式に投資の安全性と投機性を考えて，株式引き受けの希望を多くするために利用される。〔松本治雄〕

てんがんざい【点眼剤】 いわゆる目薬がこれにあたる。眼科用薬剤には①溶液剤，②用時液剤，③眼軟膏(なんこう)，④クレヨン状の薬剤などがある。点眼剤は①および②に該当する薬剤であり，人工涙液はこれに含まれるが，洗眼剤およびコンタクトレンズ用薬剤は別に扱われる性質のものである。眼は感受性の高い器官で，ことに炎症時にはこれが著しいので，眼科用剤の製造には薬剤学上の特別な技術と考慮が払われている。〔江本龍雄〕

てんかんしゃさい【転換社債】 他の有価証券，おもに株式へ転換可能な条件を備えている社債のこと。通常は発行後一定期間たつと，その発行会社の株式へ転換することができ，転換せず社債のままで保有することもできる。株式への転換価格が時価を基準として決められるものを時価転換社債，額面で転換が決められているものを額面転換社債と区別している。転換社債の保有者にとっては，一定期間は利子を取得し，株式転換後は株主として経営に参加することができ，または売却してキャピタルゲイン(→インカムゲイン)を取得できる，という有利性がある。また発行者側は，一定期間は負債として資金を調達し，その後転換に伴って資本増加となるので，増資負担がきわめて少ないことから転換社債は有利な資金調達方法といわれている。わが国では1938年(昭和13)の商法改正によって認められたが，特に最近，外資を導入する手段としてその重要性を増しつつある。〔日東証券調査部〕

てんき【天気】 気象業務上では，ある場所の，任意の時刻における気象状態すなわち各気象要素が総合して成立した大気の状態のことを天気という。現在，天気は国際的規定によって，空模様，視程の状況，風塵(ふうじん)・たつまき・スコール，霧の状態，雨・雪・雷雨の強さなどを100種類に分類した天気記号を用いて表わされる。通俗的には降雨の種類，雨・雪・雷雨など，また雲量の多寡によって快晴・晴などとする。雲量2.4以下を快晴，2.5から7.4までを晴，7.5以上を曇りなどの天気という。なお曇りの天気のうちで，上層雲の場合を薄曇り，中層雲が占めるときには高曇りとよぶ。〔小沢　正〕

でんき【電気】 電荷，その移動，これらによってつくられる場，これらの間の相互作用などの電気現象(または電磁現象)の主体となっているもの。用語自体は包括的でばく然としており，ときによって電荷・電気エネルギー・電気的作用，あるいはそれらのいくつかを合わせた意味で用いられている。これは電気現象の発見と研究の過程で，概念そのものが発展変貌(へんぼう)してきたことによる。

《歴史》 電気現象の観察は，古くギリシア時代にさかのぼり，電気の語源も摩擦電気が観察された琥珀(こはく)からきているとされる。しかしその研究の進歩ははかばかしくなく，17世紀初頭のギルバートの磁石の研究を除いては，18世紀中葉までほとんどみるべきものはない。ライデンびんの発明後は，電気の蓄積が可能となり，静電気の実験研究が進みキャベンディッシュ・クーロンらにより力の法則も得られた。ボルタにより電堆(でんたい)が創出されると電流の研究が開始された。電流の研究は一方に電気分解を通じて電気化学への道を開き，一方ではエルステッドの磁気作用の発見となって，ここに電気学と磁気学とが結合された。また電磁現象を支配する法則については，当時までの力学的自然観の影響のもとに，ニュートン力学的な遠達力と電気的微粒子という考えに基づいて，数学的定式化が試みられてウェーバーらの電気力学にまとめられた。新しい段階はファラデーによる電磁誘導の発見と，とりわけ場の概念の導入とである。近接作用の考えから出発した電磁場の概念は，マクスウェルがそれらの間になりたつ基礎方程式を与え，電磁波の存在を予見すると，電磁現象の本質として定着し，ニュートン力学とは異質の構造をもつ電磁気学の確立となった。一方電磁波の実証は光の本性を明らかにし，光学を電磁気学に組み込むとともに，応用面では通信工学の時代を開いた。また電磁波を伝える媒質エーテルの問題をめぐって相対性理論への道が開かれる。他方では物質の電気的性質に関する研究が始められ，ローレンツによる電子論の建設と発展に次いで，低圧気

電　気　の　年　表

1600	ギルバート：《磁石について》を書き，地磁気を論ずる	1831	ファラデー：電磁誘導の発見
1633	ゲーリケ：摩擦起電機を製作	1833	ファラデー：電気分解に関するファラデーの法則
1729	グレイ：電気の移動を観察	1835	モールス：実用的電信機
1733	デュフェイ：電気に2種類あることを発見(ガラス電気・樹脂電気)	1837	ファラデー：電磁場の理論
		1840	ジュール：電流の熱作用
1745	クライスト・ムッシェンブルック：蓄電器(ライデンびん)を発明	〃	アームストロング：水力発電機
		1858	ケルビン：大西洋海底電線を敷設
1747	フランクリン：電気の中和を観察し，正負の概念に到達(一流体説)	〃	ガイスラー：真空放電管(低圧気体放電管)を製作
1785	クーロン：電気・磁気につき，力の法則(クーロンの法則)を立てる	1864	マクスウェル：電磁場の方程式を提出
		1876	ベル：電話を発明
1791	ガルバーニ：〈カエルの足〉の実験。動物電気説	1879	エジソン：炭素電球の製作
		1886	ヘルツ：電磁波を実証
1799	ボルタ：電池の発明と電流の創出	1895	ローレンツ：電子論
1807	デービー：電気分解の実験	1896	マルコーニ：無線電信の発明
1819	エルステッド：電流の磁気作用を発見	1897	J.J.トムソン：電子の発見
1820	アンペール：電流間に働く力(アンペールの法則)，円形電流と磁石の間に働く力を研究	〃	ブラウン：ブラウン管を製作
		1901	リチャードソン：熱電子の研究
		1904	フレミング：2極真空管を発明
〃	ビオ-サヴァール：電流のつくる磁界の法則	1907	ド-フォレスト：3極真空管を発明
		1909	ミリカン：電気素量の測定
〃	アラゴ：電磁石の原理に到達	1911	カメルリングオンネス：超伝導の発見
1821	アンペール：電気力学の研究	1913	クーリッジ：X線管を製作
1824	アラゴ：回転磁場の発見	1921	ハル：磁電管を製作
1827	オーム：定常電流に関するオームの法則を立てる(電気抵抗の概念)	1925	ベアード：テレビジョンの発明
		1931	ブロッホ・ザイツら：固体物理学の展開
〃	ウェーバー：電気力学(電気の粒子観に基づく力学的形式を大成)	〃	ウィルソン：半導体の研究

体放電の研究による電子の発見を経て，固体物理学の時代へと展開する。

〈電磁気学〉 今日，電磁気学は場の理論として定式化されている。場の源は電荷とその移動によって生ずる電流で，これらの間には連続の方程式がなりたつ。電荷の移動が電流であるという事情から，これは電気量の保存則を表わし，電磁気学の重要な基礎となっている。場の基本的な量は，電界・電束密度，磁界および磁束密度であり，いずれもベクトル量である。電界と電束密度，磁界と磁束密度を結びつけるものが誘電率(ε)・誘磁率(μ)で，物質が一様で等方的なとき，誘電体・常磁性体などではふつう物質定数として扱われる。強磁性体などにはあてはまらない。電荷の移動がない静電界ではクーロンの法則がなりたち，電位を定義することができる。導体内に電位差があると電流が生じ，抵抗の働きにより定常電流となるときは，電流の強さは電位差に比例する(オームの法則)。この際抵抗によって費やされたエネルギーはジュール熱になる。

閉じた電流は小磁石(磁気双極子)と同等の性質をもち(アンペールの法則)，このことによって磁界のうず(回転)と電流が結びつけられている。普通の伝導電流のほかに，ファラデーは変位電流を考えアンペールの法則を拡張した。一方，磁束密度を変化させるとそこに置かれた回路には起電力が生ずる(電磁誘導)ので，電界のうず(回転)は磁束密度の時間変化と結びついている(ファラデーの法則)。マクスウェルはこれらの式を整理し，いわゆるマクスウェル方程式の形にまとめた。これは電磁気学の基本法則の集大成で，その出発点となっている。

〈電磁波〉 マクスウェルの方程式を調べると，一様な媒質中での電界および磁界は，それぞれ一定の速度をもった波動の方程式を満足することがわかる。その速度は真空中ではほぼ 3×10^{10}cm/秒に等しく光の速さに一致する。また電界および磁界の方向は波の進行方向に垂直な面内にありお互いに垂直である。これらからマクスウェルは電磁気の波(電磁波)が光の本性であると結論し，まもなくヘルツによって実証された。こうして光を含めた輻射(ふくしゃ)の問題が電磁波論として扱われる。

〈電気の利用〉 現代社会で電気が果たしている役割の大きさはいうまでもないが，その利用面をおおまかに分けると，エネルギー工学的な面と情報工学的な応用とがあげられよう。エネルギーの利用という観点からは，その発生・蓄積，運搬や伝送，変換・制御などの面からみてその利用効率は非常によく，産業部門への電気エネルギーの登場がしばしば第2次産業革命とよばれるのもうなずけることである。最初は光源としての利用ということで出発したがそのための発電がやがて産業的規模となるや，電動機の登場，電気炉その他の熱源としての応用，電解工業の展開などに至り，エネルギー源としての電気の利用は，初期の電気利用の主流となった。このようなエネルギー変換の過程から，近時重要となってきたものにその制御の問題がある。特に自動制御の開発は，情報工学の面とも関連して最近における電気の利用の重要なポイントとなっている。また光源としての利用もかつての温度放射(白熱電燈など)からルミネッセンスの利用に移り，可視光以外の部分の利用(赤外線・X線など)も重要となっている。

一方情報伝達手段としての電気の利用は，むしろエネルギー源としての利用に先行していた。有線電信や電話の開発がそれである。その後無線電信の発明，真空管の製作と進んで通信技術はほとんど電気の利用によって発展した。最近の電子工学の進歩はこの面での電気の利用をますます大きく拡大し，情報工学が，社会産業面に与える影響は日々増大している。〔藤村　淳〕

でんき　**【伝奇】**　中国の文学用語。①唐代に盛んにつくられた文語文の短編小説。ロマネスクな内容のものが多く，〈奇を伝える〉という意味でこうよぶ。②南宋(なんそう)末，中国南方に起こり，明(みん)代にはいって全国的に発展した長編の戯曲のこと。戯文ともいう。元曲を北曲というのに対し，南曲ともいう。《琵琶記(びわき)》，《牡丹亭(ぼたんてい)還魂記》《桃花扇》《長生殿》などが伝奇の代表作。元曲に比べて6～7倍の長編で，一劇は上・下巻に分かれているのが普通。形式上，元曲に比べて長さや押韻も，曲調も，俳優の歌唱のしかたも制約が少ない。題材も，多くは民衆の実際の生活や民間伝説から取っている。〔今村与志雄〕

でんきうなぎ　**【電気鰻】**　硬骨魚類・デンキウナギ科。シビレウナギともいう。南アメリカのアマゾン川などにすむ淡水魚で，体長2mほどになる発電魚。➔発電魚

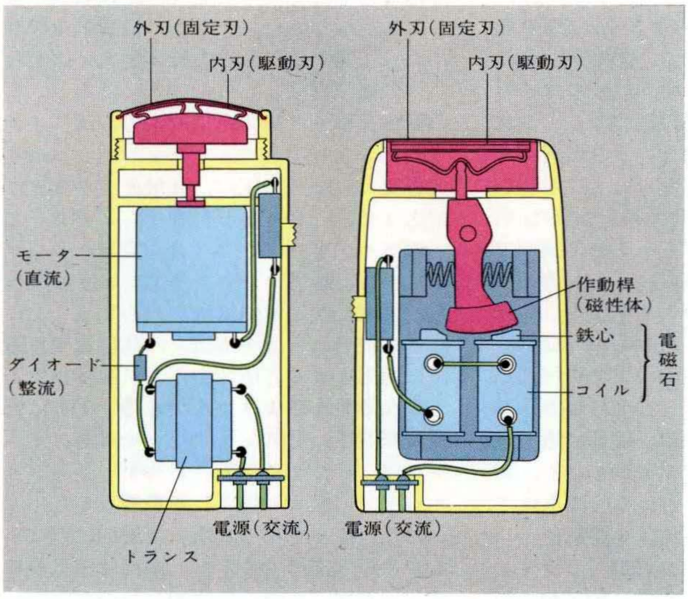
でんきえいどう　**【電気泳動】**　コロイド溶液に直流を流すと，コロイド粒子が一般に電荷をもっているため，正極または負極に向かって移動する現象。電気泳動による粒子の泳動速度は，両極にかかる電位勾配(こうばい)と粒子の電動電位，ならびに分散媒の誘電率に比例し，分散媒の粘度に反比例する。電動電位の大きさは，粒子に電解質が吸着することにより変化するので，液中の電解質の濃度や種類により影響される。一方粘度は，粒子の形と大きさにより左右される。したがってこれらの性質を利用して，たとえばこれらの因子のほとんどが同じであっても，一因子だけが異なっていれば，それらの粒子を分離することができるため，粒子の大きさの均一性や粒子の分離を調べる方法として用いられる。特にタンパク質などの分析には重要な手段である。またこのための装置としてティセリウスの装置があるが，濾紙(ろし)を用いてコロイド溶液を保持し，電気泳動を行なわせる分析法もある。〔水野俊彦〕

でんきおんきょうがく　**【電気音響学】**　音響学の一分野で，音響系と電気系との間のエネルギー変換を主目的とし，電気音響変換理論，電気音響機器，音響および振動測定，電気音響装置，騒音・振動の制御，録音および再生，水中音響および超音波応用などに関する学問。1871年のベルによる電話の発明，第1次世界大戦における空気中・水中および地中音の軍事的応用，さらには真空管の発明によって，電気と音との関係はきわめて密接になり，音響学における計測や伝送の問題が電気的に容易に解決されるようになった。こうしてスピーカーやマイクロホンが発明され，音の電気的増幅が可能となり，さらに電波利用のラジオ・テレビなどの電気通信の発達を促した。また音の録音・再生技術の向上や，超音波利用技術の多方面への広がりもみられた。このような音と電気，特にエレクトロニクスとの結びつきにより，エネルギー変換と同時に音響系と電気系とを統一的に考察することも行なわれた。すなわち音響系を類推によって電気的なものと置き換え，両方を一つの電気回路として考えるのである。この場合音響系と電気系の対応の方法にインピーダンス対応とモビリティ対応とがある。前者では音圧を電圧に，体積速度を電流に対応させ，これにより音響インピーダンスと電気インピーダンス，音響質量とインダクタンス，音響コンプライアンスと静電容量，音響抵抗と電気抵抗が対応することになる。後者は音圧を電流に，体積速度を電圧に対応させる方法である。〔池谷和夫〕

でんきおんきょうへんかんき　**【電気音響変換器】**　電気エネルギーを音響エネルギーに，また逆に音響エネルギーを電気エネルギーに変える機器。音響機器ともいう。これらのエネルギー変換を可逆的に行なえるものが大部分であるが，中には電気から音へ，音から電気への変換しか行なえないものもある。電気エネルギーを音響エネルギーに変える目的でつくられたものは，スピーカー・受話器などであり，その電気音響変換の機構から分類すれば，動電スピーカー・動電受話器・電磁受話器(電話用)・コンデンサースピーカー・静電受話器や，超音波用の圧電送波器，磁気ひずみ送波器のほか，特殊なものとしてサーモホン・サイレンなどがある。このうちでスピーカーには振動板(コーン)から直接外部に音波を放射する直接放射形スピーカーと，ホーンを用いて大出力の音を出す能率のよいホーンスピーカーとがあり，受話器には外耳殻(がいじかく)部分に装着する耳当て形のものと，外耳道部分に挿入(そうにゅう)する耳栓(じせん)形のものとがある。音響エネルギーを電気エネルギーに変えるためのものはマイクロホンであり，音圧に比例した出力電圧を出す圧力形と，粒子速度(すなわち音圧傾度)に比

電気回路　回路記号例

回路記号	名　称	回路記号	名　称
	抵　抗		ヒューズ
	可変抵抗		開閉器またはスイッチ
	静電容量 またはコンデンサー		インピーダンス
	可変静電容量		接　地
	インダクタンス		
	相互インダクタンス		交流電圧源
	電　池 長線を陽極，短線を陰極		PNP形トランジスター (NPN形トランジスターは矢印が逆向き)
	整　流　器 矢印は直流の通る方向を示す		



電気かみそり　(左)回転式　(右)振動式(電磁式)

例した出力電圧が得られる速度形(圧力傾度形)とがある。これを電気音響変換機構から分類すれば，動電マイクロホン・コンデンサーマイクロホン・炭素送話器(電話用)，主として超音波領域に用いられている圧電受波器，磁気ひずみ受波器などがある。〔池谷和夫〕

でんきかいろ　【電気回路】　電流*の流れる導体*・半導体*・誘電体*の集合体。電気回路の素子(部品)としては，コイル・コンデンサー・抵抗などの非活性素子や，トランジスター・ダイオードなどの半導体や，真空管などの電子管がある。これらの素子を導線で連結した網状の回路を回路網という。回路網を構成するときに用いられる素子の回路記号を表に示す。回路記号の詳しい指定はJIS電気用図記号で決められている。

でんきかがく　【電気化学】　電気作用を化学反応の要因として着目した化学の分野。実際には，物質の化学反応を伴った電気現象が対象となっている。もともと強電解質*の電気分解*現象の研究とともに発達したものであるが，その広い範囲にわたる理論的研究は古くから盛んで，理論電気化学とよばれる。一方，電気化学工業の発展は近年特に著しく，電気化学工学とよばれる工学的研究も起こっている。そのほか，電気化学の研究成果および方法は化学工業以外の分野にも新技術としてつねに取り入れられて，各分野に貢献している。〔堀内和夫〕

でんきガスぜい　【電気ガス税】　電気またはガスの使用者に対して課される市町村税。課税標準は，使用者が電気事業者またはガス事業者に支払う料金で，税率はその7％。徴収方法は，電気・ガス事業者の料金徴収の際に，同時に徴収する特別徴収の形がとられる。なお，料金を基にした規定による非課税の適用がある。

でんきがっき　【電気楽器】　⇨電鳴楽器

でんきかみそり　【電気剃刀】　電力で刃を動かしてひげをそる器具。1930年ごろ，アメリカ合衆国の陸軍大佐J.シックによって考案された。回転式と振動式がある。回転式は，直流または交流モーターで刃を回転させ，刃をおおった網との間でひげをはさみ切る方式。振動式には，交流の電磁石で刃を振動させるものと，モーターの回転をカムによって刃の往復運動に変えるものとがある。刃の形は長いひげや平らなほおなどに適した平形と短いひげや丸みのあるあごなどに適した丸形がある。電源は交流100V用と電池式とがあり，使用電力は8～10W程度，モーターの回転数は毎分3,000～4,000回転である。電池式は携帯に便利である反面力が弱く，また電池の状態によってはつねに同じ力を得られないなどの欠点がある。〔田村康男〕

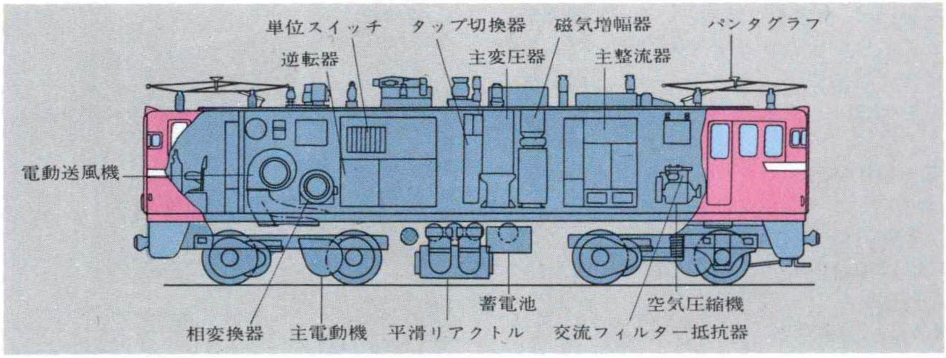
でんききかいきぐこうぎょう　【電気機械器具工業】　機械工業の一部門。電気の生産・輸送，電気の利用に関する機械などきわめて多様性に富む。電気機械器具は産業用の重電機，それ以外の軽電機，家庭用の家庭電器，さらに電力機器・電子機器などと分類できる。わが国の電気機械器具工業は，1873年(明治6)，当時の工部省が電気機械製造所を開設したのがはじめで，その後，電信事業の発展，電力革命の進展，軍需の増大などに伴って生産は拡大した。しかし，第2次世界大戦前の電気機械器具工業は，技術面では外国技術に対するたちおくれが目だち，市場面では特に家庭用電気製品に目ぼしいものが少なかった。

電気機械器具工業が本格的に発展するのは第2次世界大戦後である。まず昭和20年代後半から電源開発計画による水力および火力発電の開発，電話増設5か年計画の推進，民間放送ならびにテレビ放送の開始などに伴い，電気機器の需要が拡大するとともに，海外技術導入を軸とする技術進歩にささえられて製品技術は急速に向上した。昭和30年代にはいると，各産業の設備投資ブームによる重電機需要の拡大と，所得水準の向上による耐久消費財需要の拡大，特に〈三種の神器〉といわれた白黒テレビ・電気冷蔵庫・電気洗たく機などの家庭用電気機器に対する需要の増大を背景に，電気機械器具工業は飛躍的な発展を遂げた。昭和40年代にも引き続きカラーテレビ・ルームクーラー・乗用車需要の好調にささえられて順調な発展を示している。このような電気機械器具工業の発展に伴って，その機械工業生産に占める比重は，1958年(昭和33)の28％から1969年の34％に上昇し，同じく輸出に占める比重も14％から29％に上昇した。1969年の生産規模約5兆7,500万円は，アメリカに次いで世界第2の地位を占める。

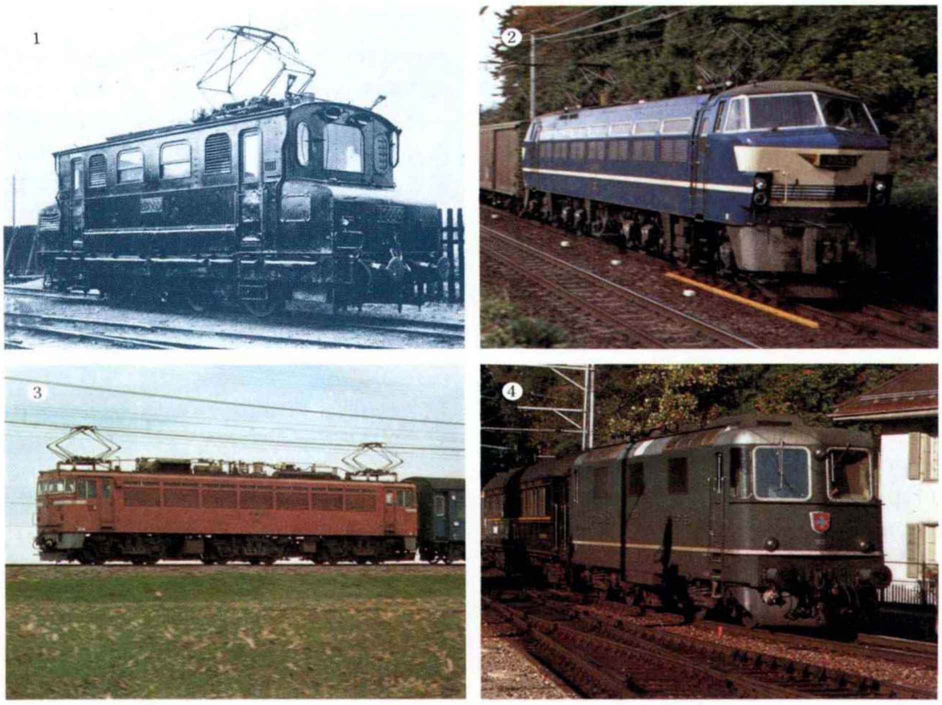
電気機械器具工業に属する企業はその多様性を反映して多数にのぼるが，産業用から家庭用までの電気機器を生産する総合電機メーカーとして日立製作所・東京芝浦電気・三菱(みつびし)電機・富士電機製造，家電メーカーとして松下電気産業・三洋電機・シャープ・ソニー，通信機から産業用電子機器を生産する総合エレクトロニクスメーカーとして日本電気・富士通・沖電気工業がおもなものであり，これらの主要メーカーに部品を供給する多数の部品メーカーがその周辺に存在するが，主要電気機器の生産はほとんどこれら少数の大企業に集中し，寡占に準じた市場を形成している。しかし，これら大企業もその企業規模・収益率・資本構成・生産性などでは，まだ世界のトップクラスのメーカー，すなわちアメリカのゼネラル-エレクトリック*(GE)・ウェスチングハウス-エレクトリック*・RCA*・ウェスタン-エレクトリック*，西ドイツのジーメンス*，オランダのフィリップスなどには及ばない。〔原　豊〕

でんききかんしゃ【電気機関車】 電力によって電動機・制御用装置など，運転に必要な諸装置を動かして客車・貨車を牽引(けんいん)する機関車*。種類には電気方式から分類すると，直流電気機関車*・交流電気機関車*・交直両用電気機関車がある。また用途別から分類すると，旅客用・貨物用・入れ換え用がある。旅客用は他の電気機関車に比べて比較的小さな引張力であるが，高速運転ができるように設計してある。これに対し貨物用は，速度よりもむしろ引張力を大きくし，台車構造も簡単である。入れ換え用はさらに大引張力・低速を要するから貨物用よりもいっそう引張力に重点を置いて設計される。ただし，これら３種の機関車は兼用されることもある。

それぞれの機関車は色と形式番号で用途別・方式別に区別されている。電気機関車の前面にＥＦ711のようなプレートを取り付ける。これは，Ｅが電気機関車(Electric Locomotive)を表わし，Ｆは動輪の取り付けてある車軸(動軸)の数を示し，Ｂ→２，Ｃ→３，Ｄ→４というように，動軸数と対応させてある。Ｆでは６軸の機関車を示す。数字は，はじめの２けたが形式番号で，次の数字が製造番号を示す。現在，国鉄の電気機関車の動軸数はB,D,F,Hの４種である。形式番号は10代がおもに貨物用直流，20代が支線区用直流，30代が低速用交直両用，50代・60代が旅客用直流，70代が客貨交流用，80代が高速交直両用，90代が試作機関車である。機関車の色は直流機関車は青またはぶどう色，交流機関車は赤色(赤２号)，交直両用機関車は薄い赤色(赤13号)または白色である。そのほかに特殊な電気機関車には鉱山用電気機関車，アプト式電気機関車(→アプト式鉄道)，地下鉄道などに使われる第三軌条式電気機関車などがある。〔三宅　良〕



交流式電気機関車の機器配置(ＥＤ75)



電気機関車 ①日本で最初の10000形(アプト式で1912年から信越線で使用，のちのＥＣ40) ②直流式ＥＦ66 ③交直両用ＥＦ80 ④交流式11000形(スイス国鉄特急用)

てんききごう【天気記号】 天気図の記入に用いられる記号。天気は国際的規定により100種類で表現されているので，天気図を記入する場合は，どこの国の天気図でも同じ国際的形式に従って記入される。

でんきくらげ【電気水母】 刺胞の毒が人体に痛みを与えるクラゲ類の俗称。毒性の強いものには，アンドンクラゲ・ヒクラゲ・アカクラゲなどの単体のものもあるが，一般に電気クラゲと称されているものの多くはヒドロ虫類のクダクラゲ目に属する群体クラゲで，特にカツオノエボシ*は有名である。

でんきけいそくき【電気計測器】 電気的諸量，すなわち電圧・電流・電力などを測定し，直読する計測器の総称。電位差計やブリッジのように，測定に平衡作用を伴うものや，検電器のように０点を検出するようなものは含めない。計測値の表示のしかた，特に時間的な分類のしかたで分類すると，電気量の変化を直ちに指示する指示計器，電気量の計測値を記録保持してから計量する自記計器(記録計器)，ある過去現在までの時間内で変化した電気量の総変化量を示す積算計器，一定時間内の電気量の最大値を表わす最大値表示計器などがある。また，計測値を指示する指針に変位を与えるための駆動トルク(回転力)の発生方法によって，可動コイル型・可動鉄片型・誘導型・電流力計型・熱型・静電型に分類されている。①可動コイル型：永久磁石*によって生じた磁界の中に，アルミニウムまたは銅製のコイルを置き，かってに回転しないように適当な制御トルクを与えておいて，永久磁石によって生じている磁界とコイルを流れる電流の相互作用によって駆動トルクを生み出すもの。②可動鉄片型：コイルを流れる電流によって生じた磁界内に置かれた軟鉄片に及ぼす電磁作用を利用し，鉄片がコイル側に引っ張られて回転力を生むものと磁気誘導により固定鉄片と可動鉄片の二つに生じた磁気力の反発力を利用して駆動トルクを得る二つの型がある。前者

を吸引型，後者を反発型という。③誘導型：コイルに測定しようとする交流を流して生ずる交番磁界と，それによって可動金属片に生ずるうず電流との相互作用を利用したもので，交番磁界の発生のしかたで回転磁界型と移動磁界型とがある。④電流力計型：固定コイルと可動コイルに電流を流し，それぞれのコイルに働く力を駆動トルクとして用いたもの。⑤熱型：導線に電流を流したとき〈ジュールの法則*〉により熱を発生するが，その熱によって生ずる導線の伸びを機械的に大きな力に拡大して駆動トルクを得るもの。現在では，熱を熱電対*によって微小電流に変換して測定するものをさすことが多い。⑥静電型：帯電した二つの電極間の相互に及ぼす力を用いたもの。〔堀内和夫〕

でんきし　**【電機子】**　発電機または電動機で，主電流が流れるコイルを保持する部分。発電機では機械エネルギーを電気エネルギーに変え，電動機ではその反対に作用する。軟鉄心に絶縁コイルを何重にも巻いた構造で，通常直流機では回転子が，交流機では固定子がこれにあたる。

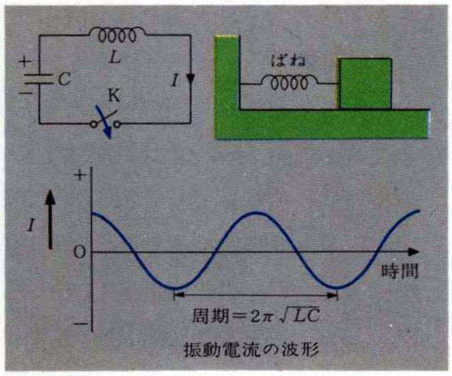
でんきじきがく　**【電気磁気学】**　電気および磁気の本質，あるいは電気と磁気の密接不可分な関係（電気から磁気を生み出す〈電流の磁気作用〉，磁気から電気を生み出す〈電磁誘導*作用〉）に関する学問。電気工学の基礎をなすもので，ファラデー*とマクスウェルらによって完成された。

BC600年，ギリシア時代に琥珀(こはく)を衣類でこすると軽いものを引きつけること，鉄を引きつける石があるということが知られていた。しかし，この古い起源をもつ電気や磁気の研究は，12世紀ごろ磁石の指向性（南北をさす）を利用して航海用に実用されたくらいで，二千数百年の間ほとんど一歩も進まなかった。ようやく，17世紀に，イギリスのギルバート*によって，電気磁気学のとびらが開かれた。ギルバートにより，地球そのものが大きな磁石であり，それによって地表上の羅針盤(らしんばん)や磁針の伏角の作用が説明された。18世紀の終わりにボルタ*が電池を発見するまでの200年間は，電気の本質，電気の発生，熱電気などの静電気時代で，進歩は遅々たるものであった。この時代に，フランクリン*の〈たこの実験〉により，避雷針が発明された。

18世紀後半，カエルの足に金属片を接触すると激しくふるえる現象を，ガルバーニ*が発見し，ボルタはこれにヒントを得て，銅と亜鉛またはスズのように異なった金属を電解質液を通じて接触させると連続的に電流が発生する現象を発見した。これが電池である。動電気時代を迎え，電気・磁気に関する研究はおおいに進展しはじめた。エルステッド*が電流の磁気作用，アンペール*が電流と磁界との間の法則，オーム*がオームの法則（電圧と電流の量的関係）をそれぞれ発見した。エルステッドは電流が磁石に作用を及ぼすことを示したが，ファラデーは逆に磁石からなんらかの電気的効果が得られないかという実験を行なった。その結果，有名な電磁誘導作用を発見し，発電機・変圧器の出現の基礎となった。電気学・磁気学と別々に考えられてきたものが電気磁気学として歩みだした。

ファラデーの研究は，主として実験的なものであったが，マクスウェルはこれらの研究を理論的にまとめ上げた。基本方程式を打ち立て，電磁波の存在を予言し，電磁波と光波と同じ性質のものであると提唱した。電磁波の存在は，ドイツのヘルツの実験によって確認された。

19世紀末，陰極線*・荷電粒子が発見され実験的研究が進むにつれて，理論と実際とが食い違うものが出てくるようになった。そこで，電子論，さらには電磁気の場と重力の場を取り扱った〈統一場理論*〉が展開されている。〔田村康男〕



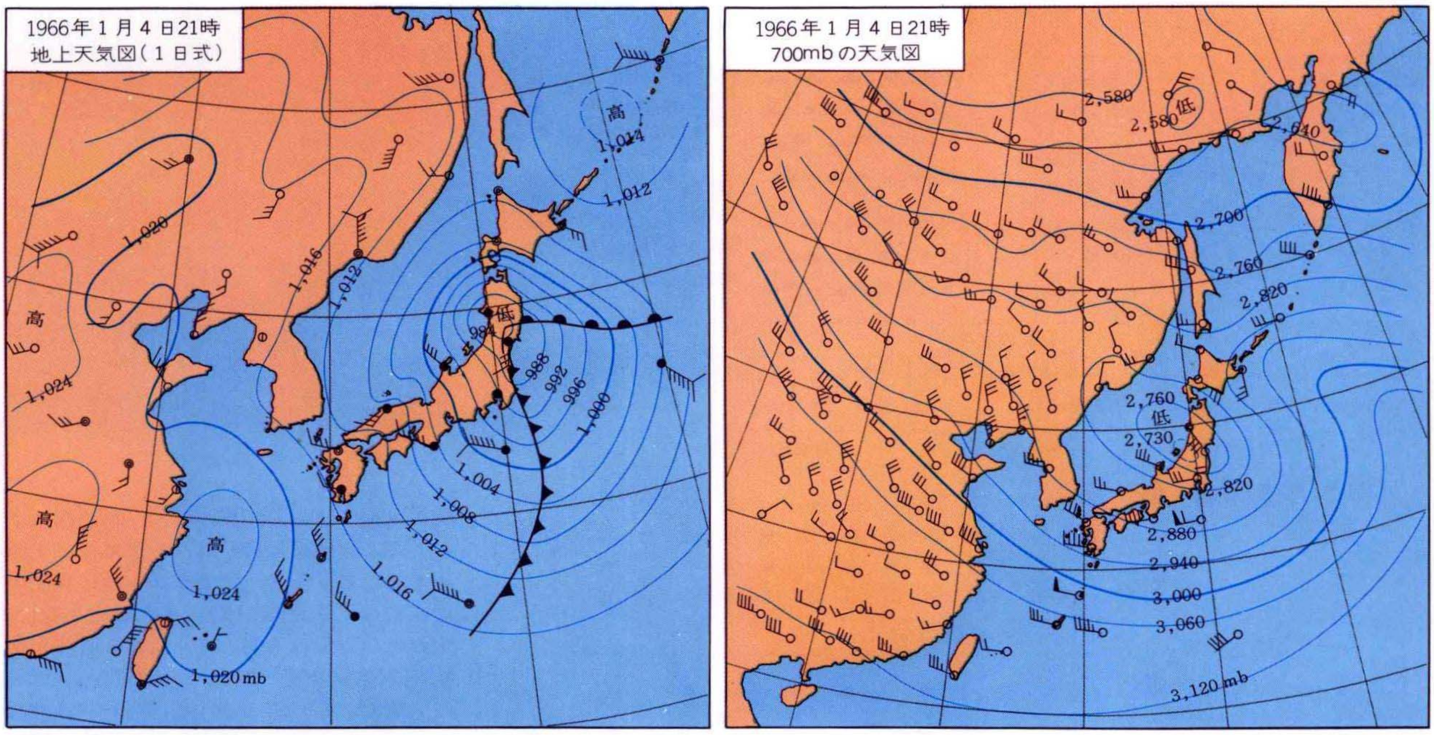
電気振動

でんきじぎょう　**【電気事業】**　電気の生産・販売をつかさどる事業。今日のエネルギー産業の中で電気は大きな割合を占めており，電気事業が国民経済に果たす役割はきわめて重要である。電気事業は，発送配電を行なうために大規模な設備投資を必要とすることから，企業間の競争が制限され，独占が形成されやすい。そのため，現在ほとんどの国で電気事業の形態は1社独占か地域別独占となっており，独占の弊害防止の必要上，日本・アメリカのように私企業体制をとりながらも公益事業として経営を公的規制したり，イギリス・フランス・イタリアなどのように国有化している。

わが国最初の電気事業者は，1883年（明治16）に設立された東京電燈（株）である。その後，多数の電力会社が生まれたが，1920年代の不況期に集中化が進み，1939年（昭和14）事実上の独占的な電力供給機関として日本発送電（株）が設立され，続いて1942年に9配電会社の設立をみて，電気事業の国家管理が成立した。しかし，第2次世界大戦後の1951年に日本発送電は解体され，9電力会社が設立されて現在に至っている。現在のわが国の電気事業者は，発送配電を一貫して行ない，一定の供給区域内の需要者に電力を供給する一般電気事業者と，自己の設備で発電した電力を一般電気事業者に卸売を行なう卸売電気事業者がある。一般電気事業者としては，電気事業者用発電設備の8割以上を占める北海道・東北・東京・中部・北陸・関西・中国・四国・九州の9電力会社と，離島を供給区域とする7事業者とがある。卸売電気業者としては，発電設備建設のための政府出資の特殊会社である電源開発（株），都道府県が営業する公営電気事業者，日本原子力発電（株），電力会社と石炭会社または電力多消費企業との共同出資による共同火力発電事業者がある。〔原　豊〕

でんきじどうしゃ　**【電気自動車】**　搭載(とうさい)した蓄電池*を電源として，電動機で駆動する自動車*。1830年ごろフランスで発明されたといわれる。わが国では第2次世界大戦直後に，石油燃料の不足から用いられたが，石油事情の好転に伴って使用されなくなった。しかし，近年排気ガスの公害を防ぐ観点から再び注目され，各自動車メーカーで研究されている。蓄電池は鉛電池が実用化され，ニッケル銀蓄電池や燃料電池なども研究されている。内燃機関よりも構造が簡単で故障が少ない，騒音・振動が少なく有害な排気ガスが出ない，運転・整備が容易で維持費が安いなどの利点と，重量が大きくなり，速度がおそく，長距離走行ができないなどの欠点がある。したがって，現在は構内用運搬車・牛乳配達車・バスなどの一部に使用されているだけであるが，今後性能の向上とともにさらに普及するであろう。〔宇野俊彦〕

でんきしんどう　**【電気振動】**　電気回路に振動電流*が流れる現象。数10Hz（ヘルツ）の交流も一種の電気振動であるが，通常はもっと周波数の高いものをいう。充電したコンデンサーCとコイルLを直列につなぎ，スイッチKを閉じると振動電流が流れる。これはばねに物体をつなぎ，つりあいの位置からずらして離したときの物体の振動と同じである。このときばねはCに，物体の質量はLに相当する。回路に抵抗がなければ持続振動となるが，抵抗があるとエネルギーをしだいに失うため減衰振動となり，ついには振動が止まる。持続振動の振動数$f_0=\frac{1}{2\pi}\frac{1}{\sqrt{LC}}$を回路の固有振動数という。抵抗のある場合に持続振動をさせるには，外部からエネルギーを補給するため振動的な力を加えなければならない（強制振動）。外から加える力の振動数が固有振動数と一致すると，強制振動は最も激しくなる。これを共振*という。抵抗の小さな回路では，共振時の電流は共振をはずれたときよりも極端に大きくなる。このような共振の激しさの度合いを尖鋭(せんえい)度Qで表わす。その他電気振動にはコンデンサーによって得られる鋸波(のこぎりは)などもある。〔田村康男〕



天　気　図

てんきず　【天気図】　一定時刻の広い地域にわたる天気状態を，数字や記号を使って1枚の地図上に表わしたもの。ある気象観測所で観測した風向・風速・気圧・気温・天気などの気象要素だけからその付近の天気を予報することには限界がある。最初の天気図は，1820年，ドイツのブランデスによってつくられた。彼は，多くの観測所の気象要素を地図上に記入し，等圧線を書き，天気現象と天気予報とを対応させる試みを行なった。その後，通信技術の長足の進歩に伴い，世界各国は国内の観測所における気象要素のみならず，国際的にも国際通報式を取り決め気象要素を相互交換するようになり，現在では北半球全域に及ぶ広範囲の天気図を作成し，広い地域の天気状態，たとえば低気圧・高気圧・台風などの位置や動静を把握(はあく)し，船舶・航空・鉄道・港湾関係，その他一般に予報・警報を出すようになった。この間，物理・工学の進歩はラジオ-ゾンデ・レーダー・気象衛星などの近代気象測器の開発や気象学の発展を促進し，天気予報のためにいろいろな天気図が作成されている。現在，日本で通常用いられているおもな天気図を次に示す。

〈地上天気図〉①極東天気図：日本付近の比較的狭い範囲のもので，主として毎日の天気予報を出すために使われる。②アジア・太平洋天気図：日本を中心として，西はオビ川流域まで，東は太平洋中部までを収めたものである。③北半球天気図：北半球全体を含む天気図である。

〈高層天気図〉①アジア高層天気図：毎日の天気予報のため，地上天気図とともに上層の気象状態を把握するのに用いられる。300，500，700，850ミリバールの等圧面における，高層観測所・定点観測船のゾンデ観測値および航空機観測の結果から，等温線，湿潤や乾燥の地域を書いて上層における大気の流れの状態などを見る。②北半球高層天気図：数日以上の期間の予報のため，北半球全域の高層観測所・定点観測船・航空機などの観測結果から気象各要素を記入し北半球全域の大気の流れの状態を見る。

〈レーダー気象図〉富士山頂のレーダーをはじめ，日本における気象用レーダー観測所のレーダー資料による日本付近の降雨現象の状態を見る。

〈気象衛星による雲の分布図〉気象衛星によって観測された日本付近の雲の分布の状態を見る。

このほか大気の立体構造をさらに明らかにするため，大規模な大気の運動の垂直成分としての大気の上昇流・下降流を示す図や各種の垂直断面図，大気の垂直の安定・不安定を表わす断熱図などの補助天気図も作成されている。→次ページ(図)

〔小沢　正〕

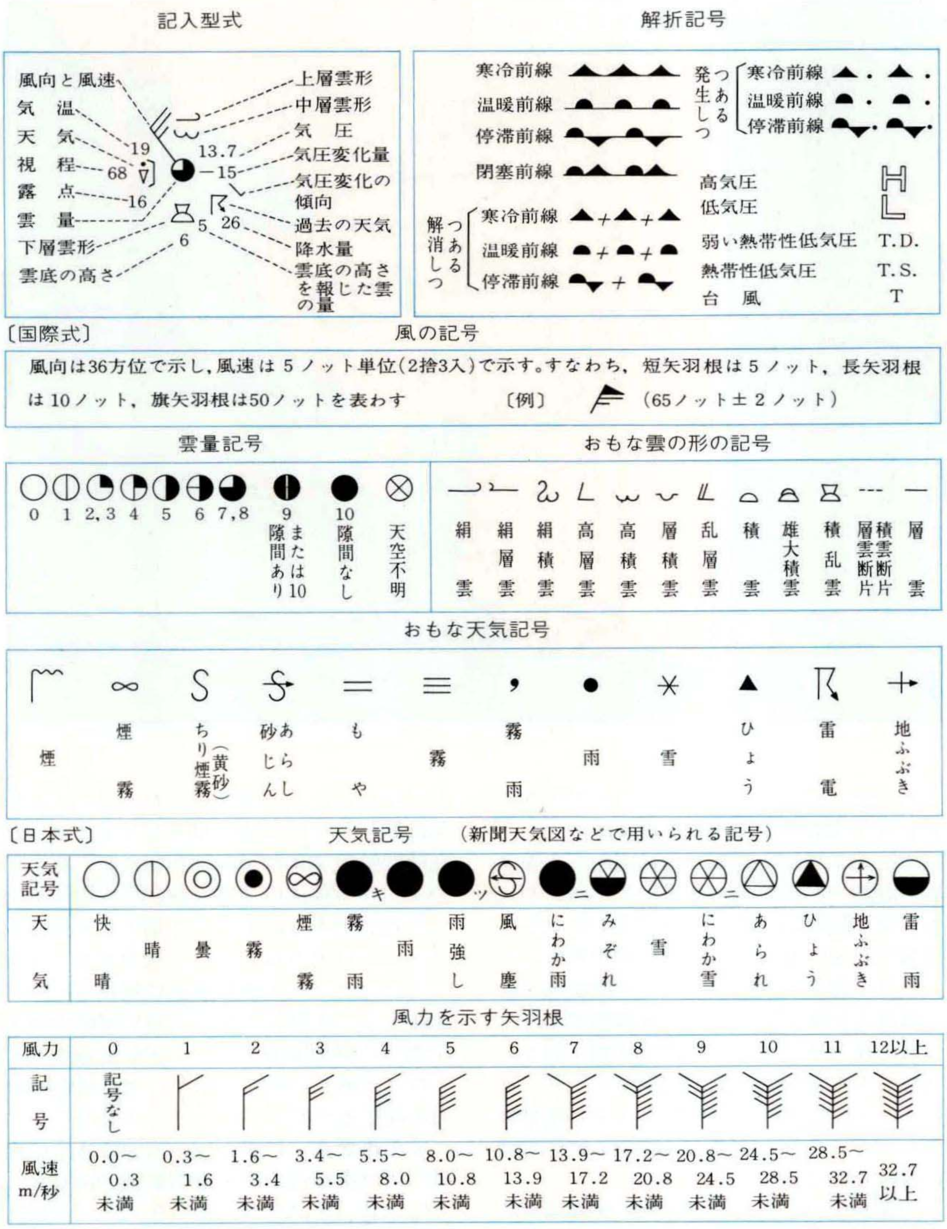
でんきすいしんせん　【電気推進船】　プロペラを電動機で回転させる船舶。電動機は蒸気タービン*またはディーゼル機関*で発電して駆動される。プロペラの正逆転が簡単で，かつ電動機をプロペラの近くに置いて遠隔制御ができる利点があるが，コストが高くなるのであまり用いられない。

でんきすいしんロケット　【電気推進ロケット】　直接電気力によって推進するロケット。イオンロケット*・プラズマロケットがこれに属する。アークロケットはアークでガスを強熱，噴射させるもので，直接電気力を用いないが，便宜上これに含める。電気推進ロケットは推力はきわめて小さいが，長時間噴射するため高速が得られ，推力が小さいため飛道の精密な修正にも使えるという利点がある。もっとも地上から打ち上げることはできないから，化学ロケットや原子力ロケットで衛星軌道に運ばれてから発進する。木星・土星など遠い惑星の無人探査には電気推進ロケットが最も適するが，それには軽くて強力な原子力発電装置の開発が前提となる。〔原田三夫〕

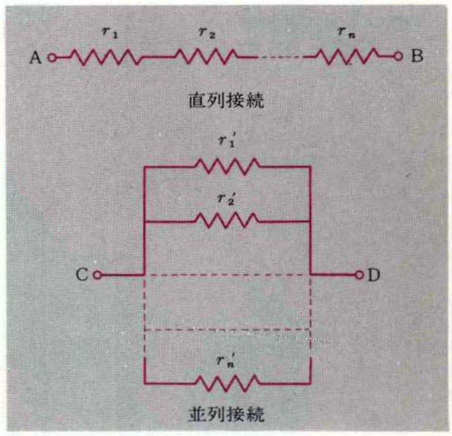
でんきせき　【電気石】　組成の非常に複雑なホウ素を含むケイ酸塩鉱物。$(Na, Ca)(Mg, Al)_6[B_3Al_3Si_6(O, OH)_{30}]$　三方晶系。比重2.90～3.25，硬度7～7.5，劈開*(へきかい)なし。結晶の形は柱状，あるいは細長い針状であるが，いちばんの特徴は結晶面の現われ方が両端で異なる異極像であることである。熱すると一端がプラスに他端がマイナスに帯電する焦電気性がある。普通は黒色であるが，化学組成により，青色・緑色・赤色・白色・無色などである。美しいものは宝石として用いられ，10月の誕生石。気成鉱床の代表的鉱物である。ペグマタイトやセキエイ脈中にも産する

〔加藤敏郎〕

でんきぜつえんし　【電気絶縁紙】　ケーブル・コンデンサー・変圧器その他の電気機器に使われる紙で，次のような種類がある。①ケーブル用絶縁紙およびコイル絶縁紙：いずれも電線の被覆に使用。②コンデンサー紙：コンデンサーの極板にはさんで誘電体として使用。③プレスボードおよびフィッシュペーパー：電気機器の絶縁に使用。④絶縁薄紙：ワニスペーパーの原紙と



天 気 図 天気図記号



電 気 抵 抗

して使用する。電気絶縁紙の原料としてはクラフトパルプもしくは麻・もめんなどが使われ，電気抵抗に有害な物質を含まないようにつくる。誘電性能が重要で，通信ケーブル用が乾燥状態で使われるほかは，ほとんど油またはワニスを含浸させて使用する。〔角祐一郎〕

でんきせん 【電気銑】 熱源に電力を用い，電気製銑炉内で木炭またはコークスによる鉱石の還元を行なった銑鉄。良質の鉱石と電力が豊富・低廉に得られる地方に発達する。生産は小規模であるが経済的。

でんきそうきょくし 【電気双極子】 同量異符号の電荷*が微小距離を隔てて対をなして置かれたもの。電荷$\pm q$，両者の距離lとするとき，$p=ql$をその双極子の能率(モーメント)という。電場*Eの中に置かれるときは，$p|E|\sin\theta$だけの偶力*を受ける。ここにθは，Eの向きと，電荷$-q$から電荷qに向かう向きとがなす角である。電気双極子のまわりの電位*の分布は，単独の電荷によるものとは異なり，十分に遠い所では距離の2乗に反比例する。〔堀内和夫〕

でんきそりょう 【電気素量】 電荷*の最小単位。電子1個のもつ電荷。物質は原子から構成され，原子は原子核といくつかの電子をもつ。したがって，すべての物質は，整数個の電子をもつが，帯電体のもつことのできる電荷の量は，連続な値でなく，電子のもつ電荷eの整数倍である。ただし実際にはeが非常に小さいため電荷は連続としてさしつかえない。$e=1.602\times10^{-19}$(クーロン)である。

でんきたんこう 【電気探鉱】 ⇨物理探鉱

でんきちりょう 【電気治療】 電流を直接疾患の治療に利用する方法。おもに慢性病に効果がある。電気の種類，利用法によって多くの種類に分かれ，生体に及ぼす作用も異なる。①静電気療法：生体に高圧の電荷を与えるが，電流はほとんど流さない。実際上の効果は不明。②平流電気療法：持続平流電気療法と断続平流電気療法(低周波療法)とがある。前者は末梢(まっしょう)神経の鎮痛，および循環障害などの治療に用いられ，後者は運動神経を刺激するので，ポリオなどによる運動麻痺(まひ)の治療に用いられる。③感応電気療法：筋や神経の再教育に用いられる。④高周波療法：10,000サイクル以上の交流を用いたもので，波長の順に，ダルリンバール・ジアテルミー・超短波とよばれるが，現在では，電界を利用した超短波のみが，温熱療法に利用されている。⑤マイクロ波療法：波長1mm〜1mの電磁波を光と同様に照射する。赤外線と同じく温熱療法に用いられる。〔増田武弘〕

でんきていこう 【電気抵抗】 導体中の2点A，B間に電流Iが流れるとき，AB間の起電力をEとすると，EとIとの間に

$$E=RI$$

という比例関係がある。この比例定数Rを電気抵抗または単に抵抗という。断面が一様な柱状導電体に一様な密度の電流が流れている場合には，AからBまでの抵抗Rはその導体の比抵抗ρ，およびAからBまでの長さlに比例し，その断面積Sに反比例する。比抵抗とは導体の材質によってきまる定数で，円柱状導体の単位断面積・単位長あたりの電気抵抗である。これは導電率の逆数に等しく，その実用単位はオーム・メートル($\Omega\cdot$m)である。抵抗の実用単位およびMKS単位はオームといい，(Ω)の記号で表わす。

〔二つ以上の抵抗の接続〕大別して直列接続と並列接続とがある。たとえば，上図において直列接続ではAB間の抵抗Rは，

$$R=r_1+r_2+\cdots\cdots+r_n$$

となり，並列接続では，CD間の抵抗Rは，

$$\frac{1}{R}=\frac{1}{r_1'}+\frac{1}{r_2'}+\cdots\cdots\frac{1}{r_n'}$$

となる。

【抵抗の温度変化】温度Tのときの抵抗R_Tは，基準の温度tのときの抵抗をR_tとして，一般に，

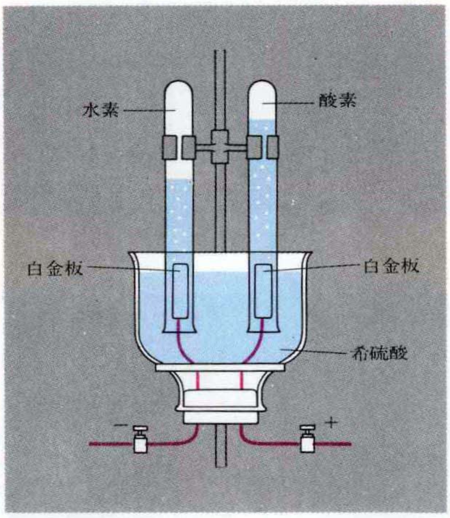
$$R_T = R_t\{1+\alpha_t(T-t)+\beta_t(T-t)^2+\cdots\cdots\}$$

と表わされる。ただしα_t，β_tは基準の温度における抵抗の温度係数で，これは温度が1℃変化したときの抵抗の変化の割合を示す。普通の抵抗体ではα_tは正の値をとるが，シリコン・ゲルマニウムなどの真性半導体ではα_tは負である。〔堀内和夫〕

でんきてつどう【電気鉄道】電気を動力として軌道上に車両を運転する方式の鉄道。電気鉄道用車両の代表例は，電気機関車*と電車*である。1879年，ベルリンの博覧会で公衆を乗せて走ったのが電気鉄道のはじめであるが，最初の営業運転は1881年に同じくベルリンで開始された。以後各地でおもに都市内および近郊での輸送用に次々に使用された。わが国では1890年(明治23)上野(東京都)の博覧会において電車を走らせたのが最初で，1895年には京都の路面電車が営業を開始した。動力となる電気方式には直流*と交流*があるが，わが国の電気鉄道は直流方式でスタートし，電圧もしだいに高くなって1915年には現在のような1,500～3,000Vが実用にはいっている。一方，交流方式は，一般動力源をそのまま使用できるという利点があり，1898年には三相交流*方式が実用化されているが，その後は単相の低周波方式が研究され，1907年には16⅔ヘルツが実用段階にはいって広く欧米各国に普及した。さらに単相商用周波方式の研究が進み，1954年フランスでこの方式の採用が決定された。わが国でも1953年(昭和28)以来研究が進められ，1957年には北陸線の交流電化が実現して，今日の新幹線へと発展してきている。

なお特殊な形態の電気鉄道として，鋼索鉄道*(ケーブル鉄道)・架空索道(ロープウエー*)・無軌条電車(トロリーバス*)・単軌鉄道(モノレール*)などがある。〔川添雄司〕

でんきでんどう【電気伝導】荷電粒子が，電場*によって力を受け電場を打ち消す方向に移動する現象。荷電粒子の移動を電流*といい，電場がそんなに大きくなければ，電場は電流に比例する(オームの法則*)。その比例係数を電気抵抗とよぶ。電気抵抗Rは，試料の長さをl，断面積をSとすると$R=\rho l/S$という関係があるが，物質の形状によらない係数ρを比抵抗と称する。その逆数を電気伝導率とよぶ。荷電粒子は，電子とイオンの2種類がある。金属の場合は，イオンに束縛されていない電子，すなわち伝導電子であり，イオン結晶や電解質溶液の場合は，イオンによって電荷が運ばれる。微視的には，電流は電荷と粒子数と平均速度の積として表わされる。平均速度は，電場によって得る分と，荷電粒子が相互に衝突したり，他の原因によって失う分とのつりあいによって決まる。比抵抗の大きさは，良導体で～10^{-6}オーム・cm，半導体で10^{-2}～10^{9}オーム・cm，絶縁体で10^{14}～10^{22}オーム・cmである。金属の中には，極低温において起電力なしに電流が流れる超伝導*状態になるものもある。〔中野藤生〕



電 気 分 解　水の電気分解

でんきでんどうりつ【電気伝導率】導体内の電流の流れやすさの尺度。導電率ともいう。導体中を電流が流れているとき，任意の点の電流密度をJ(A/m²)，その点の電界の強さをE(V/m)とすると，導体の性質が方向によって変わらないような普通の場合には，JとEとが比例関係にあり，

$$J=\sigma E$$

で表わされる。この比例定数σを電気伝導率という。単位はMKS単位でシーメンス／メートル(S/m)を用いる。〔堀内和夫〕

でんきどう【電気銅】電解法によって精製した高純度の銅地金。不純の銅(粗銅)を陽極，純銅の極薄板(種板)を陰極，硫酸銅の希硫酸溶液を電解液として電解すれば，粗銅中の銅のみが陰極に析出し，鉄・ニッケルなどの不純物は電解液中に溶解したまま残留する。また，銀・金などはどろ状の沈殿となって銅から分離する。このようにして電気銅は99.98%程度の高品位となる。

でんきどけい【電気時計】電気的作用で作動する時計。1840年にベーンが考案した振り子式衝撃電流時計が最初で，1930年にアメリカで同期電動機時計(交流式)が開発され，翌年日本でも国産品が市販された。当時は電燈線に接続する交流式であったが，現在では調速・変換指示・動力の各機構をいろいろに組み合わせて，複雑多岐にわたる種類がある。業界の分類では，まず動力機構によって交流式と直流(電池)式に大別される。次に調速機構によって，振り子式・テンプ式・音叉(おんさ)式・水晶式(→水晶時計)・原子式などに分類し，さらに変換機構などで小分類するのが一般的である。また電波時計*・光電時計などの特殊時計もあり，真空管・ダイオード・トランジスターなどの電子素子で作動するものを電子時計とよぶこともある。〔川中　洋〕

でんきなまず【電気鯰】硬骨魚類・デンキナマズ科。シビレナマズともいう。熱帯アフリカの河川にすむ淡水魚で，高圧の電気を出す魚として知られる。→発電魚

でんきブレーキ【電気ブレーキ】電気車のブレーキの一種。最近では電気車に空気ブレーキと併用するのが普通である。電気ブレーキは主電動機を発電機として使用し，電動機と逆向きの回転力(ブレーキ力)を生み出すしくみになっている。電気ブレーキには発電ブレーキ(発生した電力を抵抗器で熱して消費する方式)と回生ブレーキ(発生電力を電源に返還する方式)の2種類がある。電動機の特性として，低速ではブレーキ力が減少するから，一般には低速になると空気ブレーキを使う。〔三宅　良〕

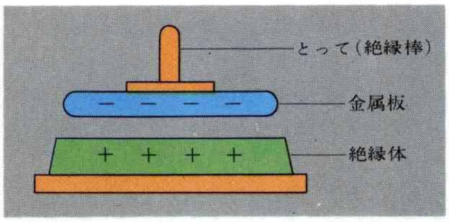
でんきぶんかい【電気分解】単に電解ともいう。電解質*の溶液や溶融塩などにおいて，電流が流れることにより化学反応が起こるような過程。電解質溶液中に電極を入れると，陽イオンは陰極に，陰イオンは陽極に向かって移動し，その結果溶液内に電流が流れる。電極面において，陽イオンおよび陰イオンは電荷を失って相互に結合して単体として沈殿したり，電極の物質と結合したり，あるいは水と反応してそれを分解したりする。陽極では酸化反応(金属の溶解による陽イオンの生成，酸素の発生など)，陰極では還元反応(金属の析出，水素の発生など)が起こる。電解の際の電気量と両極で化学変化を受ける物質の量との関係に関してはファラデーの法則*がある。水素・酸素・塩素・苛性(かせい)ソーダの製造，電気めっき，マグネシウム・アルミニウムの冶金(やきん)，電解研摩・電解精練などに応用される。〔三輪誠・青木勝〕

でんきへんい【電気変位】電場*の強さを示す物理量の一。誘電体*を電場の中に置くと，誘電分極*を起こす。この分極の強さを表わす分極ベクトル$\boldsymbol{P}$(クーロン/m²)は，電場$\boldsymbol{E}$(V/m)に比例し，$\boldsymbol{P}=\chi\boldsymbol{E}$のように表わすことができる(ただし，$\chi$は媒質によってきまる比例定数)。このとき，真空の誘電率*ε_0を用いて

$$\boldsymbol{D}=\varepsilon_0\boldsymbol{E}+\boldsymbol{P}=(\varepsilon_0+\chi)\boldsymbol{E}$$
$$=\varepsilon\boldsymbol{E},\ \varepsilon=\varepsilon_0+\chi$$

で定めたベクトル量$\boldsymbol{D}$を電気変位といい，誘電体誘導または誘電束密度ともいう。前者は，誘電体内に誘電分極を誘導する現象の強さを示す量であることから名づけられたもので，電気変位の名も，誘電分極による電荷の変位に対応する量であることを意味している。後者は，電荷の密度ρ(クーロン/m³)との間に，$\nabla\cdot\boldsymbol{D}=\rho$という関係がみられ，これから，電荷1クーロンから1本の割合で流出する誘電線の束(誘電束*)の密度を，ちょうど示しているという事実によって名づけられたものである。〔堀内和夫〕

でんきぼん　【電気盆】　静電誘導現象を利用して電気を集める装置。1775年，イタリアの電気化学者ボルタが考案した。まず電気的絶縁体の板に摩擦電気を起こし，この板に金属製の円板を載せると，金属板の両面にはそれぞれ正負の電荷*が帯電する。たとえば，絶縁体の板上の摩擦電気が正ならば，金属板の絶縁体側は負，その反対側には正の電荷が現われる。次に金属に帯電している正電荷を接地して地中に逃がす。このとき負電荷は，絶縁体上の電荷に吸引されているから逃げられない。こうして金属は負に帯電する。さらにこの負電荷を絶縁した導体に移す。これをくり返せば多くの負電荷を集めることができる。〔堀内和夫〕

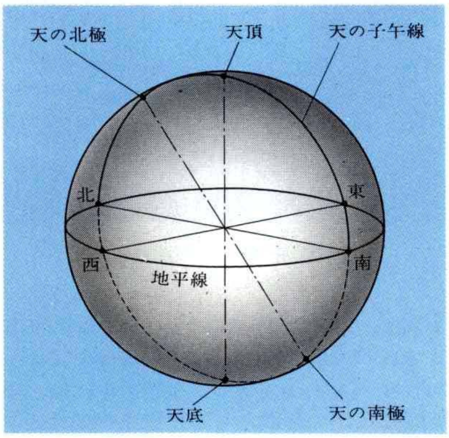


電　気　盆

でんきめっき　【電気めっき】　金属被覆法の一種で今日最も広く行なわれているもの。めっきする金属のイオンを含む電解液(めっき浴という)中で，被めっき体(金属)を陰極とし，その金属と同じ金属か，または不溶性の金属を陽極とし，直流電解を行なうと，陰極で金属イオンが放電し，目的とする金属が析出されてめっき層(単にめっきともいう)が形成される。

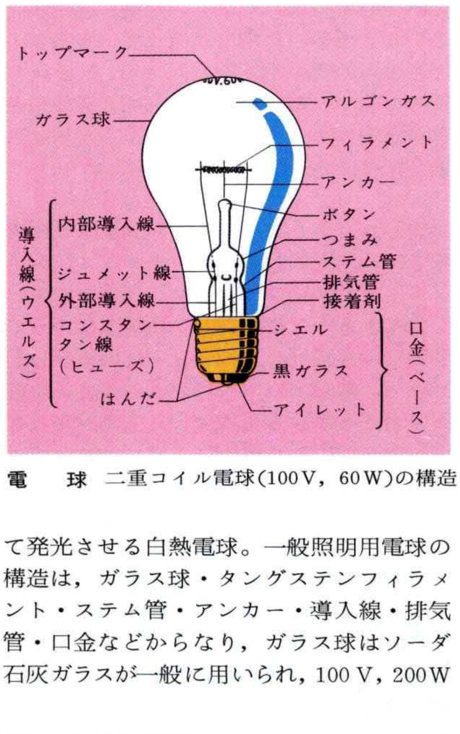
でんきやきん　【電気冶金】　電流の熱作用あるいは化学作用を利用して金属精練を行なうこと。電流を熱源として用いる電気炉精練と電気分解作用を利用した電解精練*がある。

てんきゅう　【天球】　夜空を仰ぐと，すべての星ははるか遠くの同じ距離にあるようにみえる。つまりわれわれは星を散りばめた半径の非常に大きな丸天井の中心にいるかのような感じを受ける。この半球と地平線下に隠れている残りの半球を合わせて天球と名づける。観測点における鉛直線が天球と頭上で交わる点を天頂，足下で交わる点を天底，観測点での地平面の延長が天球と交わってできる大円を地平線とよぶ。また地球の回転軸と天球との交点を天の北極，天の南極と名づけ，地球の赤道面を延長して天球と交わらせたときできる大円を天の赤道という。天の両極と天頂を含む大円が天の子午線である。　〔守山史生〕



天　　球

でんきゅう　【電球】　真空またはアルゴン，窒素などのガスを封入したガラス球内にフィラメントを置き，これに電流を流して発光させる白熱電球。一般照明用電球の構造は，ガラス球・タングステンフィラメント・ステム管・アンカー・導入線・排気管・口金などからなり，ガラス球はソーダ石灰ガラスが一般に用いられ，100V，200Wまでの家庭用では内面をフッ酸などで処理してすりガラス状としたつや消し電球が，まぶしさを防ぐ意味から用いられる。フィラメントは，金属中炭素に次いで融点が高く(3,655°K)，高温でももろくならないタングステン線の単コイルおよび二重コイル構造が用いられ，発光部が小形で点光源に近い。またガラス球内部には，タングステンの蒸発を防ぐため，アルゴン90%と窒素10%の混合ガスを常温で約3/4気圧で封入している(このため，ガス入り電球ともいう)。ほかにガラス球を薄青色の生地ガラスでつくり，見た目に涼しい感じを与える昼光電球，球内面にシリカの微粉末を塗布して拡散性をよくしたホワイトボール電球，反射面をもつレフレクター電球，反射鏡と前面レンズを溶着したビーム電球などをはじめ，特殊電球としては，投光器用・車両用・船舶用・自動車用・写真用(閃光(せんこう)電球・映写用を含む)・赤外線電球・ハロゲン電球・標準電球*，その他各種小形電球などがある。なお電球の口金寸法・初特性・寿命などは日本工業規格(JIS*)によって定められ，特に平均寿命は30～200Wの一般照明用で1,000時間とされている。白熱電球の発明は，1879年，エジソン*による実用炭素電球の発明を最初とするが，その後，エジソンが京都府八幡(やわた)産のタケを取り寄せ，炭化してフィラメントを得たことは，有名な史実となっている。　〔伊東　孝〕



電　球　二重コイル電球(100V，60W)の構造

一般照明用電球の定格（JIS　C7501～1971)

形　式	定格電圧(V)	ガラス球径(mm)	長さ(mm)	光中心距離(mm)	口　金	定格初光束(ルーメン)	平均寿命(時間)
*L100V10W	100	55	102以下	71	E26125	76	1 500
L100V20W	〃	〃	〃	〃	〃	175	〃
L100V30W	〃	〃	〃	〃	〃	340	1 000
L100V40W	〃	〃	〃	〃	〃	510	〃
L100V60W	〃	60	114以下	77	〃	850	〃
L100V100W	〃	〃	〃	80	〃	1 600	〃
L100V150W	〃	75	160以下	118	〃	2 450	〃
L100V200W	〃	〃	〃	〃	〃	3 450	〃

注）　*二重コイル電球の場合はLαとする

てんきゅうぎ　【天球儀】　恒星・星座，天の赤道・黄道などが記入された天球*の模型。ふつう天の両極を軸として回転するようになっていて，天球の日周運動を観察したり，太陽・月・惑星の天球上の見かけの運動を見たりするのに使われる。

てんきゅうざひょう　【天球座標】　天球上の一つの大円(この大円のつくる平面を基準面ということもある)と特別な一点(基準点)をもとにして天球上の位置を角距離で表わす座標系の総称。基準面に地平面，基準点に南の方向基点をとった地平座標，天の赤道および春分点を基準にした赤道座標，黄道および春分点をもとにしてはかる黄道座標，銀河面・銀河中心の方向を基準にとる銀河座標などがある。

でんきようせつ　【電気溶接】　学術用語ではなく，ガス溶接*に対する語。一般的には，手アーク溶接をさしたが，多くの溶接法が考えられ学問的に分離された現在では，熱源を，電気からとる溶接方法と考えたほうがよい。手アーク溶接・炭酸ガスアーク溶接・自動溶接・抵抗溶接など現在使用されている溶接方法の大部分がこれに含まれる。

でんぎょうだいし　【伝教大師】　⇨最澄

てんぎょうのらん　【天慶の乱】　⇨承平・天慶の乱

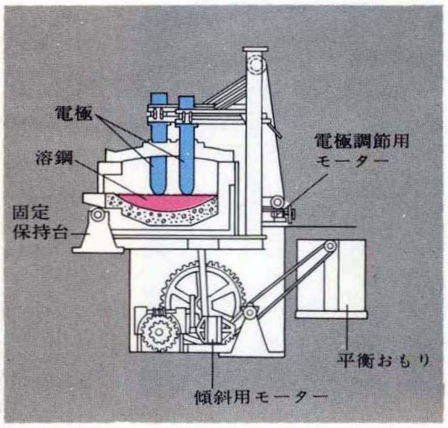
でんきようりょう　【電気容量】　単一の導体にたくわえることのできる電荷の容量。

最近はほとんど使われないことばである。その導体に対立する電極を大地(0 V)と考えたときのコンデンサーの静電容量にほかならない。➔静電容量

でんきょく【電極】電流を物体(電池・コンデンサー・電子管・トランジスター・電解液など)の中に導入したり,あるいは外へ導き出すために用いられる棒状または板状の端末。ふつう,金属や特殊な導体が用いられる。電極には陽極と陰極とがあり,陽極はその物体の中の電子を収集して外に送り出す役割をもち,陰極は電子をその物体の中に放出させる役目をする。一般に,電流の流れ出す電極があるときに,電位の高いほうの電極を陽極,低いほうを陰極と名づけることができる。特に,電子管の場合,陽極は,アノードまたはプレート,陰極はカソードとよばれる。トランジスターや電子管などのように,陽極・陰極のほかに第3・第4……の電極が用いられることもある。〔堀内和夫〕

てんきよほう【天気予報】未来の気象状況を,科学的方法で予測し発表すること。気象庁で,発表されている天気予報には,現在,約24時間,36時間以内の天気予報と,1週間程度の天気を予報する週間(または旬日)予報,および3か月程度の天候を予報する長期予報に大別される。そのほか,サクラの開花期の予想,霜害・雷雨・火災などの警報,台風の進路予報,毎日の最高・最低気温の予報など特別な目的のための天気予報も発表されている。天気予報の方法を大別すると次の4種になる。①類似法:天気図*を作成し,天気に影響を及ぼす高気圧・低気圧・前線・ジェット気流などの天気系の立体的な変動経過や,それらに関する過去の資料による類似性を利用して予報する。②総観的方法:経験的因果関係などを物理的に総合的に考慮して予報する。③数値予報:大気の運動を回転する地球上の流体の運動と考え,与えられた天気図に基づいて,地上から成層圏に至る大気の成層をいくつかの層に代表させ,これらの層について気温・水蒸気・風などの気象要素を物理的・数学的にコンピューターを用いて数量的に計出し,これに高気圧・低気圧など天気系の変動の予想を加えて予報を出す。④統計的予報:多くの情報量を統計的方法を用いて,整理し,客観化し,予報式を作成して天気予報をする。実際には上記の方法により予想される天気をさらに総合判断して予報を出すしくみになっている。

世界各国は,国内の気象観測所や船舶・航空機から寄せられた観測資料をとりまとめ,テレタイプ・無線・気象模写電送を通じて国際的に放送すると同時に,世界各国から気象情報を受信して各種の天気図を作成する。また,レーダーによる雨の空間分布,気象衛星による広範囲の雲の分布をとらえ,時々刻々に変化する雲や雨域の動静



電 気 炉 塩基性エルー炉の構造



テングカワハギ

を観測して天気予報の資料としている。〔小沢 正〕

でんきりきせん【電気力線】⇒電場

でんきりょう【電気量】⇒電荷

でんきろ【電気炉】電気を熱源とする炉の総称。現在金属工業や化学工業の分野で広く使用されている。種類は加熱方式によって大別すると,抵抗炉・アーク炉・誘導炉の3種がある。①抵抗炉:電流が抵抗体を流れる際に生ずる熱を利用するもので,被加熱物に直接通電する直接式と,発熱体(白金・モリブデン・ニクロムなど)に通電して発生する熱を利用する間接式とがある。②アーク炉:アーク*の熱によって加熱するもので,これにも直接・間接の2方式がある。直接法は,被加熱物が良導体でアークの1極をなすものであり,間接法は電極間にアークを発生させてこれで加熱させる。③誘導炉:被加熱物が2次コイルの役をし,その内部に生じるうず電流損失あるいはヒステリシス損失により加熱するもので,用いる交流の周波数により低周波炉と高周波炉がある。なおこれらのほか近年実用化されたもの,実用化されつつあるものに高融点金属や高活性度金属の融解などに利用する真空アーク炉,超高温炉であるプラズマジェットアーク炉,熱源として電子ビームを用い,その電子衝撃により融解する電子ビーム融解炉などがある。電気炉は,非常な高温が得られ温度調整が容易にでき,また,炉内ふんい気を酸化・還元・中性などにできる点,操業上で燃焼炉に比べてすぐれている。〔川久保正一郎〕

てんぐ【天狗】山中に住むと伝えられる妖怪(ようかい)の一種。天狗という呼称は仏教に由来するといわれる。一般には天狗のイメージとして,赤ら顔で鼻が高く,山伏のような服装で羽翼をつけ,手には羽うちわを持った姿である。これは中世以降の山伏の活躍を反映した天狗像で,元来は山神信仰に基づくものであった。山形県最上(もがみ)郡などの伝承では,天狗はただの白髪の老翁であり,また天狗のことを〈ぐひん〉〈おおひと〉または山人,山の神などとよぶ地方があるのも,かつての山神信仰を示している。山中で木を切り倒す音を〈天狗倒し〉,どこからともなく飛んでくるつぶてを〈天狗つぶて〉という地方が多いが,山中の神秘・怪異に対する共同幻覚と考えられる。天狗が子どもをさらったとする話も多いが,神隠し*の系統を引く話であろう。〈天狗の腰掛け松〉とか〈天狗の相撲場(すもうば)〉など,天狗に関する伝説も各地に豊富に伝えられている。〔直江広治〕

てんぐかわはぎ【天狗皮剝】硬骨魚類・テングカワハギ科。体長7~8cmの海産魚。体は長楕円(ちょうだえん)形で側扁(そくへん)し,吻(ふん)が長く突出してその先に口が開く。体色は美しい濃緑色で,体側に6~7列のオレンジ色の斑紋(はんもん)列があり,目を中心に同色の6条の線が放射状にある。沖縄諸島・フィリピン・東インド諸島・インド洋に分布し,沿岸性で,サンゴ礁域に生息する。頭をやや下にして泳ぎ,夕刻からはサンゴの間に頭部にある背びれを立てて休む。食用としての価値はないが,観賞価値は高く,近年沖縄方面から盛んに輸入されている。〔安田富士夫〕

てんぐさ【天草】紅藻(こうそう)植物・テングサ科。マクサともいい,低潮線より15m深までの岩上に生ずる海藻。4~5回羽状分裂し,高さ30cmに達し,形態の変異が大きい。有性生殖のほか,果胞子・四分胞子を生ずる。世界に広く分布し,わが国の寒天原藻の主体。3~10月末(最盛期は6~7月),ふつう海女(あま)が潜水して採取する。採取したものは真水で塩抜きし,天日にさらして漂白する。これを煮とかしてかためたものがところてんで,凍結し脱水させれば寒天となる。テングサの増殖を助けるため石灰藻の除去(磯掃除(いそそうじ)),着生面積をふやすための築磯などが行なわれているが,完全な養殖は成功していない。テングサ属ではほかにオオブサ・ヒラクサ・ナンブクサなどが寒天原藻とされる。➔海藻

てんぐざる【天狗猿】哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オナガザル科・コロブス亜科。ボルネオ島の特産。頭胴長と尾長各70cm,雄の鼻は大きくて長く特異な顔つきをしている。おもに葉を食べ動物食はとらない。10

〜30頭の群れをつくって水辺にすむ。水泳はうまい。飼育は非常に困難。

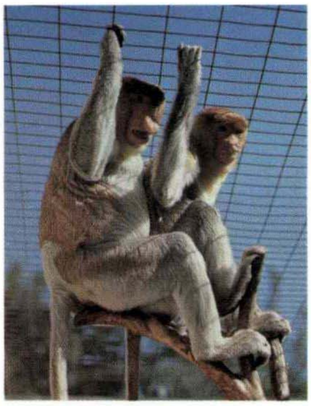
てんぐすけば　【天狗透翅】　こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・テングスケバ科の一種，あるいは科の総称。体長10mmほどで，全体ほぼ淡緑色であるが，死後黄変する個体が多い。頭部は著しく前方に突出する。翅(はね)は透明。後脚の脛節(けいせつ)の外側に約5個の小さいとげがある。本州・四国・九州のほか，朝鮮・台湾に分布する。成虫は8〜9月に発生し，イネ科の雑草間に普通に見られ，ときにイネやサツマイモなどを加害する。テングスケバ科は，世界じゅうに広く分布し，特に熱帯地方に多くの種類が産する。頭部の突出する種類が多いが，あまり突出しない種類もある。日本には5種が分布し，本種のほか，ナカノテングスケバ・クロテングスケバ・ツマグロスケバなどが産する。

てんぐたけ　【天狗茸】　担子菌類・テングタケ科。夏・秋季おもにマツ林内の地上に発生するきのこ。かさの直径4〜25cm，幼時はまんじゅう形，のち扁平(へんぺい)に開く。表面はかっ色ないし灰かっ色，周辺部は淡色である。全面に白色のいぼ(つぼの破片)がある。茎は高さ5〜35cm，径1〜3cm，白色である。上方に白色のつばがあり，それより基部までささくれてうろこ状となる。ベニテングタケとともに著名な毒きのこで，ムスカリン・ブフォテリンなどを含む。火にあぶって柔らかくして水で湿らせたものをハエがなめると死ぬというので，ハエトリタケともいう。➔きのこ

てんぐちょう　【天狗蝶】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・テングチョウ科の総称またはそのうちの一種。翅(はね)を広げた長さ48mm内外。下唇鬚(かしんしゅ)が長く，頭部より著しく前方に突出するためにこの名がある。翅の地色は黒かっ色で，前翅には中央部と中室に連続した赤かっ色の大きな紋があり，後翅中央部にも同色の細い帯をもつ。前翅の翅端は突出してかぎ状をなす。成虫は年1回6〜7月に羽化するが，まもなく休眠にはいり，そのまま越冬して，雌は翌年4月にエノキの芽の基部あるいは芽に近い細枝に1〜数個ずつ産卵する。雑木林の周辺，渓谷(けいこく)の路傍，山道などに見られ，ときに群をなしているのに出会うこともある。枝の先に止まる習性があり，越冬個体は花にも飛来する。幼虫はエノキを食べ，静止の際は胴部の前半を少し持ち上げて背を丸くする習性がある。日本全土のほか，南ヨーロッパからヒマラヤ・中国にかけて広く分布する。

テングチョウ科は系統的に古いチョウといわれ，アメリカの第三紀層から化石として2種発見されている。ほかに近縁の群がなく，オーストラリアを除く全世界に約10種知られている。〔多々内修〕

てんぐとうのらん　【天狗党の乱】　1864



テングザル



テングチョウ

年(元治1)3月水戸(みと)藩の尊攘派(そんじょうは)天狗党が起こした争乱。天狗党は下級藩士らを中核とする藩内の急進派で，保守派の諸生党と対立し党争していた。1863年(文久3)攘夷延期を不満とする天狗党の首領藤田小四郎らは，1864年3月田丸稲之衛門(いなのえもん)を擁して攘夷を唱え筑波山に挙兵し，9月幕府の追討軍と戦って敗れ，10月一橋(徳川)慶喜(よしのぶ)に心事を訴える目的で武田耕雲斎を首将として京都に向かったが，12月越前(えちぜん)(福井県)新保(じんぼう)宿で加賀藩に降伏し，翌年2月，武田・藤田・田丸ら352人は斬罪に処せられた。〔松尾　涼〕

デングねつ　【デング熱】　主として熱帯・亜熱帯地方にみられる*伝染病の一。病原体はデング熱ウイルスで，ネッタイシマカ・ヒトスジシマカによって媒介される。潜伏期は5〜7日。症状は，急激な悪寒戦慄(おかんせんりつ)で発熱し，頭痛・関節痛・顔面潮紅(デング顔)を呈する。発病後まもなく麻疹様(ましんよう)発疹・*猩紅熱(しょうこうねつ)様発疹を認める。おもな流行地は，フィリピン・インドネシア・タイ・マレーシア・インドなどであるが，タイでは出血性病変のみられるデング熱が知られている。死亡率は一般に低い。〔橋本信也〕

てんぐのめしがい　子嚢菌(しのうきん)類・テングノメシガイ科。夏から秋に，落葉・腐植質上にはえる小形のきのこ。子実体は肉質で頂部と茎とからなり，棍棒(こんぼう)状である。全体が黒色で，密毛におおわれている。頂部は扁平(へんぺい)の舌状で，充実し，表面は子嚢層でおおわれる。柄には粗毛がある。

でんげきしょう　【電撃傷】　電撃(*感電)に伴って起こる損傷。電気火傷ともいう。電気の熱作用，電流の機械作用・電解作用などによって起こる。電撃による傷害の程度は人体を通る電流値によって異なり，電圧が高くても電流が微弱であれば危険は少ないとされている。また電気に触れたときの状態，たとえば皮膚の乾湿，空気の湿度，衣服の状態，地下導が十分か否か，電流の流通時間などに関係する。高電圧では電流が通っているところに直接さわらなくても安全距離(最小15cm)以内に接近すると電撃を受けることがある。電流による傷害の特徴は皮膚の損傷で，灰白色〜灰白黒色に腫脹(しゅちょう)し，通常発赤腫脹を欠き，ときには血管性浮腫を認める。全身症状としては，意識障害(失神・昏睡(こんすい))・循環器系障害(不整脈・徐脈・心臓死)・呼吸麻痺(まひ)などを認めることがある。死亡(感電死)する場合は即死または当日死が多く，24時間を過ぎると生命の危険はほとんどない。治療としては対症的に行なう。〔佐野隆志〕

でんげん　【電源】　発電機・乾電池・蓄電池などのように，物理的・化学的な過程によって，他の形のエネルギーを電気的エネルギーに変換し，外部の電気系にそれを電力として供給するものの総称。

でんげんかいはつ　【電源開発】　電力の供給源である発電所の建設を目的とした開発事業。水力・火力・原子力の三つの方式がある。

〔歴史〕わが国ではじめて事業用として電気の供給を開始したのは東京電燈で，1886年(明治19)のことである。当時はもっぱら火力発電によっていたが，日本最初の水力発電として琵琶湖(びわこ)疏水(そすい)を利用した蹴上(けあげ)水力発電所(1892)が，その後出力15,000kWの駒橋(こまはし)水力発電所，さらに出力37,500kWの猪苗代(いなわしろ)水力発電所などが登場し，発電は火力から水力に転換，*水主火従の時代にはいった。このころでは送電技術の発達とともに長距離送電が可能となり，また送電網の拡充によって，水火力併用の発電方式が定着をみることになる。1939年(昭和14)，電力国家管理の一環として，日本発送電(株)が設立され，わが国の電源開発は一元化されるとともに，政府の建設命令によって進められることになった。1941年以降は，太平洋戦争の進展に伴う軍需要から，膨大な電力動員が要請されたにもかかわらず，資材・労働・資金などの不足から，新たな電源の開発はあまり進まなかった。1951年には電気事業が再編成されて，発送配電を一貫運営する全国九つの電力会社が成立，またその翌年，電源開発促進法が制定されて大規模な水力発電の開発を目的とする電源開発(株)が誕生し，これらを契機として戦後わが国の電力生産は本格化することになった。再編成後10年

で，電気事業者の保有する発電設備は2.5倍となり，1968年度には5倍以上となった。この間火力の開発テンポは水力のそれを大きく上回り，水主火従から火主水従*の時代に移ったとみられる。

〔現状〕 電源開発(株)は，佐久間(出力35万kW)・御母衣(みぼろ)(出力21万5,000kW)・田子倉(出力38万kW)・奥只見(おくただみ)(出力36万kW)などを開発，また関西電力は黒部川第四(出力25万2,000kW)，喜撰山(きせんやま)(出力46万6,000kW)，東京電力が，安曇(あずみ)(出力62万3,000kW)などの発電所を次次に開発した。

火力発電にみられる近年の傾向は，プラント容量の大形化と高温高圧ボイラーの採用による発電所熱効率の上昇である。使用される燃料も，かつての石炭から重油に大きく転換してきている。最近建設されるものは，すべて重油専焼の火力発電所で，出力も1基35万～50万kWといったものが多い。東京電力の姉崎(あねさき)火力発電所や鹿島(かしま)火力発電所では，1基60万kWの大容量のものが備え付けられている。

わが国の原子力発電は，1963年10月日本原子力研究所東海研究所の実験炉の運転開始に端を発しているが，その実用化は日本原子力発電(株)東海発電所(出力16万6,000kW)に始まる。原子力発電ではさらに敦賀(つるが)発電所(35万7,000kW)を建設した。最近では各電力会社も原子力発電に積極的で，東京電力が福島1号炉(46万kW)を建設，2号炉・3号炉(ともに78万4,000kW)に着工，関西電力が美浜(みはま)1号炉(34万kW)を建設，美浜2号炉(50万kW)や高浜1号炉・2号炉(ともに82万6,000kW)に着工するなど，各社の建設計画が続いている(→原子炉)。しかし，発電コストが重油火力に比べて割高であるなどの理由から，現在までのところその開発は徐々に進行している程度である。以上のように，現在わが国の電源は，重油火力に主力を置いており，その線に沿って年々大規模な開発が行なわれてきているが，しだいに公害問題や補償問題などで，発電所の立地確保が困難となり，燃料原油の低イオウ化など公害防止対策を積極的に打ち出す一方，この点比較的問題の少ない原子力発電への転換を早める必要性が叫ばれている。〔西野義彦〕

てんこ 【天鼓】 能の曲名。作者不明。四番目物。中国後漢(ごかん)の世に，天鼓という少年が，天から降った鼓をみかどに差し出すことを拒み，ために呂水(ろすい)という川に沈められた。その後鼓はいっこうに鳴らないので，みかどが天鼓の父王伯を呼び出して鼓を打たせると妙音を発する。王伯を私宅へ帰したあと，みかどは呂水の岸で音楽を奏して天鼓を弔うと，少年の霊が川から浮かび出て鼓を打ち，楽を舞う。シテは王伯と天鼓の霊の二役。ワキはみかどの臣下。ほかに狂言方が王伯を私宅へ送る官人を勤める。〔長尾一雄〕

てんこう 【転向】 狭い意味では権力*によって強制されたために起こる思想の変化をいう。権力の代表的なものに国家権力があるがその国家権力による強制，つまり投獄・拷問・処刑などの直接的な強制による思想変化が転向現象の第1にあげられる。たとえば，マルクス主義の持ち主が，国家権力の直接的な強制によって思想の変更を余儀なくされた場合などがその典型的な例である。しかし強制には直接的な暴力によるものばかりではなく，間接的に物質的な利益や社会的名誉などの提供と引き替えに変更を迫るものも含まれる。また転向には外からの強制による思想変化だけでなく，当人が自発的に思想上の変化を示す場合もある。たとえば，共産主義の理論と行動に身を投じていた者が第2次世界大戦勃発(ぼっぱつ)とともに急にファシズム*的侵略に賛成し，自発的に協調する文章を発表したような変化もやはり転向である。このような転向はすべて政治的な状況にかかわる現象であるといえる。しかし転向の概念は，広く価値体系との関連でも考えられる。つまりある人間や，ある集団がなにを究極的な価値とするかによって転向は単に政治の次元にとどまらず，文化や精神の次元に鋭く現われるとみてよい。

転向はまた，なにを究極的な価値とするか，という世界観や価値体系をめぐっての格闘でもある。したがって，世界観や価値体系の急激な変化のあるなしによって，転向・非転向を区別することも可能だと考えられる。もともと思想を，信念すなわち価値体系と現実への態度との組み合わせと定義づければ，その思想の持ち主が状況の変化に対する対応のしかたに一貫した軌跡を求められるかどうか，つまり人格的な統一性があるかどうかも転向を見定める条件になる。ふつう，人格的な統一性が失われ，信念と態度との間に分裂が見られるほど，状況に対して違った適応のしかたをする場合にも転向が起こったといわれる。

わが国で転向ということばが一つのカテゴリーとして登場してきたのは1931年(昭和6)の満州事変以後，ことに1933年6月7日，獄中にあった共産党の最高指導者佐野学*・鍋山貞親(なべやまさだちか)の転向声明を契機としている。この時期の転向の特徴は急進主義者ことにマルクス主義者に外から弾圧を加えながら，自覚的な転向の形をとったことで，のちの転向に比べれば，より個人的または小集団的であった。

第1次の転向期が佐野・鍋山らの転向声明を契機に大量の転向を見，1935年の末までには共産主義関係の90%の転向が完了したところに〈からの転向〉のイメージを伴っていた。しかし1937年12月の労農派*・人民戦線派の大量検挙とそれに続く結社禁止・解散命令という強権発動は，それ以前の共産主義〈からの転向〉が〈への転向〉に転化していく転向史上重要な時期を画した。第2次の転向期の特徴はそれまでの一部の反国家的な共産主義者やインテリの転向のみではなく，高度国防と総力戦の要求が全社会の課題として押しつけられ，軍部の戦争拡大に歩調を合わせる全体主義*への特定の行動や精神の状態，換言すれば〈報国〉が要求された点にある。したがって1940年を中心とした転向では，自由主義・傍観主義その他あらゆる観念的態度を捨て，国家の要求する特定の行動に国民的規模で転向することが求められた。1938年7月には国家総動員法*が制定され，国民生活のすべての部門が政府の統制下におかれて，いわゆる戦時体制となり，1940年10月には大政翼賛会*が成立して国民のがわからのファッショ化・全体主義化も強力になった。その間自由主義者の多くは国家の意のままに無自覚に転向し，むしろ積極的に日本人たることを証明して大衆に合わせようとした。

わが国における第2次世界大戦前の転向の動機にみられる著しい特徴は，満州事変当時においては家族関係によるものが圧倒的に多い事実，また，1943年には前記のように，国民的自覚が共産主義者の転向の動機となっている点にある。そこには，日本独特の歴史的な観念の構造が示されていると思われる。滅私奉公から離れてわれわれひとりという状況に対面したときのパーソナリティーの弱さは，そのまま急進的な集団の組み方にも問題のあったことを物語っている。1945年第2次世界大戦の敗戦により日本は平和国家の建設に向かったが，それに伴って戦時中の超国家主義者をはじめ，多かれ少なかれ右翼*だった国民も総転向をしいられることになった。戦後のインテリ階層の転向は，戦前，軍国主義的であったものがいつのまにかなしくずしに新たな立場に移動したことである。戦前のような権力の強制力はなく，より自由に立場の移動が行なわれ，しかもその思想変化の責任を本人が感じないところに転向の無責任性が強くあらわれている。〔溝口 潔〕

てんこうかいぶつ 【天工開物】 中国の科学技術書。明(みん)の宋応星(そうおうせい)が，1637年ごろに著わした。3編18巻。農業をはじめ，ほとんど全分野の科学技術が，多くのさし絵とともに紹介されている。ヨーロッパの学術流入期にあって，中国の科学技術の優秀さを主張している点が特色。

でんこうニュース 【電光ニュース】 多数配列した電球の点滅によって，連続した文字を流し，ニュースを知らせたり広告を行なう装置。ビルの屋上または外郭にたんざく状の黒塗りボードを張り，これに100V，10～15Wのサイン電球を多数配列して電光板とし，別に室内に細長い水銀槽(そう)を設け，この水銀液上面に沿って，ニュース文に応じた鑽孔(さんこう)テープを走らせ，上方

の突起端子群と水銀液面と接触した箇所だけに電流が流れ，これに対応して電光表示のニュース文が，左から右へ(または上から下へ)流れながら現われるようになる。ガス入り電球より真空電球のほうが光が尾を引いたように流れることが少なく，また漢字交じり仮名文字文の場合，電光ニュース面にある瞬間に少なくとも4文字以上ないと読みにくい。〔伊東　孝〕

てんこうりょく【転向力】⇨コリオリの力

てんこく【篆刻】 金玉木石などに文字や絵を刻すること。多く篆書(→書体)を用いることから篆刻といい，また鉄筆ともいう。中国では，刻印の術は夏・殷(いん)・周のころに始まったであろうが，現存する殷代の遺印は印章の条件に合わず，いま印章として見られるのは戦国のものが最も古く，漢代になって諸制度が完備し，隆盛をきわめ，魏晋(ぎしん)南北朝に及んでいる。これを〈古印〉という。その後も刻印の風習には幾多の変遷と消長があるが，今日もなお継続して行なわれている。堂・号・軒・斎の印は唐の李泌(りひつ)の端居室に始まるというが，実際は宋(そう)にはいってから盛んになり，文人墨客の書画の愛好に伴って，姓名・字号・室名・成語印などが広く行なわれるようになった。元代にはいって趙孟頫(ちょうもうふ)・吾丘衍(ごきゅうえん)・呉孟思・朱珪(しゅけい)らが刻印をたしなむようになり，趙孟頫の朱文の小篆印が円朱文とよばれ，古い形制の印に対して文人印が重んぜられた。明(みん)代に文彭(ぶんぽう)(文徴明*の長子)が現われ，以後篆刻は文人の翰墨(かんぼく)遊戯に加えて，広く流布するようになり，名人・巨匠が輩出した。文彭に次いで新安(安徽(あんき)省)の何雪漁が出て，文・何の2家は近世篆刻の祖と仰がれた。ついで，安徽から蘇宣(そせん)が出てまた一派を開いた。清(しん)代になると，徽派・呉派・雲間派・甫田(ほでん)派・浙(せつ)派があいついで起こり，徽・浙両派が最も勢力があった。徽派は程邃(ていすい)，浙派は丁敬を祖とした。乾隆(けんりゅう)年間，汪啓淑(おうけいしゅく)は，みずから印癖生と号し，秦(しん)・漢以来の古印を愛玩(あいがん)・収集し，古印への嗜好(しこう)が高まるにつれ，浙派の諸家もまた秦・漢の渾朴(こんぼく)を慕うに至り，ついに西冷八家の諸名家が相はせ，徽派また漢印を宗として，巴慰祖(はいそ)・胡唐(ことう)らを出した。徽派からは鄧完白(とうかんぱく)が出て別に蹊径(けいけい)を開き，包世臣・呉譲之(ごじょうし)がこれに次ぎ，清末に趙之謙*(ちょうしけん)が現われ，清代の篆刻を集成した。それを受けて近人の名家に呉昌碩*(ごしょうせき)があり，石鼓文を愛して，一新面を開いた。篆刻は要するに周・秦・漢の古印を基本にして発達したもので，その技法においてもおのずから古趣を尊ぶのを旨としている。そしてその技法は，章法・字法・筆法・刀法の4法に帰するということができる。日本では，江戸時代中期に高芙蓉*らが現われ，文化・文政から盛んになった。→印章〔中田勇次郎〕



電光ニュース



趙之謙刻
〈漢学居〉



鄧完白刻
〈十分紅処成炙〉



呉昌碩刻
〈伝樸堂〉

篆　刻

てんごく【天国】 天上にあるとされる理想的な世界。キリスト教では〈神の国〉と同義で，《新約聖書》ではイエスの宣教によってこの世に始まり，終末の審判を通して，神の支配が成就することによって結果する永遠の至福の世界をさす。のちにキリスト教神学では，教会を目に見える神の国とする。→地獄

てんごくとじごく【天国と地獄】 オッフェンバック*作曲の3幕のオペレッタ。台本はクレミューとアレビーの共作で，初演は1858年，パリ。原題は《地獄のオルフェ》といい，ギリシアの神々をかりて，第二帝政を風刺すると同時に，グルックの《オルフォイス》を茶化すという，オペレッタの自在さを示した作品である。初演はロングランを続け，オッフェンバックを一躍有名にした。今日でも全曲がよく上演されるが，序曲は特に有名。〔向坂正久〕

てんさい【甜菜】⇨サトウダイコン

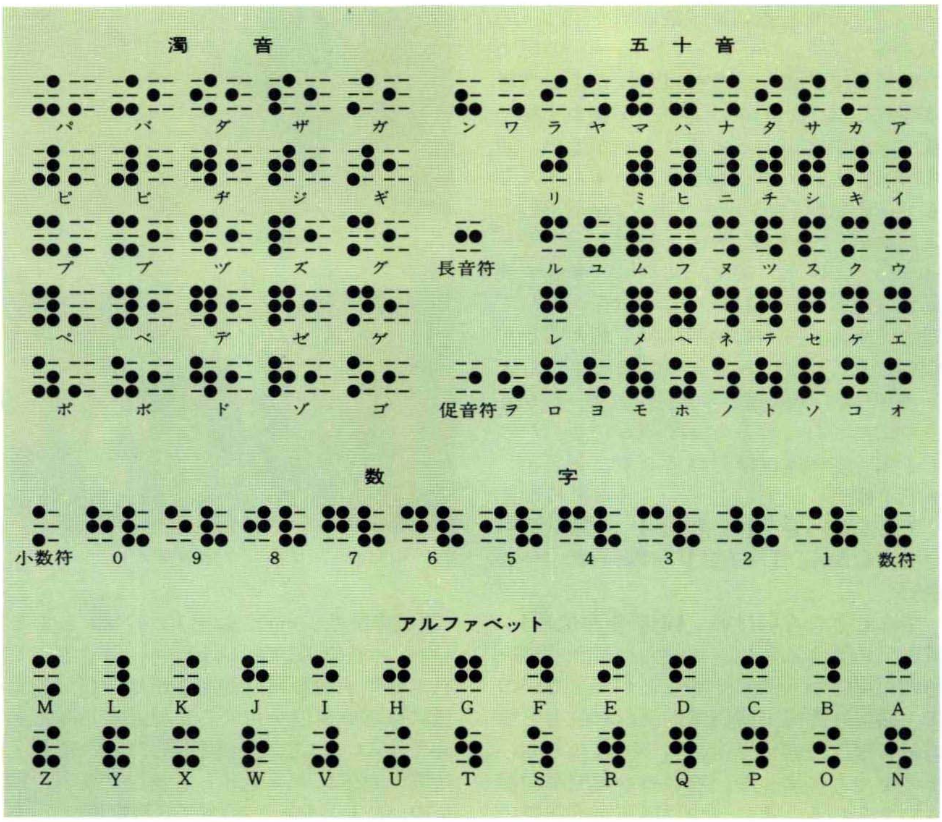
てんさん【天蚕】⇨ヤママユガ

てんざんさんみゃく【天山山脈】 テンシャン山脈 アジア内陸部の大山脈。北緯約40～45°，東経約65～95°の間。パミールの北端から，長さ約2,500km(うちソ連領1,200km)に及ぶ弧線を描いて東方に連なり，ジュンガル盆地およびタリム盆地の境界線となって，内陸アジアを2分している。最高点はポベダピーク(勝利峰)(7,439m)。山脈南北両麓(ろく)に点在するオアシスを東西に結ぶ道は，古来絹の道(シルクロード*)として名高い。

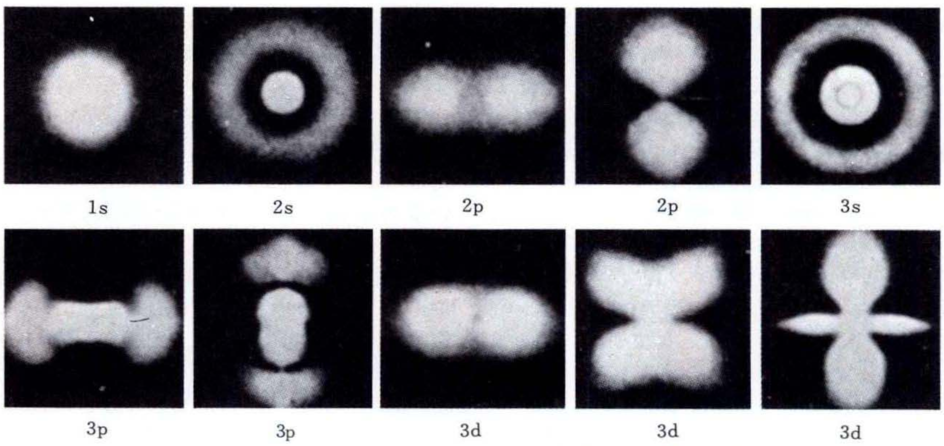
てんし【天使】 神と人間の中間に位置し，人格を有する霊的存在。両者の仲介者とされる。カトリックでは天使を九つの階級に区分し，特に4世紀以来天使に崇敬を払っている。プロテスタントでは天使も被造物であることをもって礼拝の対象とすることは禁止しているが，その存在は認めている。なお，キリスト教以外にも，ゾロアスター教・ユダヤ教・仏教などに天使の観念が存在する。→悪魔

てんじ【点字】 指先の触覚により読み書きの用を果たす盲人用の文字。紙面に突起した点を一定の方式に組み合わせてつくる。縦3点，横2点の計6点は，相異なる63個の符号となる。これをもって，アルファベット・楽譜・数字などの記号がつくられている。1829年フランスの盲人教師ルイ－ブライユが考案したもの。その後点字板・点字タイプライターの発明によって，読み書きは正眼者同様自由になり，以後世界の盲教育は長足の進歩を遂げた。

わが国の点字は，1890年(明治23)東京盲唖(もうあ)学校教師石川倉次がブライユ点字を五十音式に翻案，のち拗音(ようおん)組織を加え，日本訓盲点字が完成した。1925年(大正14)普通選挙実施とともに点字投票が認められ，点字の社会的・法制的価値が定まった。点字出版のやや活発になったのは1923年盲学校令が公布された前後からである。世界でも有名な点字週刊新聞《点字毎日》は，1922年の創刊以来半世紀に近い間1回の休刊もなく発行をつづけ，その文化的業績に対し，菊池寛賞と朝日社会奉仕賞が贈られている。しかし，点字出版は営利事業としてなりたたないので，1970年現在購入可能の点字図書は，1,708種(タイトル)3,771冊にすぎない。点字用紙には上質の模造紙を用いる。点字板上の定規に用紙をはさみ，点筆で右から左に横書きする。読む場合はこれを裏返して，左から右へ凸面(とつめん)を指先でなでて読む。中途失明者はなかなか速く読めな



点　字　点字は紙の表面から裏へ突き出して書き，右から左への横書きである。盲人はその凸面を読むので，左右が反対になるが，点訳者の場合はそのまま凹面から読むのが便利である。この表は書く場合(凹面から見た形)を示す



電　子　雲　水素原子の1s，2s，2p，3s，3p，3d軌道にある電子の電子雲。紙面内で上下の直線のまわりに回転対称

いが，幼時からの盲人は正眼者同様に速読ができる。　〔加藤善徳〕

でんし　【電子】　素粒子の一。エレクトロンともいう。電荷-1.60210×10^{-19}クーロン，静止質量9.1091×10^{-18} g。原子核*とともに原子*を構成する。また電気伝導やイオン化，原子結合などに重要な役割を果たす。電子発見の糸口となったのは19世紀の陰極線の発見であり，その後 J.J.トムソンの実験によって電子の荷電と質量の比が決定され，さらにミリカンの油滴実験によりその電荷が測定され，これから質量が求められて電子の粒子としての性質が明らかになった。また金属に光をあてると電子が飛び出す光電効果*や，熱せられた金属から電子の放出される熱電子放出の現象が研究されて，電子が多くの分野で重要な役割を演ずることがわかった。電子はこうしてまず粒子として認識されたが，その後電子線*回折のような波動*としての性質が発見され，その二重性はしばらくの間物理学者を悩ませた。この問題はシュレーディンガーの波動力学でまず解決され，さらにディラックの相対論的波動方程式でより深い解釈が与えられた。現在ではより進んだ場の理論で取り扱われる。一方ディラックの理論からは質量が電子と等しく，電荷が正である粒子の存在が予想されたが，これは1932年アンダーソンによって発見された。これが陽電子である。　〔吉原邦夫〕

でんしうん　【電子雲】　量子力学*において，波動関数で表わした電子の存在の確率を示す電荷の分布。荷電雲ともいう。量子力学では粒子の状態は波動関数$\psi(x,y,z,t)$によって表わされ，この粒子が空間の微小な体積dVの中に存在する確率が$|\psi|^2dV$に比例する。したがって電子をそれぞれの時刻に確定した位置を占める，電荷eをおびた微粒子として考えずに，荷電密度$e|\psi|^2$で空間に広がって分布する雲状のものと考えなくてはならない。

でんしオルガン　【電子オルガン】　電気的・電子工学的な装置で音をつくる鍵盤(けんばん)楽器。1930年代では回転子と電磁コイルによるハモンド-オルガン*が有名であるが，最近ではトランジスターを用いたものが多い。➜エレクトーン

でんしおんがく　【電子音楽】　人間の演奏する楽器や声によってではなく，電子的な装置で発生される音響を用いて構成する音楽。これは，20世紀における電気楽器の試みを受けて，1950〜1951年ごろから始まったジャンルである。音素材としては，正弦波・鋸歯(きょし)状波などのほか，ホワイトノイズのような雑音も選ばれ，それらが変形される。変形は周波数や振幅の変形にとどまらず，さまざまな音域でのフィルターや，残響を付加することなども含む。電子音楽はミュージック-コンクレート*とは異なり，既存の音響を使わないものとして出発した。事実，作曲家はきわめて多様な可能性の中で，それに統一を与えるために，前もって条件を設定する必要を感じていた。シュトックハウゼン*が音列の考えを音高だけでなく，音量や音価にも適用することから出発したのもその例である。しかし，シュトックハウゼンが《少年の歌》(1956)で少年の声も素材として使って以来，上述の区別は意味をもたなくなった。また，空間における音の方向性や運動は，通常の楽器よりも電子音楽のほうが効果的であるため，よく行なわれるようになった。さらに，最初は演奏家不要のジャンルであった電子音楽にも，偶然性の考えがはいってきて，ステージの上で装置を使って音をつくることも行なわれはじめた。日本では，ＮＨＫに電子音楽スタジオが置かれ，黛敏郎(まゆずみとしろう)・諸井誠(もろいまこと)共作の《７のバリエーション》(1956)以来，多くの作品が発表され，今日では，実験の域を出て，安定した水準を保つジャンルになっている。　〔徳丸吉彦〕

でんしかく　【電子殻】　原子内の電子*のとりうる運動の状態。量子力学*によれば，原子内の電子の運動状態は，主量子数n(１，２，３，……)，方位量子数l($n-1$，$n-2$，

……, 1, 0),磁気量子数m($l, l-1$,……1, 0, -1, ……, $-l+1$, $-l$)の三つの量子数で決まり，それ以外に安定な状態は存在しない。nはエネルギーを表わす量子数で,nが小さいほどエネルギーが低い。同じnの値をもつ,すなわち同じエネルギーをもつ運動状態(エネルギー準位*)を電子殻とよび，$n=1$をK殻，$n=2$をL殻，$n=3$をM殻などという。また，同じn, lをもつ運動状態は$2l+1$個あって,これを一括して副殻とよぶ。一つの副殻には2個の電子が収容でき，したがって一つの殻には$2(2l+1)$個の電子が収容できる。殻がすっかり電子で満たされているとき閉殻という。このとき電子雲密度は球対称である。➔原子 ➔原子模型　〔吉原邦夫〕

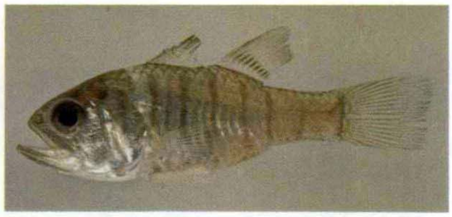
でんしがっき　【電子楽器】　⇨電鳴楽器

でんしかん　【電子管】　⇨真空管　⇨放電管

でんじきたんいけい　【電磁気単位系】　電磁気に関する単位*。これらは長さ・質量・時間の単位から誘導することができないので，適当な方法で電磁気的量の単位と力学的量の単位の関係を定めなくてはならない。その定め方によっていろいろの単位系が組み立てられる。その一つは電磁気的諸量の間の力学的相互作用を通じて単位を定める方法で，そのためには次の三つの法則が使われる。①電荷の間のクーロンの法則：$F=kqq'/r^2$(ただしF：力，k：比例定数，q, q'：電荷，r：電荷間の距離)。②磁荷の間のクーロンの法則：$F=k_m q_m q_{m'}/r^2$(ただしF：力，k_m：比例定数，$q_m q_{m'}$：磁荷，r：磁荷の間の距離)。③磁荷と電流の間に働く力：$F=Cq_mI[ds\times r]/r^3$(ただしF：力(ベクトル)，C：比例定数，q_m：磁荷，I：電流，ds：電流の微小部分を示すベクトル，r：その微小部分に対するq_mの位置を表わすベクトル，×はベクトル積を表わす)。この中から二つを選んで，その中に現われる定数k, k_mまたはCが1となるようにq, q_mの単位を決めるのである。このようにして決めた単位系を三元単位系とよぶ。

三つの式の中から二つを選ぶ組み合わせによって，次の3種類の単位系ができる。〈静電単位系(esu)〉$k=1$, $C=1$とする。〈電磁単位系(emu)〉$k_m=1$, $C=1$とする。〈ガウス単位系〉$k=1$, $k_m=1$とする。これは電気的諸量には静電単位を，磁気的諸量には電磁単位を用いる単位系であると考えてもよい。これらの単位系で長さ・質量・時間の単位にセンチメートル，グラム，秒を用いたものをそれぞれCGS静電単位系(CGSesu)，CGS電磁単位系(CGSemu)，CGSガウス単位系とよぶ。CGSesuでは①の式で$q=q'$, $r=1$ cmの場合に$F=1$ダインとなるqの値を電荷の単位とし，CGSemuでは②の式で$q_m=q_{m'}$, $r=1$cmの場合に$F=1$ダインとなるq_mの値を磁荷の単位とするのである。

別の考え方は電磁気的量の任意の一つの単位を基本単位に加える方法で，これを四元単位系という。今日，普通に用いられているのは長さ(メートル)・質量(キログラム)・時間(秒)・電流(アンペア*)を基本単位とするもので，MKSA単位系とよばれる。1 Aの大きさは任意に定めてもよいが，種々の便宜上〈真空中で1 mの間隔を隔てて平行に置かれた無限に長い，無限に小さい円形断面の導線に流れる強さの等しい定常電流によって，導線1 mあたり2×10^{-7}ニュートンの力を生ずる電流の大きさ〉を1 Aと定義している。MKSA系では磁荷の単位は③式で$C=1$となるように定める，そうすると①，②の比例定数は$k=c^2/10^7$, $k_m=10^7/(4\pi)^2$となる。なおk, k_mをそれぞれ$1/4\pi\varepsilon_0$, $1/4\pi\mu_0$と書くと電磁気学の基本的法則を表わす式の形が簡単になるという利点がある。このように定めた単位系を有理化単位系という。最近はMKSA有理化単位系が多く用いられ，その大部分は実用単位として使われている。また磁気的な諸量に対してはCGSガウス非有理化単位系も多く使われる。　〔有山正孝〕



テンジクダイ



テンジクネズミ

てんじく　【天竺】　インドに対する中国，日本の古い呼称。中国人がはじめてインドを知ったころの《史記》に身毒と記されたが，《後漢書》からのちは，天竺と書くのが一般的となった。梵語(ぼんご)の原音シンドゥ(Sindhu)をなまって写したものといわれる。

てんじくあおい　⇨ゼラニウム

てんじくだい　【天竺鯛】　硬骨魚類・テンジクダイ科。体長9 cmほどの海産魚。体は細長く，口は大きい。これは口内で卵を保護するいわゆるマウス-ブリーダーのためである。この役は雌雄両方とも行なうといわれている。南日本の魚で，沿岸に広く分布する。宇治山田市の魚市場などではこれをくし刺しにして焼いて売っている。やや美味であるが，いずれにしても地方で消費されるにすぎない。

てんじくとくべえいこくばなし　【天竺徳兵衛韓噺】　歌舞伎(かぶき)狂言。4世鶴屋(つるや)南北の処女作。時代物。5幕。1804年(文化1)，江戸河原崎座(かわらざきざ)で初演。大道具の仕掛け物や早替わりで著名な初世尾上(おのえ)松助*が徳兵衛に扮(ふん)して評判をとり，以後尾上家の家の芸となる基を築いた。あら筋は吉岡(よしおか)宗歓実は朝鮮の臣下木曾官が，天竺帰りの船頭徳兵衛を自分の子と知り，がまの妖術を伝えて日本を滅亡させようと図る。徳兵衛は神出鬼没の活躍をするが，結局は術が破られて失敗するというもの。なお，徳兵衛は実在の人物で，江戸時代初期角倉船(すみのくらぶね)に書役として乗船，その記録《天竺渡海物語》が残されている。　〔服部幸雄〕

てんじくねずみ　【天竺鼠】　哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・テンジクネズミ科。頭胴

電磁気単位対照表

	MKSA有理化単位	CGS電磁単位	CGS静電単位
電荷	1C(クーロン)1 A・s	10^{-1}cm$^{\frac{1}{2}}$・g$^{\frac{1}{2}}$	$3\cdot10^9$cm$^{\frac{3}{2}}$・g$^{\frac{1}{2}}$・s^{-1}
電流	1A(アンペア)	10^{-1}cm$^{\frac{1}{2}}$・g$^{\frac{1}{2}}$・s^{-1}	$3\cdot10^9$cm$^{\frac{3}{2}}$・g$^{\frac{1}{2}}$・s^{-2}
電位	1V(ボルト)=1m^2・kg・s^{-3}・A^{-1}	10^8cm$^{\frac{3}{2}}$・g$^{\frac{1}{2}}$・s^{-2}	$\frac{1}{3}\cdot10^{-2}$cm$^{\frac{1}{2}}$・g$^{\frac{1}{2}}$・s^{-1}
電場の強さ	1V/m=1m・kg・s^{-3}・A^{-1}	10^6cm$^{\frac{1}{2}}$・g$^{\frac{1}{2}}$・s^{-2}	$\frac{1}{3}\cdot10^{-4}$cm$^{-\frac{1}{2}}$・g$^{\frac{1}{2}}$・s^{-1}
電気容量	1F(ファラッド)=1m^{-2}・kg^{-1}・s^4・A^2	10^{-9}cm^{-1}・s^2	$9\cdot10^{11}$cm
抵抗	1Ω (オーム)=1m^2・kg・s^{-3}・A^{-2}	10^9cm・s^{-1}	$\frac{1}{9}\cdot10^{-11}$cm^{-1}・s
磁荷	1Wb(ウェーバー)	$\frac{1}{4\pi}\cdot10^8$cm$^{\frac{3}{2}}$・g$^{\frac{1}{2}}$・s^{-1}	$\frac{1}{4\pi}\cdot\frac{1}{3}\cdot10^{-2}cm^{\frac{1}{2}}$・g$^{\frac{1}{2}}$
磁位・起磁力	1AT(アンペア・ターン)	$4\pi\cdot10^{-1}$ギルバート(=cm$^{\frac{1}{2}}$・g$^{\frac{1}{2}}$・s^{-1})	$4\pi\cdot3\cdot10^9$cm$^{\frac{3}{2}}$・g$^{\frac{1}{2}}$・s^{-2}
磁場の強さ	1AT/m	$4\pi\cdot10^{-3}$エルステッド(=cm$^{-\frac{1}{2}}$・g$^{\frac{1}{2}}$・s^{-1})	$4\pi\cdot3\cdot10^7$cm$^{\frac{1}{2}}$・g$^{\frac{1}{2}}$・s^{-2}
磁束密度	1Wb/m^2	10^4ガウス(=cm$^{-\frac{1}{2}}$・g$^{\frac{1}{2}}$・s^{-1})	$\frac{1}{3}\cdot10^{-6}$cm$^{-\frac{3}{2}}$・g$^{\frac{1}{2}}$
インダクタンス	1H(ヘンリー)=Wb/A	10^9cm	$\frac{1}{9}\cdot10^{-11}$cm^{-1}・s^2

長25cm，体重450gほどで，尾はない。体毛は長毛と短毛とがあり，黒色・白色・チョコレート色・赤かっ色などいろいろである。南アメリカのペルーに野生するが，野生種は茶色である。昼行性で，性質はおとなしく，かん高い声でよく鳴く。南アメリカの原住民は本種の肉を食用とするため飼育している。16世紀にオランダの探検家によってヨーロッパに移入された。このときオランダ人が本種をヨーロッパ産のマーモットと誤ったため，モルモットという名がついたといわれる。医学・生物学の実験動物やペットとして飼育される。　〔今泉吉典〕

てんじくよう　【天竺様】 ⇨大仏様

でんしけいさんき　【電子計算機】 ⇨コンピューター

でんしけんびきょう　【電子顕微鏡】 光学顕微鏡における光の代わりに電子を用い，光学レンズ系の代わりに電子レンズ系を用いてつくられた顕微鏡。1932年，M. クレルとE. ルスカによって開発された。電子線の波長は可視光線よりも短いため，高倍率・高分解能の像が得られる。電子顕微鏡の像は，螢光板(けいこうばん)上に結ばれたものを直接観察するか，あるいは螢光板の位置に写真乾板を置き，電子線により感光させたものを観察する。乾板上の倍率は現在最高30万倍程度であり，写真を引き伸ばすことにより,300万倍程度までの像を得ることができる。

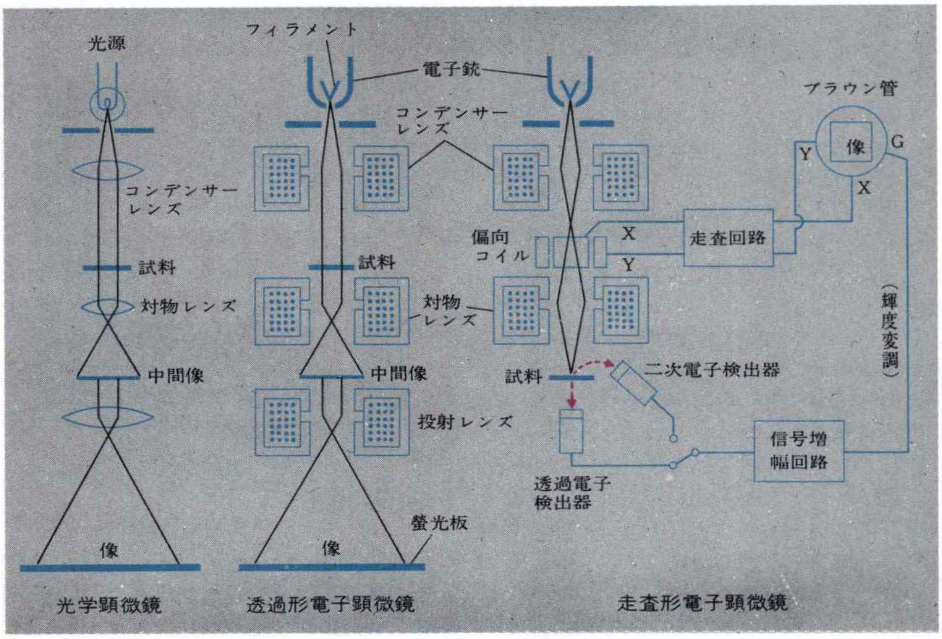
このほか，走査型電子顕微鏡(SEM)がある。SEMは試料面を直径0.01～0.1μの細い電子ビームで微細に走査し，発生する二次電子あるいは電気伝導度の変化を，テレビジョンと同じ原理でブラウン管上に拡大して映し出す間接方式である。物体表面を観察するのに適し，焦点深度が光学顕微鏡に比べてきわめて深く，凹凸(おうとつ)の大きな物体の表面を観察するのに偉力を発揮する。SEMは物体表面を直接観察することができるが，透過型電子顕微鏡ではレプリカ法によって間接的に観察する。　〔伊藤糾次〕

でんしこうがく　【電子工学】 ⇨エレクトロニクス

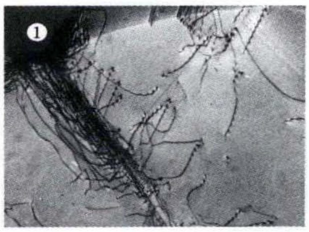
でんしこうぎょう　【電子工業】 電子工学(エレクトロニクス)を利用した製品を生産する工業をいう。真空管およびトランジスターを用いる通信機・計測機・コンピューターなどの生産を扱う。これらの機器には産業用(産業用電子機器)と家庭用(民生用電子機器)とがある。電子工業は広く電気機械工業に含めることができるが，第2次世界大戦後のエレクトロニクスの急速な発展に伴って，それを使用した製品分野が成長したため，新たに電子工業として区分されることが多くなった。しかし，電子工業製品のラジオ・テレビ・コンピューターなどは，総合電気機械メーカー・家庭電器メーカー・総合エレクトロニクスメーカーで生産されており，特に電子工業製品だけに専門化している大メーカーはほとんどなく，電子工業の企業構成は，部品メーカーも含めて電気機械工業の企業構成とほぼ同一である。わが国電子工業の生産は，約3兆4,000億円(1970)，このうち民生用は43％を占め，輸出は25％を占めている。

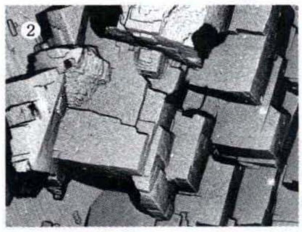
➔次ページ(図)　〔原　豊〕

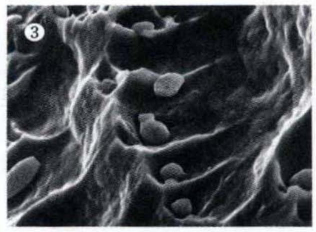
電子顕微鏡



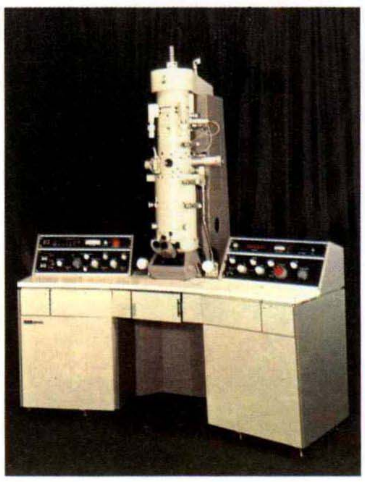
電子顕微鏡の構造原理図と光学顕微鏡との比較

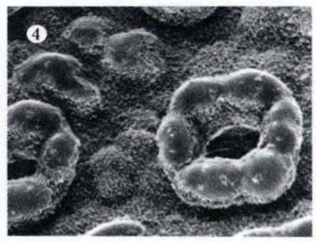


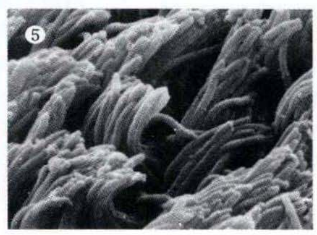




走査型電子顕微鏡とその応用写真
①ステンレス鋼の表面構造(10,000倍)　②アルミニウム単結晶の表面構造(1,400倍)　③銅の破面(1,500倍)　④カヤの葉の気孔(500倍)　⑤ダイコクネズミの気管の繊毛(5,500倍)







でんじしゃく　【電磁石】 鉄やフェライトなどの強磁性体の心棒(鉄心とよぶ)に導線をコイル状に巻きつけ，電流を通じたときにのみ鉄心が磁化し，磁石となるようにしたものである。したがって，ふつう，鉄心には，一度磁化されてもすぐに磁気を失うような軟鉄などの軟質の強磁性体が多く使用される。電磁石は，吸引力・回転力・強磁界などの発生を利用して，各種の分野に応用されている。すなわち，鉄材・くず鉄などの選別・持ち運びはもちろん，吸引力によって生ずる磁石と鉄との間の摩擦力を利用して，電磁クラッチ・電磁ブレーキなどにも使われる。また電磁石は，鉄心のまわりのコイルに流す電流を，遠方から制御することが可能であるから，電話の受話器，ベルなどにも利用されている。さらに

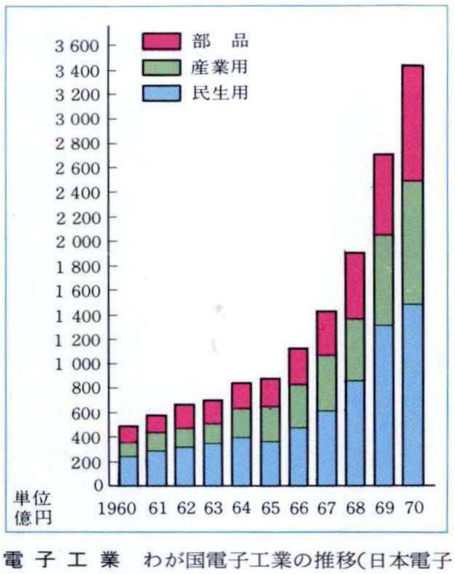
電磁石のつくる強力な磁界は，電動機・発電機に応用される。コイルを流れる電流として交流を使用すれば，電磁石の極性を電流の周波数で交互に変化することができる。これは，永久磁石にはありえない電磁石の特長である。〔堀内和夫〕

でんししゃしん【電子写真】 現像・定着などの処理をすべて電子的に行なって得られる写真。1938年にフランスのカールソンが発明したが，現在実用化されているものはゼログラフィ(xerography)およびエレクトロ-ファックス(electrofax)を主体とするものである。

ゼログラフィは，アルミ板にセレンの粉を吹きつけ，アルミ板とセレンとの間に約600Vの直流電圧を数秒間かけて，セレンを正に帯電させておく。これがネガフィルムとなる。次に被写体からの反射光をセレンの膜上にあてると，光が強くあたった部分は抵抗値が下がり(10MΩ 1 cm²程度になる)，その部分の正電荷が逃げてしまう。したがって，負の電荷をもった樹脂の粉末を振りかけると，正電荷の残っている部分，すなわち，光のもどらなかった被写体の黒い部分に対応するところに吸着する。次に，このようにしてできたネガに紙をあてて紙に正電荷を帯電するように電圧をかけて樹脂を紙のほうに吸い取り，これに熱を加えて樹脂をとかして像を得る。どのような紙にも印刷でき，像も鮮明であるが中間色が出ないのが欠点である。したがって文字のみの印刷物の複写には適しているが，写真の複写には不向きである。

エレクトロ-ファックスは紙の上に酸化亜鉛の化合物を塗ったものをネガフィルムとして用いる。このフィルムの両面に約6,000Vの直流電圧をかけて正の電荷を一面に帯電させる。これに被写体からの反射光をあてると，光が強くあたった部分ほど多くの電荷が逃げ，弱いところほど電荷が残っている。したがって，この上に鉄粉と樹脂粉の混合物を振りかけて吸着させ，加熱して像を固定する。エレクトロ-ファックスはややコントラストが悪いが，中間色も出る長所をもっている。

電子写真は取り扱いが簡単で，処理時間も短いので応用分野はきわめて広い。すなわち，一般の複写機をはじめ，ブラウン管と組み合わせて，コンピューター用の高速プリンターおよび模写電送用の出力装置などに用いられる。〔内山明彦〕



電子工業 わが国電子工業の推移(日本電子工業振興協会調べ)

でんしじゅう【電子銃】 ブラウン管や電子顕微鏡などに必要な電子ビームを発生させる部分。電子を発生させる陰極，電子ビームの強さを制御するためのグリッド，電子を加速する陽極およびビーム状にする電子レンズ*から構成されている。

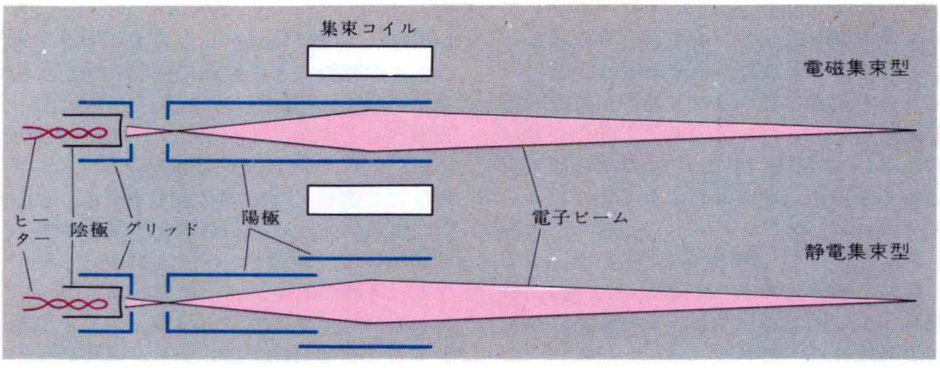
でんしせん【電子戦】 電磁波を敵側が効果的に使用するのを妨害・減殺するとともに，味方がこれを有効に利用するなど，電子工学を軍事的に応用して行なう戦い。第2次世界大戦以降特に重視され，現在各国ともいわゆる〈見えない戦い〉として極秘のうちに盛んな活動を行なっている。なお，電子戦に関連して電子情報ということもいわれる。これは外国の発射する通信用以外の電磁波を傍受して得た情報や電子技術に関する情報をいう。

でんしせん【電子線】 空間(主として真空中)に形成された電子の流れ。低真空放電における陰極線*として発見された。性質は電子密度(すなわち空間電荷)の値によって決まる。電子線は物質と強い相互作用を示し，電子線が物質にあたると，その原子の核外電子に衝突して散乱を受けたり，原子を励起あるいは電離してしだいにエネルギーを失っていく。したがって，固体に衝突すると，二次電子の放出，X線の放射，あるいは熱を発生させ，結晶体の場合には回折*現象を示す。高いエネルギーの電子線は金属の薄膜を比較的よく透過するので，真空中から空気中に電子線を取り出すことができる。電子線は電場*・磁場*によって進路を曲げることができるため，電子幾何光学的な電子像の結像が可能である。〔伊藤糾次〕

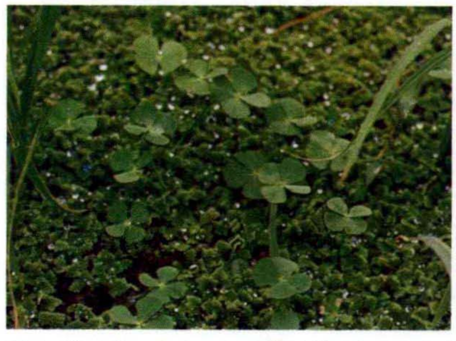
でんしせんこうかとりょう【電子線硬化塗料】 塗膜の硬化に電子線硬化方式を用いる塗料。一般に塗膜形成主要素中にエチレン性二重結合を多量に含むことが有利で，不飽和ポリエステルがその代表であり，アクリル樹脂などが用いられる。電子線を用いて，素材に塗付した塗膜中のモノマーあるいはポリマー中にラジカルを生成させ，このラジカルが重合開始剤となって重合反応と架橋反応を進める。塗膜は瞬間的に乾燥し塗装ラインが大幅に短縮できるとともに，かたく傷のつきにくいじょうぶな塗膜が得られる。カラートタン・プラスチック・木工・罐(かん)などの塗装に特に適している。〔鈴木荘司〕

でんじそう【田字草】 シダ植物・デンジソウ科。本州・四国・九州に分布し，水田・池・沼などの泥地(でいち)に分布する水生シダ。根茎を横に長く伸ばし，ところどころに葉を出す。葉は長い柄があり，4小葉からなる。秋，葉柄基部に小さな枝を出し，2〜3の嚢果(のうか)をつけ，その中に大小の胞子嚢をつける。

てんしち【転質】 質権者が質権*の存続期間内に，その質物を自分の債務の担保とするため，さらに質入れすること(民法348条)。転質をするには債務者の承諾を必要とする考え方(承諾転質)と不要とする考え方(責任転質)とが対立しているが，通説はこのいずれをも認めている。転質の存続期間は原質権の存続期間内であり，転質権の被



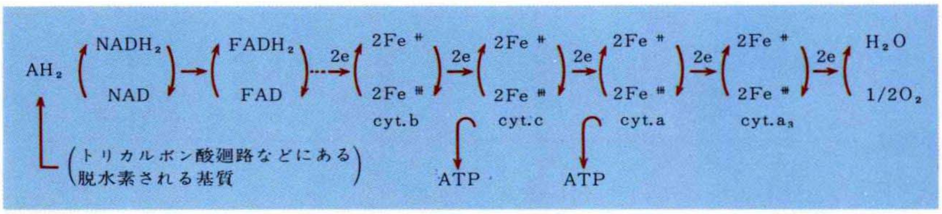
電子銃 断面図



デンジソウ カタバミの葉に似るのでカタバミモの別名がある。まわりはアカウキクサの群落

担保債権の存続期間内であり，転質権の被担保債権額は原質権のそれをこえてはならない。転質の効果としては，転質権者は，自己の債権の弁済期がきても，原質権の債務者に対する被担保債権額の弁済期がこなければ転質権を実行できないことがあげられる。また，転質権の実行により質物を換価したときには，まず自己の債権の弁済にあて，残額があれば原質権者がこれを受領する。また,原債務者(原質権を設定した者)が原質権者に債務を弁済すると原質権は消滅することになるから，転質権者は担保を失うことになる。そのため，転質をするには，原質権者から原債務者へ転質の設定通知をするか，原債務者の承諾を求めることが必要で，原質権者は債務の弁済を受けてはならないと解されている。なお，転質した質権者は，転質をしなければ生じなかったであろう不可抗力による損害賠償*についても，その責任を負担しなければならない(民法348条)。〔黒木三郎〕

でんしでんたつけい【電子伝達系】電子対を供与者から最終的な受容者(酸素)に渡し，水を形成させる生化学上の橋渡し役をいう。そのうちでいちばんよく知られているものがチトクロームｃという色素である。いろいろな基質が脱水素酵素とよばれる酵素によって脱水素(酸化)されるとき，その酵素は補酵素としてＦＡＤまたはＮＡＤ*・ＮＡＤＰ*などをもっているので，これが一時的に水素原子を受け取ることになる。水素原子は水素イオンと電子とに分かれ，この内の電子がまず電子伝達系の最初のチトクロームb(cyt.b)に受け取られる。チトクロームとよばれるものはすべて鉄イオンを含んでおり，電子を受け取ることによりFe^{3+}がFe^{2+}となる。続いてcyt.c_1，cyt.c，cyt.a，cyt.a_3の順に次々と電子が渡り，その際，鉄は交互に酸化還元を受けて，しだいに系の酸化還元電位は高くなる。最後に電子を受け取ってFe^{2+}になったチトクロームは，そのままでは電子を放ってFe^{3+}型になれないので，これを酸化する酵素が必要である。これがチトクローム酸化酵素(チトクロームオキシダーゼ)とよばれるもので，cyt.aとa_3とよんでいるものがこれである。ここではじめて基質から放出された電子と水素イオンおよび酸素から水が形成されることになる。この過程でもう一つの重要なことは，電子が伝達されていく間にＡＴＰ*(アデノシン三リン酸)の新成がある点で，これを酸化的リン酸化という。この系は細胞内のミトコンドリアの内膜にあるといわれている。〔井坂三郎〕



電子伝達系

てんじとしょかん【点字図書館】盲人のために点字図書と録音図書(テープ)を製作または収集し，これを郵送により貸し出す図書館。このうち録音図書部門は，〈声の図書館〉または〈テープライブラリー〉ともよばれている。世界最古のものはロンドンの国民盲人図書館で，蔵書35万冊，利用者は全世界にまたがり11,000人，年間貸し出し25万冊を記録している(1964)。1882年イギリスの盲婦人アーノルド女史が創始したものである。

わが国の点字図書館は，1929年(昭和４)鹿児島県立図書館につくられた盲人閲覧室が最古とされているが，独立の図書館としての機能を備えたものは，1940年本間一夫(かずお)(全盲)によって東京に設立された日本点字図書館が最初である。1949年，身体障害者福祉法が公布，点字図書館の設置が規定された。1954年，国ははじめて点字図書製作貸し出し事業の委託費を計上，日本点字図書館に委託するとともに，全国各府県に厚生省指定点字図書館をつくる方針を打ち出した。以来各府県に公私立の点字図書館または図書室が設置され，国費による配本点字書と点訳奉仕者の寄贈本とにより，漸次図書の増加を図っている。

〔点訳奉仕〕正眼者が点字を習得し，無報酬で点字の手書き写本をつくり提供することをいう。1940年，日本点字図書館の創立とともに，社会教育家後藤静香が提唱普及させたもの。現在，全国各府県の点字図書館や日赤奉仕団などで指導し，常時数千人の奉仕者が活動している。指導は通信教育によるものが多い。

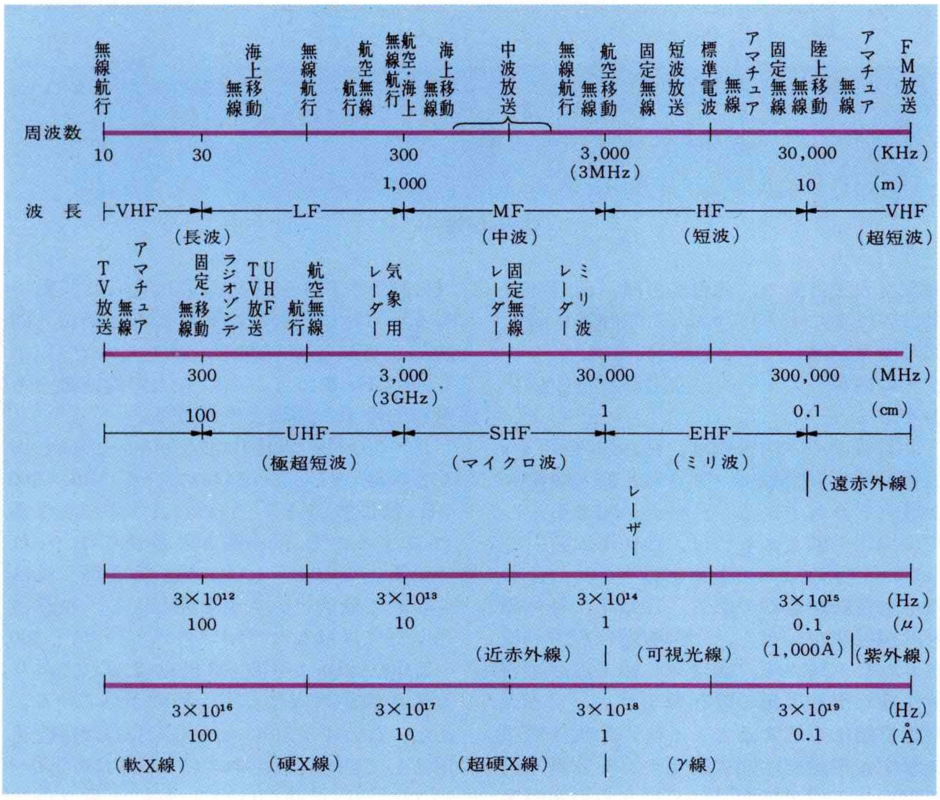
〔テープライブラリー〕1935年ごろからアメリカ・イギリスなどではトーキングブックの製作貸し出しが始められた。これは円盤に本の朗読を録音したもので，これを聞くための機械を特別につくり，盲人に貸与(アメリカ)している。第２次世界大戦後，テープレコーダーの発達と普及に刺激され，1950年スイスにテープライブラリーが誕生，まもなく欧米諸国に普及した。わが国では1958年，点字図書館の新部門として発足，現在点字図書の４倍量の貸し出しをしている。1961年から録音テープにも点字図書同様，郵税無料の特典が与えられた。テープの録音は，点訳奉仕の場合と同じく，朗読奉仕者の協力により行なわれている。〔加藤善徳〕

でんじは【電磁波】電界と磁界によって構成されている横波，すなわち，波の進行方向と直角な平面上で電界と磁界が振動する波をいう。具体的には，通信に用いている電波のみならず，赤外線・紫外線および可視光線をはじめ，Ｘ線なども電磁波である。

〔分類と利用〕前述の定義に合った波動であるから特に周波数の値によらないが，電波法*の対象となる10kHz(キロヘルツ)以上3,000 GHzまでと，これ以上の周波数をも含めて示すと図のようになる。

10～30kHzの範囲は波長が30～10kmもあり超長波(ＶＬＦ)とよばれている。30～300kHzは長波(ＬＦ)といわれ，水中でも伝播(でんぱ)するので，潜水艦との通信に用いられている。このような低い周波数を扱うにはきわめて長いアンテナを必要とし，特殊目的以外にはほとんど用いられていない。300～3,000kHzは中波(ＭＦ)とよばれており，放送や漁業無線など広く利用されている。また，この中で500～1,500kHzは商業放送用として割り当てられている。次に3,000～30,000kHzの範囲は短波(ＨＦ)と称されている領域で，海外向けの国際放送，国内向けの短波放送，国際無線電信および電話・漁業無線・標準電波・気象通報およびアマチュア無線など最もこんでいるところである。30～300MHzは超短波(ＶＨＦ)といわれ，近年しだいに利用されるようになった。たとえば，80～90MHzは商業FM放送として，また，96～200MHzがテレビ放送として利用されている。このほか，警察やタクシー無線，航空機の国内無線，衛星通信などに多く用いられている。300～3,000MHzの周波数は極超短波(ＵＨＦ)とよばれており，他に比べて利用の遅れた領域である。この中で，数百MHz以下の部分は地方のテレビ放送，タクシー無線，気象用ラジオゾンデなどに使われている。ただし，1,000MHz～３GHz付近は装置の寸法が中途半ぱとなり使いにくいので，現在はあまり使われていない。次の３～30GHzはマイクロ波帯(ＳＨＦ)で，波長は10～１cmになる。この間はマイクロ波通信として，日本電信電話公社・日本国有鉄道・電力会社の各種通信をはじめ，放送局のスタジオと送信所間の中継などに用いられている。このほか，気象レーダーや船舶用・航空機用などの各種レーダーに利用されている。30～300GHzはミリ波帯(ＥＨＦ)といわれており，波長10mm以下である。しかし，この周波数帯およびこれ以上赤外線までの間は，現在の技術では電波の発生や測定が困難でまだほとんど利用されていない。

次に光の領域であるが，赤外線は熱に伴って発生し，従来から熱線としても利用されていた。しかし，近年のレーザー*技術に



電　磁　波　目盛りは対数目盛りにしてある

よって，たとえばガスレーザーによってスペクトル*の狭い赤外の電磁波の発生が可能になった。赤外線は光通信や光スイッチ(人や自動車の通過によって赤外線が遮断(しゃだん)され，警報などを発する装置)などに用いられているが，まだあまり広くは使われていない。可視光線はわれわれが感じることのできる赤から紫までの電磁波で，種々の光源として用いられている。ただし，光源としての光は種々の波長の光を含んでおりスペクトルは広いが，レーザーから得られる光は特定の波長のみを含み，スペクトルの幅は非常に狭い。紫外線は殺菌の性質があり，通信よりもむしろ医学の分野において使われている。紫外線よりも波長の短い電磁波は明確な分類がなされていない。波長が短くなると物質を透過する性質が出てくる。X線などはこの透過性を利用するものである。さらに波長の短いほうはγ線・宇宙線へと続いている。

〔性質〕 われわれは電磁波の一つの領域である可視光線について種々の経験をもっているので，光の性質から類推することができる。低い周波数の電磁波も反射・屈折あるいは回折などの性質をもっているが，媒体の寸法に比べて波長が十分長いので光のような性質があまり顕著ではない。なお，地球の反対側にまで電磁波が届くのは地球を取り巻く電離層と地球との間を何回か反射して伝わっていくからである。このような反射も周波数が高くなるにしたがって減少し，たとえばVHF以上ではほとんど電離層を突き抜けてしまう。さらに高い周波数のマイクロ波やミリ波においては，より波長が短くなるので直進性が強くなり，物体での反射など光で見られるような性質が明確に出てくる。この特性を利用したのが，レーダーで気象その他でわれわれの生活におおいに役だっている。また，波長がしだいに短くなると，自由空間を伝わる際の減衰も大きくなり，たとえばミリ波などは霧または雨で減衰する。したがって，マイクロ波通信は見通し範囲内が原則で，ビルディングの屋上や山頂付近にパラボラ形のアンテナを建設するのは見通し範囲内で送受信して，遠距離では何回かの中継を行なう。

ここで電磁波の発生と放射について少し触れておく。前述のように周波数範囲がきわめて広いため，発生方法や発生した電磁波を放射する方法は，たとえば中波や短波とマイクロ波やミリ波とでは大きく異なる。大別して超短波およびこれ以下の領域，マイクロ波およびミリ波の領域および光の領域の三つに分かれる。第1の領域は波長が長いので，通常は真空管・トランジスターをはじめとする電子部品で構成する発振回路を用いる。ここで発生した高周波電流は同軸ケーブルなどによって，線状のアンテナに導かれここから放射される。これに対して，第2の領域ではクライストロン*やマグネトロンなどの特殊真空管をはじめ，導波管*とよばれる長方形または円形の断面をもった金属管(表面は銀めっきする)，またはこれと等価なストリップ線路を用いた立体回路が用いられ，いわゆる，コイル・コンデンサー・抵抗などの部品を用いない。なお，発振用の真空管・ダイオード*なども，マイクロ波用およびミリ波用など，特殊原理に基づくものが用いられる。さらに，アンテナも最近ではビルディングの屋上や放送塔などで見られるパラボラアンテナが一般的であり，角形のホーンアンテナなども用いられる。なお，将来，ミリ波を用いた電話伝送が行なわれる場合は，空中での減衰が大きいので円形断面の導波管を土中に埋めて，この中を伝わらせる予定である。

光領域の電磁波の発生は，各種のレーザーによって行なわれるので，これまたまったく異なる手法である。現在，光通信はあまり用いられていないが，光に関しても導波管のようなものがあり，これを光学グラスファイバーとよび，胃カメラ*などに用いられている。〔内山明彦〕

でんじば　**【電磁場】**　運動する電荷・磁石，あるいは時間的に変動する電流によって生ずる電界(電場) $\boldsymbol{E}$ および磁界(磁場) $\boldsymbol{H}$ の場のこと。電磁界ともいう。静電場および静磁場はそれぞれ単独に取り扱うことができるが，変動する電場および磁場は互いに関係をもつもので，電磁場として統一的に表現される。〈ファラデーの法則*〉によって，磁束密度* $\boldsymbol{B}$ と電界 $\boldsymbol{E}$ との間に

$$\mathrm{rot}\,\boldsymbol{E}=-\frac{\partial \boldsymbol{B}}{\partial t} \qquad ①$$

という関係をみることができる。また，〈アンペールの法則*〉から定常電流密度 $\boldsymbol{J}$(→電流)と磁界 $\boldsymbol{H}$ との間に $\mathrm{rot}\boldsymbol{H}=\boldsymbol{J}$ という関係をみることができるが，マクスウェルは，普通の電流のほかに，誘電体や真空の中にも変位電流*とよぶ電流を考え，電気変位* $\boldsymbol{D}$ を用いて

$$\mathrm{rot}\,\boldsymbol{H}=\boldsymbol{J}+\frac{\partial \boldsymbol{D}}{\partial t} \qquad ②$$

という式を導いた。一方，電荷密度* ρ と $\boldsymbol{D}$ との関係式

$$\mathrm{div}\boldsymbol{D}=\rho \qquad ③$$

や，$\boldsymbol{B}$ についても

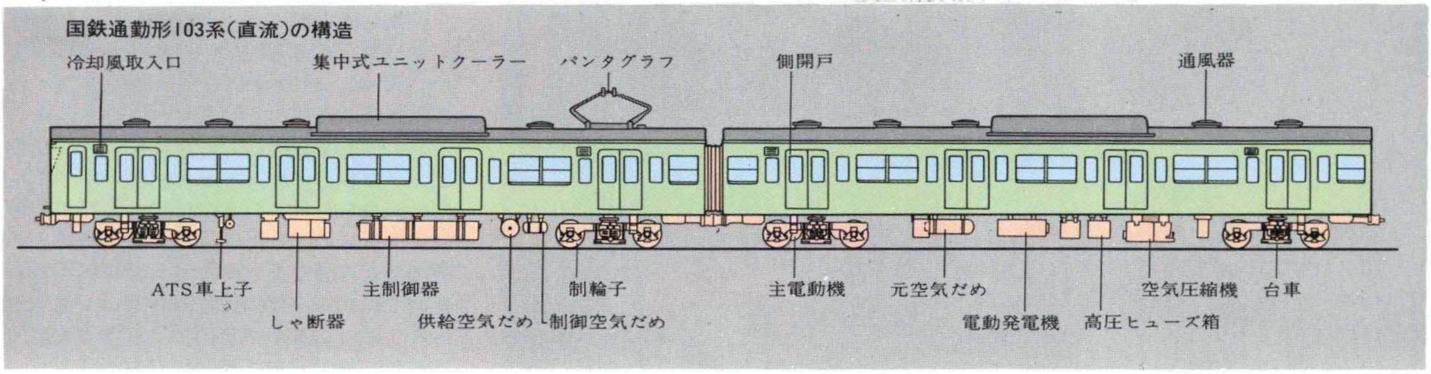
$$\mathrm{div}\boldsymbol{B}=0 \qquad ④$$

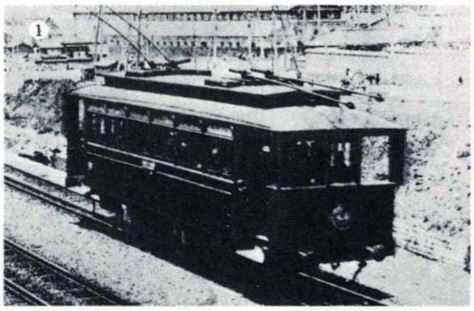
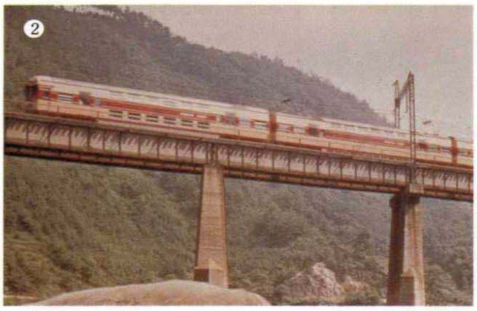
という式が確かめられている。これらの4式は〈マクスウェルの方程式〉と名づけられ，電磁場の性質を集約した基本式として重要である。実際マクスウェルによる変位電流の仮説は，この方程式を通じて電磁波の存在を数学的に予言したもので，約20年後，ヘルツによって実験的に確かめられたのである。その後，アインシュタインの相対性理論*が運動する物体に関して提唱されているが，マクスウェルの方程式に適当な配慮を加えるだけで，運動媒質に関する電磁場をも表現できることが知られている。

〔堀内和夫〕

でんしビームかこう　**【電子ビーム加工】**　高真空中の熱陰極から出た電子線を，直流電圧で加速して工作物にあて，衝突の際の

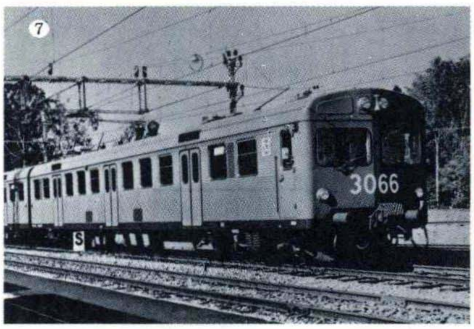
電　車











①最初の国鉄電車(甲武鉄道時代のもの) 1904 ②近畿日本鉄道２階電車 1962 ③国鉄近郊形111系(直流) 1963 ④国鉄急行形455系(交直流) 1966 ⑤国鉄特急形485系(交直流) 1968 ⑥国鉄寝台専用特急形583系(交直流) 1968 ⑦スウェーデン国鉄3000形(交流，サイリスタ使用) ⑧国鉄通勤形101系(直流)の運転室

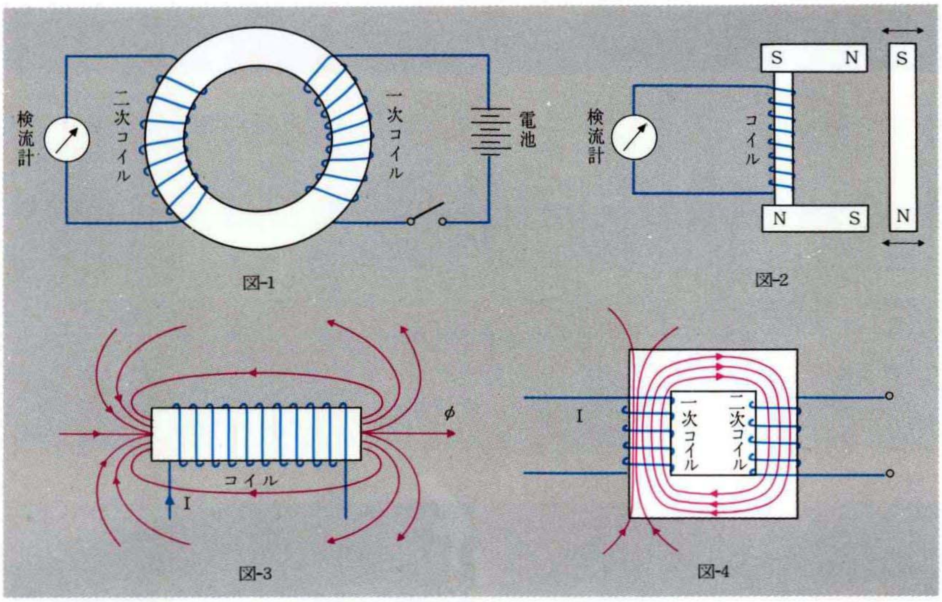
高いエネルギーによって金属やガラスなどの材料に穴をあけたり，スリットを切ったりする加工法。加工が真空中で行なわれるので加工部分が汚染されることはないが，あまり大きなものの加工は困難である。

でんしへいき　【電子兵器】　軍事用の電子機器・装置をいう。電波兵器と同じ目的でよく使われることばであるが，電波を送受信するレーダーや通信機，レーザー兵器のような電波装置をも含んだ広い意味の電気装備・機器類をさす。第２次世界大戦までの電子装備といえるものは，通信装置や射撃指揮装置・方向探知器など，兵器のわずかな部門の一部分を占めるにすぎなかったが，第２次世界大戦には，レーダー・逆探知機・テレビジョン・VT信管(近接信管)をはじめコンピューターなどが実用化されて，非常に重要な働きをした。特にコンピューターを取り入れ，これにレーダーなどの情報を統合整理させて，各部門に有効な行動のデータを与えるCIC(戦闘情報センター)システムは，その最も効果的なもので，各種の艦艇や施設に装備されたのをはじめ，現在では自動防空システムの根幹として，より大規模に活用されている。また，ミサイルの発達に伴って，探知・照準発射・管制誘導・追跡などの面に，多くの電子装置が開発され，兵器の電子化と自動化が推進されつつある。　〔藤井冬木〕

でんしボルト　【電子ボルト】　エネルギーの単位。エレクトロンボルトともいい，記号eV。電子が真空中で，１Vの電位差によって与えられるエネルギーを1eVという。1.602×10^{-12}エルグに相当する。

でんしゃ　【電車】　架空電車線または第三軌条*から電力の供給を受け，電動機*を動力として自走し，旅客や荷物を輸送する鉄道車両。

〔歴史〕 電気車としては，1879年ベルリン



電 磁 誘 導

で開かれた博覧会にドイツのジーメンス*が出品した出力2.2kWの小形電気機関車が最初であるが，電車としては，1881年ベルリン郊外で営業運転したのが最初である。その後ドイツをはじめイギリス・アメリカなどで直流低圧方式の路面電車*があいついで製作された。わが国では1890年(明治23)東京電燈会社がアメリカから購入した電車(直流500V，主電動機は15馬力1台の2軸車，定員22名)を第3回勧業博覧会に出品し，上野公園で運転したのが最初とされている。次いで1895年京都にわが国最初の市内電車が出現した。国有鉄道最初の電車は，1906年甲武鉄道会社が所有していた御茶の水(おちゃのみず)～中野間を鉄道国有法により買収して運転したのが起源である。その後1909年に山手線の烏森(からすもり)(現新橋)～上野間と池袋～赤羽間が営業を開始し，1914年(大正3)京浜線(東京～高島町〔現横浜〕)が，1930年(昭和5)には横須賀(よこすか)線が開業した。このように電化の促進と電車の性能とが向上したが，第2次世界大戦のため中断された。戦後は，戦災からの復興とともに1950年には通勤輸送力増強の一環として，スカ形(70形)・湘南(しょうなん)形(80形)などがあいついで出現し，のちの長大編成(15両化)や長距離運転の基礎をつくった。一方，経済の成長の早さと高度化した社会の輸送需要とにこたえて，1957年には近代化した新性能電車101系が登場し，翌1958年には東京～大阪間を6時間30分で走破する特急電車こだま号が運転を開始した。1960～1965年にかけては，国鉄・私鉄を問わず，高性能電車が続出した。中でも1961年に世界で最初のシリコン整流器式交直流電車(401系・421系)が実用化されて，これが基礎となって1964年ついに東海道新幹線(→新幹線)電車が誕生した。

〔分類〕 電気方式により次の3種がある。①直流電車：一般に多く使用されている電車で，電源電圧は1,500Vが最も多く，600～750Vは路面電車と地下鉄の一部に使用されている。②交流電車：電圧・相数・周波数などにより分類される。国鉄の交流電化区間では，周波数のみが中部地方を境に，北が50Hz(ヘルツ)，西は60Hzで，電圧はほとんどが単相20kVである。③交直流電車：直流・交流の両区間にまたがって運転される。わが国の電化の実情からみて便利な電車である。

また，用途からは，旅客用，郵便・荷物用，事業用に分けられ，さらに地下鉄用・通勤用・近郊用・急行用・特急用などがある。車体構造の材質からは，木製車・半鋼製車，全金属車(鋼製車・軽合金車)に分けられる。車両構造からは，①電動車：主電動機・主制御器など自走に必要な機械をもつ，②制御車：運転室はあるが自走不能，③制御電動車：電動車と制御車の両方の機能をもつ，④付随車：運転室も自走機能ももたず，つねに電動車と制御車の中間に連結して運転されるなどがある。台車*の構造からは，2軸車，2台の台車で車体を支持するボギー車，1台の台車で二つの車体の連結部を支持する連節式などがある。

〔構造〕 車体の構造および室内艤装(ぎそう)は用途により異なるが，一般的には特急・急行などの長距離用は1～2ドアで出入り台と客室が仕切られていて，座席配置はリクライニングまたはクロスシートである。中距離用の電車は3ドアで，座席配置はセミクロスシートを用い，通勤用はそのほとんどが4ドアで，座席もロングシートである。車体の長さは，ふつう標準は17～20mであるが，25m(東海道新幹線)のものもある。電気的な構造は，集電装置(パンタグラフ*・ビューゲル*・トロリーポール・集電靴(しゅうでんか))，電動機，運転士の操作する主幹制御器や室内燈・放送装置などの電源をつくる電動発電機，電車の速度を加減したり，電気ブレーキ*をかけたり，運転士からの指令を制御する主制御器および遮断(しゃだん)器，乗客の安全を守るATS*，ドアのいっせい開閉を行なう車掌スイッチなど数多くの機器から構成されている。走行装置には主電動機の力を車輪に伝える駆動装置があるが，最近では大歯車と小歯車を直接組み合わせたつり掛け式は少なく，主電動機を台車わくに固定し，歯車装置との間にたわみ継ぎ手とカルダン軸を組み合わせたカルダン式駆動装置の電車が大部分である。また，カルダン式のようにWN継ぎ手を用いるWN方式(新幹線)がある。ブレーキ装置には従来からある空気ブレーキだけのものと発電ブレーキを併用した電空ブレーキがあるが，最近の電車は高速のものが多いので高い減速度を要求されて，大多数が電空併用ブレーキを使用している。

〔平林義章〕

でんじゆうどう 【電磁誘導】 磁界の変化に伴って起電力の発生する現象。ファラデー*は図-1のような装置を用いて一次コイルに流れる電流を断続すると，二次コイルに電流が流れることを発見し，さらに図-2のような装置を用いてコイルを貫く磁束数を変化させると，コイルに電流の流れることを発見した(→ファラデーの法則)。これらの二次的な電流を誘導電流，コイルの両端に発生する起電力を誘導起電力という。誘導電流はつねに磁束数の変化にさからって流れる。これを〈レンツの法則〉という。ドイツの物理学者ノイマンはこれらの現象を次の式によって統一的に表現した。すなわち，回路に発生する誘導起電力をe(V)，回路を貫く磁束数をϕウェーバーとすると，

$$e=-\frac{d\phi}{dt} \quad [\mathrm{V}]$$

という式が成立する。この式は，磁束数の時間的変化に比例し，かつその変化を妨げるような方向に回路内に誘導起電力が発生することを表わしている。図-3のように，コイルに電流I(A)を流すとき，コイルに貫く磁束数ϕは電流Iに比例し，コイルによって決まる比例定数Lを用いて，$\phi=LI$で表わせる。ここで，Iが時間的に変化するとき，コイルの両端に発生する誘導起電力は，前の式から

$$e=-\frac{d\phi}{dt}=-\frac{d}{dt}(LI)=-L\frac{dI}{dt} \quad [\mathrm{V}]$$

と導かれる。このように，コイルまたは回路に流れる電流が変化するとき，そのコイルまたは回路自身に誘導起電力の発生する現象を自己誘導といい，このときの比例定数Lを自己インダクタンス*または自己誘導係数という。

図-4のように二つのコイルがあり，一方のコイルに電流を流すことによって発生した磁束が他のコイルを貫くものとする。い

ま，一次コイルに電流I_1を流したとき，二次コイルを貫く磁束数は電流I_1に比例し，比例定数Mを用いて，$\phi_{21}=MI_1$で表わすことができる。前と同様にI_1が変化するときの二次コイルの両端に発生する誘導起電力は，

$$e_2=-\frac{d\phi_{21}}{dt}=-\frac{d}{dt}(MI_1)=-M\frac{dI_1}{dt}\ 〔\mathrm{V}〕$$

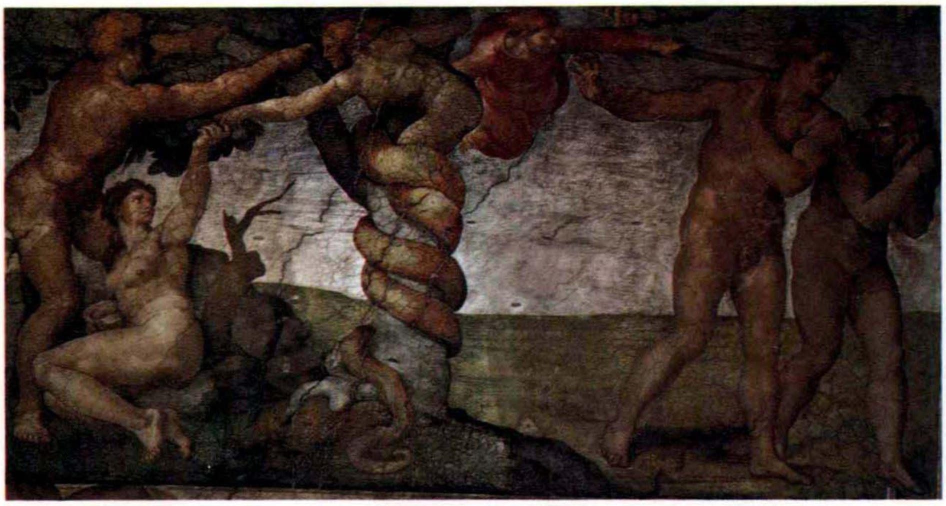
である。このように，一次コイル(回路)の電流変化によって二次コイル(回路)に誘導起電力の発生する現象を相互誘導，また，このときの比例定数Mを相互インダクタンス，または相互誘導係数という。また，相互誘導現象を呈する二つまたはそれ以上のコイルからなる機器を変成器(または変圧器，トランス)という。➔インダクタンス　➔ファラデーの法則　〔堀内和夫〕

でんしゅうろく　【伝習録】　中国，明(みん)代の儒教哲学者の王陽明が弟子(でし)たちとかわした問答を，弟子の徐愛が1518年に集録したものを土台とし，これに王陽明の著述と語録を加えたもの。3巻。この書は，朱子学における《近思録》と並んで，陽明学の教本として，中国でも日本でも愛読された。

てんじゅこくしゅうちょう　【天寿国繡帳】　奈良の中宮寺に伝えられるししゅうの壁掛けの断片。聖徳(しょうとく)太子の没後，その妃橘大郎女(たちばなのおおいらつめ)が，太子の天寿国における姿をしのぶため，采女(うねめ)にししゅうさせたもの。帰化人が監督や下絵の作成にあたったこと，亀甲(きっこう)文に4字ずつの銘文が表わされたこと，当時の服装・家屋などがうかがわれることなどの点で注目される。もと2帳あり，各1丈6尺(約485cm)四方の大きさであったというが，現在ではその極小部分を伝えるにすぎない。

てんしょ　【篆書】　⇨書体

てんじょう　【天井】　室の上限界面。小屋組みの下あるいは上階の床組みの下に位置し，これらの骨組みを隠し，室内上部空間の納まりをつけるために設けられるが，防塵(ぼうじん)・防暑・防寒・保温・遮音(しゃおん)・吸音に役だち，音や光の反射面ともなる。また，骨組みと天井との間にふところができるので，電線・管類が納められる。屋根スラブ・床スラブの裏面に直接天井仕上げをするものを直天井，床から天井をつりさげたものを上重ね天井といい，ふつう天井といえばこれをさす。梁(はり)などにつり木受けを渡し，これからつり木をつりさげ，野縁受けを取り付け，さらにこれに直角に野縁を渡して天井下地とする。下地は木製あるいは鉄筋・鉄骨・鉄線を用いてつくられ，仕上げ材料に無機質のものを用いれば防火用になる。天井仕上げには構法・材料ともに種類が多く，木製仕上げ以外は吸音・防火に重点が置かれているが，プラスチックを使用して天井全面を発光面とした光天井などもある。和風天井には天井板を竿縁でとめる竿縁天井が最も多く用いられ，広いへや，格式のあるへやなどには竿縁よりも太い格縁を格子(こうし)状に組み合わせ，その間に鏡板を入れる格縁天井がある。その他茶席などのへやには掛け込み天井，断面が方形になった舟底天井などを用いる。天板天井としては，合板・繊維板・石膏(せっこう)ボード・石綿スレートが用いられ，防火用・吸音用にはアルミニウム板に小穴を多数あけ，裏側にガラスウールを載せたもの，石綿・岩綿などの無機質繊維を板状としたものなどがあり，塗り天井にはしっくい・モルタルなどが用いられる。　〔神山幸弘〕



天井画　システィナ礼拝堂天井画部分　ミケランジェロ《楽園追放》　1508～1512

てんじょうが　【天井画】　天井に描かれた絵。壁画が天井に及ぶ場合もあり，壁画の一部とも考えられる。天井の装飾は古くから行なわれ，天井は天空にあたるから，パントクラトール(全能の神)のキリストや天使，創世記などが描かれたこともある。やがて観念的な空間表現でなく，無限に広がる空間を感じさせる幻覚的効果の絵が，特に17世紀に多く描かれた。この例にはティエポロのビュルツブルク宮のものがある。ミケランジェロのシスティナ礼拝堂の《創世記》は有名である。

てんじょうがわ　【天井川】　土砂の堆積(たいせき)によって河床が回りの平野面より高くなった川。山地から平野部にかけては一般に扇状地が形成されるが，ここで河川の両側に堤防を築くと，上流から運ばれてきた土砂は堤防内にのみに堆積することになり，河床はしだいに上昇して堤防の外側の平野面より高くなってしまう。富山県の常願寺川，滋賀県の野洲(やす)川にその好例がみられる。この川は洪水(こうずい)の際に堤防が決壊すると，水路がもとにもどることが困難で，被害が大きい。　〔桑原正見〕

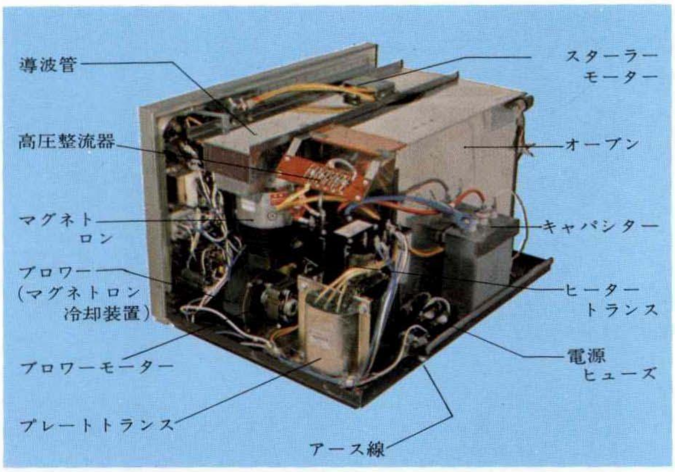
てんしょうけんおうしせつ　【天正遣欧使節】　1582年(天正10)九州のキリシタン大名大友義鎮(よししげ)・大村純忠(すみただ)・有馬晴信(はるのぶ)が宣教師バリニャーニの勧めでローマ法王・イスパニア国王のもとにつかわした使節。ローマ法王・イスパニア国王に敬意を表し，かつ日本でのキリスト教伝道の保護を受けることを目的とした。メンバーは3大名の一族の14～15歳の少年で，正使の伊東(いとう)マンショ・千々石(ちぢわ)ミゲル，副使の原マルチノ・中浦ジュリアンの4名であった。1582年2月一行は宣教師メスキイタに率いられて長崎を出発し，インド・ポルトガル・イスパニアを経てローマに入り大歓迎を受けた。ローマ法王グレゴリオ13世に謁見し，ローマ市民権を与えられるなどして，豊臣秀吉(とよとみひでよし)のキリスト教禁止下の1590年7月帰国した。　〔松尾　涼〕

でんしょうさいばい　【電照栽培】　夜間電燈照明を行なうことによって，植物の開花を促進・抑制する栽培法。長日植物では開花が促進され，短日植物では抑制される。キクの抑制栽培に多く用いられる。100W電球を12m²に1個ずつつけて行なう。

てんじょうてんげゆいがどくそん　【天上天下唯我独尊】　ブッダが生まれたとき述べたと伝えられていることば。このことばは玄奘(げんじょう)の《大唐西域記(だいとうさいいきき)》に記されたものが通俗的に知られて使われたもの。古くは〈わたしは世界で最勝なる者である〉とある。人間の生の実存性を象徴したものであり，また，ブッダが俗の世界から聖の世界へと超脱したことを象徴した，インド古代の文学的表現形式から出たものである。　〔石上善応〕

てんじょうびと　【殿上人】　四位・五位，および六位の蔵人(くろうど)のことで，昇殿を許された官人の総称。雲客とも〈うえびと〉ともいい，後世は堂上ともいった。清涼殿の南廂(みなみひさし)にある殿上の間にある日給簡(にっきゅうのふだ)に姓名を記載するので，昇殿を許されることを〈ふだにつく〉といった。なお，院や女院にも殿上人があった。

でんしょばと　【伝書鳩】　カワラバトを通信用に改良したもの。紀元前10世紀にあ

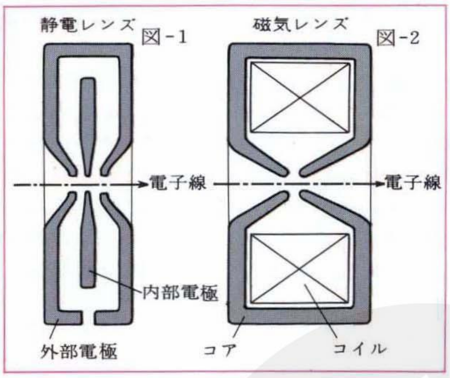


電子レンジ 内部構造

たるソロモン王の時代からすでに利用されていたといわれ，マリー-アントワネットがタンプル塔に閉じ込められて断頭台で処刑されるまで，たえずハトを使って国内の王党派の人々と連絡をとっていたことや，ナポレオンがワーテルローの戦いで敗れたことを，ロンドンではこの伝書バトの通信のおかげで他の国々よりも3日も早く知ったといわれている。日本では，江戸時代に長崎からイギリス人・オランダ人の手を通して京阪神(けいはんしん)地方に伝わっていたが，本格的に普及しはじめたのは陸軍がこれを通信用に利用してからである。ハトによる通信はその帰巣本能を利用して行なわれるが，通信可能な距離は当歳バトで100km，2歳で200km，3歳以上では300～1,000kmといわれ，通信速度は毎時平均60km内外である。体重は雄450g，雌430gを標準とし，羽色には灰・灰ごま・黒ごま・黒・栗(くり)・栗ごま・灰栗・かすり・モザイクなどがあるが，交配に際してはあまり色彩の異なったものは避けたほうがよい。ハトの産卵は毎回2個で，中1日おいて産卵を行ない，雌雄が交替で抱卵して18日内外で雛(ひな)が孵化(ふか)する。雛の成育は驚くほど早く，孵化後25日くらいで巣立ちする。〔一戸健司〕

でんじりゅうたいりきがく 【電磁流体力学】 導電性流体の磁界中における運動を主として取り扱う物理学の一分野。導電性流体が磁界中で動けば，ファラデーの電磁誘導*によって流体中に電流が流れ，その誘導電流と磁界との間の相互作用によって流体自身に機械的な力が加わり，それによって流体自身の運動が影響を受ける。この現象を研究するのが電磁流体力学のおもな目的である。

この学問は，天体物理学あるいは地球物理学上の問題を解明するために発展したものとみられ，一つの学問分野として独立したのは近年のことである。すなわち，地球・太陽および多くの星の内部あるいはその周辺，さらにそれらの間の宇宙空間内に起こる種々の現象，たとえば地磁気・磁気嵐(じきあらし)・オーロラ・太陽黒点・太陽コロナ・



電子レンズ 構造例

放射能帯および電離層などがこの学問で取り扱うおもな天然現象である。さらに電磁流体力学の応用としては，原子・電磁流体発電・ロケット工学などがあげられる。〔田村康男〕

でんしれいとう 【電子冷凍】 ペルチエ効果*を利用した冷却方法。ペルチエ係数の大きな異種金属を用いるが，p形およびn形の半導体*を接合してこれに10～20Aの電流を流す。p形半導体としては，ビスマスまたはアンチモンの化合物が，n形半導体としてはビスマスの化合物が使われている。高温接合部においては熱を生じるので，この部分を冷却して一定温度以下に保つ必要がある。現在のところ冷却能力は上記の電流で0.1cal/秒程度で小さく，また素子の価格も高い。そのため大容量の冷却装置には用いられておらず，内容積2,500cm³程度で精度の高い温度制御を必要とする低温恒温槽(そう)をはじめ，露点温度計などに利用される。なお，雑音がなく，電流値によって温度の制御ができ，また電流の向きを逆にすると加熱できるのが電子冷凍の長所である。〔内山明彦〕

でんしレンジ 【電子レンジ】 マイクロ波による高周波加熱*の原理を利用して，食品の加熱調理を敏速に行なう調理器。マイクロ波の高周波*電界を加えることによって，食品内の分子運動を活発にし，分子間の摩擦により熱を発生させる。従来の加熱方法とは異なり，食品の内部から加熱され，生調理はもちろん，再加熱や調理の下ごしらえ・仕上げ加工がきわめて短時間に行なわれる。さらに殺菌効果や栄養価の残存も良好で，食品の色や形もそこなわれないなどの利点もあり，調理加熱はオーブン*内で行なわれるため，周囲に熱気を出さずに衛生的な調理ができる。オーブン内の上部にあるマグネトロン*からふつう周波数*2,450メガヘルツ(MHz)(波長約12.2cm)のマイクロ波を発生し，食品に直接または陶器などを透過したり，ステンレス壁に反射したりして吸収される。一般家庭用としては，現在出力600W(電源100V，空冷式)クラスの製品が普及しつつある。〔河内三郎〕

でんしレンズ 【電子レンズ】 電子線が分布をもった電場または磁場によって屈折を起こすのを利用して，電子線を集束する装置。原理は電子幾何光学に基づいている。回転対称な電磁場では，対称軸に近軸な電子線は，レンズにおける光と同様に結像条件を満たす。このような目的でつくられた電極および磁極の配置を電子レンズという。電子顕微鏡はその応用の中で最も重要なものであるが，ブラウン管・撮像管をはじめマイクロ波用電子管にもいろいろな電子レンズが用いられている。

必要な分布をもった電場または磁場をつくるために，いろいろな電極構造がつくられているが，簡単な電子レンズを図-1および図-2に示す。図-1は静電レンズの例で，放電現象の発生による制限があるため，あまり高電界を集中することができず，高倍率のレンズには適していない。図-2は磁気レンズの例で，高倍率のレンズが得られるため，電子顕微鏡にはもっぱらこの型のレンズが用いられている。しかし，磁場による電子軌道の回転のため，磁気レンズでは異方性の非点収差，コマ収差および像のゆがみの3種の収差が加わる。電子レンズには光学レンズと同様に開口収差，電子速度の差による色収差，および幾何学的収差があるが，電子線の波長は光の波長に比較してきわめて短いので，電子レンズ系によって構成された顕微鏡の分解能は，光学系のそれに比べてきわめて高い値が得られる。〔伊藤糾次〕

テンシン 【点心】 中国料理で菜(ツァイ)(酒のさかな，食事のおかず全般)を除くすべての料理のこと。料理のさら数の多い宴会の途中で，つなぎに出されるつまみものや口直しとして供され，日本の中国料理の宴会では主要料理のあとに出されることが多い。塩味の鹹(シェン)点心と甘い味の甜(テン)点心に大別でき，前者のギョーザ*・チャーハン*・シューマイ*などは日本人の好みに合い，現在では独立した軽食としても用いられる。→中国料理〔曾根喜和子〕

てんしん 【点心】 1日の定まった食事の間に食べる軽食・間食。〈空心に点ずる〉

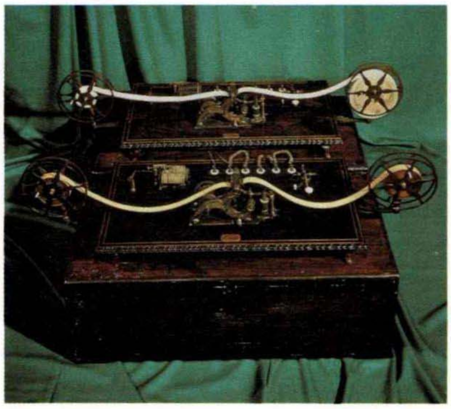
(一時しのぎにわずかばかりの食べ物をとる)の意味から，この名がついたという。昔は朝夕2食だったのでこの習慣が生じた。現在はおもに茶の湯で懐石*より軽い形式で供される料理や禅寺における間食をいう。禅*の渡来とともに中国から伝わり，主として羹(あつもの)類(しるの中に入れた蒸しもの)・めん類・もち菓子・まんじゅう・果実などが用いられた。器は縁高(箱形で中は四つの仕切りがあり，1～2か所に小ざらを組み入れる)・物相(飯を抜く型)・信玄(組み合わせ容器)などを用い，冬季には縁高に熱い料理を盛って供する。〔塩川ふみ〕

てんしん【天津】テンチン 中国，河北省中東部にある省都。人口420万(1972推)。京山鉄道で東北地方と津浦(しんぽ)鉄道で華中方面とを結ぶ分岐点にあり，市内を貫流する海河流域の水運も利用できる交通の要地である。華北の物資を集散する商業都市として発達，紡織・製粉・製紙・たばこ・油脂などの軽工業のほか，近年は機械・化学・製鋼など重工業の発展がめざましい。古くは北京(ペキン)への物資の陸揚げ地であったが，大運河が開かれてからは北京の外港として発展した。1860年の開港以来イギリス・フランスなど各国の租界が海河両岸に置かれ，第2次世界大戦後中華人民共和国が成立するまで，諸国の経済進出の拠点とされていた。〔船越昭生〕

でんしん【電信】文字・数字・記号(字号と総称する)あるいは図形(→ファクシミリ)を対象とした電気通信の一方式。字号を符号化し，電流の有無，正負の極性，周波数の高低などの2値の状態の変化に変えて送信し，受信側で元の字号を再現する。電信サービスは，利用者が電報局に送信を依頼し，受信局が受信者に電文を配達する公衆電報(→電報)，加入者がダイヤルなどの手段により交換装置を介して希望の加入者に接続し，印刷電信機を使って直接交信する加入電信(→電報)，および電信端末機器を利用者の屋内に置いて通信する専用電信とがあり，いずれも国内および国際間の通信が可能である。

送受信に使用される機器は電信機とよばれ，字号↔符号の翻訳を，人手で行なうモールス手送り送信機，音響器，現字機などからなるものと，鍵盤(けんばん)上の所定の字号を押すことにより機械的に符号を発生する鍵盤さん孔機，鍵盤送信機，受信符号を機械的に字号に印刷する印刷電信機などがある。現在では，ほとんどが印刷電信機で送受信されている。電信用の符号には，モールス符号と，海底ケーブル用の波符号および印刷電信機で使用される印刷電信符号とがある。印刷電信符号はモールス符号と異なり，等しい長さのマーク(さん孔)とスペース(無さん孔)を組み合わせたものである。→電報〔小原啓義〕

デーンじん【デーン人】ノルマン人*の



電　信　エンボシングモールス電信機 1853年ペリーが江戸幕府に献上したもの

一派。色白で，高身長，金髪，青目。言語は北ゲルマン語。5世紀後半，デンマーク・南スウェーデンを統一しデーン王国を建てた。その後バイキング時代に北海を荒らしまわり，10世紀カヌート王のときはノルウェーやイングランドを征服して，北欧における大勢力を築き上げた。

てんじんがわ【天神川】鳥取・岡山県境の中国山地津黒山に源を発し，途中で三朝(みささ)川を合わせ，河口に羽合(はわい)・北条(ほうじょう)の沖積(ちゅうせき)平野をつくり日本海に注ぐ。流程35km。河口付近の東郷池は砂丘によって形成された潟湖(せきこ)である。

てんしんじょうやく【天津条約】清(しん)国が天津において諸外国と結んだ条約・協定をすべて天津条約とよび，全部で17個ある。しかし，普通は1858年6月にロシア・アメリカ・イギリス・フランス諸国との間で締結された4条約をさす。1858年の天津条約は，南京(ナンキン)条約では不十分とみた列強が清朝にいっそうの特権を譲与させるべく起こしたアロー戦争*のあとしまつとして結ばれたものである。それは，公使の北京(ペキン)駐在，キリスト教布教の公認，内河航行権承認などの条項が含まれており，中国の半植民地化をいっそう決定的にした条約であった。清朝はこれの批准を拒んだが，再度戦争に敗れたため，これらの諸条項はほとんど北京条約*の中に入れられ，調印・批准されることになった。〔狭間直樹〕

てんじんしんこう【天神信仰】菅原道真*(すがわらみちざね)に対する信仰。元来，天神とは天神地祇*(てんしんちぎ)と併称するように高天原(たかまがはら)に天下った神の総称であった。903年(延喜3)道真が大宰府(だざいふ)の配所で没すると京都などに異変が続き，一般に菅原道真の怨霊(おんりょう)と恐れられ，当時の御霊信仰*・雷神信仰と天神信仰が結びつき，混同された。のちに全国各地に北野天満宮・太宰府天満宮が勧請(かんじょう)され，文学・学問の神として尊崇されている。

てんしんちぎ【天神地祇】〈あまつかみくにつかみ〉とも読み，略して〈神祇〉ともいう。天神と地祇の区別は現在のところ明らかではない。天神とは高天原*(たかまがはら)に生まれた神，地祇とは地上に出現された神とする解釈が有力である。《令義解(りょうのぎげ)》の〈神祇令〉には，天神の例として伊勢(いせ)・山城鴨(かも)・住吉(すみよし)・出雲国造斎神(いずものくにのみやつこいつく)を，また地祇として，大神(おおみわ)・大倭(おおやまと)・葛木鴨(かつらぎかも)・出雲大汝神(おおなむじのかみ)をあげている。しかし，住吉神は地上で出現した神であり，また出雲国造斎神の神社の主祭神は大穴持神(おおなもちのかみ)であり，大神などの《令義解》に記載されている地祇の神社の主祭神はすべて大穴持神すなわち大汝神であって，上述の解釈と矛盾する。そのため天神とは皇統に特に深い関係を有するとうとい聖なる神，地祇とはそれ以外の神とする解釈もなされている。なお，古典に天社(あまつやしろ)・国社(くにつやしろ)という語が所見するが，前者は天神を，後者は地祇を祭祀(さいし)する社である。〔熊谷保孝〕

てんしんふ【転身譜】オウィディウス*の物語詩集。15巻。六脚韻の詩からなる短編をつないで，一連の長編詩を構成している。古代ギリシアからローマまでの神話や伝説上の人物および実在した英雄らの変身をうたったもので，カオス(混沌(こんとん))から秩序が生まれたことに始まり，カエサルが星に変わった話で終わっている。

てんすい【天水】テンショイ 中国，甘粛省南東部，蘭州(らんしゅう)の南東240kmにある都市。渭水(いすい)盆地西部を占め，隴海(ろうかい)鉄道(連雲港～蘭州)に沿い，自動車道路も蘭州・西安・宝鶏・広元などに通じる。別名秦州(しんしゅう)。付近一帯は小麦・豆・米などを産し，またタバコの名産地として知られる。酒類・漆器・マッチ・綿織物などの工業も盛んである。市の南東45kmには北魏(ほくぎ)・唐代の仏教遺跡として有名な麦積(ばくせき)山石窟(せっくつ)があり，その他にも多くの仏教芸術関係の遺物が残されている。〔船越昭生〕

てんせい【展性】⇨塑性

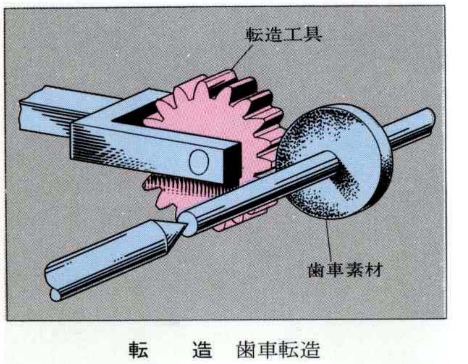
でんせい【田斉】⇨斉[1]

でんせつ【伝説】伝説という名称が通用するようになったのは最近であるが，その意味する内容はすでに古くからあって〈いいつたえ〉とか〈いわれ〉などとよんでいたらしい。しかしこれらの語は，その範囲があいまいで，広義には前代からの語り伝えや，変わった信仰・行事まで含ませる場合があった。これに対して狭義には言い伝えの一部の特殊な語り方だけをさし，昔話*や語り物*と区別する用い方がある。学問としての伝説研究は，最近ではこの狭義の意味に用いるようになってきている。

伝説は次のような特徴をそなえている。①具体的な事物に結びついて語られる。路傍に変わった形の岩石・樹木・清泉などがあれば，伝説がこれに伴っている。たとえば石の表面と足跡のようなくぼみがあれば，

〈だいだら坊〉という巨人の足跡だと説明されている。水の底から機を織る音が聞こえてくるという伝説なども，土地によって少しずつ異なるが，実在の沼や池に結びついて語られている。樹木の場合は枯れてなくなり，あるいは切られて耕地になっても，伝説は地名として残ることが多い。すなわち伝説の中心には必ず目に見える記念物が残っているのである。この点昔話が〈昔々ある所に〉で始まるように，抽象的でどこにでも通用するのとはおおいに異なる。②人がその内容を信じている。昔話のほうは〈…… ……であったそうな〉といったことばを添えて，話者が真偽のほどは責任を負わないという態度を明らかにしているのに対して，伝説のほうは少なくともその周囲の人たちはこれを信じている。それには，第１の特徴としてあげた，具体的な事物に結びついて語られるということが絶大な証拠になっていた。昔の素朴(そぼく)な人たちは，形あるものを伴う場合には，ただちにそれを信ずる傾向があった。記憶に具体的な足場のあることが，伝説を長く存続させたと考えられる。③話し方に定まった型がない。伝説は話す時と人によって，長短自由に語られる。昔話のほうは語りのおもしろさが生命になっていて，語るべきことばや順序が決まっているが，伝説のほうは相手と場合によって，いくとおりにも語り変えられる。それは信ずるという心の働きが基礎になっているからである。④たえず合理化される傾向がある。この点で伝説は歴史と深い交渉をもってくる。人間の知識が進み，ありうべからざることの領域が拡張してくると，一部の者は古い言い伝えをけいべつし，他の半分の者は，信じていたいと念じ，許されるかぎりの改造を加えてこれを合理化し，ここにしだいに伝説が歴史と結びつくようになった。地方に数多い平家谷伝説や弘法清水*(こうぼうしみず)伝説などはその好例である。また社寺の縁起*は伝説の発達したものであり，合理化・歴史化は特にこの方面に著しかった。〔直江広治〕

でんせん【電線】 電力の伝送に使用する金属線。裸電線・絶縁電線・ケーブルなどがある。①裸電線：特別高圧および高圧・低圧の架空送電線路に使用される。その理由は，絶縁電線を用いると，絶縁被覆が風化して垂下し，閃絡(せんらく)・短絡その他の事故の原因になるからである。また，被覆の厚さだけ風圧・重量が増大し，電線の強さや支持物の強度を増大しなければならないからでもある。裸線は，構造上から，単線，より線，超高圧用の中空電線に分類される。材質上から，単金属線(硬銅線など)，合金線，融着・めっきした複合金属線，合成より線(鋼心アルミより線)などに分類される。②絶縁電線：導体・絶縁体・保護被覆材料からなる。導体には軟銅線・硬銅線またはこれらにスズなどをめっきしたものが用いられ，絶縁体に天然ゴム・合成樹脂・紙・ワニス・合成ゴムなどが用いられる。また，保護被覆材料には合成ゴム・合成樹脂が多く使用される。油性エナメル線・屋外用ビニル絶縁電線などの絶縁電線類は，配電・引き込み用に用いられ，ゴムコード・ビニルコードなどは，屋内のつり下げ燈・小形電気器具などに用いられる。③ケーブル：絶縁電線をさらに機械的損傷，化学的腐食などから守るため保護被覆(外装)を施したもので，水底ケーブル・油入り（ＯＦ）ケーブルなどがある。〔田村康男〕



転　造　歯車転造

でんせんびょう【伝染病】 病原体(病原性微生物)が人体内に侵入して発育増殖し，各種毒素を産生するために起こる病的変化をいう。病原体は，伝染病の種類によって決まっているが，細菌・リケッチア・ウイルス・スピロヘータ・原虫の５群に大別される。病原体が生体内に侵入する際，病原体を主体とするとき，これを伝染とよび，生体側からみたときを感染とよぶのが普通である。ある１種類の病原体によって起こる伝染病は次のように決まっている。①細菌によって起こる伝染病：コレラ・赤痢・腸チフス・パラチフス・ジフテリア・ペスト・百日咳(ひゃくにちぜき)・破傷風・癩(らい)(以上桿菌(かんきん))，流行性髄膜炎・急性肺炎・淋病(りんびょう)(以上球菌)など。②リケッチアによって起こる伝染病：発疹(はっしん)チフス・発疹熱・つつが虫病など。③ウイルスによって起こる伝染病：天然痘・日本脳炎・麻疹・流行性感冒・狂犬病・脊髄(せきずい)前角炎・デング熱・流行性耳下腺炎(じかせんえん)・急性肺炎など。④スピロヘータによって起こる伝染病：梅毒・鼠咬症(そこうしょう)・ワイル病。⑤原虫によって起こる伝染病：アメーバ赤痢・マラリア・カラアザールなど。

病原体は特有の侵入門(侵入する場所)，たとえば猩紅熱(しょうこうねつ)・ジフテリアなどの病原体は口腔(こうこう)粘膜，腸チフス・赤痢などの病原体は腸粘膜，麻疹・流行性感冒などの病原体は上気道粘膜からそれぞれ侵入する。また，生体内に侵入した病原体が発育増殖するのに適した臓器も，たとえば，ジフテリア菌は気道粘膜，赤痢菌は消化管特に腸，狂犬病・日本脳炎・脊髄前角炎ウイルスなどは神経とそれぞれ一定している。生体外へ排泄(はいせつ)される経路も，たとえば，赤痢菌は患者の糞便(ふんべん)，淋病は尿，結核菌は喀痰(かくたん)，狂犬病ウイルスは唾液(だえき)からとそれぞれ一定している。これらは伝染病蔓延(まんえん)予防に重要な事がらである。

病原体が他の健康者に伝染する様式には，直接的な接触感染(梅毒・淋病)，空気感染(おもに呼吸器系伝染病)，経口感染(おもに消化器系伝染病)，土壌(どじょう)感染(土中の破傷風菌の芽胞が皮膚損傷部より侵入)，こん虫感染(こん虫の刺傷による)などがある。伝染病の予防は，公衆衛生的な立場から病原体の侵入を防止することである。すなわち，検疫*，法定伝染病・届出伝染病の制度の施行によって主要伝染病に対して法的規制を行なうことである。法定伝染病は，コレラ・赤痢(疫痢を含む)・腸チフス・パラチフス・痘瘡・発疹チフス・猩紅熱・ジフテリア・流行性脳脊髄膜炎・ペスト・日本脳炎の11種，および1959年(昭和34)厚生省告示で指定された急性灰白髄炎(→ポリオ)で，それぞれ医師に届け出の義務を負わせ，患者の隔離・消毒が規定される。届出伝染病は，マラリア・デング熱・麻疹・百日咳・流行性感冒・黄熱・破傷風・産褥熱(さんじょくねつ)・肺炎・狂犬病・炭疽(たんそ)・結核・癩・トラコーマ・脊髄前角炎・伝染性下痢症の16種で，それぞれ医師に届け出の義務を負わせている。そのほか社会衛生施設，特に上下水道の完備，便所の改良，病原体を媒介するこん虫・小動物の駆除などが公衆衛生上重要である。化学療法の発達，ワクチンによる予防によって最近は減少の傾向にある。〔橋本信也〕

てんぞう【転造】 素材を回転させながら，それを押しつぶして目的の形状にする加工法。転造の特徴は，転造工具の１回転または１ストロークあるいは１パスで素材の成形が完了するため，生産速度が速いこと，また塑性変形を利用して成形するため，材料の有効利用度が高いこと，製品の機械的性質が向上すること，作業の完全自動化が可能であり製品のコストを下げることができるなどである。冷間加工では雄ねじ類，平およびはすば歯車，スプライン軸など，熱間加工ではボール・ローラー・リング，多段の段付き軸などの成形に用いる。〔草川隆次〕

でんそう【伝奏】 平安時代以降の公家(くげ)の職名。親王家・摂家・武家・社寺などの奏請を院*・天皇に伝える役。院伝奏(法皇*への伝奏)は，白河(しらかわ)法皇の院政のときに，天皇伝奏は建武中興*の際に，武家伝奏・社寺伝奏は室町時代に始まる。また神宮伝奏や，即位・改元その他の吉凶に応じ臨時に伝奏が設けられることもあった。江戸時代では武家の奏請を朝廷に取り次ぐ武家伝奏が特に重視され，伝奏といえば武家伝奏をさすほどであった。文才ある廉直

の公家２人が選ばれ，1867年(慶応３)まで続いた。〔岡山泰四〕

でんそうしゃしん【電送写真】 ⇨写真電送

てんそく【纏足】 中国における習俗の一。３～４歳の女児の趾骨(しこつ)(親指を除いた第２趾以下の４本の骨)と中足骨(足の裏の骨)とを，足裏へ折り曲げ，布を巻きつけてかたく縛り，足の発育を止める。この施術には，普通は試纏・試緊・緊纏・裹彎(かわん)の４段階があり，３年ぐらいかかる。纏足後は長い白布を巻き，弓鞋(きゅうあい)という木底(ヒール)のついたくつをはく。五代宋(そう)ごろに始まり，清(しん)の西太后の禁止令(1902)まで約1,000年間続いた。〈纏足をするには甕(かめ)一杯の涙を流す〉といわれるほどの苦痛が伴うのに，この習俗が長期にわたったのは，纏足が男性を媚惑(びわく)する〈第二の性具〉といわれたためである。しかし，労働ができないので，一般には普及しなかった。〔勝村哲也〕

でんそくみつど【電束密度】 ⇨電場

てんそんこうりん【天孫降臨】 〈記紀〉の神話で，アマテラスオオミカミの孫ニニギノミコトが神勅を受けて高天原(たかまがはら)から日向(ひゅうが)(宮崎県)の高千穂峰に天下ったことをいう。ニニギノミコトの子孫がのちの天皇であるから，この神話は天皇がアマテラスオオミカミの子孫であることを説明しようとしたものにほかならない。なお，このときニニギノミコトがアマテラスオオミカミから授けられたのが三種の神器といわれる。〔黛　弘道〕

てんたい【天体】 宇宙に存在する物体の総称。小は直径数ミクロンの小さな固体粒子(宇宙塵(うちゅうじん))から，大は直径10万光年に達する銀河系外星雲に至るまで，数多くの種類がある。われわれに最も身近な太陽系の天体としては，太陽・惑星・衛星・彗星(すいせい)・流星などがあげられる。銀河系は，太陽と同じような恒星が約1,000億と，それらの間を漂っている星間物質などによって構成され，後者が濃く集まったところは銀河系内星雲として観測される。さらに宇宙には銀河系と同じような構造をもつ銀河系外星雲が無数に存在する。

また，昔から人目をひいた明るい恒星には，北極星・シリウス・織女星などといった固有の名がつけられているが，現在一般に使われているのは30個くらいで，ラテン語・ギリシア語・アラビア語に起源をもつものが多い。それ以外の数限りない恒星には次のような方法で名がつけられている。①一つの星座の中でほぼ明るさの順にギリシア文字α，β，……をつけ，24文字を使い終わると英語のアルファベットの小文字，さらにそれがなくなると大文字のQまでを用いる。たとえばおおいぬ座α星はこの星座の中で最も明るいシリウスのことである。②星座の中に含まれる肉眼で見える星に，赤経の順に番号をつける。1838年ベッセルがはじめて年周視差を測定したはくちょう座61番星がこの例である。③肉眼では見えない暗い星は星表に記されている番号でよぶ。たとえば，HD21425はHD(ヘンリー-ドレーパー星表)の21425番めの星，またBD＋12°3125はボン星表の赤緯＋12°の3125番めに記載されている星をさす。④肉眼で見える変光星はアルゴル-ミラのような固有名や恒星としての名まえ(たとえばケフェウス座δ星)でよばれるが，HD星表やBD星表の名まえしかついていない暗い星はその星座の中で発見された順にR，S，T，……Y，Zの文字をつけ，たとえば，へびつかい座U星のようによぶ。その後はRR，RS，RT，……，YY，YZ，ZZの順に２文字の組み合わせを使い，さらにそれでも足りないとAAにもどって以下AB，……，BB，BC，……，QQ……，QZと続ける(ただしJとIは混同しやすいので用いない)。以後はVを頭につけてV335からV336，V337，……というぐあいに番号を付していく。ペガスス座AG星とか，へびつかい座V566星などはこの例である。

星座・星雲は，アンドロメダ座の大星雲やこと座の環状星雲のように，顕著なものは星座名を付してよぶこともあるが，普通はメシエ星表やNGC星表の番号でM－32(アンドロメダ星雲)，NGC2246(ばら星雲)などとよばれる。また電波星も強度の強いものについては，はくちょう座Aのように，星座名と強さの順を示すアルファベットの大文字(ほとんどがAだけ)とをつけるが，大部分のものは電波星表の番号で示すのが普通である。たとえば，３C273は第３次ケンブリッジ掃天カタログの273番めの電波星という意味である。Ｘ線星については存在する星座名のあとにＸをつけ，発見された順に番号を付し，さそり座X-1のように名づける。〔守山史生〕

てんだいさん【天台山】 テンタイ山 中国，浙江(せっこう)省東部にある天台山脈の主峰で，中心部は数峰からなり，最高峰は華頂山で標高1,044ｍ。古来，道・仏２教の仙境(せんきょう)霊地として知られ，山中には598年開基の国清寺をはじめ，寺廟(じびょう)・道観が多く，山西省北東部の五台山とともに中国仏教の一大中心地であった。いわゆる天台宗の発祥地で，最澄・栄西・成尋(じょうじん)らわが国の留学僧で修行に訪れた者が多い。

てんだいしゅう【天台宗】 ６世紀末，智顗(ちぎ)が《法華経(ほけきょう)》の精神に基づいて天台山に開創した仏教の代表的一宗。インドのナーガールジュナ(龍樹)の思想から北斉(ほくせい)の慧文(えもん)・慧思を経て，智顗に伝承され大成された。智顗の著書《法華(ほっけ)玄義》《法華文句》《摩訶止観(まかしかん)》を天台の〈三大部〉として重んじる。以後，灌頂(かんじょう)・智威・恵威・玄朗・湛然(たんねん)と受け継がれ，湛然に至って三大部の注釈も大成され，ますます盛んとなった。しかしその後，会昌(かいしょう)の廃仏，唐末五代の戦乱を経て衰微したが，宋(そう)代に至り山家(さんげ)・山外の論争が展開され，教学は多彩となり，山家派より四明の知礼が出て再興した。明(みん)代末には智旭(ちぎょく)が禅・念仏などの融合を企てた。

日本天台宗は，湛然の弟子(でし)道邃(どうずい)・行満から天台教義をうけた最澄が，法華円教・密教・禅・戒の四宗を融合して，806年(延暦25)比叡(ひえい)山を中心に天台法華宗として開創された。最澄以後，大乗戒壇の設立により，天台宗は独立した。次いで《法華宗義集》を著わした義真が一山を統率し，また円仁(えんにん)や円珍が入唐して最澄の果たしえなかった密教を伝来し，密教と法華を同一内容とし，東寺に始まる空海の東密に対し，比叡山延暦(えんりゃく)寺に台密を形成し，五大院安然によって大成された。しかし，円仁・円珍の法系に対立が生じ，座主(ざす)選出の問題からついに分裂して，円珍の徒は山を下り園城(おんじょう)寺によった。後世その門流を比叡山延暦寺の〈山門〉に対し，〈寺門〉という。山門では第18世座主良源が朝廷の深い庇護(ひご)をうけて比叡山を中興し，論義などによって教学の振興をはかった。その弟子源信は《往生要集》などを著わして浄土教思想を普及し，鎌倉新仏教へ大きな影響を与えた。この門流を恵心流と名づけ，同じく弟子覚運の門流を檀那(だんな)流といい，さらに分流して台密十三流となった。やがて院政期に良忍の融通念仏宗を生み，鎌倉時代には法然の浄土宗，その弟子親鸞(しんらん)の浄土真宗，一遍の時宗，栄西の臨済宗，道元の曹洞宗(そうとうしゅう)，日蓮(にちれん)の日蓮宗を生んだ。また室町時代に真盛の真盛宗を生んだ。このため比叡山は日本仏教各宗の母体といわれる。その後，延暦寺は織田信長(のぶなが)の焼き打ちなどにより衰微したが，江戸時代に天海が江戸に寛永寺，日光に輪王寺を開創し，幕府の学問奨励により教学も復興した。現在は寺院数3,000，教師数4,000といわれ，総本山延暦寺を中心とし，別派として天台寺門宗(園城寺)・天台真盛宗(西教寺)・修験宗(聖護院)・和宗(四天王寺)・聖観音宗(浅草寺)などがある。〔京戸慈光〕

てんたいぶつりがく【天体物理学】 宇宙を構成している星雲・銀河系・恒星・星間ガス・太陽，太陽系内の天体などを対象にする物理学。宇宙では，地上ではつくりえないような超高温・超高圧，あるいはその逆の極低温・超真空の状態のもとで，大規模な現象が起こっているので研究すべき問題は多い。星のスペクトルを研究した結果，天体を構成している元素が，地球上の既知の元素と同種のものであると判明したことは一大発見である。ヘリウムとテクネチウムは，地上よりさきに天体で発見された。また，恒星の内部は核融合反応が起こってい

る反応炉であることが知られ，この研究はわれわれが核エネルギーを開発するのに多くの資料を提供している。〔日江井栄二郎〕

てんたいぼうえんきょう　**【天体望遠鏡】**　天体観測に使われる望遠鏡。天体の光を集めるのに，レンズを使うか凹面鏡(おうめんきょう)を利用するかによって屈折望遠鏡と反射望遠鏡とに分かれる。天体望遠鏡の能力は集光力によって決まるので，性能を示す際，対物レンズまたは対物鏡の直径を示すのが普通である。現在使用されている屈折望遠鏡で最も口径の大きいものはヤーキス天文台(アメリカ)の102cmであり，また反射望遠鏡ではパロマ山天文台の口径508cmのものが最大である。〔日江井栄二郎〕

てんたいりきがく　**【天体力学】**　ニュートンの万有引力の法則と運動の3法則に基づいて天体の運動，天体の形状を研究する天文学の一分野。ふつう対象は惑星・衛星・月などの太陽系内の諸天体に限られている。19世紀は摂動論による天体の運動，19世紀後半から20世紀初頭にかけては月の運動，三体問題の解の存在がおもな研究対象であった。これを別の面からみれば，天体間の距離に比べて非常に小さい天体は無視され，エネルギーが保存される質点系の運動がおもな研究対象であった。第2次世界大戦後人工衛星とコンピューターの出現によって研究対象・研究方法ともに大きく広がり天体力学の様相は急速に変わりつつある。〔木下　宙〕

でんち　**【電池】**　電気エネルギーを他のエネルギー，すなわち化学エネルギー・物理エネルギーから直接取り出す装置。1800年イタリアの電気化学者ボルタは，銅と亜鉛とを希硫酸溶液に浸すと，二つの金属の間に電位差を生ずることを発見した。これがボルタ電池で，のちに，この電池はドイツの化学者ブンゼンにより改良された。蓄電池は，1859年フランスの物理学者プランテによって鉛蓄電池がつくられ，また，現在の乾電池の原形となったルクランシェ電池は1867年に発明されたものである。電池は化学電池・物理電池の二つに分けられ，前者には乾電池・燃料電池・蓄電池などがあり，後者には光電池・太陽電池・原子力電池・熱電池などがある。



天頂儀
東京天文台

〔化学電池の原理〕化学電池は陽極・陰極・電解液からなり，陽極の活物質(作用物質)は酸化剤，陰極の活物質は還元剤が用いられる。電極と電解液の相互の化学変化によって電子が移動し，それによって電池は電気エネルギーを外へ出せるわけで，その化学変化に関係する部分の物質を活物質という。陽極と陰極とを導線で結ぶと，電池の回路は閉じて陽極から陰極へ流れ，逆に陰極活物質の電子は導線を通って陽極活物質に移る。すると，電池の中では逆の電流が流れる分極を生ずる。このために電流は，はじめのときより弱くなってしまう。この現象は電気分解として知られている。化学電池の分極は，陽極に生ずる水素による場合が多く，一般にこの水素のような分極作用を起こす物質を除去するために，消極剤または減極剤という物質を加える。

〔一次電池・二次電池〕電池を分類して，一次電池と二次電池とに大別することがある。一次電池は放電してみずから電気エネルギーを放出して電流を流すのに対し，二次電池は可逆電池ともいい，外部電源により放電時とは逆に電流を流して電気エネルギーを供給すると，活物質が再び生成されて電池の機能をもつようになる。これを充電という。一次電池にはダニエル電池・重クロム酸電池・ルクランシェ電池・乾電池・空気電池・水銀電池など多数あり，二次電池の代表的なものに鉛蓄電池・アルカリ蓄電池がある。〔堀内和夫〕

一次電池の種類

種類	名称	陽極	陰極	電解液	消極剤	起電力(V)	内部抵抗(Ω)
	乾電池	炭素	亜鉛	塩化アンモニウム	二酸化マンガン	1.6	1
固体酸化剤電池	ルクランシェ電池	〃	〃	〃	〃	〃	1～4
液体酸化剤電池	重クロム酸電池	〃	〃	重クロム酸水素	酸素	2.0	0.4
気体酸化剤電池	空気電池	〃	〃	塩化アンモニウム，または水酸化ナトリウム	〃	1.4	0.4
二液電池	ダニエル電池	銅	〃	硫酸亜鉛，および硫酸銅	硫酸銅	1.1	3

てんぢてんのう　**【天智天皇】**　(626～671)　7世紀後半の天皇。中大兄(なかのおおえ)皇子・葛城(かつらぎ)皇子ともいう。父は舒明(じょめい)天皇。母は皇極(のち斉明(さいめい))天皇。645年(大化1)藤原鎌足(かまたり)とはかって蘇我(そが)氏を滅ぼし，次いで孝徳・斉明両天皇の皇太子として大化改新の立案・実施にあたった。斉明天皇のとき百済(くだら)の請いにより朝鮮半島に援軍を送ったが，663年(天智2)白村江(はくすきのえ)の戦いで唐・新羅(しらぎ)の連合軍に大敗した。667年近江(おうみ)(滋賀県)の大津京に遷都し，翌年即位。在位中庚午年籍(こうごねんじゃく)の作成，近江令(りょう)の制定などの事績がある。陵墓は京都市東山区山科(やましな)にある山科陵。〔高崎徳次〕

でんちゃくとそう　**【電着塗装】**　調製した水性塗料(電着塗料)を満たしたタンク中に電導体の被塗物を陽極とし，他の電極との間に電流を通して被塗物表面に均一な塗膜を析出させて塗装する方法。1963年にイギリスとアメリカで実用化され，わが国でも自動車車体の防食プライマー・自動車部品・電気器具・鋼製建材などの塗装に広く用いられている。電着塗料は樹脂(顔料)と水および少量の有機溶剤からなり，水溶形と水分散形がある。樹脂は骨格内にカルボキシル基をもち，これを有機アミンなどの塩基で中和したもので，マレイン化油系・アルキド樹脂系・エポキシエステル系・アクリル樹脂系が用いられる。〔鈴木荘司〕

でんちゅう　**【電鋳】**　金属塩溶液の電気分解によって金属製品をつくる方法で，原理的には電気めっきと同じである。電気めっきは素地に密着した金属被覆を得るのが目的であるが，電鋳は原形と同様な形を複製するのが目的である。素地(母型)に，金属を必要な厚さだけ析出させたのち，これを素地から剝離(はくり)すると素地と凹凸(おうとつ)が反対の電鋳製品が得られる。レコードの型，美術工芸品，プラスチックの型などの製造に用いられ，銅・ニッケル・鉄・銀の電鋳がおもなものである。〔上田重明〕

てんちゅうぐみのらん　**【天誅組の乱】**　大和(やまと)義挙・大和五条の変・十津川の変などともいう。江戸末期，武力討幕の先駆をなした事件。天誅組は土佐・久留米(くるめ)・岡山などの脱藩者が結成した尊攘(そんじょう)討幕の過激派。1863年(文久3)8月，藤本鉄石・吉村寅太郎(よしむらとらたろう)らが中山忠光(ただみつ)を首領として大和(奈良県)に挙兵し，五条代官を襲撃し代官を殺した。十津川の郷士もこれに応じて大和高取城を攻撃した。しかしその間文久3年8月18日の政変で政情は一変し，尊攘派は後退，諸藩の追討を受けて，翌9月平定された。

てんちょう　**【転調】**　⇨調性

てんちょう　**【天頂】**　⇨天球

てんちょうぎ　**【天頂儀】**　天頂付近で子午線を通過する恒星の天頂距離を測定する

眼視用望遠鏡。緯度の観測に用いられる。鉛直軸と水平軸のまわりに回転する架台に載っていて，精密な水準器が取り付けられている。一般には赤緯のわかっている恒星の子午線通過時の天頂距離を知れば緯度が求められるが，精密な測定のためには，地球大気の屈折の影響が少ない天頂付近で観測を行なう必要がある。

てんちょうきょり　【天頂距離】　天体と観測者を結ぶ直線が鉛直線となす角度。いいかえれば天体が天頂からどれだけ離れているかを表わす角度であって，天頂にあれば0°，地平線上にあれば90°である。高度をhとすると天頂距離は$90° - h$である。

てんちょうせつ　【天長節】　天皇の誕生を祝う日。1873年(明治6)の改暦とともに，従来の五節供を廃止して制定された。天長地久という《老子》のことばから取ったもので，天とともに聖寿の限りないことを祝うという意味である。第2次世界大戦後に廃止され，現在は天皇誕生日にあたる。

てんちりょうほう　【転地療法】　病気治療のために転地する方法。転地により，ある種の疾患が転移することは，昔から知られていて，アレルギー疾患・気管支喘息(ぜんそく)・精神身作病などに適応される。転地先としては，海浜・高原など空気の清浄な乾燥した場所が選ばれる。従来の環境が生んだ精神的ストレス・アレルゲンなどから離れること，また新しい環境の刺激によって，生体に有利な順応反応が起こることが治療の効果をあげるものと考えられる。

でんつう　【(株)電通】　広告の企画・制作を含めた総合的な広告代理業。年間取扱高世界第3位。1901年(明治34)設立の日本広告と電報通信社が前身で，1906年に電報通信社を日本電報通信社に改組し，1907年日本広告を合併した。その後戦時体制下の通信統制で通信部門を同盟通信社(現共同通信)に統合，同盟通信社の広告部門を吸収した。以来広告専門会社として改組発足し，1955年(昭和30)7月電通を商号とした。広告の企画・制作のほかマーケット調査などに権威があり，企業PR，広告のコンサルタントとしての色彩が強い。本社東京，支社大阪・名古屋・福岡・札幌(さっぽろ)，支局28(海外12)(分室・海外事務所を含まず)。資本金11億5,200万円，年間取扱高3,495億円，従業員数5,250(1976年3月)。

でんつういん　【伝通院】　〈でんづういん〉ともいう。東京都文京区小石川にある浄土宗の寺。無量山寿経寺と号する。1415年(応永22)了誉聖冏(しょうけい)の開山。1602年(慶長7)徳川家康(いえやす)の遺言により生母水野氏を迎えて，その法名により伝通院と称した。中興開山は正誉上人(しょうにん)。歴代将軍の保護を受けて寺運栄え，寺領600石を給された。関東十八檀林(だんりん)の一。1869年(明治2)勅願寺となったが，以後しだいに衰え，第2次世界大戦時，戦火で諸堂は



テンツキ　アゼテンツキ

焼失した。伝通院・天樹院(千姫)・本理院(家光(いえみつ)夫人)らの墓がある。

〔杉坂靖子〕

てんつき　【点突】　単子葉植物・カヤツリグサ科。畑地や少し湿った低地に自生する一年草。茎は株立ちし，高さ15～40cmになり，ひげ根を出す。葉は根生し，線形。夏から秋に長い包葉の間から花枝を伸ばし，散形花序をつける。小穂は5mmほどの狭卵形で茶かっ色で光沢がある。果実はレンズ形の黄色痩果(そうか)で，表面に細かい格子(こうし)状の紋がある。日本全土から熱帯にかけて広く分布する。近縁種にヤリテンツキ・ヒメテンツキ・アゼテンツキなどがある。

てんてき　【天敵】　自然界で，ある動物を捕食・寄生などで攻撃し，その生息密度(個体数)を低下させる他の動物。自然界ではどんな動物でも天敵のない種類はないといってもよく，第1次天敵の天敵を第2次天敵，第2次天敵の天敵を第3次天敵というように複雑な関係がある。これを普通は食物連鎖または食物網といっている。しかし，一般的にはこの語は，人間を中心として使用されることが多く，人間にとって有害である農業害虫・衛生こん虫などを攻撃する他生物を通称する。近年，害虫防除において殺虫剤の乱用の弊害が指摘され，殺虫剤を用いない防除法としての天敵利用の技術が注目され，盛んに研究されている。しかし，天敵は攻撃対象の動物の個体数をある程度までは減少させるが，特別の例外を除いてはそれを絶滅させることはない。天敵利用の際に最も重要なことは，有害生物とその天敵の間にどんな比率で平衡が保たれるかをみきわめることである。もし，有害生物が天敵によって経済的影響を及ぼさない程度にまで密度がおさえられれば，その天敵利用は成功したことになる。現在までのところ，世界で天敵利用の試みは1,000例近くあるが，その中で成功ないしそれに近い例は80例程度でしかない。最も有名な例としてはミカンの大害虫であるイセリアカイガラムシをベダリアテントウムシによって防除したものである。日本では，ミカンノトゲコナジラミをシルベストリコバチで，リンゴの大害虫リンゴノメンチュウをメンチュウヤドリコバチで，また茶・カキ・ミカンの害虫ルビーロウカイガラムシをルビーアカヤドリコバチで防除した例が有名である。天敵利用を生物農薬ということもあり，細菌・ウイルス・かびなどの微生物やカブリダニ・クモなどが注目されている。

〔松本忠夫〕

てんてきちゅうしゃ　【点滴注射】　患者より高い位置に置いた容器(灌注器(かんちゅうき)・点滴びん)から，チューブで内容液を適当な速度で滴下させ，先端にとりつけた注射針を通して静脈内に注入すること。輸血，水分の補給，体液電解質の補正，栄養分の補給，循環血液量の維持，さらには内服不能のときなどに各種の治療薬を溶解して体内に注入することなどを目的とする。液の滴下速度に十分注意し，特に幼児・老人・心臓病患者ではゆっくり滴下することが肝要である。速効性と確実性が期待でき，また，比較的大量の液を注入できるため，刺激性の強い薬物や壊死(えし)をきたす薬物でも希釈(水または溶媒を加えて薄くする)して用いることができるなど，普通の静脈注射にはない利点がある。特にショックによる循環血液量の減少や，血圧降下に対する治療法として欠かせない。その反面，希釈による薬品の変化があったり，薬物の排泄(はいせつ)が早かったり，また患者が長時間の安静仰臥(ぎょうが)を必要とするなどの欠点がある。

〔佐野隆志〕

てんてきぶんせき　【点滴分析】　斑点(はんてん)分析ともいう。微量な試料溶液を用いての予備試験または簡略かつ迅速を目的として行なわれる微量分析の一。定性分析に用いられる。検出する成分とだけ反応する特性試薬，またはその成分やその他の少数の成分とだけ反応する特殊試薬などを用いて鋭敏な呈色反応を利用する。濾紙(ろし)の一種である斑点紙や点滴板の上で行なう。機器分析にかけるまえの予備試験・現場分析・野外分析などに有用。

〔三輪誠・野宮健司〕

てんてつき　【転轍器】　列車を一つの線路から他の線路へ転進させる装置。➔分岐器

でんでんむし　⇨カタツムリ

でんでんもの　【でんでん物】　歌舞伎(かぶき)脚本の一種。人形浄瑠璃(じょうるり)の戯曲を歌舞伎化したもので，〈丸本歌舞伎〉〈義太夫(ぎだゆう)狂言〉ともいう。義太夫節の伴奏楽器である太棹(ふとざお)三味線(しゃみせん)の〈デンデン〉という音からこの名がついた。

てんどう　【天童(市)】　山形県中東部の市。人口52,000。戦国時代には天童氏の城下町，羽州街道に沿う宿場町で，江戸時代には織田氏二万三千石が領し，明治以降は旧藩士の内職に始まる将棋の駒(こま)の特産や温泉の発掘で繁栄した。1958年(昭和33)市制施行。市域は山形盆地の東部，最上(もがみ)川中流東岸の氾濫原(はんらんげん)に位置する。産業三大別人口比は28：29：43。リンゴ・

ブドウ・オウトウなどの果樹栽培が盛んで，ハクサイも移出される。伝統の将棋の駒つくりが約90軒の民家で行なわれ，生産量は全国の約95％を占める。奥羽本線・国道13号線・48号線に沿う。山形市からバスが30分で通じ，天童温泉は浴客を集める。

でんどうき 【電動機】 電力を変換して機械的動力を発生する回転機。モーターともいう。電気エネルギーを機械エネルギーに変換する装置の一種である。発電機は電動機の逆の装置であり，両者は類似の構造をもっている。

〈動作原理による分類〉 ①整流子電動機：固定子によってつくられる磁界 B の中に巻き線a－b－c－dを置いて電流 I を流すと，区間a－bおよびc－dにはそれぞれ力 F が働き，この偶力*は巻き線を回転させる。このコイルが回転を続けるためには，N極に近い部分にはつねに後方に向かう電流が，S極に近い部分には前方に向かう電流がそれぞれ流れるように，整流子とブラシを用いてコイルに流れる電流を切り換えることが必要である。実際の電動機では，回転子鉄心の中にはコイルを埋め込んであり，固定子によってつくられる磁界を有効に利用すると同時に動力を取り出すしくみになっている。したがって，回転子はコイルとともにZ軸を中心として，角速度 ω で回転する。一般に固定子は励磁コイルに電流を通して磁化する。したがって，固定子と回転子の二つのコイルの接続方法によって，直巻き式(直列接続)・分巻き式(並列接続)・複巻き式(直巻き式と分巻き式の組み合わせ)に分けられている。整流子電動機は直流電源によって駆動される。効率は低下するが交流電源で駆動することもできる。回転子が磁界中で回転すると，このコイルには電源電圧を打ち消す向きの誘導電圧 E(逆起電力)が発生する。そこで，電源電圧を V，電流を I，コイルの抵抗を R とすれば，$V=E+RI$ が成立する。一方，B を磁束密度，n を回転数，K を定数とすれば，$E=KBn$。したがって $n=(V-RI)/KB$ あるいは $I=(V-KBn)/R$ を得る。これらの関係から，電源電圧を上昇すれば回転数は増加し，固定子による磁界 B を増加すれば回転数は減少すること，また，負荷がふえて回転数が低下すると，I が増加して消費電力が増加することなどがわかる。②同期電動機：定常運転状態においては，固定子に設けた巻き線によってつくられた回転磁界の回転速度に回転子が同期して回転する交流用電動機(図-2)。固定子巻き線a－b，b－cおよびc－aに3相交流を流すと，ω(ラジアン*/秒)の回転磁界が生ずる。この磁界の回転方向は，1，2および3の端子のうちどれか二つの端子の接続を変えることによって反転させることができる。このような回転磁界中に永久磁石からなる回転子を設ければ，回転子は回転磁界に追随して ω で回転することになる。原理的には負荷の軽重にかかわらず定速度 ω で回転するはずであるが，回転子が回転磁界より $\pi/2$(ラジアン)以上遅れると，回転子は回転磁界に追随できなくなって停止する。これを〈同期はずれ〉という。

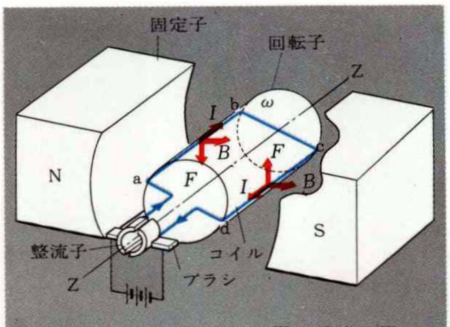


図-1　整流子電動機の原理的構造図

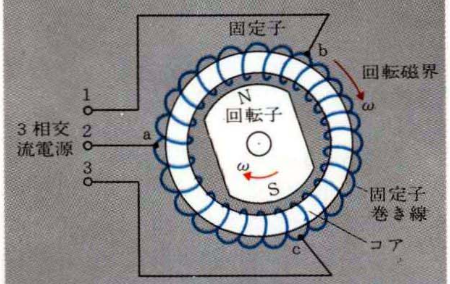


図-2　同期電動機の原理的構造図

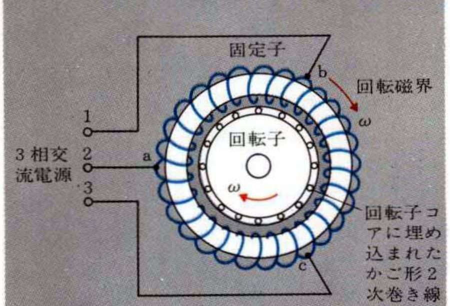


図-3　誘導電動機の原理的構造図

電動機

③誘導電動機：相対的に回転することができる，一次および二次巻き線を備えた交流電動機(図-3)。固定子に設けた一次巻き線によってつくられる回転磁界によって，回転子に設けた二次巻き線に誘導作用によってエネルギーを伝え，これによって回転力を発生する。定常運転状態では，回転子の回転速度 ω' は固定子によってつくられる磁界の回転速度 ω よりおそく，回転子に伝えられるエネルギーは $\omega-\omega'$ に比例する。

〈用途〉 分巻き電動機は送風機・ポンプあるいは工作機械など，一定の回転速度を必要とするが，大きな起動トルクを必要としない用途に適する。直巻き電動機は電気鉄道，クレーンなど大きな起動トルクを必要とするが，一定の回転速度を必要としない用途に適する。複巻き電動機の需要は少ない。

同期電動機の大形のものは，自己起動が不能，回転子励磁用の直流電源を必要とするなどの欠点による用途の制限がある。小形のものは，正確な回転数が要求される電気時計・レコードプレーヤー・テープレコーダーなどの電動機として自己起動装置をつけて使用されている。

誘導電動機の特徴は，回転子へ電気エネルギーが伝送される必要上，回転子はつねに固定子によってつくられる回転磁界の同期速度より低い速度で回転する。このため，誘導電動機は回転速度の変化が許され，かつ，直流電源・整流子などを必要としないので，構造が簡単で堅牢(けんろう)であり，電動機としての用途は最も広い。誘導電動機の回転速度制御には，電源周波数を変化する方法，二次巻き線に流れる電流を抵抗で変化させる方法，二次巻き線を切り換えて等価的に極数を変化させる方法，他の電動機と組み合わせる方法などが用いられている。

〈その他の電動機〉 ①無整流子電動機：直流電動機の整流子を半導体*素子と電子回路を用いて置き換えたもの。②リニアモーター：誘導機の一種で，固定子を直線状にしたもので，機械力を直線的に取り出すことができる。電気鉄道への応用などが考えられている。③パルスモーター：ステップモーターともよばれ，回転角が入力パルスの数に比例する。機械系の数値制御に広く利用されている。④マイクロモーター：入力3W以下で超小形に設計された電動機で，原理に特徴はない。　〔伊藤糾次〕

てんどうせつ 【天動説】 宇宙の中心は地球であり，太陽・月・惑星などはみな地球のまわりを巡る天体であるとする考え方。天動説の中で最も有名なのは，紀元前2世紀ごろのギリシアの天文学者プトレマイオス*がその著《アルマゲスト*》において完成させた説である。地球を中心にしてそのまわりを内側から順に，月・水星・金星・太陽・火星・木星・土星の軌道が同心円状に取り巻き，その外側を恒星天が巡っている。月と太陽はこの円軌道上を動くが，惑星はそれぞれ小さな円運動をしながらその円運動の中心が上記の軌道上を公転する，というもので，彼はこの複雑な運動によって惑星までの距離の変化や，順行・逆行の現象を説明しようとした。この説はキリスト教の信仰と結びついて，16世紀の初めコペルニクスが地動説*を発表するまで広く一般に信じられていた。　〔磯部琇三〕

でんどうそうち 【伝動装置】 機械において運動を伝達する装置。最初に運動を与える機械部品を原動節，運動を受ける機械部品を従動節という。大別して，原動節と従動節が直接に接触して運動を伝えるものと，原動節と従動節の間に運動を媒介する機械部品(媒介節)を用いるものとがある。①直接接触によるもの：㋑ころがり接触によるもの(例：摩擦車)，㋺すべり接触による

もの(例：カム)，㋩ころがりとすべり接触によるもの(例：歯車)。②中間に媒介節を用いるもの：㋑硬質媒介節によるもの(例：リンク)，㋺巻き掛け媒介節によるもの(例：ベルト・チェーン)。〔森田　鈞〕

てんどうにょじょう　【天童如浄】（1163～1228）中国，南宋(そう)時代の禅僧。日本曹洞宗(そうとうしゅう)の開祖道元*の師。明州の人。19歳で禅門に入り，曹洞系の雪竇智鑑(せっちょうちかん)のもとで大悟し，その法を継いだ。諸山に歴住したのち，1225年勅請によって天童山景徳禅寺の住持となり，それまでの儒・仏・道三教の一致説に反対して，禅に基づく全一の仏法を確立しようと努力した。いっさいの名利を退けた綿密峻厳(しゅんげん)な如浄の禅風は，貴族化・官僚化に毒された宋朝禅の中にあって異色の存在である。〔岡部和雄〕

でんどうはつでんき　【電動発電機】　電動機と発電機が共通の軸で結合された装置。駆動電源(電気エネルギー)→回転(運動エネルギー)→発電(電気エネルギー)と変換されるため，周波数変換・電圧変換・変流(直流↔交流)を容易に行なうことができる。電車・船舶・航空機などに使用される。

てんとうむし　【瓢虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・テントウムシ科の1種，あるいはテントウムシ科の総称。テントウムシは体長7㎜ほどで，この仲間のうち日本に分布する最も普通な種類である。色彩・斑紋(はんもん)は著しく変化に富み，鞘翅は黄かっ色の地に19個の黒色紋をもつものから，しだいに黒色紋が消失して無紋になるもの，逆に黒色の地に12個または4個または2個の黄かっ色紋のあるもの，それらの中間移行型のものなどがある。これらの色彩や斑紋の変異は連続的なものであるが，大きく分けると赤地多黒紋・黒地多赤紋・黒地4赤紋・黒地2赤紋の4型となり，これらの型は地方によって出現する割合が異なる。一般に寒地では黒地4赤紋型と黒地2赤紋型が多く，暖地では赤地多黒紋型が多い。幼虫・成虫ともに各種のアブラムシ類を捕食する。日本全土のほか，サハリン(樺太(からふと))・シベリア・中国・朝鮮・台湾などに広く分布する。なお，マツの樹上でやはりアブラムシ類を捕食して生活しているものは，外部形態的にはほとんど区別できないが，ごく最近別種であることが明らかにされた。

テントウムシ科は全世界から3,000種以上が知られ，日本にも100種以上が分布する。いずれも円形ないし楕円(だえん)形で，背面は隆起する。多くの種類はテントウムシのように黄かっ色ないし橙赤(とうせき)色の地に黒色の斑紋があるか，逆に黒色の地に黄かっ色や橙赤色の斑紋がある。小形の種が多く，ヒメテントウ類には体長1㎜内外の微小種が少なくない。体長が15㎜を越える大形種は少ない。食性によって他の小こん虫類を






テントウムシ　①テントウムシ　②ナナホシテントウ　③トホシテントウ　④カメノコテントウ



デンドロビウム　デンドロビウム-フォーミディブル

捕食する肉食性のものと草食性のものに二大別される。前者はアブラムシ類・カイガラムシ類などを捕食する種類が多いが，カメノコテントウのように甲虫のクルミハムシの幼虫を捕食する種類もある。テントウムシ・カメノコテントウのほか，ナナホシテントウ・ベニヘリテントウ・ベダリアテントウ・コクロヒメテントウ・ヒメカメノコテントウなどが捕食性の群の代表的な種類である。また，幼虫・成虫ともに白渋病菌類を食するシロホシテントウやキイロテントウなどもこの群に属する。一方，草食性の群は，背面の隆起が強く，体に光沢がほとんどないセダカテントウ類で，ジャガイモ・トマト・ナスなどの害虫のニジュウヤホシテントウ・オオニジュウヤホシテントウ，カラスウリの葉を食べるトホシテントウなどが日本に産する代表的な種類である。〔鈴木邦雄〕

てんとうむしだまし　【偽瓢虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・テントウムシダマシ科の総称。一見テントウムシ類やハムシ類に似ているが，触角が発達して長く，末端の3節が著しく肥大し，前胸背板の側縁部がいくぶん上方にそり返っているなどの点で容易に区別できる。キノコ類や朽ち木，乾果などを好む種類が多い。全世界から約1,000種が知られ，日本からも10数種が知られている。ヨツホシテントウムシダマシ・ルリテントウムシダマシ・キイロテントウムシダマシ・イカリモンテントウムシダマシなどが代表的な種類で，体長3～6㎜の種類が多い。なお，テントウムシ科のニジュウヤホシテントウ・オオニジュウヤホシテントウを合わせてテントウムシダマシと称することがある。〔鈴木邦雄〕

テンドリャコーフ　［Vladimir Fyodorovich Tendryakov］（1923～　）ソビエトの小説家。スターリンの死以後の文学世代を代表する作家のひとり。人間の罪を問う《スリー-セブン-エース》《裁判》など問題作を数多く発表，その官僚主義批判は大きな反響をよんでいる。

デンドロビウム　［*Dendrobium*］　単子葉植物・ラン科・デンドロビウム属。東半球の温帯から熱帯にかけて広く分布し，数百種がある。日本産のセッコク・キバナセッコクもこの属に含まれる。着生ランで，好気性の根を樹木の枝や岩石にからませて自生する。雨期に新芽を伸ばし，乾期には茎のふくらんだ部分に養分・水分をたくわえて乾燥に耐える。葉は線形のものが多く，茎の上方の節から花穂を出し，一つまたは多数の花をつける。数多くの園芸品種が知られる種類もある。栽培方法は種類によって一様ではないが，春から夏には水と肥料を十分に与え，秋から冬には水を控える。

てんにんか　【天人花・桃金孃】　双子葉植物・テンニンカ科。南アジア原産の常緑小高木。茎は直立し，全体が白色の毛におおわれる。葉は長楕円(ちょうだえん)形ないし倒卵形で全縁，短い柄で対生し，3本の脈が目だつ。7～8月，枝の上部の葉腋(ようえき)から小枝を出し，その先に淡紅色の五弁花をつける。観賞用として植えられるが，冬季には温室中に入れておく必要がある。

てんにんぎく　【天人菊】　双子葉植物・キク科。北アメリカ原産の一年草ないし越年草。全草に毛が密生し，高さ60～100cm。葉は長さ7～10cmの長楕円(ちょうだえん)形で，大きな鋸歯(きょし)がある。9～10月，多数の枝先に黄色または紫色舌状花および黒かっ色の筒状花からなる頭花をつけるが，花色には変化がある。本種が属するガイラルディア属のうちよく栽培されるものに，草た

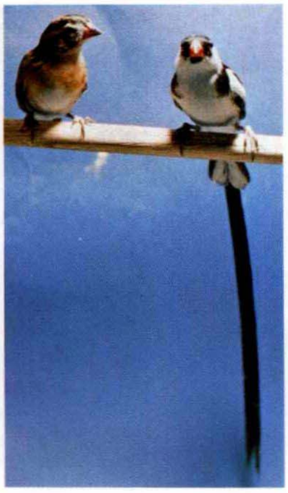
けの大きいオオテンニンギク，花弁の数は少ないが芳香のあるホソバテンニンギクがある。

てんにんちょう　【天人鳥】 鳥類・キンパラ科。サハラ以南のアフリカに分布する小鳥で，ホウオウジャクと同様に尾が長く，19cmに達する。雄の生殖羽は，背面が黒で，腹面が白く，くちばしの赤色があざやかで美しい。非生殖期には尾羽が落ち，じみな羽色となる。

てんねんウラン　【天然ウラン】 天然に産出するウラン*。質量数234，235，238の3種類の同位元素がある。^{234}Uは存在量がきわめて少なく0.005％であり，^{235}Uは0.715％，^{238}Uは99.28％。原子力利用のために最も重要な資源であり，^{235}Uは熱中性子によって核分裂を起こすので，この核分裂エネルギーが利用される。^{238}Uはウラン中最も大量に存在し，半減期4.51×10^9年でα崩壊してトリウム234に変換する。このままでは原子炉の燃料には使用できないが，プルトニウム239として核燃料に使用できる。原子炉*には天然ウラン原子炉と濃縮ウラン原子炉とがある。　〔古屋　弘〕

てんねんガス　【天然ガス】 広義には，天然で産出する二酸化炭素・硫化水素・炭化水素ガス・ヘリウムなどのすべてのガスの総称。一般には炭化水素ガスをさし，その主成分はメタンである。成因で分類すると油田ガス・炭田ガス・水溶性ガスの3種がある。①油田ガス：石油と共存し，採油の際に副産物として分離されるもので，メタンが50～90％，ほかにエタン・プロパン・ブタンなどが含まれ，常温で加圧圧縮すると一部(プロパン・ブタンなど)は液化するので湿性ガスともよばれる。②炭田ガス：石炭と共存し，石炭採掘の際に分離してくるガスで，メタンは75～95％，ほかに二酸化炭素・窒素などが含まれるが，加圧圧縮して液化する炭化水素ガスは含まれない。すなわち乾性ガスである。③水溶性ガス：植物質などから生化学的なメタン化で生成したもので，石油や石炭の成因とは無関係と考えられ，地下水(塩水)に溶解した状態で存在し，地下水をくみ上げると分離してくる。メタンが90～97％，ほかにわずかな二酸化炭素や窒素が含まれる乾性ガスで，共水性天然ガスともよばれる。なお日本では，成因的には油田ガスに属するが特殊な背斜構造の下にたまっているガスを構造性天然ガスとよんでいる。世界で最大の産出国であるアメリカの天然ガスはほとんど油田ガスであるが，日本では大部分は構造性と水溶性ガスであり，おもに新潟と千葉県下で産出し，1970年(昭和45)度総産出量は約23億m^{3}である。

産出地付近の家庭用および工場用燃料となり，あるいは都市ガスに混ぜたりして使用されるが，大部分は化学工業用原料として用いられる。その代表的な例は，天然ガスを酸素あるいは空気で部分酸化あるいは水蒸気で変成して水素と一酸化炭素に変えてメタノール合成原料ガスとしての使用であるが，さらに一酸化炭素転化反応を利用して水素に変え，アンモニア合成原料にも使用する。　〔寺沢誠司〕



テンニンチョウ
雄の尾羽が著しく長い

てんねんきねんぶつ　【天然記念物】 文化財保護法*(1950)，または条例によって指定された自然物で，長く国土の記念となっているものをいう。内容的には，科学的・歴史的にすぐれた意義を有し，学術的価値の高い動物・植物・地質鉱物をさす。天然記念物の存在する現地には標柱や標石が設けられている。第2次世界大戦終結後世相の悪化で天然記念物の保管が不十分な状況となったため，1952年(昭和27)従来の天然記念物のほかに，さらにその中から新たに特別天然記念物を指定して，国家が特別の保護を加えるようになった。天然記念物の管理は，戦前には，内務省のちに文部省があたったが，戦後は文化財保護委員会が専門委員を委嘱して，調査研究と保存顕彰に努めることになった。また国とは別に都道府県・市町村の文化財保護条例もこれに準じて天然記念物を指定する例が多い。特別天然記念物の例としては，阿寒湖(あかんこ)のマリモ(北海道)，長岡ゲンジボタルおよびその発生地(滋賀県)，浅間山の溶岩樹形(群馬県)，上高地(長野県)などがある。なお，1971年7月現在，天然記念物834，特別天然記念物68が指定されている。〔高崎徳次〕

てんねんせんい　【天然繊維】 人造繊維に対し天然物質から採取する繊維類の総称。綿・麻類・カポックなどの植物繊維，羊毛その他の獣毛類や絹などの動物繊維，石綿などの鉱物繊維に分類される。動植物繊維は，新石器時代から人類の衣料などに利用され，文化の交流に伴って各地で生産されるようになった。現代でも有用な繊維として各種用途に用いられている。

てんねんせんりょう　【天然染料】 天然の植物・動物・鉱物から採取する染料類の総称。19世紀に人造染料が発明されるまではすべて天然染料によって染色されていた。①植物染料：原始的には花・葉などの色素を布地にすりつけて着色し，花ずり・草ずりといわれた。進んでは草根木皮を煮だしたしるで染色し，次にはこれらを鉄・銅・クロム・アルミニウムなどの金属塩類で発色固着することが発明され，その方式は人造染料の発見されるまで続いた。ムラサキ・アカネなどの根，ベニバナのような花，アイのような葉，クヌギ・ログウッドなどの木の皮，ドングリ・クチナシの実などの植物質から色素が採取された。②動物染料：動物色素として染色に供せられたものは，巻き貝の中からとる紫色(チリアンパープル)，コチニール(サボテンに寄生するこん虫)からとる赤色などが古代から有名であった。③鉱物染料：天然の鉱物性色素として，色土・顔料・墨などが用いられた。顔料として辰砂*(しんしゃ)(朱色)・紅柄*(赤色)・緑青*(緑青色)・群青(ぐんじょう)(濃青色)・胡粉*(ごふん)(白色)などの着色剤がある。これらの鉱物色素は水にとけないので，にかわ・タンパク質・合成樹脂などの接着剤を利用して染色する。　〔小川安朗〕

てんねんとう　【天然痘】 痘瘡(とうそう)・疱瘡(ほうそう)ともいう。天然痘ウイルスによって起こる法定伝染病(→伝染病)の一。接触感染が容易で，伝染力が非常に強い。日本には常在せず，東南アジア・インドなどに流行して，たまたま日本に運ばれてくることはあるが，種痘*の普及によって大きな流行となることはない。重篤なものを真痘，軽症のものを仮痘とよぶ。潜伏期はふつう10～20日くらいで，高熱を発し，嘔吐(おうと)・頭痛・腰痛があり，呼吸促迫して意識が不明瞭(ふめいりょう)となる。この時期に，下腹部・大腿(だいたい)内側に紅斑(こうはん)を生じるが，1～2日で消える。発病4日めごろより発疹(ほっしん)期にはいり，一時下熱するが，全身に疼痛(とうつう)を伴うアワ粒大の小紅斑を生じる。これは48時間以内に小水疱となり，中心部に特異な凹窩(おうか)を示す。発病9～11日で化膿(かのう)期に達し，水疱から膿疱となり，周囲に炎症性の紅暈(こううん)を生じて浮腫もひどくなる。この時期には高熱を発し，死亡することが多い。発病11～12日になると乾燥期となり，膿疱を吸収して痂皮(かひ)(かさぶた)を生じる。痂皮は約1か月で脱落し，特有の瘢痕(はんこん)いわゆる〈あばた〉を残す。定期的な種痘の実施によって予防されるが，発病したときは患者を厳重に隔離し，二次感染に対してはテトラサイクリンなどの抗菌剤の応用，止痒(しよう)剤の局所療法，全身的な強心剤投与などで治療を行なう。　〔辻本恵子〕

てんねんとうウイルス　【天然痘ウイルス】 ポックスウイルス群に属し，痘瘡(とうそう)ウイルスともいう。バリオラとアラストリムがあるが，この2種は臨床的にのみ区別されうる。上気道粘膜から侵入し，まず

歴代天皇一覧表

歴代	天皇名		在位年
1	神武	じんむ	前660～前585
2	綏靖	すいぜい	前581～前549
3	安寧	あんねい	前549～前511
4	懿徳	いとく	前510～前477
5	孝昭	こうしょう	前475～前393
6	孝安	こうあん	前392～前291
7	孝霊	こうれい	前290～前215
8	孝元	こうげん	前214～前158
9	開化	かいか	前158～前 98
10	崇神	すじん	前 97～前 30
11	垂仁	すいにん	前 29～ 70
12	景行	けいこう	71 ～ 130
13	成務	せいむ	131 ～ 190
14	仲哀	ちゅうあい	192 ～ 200
15	応神	おうじん	270 ～ 310
16	仁徳	にんとく	313 ～ 399
17	履中	りちゅう	400 ～ 405
18	反正	はんぜい	406 ～ 410
19	允恭	いんぎょう	412 ～ 453
20	安康	あんこう	453 ～ 456
21	雄略	ゆうりゃく	456 ～ 479
22	清寧	せいねい	480 ～ 484
23	顕宗	けんぞう	485 ～ 487
24	仁賢	にんけん	488 ～ 498
25	武烈	ぶれつ	498 ～ 506
26	継体	けいたい	507 ～ 531
27	安閑	あんかん	531 ～ 535
28	宣化	せんか	535 ～ 539
29	欽明	きんめい	539 ～ 571
30	敏達	びだつ	572 ～ 585
31	用明	ようめい	585 ～ 587
32	崇峻	すしゅん	587 ～ 592
33	*推古	すいこ	592 ～ 628
34	舒明	じょめい	629 ～ 641
35	*皇極	こうぎょく	642 ～ 645
36	孝徳	こうとく	645 ～ 654
37	*斉明	さいめい	655 ～ 661
38	天智	てんぢ	661 ～ 671
39	弘文	こうぶん	671 ～ 672
40	天武	てんむ	673 ～ 686
41	*持統	じとう	686 ～ 697
42	文武	もんむ	697 ～ 707
43	*元明	げんめい	707 ～ 715
44	*元正	げんしょう	715 ～ 724
45	聖武	しょうむ	724 ～ 749
46	*孝謙	こうけん	749 ～ 758
47	淳仁	じゅんにん	758 ～ 764
48	*称徳	しょうとく	764 ～ 770
49	光仁	こうにん	770 ～ 781
50	桓武	かんむ	781 ～ 806
51	平城	へいぜい	806 ～ 809
52	嵯峨	さが	809 ～ 823
53	淳和	じゅんな	823 ～ 833
54	仁明	にんみょう	833 ～ 850
55	文徳	もんとく	850 ～ 858
56	清和	せいわ	858 ～ 876
57	陽成	ようぜい	876 ～ 884
58	光孝	こうこう	884 ～ 887
59	宇多	うだ	887 ～ 897
60	醍醐	だいご	897 ～ 930
61	朱雀	すざく	930 ～ 946
62	村上	むらかみ	946 ～ 967
63	冷泉	れいぜい	967 ～ 969
64	円融	えんゆう	969 ～ 984
65	花山	かざん	984 ～ 986
66	一条	いちじょう	986 ～ 1011
67	三条	さんじょう	1011 ～ 1016
68	後一条	ごいちじょう	1016 ～ 1036
69	後朱雀	ごすざく	1036 ～ 1045
70	後冷泉	ごれいぜい	1045 ～ 1068
71	後三条	ごさんじょう	1068 ～ 1072
72	白河	しらかわ	1072 ～ 1086
73	堀河	ほりかわ	1086 ～ 1107
74	鳥羽	とば	1107 ～ 1123
75	崇徳	すとく	1123 ～ 1141
76	近衛	このえ	1141 ～ 1155
77	後白河	ごしらかわ	1155 ～ 1158
78	二条	にじょう	1158 ～ 1165
79	六条	ろくじょう	1165 ～ 1168
80	高倉	たかくら	1168 ～ 1180
81	安徳	あんとく	1180 ～ 1185
82	後鳥羽	ごとば	1183 ～ 1198
83	土御門	つちみかど	1198 ～ 1210
84	順徳	じゅんとく	1210 ～ 1221
85	仲恭	ちゅうきょう	1221 ～ 1221
86	後堀河	ごほりかわ	1221 ～ 1232
87	四条	しじょう	1232 ～ 1242
88	後嵯峨	ごさが	1242 ～ 1246
89	後深草	ごふかくさ	1246 ～ 1259
90	亀山	かめやま	1259 ～ 1274
91	後宇多	ごうだ	1274 ～ 1287
92	伏見	ふしみ	1287 ～ 1298
93	後伏見	ごふしみ	1298 ～ 1301
94	後二条	ごにじょう	1301 ～ 1308
95	花園	はなぞの	1308 ～ 1318
(南朝) 96	後醍醐	ごだいご	1318 ～ 1339
(南朝) 97	後村上	ごむらかみ	1339 ～ 1368
(南朝) 98	長慶	ちょうけい	1368 ～ 1383
(南朝) 99	後亀山	ごかめやま	1383 ～ 1392
(北朝)	光厳	こうごん	1331 ～ 1333
(北朝)	光明	こうみょう	1336 ～ 1348
(北朝)	崇光	すこう	1348 ～ 1351
(北朝)	後光厳	ごこうごん	1352 ～ 1371
(北朝)	後円融	ごえんゆう	1371 ～ 1382
100	後小松	ごこまつ	1382 ～ 1412
101	称光	しょうこう	1412 ～ 1428
102	後花園	ごはなぞの	1428 ～ 1464
103	後土御門	ごつちみかど	1464 ～ 1500
104	後柏原	ごかしわばら	1500 ～ 1526
105	後奈良	ごなら	1526 ～ 1557
106	正親町	おおぎまち	1557 ～ 1586
107	後陽成	ごようぜい	1586 ～ 1611
108	後水尾	ごみずのお	1611 ～ 1629
109	*明正	めいしょう	1629 ～ 1643
110	後光明	ごこうみょう	1643 ～ 1654
111	後西	ごさい	1654 ～ 1663
112	霊元	れいげん	1663 ～ 1687
113	東山	ひがしやま	1687 ～ 1709
114	中御門	なかみかど	1709 ～ 1735
115	桜町	さくらまち	1735 ～ 1747
116	桃園	ももぞの	1747 ～ 1762
117	*後桜町	ごさくらまち	1762 ～ 1770
118	後桃園	ごももぞの	1770 ～ 1779
119	光格	こうかく	1779 ～ 1817
120	仁孝	にんこう	1817 ～ 1846
121	孝明	こうめい	1846 ～ 1866
122	明治	めいじ	1867 ～ 1912
123	大正	たいしょう	1912 ～ 1926
124	今上	きんじょう	1926 ～

注）＊印は女帝
欽明天皇までの在位年は《日本書紀》による

付近のリンパ組織で増殖して，一過性ウイルス血症を起こしたあと，他の組織で増殖，次いで第2次ウイルス血症を起こし，皮膚で増殖・発痘する。培養細胞でもふえるが，発育鶏卵の漿尿膜(しょうにょうまく)のほうが増殖に適する。➔種痘

てんのう 【天皇】 日本の君主の尊称。国家における天皇の地位・性格は，日本国憲法の制定によって，それまでの明治憲法におけるのと根本的に変わった。天皇は〈日本国の象徴〉〈日本国民統合の象徴〉(憲法1条)と定められている。そして天皇は〈国政に関する権能を有しない〉のであり，公になしうるのは〈この憲法の定める国事に関する行為のみ〉(憲法4条)である。象徴というようなことばは，これまでわが国の法律用語としてはなく，また社会生活でも用いられることがなかったので，今日なお一般には，必ずしもよく理解されていないともいわれる。

明治憲法では，天皇は，国の元首*であり〈統治権の総攬者(そうらんしゃ)〉と定められていたが，そうした考え方を捨てきれない人々は，天皇は日本国の中心，代表者，国民の団結の目標，あこがれの的であるというふうに解した。しかし象徴とは，いささかも主権者・権力者ということを意味しない。すでに存在している日本国，統合されている日本国民の状態を，具体的に表示しているという意味である。天皇の存在が，日本国および日本国民の存在を示しているというのであって，その点では，国旗を掲げ国歌を歌うことが，日本国・日本国民の存在を示すのと違いはない。そして天皇は，国政上の権能(権限)をもたないのであるから，明治憲法におけるように，立法・行政・司法・軍事のすべてについて裁可したり委任したりすることはない。ただ形式的な，装飾的な国事行為を行なう国家機関である。したがって，天皇は憲法上は，以上のように象徴として，憲法の定めた国事行為を行なう国家機関である。国事行為とは，憲法6条および7条に定められている形式的な手続きであって，国政に関する権限でないものをいう。総理大臣や最高裁判所長官の任命とか法律や条約の公布とか衆議院の解散とか定められているが，それは，他の国家機関の決定したことについて，形式的な手続きをとるというだけのものであって，天皇の判断・意思によって決定し執行するというのではない。天皇は，以上のような国家機関であるから，イギリスの国王やベルギーの皇帝のように，憲法上すべての国政について裁可および委任あるいは執行の権

限をもつところの元首とは異なって，日本国の元首ではない。元首とは，みずから主権者であるか，あるいは少なくとも行政権の首長であるか，政治的に一国を代表しうる者をいう(明治憲法の天皇，イギリスの国王，アメリカの大統領などがその例)。国政上の権限をもたない天皇は，元首ではない。天皇が，明治憲法において，主権者・元首と定められたのは，天皇の祖先の神勅によって与えられた当然の地位のためであるとされた(神権天皇)。しかし日本国憲法では，天皇が象徴という国家機関として存在するのは，主権者である国民の総意によるものである(1条)。国民の総意とは，実際には国民投票*などによる多数決の結果をさすが，日本国憲法の制定に際して，天皇の地位自体について，国民投票が行なわれたわけではない。ただ当時までの国民一般の意識においては，天皇制を廃して共和制*にするというような状態は不適当であると憲法制定関係者が考え，国会での憲法決定のときも，現行憲法が大多数の賛成を得たのである。

天皇の地位は，世襲である(憲法2条)。この点で君主制*の原理を保っており，また，天皇は，象徴として，一般国民や公務員とは比較にならない特別の国家的保護・特権を受け，栄誉を認められているので，やはり君主であり，日本国は，けっして共和制国家ではない。これまでのすべての憲法においては，君主(イギリスの国王，ベルギー・オランダなどの皇帝，旧ドイツのカイザー，旧ロシヤのツァー)は，主権者であるか行政権の首長であるか，いずれにせよ国家元首であり，また立法・司法・軍事について，一定の権限をもっている。この国家形態が立憲君主制といわれる。それがさらに民主化されて，国政の実権が国会および内閣に移り，国王はもっぱら，内閣の助言どおりに，単に形式的に裁可したり執行するだけの存在(イギリスの国王についてラスキは〈自動人形〉といった)となっている状態を，特に議会制的君主制という。イギリスの国王が〈君臨しているが統治しない〉といわれるのは，これを示している。

日本国における天皇は，法的には，さらに民主化された形態であって，これまでの世界の君主制にはみられない形態である。明治憲法の下でも，大正天皇から現在の天皇の時期には，天皇自身の主張で国政上の重要事項を左右することはほとんどなく，主として，内閣や内閣外の元老，重臣の意見を用いて裁可し執行したにとどまったが，しかし最後には，すべての国政は，天皇の権威において行なわれ，天皇は，法的には強大な権能者であった。日本国憲法では，これを徹底的に排除して象徴とした。半ば元首的な形態が残っているが，他国の国王とは異なる。〔鈴木安蔵〕

てんのうきかんせつ【天皇機関説】 天皇*と，国家の関係に関する大日本帝国憲法(明治憲法)解釈上の一学説。イェリネック*の国家法人説に依拠して美濃部(みのべ)達吉*が唱えた。統治権は法人である国家にあり，天皇は国家の最高機関として統治権を行使するものであるとして天皇主権説を排したものである。これは明治憲法をブルジョア君主制として解釈したものであり，議会の独自性を評価した点で，吉野(よしの)作造の民本主義*とともに日本の政党政治に理論的基礎を与えた。他方，従来公認の学説として，天皇の絶対性を主張する穂積八束*(やつか)・上杉(うえすぎ)慎吉らの天皇主権説があり，特に1913年(大正2)から1914年にかけて美濃部との間に激しい論争が行なわれた。軍部・官僚は機関説の抑圧を意図していたが，やがて軍部が政界を支配しはじめるにつれて〈国体明徴〉の名による政党政治排撃が進められ，その一環として天皇機関説が政治問題化した。1935年(昭和10)貴族院で菊池武夫(たけお)から〈反逆思想・学匪(がくひ)〉と弾劾されるに至って，美濃部は著書の発禁処分を受け，貴族院議員・東京大学教授の辞任を余儀なくされた。〔応和邦昭〕



天 王 星　天王星とその衛星(矢印)

てんのうざん【天王山】 京都府南部の大阪府境近くにあり，標高270 m。淀(よど)川を隔てて男山の石清水(いわしみず)八幡宮(はちまんぐう)に対し，大阪方面から京都への入り口を扼(やく)している。1582年(天正10)の明智光秀(あけちみつひで)と羽柴秀吉(はしばひでよし)との山崎の戦いは有名である。付近一帯はたけのこの産地として知られる。

てんのうじ【天王寺】 大阪市南東部，阿倍野(あべの)区北端にある国鉄天王寺駅から北部の天王寺区南部一帯へかけての地域。地名は聖徳(しょうとく)太子がこの地に四天王寺を創建したことにちなむ。天王寺駅と阿倍野橋を中心に大阪の副都心部を形成する繁華街で，国鉄大阪環状線・同平野線・近畿(きんき)日本鉄道南大阪線・地下鉄・市電・市バスなどが集まる。北に四天王寺，西に天王寺公園と歓楽街の新世界*があり，公園内の茶臼(ちゃうす)山は，大阪の役で徳川家康(いえやす)が本陣を置いたことで知られる。〔浅井得一〕

てんのうせい【天王星】 公転半径19.17天文単位の外惑星。1781年にF. W. ハーシェル*によって偶然発見された。極大光度は＋5.6等級。公転周期は93.86年。反射能は0.80で大気の層が厚い。大気のスペクトル上ではCH_4の吸収が強い。NH_3は低温のため，固体になっていて観測されないのであろう。大気の成分は水素とヘリウムが大部分を占めていると考えられる。色は緑色で特殊なしま模様がない。そのため，自転周期は模様からは決定できず，スペクトルによって10時間49分と測定されている。質量は地球質量の14.6倍。赤道半径は24.847km で，視直径は3″.75である。衛星は5個発見されている。〔磯部琇三〕

てんのうせい【天皇制】 狭義には主としてわが国の第2次世界大戦前の天皇*を頂点とする政治的・社会的支配体制をいう。広義にはこの構成原理に基づく集団の組織や人間の行動様式，さらに文化のあり方をも含めて天皇制とよんでいる。このことばの多様性それ自体が天皇制の複雑な性質を示しているといえよう。政治体制としてみた場合，歴史的には，①古代国家における天皇制，②明治憲法下の支配体制としての天皇制，③戦後の象徴天皇制，という変遷として跡付けることも可能であるが，固有の意味では②をさすものと考えてよい。近代日本の全構造を規定する天皇制の科学的解明こそは，近代日本の史的構造究明のかぎを握るものであるが，これを対象とする科学的研究の最初は1932年(昭和7)のいわゆる三十二年テーゼ*と《日本資本主義発達史講座》に始まる。ここで天皇制は独占資本・地主的土地所有とともに日本の支配体制の三構成要素の一つと規定され，官僚・軍隊の独自な階級的〈機構〉とその社会基盤の分析が行なわれた。この研究は弾圧によって一時中断されたが，第2次世界大戦後は機構的側面ばかりでなく，天皇制の〈やんわり空気のように充満している〉性質を，国民の行動や生活の様式，思考方法の問題として対象化する試みが行なわれ，これによって支配者とその支持基盤との間に成立する支配様式の運動のダイナミックな関係を把握(はあく)することが可能となった。

《近代天皇制の成立と特質》 支配機構としての天皇制は明治憲法の制定とともに成立するが，イデオロギー的にこれを推進したのは，古来からの天皇への国民の恭順意識(ピエテート感情)と，国家を一つの家族にたとえ，家長としての天皇に服従を要求する家族国家観との複合であった。天皇制が西欧絶対主義との対比において示す著しい特徴は，①西欧の古典的アブソリューテズムが，中世的規範や道徳から解放されて，中間諸権力を排除しつつ，自己を絶対者にまで高めた絶対君主の人格的支配として現われるのに対して，わが国の明治維新においては，おもに下級士族の手により国家統一がなし遂げられた結果，天皇は実権を握ったこれら下級士族により，維新の正当性のシンボルとして格づけられ，したがって，

天皇は，絶対者として個人の意思が法であり権力であるような人格的支配を行なうことができないと同時に，個人の意思や人格を規制する近代法による支配をもなしえないものとなった。それゆえ天皇制支配は非人格的人格支配と称すべきものであった。②自己の意思にのみ従う絶対者たりえないわが国の形式上の支配者は，〈皇統連綿たる万世一系〉の過去から無限の制約を受ける。逆にいえば神話的過去からの時間的連続性こそがすべての価値と権威の源泉であった。③天皇を同心円の中心とする空間的広がりは，天皇からの距離による価値の序列を意味し，これが天皇制の価値ヒエラルキーを形づくる。そして天皇制国家はすべての価値を独占し，市民社会およびそれを構成する個人の領域の独自性はいっさい認められず，文学や芸術を含めてあらゆる価値は国家に吸収される。法は道徳と癒着(ゆちゃく)し個人の内面まで天皇制は浸透する。したがって本来個人の自立を前提にする思想や行動の〈自由〉は，はじめから問題となりえない。天皇制の体制的危機に際しての狂信的なまでの思想統制と弾圧は，これの証左である。④すべての価値が天皇に収斂(しゅうれん)する一方，事実上の権力の行使は官僚の恣意(しい)にゆだねられるから，明確な権限・責任の所在が不分明となった。統帥権を楯(たて)にとる軍部と官僚ないし議会政党との抗争，それぞれの内部での割拠的争いは，おのおのが正当権を振りかざすどろ試合となり，また，政治責任の不分明が戦争遂行にあたって，戦争への突入とその終結の決断さえずるずると引き延ばすような，主体の責任意識の欠如として現われた。⑤農村共同体を社会的基盤としている天皇制は，資本主義の発展に伴う共同体の解体と個人主体の創出によって危機に陥るから，一方では資本制生産を発展させつつ，他方で農村共同体の維持に努めなければならなかった。国家を〈家〉の拡大したものとみなし，天皇を家父長，国民を天皇の〈赤子〉とする〈家族国家観〉は，このような天皇制の制度的矛盾をイデオロギー的に補強し，あるいは矛盾そのものを塗抹(とまつ)・中和しようとするものであった。家・村落共同体・国家を〈一如〉とするから，家族的情愛・郷土愛・祖国愛が一体化され，〈忠君愛国〉へと転移・統合していく機能がこれによって果たされる。国内における愛国心*の調達は対外的侵略戦争遂行に必要な国家統合のため要請される。それゆえ戦争の激化は愛国心の喚起をますます進化させ，ここに〈国体の本義〉を〈明徴〉する超国家主義(→ウルトラ-ナショナリズム)が成立する。しかし国家総動員の総力戦は，中和された共同体秩序を乱すことによって自壊を遂げざるをえない。

以上のような基本的性格は日本資本主義の経済的発達，その帝国主義*への早熟的転化，ファシズム*への移行の全期を通じて法治主義*の外見を具備しながら貫かれる。しかしここにも法の支配と人格的支配，権力支配と徳治主義，人脈的にも天皇側近の〈天皇親政〉と近代官僚の〈富国強兵〉がそれぞれ対立，抗争が絶えなかった。それは明治憲法を構成する立憲的要素と非立憲的要素という本来異質な二つの原理が，対抗しつつ癒着する天皇制国家の構造を示したもので，両者がバランスを失って非立憲的権力支配と極度の精神主義に偏するとき，〈万邦無比〉の強靭(きょうじん)さを誇る天皇制はもろくも瓦解(がかい)する。

〈第2次世界大戦後の天皇制〉 戦後の象徴天皇制は占領政策を遂行するうえで，旧体制の中心にあった天皇を象徴として温存することにより国民の動揺をしずめ，また天皇制官僚を使って占領政策にあたらせるため，占領軍によって採用された。したがって象徴天皇制の下では戦前と異なり，国民に対して責任を負う議院内閣制*が確立された。しかし天皇制の解体は新しい価値とそれをになう個人の創出を意味しなかったから，天皇制への献身はその吸引力を失って家と共同体へ分散し，社会の底辺によどむことになった。農地改革による共同体関係の解消にもかかわらず家の意識は強く残存し，いまなお日本的行動様式と価値体系は現代日本の文化をくまどる。そのため民主主義の器はできてもそれに盛る内味が伴わず，混乱が絶えない。それゆえ，天皇制を克服する道は，個人主義の原理に基づく自発的結社と，それによってになわれる新しい価値の創出にあるといえる。　〔寺尾方孝〕

てんのうたんじょうび【天皇誕生日】 〈国民の祝日*〉の一。第2次世界大戦前には天長節*と称したが，1948年(昭和23)〈国民の祝日に関する法律〉によって改称された。今上天皇の誕生を祝うもので，現在は4月29日。

でんば【電場】 静止している電荷*に，電気的な力が働くような性質をもった空間。電界ともいう。1クーロンの電荷に働くこの力の強さを基準として，電場の強さをベクトル$\boldsymbol{E}$で表わし，単位としてボルト/メートル[V/m]を用いる。qクーロンの電荷が電場$\boldsymbol{E}$の中に置かれると$q\boldsymbol{E}$ニュートンの力を受ける。このように，電場は力の場であるから，その模様を示すには，電気力線とよばれる力線や，電気力線の束である電束を用いると便利である。電気力線とは，電場$\boldsymbol{E}$のベクトルの方向に沿って描いた有向曲線で，その上のどの点に描いた接線も，その点におけるベクトル$\boldsymbol{E}$の向きを示すようにつくられたものである。ふつう，$\boldsymbol{E}$の向きを矢印で示している。また，電束は，電気力線を束として考えたもので，その横断面の単位面積あたりに$\boldsymbol{E}$の大きさ$\boldsymbol{E}$[V/m]だけの本数の電気力線が貫通しているように疎密をつくって表わすのが普通である。　〔堀内和夫〕

デンバー［Denver］ アメリカ合衆国，コロラド州の州都。人口51万5,000，大デンバー122万8,000(1972)。グレートプレーンの西端，ロッキー山脈南部の東のふもとに近い海抜約1,600mの高原に位置する。シカゴ・セントルイスから西方の太平洋岸に至る間の最大の都市で，〈高度マイル都市〉〈プレーン女王市〉などとよばれる。グレートプレーンの農業地域を背景にして西部第1の肉牛屠殺(とさつ)数を誇り，食肉加工業が盛んである。また金・銀・石炭など種々の鉱業会社がある。気候のよい風光明媚(めいび)な所で観光客が多く，病院・療養所などの施設も整っている。ロッキー山脈南部の中心都市として大陸横断鉄道と数本のハイウエーが集中し，商業も発達しており政府の造幣局やデンバー大学がある。1858年ゴールドラッシュによって建設された。〔相村大彬〕

でんぱ【電波】 ⇨電磁波

でんぱこうほう【電波航法】 電波の定速性・直進性または反射性などを利用して船舶の航位や針路を決定する航法の総称。電波航法はその測定方式により次のように分類される。①方位測定方式：電波の到来方位を測定するもので，無線方位測定機・コンソル・レイマーク・トーキングビーコンなどがある。②距離差測定方式：2局1対の送信局からの電波を受信して，その2局からの距離差を求めるもので，双曲線航法*とよばれている。ロランA，ロランC，オメガ航法システム，デッカナビジータシステムなどがある。③反響測定方式：自船から発射した電波が物標から反射してくる反響を測定して，物標の距離・方位を求めるもの。レーダー・ソナー(超音波利用)などがこれである。　〔飯島幸人〕

でんぱせい【電波星】 強い電波を放つ見かけの直径の小さな天体の総称(ただし太陽系の天体，すなわち太陽・月・惑星などは除く)。ラジオ星・電波天体ともいう。銀河系内の電波星としては，超新星*の残骸(ざんがい)，惑星状星雲*・輝線星雲*・フレア星*などがあげられる。また普通の銀河系外星雲*も電波星として観測されるが，銀河系外には電波星雲*と称される特に強力な電波を放射する小宇宙*や，準星(恒星状電波源ともいう)などが存在している。　〔守山史生〕

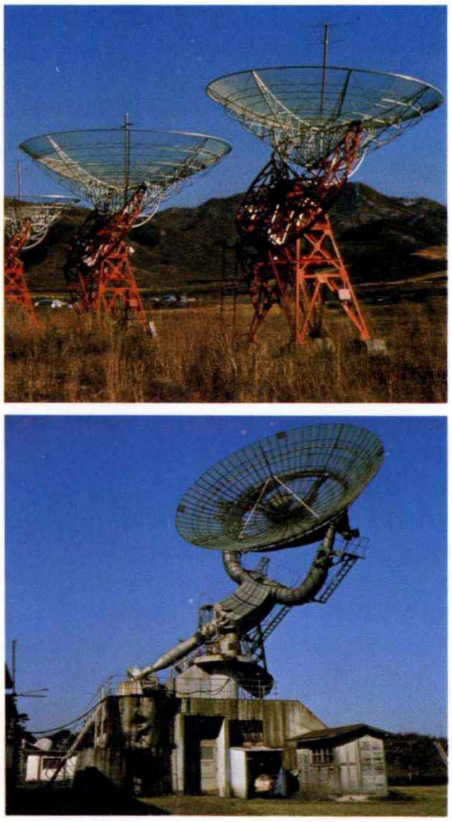
でんぱせいうん【電波星雲】 強力な電波を放つ銀河系外星雲*。普通の銀河系外星雲は，われわれの銀河系と同じように電波を放っているが，それに比べて100倍以上の強い電波を放射する銀河系外星雲が存在しており，それらを特に電波星雲とよぶ。たとえば，はくちょう座Aは5億光年の遠方にある光度18等の非常に暗い星雲であるが，電波星としては北天で2番めに強力な電波を放射している。またM-82のように中心核が爆発している銀河系外星雲も電波を強く放射し，電波星雲として観測される。
〔守山史生〕

でんぱたえいたいばいばいきんしれい【田畑永代売買禁止令】 江戸幕府が1643年(寛永20)に発令した田畑の永代売買を禁止した法令。富裕農民が土地買い集めをすることによって貧窮農民が没落し，耕地が荒廃するのを防ぎ，あわせて検地帳(→検地)に登録された百姓を維持して貢納を確保しようとしたもの。罰則はきびしかったが，必ずしも厳重に守られず，質入れなどによる実質的移動が行なわれ，地域によっては永代売買も行なわれた。のち罰則の緩和もあり，1872年(明治5)まで存続した。〔岡山泰四〕

でんぱてんもんがく【電波天文学】 電波観測をもとにして天体の物理的状態を研究する天文学の一分野。広義の天体物理学に含まれる。大別して，①電波望遠鏡を用い天体から放射される電波を測定するものと，②レーダーを使って天体から反射される電波の性質を調べるものとがある。②は主として流星や月面の研究に利用されている。電波はX線・光・赤外線などとともに電磁波の一種で，波長が1mm以上のものの総称であるが，地球を取り巻く空気中の分子・原子の吸収や電離層の反射・吸収があるため，地表で観測可能な波長域は数ミリメートルから10数メートルまでの範囲に限られている。天体から放射される電波には広い波長域に分布した連続スペクトルと単一の波長に集中した線スペクトルがあり，後者には輝線と吸収線が存在することは，光の場合とまったく同様である。連続スペクトルの電波は熱運動をしている電子が放射する熱放射と，磁場の中を運動する高速電子によるシンクロトロン放射やプラズマ振動などの非熱放射に大別される。また線スペクトルの電波としては，中性水素原子の波長21cmの線や，OH基の波長18cmの線が観測されている。

天体から電波が放射されていることは，すでに1890年ごろから予想され，19世紀末から20世紀の初めにかけてイギリス・ドイツ・フランスで太陽からの電波を受信する実験が試みられたが，いずれも成功しなかった。1931年アメリカのジャンスキー*が空電*の研究中に偶然銀河電波を発見したのが電波天文学のはじまりで，第2次世界大戦中の1942年太陽活動に伴って急激な変動を示す太陽電波が発見されてから，電波による天体の研究が世界各国で行なわれるようになった。特に1948年電波星が発見されてからは，電子工学の進歩を背景として電波天文学は急速な発展を遂げ，水素原子の放射する波長21cmのスペクトル線の発見とそれに伴う銀河系の渦状(かじょう)構造の確認，準星*の発見など天文学を新しく書き換えるのに大きな貢献をしている。〔守山史生〕

でんぱどけい【電波時計】 電波による時計の制御・駆動・報時など，電波の形で時計に結びつけたものをいうが，明確な定義はない。現在実用化され，あるいは考えられているものに次の三つのタイプがある。①電波修正時計：1日に1回とかあるいは数回標準電波やラジオの時報で時計の針を修正する時計，すなわち時報音の周波数のみで，フィルター回路つき電磁リレーを作動して針を正時に修正する。わが国では，これを一般に電波時計とよんでいる。1876年ごろイギリスで有線の正時信号による修正時計が試作されている。わが国では1963年(昭和38)国際電気(株)ではじめて発売された。②電波運針時計：連続的に発射される時間信号を受信して時計を運針させるもので，スイスのニューシャテル天文台の提唱で，長波による全ヨーロッパ向けの時間信号サービスが1966年1月1日から行なわれている。③電波音声式：電電公社の報時サービス117番のような形式でたえず時刻放送を行ない，必要なときに受信機のスイッチを入れてそれを聞くタイプのものである。〔川中　洋〕



電波望遠鏡　(上)野辺山太陽電波望遠鏡
(下)東京天文台10m電波望遠鏡

でんぱはっこう【電場発光】 電気的エネルギーが直接螢光(けいこう)として光エネルギーに変換される現象。エレクトロルミネッセンスともいう。カーボランダムの整流器に電圧をかけると発光することが，1923年ロッシューによって発見された。面光源・光増幅器などへの応用が研究されている。電場発光には次の二つの型式がある。

〔真性電場発光〕誘電体の中に適当な螢光物質を埋め，これに交流の電圧をかけると，発光する現象である。直流の電圧をかけても発光しない。これは，螢光物質中のキャリア(電子と正孔)が，交流電圧によって与えられたエネルギーを螢光物質分子に与えるために発光するからである。このようなキャリアは螢光物質中の電子・正孔だけで電極からは供給されないため，キャリアを常に振動させなければ，すなわち電極に交流電圧をかけなければ発生しない。

〔キャリア注入型電場発光〕カーボランダム・ゲルマニウム・シリコン・硫化亜鉛・硫化カドミウムなどの螢光体を直接電極に接触させる。この電極に交流または直流の電圧をかけると，螢光物質中のキャリア(電子と正孔)は，電界からエネルギーを受けとって運動をはじめ，螢光物質の分子と衝突することによって，螢光物質にエネルギーを与え，このエネルギーが光エネルギーに変化して発光する。このとき電極からはキャリアが供給(注入)されるため，電極に交流をかけても直流をかけても発光する。〔堀内和夫〕

でんぱへいき【電波兵器】 電波機器を使った兵器のこと。現在のところ厳密な意味で電波兵器といえるのはメーザーだけであるが，最近の軍事部門ではインフォーメーションやコミュニケーションが非常に重要なウエートを占めているので，一般には軍事目的の通信器をはじめ各種のレーダーやミサイルの誘導装置などをもこの名でよぶことが多い。これらの電波機器は用途によって非常に種類が多く，通常の無線通信や探知用レーダーをはじめ，より高い周波数の隊内電話やテレビ・照準用レーダーなどがあり，また赤外線投射によって目標の照準やミサイルの誘導を行なうなど，現在の軍事用装備機器の非常に多くのものが，これらの電波関係の諸装置によって占められている。〔藤井冬木〕

でんぱほう【電波法】 電波の公平かつ能率的な利用を確保することにより，公共の福祉を増進することを目的とする法律。1950年(昭和25)に公布・施行された。内容は，主として無線局の免許，無線設備の条件，無線従事者(資格，国家試験および免許)，無線局の運用の基準，無線局の監督，異議申し立ておよび訴訟，電波監理審議会の組織および運営，高周波利用設備の許可および技術的条件，伝搬障害防止区域の指定，罰則などの規定からなる。これまでは，その前身である無線電信法によりごく限られた一部を除き，電波の利用は政府の専掌するところとされていた。〔鴨光一郎〕

でんぱぼうえんきょう【電波望遠鏡】 天体の放射する電波を受信する装置の総称。ラジオ望遠鏡ともいう。電波を集めるアンテナ，微弱な信号を増幅・検出する受信機，出力を記録する記録計がおもな構成部分である。電波望遠鏡に使われるアンテナ*は放物面鏡(パラボラ)アンテナが最も一般的で

あるが，八木アンテナ・球面鏡アンテナ・放物面筒アンテナなども用いられる。ふつう天体の日周運動を追尾できるように，経緯儀式または赤道儀式の架台をもったものが多いが，子午面内だけを動く架台に載せて天体の南中時刻付近だけで観測する場合もある。天体からの電波は一般に非常に弱いので，受信機としては雑音が少なく感度の高いものが要求され，最近はメーザー*やパラメトリック増幅器*を利用した受信機が用いられることが多い。電波も光と同じ電磁波であるため，アンテナが電波の来る方向を識別する能力(分解能)は，波長(λ)と口径(D)の比λ/Dによって支配される。電波は光に比べて波長がけた違いに長いから，大口径のアンテナを使用しても，一般に電波望遠鏡の分解能は光の望遠鏡に比べて劣る。そこで特に高い分解能が要求される観測には，2個以上のアンテナを1個の受信機に接続する電波干渉計が用いられる。なお狭義には放物面鏡アンテナをもった受信装置を電波望遠鏡とよぶことがある。〔守山史生〕

てんぴ 【天火】 ⇨オーブン

でんぴょう 【伝票】 企業規模の拡大に伴って分課制度(事務の分掌を定めた制度)を採用するとき，各課別に記帳の分担が行なわれることになるので，各取引の内容を各課に対して正確・迅速に伝達するとともに帳簿記録の簡略化を行なうために，大きさと様式の一定した紙片を使用し，作成および経由の係がそれに検印して記帳上の資料とする。この紙片を伝票という。伝票には，入金伝票(赤色)・出金伝票(青色)・振替伝票(黒色)・仕入れ伝票・売り上げ伝票・仕訳伝票などその他種々のものがあり，伝票式会計制度が広く利用されている。〔山桝忠恕〕

てんぴょうじだい 【天平時代】 文化史・美術史上の時代区分。奈良中期，聖武(しょうむ)天皇の天平年間(729～748)を中心とする一時期，白鳳(はくほう)時代*と弘仁(こうにん)・貞観(じょうがん)時代*の間をさす。政治的には律令(りつりょう)政治の矛盾が各方面にようやく顕著となり，特に土地私有が認められたことは，土地国有主義の崩壊，荘園*(しょうえん)の発達の契機となった。政界も藤原氏*と反藤原勢力の対立をはらんで動揺した。文化面では遣唐使*を通じて摂取した大陸文化の強い影響を受けた結果，東大寺の大仏・正倉院御物などにみられるような壮大で格調高い天平文化が爛熟(らんじゅく)した。写実的表現が栄え，東大寺三月堂の日光・月光菩薩(がっこうぼさつ)や不空羂索観音(ふくうけんじゃくかんのん)，興福寺十大弟子(でし)・八部衆などの彫刻，薬師寺の吉祥天像，正倉院の鳥毛立女屏風(びょうぶ)・麻布山水図などの絵画，法隆寺夢殿・東大寺三月堂・唐招提寺金堂および講堂などの建築が代表的であり，また平城京*もこの時代につくられた。〔黛弘道・高崎徳次〕

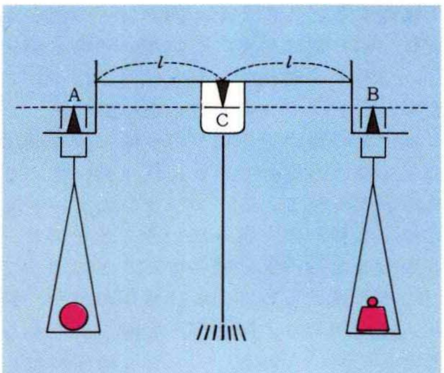


図-1

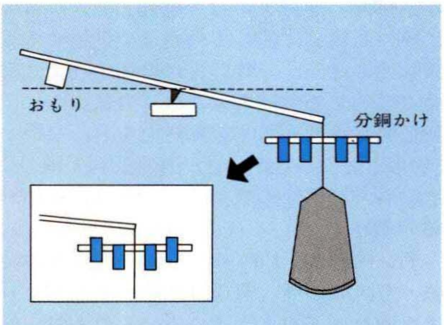
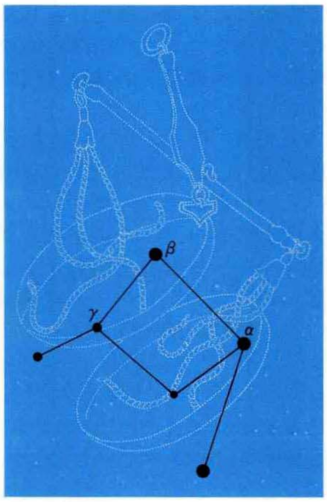


図-2

天　秤

てんびん座



てんびん 【天秤】 てこを利用して物体の質量を測定する装置。左右の腕の等しいてこの一方につるしたさらに物体を載せ，他方にあらかじめ精確に質量を測定した分銅を載せ，つりあわせることにより物体の質量を求める。化学関係の各種分析，物理的測定などに使用され，使用目的に応じて物理天秤・化学天秤・微量天秤・上皿(ざら)天秤・直示天秤などがある。これらはそれぞれの構造上測定しうる最大と最小の質量が決まっており，前者を秤量(ひょうりょう)，後者を感量という。最も一般的な天秤の原理を図-1に示す。A・B・C各点はナイフエッジでメノウ・サファイアなどのかたい材質が用いられる。この3点を一直線上に調整し，Cのまわりの力のモーメントのつりあいを指針によって確かめる。さおには目盛りがついており，ライダーとよばれるΩ字形の分銅を掛けることにより10g以下の秤量を行なう。また上下できるさら受けがあり，測定時以外はさらをささえてさおの振動を止める。台には水平調整用のねじがあり，これで支柱が鉛直になるように調整する。つりあいを調べるには指針の静止点を読む必要があるが，実際には指針が静止するのに時間がかかるだけでなく，支点での摩擦によって静止位置が狂うことがあるため，振動している指針の左右の端の目盛りを読み，それを平均して静止点を決める。これを振動法という。また0.1mg程度の感量をもつ化学天秤では測定には細心の注意を払い，床の振動や風の影響を防ぐとともに，左右の腕の長さのわずかな差や空気の浮力の影響の補正が必要である。なお従来の天秤を改良して測定の簡易化と敏速化を図った直示天秤は，精密自動ばかりともいわれ感量は5mg程度。秤量の原理は図-2のようにリング状の分銅が分銅掛けに掛けてあり，ダイヤルを回すことによって分銅掛けから分銅を浮かせることができる。浮かせた分銅の値はインジケーターに現われるため使用されている分銅がわかる。さおの傾きは光学的に拡大投影され，その振動はエアダンパーによって急速に静止するようになっている。〔有山正孝〕

てんびんざ 【天秤座】 夏の夕方，南の空にかかる星座。おとめ座とさそり座にはさまれた黄道上の星座であるが，3等以下の暗い星の集まりで，見ばえはしない。黄道十二星座がつくられた約3,000年前には，秋分の太陽がこの星座にかかり昼夜を等しく分けていたので，てんびんの名がつけられたといわれる。

でんふう 【癜風】 ⇨くろなまず

てんぷく 【天吹】 主として江戸時代に薩摩(さつま)藩で愛好された楽器。奏者が自分で竹を切ってつくるため大きさには違いがあるが，長さが30cmぐらい，管の内径が7～8mm(通常の尺八の半分以下)である。5個の指孔は尺八と同様前に4個，裏に1個。

てんぷら 【天麩羅】 魚貝類・野菜類を水でといた小麦粉の衣をつけて油で揚げたもの。野菜類の衣揚げを精進揚げといって区別する場合もある。すき焼き*・すし*とともにわが国で好まれる代表的な料理。材料の自然の風味を生かし，栄養的にもすぐれている。わが国へは安土桃山時代に南蛮人が長崎に伝え，それが京都・大阪を経て，江戸時代初期に江戸にはいり，東京湾の小魚を材料として普及した。長崎てんぷらと江戸てんぷらに二大別され，前者はつくり方がむずかしいので普及せず，しっぽく料理*の一部に残り，前者を改良した江戸てんぷらが普及している。

材料は白身魚が普通で，エビ・アナゴ・キス・アユ・メゴチ・ワカサギ・モロコ・

ハゼ・イカ・貝柱などの新鮮なものを用い，クルマエビが最上とされる。衣は卵とその3倍量の冷水をかき混ぜ，これに小麦粉(薄力粉)を加えてつくる。このとき卵の黄身だけを使うものを金ぷら，白身だけを使うのを銀ぷらという。揚げ油にはごま油が最もよいといわれ，これに大豆油を2～3割混ぜて，厚底の平らな鉄なべで，高温(約180℃)にして短時間に揚げる。ふつう天つゆ(煮出しじる3，しょうゆ1，みりん1の割合でつくる)につけて食べるが，塩を振り掛けることもあり，薬味に大根おろしを添えて供する。なお，てんぷらの語源については諸説があって定かでない。〔塩川ふみ〕

テンプルきしだん【テンプル騎士団】⇨宗教騎士団

でんぷん【澱粉】代表的な栄養多糖類。植物のいろいろの組織にデンプン粒として存在している。特に種子や塊茎・根などの胚芽(はいが)組織には多く，植物の発芽に必要な栄養分としてたくわえられている(貯蔵デンプン)。また光合成の産物として葉の中にも一時期に蓄積される(同化デンプン)。デンプン粒はふつう同心円的な層状の構成をしており，大きさは1～数ミクロンで容易に顕微鏡下で観察できる。その形は植物の種類によってはっきりとした相違があり，たとえばジャガイモや小麦では卵形，米やトウモロコシでは角形をしている。デンプンはアミロースとアミロペクチンの2種の多糖類からなる。これらの多糖類はともに完全な加水分解によって，D-ブドウ糖を生じる。アミロースはブドウ糖がα-1,4結合で重合した直鎖状の構造をもち，1個の分子はおおよそ300～1,000のブドウ糖基からなり，β-アミラーゼによる加水分解でマルトースのみを生成し，ヨード反応によって深青色。他方，アミロペクチンはブドウ糖の鎖がところどころで枝分かれした構造をもち，17～18個のブドウ糖単位からなるα-1,4結合の枝が，他の同様な枝とおよそブドウ糖数8個の間隔を隔てて次々とα-1,6結合で結合し合い，全体としてこみいった網状の高分子となっている。したがってアミロペクチンはβ-アミラーゼ作用により，マルトースのほかに，分解されない分岐点の部分の残渣(ざんさ)を生じ，ヨード反応は紫色ないし赤かっ色を呈する。デンプンの中のこれら両多糖類の割合は，植物の種類や器官の違いによって多少は異なるが，ふつうアミロースが20～30%，アミロペクチン80～70%である。米デンプンはアミロース分17%，ジャガイモではアミロース分20%である。特殊な例として，もち米やもちトウモロコシのように，ほとんどアミロペクチンのみからなっているデンプンもある。生デンプンでは，分子の直鎖部分は比較的規則正しい束になって並んでおり，セルロースほど緊密ではないが，ミセル構造をとっている。デンプンは水に不溶であるが，温水で処理するとこのミセル内の分子の束がくずれてのり状になる。これがいわゆる糊化(こか)であり，糊化デンプンは再び冷やしてももとのデンプンにもどらない。なお，アミロースの長い分子はブドウ糖単位6個につき一巻きの割合でらせん状に巻いていることが知られている。デンプンのヨード反応は，らせんの一巻きにつき1分子のヨードがらせんの内部に結合することによって起こると考えられている。食用のほか，製糸・織物用のり，接着剤，発酵工業原料などとして用いられる。〔南川隆雄〕

でんぶんしょうこ【伝聞証拠】反対尋問(→尋問)を経ていない供述。他人から伝え聞いた事実に関して公判廷で供述する伝聞供述のほか，公判期日に供述に代えて書面で供述する供述書もこれに含まれる。伝聞証拠は原則として証拠能力を有しないが(刑事訴訟法320条1項)，簡易公判手続の決定があった事件の証拠については，その制限が緩和されている(刑事訴訟法320条2項)。

テンペラが【テンペラ画】西洋画の技法・方法の一種。普通は油絵・水彩・フレスコ画などと対立させて用いられるが，材質の効果としては油絵・水彩画の中間に位置し，顔料を膠質(にかわしつ)または糊(のり)の類で練って描いた絵である。ヨーロッパ中世の板絵などに盛んに用いられた。しかし，この当初のテンペラの歴史的な製法・成分・技法などの細かい点は，今日でもなお不明な点が多い。

テンポ［tempo］速度を意味する音楽理論用語。近代西洋音楽では慣用的におそいものからラルゴ・アダージョ・アンダンテ・モデラート・アレグロ・プレスト・プレティッシモなどのおおまかな速度指定用語がある。メトロノーム*の発明以後は，もっと正確に速度を表示することができるようになった。たとえば，♩＝M. M. 60と表示してあれば，1分間に4分音符が60あることを意味する。〈適切なテンポ〉は，時代や地域さらに個人によって異なる。たとえば，バロックや古典派の音楽を現代では当時よりもはるかに速いテンポで奏している。テンポはまた一定に保たれるばかりでなく，急激な変化や漸次変化で音楽を特徴づけることも多い。そのテンポの変化はしばしば音量の変化と関連していて，たとえば東南アジアの合奏音楽では緩から急へテンポが変わるにつれて合奏全体の音量が増していく。〔山口　修〕

でんぽう【電報】有線や無線などにより符号・文字・数字を遠隔地に送る通信方法。普通には専用電信(テレタイプ)や加入電信(テレックス*)を含めず，一般公衆が電報取扱局に依頼して伝送・配達させる公衆電報をさす。

電報の種類は，大きく通常電報と特別電報とに分かれる。通常電報には，普通電報(料金は25字まで一律150円で5字増すごとに20円ずつ加算される)と至急電報(いわゆるウナ電。料金は普通電報の倍額)などがあり，特別電報は，無線電報(航海中の船舶と陸地との間あるいは船舶同士の電報)・報道電報(新聞や放送のニュースを内容とするもの)・模写電報(図案・漢字などをそのまま送るもので，大都市間にのみ行なわれる)などがある。さらに，特殊取り扱いとして，まちがいを防ぐためあて名と電文を反復確認してもらう照合電報，同一文を同一市町村の2か所以上に打つ場合の同文電報，10日前から配達日時を予約して打つ配達日時指定などがある。なお，これらのうち模写電報・特使配達は1972年(昭和47)3月で廃止され，同時に市内電報の呼称もなくなり普通電報に含められた。

電報を発信するには，電報局・電話局・郵便局・駅の取扱所に持参するほか，電話で局番なしの115番を呼び出せば，加入電話や公衆電話からも申し込める。受け付けた電報は，以前はおもにモールス符号による手送り通信で各中継局を経て配達局まで送られたが，その後印刷電信の発達と1966年全国的な電報中継機械化が完成したことにより，現在では発信局から配達局まで自動的にいくつかの中継局を経由して届けられるしくみとなり，中継に必要な人員は大幅に節約された。

わが国の電報事業は，1869年(明治2)に東京～横浜間で官営事業として開始され，1879年に全国に約6,000kmの電信網の骨格が完成して，利用通数も1879年約150万通，1896年1,000万通，1906年2,000万通と増加し，進歩的通信手段として社会経済の発展に貢献した。第2次世界大戦後における利用通数のピークは1963年の9,500万通(国民1人あたり年間約1通)であったが，その後電話やテレックス・データ通信*などの普及で電報利用が減少し，特に緊急な用件に関係のない慶弔電報(お祝いやおくやみの電文を主として略号を用い割安に打てるもの。1971年に廃止問題が出た)が全体の⅓を占めるなど，電報本来の役割は逐次薄れつつある。〔滝　誠〕

てんぽうせん【天保銭】天保通宝のこと。天保百文銭・天保当百銭ともいう。1835年(天保6)以降，江戸幕府が金座*で鋳造発行した銅銭。定量20.7g(5匁5分)。品位は銅70%，錫(すず)10%，鉛12%などで楕円(だえん)小判形。1文銭100枚に通用させたが，実際には80文に通用した。小銭の払底を緩和し同時に大名領国に流通する藩札*を整理するためといわれる。1891年(明治24)通用を停止された。

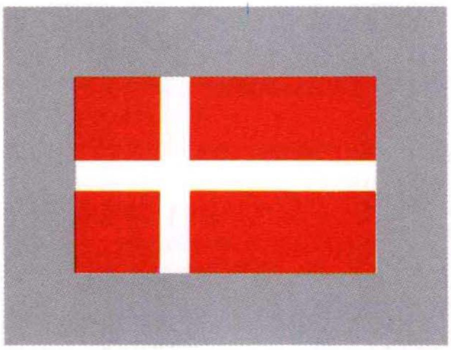
てんぽうのかいかく【天保の改革】1841年(天保12)から1843年にかけて水野忠邦*(ただくに)が断行した江戸幕府の改革，および これと前後して諸藩が実施した政治改革。文化・文政期(1804～1829)の太平の世が過ぎ，天保期(1830～1843)にはいると，一時

にきびしい世相が現出した。すなわち，1833年に始まった天保の飢饉*(ききん)は数年間続き，各地に百姓一揆*(いっき)・打ちこわし*が慢性的に起こり，ことに1837年の大塩平八郎*の乱は幕府当局に深刻な脅威を与えた。また，11代将軍徳川家斉*(いえなり)の奢侈(しゃし)生活は世上一般の風となり，幕藩財政は窮迫し武士階級の困窮を招いたため，幕府は悪貨を発行してその益金で財政の急をしのいだ。しかし，当然に物価騰貴が起こり，また農村内の商品作物が増加したことは農民層の分化を促して転落・離村農民を多くし，農村を荒廃させた。天領*・私領の入り組んだ関八州では，これら浮浪人のため治安が悪化して，幕府は関東取締出役を新設するに至った。このような封建支配の動揺に合わせて，18世紀末からは外国船が盛んに来航するようになり，モリソン号事件*・阿片(あへん)戦争*などがわが国の封建領主層に緊迫した危機感を抱かせた。このような内外の情勢下に天保の改革は開始された。この改革では，節約と風俗の粛正，株仲間*の解散，人返し*，棄捐(きえん)令*，上知令*などの諸政策をきわめて強圧的に推し進め，ゆるんだ封建体制を一挙に強化しようとした。中でも，上知令は大名・旗本(はたもと)の強い反対にあったため，1843年忠邦は老中を免職されて改革は挫折(ざせつ)した。これらの政治改革には，株仲間の解散，上知令のように絶対主義へ進む動きも示され，また洋式兵制の採用，薪水給与令*の復活など，海防への関心も払われていたが，その主眼とする政治目標が封建制強化という復古反動の上にたてられていたため，結局は現実の情勢に対応することができなかった。これと前後して諸藩の間で行なわれた藩政改革では，特に薩摩(さつま)藩の調所広郷*(ずしょひろさと)，長州藩の村田清風*を中心とする改革が成果をあげた。これらの藩は人材を登用して藩権力を集中し，藩営産業・専売制の利益によって藩の軍事力を充実させ，雄藩として幕末の政治進出を可能にする素地を築き上げた。
〔高崎徳次〕

てんぽうのききん　【天保の飢饉】　1836年(天保7)の全国的大飢饉。1833年以来連年の洪水(こうずい)・大風雨・冷害で不作が続き，1836年は平年作の3分の1しかなかった。このため米価をはじめ諸物価が騰貴し，都市下層民・農民が困窮し，農村が荒廃した。幕府は窮民への米銭給与・救小屋設置などの救済策，酒造制限・米価引下令・回米*策・囲い米*売却などの米価抑制策を実施した。しかし大塩平八郎*の乱など各地で打ちこわし*や一揆*(いっき)が発生した。〔松尾　涼〕

てんぽうりん　【転法輪】　ブッダ*の説法のこと。インドの理想王である転輪聖王(てんりんじょうおう)がその所有する輪宝をもって全世界を支配したという伝説をもとに，ブッダの説法が，いつ，どこでも，迷える人びとを目ざめさせ，けっしてとどまることを知らないという意味でこれにたとえたもの。ブッダが成道(じょうどう)したとき，はじめて鹿野苑(ろくやおん)で説法したのを初転法輪といい，略して転法輪ともいっている。





デンマークの国旗　1292年，バルト海の東岸エストニア地方の異教徒征圧に向かったデンマーク人が，天から舞い降りたこの旗に勇気づけられて勝利を得たという伝説に由来する。15世紀に制定された現存する世界最古の国旗で，ダンネブロク(赤い旗)とよばれている

てんぽうろっかせん　【天保六花撰】　講談。2世松林伯円作。実説に基づき，悪茶坊主河内山(こうちやま)宗俊，御家人くずれの小悪党片岡直次郎の両人を中心に金子市之丞(いちのじょう)，森田屋清蔵，暗闇(くらやみ)の丑松(うしまつ)，大口楼三千歳(みとせ)ら4人をからませた世話物。題名は王朝の名歌人〈六歌仙(ろっかせん)〉をもじったもので，1881年(明治14)，河竹黙阿弥*(かわたけもくあみ)が《天衣紛上野初花(くもいにまごううえののはつはな)》と題して歌舞伎(かぶき)化した。
〔興津　要〕

てんま　【伝馬】　律令(りつりょう)制で地方の郡家*(郡衙)に備えて官吏の利用に供した馬。定数5匹。駅ごとに置かれた駅馬が急使の利用に供せられるものであったのに対し，伝馬は緩使に提供するもので，いわば鈍行便であった。駅馬には〈はゆま(早馬)〉の訓があるのに伝馬には訓がなく(〈つたわりうま〉の訓は後世のもの)，〈てんま〉と音読しているのは，これが中国の制度の直輸入で，それ以前わが国にはそれに相当する実体のなかったことを示している。戦国・江戸時代には駅馬に相当するものとしての伝馬が復活した。➔駅制　〔黛　弘道〕



デンマークの農場。ゆるやかな起伏をもつ平地には牧草地が広がり，酪農に好適の条件を備えている



デンマーク　首都コペンハーゲンのニューハウン(新波止場)地区。埠頭の正面の広場には大きな錨が飾られ，内外の観光客を集める

てんま　【天満】　大阪市北区の南東部，東西を淀(よど)川(天満川)と天満堀(てんまぼり)川(城北運河)にはさまれた一帯の地区。大阪環状線の天満駅，京阪(けいはん)電鉄天満橋駅があり，淀川にかかる天満橋付近は府庁などの官庁街に近く，デパートや商店街が進出して繁華街としてにぎわい，また淀川に沿っては造幣局や三菱(みつびし)金属の工場もある。地区の中心部に天満宮*がある。

デンマーク(王国)　[Kingdom of Denmark, Kongeriget Denmark]　ヨーロッパ北部，ドイツから北方に突き出したユトランド半島と，その東方のシェラン・フュン・ファルスター・ロランなどの各島からなる立憲王国。面積43,000km²(本土)で，このうち島部が13,000km²を占める。人口512万(1979年推)。首都コペンハーゲン。
【自然】土地の起伏は少なく全般に低平で，海抜100mを越えるのは半島東部の堆積(たいせき)丘陵部だけである。かつてスカンジナビア大陸氷河におおわれていた地域であり，その堆石丘が半島を南北に走る。この西側は氷河が運んだ古い砂質土壌(どじょう)で，農耕には不適であり，海岸部は砂州と潟湖(せ

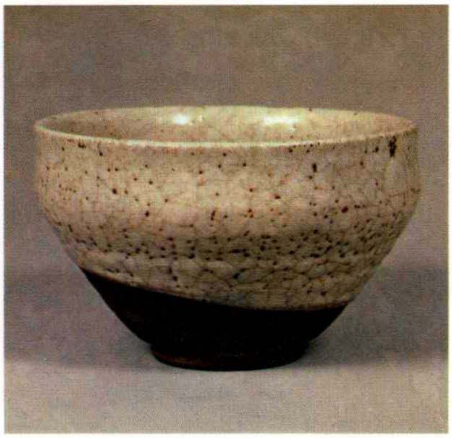
きこ)が多く，船舶は座礁の危険性があって近づけない。東側は台地で，ローム層の肥沃(ひよく)な土壌におおわれ，農業が盛んで，海岸は氷河の侵食を受けた河谷が沈水し，フィヨルド*となり複雑に入り組んでいる。バルト海の各島はかつて半島と陸続きであったが，沈降して分離した平坦(へいたん)な地形をなし，この国の中枢部を形成している。半島北部はリムフィヨルドによって切り離され，海抜1～2mの低湿な不毛地である。気候は海洋の影響を受けるが，その程度はイギリスほどではない。首都コペンハーゲンの気温は，2月は0℃であるが，7月には18℃にもなり較差が大きい。気団の動きに伴い，しばしば気候が急変するため農耕には不利である。年降水量はコペンハーゲンで602mmである。森林は少なく，植林事業に努力が払われている。住民は北ゲルマン系に属し，国教は福音ルター派の新教。

【産業・経済】天然資源に乏しく，平坦な国土であるため大河がなく，電力も火力にたより，石炭や石油を大量に輸入している。工業の発達が遅れ，現在も機械・自動車・鉄鋼は輸入品の上位を占める。しかし，第2次世界大戦中の輸入の途絶を契機とし，首都コペンハーゲンを中心に農業機械や製紙・繊維など国内市場向けの工業が発達した。造船は以前から有名で，オーデンスに大造船所があり，船舶輸出額は肉類・機械類・酪農製品類に次いでいる。しかし，産業の主体は農業で各種の農業協同組合が発達している。新大陸産の穀物に比して競争力が弱いことなどから，1880年ごろ以後，それまでの主穀農業から酪農に転換した。耕地には主として飼料用のジャガイモやテンサイ・根菜類を集約的・多角的に栽培して，ウシ・ブタ・ニワトリを飼育し，肉類・乳製品を輸出している。バターの輸出量はヨーロッパ第1位，チーズ・鶏卵ではオランダに次いで2位である。国土の65％が耕地で，牧草地を含めると72％にもなるが，大農場は少なく，雇用者ひとりを雇い，経営面積は15ヘクタール前後というのがこの国の農家のモデルである。農業が酪農中心となり商業化するにつれて，農業従事者の割合は1890年に41％であったのが，1960年には18％に激減しているが，商業・運輸・サービス従事者は32％から44％に増加している。

【政治・社会】政体は1849年以来の立憲王政で，1953年には新憲法が施行されて，議会は一院制になった。議員定数は179人で任期は4年である。社会保障が完備しており，1933年の社会改善法によって保険制度などが整備され，世界的に知られる農業協同組合の充実とともに，国民生活推進の基盤をなしている。〔梶川勇作〕

デンマークご【デンマーク語】⇨北欧語

デンマークたいそう【デンマーク体操】⇨体操



天　目《瀬戸白天目茶碗》

てんません【伝馬船】小形の和船*。船首はとがり船尾は角型をしている。推進装置は櫓(ろ)あるいは櫂(かい)。ふつうひとりでこぐが，2～3梃(ちょう)でこぐものもある。港内・河川で簡単な交通・作業または漁労に用いられる。

てんまんぐう【天満宮】菅原道真*(すがわらみちざね)を祭神とする神社の通称。〈てんまぐう〉ともいう。道真の霊を神格化して天満大自在天神とよんだのに由来する。北野天満宮*・太宰府(だざいふ)天満宮*を根本社とし，天神信仰の流布にしたがって全国に勧請(かんじょう)され，今日約5,000社を数える。➔天神信仰

てんむてんのう【天武天皇】(？～686) 7世紀後半の天皇。名は大海人(おおあま)皇子。父は舒明(じょめい)天皇*，母は皇極天皇*(のち斉明(さいめい)天皇)。実兄の天智(てんち)天皇*(中大兄(なかのおおえ)皇子)の皇太弟となり，早くからその新政を補佐した。天皇がその晩年大友皇子(のち弘文(こうぶん)天皇*)に皇位を継承させようとする意のあるのを察し，671年(天智10)天皇の死にあたり，出家して吉野(よしの)にはいった。翌672年(弘文1)挙兵して壬申(じんしん)の乱*を起こし，畿内(きない)各地で近江(おうみ)朝廷軍を破って弘文天皇を自殺させた。翌年飛鳥浄御原(あすかのきよみはら)宮で即位し，妃の鸕野(うの)皇女(のち持統天皇*)を皇后にたてた。在位中はひとりの大臣も置かず，皇后とともに強力に政治を推進，飛鳥浄御原律令*(りつりょう)・国史の編修，八色姓*(やくさのかばね)の制定などで律令体制を整え，天皇の絶対的統治権を確立した。陵墓は奈良県高市郡明日香(あすか)村にある檜隈(ひのくま)大内陵。〔高崎徳次〕

でんめいがっき【電鳴楽器】マイヨン・ホルンボステル・ザックスらの楽器*の科学的分類法による楽器。電気楽器・電子楽器・電子機器に細分される。発音原理として，電気ないし電子の回路による発振を基本とする。いずれも20世紀になって出現した。ただし，電気楽器とよばれるものは，伝統的な楽器の音量を増大したり，音色を変えたりするためにマイクロホンを設置し，増幅器・スピーカーを通して音を再生産するものであるので，厳密には電鳴楽器に含めない立場もある。電子楽器はたいてい演奏装置を鍵盤(けんばん)など伝統的な形でもってはいるが真空管・トランジスターその他純粋に電子的な発振回路を使用する。電子楽器はさらにオンド-マルトノやトラトニウムのように音声は多様ではあっても単旋律しか奏することのできないものと，電子オルガンのように同時に複数の音を出すことのできるものとがある。電鳴楽器としてほかに含めることができるのは，テープレコーダーや音合成器，さらにはコンピューターなど，本来楽器ではないが，作曲の意図によって楽器として使用可能な機器類である。電子工学の理論と技術の新しい展開によっていっそうの多様化が期待されている。〔山口　修〕

てんめいせつ【天命説】儒教の教説の一つで，特に孟子(もうし)によって明確に展開され，その後の国家観・君主観を支配した。それは，およそ次のようなものである。天*は天下*の万民を養育し天道を維持するために，その任務に耐える徳*をもつ人を〈天子〉に任命する。すなわち，〈天命〉である。したがって，天子の中に任務に耐えるだけの徳のないものが出ると，天は他の有徳者に天命を下す。これが〈革命〉である。また，各個人の身心の素質・運命も天命と考えられ，人間に普遍的な本性もまた天命とよばれた。➔王道　➔性説〔西　順蔵〕

てんめいのききん【天明の飢饉】1783～1788年(天明3～8)の諸国の大飢饉。1782年以降，天候不順に加えて大水害・浅間山噴火など天災が続発して凶作になったため米価が騰貴し，全国的飢饉となり，同時に疫病が大流行した。特に1783～1784年の奥羽大飢饉は被害甚大で，草根木皮すら食べ尽くしたといわれ，多数の餓死者・病死者を出した。これにより全国の人口は約92万減少したといわれる。幕府・諸藩は米銭の施与や米価調節などで救済に努めたが，対策不十分のため各地の都市で大規模な打ちこわし*が発生した。〔松尾　涼〕

てんもく【天目】鉄質，黒かっ色の釉(うわぐすり)のかかった焼き物の総称。天目の名の起源は，中国浙江(せっこう)省天目山にある著名な禅寺に留学した日本僧が，帰国の際に持ち帰った建盞*(けんさん)を天目と称したことに始まって，わが国でつけた呼称で，現在では鉄質系統の黒色釉を俗に天目釉とよび，その作品を天目といい表わしている。黒い釉の先蹤(せんしょう)はすでに漢代に遺例がみられ，唐代にも北方窯で盛んに焼かれたようであるが，宋(そう)代に至って飛躍的にすぐれた黒釉陶磁が生まれた。まず，天目の名称を与えた建窯の建盞は，作風によってわが国では曜変・油滴・禾目(のぎめ)・灰被(はいかつぎ)などに分類されており，いずれも同一の釉が焼成中に変化したいわゆる窯

変である。建盞とともに有名な玳皮盞(たいひさん)は江西省吉安府の吉州窯で焼かれた天目で，黒釉地に文様の型をおき，さらに鼈甲(べっこう)ふうの釉をかけて型抜きした独特の表現をもつ。華北地方の作品は一般に河南天目と称され，黒釉に鉄砂釉で文様を施したもので，遺品は茶碗(ちゃわん)のみならず，鉢(はち)・瓶(へい)・壺(つぼ)などに及び，粗末な作調ではあるが，野趣に富んで力強い。わが国でも建盞にならって，室町後期から桃山期にかけて瀬戸窯で天目がつくられ，特に瀬戸天目とよばれている。〔矢部良明〕

てんもくざん 【天目山】 山梨県甲府盆地の東部，中央本線初鹿野(はじかの)駅北東方約4kmの日川渓谷(けいこく)にある。武田(たけだ)氏開基の天目山棲雲(せいうん)寺がある。この地は1582年(天正10)武田勝頼(かつより)が織田(おだ)・徳川軍に攻め滅ぼされた古戦場である。

てんもん 【天問】 中国古代の詩人屈原の詩。《楚辞(そじ)》に収む。大部分が4字1句からなる長編叙事詩で，自然現象や神話・伝説・歴史・故事などについて，180余の疑問を投げかける形をとっている。古代神話が多く伝えられ，当時の宇宙論の内容を推量する手がかりを与えるという意味でも重視される作品。

てんもんがく 【天文学】 天体および天体が存在する空間について研究する学問。大別して，①位置天文学：天体の見かけの位置や運動の観測，経緯度の測定，時刻の保持，視差・歳差・章動などの研究を通じて天体の空間内における真の位置や運動を支配する法則を導く，②天体力学：力学の法則を天体に適用して，惑星・衛星・人工天体の運動を研究する，③天体物理学：天体から放射される電磁波の強度やスペクトルを観測して，天体の構造・組成・進化の様相などを追求する，に分類される。天文学は自然科学の中で最も古い歴史をもつ学問である。遠い昔，牧畜・農業を営むようになると，時をはかり季節を定める必要に迫られた。このような時代には，暦をつくることが政治の最も重要な仕事の一つで，昼夜の交替，月の満ち欠けのくり返しなど規則正しい天体現象を利用して時の流れをはかる単位がつくられ，暦学が発生したのである。いまから6,000年前，メソポタミアに住んだカルデア人はバビロニア王国を起こしたが，暦をつくるため太陽・月の動きを観察し，また国王の運命や戦いの勝敗を占うため惑星の運動を熱心に調べた。彼らは日食・月食の観測の記録から，食が18年の周期でくり返されるサロス周期を発見している。また同じころ，エジプトでは，1年が365日に4分の1日の端数のつくことを知り，太陽暦を採用して4年ごとにうるう年を置く考えを取り入れた。古い中国でも太陽・惑星・月の観測が熱心に行なわれ，それらの運行を記述するため天の赤道付近に28宿が設けられた。また1年の長さもかなり正確に知られていて，独特の太陰太陽暦がつくられた。

バビロニア・エジプトの天文の知識はギリシア人に受け継がれ，ギリシア文化の発展に伴って天文学も宗教や占星術の殻を抜け出して合理的な学問の体系をもつようになった。太陰暦で19年に7回うるう月を置くメトンの周期の発見，地球の大きさの測定，月の大きさや距離の測定，春分点の移動の発見などが行なわれたのもこの時代である。また天体の運行を数理的に説明することが試みられ，宇宙の中心に静止しているのは太陽で，地球はそのまわりを巡っているという地動説も一部の学者によって提唱されたが，2世紀にはプトレマイオスが惑星の運動を体系的に説明する複雑な天動説を完成し，彼の著書《アルマゲスト》は，以後長い間天文学の最高権威となった。中世紀にはいるとヨーロッパはキリスト教の支配下に置かれて，科学は否定され天文学の進歩も止まった。この時代ギリシア天文学の伝統を継いだのはイスラム教国(サラセン)の天文学者たちである。これらの国では規模の大きな天文台が建設され，春分点の歳差や黄道傾斜の精密な値が観測から導かれ，また惑星運行表や恒星目録も作成された。イスラム教国に保存されていたギリシアの学問は，13世紀ごろより少しずつヨーロッパに再輸入されるようになり，南イタリアを中心に文芸復興の口火を切った。15世紀ニュールンベルク天文台のレギオモンタヌスは《アルマゲスト》を研究し，すぐれた航海暦をつくった。コロンブスの新大陸発見やバスコ-ダ-ガマのインド航路発見など世界史的な意義をもつ探検航海に用いられた天体暦は，いずれも彼のつくったものである。

科学のルネサンスはコペルニクスの地動説に始まる。彼はレギオモンタヌスなどの天文書を通じてギリシア天文学に触れ，地球は自転をしながら太陽のまわりを巡っているという地動説を発表した。しかし，地動説はキリスト教の思想と合わないことから宗教界の圧迫を受け，たとえば，実験によって力学の法則を証明し地動説を支持したガリレオは，ローマ教会の宗教裁判にかけられ，自説を曲げることを強制された。だがチコ-ブラーエの精密な惑星観測を整理したケプラーによって，惑星運動の法則が発見され，ニュートンが万有引力の法則をみつけて理論的な基礎を与えるに及んで，地動説は確固たる地位を得るに至った。

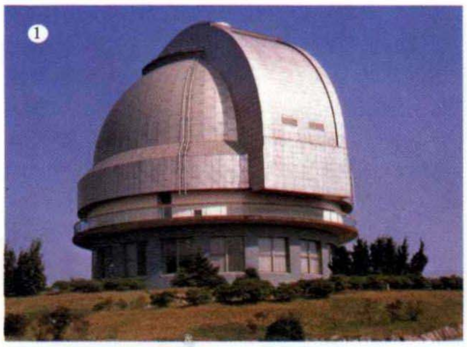
17世紀遠洋航海が盛んになると，航海暦をつくる必要から大きな天文台がヨーロッパの各地に建設され，月・惑星の観測，大陸間の測量が進められた。また，木星の衛星の運行の観測から，光が有限の速度をもっていることが発見され，光の速度が決定された。18世紀にはいって，グリニッジ天文台のハレーは彗星(すいせい)の軌道を研究して，彗星が太陽系の天体であることを証明し，恒星の固有運動を発見した。また，同じ天文台のブラッドレーは，光行差・章動を発見し，位置天文学の基礎を築いた。一方フランスではニュートン力学を基にした天体力学の研究が進み，惑星や衛星の運行の理論，歳差・章動の理論が打ち立てられた。

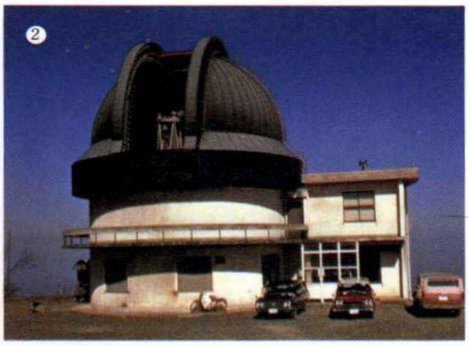
小惑星の発見によって始まった19世紀は，古典的な天体力学・位置天文学の完成期で，恒星年周視差の発見，海王星の存在の予測とその発見などはなばなしい成果があげられた。それと同時に，望遠鏡の発達，写真術の発明によって天体物理学が天文学の舞台に登場した。キルヒホッフによるスペクトル線の研究，セッキの恒星スペクトルの分類，シュワーベによる太陽黒点活動周期の発見をはじめとして，現在の天体物理学の基礎となる多くの業績が得られたのがこの時代である。また恒星系や星雲の研究もようやく本格的になってきた。

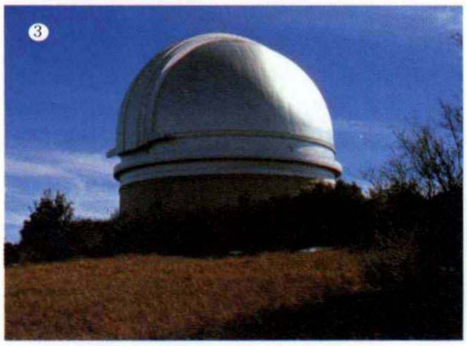
20世紀にはいると，原子物理学・分光学の発展によって，天体スペクトルの理論的解釈が可能になり，恒星のさまざまな物理的特性が明らかにされ，ヘルツスプルング-ラッセル図の発見は恒星の進化を考える手がかりを提供した。一方原子核反応によって恒星のエネルギー源が説明され，星間物質から生まれる恒星の進化の道筋が理論的に追求できるようになった。また，今世紀の天文学の特徴は観測技術の飛躍的な発展にある。大望遠鏡の建設，シュミットカメラの発明は遠方の天体の研究に大きな進歩を促し，銀河系の構造と運動，銀河系外星雲の速度と距離の関係，恒星の種族など，宇宙の構造の本質にかかわる新しい発見が続々と生まれてきた。また，銀河電波の発見によって糸口が開かれた天体電波の研究は，第2次世界大戦後の電子工学技術の進歩を背景にして大きく発展し，太陽面現象，銀河系の渦状(かじょう)構造，銀河系外の新天体などについて，光学的研究からは得ることのできない新しい知見をもたらした。さらに第2次世界大戦後の飛翔(ひしょう)体技術の開発によって，大気圏外からの天体観測や月・惑星への飛行が可能になり，天文学の研究手段・対象ともに20年前には想像もつかなかった範囲に拡大しつつある。

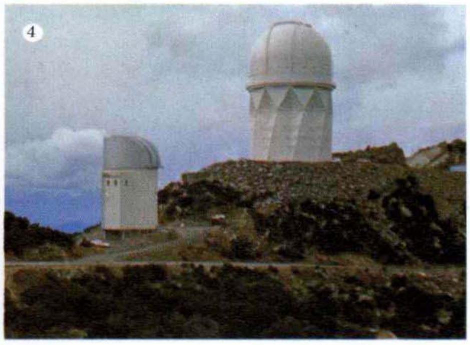
〔守山史生〕

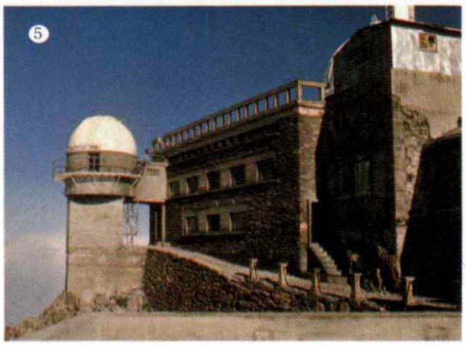
てんもんこうほう 【天文航法】 船または航空機上で天体観測から観測者の位置を決める方法。天体の代わりに，山や燈台などを使う方法を地文航法という。天文航法・地文航法ともに光学的な方法であるが，電波を使う方法を電波航法という。天文航法には種々の方法があるが，経度のわかった地点でクロノメーターを世界時に合わせて，これを航海に持っていき，天体の高度を六分儀によってはかって位置を知る方法が一般的である。ふつう，1回の観測ではそのときに船が地球表面のある小円上にいるこ











天文台 ①岡山天体物理観測所 ②堂平観測所 ③ヘール天文台(アメリカ合衆国) ④キットピーク天文台(アメリカ合衆国) ⑤ピク-デュ-ミディ天文台(フランス)

とがわかるだけなので，同じ時刻に二つの天体を観測するか，同じ天体を違った時刻に観測して，二つの小円を求めその交わりから位置を決定する。〔木下　宙〕

てんもんじ　【天文時】

1天体観測によって定義される時。原子や分子の振動によって定義される原子時に対する用語。天文時は地球の自転から決まる自転時と，地球の公転から決まる公転時の二つに分けられる。恒星時*と太陽時*は自転時であり，暦表時*は公転時である。

2 1925年1月1日以前，天文学では平均太陽時は平均太陽の時角(したがって平均太陽の南中する時刻が0時で1日の初めになる)と定義されていた。そのころ常用時と区別するためこの時法を天文時と名づけている。〔木下　宙〕

てんもんだい　【天文台】　天体を観測する器械を備えて，天文学の研究を行なう施設。それぞれの目的に応じた望遠鏡・実験設備・測定装置・工場，研究のための資料・図書・計算機などを設置している。一般に天文台は，天体の観測にふさわしい環境，すなわち晴天日数に恵まれ空気が澄んでいて大気の乱れが少なく，また人工の光に妨げられないといった条件を満たすため，都塵(とじん)を離れた高原や山の頂につくられることが多い。天文台には大学に属しているもの(東京天文台-東京大学，ハーバード天文台-ハーバード大学など)，直接国家に属しているもの(グリニッジ天文台-イギリス，パリ天文台-フランスなど)，財団や個人によって大学に寄付されたもの(リック天文台・ヘール天文台など)などがある。また以上のような天文学の研究を行なう天文台のほかに，天文学の普及を目的とした市民天文台(倉敷市立天文台など)も各地に建てられている。

天体観測の歴史は非常に古く，すでに6,000年の昔から暦をつくり季節を定めるために太陽・月・惑星の観測が行なわれ，バビロニア・エジプト・インド・中国など古代文化の栄えた国では天体の位置を測定する天文台が設けられていた。有名なバビロニアのバベルの塔も天文台で，その頂上では神官たちが天文観測を行なったといわれている。ギリシア時代には，ヒッパルコス*が地中海のロードス島に天文台をつくり，観測をもとにして星表をつくり，春分点の移動(歳差*)を発見した。また13世紀に，元のフビライ皇帝が北京(ペキン)に建てた天文台の観測器械はいまも残っている。

近代的な天文台のうち最も古いものは，チコ-ブラーエが，ときのデンマーク王の援助を受けてつくったウラニエンボリ(天の城の意)天文台で，ここには観測器械のほかに図書館・実験室・印刷所・工場が付属していた。このころには，オランダ・スペイン・イギリスなどで遠洋航海に必要な航海暦をつくるために天文台が建設された。現在まで続いている最も古い天文台は，1637年に創設されたデンマークのコペンハーゲン天文台で，木星の衛星の食*の観測から光の速度を決めたレーマー*はここの人である。1667年，ルイ14世によってパリ天文台がつくられたが，初代台長としてイタリアの天文学者カッシニ*が招かれ，18〜19世紀天体力学の黄金時代には文字どおり世界の中心として活躍した。パリ天文台に遅れること8年，イギリス王チャールス2世の命によりロンドン郊外にグリニッジ天文台が創立されて，恒星の位置の精密な観測に努め，すぐれた航海暦を編集し，グリニッジが経度の原点となる基礎をつくった。19世紀になると光学技術の発達に伴って大きな色消しレンズが製作可能になり，ロシア・ドイツをはじめヨーロッパの各地に大口径の屈折望遠鏡を備えた天文台がつくられた。

アメリカで最初に設立された天文台はハーバード天文台で，1839年のことである。建設当時は世界一の口径37cmの屈折望遠鏡をもっていた。19世紀末からは，リック天文台・ヤーキス天文台など豊かな経済力を背景に大口径の望遠鏡をもった天文台が，中西部の天体観測に適した山岳地帯に建設された。そして20世紀初頭，ガラスにめっきした反射鏡が開発されるに及んで，口径1mを越す優秀な性能をもった反射望遠鏡が製作され，ウィルソン山-パロマー山天文台(ヘール天文台)をはじめとして大口径望遠鏡を備えた天文台が新設されて現在に至っている。現代の天文学の対象は非常に広い範囲にわたるため，特定の分野に重点をおいて観測や研究を行なう天文台が多くなっている。中には緯度観測所や太陽観測所のように設立当初から目的が定まっているものもあれば，創設後の発展に伴って得意な部門の設備を充実してきたものもある。現在世界一流の天文台はこのような意味で特色をもっているものが多く，プルコボ天文台(ソ連)や東京天文台のように広い分野の研究をあわせ行なっている総合天文台は数が少ない。

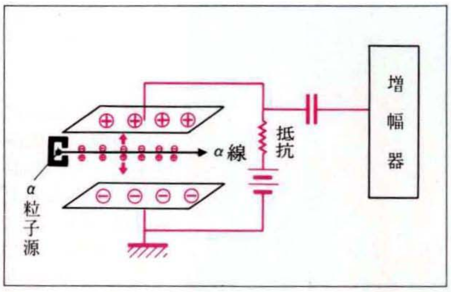
天文台は大別すると古典的な位置天文学の研究を行なうものと，新しい天体物理学を対象とするものに分けられる。位置天文学の天文台では，子午環*・子午儀*・写真天頂筒*など天体の位置を精密に測定するための望遠鏡を備えている。また正確な時刻を保持するため，水晶時計*や原子時計*や世界各地の報時信号を受信する無線設備をもっている。ワシントン海軍天文台(アメリカ)・

グリニジ天文台・パリ天文台がこれにあたり，天体暦の作成もこの種の天文台の業務で，直接国家に属しているものが多い。また，水沢(日本)，カルロフォルテ(イタリア)，キタブ(ソ連)などに置かれている緯度観測所も位置天文学を研究する天文台である。一方，天体物理学を研究目的とする天文台は，大口径の望遠鏡，大形分光器，シュミットカメラ，あるいは電波望遠鏡などの装置を備えている。パロマー山天文台，キットピーク天文台をはじめとするアメリカの大部分の天文台，ムードン天文台(フランス)・クリミア天文台(ソ連)・岡山天体物理観測所などがこれにあたる。アルチェトリ天文台(イタリア)・マクマスハルバート天文台(アメリカ)・サクラメントピーク天文台(アメリカ)のように，太陽の観測を目的とする天文台も天体物理学の天文台の仲間である。第2次世界大戦後はアメリカの国立電波天文台，パークス電波天文台(オーストラリア)・マラード電波天文台(イギリス)・ジョドレルバンク電波天文台(イギリス)のように，大口径の電波望遠鏡を備えて，電波天文学だけの研究を行なっている天文台も各地に設けられている。さらに最近では，人工衛星に望遠鏡を搭載(とうさい)し，地球上では測定できない天体のX線・紫外線などの観測を行なう空飛ぶ天文台も開発され，実用化の時代にはいりつつある。アメリカのOAO(Orbitting Astronomical Observatory)・OSO(Orbitting Solar Observatory)などがこれである。〔守山史生〕

てんもんたんい 【天文単位】 太陽と地球間の距離をいい，おもに太陽系内の距離の単位に用いる。地球は太陽のまわりを楕円(だえん)運動しているので，正確には太陽と地球間の平均距離(地球軌道の半長径)をいう。1964年国際天文連合総会において，1天文単位として1.496×10^8kmを使用することに決まった。

てんらんかいのえ 【展覧会の絵】 ロシアの作曲家ムソルグスキー*のピアノ曲。友人の建築家ハルトマンの遺作展の作品によって作曲した。10枚の絵とそれをつなぐプロムナードの部分からなる。現在ではこのピアノ曲をもとにラベル*が管弦楽曲に編曲したものが有名である。曲は〈こびと〉〈古城〉〈チュイルリー〉〈牛車〉〈卵の中のひよこのバレエ〉〈サムエル-ゴールデンベルクとシュムイレ〉〈リモージュの市場〉〈カタコンブ〉〈ババヤガ〉〈キエフの大門〉からなる。

てんり 【天理(市)】 奈良県北部の市。人口60,000。中心地区のもと山辺(やまべ)郡丹波市町は古くから奈良と初瀬(はせ)(桜井市内)を結ぶ上街道に沿う宿場町・市場町，石上(いそのかみ)神宮の鳥居前町として開けた。1838年(天保9)中山みきが天理教*を開いてから，そのおじば(聖地)として発展し，1954年(昭和29)隣接5町村を合併し，日本で最初の宗教団体名を用いて市制を施行した。市域は奈良盆地東部，大和(やまと)高原の西端春日(かすが)山断層崖(だんそうがい)から流出する布留川扇状地を中心に，平地・山麓(さんろく)丘陵・山地の3地形区に分かれる。産業三大別人口比は17：26：57。米・スイカ・花などをつくり，東部の福住地区には大和茶の特産がある。典型的な信仰集落で，教祖の生誕地三島にある天理教本部の拝殿・教祖殿を中心におやさとやかた・総合病院・天理大学・図書館・参考館・プール・体育館・信者の宿泊する数十の教会詰所などがあり，例祭日(毎月26日)や春秋の大祭には全国からはっぴ姿の信者が集まる。桜井線・近畿(きんき)日本鉄道天理線の総合駅天理駅が1965年完成し，国道24号線・25号線(名阪(めいはん)道路)が通じ，大阪府松原市からの高速道路の西名自動車道の終点となっている。南部の柳本地区には日本最古道といわれる〈山ノ辺ノ道〉に沿って崇神(すじん)・景行両天皇陵や長岳寺があり，江戸時代には織田氏一万石の陣屋が置かれた。周辺部一帯は大和青垣(あおがき)国定公園の区域内に含まれる。〔浅井得一〕



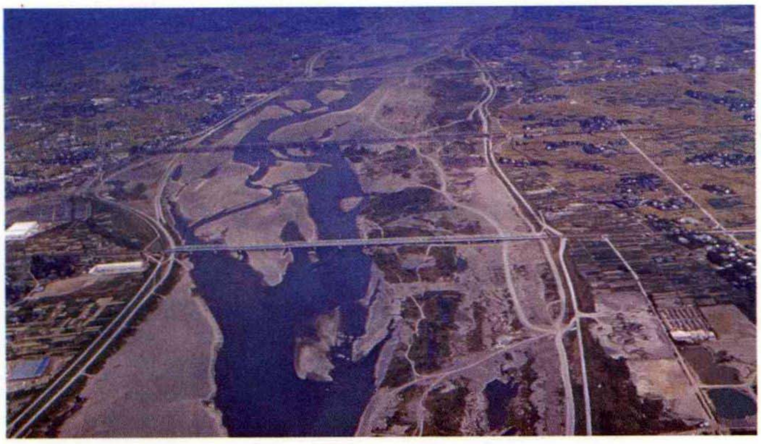
電離箱 電離箱の原理

でんり 【電離】 分子または原子がイオンになることや，電解質が溶液中でイオンに解離すること。気体分子のイオン化は電子の衝撃や高エネルギーの放射線の照射などによって起こり，外部からエネルギーを与えられて，分子から電子がとれて陽イオンを生ずる。またこの電子が他の分子などについて陰イオンをつくることもある。電解質の場合は，極性溶媒にとけて陽イオンと陰イオンに解離するが，溶媒和が起こることが多いので，上記の場合と少し状況が異なる。この電離の現象の説明にはアレニウス*の電離説がある。〔三輪誠・青木勝〕

てんりきょう 【天理教】 元教派神道13派の一。教祖中山みき*は，1838年(天保9)長男秀司の病気の再発，夫善兵衛(ぜんべえ)の眼病と自身の腰痛のため修験者市兵衛に祈禱(きとう)を頼み，みずから加持台となったところ，神がかった。元の神，実の神が世界一列を救わんと，みきの身をもらい受けるという神命を拝受した同年10月26日を立教日とする。以来10数年間，家財を投げ打ち，迫害・弾圧にあいながら信仰を深めていった。1864年(元治1)〈天理王命(てんりおうのみこと)〉を唱え，1866年(慶応2)から〈あしきを払うて助けたまえ天理王命〉と歌い，祈禱のかたわら手ぶりを信者に教えた。みきは1886年(明治19)神道本局の教師となり，翌年没した。別派独立を認められたのは，13派のうちで最もおそく1908年である。教義は，神命のままに書きしるした〈みかぐら歌〉〈おふでさき〉〈おさしず〉を根本教典とする。人間は神の子であり，身は親神からの借り物である。ほしい・憎い・かわいい・惜しい・腹だち・恨み・高慢・欲の〈八つの埃(ほこり)〉を払って，無欲・無報酬で働けば病はなおるとし，〈人を助けてわが身助かる〉の救済主義に徹して，〈陽気ぐらし〉をこの世に実現すべきことを説く。信者は所属教会を通して本部参拝〈おじば帰り〉をし，一生に一度は本部の甘露台にもうでて，勤労奉仕〈日の寄進〉をする。全国に信者をもち，その数公称236万。〔藤井正雄〕

でんりそう 【電離層】 地上約80～数百キロメートルの高さの範囲を電離圏といい，その中には電波を反射するいくつかの層があって電離層という。電離圏では，窒素・酸素などの分子は電離して原子状態となり，さらに太陽から，波長が短く，エネルギーの高い光・X線・紫外線などを受けるため，電子を失ってイオン状態になっている。この分離した電子によって電離層はつくられている。電子の密度は日射を受ける昼間は増加し，夜間には減少する。地上100km付近には，E層とよばれる層があり，中波長の電波を反射する。また，地上約250km付近に，短波長の電波を反射するF層がある。F層は昼間は，2層に分離して，下からF_1層・F_2層とよばれ，高さはそれぞれ約200kmおよび300kmである。E層の下にD層があるが，電子密度が低いため観測しにくい。電離層の存在は，かなり古くから想像されていたが，1901年マルコーニが大西洋横断の無線通信に成功してから注目され，1902年ケネリー・ヘビーサイドらが電離層の存在の仮説を立て，アップルトン・バーネットらによってそれが実証された。電離層の電子密度の変化は，電波通信に大きな影響があるので，各国で常時観測されている。〔相原正彦〕

でんりばこ 【電離箱】 放射線*の電離作用を利用した放射能測定装置。α線・β線・γ線・中性子線・X線などの粒子線が気体の中に入射すると，気体の分子・原子が励起され，イオンを生ずる。これらのイオンを電気的に測定する装置で，放射線量・エネルギーなどの測定に用いられている。電極に直流高電圧をかけ，放射線がつくったイオンを電極に集め，電極の電圧変化を電気計で測定する。集イオン電極の形状は，平行板型・円筒型などがある。測定法には積分法と微分法とがある。前者は，一定時間内に放射線が電離した全イオン量を測定する古くから行なわれている方法で放射線



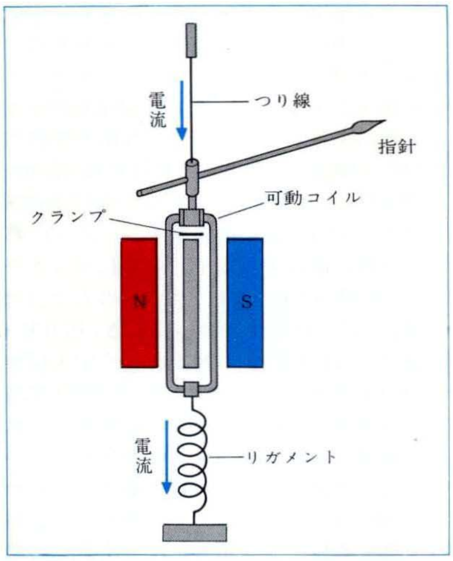
天龍川 河口に近い天龍川。橋梁は手前から東海道新幹線・東海道本線・国道1号線(バイパスもかかっている)・東名高速道路の順

強度が測定される。後者は，電離されたイオンと電子の移動により電極に誘起される電圧変化を高感度電気計(10^{-15}〜10^{-16}Aの電流感度をもつ)で測定するもので，放射線を個別的に測定でき，電離作用が違うと電圧変化が違って現われるので，陽子，α粒子，あるいは核分裂生成物質などの測定に利用される。電離箱はごく微小な電流を扱うため，安定した電源電圧，良質の絶縁物質，放射線照射に対し安定な抵抗体，高純度の気体，そして電離箱を構成している材質や気体に放射性物質が含まれていないことなどに注意しなければならない。 〔福井崇時〕

てんりゃくのち 【天暦の治】 ⇨延喜・天暦の治

てんりゅう 【転流】 植物体内での物質の移動をいう。根から吸い上げられた水と無機物は導管を通って体の各部に運ばれる。葉では根から吸い上げた水の存在下で光合成が行なわれ，生じた産物は篩管(しかん)を通って体の各部に運ばれる。この転流の通路は環状除皮の実験で確かめられている。しかしこの転流の機構についてはまだ不明の点が多い。たとえば根から水を吸い，体の各部に送る場合は，現在葉での蒸散*による水の凝集力説が有力であるが，これだけで水の転流を説明するには十分でなく，また光合成産物の転流の場合でも拡散の原理，膨圧の差，圧流説などでは説明することができない。 〔代谷 康〕

てんりゅう 【天龍(市)】 静岡県西部の市。人口25,000。中心の旧二俣(ふたまた)町は古くからの天龍川*の渓口(けいこう)集落で，1956年(昭和31)周辺5村を合併し，1958年天龍町と改称後市制を施行した。市域の大半は赤石山脈南西縁の山地で，天龍川とその支流阿多古(あたご)川・二俣川の谷に中心市街が発達する。産業三大別人口比は15：40：45。山地ではスギ・ヒノキの植林が古くから行なわれ，1940年二俣線の開通後，製材工場が急増して〈製材の町〉となった。山間部の集落には，茶・生糸・シイタケの産が多い。二俣線・国道152号線が通じ，遠州鉄道が新浜松と二俣線西鹿島(にしかじま)を結ぶ。天龍峡*や佐久間ダムを含む天龍奥三河(おくみかわ)国定公園*・天龍県立自然公園の観光基地となり，北の横山から二俣まで約15kmに〈天龍下り〉の観光船がある。西郊には戦国時代に徳川・武田(たけだ)の両軍が激しい争奪戦を交え，またのちに徳川家康(いえやす)の命でその長男信康(のぶやす)が自決した二俣城跡がある。



電流計 可動コイル形電流計原理図

でんりゅう 【電流】 相異なる電位*をもつ二つの導体が導線で結ばれると，電位の高いほうから低いほうへと電荷*が移動する。このように回路やその他の媒体の中を移動している電荷の流れを電流という。電流の大きさは，毎秒ごとに電荷が移動した量で示し，単位アンペア*[A]を用いて表わす。電流はそのにない手となる電荷の束縛条件・存在条件から，①伝導電流，②対流電流，③変位電流*に分けられる。伝導電流・対流電流は熱の伝導ならびに対流現象と対比してつけられた呼び名である。すなわち，熱が導体に沿って移動するのを熱伝導というように，電気の場合も導体中を電荷が移動するのを，伝導電流という。また熱の対流と同様，電気をおびた物質が運動して電荷が移動する場合に，対流電流と名づける。さらに誘電体*内の誘電分極*が時間的に変動することによって電荷の移動が起こる場合に，それを変位電流という。導体内に流れる電流に対して直角な平面上で単位面積あたりに通過する電流を電流密度という。単位は[A/m²]。直流のときは，電流は一様に導体内を流れるが，交流*(特に高周波の交流)では，表皮効果が起こり導体の表面ほど電流密度は大になり，中心ほど小となる。特に，超高周波の電流は導体の表面上のみを流れるので，このような電流では，表面上の単位幅あたりに流れる表面電流を面電流密度で表わし，単位は[A/m]を用いる。 〔堀内和夫〕

てんりゅうおくみかわこくていこうえん 【天龍奥三河国定公園】 長野・静岡・愛知の3県にまたがり，天龍峡*から二俣(ふたまた)へかけての天龍川*流域，茶臼(ちゃうす)山(1,415m)および鳳来寺(ほうらいじ)山*(684m)一帯の奥三河地域を含む。面積253km²。1969年(昭和44)国定公園に指定。天龍川には天龍峡・南宮峡・万古峡・大入渓谷(けいこく)などの渓谷美があり，茶臼山には芹沼(せりぬま)を中心に4km²の高原が広がり，〈愛知の軽井沢〉とよばれて観光客を集める。鳳来寺山周辺は地殻(ちかく)変動や侵食による地形の変化に富み，奇岩・老木やコノハズクで名高い。長篠(ながしの)城跡や鳳来寺・秋葉神社・湯谷温泉などの史跡・名勝がある。

てんりゅうがわ 【天龍川】 長野県諏訪湖(すわこ)を発して南流し，静岡県浜松市東方で遠州灘(えんしゅうなだ)に注ぐ。長さ216km。上流部は三峰(みぶ)川・小渋川などの支流を合わせて伊那(いな)盆地*に多くの河岸段丘を発達させる。中流部は長野・静岡・愛知3県境の山地を横断して天龍峡*などの先行性峡谷をつくり，泰阜(やすおか)・平岡・佐久間・秋葉などのダムが連なる電源地帯となる。下流部は磐田原(いわたはら)台地・三方原(みかたがはら)台地を侵食して小平野をつくる。

てんりゅうきょう 【天龍峡】 天龍川*が伊那(いな)盆地南端から山地を横断する際につくる峡谷。両岸のカコウ岩の絶壁は100mに及び，新緑や紅葉のながめとあいまって風光美にすぐれ，天龍奥三河(おくみかわ)国定公園*の一中心である。飯田(いいだ)線市田から約20km下流の姑射橋(こやばし)まで急流に舟をあやつる〈天龍下り〉が名高い。

でんりゅうけい 【電流計】 電流の強さ(大きさ)をはかる計器。特に指示形計器(→電気計測器)の場合を電流計といい，微小直流電流の測定に使用する直流検流計と区別してよぶことが多い。また，電流を電流計で測定する場合には，適当な形・級・定格を選ばねばならない。たとえば，次のとおりである。〈直流〉直流には可動コイル形電流計を用いる。または分流器で適当な割合に電流を減少させ，その電圧降下をミリボルト計で測定する方法もある。〈交流〉①商用周波には可動鉄片形が最もよく使用され

るが，直流と比較したいときには電流力計形を用い，微小電流には整流形・熱電形が有効である。②可聴周波には，整流形・熱電形を使用。③高周波では熱電形を用いる。

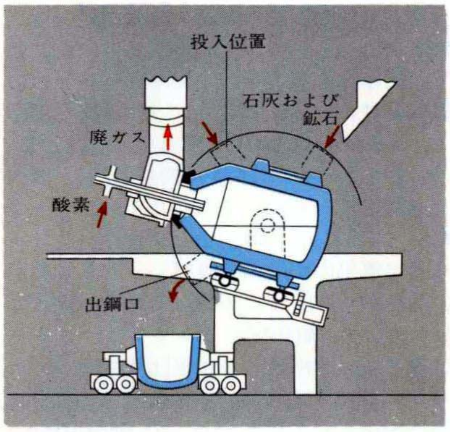
《導体電流》導体，たとえば送電線などに流れる電流を測定するには，交直流とも導体の周囲にできる磁界の変化を利用して測定する。特に交流の場合には整流器を内蔵した架線電流計などがある。《大電流》適当な分流を施して，前述の方法で測定する。〔堀内和夫〕

てんりゅうざんせっくつ【天龍山石窟】 中国山西省太原に近い天龍山につくられた仏教石窟。響堂山石窟と並んで，東魏(とうぎ)のころから開窟が始まり，唐代にまで及んだ。東西2群に分かれて20あまりの窟がある。岩質は細かな白色の砂岩で，窟内の仏像は中国仏教彫刻の中で特色ある一様式をつくっている。

てんりゅうじ【天龍寺】 京都市右京区嵯峨(さが)天龍寺にある臨済宗天龍寺派の大本山。足利尊氏(あしかがたかうじ)が吉野(よしの)に崩御された後醍醐(ごだいご)天皇の菩提(ぼだい)を弔うために建立(こんりゅう)を思い立ち，後嵯峨・亀山(かめやま)・後醍醐3天皇にゆかりのある亀山御所の地を選んで工事に着手した。しかし，造営資金の不足もあって工事がはかどらず，そのためにいわゆる天龍寺船*を元に派遣し，その利益を寺の造営費にあてたという。1343年(興国4・康永2)仏殿が完成，続けて諸伽藍(がらん)の落成をみ，その翌翌年に尊氏・直義(ただよし)の臨席のもとに開山に夢窓疎石*(そせき)を迎え，落慶供養を行なった。創建以来しばしば火災に見舞われ，応仁(おうにん)の乱*でまったく焼亡し，桃山・江戸時代に再興をみたが，惜しくもまた焼失した。現在，かつて五山の第1位にあった往時の伽藍の姿をしのぶよすがもないが，方丈背後の庭園は国師の作庭と伝えられ，史跡・特別名勝に指定されて名園の名にはじない。〔永井信一〕

てんりゅうじぶね【天龍寺船】 1341年(興国2・暦応4)足利尊氏*(あしかがたかうじ)が中国の元*に派遣した幕府公許の貿易船。尊氏は後醍醐(ごだいご)天皇*の冥福(めいふく)を祈るための天龍寺*を建てるについて，その造営の資金を得るために元に貿易船を派遣した。天龍寺船についての政務は弟の直義(ただよし)によって執行され，綱司には博多(はかた)の豪商至本が任ぜられた。至本は貿易の損益にかかわらず，帰朝後必ず銭5,000貫を天龍寺に納めることを約束した。幕府は銭納の代償として航海中天龍寺船の防備にあたった。先例に建長寺船*などがある。〔高崎徳次〕

てんりょう【天領】 江戸幕府の直轄領。御料所・幕領ともいう。幕府の年貢(ねんぐ)徴収地で，その経済的基盤をなすものであった。徳川氏は関ケ原の役後，諸大名の改易・転封を行ない，これに伴って天領の増加を図り，幕藩体制*の確立した元禄(げんろく)年間(1688〜1703)には四百万石，1732年(享保17)には四百五十一万石に達し，その後漸減したが，だいたい四百万石以上は維持していた。なおこのうちには諸藩に預けて管理させた預地(あずけち)が2割あった。江戸時代全国の総石高は約三千万石で，天領はその13〜15%を占めており，全国68か国のうち47国に分布し，枢要な地には奉行*(ぶぎょう)を置き，そのほかは郡代*・代官*を置いて支配させ，勘定奉行*が統轄していた。また，天領の農民は幕府の権威を頼んで私領の農民に対して優越感をいだき，その貢租も私領より比較的軽かった。〔岡山泰四〕



転　炉　30tカルドー転炉の構造

でんりょく【電力】 電流のなしうる機械的・熱的・化学的な仕事率。電気エネルギーの毎秒あたりに移動または変換する量ともいうことができる。単位はワット〔W〕。二つの端子をもつ電気回路に電圧v(V)をかけて電流i(A)が流れ込むとき，その電気回路の中には$p=v\cdot i$(W)の電力が伝達されることになる。電圧・電流が時間t秒の関数ならば，電力p(W)もtで変動するので，これを瞬時電力という。たとえば，正弦波交流電圧

$$v(t)=V_m\sin\omega t$$

に対して，電流も正弦波交流

$$i(t)=I_m\sin(\omega t-\varphi)$$

(加えられた電圧V_mや電気回路の性質によって，定数I_m，φが適当に決まる)

となるが，このとき瞬時電力$p(t)$は

$$p(t)=V_mI_m\sin\omega t\cdot\sin(\omega t-\varphi)$$
$$=\frac{1}{2}V_mI_m(\cos\varphi-\cos\varphi\cos 2\omega t-\sin\varphi\sin 2\omega t)$$

となる。これを正弦波の1周期$T=2\pi/\omega$(秒)について平均したものを平均電力といい，

$$P_a=\frac{1}{T}\int_0^T p(t)\,dt=\frac{1}{2}V_mI_m\cos\varphi$$

となる。これが実際に電気回路内で消費された毎秒あたりの電気エネルギーとなることから，この電気回路の消費電力または有効電力ともいわれる。また，上記の$p(t)$の第3項の最大値

$$P_r=\frac{1}{2}V_mI_m\sin\varphi$$

を無効電力とよび，単位をバール〔Var〕で表わす。有効電力から$\cos\varphi$を除いた部分$\frac{1}{2}V_mI_m$を特に皮相電力とよび，単位にボルト・アンペア〔VA〕を用いることにしている。これは実際の電力ではないが，電気機器で許容される電力の大きさの程度を示す量としてよく使用されている。〔堀内和夫〕

でんりょくけい【電力計】 電気装置や回路の電力(W)の測定に用いられる計器で代表的なものとして電流力計がある。これは，負荷電流を通じた固定コイルと可動コイルの間に働く力を利用して電力を測定するものである。ほかに身近な例として，一般家庭の消費電力量を示すのに積算電力計があるが，これは電力量(ワット時)をはかるもので本来の電力計ではない。

てんれいもんだい【典礼問題】 17〜18世紀，中国におけるカトリック教布教に際して発生した論争。焦点は中国人信者が祖先崇拝・孔子崇拝などの伝統的儀礼に参加することを許容するかどうかという点にあった。妥協的態度をとるイエズス会に対し，ドミニコ派などはこれを非難して教皇に提訴し，教皇は1645年，前者を非とした。イエズス会は1700年康熙帝(こうきてい)の上諭を得てその主張の論拠としたが，1704年教皇クレメンス11世が妥協的処置禁止の勅令を発布したので，康熙帝は激怒し否認派の伝道を厳禁した。〔大谷敏夫〕

てんろ【転炉】 鉄鋼精練において銑鉄から鋼をつくる製鋼炉の一種。外側は鉄皮で包まれ，内部は耐火れんがで築造されたとっくり形をしており，左右でささえられ傾倒できるようになっている。1856年イギリスのベッセマーの発明による。内壁にケイ石質耐火物(酸性)を用いた転炉による製鋼法を酸性転炉法またはベッセマー法といい，鋼中のケイ素を熱源とするが，脱リン・脱硫ができない。裏張り材料に焼石ドロマイト(塩基性)を用いた転炉による製鋼法を塩基性転炉法またはトーマス法という。いずれも溶銑を受注して底部から高圧の空気を吹き込み，空気中の酸素によって溶鉄中の炭素・ケイ素・マンガンなどを酸化し精練を行なう。ほかに鋼浴の表面に高圧の純酸素を吹きつけて精練する純酸素転炉，鋳鋼用に使われる横吹き転炉，炉体が円周方向に毎分5〜30回転できるカルドー転炉，横型円筒形でゆるやかに回転できるロータ一炉などがある。炉の大きさは1回に精練できる溶鋼のトン数で表わし，製鋼用底吹き転炉で20〜40t，上吹き転炉で50〜100tが標準である。おもな装入原料が溶銑であるため，多量の溶銑の供給を受けられる溶鉱炉をもった銑鋼一貫工場でないと使用しにくい。〔草川隆次〕

てんろうせい【天狼星】 ⇨シリウス

てんろれきてい【天路歴程】 バンヤン*の小説。第1部(1678)と第2部(1684)からなる寓意(ぐうい)物語。夢の巡礼の旅物語という形式をとり，第1部では，敬虔(けいけん)

な巡礼クリスチャンが，滅亡の都をのがれて天の都に至る過程を，第2部ではクリスチャンの妻子たちがたどる道中を描く。全編にわたって聖書の自由自在な援用があって，作者の宗教体験の投影が見られ，また，簡潔で力強い文体によって多くの人々に読まれるように配慮している。〔五十嵐一〕

でんわ【電話】 音声を電流の変化に変えて導線または電磁波によって遠方に送り，これを再び音声にもどして相互に通信する手段。一般に，電話機部分・電話線路部分・電話交換機部分の三つで構成され，不特定多数の加入者の中から希望する相手を選択して通信できるのが特色である。

【電話の沿革】1887年(明治20)アメリカから渡来した電話機の実験が実を結び，1890年12月26日初の電話交換業務が東京～横浜間で始まった。交換方式は最初の磁石式から，1903年京都局で採用された共電式，さらに関東大震災の被害を契機に東京における自動式の採用(1926)と逐次発達した。電話加入者は開業当初には197人だったものが，1943年(昭和18)には戦前最高の108万人と増加し，第2次世界大戦終結時に54万人と半減したが，1952年の電信電話公社発足以後急激に増設され，1971年3月末には1,517万人の加入をみた。また市外通話は，1899年東京～大阪間の長距離開通，1927年東京～大阪間でのダイヤル市外通話実施，1956年東京と近郊5都市間ダイヤル市外通話開始，1965年東京と各県庁所在地間ダイヤル即時化完成などの歩みを経て現在に至っている。なお無線電話は，1912年逓信省のTYK式無線電話が発明実用化されたのが世界最初で，その後1934年に国際電話のはじまりとして東京～マニラ間無線電話が開通，1946年には東京～サンフランシスコ間が開通した。現在，国際通話は国際電信電話株式会社が受け持っている。

【電話線路】電話の音声電流を遠方に伝達するための回線で，通信コストを割安にするため1対の回線でなるべく多数の通信を伝える多重化の努力がなされてきた。大別して，市内線路と市外線路とがある。市内線路は，電話局内の交換機から個々の電話機まで必ず1対ずつの線で連結され，交換機―配線盤―地下ケーブル―架空ケーブル―電柱上の端子箱―引き込み線―保安器―屋内線―電話機と接続される。同一市内に複数の電話局がある場合は，各局間は市内中継線で結ばれている。市外線路は，全国の各電話局をネットしており，特に長距離市外線路は伝送ロスに耐える必要があるため，戦前は1934年開発された無装荷ケーブルが主役をつとめたが，現在ではマイクロウェーブ*，同軸ケーブル(1本で2,700通話路がとれる。1956年東京～横浜間ではじめて開通)，海底ケーブルが使われており，将来は静止衛星による国内通信も可能になろう。

【電話の種類】加入電話・公衆電話*・専用電話に分けられる。加入電話とは，電話局との間に加入契約を結んで電話サービスの提供を受ける権利(電話加入権)を得た電話で，単独電話(事務用・住宅用)，共同電話(普通共同・秘話式共同・簡易共同)，構内交換電話(Private Branch Exchangeを略してPBXとよばれ，会社・官庁・ホテルなどで専用の交換機を設備し，それに個別の内線番号をもった多数の電話機が接続されたもの)，集団電話(セントレックス*または事業所集団電話・地域集団電話)があり，ほかに臨時加入電話(30日以内の短期間に限り使用される電話のことで，選挙事務所・記念式場など特殊な用途に利用される)もある。一般加入電話の架設順位は，①国や公益性の高い団体の事務所，②繁忙度の高い電話，③事務用2年以上または住宅用3年以上待たされたもの，④一般商店・事務所など，⑤一般住宅用，⑥利用度のごく低い電話をもっている場合，などの6ランクとなっており，単独電話1加入の設備費用は加入料300円，設備料50,000円であるが，このほか電話局ごとに定められた電信電話債券*の引き受け(最低20,000円，最高15万円)が必要である。

【付属機器・特殊装置】電話をより便利に使用するために用意されているおもなものは次のとおりである。①付属電話機：1本の局線に本電話機と別に1～2台の電話機を接続して必要箇所に配置するもので，ブランチ式・切り替え式・共通接続式の3種がある。②差し込み電話：1台あたり10か所までのコンセントが設備でき，1台の電話機を自由に持ち運べるようにしたもの。③ボタン電話：電話機のダイヤルと別に設備されたボタンを操作し，外線の選択，社内への転送，内線通話などが交換手なしにできる。④プッシュホン：電話機のダイヤル部分を押しボタン式に変えてダイヤル速度を速めるとともに，相手の電話番号を2けたの短縮番号に変換して記憶させる短縮ダイヤルも使える新型の電話機。電話計算サービス実施区域では，プッシュホンを使ったデータ通信*も利用することができる。⑤代表電話：2本以上の電話番号をもつところで，それらを連続番号にして最初の番号(代表番号)にダイヤルすればあいている回線のどれかに自動的にかかるしくみで，話し中を少なくするのに役だつ。⑥通話中着信：話し中の電話あてに第三者から着信があった場合，その電話に特別の信号がはいって別な相手から着信があることを知らせ，受け手側が電話機のフックスイッチを軽く押すと，まえの電話を切らずにあとからかかった電話に応答できるしくみ。このサービスを受ければ安心して長話ができる。1970年東京・大阪・名古屋などの一部で開始された。

これらのほか，家庭向けボタン電話であるホームテレホン，騒音用電話機，受付電話，カラー電話機など多くの機器があるほか，留守番電話・自動ダイヤル装置などの市販品もある。

【電話帳】50音別・職業別の2種類があり，年1回電話加入者に無料で配布される。1年の発行部数は全国で3,000万部をこえる。掲載される名義は加入者が決めるが，希望によって氏名と商店などを2か所以上に掲載することもできる。また，電話帳掲載名義については電話局で番号案内も行なう。

【テレビ電話】電話の対話者どうしが，声だけでなく映像を見ながら通話できる電話で，対面通話のほか書画などの表示も行なえる。特定箇所間の専用回線を介した工業用テレビと違い，電話と同様任意の相手加入者を電話交換網を介して呼べるのが特色。テレビ電話の研究は1927年ごろから始められ，わが国でも1935年に逓信省が公開実験をした。世界最初のテレビ電話サービスは1970年7月アメリカ合衆国のピッツバーグで電話機25台が加入して実施され，次いで1971年4月シカゴでも開始された。わが国でも1973年ごろからサービスを開始し，1978年に加入数30,000程度と計画されているが，本格的普及にはまだ期間がかかるとの見方も強い。

【電話の将来】日本の電話の歴史は〈申し込んでもつかない電話〉の歴史ともいわれ，1971年現在の未架設数も300万近い状態であるが，電信電話公社は1970年9月に〈電信電話拡充7か年計画〉を作成，1978年3月までの7年間で一般加入電話1,970万を増設して，全国的に申し込んだらすぐ架設される状態にする方向を決めた。約8兆5,000億円の設備投資額で実施されるこの長期計画が実現すれば，一般加入電話総数は3,480万(1971年1,510万)，住宅電話比率64%(同44%)，市内ダイヤル化率99.8%(同96.1%)など，電話サービスは一段と改善され，また伝言電話・自動料金即知・自動車電話などのサービス多様化も推進される。なお，1977年現在での電話普及率(人口100人あたり電話台数)を世界各国と比べると，1位アメリカ合衆国71.8台，2位スウェーデン68.9台，3位スイス63.8台，以下カナダ60.4台(4位)，イギリス39.4台(9位)，西ドイツ34.4台などに対し日本は40.8台で8位となっており，今後の普及の伸びに寄せる期待は大きい。〔滝　誠〕

でんわき【電話機】 電話ネットワークの末端に接続して電話通話を行なうための機械で，送話部・受話部・ダイヤル部の3部分がセットになっている装置。送話部で音声が電流の強弱に変えられ，受話部では送られてきた電流が音声振動に再生される。ダイヤル部は，番号数字を回すとその数字ごとに異なる回数の直流断続を行ない，電話交換機*に信号を送って目的の相手に接続する働きをする。これには電話交換方式に

よって，磁石式(磁石発電機のハンドルを回して局を呼び出し，相手につないでもらう)，共電式(通話電源が局から供給されており，受話器を上げると交換手が出て相手をつなぐ)および自動式(通話者がダイヤルを回して直接に相手電話を呼び出す)の3種類がある。

電話機は1876年(明治9)アメリカ合衆国のベルが発明し，ボストン～ケンブリッジ間3kmで通話に成功した。このベル電話機は，翌1877年に日本に2台渡来した。わが国で電話業務が始まった1890年に使われたのはイギリスから輸入したガワーベル電話機であったが，その後1896年にはデルビル形とソリッドバック形の二つが登場し，1903年京都での共電式交換開始時にはグースネック形が採用された。国産電話機としては，1878年工部省で磁石式2個が完成し，1909年には国産初の共電式電話機である2号共電式電話機が誕生した。現在広く使われているのは4号形電話機(1950年実用化)と600形電話機(1962年採用)の2機種。

プッシュホンは，電話機のダイヤル部を，従来の回転ダイヤルが直流の断続による信号送出方式であったものから押しボタンダイヤルを押して音声周波の合成による発振信号を送り出す方式に改めたもので，これにより電話機の使用範囲はコンピューター操作など通話以外の用途にまで広がった。プッシュホンはクロスバー交換機と連動して用いられるのが特徴である。

このほか，家庭用ボタン電話であるホームテレホン，プッシュホンをより小形軽量化したミニテレホン，携帯用電話機ワイヤレステレホンなど，新機種が次々に開発・実用化されつつある。〔滝　誠〕



電話機　①国産電話機第1号(1878)　②ガワーベル電話機(1890)　③甲号デルビル磁石式卓上電話機(1897)　④600形電話機(1962)　⑤プッシュホン(1970)　⑥携帯用電話機ワイヤレステレホン

でんわこうかんき【電話交換機】　個々の電話機からの発信を発信者の指定する相手方の電話機に接続するために，電話局内に設置される装置。ただしPBXやセントレックス*などの交換機は利用者の建物内に置かれる。電話交換機は不特定多数の電話機相互の通話ルートを正確・経済的に構成するのに欠かせないもので，1878年1月アメリカのニューヘブン市で8回線の電話機を収容した磁石式交換機が使われたのが最初。通話の接続・切断を人手で行なう手動交換機と，機械で自動的に行なう自動交換機とがある。

〔手動交換機〕磁石式と共電式とがあり，小都市の電話局や会社のPBXなどに使われている。①磁石式交換機：電話機にセットされた磁石式交流発電機のハンドルを手で回して交換機に信号電流を送り，交換手が応答して接続を行ない，通話終了後再度信号を送れば切断される。通話用電流は加入者宅内に設けた電池からとる。1890年(明治23)日本での電話交換開始以来使用され，現在も小町村にみられる。②共電式交換機：磁石式が加入者個々に通話電池をもっているのに対し，通話電池を電話局内に共通的に設置した方式。電話の送受話器をとると交換台のランプがつき，交換手が相手番号を聞いて接続する。1889年アメリカで発明，わが国では1903年京都ではじめて用いられ，磁石式に比べ交換作業・保守の両面で有利なため，自動交換機登場まで主として大都市の電話交換に使用された。現在は地方都市の一部電話局やPBXで使われている。

〔自動交換機〕手動交換機で交換手が行なっていた動作を自動化したもの。現在ステップバイステップ方式・クロスバー方式があり，近く電子交換機も実用化されよう。①ステップバイステップ方式：発信加入者が一数字ダイヤルするごとに，セレクターとよばれる装置が動き，次の段階のセレクターをつかまえるという動作を続けて相手加入者に接続する方式で，直接制御方式ともいう。1889年アメリカ人ストロージャにより発明され，1926年(大正15)東京中央電話局京橋分局にわが国初の自動交換機としてこの方式が採用された。構成が単純で増設も容易なため広く普及し，現在ストロージャ(A)形・シーメンスハルスケ(H)形が多く使われている。ただ，短縮ダイヤルなどの新しいサービスには機能上適していない。②クロスバー方式：加入者のダイヤル信号を一度レジスターという装置の中に蓄積し，全部のダイヤルがすんだのちに発信者と受信者を結ぶ通話回路を接続する方式で，蓄積制御方式とよばれるものの一。1933年スウェーデンでつくられ，わが国では1955年(昭和30)高崎電話局にはじめて採用された。小形で，動作時間が速い，故障が少ない，通話中の雑音がない，局間の回線ふさがりの場合自動的に別ルートを捜し接続するなどの利点があり，電話増設とダイヤル市外通話網拡大が進むにつれ急速に普及した。③電子交換機：従来の自動交換機の継電器・回転形スイッチ・クロスバースイッチなど電気機械部品に代わってトランジスター*・ダイオード・フェライトなどの電子部品が構成する自動交換機で，いわば電話交換用大形コンピューターといえよう。電子部品を用いているので，交換機の動作高速化・小形軽量化・耐用期間長期化・信頼性向上などが期待されるとともに，プログラムを記憶させることにより転送・話し中呼び返し・会議電話・留守番サービスなどの新しいサービスも可能となろう。電子交換機の研究は1940年わが国が世界ではじめて着手したものであるが，第2次世界大戦で中断した。現在電電公社を中心に研究が進行し1972年ごろ実用化される予定。〔滝　誠〕

と

と【斗】 ⇨升

と【戸】 建具の一種。建物の窓・出入り口などに設けて，これらの開口部をふさぐもので，風雨・寒冷を防ぎ，通風調節・採光，盗難防止などの目的をもつ。種類はきわめて多く，開閉方式により掛け戸・つり戸・揚げ戸・開き戸・引き戸・自在戸・回転戸・折りたたみ戸などに分かれ，また，大きさ・設置場所などによる呼称があり，構造様式によっては，唐戸(からど)・桟戸(さんど)・フラッシュ戸・ガラス戸・よろい戸・舞良戸(まいらど)などある。なお特殊な用途のものでは防火戸・遮音戸(しゃおんど)・断熱戸などがある。材質は，機能に応じて木・鋼・アルミニウムなどを用いる。〔神山幸弘〕

ど【度】

①角の単位。直角の90分の１。円周を360等分したとき，円周上のとなりあった２点をそれぞれ円の中心に結んでできる角の大きさ。記号は数字の肩に〈°〉をつけて表わす。

② →温度

③ →音程

ドアチェック [door check] 出入り口のわくとドアの上わくとの間に取り付け，開いたドアが自動的に閉鎖する装置。ドアクローザーともいう。ドアが開く際には強力なばねが圧縮されて閉ざす力をたくわえ，それが静かに締まるように油を満たしたシリンダー内を動くピストンがばねの力を制御する。なおこのほかに床の中に埋め込まれるフロアーヒンジもある。

とあみ【投網】 漁具の一。円錐(えんすい)形の網で，魚群をかぶせて捕獲する方式のもの。海岸近くの浅海や河川・湖沼で使用され，漁獲対象はボラ・アジ・アユ・フナなど。網の頂部に手綱がついていて，船上または陸上から網を投げる。網のすそに鉛の重い沈子が結びつけられ，早急に魚群を包囲できるようになっている。

とい【刀伊】 平安中期北九州沿岸に来襲した女真*のこと。1019年(寛仁３)３月末刀伊は突如50余隻の船で日本海を南下し，高麗*(こうらい)を侵したうえ，さらに進んで壱岐(いき)・対馬(つしま)(ともに長崎県)を襲い，さらに博多(はかた)(福岡県)に迫ったが，大宰権帥(だざいごんのそち)藤原隆家*(たかいえ)は在地武士を督励してこれを撃退した。刀伊は転じて肥前(佐賀・長崎県)の沿岸を荒し，来襲以来半月にしてわが国からのがれ去った。

といおんせん【土肥温泉】 静岡県田方郡土肥町にあり，泉温52～60℃，泉質は石膏泉(せっこうせん)で，神経痛・湿疹(しっしん)にきくといわれる。1577年(天正５)に金銀発掘の目的で試掘中に発見され，以後金山奉行(ぶぎょう)の所在地として栄えた。交通は伊豆(いず)箱根鉄道修善寺駅からバスの便がある。

といし【砥石】 広義には金属用の切削や研削用のものも含まれるが，一般には木工用・家庭用の刃物の手とぎに用いるものをいう。天然砥石と人造砥石に分けられる。①天然砥石：仕上げの段階によって荒砥・中砥・仕上げ砥(合わせ砥)に分けられる。荒砥には主として砂岩が，中砥には安山岩・凝灰岩・石英粗面岩・粘板岩が，仕上げ砥にはケイ質粘板岩が用いられる。ときに，砥石の色によって青砥・白砥といったり，産地名を冠して大村砥・天草(あまくさ)砥(以上荒砥)・浄慶寺砥(中砥)・名倉砥・本山砥(以上仕上げ砥)などともよばれる。また，アメリカ合衆国やカナダに産する油砥石は細密でかたく，メスや烏口(からすぐち)をとぐのに用いる。②人造砥石：コランダム・カーボランダム・アランダムなどの砥粒に種々の結合剤を加えたもので，均質なものができ，研摩速度も速い。いまのところ需要度は天然砥石に比べて低いが，今後種類もますますふえ，普及するものと思われる。

〔船越　泉〕

ドイツ [Germany, Deutschland] ヨーロッパの中北部に位置し，1949年以来，ドイツ連邦共和国(西ドイツ)とドイツ民主共和国(東ドイツ)に分かれている。面積は両ドイツを合わせて35万5,744km²。

ドイツの名で最初に国家ができたのは，プロイセンがフランスに戦勝してベルサイユでドイツ帝国の建国を宣言した1870年である。このときの帝国の領土は今日の両ドイツの領域よりも広く，アルザス・ロレーヌ地方も含んでいた。1919年のベルサイユ条約によって帝国の領域は縮小したが，ヒトラー時代に再び広げられ，オーストリアとチェコスロバキアのズデーテンを吸収した。隣接地域を占領した第２次世界大戦中の1941～1943年には，ソ連を除くヨーロッパで最も広い領域をもつに至ったが，1945年の敗戦で1871年以来最も狭くなり，オーデル川・ナイセ川の線がポーランドとの国境となった。ドイツ人は国境の変動に対してきわめて寛容であるが，それはドイツ人にとって国境は，いずれも民族的・歴史的に合理的なものではなかったことによるものであろう。

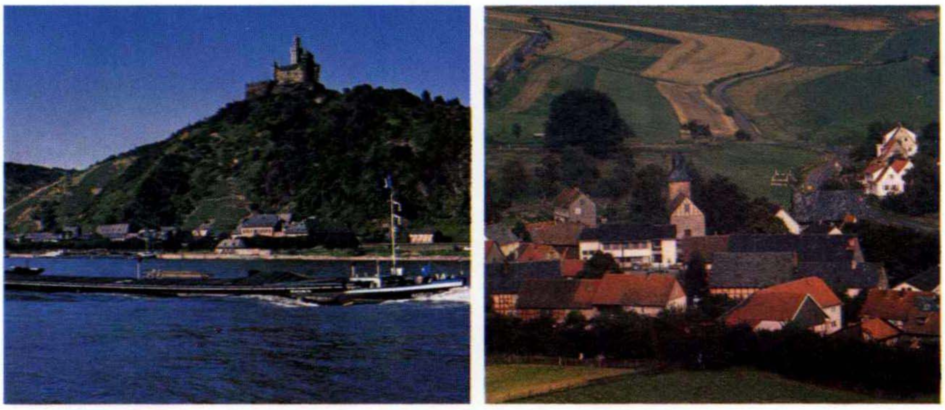
【自然】〈地形〉 ドイツの地形は，北部の北ドイツ平野，中部の複雑なヘルシニア高原，中南部のネッカー-マイン盆地，南部のアルプス山地に大別できる。北ドイツ平野は，ベルギーとの国境に近いアーヘンからジュッセルドルフ・ハノーバー・ライプチヒを経てナイセ川沿岸のゲルリッツに至る線を境として，北方へゆるやかに傾斜し，海抜250ｍをこえるところはない。南部は主として古いヘルシニア紀の地層からなるほとんどが250ｍ以上の高原で，中には700ｍをこえるところもある。ライン川およびドナウ川上流の支流が流れる東西方向の断層谷の南部は，オーストリアとの国境を走るアルプスの一部とその北方に続くアルプス前地とよばれる台地帯である。

ヘルシニア高原と北ドイツ平野の接触帯は，中部ヨーロッパで最も肥沃(ひよく)な土壌(どじょう)に恵まれたところで，重要な生産地域になっている。ドイツの大部分はかつて氷河時代に氷河におおわれたが，最終氷期の氷床はヘルシニア高原南部には及んでいない。北ドイツ平野のエルベ川東部やバルト海沿岸は最も新しい土壌と水系が形成されたところで，ヘルシニア高原にすでに人類が居住していた時代でもまだ氷河の下にあった。最終氷期の氷河はバルト海沿岸に数列の氷堆石丘(ひょうたいせききゅう)を残した。この地方は砂質の低平な平野で，氷堆石丘のため〈さすらいの水系〉とよばれる無数の小湖沼群と迷路のように蛇行(だこう)する河川からなる複雑な排水系統をもつ。一方，



300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市
10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　首府　油田

ドイツ



ドイツ　(左)ライン川中流。川をさかのぼる貨物船と，河畔の丘の上に立つ古城。丘陵の傾斜地は耕されてぶどう畑になっている　(右)赤い屋根の農家と教会の塔が見える南ドイツ，ミュンヘン郊外の村落。耕地や草地はよく手入れされ，村道も舗装されている

北ドイツ平野のエルベ川西部は，氷河の影響が少ない。北海沿岸は土地が低いうえになお沈下して，マーシェンとよばれる干拓地がつくられている。エルベ川とウェーザー川は南東〜北西方向に流れ，その流れの方向は古ヘルシニア紀の地層の走向にしたがい，また後退する氷河前面の縁に沿ったものと考えられている。かつての氷河帯とヘルシニア層が接触する地域のやや高いところでは，氷堆石丘の砂丘から風によって運ばれてきた肥沃なレス(黄土)におおわれている。黒い腐植土を多く含んだレスに早くから注目した人類は，ベルデ地方とよばれるハノーバーからライプチヒに至るこの地域にドイツで最も集約的な農業を発展させた。レス帯の幅は狭いが，ハノーバー付近では降雨にも恵まれ，農業が盛んである。

アーヘン〜ハノーバー〜ライプチヒ線南部のヘルシニア高原は北ドイツ平野と南ドイツのアルプス前地との中間にあたり，ドイツで最も地形の複雑なところである。かつては厚い森林におおわれ，開拓が進むまでは通行さえも困難で，ラテン人の諸国家はドイツ人の南下から守られてきた。またこの地方の多くの山地は〈森〉を意味するワルトの名でよばれ，どこも森林が厚くおおっていた。今日では減少したとはいえ，なお山地は森におおわれている。ヘルシニア高原は中生代の複雑な造山運動によって生じた幾多の地塊山脈からなるが，その方向はハノーバー付近のハルツ山地の北端を頂点とする北東〜南西，北西〜南東に走る二つの褶曲(しゅうきょく)山系を形成している。北西〜南東の山系にはチューリンゲン-ワルト・ボヘミア-ワルトが含まれる。北東〜南西の山系は幅が広く，ライン川に沿ういくつかの高原とシュワルツ-ワルトなどがあり，またチューリンゲン-ワルトと直交するレーン山地もこれに含まれる。この両ヘルシニア山系とアルプス前地で囲まれた内側はネッカー川・マイン川などの流れる盆地になっており，ところどころに結晶性岩石(主として片岩・片麻岩・カコウ岩など)の孤立地塊があり，盆地床には沖積層(ちゅうせきそう)が堆積し，かたい石灰岩平原が南東方へ傾斜するケスタ*を形成している。ヘルシニア高原南方の地形は，アルプスが形成されたときの第三紀褶曲運動と同じ運動によって生じたもので，孤立地塊は不規則に隆起し，同時に断層運動によって生じた主要な谷が形成されている。盆地床の石灰岩平原は，地殻(ちかく)運動によって南東方に緩傾斜するドイツ-ユラ高地の一大ケスタを生じた。ドイツの南部は，アルプスの一部と巨大な扇状地状高原からなるアルプス前地である。ここに堆積した沖積地の大部分は氷河物質であり，東西方向の終堆石丘を南北に切って流れる諸河川は扇状地の縁辺を流れてドイツ-ユラ高地やボヘミア-ワルトの間に谷をうがっている。アルプス山脈は第三紀の大褶曲運動によって生じた若い山脈である。

地形はあるときには経済や文化のうえに大きな役割を果たし，肥沃な土壌と交通便利な河谷は住民を引きつける。この点で特に重要なのはライン川の谷である。これは南北方向に走る一大地溝帯(ちこうたい)で，幅約30km，長さはバーゼルからマインツまでの約300kmに及び，谷底は肥沃な沖積地で埋められ，その豊かな土地とともに古くからヨーロッパの南北を結ぶ交通路としても重要な役割を果たしてきた。

〈気候〉 気候は海洋性と大陸性の中間にある。西部と北部は海洋の影響を受けて冬は暖かく，夏も暑くない。降雨は年じゅう平均してあるが，霧の発生が多く湿度が高い。東部と南部はまだ海洋の影響があって冬は温暖だが乾燥し，降雨は夏に多い。雨は西から東へ移動し，山地の西斜面は一般に湿潤である。7月の月平均気温はハンブルク15.9℃，ベルリン17.0℃，1月のそれは同地で−1.4℃，−2.7℃である。夏は低気圧が通過し，特に北西部に多く，冬は雪が降り，特に南東部と東部の山麓(さんろく)に多い。最も快適なのは夏で，特に南部と南東部は太陽の光をいっぱいに受ける。霧は冬に多く，特に北ドイツ平野では太陽を見ない日が多い。川の結氷は東部と南東部の交通にかなりの支障を与えている。

〈土壌・植生〉 土壌は一般に肥沃であるが，北ドイツ平野の氷堆石の堆積地をはじめとする砂質・砂礫(されき)質のところや表土の乏しい丘陵地では，耕地として利用されず牧場となっている。最も肥沃なのは南部の河谷に堆積する沖積地と北ドイツ平野のレスである。ドイツ固有の植物はカシ・トネリコ・ニレなどで，ブナは石灰岩質土壌のところに多く，ポプラとヤナギは河谷の湿地に多い。針葉樹は中央高地や山地に多く，シュワルツ-ワルト(黒い森の意)はマツやモミが多く，樹木の黒ずんだ色が地名になっている。

〔住民〕 ドイツ人は他のヨーロッパ人と同じく混血によって形成された。かつてナチスと少数の人類学者はドイツ人を北方系の純血種であるといっていたが，今日では一般に北方系と南方系のアルプス地方人との混血であることが認められている。ほかに北東方のバルト系と南東方のデナリック系の血も一部に含まれている。5世紀の初め，デンマークやスウェーデンおよびエルベ川・オーデル川流域の西バルト地方からの移住民が中部ヨーロッパに定着し，同時にラテン人・スラブ人とも混血していった。中世には増加した人口の一部は東方へ移動してスラブ人と混血し，特に東ドイツでは姓名や生活様式から融合のあとを認めることができる。〔大崎　晃〕

〔歴史〕 現在のドイツの地域には，BC800年ごろまでに中部・南部にケルト人，北辺にゲルマン人が居住していたが，やがてゲルマン人がケルト人を追い，BC200年ごろまでには今日のドイツ北方を占領した。ローマ時代にはゲルマニアとよばれ，ガリア北方を占領したローマ帝国と抗争を続けた。2世紀後半から3世紀にかけて，ローマとゲルマンの接触は活発化し，先進社会ローマの影響を受け，数多く分かれていた部族国家がしだいに結集してゴート族・フランク族・ザクセン族などの大部族が生まれた。民族運動の行なわれた5世紀には，フランク族が現在のフランス北方にフランク王国*を建設し，9世紀初めごろまでにドイツ北方の諸部族をも征服した。カール1世*(大帝)の没後，843年のベルダン条約*で東フランク王国が成立し，国家としてのドイツの歴史は，ここから始まる。東フランク王国は，870年のメルセン条約*で西方に領域を広げ，カロリング朝断絶後は911年から選挙王制となった。このころノルマン人やマジャール人の侵入と戦った北方貴族の勢力が増大し，その中からザクセン公ハインリヒ1世が国王に選出されるや，バイエルン・シュワーベン太公などを征服し，国内の分




ドイツ　(左)14世紀半ばのハンブルク。ドイツ皇帝権がむしろ衰微を示していた中世後期，ドイツ諸都市はハンザ同盟を結んで広大な北ヨーロッパの交易を支配した　(右)ナポレオン3世を破ってドイツを統一し，1871年ベルサイユ宮殿でドイツ皇帝に即位するウィルヘルム1世。その前に立つのはビスマルク

立傾向を克服するとともに，西部や東部の国境の防備を強化した。ここから二つのことが生まれた。一つはイタリア政策*であり，他はマルクの設置である。前者は神聖ローマ帝国*を貫く特色となり，後者はマジャール人・ノルマン人・スラブ人の侵入を防ぐための辺境領であるが，その中からオーストリアやプロイセンが生まれてくる。

【神聖ローマ帝国】イタリアを征服したオットー1世*(大帝)は，962年教皇から帝冠を受け，神聖ローマ帝国(962～1806)が成立した。オットー大帝は，聖俗の要職に親族をつけて家父長的・封建的中央集権化を図った。また，国内統一の手段として教会や修道院の力を借り，司教や修道院長の任命権を背景として彼らを国王直属の官僚とした。しかし貴族領主の分立化の傾向は止めがたく，教会も封建領主的権力をもって皇帝に対抗し，教皇と皇帝の対立は聖職叙任権闘争*に発展し，カノッサの屈辱*事件が起こったが，1122年のウォルムス協約*でいちおうの妥協をみた。これはドイツの現状維持を認めたもので，一見神聖ローマ皇帝の勝利のようにみえるが，実際は既得権をもつ貴族諸侯の現状が維持され，ドイツの分立化・王権弱化はいっそう強まった。13世紀後半の大空位時代*はこうして生まれた。14世紀後半の金印勅書*によって7人の大諸侯による皇帝選挙の方式が生み出され，分立主義に拍車をかけた。1438年以降オーストリアのハプスブルク家による皇帝位の世襲が行なわれ，やや国内のまとまりをみせたが，結局は分立の傾向をおさえることはできなかった。この間，12世紀から15世紀にかけて，エルベ川以東のスラブ人居住地への侵略・植民が活発に行なわれた。この過程でオーストリアやプロイセンの台頭，そして貨幣経済の進展による都市の発達がみられた。皇帝は諸侯や教会との対抗上，11世紀末より自由都市を承認したので，ハンザ同盟*都市のような有力な都市が各地に繁栄した。ハプスブルク家の帝権は，このような諸侯・諸都市を完全に把握(はあく)する力がなく，いわゆる領邦国家を生み出した。16世紀のルターの宗教改革*は，分立化を複雑化し激化させた。さらにドイツ農民戦争*の結果，農民の地位はいっそう悪化した。三十年戦争*は各国の介入で国際的戦争となり，戦場となったドイツは荒廃した。特に主要戦場となったドイツ西南部の打撃はひどく，以後，ドイツの中心は南東のオーストリア，北東のプロイセンに移った。

【オーストリアとプロイセン】長い歴史をもつオーストリアと新興のプロイセンは，ともに啓蒙(けいもう)的絶対君主による〈上からの改革〉を伴う富国強兵政策をとった。プロイセンに端的にみられるように，ユンカー(地主貴族)勢力を主体とする絶対主義政策の下で農民の地位はみじめなものであった。フリードリヒ2世*(大王)のとき，プロイセンはオーストリアを王位継承戦争と七年戦争*で破り，鉱工業資源の豊かなシュレジエン(シレジア)地方を獲得し，新興国家としてオーストリアをしのぐほどになった。政治的に領邦国家の形は続いたが，文化面でゲーテ・ベートーベンにみられる古典文化の最盛期を現出した。

フランス革命とナポレオンの時代には，ドイツはフランス軍に占領され，古いドイツは解体された。1806年，ナポレオンはライン連邦を結成させ，神聖ローマ帝国は崩壊した。この敗北がプロイセンを刺激した。フィヒテの《ドイツ国民に告ぐ》にみられるように，民族統一による国家再建の意気は高く，シュタイン・ハルデンベルクによるプロイセン改革*は，絶対主義国家プロイセンを近代的な自由主義国家に変えた。しかし，ナポレオン没落後もドイツの統一は実現せず，ウィーン会議*の結果，約300の小領邦が39か国に整理されてドイツ連邦*となった。1848年の三月革命*は市民階級が未成熟で失敗に終わり，その結果開かれたフランクフルト国民議会では，国家統一について大ドイツ主義*と小ドイツ主義*とが対立した。プロイセンのビスマルク*はプロイセン-オーストリア戦争*・プロイセン-フランス戦争*を勝ち抜き，1871年小ドイツ主義によるドイツ統一を成し遂げ，プロイセン国王を皇帝とするドイツ帝国(1871～1918)が成立した。

【ドイツ帝国】ドイツ帝国は連邦制国家であるが，すべての面でプロイセンが優越し，ユンカー階級と資本家階級の妥協のうえに成立していた。宰相ビスマルクは，国内的にはイギリス流の自由貿易に反対し，F.リストを中心とする保護貿易政策で後進国ドイツの工業化を促進し，外交的には勢力均衡策をとって国力の充実を図った。この結果，1878年のベルリン会議にみられるように，ドイツの国際的地位は上昇した。1890年ビスマルクが引退し，皇帝ウィルヘルム2世が親政するや，その帝国主義政策は先進国の疑惑と警戒心を高め，3B政策*と3C政策*の対立ではイギリスと，モロッコ事件ではフランスとの関係が悪化するなど，ヨーロッパは緊張し，ついに第1次世界大戦が勃発(ぼっぱつ)した。資源の乏しいドイツはドイツ革命を経て1918年無条件降伏し，ワイマール共和国(1918～1933)が成立した。議会では社会民主党*が中心勢力となり，民主的なワイマール憲法が制定されたが，土地改革は不徹底で軍部・官僚組織の中にユンカー勢力が温存された。

【ヒトラーの登場】敗戦後の天文学的インフレーションで右翼政党と共産党が台頭した。1929年以来の世界恐慌はこの傾向を強め，民衆の革命化，共産党の進出，外国への不信感から，ドイツの支配階級は右傾化し，1933年1月ヒトラーに政権をゆだね，ナチスの独裁体制による第三帝国*(1934～1945)が確立した。ワイマール憲法を事実上停止し，労働運動強圧・言論統制・経済統制・教育統制，極端な民族主義による再軍備を進めた。イギリス・フランスの対ドイツ宥和(ゆうわ)政策に乗じ侵略を進め，1939年9月ポーランドに侵入。ここに第2次世界大戦に突入した。1940年日独伊(い)三国同盟が結ばれ，一時はヒトラーの世界制覇(せいは)の夢が実現するかにみえたが，アメリカの参戦，ソ連の反攻などにより，ファシズム陣営は連合軍のまえに崩壊，1945年5月ドイツは無条件降伏し，イギリス・アメリカ・フランス・ソ連によって分割占領された。

【戦後のドイツ】1948年実施のマーシャル-プラン以降，東西両陣営の足並みはそろわず〈冷たい戦争〉となり，特に1948年6月の西ドイツだけの通貨改革はソ連を刺激し，ベルリン封鎖の原因となり，対立が激化した。1949年，西陣営の占領地域にドイツ連邦共和国が成立し，それに対しソ連占領地域にドイツ民主共和国が成立した。西側はドイツを共産主義の防波堤とするため，NATOへの参加を認め，アメリカ資本の援



ドイツ民主共和国の国旗　1955年制定。1919年に制定されたワイマール共和国の国旗である黒・赤・金(黄)の3色旗が第2次世界大戦後復活し，両ドイツの国旗になった。その後きびしい東西対立の中で労働者を表わすハンマー，農民を表わす麦の穂，知識階級を表わすコンパスを配した





ドイツ民主共和国　(左)エルベ川とドレスデン。ドレスデンは〈ドイツのフィレンツェ〉とよばれるように，学問・美術・建築などの文化遺産が多い　(右)ライプチヒの商工会議所の建物。ライプチヒは南部の工業都市で，春秋2回開かれる国際見本市で知られる

助下で工業が急速に発展し，〈奇跡の復興〉とよばれるほどとなった。これに対し東側は，ソ連の指導下に反ナチス化政策と土地改革が徹底的に行なわれ，ドイツの反動主義・軍国主義の根であったユンカー勢力は打倒された。しかし急激な重工業化は，工業生産を戦前以上の水準に発展させながらも，1953年のベルリン暴動などを生んだ。この反省から生活水準向上の政策もとられ，今日では西ドイツと並ぶ工業国となった。二つに分かたれたドイツを統一する民族の願望は強く，最近は話し合いの気運も生まれてはいるが，複雑な国際環境と，異なった国内体制をもつため，前途は多難と思われる。〔高山高雄〕

ドイツ(民主共和国)［German Democratic Republic, Deutsche Demokratische Republik］ドイツ東部を占める共和国。一般に東ドイツとよばれる。ドイツ連邦共和国(西ドイツ)との境界は1945年以前のドイツのメクレンブルク・アンハルト・チューリンゲン・ザクセン諸州の西の境と一致している。1945年以後に設けられたメクレンブルク・ブランデンブルク・ザクセン-アンハルト・ザクセン・チューリンゲンの5州は1952年に廃止され，新たにロストック・シュベリン・ノイブランデンブルク・ポツダム・フランクフルト・コトブス・マグデブルク・ハレ・エルフルト・ゲラ・ズール・ドレスデン・ライプチヒ・カールマルクスシュタットの14地区と東ベルリン特別区が行政区として設けられた。面積10万8,178km²，人口1,675万(1979年推)。首都東ベルリン。

〔産業〕 1945年のドイツ分割時には，全ドイツの石炭の0.3％，鉄鉱石1.2％，銑鉄生産能力7.7％，鋼鉄生産能力8.3％をもつにすぎなかった。おもな海港と造船所も西ドイツに所属した。そのうえ，西ドイツに比べて戦争による破壊も大きく，その復興は国内資源の最大利用，計画経済，国民の努力によって進められた。1956年以来民間企業と国営企業との合同企業(半国営企業)の過程を経て，1967年には国民総生産額の87％，工業生産額の85％，農業生産額の92％，商業取扱額の88％が国営および協同組合企業によるものになった。**〈農業〉** 農業用地は636万ヘクタールで国土面積の60％，そのうち耕地は469万ヘクタールであるが，国民総生産に占める農業生産比は10％にすぎない。おもな農作物の自給率は肉類86％，バター79％，牛乳100％，卵98％，砂糖100％，ジャガイモ100％，野菜94％，穀物78％である。北ドイツ平野の東部は大地主経営の農場が多いところであったが，1945年以後100ヘクタール以上をもつ地主の所有地は没収されて一部は公有になり，他は小農民に分配された。農業の集団経営化は1960年から急速に推し進められ，このとき西ドイツへの亡命者を出したりして，一時は生産が減少した。農業経営の形には国営農場・農業協同組合(LPG)農場・自作農があり，LPGが全農地の86％(1967)を占めている。バルト海沿岸地方は氷堆石丘(ひょうたいせききゅう)を除いては土壌(どじょう)が肥沃(ひよく)で，小麦・牧草をつくり乳牛を飼っている。北ドイツ平野の大部分はライ麦・ジャガイモをつくり，ブタを飼育している。ハルツ山脈の北を東方に延び，ライプチヒ付近で最も広がるレス地帯は，大麦・小麦をつくるとともにテンサイ糖の産地であり，チューリンゲン盆地も同様である。**〈鉱業〉** 1945年のドイツの分割で工業原料，特にルール地方の石炭を失った東ドイツでは，石炭埋蔵はきわめて少なく，近年中央ドイツ炭田が急速に開発されているが自給率は20％にすぎない。しかし，かっ炭は豊富で，2億2,500万t(1960)を産し，重要な動力資源になっており火力発電に用いられている。発電にはほとんどかっ炭が使われており，また冶金(やきん)とガス製造にも利用されている。鉄鉱石の小鉱山はチューリンゲン地方・ハルツ山脈北部地方にあって稼行(かこう)している。ハルツ山脈のマンスフィールト銅山は50年前の開発である。チューリンゲン地方ではウラニウムが採掘されている。カリウムと岩塩の生産は，古い産地シュタスフルトからハルツ山脈南部とウェラ鉱床に移っている。またハルツ山脈南部では石膏(せっこう)を産する。石油はソ連のウラル地方からポーランド国境近くのシュウェートまでパイプラインによって送られている。**〈工業〉** 社会主義諸国の中ではソ連に次ぐ工業国で，国民所得の68％は工業によっている。第2次世界大戦前の主要工業地域は大戦後西ドイツに含まれたため，東ドイツでは工業化に努力し，1950～1954年の第1次5か年計画では原材料重工業に，1955～1959年の第2次5か年計画では国内資源の最高度利用に，1959～1965年の7か年計画では高度の技術を要する消費財・機械・電気設備・輸送機械・化学工業部門に重点が置かれた。工業生産額は，1936年を100として，1960年の指数比は324となった。企業の95％以上は，1960年代初期までに国営ないしは協同組合企業に改組された。工業生産の部門比では化学工業15.9％，食品工業13.5％，電子工業8.8％，繊維工業8.5％，自動車工業7.4％，一般機械工業6.4％，金属工業6.2％，重機械工業6.0％である。化学工業はかっ炭・カリ塩などの原料に恵まれ，合成ゴム・化学肥料・プラスチック・化学繊維を生産し，総生産額は世界7位を占める。金属工業では，第2次世界大戦終了時の製鉄用溶鉱炉はわずか2基にすぎなかったのが，アイゼンヒュッテンシュタットなどにコンビナートが建設され，ブランデンブルク地方などに圧延工場がつくられて，1967年の金属工業総生産額は1950年当時の5倍に達した。しかし鉄鉱石は54％しか自給できず，不足分をソ連・ポーランドから輸入し，鋼材生産の自給率も72％で，不足分を輸入に仰いでいる。機械工業では造船・発電設

備・トラクター・コンバインなどを生産してその総生産額は，1950年を100とした1967年の指数比は563となった。一時東ドイツでは主要機械品目の90％を生産し，生産品の30％が輸出されていたが，利潤方式の導入による専門化の結果，品目を減らして工作機械・電気機器・電子機器・精密機械・光学機器に重点を置くようになった。消費財軽工業の生産は一時停滞したが，再び増産の傾向にあり，1967年には1950年当時の3倍に達し，織物・絹レース・楽器・ガラス・陶磁器・文具・家具・メリヤスなどを生産し，輸出も多い。

〔交通〕最も重要なのは鉄道で，貨物の80％，旅客の70％を運んでいる。1962年の国鉄総延長は16,090km²で，ヨーロッパの鉄道網ではベルギーに次ぐ高い密度である。1958年には東ベルリンからロストック港まで幹線直通線が通じた。主要幹線の始発はすべて東ベルリンのオストバンノーフ駅で，西ベルリンを迂回(うかい)して走っている。第2次世界大戦前，中部ドイツの電化路線はベルリンとハレ・ライプチヒ・マグデブルクをつなぐものだけであったが，今日では電化区間は700kmに達している。道路交通は，西ドイツより自家用車が少ないため重要性は小さい。ベルリンは1945年以前には自動車専用道路のアウトバーンの中心であり，今日ベルリンを囲んだ新たな環状道路が建設されている。一方，内陸水路ではエルベ川とオーデル川が重要であるが，水量と冬季の結氷などの点で西ドイツのライン川には及ばない。北ドイツ平野をミッテルラント運河と可航河川のエルベ川が通じ，エルベ-ハベル運河は1,000トンのはしけをベルリンへ運んでおり，またベルリンから750トンのはしけが二つの運河によってオーデル川に通じている。重要な内陸港には東ベルリン・マグデブルク・フランクフルトなどがある。外洋航路では，1960年当時ウィスマル港が最大の取扱高を上げていたが，今日ではその後建設されたロストック港が最大の海港になりつつある。商船保有数は100万トン(1967)である。

〔経済〕〈金融〉銀行制度は他の社会主義国と同じく国立中央銀行が発券業務・金融・財政資金の取り扱い，金・外貨の統制管理，対外支払いの決済，貿易の清算勘定などをつかさどっている。ほかに外国為替(かわせ)を扱うドイツ通商銀行，公団・国営企業に長期投資をするドイツ投資銀行，個人・協同組合に融資をするドイツ農民銀行，一般市民の預・貯金と貸し出しを扱う貯蓄銀行がある。通貨はドイツマルク(東ドイツマルク)で，交換比率は西ドイツのドイツマルクと公式には等価であるが，2国間だけの清算単位には，かつては1西ドイツマルクに対して1.28東ドイツマルクの換算率が適用されていた。なお公定ルートでは1米ドルは2.22東ドイツマルクである。〈貿易〉東ドイツの貿易は，高い水準の工業生産力を有していながら原料の不足と国内市場の狭さから，外国貿易に強く依存している。輸出品は機械(輸送機械・工作機械・電気製品・精密機械・光学機械)・化学工業製品(化学肥料・農薬・プラスチック・フィルム・薬品)，絹レース・メリヤスである。石油・綿花・天然ゴム・ボーキサイトはまったく輸入にたより，石炭は需要の75％を，鉄鉱石は65％，銑鉄は25％，鋼材は40％，穀物は25％を輸入している。貿易額は社会主義諸国ではソ連に次ぎ，国民1人あたりの貿易額ではチェコスロバキアに次ぐ。貿易額は1950～1967年間に7.5倍に増大した。コメコン*に参加し，貿易相手国は社会主義諸国が75％(1967)を占める。特にソ連の占める割合が多く，毎年40％を下らないが，次いでチェコスロバキア・ポーランド・ハンガリー・ブルガリアの順となっている。なお，西ドイツとの貿易は総額の8％(1967)である。ほかの資本主義諸国ではイギリスとオランダが多い。貿易収支は1962年と1966年を除いて毎年黒字で，貿易の伸び率はコメコン諸国中で最も高い。東ドイツはコメコン内でかっ炭・工作機械・船舶・輸送機械・精密機械・光学機械・カリ・化学製品の業種を分担している。

〔社会〕国民の所得はしだいに上昇しており，特に工業部門の伸びが著しい。同時に賃金の上昇と物価の低下によって実質賃金は年間10～11％ずつ上昇し，1960年代の初期には生活水準もかなりよくなったが，西ドイツの水準までにはまだかなりの開きがある。社会保障の面では，医療・年金・災害保障のための保険基金として加入者から所得の10％，企業からもこれと同額を強制的に徴収している。医療費・薬剤費はすべて無料で，また学生・年金生活者は無償で社会保障の恩典を受けている。宗教は，社会主義国家のため国教はなく，信教の自由は憲法で保障されている。最も多いのはルーテル福音教会派のプロテスタントで，次いでローマンカトリックである。またユダヤ人のためのユダヤ教会も大都市に建てられている。教育では，3歳から6歳までの就学前教育は市立か工場立の保育学校で行なわれる。義務教育は7歳から始まり，10年制の一般教育総合技術高等学校で行なわれる。さらに上級の教育機関へ進学を希望するものは第8年終了後，4年制の拡大中間学校へ入学し，アビツール試験(中等学校卒業資格で同時に大学入学者資格)の準備をする。拡大中間学校には理数系・現代語・古典語の3コースがある。アビツール試験合格者は1年の職業訓練課程を経て大学へ進学する。また10年制一般教育総合技術高等学校卒業者のためには種々の分野の3年制の特別職業学校がある。高等教育機関には，ライプチヒ・ロストック・イエナ・ハレ・ベルリン(フンボルト大学)などに総合大学があるほか，多数の技術大学・単科大学・研究所がある。

〔政治〕〈政治機構〉政体はドイツ社会主義統一党(SED)が指導する人民民主主義国家で，1949年発効の人民民主主義に基づく憲法があり，1960年の改正で国家評議会を設置して大統領制を廃止した。国家評議会は人民議会によって選ばれた任期4年の24人の代表で構成され，各層の代表からなり，議長は国家元首と首相にあたる。議会は人民議会の一院制で，国政の基本を決定し，行政を監督し，最高裁判所の判事を任免する。人民議会の議員は統一名簿の中から選ぶ直接選挙による400人と，ほかに議決権をもたない東ベルリンの議員66人から構成され，任期は4年である。内閣にあたるものは人民議会の委任による閣僚会議で，36人の閣僚によって構成される。地方行政は，1952年に州権の強かった従来の地方行政のあり方を改変して中央集権制をとり，州に代わって14の地区と東ベルリン特別区を置いた。地方議会と，地方議会が任命する地方評議会とが地方行政をつかさどり，地方議会はまた地方裁判所の判事を任免する。政党には，ドイツ社会主義統一党(SED)のほかにドイツ民主主義農民党(DBD)，ドイツキリスト教民主同盟(CDUD)，ドイツ自由主義民主党(LDPD)，ドイツ国民民主党(NDPD)がある。SEDの下には人民戦線が結成されており，人民議会と閣僚会議で25年間多数を占めている。

〈外交・防衛〉基本方針は全社会主義国との国交樹立と，西ドイツをはじめとする資本主義諸国の東ドイツ不承認政策に対抗して国家的存立を国際的に確立することにある。西ドイツのNATO*加盟に対抗して，1955年ワルシャワ条約機構に加入し，1956年人民軍を創設した。1960年の国防法で義務兵役制が敷かれ，総兵力は15万と推定され，またワルシャワ条約に基づき35万と推定されるソ連軍が駐留している。〔大崎　晃〕

ドイツ(連邦共和国)［German Federal Republic, Bundesrepublik Deutschland］ドイツ西部を占める連邦制の立憲共和国で，通称は西ドイツ。面積は西ベルリンを含めて24万8,577km²，人口6,134万(1979年推)。首都ボン。それぞれ独自の議会と政府をもつ西ベルリンと10州(バイエルン・ニーダーザクセン・バーデン-ヴィルテンベルク・ノルトライン-ウェストファーレン・ヘッセン・ラインラント-ファルツ・シュレスウィヒ-ホルスタイン・ザール・ハンブルク・ブレーメン)からなり，その上に連邦議会・政府がある。

〔産業〕〈農業〉第2次世界大戦前のドイツは食料需要の80％を自給し，熱帯作物と若干の穀物・バター・チーズなどを輸入していたにすぎなかった。しかし今日の西ドイツは，畜産物の自給率は高いが一般農産物の自給は不十分である。元来農産物は東ド

イツに多く産し，大戦前は東ドイツは全ドイツの穀物の60％，ジャガイモの57％，ビートの67％を生産していたので，ドイツの分裂は西ドイツの農産物自給を困難にした。しかも1939～1960年の人口増加は30％にも及んでいる。工業国である西ドイツでは，国民経済に占める農業の割合は年々下降していき，国民総生産の8％(1960)，農業従事者人口も絶対数・比率ともに減少して有業人口の14％(1960)となった。家族労働を中心とした小農経営が支配的で，農業従事者の85％が兼業者である。西ドイツでは農業経営のための最低必要面積は25エーカーとみられるが，これまでは経営面積25エーカー以下の農家が総数の4分の3を占めていた。小経営農家はヘッセン・ノルトライン-ウェストファーレン・バイエルン州を除く南ドイツに多く，細かくくぎられた土地が分散している。農業所得の低さは農民を工業労働にかり出し，その結果耕作がおろそかになった。第2次世界大戦後，トラクター・コンバイン・ハーベスター・搾乳器が普及し，特に1953年以来政府は〈グリーン-プラン〉で協同経営化政策を進め，古い農村の外に新しい農場を建設した。かくて経営面積25エーカー以下の小農家は減少し，今日では25～50エーカーが標準になった。西ドイツには二つの永年牧草地のベルトがある。一つは北海沿岸で，温暖な冬と豊かな降雨によって家畜飼育が盛んで，シュレスウィヒ-ホルスタイン州は最も専門化されたデンマーク型酪農地域となっている。もう一つは南部のアルプス斜面で酪製品，特にチーズの生産で知られる。しかし西ドイツの大部分は低い丘陵，中央高地内の盆地，北ドイツ平野の南部を中心に有畜農業を営み，特に大規模な農場は北ドイツ平野にあってジャガイモとビートを大量に産し，レス地帯と中央高地北部には機械化された大農場が多く，労働者を雇用して小麦・大麦・ビートを生産している。小農家はルール地方の大都市周辺で野菜・ミルクを生産し，ライン川とその支流の河谷では市場向けのブドウ・果実・タバコをつくる。全国に1,600万頭を数えるブタは脱脂乳とジャガイモを飼料にしている。〈林業〉森林は国土の29％をおおい，この国の木材の60％を自給している。原生林は今日ではほとんどなくなったが，森林の半分は針葉樹で整然と植林され，特にアルプスとシュワルツ-ワルトは重要である。バイエルン州とバーデン-ウィルテンベルク州は全国森林面積の45％を占め，生長の早い針葉樹を植えて高い生産をあげている。森林は注意深く管理され，重要なものは国有林になっている。〈水産業〉ヨーロッパ第3位の漁獲高(1960)をあげ，北海で漁獲されるニシンが最も主要で，エムデンが基地である。アイスランド近海，バレンツ海でのトロール漁業はブレーメルハーフェンを基地にして，ほかにクークスハーフェン・キールなども漁港の設備をもっている。〈鉱業〉西ドイツは鉱産資源，特に石炭については，東西両ドイツの分割において有利な立場を占めた。この国は西ヨーロッパ諸国に対する石炭供給の大部分を占め，ドイツ・フランス・ベルギー・オランダに広がる炭田の90％を領内に有している。特に西ドイツ炭田の80％はルール地方に集中し，ここだけで35万人(1960)の労働者をかかえ，1億1,500万t(1960)を生産する。ほかにザール炭田が1,600万t，アーヘン炭田が800万tを生産する。しかし1957年以来需要の減少によって閉鎖炭坑も少なくない。コークスの生産は5,500万t(1960)で，その65％はルールから産する。石炭1,800万tとコークス1,100万tはEC*諸国などへ輸出するが，また700万tの石炭をアメリカ合衆国から輸入している。かっ炭の産額は9,600万t(1960)で，バイエルン・ヘッセン・ニーダーザクセン州などで産し，深さ50～300m程度の露天掘りで効率がよい。水分が多く熱量が低いので市場性は乏しいが，火力発電用に広く利用されている。石油の生産は少なく550万t(1960)程度で，85％はニーダーザクセン州から産する。ほかにシュレスウィヒ-ホルスタイン州やバイエルン州にも若干の油田がある。ハンブルクの周辺には石油製精所が建設され，ライン-ルール地方の製油所にはパイプラインでオランダのロッテルダムから原油が送られてくる。天然ガス田はライン断層谷のダルムシュタットとバイエルン州にある。都市ガス・工業用ガスはルール地方のコークス炉で生産され，全国に送られている。火力発電はかっ炭(38％)，普通炭のうち低品質のもの(44％)をもとにしている。水力発電はアルプス前地方およびバーゼルからボーデン湖にかけての地方が中心である。余分の電力は近隣諸国へ輸出しているが，バランスを保つ意味から若干量の水力電気をオーストリアから輸入している。鉄鉱石では生産が乏しく，近年北ドイツ平野からかなりの鉱脈が発見されているが，主として輸入にたよっている。1960年の鉄鉱石の輸入量は国内産出量の3倍に達し，この傾向は鋼鉄生産の増加とともにますます強くなっている。その輸入国はフランスとスウェーデンである。非鉄金属も生産は少なく，岩塩のみがハルツ山脈周辺，ヘッセン州・バーデン-ウィルテンベルク州でとれ，近隣諸国へ輸出している。〈工業〉第2次世界大戦後の復興は急速で，1950年に早くも戦前段階に回復し，1960年には，1936年を100とする指数比で284(ザール・西ベルリンを除く)になった。1950年代は特にプラスチック・電気機器・化学・輸送機械・石油精製の新工業部門がめざましく成長し，続いて鉄鋼・ゴム・ガラス・エンジン製造業も伸びた。繊維・食品加工業は生産額は増加しているが成長率は大きくなく，相対的に停滞ぎみである。鉄鋼業の中心はノルトライン-ウェストファーレン州で，全国の高炉の80％，銑鉄と粗鋼生産の70％を占める。次いでザール州が銑鉄・粗鋼生産の13％を占める。西ドイツの高炉数は138基(1967)で西ヨーロッパ諸国中第1位，従業員数42万人，売上高223億マルク，輸出比率24％(1966)である。従来，国内原料に依存していたが，近年国際競争の激化と海外原料の効用が注目され，企業合併が進んで，クルップ・アウグスト-テッセン・マンネスマン・ヘッシュ・クレックナーなどの企業グループの形成と系列化が進んでいる。伝統的な機械工業は従業員数104万，売上高399億マルク，輸出比率40％(1967)で金属加工機械・事務機械・食品加工機械・製紙印刷機械・土木機械・繊維機械などが有名である。原料である鉄鋼企業の系列下にある企業も多く，クルップ・マンネスマンなどは多くの系列企業をもっており，国際競争の激化とともにこの傾向は今後も持続しそうである。化学工業は従業員数53万人，売上高383億マルク，輸出比率31％(1967)で，中心はノルトライン-ウェストファーレン・ハンブルク・ヘッセン・バイエルン・バーデン-ウィルテンベルク州である。年々生産増加を続け，特にプラスチック・合成ゴム・医薬品部門の伸びが著しい。化学工業も企業集中の傾向が顕著で，AEG-ファルベン系3社，バイエル・バーデッシェ-アニリン-ウント-ソーダ・ヘキスト各社の市場占有率が高い。自動車工業は関連部門を含めて従業員数48万人，売上高254億マルク，輸出比率40％(1967)で，輸出比率は年々高くなり，おもな輸出先はアメリカ合衆国・スウェーデン・ベルギー・デンマークである。企業では有名なフォルクスワーゲンをはじめとしてオペル・ダイムラー-ベンツがあり，ここでも国際競争の激化から3社を中心に企業合同や技術提携が進んでいる。電気機器工業は従業員数89万人，売上高322億マルク，



ドイツ連邦共和国の国旗　1949年制定。第1次世界大戦後のワイマール共和国国旗が第2次世界大戦後に復活したもの。もともとは1832年全ドイツの統一を叫ぶ学生運動の旗で，黒は人権抑圧の悲惨さとそれに対する抵抗，赤は自由へのあこがれ，金は真理こそ最上のものという理想を表わしている





ドイツ連邦共和国 （左）ハノーバーにある自動車工場〈フォルクスワーゲン〉。フォルクスワーゲンは西ドイツ最大〈売上高〉の大企業である

（右）ルール工業地帯。エッセンの工場地帯と住宅群。ルール地方には人口数十万のいくつかの工業都市が並び，この国の心臓部となっている

輸出比率45％（1967）で，中心地はバーデン-ウィルテンベルク・バイエルン・ノルトライン-ウェストファーレン州である。主要企業に弱電のジーメンス・AEG-テレフンケン・ボッシュ・ブラウプンクト，重電のジーメンス，AEG-テレフンケンなどがある。造船業は従業員数80,000，売上高30億マルク，輸出比率32％（1967）で生産高は横ばいであるが，輸出比率の減少が問題である。精密機械工業は第２次世界大戦前から強い競争力を有し，世界最高の品質と信用を博してきた。従業員数15万人，売上高41億マルク，輸出比率36％（1967）である。光学機器は1964～1967年間に30％の生産の増加をみ，写真機は輸出比率55％（1964）に達するが，強敵は日本である。ほかに優秀な時計がある。

〔交通〕最も重要な交通機関は鉄道で，全国の旅客・貨物輸送の半分に達している。次いで河川・運河の内陸水路が貨物輸送上重要で，道路交通は３番めである。航空路は西ベルリンとの旅客・貨物交通にとって欠かすことができない。ドイツ連邦鉄道は総延長30,128km（1966）で，ほかに2,070kmの貨物専用線をもつが，1958年以来支線のいくつかは経営上の理由から廃止された。私鉄の総延長は4,560km（1966）である。鉄道網はイギリスよりも密であるが，ベルギーや東ドイツには及ばない。第２次世界大戦前のドイツ交通の主要な流れは東西方向の交通にあって，ルール-ライン地方とベルリン・ザクセン・シュレジエン地方とを結んでいた。大戦後の流れは南北方向の交通に変わってルール-ライン地方とバイエルン地方とを結ぶようになった。また大貿易港ハンブルクもエルベ川を通じて南部への門戸の役割を果たしている。1949年の自動車台数は1938年当時の190万台を若干上回るにすぎなかったが，1967年には1,374万5,000台となった。自動車道路はナチス時代からのアウトバーンとよばれる専用道路網があり，ベルリンを起点に全国に放射していたが，ハンブルクとブレーメンの両港を結んでいないなどの欠点があったため，1957年から政府は改造に着手し，また南北方向の系統に改めて，バーゼル～フランクフルト～ハノーバー～ハンブルクを結ぶ線を整備してルール地方の交通を緩和し，港と後背地とを結んだ。また近隣諸国とも連絡し，ヨーロッパハイウエーにつながっている。一方，内陸水路はおもに長距離の貨物輸送に利用され，石炭・鉄鉱石・原油・穀物などが輸送されている。ライン川は，河口からルール地方までは4,000トンのはしけ，そこからバーゼルまでは2,000トンのはしけが航行できる。可航河川はそれぞれ運河によって結ばれており，フランスにも通じている。交通路としてのライン川の最も重要な部分は，ルール地方とオランダのロッテルダム港の間で，鉄鉱石・原油・金属類・石炭などが運ばれる。ルール地方のジュイスブルクはヨーロッパ最大の内陸水路港である。第２次世界大戦後，ライン川の支流は電力操作による閘門(こうもん)を整備し，1,000トンのはしけの航行を可能にした。この結果ネッカー川は1958年にシュツットガルトまで，マイン川は1959年にシュワインフルトまで航行ができるようになり，さらにかつてのルードウィー運河を改修してライン川とドナウ川を結んだ。またライン川とニーダーザクセン州との間にはミッテルラント運河が東西に走り，ドルトムント-エムス運河はエムデンからウェーザー川を通ってブレーメンに至る通路を開いている。第２次世界大戦後，西ドイツの商船は総トン数わずか12万トンであった。しかし1960年には大戦前の全ドイツの状態に回復し，1966年には602万トンになった。ドイツの分割は港の後背地に影響を与え，特にハンブルクはエルベ川流域の後背地を失った。西ドイツ第２の港はブレーメンであるが，第３位は近年ウィルヘルムスハーフェンがエムデンから奪った。ウィルヘルムスハーフェンへの入港船はほとんどがタンカーで，パイプラインがここからライン-ルール地方に通じている。航空交通ではルフトハンザ会社が1955年に再開した。

〔経済〕〈貿易〉ドイツはつねに世界貿易額では大きな比率を占め，1913年には13％，1928年には9.1％であった。第２次世界大戦後の数年間はドイツの生産は質量ともに下落し，貿易も著しく減少した。しかし西ドイツの輸出は，1950年代には大戦前の段階を越えて急速に伸びた。輸出額の増加率は1938年を100として，1955年に224，1960年に403，1967年に739となった。国土の減少にもかかわらず西ドイツの世界貿易の市場占有率は，1910年代初期のそれに迫っている。第２次世界大戦前のドイツは貿易依存度が10％で比較的低かったが，大戦後の西ドイツは15％に達し，貿易の動向が景気の変動にきわめて敏感である。貿易収支のバランスは，マルク切り上げのあった1962年と過剰景気の1965年を除いては出超で，国際収支は健全であるが，反面景気過熱によるインフレを注意しなければならず，政府はたびたび景気の調節を図っている。輸出先は工業諸国の比率が高く，特に輸出総額に占めるEC諸国の比率は37％（1967）である。アメリカ合衆国は９％，東ドイツを除く共産圏輸出は目下４％にすぎない。輸出品目では重化学工業製品，特に鉄鋼・自動車・電気機器が多い。輸入国は工業諸国が70％を占め，特にEC諸国が30％，アメリカ合衆国は12％である。品目別では工業諸国間の分業の進展とともに，衣類・電気機器・精密機器などの完成品の輸入がふえつつあるが，なお果実・野菜などの食料品・原油・鉄鉱石などの鉱産原料が多い。〈財政・金融〉第２次世界大戦前にみられた財政の中央集権化は大戦後改められて，現在では連邦財政と州市町村などの地方財政の二本建てになっている。連邦財政のおもな

支出は社会保障と防衛関係費で，それぞれ全支出額の30％(1966)を占めている。地方財政は公安・教育・文化・住宅関係の支出が多い。銀行制度もかつてはドイツ帝国銀行による中央集権的機構であったが，第2次世界大戦後は数度の改組を経て各州にそれぞれ中央銀行を置き，その上に各州中央銀行が出資するドイツ連邦銀行を設け，本店はフランクフルト-アム-マインにある。商業銀行もかつての中央集権化傾向は薄れたが，合併して依然昔の名称を用い，フランクフルト-アム-マインに本店を置くものが多く，各地に支店網を巡らしている。貨幣は1948年以来ドイツ帝国マルクからドイツマルクに切り替えられてインフレーションを一掃し，西ドイツ復興の〈経済的奇跡〉をもたらした。外貨交換比率は4.17マルクが1米ドルであったものが，その後数次のマルク切り上げを行ない，1971年から3.22マルクが1米ドルとなった。**〈生活水準〉**第2次世界大戦前は，1人あたりの実質収入で比較した生活水準はヨーロッパの中でも上位にはあったが，イギリス・オランダ・デンマークには及ばなかった。1935年から敗戦まで国家の総経済活動はヨーロッパの他の諸国を上回っていたにもかかわらず，国民の生活水準がそれほど上がらなかったのは，経済活動の主力が兵器産業に向けられていたためである。1948年からの10年間は一般工業の復興と工業労働者の増加，失業者の消滅を図り，その結果個人消費も急速にふえて，1961年にはヨーロッパで最も国民所得の高いイギリスと肩を並べた。1966年の1人あたりの国民所得は1,574米ドルで資本主義諸国中8位である。実収賃金も1958年を100として1967年には194となった。労働時間は年間1人あたり1,924時間(1965)，週間40時間で週2日の休日が半ば制度化されている。

〔社会〕〈宗教〉1650年からプロテスタントとローマンカトリックの比率はほぼ一定を保ち，プロテスタントは低い出生率にかかわらず改宗者を含めて固定しつつある。1933年の宗派別人口は全ドイツでプロテスタント4,087万(62.7％)，カトリック2,117万(32.5％)，ユダヤ教50万(0.7％)であった。プロテスタントのルーテル派，改革派，自由教会派は1946年の世界教会会議でドイツ福音教会に結集している。地域別には北部の福音教会，南部，特にバイエルン州はカトリックが多く，社会・生活全般にわたって広範な活動を行なっている。**〈教育〉**教育は州の権限にゆだねられ，各州はそれぞれ独自の教育制度を制定しているが，近年は修学年限や成績評価など不合理な点もあるため徐々に統一される傾向にある。州政府はそれぞれ文部省を置いて教育事務をつかさどり，州が人件費を，市町村が物件費を分担する。義務教育は満6歳から18歳までであるが，内容は複雑である。児童はまず国民学校に入学して4年間を経たとき(10歳)に，テストと教師・両親・本人の意見によって将来の方向が決定される。高等学校(古代語ギムナジウム)に進んだ場合は修学年数8～9年で，卒業試験に合格すると大学入学資格が与えられる。また国民学校の2年間の移行過程を経て3年制ないし4年制の中間学校(実科学校ともいう)へ進むことや7年制の高等学校(現代語ギムナジウム)へ進学することもできる。中間学校に進んだ場合は6年で，卒業後は専門学校への道が開かれている。国民学校の高等科に引き続いて進んだ場合は合計8年の修学年数(ブレーメン・ハンブルク・シュレスウィヒ-ホルスタイン州では9年間)を経たのち，さらに18歳までは定時制の職業学校か全日制の職業専門学校で就学する義務がある。しかし，職業学校や職業専門学校を卒業してから労働者カレッジや夜間ギムナジウムの課程をとるならば大学に進むこともできる。社会階層が固定していることと国民の生活水準が高く，修学年数が短くても高い賃金が得られるため上級学校への進学率はかなり低い。国民学校には公立学校と宗派立学校があり，ブレーメン・ハンブルク・ヘッセン・ニーダーザクセンの各州と，西ベルリンでは公立学校が正規の型であるのに対して，バイエルン州では宗派立学校が正規の型である。男女共学は以前はほとんどなかったが，今日では西ベルリン・ハンブルク・ブレーメンなどの大都市では一般的になっている。大学は州によって経済的に保障されているが，〈学長章典〉によって自治を保障された法人である。西ベルリン(自由大学)・ボン・ケルン・ニュールンベルクなど18の主要都市に大学があり，ほかに技術総合大学が13ある。

〈社会保障〉社会保障制度は整っており，国民は国家による社会保険に必ず加入しなければならない。社会保険費は3分の1は加入者が，残りの3分の2は国家と雇用者が負担する。最も重要なのは年金保険で，法定年金・戦争犠牲者年金・災害年金・救済年金・恩給・個人的年金・社会年金などがある。次いで重要なのは健康保険で，所得が低い場合は加入が義務づけられており，加入者の家族を含めて全人口の87.4％(1965)が適用を受けている。病気の場合は最初の6週間は全額，その後は最高75％までが保険で支払われる。災害保険は医療・遺族支給があり，失業保険は52週間の給付が受けられる。その他2人以上の子どもをもつ家族に児童手当，住宅資金の無利子貸付，女性労働者の産前産後22週間の給与全額支給の休暇が保障されている。

〔政治〕〈政治機構〉政体は連邦共和国で，独自の国家的法権を有する西ベルリンと10州で構成される。国家元首は任期5年の大統領で，連邦議会議員とこれと同数の大統領選出のために選ばれた代表によって連邦大会議で選ばれる。大統領の下に連邦内閣があり，連邦首相がいる。憲法は1949年5月25日に制定された基本法によっており，東・西ドイツの統一までは正式の憲法を制定しないことにしている。連邦政府は20省からなり，連邦首相は連邦議会によって選ばれ大きな権限が与えられている。二院制の議会を有し，第1院の連邦議会は，国民の直接選挙と比例代表制選挙で選ばれる499人の議員および22人の西ベルリン議員からなるが，西ベルリン議員は表決権をもたない。第2院は連邦参議院で41人の議員からなり，やはり議決権をもたない4人の西ベルリン議員が加わる。連邦参議院は人口によって議席数が決められ，各州政府による任命で州を代表し，議長には各州の州首相の中から毎年互選される。また各州は州議会と州政府をもち，教育制度・文化政策をはじめ多くの主権を有している。おもな政党には，保守的なキリスト教民主同盟(CDU)とキリスト教社会同盟(CSU)，および革新的な社会民主党(SPD)，民族主義・自由主義的な自由民主党(FDP)がある。ほかに国家民主党(NPD)と共産党(DKP)があるが，まだ議席をもつには至っていない。**〈外交〉**外交政策の基調はヨーロッパ協力体制の樹立で，独仏協力と東欧外交を進めるとともに，ドイツ統一とヨーロッパの安全保障を最終の目的としている。対フランス外交は1958年発効のEEC*以来緊密化し，1963年の独仏協力に関する条約の調印によって両国400年にわたる抗争の歴史に終止符を打った。対ソ関係は1955年に外交関係を樹立し，対東ドイツ関係は1970年にようやく首相会談にこぎつけた。対ポーランド関係は1970年にオーデル-ナイセ線をポーランドの西の国境線として認め，西ドイツ-ポーランド条約を調印した。しかしドイツ統一問題は，ベルリン問題とともにまだ解決にはほど遠い状態にある。**〈防衛〉**東西冷戦の中から1954年10月，パリ条約で西ドイツの主権回復がNATO*への加盟を条件に認められた。1955年連邦防衛軍が発足し，1956年徴兵制が決まって陸海空軍の訓練部隊が創設された。総兵力46万6,000(1970)，国防予算203億5,000万マルク(1970)。NATOヨーロッパ軍に属し，国防相が作戦指揮の責任をもつが，作戦以外の防衛関係問題の調整は，連邦首相を議長とする国防会議があたる。〔大崎　晃〕

ドイツえいが　**【ドイツ映画】**　ドイツ映画の本格的な歴史は1908年から始まる。しかし，第1次世界大戦前のドイツ映画界は低調をきわめ，わずかにウェゲナーの《プラーグの大学生》《ゴーレム》が，活況下のドイツ演劇の影響下に生まれた佳作であった。第1次世界大戦が始まると，政府は国策映画を育てようとして映画政策に力を入れ，1918年には強力な民族資本を背景とする映画会社ウーファ(ウニフェルズム映画株式

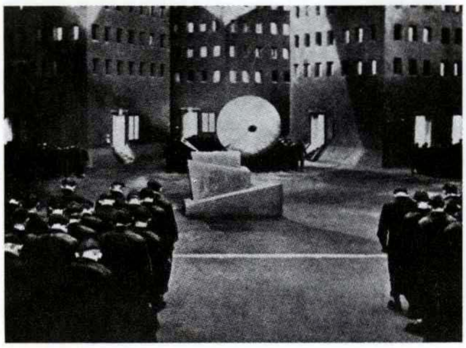
会社の略称)が誕生した。巨大なスタジオと近代的設備を誇るウーファは，演劇界から演出者・俳優・舞台装置家を導入し，同時に海外から有能な映画監督を招いた。こうした一連の映画政策によって，大戦前から美術界・演劇界を風靡(ふうび)していた表現主義*が導入されることになり，ドイツの戦後映画が開花した。ポマーがプロデュースし，マイヤーとヤノウィッツがシナリオを書き，ウィーネが監督した《カリガリ博士》(1919)は，表現主義の怪奇で病的で不安な表現が戦後ドイツ国民の逃避的心理傾向に呼応して大衆化し，その成功はその後のドイツ映画の傾向を決定した。ウーファは1925年ごろから表現主義映画を中心とする大作主義にはいり，映画を輸出するようにもなった。ラング*は《ニーベルゲン》2部作によってゲルマン民族の伝統をうたいあげ，《メトロポリス》によってドイツ的形式美を完成した。ルビッチは《パッション》《ファラオの恋》など歴史的素材による恋愛大作をつくった。そのほかムルナウ*の《最後の人》《ファウスト》やデュポンの《バリエテ》など，いずれも大胆な舞台装置や照明を用い，カメラを移動させ，大量のエキストラが登場する映画が多かった。このように，映画の諸要素が一つの集団的な規律のもとに統一されて物語の構造をささえること，これが黄金時代のドイツ映画の伝統的な特色となった。しかし，心理学者ケラカウァーの《カリガリからヒットラーへ》によれば，当時のドイツ映画のほとんどは，ドイツ中産階級の精神状態を反映するものであり，一方では左翼の政治的抱負に対抗しながら同時に上流階級の心的空虚を満たすナチ出現の予兆であった。

ドイツ映画の隆盛はアメリカ映画に脅威を与えるほどになったが，インフレに苦しむウーファはハリウッドに資金を仰ぎ，その代償として多くの映画監督やスターを送り出した。しかし，トーキー*の出現によってドイツ映画界はこの危機を克服し，1930年代初頭には，スタンバーグ*の《嘆きの天使》，ラングの《M》，シャレルの《会議は踊る》，ザーガンの《制服の処女》，フォルストの《未完成交響楽》など多くの世界的名作を生み出した。同時にまた，ナチの台頭を予知した作家たちも多く，中でもパプスト*は《西部戦線》によって反戦を訴え，《三文オペラ》によって資本主義の退廃を描いた。しかし，1933年にヒトラーがナチ政権を樹立すると，宣伝相ゲッベルスの命で検閲が強化され，いわゆる〈ナチ-プロパガンダ映画〉が中心を占めるようになった。オリンピック-ベルリン大会を記録したリーフェンシュタールの《民族の祭典》は，ナチ政権の力を誇示する典型的なプロパガンダ映画であった。第2次世界大戦にはいると戦意高揚映画が多くなる一方，《誘惑の街(まち)》などのエロチックなデカダンス映画が流行した。第2次世界大戦後ウーファは解体し，東西両ドイツはともに基幹産業に重点を置いたので映画の水準は低下した。西ドイツ映画は，フォルストの《罪ある女》，クリューゲの《過去のない女》，コイトナーがオーストリアでつくった《最後の橋》など少数の佳作を除いては，フランスなどの西欧諸国に匹敵する映画水準を保ちえなかった。一方東ドイツも，シュタウテの《殺人者は我々のなかにいる》《裸で狼(おおかみ)の群れのなかに》などを生んだだけで，ポーランドなど東欧諸国のような明確な戦後映画思想を形成しえなかった。〔波多野哲朗〕

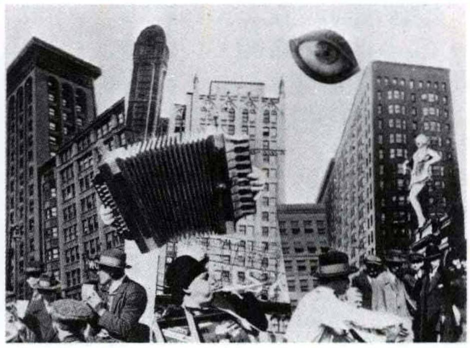
ドイツ映画



《カリガリ博士》(ウィーネ監督，1919) 社会変動期の不安を反映した表現主義映画の傑作



《メトロポリス》(ラング監督，1926)未来社会における階級闘争を表現主義的に描くSF映画



《伯林―大都会交響楽》(ルットマン監督，1927) 現実の断片を構成した視覚による交響曲

ドイツえんげき 【ドイツ演劇】 広義には，ドイツ本国はもとより，オーストリア・スイスのドイツ語圏の演劇を含む。

ドイツ演劇はほぼ中世初頭に始まるが，古代ギリシア・ローマ劇の伝統を直接に受け継ぐものではなかった。キリスト教のゲルマン世界への浸透とともに，10世紀以降各地で復活祭劇や降誕祭劇が盛んになり，台本も徐々にラテン語からドイツ語へ移行していった。中世末には市民階級の勃興(ぼっこう)とともに受難劇の大規模な上演が全ドイツ語圏に波及し，やがて古来のゲルマン的行事と結びついた世俗的な謝肉祭劇が誕生，くつ屋のザックス*を生んだニュルンベルクはじめ，各地の新興都市で競って上演された。続く17世紀はいわゆるバロック演劇の全盛期であったが，三十年戦争による混乱を反映して，わずかに古代ギリシア劇やイタリア-オペラの紹介者オーピッツ*，ドイツ最初の劇詩人といわれるグリューフィスを生んだにとどまった。18世紀にはいると悟性尊重の啓蒙(けいもう)主義の波に乗って，バロック劇の荒唐無稽(むけい)さを排して，フランス古典劇を範とする革新の動きがゴットシェト(1700～1766)やノイベリン一座の間から起こったが，レッシング*はアリストテレスの《詩学*》やディドロ*の演劇論を支柱にゴットシェト流の形式尊重を攻撃，劇作・評論にわたる実践活動によってドイツ市民劇への道を開いた。また，名優エクホフは近代的な演技術および俳優の社会的地位の向上に尽くした。啓蒙主義への反動は，若い世代によるシュトルム-ウント-ドランク*(疾風怒濤(どとう))となって爆発し，シラー*・ゲーテ*・レンツ*らが既成秩序に反逆する大胆な戯曲を生み出したが，1785年ごろにはこのあらしも収まり，続く古典主義時代に至って，ゲーテの《ファウスト*》，シラーの《ワレンシュタイン》などのドイツ文学・演劇史上の最高傑作が生まれた。18世紀末から1830年まではロマン主義演劇の時代であり，シュレーゲル兄弟*による劇理論の樹立やシェークスピア*紹介に始まって，戯曲の分野でも史劇から童話劇にまで及ぶ多彩な展開が見られたが，内容はむしろ乏しく，クライスト*やグラッベ*の喜劇，ティーク*の童話劇などを今日に残しているにすぎない。なお，特異なものとして，バロック劇の庶民的伝統を生かしたウィーン-ロマン派演劇があり，ネストロイの喜劇に引き継がれた。1830年の七月革命をほぼ境とし

て現実的傾向が支配的となり，未完の悲劇《ボイツェク》などドイツ-リアリズム演劇の金字塔を打ち立てたビューヒナー*や重厚な悲劇にひいでたヘッベル*らが現われた。また写実的傾向は，ラウベやディンゲルシュタットが演出にあたったウィーンのブルク劇場*を中心に波及していたが，特にマイニンゲン一座はヨーロッパ巡演によってリアリズム演劇の基礎を打ち立てた。1871年の国家統一後は自然主義の全盛期を迎え，ハウプトマン*の《日の出前》《はたおりたち》を皮切りに，ブラーム*の自由舞台の活動など，近代劇運動の有力な一翼をになった。今世紀にはいると，自然主義の反動から新ロマン主義的傾向が生じ，スイスのアッピアやラインハルト*が演出家として活躍，ドイツ演劇の黄金時代が訪れた。また第1次世界大戦前後の表現主義*運動も，カイザー*・トラー*・ブレヒト*らの世界的劇作家を輩出させ，特にブレヒトの理論と実践は第2次世界大戦後の世界演劇の一つの指標となった。第2次世界大戦後は東西に分かれて傾向をことにしたが，西のP.ワイス*・グラス*・ドルスト，東のハックス・ミュラー・スイスのフリッシュ*・デュレンマット*など多彩な展開を見せている。〔大島　勉〕

ドイツ-オーストリアどうめい【ドイツ-オーストリア同盟】1879年に成立した軍事同盟。ベルリン会議*の結果，従来の三帝同盟*が弱体化すると，ビスマルク*はオーストリアとの提携をいっそう強化する必要に迫られて，これを成立させた。内容は，両国のいずれかがロシアの攻撃を受けた場合には他の一国は共同でロシアにあたり，またロシア以外の国の攻撃を受けた場合には他の一国は好意的中立を守るというものである。のちに三国同盟*が成立してからも，それと並行して第1次世界大戦終了まで存続した。〔松　俊夫〕

ドイツおんがく【ドイツ音楽】現在の東西ドイツだけでなく，オーストリアの音楽も含めて扱う。考古学的な遺物や間接的な記述を別にすれば，音楽史の対象として登場するのは，9世紀にいまのスイスのザンクト-ガレンに建てられた修道院がグレゴリオ聖歌を盛んにしたことが最初であろう。特にノトケル-バルブルスがセクエンツィア*に大きな貢献をしたことは有名である。12世紀になると，トルバドゥールの影響で，ドイツでもミンネゼンガーが形成され，ドイツ語による歌唱が定着する。ハンス-ザックスの名とともに知られるマイスタージンガーはこのミンネゼンガーを継承したものである。多声音楽の時代のドイツは，ネーデルラントほどめざましい動きはないようにみえる。しかし，1600年前後にはハスラーやM.プレトリウスを頂点とする高い水準をもった音楽家がおり，またオルガンやリュートには独特なものを形成している。さらにルター派のコラール*は，のちのちまでドイツ固有の音楽の源泉になっている。バロック時代になっても，ドイツの音楽家はイタリアやフランスの音楽をモデルに仰いだ。しかし，初期のシュッツやフローベルガー，中期のムッファトやビーバー，後期のテレマン・ヘンデル・バッハらはモデルを十分に使いこなしながら，激しい表出への意図や音楽構造の構築性といった特性を加えて，〈ドイツらしさ〉を形成していった。





ドイツ演劇　(上)シラーの《メッシナの花嫁》の光景。(1810年，ミュラー画)　(下)ブレヒトの《肝っ玉おっ母とその子どもたち》の舞台(1968年，俳優座上演)

前古典派から古典派にかけては，新しい器楽様式がマンハイムやウィーンで形成され，次の時代に受け継がれ，また民俗的な要素が歌曲やジングシュピールに加わった。特に新しい器楽時代はドイツの地位をこの後1世紀半の間確実なものにした。しかし，オペラの世界で真にドイツ固有のものをつくるためには，ロマン派におけるウェーバーまで待たなければならなかった。19世紀におけるドイツの指導的地位と影響力についてはあげるまでもないが(→古典派音楽 →ロマン派音楽)，20世紀にはいっても，シェーンベルクに始まる12音技法とそれに基づいたウェーベルンの様式は国際的に大きな影響を与え，さらに音楽を構成する諸側面を精密に規定した電子音楽*もドイツから始まった。

ドイツは古くから地方分権であったため，18世紀以降管弦楽やオペラが地方に分散しており，これが全体の水準を高めるのに役だってきた。また，楽器製造・楽譜印刷についても指導的であり，音楽雑誌などジャーナリズムも活発である。さらに，はっきりしたカリキュラムによる多くの音楽大学の存在や，音楽理論や音楽史の研究などが盛んであるため，過去から現在に至るドイツ系音楽が広く知られるとともに定着していて，あるときは過度に思えるほど外国で強い地位をもっている。〔徳丸吉彦〕

ドイツかくめい【ドイツ革命】1918年11月，第1次世界大戦の末期にドイツで起こったブルジョア革命。ドイツでは敗戦が決定的となった同年9月ごろから国民の間に動揺がみられたが，11月3日，キール軍港に起こった水兵の反乱を契機として各地に労兵会が成立し，革命は全ドイツに及んだ。11月9日，首相マックスは政務を社会民主党のエーベルト*にゆだねて辞任し，皇帝ウィルヘルム2世*も形勢の不利をみてオランダに亡命し，ドイツの帝政は崩壊した。かくして，ドイツは共和国として再出発することとなったが，まもなく革命をブルジョア革命の段階にとどめようとする社会民主党*と，プロレタリア革命にまで発展させようとするスパルタクス団*(のちの共産党)および独立社会民主党との対立が激化し，1919年1月，いわゆるスパルタクス団の蜂起(ほうき)が行なわれた。しかしすでに軍部と結んで態勢を固めつつあった社会民主党はこれを武力によって鎮圧し，完全に政治の主導権を握った。その直後ワイマールで開かれた国民議会で第1党の議席を占めた社会民主党は中央党*および民主党とワイマール連合*を結成して政権を担当し，エーベルトを大統領に選んでワイマール憲法を制定し，政局はようやく安定した。→ワイマール共和国〔松　俊夫〕

ドイツかんぜいどうめい【ドイツ関税同盟】1834年，プロイセンの提唱によってオーストリアを除く全ドイツ諸邦間に結成された同盟。プロイセンはすでに1818年以来，近隣の諸国と関税同盟を結成していたが，南ドイツおよび中部ドイツでも同じような動きがみられたため，プロイセンはこれら諸邦に呼びかけてこの同盟をドイツ関税同盟に発展させた。こうしてドイツの経済的統一が行なわれたことは，1871年以後のドイツの政治的統一にあたってプロイセンの立場をきわめて有利なものとした。〔松　俊夫〕

ドイツかんねんろん【ドイツ観念論】カント*の批判哲学を体系的に展開したフィヒテ*・シェリング*・ヘーゲル*の哲学をいう。ゲーテ・シラーのロマン的文学精神を哲学的に表現しており，フィヒテを倫理的，シェリングを美的，ヘーゲルを論理的観念論ともいう。フィヒテは《実践理性批判*》から出発し，カントの先験的観念論を徹底し体系化して知識学をたてた。自我は働くことにおいて自我としてある。自我の働きとその結果としての存在は一つで，これが〈事行〉である。事行としての自我は意識される自我の根拠であり，自我が意識されるのは非我に対した自我としてであるから，自我は自我のうちに非我を立てる。非我を克服する自我の活動は無限に続く。ここに自

我の実践性がある。フィヒテの非我は《純粋理性批判*》の機械的自然，自我は自由意志を本質とする人格である。シェリングは《判断力批判*》の立場からフィヒテの主観客観の対立を芸術において調和させた。絶対者は主観と客観の対立をこえた絶対的同一・無差別であり，それは理性である。《人間自由の本質》と積極哲学(神話と啓示の哲学)でヘーゲル哲学を批判し，キルケゴールの先駆をなした。ヘーゲルは《精神現象学*》の序文でシェリングの絶対者を批判した。実在の根本は精神であり，精神は主観客観の対立を自己のうちに成立させ，対立の否定を通して自己を実現する絶対精神，そしてこの運動が弁証法である。ヘーゲルの弁証法は存在の論理と思惟(しい)の論理の統一であり，この意味で西洋哲学の典型をなす。〔中川　誠〕

ドイツご【ドイツ語】ドイツ連邦共和国・ドイツ民主共和国・オーストリアの国語で，インド-ヨーロッパ語族のうち，英語・オランダ語などとともに西ゲルマン語派に属する言語。

その起源については，5世紀以後，ゲルマン語*の多くの分枝のうち，北海ゲルマン語(特に低地ザクセン方言)，西部ゲルマン語(ベーザー・ライン地方，特にフランケン方言)，南部ゲルマン語(エルベ・アルプス地方，特にアレマン・バイエルン方言)，の三つが合成して生じたといわれる。なお，〈ドイツ〉ということばは，本来，〈民族的〉〈民衆の〉というゲルマン語に由来し，8世紀のころ支配的であったラテン語に対して，ロマン化されていないフランケン方言を意味し，11世紀ごろからこのことばは，ドイツの国や人をもさすようになった。

その後のドイツ語の変遷をみると，5世紀の後半から750年ごろまでが前ドイツ語の時代であり，以後，1170年ごろまでが初期ドイツ語，1250年ごろまで中世最盛期ドイツ語，1500年ごろまで中世末期ドイツ語の時代が続く。およそ1500年以降は新ドイツ語時代である。この間，ドイツ語が特に高揚された時代は，まずカール大帝がドイツ語の育成に努め，ドイツ語がラテン語と並んで文章語としても用いられるようになった9世紀の時代，次いで12世紀から13世紀にかけて，騎士文学の最盛期の傑作がドイツ語で書かれ，標準的文章語の成立に大きな寄与をした時代があげられる。また，新ドイツ語時代の特色は，各地方の方言から統一したドイツ語が成立し，共通語として普及したことである。それは16世紀のルターの聖書翻訳に始まり，1800年を中心にするドイツ文学の黄金時代に至ってほぼ完成をみ，そうして，広く各階層の人々に使用されることばとしてその地位を確立したのである。さらに1901年にはそれまで各州独自に採用していた正書法を撤廃して統一正書法をつくり，19世紀末にはW.フィエートル，T.ジープスによって発音が統一されて，ここに標準ドイツ語が完成した。なお，ドイツの文字は，初期のルーネ文字，ゴート文字を経て，中世のヨーロッパで広く行なわれたフラクツール(ドイツ文字)とラテン文字とが長く並用されていたが，第2次世界大戦後は大勢が後者に傾いてきた。

一方，ドイツ語圏の広がりを歴史的にみると，4～6世紀の民族大移動の時代にはその範囲がしだいに西方と南方に移り，エルベ川とザーレ川でスラブ系諸語と境し，南部イタリアと西部フランスのほうに勢力を伸ばしていった。8世紀以後は東方植民の影響を受け，11世紀までに今日のオーストリアが，さらに13世紀には上部ザクセン，シュレジエン(今日の東ドイツ・ポーランド西部)から東プロイセンまでがドイツ語圏となり，勢力はバルト海沿岸の諸国にも及んだ。一時ボヘミア地方にも広まったが，フス戦争の結果押しもどされている。18～19世紀にも大規模な植民が南東方および東方にかけて行なわれ，カフカス地方にもドイツ語圏が点在するに至った。その他，北アメリカ・南アメリカ・南アフリカにも小規模ながらドイツ語地区が存在する。しかし，そのドイツ語も第2次世界大戦の結果，かなりの後退を余儀なくされ，バルト海沿岸や黒海沿岸の諸国の孤立ドイツ語圏は消滅し，今日ドイツ語を国語とする地域は，ドイツ連邦共和国(人口5,300万)，ドイツ民主共和国(1,730万)，オーストリア(700万)，スイス(全人口の3分の2で350万)，ルクセンブルク(36万)などとなった。そのほかヨーロッパの孤立言語圏に100万，チェコスロバキアに25万，ポーランド管理地区に100万，ソ連に150万のドイツ人が住んでいると推定され，結局ドイツ語を母国語とする者は9,000万人，ドイツ語を話す者の合計は1億3,000万人といわれている。これはヨーロッパ第2位，世界第6位にあたる。

ドイツ語はその発生当初から，北部の低地で話されていた低地ドイツ語と，中部以南で用いられていた高地ドイツ語とに二分されていた。その境界線はオランダとの国境アーヘンから東へ，ジュッセルドルフ・カッセル・マグデブルクを経てオーデル河畔のフランクフルトに至る東西の線である。したがってドイツ語は歴史的に，古代低地ドイツ語・中世低地ドイツ語・近代低地ドイツ語，あるいは古代高地ドイツ語・中世高地ドイツ語・近代高地ドイツ語，などと名づけられている(なおオランダ語*は低地ドイツ語に近い)。しかし，ドイツの文化史上では高地ドイツ語が主導権を握ってきた。それはドイツ語を高低2語に区分する決定的な要素となった，〈第2次ドイツ語子音推移〉という音韻変化にも明らかにうかがわれる。南のアレマン族から始まったこの現象は，北に接するフランケン族がアレマンを支配していたにもかかわらず，5～7世紀のころフランケン地方に進出，さらに北へと進んでこの子音推移は，高地ドイツ語に最も徹底し，中部ドイツでは部分的に行なわれ，低地ドイツ語はまったくその影響を受けなかった。これを低地ドイツ語に近い英語と高地ドイツ語との比較でみると，ten〉zehn，pound〉pfund，open〉offen，deep〉tiefなどのような両者の相違が目だつ。また，特殊なドイツ語としてイディッシュ*があげられる。これはドイツ語にロマン語・スラブ語・ヘブライ語などの要素が加わったもので，ユダヤ人口の3分の2の1,200万人によって話されていたが，近年はその存続があやぶまれている。ユダヤ人とその言語とに加えられたナチスの弾圧は，それが現代の事件であるだけに，言語史上忘れられない事がらである。現在のドイツ語にとって問題なのは，ドイツが東西に分割された結果，政治・社会・経済・文化の諸分野で，二つの異なったドイツ語圏ができるのではないか，ということである。それは社会主義国としてのドイツ民主共和国で意識的に新造語がつくられるだけでなく，自由・財産・社会的・民主的というようなことばのもつ価値や内容がドイツ連邦共和国のそれとは違ったものになると予想されるからである。

【特色】ドイツ語の文字は英語と同じ26文字に，ä・ö・üおよび特別な合字ßが加わる。発音もいくつか特殊なものがあるが，だいたいはローマ字読みに近い。ドイツ語が英語などに比べて特徴的なのはその文法である。特に名詞・代名詞・形容詞・数詞の多くは，三つの性(男性・女性・中性)，二つの数(単数・複数)，四つの格(主格・属格・与格・対格)に応じてそれぞれ変化する。動詞は三つの人称(自称・対称・他称)，二つの数，三つの法(直説法・接続法・命令法)によって語形が変わる。また，動詞の語順も場合によってさまざまに変わる。これらの変化の複雑さはゲルマン語に特有なもので，ドイツ語がゲルマン語系の代表的な存在であるといえよう。〔八木　浩〕

ドイツ語の文例

あるとき，北風と太陽が，どちらが強いか言い争っていました。　《イソップ物語》から

デァ	ノルトビント	ウント	ディー	ゾンネ
Der	**Nordwind**	**und**	**die**	**Sonne**
	北風	と		太陽が

シュトリテン	アインマール	ダリューバー
stritten	**einmal**	**darüber,**
言い争っていた	あるとき	次のことを

ベア	フォン	イーネン	バイデン
wer	**von**	**ihnen**	**beiden**
だれが	のうち	彼ら	ふたり

シュテルカー	ザイ
stärker	**sei.**
より強く	あるか

ドイツしゃかいしゅぎろうどうとう【ドイツ社会主義労働党】ドイツの政党。1875年，全ドイツ労働者同盟(ラッサール派)とドイツ社会民主労働党*がゴータ大会で合

同し成立したもの。ゴータ綱領を掲げ，社会主義者鎮圧法に抵抗して党勢を拡大し，1890年党名を社会民主党と改称した。

ドイツしゃかいみんしゅとう 【ドイツ社会民主党】 1863年に設立された全ドイツ労働者協会を前身とする社会主義政党。➔社会民主党

ドイツしゃかいみんしゅろうどうとう 【ドイツ社会民主労働党】 1869年，ドイツでW.リープクネヒト・ベーベルらを中心にアイゼナハで結成されたマルクス主義的政党。1875年，ラッサール派の全ドイツ労働者同盟と合同してドイツ社会主義労働党となり，1890年社会民主党と改称した。

ドイツたいそう 【ドイツ体操】 ⇨体操

ドイツていこく 【ドイツ帝国】 1871年，プロイセン-フランス戦争でプロイセンがフランスを破り，ドイツの統一を達成して建国した帝国。皇帝にはプロイセン国王ウィルヘルム1世が即位し，首相にはビスマルクが就任した。帝国はプロイセン以下22の君主国と3自由都市からなる連邦制をとり，皇帝はプロイセン国王の世襲で，議会は連邦参議院と帝国議会の二院制を採用した。首相は皇帝にのみ責任を負い，重要問題は各邦の代表による連邦参議院が決定する制度で，しかも票数はプロイセンが圧倒的に多く握っていたので，プロイセン的な色彩が濃く，ユンカーが軍部や官僚の要職を独占した。一方，帝国議会は25歳以上の男子の普通選挙で選ばれた議員によって構成されたが，予算の審議権以外にはほとんど権限がなく，いわゆる外見的立憲主義にすぎなかった。しかし統一の結果，ドイツの資本主義は飛躍的に発達して，まもなくイギリスを脅かすほどになり，またビスマルク外交の成功とあいまって，ドイツはヨーロッパの強国となった。その後，ヨーロッパ大陸が帝国主義の段階にはいるとドイツの世界政策が列強との対立を激化させ，その結果第1次世界大戦が起こったが，戦争末期にドイツ革命が勃発(ぼっぱつ)して崩壊した。

〔松　俊夫〕

ドイツのうみんせんそう 【ドイツ農民戦争】 1524～1525年にわたってドイツに起こった大規模な農民の反乱。ドイツでは中世末期以来，各地で農民一揆(いっき)が起こっていたが，ルターの宗教改革運動の刺激を受けて，まず西南ドイツのシュワーベン地方の農民が地代の軽減，農奴制の廃止などの12の綱領を掲げて蜂起(ほうき)した。彼らは富農層に率いられ，一揆の性格もまた比較的穏健であったから，ルターもはじめはこれを支持し，諸侯に農民の要求を受け入れるよう勧告し，一方農民に対しては精神的な自由を説得した。しかしまもなく中部ドイツのチューリンゲン地方でミュンツァーの率いる貧農層が，ミュールハウゼンを本拠地として原始キリスト教的平等社会の実現を求めて運動を起こし，その影響が各地



都井岬　南東方の洋上から見た岬の先端部で，断崖上に白亜の燈台が見える。右手の海岸を北上すると野生ザルで有名な幸島が見えてくる

に及ぶと，ルターはその革命的性格をきらって諸侯に農民の鎮圧を勧告した。諸侯はこれに力を得て農民を徹底的に弾圧し，一方農民の側にも十分な対応策がなかったため，結局反乱は鎮圧された。〔松　俊夫〕

ドイツぶんがく 【ドイツ文学】 ⇨84ページ

ドイツれんぽう 【ドイツ連邦】 ウィーン会議の結果，かつての神聖ローマ帝国に代わって1815年に構成された全ドイツの組織。オーストリア・プロイセンなど35の君主国と，四つの自由市からなり，オーストリアを議長とし，フランクフルトに連邦議会を置く独立国家の連合体であった。しかし，その後ドイツ統一の進展とともにほとんどその意義を喪失し，1866年のプロイセン-オーストリア戦争にオーストリアが敗北した結果，連邦は解体した。〔松　俊夫〕

どいとしかつ 【土井利勝】 (1573～1644) 江戸初期の幕府の重臣。徳川家康(いえやす)の母方のいとこで，家康・秀忠(ひでただ)に仕え，大炊頭(おおいのかみ)に任じ，年寄として幕府の実力者となった。下総(しもうさ)(千葉県)佐倉城主三万三千石を領して治績をあげ，さらに3代将軍家光(いえみつ)のとき，常陸(ひたち)(茨城県)古河十六万石余を与えられ，酒井忠世・青山忠俊(ただとし)とともに〈寛永の三輔(さんぽ)〉のひとりとして幕府勢力の確立に尽くした。1638年(寛永15)には最初の大老に任ぜられた。〔岡山泰四〕

どいとしつら 【土井利位】 (1789～1848) 下総(しもうさ)(茨城県)古河の藩主。許鹿(きょろく)と号し，また源利位ともいう。1834年(天保5)大阪城代となり，1837年の大塩平八郎の乱を鎮圧。1839年に老中となった。佐藤一斎に学び，家臣の鷹見(たかみ)泉石から蘭学(らんがく)を学んだ。それらの影響のもとに《雪華図説》(1833)を完成した。これには観測した97個の雪の結晶の図解が含まれている。

トイトブルクのたたかい 【トイトブルクの戦い】 AD9年，古代ローマ帝国とゲルマン人の戦い。西ドイツのウェストファリア地方の山地トイトブルクで，アルミニウスの率いるゲルマン軍は，バルスの率いるローマ軍を全滅させた。以後ローマ皇帝はゲルマニア経営を断念し，ドナウ・ライン両川をもって両国の国境とした。

ドイノのひか 【ドイノの悲歌】 リルケの詩集。1912年アドリア海岸のドイノで書き始め，1922年にスイスで完成した10編の悲歌の連作を収める。1923年刊。人間として生きることの意味を一貫して問い続け，詩による哲学的思索を展開したもの。前半では人間存在の無常や不自由を嘆き，後半では物たちとの素朴(そぼく)なつながりを通じて，生の積極的意味を賛美している。

どいばんすい 【土井晩翠】 (1871～1952) 詩人。本名林吉。宮城県生まれ。東京大学英文科卒。在学中より詩作を始め，1899年(明治32)処女詩集《天地有情》を刊行，雄健な漢詩調による前人未踏の境地を開き，島崎藤村と並称された。さらに《暁鐘》《東海遊子吟》などを刊行したが，内容はほとんど第1詩集の反復にすぎず，特に見るべきものはない。ほかに，ホメロス・カーライル・バイロンらの翻訳がある。《荒城の月》の作詞者として著名。なお本来の姓は〈つちい〉であるが，晩年に〈どい〉と改音した。

といまる 【問丸】 鎌倉・室町時代，港湾などで物資の管理・中継取引に従事した商人。問(とい)ともいい，平安時代には津屋と称した。問丸の語源については定説がない。本来は現地から中央の荘園(しょうえん)領主に向け年貢(ねんぐ)を積み出す業務に携わっていたが，のち水陸交通の要地に倉庫を構えて年貢米の保管や中継輸送も行なうようになり，旅宿を兼ねた。はじめは問職(といしき)として荘園領主に隷属していたが，やがて富裕になって商人として独立し，その土地が市場をもつ場合には，荘園領主に委託されて年貢米や荘園の産物を売却するようになった。室町時代にはいって商品の流通が盛んになると，水上交通の要地には問丸が軒を並べた。淀(よど)・兵庫・坂本・大津・小浜・敦賀(つるが)・博多(はかた)などは有名。江戸時代の問屋はこの後身である。

〔高崎徳次〕

といみさき 【都井岬】 宮崎県の南東端，太平洋上に突出し，日向灘(ひゅうがなだ)と志布志湾とを分ける岬。おもに砂岩・粘板岩からなる高さ200m内外の山地が，約4kmにわたってほぼ南北に連なり，海に迫るところは20～40mの海食崖(かいしょくがい)をなしている。地表をおおう風化した土壌(どじょう)に牧草が育ち，藩政時代には高鍋(たかなべ)藩の御崎(みさき)牧場が置かれ，いまは約70頭の野生馬が自然繁殖して，天然記念物に指定されている。また，扇山(296m)のふもとの森林地帯は野生ザルの生息地にもなっている。先端部に都井岬燈台があり，付近にはソテツの自生林が茂り，特別天然記念物に指定され

ている。日南海岸国定公園の一中心で，宮崎市や日南線福島駅からバスが通ずる。〔味沢成吉〕

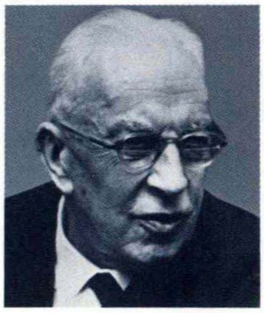
といや【問屋】江戸時代の商品流通における商業機関。中世の問丸*が発達したもの。問屋商人はおもに江戸・大阪の有力商人で，荷主の委託を受け，物産を売りさばいて口銭を取ったり，荷主の物産を買い占めてそれを売りさばいて差益を得た。代表的な問屋には，大阪の二十四組問屋*，江戸の十組問屋*などがあった。大阪の問屋は上方一帯の物産を集荷・積荷して，海路江戸へ輸送し，江戸の問屋はこれらを荷受けして仲買い・市場商人に売りさばいた。問屋は遠国との取引関係から，薩摩(さつま)屋・阿波(あわ)屋・松前屋などのいわゆる国別問屋や米問屋・油問屋・蠟(ろう)問屋・薬種問屋などの商品を品別に取り扱う専業問屋，仕切りも行なう仕切問屋などもあった。交通輸送の業務も，伝馬*(てんま)問屋・船問屋・飛脚*問屋などが担当した。明治維新後，問屋は産業の近代化に伴って仲買い化への傾向が強まったため，問屋・仲買いの区別が乱れ，両者が合体して卸売商人(卸売業者*)とよばれるようになった。〔高崎徳次〕

ドイル［Arthur Conan Doyle］(1859～1930) イギリスの探偵(たんてい)小説作家。医学を学び，捕鯨船の船医などを経て開業，暇に任せてしろうと名探偵シャーロック-ホームズ*の活躍する《緋色(ひいろ)の研究》を書いて名声を博した。その他ホームズの活躍する長編3冊，短編集5冊があり，これによってホームズは世界的な名探偵となった。他に心霊学などに関する著作もある。

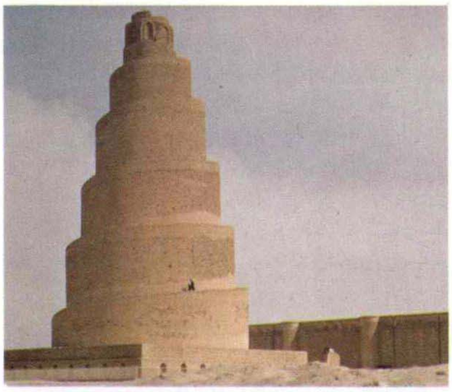
トインビー［Arnold Joseph Toynbee］(1889～1975)現代イギリスの歴史学者。ロンドンの生まれで，産業革命の研究で知られるアーノルド-トインビーの甥(おい)。オックスフォード大学を出て，アテネのイギリス考古学研究所にはいり，1912年母校の研究員となる。のち外務省でトルコ関係の仕事をし，1919年からロンドン大学でギリシア史とビザンチン史を講じた。1925年に王立国際問題研究所の所長となる。著作には《試練に立つ文明》(1948)，《東から西へ》(1958)など多数あるが，主著は大作《歴史の研究》(12巻，1934～1961)。これは世界史における21の文明が興亡するありさまを比較研究し，異なった諸文明が出会ったときの変化を探究したもので，シュペングラーの影響が強くみられる。彼は元来古典学者で，その世界史観もヨーロッパ古典の世界がモデルになっている。〔兼岩正夫〕

とう【籐】単子葉植物・ヤシ科。中国・台湾に分布するつる性植物。茎は長さ70cm，直径3～5cmほどになり，葉の中肋(ちゅうろく)や葉柄にあるさかさのとげで他の樹木に巻きつく。葉は互生し，1～2mの羽状複葉になり，下部はさや状になる。雌雄異株で，雄花序は複穂状花序で黄緑色の小花をつける。雌花序は肉穂花序で，黄色の小花をつける。果実は楕円(だえん)形の核果で，秋に黄熟する。

トウはまた熱帯アジアから北オーストラリアに分布する上記のものと同じカラムス属のものやダエモノロプス・ケラトロプス・カロスパタ属などのつる性植物約200種の総称として用いられる。これらはいずれも茎が著しく長く伸び，ときには200～300mにも達し，とげがあり，他の樹木に巻きつく。とげや葉を取り除いて茎を乾燥したものは，軽くて光沢があり，強靭(きょうじん)で弾力に富むので，ステッキにしたり，皮をはいで籐家具に利用する。〔横井朝子〕



トインビー







塔 (上)モスク遺跡に立つミナレット(約50m) イラク (中)ケルン大聖堂正面の大双塔(156m) 西ドイツ (下)東京タワー(333m) 前二者は，宗教的な象徴とするのに対し，東京タワーは観光用の展望室のほかに，頂上にはテレビ用アンテナを設けるなど，機能をことにする

とう【党】平安後期から鎌倉時代にかけて武士社会で惣領(そうりょう)(→惣領制)を中心に一族が団結して形成した集団をいう。関東における武蔵(むさし)七党*，紀伊(きい)(和歌山県)の隅田(すみだ)党・湯浅党，九州の松浦(まつら)党*などがその典型である。この団結も鎌倉後期から南北朝時代にかけて惣領制がしだいに崩壊するにつれて解体に向かった。室町時代になると在地武士の地縁的結合を党と称するようになったので党も時代によってその内容が異なる。〔黛 弘道〕

とう【塔】高くそびえ立つことを目的につくられた建造物。《旧約聖書》には，天まで届かせようとして崩壊したバベルの塔の物語があり，塔の発生はきわめて古い。古代オリエントのジッグラト，エジプトのパイロン，キリスト教寺院の鐘塔・双塔・尖塔(せんとう)，イスラム教のミナレット，仏教の五重塔*など，高いものへのあこがれと宗教的動機とが結合したものが多いが，近代になると，テレビ塔のように実用的動機が主になる傾向が強い。仏教における塔は，梵語(ぼんご)で墓を意味するストゥーパ*の音写である卒塔婆*(そとば)の略である。ストゥーパは，低い基壇上に築かれた円墳で，墳頂上に相輪*が立てられるが，ブッダの墓をかたどって礼拝対象としたことから基壇部分が発達して高層化し，高くそびえる建て物としての塔となった。なお，塔は墓の意味を含まなくなり，墓と関係あることばとしては，塔婆が用いられた。〔渡辺保忠〕

とう【統】地質時代*の区分〈世〉に対応する地質系統の名称。たとえば，中新世に対して中新統という。階をいくつか集めたもので，ある世の期間中に形成されたすべての地層をさす。地質系統の中程度の区分単位である。

とう【唐】

1 中国中世の最大かつ最後の統一王朝(618～907)。都は長安(いまの陝西(せんせい)省西安)。6代玄宗の末年(755)に勃発(ぼっぱつ)した安史の乱*を境に前後両期に分けるのがふつう。まず隋(ずい)の失政に全国的な農民暴動が起こり，群雄割拠の中から晋陽(しんよう)(太原)の留守であった唐公李淵*(りえん)が二男李世民に勧められて兵をあげ，618年煬帝*(ようだい)が殺されると恭帝から譲りを受けて唐朝を開いた(高祖)。統一事業は玄武門の変で兄弟を倒して位についた李世民(太宗)によって完成された(628)。太宗は隋に

→85ページ

ドイツ文学

ドイツ人によって，主としてドイツ語で書かれた文学。歴史的にみると，ドイツ語の祖語たるゴート語時代(～750ごろ)に始まり，古高地ドイツ語時代(750ごろ～1050ごろ)，中高地ドイツ語時代(1050ごろ～1500ごろ)，新高地ドイツ語時代に分かれ，地域的にはドイツ語が日常語として使用される区域，すなわち現在の東西両ドイツ・オーストリア，およびスイスのドイツ語地帯などを含むが，時代によって多少異なる。また，外国に亡命したドイツ人作家のドイツ語文学もこれに含まれる。

【ゴート語時代】(～750ごろ) ゲルマン時代ともいう。ドイツ人の祖先である古代ゲルマン人のゴート語の文学(呪文(じゅもん)・英雄歌・神話など)については，タキトゥスの《ゲルマニア》や《エッダ》などからわずかに知りうるのみである。なお，4世紀には僧正ウルフィウスによる聖書のゴート語訳がある。

【古高地ドイツ語時代】(750ごろ～1050ごろ) 本来のドイツ文学は中世封建時代に始まる。文学のにない手は僧侶(そうりょ)であった。今日伝わる最も古いものの一つは，800年ごろに筆写された《ヒルデブラントの歌》であるが，これは民族大移動期の事件を歌い，キリスト教浸透以前のゲルマン人の姿を伝えている。頭韻詩形で異教的要素の強い《ヘーリアント(救世主)》と，ラテン式脚韻詩形で完全にキリスト教的なオーフリートの《福音書》がこれに続く。10世紀になるとキリスト教が普及し，ラテン語が尊重されたため，英雄伝説もラテン語で書かれた。

【中高地ドイツ語時代】(1050ごろ～1500ごろ) 十字軍やホーエンシュタウフェン朝の戦争政策によって騎士の勢力が強まり，文学の主導権もその手に移って宮廷文学が成立した。それにはハルトマン-フォン-アウエの《哀れなハインリヒ》，ウォルフラム-フォン-エッシェンバッハの《パルツィファル》，ゴットフリート-フォン-シュトラースブルクの《トリスタン》などの叙事詩や，ワルター-フォン-デア-フォーゲルワイデのミンネザング(恋愛叙情詩)などがある。他方，民間伝承を集大成した英雄叙事詩《ニーベルンゲンの歌》や《グードルーン》も有名である。上記の傑作はいずれも1200年前後に続出したが，市民階級が経済的に進出するにつれて騎士文学は急速に衰え，民謡や職人の親方による職匠歌が生まれ，宗教劇と並んで市民的な謝肉祭劇が行なわれるようになった。

【宗教改革時代】(1500ごろ～1600ごろ) この時代にはルターが聖書を完訳する際に使用したドイツ語が国民共通語となった。これが新高地ドイツ語のはじまりである。15世紀末からこの時代への移行期に，ブラントの《愚者の船》，民衆本の《ライネケ狐(ぎつね)》《テイル-ホイレンシュピーゲル》などの風刺文学や大作家ハンス-ザックスの各ジャンルにわたる多数の作品が生まれた。しかし，農民戦争が諸侯の力で圧伏されてドイツの小邦分立は強まり，近代的統一国家の成立ははるか後代に持ち越され，文化の発展は妨げられた。ただし，16世紀末の民衆本《ファウスト博士物語》はルネサンス期の巨人的な反抗精神のいぶきを伝えている。また，そのころから旅回りのイギリス劇団がドイツを訪れ，先進国の演劇を伝えた。なおこの期には，人文主義者によるラテン語の文学も盛んであった。

【バロック時代】(1600ごろ～1700ごろ) 三十年戦争はドイツ全土を極度に疲弊させて文学もふるわなかったが，《ドイツ詩学の書》のオーピッツ，詩と戯曲のグリューフィウスは，次代の準備として重要であり，三十年戦争の惨状を描いたグリンメルスハウゼンの《阿呆(あほう)物語》はこの期の傑作である。

【啓蒙(けいもう)主義時代】(1700ごろ～1770ごろ) 市民階級がまだ十分成長していなかったドイツでは，フランス渡来の啓蒙主義は絶対主義批判にまで高まりえず，合理主義的・文化的教養の域にとどまった。それは文学において，先進国に追いつこうとする努力として始まった。ゴットシェットはフランス古典主義を範とし，スイスのボードマーとブライティンガーは想像力を重視してイギリス文学から学ぼうとした。クロップシュトックやウィーラントも国民文学に寄与したが，国民文学の真の父はレッシングである。彼はフランス古典主義を批判して，シェークスピアやディドロに傾倒し，すぐれた評論を書いて当時のドイツの政治・宗教・文学を批判するとともに，その劇作によってドイツ文学を先進国の水準に近づけた。

【シュトルム-ウント-ドランク時代】(1770～1785) 啓蒙主義の悟性偏重に対抗して感情を重視するこの運動は，やはり前者同様，封建的絶対主義に反抗する市民階級の戦いの反映であるが，前者の浅薄化に反発し，かつこの戦いが先進国のように着実な成果をあげえなかったところからくるいらだちが感情の爆発となって文学に結晶したものといえよう。ヘルダーがその指導者であり，ゲーテの《若きウェルテルの悩み》《ゲッツ》やシラーの《群盗》のように，社会体制に対する激しい反抗をその特色とし，クリンガーやレンツらもこの派に属する。

【古典主義時代】(1785～1805) ゲーテとシラーは封建的絶対主義批判の姿勢をくずすことなく，前期の主観的な戦闘的情熱を克服し，現実に対する認識の深まった古典主義の高い境地に達した。シラーの《ウィルヘルム-テル》は封建的絶対主義の抑圧に反対し，自由と民族の独立をかちとろうとするヒューマニズムの理想に満ちているし，ゲーテの《ウィルヘルム-マイスター》や《ファウスト》第2部も，同じく人間の調和的発展をめざす理想をブルジョア社会においてどのように実現するかという探究を示している。啓蒙主義以来のこの理想の探究は，ブルジョア社会におけるその達成の不可能を示す19世紀のバルザックなどのリアリズムへの橋渡しとしても重要である。古典主義および次に述べるロマン主義と時期を同じくするのがヘルダーリンとジャン-パウルである。前者は叙情詩のほかに小説《ヒュペリオン》を書いてドイツの現状を告発した。後者はユーモア・風刺・感傷に満ちた民衆的小説を多作して多勢の読者を得た。

【ロマン主義時代】(1798～1832) ロマン主義は，文学的態度として古典主義やのちの現実主義のように現実的・客観的でなく主観的であるが，さらに現実社会に対する態度としては市民社会の否定的現象のみをみてその積極面を見落とし，ブルジョア的・否定的現実から逃避して封建的中世賛美へと向かってしまう。ノバーリスの《青い花》はその代表である。またナポレオンの侵略に対する解放戦争においては，それが同時に封建制度の復活をきたすというジレンマに目をつぶり，封建諸侯を擁護してナポレオン放逐に協力し，反動的旧体制の復活に貢献することになった。その典型はクライストその他にみられる。もっともクライストの場合，喜劇《こわれがめ》や小説《ミヒャエル-コールハース》などのような愛国主義的でもロマン主義的でもない作品にすぐれたものがある。後期ロマン派の民族の始源を探るという努力からは，アイヒェンドルフなどの詩，アルニムとブレンターノの民謡集，グリム兄弟の童話集のようなすぐれた業績も生まれた。またホフマンやシャミッソーの小説には，幻想の中に現実批判の目が光っているといえよう。ほかにウィルヘルム-シュレーゲルのシェークスピア翻訳，グリム兄弟のドイツ語字典は貴重な仕事として記憶されるべきものである。

【写実主義時代】(1832～1889) 関税同盟の成立，鉄道の敷設などによって，ドイツの資本主義化は1830年代に急速に進み，文学でもゲーテの死とともに写実主義時代にはいる。しかし，フランスやイギリスでは社会批判的な長編小説が栄えるが，その基盤を欠く後進国ドイツではハイネ・ベルネを先駆者とする青年ドイツ派がジャーナリズムで反体制的な文筆をふるった。ハイネの詩や散文は，風刺の鋭さと調子の高さに

よって三月革命以前の文学(前三月文学)を代表する。ビューヒナーは文学的創造においても政治におけると同様革命的であり，ヘルウェーク・フライリヒラート・ウェールトらも革新的政治詩を書いた。一方，ビーダーマイヤー派の作家といわれるメーリケ・ドロステ-ヒュルスホフ・シュティフターらは，小市民的な文学世界に沈潜した。オーストリアのグリルパルツァーはメッテルニッヒの反動体制のもとで幾多の佳作を残した。1848年の革命が失敗に終わると，西欧のブルジョアジー全体が反動化し，ドイツでは自由と統一という国民的目標が挫折(ざせつ)して自由抜きの上からの統一が進められた。社会批判的立場に立って都会小説を書いたフォンターネを除いて，文学はこうした時代の現実に目を向けず，シュトルムは地方の民衆生活に，スイスのマイヤーは過去の歴史に，ラーベは市民生活のわくをはみ出したところに題材を求めた。ただ，スイスのケラーは自国の民主主義を信頼し，個人の完成と社会の発展との統一の可能性を信じて，教養小説《緑のハインリヒ》や小説集《ゼルドビラの人々》のリアリズム文学を書いた。演劇の分野では，ヘッベル・ルートウィヒ・ワーグナーと続く流れは，劇的葛藤(かっとう)の基礎を社会的なものでなく，個人的主観的なものに求めた。

【自然主義時代】(1889～1900ごろ) ドイツの資本主義が急速に帝国主義に突入する時期に，ハウプトマンの戯曲が〈自由劇場〉で大成功を収め，フランス生まれの自然主義がドイツでも開花したが，わずか10年あまりで衰退する。自然主義は，従来顧みられなかった下層階級にまで題材を広げ，社会の矛盾・暗黒面を大胆に描き出す。ハウプトマンの劇《日の出前》《織匠(おりこ)》には，環境と遺伝による決定論，社会問題の提起，社会主義的傾向などがみられ，ゾラやイプセンを追っていることを示している。ただ，自然主義には，与えられた現象を無批判にそのまま再現するという弱点があり，それが高じるとホルツのような徹底自然主義になり，またズーダーマンやハルベのように通俗化する。

【新ロマン主義と市民的ヒューマニズムの時代】(1890～1910ごろ) ハウプトマンも自然主義の傑作と並行して象徴主義的な作品を書いたが，19世紀から20世紀への転換期には，リーリエンクローン・シュニツラー・ホーフマンスタール・リルケ・ゲオルゲらに代表される反自然主義的な新ロマン主義が生じた。これらの作家たちはドイツ文学を言語的・芸術的に洗練し，人間内部の世界へ深化させたが，他方社会関係をすっかり捨象してしまうという弱点をもっている。しかしこうした潮流と並んで，この時代にはハインリヒ-マンの《逸楽郷にて》，トーマス-マンの《ブッデンブローク家の人人》，ヘッセの《ペーター-カーメンチント》など，市民的ヒューマニズムの巨匠たちの最初の社会批判的な小説が20世紀初頭を飾る。

【表現主義時代】(1910～1923) 第1次世界大戦の直前における民衆の鬱積(うっせき)した社会的不満を反映して，表現主義が反抗の叫びをあげた。しかし，そこでは主観的表現が強調され，社会関係の矛盾を深く描くことはなかった。大戦末期には概して反戦的色彩を強めるが，その傾向はさまざまである。詩人のトラークル・ベン・ベッヒャー・ウェルフェル，劇ではウェーデキントを先駆者としてカイザー・ゲーリング・トラー，小説ではデーブリンらがこれに属する。なお，資本主義社会における人間存在の不条理を描いて実存主義文学の先駆とされるカフカも，この時期の作家である。

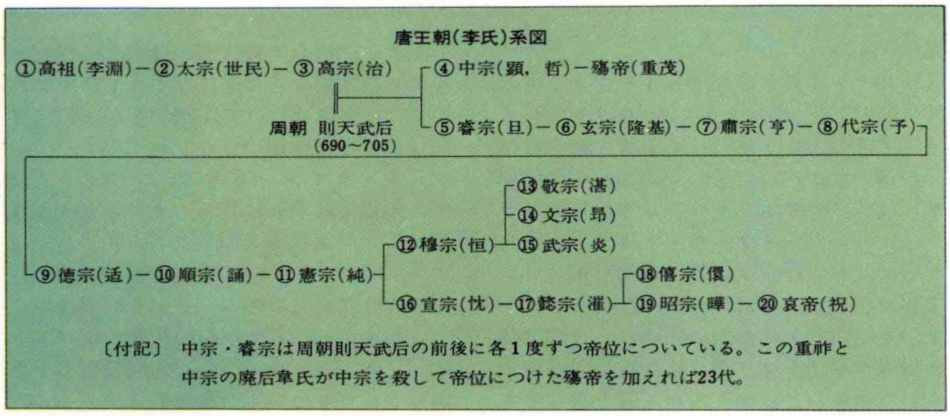
【新即物主義・プロレタリア文学・反ナチス文学の時代】(1923～1945) 表現主義に続いて新即物主義の文学が興り，戦争や戦後社会の非人間的性格を客観的に描いた。レマルク・アルノルト-ツワイク・レンらの小説，ツックマイヤーの劇などがこれに属する。また，日本と並んでプロレタリア文学も盛んで，プロレタリア革新作家同盟が結成され，機関誌《リンクスクルベ》が発行され，フリードリヒ-ウォルフ・レン・ベッヒャー・ブレヒト・ゼーガース・ブレーデルらが参加した。1933年にヒトラーが政権をとると，社会主義作家・自由主義作家・ユダヤ系作家などの作品はすべて禁止され，すぐれた作家はすべて沈黙するか国外に亡命した。亡命作家のうちレン・ブレーデル・ウーゼ・ワイナートらは，スペイン内乱で人民戦線政府側に立ち，ナチスが援助するフランコ反乱軍と戦った。トラーやシュテファン-ツワイクは亡命地で自殺したし，第2次世界大戦中のムージールや戦後のハインリッヒ-マンのように病没した作家も多い。しかし，ゼーガースの《第七の十字架》，ブレヒトのいくつかの戯曲，トーマス-マンの《ヨゼフとその兄弟たち》，ハインリヒ-マンの《アンリ4世》など，ナチス時代の重要な作品はすべて亡命作家によって書かれた。また，モスクワの《ダス-ウォルト(ことば)》など，亡命地でいくつかの雑誌も発行された。

【第2次世界大戦後の文学】(1945～　)第2次世界大戦後ドイツは，資本主義のドイツ連邦共和国(西独)と社会主義のドイツ民主共和国(東独)の2国家が成立し，文学も両国で異なった道を歩んでいる。西独では戦前から戦後にかけて死んだカフカ・ムージール・ブロッホが，20世紀的手法による現代文学の巨匠として大きい影響力をもっている。戦前からの作家や戦後登場したカーザック・ノサックのほか，若い世代の作家たちに〈47年グループ〉を結成したリヒター・アンデルシュ・ワイス・ベル・グラス・ワルザー・エンツェンスベルガー・ホーホフート・ヨーンゾンらがいる。東独では社会主義リアリズムが基本的創作方法とされた。社会主義的作家たちは亡命先から帰って活動したが，中でも叙事詩的演劇を唱えるブレヒトの作品と理論は世界の演劇界に広く深い影響を及ぼしている。そのほかフーヘル・クーバ・ヘルムリーン・シュトリットマッターやさらに若い世代のノル・ハックス・クリスターウォルフらも登場している。またスイスのフリッシュ，オーストリアのドーデラー・ツェラーン・アイヒンガー・バッハマンらも知られている。

〔北条元一〕

範をとって古来の制を集大成することに努め，律令(りつりょう)格式のいわゆる律令体制を固め，三省・六部・九寺・五監・一台からなる中央官制のもとに全国を10道(のち15道)に分け，府・州・県のほか郷・里・坊・村など末端行政にまで支配浸透のためのくふうが施されている。一方，土地問題では班田収授を原則とする均田制が敷かれ，租・庸・調のほか雑徭(ざつよう)，兵農一致と国民皆兵主義に基づく府兵制とが表裏一体的に組み合わされ富国強兵の実が図られている。突厥(とっくつ)をはじめ百済(くだら)・高句麗(こうくり)の征服など，めざましい対外発展はこれら内政がわりあいに円滑に行なわれた結果であるが，3代高宗のとき，いわゆる武周革命が起こって唐は一時中断した。則天武后は実子の中宗・睿宗(えいそう)を廃して位につき，国を周と号した。この革命は，選挙(科挙)制による新進の官僚群とその背後にある新興地主層とが提携し，旧来の有力貴族を弾圧した点に意義がある。武后在位16年ののち復位した中宗は韋(い)皇后らに毒殺されたが，睿宗の三男李隆基のクーデターによって睿宗・李隆基(玄宗)が即位した。武周革命によって有力貴族が除かれ，玄宗の改革とあいまって，開元・天宝時代という前後45年にも及ぶはなやかな時代が到来した。しかし，繁栄の陰では大土地所有や商業・高利貸し資本の進展に圧迫されて，重税・徭役に苦しむ均田農民は荘園(しょうえん)の佃戸(でんこ)となり，財政・兵制は危機にひんし，また新羅(しらぎ)・契丹(きったん)・吐蕃(とばん)など周辺民族の活動が盛んとなるなど，内外ともに憂患が深まった。このとき勃発したのが安史の乱である。

安史の乱は中世社会から近世社会への過渡期を告げる暁鐘であった。前後9年に及ぶ反乱によって前期の律令体制はくつがえされ，中央集権化は実力をたくわえた節度



使(藩鎮)らの割拠によって水沫(すいまつ)に帰した。780年に成立した両税法*は従来の均田,租・庸・調の制が実施できなくなり,戸税・地税あるいは塩・酒・茶の専売など複雑な税制を整理・統合する目的と，商工業や荘園の発展に対応するため,さらに租税を中央に送らず経済的に強い力をもつ節度使を合法的に圧迫し,彼らの兵を帰農させて勢力を弱める多目的的な制度であった。軍事力中心の国家から経済中心の国家への転換は唐朝の命脈を150年も存続させる原因となったが，逆に財政の基盤が無傷の穀倉地帯である揚子江・淮河(わいが)下流域に集中したため，この地方の地主・豪族層に率いられる農民暴動を促し，塩の専売などがやみ商人の暗躍を招き，前後10年にわたる黄巣の乱*に発展し，中央では宦官*(かんがん)勢力の跳梁(ちょうりょう)と，牛李の朋党(ほうとう)などがあいつぎ，政治的混乱のうちについに唐朝は滅亡した。前期が南北朝のあとを受けた貴族制社会であったのに比べ，安史の乱以後,黄巣の乱に至る間に貴族層が没落し，代わって伝統を重んじない下層階級出身の武人や土豪層の進出が著しく，生産力の上昇や土地所有制の変化などとあいまち，新時代(近世)が到来することになった。

2(五代十国) ➔南唐 ➔後唐

どう 【銅】 周期律表第I族に属する金属元素。記号Cu 原子番号29,原子量63.546。

【性質】特有の赤色光沢を有する金属で，展延性に富み，熱・電気の伝導性は銀に次いで大きい。融点1,083℃，沸点2,592℃，比重8.92。結晶は等軸晶系，面心立方格子(こうし)，反磁性を示す。乾燥空気中では変化しないが，灼熱(しゃくねつ)すれば赤色の亜酸化銅(Cu_2O)を経て黒色の酸化第二銅(CuO)に変わる。二酸化炭素・二酸化イオウや塩分を含む空気中に放置すると塩基性炭酸銅(緑青)を生ずる。窒素・水素・炭素とは高温でも反応しない。セレン・テルルとは容易に結合する。硝酸・熱濃硫酸などの酸化性のある酸にはとけるが，非酸化性の酸にはとけにくい。アンモニウム・シアン化アルカリとも錯塩をつくってとける。可溶性塩は有毒である。原子価は1および2で，酸化物・ハロゲン化物・硫化物などとして存在する。イオン化傾向は水素より小さい。〔古屋 弘〕

【歴史】人類が最も古くから使った金属の一つである。エジプト(シナイ半島)・バビロニアなどの古代遺跡から銅器が発見されていることから，青銅器時代と並んで，いわゆる銅器時代があったとも考えられている。中国では殷(いん)代に銅がかなり使用されたといわれる。日本では，元明天皇の時代に，武蔵(むさし)の秩父(ちちぶ)ではじめて銅鉱が発見され，年号を和銅年(708)と改めて貨幣がつくられた(和銅開珎*(かいほう))。江戸時代には産出も増加し，世界有数の銅産出国となった。

【製練】自然銅としても産出するが，硫化物・酸化物・炭酸塩などとして存在し，銅鉱物としては，現在160種ほど知られている。おもなものは，オウドウ鉱・キドウ鉱・リュウヒドウ鉱・ランドウ鉱・クジャク石・ハンドウ鉱・セキドウ鉱などである。原鉱の品位は，平均2～3％。製練法には乾式法と湿式法とがあり，鉱石の種類にもよるが乾式法が一般的である。①乾式法：溶鉱炉・反射炉または自溶炉中で，原鉱にケイ酸質金銀鉱などの融剤と燃料を加えて熱すると,挿入(そうにゅう)物は溶融・反応して不要物(スラッグ)が浮き上がるので，これを流出・除去する。下層部分は銅・鉄の硫化物で，これを転炉に移して空気を吹き込み，硫化鉄を酸化して除く。さらに空気を吹き入れ硫化銅を酸化銅とし，イオウを燃焼させて粗銅(98～99％)をつくる。これを陽極とし，薄い純銅板を陰極とし，硫酸酸性硫酸銅溶液を電解液として電解すると，陰極に高純度の電気銅(99.9％)が析出する。副産物として，陽極泥(でい)から金・銀などが回収される。②湿式法：鉱石を焙焼(ばいしょう)し，硫酸銅・塩化銅にして抽出し，これから電解または置換で銅をとる。アンモニア浸出法などもある。

世界の精銅生産量 (単位：1,000t)

国名＼年度	1978	1979	1980
アメリカ	1,832.0	1,975.9	1,682.6
ソ連	1,460.0	1,480.0	1,480.0
日本	959.1	983.7	1,014.3
チリー	749.1	781.8	810.7
ザンビア	627.7	563.6	607.3
カナダ	446.3	397.3	505.2
西ドイツ	404.5	382.5	373.8
ベルギー	388.6	368.8	373.6
ポーランド	332.0	335.8	320.0
ペルー	186.2	230.8	223.5
世界合計	9,201.3	9,354.9	9,359.5

World Metal Statistics. 1981年6月号

【用途】電気伝導率が大きいため電線・ケーブルなど電機関係の消費が過半を占め，板・棒・管・線など伸銅品としても広い用途をもつ。また亜鉛・スズ・ニッケル・アルミニウム・ケイ素・マンガン・銀・鉛・ベリリウムなどとの合金にして，黄銅・青銅・洋白・アルミニウム青銅などの銅合金として，展伸材・鋳造材として広く利用されている。その需給関係から価格の変動が相当激しい。〔藤瀬直正〕

トゥアレグぞく 【トゥアレグ族】 サハラ砂漠(さばく)の南北交易の要路にある都市タマンラセットやアハガール台地付近の遊牧民。ハム語系のベルベル語を話す。武勇にすぐれ誇り高き種族で，農民や家僕(かぼく)のニグロ下層を支配する回教徒の貴族層として有名である。母系氏族組織をもち妻方居住婚でアラブの通婚もある。

とうあれんめい 【東亜連盟】 石原莞爾*(かんじ)が主宰した国家主義*的思想団体。昭和初期，石原は当時の深刻な不況を打開するため，日本は満州・モンゴル・中国を軍事支配し，日本の軍政下に東亜諸国を連盟させて〈世界最終戦争〉に臨むことを主張して，1939年(昭和14)東亜連盟を設立。実践団体として東亜連盟協会がある。しかし満州国指導について，関東軍参謀副長となった石原と参謀長東条英機*とが対立したため,東亜連盟協会は解散。1943年に東亜連盟同志会と名のった。第2次世界大戦後解散したような形であったが，1952年再び結成された。〔高崎徳次〕

どうあん 【道安】 (314～385) 中国初期仏教の発展の基礎を築いた僧。常山扶柳(河北省)の人。12歳で出家し仏図澄の門下となる。戦乱のために各地を転々としたが,湖北省襄陽(じょうよう)の檀渓(だんけい)寺には15年間とどまって経典の講説に努めた。のちに前秦(しん)王苻堅(ふけん)の希望で長安の五重寺に移った。経典目録《綜理衆経(そうりしゅきょう)目録》を作成して当時の仏典を整理し，また出家者の姓を釈氏に一定させてみずから釈道安と称した。〔佐藤成順〕

どうアンモニアレーヨン 【銅アンモニアレーヨン】 原料パルプや綿リンターなどを酸化銅のアンモニア溶液にとかして紡糸したレーヨンの一種。ベンベルグともいう。性状は普通のビスコースレーヨンとほぼ同様であるが，繊維の細く強いのが特徴で，

服裏地・婦人服などに用いられる。

とうい【当為】 哲学用語。原語ゾルレンは〈(法律上)業務を負っている〉の語源から，〈他の人格(個人・国家・神)の意志が何事かを要求する〉の意味となった。要求の意志の主体が知られるならば命令・禁止となり，要求が正当と認められれば要求は自分の意志から生ずる(→自律)。カントは自然が〈そのようにあるもの〉であるのに対して，道徳を〈そのようにあるべきもの〉，すなわち行為の客観的必然性とし，後者を，①他の目的を実現するための手段としての必然性と，②そのものを端的に目的とする必然性に分けた。実践理性の命令に一致するのは②である。新カント派，特に西南学派は当為を真・善・美の価値の領域に広げ，現実存在から区別された価値の妥当する世界を基礎づける原理とした。〔中川 誠〕

どういげんそ【同位元素】 ⇨アイソトープ

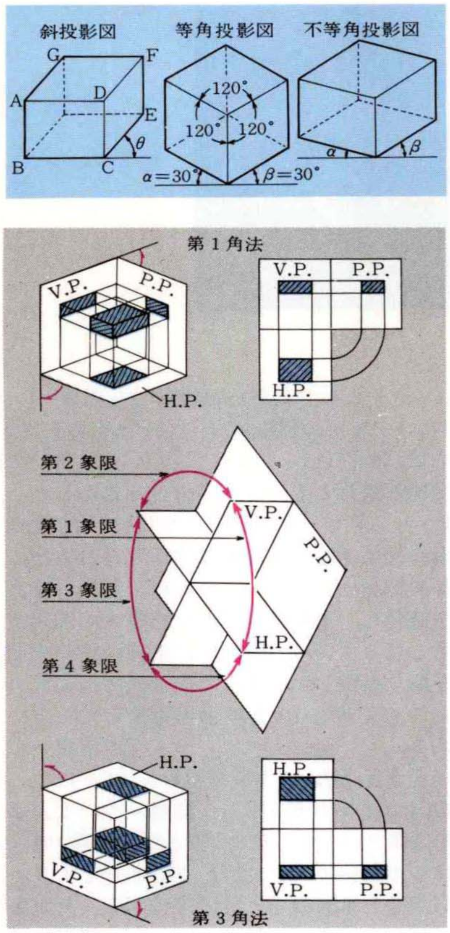
とういじょう【糖衣錠】 糖衣で剤皮を施した錠剤。飲みやすくするとともに，空気を遮断(しゃだん)して湿気・変質を防ぐためのもので最も一般的な剤形である。本来は不快な臭みや刺激性のある医薬品に用いたものであるが現在ではむしろ錠剤に光沢を与えて美しくし，口中での不快感がなく服用できることから商品価値を高める目的に利用されるようになった。ふつう打錠した錠剤からこわれたものや粉末を除き，吸湿性のものにあらかじめ防湿コーティングなどの予備操作をしたうえで糖衣を施す。糖衣に使用する薬剤は，白糖・単シロップなどを中心に各種がある。〔江本龍雄〕

とうい・せいい【東夷・西夷】 ⇨夷狄(いてき)

どういたい【同位体】 ⇨アイソトープ

どういつか【同一化】 精神分析の用語。他者に対する感情的な結びつきの最も原初的な形で，他者の諸性質を心理的に自己の中に取り込むこと。強い関心を寄せている対象(両親・教師など)の性格や態度，属性の一部を取り入れる〈部分的同一化〉と，小説を読んで，自分が主人公と一体であるかのように感じる場合のような〈全体的同一化〉とがある。同一化は特に乳・幼児期に顕著で，その精神発達にきわめて重要な役割を果たすと考えられるが，そのほかにも人気スターの言動や服装が直ちに一般人に模倣され，流行する例のように，広く社会人の心理現象中にもみられる。〔松田健身〕

とういつばりろん【統一場理論】 重力場を記述する理論として組み立てられた一般相対性理論に対して，自然界に存在する他種類の場も記述できるように一般相対性理論を拡張することを目的とした理論。最初の試みは重力場が時空の座標成分について対称なテンソルで表わされているので，反対称なテンソルを導入してそれで電磁場を表わそうとしたものである。この場合，



投 影 図

一つの方程式の解の対称と反対称の部分がそれぞれ重力場と電磁場を表わす。その後素粒子の場も含める理論も提唱されたが，多くの場を一つの方程式で書かなければならない必然性に説得力がなく，いままでのところ数学的な遊びを脱した物理学の理論にはなっていない。〔早川幸男〕

どういつりつ【同一律】 論理学用語。同一原理ともいう。思考の根本原理とされているものの一つで，〈AはAである〉という形式で表わされる。これは，われわれの思考が〈すべてのものはそれ自身と同一である〉という条件のもとに進められなければならないことを要求するものであり，言い替えれば，特定の論証や議論の中では，同一の概念は同一の意味において使用されなければならず，そこで真とされた命題はあくまで真とされなければならないということである。〔石倉恒之〕

とういつれい【統一令】 イギリス国教会の儀式および祈禱(きとう)を統一した法令。ヘンリー8世はローマ-カトリック教会からイギリス国教会を分離したが，その教義は変わらなかった。1549年エドワード6世は一般祈禱書の使用を国民に命じた。1552年，祈禱書の一部の改訂に伴い再発布，1559年エリザベス1世は，イギリス国教会の基礎を確立するため若干の改訂を加えて再び首長令の統一令を発し，従わない者への刑罰を定めた。1662年王政復古後，非国教徒取り締まりのためクラレンドン法典の一つとして出された。〔松下京子〕

とういん【頭韻】 韻文における押韻の一種で，各句の頭初に韻字をそろえるもの。句の末尾に韻を踏む脚韻に対する。日本の詩歌においても，意識的・無意識的に古くから用いられてきた。

とういんきんかた【洞院公賢】(1291～1360) 鎌倉・南北朝時代の公卿(くぎょう)。左大臣実泰(さねやす)の子。1309年(延慶2)参議，1330年(元徳2)内大臣，建武中興政府では右大臣に進み，翌年北朝に仕え，左大臣・太政(だじょう)大臣を歴任，政界の重鎮として中園太相国(たいしょうこく)と称された。1359年(正平14・延文4)出家して空元と号した。有職(ゆうそく)故実に通じており，《皇代暦》《歴代最要鈔(しょう)》，日記《園太暦》がある。

どううら【胴裏】 あわせ・綿入れの長着の裏布の一部分。すそ回しつきの場合の胴の裏につける布。裏そで・おくみ先布・裏えりを含み，用布たけは1反の3分の2にあたるが，並み幅でたけ830cmに切って，胴裏地として市販される。生地は女子用が裏地用平絹・綿モスリン・化学繊維で，色は白・ピンク(1945年以前は紅絹(もみ)・緋(ひ)もめんが若向き)，男子用が白・縹色(はなだいろ)のキャラコ・金巾(かなきん)を用いる。

とうえい【東映(株)】 日本の代表的映画会社の一。1951年(昭和26)に東京映画配給・東横映画・大泉スタジオが合併して創立された。《ひめゆりの塔》など思想的な映画をも含む投機的な企画を立てる一方，片岡千恵蔵・市川右太衛門(うたえもん)の二大スターで時代劇のブームをつくりだし，やがてテレビ映画やアニメーションなどにも積極策を示し，中村錦之助(きんのすけ)などのスターを得て，東宝に次ぐ業績をあげた。1960年代は鶴田浩二(つるたこうじ)・高倉健・藤純子らのスターを中心に大衆映画路線をさらに徹底させて大あたりをとり，またボーリング場・ホテルの経営も含めた総合レジャー企業として業界第1位に位置している。資本金66億5,000万円，年間営業収入679億2,700万円，従業員数927(1980年8月)。〔波多野哲朗〕

とうえいず【投影図】 立体を平行光線によって平面上に投影して表現した図。フランスのモンジュ(1746～1818)が築城設計図の明確化と簡素化を研究し発明した。この図法は平行光線と，それによる投影を受けとめる画面との位置関係によって，斜投影図と正投影図に分けられる。

斜投影図は，立体の一つの面を画面に平行な位置に置き，画面に斜交する平行光線を当てて得られるものである。この図法では，立体感をもたせながら，画面に平行な面の投影図が実際の面と合同になるという特徴がある。したがって，特に重要と思わ

れる立体の面があるとき，その面のようすを正確に示すのに用いられる。

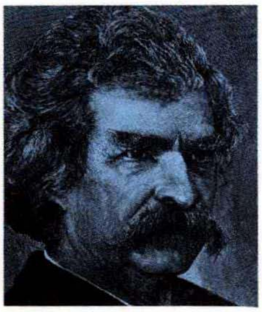
正投影図は画面に垂直な平行光線によって得られるもので，1平面へ投影する場合と2または3平面へ投影する場合とがある。1平面へ投影する場合には，それだけで立体のようすがわかるようにするために，光線の向きが立体の面と平行にならないように立体を置くのが普通である。そして，その置き方に次の2種類がある。その一つである等角投影図は立体に属する互いに垂直な3軸が互いに120°の角をなすような位置に立体を置くもので，図面上で軸の長さの割合が不変であるから，実長の関係を知るのには好都合である。しかし，頂点が重なって表現されることがあるので立体感が薄れる。これに対して，不等角投影図では，すべての頂点が重なり合うことのないような位置に立体を置いて投影するので立体感が出る。しかし，この場合には垂直な3軸の長さの割合が変わるので，図だけから実長の関係を正確に知ることができない。

正投影図で，2または3平面へ投影する場合を，ふつう簡単に投影図とよんでいる。この場合には互いに垂直な3枚の画面を用意し，その1枚を水平に置き，それを平画面(H.P.)，他の2枚を図のように立画面(V.P.)，側画面(P.P.)という。また，これらの画面によって分けられた空間の4部分をそれぞれ第1象限・第2象限・第3象限・第4象限という。

投影図の作り方は，投影しようとする立体を置く象限によって，次の第1角法と第3角法に分けられる。第1角法では，第1象限に立体を置くので，光線と画面との中間に立体があることになり，各画面に垂直な光線を立体にあてて投影すればよいことになる。また，第3角法では，第3象限に立体を置くので，光源と立体との中間に画面があることになり，画面を透明なガラス板と考えて，各画面に垂直な方向から立体をみたときの像を書けばよいことになる。このようにして，平画面・立画面・側画面につくられた正投影図が，それぞれ平面図・立面図・側面図であり，それらを図に示した矢印のように展開して，いわゆる投影図ができる。立体が単純で2枚の画面だけで足りる場合には，側面図を省略する。

〔菊池兵一〕

トウェーン ［Mark Twain］（1835～1910） アメリカの小説家。本名はサミュエル-ラングホーン-クレメンズ。ミズーリ州出身。見習い印刷工やミシシッピ川の水先案内人などを経てネバダで新聞記者となり，ユーモアにあふれた短編《カラベラス郡の跳(と)び蛙(がえる)》で有名になる。1867年ヨーロッパに旅行し，率直で軽妙洒脱(しゃだつ)な見聞記《田舎者(いなかもの)外遊記》を出して好評を得た。さらにネバダ旅行記《苦難を忍んで》，南北戦争後の世相を風刺したC.D.ウォーナーとの共著《めっき時代》を発表。《トム-ソーヤーの冒険》《ミシシッピ川の生活》や最高傑作《ハックルベリ-フィンの冒険》で，国民叙事詩ともいうべき世界を創造した。《ハドリーバーグを堕落させた男》など晩年の作品には暗い人間不信論がみられるが，その作品は，ミシシッピ河畔の新しい社会を賛美し，それを素材とした偉大な国民文学となっていると同時に，東部の古い文明を鋭く批判した。またその口語体は現代アメリカ文学に計り知れぬ影響を与えたといえる。



トウェーン

〔赤尾憲一〕

とうえんめい 【陶淵明】（366～427） 中国，晋(しん)代の詩人。陶潜ともいう。潯陽柴桑(じんようさいそう)（江西省九江の南西）の人。はじめ官職についたが，下級にとどまり，41歳のとき彭沢(ほうたく)の令に就任，それも80日余りでやめて隠遁(いんとん)し，耕作して生涯(しょうがい)を送った。《帰去来辞》の作者で，酒を愛し，自然に親しんだ隠逸の代表的詩人として知られているが，反面，激しい情感の持ち主で，現世への執着を示した時期もあった。そのユートピアを描いた散文《桃花源記》は特に有名。清(しん)の陶澍(とうじゅ)の編した《靖節(せいせつ)先生集》がある。

〔今村与志雄〕

とうおう 【湯王】 中国，殷(いん)時代の王。名は履。成湯・天乙ともよばれる。賢臣伊尹(いいん)の補佐を得，夏王朝の悪王桀(けつ)を鳴条の野に破って，殷(商)王朝を開いた。雨ごいのためみずからを犠牲(いけにえ)として桑林に祈るなどの徳行が伝えられ，聖王のひとりに数えられる。

とうおうけいざいそうごえんじょかいぎ 【東欧経済相互援助会議】 ⇨コメコン

トウォート ［Frederick William Twort］（1877～1950） イギリスの微生物学者。セント-トーマス医学校に学び，同病院・ロンドン病院を経て，1909年ロンドン大学ブラウン研究所長，1931年同大学教授。1915年バクテリオファージによる現象を発見したことは著名であるが，この現象が生物性のものによるとは思わなかった。なお，バクテリオファージの概念を確立したのはカナダ生まれの細菌学者デレルである。

どうおんご 【同音語】 同一言語内で，発音は同じで意味の異なる二つ以上の語。同音異義語。東京語におけるカ̄キ(柿)とカ̄キ(牡蠣)のようにアクセントで区別されるものと，ソコ̄(底・其処)のようにアクセントでも区別できないものとがある。現代語では特に漢語に同音語が多い。たとえばコウショウには〈交渉〉〈考証〉〈口承〉〈公称〉〈公傷〉などがある。同音語の判別はおもに場面や文脈によって行なわれるが，漢語を耳で聞く場合，ときに混乱や誤解を生ずることもある。

〔西尾寅弥〕

とうか 【糖化】 デンプン・グリコゲンなどの非還元性多糖類を分解して，還元性の少糖類や単糖類を生成すること。これら多糖類は酸によって加水分解するとブドウ糖を生ずるが，β-アミラーゼによって分解するとマルトースを生ずるのでβ-アミラーゼは糖化アミラーゼともいわれる。

とうが 【冬芽】 〈ふゆめ〉ともいい，夏芽に対する語。落葉前の夏から秋に生じ，寒さに耐えるよう鱗片葉(りんぺんよう)でおおわれており，越冬して翌春に伸びる芽。鱗片葉の表面にロウ様物質(クチナシ)・樹脂(トチノキ・ポプラ)を分泌したり，毛を密生(モクレン・ヤナギ)する場合がある。

どうか 【同化】 生物が単純な物質から複雑な物質(たとえばタンパク質やグリコゲンなどの高分子)をつくりだすこと。異化によって生じたエネルギーのかなりの部分が同化のために利用される。同化にも種々の反応があり，その最も顕著なものが独立栄養生物が行なうものである。緑色植物では葉緑体中で太陽エネルギーを用いて炭酸同化(光合成)を行ないデンプン類を合成しているが，タンパク質をつくるためにさらに必要な窒素は硝化作用によって根から無機物の形で摂取している。細菌の中には化学合成によってタンパク質・炭水化物・脂肪などを合成しうるものが多い。動物のように従属栄養生物では，以上のような意味での同化はなく，摂取したえさを消化・吸収して再び同じようなまたはさらに高度な高分子をつくる意味での同化となる。また炭酸同化は，緑色植物のみのもつ働きではなく，動物も細菌もこの作用をもっているが，光合成が起こらないだけである。

〔井坂三郎〕

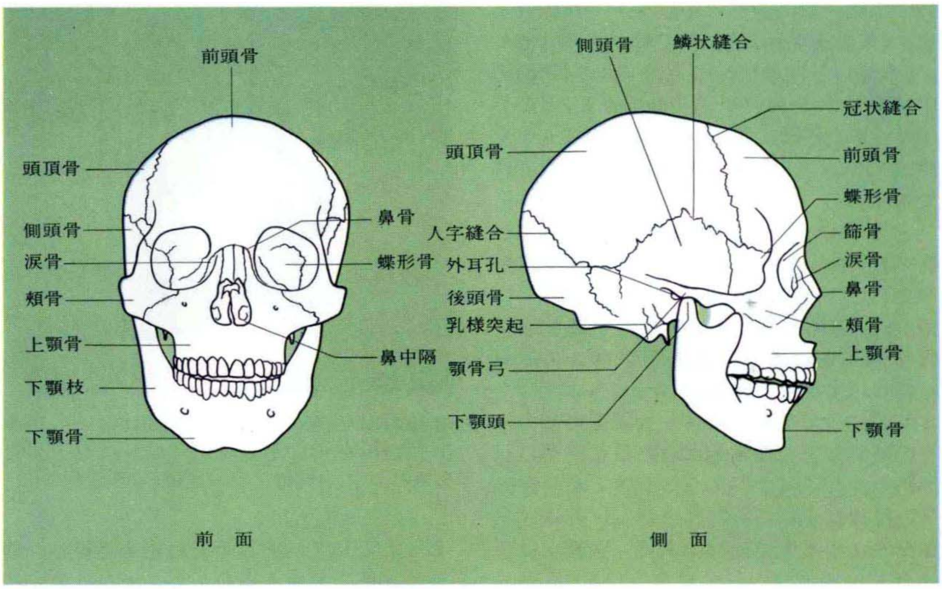
どうか 【道家】 中国，戦国時代の諸子百家の一。道家の中には法家のように政治術や政治哲学を説くものもあり，それは，道家の祖に祭り上げられた黄帝と老子の名をとって黄老の学・術とよばれて，漢代初期に盛んだった。その思想を伝える主要な書物は《老子》と《荘子(そうじ)》で，これは漢王朝崩壊後の過渡期である魏(ぎ)・晋(しん)時代に特に注目され，当時の清談にふけった竹林の七賢や官人たちの思想や生活態度の基調となった。その無為自然の思想は，あらゆる政治的・社会的束縛を離れた絶対的自由の観念を説くと同時に，あらゆる限度を越えて支配する権力の絶対性の観念をも説いた。これを〈老荘思想〉とも称する。道

家思想または老荘思想は，儒家思想と並んで，その後の旧中国の官人＝知識人を支配した。儒家思想が支配階層としての彼らの正統教学であったのに対し，これはその裏面にあたる。道家思想こそは，体制的疎外からの解放を願う彼らの，〈自然〉としての人間の声であり，詩酒・文雅の哲学であり，政治拒否・政治批判の根拠であった。

なお，後漢末に民間宗教として興り，のちに貴族化するものもあった道教*は，その内容が道家と無関係とはいえないものであったため，道家の名称が道教を含むこともある。ヨーロッパでタオイズムというのは，まさに道家＝道教のことである。➔中国哲学　〔西　順蔵〕

とうかい　【東海(市)】 愛知県西部の市。人口95,000。1969年(昭和44)知多郡上野町と横須賀(よこすか)町が合併して市制施行。北部の上野はアサクサノリの養殖などをする農漁業の町，南部の横須賀は古くは遠浅の海のために馬走瀬(まばせ)ノ浦とよばれ，ここも漁業やアサクサノリの養殖が盛んで，西尾氏三万五千石の城下町でもあった。市域は知多半島北西岸を占め，伊勢(いせ)湾に臨み，背後は高さ100m前後の丘陵地で，北は名古屋市と接する。産業三大別人口比は6：52：42。1959年の伊勢湾台風以後，遠浅の海を埋め立てて名古屋港南部の臨海工業地帯が造成され，新日本製鉄名古屋製鉄所を中心に巨大なコンビナートをもつ鉄鋼都市に脱皮しつつある。丘陵地はミカンや野菜類の生産地であったが，近年は宅地化が進んでいる。名古屋鉄道常滑(とこなめ)線やバスで名古屋市の中心部と短時間で結ばれ，国道247号線が海岸線を走る。北東方の豊明(とよあけ)市には国道1号線沿いに桶狭間(おけはざま)の古戦場がある。

とうかい　【東海(村)】 茨城県那珂(なか)郡に属する村。人口29,000。太平洋に面し，北は日立市，南は勝田市に接する。1955年(昭和30)石神・村松の2村が合併して，藤田東湖の《正気の歌》の一節をとって村名とした。1957年日本原子力研究所東海研究所が海岸砂丘に設立されて日本最初の原子炉の運転を開始し，その後原子燃料公社東海製錬所(現在の動力炉＝核燃料開発事業団東海事業所)・日本原子力発電株式会社東海発電所・放射線医学総合研究所東海支所などのほか，住友原子力工業・三菱(みつびし)原子力工業・古河(ふるかわ)電工・富士電機なども次々と完成した。東海事業所の南にある村松虚空蔵(こくうぞう)は，日本三大虚空蔵の一つとして有名。常磐(じょうばん)線東海駅がある。



頭　　蓋

とうがい　【凍害】 ⇨寒害

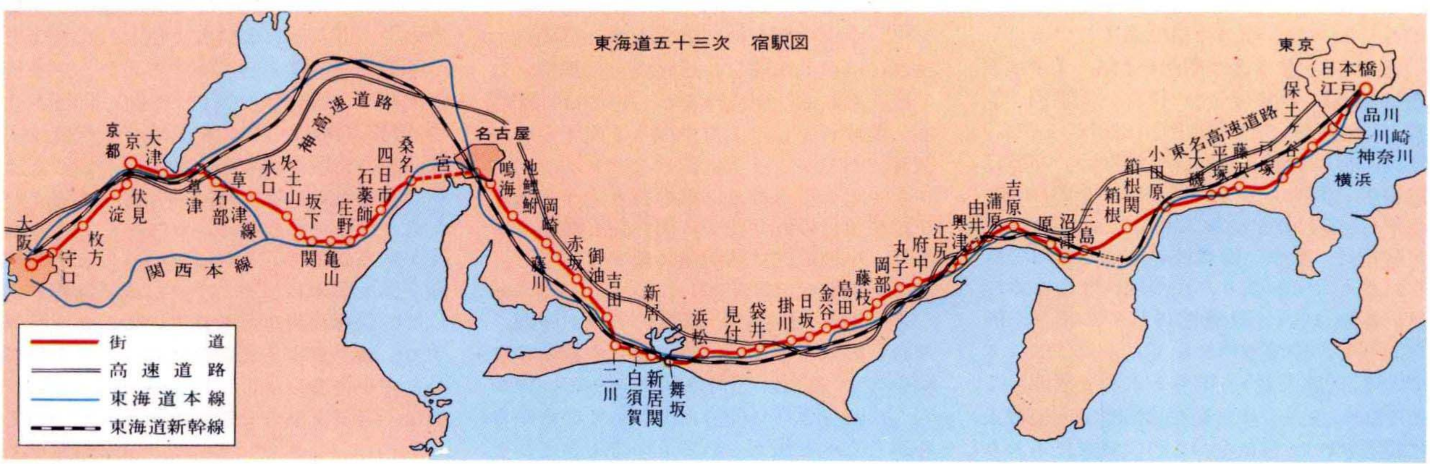
とうがい　【頭蓋】 脊椎(せきつい)動物の頭部の骨格で，〈ずがい〉ともいう。下顎骨(かがくこつ)と舌骨を含め15種23個の頭蓋骨が組み合わさってできており，その内部には脳・視覚器・平衡器を入れ，さらに消化器・気道の一部を入れている。脳を収容している部分を脳頭蓋(神経頭蓋)とよび，視覚器・平衡器・口腔(こうこう)・鼻腔などがある部位を顔面頭蓋(内臓頭蓋)とよぶ。頭蓋骨の大部分は縫合とよばれる骨の結合で連結しており，形は扁平(へんぺい)なものが多い。頭蓋は第1頸椎(けいつい)または環骨とよばれる頸椎の上にあって，頸骨と後頭骨とが関節をつくっている。脳頭蓋の最も発達したヒトでは，顔面頭蓋を1とした場合，脳頭蓋は4を示す。しかし類人猿(るいじんえん)では，両者の比が1対1でほぼ同じくらい，ウマでは，脳頭蓋1に対して顔面頭蓋は4.5となり魚類では6となっている。〔高野一雄〕

とうかいどう　【東海道】

1 五畿(ごき)七道*の一。〈うみつみち〉と読む。伊賀(いが)・伊勢(いせ)・志摩(以上三重県)，尾張(おわり)・三河(みかわ)(以上愛知県)，遠江(とおとうみ)・駿河(するが)・伊豆(以上静岡県)，甲斐(かい)(山梨県)，相模(さがみ)(神奈川県)，武蔵(むさし)(はじめ東山道*，東京都・神奈川・埼玉県)，安房(あわ)・上総(かずさ)(以上千葉県)，下総(しもうさ)(千葉・茨城県)，常陸(ひたち)(茨城県)の15か国がこれに属する。

2 江戸時代の五街道*の一。53の宿場は俗に東海道五十三次*と称された。

とうかいどうごじゅうさんつぎ　【東海道五十三次】 1601年(慶長6)江戸幕府によって定められた江戸(東京都)品川から東海道*を経て，近江(おうみ)(滋賀県)大津に至る



53の宿場*。東海道筋に題材をとった浅井了意の《東海道名所記*》，菱川師宣*(ひしかわもろのぶ)の《東海道分間絵図》，十返舎一九の《東海道中膝栗毛(ひざくりげ)》(→道中膝栗毛)などの作品を生み，安藤広重(ひろしげ)の《東海道五十三次》の55枚の連作は日本風景版画の代表作である。〔高崎徳次〕

とうかいどうしんかんせん【東海道新幹線】 東京～新大阪間の国鉄標準軌間幹線鉄道で，延長は515km，営業キロ数556.4。1964年(昭和39)に開業。世界で最も速い営業用高速鉄道で，最高速度200kmの運転を行なっている。超特急〈ひかり〉は全線を3時間10分で走り，東京～大阪間各都市相互の時間距離を飛躍的に短縮した。他の交通路との交差はすべて立体交差とし，高架区間延長は全線の約76％に達し，列車は全部交流による電車運転である。中間駅は新横浜・小田原(おだわら)・熱海(あたみ)・三島・静岡・浜松・豊橋(とよはし)・名古屋・岐阜羽島・米原(まいばら)・京都の11か所。1972年2月現在で1日平均213往復の列車が運転されている。今後の都市間連絡鉄道のあり方を示す一つのモデルとして各国から注目されている。→新幹線〔青木栄一〕

とうかいどうちゅうひざくりげ【東海道中膝栗毛】 ⇨道中膝栗毛

とうかいどうほんせん【東海道本線】 東京～神戸間の国鉄路線で営業キロ数589.5。ほかに支線137.5kmがある。1872(明治5)～1889年開業。京浜・中京・京阪神(けいはんしん)の三大都市圏を結ぶ幹線鉄道で，いわゆる太平洋ベルト地帯を縦貫する最重要幹線としての役割を果たし全線が直流で電化されている。1964年東海道新幹線*の開業によって，大都市間の旅客輸送がこれに移されたので，在来線は中短距離列車・夜行長距離列車・貨物列車などの運行がおもな役割となった。〔青木栄一〕

とうかいどうめいしょき【東海道名所記】 仮名草子*。6巻。浅井了意*作。1659年(万治2)成立(推定)。楽阿弥(らくあみ)という道心者が，江戸見物ののち若者とともに京都まで旅をする道中記で，東海道の各駅ごとに里程・人情風俗・名所旧跡などを詳細に紹介している。実用書としての価値も高くこっけい読み物の性格も備えている。

とうかいどうよつやかいだん【東海道四谷怪談】 歌舞伎(かぶき)狂言。世話物。5幕。4世鶴屋(つるや)南北*作。1825年(文政8)江戸中村座初演。通称《四谷怪談》。初演は，民谷伊右衛門(いえもん)を7世市川団十郎*，お岩・小平・与茂七の3役を3世尾上(おのえ)菊五郎*が演じた。数多い歌舞伎の怪談狂言の中でも，最も人気があり，かつ現代性のある作品。爛熟(らんじゅく)退廃期の江戸の市井風俗を活写し，生世話物*としてもみごとなできである。《忠臣蔵》の世界と重ねて構成してあるため，主人公伊右衛門は塩冶(えんや)の浪人に設定された。彼は金持ちの伊藤家に婿入りしようとして，病気の妻お岩を毒殺し，若党の小仏小平をも惨殺して，ふたりの死体を戸板の表裏にくぎで打ちつけて流す。お岩の死霊は伊右衛門を離れず，さまざまに苦しめたすえ，ついに狂わせるというのが大筋。徹底した非情の描写に卓越した作者の才能がみられる。〔服部幸雄〕



東海道四谷怪談　〈蛇山庵室〉の場幕切れ。民谷伊右衛門(右)は，激しい雪とお岩の亡霊とに悩まされつつ，佐藤与茂七の白刃に倒れる

とうかいほくりくじどうしゃどう【東海北陸自動車道】 国土開発幹線自動車道の一つで，東名高速道路の一宮インターチェンジより分岐し，ほぼ長良(ながら)川と庄(しょう)川の河谷に沿って走り，礪波(となみ)市で北陸自動車道に結ばれる。延長約180km。

どうかいわん【洞海湾】 福岡県北部，北九州市の西部，若松・戸畑・八幡(やわた)の3区にはさまれた湾。古くは〈くきのうみ〉(洞海)とよばれた。湾口に戸畑・若松が相対し，南岸に八幡，湾奥に折尾の市街地がある。1901年(明治34)，八幡製鉄所(現，新日本製鉄)が南岸に建設されて以来，埋め立て工業地の造成が行なわれ，面積が縮小して，直線の人工海岸線で囲まれた細長い川のようになった。湾内は特定重要港湾北九州港の一部である洞海港となり，大形船舶が出入する。1963年(昭和38)9月，湾口に若戸大橋が架橋された。〔山口恵一郎〕

どうがえいが【動画映画】 ⇨アニメーション

とうかえで【唐楓】 双子葉植物・カエデ科。中国中部ないし南部原産の落葉高木。高さ10m以上に達し，街路樹・公園樹として植えられる。樹皮は黄かっ色ではげ落ちる。葉は対生し，上方で浅く3裂するのが普通であるが，ときに裂けないヒトツバトウカエデも見られる。葉の長さ4～8cm。花は淡黄色の五弁花で，両性花と雌花とがあり，小枝の先に散房状に集まって咲く。翼果の両翼はほぼ平行し，長さ1.5～2.5cm。

どうがく【道学】 儒学の一派。中国，宋(そう)の朱子学*において，聖人の教えの中核をなす〈道〉は，元来天道であって，天から人に賦与された〈性〉に備わっているから，心から心へと伝えられるものでもある，と考えられた。これを〈心伝道統〉といい，儒学をこのようなものとして考えた場合，その儒学を特に道学という。《宋史》以後の〈儒学伝〉は朱子学者のために別に〈道学伝〉を立てている。なお，道学すなわち朱子学は，人欲を天理によってきびしく克服統制すべきことを説いたが，後世その厳粛主義(リゴリズム)を唱道する人たちを，肯定的に，またときには嘲笑(ちょうしょう)して〈道学者〉とよんだ。→周濂渓(しゅうれんけい)〔西　順蔵〕

とうがくとう【東学党】 1860年朝鮮で崔済愚(さいせいぐ)が始めた天道教を奉ずる徒党。民間信仰を中心に儒・仏・道3教を折衷し，胸に霊符を納めて，21字の呪文(じゅもん)を唱え，天上天国の建設を目的としたが，しだいに民族的排外運動の性格を強めた。李朝(りちょう)政府がこれを弾圧したので，1894年第2祖崔時亨(さいじこう)が全羅道(ぜんらどう)を中心に暴動を起こした。政府は清朝(しんちょう)に応援を求めたが，日本も直ちに派兵し，乱平定後日清戦争*を誘発した。〔勝村哲也〕

とうがくびょう【東岳廟】 泰山府君または東岳大帝を祭った道教*の寺院。中国山東省の泰山*は古来聖山とされていたが，後漢のころからここの山神が人間の生死・吉凶を支配する神とされ，泰山府君または東岳大帝とよばれるようになった。この神は，その後道教で，去禍求福という最も普遍的な民間信仰の対象の一つとなり，泰山を中心として全国各地に祭られた。なお，明(みん)代からは東岳大帝に代わって，その娘という碧霞(へきか)元君，俗称泰山娘娘(ニャンニャン)が信仰されるようになり，全国に娘娘廟(びょう)が設けられた。〔西　順蔵〕

とうかこうかん・ふとうかこうかん【等価交換・不等価交換】 商品がその価値*または生産価格*どおりに交換(売買)されることを等価交換といい，価値や生産価格以下またはそれ以上で売買されることを不等価交換という。資本主義社会において商品は自由競争の結果の無政府的生産という性格から，個々的にはしばしば不等価で交換されるが，市場価格の変動を通じて需給関係が調整されることによって，総体的には等価交換の法則が貫徹される(→需要供給の法則)。利潤の源泉たる剰余価値*が労働者のつくりだした価値と支払われた賃金との不等価交換によって生ずるという点を別にすれば，商品は一般に(労働力商品さえも)等価交換の原則に従うのが近代資本主義商品の交換原則であったが，そのことは商品が価値または生産価格で売られるということにほかならない。したがってある商品が独占価格*で売られるということは不等価交換を意味し，その中には流通過程を通じての収奪利潤が含まれていることを意味する。独占資本主義*段階における大企業製品と中小企業製品，工業製品と農産物の交換は不等価交換の一般的事例とされている。〔常盤政治〕

どうがしま【堂ヶ島】 静岡県伊豆(いず)半島南西部に位置する海岸の観光地。大小奇形の島々や天然記念物の〈天窓洞(てんそうどう)〉など変化に富んだ海岸が美しい。最近温泉がわいて観光行楽地としての価値が急増し，ホテル・食堂・民宿や遊覧船などの施設がしだいに整備されている。

どうがしまおんせん【堂ヶ島温泉】 神奈川県足柄下郡箱根町にあり，泉温30～85℃，泉質は弱食塩泉で，胃腸病・婦人病・リウマチなどにきくといわれる。宮ノ下温泉の近く，早川渓谷(けいこく)の深い谷底に位置する静かな温泉で，富士箱根伊豆(いず)国立公園内にある。夢窓国師が草堂を建てて居住した地で，近くに堂跡があり，これが地名となった。交通は箱根登山鉄道宮ノ下駅下車が便利。

とうかせちえ【踏歌節会】 ⇨節会

とうかせん【桃花扇】 中国，清(しん)代の戯曲。孔尚任*(こうしょうじん)の作。1699年に完成。明(みん)末，崇禎(すうてい)年間に四公子のひとりといわれた侯方域(こうほういき)と南京(ナンキン)の秦淮(しんわい)の美妓(びぎ)李香君(りこうくん)との恋物語を中心とし，敵(かたき)役に阮大鋮*(げんだいせい)らを配し，明末の史実を背景にしてつくった歴史劇。洪昇(こうしょう)の《長生殿》とともに清代戯曲の双璧(そうへき)といわれた。

どうかせん【導火線】 爆破薬に点火するための火工品。ダイナマイトなどの爆破薬雷管は点火後直ちに爆発するため危険なので，黒色火薬を糸や紙で巻いてひも状にした導火線を用いる。黒色火薬は大きい力が加わっても爆発しないし，この導火線は1秒間に1cmの割合で徐々に燃えていくので危険が少ない。

とうがね【東金(市)】 千葉県中東部の市。人口36,000。中世末まで酒井氏の居城があり，江戸時代は幕府直轄地となり，東金街道に沿う商業町として栄えた。明治以降は鉄道幹線からはずれたが，習志野・下志津などに軍事施設が集まり，東金線・九十九里鉄道が開通して町勢を維持した。1954年(昭和29)市制施行。市域は，九十九里浜平野と両総台地にまたがり，産業三大別人口比は36：21：43。平野部は両総用水の完成によって水田地帯が広がり，野菜類の産も多い。台地部には山武スギの特産がある。東金線・国道126号線・128号線が通じ，最近は京葉工業地域への通勤者が増加している。九十九里鉄道はバス路線に変わって，房総半島東岸の本須賀(もとすか)に達する。北部に鴇根(ときがね)城跡とサクラの名所八鶴湖(はっかくこ)がある。

どうがねぶいぶい【銅鉦蚉蚉】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・コガネムシ科。体は卵形で，体長20～24mm，体幅11～13mm。体は鈍い光のある銅色で，鞘翅は平滑。体の下面は黒銅色で，紫色の光沢をおび，胸部には白色の細毛が密生する。色彩は個体によってかなり変化し，濃緑色・銅色・紺色などの個体もある。前脚の脛節(けいせつ)には，雄では1個，雌では2個の歯状突起がある。日本・朝鮮に分布し，成虫は6月下旬ごろから出現する。マメ類・ウメ・アンズ・リンゴ・カキ・ブドウなどの葉を食害し，また夜間燈火によく飛来する。年1回発生し，冬は土中で幼虫態で越す。



トウカムリガイ



トウガラシ　香辛料に用いられるヤツブサ

とうかむりがい【唐冠貝】 軟体動物・腹足類・トウカムリガイ科。殻高(かくこう)35cm，殻径19cmほどの大形巻き貝。殻(から)は厚く，螺塔(らとう)は低く，倒卵形。各螺層の肩に8個内外の角状突起を生じる。殻表は黄白色で黒かっ色小斑(しょうはん)があり，縦肋(じゅうろく)と螺肋が交わって網目状になる。殻口は唇縁(しんえん)が厚くなり，平らに広く開き，殻口部は狭くなり，外層内側に歯形に刻まれる。紀伊(きい)半島以南，太平洋・インド洋に広く分布し，潮回帯下の岩礁にすむ。貝殻は細工物の材料や置き物にする。

とうがらし【唐辛子・蕃椒】 双子葉植物・ナス科の一年生草本。ナスのような草姿を示すが，葉は緑色で，長さ2～12cmぐらいで品種により変異がある。花は小形で白く，果実は鳥のくちばし状をした小さなものから，長卵形の大形のものまである。カプセチンという辛味成分をもった種類を辛唐辛子，辛味成分のない種類を甘唐辛子またはピーマンとよび，辛唐辛子は香辛料に，ピーマンは野菜に用いる。

とうかりょくせきけん【洮河緑石硯】 中国甘粛省蘭州(らんしゅう)に近い洮河から採取した石でつくったと伝えられるすずり。宋(そう)代に名硯(めいけん)としての名が高く，現存のものにも宋硯といわれる大形のものが多く，蘭亭(らんてい)の図などを刻している。すずりの色は淡緑で硯面はなめらかである。宋以後はあまりつくられていない。同じ緑石硯に清(しん)の乾隆(けんりゅう)時代の松花江緑石硯があり，これには乾隆帝の御製詩文を刻したものもある。➔すずり(写真)

〔杉村勇造〕

どうがれびょう【胴枯病】 子嚢菌(しのうきん)類によるクワ・クリの重要な病害。枝・幹に発生，はじめ罹病(りびょう)部は赤かっ色を呈し，少しくぼんだようになり，のちさめはだ状になる。被害部が枝や幹の全域に及ぶとそこから上部は枯れる。害虫の食入痕(しょくにゅうこん)，切り口，若木のときの凍害，日焼けなどから菌が侵入しやすい。初期に患部を取り去るか石灰イオウ合剤・水銀製剤を散布する。

とうかろうどうかちせつ【投下労働価値説】 ⇨労働価値説

とうがん【冬瓜】 双子葉植物・ウリ科。トウガともいう。熱帯アジア原産の一年生つる植物。茎は細長く伸び，巻きひげで物に巻きつく。葉は掌状で互生する。雌雄同株で，花は黄色，花冠は5裂する。果実は粉白色をおびた緑色の楕円(だえん)形ないし円形で，径40cmぐらい。果肉はしるの実やつけ物にする。種子は冬瓜子といい，利尿の効があるという。

どうかん【道管・導管】 被子植物にみられる根から葉までの水分の通路で，長い円柱形の細胞が縦に並び，その上下の細胞壁が消失して，1本の管のようになったもの。細胞壁は木化しており，集まって木部を構成する。管の側壁は特有の肥厚によって各種の紋様を生じ，その紋様によって孔紋道管・らせん紋道管・環紋道管・網紋道管などと区別される。

どうかん【潼関】 トンコワン 中国，陝西(せんせい)省東部の都市で県政府の所在地。華山の北東麓(ろく)，黄河の屈曲部にある。東流してきた渭水(いすい)の黄河に流入する地点にあたり，古来，中原と関中を連絡する要害の地として知られていた。唐代には国都長安(現，西安)の防衛拠点として重要な位置を占めた。近年は，隴海(ろうかい)鉄道(連雲港～蘭州(らんしゅう))に沿い，また黄河をはさんで同蒲(どうほ)鉄道(大同～風陵渡(ふうりょうと))の終点風陵渡に対する商業集落として栄えた。しかし，現在工事中の三門峡ダムが完成すると完全に水没するため，1960年に約10km南方へ移動し，それとともに隴海鉄道も南方へつけかえられた。人口約50,000。

〔船越昭生〕

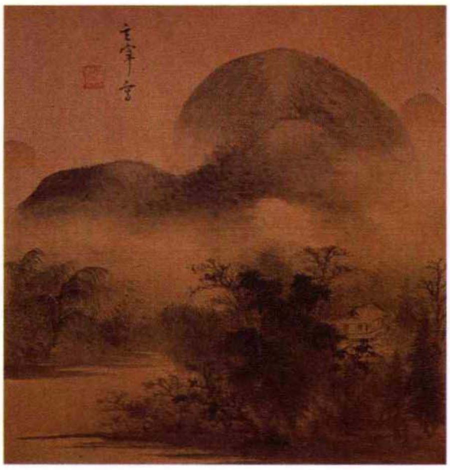
とうかんきこう【東関紀行】 鎌倉中期の紀行作品。作者未詳。京都東山に閑居していた作者が，所願があって1242年(仁治3)8月に京都を立ち，鎌倉へ旅した際の紀行で，道中10日余の見聞録と，2か月ほどの鎌倉滞在中の記録とからなる。優雅な和漢混交文で記してあり，《平家物語*》や《源平盛衰記*》に大きな影響を与えた。

どうかんすう【導関数】 関数$y=f(x)$が，ある変域のすべての値xにおいて微分係数$f'(x)$をもつとき，この変域における微分係数$f'(x)$はxの関数である。この関数$f'(x)$をもとの関数$f(x)$の導関数という。たとえば，x^3，$\sin x$の導関数はそれぞれ$3x^2$，$\cos x$である。関数$f(x)$からその導関数$f'(x)$を求めることを，$f(x)$をxについて微分するという。導関数は$f'(x)$のほか，y'，$\frac{dy}{dx}$，$\frac{d}{dx}f(x)$などで表わす。関数$y=f(x)$の導関数$f'(x)$がもう一度xについて微分できるとき，微分して得られる関数$(f'(x))'$を，$f(x)$の第２次(階)導関数といい，$f''(x)$や$\frac{d^2y}{dx^2}$などで表わす。同様にして，$f(x)$の第n次(階)導関数$f^n(x)$，$\frac{d^ny}{dx^n}$も定義できる。〔杉岡司馬〕

とうき【当帰】 双子葉植物・セリ科。本州中部・北部の山の岩石地に生育する多年草。高さ30～90cmで，折ると強いかおりがする。根出葉は１～２回３出複葉で，両面に光沢がある。茎は中実でなめらか。７～９月，茎頂に傘形(さんけい)花序をつける。花序の枝は25～40本でざらざらしており，花序の下部にだけかたい毛がある。果実は長さ４～6.5mm，幅1.5～２mmの長楕円(ちょうだえん)形分裂果で，狭い翼がある。根を当帰といい，鎮静・浄血・強壮の効があり，漢方でよく用いられる。



トウキ



董其昌《山水画冊》東京国立博物館蔵

とうき【登記】 一定の事項または権利関係を，広く一般に公示するため公の帳簿(登記簿)に記載すること。物権の変動は，外部から認識できるようになんらか一定の外形を伴わなければならないという公示の原則*に基づくもので，不動産に関する物権の変動を公示する方法としては特に重要な制度である。登記がいかなる効力を有するかは，その登記の種類によって異なり，次の三つの場合がある。①不動産登記・立ち木登記・船舶登記・工場財団登記など，権利の公示に関するもの。このうち重要なのは不動産登記で，不動産登記法(明治32年法律24号)は国の定める登記所に土地登記簿と建物登記簿を備え，これに権利の得喪変更を記載することによって目的物の権利関係を公示することになっているが，登記によって不動産に関する物権が成立または移転するのではなく，不動産登記は単に第三者に対する対抗要件でしかない(民法177条)。②商業登記や法人の設立登記など，権利主体の公示に関するもの。会社の設立登記は第三者に対する対抗要件であるとともに成立要件であり，法人の設立登記は第三者に対する対抗要件でもある(民法45条２項・商法57条)。③夫婦財産契約による財産関係の公示に関するもの。婚姻前に登記することによって，第三者に対する対抗要件ともなる(民法756条)。登記は，登記権利者(登記をすることによって利益を受ける者)と登記義務者(登記をすることによって不利益を受ける者)またはその代理人が登記所に出頭して共同で申請することが原則である。ただし，判決または相続による登記は，登記権利者のみで行なうことができる。〔黒木三郎〕

とうぎ【東魏】 ⇨北魏

どうき【動機】 行動をひき起こす原動力となるような，個体内の原因。動因・欲求・要求などのことばもほぼ同意義に用いられる。身体内部の生理的な要求または欠乏に基づく一次的動機と，それを基礎に経験や習慣によって学習された二次的動機とに区別される。一次的動機は飢えやかわきのように，個体内の生物的・生理的な平衡状態が破れたときに生ずるものであり，二次的動機は名誉欲・金銭欲などのように経験的に獲得され，一次的動機に比べて社会的・精神的な意味をもつ。人間の行動はこの２種の動機に基づいて選択される。〈動機づけ〉というのは，このような個体内に生理的あるいは心理的な要求が生じ，この状態を解消させようとする働きによって個体を行動にかりたてるという一連の過程をいう。つまり〈動機づけ〉は要求→動機→目標への過程であるといえる。〔原野彰子〕

どうき【動機】 モチーフともいう。18世紀以降の音楽理論で，一つの作品の最小の区分とされる。たとえば，ベートーベンの第５交響曲の冒頭のソ・ソ・ソ・ミがこれにあたり，それは主題を構成するだけでなく，他の部分，特にソナタ形式の展開部の最も重要な構成要素として使われる。動機は単なる音のかたまりではなく，音楽的な意味と統一をもつ細胞といえる。

どうぎ【胴着】 長着*とじゅばん*の間に着る綿入れの防寒用下着。長胴着(長着と同じ形)と半胴着(身たけが腰までのもの)があり，後者はおくみ*なしでわき縫い目のすそに馬乗り*をあける。なお労働用には筒そでのものもある。表布には縞(しま)や格子(こうし)のもめん・紬(つむぎ)・縮緬(ちりめん)など，裏にはもめん・平絹・紬などを用いる。特に男子用はそで口布・掛けえりに黒八丈を使う。江戸時代から明治の末まで男女を問わず広く用いられたが，現今ではすたれてあわせじゅばんが用いられる。〔堀越すみ〕

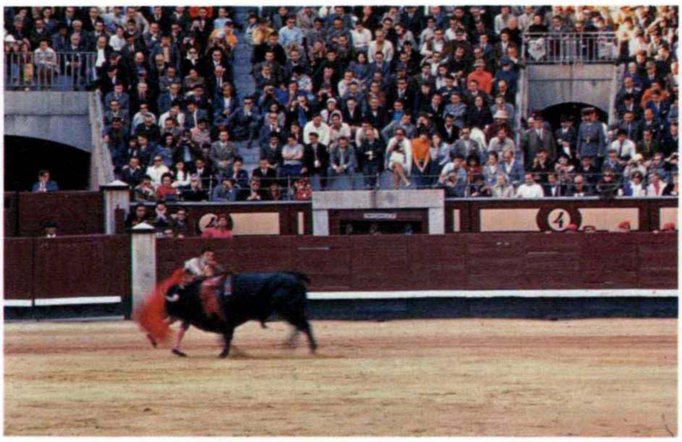
どうぎご【同義語】 同一の言語の中で，語形は違いながら，表わす意味が似ている二つ以上の単語。同意語・類義語ともいう。また意味が同一に近いものを特に同義語ということもある。〈山＝山岳〉〈選ぶ＝選択する〉〈髪形＝ヘアスタイル〉〈投手＝ピッチャー〉のように和語・漢語・外来語の重なり合いによる同義語が多いことは，現代日本語の特徴の一つである。語のさしているものごとにはまったく区別のない同義語でも，感情的な意味や文体的な価値においては，なんらかの区別が見いだされている。〔西尾寅弥〕

とうきしょう【董其昌】(1555～1636) 中国，明(みん)代の文人。字(あざな)は玄宰。号は思白・香光，晩年は思翁。松江華亭(江蘇(こうそ)省)の人。1589年の進士。官は礼部尚書(しょうしょ)に至った。卒して太子太傅(たいふ)を贈られ，文敏とおくり名された。詩文をよくし，禅理に通じた。書画ともにすぐれ，特に書においては魏(ぎ)・晋(しん)を尊び，宋(そう)の米芾*(べいふつ)に私淑して，平淡自然の妙境を悟得し，その書風は清朝(しんちょう)にも流行した。《容台集》《画禅室随筆》の著書，および彼の鑑識収蔵した法帖(ほうじょう)を集刻した《戯鴻堂(ぎこうどう)法帖》がある。〔中田勇次郎〕

どうきづけ【動機づけ】 ⇨動機

どうきでんどうき【同期電動機】 ⇨電動機

とうきゃくるい【等脚類】 節足動物・甲殻(こうかく)綱・等脚目。体は背腹に扁平(へんぺい)で，体長は１mm以下の小形のものから27cmに達するものまであるが，１cm前後のものが最もふつう。海産のものが最も多く，沿岸から10,000m付近の深海にまで生息する。しかし，淡水にも生息し，純陸生種も含まれている。外皮は固化し，陸生種では石灰質の沈着もみられる。グチアナ類・ウミナナフシ類・ミズムシ類・フレアトイクス類・ワラジムシ類・ヘラムシ類・有扇類・ヤドリムシ類の８亜目があり，そのうちワラジムシ類は真正の陸生で，ワラジムシ・





闘　牛 (左)マドリードの闘牛場。ムレタと剣を手にたたかうマタドール (右)愛媛県宇和島市の闘牛。今日では重要な観光資源ともなっている

オカダンゴムシ・フナムシなどが有名。有扇類には，ウミセミなど自由生活のものと，魚類寄生のタイノエなどが含まれる。ヤドリムシ類は，他の甲殻類に寄生し，蠕虫(ぜんちゅう)状に変化して，甲殻類の形態をとどめないものが多い。卵は腹部の育嚢(いくのう)で保育され，発生は表割で，保育室から出た幼生は成体に似る。甲殻類のうちでその生活様式は最も多様である。食性は肉食のものが多いが，腐食のものもあり，一部のものは海底の沈木などをかじる。〔向井　宏〕

とうきゃくるい【橈脚類】 節足動物・甲殻(こうかく)綱・橈脚亜綱。コペポーダともいう。ふつう淡水域や海洋の最も重要な動物プランクトンとして知られる。一方，底生で匍匐(ほふく)遊泳を行なうものも多く，また寄生性のものも数多く知られる。体は小さく，大形のものでも数mmをこえない。体制も比較的簡単であり，一般に前体部と後体部に分かれる。前体部は頭部と5節の胸部からなり，胸部には各1対の遊泳脚をもつ。第5胸脚はふつう生殖に用いられるもので，雄で特によく発達するものが多い。後体部は腹部が雄で5節，雌で4節あり，そのあとに叉肢(さし)が分岐する。浮遊性のものでは，叉肢に付属する刺毛は大きい。体節は癒合(ゆごう)して減少する種も多い。複眼をもたず，ノープリウス眼を背側に2個，腹側に1個もち，種によっては簡単なレンズ眼を形成する。カラヌス類・キクロプス類・ハルパクチクス類・モンストリラ類・ホヤノシラミ類・ウオジラミ類・ナガクビムシ類の7目に分けられる。カラヌス類とキクロプス類の一部は浮遊性，ハルパクチクス類は底生自由生活，モンストリラ類は半寄生，残りの3目は寄生生活をする。光・水温などの環境条件に敏感で，光の強さに応じた昼夜の垂直移動は有名。えさは多くは微細な植物プランクトンであるが，肉食性のものもいる。分布は広く，汎(はん)世界種が多い。〔向井　宏〕

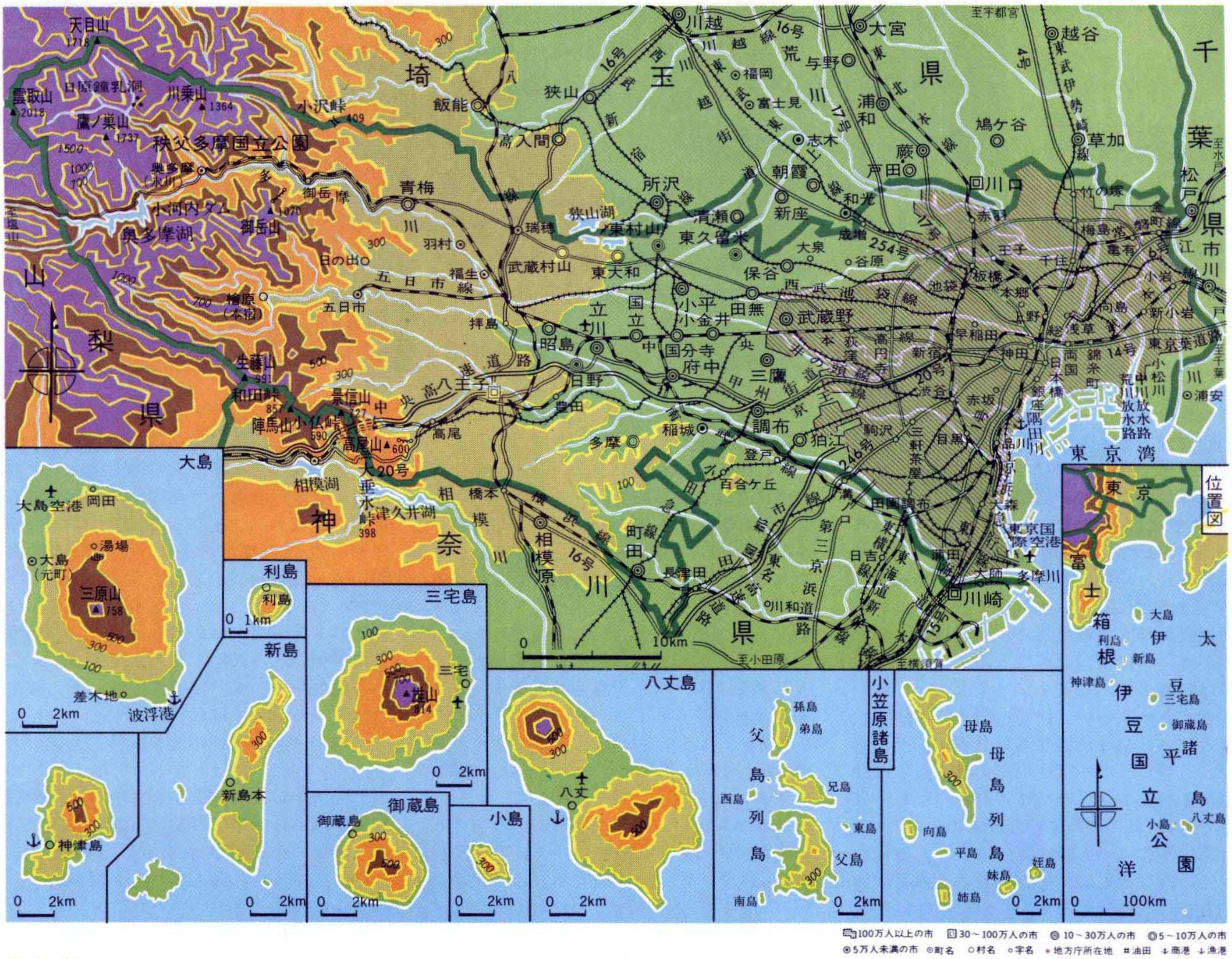
とうぎゅう【闘牛】 ウシと人，ウシと他の動物，ウシどうしの格闘を見せる一種のショー。ウシと人とが戦う闘牛はスペインで発達し，18世紀初頭には貴族だけでなく一般民衆のためにも行なわれて，本格的な職業闘牛士が生まれた。主役はマタドールといい，ムレタという赤い布と剣を持ち，最後にウシを刺し殺す。バンデリレロ（2～3名）はウシにもりを打ち込み，ピカドール（2～3名）は槍(やり)を持って騎乗し，マタドールを補佐すると同時に，ショーを盛り上げる。特にマタドールは金・銀・赤・紫などに金モールのついたきらびやかな衣服をまとい，国民的な英雄・芸術家とされる。ウシは闘牛用に飼育された猛牛である。毎年3～11月ごろまでの休日にマドリード・バルセロナなどで行なわれ，国技として盛んである。ほかにポルトガル・フランス南部・メキシコなどでも行なわれている。

日本でふつう行なわれる闘牛はウシどうしの格闘である。その歴史は古く，平安時代には〈角合わせ〉などとよばれて上流階級の慰み物として盛んに行なわれ，後白河(ごしらかわ)法皇もこれを上覧になったという。明治年間にかけ事の対象としての闘牛は闘犬*・闘鶏*とともに禁じられ，また地方によっては動物愛護の立場から禁じているが，新潟県・愛媛県・八丈島などでは古い歴史をもっており，現在でもウシの品種改良を目的として盛んに行なわれている。競技は木さくで囲われた土俵上で行なわれるが，うずくまること，相手にしりを向けることなど戦意を失うことによって負けが判定される。

とうぎょ【闘魚】 硬骨魚類・キノボリウオ科。チョウセンブナともいい，体長3～8cmの淡水魚。原産地は朝鮮西部と遼河(りょうが)から揚子江に至るアジア大陸の東部。日本へは1914年（大正3）に朝鮮から移殖されて各地に繁殖したが，現在では千葉・茨城・福島・新潟県などの一部にしかみられない。平野部の浅い池や水田にすみ，空気呼吸をする。雄は口から気胞を出して水面に巣をつくり，雌はこの中に卵を産む。なお，近似種の観賞用熱帯魚であるベタもトウギョとよばれる。

とうきょう【東京(都)】 日本列島のほぼ中央部，関東地方南部にあるわが国の首都。皇居があり，行政・司法・立法の中央官庁だけで約50機関が集まっている。都域の主部は東西に細長く，南東部は東京湾に臨み，南は神奈川，西は山梨，北は埼玉，東は千葉の各県と接し，太平洋上に南北に連なる伊豆(いず)諸島*と小笠原(おがさわら)諸島*も都域に含まれる。主部は武蔵(むさし)国の南半を占める。面積2,145km^2，全国都道府県中香川県・大阪府に次いで狭く，人口1,135万7,000，1km^2あたりの人口密度5,295人はいずれも全国最大で，予算総額3兆4,976億円(1976年度)，職員22万名を擁する巨大な地方自治体である。都木はイチョウ，都花はソメイヨシノ，都鳥はユリカモメ。ニューヨーク・ロンドンと並ぶ世界三大都市の一つで，1960年にはニューヨークと姉妹都市の提携をした。行政上は23特別区（区部），八王子以下の26市（市部），西多摩郡（郡部），伊豆諸島・小笠原諸島（島部）に分かれる。郡部に5町1村，島部に2町7村があり，島部には大島・三宅(みやけ)・八丈・小笠原の4支庁が置かれる。都市としての東京は，実質的には区部だけをとるのが適当で，区部の総面積は569.5km^2，人口は822万で，千代田・中央・港・新宿・文京・台東・墨田・江東・品川・目黒・大田・世田谷(せたがや)・渋谷(しぶや)・中野・杉並(すぎなみ)・豊島(としま)・北・荒川・板橋・練馬・足立(あだち)・葛飾(かつしか)・江戸川の各区があるが，区部を総合する行政組織は1943年（昭和18）に東京市が東京都に吸収されて以来なくなった。

【自然】 地形は西から東へかけて関東山地・多摩丘陵・狭山(さやま)丘陵・武蔵野台地，多摩川・荒川・江戸川など各河川の下流沖積地(ちゅうせきち)と階段状に低くなり，東京湾に臨む。西部の関東山地は，多摩川と支流秋川・浅川などに刻まれた壮年性の山地で，北は秩父(ちちぶ)古生層，南は小仏(こぼとけ)層からなる。関東山地には，埼玉県境に天目山(1,718m)・三峰山(1,921m)，埼玉・山梨両県境に雲取山(2,018m)，山梨県境に七ツ石山・三頭(みとう)山(1,527m)などの山々が連なり，付近一帯は秩父多摩国立公園に属する。関東山地の東のふもとには，多摩丘陵や狭山丘陵のほか加治・加住(かずみ)・草花などの小丘陵が続き，いずれも第三紀層からなる。関東山地と武蔵野台地の境には青



東 京 都

梅(おうめ)～五日市～八王子を結ぶ八王子構造線が走り，断層崖(だんそうがい)を形成する。八王子市の南西方，神奈川県境に近い高尾山(600m)一帯は明治の森高尾国定公園に指定されている。武蔵野台地は古くから武蔵野とよばれ，青梅市付近を扇頂(190m)として西から南東へ向かって傾斜する平坦(へいたん)な扇状地で，第三紀層の洪積(こうせき)台地の基盤の上に武蔵野礫層(されきそう)があり，表面を関東ローム*層が厚くおおう。台地の中央付近には石神井(しゃくじい)・善福寺・妙正寺・井の頭(いのかしら)などの湧泉(ゆうせん)が扇形に並び，それぞれの名を冠した川や旧神田上水が台地を刻んで東流する。台地の東端は山手(やまのて)台地とよばれ，標高約20mで東京湾岸の低地と接し，本郷台・淀橋(よどばし)台・豊島台・目黒台・荏原(えばら)台などの小さな台地群に分かれる。区部では台地上の地域を山手，低地上の地域を下町とよんでおり，山手は主として住宅地となり，下町は商店街や工業地区となっている。低地は多摩川・荒川・江戸川下流の三角州および埋め立て地などで形成され，大半は5m以下の低平な土地である。南東端の江東地区は地盤沈下が激しく，東京ゼロメートル地帯とよばれ，運河が縦横にはり巡らされている。区部の気候は一般に温暖で，夏季は高温多湿，冬季は寒冷乾燥の典型的な表日本式気候を呈し，年平均気温は15.0℃(千代田区大手町の東京管区気象台における観測)で，気温の年較差が大きく，月平均気温の最高は8月の26.7℃，最低は1月の4.1℃である。冬季は都心部のほうが郊外よりも2.5～3℃気温が高くなるが，これは人工熱の放射のためで，この傾向は年々目だってきている。武蔵野台地では冬から春にかけて〈からっ風〉が吹き，また霜柱がよく立つ。年降水量は1,503mmで，全国平均値に近く，10月の最多雨期には平均降水量203mmを記録し，6月の192mm，9月の182mmがこれに次ぐ。最少は1月の49mmである。動物としては特別天然記念物・国際保護鳥に指定されている伊豆諸島南端の鳥島のアホウドリのほか，小笠原諸島にはオガサワラオオコウモリがおり，関東山地にはいまもツキノワグマ・イノシシ・シカ・ムササビなどが生息する。

【産業・経済】都の産業三大別人口比は1：33：66で，第1次産業人口の比率は全国最低，逆に第3次産業人口の比率は全国で1位。1人あたりの所得も全国最高で，年間203万2,000円(1977)に達し，最低の沖縄県の91万3,000円の2.2倍に達する。《農林水産業》農業は典型的な都市近郊農業で，耕地面積14,600ヘクタール(1975)は全国最少で，1戸あたりの耕地面積は0.43ヘクタールにすぎず，大阪府の0.44ヘクタールに次いで少ない。農家数は30,380戸で，都市化に伴って年々減少しており，特に兼業農家が多く，その比率は91％に達し，今後も増加する傾向にある。耕地は郡部に多く，区部では杉並・世田谷・板橋・練馬・足立・江戸川・葛飾などの区域の一部にみられるにすぎない。水田率は9.3％で，田よりも畑がはるかに多く，武蔵野台地の水利の悪さを示している。米の年間収量は3,510t(1974)と全国最低で，都民の需要の1日分にもならず，不足分はおもに東北地方や北海道から移入する。畑にはサツマイモが比較的多

く作られ，また野菜類としては，ハクサイ・キャベツ・ホウレンソウ・ネギ・ナス・トマト・キュウリ・エダマメ・サトイモ・カリフラワーなどがめだつ。特産としてコマツナがあり，また武蔵野市を中心に北多摩地方のウドの生産が増加している。乳牛・肉用牛・ブタ・ニワトリなども飼われており，ブタは比較的頭数が多い。関東山地に近い台地上にはクワ畑が多く，狭山丘陵のチャ，多摩川沿いの温室花卉(かき)・ナシなどの特産がある。林野面積は79,000ヘクタール(1975)で，全国では大阪府に次いで狭いが，関東山地を中心とする青梅林業が古くから知られ，また最近シイタケの生産が増加している。水産業は東京湾でかつてアサクサノリが盛んに養殖されたが，最近は沿岸部の埋め立てで一般の漁業とともにまったくみられなくなった。しかし《農林省統計表》によれば，東京都の1975年の漁獲量と生産額は137万6,000t（1,125億円）で，北海道の248万9,000t（2,661億円）に次いで全国第2位であり，これは中央卸売市場を主とする水揚げ高を示したもので，東京都の漁業の実態とはほど遠く，ここに統計の矛盾がある。なお江戸川区を中心としてキンギョの特産があるが，最近は水の汚染が養殖の障害となって，新興の埼玉県産のキンギョにおされつつある。黒潮が流れる伊豆諸島付近はカツオ・マグロ・トビウオなどの好漁場となり，沿岸部はテングサの採取も多い。小笠原諸島の漁業はまだようやく復活したばかりである。

〈商工業〉 商業活動は，都心部にわが国の代表的な会社や金融機関などが集まり，京浜地方を商圏とする小売業，東日本や全国を商圏とする卸売業などと結んで，日本経済の中枢的役割を果たしている。金融機関は，中央銀行である日本銀行をはじめ，多くの都市銀行が集まり，最近は地方銀行の進出も目だっている。そのほか，信託銀行・相互銀行・証券会社・保険会社などの数もきわめて多い。

卸売業は隅田(すみだ)川西岸に近い下町地区に集まる問屋街を主として，年間販売額59兆7,657億円(1974)は全国の35％にあたり，大阪府の35兆5,323億円をしのいで，日本一である。中央区日本橋堀留(ほりどめ)町・富沢町・大伝馬町の呉服，横山町の雑貨，千代田区神田岩本町の既製服，秋葉原の電気器具，台東区蔵前の玩具(がんぐ)，浅草北部のはき物などの問屋街がある。小売商店街は都内各地にみられ，年間販売額は5兆8,678億円で，全国総額の15％にあたり，2位の大阪府の3兆4,498億円よりはるかに多い。都心部の銀座通りは高級品・流行商品などに特色をもち，銀座通りから日本橋通り・上野広小路へかけての下町通りは，東京で最も早くから繁栄した商店街で，多くのデパートが立ち並ぶ。新宿・池袋・渋谷などの副都心にもいくつものデパートをもつ大商店街があり，近郊への人口増加に伴って近年めざましい発展を遂げている。また，最近は都内全域にわたってスーパーマーケットの進出が著しく，691(1976)にも達しており全国一である。



東京都 有楽町駅上空から皇居方面を望む。濠に沿って並ぶビルは，日比谷から大手町にかけての丸の内ビジネス街で，右手は東京駅。東京～有楽町駅間の線路沿いに都庁の建物が見える

一方，小売商の中には，江戸時代からの伝統をもっているものがあり，〈本郷もかねやすまでは江戸の内〉という川柳で知られるかねやす(化粧品)や，にんべん(かつお節)・鮒佐(ふなさ)(つくだ煮)・山形屋(のり)・山本(のり)・山本山(茶・のり)・栄太楼(えいたろう)(あめ)・梅花亭(ばいかてい)(もなか)・梅林堂(紅梅焼き)・千疋屋(せんびきや)(くだもの)・宮田(ししゅう)・道明(組紐(くみひも))・大野屋(たび)・柳屋(紅)・西川(ふとん)・丸八(筆)・村田(きせる)・うぶげや(刃物)などはその例で，ぬり彦(ひこ)(酒類)のように1717年(享保2)創業以来ずっと同じ宝町(中央区)で営業しているのもある。

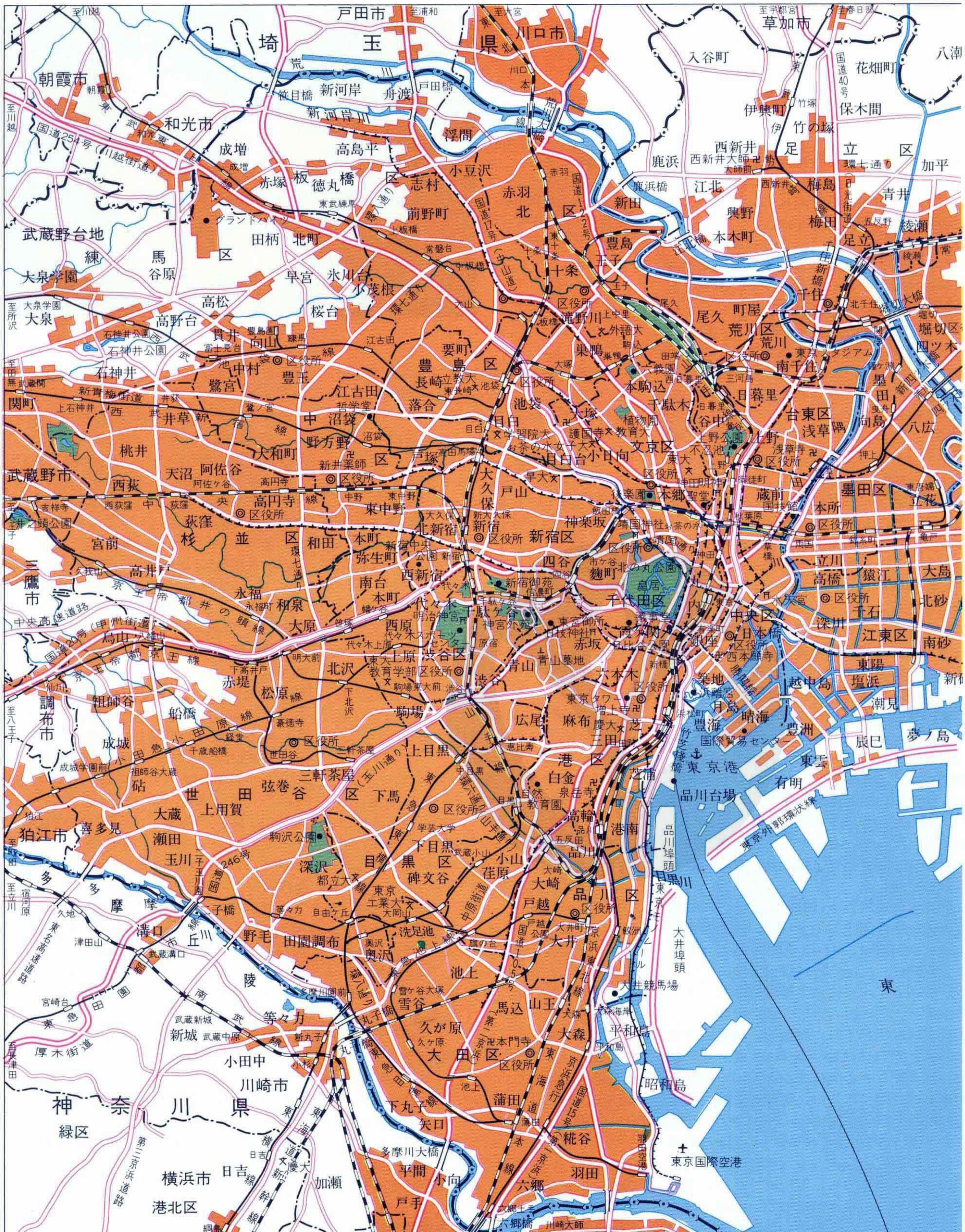
貿易は東京港と神奈川県の横浜・川崎の両港を合わせたいわゆる〈京浜港〉で総合的に行なわれており，1975年の東京港の輸出額は9,268億円で横浜・神戸(こうべ)・名古屋に次ぎ，全国の5.6％を占め，魚介類・玩具・ラジオなどが輸出品の上位を占める。輸入額は1兆673億円で，横浜・神戸・名古屋に次ぎ，全国の5.9％を占め，木材・コムギ・砂糖・肉類などが輸入品の上位を占めており，輸出入とも消費品が多いのが特色である。輸出入の合計では横浜・神戸・名古屋に次ぎ第4位(5.9％)で，かつては第3位であったのが最近名古屋港に追い抜かれた。しかしこれは羽田の東京国際空港における航空貨物の急増のためであって，1975年には羽田の輸出が6,751億円(4.1％)，輸入が8,145億円(4.7％)に達しており，東京港と合わせると，輸出ではわずかに名古屋港におよばないが，輸入では横浜港をしのいで日本一となっており，輸出入合計ではやはり全国第3位である。

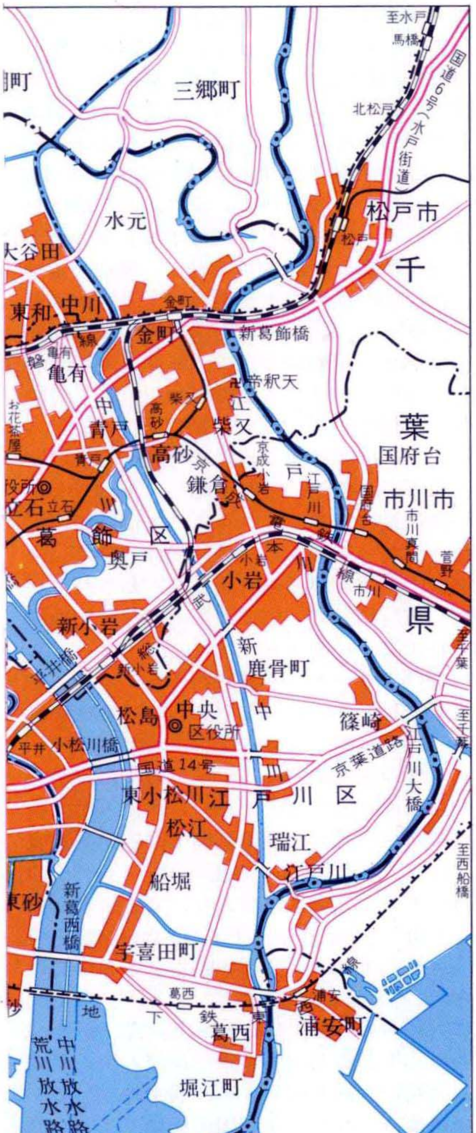
地下資源には乏しく，西多摩郡の御岳(みたけ)周辺山地の石灰岩，伊豆諸島新島の防火建築用材の抗火石(石英粗面岩の一種)の鉱産があるにすぎない。また江東地区では天然ガスを産する。

近代工業の発達は明治以後特にめざましく，交通機関や労働力に恵まれ，政府の工業保護政策も行なわれて，東京湾沿岸にわが国の代表的な臨海工業地帯が発達した。東京の下町地区から西の神奈川県の川崎・横浜両市の臨海地区へかけては日本一の京浜工業地帯*が形成され，東京都だけをとると，工場総数92,015(1974)は全国一であるが，工業製造品年間出荷額は10兆5,757億円で，大阪府・神奈川県・愛知県に次いでわずかな差ではあるが，全国第4位であり，これは従業者9人以下の小工場が多く，全体の79.4％を占めているためである。出荷額を種類別にみると，電気機械器具が最も多く，神奈川県に次いで全国第2位であり，次いで出版，印刷，同関連品(全国第1位)・一般機械器具・食料品・輸送用機械器具・化学工業製品の順となっており，金額としてはそう多くはないが，皮革，同製品，毛皮製品の出荷額は全国一である。繊維工業製品の比較的少ないのは，東京都の工業の特色の一つであるが，衣服，その他の繊維製品はわりあいに多い。

地域的には，多く運河に恵まれた隅田川東岸の江東工業地域に金属・機械・染色・製材などの工業が発達し，台東区には皮革・衣料・玩具製造などの小企業が多い。港・品川・大田各区の臨海地域と目黒区には，電気機械その他の機械・金属工業が発達し，大工場と下請け工場が混在する。文京・新宿・北の各区には大小の印刷工場，千代田区神田地区には大小の印刷工場と出版社が集まる。西部の武蔵野台地にも近代工業が新しく興り，調布・三鷹(みたか)・八王子・日野・立川などに自動車その他の機械製造を主とする工場群がある。また第2次世界大戦後は東京湾を埋め立てて，臨海工業地帯の造成が進み，東隣の千葉県へかけて京葉工業地帯*が形成されている。

伝統的な家内工業としては八王子織物・青梅織物・村山大島などがあり，墨田区を


戸田市
川口市
埼
玉
県
草加市
朝霞市
和光市
成増
新河岸
舟渡
浮間
高島平
小豆沢
赤羽
北
区
志村
前野町
徳丸
板
橋
赤塚
区
武蔵野台地
練
馬
区
田柄
北町
早宮
氷川台
小茂根
大泉学園
大泉
高松
高野台
貫井
向山
石神井公園
石神井
中村
豊玉
鷺宮
関町
井草
桃井
江古田
要町
豊
島
区
長崎
落合
池袋
巣鴨
滝野川
豊島
王子
十条
西新井
伊興町
竹の塚
足
立
区
保木間
花畑町
入谷町
八潮
鹿浜
江北
興野
本木町
梅島
梅田
足立
青井
綾瀬
加平
新田
尾久
町屋
荒川区
荒川
南千住
千住
堀切
四ツ木
日暮里
本駒込
千駄木
谷中
上野
台東区
浅草
向島
墨田
八広
文京区
小日向
目白
大塚
戸塚
中野区
沼袋
野方
大和町
阿佐谷
天沼
荻窪
西荻
武蔵野市
杉
並
区
高円寺
和田
本町
東中野
中野
大久保
戸山
新宿区
新宿
北新宿
西新宿
弥生町
四谷
麴町
千代田区
神楽坂
本郷
蔵前
墨田区
本所
立花
宮前
高井戸
永福
和泉
大原
南台
本町
代々木
千駄ケ谷
赤坂
六本木
中央区
日本橋
銀座
築地
月島
晴海
豊海
江東区
深川
高橋
猿江
大島
北砂
南砂
千石
東陽
塩浜
越中島
潮見
辰巳
夢ノ島
豊洲
東雲
有明
東京港
品川台場
三鷹市
調布市
狛江市
烏山
祖師谷
赤堤
松原
北沢
西原
上原
渋谷区
渋谷
青山
広尾
麻布
芝
港区
三田
白金
高輪
港南
品川
品川区
大崎
戸越
大井
目黒区
下目黒
上目黒
碑文谷
中目黒
世
田
谷
区
三軒茶屋
下馬
弦巻
上用賀
船橋
成城
砧
大蔵
喜多見
瀬田
玉川
深沢
駒沢公園
奥沢
洗足池
田園調布
野毛
溝口
二子橋
多
摩
川
丘
陵
等々力
新城
小田中
川崎市
神
奈
川
県
緑区
横浜市
港北区
日吉
加瀬
平間
小向
戸手
六郷
羽田
糀谷
蒲田
矢口
下丸子
大田区
久が原
雪谷
池上
馬込
山王
大森
平和島
昭和島
東京国際空港
多摩川大橋
六郷橋
川崎大師
小島新田
多摩川
東



中心とするメリヤス，台東区の鼻緒なども古くから知られる。

〔交通〕道路・鉄道などの交通路が発達して，国内交通の中心となっているが，その流れは全国的なものと都内的なものとに大別される。全国的な流れは国鉄によって代表され，東京駅を起点とする東海道本線・東海道新幹線，上野駅を起点とする東北本線・常磐(じょうばん)線，新宿駅を起点とする中央本線，両国駅を起点とする総武本線などは，日本でも最も交通量の多い路線である。中でも東京と大阪を結ぶ路線は，東海道本線と新幹線を合わせて，長さは全国路線の約4％にすぎないが，旅客と貨物の輸送総量は約25％を占めている。1972年から総武本線が地下ルート(国鉄で最初の地下鉄)で東京駅へ乗り入れはじめ，東京－千倉(千葉県)間の特急電車が運転されるようになった。この東京地下駅は，地下26mの5階建てで，日本最大最深の地下駅である。1976年には地下ルートが品川まで延長され，品川－千葉間などの電車も走っている。東北・上越新幹線も建設中であるが，かんじんの東京都と埼玉県南部の部分は，騒音などのための住民の反対により用地の買収がまったく進まず，始発駅は東京駅と決定しているが，1977年には逆に住民の誘致運動によって，上野にも地下駅を設けようとして，試験的な測量が開始されている。最近は長距離バスの発達もめざましく，東名高速道路・中央自動車道路によって名古屋・河口湖方面へ走る長距離バスが定期的に運行し，長野・仙台(せんだい)・山形方面へも毎日バスが発着する。羽田の東京国際空港では，国内各地はもとより，アメリカやヨーロッパその他世界各地との定期便が年々増加し，国際航空の一中心となっている。空港では内外の定期旅客機の発着回数は年間16万8,000回に達し，運営能力の限界を越えているので，千葉県成田市に新東京国際空港を建設したが，完成後も付近住民の反対のために大幅に開港が遅れ，1972年の予定が，1977年になってようやく開港のめどがつき始めた状態である。海上交通では，鉄道や空路と違って東京港の果たす役割はあまり大きくないが，伊豆諸島をはじめ国内各地や沖縄と結ぶ定期航路がある。

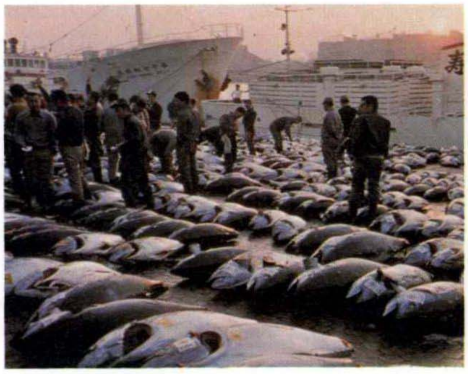
都域内部の交通は，国鉄の山手線・京浜東北線・中央線・総武線などの電車や，帝都高速度交通営団や東京都営の地下鉄，東武・西武・京成・東京急行・小田急・京王帝都など各会社の私鉄によって代表され，特殊なものとして羽田～浜松町間のモノレールがある。長い間都民の足として親しまれてきた都電は，乗用車やバス・トラックの増加によって道路交通が麻痺(まひ)状態に達したために，次々と路線が整理され，現在ではわずかに早稲田(わせだ)－飛鳥山(あすかやま)－三輪橋(みのわばし)の荒川線だけが残っているにすぎないが，これは路面電車ではなく，専用軌道を走っている。都電の役割はバスが代行しているが，そのバスも道路の渋滞が激しいので，1976年にやむなく全体の22％，177km^2の路線縮小を行なった。さらに道路交通を緩和する対策として，各私鉄と地下鉄との相互直通運転が，地下鉄網の拡張とともに進んでおり，これに最近は国鉄も加わって，地下鉄の東西線(三鷹(みたか)－中野－津田沼)・千代田線(代々木公園－綾瀬(あやせ)－我孫子(あびこ))・日比谷線(北千住(きたせんじゅ)－日吉，中目黒－北春日部(きたかすかべ))・都営1号線(西馬込－押上(おしあげ)－京成成田，押上－泉岳寺－三崎口)が，このために利用されている。

道路の総延長は国道・都道・区道などを合わせて2万1,698km(1975)に達し，その舗装率は72.3％におよんで全国一である。おもな道路は大別して放射状と環状の2系統に分けられる。放射状道路は国道が主で，江戸時代の東海道・日光街道・中山道(なかせんどう)・甲州街道などの幹線街道がそれぞれ国道1号線・4号線・17号線・20号線となり，陸前浜街道(水戸(みと)街道)が6号線，千葉街道が14号線に転用されている。

環状道路は都道が主で，皇居の内堀や外堀周辺を巡る道路が都心部を走り，環状5号線・6号線・7号線・8号線が次々にその外周を大きく取り囲み，8号線沿いに東名高速道路・中央自動車道の起点がある。これらの環状線の外側には国道16号線が走り，さらにその外側に新東京環状道路をつくる計画も進められている。しかし，道路面積は区部だけをとっても総面積のわずか9.6％で，ニューヨークの35％にくらべてはるかに狭く，最近の自動車数の急増によって交通麻痺の現象を起こしている。このため，1959年以来自動車専用の首都高速道路が建設されており，現在1号線～7号線が都心を中心に網の目状に張り巡らされており，1976年には首都高速湾岸線の東京港トンネルも開通した。

〔文化〕日本の学術の中心で，東京大学をはじめ国立大学13，公立大学1，私立大学90が集まり，短期大学も国立2，公立3，私立80を数え，大学数は全国の約20％に達する。東京国立博物館・国立科学博物館・国立近代美術館・国立西洋美術館・国立国会図書館・国立劇場など，日本の代表的文化施設や，新聞社・通信社・放送機関など，情報化社会の中枢をなす施設が集まり，出版や印刷の面では全国でほとんど独占的な地位を保っている。1964年の東京オリンピック大会の開催を機会に，国立競技場・駒沢(こまざわ)オリンピック公園・代々木競技場などの競技施設も整い，靖国(やすくに)神社・明治神宮・増上寺・浅草観音・新宿御苑(ぎょえん)・浜離宮庭園・後楽園・六義園(りくぎえん)・清澄庭園などの社寺や名所史跡とともに観光資源としての役割も果たしている。

〔年中行事〕近代化した東京にも，昔なが





東 京 都 (左)都民の胃袋をまかなう〈築地の魚市場〉(東京都中央卸売市場)。写真は,陸揚されたみごとなマグロのせり風景 (右)お酉様で知られる浅草鷲神社の〈酉の市〉。福をかき寄せる熊手が名物で,下町情緒のあふれる東京名物の一つ

らの年中行事は残っており,特に下町ではこれらを通じて江戸情緒がうかがわれる。1月には初詣(はつもうで)や七福神巡りが各地で行なわれ,消防出初(でぞめ)式は17世紀以来の伝統を継ぐもので,2月には節分が各神社・仏閣で行なわれ,浅草(せんそう)寺では針供養がある。3月には増上寺その他で涅槃会(ねはんえ),4月には灌仏会(かんぶつえ)が行なわれ,5月には府中の大国魂(おおくにたま)神社のくらやみ祭,神田明神の神田祭,浅草神社の三社祭と名高い祭りが続き,巣鴨(すがも)のとげぬき地蔵の大祭もある。6月には台東区の鳥越神社大祭,赤坂の日枝(ひえ)神社の山王祭があり,7月には入谷の鬼子母神の朝顔市や浅草寺のほおずき市がにぎやかに行なわれる。8月には佃島(つくだじま)の住吉(すみよし)祭,深川八幡(はちまん)の深川祭があり,深川祭は神田祭・山王祭とともに江戸三大祭りの一つとされていたものである。9月には文京区の根津神社の大祭があり,10月には深川の木場の角乗り,池上の本門寺のお会式,11月には台東区の鷲(おおとり)神社をはじめとする酉(とり)の市,12月には浅草寺の羽子板市,世田谷にはぼろ市が立つ。

〔都市問題〕 東京は江戸時代から人口が100万をこす世界有数の大都市で,1879年(明治12)の東京府の人口は94万,1920年(大正9)の第1回国勢調査時には369万,1965年には1,086万9,000余を数える。最近は経済の高度成長に伴う人口の都市集中がさらに進んで,特に区部とその近郊は日本一の人口過密地帯を形成する。通勤者が多く,朝は近郊から都心へ,夕方から夜にかけては都心から近郊へ人口が大量に移動し,東京都全体で,夜間人口を100とすると,昼間人口は105.1で,埼玉・神奈川・千葉など隣接各県から昼間だけの流入人口が多いことを示している。都心部の区はいずれも夜間人口に対して昼間人口がきわめて多く,千代田区の547.9を最高として,中央区341.8や港区169.8がこれに次いでいる。一方,中野区(75.7)・杉並区(76.3)・練馬区(78.4)などは夜間人口に比べて昼間人口がきわめて少なく,その他の郊外地区もすべて夜間人口のほうが多く,近郊住宅地帯の特色を示している。このような人口の増加の移動の現象によって,都内の住宅難や混乱した交通状態は第2次世界大戦後今日まで引き続いて解消されていない。戦後の住宅対策としては団地の造成が目だち,1946年山手線高田馬場と新大久保の中間の戸山ケ原に建てられた国家公務員住宅・都営住宅などを含む3～4階建てアパート群がさきがけとなり,その後北区の赤羽台,中野区の鷺(さぎ)ノ宮,田無・保谷(ほうや)・東久留米(ひがしくるめ)の3市にまたがるひばりが丘などに次々に団地がつくられた。最近は敷地難の関係から郊外,あるいは隣接諸県にも東京への通勤者を収容する大規模な団地が次々と建てられており,東京急行の田園都市線沿線の多摩田園都市,八王子・町田・稲城(いなぎ)・多摩の4市にまたがる多摩ニュータウンなどはその代表例である。一方では最近マンションとよばれる高級アパートが都心部で増加し,職住近接を求めて,いったん郊外へ移った人々がまた都心へもどる新しい現象もみられる。このような人口集中,通勤圏の拡大は交通の混乱を促し,通勤電車は定員の2.5～3倍の乗客を収容するため,〈通勤地獄〉のことばが生まれている。自動車数もトラック・バス・乗用車を合わせて269万台と急増し,道路の整備がまにあわず,交通事故の増加や騒音の発生が社会問題化している。1970年から銀座・新宿・池袋・浅草の四つの盛り場から日曜日に自動車を締め出す〈歩行者天国〉が実施された。また,下町の江東地区は地盤が低湿で,東京湾の水面より低く,江東区大島では最大－2.4mに達し,何回かかさ上げして高さ2mにもなった防潮堤を築いて高潮の危険に備えており,このような干潮時の海面よりも低いいわゆるゼロメートル地帯が123.7km²(1970)にわたって広がっている。これは主として工業用水のくみ取りが原因で,江東区では明治・大正以来4m以上も沈下したところがあり,1892年(明治25)を基準として江東区東陽4丁目の水準点は1973年(昭和48)現在で4.5m,同亀戸(かめいど)7丁目の水準点は4.3m沈下している。また,最近はこの地盤沈下が下町ばかりでなく山手にも及びはじめているのは注目に値する。たとえば北区志茂4丁目の水準点は,同じ期間に1.6m沈下しているのである。また,木造家屋が密集して,震災などに遭遇するときわめて危険な状態が予測されるので,現在では地区内に96か所の防災拠点をつくり,周辺部を高層ビルで囲む防災対策と市街地再開発の計画が,都防災会議の調査をもとに進んでいる。その他,工場の煤煙(ばいえん),自動車の排気ガスによる空気の汚染,光化学スモッグ,廃水による河川の汚濁,悪臭の発生など,各種の公害が激増し,下水やごみ処理施設のたちおくれなど,生活環境の悪化も目だっており,その解決は1956年以来実施中の首都圏整備計画にゆだねられている。東京は世界の他の大都市に比べて物価が特に高く,中でも住宅・食品・サービス料金は世界一という調査がある。

〔歴史〕 人々がいつごろからこの地域に定住したかは明らかではないが,縄文(じょうもん)式時代の住宅遺跡は八王子・町田の両市や西多摩郡秋多町などにあり,大田区の大森貝塚*(かいづか)はわが国最初の学術的発掘調査がされたので名高い。弥生(やよい)式時代の遺跡も多く発見されており,文京区向ケ丘弥生町(現在の弥生町1丁目)で1884年に発見された土器にはじめて弥生式の名がつけられたことはよく知られている。4～5世紀に大和(やまと)朝廷による国土の統一が行なわれ,その勢力は関東地方に及んで,武蔵野台地の森林が開墾され,農業地域がしだいに形成された。多摩川中流地方にみられるいくつかの前方後円墳遺跡は,この地方を大和朝廷の支配下にある族長が統治していたことを示している。5世紀末から6世紀にかけては国の行政区画が整えられ,645年(大化1)の大化の改新に際して国郡里の制が実施され,武蔵国が成立した。武蔵ははじめ東山道に属し,771年(宝亀2)東海道に編入され,現在の東京都・埼玉県全域と神奈川県東部(川崎市全域と横浜市の大半)を国域とした。国府はいまの府中市,国分寺は国分寺市に設置された。大化改新以降,大和朝廷の勢力がしだいに東北地方へ伸びるにつれて,蝦夷(えぞ)の征討がしばしば行なわれ,奈良時代には武蔵野台地が上方から陸奥(みちのく)への重要な交通路となってその開発が進んだ。8世紀には朝鮮からの帰化人も多く住みつき,新しい農耕や織物の技術を伝えた。狛江(こまえ)市・調布市・世田谷区砧(きぬた)町などは,いずれも帰化人にちなんだ地名である。平安時代中期からは,いわゆる東国武士が武蔵野の開発の主役として勇名をはせた。1192年(建久2)源頼朝(よりとも)がこれらの武士勢力を背景として政権を握り,鎌倉幕府が開設された。武

蔵野の開発はその後ますます進んだが，一方武士たちの勢力争いによってしばしば戦場ともなった。江戸という地名は平安中期からすでに記録にあったが，江の門(と)，すなわち入り江の口を意味するといわれる。当時は隅田川から東は一面の海で，隅田川以西，現在の文京区の根津，台東区の根岸，港区の赤坂溜池(ためいけ)周辺はすべて入り海であった。小石川という川が江戸湾(いまの東京湾)に注ぎ，江戸城が築かれた麴町(こうじまち)台は，江戸湾の中に突出した岬(みさき)のような地形であったと推定されている。平安末期にこの地名を名まえとした豪族江戸重継(しげつぐ)が麴町台にやかたを構えたと推定され，その子の重長は頼朝の挙兵時に参加している。江戸にはじめて築城したのは室町時代に川越を本拠としていた扇谷(おうぎがやつ)上杉氏の重臣太田道灌(おおたどうかん)で，江戸城は1456年(康正２)に着工され，翌1457年に完成した。江戸はその後太田氏の城下町・港町としてしだいに都市化されたが，当時の下町はまだアシの茂る低湿地で，上杉氏や北条(ほうじょう)氏の統治した戦国時代には，小田原・川越・府中などが関東の中心的存在であった。1590年(天正18)，豊臣秀吉(とよとみひでよし)が小田原の北条氏を滅ぼして天下を統一すると，徳川家康(いえやす)が駿遠参(すんえんさん)三国に代えて関八州を与えられ，その統治権を握った。家康は直ちに江戸にはいって，まず町民の飲料水確保のために神田上水をつくり，さらに神田山(現在の駿河台(するがだい)南東部)を切りくずして下町地区を埋め立てるなど，新しい都市計画に着手した。その後家康は，1600年(慶長５)関ケ原の戦いに勝って天下の第一人者となり，1603年には征夷(せいい)大将軍となって江戸幕府を創立したが，それにつれて江戸も国政の中心地としてしだいに市街地が整備された。神田上水の工事が進み，伏見の銀座が江戸に移され，全国の大名の奉仕によって江戸城の増築が完成した。幕府に直属する旗本(はたもと)や御家人のほか，参勤交代制度の結果として全国の大名が屋敷を構え，多くの家臣を置いた。４代将軍家綱のころには玉川上水がつくられ，江戸町民の飲料水の需要に供された。また，玉川上水の利用によって，将軍吉宗(よしむね)の時代には水利の悪い武蔵野台地にも新田が開かれた。江戸はこのように幕府所在地として急激な発展を遂げ，1657年(明暦３)の振袖(ふりそで)火事をはじめ数次の大火にあいながらも，幕末までに人口100万を数える世界一の大都市に成長した。明治維新になると，江戸は1868年７月17日に東京と改称し，明治天皇の東京遷都が行なわれて，名実ともに日本の首都となった。東京ははじめ〈とうけい〉とよばれていたようである。1869年７月，東京府が発足したが，その府域は現在の23特別区よりはるかに狭く，東京府の北東に小菅(こすげ)県，南西に品川県があり，三多摩地方は神奈川県に所属していた。1871年の廃藩置県によって，小菅・品川の両県が府域に編入され，1878年伊豆諸島が静岡県から，1880年小笠原諸島が内務省から移管された。その間江戸城は皇居となり，多くの大名屋敷は官庁，外国の大公使館，兵営・学校などに利用された。1872年には，日本最初の鉄道が新橋～横浜間に開通し，銀座通りにはれんが造りの洋館が立ち並び，乗合馬車が走るようになった。江戸は，幕末にはすでに近代工業の先駆地として，砲兵工廠(こうしょう)・石川島造船所，板橋や目黒の火薬製造所などがつくられていた。明治政府は，これらの工場を接収するとともに，機械・れんが・セメント・ガラス・毛織物などの官営工場を興し，低湿で，住宅地に不適な隅田川左岸の江東地区に工業地帯が発達した。1888年10月１日すなわち現在の〈都民の日〉に，15区からなる東京市が成立し，中心部では官公庁・大企業・文化諸機関などの整備が進み，市街地は下町から山手へとしだいに拡大していった。1923年関東大震災によって東京の大半はいったん焦土と化したが，復興は急速に行なわれ，郊外電車の発達につれて近郊の開発も急ピッチに進んだ。その結果，1932年周辺町村を合併して新しく20区が加わり，35区の大東京が実現し，第２次世界大戦中の1943年には東京府はそのまま東京都となり，東京市は消滅した。戦後の1947年３月１日，35区が整理されて22区となり，同年８月練馬区が板橋区から分離独立して，今日の23特別区が成立した。戦災による大きな被害を受けて人口は一時減少したが，戦後は急激な復興をみせ，1962年には人口が1,000万をこえて，その後も増加を続けているが，最近はその人口も飽和状態となって，埼玉・千葉・神奈川などの隣接県への移動がめだち，1970～75年の東京都の人口増加率はわずか2.3％であるのに対して，埼玉県は24.7％，千葉県は23.2％，神奈川県は16.9％と，それぞれ全国で１，２，３位の激増ぶりを示している。また，とくに都心部の人口減少がめだち，いわゆる人口のドーナッツ化現象が起きており，千代田区は－16.9％，中央区は－13.2％となっている。1977年３月31日現在の自治省の調査による住民基本台帳に基づく東京都の人口は1,137万2,799で，前年同期より，540人(0.005％)の減少で，このような東京都の人口減少は，第２次世界大戦後初めてのことといわれたが，調査の時期が転入・転出の多い３月であり，これに対して1975年国勢調査を基準として東京都が毎月１日に実施している人口推計では，1977年４月１日現在ではやはり前年より若干下回っているが，その後は増加を続けており，東京都の人口減少は，いわば“瞬間記録”にすぎなかったようである。

〔浅井得一〕

どうきょう【銅鏡】 主として青銅，特にスズを多く含有した白銅でつくられた鏡。西アジアやギリシアでは柄のついた円鏡が発達したが，中国では円鏡の背面の中心に紐(ちゅう)をつくり，そこにひもを通すものであった。鏡背には紐をめぐってさまざまな文様や吉祥句が鋳出され，それが時代的特色となり，戦国鏡・漢式鏡，六朝(りくちょう)時代の鏡，唐鏡などの区別がある。日本・朝鮮では鏡を神聖視する思想が強く，独特の形式の鏡もみられる。〔小谷仲男〕

どうきょう【道教】 中国の民族宗教。土着の現世利益教(げんせりやくきょう)の上に雑多な要素を取り入れた混交宗教の総称である。儒・仏と並んで三教の一つであり，同時に三教の混交・調和の土台ともなっている。多様な形をとって社会に現われたが，教儀・教義を整えた貴族的な道教と庶民的な通俗道教とに分けられる。その起源は，後漢の太平道*と五斗米道*である。これは，本来求福避禍の宗教で，本人が道徳的に誤りを悔いることを条件として呪術(じゅじゅつ)による治病を行ない，民衆を広く組織した。この，社会不安の中で生まれ反体制運動にまで発展した教団は，やがて体制権力に従属し，晋(しん)代には〈天師道〉と称した。さらに南北朝時代には国家権力に奉仕する貴族宗教となるが，その過程で，北魏(ほくぎ)の寇謙之*(こうけんし)や梁(りょう)の陶弘景(とうこうけい)らの努力によって，新しく渡来した仏教から教儀・教義の形式を学び取り，これは神仙(しんせん)思想*などの民俗信仰も加味されていた。唐・宋(そう)の時代には，国家の尊敬・保護が高まって，教儀の整備や道蔵*の編集が進んだが，一方では道観*・道士の貴族化と腐敗を招いた。これは，唐・宋の王朝や貴族が腐敗，享楽へ逃避した傾向を反映している。南宋の初め，道教にも時代の変化に応じた改革が行なわれた。王哲*の全真教がそれであって，儒教の道徳主義と禅宗の解説観を取り入れたいっそう合理的で実践的なものであり，三教調和の色彩が濃い。この新道教は元朝の保護を受けて盛んとなったが，やがて古い神仙道の錬丹(れんたん)術を取り入れ，堕落衰退する。しかしその後も，この全真教は，天師道の後身である正一教とともに国家公認の正統宗教として続いた。ほかに，陶弘景から出た茅山(ぼうざん)派があった。そして，これらの道教は，仏教と国家の保護を争って教理の優劣を競ったほかに，教権闘争も行なった。正統道教が衰微した明(みん)・清(しん)の時代は，通俗道教が顕著になったときである。道教の起源は民衆の呪術的な求福避禍にあったが，その後も民衆の救いようのない生活苦，病と貧とは雑多な民俗信仰を育てた。すなわち，古来の竈神(とうしん)(かまどの神)，権威ある孔子や東岳，民衆的な関羽，そして仏教の観音など，手あたりしだい祈願の対象が設けられたのである。また，都市の士や庶民の間にはやや合理的な道徳的宗教が行なわれた。

太上老君の権威の下に書かれた《太上感応編》はその経典で，行為の善悪が幸福特に寿命を決定すると教えた。その善悪行為の点数表が《功過格》の名でよばれ，明・清に行なわれている。通俗道教では，このような個人単位の求福道教のほかに，組織的な結社道教も行なわれた。これは，呪術と救世主信仰を核として，民衆の相互扶助組織，ひいては反体制運動を組織した。白蓮教*(びゃくれんきょう)や義和団の乱*は後者の例である。この結社道教の経典は，ふつう《宝巻》とよばれるが，内容は《太上感応編》と同類であり，これらを《善書》と総称する。

なお，道教も，新中国では基本的には消滅した。→中国哲学　〔西　順蔵〕

どうきょう　【道鏡】　(？～772)　奈良末期の法相宗の僧。河内(かわち)(大阪府)の出身で俗称弓削(ゆげ)氏。葛城(かつらぎ)山中での修行で秘法を体得し，761年(天平宝字5)称徳天皇(→孝謙天皇)の病気をその呪力(じゅりょく)で治癒(ちゆ)して天皇の信任を得，763年少僧都(そうず)に進んだ。藤原仲麻呂*(なかまろ)の乱後，765年(天平神護1)太政(だじょう)大臣禅師，翌年さらに法王の位を授けられ，堕落した仏教政治の時代を現出した。769年(神護慶雲3)道鏡を皇位につけさせようとする宇佐八幡宮(はちまんぐう)の神託が奏上されたが，和気(わけ)清麻呂*の妨害で実現しなかった。770年(宝亀1)天皇が死去し，藤原百川*(ももかわ)らの推す光仁(こうにん)天皇*が即位するに及んで，下野(しもつけ)(栃木県)薬師寺別当に左遷され，同地で没した。〔高崎徳次〕

とうきょうあけぼのしんぶん　【東京曙新聞】　明治初期の政論新聞。《新聞雑誌》の後身で，1875年(明治8)《あけぼの》，さらに同年6月《東京曙新聞》と改題した。民選議院設立論争をめぐっては，急進的な自由民権派の新聞として名声をはせた。その後政党新聞時代にはいるや経営困難に陥り，《東洋新報》と名を変えて，帝政党(政府系)に引き継がれ，その機関紙となった。

とうきょういかしかだいがく　【東京医科歯科大学】　国立大学。1928年(昭和3)創設された東京高等歯科医学校が，1934年医学科を併設して東京医学歯学専門学校となり，1946年大学に昇格。1951年新制の東京医科歯科大学として発足した。1955年，修業年限が6か年となり，新たに進学課程(教養部)が設けられた。現在，医・歯の両学部と大学院研究科が置かれている。本部は東京都文京区湯島1丁目5番。

とうきょうかいじょうかさいほけん　【東京海上火災保険(株)】　わが国損害保険業界で最古の歴史を誇る海上保険会社。1879年(明治12)三菱(みつびし)系の会社として創立され，1944年(昭和19)，合併のためいったん解散し，三菱海上火災・明治火災の2社を加えて現在の会社となった。資本・収益・蓄積ともわが国最大で，市場占拠率は30%以上を占める。また古くから海外進出に積極的で，1880年ロンドン・パリなどで営業を始めたほか，1963年にはニューヨークでアメリカ預託証券(ADR*)を発行して積極的に外資の取り入れを図り，〈トウキョウ-マリーン〉として海外での声価は高い。現在主要国11か所に海外事務所を設け，保険証券の発行，外国保険会社との再保険取引などを行ない，わが国の海外での損害保険営業の大半を占めている。資本金452億円，年間正味保険料4,750億8,200万円，従業員数7,293(1980年4月)。

とうきょうガス　【東京瓦斯(株)】　需要家数では世界最大の民間ガス会社。巨大な首都圏への都市ガスの供給をほとんど1社でまかなっている。1885年(明治18)東京府から払い下げを受けて設立され，第2次世界大戦の空襲で設備はもとより需要家の3分の2を失ったが，いちはやく長期復興計画を立て，めざましい発展を遂げた。首都圏地域の人口増加に対応して，東京電力と共同で千葉県袖ケ浦(そでがうら)に液化天然ガスの受け入れ基地を建設するなど，首都圏の開発整備に積極的な姿勢を示している。1968年(昭和43)度からの5か年計画では普及率74%を見込み，製造能力・供給網の拡大，輸送幹線の建設などに力を注いでいる。事業編成はガス71%，コークス5%など。本社東京，工場は大森・鶴見(つるみ)・豊州(とよす)・横浜根岸。資本金1,298億円，年間営業収入4,642億7,100万円，従業員数13,165(1980年9月)。

とうきょうきゅうこうでんてつ　【東京急行電鉄】　東京都の西南郊に路線網を経営する大手私鉄。1922年，目黒蒲田(かまた)電鉄として設立，東京横浜電鉄の時代を経て，1942年東京急行電鉄と改称。1948年に小田急電鉄・京王帝都電鉄・京浜急行電鉄を分離し，ほぼ現在の路線規模となった。東横線・目蒲線・田園都市線・池上線・世田谷(せたがや)線・新玉川線などの電気鉄軌道99.5kmを営業する。ほかにバス・不動産業・百貨店なども営業。

とうきょうきょういくだいがく　【東京教育大学】　国立大学。1949年(昭和24)，学制改革により，東京高等師範学校・東京文理科大学，東京体育・東京農業教育の両専門学校が合併して設立された。東京高等師範学校は，1872年(明治5)湯島の幕府学問所昌平黌*(しょうへいこう)のあとに創設された日本最初の師範学校(小学校教師教導場)に始まり，1886年高等師範学校に，1929年新設された東京文理科大学の付属となった。1950年東京盲教育・東京聾(ろう)教育の両専門学校を合併，現在，文・教育・理・農・体育の5学部と大学院研究科をもつ総合大学となった。多くの付属研究所をはじめ，スポーツ・語学・教育相談などの施設をもつ。学制としては，教養部制をとらず，1年生から専攻別に分かれている。本部は東京都文京区大塚(おおつか)3丁目29番。1978年廃校。

とうきょうげいじゅつだいがく　【東京芸術大学】　国立大学。1879年(明治12)創設の音楽取調掛(とりしらべがかり)，1884年創設の図書取調掛が，1887年それぞれ国立の東京音楽学校・東京美術学校として発足，1949年(昭和24)国立学校設置法により，合併して新制の東京芸術大学となった。現在，音楽・美術の両学部，大学院と音楽学部付属高校，美術学部の古美術研究施設(奈良)などがある。本部は東京都台東区上野公園5番。

とうきょうこうきょうがくだん　【東京交響楽団】　日本のオーケストラ。1945年(昭和20)に東宝交響楽団として発足し，1951年に東宝から離れて東京交響楽団として自立した。1964年に経済的な問題で解散したが，翌年楽団員管理による有限会社として再スタートを切った。年8回の定期演奏会をはじめ，多面的な演奏活動をしているが，特に1950年代において内外の作品を意欲的に初演した時期の功績は大きい。なお第2次世界大戦前の東京交響楽団は，現在の東京フィルハーモニー交響楽団の前身。

とうきょうこうぎょうだいがく　【東京工業大学】　国立大学。1881年(明治14)創設の東京職工学校が，1890年東京工業学校となり，次いで1901年東京高等工業学校となった。1929年(昭和4)東京工業大学となり，わが国技術教育の最高学府として，多くの人材を養成し，1949年国立学校設置法により，付属機関を合わせて新制大学となった。現在，理・工の2学部と大学院，精密工学・工業材料・原子炉工学・資源化学の各研究所がある。本部は東京都目黒区大岡山2丁目12番。

とうきょうこくさいくうこう　【東京国際空港】　東京都大田区羽田にある運輸省管理の第1種空港*。長さ3,000m・2,500m・3,150mの各滑走路をもつ。乗降客数は月平均約100万。第2次世界大戦前は羽田飛行場と称したが，戦後拡張され，日本の空の玄関となった。東アジアにおける国際幹線航空路の要衝であり，かつ国内線航空の中心でもある。ただし発着能力がすでに飽和状態に達しているため，千葉県成田市に新東京国際空港が建設されている。〔青木栄一〕

とうきょうこくりつきんだいびじゅつかん　【東京国立近代美術館】　近代美術の普及・啓蒙(けいもう)を目的として，当初は国立近代美術館の名称で1952年(昭和27)中央区京橋に設立された。1963年，京都に分館を設置，1967年にこれが京都国立近代美術館として独立するに及んで，現称となる。その後1969年5月，千代田区北の丸公園に新館が建設され，同年6月に開館した。原則としての運営方式は，1階が特定のテーマによる企画展，2～4階は1907年(明治40)以降の美術作品の常設展がある。旧館はフィルム-ライブラリーとして残されている。

とうきょうこくりつはくぶつかん　【東京国立博物館】　わが国はじめての国立博物

館。1871年(明治4)，文部省の所管で，湯島の聖堂大成殿を陳列館に，古来の宝物・歴史的遺品を保存し，公衆の観覧に供する施設として発足した。のち1882年，上野公園の元寛永寺本坊跡に，農商務省の所管のもとに新館が開館。1886年宮内省管理となり，1889年帝国博物館と改称，歴史・美術・美術工芸・工芸・天産の5部を設けた。この間には帝室博物館と改称されてもいる。1908年表慶館が竣工(しゅんこう)した。現在のような文部省管理の国立博物館としての発足は第2次世界大戦後の1947年(昭和22)である。次いで，文化財保護法制度のもとに文化財保護委員会の付属機関となって現称に改称。1968年文化庁発足と同時にその所管となった。保管陳列品は国宝・重要文化財を含み総数約90,000点，外部からの出品寄託品2,000余点である。

とうきょうじけいかいいかだいがく【東京慈恵会医科大学】私立大学。1881年(明治14)，イギリス医学の講習を目的として始められた成医会講習所に始まる。翌年有志共立東京病院を開設。1891年東京慈恵医院医学校，1903年同医学専門学校となった。わが国最初の私立医専である。1921年(大正10)医科大学に昇格，1952年(昭和27)学制改革により新制大学，1960年医学進学課程を新設，6年制の医科大学となった。現在医学部と大学院，付属病院などがある。本部は東京都港区西新橋3丁目25番。

とうきょうしばうらでんき【東京芝浦電気(株)】重電機器・電子機器・家庭電器の三分野をもつ総合電機メーカー。1939年(昭和14)強電の芝浦製作所と弱電の東京電気との合併によって発足し，その後東邦銅業や芝浦マツダ工業などを吸収合併(1939～1942)して，鉄道車両・発電用水車部門なども加えた。現在，カラーテレビ・クーラーなどの家庭電器部門のシェアはわが国のトップを切っている。重電器部門では，世界最大の揚水発電機を完成，また原子力発電機器の製造などにも取り組み，業界の代表的存在。これに関連して産業用電子機器の発展もめざましく，目下開発中の工業用コンピューターは注目されている。資本金・売上高・利益ともわが国企業のトップクラスにはいる。技術開発にも積極的でアメリカのゼネラル-エレクトリック*(GE)・RCA*と，国内では石川島播磨(はりま)重工業と提携して，人員の交流，技術の交換などを行なっている。輸出は総売り上げの22%で，北アメリカ・東南アジアなどと取引が多い。本社神奈川県川崎市，主力工場川崎市堀川町。資本金1,104億9,900万円，年間売上高1兆4,277億円，従業員数64,153(1980年9月)。

とうきょうしょうけんとりひきじょ【東京証券取引所】わが国8証券取引所の一。国内最大の規模をもち，今日では世界的にもニューヨークに次ぐ規模といわれている。証券取引所とは，有価証券を集中的に売買し，その売買取引を公正かつ円滑に行なうための諸機能を備えた，会員組織の機関である。わが国の証券取引所は，1878年(明治11)5月に株式会社組織の東京株式取引所として発足した。1943年(昭和18)に証券取引は完全な国家統制の下に置かれることになり，日本証券取引所法が制定されて，日本証券取引所ができた。第2次世界大戦後しばらく空白期が続いたが，1949年5月14日，東京・大阪・名古屋で証券取引所が再開され，取引所における有価証券の売買が行なわれるようになった。これは，機構その他，すべてアメリカの例にならい，新しい証券取引法に基づいて従来の証券取引所とはまったく様相の異なるものであった。その後，証券取引法の改正とともに，機構の改革を経て今日に至っている。東京証券取引所は，正会員83社，才取り会員12社の証券会社の会員よりなり，最高の意思決定機関は会員総会である。ただし業務の運営は，会員理事・会員外理事・常任理事らによる理事会が行なっている。そのおもな業務は，有価証券の売買取引の管理，売買取引の決済，有価証券の上場審査，上場有価証券の管理などである。➔証券市場〔日東証券調査部〕

とうきょうじょしだいがく【東京女子大学】私立大学。1918年(大正7)，日本・アメリカ・カナダのプロテスタント派有志の協力により，新渡戸稲造*(にとべいなぞう)を学長に，安井てつを学監として開校された私立女子大学。1948年(昭和23)新制大学となり，翌々年短期大学部を併設した。現在文理学部・短期大学部のほか，比較文化研究所が設置されている。本部は東京都杉並(すぎなみ)区善福寺2丁目6番。

とうきょうしんぶん【東京新聞】東京で発行されている地方新聞。第2次世界大戦中の新聞統合で《都新聞》《国民新聞》が合併して，1942年(昭和17)9月東京新聞社より発行。発行当初は朝夕刊を発行していたが，戦時下の用紙統制のため，1944年5月夕刊専門紙となり，この体制は1956年3月朝刊を発行するまで続いた。1967年10月東京新聞の経営権は中日新聞東京本社に移ったが，同じ題名のもとに発行を継続し，現在に至っている。発行部数は朝刊で81万6,000(1980)。〔須藤泰秀〕

とうきょうだいがく【東京大学】国立大学。1877年(明治10)，東京開成学校・東京医学校を合併して開設された。この2校は，いずれも幕府の学問所を継承し発展させたものである。はじめ法・医・文・理の各学部と大学予備門を設け，中等学校修了者を入学させた。以後1886年制定の帝国大学令により，新たに工学部を加え，五つの分科大学からなる帝国大学となった。その後農科大学を設置，1897年京都に帝国大学ができるまで，わが国唯一の帝国大学であった。1897年以降は東京帝国大学となった。1918年(大正7)，大学令の発布により，それまでの分科大学制を廃止，経済学部を加えた7学部制を採用，1947年(昭和22)に東京大学と改称した。1949年新制大学に移行，旧制の第一・東京の両高等学校を合併し，教養・教育の2学部を新設して9学部制となり，1958年には薬学部を設置，現在10学部と大学院研究科，付属研究施設として，図書館・史料編纂(へんさん)所・付属病院のほか，東京天文台や医科学・地震・東洋文化・新聞・生産技術・社会科学・応用微生物・原子核・海洋・物性・宇宙航空の各研究所，各学部の教育・研究の施設，付属中・高等学校などが設けられている。その成立と歴史が示すように，わが国最初の国立大学として，さらに最高学府として，多くの人材を輩出してきたが，同時に学閥・権威制度の中心ともなり，そのあり方の是非をめぐって，多くの論議と批判を集めている。本部は東京都文京区本郷7丁目3番。

とうきょうタワー【東京タワー】東京都港区芝公園内にある高さ333mの鉄塔。日本電波塔株式会社が所有し，1958年(昭和33)12月に完成。地上125mと225mとに展望台，タワービルには遊戯場・休憩場・近代科学館・テレビ送信所・名店街がある。

とうきょうてんもんだい【東京天文台】東京大学付属研究所の一。1888年(明治21)東京市麻布飯倉(あざぶいいくら)に創立され，1924年(大正13)現在地の東京都三鷹(みたか)市に移転した。65cm屈折望遠鏡・太陽塔望遠鏡・子午環・電波望遠鏡などを備え，位置天文学から天体物理学までの広い分野の研究と編暦・保時などの業務を行なっている。第2次世界大戦後は，長野・岐阜県の乗鞍(のりくら)コロナ観測所(コロナグラフ)，岡山県の岡山天体物理観測所(口径188cmおよび91cm反射望遠鏡，太陽望遠鏡)，埼玉県の堂平観測所(口径91cm反射望遠鏡，50cmシュミットカメラ)，長野県の野辺(のべ)山電波観測所(電波干渉計)など，近代的設備の整った付属施設がある。〔守山史生〕

とうきょうでんりょく【東京電力(株)】関東一円(栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・神奈川県・山梨県・東京都および静岡県の富士川以東)を供給区域とするわが国最大の電力会社。民間電力会社としては世界一の規模を誇る。過度経済力集中排除法による電力再編成で1951年(昭和26)日本発送電(株)と関東配電の出資によって発足。1972年2月現在発電設備能力1,707万kW(火力78.9%，水力18.4%，原子力2.7%)，発電所236か所(水力210，火力25，原子力1)。主力の火力発電所の大部分は横須賀(よこすか)・横浜・姉崎・五井など東京湾沿いに点在している。なお，今後の発展が予想される鹿島(かしま)地区の鹿島火力発電所は6号機まで建造中であり，完成の1974年には最大出力440万kWが見込まれている。原子力発電は1971年3月に福島県双葉(ふたば)郡双葉町・大熊(おおくま)町に1号炉(46万kW)を完成，



闘　鶏　古くは上流社会の遊戯として盛んであったが，しだいに神意をうかがう行事として民間に流行した《年中行事絵巻》(部分)

続いて2・3・5号炉を建設中である。本社東京。資本金5,202億円，1980年3月期営業収入2兆362億円，従業員数40,863(1980年9月)。

とうきょうフィルハーモニーこうきょうがくだん　【東京フィルハーモニー交響楽団】　日本のオーケストラ。1910年(明治43)に名古屋の松坂屋少年音楽隊として発足したものが，1929年(昭和4)に名古屋交響楽団となり，1938年に東京に進出して中央交響楽団と改名，さらに1941年に東京交響楽団となった。第2次世界大戦後，東京都フィルハーモニー・アニーパイル-オーケストラを経て，1947年に東京フィルハーモニー交響楽団となり，1952年に財団法人に組織を改めた。年8回の定期演奏会をはじめ，多面的な演奏活動を続けている。

とうきょうほうそう　【(株)東京放送】　テレビ・ラジオ両部門をもつわが国最大の民間放送会社。1951年(昭和26)ラジオ東京として発足，民間放送の第1号として同年ラジオ放送を開始，さらに1955年からテレビ放送を始め，1960年ラジオ東京から現社名に改称した。全国各主要局を結ぶ強力なネットワークを形成し，民放界のトップの位置を占めている。また，映画・サービス・音楽出版・ゴルフ場・不動産・東京エレクトーン研究所・コンピューター学校など関連分野に多くの子会社を擁し，さらに最近はアメリカのブリタニカと合弁して新企業を設立するなど，総合情報産業多角化への積極経営をめざしている。本社・スタジオは東京都港区赤坂。支社・支局は大阪・名古屋・ニューヨーク・ワシントンなどにある。資本金67億円，営業収入1,042億円，従業員数1,465(1980年9月)。

とうきょうわん　【東京湾】　関東地方の南部，房総半島と三浦半島にはさまれた湾。房総半島南西端の洲崎(すのさき)と三浦半島南東端の剣崎(けんざき)以北の全域をさし，浦賀水道を湾口として太平洋につながるが，狭義には房総半島の富津洲(ふっつす)と三浦半島東端の観音崎を結ぶ線以北をさすこともある。古くは江戸湾とよばれ，地質時代の海進時に内陸の洪積(こうせき)台地の縁辺まで海水が浸入していた状態の湾入は古東京湾という。かつての湾岸は保養地・別荘地，あるいは潮干狩り・海水浴場の適地として京浜人士のいこいの地となるところが多く，アサリ・ハマグリ・ノリの養殖が行なわれたが，いまは京浜・京葉の両工業地帯が東西両岸に発達して，工業用地の造成が進んでいる。横浜港・川崎港・東京港を含めた京浜港，および千葉港などの特定重要港湾がある。〔山口恵一郎〕

とうきょうわんちゅうとうちょうい　【東京湾中等潮位】　陸地の標高の基準面。東京都霊岸島の検潮場で1873年(明治6)から1885年まで，欠測期間(夜間や波が高くて近寄れないなど)を除く，6年半にわたり観測した平均潮位を東京湾平均海面とし，それを東京永田(ながた)町にある水準原点に移し，その水準原点から下24.5mを東京湾中等潮位として決定した。しかし，関東大震災の際にその水準原点が8.6cm沈下したため，現在では水準原点下24.414mとなっている。

とうぐう　【東宮】　皇太子の居所または尊称。古くは春宮とも書いた。東宮は《令義解*(りょうぎのげ)》に〈太子之所居也〉と記され，皇太子の御座所が皇居の東にあったことから出たことばであるが，しだいに皇太子をさしていうことばとなり，東宮殿下として用いられるようになった。現在，皇太子の住居を〈東宮御所〉，皇太子に関する事務をつかさどるところを〈東宮職〉と称している。

どうくつが　【洞窟画】　洞窟内部の岩壁に描かれた彩画および線刻画。旧石器時代後期のオーリニャック期およびマドレーヌ期に，南フランスと北スペインのカンタブリア地方を中心に描かれた。画題はウマ・ビゾン(野牛)・シカ・ヤギ・イノシシなどの野生の動物である。人物像はまれで，たとえ描出されてはいても，動物の仮装をした呪術師(じゅじゅつし)として表わされる。これらの壁画はいずれも洞窟内の奥深いところに描かれていて，住居として用いられた洞窟の入り口付近には見いだされない。著名な洞窟画には，アルタミラ洞窟*・ラスコー洞窟*・ニオー洞窟などのものがある。なお，東スペインのレバントやサハラ地域の岩壁画*は，直接または間接に日光の差し込む岩陰に描かれているので，岩陰画と称されて洞窟画とは区別される。〔木村重信〕

とうぐどう　【東求堂】　⇨慈照寺

どうけ　【道化】　一般にこっけいな言語や動作，またそうした身ぶりやことばで事をするものをいう。古来道化はどの民族にも共通してみられた現象であったが，これが意識的に行なわれるようになると風刺性・批判性が加わり，演劇の重要な要素となった。ヨーロッパにおいては中世のころ町や村の祭礼の大道芝居に現われ，やがて笑劇を経て16世紀にそれぞれの国の喜劇に吸収されていった。特にローマ演劇の伝統を引くイタリアではコメディア-デラルテ*に一定の型をもった道化師が多く登場，フランス・ドイツに大きな影響を与えた。イギリスにおいては大道芝居の流れのほかに小人の道化師とよばれて王侯貴族のきげんを取り結ぶ宮廷道化師が存在した。シェークスピア*は喜劇だけでなく悲劇の作中にまでこの道化師を用い，すぐれた劇的効果をあげている。なおフランスにおける道化は形を変えて魔術・サーカスなどに生き残った。日本では，歌舞伎(かぶき)の役がらの一種に〈道化方〉というのがあり，こっけいな科(しぐさ)や白(せりふ)によって笑わせるのを専門とする俳優をさしていう。〔白川宣力・前田慎一〕

とうけい　【闘鶏】　雄鶏をたたかわせて観賞し勝負を競う遊戯。古く中国・インド・ペルシアなどで行なわれていたが，日本では〈鶏合(とりあわせ)〉という名で上代から行なわれ，平安時代には宮中など上流階級の遊戯として盛んになり，鎌倉時代の1198年(建久9)からは三月節供の年中行事となった。使用するニワトリが闘鶏用に改良されたシャモになったのは江戸時代末期以降である。明治年間に賭博(とばく)の対象としての闘鶏は禁止されたが，現在でも愛知県津島神社の闘鶏祭の神事として行なわれている。

とうけい　【統計】　同種類の事象の集合を，数量で表わしたもの。個々の場合の事がらではわからないが，その事がらを多数について調べると，一定の傾向や法則が現われることを統計的現象といい，またその法則を統計的法則という。17世紀にイギリスで，死亡者数の調査などから，この法則性が注目され，ドイツでは，人口や石炭の産出量などから国家の状態を記述する目的で統計学が起こった。その後，資料の集め方や処理の方法の改善と統計的な法則の研究が進められ，確率論も用いられるようになったが，20世紀の初めごろまでは，平均や標準偏差*などを用いて，分布の特徴や法則などが利用しやすいように，統計的な資料を整理し記述することが主であった。これを記述統計学ともいう。統計の発達にしたがって応用分野も広まったので，政治や

経済状態に関する資料をおもに扱う分野を社会統計学といい，これに対して，数学的に理論を扱う分野を数理統計学というようになった。現在，数理統計学の主流をなす推測統計学は，1920年ごろに実験計画法の研究などから起こったもので，確率の考えを土台としている。推測統計学は，自然科学や心理学・経済学など諸科学で用いられるだけでなく，生産管理・市場調査・世論調査あるいは交通・通信，輸送の改善など広い分野で応用されている。　〔小西勇雄〕

とうけいじ　【東慶寺】　神奈川県鎌倉市山ノ内にある臨済宗円覚寺派の寺。開基は北条貞時(ほうじょうさだとき)，開山は北条時宗(ときむね)夫人の覚山志道尼といわれる。開創は1285年(弘安8)，鎌倉尼寺五山の第2に列し，男子禁制・女人救済の寺法を許されて，縁切り寺または駆け込み寺として，離婚請求のため駆け込む女性が多く，特に江戸中期から知られた。明治末に円覚寺管長釈宗演が中興開山となって以後は男僧寺である。学者や作家の墓が多いので知られている。

とうけいりきがく　【統計力学】　物質を構成する原子や分子の微視的性質に基づいて物質の巨視的性質を明らかにする学問。原子や分子の数は膨大であり，各粒子の力学的運動はきわめて複雑で，純粋に力学的方法で物質の性質を明らかにすることは不可能である。しかし，物質の性質の解明には個々の粒子運動の詳しい追跡を必要とはせず，よりおおざっぱな情報で十分記述される。たとえば，箱の中のある小さな領域内にある気体分子数は時間的にたえず変動するが，この場合微視的立場における密度よりも，長時間にわたって平均された密度で十分である。この分子数密度についての確率が求められれば，平均の密度が得られるが，物質の性質を微視的立場に基づいて論ずるには，確率論的考察が必要となる。同様に，熱平衡状態にある物質のエネルギーは，エネルギーについての確率を求めて平均したものと考える(内部エネルギー*)。物質を構成する粒子の数が膨大な場合には，この物質についてのある物理量の値はほとんど上記の意味における平均値である。熱力学*で現われるエントロピー*とか内部エネルギーとかの諸量，およびこれらの間になりたつ関係式は，微視的モデルから出発して統計力学の手法によりすべて明らかにされる。統計力学の取り扱う対象は気体・液体・固体のすべてにわたっており，金属内自由電子とか結晶内原子の振動による比熱，光の放射エネルギー，分子自身の回転および振動による熱的性質，強磁性体の磁化現象，相転移，その他種々の現象にわたっている。　〔中野藤生〕

どうけし　【道化師】　⇨ピエロ

どうけつえび　【洞穴蝦】　甲殻(こうかく)類・オトヒメエビ科。体長15mmほどの透明なエビ。第3胸脚はテッポウエビ*に似た強大なはさみがある。海綿動物のカイロウドウケツ*類のガラス状の体内に，雌雄1対が終生寄生するといわれることから，縁起ものとして知られる。遠州灘(えんしゅうなだ)・熊野灘(くまのなだ)などの深海底から採集される。

とうけん　【刀剣】　刀と剣をいい，刀は切るに便利であるように片刃であり，剣は突くに便利であるように両刃(もろは)である。わが国における刀剣の呼称である剣・太刀(たち)・打刀(うちがたな)・脇指(わきざし)・短刀などが総称される。歴史と各期の刀剣の特徴は以下のとおりである。

奈良時代：この期の刀剣はそのほとんどが中国大陸から輸入され，これに応じて鍛冶者(かじしゃ)も大陸から移住して，鍛練技術を指導・伝授したといわれる。正倉院に現存するいわゆる初期日本刀の直刀の目録には，唐(から)太刀・唐様太刀の区別があり，後者はわが国における倣作である。また，《万葉集》などに散見される〈高麗(こま)剣〉などの語から，朝鮮からの鍛冶者の帰化もあったことが推察される。直刀すなわち反(そ)りのない刀には，①両刃の剣，②鎬(しのぎ)のない平造り，③鎬の線が刃方に寄った切刃(きりは)造り，④鋒(きっさき)だけが両刃の鋒両刃造りなどがある。この中では②③が古く，次いで④，①はさらに後世のものである。直刀は，本来の用法は切ることよりもむしろ突くことに適していて，断ち切る意の〈大刀(たち)〉とよばれていた。また，〈横刀〉〈横剣〉とも記され，いずれも〈たち〉と読み，拵(こしらえ)を帯で腰に下げて佩(は)き，腰に横たえるところから〈横〉の文字があてられたのであろう。古墳出土の環頭大刀・圭刀(けいとう)大刀・頭椎(かぶつち)大刀や金銀鈿荘(でんそう)太刀などはすべて横剣形式である。なお，この期には，後世の短刀に類する蕨手(わらびて)刀がある。

平安時代：直刀から反りのある彎刀(わんとう)へ移行したのは，平安中期以降のことと考えられている。この変化の契機には，武家の勢力の大きな伸長があったように思われる。すなわち，清和源氏・桓武(かんむ)平氏の著しい隆盛である。平氏は保元(ほうげん)の乱・平治の乱を鎮定して，武家としてははじめて政治の主導権を握るが，その政治形態を含めた社会機構の成立には，戦闘の方法の変化によるところが大きかった。つまり，従来の徒士(かち)戦が騎馬戦に変わり，弓矢と太刀で戦う格闘戦が主体をなした。この期に完成をみた彎刀の様式は，物を切る場合の衝撃の少なさという要件が満たされ，闘技にとっては非常に実用的であった。そのうえ，それにこたえる鉄生産と，反りをつける鍛練技術の進歩があった。983年(永観1)・987年(永延1)の京中・畿内(きだい)の兵仗(へいじょう)禁止は，武用の太刀の佩用者(はいようしゃ)が多かったことと，太刀の生産の活発さを物語る。しかし，直刀から彎刀へ，切刃造りから鎬造りへの移行は直接的なものではなかった。この過程に製作された過渡的な作に，平家重代として名高い〈小烏丸(こがらすまる)〉や藤原秀郷(ひでさと)佩用と伝えられる毛抜形太刀などがある。現存するこの時代の太刀は身幅の先が元に対して半分ぐらいに狭く，鋒はつまって小切先(こきっさき)となる。反りは〈腰反りが高い〉といわれるように元で強く反り，先にいってほとんど反らない感じのものである。刃文は，直刃(すぐは)調であっても足・葉が交わったり，金筋がはいったりして，小乱れ調に細かく変化している。また，採鉱と鍛冶の未分化のためか，製作地は鉄の生産地が多かった。中国山脈の南北の伯耆(ほうき)(鳥取県)・備前(岡山県)などに伯耆安綱・古備前友成・正恒(まさつね)らの名工が輩出したのは当然である。しかし，京鍛冶はすでに存在し，踏鞴(たたら)を吹いて鉄を製練する大鍛冶と，鋼から太刀などの製品をつくる三条宗近(むねちか)らの小鍛冶の別はあった。

鎌倉時代：初期の刀剣は，まだ前時代の作風が継承されて腰に踏張(ふんばり)のある古雅なものであったが，〈狐ヵ崎(きつねがさき)〉とよばれる備中為次(ためつぐ)のように豪壮なものも現われている。また，この期に特筆されるのは後鳥羽院(ごとばいん)番鍛冶である。上皇は全国から名工を召し出して，月番を定めて鍛刀させたが，上皇みずからも焠刃(さいじん)を施し，この作は菊御作*と称されている。番鍛冶は備前一文字派の刀工が多く，山城(京都府)の粟田口(あわたぐち)派，備中青江派がこれに次いでいた。武芸が武士の教養の第1とされた中期には，鍛刀界も武士全盛の影響を受けてはなやかに展開した。太刀は身幅も広く平肉がついて，先幅があまり細らず，重ねの厚いがんじょうな体配で，鋒は中鋒がつまって猪首(いくび)切先となり，豪壮さを示した。刃文には備前・山城に最も顕著な華麗な丁子(ちょうじ)乱れが盛んに流行した。短刀の製作も多く，姿は内反り，茎(なかご)はまっすぐのものや振袖(ふりそで)茎とよばれる棟(むね)に大きく反ったものがある。この期は，守護・地頭の武家勢力が荘園(しょうえん)領主を侵して勢力を増大させたが，大きな公家(くげ)・社寺は荘園守護のために自衛の手段をもって対抗した。このためにつねに武力をもつ必要があった。特に，手掻(てがい)派・当麻(たいま)派・尻懸(しっかけ)派・千手院派・保昌(ほうしょう)派の大和(やまと)鍛冶は寺院の庇護(ひご)のもとに繁栄した。また，相州鍛冶の出現もあった。末期には，元寇(げんこう)の与えた教訓もあって，わが国の戦術および武器は大きな変革期を迎えた。刀剣にはさらに豪壮さが強調され，太刀は身幅が広く，元幅と先幅の差の少ないもので，しだいに切先の延びたものとなった。短刀は，内反りの優雅なものから無反りまたはわずかに反りごころのあるがんじょうな，身幅が広く寸法もやや延びたものとなった。中には極端に寸法がつまり，

身幅の広いものもある。このような刀剣の流行とともに諸国には鍛冶が輩出した。特に，相州鍛冶は新藤五国光(くにみつ)のあとを受けて行光・正宗(まさむね)が出現し，鎌倉の地にあって大いに活躍した。正宗の完成した相州伝の作風の特色は，国光の作風をさらに強調し，硬軟の地鉄を組み合わせて，地景(じかげ)・金筋などの働きと，湾(のた)れ刃を基調とした大模様の刃文による沸(にえ)作風の美しさを表現した鍛法にある。正宗の作風は全国的に影響を及ぼし，いわゆる〈正宗十哲〉はいずれもその作風が及んでいるとみられる。

南北朝時代：美術史上や文化史上ではこの期はあまり特筆されないが，刀剣史上では見落とすことのできない重要な一時期である。元寇以来，太刀は特に豪壮・頑健(がんけん)さを増し，この期にはそれが最大限に誇張されるに至り，物々しい〈いかつさ〉と野卑性とをおびたものも出現した。1334年(建武1)8月の京都二条河原(がわら)の落書には，〈鉛作(なまりづくり)ノオホ刀　太刀ヨリ大ニコシラヘテ前サカリニゾ指(さし)ホラス〉とあり，三尺(約90cm)に余るものが多く，背負(せおい)太刀とか野太刀とか称された。このような大太刀は，後世適当な寸法に磨(す)り上げられて打刀に使用されている。しかし，これとは逆に2尺前後の小振りの太刀も現存する。これは山岳地帯の戦闘に適合したものであったと思われる。短刀も1尺をこえる大振りなもので，平造りで身幅が広く，反りがつき，重ねが薄くなる。

室町時代：室町初期は各地に闘争があったとはいえ，いちおうの平和は取りもどされていた。いわゆる北山文化の開花した時代である。このような社会の中で，南北朝時代の豪壮な太刀はすたれ，鎌倉時代の作に近い復古的な体配の太刀がみられた。しかし，一方では打刀が漸次隆盛をきわめ，太刀はしだいにすたれた。つまり，敏速に行動できるように，刃を上にして，腰に密着して差す様式の打刀が多用されたのである。この期の太刀はわずかに先反りがあり，刃文は直刃においても刃中のどこかに尖刃(とがりば)が交じり，帽子の返りがへたになり，乱れ刃は丁子本位のものではなく，どこかに互(ぐ)の目が交じる。また，1尺2寸から8寸ぐらいの鎬造りの脇指の製作も多い。短刀は前時代とはやや変化がみられ，寸法は延びてはいるが，無反りである。戦乱の多い室町後期は，刀剣の需要は極度に増大した。そのためか粗製濫造(らんぞう)な刀剣も出回った。これらの刀剣は束刀(たばがたな)とか数打物(かずうちもの)とか称され，何本か束にして売買されたところからの称である。これに対し，注文による作は注文打といっている。刀鍛冶は，束刀をつくると同時に，各地の戦国大名や豪族のもとを渡り歩いて鍛刀した者が多かった。美濃(みの)(岐阜県)の関鍛冶はその代表である。短刀は平造り



闘犬　土佐闘犬の公認横綱〈4代高力号〉



道元

内反りで，〈ふくら〉の枯れた〈筍子(たけのこ)反り〉のものと，身幅は尋常でやや反りのつくものがある。さらに，両刃造りと称された左右対称でない内反りのものも現われた。なお，特記すべきことは，鉄砲のめざましい普及とともに，刀鍛冶の鉄砲鍛冶への転向がみられたことである。

桃山時代：織田信長(のぶなが)を経て豊臣秀吉(とよとみひでよし)の時代となった。秀吉は刀狩*(かたながり)を行なったが，これは刀剣製作に新風を注ぎ，量産の数打物は影を潜め，やがて新刀期を迎えた。新刀とは慶長(1596～1614)以降の刀剣の呼称である。新刀期は慶長から寛永(1624～1643)の慶長新刀，寛文・延宝(1661～1680)を頂点とした寛文新刀，天明・寛政(1781～1800)以後から幕末に至る新新刀の3期に大別される。慶長新刀は，鎌倉・南北朝時代の大きな太刀が磨り上げられて，打刀になおされた時期である。したがって新たに製作される刀剣もこれらの姿に似て身幅が広く，先幅もさほどせばまらず，切先が延びて反りの浅い体配となる。また，美濃出身の刀工またはその影響を受けた者が多いため，地鉄(じがね)が流れごころとなり，刃文は湾れに互の目調となる。さらに，相州上工の豪放な作風が人気を集め，刀工は正宗・貞宗(さだむね)の作風を理想とした。しかし，新刀は刃文をいかに技巧的にしても変化に乏しく，帽子は単純に小丸に返るものが多い。鉄色(かないろ)に奥深さが足りず，あるいは黒っぽい南蛮鉄(洋式鍛錬法によってつくられた鉄)が現われたりする。さらに，平地はいかによく鍛えても，鎬地が柾(まさ)がかる点も新刀の特色である。刀装は桃山の時代的な特徴を表わし，大胆ではなばなしい自由な意匠のものが多い。

江戸時代：前期は元禄(げんろく)(1688～1703)に至る寛文新刀のできあがった時期である。江戸には諸国の大名をはじめ多くの武士が集まり，刀鍛冶もそれに伴って各国各派が集まって技(わざ)を競った。反面京都は衰退し，刀工も経済の中心地であった大阪へ去った。このためもあって，江戸と大阪の刀工の性格が刀剣によく現われている。江戸新刀は武張った感じで，截断金象嵌(ぞうがん)銘のある作が多い。特に長曾禰虎徹*(ながそねこてつ)の作は，地鉄のよさ，独特の刃文である数珠刃(じゅずば)の刃文，その切れ味のよさが人気を博した。これに対し，大阪新刀は江戸新刀より地鉄がつんで綺麗(きれい)となり，反りがやや強く優しい姿で，截断銘はごくまれであった。刀工には和泉守国貞(いずみのかみくにさだ)・河内守(かわちのかみ)国助，濤瀾刃(とうらんば)を創始した津田越前守(えちぜんのかみ)助広，大阪正宗といわれた井上真改，梅・龍(りゅう)などの刀身彫りではなやかさを示した一竿子忠綱(いっかんしただつな)らがいた。元禄以後，刀剣の製作は衰退の一途をたどった。しかし，装剣小道具は精緻(せいち)な職人芸をもって大いに発展を遂げた。金工の名門である後藤家，絵画的な構図を創始した横谷宗珉(そうみん)らがそれをささえた。しかし，幕末期に至ると，外国からの脅威を感じはじめた武士は，泰平からさめて政治・経済に目を向けた活動を始めた。鍛刀界もこの気運を受け，再び隆盛をみた。しかし，全国的に隆盛したのは，水心子正秀(まさひで)の復古新刀の主張であった。これ以後は，1876年(明治9)の廃刀令に至る。

➔113ページ(写真)　〔小笠原信夫〕

とうけん　【闘犬】　イヌをたたかわせて，観賞することを目的とする遊戯。古く〈犬合わせ〉〈犬くい〉などとよばれ，鎌倉時代には闘志を鼓舞する競技として武士階級の間で広く愛好された。北条(ほうじょう)高時*がこれに熱中し，全国の守護大名の持ち犬をたたかわせて，ばくだいな賞をかけたことは《太平記》にも記されている。闘犬用のイヌを産する秋田(秋田犬)・高知(土佐犬)の両県下では現在でも盛んに行なわれ，横綱から前頭までの番付が年1回公表されている。

どうけん　【銅剣】　弥生(やよい)時代の青銅製利器。細身で刃が鋭利な実用性のあるものを細形銅剣，扁平(へんぺい)で武器としては非実用的なものを平型銅剣という。細形銅剣は北九州・朝鮮に分布し，大陸から弥生時代中期に渡来した輸入品であることが知られる。平型銅剣は四国ことに香川県から多く出土し，弥生時代後期の国産品で，祭器・儀礼品として用いられたと推定されている。近時，田能遺跡(兵庫県)から銅剣の鎔笵(ようはん)(鋳型)が出土し，弥生文化の研究に新資料を加えている。〔高崎徳次〕

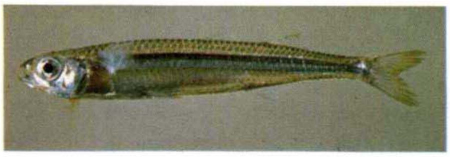
どうげん　【道元】　(1200～1253)　鎌倉

時代の僧。曹洞宗*(そうとうしゅう)の開祖。永平寺*開山。おくり名は仏性伝東国師，承陽大師。希玄と号した。内大臣久我通親(こがみちちか)の子として京都に生まれた。8歳で母の死にあって，出家を志し，13歳で母方の叔父(おじ)良観法眼(ほうげん)の門をたたき，次いで横川(よかわ)首楞厳院(しゅりょうごんいん)の千光房に留学，14歳で天台座主(ざす)公円について菩薩戒(ぼさつかい)を受けた。〈大蔵経〉を閲するうち，〈本来本法性，天然自性身(人は生まれながらに悟りをひらきうる素質をもっている)〉の語に至って，なぜ発心し仏道修行するのかと疑問を生じ，比叡(ひえい)山の碩学(せきがく)に問うたが意に満たず，園城寺の公胤(こういん)の門をたたいた。しかし，公胤に建仁(けんにん)寺の栄西*に問うべきことを指示され，建仁寺へおもむいて栄西の弟子(でし)明全から黄龍(おうりょう)派の臨済禅を授けられた。彼が栄西に直接参じたという従来の説は，今日疑問視されている。1223年(貞応2)24歳で明全とともに宋(そう)に渡り，諸山を歴訪し，ついに天童如浄*に参じて開悟し，師の法を継いで1227年(安貞1)28歳で帰朝した。帰朝後，建仁寺で《普勧坐禅儀》を撰(せん)したが，1230年(寛喜2)深草の安養院に移り，翌年《正法眼蔵*》の最初の1巻である《弁道話》を著わした。さらに1233年(天福1)山城に観音導利興聖(こうしょう)宝林寺を開き，以後10年間宗風を宣揚したが，1243年(寛元1)波多野義重(よししげ)の勧請(かんじょう)によって，越前(えちぜん)(福井県)の志比庄(しびのしょう)に向かった。いったん吉峰(よしみね)寺に入り，その翌年，大仏寺を建立(こんりゅう)し，祝国開堂(しゅっこくかいどう)の法会を営んだ。大仏寺は1246年に永平寺と改称された。1247年(宝治1)北条時頼(ほうじょうときより)の請により鎌倉(かまくら)におもむき，心要を説くとともに菩薩戒を授け，時頼の荘田(しょうでん)寄進の申し込みを固辞して，翌年永平寺に帰った。また後嵯峨(ごさが)天皇から紫衣を賜わったが，生涯(しょうがい)身につけることがなかった。1252年(建長4)秋に病を得，翌年1月，《正法眼蔵》の最後の1巻である《八大人覚(はちだいにんがく)》を著わし，7月永平寺を弟子の孤雲懐奘*(えじょう)に譲り，8月療養のために京都へ向かい，俗弟子覚念の屋敷で54歳の生涯を閉じた。彼は天童山の如浄に参じて，一生参学の大事をきわめてから，ひたすらすわること(只管打坐(しかんたざ))こそ正伝の仏法なりという信念のもとに，真実の求道者の育成に生涯を傾けた。著書には《正法眼蔵》95巻，《普勧坐禅儀》1巻，《学道用心集》1巻，《永平清規(えいへいしんぎ)》2巻，《永平広録》10巻などがある。〔田中良昭〕

とうけんそ【湯顕祖】(1550～1616) 中国，明(みん)代の劇作家。住居を玉茗堂(ぎょくめいどう)という。浙江(せっこう)の遂昌の知県をつとめ善政をしいたが，硬骨を憎まれ，1598年辞職，江西省臨川の郷里に隠棲(いんせい)した。王陽明学派の左派と交わり，礼教を批判した李卓吾*(りたくご)や，正統派の朱子学に反対した禅僧の達観らと交際した。元曲に通暁し，《牡丹亭(ぼたんてい)還魂記*》をはじめ，唐代の伝奇小説に取材した戯曲《紫簫記(ししょうき)》，これを改修した《紫釵記(しさいき)》，同じく唐代小説から趣向をとった戯曲《南柯記(なんかき)》と《邯鄲記(かんたんき)》をつくった。《還魂記》《紫釵記》《南柯記》《邯鄲記》を総称して〈玉茗堂四夢〉という。また，詩文集《玉茗堂全集》がある。〔今村与志雄〕



トウゴマ



トウゴロウイワシ

どうこう【瞳孔】⇨目

どうこう【銅鉱】銅を含有する鉱石鉱物。種類は150種以上存在するが，オウドウ鉱が主要鉱石鉱物で，他の重要なものは表のとおり。

	銅　鉱　物	銅含有率
硫化銅鉱	シゼンドウ	100 %
	オウドウ鉱	34.5
	キューバ鉱	23.5
	キドウ鉱	79.8
	ハンドウ鉱	63.3
	ドウラン	66.4
	リュウヒドウ鉱	48.3
	シメンドウ鉱	51.5～45.5
酸化銅鉱	セキドウ鉱	88.8
	コクドウ鉱	79.9
	クジャク石	57.3
	ランドウ鉱	55.1
	ケイクジャク石	36.1
	アタカマ鉱	59.4

なお酸化銅鉱は，硫化銅鉱が地表近くで酸化作用を受けて生じた鉱物である。

どうごうきん【銅合金】銅を主体とする合金。加工性・溶接性に富み，機械的性質・導電性・熱伝導性・耐食性などにもすぐれた工業上有用な合金。添加元素は亜鉛・スズ・ニッケル・アルミニウムが主要なものであるが，鉄・ケイ素・鉛・マンガン・リン・カドミウム・銀・ベリリウム・チタンなども目的に応じて使用される。黄銅・丹銅・鉛入り黄銅・アドミラルティ黄銅・ネーバル黄銅・マンガン黄銅・アルミ黄銅・青銅・砲金・リン青銅・シルジン青銅・アルミ青銅・ニッケル青銅・洋白・コルソン合金・ベリリウム銅・銅チタン・銀入り銅などは広く使用されている銅合金である。これらの銅合金は板・棒・線・管などに加工されたり，鋳物に使用される。〔藤井康次〕

とうごうさくせん【統合作戦】陸・海・空の3軍，またはそのうちの2軍の部隊が，共通の目的達成のため結合し，単一指揮組織のもとに遂行する諸作戦をいう。一般には，統合組織ではなく単なる協力関係における作戦をも統合作戦という。現代では，3軍の統合を実施するのが通常であるので，各国とも平素から統合組織をつくり，統合年度防衛計画の立案，統合訓練の実施などを行なっている。

とうごうせいじ【東郷青児】(1897～1978) 洋画家。鹿児島県の生まれ。青山学院卒業後，二科会に出品，未来派ふうの斬新な作品で注目され，1919～1930年(大正8～昭和5)滞仏，1931年二科会会員。第2次世界大戦後二科会の再建に努め，同会会長となる。冷たい色調と装飾的な表現が特色。

とうこうせん【等高線】⇨地図

とうこうち【陶行知】(1891～1946) 中国の教育者。アメリカのコロンビア大学に留学，ジョン-デューイに教育学を学んだ。教科書中心の注入式教授法を批判して，労働を尊重し，実生活から学ぶ〈生活教育〉を提唱した。1923年，南京(ナンキン)の東南大学教授(教育学科主任)を辞し，学校経営・民間教育運動に専念した。彼の学校の教職員・学生には共産党員が少なくなかったため，しばしば蒋介石(しょうかいせき)の圧迫を受けた。子どもの人権，農民の自立を求め，民族解放と民主主義のための教育をめざし，論文の主張は独裁政治反対の行動となり，内戦の危機をはらむ上海(シャンハイ)で言論活動に奔走する中で急死した。その思想は，のちに中華人民共和国の教育指導者となる多くの教師に強い影響を与えた。彼の経営した暁荘師範学校(南京郊外)跡には陶行知先生記念館がある。➔識字運動〔斎藤秋男〕

とうごうばくりょうかいぎ【統合幕僚会議】防衛庁長官の補佐機関。専任の議長と陸海空3幕僚長からなる。統合防衛計画の作成，各幕僚監部の作成した諸計画の調整のほか，出動時における自衛隊に対する指揮命令の基本事項や統合調整などについて長官を補佐する。これらの業務は統合幕僚会議事務局が行なう。事務局は第1～第5幕僚室からなり，統合幕僚が勤務する。なお，自衛隊の統合運用に関する教育機関として統合幕僚学校が付属している。

とうごうへいはちろう【東郷平八郎】(1847～1934) 海軍軍人・元帥。鹿児島県出身。薩摩(さつま)藩の海兵隊を経て，維新後海軍士官となり，1871年(明治4)イギリスに留学。日清(にっしん)戦争には浪速(なにわ)

艦長として活躍した。日露戦争には連合艦隊司令長官として旅順艦隊を破り，特に日本海海戦には，ロシアのバルチック艦隊を敵前回頭作戦で破り名声を博した。戦後軍令部長となり，1914年(大正３)には東宮学問所総裁に就任した。死後は軍神としてあがめられた。　〔安達利夫〕

どうごおんせん　【道後温泉】　愛媛県松山市にあり，泉温42〜50℃，泉質は弱アルカリ性単純泉。胃腸病・神経痛・皮膚病・婦人病などにきくといわれる。日本最古の温泉の一つに数えられる。古くから天皇や皇族の来湯が多い。1894年(明治27)に建てられた振鷺閣(しんろかく)は，夏目漱石(そうせき)の《坊っちゃん》の時代の木造建築として有名。交通は予讃(よさん)本線，松山駅下車が便利。

とうこのらん　【党錮の乱】　中国，後漢末に起こった政府批判党に対する弾圧追放事件。166年以後，多数の党人(学閥集団を形成した知識人)が禁錮(任官禁止)あるいは処刑され，宦官(かんがん)の横暴が激化した。しかし，184年に黄巾(こうきん)の乱が起こると，党人が黄巾と結ぶことを恐れ，急に党錮が解かれた。党錮の乱は後漢の政治体制の崩壊を象徴していた。

とうごま　【唐胡麻】　双子葉植物・トウダイグサ科。ヒマ(蓖麻)ともいう。熱帯アフリカ原産の低木であるが，日本では気候の関係で一年草として栽培されている。日本へは中国から渡来した。茎は太くて中空。葉は長さ20〜30cmで，５〜11裂する掌状葉。茎と葉柄は白色のロウ物質におおわれる。秋，枝先に長さ約20cmの花穂を立て，上方に雌花,下方に雄花をつける。果実の表面は柔らかい毛でおおわれ,中に長さ1.5cmの楕円(だえん)形のなめらかで暗かっ色の筋がある種子を入れる。種子は蓖麻子とよばれ，30〜50％の油を含み，種皮を除いて圧搾しひまし油を得る。➔前ページ(写真)

どうごやま　【道後山】　中国山地中央部の広島・鳥取県境にそびえ，標高1,269ｍ。頂上付近は平坦(へいたん)な草原で，北に大山(だいせん)・島根半島，南に吉備(きび)高原の雄大な展望をもち訪れるハイカーが多い。また西麓(せいろく)の芸備線道後山駅付近にかけてスキー場がある。比婆道後帝釈(ひばどうごたいしゃく)国定公園の一部になっている。

とうごろういわし　【藤五郎鰯】　硬骨魚類・トウゴロウイワシ科。群集性の強い沿岸性の表層魚で，体長８cmほど。本州中部以南，台湾まで分布する。食用としての価値はないが，カツオつりの餌料(じりょう)や肥料にされる。近似種にムギイワシ・ギンイソイワシなどがある。➔前ページ(写真)

どうさ　【礬水】　水にミョウバンと膠(にかわ)をといた液。絵(東洋画)を描くときに，墨や顔料がにじまぬように紙や絹の上に塗る。これを〈礬水を引く〉という。水に膠をとき，ミョウバンを加えてつくるが，その割合は季節や顔料のぐあいによって随時変えられる。

とうざいぼうえき　【東西貿易】　一般的には東側の社会主義体制諸国(共産圏)と西側の資本主義体制諸国(自由圏)との間の貿易取引をいう。具体的には，ソ連，東欧の東ドイツ・ハンガリー・チェコスロバキア・ルーマニア・ポーランド・ブルガリア・アルバニア，アジアの中華人民共和国・朝鮮民主主義人民共和国・ベトナム民主共和国・モンゴルなどの社会主義圏とその他の国々の貿易取引である。第２次世界大戦後，社会主義世界経済の成立によって始まり，初期には東西対立を背景に，西側がココム・チンコムなどで東西貿易を規制・制限してきたが，1950年代後半から冷戦の緩和，平和共存，中ソ論争，コメコンの停滞などによって，取引が急速に拡大した。1967〜1968年における伸び悩みを例外として，東西貿易はほぼ10％をこえ，1970年には東側から西側への輸出は121億8,000万ドル，西側から東側への輸出は112億5,000万ドル，合計234億3,000万ドルとなり，世界全体の輸出額の7.5％を占めるようになった。東西貿易の地域別・商品別構成をみると，先進資本主義諸国とソ連・東欧諸国間では約６割，それに中華人民共和国を加えると７割に達する。したがって残りの３割が，社会主義諸国と発展途上諸国との貿易である。国別では，ソ連が東西貿易全体の約37％，東欧諸国が約49％，中華人民共和国が13％を占める。商品構造では，東側から西側へは原燃料・農畜産品など，西側から東側へは化学品・機械機器・原料製品などといった輸出パターンとなるが，東側では工業製品の輸出増大を図っている。

東西貿易の東西の全貿易に占める比重は，西側では４〜５％，東側では４割近くになり,東側のたちおくれがみられる。そのため東側は，今後，西側からノウ-ハウ(技術輸出),技術集約的機械設備などの大量輸入を図る必要があると思われる。東西関係が1970年代にはいって，独ソ武力不行使条約の締結(1970年８月)，ニクソンアメリカ合衆国大統領の訪中と訪ソの決定，中華人民共和国の国連加盟(1971年10月)などと大きく変化するに伴って，平和共存がいっそう進展し，東西貿易もより活発化し経済交流も拡大して，各種の経済協力と西側から東側に対しての長期信用供与などが増大されつつある。　〔深海博明〕

とうさきゅうすう　【等差級数】　数列$\{a_n\}$において，となりあう２項の間に，$a_{n+1}=a_n+d$($n=1,2,3,\cdots\cdots$)がなりたつとき，この数列を等差数列といい，dをその公差という。たとえば，数列１，４，７，10，……は，初項１，公差３の等差数列である。等差数列の第n項a_nは初項a_1と公差dを用いて，$a_n=a_1+(n-1)d$と表わされる。

等差数列$\{a_n\}$の各項を順次加えたもの，すなわち，$a_1+a_2+\cdots\cdots+a_n+\cdots\cdots$を等差級数または算術級数という。初項$a_1$，公差$d$，項数$n$の等差級数の和$S_n$は，次のように表わされる(➔級数)。

$$S_n=a_1+a_2+\cdots\cdots+a_n$$
$$=\frac{1}{2}(a_1+a_n)n$$
$$=\frac{1}{2}\{2a_1+(n-1)d\}n$$

〔菊池兵一〕

とうさくるい　【頭索類】　原索動物・頭索綱。無頭類ともいい，ホヤなどの尾索類に対して，ナメクジウオの類をいう。現生の無脊椎(むせきつい)動物の中では最も高等で，魚類に近いものとして有名である。外観は魚類に似ており，背びれ・腹びれ・尾びれなどをもち，体は半透明で５cm程度。背側には体の全長にわたる脊索をもち，その両側に体側に沿って，〈＜〉の字形の筋節とよばれる64対の筋肉が並ぶ。口のまわりには多くのひげがあり，咽頭(いんとう)は大きく，最大200に達する多くの鰓裂(さいれつ)がある。神経系は魚類と比べて著しく劣り，脳をもたず外形も頭部が区別されない。日本では１種のみが知られ，瀬戸内海，熊本県天草付近の浅海のきれいな砂地に生息している。進化学上多くの注目を集め，多少の保護もなされてきたが，生息適地の砂の採取や埋め立て，海水の汚染などによって，近年はまれにしか見られない。　〔向井　宏〕

とうさぐんとう　【東沙群島】　トンシャー群島　中国，広東(カントン)省に属するサンゴ礁群島。南シナ海北部にあり，気象観測所・燈台・レーダー施設などがあり，航海・軍事上の要地となっている。

どうさけんきゅう　【動作研究】　作業動作を分析・検討し，最も効率的な標準動作を求める研究をいう。無理やむだがなく疲労の少ない作業方法を標準動作とし，それに基づき標準作業時間を算出する。1912年ギルブレス夫妻が微細動作研究を発表して，作業動作の基本単位サーブリッグを案出した。ギルブレスはのちにテーラーに協力して，科学的管理法の樹立に貢献した。動作研究はその後バーンズらの研究を経て今日の方法工学となり，インダストリアル-エンジニアリングの母体となっている。

どうざし　【胴差し】　２階以上の木造外周軸組みにあって，上階の管柱・間柱の根もとならびに梁(はり)を受け，下階の管柱・間柱の頭をつなぐため，通柱間に掛け渡された横架材をいう。荷重の大小，支持間隔によって断面が決まるが，最小のもので柱と同寸である。

どうさつがくしゅう　【洞察学習】　機械的な結合説である試行錯誤学習に対立してケーラーの主張した学習の一形態。彼はヒトニザルの行動の観察から高等精神過程をもつ高等動物の場合，問題解決にあたって偶然にその解決が得られるのではなく，〈洞察(見通し)〉によって問題が急激に解決さ

れる場合があることを主張し，洞察(見通し)学習と名づけた。見通しがついた時点において，そのまえとあとでは学習進行の状況はまったく異なったものとなり，再体制化が行なわれるという。➔学習

どうさでんりゅう【動作電流】⇨活動電流

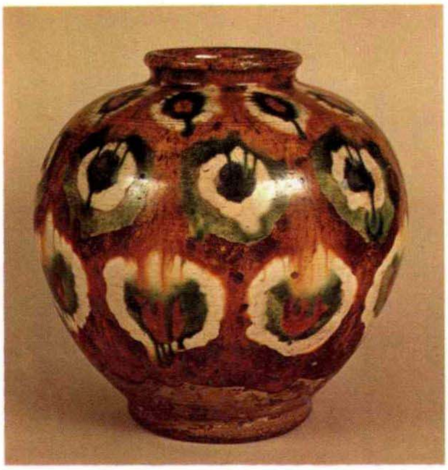
とうざよきん【当座預金】商店や法人が日常の資金出納を銀行に委任するための預金で，出納預金ともいわれ，引き出しには必ず小切手を使用する特殊な要求払い預金。銀行との間に当座勘定取引契約を結び，これに基づいて銀行が小切手支払い資金の受け払いを処理する。他の預金に比べて，出し入れがひんぱんで事務的に繁雑なうえ，随時引き出しを可能とするため多額の支払い準備金を必要とする。したがって，わが国では原則として無利息になっているが，アメリカでは一定の手数料を徴収したり，イギリスでは一定残高のすえ置きの要求をしたりして異なる。〔池内得二〕

とうざん【唐桟】唐桟留(とうさんとめ)の略。木綿縞(もめんじま)の一種で，桟留縞あるいは奥縞(奥島)ともいわれた。江戸時代，オランダや中国の貿易船によって舶載された木綿縞織物は，遠い島からもたらされたという意味で奥島と総称されたが，一方では，インド東部コロマンデル海岸の港サン－トマスの名から桟留ともよばれた。さらに，紺地に赤縞のものを黒手，浅黄縞を青手などといい，また牛蒡(ごぼう)縞・胡麻柄(ごまがら)などと種々の名称もつけられた。江戸時代中期以後，主として町人階級のふだん着や襲(かさね)・羽織・袴(はかま)・袋物などに愛好され，国産品も各地でつくられるようになった。そのうち，川越周辺でつくられたものは特に有名で，一般には川越唐桟(川唐)とよばれてきた。

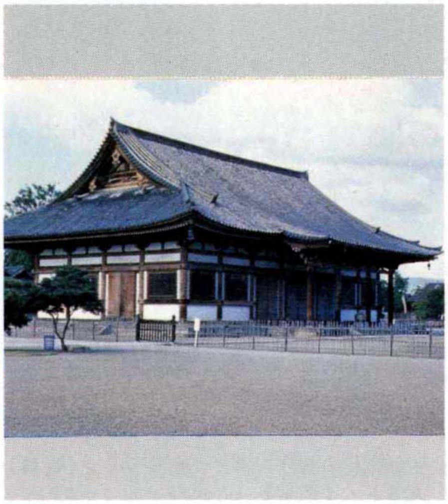
とうざん【唐山】タンシャン　中国，河北省東部の都市。人口約80万。京山鉄道(北京(ペキン)～山海関)に沿い，開灤(かいらん)炭田の中心地。製鉄・製鋼・電力・化学・紡績などの工業が行なわれる。

どうさん【動産】不動産*以外の物をいう。ただし，無記名債権，土地に付着する定着物でない物(たとえば仮植えの木など)，未分離の果実なども動産とみなされる。これとは反対に，船舶・自動車・農業用動産などはそれぞれ特別法によって不動産と同様に取り扱われる場合がある。動産の特質は不動産に比較して，空間的移動が容易であり，占有*によるほかその物の上に成立する権利の公示ができないこと，ひんぱんに取引の対象となること，一般的に経済的価値が小さいことなどである。動産はまた，引き渡すことで物権変動の対抗要件となり(民法178条)，かつその引き渡しに公信力が認められているため，即時取得の対象となる(民法192条)。〔黒木三郎〕

とうさんさい【唐三彩】中国，唐代の



唐　三　彩《三彩万年壺》東京国立博物館蔵



東　寺　食堂

軟質陶器で，緑・褐(かっ)・黄・白・藍(あい)などの低火度鉛釉(えんゆう)でいろどられている。この釉法は漢代の鉛釉の系譜を受けているが，銅・鉄・コバルトを呈色剤に使用して色釉をつくり，諸種の釉(うわぐすり)をかけ混ぜ，そのうえ全体に透明釉をかけて，いっそう釉薬をぼかして目にあざやかな豊麗な装飾法を生み出した。最近，その先蹤(せんしょう)は，すでに六朝(りくちょう)代末期にまでさかのぼることが判明したが，8世紀前半の盛唐代に全盛し，中国陶磁史上に異彩を放っている。唐三彩はわが国の奈良三彩，渤海(ぼっかい)の三彩，遼(りょう)・宋(そう)の三彩などに影響を与えている。〔矢部良明〕

どうさんそうごうほけん【動産総合保険】すべての偶然な事故により，所在不特定の個人用動産・企業用動産について生じた損害を塡補(てんぽ)する保険。この保険では，火災・落雷，破裂または爆発，地震・風水害・盗難，航空機の墜落または接触，航空機からの物体の落下，車両の衝突または接触，騒擾(そうじょう)または労働争議，輸送用具の脱線や転覆・座礁，煙害，建物または橋梁(きょうりょう)の崩壊，漏損・鉤損(こうそん)，雨または淡水ぬれ，雪害または雹害(ひょうがい)などによる損害が塡補される。わが国における損害保険*の一種として特色がある。〔庭田範秋〕

とうさんどう【東山道】五畿(ごき)七道*の一。〈やまのみち〉と読む。近江(おうみ)(滋賀県)，美濃(みの)・飛驒(ひだ)(以上岐阜県)，信濃(しなの)(長野県)，上野(こうずけ)(群馬県)，武蔵(むさし)(のち東海道*。東京都・埼玉県・神奈川県)，下野(しもつけ)(栃木県)，陸奥(むつ)(福島・宮城・岩手・青森県)，出羽(でわ)(山形・秋田県)の8か国がこれに属する。なお，陸奥を磐城(いわき)・岩代(いわしろ)・陸前・陸中・陸奥とし，出羽を羽前・羽後に分けたのは1868年(明治1)のことである。

とうざんりょうかい【洞山良价】(807～869) 中国，唐代の禅僧。中国曹洞宗(そうとうしゅう)の祖。筠州(きんしゅう)会稽(かいけい)の人。21歳のとき嵩山(すうざん)で具足戒を受け，南泉普願・潙山霊祐(いさんれいゆう)のもとで学んだ。のち霊祐の指示によって雲巌曇晟(うんがんどんじょう)の門に参じて大悟し，その法を継いだ。その後，新豊山に住し，次に筠州洞山の普利院に移って教化活動に専念し，学徒は数百人に及んだという。勅謚号(ちょくしごう)は悟本禅師。著書に《宝鏡三昧(ざんまい)》《玄中銘》《新豊吟》がある。洞山五位の唱導者としても有名である。〔岡部和雄〕

とうし【唐紙】中国の揮毫(きごう)用の紙で，色は薄茶色で，柔らかい。画仙(がせん)紙*より少し小形で，画仙紙のようににじまない。薄くてなめらかなものを二番唐紙，白いのを白唐紙といい，わが国で模造したのを和唐紙という。

とうし【投資】一般には，債券の購入のような金融的投資をさす場合もあるが，経済学的にはある時点において社会に存在する住宅・工場などのすべての建物，機械などの諸設備，さらに原材料および在庫品の一定期間における増加分をいう。社会は一定期間の生産活動を通じてこれら設備のある部分を消耗し，原材料を消費し，製品の在庫を販売すると同時に新しい設備を増設し，在庫品をふやす。この一定期間のはじめに存在した資本ストックと期末の資本ストックを比べたときの増加分が投資である。建物や機械などの諸設備は毎期の生産活動を通じその価値が減耗していくが，この減耗額を差し引いた資本ストックの純増加分を純投資とよび，減耗額を差し引かない粗投資と区別する。また所得の増加によってひき起こされる誘発投資*に対して，そのような所得の増加や，所得水準には依存しないものを独立投資*とよぶ。これには技術革新による投資や資本消耗の補塡(ほてん)のための更新投資*，さらに政府投資などが含まれる。またこの政府投資あるいは公共投資*は，いわゆる社会間接資本，すなわち道路・港湾・病院・学校などの資本の増加を意味し，通常の民間投資のように直接生産能力を増大させるものではないが，間接的には

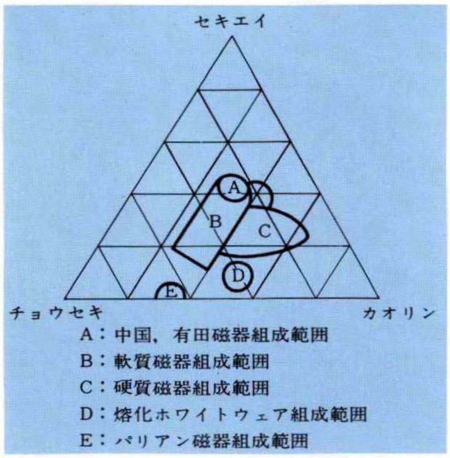
社会の生産効率に貢献するところが大きい。投資にはそのほか，住宅投資・設備投資および在庫投資などがあって，それぞれ景気変動や経済成長に影響を与える。〔富田重夫〕

とうし【透視】 密閉した箱の中の物品や遠隔の地のできごとなど，感覚でとらえることが不可能と思われるものを知覚する働き。必ずしも視覚的イメージを伴う場合だけでなく，聴覚など他の器官を通じて知覚される場合も含む。ただし，未来に関するできごとの認知は予知*とよんで透視とは区別される。超心理学*においては，テレパシー*とともにESP*に総括され研究されている。わが国では1910年(明治43)ごろ，福来友吉によって研究されたのが最初である。
➔ESP〔大谷宗司〕

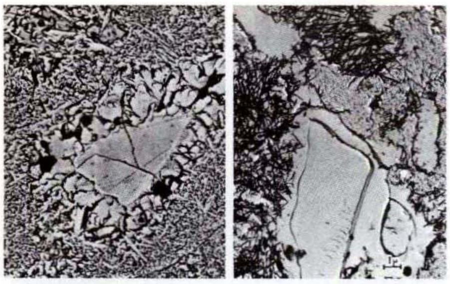
とうし【凍死】 異常低温による全身障害で死亡すること。体温(直腸体温)35℃で全身倦怠(けんたい)・思考力減退・筋肉硬直とけいれんを起こし，30℃で意識朦朧(もうろう)・心搏(しんぱく)不整となり，26℃以下では救命が不可能となる。凍死体は一般に死斑*(しはん)が鮮紅色で，左心室内血液は鮮紅色，右心室内血液は暗赤色を呈し，肺鬱血(うっけつ)・肺水腫(すいしゅ)などがみられる。疲労・衰弱・飲酒などでは凍死しやすい。➔凍傷

とうじ【冬至】 二十四気*の一。陽暦の12月22日ごろにあたる。太陽黄経は270°。この日太陽は北半球から最も遠ざかり，1年のうちで昼が最も短い。古来，この日に至ってはじめて陽気が生ずるとして，〈一陽来復〉〈一陽の佳節〉などともいう。世界の諸民族にも冬至を太陽の誕生日とする考えが行なわれ，クリスマスの起源も陽気回復を祝った風習にあるといわれる。この日，かゆやカボチャなど特定のものを食べ，またゆず湯にはいるなどのならわしがある。

とうじ【東寺】 京都市南区九条町にある真言宗東寺派の総本山。正しくは教王護国寺という。794年(延暦13)平安遷都の直後，羅城門(らじょうもん)の東西に西寺とともに建てられたが，823年(弘仁14)朝廷は空海にこの寺を下賜し，空海は真言宗の根本道場として造営に着手，名も教王護国寺と改めた。鎌倉時代，西院不動堂の北面に御影堂(みえいどう)を建て，空海の木像を安置してからは，従来の修法研学の道場のほかに信仰帰依の霊場としても一般にあがめられるようになった。創建当時の伽藍(がらん)は失われていまはないが，美術品は数多く，密教美術の宝庫といわれている。大師堂(国宝)1380年(天授6・康暦2)の再建，同堂安置の《木造不動明王坐像(ざぞう)》(国宝)は空海在世時の霊像である。全国一の高さを誇る五重塔(国宝)は江戸時代，〈修造慶長八季卯癸五月如意珠日〉の記のある金堂(国宝)は桃山時代の再建，講堂安置の中尊を除いた《木造五大菩薩(ぼさつ)坐像》《木造五大明王像》《木造四天王立像》(いずれも国宝)など



陶磁器 磁器の組成範囲



陶磁器
(左)亀裂のはいった磁器中のセキエイ。一部はクリストバライトに変わる (右)チョウセキ粒の形を残しているムライトの針状結晶(電子顕微鏡写真)

は平安初期の制作である。➔前ページ(写真)

どうし【動詞】 品詞の一種。形容詞・形容動詞とともに用言に含められる。活用のある自立語で，単独で述語になりうる。言い切りの形(終止形)が〈u〉の音で終わる。意味のうえでは，おもに動作・作用を表わすが，〈ある〉〈聞こえる〉のように，存在や状態を表わすものもある。

口語動詞の活用の種類には，五段活用(五十音図の五つの段にわたって変化するもの。〈書く〉〈読む〉〈飛ぶ〉〈取る〉など)，上一段活用(五十音図のウ段を中心に考えて，それより上の一段だけに働くもの。〈着る〉〈見る〉〈用いる〉〈起きる〉など)，下一段活用(ウ段より下の一段だけに働くもの。〈出る〉〈与える〉〈続ける〉〈捨てる〉など)，カ行変格活用(カ変。〈来る〉1語)，サ行変格活用(サ変。〈する〉〈勉強する〉〈安心する〉〈察する〉など)が区別される。文語動詞には，このほかに，上二段活用・下二段活用・ナ行変格活用(ナ変)・ラ行変格活用(ラ変)がある。なお，口語の五段活用は，文語では，四段活用となる。

動詞を，意味用法のうえから，自動詞と他動詞とに分ける場合がある。自動詞は，動詞の表わす働きがそのものだけにとどまるもの(〈けしきが見える〉〈風が吹く〉〈戸が開く〉〈車が動く〉など)，他動詞は，その働きが他に及ぶもの(〈けしきを見る〉〈火を吹く〉〈戸を開く〉〈車を動かす〉など)をいう。また，〈……することができる〉という意味を表わす動詞を，可能動詞とよぶことがある(〈書ける〉〈読める〉〈飛べる〉〈取れる〉など)。可能動詞は，五段活用の動詞から転じたもので，下一段活用であるが，命令形はない。なお，他の語について，補助的な意味を添える動詞を，補助動詞ということがある。補助動詞は補助用言に含められる。
➔用言〔市川　孝〕

とうしき【等式】 数・文字またはそれらからつくられる式を等号で結んだもの。等式は等号の両辺にあるものが等しいことを示しており，次の三つの基本性質をもっている。

① 反射性：$a=a$
② 対称性：$a=b$ ならば $b=a$
③ 推移性：$a=b$ かつ $b=c$ ならば $a=c$

したがって，これらの性質をもつ場合に等式を使うのが正当であるが，次のように便宜的な記法として等式を使うこともある。

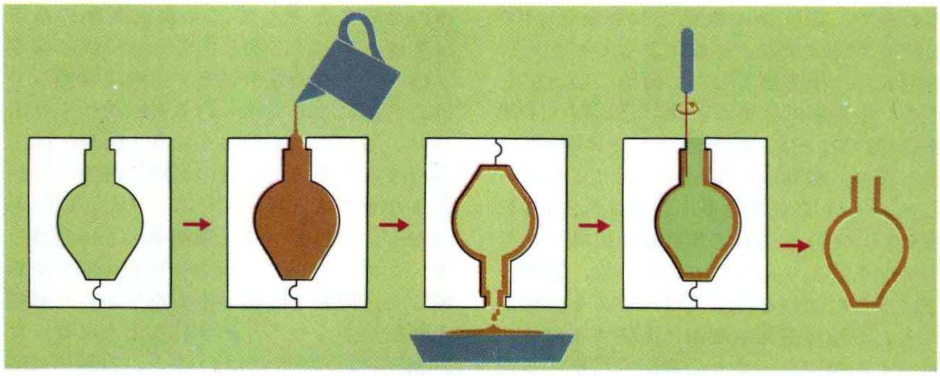
① 計算の結果を示す場合
　(例)　$14\div4=3\cdots2$
② 定数の値を約束する場合
　(例)　$\pi=3.14,\ \log2=0.3010$
③ 変数のとる値を示す場合
　(例)　$x=3$ のとき $x^2=9$

変数を含む等式には，$(a+b)(a-b)=a^2-b^2$ のように，変数がどんな値をとってもつねになりたつ恒等式と，$2x-3=0$ のように，変数がある特定の値をとったときだけなりたつ方程式とがある。〔菊池兵一〕

とうじき【陶磁器】 無機物質の粉末を原料とし，所望の形態に成形して高温で焼成して硬化させたもの。食器・装飾品などのほか，タイル・かわら・衛生陶器などの建築用品，碍子(がいし)・絶縁物・フェライト磁性体などの電気用品，管・容器・化学装置部品などの化学用品，工業用陶磁器などを含む。ただし，高温での使用を目的とする耐火物は別に扱うのが慣習である。

〔分類〕 わが国で一般に用いられる分類を表に示す。磁器は，粘土・セキエイ・チョウ石などの配合素地を1,300〜1,450℃付近の高温で焼き締めたもので，緻密(ちみつ)質で透光性がある。陶器は，粘土質原料にセキエイ・陶石などを1,200〜1,300℃で焼き締め，これにフリット釉(ゆう)を施したもので，多孔質。炻器(せっき)は，低級粘土・壌土(じょうど)質粘土などを主成分とする素地を1,200〜1,300℃で焼成したもので，緻密質であるが透光性はない。土器は，素地を700〜800℃で焼成した粘土質のもので，無釉。特殊陶磁器は，最近の学問的・工業的諸分野の発展に伴う要求につれて急速に成長したもので，その組成・微構造・特質は今後の重要な研究課題である。

〔組成・構造〕 特殊な場合を除いて，一般には陶磁器の組成は広範囲に及び，その結



陶　磁　器　泥漿鋳込み成形　泥漿をセッコウの型に満たして放置すると，セッコウに水がしみこみ表面に泥漿の固形成分が付着する。残りの泥漿を流し去り型をはずす

晶構造も多岐にわたる。鉱物顕微鏡や電子顕微鏡で調べてみると，陶磁器は大小の結晶が集まり，その間にガラス質や空孔が存在することがわかる。これを陶磁器の微構造という。微構造は焼成工程中に原料が互いに反応することによって決定されるので，同一原料を用いても焼成の温度・時間によって変化し，陶磁器の性質にも差異が生じる。図は古くからの磁器の組成範囲の一例であるが，これらの微構造は結晶としてムライト・セキエイ，ときにクリストバライトであり，ガラス質の組成は一定しない。磁器が透光性をもつのはこの結晶とガラス質の屈折率に大きな差がないためであり，緻密質なのは空孔がほとんどなく，あっても不連続なためである。土器や陶器では結晶の種類はさらに多く，空孔が多量に存在する多孔質素地となる。また，特定の性質を重視する特殊陶磁器では，微構造の考察はいっそう重要である。

【製造工程】〈原料〉粘土類などの可塑性原料，セキエイ(ケイ石)・ロウ石などの非可塑性原料，チョウ石・陶石・キヌウンモなどの媒溶原料がある。粘土は古くからの重要な原料で，少量の水と練り合わせて可塑性を与え，成形に役だたせる。これらは天然に産出するものに水簸(すいひ)・風簸などの処理を施し，微細な粒度のものだけを集め，同時に混在する不純物を除いて使用する。わが国ではおもに蛙目(がいろめ)粘土・木節粘土・カオリンが用いられる。セキエイ・ロウ石などは粘土の調節，高温での磁器化などの役割を果たす。陶石はおもにキヌウンモ・ケイ石が混ざった岩石で，高温でガラス層を生成し，比較的低温での素地の磁器化を助長する。またこれを微粉砕したものは水を加えると可塑性を示す。単味焼成して磁器化するためわが国では重要な原料である。これらの諸原料は粒度を調整して混合し，適当量の水を加えて練り，流動性ある粉体，すなわち泥漿(でいしょう)として成形する。なお，工業用特殊陶磁器原料としてはアルミナ・酸化チタン・酸化鉄・マグネシア(マグネサイト・海水マグネシア)なども用いられる。〈成形〉歴史的に最も古い成形方式は原料調合物(坏土(はいど))を手でこねて成形する手法で，手づくねとよばれ，薄肉の器物をつくりにくく，生産性も低いため現在では趣味的に用いられる程度である。現在のおもな方法には手轆轤(てろくろ)成形・機械轆轤成形・押し出し成形・射出成形・加圧成形・泥漿鋳込み成形などがある。図に泥漿鋳込み成形の例を示す。〈乾燥〉成形した生素地を乾燥させる工程。この際水分の減少とともに10%前後の乾燥収縮を起こす。乾燥は自然乾燥が望ましいが，時間や天候の関係もあるため工場生産の場合は人工的に行なう。〈釉がけ〉釉は焼成に際して素地の上に薄いガラス層を形成するもので，一般には透明であるが，乳濁釉・着色釉もある。これらは，特殊な場合を除いてひび割れやはがれを防ぐために，熱膨張率が素地とほぼ等しく，溶融点が素地の焼成温度より低いことが必要である。簡単なものには灰釉や，焼成の際の火床に食塩を投入して，それが揮発して素地表面とガラス層をつくる食塩釉などがあるが，一般にはガラス質フリットと生原料の混合物を懸濁液としたものが用いられ，ほとんどの場合少量のアルミナを含む。これには鉛釉(熟成温度770℃)，フリット釉(975℃，おもに陶器用)，ブリスタル釉(1,190℃，建築用品など)，磁器釉(1,260℃・1,465℃)などがある。釉がけの主たる目的は素地表面に光沢を与える装飾的な意味合いと，表面を平滑にしてよごれを防ぎ，同時に水や化学薬品に対する抵抗性を増大させる実用的目的がある。おもな施釉方法には浸しがけ・流しがけ・吹きがけ・塗りがけなどがある。〈焼成〉きわめて重要な段階で，製品の種類・形状，窯の構造などによって差異はあるが，以下のように大別できる。①素焼き：素地を必要な強さに焼くのがおもな目的で，850～950℃前後で焼成する。素地は多孔質で，ガラス質はほとんど生成していない。②締め焼き：陶器の素地を焼き締める方法の一種で，1,200℃前後で行なう。③釉焼き：締め焼きしたものに施釉して構成するもので，素地に釉をとかすのがおもな目的であり，比較的低温で行なう。④本焼き：磁器の釉焼き

陶磁器の分類

- 陶磁器
  - 磁　器
    - 硬質磁器
      - 高火度磁器(焼成温度1,350℃以下)……高級食卓用品・装飾用品・化学工業用品・電気用品・理化学用品など
      - 低火度磁器(焼成温度1,350℃以下)……一般食器類・電気用磁器・化学工業用品・建築用品など
    - 軟質磁器
      - 骨灰磁器(ボーンチャイナ)／フリット磁器……美術工芸品・食器類など
      - チョウ石質軟質磁器……陶歯
  - 半溶化陶器……衛生陶器など
  - 陶　器
    - 精陶器
      - チョウ石および粘土質陶器……食器類・建築用品(内装用壁など)
      - 石灰および白雲陶器……美術工芸品
    - 粗陶器……茶器・台所用品など
  - 炻　器
    - 普通炻器……火ばち・茶器・台所用品など
    - 化学工業用炻器……耐酸陶びん・パルプ用耐熱耐酸れんが・反応管・電解槽など
    - 土建用炻器……排水管・外装タイル・舗道れんが・テラコッタなど
  - 土　器……屋根がわら(黒がわら)・電解用素焼き隔膜・植木ばちなど
  - 特殊陶磁器
    - 酸化物系磁器
      - 半融アルミナ磁器……理化学用品・切削工具など
      - 半融マグネシア磁器・半融スピネル磁器など……理化学用品(耐熱・耐酸)・電子機器用材料・原子炉用材料など
    - 高アルミナおよびムライト磁器……理化学用品(耐熱・耐酸用)など
    - ジルコン磁器……耐熱理化学用品など
    - リシヤ磁器……耐熱材料・理化学用品など
    - 酸化チタン磁器……誘電材料
    - チタン酸バリウム磁器……強誘電材料など
    - フェライトその他の特殊磁器……特殊電子機器用材料
    - 多孔質陶磁器……電解用隔膜など
    - その他(キンセイ石磁器・セルシャン磁器など)

のことで，素焼きに施釉したものを1,400℃前後で焼成する。これによってガラス質が生成し，緻密質となって磁器の特質が生じる。焼成窯には不連続窯(単独窯)・半連続窯(登窯など)・連続窯(トンネル窯)などがあるが，熱効率・製品均一化などの点からトンネル窯が最も多く利用される。《彩飾》透明な釉を通して素地表面に施した彩色が見えるようにしたものを下絵，彩層の面にさらに顔料を焼き付けたものを上絵という。下絵は直接素地面に彩飾するため，使用する顔料も本焼きの高温度に耐える安定したものに限定される。上絵焼きは低火度で焼き付けるため，色彩の種類も多く，あざやかな色調も可能である。水金は，焼き付けによって金属薄膜層を釉層の上に生成させる方法である。また素地の表面の欠陥や粗面を隠すために，生素地の上に粘土を主成分とする濃い泥漿(化粧土・エンゴーベ)をかける化粧がけという方法もある。

〔川久保正一郎〕

粘土あるいは石の粉末を成形し，火力を加えて水分を除き，堅牢(けんろう)性の増した器物をさし，焼き物ともいう。一般に，用いる粘土の硬軟，釉薬の有無，火度の高低などによって，便宜的に土器・炻器・陶器・磁器に大別され，分類されているようである。広義には，陶磁器とはこれらを総括する焼き物全般をさし，狭義には土器を除いた炻器・陶器・磁器を略称する。

最も始原的な土器は，釉薬を施さず，加熱することはあっても火度が低く，成分のガラス化が進まないもので，他の三つとは化学的な組成が異なるために，このように区別されて取り扱われている。しかし，中国では，すでに土器の段階で，窯を構築して高火度の焼成を試みていた。ここに，中国を核として東南アジア・朝鮮・日本を含めた東洋陶器のすぐれた歴史の展開が基礎づけられていたともいえる。

中国ではじめて土器がつくられたのは，新石器時代の末期とされている。1923年，スウェーデンの地質学者J. G. アンダーソンは仰韶(ぎょうしょう)遺跡*で，赤や黒で文様を描いたいわゆる彩文土器(彩陶)を発見した。この時代には轆轤はないが，窯はあった。彩陶の窯は華北の陝西(せんせい)・山西・河南省などに発見されており，そのうち最も古いといわれる陝西省西安市の東郊，半坡(はんぱ)の遺跡はBC 3000年ごろに成ったと推定される。当時すでに窯があったことは，釉薬のかかった炻器へと歩を進める基盤がつくられたことを物語る。

すなわち，窯中の温度が1,200℃をこえてかたく焼き締まった土器がつくられるようになると，中には自然釉といって焼成中の灰が偶然に振りかかり，素地ととけあって釉薬となった。これに着目して人為的に灰質の釉薬をかけた灰釉陶が殷(いん)代に焼かれるようになり，いよいよ施釉陶器のあけぼのを迎えた。そして，この高火度釉の系譜は連綿と続き，三国・東晋(とうしん)代になると揚子江下流の越の地方で急激に成熟して，世に古越磁の名で知られる青磁をつくり出した。もちろん製釉のくふう・改良には，築窯技術の進歩や良質の素地の選択などが大きなささえとなっている。また，造形の面でも，それまでは青銅器をおもに模倣していたのに対して，焼き物独自の器形を創案して，流麗な轆轤の技術を生かした形姿の製品が多くつくり出されるようになった。六朝(りくちょう)時代にはいると，古越磁は薄い灰色や沈んだ青色の釉(うわぐすり)から淡い青緑色のいわゆるオリーブ色を呈した本格的な青磁へと進み，また釉中に鉄分を含ませて黒褐色(こくかっしょく)に呈色した天目釉や，釉中の鉄分を極力減じて透明性を増した白釉も生まれて，のちに黒磁や白磁へと成長する。

一方，灰釉とともに，東洋陶磁の基本的な釉技に鉛釉がある。鉛は溶解力が非常に強く，700～800℃の低い温度でケイ酸と化合してつやのあるなめらかな釉をつくる。さらに，少量の金属を呈色剤として添加すると，それぞれ独自のあざやかな発色を表わす。とりわけ銅分を加えた緑釉，鉄分を加えた褐釉は代表的な釉法である。従来，鉛釉は西アジアに学んだものとみられていたが，近年春秋戦国時代の遺例が発見されたので，中国で独創されたものと考えられるようになった。火度が低く，製作の容易な鉛釉陶器は漢代に大いに生産され，多く明器*に利用された。この釉法は一時期は衰えるが，六朝から隋(ずい)にかけて再び復活し，盛唐の代には緑・褐・白・黄・藍(あい)などの色釉をかけ合わせて，目にもあざやかな唐三彩*を生んだ。これは鉛釉の簡便な性質を縦横に利用して，それまでにない豊麗な装飾性にまで高めたもので，現在では唐代貴族文化の象徴的な存在として知られている。

隋から唐にかけての白磁*や青磁*の進歩は著しい。《茶経》を著わした陸羽*も，諸窯の製品を茶器の観点から品評して越磁を青磁，刑磁を白磁の代表と目している。このころからしだいに各地に窯が築かれ，一般の需要と呼応して五代・宋(そう)代の陶磁器の黄金時代を迎えた。北宋の定窯*の白磁や南宋の龍泉窯*(りゅうせんよう)の青磁器は，いずれも長い釉薬の流れの極点にあるものと評され，黒釉も完成された美しさをもつまでに高められた。たとえば，建窯*の曜変天目茶碗(ちゃわん)は黒釉のかもし出す神品として世に知られている。このほか官窯*・磁州窯*・均窯*(きんよう)・景徳鎮窯*・吉州窯*などの名窯は枚挙にいとまがない。

元代にはいると，中国陶磁史には根本的な変動がみられる。それまで青白磁窯として成長した景徳鎮窯に青花(白磁の釉下にコバルト顔料で絵付した磁器。わが国では染付(そめつけ)という)の技法が起こり，たちまち完成の域に達して，それまで釉薬・造形へ注がれた創作意欲が文様装飾へと移行し，さらに五彩の手法も加わって，白磁の素地を加飾する傾向を深めた。しかも，それに，明(みん)・清(しん)代の朝廷の陶磁への関心がいっそう拍車をかけ，絵付磁器の最盛期を迎えた。そして，景徳鎮窯の消長がそのまま陶磁界の浮沈につながるまでになった。

中国陶磁が他の諸国の窯芸に与えた最初の例は灰釉陶であり，漢代に安南に伝えられたという。朝鮮の新羅(しらぎ)焼や，その系統の日本の須恵器(すえき)も焼き締めの灰陶の流れを受けたものであり，鉛釉では唐三彩の影響のもとに朝鮮に緑黄釉陶が，日本に奈良三彩*が生まれ，宋代の青磁の盛行はタイに宋胡録*(すんころく)，安南に青磁，朝鮮に高麗(こうらい)青磁をもたらした。元代に始まる染付磁は，ほぼ同時に安南でも模倣され，やや遅れて朝鮮でもおもに広州窯で焼かれ，わが国には江戸時代初頭に朝鮮からの帰化陶工によって製法が伝えられ，まもなく中国明代末期の五彩磁の手法を受け入れて赤絵磁器の焼造をはじめた。ややさかのぼる室町～桃山時代に中国南方の俗に交趾(こうち)(→交趾焼)とよばれる鉛釉陶が伝えられて，楽焼*および色絵京焼*の始原となったと考えられている。

以上のように，世界に冠たる東洋の焼き物は，中国を主体とした間断ない創造にささえられて，相互に結びつき，それぞれの民族の風土と生活の中で独自の作風をもち，相異なる美意識のもとにはぐくまれていった。

13世紀後半に中国を訪れて，その見聞を広くヨーロッパに紹介したマルコ-ポーロは，青磁にポルセラント(海産の貝)の名をつけ，その感嘆の意を表わしているが，これがポールスリン(磁器)の語源になっている。ヨーロッパの人々の磁器に対する関心は深く，17世紀に交易が開かれると膨大な量が運ばれ，シノアズリー(中国趣味)の機運を高め，18世紀前期にようやくドイツのマイセン窯で白磁の焼成に成功した。特に，わが国の有田磁器が大きく影響を及ぼしていることはしばしば説かれるとおりである。

ところで，今日，炻器・陶器・磁器の区別は必ずしも判然としてはいない。たとえば，炻器とはストーン-ウエアーの訳語であるが，欧米では中国古越磁の青磁などは，セラドン(青磁)の類に入れずに炻器として扱っており，わが国では青磁に至る過程の製品も広く青磁として扱っている。このように各国の習慣によって陶磁器の分類および概念の規定は異なるが，いちおう焼き物の色・透明度・音・硬軟・吸水性などの物理的な特性によって類別している。

➔131ページ(写真) 〔矢部良明〕

どうじくケーブル 【同軸ケーブル】 単

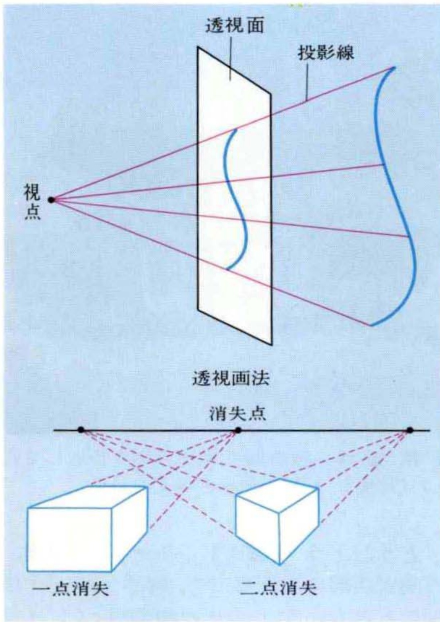
線またはより線の導体を心線とし，これを絶縁物，網状の導体(シールド)，絶縁物(外被)の順におおった電線。このケーブルは高い周波数まで忠実に伝えることができるので，テレビジョンの映像信号の伝送，多重搬送電話の伝送，コンピューターなどにおけるパルス波形の伝送などに用いられている。なお，低周波用のシールド線も同軸構造になっているが，心線とシールドとの間の絶縁物に安価な塩化ビニルなどを使っているので周波数特性が悪い。〔内山明彦〕

とうししつ 【糖脂質】 糖を構成成分としてもつ脂質の総称で，複合脂質の一種。セレブロシド・ガラクトシド・スルホリピド・ムコリピドなどが含まれるが，一般にはセレブロシドをいう。セレブロシドは神経のミエリン鞘(しょう)に多量に含まれていることから，この代謝に異常をきたしている患者では，脳の脂肪酸分布が未熟形をとる。

とうしじま 【答志島】 三重県鳥羽(とば)市に属し，伊勢(いせ)湾口をやくする島。面積7.8km²，人口4,000。山がちで，宮谷山(167 m)を最高とし，耕地は少ない。水産業が盛んで，カタクチイワシをとって煮干しに加工し，真珠・ノリ・ワカメ・ハマチの養殖も行なわれ，海女(あま)がワカメ・アワビ・サザエを採集する。鳥羽港の北方 7 km にあり，市営定期船が通じる。

どうししゃだいがく 【同志社大学】 私立大学。1875年(明治 8)新島襄(にいじまじょう)がアメリカの宣教師デービスの協力により英学校として京都に設立。その後，神学専門部を加え，1912年同志社大学と改め，1918年(大正 7)大学令による大学となった。1948年(昭和23)新制の学校法人として，神・文・法・経・商・工の 6 学部と大学院研究科をもつ大学となった。本部は京都市上京区今出川通烏丸(からすま)東入。

とうししんたく 【投資信託】 証券投資信託の略称。一般投資家の共同出資による基金を証券投資の専門家である基金の管理者が証券中心に安全性・収益性の高い投資を行ない，それによって得た収益を投資家に分配する制度。ただし，投資した元金の保証はない。契約型・会社型の二つがあり，欧米では会社型が有力だが，わが国の投資信託はすべて契約型である。そのしくみは委託者(投信委託会社)が受託者(信託銀行)と信託契約を結び，それに基づき受託者が受益証券を発行，投資家から資金を集める。この資金で信託財産をつくり，証券投資中心に運用する。これは委託者(信託財産の運用者)，受託者(信託財産の管理保管者)，受益者(投資家)の 3 当事者から成立し，以後の運営ないし当事者の権利事務は，すべてこの契約に従う。他方，わが国にない会社型は委託者・受託者・受益者の関係が経営者と株主の関係となるもので，受益証券の代わりに株券を発行する。わが国には株式中心に運用される株式投資信託と債券中心の公社債投資信託がある。また，いまの株式投資信託には，時価で売買され，元金返済の期限のないオープン型と期限 5 年のユニット型とがある。〔日東証券調査部〕



透 視 図

とうしず 【透視図】 視点を決め，遠近法によって物体を描いた図。ある 1 点(視点)と立体の各点とを結びつける放射状の投影線が面画と交わる交点の軌跡によってその立体を表わすもので，われわれの目で立体を見たときの形に最も近い図的表現である。すなわち，視点に近い部分ほど大きく，平行な直線は一点(消失点)で交わるように描かれる。また，表現しようとする立体の重点の置きどころによって，視点の位置を変え，仰視式透視・中心透視・鳥瞰(ちょうかん)式透視などと区別することがある。透視画法は，ルネサンス初期の画家たちによって，絵画に遠近感を出すために発見された。これを積極的に完成させたのはダ・ビンチらである。〔菊池兵一〕

とうじせい 【等時性】 ⇨単振り子

とうしせん 【唐詩選】 中国，唐代の詩の選集。 7 巻。明(みん)の李攀龍(りはんりょう)の編といい，その〈選唐詩序〉を載せるが，実は彼の名を借りて出版屋が編した本らしいという。五言古詩14首，七言古詩32首，五言律詩67首，五言排律40首，七言律詩73首，五言絶句74首，七言絶句165首，合計465首，作者の数は128人。詩の選び方は，杜甫(とほ)51首，李白(りはく)33首，王維31首，岑参(しんしん)28首という数字の示すとおり，8 世紀初めから中ごろまでの盛唐の詩人に重点を置き，白居易や李賀，杜牧らの詩は全然収録していないし，韓愈(かんゆ)や李商隠の詩もわずかしか採録していない。中国では，清(しん)代の乾隆(けんりゅう)年間(1736～1795)までは流行したが，その後は衰えた。日本には江戸初期に伝わり，李攀龍の文学観を重視する荻生徂徠(おぎゅうそらい)らに取り上げられ，服部(はっとり)南郭の手で普及して以来，広く愛好され，現在に至っている。〔今村与志雄〕

どうしつたけい 【同質多形】 2 種以上の鉱物または化合物が，化学組成は同じでも結晶構造が異なること。ダイヤモンドとセキボクの関係はその例。

とうじてん 【冬至点】 黄道上の黄経270°，すなわち赤経18時，赤緯－23° 27′の点。黄道上で赤道面からいちばん南へ離れている点である。現在いて座の中にあるが，歳差のため300年後にはへびつかい座に移動していく。

どうじま 【堂島】 大阪市の北区・福島区にまたがる地区。もとは淀(よど)川支流の堂島川・蜆(しじみ)川にはさまれた中州であったが，いまは北部は陸続きとなっている。貞享(じょうきょう)年間(1684～1687)に堂島新地が開かれて〈遊女の町〉となり，元禄(げんろく)期以来各藩の蔵屋敷が置かれたが，1697年(元禄10)に堂島米市が発足して全国の米市場の中心となった。中之島と並ぶ大阪の経済・文化の中枢部で高層ビルが立ち並び，大阪商工会議所・中央電信局・毎日新聞社・大阪大学付属病院などがある。北隣に大阪駅があり，国道 2 号線・176号線や阪神(はんしん)高速道路が周辺を縦横に走る交通の要地である。〔浅井得一〕

どうじまこめかいしょ 【堂島米会所】 大阪堂島米市の事務監督機関。江戸時代，淀屋辰五郎(よどやたつごろう)(蔵米を委託販売する蔵元のひとり)の淀屋米市が起源。1697年(元禄10)堂島新地に移されて堂島米市として発足し，1730年(享保15)米相場が確立すると，その事務を行なうために，1771年(明和 8)堂島米会所が設立された。運営には米方年行司があたり，問屋・仲買・米方両替などの株仲間を統制した。明治以後は大阪堂島米商会所として存続する。〔岡山泰四〕

どうしもん 【童子問】 伊藤(いとう)仁斎の著書。3 巻。1707年(宝永 4)刊行。彼は四書のうちでも特に《論語》《孟子(もうし)》を尊重したが，それらの本質や評価について，また彼の古学の立場について問答形式で述べたもので，仁斎学の代表的な著書の一つである。

とうしゃ 【投射】 精神分析の用語の一。自分の特質や態度を自分以外の対象の中に見いだす心的機制をいう。ある人を好ましくないと思っている場合，その感情を無意識下に抑圧し，逆にその人が自分をきらっているのだと考えるなどがその例。一般に，他者が自分に期待するものをそのまま自分の欲求・態度とする〈摂取〉と逆の機制で，不安を回避する防衛機制の一つと考えられる。

どうしゃく 【道綽】 (562～645) 中国，隋(ずい)代の僧。中国浄土教五祖の第 2 。山

西省太原の人。《涅槃経(ねはんぎょう)》の学者であったが，曇鸞(どんらん)の住んだ玄中寺で曇鸞の碑文や著書に感銘して浄土教に帰依した。83歳で没するまで《観無量寿経》を100回以上講義し，また社会教化に努め，一般の人が念仏しやすいようにアズキで念仏の数を数える小豆念仏を勧めた。その著作《安楽集》は曇鸞の学系を引き，後世の浄土教に多大の影響を与えた。〔佐藤成順〕

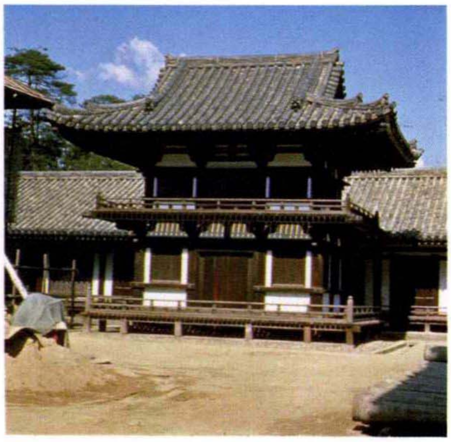
どうしゃくが【道釈画】東洋画の画題の一。仏教および道教関係の人物を信仰礼拝用とは別に描いたもの。羅漢図(らかんず)や寒山拾得・蝦蟇鉄拐(がまてっかい)などがこれに属する。

とうしゅう【東周】⇨周1

とうしゅうさいしゃらく【東洲斎写楽】江戸時代の浮世絵師。生没年不詳。1794年(寛政6)5月の歌舞伎(かぶき)夏狂言に題材をとり，28枚の役者大首絵を発表，彗星(すいせい)のごとく浮世絵界に現われた。以後約10か月に百数十点の作品を版行するほど精力的な働きをみせたが，役者の面貌(めんぼう)をあまりにもあらわに写すことをきらわれて画壇から追われた。美しく理想化して描く従来の絵師と異なってときに醜悪なほど表情や姿態を誇張する大胆な描写が，演劇の関係者や愛好家の不評を買ったのであろう。生没年はもとより出身や姓名も不明なため，その伝記研究は盛んだがいまださしたる進展を見ず，〈なぞの浮世絵師〉として知られている。喜多川歌麿(うたまろ)と同じく版元蔦屋(つたや)重三郎(蔦重)に発掘されて世に出たもので，雲母摺(きらずり)のバックや大首絵の形式も，歌麿の美人画に相通ずるものがある。⇨浮世絵(写真)〔小林 忠〕

とうじょ【唐書】中国，唐王朝に関する歴史書。正史の一。五代の劉昫(りゅうく)撰(せん)の《旧唐書(くとうじょ)》200巻と，宋(そう)の欧陽脩(おうようしゅう)撰の《新唐書》225巻がある。

とうしょう【凍傷】過度の寒冷作用によって血管・組織が障害されて起こる局所的変化をいう。程度により第1度～第3度に区分される。第1度(紅斑(こうはん)性凍傷)：血管が麻痺(まひ)して鬱血(うっけつ)のため局所が赤くはれる。第2度(水泡(すいほう)性凍傷)：組織中に浸出が起こり水泡ができる。第3度(壊疽(えそ)性凍傷)：局所への血流が停滞するため壊疽に陥る。寒冷が全身に作用するときは，知覚が失われて心臓衰弱などで死亡する(→凍死)。高度の異常低温でなくても起こり，特に鼻先・耳介・手足の指先に起こりやすい。人によっては比較的低温と湿潤にいつもさらされていると，局所の皮膚が赤紫色にはれるが，これは霜焼け(凍瘡(とうそう))とよび，凍傷と区別する。治療としては患部を急に暖めることは厳禁で，乾布や手でマッサージをしたり，各種軟膏(なんこう)を塗布する。凍死の予防には，強心剤の投与，アルコールの飲用などがよい。〔青木和彦〕



唐招提寺　鎌倉時代に天竺様を摂取して成った《鼓楼》，経楼の後身と考えられる

とうしょう【騰衝】トンチュン　中国，雲南省西部にある都市で，騰冲(とうちゅう)・騰越などともいう。ビルマ国境に近く，イラワジ川上流の一支流に臨む。滇緬(てんめん)自動車道路が通り，ビルマとの交易の一中心になっている。絹・麝香(じゃこう)などの特産物がある。

とうじょう【塔城】ターチョン　中国，新疆(しんきょう)ウイグル自治区北西端の都市で県政府所在地。旧名タルバガタイ。タルバガタイ山脈の南麓(なんろく)にあり，1851年に開かれて以来，ソ連との軍事・交通・貿易の要地として発展した。物資の交流は羊毛・皮革などを輸出し，雑貨などを輸入する。絨毯(じゅうたん)などの軽工業があり，付近には金山もある。

どうしょう【道昭】(629～700)飛鳥(あすか)時代の僧。道照とも書く。河内(かわち)(大阪府)の人。俗姓は船連(ふねのむらじ)。出家して元興寺(がんごうじ)に入り持戒堅固で有名。勅命によって653年(白雉4)入唐(にっとう)し，玄奘(げんじょう)に師事して法相(ほっそう)唯識の教旨を学び，8年後に帰朝。法相宗を日本にはじめて伝えた。帰朝後元興寺に禅院を建て，諸国を巡り井戸を掘り，橋をかけ，渡しには船を設けた。のちに大僧都に任ぜられた。遺命によって遺体を火葬したが，これが火葬の最初といわれる。〔佐藤成順〕

とうじょうぎもん【東条義門】(1786～1843)江戸後期の国語学者。若狭(わかさ)(福井県)小浜の妙玄寺の住職。本居宣長(もとおりのりなが)の学説を受け，国語の用語の活用の体系を確立した功績が大きい。また，活用の有無によって体言・用言の別を立て，品詞の分類を試みた。他方漢字音語尾のム(m韻尾)・ン(n韻尾)の区別を明らかにしたことは，本居宣長の研究の不備を正したものである。著書《山口栞(やまぐちのしおり)》など。

とうしょうぐう【東照宮】⇨久能山東照宮　⇨日光東照宮

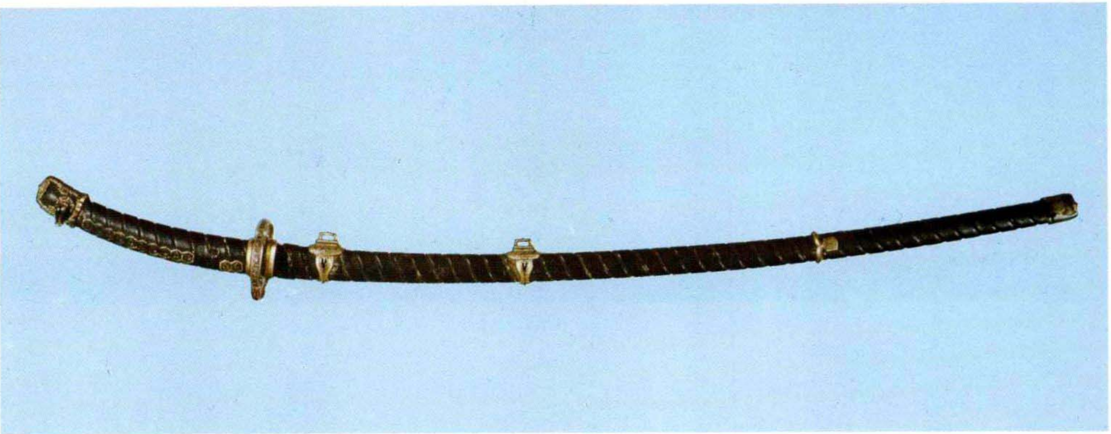
どうじょうじ【道成寺】和歌山県日高郡川辺町にある寺。現在は天台宗。大宝年間(701～703)文武天皇の勅願によって創建されたといわれる。この寺の縁起となっている有名な道成寺伝説(安珍・清姫伝説)は，まなごの荘司(しょうじ)(荘園の現地にあって荘務を総括する長)の娘に愛された山伏が，日高川を越えて道成寺に逃げ込んで鐘の中に隠れるが，娘は毒蛇(どくじゃ)となって川を渡り，鐘を巻いて尾でたたくと，鐘はとけて山伏は死ぬというもの。男女の名はいろいろによばれたが，のち安珍・清姫とよばれるようになった。〔杉坂靖子〕

どうじょうじ【道成寺】能の曲名。観世信光(のぶみつ)作の《鐘巻(かねまき)》を簡略化した曲。四番目物。道成寺の鐘を再建するにあたって供養が行なわれ，その供養の場所に女性を入れることを住職が禁じた。ところがひとりの白拍子が現われて，寺の能力(雑役や力仕事をする僧)たちに頼んで供養の場にはいりこみ，乱拍子を舞い，さらに急之舞を舞って，僧の目の届かぬひまに鐘の中へ飛び込んで鐘を引き落とす。住職は能力からこのことを聞いて，昔の荘司の娘の話をし，鐘に向かって祈ると，白拍子は蛇(じゃ)に化して現われ，住職らに祈り伏せられて日高川の深みへと逃げ去る。シテは白拍子と蛇，ワキは住職。ほかにワキツレ2人が寺の僧を，狂言方2人が能力をつとめる。大きな鐘の作り物が出て，これを落とす後見は大役である。歌舞伎(かぶき)舞踊に大きな影響を与え，一連の道成寺物がつくられた。〔長尾一雄〕

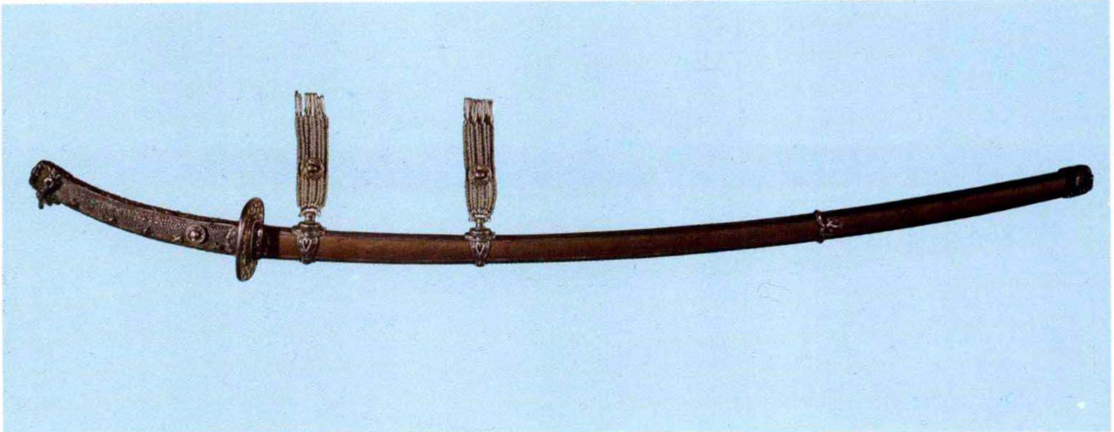
どうじょうじもの【道成寺物】日本舞踊・音曲のうち能の《道成寺》をもとにした作品，またその系統に属するもの。特に長唄(ながうた)《京鹿子(きょうがのこ)娘道成寺》(1753)は，先行諸作を集大成した傑作である。その他現存最古の曲である《傾城(けいせい)道成寺》(1731)や，《奴(やっこ)道成寺》《紀州道成寺》などが著名。

とうしょうだいじ【唐招提寺】奈良市五条町にある律宗の本山。招提寺・唐律招提寺などともいい，南都七大寺の一つに数えられる。754年(天平勝宝6)鑑真(がんじん)の来日によって，戒律をわが国に広めるため，天武天皇の第7皇子新田部(にいたべ)親王の旧宅の地が与えられ，はじめは私の戒律の道場であったが，のちに官立寺となり，講堂に平城宮から朝集殿を移建したり，勅額を掲げるようになった。伽藍(がらん)が整備されたのは鑑真の寂後で，しだいに規模を拡張し，僧坊なども ふえ，別に48院を構えて寺運大いに興隆した。その後，平安末鎌倉初めの戒律再興の機運に乗じ，覚盛(かくじょう)(1194～1249)が中興の業を達成，当時〈海東無双の大伽藍〉と称せられた。近世にはいってからは，地震や雷火などにより堂塔の一部に災火を受けたが，現在なお往時のおもかげをとどめる屈指の南都古寺で，鑑真の偉業をしのんで訪れる人が絶えない。また，国宝などの多くの文化財を蔵している。〔永井信一〕

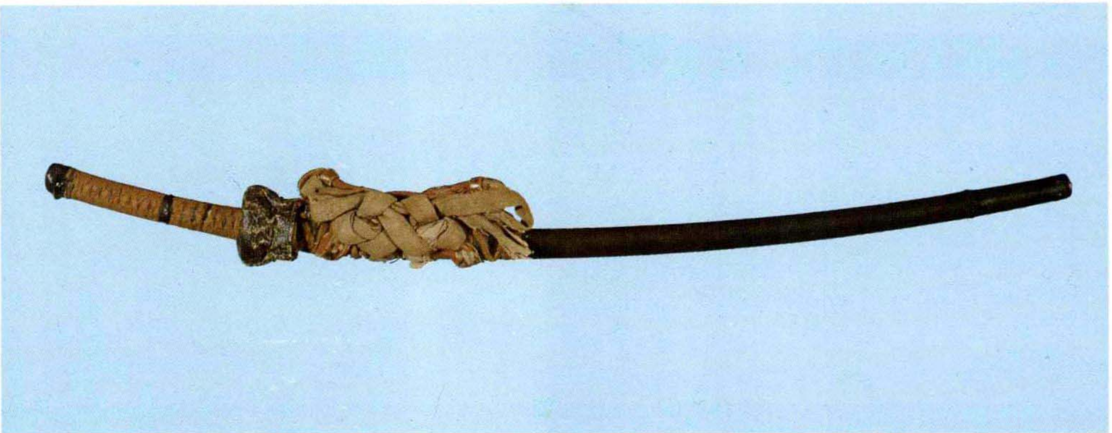
→103ページ刀剣参照
刀剣，刀装



平安時代
《銀銅蛭巻太刀拵》
国宝　丹生都比売神社蔵



鎌倉時代
《群鳥文兵庫鎖太刀拵》
国宝　東京国立博物館蔵



南北朝時代
《革包太刀拵(笹丸拵)》
重要文化財　愛宕神社蔵

刀剣の用語

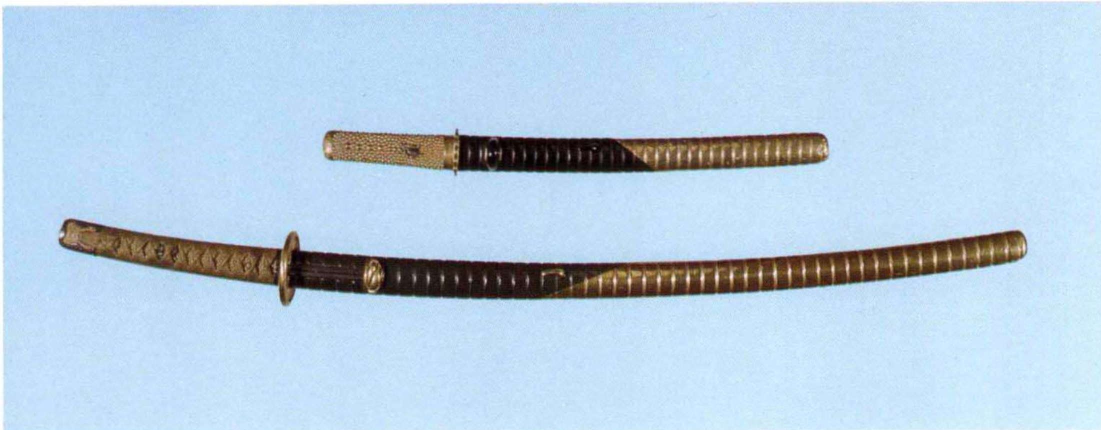
1　**種別**　**太刀**(たち)：長さ60cm，刃を下にして身につける。**刀**：打刀(うちがたな)ともいい，長さ60cm以上，刃を上にして身につけ，反(そ)りが少ない。**脇指**(わきざし)：長さ60cm未満，30cm以上。**短刀**：長さ30cm未満。**剣**：２口の短刀の棟(むね)を合わせた形で，左右同形。

2　**各部名称**：第１図

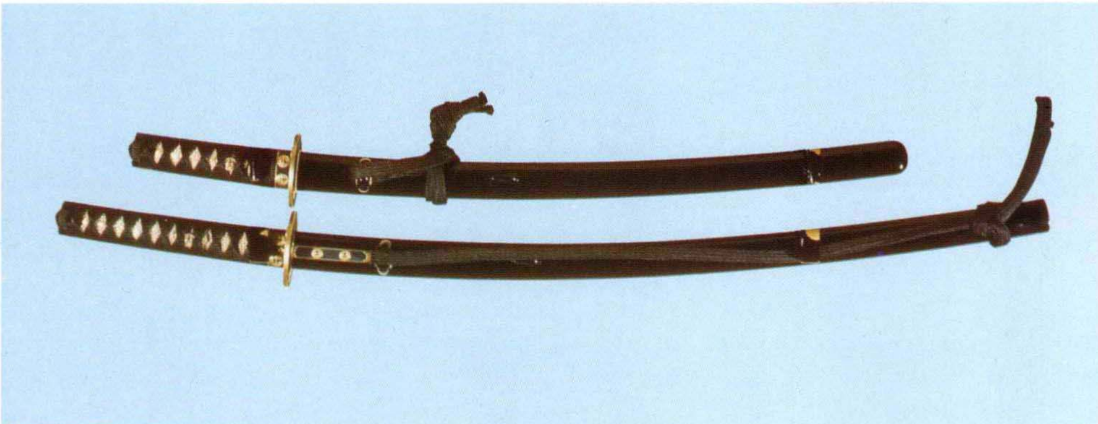
3　**長さ，反り**：第２図

4　**造り込み，恰好**(かっこう)**平造り**：棟角から刃先にかけての面が平面に近い。短刀に多い。　**切刃造り**：平地の稜線(りょうせん)が著しく刃先に寄り，古代の大刀(たち)に多い。**片切刃造り**：切刃造りの片面が平造りまたは鎬(しのぎ)造りになったもの。**鎬造り**(本造り)：刃面の中央から棟に寄って，茎(なかご)から切先棟にかけて稜線をつけるつくり方。**鋒両刃**(きっさきもろは)**造り**：鋒が両刃。**棟**：刃先とは反対の側，峰ともいう。**鋒**(切先)：刀身の先端，小鋒・中鋒・大鋒がある。**反り**：**腰反り**－反りの中心が鎺元(はばきもと)に近いところにある。**華表**(とりい)**反り**(中反り)－京反りともいう。**先反り**：**内反り**－棟とは反対に刃に向かってうつむく反り方。

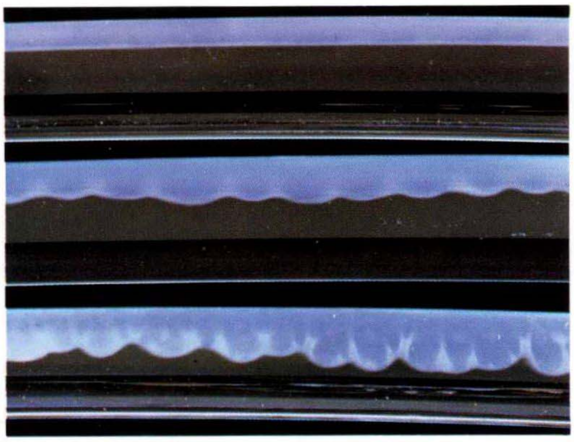
刀剣，刀装



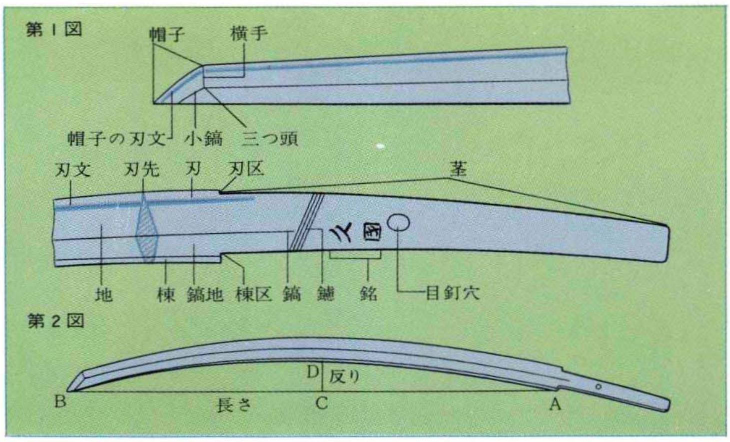
桃山時代
《金熨斗刻鞘大小拵》
重要文化財
東京国立博物館蔵



江戸時代
《竹に雀文黒塗大小拵》
重要文化財



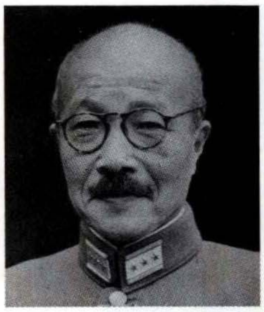
刃文例
上から
直刃，
互の目
丁子，



5　**地鉄**(鍛え)　折り返し鍛練によって刀身に現われる種々の模様。**板目肌**(はだ)・**杢目**(もくめ)**肌**・**柾目**(まさめ)**肌**，**梨子地**(なしじ)(無地)：きわめてつんだ肌目，などがある。また，鍛え肌が現われることを肌立つという。
6　**焼刃**　刀身に行なわれた焼入(やきいれ)。刃先に白く見える部分で，他の部分より硬度が高い。焼刃によって現われる文様を**刃文**という。刃文は直刃(すぐは)と乱刃(みだれは)に大別される。**乱刃：小乱れ，互**(ぐ)**の目：互の目垣**(がき)のように一定の間隔の整然とした乱刃，乱れの頭がよくそろうと**数珠刃**(じゅずは)，頭が尖(とが)ると**尖り互の目**，尖り互の目が三つずつ組みになると**三本杉**(さんぼんすぎ)といい，関の孫六の焼刃に多い。**丁子：丁子菊**(ちょうじぎく)のようなにぎやかな乱刃。**簾刃**(すだれは)。**湾**(のた)**れ**：ゆったりとした大波の感じの刃文。**濤瀾**(とうらん)：押し寄せる怒濤の感じを表わす。**皆焼**(ひたつら)：乱焼きのほかに，地鉄(じがね)一面に飛焼(とびやき)が複雑な形にはいったもの。刀身が焼入によって鋼化されるときに沸(にえ)と匂(におい)が現われる。**沸**は焼刃の中から刃縁にかけて現われ，肉眼でも見えるくらいに粒が荒い。**匂**はごく細かく一帯にかすんだように見える。なお，焼刃には刃文とは別に足・葉などの働きがある。**足**：刃縁から刃先に向かってはいる刃文の働き。**葉**：足に似て刃縁から離刃(はなれは)の中にある。
7　**茎**(中心・忠)　刀身の柄にはいる部分。種々の形があり，**目釘孔**(めくぎあな)があけられ，刀工の**銘**や製作年月，所持者銘が刻み込まれる。

どうじょうは　【堂上派】　近世の歌道流派の一。中世から続いた古今伝授が，細川幽斎に至って宮廷と民間との2派に分かれて伝承されたが，前者を堂上派，後者を地下(じげ)派とよぶ。元禄(げんろく)年間(1688～1703)，下河辺長流(しもこうべながはる)・戸田茂睡らの新風に歌壇の首座は譲ったが，その後も隠然たる勢力を保持した。

とうじょうひでき　【東条英機】　(1884～1948)　軍人・政治家。東京都出身。陸軍中将英教(ひでのり)の長男。陸軍大学校卒業。1935年(昭和10)関東軍憲兵司令官，1937年関東軍参謀長，1938年第1次近衛(このえ)内閣の陸軍次官となる。統制派に属し，陰湿な官僚性で全陸軍をおさえ，1940年第2次，1941年第3次近衛内閣の陸相となる。日米交渉の行きづまりに際して，軍部強硬派を代表して近衛内閣を倒し，1941年東条内閣を組閣して，陸相・内相を兼ね(1943年文相・商工相，新設の軍需相)，太平洋戦争に突入した。1944年参謀総長を兼任，空前の独裁体制を樹立したが，総力戦遂行に失敗，同年7月サイパン島陥落を機に総辞職した。終戦後は極東国際軍事裁判で起訴され，A級戦犯として1948年絞首刑。〔安達利夫〕



東条英機

とうしょうへい　【鄧小平】　トンシャオピン　(1902～　)　中国の政治家。四川省出身。フランスに留学，中国共産党フランス支部に加入した。日中戦争中は八路軍，解放戦争では中原解放軍のそれぞれ政治委員として活動した。1956年，中国共産党八全大会で，党規約改正について報告，大会後，中央政治局常任委員ならびに書記長に選ばれた。その後も，国務院副総理・国防委員会副主席を兼ね，党・政府・軍の実権を握ったが文化大革命で，〈劉・鄧路線〉が批判されて失脚した。その後，1973年に副首相として復活，75年1月には党副主席に就任，周恩来首相を補佐したが，76年4月，江青ら四人組から走資派として指弾を受け，すべての職務を解任された。ところが，1977年華国鋒主席のもとで7月22日三中全会が再度復活を公表，解任前の全職務に返り咲いた。

とうじょうみさお　【東条操】　(1884～1966)　国語学者。東京の生まれ。東京大学国文学科卒業。国語調査委員会嘱託。東大助手として上田万年(かずとし)の指導のもとに方言研究に志し，わが国の方言の区画を立て，日本方言学の基礎を築いた。主著《方言と方言学》《全国方言辞典》など，ほかに《国語学新講》がある。

どうじりこうのこうべんけん　【同時履行の抗弁権】　双務契約において当事者の一方が，相手方の債務の履行まで，自己の債務の履行を拒むことができる(民法533条)。これを同時履行の抗弁権という。たとえば，売買において，買い主が代金を提供するまでは，売り主は品物の引き渡しを拒むことができ，逆に，売り主が品物を引き渡すまで，買い主は代金の支払いを拒むことができることをいい，留置権とその趣旨を同じくする制度。同時履行の抗弁権の成立要件は，①同一の双務契約から生じたものであって，しかも各当事者が対価的な意義を有する債務を負担していること，②相手方の債務が弁済期にあること，③相手方が債務の履行または提供をしないことなどである。ただし，当事者の一方が，先に履行する旨の特約，または法律の規定がある場合には同時履行の抗弁権は生じない。〔黒木三郎〕



唐人お吉

とうじりつ　【透磁率】　磁性体が磁界Hの中に置かれたとき，磁性体内部における磁束密度Bが発生する割合(比)。ふつう，μで表わす。すなわち，B，H，μの間には$B=\mu H$なる関係がある。透磁率μは物質の磁気的性質を表わす実用的な量として用いられる。磁化率が0，すなわち磁気的性質をもたない物質の透磁率は，真空の透磁率とよばれ，$\mu_0=4\pi\times10^{-7}$(ヘンリー/m)で表わされる。またμ/μ_0は次元のない量で比透磁率とよばれ，物質中の磁束密度が真空中の何倍になるかを示している。

とうしるい　【等翅類】　⇨シロアリ

とうしろう　【藤四郎】　瀬戸窯開祖の陶工。加藤四郎左衛門景正(しろうざえもんかげまさ)の通称，剃髪(ていはつ)してのちは春慶と称した。1223年(貞応2)道元とともに宋(そう)に渡り，わが国に陶法をもたらしたといわれる。この伝承を裏づける資料は存しないが，すでに室町後期から桃山時代にかけて，〈藤四郎〉の名を冠した瀬戸焼黒釉茶壺(こくゆうちゃつぼ)，いわゆる藤四郎壺が〈古藤四郎壺〉〈今藤四郎壺〉と区別されて，文献に記録されている。また，〈慶長元年藤四郎〉の刻銘をもつ《黒釉四目茶壺》は貴重な遺例である。

とうしん　【東晋】　⇨晋2

どうしん　【同心】　江戸幕府の下級役人の職名。もと一味同心として協力した仲間の意で，戦国時代では武将に従う軽輩の武士をさした。江戸時代では京都所司代以下の諸職・諸奉行(ぶぎょう)に付属し，特に有名なのは江戸町奉行配下の同心で，町同心とよばれた。南・北町奉行所に各100人，幕末には280人に増加された。与力の下で朱ぶさの十手を持って市中を巡回し，裁判・警察の実務にあたり，庶民との接触も深かった。

どうじん　【銅仁】　トンレン　中国，貴州省東部の一中心をなす都市。沅江(げんこう)の支流，麻陽江北岸に臨み，水運によって湖南省と通ずる要衝である。商業が盛んで，付近一帯の特産である桐油(とうゆ)・茶油・五倍子や手芸品などを取引する。南方の万山場は水銀鉱山として有名。人口約50,000。

どうしんえんもん　【同心円文】　同じ基点を中心に，半径の異なる二つ以上の円を描いた場合に生ずる重複円の文様。この装飾文様の早期の例には，ギリシア-ヘレニック時代アッチカに現われた幾何学文陶器がある。また，キプロス島においても紀元前10世紀ごろにつくられた種々の土器，つぼ・手付き水注(みずさし)・台付き鉢(はち)などの彩文に同心円文が使用されている。

とうじんおきち　【唐人お吉】　(1841～1890)　幕末・明治の美人芸者。伊豆(いず)(静岡県)下田の船大工市兵衛(いちべえ)の娘。本名を斎藤きちといい，唐人お吉はそのあだ名である。1857年(安政4)下田奉行(ぶぎょう)から玉泉寺滞在中のアメリカ総領事ハリスの看病人として雇われたが，3日で解雇された。1868年(明治1)横浜で大工鶴松(つるまつ)と同棲(どうせい)，1882年下田で小料理屋安直楼を開いたが失敗し，やけ酒を飲んで投身自殺した。これに取材した十一谷(じゅういちや)義三郎の小説《唐人お吉》など，数多くの小説や映画で知られる。〔岡山泰四〕

どうじんざっし　【同人雑誌】　〈どうにんざっし〉ともいう。同じ主義・主張や趣味の人々が集まって発行する雑誌。各種の分野で発行されているが，特に文学関係に多い。たとえば東京大学の卒業生・在学生を中心とした《新思潮》は，1907年(明治40)以降10数次にわたり発行されて有名である。

とうじんぼう　【東尋坊】　福井県九頭龍(くずりゅう)川河口の北に位置する雄大な岩石海岸の景勝地で，越前(えちぜん)加賀海岸国定公園に含まれる。輝石安山岩の柱状節理が水面上25mの高さまでびょうぶのように立つ奇勝で，付近の永平寺や芦原(あわら)温泉とともに訪れる観光客でにぎわう。➔次ページ(写真)

とうじんやしき　【唐人屋敷】　江戸時代，長崎に来住した中国人の居留地。唐館ともいい，中国人は土庫と称した。長崎市内に雑居を許されていた中国人が，鎖国後に密貿易の防止，キリスト教の伝播(でんぱ)，風紀上の弊害などの理由で，雑居取り締まりの



東尋坊　日本海の荒波くだける東尋坊の景勝。遊覧船で見る海上からのながめも壮大である。遠くに見える島は雄島

対象となり，1688年(元禄1)市外十禅寺村に唐人屋敷が設置されて，翌年から同区画内に収容された。屋敷の面積9,373坪(約3ヘクタール)，2階造りの家屋20，市店107を数えた。周囲には塹壕(ざんごう)と竹のさくを巡らし，唐人番を置いてその出入を監視させ，構内には牢屋(ろうや)も設けられた。役所への出張，寺院参詣(さんけい)以外は外出を禁じられ，日本人は役人・商人・遊女に限り出入を許された。1784年(天明4)火災で全焼。〔高崎德次〕

とうすいけん〔統帥権〕 軍隊を統率する最高権。一国の軍隊の出動，戦略・戦術の策定，部隊の作戦および指揮などの権限をいう。明治憲法では，天皇の大権とされ，内閣さえもこれにあずかることができず，天皇に直属する陸軍参謀本部・海軍軍令部がそれを助け，天皇の命を受けて専行した。民主国家では，内閣(あるいは大統領)が軍事についても最高の決定・指揮の権限をもち，文官である大臣が陸軍・海軍・空軍の最高司令官をおさえている(文官優位制)。

とうすいそう〔透水層〕 砂層・礫(れき)層のように水を通しやすい地層。透水度は，構成粒子の空隙(くうげき)の多少(含水性)と間隙の大小(透水性)によって決まる。数値的には，地層の全容積に対しておよそ10%以上の水を含みうる地層をいうのが普通である。また，透水層の地下水面下，すなわち水によって飽和されている部分を帯水層という。なお，シルト*・粘土のように水を通しにくいもの(難透水層)およびまったく通さないもの(非透水層)を不透水層という。〔平山　健〕

ドゥーゼ〔Eleonora Duse〕(1859～1924) イタリアの女優。祖父以来の俳優の家に生まれ，14歳で劇界にデビュー，20歳のときにはイタリア各地にその名を知られた。当時の自然主義による形式主義から脱して，内面的感情の表現にすぐれた才能を示し，《椿姫(つばきひめ)》《人形の家》《マグダ》など悲劇的役がらを得意としたが，一方，サルドゥ・ゴルドーニ*らの喜劇作品にも軽妙な演技を見せた。1892年，劇団を率いてヨーロッパ諸国・アメリカなどを巡業，世界的大女優として名をあげた。1906年クレイグ*の新しい装置によるイプセン*《ロスメルスホルム》の舞台は特に名高い。再度のアメリカ巡業中ピッツバーグで客死した。〔岡崎淳子〕

どうせいあい〔同性愛〕 ホモ-セクシュアリティーの訳語。異常性欲*の中の対象倒錯の一形態で，同性どうしの性愛関係をいう。語源は，ギリシア語の同一を意味するhomosと性欲を意味する英語sexualityに由来するが，女性間の同性愛をレスビアンラブ，男性間の同性愛をウラニズムなどとよぶこともある。同性愛には，先天的な性欲異常としての真性同性愛(異性にまったく性的関心を示さず，異性との性行為ができない)，異性愛ももつが，機会(たとえば，軍隊，刑務所，社会の流行)があれば同性愛も行なう機会性同性愛，また実際に同性愛行為を行なう顕在性同性愛と心理的にはその傾向が強いにもかかわらず実際の性行為には至らない潜伏性同性愛などが区別される。同性愛を異常とみなすかどうかは社会文化によって違うが，ギリシア時代のスパルタ，中国の宦官*(かんがん)，わが国の稚児*(ちご)などのように社会的に公認された場合もあり，法的に禁止されている国(たとえば現代のアメリカ)もある。〔小此木啓吾〕

とうせいかかく〔統制価格〕 資本主義社会では諸財貨の価格は，一般に製品市場での需要と供給との関係によって決定される。しかしその社会がなんらかの経済条件の変化によって市場の価格決定の機能を停止し，その代わりにその社会の為政者が，財貨の価格を決定するとき，その価格を統制価格という。社会主義社会では，原則としてすべての価格は統制されているが，資本主義社会では戦時あるいは非常事態のとき以外は統制価格制は実施されない。〔藤枝省人〕

とうせいけいざい〔統制経済〕 国家がある目的のために，各経済主体の経済行為を直接的に統制する体制をいう。戦争が遂行される場合，国家が戦争に必要な物資を買い上げるため，物資が欠乏し物価は上昇する。その結果，国家は，物価上昇をおさえるため公定価格制を設け，また配給制や割り当て制で不足する物資の需給を調整し，公債の割り当てで貯蓄をおしつけ，貸し付けの資金統制などをし，また，組合や団体を組織したりする。➔前項〔加藤　寛〕

とうせいしょせいかたぎ〔当世書生気質〕 坪内逍遙*(しょうよう)の長編小説。1885年(明治18)6月から翌年1月にかけて，《一読三嘆当世書生気質》17分冊として刊行。書生と芸妓(げいぎ)との恋愛を核として，寄宿舎・下宿屋・牛肉屋・遊郭などにおける書生の生活を通俗的に描いている。作者が《小説神髄*》で主張した写実小説論に基づいて，当時新しく登場した書生の群像を写実的に描こうとした作品。

とうせいは〔統制派〕 昭和初期の陸軍内部の一派閥。満州事変後指導権を握った皇道派*による派閥人事や青年将校の扇動に反対し，軍の統制を主張したのでこの名がある。1936年(昭和11)の二・二六事件*後，粛軍の名のもとに皇道派を弾圧して軍の実権を握り，東条英機*(ひでき)内閣を実現し軍部独裁に成功した。

とうせき〔陶石〕 陶磁器*の原料の中で，単味焼成，すなわち他の原料と混ぜ合わすことなく単独で高温に熱すると磁器*になる性質の岩石。鉱物組成はセキエイとセリサイト(微晶質のシロウンモ*)とで大部分が構成され，顕微鏡でやっと見分けられるような微粒子である。たいていは流紋岩*などが変質してできたものである。焼き上がりの色がなるべく純白に近いことが望まれるので，鉄分がきらわれる。高級品では酸化第二鉄として0.4%以下，一般用でも1%以下であることが望ましい。現在では単味で使用されることはないので，調合試験によって最終的な適否が判断される。陶磁器用としては天草石*が最高とされており，衛生陶器用としては石川県下から産する服部(はっとり)陶石が適している。陶石を利用して陶磁器をつくる技術は日本固有のものである。〔片山信夫〕

とうせき〔透析〕 古くから最も広く用いられているコロイド溶液を精製する方法。セロハン紙，コロジオン膜，硫酸紙，魚の浮き袋，ウシの膀胱膜(ぼうこうまく)などの半透膜は，拡散速度の速い分子，イオンなどを自由に通過させるが，コロイド粒子は通さない。この性質を利用して純粋なコロイド溶液をつくることができる。化学反応によりコロイド溶液をつくる場合，反応生成物のイオンなどが不純物として液に含まれることがある。これを分離し精製するため，半透膜の袋にコロイド溶液を入れ，水または溶媒の中につるす。小分子や電解質は半透膜を通過するので，外の液を交換することにより，コロイド液の精製ができる。また，ある液がコロイド液であるかどうかを判別する方法に用いることもできる。〔水野俊彦〕

とうせきじょ 【鄧石如】（1743～1805） 中国，清(しん)代の書家。名は石如，字(あざな)は頑伯(がんぱく)，号は完白山人。安徽(あんき)懐寧の人。書は碑刻を学んで，篆隷(てんれい)に精絶無比の境を開き，碑学派の先駆をなした。また，篆刻をよくし，皖(かん)派の祖として仰がれている。《古梅閣彷完白山人印賸(いんよう)》《鄧石如印存》《完白山人印譜》《鄧石如法書選集》などがある。

とうせん 【陶潜】 ⇨陶淵明(とうえんめい)

とうせん 【燈船】 航路標識*の一。燈台を建設できないような場所で，いかりで係留した船に燈を掲げて燈台の役目をするもの。主として外海からの入り口に置かれる場合が多く，わが国にも1969年(昭和44)まで東京港の入り口に1隻あった。

どうせん 【道宣】（596～667） 中国，唐代の僧。南山律宗の祖であり，当代一流の歴史学者でもあった。智首(ちしゅ)に《四分律》を学び，長安の南方の終南山に住したので，彼が研究布教した律の流派を南山律宗という。その著《四分律行事鈔(ぎょうじしょう)》は律の研究には必読の書とされる。彼の業績は律に限らず，玄奘*(げんじょう)の訳経事業を助け，また《大唐内典録》を著わして経典を整理し，さらに《古今仏道論衡》《広弘明集(こうぐみょうしゅう)》を編集して道教に対して仏教を宣揚し，また《続高僧伝》その他の仏教史書を著述した。 〔佐藤成順〕

どうせん 【道璿】（702～760） 中国，唐代の僧。河南省許州の人。主として律を学んだが，天台・華厳(けごん)などにも精通し，また神秀*の弟子(でし)の普寂について北宗禅をきわめたとされる。736年(天平8)当時唐に渡っていた日本の僧，普照・栄叡(えいえい)の勧めによって，インド僧菩提仙那(ぼだいせんな)，林邑(りんゆう)(ベトナム南部)の僧仏哲とともに来日した。奈良の大安寺*西唐院に住して戒律を講じ，東大寺大仏開眼(かいげん)供養会でも重責を果たした。華厳関係の文書をはじめて日本に伝えた人ともいわれる。最澄の師行表は彼の弟子にあたる。 〔岡部和雄〕

とうそう 【凍瘡】 ⇨しもやけ

とうそう 【痘瘡】 ⇨天然痘

とうそうざい 【逃走罪】 拘禁*中の既決・未決の囚人が，看守*の実力的支配を脱して逃げる単純逃走罪(刑法97条)と，逃走させる目的で囚人に器具を与えるなどして逃走を援助する逃走援助罪(刑法100条1項)をさす。前者は1年以下の懲役，後者は3年以下の懲役。この場合，手錠や窓をこわしたり，暴行・脅迫をしたり，または2人以上で示し合わせて逃走したときは，刑が加重される。これを加重逃走罪といい，刑は3月以上5年以下の懲役(刑法98条)。囚人・逮捕者を実力で奪い返した者は，加重逃走罪と同じ量刑である。これを奪取罪という(刑法99条)。看守・護送者が，被拘禁者を故意に逃走させたときは，1年以上10年以下の懲役(刑法101条)。逃走罪の未遂はすべて罰せられる。 〔井上公耳〕



トウゾクカモメ



縁結びの神
山梨県忍野



男根をかたどった道祖神
福島県安達郡

道　祖　神

とうそうはちだいか 【唐宋八大家】 ⇨次項

とうそうはっかぶん 【唐宋八家文】 中国，唐・宋時代の古文の作家である韓愈*(かんゆ)・柳宗元*・欧陽修*・蘇洵*(そじゅん)・蘇軾*(そしょく)・蘇轍*(そてつ)・曾鞏*(そうきょう)・王安石*の8人の文章をいう。唐・宋の多くの作家の中から，この8人を選ぶことは明(みん)代初期に始まり，明の茅坤(ぼうこん)(1512～1601)が，《唐宋八大家文鈔(しょう)》160巻を編し，広く行なわれたが，清(しん)代，沈徳潜*は，既出の文集を参考にして《唐宋八大家文読本》30巻を編した。この本は文章の選択がよく，日本には江戸時代に伝来，多く注釈書がある。 〔今村与志雄〕

どうぞくがいしゃ 【同族会社】 家族やその一族の出資によって設立される会社。わが国ではこれを広義に解し，同族以外の出資者があっても，同族の者が株式または出資額の一定率以上を占めている場合には，それを同族会社に含めている。

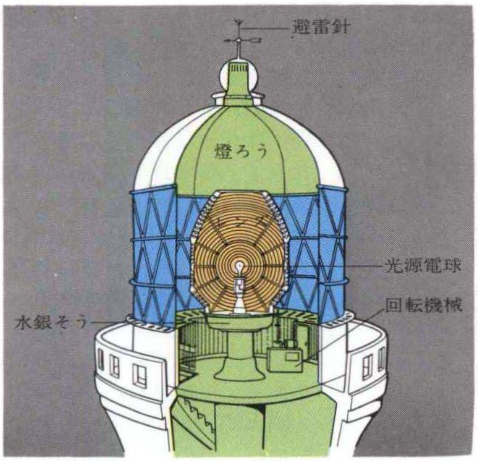
とうぞくかもめ 【盗賊鷗】 鳥類・トウゾクカモメ科の総称およびそのうちの一種の和名。カモメ類と近縁の海鳥で，からだつきはカモメ類に似ているが，一般に羽毛は灰かっ色。カモメ類と同様の採食法で採食もするが，食物をもっている海鳥を攻撃して，追われた鳥が落としたものを奪い取ったり，繁殖期には付近で繁殖中の鳥の卵やひなも奪ったりする略奪性の強い鳥である。世界に4種が知られ，オオトウゾクカモメは南北両極圏付近に，トウゾクカモメ・シロヒラトウゾクカモメ・クロトウゾクカモメは北極圏付近のツンドラで繁殖する。いずれも非繁殖期には赤道付近まで移動するものがあり，日本近海にみられる。そのうち，トウゾクカモメは翼長34～38cm，体長はウミネコと同大で，上面は黒かっ色，下面は白色で胸にかっ色の太い横帯がある。中央の尾羽は太く突出している。 〔安部直哉〕

とうぞくこっか 【等族国家】 ヨーロッパで中世封建国家から絶対主義国家への過渡期に生まれた国家形態。身分制国家ともよぶ。中世後期に王権がある程度強くなり，身分制議会との勢力の均衡がくずれたときに成立した国家形態である。すなわち12～13世紀ごろから官僚制の整備，軍備の増強，はでな宮廷生活などで王室の支出が激増した。王は新課税を合法化するために身分制議会を必要とし，そのため議会を構成する貴族・僧侶(そうりょ)・都市は，新税を認める代わりに政治力を強めて王権を制限した。 〔高山高雄〕

とうそくるい 【頭足類】 軟体動物の一綱で，イカ・タコ類の総称。体は左右相称で，胴・頭・足の3部からなり，頭から足が出ている形なのでこの名がある。胴は円錐(えんすい)状肉質の外套(がいとう)をかぶり，内臓嚢(ないぞうのう)をおおう。外套と内臓嚢の間は外套腔(がいとうこう)で，その中にえらがある。イカ類では胴の先端の背面にひれがあり，また外套に埋もれて背面に甲がある。また内臓嚢の腹側に漏斗があり，外套腔内の水を噴出するほか，墨汁嚢(ぼくじゅうのう)から出る墨汁をここより出す。頭の左右両側に大きい眼があり，足には8本の腕が出るが，イカではさらに1対の触腕があり，その内側に吸盤が並ぶ。腕に囲まれて中央に口がある。口の中にはカラストンビという顎板(がくばん)があり，歯舌とともに食物をかみ砕く。原始的なオウムガイでは巻いた殻(から)に胴部を入れ，また多くの小さい足があるが，吸盤を欠き，えらは2対。化石種のアンモナイトもこの類に属する。古生代カンブリア紀に出現し，現生種約600種，日本には約200種が分布する。➔イカ　➔タコ 〔波部忠重〕

どうそじん 【道祖神】 路傍に祭られる神で，自然石，文字を刻んだもの，像を彫ったものなどさまざまな形式が見られる。

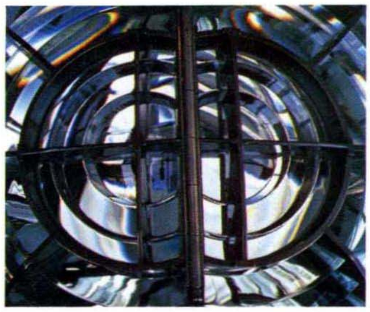
燈　台



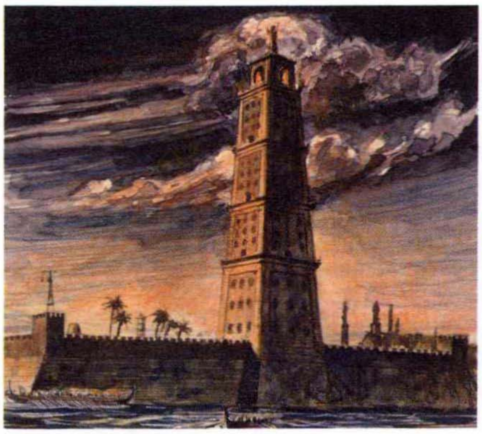
燈台のしくみ

種　別 (例示図の略称)	例示図解
閃　光 (閃紅光)	←10秒→
群閃光 (群閃緑光)	←15秒→
連成不動閃光 (連成不動閃緑光)	
互　光 (緑白互光)	
閃互光 (閃紅白互光)	
明暗互光 (明暗紅緑互光)	

燈質の例



レンズ



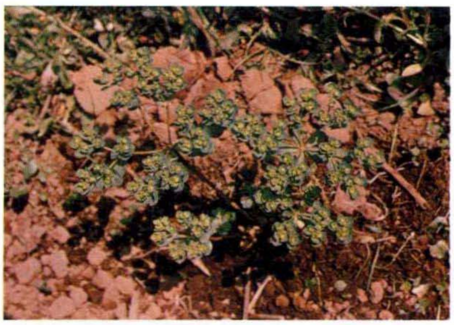
最初の燈台(アレキサンドリア港のファロス燈台の推定図)　BC 280



観音崎燈台(神奈川県)　1869年に点燈された日本最初の洋式燈台，群閃白光

元来は中国で行旅守護の神とされたが，日本ではこれを〈さえのかみ(さいのかみ)〉と読ませ，塞神・幸神などの文字をあてた。〈塞〉はさえぎるの意で，悪霊などの侵入をさえぎり防ぐのに祭られた。祭られる場所としては，村境や坂，橋のたもとなど，防御につごうのよい地点が選ばれている。男女の抱擁像や，男子像が徳利を，女子像が杯を手にした祝言像を彫ったものも多く，男女の縁結び，和合をつかさどる神としての信仰もある。また境を守る神とする信仰から，生者と死者，現世と幽冥(ゆうめい)界との境をつかさどるとの信仰にも発展し，地蔵信仰(→地蔵菩薩(ぼさつ))との結びつきも生じ，特に子どもと親しい神とも考えられるようになった。正月の火祭り*を〈さいとばらい〉〈さいのかみかんじん〉とよんで，道祖神祭とする地方も多い。　〔直江広治〕

どうそたい　【同素体】　同一元素からなり，互いに性質の異なる種々の単体。原子の配列または結合様が異なる。酸素O_2とオゾンO_3，黄リンと赤リンなどがその代表的例である。なお，ダイヤモンドとセキボク，





トウダイグサ　(上)トウダイグサ　(下)ナットウダイ

αイオウとβイオウなどのような結晶における多形も，原子配列の相違による同素体である。

とうだい　【燈台】　航路標識*の一。塔上に強力な光源をもち，航海上の船舶の安全を保障する。燈台は災禍防止のみならず航海の時間を短縮させるので経済上も有用で，各種の航路標識中最も重要。遠距離からの目標となるものと，沿岸航路用のものとがある。前者は堅固，高大で光力も強く燈器も精巧なものを用いるが，後者は簡単なもので，ただ付近の標識と識別しやすいよう燈質の違ったものを用いる。燈台はレンズの大きさによって1～6等および等外の7等級に分かれている。燈火は燈台の識別のために明暗の時間間隔を変えたり，色を変えたりしているが，これを燈質といい，図のようなものがある。燈台の中には光源のほかにサイレン・霧鐘・水中信号(水中に音波を発射し船が受信する)などの音波標識を備えたものもある。なお数は少ないが航空機のための航空燈台*もある。燈台は海図に記入されている。　〔飯島幸人〕

どうたい　【導体】　電気や熱を伝えやすい物質。良導体ともいう。導体としては金属・電解質*の水溶液などがあげられる。金属結晶中では自由電子が，電解質の水溶液中では陽イオン*・陰イオン*があってそれぞれの移動によって電気が伝えられる。導体の電気を伝える性質を導電性といい，その大小は導電率*によってはかられる。また，電磁気学の理論においては，導電率が無限大の物質を仮想しそれを完全導体という。完全導体の内部には電磁気的な力は浸透しない。　〔堀内和夫〕

とうだいかん　【燈台管】　⇨高周波用真空管

とうだいぐさ　【燈台草】　双子葉植物・トウダイグサ科。野原や路傍にはえる一年草。高さ10～40cmで，茎に傷をつけると白い乳液が出る。上部にまばらに毛があり，葉は長さ1～3cm，幅6～20mmの倒卵形で，縁に細かい刻みがある。茎の先に5枚の葉を輪生し，5本の枝を出して先に3枚の包葉をつけ，さらに黄色の葉をつけた枝を出して，そこに4～5月，1個ずつ杯状花序をつける。花序には4個の蜜腺(みつせん)があり，黄色楕円(だえん)形で約1mm。蒴果(さくか)はなめらかで直径約3mm，3裂して網目の

ある黒色の種子を出す。よく似たタカトウダイは山野に普通の多年草で，高さ40～80cm，茎の上半部に白色の毛が薄くはえる。葉は無柄で長さ3～8cm，幅5～12mm。花期は6～7月，蒴果にはいぼがある。ナツトウダイは林床に見られる多年草で，細い地下茎が走り，全草無毛で高さ約30cm，4～5月，枝頂に花をつけ，蜜腺は三日月形。蒴果はなめらかな球形で直径約3mm。ノウルシは湿った川原に大きな群落をつくって自生する多年草で，太い地下茎があり，高さ50cmほど，茎の上部や葉裏に白い長毛がある。花期は4～5月。花序の枝の葉が黄色でよく目だつ。杯状花序も黄色で，5個の楕円形蜜腺がある。蒴果は丸く径5～6mm，表面にいぼがある。〔加藤僖重〕

とうだいじ【東大寺】奈良市雑司(ぞうし)町にある華厳(けごん)宗の総本山。大華厳寺・金光明四天王護国之寺・総国分寺などともいう。南都七大寺の一。本尊は《銅像盧舎那仏坐像(るしゃなぶつざぞう)》で，俗に奈良の大仏とよばれ，国宝に指定されている。751年(天平勝宝3)大仏殿完成，翌年4月大仏開眼(かいげん)供養を行ない，以来鑑真がここに戒壇(かいだん)を設置したこともあって，興福寺と並ぶ大寺院となった。1180年(治承4)平重衡(しげひら)の南都の焼き打ちにあい大仏殿以下を焼失，源頼朝(よりとも)の後援を得た重源(ちょうげん)らの活動によって復興された。1567年(永禄10)松永久秀(まつながひさひで)の戦火を受けて再び大仏殿を焼失したが，その後江戸幕府が朱印地三千五百石を寄進して，1692年(元禄5)大仏殿が復興され，世界最大の木造建築として現在に至っている。創建当時の建築遺構としては，正倉院・・転害門・法華堂(ほっけどう)(三月堂)がある。なお，法華堂には，本尊の《乾漆不空羂索観音(かんしつふくうけんさくかんのん)立像》《乾漆梵天(ぼんてん)帝釈天(たいしゃくてん)立像》《乾漆四天王立像》《塑造執金剛神(そぞうしゅうこんごうしん)立像》などが安置され，国宝に指定されている。二月堂には本尊の十一面観音が安置され，ここで毎年2月(いまは3月)大法会(→お水取り)が行なわれたのでこの名がある。〔高崎徳次〕

とうだいへ【燈台へ】V.ウルフの小説(1927)。〈窓〉〈時は逝(ゆ)く〉〈燈台〉の三部からなる。スコットランドの海岸の別荘を舞台に，哲学者ラムジー教授の家族と友人たちとの心理・感情の微妙なもつれを描いたもの。詩的な表現と状況描写とが交錯する立体的な構成によって，筋らしいものもないままに美しい小説世界をつくりだし，時の推移，老齢と死といった主題が浮き彫りにされている。

どうたく【銅鐸】弥生(やよい)時代の青銅器。つり鐘を押しつぶしたような扁平(へんぺい)形で，わずかにすそに広がっている。上部に半円形の鈕(ちゅう)(取っ手のようなもの)，両側に帯状の鰭(ひれ)がある。形式に変



東大寺 大仏殿



ドウダンツツジ

化があり，高さは20cmから1m以上のものもある。用途については，内部につるして振り鳴らしたと思われる銅舌が出土したことから，本来は楽器であったと思われるが，その多くは農耕祭祀(さいし)に用いられた祭器であるとする見方が一般的である。近畿(きんき)地方を中心に，西は島根県・広島県，東は石川県・静岡県の間で出土している。〔高崎徳次〕

どうだんつつじ【満天星】双子葉植物・ツツジ科。暖地の山野に自生する落葉低木で，庭木としてよく用いられる。高さ2～6m。葉は枝先に輪状互生に集まってつき，倒卵形ないし楕円(だえん)形で先が急にとがり，長さ2～4cm，幅1～1.5cm，縁に細かい鋸歯(きょし)がある。4月，新芽が出ると同時に枝先に1～2cmの柄のあるつぼ状白色花冠の花を数個下向きにつける。花冠の先は浅く5裂する。果実は上向きにつき，狭い長円形の蒴果(さくか)で，長さ8mmほど，9～10月にかっ色に熟す。

とうたんぱくしつ【糖蛋白質】複合タンパク質の一種で，アミノ酸以外に多糖類を構成要素とするタンパク質。唾液(だえき)中のムチン，その他動物の粘液と称せられるものの主成分となっている。種類が多く，その性質は多く不明のまま残されているが，近来生物学的重要性が注目を集めている。

どうちちゅうこう【同治中興】中国，同治帝の統治期(1861～1875)をいう。太平天国の乱後，対外協調政策と西洋文化採用を通じて，清朝(しんちょう)の近代化と再編成が企図された。対外策としては恭(きょう)親王が外国を蛮夷視(ばんいし)する保守大官をおさえ，北京(ペキン)に総理各国事務衙門(がもん)を設け，外国に公使を派遣した。一方曾国藩(そうこくはん)・李鴻章(りこうしょう)・左宗棠(さそうとう)らは近代文化の中国への移植を試みて洋務運動に着手し，官営軍事工場の設立，外国語学校の設立，留学生の派遣，西洋科学書の翻訳などの事業を行なった。しかしその成果があがらないうちに，日清戦争のため中断された。〔大谷敏夫〕

とうちゃ【闘茶】⇨茶道

とうちゅうかそう【冬虫夏草】種々のこん虫類に特殊な菌類の寄生したもの。菌は主として子嚢菌(しのうきん)類のトウチュウカソウ菌属のものであるが，近縁の数属とイサリア属などの不完全菌なども関係する。アリ・ハチ・セミ・カメムシ・甲虫・チョウ・ガなどのこん虫のほか，クモ類も寄生を受ける。菌は寄主の体内で繁殖して菌糸を充満させたあと，寄主の頭部や関節部から棍棒(こんぼう)状や糸状などの子実体を出す。菌の種類は数百種類が知られており，日本ではセミタケ・カメムシタケ・クモタケなどが有名である。冬季は虫態で過ごし，夏季に草になるという考えからこの名があり，中国では古くから強壮薬として珍重されている。

とうちゅうじょ【董仲舒】(BC179？～BC93) 中国，前漢の儒教思想家。河北省の人。漢の武帝に《賢良対策》を提出して儒教を国教とし，その大学を設けることを提案して，王朝国家の教学方針が決定したという。春秋公羊伝(くようでん)の学を基礎づけ，陰陽五行説(→五行説)を説いて天子の政治責任を強調したため，死刑になりかけたこともある。その著とされる《春秋繁露》17巻が伝わっている。

どうちゅうひざくりげ【道中膝栗毛】江戸後期の滑稽本(こっけいぼん)。十返舎一九作。1802年(享和2)初編刊行。当初続刊の意図はなかったが，好評のため正続20編を重ね1822年(文政5)完結した。弥次郎兵衛(やじろべえ)・

喜多八のふたりづれが伊勢(いせ)参宮の途次，上方・金比羅(こんぴら)・宮島を遊歴，善光寺・草津を経て江戸にもどる間の道中のこっけいな失敗談を狂歌や各地の風俗・方言などを織り込んで展開したもの。仮名草子*《竹斎*》や，狂言*のシテ・アドの手法を借りながら独特の大衆文芸を完成，滑稽本の典型として，後世の文学に大きな影響を与えた。

どうちょう 【同調】 電気的共振回路あるいは共振器の共振周波数を，他から加えられる交流の周波数に一致させることをいう。たとえば，受信機における希望周波数の共振などに利用される。インダクタンス* L と容量 C からなる共振回路は，周波数 $f=1/2\pi\sqrt{LC}$ の交流に同調する。このような共振回路の同調は，L あるいは C の値を調節して行なう。同調は，多くの周波数の中から特定の周波数の交流を取り出す目的で行なわれる。〔伊藤糾次〕

ドゥッチオ [Duccio di Buoninsegna]（1260？～1319？） イタリア，シエナ派最初の大画家。作風はビザンチン様式の伝統からいまだ自由になってはいないが，中世的生硬さ・厳格さのうちに，当時新たに起こりつつあったヒューマニズムのいぶきが感じられる。作品にみられる人間的情感，繊細な色彩，優雅な描線はのちの画家に多大な影響を及ぼした。宗教的主題を好んで描き，代表作はシエナ大聖堂の祭壇画《マエスタ》である。〔松本芳夫〕

どうてい 【道程】 高村光太郎*の第1詩集(1914)。1910年(明治43)から智恵子(ちえこ)と結婚する1914年(大正3)までの詩103編を収録。〈パンの会〉における熱気的な時代から，智恵子との邂逅(かいこう)や白樺(しらかば)派への接近による理想主義への転換という精神的推移を，独得の自然観を軸として，平明かつ躍動的にうたいあげている。

どうていこ 【洞庭湖】 トンチン湖 中国，湖南省北部にある中国最大の湖。面積約14,000km²。夏季には増水して長さ約120km，幅96kmにも達するが，冬季は減水して各所に水路が残るだけになる。揚子江の水量の調節湖となっており，省の水運の大動脈でもある。夏季には揚子江の水が北から松滋河(しょうじが)・虎渡河(ことが)・藕池河(ぐうちが)・安郷河などとなって流入し，南からは湘江(しょうこう)・資水・沅江(げんこう)・澧水(れいすい)が注入する。排水は岳陽北東の城陵磯(じょうりょうき)から揚子江へ注いでいる。漁業は9月から3月にかけてコイの漁獲が最も多い。湖岸では，米・綿・生糸などを産する。

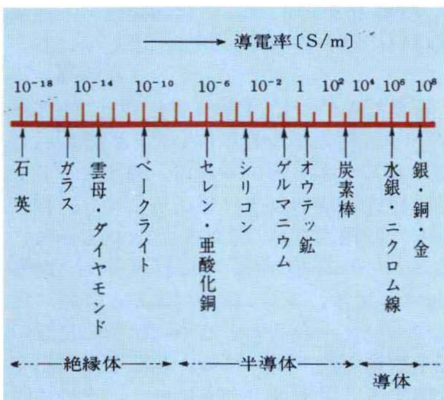
とうてききょうぎ 【投擲競技】 陸上競技のうち投力を競う競技の総称。男子では砲丸投げ・槍(やり)投げ・円盤投げ・ハンマー投げの4種目，女子ではハンマー投げを除く3種目が含まれる。サークルの中から，砲丸投げは突き出す能力，円盤投げ・ハンマー投げは遠心力を利用して投げる能力をそれぞれ競い，槍投げだけは助走を使って



ドゥッチョ 《フランシスコ会の聖母》



トウテンコウ



導電率

の投力を競う。8名をこえる競技者が参加したときは3回の試技を行ない，その結果によってベスト8と第8位と同記録の者がさらに3回の追加試技が許され，そのうち最善の記録で順位を決定する。

とうてつもん 【饕餮文】 中国古代の怪異な動物文様。呪力(じゅりょく)をもつものとして，殷(いん)・周の時代，青銅器などに施された。ふつう〈トウテツ〉とよばれるのは，下顎(かがく)を欠いた一種の獣面で，突出した目，大きな双角，歯牙(しが)をむいた大きな口をもつのが特色である。

とうてんこう 【東天紅】 ニワトリの品種。鳴き声の長いのが特徴で，22～23秒も鳴き続けるものがある。長尾性があって体形は小国とほぼ同じであるが，羽色がかっ色で耳朶(じだ)は白色。体重は雄2kg，雌1.5kgほど。高知県原産で，天然記念物に指定されている。➔ナガナキドリ

どうでんりつ 【導電率】 導体*で，電気の伝わりやすさを示すためのめやすとする物質定数。電流 I(A)の通じている電気抵抗 R(Ω)の導体の両端の電圧は，オームの法則 $V=IR$(V)で与えられる。逆に電圧 E(V)を与えたとき流れる電流は $I=\frac{1}{R}E$(A)であり，$\frac{1}{R}=G$ と置くと，$I=GE$(A)となる。G をコンダクタンスとよび，単位シーメンス[S]を用いる。G は導体の長さ l(m)に反比例し，断面積 A(m²)に比例するので，比例定数 σ を用いて $G=\sigma\frac{A}{l}$ と表わすことができる。この σ を導電率という。単位は[S/m]である。また，$1/\sigma$ を比抵抗または抵抗率*とよんで，同様な目的に用いている。代表的な物質の導電率は図のとおりである。〔堀内和夫〕

とうど 【陶土】 単味焼成，すなわち他の原料と混ぜ合わすことなく単独で高温に熱すると磁器になる性質をもった粘土状の岩石。非常に微粒子のシリカ*鉱物とセリサイトまたはイライト(両者とも微晶質のシロウンモ)とが主成分であるが，一般にはやや粗粒のセキエイやオウテッ鉱などを含んでいる。粗粒のものは水簸(すいひ)によって取り除く。陶磁器や耐火れんがの調合原料として用いられている。新潟県村上市付近から産する村上粘土はその例である。

とうどうたかとら 【藤堂高虎】 (1556～1630) 安土桃山・江戸初期の武将。近江(おうみ)(滋賀県)の出ではじめ浅井長政(ながまさ)に仕え，次いで羽柴秀長(はしばひでなが)・秀俊(ひでとし)に仕え，文禄・慶長の役*に功を立てた。秀俊の死後は出家して高野山にはいったが，秀吉に召し返され，伊予(いよ)(愛媛県)板島七万石を与えられた。関ケ原の役*・大阪の陣*には徳川方に属して功があり，しだいに加増されて伊勢(いせ)(三重県)安濃津(あのつ)三十二万四千石の大名となった。その子高次に与えた掟書(おきてがき)19か条は高虎の遺訓として有名である。〔岡山泰四〕

どうとく 【道徳】 道徳の語源であるギリシア語エートス，ラテン語モレス(モラル)は〈習性〉を意味した。これが義務と解されるようになると，さまざまな共同体，社会の成員の行動様式として固定され，〈慣習〉に近い意味をもつに至った。法律とは異なり，道徳には国家による強制はないが，それに違背した者は他の成員から事実上，法律におけると同様，強制的な圧迫を受ける。ストア派以後ますます内面化の傾向をたど

り，カントでは狭義の道徳は意志と道徳法則との一致として法律に対立させられ，最高の道徳とは行動の動機と義務の理念の合致にあるとされる。ヘーゲルは民族の秩序としての広義の道徳と，自己や環境との関係を反省する個人の制限された道徳とを区別し，後者の個人道徳は世界史全体の流れからみれば，英雄や情熱よりも下位に置かれねばならないと説く。ニーチェはさらに極端な立場をとり，ヨーロッパの従来の道徳は生の力の発展を阻害する諸力，弱者が自己保存を図るために案出したものであるとし，強者の道徳〈力への意志〉を説いた。〔玉井　治〕

どうとくきょういく　【道徳教育】　教育の一領域。家族・学校，その他の社会的な集団あるいは個人が，自己の成員あるいは個人に対して，しつけ・規律の訓練を施し，道徳的な諸価値や判断力を与えることによって，一定の行動様式を身につけさせるもので，単に徳育とよばれることもある。封建社会においては，主として家族や地域社会などが，生活や生産の活動を通じてこれを行ない，宗教の及ぼす影響も大きかった。近代以降，公教育制度*の成立・発展に伴い，しだいに道徳教育は学校教育の大きな役割の一つとみなされるに至った。1872年（明治5）の学制発足から1945年（昭和20）の第2次世界大戦の敗戦直後まで，道徳教育は修身科*を通じて徳目の注入という形で実施されてきた。その後，修身科が停止されるに及び，道徳教育は新設の社会科を中心として，学校の教育活動の全般を通じて民主主義道徳の育成をめざした。朝鮮戦争（1950）を境に，国家主義的な道徳教育の振興が図られ，文部省はその線に沿って〈道徳教育の手引要綱〉を発表している。その後，1958年日本教職員組合*や民間教育諸団体の反対にもかかわらず，特設〈道徳〉が実施され，十分な効果をあげることができず，今日に及んでいる。道徳教育は，あくまで人権尊重の立場から，民主的道徳の諸価値を正しくかつ具体的にとらえ，それを通じて，一定の道徳的知見や自主的な判断力と行動様式を養成するのが望ましい。〔佐藤英一郎〕

どうとんぼり　【道頓堀】　大阪市南区の南西部，道頓堀川沿いに日本橋南詰めから御堂筋（みどうすじ）まで東西に連なる地区。道頓堀川は東横堀川と木津川を結ぶ延長2.5kmの運河で，河内（かわち）の人安井道卜（どうぼく）と，そのいとこの安井道頓によって1615年（元和1）に完成したのでこの名がある。また，江戸時代には道頓堀川南岸に歌舞伎（かぶき）・浄瑠璃（じょうるり）・からくりなどの興行小屋が軒を並べ，近松門左衛門（もんざえもん）や竹本義夫夫（ぎだゆう）が活躍した元禄（げんろく）期から享保（きょうほう）期にかけてが最盛期であった。いまも千日前・難波（なんば）・心斎橋筋に隣接して劇場・映画館・飲食店が集まり，〈南〉の代表的繁華街を形成する。

とうなす　【唐茄子】　⇨カボチャ

とうなんアジア　【東南アジア】　アジアの南東部のインドシナ半島とその南東に展開するマライ諸島をいう。かつては多くの民族国家の興亡があったが，近世になって，タイを除いてすべてイギリス・フランス・オランダ・アメリカ合衆国の植民地となり，これをひとまとめにした〈東南アジア〉という地域名が使われだしたのは，第2次世界大戦中に日本軍がここを占領し，戦後にビルマ・カンボジア・ラオス・ベトナム・マレーシア・シンガポール・インドネシア・フィリピンなどの新興の独立国が出現してからのことである。アルプス-ヒマラヤ造山帯と，環太平洋造山帯の会合点としてきわめて複雑な地形を示し，気候的には熱帯モンスーンの支配下にあるいわゆる〈モンスーン-アジア〉である。民族的にはインドシナ系とマライ系に大別されるが，それがさらに細かく分かれていて複雑であり，ヨーロッパ人の勢力は後退したが，中国人やインド人などの移住者も多い。おもな産業は農業で，米の水田耕作，原始的な焼き畑，ゴムなどを主とするプランテーションの三つの形式の農業が行なわれ，スズ・鉄・ボーキサイト・石油などの地下資源も豊かであるが，工業は発達していない。第2次世界大戦前から日本の勢力が強く，また有力な市場であって，現在も日本商品の氾濫（はんらん）が反感を買っているほどであるが，政治的にはアメリカ合衆国の進出が目だち，中国もまたこの地域に大きな関心を払っている。ただしインドシナ半島におけるアメリカの勢力は，1975年のベトナムにおける敗戦によって，完全に後退し，1977年にはベトナム攻撃の基地となっていたタイからも，アメリカ軍は全面的に撤兵した。経済的に東南アジアを支配しているのは，中国人の移民である華僑*（かきょう）である。総人口は1975年国連調査の各国の年央推計人口を合計すると，3億2,082万となる。〔浅井得一〕

とうなんアジアおんがく　【東南アジア音楽】　インドシナ半島および東インド諸島の音楽。インド方面と中国方面からの影響が強く，ほぼ全域に広まっているのは仏教音楽であり，ほかにヒンズー文化・イスラム文化・漢文化の痕跡（こんせき）が楽器や音楽・舞踊・演劇のレパートリー，さらに音楽理論の中に多かれ少なかれ残っている。インドシナ半島，特にタイ・カンボジア・ベトナムでは仏教音楽が根強い一方，小編成の合奏音楽がさまざまな形態で行なわれている。島部で目だつのはジャワ島とバリ島の金属製旋律打楽器を中心とするガムラン音楽*で，この合奏形態と明らかに関係をもっていると思われるのが半島部の木琴と金属製旋律打楽器中心の合奏，およびフィリピンの木琴を欠く類似の合奏音楽である。全体に柔和な音色とゆるやかなテンポの変化を好むといえるが，バリのガムラン音楽はこの点では例外である。〔山口　修〕

とうなんアジアじょうやくきこう　【東南アジア条約機構】　South East Asia Treaty Organizationの訳。略称SEATO（シアトー）。東南アジア集団防衛条約に基づき，アメリカの主唱で創設された反共防衛機構。1954年9月マニラで調印され，1955年2月発効。加盟国はアメリカ・イギリス・フランス・タイ・フィリピン・パキスタン・オーストラリア・ニュージーランドの8か国。インドシナ戦争（1946～1954年，ベトナム民主共和国がフランスに対して行なった独立戦争）でフランスの敗北が必至とみられたとき，ベトナム民主共和国・中華人民共和国の影響が隣接地域に拡大することをおそれたアメリカが，共同防御体制の確立を呼びかけて設立された。したがって，共産勢力の武力侵略ばかりでなく，政治的破壊活動をも共同で阻止しようとする点に主眼がある。最高機関の理事会（少なくとも年1回），これを代行する理事会代表部があり，また政治本部・事務局がバンコクに設置されている。ベトナム戦争*激化後は，フランス・パキスタンが離反，イギリスも消極的になったなどのため活動機能は低下，1977年解散した。〔広部和也〕

とうなんアジアしょこくれんごう　【東南アジア諸国連合】　Association of South East Asian Nations　略称ASEAN。1967年8月，バンコクで開かれたタイ・マレーシア・シンガポール・フィリピン・インドネシアの5か国閣僚会議で設立が決定された地域協力機構。これは1961年2月，タイ・マラヤ連邦・フィリピン3か国で設立された東南アジア連合（Association of South East Asia，略称ASA）を発展的に解消し，地域協力により，①経済の発展，社会の進歩，文化開発，②技術・科学・行政の各分野における相互援助，③域内天然資源の活用，④貿易・通信面での共通問題の研究などを行なうことを目的としている。機構としては，毎年1回の外相会議と各種常設委員会がある。1971年11月27日に，5か国外相会議は〈東南アジア地域を域外大国の干渉を受けない平和・自由・中立地帯とするための努力をする〉とのクアラルンプール宣言を採択している。〔深海博明〕

とうにゅう　【豆乳】　ダイズを水につけたのち，水びき（水を少量ずつ加えながら粉砕機にかける）し，これに水を加えて加熱し，布袋でこした乳濁液をいう。残ったかすがおからである。ダイズのタンパク質・脂肪を含み，さらにビタミンB_1を含んでいるので栄養価が高く，外国では牛乳の代用に用いるところもある。しかしわが国ではそのまま飲むことは少なく，これに凝固剤を加えて豆腐*をつくることが多い。

どうにゅう　【道入】　京都楽家の第3代。楽焼*の初期の系譜は必ずしも判然としたものではないが，2代常慶の子で，はじめ吉

兵衛(よしべえ)と称し，剃髪(ていはつ)してからは道入とよばれた。異名〈のんこう〉で知られる。楽代々のうちでも最も技巧にすぐれ，世に〈のんこう七種〉〈のんこう加賀七種〉〈のんこう後窯(あとがま)七種〉として知られる楽茶碗(らくちゃわん)の傑作を生んだ。作品には〈自楽印〉と称される〈楽印〉を印する。

とうにゅうさんしゅつぶんせき 【投入産出分析】 ⇨産業連関分析

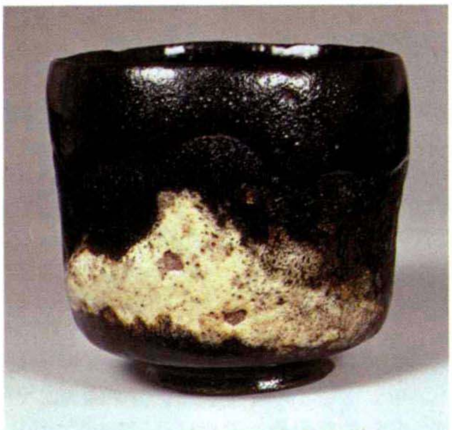
とうにょうびょう 【糖尿病】 インシュリンの分泌量の不足または作用の不足によって全身の代謝が障害される病気。遺伝的素因のある人に，太り過ぎ，感染症，妊娠のくり返し，精神的ストレスなどの誘因が加わって発症すると考えられている。典型的な症状としては，全身がだるい，のどがかわく，尿が多量に出る，食欲があるのにやせてくる，できものができやすい，性欲が衰えるなどがあげられるが，軽症のものではほとんど無症状である。またいろいろな合併症を伴い，腎臓(じんぞう)・網膜・末梢(まっしょう)神経が侵される糖尿病性腎症・糖尿病性網膜症・糖尿病性神経症がある。なんらかの機会に尿に糖が証明されて発見されることが多く，ブドウ糖負荷試験による血糖検査と，遺伝歴や合併症などから糖尿病と診断される。治療の中心は食餌(しょくじ)療法で，1日の食餌量を標準体重あたり25〜35Calに制限し，その範囲内で栄養のバランスをとることである。そのほか，内服薬やインシュリン注射が病状に応じて用いられる。〔安沢龍徳〕

とうねん 【当年】 鳥類・シギ科。全長15cm前後の最小級のシギ。名まえは当年生まれの子のように小さくかわいいことによる。夏羽は胸・顔・上面が美しい赤かっ色，腹部が白色，冬羽では下面白色，上面が灰紫色。春・秋の渡り期に川原や干潟(ひがた)に普通にみられる。近縁のものにヒバリシギがあり，これはトウネンとほぼ同大であるが，体つきは細めで脚も長めである。また，下面は白色，夏・冬羽とも上面は赤みの少ないかっ色で，トウネンに比べて草のはえた湿地を好む。

とうのさわおんせん 【塔ノ沢温泉】 神奈川県足柄下郡箱根町にある温泉。泉温43〜65℃，泉質は単純泉で神経痛・婦人病・リウマチなどにきくといわれる。早川の渓流(けいりゅう)を上った渓谷にあり，閑静な家族向きの温泉で，早川の対岸には県立箱根観光会館がある。交通は箱根登山鉄道で塔ノ沢駅下車が便利。

とうのみね 【多武峰】 奈良盆地の南東隅(ぐう)，龍門(りゅうもん)山地中央の丘陵で，奈良県桜井市に属する。藤原鎌足(ふじわらのかまたり)を祭る談山神社があり，付近は秋の紅葉が美しく，参詣(さんけい)と行楽の客でにぎわう。

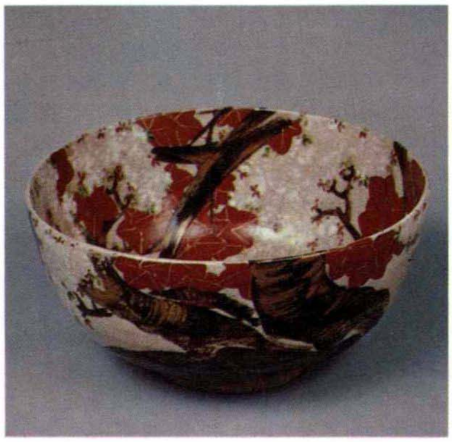
とうのみねのしょうしょうものがたり 【多武峰少将物語】 平安初期の日記文学。《高光日記》ともいう。藤原高光の突然の出家がひき起こしたその一家および周辺の人人の悲嘆を，高光・妻・妹などの贈答歌・消息類を材料につづったもの。当時の貴族生活を示す作品といえる。筆者は高光の妻の側近の女性と考えられ，成立は高光の出家(961)後まもなくであろうと思われる。



道　入《黒楽茶碗》銘残雪



トウネン



道　八《色絵桜楓図鉢》東京国立博物館蔵

どうはかん 【導波管】 中空の導体筒でできたマイクロ波伝送路。方形導波管・円形導波管などがある。他の導体に比べて，抵抗・減衰が小さく漏洩(ろうえい)がないのが特徴である。おもに，1キロメガヘルツのマイクロ波帯発振器からアンテナまでの回路に用いる。一種の高域フィルターで，導波管の形状によって定まる特定の周波数(遮断(しゃだん)周波数)があり，それ以上の周波数の電波は伝送しない特性をもつ。

とうばくうんどう 【討幕運動】 江戸末期に起こった江戸幕府打倒のための政治運動。狭義には武力による討幕を意味し，比較的穏健な大政奉還(公議政体論)運動とは区別されるが，広義には両者を含めていい，倒幕運動と書くこともある。討幕運動は，薩英(さつえい)戦争・下関(しものせき)事件などを経て，開国路線をとるに至った長州・薩摩両藩の討幕派が勢力を盛り返したこと，および，1866年(慶応2)の薩長同盟の成立によって本格化した。これに対して幕府・土佐藩を中心とする公議政体派は大政奉還を推進したが，第2次長州征伐(→長州征伐)の失敗，討幕の密勅(徳川慶喜(よしのぶ)追討の詔勅)を経て，戊辰(ぼしん)戦争で完全に敗北したため，討幕派が維新政府の主導権を掌握するに至った。→尊王攘夷(じょうい)運動

どうはち 【道八】 京都粟田口(あわたぐち)の陶家高橋家各代の通称。初代は伊勢(いせ)(三重県)亀山(かめやま)藩士の子弟で，京都に遊学して陶工を志したといわれる。一般に，道八として知られる名工は2代の仁阿弥(にんなみ)道八(1783〜1855)で22歳で家督を継ぎ，奥田穎川(えいせん)に陶芸を学び，しだいに京焼を代表する陶匠となった。作品は多種多様であるが，彫塑的な作品と雲錦手(うんきんで)とよばれる色絵陶に独自の陶境を築いた。

どうはんが 【銅版画】 版画の一種。銅版上に図柄を凹刻(おうこく)し，それを刷り取るもので，美術的な版をいうことが多い。素材には，古くは鉄板が用いられ，鋼鉄板や亜鉛板も使用されている。銅版画の技法は，素材に彫り込む方法によって①手工的に版を作成するものと，②腐食薬剤を用いるものとに大別される。①の代表的な方法であるライン-エングレービングは，尖刀(せんとう)(ビュラン)を用いてみがいた銅板の上に直刻するものであるが，刷り上がった作品は強いかたい感じになる。この方法に属するドライポイントは鉄筆で軽い凹部をつくるもので，弱い調子の仕上がりになる。また，メゾチントは，鋸歯(きょし)状ののみ(ロッカー)で版上にあらかじめ無数の凹部をつくり，それを金属の鏝(こて)(スクラッパー)でつぶしながら，明暗の調子段階をつくるものである。ライン-エングレービングが最も盛んに用いられているのはアメリカで，もと有価証券の類はこの方法でつくられた。この技法は1806年ごろフランスでくふう創作されたものといわれる。②の代表的なものにエッチングがある。これは版上の防食被覆(グラウンド)を破って鉄筆で線描するものである。また，エッチングより柔らかい線を出すソフト-グランド-エッチングや，樹脂粉末などの防食材を必要な部分に散布して，面腐食をつくるアクアチントもこれに属する。しかし，これらの技法は混用されることが多く，さらに①②の技法を併用することもある。なお，色エッチングはアクアチントの技法によること

が普通である。銅版画は西洋中世に興ったといわれ，デューラー*・レンブラント*らがすぐれた作品を残している。わが国には，安土桃山時代に，いわゆるキリシタン版とともに伝えられ，江戸時代には司馬江漢*・亜欧堂田善*らがこの技法を行なっている。〔小野忠重〕

とうばんかいめいひ【唐蕃会盟碑】 中国，唐と吐蕃(とばん)との和平内容を記した碑。安史の乱後，交戦状態にあった唐と吐蕃との間に和平の機運が生じ，822年唐の穆宗(ぼくそう)皇帝と吐蕃王チックデツェンとの間に平和条約が結ばれた。これを唐の年号によって長慶の会盟というが，その会盟の内容を漢文・チベット文で記したのがこの碑で，823年ラサに立てられた。

どうはんしゃさっか【同伴者作家】 ソビエト1920年代に活躍した一群の非共産主義作家をさし，プロレタリア作家・農民作家と対比していう。命名者であるトロツキー*や雑誌《赤い処女地》の編集者ボロンスキーらは，共産党の性急な政治主義的干渉を排して，これら一群の作家を批判的に擁護した。ピリニャーク・レオーノフ・ベショールイ・バーベリら多士済々(せいせい)で，1920年代の文学界では，作品の量・質ともにプロレタリア作家を圧していた。しかし1930年代にはいり，文学界再編の動きの中で，粛清されたり，ソビエト作家同盟*に編入されるなどして，このことばは消滅する。日本でも昭和初期に一部の作家たちをさすのに用いられた。➔ロシア-ソビエト文学

とうひ【唐檜】 裸子植物・マツ科。本州亜高山地帯に自生する常緑高木で，エゾマツの変種。幹は高さ20～30m，直径60cmに達する。樹皮は赤かっ色で割れ目ができ，不規則にはげ落ちる。枝は赤かっ色で無毛，葉が密につく。葉は線形で長さ1～1.5cm，幅2mmほど，先が少し曲がり，裏に白色の気孔線がある。葉の落ちたあとは少し高くなっている。雌雄同株。球果は長楕円(ちょうだえん)形で，長さ4.5～5.5cm。種子に羽がある。材は建材・パルプに用いられる。

とうひきゅうすう【等比級数】 数列*$\{a_n\}$において，となりあう2項の間に，$a_{n+1}=a_n r$ ($n=1，2，3，\cdots\cdots$)がなりたつとき，この数列を等比数列または幾何数列といい，rをその公比という。たとえば，数列1，2，4，8，……は，初項1，公比2の等比数列である。等比数列の第n項a_nは初項a_1と公比rを用いて$a_n=a_1 r^{n-1}$と表わされる。等比数列$\{a_n\}$の各項を順次加えたもの，すなわち，$a_1+a_2+\cdots\cdots+a_n+\cdots\cdots$を等比級数または幾何級数という。初項$a_1$，公比$r$，項数$n$の等比級数の和$S_n$は，次のように表わされる。

$$S_n=a_1+a_2+\cdots\cdots+a_n = \begin{cases} \dfrac{a_1(1-r^n)}{1-r} & (r\neq 1 \text{のとき}) \\ na_1 & (r=1 \text{のとき}) \end{cases}$$



胴　服　紅地雪持柳辻が花染胴服(上杉謙信所用，戦国時代)上杉神社蔵

また，$|r|<1$のときには，無限等比級数$\sum_{k=1}^{\infty} a_1 r^{k-1}=\lim S_n$は$\dfrac{a_1}{1-r}$に収束*する。

➔級数〔菊池兵一〕

とうひすうれつ【等比数列】 ⇨前項

とうびょう 憑物*(つきもの)の一種で，人間に憑くと信じられる小動物。四国から中国地方にかけて分布する。〈とんびょう〉〈とんべがみ〉〈とんぼがみ〉ともいう。その正体については，伝承に地方差があり，目に見えない小さなキツネとも，また頭に白あるいは黄色の輪のある10～20cmぐらいのヘビとも伝える。これを代々飼っている家があり，それを〈とうびょうもち〉といって特殊視し，一般に縁組みをきらう。とうびょうを飼うことによって金持ちになったとか，飼い方が悪いと零落するといい，また外部の者がその家に悪意をいだくと，その者にとり憑くと信じられている。憑かれると急性神経痛のような症状になり，医者にかかってもなおらず，それを落とすために祈禱師(きとうし)や巫女(みこ)が活躍した。〔直江広治〕

とうふ【豆腐】 ダイズ加工製品の一種。漢の高祖の孫，淮南(わいなん)王劉安(りゅうあん)(BC122年没)がはじめてつくったといわれ，少なくとも2,000年は経過している食品である。わが国には奈良時代遣唐僧らがもたらしたと伝えられる。この歴史から豆腐の異名を〈淮南〉という。

ダイズを一晩水につけ，少量の水を加えながら粉砕機にかけてどろどろの状態にする。これにさらに数倍の水を加えて加熱する。これを呉という。これをさめないうちに布でこし，絞りかす(おから)を分けて豆乳*をとる。さらに豆乳がさめないうちに凝固剤として硫酸カルシウム(すまし粉という)を水にとかしたものを適量加え，静かに放置してタンパク質を凝固させる。この凝固物をくみとって，周囲に穴のあいた型箱に薄い布を敷いてその中に流し込み，ふたとおしをして水を切る。それを水の中に型箱のまま入れ豆腐を取り出して水中にしばらく置き食用に供する。凝固剤として昔はもっぱら苦汁(にがり)が用いられたが，いまは硫酸カルシウムに変わった。このようにしてつくるものを普通豆腐，またはもめん豆腐とよぶ。これに対し，絹ごし豆腐というのは，普通豆腐より濃い豆乳をつくり，これに凝固剤を加えて，水を切らずに全体を固めたもので，舌ざわりが柔らかい。また，濃い豆乳をさましてから凝固剤といっしょにポリエチレンまたは塩化ビニリデンフィルム製の袋に入れ，密封したのち加熱凝固させた袋入り豆腐という製品も出回っている。

豆腐は水分88%と多いが，タンパク質を6%，脂肪も3.5%程度含み，かなり栄養価が高く，かつ消化のよいすぐれた食品である。料理法はきわめて種類が多く，豆腐が主役をなすものに，豆腐じる・湯豆腐・冷ややっこ・八杯豆腐・あんかけ・いり豆腐・白あえなどがある。また，寄せなべや空也(くうや)蒸しにも加え，さらに多くの中国料理の重要な原料となる。豆腐の加工品には，焼き豆腐・油揚げ・がんもどき・凍り豆腐*(高野豆腐)・湯葉*などがあり，副産物に卯(う)の花*(きらず・おからともいう)がある。〔佐藤友太郎〕

ドゥフ［duff］ アラブ系諸国で使われる片面枠太鼓(わくだいこ)。タール・ベンダイル・タンバリンなどともいう。民俗合奏音楽でリズムを担当する楽器として重要である。わくに金属の鈴をつけたものもあり，ヨーロッパのタンバリン*の起源とされている。

とうぶがいしょう【頭部外傷】 外力による頭部の損傷。臨床的には，開放性損傷と閉鎖性損傷とに区別される。前者は鋭利な力による外傷(銃創・切創・打撲(だぼく))によって起こりやすく，後者は鈍力による外傷(衝突・墜落・打撲)で生じる。また，頭部外傷による障害には，脳震盪*(のうしんとう)・脳挫傷(のうざしょう)・脳圧迫など外傷の直接的影響による急性期の障害と，急性期以後なんらかの症状が残る後期の障害(頭部外傷後遺症)に区別される。後者は，外傷性てんかん*のほか広範な損傷の場合にしばしば性格変化がみられ，さらに重篤な損傷や老人の場合には極端な人格水準の低下や欠陥状態に至る種々の移行段階がみられ，無欲・自発性減退・鈍感・易憤怒性・衝動性・迂遠(うえん)性などの傾向を示す。以上のような器質的後遺症のほかに，機能的後遺症として外傷に直接の原因がないにもかかわらず，これが契機となって心理的要因が加わり，頭痛・めまい・耳鳴り・集中力低下・気力減退などの一般頭部外傷症状と判別しにくい心気神経衰弱状態が続く外傷性神経症の形をとる場合も多い。〔鈴木敏生〕

どうふく【胴服】 室町時代から江戸時代初期に，武士が冬の防寒用にはおり着た衣服で，長着*形とそでなし形とがあった。これに当時渡来した南蛮の衣服文化を取り

入れ，えりを前身の表に折り返したり，えりに違う布を使ったりして，種々なデザインがつくられ，用布も綾(あや)・緞子(どんす)・羅紗(らしゃ)などが使われた。これが一方では全体を一種の布でつくり，羽織*とよばれて現代の形に固定し，他方では陣胴服・陣羽織*と称してよろいの上や戸外で着るものに発展した。〔堀越すみ〕

とうふくじ【東福寺】 京都市東山区本町にある臨済宗東福寺派の大本山。慧日(えにち)山と号す。京都五山の一。1236年(嘉禎2)九条道家が円爾(えんに)弁円を開山として創建し，東大寺・興福寺にちなんで各1字をとり寺号とした。1265年(文永2)一条実経(さねつね)，1279年(弘安2)北条時宗(ほうじょうときむね)らが寺領を寄進し，次いで足利(あしかが)・豊臣(とよとみ)・徳川諸氏の保護を受けて諸堂を修復した。江戸時代に寺領千八百五十石を給された。1881年(明治14)失火で仏殿・方丈などを焼失したが，三門(国宝)，禅堂，東司(とうす)・月下門など室町時代の遺構は残った。特に三門は大仏様を伝え，現存する最古のものである。なお国宝の《無準師範像》など寺宝が多い。〔杉坂靖子〕

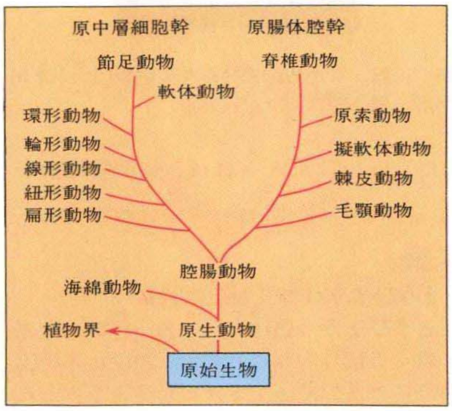
とうふくもんいん【東福門院】(1607～1678) 後水尾天皇の中宮。名は和子(かずこ)。徳川2代将軍秀忠(ひでただ)の娘，母は浅井長政(ながまさ)の娘徳子。1620年(元和6)女御*として入内(じゅだい)，1624年(寛永1)皇后に冊立(さくりつ)，明正天皇*をはじめ2皇子・5皇女を生み，後光明天皇*・後西天皇*・霊元天皇*の養母となった。1629年院号を宣下されて東福門院と称した。将軍の娘の入内は，源頼朝(よりとも)が鎌倉幕府を開いて以来はじめてのことであった。〔岡山泰四〕

どうふけんみんぜい【道府県民税】 ⇨住民税

どうぶつ【動物】 植物とともに生物を構成する大きな一群。特に顕微鏡で拡大しなければよく見えないような単細胞動物は，細菌や一部の菌類・藻類(そうるい)などとともに微生物とよばれることもある。現在地球上には100万種以上の動物がいると考えられている。アリストテレス*は，動物の特徴として植物と同じく栄養作用をもつほかに，感覚作用と運動作用のあることをあげた。これは確かに一般的な区別ではあるが，被刺激性ということは動物に限らず原形質の根本的な性質であり，運動性も植物でもみられる現象であるばかりか運動しない動物もあり，これだけですべての動物・植物を一様に区別することはできない。ごく下等な種類を除けば，感覚や運動と関連して神経系が発達していることが動物の特徴といえよう。また，動物を植物と区別するためには，生物進化の2方向のいずれに位置するかということによって判断するが，動物・植物の分岐点に位置していずれともいえない鞭毛虫(べんもうちゅう)類のような例もある。



東 福 寺 法塔(禅堂)



動　物 系統樹

【進化】 地球上にどのようにして生物ができ，それがどのような経過をたどって現在のような動物と植物になったかという問題は古くから考えられ，いろいろな論議がある。いずれにしても，地球上に最初から現存のものと同じ生物がいたとは考えられず，まず原始生物ができ，それが動物と植物に分かれ，長い時間を経ていわゆる下等な生物から高等なものへと進化する間に，体制や行動も複雑化したと考えられる。動物の化石は原生代の地層からはほとんど発見されず，古生代にはいって現在みられる動物界の各門に相当する種類が，ほとんど全部出現する。このため，各門の類縁関係を化石だけで決めることはできない。ただ，初期の動物はみな海水中にすんでいたこととと，現存の動物の体液の組成は海水と強い類似性をもつこと，海にはほとんどすべての門に属する動物がすみ，棘皮(きょくひ)動物・原索動物のすべてと一部を除く腔腸(こうちょう)動物が海にだけいることなどから，動物の起源も海であると考えてよいだろう。

動物の中で最も下等なものは，体が単細胞からなる単細胞動物(原生動物)の仲間で，これが動物進化のはじまりである。原生動物のうちで鞭毛虫類のあるものが集まって群体をつくり，個体間に有機的な連絡をもつようになったものの一つが海綿動物で，これは進化の道筋からそれて現在に至っている。もう一方はその後の進化のもとにもなった腔腸動物で，体は高等動物の内・外胚葉(はいよう)と相同な2層からなっており，筋細胞・神経系なども発達している。もっとも，この神経系は網状に張り巡らされているだけで中枢はなく，運動も緩慢である。腔腸動物以上に発達した動物は第3の胚葉である中胚葉が加わるが，この中胚葉の起源に2通りあることから，原中層細胞幹と原腸体腔幹という二つの大きな枝に分かれて進化すると思われる。原中層細胞とは，発生の初期に原腸陥入が起こったときに，原口をはさむ1対の大きな細胞のことで，これが分裂して中胚葉をつくる。原中層細胞幹に属する動物は，扁形(へんけい)動物・紐形(ひもがた)動物・線形動物・輪形動物・環形動物・軟体動物・節足動物などである。一方，原腸の壁がふくらみをつくったものが中胚葉となる仲間が原腸体腔幹で，毛顎(もうがく)動物・棘皮動物・擬軟体動物・原索動物・脊椎(せきつい)動物などがこれに属す。

《系統と個体発生》 動物進化の状態を探る手段の一つとして，個体発生のようすを調べることも重大な手がかりとなる。動物の卵が発生して成体になるまでのようすをみると，動物の進化の経過すなわち系統発生の道筋とよく似ていることがわかる。個体発生が系統発生を短縮・省略してくり返すという考えを反復説といい，中には矛盾もあるが，成体では違った形態を示す動物も発生初期の胚はよく似ていたり，軟体動物と環形動物の幼生は同様にトロコフォラ幼生といって，それらが密接な関係をもつことを物語っているなど，動物の系統上の類縁を知るうえに大きな手がかりとなっている。

【分類】 100万種以上に及ぶ動物をその類縁関係に応じて区別するのが分類で，動物学はまずこの問題から始まったといってよい。アリストテレスはおよそ500種の動物を有血・無血の二大群に分け，それぞれを4類に分けて分類の基礎をつくった。その後，リンネ・ラマルク・キュビエ・ロイカルト・ハックスリー・ヘッケルら，多くの生物学者によって研究が進められた。分類の基本単位となるのは種であり，そのうえに属・科・目・綱・門などの段階が設けられているが，このような分け方についても学者によって必ずしも見解が一致せず，分類系も多少異なったものがある。いちばん大きな区分けの単位である門は15～17に分けられるが，その一例を示す。

①原生動物(アメーバ・ミドリムシ)
②海綿動物(カイメン)
③腔腸動物(クラゲ・イソギンチャク)
④扁形動物(プラナリア・ジストマ)
⑤紐形動物(ヒモムシ)
⑥内肛(ないこう)動物(スズコケムシ・ウミウドンゲ)
⑦線形動物(カイチュウ・ハリガネムシ)
⑧輪形動物(ワムシ・イタチムシ)
⑨環形動物(ミミズ・ゴカイ)
⑩軟体動物(イカ・タコ・カイ)
⑪節足動物(こん虫・エビ・カニ)

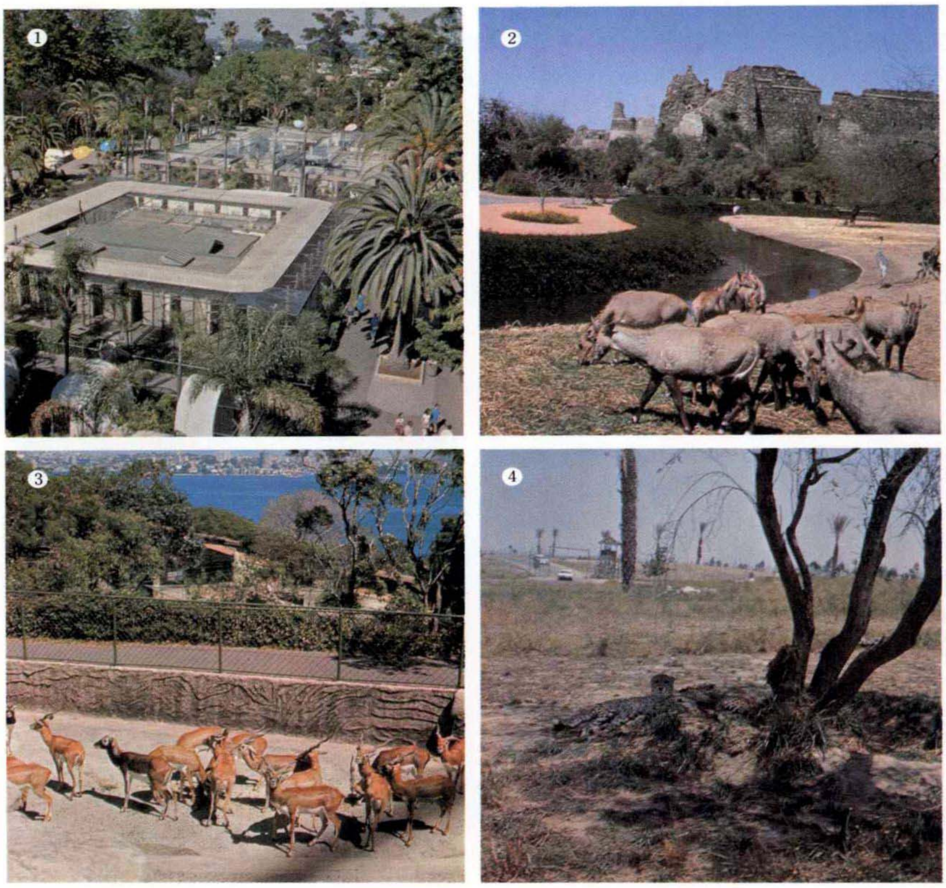
⑫擬軟体動物(コケムシ・ホウキムシ)
⑬毛顎動物(ヤムシ)
⑭棘皮動物(ウニ・ヒトデ・ナマコ)
⑮原索動物(ギボシムシ・ホヤ)
⑯脊椎動物

最後の脊椎動物の例でいえば，この門はさらに円口類・魚類・両生類・爬虫(はちゅう)類・鳥類・哺乳(ほにゅう)類の6綱に分けられる。

〔分布〕動物は地球上のほとんどいたるところにすんでいるが，雑然と生息しているわけではなく，一定の区域に限って決まった種類が生息し，それぞれの環境に適応を見せている。このように分布が限られるのは，種類によって生活に適当な条件があるからで，このことは地球上の過去の歴史と進化の道筋にも関係がある。すんでいる動物群の種類により，世界を動物地理区*に分けることができる。また，垂直的にも分布様式が違うので，高山帯・亜高山帯・低山帯のような区分もでき，さらに水中・湿地・砂漠(さばく)地帯などというような分け方もされる。

〔動物と人間生活〕大昔は，人間にとって食料・衣料から始まったであろう動物への関心も，しだいに範囲を拡大して，愛玩(あいがん)用・観賞用となるもの，使役に供せられるため飼育されるものも増加した。伝染病のワクチンや血清をつくる際にも動物は欠くことのできない材料であり，医学の研究にも大きな役割を果たしている。一方では，ネズミやいろいろなこん虫のように伝染病を媒介し，寄生病の原因やその中間宿主になるような有害な動物も少なくない。いずれにせよ，人口の増加と文明の発達は野生動物の生存を脅かし，しだいに自然の環境は変わっていき，失われつつある動物が多い現在では，野性動物の保護ということが自然保護の大きな問題となっている。

〔蒲原春一〕



動物園 ①サンディエゴ動物園(アメリカ)。世界第一級の動物園で，1916年に創立され，飼育種数約1550 ②デリー動物園(インド)。草食獣や鳥類は広い地域に放たれている ③タロンガ動物園(オーストラリア)。向こうに見える都市はシドニー ④ライオンカントリーサファリ(アメリカ)。ロサンゼルス近郊にあり，園内にライオン・シマウマなどが放たれ，観客は乗用車内で見物する

どうぶつえん 【動物園】 われわれの周囲で普通に見ることのできる動物は別として，世界でもごく限られた地域にしかすまなかったり，変わった形，美しい色，かわいらしい姿をもつ動物などを集めて飼っている施設で，個人が見て楽しむばかりでなく，広く一般に供覧して知識を広めたり，研究の用途にも役だっている。したがって，動物園に飼育される動物は鳥・獣などの高等な動物が多いが，水生動物だけを集めた水族館やこん虫室・爬虫(はちゅう)類室などをも含むものがある。種類・動物数の多いことで世界的な動物園は，西ベルリン・サンディエゴ・ニューヨーク・ロンドン・ワシントン・アントワープ・アムステルダムなどにある。日本では1882年(明治15)に開設された東京都上野動物園が最も大きく，動物の種類数約890種である。東京都日野市の多摩動物公園は1958年(昭和33)の開設で，約200種の動物が展示されている。動物園によっては特色を強く打ち出したものがあり，たとえばスマトラサイが飼育されているのはコペンハーゲン動物園だけであり，サンディエゴ動物園はオーストラリア以外でコアラを繁殖させている唯一の動物園である。展示方法もそれぞれ特徴があるが，昔ながらのさくの中に入れる形式はしだいになくなって，ドイツのハーゲンベック動物園でさくをつくらずに客との間を空堀(からぼり)で仕切って自然に近いパノラマ式を採用してから，各国でこの方法をとるようになっている。世界各国で自然が破壊され，自然保護が強く叫ばれている現在，動物園の大きな任務として動物の保護に努力していることも忘れてはならない。〔蒲原春一〕

どうぶつがく 【動物学】 科学的研究の対象として動物を取り上げる学問。植物学とともに生物学の一分野をなす。動物は，人間にとって食用・衣料用または危険かどうかということが関心をもつはじまりであった。そこで，多くの動物の特徴を知り，種類の見分けということから出発した。したがって狭義の動物学は分類学ならびにそれと直接関係のある分野である。これは，動物の種類によって，脊椎(せきつい)動物学・魚(類)学・こん虫学・原生動物学などに分科し，さらにウマ学・鱗翅(りんし)類学・クモ学などと細分された。このような分類学の発達は，18世紀にリンネ*によっていちおう整えられ，ラマルク・キュビエ・ロイカルトらによってほぼ確立された。進化論が発展するにつれて，分類を進化の系統に基づいて秩序だてる試みがなされ，系統分類学の道が研究されている。このような動物分類学のほか，広い意味の生命現象を扱う目的で，動物という名を冠して解剖学・比較解剖学・発生学・生態学・地理学・生理学などに分科し，形や構造を研究する形態学もさらに細分化して細胞学・組織学・器官学となる。実験的手段を用いる実験形態学も，その内容によっては実験発生学・実験生理学のように呼称される。比較的近年になって，動物心理学・社会学・行動学・生化学などや分子のレベルで生命現象を考える分子生物学などの発達も著しく，これらももちろん動物学の他の分科と密接に結びつきながら進歩しつつある学問である。さらに，他の自然科学の分野である物理学・化学などの最新の知識とも関係をもち，医学・農学・水産学・獣医学などの基礎ともなりながら急速に進歩しつつあるのが動物学である。〔蒲原春一〕

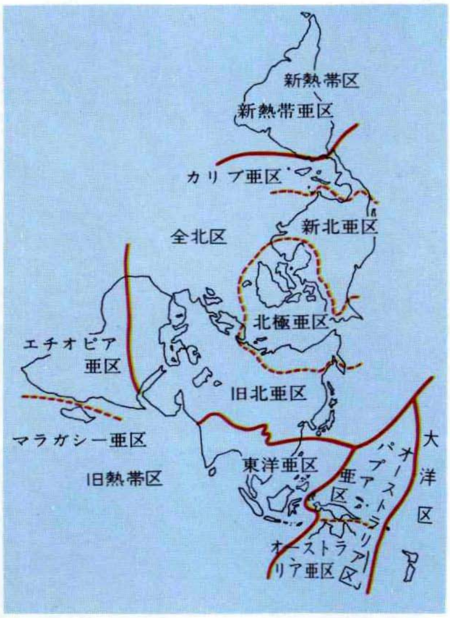
どうぶつきょく 【動物極】 多細胞動物

の卵細胞が形成されるとき，第１次卵母細胞が分裂して第２次卵母細胞となるが，第２次卵母細胞の一方は著しく小さい極体となる。この極体のできる位置が卵の動物極で，卵の主軸の他の一方を植物極という。発生初期の胚(はい)においてもこのような極を考える。ふつう，重力の反対側すなわち上方が動物極であるが，これは植物極側に原形質よりも比重の大きな卵黄物質が多いことによる。なお，このような決め方による動物極と，極体のできる点とは必ずしも一致しないこともある。〔蒲原春一〕

どうぶつけんえき　【動物検疫】 家畜および畜産物を輸出あるいは輸入するとき，家畜伝染病予防のために行なう検疫。輸出入に際してはその動物の種類により一定期間，動物検疫所に係留して，家畜防疫官の検査を受けなければならない。発病した動物は殺処分，病原体に汚染された畜産物は廃棄処分・焼却を命ぜられ，それらを輸送した貨車・船舶・飛行機などの内部も厳重に消毒される。動物検疫所は農林省に属し，横浜市に本所があり，日本各地の港湾・空港などにその出張所がある。〔岡田十九郎〕

とうふつこ　【濤沸湖】 北海道網走(あばしり)市の東部海岸にある潟湖(せきこ)。面積9.3 km²，最大水深2.5 m。海岸との間にある砂州は原生花園として有名で，釧網(せんもう)線はこの花園の中を走っている。網走国定公園に属する。

どうぶつしつひりょう　【動物質肥料】 植物質肥料の対語で，給源が動物界にある肥料。魚かす・肉かす・乾血粉・骨粉・蚕蛹粉(さんようこ)など10数種類あるが，生産量からみて主要なものは魚肥*類と骨粉*類である。一般にリン酸含量が多く，カリはほとんど含まれていない。



動物地理区

どうぶつしんりがく　【動物心理学】 人間以外の動物の行動を研究する心理学の一部門。目的によって，①ある特定の種の行動研究，②行動の系統発生的比較研究，③人間の心理学研究のための道具としての動物行動研究という三つの立場に区別される。いずれにおいても，実験科学的方法(実験的観察)と野外科学的方法(自然観察)が併用され，課題としては，生得的行動・感性過程・学習過程・動機づけ・思考過程・社会行動・異常行動などがあげられる。なお近年，心理学の一部門としての動物心理学と，動物学の一部門としてのエソロジー(行動学)との接近が，特にアメリカにおいて著しい。〔佐藤方哉〕

どうぶつせんい　【動物繊維】 天然繊維の一種で，動物質の繊維の総称。広く動物の生体的な生成物の中で繊維状をなすものをさし，主要なものは獣毛と蚕糸である。獣毛としては緬羊毛(めんようもう)・山羊毛(やぎもう)などのほか，ラクダ科動物の毛，兎毛(ともう)，牛毛などがある。蚕糸としては，家蚕絹・野蚕絹が用いられ，いずれも繭から繰糸される。毛・絹のほか，まれに細い腱(けん)が糸として用いられる。

どうぶつそう　【動物相】 ファウナともいう。ある一定の地域に生息する動物の全種類をいい，植物相(フロラ)とともに生物相を構成する。動物群を分類学的に限定して，こん虫相・哺乳(ほにゅう)動物相・軟体動物相のようにも使う。

どうぶつちりく　【動物地理区】 地球上の全動物相をその構成の類似性で地理区分したとき，特徴ある動物相をもち他と区別できる一定の地域をいう。世界的にみると大きく北界・南界・新界に３区分され，さらにそれぞれの界は区・亜区・地方・亜地方と順次細かく低次のいくつかの単位に分けられている。

どうぶつゆ　【動物油】 動物から得られる油脂のこと。陸産動物油脂(哺乳(ほにゅう)類・鳥類・両生類・こん虫および爬虫(はちゅう)類)と，水産動物油脂(魚油・海獣油・貝油・肝油)とに分類され，前者の大部分が脂肪であるのに対して，後者のほとんどは脂肪油である。また乾燥性の差異もあり，魚油(いわし油など)・鯨油・肝油などの海生動物油には乾性油が多く，牛脚油・羊脚油・馬脚油などの陸生動物油の多くは不乾性油である。動物油脂の主成分は脂肪酸のグリセリドで，そのほかにビタミン・コレステリンなども含有している。一方，動物脂の多くは陸産動物から得られ，ヘッド・ラード・羊脂・馬脂などがある。用途には，魚油の塗料用，肝油のビタミン原料，鯨油のマーガリンやせっけんの原料，またバター・ヘッド・ラードなどのほかに皮革油・機械油などに用いられる。〔岡部平八郎〕

どうぶてい　【道武帝】 (371～409) 中国，北魏(ほくぎ)の初代皇帝。太祖。拓跋珪(たくばつけい)。386年，鮮卑族拓跋部を統合して，前秦(ぜんしん)にいったん滅ぼされていた代国を再興。内モンゴルの盛楽(コリングル)を都とした。五胡(ごこ)の諸国を平定して華北に進出，398年平城*に遷都，国号を魏と改めた。部族制を解散し，官制・風俗を中国ふうに変え，王朝の基礎を固めた。

とうぶてつどう　【東武鉄道】 関東地方の神奈川県を除く１都５県にわたり，地方

世界の動物地理区

界	区	亜区	おもな生物（主として高等動物について）
北界	全北区	北極亜区	トナカイ・シロクマ・ホッキョクウサギ
		新北亜区	ウマ・ラクダの発祥地，哺乳類・鳥類の３分の２は固有種
		カリブ亜区	アライグマ・ポケットネズミ類・ハチドリ
		旧北亜区	カモシカ・ラクダ・ヒツジ・タヌキ・キジ
	旧熱帯区	東洋亜区	メガネザル・オランウータン・テナガザル・ヤケイ・クジャク
		エチオピア亜区	キリン・カバ・ライオン・チンパンジー
		マラガシー亜区	キツネザル・ユビザルなど古い型の動物相が保持されている
新界	新熱帯区	新熱帯亜区	キヌザル・アリクイ・ナマケモノ・アルマジロ・テンジクネズミ
南界	オーストラリア区	オーストラリア亜区	ハリモグラ・カンガルー・カモノハシなど固有種が多い
		パプア亜区	ゴクラクチョウ
	大洋区	ニュージーランド亜区	ムカシトカゲ・キウイ
		大洋亜区	哺乳類は少ない
		南極亜区	ペンギン・アザラシ

鉄道とバス路線網を経営する私鉄企業。1896年(明治29)会社設立以後，東京から伊勢崎(いせさき)，日光方面に至る鉄道建設とともに多くの隣接私鉄を統合して現在の規模となった。伊勢崎線・日光線・東上線など電気鉄道の総営業キロ数は483.6kmで，わが国の私鉄中第3位。根津嘉一郎(かいちろう)の指導の下に積極的な路線拡張を行なうとともに，日光・鬼怒川(きぬがわ)地区をはじめとした観光開発もめざましい。〔青木栄一〕

とうぶんぱいそく【等分配則】 エネルギー等分配の法則ともいう。物質が熱平衡にあるとき，古典統計力学によれば，分子的運動の各自由度に平均して等しい運動エネルギーが配分されていること。すなわち，各自由度の平均としてもつ運動エネルギーは，一般に $\frac{1}{2}kT$(k：ボルツマン定数，T：絶対温度)に等しい。この法則は調和振動子の運動エネルギーと位置エネルギーについてもなりたち，これらを合わせて1自由度あたり平均 kT のエネルギーをもつ。また，N 個の単原子分子からなる気体では $\frac{3}{2}NkT=\frac{3}{2}nRT$($n$：モル数，$R$：気体定数)のエネルギーをもつ。しかし，量子効果の現われる金属内の電子比熱，低温での格子(こうし)比熱などに対しては，この法則は成立しない。〔大岡二郎〕

とうへんついほう【陶片追放】 ⇨オストラキスモス

とうほう【東宝(株)】 日本の代表的映画会社の一。1943年(昭和18)東京宝塚(たからづか)劇場(株)と東宝映画(株)の合併によって創立された。前者は関西の興行資本家小林一三(いちぞう)が東京に進出して設立した会社，後者はトーキー映画の製作会社P.C.L.とJ.O.を中心に創立された会社である。東宝は，映画の製作・配給・興行を一手に行なう単一組織となり，最も大きな資本と近代的な経営で松竹・日活などに対抗した。第2次世界大戦後数年間，いわゆる東宝争議など大争議をくり返して経営不振となったが，その間映画労働運動の中心として民主主義的な映画を送り出した。また，争議中に第三組合から新東宝が独立，そのため大衆映画の領域にいたでを受けた。しかし1950年代になると黒沢明や戦前巨匠による芸術映画が興行的にも成功し，また〈サラリーマン-シリーズ〉や特殊撮影を生かした娯楽映画など，おもに中産階級の好みに合う路線があたって，映画企業中最盛を誇った。1960年代は，製作・配給の面でやや後退したが，直営劇場群をもつ有利さと，他社に先んじた経営の合理化により安定した地位を保っている。東京映画・宝塚映画などの製作会社を系列下に擁する。資本金41億円，営業収入443億円，従業員数1,098(1980年8月)。

とうぼうえんきょう【塔望遠鏡】 主として太陽スペクトルの精密な観測に用いられる望遠鏡。高い塔の頂上においたシーロスタットで太陽を追尾し，その光を塔の建物の中に固定した望遠鏡に導く。この方式を用いると，①恒温の実験室内に設けた大形の分光器を使用できる，②望遠鏡の鏡筒を振り回す必要がないので，焦点距離の長い対物レンズが使え，太陽像を大きくして細かな構造を観測できる，③地上近くのかげろうによる太陽像の揺らぎが避けられるなどの利点がある。〔守山史生〕

とうほうかい【東方会】 昭和初期のファッショ(→ファシズム)的政治結社。1932年(昭和7)中野正剛は立憲民政党から脱党して国民同盟の結成に参加，かつて主宰した思想団体東方会を復活，《国家改造計画綱領》などを公刊した。1936年中野は国民同盟を脱党して東方会を政治結社に改め，翌1937年の総選挙には党員11名が当選，全体主義的単一国民政党をめざし，1940年第2次近衛(このえ)内閣の新体制運動に呼応して振東社・振東塾(じゅく)と改めたが，翌年復活し，東条内閣の弾圧，中野の投獄と出獄後の自殺で会は消滅した。〔高崎徳次〕

とうほうけんぶんろく【東方見聞録】 マルコ-ポーロの東方旅行記。1270年にベネチアを出発し，1295年に帰国するまでの旅程と中国滞在中の見聞を含む。それよりさき，マルコの父は商用で元朝のフビライ(世祖)のもとにおもむき，ローマ教皇あての親書を携えて帰ってきた。マルコは，父が再びフビライに復命するのに同行し，中央アジアを経て陸路中国にはいった。若く聡明(そうめい)なマルコはフビライの信任を受け，中国各地を旅行して見聞を広めた。帰路は泉州からインド洋を経てペルシア湾頭に上陸して帰国した。彼のもたらした異国事情は中世ヨーロッパ人に驚嘆を与え，東方への関心をあおって，後世の影響にははかりしれないものがある。彼の見聞録は，13世紀のアジアの事情をうかがうのに正確で，貴重な資料である。〔小谷仲男〕

どうぼうしゅう【同朋衆】 室町・江戸時代，将軍・大名に近侍し，芸能・茶事のほか殿中の雑役に従った者のこと。茶の能阿弥(のうあみ)，立花の台阿弥，能の観阿弥・世阿弥，作庭の善阿弥などのように阿弥号を称し，本来時宗の僧が従事したところから僧体(僧侶(そうりょ)の姿)であった。江戸幕府では若年寄の支配下で，定員5～7名。殿中における大名の案内，衣服の着替え，弁当・茶の世話などにあたり，将軍の出入りに随従した。1866年(慶応2)廃止。〔高崎徳次〕

とうほうせい【等方性】 結晶その他の固体の性質が方向によって変わらないこと。一般に結晶は方向によってその物理的性質が変わるので等方性ではない。ガラスなどの非晶質は一般に等方性を有する。

とうほうせいきょうかい【東方正教会】 キリスト教の一派。オーソドックスともいう。カトリック教会・プロテスタント教会と並ぶ三大分派の一。東欧諸国・ソ連を中心に分布する。1054年のローマ教皇レオ9世とコンスタンチノープル(イスタンブール)総主教ケルラリオスとの争いが，東西両教会の決定的分裂の時点とされる。オーソドックスの字義どおり，伝統にきわめて忠実である。〈聖書〉のほか，4世紀から8世紀にかけての七大公会議の決定，また初代教父の教えを尊重し，〈ニケア-コンスタンチノープル信条〉を厳格に遵守している。煉獄(れんごく)の存在，聖母の無原罪の懐胎を否認し，中でも教皇の首位権，および不謬(ふびゅう)説をまっこうから否定して，カトリック教会と対立している。儀式にもヘレニズム時代の密儀の色彩が濃く残っていることから，その神秘主義的傾向を東方正教会の特色とする学者も多い。修道院制度の発達も正教の特色で，これは荒野・砂漠(さばく)の隠修士の伝統を継承したものであろう。なお，東方正教会では，カトリック教会における教皇のような中央集権的権威は存在せず，総主教もしくは大主教の管轄下に，各教会が独立自主の立場を有している。現在，イスタンブール・アレキサンドリア・アンチオキア・エルサレム・ブルガリア・ロシア・グルジア・セルビア・ルーマニア・ギリシア・キプロス・アルバニア・ポーランド・チェコスロバキアの自立教会が数えられ，イスタンブール総主教は世界総主教の名誉称号をもつ。信徒数は約1億2,000万。〔石井忠厚〕

とうほうもんだい【東方問題】 19世紀に，オスマン-トルコ帝国が衰退したのに伴って，その支配下にあった諸民族の独立運動が興り，それをめぐってヨーロッパ列強の干渉・対立などが起こったが，それらの国際問題を一括して東方問題という。その動きはすでに18世紀中からあったが，1820年代になると，ギリシアの独立運動に対するエジプトのメフメット-アリーの援助と列強の干渉があり，また1830年代にはエジプトとトルコの対立をめぐってロシアとイギリス・フランスがこれに干渉し，さらにはオーストリア・プロイセンも加わって1840年代まで錯雑な関係が続き，19世紀半ばにはクリミア戦争が起こった。東方問題は，その後もロシア-トルコ戦争からベルリン会議を経て，ドイツのバルカン進出とこれに対応するイギリス・フランスの動きなどへ発展し，20世紀のバルカン問題・近東問題への伏線となった。〔喜多迅鷹〕

とうほくだいがく【東北大学】 国立大学。1907年(明治40)わが国第3の帝国大学として設立。仙台(せんだい)に理科大学，札幌(さっぽろ)に農科大学を設け，二つの分科大学を合わせて発足した。1915年(大正4)医科大学を加えたが，1918年札幌農科大学を分離，翌年帝国大学令による学部制大学に移行，工学部および付属鉄鋼研究所(金属材料研究所の前身)を設置，1922年法文学部を加えた。1949年(昭和24)，東北大学付属

医学専門部・旧制第二高等学校・仙台工業専門学校・宮城師範学校・宮城青年師範学校・宮城県女子専門学校を合併し，新制大学となった。現在，法・文・経・教育・理・工・医・歯・農の９学部と大学院研究科，16研究施設，付属病院などが置かれている。本部は仙台市片平丁75。

とうほくちほう　【東北地方】　奥羽地方ともいう。本州北部の地方で，津軽海峡を隔てて北海道と対する。面積は65,918km^2で，中部地方よりもやや広く，日本の８地方のうちでは北海道に次いで大きい。人口は923万で第５位，１km^2あたりの人口密度は140人で，北海道に次いで低い。面積は全国の18.1％，人口は8.2％にあたる。北海道を除けば日本で最も開発の遅れていた地方で，かつて陸奥（みちのく）とよばれた。古くはアイヌと同系の種族ともみられる蝦夷*（えぞ）の住む地で，奈良・平安時代には中央の威令の及ばないことも多く，中央の勢力下に置かれるようになったのは平安時代の後半になってからである。江戸時代になってから，新田の開発や城下町の建設，産業の振興などが進み，明治以後は米を主とする食糧および労働力の供給地としての役割を果たしてきたが，いまなお後進地域としての性格から脱しきれていない。1975年（昭和50）における東北６県の県民１人あたりの所得も，宮城（17位）・秋田（30位）・山形（32位）・福島（35位）・岩手（42位）・青森（46位）というように，九州地方と並んで全国の水準よりも低い県が目だつ。民俗的にも民間信仰と結びついて特異なものが多く，中門造りや曲家（まがりや）など民家の構造にも特色があり，また東北弁はいわゆる〈ズーズー弁〉としてアクセントに特徴をもち，東北人の気質は〈粘り強い〉とされ，旧陸軍では東北兵は九州兵とともに，精兵をもって知られていた。

【地形】地形の基本は南北に並行して走る３列の山脈と山地である。中央には，高度1,000m内外の奥羽山脈があって，この地方を東西に分け，東の太平洋側には高原状の北上山地と阿武隈（あぶくま）山地，西の日本海側には出羽山地と越後（えちご）山脈がある。奥羽山脈には那須（なす）火山帯が重なっており，八甲田山（1,585m）・岩手山（2,041m）・蔵王（ざおう）山（1,841m）・磐梯（ばんだい）山（1,819）などの火山や，酸ケ湯（すかゆ）・花巻・鳴子・青根・蔵王・上山（かみのやま）・東山などの温泉や，火山活動によってできた十和田湖・田沢湖・猪苗代湖（いなわしろこ）などの湖沼も多い。1970年には秋田駒ケ岳（こまがたけ）（1,637m）が，38年ぶりに噴火し，東北地方としては珍しい溶岩流を伴った噴火として，火山学者の注目を浴びた。奥羽山脈の北部には十和田八幡平（はちまんたい），南部には磐梯朝日の国立公園がある。北上山地と阿武隈山地は，古い地質からなる隆起準平原で，前者には早池峰（はやちね）山（1,914m），後者には霊山（りょうぜん）（805m）・大滝根山（1,193m）などの残丘がある。出羽山地と越後山脈には，鳥海火山帯が重なり，出羽山地には岩木山（1,625m）・鳥海山（2,230m）などの火山があり，出羽山地と越後山脈の間には，出羽三山とよばれる月山（1,980m）・湯殿山（1,504m）の２火山と羽黒山（436m）があって，月山はわが国最大の楯状（たてじょう）火山（アスピーテ）として知られている。奥羽山脈と北上・阿武隈両山地の間には，北上川と阿武隈川が流れ，その流域には東北地方で最も広い仙台（せんだい）平野や北上・福島・郡山（こおりやま）の諸盆地がある。また奥羽山脈の西側には，米代（よねしろ）川・雄物川・最上（もがみ）川・阿賀野川が流れ，それぞれの上・中流には，花輪・大館（おおだて）・横手・新庄（しんじょう）・山形・米沢（よねざわ）・会津の諸盆地，下流には能代（のしろ）・秋田・本荘（ほんじょう）・庄内の諸平野が開けている。北端に下北・津軽の２半島があって陸奥（むつ）湾をはさんでいるのが，東北地方の海岸線でいちばん目だつ出入であるが，太平洋岸も複雑で，特に北上山地が海に迫る三陸海岸はリアス式海岸として名高く，その岩手県の部分は陸中海岸国立公園となっている。三陸海岸の南には牡鹿（おしか）半島があって，仙台湾をいだいているが，それより南の宮城県南部から福島県にかけた海岸線は，比較的単調である。また，日本海岸には，干拓の完成した八郎潟（はちろうがた）のある男鹿（おが）半島のほかは，目だった出入はない。８地方の中で属島は最も少なく，太平洋側には牡鹿半島近海に金華山*や網地（あじ）島*などのいくつかの小島，日本海側には酒田市に属する飛島*と，青森県沖に無人の久六島*があるだけである。

【気候と生物】気温は一般に低く，北部の青森市の年平均気温は9.6℃，中部の酒田市が11.8℃，南部の小名浜（いわき市内）が12.8℃である。このように，気温は北から南へ下るにつれて少しずつ高くなるが，寒流の千島海流の影響を受ける太平洋側より，暖流の対馬（つしま）海流の流れる日本海側のほうがいくらか気温が高く，たとえば仙台市は酒田市よりほぼ1°近く南にあるが，その年平均気温は11.6℃で，酒田市のほうが0.2℃高い。これは千島海流が，関東地方の北部にまで南下するために太平洋側の気温を低くするもので，特に三陸地方では初夏に１～３日ぐらい続けて吹く〈やませ〉とよばれる北東風が千島海流上の冷湿な空気を吹き込み，冷害を起こすことが多い。内陸の盆地は，気温の年較差の大きい内陸性の気候で，たとえば山形市の年平均気温は11.0℃であるが，最低の１月は－1.2℃，最高の８月は24.5℃で，小名浜の１月の3.0℃，８月の24.1℃に比べて，年較差が大きいのが目だつ。山形市はまた，1933年７月25日に40.8℃という日本の日最高気温の最高値を記録しているが，これはフェーン*現象によるものである。降水量は日本海側に多く，たとえば秋田市の年降水量は1,807mmで，太平洋側の仙台市は1,245mmである。日本海沿岸や内陸の盆地では冬に雪が多く，秋田市では積雪の深さ10cm以上の日が年に89日あり，内陸の山形市ではそれが111日に達する。

東北地方は動物の分布上たいせつな地位を占めている。すなわち同じアジアの旧北区*に属するとしても，日本の動物は津軽海峡を境界線として，南方種と北方種に分けられるが，東北地方は南方種の北限であるばかりでなく，北方種でも秋田犬・エチゴウサギ・ヤマウサギ・ヤマイタチ，十和田湖・大館（おおだて）・弘前（ひろさき）地方のゴモクゼミなどが残存している。もともと北海道産のザリガニも青森・秋田・岩手の３県に分布している。また南方種のサル・テン・ツキノワグマ・イノシシ・キジ・ヤマドリなどは，津軽海峡を渡ると見られなくなり，その境界はブラキストン線*とよばれている。しかしイノシシは東北地方ではきわめてまれで，福島・岩手両県に少数が生息するだけである。なお，ウミネコの繁殖地が八戸（はちのへ）市内の蕪（かぶ）島をはじめいくつかあって天然記念物に指定され，特別天然記念物に指定されているものに青森県東津軽郡平内町小湊（こみなと）のハクチョウの渡来地がある。森林はおもに温帯林でブナ帯に属し，針葉樹ではヒバ・スギの美林がところどころにあり，広葉樹はブナ・ナラ・カシワ・クヌギなどが目だつ。ヤブツバキの自生の北限地帯が，青森県陸奥湾夏泊岬（みさき）付近の椿（つばき）山にある。津軽海峡のブラキストン線は植物の分布にもあてはまる場合があり，ヤブツバキのほか，八甲田のアオモリトドマツ，青森県に自生しているカラタチは，北海道には見られない。また海抜1,000～1,400m以上の高地には寒帯林が存在し，高山植物も豊富で，中でも月山や早池峰山にはヨーロッパ-アルプスの代表的な植物とされているエーデルワイスに似たミヤマウスユキソウが分布しているので名高い。

【第１次産業】農業は米の一毛作が中心で，特に秋田・山形・宮城などの各県は水田がよく開け，京浜地方に対する米の重要な供給地となっている。第２次世界大戦後，冷害対策としての品種改良がよく進み，1953年の冷害では，青森県十和田市の農林省藤坂試験地でつくりだされた藤坂５号だけがりっぱに実って評判となったが，その後トワダがこれに代わり，次いでフジミノリが，じょうぶでかつ美味であるという長所をもって出現した。しかし，1967～1969年にかけて1,400万t台の豊作が続いて，全国的に米の供給過剰が問題となっているため，最近は量よりも質が重視されるようになって，ササニシキ・ハツニシキ・ササシグレ・さわのはな・農林21号が，東北地方の各県で食糧庁によって自主流通米として指定されている。1970年から，農林省は米の生産調整を開始し，また総合農政として，米づくりから野菜・果樹・畜産などへの転換を

図り，水田の約20％をこれにあてようとしているが，これは米の単一栽培を主としてきた東北地方の農業に対して，根本的な改革を迫られることになるわけである。農業収入は物価の上昇に比して横ばいの状態で，それを補うために二毛作の困難な東北地方では冬の農閑期における出かせぎが，年々盛んとなり，それがしだいに農閑期以外にも及ぶようになった。世帯主である夫や長男などのほか妻までも出かけ，農業に関してばかりでなく，重大な社会問題となりつつある。米作にかける時間を減らし，肥料もなるべく使わないようにして，生産調整の目標を大きくこえて減産する農家も多くなっており，1971年には，冷害や病虫害もあったが，平年作を100とすると，それをこえたのは青森県の101のみで，他の5県はすべて95以下にとどまり，最低の山形県は90で，これは全国の最低でもあった。米以外の作物としては，冷涼な気候に適した野菜や果樹が栽培されており，青森県のリンゴ(全国の50％)，山形県のオウトウ(79％)・西洋ナシ(49％)は全国一であり(1975)，そのほか，カキでも山形・福島両県が全国の1，3位を占め，モモも福島県が2位，山形県が4位となっている。工芸作物では福島県のタバコが全国の1位，コンニャクが2位，青森県のナタネも全国の1位を占めている。青森県のリンゴは，日本でも最も栽培の歴史が古く，100年をこえているが，経営規模が小さいために，しだいに長野県や同じ東北地方の山形・岩手などの新興の産地に押されており，かつては全国の半ば以上(1958年は52％)を産したリンゴ王国のおもかげは，しだいに失われてきて，1962年や最近では1974年のように全国の47％にまで下がったこともあったが，1975年にはまた全国のちょうど50％になっている。また輸入くだものなどに押されて，リンゴそのものの需要も後退し，1962年以来全国でずっと100万t以上の収穫量を続け，1968年には史上最高の114万tという記録を作ったのに対して，1972年からは100万t台を割り，1974年には85万tにまで下がったが，1975年になって90万tに回復した。リンゴの需要を増すためには，ゴールデンデリシャスとインドリンゴを交配した〈むつ〉などの新品種の育成(1949年，青森県りんご試験場作出)や，イギリスで開発された矮化(わいか)栽培の普及，あるいは共同出荷による合理化などに力を尽くしたりしているが，品種の改良については，色や形ばかりよくなって，リンゴ本来の味は失われつつあるとの批判もある。

牧畜は，ウシ・ウマとも盛んに飼育され，火山のすそ野や原野が古くから牧場として利用されてきたが，最近はウマの需要が減ったので乳牛に転向する農家が多くなった。全国のウマの飼養頭数は，第2次世界大戦後に激減し，1954年にはそれでも全国で102万頭飼われていたのが，1976年にはわずか36,380頭となり，北海道がそのうちの68％を占め，沖縄県・鹿児島県がこれに続き，4位が岩手県(1,430頭)，5位が福島県(500頭)となっている。乳牛の飼養頭数は岩手県が全国で4位，宮城県が13位で，東北6県を合計しても21万2,000頭，全国の11.7％にすぎず，全国的地位はまだあまり高くない。また岩手県では，810頭のメンヨウを飼っているが，メンヨウの飼養が全国的にふるわなくなっている現在では，これでも北海道に次いで全国第2位である。

森林面積は広く，特に米代川流域から津軽半島にかけては，スギ・ヒバ(ヒノキアスナロ)などの良材が多く，秋田のスギ，津軽のヒバは，木曾(きそ)のヒノキとともに，日本三大美林と称せられている。用材の生産量では，岩手県が北海道に次いで2位，秋田県が3位であるが，針葉樹のみについていえば，秋田県は北海道に次いで2位である。かつて盛んであった木炭の生産は全国的に著しく減少しているが，岩手・福島・宮城の3県の生産量はそれぞれ1，2，3位を占めている。

漁業は太平洋岸が盛んで，特に寒流と暖流の出会う三陸沖は，サンマ・カツオ・イワシ・イカなどの好漁場で，八戸・石巻(いしのまき)・塩竈(しおがま)・気仙沼(けせんぬま)などの漁港を根拠地として，全国から漁船が集まり，水産加工も盛んである。八戸の鮫(さめ)港の水揚げ量は北海道の釧路(くしろ)に次いで全国第2位で，年間50万tをこえる。このほか松島湾では，カキ・ノリの養殖が行なわれており，種ガキが国内に出るほか，アメリカ合衆国に向けて多量に輸出されている。日本海岸では，タラ・ハタハタなどの漁業が行なわれているが，その規模は大きくない。

地下資源には比較的恵まれており，福島県の常磐(じょうばん)炭田は，石炭の斜陽化に伴って経営が悪化，1976年についに全面的に閉山し，社会的にも大きな影響を与えたが，銅鉱は昔から豊富で，秋田県のみで全国の51％(1975)を産し，秋田県の花岡(1位)・小坂(3位)，岩手県の釜石(4位)，秋田県の釈迦内(しゃかない)(5位)・尾去沢(おさりざわ)(6位)などの日本の主要銅山が，秋田・岩手両県に集まっている。花岡・小坂・釈迦内などの銅山は黒鉱*鉱床の発見によって活況をとりもどしたのであって，とくに日本の四大銅山の一つとして昔から知られていた小坂銅山は一時低迷していたが，1959年の黒鉱の新鉱床の発見により復活したのである。釜石鉄山は，鉄鉱資源の乏しいわが国では第1の産出量をあげている重要な存在であり，秋田県の石油は一時は全国一の産出量を誇っていたが，いまでは新潟県にはるかに及ばなくなっている。それは主として，わが国では唯一ともいえる世界的な規模をもっていた秋田市内の八橋(やばせ)油田が，急速に衰退したことによるものである。秋田沖における海底油田の開発も，油徴が弱いためにあまり期待ができない。また約半世紀の間，日本最大のイオウ鉱山として栄えていた岩手県の松尾鉱山は，石油精製過程による回収イオウに市場を奪われて，1969年に閉山した。電力はきわめて豊富で，只見川・猪苗代湖・北上川などで開発され，京浜地方へも送られている。福島県の太平洋岸の双葉(ふたば)郡双葉町から大熊(おおくま)町にかけて，東京電力の3基(出力計202万1,000kW)の原子力発電所が稼動中であり，建設中のものがさらに3基(出力計266万8,000kW)ある。またその南の同じく双葉郡楢葉(ならは)町にも，1基(出力110万kW)の原子力発電所を建設中で，宮城県の太平洋岸の牡鹿郡女川(おながわ)町には，東北電力の1基(出力52万4,000kW)の原子力発電所がこれも建設中である(以上1976年末現在)。

〔第2次産業〕工業は他の地方に比して発達が遅れており，工業製品出荷額は6県合計しても全国の3.7％(1973)にしかならない。かつては米沢の絹織物，会津若松の漆器，盛岡の鉄器などの伝統的な家内工業のほか，木材工業や食料品工業がある程度で，最近は各地に新しい工業が興りつつあるが，その多くは分散的で，規模もあまり大きくはない。常磐・郡山，仙台湾，八戸，秋田湾の4地域は新産業都市に指定され，このうち常磐・郡山地域の建設が最も進んでいて，いわき市にはセメント・ガラス・化学肥料，郡山には繊維工業や化学工業が興っている。また八戸のセメント・鉄鋼，釜石の製鉄，秋田の石油化学・パルプなどの工業も重要である。また青森県の太平洋岸では，政府と県の協力によって，〈むつ小川原(おがら)総合開発計画〉が進められているが，住民の移転反対や公害に対する疑惑などがあり，1976年には環境庁が県に対して，環境影響評価(アセスメント)の実施を指示，その結果を公表して住民の意見を聞くことになっており，計画の実現はまだほど遠い状態である。

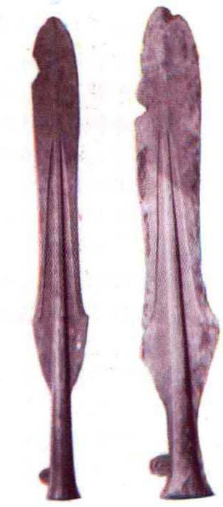
〔交通と都市〕地形との関係で，東西の交通が一般に不便であるが，南北は昔から奥州街道をはじめとして，比較的よく発達していた。現在は，東北本線・奥羽本線・羽越本線などの鉄道と，奥州街道に代わる国道4号線(東京～仙台～青森)や，6号線(東京～いわき～仙台)・7号線(新潟～秋田～青森)が，南北の連絡に役だっている。東西を結ぶ鉄道としては，磐越東・西線(平～郡山～会津若松～新津)，仙山線(仙台～羽前千歳(うぜんちとせ))，陸羽東・西線(小牛田(こごた)～新庄～余目(あまるめ))，北上線(北上～横手)，田沢湖線(盛岡～大曲)，花輪線(好摩～大館)などがあるが，いずれも南北を結ぶ線に比して開通は比較的新しい。最も鉄道に恵まれないのは三陸海岸地方で，いまだに八戸線・久慈線・宮古線・山田線・盛(さ

かり)線・大船渡線・気仙沼(けせんぬま)線などが，断続して通じているだけで，現在工事中の久慈線普代(ふだい)と宮古線田老間および釜石線釜石と盛線吉浜間の開通が待たれている。1971年には，福島県と新潟県の県境で断ち切られていた只見線と会津線が結ばれ只見線(会津若松～只見～小出(こいで))として開通したが，開通当初から赤字線として問題になっている。北海道と連絡する国鉄の青函(せいかん)連絡船は，輸送力がすでに飽和状態に達しているので，その打開策として津軽半島の龍飛崎(たっぴざき)から，北海道松前半島の白神岬に至る青函トンネルの工事が行なわれている。また1971年10月には東北新幹線(東京～盛岡)の工事実施計画も認可され，1977年現在およそ⅓の工事が進行中であるが，新全国総合開発計画によれば，東北新幹線はさらに盛岡から青森をへて青函トンネルをくぐり，札幌(さっぽろ)までの北海道新幹線と連絡する予定のところ，低成長時代にはいっての財政難や環境問題の影響で，その工事の開始は1985年までは無理との見方が，1977年7月国土庁から出ている。いっぽう，東北自動車道はすでに古川(宮城県)－仙台南－岩槻(いわつき)(埼玉県)間が開通しており，古川－盛岡－鹿角(かづの)(秋田県)－青森間の工事も進んでいる。海上交通として最も重要なのは，青函連絡船をはじめとする本州と北海道との連絡で，車両運搬専用のフェリーボートも，下北半島北端の大間や陸奥湾岸の野辺地(のへじ)から函館(はこだて)までと，津軽半島北端の三廐(みんまや)から松前半島の福島まで就航している。重要な港としては，太平洋岸に仙台，日本海岸に秋田・酒田があり，1971年新産業都市計画による新しい仙台港が開港した。空港は，仙台のほか，青森・秋田・山形・八戸・盛岡にあり，全日空と東亜国内航空の定期便が，これらの空港相互間と，東京および札幌の間に運航されている。

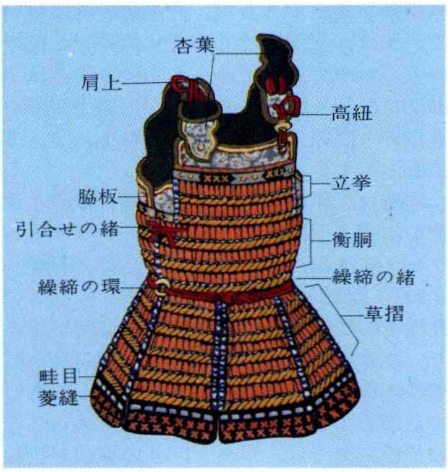
東北地方の都市の多くは旧城下町で，県庁所在地も青森を除けば，仙台をはじめ秋田・山形・盛岡・福島はすべてそれにあたる。人口50万をこえるのは，この地方の行政・経済・文化の中心である仙台(63万)のみで，これに続くのは，5市4町5村の大合併によって面積1,228km²と全国一の広い市域をもついわき(34万)，工業都市として発展しつつある郡山(28万)で，県庁所在地の青森・秋田・福島・山形・盛岡はいずれも20万台である。このほかでは，八戸のみが20万台で，10万台の都市としては弘前・石巻・会津若松・酒田・鶴岡の5市があり，あとは人口10万未満の小都市ばかりで，他の地方に比べて都市の発達は遅れている。

➔151ページ(地図)　〔浅井得一〕

とうほくほんせん 【東北本線】 東京～宇都宮(うつのみや)～仙台(せんだい)～青森間の国鉄路線。営業キロ数740.4。ほかに支線23.5kmがある。1883(明治16)～1891年開業(ただし東京～秋葉原間は1925年開業)。東北地方を縦貫する幹線鉄道で，全線が複線電化され，黒磯(くろいそ)駅を境として，以南を直流区間，以北を交流区間とし，同駅で電流の切り替えを行なっている。



銅　鉾　福岡市春日町須玖岡本出土の広鋒銅鉾(右)と，高松市郷東出土の中鋒銅鉾　東京国立博物館蔵



胴　　丸

どうぼこ 【銅鉾】 弥生(やよい)時代の青銅製利器。剣と同様に両刃であるが，柄(つか)に接する部分は中空の袋状をなし，長い柄木にはめこむようになっている。身の幅が狭く形状が小さくて鋭利な狭鋒(きょうほう)と，身の幅の広い扁平(へんぺい)な大形の広鋒とに大別される。狭鋒銅鉾は20～60cm。朝鮮および北九州とその周辺地域から出土し，大陸から渡来したことが知られる。わが国では弥生時代中期の墳墓から副葬品として発見された。広鋒銅鉾は120cmに達するものもあり，鎔笵(ようはん)(鋳型)と多数のその同笵品が北九州で発見されているので，国産されたことは明瞭(めいりょう)である。弥生時代後期に実用品というより祭器・儀礼品として用いられたと推定される。〔高崎徳次〕

とうほん 【謄本】 原本の内容を同一の文字・符号によって全部転写したものをいう。原本の一部のみを抜粋転写した抄本とは区別される。戸籍謄本・住民票謄本・登記簿謄本などがある。

ドゥーマ ［Duma］ 帝政ロシアの国会。1905年ロシア革命が起こるとニコライ2世は〈十月宣言〉を発表し，1905年に公布されたきわめて制限された選挙方法を採用し，1906年第1回国会の選挙が行なわれたが，立憲民主党(カデット)を中心とする反政府勢力が多数を占め，4月に開会された国会が7月には武力で解散させられた。第2国会(1907年2～6月)も急進的な議員が多かったため解散，第3国会(1907年11月～1912年6月)ではじめて与党が多数を制し，第4国会(1912年11月～1917年2月)は二月革命で解散させられた。　〔山県弘志〕

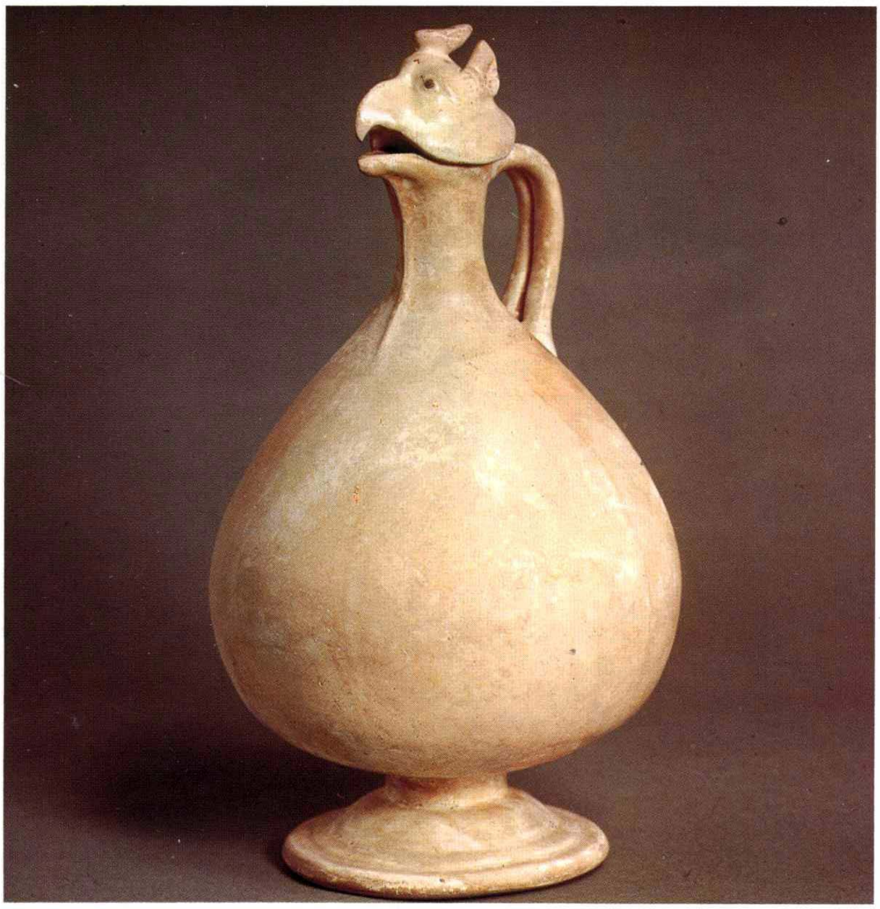
どうまる 【胴丸】 鎧(よろい)の略装。大鎧に比べて袖(そで)，脇楯(わいだて)，弦走(つるばしり)がなく，栴檀(せんだん)の板，鳩尾(きゅうび)の板の代わりに杏葉(ぎょうよう)とよばれる木の葉形革包(かわづつみ)の鉄板を肩につけた。また草摺(くさずり)は8枚にするなど，すべて活動しやすいよう簡略化してある。鎌倉時代まで兵士の着具だったが，戦国期にはいると山岳戦など地形を問わず戦ったので，武将たちもその軽快さにひかれて着用した。戦乱の長期化で胴丸が大量に求められると，粗雑な札(さね)(ウシの撓革(いためがわ)または鉄の小片)の上を革や布帛(ふはく)で包んだ革包・綾包(あやづつみ)や，札を数枚飛ばしてつづった素懸(すがけ)の胴丸が出現した。しかし集団戦闘で主要兵器が打ち物から長柄槍(やり)へ変わると，札仕立てでは鋭い槍先に抵抗できず，横帯状の鉄板を素懸にした新しい胴丸が生まれた。さらに鉄砲が輸入されると，鉄板を矧(は)ぎ合わせてすきまをふさぎ，胴の前後で蝶番(ちょうつがい)にして留めた。士分以上はのちに袖をつけるようになり，これを〈当世具足〉といった。　〔稲垣史生〕

とうみ 【唐箕】 風力を利用して穀物を選別するときに用いる農具。江戸時代中期に中国から伝来したもので，両側に吹き込み孔のある鼓胴の内部に，4枚の羽根からなる翼車を設け，その風力で上部の漏斗状の受入器から落下する穀粒を，しいな・くず粒・塵芥(じんかい)など夾雑物(きょうざつぶつ)から選別する。

とうみつ 【糖蜜】 広い意味では，砂糖製造の際に生じる，砂糖やその他不純物を含んだ粘度の高い液状物をいい，これには原料から粗糖をつくるときにできる廃糖蜜も含まれる。狭い意味では，この廃糖蜜を含まず，粗糖を精製するとき，または氷砂糖をつくるときにできる精製糖蜜・氷糖蜜とよばれるものをいう。これは廃糖蜜と違って，そのまま食用に供することができる。50％以上の砂糖を含んでおり，だ菓子やジャム・つくだ煮の原料にしたり，くずもち・あべ川もち・ホットケーキなどに用いる。

どうみゃく 【動脈】 心臓から酸素に富んだ血液(動脈血)を身体の各器官に送り出す血管をいう。動脈は，体循環の場合は

陶磁器

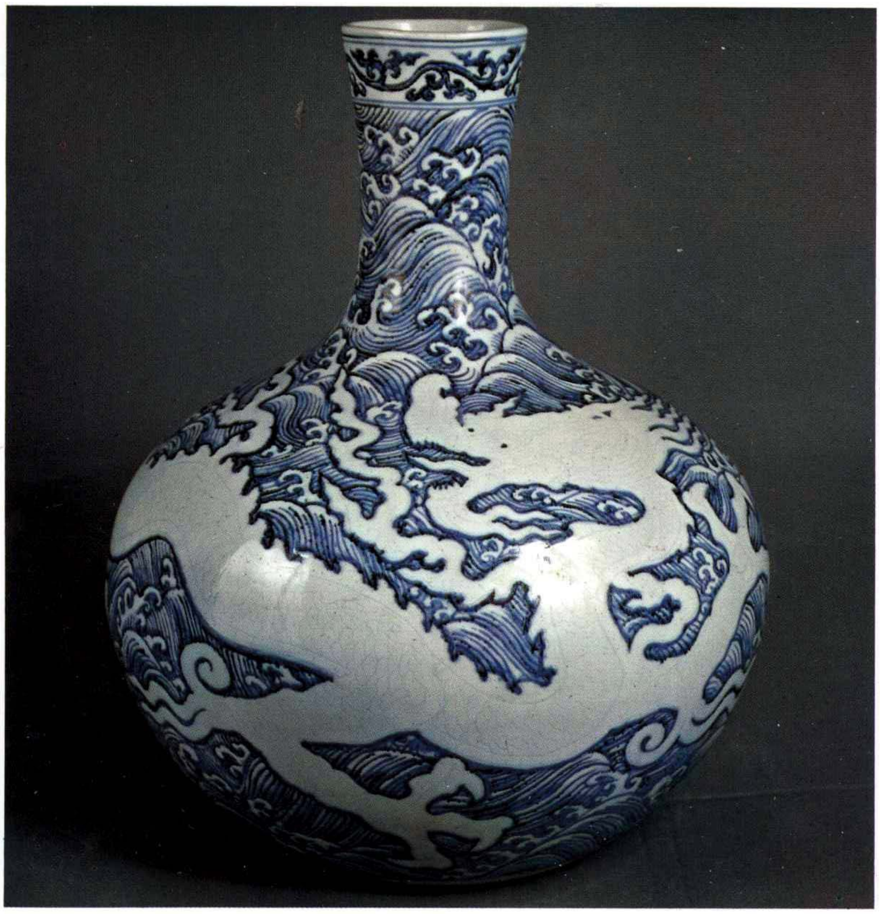


《白磁鳳首瓶》 唐代　高28.1cm　東京国立博物館蔵

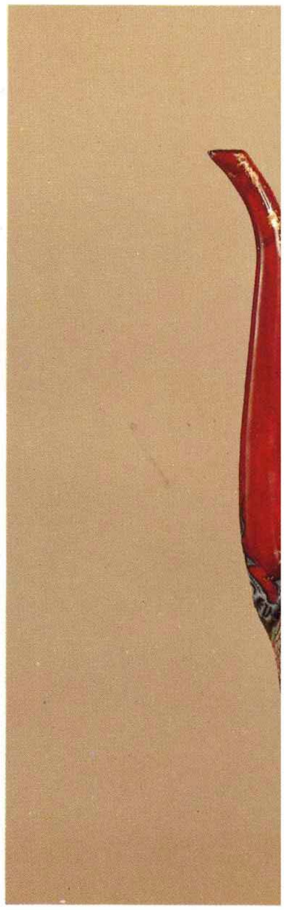


《青磁下蕪形花生》 官窯　南

《青花龍濤文大瓶》 景徳鎮窯　明代　高43.5cm　畠山記念館蔵



《五彩金襴手透彫仙盞瓶》 景



中国
朝鮮



cm　国宝



《青磁象嵌牡丹文洗》　高麗代　高19.7cm　韓国国立美術館蔵

高28.7cm　五島美術館蔵



《鉄砂虎鷺文壺》　李朝代　高30.0cm　安宅産業株式会社蔵





京国立博物館蔵



《備前矢筈口水指》 桃山時代 高13.0cm 畠山記念館蔵

cm 熱海美術館蔵



《古九谷色絵布袋図皿》 江戸時代 径32.5cm 石川県美術館蔵



磁器

→108ページ
陶磁器参照



《緑釉壺》奈良時代　高16.0cm　慈照院蔵

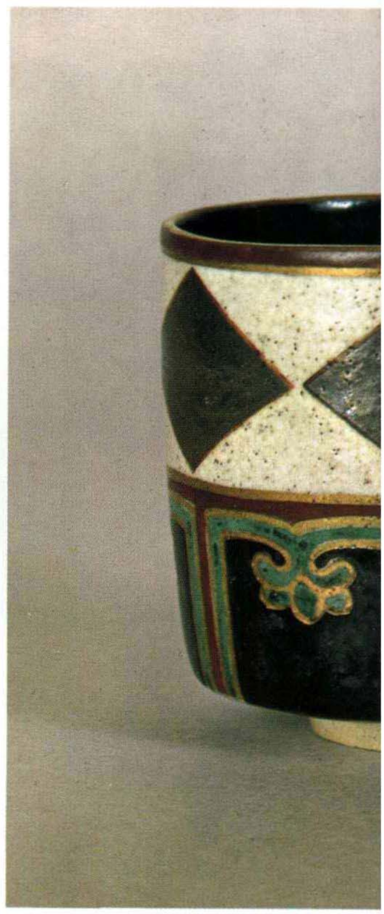


《古瀬戸黄釉牡丹唐草文壺》鎌倉時代

《志野葦文矢筈口水指》銘古岸　桃山時代　高17.8cm　畠山記念館蔵



《色絵銀菱文筒茶碗》野々村仁清　江



日本

動脈血を運び，肺循環の場合は，肺動脈の中を酸素の欠乏した静脈血を運んでいる。ヒトの動脈は，心臓を出るときは1本で，これを大動脈とよぶ。大動脈はしだいに枝分かれして細くなり，中動脈となって体内の種々の方向に向かう。中動脈はさらに細くしかも数も増して小動脈となり，さらに毛細血管とよぶごく細い動脈性の血管に分かれる。動脈の壁は静脈に比べて管内の血圧が高くなるのに備えて，管壁が厚くじょうぶにできている。内・中・外層(膜)の3層からなり，内層は血液と接し，比較的薄く内被細胞でおおわれている。中層は弾性繊維を主体としたもので，これに平滑筋が加わって厚い層となっている。大動脈や，これに次ぐような中等度の動脈では，血管に弾力を与えるのに役だっている。外層は結合組織性のものでつくられているが，この部位には，血管に栄養を与える栄養血管・神経などもはいってきている。➔血液循環(図)　〔高野一雄〕

どうみゃくこうかしょう　【動脈硬化症】動脈壁が肥厚・硬化をきたし弾力性が失われた状態。このような変化は，血管壁に脂肪類(コレステロールなど)・石灰の沈着，ガラス様変性などが観察される。特に，コレステロール代謝異常が最も重要な役割を果たしていると考えられる。実際に患者の血中コレステロール濃度は，多くの場合きわめて高い値を示している。最近はさらに中性脂肪も注目されている。症状としては，無気力・健忘症・頭痛・めまいおよび発音の不明瞭(ふめいりょう)，聴力・視力の減退などの老化現象があげられる。心臓は左心室が拡大し，凹側(おうそく)を下方に向ける弓形の大動脈弓が張り出す。脳動脈の硬化(脳動脈硬化症)は，脳出血・脳血栓(のうけっせん)の発症を，大動脈の硬化(大動脈硬化症)は，まれに脳塞栓(のうそくせん)を誘発する。また，冠状動脈の硬化(冠状動脈硬化症)は，狭心症の発作，さらに冠状動脈の閉塞によって心筋梗塞(こうそく)をひき起こす。また腎動脈(じんどうみゃく)の硬化(腎動脈硬化症)は，腎性高血圧を招来する。そのほかにも，腹部動脈硬化症・四肢(しし)動脈硬化症などがある。原因としては，日常生活におけるさまざまなストレスや卒中(→脳卒中)体質といわれる遺伝的素因のほか，高血圧(症)・脂質代謝異常・ホルモン代謝異常・食生活などがあげられる。診断は血圧・血清脂質・コレステロール・中性脂肪などの測定のほか尿検査・心電図・眼底検査などによって行なう。一般的予防としては，精神的・肉体的過労を避け，十分の睡眠をとること，過食特に高脂肪食を避け，ビタミンや良質のタンパク質をとること，原因疾患の予防・治療などが肝要である。➔高血圧　〔佐藤恒久〕

どうみゃくりゅう　【動脈瘤】動脈の内腔(ないこう)が病的に拡張した状態。先天性・感染性梅毒，動脈硬化症などによる動脈壁の脆弱(ぜいじゃく)化，周囲組織の異常による動脈壁の圧迫，動脈外傷などによって起こる。動脈の全周が限局性に拡張する紡錘状動脈瘤と，動脈の一部が拡張する嚢状(のうじょう)動脈瘤とがある。前者の多くは，病的な動脈壁全層でおおわれる真性動脈瘤であり，後者および外傷性動脈瘤の多くは，壁組織の離断によって動脈の周囲組織が瘤壁をつくる仮性動脈瘤である。また動脈壁内に出血が起こり中膜と外膜の間が剝離(はくり)して，血液が侵入するものを解離性動脈瘤という。動脈瘤は破裂すると大出血を起こして致命的であり，また瘤内の凝血が遊離して塞栓(そくせん)となるので，切除・代用血管移植が原則である。　〔三島好雄〕

どうみょうじ　【道明寺】大阪府藤井寺市道明寺にある真言宗の寺。蓮土山(れんどざん)と号す。推古天皇のとき，土師八島連(はじのやしまのむらじ)が自邸を寺とし，土師寺と称したのがはじめという。平安時代菅原道真(すがわらみちざね)の叔母(おば)覚寿尼が入寺して以来尼寺となった。941年(天慶4)道明寺と改称。1572年(天亀3)戦火で焼失したが，織田信長が寺領百石を寄進し復興した。本尊の十一面観音立像は国宝。寺北に天満宮を祭る。

とうみん　【冬眠】動物が冬季にその活動力を極端に低下し，死んだような状態で過ごすこと。陸生の変温動物にはかなり広くみられるが，恒温動物でも哺乳(ほにゅう)類のうち特殊なもの(ヤマネ・コウモリ・ハリネズミなど)が冬眠する。冬眠は大きくカエル型とヤマネ型の2様式に分けられる。カエル型はヘビ・トカゲ・カメや節足動物の多くにみられ，気温の低下とともに体温がそれに伴って低下して冬眠にはいるもので，普通は地中や水底のようなあまり温度の下がらない場所に移動し，そこで冬眠する。ヤマネ型は体温が気温の低下とともに低下するもので，ある一定の温度以下には下がらないような体温調節機構を体内に備えている。哺乳類の冬眠はすべてこれに属する。　〔松本忠夫〕

とうみんりょうほう　【冬眠療法】⇨人工冬眠

どうめい　【同盟】

1国際法上，2国または複数の国家が，第三国に対抗して，一定の共同行動をとることを条約で約束している状態。一定の場合に応援義務が発生して，共同で戦争行為に従事することになる。応援義務発生の有無で協商と異なり，その発生条件によって，攻撃同盟・防御同盟・攻守同盟に分かれる。援助は通常相互的であり，主として兵力によるが，ほかに軍隊通過の許容，基地の提供，金銭的援助などもある。同盟は，歴史上古くから存在する個別的安全保障の方法であるが，その対抗的性質から，平和を危うくするおそれがあるため，これに代わって集団安全保障の体制が現われた。

2 ➔全日本労働総同盟　〔広部和也〕

とうめいこうそくどうろ　【東名高速道路】国土開発幹線自動車道の一。正式には高速自動車国道東海自動車道という。東京都世田谷(せたがや)区の環状8号線との交差点から愛知県小牧市の小牧インターチェンジまで，延長は346km。小牧で名神高速道路と結んで，京浜・中京・京阪神(けいはんしん)の三大都市圏を含む太平洋ベルト地帯を縦貫する有料の自動車専門道路である。厚木市以東を6車線，以西を4車線とする。日本道路公団が1962年(昭和37)建設に着手し，1969年6月に全線が開通した。途中には現在インターチェンジ22か所(ほかに2か所計画中)，サービスエリア6か所がある。一部には制限速度80km/時の区間があるが，大部分は100～120km/時である。〔青木栄一〕

どうめいつうしんしゃ　【同盟通信社】第2次世界大戦終結までの日本の代表的通信社。1936年(昭和11)満州事変を契機に，強力な情報網を望む政府・軍部の指導と援助で，日本電報通信社(1906年設立)通信部と新聞連合社(1926年設立)を合併して設立。太平洋戦争の進展に伴ってその情報網を世界に拡大する一方，国論統一・国家宣言に大きな役割を果たした。1945年10月解散。以後，共同通信社・時事通信社に継承された。

ドゥメルグ　[Gaston Doumergue]（1863～1937）フランスの政治家。弁護士・判事を経て，1893年急進社会党の下院議員となり，1913～1914年首相となり第1次世界大戦前に急進社会党内閣を組織，大戦中も挙国一致内閣に加わり，1917年にはロシアでの連合国会議に出席した。大戦後，1923年大統領となり政局の安定，経済の再建に努めた。その後いったん引退していたが，1934年スタビスキー事件後の政局収拾のため右翼挙国一致内閣を組織した。しかし人民戦線へと動く左翼勢力の攻撃にあい，翌年辞任した。　〔喜多迅鷹〕

どうもといんしょう　【堂本印象】(1891～1975) 日本画家。京都の生まれ。京都市立絵画専門学校に学ぶ。西山翠嶂(すいしょう)に師事，諸流派を消化した幅広い作調の秀作を帝展に発表，しばしば審査員をつとめた。1950年(昭和25)日本芸術院会員。

とうもろこし　【玉蜀黍】単子葉植物・イネ科の一年生草本。茎は円形で内部は髄で満たされており，草たけは60～360cmぐらいで10数節の節があり，各節から葉を抽出する。葉の形はイネやムギとほぼ同じであるが大形である。下部の節からは分蘖(ぶんけつ)することが多く，また中部の数節には雌花穂をつける。雌雄異花で，雄花は茎の頂部に10本ぐらい穂状花序をなし，太い軸のまわりに多数の雌花が密生した雌花穂は長円筒形をして，葉鞘(ようしょう)の変化した数枚の苞(つと)で包まれる。子房の成熟に伴って絹糸状の花柱が成長し，雌花穂の頂部より外部へ抽出する。種子は胚乳(はいにゅう)が発達し，種皮の色は白・黄・褐(かつ)・紫な

ど品種により変化に富み，また大きさにも変異がある。種類は乾燥した種子をいると雪白状にはじけるハゼトウモロコシ(ポップコーン)，種子がウマの歯形で飼料用になるデントコーン，デンプン含量の多い精粉用にも使われるフリントコーン，未熟の間は甘味が強く野菜として用いられるスイートコーンなどに大別される。アメリカ大陸の原産で，南北アメリカでは紀元前から栽培利用され，現在でも特にアメリカでの利用は盛んである。現在わが国で利用されている品種は明治以後おもにアメリカから導入されたものが多く，種実も利用するが，青刈りして飼料用に，または野菜としての利用が多い。高温性の作物で，春まいて夏収穫するのが普通である。〔松本正雄〕

とうや【頭屋】 祭りや講に際して神事を主宰する人またはその家。頭家・禱屋・当屋などとも書く。近畿(きんき)地方を中心に広く西日本に分布する宮座の組織では，頭屋制が顕著である。頭屋制の成立そのものは，氏神の祭祀(さいし)を族員が輪番交替制でつとめるようになった平安時代までさかのぼることができよう。現在，頭屋制を採用しているところでは，祭りに際して頭屋にあたった者だけが別火の生活をしたり，水ごりをとるなど厳重な物忌みを守る土地がある。ふだんでも家に注連(しめ)を張り，神社の御分霊と称する小祠(しょうし)を仮設したり，農事にも下肥を使わぬなど，きびしい作法が守られている。こうした性格の頭屋は祭りの主宰者であり，直接神に奉祀する大役をになっている。一方，職業神主が祭りの主役をつとめるようになったところでは，神主の介添え，直会(なおらい)の準備など，祭りの世話をするのが頭屋と解されるように変わってきた。〔直江広治〕

とうやくりんどう【当薬龍胆】 双子葉植物・リンドウ科。高山の草原にはえる緑黄色葉をもつ多年草。根茎は短く，茎は高さ10～25cmで稜線(りょうせん)があり，長さ2～5cm，幅5～10mmの葉が数対つく。花は長さ3.5～4cm，黄緑色の鐘形で，青色の斑点がある。花冠は5裂し，裂片の間の小片は浅裂する。果実は蒴果(さくか)で柄がある。



トウヤクリンドウ

とうやこ【洞爺湖】 北海道西南部にあり，支笏(しこつ)洞爺国立公園に含まれる湖。面積69.5km²，湖面高度83m，最深点179.2m。長流(おさる)川で排水されて内浦湾に注ぐ。成因は火口湖で，湖中には中央火口丘にあたる中島があり，森林におおわれている。付近には活火山の有珠(うす)山や生成まもない昭和新山があり，湖畔の洞爺湖温泉とともに北海道観光周遊地の一つで，ヒメマスなど淡水魚が豊富である。



洞爺湖 南岸から見た洞爺湖と中島。中島の左の一続きの小島は観音島と弁天島。遠景左に羊蹄山の美しいコニーデがそびえる

とうやまみつる【頭山満】 (1855～1944) 明治・大正時代から昭和初期にかけての右翼の指導的人物。福岡県出身。廃藩置県後不平士族の結社矯志社(きょうししゃ)に参加し，1876年(明治9)萩(はぎ)の乱に通じたため投獄された。出獄後自由民権運動に参加し，1881年玄洋社を創立したが，やがて極端な国権論に傾き，1885年には九州国権党を創立した。以後大陸侵略をめざす大アジア主義を唱えて大陸浪人の統率者として活躍した。条約改正に反対し，日清(にっしん)戦争・日露戦争・日韓(にっかん)併合の推進に暗躍し，また金玉均の保護，中国革命の支援など，政・財界の隠然たる存在であった。晩年は右翼の大御所と目された。〔高崎徳次〕

とうやまるじけん【洞爺丸事件】 1954年(昭和29)9月26日午後6時30分，乗客1,117名を乗せ暴風雨をついて函館(はこだて)を出港した青函(せいかん)連絡船洞爺丸(4,337トン)が，港外七重浜沖で座礁・転覆した事件。乗客1,011名，船員67，その他14名が死亡し，ゆくえ不明83名を数えた。わが国最大，世界でも2番めの海難事故である。この事故の原因をめぐって不可抗力か過失かが問題となったが，1959年海難審判判決で，過失と断定された。

とうゆ【桐油】 アブラギリ科植物の種子から得られる乾性油。主産地は中国で，日本でも産する。エレオステアリン酸・オレイン酸のグリセリドが主成分で，支那(しな)桐油と日本桐油では性質が少し異なり，全脂肪酸中エレオステアリン酸を支那桐油では約70～82%，日本桐油では約50%含んでいる。乾燥固化して強固な皮膜を形成する。油ワニス・油紙・油布などに用いる。

とうゆ【燈油】 沸点約150～280℃の石油製品。原油の常圧蒸留および水素化精製によって得られる。おもにストーブ用・こんろ用など家庭燃料として用いられ，その他農業発動機燃料・溶剤などにも使われる。

とうよ【東予(市)】 愛媛県高縄(たかなわ)半島の東の基部にあり，燧灘(ひうちなだ)に面する。1972年(昭和47)壬生川(にゅうがわ)町と三芳町が合併して東予町となり，さらに市制施行。人口35,000。中心の壬生川はもと入川と書いた中世以来の古い集落で，〈みぶかわ〉とも呼んだ。足利尊氏(あしかがたかうじ)時代の鷺森(さぎもり)城跡や，弘安の役で活躍した河野通有(こうのみちあり)開基の長福寺がある。江戸時代は松山藩領。富士紡績の工場があり，また奉書紙(ほうしょがみ)の全国一の産地。東予新産業都市の中核として，東予港を築港，工場用地の造成も進んでいる。農村地帯では水田の裏作にイグサをつくる。産業三大別人口比は21：39：40。予讃(よさん)本線に壬生川駅があり，また東予有料道路を建設中である。〔浅井得一〕

どうよう【童謡】 児童文学の一形式。広義には子どものためにつくられたすべての詩をさし，狭義には明治期の〈唱歌〉を克服して大正中期に生まれた童心主義的な子どものための歌を意味する。近年はしだいに狭義に限定して使用されるようになった。世界の国々において，近代以前の子どものための歌は，村落共同体を母体とする子ども集団によってつくられた〈わらべ唄(うた)〉――すなわち遊戯唄，子守唄(こもりうた)，天体気象の唄，動植物の唄，まじない唄，悪口唄などであった。ところが，近代社会になって個我が確立されると，子どものための歌も特定の作者が創作するようになり，わらべ唄とは異質な近代〈童謡〉が成立したのである。日本の場合は，明治期に古い忠孝愛国をうたい上げた文部省唱歌にしかならなかった。大正期にはいり，第1次世界大戦による好況を土台として市民階層が誕生すると，鈴木三重吉主宰の童話雑誌《赤い鳥》その他を中心として児童文化のルネサンスが興り，それまでの文部省唱歌を否定して，市民階層の子どもの思想と感覚に立った新しい〈童謡〉に発展した。その主要な作者には，《赤い鳥小鳥》《からたちの花》《かやの木山の》などで，わらべ唄と近代詩とを結合させた北原白秋，《かなりや》その他で西欧的な情緒と象徴性とを盛り込んだ西条八十(やそ)，《証城寺の狸(たぬき)ばやし》《七つの子》などに庶民の素朴(そぼく)な感情をうたった野口雨情らがあり，それらの作品は山田耕筰(こうさく)・中山晋平(しんぺい)・成田為三(ためぞう)らによって作曲された。こうして盛んになった童謡は，昭和にはいると第2次世界大戦の戦前・戦中を通じて，軍歌に取って代わられたが，戦後には〈子どもの歌〉として新生した。〔上笙一郎〕

東洋医学

ヨーロッパ系の医学に対して，イスラム系医学のユナニー，インド系医学のアユルベーダ，中国系医学の漢方をいうが，一般には特に漢方の別名と考えてよい。

ユナニーは，中近東の民族伝承医学に古代ギリシア・ローマ医学が融合して，ササン朝ペルシアの都市ジュディ・シャプールに発生し，9〜10世紀ごろに大成したものである。ユナニーの特長は，暗示・説得などによる卓越した精神療法と，鉱物性薬物の巧みな応用とにある。アル－ラージー(865〜925？)は《関連の書》などを残し，ユナニー最高の名医とされている。

アユルベーダという名は，アトレヤ(年代不詳)の著作といわれる医学書《アユルベーダ》(寿命の知識)に由来する。この書の一部が仏典にも引用されていることから，その成立の古さがうかがわれるが，現存するテキストは《ススルタ》(外科書)，《チャラカ》(内科書)の２書である。アユルベーダはセイロン・ビルマ・マライ半島などに分布し，現在でもインド医療の主流となっている。その基礎的な考え方は，病の原因を風(バーユー)・血(ピッタ)・水(カッファ)の変化にあるとし，主として脈を診察して治療法を決定する。アユルベーダの特色は，数多い生薬*の使用と，多様な医療器具による外科手術の発達である。

【漢方の歴史と特質】漢方は，古代中国に発生し，漢代に体系づけられたもので，日本・朝鮮・ベトナムなどに伝播(でんぱ)した。漢方の医療法には，大別して湯液(薬物療法)と鍼灸*(しんきゅう)(物理療法)がある。現存する湯液の原典には《傷寒論*》《金匱要略*(きんきようりゃく)》があり，鍼灸の原典には《素問*》《霊枢*》《難経》がある。これらはいずれも漢代に書かれたとされており，このことから中国系医学を漢方とよぶ。漢方医学の第１の特質は，ユナニーがイスラム教を，アユルベーダがヒンズー教を背景としているに対して，漢方はまったく宗教的影響のないことであるが，漢方も中国人特有の思想を基盤として生み出されたものである。中国人は，事物を周囲から切り離してそれだけを単独に考えることはせず，それらの置かれてある場所と時間とをつねに考慮して，それらを全体の一部として観察し，考えを進めていく。中国医学ではこうした立場から，季節の移り変わりに応じて異なった病気が発生し，それぞれの季節に応じて各内臓の働きに盛衰があると考えた。このため，漢方では，四季に適応した養生法を行なって，病気の発生を食い止めることが医学の第一義とされている。

第２の特質は，病を〈病気〉と認識している点にある。〈気〉とは，目で見えない働きをするものの本体をさす。人間は生きて活動している。これをささえているのが新陳代謝であり，新陳代謝がそこなわれると病となる。この新陳代謝を，漢方では〈気の運動〉と考え，〈気〉が正しい軌道を描いて円滑に運動している状態を健康と考えた。そして，〈気〉の運動がなんらかの原因で変調になった状態を〈病気〉と認識している。気の変動，すなわち病気を起こす原因として，過度の精神感動，不摂生，環境の激変を最も重視してきた。このため，気の変動(新陳代謝の異常)を調和して，正規の運動状態に調節することが，漢方の治療目的である。

また，漢方における診断は，けっして病名を決定することではなく，個々の病人に対して最も的確な治療を判定することである。このため，西洋医学からみればまったく同一の病名がつけられる患者であっても，患者の体質・状態やその置かれている環境などを考慮して，それぞれ異なる治療法を決定する。つまり，漢方では，健康になりさえすれば〈病気〉は消滅するという観点に立ち，診断も治療も本来人間自体がもっている自然治癒力(ちゆりょく)を助長・向上させることに尽きる。中国に合理的な思想が生まれ，これにのっとった医学が確立されたのは，ほぼ孔子の時代で，同時代の医家扁鵲(へんじゃく)を漢方の祖としている。漢初の医家倉公(BC150年代)の伝記によれば，当時すでに漢方の大略は成立していた。漢から六朝(りくちょう)時代までの医家は，湯液と鍼灸とを併用しており，湯液は身体の内部から，鍼灸は身体の外部から病を治するものと考えていた。しかし，六朝時代になると，インド系の医学が中国に伝来して薬物の種類も豊富となり，唐医学，さらに宋(そう)医学，次いで金・元医学へとその内容は少しずつ変化していき，医学の主流は湯液となって鍼灸は順次衰えていった。なお，漢時代の医学では処方内容が比較的数少ない薬からなり，作用の強いものが用いられていたが，後代になるにつれ処方の内容は多種となり，作用のゆるやかなものへと変わっている。

【わが国における漢方】わが国にはじめて漢方が伝来されたのは推古朝以前のことと考えられる。当時，わが国には固有の民俗医療が存在していたが，それは体系だった医学にまでは発達しておらず，神代から伝わったといわれる処方集《神遺方》は後代の偽作と断定されている。わが国の政治体制が確立された奈良時代には，医療制度も唐の制度に準じて医事法令が施行されたが，その医療内容は唐医学であった。平安時代には丹波康頼(やすより)(912〜995)が30巻からなる《医心方*》を著わした。室町末期には金・元の医学が輸入されたが，この医学を大成したのは曲直瀬道三(まなせどうざん)(1507〜1594)である。元禄(げんろく)時代，名古屋玄医(1618〜1696)は《傷寒論》に注目し，吉益東洞(よしますとうどう)(1702〜1766)は《傷寒論》こそ漢方の真髄であると主張して，金・元の医学および《素問》《霊枢》の医学を排した。このことから，《傷寒論》を主として信ずる医家を古方家，金・元の医学を信ずる医家を後世方家という。また別に，折衷派とよばれる古方と後世方とを兼ねる一派も出現した。

明治維新以後，軍陣医学の必要性から明治政府は漢方を排斥してヨーロッパ系のドイツ医学に基づく新しい医療制度を採用した。それ以来，医学校のカリキュラムは漢方をまったく無視したので，漢方を学ぶ医家はきわめてまれとなり，漢方はまったく衰微した。なお，奈良・平安時代まで，鍼(はり)は湯液と同格の価値が認められ，丹波康頼も鍼を専門とした鍼博士であった。しかし，後代になるにしたがって，中国と同様に鍼灸は湯液よりふるわなくなった。江戸中期の名鍼医杉山(すぎやま)和一(1610〜1694)がたまたま盲人であったことから，その後鍼灸はおおむね盲人によって行なわれることとなった。そして明治政府は，盲人救済を目的として〈鍼灸按摩師(あんまし)法〉を制定した。このため，鍼灸はとかく賤業視(せんぎょうし)されながらも，現在までかなり多数の人々によって受け継がれている。

【現代の漢方】人間は種は一つでありながら，民族によってその体質はかなり相違している。このため，現在でもインドではアユルベーダが，中国では中医学(漢方の中国での呼称)，朝鮮では東医(漢方の朝鮮での呼称)が奨励されている。しかし，わが国では，鍼灸は医療行為ではなく，その類似行為としてしか認められていない。特に，湯液の分野では，公的な教育機関がまったくないために，きわめて僅少(きんしょう)な人人にしか知られていなかった。しかし，わが国における西洋医学が明治以降に本格的に導入されたのに対して，漢方は1,000余年以前に伝来され，以来日本民族の体質に適合するように消化されてきた医療である。漢方で病人に対して適切な手段をとった場合，その効果が著しい理由もここにある。科学としての西洋医学のめざましい発達にもかかわらず，西洋医学が現代の医療として必ずしも万能ではないことの反省から，今日では漢方による医療を直接体験した人からの口伝えによって漢方を支持する人々が年々に増加してきている。特に，鍼は，近年欧米各国においてもその効果が認められ，かなり多数の欧米人医家によって使用されるようになった。東洋医学は，西欧の思想ではその理論と実践とを解明しがたい。東洋思想をよく理解し，実際に体得したうえで，はじめて正しい評価を下すことができるのである。　〔丸山昌朗〕

とうよういがく　【東洋医学】⇨前ページ

とうようかんじ　【当用漢字】1946年(昭和21)11月の内閣訓令によって公布された〈当用漢字表〉にある1,850字の漢字をいう。さらに，これら漢字の〈当用漢字音訓表〉の音訓や〈当用漢字字体表〉の字体をも含めていうことが多い。漢字は，元来中国の文字であり，日本に伝来してから，日本語として特殊な発達を遂げ，日本の文化や生活に大きく貢献した。その反面，漢字は字種が多く，音訓・字体が複雑多岐をきわめ，使用上不便な面も少なくなかった。早く江戸時代の国学者や蘭学者(らんがくしゃ)の中にもそれを指摘した人がある。国語国字問題として漢字廃止論が唱えられたのは明治維新前後からで，1866年(慶応2)前島密(ひそか)の建白書〈漢字御廃止之儀〉が最初である。しかし，漢字全廃は現実の問題として実行が困難であるため，まず漢字の節減が論議された。政府でもその必要を認め，1872年(明治5)文部卿(もんぶきょう)大木喬任(たかとう)が編集した《新撰(しんせん)字書》には漢字3,167字が選定されている。また，福沢諭吉の《文字之教》(1873)では，漢字は2,000字から3,000字でたくさんであるとし，1887年には天野文雄(ふみお)の《三千字字引》が出るなど，漢字の節減に関する民間の主張も多かった。大正時代には，文部省の臨時国語調査会の〈常用漢字表〉によって1,962字(のち1,858字に修正)が発表され，昭和になってからは，1942年国語審議会が〈標準漢字表〉によって2,528字(のち2,669字に修正)を発表した。そして，戦後，1946年に〈当用漢字表〉が公布されるに至った。

〈当用漢字表〉は，今日の国民生活上，不便でない程度で，法令・公用文書・新聞・雑誌および一般社会に使用されるべき漢字の範囲を示したものである。そして，この表の漢字で書き表わせないことばについては別のことばに変えるか，または，かな書きにする。代名詞・副詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞は，なるべくかな書きにする。外来語，動植物の名称，外国(中国を除く)の地名・人名は，かな書きにする。ふりがなは原則として使わない。専門用語については，この表を基準として整理することが望ましい，などの内容が付加されている。固有名詞は，法規その他に関係するところが大きいので別に考えられているが，人名だけは戸籍法(1947)の施行規則で，〈当用漢字表〉に掲げる漢字を使用すると決められていたのを，のち〈人名漢字別表〉(1951)を公布して漢字を追加し，同時に戸籍法も改定された。

漢字を使用する上での困難さは，その数の多いことによるばかりでなく，その読み方の多様なことにもあるので，当用漢字制定の趣旨を徹底させるために，さらに音訓の整理が必要であるとして，1948年2月，〈当用漢字音訓表〉が公布された。この表は，〈当用漢字表〉の各字の字音・字訓を整理して使用する音訓を示したもので，漢字音は漢音・呉音・唐音および慣用音の別にかかわりなく，字訓は異字同訓をつとめて整理し，ともに現代の社会に広く使われているものの中から採用された。また，音訓に関連のある送りがなについては〈送りがなのつけ方〉が1959年7月に公布された。

さらに，当用漢字制定の趣旨を徹底させるために漢字の字体を整理し，その標準を定めて〈当用漢字字体表〉が1949年4月に公布された。これは，漢字の読み書きを平易・正確にすることをめやすとし，異体の統合，略体の採用，点画の整理などを図り，また筆写の習慣，学習の難易を考慮して，印刷字体と筆写字体とをできるだけ一致させることをたてまえとしている。例：回←囘，効←效，青←靑，歴←歷，芸←藝，対←對。

当用漢字は，制定以来，音訓・字体を含めて各方面で用いられてきたが，これをさらに適正なものにするため，国語審議会の審議は継続され，1954年には〈当用漢字表〉から28字を削って，これに代わるものを入れ替え，音訓を加え，また字体を改めるなどの補正案が発表された。これは現在，新聞などに使用されている。しかし，当用漢字の音訓は，木き→木(立)こ(だち)，何なに→何(時)なん(どき)，合ゴウ→合(併)ガッ(ペイ)，夫フ→夫(婦)フウ(フ)，などと使ってさしつかえないことになっているが，〈部屋(へや)〉〈お母(かあ)さん〉などの従来慣用されている読み方が認められていないので，その追補も問題になっている。当用漢字は，その名のとおり，当用するものであるから，将来その字数の増減，音訓の修正，略字の追加などが行なわれて，さらに国民生活の能率をあげ，文化水準を高めるのに役だつように改善されることが考えられる。➜漢字　➜国語国字問題　➜教育漢字　➜人名漢字　〔石黒　修〕

とうようく　【東洋区】動物地理区の北界のうち，旧熱帯区の一部に属する亜区の一。ヒマラヤ以南のインド半島，インドシナ半島，スマトラ・ジャワ・セレベスなどのインドネシアの島々，南中国，フィリピン，台湾などを含む地域。オランウータン・テナガザル・インドゾウ・インドサイ・クジャクなどの大形動物が代表的なものである。鳥類・こん虫類はきわめて種類が多く，世界で最も動物相の豊富な地域となっている。➜動物地理区　〔松本忠夫〕

とうようけいざいしんぽう　【東洋経済新報】経済雑誌。1895年(明治28)11月15日町田忠治が東京において創刊した。明治・大正・昭和を通じて最も有力な経済雑誌の一つで，創刊から1919年(大正8)9月までは旬刊，以後は週刊となった。1961年(昭和36)新年号から《週刊東洋経済》と改題。

とうようこうぎょう　【東洋工業(株)】小形乗用車・ロータリーエンジンの開発で知られる自動車メーカー。1920年(大正9)コルク製造から出発し，1927年(昭和2)に機械工業に進出，現社名となる。1931年からオート三輪〈マツダ〉を生産，1957年軽四輪車，さらに1960年から軽乗用車の生産にのり出す。西ドイツのNSU社と技術提携後7年めの1967年7月にロータリークーペを発表，ヨーロッパ市場に進出するなど，自動車メーカーとしての地位を確立した。本社広島，工場は広島・三次(みよし)・宇品(ともに広島県)。資本金360億円，年間売上高8,352億円，従業員数27,690(1980年4月)。

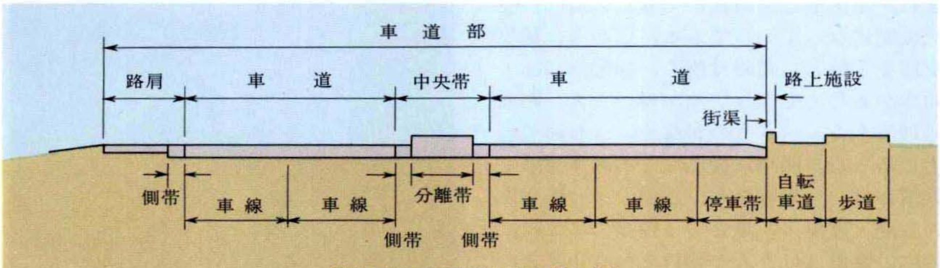
とうようしゃかいとう　【東洋社会党】明治初年の地方政治結社。1882年(明治15)長崎県島原において樽井(たるい)藤吉(1850〜1922)を中心に結成され，党員4,000と称したが，その多くは地租に不満をもつ小農民であった。平等主義を奉じ，道徳を言行の規準とし，天物共有・協同会社・児子共有などを主張した。機関誌《半鏡警報》を発行。しかし結成1か月後，内務卿(ないむきょう)から結社禁止を命ぜられて解散。解散後も活動を続けた樽井は，翌1883年捕えられ禁錮(きんこ)刑に処された。　〔高崎徳次〕

とうようじゆうしんぶん　【東洋自由新聞】1881年(明治14)3月18日創刊された民権派の日刊新聞。社長は西園寺公望(さいおんじきんもち)，主筆は中江兆民。自由民権運動の高揚の機運に促され，自由民権運動の中心的言論機関をめざしたが，同年4月30日第34号で廃刊された。

とうようじゆうとう　【東洋自由党】1892年(明治25)11月に自由党左派の大井憲太郎らが中心となって結成した政党。貧民労働者の保護を唱えたが，その反面，対外強硬政策による国威発揚をも主張し，条約改正問題が起こると，右翼政党とともに大日本協会を設立，反政府運動を展開したが激しい対外強硬論のため，1893年12月に解散。

とうようたくしょく　【東洋拓殖】日本政府が日露戦争で獲得した朝鮮の権益をもとにして，1908年(明治41)12月京城(ソウル)に設立した特殊事業会社。当初資本金1,000万円，うち政府引受額300万円。農業を中心として広範囲に拓殖事業を行ない，のちに営業地域を朝鮮から東アジア全域に拡大して植民地経営の中心的役割を果たしたが，第2次世界大戦終了とともに解体。

とうようぼうせき　【東洋紡績(株)】総合繊維メーカー。1914年(大正3)，大阪紡績(株)と三重紡績(株)の合併により発足。綿紡績界の名門で，綿紡中心からいまは化学繊維の比重が大きく，全生産の63%を占める。合成繊維では，東洋紡エステル・東洋紡ナイロンなどを生産している。天然・化学にわたって9種類の繊維を有し，混紡製品から複合繊維への体制づくりに力を入れている。ワイシャツなど消費者と直結した最終製品への進出にも積極的。本社大阪。大阪に経済研究所をもち，工場は富田(三



横断面の構造要素とその組み合わせ

道　路

重県)・浜松(静岡県)・岩国(山口県)など31か所，関係会社は約80社ほどある。資本金303億7,000万円，年間売上高2,476億円，従業員数13,892(1980年4月)。

とうようもうようせんちゅう　【東洋毛様線虫】　袋形動物・線虫綱・毛様線虫科。体長5～7mmの小さな内部寄生虫。体幅は自分の虫卵の長径(80μ前後)しかない。毛様線虫類は家畜を宿主とするものが多いが，本種はヒトにのみ寄生する。中国・朝鮮などに分布し，日本では全国的にみられるが，特に東北地方・北海道に多い。雄の末端には交接刺・交接嚢(のう)などがあり，雌では子宮内に10数個の卵が1列に並ぶ。卵は鉤虫(こうちゅう)卵に似るがやや大きく，糞便(ふんべん)とともに体外へ出て孵化(ふか)し，幼虫がおもに経口的に感染するが，体内移行はしないと考えられている。成虫は小腸上部に寄生し，多数寄生すると腹痛・下痢・貧血などを起こすといわれる。治療は鉤虫*に準ずるが，駆虫は比較的困難である。野菜類の十分な洗浄，糞便の合理的処理などが予防上たいせつである。　〔山本　久〕

とうようらん　【東洋蘭】　一般に，洋ラン*に対して東洋原産のシンビジウム属をさす。シュンラン*(日本産)・シナシュンラン(中国産，一茎一花のものと一茎九花のものとがある)・カンラン(和歌山県・三重県および四国・九州産，一茎多花)・ハルカンラン(四国産，シュンランとカンランの自然交雑種)・ホウサイラン・ケンラン(中国・台湾産の大形ランで，強いかおりがある)などがある。

とうりくてん　【唐六典】　中国，唐王朝に関する法典集。玄宗の勅命により李林甫(りりんぽ)らが738年に完成した。30巻。唐代の官制を基準に，前代の法制を注記している。《通典*(つてん)》や《唐律疏義(とうりつそぎ)》とともに唐代の法制史研究の基本史料であるが，一時に施行された法典集とは考えがたい。

とうりてん　【忉利天】　梵語(ぼんご)Trāyastrimśa(トラーヤストリンシャ)の音写で〈三十三〉の意味。〈三十三天〉ともいう。欲界六天の第2番めに位し，善見城を中心として33の天界よりなっている。帝釈天(たいしゃくてん)すなわちインドラのすみかで，須弥山*(しゅみせん)にあるという。古くからインド人の間で信仰され，ブッダの母マヤ夫人は没後この天に生じたので，ブッダは一夏この天に上って母のために説法したとも伝える。諸経典中にこの天界の比類ない荘厳さが伝えられ，諸仏の浄土を叙述するのにこの天界を例に引く経典が少なくない。

どうりゅうてい　【導流堤】　流れをある方向に導くための堤防状構造物。鋼矢板*を打ち並べたものもある。河口付近は川幅が広く，流速が落ちるので上流から運ばれてきた流送土砂が沈殿し，浅瀬をつくるので，導流堤を設けて水路幅をせばめ，適当な流速を保たせる。河口付近の海はさらに沈殿が促進されるから，導流堤を水深約10mのあたりまで海中へ突き出させる。また，たとえば新潟市の信濃(しなの)川河口のように，港の水域と川の流れを分離するため長い導流堤が設けられるものもある。〔米元卓介〕

とうりょう　【当量】　⇨化学当量

とうりょうさくもつ　【糖料作物】　工芸作物分類中の一項目。砂糖を生産する作物のことで，熱帯・亜熱帯地域ではサトウキビ，温帯から亜寒帯ではサトウダイコンが栽培される。その他，サトウモロコシ・サトウカエデ・サトウヤシなどもあるが栽培はごくわずかである。

とうりょうせいふ　【統領政府】　1799年11月9日(ブリュメール十八日*)ナポレオンがクーデターによって総裁政府*を倒して樹立した政府。1804年11月のナポレオンの皇帝即位(第一帝政)まで続いた。民主主義と議会政治を倒したナポレオンは1799年新憲法を制定し，任期10年の3人の統領からなる政府をつくってみずから第一統領となり，1802年には終身統領となった。この間ナポレオンはイタリア遠征などの軍事的展開を背景に，共和派と王党派を弾圧して，政教和約やアミアンの和約*などを締結，さらに有名なナポレオン法典を制定して，その公布前に皇帝となって統領政府は終わった。

どうりょくろ　【動力炉】　⇨原子炉

とうりんとう　【東林党】　中国，明(みん)末に顧憲成らが学を講じた江蘇(こうそ)省無錫(むしゃく)の東林書院を中心に集まった在野の政治勢力。1604年に結成され，1621年には一時政権を掌握したが，1624年，魏忠賢(ぎちゅうけん)ら宦官(かんがん)派の弾劾に失敗，逆に彼らの弾圧を受けて敗北した。のち，崇禎帝(すうていてい)のときに名誉回復が行なわれ，その運動は東林党人の子弟に受け継がれた。

とうるい　【糖類】　炭水化物の総称。炭素・酸素・水素原子からなり，一般式は$C_n(H_2O)_m$　広く動植物界に存在し，生体構成物質の重要な基幹であり，エネルギー源でもある。ブドウ糖・果糖・ガラクトースなどの単糖類，ショ糖・乳糖・マルトースなどの二糖類，ラフィノースなどの三糖類，デンプン・グリコゲンなど多糖類がある。

とうレ　【東レ(株)】　旧社名東洋レーヨン。わが国合成繊維業界のトップメーカー。繊維製品のほかに合成樹脂・合成ゴムなども生産する高分子化学の総合メーカーでもある。1926年(大正15)三井物産(株)の出資により設立され，第2次世界大戦前はレーヨン専門であったが，戦後いちはやくナイロンの企業化を図り，1951年(昭和26)アメリカのデュポン*社と技術契約を締結，デュポンにわずか3年遅れてナイロンの合成・紡糸に成功。1957年には，イギリスICI*とポリエステル繊維の技術契約を結び，テトロンを市場に出した。合成繊維の生産能力は世界第3位を誇り，全社員の約1割が研究関係に従事し，売上高の2%以上を研究費にあてている。合成繊維の原料確保のため現在では石油化学部門にも意欲的で，川崎・千葉・五井(千葉県)に石油化学工場を保有している。本社東京，工場は滋賀・愛媛・瀬田(滋賀県)・名古屋・三島(静岡県)など。資本金566億円，年間売上高4,810億円，従業員数 13,820(1980年9月)。

どうろ　【道路】　道路は人や車などの通路として，社会生活に欠くことのできない陸上交通施設である。太古から文化の発達に伴って形態も変遷を続け，現代の自動車交通を主体とする道路に引き継がれている。

〔歴史〕　ヨーロッパでは，約2,500年前ローマ帝国が領土全域に整然とした大道路網を築いたが，その多くは馬車道として整備されており，幹線道路の延長は90,000km，下級道路も含めると30万kmにも達した。中世暗黒時代にはいるとともに道路は著しく衰退したが，ルネサンス後期の16世紀ごろから再び馬車交通が発達し，馬車道としての改良整備が始まった。19世紀にはイギリス人のマカダム・テルフォードらにより優秀な砕石道が考案され，馬車道としての画期的な進展がもたらされた。20世紀の初めから自動車が実用化して急速に増加し，利用されだした結果，交通施設としての道路の近代化の第一歩が踏み出され，馬車道を自動車交通に適するように改良する工事が盛んになった。舗装工法はおおいに発達し，コンクリート舗装やアスファルト舗装がつくられ，自動車自体の改良進歩とともに，道路近代化へ一歩一歩脱皮しながら，今日の高速道路時代に推移していった。

一方，わが国の場合は地形急峻(きゅうしゅん)な島国という自然環境のために交通・輸送は海運にたよることが多く，道路の発達は

遅れ，全国的な道路網ができたのは江戸時代後期になってからである。しかも，徒歩交通を主体とし道路は狭く，勾配(こうばい)・曲率がきわめて大きい所が多いうえ，路面処理法もみるべきものがなく，きわめて低劣であった。明治以後になると馬車交通と鉄道がはいってきたが，鉄道のもつ輸送力の高速・確実・大量という特長のまえに，道路の整備はほとんど顧みられないまま，大正時代にはいり，自動車交通の黎明(れいめい)を迎えることになった。自動車の普及とともに道路の改良整備の必要性が高まり，1919年(大正８)はじめて道路法が制定され，国道の改修，市街地道路の舗装が進められたが，基本道路があまりにも貧弱なため，自動車交通に適する道路に整備できたのはごくわずかで，局地的道路網の域を脱することができなかった。第２次世界大戦後，この未開発国に等しい道路事情を根本的に打開するため，1954年(昭和29)から巨額な道路整備事業費を投入し，数度(現在は第６次)の五か年計画に基づいて，一般国道・都道府県道・市町村道の道路整備と東名・名神など高速自動車国道の計画と建設など，道路の近代化が急ピッチで進められている。1967年以後，１年あたりの道路投資額は１兆円をこえ，西ドイツを追い抜きアメリカ合衆国に次ぐ道路事業費が投入されている。

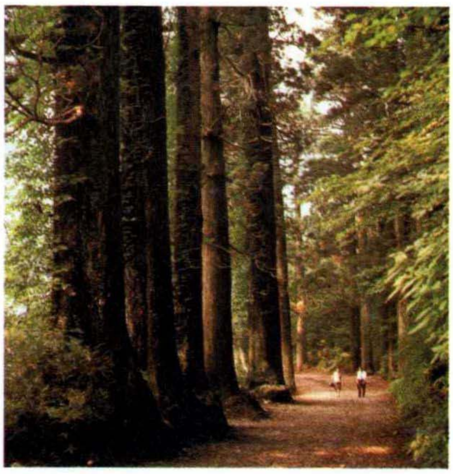
道路整備事業の財源としては，揮発油税・石油ガス税・軽油引取税・自動車取得税・自動車重量税，国および地方の一般財源，財政投融資などで，このうち揮発油税によるものが全体の３分の１強を占めて最も大きい。道路整備にあたり，わが国は地勢急峻で山岳や河川が多く，平野部は軟弱地盤が多いうえ，人口稠密(ちゅうみつ)で種々の構造物が多数あり，地価が高いなどの障害がある。このため，道路の新設・改良整備に経費がかさみ，諸外国に比較して相当に割高な建設費となっている。道路の近代化は積極的な国土の有効利用，流通の合理化および国民生活環境の改善に不可欠なものであるので，1980年を目標に交通幹線網として総延長70万kmの整備に邁進(まいしん)している。これに要する資金は維持・修繕費も含めて約60兆円で，この計画が実現すれば，その時点の交通量を考えても道路の混雑はだいたい解消され，交通安全施設もほぼ完備し，全国的に時間距離も半減して，日帰りによる長距離旅行が日本じゅうどこでも可能になる。

【道路の構造】道路には盛り土部・切り土部・橋梁(きょうりょう)・高架部およびトンネル部があり，これが組み合わされて路線が構成されている。一般道路の横断構成は，市街地では車道・街渠(がいきょ)・歩道などからなり，地方部では車道・路肩などとなるが，車道が往復４車線以上ある高規格道路の場合には中央帯をつくるのが原則となっている。また，その他の道路について，安全かつ円滑な交通を確保するために必要がある場合においても同様である。直線部では中心線から外側に約２％程度の横断勾配(こうばい)をつけて路面の排水を図り，曲線部ではスリップ防止と路面排水のために片勾配をつける。また，曲線部は車道幅員を直線部よりやや拡幅して車両の走行に支障のないようにする。道路の中心形状は直線・円曲線・緩和曲線・縦断曲線から構成されている。緩和曲線にはクロソイド曲線が多く用いられ，直線部から円曲線部にはいるとき，ハンドル操作が円滑にかつ安全にできるように両者の間に入れる。また縦断曲線は道路の勾配が変わる箇所に入れて，衝撃を防止し，かつ見通し距離を良好にする。円曲線の半径や縦断勾配の大きさは，おもに道路の設計速度により決められ，車道幅員はその道路の計画交通量と設計基準交通量に基づいて決定する。

道路交差部には平面交差と立体交差方式があり，後者の場合に右折・左折の専用連絡路(ランプウェー)のあるものはインターチェンジ*といわれ，高速自動車道路の交差部に用いられる。このほか，道路の付帯設備として信号・標識・標示・照明・防護さくなどがある。高速道路の構造は一般道路よりもはるかに高級で，高速走行が安全快適にできるようになっている。降雪地帯の道路は特に防雪さくあるいは融雪設備などを備えたものもある。なお街路では，地下が上下水道管・ガス管・電力通信線・地下鉄などの埋設箇所になっている。〔森　麟〕



柳生の里へ通ずる柳生街道滝坂の石畳



江戸時代，大名行列の往来した箱根路



古来中国特産の絹を西方のイランやインド，ないしはローマにまで運んだシルクロード

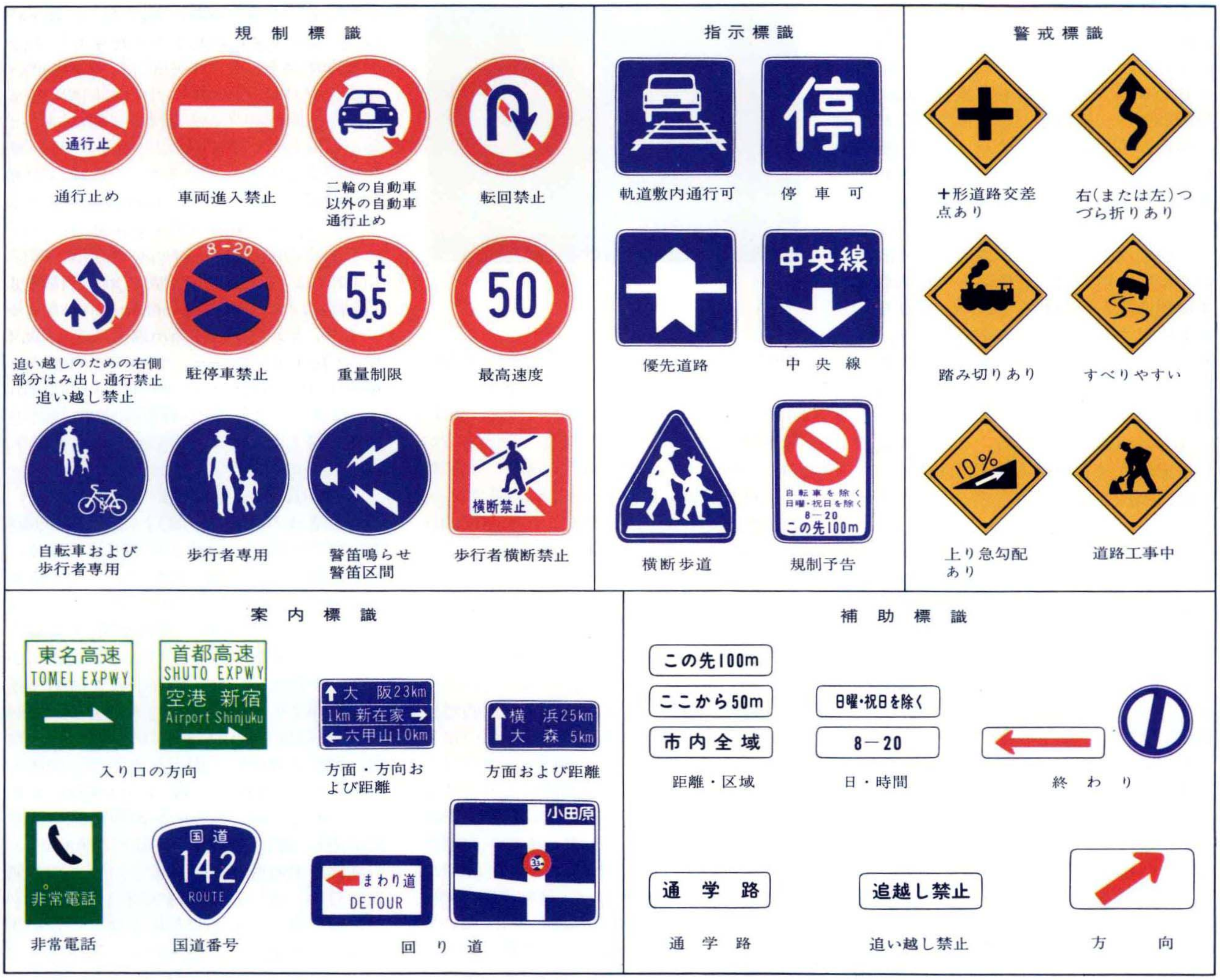
道　路

とうろう　【燈籠】　照明具の一。仏教伝来とともに中国から輸入され，古くは仏前供養の具としてのみ用いられたが，平安時代には神事に関する儀式・場所に用いられるようになり，室町末期には茶庭の成立に伴って庭園にも用いられるようになった。石・金属・木を素材とし，形式から台燈籠とつり燈籠に分けられる。台燈籠は燈火をともす家形(やかた)をさお状の台がささえ，つり燈籠はその家形の部分が独立したものである。社寺燈籠で代表的なものに春日(かすが)形・元興寺形・三月堂形があり，庭燈籠では観賞用として雪見形・滝見形・利休形・珠光形など多数の形式がある。〔渡辺欣雄〕

とうろうながし　【燈籠流し】　盆の送り行事。真菰(まこも)の葉を編んでつくった精霊舟に極楽丸とか西方丸と書いて，切子(きりこ)燈籠や高燈籠(盆燈籠)を供え物とともに川に流して祖霊を送る行事。のちに水死者の供養も兼ね，納涼行事と重なって観光行事としても盛んになった。

どうろうんそうしゃりょうほう　【道路運送車両法】　道路運送に関する法律。車両(軽車両・原動機つき自転車・自動車)の所有権の認定(登録)，安全性の確保(保安基準)，整備および検査に関して，1951年(昭和26)制定された。自動車の安全性の確保，整備事業の発展および技術向上を図ることをおもな目的とし，そのために事業免許・登録・取り締まりなどを規定している。なお本法にいう軽車両とは，馬車・牛車・馬ぞり・荷車・人力車・三輪自動車・リヤカーであり，原動機つき自転車とは，２輪の場合排気量0.125 l 以下，２輪以外は0.05 l 以下のもの，自動車とは，普通自動車・軽自動車・特種車である。本法による登録・許可・取り締まりは運輸省の所管で，地方陸運局および道府県陸運事務所が取り扱っている。〔井上公耳〕

どうろうんそうほう　【道路運送法】　道路運送事業を規正するための法律。自動車



道路標識 おもな道路標識 1972年3月現在

交通事業法および道路運送法(旧法)を総合して，1951年(昭和26)制定された。道路運送事業は，社会に及ぼす影響が大きいうえに,公共の福祉に重大な役割を占める(公共事業的な性質をもつ)ところから,道路における交通秩序を確立し，事業の適正な運営と公正な競争を図るとともに，公共の安全と福祉を保持することを目的とし，定期路線バスおよびトラック・タクシー・ハイヤー・観光バスなどの事業の公正な競争の確保に努めている。本法による許可および取り締まりは運輸省の所管で，地方陸運局および道府県陸運事務所が取り扱っている。

どうろきょう 【道路橋】 自動車が渡ることを主目的として架設される橋。よって，走行路面を形成するための床が必要で，橋の本体が鋼構造の場合でも床には鉄筋コンクリート床板を使うことが多い。道路橋の役割は道路の一部として自動車が安全快適に走れるようにすることであるから，高欄または自動車防護さく・燈柱・路面排水施設などを備える。高速道路に架設される場合などは道路の機能を重視する結果，橋体を道路のカーブに合わせた曲線橋*なども多くみられる。また走行中橋体が視界にはいるのは煩わしいので，支障のないかぎり路面から橋体が見えないような構造形式が採用されるようになってきた。〔堀井健一郎〕

どうろこうつうほう 【道路交通法】 国民の守るべき交通秩序と警察官の交通取り締まりの基本法。1960年(昭和35)12月旧道路交通取締法に代わって施行された。道路における危険を防止するとともに，交通の安全と円滑を図ることを目的とし，そのために歩行者の通行方法，車両および路面電車の交通，運転者の運転免許，道路の使用などについて規正している。旧法に比べ，特に歩行者の安全保護，交通三悪(無免許・酔っぱらい運転・スピード違反)に対する罰則，事業主の責任および大都市における交通規正，などを強化するとともに，幹線道路における特別な交通規正と取り締まりを加えた。全文124条で道路交通法施行令,道路交通施行規則(総理府令)とからなる。〔井上公耳〕

どうろひょうしき 【道路標識】 道路交通の円滑化と安全を図るために設置される施設。案内標識・警戒標識・規制標識・指示標識に大別される。案内標識・警戒標識は道路管理者が設置し，規制標識・指示標識の大部分は各都道府県の公安委員会が設置する。案内標識は市町村名・国道番号および方面・方向とそこまでの距離などを案内する27種類があり,警戒標識は〈十形交差点あり〉〈すべりやすい〉〈道路工事中〉などの警戒を与える25種類がある。規制標識は〈通行止め〉〈駐車禁止〉〈最高速度〉〈歩行者横断禁止〉〈自転車専用〉〈重量制限〉など，車両や人の通行条件や車両の大きさを規制するもので38種類ある。また，指示標識には〈安全地帯〉〈横断歩道〉〈駐車可〉などを指示する9種類が含まれる。

標識の形状としては案内標識は大部分が

正方形または長方形で，色彩は青・緑と白の組み合わせが主体である。警戒標識は全部正方形で◇状に置き，色彩は黒と黄の組み合わせが大部分である。規制標識は大部分円形で，一部は正方形・長方形または逆三角形のものもある。色彩は赤と白を主体にし，赤と青および青と白の組み合わせも用いられる。指示標識は正方形のものがほとんどで，色彩は青と白の組み合わせである。現在用いられている標識は，一部を除いて文字を用いない形象のみで意味を表わす国連方式といわれるもので，かなりの国国で使用されている。道路標識には，以上に述べた本標識のほかに規則の時間や区域などを示す補助標識が10数種ある。道路標識の種類により，それぞれの設置場所や高さなどが決められている。なお，規制あるいは指示をするために路面に直接描くマークは，標識ではなく道路標示という。〔森　麟〕

どうわ　**【童話】**　広義には児童を対象とする文学を総称していうが，狭義には《桃太郎》などの伝承童話を意味する場合と近代的児童文学の中のメルヘン*を意味する場合がある。現代では，前者は神話・昔話・民話などと厳密に細分化してよぶことが多いので，小川未明*・宮沢賢治*らによって大正中期に定着した後者の意味として用いられるのが普通である。➔児童文学

どうわきょういく　**【同和教育】**　全国6,000部落，300万といわれる被差別部落の人々の解放のための民主教育を意味する。それは，第1に部落住民子弟に対して部落の完全解放を成し遂げうる人材の育成をめざす。そして第2に，部落外の人々のもつ差別意識や観念の徹底的除去を通じて人間尊厳の思想を形成し，差別を温存する社会的・経済的条件を科学的に認識させ，解放行政への目を開かせ，完全解放の国民的課題をにないうる主体をつくることである。第2次世界大戦前は，官製の用語として〈融和教育〉といわれ，部落の人々への同情融和，部落の人々には自力更生の教育がなされた。1941年(昭和16)同和奉公会の発足に伴い，同胞一和ということで同和教育とよばれるようになった。しかし戦後，憲法の理念のもと，基本的人権の尊重という観点から，名称は同じでも内容は根本的に変化した。そこから，最近では解放運動の発展に伴い，〈解放教育〉といわれるようになってきている。〔海老原治善〕

とうわた　**【唐綿】**　双子葉植物・ガガイモ科。南アメリカ原産の一年草。高さ60～90cm。葉は長さ15～25cmの長楕円(ちょうだえん)形など広披針(こうひしん)形で，対生する。7～8月，茎の上部の葉腋(ようえき)から長柄の散形花序を出し，赤色5深裂花をつける。おしべとめしべが合体して蕊柱(ずいちゅう)をつくる。観賞用に栽培する。



トウワタ

ドゥンガンのらん　**【ドゥンガンの乱】**　中国，清(しん)末に甘粛・新疆(しんきょう)省を中心に住む中国語を話すイスラム教徒の反乱。中華人民共和国成立後はドゥンガン(東干)の呼称は廃され，回民・回族といわれるので，この乱もいわゆる回民起義の一つに数えられる。普通は1864～1877年に阿渾(アホン)安明が起こした乱をいうが，民国時代の1931～1932年にも反乱があった。

ドゥンス-スコトゥス　［Johannes Duns Scotus］(1266ごろ～1308ごろ)　スコラ哲学者。スコットランドに生まれる。フランシスコ会*にはいり，オックスフォード，パリで学んだ。彼はその厳密な思考によって〈鋭利な学者〉とよばれ，また独創的思想家としてもスコラ哲学に新生面を開いた。彼において，〈学〉は必然的論証(必然かつ自明の原理から出発し三段論法によって結論に導くア-プリオーリな論証)に基づく厳密学であることが求められた。この学の理念はトマス-アクィナス*の体系に対して強力な批判となった。厳密学の立場からは，神の存在も魂の不死性も十分論証されえないものとなった。それらは信仰の真理ではあるが，理性の真理ではないとされた。神学はここに一つの実践的な学となり，理論学としての哲学との区別はさらに強められた。彼のこの基本的立場から生じた，意志が知性にまさるとする主意説は，トマス-アクィナスの主知説に対立した。〔広川洋一〕

とおかえびす　**【十日戎】**　旧暦1月10日の夷*(えびす)神を祭る日。関西地方に盛んで，特に大阪市浪速(なにわ)区の今宮神社や兵庫県西宮市の西宮神社十日戎は有名である。夷はおしでつんぼの神だと伝えられ，参拝人は買い求めた木槌(きづち)で社の裏のはめ板をたたいて〈まいりました〉とよんだものだという。この日を中心に前後3日間市が立ち，さまざまな縁起ものをささ竹につるしたものを〈福もらい〉と称して参拝人が買って帰る風がある。〔直江広治〕

とおがったおんせん　**【遠刈田温泉】**　宮城県刈田郡蔵王(ざおう)町にある温泉。泉温41～62℃，泉質は放射能泉で，神経痛・胃腸病・外傷・リウマチなどにきくといわれる。蔵王山の東麓(とうろく)，松川の流域に位置し上湯・中湯・東湯に分かれる。ラジウムの含有量が多く，療養温泉として古くから知られる。蔵王国定公園に属し，東北本線大河原(おおがわら)駅からバスの便がある。

とおかまち　**【十日町(市)】**　新潟県南部，信濃(しなの)川右岸の市で，十日町盆地の中心。古くから農家の冬の生業として縮(ちぢみ)の生産が行なわれ，明治時代以後明石(あかし)縮*を特産する町として栄えた。1954年(昭和29)市制施行。人口5万。付近は豪雪地として知られる山間都市であるが，県下ではじめて舗装道路がつくられた。産業三大別人口比は21：47：32。1,000に近い工場群と〈賃機〉によってお召し・縮緬(ちりめん)などをつくり，年間出荷額は300億円に達し，近年は合成繊維織物やニットウエアの製造など，繊維工業の総合化が行なわれている。飯山(いいやま)線に沿い，国道117号線・252号線・253号線が通じる。〈ほんやら洞(どう)〉〈雪祭り〉などの冬の行事が名高い。

とおかんや　**【十日夜】**　⇨亥(い)の子

とおとうみ　**【遠江(国)】**　静岡県の西部を占める旧国名。遠州。東海道に属する。本来の意味は遠淡海(とおつあわうみ)，すなわち琵琶湖(びわこ)を近淡海(ちかつあわうみ)といったのに対して浜名湖(15世紀まで淡水湖)をこのようによんだもの。もと周智(すち)・山香・引佐(いなさ)・麁玉(あらたま)・敷智(ふち)・浜名・長田・磐田(いわた)・豊田(とよた)・山名・佐野(さや)・城飼(きかう)・蓁原(はいばら)の13郡であったが，現在では浜松・掛川など6市と周智・引佐・浜名・磐田・小笠(おがさ)・榛原の6郡に分かれる。国府・国分寺は豊田郡(現在の磐田市)。鎌倉時代には安田・北条(ほうじょう)の諸氏，室町時代には斯波(しば)・今川の諸氏が守護*となった。戦国末期，今川氏真(うじざね)が出奔してからは徳川家康*(いえやす)の手に帰し，家康の江戸遷居後は，豊臣秀吉(とよとみひでよし)配下の諸将が分治したが，関ケ原の役後徳川譜代の諸大名が浜松・掛川・横須賀(よこすか)・相良(さがら)などに分封された。明治時代以降は，堀江(ほりえ)県から浜松県を経て，1876年(明治9)静岡県と合併し，現在に及んでいる。〔黛　弘道〕

とおの　**【遠野(市)】**　岩手県南東部の市。人口は32,000。南部氏の支藩一万二千石の旧城下町で，海岸と内陸を結ぶ宿駅として発達した遠野町が，1954年(昭和29)に周辺7村を合併して市制施行。市域は遠野盆地の全域を占め，面積は660km²もあって岩手県の市ではいちばん広く，1km²あたりの人口密度は48人と少ない。産業三大別人口比は46：20：34。猿ケ石(さるがいし)川・小烏瀬(こがらせ)川沿いの低地に湿田が多く，早瀬川沿いの低地と扇状地には乾田と畑がある。もと〈遠野の馬市〉で知られる馬産地であったが，最近は北部の早池峰(はやちね)山のふもとの草地を開発して酪農が盛んである。釜石(かまいし)線が通じ，仙人(せんにん)峠有料道路で釜石市と結ばれる。南郊に遠野城跡があり，県立自然公園の早池峰山郷は特別天然記念物の高山植物群落があり，山麓(さんろく)の早池

峰神社には古式ゆかしい早池峰神楽(かぐら)が伝えられ，無形文化財に指定されている。なお，盆地農村部の民間信仰や伝承をまとめた柳田国男(くにお)の《遠野物語》がある。

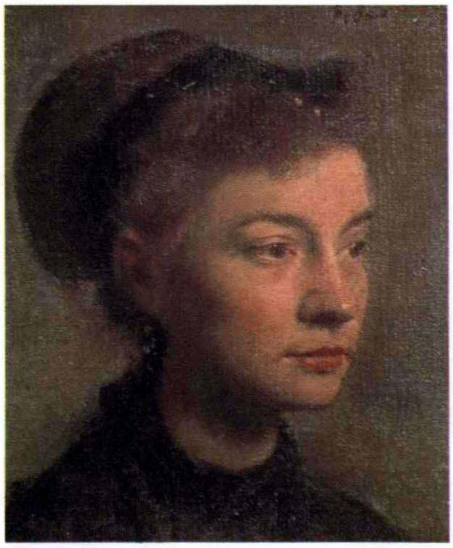
とおんきごう　**［ト音記号］**　⇒音部記号

ドガ　［Edgar Degas］（1834～1917）フランスの画家。銀行家のド-ガズ家の長子として生まれたが，アングルにひかれて画家を志す。1855年美術学校に入学，次いでイタリア各地に学んで帰国，肖像画・歴史画などを試作した。その後マネ*らを通じて印象派の画家と知り合いになり，当時の新しい風俗をも主題に描いた。しかし，プロイセン-フランス戦争*で視力をそこない，ルイジアナにおもむいて静養しながら新しい制作の方向を模索した。パリにもどってからは，モンマルトルのアトリエで彫刻などを試み，第1回の印象派展開催には大いに協力し，10点の作品を展示したが，1893年以降はまったく出品をとりやめ，印象派から離れていった。ドガは衰えいく視力に悩みながら，エル-グレコ・ティエポロ・アングルなどを研究した。また，マイブリッジその他の初期の写真によって，運動の描出に興味をもち，バレエや競馬などを画面にとらえようとした。晩年はパステル画を多く描いたが，幻想的なほど昇華した色彩法が特徴的である。〔吉田玲子〕

とがき　**［ト書］**　演劇用語。せりふ*以外に動作や表情などを脚本に指定したもの。歌舞伎(かぶき)の台本で，舞台面の説明，人物の動作・表情などを，せりふの次に別行にして位置を下げ，〈ト思入れあって上手に入る〉のようにしるした。このとき，必ず〈ト〉から書きはじめる習慣があったので，これを〈ト書き〉というようになった。現在では，新劇その他の戯曲にも使われている。

とがくしじんじゃ　**［戸隠神社］**　長野県上水内(かみみのち)郡戸隠村にある。祭神は天手力男命(あめのたぢからおのみこと)。アマテラスオオミカミの天岩戸隠れのとき，タヂカラオノミコトが岩戸を取り除き投げ捨てたのがこの地に落ち，のちタヂカラオノミコトが天下ってここにとどまったのが当社のはじめという。中世，役小角*(えんのおづぬ)が当山に九頭の龍(りゅう)を封じたといわれ，九頭龍権現として信仰を集めて修験の地として発展した。のち天台宗の別当勧修院が営まれたが，明治の神仏分離で戸隠神社の旧に復した。8月15日の例祭には火祭りが行なわれる。

とがくしそう　**［戸隠草］**　双子葉植物・ヘビノボラス科。トガクシショウマともいう。本州の中部・北部の山に生育する多年草。地下に節の多い根茎がある。高さ30～40cmで，茎の上部に2枚の3出複葉を対生につける。小葉は長さ8～12cmの心状卵形で，あらい鋸歯(きょし)がある。5月ごろ茎頂に直径2～3cmの淡紫色の花を数個つける。がく片は6枚で花弁状，小さな6枚の花弁がおしべ6本，めしべ1本を囲んでいる。



ド　ガ《若い女性の肖像》



トガクシソウ





トカゲ
(上)トカゲ
(下)イグアナ科のツノトカゲ

秋に卵状楕円(だえん)形の漿果(しょうか)が熟す。長野県戸隠山で発見されこの名がある。

とがくしやま　**［戸隠山］**　長野県北部，長野市の北西方，新潟県境近くにある火山。標高1,911m。広義には，表山といわれる西岳・戸隠山と，その北にあって裏山といわれる五地蔵岳・高妻山・乙妻山の火山群とを総称する。山貌(さんぼう)は峨々(がが)として険しく，古くから伝説をもつ山で，また信仰の対象となり，奥社・中社・宝光社の3社からなる戸隠神社*がある。東の飯縄(いいづな)山との間の戸隠高原(標高約1,200m)は，牧場・林野・清流があり，夏のキャンプ場としてにぎわう。〔高野　繁〕

とかげ　**［蜥蜴］**　爬虫(はちゅう)類・トカゲ科。日本固有種で，北海道・本州・四国・九州・大隅(おおすみ)諸島などに分布する。全長20cm前後で，尾はその約3分の2。幼体の体色は黒色に近く，背面から体側にかけて5本の黄白色縦条が走り，内側の3本は尾の中央部まで達している。尾はあざやかなコバルト色または緑青色。成体では体色は暗かっ色となり，5本の縦条は失われて体側に明瞭(めいりょう)な黒かっ色の幅広い縦走が現われる。頭部は赤かっ色で，下顎(かがく)から咽喉(いんこう)部にかけて赤みをおび，尾の青みはあせる。尾は自割しやすく，ショックを受けると椎骨(ついこつ)にある割れ目から切れ，飛びはねる尾に敵の注意を引きつけて，その間に身をのがれる。尾は再生するが，軟骨部だけで椎骨は生じない。平地の乾燥した草原，人家付近の石がき，堤の小孔をすみかとする。昼行性で，こん虫・クモ・ミミズなどを捕食する。体の断面が円形で腹を地面につけて歩くいわゆるスキンクの仲間で，琉球(りゅうきゅう)諸島を含む日本には本種に近い7種が分布しており，すべて卵性。なお，トカゲの属するトカゲ亜目は20科約3,000種からなり，イグアナ・コモドオオトカゲ・アガマ・ヤモリ・カメレオン・アンナントカゲ・トビトカゲなどが含まれる。〔松井孝爾〕

とがさわら　**［栂樣］**　裸子植物・マツ科。紀伊(きい)半島および四国の山地に自生する常緑高木で，高さ20mに達する。葉は線形で長さ3cm以下，下面は白色。球果は長さ5cmほどの卵形で，黒かっ色に熟す。材は土木用・土台・まくら木などに用いられるが，質が柔らかく良材とはいえない。

とかちいし　**［十勝石］**　北海道十勝川の河床礫(れき)中のコクヨウ石*。漆のような深い黒色と，ガラス光沢をもつ。赤かっ色の斑点(はんてん)が混じったものは花十勝とよばれる。観賞石・飾り石として用いられる。

とかちがわ　**［十勝川］**　北海道中部の川。石狩山地，十勝岳*に源を発し，南下して十勝平野*に出，東南に向きを変えて太平洋に注ぐ。流程178km。帯広市付近では然別(しかりべつ)・音更(おとふけ)・札内の支流を入れ，下流では利別川・浦幌(うらほろ)川が合流する。下流は低平な泥炭地(でいたんち)が展開しているので，河流は乱流し，河跡湖や分水跡が多い。

とかちがわおんせん　**［十勝川温泉］**　北海道河東郡音更(おとふけ)町にある温泉。泉温38～46℃，泉質は単純泉で，皮膚病・婦人



十勝岳 噴煙をあげる新噴火口。山頂付近は1962年の爆発のとき噴出した新しい火山砂礫でおおわれている

病・神経痛・リウマチなどにきくといわれる。十勝平野*の中に湧出(ゆうしゅつ)する温泉で，戦後開発された。設備もよく帯広市民の行楽地になっており，10月のサケの漁期が最もにぎわう。交通は根室本線帯広駅からバスの便がある。

とかちしちょう 【十勝支庁】 北海道14支庁の一。道南東部，太平洋に面する地域で，北は網走(あばしり)支庁，東は釧路(くしろ)支庁，西は日高・上川の両支庁と接する。河東・上川・河西・広尾・中川・十勝・足寄(あしょろ)の7郡，16町3村よりなり，面積10,212km²，人口18万0,000。庁舎所在地は帯広市。管内の中央を十勝川*が東流あるいは南東流し，その本・支流流域に十勝平野*が広がり，周辺には北に石狩山地，東に白糠(しらぬか)丘陵，西に日高山脈が連なる。十勝平野は北海道における畑作農業の一中心で，日高山脈の山麓(さんろく)地帯と海岸部の海霧地帯には酪農が発達し，周辺山地一帯では林業が盛んである。工業は農畜産物・木材の加工が主である。 〔浅井得一〕

とかちだけ 【十勝岳】 北海道中央部の大雪山国立公園南西部にある活火山。標高2,077m。北海道で大雪山に次いで高い。尾根は北東から南西へ連なり，特に西のふもとは富良野(ふらの)盆地に広大なすそ野を広げ，道内有数のスキー場となっている。1926年(大正15)・1962年(昭和37)に大爆発があり，北および西のふもとに大きな被害を与えた。

とかちへいや 【十勝平野】 北海道南東部，太平洋に面した平野。西は日高山脈，北は石狩・然別(しかりべつ)・阿寒(あかん)の火山群，東は白糠(しらぬか)丘陵に囲まれた広大な洪積(こうせき)台地で，南部の豊頃(とよころ)丘陵をはじめ，火山灰におおわれた丘陵や台地が発達し，数段の段丘が形成されている。十勝川*とその支流音更(おとふけ)川・利別(としべつ)川が周辺山地から流入して，中央部で合流し，十勝川はさらに南東流して東部で太平洋に注ぐ。これらの河川に沿って狭い沖積(ちゅうせき)低地が形成され，十勝川下流部には湿地帯が形成される。中心都市の帯広には，明治中期にアメリカの農業を模して広い方形地割がつくられたが，その後も周辺



トガリネズミ



ト　キ

の開拓が進み，直交する道路，カラマツの防風林でくぎられた広い畑，点在する防風林で囲まれた農家など開拓時代の景観がいまなお残っている。大規模な機械化農業が行なわれ，アズキ・ダイズなどの豆類をはじめ，ジャガイモ・エンバクなどがつくられる。 〔味沢成吉〕

とかられっとう 【吐噶喇列島】 薩南(さつなん)諸島に属し，北北東から南南西へかけ約160kmにわたって連なる火山列島。行政上は鹿児島県鹿児島郡十島(としま)村としてまとめられ，村役場は鹿児島市にある。面積87.5km²，人口913。1952年(昭和27)まではアメリカ軍の占領下にあった。北から口之島・中之島・臥蛇(がじゃ)島・平島・諏訪之瀬(すわのせ)島・悪石島・小宝島・宝島・横当島の9島があり，そのほかいくつもの小島や岩礁を含む。横当島は無人島で，臥蛇島も1970年以来無人島となった。亜熱帯気候であるが，生産力に乏しく，人口流出の傾向が進み，1965～1970年の人口減少率は23.9%に達する。横当島を除く7島(小宝島は宝島に含める)と北にある黒島・硫黄(いおう)島・竹島を合わせて〈川辺(かわなべ)十島〉ともいう。 〔浅井得一〕

とがりいしいせき 【尖石遺跡】 長野県茅野(ちの)市南大塩にある縄文(じょうもん)時代中期の住居遺跡。中央に石で囲んだ炉，土器・石器，壁に祭壇を置いたものなど，方形の竪穴(たてあな)住居跡が70軒以上，中央に広場を中心に環状の集落を形成している。

とがりねずみ 【尖鼠】 哺乳(ほにゅう)類・食虫目・トガリネズミ科。体はハツカネズミよりもずっと小さく，頭胴長4.2～9.2cm，尾は一般に長い。鼻が長く突き出てとがっているのでこの名があるが，ネズミ類ではなく，モグラに近縁のものである。ヨーロッパ・アジア・北アメリカの寒冷な地方に多く，日本にはシントウトガリネズミ・ヒメトガリネズミ・アズミトガリネズミ・オオアシトガリネズミ・トウキョウトガリネズミの5種がある。動作はきわめて敏捷(びんしょう)で，地中や地上で生活し，ミミズ・ムカデ・カタツムリなどの動物質を食べる。1日に自分の体重の2倍ほども食べ，数時間食べないと死んでしまう。性質は荒い。 〔今泉吉典〕

とがりば 【尖翅蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・トガリバガ科の総称。幼虫・成虫ともにヤガに似た中形のガで，翅(はね)は細長く，灰色の色彩のものが多い。触角は太く，糸状または短いくし歯状。口吻(こうふん)は発達し，後脚の脛節(けいせつ)には2対のとげがある。成虫は夜間燈火に飛来し，春か秋に出現する種類が多い。幼虫は食樹性で葉をゆるやかに巻いてすむが，重要な害虫はほとんどない。幼虫の体は円筒形で，薄い繭をつくってさなぎとなる。主として北半球に分布するガで，インド・マレー地方に多い。この科は，複眼が毛におおわれているか否かによって2群に分けられ，世界に約120種，日本には約30種が知られる。モントガリバ・アヤトガリバは日本で最も普通のトガリバで，5～10月にかけて燈火によく飛来し，幼虫はキイチゴ類を食べる。

とがわしゅうこつ 【戸川秋骨】 (1870～1939) 英文学者・随筆家。熊本県の生まれ。本名明三。明治学院在学中に島崎藤村*らと知り，《文学界*》の創刊に参加。東京大学英文科を卒業後，慶応義塾(ぎじゅく)大学教授となり，多くの翻訳を残した。《エマーソン論文集》《デカメロン》《十日物語》が著名。風刺に満ちた随筆でも知られ，《英文学覚帳》《自画像》などの随筆集がある。

ド-カンドル ［Augustin Pyrame de Candoll］ (1778～1841) スイスの植物学者。ジュネーブに生まれ，パリへ出て植物学を学び，ラマルク*・キュビエ*らに親交した。1807年モンペリエ植物園長，翌年モンペリエ大学教授。1816年よりジュネーブ大

学教授となり，植物誌の研究に専念。多くの新種植物を発見し，《植物自然分類法序説》の出版を開始したが完成せず，子のアルフォンスに引き継がれた。彼は植物分類の基準をその機能に置き，特に生殖器官を中心に分類を試みた。植物自然分類の創始者のひとりとされる。〔中村禎里〕

とき【鴇・鴾・淡紅色鳥】①鳥類・トキ科の総称。オセアニアを除く全世界の温帯および熱帯に26種が分布する。トキ類16種，ヘラサギ類10種からなり，大きさはだいたい翼長30cm前後のものが多い。顔には羽毛がなく，成鳥になるとくびまで羽毛のなくなるものもある。いずれも，湿地や湿草原・水辺などに生息し，各種の水辺の動物を主食とする。一般に樹上で集団繁殖するが，ヨシ原やがけに営巣するものもある。トキ類は先が細く，かつ凸形(とつがた)に湾曲したくちばしをもつ。ヘラサギ類のくちばしは上下に扁平(へんぺい)の長いへら状であり，これを半ば開いて水中につけ，左右に頭を振って，くちばしにかかるものを捕える独特の探食動作をする。わが国には，トキ・クロトキ・ヘラサギ・クロツラヘラサギの4種が分布し，あとの3種は旅鳥または冬鳥として少数が渡来する。②トキは本科の鳥類中いちばん北方に分布するもので，日本・朝鮮・中国・ウスリー地方に分布することが知られているが，外国における最近の生息状況は不明。わが国でも現在，佐渡ケ島の水田や沢地のある山林地帯に9羽(1977)が生息するのみで絶滅の危機にある。全長70～80cm，くちばしは黒，顔と脚は赤色，全体にとき色(淡紅色)。繁殖期には特殊な黒色色素が分泌され，くび・胸・背などが灰色になる。古来，ドウとよばれ，各地に多数生息していたが，生息環境の悪化と乱獲のため急激に個体数は減少し，国際保護鳥に指定されている。鳴き声は独特な響きがあり，アァーと聞こえる。〔安部直哉〕

とき【斎】仏教での食事のこと。僧の食事を時(とき)と非時(ひじ)に分け，食事を正午以前にとり，非時には食事をとらないことが戒律で定められていた。時は適切な食事をする意味で，斎戒を伴うことから，斎の字をあててトキと読むようになった。のちに転じて肉食をしない意味に変わり，仏事のときの食事をさし，民間の行事にもトトキ・オトキが用いられ，休日を表わす広い意味に用いている地方もある。

とき【土岐(市)】岐阜県南部の市。人口65,000。中心市街の土岐津は古くから美濃(みの)焼の産地として知られ，1955年(昭和30)周辺4町1村を合併して市制施行。市域は美濃三河(みかわ)高原西部に位置し，土岐川とその支流肥田川・妻木川の流域低地と周辺山地を含む。東は瑞浪(みずなみ)市，西は多治見市，南は愛知県と接する。産業三大別人口比は1：58：41。東濃陶磁器生産地帯の中心部で，洋食器・タイルなどの生産が



土器　ポンペイから出土した紀元前後のもの。下部を地中に埋めて使用したと推定される



トキソウ

多く，製器の大半は輸出される。最近周辺山地でウラン鉱床が発見された。中央本線・国道19号線・21号線に沿い，東濃鉄道が東駄知(ひがしだち)へ通ずる。北郊に飛騨木曾川国定公園の区域内に含まれる鬼岩温泉があり，鬼岩は国指定の名勝天然記念物である。

トーキー［talkie］発声映画talking pictureの略で，発声映画ともいう。1905年フランスのルーマーとローストが電流の変化をフィルム上に光学的に定着する方法を発見，さらに翌年ド-フォレストが3極真空管を発明して音響の増幅に成功し，トーキーは実用化された。1927年のアメリカ映画《ジャズ-シンガー》が全発声の長編劇映画の最初であるが，トーキー化の波が各国に起こるのは1920年代末の世界的不況とともに訪れた無声映画*の行きづまりをこれによって乗りきろうとした1930年ごろからである。以来，映画は一段と娯楽性を加えて商品性を強め，製作は大資本にゆだねられることになった。日本では1931年(昭和6)にトーキー第1作《マダムと女房》が松竹でつくられ，これによって無声映画の弁士や楽士の多くが失職するという事件も起こった。また，映画のトーキー化は映画をより大衆的なものとしたが，一方で映像の活力を弱めることにもなり，チャップリン*らはトーキー化に反対した。しかし，エイゼンシュテイン*らは〈トーキー宣言〉(1928)によって，その積極性を認めて理論化した。➔映画 ➔シネ-カメラ〔波多野哲朗〕

どき【土器】柔らかな粘土で容器の形をつくり，乾燥後加熱してつくった素焼きの器。すでに中石器時代につくられ，新石器時代に一般化した。焼成温度はふつう700～800℃。製法は粘土塊を手でこねてつくる手捏(てつくね)法，粘土を巻き上げてつくる巻き上げ法などがあり，文様の有無によって有文土器と無文土器に区別される。器形については甕形(かめがた)・鉢形(はちがた)・皿形(さらがた)・注口土器などに分けられて整理される。特に新石器時代では年代を決定する基準の一つとして，考古学・美術史上重要である。➔縄文(じょうもん)式土器 ➔弥生(やよい)式土器

ときいろ【鴇色・鴾色・桃花鳥色】色名。トキの翼や尾羽のような色。赤みをおびた薄い赤紫色。紅染めの非常に薄い色で，一般的には桃色・桜色などに近い色と考えてよい。日本工業規格(JIS)慣用色名〈トキ色〉は，色相7.ORP，明度7.5，彩度8.0の色と規定されている。➔色

ときえだもとき【時枝誠記】(1900～1967) 国語学者。東京の生まれ。東京大学国文学科卒業。早稲田(わせだ)大学教授。現代の国語学の基礎理論となっている西洋言語学特にソシュール*の学説を批判し，独自の言語本質観に基づく言語過程説を提唱した。言語の形態面に主眼を置かず，言語主体の表現，理解過程に重点を置き，機能主義をとる点に特色がある。国語の特徴として知られる詞(体言・用言・副詞・接続詞・感動詞)と辞(助詞・助動詞)との別についても，独特な体系を立て，さらに文・段落相互の関連に関する理論を展開した。著書《国語学原論》《国語学史》《文章研究序説》など多数。

ときぜんまろ【土岐善麿】(1885～1980) 歌人。東京生まれ。号は哀果。早稲田(わせだ)大学卒業。中学時代金子薫園*の白菊会に加わったが，自然主義運動が起こるとともに，短歌の生活化を主張。ローマ字三行書きの歌集《NAKIWARAI》を発表，石川啄木(たくぼく)に影響を与え，また終生の友となった。短歌創作のかたわら研究書《田安宗武(むねたけ)》を著わし，第2次世界大戦後はローマ字運動の中心として活躍。

トキソイド［toxoid］病原菌から産生される毒素は，抗原として抗体をつくらせる能力を失うことなく，自然に毒性が弱まる傾向にある。エールリヒ*はこの現象をトキソイドと命名した。さらに，種々の化学薬品によって毒素を人工的にトキソイド化することができる。そのすぐれた方法の一つにホルマリンによるトキソイド化があり，ラモンはこれをアナトキシンと命名した。現在，予防接種用のトキソイドにはジフテリアおよび破傷風トキソイドがある。トキソイドによって，動物には毒素を特異的に中和して無毒にする抗体，すなわち抗毒素ができる。〔加藤　巌〕

ときそう【朱鷺草】単子葉植物・ラン科。日本・朝鮮・中国に分布し，湿原にややまれに見られる多年草。茎は15～30cmで中途に葉を1枚つける。葉は無柄で，長さ10cmほどの披針(ひしん)形。5～7月，茎頂に直

径２㎝ほどの淡紅紫色の花を１個つけ，花の下には１枚の包葉がある。唇弁(しんべん)は３中裂し，中裂片は内側に白色肉質の突起が密生して，縁にくしの歯状の刻みがある。

トキソプラスマ［toxoplasma］ 原生動物。分類学上の位置はまだ一定していないが，胞子虫類として扱われることが多い。微小な寄生虫で，本来他の哺乳(ほにゅう)類や鳥類に寄生しているが，ヒトにも感染する。増殖型と嚢子(のうし)型とが知られる。前者は長径３～７μの半月形ないし勾玉(まがたま)状で，宿主の細胞内で内部出芽によってふえる。後者は組織内の球状の嚢内に前者とほぼ同じ形の虫体が多数詰まったもので，慢性感染によく見られる。

トキソプラスマ感染によって起こるのがトキソプラスマ症で，わが国では成人の10％前後が感染し，特に食肉取扱業者に感染率が高いといわれるが，大部分が不顕性感染である。発症例は乳幼児に多く，胎児期に母体から胎盤を通じて感染し，奇形・脳水腫(のうすいしゅ)・ブドウ膜炎・脳性麻痺(まひ)などの原因となる。確実な治療薬はまだないが，サルファ剤・ピリメサミンなどが用いられる。予防には，食肉・鶏卵などを十分加熱し，家畜・愛玩(あいがん)動物との接触に注意する。〔山本　久〕

トキソホルモン［toxohormone］ 癌(がん)細胞から分泌される毒素の一種。癌組織の抽出物から発見され，ホルモンに似た作用をもつことから命名された。水溶性で酸や熱に強い。癌患者の全身的な障害の一つである肝臓カタラーゼ減少の原因物質とみられる。また，生体内での鉄の利用を阻害する結果，鉄を作用基とする酸化酵素系の働きを弱めたり，ヘモグロビン合成の低下を起こす。

ときもききょうしゅっせのうけじょう【時桔梗出世請状】 歌舞伎(かぶき)狂言。別名題《時今也桔梗旗挙(ときはいまききょうのはたあげ)》。通称《馬盥(ばだらい)》または《馬盥の光秀(みつひで)》。４世鶴屋(つるや)南*北作。時代物５幕。1808年(文化５)江戸市村*座で初演。５世松本幸四*郎が光秀を演じた。《絵本太功*記》や《三日太平記》から材を取り，武智(たけち)光秀が小田春永(はるなが)に憎まれて，眉間(みけん)を割られたり，ウマのたらいで酒をしいられたりして，ついに謀叛(むほん)を起こすに至る苦悩を主題にしたもの。特に光秀が切腹と見せかけて上使を切り，三方を踏み砕くところが大きな見せ場になっている。〔服部幸雄〕

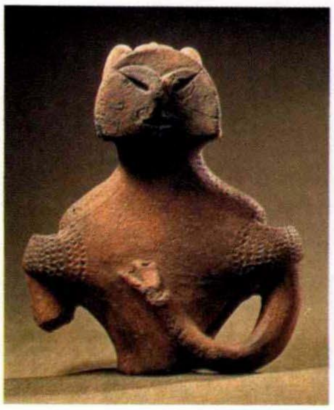
ドキュメンタリーえいが【ドキュメンタリー映画】 ⇨記録映画

ときわあけび【常磐野木瓜】 ⇨ムベ

ときわごぜん【常盤御前】 生没年不詳。源義*経(よしつね)の生母。九条院(近衛(このえ)天皇の皇后)の雑仕を経て，源義*朝(よしとも)の妾(しょう)となり，今若・乙若(おとわか)・牛若(義経)を生む。平治の*乱で義朝が敗死したのちは，３児を連れて平家の追及をのがれていたが，自首して母と子の助命を請うた。容姿にすぐれ，平清*盛の寵(ちょう)を受け，のち藤原長成に嫁したという。



トキンソウ



土　偶
縄文時代の兎唇で目のつりあがった土偶
東京国立博物館蔵

ときわさんざし【常磐山樝子】 ⇨ピラカンサ

ときわずぶし【常磐津節】 浄瑠璃(じょうるり)の流派。豊後*節(ぶんごぶし)が禁止されてから，宮古路豊後掾(ぶんごのじょう)の高弟常磐津文字太夫(1708～1781)が，1747年(延享４)に独立して立てたものである。最初から歌舞伎(かぶき)と関係し，多くの歌舞伎舞踊曲を生んだ。人材が絶えなかったこと，演劇的な要素との結びつきが強かったことなどのため多くの曲がつくられ，初期の《蜘蛛(くも)の糸》《関の扉(と)》から明治時代の《戻橋(もどりばし)》《身替坐禅(みがわりざぜん)》に至るまで，80曲余りが今日も演奏されている。豊後節系の浄瑠璃の中では語りの要素が最も強く，またこれと結びついて滑稽(こっけい)・洒脱(しゃだつ)を題材としたものがある。語り口は新内節のような激しい振幅がなく，また踊りと関係したために三味線(しゃみせん)のつくるリズムも安定した拍子を基礎とするものが多い。旋律法も古風な点があって，長唄(ながうた)はいうまでもなく，富本節と比べても細かい動きが少なく，フレーズの止め方も核音から下げたりせず，核音上でそのまま切ることが多い。三味線は他の豊後節系浄瑠璃と同じく中棹(ちゅうざお)を用いるが，響きはその中でいちばん重く，撥(ばち)の使い方も繊細にならず，半音の幅もあまり狭くはとらない。その他の代表曲に《双面(ふたおもて)》《お三輪》《将門(まさかど)》《年増(としま)》《乗合船》がある。〔徳丸吉彦〕

ときんそう【吐金草】 双子葉植物・キク科。庭・畑・道ばたなどにはえる小さな一年草で，よく枝分かれして地面をはう。葉は長さ７～20㎜ 幅３～６㎜のへら状楔形(くさびがた)で，２～３個の鋸歯(きょし)があり，互生する。７～11月，直径３～４㎜の球状ですべてが緑色の管状花だけからなる頭花をつける。果実は黄色で，頭花をつぶすと出てくる。

とく【徳】 中国で，人が備えた政教上の能力やその効果をいう。たとえば，適時の恩恵などがそれである。儒*教では，君臣・父子などの身分に応じた仁・義・忠・孝などと五*常とがあり，そして道徳実践の能力をもいう。道*家では，人が*天の自然を回復して無為無心になりえた状態をいう。

ギリシア語ではアレテーとよばれ，広くすべてのものの すぐれた本性をさしていた。プラトンはこれをさらに四元徳(知恵・勇気・節制・正義)を中心とする倫理説にまで高めた。中世では普遍的な隣人愛を本来の徳とみる。近世以降の哲学や倫理学ではさらに内面化され，道徳的な諸価値を心情と行動の両面において実行に移す用意のあることを意味する。カントによれば，徳は形式面では人間がその義務を果たす際の意志の強さであり，意志と義務との一致であるが，具体的内容には数多くのものが認められている。〔西順蔵・玉井治〕

とくいたいしつ【特異体質】 正常の人では反応しない物質に対して異常に反応を示す人があるが，このようにある物質に対して過敏な反応を呈する体質を特異体質という。アレルギー性素質を基盤とすることが多く，過敏体質と考えられる。食餌(しょくじ)に対する特異体質，薬物に対する特異体質などがみられる。たとえば食餌性特異体質として，カニ・エビ・サバ・卵白・牛乳など，おもに動物性タンパク質を摂取するとそれらに対して異常な感受性を示し，皮膚に蕁麻疹(じんましん)やその他の発疹ができたり，くちびるがはれたり，嘔吐(おうと)・下痢・頭痛をきたしたりすることがある。薬物性特異体質として，ある種の薬品，たとえばアンチピリン・ヨウ素・水銀剤・キニーネ・ヒ素剤・ペニシリンなどを与えると，食餌性特異体質のときと同様に発疹が出たり，下痢・嘔吐がみられたり，ときにショック状態を起こすこともある。過敏物質と思われるものを避けることがたいせつであるが，治療として脱感作療法(→感作)も試みられる。➔アレルギー〔高橋悦二郎〕

ド-クインシー［Thomas De Quincey］(1785～1859) イギリスの批評家。オックスフォード大学で古典・ドイツ哲学を学んだが，あへん常習者となり，生涯(しょうがい)にわたって苦しんだ。ワーズワース・コールリッ*ジらと交わり，批評を書いた。あへんによる幻覚を語ったエッセー《阿片(あへん)愛用者の告白》は著名。ほかに華麗な文体を

用いた《芸術としての殺人》などがある。

どぐう【土偶】新石器時代の遺跡から出土する土製の人体像。わが国では縄文(じょうもん)時代全般にわたってみられるが，形態・種類は時期・地域によって異なり，東日本に多く出土する。使用目的は不明だが，乳房を表わす胸部隆起があり，女性をかたどっていることから，生殖・豊穣(ほうじょう)を願う宗教的・呪術(じゅじゅつ)的儀式に使われたとする説もある。装飾文様は縄文式土器*の文様と一致する。

どくうつぎ【毒空木】双子葉植物・ドクウツギ科。日あたりのよいかわいた山野にはえる落葉低木。高さ1～2mになり，枝に皮目があってざらつく。小枝はやや四角形で，かっ色をおびる。葉は2列に対生して柄はほとんどなく，卵状楕円(だえん)形で長さ5～10cm，幅2～4cm，3本の主脈が目だつ。小枝全体が複葉に見える。葉が出るまえに前年の枝の節に総状花序がつく。雄花序と雌花序があり，同じ節より出て，雄花序のほうが先につく。雄花序は長さ2～3cm，雌花序は長さ10cmほどで2～3対の小さな葉がつく。がく片5，花弁5，おしべ10，子房5個。果実は直径5mmほどで，ふくれた花弁に包まれ，7～8月に赤から黒紫色に熟する。ブドウのような味がするが，猛毒があり，食べると中毒する。

ドグエラひひ【ドグエラ狒々】哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オナガザル科。アフリカ西部から東部にかけてのサバナにすむ普通種で，頭胴長70～80cm，尾長60cm，体重40～60kgの大形のサル。性差がはなはだしく，雌は雄よりはるかに小さい。体色は黒みがかったオリーブ色で，オリーブヒヒともいう。雑食で，ときにウサギなどを食う。10～100頭の群れをつくり，なわ張りをもち，その中に泊まり場がある。雄のリーダーがいて社会秩序はきびしく，ニホンザル社会に似ている。雌は発情すると性器がふくれあがる。〔河合雅雄〕

とくおかしんせん【徳岡神泉】(1896～1972) 日本画家。京都の生まれ。京都市立絵画専門学校に学び，竹内栖鳳(せいほう)に師事。帝展で活躍，しばしば審査員をつとめた。1957年(昭和32)日本芸術院会員。精神的な深味のある画境で知られた。

どくが【毒蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・ドクガ科の総称およびそのうちの一種。体長15mmほどで，翅(はね)を広げた長さは雄で30mm内外，雌で40mm内外。翅は黄色で，前翅の中央部には帯状に濃黄色鱗を散布し，その両側は地色がやや淡色。亜外縁部に紋のないものから3個の黒点のあるものまで変化がある。年1回6～8月に出現し，平地や低地に多産する。卵は200～300個を食樹の葉裏に固めて産みつけ，雌の尾端についている長毛でおおう。幼虫は，サクラ・バラ・クヌギ・カキ・ウメなど100種以上の植物を加害する。体に毒毛の束をもち，多



ドグエラヒヒ





ドクガ (上)成虫 (下)幼虫

くは年内に3～5齢までになり，枯れ草や落葉間に糸でつづった巣をつくって群集越冬する。越冬幼虫は5月中旬ごろ活動を始め，成長するにしたがい分散する。老熟幼虫は体長30mmとなり，頭は黒く体は黄かっ色で，全身に多数の毛がある。毒毛の束は第1腹節にあり，毒毛の長さは0.05～0.23mm，一種の皮膚腺(ひふせん)で脱皮ごとに抜け替わって数も増し，終齢幼虫では600万本に達するという。6月下旬ごろから葉の間に20mm内外の薄い灰かっ色の繭をつくり，その中で蛹化(ようか)する。羽化した成虫は繭の内側についていた多数の毒毛を腹端の長毛につけて飛び出し，燈火に集まる。毒毛に触れて，かいたりこすったりすると赤くなり，蕁麻疹(じんましん)状になる。触れた場合には，こすらぬようにしてせっけん水で洗い落とし，抗ヒスタミン剤軟膏(なんこう)か石炭酸チンクリニメントを塗るのがよい。日本全土のほか，朝鮮・中国・アムール川流域・ウスリー川流域・シベリアに分布する。

ドクガ科は中形のガで，口吻(こうふん)を欠く。触角は雌雄ともくしの歯状。幼虫は毛を密生し，しばしば歯ブラシ状に並び，毒毛を含むことがある。全世界に分布して，2,500種ぐらいが知られるが，アフリカやインド・マレー方面に最も多い。日本に産するものは44種で，成虫は大部分が燈火に飛来するが，マイマイガの雄のように昼間活発に飛ぶ種もある。幼虫の中には樹木の害虫が多く，また毒毛を繭につけ，さらに成虫がそれをつけて人家に飛来するため，人体に害を与える種もある。脚には密毛があり，翅は雄ではつねに有翅であるが，雌には退化して飛べない種もある。代表的なものとして，ドクガのほかにチャドクガ・スカシドクガ・マメドクガ・ブドウドクガ・シロオビドクガ・マイマイガなどがある。〔多々内修〕

どくガス【毒ガス】致死・傷害・刺激効果を生じるガス状物質。一般的には兵器として用いられるガス。非人道兵器として1899年および1907年の両次ハーグ条約においてその使用が禁止されたが，第1次世界大戦中の1915年4月22日，ドイツ軍が西部戦線においてはじめて本格的に使用，以後数十種の毒ガスがドイツ・連合国両軍によって使用された。毒ガスは効果により次のように大別される。①神経ガス：神経伝導機能を破壊し，死に至らせるもので，タブン・サリン・ソマンなど。②糜爛(びらん)ガス：皮膚・粘膜をただれさせるもので，イペリット・ルイサイトなど。③窒息ガス：ホスゲン・塩素ガスなど。④血液ガス：組織・呼吸器系を冒し死に至らせるもので，青酸ガス・クロルシアンなど。⑤くしゃみガス：アダムサイトなど。⑥催涙ガス：クロルアセトフェノンなどである。毒ガスは多くの場合砲弾(ガス弾)もしくは爆弾により散布され，防護には防毒面・防毒衣を着用する。防毒面は主剤とする除毒剤を吸気管に詰め，防毒衣は不浸透性の布や除毒剤をしみこませた繊維でつくられる。毒ガスは，効果的に用いられた場合最も強力かつ悲惨な破壊力を敵に及ぼす兵器であり，生産費が比較的安価であることなどから，今日でもいわゆる化学兵器の主力として，各国による秘密裏の研究開発が続けられているものと考えられる。〔藤井冬木〕

とくがわいえさだ【徳川家定】(1824～1858) 江戸幕府13代将軍。12代将軍家慶(いえよし)の第4子。幼名政之助。1853年(嘉永6)将軍となったが，生来病弱のため政務は老中阿部正弘*(あべまさひろ)らに一任した。あたかもペリー*来朝後で，攘夷(じょうい)・開港をめぐって国論騒然たるときであった。加えて家定には子がなかったため，幕府・雄藩諸侯の間にその生前から後嗣問題が起こった。
→将軍継嗣問題

とくがわいえさと【徳川家達】(1863～1940) 政治家。田安慶頼(よしより)の三男。幼名亀之助(かめのすけ)。1868年(明治1)15代将軍慶喜(よしのぶ)が大政奉還*して引退したあと徳川の宗家*を継ぎ，駿河(するが)・遠江(とおとうみ)

（以上静岡県）・三河(みかわ)（愛知県）七十万石を領した。1877年から1882年までイギリスに留学，1884年公爵，1890年貴族院議員となり，1903年から1933年（昭和８）まで貴族院議長として，〈十六代さま〉とよばれた。1921年（大正10）ワシントン会議の全権委員となり，また門閥出身のうえ資性円満であったので，日本赤十字社社長・日米協会会長など多くの公共事業の要職についた。

とくがわいえしげ【徳川家重】（1711～1761）　江戸幕府９代将軍。８代将軍吉宗(よしむね)の長男。幼名長福丸。1745年（延享２）将軍となる。生来虚弱なうえ言語が明瞭(めいりょう)でなく，また尿意をひんぱんに催したので〈小便公方(くぼう)〉といわれた。引退した吉宗が大御所として２年間後見役にあたったほか，家重の言語を理解し得た小姓の大岡忠光(ただみつ)が信任を受け，側用人(そばようにん)に昇進して権勢をふるった。1760年（宝暦10）家治(いえはる)に家督を譲り大御所と称した。

とくがわいえつぐ【徳川家継】（1709～1716）　江戸幕府７代将軍。６代将軍家宣(いえのぶ)の第４子。幼名鍋松丸(なべまつまる)。1713年（正徳３）征夷(せいい)大将軍に任ぜられたが，幼齢・病弱であったため，家宣の遺言により間部詮房(まなべあきふさ)が補佐し，新井白石らとともに諸政刷新に努めた（→正徳の治）。1715年霊元上皇の娘で当時２歳の八十宮の降嫁が許されたが，翌年家継が没したため，実際には江戸行きは実現しなかった。その死によって２代将軍秀忠(ひでただ)の血統は絶え，以後は和歌山藩（紀州藩）の血統から将軍の跡継ぎが続いた。　〔岡山泰四〕

とくがわいえつな【徳川家綱】（1641～1680）　江戸幕府４代将軍。３代将軍家光(いえみつ)の長子。幼名竹千代。1651年（慶安４）将軍となったが，幼弱のためその政治的空白をねらった由井正雪らの慶安事件や承応事件が起こった。長じてもなお病身で性質も温柔であったため，〈無為の将軍〉といわれた。しかし，30年に及ぶ長い在職期間中，保科正之(ほしなまさゆき)・酒井忠勝(ただかつ)・松平信綱(のぶつな)・阿部(あべ)忠秋らの重臣の補佐によって善政を行ない，幕府の基礎を固め，武断主義から文治主義への転換を行なった。しかし晩年には大老酒井忠清を寵用(ちょうよう)し，幕政はしだいに弛緩(しかん)していった。

とくがわいえなり【徳川家斉】（1773～1841）　江戸幕府11代将軍。一橋治済(はるさだ)の長子。1781年（天明１）10代将軍家治の養子となり，1787年将軍となる。田沼意次(おきつぐ)を退け，松平定信(さだのぶ)を老中首座に起用して寛政の改革を行なった。しかし，定信の引退後綱紀は弛緩(しかん)し，都市の風俗も華美となり，いわゆる文化・文政時代を現出したが，そのため幕府の財政はいっそう窮乏した。また特に天保(てんぽう)年間（1830～1843）には大飢饉(ききん)や百姓一揆(いっき)が頻発(ひんぱつ)し，大塩平八郎の乱などが起こった。1837年家慶(いえよし)に将軍職を譲ったが，



徳 川 家 光



徳 川 家 康

大御所と称して幕政の実権を握った。

とくがわいえのぶ【徳川家宣】（1663～1712）　江戸幕府６代将軍。甲府藩主徳川綱重(つなしげ)の長子，将軍家光(いえみつ)の孫。初め綱豊(つなとよ)と称し，父の跡を継いで甲斐(かい)（山梨県）甲府にいたが，1704年（宝永１）将軍綱吉(つなよし)の養子となって家宣と改名し，1709年将軍となる。間部詮房(まなべあきふさ)を老中とし，新井白石を重く用いて生類憐(あわれ)みの令を解き，武家諸法度(はっと)を更新し，朝鮮使節の待遇を改善し，また金銀を改鋳して財政の根本的たてなおしを図るなど，幕政の刷新にあたったが，中途にして病死し，治世は３年で終わった。

とくがわいえはる【徳川家治】（1737～1786）　江戸幕府10代将軍。９代将軍家重(いえしげ)の長子。幼名竹千代。1760年（宝暦10）将軍となる。その治世は田沼時代とよばれる時期で，老中田沼意次(おきつぐ)の専権により産業・文化が興隆したが，反面，賄賂(わいろ)が公然と行なわれて綱紀は紊乱(びんらん)し，士風は退廃した。

とくがわいえみつ【徳川家光】（1604～1651）　江戸幕府３代将軍。２代将軍秀忠(ひでただ)の第２子。幼名竹千代。春日局(かすがのつぼね)の訓育を受けて成人し，1623年（元和９）将軍となる。土井利勝(としかつ)・阿部忠秋(あべただあき)・松平信綱(のぶつな)・堀田正盛(ほったまさもり)らの名臣の補佐を受けて，職制・兵制・参勤交代・武家諸法度(はっと)などの諸制度を整え，鎖国・キリシタン弾圧の断行，田畑(でんばた)永代売買禁止令などの諸令を公布して支配体制の強化を図った。しかし浪費を好む性があり，幕府財政の窮乏の遠因がここに生じたともいわれる。〔岡山泰四〕

とくがわいえもち【徳川家茂】（1846～1866）　江戸幕府14代将軍。紀伊(きい)徳川氏の出身。11代将軍家斉(いえなり)の孫。幼名慶福(よしとみ)。紀伊藩主であったが，13代将軍家定の継嗣問題で一橋派の推す一橋慶喜(よしのぶ)（徳川慶喜）と争い，大老井伊直弼(なおすけ)らに推されて，1858年（安政５）将軍となる。1860年（万延１），桜田門外の変で井伊直弼横死ののち，翌1861年（文久１）皇女和宮(かずのみや)を江戸城に迎え，翌年結婚した。次いで慶喜を将軍の後見職，松平慶永(よしなが)を政事総裁職として公武合体を図った。1865年（慶応１）第２次長州征伐（→長州征伐）のため３度上洛(じょうらく)して大阪城に本営を置いたが，翌年大阪で病没。→将軍継嗣問題　〔岡山泰四〕

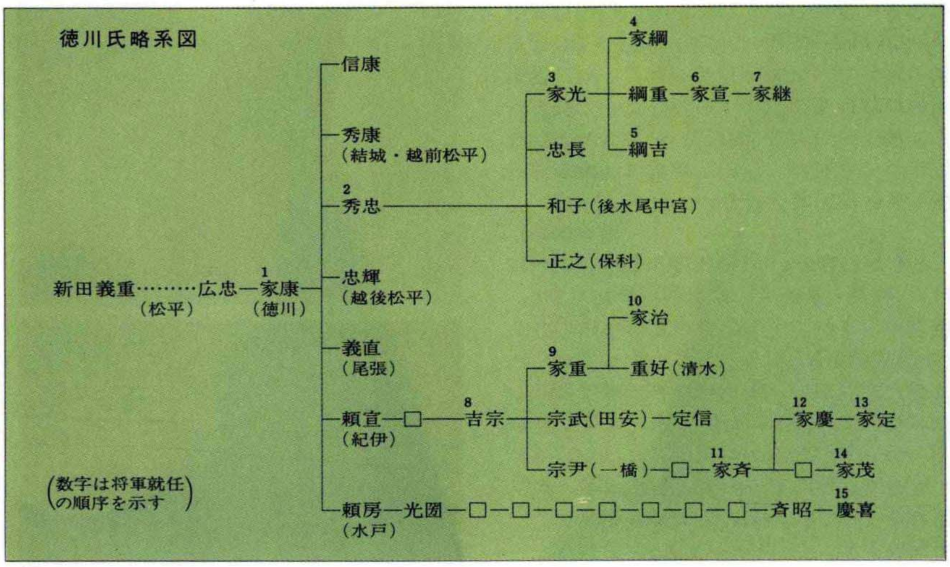
とくがわいえやす【徳川家康】（1542～1616）　江戸幕府の創立者。初代将軍。三河(みかわ)（愛知県）岡崎城主松平広忠(ひろただ)の長子。母は伝通院。幼名竹千代，初名元信(もとのぶ)・元康。６歳で今川氏の人質となり，おもむく途中で織田氏に奪われ，織田信秀(のぶひで)（信長の父）のために那古屋（名古屋）に監護された。この間，父が近臣に暗殺され，岡崎城は今川氏に占領された。1549年（天文18）松平氏と織田氏の和が成立して岡崎に帰ったが，まもなくまた今川氏の人質となり，８歳から19歳まで駿府(すんぷ)（静岡市）に抑留された。1560年（永禄３）桶狭間(おけはざま)の戦いで今川義元(よしもと)が織田信長に敗れた結果，12年間の人質生活から解放されて岡崎に帰った。こうして今川氏と離れて信長と同盟した家康は，1564年三河の一向一揆(いっき)を鎮定して三河の統一を成し遂げた。1566年勅許を得て松平氏を徳川氏と改姓。1568年武田(たけだ)信玄と今川氏の所領駿河(するが)・遠江(とおとうみ)（ともに静岡県）の分割を約し，遠江に進入してこれを占領し，1570年（元亀１）居城を岡崎から遠江引間に移して浜松と改称した。同年信長を助けて近江(おうみ)（滋賀県）姉川で浅井・朝倉連合軍を破ったが（→姉川の戦い），1572年上京をめざす信玄の大軍に三方ケ原で敗れた（→三方ケ原の戦い）。信玄の没後その子勝頼(かつより)と交戦をくり返し，1575年（天正３）信長とともに勝頼を長篠(ながしの)に破り（→長篠の戦い），1581年遠江高天神城をおとしいれて武田氏を遠江より駆逐し，1582年勝頼を天目山に追って武田氏を滅ぼした。その功により信長から駿河を与えられた。同年本能寺の変に際し，明智光秀(あけちみつひで)を討って信長の後継者たろうとしていた豊臣秀吉(とよとみひでよし)と対立した。1584年織田信雄を助けて小牧・長久手で秀吉と戦ってこれを破り（→小牧・長久手の戦い），やがて和睦(わぼく)した。1586年秀吉の妹朝日姫をめとり，1590年秀吉の小田原征伐の先鋒(せんぽう)として

参加し，後北条氏滅亡後関八州二百四十万石に封ぜられ，江戸を居城とした。秀吉の死後，1600年(慶長5)関ケ原の役で石田三成を破って覇権(はけん)を収め，1603年征夷(せいい)大将軍に補せられて江戸幕府を開いた。1605年将軍職を秀忠に譲り，大御所として軍務・政務の実権を握った。大阪の陣で豊臣氏を滅ぼして待望の天下統一を果たし，いわゆる元和偃武(げんなえんぶ)を実現した。1616年(元和2)3月太政(だじょう)大臣となったが，4月17日駿府で病没した。遺体は一時久能山に葬られたが，翌年正一位を追贈され，東照大権現の称号を受けて日光山に改葬された。➔日光東照宮　〔岡山泰四〕

とくがわいえよし【徳川家慶】(1793〜1853)　江戸幕府12代将軍。11代将軍家斉(いえなり)の第2子。1837年(天保8)43歳で将軍職を継いだが，父家斉が在世中は大御所として家斉に実権を握られた。1841年家斉の死後，老中首座水野忠邦(ただくに)を信任して天保(てんぽう)の改革を断行したが，その改革が急できびしかったため人心を失い，忠邦はわずか2年余で失脚した。のち阿部正弘(あべまさひろ)を老中首座に起用して多難な国政にあたらせた。1853年(嘉永6)ペリー来航の際は病床にあったため，正弘と水戸(みと)藩主徳川斉昭(なりあき)に後事を託して世を去った。　〔岡山泰四〕

とくがわきんれいこう【徳川禁令考】　江戸幕府の法令集。司法省編。前聚(ぜんじゅう)62巻，後聚42巻。前聚は公家(くげ)・武家・社寺・庶民・全国・外国に分類して編年順に集成し，後聚は公事方御定書(くじかたおさだめがき)・科条類典など，もっぱら刑法・判例などに関するものを収めている。江戸時代の政治・経済・社会・司法・警察制度などの研究に重要な資料である。

とくがわし【徳川氏】　江戸幕府の征夷(せいい)大将軍を世襲した家。もと三河(みかわ)(愛知県)松平郷を本拠とした松平氏を称した豪族であったが，1566年(永禄9)家康(いえやす)のとき勅許を得て徳川氏と改称した。家康は関ケ原の役に勝利を収め，1603年(慶長8)征夷大将軍となって江戸幕府を開いてから，15代265年間，その子孫が将軍職を世襲した。その一門には，家康の子を藩祖とした〈御三家〉，家康の二男結城秀康(ゆうきひでやす)を祖とする越前(えちぜん)松平氏と，秀忠(ひでただ)の子保科正之(ほしなまさゆき)を祖とする会津松平氏の二家をさす〈家門〉，将軍の庶子の分かれである〈御三卿〉があった。徳川氏を称したのは，本家ならびに御三家・御三卿の嫡流に限り，その他の庶流・支族は松平を称した。御三家は将軍を補佐し，宗家に嗣子がないときには将軍職を継ぐ権利があった。紀伊(きい)藩から8代将軍となった吉宗(よしむね)はその例。また御三卿は家格は御三家より低かったが，血統上宗家に近かったので，享保(きょうほう)年間(1716〜1735)以後は将軍の後継は御三家より御三卿に求めるようになった。11代家斉(いえなり)・15代慶喜(よしのぶ)はともに御三卿の一つである一橋家の出身であった。明治維新の際，徳川氏処分のことが問題となったが，田安亀之助(かめのすけ)(家達(いえさと))を宗家にはいらせて徳川の家名を相続させ，駿河(するが)府中(静岡県)藩主として七十万石を与えられた。廃藩置県後，宗家は公爵を授けられ，旧御三家は侯爵，旧御三卿は伯爵に列せられた。〔岡山泰四〕



とくがわじだい【徳川時代】⇨江戸時代

とくがわじっき【徳川実紀】　〈御実紀〉ともいう。江戸幕府官撰(かんせん)で，歴代将軍の治績を年月日順に和文で叙述したもの。付録に将軍の言行・逸話などを収める。正編516冊は，家康(いえやす)から10代家治(いえはる)まで。林述斎らが，1809年(文化6)から着手して1849年(嘉永2)完成。一代ごとに〈東照宮(家康)御実紀〉〈台徳院殿(秀忠(ひでただ)御実紀〉のように諡号(しごう)を冠して題名としている。続編の《続徳川実紀》は文恭院(11代家斉(いえなり))・慎徳院(12代家慶(いえよし))のみを完成し，温恭院(13代家定)・昭徳院(14代家茂(いえもち))・15代慶喜(よしのぶ)の巻は未定稿に終わった。　〔岡山泰四〕

とくがわつなよし【徳川綱吉】(1646〜1709)　江戸幕府5代将軍。3代将軍家光(いえみつ)の第4子。母は桂昌院(けいしょういん)。1651年(慶安4)上野(こうずけ)(群馬県)館林(たてばやし)十五万石であったが，1680年(延宝8)5月4代将軍家綱の養子となり，8月将軍職を継いだ。はじめ堀田正俊(ほったまさとし)を大老に任じて弊政を改め，また林信篤(のぶあつ)を大学頭に起用して朱子学を官学とし，学問興隆のため江戸湯島に聖堂を建てるなど文治主義をとった。1684年(貞享1)堀田正俊暗殺ののち政治の実権は側用人(そばようにん)柳沢吉保(よしやす)の手にゆだねられ，その言行も乱れた。生類憐(あわれ)みの令を出し，また勘定奉行(ぶぎょう)荻原重秀(おぎわらしげひで)の進言により，財政窮乏を打開するため年貢(ねんぐ)を加重し，悪貨を乱発したので経済界は大きな打撃を受けた。しかし反面都市は繁栄し，華美な元禄(げんろく)文化(→元禄時代)が出現した。　〔岡山泰四〕

とくがわなりあき【徳川斉昭】(1800〜1860)　江戸後期の水戸(みと)藩主。徳川治紀(はるとし)の第3子。号は景山，諡号(しごう)は烈公。1829年(文政12)9代藩主となり，藤田東湖らを登用し，弘道館(こうどうかん)の設立，兵制の改革，銃砲の鋳造，文武の奨励，殖産の推進，農村の復興など藩政改革を断行した。しかしその強度な尊王攘夷(じょうい)的行動により，1844年(弘化1)5月謹慎を命ぜられたが，のち許された。1853年(嘉永6)ペリーの浦賀来航にあたって幕政に参与したが，幕議と合わず辞職。のち家定の継嗣問題(→将軍継嗣問題)で老中井伊直弼(いいなおすけ)と対立して謹慎を命ぜられ，さらに安政の大獄に連座し，翌年国許(くにもと)永蟄居(えいちっきょ)を命ぜられてそのまま病没した。

とくがわばくふ【徳川幕府】⇨江戸幕府

とくがわひでただ【徳川秀忠】(1579〜1632)　江戸幕府2代将軍。家康(いえやす)の第3子。幼名長松。1605年(慶長10)家康から将軍職を譲られたが，政治の実権は大御所家康にあった。武家諸法度(はっと)・禁中並公家(きんちゅうならびにくげ)諸法度の制定，諸大名の転封など，幕府組織の整備，大名統制を行なった。1623年(元和9)将軍職を家光(いえみつ)に譲り大御所と称した。

とくがわみつくに【徳川光圀】(1628〜1700)　水戸(みと)藩2代藩主。初代頼房(よりふさ)の第3子。幼名千代松。常山人・梅里などと号した。1661年(寛文1)家督を相続し，文教政策に力を入れた。みずからも学問を修め，彰考館を設立し，安積澹泊(あさかたんぱく)・三宅観瀾(みやけかんらん)らを招聘(しょうへい)して《大日本史》を編纂(へんさん)した。また，領内の新設寺院の整理，淫祠(いんし)の廃止，ゆいしょある寺院の復興など宗教制度の是正，勧農政策の実施，士風の高揚などを図り，名君の誉れが高かった。水戸学の精神もこ

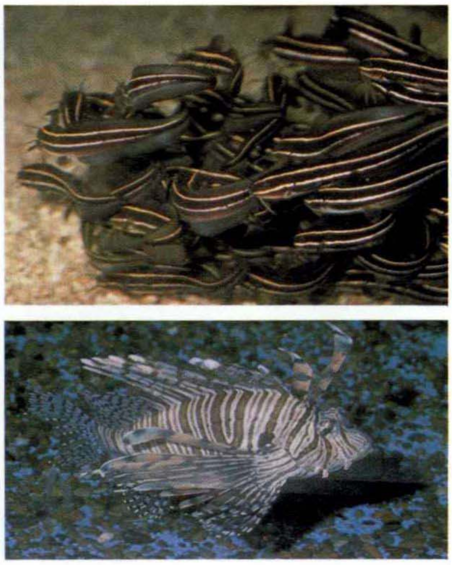
のときに定まったといわれる。晩年は太田(おおた)の西山に隠居して西山隠士と称し，近隣の百姓らと気楽に交わったことや，史料集めに家臣を諸国につかわしたことなどから，後世〈水戸黄門漫遊記〉の講談や芝居などがつくられた。しかし事実は関東から一歩も外へ出たことはなかったという。〔岡山泰四〕

とくがわむせい【徳川夢声】(1894～1971) 俳優・話術家。本名福原駿雄(としお)。東京に生まれ，中学卒業後無声映画の弁士(映画説明者)となる。名弁士として知られたが，映画がトーキー化されて俳優に転じた。《坊ちゃん》《彦六(ひころく)大いに笑う》《綴方(つづりかた)教室》などに出演したほか，ラジオ放送では話術家・声優として活躍。また随筆家としても才能を示し，《くらがり二十年》《話術》などの著書がある。

とくがわよしなお【徳川義直】(1600～1650) 御三家の筆頭である尾張徳川家の祖。家康(いえやす)の第9子。初名義知(よしとも)・義利(よしとし)。1603年(慶長8)甲斐(かい)(山梨県)二十五万石に封ぜられ，1607年尾張(愛知県)の清洲(きよす)城にはいり，1610年名古屋に築城して移った。儒教を奨励し，名古屋城内に孔子廟(びょう)を設立。《神祇宝典(じんぎほうてん)》《類聚日本紀(るいじゅうにほんぎ)》などの著書がある。

とくがわよしのぶ【徳川慶喜】(1837～1913) 江戸幕府15代将軍。水戸(みと)藩主徳川斉昭(なりあき)の第7子。1847年(弘化4)一橋家を相続し，1854年(安政1)将軍家定の継嗣問題で候補にあげられたが，大老井伊直弼(いいなおすけ)により紀州藩主徳川慶福(よしとみ)(のちの家茂(いえもち))が継嗣と決まった(→将軍継嗣問題)。安政の大獄で一時隠居・謹慎を命ぜられたが，直弼の死後幕政の転換により謹慎が解かれ，1862年(文久2)家茂の後見役となって幕政の中枢に参画し，公武合体に努めた。1866年(慶応2)家茂の死後将軍となる。1867年大政奉還。翌年王政復古が宣言されて慶喜の将軍職辞退が決せられた。鳥羽(とば)・伏見の戦いで敗れて海路江戸に帰った慶喜は，上野の寛永寺大慈院に蟄居(ちっきょ)して謹慎の意を表し，江戸開城後は水戸の弘道館(こうどうかん)に退居。その後静岡に移った。1902年(明治35)華族に列して公爵となる。〔岡山泰四〕

とくがわよしむね【徳川吉宗】(1684～1751) 江戸幕府8代将軍。紀伊(きい)藩主徳川光貞の第3子。幼名新之助。1697年(元禄10)越前(えちぜん)(福井県)鯖江(さばえ)三万石を領したが，1705年(宝永2)紀伊徳川家を継いで吉宗と改名。1716年(享保1)7代将軍家継の後見を経て，その死後将軍となる。紀伊藩主時代に藩政改革を行なって治績をあげていた吉宗は，享保(きょうほう)の改革を断行し，側近政治を改めて譜代(→譜代大名)を重用する将軍親政を強めた。1745年家督を家重(いえしげ)に譲って西丸に移り，大御所と称して将軍を補佐した。〔岡山泰四〕



毒　魚　(上)ゴンズイ。背びれと胸びれにとげがある　(下)ミノカサゴ。背びれのとげに刺されると激痛を覚える



ドクグモ　(上)ハリゲコモリグモ　(下)タランチュラ

とくがわよりのぶ【徳川頼宣】(1602～1671) 御三家の一つである紀伊(きい)徳川家の祖。家康(いえやす)の第10子。初名頼将(よりまさ)・頼信(よりのぶ)。妻は加藤清正(きよまさ)の娘。1603年(慶長8)常陸(ひたち)(茨城県)二十万石を与えられ，翌年五万石を加増，1610年駿河(するが)・遠江(とおとうみ)(ともに静岡県)・三河(みかわ)(愛知県)五十万石を領して駿府(すんぷ)城に住し，〈遠江宰相〉といわれた。1619年(元和5)紀伊(和歌山県)一国および伊勢(いせ)(三重県)の一部を合わせて五十五万五千石を領し，和歌山城に移った。当初多くの浪人を召しかかえたため，財政難をひき起こしたが，藩士の知行を借りて殖産興業に努め，藩体制を確立した。〔岡山泰四〕

とくがわよりふさ【徳川頼房】(1603～1661) 御三家の一つである水戸(みと)徳川家の祖。家康(いえやす)の第11子。1606年(慶長11)常陸(ひたち)(茨城県)下妻十万石を領し，1609年水戸二十五万石に転じ，のち加増されて二十八万石を領した。学問を好み，儒学・神道(しんとう)を学んだ。

どくぎょ【毒魚】 毒性のある魚。食べて中毒を起こすような魚と，ひれなどにある棘部(きょくぶ)に毒腺(どくせん)が発達しており，これに触れると毒物が人間の体内にはいって痛みを感じる刺毒魚の2型がある。前者による被害を一般にシガテラと総称するが，これは南方海域のサンゴ礁のまわりに生息する魚を食べて起こる死亡率の低い中毒である。シガテラ魚の分布は主として南北回帰線の内側に限られるというが，日本では奄美(あまみ)大島が北限とされている。しかし，房総半島勝浦沖で漁獲されたヒラマサによってこの種の中毒が起きたことがあり，北回帰線以北にもシガテラ魚が分布するようである。一方，刺毒魚の分布は限定されず，かなり広範囲に分布する。日本ではゴンズイ・ミノカサゴ・オニオコゼ・エイなどの底生魚類が多いが，中層を遊泳しているアイゴなどにも毒腺が発達しており，じかに手を触れると2～3日は激痛を覚えるものも少なくない。しかし，生命に危険を及ぼすものはほとんどないとされている。生命に危険のある中毒にはフグ毒がある。〔安田富士夫〕

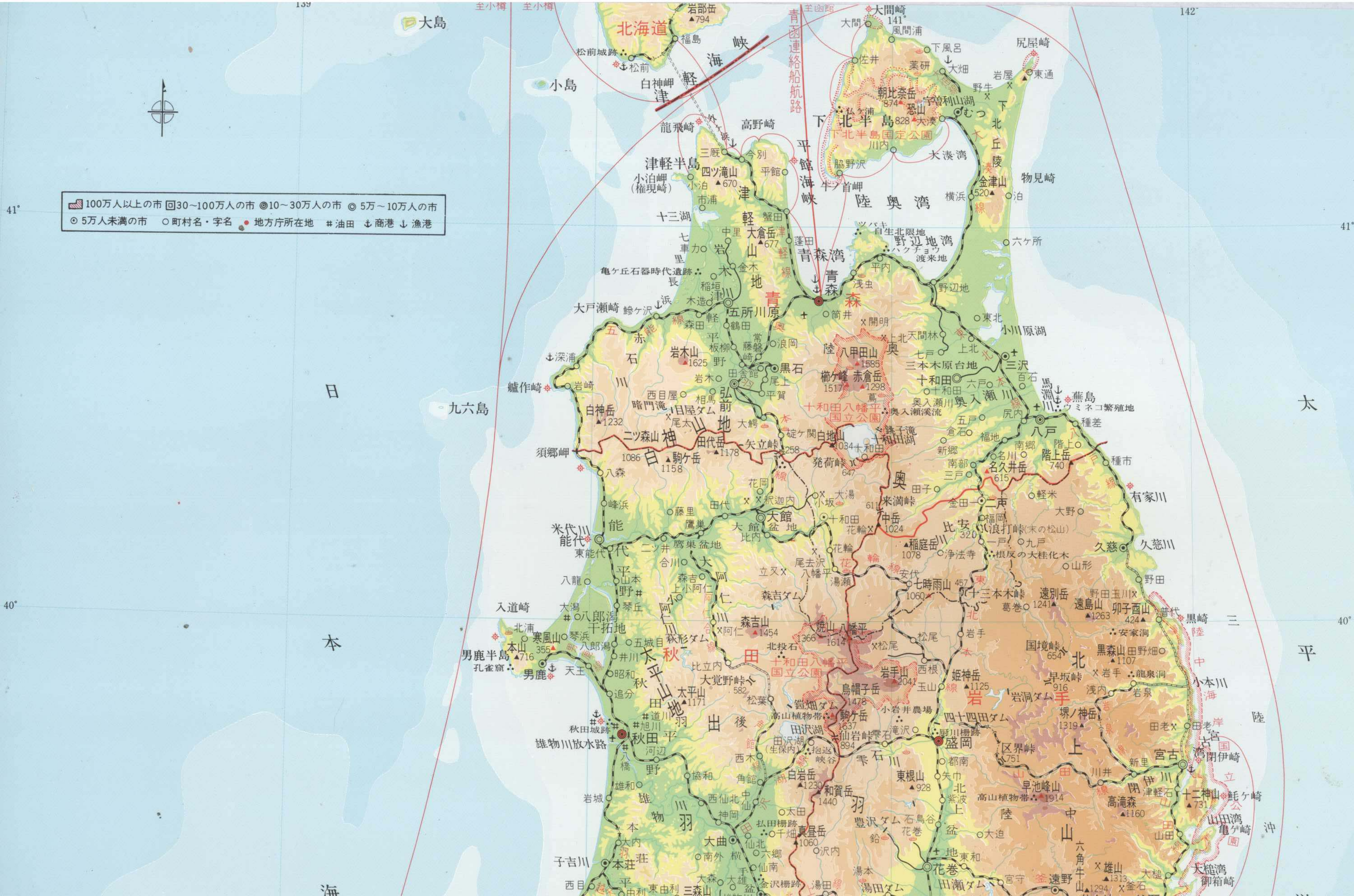
どくぐも【毒蜘】 ヒトに対して毒性の強いクモの総称，あるいはコモリグモ科の別称。クモは，彼らの食物となるこん虫や小動物には致命的な毒であっても，大形の動物やヒトに対して害を与えるほど毒の強いものはきわめて少なく，熱帯地方に若干見いだされるのみである。オーストラリアのアトラックス(ジョウゴグモ科)は毒性が強く，かまれると死ぬことがある。地方に分布するゴケグモ(ヒメグモ科)は，小形ながら毒性の強いので有名であり，八重山群島にその一種(セアカゴケグモ)が分布する。しかし，いかに猛毒性のものでも積極的にヒトを攻撃することはない。わが国のクモの中で比較的毒性が強いと考えられているのはコマチグモ(フクログモ科)の類であるが，だれも同じ程度の被害を受けるというのではなく，多分に特異体質が関係しているようである。今日までの刺咬症(しこうしょう)としての臨床例は，多くカバキコマチグモであった。

コモリグモ科をドクグモ科というのは，ヨーロッパ産のタランチュラを毒が強いとする伝説によるもので，この科に属するクモはいずれも毒性は弱く，ヒトに害を与えることはない。卵や子グモをたいせつにす

東北地方



陸高と水深
2000m以上
1500
1000
500
200
100
0
100
200
1000
2000m以下
1：1,500,000
0 10 20 30 40 50 60 70 80km
38°
37°
141°
142°
至東京・横浜
新潟
山形
仙台
福島
新発田
村上
鶴岡
酒田
新庄
米沢
会津若松
郡山
白河
いわき
北茨城
石巻
古川
塩釜
長岡
柏崎
十日町
三条
燕
仙台湾
佐渡海峡
佐渡
両津
粟島
猪苗代湖
飯豊山地
阿武隈川
佐渡弥彦国定公園
磐梯朝日国立公園
蔵王国定公園
福島原子力発電所



100万人以上の市 回30～100万人の市 ◎10～30万人の市 ◎ 5万～10万人の市
⊙ 5万人未満の市 ○町村名・字名 ● 地方庁所在地 # 油田 ⚓ 商港 ⚓ 漁港
日
本
海
太
平
洋
北海道
津軽海峡
青函連絡船航路
平館海峡
陸奥湾
青森湾
野辺地湾
大湊湾
下北半島
下北半島国定公園
下北丘陵
津軽半島
津軽山地
白神山地
出羽山地
太平山地
奥羽山脈
北上山地
青森
秋田
岩手
陸中海岸国立公園
十和田八幡平国立公園
十和田湖
田沢湖
男鹿半島
八郎潟干拓地
能代平野
秋田平野
横手盆地
北上盆地
大館盆地
鷹巣盆地
花輪盆地
三本木原台地
岩木山 1625
八甲田山 1585
岩手山 2041
早池峰山 1914
姫神岳 1125
森吉山 1454
恐山 828
朝比奈岳 874
大間崎
尻屋崎
竜飛崎
小泊岬 (権現崎)
入道崎
艫作崎
大戸瀬崎
十三湖
小川原湖
五所川原
弘前
黒石
十和田
三沢
八戸
むつ
大館
能代
盛岡
宮古
久慈
花巻
男鹿
本荘
大曲
九六島
小島
大島
松前
福島
白神岬

ることで有名で，産んだ50〜100の卵は糸でていねいに包まれた卵嚢(らんのう)に仕上げられ，母グモはこれを腹端に保持して歩き回る。やがて子グモが孵化(ふか)すると，全部の子グモを背に負って保護する習性がある。この期間中子グモはなにも食わないが，やがて母グモを離れてそれぞれ独立生活にはいる。早春から晩秋にかけていつでもどこでもこの姿が見られる。卵を保持し保護する本能は，産卵後なにかを身につけていたいとの欲求に基づくもので，実験的には木片・ゴム片・紙片などなんでも持って歩く。日本には70種ぐらいが知られ，おもな種類としてはウヅキコモリグモ(早春に出現)・キクヅキコモリグモ(水田に多い)・ハリゲドクグモ(草間・水田いたるところで見られる)などがある。コモリグモ類は形態的には造網性であるが，その機能をほとんど失い，徘徊(はいかい)性に移ったものである。

〔八木沼健夫〕

どくけし【毒消し】 食中毒や暑気あたりの名処方で，幕府の奥医師でのちに東宮侍医となった漢医浅田宗伯(1813〜1894)の考案という。イオウ12g，コショウ16g，寒晒粉(かんざらしこ)12gを製丸したもので，浅田丸または浅田の澄涼丸として売られ，また越後(えちご)の毒消しの名で全国に売り歩いた。イオウで下して，寒晒粉とコショウで消毒し，またそういうときに起きる虚脱症状をも救急する。古来の漢方とは関係なく，むしろ蘭学(らんがく)の影響による処方である。

〔伊沢凡人〕

とくごうとうげ【徳本峠】 長野県西部，北アルプスの東側常念山脈の南部にある標高2,135mの峠で，上高地と松本盆地側の梓(あずさ)川の島々谷とを結ぶ。昭和の初めまでは上高地へはいる玄関口としてアルピニストに広く知られていた。

とくさ【木賊・砥草】 シダ植物・トクサ科。比較的寒い地方の湿地に分布する常緑性シダ。栽培されることもある。地下茎は細く，横に伸び，地上茎は叢生(そうせい)する。地上茎は中空の円柱形で緑色。各節に黒茶色の葉鞘(ようしょう)がある。普通は枝を出さない。夏に茎の頂端に胞子嚢穂(ほうしのうすい)をつくる。表皮は多量のケイ酸塩を含むため粗硬で，工芸品などの研摩に用いられる。

シダ植物の一綱であるトクサ類は，現世種が約30種しか世界に知られていないが，古く石炭紀には非常に繁栄した群で，ロボク・フウインボクなどもこの仲間である。どの種類も節がはっきりしているのが特徴で，葉・枝とも節に輪生する。胞子嚢は茎頂に集まって胞子嚢穂をなす。おもな種類にトクサ・イヌドクサ・ミズドクサ・スギナ・イヌスギナなどがある。

〔加藤僖重〕

どくさい【独裁】 権力*が1人もしくは少数者からなる特定集団に集中し，それらによって権力的支配が行なわれることをいう。ある階級の支配は独裁であり，歴史の



ト ク サ

階級時代はすべて独裁の体制であった。独裁は個人の専断的な支配を意味する専制とは異なる。独裁は専制に限定されるものではなく，少数の指導者集団による独裁が寡頭制*として行なわれることもあれば，階級の独裁が民主制として行なわれることもある。すなわち，独裁は必ずしも民主主義の理念と相反するものとは限らない。専制は個人的専断がそのおもな内容であって，民主主義の理念と反するものであり，その点独裁と専制の区別は重要である。マルクス主義において，プロレタリアート独裁*が強調されているが，これはプロレタリアートの階級支配を意味する。プロレタリアート独裁は議会制民主主義を評価すると同時に克服すべきことをも主張するが，それは民主主義理念追求の立場からなされているので民主主義否定のためのものではない。今日，社会主義国においてプロレタリアート独裁は，労働者階級の他階級に対する暴力的支配を意味するだけではなく，労働者階級の他階級に対する指導・説得の機能をも重視するものと理解されている。また，プロレタリアート独裁が直ちに一党独裁*を意味しないことも確認されている。なお，以上の革命的独裁のほかに，反革命的独裁もある。

〔高橋彦博〕

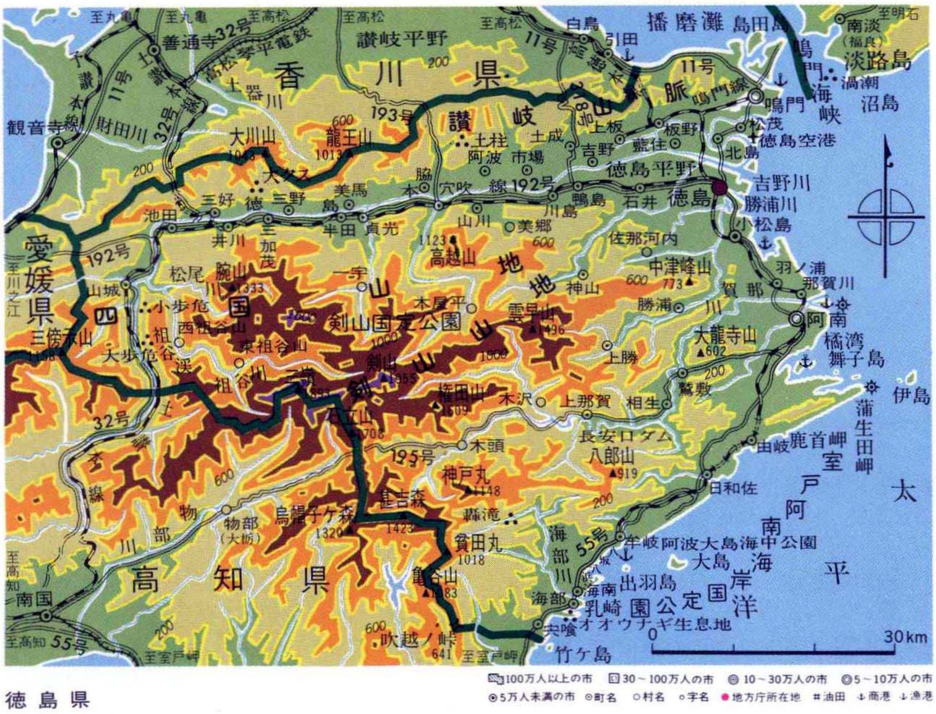
どくさいかん【独裁官】 古代ローマで非常時に置かれた最高官職。ディクタトルともいう。国家非常時に元老院は2名のコンスル(執政官)の中から1名を独裁官に任命した。任期は6か月以内であるが全権力をもち，すべての官職はその支配に服した。第2ポエニ戦争以降はスラ*が独裁官として反対派を弾圧し，またカエサル*が終身独裁官となったが，実質的には別な形式であってそれは帝政に近づいたものといえる。

どくささこ【毒笹子】 担子菌類・シメジ科。ヤブシメジ・ヤケドタケ・ヤケドキンともいう。10月ごろに竹林内の地上に群生する毒きのこ。高さ5〜8cm，かさは5〜6cmぐらいで中央部が深くくぼみ，杯状になっている。表面はなめらかで肉色黄かっ色，粘りけはない。肉は薄く，白色〜淡黄かっ色。茎はじょうぶで，縦に裂ける。茎の表面もなめらかでかさと同様な色をもち，根もとに白色の毛がある。食後数日を経てから中毒症状が出るのが特徴で，そのためきのこの中毒と気づかぬことがある。まず手足の末端部に痛みが起こり，のち指先・足先などが赤くはれ，焼け火ばしをあてたような激しい痛みを感ずる。痛みは10日以上(ひどいときは30日以上)も継続する。中毒例は東北・北陸一帯と関西地方に多く，関東・東海地方には記録がない。

〔曾根田正巳〕

とくしま【徳島(県)】 四国地方東部の県。東は紀伊(きい)水道と太平洋に面し，北は香川県，西は愛媛県，南西は高知県と接する。阿波(あわ)の全域を占め，面積4,144 km²，人口83万6,000，人口密度は1 km²あたり202人。県花はアイ，県木はヤマモモ，県鳥はシラサギ，県庁のある徳島以下4市と10郡(38町8村)に分かれる。

【自然】山がちの地形で，平地の占める面積は県域の20%弱にすぎない。北部の香川県境に中世代の砂岩とケツ岩からなる標高は500m内外の，讃岐(さぬき)山脈があり，清水越(しみずごえ)・猪鼻(いのはな)峠・大坂峠を通じて古くから香川県との往来があった。中央部には四国山地の北東端にあたる剣山山地がほぼ東西に走り，県域を南北に二分する。剣山山地は秩父(ちちぶ)古生層からなる険しい山地で，主峰の剣山(1,955m)は四国第2の高峰である。山深い奥地は深い谷が刻まれ，祖谷渓(いやけい)や大歩危(おおぼけ)・小歩危などの景勝地に富み，高知県にまたがる周辺一帯は剣山国定公園に指定されている。四国地方第1の長流吉野(よしの)川(長さ194km)は，高知県北部を発して四国山地を横断し，県北部をほぼ東流して紀伊水道へ注ぐ。下流部は東西に楔状(くさびじょう)に長い徳島平野で，河口の徳島市を中心に県下一の居住地・生産地となっている。四国山地南部に源流をもつ勝浦川・那賀(なか)川はともに蛇行(だこう)しながら北東流して下流に沖積(ちゅうせき)平野をつくり，紀伊水道に注ぐ。山地から南下して太平洋に注ぐ海部川流域にはほとんど平地が発達していない。海岸線は紀伊水道に臨む東部と太平洋に臨む南部が東端に突出する蒲生田岬(がもうだみさき)でくぎられる。東部には屈曲の多いリアス式海岸が発達し，瀬戸内海の東の入り口にあたる鳴門(なると)海峡は〈鳴門のうず潮〉で名高く，瀬戸内海国立公園に編入されている。南部は岩石の多い断層海岸で，熱帯性植物群落のある伊島から室戸岬(むろとざき)(高知県)にかけての海岸線は室戸阿南海岸国定公園に指定されている。気候は一般に温暖で，北部の吉野川流域は瀬戸内式気候に近く，南部は表日本式気候で，冬季には北部は西，南部は北西の季節風，夏季には南北とも南東の季節風が吹くが，東にかたよることが多い。年平均気温は太平洋岸が19℃に達し，山間部は4〜5℃低くなる。年降水量の差はさらに大きく，那賀川流域から南部の海部川流域の山地にかけては年間3,000mm以上に及



徳 島 県

ぶが，讃岐山脈や鳴門市周辺では1,100mmにすぎない。徳島市周辺の海岸では夏季に〈夕なぎ〉がみられる。台風の上陸あるいは通過地点にあたるため，初秋には県域全般にわたってしばしば被害を受ける。

〔産業・経済〕 **産業三大別人口比は20：32：48。農林業が主産業で，近代工業は未発達**である。県民所得は年間1人あたり112万9,986円(1977)とあまり高くなく，全国第31位を占める。**〈農林水産業〉** 農家数は64,000戸を数えるが，耕地面積は約48,000ヘクタールにすぎず，1戸あたりの耕地は0.7ヘクタールで，四国4県のうちでは香川県に次いで少ない。したがって兼業農家率は87％に達する。水田と畑の比率は3：2，米はおもに吉野川と那賀川の流域でつくられるが，平年収量は約8万tで，県民の需要を満たすに足りない。主産地である徳島平野では大半が二毛作の水田で，裏作には麦類，特に裸麦の作付けが多く，海岸部には湿田もみられる。この地域は阪神(はんしん)方面へ出荷するレンコン・サツマイモ・ホウレンソウ・キュウリなどの促成栽培が盛んで，徳島市南部のミカンとともに重要な商品作物となる。吉野川中流域と山間部は畑作地域で，麦類のほか，サツマイモ・葉タバコ・ダイズなどが栽培される。アイは江戸時代以来の特産物であったが，最近は人造染料の発達に押され，北東部の板野郡藍住(あいずみ)町を中心に年間約60tを産するにすぎない。畜産業は，最近酪農・養鶏・養豚が盛んで，乳牛の飼育頭数は30,000頭に近く，牛乳の年産は約75,000tに及ぶ。ニワトリは400万羽，ブタは95,000頭を飼育し，畜産の企業経営化への動きが活発である。林野面積は31万2,000ヘクタール，県域の約75％に達し，スギをはじめ，マツ・ヒノキ・ツガ・クヌギカシ・ナラ・ブナなどの樹種に富んでいるが，素材生産量は45万m^3で，最近は減少がめだち，かつてのわが国有数の林産県のおもかげはいまは失われている。特に那賀川上流部の那賀郡木頭村周辺は，高温多雨の気候に恵まれてスギの美林(民有林)が名高く，林業の中心地である。最近は剣山山地周辺の森林にも林道が通じ今後の開発が期待される。タケノコの生産は京都府とならんでわが国の双へきで，竹材は阿波竹とよばれ，1975年には28万束を出して，全国で12位であった。和紙原料のコウゾやミツマタも主要生産県の一つに数えられる。シイタケ・ウルシ・ハゼなども産出される。木炭の生産は，1958年(昭和33)には29,000tであったが，1975年にはわずか350tとなっている。水産業は，東部の瀬戸内海地区で沿岸漁業，太平洋岸地区で沖合い・遠洋漁業が行なわれる。漁獲量は48,000t(1975)で，タイ・カタクチイワシ・エビ・シラス・アジ・サバなどの水揚げが多く，特に瀬戸内海のタイ漁が有名である。鳴門海峡のワカメは年産5,700tで全国に移出され，同じく鳴門海峡の島田島と大毛島に囲まれた内海(うちのうみ)では真珠の養殖が行なわれている。かつては製塩業が盛んで，香川・岡山・兵庫の3県に次ぎ，全国第4位であったが，現在は他の地方とともにすべての塩田が姿を消し，塩田があった鳴門市の撫養(むや)にイオン交換膜法による全国7工場のうちの一つがある。**〈鉱工業〉** おもな地下資源には，那賀川流域の石灰石・水銀，吉野川流域の銅・硫化鉄などがある。石灰石は阿南市吉井の曾我部(そがべ)，桑野の田中，熊谷の加茂谷などで採石され，埋蔵量は2億t余と推定されており，那賀川総合開発計画と対応して，その開発利用が期待される。工業は化学工業，食料品，木材と木製品，パルプと製紙，繊維，家具，機械などの諸工業が各地で分散的に行なわれる。工業製品年間出荷額は4,153億円(1973)と低く，四国では第3位で1位の愛媛県の36％にすぎない。徳島市の紡績・機械・金属，鳴門市の製塩・薬品，小松島市の繊維・セメント・木工・鉄鋼，阿南市の製紙・セメント，板野郡北島町にレーヨン-セロハンなどの諸工業がおもなものであるが，いずれも工場の経営規模が小さい。1963年に徳島市が新産業都市の指定を受けて以来，吉野川下流部に重化学工業地帯を造成する計画があり，阿南市には橘(たちばな)湾に面した埋め立て地に日本電工その他の工場誘致が進んでいる。伝統の家内工業としては1871年(明治4)ごろ徳島市の海部ハナが偶然発明した〈絓織(しじらおり)〉があり，阿波縮として有名で，年産約70,000反，東京や阪神方面に出荷され，趣味のゆかたとして喜ばれている。もとはアイを染料としたが，いまでは化学染料を用いることが多い。そのほか，家具やげたなどの木工製品，みそ醸造やたくあんづけ，床敷き物や縫い製品などの手工業的生産が各地で行なわれ，中でも鏡台は年産約50万本に達する。板野郡上板町は，文化年間(1804～1817)以来の古い伝統を受け継ぐ阿波三盆糖の特産で知られる。

〔交通・都市〕 山がちの地形のため，東海岸に沿う徳島平野を除き，交通や都市の発達は一般に遅れ，鉄道の営業キロ数は222km，市の数は4を数えるにすぎず，鳥取県とともに全国最少である。鉄道や道路交通は，平野部を南北に縦断する路線と吉野川沿いに西へ延びる路線が発達している。鉄道は高徳本線が徳島と高松を結び，徳島本線が吉野川南岸を走って西部の佃(つくだ)で土讃(どさん)本線と連絡する。徳島本線の支線には，徳島から小松島港に至る小松島線，牟岐(むぎ)に至る牟岐線がある。国道はすべて徳島を起点として，11号線が鳴門から高松・松山に達するほか，193号線が吉野川沿いに穴吹から讃岐山脈を越えて高松へ，55号線が小松島を経て，海岸沿いに高知へ，192号線が徳島本線にほぼ平行して，池田から西条へ，195号線が那賀川と物部川の谷を結んで高知へと達している。バス路線は鉄道を補って営業キロ数は国鉄路線のキロ数の約8倍に達し，1965年以来，徳島と高松を約2時間で結ぶ急行バスも通じている。有料道路としては，鳴門の〈うず潮〉を一目で見渡せる〈鳴門公園有料道路〉(県営)と室戸阿南海岸国定公園の景勝地を走る〈南阿波サンライン〉(民営)がある。海上交通では徳島や小松島から大阪や神戸(こうべ)への定期航路があり，また小松島－和歌山(南海四国フェリー)・徳島－深日(ふけ)(大阪府泉南郡)

(徳島フェリー)・徳島ー東神戸，徳島ー大阪南(阪神・徳島フェリー)・鳴門ー福良（淡路島)(鳴門フェリー)などの近距離フェリーのほか，東京ー徳島ー小倉(オーシャン東九フェリー)の長距離フェリーボートが就航している。本土と直接連絡する本四架橋3ルートのうちの一つである神戸ー鳴門ルートに属する大鳴門橋(全長1,729m)の工事が1976年7月から開始されているが，この橋の完成によって〈鳴門のうず潮〉の景観に変化が起きることが懸念されている。島としての性質上，航空路はよく発達して利用されており，高松から東京・大阪(全日空)，徳島から東京・大阪(東亜国内航空)，松山から名古屋・大阪(全日空)・福岡(東亜国内航空)，高知から大阪(全日空・東亜国内航空)・東京(全日空)・宮崎(全日空)や岡山ー松山ー宮崎(東亜国内航空)などの定期便がある。県域の大半を占める四国山地はほとんど未開発のままで取り残され，剣山国定公園もまだ観光資源の役割を十分に果たしていない。都市には徳島藩の旧城下町徳島市，その外港として発展した小松島市，江戸時代から製塩業で名高かった鳴門市，那賀川河口の新興工業都市の阿南市の4市がある。そのうち阿南市は1953年(昭和28)の町村合併促進法施行以後に発足した新市である。

〔歴史〕古くは忌部(いんべ)氏によって開拓された吉野川流域の粟(あわ)と県南の那賀川下流低地を中心とした長に分かれた。大化改新に際して，両国を合して阿波とよび，吉野川流域の平地に行政の中心地が置かれた。中世には佐々木氏・細川氏が統治し，戦国時代には長宗我部(ちょうそかべ)氏の四国統一を経て，1586年(天正14)蜂須賀家政(はちすかいえまさ)が播磨(はりま)から転封して，名東(みょうどう)郡富田荘(とみだのしょう)に居城を構えた。蜂須賀氏は江戸時代を通じて阿波・淡路両国にまたがる徳島藩二十五万七千石を領し，アイ・塩・葉タバコなどの特産物を奨励して，領民を潤すとともに，その権勢を誇った。平安時代に始まった四国遍路は江戸時代に最盛期を迎え，上方からの順路は撫養(むや)(鳴戸市)を起点としており，県内に第1番の霊山(りょうぜん)寺から第23番の薬王寺までの霊場が設けられている。1871年の廃藩置県に際して，阿波と淡路を領していた徳島藩のうち，阿波と淡路南半の三原郡が徳島県となり，同年11月には淡路北半の津名郡も加えて，名東県と改称，1873～75年には讃岐も加わった。1876年に讃岐を香川県として分離，淡路も兵庫県にゆずり，阿波は高知県支庁となって，名東県は解消，1880年に再び阿波一国が徳島県として独立して，現在の県域が確定した。

〔浅井得一〕

とくしま【徳島(市)】 徳島県北東部，県庁のある市。人口24万7,000。1587年(天正15)蜂須賀家政(はちすかいえまさ)の築城以来，江戸時代を通じて蜂須賀氏が阿波(あわ)・淡路両国二十五万七千石を領し，特産の〈阿波アイ〉の集散地として知られた。明治以後も県の政治・経済の中心地となり，1889年(明治22)市制施行。市域は吉野(よしの)川と園瀬川の三角州上にあり，地名は水に囲まれた島状の地形が多いことにちなみ，徳は美称である。市街地の構成は旧藩時代のおもかげをそのままとどめ，城山を中心とした旧武家屋敷には県庁をはじめとする行政官庁や国立徳島大学などの学校群が集まり，町人町・職人町であった東新町が商業・金融の中心地で，高級商店街が形成されている。産業三大別人口比は9：30：61。古くから木工業が盛んで，鏡台・たんすなどをつくり，名産の阿波縮はいまでは化学染料が用いられている。最近では紡績・機械・金属などの近代工業も興り，1963年(昭和38)に新産業都市に指定され，吉野川下流部に重化学工業地帯の造成も計画されている。県の交通の中心となり，高徳本線・徳島本線・牟岐(むぎ)線・小松島線や国道11号線・55号線・192号線・193号線・195号線が集まり，徳島港と南方の外港小松島港からは阪神(はんしん)地方へ定期航路が通じ，徳島～深日(ふけ)(大阪府泉南郡)間にはフェリーボートが就航する。年中行事としては，〈踊る阿呆(あほう)に見る阿呆……〉と全国に広く知られている〈阿波踊り〉(8月15～18日)が観光客を集め，郷土芸能〈阿波浄瑠璃(じょうるり)〉も名高い。 〔浅井得一〕



徳 島 市 東方上空から見た市の中心部。川は新町川で，かちどき橋(手前)のすぐ上に徳島本線が通る。左手の丘陵は眉山，右手の森は徳島城址のある城山(徳島公園)

とくしまへいや【徳島平野】 吉野川(よしのがわ)平野ともいう。徳島県の北部を流れる吉野川が吉野川地溝帯(ちこうたい)を堆積(たいせき)してつくった沖積(ちゅうせき)平野。吉野川中流部の池田町を頂点として細長い楔状(くさびじょう)を呈し，東西約80km。紀伊(きい)水道に面する東部の徳島・鳴門(なると)両市の間は約16kmに及ぶ。北は讃岐(さぬき)山脈，南は四国山地とそれぞれ断層線によって限られ，讃岐山脈から流出する曾江谷(そえだに)川・日開谷川・宮川などが大規模な複合扇状地を形成する。四国山地側には扇状地はほとんど見られず，河岸段丘が発達して畑作が行なわれ，藩政時代から特産の阿波(あわ)アイが栽培された。東部には自然堤防が幾列もみられ，河口付近は低湿地で水田地帯となっている。中心都市は県庁のある徳島市。〔味沢成吉〕

とくしまほんせん【徳島本線】 徳島と土讃(どさん)本線の佃(つくだ)を結ぶ国鉄路線で営業キロ数68.9。1899(明治32)～1914年(大正3)開業。吉野(よしの)川流域を走る。

とくじゅ【特需】 特別需要の略称。以前には朝鮮戦争，のちにはベトナム戦争に伴う在日アメリカ軍からの特別需要によるドル収入をいう。広義には外国為替(かわせ)受け取りのうち在日アメリカ軍家族の個人消費，アメリカの対外援助関係による外資の受け取りなども含める。特需による対外輸出には，わが国の貿易管理法上の許可や承認の必要がなく，また，アメリカ軍の発注による物資の製造・加工・集荷・輸送に要する資金は，貿易手形*制度が適用される特典があるので，単に外貨収入の面だけからいえば，わが国の国際収支に大きなプラスになった。 〔上坂酉三〕

とくしゅう【徳州】 トーチョウ 中国，山東省の都市。済南の北西120km，津浦鉄道(天津～浦口)と石徳鉄道(石家荘～徳州)の分岐点に位置し，また古来から大運河の要衝として発達した。付近で産する小麦・ワタ・大豆などをはじめ，特産のナツメ・スイカを集散する。たばこ・搾油・製粉・綿織物などの工業もある。

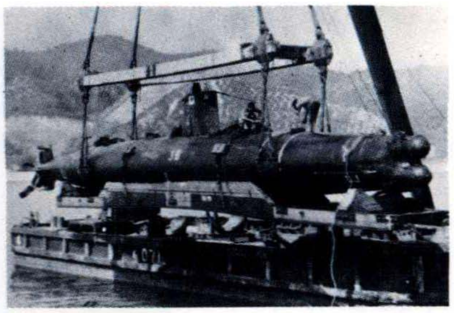
とくしゅきょういく【特殊教育】 普通には，心身に異常のある児童・生徒に対する教育をさすが，天才児や性行不良児への教育を含める場合もある。学校教育法では，盲者および弱視者，聾者(ろうしゃ)および難聴者，肢体(したい)不自由者・病弱者および身体虚弱者・精神薄弱者を対象に，幼稚園・小学校・中学校または高等学校に準ずる教育を施し，あわせてその欠陥を補うために，必要な知識・技能を授けることを目的とすると規定している。これらの教育施設には盲・聾学校，養護学校，特殊学級などがある。わが国の特殊教育の歴史は，1878年(明治11)古河(ふるかわ)太四郎による京都府立盲唖

(もうあ)学院の創立が萌芽(ほうが)である。

とくしゅぎんこう【特殊銀行】 特別銀行ともいう。第2次世界大戦前の普通銀行*・貯蓄銀行(零細預金を吸収する機関)以外の銀行で，法律に基づいて設立された政府系の金融機関をいう。植民地銀行(朝鮮銀行・台湾銀行)，外国為替(かわせ)銀行(横浜正金銀行)，不動産ないし動産担保貸し付けの長期信用銀行(日本勧業銀行・農工銀行・日本興業銀行・北海道拓殖銀行・朝鮮拓殖銀行)などに分かれる。戦後には解組されて，特殊銀行はなくなった。〔速水　保〕

とくしゅこう【特殊鋼】 普通鋼に対する語で合金鋼のこと。特殊な性質を得る目的でニッケル・クロム・タングステン・モリブデン・バナジウムなどの合金元素を添加した鋼をさすが，高級な炭素鋼を含める場合もある。一般にはキルド鋼*で，不純物元素としてのリン・イオウはそれぞれ0.035%以下である。熱処理は各用途により異なっている。用途によって，構造用鋼・工具用鋼・耐食耐熱鋼・特殊用途用鋼に分類され，組織によってフェライト鋼・パーライト鋼・マルテンサイト鋼・オーステナイト鋼に分けられる。また化学組成によってニッケル鋼・クロム鋼・モリブデン鋼・マンガン鋼，あるいはニッケル-クロム鋼，ニッケル-クロム-モリブデン鋼など，添加した主要合金元素名をつけてよばれる。合金元素の添加のおもな目的は，①ニッケル：焼き入れ性の増大，オーステナイトの安定化，低温靭性(じんせい)の増大。②マンガン：焼き入れ性の増大，オーステナイトの安定化，イオウと共存して硫化マンガンをつくり快削性を増す。③クロム：鋼の黒鉛化の防止，耐食耐酸化性の増大。④モリブデン：焼き入れ性の増大。鋼の強化。高温強度の増大。焼きもどし脆性(ぜいせい)の防止などがあげられる。〔長谷川正義〕

とくしゅさつえい【特殊撮影】 映画・写真用語。特殊な技術を用いた撮影。カメラに関するもの。フィルムおよびその処理に関するもの。撮影対象に関するものに分けることができる。①カメラに関する特殊技術：高速度撮影・微速度撮影・顕微鏡撮影・逆回転撮影などがあり，カメラの回転やレンズを変えることによって肉眼に見えるものとは異なる映像を得る方法である。胃カメラなどの医学用カメラによる撮影も一種の特撮ということができる。②フィルムに関する特殊技術：赤外線撮影など特殊感光フィルムを用いた撮影のほか，映像を大きく変化させるような現像処理や編集処理も，しばしば広義の特撮とみなされる。③撮影対象に関する特殊技術：最も一般的な特殊技術。X線撮影はフィルムのみならず光線そのものを変えたうえでの特撮であり，照明効果によって対象を変貌(へんぼう)させた撮影なども特撮に含まれる。最も代表的なミニチュア撮影は，小さなセットを現実そ



特殊潜航艇　甲標的第36号

のもののように見せかけるトリックを用いた特撮で，劇映画中でも空想科学映画*や怪獣映画や戦争映画などに欠かせないものである。またアニメーション*撮影は，動かない対象に動きを与えることによって新たな映像をつくりだす特撮といえる。ふつう特撮はこれらすべての特殊技術が多様に結びつけられながら行なわれ，映像としての新たな現実がつくりだされる。この意味では，映画や写真は，その素朴(そぼく)な出発の当初からすでに特殊撮影的な本質をもっているのである。〔波多野哲朗〕

とくしゅじどう【特殊児童】 ⇨異常児

とくしゅせんこうてい【特殊潜航艇】 旧日本海軍がつくった超小形潜水艇。敵主力艦に奇襲攻撃をかける目的のもので，1934年(昭和9)から開発が始められた。1940年から甲標的という改良型が開発され，太平洋戦争開始時には約20隻が完成し，真珠湾・シドニー港やマダガスカル島のジエゴスワレス港などで，潜水艦から発進し攻撃使用された。戦争中に乙・丙・丁(別名蛟龍(こうりゅう))型と改造され量産され合計185隻が完成していた。45cm魚雷2本を搭載(とうさい)し，乗員は甲型が2名，乙・丙型が3名，丁型が5名である。〔藤井冬木〕

とくしょくざい【瀆職罪】 公務員が，その職務の公正を踏みにじる罪のことで，職権濫用罪*と賄賂(わいろ)罪*をあわせていう。

どくしよろん【読史余論】 新井白石*が6代将軍徳川家宣*(いえのぶ)に進講した日本史の講義案。3巻。9世紀中ごろの摂関政治から，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の天下統一までの歴史を，公家(くげ)政治9段階，武家政治5段階に分け，武家政治の発展を中心に論じている。江戸幕府擁護を目的としているので多少一面的なところもあるが，儒教的史観から独自の時代区分を確立している点など，《愚管抄*》とともに史論の先駆とされる。

どくしんじゅつ【読心術】 人の心を読み取る方法。ESP*のように感覚的手がかりのまったくない条件のもとで行なわれる場合ばかりでなく，表情その他の微細な手がかりを利用する場合をも含む。心的状態の変化に伴う微細な筋肉の動きを感じ取って行なうものを読筋術ともいう。

どくしんほう【読唇法】 ⇨聾唖(ろうあ)教育

とくせい【徳政】 元来は善政の意。鎌倉末期以後は，政令によって行なわれた貸借関係の破棄，質物の無償返還などをさす。その政令を徳政令と称した。1297年(永仁5)の永仁の徳政令*は有名。室町時代にはいると，土豪や農民たちはしばしば土一揆*(いっき)を起こして幕府に徳政令を出させ，また土一揆が自力で債務を破棄し，質物などを奪い取る私徳政も行なわれた。江戸幕府は旗本(はたもと)・御家人を救済する棄捐令*(きえんれい)を出したが，これも徳政令とみてよい。

どくぜり【毒芹】 双子葉植物・セリ科。山野の湿地に自生する多年草。茎は中空で高さ1mに達し，全体がなめらか。葉は光沢のある2～3回羽状複葉で裂片は披針(ひしん)形，長さ3～8cm，幅5～20mm。地下茎は太く，たけのこのような形をしている。6～8月，茎頂に複傘形(ふくさんけい)花序をつける。花は白色の五弁花で，果実は直径2.5mmの球形の分裂果。全草にシクトキシンなどの猛毒を含み，セリによく似ているのでまちがって食べて中毒することがある。

どくせん【独占】 特定の経済主体が，供給者または需要者として，ある商品についてその市場価格や需給の数量を支配できる状態をいう。独占力を量的に示したものを独占度といい，ある企業または少数の企業がその産業において占める独占力を示す。またそれは一定数の企業が経済全体に占める独占的地位をも示す。具体的には生産量や販売額の比率がその測定に用いられる。特に，ある商品の供給者が1人であって，多数の需要者に対して独占力を行使できるような場合を単純独占または完全独占という。また需要者も供給者もともに1人である場合を双方独占といい，需要者が1人で供給者が多数である場合を需要独占という。独占は種々の条件によって成立する。特定の自然資源の地理的有利さに基づく排他的利用や，特許権に基づく技術の独占，法律による特権の付与などが独占の成立条件となっている。しかし，最も重要な条件は規模の経済に起因するものである。すなわち，ある商品の需要には限度があるから，その産業内で存立しうる企業は，生産費の切り下げ競争の結果，規模の経済性による利益の獲得ができる1または少数の大企業に限られ，それが独占的地位を占める。

独占は競争を制限することによって超過利潤を獲得するために実現されるもので，さまざまな企業結合の形態を伴ってくる。その最も代表的なものがカルテル・トラスト・コンツェルンなどである。独占の弊害は多くの面に現われる。まず資源の効率的な配分を阻害する。そして寡占型独占の場合には，品質競争や販売競争その他の非価格競争が激しくなるが，むだをつくりだすことが多く社会資本などの福祉部門への資源の配分がおさえられることになる。また所得分配の不平等化をもたらす。さらに国民所得の安定という見地からすれば，独占

は物価騰貴をひき起こす点で問題となる。独占的傾向が支配的で価格協定などの制限慣行が行なわれていると，生産性が大幅に上昇したとしても価格を下げる方向へ作用せず，むしろ引き上げようとする動きが強まり，物価が上がることになる。価格については差別独占の問題も生じる。これは，独占企業がその生産物を独立した二つ以上の市場で，異なる価格(差別価格*)で販売し利潤の増大を図ることである。差別独占が行なわれるのは，生産物の転売が困難な場合に限られ，ダンピング*はその一例である。そのほか，私的独占は経済外的福祉をそこなうことが多い。自然や都市の美観をそこなうような利益本位の広告や建築が行なわれるのはこの一例であろう。また生産第一主義によってひき起こされた公害の問題も，その一つのケースであろう。経済における大規模化は必然的傾向ではあるが，同時にこれを規制していく独占対策も必要となってくる。➔独占禁止法　〔加藤　寛〕

どくせんかかく【独占価格】 独占企業が利潤最大化を目的として独自に決定する価格をいう。資本主義社会では競争が基本的特徴となっている。競争のもつ特徴にはいろいろなものがあるが，その中でも市場における価格機能は中心的なものである。優勝劣敗は競争には元来つきものであるが，それは端的に財貨の価格競争の上に現われる。価格を中心として競争が激しく行なわれれば，それだけ競争に勝つものと敗北するものがはっきりと現われてくるのである。その結果競争は徐々に減退し，少数の企業が市場を独占するようになる。このような市場を寡占*市場とよぶ。企業の数が少なくなればなるほど，市場を独占する度合いは強まっていくのが通常である。そこで独占市場が形成されれば，そこでは財貨の価格が財貨に対する需要者の望みを反映するよりも少数の独占企業の意志を反映して決定されるようになる。➔等価交換・不等価交換　〔藤枝省人〕

どくせんきんしほう【独占禁止法】〈私的独占の禁止および公正取引の確保に関する法律〉の略称。1947年(昭和22)4月公布。カルテル*・トラスト*などの独占や不当な取引制限および不公正な取引方法を禁止し，自由公正な競争を促進して，国民経済の民主的で健全な発達を目的として制定された。これにより，私的独占や不当な取引制限，特殊会社*などが禁止され，また会社の合併，役員の兼任なども制限された。この法律を運用するために公正取引委員会*が設けられ，違反事実の有無を調査し，違反者に対しては，勧告あるいは審判を下して，違反事実の排除にあたっている。　〔松本治雄〕

どくせんしほんしゅぎ【独占資本主義】資本の集積・集中*が高度に発展し，自由競争が制限され，カルテル・トラスト・コンツェルンなどの独占体が独占利潤を獲得することによって全経済を支配するようになった段階の資本主義をいう。世界史的には19世紀末から20世紀初頭にかけて確立したといわれている。独占資本成立のメカニズムは次のごとくである。資本主義の本質はより多くの利潤の獲得にある。したがって，より多くの利潤を獲得するためにはより多くの資本を必要とする。そのために資本の集積・集中が促進され，事業を成功させるための資本量が膨大になり，その特定の企業だけが製品市場で支配力をもつようになって，価格を水準以上につり上げて，いわゆる独占価格*で売ることができるようになる。そこからまた価格協定や販路協定などが結ばれたり(カルテル)，企業合同(トラスト)やコンツェルンなどの資本家の支配集団が結成されるようになる。これが独占体であり独占資本である。今日における主要資本主義国の鉄鋼・石油・化学・自動車・機械などの基幹産業部門における首位，または2～3位の上位企業はほとんど独占資本であるとみてよい。　〔常盤政治〕



徳田球一



徳田秋声

どくせんりじゅん【独占利潤】 独占資本が独占的に取得する利潤のこと。その場合三つの意味に用いられる。第1は，文字どおり独占資本があらゆる経済行為の結果として取得する利潤のすべてをいう。第2は，独占的製品価格を通じて取得される利潤の総額をさす。第3は，独占的製品価格を通じて取得される利潤のうち，一般的な生産価格*以上の超過分(独占的超過利潤)だけをさす場合などである。このうち第1の意味での独占利潤は，独占的超過利潤を取得できる資本の体制的支配に基づく産物にほかならず，また第2のそれには独占資本自身がつくりだした利潤価値部分も含まれている。さらに独占利潤の本質を端的に示しているのは第3の独占的超過利潤である。これは，独占利潤が独占資本それ自身によってつくりだされた剰余価値*に基づくものではなく，流通過程における不等価交換を通じて得られる収奪利潤であることを明確に示している。　〔常盤政治〕

とくそう【得宗】 徳宗とも書く。鎌倉幕府の執権北条(ほうじょう)氏の嫡流の当主(家督)のこと。北条義時*(よしとき)が得宗と称したのがはじめ。元寇(げんこう)(➔文永・弘安の役)の戦勝で北条時宗*(ときむね)の勢力が強大になるに伴い，得宗家の専制化が顕著になり，その家臣である御内人(みうちびと)がしだいに御家人*の勢力をしのぐようになった。得宗家は評定衆*・引付衆などの要職をその一門で占め数か国の守護*を兼ねるようになり，全国に得宗領が散在した。➔北条氏

どくそう【独奏】〈単独〉を意味するイタリア語ソロの訳。声の場合は独唱という。いろいろに使われる。①まったく1人だけで演奏する場合。ピアノやオルガンはこれが普通であるが，バイオリンやフルートの場合は無伴奏という形容をつけることがある。②伴奏であることがはっきりしている他の演奏者や管弦楽を伴って，1人が演奏する場合。協奏曲やオペラのアリアなどがこれにあたる。③管弦楽や合唱の中である奏者(たとえばフルート)が目だった動きを与えられる場合。　〔徳丸吉彦〕

どくソふかしんじょうやく【独ソ不可侵条約】 1939年8月23日ドイツ・ソ連間に締結された条約。イギリス・フランスはミュンヘン会談以降も対独宥和(ゆうわ)政策を継続，ソ連を失望させた。この結果，スターリンは戦争開始の引き延ばしを望み，ドイツはイギリス・フランスとの二正面戦争を避けるため，1939年8月18日のイギリス・フランス・ソ連三国軍事会談の行きづまりから，20日独ソ通商条約を締結，23日ドイツ外相リッベントロップの訪ソを待ち，ポーランドおよびバルト3国の分割を秘密条項とする不可侵条約を締結した。この条約は7か条からなり，両国相互不侵略，第三国による一方の締結国への攻撃には他の締結国は中立を維持するなどを規定し，その有効期間を10年と定めた。同条約が8月24日発表されるや，全世界を驚かせたが，これは一面では，イギリス・フランスの対独外交の失敗を物語るもので，ドイツは1週間後にポーランドに進撃を開始，同年9月にはイギリス・フランスに宣戦を布告し，第2次世界大戦に突入した。　〔折井一彦〕

とくだきゅういち【徳田球一】(1894～1953) 政治家。沖縄の生まれ。日本大学卒業後，弁護士となり，1922年(大正11)日本共産党*の創立に参画，翌年検挙された。1924年には同党の解散を支持したが，1926年には再建に活躍した。1928年(昭和3)三・一五事件*で再び検挙され，第2次世界大戦終結時まで非転向のまま18年の獄中生活を送った。1945年出獄後，同党を再建して書

記長となり，1946年には衆議院議員となって，党勢拡大に活躍した。1950年コミンフォルムの批判を受け，党分裂後は多数派を率いて地下活動にはいった。同年マッカーサーの指令により政界から追放され，以後国外に亡命，非合法活動を続けるうち北京(ペキン)で客死した。〔安達利夫〕

とくだしゅうせい【徳田秋声】(1871～1943) 小説家。金沢市の生まれ。本名末雄。第四高等学校中退。尾崎紅葉門下となり，1900年(明治33)《雲のゆくへ》で世に出，泉鏡花らとともに紅葉門下の四天王と称された。次いで自然主義的・人生的傾向を盛った《新世帯(あらじょたい)》によって文壇的地位を確立し，以後《足迹(あしあと)》《黴(かび)》《爛(ただれ)》《あらくれ》と力作を次々発表，硯友社(けんゆうしゃ)出身ながら，自然主義作家の最高峰に位した。その後，自然主義運動の行きづまりとともに低迷に陥ったが，夫人の死，新世代の台頭，山田順子との恋愛などを転機によみがえり，1935年(昭和10)《仮装人物》を発表，その後は私小説の弊を脱して，心境の深まりを示す短編小説を書いた。昭和初期の庶民生活を活写した《勲章》を経て長編《縮図》にとりかかったが，未完のままで没した。➔前ページ(写真)〔篠原拓雄〕

どくだみ【蕺】双子葉植物・ドクダミ科の多年草。全草暗紫色で全体に油細胞があり，独特の臭気がある。根茎は白色で地中をはう。茎は高さ15～50cm。葉は長さ2～4cmの葉柄で2列に互生し，葉身は長さ4～8cm，幅3～6cmの広卵状心臓形。6～7月，茎頂に花茎を伸ばし，淡黄色の小さい両性花を円柱形につけ，その基部に4枚の花弁状の総包片がつく。地上部を乾燥したものを十薬・蕺菜(じゅうさい)などといい，煎(せん)じて利尿薬とする。また民間では生葉をもんではれものの吸い出しに利用する。

どくだんろん【独断論】一般に真偽を検査せずに採用した理論(ドグマ)を根拠とするしかた。末期ギリシア哲学では，懐疑論に対立して，一定の命題に基づいた体系的哲学をいう。カントでは，批判主義に対立して，純粋理性が単なる概念によって現実をあるがままの姿で認識できるとする考えをいう。➔ドグマ

どくちょう【毒蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科・ドクチョウ亜科の総称。体・触角とも細長い中形のチョウで，翅(はね)は前翅は細長く，後翅は丸みをおびる。雌雄で大きな違いはなく，前翅は黒地に黄色・橙色(とうしょく)などの目だつ紋をもつものが多い。悪臭を放ち，食味も悪いので，鳥類やトカゲなどからきらわれ，このため他の科のチョウがこの類に似た外形や色彩を示すことがある。成虫は森林地帯の路上に多く，驚くほどの方向感覚をもっていて毎日同じ寝場所へもどってくるという。幼虫は頭部の後方に2本の長い角をもっており，ツタ植物を食べる。さなぎは上部に多



ドクダミ

数のとげをつける。大多数が熱帯アメリカに分布しているのでアメリカドクチョウとよばれる。近縁の群がアフリカにも分布し，同様に鳥類からきらわれ，アフリカドクチョウとよばれる。➔チョウ〔多々内修〕

とくど【得度】仏教で，生死の苦海を渡って，迷いの世界(此岸(しがん))から涅槃(ねはん)・悟りの彼岸(ひがん)に到達することを意味した。のち転じて剃髪(ていはつ)して出家することをいい，その儀式を得度式という。中国・日本では政府が監督して，得度したものに許可証ともいうべき度牒(どちょう)を授け，私度(かってな得度)を禁じたが，日本では，江戸時代から権限が諸宗に委任された。

とくとうびょう【禿頭病】⇨円形脱毛症

どくとかげ【毒蜥蜴】爬虫(はちゅう)類・ドクトカゲ科。トカゲ類では唯一の有毒種で，半砂漠(さばく)地帯にすみ，北アメリカ産のアメリカドクトカゲ(ヒラモンスター)と，メキシコ北部産のメキシコドクトカゲの2種がある。前者は体長60cm，後者は80cmほど，ともに体はやや扁平(へんぺい)で，全身ビーズ状のうろこにおおわれる。毒腺(どくせん)は下顎(かがく)に多数開口し，かみついている間に毒は下顎の毒牙(どくが)の浅いみぞを毛管現象で伝わって，注入される。夜行性で動作は鈍いが，かみつくと放さない。卵性。

とくとみそほう【徳富蘇峰】(1863～1957) ジャーナリスト，本名猪一郎(いいちろう)。熊本県の生まれ。蘆花(ろか)の兄。1886年(明治19)《将来之(の)日本》で文名をあげ，翌年民友社を創立して雑誌《国民之友》を創刊，1890年《国民新聞》を創刊して平民主義を主唱した。三国干渉を機に国家主義に転向。1929年(昭和4)民友社から退いたが，満州事変後の戦時体制下の過程で軍部と結び，1942年大日本言論報国会会長となった。第2次世界大戦後公職追放。主著《近世日本国民史》(全104巻)は著名。

とくとみろか【徳富蘆花】(1868～1927) 小説家。本名健次郎。熊本県の生まれ。徳富蘇峰(そほう)の弟。熊本洋学校から同志社に進んだが中退。18歳のころキリスト教の洗礼を受け，小説を書き始めた。1889年(明治22)上京，兄の経営する民友社に入社。《不如帰(ほととぎす)》で認められ，《自然と人生》《思出の記》などで名声を得た。1906年には聖地パレスチナ巡礼の旅に出，ロシアにトルストイを訪問。翌年には〈美的百姓〉と称して半農生活にはいり，生活即芸術の境地をめざしたが，肉と霊との相克は克服できなかった。〔金子　博〕

ドクトル-ビュルガーのうんめい【ドクトル-ビュルガーの運命】カロッサの日記体の小説。1913年の初版では《ドクトル-ビュルガーの最後》という題であったが，1930年に改題。短い作品であるが，20世紀の《若きウェルテルの悩み》といわれるほどの名声を博した。作者自身を思わせる青年医師が，使命感と職業的強制との矛盾や女患者への愛に苦しみ，ついに，自殺に追いやられる過程が描かれている。

とくながすなお【徳永直】(1899～1958) 小説家。熊本の貧農の家に生まれ，小学校中退後，印刷工場の見習い工となり，23歳で上京，博文館印刷所(のちの共同印刷)に入社。1926年(大正15)の共同印刷の大争議には活動の中心となったため失職したが，その体験に基づく《太陽のない町》でプロレタリア作家として認められた。第2次世界大戦後は新日本文学会の創立に参加，《妻よねむれ》などを書いて民主主義文学作家として活躍した。〔篠原拓雄〕

とくのしま【徳之島】鹿児島県奄美(あまみ)大島の南西にある島。大島郡の徳之島・天城(あまぎ)・伊仙(いせん)の3町に分かれる。面積247.9km²，人口36,000。最高点は井之川岳(645m)で，南西部にサンゴ礁の石灰岩の広い台地がある。中心は徳之島町の亀津(かめつ)で，島の最も重要な港ともなっている。サトウキビを主とし，米・サツマイモ・パイナップル・バナナなどをつくり，砂糖の産額は大島郡の40％に達する。天城町平土野(へとの)に徳之島空港があり，鹿児島へ定期便が通じている。〔浅井得一〕

とくべつかいけい【特別会計】経理上一般の歳入歳出と区分する必要から，一般会計とは別に設けられた国の会計。1972年(昭和47)度の特別会計は42種あり，それらは次のような類型に分けられる。①事業特別会計：国の行なう事業の収支計算を明らかにするためのもので，造幣局・印刷局・郵政事業・国有林野事業・アルコール専売事業・特定土地改良・港湾整備・道路整備・治水など。②管理特別会計：特定の物質や資金・施設を管理するもの。食糧管理・外国為替(かわせ)資金・貴金属・国立病院・国立学校など。中でも，食糧管理特別会計・外国為替資金特別会計は，取り扱う資金量が膨大で，国民経済に与える影響も大きい。③保険特別会計：各種保険の収支を経理するためのもの。厚生保険・労働保険・国民年金・郵便年金・簡易生命保険・船員保険・農業共済再保険・輸出保険など。④融資特別会計：国の行なう出資および貸し付けの収支を経理するためのもの。資金運用部・産業投資など。財政投融資の資金源として重要な役割を果たす。⑤整理特別会計：特

定の資金または基金の収支を経理するためのもの。交付税および譲与税配付金・国債整理基金・国有財産特殊整理資金・賠償等特殊債務処理などがある。〔西野義彦〕

とくべつきょういくかつどう【特別教育活動】 1958年(昭和33)，小・中・高等学校において〈教科以外の活動〉という名称が統一されて，成立した。このねらいは，児童・生徒の自治的・自発的な活動を通じて，市民として必要な社会性や自主性を育て，個性を伸長するところにあった。しかし，最近，学習指導要領が改訂され，小・中学校ではそれぞれ1971年・1972年に学校行事などを含めた〈児童(生徒)活動〉となった。

とくべつく【特別区】 特別地方公共団体の一種。現在，東京都の23区がこれにあたる。特定の場合を除き市と同様の取り扱いを受ける。議会の議員は住民の直接選挙による。区長も区民の直接選挙によって選出する。区長，議員とも任期は4年。

とくべつこうとうけいさつ【特別高等警察】 特高と略称。政治警察のうち，社会運動の取り締まりを行なった警察。ここにいう社会運動とは農民運動・水平社運動(部落解放運動)・労働組合運動をはじめ，国体の変革(極左主義)や政体の変革(立憲制の否認)をめざす運動も含んでいる。1911年(明治44)内務省に特別高等警察課を，各府県に高等警察課を置いたのに始まる。1907年ごろから資本主義の興隆に伴って，足尾銅山鉱毒事件，赤旗事件，幸徳秋水一派の大逆事件があいついで起こり，この社会背景が特高警察を生んだといわれる。次いで大正デモクラシーの流行，不況による農民運動の激化，重工業化の進展によるストライキの激増，極左政治結社の出現などの治安状勢の悪化がみられたため，ついに1925年(大正14)普通選挙法の成立と引き換えに治安維持法を制定し，それとともに全国府県警察に特別高等警察課を新設し共産主義運動，自由主義的言論を弾圧した。第2次世界大戦後廃止された。〔井上公耳〕

とくべつこうふぜい【特別交付税】 ⇨地方交付税

とくべつこっかい【特別国会】 特別会ともいう。衆議院が解散して総選挙が行なわれたのち，最初に召集される国会(→議会)。総選挙の日から30日以内に召集され(憲法54条)，また会期の延長は2回(通常国会の場合は1回)をこえてはならないと規定されている(国会法12条)。

とくべつしょうきゃく【特別償却】 固定資産には，予想できない価値の喪失，あるいは予想されてもその規模が測定できない価値の変動が生じた場合に，特別に減価償却をすることをいう。通常の減価償却において計算の誤謬(ごびゅう)による償却不足分を償却する場合もこれに含まれる。なお，税法にいう特別償却とは，税法上特別に認められた割り増し償却(使用が劇甚(げきじん)の場合，技術発展期にある産業の場合，あるいは合理化特別措置などの場合)を意味する。→租税特別措置〔山桝忠恕〕

とくべつじょうよかち【特別剰余価値】 ⇨剰余価値

とくべつほう【特別法】 特別の事項を定める法律。特別法には通常2通りある。①憲法95条(特別法の住民投票)に従って定められる法律は，〈一つの地方公共団体のみに適用される〉特別法であって，当該地方公共団体の住民投票において過半数の同意がなければ，国会はこれを制定することができない。②国内法の体系上，一般法(たとえば刑法)と対置される特別法(たとえば刑事特別法)をさす。特別法は原則として，一般法に優先する。〔影山日出哉〕

どくへび【毒蛇】 毒をもつヘビの総称。ヘビ全体の4分の1にあたる670種ほどが知られ，コブラ・ウミヘビの2科と，マムシ・クサリヘビの2亜科に分類される。そのうち致命的な強い毒をもったものは300種ほどである。前者2科の毒ヘビには溝牙(こうが)(溝のある毒牙)があり，神経毒を主成分とした強い毒をもち，53属360種が含まれる。後者の2亜科には16属310種が知られ，管牙(注射針状の毒牙)と，出血毒を主成分とした多量の毒をもつため，頭部は三角形を呈する。毒腺(どくせん)は唾液腺(だえきせん)から発達したもので，捕えたえさに注射して，麻酔または死亡させる。毒は，二次的に自衛手段として用いられるため，熱帯の各地方では毒ヘビの人畜に与える被害が大きい。世界最大の毒ヘビはキングコブラで，5.5mに達する。〔松井孝爾〕

ドグマ［dogma］〈独断〉と訳されるが，ギリシア語で〈思うこと〉を意味するドケインから派生した語で，原義では〈定説〉をさす。懐疑論・批判哲学の立場からは〈本来断言できないところで断言されたもの〉という意味で，非難の意をこめてこの語を用いる。カトリック教会では理性の批判を許さぬ信仰箇条，すなわち〈教条〉の意味に用いるが，転じて学問・思想の領域では，盲目的無批判的に信奉される所説をさすようになった。総じて現代では否定的響きの強い語である。〔石井忠厚〕

とくみどいや【十組問屋】 江戸時代，江戸で結成された荷受問屋の組合。海難などに伴う回船業者の不正や係争を防ぐため，1694年(元禄7)江戸の大坂屋伊兵衛(いへえ)が発起人となり，大阪と取引のある荷主が，塗り物・薬品・綿・油・酒など業種別に10組を結成し，各組合に行事をおいて海損荷の処分，損害の配分などを監督した。菱垣(ひがき)回船は十組問屋の輸送機関となり，またこれと呼応して大阪にも二十四組問屋が結成された。1841年(天保12)株仲間廃止令により解散したが，1851年(嘉永4)株仲間再興会とともに95組で再組織された。明治維新に至り解散。〔岡山泰四〕

とくむかんてい【特務艦艇】 戦闘艦艇の作戦を支援したり，補助的任務を行なう艦艇。艦種の一つとして定められる場合もあるが，一般には各種母艦や給油・給糧・給兵などの補給艦，工作艦・測量艦・潜水艦救難艦のような支援艦，および敷設艦・練習艦などの非戦闘艦艇を総称する。

とくむきかん【特務機関】 日本の軍制で，軍隊・官庁・学校などに属さない特殊の軍事機関を総称した。官制で定められたのは元帥府・軍事参議院・侍従武官府などで，大使館付武官・外国駐在員などはこれに準ずるものとされた。したがって，任務内容を秘したり，正式名称のない機関などが便宜上特務機関の名を使用したので，そのためしだいに俗用されるようになった。満州事変ごろから，中国各地において情報収集や政治工作を実施していたグループが，○○特務機関と称し，中国側も対日抗戦の宣伝材料としたため，特務機関といえば諜報(ちょうほう)謀略機関のイメージを一般に与えたが，その任務は政務指導であり，のちには連絡部と改称した。関東軍でも情報部と改称して軍の編制に入り，おもに軍事情報を収集した。〔森田　哲〕

とくめいくみあい【匿名組合】 当事者の一方が相手方の営業のために出資し，相手方がその営業から生じる利益を分配することを約束する契約(商法535条)。契約の当事者は，匿名組合員と営業者との2人だけのもので，多人数間の契約で成立する民法上の組合とは異なる。匿名組合員の出資は営業者の財産となり，営業者はこの出資を基に自分の営業を盛んにする。第2次世界大戦後一時盛んであった保全経済会などの株主相互金融は，そのほとんどがこの契約形態をとっていた。〔松本治雄〕

とくめいぜんけんこうし【特命全権公使】 ⇨公使

どくやく【毒薬】 毒性が強いため比較的少量で致命的薬理作用を現わす医薬品。毒劇薬は，人または動物が摂取・吸収・外用したとき生体機能に危害を与えるおそれのある医薬品で，薬事法によって厚生大臣が指定している。毒劇薬指定の基準は急性毒性・慢性毒性・安全域・蓄積作用・副作用発現率や中毒量と常用量の関係，常用量における薬理作用などによって決定され，ふつう，毒薬と劇薬の違いは，50%致死量(LD_{50}mg/kg)を基にし，経口投与で30mg以下を毒薬，300mg以下を劇薬としている。劇薬のレッテルには白地に赤わくがあり，赤字で薬品名と〈劇〉の文字を，毒薬には黒地に白わく白字で薬品名と〈毒〉の文字を書いてあり，譲渡にあたっては厳重な手続きと制限がなされている。〔江本龍雄〕

とくやくてん【特約店】 メーカーがある地域に自社の製品を販売しようとするとき，必ずその店を通すことを契約としている店。したがって，特約店は1地域に1店

と限られる。特約店制の利点としては，①販売経路が定まっていて競争による値くずれが少ない，②メーカーと特約店との意思の疎通がスムーズにいくので製品に関する情報を早期に確実に入手できる，③事務処理が簡単になる，④販売店援助の効果が期待できる，⑤よい特約店を獲得した場合にはメーカーのイメージを高めることができる，などがあげられる。欠点としては，①販売店数が制限されるので販売可能性も減ずる，②必ずしもよい特約店を獲得できるとは限らない，③一度特約店契約を結ぶと変更するのに容易ではない，などがあげられる。　〔清水　晶〕

とくやま　【徳山(市)】　山口県南東部の市。人口111，000。もと野上庄(しょう)とよばれ，江戸時代には毛利支藩三万石の城下町であった。明治維新後，一時市勢が衰えたが，1904年(明治37)海軍煉炭(れんたん)所(のちの燃料廠(しょう))が置かれ，以後海軍の要港として発展した。1935年(昭和10)市制施行，1966年北接する都濃町を編入。市域は，瀬戸内海周防灘(すおうなだ)に臨む平野部と背後の錦(にしき)川流域の周防山地にわたり，天然の良港徳山湾を囲む南東部の大島半島や大津島・黒髪島・仙(せん)島なども含まれる。産業三大別人口比は9：35：56。大正中期以後，徳山曹達(ソーダ)・徳山鉄板(いまの日新製鋼)などの工場群が設置されて工業化が進み，周南工業地域の中心地として石油・鉄鋼・レーダーなどの近代工業が発達している。出光(いでみつ)興産・周南化学・徳山石油の三大工場が石油化学コンビナートをつくり，旧海軍の燃料廠跡につくられた出光興産の大原油センターは海底パイプラインによって徳山湾に入港するマンモスタンカーから原油を陸揚げする。錦川総合開発によって菅野(すがの)ダムがつくられて以来工業用水が豊富で，中小工業団地の造成も進んでいる。山陽本線と岩徳線(岩国－櫛ケ浜(くしがはま))の分岐点で，山陽新幹線の徳山駅もあり，国道2号線・188号線が集まる。大島半島と海上の島々は瀬戸内海国立公園に含まれ，粭(すくも)島はフグの漁で知られる。
〔浅井得一〕

とくらとうげ　【戸倉峠】　中国山地の鳥取・兵庫県境にある標高891mの峠。姫　～鳥取間の国道29号線若桜(わかさ)街道がここを越えている。江戸時代から鳥取と上方との交通の要衝であった。1954年(昭和29)には長さ750mのつけかえトンネルが完成し，鳥取～大阪間の輸送が強化された。

どくりつえいよう　【独立栄養】　生物のエネルギー獲得形式から定義された語で，栄養素としてまったく有機化合物を必要としない場合をいう。自栄養ともいう。これに対して，有機物を必要とするものを他養性生物という。独立栄養をとるものは，さらに炭酸同化の際に光エネルギーを利用する光独立栄養と，化学合成する化学独立栄養の二様式に分けられる。

どくりつご　【独立語】　文の成分の一種。〈まあ，よく　いらっしゃいました〉(感動)，〈太郎や，ここへ　おいで〉(呼びかけ)，〈はい，よく　わかりました〉(応答)，〈8月15日，わたしは　この　日が　忘れられない〉(提示)のような文節を独立語という。独立語は，文中の他の文節とは直接のつながりが弱く，比較的独立している。

どくりつさいさんせい　【独立採算制】　元来はソ連における国有企業の基本的な経営理念として採用されたものであるが，社会主義社会にのみ固有なものではなく，欧米諸国などの資本主義社会における企業にも同じような原理が適用されている。両陣営の経済制度の相違によって独立採算制の現象形態には差異が認められるが，その共通の原理として，次の点があげられる。すなわち，収支の独立と収支の対応ないし均衡によって企業経営の自主性と独立性を確保し，さらに公企業の合理化を促進しようとするもので，公企業の経営管理制度として採用されたものである。またこのことは，同時に企業経営の自主性と国の経済計画性との間の矛盾の調和を図ろうとする二重の原理をも本質的に内包している。資本主義社会においては，このような意味合いから第1次世界大戦後のドイツをはじめヨーロッパ諸国における公企業，1933年アメリカで多目的の事業経営を意図して創設されたTVA，そしてアメリカの制度を大きく取り入れたわが国の国有鉄道およびその他の公企業に採用されている。　〔清水　晶〕

どくりつじしょう　【独立事象】　⇨確率

どくりつせんげん　【独立宣言】　1776年7月4日イギリス領アメリカ13植民地の独立を決議した公式宣言。ジェファソンが起草し，S.アダムズ・フランクリンらが補筆修正したもので，その内容はロックから発展した民主主義政治哲学に立脚し，人間の基本的権利から説き，次にジョージ3世の植民地に対する暴政をあげ，13植民地が自由独立の国家であるべきだと主張。その主目的は，世界に反抗行為を弁明し外国の支援を得る対外的動機と，独立に反対する消極的な保守派を制することにあった。

どくりつテレビジョンきょうかい　【独立テレビジョン協会】　Independent Television Authority　略称ITA。イギリス商業放送を統轄する公共企業体で，1954年設立された。BBCと同じく公的性格をもつ。わが国の商業放送テレビ局に似た番組制作会社に，放送施設を貸与し，それらを監督する機関である。1953年の政府白書は〈BBCと同様にこの新しい機関には，番組編成を含めて，日常業務の独立を認める〉と述べており，その主旨によって設立された。BBCに対するイギリス商業テレビ事業確立は，このITAの設立によって実現した。

どくりつとう　【独立党】　⇨事大党

どくりつは　【独立派】　イギリスのピューリタンのうちの急進派。長老派に対抗して共和制を理想とし，革命の指導権を握った。政教分離を主張し，イギリス国教会の観念に反対し，1648年議会から長老派を追放，1649年国王を処刑，下院だけの共和政治を行なったが，王政復古後勢力を失った。

どくりつびじゅつきょうかい　【独立美術協会】　洋画団体。1930年(昭和5)11月結成。二科会会員の里見勝蔵・児島(こじま)善三郎，同じく会友の林重義(しげよし)・林武(たけし)・川口軌外・小島善太郎・中山巍(あきら)・鈴木亜夫・鈴木保徳に，伊藤廉・福沢一郎・清水登之(しみずとうし)，春陽会の三岸好太郎，国画会の高畠(たかはた)達四郎を加えて結成。翌年1月東京府美術館で第1回展を開催，フォービスムの決定的な移植の役割を果たした。毎年10月に公募展を開く。

とけい　【時計】　時刻を指示する器機，または時間をはかる装置。

〔歴史〕最古の時計は，日時計の前身グノモンで，地上に垂直に立てた棒の影の長さで時刻を知った。日時計は紀元前20世紀以前にバビロニアで用いられ，その知識がエジプト・パレスチナ・インド・中国，さらにギリシア・ローマに伝えられたといわれる。機械時計以前の時計としては，日時計・星時計のほか，水時計・砂時計・ランプ時計・ろうそく時計・香時計などがある。最初の機械時計は14世紀初めにイタリアでつくられたといわれる。現存する最古のものは，1360年ごろつくられたもので，パリの最高裁判所にある。これらの時計は重錘の力で歯車輪列を回転させ，末端の冠形脱進機に慣性の大きな棒テンプをかみ合わせて回転を抑制する形式のもので，棒テンプの振動には現在の振り子やひげぜんまいのついたテンプのように等時性がないので，精度が不十分であった。したがって，この時代には時針1本のみであるが，いずれも時打ち装置を備え，公共時計として寺院・教会・公会堂などにすえつけられた。これらの時計が小形化されて家庭に使われはじめたのは14世紀末で，1500年ごろドイツではじめてぜんまいを動力にした携帯時計がつくられた。やがてホイヘンスは1657年に振り子時計を，1675年にひげぜんまいつきのテンプ調速機を発明した。この発明を機として，18～19世紀に世界一の時計産業国であったイギリスを中心とするマリンークロノメーター(→クロノメーター)の精度向上やさまざまの改良によって，時計の精度は画期的な進歩を遂げた。電気時計については19世紀半ばから研究が進み，親子時計・同期電動機時計，さらに1927年に水晶時計，1947年に原子時計が出現し，従来の天体の運行に基づく時系と並んで，原子時計による時系が誕生した。

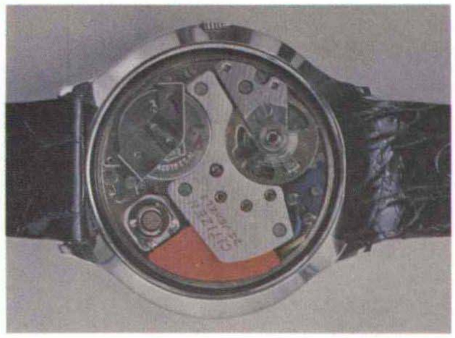
わが国では660年に水時計の一種である漏刻がつくられたという記録が最古のもの





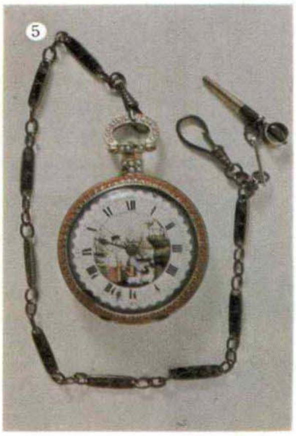


時　計

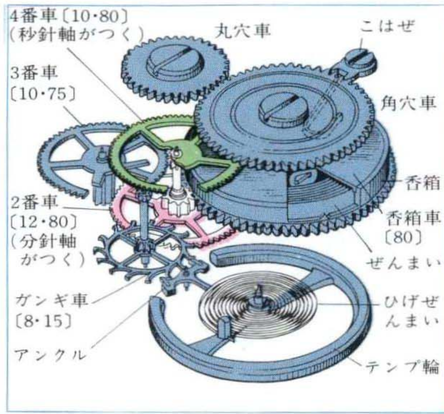


電子腕時計の内部(国産)　銀電池動力





①枕時計(徳川家康がスペイン国王より贈られて愛用した)静岡県久能山東照宮蔵　②ランタン-クロック(イギリス)振り子式,ぜんまい動力　18世紀　③七宝リボン飾り時計(中国,機械はフランス製)1755　京都市藤井有隣館蔵　④マリン-クロノメーター(イギリス)1825　⑤懐中時計(イギリス)19世紀



腕時計の構造　〔　〕内は歯車の歯数

である。機械時計がはじめてもたらされたのは16世紀半ばといわれ，これをもとに和時計*(自鳴鐘)がつくられ，日本独特の技術が発達した。機械時計ができてからは，1日を定分割する定時法を採用するのが一般的であるが，日本では季節によって昼と夜とを別々に等分する不定時法をとったので，和時計では季節に応じて文字板を替えたり，昼用と夜用の2種の棒テンプをもつ機械などがつくられたりした。1873年(明治6)からは定時法が採用されて和時計はすたれ，クロック(大物時計)の輸入が始まった。時計工業としては明治10年代にクロックが，明治30年代にウォッチ(携帯時計)がそれぞれ生産を軌道に乗せた。

【分類】種類はきわめて多いが，一般には次の2種に大別できる。①クロック：一定の姿勢で使用される時計の総称で，塔時計・掛け時計・置き時計・目ざまし時計などがある。現在は電池時計・電気時計が主流になりつつあり，ぜんまい時計は安価な目ざまし時計に限られてきている。②ウォッチ：個人が携帯し，あらゆる姿勢で動きうる時計。懐中時計・腕時計*・ペンダント時計・ストップウォッチなどがある。

【構造】機械時計は大別して次の3部分より構成される。①調速装置：振り子とテンプ輪の振動の等時性を利用する調速機と，歯車輪列の最後にあるガンギ車を1歯ずつ脱進させて回転速度を一定にし，同時に調



トケイソウ



トゲウオ　巣をつくるイトヨ

速機にエネルギーを与えて振動を継続させる脱進機からなる。②動力装置：針を動かすためのもので，重錘・ぜんまい・電気などを動力源にする。③伝達・指示装置：動力をガンギ車に伝えると同時に，調速装置で生じた回転速度を秒針・分針に伝える歯車輪列と針・文字盤などの指示装置からなる。歯車輪列は回転数を順次増す加速系になっている。

【時計産業】主要生産国はスイス・ソ連・日本・アメリカ・西ドイツ・フランス・イギリス・東ドイツ・イタリアの9か国で，クロック約1億個(西ドイツが1位)，ウォッチ約1億5,500万個(スイスが1位)(1968)を生産し，近年は5～6％の年平均伸び率である。日本ではクロック約30社，ウォッチ4社で，製品のうちクロックの3分の1以上，ウォッチの2分の1以上を輸出し，スイス(約96％を輸出)に次ぐ時計輸出国となっている。〔元持邦之〕

とけいそう　【時計草】双子葉植物・トケイソウ科。ブラジル原産のつる性常緑樹。葉は3～5深裂した掌状葉。7～9月，葉腋(ようえき)に直径7～10cmの五弁花をつけ，細い副花冠が多数並び，先端と基部が紫色，中央に合着した5本のおしべがあり，めしべがある。果実はパッションフルーツともいい，径5cmばかりの球卵形で，黄熟し，食べられる。トケイソウの仲間は約400種，主として南アメリカに分布するが，一部はアジア・オーストラリアにもあり，特異な花の形態は時計を思い起こさせるので，よく栽培される。

とげうお　【棘魚】硬骨魚類・トゲウオ

科の総称。日本からはイトヨ属(イトヨ・ハリヨ)とトミヨ属(トミヨ・ムサシトミヨ・イバラトミヨ)が知られ，いずれも全長5～6cmの小魚である。体側に鱗板(りんばん)という骨質の小片があり，背びれのとげが強大で目だつ。また，同じ種でも陸封型と降海型の2型がある。繁殖期には雄は美しい婚姻色を示し，水底に水草で巣をつくって，卵や孵化(ふか)した稚魚*を保護する。

とけつ 【吐血】 食道・胃・十二指腸などの上部消化管から出血した血液を吐き出すこと。原因は胃潰瘍*(いかいよう)・胃癌*(がん)からの出血が全体の30％以上を占め，胃炎*，食道静脈瘤(りゅう)からの出血がこれに次いでいる。そのほか十二指腸潰瘍*・十二指腸内穿孔(せんこう)・食道癌*・食道炎・胆石症・胆嚢炎*(たんのうえん)・膵臓癌*(すいぞうがん)・膵臓炎*などでもみられる。また消化管の疾患以外でも紫斑病*(しはんびょう)・白血病*・リンパ肉腫症(にくしゅしょう)・貧血*・慢性腎炎(じんえん)などでみられることがあるが，原因のまったくわからないことも多い。症状は原疾患によりいろいろであるが，いずれも吐きけを伴う。新鮮血では鮮紅色を呈し，胃内に血液がたまったあとでは，胃酸により血液が酸化されてコーヒー残渣(ざんさ)様となる。咽喉頭(いんこうとう)・気管支・肺からの出血(→喀血(かっけつ))と鑑別する必要がある。治療は，原疾患の治療のほか，絶食して各種の止血剤を与え，大量の出血では輸血が必要。〔佐野隆志〕

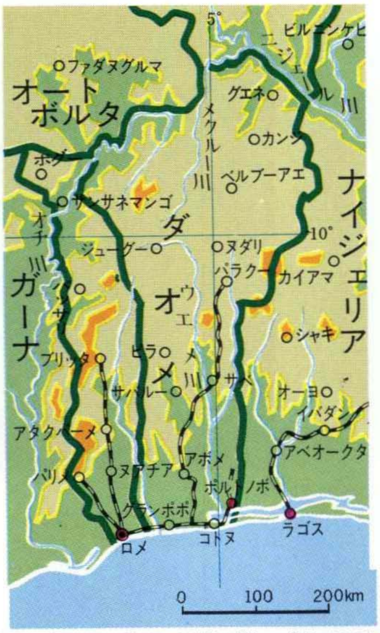
とげねずみ 【棘鼠】 哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・ネズミ科。頭胴長12～18cm，尾長10～12cmで，体にはかたく先が鋭い針状の毛を密生する。体上面は橙色(とうしょく)をおびたかっ色。奄美(あまみ)大島と沖縄本島だけに産する珍しい動物で，1924年(大正13)に発見された。家ネズミが同島に侵入して増殖したため激減し，絶滅寸前の状態にあるものと思われる。

トーゴ(共和国) ［Republic of Togo, République du Togo］ アフリカ中西部，ギニア湾に臨み，内陸へ細長く延びた共和国で，旧ドイツ領トーゴランドの東半分が，その後フランス信託統治領となったものである。東はベニン，西はガーナ，北はオートボルタと境している。面積56,000km²。人口247万(1979年推)。首都ロメ。

【自然・住民】海岸は東のダオメ海岸とともに奴隷海岸とよばれる。砂浜と砂丘，その背後にある低湿地など，ダオメやガーナと同じ海岸地形をもち，低平な平野が内陸に続いている。海岸から約60～70kmでしだいに高度500～600m程度の丘陵地になり，北部にはいってオチ川の谷へゆるやかに傾斜している。海岸地域は熱帯雨林気候であるが，内陸は3～7月が雨季となるサバナ気候である。住民は中部アフリカのニグロに属する黒人で，北部にはカブレ族，南部にはエウエ族・ミナ族などがいる。北部ではイスラム教徒，南部ではキリスト教徒が多い。

【産業・経済】土地は肥沃(ひよく)だが，開発はあまり進んでいない。主作物はキャッサバ・ココヤシで，輸出用にコーヒーノキとカカオを栽培しているが量は多くない。首都ロメは港市であるが，港湾設備がないため，物資の荷揚げは本船からはしけを用いており，開発上の大きな障害となっている。

【歴史・政治】古くはトーゴランドとよばれ，1884年以降ドイツ帝国の植民地であったが，第1次世界大戦後は東西に分割され，東はフランス，西はイギリスの委任統治領になった。第2次世界大戦後も引き続き両国の国際連合信託統治領とされたが，このうち旧イギリス信託統治領は1957年にガーナに統合され，旧フランス信託統治領が1960年4月に独立してトーゴとなった。しかし，エウエ族はガーナにもまたがっていることから，しばしば政治問題をひき起こし，政情は安定していない。〔小栗 宏〕



300万人以上の都市 回 100～300万人の都市 ◎ 50～100万人の都市 ◎ 10～50万人の都市 ◉ 5～10万人の都市 ○ 5万人未満の都市 ● 首府 #油田



トーゴの国旗 1960年制定。緑は希望と農民が多数を占める国民を，黄色は物質的・道徳的・精神的な向上をめざす信念を表わし，赤は博愛・忠節・兄弟愛の，白は純潔の象徴である



トーゴ 首都ロメ市の下町。中心街に比べて下町は建物も道路も整備されておらず，雑然としている

とこじめ 【床締め】 水田で水持ちが悪いとき行なう土地改良法。水田の作土の下には鋤床層(すきどこそう)があり，透水をある程度阻止する。その下の心土層が床であり，一般に表土をのけて心土層を突き固め，再び表土を入れる。ほかに表土の上から締める，膨潤度の高いベントナイトを散布して床締めに代えるなどの方法がある。

とこじらみ 【床虱】 こん虫類・半翅(はんし)目・トコジラミ科。俗称のナンキンムシ(南京虫)で知られる吸血こん虫。体は長さ5mmほどのやや細長い円盤状で，著しく扁平(へんぺい)。普通は全体かっ色。頭部は小さく，頭頂部は太く前方に突出し，複眼は小さく，触角は4節からなり，口吻(こうふん)は細長い。前胸背板は側縁部が大きく張り出し，周縁にはとげ状の剛毛がある。翅(はね)は退化しており，半翅鞘(はんししょう)は短い盤状となり，後翅は完全に消失している。家屋内に生活し，昼間は柱と壁の間や畳・家具・床板などのすきまなどに潜み，夜間活動して人血を吸う。各種の吸血こん虫の中でも特にかゆみがはなはだしい。不潔な場所を好み，捕えるとカメムシ類に似た強い悪臭を放つ。卵は黄白色の円筒形で，長さ1mm内外，表面に点刻がある。夏季には約1週間で孵化(ふか)する。孵化直後の若虫は淡色で，赤色の複眼をもち，腹部に暗色の1横帯があり，十分に吸血の機会があれば4～6週間で5齢を経て成虫となる。冬季や寒地では6か月を要するという。アジア南部の原産であるが，現在では人類の生活するほとんどすべての地域に分布しており，日本へも明治前にはいったという。トコジラミ科は小さい科で，全世界から40種ほどが知られ，いずれも哺乳(ほにゅう)類や鳥類に寄生して吸血する。人体に寄生するものは，トコジラミのほか，アジア・アフリカの熱帯地方に広く分布するネッタイトコジラミがある。〔鈴木邦雄〕

とこずれ 【床ずれ】 褥瘡(じょくそう)ともいう。長い間病床にある患者の腰部・臀部(でんぶ)・肩甲部などの骨突起部付近に，圧迫と血行障害などで発生するもの。そのほかに汗や尿による皮膚の軟化，全身衰弱による組織の抵抗減弱，脂肪組織の減弱，二次

感染なども関係する。最初は蒼白(そうはく)でのち周囲は赤くなり圧痛を感じる。表皮組織形成が悪いため糜爛(びらん)して潰瘍(かいよう)を形成し，やがて壊疽(えそ)を起こす。治療は，同一部位にたえず圧迫を受けぬように，体位を1日に何度も変え，潰瘍・壊疽部に抗生物質の含まれた外用剤などを塗布する。

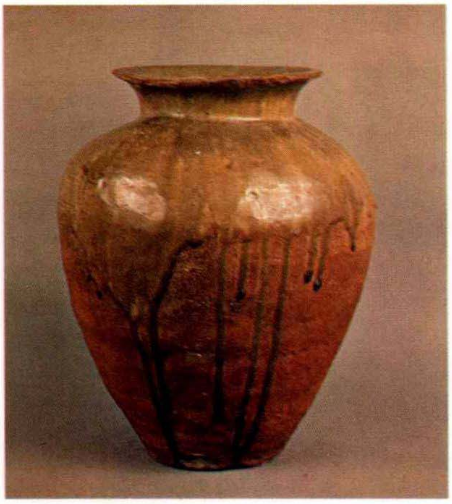
とこなつ　【常夏】　⇨セキチク

とこなみたけじろう　【床次竹二郎】（1867～1935）　政治家。鹿児島県出身。東京大学卒業。原・高橋両内閣の内相をつとめ，1924年(大正13)清浦内閣を支持して政友本*党を結成。1927年(昭和2)憲政会と合同して立憲民政*党を組織したが，翌年脱党して新党倶楽部(クラブ)を結成し，その総裁となった。1929年立憲政友会に復帰。1931年犬養(いぬかい)内閣の鉄道相。1934年党議にそむいて岡田内閣の逓信相となったため，立憲政友会から除名された。　〔安達利夫〕

とこなめ　【常滑(市)】　愛知県知多半島中西部の市。人口55,000。古くはくとこなべ〉と読み，常滑*焼で知られる〈陶器の町〉として発展した。1954年(昭和29)常滑町を中心に4町1村が合併して市制施行。市域は知多半島西岸，伊勢(いせ)湾に沿って南北に長い平地部を占め，東部には良質の陶土を産する低い知多丘陵がある。産業三大別人口比は11：52：37。主産業は窯業で，中でも陶管の生産高は全国の約50％を占め，伊奈製陶(タイル・衛生陶器)の大工場もある。伝統的な家内工業から発達した〈知多木綿(もめん)〉や酒の醸造も行なわれ，北部の大野地区は江戸時代には江戸・大阪への回船の本拠地であったが，最近は繊維工業が興っている。名古屋鉄道常滑線が名古屋市へ通じ，岐阜市とも直通特急で結ばれている。国道155号線・247号線が通ずる。

とこなめやき　【常滑焼】　愛知県常滑市付近で焼かれる陶磁器。創業期は平安時代とされているが，室町時代中期に中絶した。その後江戸中期以降に盛んとなり，現在の基礎がつくられた。当初の製品は壺(つぼ)・甕(かめ)類が多く，灰釉(はいぐすり)が用いられたが，鎌倉末期には無釉(むゆう)となり，桃山期には〈真焼(まやき)〉と称する堅牢(けんろう)なものができた。江戸期寛政年間(1789～1800)の白鴎(はくおう)の茶器は高雅である。

とこのま　【床の間】　和風建築の座敷に設けられる装飾の一種。書院造*りに端を発したもので，最初は仏像を安置して仏壇として用い，次いで仏像の代わりに掛け字を掛け，具足を置いた。時代の変化とともに仏像・具足と縁を切り，掛け軸を掛け，置き物を置き，花などをいける形式になった。床・床わき・書院からなっており，床の内に向かって左に縁や書院を置き，右に床わきをつけたものを本勝手といい，その逆を逆勝手という。本床は基本的な形式で，床柱・床框(とこかまち)・落とし掛け・床板で構成され，床框の上に床板を載せる。床板の厚



常滑焼　《灰釉壺》　東京国立博物館蔵



トコブシ



ド-ゴール

みをみせたものをけこみ床，床の間内を大壁のように天井まで塗り回したものをほら床，前面の一部にそで壁をつけたものを袋床，床板を畳面と同一にしたものを踏み込み床といい，ほかに織部床(おりべどこ)・つり床・置き床などがある。現在では，以上を基本にして形式にこだわらず，近代的な感覚で処理されるのでその種類も多い。

とごふ　【都護府】　中国，漢から唐代にかけて設けられた異民族の統治出先機関。都は〈最高〉，護は〈監督〉の意。張*騫(ちょうけん)の遠征以後，漢は西域に使者校尉を派遣していたが，宣帝のとき(BC59)西域都護に改称し烏塁(チャデール)城に府を設けた。後漢は明(みん)帝の時代，班*超の活躍によりクチャ(亀兹)に府を置き統治したが，班超の死後まもなく廃止した。晋(しん)・宋(そう)・斉(せい)・陳を経て唐代に及び，高宗の永徽(えいき)(650～656)中は安東・安西・安南・安北，さらに664年単于(ぜんう)・北庭のいわゆる六大都護府が置かれ，周辺各地の羈縻(きび)州府を統括した。漢の都護は加官であったが唐は本官であり，大都護1人従二品，副大都護2人従三品，副都護2人正四品などが軍権・民政を兼ね，その下に羈縻州府の出身者を都督・刺史に任用して，ローカル色のある統治を行なった。

とこぶし　【常節】　軟体動物・腹足類・ミミガイ科。殻長(かくちょう)7cm，殻幅5cm，殻高2cmほどの巻き貝。殻(から)は卵楕円(らんだえん)形でアワビに似るが，背縁に沿って水孔が6～8あり，小さく，孔の縁が高まらない点で区別できる。殻表は通常黒みをおび，緑かっ色斑(はん)が殻頂のほうにあるが，内面は強い真珠光沢がある。北海道南部から九州の潮間帯付近の岩礁にすむ。産卵期は9～10月。肉は柔らかく，食用にされる。アナゴ・ナガレコ・ナガラミなどの地方名がある。

とこやま　【床山】　劇場に付属する一職種。台金に付けてある毛髪が，かつら屋から回ってくると，これを指示の髪形に結い上げるのが仕事で，公演中はかつらを保管・整理する責任がある。相撲(すもう)界で力士の髪を結う者も床山という。

ド-ゴール　［Charles André Joseph Marie de Gaulle］（1890～1970）　フランスの軍人・政治家。リールの生まれ。1912年，サン-シール陸軍士官学校を卒業。第1次世界大戦に従軍，重傷を負い捕虜となった。大戦後ポーランドで対ソ干渉戦争に参加(1919)。早くから軍隊の機械化，戦術の立体化を主張し戦術理論家としても注目された。第2次世界大戦には装甲師団長として参加，功績をあげて最年少の将軍となり，1940年国防次官・陸軍次官となった。連合国側からの軍事援助についてロンドンでイギリス政府と交渉中にパリが陥落し，ペタン政府が対独休戦を提議するとこれと絶縁し，BBC放送を通じてフランス人に対独抗戦を呼びかけ，ロンドンに自由フランス国民委員会を結成した。その後国内の抵抗運動と呼応して活躍，1944年パリ解放後，臨時政府首班となる。1946年人民共和派と社会党・共産党との政策不一致のため辞職・引退した。その後アルジェリア問題を機に，1958年首相に返り咲き，憲法改正に成功，大統領の権限を強化して第五共和制の大統領に就任した。アルジェリアの独立承認，核兵器開発，イギリスのEEC加盟拒否，中華人民共和国の承認などフランスの栄光回復に努め，1965年大統領に再選されたが，1969年4月には国民投票に敗れ退陣した。著書に《回顧録》がある。　〔喜多迅鷹〕

ところ　【野老】　⇨オニドコロ

ところがわ　【常呂川】　北海道北東部にある川で，石狩山地に源を発し，北見盆地で無加川を合わせてオホーツク海に注ぐ。流程150km。中流部は段丘を発達させ，下流

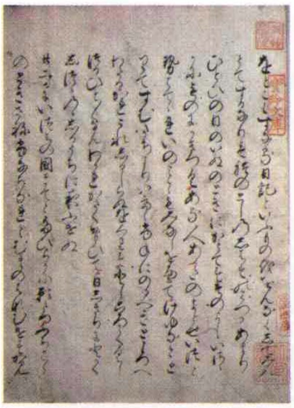
部は沖積地(ちゅうせきち)を形成している。

ところざわ【所沢(市)】埼玉県南部の市。人口23万1,000。古くは〈野老沢〉と書き，鎌倉街道の宿場町として発達した。江戸時代には三・八の市が立ち，村山絣(がすり)(所沢絣)の産地として知られた。1910年(明治43)陸軍の飛行場がつくられ，日本の航空界発祥の地となった。1950年(昭和25)市制施行。市域は武蔵野(むさしの)台地中央部，狭山(さやま)丘陵の北東に位置し，産業三大別人口比は5:36:59。西武電鉄池袋線・同新宿線の交点にあたり，多くの主要県道が集まってバス網も発達し，東京の衛星住宅都市として，近年急速に人口が増加しつつあり，1970年～75年の人口増加率は44.1%に達し，入間(いるま)郡三芳(みよし)・大井の両村にまたがる面積7,160万m²の地域に大規模な団地をつくる計画も進んでいる。丘陵部には狭山茶の特産がある。東部には狭山湖(山口貯水池)・多摩湖(村山貯水池)があり，ユネスコ加盟国の住宅模型を集めたユネスコ村や，西武園などの施設がある。北東部には，江戸初期に開かれた武蔵野台地における代表的な集落である三富(さんとめ)新田のうち中富・下富の2新田がある。

ところてん【心太】テングサを主原料とし，エゴノリ*・オゴノリ*などを混ぜて煮てとかし，型に流して固めたゼリー状の食品。寒天*からもつくられる。一般に夏用の食べ物で，ところてんつきという木製器具で線状に突き出し，二杯酢・からしじょうゆを掛けて食べる。奈良時代から食用にされたといわれる。

とこん【吐根】双子葉植物・アカネ科。ブラジル原産の多年草。茎は高さ30cmほどで，葉は対生し，長さ15～20cmの広卵形，全縁で革質。7月ごろ，茎上に多数集の白色で花冠が5裂した小花をつける。果実は長さ1cmの楕円(だえん)形で黒紫色に熟す。根はじゅず状の輪節がある。これを乾燥したものが生薬の吐根で，アルカロイドのエメチン*を含み，催吐薬・去痰薬(きょたんやく)やアメーバ赤痢の治療に用いられる。

とさ【土佐(国)】高知県の旧国名。土州。南海道に属する。古くは〈土左〉と書いた。もと安芸(あき)・香美(かがみ)・長岡・土佐・吾川(あかわ)・高岡・幡多(はた)の7郡であったが，現在では高知・中村・土佐清水(とさしみず)・宿毛(すくも)・室戸・南国など9市と7郡(同上)に分かれる。国府・国分寺は長岡郡(現在の南国市)。鎌倉時代には佐々木・三浦・北条(ほうじょう)の諸氏，室町時代には細川氏が守護となったが，応仁(おうにん)の乱*後は安芸・香宗我部(かそかべ)・津野などの諸氏が覇(は)を競い，戦国末期には長宗我部元親*(ちょうそかべもとちか)が諸豪族を討って一国を平定し，国司一条家をも滅ぼした。四国全土を平定した元親は，1585年(天正13)豊臣秀吉(とよとみひでよし)に降伏して土佐一国を与えられたが，子の盛親は関ケ原の役に西軍にくみして国を奪われ，代わって山内一豊*(かずとよ)が就封し，高知に居城を構え，子孫世襲して幕末に及んだ。廃藩置県により高知県となり，そのまま現在に至っている。〔黛　弘道〕



土佐日記 文禄年間の写本(部分) 大東急記念文庫蔵

とさ【土佐(市)】高知県中南部の市。人口32,000。中心市街の高岡は古くから南方の伊野(いの)と並んで〈土佐和紙〉の産地として知られる。1959年(昭和34)，周辺部を合併して市制施行。市域は仁淀(によど)川下流の西岸，高岡平野の中心部にあり，南は土佐湾に臨み，周辺部は山地に囲まれる。産業三大別人口比は37:22:41。仁淀川流域に水田地帯が開け，山地ではミカン，海岸部では促成野菜の栽培が盛んである。浦ノ内湾口に臨む宇佐では伝統的なかつお節の製造が行なわれる。土讃(どさん)本線・国道56号線が通じ，東方の高知市の衛星都市化している。

とさかじゅん【戸坂潤】(1900～1945)唯物論哲学者。東京の生まれ。京都大学哲学科卒。神戸(こうべ)商大・法政大学などの講師・教授。カントの空間論の追究から唯物論者・マルクス主義者となった。昭和初期の労働運動崩壊後の困難な時期に，唯物論哲学研究の先頭に立ち，文学・風俗・社会評論に活躍，ファシズムの虚偽・不合理を〈科学的精神〉に立って鋭く批判した。唯物論研究会(1932～1938)を創設，また唯物論全書を刊行し，その卓越した理論的・組織的指導者として戦いつづけたが，1938年(昭和13)治安維持法違反の理由で唯物論研究会の主要メンバーとともに検挙され，1945年8月9日獄死。著書《科学方法論》《日本イデオロギー論》《科学論》《道徳の観念》《認識論とは何か》ほか。〔中川　誠〕

とさかのり【鶏冠菜】紅藻(こうそう)植物・ミリン科。紅色の扁平(へんぺい)膜状の海藻で，不規則に叉状(さじょう)分枝し，幅1～5cm，高さ10～30cm。低潮線から18mの深さまでに生ずる。表日本中南部から南太平洋・インド洋に分布する。2～4月ごろ海岸に打ち上げたものを拾い，塩蔵して食用とする。

とさしみず【土佐清水(市)】高知県南西部の市。人口25,000。古くからの漁港であった幡多(はた)郡清水町を中心に下ノ加江町・三崎町・下川口町が合併して1954年(昭和29)市制施行。市域は足摺(あしずり)半島を中心に，土佐湾岸と豊後(ぶんご)水道沿岸に分かれ，市街地の清水は南北3kmに及ぶ沈水海岸の北西部に発達する。産業三大別人口比は30:18:52。清水港は室戸と並んで県下の代表的な遠洋・近海漁業の基地で，足摺崎(ざき)の南西37kmに六ノ島・鷹取(たかとり)の好漁場があり，カツオ・マグロの水揚げが多い。港内では真珠の養殖が行なわれ，周辺部では伝統的なかつお節製造が盛んである。宿毛(すくも)・中村両市からバスが通じ，汽船が高知市との間を就航する。足摺宇和海国立公園の南東端を占め，足摺崎・龍串(たつくし)・見残などの景勝地が多く，県営の足摺スカイライン(有料道路)が足摺崎へ通ずる。

とさつじょう【屠殺場】⇨屠畜場

とさとうけん【土佐闘犬】イヌの品種で土佐犬ともいう。明治維新後に，四国犬とマスチーフその他の洋犬との混血でできた大形の闘犬種。頭蓋(とうがい)は大きく，吻(ふん)は角形で，耳と尾はたれ短毛，日本犬の特徴を失っている。体高は雄67cm，雌61cm以上。体重は雄45kg，雌33.8kg以上。

とさにっき【土佐日記】平安時代の日記文学作品。紀貫之*(つらゆき)の作。貫之が4年の土佐守(とさのかみ)の任期を終えて，934年(承平4)12月21日に土佐(高知県)を出立，翌年2月16日京都に帰り着く55日間の旅日記。女性に仮託してかな書きの和文に改めてつくりあげた。成立は，935～936年，作者70歳前後のころ。土佐出発の際の人々との別れや，船中の情景，旅中の風景，港でのできごと，海旅の不安などが洒脱(しゃだつ)な文章で描かれているが，土佐在任中に失った女児を追憶する悲嘆の心が全編に流れている。かな書きにより作者の心を深く描き出す自己観照の文学を達成し，のちの女流日記の先駆となった。かな書き散文の文学性を発揚した意義も大きい。〔北村杏子〕

とさは【土佐派】日本画の一流派。室町時代から江戸時代末期に至るまで大和絵(やまとえ)画法を守る中心的な画派として家系を継いだ。室町初期の画家行広がはじめて土佐の家号を称し，その孫光信(みつのぶ)は漢画的描法を取り入れ，絵巻物はもとより仏画や肖像画などに幅広く活躍，宮廷・幕府の御用絵師となり，土佐家の画壇的地位を大いに高めた。1569年(永禄12)に光信の孫光元が戦死し，代々宮廷絵所預職(えどころあずかりしき)に任ぜられた土佐家の家系は一時途絶したが，一族の光吉(みつよし)らは新興都市堺(さかい)に移住し，桃山画壇の一隅(いちぐう)に土佐派を存続させた。元和偃武(げんなえんぶ)ののち，光吉の子光則(みつのり)は長子光起を伴って上京，光起は探幽以後の狩野(かのう)派*の様式や中国院体画の写生画風を取り入れて，時代の要請にこたえる近世的な大和絵様式を創造し，宮廷絵所預職に復帰，土佐家再興の宿願を実現した。光起以後の土佐派は，

家風を祖述して形式化に陥り，新たな様式的発展をみせなかった。このような土佐家の停滞を不満として，古典大和絵への回帰を主唱したのが，田中訥言*(とつげん)を中心とする幕末の〈復古大和絵〉の運動である。
〔小林　忠〕

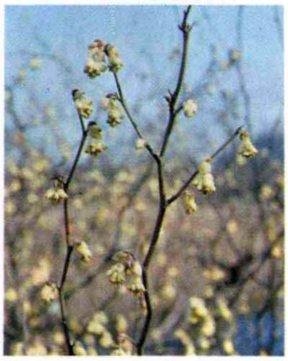
とさはん【土佐藩】 江戸時代に土佐(高知県)一国を領した藩。高知藩ともいう。藩主山内(やまのうち)氏。外様(とざま)大名。土佐国主長宗我部盛親(ちょうそかべもりちか)(元親の子)は関ケ原の役で大阪方に属したため除封され，1601年遠江(とおとうみ)(静岡県)掛川城主であった山内一豊*(かずとよ)が入国して高知城を築き，城下町を開いた。以後子孫が継承して廃藩置県に至った。入国以来，長宗我部氏の遺臣(一領具足とよぶ)の鎮撫(ちんぶ)に努め，郷士制度を整えた。また，2代忠義(ただよし)は家老野中兼山*を用いて新田開発・殖産(造林・製紙など)奨励・専売制度などを行なって経済的発展を図ったが，改革は必ずしも成功せず，士民の不平を買った。江戸後期以後たびたび藩政改革を行ない，藩権力の強化に努めた。19世紀初頭には国産物役所を設けて専売制を確立し，藩経済を発展させた。明治維新の際には坂本龍馬*(りょうま)・武市瑞山*(たけちずいざん)・後藤象二郎*・板垣(いたがき)退助*らを輩出し，藩主山内豊信*(とよしげ)(容堂)は薩摩(さつま)・長州両藩とともに指導的役割を果たした。
〔岡山泰四〕

とざまだいみょう【外様大名】 江戸時代，徳川氏*との関係の親疎によって分けられた家格の一つで，関ケ原の役以後徳川氏に従属した大名やその分家をいう。外様とは本来譜代の主従関係をもたない新参の家臣の意で，鎌倉時代では北条(ほうじょう)氏得宗家(→得宗)の被官である御内(みうち)に対して，将軍家直参の地頭・御家人をさし，室町時代以後は大名の家格を示し，幕府と疎遠なものを外様衆とよんだ。江戸幕府もこれを継承し，寛政年間(1789～1800)には128家(大名総数264家)を数えた。前田家(百二万二千余石)・島津家(七十二万八千余石)・伊達(だて)家(六十二万余石)など，譜代大名より石高の大きいものもあり，その領地は京阪(けいはん)・江戸から離れた所に配置されて，幕府の役職にはつけないのが原則であった。しかし，江戸初期には将軍家から客分扱いにされて〈松平〉を名のることを許されたり，5代綱吉(つなよし)のときには若年寄・寺社奉行(ぶぎょう)・側用人(そばようにん)などに任じて敵視の風を破ろうとしたこともあった。→譜代大名
〔岡山泰四〕

とさみずき【土佐水木】 双子葉植物・マンサク科。四国山中の石灰岩地に自生するが，ふつう庭木として栽培される落葉低木。高さ3m前後で，多数の枝を出す。葉は短い柄で互生し，卵円形で長さ5～10cm幅3～8cm，葉基部は心形で，質厚く表面の脈がへこむ。裏面は粉白色。3～4月，枝先や節から葉に先だって7～8花の花穂がたれ下がる。花は淡黄色の五弁花で，5本のおしべの葯(やく)は紫色で花柱は2本。よく似たものにヒュウガミズキ(日向水木)があり，近畿(きんき)・中部地方の山に自生し，全体に小さく，花序は2～3個からなっている。
〔加藤僖重〕



トサミズキ



ヒュウガミズキ

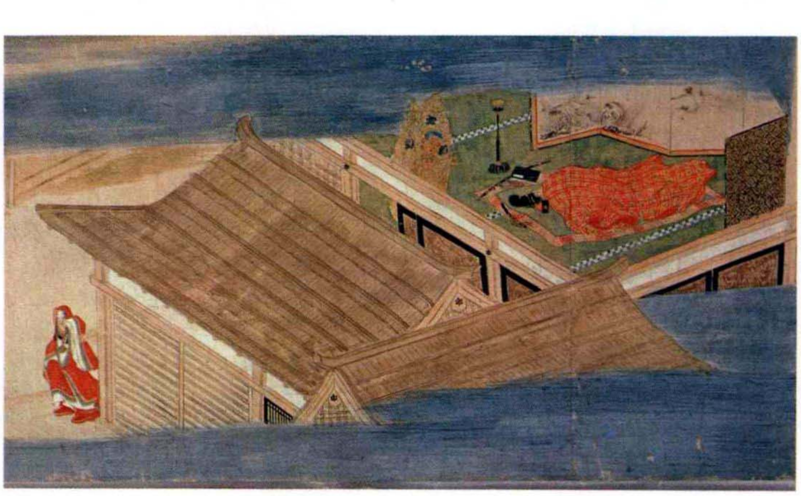
トサミズキ

とさみつおき【土佐光起】 (1617～1691) 江戸時代前期の画家。父の光則(みつのり)とともに堺(さかい)より上京，1654年(承応3)に宮廷絵所預職(えどころあずかりしき)に復帰して土佐家を再興。1681年(延宝9)に子の光成にその地位を譲り，薙髪(ていはつ)して常昭と号し，法眼(ほうげん)に叙せられた。その事績は伝統的な大和絵(やまとえ)画法に探幽以後の狩野派様式や中国院体画の写生風を取り入れ，時代の要請にこたえる新しい土佐派*様式を確立したことにある。代表的な作品として《厳島(いつくしま)松島図屏風(びょうぶ)》《粟穂鶉(あわのほうずら)図屏風》，光成との合作《秋郊鳴鶉(めいしゅん)図》など。
〔小林　忠〕

とさみつのぶ【土佐光信】 生没年不詳。室町時代の画家。土佐家中興の祖といわれる。光弘の子と推定され，1469年(文明1)ごろ宮廷絵所預職(えどころあずかりしき)に補せられ，1518年(永正15)には幕府の絵師をもつとめている。宮廷・幕府の御用絵師として幅広い分野に活躍，土佐派*の画壇的地位を大いに高めた。漢画的手法を取り入れて，古典大和絵(やまとえ)の再生を実現した光信様式は，時代の好尚(こうしょう)を反映して，動勢に富み写実力にひいでたものであった。代表作は《星光寺縁起》《清水寺縁起》《桃井直詮(なおあきら)像》《三条西実隆(さねたか)像》など。



土佐光起
《水辺秋草鶉図屏風》(部分) 東京国立博物館蔵



土佐光信
《星光寺縁起》
東京国立博物館蔵

とさやまだ　【土佐山田(町)】　高知県香美郡にあり，高知平野北東部の町。人口23,000。この付近の代表的農村で，促成農作物の栽培が盛んである。東方 6 kmの逆川(さかがわ)には天然記念物・史跡に指定されている龍河洞(りゅうがどう)の鍾乳洞があり，観光地として脚光を浴びている。

とさわん　【土佐湾】　四国の南岸，太平洋に面し，室戸岬(ざき)から足摺崎(あしずりざき)の間に大きくゆるやかに湾曲する湾。二つの岬(みさき)を結ぶ約130kmの線を湾口とする。湾奥に物部(ものべ)川・仁淀(によど)川のつくる高知平野が広がり，浦戸湾が湾入する奥に高知市がある。東部は段丘の発達する隆起海岸，西部は浦ノ内湾(横浪(よこなみ)三里)・須崎(すさき)湾などの沈水地形を呈し，南端に四万十(しまんと)川のつくる中村平野がある。水深は比較的浅いが湾口近くは水深 200 m となる。沖合いを黒潮が洗い，分派が湾内を環流して，機船底引き網漁場となる。かつて盛んであったカツオの漁獲はすたれ，いまは遠洋漁業にたよっている。

〔山口恵一郎〕

とざん　【登山】　登山とは，山に登る行為をさすが，今日一般に登山という場合には，宗教活動や鉱石の発見などを目的とした登山ではなく，登山それ自体に楽しみを求め，それ自体を目的としてなされるスポーツとしての登山をさすことが多い。

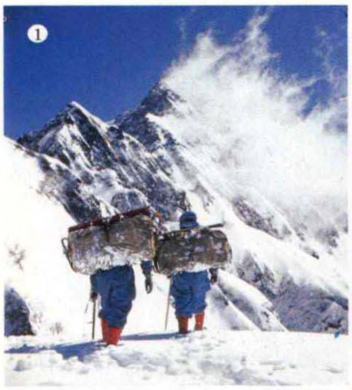
〔歴史〕人間が狩猟や宗教・軍事などの目的をもたずに山に登った最初の記録は，1336年イタリアの詩人ペトラルカによるモンバントゥー(1,912m)の登山である。それ以前はヨーロッパの山々は悪魔のすみかであり，そこには龍(りゅう)がすんでいると考えられて，山は神秘のベールに包まれた恐ろしい所となっていた。ヨーロッパ - アルプスの近代登山の夜明けは，ジュネーブの自然科学者ド - ソシュールによって推進され，シャモニーの山案内人バルマと医師パッカールによって成し遂げられた1786年のモンブラン山(4,807m)の登頂から始まる。この後，1804年にオルトラー山(3,901m)，1811年にユングフラウ山(4,158m)が初登頂され，1823年にはヨーロッパ - アルプスの登攀(とうはん)に多くの功績を残したガイドたちの最初の組合であるシャモニー - ガイド組合が誕生している。1854年ウィルスによってウェッターホーン山(3,701m)が登られたときから，ヨーロッパ - アルプスのゴールデン - エージの幕があく。

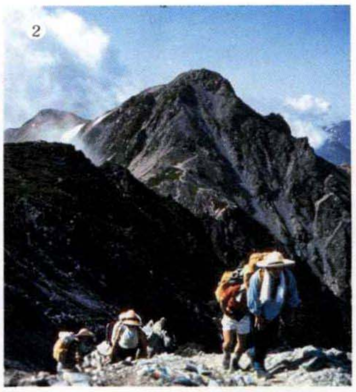
1855年にはモンテローザ山(4,634m)が，翌年にはアイガー山(3,970m)がはじめて登られた。1857年には世界最初の登山団体である〈イギリス山岳会〉が創設された。ゴールデン - エージは1865年 7 月14日，ウィンパー*の一行によるマッターホーン山(4,478m)の初登頂という輝かしい成果と，その帰路スリップによるザイルの切断で一行中の 4 名が遭難死するという悲劇的な結末によって幕を閉じる。ゴールデン - エージに続くシルバー - エージは，残された未登峰や，すでに登られた山を新しい登路からめざすバリエーション - ルートの開拓，冬季登山，案内者を伴わないガイドレス登山などが目標とされた時代である。1882年，イタリアのセラ兄弟やマキニャ兄弟は，木製楔(くさび)・鉄くい・はしごなどの人工的手段を用いて，ヨーロッパ - アルプスで最後に残された4,000m以上の未登峰エギーユ - デュ - ジェアン(4,010m)の初登頂に成功した。これ以後，ヨーロッパ - アルプスの登山はより困難なルートを求めて，稜(りょう)や壁を登攀の対象とするアイアン - エージへと突入していく。しかし，ヨーロッパ - アルプスにめぼしい未登峰がなくなってくると，登山家たちの目はアルプス以外の高峰ヒマラヤに注がれるようになった。スポーツ的な最初のヒマラヤ行は，1883年，グラハムによってなされたシッキムやナンダデビ山域での活動である。20世紀にはいると，1911年にはパウフンリ(7,128m)が初登頂された。一方，イギリス地学協会と山岳会は，1921年に第 1 回のエベレスト遠征隊を送り出し，その後1922年・1924年にも行なわれた。ヒマラヤでめざましい登山活動が展開されている間に，ヨーロッパ - アルプスでは次々と難ルートが開拓され，登攀されていた。そして，最後に残された目標はアルプスの〈三大北壁〉とよばれるマッターホーン・アイガー・グランド - ジョラスの北面に切り立つ壁であった。このうち，1931年にまずマッターホーン北壁が，続いて1935年にはグランド - ジョラス北壁の中央側稜が初登攀された。また1938年には，最後に残されたアイガー北壁が登られた。第 2 次世界大戦後のヒマラヤ登山は，短期間のうちに多くのピークを人間の領域下に置いてきた。その先端を切ったのは1950年，エルゾークに率いられたフランス隊である。エルゾークとラシュナルはアンナプルナ山(8,091m)の登頂に成功し，人類最初の8,000m級の登頂者となった。1953年 5 月29日には，ハントを隊長とするイギリス隊によって，長い間の宿願であった世界の最高峰エベレスト山(8,848m)が初登頂された。登頂者は隊員ヒラリーと案内人テンジンである。1954年には世界第 2 の高峰K 2 峰(8,610m)が，デシオの率いるイタリア隊によって初登頂された。そして，1964年には中国隊によってゴサインタン山(8,013m)が登られ，14座の独立した8,000m峰はすべて既登峰となった。

日本の近代スポーツ登山の夜明けは，他の多くのスポーツと同じように，明治開化の時代に来日した欧米人の影響を受けて始まった。中でも最も大きな力を与えたのは，イギリス人牧師で《日本アルプスの登山と探検》の著者，ウェストンであった。彼の助言によって，小島烏水・武田久吉・高野鷹蔵らが発起人となり，1905年(明治38)山岳会(のち日本山岳会)が誕生し，登山そのものを目的とする本格的な活動が開始された。明治末期から大正中期にかけての登山の特色は，案内人を伴った夏季における縦走登山にある。槍ケ岳(やりがたけ)・穂高岳，後立山連峰・剣岳などを舞台として，パイオニア的な山行が盛んに行なわれた。この時代に活躍した人たちとしては，前記発起人のほかに，木暮理太郎・田部重治・冠松次郎らがおり，案内人では，上条嘉門次・宇治長次郎・佐伯平蔵らが知られている。大正末期から以後は，まえの時代に活躍した日本山岳会員に代わって大学山岳部のメン

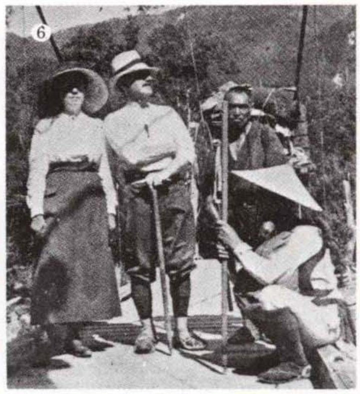
登山の用語

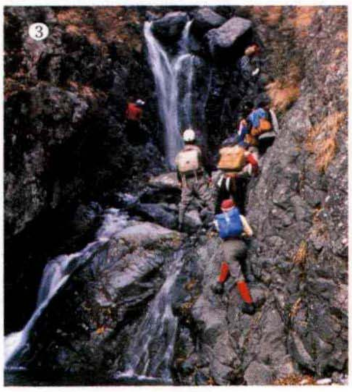
アプザイレン　懸垂下降。
アンザイレン　ザイルで結び合うこと。
オーバーハング　岩壁などが垂直以上におおいかぶさっている状態。
ガリー　岩溝。
カンテ　岩壁中の稜角。
クラスト　雪面が風や日射によって，パンの皮のようにかたくなること。
グリセード　雪の斜面をくつですべり降りること。
ジッヘル　確保すること。ザイルを用いて滑落を防ぐこと。
ジャンダルム　主峰の近くにある衛兵のような岩峰。
シュラーフザック　寝袋。
ステップ　氷雪上の足場。
スラブ　一枚岩。
雪庇(せっぴ)　尾根の風下側に張り出した，雪のひさし。
チムニー　岩場にある縦の割れ目で，からだがはいるくらいのもの。
チンネ　のこぎり状の胸壁，あるいは尖塔(せんとう)状の岩峰。
ツェルトザック　不時露営用の軽便テント。
ディレッティシマ　垂直登攀。登攀終了点に向かって一直線に登ること。
デブリ　なだれの堆雪(たいせつ)，くずれた岩石の堆積。
トラバース　横断。
ナイフ - エッジ　ナイフの刃のような細尾根。
なた目　樹木になたでつけた目印。
バットレス　岩壁をささえているような岩稜。
バリエーション - ルート　困難な登山路。
ビバーク　簡単な露営。
ピッケル　氷雪上で足場切り，滑落停止，確保などに使われる用具。
フィックス　固定綱。
フェース　岩壁。
ベース - キャンプ　根拠地。
ホールド　手がかり，足場。
ラッセル　雪を踏みつけて道を開くこと。
リングワンデリング　同一の場所を，気づかずに輪を描いて歩くこと。
ルンゼ　岩溝。

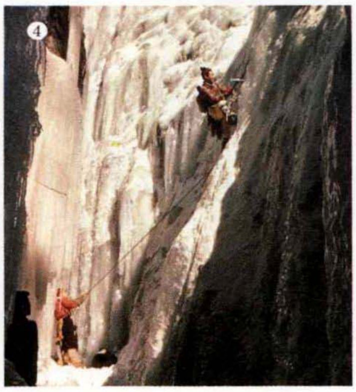












登　山　①雪上登行　前穂高岳　②尾根歩き　針の木岳　③沢登り　丹沢水無川　④氷壁登攀　雲龍渓谷　⑤1865年，マッターホーンの下山途中でウィンパーの一行のうち４名が墜落死した　⑥ウェストン夫妻と案内人の上条嘉門次　1937年，長野県上高地河童橋にて

バーが中心となり，積雪期登山や新登路の開拓が雪と岩の世界に展開されていく。1921年(大正10)，槇有恒はアイガー東山稜の初登攀に成功して帰朝し，学生たちに強い刺激を与えた。日本で最初の海外遠征登山隊が組織されたのは1925年のことである。槇を隊長とする一行は，カナディアン－ロッキーのアルバータ山(3,619m)の初登頂にみごと成功して帰国した。これまでの個人の力による登山から，その力をつなぎ合わせた組織的な積雪期の登山が行なわれだしたのは，1935年(昭和10)ごろからである。こうした機運のもとで，1936年日本最初のヒマラヤ遠征がガルワール-ヒマラヤ地域のナンダコット山(6,867 m)初登頂に成功した。第２次世界大戦後，悪条件のもとで再開された日本の登山は，1949年ごろには早くも戦前の水準に達し，さらにそれを越えつつあった。これまでの蓄積と戦後の精進は，槇に率いられた日本山岳会の第３次登山隊によるマナスル山(8,156m)登頂として結実する。1956年今西寿雄とガルツェンははじめてマナスル山の頂上に立った。1958年にはチョゴリザ山(7,654m)が京都大学隊に，1960年にはヒマルチュリ山(7,864m)が慶応義塾(ぎじゅく)大学隊によって，1964年にはギャチュンカン山(7,922m)が長野岳連隊により，1965年にはゴジュンバカン山(7,646m)が明治大学隊によって，それぞれ初登頂された。日本人登山者の足跡は，いまやヒマラヤばかりではなく，アンデス・アラスカ・アフリカ・アルプス・南極など，ほとんど世界のすみずみまで伸びている。スポーツの大衆化が進むにつれ，大学山岳部の活動のほかに，社会人山岳団体のメンバーによる登山も盛んになってきた。すでに戦前から谷川岳をはじめ各地の山で活動が行なわれてきたが，最近の躍進は特にめざましいものがある。1965年マッターホーン北壁とアイガー北壁が登攀され，1967年冬にはマッターホーン北壁の登攀が，1969年の夏と冬にはアイガー北壁の垂直登攀がなされ，その技術がヨーロッパの水準に達したことを示した。このような先鋭的な登山のほかに，今日では多くの人々によってレクリエーションとしての登山が楽しまれているが，登山者の数は都市への人口集中が進むにつれていっそう増大するにちがいない。一方，松方三郎を隊長とする日本山岳会隊は，1970年エベレスト登頂に成功し，現在では日本の登山は質と量において世界の登山先進国に少しも劣るものではないといえる。

〔方法と技術〕登山の形式としては，一つの山を対象に登り下りとも同コースをとる往復登山，尾根に沿って山頂をたどっていく縦走登山，一定の場所を根拠地として周囲の山々を登る放射状登山，数パーティーがさまざまなルートから同一山頂をめざして一定時刻に集結しようという集中登山などがある。また，頂上をかちとるための戦法には，一気に長い距離を飛ばして登頂しようというラッシュ－タクティクスと，日時をかけてベース－キャンプから順次キャンプを進め，山頂に近いアタック－キャンプから頂上をめざす極地法などがある。

登山技術の基礎は歩くことにある。まず，上体を軽く前傾し，足をからだで導くつもりで歩く。その際，足はつま先だけではなく，足の裏全体をつけるようにする。登りは小股(こまた)で，下りはひざの〈ばね〉をきかせながら，ある程度大股で歩いたほうがよい。ひんぱんな停止はリズムを乱し，疲労回復にもたいして役だたない。山歩きにおけるルートの取り方の原則は，登高線に沿って登り道がはっきりしていて，指導標が完備しているところでも，つねに現在位置を地図上に確認しておくことが望ましい。道を失ったり，迷ったりしたとき，あわてて沢を降りると，滝や岩壁にさえぎられて，かえって危険な状態に落ち込む。沢に比べれば，尾根を下るほうが安全である。山を歩くときは，後ろを振り返り，逆の目で地形を確かめておくことも必要である。深い山中では，登山道と獣道とをまちがえることがある。しかし，獣道には鉈目(なため)がなく，糞(ふん)が落ちているのでそれとわかる。最初からやぶこぎを覚悟しているならともかく，道に迷ってやぶにはいってしまったら，早くもどることが必要である。やむをえずやぶをこぐ場合には，頭を突っ込み，両手でやぶを押し開きながら，低い姿勢をとってリズミカルに進むようにする。後続者は先行者に密接し，一度開いた進路をむだにしないことである。沢筋をたどる沢登りの技術は，岩登りの技術と似ているが，沢の中の岩はなめらかでぬれていることが多いので，はきものは登山ぐつよりもたびにわらじがけがよい。徒渉をするときはできるだけ川幅の広い浅瀬を選び，滝や悪場の上部を渡ってはいけない。そして，水流の弱いときは流れに直角に進み，少し強いときには斜め上流に向かって進むとよい。



登　山　用　具　①背負子　②キスリング形ザック　③ザイル　④登山ぐつ　⑤サブザック　⑥携帯用コンロ　⑦コッヘル　⑧水筒　⑨アイゼン　⑩輪かんじき　⑪ヘッドランプ　⑫ポンチョ　⑬寝袋　⑭ニッカーボッカーズ　⑮登山くつした　⑯磁石　⑰高度計　⑱あぶみ　⑲カラビナ　⑳懸垂下降器　㉑ハーケン　㉒アイスハーケン(スクリュー式)　㉓アイスハーケン　㉔ロックハンマー　㉕アイスハンマー　㉖アイガーバイル　㉗ピッケル　資料提供　美津濃(株)

水流が強いときや水が冷たい場合の徒渉は危険であり，慎重に行動すべきである。山の頂に達するためには，途中にある雪渓(せっけい)や岩場を突破しなければならないことがある。こうしたときに，岩登り技術や雪上技術が必要となる。まず岩登り技術についていえば，足で登ることが基本であり，ルートの選定と，ホールドの発見およびその利用が技術の中心となる。動作は3点支持，すなわち両手両足の4点のうち，3点はいつもホールドにかかっていることが原則で，バランスを保持しつつリズミカルに登ることが必要である。ルートの選定を適切に行なうためには，体を岩からなるべく離すようにする。なお，手足が伸びきってしまうと，バランスをくずすことになる。岩場の下降は登高よりもむずかしいが，たよれる支点にザイルを通し，体の摩擦を利用する懸垂下降によれば，容易に下ることができる。2人以上でパーティーを組んで岩登りをするときは，アンザイレンして互いに確保する。比較的容易な場所では，全員が一定の間隔をおいて同時に行動する方法(コンティニュアス)で危険なところでは1人だけが行動し，他の者は停止して行動者を確保する方法(スタッカット)をとる。確保者は，墜落のショックで引きずり込まれることを防ぐために，岩・樹木・ハーケンにザイルを掛けておく。なお自由登攀では登れないところを，ハーケン・埋め込みボルト・あぶみなどを使って登ることを人工登攀という。岩に打ち込んだハーケンやボルトを支点にし，ザイルを使ってつり上げを行ない,高度をかせぐ。なお,この人工登攀には登山の倫理的な問題があり，みだりに行なうことは慎むべきである。夏山の雪渓などは，キック-ステップとグリセードによって登降する。傾斜のゆるいところでは，くつの裏を雪面にたたきつけて食い込ませるようにし，急なところではくつの先で雪面をけりつけて足場をつくる。より急な斜面では，ジグザグに登るほうが疲労が少ない。下りは，体重をかけてかかとを雪面にめりこませるようにし，一挙に足場をつくって下降する。見通しがきき，クレバスや露岩がない安全な雪渓は，グリセードによっても下降できる。比較的傾斜のゆるい斜面では，直立した姿勢のままくつだけですべる。傾斜が急になるにつれ，ひざを曲げて腰を落とし，ピッケルを後方についてバランスを保持しながらすべり降りる。雪面上で滑落した場合には，直ちに腹ばいになり，体全体を雪面に密着させ，ピッケルのピックを雪面に打ち込んで停止する。この技術を完全にマスターするまでは，堅雪の急斜面に立ってはならない。キック-ステップが困難な急斜面では，ピッケルで足場を切って登る。積雪期の氷雪斜面の登降には，鋭利なつめをもつアイゼンをくつの裏につける。アイゼンをつけたときの歩き方は，足を雪面に平行に置き，全部のつめを食い込ませるようにする。急斜面やつめがたたないほどかたいところでは足場を切る。雪面でアンザイレンしたとき，確保者は多くの場合，雪中に打ち込んだピッケルの柄を，堅雪では雪面に突き刺したピッケルのピックを支点とする。深雪の中を登降する場合には，スキーや輪かんじき*を用いる。山スキーは，安全と体力の消耗を考慮し，滑走の速さよりも転倒しないことが大事である。登高の際はシール*をつけ，下りは一般にキック-ターンを多用して下降する。

歩くことと並んで,山の中での生活のしかたも登山の基礎技術である。露営地は，乾燥した平地で付近に豊富な飲料水があるところがよい。がけの下は落石の，大樹の下は落雷の危険がある。沢筋は降雨があると一時に増水するので，安全な露営地ではない。尾根上にテントを張る場合には風向に注意して，風とテントのむね軸を平行にし，風下を入り口にする。テントはたるみのないよう気をつけ，張り綱を引いてペグ(杭)で留める。ペグが打ち込めないところでは，石や樹木の枝などを利用する。テントを張り終えたら，まわりに排水溝(はいすいこう)を掘ることを忘れてはならない。露営中は，清潔・整頓(せいとん)・火気に注意し，撤収するときはあと始末を十分にする。最近では，炊事はほとんど携帯こんろでなされるが，いざというときに備えて焚火(ふんか)の要領を知っておくことも必要である。冬山ではなによりも，なだれに対して安全な場所かどうかを考えて露営地を選定し，雪をよく踏み固めてからテントを張る。

〔装備〕 登山を快適にし，しかも安全に行なうためには道具がいる。登山用具として必要なことを要約すれば，軽くてかさばらず，携帯に便利なこと，じょうぶで耐久力があること，取り扱いやすく機能がすぐれていることなどである。夏季の天候に恵まれた登山ならともかく，3,000mの稜線で風雨にたたかれると，夏でも疲労凍死などの遭難の危険にさらされる場合も起こってくる。保温力と吸湿力のある毛の製品を用意したい。ウィンド-ヤッケ(アノラック)は防風着であるが，夏季には険しい場所で雨具の代用としても用いられる。この場合には，防水のきいた厚手のものがよい。本来の雨具としてはポンチョなどがある。積雪期でのナイロン製ウィンド-ヤッケは，雪がつきにくくかわきも早いが，万一滑落した場合によくすべるので注意したい。ともかく，冬山には必ず毛の製品を持参する必要がある。手袋は岩登り用には5本指のものがよいが，保温の点ではミトンがすぐれている。深雪の中や高所ではオーバー-ズボンも必要である。帽子は耳やほおもおおえるものでないと意味がない。山ぐつは足を保護するものであるから，がんじょうで，厚手のくつしたを2枚くらいはいた上に，つま先に多少の余裕がある大きさのものが

よい。保温と防水の役目を果たすものにオーバーシューズがある。このほかに，夏季の簡単な登山には布製の軽登山ぐつが用いられている。足場切りや滑落停止，バランス保持，確保などに使われるピッケル*は，軽くてバランスがよく，じょうぶなものがよい。アイゼンは，冬山登山には不可欠な用具である。登山に使用するスキーは，登降時と携帯の便利さを考えて，短めで幅の広いものが適しており，締め具はかかとの上がるものがよい。ストックはタケのじょうぶなものを選び，リングは大きめのものが便利である。登山ぐつは山スキーぐつとしても使える。現在では，ルックザック*はさまざまな登山の内容に応じて多種多様のものがあり，荷物の量と目的によって選択されている。寝袋は，水鳥の胸毛を保温材に使ったものが最良であるが，夏山ならばボンネル製品や毛布でもまにあう。マットレスはエアマットが多いが，最近では発泡(はっぽう)ポリエチレンを断熱材に使ったものなどがある。テントは，夏用は家形・屋根形など2本の支柱でむねの両端をささえる形式が多く，冬用はミード形(変形ウィンパー)・かまぼこ形など，耐風・耐雪・保温を主目的に設計されたものが使われる。テント生地としてはもめんのほかに，ビニロン・ナイロン・テトロンやビニロンと綿の混紡などがある。

露営中に使用する燃料用具としては，携帯用石油こんろが安全で便利である。登攀用具ではおもなものに，ザイル*と三つ道具がある。ザイルの材質は昔からあるマニラ麻とナイロン・テトロンなどがある。合成繊維の製品は軽くて雪が付着しにくいが，岩角などでこすると簡単に切れることがあるので，慎重に使用すべきである。三つ道具とは，ハーケン・カラビナ・ハンマーをいう。ハーケンは頭部に穴のある金属製のくぎで，岩の割れ目にハンマーで打ち込み，確保の支点やホールドとして使われる。カラビナはちょうつがいつきの金属製の輪で，ハーケンなどにザイルを掛ける際の仲介をする。縦方向にはともかく，横方向の力には弱い。このほかの登攀用具としては，氷雪用のアイス-バーやアイス-ハーケン，人工登攀などで使用される埋め込みボルト・あぶみ・自己つり上げ器(ユマール)などがある。また，トランシーバーの利用なども今日の登山では常識となっており，ヒマラヤの高峰ではボンベ式酸素補給器が使用されている。

〔登山条例〕現在，日本で登山を規制する条例としては，群馬県谷川岳遭難防止条例(1967年1月施行)と，剣岳*での登山を対象とする富山県登山届出条例(1969年2月施行)とがある。いずれも登山届けの提出義務と，地区・期間などを規定しているが，遭難を防止するために法的措置をとることについては，スポーツをする自由と責任の問題をめぐって論議が絶えない。〔浜野吉生〕



登山鉄道　アイガー登山電車(スイス)鋼索式

とざんてつどう【登山鉄道】主として登山・観光を目的とする鉄道。ヨーロッパの山岳地帯で発達した鉄道で，おもに次の3種類がある。①粘着式：動力車の車輪と軌道面の粘着力を利用したもの，②歯車式：動力車に設備した歯車と軌道に設けた歯軌条とのかみ合いによるもの，③鋼索式：車両にワイヤロープをつけ，山上にある滑車を利用して車両を上下させるものなどである。いずれも急勾配(きゅうこうばい)の地形に敷設されるため，車両・軌道ともに，特殊な構造を必要とする。〔石塚正孝〕

どさんほんせん【土讃本線】四国，多度津～窪川(くぼかわ)間を結ぶ国鉄路線。営業キロ数198.1。1889(明治22)～1951(昭和26)年開業。四国山地を横断して，讃岐(さぬき)平野と高知平野を結んでいる。四国を南北に横断する唯一の鉄道であり，将来は四国循環鉄道の一環となる予定である。沿線には善通寺・琴平・南国・高知・須崎(すさき)などの都市がある。

とざんりゅう【都山流】尺八の流派。琴古流*と勢力を二分する。初世中尾都山*(1876～1956)が1896年(明治29)大阪で開いたもので，しだいに門弟がふえ，大正の終わりから宮城(みやぎ)道雄*とともに新日本音楽*の運動を行ない，さらに大きな組織となった。現在は実子の2世都山(1944～　)が統率しているが，師範の資格や会の運営が整備されているのも特色の一つである。音楽的には，琴古流本曲と異なり，認知しやすい形態をもった旋律を中心にしている。これは箏曲(そうきょく)の宮城の作品にも共通する点で，拍子の明確なものが多く，斉奏(せいそう)することが容易である。また，音高の固定した旋律が中心になっていることは，琴古流ふうの微妙な音量や音高の変化の占める役割が減っていることになるが，新日本音楽の他の活動と同じく，他の声部を加えたり，和声を加えることによって効果をあげようとしている。代表的な曲に，《青海波*》《石清水(いわしみず)》《春の光》《寒月》などがある。〔徳丸吉彦〕

とし【都市】村落とともに人類が集団居住する集落の一。都市は一定地域に人口や施設が集中し，その地域の政治・経済・文化・情報などの中心地をなすものである。

〔都市の発達〕都市の〈都〉の文字が示すように，国家や地方の政治の中心としての都市は，比較的早く発達している。日本でも，早くから都市としての形が整えられたのは，政治都市であり，奈良時代につくられた平城京*は，規則正しい直交式条坊制の街路網をもつ，規模雄大な計画都市であり，平安時代に建設された平安京*(現京都市)はさらに規模を大きくした計画都市であった。世界的にみても，古代の都市には政治都市が多く，中国・西アジア・エジプト・ギリシア・ローマなどには，城壁を高く巡らし，美しい宮殿を中心とした都市が建設された。また，都市の〈市〉の文字は商業が都市の発達に重要な役割を果たしたことを示す。自給自足の経済から進んで，交換経済が発達するにつれ，平野の中心，または平野と山地の境というような地の利を得た場所には市がひらかれ，物資の交換が行なわれ，ここに町が発達した。日本の市場町の起源は中世にさかのぼるが，時代が下るにつれて，しだいに各地に発達するようになった。人が集まって取引するには日を決めたほうがよいので，市は定期市・日限市(ひきりいち)の形をとるようになり，これが四日市・五日市・十日町などの地名の起こりとなった。その後取引が盛んになるにつれて，常設の店ができ，市場町は商業都市に転換するようになった。市場商業はアジアやヨーロッパの諸国で盛んであり，今日でも市が商業上重要な役割をになっている地方が多い。

次に交通の発達に伴って興った都市がある。日本では近世にはいって道路の制度が整えられ，街道に沿って宿場*町が置かれると，本陣*・脇(わき)本陣・問屋場を中心とし，一般の旅籠屋(はたごや)・茶屋・商店などが集まって，宿場町が発達した。東海道五十三次・中山道(なかせんどう)六十九次などといわれるのがこれである。宿場町は街道に沿った一本通りの町で，細長い形になるものが多く，旅籠町・馬喰(ばくろ)町などの町名の残っているところもある。大名の参勤交代*などのように多くの人が通行するおりには，宿場の人馬では不足なので，付近の村から助郷(すけごう)という人足が出てきた関係もあって，それらの周囲の村の中心となった場合も多い。これらの中には明治以後も，地方都市として発達したものもあるが，反対に鉄道の普及によって衰えたものも少なくない。水上交通によって興った町は港町である。大陸との交通や，沿岸航路の発達につれ，大阪*(難波津(なにわづ))・博多*(はかた)(福岡県)・堺*(さかい)(大阪府)・桑名*(三重県)など各地に多くの港町が栄えた。また北上・信濃(しなの)・利根(とね)・淀(よど)などの河川には小船による貨物の運送が行なわれて，多数

の河港も発達した。外国でも交通によって興った都市はきわめて多く，特に中世ヨーロッパの都市の多くは自然の海港，大河の沿岸，大道路の交差点，川の渡渉点などに位置して発達した。またヨーロッパ人の海外発展につれて，大貿易港が非常な繁栄をみせるようになった。

一方武士が政治的権力を握るようになると，武士によって各地に都市が建設された。中世には豪族屋敷を中心とした環濠(かんごう)集落や，天険を利用した城砦(じょうさい)が各地にできた。しかし，中世の城砦はもっぱら戦闘を重視して要害の地を選んだ関係上，都市の建設には不便で，ただ山城の下に，山下(さんげ)・麓(ふもと)・寄居(よりい)などの小集落がつくられ，これが城下町*の起源となった。近世にはいって戦闘がやむと，武士は領地統治上の便宜から，山城を下って平地の平城(ひらじろ)へと移った。しかし，防衛上のつごうを考えて，築城には丘陵のはしや川に面した所を選び，また堀(ほり)や城壁をつくって防備に努めた。これらの城を中心として侍屋敷や町人町がつくられ，当時の各地方の中心として城下町は非常に繁栄した。江戸は最も大きな城下町で，八百八町とよばれ，その盛時には人口130万から140万に達したともいわれ，当時の世界的大都市であった。城下町はその地方のよい位置を占め，しかも長くその地の中心であったために，現在の日本のおもな地方都市の前身となっている。ヨーロッパでも〈陣営は都市の母〉といわれ，軍事的な理由から興った都市が多く，これが政治都市となった事情は，日本の城下町と似ている。

以上のほかに，寺の門前に発達した門前町*〔たとえば長野(長野県)・成田(千葉県)〕，神社の前にできた鳥居前町〔たとえば伊勢(いせ)(三重県)・琴平(香川県)〕などのように宗教を核として興った都市も多く，外国でもエルサレム・メッカなどその例が少なくない。

明治以後，西洋諸国の機械文明を取り入れた日本は，商工業においてその面目を一新した。そのために都市発達の状況も大きな変革を受けるようになった。鉄道や海上交通の発達は産業革命を急激に進め，繊維工業をはじめとして各種の工業が飛躍的な発展をみた。工場は次々に建設され，労働力の需要の増大に応じて，農村・漁村の人口は都市へ集中した。工業の発達に伴って商業も発達し，新しい都市の勃興(ぼっこう)も著しくなった。産業革命によるこのような都市の発達は，欧米における現象と同じものである。イギリスではすでに18世紀末に産業革命が起こり，産業規模の拡大と交通の発達により都市の急速な発達をみた。ヨーロッパ大陸の各国も19世紀にはいってイギリスに続き，アメリカもまた北東部に多数の工業都市が発達した。

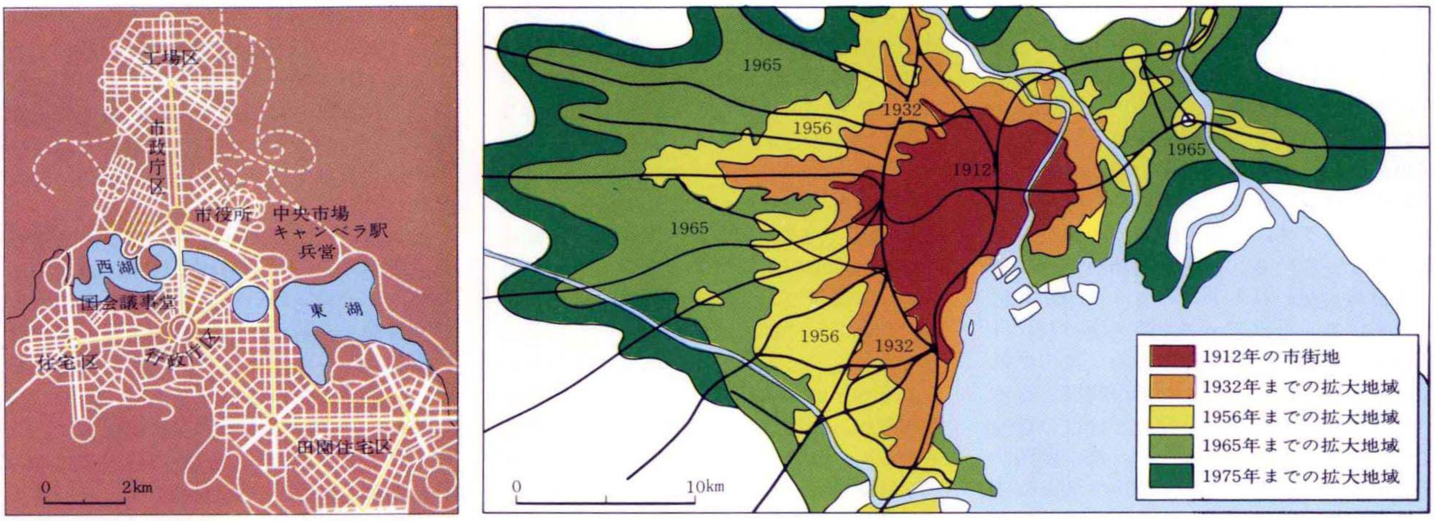
〔現代都市の分布〕 以上のように，現代都市は近代商工業の進展に伴って発達したので，商工業の条件に恵まれた場所に多く分布している。日本では，京浜・東海から阪神(はんしん)・瀬戸内・北九州を連ねた地帯に多数の都市が発達しているが，ここは日本の工業生産の中核をなす所である。また個個の都市の位置をみると，平野の中心や湾頭・河口など地形や交通上有利な条件をもつ所が多い。これらの都市は，多く急激な人口増加を示しているから，最近では大都市の人口はすでに飽和状態に達し，周辺都市の発達が著しくなりつつある。世界的にみると，都市の多い地域は西ヨーロッパ・北アメリカ東部・東アジアなどで，人間の活動に適する温帯地方に集まっている。これらの地域では，国家の中枢的な役割を果たすような大都市(メトロポリス)が発達しているが，さらにアメリカ合衆国東北部の沿岸地方には，大都市の連続した地帯ができあがっていて，メガロポリス*とよばれている。これに反して，極寒・砂漠(さばく)・熱帯などの地方には都市がきわめて少ない。すなわち，都市の分布には自然的・社会的諸条件の良否が敏感に影響している。

〔都市の形態〕 古代都市の多くは計画的に建設されたものが多く，街路も整然としているが，自然発生的都市では不規則なものが多い。おもな都市の街路形態としては次のようなものがある。①碁盤目状都市：道路が直交し，区画が長方形や正方形にくぎられている。アメリカのシカゴやニューヨークがこの型であり，また古くは中国の長安や，日本の平安京などにみられる。②放射状都市：中央の広場から道路が放射状に延び，さらに環状道路で周辺地域が結ばれている。計画的な最初の放射状都市は，1715年ドイツのカールスルーエに建設された。ほかに，中国の旅大・瀋陽(しんよう)・長春などにもみられる。インドのニューデリーは，これに碁盤目状道路を組み合わせたもので放射直交式の都市とよばれる。③複合放射状都市：放射状道路網をいくつも結合させたもので，オーストラリアのキャンベラにその典型がみられる。④不規則な街路をもつ都市：一般にきわめて多いが，イスラム教国の都市や日本の城下町には，T字路や袋小路などの不規則な街路がみられる。

以上にみた都市の平面形態に対し，立面形態も問題となる。都市の中心部では地価が高いため，建造物の高層化が進み，ニューヨークのマンハッタン島などは超高層ビルが林立している。一般に欧米の都市では，同じくらいの大きさの建物が並び，都市的景観のバランスがとれているが，日本の場合は，8階建てのビルの隣に2階建てがあったり，しかもその広がりにかなりの違いがあったりして，立体的に凹凸(おうとつ)が激しい。東京では地震対策の面から長い間地上33mの高度制限を設けていたが，建築工法の進歩によって制限が撤廃され，数十階の高層ビルが建つようになった。

〔都市の機能〕 都市は工業・商業・交通・文化・行政など第2次・第3次産業に従事する人々の活動舞台である。これらの機能のうち，どれがその都市で最も主要な機能であるかによって，都市の分類ができる。たとえば，経済的な面から大きく分けると，生産都市・交易都市・消費都市の3区分になる。さらに他の視点をも加えて細分すると，政治都市・工業都市・商業都市・鉱山都市・水産都市・交通都市・観光保養都市・学術都市・宗教都市・軍事都市などとなる。しかし実際には，都市は，いろいろの機能を同時にもっているのが普通である。一般に小さい都市や発生初期の都市は単一の機能にとどまるものが多いが，大きくなるにつれて他の機能をも兼ねるようになり，多面的な複合機能都市となる。そこで都市を分類するには，なにかの指標を用いて量的に分類する必要を生ずる。たとえば産業別人口を調べて一定以上の人口比率をもつ産業で分類したり，産業別人口の全国平均を計算し，それより高い比率をもつ産業によって分類したりする。各産業とも平均に近い場合は標準型都市とか普通都市などと名づけられる。都市の機能のうち，従来は工業などの生産機能が重視されていたが，最近は文化・情報・中枢管理機能などが，特に大都市や地方中核都市などでは重視されるようになってきた。

〔都市の構造〕 各種の都市機能をあわせもつ都市では，その内部で機能が分離する傾向をもつ。たとえば商業地・工業地・住宅地というように，地域的分化を起こすことが多い。街道に平行して裏道のあるような小さな町でも，多くは表通りに商家が並び，裏通りに住宅や農家がある。中都市になると，かなりはっきりと，官庁区・商業区・工業区などが分かれてくる。さらに大都市になれば，都市内部の構造はいっそう分化する。また，都市の中心から周辺へと都市を断面的にみていくと，中枢となる都心を囲んで市街の密集した中心地域，郊外とよばれる周辺地域，さらに外縁に広がる村落地域というように，同心円状の構造をなしている。そしてこれらの諸地域は相互に結びついて，全体として都市の機能を完全にしている。まず都心部には官庁街・会社銀行街・卸売問屋街・都心商店街などが発達する。これらの機能は交通の便利な，都市の中心的位置に集中する傾向をもつからである。東京の霞ケ関(かすみがせき)の官庁街，東京の丸の内，大阪の中之島，ロンドンのシティ，ニューヨークのウオール街などの会社銀行街(業務中心)，東京の銀座，大阪の心斎橋筋などの都心商店街，東京の日本橋地区の問屋街などはそれぞれのよい例である。近年の大都市の都心では，特に国家や広い地方に対する中枢管理的機能，情報宣伝的機能が強まっている。都心の周囲には，中間地帯としての港湾倉庫街や商工業混合



都　市　(左)キャンベラの市街　(右)東京における市街地の拡大

街がある。市街地の縁辺地帯を構成するものには，住宅地・工業地があり，また，これらの地区の人々を相手とする近隣商業街が分布する。さらに交通上の要点には副都心商店街の発達もみられる。住宅地は閑静な環境と安い地価を求めて都市の外方に広がる性質をもつ。また地形に差異のある場合は，低地よりも高燥な台地のほうに住宅地が発展する。東京では下町の商業地に対して，山の手が住宅地の中心となっている。もと城下町であった都市では，かつて城のまわりの侍屋敷であった所が，現在では静かな住宅地となっている。大都市では交通機関の発展とともに住宅地の遠心的拡大が著しく，交通線に沿った部分が早く発達し，その中間にあたる地域は発展が遅れて，全体としてサザエ形に市街が延長するようになる。また近年は住宅を集団的に建設する住宅団地や市街地内部の高層共同住宅として建てられるマンションが都市の住宅地の顕著な景観となっている。工業地の場合も広くて安い地域を求めて外方に広がる。地形差のある都市では，低平で水運に便利な方面に延びる。東京の江東地域や大阪湾岸地域はその例である。近年は高速道路沿いの内陸地域への進出も著しい。

〔郊外の都市化〕都市の拡大によって，周囲の耕地や林地が市街地に変わり，畑の中に住宅や工場が建ったり，場末の商店街が発展したりする。こうして都市の周辺には都市的要素と村落的要素の入り交じった郊外とよばれる地域ができる。ここでは農村の都市化が進行する。農家では野菜・植木・草花の栽培や酪農・養鶏などを営むようになる。さらに都市化が進むにつれて，農家では，一方で農業を営みながら，他方で世帯主または家族が都市に働きに出るようにもなる。通勤農家の発生がこれで，村落における労働力の商品化である。さらに都市化が進むと，農地を宅地や工業地として商品化し，農業をやめて完全な都市生活者に変化する。

〔都市圏〕都市はその周囲にある村落に対して，その中心としての機能を果たす場合が多い。都市は村落から食料や産業に必要な原料を得，反対に工業製品を供給し，また，村落の人々の買い物や娯楽の場所を提供するなど，都市とその周辺地域とは経済的にも文化的にも強く結ばれている。このように都市を中心として結びつけられた地域を都市圏という。都市圏の広さは，中心都市の大小や，その都市や周辺の村落のそれぞれの機能の違いによって異なる。都市圏のうち最も広範囲のものは，都市の勢力範囲で，これを勢力圏ということができる。これには労働力の供給地としての人口流入圏や，物資の交流する商圏が含まれる。一方，都市と直接日常生活の面で結合する範囲を生活圏とよぶ。これは勢力圏より一般に狭く，都市に接触し，通勤や通学，日常の買い物や娯楽などの範囲である。新聞の配達圏や，速達郵便の即日配達区域なども，都市圏の範囲を知る一つの資料とすることができる。

〔都市問題〕都市の発達は人々に働く場所を与え，さまざまの施設が都市の生活を便利にしている。しかし，人口が過度に集中し，都市機能の整備がこれに伴わないと，種々の都市問題が生じる。まず第1に住宅問題がある。人口の集中，職場と住居の分離，世帯の細分化などで，大都市になるほど住宅の需要が大きい。これに対し個人の力による建設だけでは不十分で，住宅難を生ずる。こうした不足に対し，公共の力による集団住宅(日本住宅公団・都府県営住宅など)の建設が進められ，団地は都市の顕著な風景となった。しかしこれとても需要に追いつかず，高率の抽選にあたらなければ入居できない。さらに地価の著しい高騰のために，宅地の入手難が起こっている。交通に便利な，勤務地に近い地域の宅地が買えなくなり，交通の不便なところへ極端に住宅地が延び，通勤の困難を招いている。しかもこうした遠隔地までも，思惑による地価の値上がりが激しく，土地を投資の対象とする人々によって買い占められ，真に住宅を建てようとする人々にとって，土地の入手がますます困難となっている。一方，住宅の不足は，住宅の不良化を起こし，スラム*の発生を促している。第2に交通問題がある。人口や企業の集中により，都市の交通量は増大し，これが過度になるとさまざまの混乱が起こってくる。特に大都市では通勤圏の拡大により，遠距離通勤者が増加し，しかも通勤者の流れは，朝は都心へ，夕刻は郊外へと一方的にかたより，短い時間に集中して，ラッシュアワーの混乱を招いている。東京の通勤電車には定員の2倍半から3倍の乗客が詰め込まれ，しかもなお乗りきれない乗客がホームに残されるほどで，通勤地獄ということばさえも生まれている。路面交通は，自動車の増加により，各地で交通の渋滞がみられる。所によってはこれにオートバイや自転車も加わり，さらに歩行者も加わって混雑が激しく，交通難や交通事故の因になっている。日本における交通事故の特色は，自動車による歩行者や自転車の被害が，自動車対自動車の衝突よりも多いことで，いわゆる交通弱者に被害がしわよせられている。第3に都市災害の問題がある。木造家屋の密集する日本の都市では火災が多く，道路・空き地の少ないことは災害を大きくする。石油ストーブやＬＰガスの普及，高層建築物や地下街の増加は，大地震など災害時の危険性を増大させている。都市の低湿地では水害に見舞われることが多く，特に工業用水の過度のくみあげが地盤沈下を起こし，水害の危険を大きくしている。東京の江東地区，大阪の尼崎(あまがさき)などは海面より低い，いわゆるゼロメートル地帯が広大な面積にわたっており，そのため海面に没した工場さえある。山地や丘陵地斜面に行なわれた無理な宅地

造成が，がけくずれを起こし，多くの被害を与えたことが問題となっており，ことにくずれやすい地盤と急傾斜地をもつ阪神地方にその被害が大きい。さらに，工場やビルの煙突から吐き出される煤煙(ばいえん)は，都市の空気を汚染し，市民の健康を害する。自動車の排気ガスも，大気汚染の原因になる。スモッグや，騒音・河川の汚濁なども問題となっている。一方，高層建築物によって日照が奪われるというような問題も起こっている。上水道・下水道・塵芥(じんかい)処理・伝染病予防などの施設も，都市の拡大に追いつかないと重大な都市問題となる。いずれにしても，都市の発達と施設の整備にバランスがとれなくなると，都市問題が発生する。これを防止し，都市生活を改善して，住みよい都市をつくろうとするのが都市計画*である。〔山鹿誠次〕

としいわい【年祝い】 ⇒賀の祝い

としうら【年占】 1年の吉凶に関する占い。占う内容としては，各種作物の豊凶・漁獲の多少，天候・米価の高低などがおもなものである。時期としては小正月に集中しているが，節分*・盆*・八月十五夜などにも行なわれる。南九州の一部では，〈水だめし〉といって元旦の若水おけの中へ米・麦・アワ・ソバなどの種を一粒ずつ落とし，その沈みぐあいでその年の作物の豊凶を占う。最も広く各地にみられるのは，正月に神社の神事として行なわれている粥(かゆ)占・筒粥・管粥の類で，神前に供えた粥の中へ筒や管を差し込み，中に詰まった粥の分量によって，作物の豊凶を占うものである。豆占は各家庭で行なわれる年占で，多くは節分の夜，月の数だけ豆をいろりの火のそばに置き，その焼けぐあいによって月々の天候を占う。なお，日本の伝統的な競技である相撲*(すもう)・競馬*(くらべうま)・舟競争・綱引き・流鏑馬*(やぶさめ)・歩射なども，年占に発しているといってよい。〔直江広治〕

としおとこ【年男】 家々の正月*の祭りの司祭者。節男(せちおとこ)・若男とよぶ地方もある。年男は家長がつとめるのが普通であるが，長男や奉公人頭がなる地方もある。年男の役目としては，元旦の若水迎*えはほぼ全国的であるが，松迎えや注連(しめ)飾りなどの正月準備，元旦の炊事，神への供物の上げ降ろしなどを年男の任務とする地方もある。年男の慣行は全国的にみられるが，西日本には若水迎えを女性の役目とするところがある。年神への供物を若水によってたくところから家々の年神の司祭者が本来女性であったことが考えられる。なお，最近では都市で行なわれる節分*に頼まれて社寺で豆をまく人を年男とよんでいるが，これは年男の意味を拡大解釈したものである。

としか【都市化】 都市周辺の農村地域が，都市の膨張によってしだいに都市的要素を強めていく現象をいう。都市化を表わす指標としては，居住人口の増加，通勤人口の増加，人口密度の増加，農地や山林の減少，農家の減少，宅地・工場・学校・商店などの都市的土地利用の増加，道路・上水道・下水道・公園など公共施設の増加などをあげることができる。日本の都市人口は1920年(大正9)において1,002万人，全人口の18.1％であったが，1965年(昭和40)には6,692万人となり，全人口に対する比率は68.1％と増加した。かつて都市化を促した原因は工業化であり，それは農村人口が工場労働者として都市に移動したことによって起こった。しかし近年の都市化は農村から都市へという流ればかりでなく，都市から都市へ，小都市から大都市へという形態をとる。これはより高度な文化や情報，多様な就業機会を求める人口の移動であり，第3次産業の発展がその原因である。〔竹内泰夫〕

としがみ【年神】 正月*に家々に迎えて祭る神。年徳神・正月様ともよばれる。年神は山からしだいに里近く降りてきて，門松*を依代*(よりしろ)として家々に迎えられるものと考えられた。年神の祭壇としては門松のほかに，家の中の年棚*(としだな)，床の間に設けた米俵などがある。正月は年神を迎えて祭り，1年間の農耕生活の安泰を祈るわけで，年神には農耕神としての性格が認められる。東北地方から群馬県・長野県にかけて，年棚に〈みたまの飯〉と称するものを供えるふうがある。みたまとは先祖霊をさすことばであり，年神はまた家々の祖霊という性質もおびている。〔直江広治〕

としぎんこう【都市銀行】 普通銀行*のうち本店が主要都市にあり，支店網が全国に及ぶ大規模な銀行をいう。現在，富士・住友・三菱(みつびし)・三和・東海・第一勧業・三井・協和・大和・太陽神戸・埼玉・東京・北海道拓殖の13行。このうち東京銀行は外国為替(かわせ)専門銀行であるが，それ以外は明治期に財閥を中心として五大銀行と称せられていたもの(富士・住友・三菱・第一勧業・三井)，地方有力銀行の合同によるもの(三和・東海)，旧特殊銀行の転換したもの(北海道拓殖)，旧貯蓄銀行の転換したもの(協和)，地方銀行や相互銀行から転換したもの(太陽神戸・埼玉)などのグループに分かれる。〔速水　保〕

としけいかく【都市計画】 ⇒176ページ

としけいかくぜい【都市計画税】 市町村における目的税の一種。市町村が都市計画法に基づいて行なう都市計画事業や，土地区画整理法に基づく土地区画整理事業に要する費用にあてるため，当該市町村の都市計画区域にある土地・家屋に対し，その所有者に課せられるものである。課税標準は土地・家屋などにかかわる固定資産税*の課税標準と同じく0.2％，賦課期日・納期・徴収方法なども，原則として固定資産税の場合と同じである。〔西野義彦〕

としさいかいはつ【都市再開発】 都市内部の一定地区を，新たに計画的に開発しなおすこと。欧米は再開発の実績をいくつかもっているが，特に第2次世界大戦で戦災を受けた都市*においては戦後の復興を契機に，戦災を受けない都市においては建物の老朽化を理由に，それぞれ再開発が行なわれた。

日本では目的は種々様々であるが，これを大別すると，公共用地の獲得，地区の不燃化，不良地区の更新，土地の高度利用の四つになる。①公共用地の獲得：広場のない駅前地区を再開発して，広場・道路などの公共用地を生み出すのがその一例で，法的には，〈土地区画整理法〉〈市街地改造法〉などによる。②地区の不燃化：戦後行なわれた路線式商店街の再開発などは，商店の高層化・共同化よりも主目的は耐火建築による不燃化である。法制的には1952年(昭和27)〈耐火建築促進法〉，1961年〈防災建築街区造成法〉などによる。③不良地区の更新：衛生・保健・治安などの状況が悪く，公共施設が不足してスラム*化した住宅地の改良などがこれにはいる。1927年〈不良住宅地区改良法〉，1952年〈公営住宅法〉，1960年〈住宅地区改良法〉などによる。④土地の高度利用：1969年〈都市再開発法〉により，土地の合理的な高度利用と都市機能の更新をもとめる。一般的に再開発の問題は土地問題ともいえる。したがって再開発が成功した例には，土地所有者が企業とか公共団体である場合が多い。新宿副都心地区再開発では，東京都の所有地で，東京都淀橋(よどばし)浄水場があったところである。なお，〈都市再開発法〉は，前記の〈市街地改造法〉〈防災建築街区造成法〉など再開発関連法規を統合整備したもので，これにより都市再開発は新たな段階を迎えている。〔竹内泰夫〕

としじゅんでん【杜子春伝】 中国，唐代の伝奇小説。李復言(りふくげん)の編した《続玄怪録》の一編。《太平広記*》(巻16)に収めてある。北周か隋(ずい)のころ，長安に住む杜子春は，したい放題にふるまって落ちぶれ，路頭に迷ったとき，一老人から銭を300万，1,000万，3,000万と3回にわたって施され，急場を助けられた。杜子春は，老人の厚意に感激し，最後の3,000万を善事に使い，華山雲台峰に老人を訪問して仙人(せんにん)になる修行をする。また，老人実は道士の，どんな苦難にあっても無言であれという戒めを守り，地獄の責め苦さえも堪え忍んだが，女子に転生して1児の母となり，わが子が夫の手で殺されるのを見て，ついに一言口をきき，愛のために修行は徒労に終わったという。芥川龍之介(あくたがわりゅうのすけ)に，この話を翻案した同名の小説がある。〔今村与志雄〕

としたいこうやきゅう【都市対抗野球】 ⇒社会人野球

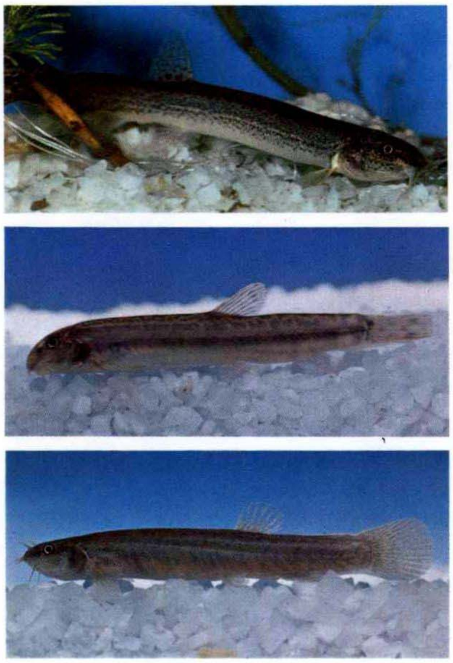
としだま【年玉】 正月の贈り物のこと。本来は正月の神への供物であり，同時に神

からの賜わりものが年玉と考えられていて，米やもちが主であった。長野県北佐久郡では小正月(→正月)の飾り物につける宝珠形のもちを年玉といい，鹿児島県甑(こしき)島では〈としどん〉という正月の神が配るもちを年玉といい，また元旦に子どもに与える丸もちも年玉という。中国・九州地方ではトビ(神仏への供物)を年玉とよぶこともある。現在ではもちから金銭に変わっている。

としどうめい【都市同盟】 12世紀後半から14世紀末にかけてヨーロッパ各地に生まれた都市の同盟。目的からみて二つの型がある。①統一の政治的理念を掲げた同盟で，1247年に約70の都市が結集したライン都市同盟*がそれである。②経済的利益のための現実的な同盟で，ハンザ同盟*にみられるように，この型は皇帝や諸侯の圧迫を排してその目的を果たした。なお，古代ギリシアの隣保同盟(→アンフィクチオニア)とよばれるものも広義の都市同盟である。

としのいち【年の市】 年末に正月*用の飾り物・縁起物・雑貨類などを商う市。著名な社寺などで，人の大勢集まるところに立つ。特に埼玉県大宮市氷川(ひかわ)神社の年の市(10日)は，規模の大きさでは関東第1と称されてきた。江戸では，浅草寺(浅草観音)(17・18日)，深川八幡宮(はちまんぐう)(富岡八幡宮)(14・15日)，神田明神(21・22日)，芝明神(芝大神宮)(22・23日)，芝愛宕(あたご)権現(愛宕神社)(24日)，平川天満宮(平川神社)(25・26日)を六大市と称してにぎわった。中でも浅草観音の年の市は，古くから最大の市であったが，現在でも当時の伝統を保ち，多くの人を集めている。〔直江広治〕

としま【利島】 伊豆(いず)七島中最小の島で，面積4.2km²は七島に数えられていない青ケ島*よりも小さい。大島の南南西25km，新(にい)島の北9kmの地点にあり，新島との間に無人島の鵜渡根(うとね)島がある。大島支庁利島村として1村をなし，人口308。1950年(昭和25)の人口は386であった。ほぼ円形の小火山島で，山頂は宮塚(みやつか)山(508m)という。海岸は20〜100mの断崖(だんがい)をなし，北斜面のみがややゆるやかで，ここに唯一の集落前浜があり，陸稲・サツマイモ・麦類などのほか換金作物としてキヌサヤエンドウをつくっている。港がないので，漁業はふるわない。島の60%はツバキの人工林で，冬季の花の満開期の壮観は，他に例がない。伊豆諸島で最も良質といわれるツバキ油が現金収入源であったが，いまでは需要が減っている。地下水がまったくなく，すべて天水にたよっている。東京から大島経由(火・木)，下田から新島経由(月・水・金)の定期航路のほか，夏には横浜からの不定期便もあり，また緊急用のヘリポートもある。住民の歴史は古く，前浜の南西に縄文(じょうもん)後期の敷石住居跡が発見されている。〔浅井得一〕

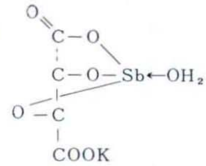


ドジョウ　(上)ドジョウ　(中)シマドジョウ　(下)ホトケドジョウ

としま【豊島(区)】 東京都23特別区のうちの北西部の区。北は板橋・北，東から南へかけては文京・新宿，西は練馬(ねりま)の各区と接する。面積13.0km²，人口27万6,000。武蔵野(むさしの)台地の一部をなす豊島台上にあり，南部に神田川，西部に谷端(やばた)川が谷を刻む。江戸時代には区域北東部に中山道(なかせんどう)(国道17号線)と川越街道(国道254号線)がほぼ平行して走り，沿道に巣鴨(すがも)・大塚(おおつか)などの街村が開け，1903年(明治36)に国電山手(やまのて)線が開通すると，駅付近に商店街が発達した。その南西方の池袋は，当時は巣鴨村(のち西巣鴨町)の域内にあったが，大正期以降山手線・同支線(赤羽線)・東武鉄道東上線・西武鉄道池袋線の結節点となり，関東大震災以後は各私鉄の沿線に住宅地区が広がって繁華街として急速に発展した。特に第2次世界大戦後は，駅周辺にデパート・銀行・商店などが集まり，地下鉄丸ノ内線・有楽町線が都心に通じて副都心として成長している。いまは暗渠(あんきょ)となっている谷端川や千川上水の流域は椎名(しいな)町・長崎・高松・千川などの住宅地帯，神田川流域は谷沿いの工業地帯で製薬・化学などの工場が多い。池袋駅の南西方に立教大学，目白通りの南側に学習院大学，北側に日本女子大学，日蓮宗(にちれんしゅう)法明寺付属の鬼子母(きしも)神堂，夏目漱石*(そうせき)をはじめ文人の墓が多いので知られる雑司ケ谷(ぞうしがや)墓地があり，巣鴨駅付近には〈とげぬき地蔵〉で名高い高岩寺や染井墓地がある。池袋駅の東にあって，第2次世界大戦後の戦犯の収容と処刑で知られた東京拘置所，通称〈巣鴨プリズン〉は，1971年に取りこわされて，栃木県へ移転し，そのあとには高層ビル街が建設されつつあり，1978年4月には地上60階，地下3階，塔屋まで含めた高さ240mの日本一のビル〈サンシャイン60〉が完成し，満室になれば120社の1万5,000人が，ここで働く予定である。〔浅井得一〕

ドシャンベ［Dushanbe］ ソ連，中央アジアにあるタジク共和国の首都。1929〜1961年にはスタリナバードとよばれた。人口44万8,000(1976)。紡績が盛んで，織機製造，食品加工なども行なわれる。鉄道・道路交通の要地で，パミール高原に通ずる要衝にあたる。科学アカデミー支所・大学・天文台・劇場・博物館などがある。

としゅせき【吐酒石】 K〔$Sb(C_4H_2O_6)(H_2O)$〕 酒石酸アンチモニルカリウムの別称。酒石酸水素カリウムを三酸化アンチモンとともに水中で煮沸，または硝酸の存在下で金属アンチモンと処理すると得られる。金属性の不快味を呈し，有毒である。織維皮革工業で媒染剤として用いられる。医薬としては，日本住血吸虫病・フィラリア病など寄生性感染症，去痰(きょたん)剤・吐剤などに用いられる。劇薬。



としゅたいそう【徒手体操】⇨体操競技

とじゅん【杜順】 (557〜640) 中国，唐代の僧。中国華厳宗(けごんしゅう)の祖。《感通篇(へん)》に収められている伝記では，教学者というよりも種々の不思議な神力を行なったり，むしろ習禅者であった。長安に近い終南山で教化し，《五教止観》《法界観門》を著わし，唐の太宗の帰依を受けた。彼は華厳学の実践面の開拓を行ない，弟子(でし)の智儼*(ちごん)がその教学的基礎づけをして，中国華厳学が成立した。

としょ【図書】 ⇨179ページ

どじょう【泥鰌】 硬骨魚類・ドジョウ科。体長10〜18cmの淡水魚。体は円筒形で，口ひげが10本あり，雄は雌よりも小形。日本・朝鮮・中国・台湾に分布し，平野部の浅い池や沼・水田・細流などの泥底(でいてい)に生息する。泥土中の有機物や小動物を食べ，腸呼吸をする。食用魚で，柳川鍋(やながわなべ)やかば焼きなどにされる。ドジョウ科にはこのほか，口ひげが8本で清流にすむシマドジョウ，口ひげが8本で本州・四国のやや冷たい水に生息するホトケドジョウ，アジメドジョウ・アユモドキなどがある。

どじょう【土壌】 地殻(ちかく)の表層にある岩石の風化物や生物遺体が土壌生成作用を受けて形成された独自の自然体。ある地点における気候・生物活動・母材・地形・時間・人為の各要因による影響を受けて，一つの土壌断面を形成する。典型的な土壌断面は，未分解の植物遺体よりなるA_0層におおわれ，ついで表層(A層—有機物を含んだ黒色の層)，下層(B層—かっ色の層)，さらにその下に母材の風化物であるC層か

→178ページ

都市計画

政治的・経済的・社会的諸計画を都市あるいは地域という物理的空間の中で検討し，総合的に構成していくこと。具体的には政治・経済・社会などの上位計画を都市に投入し，都市が以前にも増して円滑にまた活発に機能するように，土地利用の方針をたて，交通網の編成，主要施設の配置などを行ない，都市を計画的に構成していくことである。社会が安定し，人口の増加が鈍く，建設量が少ない時代には，都市の部分的改変が都市計画の主要な任務であったが，社会が急速に発展成長している現代では，都市計画の任務も変わりつつある。すなわち都市計画は，いまや国土計画・産業計画・人口計画・経済計画などの長期的でしかも重要な社会計画を物質的な側面から検討し，総合化し，具体化していくという重要な役割をにないつつある。

〔歴史〕都市は政治的・経済的発展の物的現われであるから，都市の破壊や建設は社会の変革期や発展期において特に顕著になる。人類が採集経済という低い生産形態で地球上の各地に散住していたときは，都市は存在しなかった。しかし，生産手段が変わり，採集経済から農耕経済や牧畜経済に移り，生産物の貯蔵・蓄積が行なわれて経済的余力が出てくるにしたがって，都市が発生する。経済的余剰は一部の宗教的・軍事的・政治的支配階級を生み，都市はこれらの支配階級によって宗教・軍事などの目的に沿って計画的に建設された。古代社会の建設の偉大さは，今日でも神殿や王宮の遺跡によってうかがい知ることができる。古代都市は，宗教的・軍事的な理由から中心部は丘陵の上に設けられ，周囲は城塞(じょうさい)で囲まれるのが一般的であった。しかし，古代国家においても，首都は自然発生的要素を包含しており，より計画的に建設されたのはむしろ植民都市といえる。

エジプトのピラミッド建設のためにBC 2670年ごろ建設されたカフーンは面積8ヘクタールほどで，周囲を壁で囲われ，長方形の平面をしており，内部は主要部と奴隷居住地区に区別され，道路中央部には排水溝(はいすいこう)があるなど計画的につくられた都市の例である。古代ギリシアではグリッドプランによる都市計画の手法がピポダモスによって唱えられ，ミレトス・ピレウス・ロードス・セリヌス・ペルガモン・アレキサンドリアなどの都市でこの理論が応用された。ピポダモス的都市とは都市全体の街路がこうし状になっており，このうち2本の大街路が町の中央で交差し，その交点近くに広場(アゴラ*)があり，アゴラの周囲に神殿・市場・店舗などの主要建築物が配置されたものであった。古代ローマの植民都市は直交する二大街路(カルドとデクマヌス)を都市の骨組みとし計画的につくられていた。チュニジアに建設されたローマの植民都市チムガードは，355m×325mのほぼ正方形の地域をこうし状に分割し，カルドとデクマヌスと広場(フォーラム*)をもった計画的都市であった。

中央集権的古代国家が崩壊したのちに興った中世の地方分権的封建都市は，計画的意図をもってつくられたものが少なく，自然発生的で街路も不規則であり，計画的見地からはみるべきものがなかった。この傾向は近世になっても変わらず，ルネサンス期にはいって幾何学的に整然とした理想都市の提案が次々となされたが，ほとんどが実現には至らなかった。理想都市の提案は無秩序で雑然とした中世都市*に対する批判という美的側面と，当時発明された火薬と大砲から都市を防衛するという軍事的側面をもっていた。多くの理想都市の計画は，ローマ時代にビトルビウスによって提案された八角形の理想都市に範をとり，五角形・六角形・八角形など幾何学的に整然とした多角形で，内部の街路は放射状・うず巻き状・こうし状と多様であるが，いずれも対称形式で，完結した街路パターンである。

16～17世紀にはいると，絶対主義*国家の成立とともに，防衛の対象は都市から領土または国土全体に広がり，都市の城壁は不必要となった。この時代に興ったバロック的都市の特徴は，道路が直線で道路形式は，グリッド状と放射状の組み合わせであり，放射状道路の焦点には表象的な建物，記念碑・広場を配していることである。大規模なバロック的都市建設の例としては，ナポレオン3世の命によってオースマンが行なったパリ大改造計画(1850年代)，クリストファー-レンによるロンドン大火(1666)後の再建計画，ランファンによるワシントン建設計画(1791)などがある。また不用になった城壁を取りこわして広路・散歩道(ブールバール)に改造することも行なわれた。パリのシャンゼリゼー，ベルリンのウンター-デン-リンデンをはじめ，ブリュッセル・ケルン・ウィーンなどにみられる環状道路がその例である。

18世紀から19世紀にかけて絶対主義体制が終わりを告げて近代資本主義社会に移行するにつれ，都市への人口集中，工場の進出による都市の生活環境の悪化が問題となってきた。産業革命を世界にさきがけて経験したイギリスでは，公衆衛生法をはじめとする一連の法律により都市内の保健衛生条件を改善していくという地道な努力がなされる一方，都市の劣悪な環境への批判が起こり理想のコミュニティー*として，R.オーエン*の〈協同の村落〉，リチャード*のハイジア，サルト卿(きょう)のサルテア団地，バッキンガムのビクトリアなどの提案がなされた。

ハワード*は都市と田園の両方の特徴を備えた新しい都市を建設することが，工業社会を救う唯一の道と考え，1898年田園都市を提案した。田園都市は人口32,000人程度の小都市で，人口密度が低く，農地に囲まれ，土地は公有であり，十分な社会施設を備えた都市である。1903年ロンドンの北東35マイルのところに最初の田園都市レッチワースがつくられ，1912年にはロンドンの北東20マイルのところに第2田園都市会社によってベルウィンの建設が開始された。いずれも目標人口にはなかなか達せず，現実への適用のむずかしさを露呈したが，思想的にはその後の都市計画に大きな影響を与えた。しかし，田園都市の思想は工業社会の問題を回避し，農業社会という過去の社会に理想像を求めていたため，工業社会における都市問題の解決に積極的に寄与したとはいいがたい。これに対して工業社会の都市問題に取り組んだ者に，T.ガルニエ*とル-コルビュジエ*がいる。ガルニエは1901～1904年に〈工業都市〉の構想を発表したが，これは人口35,000人，工場と市街地が緑地帯によって分離されるなど，機能的に計画されたものであった。ル-コルビュジエは1922年に〈あすの都市〉を，続いて1925年に〈プラン-ボワザン〉を発表した。彼は大都市を肯定的にとらえ，高層建築とシステマティックな道路網による高密度でかつ機能的な都市を提案した。1933年にはこれらをさらに発展させ〈輝ける都市〉の提案に至る。ル-コルビュジエは，都市を住居・労働・余暇・交通という四つの側面からとらえ，機能的な都市に再構成し，緑と太陽と空間をとりもどそうとした。インドのパンジャブ州の主都チャンジガルはコルビュジエの理想を実現したもので，ルシオ-コスタによるブラジリアとともに，第2次世界大戦後に白紙の状態から行なわれた代表的な都市建設の例である。コルビュジエはシアム*(CIAM)の運動においても主導的立場にあった。1933年にアテネで開かれたシアム第4回大会で採択されたアテネ憲章は，各国の都市計画家・建築家に大きな影響を与えた。シアムの運動は建築側からの都市計画をめざしたもので，官庁的都市計画からは無視されたが，都市計画の分野に新風を吹き込んだことは確かであった。

20世紀にはいると，欧米諸国はより高度な工業社会へと進み，その結果都市への人口集中と都市域の拡大は，2度の世界大戦によって中断されながらも続いた。そして，都市化の影響を最も強く受けたのが各国の首都および大都市であった。モスクワの改造計画，ストックホルムの改造計画，大ロ

ンドン計画，東京の首都圏整備計画，パリの首都圏計画，ワシントンの大都市計画など，第２次世界大戦後は大都市問題が都市計画の主要な問題となってきた。早くから高度工業社会に達しつつあったイギリスは，1944年すでにアーバー-クロンビー卿によって大ロンドン計画が立案されており，第２次世界大戦後直ちに計画に着手し，その後の各国の首都圏計画の規範となった。

【日本の都市計画】藤原京*・平城京*・平安京*などの日本の古代都市は，いずれも唐の長安がその原型となっており，条坊制*というこうし状の街路形態をなし，街の中央を南北に朱雀大路(すざくおおじ)が通り，北端には天皇の居処である宮城を配した計画的都市であった。中世の町づくりの代表的なものは城下町*である。城下町は地形や町の規模によって変化に富んでおり，類型化はむずかしいが，共通している点は城郭を中心としていること，武家町を城郭の回りに配置していること，市内を通過する主要な幹線道路に沿って町屋を配していることなどである。一口にいうと，封建社会の階級構造が空間化されたものといえよう。明治にはいってからは，おもに外交的配慮から首都の改造が考えられ，1872年(明治５)の大火を契機に銀座煉瓦街(れんががい)の建設が行なわれ，また，河川・運河・上下水道・街路拡幅を行なおうとする市区改正計画が1876年に立案され，1888年に公布されるなど，首都の部分的改造が行なわれたが，東京全域にわたる都市計画は1923年(大正12)の関東大震災による東京の壊滅後はじめて可能になった。関東大震災以前の1919年，すでに都市計画法・市街地建築物法の２法案が公布され，住居・商業・工業などの用途別に地域を定め，建築物の用途を制限する一方，建築線・建築高度・採光など建築の形態に規制を加えることが，これらの法律によって意図されており，細部まで気をつかったいわば建築側からの都市計画の下地ができあがってはいたが，震災後の復興計画で実現したのは，区画整理による街区と街路の規制という，いわば土木側からのおおざっぱな都市計画であった。その後は，区画整理が日本の都市計画における主要な手法となり，都市という複合的なものを，街区と街路の計画だけでつくりあげようとした点，問題を残したといえよう。

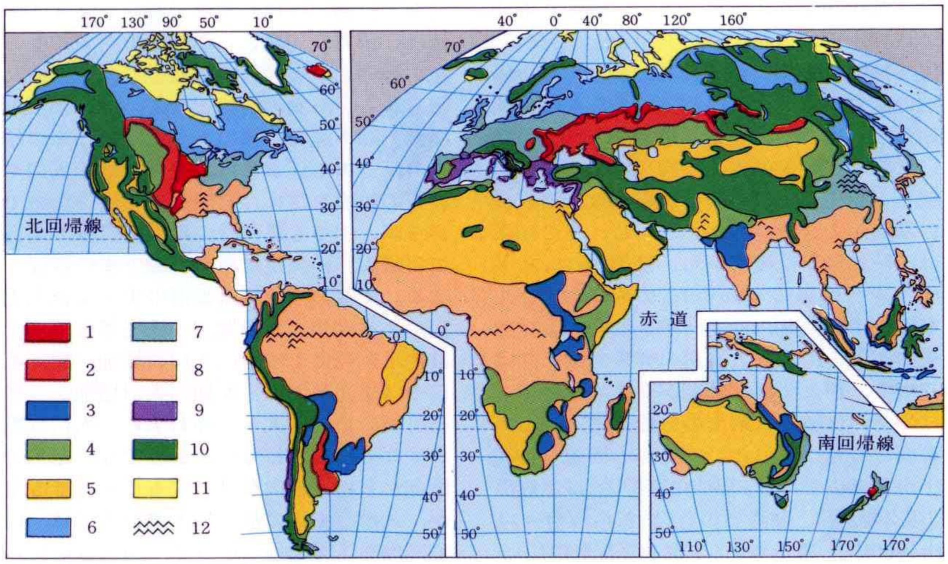
第２次世界大戦後の都市計画は，戦災の復興計画によって第一歩を踏み出した。東京・大阪などの大都市，長崎・広島などの中都市が壊滅したのをはじめ，全国で119の都市が焦土と化した。戦後直ちに行なわれたのは，住宅の再建計画と区画整理による道路網の整備であった。1945年(昭和20)に戦災都市応急簡易住宅建設要綱が閣議で決まり，国の補助による応急住宅の建設が行なわれる一方，住宅緊急措置令によって，既存建物の住宅への転用，余裕住宅の解放を行なうなど応急の住宅対策がたてられた。そして，昭和20年代の後半に住宅金融公庫法・公営住宅法(以上1946年)・産業労働者住宅資金融通法(1948)がそれぞれ成立し，続いて1955年日本住宅公団の設立をみるに至って，本格的な恒久住宅の建設が軌道に乗りはじめた。昭和20年代後半の朝鮮戦争によって経済発展の足固めを行なった日本は，昭和30年代にはいると，首都圏整備法の成立，日本道路公団の発足(以上1956年)，国土縦貫自動車道路建設法の成立，駐車場法の成立，第２次道路整備五か年計画の開始(以上1957年)，首都高速道路公団の設立(1959)など産業基盤の整備に関する法律が続々と誕生し，その後の飛躍的な経済成長の基礎ができあがった。しかし，その結果は，昭和30年代後半から，都市(特に，太平洋ベルト地帯の大都市)への人口および工業の集中が続き，交通渋滞・騒音および空気や河川の汚染など過密の弊害が起こりはじめて，新たな都市問題が発生するに至った。そのため，大都市の分散と地方都市の育成をねらいとしたいくつかの構想が各省庁から提出された。経済企画庁の〈日本経済の長期展望〉，建設省の〈広域都市構想〉(以上1960年)，通産省の〈工業適正配置構想〉，自治省の〈基幹都市構想〉，政府の〈新官庁都市の構想〉〈学園都市の構想〉(以上1961年)などがそれである。これらの分散論は新産業都市建設促進法(1962)，工業整備特別地域促進法(1964)や筑波(つくば)研究学園都市*として実を結んでいく。昭和40年代における都市建設の第１の特徴は，技術革新による高層建築技術の向上や，都市内の土地の高度利用への要求から超高層建設の意欲が高まり，三井霞が関(かすみがせき)ビル(地上36階)，世界貿易センタービル(地上40階)，京王プラザ-ホテル(地上47階)などの超高層建築が次々に出現してきたことである。第２の特徴は，政府が大都市問題に積極的に取り組みはじめたことである。すなわち，首都圏整備法の改訂による広域土地利用の再編成，古都保存法，近郊緑地保全法(以上1966年)による重点的保存緑地の確保，国鉄・私鉄・地下鉄などの増設・延長・複線化による通勤交通網の整備，首都高速道路の本格的建設，環状・放射をはじめとする都市計画街路の整備，大規模ニュータウンの建設，新国際空港の建設，流通センターの設置など，新時代にふさわしい大都市づくりが徐々に進行しはじめた。さらに1969年には新都市計画法が施行され，大都市周辺の土地を開発地域(市街化区域)と非開発地域(市街化調整区域)に分け，虫食い的な乱開発を防ぎ，計画的効率的な土地利用を推進しようとしている。第３の特徴は，都市問題が都市内のみでは解決ができなくなってきて，計画の範囲が国土全体に広がってきたことである。1968年に経済企画庁を中心に新全国総合開発計画の構想が打ち出され，この方針にしたがって，建設省・通産省・運輸省・自治省などの各省が，国土全体の土地利用，交通網の整備，国土の保全を検討しつつ，その中で都市の位置づけ・性格づけを行ない，問題をマクロ的にとらえなおしている。

【都市計画の推進】都市計画を立案する主体は，地方自治体としての市町村であり，その範囲はふつう行政区域としての市域に限られる。計画の根幹となるのは，都市の開発方針や開発目標の大要を定めた市の総合計画である。これは，その都市の人口や産業の規模を定めた経済的・社会的計画であるが，中でも重要なのは人口計画であって将来人口の測定は都市計画立案の基礎となる。すなわち，産業都市の場合は企業進出による就業人口の増加，住宅都市の場合は宅地開発による居住人口の増加，観光都市では観光客による季節的人口増加が，都市計画の方向を大きく左右する。人口変動が少なく，安定している都市では，過去の傾向から将来人口を推計することができるが，大都市周辺の都市や工業都市では，住宅団地や工業団地によって一挙に人口がふえる場合があって，予測できないことが多い。このような都市では予測人口というよりは目標人口を設定したり，上限人口をおさえたりして都市計画がたてられる。都市計画は，これらの総合開発計画に基づいて，土地利用計画・交通網計画などがかなり長期(10～20年)の見通しをもってたてられた。これはマスター-プランとよばれる。

土地利用計画は将来の人口や産業をもとに工業・住宅をはじめ，商業・公館・公園緑地などいろいろ用途をことにする地区を，それぞれの用途に適した地域に，各地区の相互関係を考慮しながら配分していく。各地区のおおまかな面積は次のように定めることができる。住宅地区では居住人口を平均人口密度で除し，商業地区では購買人口や従業員人口にそれぞれの１人あたりの平均売場面積を乗ずる。また，工場地区の場合は就業人口に１人あたり工場敷地面積を乗ずることによって求められる。公館地区・公園・学校，各種の供給処理施設などの地区面積および施設規模も同様にして，人口規模から定めることができる。交通計画は，土地利用計画によって性格づけられた各地区を結んで各地区の経済活動を円滑にし，また市外との連結をも図ろうとする総合的運輸輸送計画であって，都市の構造を決定するうえで重要なものである。交通計画には通勤輸送をはじめとする都市内部でのいわゆる都市交通と広域的な都市間交通とが

ある。また輸送対象によって旅客と物資とに分けることができるし，輸送手段によって自動車・鉄道・船舶・航空機などに分けることもできる。都市間交通は従来鉄道が主力を占めていたが，高速道路網・幹線道路網の整備につれて自動車交通がしだいに輸送分担率を高め，鉄道輸送に迫りつつある。都市内交通は自動車・バス・貨物自動車による路上輸送が主力であるが，大都市では国鉄・私鉄・地下鉄などの軌道による大量輸送機関が重要な位置を占めている。工業地域では上記の輸送手段のほか，船舶による海上輸送に依存する場合が多い。

近年，大都市をはじめとして全国的に自動車の増加による都市交通の混乱が著しくなり，その結果，大量輸送機関の機能が見なおされるとともに，各種の交通機関の合理的使い分けと，有機的連結の必要性が痛感されるようになった。自動車交通については，自動車の流れを制御し組織化する方法が研究され，交通計画の中に取り入れられつつある。今後の都市交通計画の焦点は自動車をいかに制御するかという点にあるといえよう。➔都市 〔竹内泰夫〕



土　壌　1 プレーリー土　2 チェルノーゼム　3 黒色土　4 かっ色土　5 シーロゼム　6 ポドゾル　7 灰褐ポドゾル性土壌　8 ラトゾル　9 赤黄地中海土壌　10 複合相　11 ツンドラ　12 沖積土

らなる。この土壌断面のちがいはそれぞれの土壌の生成に寄与した前述の諸要因のちがいの反映であると考えられている。特に，それぞれの気候帯に対応して生成した土壌は成帯性土壌とよばれる。この土壌断面のちがいに基づいて土壌を分類しその分布を地図上に図示したものが土壌図(上図)である。〔浜田龍之介〕

どじょうかいりょうざい　【土壌改良剤】　狭義には土壌の物理的改良のために開発されたもの。広義には土壌改良資材など，土壌の生産力増加のために施用されるものすべてを含む。前者は堆廐肥(たいきゅうひ)など粗大有機物の耕地への投入減少傾向に対処するために開発されたもので，炭素化合物の鎖状重合物が主体である合成土壌改良剤と，亜炭・泥炭(でいたん)などを化学的に処理したものがおもである有機質土壌改良剤に大別される。広義の意味では，これらにさらに石灰質肥料・ケイ酸質肥料・リン酸質肥料・含鉄物およびベントナイトが含まれる。

どじょうがく　【土壌学】　土壌の成因・性質・変化・分類・分布などを研究する学問。地質学の一部門であったが，1909年国際土壌学会ができて独立した。その基礎科学的な観点から土壌物理学・土壌化学・土壌生物学などがある。実際には地殻(ちかく)の最表層をおおう自然体としての土壌をとらえ，その生成分類および純科学的な対象として研究を行なう基礎土壌学(ペドロジー)と，農林業・土木や環境としての土壌を追求する応用土壌学(エダホロジー)に大別される。後者では，農業生産の場としての土壌が強調され，肥料学との関連の上にその学問の成立がある。前者では，自然地理学との結びつきにおける土壌地理学などの分野がある。〔浜田龍之介〕

どしょうまち　【道修町】　大阪市東区，船場*地区の北寄りにある薬種問屋街。町の起源は江戸中期，1722年(享保7)に将軍徳川吉宗(よしむね)が薬種株仲間を公許したことに始まる。第2次世界大戦の戦災を免れて，いまも黒壁や塗込格子(ぬりごめごうし)に昔のおもかげをとどめる老舗(しにせ)が多い。武田(たけだ)・塩野義・田辺(たなべ)・藤沢・第一製薬など，全国の製薬界をリードする一流製薬会社が軒を並べ，医薬品・化粧品などの年間取引額は全国の50%に及ぶ。

とじょかい　【杜如晦】　(585～630)　中国，唐初の政治家。陝西(せんせい)省の京兆杜陵県の人。字(あざな)は克明。太宗李世民*(りせいみん)に重用され，房玄齢の深謀に対し，決断力をもって聞こえ，いわゆる〈貞観(じょうがん)の治*〉を実現させた賢臣のひとり。

としょかん　【図書館】　図書・新聞・雑誌・パンフレット(小冊子)・リーフレット(一枚物)など，印刷または書写された資料，フィルム・スライド・レコード・テープなどの視聴覚資料，マイクロ写真資料など，情報の記録された各種の資料を収集・整理・保存して，これを一般の利用に供する機関。その種類は設置主体別にみると国立・公立・私立の各図書館に分かれ，利用対象別にみると国立国会図書館*をはじめ一般に公開されている公共図書館，大学図書館，その他の学校図書館，官公庁・企業・研究調査機関などの専門図書館，盲人・受刑者など特定の人々を対象とする特殊図書館に分かれる。

【歴史】わが国における最初の図書館は701年(大宝1)に制定された大宝律令*(たいほうりつりょう)にみえる図書寮(ずしょりょう)(現宮内庁書陵部)であるが，奈良時代に石上宅嗣(いそのかみのやかつぐ)の個人文庫で，芸亭*(うんてい)とよばれた文庫はわが国最初の公開図書館として有名である。鎌倉時代中期には北条実時(ほうじょうさねとき)・顕時(あきとき)・貞顕(さだあき)らにより創建・維持された金沢文庫*(現神奈川県立金沢文庫)，創建については諸説あるが，1439年(永享11)上杉憲実(うえすぎのりざね)が再興したといわれる足利(あしかが)学校*(現足利市立足利学校遺跡図書館)などの代表的文庫が現われた。江戸時代では1602年(慶長7)徳川家康(いえやす)が金沢文庫を模して江戸城内に設けた富士見亭文庫(のち紅葉山(もみじやま)文庫と改称)，紀伊(きい)(和歌山県)・尾張(おわり)(愛知県)・水戸(みと)の徳川家がそれぞれ設けた南葵(なんき)文庫・蓬左(ほうさ)文庫・彰考館(しょうこうかん)文庫，加賀(石川県)の前田家の尊経閣文庫，阿波(あわ)(徳島県)の蜂須賀(はちすが)家の阿波国文庫などが代表的な大名文庫である。また，この時代には江戸の町医者板坂卜斎(ぼくさい)の浅草文庫，陸中(岩手県)出身の公事師(くじし)(他人の訴訟を扱う代言人)青柳(あおやぎ)文蔵が仙台(せんだい)に設けた青柳館(せいりゅうかん)文庫など民間人の手になる庶民的公開文庫や貸し本屋なども出現している。明治時代にはいると福沢諭吉の《西洋事情*》をはじめ多くの先覚者により欧米の図書館事情が紹介され，やがて1872年(明治5)には最初の近代的図書館といわれる書籍館(しょじゃくかん)が東京に，京都には集書院が設けられた。前者はのち帝国

図　書

主として紙その他の書写材料に文字・数字・記号・写真・絵画・図形などを用いて人間の思想・知識・感情などを書写または印刷の方法で記録し，これを一定の形態・大きさにまとめて製本したもので，雑誌などに対し書物・書籍・本などともいう。

〔種類・大きさ〕図書の種類は観点によりさまざまに分けられるが，たとえば次のような種類がある。①内容別：哲学・宗教・歴史・伝記・地理・社会科学・自然科学・技術・産業・芸術・語学・文学など。②対象別：成人向け・青少年用・児童図書など。③程度別：一般向け図書・学術専門書など。④言語別：和書漢籍・洋書など。⑤形態別：巻子本（かんすぼん）・折り本・とじ本など。⑥大きさ別：大形・中形・小形・豆本など。⑦記録方法別：写本・版本など。

わが国における図書の大きさは次のように分けられる。B4判（364×257mm），A4判（297×210mm），B5判（257×182mm），A5判（210×148mm），B6判（182×128mm），A6判（148×105mm），新書判（182×103mm）。

〔歴史〕図書の発明以前，人間はその思想・知識・感情などを，たとえばわが国の語部（かたりべ）が神々・祖先の行動や部族の歴史を語り伝えたように，人間の記憶により伝承した。しかし，人間の記憶には限界があるので，文字の発明とともに各種の書写材料に文字を用いて記録することが考案された。その後紙や印刷術が発明されると，文字による記録は飛躍的発展を遂げ，今日に至っている。

わが国における図書の歴史は，285年（応神15）に百済（くだら）から王仁（わに）が《論語》《千字文》を伝えたことに始まるとされている。610年（推古18）に高麗（こうらい）の僧曇徴（どんちょう）により紙・墨・絵の具・筆の製法が伝えられ，7世紀初めには日本人の手になる現存最古の図書である聖徳太子自筆《法華義疏（ほっけぎしょ）》4巻が著わされた。さらに，673年（天武1）に大和（やまと）（奈良県）の川原寺で官命による《一切経》の書写が行なわれた。次いで770年（神護景雲4）中国から伝えられた木版印刷術による《百万塔陀羅尼*（ひゃくまんとうだらに）》が印刷された。これは現存する世界最古の印刷物で，称徳天皇の勅願により，根本・自心印・相輪・六度の4種の《無垢（むく）浄光陀羅尼》を各25万巻，計100万巻を木版により印刷し（銅版・活字版などの説もある），高さ約13.5cm，径約10.5cmの3種の小木塔に1巻ずつ収めて，法隆寺その他の十大寺に10万基ずつ分置したものである。平安時代には写経のほか歌書などの文学書で装飾のすぐれた写本が現われた。写経では《平家納経*》が，歌書ではかな書きの《西本願寺本三十六人集*》《元永本古今和歌集*》などが代表的な例である。一方版本では，版下が伝教大師の筆になるといわれる《南無妙法蓮華経（なむみょうほうれんげきょう）》や1088年（寛治2）《成唯識論*（じょうゆいしきろん）》などが出版された。図書の形態は奈良時代まで巻子本が主体であったのに対し，平安時代には折り本や折り本の背の部分をのりづけにした旋風葉，二つ折りにした用紙を重ね，折り目の部分をのりづけにした粘葉装（でっちょうそう），用紙を重ねて半折りをひとくくりとし，これを幾つかくくり重ねて糸でとじた綴葉装（てっちょうそう）などが現われている。鎌倉・室町時代には奈良興福寺などの春日版*（かすがばん），高野山の高野版*，鎌倉・京都の五大寺による五山版*など，仏書・漢籍があいついで出版された。また1591年（天正19）イエズス会神父バリニャーニ*が印刷機・洋紙・インキを日本に伝え，島原においてローマ字で印刷した《サントスの御作業のうち抜き書き》などのキリシタン版*もつくられている。このほか1592年（文禄1）豊臣秀吉（とよとみひでよし）の朝鮮遠征によってもたらされた銅活字の法にならい，木活字印刷による勅版《古文孝経》なども印刷されている。江戸時代には前代に引き続き印刷文化が発達し，たとえば角倉素庵（すみのくらそあん）・本阿弥光悦（ほんあみこうえつ）により《伊勢（いせ）物語*》などの国文学書が出版されたが，その多くは用紙・表紙などが雲母（うんも）で装飾された美術的なもので，嵯峨本*（さがぼん）などとよばれている。また，この時代には木版印刷の発達と出版業の興隆に伴い，絵入り本が普及した。さらに1852年（嘉永5）には長崎の本木昌造*（もときしょうぞう）が洋式活字をくふうし，自著《蘭和（らんわ）通弁》を出版するなど，わが国における近代的印刷術の基礎が築かれた。

古代中国では，最初，亀甲（きっこう）・獣骨・金石などに文字を刻したが，さらに竹簡・木簡（→簡牘（かんとく））・帛（はく）（きぬ）などを用いて文字・絵画その他を記録するようになった。今日の〈冊←册（さく）〉という文字は数枚の簡牘をなめし皮で連ねた姿を表わす象形文字であり，かつて図書の呼称単位として用いられた〈巻〉という文字は帛に文字・絵画などを記して巻いた形態に由来するものである。やがて後漢の蔡倫*（さいりん）が木皮・麻くずなどで紙を製することを発明すると，図書の形態は急速に変化し，巻子本・折り本・旋風葉・粘葉などの諸形態をとり発展して今日に至った。

西洋では，図書の原型として，たとえばスペインのアルタミーラ，フランスのラスコー，シベリアのタイガなどで発見された動物その他を描いた洞窟画（どうくつが）・岩壁画，あるいはバビロニア・アッシリア・ルーマニアのタルタリア地方などで発見された粘土板の図書をあげることができる。また古代エジプトではパピルス*に文字その他を記録し，小アジア地方の古代ペルガモン王国ではパーチメント*（羊皮紙）を，インド・ビルマ・セイロンなどではシュロ科に属するターラの葉で経典など貝多羅葉（ばいたらよう）本*をつくった。先に中国で発明された製紙法は751年まずアラビア地方に，1151年にはスペインに，中世末から近世初めにかけてヨーロッパ各地に普及し，1450年ごろドイツのグーテンベルク*の発明した活版印刷術の発達とあいまって本格的な図書の生産をみるに至った。なお，図書の形態が巻子本の形態から今日の冊子本となったのは4世紀以後といわれている。→印刷　→出版

〔北島武彦〕

図書館となり，現在の国立国会図書館にその伝統が継承されている。第2次世界大戦後はアメリカの図書館事情と技術に大きな影響を受け，また1950年（昭和25）図書館法，1953年学校図書館法の制定とあいまって設備・外観のみでなく，内容的にも近代的な図書館活動が行なわれている。

外国における最古の図書館はバビロニア図書館であるといわれている。この図書館はその遺跡から発掘された楔形（くさびがた）文字を記した粘土文書によってBC3000年ごろのものと推定された。また，1850年イギリスの考古学者レイヤードがその遺跡と多数の粘土文書を発見したアッシリア図書館（紀元前8～紀元前7世紀），ナイル川特産のパピルスを用いたエジプトの図書館なども代表的な古代図書館である。ギリシア時代にはアリストテレスとプラトンの個人文庫（紀元前4世紀），プトレマイオス1世が設けたアレクサンドリア図書館（紀元前3世紀），はじめて羊皮紙を用いたペルガモン図書館（紀元前3～紀元前2世紀）が有名で，特にアレクサンドリア図書館は当時60万～70万巻の図書を蔵していたといわれるが，BC48年カエサルのアレクサンドリア包囲の際破壊された。ローマ時代には皇帝アウグストゥスによる神殿文庫，将軍スラによる公共図書館などが建設されたが，のち未開人種・宗教的狂信者らにより破壊された。ヨーロッパの中世は文化の暗黒時代とよばれるが，529年イタリアのモンテ-カシノをはじめ各地に設けられたキリスト教修道院の図書館は宗教書・古典を収集するとともに，みずから写本事業を行なった。しかしこれらの図書はその貴重性のため鎖をつけてきわめて限られた範囲での利用に供されたにすぎなかった。一方，キリスト教の寺院・教会から，12世紀には，パリ大学などの大学が起こって図書への需要が高まった。

たまたま1450年ごろドイツのグーテンベルクの活版印刷術の発明により，図書の生産が増加しその大衆化を促進した。近世にはいると従来の王侯・貴族の個人文庫から国立図書館・公共図書館・大学図書館へと中心が移り，たとえばフランスの国民図書館(その前身は1364年創立)をはじめイギリスの大英博物館図書館(1753年創立)，アメリカの議会図書館(1800年創立)などの国立図書館の創設と，納本制度による国内出版物の網羅(もうら)的収集，1850年のイギリス図書館法制定による公共図書館の発達，大学教育の普及に伴うオックスフォード大学ボードレアン図書館(1598年創立)など大学図書館の整備などがみられる。現代の特徴はこれら各種の図書館が質・量ともに整備・充実されるとともに，ユネスコを中心とする世界各国図書館の交流，国内における図書館相互協力，コンピューターをはじめ各種機械の導入による情報処理技術への指向などがみられることである。

〔現状と機能〕 現在わが国には，1968年全館完成した国立国会図書館をはじめ約800の公共図書館，約1,100の大学・短期大学・高等専門学校図書館，約41,500の学校図書館のほか多くの専門図書館がある。これら各種図書館は資料を収蔵するための書庫・事務室・閲覧室などの諸施設を有し，図書館職員により運営・管理されているが，特に戦後は，利用者が閲覧室内に分類配架(はいか)された資料群の中から，希望する資料を自由に選ぶことのできる開架閲覧方式が普及している。これら各種図書館は，それぞれの目的に即応した新しい図書館活動を行なっているが，その機能として次の点があげられる。

資料の選択・収集・受け入れ：数多くの出版物の中から各図書館の目的・規模・利用対象・予算などに応じた適切な資料を選び，購入・寄贈・交換などの方法により収集し，受け入れる。

整理：受け入れた資料は日本十進分類法*など，その図書館に適した分類法により分類し，希望する資料を検索するための目録を作成し，資料には貸し出しカードその他を装備する。

保管：整理ずみの資料はその種類・形態・大きさなどにより書架その他に配架・保存される。

閲覧・貸し出し：利用者に図書館内で閲覧させるほか自宅その他へ携行して利用するための貸し出しなどを行なう。

複写サービス：利用者の希望に応じ資料の複写を行ない，有料もしくは無料で提供する。

参考業務(レファレンスサービス)：利用者の質問・問い合わせに応じ資料を調査し，求める情報・資料を提供する。

読書案内：利用者の相談に応じ適切な資料を紹介したり，読書リストなどを作成・配布する。

集会活動：映画会・レコードコンサート・お話会などの集会を行ない，利用者と図書館を結びつけ，その利用を促進する。

資料サービスの広域化：図書館資料の活発な利用を促進するため，移動図書館・貸し出し文庫などの方法により資料サービスを広域化し，拡大する。

読書グループの育成と読書運動：ＰＴＡの母親文庫・読書会の主催または援助，親子20分読書(→親子読書)などの方法により読書グループの育成と読書の普及を図る。

読書指導：特に児童・青少年の読書能力の向上，読書興味の拡大，自主的な読書態度の育成などを目的として指導する。

図書館の利用指導：同じく主として児童・青少年が資料や図書館を利用する技能を高めるための指導を行なう。

他の図書館・関係機関との協力：利用者に対してより充実した資料サービスを提供するため，他の図書館や関係機関と協力して，資料の相互貸借その他の協力活動を行なう。

広報活動：図書館を親しみやすいものとし，利用を促進するため印刷物の配布その他の方法により広報活動を行なう。

〔利用法〕 図書館はその種類・目的・規模などにより収集する資料内容・利用対象・活動領域が異なっている。一般市民のため開放されているのは公共図書館であるが，それ以外の図書館でも一定の手続きをとれば利用可能な図書館があるから，もよりの公共図書館などに相談して，その活用を図ることが望ましい。また図書館の資料・施設は社会の共有財産であるから利用上の諸規定を守り，資料を破損したり，他人に迷惑をかけたりしないような態度が必要であることはいうまでもない。

〔司書〕 前述のような新しい図書館活動の中心となる専門職としての司書*・司書教諭*の養成は，1921年(大正10)文部省図書館員教習所として設立されて，1964年大学に昇格した図書館短期大学や1951年創立の慶応義塾(ぎじゅく)大学文学部情報・図書館学科など多くの大学・短期大学などで行なわれている。また，これら専門職としての図書館員の団体である日本図書館協会は1892年日本文庫協会として発足し，1907年以降《図書館雑誌》の発行，毎年開催する全国図書館大会などを通じ，図書館の振興，図書館員の地位向上などに努力している。

〔北島武彦〕

としょかんがく 【図書館学】 図書館*に関する諸現象を研究対象とする学問体系。その領域は，①基礎部門(図書館の本質・歴史など)，②資料部門(資料の評価・選択法など)，③整理技術部門(分類・目録作成など)，④奉仕部門(貸し出し・参考調査など)，⑤経営・管理部門(図書館の行財政・建築など)からなる。

としより 【年寄】 室町中期以降，社会の上下を通じ，組織の指導的地位にある者の称。室町幕府では評定衆*・引付衆*を併称して年寄とよび，郷村の惣*(そう)ではその指導者を年寄とよんだ。江戸時代になると，はじめは幕政の重職にある者を年寄と称したが，職制が整備されるに及んで大老・老中・若年寄となった。各藩でものちの家老を年寄といった。近世都市において，大阪の惣年寄，江戸・京都・長崎の町年寄は町奉行*(ぶぎょう)支配の下で全町政の自治を総轄した。そのほか，町・村にも町・村年寄が置かれた。なお，相撲(すもう)の年寄は日本相撲協会*の運営にあたる。

〔高崎徳次〕

としん 【兎唇】 俗に〈みつくち〉〈いぐち〉などとよばれる。胎生期に顔面縫合線の癒合(ゆごう)不全が原因で，新生児の上口唇にみられる顔面破裂である。約20％が遺伝的素因による。裂け目は正中ではなくて一側特に左側に多い。破裂が鼻孔に達するもの(完全破裂)，口唇にとどまるもの(不完全破裂)，両者の中間にあたるものとがあるが，口蓋(こうがい)破裂症と合併することが多い。機能的に支障のあるものは，吸乳力不全によって，栄養障害と言語障害とを生ずる。また，美容上の問題も大きい。手術は生後２～５か月から可能でできるだけ３歳以前に行なうほうがよいとされている。

〔清水淑郎〕

ドジンスカヤ ［Natal'ya Mikhailovna Dudinskaya］ (1912～　) ソビエトのバレリーナ。８歳でバレエ教師の母親からバレエの手ほどきを受けた。1923年ペテログラード(現レニングラード)のバレエ学校に入学してワガノワに師事，ワガノワ－メソッドの正しい後継者として知られる。現在レニングラードバレエ団*のプリマ－バレリーナとして活躍し，来日(1960)もしているソ連人民芸術家。あたり役は《ジゼル》など。

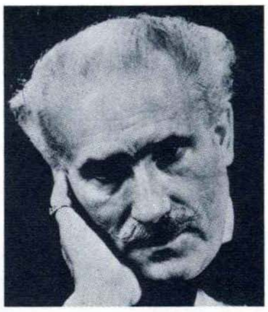
とす 【鳥栖(市)】 佐賀県北東端の市。人口53,000。律令(りつりょう)時代の駅路に沿う，古くからの交通の要地で，江戸時代には長崎街道の宿場町として繁栄し，明治以降は鹿児島本線と長崎本線の分岐点となり，〈鉄道の町〉として知られるようになった。1954年(昭和29)周辺の田代(たしろ)町ほか３村を合併して市制施行。市域は，背振山地の南東麓(ろく)，筑後(ちくご)川中流流域の平野部に臨む洪積(こうせき)台地末端に位置する。産業三大別人口比は12：33：55。福岡・久留米(くるめ)両市にも近く，国道34号線と３号線の分岐点にあたり，鉄道の便とあいまって近代工業が発達した。北部地区の田代は江戸時代以来家庭薬製造の中心である。専売公社鳥栖工場をはじめ，製粉・自転車・農工業薬品その他の諸工場や大規模な種鶏場があり，内陸工業地帯としての発展が期待される。西郊に九州自動車道(熊本まで開通)が通じている。田代地区の太田には県下唯一の装飾古墳がある。

ドーズあん 【ドーズ案】 第1次世界大戦後のドイツの賠償問題に関する解決案。ドイツは巨額の賠償支払いの結果，1922年インフレが起こり，以後の賠償支払いが不可能となったので，1923年フランスはルールに出兵し，賠償問題は行きづまった。その打開を図るため，アメリカの財政家・実業家ドーズ(1865～1951)を委員長として賠償専門委員会が構成され，1924年8月，ロンドン会議でドーズ案が採択された。1924～1928年に年額2億3,500万ドルないし5億8,700万ドルを支払うことを定め，それ以降はドイツの支払い能力に応じて賠償額を決定することとした。この結果フランスはルールから撤兵した。ドイツは外資を導入して経済復興を図り，1924年9月に同案を実施してから3か年は賠償の支払いも順調だったが，イギリスから多額の借款を受けたため1927年末再び支払いは行きづまり，ヤング案*による解決を待たねばならなくなった。〔折井一彦〕

トスカ ［Tosca］ プッチーニ*作曲の3幕のオペラ。台本はサルドゥの悲劇をイリーカとジャコーザがまとめたもの。初演は1900年1月14日にローマで行なわれた。登場人物はトスカ(ソプラノ)，カバラドッシ(テノール)，スカルピア(バリトン)などで，歌姫トスカをめぐって恋人の画家と警視総監がからむ悲劇である。曲中には〈歌に生き，恋に生き〉〈星は光りぬ〉などの名曲がある。

トスカナ ［Toscana］ イタリア中部，アペニン山脈西側の地方をいう。面積23,000 km²。人口326万7,000(1961)。主都フィレンツェ。エルバ島も含み，西はチレニア・リグリア海に面し，北はロマーニャ，南はラチオ地方である。主産業は農業で，アルノ川やオンブロネ川流域に小麦・ブドウ・オリーブを産しその加工も盛んである。地下資源にも恵まれ，エルバ島はイタリアの鉄鉱石の90％を産し，有名なカララの大理石や銅・水銀・アンチモンなどを産する。フィレンツェやレグホーンでは鉄鋼業，プラトやルッカでは繊維工業が盛んである。マレマとよばれるチレニア海沿岸部は，ヒツジ・ウシの飼育が行なわれている。古代のエトルリア地方にあたり，その遺跡が残っている。この地ははじめローマ領で，のちロンバルジア公領となり，11～12世紀には多くの国家が栄えた。14～15世紀にはフィレンツェが最も勢力をもち，イタリア-ルネサンスの中心地となって，文学者や芸術家を多数輩出した。〔梶川勇作〕

トスカニーニ ［Arturo Toscanini］ (1867～1957) イタリアの20世紀前半の代表的な指揮者。パルマの生まれ。1885年にパルマ音楽院を卒業し，翌年からリオデジャネイロ歌劇場のチェロ奏者となったが，その年に代役で《アイーダ》を指揮して好評を集め，イタリアに帰って指揮者としての名声を確立した。1898年以降はミラノのスカラ座の音楽監督をはじめ輝かしい経歴を積み重ね，特に1937年から17年間にわたってNBC交響楽団を指揮した仕事は，多くレコーディングされ，今日では歴史的価値をもつものとされる。〔向坂正久〕



トスカニーニ



ドストエフスキー

ドスキン ［doeskin］ 高級紡毛織物。雌ジカ(doe)の皮に似ているのでこの名称がある。メリノ羊毛の紡毛糸を繻子(しゅす)組織に織り，強く縮充(フェルト)して起毛したのち短く剪毛(せんもう)し，表面を押えつけて仕上げる。ふつう黒無地に染色し，礼服・制服・スーツ・コートなどに用いる。

トスティ ［Francesco Paolo Tosti］ (1846～1916) イタリアの作曲家。ナポリのサン-ピエトロ王立音楽院を1866年に卒業し，3年ほど同校の助教授をした。のち作曲を始めローマで作品を発表して成功し，1875年にはロンドンを訪れ，1880年からイギリス王宮付音楽教師，1894年からは王立音楽院の声楽教授となった。作品には《セレナード》《夢》など一般に愛唱される歌曲が多い。

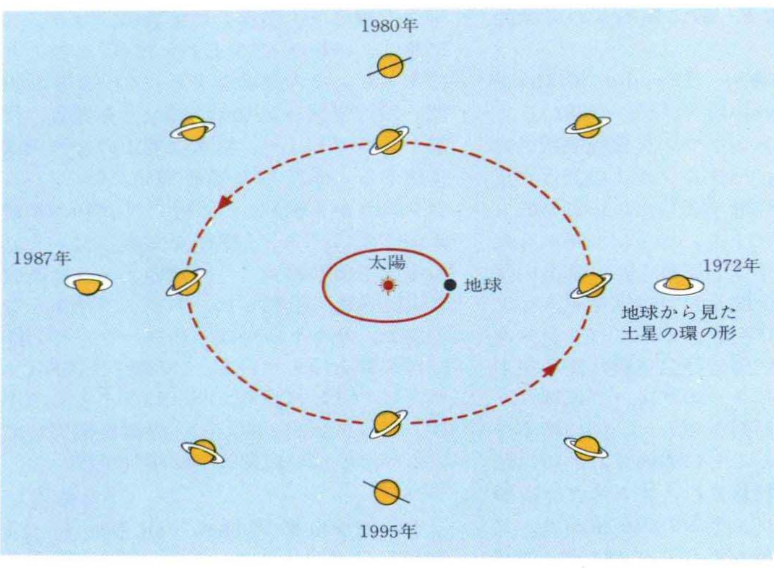
ドストエフスキー ［Fyodor Mikhailovich Dostoyevskii］ (1821～1881) ロシアの小説家。モスクワの貧民施療院医師の二男に生まれ，ペテルブルクの工兵士官学校在学中から作家を志した。1845年処女作《貧しき人々》により，ベリンスキー*らにゴーゴリを継ぐ才能と認められ，都会の貧しく孤独で自己分裂した空想家を主人公とした作品を次々に発表。やがてベリンスキーから離れて，空想的社会主義に関心をもつペトラシェフスキーのグループに加わり，農奴解放・専制打倒を志した。1849年4月，同グループ38人とともに逮捕され，12月銃殺刑執行の場で特赦され，オムスクへの懲役流刑を受けた。4年間の流刑生活は，ドストエフスキーがみずからに課した〈長期の学校〉であったことが《死の家の記録》からうかがえる。1854年2月刑期満了，3月セミパラチンスク駐屯(ちゅうとん)部隊に一兵卒として勤務。同地で1857年マリア-イサーエワと結婚。1859年ペテルブルクに帰った。1861年兄ミハイルと雑誌《ブレーミャ(時)》発刊，あいまいな一種の復古主義を唱えて，急進派とも保守派とも論争を始めた。その後数度にわたりヨーロッパを旅行し，また妻や兄の死などにあい，このころから作品の中に，ロシアの内なるヨーロッパ・ヨーロッパ的個人主義・英雄主義に冒された人間の救済のテーマが現われ，《罪と罰*》から始まる長編の時代となる。1867年アンナ-スニートキナと再婚。続く4年間のヨーロッパでの多難な生活の中で，長編《白痴*》《悪霊*》や中編《永遠の夫》を書いた。1871年帰国後，時事評論や短編を含む《作家の日記》を中断しながらも書き続け，長編《未成年》《カラマーゾフ兄弟*》を発表。このころから宗教哲学者ソロビヨーフとの交友もあって，上記のテーマの追求が宗教的な解決の方向をとる。その他，長編《虐(しいた)げられた人々》，中編《地下生活者の手記》《賭博者(とばくしゃ)》など作品は多い。19世紀ロシア文学の巨匠としてのドストエフスキーのもつ意味は，ヨーロッパ文明の圧倒的影響を自覚しつつ，その批判という形でロシア人の新たな精神的活路を開いたことにあろう。そのヨーロッパ批判は，単に小ブルジョア的拝金主義に対してだけでなく，人道主義的功利主義にも向けられ，みずから破滅する形での真実の追求がなさるべきであるという根源的な主張が底にある。悪への徹底が穏健な良識より尊いとされるのはそのためで，この極度の精神性が，眼前のロシアの政治悪を攻撃する政治的急進主義と彼とが背馳(はいち)したゆえんである。〔中村健之介〕

ドス-パソス ［John Dos Passos］ (1896～1970) アメリカの小説家。シカゴで生まれ，1916年ハーバード大学卒業。第1次世界大戦には志願兵として参戦，フランスに渡り，いわゆる〈失われた世代*〉のひとりであった。その経験をもとに《ある男の入門―1917年》《三人の兵隊》などを発表，作家としてデビュー。巨大な都市の社会機構に生きる人間たちの姿を描いた《マンハッタン乗りかえ駅》などに続いて，1938年最大の作品《USA》三部作を完成した。これは商業主義勃興(ぼっこう)時代のアメリカ社会の退廃を鋭く批判した一大パノラマふうな小説で，サルトル*をはじめヨーロッパの作家に影響を与えている。その後，三部作《コロンビア区》や《世紀の半ば》など多くの小説，さらに伝記・旅行記・評論を発表しているが，しだいに保守的な傾向を示した。〔須山静夫〕

ドースブルク ［Theo van Doesburg］ (1883～1931) オランダの画家・批評家。

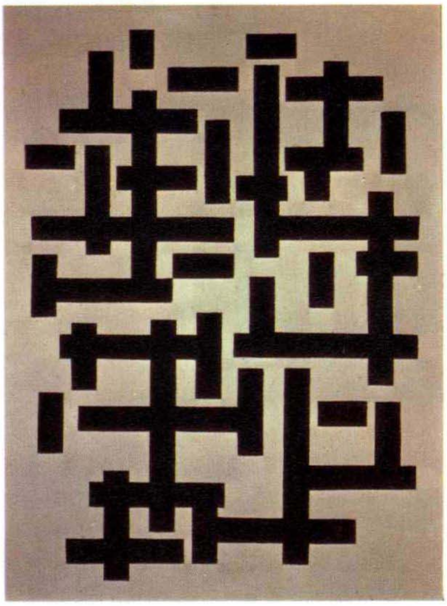
1917年モンドリアンらとともに幾何学的抽象主義のグループ〈デ－スティール*〉を結成し，1931年まで同名の雑誌を編集・発行する。1921～1923年バウハウス教授。1923年，J.K.ボンセットの名でオランダのダダ*の運動にも加わる。1924年以後，〈エレメンタリスム〉という新しい方向を主張した。

どせい　【土星】　太陽系の第6惑星。軌道長半径9.520天文単位。周囲に〈土星の環〉をもつので有名。公転周期は29.37年。離心率は0.053。極大光度－0.4等級。自転周期は，表面のしま模様がたえず変化しているために決めにくい。赤道部で10時間14分と観測されているが，木星と同じように高緯度ほど自転速度がおそいと考えられ，また高速度で自転しているために扁平(へんぺい)で，扁率は0.096で惑星中最大である。赤道半径は60,400kmで，視直径は14″から20″の間で変化する。密度は0.68で，水よりも軽い。中心部には高密度の岩石層がある。表面温度は－180℃で内部はもう少し高温である。反射能は0.57で大気の層が厚いために大きい。大気は水素・メタン・アンモニアおよびヘリウムなどからなっている。衛星は10個で，そのうちの一つのヤヌスは1967年の土星の環の消失時に発見された。土星の環は赤道面上を取り巻く薄い環状の天体で，1655年ホイヘンス*によって発見された。環の外径は137,600km，幅は70,900kmであるが，厚みは非常に薄いために測定できない。15km以下おそらく1km程度と想像されている。このため真横から見ると見えなくなる。これを環の消失といって約15年ごとに起こり，最近では1967年に見られた。土星の環は一続きの連続体でなく，多数の岩石片または氷粒からなっていて，おのおの〈ケプラーの法則〉に従って土星のまわりを公転しているから，回転速度は内側より外側のほうがおそい。全質量は土星本体の27,000分の1，月の約4分の1程度である。　〔磯部琇三〕



土　星　土星の環の変化

どせい　【土性】　土壌(どじょう)の粒子分布の状況。土壌の粒子は大きさによってそれぞれ名称があるが，それらは表-1のように農学会法と国際法では異なる。また，異なる粒子の混ざっている割合によって，表-2のように土性名がつけられている。➔次ページ(図)　〔浜田龍之介〕


ドースブルグ　《白と黒のコンポジション》　1918　バーゼル美術館蔵


土　星

表-1　土壌粒子の直径による区分

農学会法		国際法	
礫	2mm以上	礫	2mm以上
粗砂	2～0.25	粗砂	2～0.2
細砂	0.25～0.05	細砂	0.2～0.02
微砂(シルト)	0.05～0.01	微砂(シルト)	0.02～0.002
粘土	0.01以下	粘土	0.002以下

表-2　農学会法による土性名

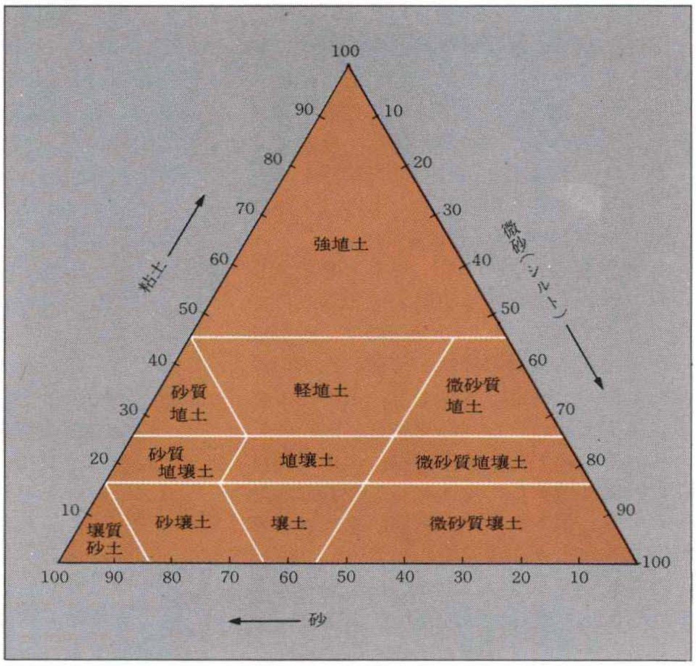
土性名	粘土含有量(%)
砂　土	12.5以下
砂壌土	12.5～25.0
壌　土	25.0～37.5
埴壌土	37.5～50.0
埴　土	50以上

どせきりゅう　【土石流】　山津波ともいう。山腹の土砂・石・礫(れき)が水分を十分に含んで非常に膨満し，生コンクリートのような流動性をもって一挙に流下し，通路にあたるところのあらゆるものを壊滅してしまう現象。関東大震災のときの神奈川県根府川(ねぶかわ)の災害，1953年(昭和28)箱根早雲山付近から強羅(ごうら)に至る崩壊などがその例である。

とせん　【渡船】　⇨フェリーボート

とそ　【屠蘇】　正月松の内に飲む祝い酒。元来は中国の習俗で，蘇とよばれる悪鬼を屠(ほふ)る意味の薬酒。日本では811年(弘仁2)にはじめて宮中で用いられ，やがて民間に普及した。古くはサンショウの実，キキョウの根，菝葜(ばっかつ)，大黄，白朮(びゃくじゅつ)，ニッケイの皮など，10種近い漢薬を除夜の晩に調合し，元旦に酒に混ぜて一家そろって飲むのがならわしであった。やがて婦人・子どもにも口あたりのよいみりんを使うようになり，元来の薬用の意味は薄れた。　〔渡辺欣雄〕

とそう　【塗装】　物体の保護と美装を主目的として被塗物体の表面に行なう前処理，塗料の塗布，塗膜の乾燥・硬化，後処理，塗り重ねなどの一連の塗膜形成操作。満足な塗装効果を得るためには，被塗物体の使用目的，大きさ，形状，素材の種類，塗装環境，経済性などを考慮する必要がある。前処理として被塗物表面の水分・油・よごれ・さびなどの除去やリン酸塩化成処理などの表面処理を行なう。塗料を塗布するおもな方法には，はけ塗り・エアスプレー塗り・エアレススプレー塗り・浸し塗り・流し塗り・ローラー塗り・静電塗装・電着塗装・コイル塗装・トリクロルエチレン塗装・粉体塗装などがあり，目的にあった方法を選ぶ。塗膜の乾燥・硬化は塗料の種類によって異なるが，溶剤揮発・酸化・重合・膨潤ゲル化などの乾燥機構の単独ないし複合により，具体的には空気(自然)，電熱・ガス熱・赤外線による加熱，紫外線や電子線



土　性　国際土壌学会法による分類

の照射などによって行なう。塗料を塗布するにあたっては，1種類の塗料を1回塗るだけで目的を達することは少なく，多くの場合1種または2種以上の機能の異なる塗料を何回か塗り重ねる。塗膜の厚さは，ふつう1回塗りで10～40μ，塗り重ねて得た塗膜で50～150μである。　〔鈴木荘司〕

どそう　【土葬】　⇨葬制

どそう　【土倉】〈どくら〉〈つちくら〉〈どぞう〉とも読み，〈土蔵〉とも書く。中世，特に南北朝時代以後の金融業者のこと。鎌倉時代には，一般に借上*(かしあげ)と称していたが，南北朝の内乱期に火災・盗難などを防止するため，土蔵を建てたことからこの名がある。室町時代には，幕府・寺社・朝廷・貴族などの歳費の立て替えから，財政の管理を請け負うようになり，京都に300軒，奈良に200軒，近江(おうみ)(滋賀県)坂本に30軒と発展した。酒屋が兼業することも多く，土倉・酒屋と併称され，土一揆*(どいっき)にはつねに襲撃の対象となった。彼らが納める役銭は室町幕府の重要な財源であった。〔村尾忠元〕

どぞう　【土蔵】　燃えやすい木部を外に露出しないように厚い土壁で被覆し，防火性をもたせた倉。奈良時代の文献に〈土倉〉が見えるが，《春日(かすが)権現験記*》に描かれている焼け残った土倉の絵では，外部が屋根に至るまで土でおおわれ，平常はこの土屋根の上に板屋根が載せられていたものと想像される。古代では貴族の邸内の文庫などに限られていた土倉が室町時代には火災の多い京都などの有力な町人(金融業者)の倉の形式として用いられるようになり，そうした町人を土倉*とよぶようになった。

近世初頭の城郭建築(→城)は，このような構法を応用して堅固で防火的なものへと発展したが，塗壁技術や防火性を増すくふうそのものも大きく発達し，さらに城郭の建設によって育成された大量の壁職人の生産力が，その後の民間における土蔵の普及を容易にさせた。その構造は，ふつう，外周に沿って柱を密に立て並べ(90cm間隔ぐらい)，その外側に丸竹としゅろなわで下地をつくり，10数回も土壁を塗り重ねて壁厚を12～25cmにさせ，その上をしっくいで仕上げたり，平がわらを張ってなまこ壁にするものである。壁の上部にはち巻き，下部に腰巻きとよぶ厚みをつける意匠が多い。仕上げの色は，関東では黒が好まれ，関西では白が好まれる。屋根はかわらぶきが多く，土屋根の上に置屋根をする手法もある。開口部の防火性には特に注意が払われ，壁と土扉(どひ)との合わせ目は段形にして接触部を多くさせ，火災の際は合わせ目に目土を塗って通気を断った。江戸末期になると，江戸のような大都市では，たび重なる大火を防ぐため，倉だけでなく，店舗や住居など町屋一般がこの土蔵造りでつくられるようになり，またこれを簡易化した塗り家造りが普及した。そのおもかげは，川越市(埼玉県)・倉敷市(岡山県)などの古い地方都市に残っている。〔渡辺保忠〕



土　　蔵　埼玉県川越市

とそつてん　【兜率天】　仏教の世界観では凡夫の迷い苦しむ世界である欲界に六天があるが，その下から4番めの天をいう。この天は未来に仏となるべき菩薩*(ぼさつ)の住む所とされ，ブッダ*もかつてここに住し修行したと伝えられる。ここには現に弥勒(みろく)菩薩*が住してつねに説法していると信じられ，古来この天に往生を求めた者は少なくない。

とだ　【戸田(市)】　埼玉県南東部の市。人口77,000。江戸時代には中山道(なかせんどう)が荒川を渡る〈戸田の渡し〉で知られた。1966年(昭和41)市制施行。市域は荒川北岸の自然堤防上にあり，対岸は戸田橋を隔てて東京都板橋区に接する。産業三大別人口比は1：51：48。周辺の低地は水田地帯であったが，第2次世界大戦後に光学機械・製薬・電気機械などの工業が興って新興工業地帯となり，公団住宅団地も造成されて，人口増加が著しい。国道17号線(中山道)・大宮バイパスに沿い，主要交通機関はバスで，東京都や浦和・大宮両市と密接に連絡する。オリンピック東京大会でボート競技場となった戸田公園の漕艇場(そうていじょう)がある。

とだい　【斗代】　荘園*(しょうえん)領主が収納する1反あたりの年貢(ねんぐ)高。ふつう1反につき何斗代と収納率で示したが，荘園によって斗代はさまざまであった。近世の検地*で石盛*(こくもり)と同義に用いられ，公定収穫高を表わすようになった。

とだじょうせい　【戸田城聖】　(1900～1958)　宗教家。創価学会*の第2代会長。本名は甚一。石川県に漁民の七男として生まれた。1912年(大正1)北海道から単身上京し，後年の師，牧口常三郎を知る。1928年(昭和3)牧口が日蓮正宗(にちれんしょうしゅう)に入信したのに続いて戸田も入信し，1937年に創価教育学会が正式に創立されると，牧口は会長，戸田は理事長となった。以後，戸田は出版・金融などの事業面で牧口と同会の運営を助けたが，1942年，治維法違反と不敬罪によって牧口・戸田をはじめとする幹部が逮捕されて同会は壊滅した。戸田は非転向を貫いて敗戦直前の1945年7月3日に出獄し，翌年1月名称を創価学会に改めて再建に乗り出した。このころより事業家はだの戸田は信仰面での折伏(しゃくぶく)を重視し，独自の組織論と現世利益に基づく生命論をもって〈広宣流布〉に乗り出した。1951年にはみずから第2代会長に就任し，《折伏教典》の編集刊行と同時に折伏大行進をスタートさせた。1955年には初の政界への進出を果たし，会長就任後わずか6年で，創価学会の勢力を公称50万世帯にまで伸ばした。〔山折哲雄〕

とたてぐも　【戸立蛛・螲蟷】　蛛形(ちゅけい)類・真正クモ類のキムラグモ科・トタテ

グモ科・カネコトタテグモ科などの総称で，一般に住み家の入り口にとびらをつけるクモをさす。ほとんどが地中生活者で，地中に掘った管状住居の入り口に砂粒，木の皮，コケなどを糸でかがってつくったとびらをつけ，昼間は中に潜み，夜に出る。キムラグモは九州・南西諸島に分布し，がけなどに横穴式の住居をつくる。腹部に環節構造をとどめており，出糸突起が7個あることから原始的な位置に置かれている。キシノウエトタテグモは本州・四国・九州に分布し，住居は多くは縦穴式，腹部は紫かっ色で，白色の矢はず斑(はん)がある。キノボリトタテグモは地上に進出したが，古木の皮の割れ目やコケの間に3cmぐらいの袋状の住居をつくる。体は黒紫かっ色。カネコトタテグモは本州に，エゾトタテグモは北海道に産し，両者ともかっ色で，住居のとびらは両開き戸である。　〔八木沼健夫〕

とだもすい【戸田茂睡】(1629～1706) 近世初期の国学者・歌人。本名恭光(やすみつ)。通称茂右衛門(もえもん)。号は梨本(なしのもと)・露寒軒など。駿河(するが)(静岡県)の人。もと武士であったが，44歳ごろ浪人して，江戸浅草に隠棲(いんせい)。《梨本集》《僻言調(ひがことしらべ)》を著わし，堂上派*の和歌を激しく批判して，歌学や古典研究が自由討究の場へ解放される先駆的役割を果たした。

トタンいた【トタン板】 ⇨亜鉛鉄板

どだんほう【土断法】 中国，東晋(とうしん)および南朝で桓温(かんおん)や劉裕*(りゅうゆう)らによって実施された戸籍法。華北からの南方移住者をその現住地の戸籍に登録させた。この法が施行される以前には，南方移住者に，力役免除の特権が認められていたにもかかわらず，戸籍未登録者が多く，徴税の対象からのがれて豪族・貴族の私兵となることが顕著であった。本法はこの傾向を防止し，国家による人民の把握(はあく)を目的とする。

とちお【栃尾(市)】 新潟県中部の市。人口31,000。室町時代に芳賀禅司(はがぜんじ)が築城以来，その城下町として開け，江戸時代は〈栃尾紬(つむぎ)〉の特産があった。1954年(昭和29)市制施行。市域は，信濃(しなの)川支流の刈谷田(かりやだ)川上流の山間盆地全域を占め，東は福島県境に近い守門岳(すもんだけ)(1,538m)の山頂まで含まれ，西は長岡・見附(みつけ)両市と接する。産業三大別人口比は27:48:25。伝統の家内工業から発達した繊維工業が主産業で，第2次世界大戦時まではおもに白生地・ふとん地・縮緬(ちりめん)などがつくられたが，戦後は人絹交織に転換し，いまは見附市とともに合繊織物の全国的な産地である。上杉(うえすぎ)謙信の少年期の居城として知られる舞鶴(まいづる)城跡は，西郊にある古志長尾氏の居城栖吉(すよし)城跡とともに典型的な山城の遺跡として天然記念物に指定されている。

とちおまたおんせん【栃尾又温泉】 新潟県北魚沼郡湯之谷(ゆのたに)村にある温泉。泉温36～39℃，泉質は単純放射能線で，神経病・リウマチにきくといわれる。信濃(しなの)川水系の佐梨(さなし)川河畔に位置する。旅館に内湯がなく，河畔の湯場で入湯する。1月じゅう入浴する〈夜詰め〉の習慣があり，子宝の湯としても知られる。交通は上越線小出(こいで)駅からバスの便がある。

トーチカ［totschka］ ロシア語の〈点〉の意。戦線に点在する小形の堅固なとりでをいう。堅固なベトンの工作物で，機関銃の射撃設備と人員の生息・待機のための設備をもち，1銃座のものから，数階建てのものまであった。これらを地形に応じてしま状あるいはかすり状に配置し，その間に野戦陣地を構築し，全体として堅固な陣地帯とする。第2次世界大戦前，ソビエト軍が国境陣地に盛んに構築した。

とちかいりょう【土地改良】 地力増進を目的として農耕地の理化学的改良を行なうこと。理学的には客土*・心土耕・鎮圧などを行ない，化学的には溶成リン肥・硫酸マグネシウムなどの施与，有害物の除去，また工学的手段を用いるときは排水・灌漑(かんがい)施設の施行改良，耕地整理などを行なう。広義には土地改良法によって行なう事業をさし，開拓・防災・災害復旧・草地改良などを含む。

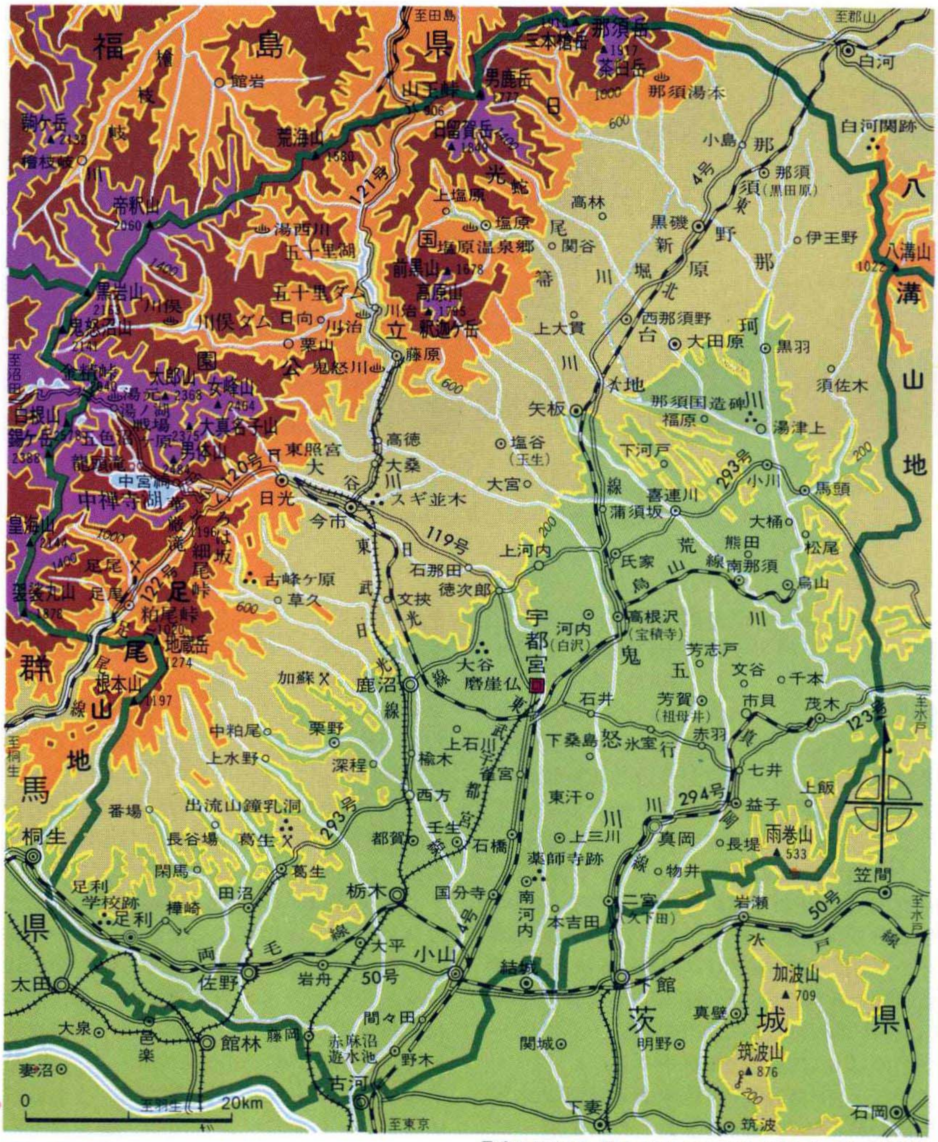
とちかがみ【水鼈】 単子葉植物・トチカガミ科。池やみぞに自生し，しばしば水面一面に群生する多年生水草。茎は水中を横走し，節からひげ根を出す。葉は有柄で円形，長さ4～8cmほどで，下面中央の気胞で水面に浮かぶが，空中に伸びた葉は気胞を失う。雌雄同株で，夏，水面に白花を開く。雄花は花柄の先端から細い小梗(しょうこう)を伸ばして咲き，雌花は独立して太い小梗の先につき，膜質の包葉をもつ。花弁は卵形でしわがある。果実は淡緑色の球形で，多数の種子をつける。和名は葉をトチ(スッポン)の鏡にたとえたもので，ドロガメバス・スッポンノカガミ・カエルエンザともいう。

とちぎ【栃木(県)】 関東地方北部の県。北は新潟・福島の両県，東および南東は茨城県，西および南西は群馬県と接する内陸県である。下野(しもつけ)の全域を占め，面積6,414km² 人口179万3,000,人口密度は1km²あたり280人。県花はシモツケソウ,県木はトチノキ，県鳥はオオルリ，県獣はカモシカ。県庁のある宇都宮(うつのみや)以下12市と7郡(33町4村)に分かれる。

〔自然〕一般に山がちで，東部と西部に山地が連なり，中央部は北に那須(なす)高原や那須野原台地があり,南に関東平野北端の平地部が広がる。東部の八溝(やみぞ)山地はあまり高くはないが起伏に富み，南北に延びて茨城県との境をなしている。北西部には福島県境から群馬県境にかけて帝釈(たいしゃく)山地が走り，2,000m級の高峰を連ねて表・裏日本の分水界となる。その南方には足尾山地が群馬県境をほぼ南北に走る。那須火山帯はこれらの山地と重なって，北部には那須岳(1,917m)を主峰とする那須火山群，西部には県下最高峰の白根山(2,578m)や男体山(2,484m)などの火山を噴出させる。男体山南麓(なんろく)には火山活動によって生じた中禅寺湖があり，その東方には国際的観光地日光市がある。周辺部は山水の風光がすぐれ，日光・那須・塩原・鬼怒川(きぬがわ)・川治など温泉地も多く群馬・福島・新潟の3県にまたがる日光国立公園の主要部を占める。県下を流れるおもな河川には，那珂(なか)川のほか，小貝川とその支流五行川・鬼怒川・渡良瀬(わたらせ)川とその支流思川などがあり,小貝川以下はすべて利根(とね)川の支流で，足尾山地を発してほぼ南北の方向に並列して流れている。那珂川は那須火山を発し，蛇尾(さび)川・箒(ほうき)川などの支流を合わせて広い那須野原台地をつくり，八溝山地西麓を南流したのち，山地を横切って東流する。足尾山地と思川との合流地点周辺は海抜約15mの低湿地で浸水することが多く，群馬県にかけて水害防止のための渡良瀬川遊水池(赤麻遊水池)が，1904年(明治37)から1918年(大正7)にかけての工事で造成された。足尾山地の北東縁には，今市扇状地・鹿沼(かぬま)扇状地があり，段丘がかなり発達している。気候は，内陸県の特色を示し，一般に気温の年較差が大きく，たとえば東京都の22.6℃に対して宇都宮市では23.9℃である。地域的な気候の差が大きく，降水量を見ても日光山地・足尾山地では年降水量が2,000mmをこえて関東地方でも最多雨地域に属するが，南部から東部にかけての地域は年降水量が1,400mm以下で関東平野内陸部の雨の少ない地域の一部となっている。たとえば，県中東部の那須郡烏山(からすやま)町の年降水量は1,389mm，南部の小山市では1,347mmである。また全県にわたって7～8月の雷雨日数が15～20日に達し，群馬県とともにわが国有数の雷雨の多い県である。さらに県全体としては必ずしも風の強い地域とはいえないが，冬から春にかけての季節風はかなり強く，特に北部の山麓地方の〈那須おろし〉は，しばしば突風や旋風となって，ときには列車脱線などの事故を起こしたりする。

〔産業・経済〕産業三大別人口比は16：39：45。主産業は農業で，那須野原台地の開発，八溝山地・足尾山地の酪農振興などが図られてきたが，現在ではしだいに工業に重点がおかれつつあり，首都圏整備計画と関連した南部平野部の市街地化・工業化とともに，いっぽうでは日光国立公園を中心とする観光地の総合開発などが進んでいる。県民所得は年間1人あたり121万2,000円(1977)で全国第23位。**〈農林水産業〉**耕地面積は約14万9,000ヘクタール(1975)で，県域の23%を占め，山がちの地形のわりには広い。農家数は10万8,000戸，兼業農家率は88%。耕

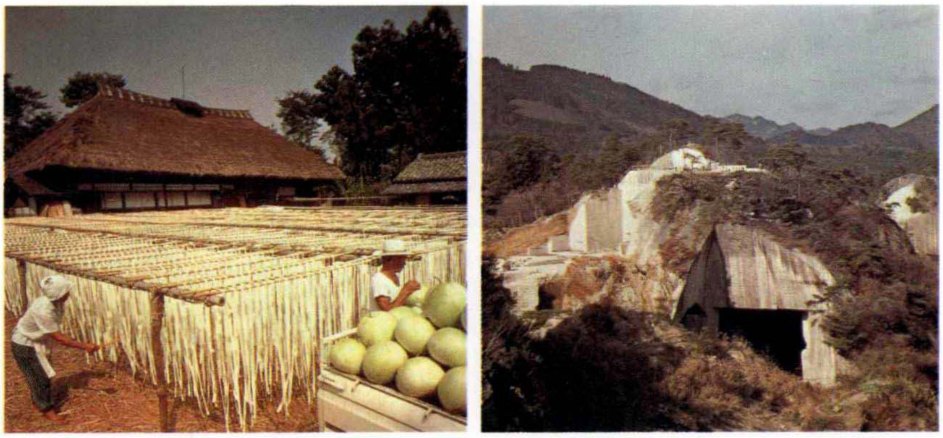
地の75%が水田で，鬼怒川流域以東の平野部に水田が広がり，土地改良や動力耕耘機(こううんき)の利用も行き渡っている。米の平年収量は40万tに達し，東京方面へ移出する。裏作には大麦，特にビール大麦の栽培が多く，小麦がこれに次ぎ，麦類の総収穫量は北海道・茨城県に次ぎ全国第3位。鬼怒川以西の平地部から足尾山地南麓にかけてはタイマ・落花生・ユウガオ・イチゴ・トウガラシ・トマト・キュウリなど，畑作による商品作物の栽培が盛んである。ユウガオを原料とするかんぴょうの収穫量は全国の80%を占め，年に4,200t（1975年，以下同様)，タイマは畳表の縦糸や，げたの鼻緒のしんなどに加工され，最近は化学繊維に押されて激減しているが，収穫量は全国の98%に達する。落花生は年収穫量5,500tで，千葉・茨城の両県に次ぎ全国第3位である。イチゴは〈日光イチゴ〉とよばれて年産18,000tに達し，最近埼玉県をしのいで全国第1位となった。またトウガラシも，茨城県とともに日本の代表的産地となっている。北部の那須野原台地は，火山地形や不順な気候の制約のためにタバコ・トウモロコシ・ソバなどの酸性土壌(どじょう)に強い作物が栽培されてきたが，1968年(昭和43)以来〈那須野原総合開発事業〉が起工されて，新堀那須疎水の導入，トラクター・コンバインなどを用いた大規模な集団開拓による水田開発が進んでいる。東部の八溝山地山間部から中央低地にかけては葉タバコの産地で，〈茂木(もてぎ)タバコ〉の名が知られ，かつては年収穫量が15,000tもあって，茨城県に次いで全国第2位を占めていたこともあったが，しだいに減少し，とくに中央低地における減少が著しく，1975年にはわずか3,900tで，全国でも第15位に転落している。このようなタバコ作の不振の原因としては収入は安定しているが，労働が過重で，若い農民からしだいに見離されてきたということがあげられる。なおこの年の全国第1位は福島県(19,000t)である。養蚕業は古くから南部の桑絹町(いま小山市の南部地区)周辺で行なわれ，優良繭として定評がある。畜産業は，那須野原台地の広い牧草地にウシの飼育が多く，最近は県下各地に酪農が広まり，乳牛の飼育頭数は50,000頭(1975年，以下同様)，牛乳は年間に15万2,000tを生産し，大半を東京方面へ移出する。肉用牛は各地で39,000頭が飼育され，ニワトリは南部で飼育が盛んで，最近は5,000羽以上をまとめて飼う協業経営が取り入れられている。全県では260万羽を飼育し，卵の生産は31,000t(1975)に達し，京浜地方に35%を出荷する。林野面積は36万ヘクタール(1975)で県域の56%を占め，国有林35%，公有林6%，私有林59%の比率で，国有林は日光・那須方面に多い。雨量・地質などに恵まれて森林の蓄積量が多いが，日光国立公園の区域内には伐採ができなくなった地域も増加している。樹種にはスギ・ヒノキ・マツ・カラマツなどが多く，建築用材としておもに京浜地方へ出荷される。水産業はふるわず，内水面漁業では各河川のアユ漁，中禅寺湖のマスの養殖などがあげられるにすぎない。



栃 木 県

🏙100万人以上の市　回30～100万人の市　◎10～30万人の市　◎5～10万人の市　◉5万人未満の市　◎町名　○村名　○字名　●地方庁所在地　♯油田　⚓商港　⚓漁港

〈鉱工業〉地下資源は銅・石灰石・ドロマイト・大谷石(おおやいし)がおもなものである。足尾山地北部にある足尾鉱山*は1610年(慶長15)に開発された古い銅山であったが，しだいに鉱脈が尽きて，1973年についにその360年におよぶ歴史を終えて，閉山してしまった。足尾山地南東麓の葛生(くずう)町周辺は石灰石・ドロマイトの埋蔵量が豊富である。石灰石はセメントや壁材・肥料用石灰の原料として全国産量の約20%を産出し，ドロマイトは製鋼用炉材としてわが国の需要の約90%をまかなう。宇都宮市大谷町は大谷石の主産地で，埋蔵量は約6億t，最近の建築ブームに伴い，年に75万tを採掘している。鹿沼扇状地の軽石層からは園芸用の〈鹿沼土〉が採取される。水資源の開発は鬼怒川水系における農業水利事業・水力発電事業が中心となり，鬼怒川上流部に川俣(かわまた)・五十里(いかり)などの大規模な多目的ダムがある。工業は足尾山地南麓の足利(あしかが)・佐野両市などに古くからの機業地があり，明治後期以後は近代化された繊維工業が興った。第2次世界大戦後は宇都宮・小山(おやま)両市を中心として，中・南部地域の工業化が進んでおり，1968年に宇都宮・小山・栃木・佐野足利の4区域が首都圏の都市開発地域に指定されたのを契機として，まず宇都宮市北東部の台地上に県下最大の宇都宮工業団地が造成され，三菱(みつびし)製鋼・松下電器産業・久保田鉄工をはじめ，その下請け工場をも含めて，すでに数十の工場が進出している。県の工業製品の年間出荷額(1973)は1兆8,437億円で，全国第15位であり，1969年には第22位であったから，それだけ栃木県の工業化の進展がうかがわれる。宇都宮工業団地のほか，富士通の大工場のある小山工業団地や真岡(もおか)工業団地などがある。このほか宇都宮市の食品・製粉・染色・家具などの中小工業，栃木市の食品・



栃木県 (左)壬生町付近のかんぴょうつくり。夏の晴天の日を選んで朝早くからユウガオを収穫し，果肉を機械で削り1日で干しあげる (右)宇都宮市西郊にある大谷石の採石場。付近にはたくさんの採石場が散在し，地下にも深くはいって採石が行なわれている

木工・輸送機械・電気機械器具，日光市の非鉄金属，足利・佐野両市の繊維・被服などの工業があり，また特殊な団地として足利市のトリコット団地，鹿沼市の建具団地などのほか，下都賀郡壬生(みぶ)町に東京都墨田区のおもちゃ業者が建設した金属玩具(がんぐ)団地があり，1965年以来操業しているが，東武鉄道宇都宮線に〈おもちゃのまち〉という駅があるのはおもしろい。矢板市には早川電機の大工場が進出している。古い歴史をもつ伝統工業としては，郷土民芸品として知られる益子(ましこ)焼があり，那須郡烏山町の手すき和紙，栃木市や安蘇(あそ)郡田沼町のかわら，佐野市の人形・羽子板・こいのぼりなどの特産がある。

【交通・都市】古くから関東・東北両地方を結ぶ廊下的な位置を占め，陸羽街道・日光街道・日光例幣使街道など江戸時代以来おもな街道筋には市場町・宿場町が発達したが，いまはかつての街道沿いに鉄道・道路がつくられ，都市もその沿線・沿道に多い。県下交通の大動脈としては東北本線・国道4号線(陸羽街道)が中央部を南北に縦断し，東北自動車道もその西側を走って，栃木・鹿沼・宇都宮・矢板・西那須野塩原・那須のインターチェンジがある。両毛線・水戸(みと)線は南部をほぼ東西に走って関東近県との連絡網となり，日光線・真岡(もおか)線や東武鉄道の日光線・伊勢崎(いせざき)線・宇都宮線・鬼怒川線などが県民の足となる。西部には旧足尾鉱山に通じる足尾線がある。最近では会津線と日光線を結ぶ野岩線の建設計画が進んでいる。国道は南北に縦貫して小山・宇都宮・矢板・大田原の各市を通る4号線のほか，宇都宮市から西の日光市に延びる119号線(日光街道)，東の水戸市へ延びる123号線がある。119号線は日光市から中禅寺湖・金精峠を経て沼田市(群馬県)へ通じ,120号線は今市市で119号線と分かれて，もと会津西街道を北上して米沢(よねざわ)市(山形県)まで延びる。122号線は日光市を起点として，足尾山脈を越え，群馬県桐生(きりゅう)市から東京都豊島区に至る。これらの国道や主要県道を利用して，バス網は平野部を縦横に走り，日光国立公園をもつ西部山地には観光バスがよく発達している。有料道路には，日光市を中心に日光道路・金精道路・中禅寺湖有料道路・霧降高原有料道路，那須高原に那須高原有料道路・那須山麓(さんろく)道路，塩原温泉に日塩もみじラインがあるほか，日光宇都宮道路があって，これは日光市内の清滝まで延長工事中である。東北自動車道の開通によって，小山市以南が京浜地区への通勤圏にはいり，沿線は宅地化が進んでいる。都市は中南部に集まり，宇都宮は城下町から発展した行政・経済・文化の中心都市で，南西部の機業地域には足利・佐野の工業都市や，栃木などの商業都市が古くから発達している。日光街道・陸羽街道に沿っては小山・今市・鹿沼などの宿場町・市場町から発達した都市がある。日光は日光東照宮の鳥居前町として栄えたが，いまは国際的観光地として知られる。大田原・矢板の両市は那須野原台地上の田園都市で，最近は工業用地の造成も進んでいる。これらの諸都市には古くからの家内工業のほか近代工業も育成されつつあり，京浜工業地帯との関連が今後ますます深まることが予測される。日光・今市・小山・真岡・大田原・矢板の6市は，1953年の町村合併促進法施行以後の新市，黒磯(くろいそ)は1970年に生まれたいわゆる〈三万人市〉である。

【歴史】古くは群馬県域とともに毛野(けぬ)とよばれ，その後分かれて下毛野となり，やがて下野(しもつけ)となった。いまも上野(こうずけ)(群馬県)と合わせて両毛地方とよばれる。北東部には別に那須があったが，大化の改新の際，下野に統合された。地域の開発は奈良時代に始まり，南部には古墳も多くみられる。平安時代には官道と那珂川流域に沿って集落が発達し，1059年(康平2)藤原宗円が下野の守護職と宇都宮明神(二荒山(ふたらさん)神社)の社務職となり，宇都宮氏を名のった。鎌倉時代には山間部まで開発が進み，那須野原では源頼朝(よりとも)が日本三大巻狩(まきがり)の一つといわれる巻狩を行なった。源氏の勢力が強い地域で，足利氏・新田(にった)氏などの名門が北条(ほうじょう)氏の鎌倉幕府を倒し，やがて足利尊氏(たかうじ)が室町幕府を設置すると，足利が東国文化の中心地として栄えた。室町時代から戦国時代にかけての足利学校の最盛期に生徒3,000人を集めたのもこの間の事情を示している。江戸時代には，陸羽・日光・日光例幣使の3街道が県内を通り，沿道には宿場町・市場町が発達して，江戸文化が県内に浸透した。城下町としては，宇都宮の戸田氏七万七千石，烏山の大久保氏三万石，壬生の鳥居氏三万石をはじめ，黒羽・大田原・足利・喜連川に小城下町が発達したが，江戸に近く，東照宮の所在地であったために，幕府直轄地や天領も多くつくられて，分割統治されていた。産業面では両毛機業地が発展し，足利の絹織物，佐野の綿縮み，真岡のもめんなどの特産で知られた。1871年の廃藩置県に際して，旧藩がすべて独立県となり，さらに栃木県と宇都宮県の2県にまとめられた。その後数回にわたる異動を経て，1876年現在の県域が確定した。〔浅井得一〕

とちぎ【栃木(市)】栃木県南部の市。人口86,000。古くは巴波(うずま)川の船運の終点となり，山間部・平野部を結ぶ渓谷(けいこく)集落として発達した。14世紀末に皆川氏の城下町となり，江戸時代は日光例幣使街道の宿場町・市場町で，関東有数の問屋街が発達した。明治以後は，1871年(明治4)から13年間栃木県庁が置かれ，県庁が宇都宮に移転後一時さびれたが，1893年日本最初の商工会議所が設立され，商業都市として再出発した。1937年(昭和12)市制施行。市域は西部は足尾山地，東部は関東平野の北端，永野(ながの)川の扇状地上にあり，中心市街はその扇端部に位置する。産業三大別人口比は13：40：47。周辺農村部は米・麦・タイマの産が多い。南郊の大平町には日立製作所の大工場がある。両毛線・東武鉄道日光線・同宇都宮線が集まり，東郊に国道4号線，南西郊に50号線が通ずるほか，主要県道が近辺諸都市へ放射状に走ってバス路線が発達する。サクラの名所大平山県立公園，ホタルの名所巴波川，出流(いずる)山満願寺，出流の鍾乳洞(しょうにゅうどう)などの観光地に富み，作家山本有三(ゆうぞう)の生家があり，その作品《路傍の石》の舞台となっている。特産は，かいろ灰・げた・猟銃などで，特にげたは，静岡市・松永(福山市内)とともに日本三大げた産地の一つとされているが，最近は需要減のため，サンダル類に移行しつつある。〔浅井得一〕

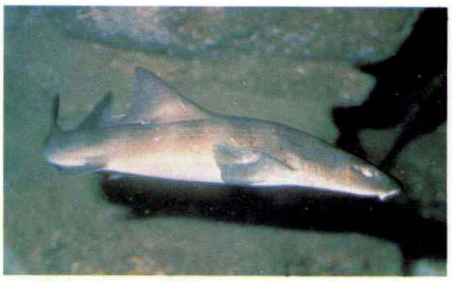
とちくかくせいり【土地区画整理】都

市改造の手法の一。関東大震災*の復興計画および第２次世界大戦後の復興計画などで，この方法が大々的に用いられた。土地区画整理といっても，農地の区画整理に用いられていた耕地整理法を準用していたので，不備な点が多く，特別都市計画法を制定してその不備な点を補い，ようやく成果をあげた。この経験に基づき1954年(昭和29)には土地区画整理法が新たに制定された。土地区画整理事業は個人・組合などによる任意的なものと，地方公共団体・日本住宅公団などによる強制的なものとあるが，いずれも不整形な土地，無秩序で狭小な道路を区画整理によって整った街区，広く秩序だった道路に整備することを目的とする。土地の全面買収をせずに，都区の整備を行なえる点がこの方式の特徴。〔竹内泰夫〕

とちくじょう【屠畜場】 肉畜を食肉を得る目的で屠殺するところ。屠殺・皮はぎ・内臓摘出・背割りなどの一連の作業ののちに枝肉とする。屠畜場は，屠畜場法によって規制され，大量家畜を屠殺する場合にはこの法に基づく屠畜場以外ではできない。解体した枝肉や内臓などは，伝染病や食中毒の予防のために，検査に合格し検印を受けないと食肉とならない。なお，屠畜場は1970年(昭和45)末現在で全国に687か所あるが規模の零細なものが多い。〔安武正秀〕

どちざめ【奴智鮫】 軟骨魚類・ドチザメ科。歯が三尖頭(せんとう)なので，同じ科に属するホシザメ類と区別できる。大きさは1.5ｍぐらいになる。10条ほどの濃紫黒色の縦帯や体一面に小黒点が不規則に散在するが，大きなものではこれが不明瞭(ふめいりょう)になる。口は大きく，口角には発達した唇褶(しんしゅう)がある。鰓孔(さいこう)は両側に５個ある。第１背びれは第２背びれよりもやや大きく，尾びれの先端近くにはやや大きな欠刻がある。本州中部以南の各地に産し，インド洋・オーストラリアにまで分布する。内湾や沿岸域の岩だなや海藻(かいそう)の繁茂する所に生息し，甲殻(こうかく)類や小魚を食べる。春ごろに20尾ばかりの胎児を産む。かまぼこの原料になるが，産額は少ない。

とちのき【橡・栃】 双子葉植物・トチノキ科。山の谷沿いに自生する日本特産の落葉高木で，高さ20ｍに達する。葉は対生する大きな掌状複葉で５～７小葉からなり，各小葉は倒卵形で中央の小葉は長さ20～40cm，幅10～20cm。縁に鈍い重鋸歯(じゅうきょし)がある。５～６月，若枝の先に15～25cmの花序を立て，多くの花をつける。花は紅白色の四弁花で，直径1.5cmほど，雄花と両生花がある。おしべ６～７本，めしべ１本。果実はほぼ球形で，直径４mmばかり，成熟すれば厚い皮が３片に裂け，中に赤かっ色の球形で光沢のある種子を入れる。種子には多量のデンプンが含まれ，東北地方ではさらして苦味を去り，米と混ぜてついて栃もちにする。材は天井板などに用いられる。



ドチザメ



トチノキ



トチバニンジン

マロニエ(セイヨウトチノキ)は五弁花で実にとげがあり，街路樹として用いられる。

とちのきとうげ【栃ノ木峠】 福井県敦賀(つるが)市の東方にあり，福井平野と滋賀県近江(おうみ)盆地とを直接結ぶ，両県の県境をなす標高537ｍの峠。戦国時代以来，近江と越前(えちぜん)(福井県)を結ぶ北国街道がここを通り，近江から敦賀を経由する木ノ芽峠越えの西近江路に対して東近江路とよばれ，重要な交通路の役割を果たしてきた。

とちばにんじん【栃葉人参】 双子葉植物・ウコギ科。山地の林床にみられる多年草。根茎は地下を長くはい，竹のような節があるので，チクセツニンジンともいう。高さ60cmほどで，茎の上部に３～５枚の五出複葉をつける。各小葉は卵形ないし倒卵形で，細鋸歯(さいきょし)がある。７～８月，茎頂に１個の散形花序をつけ，花は淡黄緑色の五弁花。果実は球形で赤熟する。果実が黄熟するものをキミノトチバニンジン，果実が赤色で先に黒斑(こくはん)のあるものをソウシショウニンジンという。根茎を乾燥したものを竹節人参といい，去痰(きょたん)・解熱・健胃薬として人参(オタネニンジンの根)の代用とされる。

とつか【戸塚(区)】 神奈川県横浜市南西部の地区。人口40万3,000。江戸時代に東海道の宿場町であった鎌倉郡戸塚町が周辺７村とともに，1939年(昭和14)横浜市に編入されて戸塚区となったが，1969年に瀬谷(せや)区を分離独立させた。区域中央を柏尾(かしお)川，西境を境川がほぼ平行して南流する。かつては農業地帯であったが，最近工場用地や宅地への転用が進んでいる。柏尾川沿いに東海道本線が通じ，沿線は電気機器製造を中心とする内陸工業地帯である。東海道本線と平行して国道１号線と横浜新道(有料道路)が走り，近年車の交通量が著しく増加した。旧戸塚町南端から汲沢(ぐみさわ)町へ続く松並み木は旧東海道のなごりをとどめ，1918年(大正７)天然記念物に指定。

トッカータ［toccata］ 鍵盤(けんばん)楽器(オルガン・ハープシコード)の音楽形式の一。力強い和音と自由で早いパッセージが交錯するような作品をいう。16世紀イタリアのベネチア楽派の器楽曲にその源をもち，バロック初期のフレスコバルディらによって，その基本的な性格が形成された。その後，この様式はドイツで継承・発展し，特にブクステフーデやバッハを中心とする北ドイツでは，いっそう華麗なトッカータが，対位法的なフーガとの対照において盛んに作曲された。〔吉田泰輔〕

ドッガーバンク［Dogger Bank］ 北海の中央部に横たわる広大な堆*(たい)。東西に約250km，南北に約170kmの広さで，平均水深は30ｍ以下。トロール漁場として利用され，タラ・ニシンの好漁場として知られる。

とつかわ【十津川(村)】 奈良県吉野(よしの)郡にあり，県の南端部を占め，面積約670km²に達するわが国屈指の大きな村。人口7,100。紀伊(きい)半島の中央部，十津川*中流の山村で林業が中心である。1332年(元弘２・正慶１)の護良(もりなが)親王*をめぐる南朝の古跡が多い。また幕末に十津川郷士による天誅組*(てんちゅうぐみ)が挙兵した。かつては〈陸の孤島〉といわれ，民家構造・言語・風習などに特色がある。吉野熊野(くまの)総合開発の一環として国道168号線が整備され，国鉄その他のバスが通じ，風屋・二津野(ふたつの)のダムが建設されて電源開発が進んでいる。

とつかわ【十津川】 奈良県南部，紀伊(きい)山地山上ケ岳に水源を発して南に流れ，和歌山県にはいって北山川を合わせて熊野(くまの)川となり，三重県との境を南東流して熊野灘(くまのなだ)に注ぐ。流程90km。流域は険阻(けんそ)な山に囲まれ，吉野スギの美林におおわれて林業が盛んである。

とっきょちょう【特許庁】 通商産業省の外局。発明・実用新案・意匠・商標などに関する事務を扱う。おもな任務はこれらの工業所有権の出願について，その査定・登録・争いの審判などのほか弁理士*試験をつかさどる。内部部局に長官官房のほか，総務・審査第１・同第２・同第３・同第４・



ドック　(左)乾ドック(建造用)三井造船千葉造船所　(右)浮きドック(修繕用)三菱重工業神戸造船所



トックリヤシ

審判の各部，付属機関として万国工業所有権資料館・工業所有権研修所・弁理士試験審査会・特許発明実施審議会などがある。

とっきょほう　【特許法】　発明を保護・奨励し，産業の発達に寄与することを目的として制定された法律。1959年(昭和34)公布，翌年施行された。特許庁*に出願して，それが特許として登録されることにより特許権が生じる。特許には，物の特許と方法の特許の2種がある。物の特許権者は，その物の製作・使用・販売などを独占することができるし，方法の特許権者は，その方法を使用するかまたはその方法によって製作した物の使用・販売する権利を独占することができる。また特許権者は，この特許の実施を他人に全面的・独占的にゆだねることもできるし(専用実施権の設定)，数人に非独占的にゆだねることもできる(通常実施権の設定)。特許権も工業所有権*の一種であるが，その存続期間は出願公告の日から15年間である。特許権者は，特許権の侵害に対して，その差し止めや損害の賠償を請求することができる。　〔松本治雄〕

ドッキング　[docking]　2個の宇宙飛行体がその軌道上で結合すること。1966年アメリカのジェミニ8号があらかじめ軌道に乗せてあったアジェナ衛星と初のドッキングに成功した。ドッキングさせるには，両者の相対速度を0に近い状態にし，しかも中軸線を完全に一致させてから徐々に実行させなければならない。ドッキングは，将来，大形人工衛星を軌道上で組み立てたり，月着陸船と母船とを結合させたりするのに欠かせない操作である。〔原田三夫〕

ドック　[dock]　広義には船を横づけに係留して貨物の積みおろしを行ない，または船の修理を行なうために陸岸または他の構造物によって囲まれた人工水域をさすのであるが，わが国では，狭義に造船所において船の新造，船底の修理，塗り替え工事などを行なう場所をさす。狭義のドックには次のような種類がある。①乾ドック(乾船渠(かんせんきょ))：船底・船底弁類・プロペラ・かじなど水線下の構造物の清掃・修理・塗り替えなどのため，水深の十分にある海面に面した土地を船がはいれるだけの幅・長さおよび深さに掘り込んで海と連結させ，その中をコンクリートで固めて入り口に閘門(こうもん)をつけたものであって，船を入進させた後閘門を閉じ，ドック内の水をポンプで抜いて船底を露出させるものである。②浮きドック(浮き船渠)：断面が凹(おう)形で前後両端が開放された鋼板製の箱で，内部は多数の水タンクに仕切られている。まずタンクに水を張り，ドックを沈ませて凹所に船を引き込み，次にタンクの水をポンプで排出するとドックは船を載せたまま浮き上がって船底が水面上に現われる。③スリップ(船架)：海岸の斜面にレールを敷設し，これを水中まで延長しておく，このレールの上に台車を設けて，これに船を載せて引き上げるものである。小形船専用として用いられる。　〔飯島幸人〕

とっくつ　【突厥】　6～8世紀，モンゴルおよび中央アジアで活躍した遊牧チュルク(トルコ)族の一派とその国家。6世紀中ごろ，チュルク族の首領土門は柔然族(モンゴル系)から独立して，伊利可汗(いりかかん)(伊利とは国の意)と称し，国を突厥(チュルクの音写)と号した。その弟ジザブロスは西方へ勢力を伸ばし，3代めの木杆(もくかん)可汗のとき，エフタル族の国家を滅ぼした(563～567)。6世紀後半，モンゴル高原を版図とする東突厥と，中央アジアを版図とする西突厥とに分裂した。前者は744年チュルク族の一派ウイグルに，後者は640年ごろ唐に討たれて崩壊した。なお突厥は，文字を有し突厥碑文*に残した。仏教も一時上層階級に行なわれた。　〔若松　寛〕

とっくつひぶん　【突厥碑文】　突厥遊牧国家の復興期につくられた一連の碑文。オルホン碑文ともいう。アラム文字に由来する突厥文字と彼らの言語が刻まれている。北アジアの遊牧民の中で自己の記録を残した最古のもので，言語学・歴史学上の価値は大きい。有名な碑文には，復興3代めの毗伽(ビルケ)可汗碑(735年建立(こんりゅう))，可汗を助けて功績のあった弟の闕特勤(キュルニテギン)碑(732)，重臣の暾欲谷(トンユクク)碑(716)などがあり，いずれも突厥の本拠であるオルホン-トラ河畔から出土した。

とっくりばち　【徳利蜂】　こん虫類・膜翅(まくし)目・スズメバチ科。体長10～19mm。体はやや光沢のある黒色で，黄色の斑紋(はんもん)がある。腹部の点刻は微細で，全体にかっ色の微毛が密生する。翅(はね)は透明であるがやや曇り，前翅の前縁部は暗かっ色をおびる。日本全土に分布する普通種で，成虫は夏季出現する。草木の小枝にどろで直径15mm内外のとっくり状ないしつぼ状の特異な巣をつくり，その中に1卵を産み，鱗翅(りんし)類の幼虫を狩って幼虫の食物としてたくわえる。近似種にキボシトックリバチ・サムライトックリバチ・スズバチなどがある。トックリバチ類はドロバチ類に最も近縁で，この2群をトックリバチ群としてスズメバチ科から独立させて扱う研究者もある。ドロバチ類とは，腹部第2節が細長い点で容易に区別できる。

とっくりやし　【徳利椰子】　単子葉植物・ヤシ科。モーリシャス島原産の常緑高木で，温室で栽培される。幹は高さ20mに達し，円柱形で環紋があり，葉冠の下部が膨大してとっくり状になる。葉は幹頂に多数群生し，羽状複葉で40～60対の小葉がある。葉鞘(ようしょう)と葉柄は美しいかっ赤色。雌雄異株で，葉冠の下に肉穂花序をつける。花序は多数分枝し，淡紅色の小花がらせん状に配列する。種子は楕円(だえん)形で1cm内外。

トッケー　⇨オオヤモリ

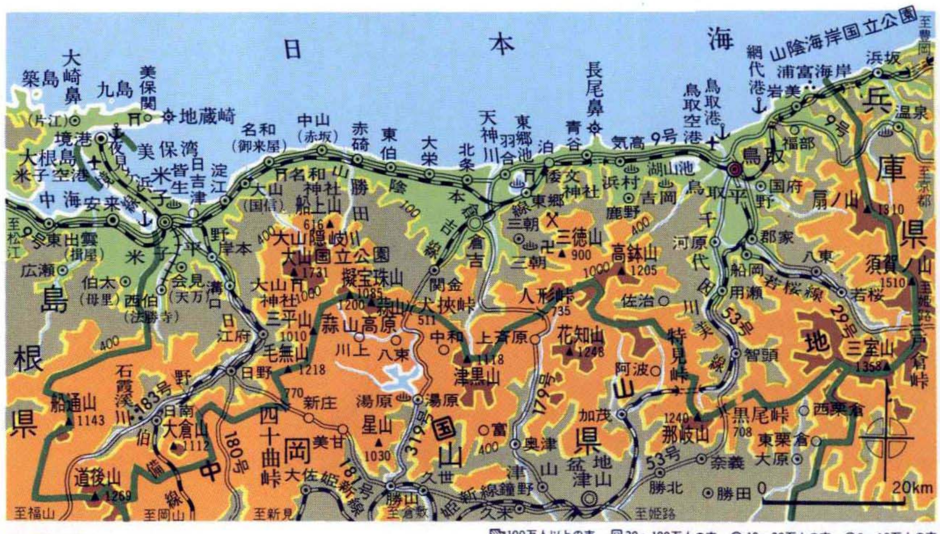
とっけいかんぜい　【特恵関税】　特定国ないし特定地域グループに対し，特に関税を全廃または関税率を軽減することにより，関税上有利な待遇を与える制度をいう。古くは，1932年に発足したイギリス連邦特恵関税制度*が著名であり，第2次世界大戦後では，1958年のEEC*の発足に伴いアフリカの連合諸国との間に結ばれた特恵関税が重要。これは，ガット*の無差別・一般的最恵国待遇の原則に反するが，例外的に認められている。1960年代にはいり，南北問題*の新たな登場によって，低開発国全体に対する一般的・無差別かつ非互恵的な一般特恵関税制度が検討され，1968年の第2回国連貿易開発会議*で，この一般特恵供与が決

議され，ECは，1971年7月1日から，日本は，8月1日から，シーリング方式により実施している。この方式はあらかじめ定められたわくに達するまで特恵(多くの場合無税)を供与し，わくを越えた場合はそれを停止するものであり，主として，製品・半製品に適用される。これに対し，アメリカ・イギリス・北欧諸国などは，エスケープ-クローズ方式による特恵供与を検討中である。この方式は，あらかじめわくを定めず，特恵供与により国内産業に被害が生じるおそれのある場合，または被害が生じた場合に特恵供与の全部または一部を停止するものである。〔深海博明〕

どっこうせん【独航船】独立して航行する漁船。特に北洋サケ・マス・カニ漁業などの母船式漁業において，母船搭載(とうさい)漁船に対する独航付属漁船をさすことが多い。この場合,独航船は母船とは経営体が別で，別の時期には独立して底引きサンマ棒受け網などを行なう。なお，内地の港を基地とする中形のサケ-マス流し網漁船も独航船という。➔漁船

とっこうたい【特攻隊】特別攻撃隊の略。兵器を操縦する軍人が目標物を破壊するために体あたりの攻撃を行なった部隊。第2次世界大戦において日本軍が劣勢を挽回(ばんかい)するためにやむなくとった戦法。兵器は水中・水上・空中に分けられ，水中特攻隊では特殊潜航艇*(せんこうてい)・回天(人間魚雷)・海龍(かいりゅう)(小形有翼潜水艇)などである。水上特攻隊では，火薬を積んだベニヤ板製の高速艇で，自動車エンジンを改造して使用した。1945年(昭和20)5月の戦艦大和(やまと)の出撃は海上特攻の代表例である。航空特攻隊では，1944年10月のレイテ作戦のときからで，陸海軍とも特攻機の部隊を編成した。海軍はこれに神風(しんぷう)の名を冠したが，欧米人はこれを〈カミカゼ〉とよび，飛行機の不生還体あたり攻撃の意に用いた。その後特攻は艦隊を失った日本海軍の主作戦となった。神風特攻機は合計2,367機で，命中450機。約18%の成功率で，これは砲雷撃の命中率2%に比べ，はるかに大であった。陸軍航空特別攻撃隊もフィリピン島・沖縄(おきなわ)方面で活躍した。このほか沖縄作戦では空挺部隊の不生還なぐり込み攻撃が行なわれた。防空戦闘では，威力が大きくしかも高高度を飛ぶB24・B29などアメリカ軍の爆撃機に対し邀撃(ようげき)機隊が必死必中を期して体あたり攻撃を実施した。〔森田　哲〕

ドッジ-ライン　第2次世界大戦後インフレ傾向にあった日本経済に対して，1949年(昭和24)4月から，朝鮮戦争直前までの比較的短期間にとられた一連の強力なデフレ政策をいう。アメリカ占領軍総司令部が，アメリカ政府の指令を受けて，〈経済九原則〉を発表し，一連のデフレ政策をとったが，その仕上げとして，1949年に特別経済



鳥取県

100万人以上の市　30～100万人の市　10～30万人の市　5～10万人の市　5万人未満の市　町名　村名　字名　地方庁所在地　油田　商港　漁港

使節として来日した銀行家ドッジの指導のもとにさらに徹底した経済安定政策が実施された。

その第1は,単一為替(かわせ)レートの設定で，1ドルを360円と定められた。この算定は，公定価格に準ずる卸売物価指数を基礎として，実効価格基準を公定価格まで引き下げ，通貨安定を図るという効果をねらったものである。第2は，超均衡財政の確立である。予算の均衡は，1949年4月に国会を通過した予算に実現された。その骨子は，①一般・特別の両会計および地方財政を通じて赤字を一掃し，②復興金融金庫をはじめ全政府機関の収支を均衡させ，③援助物資の払い下げ代金で見返り資金を設定し，産業資金の供給源とする，というきびしいデフレ予算であり，ドッジが，日本の経済の2本の足と評した，復興金融金庫融資と対日援助資金を完全にわくにはめたものである。この予算により1949年度・1950年度を経て補給金はほとんど整理され,復興金融金庫の貸し出しも1954年度以降停止された。通貨もやがて安定に近づき，諸統制もはずされた。しかし，デフレ政策によって強制された企業合理化は，雇用の整理や滞貨の増大などを招き，日本経済は安定恐慌状態を呈するに至った。〔原　豊〕

とつぜんへんい【突然変異】変異型を生ずること。遺伝子や染色体は，生物の第1の特徴である安定した自己複製能力をもっているが，一方わずかな率ではあるがもとと違った変異型を生じ，それが複製されていく。突然変異は，遺伝子突然変異と，染色体の構造に変化を生じる染色体突然変異とに大別される。突然変異を起こす率は，生物の種類や遺伝子座によって差があるが，およそ10^{-5}～10^{-6}の値である。また，自然に生じたと同じ種類のものが，放射線やある種の化学物質によって人為的につくりだすことができる。現存している生物の遺伝子型は，長い間の進化を経てつくりあげられたものなので，そこに生じた突然変異のほとんどは自然選択には不利で，しかも多くは劣性である。大部分の突然変異は，形態上はっきり区別できる奇形を生ずるのではなく，むしろ生存率をほんのわずか下げるものである。一方，ごく一部の突然変異は選択的に有利で，進化の重要な素材である集団の遺伝的変異の供給源となっている。〔北川　修〕

とつぜんへんいせつ【突然変異説】突然に現われた大きな変異が進化の原動力であるという説。ド-フリース*がオオマツヨイグサを材料とした研究から，自然選択説を補う進化学説として提唱した。彼の発見した突然変異は，複雑な染色体異常の分離したものであることが明らかにされているが，突然変異が変異の源であり，そこに自然選択が働くという点を最初に指摘した功績は大きい。

とっとり【鳥取(県)】中国地方の北東部，山陰地方東部の県。北は日本海に面し，東は兵庫，南は岡山，南西は広島，西は島根の各県と接する。伯耆(ほうき)・因幡(いなば)両国の全域を占め，面積3,492km^2で，中国地方の最小の県。人口60万6,000は全国都道府県中最低で，最近若年層の県外流出が目だっていたが，いくらかではあるがいわゆるUターン現象が起きつつあり，1970～75年には2.2%(市部6.9%)の人口増加があった。衆議院議員及び参議院議員選挙では，1議席当たり有権者数が全国最少で，最多の神奈川県のそれぞれ45%と19%しかないことが，いつも一票の重みに関連して問題となっている。人口密度は1km^2あたり174人。県花は特産の二十世紀ナシの花，県木はダイセンキャラボク，県鳥はオシドリ。県庁のある鳥取以下4市と6郡(31町4村)に分かれる。市の数は徳島県とともに全国最少である。

〔自然〕県域は東西に長く，南北に短く，高原性の中国山地が大半を占める。中国山



鳥取県　鳥取砂丘の上空から西方を望む。日本海に流れ出る川は千代川で，その向こうが湖山池。遠くはるかに大山がかすんで見える

地の南部は山陽・山陰の分水界をなし，兵庫県境には扇ノ山（おうぎのせん）(1,310m)，中国山地第2の高峰須賀ノ山（すがのせん）(1,510m)，岡山県境には那岐（なぎ）山(1,240m)・蒜山（ひるぜん）(1,200m)・道後山(1,269m)などが連なる。道後山付近の山岳群はスキー・登山・キャンプなどの適地で，日本海の眺望（ちょうぼう）もすぐれ，南方の帝釈峡（たいしゃくきょう）(広島県)とともに，比婆道後帝釈国定公園に指定されている。白山火山帯は中国山地に重なって県域中央部を東西に走り，西部に中国地方の最高峰大山(1,731m)や蒜山などの火山群を噴出させる。大山の周辺部はダイセンキャラボクの純林(特別天然記念物)をはじめすぐれた風光に恵まれ，西方の三瓶（さんべ）山(島根県)や日本海に浮かぶ隠岐（おき）島(島根県)とともに，岡山・島根の2県にまたがる大山隠岐国立公園に指定されている。中部には国民保養温泉の三朝（みささ）温泉があり，その南方岡山県境にある人形峠(735m)はウラン鉱の発掘で知られていたがすでにほとんど採掘しつくしてしまった。日本海に面する海岸線は一般に単調である。島根県境には延長18kmの夜見ケ浜半島の砂嘴*（さし）があり，北西方へ突出する。鳥取市周辺の鳥取砂丘*や湖山池，倉吉（くらよし）平野の北条（ほうじょう）砂丘や東郷池など，砂丘地帯や潟湖（せきこ）が多く，砂丘の一部は耕地化されている。鳥取砂丘の中心部をなす浜坂砂丘は国の名勝・天然記念物に指定され，山陰海岸国立公園の特別保護地区として自然の景観が保たれている。中国山地が海岸線に迫るので，河川はいずれも短い急流となって日本海へ注ぐ。千代川・天神川・日野川の下流流域には，それぞれ鳥取・倉吉・米子（よなご）の小平野が開け，耕地もおもにここに集まる。気候は裏日本式気候で，暖流の対馬（つしま）海流と冬季にシベリア方面から日本海を越えて吹く北西季節風の影響を受けて曇天の日が多く，一般に温暖多雨である。冬季と夏季の気温較差が大きく，鳥取市では1月の平均気温が3.7℃，8月が26.3℃である。降水量は年間を通じてほぼ平均しているといってよいが，その波は不規則で，鳥取市の月平均降水量の最大は9月の238mm，最小は4・5月がともに113mmで，これに次いで雨の少ないのが8月の115mmである。春季には南東季節風が吹いてしばしばフェーン現象を伴い，火災の原因となる。

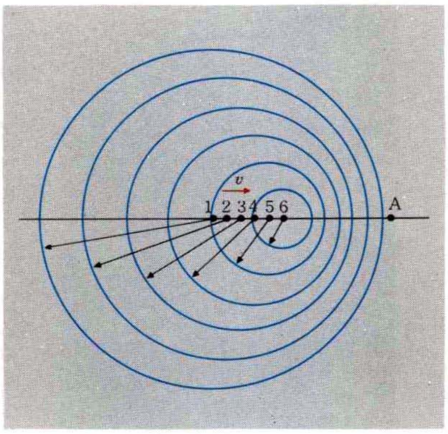
【産業・経済】産業三大別人口比は20:29:51。農林漁業への依存度が強かったが，しだいに工業が興りつつあり，県民1人あたりの所得も，1968年度には全国40位であったが，1977年度は112万4,000円で33位となっている。しかし最近の工業出荷額は頭打ちの傾向で，1975年には1974年の2%減とマイナス成長となっている。農家数は53,000戸で，しだいに減少しており，耕地面積は468km²にすぎず，兼業農家が86%に及ぶ。水田率は67%，米作は鳥取・倉吉・米子などの平野部で行なわれ，米の平年収量は約11万tである。冬の積雪が少なく，かつては二条大麦(ビール大麦)をはじめとする麦類・サツマイモなどの裏作が盛んであったが，いまでは少量のサツマイモのほかは，ほとんど裏作をしていない。野菜は灌漑（かんがい）施設の発達した東部の砂浜地域でおもに栽培され，特産のラッキョウは年産1,500tで，大半は京阪神（けいはんしん）地方へ出荷される。夜見ケ浜半島や大山周辺のスイカ・ネギ・トマト・カンピョウなども特産として知られ，大山山麓（さんろく）では養蚕業が盛んである。くだものでは〈二十世紀〉を主とする日本ナシが天神川流域の斜面を利用して栽培され，年間収穫量は78,000tで，全国の17%を占めて首位に立つ(1975年)。畜産業では〈因伯牛〉の名で知られる和牛(役肉牛)の産地であったが，いまは南西部の日野地方で約30,000頭が飼育されるにすぎない。最近は大山周辺で乳牛の飼育がふえ，頭数は12,000頭，西部ではブタ92,000頭が飼育され，ニワトリも各地で123万羽の飼育があり，ブロイラーの増産も進んでいて，240万羽が飼われ，中国地方では第一である(1975)。林野面積は県域の74%を占め，かつては素材生産量も60万tに達したこともあったが，しだいに少なくなって1975年には31万tにすぎない。千代川上流の智頭（ちず）・若桜（わかさ）地方や日野川上流部が中心地で，樹種はスギ・ヒノキが多く，大山の山麓一帯にはアカマツの美林がある。薪炭類の生産は最近減少し，わずか200t(1975)というのは，大阪府・東京都・奈良県に次いで全国でも下から4番目であるが，シイタケは増産されている。水産業は，沿岸を流れる寒暖両流のために魚種が多く，隠岐水域を中心漁場として境港や泊などを漁業基地として活発に行なわれる。隠岐・対馬方面では巾着網（きんちゃくあみ）でアジ・サバ・イワシなどを漁獲する。東部海域ではカレイ・カニ・イカの底引き網漁業が盛んで，千代川河口の鳥取市に属する賀露（かろ）港では，マツバガニと俗称されるズワイガニの水揚げが多い。内水面漁業では中海（なかのうみ）のウナギ，湖山池や東郷池のウナギ・ワカサギ・コイ・フナ・シラウオ，各河川上流部のアユなどがある。地下資源では，島根・広島両県境に近い日野郡日南町多里の若松・広瀬両鉱山(合わせて多里鉱山ともいう)で，耐火れんが用のクロム鉱を産するのが第一で，全国のおよそ3/4を占め，東部の岩美（いわみ）郡岩美町には和銅年間(708～714)以来の古い歴史をもつ岩美銅山があるが，いまはほとんど採掘されていない。そのほか，八頭（やず）郡にマンガンとケイ石，気高（けたか）郡にウンモと黄鉄鉱などの分布があり，日野市上流部では砂鉄を産する。水力資源では1967年日野川水系の菅沢（すがさわ）多目的ダムが完成し，米子平野流域を潤す灌漑用水，工業用水をはじめ，発電・洪水（こうずい）調節に役だっている。工業出荷額(1975)は食料品が第一で，電気機械器具，パルプ・紙加工品製造，金属製品と続いているが，計3,396億円というのは，全国でも最低の部類に属し，南隣りの岡山県の1/10程度にすぎない。しかし，1963年以来中海の干拓・淡水化が行なわれ，機械・化学・窯業・食料品・木材などの近代工業を主とする臨海工業地帯の造成が進んでおり，1966年に米子・境港の両市を中心とする中海新産業都市に指定された。伝統的な工業としては，各地でコリヤナギ製品・竹製品がつくられ，八頭郡西部の佐治村では〈因州紙〉とよばれる和紙の特産がある。

【交通・都市】山がちの地形で，日本の中枢部から離れているために，交通や都市の発達は一般に遅れ，鉄道営業キロ数は276kmと少なく，市も四つを数えるにすぎない。陸上交通では，北部の海岸沿いを山陰本線・国道9号線が東西に走り，県下の主要都市を結んで幹線の役割を果たしている。山陰本線の支線伯備線・倉吉線・因美線・若桜線，国道29号線・53号線・179号線・180号線は，いずれも県内をほぼ南北に縦断する各河川の上流部へさかのぼり，中国山地を越えて山陽地方との連絡の便に役だっている。有料道路には，大山を中心として，蒜山（ひるぜん）大山有料道路・大山環状有料道路・

大山道路・東大山有料道路があるほか，三朝高原有料道路があり，夜見ケ浜の北端と島根半島を結ぶ境大橋も有料である。バス交通は鳥取・倉吉・米子・境港の４市を中心に発達して山間部まで及んでおり，鳥取市から姫路・大阪へ長距離バスが通じる。1968年には国道53号線につくられていた岡山県境の黒尾トンネルが開通し，1970年末に沿線工事が完了して，鳥取～岡山間を２時間20分で結ぶ幹線道路が開通した。海上交通は境港・米子の両港が中心で，境港から隠岐へ定期航路が通ずるほか，一般にはふるわない。航空路は，境港・米子両市にまたがる米子空港が中心で，全日空の米子ー東京，東亜国内航空の米子ー大阪，米子ー隠岐の定期便があるほか，鳥取空港があるが，現在は定期便は発着していない。都市は日本海沿岸に発達し，鳥取・倉吉は城下町として古くから地方行政の中心地，米子は山陰地方で最も活況を呈する商工業都市，境港は裏日本有数の大漁港と，それぞれに特色がある。倉吉・境港の２市は1953年の町村合併促進法施行以後にできた新市である。

〔歴史〕古くは出雲(いずも)族が居住して早くから大陸文化に浴した地域で，〈国引き〉〈国譲り〉〈因幡の白うさぎ〉などの神話・伝説が知られる。大和(やまと)朝廷の支配下に置かれてからは，因幡・伯耆の２国に分かれて，それぞれ国司が置かれた。因幡の国司では大伴家持(やかもち)・淡海(おうみ)三船・在原業平(ありわらのなりひら)，伯耆の国司では山上憶良(やまのうえのおくら)らの名が知られている。鎌倉時代には佐々木高綱が両国の守護となり，建武の新政に際しては，名和長年が後醍醐(ごだいご)天皇の隠岐脱出を助けた功を認められて守護に任じられた。室町時代には山名氏が代々統治したが，室町末期以来国侍の割拠する小城地に分裂し，戦国時代には出雲の尼子氏による伯耆支配，代わって毛利氏による因伯支配，次いで豊臣秀吉(とよとみひでよし)の天下統一が行なわれた。1600年(慶長５)，関ケ原の役の軍功によって伯耆に中村氏，因幡に亀井(かめい)・池田両氏が封じられた。江戸時代にはいって，1617年(元和３)から池田光政(みつまさ)が両国を統治し，次いで1632年(寛永９)には岡山城主池田光仲が光政と入れ替わって鳥取城にはいり，三十二万石を領して明治維新を迎えた。1871年(明治４)の廃藩置県に際して，因幡・伯耆の両国と隠岐島を合わせて鳥取県が成立した。1876年には島根県に一時合併されたが，住民の希望によって1881年に隠岐島だけを島根県に分離して，現在の県域が確定した。〔浅井得一〕

とっとり　**【鳥取(市)】**　鳥取県の北東部，県庁がある市。人口12万8,000。南東郊の国府町には因幡(いなば)の国府，国分寺跡がある。中世に山名豊国(とよくに)が久松山に築城し，戦国時代には毛利氏の部将吉川経家(きっかわつねいえ)が領したが，豊臣秀吉の包囲によって落城する悲話を残している。関ケ原の役以後，池田長吉(ながよし)六万五千石の城下町となり，江戸初期に池田光政(みつまさ)が因幡・伯耆(ほうき)2国を合わせた三十二万石の領主に封ぜられて，姫路から来城した。さらに1632年(寛永９)，国替えによって池田光仲が岡山から来城して藩祖となり，幕末まで12代の城下町として山陰地方の政治・経済の中心地となった。藩政期には千代(せんだい)川流域の物資を集散する市場の役割を果たしていたが，1912年(明治45)に山陰本線の開通後は阪神(はんしん)地方と経済的に直結し，1933年(昭和８)伯備線も開通，その商圏を広げた。1943年の大地震，1952年の大火と２度の災害にあったが，1953年周辺15か町村を合併し，近代的な耐火耐震建築都市として復興した。1889年市制施行。市域は千代川下流流域に開ける鳥取平野のほぼ全域と，埋め残しの湖山池，北縁を縁取る鳥取砂丘*，小支流河谷と西方の山地などを含む。市街地はシイなどの常緑樹と四季変化する広葉樹におおわれた久松山(264m)を背景に，山の手の武家屋敷・寺院などに城下町のおもかげをとどめる。産業三大別人口比は12:27:61。家具・木工・金属・紡績などの中小工場があり，最近はサンヨー電機・ニフワン・日本フェライトなどの大工場も進出したが，まだ消費都市的な性格が強い。千代川河口の賀露港は，底引き網漁業の基地で，マツバガニの水揚げが多い。新市域の農業生産では平野部の米のほか，山麓(さんろく)部に二十世紀ナシの特産があり，品質・生産高とも日本一を誇る。鳥取砂丘では，イチゴ・メロン・スイカなどがつくられ，葉タバコ・ブドウ・チューリップなどの栽培も盛んである。鳥取大学・津田短期大学・鳥取放送局があり，県の文教の中心となる。山陰本線・因美線・若桜(わかさ)線や，国道９号線・29号線・53号線が集まり，長距離バスが大阪・姫路方面へ通ずる。1967年には賀露～湖山町間に鳥取空港が建設された。鳥取砂丘をはじめ，市街地にわき出る鳥取温泉，保養温泉に指定された吉岡温泉，湖山池など観光資源をもち，先住民族の遺跡や鳥取城跡(史跡)・観音院庭園(名勝)・樗谿(おおちだに)神社・民芸博物館，荒木又右衛門・塙団右衛門(ばんだんえもん)の墓などの史跡に富む。〔浅井得一〕



ドップラー効果　波源が速度vで移動し，観測者が停止している場合。１，２，…は時刻t_1，t_2，…における波源位置。円周は時刻t_nにおける波面到達位置。Ａは観測者位置。Ａに達する波の波長は縮まり，したがって振動数は増加する

とっとりさきゅう　**【鳥取砂丘】**　鳥取県の東部，日本海へ注ぐ千代川の河口両岸一帯に広がる海岸砂丘。東から福部砂丘・浜坂砂丘・湖山砂丘に分かれ，東西約16km，南北約２kmに及ぶ。千代川の運ぶ土砂が沿岸潮流によって海岸にもたらされ，北西季節風の影響を受けて乾燥堆積(たいせき)したもので，最高点は高さ92mに及ぶ。地質は第三紀層を基盤に，古期砂丘，火山灰層，縄文(じょうもん)・土師器(はじき)の遺物を含む腐食層，現砂丘層が重なる重層構造をもつ。起伏の大きい被覆砂丘で，〈すりばち〉とよばれるくぼ地の底には湧水(ゆうすい)があり，コウボウムギ・ハマゴウ・ハイネズなどの砂地植物群落やオサムシ・イソドクグモの穴居もみられる。南部には堰止湖(せきどめこ)の多鯰ケ池(たねがいけ)や潟湖(せきこ)の湖山池がある。マツ・ニセアカシアなどの植林によって緑地化が進められ，南部ではスプリンクラーの灌漑(かんがい)によりブドウ・モモ・イチゴ・スイカ・チューリップなどが栽培されている。浜坂砂丘の一部は国の名勝天然記念物，山陰海岸国立公園の特別保護地区に指定され，多くの観光客を集める。〔味沢成吉〕

とっぱつせいほっしんしょう　**【突発性発疹症】**　２歳までの乳幼児，特に１歳未満に多い一種のウイルス性の急性発疹症伝染病。春と秋に多い。潜伏期は７～17日。38～39℃の高熱が約３日間続き，その後急に下熱すると同時に小斑点(はんてん)状のばら紅色の発疹が出る。発疹はおもに胸腹部に多い。発疹は24～48時間で完全に消失し，落屑(らくせつ)や色素沈着は残さない。予後はつねによく，特別な治療を必要とせず，対症療法を行なうだけである。〔宇留野勝正〕

とっぱんいんさつ　**【凸版印刷(株)】**　わが国の印刷業界の大手会社。1900年(明治33)に凸版印刷合資会社として創立され，1908年株式会社に変更。企画からデザイン・製版・印刷・加工・製品に至るまで一貫生産している。特に高度の技術を要する証券印刷には定評がある。ポリエチレン・塩化ビニロン・アセテート・プラスチックなどの印刷，家具建材の木目印刷から立体印刷など新分野への進出にも意欲的で，業界の指導的役割を果たしている。一般印刷物83％，パッケージ部門14％，株券・債券などの証券印刷部門３％となっている。本社東京，工場は仙台(せんだい)(宮城県)・朝霞(あさか)(埼玉県)・板橋・小石川(東京都)など。資本金181億9,600万円，年間売上高3,634億

円，従業員数8,357(1980年5月)。

ドッブ ［Maurice Herbert Dobb］ (1900～1976) イギリスのマルクス主義経済学者。ケンブリッジ大学を卒業後，ロンドン大学で研究し，《資本制企業と社会的進歩》(1925)で，近代経済学に対する批判を展開した。この年に革命後のソ連を訪れ，帰国後，母校の講師となった。1937年《政治経済学と資本主義》で，前者の論点を発展させ，現代マルクス主義の代表的経済学者としての地位を築いた。1946年《資本主義発展の研究》を出版し，スウィージー*との〈封建制から資本制への移行に関する論争(移行論争)〉は多くの反響をよび，国際的な論争となった。ほかに《革命後ロシアの経済発展》(1928)，《1917年以後のソビエトの経済発展》(1948)などがある。〔林　達〕

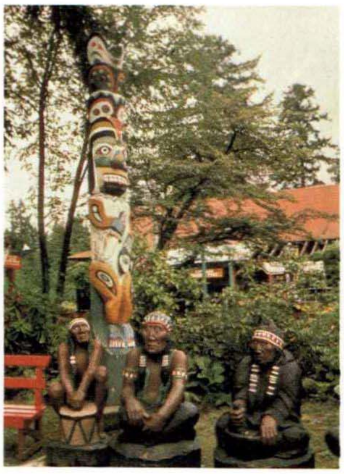
トップ-マネージメント ［top management］ 企業の経営管理組織の最上層部のことで，一般に最高経営者層と訳される。トップ-マネージメントは，企業全体の基本的な経営方針を設定し，それを実施するにふさわしい全体の経営組織を設定して，企業の各要所に有能な人材を配置し，経営活動の全体に対する指導と統制を行なう。

ドップラーこうか 【ドップラー効果】 光や音などの波の振動数が，波源および観測点の運動によって変化したように観測される現象。1842年オーストリアの物理学者ドップラー(1803～1858)により，二重星から地球に達する光に関する論文中で発表された。電車の警笛の音が，近づく間は高く聞こえ，遠ざかるときは低く聞こえるのはこの現象の好例である。振動数の変化は，波源の速度v_s，観測点の速度v_0が波の伝わる速度cより小さいとき，波源の振動数をn，観測される波の振動数をn'とすれば，$n'=n(c-v_0)/(c-v_s)$で求められる。なお，波を反射する物体が運動しているときもこの現象が起こる。この原理は，電波を利用して天体の運動を測定するときなどに利用される。➔前ページ(図)　〔池谷和夫〕

とつめんきょう 【凸面鏡】 ⇨球面鏡

ドーデ ［Alphonse Daudet］ (1840～1897) フランスの小説家。南フランスの絹工場主の家に生まれたが，父が破産したため苦しい少年時代を各地で過ごした。はじめ詩人として出発したが，ゾラ*・ゴンクール兄弟*らと交わり，有名な《アルルの女》を含む短編集《風車小屋だより》で小説家として名声を博した。自然主義*の影響下にありながら，人間に対する愛情と信頼を持ち続け，《タルタラン-ド-タラスコン》など三部作には陽気な哄笑(こうしょう)が満ちている。小説《月曜物語》や戯曲・随筆がある。

とていせいど 【徒弟制度】 ヨーロッパで中世盛期に成立した手工業者養成のための制度。親方・職人・徒弟の3者からなっており，徒弟は10歳ごろから親方の家に住み込んで技術を習い，家の雑務にも従った。



トーテミズム トーテムポール　トーテムを祖先とする神話・伝承をもつ北アメリカ-インディアンの氏族・種族の象徴。カナダ，バンクーバのスタンレー公園にあるもの



トド

徒弟の期間は4年から12年までいろいろで，1人の親方のもつ徒弟は1～2人にすぎなかった。徒弟の労働時間は1日に10数時間でその修業はきびしかった。徒弟期間を終えた者は職人となった。ドイツでは，職人は各地の親方を遍歴して腕をみがく義務があった。同職組合の組合員の資格は親方のみに限られているが，中世末には職人の数が増大していつまでも親方になれないため，職人の不満が増大して職人組合ができた。

トーテミズム ［totemism］ 北アメリカ-インディアンのオジブワ族のことばに由来し，人間集団とある動植物(または自然物の種)との特殊な関係をめぐる信念・儀礼・習俗の制度的体系をいう。トーテミズムの基本観念は，あらゆる生物・無生物・自然力は本来関係し合い統合されているとみる点にある。トーテム(動植物・自然種)は集団的象徴であるから，特定個人に関係のある動植物や自然力の守護霊とは区別される。また，集団と動植物などとの結合がすべてトーテミズムであるわけではない。その特徴は，①ある種族が相互認知的な集団に分かれ，それぞれが生物・無生物の種(トーテム)と特殊関係をもつ，②同一トーテム集団間の婚姻は禁止される，③集団成員の資格は変えられない，④同一集団は共同祭儀を行なうなどである。〔佐々木宏幹〕

とど 【胡獱】 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・鰭脚(ききゃく)亜目・アシカ科。アシカ科中最大で，雄は体長3.5m，体重1t以上に達するが，雌はそれよりも小さい。北太平洋北部に分布し，日本では北海道から青森まで姿を見せる。魚類・イカ類などを食べる。性質は獰猛(どうもう)で，漁網にかかった魚などをも襲い，漁業に大きな害を及ぼす。注意深いので人の接近を容易に許さず，危険を感ずると岩上から海上へとのがれる。

ドードー ［dodo］ 鳥類・ドードー科の総称およびそのうちの一種のよび名。マダガスカル島の東にあるインド洋の離島マスカリン諸島に，18世紀末まで生息していた，飛行力のない体重20kg以上もある脚の短い特異な鳥。従来はハト類と近縁であるとされていたが，最近の研究によると，クイナ類により近縁であるともいう。16世紀にポルトガル人がこの島にはいり，食料として殺したほか，移入したブタやサルがこの鳥の卵やひなを食ったため，生きた鳥はヨーロッパの学者に一度も触れることなく，1800年を最後に絶滅した。骨格は多数残っており，3種に分類されている。ドードーはその一種で，体色は灰青色であったという。当時この島にいた人のスケッチや骨格から復元図がつくられている。〔安部直哉〕

どどいつ 【都々逸】 俗曲の一種。三味線(しゃみせん)伴奏で，寄席(よせ)や宴会などで歌われるものの代表的なもので，小曲ながらまとまりがよいため広く親しまれている。歌詞は江戸初期に定型化された7・7・7・5の26文字で，しばしばこの型は都々逸型とよばれるが，歌自体は名古屋で19世紀初めに形成されたといわれる。これを広めたのは江戸の寄席芸人都々逸坊扇歌(1796～1852)で，1823年(文政6)に発表された清元の《子守(こもり)》の中に，〈わたしゃどうでもこうでも，あの人ばかりはあきらめられぬ，じゃによって讃岐(さぬき)の金毘羅(こんぴら)さまへ願でもかけましょうか〉というような字余りの都々逸が組み込まれていて，当時の流行ぶりを示している。〔徳丸吉彦〕

とどうふけん 【都道府県】 地方公共団体*の一つで，市町村を包括する普通地方公共団体。市町村の住民をその住民として構成される。議決機関として都道府県議会，執行機関として知事および教育委員会・選挙管理委員会・人事委員会・公安委員会・監査委員などを置く。都・道・府・県それぞれの性格はほぼ同じであるが，都は特別区*との関係を調整する上の特例などがあり，道は知事補助部局として開拓部を置くなどの点で府県と異なる。都道府県は自治立法権・自治財政権・自治行政権を有し，固有事務・委任事務・行政事務の処理にあたる。なお市町村は都道府県に包括されるが権限は対等である。➔地方自治　〔寺尾方孝〕

とどうふけんどう 【都道府県道】 道路法で区分している道路網の一。地方的な幹線道路の性格をもち，都道府県知事がそれぞれ管轄する区域内にある部分について認定した路線をさす。一般に都道府県道は二つ以上の市町村を経由する幹線で，これら市町村と主要港・主要停車場・主要観光地を結び，またこれらと密接な関係のある高速自動車国道・一般国道にも連絡している。

とどまつ 【椴松】 裸子植物・マツ科。アカトドマツとアオトドマツの総称。北海道以北の平地から深山にはえる常緑高木。アカトドマツの樹皮は紫かっ色をおびて裂けるが，アオトドマツは裂け目ができない。球果は長さ約7cmで，アカトドマツではかっ色，アオトドマツでは黒色から緑色がかる。材は建材・電柱・パルプ原料やマッチの軸などに用いられる。

トトメス(3世) [Thutmes] (?～BC1436ごろ) 古代エジプト第18王朝の王。在位BC1490ごろ～BC1436年ごろ。古代エジプト史上最大の英王で，エジプト新王国の帝国支配体制の確立者。治世は妻ハトシェプスト*女王と共同統治，治世22年の女王の死後直ちにアジアに出兵，以後17回に及ぶ遠征によって，ミタンニ王国，シリア・パレスチナの都市国家，ヌビアの第4急流地方などを征服，エジプトの版図を史上最大とした。ヌビアには総督をおいて直接支配し，アジアでは原則として都市国家の自治を認め，貢納と世子を人質に送る義務を課し，また要拠は直轄地として守備隊を置くなど，対外領土の恒常的な支配体制を確立した。当時のオリエント世界の強国バビロニア・アッシリア・ヒッタイト・ミタンニなどもこぞって朝貢し，それらの膨大な富を用いてカルナク神殿*のアモン大神殿の増改築をはじめ，ヌビアを含む国内各地に多くの神殿を造営した。 〔屋形禎亮〕

ドナウ(川) [Donau] 英語ではダニューブ川という。ヨーロッパ大陸ではボルガ川に次ぐ第2の長河で，水源の西ドイツから河口の黒海まで8か国の国内および国境を流れる。全長約2,850km。西ドイツのシュワルツ-ワルト(黒い森)東麓(とうろく)に源を発して東流し，パッサウでオーストリアにはいり，リンツ・ウィーンを経てブラチスラバでいったんチェコスロバキアにはいるが，ここからオーストリアとチェコスロバキアとの国境を約160km流れて南に折れ，ハンガリーの中央部を南流してユーゴスラビアにはいる。ユーゴスラビアのベオグラードを経てからはルーマニアとブルガリアの国境を流れる。ルーマニアの南東部で北に向きを変えて，ルーマニアとソ連との国境を形成しつつ，大きなデルタをつくりながら黒海にはいる。支流は300に達し，流量の変動も小さい。小形船では河口から西ドイツのウルムまで，大形気船では同じくレーゲンスブルクまでさかのぼれる。ブラチスラバより上流は河幅300m以下，ウィーンより下流は河幅2,500mである。この川の自由航行は何世紀にもわたって国際問題となってきたが，1856年のパリ条約で国際河川と宣言され，航行の調整と管理のためのドナウ航行委員会がつくられたが，1948年ベオグラードの会議で自由航行権の分離条約が沿岸諸国の間で調印され，非流域国の管理権などは実質上締め出された。 〔大石堪山〕



トナカイ

となかい 【馴鹿】 哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・シカ科。頭胴長1.2～2.2m，肩高1.1～1.4m，体はがんじょうで，大きなひづめがあり，雪の上を歩くのに適す。雄・雌ともに掌状に分かれた枝角がある。ヨーロッパ・アジア・北アメリカなどの寒帯林とツンドラに分布し，群で生活する。地衣類を食べ，ツンドラにすむものは冬になると食物を求めて南方へ移動する。スカンジナビア半島などは古くから飼育され，運搬用・肉用・毛皮用などにされる。

ドーナツ [doughnut] 小麦粉に卵・砂糖・膨化剤などを混ぜて練り，油で揚げた菓子。原義は金具のナットの形に似ているドウ(こね粉)を意味する。脂肪が多くカロリーに富む。ボールでバターを練り，砂糖・卵黄・牛乳・香料を加え，その中にベーキングパウダーを混ぜた小麦粉を混ぜて練り，種をつくる。種を厚さ1cmぐらいに伸ばしたものをドーナツ型でリング状に抜き，これを油で揚げて粉砂糖をまぶす。揚げてからあまり時間のたたないほうがおいしい。形はアメリカではリング状，イギリスでは丸形，わが国ではリング形が一般的で，ほかにロングドーナツ，ロールドーナツ，あん・クリーム入りの丸形などがあり，また牛乳と卵を多くしたソフトドーナツもある。

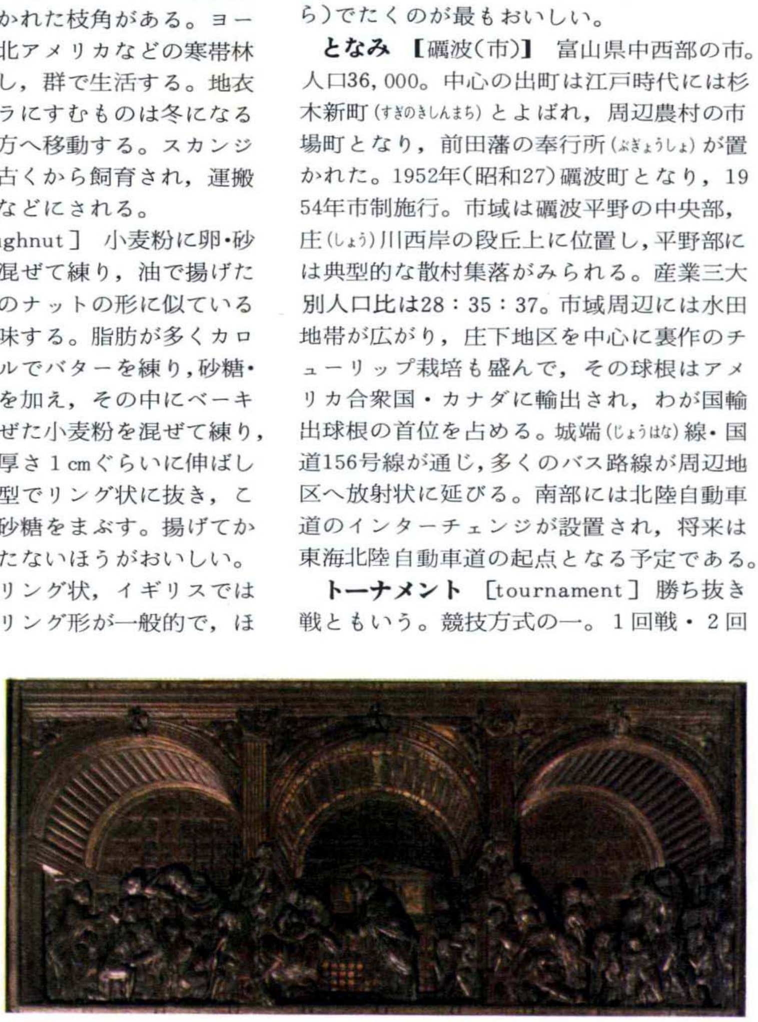
ドナテッロ [Donatello] (1386?～1466) 本名ドナトーディ-ニコロ-ディ-ベット。ドナテッロは愛称。ミケランジェロ*と並んでイタリア-ルネサンス期最大の彫刻家といわれる。その作品と精神は15世紀末イタリア絵画にも著しい影響を与えた。フィレンツェ本寺のために延べ30年間制作に携わり，洗礼堂の扉(とびら)彫刻，木彫の《マグダラのマリア》像をはじめ，大理石像《ダビデ》《ヨハネ》像など傑作を残している。建築でもミケロッツォ*らとともに一連の作品をつくった。古代彫刻の精神にのっとりながら，遠近法やドラマチックなスタイルを開拓し，ルネサンスの可能性のすべてを具現したものとして，その後のイタリア彫刻の典型となっている。 〔井関正昭〕

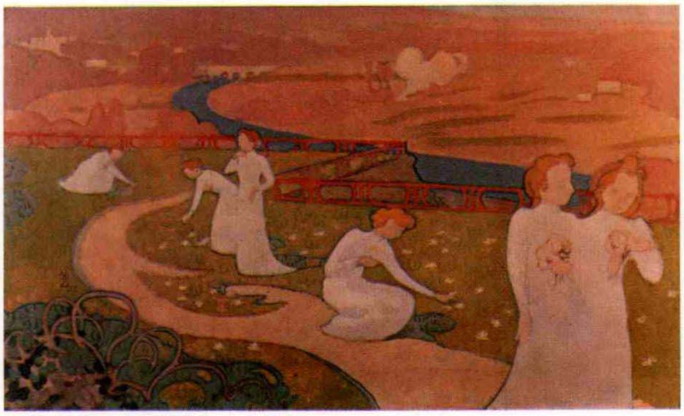
どなべ 【土鍋】 陶製のなべ。その起源は古く，かつ広く使用されたが，鉄なべの普及に伴ってしだいにすたれた。しかし，なべの内側に釉薬(うわぐすり)をかける土なべは，厚みがあるので火からおろしても急にはさめず，また金気がないので料理の味がよく仕上がるのが特長で，なべ焼きうどん・湯豆腐なべ・柳川(やながわ)なべ・寄せなべなどに多く用いられ，粥(かゆ)も土なべ(ゆきひら)でたくのが最もおいしい。

となみ 【礪波(市)】 富山県中西部の市。人口36,000。中心の出町は江戸時代には杉木新町(すぎのきしんまち)とよばれ，周辺農村の市場町となり，前田藩の奉行所(ぶぎょうしょ)が置かれた。1952年(昭和27)礪波町となり，1954年市制施行。市域は礪波平野の中央部，庄(しょう)川西岸の段丘上に位置し，平野部には典型的な散村集落がみられる。産業三大別人口比は28：35：37。市域周辺には水田地帯が広がり，庄下地区を中心に裏作のチューリップ栽培も盛んで，その球根はアメリカ合衆国・カナダに輸出され，わが国輸出球根の首位を占める。城端(じょうはな)線・国道156号線が通じ，多くのバス路線が周辺地区へ放射状に延びる。南部には北陸自動車道のインターチェンジが設置され，将来は東海北陸自動車道の起点となる予定である。

トーナメント [tournament] 勝ち抜き戦ともいう。競技方式の一。1回戦・2回

ドナテッロ《聖アントワーヌの奇跡》 1414～1454





ド　ニ《四月》



利根川　下流の低地を流れる利根川。印旛沼の北方，千葉県栄町(安食)付近の上空から望んだもの。手前が下流で，対岸は茨城県河内村

戦と順を追って試合をし，それぞれの回の勝者が次の回数へ進んで，準々決勝・準決勝戦に臨む。なお，ふつう，強い者が1回戦から顔を合わせないようにすることや，参加者が2の累乗でない場合に強い者を低回数の試合から除外し，途中から参加させることをシードという。また，ボート競技などでは敗者どうしが試合を行なって，その勝者が上の回戦に参加することができる敗者復活制が併用され，6人制都市対抗バレーボール戦などでは2敗失格制が併用される。➔リーグ戦　〔鈴木美嶺〕

となりぐみ　【隣組】　第2次世界大戦中のわが国で設けられた国民統制の末端組織。町内会・部落会の下部組織で，戦時下の食糧その他生活必需品の配給や，国策伝達の徹底を目的とした。江戸時代の五人組*・十人組の趣旨を取り入れ，約10戸を単位として組織された。

ドニ　［Maurice Denis］（1870～1917）フランスのナビ派の画家。ゴーガン*の影響を受けた。絵画とは〈本質的には一定の秩序に配置された色彩でおおわれた平面である〉という語句は有名だが，晩年は宗教的・思想的主題を象徴的に表現する画風へと変化した。代表作の《セザンヌ頌(しょう)》は印象派との関係の深さを思わせる構成である。

ドニエストル(川)　［Dnestr］　ソ連南西部の川。カルパート山脈北部に発し，ウクライナ共和国の西部を南東流して黒海にはいる。全長1,360km。河口の北東30kmにオデッサがある。内陸水路として穀物などの運搬に重要な役割を果たし，河口から800km上流まで航行が可能である。

ドニエツク　⇨ドネツク

ドニエプル(川)　［Dnepr］　ソ連西部を流れる川。モスクワ西方のバルダイ丘陵南部，スモレンスク付近から発し，白ロシア・ウクライナ両共和国を南に流れて黒海にはいる。全長2,285km。運河によってドビナ・ビスラなどの各河川と結ばれ，黒海とバルト海を結ぶ重要な水路となっている。沿岸には，スモレンスク・モギリョフ・キエフ・ドニエプロペトロフスクなどの都市がある。かつて渇水期には航行ができなかったが，ダムの建設によって流量の調節が行なわれるようになってから航行が便利になった。1932年に完成したドニエプル水力発電所(出力55万8,000kW)がある。　〔大石堪山〕

ドニエプロペトロフスク　［Dnepropetrovsk］　ソ連，ウクライナ共和国のドニエプル川*下流域にあるドニエプロペトロフスク州の州都。旧名エカテリノスラフ。人口97万6,000(1976)。ドニエプル川河港とハリコフ・ドネツクへ通ずる鉄道の要衝をなす。ドニエプル川沿岸の製鉄の中心で，冶金(やきん)・鋼管・機械工業などの盛んな重工業都市である。19世紀末にドネツ炭田・クリボイログ鉄山の開発につれて重工業都市として発展し，革命後の1932年にはドニエプル水力発電所も完成した。冶金・農業関係の大学と研究所がある。　〔斎藤晨二〕

トニオ-クレーガー　T.マン*の短編小説(1903)。芸術の反市民的本質を宿命的に受けながら，生との一体感に浸る市民的な生活者に，憧憬(どうけい)を禁じえない芸術家の内面の葛藤(かっとう)と克服とが描かれている，作者の基本的な主題を結晶させた作品。

ドニゼッティ　［Gaetano Donizetti］（1797～1848）　イタリアのオペラ作曲家。ベルガモの生まれ。ベルガモの音楽学校とボローニャ音楽院に学んだあと，父の束縛からのがれるために軍隊にはいり，兵籍にあるまま1818年にオペラ《ボローニャのエンリコ》を発表して成功し，以後次々とオペラを書いた。1830年に若いベリーニ*に刺激されてミラノで発表した《アンナ-ボレーナ》の成功で国際的な名声を得るに至った。以後《愛の妙薬》(1832)，《ルクレチア-ボルジア》(1833)，《ランメルムーアのルチア》(1835)などの傑作を書いた。1839年に検閲問題が起こり，翌年パリに行き《連隊の娘》(1840)を発表。1842年にはウィーンで成功し，宮廷作曲家の称号を受けた。再びパリで《ドン-パスクワーレ》(1843)を発表し，最後のオペラ《カテリーナ-コルナーロ》(1844)を書いたころから頭痛に悩まされ，ベルガモで没。ベル-カント-オペラの代表的な作曲家で70曲近いオペラを残した。　〔向坂正久〕

とねうんが　【利根運河】　利根川と江戸川を結ぶ運河で，千葉県柏(かしわ)市田中から流山(ながれやま)市新川まで通じており，延長9km。江戸時代には銚子(ちょうし)から関宿(せきやど)まで利根川をさかのぼり，それから江戸川を下るという迂回(うかい)した水路によって，東北地方から米などが運ばれていたが，明治になってこれを短縮するために，利根運河が掘られた。オランダ人技師の設計によって1890年(明治33)工事が完成，銚子から東京まで川蒸汽で1日で行けるようになった。しかし鉄道交通の発達により，しだいにその機能を奪われ，土砂もたまって，水運には全く利用されなくなり，1941年(昭和16)に閉鎖した。しかし東京都の水不足を補うため，1973年から建設省が改修工事を行い，1975年完成，毎秒10tの水を江戸川の浄水場に放流している。

とねがわ　【利根川】　関東地方西北部山地の水を集め，関東平野北西隅(ぐう)に出，平野部を斜めに南東へ流れて銚子(ちょうし)市で太平洋に注ぐ。本流の長さ298kmは，信濃(しなの)川・天塩(てしお)川に次ぎわが国第3位，流域は群馬・栃木・埼玉・千葉・茨城県と東京都にわたり，流域面積は16,800km²で第1位である。水量が豊かで規模が大きいため，〈坂東太郎(ばんどうたろう)〉の称がある。水源は三国山脈の上越国境をなす大水上(おおみなかみ)山で，藤原から沼田盆地までは深い峡谷

をつくり，景勝地が多い。この奥利根は近年電源開発が進んで矢木沢・須田貝(すだがい)・藤原などにダムと発電所が完成し，中でも矢木沢は最大出力24万kW，京浜への電力供給の有力地になっており，さらに沼田付近にもダム建設の計画が進行中である。吾妻(あがつま)川が合流する渋川市付近から峡谷を出，前橋市を過ぎて平野にはいると西から碓氷(うすい)川・鏑(かぶら)川・神流(かんな)川が合流する。中流部，北からの支流渡良瀬(わたらせ)川が合流するあたりは低湿地が多く，つねに氾濫(はんらん)がくり返されたところで，いまでも古河市付近に遊水池が数多く残されている。かつて利根川の流路はこのあたりから南下し，現在の古利根川を水路として江戸東部でいまの東京湾に注いでいたが，江戸を洪水禍(こうずいか)から守るために，1621年(元和７)以来30余年を費やした大工事によって鬼怒(きぬ)川に水路を開き，水を銚子に流して太平洋に注ぐようにした。以後利根川本流は，鬼怒川・小貝川・手賀沼・印旛沼(いんばぬま)の水を集め，下流では霞ケ浦(かすみがうら)・北浦の水を入れることになった。下流部一帯は低湿地で水田が広く開け，早場米の産地であり，また独特の水郷風景は観光地として知られている。利根川下流と北浦に囲まれた鹿島(かしま)海岸は近年鹿島臨海工業地域の造成でにわかに活況をおびており，河口の銚子港は漁港として有名である。〔長津一郎〕

ドネツ(炭田)　［Donets］　ロシア語の略称はドンバス。ソ連最大の炭田で，ウクライナ共和国南東部からロシア共和国の南西部にわたるドネツ川下流部沿岸一帯を占め，面積約60,000km²。一帯は400km西のクリボイログ・ケルチなどの鉄鉱産地と結んで，製鋼・冶金(やきん)・機械工業が盛んである。出炭量は1965年で約２億t，全国の３分の１を占めた。推定埋蔵量は約2,400億t。

ドネツク　［Donetsk］　ソ連南西部，ウクライナ共和国の東部にある工業都市。人口97万(1976)。ドネツ炭田*(ドンバス)にあるソ連屈指の工業都市で，石炭・冶金(やきん)・機械・化学などの重工業が盛んである。1869年イギリス人ヒューズがロシア最初の近代的な冶金工場を建設したのに始まり，当時南部ロシアの新興工業都市として知られ，1924年まではユーゾフカとよばれていた。第１次５か年計画時代はソ連で最も重点的な重工業化が行なわれ，多数の工業が建設された。市名は，1924～1961年の間スターリノと称された。〔斎藤晨二〕

とねり　【舎人】　律令(りつりょう)制下，天皇・皇族・貴族に近侍し，護衛・雑役をつとめた下級官人。貴族の子弟から選任される内舎人(うどねり)のほか，下級官人の子弟および白丁(庶人)から選任される大舎人・中宮舎人・東宮舎人があり，また皇族に仕える帳内，貴族・高級官僚に支給された位分資・職分(しきぶん)資人(帳内・資人の訓はいずれも



トノサマガエル

〔とねり〕)などがあった。また左・右兵衛府(ひょうえふ)の兵衛も〈とねり〉といわれた。これらは，いずれも大化(645～649)前代の天皇親衛軍の構成員，ないしはそれに準ずる職に系譜をもつ者であった。〔黛　弘道〕

とねりこ　【梣】　双子葉植物・モクセイ科。山地にはえる落葉高木で，各地で栽培もされる。高さ６ｍに達し，樹皮は暗かっ色で，枝は太い。葉は５～７小葉からなる羽状複葉で，小葉は長卵形で長さ５～15cm，幅３～６cm，小葉の付着点にかっ色の毛がある。３～４月，葉の出るまえに前年の枝先に円錐(えんすい)花序をつける。花は小さく，がくは４裂し，花冠は通常ないがまれに早脱性の白色花弁がつく。雌雄異株で，雄花には２本のおしべ，雌花には１本のめしべと退化した２本のおしべがある。果実には羽があり，長さ３～４cm，幅５～７mm。材はじょうぶで弾力性があり，バット・ステッキ・ラケットや家具などに用いられる。また，樹皮を秦皮(しんぴ)といい，消炎・収斂薬(しゅうれんやく)とする。近縁種に高さ10ｍに達する落葉高木のシオジや，高さ20～25ｍになるヤチダモがある。〔加藤僖重〕

とねりしんのう　【舎人親王】　(676～735)　奈良初期の皇族政治家。天武天皇の第５皇子(《続日本紀》には第３皇子)。母は天智(てんち)天皇の皇女新田部(にいたべ)皇女。718年(養老２)位階一品(ぽん)に進み，翌年封戸を追贈されて2,000戸に達した。720年《日本書紀*》を完成奏上し，同年知太政(ちだじょう)官事となった。死に際して太政大臣を贈られ，子の淳仁(じゅんにん)天皇*が即位するに及んで崇道尽敬(すどうじんけい)皇帝の号が贈られた。

とのさまがえる　【殿様蛙】　両生類・アカガエル科。代表的な低地性のカエル。体長６～９cmで，雌は大きい。平野の池や小川に近い草むらにすみ，あまり水辺から離れない。じょうぶな後肢(こうし)には蹼(みずかき)が発達し，水泳がうまく，危険を感じると水に飛び込んで底のどろにもぐる。産卵期は地方により異なるが４～６月で，水田などに群をなして盛んに鳴く。卵塊は直径20cmくらいで，１回に1,000個以上を産卵する。本州の大部分と四国・九州・朝鮮・中国に分布し，近縁種はヨーロッパにも分布する。

とのさまばった　【殿様蝗虫】　こん虫類・直翅(ちょくし)目・バッタ科。大形で，翅端までの体長45～65mm，個体によっては緑色部を欠き，ほとんど全体灰かっ色。前翅は長く，後翅は基部が黄色をおびるほか全体無色透明。日本全土を含む旧北区のほぼ全域からアフリカまで広く分布する。単独相・群生相の２型がある。前者の成虫は８～９月ごろ出現し，日あたりのよい草地や荒地に生活し，各種の雑草を食べ，群生することはない。後者は群生して大群となって移動し，農作物にしばしば壊滅的な損害を与える。これらの２型は，温度・湿度・日光・食物などの諸条件の適当な組み合わせのもとに生ずる。群生相のものは単独相のものに比べて両翅が長く飛行に適しているほか，前胸背がややくぼんで短く，著しくせばまり，正中線上の隆起線を欠き，後腿節(たいせつ)が短いなどの点で区別できる。群生相は，個体群の密度が高い条件で生育でき，実験室内で単独相のものからつくりだすこともできる。➔飛蝗(ひこう)〔鈴木邦雄〕

とのしょう　【土庄(町)】　香川県小豆(しょうず)郡の町。人口22,000。小豆(しょうど)島の北部を占め，豊島(てしま)などの小島を含む。中心地区土庄は島の交通・観光の中心で，大阪・高松から定期船，岡山・高松から高速船，岡山・高松・宇野からフェリーボートが通じ，島内一周のバスの起点でもある。小豆島観光に訪れる人は年に70万に達し，ホテルなどの観光施設が整備されている。段々畑が多く，麦類・ミカン・サツマイモなどをつくる。港の近くには壺井(つぼい)栄の小説《二十四の瞳(ひとみ)》の記念像が立っている。

とのむらしげる　【外村繁】　(1902～1961)　小説家。本名茂。滋賀県の生まれ。東京大学経済学部卒。卒業後一時家業に従ったが，1933年(昭和８)同人雑誌《麒麟(きりん)》に参加，《鵜(う)の物語》を発表。1935年《草筏(くさいかだ)》が第１回芥川賞*候補になり注目された。その後は私小説*に独特のさえをみせ，三部作《筏》《草筏》《花筏》や，自己の性欲史を描いた《澪標(みおつくし)》などがある。

とば　【鳥羽(市)】　三重県中東部の市。人口29,000。戦国時代に九鬼義隆(よしたか)が築城し，江戸中期以後は稲垣(いながき)氏三万石の城下町であった。1954年(昭和29)市制施行。市域は志摩半島北東部と伊勢(いせ)湾内の答志島・神島・菅(すが)島などを含む。産業三大別人口比は22：26：52。鳥羽港は沿岸航路や遠洋漁業の基地となり，水産加工・電気機械などの工業も盛んである。参宮線の終点にあたり，近畿(きんき)日本鉄道志摩線・国道167号線が英虞(あご)湾に臨む賢島に通じ，伊勢市との間に伊勢志摩スカイライン，志摩郡阿児(あご)町へ志摩パールロードの有料道路が通ずる。伊勢志摩国立公園の中心部にあり，水族館・イルカ島などの観光施設が整い，三河湾国定公園と結んで，知多半島南端の師崎(もろざき)へフェリーボート，渥美半島西端の伊良湖(いらご)へフェリー

ボート・ホーバークラフト・水中翼船が通じ，ホーバークラフトと水中翼船は蒲郡(がまごおり)まで延長している。

ドーバー ［Dover］ イギリス，イングランド南東端，ドーバー*海峡に臨む港市。フランスおよびベルギーに最も近く，カレー(フランス)・オーステンデ(ベルギー)・ダンケルク(フランス)に定期船が通う。北東方の高さ113ｍの岬(みさき)に，かつてノルマン人やサクソン人が建設した城砦(じょうさい)が残っている。イギリスの歴史上しばしば重要な役割を果たし，第１次・第２次世界大戦中も軍事基地として知られた。

ドーバー(海峡) ［Dover］ イギリス海峡東部，グレートブリテン島の南東端と，フランス北部海岸との間にある海峡。最狭部33km。海峡をはさんで，イギリスのドーバー，フランスのカレーの港市があり，この間を定期船が結んでいる。北海から大西洋に出る航路の要衝。白亜紀の地層が侵食されてできたイギリス側の白い海食崖(かいしょくがい)は〈ドーバーの白いがけ〉とよばれて有名である。水泳によって海峡横断を試みるが，潮流が早いため成功者は少ない。

とばえ 【鳥羽絵】 江戸時代に栄えた戯画。世俗的な題材を軽妙な筆で描いたものが多い。《鳥獣戯画》の筆者と伝えられる鳥羽僧正覚*猷(かくゆう)にちなんでこの名がある。

とばく 【賭博】 偶然の勝負について財物をかけて勝敗を争う娯楽。

〔歴史〕起源は古く，人類が遊ぶ知恵をもちはじめたときに始まったといわれる。アメリカ大陸の原始遺跡などに人々がかけ事をしている壁画があり，また古代エジプトの文献にも，ＢＣ1600年ごろの賭博の状況が記されている。古代ローマでも，モーラといわれる拳(けん)賭博があったらしく，かけ卓も発見された。インドでは紀元前数千年前にすでに*賽(さい)を使う遊技があり，それが中国・朝鮮を経て,735年(天平７)ごろわが国に渡来したといわれ，また中国では約3,000年前に囲*碁が発明され，その後賭博に利用されたといわれる。わが国でも《日本書紀》の〈天武紀〉に，〈王卿(おうけい)らを殿前によび以(もっ)て博戯せしむ〉とあるが,持統天皇の代に双*六(すごろく)禁止令が出されている。また《延喜式》にも身分の上下を問わず，いっさいの賭博を禁ずる布達があるが，一般にはひそかに行なわれていたようである。鎌倉・室町時代には，かけ事の種類も多くなり，江戸時代には丁半賭博が盛大をきわめ，やく*ざ組織が台頭するようになった。明治・大正・昭和を通じ，政府は一貫して賭博を禁じたが，競*馬などには開催者を決めて公認した。しかし第２次世界大戦後，国や地方公共団体の財政事情の悪化から，宝*籤(たからくじ)の発売，競*輪・競艇の開催など次々に拡大してきているが，最近東京都の競馬・競輪の廃止をきっかけに反省期にはいりつつある。外国には観光のため認めている国



ドーバー海峡　海峡に面するイギリス側の〈白いがけ〉。がけの上はゆるやかに起伏する美しい緑の草地が広がる



トパズ　岐阜県苗木地方

(モナコ・澳門(マカオ))もあるが，多くの国は禁止の方向にある。

〔賭博心理〕賭博は，遊戯の一種であるが，問題となるのは，まじめな勤労の対価であるはずの金品が安易にかけられる反面，労せずして多大の金品を短時間で手中にする射幸性にある。また，賭博は麻*薬に似てその興味と緊張のとりこになれば，理性が麻痺(まひ)し，まったく勤労意欲が失われる。この結果，犯罪の実行，家庭の破壊に連なることが多い。そのうえ賭博の興味は，人為の介入しないもの，偶然性の大きいものほど増すといわれるので，これが蔓延(まんえん)すれば勤労の軽視・技量の劣視が起こり，国民一般を退廃化する。しかし人間生活が偶然性に支配される面があるかぎり，賭博を人間生活から切り離すことは不可能である。むしろその程度・内容に一定の標準を置き，それ以上を禁止する方法しかない。

〔種類〕使用する用具とかけの対象によって，次の五つに分けられる。①賽を使用するもの。賭博の代表的なもので，賽の出目の如何(いかん)によって争う遊戯(丁半ばくちなど)。②牌(はい)を使用するもの。マージャン・花札・トランプが代表的。③機械を使用するもの。ルーレット・スロットマシン・ビンゴ・パチンコが代表的。④スポーツを対象とするもの。競馬・競輪・オートレースなどのあらゆるスポーツを対象とするもの。⑤籤を対象とするもの。宝籤など数が多い。→賭博罪　〔井上公耳〕

とばくざい 【賭博罪】 偶然の勝負について財物をかけて博戯・賭事をする罪。刑は50,000円以下の罰金または科料。ただし，一時の娯楽に供する物をかける場合はこの罪に問われない(刑法185条)。〈偶然の勝負〉とは，勝負が偶然にのみ決する必要はなく，マージャンなどのように，当事者の技能がかなり関係する競技であっても，偶然の要素があればこれに該当する。〈財物をかけて〉とは，現実に財物を交付する場合にかぎらず，その約束だけで足りる。〈博戯〉とは，当事者の行為によって勝負の決するもの(マージャン・トランプ・花札など)をいい，〈賭事〉とは当事者の行為には関係なく勝負の決するもの(ルーレット・丁半・籤(くじ)など)をいう。〈一時の娯楽に供する物〉とは，関係者が即時に娯楽のために消費する飲食物・たばこの類をいい，金銭は少額とはいえども含まれない。常習者は刑が加重され，３年以下の懲役(刑法186条１項)，賭博場を開設して利を図った者および博徒を集めて利を図った者は，いずれも３月以上５年以下の懲役(刑法186条２項)に処される。

トパズ ［topaz］ 黄玉ともいう。フッ素を含むアルミニウムのケイ酸塩鉱物。$Al_2[SiO_4][F,OH]_2$ 斜方晶系，比重3.52～3.57，硬度８，劈*開(へきかい)完全，柱状，あるいは塊状で産し，透明ないし半透明。色は無色・白色・黄色・緑色などで，美しいものは宝石として用いられる。火成岩の結晶化の最後の期間中に，フッ素を含んだ蒸気の作用によってできる。流紋岩・カコウ岩の空隙(くうげき)，ペグマタイ*トの晶洞(しょうどう)やセキエイ脈に産する。11月の誕生石。なお，茶色・黄色の水晶もこの名まえで売られている。　〔加藤敏郎〕

とばた 【戸畑(区)】 福岡県，北九州市の中部地区。古くは鳥旗・飛幡などと書かれた農漁村地帯であった。1901年(明治34)，八幡(やはた)製鉄所(現在の新日本製鉄)の創業以来関連産業が興り，1905年筑豊(ちくほう)炭の積み出し港として戸畑港が築港され，1908年鹿児島本線の開通によって工業都市として発展した。さらに1929年(昭和４)日本最大のトロール会社共同漁業(いまの日本水産)が下関(しものせき)から基地を移して全国有数の大漁港ともなった。1924年(大正13)単独で市制施行，1963年八幡・小倉・門司(もじ)・若松の４市と合体して北九州市を形成した。人口82,000。筑豊炭田の不振(1976年に全面的閉山)に伴い，人口が減少し，1970～75年の人口減少率は9.6％に達している。北は響灘(ひびきなだ)に面し，東は小倉区，南は八幡区，西は狭い洞海(どうかい)湾口を隔てて若松区と対する。北半は八幡製鉄などの広大な埋め立て地で，南半は中生層および第三紀層の低い丘陵がゆるやかに起伏する。金属・化学工業のほか，製菓・精糖・水産加工などの食品工業が発達し，1958年八幡製鉄戸

畑工場が進出以来，鉄鋼生産で八幡区をしのいで，〈鉄都戸畑〉の名を一躍高めた。中心市街の浅生(あそう)通りには北九州市役所や戸畑区役所をはじめビルやデパートが立ち並び，東方には国立九州工業大学がある。北方には鹿児島本線と平行して国道199号線が走り，若松区との間に洞海湾口をまたぐ東洋一のつり橋〈若戸大橋〉(有料道路)があり，南方には国道３号線の戸畑バイパスが通じる。　〔浅井得一〕

トハチェフスキーじけん　【トハチェフスキー事件】　スターリンの粛清事件の一。ソ連軍部の中枢にあったトハチェフスキー元帥が，ナチスドイツのスパイ，トロツキストなど，また反スターリン-クーデター陰謀の中心人物として1937年６月の反革命裁判にかけられ，６月12日他の７名の将官とともに処刑された。1956年スターリン批判後に罪名の事実無根が証明された。

とばてんのう　【鳥羽天皇】　(1103～1156)在位1107～1123。名は宗仁(むねひと)。法名空覚。堀河(ほりかわ)天皇の第１皇子。母は大納言藤原実季(さねすえ)の娘苡子(いし)。1129年(大治４)白河法皇没後，崇徳(すとく)・近衛(このえ)・後白河と３代にわたって院政*を行なった。祖父白河法皇とは仲が悪く，したがってその院政は白河院政に反発的なかたちをとって現われた。美福門院得子との間に皇子が生まれると，崇徳天皇に譲位を迫り，皇子を即位させて近衛天皇とした。さらに近衛天皇の没後には後白河天皇を立てたため，崇徳上皇の不満が増大し，鳥羽法皇が没するとまもなく保元の乱*が起こった。陵墓は京都の安楽寿院陵。　〔飯田悠紀子〕

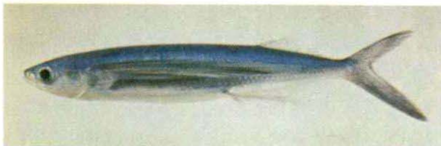
どばと　【土鳩】　鳥類・ハト科。ヨーロッパでカワラバトを原種としてつくった伝書バトやその他の人工種の家バト類が飼い主から離れて半自然状態で生活しているものの総称。社寺の境内や公園などに多い。

とば・ふしみのたたかい　【鳥羽・伏見の戦い】　会津藩・桑名藩を中心とする旧幕府側と薩摩(さつま)藩・長州藩らの討幕派とが，京都の鳥羽・伏見街道で行なった戦闘。1868年(慶応４)１月３日王政復古*の大号令に伴って，徳川慶喜*(よしのぶ)に辞官，領地返上の命令が下ったのを機として起こったが，旧幕府側は１日で敗退した。この事件は，新政府に武力討幕の口実を与え，戊辰(ぼしん)戦争*を経て旧幕府勢力が一掃されていくきっかけをなした。　〔応和邦昭〕

とばん　【吐蕃】　チベットの古称。チベット族は，７世紀にソンツェンガンポ王がラサを首都に定め，統一国家をつくりあげてから強大となった。763年チソンデツェン王は安史の乱の混乱に乗じ，唐の都長安を一時おとしいれた。このころが吐蕃の最盛期である。また，この王は仏教の保護者としても名高い。843年ダルマ王が殺されてのち吐蕃は分裂し，13世紀には元が土番等処宣慰司郡元帥府を置いた。



ト　ビ



トビウオ

とび　【鳶・鵄】　鳥類・ワシタカ科。全体にかっ色で，翼開長1.5ｍ強。低山帯から平地にかけて生息し，日本で最も普通にみられるタカ。旧世界に広く分布する。上昇気流に乗ってゆっくり滑空している情景は古くから日本人に親しまれている。他のタカ類と区別される特徴の一つは，尾が三味線(しゃみせん)のばちのような形の角尾であることである。小鳥や獣類を狩る習性はほとんどなく，〈とびに油揚げ〉のことわざのごとく漁村で日干しにしてあるイカや魚などの乾物をもっていったり，水産加工所の廃棄物，田畑で半死の魚・ヘビ・カエルなどを食べたりしている。鳴き声はよく知られているように，〈ピィーヒョロロ〉と鳴く。

トビー　［Mark Tobey］　(1890～1976)現代アメリカの抽象画を代表する画家のひとり。ほぼ独学で絵を学ぶ。1930年代の中国および日本への旅行で受けた影響，とりわけ書道と東洋思想が大きく彼の絵画に投影されている。ノン-フィギュラティフ(非定形)と称されるように，抽象化がきわめて進められている画面を見せる。

とびいろ　【鳶色】　色名。トビの羽のような色。黄みをおびた，暗い灰赤色。やや暗い赤茶色といえばわかりやすい。しかし，いわゆる鳶色は，トビの羽の色よりもやや赤みの多い色である。日本工業規格(JIS)慣用色名〈トビ色〉は，色相8.5Ｒ，明度3.0，彩度2.0の色と規定されている。➔色

とびいろうんか　【鳶色浮塵子】　こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・ウンカ科。セジロウンカとともに俗に秋ウンカとよばれ，稲作害虫として知られる。翅端までの体長５mmほどで，光沢のあるかっ色ないし黒かっ色。前翅は体と同色で半透明，黄かっ色の翅脈があり，黒かっ色の翅斑(しはん)がある。日本全土のほか，台湾からオーストラリアにかけて広く分布する。不完全変態を行なう。幼虫・成虫ともにイネに群生し，葉や茎から吸汁(きゅうじゅう)する。このためイネは衰弱し，特に乳熟期以後の加害の著しいときには，白く枯れてうずを巻くようによじれて倒れ，収量は激減する。

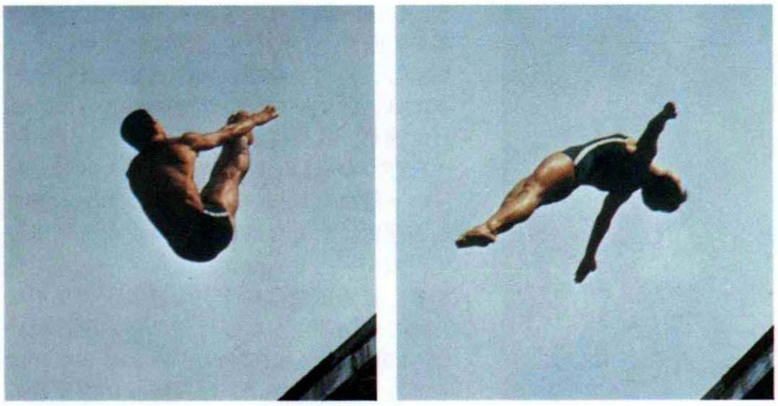
とびうお　【飛魚】　硬骨魚類・トビウオ科の一種または科の総称。体長30cmに達する海産魚。大きな胸びれと腹びれを利用して，数十メートルないし数百メートル滑空する。食用価値は高く，塩焼き・フライなどにして美味。トビウオ科は日本付近だけでも20種以上が知られる。ハマトビウオはこのうちの最大種で，体長50cmに達する。ほかにアカトビウオ・ツクシトビウオ・アヤトビウオなどがある。

とびえい　【鳶鱝】　軟骨魚類・トビエイ科。大形のエイ*で，全長1.5ｍに達する。胸びれが頭の両側で一度消失し，吻(ふん)の前端で再び頭鰭(とうき)として現われる。目は小さくて側方にあり，その後ろに大きな噴水孔がある。背びれは小さく，胸びれの後方で始まる。尾部はむち状で長く，背面には鋸歯(きょし)状の棘(きょく)がある。この棘に刺されると，激痛を感じる。各地の沿岸域の底層にすみ，貝類や甲殻(こうかく)類などを食べる。卵胎生で，一産８尾ぐらいの胎児を産む。食用になるが，あまり美味ではない。近縁種にマダラトビエイとアオスジトビエイがあるが，トビエイには両顎歯(りょうがくし)が３列以上並び，さらに尾棘があるので，容易に区別できる。　〔谷内　透〕

とびぐち　【鳶口】　木材の移動や破壊消防などに用いる道具。長さ約２ｍの竹または木の棒の先端に鉄の鉤(かぎ)をつけたもの。江戸時代には，鳶職*の頭(かしら)が用いた柄の長さ約60cmの手鉤や，平人足用の柄の長さ約150cmの長鉤などがあった。なお，山出し人夫や川並人足が木材の搬出・流送用に用いる筏(いかだ)鉤は長さ約180cmのもので竹竿(ざお)に鉤をつけ水棹(みずさお)と兼ねている。

とびくもがみ　【飛雲紙】　雲が空を飛んでいく形をすき出した斐紙(ひし)。飛雲はすべて青と紫とである。雲の大きいのと小さいのとがあって，大きいほうが古い紙である。平安時代後期にかなの料紙とされた。

とびけら　【飛螻】　こん虫類・毛翅(もうし)目(トビケラ目)の総称。成虫は，小形ないし中形の弱々しいガのような体をしている。口器は咀嚼(そしゃく)型。触角は糸状で長く，複眼はよく発達する。翅(はね)には多数の縦脈と少数の横脈があり，毛や鱗毛(りんもう)でおおわれる。ふつう静止時に翅は屋根形にたたまれる。腹部は９～10節で，１～２節からなる尾毛がある。完全変態を行なう。卵塊はぬれるとすぐに膨張する粘液体におおわれ，水生植物や水面に下がった樹木上などに産下される。多くのものでは，孵化(ふか)した幼虫は卵塊をおおっていたゼラチン状物質や植物体の小さい破片などを用いて巣をつくり，成長するにつれて巣を大き



飛び込み競技
飛び込みの形
(左)えび形，
(右)自由形

くする。近年，シマトビケラ科の種類が水力発電所の導水トンネル中に繁殖して，巣や捕食網が水流に抵抗を与えて発電能力を低下させ，関係者の間で注目されている。多くの種類の幼虫は気管鰓(さい)があって，大部分が淡水中で生活し，草食性で藻類(そうるい)やその他の植物を食べるが，ユスリカの幼虫などの小形水生こん虫も食べる。さなぎが成熟すると，巣の前端を切り開いて脱出し，泳いで水面に達して羽化する。成虫の出現時期は種類によって異なるが，春季か秋季にのみ出現するものと，春から秋まで見られるものがあり，後者に属する種類では1年に2世代を経過する。成虫は水辺に近い植物・石・家屋の壁などに静止して日中はあまり飛ばないが，夕方に活発に活動してしばしば群飛するのが見られる。しかし，昼間活発に飛翔(ひしょう)して花に集まる種類もある。夜間の走光性は著しく，水辺の燈火にはおびただしい数の成虫が集まる。交尾は樹木や岩の上などで行なわれる。その際，雌雄は腹端を結合し，頭の向きを逆にして一直線となる。

最も古い化石はヨーロッパの黒ジュラ紀の地層から発見され，鱗翅(りんし)目の直系の祖先となった群と考えられている。全世界から5,000種以上が知られ，約20の科に分類され，日本にはそのうち13科のものが産するが，あまり詳細な研究がなされていない。なお，トビケラ類の幼虫は，カワゲラ類などの幼虫とともに〈川虫〉とよばれ，つりえとして珍重される。〔鈴木邦雄〕

とびこみきょうぎ【飛び込み競技】 水中に飛び込む競技で，ダイビングともいう。1886年ドイツで行なわれた水泳競技会に登場したのがはじめてとされ，1904年の第3回オリンピック-セントルイス大会から正式種目となり，以降各国に急速に広まった。わが国には，1923年(大正12)大阪で開かれた極東選手権大会に1mの飛び板飛び込みが公開競技として披露(ひろう)された。

高飛び込み(高飛び込み台の高さ5m・10m)と飛び板飛び込み(飛び板の先端から水面までの高さ1m・3m)の2種目に分かれ，それぞれ正確さ・美しさを採点する。基本の姿勢には伸び形・かかえ形・えび形があり，これにそれぞれ回転・ひねり技が加わり，種類は約120種ある。競技会は規定・選択合わせて約10種目くらいについて，7人または5人の審判員が0点から10点をもって採点，勝敗を決める。〔浮田裕之〕

とびしま【飛島】 山形県酒田港から北西40kmの日本海上にある島。面積2.3km^2，人口1,600。酒田市に属し，酒田から定期船が1日1往復している。おもに水成岩からなる高さ50mほどの隆起海食台地をなし，最高点は高森山(69m)である。勝浦・中村・法木の3部落があり，勝浦は天然の良港で，江戸時代には酒田の避難港として利用された。畑と狭い水田があるが，主食は自給できず，昔から夏はイカ，冬はタラを漁獲し，イカはスルメにして庄内(しょうない)地方に産する米と交換してきた。明治以後はイカ漁を終えると北海道への出かせぎが行なわれ，最近はチューリップの栽培，アワビやイワノリの養殖も盛んである。原始共産制的なしきたりを残す共同生活や，南京(ナンキン)小僧とよばれる出かせぎのためのもらい子の習慣があったことが，民俗学研究の対象となっている。御積(おしゃく)島・烏帽子(えぼし)島・烏島などの属島があり，御積島はウミネコの繁殖地として天然記念物に指定されている。対馬(つしま)海流の影響を受けて，暖地性のモチノキやタブなどの植物が寒地性の植物とともに分布する。石器時代の遺跡もあり，居住の歴史は古い。鳥海国定公園の区域内に含まれ，多くの観光客を集める。〔浅井得一〕

とびしょく【鳶職】 鳶の者，鳶人足または単に鳶ともいう。江戸時代には土木工事の雑役，大工・左官の手伝い，町内の雑事にあたった。鳶の名は，彼らの使用する用具の鳶口*に由来する。江戸をはじめとする近世都市では，町方の火消し人足は主として彼らで組織され，火事装束をつけて，鳶口を手に，纏*(まとい)を押し立てて火事場に出動した。鳶職仲間は町がかえの頭(かしら)を中心として強い仲間結合をつくり，それぞれなわ張りの町内をもった。明治になって，消防制度が改まった結果，鳶職は消防から離れて，仕事師に転じていった。

とびち【飛び地】 所有地の一部が飛び離れていて，他の所有地の中にあるところ。入会地(→入会)の多かった藩政時代には，村や部落の境界が定まらず，飛び地の概念はなかったが，しだいに土地経済が重要になり，一方1889年(明治22)の市町村制施行の際，境界がしかれたことで，村や部落の所有地が他村や他部落の所有地内に残り，飛び地という地域ができあがった。奈良県と三重県の境にある和歌山県の飛び地などはその代表例である。なお国際的には，東ドイツにおける西ベルリンが一種の飛び地といえる。〔渡辺欣雄〕

とびとかげ【飛蜥蜴】 爬虫(はちゅう)類・アガマ科。マライ半島・タイ・インドネシア・フィリピンに分布して木の間を滑空する一群で，25種ほどが知られる。体長20～25cmで尾はその2分の1を占め，体は細長い。胴部の左右には5～6本の長く伸びた肋骨(ろっこつ)にささえられた翼膜があり，普通は体側にたたまれているが，空中のこん虫を捕えたり，木から木に飛び移るときにはこれを広げる。滑空距離は10～20mに達し，降りるときには四肢(しし)をそろえて立ち，翼をたたむ。翼膜の色彩・斑紋(はんもん)は美しく，雄ののどには飾りのひだがある。

ドビナ(川)［Dvina］ 北ドビナと西ドビナがあるが，一般には西ドビナ川をさしていう。ソ連北西部の川で，長さ1,022km。中央ロシア丘陵の北端バルダイ丘陵に発して南西に向かい，白ロシア共和国からラトビア共和国にはいり，リガ市の付近でバルト海のリガ湾に注ぐ。12～4月間の結氷期以外は河口から約700km上流まで航行可能で，古くから黒海とバルト海を結ぶ交通路の一部として重要であった。なお北ドビナ川は，ボログダ市付近の山間に発して北東流し，次いで北西に湾曲して白海に注ぐ。

とびななふし【飛竹節虫】 こん虫類・直翅(ちょくし)目・トビナナフシムシ科。体長5cmほど。全体鮮緑色であるが，雄ではかっ色のものもある。体は細長く，中胸背は前胸背の3倍以上と長く，腹部は頭部と胸部の和よりも著しく長い。触角は細長く，雄では体長よりも長い。後翅は美しい淡桃色。成虫は夏から秋にかけて出現し，主としてシイの自生林の葉上に見られる。北海道から奄美(あまみ)大島まで分布するが，本州以北では雄の出現はきわめてまれで，ほとんど単為生殖を営むようである。奄美大島では雌雄の性比はほぼ1対1になる。九州の山地帯には近似のヤスマツトビナナフシが産する。両種ともシイのほかクリ・クヌギ・コナラ・アラカシなども加害し，卵態で地面あるいは落葉上で越冬して，一部は晩春から5～6月に，残りは7～8月に孵化(ふか)する。→ナナフシ〔鈴木邦雄〕

ドービニー［Charles-Fran ois Daubigny］(1817～1878) フランスのバルビゾン派*の風景画家。印象派の画家に先だって，いわゆる〈戸外で〉作品を仕上げ，揺れ動く

大気と光のうちに風景を描いた。

とびねずみ【跳鼠】 哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・トビネズミ科の総称。後足が非常に長く，カンガルーのようにジャンプする。ヨーロッパ東部・南部，北アフリカ，アラビア，モンゴルなどの半砂漠(さばく)地帯に分布する。地下にトンネルを掘ってすみ，涼しい夜になると出てきて，おもに植物質を食べる。シベリア・モンゴルにすむイツユビトビネズミは冬眠をする。ほかにミユビトビネズミ・アフリカトビネズミ・ケアシトビネズミなど多くの種類がある。

とびばこ【飛び箱】 器械体操*に使用する器具。祖形はすでにローマ時代に兵士の馬術の基礎訓練として用いられていたが，現在の飛び箱はスウェーデンで考案されたもので，上部が狭く，下部が広い木製のわく(高さ10～15cm)を数段積み重ね，その上にフェルトを詰めて布や皮を張った台(高さ約30cm)を置いたもの。踏み切り板を使用し，踏み越したり，またいだり，乗り越したり，倒立したり，転回するなど各種の運動が行なわれ，跳躍力や全身的な弾力を養う。学校教育において鉄棒とともに器械体操の重要な位置を占めている。〔伊東春雄〕

とびはぜ【跳鯊】 硬骨魚類・ハゼ科。体長6cmほどの海産魚。カナムツ・カッチャンなどの地方名がある。目は大きく，頭上近くに位置し，胸びれの基底は肉質に富み，うろこは小さい。干潟(ひがた)などの泥地(でいち)を歩行したりとんだりする。東京湾以西，朝鮮・中国・台湾などに分布し，干潟や砂州が現われる海岸にすむ。捕獲されやすいため，保護する必要がある。

とびひ【飛火】 化膿(かのう)球菌感染による皮膚の表在性・化膿性病変をいう。火災の延焼のように非常に移りやすいことからこの名がある。化膿菌には白色ブドウ球菌と連鎖球菌とがあり，それぞれ白色ブドウ球菌性膿痂疹(のうかしん)と連鎖球菌性膿痂疹とに区別される。白色ブドウ球菌性膿痂疹：夏季，小児の顔・四肢(しし)に紅斑(こうはん)を生じ，数時間後に水疱(すいとう)を形成する。アズキ大から母指頭大が多く，透明な淡黄色を呈する。1～2日後に内容は混濁し吸収されて糜爛面(びらんめん)となる。発



トビハゼ



ドビュッシー

熱・瘙痒(そうよう)はない。連鎖球菌性膿痂疹：小児のほか成人も侵され，四季を通じてみられる。主として顔・四肢に小紅斑から小膿疱・小水疱を生じ，まもなく膿疱となり，蠟黄(ろうおう)色の痂皮をつくる。膿漿(のうしょう)は再びすぐに厚い痂皮をつくり，多少の瘙痒がある。治療は，両者ともに抗生物質・サルファ剤の外用や内用投与を行なう。

とびむし【跳虫】 こん虫類・粘管目(トビムシ目)の総称。腹部第1節下面に腹管があり，粘液を出して他物に付着する。腹部はわずかに6節で，このため少節こん虫亜綱として他のこん虫類と区別することもある。また，腹部はさらに種によって一部が癒合(ゆごう)したり，1～4節が球状に癒合することがある。そのほか，一般的にいってきわめて集約的な体制をもっている。体長2～3mmのものが多いが，1mmに達しないものやまれに6mmをこえる種類もある。体色や斑紋(はんもん)は千差万別で，美しい色彩の種類も少なくないが，カロチノイド系色素はアルコールでたやすく退色する。外部構造にも種によって著しい変化が見られる。腹部には腹管のほか，第4腹節に叉状(さじょう)突起があり，これによって跳躍するが，これを欠いて跳躍できない種類もある。マルトビムシ類を除いて気管系がなく，多くのものはその柔弱な表皮を通して皮膚呼吸を行なう。体表面には，種々の形状の突起やこぶ・剛毛・鱗片(りんぺん)などがあるものが多い。触角はふつう4節からなり，目は数個の小眼が眼域にゆるく集合したもので，無眼の種類も多い。不完全変態を行ない，脱皮の回数は発育の良否によって異なり，中には産卵後に脱皮を行なうものも知られる。陰湿な場所を好む種類が多く，朽ち木の樹皮下，朽ち葉 落ち葉・石・堆肥(たいひ)などの下，アリ・シロアリ・ハチの巣中，ほら穴の中，菌類・コケ類の上，草むらの根ぎわなどに生活する。また，園芸植物の球根部や蔬菜(そさい)類の幼芽部や若葉などに群集して加害する害虫もある。さらに，積雪上や高山の雪溪(せっけい)上に生活するものも知られる。トビムシ類は3亜目12科に分類され，全世界から千数百種以上が知られている。微小な種が多く，研究がまだ不十分であるため，今後多くの種が発見されることと思われる。〔鈴木邦雄〕



ドービニー《オワズ河畔の夕日》1845
ルーブル美術館蔵

とひもんどう【都鄙問答】 石田梅岩*の著。4巻。1739年(元文4)刊。心学*の根本経典というべき書で，問答会話体で書かれている。梅岩の学問の立場と根本原理を明らかにし，士農工商儒医などそれぞれの道のあることを述べている。

ドビュッシー［Claude Achille Debussy］(1862～1918) フランスの作曲家。小さな陶器店を営む両親のもとに，パリ郊外のサン-ジェルマン-アン-レイで生まれた。生活は裕福ではなかったが9歳でピアノを学び，10歳のときパリ音楽院のピアノとソルフェージュのクラスに入学，以後1884年22歳のときまで在学した。1880年の冬，ギローの作曲クラスにはいり，本格的に作曲の勉強をはじめ，1884年カンタータ《蕩児(とうじ)》によってローマ大賞を獲得した。ローマ留学後，義務の留学作品《春》をフランス-アカデミーに提出したが，アカデミーから〈色彩の感じが強調され，正確なデッサンと形式の重要性を忘れている。ドビュッシーは《ばく然とした印象主義》から身を守るべきだ〉として拒否された。以後彼の音楽はこの〈印象主義〉ということばでよばれることになった。ドビュッシーは，マネ*らの印象主義の絵画やマラルメ*らの象徴主義の文学から多くの影響を受けて，ワーグナーに代表されるロマン派の音楽，感情や情念の燃焼する音楽に対して，うつろいゆく光と影の対話，葉末を渡る風や鐘の音，雲と海と風の戯れといった，繊細な新しい音感覚を取り入れたのである。

1894年に初演されたマラルメの詩による《牧神の午後への前奏曲》は，印象主義の作風を確立させた作品として絶賛を浴び，のち《ノクチュルヌ》《管弦楽のための映像》《ペ

レアスとメリザンド》などの傑作を次々に発表した。これらの作品では，長調・短調といった調性構造や2拍子・3拍子などの拍節構造の伝統的な法則は破られ，平和和音・全音音階・5音音階・小節線から自由なリズムなどの新しい技法が数多く使われている。叙情劇《ペレアスとメリザンド》《海*》や《版画》《喜びの島》《映像》《子どもの領分》《前奏曲集》などのピアノ曲が書かれたのもこの時期である。1909年パリ音楽院の上級評議員に任命され，《聖セバスチャンの殉教》《マラルメの三つの詩》《遊戯》など最後の創作の花を咲かせた。そして最後に，6曲のさまざまな楽器のためのソナタにとりかかり，3曲を完成して，それに〈フランスの音楽家ドビュッシー〉と署名した。〔船山　隆〕

トビリシ　［Tbilisi］　ソ連のカフカス地方，グルジア共和国の首都。旧名チフリス。人口103万(1976)。クラ川の盆地に位置しており，グルジア鉄道の終点として産業・政治・文化の中心をなしている。機械・木材・食品加工・織物などの工業が盛んで，絹織物・メリヤス・くつ・ぶどう酒などの名産地である。グルジア科学アカデミー・大学・専門学校・植物園などがあり，市街は亜熱帯樹の街路樹をもつ美しい都市である。5世紀後半に起源をもつ多くの史跡が残っている。〔斎藤晨二〕

ド-フォレスト　［Lee De Forest］(1873〜1961)　アメリカの電気技術者・発明家。エール大学に学び無線電信について最初の学位論文を書いたのち，2年間ウェスタン-エレクトリック会社に勤務。その後研究所を創設して2極管の実験中，グリッドとよばれる第3の電極を入れた3極管を発明，1908年特許を得た。3極管が検波器および増幅器として作用するばかりでなく，発振器としても使用しうることを発見した。多くの発明があり，事業も企てたが失敗。

どぶがい　【土負貝】　軟体動物・二枚貝類・イシガイ科。殻長(かくちょう)13cm，殻高8cm，殻幅5cmほど。殻(から)は薄質で卵楕円(らんだえん)形。背縁はまっすぐで，殻頂は前方に寄り，殻頂部がよくふくらむ。殻表は平滑で緑色をおび，ときに放射帯があるが，老成すると黒色になり，殻頂部は殻皮がとれて白色になる。内面は強い真珠光沢があり，かみ合わせには鉸歯(こうし)を欠く。日本各地・朝鮮・中国に広く分布し，池沼の泥底(でいてい)にすむ。なお，タナゴ*はこの種の外套(がいとう)内に産卵する。〔波部忠重〕

どぶねずみ　【溝鼠】　哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・ネズミ科。頭胴長22〜26cm，尾長17〜22cm，クマネズミ*に似るが尾が体よりも短く，耳は小さい。原産地はアジア中央部であるが，今日ではほとんど世界じゅうに分布する。下水・みぞ・田・畑など人家付近で生活するため，クマネズミ・ハツカネズミとともにイエネズミといわれる。夜行性で，泳ぎがうまく，冬は屋内にはいって



ドブガイ



トベラ

生活する。雑食性で，こん虫・鳥卵・魚・ジャガイモ・米などなんでも食べる。医学・生物学の実験用などにされるダイコクネズミ(シロネズミ)は本種の畜養品種である。〔今泉吉典〕

ド-フリース　［Hugo de Vries］(1848〜1935)　オランダの植物生理学者・遺伝学者。ライデン・ハイデルベルク・ビュルツブルクなどで学び，ホフマイスター・ザックスに師事。1878年アムステルダム大学教授。はじめ植物生理学者として呼吸・生長・膨圧などの研究を行なった。原形質分離*は彼の造語。のち遺伝学で植物雑種の研究に没頭し，1889年ダーウィンのジェミュール説を修正して，遺伝現象について細胞内パンゲン説を唱えて遺伝子説の先駆をなした。1901年オオマツヨイグサの研究による突然変異説を提唱，遺伝学・進化学の基礎として現在でも重んじられている。なおメンデルの法則*の再発見者のひとりとしても著名。

ド-ブロイ　［Louis Victor de Broglie］(1892〜　)　フランスの理論物理学者。フランスの名門貴族ブロイ家の出。パリ大学ではじめ文学・歴史学を学んだ。のち物理学へ転じ，第1次世界大戦後，理論物理学の研究に進んだ。一方，高等研究学院の教授であった兄モーリス-ド-ブロイ(1875〜1960)も物理学者で，X線を波と粒子の結合物と考えていた。彼はこの考えに基づき，電子もまた波と粒子の二重性をもつと考え，1923年物質波(電子波)の理論を提唱した。これはのちに波と粒子の二重性の問題を解明するいとぐちを与え，シュレーディンガー*の波動力学の先駆をなした。1929年ノーベル物理学賞を受賞。〔藤村　淳〕

ド-ブロイは　【ド-ブロイ波】 ⇨ 物質波

どぶろく　【濁酒】　日本酒の一種で，発酵させたもろみを濾過(ろか)せず米粒が混じったままの白色のもの。にごり酒・だくしゅ・白馬ともいう。アルコール度は13％内外で特殊の香味がある。現在では神社の神事用に量を制限して製造を許され，一般には販売されていない。

ドブロリューボフ　［Nikolai Aleksandrovich Dobrolyubov］(1836〜1861)　ロシアの文芸評論家。チェルヌイシェフスキー*に協力し，雑誌《現代人》の批評部門を担当した。文学を社会問題解明の手段，生活改善の道具とみなし，《オブローモフ気質とは何か》では，ロシア固有の〈余計者*〉のタイプとその系譜について説き，その発生の社会的原因も解明した。彼の批評は一種の社会学的文芸批評の立場に立つもので，その芸術論は社会主義リアリズム*に影響を与えた。《闇(やみ)の王国》などの著がある。

とべ　【砥部(町)】　愛媛県伊予(いよ)郡の町で，人口17,000。重信(しげのぶ)川支流の砥部川の流域で，松山市の南に位置する。砥部焼の産地で，美術品・食器・花器・卓上用品のほか碍子(がいし)の生産がある。輸出用ミカンの栽培地でもある。

とべら　【海桐花】　双子葉植物・トベラ科。海岸に自生する常緑低木。高さ3m前後で，密に分枝して円形の樹冠となる。根や茎に一種の臭気がある。葉は長楕円(ちょうだえん)形，全縁で，長さ5〜10cm，幅2〜3cm，表面につやがあって厚ぼったく，縁は裏に巻く。雌雄異株で，5〜6月枝先に白色でにおいのよい五弁花を多数つける。蒴果(さくか)は直径1.3cmの球形で黄緑色に熟し，2〜3裂して赤色でよく粘る種子を出す。

トペリウス　［Zachris Topelius］(1818〜1898)　フィンランドの小説家・詩人。ルーネベルイ*と並んでフィンランド文学の祖といわれる。浪漫的な調べで祖国の自然美をうたい，その中に同胞の自由独立への願望を象徴した詩が多く，散文では長編歴史小説《軍医物語》が最も有名。しかし，その名を不朽にしたのは童話で，童話集《子どものための読み物》(8巻)は，今日でも多く愛読され，日本でも《星のひとみ》その他の訳で親しまれている。彼はフィンランドからスウェーデン文化を払拭(ふっしょく)しようとする，いわゆるフェノマン運動に強くひかれていたが，当時まだフィンランド語は文学語として確立しておらず，その著作はすべてスウェーデン語で書かれた。

とほ　【杜甫】　(712〜770)　中国，唐代の詩人。杜子美ともいう。号は少陵。現在の河南省鞏(きょう)県の出身。744年，洛陽(らくよう)に出て李白*(りはく)に会い，深い友情をいだいた。自由奔放な青年時代を送ったのち，746年，長安に至り，仕官を図ったが，挫折(ざせつ)を重ね，都で10年近く，貧しい生活を余儀なくされた。安禄山*(あんろくざん)の反乱の際賊軍にとらわれたが脱出，各地を流浪し

た。759年，官職を捨て，家族を連れて秦州(しんしゅう)(現在の甘粛省天水)，同谷一帯の地方を経て四川の成都に至り，そこにしばらく閑居した。765年，漂泊の旅に出，770年の冬，湖南の湘江(しょうこう)に浮かぶ小舟で，飢えと病気に苦しんだ生涯(しょうがい)を閉じた。杜甫は，政治や社会への関心が強く，安禄山の乱以後の社会情勢に目を向け，戦争の悲惨や人民の苦難という現実と，その現実を目前にしながら無力な書生である自己を嘆く心境とを詩にうたった。詩人としては李白とあらゆる点で対照的であり，李白は唐以前の詩風を集大成したが，杜甫はそれ以前の詩を総合して新しい詩風をつくり出し，後世への橋渡しをしたといってよい。その詩の注釈書は数多いが，代表的なのは清(しん)の楊倫(ようりん)の《杜詩鏡銓(としきょうせん)》であろう。〔今村与志雄〕

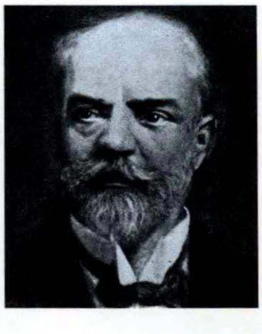
トボガン ⇨リュージュ

とぼく【杜牧】(803～852) 中国，唐代の詩人。字(あざな)は牧之(ぼくし)。唐代後期の物情騒然たる時代に生き，唐王朝の昔日の栄華を回復する抱負をもっていたが，不遇であった。絶句形式にすぐれた作品が多く，酒と女，春の風光，そして鳥や花など色彩豊かな詩編を残した。唐代後期屈指の詩人で，杜甫*(とほ)を老杜というのに対して，杜牧は小杜とよばれた。詩文集《樊川(はんせん)文集》がある。

どぼくこうがく【土木工学】 自然に即して自然を改造して市民生活を豊かにする公共事業に関する工学。道路・鉄道・港湾・空港などの交通路の建設とそれに伴う橋梁(きょうりょう)やトンネルなどの構造物の設計・施工から，治水のための河川改修や堤防の建設，発電のためのダムの建設，上下水道のような衛生工学の分野，埋め立ての敷地造成事業，都市計画，地方計画，国土計画の分野まで広い範囲を包含した工学である。

土木工学の基礎をなす学問は材料工学・土質工学・水工学および構造力学である。材料の特性の利用と新材料の開発は新工法の開発に直結している。コンピューターの開発は構造力学のめざましい発展につながり，研究に設計にその威力は発揮されつつあり，ある種の構造物はすでに自動設計や自動的な設計図作成まで完成されつつある。この中にあって，すべての土木工学に最も深い関連をもつ土は，その性質の複雑さと含水量の変化による性質の急激の変化のため，不明な点が多く，今後の研究が最も要望される部門である。地震国日本としては構造物の耐震性が強く要望されているが，土を含めた構造物の耐震性を考えねばならぬ段階にあるので，土質工学の研究が急務である。

資本主義経済のもとにおける高度成長は，人口の都市への過度集中現象となって現われ，都市公害対策は都市の再開発とともに多くの都市土木工事を要求してきている。都市内の交通路としての高架道路・高架鉄道・地下鉄道の建設，市民衛生の面からの下水道の建設などはその一部である。さらに，都市計画も広い範囲を包含した，むしろ国土総合開発的な自然改造計画へと移りつつある。〔村上博智〕



A.ドボルザーク

ドボルザーク［Antonín Dvořák］(1841～1904) ボヘミア(チェコスロバキア)の作曲家。ドイツ語を習ったオルガン奏者リーマンに音楽的な才能を認められ，1857年から2年間，プラハのオルガン学校に学んだ。卒業後ビオラ奏者として生活をし，1862年から1873年まではチェコ仮劇場(のちの国民劇場)管弦楽団のメンバーとなり，その指揮者スメタナ*から直接の影響を受けた。1873年に発表した合唱賛歌《白山の後継者たち》が認められ，翌年教会オルガン奏者となり作曲活動をし，歌手アンナ-チェルマコーバと結婚した。1875年にオーストリア政府の作品公募に入賞，審査員ブラームスがジムロック出版社を紹介，そこから出版された《スラブ舞曲》第1集はヨーロッパ全体に彼の名を広めた。1884年から9回にわたりイギリスに招かれ，1892年から2年間はニューヨークのナショナル音楽院院長となり，《新世界交響曲*》《チェロ協奏曲》などの傑作を書いた。晩年には，プラハ音楽院院長になり，チェコスロバキアの国民的作曲家として尊敬を集めた。彼はオペラも書いたが成功せず，形式感を重んじた器楽曲の分野で評価されている。〔向坂正久〕

ドボルザーク［Max Dvořák］(1874～1921) オーストリアの美術史家。様式変化にかかわる美術史的現象を精神史との関連において理解しようと努め，精神史としての美術史の確立を意図したとされる。著書に《精神史としての美術史》《ルネサンス期のイタリア美術》などがある。

トポロジー［topology］ このことばは，広く位相の意味に用いたり，位相に関係する数学の諸分野をまとめて位相数学の意味に用いたりする場合と，それより狭く，特に図形の位相的性質を研究する位相幾何学をさす場合がある。裂けたり，重なり合ったりしない伸縮自在なゴム面を考え，それを伸ばしたり縮めたりすると，ゴム面上に書いた平行な2直線は平行でもなく直線でもない種々の線に変わるが，共通点のない2本の線であることは変わらないし，ゴム面上の円は卵形にでも四角形にでもなるが，一つの閉じた線でゴム面をその内部と外部に2分することは変わらない。このように，図形を連続的に変形しても変わらない性質のことを図形の位相的な性質という。距離や角は位相的な性質ではないが，線のつながり方などは位相的な性質である。図形や空間の位相的な性質を，その位相構造または単に位相ということもある。〔小西勇雄〕

トポロジーしんりがく【トポロジー心理学】 レビン*の唱えた心理学。生活体の行動場面は行動者とその環境からなる生活空間*に規定されるとし，この生活空間の構造をトポロジーの諸概念を導入説明したもの。

トーマ［Charles Louis Ambroise Thomas］(1811～1896) フランスの作曲家。メッツの生まれ。1828年からパリ音楽院にはいり，ベルリオーズの師でもあるルシュールに作曲を学んだ。1832年卒業の年にカンタータ《エルマンとケティ》でローマ大賞を得てローマに留学した。1866年に発表したゲーテの《ウィルヘルム-マイスター》による《ミニョン》は有名である。1871年パリ音楽院の院長になった。

トーマ［Ludwig Thoma］(1867～1921) ドイツの小説家・劇作家。1906年まで筆名をペーター-シュレミールという。弁護士をつとめながら，社会風刺雑誌《ジンプリツィシスムス》に協力，のち作家として独立した。戦闘的な皮肉と独特なユーモアをたたえた作品が多い。第1次世界大戦には看護兵を志願して，従軍。小説《悪童物語》《フリーダおばさん》や劇作《道徳》が代表作。

どま【土間】 建物内で床を張らない地面のままの部分，あるいはたたき*にした部分をいう。使用される部分や地方により種種の名称がある。にわという異名が一般的であるが，うしにわとよぶ地方もある。土間は，古くから日本の農家にとって仕事場であったが，ことに中部地方山間部から山陰・北陸・東北のように冬が長く，雪に閉じ込められる地方では，家屋内の3分の1を土間として利用し，そこをわら仕事・脱穀作業・機織りなどの作業場として，クワや穀物・野菜類などの物置として用い外庭の機能をも果たしてきた。また土間に井戸*のある家もあり，土間は家屋内での生産活動と生活全般にわたる場として重要な機能を果たしてきた。〔渡辺欣雄〕

ドーマク［Gerhard Domagk］(1895～1964) ドイツの化学者・医学者。キール大学を卒業後，IG染料工業会社の実験病理学・細菌学研究所所長。1932年連鎖球菌に対するプロントジル(アゾ色素)の薬物を発見した。これにより彼は化学療法が，真菌性の疾病(しっぺい)の治療にも有効であることを示し，サルファ剤開発の基礎をつくった。また結核の化学療法についても研究した。1947年ノーベル生理・医学賞を受賞。

とまこまい【苫小牧(市)】 北海道南西

部，太平洋に面する都市。1910年(明治43)王子製紙の苫小牧工場の設置以来，〈製紙の町〉として発展し，1948年(昭和23)市制施行。人口14万9,000。市名はアイヌ語の〈トマクオマイ〉(沼沢の地の意)に由来する。市域は苫小牧川の河口付近の勇払原野一帯と北西部の山地を含む。産業三大別人口比は2：36：62。鉄道による原木輸送の便があり，千歳(ちとせ)川水系の発電，苫小牧川の水利に恵まれて，製紙・パルプ工業・新聞用紙・合板などがつくられ，おもに苫小牧港から東京方面へ移出される。道央新産業都市の中核で，周辺のアルミニウム・電力・石油などの重化学コンビナートが発展しつつある苫小牧工業地帯の中心でもある。1963年には苫小牧工業港が日本最初の掘り込み式人造港として開港し，勇払川・支笏湖(しこつこ)水系の工業用水道施設計画も進んでいる。なお1972年から世界最大の掘り込み港湾である苫小牧東港を核とした約1万2,000ヘクタールの苫小牧東部開発(苫東開発)の計画があり，漁業が侵されることや，公害を心配する地元住民の反対によって，着工が遅れていたが，1976年に補償金を支払うことによって解決し，ようやく工事が開始された。石油精製・石油化学・鉄鋼・自動車などの工場が誘致される予定であるが，地元苫小牧市の要求により，規模は大幅に縮小されている。室蘭(むろらん)本線・千歳線・日高本線の分岐点で，国道36号線・234号線・235号線が集まり，札幌(さっぽろ)や支笏湖へバスが通ずる。支笏洞爺(とうや)国立公園の玄関口にあたり，支笏湖・樽前(たるまえ)山(1,024m)などの観光地に富む。

トマス ［Dylan Thomas］(1914～1953) イギリスの詩人。《18編の詩》で詩壇にデビュー。精神分析的・暗示的な詩風の，情熱と音楽性に満ちた詩によって，1940年代の新ロマン主義の代表詩人であった。詩集《愛の地図》《死と入口》のほか，自叙伝的小説《仔犬(こいぬ)のような芸術家の肖像》がある。生涯(しょうがい)ほとんど定職をもたず，貧窮とアルコール中毒のため倒れた。

トーマス ［Sidney Gilchrist Thomas］(1850～1885) イギリスの製鋼技術者。17歳からロンドンの警察裁判所に書記として勤務するかたわら，化学・冶金学(やきんがく)などを学んだ。ベッセマー法では不可能な銑鉄からリンを除去する方法を研究，1875年P.ジルクリストと共同してトーマス法(塩基性製鋼法)を発明したが，若くて無名のため無視された。のち含リン鉱石の多いアメリカ・ドイツで認められた。

トマス-アクィナス ［Thomas Aquinas］(1225ごろ～1274) スコラ哲学者。南イタリア，ナポリ近郊アクィノの領主の子として生まれる。ドミニコ会修道院にはいり，アルベルトゥス-マグヌス*のもとで哲学・神学を学ぶ。パリ大学の神学教授。中世の偉大な神学の体系家の彼において，スコラ



ト マ ト



トマヤガイ

哲学は内容・形式ともに頂点を迎えた。最大の業績は，アリストテレス哲学の上に，キリスト教神学を厳密な〈学〉として体系化したことである。また恩寵(おんちょう)の光(神の啓示)と自然の光(理性)を厳密に区別したうえで，〈恩寵は自然を破壊せずむしろこれを完成する〉と，神学と哲学の調和に努めた。《神学大全》《対異教徒大全》など。

トマス-ア-ケンピス ［Thomas a Kempis］(1380ごろ～1471) ドイツの修道僧・神秘家・聖人。プロイセンのケンペンの生まれ。オランダの神秘主義者の団体〈共同生活の兄弟〉にはいり，同国北部のズウォレ付近のアウグスチノ参事修道会にはいり，同副院長となり，敬虔(けいけん)な生涯(しょうがい)を終える。《キリストに倣(なら)いて*》の著者とされるが，異説もある。

トーマスてんろ 【トーマス転炉】 製鋼用の塩基性底吹き転炉。1876年S.G.トーマスの発明による。転炉内壁に焼成ドロマイトを使用し，塩基性鋼滓(こうさい)をつくることによってベッセマー法(酸性転炉)では除去できないリン・イオウの除去を可能とした。炉の底部から高圧の空気を吹き込み，溶銑中のケイ素・炭素を酸化除去したのち，リンの酸化を主要熱源とする。炉容量は20～40t，炉体寿命は150～300回，炉底寿命は30～60回である。〔草川隆次〕

トマト ［tomato］ 双子葉植物・ナス科の一年生草本。茎は角張り，短い細毛を密生し，株全体特有なにおいを発散する。草たけは60～180cmぐらい。放任すれば匍匐(ほふく)性になる。5～15cmごとに節があり，各節から5～9個の大きな欠刻のある小葉をもった羽状複葉が出る。子葉から数えて7～9節めの節間に3～10数個の花をつけた花房がつき，その後2～3節おきに順次花房をつける。葉腋(ようえき)からは側枝が伸びることが多い。花は直径2cmぐらいの五つに切れた花弁をもつ。果実は球形ないし扁球(へんきゅう)形で水分多く多肉。果皮は白または黄で，果肉は成熟すると黄や橙赤(とうせき)色となる。高温性の作物であるが，比較的乾燥して冷涼な気候を好む。普通は，春早く温床で苗を育て，5月ごろにそれを畑に移し，収穫は夏季にわたる。

南アメリカの原産で，古くからアメリカ大陸に分布したが，あまり利用されなかった。16世紀にイタリアに伝わり，南ヨーロッパで栽培が盛んとなり，特にイタリアでは生活に密着した利用が進んだ。その後イギリスやフランスで温室栽培が盛んになり，19世紀からはアメリカで急激に生産が伸びた。現在ではアメリカとイタリアなどで生産量が多い。わが国には18世紀に渡来した記録はあるが，現在の品種は明治以後にヨーロッパやアメリカから導入された品種の改良形が大部分である。昭和の初めまでは特有のにおいをきらってあまり需要がなかったが，近年は消費が急速に高まり，生産技術も非常に進んだ。生食のほかにジュースやケチャップなどの加工も盛んで，加工専用の品種もある。〔松本正雄〕

とまやがい 【苫屋貝】 軟体動物・二枚貝類・トマヤガイ科。殻長(かくちょう)3cm，殻高2cm，殻幅1.8cmほど。岩礫(がんれき)に足糸で付着するため，殻形は変異が多く一定しない。殻(から)はほぼ長方形で，殻頂は前方に寄る。殻表は黄白色で後方にかっ色斑(はん)があり，強い放射肋(ほうしゃろく)の峰は角だっており，後方で多少鱗片(りんぺん)を生じる。内面は白色で，後方はかっ色をおびる。胎生。

とまんこう 【豆満江】 トーマン川 朝鮮・中国東北地方(吉林(きつりん)省)・ソ連沿海州の国境を流れる川。中国名は図們江。長さ520km，流域面積10,513km²。白頭山の東に源を発し，小紅端水や西頭水などの支流を合わせて北流し，茂山を経て，城川江などと合流し，日本海に注ぐ。上流部は火山台地で，朝鮮屈指の林産地で，大森林の中に峡谷を刻みつつ蛇行(だこう)する。また茂山鉱山・会寧炭などの鉱産も豊かであり，茂山～会寧間には水力発電も開発されている。河口から85kmまでは航行が可能であるが，11月下旬～3月上旬間は結氷する。〔矢守一彦〕

とみいまさあき 【富井政章】 (1858～1935) 法学者。開成学校卒業。1877年(明治10)フランスに留学。1883年帰朝後東京大学教授となり，1918年(大正7)まで民法講座を担当。法典論争においては実施延期論を唱え，次いで穂積陳重(ほずみのぶしげ)・梅謙次郎とともに明治民法を起草した。1919年臨

時法制審議会の設置とともに主査委員長となった。《民法原論》をはじめ著書多数。

とみえ　【富江(町)】　長崎県南松浦郡に属し，五島列島福江島の南部の港町。人口9,000。かつてサンゴ採取船とあぐり網漁船の根拠地で栄えた。ワカメを産し，五島牛の放牧に力を入れている。

ドーミエ　［Honoré Daumier］（1808～1879）　フランスの画家。版画にすぐれ，《ラ-カリカチュール》《シャリバリ》誌などに政府・司法関係などを鋭く風刺した作品を発表，1832年には投獄されてもいる。1878年ごろから油絵・水彩などでも独自の画風を築き，《ドン-キホーテ》《三等列車》などは表現主義の先駆的作品として高く評価されているが，生前は不遇で，晩年は視力をそこない，貧窮のうちに没した。

とみおか　【富岡(市)】　群馬県南西部の市。上野(こうずけ)一宮(いちのみや)の貫前(ぬきさき)神社の鳥居前町で，江戸時代には中山道(なかせんどう)脇(わき)往還の宿場町・市場町で，西端の七日市には前田氏の七日市藩一万石の陣屋が置かれていた。1872年(明治5)，日本最初の洋式機械による官営製糸工場が設立されて以来，製糸の町として発展した。1954年(昭和29)市制施行。人口48,000。市域は鏑(かぶら)川の北岸の河岸段丘上に位置し，南部に小幡(おばた)丘陵があり，北は安中市と接する。産業三大別人口比は26：38：36。周辺の農村地域は古来繭の産地として知られ，鏑川流域低地には水田，段丘上にはクワ畑がつくられ，養鶏やコンニャクイモの栽培も盛んである。1954年低開発地域工業開発地区に指定され，住宅団地・工業団地の建設が進み，片倉工業の製糸工場をはじめ，ゴム製品・通信機・自動車部品などの工場が集まる。上信電鉄・国道254号線が市街を東西に通ずる。

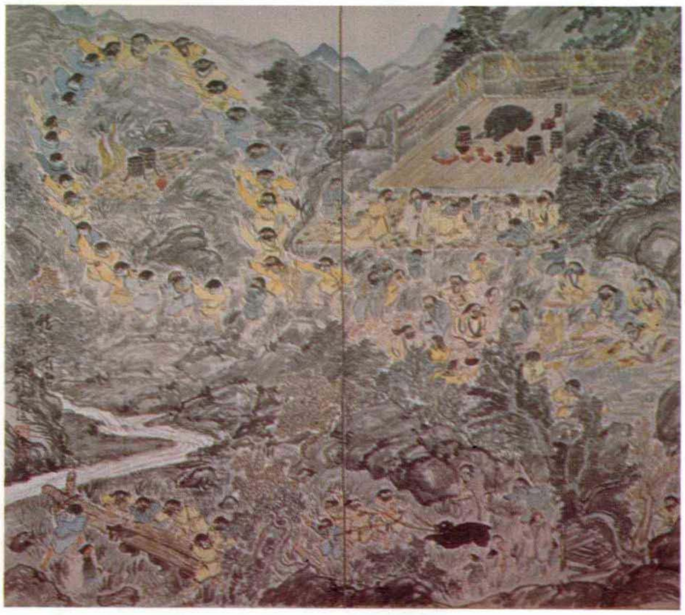
とみおかせいしじょう　【富岡製糸場】　明治政府の殖産興業政策に基づいて，1872年(明治5)群馬県富岡に設立された官営の模範工場。フランス技師ポール-ブリューナーの指導で，フランス式の製糸技術で良質の製品を生産し，日本の製糸技術の発展に貢献した。女工には士族の子女が多かった。1893年経営不振から三井に払い下げられ，1902年原合名会社へ譲渡，1939年(昭和14)片倉製糸(現在の片倉工業)に合併された。

とみおかてっさい　【富岡鉄斎】（1836～1924）　日本画家。京都の生まれ。名は猷輔(ゆうすけ)，のちに百錬。国学・儒学・仏典を修め，絵は浮田一蕙(いっけい)・小田海僊(かいせん)につき，のち長崎に出て南画を学ぶ。明治維新後，各地の神社宮司をつとめたが，1881年(明治14)以後画業に専念，高い教養と気力に満ちた高潔清澄な画風で数多くの傑作を残す。京都南画界の重鎮であった。

とみくじ　【富籤】　当選金額と期日を公表して抽選券を発売し，抽選を行なったうえ賞金を支払う賭博(とばく)的興行。中世末期に頼母子講(たのもしこう)から派生し，近世の〈富突(とみつき)〉は代表的である。〈富突〉は売った富札と同数の木札を箱に入れ，目隠しをして小孔から大きりで突き刺してあたりを決め，あたった者にばくだいな賞金を出すしくみであった。江戸幕府は寺社の修復資金調達の手段としてこれを公認したため，以来急速に盛んとなり，文化・文政年間(1804～1829)には全盛をきわめた。中でも，目黒不動・湯島天神・谷中(やなか)天王寺(感応寺)のものは有名で，江戸三富といわれた。なお，現行刑法は，富籤の発売，発売の取り次ぎ・授受を富籤罪とし，それぞれ罰則規定を設けている(187条)。



ドーミエ《三等列車》1862　メトロポリタン美術館蔵



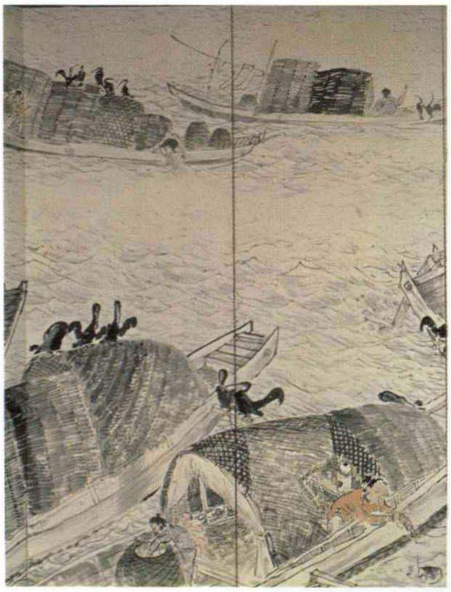
富岡鉄斎《旧蝦夷風俗図屏風》1896　東京国立博物館蔵

とみざきしゅんしょう　【富崎春昇】（1880～1958）　地歌の演奏家。文楽の人形遣(つか)い吉田(よしだ)玉助の子として大阪に生まれる。4歳のとき失明して地歌を習い，20代ですでに名人といわれた。《春の江の島》など30曲に及ぶ作曲のほか，地歌の古典や忘れられていた繁太夫(しげたゆう)物や作物(さくもの)にすぐれ，これらを伝承した功績は大きい。これらの曲は，同じく盲目の名人富山清琴(1913～　)に伝えられている。

とみずじけん　【戸水事件】　明治後期，対露強硬論を主張した東京帝国大学法科教授戸水寛人(ひろんど)の休職処分をめぐって，大学と政府の間に展開された事件。七博士事件に続き，日露戦争の終結にあたっても，東大法科教授会はなおポーツマス条約の内容を不満として反対した。中でも戸水は最も活動的に戦争継続を主張し続けたため，1905年(明治38)8月休職処分に付された。これに対して東大法科教授会は連名で文相に抗議書を提出したが，政府はかえって総長山川健次郎を依願免官したため，全学教授は結束して文相の辞職を要求し，要求が入れられない場合は総辞職することを申し合わせた。ついに政府は屈服し，文相久保田譲の免職，戸水の復職で決着した。

とみたけいせん　【富田溪仙】（1879～1936）　日本画家。福岡市の生まれ。都路華香・富岡鉄斎に師事。南画ふうの自由で異色ある大作を残す。1914年再興院展に参加，翌年同人となる。→次ページ(写真)

とみたつねお　【富田常雄】（1904～1967）　小説家。東京小石川に柔道家の子として生まれる。明治大学商学部卒。在学中から詩・



富田溪仙《鵜船図屛風》(部分) 東京国立博物館蔵

少年小説を書き，また左翼演劇運動にも関係したが，《姿三四郎》で人気を博し，大衆文学に転じた。1949年(昭和24)，《刺青×面》で直木賞受賞。ほかに《弁慶×柔(やわら)》など。

とみながたろう【富永太郎】(1901～1925) 詩人。東京の生まれ。東京外国語学校フランス語科に学び，ボードレール・ランボーを耽読(たんどく)，個性的な象徴主義の詩をつくり，中学以来の友人小林秀雄(ひでお)らの同人雑誌《山繭》に発表した。また中原中也(ちゅうや)・大岡昇平らと交わり大きな感化を与えたが，肺結核で夭折(ようせつ)した。没後《富永太郎詩集》が刊行された。

とみながなかもと【富永仲基】(1715～1746) 江戸中期の思想家。号は謙斎。大阪のしょうゆ醸造業の家に生まれ，家業に従事するかたわら12歳で懐徳堂に学んだ。俊才といわれ16歳ごろに既成儒学批判の書《説蔽(せっぺい)》を書き，そのため懐徳堂を破門された。ただしこの書は現存しない。その後，宇治の黄檗山(おうばくさん)万福寺で《大蔵経》の校合に従事したともいわれる。晩年は郷里で家塾(かじゅく)を開き，著述に従った。仏教・神道(しんとう)にも詳しく，主著に《出定後語×翁の文》がある。〔永藤 武〕

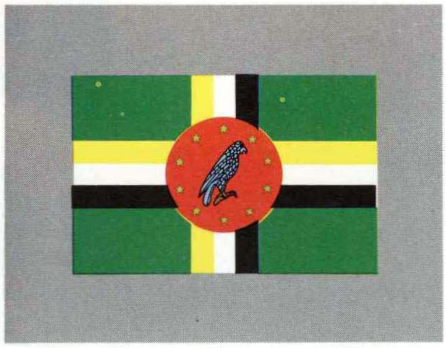
ドミニカ(国) ⇨ウィンドワード(諸島)

ドミニカ(共和国)［Dominican Republic, República Dominicana］ 西インド諸島中のハイチ島東部を占める共和国。面積48,734km²。人口543万(1979年推)。首都サントドミンゴ。

【自然・住民】国土はハイチ島の約3分の2を占め，全体に山がちで中央を東西に走る中央山脈によって北部と南部に大別される。ハイチ共和国との国境に近い西部は険しい山地で，ルシャ山(3,175m)があり，東部には平地が多い。北部は中央山脈と海岸山脈との間にシバオとよぶ谷平野が開け，



300万人以上の都市 100～300万人の都市 50～100万人の都市
10～50万人の都市 5～10万人の都市 5万人未満の都市 首府 油田



ドミニカの国旗 1844年制定。建国者デュアルテの考案といわれる。紋章は中央に十字架と聖書が描かれ，ゲッケイジュとシュロの葉を配し，さらに〈神・祖国・自由〉の国章と国名を書いたリボンが上下に置かれている。青は神，赤は祖国，白は自由を表わす



ドミニカ 首都のサントドミンゴの東約30kmにあるボカチカの海水浴場。サンゴ礁に囲まれた穏やかな海ではボート遊びも盛ん

肥沃(ひよく)な土壌(どじょう)に恵まれ，農業の中心地域を形成している。気候は熱帯海洋性であるが，平野では年じゅう高温で，山地では冬季0°C以下になる所もある。雨は山地に多く平野に少ないため，農耕には灌漑(かんがい)を必要とする地域もある。

住民は白人と黒人の混血種が70%を占め，白人は10%，黒人は20%である。そのほとんどは平野部に集中し，全人口の2分の1はシバオに，3分の1は南部海岸に住んでいる。移民の来住などで，1930～1964年の間に約100万人が急増した。住民の大部分はカトリック教徒で，人口の約半分は文盲である。国語はスペイン語。通貨はペソ。

【産業・経済】主産業は農業と牧畜で，米・ワタ・豆類・蔬菜(そさい)などをつくり，特にサトウキビ・コーヒー・カカオが三大商品作物になっている。シバオはカカオの主産地で，中南部はサトウキビ，南部の西海岸はコーヒーの主産地である。これらは首都サントドミンゴなどの港から輸出されるが，サトウキビは輸出総額の約50%を占め，中南米ではキューバに次ぐ輸出国になっている。牧畜も盛んで，西インド諸島中，この国だけが食肉の輸出能力をもっている。輸入品は食料品・機械類・石油・化学製品などである。農牧地は国土の35%にすぎず，西部の未開拓地の開発が大きな課題となっている。ハイチとの国境に近い地域では，日本人・スペイン人・ハンガリー人など外国人移民の開拓村が多い。

【歴史・政治】1492年コロンブスによって発見され，ラ-エスパニオラとよばれてスペインの新世界最初の植民地となった。1795年全島がフランス領となり，1822年にハイチ共和国として独立したが，1844年に島の東半分が別れて独立した。しかし独立後も内乱やスペイン・ハイチなどからの攻撃によって政情は安定せず，1916～1927年にはアメリカ合衆国に占領された。その後約30年にわたるトルヒーヨの独裁政治が続いたが，1961年クーデターによって倒された。しかしその後も政情は不安定で，1965年の内乱ではアメリカ合衆国の軍事介入を招いている。憲法は1961年に制定，1962年に修正された臨時憲法によっており，大統領の率いる7人の評議会が立法権・行政権をもっている。大統領は直接選挙制で，国会は二院制。1942年の総選挙から婦人の投票が行なわれている。〔小栗 宏〕

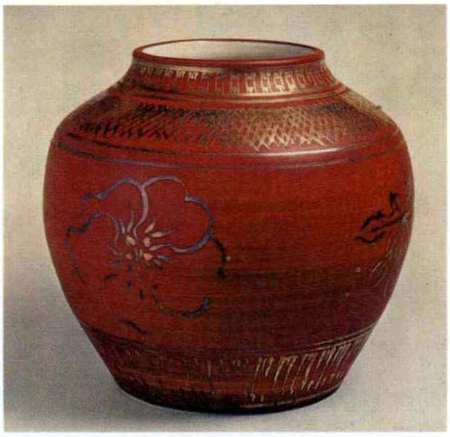
ドミニクス［Dominicus］(1170ごろ～1221) スペインの聖職者・聖人。バレンシアで神学を学び，1199年ごろオスマの大聖堂つき参事会員となる。1203年南フランスに行き，異端アルビ派を教化，1216年にはツールーズにドミニコ会を設立した。

ドミニコかい【ドミニコ会】1216年，ドミニクスが設立した托鉢(たくはつ)修道会。教皇インノケンチウス3世の命により南フランスの異端アルビ派を教化するために組織された。正統信仰の擁護を目的とし，会士と会との財産の所有を否定し，清貧を重んじた点，フランシスコ会と並ぶ。アルベルトゥス-マグヌス・トマス-アクィナスらが輩出し，大きな影響力をもった。

ドミノ［dominoes］ 18世紀ごろイタリア・フランスで考案されたゲームの一種で，ダイスから転化したものといわれる。2個のダイスを並べたような長方形の牌(パイ)(ボーンまたはドミノという)を用いて行なう。ボーンは通常0－0から始まり0－1，0－2……5－6，6－6までの28個である。ゲームは種類が多くて，〈ブロック〉〈ドロー〉〈オールファイブ〉〈オールスリー〉〈スニッフ〉〈ドミノホイスト〉〈マタドー

ル〉などが代表的なもの。遊び方は，〈マタドール〉を除いては，2～4人で行ない，最初にボーンを全部裏向けにしてよくかき混ぜ，各自が決められた枚数(5～7枚)を取り，残りはストックとして場において置く。次いで，最も大きいダブルカウント(6－6，5－5のように同じ数字が並んでいるボーン)を持っている人がリーダーになり，ボーンを1枚場に出す。あとの人は順にそのボーンのどちらかの端の数字に合うボーンを出して縦・横に置いていく。早く手持ちのボーンを出しきると勝ちとなり，出せるボーンがないときはストックからそのボーンがくるまで引き，残りのボーンの数字の合計がマイナス点になる。

とみもとけんきち【富本憲吉】(1886～1963) わが国現代屈指の陶芸家。奈良県の生まれ。はじめ東京美術学校で建築装飾を修めたが，のちリーチ*の知遇を得て陶磁器に関心を寄せ，1915年(大正4)に故郷に本窯(ほんがま)を築いて製陶を始めた。その本領は，きわめてシンプルな造形の白磁胎の上に，多彩な上絵の具で絵付(えつけ)した穏和であざやかな色絵磁器に発揮されている。



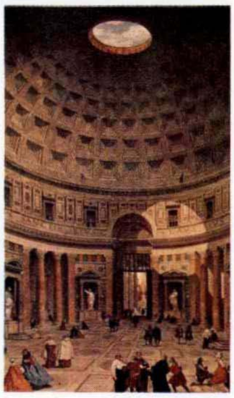
富本憲吉《赤絵銀襴手飾壺》1929 京都国立近代美術館蔵

とみもとぶし【富本節】浄瑠璃(じょうるり)の一流派。1748年(寛延1)，常磐津節(ときわずぶし)の常磐津品太夫(しなだゆう)が独立して創設，富本豊前掾(ぶぜんのじょう)を名のった。実子2世(1754～1822)の代には江戸で最も人気のあるジャンルとなったが，1814年(文化11)に富本節から独立した清元節に人気をさらわれ，以後のさまざまな努力にもかかわらず，常磐津節・清元節のような隆盛は再びもどってこなかった。音楽的にも，常磐津節の豪快さや素朴(そぼく)さでもなく，清元節のようないきや大胆な表現でもなく，語り物の中ではうた物に近い旋律性をもっているのが特徴である。現行のレパートリーとしては，御祝儀曲の《長生》《浅間》の名で知られる《其俤浅間嶽(そのおもかげあさまがたけ)》や《松風》《夕霧》《身替りお俊》《六玉川》など，約30曲である。〔徳丸吉彦〕

とみやすふうせい【富安風生】(1885～1979) 俳人。本名謙次。愛知県の生まれ。東京大学法科卒。はじめ吉岡禅寺洞(よしおかぜんじどう)に学んで句作を始め，東大俳句会にも参加，のち高浜虚子*に師事した。1928年(昭和3)《若葉》の創刊に参加，のちに同誌を主宰した。1929年《ホトトギス*》同人。近代的教養を基礎として，写生に立脚した中正温雅，軽快平明な句風を示す。句集《草の花》《定本富安風生句集》など。

とみんげきじょう【都民劇場】東京近辺の人々を対象に，古典から現代に至るすぐれた舞台芸術を安い料金で鑑賞させる会員制の観客組織。1946年(昭和21)，東京都教育庁内に設置された〈演劇教室都民劇場〉として出発，1955年東京都から独立して財団法人となった。類似団体の中では最も歴史が古い。1971年現在，演劇サークル・歌舞伎(かぶき)サークル・音楽サークル・新劇サークル・映画サークルの5部門に分かれ，全会員数36,500。〔西尾邦夫〕





ドーム (上)サン-マルコ聖堂(イタリア，ベネチア) (下)パンテオン(イタリア，ローマ)内部の直径44.5mの大ドーム。ドームの頂上には直径9mの丸窓があけられている

とみんぜい【都民税】都が課する住民税*。個人に課されるものは道府県民税*に準ずるが，法人に課されるものは道府県民税と市町村民税との合算額であり，均等割の税率は，資本金1,000万円をこえる法人にあっては5,000円，その他の法人にあっては3,000円とされている。また法人税割の税率は標準税率14.7%，制限税率17.3%である。

ドーム［dome］丸屋根・円蓋(えんがい)ともいう。組積構造で広い空間をおおうくふうの究極として生まれたもので，アーチの技術の応用であり，アーチを点対象にかけ渡して形成される。特にローマ建築でめざましく発達し多方面に応用されたが，ローマのパンテオン(120年ごろ)はその代表的傑作で，内径も高さも44.5mの大ドームをもち，広大なすばらしい内部空間を生み出している。ローマ建築のドームの伝統は，のちのビザンチン帝国に受け継がれたが，近世の文芸復興期のさきがけとしてフィレンツェのドゥオモ(本寺)に大ドームがかけられて以来，ルネサンスの象徴として愛好され，近世の記念建築の意匠に欠くことのできない要素として流行した。〔渡辺保忠〕

トム-ジョーンズ フィールディング*の長編小説(1749)。全18巻208章，登場人物約200人という大作で，その雄大で精巧な構成と18世紀イギリス社会の活写によって，イギリス小説創始期の記念碑的作品とされる。地主に育てられて陽気な青年になった孤児トムと地主の甥(おい)で陰険な青年ブライフィルは，ともにソフィアに心を寄せるが，ブライフィルの奸計(かんけい)でトムは故郷を追われる。トムを慕うソフィアも家出，ふたりは再会し結ばれるというもの。

トムスク［Tomsk］ソ連の西シベリア，オビ川上流域のトムスク州の州都。人口41万3,000(1976)。オビ川支流のトミ川に面して河港をもつ商工業都市で，西シベリアの工業中心の一。金属加工・電機・化学・木材などの工業が盛んである。1604年に建設された要塞(ようさい)に起源をもち，のちに商業都市として栄え，また流刑地でもあった。1888年創立のシベリア最古の大学がある。

ドームズデー-ブック［Domesday Book］イングランド王ウィリアム1世が徴税を目的に作成させた全国的な検地帳。1086年完成。主として征服当時の土地価格と保有者名，調査時の土地価格と保有者名，その耕地面積，耕地以外の面積，自由農民，非自由農民などのそれぞれについての統計的調査である。その範囲はイングランド全土にわたり，きわめて詳細なもので，イギリス中世史の貴重な史料とされる。

トムセン［Christian Jurgensen Thomsen］(1788～1865) デンマークの考古学者。コペンハーゲンの王立古物博物館長をつとめた。先史時代を石器時代・青銅器時代・鉄器時代の3区分とした。この区分法はその後の時代区分の基礎になった。《北欧古代学入門》がある。

トム-ソーヤーのぼうけん【トム-ソーヤーの冒険】マーク-トウェーン*の小説(1876)。作者がミシシッピ川畔で過ごした少年時代を回顧して書いたもの。主人公トムが友人ハックと，無実の罪に問われた人を助けて人気者になったり，洞穴(どうけつ)に隠された宝の箱を発見して大金持ちになったりする冒険小説。作中の天衣無縫な少年少女たちの姿は，自然への賛美であり，古い社会への痛烈な風刺ともなっている。

トムソン ⇒ケルビン

トムソン［Elihu Thomson］(1853～1937) アメリカの電力機器研究者。イギリスのマンチェスターに生まれ，少年のころアメリカに渡ってハイスクールの教師となった。フィラデルフィア-ハイスクールの物理学教師ヒューストンと協力して電燈事

業を開発，1883年トムソン-ヒューストン電気会社を創立，のちエジソンの会社と合併，1892年世界最大の電気会社ゼネラル-エレクトリックとなった。彼は反発交流電動機・三相交流発電機など交流機器に関する発明が多い。〔山崎俊雄〕

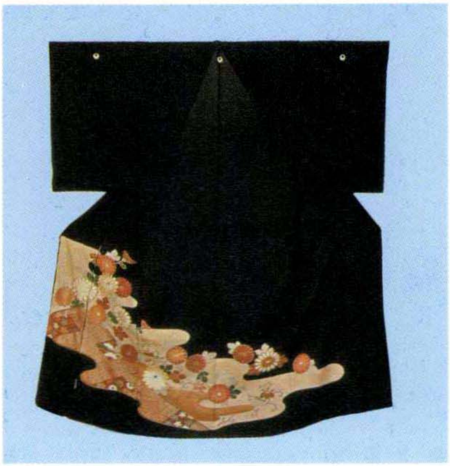
トムソン［*Sir* Joseph John Thomson］(1856～1940) イギリスの物理学者。マンチェスターに生まれ，ケンブリッジに学んだ。1884年28歳でキャベンディッシュ研究所長となった。その後ロンドンの王立研究所教授などを歴任，1918年ケンブリッジ大学トリニティ-カレッジ学長をつとめた。気体電離の研究，イオン運動の実験などをして，1897年陰極線粒子の比電荷を測定して電子の存在を確立，従来の物質概念を一変した。このほか原子模型を提出し(トムソンの模型)，また1912年陽極線を用いた質量分析器を製作してネオンの同位元素を発見するなど，多くのすぐれた業績を残した。当時彼が主宰したキャベンディッシュ研究所からはラザフォード・タウンゼンドら多くの原子物理学者が育ち，世界の注目の的となった。1906年ノーベル物理学賞を受賞。〔藤村　淳〕

トムソンこうか［トムソン効果］両端の温度が異なる導体に電流を通ずると，ジュール熱以外に熱の発生吸収が起こる現象。発生する単位時間あたりの熱は，電流と温度との積に比例する。したがって，温度の高低を逆にするか，電流の方向を反対にすれば，熱の発生・吸収は逆になる。単位時間に発生する熱量を温度差と電流の積で割ったものをトムソン係数といい，電流が高温部から低温部に流れるときに熱を発生する場合を正にとる。銅・亜鉛などのトムソン係数は正，鉄は負で，鉛は0である。一般にトムソン効果による発熱・吸熱は，ジュール熱に比べて無視できる程度に少ない。

とめそで【留め袖】詰め袖ともいう。女物の長着につく45～55cmぐらいのたけのそで。江戸時代，既婚者はそでたけを短く留めたのでこの名がある。なお現在は黒留め袖(五つ紋付江戸褄(えどづま)模様で既婚女性の礼装)をいう。

ドメニキーノ［Domenichino］(1581～1641) イタリア，ボローニア派の代表的画家。本名ドメニコ-ザムピエリ。カラッチに学び，風景画・歴史画・肖像画に特異の才能を示し，甘美な劇的構成でフランスの画家プーサンに強い影響を与えた。代表作は《聖ヒエロニムスの聖体受領図》《ダイアナの狩猟》などである。

とも【鞆】広島県南東部，沼隈(ぬまくま)半島先端にあり，瀬戸内海燧灘(ひうちなだ)に面する地区。1889年(明治22)町制を施行，1956年(昭和31)福山市に編入された。古くは巴津(ともえつ)とよばれた帆船交通の要港であった。15世紀初期興った鞆鍛冶(かじ)の伝統を継ぐ小形棒鋼・船釘(ふなくぎ)などの中小企



留 め 袖　手がき友禅の黒留めそで



ドメニキーノ《聖ヒエロニムスの聖体受領図》



トモエソウ

業が海岸部に集まる。タイ網漁が名高く，安国寺や鞆対潮楼などの史跡に富む。瀬戸内海国立公園に属し，阿伏兎岬(あぶとみさき)に通ずる鞆ノ浦スカイラインは瀬戸内海の眺望(ちょうぼう)がすばらしい。山陽本線福山駅と松永(まつなが)駅からバスが通じ，対岸の香川県多度津からは汽船が就航する。〔浅井得一〕

ド-モアブル［Abraham de Moivre］(1667～1754) フランスに生まれ，ロンドンに移住した数学者。ニュートンやハレーと交際し，三角法や確率論などに業績を残す。家庭教師として生計を立てた。$(\cos\theta+i\sin\theta)^n=\cos n\theta+i\sin n\theta$ の公式に彼の名まえがつけられ〈ド-モアブルの定理〉とよばれている。

ド-モアブルのていり［ド-モアブルの定理］ iを虚数単位，θを実数，nを任意の整数とすると，

$$(\cos\theta+i\sin\theta)^n=\cos n\theta+i\sin n\theta$$

がなりたつ公式。ド-モアブルの公式ともいう。この定理は，三角関数や複素数の計算に広く応用される。たとえば，上の公式のnに2や3を代入し，両辺の実数部どうし，虚数部どうしを比べると，sinやcosの倍角公式が得られる。

なお，この定理は，次の性質によって証明される。

$$r_1(\cos\theta_1+i\sin\theta_1)\cdot r_2(\cos\theta_2+i\sin\theta_2)=r_1r_2\{\cos(\theta_1+\theta_2)+i\sin(\theta_1+\theta_2)\}$$

すなわち，二つの複素数の積の絶対値は，因数の絶対値の積に等しく，積の偏角は因数の偏角の和に等しいことを用いて証明される。〔杉岡司馬〕

ともえが【巴蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヤガ科。体長25～30mm，翅(はね)を広げた長さ55～70mm。体・翅とも黒かっ色で，前翅の中央部に巴形の黒色の紋がある。燈火に集まるが，昼間も林の中をよく飛ぶ。成虫は年2回発生し，もと春型はアカイロトモエ，夏型はオスグロトモエとよばれて別種とされていた。幼虫はネムノキを食べ，体色は樹皮に似る。土中でさなぎとなり，そのまま越冬する。日本全土のほか朝鮮・中国・ビルマ・インド・セイロンなどに分布する。近縁種のシロスジトモエは白色の帯をもち，幼虫はサルトリイバラを食べる。〔多々内修〕

ともえがも【巴鴨】鳥類・ガンカモ科。全長40cm前後で，コガモに似るがやや大きい。顔に白・緑・黄かっ色の渦紋(かもん)があることが和名の由来。シベリア東部に繁殖地があるが，その地域は狭く，わが国には旅鳥または冬鳥として少数が渡来する。

ともえごぜん【巴御前】生没年不詳。源義仲(よしなか)の妾(しょう)。中原兼遠の娘で武勇にすぐれ，義仲に従ってしばしば戦功をたてた。1184年(寿永3)義仲が近江(おうみ)(滋賀県)に敗走した際もこれに従って防戦に努めたが，最後に臨んだ義仲に説得されてやむなく帰国した。のち越後(えちご)(新潟県)で尼となったという。

ともえそう【巴草】双子葉植物・オトギリソウ科。山野の陽地に自生する多年草。高さ50～120cmで，茎に4稜(りょう)がある。葉は長披針(ちょうひしん)形で，長さ5～10cm，

幅1～3cm，基部は茎を抱く。葉に明点が密に分布するが，オトギリソウに見られる黒点はない。7～8月，直径4～6cmの黄色5弁花をつける。花弁は長さ2.5cm，幅1.5cmで巴形に配列し，おしべは多数，めしべの花柱は5本。果実は蒴果(さくか)で，長さ13～15cmの円錐(えんすい)形。種子は黒かっ色で，約1.3mmの円柱形である。

ともえり　【共衿】　男女の長着の表えりに，えり肩からおくみ下がりにかけて，よごれを防ぐためにかぶせて付ける表えりと同布のえり。並み幅の半幅で，たけ90cm内外。江戸時代後期から起こったらしい。古くは掛けえりともよんだが，一般には掛けえりは表えりの布とは異なる布(黒繻子(じゅす)など)を使った場合によぶ。➔えり

ともだきょうすけ　【友田恭助】　(1899～1937)　新劇俳優。東京生まれ。早稲田(わせだ)大学在学中から畑中蓼坡(りょうは)の新劇協会に属し，わかもの座を経て築地小劇場の創立同人として活躍。築地小劇場解散後には妻の女優，田村秋子と劇団新東京を創設，さらに1932年(昭和7)には築地座を創立し，久保田万太郎・岸田国士(くにお)はじめ〈劇作〉派の創作戯曲を次々と上演して劇界に新風を吹き込んだ。当時の左翼路線に抗して芸術路線を維持し，心理の緻密(ちみつ)な表現を得意とする天才的俳優とうたわれたが，日中戦争で上海(シャンハイ)に出征中戦死した。　〔大島　勉〕

ともづり　【友釣り】　アユづりの代表的な方法の一。アユのなわ張り性を利用するもので，わが国独特の方法である。アユは1m²前後のなわ張りをつくってすみつき，他のアユがその中にはいるとこれを激しく攻撃する。それで，つり糸の先の鼻環(はなかん)におとりアユをつけ，その周囲に逆針・かけ針をつけてなわ張り内に放すと，なわ張りアユはこの侵入者を激しく追い，かけ針にかかるのである。友づりの名は，なわ張りアユがおとりアユを追うさまがあたかもたわむれているように見えるところから生じたもの。つり方としては，おとりアユの頭部を水面すれすれにして，上流に向け道糸を張り，斜めに水圧を受けるようにして，おとりアユを流心に泳ぎ込ませ，次にさおを立てておとりアユを操作する。活発なおとりアユを使うこと，おとりアユを弱らせないように注意深く操作することがこつである。➔つり　〔清水游谷〕

ともながさんじゅうろう　【朝永三十郎】　(1871～1951)　哲学史家。長崎県の生まれ。第一高等学校に学び，1898年(明治31)東京帝国大学哲学科卒。真宗大学教授を経て，1907年京都大学助教授。1909～1913年ヨーロッパに留学し，おもにウィンデルバントに学ぶ。1913年同大学教授となり西洋哲学史を担当。1931年(昭和6)停年退官後1944年まで大谷大学教授。明治・大正期には丁酉(ていゆう)倫理会や吉野(よしの)作造らの黎明会(れいめいかい)に参加。著書《近世に於(お)ける〈我〉の自覚史》は，哲学を精神思想史として取り扱い，今日も広く読まれている。　〔中川　誠〕

ともながしんいちろう　【朝永振一郎】　(1906～1979)　理論物理学者。京都府生まれ。1929年(昭和4)京都大学理学部物理学科卒。その後理化学研究所仁科(にしな)研究室にはいり，1937年ドイツに留学してハイゼンベルクに師事。帰国後1941年東京文理科大学(旧東京教育大学)教授となり，以後関東・東京地区の素粒子論研究グループで指導的役割を果たした。のち東京教育大学学長(1956～1961)，同光学研究所長。

量子力学の分野で場の量子論に関する相対論的定式化を意図し，1943年超多時間理論を建設，量子電気力学に画期的な前進をもたらした。これはさらにいわゆる〈くりこみ〉理論の処法によって〈無限大の困難〉を解決に導いた。このほか中間結合の理論や多体問題の研究も著名。

数々の業績により文化勲章(1952)・学士院賞(1948)・朝日文化賞(1946)などを受け，さらに1965年にはシュウィンガー・ファインマンとともにノーベル物理学賞を受賞。原子核特別委員会委員長，また核兵器に関するパグウォッシュ会議にも参加して，その平和利用にも尽力。　〔藤村　淳〕

とものみやつこ　【伴造】　大化(645～649)前代，皇室所有の名代(なしろ)・子代・品部(ともべ)などの部民を管理する豪族。多くは特殊技能・専門的職業をもって朝廷に仕え，一定の政治的地位を世襲した。伴造の姓(かばね)は連(むらじ)・首(おびと)・造・史(ふひと)など数多いが，中でも連・大連は有力で，大連は大臣(おおおみ)と並んで国政をとることもあった。しかし伴造の多くは中下級の豪族であり，地方を支配した国造と併称されることが多かった。伴造配下の民は，元来皇室・朝廷の所有であったが，実質的には多くは伴造の私有民と化した。大化改新後，その有力な者は貴族となり，下級の者は諸官司の伴部といわれる官人となり，品部・雑戸の管理にあたった。　〔黛　弘道〕

とものよしお　【伴善男】　(809～868)　平安初期の政治家。大納言に上り，伴大納言といわれた。866年(貞観8)応天門が炎上した際，善男は左大臣源信(まこと)の追い落としを図って信を放火犯人に仕立てようとしたが，かえって太政(だじょう)大臣藤原良房(よしふさ)の術中に陥り，善男自身が真犯人として伊豆(いず)(静岡県)に流されることとなった。しかし真相は不明で，彼自身も藤原氏の他氏排斥政策の犠牲となったと考えられる。➔応天門の変　〔高崎徳次〕

ともびき　【友引】　⇨六曜

ともべ　【品部】　大和(やまと)朝廷時代に一定の労役・技術をもって世襲的に仕えた集団。〈しなべ〉ともいう。大化(645～649)前代には氏姓制度の一組織として朝廷に直属し，伴造(とものみやつこ)に統率され，多くは陶部(すえつくりべ)・錦織部(にしごりべ)などのようにその職能を冠して名称とした。律令(りつりょう)制下にあっては，諸官司に所属して良民の最下層に置かれた。その課丁(課口ともいい，課役負担の義務を負った者)は庸・調(➔租・庸・調)・雑徭(ぞうよう)にあたる労役として一定期間交替で上番し，所定の製品を政府に納めた。平安時代にはいって減少し，やがて雑色の身分に包含された。　〔高崎徳次〕

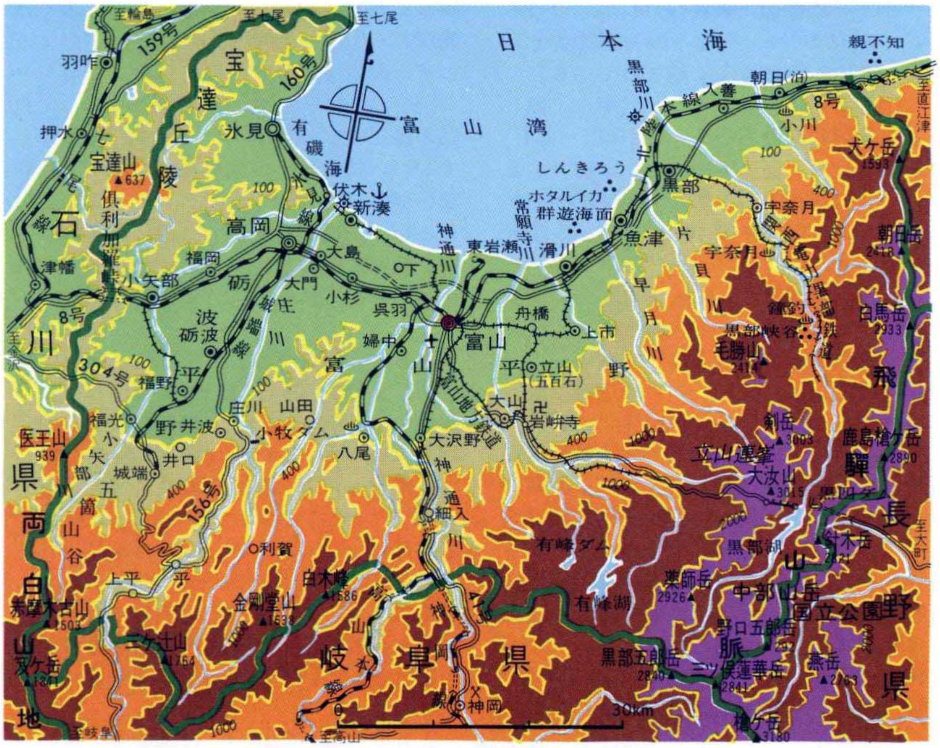
ともべ　【友部(町)】　茨城県ほぼ中央部の町。人口26,000。西茨城郡に属し，北は笠間(かさま)市に接する。1955年(昭和30)宍戸(ししど)町と大原・北川根の2村が合併して，常磐(じょうばん)線友部駅の名をとって町名とした。畑作を主とするが，涸沼(ひぬま)川沿いには水田も開ける。タバコを栽培し，クリの特産がある。水戸(みと)市に近いので，住宅地や中小工場も進出している。常磐線から水戸線を分岐する交通の要地である。

どもまた　【吃又】　⇨傾城反魂香(けいせいはんごんこう)

ともやっこ　【供奴】　日本舞踊・長唄(ながうた)の曲名。本名題《拙筆力七以呂波(にじりがきななついろは)》。七変化(➔変化物)の一。1828年(文政11)初演。廓(くるわ)通いの主人にはぐれた奴の，はなやかで威勢のよい踊り。特に足拍子のおもしろさや，丹前風呂(ぶろ)へ通う客の流行風俗を様式化した丹前ふうの振りが見どころ。

どもり　【吃り】　言語障害の一種で，吃音(きつおん)ともいう。一つずつの音は正確に発音できるが，話のはじめや途中でことばがつかえたり，くり返されたり，引き伸ばされたりして円滑な発語ができないもの。原因は複雑ではっきりわからないが，40～60%は吃りに対する素因が遺伝すると考えられ，また環境因子が重要な要因で，模倣が誘因となることも多い。本態論として，いろいろの説があるが，いずれにしても呼吸・発声・構音器官に，形態的・器質的変化はみられず，心理的・機能的な疾患である。統計では男子に多く，ふつう2～5歳ぐらいから起こる。吃りを意識すると心理的な負担がかかり，顔面や四肢(しし)に落ち着きのない行動が現われ，動悸(どうき)・赤面・発汗など自律神経症状も現われる。小児では，当人のストレスを除いてやり，日常生活に落ち着きと自信をもたせることがたいせつである。成人や自意識のある小児では，環境の整備，そのほか心理学者による面接を通じて，不安・緊張を取り除くことなども重視される。同時に，矯正(きょうせい)訓練法として呼吸練習などがある。すなわち暗示療法・発音練習法が最も有力である。　〔清水淑郎〕

ド-モルガンのほうそく　【ド-モルガンの法則】　集合演算についての法則。集合A，Bの合併集合を$A \cup B$，共通部分をA



富山県

100万人以上の市　30〜100万人の市　10〜30万人の市　5〜10万人の市　5万人未満の市　町名　村名　字名　地方庁所在地　油田　商港　漁港

∩Bで表わし，Aの補集合を$\bar{A}$で表わすと，次の等式が成立する。

$$\overline{A \cup B} = \bar{A} \cap \bar{B} \qquad ①$$
$$\overline{A \cap B} = \bar{A} \cup \bar{B} \qquad ②$$

これをド-モルガンの法則という。これを用いると，合併集合を共通部分に，または共通部分を合併集合に変えることができる。なお，その際に，補集合について性質$\bar{\bar{A}}=A$，$\bar{U}=\phi$，$\bar{\phi}=U$が用いられる。ただし，Uは全体集合，ϕは空集合とする。

〔小西勇雄〕

ともん【図們】トーメン　中国，吉林(きつりん)省東部の都市で延辺朝鮮族自治州の南端に位置し，図們江(豆満江(とまんこう))北岸に臨み，北朝鮮と対する。長図鉄道(長春〜図們)・牡図(ぼと)鉄道(牡丹江(ぼたんこう)〜図們)の終点にあたり，交通の便に恵まれている。住民の半数以上は朝鮮人であるといわれる。

どもんけん【土門拳】(1909〜　) 写真家。山形県出身。1935年(昭和10)に名取洋之助*の日本工房にはいり，国策的なルポルタージュを発表するかたわら，古社寺・仏像・文楽や文筆家のポートレートの撮影に力を注いだ。これらは第2次世界大戦後，《室生寺》《風貌(ふうぼう)》などに結実した。

1950年(昭和25)からはアマチュア写真雑誌を通じて，リアリズム写真運動の先頭に立ち，後進の育成に寄与した。写真家として最初の個人全集,《土門拳自選作品集(世界文化社刊)》がある。

とやま【富山(県)】中部地方中北部の県。北は日本海に面し，東は長野・新潟の両県，南は岐阜県，西は石川県に接する。越中全域を占め，面積4,252km²，人口110万6,000で，1km²あたりの人口密度は260人。県花は特産のチューリップ，県木はタテヤマスギ，県鳥はライチョウ，県獣はコシノイヌである。県庁のある富山以下の9市と7郡(18町8村)に分かれる。

【自然】一般に山がちで，東・南・西の三方を山地に囲まれ，中央部に平野が広がり，羽を広げたチョウのような形である。東部の県境には飛騨(ひだ)山脈の一部をなす立山連峰が走り，主峰の立山(3,015m)をはじめ，剣岳(3,003m)・薬師岳(2,926m)など，海抜3,000m内外の高峰が連なる。周辺部には黒部(くろべ)川上流の渓谷美(けいこくび)や多くの温泉があり，新潟・長野・岐阜の3県にまたがる中部山岳国立公園に編入されている。立山連峰の東側には糸魚川(いといがわ)-静岡構造線があり，西側も断層をなして日本海に迫り，北端に宮崎海岸および親不知(おやしらず)の断層崖(だんそうがい)を形成する。南部から西部へかけては，飛騨山地が大きく広がるが，高山はない。石川県境には，医王山(いおうぜん)(939m)を主峰とする丘陵性の大門(医王)山脈が北へ走り，北陸街道の倶利伽羅(くりから)峠(277m)がある。これらの山岳地帯から流出する河川は，東から黒部川・常願寺川・神通(じんずう)川・庄(しょう)川・小矢部川などがあり，下流部に富山平野をつくる。これらの川はいずれも急流で，山地から平野部へ出て扇状地をつくり，土砂の堆積(たいせき)作用がきわめて盛んである。富山平野は平坦(へいたん)な沖積(ちゅうせき)平野で，飛騨山地から北へ延びる海抜100m内外の呉羽(くれは)丘陵によって東西に二分される。東の呉東(ごとう)平野は黒部川扇状地と常願寺川・神通川・上市川・早月川・片貝川などの扇状地の複合平野からなる。西の呉西平野は，放生津潟(ほうじょうづがた)を埋め立てた低湿な射水平野と庄川・小矢部川流域扇状地の礪波(となみ)平野からなり，北西部には二上丘陵を隔てて氷見(ひみ)の低地がある。日本海に臨む海岸線には，能登(のと)半島にいだかれて陸地に大きくはいりこむ富山湾があり，長さ93kmのゆるやかな曲線を描く。富山湾は裏日本で最も深い湾で，最深部は1,279mに達する。湾の東端には親不知に続く断層崖があり，西端は能登半島へ続く丘陵が冬の季節風をさえぎるため，湾内には東から泊・生地・魚津・滑川(なめりかわ)・富山・四方(よかた)・新湊(しんみなと)・伏木・氷見などの良港が多い。富山湾の虻ケ島(あぶがしま)から雨晴(あまはらし)に至る氷見海岸と二上山(259m)を主峰とする二上丘陵は，能登半島国定公園に編入されている。魚津の埋没林や，滑川のホタルイカ群遊海面は特別天然記念物で，海面に現われる蜃気楼(しんきろう)も名高い。気候は一般に裏日本式気候で，冬季は不順な天候が続く。地形上高低の差が著しいために各地域の気温や降水量にも大きな相違があり，特に山地は深雪地帯で，立山連峰に初雪がみられるのは9月下旬ごろで，以後気温は5日に1℃の割合で下がり，10月末には平均気温が13℃以下になる。平野部で降雪がみられるのは12月である。気温は2月下旬ごろが最も低く平均1℃である。降水量は1月下旬から2月上旬にかけて最も多く，最大積雪量は2,000mmをこえる。冬季以外の気候は表日本の府県とほぼ変わりなく，特に夏季は高温多照の日が続き，安定した天候である。春さきには，立山連峰から吹き降ろす乾燥した風のために，平野部にフェーン現象が起きる。

【産業・経済】産業三大別人口比は10:39:51で，かつては農漁業が主産業であったが，いまは新興工業県に脱皮しつつある。県民所得は年間1人あたり124万7,000円(1977)で，全国第17位，北陸4県では石川県に次ぐが，最近までは石川県をしのいでいた。農業の中心は富山平野で，耕地面積76,000ヘクタール(1975)のうち水田が95%を占め，大部分が米の単作地帯である。越中米とよばれる米の平年収量は29万8,000tで，東京や京阪神(けいはんしん)地方に移出され，黒部扇状地は古くから早場米の産地として知られる。礪波平野では，1軒の農家の周辺に耕地を集めた散村集落が江戸初期からつくられており，いまも垣入(かいにょ)とよばれる屋敷林に囲まれた農家が水田地帯の間に100〜200mの間隔で建てられていて，その成因については前田藩の命令によったこと以外にはまだ不明な点が多く，歴史地理学界の重要な研究課題となっている。畑作では大麦・小麦などの麦類，ジャガイモ・ダイズ・アズキその他の豆類が栽培されるが，収穫

量は少ない。くだものでは，全国に出荷される黒部スイカやカキがあり，呉羽丘陵のナシ・モモなども特産として知られる。冬ごもりの長い農家の副業としては，わら工品が多くつくられ，年間生産額は5億円をこえ，氷見地方では農家の重要な副収入となっている。礪波市周辺では水田の裏作としてチューリップの栽培が盛んで，年間には球根3,700万球を産し,大半がアメリカをはじめ海外各地に輸出される。養蚕業は東礪波郡の山間地や婦負(ねい)郡八尾町付近で行なわれており，最近は電化の普及によって近代化・共同化が進んでいる。畜産業はあまりふるわず，ウシ・ブタ・ニワトリなど飼育頭羽数はいずれも全国平均より低い。林野面積は24万ヘクタールあり，県域の56%を占めるが，針葉樹林が少なく，保安林が7割に近く，森林地帯の多くが発電や灌漑(かんがい)用水の水源地で，きり出すことがむずかしいなどの理由から林業はあまりふるわない。水産業は活発で，富山湾は暖寒両流の魚種に恵まれ，イカ・イワシ・アジ・ブリなどの漁獲が多い。滑川付近ではホタルイカの特産があり，煮干しやつくだ煮に加工されている。地下資源は，金・銀・モリブデン・スズ・鉄・銅・黒鉛・石灰石などの多種にわたり，五箇山・黒部・上新川などの地域に多く分布するが，大部分は未開発で生産量は少ない。千野谷(せんのたに)鉱山のうろこ状黒鉛は全国生産高の85%を占める。東礪波郡利賀(とが)地区には石灰石の埋蔵量が多いが，今後の開発が待たれている。最近は射水・新湊地区の天然ガスも注目されている。水力資源はきわめて豊富で，黒部川・神通川などは水量も豊かで流れが速く，平野地域に出る際の落差もきわめて大きい。このような自然条件を利用して，最近は各河川の上流部に多くの大規模なダムが建設されており，中でも1964年(昭和39)に完成した黒部川第4ダムは，最大出力25.8万kWの発電所をもち，日本有数の規模をもっている。工業は，最近近代工業が興って，農業に代わる基幹産業となっている。工業製品年間出荷額は県の全産業生産額の80%をこえ,1974年には1兆4,378億円，全国第24位であるが，なお今後の発展が予測されている。中心地区は1963年以来新産業都市に指定された富山高岡工業地域で金属製品・化学・非鉄金属・鉄鋼・機械・繊維などの業種の比重が強く，特に豊富で安い電力を求めて立地した電解・電炉工業が中核となっている。工業製品は，重工業の鉄鋼材・機械器具,化学工業のカーバイド・パルプ・人造肥料などがおもなもので，1970年には富山新港の後背地の臨海工業地帯に住友化学のアルミニウム製錬工場が進出した。従業員10人以上の工場の比率は，全工場の35%で，全国平均の25%に比べるとだいぶ高い。このほか，各地に木工品の運動具や，おもちゃ・捺染(なっせん)・縫い針・ファスナー・プラスチック製品などをつくる工場が分布する。なかでも魚津・黒部両市に工場をもつ吉田工業は，大工場としては唯一の地元資本系のもので，ファスナーの生産高は全国の80%を占め，またほとんど全世界を市場としている。家内工業では，〈富山の売薬〉として藩政時代以来の伝統をもつ製薬業が知られ，富山・滑川両市周辺が主産地である。なお最近は，南隣の岐阜県神岡鉱山から神通川へ排出されるカドミウムによる神通川流域の〈イタイイタイ病〉が，大きな公害問題として，全国の注目を浴びている。

〔交通・都市〕古くから東西の交通が発達し，それに伴って日本海沿岸部に都市が発達した。江戸時代には加賀を発し，石動(いするぎ)・高岡・富山・東水橋・魚津・三日市・泊を経て越後(えちご)へはいる北陸街道が主要道で，そのほか三日市から愛本を回る下街道が加賀藩の参勤道路として発達し，富山から東岩瀬・四方を経て氷見へ至る街道，高岡と氷見を結ぶ街道，呉西平野を南北に走って福光(ふくみつ)から金沢へ通ずる街道があった。一方，南方との交通は飛驒山地にさえぎられて不便であったが，富山から神通川の谷沿いに飛驒の高山へ至る飛驒街道が唯一の交通路となり，南北物資の輸送路として重要な役割を果たした。現在，陸上交通で県の大動脈となっている北陸本線・国道8号線は北陸街道にほぼ平行して，日本海沿岸を東西に走っている。北陸本線の支線には，氷見線・城端線・富山港線がある。飛驒街道沿いには高山本線が通じて，北陸本線とのT字路の起点となる富山市が北陸地方の交通の中心的存在となっている。私鉄では，富山地方鉄道が本線以下七つの支線によって富山平野一帯に密度の高い交通網をつくっている。加越能鉄道は呉西平野を走り，立山開発鉄道は立山への登山・観光に役だっている。道路では国道8号線・160号線が日本海沿岸部を走り，41号線・156号線は県域を南北に縦断する。北陸自動車道も金沢東インターチェンジから延びてきて，富山まで開通しており，県内に小矢部・礪波・小杉(射水郡小杉町)のインターチェンジがある。富山以東は工事中である。礪波は愛知県一宮までの東海北陸自動車道の起点となる予定である。国鉄や公私営のバス網は富山・高岡両市を中心に富山平野を縦横に結び，鉄道の及ばない山間部でも県民の足として重要な役割を果たしている。有料道路には立山有料道路(桂台－美女平，追分－室堂)があり，将来は黒部川第4ダムをへて，長野県の大町有料道路と結ばれる予定である。最近はトラック輸送も活発となり，近県，あるいは遠く中央各都市間まで物資を運んでいる。海上交通では，富山湾中部の富山伏木港が重要工業港として知られ，放生津潟を利用する富山新港もすでに一部が開港しているが，北陸電力富山新港火力発電所(新湊市)の建設には，燃料用重油パイプラインの建設計画に，起点となる富山市民の安全性に問題があるとの反対があり，1972年に工事が中止され，1975年にようやく住民との話し合いがついて工事が再開された。また1975年からソ連の極東諸港と富山伏木港との間に月3回のソ連貨物船の定期配船が実現し，北洋材が運び込まれている。航空路は富山空港から全日空の東京への定期便が開かれている。富山・高岡は城下町から発達した工業都市で，滑川・魚津・氷見・新湊は港湾都市・漁業都市の性格が強い。これらの都市のうち，滑川・黒部・礪波・小矢部の4市は1953年町村合併促進法の施行以後成立した新市である。一方山間部には町や村の集落があるが，南へ行くにつれて，人口はますます少なくなり，岐阜県境には日本三大秘境の一つにあげられる五箇山がある。

〔歴史〕原始時代の遺跡は，日本海沿岸の氷見地方に多く，石川県境に近い大境の洞窟(どうくつ)からは縄文(じょうもん)・弥生(やよい)各時代の遺跡が発掘されている。また氷見には古代人の使用した石器・土器や，貝類・獣骨・人骨などが発掘された朝日貝塚(かいづか)があり，加納の横穴といわれる多くの古墳も発掘されている。奈良時代には，越中の国府が伏木郊外に置かれ，国分寺も建てられて，伏木が古代文化の中心地であった。呉西平野には条里制が敷かれて，東大寺の墾田となり，散村集落が当時から発達した。中世にはいると，関東で武士の新興勢力が強まるにつれて，関西との分岐点にあたる県域はしばしば戦乱の舞台となった。越中の武士たちは源平の戦いでは，源義仲(よしなか)について倶利伽羅峠で平家の大軍を破り，承久の変では京都の朝廷方について北条(ほうじょう)の大軍を防いだことが，この間の事情を物語る。南北朝時代には越中は井上・桃井両氏に従い，関東の南軍に加わって，能登・加賀の足利(あしかが)氏と戦った。室町末期には隣国の加賀の影響を受けて，一向一揆(いっき)が大きな勢力を占め,戦国時代には越後の上杉(うえすぎ)氏と尾張の織田氏との戦闘に巻き込まれた。やがて豊臣秀吉(とよとみひでよし)が天下を統一すると，1580年(天正8)佐々成政(さっさなりまさ)が一時越中を支配したが，その後加賀の金沢を本拠とした前田利家(としいえ)の統治下にはいり，1599年(慶長4)に利家の子利長が富山城にはいった。江戸時代にも前田氏は引き続き加賀・越中・能登の3国を支配し，日本唯一の百万石大名を誇っていたが，1633年(寛永10)幕府が一国一城の制を定め，その後は利長の次男利次が前田藩から分家して，富山藩十万石を領し，県域の大半を統治した。藩政はきわめてすぐれ，商工業が興ったが，特に2代藩主正甫(まさとし)の奨励した売薬は全国にその販路を広げて，領民の生活を豊かにするのに役だった。明治時代にはいり，1871

年(明治4)の廃藩置県に際して，越中の一部が富山県となり，まもなく新川県と改称，1876年には石川県に併合されたが，1883年越中全域が富山県となって，現在の県域が確定した。1918年(大正7)7月には県下の漁夫が米の移出禁止と安売りを要求して米騒動を起こし，のち全国各地に波及して大きな社会問題となった。〔浅井得一〕

とやま【富山(市)】 富山県の北部，県庁のある市。1532年(天文1)水野勝重(かつしげ)が城を築き，江戸時代には加賀支藩の前田氏十万石の城下町となった。明治以後も県内の商工業・学術・文化・交通・通信などの中心地として発展し，1889年(明治22)市制施行。第2次世界大戦中，空襲で市街地の大半を焼失したが，近代的都市計画により，新興工業都市として復興している。1965年(昭和40)婦負(ねい)郡呉羽(くれは)町，1966年中新川(なかにいかわ)郡水橋町を市域に編入。人口30万2,000。市域は富山平野の中央部，神通(じんずう)川・常願寺川の下流流域を占め，西に呉羽丘陵が突出し，北は富山湾に面する。産業三大別人口比は9：32：59。商業活動が盛んで，神通川東岸の総曲輪(そうがわ)・中町通りに官公庁街・商店街が発達し，県庁のほか不燃建築のビル街が立ち並び，2kmに及ぶアーケードに特色がある。富山高岡工業地域の中心地で，1963年西方の新湊(しんみなと)・高岡の両市とともに新産業都市に指定された。鉄鋼・化学・繊維などの近代工業が発達し，神通川河口の富山港(もと岩瀬港)や富岩運河周辺には，電気化学・金属・パルプなどの大工場や，北陸電力の火力発電所がある。伝統の家庭薬製造の中心地で，漁港として古い歴史をもつ四方(よかた)や水橋には売薬業者が多い。北陸本線・高山本線・富山港線が分岐する富山駅を中心として，私鉄の富山地方鉄道の電車やバスの路線が四方へ通じ，国道は京都から8号線が延び，名古屋とは41号線で結ばれる。西から進んできている北陸自動車道は，現在富山まで開通している。1963年神通川の中州の秋ケ島に富山空港が完成し，東京への全日空の定期便があるが，ジェット機乗入れのため現在の1,200mの滑走路を2,000mに拡張する計画が進んでいる。国立富山大学・図書館・郷土博物館などの文化施設も多く，富山城跡・サクラの名所磯部(いそべ)堤・呉羽山公園，ユースホステルのある浜黒崎砂丘帯などの史跡や名所があり，立山や黒部ダムの観光基地となっている。〔浅井得一〕

とやまかめたろう【外山亀太郎】 (1868〜1918) 明治時代の遺伝学者。神奈川県に生まれる。帝国大学農科大学を卒業。1902年(明治35)から3年間，シャム(現在のタイ)政府の招聘(しょうへい)に応じ，その地で養蚕の研究に従事した。母校およびシャム帝室養蚕研究所でカイコの交雑実験を開始，完成(1906)し，一代雑種がさまざまな点で有利であることを証明した。また，この研究は，動物を材料に使いメンデルの法則を実証した初期の研究として，世界的にも高く評価されている。〔中村禎里〕

とやまへいや【富山平野】 富山県の中央部にある沖積(ちゅうせき)平野。北は富山湾に面し，東は飛騨(ひだ)山脈，南は飛騨山地，西は宝達丘陵に続く丘陵性山地の山々に囲まれる。南から突出する呉羽(くれは)丘陵によって呉東平野・呉西平野と東西に2分される。呉東平野は狭義の富山平野で，神通(じんずう)川・常願寺川・早月川・黒部(くろべ)川などの下流部に複合扇状地が形成され，海岸部には砂丘が発達し，その内側は湿田化している。呉西平野は庄(しょう)川の扇状地である礪波(となみ)平野，その北に続く射水平野に分かれ，さらに二上丘陵を隔てた西方の氷見(ひみ)平野を含む。礪波平野には独特の散村集落の景観が見られ，射水・氷見の両平野はともに低湿な水郷地帯である。主要河川の上流部には黒部ダムをはじめ多くのダムが建設され，わが国有数の電源地帯を形成する。灌漑(かんがい)用水も豊富で，高い水田率を示している。中心都市はもと前田氏の城下町で，県庁所在地の富山市。

とやままさかず【外山正一】 (1848〜1900) 明治の思想家・詩人。ゝ山(ちゅざん)と号す。蕃所(ばんしょ)調所に学び，英米に留学。東京開成学校で社会学などを講じ，東京大学文学部長・総長を経て伊藤(いとう)内閣の文相となる。啓蒙(けいもう)思想家として広範囲に活躍する一方，井上哲次郎・矢田部(やたべ)良吉とともに《新体詩抄*》を著わし，意識的な新文学創造の起点となった。

とやまわん【富山湾】 日本海に面し，能登(のと)半島と，黒部(くろべ)川扇状地の突出部である生地鼻(いくじはな)に限られた海域。海底の西部には広く大陸棚(だな)が発達するが，東部では狭く最深部は1,279mに達する。湾内には，大陸棚を侵食して富山・礪波(となみ)平野を貫流する各河川の延長谷である海底谷の発達が著しい。西部に氷見(ひみ)，中部に伏木富山，東部に魚津の港湾がある。伏木富山港は国分・伏木・新湊(しんみなと)・富山(岩瀬)の4区からなり，放生津潟(ほうじょうづがた)を利用した新産業都市の中心となる富山新港が建設中で，1968年(昭和43)に一部分が開港した。東部の魚津沖合いではホタルイカの群遊，蜃気楼(しんきろう)の出現，魚津埋没林(天然記念物)などで知られる。西部の海水浴場雨晴(あまはらし)や，仏舎利塔や万葉植物園のある二上山一帯は，能登半島国定公園の一部に編入されている。

とゆう【杜佑】 (735〜812) 中国，唐代の政治家で傑出した歴史家。《通典*(つてん)》《理道要訣(りどうようけつ)》の著者。陝西(せんせい)省の京兆府万年県の出身。字(あざな)は君卿(くんけい)。高官の出身で科挙*によらず宰相にまで上った。憲宗の信任が厚く，〈富国強民〉を政治理念とした。

とよあけ【豊明(市)】 愛知県名古屋市東南隣の市。1972年(昭和47)市制施行。人口53,000。1970〜75年の人口増加率は53.9%で，愛知県の市町村中最高である。知多半島につながる丘陵部の農村であったが，国道1号線・名古屋鉄道本線の沿線にあって交通の便がよいところから，近年は急速に住宅と工場が建ち，丘陵には大小の住宅団地が立ち並び，人口が急増した。産業三大別人口比は4：49：47。

どよう【土用】 雑節の一。本来は立春・立夏・立秋・立冬のまえの各$18\frac{1}{5}$日間をいうのであるが，今日普通に土用といえば夏の土用を意味し，その初日(土用の入り)は太陽暦の7月20日ごろにあたる。この日，水浴や土用干し(衣類・書物などの虫干し)をするのは，みそぎ*系統の習俗に由来するものであろう。また，寒と対置して養生食をやかましくいい，土用卵や土用シジミ，都会では土用の丑(うし)の日にウナギを食べるならわしがある。➔二十四気

とようけだいじんぐう【豊受大神宮】 ⇨伊勢(いせ)神宮

どようなみ【土用波】 夏の土用*のころ，太平洋岸の各地に打ち寄せるうねり*。これは，遠く南方の海上にある台風などによってもたらされるものである。海の表面だけでなく，深い部分にも影響を与えるので海水浴にとって危険である。

とようら【豊浦(町)】 山口県豊浦郡の町。1956年(昭和31)川棚(かわたな)など4村が合併して発足。人口22,000。響灘(ひびきなだ)に面し，山陰本線に沿う。古く元*(げん)の使節が上陸した地といわれる室津浦(むつうら)をはじめ，ブリ大謀網の発生地である湯玉や小串(こぐし)などの漁業の盛んな地域と，黒井や川棚の古墳の多い水田地帯とからなる。

とよおか【豊岡(市)】 兵庫県北部の市。室町時代には山名宗全の居城地で，江戸時代には京極氏一万五千石の城下町として栄え，但馬(たじま)牛や柳ごうりの産地としても知られた。1950年(昭和25)市制施行。人口48,000。市域は，円山(まるやま)川の下流，豊岡盆地の中央部にあり，産業三大別人口比は18：29：53。コリヤナギを原料とする柳ごうりの家内工業から発展したビニルかばん・スーツケース・ハンドバッグなどの生産が多い。山陰本線から宮津線を分岐し，国道178号線に沿う。北部に玄武洞(げんぶどう)・城崎(きのさき)温泉があり，日本海沿岸部は山陰海岸国立公園の区域内に含まれる。南東部の八鹿(ようか)に生息するコウノトリは特別天然記念物に指定されているが，いまはわずか数羽が残るのみである。

とよかわ【豊川(市)】 愛知県南東部の市。国府(こう)には三河(みかわ)の国府が置かれ，近世以降東海道や伊那(いな)街道に沿う宿場町・市場町として発達し，豊川稲荷(いなり)(妙厳寺内)の鳥居前町でもあった。第2次世界大戦中には海軍工廠(こうしょう)が置かれて軍需工業都市となった。1943年(昭

和18)市制施行。人口103,000。市域は豊橋平野の北部，豊川*西岸の河岸段丘上の本野ケ原と沖積(ちゅうせき)低地からなる。産業三大別人口比は9：44：47。海軍工廠の施設や敷地を利用して，自動車・農業機械・光学機械などの諸工業が発達し，東三河工業整備特別地域の内陸工業の拠点となる。豊川段丘面の沖積地では野菜・くだものなどの集約的な栽培が行なわれる。国鉄飯田線・国道151号線に沿い，東名高速道路のインターチェンジがある。名古屋鉄道が通ずる豊川稲荷は参拝客でにぎわう。

とよがわ 【豊川】 愛知県北東部山地に水源を発し，西南に流れて渥美(あつみ)湾に注ぐ川。長さ約80km。地質時代には天龍(てんりゅう)川の下流であったが，その後現在の天龍川の下流に流路を奪われたものと考えられ，また流路は中央構造線の断層線谷となっている。下流の豊橋平野は古くから農業が盛んで，最近は豊橋市・豊川市を中心に新しい工業地帯が発展している。なお，1968年(昭和43)に完成した豊川用水は，豊川の水を南設楽(みなみしたら)郡鳳来(ほうらい)町で取水し，豊橋平野(西部水路)と渥美半島(東部水路)に導入して，農業用水(1億4,700万m³)・工業用水(1億3,000m³)・飲料水(500万m³)などに利用している。〔長津一郎〕

とよかわいなり 【豊川稲荷】 ⇒妙厳寺

とよくこん 【吐谷渾】 中国，五胡(ごこ)十六国時代から唐代にかけて青海地方にあった国。チベット系の遊牧民族を鮮卑系の王が支配した。東トルキスタンと中国を結ぶ交通上の要地を占めたので，南北朝時代には中継貿易の利を占め，また四川盆地を経て南朝とも交易した。635年唐に服属し，663年吐蕃(とばん)に滅ぼされた。

とよくにじんじゃ 【豊国神社】 京都市東山区茶屋町にある。豊臣秀吉(とよとみひでよし)の霊，豊国大明神を祭る。1598年(慶長3)秀吉は伏見城中に没し，東山の阿弥陀峰(あみだがみね)に葬られて山麓(さんろく)に祠(ほこら)が営まれた。祠は本殿・拝殿・三門など，当時最も壮麗な建造物とされたが，江戸時代になって廃絶された。1868年(明治1)に社殿再興のことが決まり，1880年に造営された。4脚檜皮葺(ひわだぶき)の唐門(からもん)は，伏見城中の遺構を移したもので国宝。例祭は4月18日と9月18日。〔佐野文哉〕

とよさか 【豊栄(市)】 新潟県北東部の市。人口42,000。中心集落の葛塚(くずつか)は江戸時代には新井郷(にいごう)川の河港で，下越地方南部の市場町として六斎市でにぎわった。1970年(昭和45)11月にいわゆる〈三万人市〉として市制施行。市域は干拓の進んだ福島潟周縁部の低湿地一帯を占め，東は新発田(しばた)市，西は新潟市と接する。産業三大別人口比は28：27：45。古くから新田干拓が行なわれた単作水稲地帯であったが，最近ではビニルハウスによる野菜の促成栽培が盛んである。葛塚縞(じま)とよばれる伝統的な綿機業があり，新潟新産業都市の発展に伴って重化学工業地帯形成の一環をになうことが期待されている。白新線が通じ，北部を国道7号線が走る。1976年国営福島潟干拓地では，農民が国の禁止命令に抗して稲作を強行，北陸農政局が不動産侵害罪で農民を告訴し，事態は紛糾したが，結局新潟地裁の和解勧告により，農民が結実寸前のイネを一斉に刈り取って，問題は解決した。このような国の米の生産調整政策に対する造反は，福島潟事件を契機として，茨城・滋賀・佐賀をはじめその他数県の干拓地にも波及している。



豊田市 田園地帯が開発されて近代的な自動車工場が並ぶ豊田市西部。手前は東名高速道路の豊田インターチェンジ付近

とよざわだんぺい 【豊沢団平】 義太夫節(ぎだゆうぶし)の三味線(しゃみせん)ひき。3世を数える。有名なのは2世(1827～1898)である。2世は相方として2世竹本越路大夫や3世竹本大隅(おおすみ)大夫を育てた。作曲もよくし，《壺坂霊験記(つぼさかれいげんき)》や《良弁杉由来(ろうべんすぎのゆらい)》を妻の千賀の作詞で発表，特に前者は国内外で愛好されている。

とよしまよしお 【豊島与志雄】 (1890～1955) 小説家・フランス文学者。福岡県の生まれ。東京大学仏文科卒。第3次《新思潮*》に参加，《湖水と彼等(かれら)》で文壇に出た。知的な構成をもちつつも叙情性のあふれた作風で，心理分析にすぐれ，人生の様相を的確にとらえる。代表作は《野ざらし》《道化役》《白い朝》《山吹の花》など。また《レ・ミゼラブル》《ジャン-クリストフ》の翻訳は，名訳の誉れが高い。

とよた 【豊田(市)】 愛知県中部の市。古くは衣ノ庄(しょう)とよばれ，江戸時代は内藤氏二万石の城下町であった。1951年(昭和26)挙母(ころも)の名で市制施行，1959年豊田と改称，1965年碧海(へきかい)郡高岡町，1967年西加茂郡猿投(さなげ)町，1970年東加茂郡松平町を編入した。人口27万5,000。市域は矢作(やはぎ)川の中流に沿う岡崎平野内陸部に位置し，市街地周辺には河岸段丘が発達する。産業三大別人口比は6：62：32。明治以降は周辺養蚕地帯の中心をなす生糸の町であったが，1938年南郊にトヨタ自動車工業が刈谷(かりや)から進出して以来，工業都市として発展した。特に第2次世界大戦後は自動車ブームによる工場の設備投資が続き，数十の関連工場が集中して〈東洋のデトロイト〉といわれ，1961年にデトロイト市と姉妹都市になった。年間の工業生産額は県下で名古屋市に次ぎ2位を占める。名古屋鉄道挙母線・同三河(みかわ)線，国道153号線・155号線に沿い，西郊に東名高速道路のインターチェンジがある。

とよたけざ 【豊竹座】 人形浄瑠璃(じょうるり)の劇場。1703年(元禄16)豊竹若大夫が大阪道頓堀(どうとんぼり)に創設した。〈西の芝居〉とよばれた竹本座に対し，〈東の芝居〉とよばれ人形浄瑠璃の黄金時代をつくりあげた。豊竹座は翌年中絶し，1706年(宝永3)紀海音*や辰松八郎兵衛(たつまつはちろうべえ)を迎えて再興，1724年(享保9)類焼。翌年再建してしだいに成績をあげ，竹本座によく対抗したが，1765年(明和2)閉座した。

とよたけやましろのしょうじょう 【豊竹山城少掾】 (1878～1967) 義太夫節の大夫。東京の生まれ。11歳で大阪に行き，文楽座にはいる。1909年(明治42)2世豊竹古靭(こうつぼ)大夫となり，大正・昭和を通じて名人として活躍，1947年(昭和22)山城少掾の号を得た。晩年は枯れた表現になったが，一般にはよく計算されたニュアンスによって，心理的な作品解釈を示した。

とよたけろしょう 【豊竹呂昇】 (1874～1930) 明治・大正時代の女義太夫(ぎだゆう)の名人。名古屋の生まれ。大阪で豊竹呂大夫に学び，大阪，のちには東京でも活躍した。美声と旋律的な節回しにすぐれているため，語り物としての義太夫の本筋ではないと批判されることがあるが，多くの魅力をもち，演奏会とレコードで人気を得た。

とよたけわかたゆう 【豊竹若大夫】 義太夫節(ぎだゆうぶし)の大夫。10世を数える。初世(1681～1764)は豊竹座の始祖竹本義太夫の弟子(でし)で明治の初めに9世で絶えていたのを，1950年(昭和25)に2世若竹呂大夫(ろだゆう)が10世若大夫として再興。10世(1888～1967)は豪放で力演型であり，古いよさを伝えていたといわれる。

とよたさきち【豊田佐吉】(1867〜1930) 豊田式自動織機の発明者。静岡県に生まれ，大工の徒弟として木工術を習得。織物工場の職工として働きながら織機の改良を重ね，1890年(明治23)には，従来のものより40〜50％増産できるものとした。1894年名古屋へ移住して織機製造業を経営，4年後に木製動力織機を完成して特許を取得した。これが三井物産に認められ，日清(にっしん)戦争後の好景気の中でその名声を広めた。1906年三井系の豊田式織機株式会社重役となり，1910年豊田自動織布工場を創立。また環状織機を研究し，生涯(しょうがい)に得た各種の特許は84に達している。

トヨタじどうしゃこうぎょう【トヨタ自動車工業(株)】 わが国最大の自動車総合メーカー。1933年(昭和8)豊田自動織機が自動車生産に着手し，1935年に第1号車を完成，1937年に工業化に踏み切り，豊田自動織機から独立した。1966年には生産・国内販売・輸出でそれぞれトップの地位を確保，クラウン・コロナ・カローラ・パブリカなど乗用車の量産車種をもち，1968年には世界6番めの年産100万台メーカーとなり，1971年には年産195万5,000台に達し，世界第4位となった。販売部門を担当するトヨタ自動車販売は1950年にトヨタ自動車工業から独立したもので，両者は緊密な連係を保っている。ほかにトヨタ車体・日本電装・愛知製鋼など関連子会社が多く，日野・ダイハツなどの自動車メーカーとも業務提携している。コロナ・カローラなどを中心に，生産台数の3分の1をアメリカをはじめ各国に輸出している。本社愛知県豊田市，工場は元町・上郷・高岡(ともに愛知県)など。資本金880億円，年間売上高3兆3,102億円，従業員数47,064(1980年6月)。

とよたまひめ【豊玉姫】〈記紀〉の海幸(うみさち)・山幸*神話に現われる海神の娘で，ヒコホホデミノミコトの妃。ヒコホホデミノミコトがなくしたつり針を求めてワタツミノカミの宮に行ったとき，トヨタマ姫を妃とした。つり針を得て帰ったのち，姫の出産のために海辺に鵜(う)の羽でふいた産殿をつくり，夫にのぞくことを禁じて中にはいった。夫が禁を破ってのぞくと，姫は八尋鰐(やひろのわに)になっていた。姫はそれを恥としウガヤフキアエズノミコト*を生み海原に帰ったが，妹の玉依姫*(たまよりひめ)をつかわして自分の代わりに養育させた。

とよとみひでつぐ【豊臣秀次】(1568〜1595) 安土桃山時代の武将。母は豊臣秀吉(ひでよし)の姉。1583年(天正11)賤ケ岳(しずがたけ)の戦い*で功があったが，翌年の小牧・長久手の戦い*で徳川家康(いえやす)に大敗して秀吉に叱責(しっせき)された。翌年は四国征伐*に従い，近江(おうみ)(滋賀県)・大和(やまと)(奈良県)など，四十三万石を与えられ，次いで小田原征伐*に従い，尾張(愛知県)・北伊勢(きたいせ)(三重県)を与えられた。1591年秀吉の長男鶴松(つるまつ)の死後秀吉の養子となり，関白となって聚楽第*(じゅらくだい)に住んだ。1593年(文禄2)秀頼(ひでより)が生まれてから秀吉にうとまれ，1595年高野山に追われ，次いで自殺させられた。〔岡山泰四〕



豊臣秀吉

とよとみひでよし【豊臣秀吉】(1536〜1598) 安土桃山時代の武将。尾張(愛知県)中村の人。実父は木下弥右衛門。継父は竹阿弥(たけあみ)。初め木下藤吉郎と称した。1551年(天文20)武士を志して家出し，今川義元(よしもと)の部将松下嘉兵衛元綱に仕えたが，1553年元綱のもとを去って放浪し，1558年(永禄1)織田信長*(のぶなが)に仕えた。1560年桶狭間(おけはざま)の戦い*に従軍し，翌年浅野長勝の養女禰々(ねね)と結婚。のちしばしば戦功を立て信長に重用された。1572年(元亀3)ごろから羽柴(はしば)氏を称する。1573年(天正1)近江(おうみ)(滋賀県)浅井氏滅亡後，その旧領十八万石を与えられ，長浜城主となり，筑前守(ちくぜんのかみ)に任ぜられた。1576年中国征伐*を命ぜられ，翌年出陣し播磨(はりま)(兵庫県)に入り毛利軍と対陣した。1582年備中(岡山県)高松城を包囲中に本能寺の変*が起こり，直ちに毛利氏と和して東上し，山崎の戦い*で明智光秀(あけちみつひで)を破った。のち信長死後の主導権をめぐって信長の三男信孝(のぶたか)や柴田勝家らと対立。1583年賤ケ岳(しずがたけ)の戦い*で勝家を滅ぼして主導権を握り，同年大阪に築城した。1584年小牧・長久手の戦い*に織田信雄(のぶかつ)・徳川家康(いえやす)と対陣し，のち講和を結んだ。1585年長宗我部元親*(ちょうそかべもとちか)を攻め，四国を平定(四国征伐)。関白に任ぜられて，翌年太政(だじょう)大臣となり豊臣の姓を賜わった。1587年島津氏を攻め，九州を平定(九州征伐)。この年京都北野で大茶会を催し，翌年聚楽第*(じゅらくだい)に後陽成天皇の行幸を仰ぎ，諸大名に忠誠を誓わせ，天下に威を示した。1590年北条(ほうじょう)氏を滅ぼし関東を平定(小田原征伐)，さらに奥羽を平定して全国統一を完成した。1591年関白を養子秀次に譲り太閤(たいこう)と号した。1592年(文禄1)明(みん)征服をめざして朝鮮に出兵，みずから北九州名護屋城で指揮をとったが戦況の進展ははかばかしくなく一時休戦ののち，1596年(慶長1)朝鮮再出兵を行なったが苦戦し失敗した(文禄(ぶんろく)・慶長の役*)。1598年8月16日伏見城で病没。応仁(おうにん)の乱(1467)から100余年にわたる戦国乱世を統一し，近世封建社会の基礎をつくった英雄であり，豪放な性格をもち，華美を好んだ。おもな事業・政策として石高*制の確立，小農自立を促進させた太閤検地*，兵農分離・商農分離を図った近世封建社会の身分秩序(士農工商*)の確立，刀狩り*令・身分法令の実施，朱印船制度の創設，貨幣鋳造，キリシタン*禁圧などがある。〔松尾　涼〕

とよとみひでより【豊臣秀頼】(1593〜1615) 近世初期の武将。秀吉(ひでよし)の次子。母は浅井氏(淀殿(よどどの))。幼名捨丸。1598年(慶長3)秀吉没後家督を継ぎ，1600年関ケ原の戦い*で西軍が敗北すると，摂津(兵庫県・大阪府)・河内(かわち)・和泉(いずみ)(ともに大阪府)の六十余万石の一大名に転落した。1603年徳川秀忠(ひでただ)の娘千姫と結婚。1614年京都方広寺の鐘銘事件*など，徳川氏の挑発(ちょうはつ)に乗って挙兵(大阪冬の陣)し，いったん講和が成立したが翌年再度挙兵して敗北(大阪夏の陣)，母とともに自殺した。子国松も捕えられ，京都六条河原(ろくじょうがわら)で処刑された。〔松尾　涼〕

とよなか【豊中(市)】 大阪府北西部の市。明治末期までは一寒村にすぎなかったが，1910年(明治43)箕面(みのお)有馬電鉄(いまの京阪神(けいはんしん)急行電鉄宝塚(たからづか)線)の開通後，大阪の衛星住宅都市として急速に発展し，1936年(昭和11)市制施行。人口39万3,000。市域は東隣の吹田市にまたがる千里山丘陵と，猪名(いな)川沖積(ちゅうせき)平野を含む。産業三大別人口比は1：35：64。千里山丘陵のまわりは高級住宅地帯で，公営住宅・社宅なども立ち並び，1970年千里ニュータウンが完成した。大阪大学をはじめとして文教施設が多く，南部の庄内(しょうない)地区には金属・機械・化学などの近代工業も発達する。1970年の万国博覧会には，千里山丘陵の東部がおもな会場となった。名神高速道路のインターチェンジがあり，中央環状線や国道176号線に沿い，大阪国際空港への東の入り口にあたる。

とよの【豊野(町)】 長野県上水内(かみみのち)郡に属し，長野盆地の北西部を占める町。人口9,800。長野市の北東に隣接，信越本線と飯山(いいやま)線の分岐点にあたる。付近はリンゴ園が多く，食品工業も盛んである。

とよのあかりのせちえ【豊明節会】 奈良時代以降宮中で行なわれた儀式。大嘗(だいじょう)祭*のあとの3日めと，新嘗(にいなめ)祭*の翌日に豊楽殿(ぶらくでん)(のちには紫宸殿*(ししんでん))で行なわれる宴。陰暦11月中の辰(たつ)の日(大嘗祭のときは午(うま)の日)に天皇はその年の新穀を召し，皇太子以下群臣にもこれを賜わった。宴のあとには舞姫の舞があり雅楽寮の工人の立歌，宣命があり，皇太子以下禄(ろく)を拝領して終了した。

とよはし【豊橋(市)】 愛知県南東端の市。もと吉田(よしだ)とよばれ，1505年(永正

２）牧野古白が今橋城(のち吉田城)を築城し，江戸時代は松平氏，のち大河内(おおこうち)氏七万石の城下町で，東海道に沿って宿場町が発達した。明治以降豊橋と改称，製糸業が発達し，また陸軍第15師団(1925年軍備縮小のため廃止)が設置されて軍都にもなった。1906年(明治39)市制施行。人口30万1,000。市域は渥美(あつみ)半島基部に位置し，豊川下流流域の豊橋平野南部と周辺丘陵部を占める。産業三大別人口比**は13：38：49**。製糸・紡績などの繊維工業，ちくわ・かまぼこなどの食料品工業が発達し，木材・パルプ・金属・機械・化学などの中小工場が多い。1963年(昭和38)豊川・蒲郡(がまごおり)の両市とともに工業整備特別地域に指定され，東三河(ひがしみかわ)臨海工業地帯の造成，豊橋港・蒲郡港を合わせた東三河港の築造，内陸部の工業化が進んでいる。東海道本線・同新幹線から，飯田(いいだ)線・二俣(ふたまた)線を分岐し，私鉄の名古屋鉄道本線・豊橋鉄道が通じ，国道１号線・151号線・247号線・248号線・259号線が集まり，東方には浜名湖へ通ずる多米(ため)峠有料道路がある。〔浅井得一〕

とよはら【豊原】 ⇨ユージノサハリンスク

とよひら【豊平】 北海道札幌(さっぽろ)市南東部の地区。もと月寒牧場や定山渓(じょうざんけい)温泉を区域内に含む札幌郡豊平町で，西部を流れる豊平川を隔てて札幌市と相対していたが，1961年(昭和36)札幌市域に編入された。古くから近郊農業とともに，金属加工・農業機械・木材・食品などの工業が行なわれ，定山渓地区には鉛・亜鉛を産する豊羽鉱山がある。今は廃止された定山渓鉄道豊平駅を中心に商店街が発達し，周辺に住宅団地の建設も進んで，札幌の副都心化している。〔浅井得一〕

とら【虎】 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・ネコ科。ネコ類中でライオンとともに最大のもの。体に黒い横じまがある。ヒョウやジャガーの仲間に近縁で，木登りがうまく，水泳も巧みである。インドのような暑い地方に多いが，故郷はシベリアの北方であったらしく，化石はその地方から出る。木や高い草が茂ったやぶを好むため，モンゴルやチベットの高原にはいない。西はコーカサス・イラン・アラル海周辺から，東はアムール川・ウスリー川流域までの森林地帯に広がっており，南はインドからマライ半島・スマトラ・ジャワまで見られる。生息域が広いため，体の大きさ，色，毛の長さ，しまなどにいろいろな変化がみられ，次のようないくつかの亜種に分けられる。①ペルシャトラ：分布の西に見られ，背は黒っぽく，オレンジ色をおびた暗い代赭(たいしゃ)色で，オスは全長3.25mほど。②スマトラトラ：スマトラにだけ見られ，小形で，体は黄をおびた赤茶色。③アムールトラ(マンシュウトラ・シベリアトラともいう)：トラのうち最大で全長4.2mに達するといわれ，シベリアにすむ。ほかに，バリトラ・ベンガルトラ(インドトラ)・チョウセントラなど多くの亜種がある。食物はその地方に見られる動物で，インドではシカ・イノシシ・クジャクなどである。老いたトラや不具のトラが人間の弱いことを知ると人食いトラになる。〔今泉吉典〕





ト　ラ　(上)チョウセントラ　(下)ベンガルトラ



銅　鑼

トラー［Ernst Toller］(1893～1939) ドイツの表現主義*の劇作家。第１次世界大戦から帰還後，反戦運動を組織し，ミュンヘン労農兵士委員会議長として活動。入獄したが，獄中で《群集・人間》や《機械破壊者》，出獄後《どっこい俺達は生きている》などの劇を書いた。1933年アメリカへ亡命し，1939年自殺。戯曲・詩集などがある。

どら【銅鑼】 東アジアのゴング*類で，楽器・法器・信号用道具として使われる。つるされた金属円板を桴(ばち)で打って中央部を振動させる。芝居音楽・仏教音楽や船出の合い図などに活用される。

ドライアイス［dry ice］ 固体二酸化炭素。非常な低温(−78℃)で固体から直接気体となる。炭酸ガスを常温で加圧して液化し，これを急に圧力の低い所へ吹き出すとその一部は気化して熱を奪い，他の部分は冷却されて粉のような固体となる。これを固めて使いやすいものとする。携帯用容器内の食品の冷蔵，医学用その他の冷却剤などに広く用いられる。

トライアングル［triangle］ 体鳴楽器*・打楽器*の一種。鋼鉄の丸棒を三角形に折り曲げ，１頂点でつり下げて，同材質の棒桴(ばち)で内側から底辺を打ったり，トレモロとして右辺・左辺を交互に打ったりする。音律は不定であるが，澄んだ音色で，強弱使い分けて楽想を添えるのに役だつ。

ドライクリーニング［dry cleaning］ 湿式洗たくに対して，有機溶剤を媒体とする洗たく*方式をいう。繊維や染色などの加工をいためずに油性よごれを除去できる特長があるが，水溶性よごれ・固形よごれの除去は湿式洗たくに及ばないので，よごれのひどいものには適さない。有機溶剤としては石油系溶剤と塩素系合成溶剤があるが，前者は可燃性で危険があり，後者は，火災の危険はないが毒性や金属腐食性があり，一長一短である。近年0.1％程度の微量水分を界面活性剤*を用いて溶剤中にとかし，水溶性よごれや固形よごれを除去する新方法(チャージシステム)が開発されている。

ドライサー［Theodore Dreiser］(1871～1945) アメリカの小説家。貧しいドイツ移民で狂信的カトリック信者を父にインディアナ州に生まれ，貧困と既成の宗教に対する激しい反抗の念を育てた。シカゴやニューヨークで雑多な仕事を経験したのち新聞記者として立ち，バルザックを愛読し，また，H.スペンサーらの影響を受け，人生を科学的生物的に弱肉強食の場とみる自然主義的な思想をいだくようになった。処女作《シスター-キャリー*》に次いで三部作《資本家》《巨人》《克己の人》を発表，新興文学の代表的作家として知られた。さらに社会改革への志向を示す代表作《アメリカの悲劇*》によって，アメリカ自然主義文学に大きな足跡を残すとともに，晩年は《ソビエト旅行記》など社会主義的評論を書き，また実践活動にも参加した。〔後藤昭次〕

トライチュケ［Heinrich von Treitschke］(1834～1896) ドイツの歴史家。政治のため歴史を利用した情熱的な歴史家のモデルとされる。ドレスデンに軍人の子として生まれ，キール・ハイデルベルク・ベルリンなどの大学の教授。早くからプロイセンによるドイツ統一を主張し，国家の本質は権力にあることを説いた。主著は《19世紀ドイツ史》で，1840年代までのドイツを論じているが，その主張はあくまでプロイセン中心で，その王フリードリヒ-ウィルヘルム３世をほめてオーストリアのメッ

テルニヒを非難している。　〔兼岩正夫〕

ドライデン　[John Dryden]　(1631～1700)　イギリスの詩人・劇作家・批評家。ピューリタン革命から王政復古・名誉革命と激動した17世紀後半のイギリス文壇の中心的存在で桂冠(けいかん)詩人*に任命された。現実主義的で知的な文学精神を身上とし，長編の史詩《驚異の年》，政治的風刺詩《アブサロムとアキトフェル》などは，後代の詩法の模範となった。また《グラナダ征服》《当世風結婚》などの悲劇・喜劇によってさまざまな劇形式を活用し，当時の劇壇を指導。批評家としては，古典主義を唱え，《劇詩論》が有名。　〔星野恒彦〕

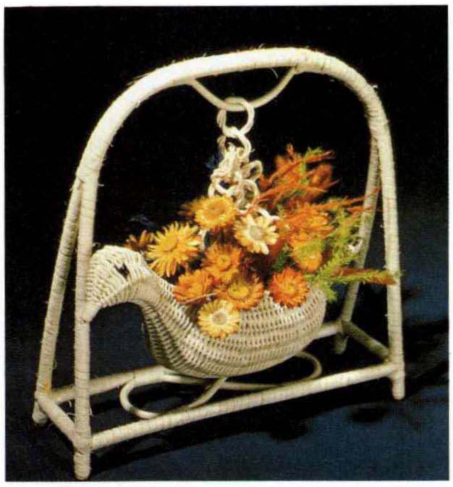
ドライブ-イン　[drive in]　〈乗り入れ式の〉を意味する語。わが国では通常ドライバーを対象とした食堂の名称として普及しているが，これは正しくは，ドライブ-イン-レストランというべきである。アメリカでは，自動車を乗りつけて利用する施設の名称の前につけて，ドライブ-イン-マーケット・ドライブ-イン-シアター(映画館)・ドライブ-イン-バンク(銀行)などのように広く用いられている。

ドライフラワー　[dry-flower]　自然の花を乾燥させて，もとのままに近い色・形に保存したもの。乾燥花ともいう。近年，室内装飾・服飾に多く用いられるようになった。センニチコウ・ムギワラギクなど，種々の花が使われるが，一般に7～8分咲きの時期に切ってつくる。乾燥法には，自然の通気乾燥(陰干し)と乾燥剤などを使う人為的乾燥の2方法がある。

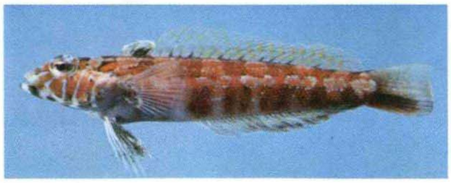
ドライポイント　⇨銅版画

ドライヤーかんこく　[ドライヤー勧告]　官公庁の労働者に対しても，結社の自由*および団結権*を保護せよと勧告したもの。1958年(昭和33)官公庁労働者の団結権を侵害するとして，全通信労働組合・国鉄動力車労働組合に始まって国鉄労働組合・全日本自治団体労働組合・日本教職員組合・日本労働組合総評議会などが，政府を相手にILO*(結社の自由委員会)に提訴した(179号事件とよばれる)。このため，1964年デンマークのE.ドライヤーを委員長とするILO実情調査調停委員会が来日し，6部からなる審査報告書を提出。そのうち重要なのは〈事実認定と勧告〉の第6部で，具体的な問題点を指摘し，その改善について勧告した。

とらかみきり　[虎天牛]　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・カミキリムシ科。トラフカミキリともいう。体長15～30mm，体は黄かっ色で，頭部・前胸の前部や小楯板(しょうじゅんばん)・鞘翅および後胸の後側部と腹部の大部分などに黄色毛が密生する。前胸は球形で，前部は黄色，その後方に2本の黒色帯とその間に1本の赤かっ色帯がある。鞘翅には4本の黒色帯がある。日本全土のほか，台湾・朝鮮・中国などに分布し，成虫は6～8月に出現する。幼虫はクワの害虫。なおトラカミキリという名称は，カミキリムシ科中のトラカミキリ族の総称としても使われ，これらはいずれも前胸が丸く，触角が短く，互いによく似た斑紋(はんもん)がある。多くの種は春から夏にかけて出現し，倒木や枯木などに集まる。全世界から多数の種が知られ，日本にはブドウトラカミキリ・エグリトラカミキリ・ヨツスジトラカミキリ・タケトラカミキリ・ウスイロトラカミキリなど約50種が知られる。〔鈴木邦雄〕



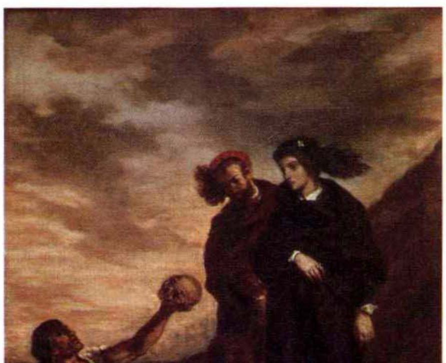
ドライフラワー



トラギス



トラクター　車輪式農用トラクター



ドラクロア　《墓場のハムレットとホレーショ》

とらぎす　[虎鱚]　硬骨魚類・トラギス科。関西地方でトラハゼ，高知県でオキハゼなどという。体長12cmほどの海産魚で，体は円筒形。本州中部以南の沿岸域に分布し，南日本に多い。砂泥底(さでいてい)を好み，キスづりなどの際に混獲される。近似種にアカトラギス・クラカケトラギスなど。

トラクター　[tractor]　牽引車(けんいんしゃ)。キャタピラ式と車輪式とがあり，いずれも排土板を備え土木作業，農業用作業機の牽引に利用される。最初のトラクターは蒸気機関を動力とし鉄製車輪を備えたものであったが，1900年ころ内燃機関を利用したものも現われ，1904年トラクターの走行装置にキャタピラ*が，また1943年タイヤがそれぞれ採用された。キャタピラ式は接地圧が低く軟弱地の重作業に適するが，移動に際しては速度がおそく，道路を損傷するので自走できない。トラクターにはこのほかフルトレーラーやセミトレーラーを牽引するトラック型のトラックトラクターがある。

トラークル　[Georg Trakl]　(1887～1914)　オーストリアの詩人。第1次世界大戦に衛生兵として従軍，戦場の悲惨な現実に接して衝撃を受け，野戦病院で自殺と思われる死を遂げた。《詩集》《夢の中のセバスチャン》に収められた詩は，やみを通して光を求めるゆううつな声を響かせ，ボードレール*・ランボー*に学んだ戦慄(せんりつ)的な詩句に満たされている。生前無名だったが，第2次世界大戦後にドイツ表現主義*の先駆者として高く評価されるようになった。

ドラクロア　[Eugène Delacroix]　(1798～1863)　フランス-ロマン派の代表的画家。はじめゲラン*のアトリエに学ぶ。1816年官立美術学校に入学，かたわらルーブル美術館に通って，ルーベンスやベロネーゼ*らの模写などによって独自の研究を行なった。1822年のサロンに出品した《ダンテの小舟》によって注目されたが，官学派の画家たちからは誇張した表現を非難された。またこの年には有名な〈日記〉をつけはじめた。次いで1824年，《キオス島の虐殺》によってボードレールに認められ，ロマン主義的な傾向を推し進めた。のちイギリスを訪問し，ターナー*やコンスタブル*らの作風に学ぶところも多かった。フランス革命後，スペイン・モロッコ・アルジェを訪れ，この地の風物に強い印象を受け，《アルジェの女たち》などのいわゆるオリエンタリズム*の色濃い

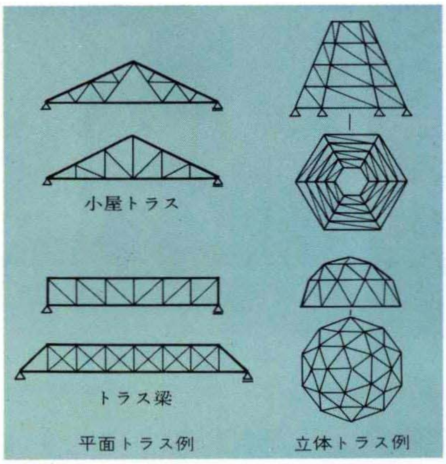
作風を示した。晩年の作品は，青年期の作品に比べてより静的であり，大がかりなものに変わった。代表作に《サルダナパロスの死》《民衆を率いる自由の女神》《トラヤヌス帝の審判》《十字軍のエルサレム入城》などがある。〔吉田玲子〕

ドラケンスバーグ(山脈)［Drakensberg］アフリカ大陸南東部にある山脈。スワジランド南西部から南アフリカ共和国東部にかけて,インド洋に平行して走る。全長1,000km。最高峰のタバナヌトレニャナ山(3,482m)をはじめ，モントースールス山・カスキン山など3,000m以上の高峰をもつ。オレンジ川・ツゲラ川の源流地にあたり，金やウランなどの鉱産資源に富む。

トラコーマ　結膜*の伝染性疾患の一。トラホームともいう。病原体はウイルス説が有力だがまだ異論もある。結膜上皮細胞中に見いだされる細胞封入体(プロアツェック小体)は,そのウイルスの集合体であろうと考えられている。潜伏期は約1週間で，急性症状を呈するのは比較的少なく，大半は乳幼児に限られ，ほとんどは数か月後に慢性の経過をたどる。目やに・結膜充血などの自覚症状を伴い，他覚的には結膜濾胞(ろほう)・乳頭形成が見られる。炎症が結膜全域に広がると，乳頭の増殖・肥厚が著明になる。このころから徐々に瘢痕(はんこん)化が進み，さらに角膜*(黒目)輪部から角膜中央に向かって血管の新生を伴った浸潤が起こってくる(この状態をパンヌスという)。この際の自覚症状としては，まぶしさ・疼痛(とうつう)・流涙・異物感・視力障害などがあり，角膜辺縁部に潰瘍(かいよう)を起こしたり，パンヌスが角膜瞳孔(どうこう)領全域を冒して，ときには失明状態に至ることがある。現在では衛生設備や化学療法の普及により，上記の重症トラコーマはほとんど影を潜めたが，それでも老齢者の場合は，結膜瘢痕化による合併症ないしは後遺症がしばしば見られる。初期または軽症トラコーマでは，抗生物質の点眼のほか,結膜手術(乱切・搔爬(そうは)・焼灼(しょうしゃく)など)が，進行防止に効果がある。〔納富教雄〕

ドラコン　［Drakon］紀元前7世紀のアテナイの立法家。BC621年，私法・刑法に関する慣習法を修正し，アテナイ最初の成文法を制定した。その内容は〈血で書かれた〉といわれるほど過酷なものであったが，法治国家への出発点として重要である。のち，ドラコンの法は新興商工業者を背景とするソロンの改革によって改められた。

トラジア　［Toradja］古マライ人。トラジアとは内地人または奥地人の意で，インドネシアの中部セレベスの山地諸部族の総称。人口約55万余。米作を主とし多くは焼き畑による陸稲耕作を，一部は階段式水田耕作を行なう。巨石を土台とする杭上(くうじょう)家屋に住む。死者崇拝が発達し,水牛・牛が宗教に大きな役割を果たす。元来は首



トラス構造

ドラセナ
リュウケツジュ



狩り族である。

トラスこうぞう　**［**トラス構造**］**　鋼材あるいは木材の直線部材を三角形に組み合わせてつくる建築・土木関係の構造骨組みをいう。トラスは平面トラスと立体トラスとに分けられる。平面トラスは小屋トラス・トラス梁(はり)・ラーメン式トラス・アーチ式トラスに分類され,立体トラスには円筒形・球形・H.P.形などがある。トラスの各部材には，主として引張力・圧縮力，すなわち軸方向力が作用するので，大きな空間をおおうのに適する。テレビ塔・送電鉄塔などもすべてトラス構造である。〔谷　資信〕

トラスト　［trust］独占的な企業結合の一形態。市場における独占力の獲得を目的とする諸企業の結合のことで，企業合同ともいう。トラストの場合カルテル*と異なり，これに参加している諸企業は実質的にその独立性を失い，資本による支配を通じて巨大な結合を形成する。トラストは元来〈信託〉を表わす語であったが，株式の信託により議決権を行使する受託者による企業の独占的支配が行なわれるようになり，企業の独占的な結合を意味するようになった。19世紀末から20世紀初期にかけて起こったアメリカの初期のトラスト，たとえば石油トラストは株式の信託による方法をとっていたが,1911年のスタンダード-オイル-トラストのシャーマン反トラスト法違法判決以後，持ち株会社による方法，すなわち，独占的結合に必要な株式を所有する方法がとられるようになった。しかしこの形態も独占禁止法*の規制の対象となりやすいため，数個の企業が合併して一つの独占企業になる方法もある。このようにトラストには，諸企業が合併して形式的にも実質的にも一体化する合併型トラストと，諸企業が形式的には独立性を保ちながら実質的には一体化する連携型トラストとがある。合併型トラストは結束のかたさをその特徴とし，連携型トラストは支配資本の節約ができるという有利さをもっている。トラストは市場を統制し独占利潤を獲得するために成立したものであるが，それが国際競争力の強化をめざすために結成された場合には，生産および経営の合理化を追求することになる。トラストは横断的結合から発展し，さらに縦断的結合をも加えていくことが多い。トラストは規模が大きく，資本的統一の点で独占体として強力であり，社会的影響も大きいため，各国とも法律上の規制を加えている。わが国でも，トラストは独占禁止法で禁止されている〔加藤　寛〕

ドラセナ　［*Dracaena*］単子葉植物・ユリ科の一属。おもに樹木で，熱帯から温帯にかけて約40種が知られている。日本ではニオイセンネンボク・ウスイロフクリンセンネンボク・シマセンネンショウ・トラフセンネンショウなどが観葉植物として温室で栽培される。どの種も葉が茎に密につき，長楕円(ちょうだえん)披針(ひしん)形ないし心状卵形で，四方に広がり，光沢があって美しい。この属で最も有名な種はリュウケツジュ(龍血樹)で，特にカナリア諸島のテネリフェ島にあるものは高さ20m，周囲14mに達し，樹齢7,000年以上といわれている。本種は幹の上部で多数枝分かれし，長さ45～60cm，幅3～4cmの剣状の葉を密生させる。花は円錐(えんすい)花序をなして密につく。花被は長さ8mmで6枚。果実は球形で橙黄(とうおう)色に熟す。なお，一般には同じくユリ科のコルジリネをも含めてドラセナとよんでいる。➔観葉植物〔加藤信重〕

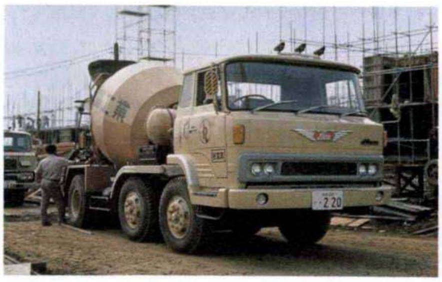
ドラッカー［Peter Ferdinand Drucker］(1909～　)　アメリカの経営学者。オーストリアのウィーンに生まれ，ハンブルク大学・フランクフルト大学に学ぶ。1933年ナチスに追われてロンドンにのがれ，保険会社の顧問となった。1937年アメリカに渡り，1939年のナチス批判の書《経済人の終わり》で有名になった。第2次世界大戦後ベニングトン大学の哲学政治学教授を経て，1950年ニューヨーク大学大学院の経営学教授となった。その主張は，今日の資本主義体制に新しい倫理性を与えようとするものである。主著は，前記のほか《新しい社会，産業秩序の解剖》《明日の目標》(邦訳名《変貌(へんぼう)する産業社会》)，《断絶の時代》(1969)など。〔林　達〕



トレーラー形キャリアカー



ダンプトラック



コンクリートミキサー



タンクローリー

ト ラ ッ ク

トラック ［truck］ 貨物自動車。もっぱら荷物の輸送に使用する自動車をいう。トラックは，わが国の貨物輸送の39.7％(1,359億トン-キロメートル,1970)をにない,重要な役割を果たしている。その保有台数は854万2,360(1970)に達し，そのうち，小型車が462万2,780台を占めている。**〈種類〉** ①積載重量から，2t積み・5t積み・10t積みなどに，②形状から，ボンネット型・キャブオーバー型・ライトバン・ピックアップなど，③駆動輪から，2輪・4輪・6輪駆動など，④エンジン形式から，ガソリントラック・ディーゼルトラックなどに分けられ，そのほか，荷台形式から,一方開き(あおりが一方にのみ開く),三方開きで荷台に柵のあるステーキボデー，荷台が油圧で傾くダンプトラック，荷台上部がほろで内部に長いすの備えられたカーゴトラックなどがある。トラックの構造はその目的から乗りごこちや加速性は若干犠牲にしても，重量物の輸送に耐える構造になっている。また，標準的な荷台のほか，液体・生コンクリートなどの輸送用に，専用の容器を架装したものなどもある。 〔成田武男〕

トラック(島) ［Truk］ 西太平洋，カロリン諸島にあり，約20の火山島成因のサンゴ礁からなる。アメリカ合衆国の信託統治地で総面積106km²。サンゴ環礁が囲む湖の広さは2,123km²にも及ぶ。かつてドイツの植民地であったが，第1次世界大戦後日本の委任統治地となり，第2次世界大戦後アメリカ合衆国に移管。主産物はコプラ。

ドラッグストア ［drugstore］ 医薬品・化粧品を中心とし，家庭用品・雑貨などを取り扱う小売店。中には，軽い飲食もできるようカウンターを備えているものもある。



トラファルガル広場 車や人で雑踏するトラファルガル広場。中央はネルソンの記念柱で，その後ろは国立美術館

もとアメリカで発達した新しいタイプの小売店で，消費者の便宜を考えて，商品の組み合わせや営業時間などに新しいくふうが見いだされる。また，近年，スーパーマーケット*と並んでめざましく発展しているスーパードラッグは，セルフサービス形態で営業しているドラッグストアである。

とらつぐみ **［虎鶫］** 鵺・鵼とも書く。鳥類・ヒタキ科。翼長15cm前後で，日本産のいわゆるツグミ類よりかなり大きい。上面は黄かっ色，下面は白色で，全体に黒かっ色の斑(はん)が密にある。東アジアおよび南アジアからオーストラリアにかけて分布し，日本では北海道や本州の平地から亜高山帯の森林にかけて繁殖し，冬期は本州以南の平地に降りてくる。雨天の薄暗い日や早朝・夕方の薄暗いころに，少々気味の悪い声で〈ヒョーヒョー〉と鳴く。古く，〈ぬえ〉といわれていた鳥である。

とらのもんじけん **［虎の門事件］** 摂政裕仁(ひろひと)親王(現天皇)狙撃(そげき)事件。1923年(大正12)12月27日第48帝国議会開院式へ出席する途中，無政府主義者難波(なんば)大助によって東京虎(とら)の門付近で狙撃された。しかしこれは未遂に終わり，難波はただちに逮捕された。このため山本権兵衛(ごんのひょうえ)内閣は責任をとって総辞職。難波は翌年死刑。

トラピスト ［Trappists］ カトリック教会の修道会の一。正しくは〈厳律シトー修道会〉という。14世紀以後衰えていたシトー会を，17世紀半ばにフランスのラ-トラップ大修道院長ランセが改革したので，この名がある。修道士・修道女は一般社会と断たれた禁域で祈禱(きとう)・労働に従って神に仕え，また沈黙を厳格に守る。日本には，北海道渡島(おしま)支庁上磯(かみいそ)町に男子修道院，函館(はこだて)市，栃木県那須(なす)郡那須町，兵庫県西宮(にしのみや)市，福岡県京都(みやこ)郡豊津(とよつ)町に女子修道院がある。

ドラビダごぞく **［ドラビダ語族］** インドの南半を中心に中部インドやセイロン島北部などで用いられる一語族。膠着語(こうちゃくご)の一種とされるが，他の言語との系統関係についても定説がなく，孤立した語族であると考えられる。比較言語学的にかなり多数の言語に分類されるが，使用人口および文化的重要性からみて主要なものは南インドを中心に話されるテルグ語・タミル語・カンナダ語・マラヤラム語の4言語。インドにおけるこの語族の歴史はインド-アーリアン語の諸言語に劣らず古い。いずれも固有の文字をもち独自の文学を発達させてきており,約2,000年前のタミル語文献など，インド文化の総合的な研究に不可欠な資料を多数今日に伝えている。使用人口は上記のうちテルグ語が最も多く，タミル語・カンナダ語・マラヤラム語などと続くが，その他の言語も含めたこの語族全体の使用人口は1億741万人(1961)で，インド総人口の約4分の1にあたる。なお,タミル語はセイロン島やマライ半島にも分布しており，西パキスタンにもこの語族に属するブラーフィー語が用いられている地域がある。➔ インド-イラン語派 〔古賀勝郎〕

トラファルガルのかいせん **［トラファルガルの海戦］** 1805年10月21日,ジブラルタルに近いトラファルガル岬(みさき)沖で行なわれたイギリス艦隊とフランス・スペイン連合艦隊との海戦。イタリア・オランダにおけるフランスの優越に恐れをなしたイギリスは，1805年第3回対フランス大同盟*を結成した。これに対しナポレオン1世はイギリス本土への上陸作戦を決行したが，ネルソン*の率いるイギリス艦隊に撃破され，その企ては挫折(ざせつ)した。

トラファルガルひろば **［トラファルガル広場］** イギリスの首都ロンドンの中央部，チャーリング・クロスの北側にある広場。1805年スペインのトラファルガル岬(みさき)沖の海戦で，フランス・スペイン連合艦隊を

破った記念に命名された。なおネルソン提督の記念像が建っている。

とらふぐ　【虎河豚】　硬骨魚類・マフグ科。下関(しものせき)でマフグ，福岡県柳川(やながわ)ではトラジフグなどという。体長70cmに達する大形のフグ。体は暗かっ色で，胸びれの後方と背びれの基部に青白色の輪で囲まれた大きな斑紋(はんもん)が1個ある。さしみ・ちりなべなどにして食されるが，卵巣・肝臓に猛毒のテトロドトキシンが含まれ，春の産卵期には食用にしない。➔フグ

トラホーム　⇨トラコーマ

ドラマツルギー　［Dramaturgie］　作劇術・戯曲作法などと訳され，戯曲や脚本の書き方から劇の上演方法，演劇論までをも含めていう。ドラマツルギーに関する最古の書は，アリストテレス*の《詩学*》における悲劇論であるが，彼はこの中で悲劇の要素として〈筋〉〈性格〉〈言語表現〉などの六つをあげ，特に〈筋〉の構成を重要視している。17世紀フランスの古典主義悲劇はこの《詩学》をさらに厳密に規定することによって完成された。また，19世紀のフライタークの《戯曲技巧論》は，作劇術を説いたものとして有名である。わが国においては1403年(応永10)世阿弥*(ぜあみ)の《能作書》が最も早く，このあと江戸時代に近松門左衛門*(もんざえもん)の《難波土産(なにわみやげ)》，2世並木正三*(しょうぞう)の《戯財録(けざいろく)》などのすぐれた劇作術の書がある。〔毛利三弥〕

ドラム　［drum］　打楽器*の一種。科学的分類では膜鳴楽器*と体鳴楽器*の2種が含まれる。〈太鼓*〉と同義語とされることもあるが，たとえばスリット-ドラム*は膜をもたず，発音原理からはゴングに類する体鳴楽器である。ジャズのドラムセットは膜鳴楽器・体鳴楽器を組み合わせたものである。

とらめいし　【虎目石】　クロシドライトとよばれるソウセン石の一種の針状結晶の繊維状集合体がセキエイで置換されたもの。タイガーアイともいう。光沢の強い黄金かっ色を示し，繊維状構造からくる変形効果が現われて美しい。飾り石として用いる。主産地は南アフリカで，わが国にも大量に輸入されている。ハンガリー猫目(ねこめ)とよばれるものはオーストリア産で低級。

どらやき　【銅鑼焼き】　つぶしあんを2枚の皮ではさんだ和菓子。形が銅鑼*に似ているので名づけられた。皮は卵・砂糖を混ぜ，重そう・水あめを加え，小麦粉を合わせた種を鉄板の上で焼いてつくる。古くから江戸名物の一つ。昔は〈麩(ふ)の焼き〉の一種で，小麦粉をこねて薄く伸ばし，あんを包んで焼いたという。

トラヤヌス　［Marcus Ulpius Crinitus Trajanus］　(53～117)　ローマ帝国五賢帝のひとり。在位98～117年。もとスペイン出身の軍人で，軍隊の信望を得て，元老院とも協調し，元老院から皇帝に選出された。ダキア・パルチア・アッシリア・メソポタミア地方を征し，ローマ帝国は彼の時代に最大の版図を画している。また内政にも意を用い救貧制度を広げ，土木・建築・運河を構築して内政にも努めた。

トラヤヌスていきねんちゅう　【トラヤヌス帝記念柱】　ローマにあるトラヤヌス*のフォラムの中央に立つ大理石の円柱。113年に建てられたもので，ローマ時代の歴史事象を描いた浮彫が施されている。高さ29.55mに達する柱の表面の浮彫は，帝がダニューブ地方に遠征して蛮族を征伐するようすが描出されている。刻まれているローマと蛮族の兵士たちの数は2,500に達する。

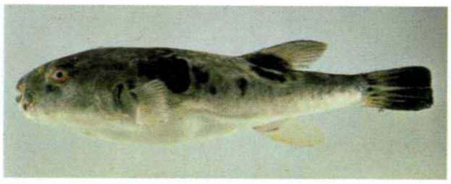
とらん　【都蘭】　ツーラン　中国，青海省中部の都市で県政府所在地。ツァイダム盆地の東にあり，省都西寧から新疆(しんきょう)ウイグル自治区南部に通ずる自動車道路〈青新公路〉が通っている。盆地一帯で産する畜産品を集散し，付近の塩湖から塩の採取を行なっている。中華人民共和国成立以前は北東の希里溝(きりこう)に県政府があり，これを都蘭と称していた。

ドラン　［André Derain］　(1880～1954)　フランスの画家。ブラマンク*・マティス*を知って，フォービスムから出発し，キュービスム*にも参加。ピカソに先んじて黒人彫刻を研究。のちセザンヌに傾倒し，新古典派的作風に，自己の重厚な色彩と形態を発見している。《森》《オレンジのある静物》《ブロンドの女》などよく知られた作品がある。わが国の近代絵画にも彼の影響が深い。第2次世界大戦中，ナチス-ドイツと協力した理由で，晩年は不遇であった。

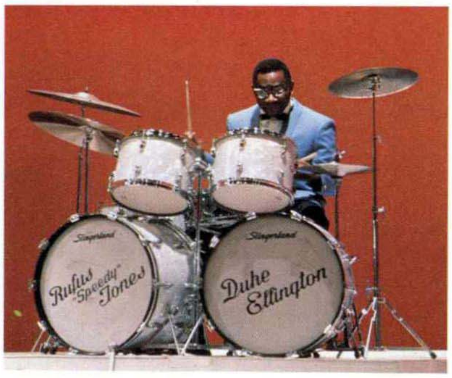
ドーラン　［dohran］　グリーズ-ペイントのことで，舞台用の油性おしろい。ドイツのドーラン社製のものが多く使われたので，この名が通称となった。

トランキライザー　［tranquilizer］　精神安定剤のこと。次のように大別される。

①強力精神安定剤：強力な鎮静効果と抗精神病的作用を有する。精神分裂病*・症候性精神病・頭部外傷*に伴う精神傷害・中毒性精神病などにみられる精神運動興奮や幻覚*・妄想*(もうそう)の著明な症状，および意欲低下・無為・自閉など精神活動の鈍麻した状態に



トラフグ



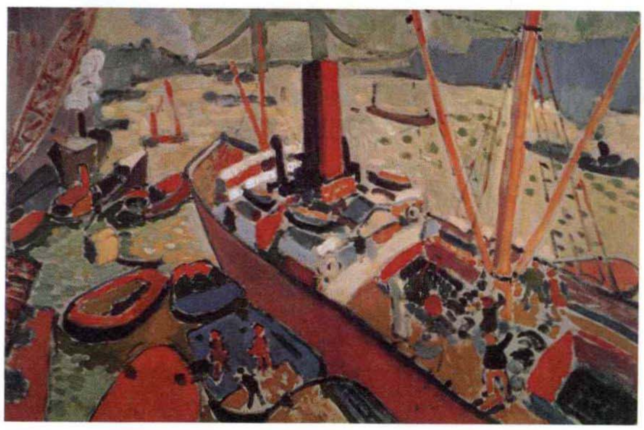
ドラム　ドラムセット



虎目石　南アフリカ，グリクアランド産

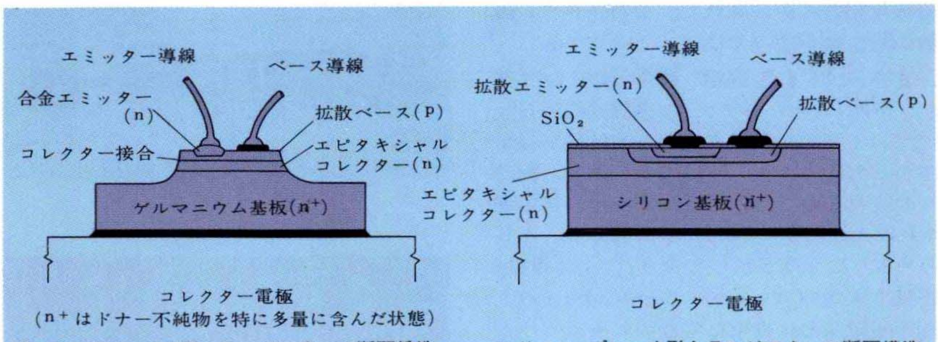


トラヤヌス帝記念柱　(部分)

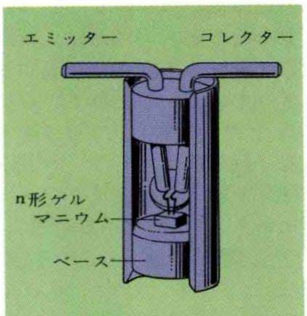


ドラン《ロンドン港》

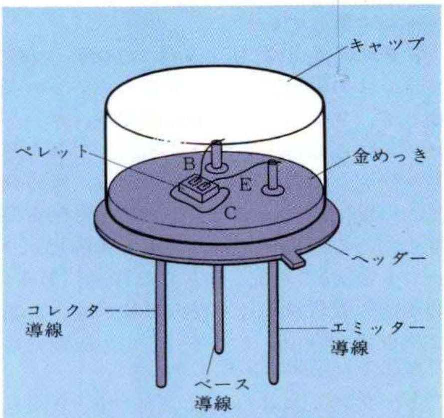
トランジスター



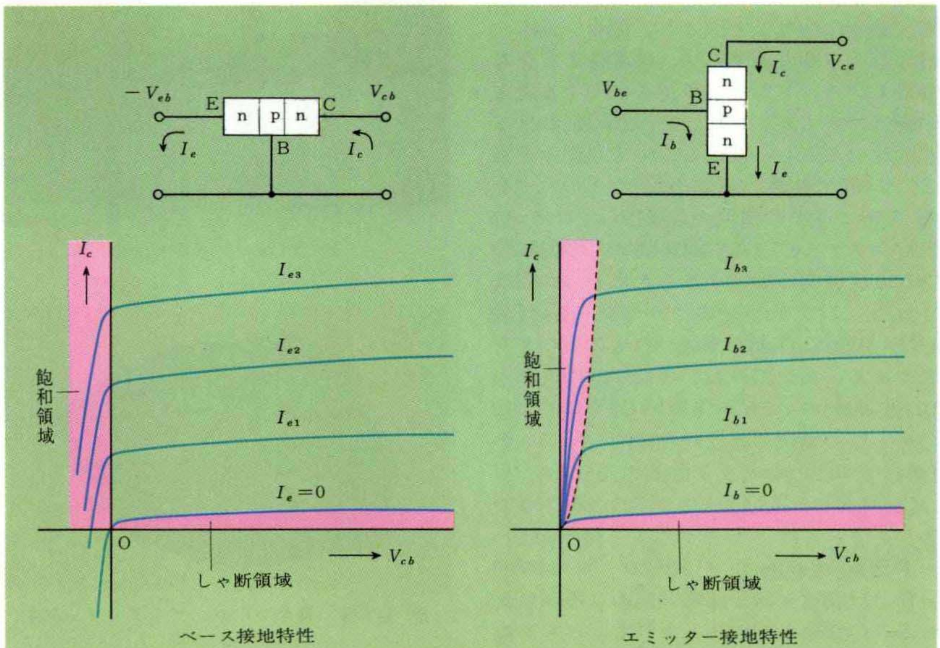
ゲルマニウム-メサ形トランジスターの断面構造　　**シリコン-プレーナ形トランジスターの断面構造**



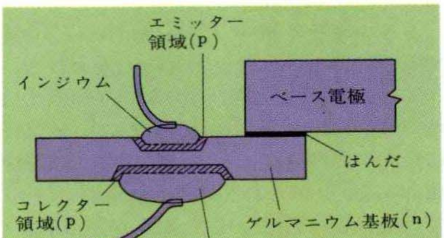
点接触トランジスター



ペレットのマウントのようす

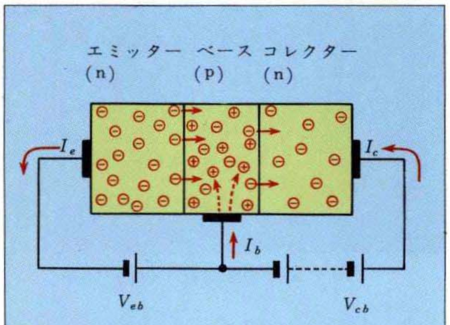


I_c-I_{cb}特性の接地方式によるちがい



合金形トランジスター

エミッターとコレクター領域をインジウムをゲルマニウムと合金させてつくる



npn接合形トランジスター中のキャリアの流れ

対して用いられる。クロルプロマジン・レボメプロマジン・パーフェナジン・チオリダジン・ハロペリドールがこれに属する。

②緩和精神安定剤：不安緊張の緩和・改善を目的とするもので，強力精神安定剤のように自律神経系への作用がほとんど認められず，主として神経症*を対象とする一群の薬剤。狭義にはトランキライザーはこれのみをさす。クロルジアゼポキサイド(コントロールまたはバランス)・デアゼパム・ニトラゼパムなどがこれに属する。

トランジスター　[transistor]　半導体*を利用した少なくとも3端子(入力・出力および共通端子)を有する電気信号の増幅素子。キャリア(電子あるいは正孔)を入力信号で制御することにより，電気信号の増幅を行なう点では真空管と同じであるが，熱陰極を用いず，真空容器中に封入する必要がないので電力効率が高いばかりでなく，超小形化が可能という利点を備えている。このため，通信機器・コンピューター・自動制御装置・計測装置などエレクトロニクスのあらゆる分野で用いられている。

1948年，ベル電話研究所のJ. バーディンとW. H. ブラッテンは，金属電極上にはりつけた単結晶n形ゲルマニウムの小片の表面に2本のタングステンの針を立て，金属電極を共通電極として第1の探針に正の電圧を加え，第2の探針に負の電圧を加えるようにすると，探針の間隔がきわめて近接した場合には，第1の探針に流れる電流を変化させることにより，第2の探針の電流の制御が可能であることを発見した。これが点接触トランジスターで，第1の探針をエミッター，第2の探針をコレクター，ゲルマニウム片をベースと名づけた。翌年，W. ショックレーは，半導体のpn接合の整流作用を発見し，次いでトランジスターの増幅機構をpn接合の理論により解明するとともに，pn接合を組み合わせた接合形トランジスターの可能性を理論的に予言した。現在実用化されているトランジスターは，すべて接合形トランジスターであり，pn接合の組み合わせ方により，pnp形とnpn形がある。

【原理】半導体単結晶中にp形領域(アク

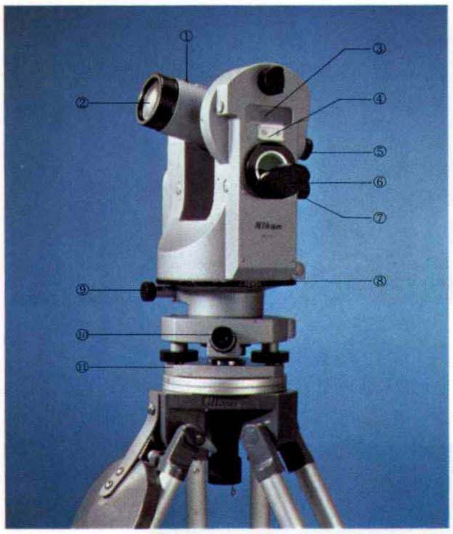
セプター不純物n_Aを含みキャリアの大多数が正孔からなる領域)とn形領域(ドナー不純物n_Dを含みキャリアの大多数が電子からなる領域)が区別されているものをpn接合とよび，整流作用を示す。pn接合に順方向電圧を加えると，p側からn側へ正孔の注入が起こり，反対にn側からp側へ電子の注入が起きる。アクセプター濃度をドナー濃度より十分高くして置くと，ほとんどn形領域への正孔注入のみが起きる。注入された正孔は，n領域を拡散によって移動しながら，同時に電子と再結合して消えていく。注入した正孔の値が0.37に減少するまでに移動する距離を，正孔の拡散距離とよぶ。一方，pn接合に逆方向電圧を加えると，接合面近傍の正孔，電子はそれぞれp側，n側に吸収されて，接合部はキャリアがほとんどなくなった空乏層となる。

そこで，p形領域を共通にもつ二つの接合，すなわち，npn接合をつくり，p形領域の幅を注入電子の拡散距離より十分に狭くつくり，左側のnp接合には順方向電圧を加え，右側のpn接合には逆方向電圧を加えると，左側のn形領域(エミッター)から注入された電子は，p形領域(ベース)を拡散によって通過して右側のn形領域(コレクター)に吸収されることになる。逆方向電圧は正方向電圧より十分大きく加えることができるので，ほぼ

$$G=\frac{\text{逆方向電圧}(V_{cb})\times\text{吸収電子電流}(I_c)}{\text{正方向電圧}(V_{eb})\times\text{注入電子電流}(I_e)}$$

によって表わされる電力の増幅が得られる。トランジスターでは，V_{cb}をコレクター-ベース電圧，V_{eb}をエミッターベース電圧とよび，I_cをコレクター電流，I_eをエミッター電流という。I_eとI_cの差はベース電流I_bとなる。この電流は，ベース内を拡散する注入電子と再結合して失われる正孔を補給する必要から生ずる電流である。I_c-V_{cb}特性は，共通端子(接地端子)をベースとするとI_eによって制御され，エミッターにとるとI_bによって制御される。トランジスターはnpn構造とpnp構造が可能で，電気的特性は互いに相補的関係をなし，ともにキャリアの注入を利用している注入効果トランジスターとよぶべき半導体デバイスである。真空管が格子(こうし)電圧によって陽極電流が変化する電圧制御形デバイスであるのに対し，トランジスターはベース電流によってコレクター電流が変化する電流制御形デバイスである。

【種類・製法】トランジスターはpn接合の作り方により合金形と拡散形に区別される一方，電極の取り出し方によりメサ形とプレーナ形に分けられている。pn接合は，基板表面から基板と逆の電導形を生ずる不純物を合金法あるいは拡散法でしみこませることにより容易に形成することができる。トランジスターを効率よく動作させるためには，たとえばnpn構造ではn_D(E)>e_A(B)>n_D(C)となることが望ましい。このような条件を満たすとコレクター領域の導電率が低下し，コレクター抵抗が増加する。これを防止するため，導電率の高い基板の上に必要な厚さのコレクター領域をエピタキシャル成長法で形成した構造のトランジスターがつくられている。動作する電力レベルや周波数により，電力用トランジスターや高周波トランジスターがあるが，原理はいずれもまったく同じである。原理をことにするものに電界効果トランジスター*がある。〔伊藤糾次〕



トランシット　①照星　②対物レンズ　③高度気泡照明窓　④照明装置差し込みみぞ　⑤望遠鏡接眼鏡　⑥リフレクター　⑦高度規正微動ねじ　⑧水平目盛り手動輪　⑨下盤微動ねじ　⑩求心装置接眼鏡　⑪底板

トランジスターどけい　【トランジスター時計】電磁時計の一種。調速機構を動かす電流の接断をトランジスター*の整流・増幅作用を利用して行なう時計*。スイッチ機構に機械接点のような摩耗などの劣化がなく，すぐれた等時性をもつ。1953年にフランスのラベが特許を出願した。単一形乾電池1個で1年以上も作動するので，近年家庭用掛け時計などに多く普及した。多くの方式が考案されたが，実用化されたものでは，次の二つに大別できる。①単独電磁式：調速振動装置である振り子・テンプ・音叉(おんさ)などを直接電磁力で動かす。検出コイル・駆動コイル・トランジスター回路からなる。②トランジスター-モーター式：ブラシ・整流子による整流機構の代わりに，トランジスター-モーターの回転力で脱進機付きテンプまたは振り子を動かす。〔川中　洋〕

トランシット　[transit]　水平および垂直面内で自由に回転できる小望遠鏡と，その回転角を指示するための円周目盛り盤とを備えた角度測定器械。おもに器械の中心を基準に目標点相互の高度角や水平角をはかるのに使用されるが，望遠鏡の特殊な性質と種々の付属装置を利用して，目標点までの距離の測定，真北からの方位角の測定，直線の決定および延長，水準儀の代用など応用範囲は広く，測量の分野には欠くことのできない器械である。精度は一般に，1′，20″，10″，1″，0.1″のように測角の最小読み取り値で表わされ，林野・鉱山などの簡易測量から，一等・二等三角測量などの精密測地測量に至るまで，測量の程度に合わせて使用される。目盛り盤には金属製とガラス製の2種類あるが，高い精度の器械は光学的に目盛りを拡大させる必要上，ガラス目盛りを用いるのが普通である。日本では一般に高級トランシットをセオドライトと称し，前者を転鏡儀，後者を経緯儀*と名づけている。〔宮　清〕

トランシットえいせい　【トランシット衛星】⇨航海衛星

トランシーバー　⇨市民ラジオ

トランシルバニア　[Transylvania]　ルーマニア中央部から北西部にわたる旧地方名。東はカルパート山脈，南はトランシルバニア-アルプスに囲まれた肥沃(ひよく)な盆地で，農業が盛ん。鉱物資源にも恵まれているが，比較的開発されていない。ハンガリー領・オーストリア領を経て，1918年からルーマニア領になった。

トランシルバニア-アルプス　[Transylvania-Alps]　ルーマニアの中央部を東西に走る山脈。カルパート山脈の南部にあたる。東のシレト河谷から西のドナウ川まで延長約320km。最高峰は中部のネゴイ山(2,548m)。山脈地方にはトランシルバニア地方，南方にはワラキア地方が広がる。山麓(さんろく)は森林であるが，高地は牧場となっていて，移牧に利用されている。

トランス　⇨変圧器

トランスアミナーゼ　⇨アミノ基転移酵素

トランスオギジアナ　[Transoxiana]　ギリシア語で〈オクソス川(アム川)の向こうの地〉の意。アラビア語マーワラーアンナフルと同義。一般的にはアム・シル両川間の地域をさす。この地域は古く東西文化の交流の通路として重要な地位を占めた。

トランスバール　[Transvaal]　南アフリカ共和国の北東部を占める州。面積28万6,000km²。人口627万8,000(1960)。州都プレトリア。南東部の海岸沿いにドラケンスバーグ山脈が走り，その西側は高原になっている。東部低地と北部は熱帯性気候を示すが高原は涼しく，年降水量は多い地域でも700mm前後である。主産業は鉱業で，この国の鉱産物の約75%を産出し，ダイヤモンド・金をはじめウラン・銅・鉄鉱・石炭など各種の鉱物資源に富んでいる。鉱業に伴う工業も発達しており，多くは原住民労働力を低賃金で使用しているが，周辺各国からの移入労働者も多い。19世紀前半，イギリスの支配を避けて移住したボーア人(オランダ系白人)により建設された地域で，一時

イギリスの植民地になったが，南アフリカ連邦成立とともにその一州となった。〔小栗　宏〕

トランス-ヒマラヤ ⇨ヒマラヤ山脈

トランスファーマシン ［transfer machine］ いくつかの専用工作機械または加工ユニットと，工作物を載せて移動させる運搬装置とを組み合わせて一連のものとしたもの。一方の端から材料を供給すれば，各ステップごとに穴あけ，中ぐり，面削り，ねじ立てなど，各種の加工が次々に施されて，加工の完了した製品が他端から出てくる。自動車・扇風機・ミシン・カメラなど，大量生産される部品の加工に用いられている。1910年代にアメリカ合衆国で，1920年代にはイギリスで実用化され，わが国では1950年代初期に製作された。〔稲田重男〕

トランセプト ［transept］ 交差廊。教会堂の身廊と内陣との間に身廊と直交し，南北を軸としてつくられる部分。交差部と袖廊(そでろう)に分かれる。

トランプ ［trump］ 室内ゲーム用具の一種。正式にはプレーイング-カードまたはカーズといい，トランプは日本のみの呼称である。トランプは〈切り札〉の意で，明治初期に来日した外国人がカード-ゲームを行なっているときに，〈トランプ〉と言ったことからの称である。

現在使用されているトランプは54枚が一つの組みになっていて，スペード・ハート・ダイヤ(ダイヤモンド)・クラブの4種類のマーク(スート)があり，スペードとクラブは黒色，ハートとダイヤは赤色で表わされている。各マークに1(カードには〈A〉と表わし，エースとよばれる)から10までの数札10枚と，キング(K)・クイーン(Q)・ジャック(J)の絵札3枚があり，これに2枚のジョーカーを加えて54枚になる。

トランプの起源には中国説・エジプト説・インド説など多くの説があるが，10世紀末から11世紀初頭にかけて東洋に発生し，その後ヨーロッパに伝わったという点では一致している。伝わり方も，十字軍が持ち帰ったとする説，サラセン人がイタリア・スペインに伝えたとする説，ジプシーが東ヨーロッパに伝えたとする説などがあるが，いずれにしても13世紀にはすでにヨーロッパに伝わっていた。ヨーロッパのトランプの最初の形式は，イタリアでできたタロッキとよばれるものである。これは22枚1組みのもので，1から21までの数札と添え札が1枚あり，それぞれ極彩色で物理的な力や霊的な力を表わす像が描かれ，添え札には魔法使い・悪魔・道化などが描かれていた。これは主として予言・占いに用いられていた。14世紀になると，タロッキに56枚のカードが加わって78枚が1組みになった。56枚のカードには剣・棒・コップ・貨幣を表わした四つのマークがあり，それぞれのマークに1(A)から10までの数札と42枚の絵



トランスファーマシン　シリンダーブロック加工工程　計器盤の下に見えるのがシリンダーブロック(自動車工場)



トランペット



トランポリン　反動を利用して跳躍・回転・ひねり運動を行なう

札があった。最初の22枚のタロッキ-カードはアトウ(切り札)とよばれた。その後，タロッキは40枚(イタリア・スペイン)，32枚・36枚(いずれもドイツ)とさまざまな変化を生み，フランスでできた52枚1組みのものが現在のトランプの基礎になった。これも最初は手書きの高級品だったが，印刷技術の発達とともに一般に親しまれるようになった。現代の四つのマークはタロッキ-カードの四つのマークが変化したもので，スペードは剣，ハートはコップ，ダイヤは貨幣，クラブは棒がそれぞれ変化したものである。また，ジョーカーはタロッキの添え札の変化したものである。四つのマークは，スペードが軍人，ハートは僧侶(そうりょ)，ダイヤは商人，クラブは農民というふうに人間の階級を表わしたものであるとか，それぞれイギリス貴族の紋章をかたどったものであるとかいわれるが，はっきりした根拠はわかっていない。

トランプは，わが国には天文年間(1532〜1554)にポルトガル人によって伝えられ，天正年間(1573〜1591)には国産のトランプができている。これが〈天正かるた〉とか〈ウンスンかるた〉とよばれるものである。イス(剣)・コップ(杯)・オール(貨幣)・ハウ(棍棒(こんぼう))の四つのマークに1から10までの数札，ウン(七福神)・スン(公卿(くげ))・ロハイ(龍(りゅう))の三つの絵札があった。このトランプは寛政年間(1789〜1800)に御法度(ごはっと)になり絶滅した。なお今日用いられる〈ウンともスンともいわない〉ということばは，〈ピン(1)からキリ(10)まで〉と同様に，このトランプから生じたものである。

トランプの起源が予言・占いにあったことはほぼまちがいない。18世紀ごろまでヨーロッパ各国で盛んに行なわれ，国家の運命を左右するようなこともトランプ占いで決められたともいう。占いの方法はまちまちであるが，カード1枚ずつにそれぞれ意味があり，基本的にはハートが愛・結婚・友情・希望などを表わし，クラブは繁栄，ダイヤは富，スペードは不吉・凶事のシンボルとされる。

トランプ-ゲームは大別してラミーのようにカードを集めるもの，コントラクト-ブリッジのようにトリック(ゲームの際に4人が1枚ずつ出すカード)を奪い合うもの，ポーカーのようにギャンブル性の強いものの三つに分類できる。また，トランプは奇術にも盛んに用いられ，奇術専用のトランプも市販されている。しかし，最近では，予言・占い・奇術よりも，ゲーム用としてはるかに重要な役割を果たしている。〔福田生雄〕

トランペット ［trumpet］ 最も歴史の古い金管楽器。17世紀までのものは，管になにも装置がなかったため，自然倍音として得られる音しか吹けなかった。今日，スポーツ競技会などで奏されるファンファーレはこれで，14世紀以来貴人の権威の象徴として儀式などで使われ，また軍楽でも使われた。17世紀にはいるとオペラやカンタータ，あるいはコンチェルトで盛んに使われるようになったが，管長に固有な倍音だけでは演奏できる音楽が限られてしまうので，管長を一時的に変える試みが行なわれた。18世紀では楽器と歌口の間に替管を挿入(そうにゅう)していたが，19世紀初めにバルブがくふうされ，これによって今日のようにバルブを指で押すだけで管長が変わり，半音階的な変化が可能になった。今日では旋律楽器としても安定した機能をもち，管弦楽だけでなく，協奏曲・室内楽・ジャズと広く使われている。〔徳丸吉彦〕

トランポリン ［trampolin(e)］ 体操の特殊種目の一。イタリア語のトランポリ(竹

馬)から出たことばで，もと竹馬の曲技をいった。ばねのしくまれたじょうぶなカンバスの上で，ばねを利用して飛び上がったり宙返りしたりするもの。その器具もこの名でよばれる。

とり 【鳥】 ⇨鳥類

ドリアじん 【ドリア人】 古代ギリシア人のうち，西方方言群に属する一派。ドリス人ともよばれる。最もおそくギリシア半島を南下した。BC1200年ごろから南下を始め，ペロポネソス半島にはいり，先住ギリシア人の形成したミケーネ文明(→エーゲ文明)を破壊して，先住民を奴隷とし都市国家を建設した。スパルタがその代表である。まず彼らはクレタ島や小アジア南岸にもポリス*を形成した。

トリアッチ [Palmiro Togliatti] (1893～1964) イタリア共産党の指導者。1921年イタリア共産党結成に参加。ファシスト政権の弾圧により，1926年ソ連に亡命，コミンテルン執行委員として活躍し，1936年スペイン内乱*では国際人民戦線義勇軍に参加した。第2次世界大戦後，1944年帰国し，共産党を再建して書記長となり，内閣にも加わったが，1947年デ-カスペリ内閣の右傾により辞任。スターリン批判や構造改革論を提唱し注目を浴びた。 〔大野慎一郎〕

トリアノンじょうやく 【トリアノン条約】 1920年6月4日ベルサイユ宮殿内のトリアノン宮で，連合国とハンガリーの間に調印された第1次世界大戦講和条約。①サン-ジェルマン条約*で確認されたハンガリーのオーストリアからの分離独立を再確認，②ハンガリーからのチェコスロバキア・ユーゴスラビアの独立を承認，③ハンガリーからルーマニア・チェコスロバキア・ユーゴスラビア・オーストリア各国へ領土割譲などの約束をした。この結果，ハンガリーの面積71%，人口64%が減少し，主要農工業地帯を失い，マジャール人が国外に分裂するなど，同条約は他の敗戦国に比して過酷であった。第2次世界大戦にハンガリーが枢軸側で参戦する原因ともなった。 〔折井一彦〕

ドリアン [durian] 双子葉植物・パンヤ科。マライ半島原産の常緑高木で，熱帯各地で栽培される。葉は長楕円(ちょうだえん)形で表面に光沢があり，互生する。果実は数個が直接に幹からぶらさがる(このような果実を幹生果という)。果実は長さ20～30cmの長楕円形で，表面に太い三角形の大きなとげが一面にある。子房は5室からなり，各室に1～数個の種子を入れる。種子のまわりの果肉は淡黄色または銅色で，クリームのように柔らかく美味であるが，特別の臭気があるので，はじめての人には近寄れないくらいである。

とりい 【鳥居】 神社の参道・社頭の入り口などに建てられ，聖域であることを示す一種の門。2本の柱の上部に笠木(かさぎ)







鳥　居
①神明鳥居　伊勢神宮内宮
②明神鳥居　橿原神宮
③台輪鳥居　伏見稲荷大社
④山王鳥居　日吉大社
⑤両部鳥居　貫前神社



鳥居清信 《立美人》 東京国立博物館蔵

を渡し，さらにその下に貫(ぬき)を通す。一般に，笠木と貫の中央部に額束(がくづか)がつけられたものが多い。起源については，形態の類似性からインドのトーラーナや中国の牌楼(ぱいろう)，朝鮮の紅箭門(こうせんもん)などを原型とする説，また日本固有のものとする説があるが，決定的なものはない。記録には奈良末期から平安初期に現われるが，それよりもはるか以前にあったと思われる。形式は神明鳥居の系統と明神鳥居の系統に二大別でき，前者に黒木鳥居，後者に八幡(はちまん)鳥居・台輪鳥居・山王鳥居・両部鳥居などがある。

とりいきよなが 【鳥居清長】 (1752～1815) 浮世絵師。鳥居清満の門人で，師の没後鳥居家4代を継ぐ。はじめ清満ふうの役者絵や鈴木春信(はるのぶ)ふうの美人画を描くが，磯田湖龍斎(いそだこりゅうさい)の影響を経て，天明年間(1781～1788)に独自の画風を確立，夢幻の世界にある春信の美人を現実の空間に引きもどし，写実的描写による群像表現にすこやかな姿態美を追求した。また，役者絵にも〈出語図(でがたりず)〉(→歌舞伎(かぶき))という独特の舞台描写を試みた。代表作に《風俗東之錦(あずまのにしき)》《大川端(おおかわばた)夕涼み》などがある。 〔小林　忠〕

とりいきよのぶ 【鳥居清信】 (1664～1729) 浮世絵師。鳥居派の初代。通称庄兵衛(しょうべえ)。大阪の女形役者で画も巧みにした鳥居清元の長男。1687年(貞享4)父とともに江戸に下り，当時流行の菱川師宣*(ひしかわもろのぶ)にひかれて浮世絵界にはいり，芝居の看板を描いていたことなどの関係から役者絵に頭角を現わした。荒事を演ずる役者の激しい身ぶりを描き写すため，肥痩(ひそう)の変化に富む描線と誇張的な筋肉表現を特色とする作風を独創，〈瓢簞足蚯蚓描(ひょうたんあしみみずがき)〉とよばれる鳥居派独特の役者絵様式を確立した。以後，鳥居派は歌舞伎(かぶき)界専属の地位を維持することになる。美人画にもひいで，豪華な衣装に装う大がらな立美人の図を曲線のリズムもおおらかな流暢(りゅうちょう)な墨線によって描き表わした。また，墨摺絵(すみずりえ)・丹絵に秀作が多く，《娼妓画牒(しょうぎがちょう)》《風流四方屛風(びょうぶ)》など絵本方面でも活躍した。 〔小林　忠〕

とりいすねえもん 【鳥居強右衛門】 (?～1575) 安土桃山時代の武士。三河(みかわ)(愛知県)の長篠(ながしの)城主奥平貞昌(さだまさ)の家臣。名は勝商(かつあき)と伝えられるが不詳。1575年(天正3)武田勝頼(たけだかつより)が長篠城を包囲したとき，徳川家康(いえやす)の救援を求めるため城を脱出して岡崎に使いし，帰途武田軍に捕えられ，長篠城外で磔(はりつけ)にされた。→長篠の戦い

とりいとうげ 【鳥居峠】 利根(とね)川の支流吾妻(あがつま)川上流と千曲(ちくま)川の支流神川上流を結ぶ標高1,362mの峠。浅間山のほぼ北西にあり，長野・群馬の県境をなし，上田から長野原へ通ずる国道144号線がここを越えている。

とりいとうげ 【鳥居峠】 長野県中部の松本盆地奈良井(ならい)川の谷と南の木曾(きそ)川の谷とを結ぶ標高1,197mの峠。かつての中山道(なかせんどう)の奈良井宿と藪原宿(やぶはらじゅく)の間にある。中央本線はトンネルでここを越え，現在の国道19号線はこの峠を避けて南側を通っている。

とりいは 【鳥居派】 浮世絵の一流派。始祖鳥居清信(きよのぶ)以来，歌舞伎(かぶき)の芝居小屋と密接な関係を結び，その看板絵や番付絵の制作をほぼ独占した。版画の役者絵においても，清倍(きよます)の荒事芝居絵，清満のブロマイドのような一人立(ひとりだち)役者絵，清長の出語図(でがたりず)など，時代の好尚(こうしょう)にこたえる独特の作風をもって活躍したが，江戸時代後期には，勝川派や歌川派*，あるいは東洲斎(とうしゅうさい)写楽*などの斬新(ざんしん)な役者絵に追われ，衰えた。 〔小林 忠〕

とりいようぞう 【鳥居耀蔵】 (1796～1874) 江戸末期の江戸町奉行*(ぶぎょう)。名は忠耀(ただあき)。幕府の儒官林述斎の次男で，のち旗本(はたもと)鳥居一学の養子となる。1838年(天保9)目付として大塩平八郎*の乱を処理し，翌年江川太郎左衛門*(たろうざえもん)とともに浦賀海岸の測量を行なったが，儒門の出のため極端に蘭学(らんがく)をきらい，江川を含む渡辺崋山*(わたなべかざん)・高野長英*ら蛮社の蘭学者の粛清を図り，老中水野忠邦*(ただくに)に取り入った。1841年町奉行，1843年勘定奉行を兼務。天保(てんぽう)の改革*の中心的存在であったが，その過酷な取り締まりから江戸市民に〈妖怪(ようかい)〉(耀甲斐)とよばれてきらわれた。1844年(弘化1)罷免され，翌年改易されて丸亀(まるがめ)藩に預けられた。➔蛮社の獄 〔岡山泰四〕

とりいりゅうぞう 【鳥居龍蔵】 (1870～1953) 考古学者。徳島県出身。東京大学人類学教室主任，国学院大学・上智(じょうち)大学の教授を歴任，東方文化学院研究員となる。1910年(明治43)朝鮮平壌(へいじょう)の楽浪郡古墳の存在を発表した。1939(昭和14)～1951年の間中国に滞在し，燕京(えんきょう)大学で研究に励み，中国東北地方の石器文化と遼(りょう)文化の解明に努めた。

トリウム [thorium] 記号Th，原子番号90，原子量232.038。ウランとともに天然に存在する最も重要な放射性元素の一つで，アクチニド元素の一員。天然トリウムは量的にはほとんど質量数232の同位体よりなるが，人工的につくられたトリウムも存在する。地球の表層の岩石中に広く分布している。海水に含まれるトリウムはウランよりはるかに多量である。鉱物にはモナズ石・トーリット・トリアニットなどがある。トリウム金属を得るには，鉱石を選鉱，硫酸に溶解し，希釈してから部分的に中和したのち，リン酸トリウムとして沈殿させ，シュウ酸塩とし，さらに硝酸塩に変え，酸化物またはハロゲン化物にしてから，アルゴンまたは高真空下の金属カルシウムとともに高温に熱して還元する。銀白色，粉末は白色，融点1,840℃，沸点3,000℃，比重11.5，水・アルカリには溶解しないが，塩酸には激しく溶解し，硫酸には徐々にとける。トリウム232は核反応によって原子炉燃料となるウラン233に変換する。トリウムは加熱すると，熱電子を放出しやすいので，ガス放電管式のランプや紫外部測定用光電管などに使用される。酸化トリウムは白色の粉末でフッ化トリウムとともに光学ガラスの原料に使われる。酸化トリウムと酸化セリウム(99:1)の固溶体をガス炎で熱すると白光を放つのでガスマントルに用いられる。 〔古屋 弘〕



鳥追い 年の初めに田畑の害虫を追い払う鳥追いの行事 新潟県小千谷市



トリガイ

トリエステ [Trieste] イタリア北東部，ユーゴスラビアとの国境にある都市。人口27万(1975年推)。アドリア海の最奥部，トリエステ湾にいだかれた港市で，バルカン半島と中部ヨーロッパの連絡口として重要な位置にあり，第2次世界大戦後1947～1954年には国連管轄の自由地区となった。古代ローマ時代，アウグストゥスが植民地を開いたのに始まり，14世紀以降はハプスブルグ家の支配下にはいり，オーストリア・ハンガリー帝国の重要な港として栄えた。19世紀からイタリア民族統一運動が起こっていたが，第1次世界大戦後にイタリア領となった。 〔梶川勇作〕

トリエントこうかいぎ 【トリエント公会議】 1545～1563年の間，北イタリアのトリエント(現在のトレント)で開かれた反宗教改革の宗教会議。神聖ローマ皇帝カール5世の要求によって教皇パウル3世が招集した。本来の趣旨はカトリックとプロテスタントとの和解を図ることにあったが，プロテスタント側は出席せず，教皇も妥協の意志はなく，そのためカトリック陣営の立てなおしを図るための会議となった。教皇と皇帝の激しい対立や各国間の不一致などで難航したが，結局教皇の無謬(むびゅう)絶対性，ローマ教会による聖書解釈の正当性，免罪符の有効性，宗教裁判の励行などカトリック教義を再確認した。その結果カトリック教会内部は粛正され，1534年組織された旧教徒の反攻と布教の戦士としてのイエズス会の活躍とあいまって，反宗教改革運動は進展し，旧教の努力は回復された。 〔喜多迅鷹〕

トリオ ⇨三重奏

とりおい 【鳥追い】 小正月の予祝行事および芸能の一。年の初めに，田畑を荒らす害虫やスズメ・カラス・イノシシ・キツネなどの禽獣(きんじゅう)を追い払い，1年の豊作を祈願する行事。東北・中部・関東地方が中心で，子どもたちが鳥追い唄(うた)などを歌いながら田畑や家々をはやして回る。なお，江戸時代に編みがさをかぶり，三味線(しゃみせん)をひき，五穀の実りを祝う歌を歌って門付*(かどづけ)をした女性を〈鳥追い〉といったが，これは，鳥追いの行事が都会化したもの。

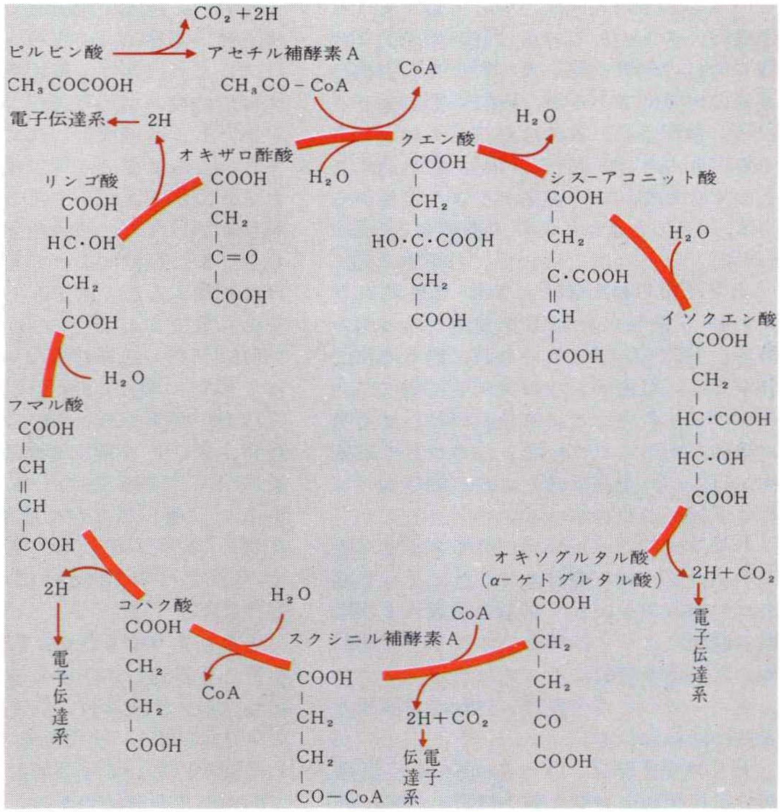
ドリオピテクス [dryopithecus] 霊長類の一。中新世から鮮新世にかけて生息した化石類人猿(るいじんえん)。1856年，フランスでラルテが発見して以来，ヨーロッパ・アジア各地で歯と下顎片(かがくへん)が発見され，それに基づきグレゴリーは，この属の下顎大臼歯冠(だいきゅうしかん)に特徴的なY字形のみぞを，ドリオピテクス形として歯牙(しが)形態学上の指標にしている。

とりがい 【鳥貝】 軟体動物・二枚貝類・ザルガイ科。殻(から)は球形で薄質，殻高(かくこう)・殻長とも9.5cm，殻幅6.5cmに達する。殻表は淡黄かっ色で，40～50条の細く浅い放射溝(ほうしゃこう)に沿って殻皮毛を生じる。内面は淡桃色で，後方では桃紫色となる。鉸歯(こうし)も薄く弱い。軟体の足は紫黒色で細長い三角状，本州以南の内湾の泥底(でいてい)にすみ，ときに大発生することがある。産卵期は2～6月と8～11月。足は美味で，すし種，酢の物，乾物にするが，その味が鶏肉に似るところからトリガイの名がある。

とりかえばやものがたり 【とりかえばや物語】 平安末期の成立と考えられる。作者不明。現存するのは，原作を改作したもので原作の荒唐無稽(むけい)な筋と退廃的な文章をやや改めたものらしい。内容は権大納言の子に，よく似た異腹の姉弟がおり，姉は男性，弟は女性として育てられ，弟は内侍(ないしのすけ)に姉は中納言にまで昇進，数奇な運命にもてあそばされつつさまざまの経過を経てそれぞれ本性にもどり，幸福な生活を迎えるというもの。姉を中心にした心理描写には，《源氏物語》の余香のうかが



トリカブト
(左)ヤマトリカブト
(右)ホソバトリカブト



トリカルボン酸回路

われる面もあるが，原作に引きずられた筋の不自然さなどには，やはり平安時代物語文学の衰退を感じさせる。〔桑原博史〕

とりかじ【取舵】⇨面舵(おもかじ)・取舵

とりかぶと【鳥兜】双子葉植物・キンポウゲ科。庭に植栽される多年草で，高さ1〜1.3m。葉は互生し，3〜5深裂する掌状葉で，長さ7〜15cm。8〜10月，茎の上方に青色の花を多数つける。5枚のがく片は花弁状で，うち上部の1枚が高さ2〜3.5cmの兜形，中部の2枚は丸く下部の2枚は長楕円(ちょうだえん)形。2枚の花弁は蜜腺(みつせん)に変化している。多数のおしべ，3〜5個のめしべがある。近縁種に，山野に見られるヤマトリカブト，高山植物で葉が細く切れ込むホソバトリカブト，北海道のエゾトリカブトなど多数の種類があり，分類するのが困難である。いずれも全草，特に塊根にアルカロイドのアコニチンを含み，猛毒で，誤って食べると激しい中毒を起こし，死ぬこともある。アイヌ人はこの毒を矢じりに塗って狩りをした。なお，この塊根は烏頭(うず)・附子(ぶし)・アコニットなどといわれ，漢方では鎮痛・強精などの目的で用いられる。〔加藤僖重〕

トリカルボンさんかいろ【トリカルボン酸回路】クレブス回路・クレブスサイクルともいい，TCA回路(tricarboxylic acid cycle)と略されることが多い。ミトコンドリア内にあり，栄養素が酸化される回路。しかし栄養素がこの系で酸化されるためには，あらかじめ炭素2原子からなる化合物に分解されなければならない。つまり，この回路は酢酸(活性化)の誘導体，すなわちアセチル補酵素A(コエンザイムA)でなければ燃料として利用しない。このアセチル基は回路中のある物質に移されて，しだいに他の回路構成化合物に移されているうちに$CH_3COOH \rightarrow 2CO_2$の形で完全に分解される。また，回路の中には脱水素酵素が四つあるので，アセチル基の4原子の水素は一回りする間に電子対が酵素の作用で4個引き出され，さらに電子伝達系*へと流れていく。この回路は1930年代の終わりにクレブスが実証したもので，従属栄養な高等生物の細胞内にはだいたい存在することがわかっている。図で見るようにアセチル補酵素Aはオキザロ酢酸と結合してクエン酸となり，構成員である種々の酵素によって変化を受け，オキザロ酢酸が再成されて一循したことになる。この系の中にあるオキソグルタル酸やオキザロ酢酸にアミノ基が加わると，グルタミン酸やアスパラギン酸ができるので，アミノ酸の合成も可能であるし，逆にこれらのアミノ酸が脱アミノされれば回路の一員にはいって酸化されることも可能となる。ミトコンドリアがATPの生産工場であるといわれるゆえんはこの回路と電子伝達系が巧みに組み合わせられているからである。なお，解糖*によって生じたピルビン酸が，アセチル補酵素Aを経てこの回路および電子伝達系で酸化を受けると，1分子から15ATPが生じる。〔井坂三郎〕

とりき【取り木】植物の繁殖法の一種。さし木*や実生が困難な種類に行なわれる。枝を傷つけて(つけないこともある)土を盛り発根させる盛土法，枝を曲げて土中に導く圧取法，高い枝の部分に傷をつけて，これに水苔(みずごけ)をつけ，さらにビニルでおおう高取法などがある。いずれも発根したら切り離して，1個の苗とする。モクセイ・ザクロ・オウバイ・ゴムノキなどに行なわれる。

トリクロルエチレン［trichloroethylene］$CHCl=CCl_2$ テトラクロルエタン$(CHCl_2)_2$を水の存在下で石灰またはアルカリで処理すると得られる。クロロホルム臭のある無色の不燃性液体。融点−70℃，沸点88℃。各種溶剤として使うほか油脂の抽出，ドライクリーニング用，および消化剤・殺虫剤・十二指腸虫駆除剤などに使われる。商品名トリクレン。

とりけし【取り消し】民法上，一定の者(取り消し権者)が瑕疵(かし)ある法律行為の効果をはじめから失わせること。売買契約が詐欺や無能力を理由として取り消されるなどがその例である。このような行為は取り消しうべき行為とよばれ，取り消しのあるまでは有効であり，取り消し権の放棄または消滅すればその行為は有効となる。そのため無効*行為とは区別される。取り消しをなしうる者は，無能力者，瑕疵ある意思表示をした者，およびこれらの者の代理人もしくは承継人である(民法120条)。取り消しの方法は，相手方に対して当該行為の効果を否認する旨の意思表示をすればよく(民法123条)，訴えによる必要はない。ただし，相手方が確定している場合は相手方に到達するような方法を，相手方が不確定な場合は取り消しの意思表示があったと外部か

ら認められるような方法を講じなければならない。なお,取り消しうべき行為によって取得した権利を,相手方が第三者に譲渡した場合でも取り消しの意思表示は相手方になすべきであり,譲受人になすべきではないとされる。取り消しの効果は,その法律行為がはじめから無効なものとみなされることである(民法121条)。したがって,取り消された行為から生じた債務があれば,その債務は消滅し,すでに履行した部分があれば,不当利得*による返還請求ができる。ただし,民法は無能力者を保護するため,無能力者の行為はたとえ悪意によるものでも,その返還義務の範囲は,現に利益を受ける限度内であるとしている(民法121条)。また,取り消しの効果は第三者に対しても主張しうるのが原則であるが,取引の安全を守るため,善意の第三者には対抗しえないとする規定もある(民法96条3項)。取り消すことのできる権利は,追認*ができるときから5年,行為のときから20年で消滅する(民法126条)。〔黒木三郎〕

とりげだちおんなびょうぶ 【鳥毛立女屛風】 正倉院に伝わる奈良時代の6扇の屛風。〈樹下美人〉ともいわれ,樹下で岩に腰をおろした唐朝ふうの美人が各扇にひとりずつ描かれている。彩色の代わりに全身に鳥の毛がはられていたところからこの名称が残るが,現在はほとんどが剝落(はくらく)して下絵が現われている。

トリコット [tricot] たてメリヤス用のトリコット編み機およびこれによって編まれた編み地をいう。原糸の種類および組織の種類によって各種のたてメリヤス地が編まれ,裁断縫製によってはだ着・ランジェリー・くつした・表着・外着など各種の衣料に供せられる。

トリコマイシン [trichomycin] 原虫類や糸状菌類に有効な抗生物質。1952年細谷省吾らによって放線菌の一種によって産生することが発見された。細菌類には作用しないが,トリコモナス(原虫)・カンジダ(真菌類)・スピロヘータ類などの発育を阻止する。経口投与では毒性が大きいので,おもにトリコモナス膣炎(ちつえん)や膣カンジダ症に外用される。なお,水虫・ぜにたむし・いんきんたむし・しらくもにもある程度有効である。

トリコモナス [*Trichomonas*] 鞭毛虫(べんもうちゅう)類に属する寄生性原虫の一群。形態は種類によって多少異なるが,だいたい西洋ナシ形で,前端に3～5本のべん毛があり,太い軸索が体の中央を縦に通っている。人体では口腔(こうこう)・腸に寄生するが,病原性は示さない。既婚婦人の10%ほどは膣(ちつ)内から発見され,ときに膣の炎症(トリコモナス膣炎)を起こす。白色または淡紅色の微細なあわを混じたおりものの分泌が増加し,外陰部にかゆみを覚えるほか,不感症の原因になったり,男性の性器にも感染したりする。温度に抵抗性が強いが,トリコマイシン・ペニギンC・トリコフロン・ブラジールなどを10日以上使用して治療すれば有効である。〔和気 朗〕

とりさし 【鳥刺し】 御鷹匠(たかじょう)に属し,将軍家所有のタカの餌(え)となる小鳥の捕獲を職務とした下級武士。浅黄(あさぎ)のずきんと手甲・脚絆(きゃはん)・わらじ姿で,大小両刀のほかに獲物を入れるかごを腰に帯びる。森林など鳥の集まる場所で笛を吹いて鳥を呼び,鳥刺しざお(約3.6mの継ぎざお)にとりもちをつけて小鳥を刺して歩いた。

とりしまりやく 【取締役】 株式会社の業務執行の意思決定機関である取締役会の構成員。業務執行の意思決定に参加するだけで,これに基づく業務執行,対外的な代表は取締役の中から選任された代表取締役があたり,取締役はこれにあたることはできない。取締役は,株主総会*により選任されるが,広く人材を求めるため特にその資格に制限はなく,法人を除いてだれでもなれる。また定款*によっても取締役を株主だけに制限することはできない(商法254条)。その人数は3人以上でなければならないし(商法255条),その任期は2年をこえることはできない(商法256条)。取締役と会社の関係は委任関係であり(商法254条),競業避止義務*,会社との取引の制限(商法264,265条)などの制限を受け,一定の場合には会社あるいは第三者に対し連帯責任を負う(商法266,266条13項など)。有限会社の取締役も,株式会社のそれとほぼ同様である(有限会社法25～30条13項)。〔松本治雄〕

とりしまりやくかい 【取締役会】 株式会社の業務執行に関する意思決定機関。取締役*全員で構成され,会社は必ずこれを置かなければならない(商法260条)。常時継続して置かれているものでなく,招集によって開かれる合議体である。法令および定款*をもって株主総会の決議事項とされているものを除き,業務執行に関する意思決定はすべて取締役会で決定される(商法260条)。その決議は,取締役の過半数が出席し,その過半数の同意を得て行なわれるが,定款に定めがある場合はこの要件を加重することができる(商法260条ノ2)。取締役会には取締役自身が出席し,その代理人は認められない。また,書面による決議(持ち回りなど)も認められない。〔松本治雄〕

ドリーシュ [Hans Adolf Eduard Driesch] (1867～1941) ドイツの発生学者・哲学者。クロイナッハに生まれ,フライブルク・ミュンヘン・イエナの各大学に学びヘッケル*に師事。1891年ごろよりナポリの臨海実験所で動物のウニの発生学的研究を行なった。この実験によりエンテレキーという非物質的実体を想定,新生気論を唱えた。1905年以降哲学に転じた。主著に《基本独立学としての生物学》(1893)《有機体の哲学》(1909)など。〔中村禎里〕

トリスタンとイゾルデ

1 ヨーロッパの伝説的な悲恋物語。もともとケルトの伝説であったものがアーサー王伝説*と結合したと考えられるが,完全な原典は残存しない。12世紀フランスのトマ・ベルールの手になる断片があり,これをもとに13世紀初めドイツのゴットフリート-フォン-シュトラースブルク*の《トリスタン》が書かれ,さらにワーグナーのオペラとなっている。物語は,マルケ王の甥(おい)トリスタンが,王の妃(きさき)としてイゾルデを連れてくる途中,誤って愛の秘薬をくみかわしたため愛し合い,王を欺き密会を重ね,あらゆる困難と試練を乗り越えて,ついに愛のために死に至るというものである。〔小松英輔〕

2 ワーグナー*作曲の3幕のオペラ。台本はトリスタン伝説によっているが,ほぼワーグナー自身の手になるオリジナルといえる。なおワーグナーのオペラの第1作とみなされている。1859年に完成されたが,初演は1865年6月10日ミュンヘンで行なわれた。登場人物はトリスタン(テノール)・イゾルデ(ソプラノ)・マルケ王(バリトン)らで,愛の秘薬のため生まれる美しい悲劇を描いたもの。〔向坂正久〕

トリストラム-シャンディ スターン*の小説(1760～1767)。全9巻で未完。原題は《紳士トリストラム-シャンディの生活と意見》。物語は主人公の受胎の夜から始まるが,第3巻の終わりでやっと誕生する始末で,話は脱線を重ね,トリストラムが10歳になったところで彼の〈一代記〉は未完のまま終わる。その間,父親や叔父(おじ)たちの奇抜な〈生活と意見〉が語られ,読者にさまざまな笑いを誘う。また,まっ黒に塗りつぶした1ページがあるなど,さまざまな奇想が駆使され,さらに物理的な時間の進行を無視して時間軸が自在に設けられるなど,小説の自由な形式が大いに利用された作品。ラブレー*の影響がみられるとともに〈意識の流れの文学*〉の嚆矢(こうし)と考えられる点もある。〔沢村 灌〕

トリセラトプス ⇨三騎龍(さんきりゅう)

とりたていにんうらがき 【取り立て委任裏書き】 裏書き*人に代わって被裏書き人(手形を取得した人)に,手形金を取り立てる権限を与えるための裏書きをいう。手形面に〈取り立てのため〉〈回収のため〉などと記入して裏書きをした場合に認められる。被裏書き人は,手形上のいっさいの権利(訴訟をすることも含まれる)を行使できるが,手形を処分することはできない。取り立てのためにも裏書きはできるので,単に裏書きしただけの場合も取り立てのための裏書きとして取り扱われる。実際には,取り立てのための裏書きでも,〈取り立てのため〉などとはっきり書かない例が多い(隠れたる取り立て委任裏書き)。〔松本治雄〕

トリチウム ⇨重水素

トリチェリ ［Evangelista Torricelli］（1608〜1647） イタリアの物理学者・数学者。アカデミア-デ-リンチェイの数学教授。師ガリレイを助け物体の自由落下実験や，それによる地球の回転の研究を行なった。1643年，ビビアーニとともに水銀と閉管を用いはじめて真空をつくり出した（トリチェリの真空）。また，液体の流出速度に関する研究はトリチェリの定理として知られる。このほか望遠鏡の改良や，数学者として放物体の運動などを研究した。〔藤村 淳〕

トリチェリのじっけん 【トリチェリの実験】 1643年トリチェリが真空を実験的に示そうとして行なった実験。一方を閉じた長さ1mほどのガラス管に水銀を満たし水銀容器内にさかさまに立てると，管内の水銀は容器内の水銀面から760mm付近で止まる。このとき管内の水銀の上部はほぼ真空と見てよい（水銀の20℃における蒸気圧は0.0012mmHg）。これをトリチェリの真空とよぶ。760mmという高さは水銀柱の重さと大気圧がつりあっていることを示す。

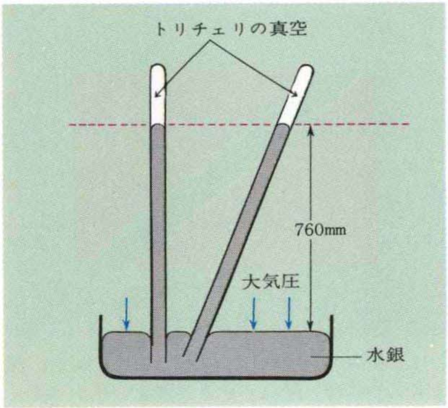
トリチェリのしんくう 【トリチェリの真空】 ⇨トリチェリの実験

トリチェリのていり 【トリチェリの定理】 粘性が小さい液体が容器にあけた小孔から流れ出る速度は，小孔から液面までの高さの平方根に比例するという法則。すなわち，液面の面積が流出孔の断面積よりも十分に大きいとするとき，液面から孔の位置までの鉛直距離をh，重力の加速度をgとすれば，流出速度は$v=\sqrt{2gh}$で与えられる。1644年トリチェリによって発見された。

とりつけ 【取り付け】 銀行など，広く一般から預金を受け入れている金融機関に対し，預金者が一時に殺到して預金の引き出しを求めること。わが国では昭和初期の金融恐慌時に多くみられたが，金融機関の信用の厚くなった今日では，ほとんど発生していない。

とりで 【取手（市）】 茨城県南部の市。人口69,000。平安時代以来利根(とね)川沿いの集落として開け，江戸時代には水戸(みと)街道の宿場町であった。1970年（昭和45）10月市制施行。市名は，平安中期に平将門(まさかど)が砦(とりで)を築いたことにちなむといわれる。市域は利根川中流北岸の沖積(ちゅうせき)低地に位置し，南は利根川を隔てて我孫子(あびこ)市（千葉県）と接する。産業三大別人口比は7：36：57。周辺農村部は近郊野菜の産地で，東京方面への行商で知られる。建設・製造などの近代工業が興り，東京のベッドタウンとして住宅地化が進んでいる。常磐(じょうばん)線・関東鉄道の分岐点で，国道6号線・294号線が通じ，利根川にかかる大利根橋は県南の関門にあたる産業橋として名高い。

トーリーとう 【トーリー党】 ホイッグ党と並ぶイギリスの政党。1679年カトリック教徒であるチャールズ2世の弟ヨーク公（のちのジェームズ2世）を王位継承者から排除する法案をめぐって議会に対立が生じ，ヨーク公支持派の王党的議員を〈トーリー（アイルランドの盗賊）〉と蔑称(べっしょう)したのに始まる。貴族・大地主を基盤とし，イギリス国教会を擁護した。名誉革命後はホイッグ党の前にふるわなかったが，1760年ジョージ3世が即位すると，その御用政党として勢力を回復し，ピット（小）により議会政党として確立され，以後約50年間政権を担当した。しかし，産業革命の進展につれて自由主義的傾向が強くなると，党内にもウェリントンらの保守派とカニングらの自由主義派が現われて分裂し危機に見舞われたが，ピールの指導により保守党として再編成された。〔松下京子〕



トリチェリの実験



トリトマ （左）トリトマ （右）ヒメトリトマ



トリトリグモ

トリトマ ［tritoma］ 単子葉植物・ユリ科。シャグマユリともいい，南アフリカのケープ地方原産の多年草で，観賞用に栽培される。葉は根生し，広線形で先がとがり，長さ60〜90cm。葉間から太い花茎を伸ばし，6〜8月，10〜20cmの穂状に筒状で先が6裂した花を密に下垂する。上方の花は朱紅色，下方の花は黄色。近縁種のヒメトリトマは，南アフリカのナタール地方原産で，トリトマよりも花穂・花茎とも小さい。

とりとりぐも 【捕鳥蛛・食鳥蛛】 蛛形(ちゅうけい)類・真正クモ類・トリトリグモ科（トリクイグモ科）の総称。南アメリカ・東南アジア・アフリカに多く分布し，約500種を数える。一般に大形のものが多く，世界最大のものは南アメリカに分布する体長（脚を除く）9.5cmほどのものである。網を張らず徘徊(はいかい)性があるが，多くは地面のくぼみなどにすみ，夜出て獲物をあさる。ハチドリのような小さい鳥をも食うことがあることからこの名があるが，これはきわめてまれな例で，ふつうこん虫や小動物を食う。トタテグモなどをも合わせてアメリカではタランチュラ（ヨーロッパのタランチュラはコモリグモの仲間）と称している。東南アジアには食用に供される種類があり，またかつてエクアドルのトリトリグモが輸入したバナナの荷に生きたまま紛れ込んでいた例がある。〔八木沼健夫〕

とりにく 【鶏肉】 従来，食用のニワトリとしてはシャモ・カシワなどがあり，鶏肉を〈かしわ〉というのもここからきている。食肉用の若鶏（ブロイラー）には，白色コーニッシュ・白色プリマスロックなどがある。鶏肉は，ウシやブタに比べて脂肪が少なく，脂肪の融点も低く，味は淡泊である。部位によって色が異なり，白身の肉は赤身の肉より筋繊維が繊細で柔らかく，消化がよい。料理法としては，とりなべ（すきやき）・水たき・焼きとり・とりわさ・チキンソテー・ローストチキンなどがある。ささ身（手羽肉の内側にある白身の肉）はさしみとして珍重される。〔佐藤友太郎〕

トリニダード-トバゴ（共和国） ［Republic of Trinidad and Tobago］ 西インド諸島の最南端，トリニダード島とトバゴ島よりなる共和国で，イギリス連邦の一。面積5,128km²，人口114万（1979年推）。首都はポートオブスペイン。

〔自然・住民〕両島とも海底火山が噴出して山頂部が海上に現われたもので，南アメリカ本土から突出したパクリア半島と連絡し，アンデス山系の延長部をなす。しかし，いずれも丘陵性の地形で険しい山はない。気候は熱帯海洋性で，特に冬に雨が多い。原住民はインディアンであるが，43％が黒人，36％はインド人，16％はそれらの混血で，白人は2％にすぎない。インド人はサトウキビのプランテーション労働者として移住したものである。公用語は英語。宗教

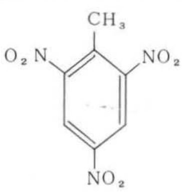
はキリスト教が主だが，ヒンズー教も広まっている。

〔産業・経済〕石油が重要な資源で，パリア湾北側の半島部に産し，輸出総額の3分の2を占めている。島の北東部には埋蔵量世界最大といわれる天然アスファルトがあり，重要輸出品となっている。主要農産物は，サトウキビとカカオで，いずれもポートオブスペインから積み出されているが，反面，食糧品の多くは輸入にたよっている。農業・鉱業に依存している国であるが，国民の生活水準は低くない。

〔歴史・政治〕1498年コロンブスによって発見され，スペイン領となったが，1802年，割譲されてイギリス領となり，イギリスの西インド諸島統治の基地として重要な位置を占めていた。1958年西インド諸島連邦の結成とともにその一員となり，1962年8月独立し，国連にも加盟した。イギリス女王の任命する総督が統治し，議会は二院制で，上院は総督指名の24名，下院は普通選挙で選出される30名の議員が構成する。

〔小栗　宏〕

トリニトロトルエン　[trinitrotoluene]　$C_7H_5N_3O_6$　ニトロ基の結合位置により数種の異性体があるが普通は2，4，6-トリニトロトルエンのことをいう。略称TNT。トルエンを2回ないし3回くり返してニトロ化するか，向流式に連続ニトロ化して合成する。融点80.7℃。淡黄色の針状結晶。加熱・衝撃・摩擦などで爆発する。爆発威力が大きいわりには鈍感で安定性がよく，融点が低いので他の強力な爆薬と溶融混合して種々の爆薬をつくることもできる。炸薬(さくやく)として最もすぐれたものの一つであり，軍用爆薬として広く用いられている。爆弾などの爆発力の表示基準として用いることもある。　〔石戸良治・荒木洋之助〕



2,4,6-トリニトロトルエン

トリニールじん　[トリニール人]　⇨ピテカントロプス

トリノ　[Torino]　イタリア北西部，ポー川に沿いミラノの西南西130kmにある都市。人口120万2,000(1975)。国内ではローマ・ミラノ・ナポリに次ぐ大都市で，ポー川はここまで航行でき，またアルプスを越えてフランスに通ずる交通上の要地である。フィアットなど自動車工業が盛んで，〈イタリアのデトロイト〉といわれる。1404年創立の大学がある。英語ではチューリンとよぶ。

とりのあし　[鳥の脚]　棘皮(きょくひ)動物・ゴカクウミユリ科。体長30～50cmほどで，ウミシダ*などと同様に植物のような外形である。茎は五角柱状で海底から立ち，先端には分岐した約50本ほどの腕がある。茎の途中から10数回にわたり5本の巻き枝を分岐する。これらはみな関節をもち，一見ニワトリの足指のようである。この類は古生代に繁栄したと考えられ，化石としてよく知られるが現在では少なく，生きている化石といわれる。相模(さがみ)湾や紀伊(きい)水道などの深海から採集される。



トリニダード-トバゴの国旗　1962年制定。黒は国民の結合・献身・強さと国土の豊かさを，赤は国家と国民の活力および国民の勇気・親切心と太陽の恵みを，白はこの国を囲む海と祖先伝来の地，また向上心の純粋と人類の平和を表わすという



トリニダード-トバゴ　首都ポートオブスペインの町かど。この国は黒人が43％を占めている。はでな柄と色彩の婦人の服装はどこも同じである



酉の市　開運の神として多数の商売人でにぎわう千束鷲神社

とりのいち　[酉の市]　11月の酉の日に行なわれる鷲(おおとり)(大鳥)神社の祭礼。もとは〈酉のまち〉とよばれた。東京周辺に多い鷲神社はもと武門の守護神であったが，江戸中期以後運・商売繁栄の神として客商売の民家に信仰され，酉の市で売り出されるお多福面や小判の模型などをつけた縁起物の福熊手(くまで)を買って帰り，店頭に飾る風がいまも盛んである。台東区千束の鷲神社の酉の市が最も有名。なお，11月にいく日かある酉の日を順に〈一の酉〉〈二の酉〉〈三の酉〉と数え，〈三の酉〉のある年は火事が多いという伝承がある。　〔直江広治〕

とりのこし　[鳥の子紙]　斐紙(ひし)の鳥の子(鶏卵)のような色であるのをさす。鳥の子ともいう。紙面はなめらかで，光沢がある。現在はガンピ・コウゾ・ミツマタを混ぜてすいている。歌集・物語などの文学作品の写本や重要な書類などの材料として用いられた。

とりばが　[鳥羽蛾]　こん虫類・鱗翅(りんし)目・トリバガ科の総称。翅(はね)を広げた長さ15～20mm内外の小形のガで，体は細長い。翅は前翅では2(まれに3・4)本，後翅では3本の枝に分かれ，それに長い毛が列生しており，鳥の翼に似る。口吻(こうふん)はよく発達し，触角は長く糸状。脚は非常に長く，脛節(けいせつ)の端に長いとげがある。雌雄ともに後翅裏面にとげのある濃色の発香鱗を2列もつ。成虫は翅を広げたままで静止し，背上にたたむことはない。幼虫は通常円筒形の〈いもむし〉。さなぎは植物体上に露出するか薄い繭をつくってその中に位置する。多くは年数回発生し，幼虫で越冬するものが多い。この科には数種の害虫が含まれ，ブドウトリバはブドウを，フジマメトリバはフジマメをネギトリバはネギを，エゾギクトリバはダリアを食害する。

〔多々内修〕

とりはだ　[鳥肌]　鵞皮(がひ)ともいう。毛穴を中心に，皮膚が隆起した状態。一見羽毛をむしり取った鳥のはだに似ているのでこの名がある。毛は皮膚の表面に対して斜めにはえ，皮髪およびそれを包んでいる毛嚢(もうのう)が，皮表と鈍角をなす側にある起毛筋とよばれる平滑筋が収縮して，毛が直立するために起こる。寒さや恐怖感・不快感に襲われたときなどに多くみられる。

とりばねちょう　[鳥翅蝶]　こん虫類・鱗翅(りんし)目・アゲハチョウ科。モルッカ諸島からニューギニアを経てオーストラリア東北部まで分布する大形のアゲハチョウの一群。雌雄で著しく異なり，雄は黒地に金色をおびた緑色の紋をもつものが多く，きわめて美しい。雌は巨大だがじみで，黒かっ色の地に白色紋のあるものが多い。大きいものは翅(はね)を広げた長さが230mmに達し，鉄砲で撃ち落とされたという伝説をもつ種もある。雄はこずえ高く速く飛ぶため採集はきわめて困難であるが，雌は産卵のため地表近くにも降りてくる。ジャコウアゲハ類に近縁で，幼虫は黒色で赤色の突起があり，ウマノスズクサ科植物を食べる。さな

ぎは触れると腹部を動かして〈シュシュ〉という摩擦音を出す習性がある。学名はギリシア神話や史上の英雄などの名をとったものが多く，またビクトリアトリバネアゲハ・アレクサンドラトリバネアゲハなどのようにイギリスの女王の名をとったものもある。南アメリカのモルフォチョウ*とともに世界で最も美しいチョウの仲間で，ヨーロッパで開かれる競技会ではきわめて高価な値で売買される。1968年以降保護のために採集禁止令が出されている。〔多々内修〕

トリパノゾーマ ［*Trypanosoma*］ 原生動物・鞭毛虫(べんもうちゅう)類・トリパノゾーマ科・トリパノゾーマ属。脊椎(せきつい)動物の血液に寄生するが，ヒトに寄生するものは少ない。両端がとがった細長い紡錘形で長さ10〜30μ，中央付近に核があり，後端近くから１本のべん毛が体の前方に向かって生じ，体部との間に波動膜を形成する。ふつう，吸血性のこん虫によって媒介される。ヒトのトリパノゾーマ病には，アフリカ睡眠病(赤道アフリカ)・シャガス病(北アメリカ南部から南アメリカ北部)などがあり，いずれも致死性が高く，治療困難である。

トリバンドラム ［Trivandrum］ インド共和国南部，ケララ州の首都。人口40万9,672(1971年推)。インド半島の南端に近く，コモリン岬(みさき)の北西に位置する。旧トラバンコール藩王国時代からの首都で，王宮・ケララ大学・博物館などがある。最近は紡織・タイヤ・ゴムなどの軽工業も発達している。

ドリーブ ［Clément Philibert Léo Delibes］ (1836〜1891) フランスの作曲家。サルト県サン-ジェルマン-デ-バルの生まれ。1848年にパリ音楽院にはいり，ブノアやアダンに師事して，1855年からオペレッタやオペラ-コミックを書き出した。1855年から1872年まではパリのオペラ座の合唱指揮者となり，バレエ音楽においても活躍している。1881年パリ音楽院教授。1884年アカデミー会員。作品にはバレエ音楽《コッペリア》《シルビア》，オペラ《ラクメ》。〔向坂正久〕

トリフォスフォピリジンヌクレオチド ⇨NADP

トリプシン ［trypsin］ 消化酵素の一種。タンパク質中のアルギニンなどのつくるペプチド結合を加水分解し，エンドペプチダーゼの類である。脊椎(せきつい)動物はだいたいこれに類する酵素をもつ。ヒトでは膵臓(すいぞう)中で生産され，はじめはトリプシノゲンという不活性型で十二指腸へ分泌されるが，腸液中にあるエンテロキナーゼやトリプシン自身によって活性化される。アルカリ性で作用が強い。なお，キモトリプシノゲンを活性化してキモトリプシンにする働きもある。

トリプトファン ［tryptophane］ 芳香族アミノ酸の一。L-型は幼植物などに遊離の形で見いだされ，また多くのタンパク質の構成アミノ酸であるが，タンパク質中の含量はそれほど多くない。必須(ひっす)アミノ酸の一種で，生体にとって重要な物質である。たとえば，天然オーキシンであるインドール酢酸やビタミンB複合体の一つであるニコチン酸などはトリプトファンの代謝によって形成される。

とりべやま 【鳥辺山】 三味線(しゃみせん)音楽の曲名。地歌の曲は近松門左衛門(もんざえもん)作詞といわれ，お染と半九郎が鳥辺山で心中する道行を題材としてつくられた名曲で，三味線は二上がり。その一部分が義太夫節(ぎだゆうぶし)《近頃河原達引(ちかごろかわらのたてひき)》に取り入れられている。宮薗節(みやぞのぶし)の曲は近松半二の作詞といわれ，塩谷判官の弟縫之助と傾城(けいせい)浮橋が鳥辺山心中を仮装して演ずる話で，もともとは義太夫節《太平記忠臣講釈》の曲であったが，18世紀後半に宮薗節のレパートリーに加えられた。なお鳥辺山は鳥辺野ともいい，京都市東山区南西部の地名で，平安中期ごろから墓所・火葬所が置かれ，しばしば心中が行なわれたという。〔山口 修〕

トリポリ ［Tripoli］ レバノンの北西岸，ベイルートの北方64kmにある都市。人口14万5,000(1965)。アラビア語で正式にはタラブルス-アル-シャムという。ギリシア時代からレバントの貿易港として栄え，物産にも綿糸・タバコ・くだものがある。現在はイラクのキルマークからパイプラインを通じて送られてくる原油の積み出し港・製油地として重要。

トリポリ ［Tripoli］ 北アフリカ，リビア-アラブ共和国の首都。人口38万(1975年推)。秋と冬だけの首都で，春と夏には首都は東部のベンガジに移る。農畜産物を集取し，この国最大の貿易港である。リビアは政治的・経済的にイギリスと密接な関係にあるので，市内にはイギリスの出先機関が集中している。

トリポリせんそう 【トリポリ戦争】 イタリアがトルコと戦ってトリポリ・キレナイカを得た戦争。イタリア-トルコ戦争ともいう。19世紀末に始まったアフリカ分割において，トリポリに注目したイタリアは，三国同盟*の更新を通じてドイツの支持を得，イギリス・フランスのエジプト・モロッコ支配を承認し，その代償として両国の了解を得て1911年モロッコ事件*の勃発(ぼっぱつ)に乗じ，トルコに宣戦してたちまちトリポリ・キレナイカを占領した。翌年ローザンヌ条約*でリビアの支配権を得た。〔大野慎一郎〕

トリポリタニア ［Tripolitania］ リビア-アラブ共和国北西端の州。チュニジアに隣接する高原状の岩石砂漠(さばく)地域にある。住民はアラブとニグロの混血種ベルベル人で，主産業は遊牧であるが，今日では農業がみられ，オリーブ・小麦を栽培している。

とりめ 【鳥目】 ⇨夜盲症

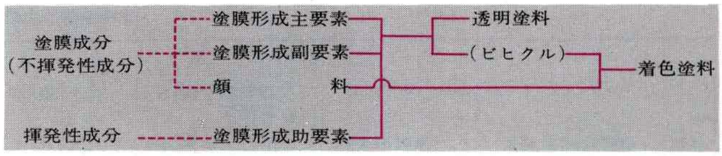
とりもち 【鳥黐】 モチノキ科植物の樹皮から得られるろうの一種。主成分はイリシルアルコールおよびモチルアルコールのパルミチン酸エステル。ゴムを少量含み粘着性があるのでこん虫や鳥を捕獲するときに用いられる。

トリュフォー ［François Truffaut］ (1932〜) フランスの映画監督。ゴダール*と並んでヌーベル-バーグ*の旗手のひとり。批評家・短編作家を経て長編映画に転じた点もゴダール*に似ているが，処女作《大人(おとな)は判(わか)ってくれない》が示すとおり，作風は心境小説的で，代表作は《突然炎の如(ごと)く》。ほかに，ヒッチコック*の影響下に《黒衣の花嫁》などのスリラーに新境地を開拓している。

ドリュ-ラ-ロシェル ［Pierre Drieu La Rochelle］ (1893〜1945) フランスの小説家。第１次世界大戦に従軍，その体験をふまえた小説《女たちに覆(おお)われた男》や評論で文壇に登場した。代表作の長編《ジル》も含め，その作品には自伝的要素が濃厚で，真実を追求しつつ思想的転変を避けられずに，退廃に陥る知識人の苦悩に満ちた人生が浮き彫りされている。第２次世界大戦中，《NRF*》誌の編集長としてドイツに協力しその敗北により自殺した。小説《ゆらめく炎》，評論《ファシズム的社会主義》などがある。〔池田公麿〕

とりょう 【塗料】 物体の表面に塗り広げると薄い層となり，面に付着したまま固化して連続皮膜を形成し，物体の保護および美装などの外用をする化学組成物。一般には常温で流動状であるが，粘着性の液体，固体，粉体のものもあり，そのまま，あるいは希釈・加温などの方法によりその状態を調節して塗装する。塗膜のもつ性状は次のように大別できる。①物体の保護：防食・耐湿・耐油・耐薬品・耐光などの諸性能。②外観・形状の変化：美粧・着色，光沢の変化，標識・模様・平滑化・立体化など。③特殊な状態：熱や電気の伝導性の調節，生物の付着防止，殺虫・殺菌，色による温度指示など。上図は塗料の構成を示すものである。塗膜の主成分となる塗膜形成主要素には，各種合成樹脂・植物油・加工油・合成油・天然樹脂・繊維素誘導体・ゴム誘導体などを単独または組み合わせて用いる。

塗　料　塗料の構成



各種塗料の主成分とおもな用途

分類	塗膜形成主要素	塗料の名称	用途 建築物構築物 木材	建築物構築物 コンクリート	建築物構築物 鉄鋼	鋼製船舶	鉄道車両	自動車	大形機械	小形機械	鋼製家具	木工製品
油性塗料	乾性油	ボイル油	●		●	●	●		●			●
		堅練りペイント	●		●	●	●		●			
		調合ペイント	●		●	●	●		●			
		さび止めペイント			●	●	●		●			
	乾性油と天然樹脂	油・ワニス	●			●						●
		エナメルペイント油性下地	●			●						●
	天然樹脂	揮発性ワニス	●									●
		揮発性エナメル	●									●
	ビチューメン	黒ワニス	●	●	●	●	●					
酒精塗料	セラック	セラックワニス	●									●
繊維誘導体塗料	ニトロセルロース (NC：R＝1：0.5～1) 樹脂 (NC：R＝1：3～10)	クリヤーラッカー	●			●	●					●
		ラッカーエナメル	●		●	●	●	●	●	●	●	●
		ハイソリッドクリヤーラッカー	●			●	●					●
		ハイソリッドラッカーエナメル	●		●	●	●	●	●	●	●	●
	アセチルセルロース	アセチルセルロースワニス・アセチルセルロースエナメル										
	アセチルブチルセルロースアクリル樹脂	アクリルラッカー	●				●	●				●
合成樹脂塗料	フェノールホルムアルデヒド樹脂	アルコール溶解ワニス	●							●		●
	樹脂変性フェノールホルムアルデヒド樹脂・乾性油	フェノール樹脂ワニス	●		●	●				●		●
		フェノール樹脂エナメル	●		●	●	●			●	●	●
		焼き付けフェノール樹脂エナメル					●			●	●	
	酸化形油変性(短油性) アルキド樹脂(長油性)	アルキド樹脂ワニス	●		●	●	●		●	●	●	●
		アルキド樹脂エナメル	●		●	●	●		●	●	●	●
		合成樹脂調合ペイント	●		●	●	●		●			
		合成樹脂さび止めペイント	●		●	●	●		●			
	油以外の変性アルキド樹脂	変性アルキド樹脂塗料	●		●	●	●		●		●	
合成樹脂塗料	アミノアルキド樹脂	酸硬化形アミノ樹脂ワニス										●
	アミノ樹脂とアルキド樹脂 酢酸ビニル樹脂	アミノアルキド樹脂ワニス					●	●		●		
		アミノアルキド樹脂エナメル					●	●		●	●	
		酢酸ビニル樹脂エナメル								●		
	塩化ビニル樹脂	塩化ビニル樹脂エナメル	●	●	●		●					●
		塩化ビニル樹脂ゾル塗料					●	●		●	●	
		粉体ビニル樹脂塗料							●		●	
	ブチラール樹脂	ブチラール樹脂塗料			●	●	●		●	●	●	
	塩化ゴム	塩化ゴム塗料		●		●						
	熱硬化性アクリル樹脂	熱硬化形アクリル樹脂エナメル			●		●	●		●	●	
	エポキシ樹脂	エポキシ樹脂塗料			●	●	●	●	●	●	●	
		粉体エポキシ樹脂塗料							●	●	●	
	不飽和ポリエステルと重合性単量体	不飽和ポリエステル樹脂ワニス	●		●	●	●		●	●	●	●
		不飽和ポリエステル樹脂パテ	●		●		●	●		●	●	●
	ポリイソシアネート樹脂とポリエステル樹脂	ポリウレタン樹脂ワニス	●									●
		ポリウレタン樹脂エナメル	●		●		●	●		●	●	●
	シリコーンとアルキド樹脂	ケイ素樹脂塗料			●	●	●		●	●		
	チタン酸ブチル	チタン樹脂塗料			●	●			●			
合成樹脂エマルジョンペイント	ポリ酢酸ビニル(エマルジョン)	酢酸ビニルラテックスペイント	●	●								●
	ポリスチレンブタジエン(エマルジョン)	スチレン・ブタジエンラテックスペイント	●	●								●
	ポリアクリル化合物(エマルジョン)	アクリル樹脂ラテックスペイント	●	●								●
水性焼き付け塗料	水溶性合成樹脂	水溶性または水分散性焼き付け塗料						●	●	●	●	
漆	天然高級フェノール	漆	●		●					●		●
特殊塗料	防火塗料・防食塗料・かび防止塗料・電気絶縁塗料・導電性塗料・発光塗料・示温塗料・エッチングプライマー・船底塗料・電着塗料・多彩模様塗料・ひずみ分布検出塗料											

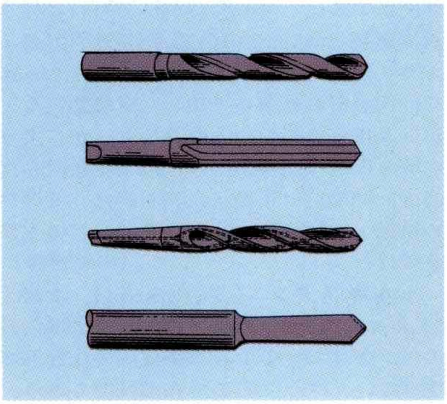
塗膜形成主要素の物理的性状の補充・改善，塗膜の反応促進などの役目を果たす塗膜形成副要素には，可塑剤・乾燥剤・硬化剤・分散剤・乳化剤などを用いる。塗料に流動性を与えたり，塗膜に平滑さを与える塗膜形成助要素は，塗膜形成時は蒸発して残存しない溶剤あるいは希釈剤で，各種の有機溶剤や水を単独あるいは混合して用いる。以上の３要素からなる系をビヒクルともいい，透明塗料は，この成分からなるが，着色塗料にはこれに顔料*を加える。塗料の製造は樹脂製造と着色塗料製造に大別され，

前者はビヒクル製造工程であり，合成樹脂ワニス・油性ワニスを重縮合反応させる。後者はこれに顔料を加える工程で，前練り→顔料分散→安定化→溶解→調色→濾過(ろか)に分かれ，主工程は顔料をビヒクル中に分散させる部分である。装置には前練り用にニーダー・デゾルバー，顔料分散用にボールミル・サンドミル・ローラーミル・アトライターなどを用いる。塗料の種類は非常に多く，その分類も原料別・塗料状態別・塗装法別・塗膜性能別・被塗物別・流通経路別など各種がある。表は，主として塗膜形成要素による分類を示したものである。日本で最初に塗料生産が行なわれたのは1881年(明治14)で，その生産量は第2次世界大戦後急速にふえ，1969年(昭和44)には100万tに達した。同年の全世界生産量は1,277万tで，日本はアメリカ・ソ連・西ドイツに次ぎ第4位である。同時に品種も従来の油性塗料から合成樹脂塗料中心になり，1960年には全生産量の28%であった合成樹脂塗料は，1969年には56%を占めるに至った。〔鈴木荘司〕

どりょうこう【度量衡】長さと容積と重さおよびその量をはかること。メートル法*では度・量はメートル，衡はキログラムを基本とし，尺貫法では度は尺，量は升，衡は貫に，またヤード-ポンド法*では度・量はヤード，衡はポンドに基づく。

〔欧米の度量衡の起源〕欧米各国で近世まで行なわれていた度量衡制度は，古代のエジプト・バビロニアに発し，ギリシア・ローマを経て伝えられたものをもとにしていた。古代エジプトの長さの基準は，ひじの長さを表わすキュービット(各種まちまちだが約460mm)で，大ピラミッドの1辺の長さは500キュービットに定めたといわれる。また，長さや重さの基準に，大麦や小麦の粒が慣用されたともいわれている。バビロニアではキュービットをはじめ，大部分の古代の制度が体系化され，のちには60進法が導入され，時間・貨幣・角度の単位もこれに統一されたと伝えられる。また，秒を決めるために長さ2キュービット振り子を用い，2キュービットの1/10の稜(りょう)をもつ立方体に満たした水の重量を1ミーナ(約984g)としたという。すなわち，単位の基準を自然の法則に求めている。

ギリシア時代には科学の体系化が進められ，計量に関する理論も確立されたが，商業・技術などに関係の深い度量衡はエジプト・バビロニアのものを受け継ぐだけであったと考えられている。ローマ時代になると，古代科学は停滞期にはいったが，天文観測・測量・土木技術などの実技は発展した。計量に関しては測量術の発達とさおばかりの出現がある。この時代にはおもに12進法が用いられた。これはやがて西ヨーロッパに伝えられ，特にイギリスでは現在のヤード-ポンド法の基礎となった。



ドリル　上から，ツイストドリル・直みぞドリル・油穴つきドリル・フラットドリル

〔古い中国の度量衡〕日本を含めて，東南アジアの度量衡制は，BC3000年ごろ黄河河畔に移住してきた漢民族にその源を求めることができる。度量衡制度の体系的整備について記録の明らかなものは漢代(1～5年)で，黄鐘(おうしょう・おうしき)調の笛を原器とし，その笛の長さで度を定めた。中位の黒キビ90粒を並べればこれに匹敵するが，その1粒の幅を分，10分を1寸，10寸を1尺，10尺を1丈，10丈を1引とした。また，この笛には1,200粒の黒キビがはいるが，それと同体積の水を1龠(やく)，その2倍を1合，10合を1升，10升を1斗，10斗を1斛(こく)とした。さらに，1,200粒の黒キビの重さを12銖(しゅ)，24銖を1両，16両を1斤，30斤を1鈞(きん)，4鈞を1石と定めた。今日からみれば，音波の波長を基準とした着想は注目に値する。これとは別に，尺・ます・分銅の標準器(銅製)もつくられた。この制度はのちの時代の模範となり，やがて唐に伝えられた。唐では度量衡制度には特に飛躍はなく，ただ黄鐘管の代わりに標準器がつくられ，これが基準とされた。この制度はわが国にも輸入され，制度化された。

〔わが国の度量衡〕文武天皇は，701年(大宝1)大宝令(りょう)によって唐制に忠実に従い，大尺・小尺，大升・減大升，大称・小称というそれぞれ2本立ての度量衡を定めた。その後，和銅(713)・養老(718)などの改正が行なわれ，尺は一般に大尺が用いられるようになった。平安末期から戦国時代にかけては，中央の統制が弱まり，荘園(しょうえん)・領家・社寺の私制に任され，混乱が続いた。豊臣秀吉(とよとみひでよし)が天下を治めると，1589年(天正17)量制を定めて諸国の統一を命じ，いわゆる京ますを公布した。また，太閤(たいこう)検地*では，6尺3寸平方を1坪ときめた。その後，徳川家康(いえやす)はます座(1590)・はかり座(1653年，江戸・京都)を置いたが，これらは製作修理を独占し，偽造や改造を防ぐ権限をもっていた。徳川時代の度量衡制は1669年(寛文9)に整えられた。江戸ますと京ますは，このとき京ますに統一された。尺度は放任されていたが，おもに曲尺(かねじゃく)が用いられ，あまり混乱はなかった。

1869年(明治2)度量衡は大蔵省所管となり，翌年度量衡改正掛が設けられ，新制度のための調査立案の作業が始められ，1875年には度量衡取締条例その他が公布された。この条令では尺の基準として，伊能忠敬(いのうただたか)がつくったいわゆる折衷尺をとり，ますは従来のものをこの基準尺ではかって決めた。また，衡は各国の貨幣の重さを比べて1匁を算出した。1885年，わが国はメートル条約に加盟し，やがてメートル法は気象観測や陸軍で公式に採用された。1891年，度量衡法が制定された。この法律では尺と貫が基本になっているが，メートル法も公認された。その後メートル法の普及も進んだが，一方ではイギリス・アメリカの経済的進出に伴って，ヤード-ポンド法も使われ，それを公認するまでになった(1909)。そこで，再び，度量衡統一の問題が起こり，1921年(大正10)改正度量衡が公布された。これによれば，1934年(昭和9)7月までにメートル法の規制を受けることになったが，時代の進展とともに，保守的な政治運動にからんで強い反対運動が起こり，規制期限は延長され，メートル法の完全実施は第2次世界大戦後の計量法の執行までまたなければならなかった。〔木村東作〕

トリル［trill］装飾音*の一種。trとかtという記号で示されることが多い。この記号を付された音とその2度高い音(音階の中に含まれる音なので，半音のことも全音のこともある)を交互に速く奏するものである。トリルが特に盛んに行なわれたのは17～18世紀で，当時は記号のついた音からではなく，上の音から始められた。しかし，19世紀にはいってピアニストが始めた近代のトリルは，下の音から始まる。

ドリル［drill］穴あけ作業に用いる棒状の工具。工具鋼*・高速度鋼*などでつくられるが，超硬合金*のものもある。普通に用いられるのは，ツイストドリル(ねじれ切り)で，先端では二つの切り刃が118°の角度をなし，太さは0.2～75mmくらいまでがある。このほかに，直みぞドリル・油穴つきドリル・フラットドリル(平切り)などもあり，特に深い穴をあけるためのロングドリル・ガンドリル，穴の入り口を円錐(えんすい)形にしたり，段つき穴をあけたりする特別の形状のものもある。〔稲田重男〕

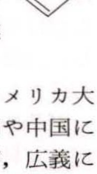
トリンコマリー［Trincomalee］セイロン島東北岸の港市。湾をいだく半島上に建設され港は世界でも屈指のものといわれ，17世紀以来，ポルトガル・オランダ・フランス・イギリス各国の争奪のまとになった。第2次世界大戦中はイギリス艦隊の基地であったため，1942年日本軍の攻撃を受けた。

ドル［dollar］アメリカ合衆国の貨幣単位。補助単位はセントで，1ドルは100セ

ント。ドルの金平価は1934年以来1オンス＝35ドルにすえ置かれ，アメリカ政府は1オンス35ドルで外国通貨当局保有のドルに対して金交換に応じ，また自由市場に対して金を売買していたが，1968年3月以降金の自由市場での売買を中止，さらに1971年8月以降金交換を停止。同年12月金交換停止のまま1オンス38ドルとした。ドルは第1次世界大戦以降ポンド*と並んで頭角を現わしてきたが，第2次世界大戦後には，アメリカ経済力の絶対的優越性と豊富な金準備とに裏付けられて文字どおりの国際通貨として登場した。アメリカの国際収支は1950年代にはいると赤字に転化したが，赤字額もそれに伴う金の流出も比較的少額であったから，国際通貨としてのドルの威信はそこなわれなかった。しかし，1958年以後アメリカの国際収支は大幅な赤字を示し，アメリカから多額の金が流出したために，ドル不安が一般化し，ドルに対する信認は著しく低下してしまった。→国際通貨
〔安井孝治〕

どるいきんぞく【土類金属】 酸化アルミニウムおよびこれに似た酸化物をつくる金属元素の総称。2通りの意味に用いられる。一つはアルミニウムおよび希土類元素を総称し，他の一つは周期律表第ⅢA族に属するホウ素族元素のうち，ホウ素を除いたアルミニウム・ガリウム・インジウム・タリウムの4元素をさしていう。

トルエン［toluene］ メチルベンゼンのこと。トルオールともいう。石炭の乾留生成物中に存在する。無色・可燃性の液体で，ベンゼン臭がする。融点−95℃，沸点110.6℃。TNT爆薬・染料・医薬・香料・サッカリンなどの製造原料で，工業的に重要。



ドルがいこう【ドル外交】 アメリカ大統領タフト*がラテン-アメリカ諸国や中国に対して展開した外交政策をさすが，広義にはアメリカ-スペイン戦争*以降の外交政策一般をいう。投資・借款など平和的手段により貿易の拡大，外国への経済的進出を積極的に推進する外交。1912年12月，タフトが議会教書で〈弾丸に代えてドルを〉と述べたことに由来する。戦略的に重要な中南米・カリブ海を中心に展開され，ヨーロッパ列強の債権を肩代わりして，ホンジュラス・ハイチ・ニカラグアを支配した。極東では，満州での日本・ロシアの鉄道権益の膨張を阻止するため全満鉄道の中立化を提案，中国の幣制改革と満州開発のための借款供与を計画したが失敗した。ウィルソン・ルーズベルト両大統領はドル外交を否定したが，経済力(ドル)を基礎とする外交政策はその後も続けられ極東よりもラテン-アメリカで成果をあげた。
〔折井一彦〕

ドルかいじけん【ドル買い事件】1931年(昭和6)秋のドルのおもわく買い事件。国際関係の悪化，準戦時体制への移行に伴う通貨為替(かわせ)不安の中で，同年9月21日イギリスが金本位制度*停止策をとったことから，円為替の暴落を予想した財閥銀行などがドル貨証券の買い入れを行なった。犬養(いぬかい)内閣は金輸出再禁止政策を採用したので，結局買い手側は巨利を得た。そのため軍部・右翼団体・社会民衆党などの攻撃を受けた。
〔応和邦和〕

トルキスタン［Turkistan］ 本来は〈トルコ人の土地〉の意で，トルコ本国以外のアジアにおけるトルコ系民族の住む地域をさし，イスラム教の分布地域でもある。ソ連領と中国領に分かれ，ときにトルコ系のウズベク族が住むアフガニスタンの北部を加えることもある。ソ連領トルキスタンは西トルキスタンともいい，カザフ・ウズベク・キルギス・トルクメン・タジクの5共和国を含んでいる。中国領トルキスタンは，東トルキスタンともいい，新疆(しんきょう)ウイグル自治区に相当し，アフガニスタン領のそれはアフガン-トルキスタンともいう。なおトルキスタンは，そのまま狭い意味の中央アジア*に相当する。〔浅井得一〕

トルク［torque］ 回転する物体に作用している力の，回転軸のまわりのモーメント*・ねじりモーメントともいう。

トルクメン(共和国)［Turkmenskaya S.S.R.］ ソ連邦を構成する共和国の一。中央アジア南西部にあり，南はイラン・アフガニスタンに接し，西はカスピ海に面する。面積48万8,000km²。人口249万5,000(1975)。首都アシハバード。

〔自然・住民〕国土は全般に低平で，その約80％はカラクム砂漠(さばく)である。南の国境にあるコペットダズ山脈から流出する多数の河川は，水量が乏しく砂漠で消える。このため，総面積の80％はまったく地表水を欠き，北隣のウズベク共和国との国境を流れるアムダリア川に頼っている。大陸性気候で，夏は暑熱・乾燥がはなはだしい。年降水量はカラクム砂漠で100〜150㎜にすぎず，その70％は冬に降る。住民構成はトルコ系のトルクメン人(60.9％)が最も多く，ほかはロシア人(17.3％)・ウズベク人(8.3％)・カザフ人(4.6％)などである。

〔産業・経済〕1954年に広大な砂漠を横切ってアムダリア川とカスピ海を結ぶカラクム運河が着工され，すでにアムダリア川と首都アシハバードが結ばれて，約300万ヘクタールの土地が灌漑(かんがい)可能となっており，地下水灌漑の面積も90万ヘクタールに達する。耕作適地はきわめて少ないが，農業は，ムルガブ川・アムダリア川・テジェン川流域のオアシスで行なわれる。農畜産物はワタを第1に，羊毛・生糸・デーツ，その他亜熱帯性の作物が多い。鉱工業では，カスピ海沿岸の石油・イオウ，カラクム砂漠のマグネシウム・岩塩などが知られており，綿織物・絨毯(じゅうたん)の製造，食品加工などの工業も行なわれている。鉄道は共和国を縦断して走っており，イランのメシェッドとの間は道路で結ばれているが，道路の発達は十分ではない。

〔政治・歴史〕8〜9世紀はアラブ人，次いで，モンゴル人・イラン人などの支配を受けたが，1885年ロシア領となる。1924年，トルクメン共和国となり，翌年，ソ連邦構成共和国となった。
〔斎藤晨二〕

トルクメンぞく【トルクメン族】 中央アジアのトルコ系諸族の一。トルコマンともいう。トルコ語系のトルクメン語を話し，イスラム教を信仰した。19世紀後半帝政ロシアに征服され，1924年ソ連邦を構成するトルクメン共和国となった。

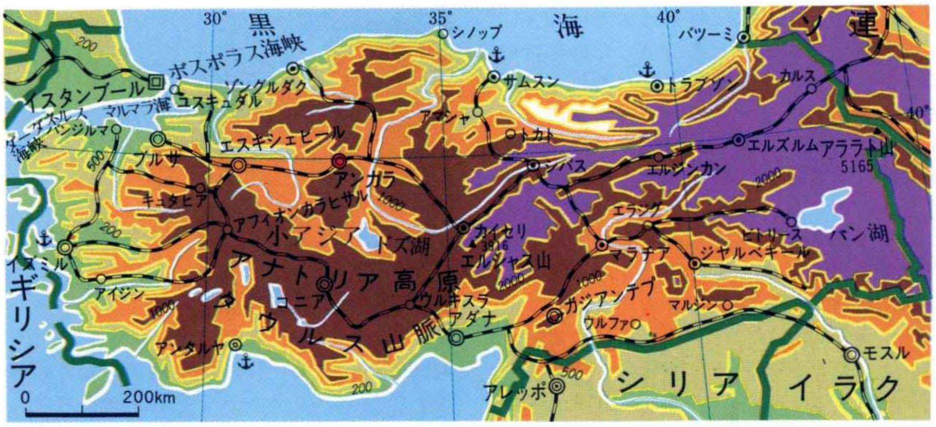
トルコ(共和国)［Republic of Turkey］ 小アジア半島と，バルカン半島東部のトラキアとからなる共和国。アジア大陸とヨーロッパ大陸にまたがり，政治的・文化的にも両者をつなぐ位置にある。北は黒海，西はエーゲ海，南は地中海に面する。面積78万576km²。人口4,424万(1979年推)。首都アンカラ。国語はトルコ(オスマン)語。通貨リラ。

〔自然・住民〕アルプス-ヒマラヤ造山帯の一部であるアナトリア高原と，そのまわりの褶曲(しゅうきょく)山地が国土の大部分を占め，海岸沿いに狭い海岸平野がある。気候・風土も地域ごとに大きく異なる。北部の黒海沿岸，南部の地中海沿岸には，それぞれ高度4,000mに近いポストス山脈と，タウルス山脈とが海岸近くを走り，西部のエーゲ海沿岸は，リアス式海岸を示す。アナトリア高原は500〜2,000mの高さで，多くの内陸湖と火山があり，東部山地は，南部が高原状でアララト山(5,165m)がある。気候は，山に囲まれた高原地域に乾燥地が多く，高山では万年雪もみられるが，全体として温帯に属し，西部と南部の海岸沿いは，温暖な地中海式気候である。このため半島の中央部は，放牧地や不毛の地が多く，黒海沿岸の西部，エーゲ海・地中海の沿岸は農業地帯，黒海沿岸東部は森林地帯をなす。住民の大部分はイスラム教を信仰するトルコ人だが，シリアとイラクに接する東部の山岳地帯(クルディスタン地方)にはクルド人，東北部にはシルカシア人・ジョルジア人などが独自の言語と社会をもって住んでいる。キリスト教徒のギリシア人とアルメニア人は小アジア半島から締め出され，イスタンブールに集中している。文盲は1926年のローマ字採用以来急速に減少しつつある。

〔産業・経済〕産業の主軸は農業で，人口の75％と，国民所得の半ばを占めるが，大土地所有制度が残っている。主作物は小麦。工業用作物として輸出第1位のワタ・輸出第2位のタバコ・テンサイなどがある。イチジク・ブドウなどの果実も豊富である。開発は遅れているが鉱産資源に恵まれ，銅・鉄鉱・クローム・マンガン・石炭・亜炭の

ほか，石油が1950年に発見された。工業は1950年以来国家が力を入れて始めた製鉄業が伸び，ほかに綿紡織・セメント・製糖・製紙などの工業がある。酒・アルコール・マッチ・タバコは政府の専売となっている。輸入は原料・化学薬品・機械・車両などが多く，貿易は入超を続けている。1966年輸出44億1,400万リラ，輸入65億2,200万リラ。アジアとヨーロッパの接点にあることから，イスタンブールは国際鉄道の起点となり，また黒海沿岸周航の航路も盛んである。道路も，政府の手によって整備が進められ，自動車台数も増加している。

〔歴史・政治〕トルコで発見された最古の歴史的文書は，紀元前2000年ごろのアッシリア商人の記録である。そののちアンカラ西方約200kmにあるボガズキョイの発掘で，《旧約聖書》に現われるヘテ人の故郷がアナトリアであったことも証明された。やがてエーゲ海沿岸地方からギリシア化が始まり，アレクサンドロス大王による征服，小国分立，ササン朝ペルシアとローマ帝国との争いを経て，イスタンブールを首都とした。東ローマ帝国時代になると，キリスト教が全土に普及した。11世紀後半まで，小アジア半島は東ローマ帝国の支配下にあり，ここにトルコ人がはいったのは11世紀以降である。中央アジアの遊牧民であったトルコ人は7世紀ごろからしだいにアラブと接触してイスラム化していった。アナトリアにはいったその一部族セルジュク-トルコ人は11世紀後半，東ローマ軍を破り，アナトリアのイスラム化は急速に進んだ。セルジュク朝は13世紀のモンゴルの西進によって衰えたが，13世紀末にオスマン-トルコ人によって，オスマン-トルコが興り，1453年東ローマ帝国を滅ぼし，バルカン・エジプトを征服して，オスマン-トルコ帝国をつくりあげた。イスタンブールを首都とし，国王はイスラム世界の首長の称号であるカリフを称して，イスラム世界の政教両権を一手に握った。16世紀を頂点として，前後6世紀続いたこの帝国も17世紀末から衰え，18世紀にはオーストリア・ロシアの圧迫を受け，トリポリ戦争*・バルカン戦争*ののち，第1次世界大戦で連合軍に敗れた。その結果，海外領土の全部を失ったうえ，本土のアナトリアさえ，列強間で勢力範囲が定められ，スミルナはギリシア軍に占領された。現在の共和国の樹立はケマル-アタチュルク*らの活躍によるものであり，イスタンブールの専制皇帝政府に反対していた彼は，1919年アナトリア権利擁護団をつくり，1920年オスマン-トルコ政府の屈辱的なセーブル条約*調印に反対して，アンカラに大国民議会を召集し，国民軍を編成してギリシア軍と戦い本土を守ることに成功した。次に，1922年スルタン制を廃止し，1923年連合国と対等の立場でローザンヌ条約を結び，同年，共和国宣言を行なって初代大統領となり，1924年カリフ制の廃止，共和国憲法の発布を行なった。つづいて，婦人の地位の向上，イスラム的法律の近代化を図り，アラビア字に代えてローマ字を採用した。1931年の大国民議会で，共和・国民・民衆・産業国有・政教分離・改革などの6主義が指導精神として決定され，これとともに，経済自立政策，国際的地位の向上が図られた。しかし1924年に発足した共和国は，議会・政党はあっても共和人民党の一党のみで，実体は彼の独裁であった。1938年に彼が死んでからは議会の多党化が始まり，1945年一党独裁の廃止，自由選挙法の制定が行なわれると反対党のバヤル-メンデレスの率いる民主党が政権を掌握した。人民党はこれに反発して政争が激化したため，軍部の介入を招き，1960年，軍部のクーデターが起こって，人民党を主とする連立内閣がつくられたが，政情の安定はいまなお望めない。1960年の憲法では下院は450議席で任期は4年，上院は150議席，うち大統領指名15議席で任期は6年，3分の1ずつ2年ごとに改選，内閣は大統領が任命する。対外的には，長い間の対ソ恐怖心から第2次世界大戦後北大西洋条約機構(NATO)や中央条約機構(CENTO)に加盟し，アメリカ合衆国の経済援助を受けている。〔今井留吉〕



トルコ

300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市　10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　首府　油田



トルコの国旗　1936年，国旗法の制定により追認されたもの。意匠の由来は一説に，ビザンチウム(イスタンブール)を攻撃したマケドニア軍が城壁を掘って侵入しようとしたとき，三日月に照らされたために見破られたという故事によるという



トルコ　東洋と西洋の接点イスタンブール。ボスポラス海峡から見たヨーロッパ側の市街の一部。回教寺院のモスクや尖塔も見える



トルコ石　メキシコ

トルコいし　【トルコ石】 $CuO\cdot3Al_2O_3\cdot2P_2O_5\cdot9H_2O$ の複雑な組成を有する鉱物。トルコ玉ともいう。三斜晶系，硬度5～6，比重2.6～2.8。青緑色の結晶。最も古くから模造品の多い飾り石で，最近では良質のものの産出は少なく，細粉を練り合わせたもの，玉髄*を染色したもの，人工コランダムの模造品などが多い。名の由来は，ヨーロッパで，ペルシア産のものをトルコ経由で輸入したことによる。

トルコおんがく　【トルコ音楽】 トルコの民俗音楽・芸術音楽は近隣のイスラム系西アジア・北アフリカ諸地域と類似し，影響し合っている。また，東ヨーロッパ特に

ギリシアの民俗音楽に与えた影響は大きい。民俗音楽は結婚式などの行事のための合奏音楽が中心で，使われる楽器は撥弦(はつげん)のジュラ・バグラマ・ディワン，3種のサズ，擦弦のケマンチェ，縦笛カバル，オーボエ系のズルナ，太鼓ダラブッカなどである。芸術音楽は，アラビア音楽理論をトルコふうに体系的に組みなおして，特に微小音程を効果的に使うようにくふうしてある。音階や旋律型を規定するマカーム，2拍子・3拍子を単位にした付加リズムによる拍節法などが理論化されて，民謡にもそれが反映されている。〔山口　修〕

トルコかくめい　**[トルコ革命]**　ケマル-アタチュルク*に指導され，トルコ共和国を出現させた革命。第1次世界大戦の敗北後，オスマン-トルコ政府がセーブル条約*を受諾して半植民地的な状態に陥ったため，祖国を救おうとしてアンカラに新政府を樹立し，国民軍を組織して独立のために戦った。そして，1922年にスルタン制を廃止し，1923年には共和国宣言を発してオスマン-トルコ帝国を倒した。新政府は連合国との間に，新たにローザンヌ条約を結んだ。

トルコけいしょぞく　**[トルコ系諸族]**　東シベリアからヨーロッパに至るまでの広大な地域に居住し，総勢4,000万に達する。狭義のトルコ人(トルコ共和国)のほかに，ソ連邦内で共和国・自治区などを形成するカザフ・キルギス・ウズベク・タタール*・トルクメン・アゼルバイジャン・ヤクート・バシキール・カラカルパク・チュワシなど優勢な諸族が数えられる。トルコ語を用い，その言語は同一の起源にさかのぼり，最古の記録は，8世紀に南シベリア・モンゴルに勢力をはった突厥(とっくつ)民族が，突厥文字で残した碑文である。トルコという名はこの民族の名と関係がある。モンゴル族・ツングース族*などと言語の系統のうえで近く，これらをまとめてアルタイ系語族*という。〔田中克彦〕

トルコご　**[トルコ語]**　アルタイ系諸族チュルク語群に属する言語。ただし，比較言語学上の証明はまだ不十分。狭義にはオスマンリー方言を主体としたトルコ共和国の公用語をさし，使用者は約3,000万人。ケマル-パシャによる1928年の言語改革で，以前のアラビア文字使用が完全にローマ字化された。膠着(こうちゃく)語*的特徴をもち，顕著な母音調和の現象がある。広義にはチュルク語群の言語すべてをさし，その最古の記録は8世紀の突厥(とっくつ)語にさかのぼる。〔崎山　理〕

トルコていこく　**[トルコ帝国]**　⇨オスマン-トルコ帝国

トルーシアル-オーマン　[Trucial Oman]　オーマン休戦土侯国ともいう。アラブ(土侯国連邦)*を構成する九つの土侯国のうち，バーレーンとカタールを除いた七つをいう。17世紀ごろから海賊が支配する地域であったが，1853年からイギリスの保護下に置かれてトルーシアル-オーマンと称した。1971年にバーレーンとカタールは独立して国連にも加盟したので，アラブ(土侯国連邦)とトルーシアル-オーマンとはまったく同一の地域となり，その名称には意味がなくなった。面積83,600km²，人口18万(1970)。〔浅井得一〕



L.N. トルストイ

トルストイ　[Aleksei Konstantinovich Tolstoi]　(1817～1875)　ロシアの詩人・劇作家。新しい勢力の台頭する中にあって，ツァーリの宮廷でその地位を保持していた旧貴族の詩人。芸術至上主義の立場からもっぱら，古いロシア貴族文化の中に美と光を求めた。歴史劇三部作《イワン雷帝の死》《皇帝フョードル》《皇帝ボリース》のほか，歴史小説《セレーブリャヌイ公》などがある。

トルストイ　[Lev Nikolaevich Tolstoi]　(1828～1910)　ロシアの小説家・思想家。ロシア貴族に生まれ，早くに父母を失い叔母(おば)たちの手で育てられた。カザン大学に入学したが，中途退学して自分の持村に帰り，農民の生活改善を企てて失敗。その事情は《地主の朝》からうかがえる。この失敗の結果享楽にふけったが，コーカサスにいた兄に誘われて，その地で砲兵旅団に入隊。創作はこのころから始める。初期作品は《幼年時代》《少年時代》などの回顧物。《襲撃》《森林伐採》などの軍隊物である。軍隊物では，セバストポリ防衛戦を描いた三部作と，《コサック》とが成功作である。トルストイ独特の非凡なリアリズムによる描写力と深い心理分析は早くもこのころから芽ばえていた。首都に帰還して文壇からは暖かく迎えられ，また村に帰り農民の子弟教育のため学校を建てたり，外国旅行に出たりしながら，《三つの死》《ルツェルン》などを書き，結婚後歴史小説《戦争と平和*》を完成した。そののち材を現代にとって《アンナ-カレーニナ*》を執筆したが，完成間近に死に対する恐怖から生の意義に関する疑問が生じ，自殺さえしかねないほどの精神的危機に見舞われた。ここに世界観の探求が始まり，思想の転換とトルストイ主義の確立をみる。この体験が《懺悔(ざんげ)》である。続いて《教条的神学批判》《教会と国家》《わが宗教》《無抵抗論》などにより宗教的世界観を示した。1880年代の初めにモスクワの貧民窟(ひんみんくつ)や工場を視察して，文明の害毒をまのあたりにして，第2の危機に襲われた。その告白が《われら何をなすべきか》である。ここに所有権の放棄，労働生活の開始，悪癖奢侈(しゃし)の矯正(きょうせい)など，私生活の変革が行なわれ，社会の不正と欠陥の摘発攻撃が激しさを増し，同時に後期の世界観と芸術観に沿ったすぐれた作品を書いた。《イワン-イリイチの死》《クロイツェル-ソナタ》《主人と下男》《復活*》《神父セルギイ》などの小説，《闇(やみ)の力》《生ける屍(しかばね)》などの戯曲がそれである。転機以後，私有財産否定などから夫人や周囲の者とたえず軋轢(あつれき)が生じ，自分の主義のため何度か家出を企てたが成功せず，やがて最後の家出の途中で発病し，アスターポボ駅長室で息を引きとった。〔北垣信行〕

トルストイ　[Aleksey Nikolaevich Tolstoi]　(1883～1945)　ソ連の小説家。貴族出身で，レフ-トルストイ*の遠縁にあたる。工業学校を中退，詩から次いで散文に転じ，零落の地方地主を扱った中短編で成功を収めた。ロシア革命の際は白軍に属し，亡命してパリ・ベルリンに居住。その間にボリシェビキに歩み寄り，1923年帰国し社会主義文化の建設に参加した。帰国当初はSF*やスリラー物を手がけ，のちソビエトの市民生活を描いた。代表作に亡命時代から執筆していた三部作《苦悩の中を行く*》，歴史小説《ピョートル1世》などがある。〔北垣信行〕

ドルちいき　**[ドル地域]**　一般的には，自国通貨の価値の安定基準をアメリカ-ドルに求め，しかも貿易・金融上アメリカと密接な関係にあり，その対外取引・決済一般をアメリカ-ドル建てで行なっている諸国を一括してドル地域とよぶ。歴史的には，1930年代の国際通貨・金融の混乱，ブロック経済の時代に，スターリング地域*・金ブロックなどと対立して，アメリカを中心に主としてラテン-アメリカ諸国によって形成された地域をいう。第2次世界大戦後，ドルが世界通貨・基軸通貨となり，かかる関係は，地域的には希薄となり，明確なドル地域は形成されていないが，アメリカ-ドルを決済通貨として取引を行なう地域は，アメリカ・カナダ・ラテン-アメリカ諸国・フィリピンなどである。〔深海博明〕

トルデシラスじょうやく　**[トルデシラス条約]**　1494年6月スペイン・ポルトガル間に結ばれた東西分界線協定の条約。前年スペインはコロンブスの発見地を確保するため，教皇アレクサンデル6世の仲介により，カボ-ベルデ諸島の西方100レウガス(約480km)の子午線をポルトガルとの分界線と定めたが，ポルトガルが反対したため両国の直接交渉の結果，分界線を西方370レウガス(約1,300km)に移動した。

ドルトムント　[Dortmund]　ドイツ連邦共和国西部，ノルトライン-ウェストファーレン州にある工業都市。人口63万2,300

(1974年推)。ルール炭田に位置し，オランダを経由せずに北海へ出られるドルトムント-エムス運河の開通(1899)以後，鉄鋼業を中心に発達した。8世紀に建設されてトロマニアとよばれ，中世には商業の中心となり，ハンザ同盟都市の一つとして栄えた。12～14世紀建造の教会など，古い建造物の多くが第2次世界大戦中の爆撃で失われた。

ドルトン ［John Dalton］ (1766～1844) イギリスの化学者・物理学者。織物工の家に生まれた。家が貧しく12歳のときから私塾(しじゅく)の教師となった。1793年マンチェスターに移り，はじめて観測上の論文を発表。気象観測をはじめそれを終生にわたって続けた。熱心なクエーカー教徒でもあり，牧師・個人教授などで生活を立てながら，市井の学者として過ごした。1794年マンチェスター文学科学協会員，のち会長。1796年以降化学に転じ，1801年混合気体についてのドルトンの分圧の法則(ドルトンの法則*)，次いで倍数比例の法則*を発見(1803)。さらにこれを独特の図式で示し，定量的に化学反応を説明する原子説を《新化学大系》(1808～1827)にまとめた。彼は色盲であったことから，色盲に関する研究もした。色盲をドルトニズムというのは彼の名にちなむ。〔山下愛子〕

ドルトンのほうそく **［ドルトンの法則］** 1802年，ドルトン*によって立てられた混合気体に関する法則。温度・圧力の等しい気体を混合した場合，混合気体の体積は各成分気体の体積の和に等しく，また圧力は各成分気体の分圧の和に等しい。

ドルトン-プラン 正しくはドルトン-ラボラトリー-プラン。1911年から1920年にかけて，女性教師パーカストがマサチューセッツ州ドルトンの高等学校で実施した教育方法。①生徒の自主性の尊重，②グループ活動による協調性の育成，③個人の能力を尊重した個人学習の重視を根本原理とする。生徒は十分な設備と助言者役の教師のいる〈実験室〉で，午前中約2時間，生徒自身が立案した計画に沿って自学した。また，生徒と教師が約束した学習計画を立て，生徒がその約束・契約を果たすことによって学習を進める方法もとられた。個性尊重の画期的な教育方法として各国の教育界に刺激を与え，わが国の大正期新教育にも影響を与えた。〔福井幸雄〕

トルネード ［tornado］ アメリカ合衆国のロッキー山脈以東に発生するたつまき。雷雲からたれさがった直径数メートル～数百メートルの強いうずまきで，積乱雲の雲底からゾウの鼻のような管状となって地上に達している。トルネードの中心部では風速毎秒100mとなり，ときには毎秒200mに達する場合もあり，その破壊力は大きく，進路にあたって破壊区域は幅1km以上にも及ぶ。通過する距離は5～10kmの場合が多いが，300kmの例もある。その進行する地域では気圧が数十ミリバールも急激に降下する。アメリカ合衆国の気象災害のうちトルネードによる被害がきわめて大きく，5月が最も多く，発生は年平均140個，死者は年平均230人でそのため予報・警報などが出されている。〔小沢　正〕



H.S.トルーマン

ドルバック ［Paul Henri Dietrich, Baron d'Holbach］ (1723～1789) フランスの哲学者。《百科全書》の寄稿家。ドイツのエーデスハイムの生まれ。1750年ごろからパリに住み，彼の家にはディドロ・ルソー・ラグランジュ・グリムらが出入りした。機械的唯物論に立ち，激しい宗教批判を行なったため，〈神の敵〉とよばれた。主著《自然の体系》。

トルバドール ［troubadour］ 12世紀から13世紀にかけて，南フランスのプロバンス地方を中心に活動した詩人・音楽家。ポアチエの領主ギョーム9世の宮廷に発するとされ，中世の騎士道や貴婦人とその象徴的存在であるマリアに対する愛を歌いあげた。詩はほとんど有節形式をとり，音楽形式もほとんどAABの形である。楽曲は単旋律であり，これに簡単な楽器の伴奏がつけられたものと思われる。ギョーム9世のほか，ベルナール-ド-バンタドール・レモン-ド-ミラバルらがその代表的な人物である。トルバドールの音楽は，西洋の音楽史の中で現存する最古の世俗音楽であり，またこのトルバドールの運動が刺激となって，北フランスのトルーベール*，ドイツのミンネゼンガー*など各地に同じような運動が起こった。〔吉田泰輔〕

トルバルセン ［Bertel Thorwaldsen］ (1770～1844) デンマークの彫刻家。長くローマで古代彫刻を研究し，静謐(せいひつ)で端正な新古典的作風を示し，カノーバ*と並ぶ古典派彫刻家として知られる。代表作《ジェーソン》《キリストと十二使徒》など。

トルヒーヨ ［Trujillo］ 南アメリカ，ペルー西部の海岸にある都市。人口24万(1972)。インカ帝国を征服したピサロが1535年に建設。海岸交通および鉄道の起点として交通の一中心をなす。製糖・織物・醸造・化学工業などの工場も多く，北部商工業の要地となっている。

トルファン **［吐魯番］** 天山山脈の東南麓(ろく)に位置する東トルキスタンの中心都市およびそれを含む盆地。シルクロード*の要地として歴史的に有名で，前漢時代車師国の交河域(ヤルホト)，北魏(ほくぎ)から唐時代の高昌国(カラホト)，ウイグル帝国のイディクトシャフリなどが知られる。19世紀以来諸国の探検調査により，敦煌(とんこう)に匹敵する文書・写経・写本類が発見された。また，海抜下280m余りのところもあって，地理学上でも注目されている。〔勝村哲也〕

ドルフス ［Engelbert Dollfuss］ (1892～1934) オーストリアの政治家。1932年5月首相兼外相となる。ドイツとの合併に反対し，イタリアと結んでキリスト教的身分制国家を実現すべくオーストリア-ナチス党を弾圧し，独裁政治を断行した。しかし国内はドイツの圧力により混乱し，彼はオーストリア-ナチス党のクーデターにより射殺された。

トルーベール ［trouvère］ 12世紀から13世紀にかけて北フランスを中心に活動した詩人・音楽家。その起源は南フランスのトルバドール*の刺激によるもので宮廷を舞台とし，恋愛歌をおもにうたった。代表的な作曲家は，アダム-ド-ラ-アール(1240ごろ～1287)であるが，トルーベールの歴史的意味は，14世紀に開花したマショー*らの世俗多声楽曲の基礎を築いた点にある。

トルーマン ［Harry Shippe Truman］ (1884～1972) アメリカの政治家。第33代大統領。在任1945～1953年。ミズーリ州の生まれ。1926年判事，1934年民主党上院議員となり翌年ルーズベルト*の副大統領となり，1945年ルーズベルトの急死により大統領に昇格。1948年大統領選挙で再選された。就任当初からサンフランシスコ会議，ポツダム会談，第2次世界大戦の終結などの難問を処理し，原子力管理・ドイツ処理問題でソ連と対立した。1947年〈トルーマン-ドクトリン*〉を発表，1948年マーシャル-プラン*，1949年ポイント-フォア計画を実施。さらに北大西洋条約機構*(NATO)を確立，1950年朝鮮戦争には国連軍を派遣する一方，日本・フィリピン・オーストラリアなどと安全保障条約を締結，冷たい戦争*を展開した。内政面ではタフト-ハートレー法*の議会通過を拒否しようとして失敗し，1949年フェア-ディール*政策のほかみるべき成果がなかった。第2次世界大戦の広島・長崎への原爆投下を決定したことで知られる。《トルーマン回顧録》(1955)がある。〔折井一彦〕

トールマン ［Edward Chase Tolman］ (1886～1959) アメリカの実験心理学者。カリフォルニア大学教授。ワトソンの行動主義*に対し，ゲシュタルト心理学*の場の理論を取り入れて環境条件と行動との関連を分析し，目的論的行動理論の体系化をめざした。理論上での貢献が大きい。新行動主義の代表者のひとり。

トルーマン-ドクトリン ［Truman Doctrine］ 1947年アメリカ大統領トルーマン*が明らかにした対共産主義外交原則。5月

15日民主・共和両党の超党派的支持を受けた共産勢力の侵入阻止政策で，イギリスに代わってギリシア・トルコに経済・軍事援助を与え，反共的立場を明確にし，従来の国際社会における伝統的孤立主義と決別した。のちのマーシャル-プランや北大西洋条約機構(NATO)など，ヨーロッパへの経済・軍事援助体制の基礎を築いて，アメリカ外交史上重要な転機を画した。〔折井一彦〕

ドルメン［Dolmen］ 新石器時代末期から青銅器時代にかけてつくられた巨石墳墓。数個の巨石か割り石を積んだ壁に巨大な平らな板石を天井として載せた机形の構築物である。死体はその内部の地下に埋め，副葬品を添えた。壁に呪術(じゅじゅつ)的な文様がある。ヨーロッパ各地からアジア・北アフリカなどに分布，ことにフランスのブルターニュ地方に多くみられる。中国で石棚(いしだな)，朝鮮で支石墓(しせきぼ)とよぶ。日本では九州の弥生(やよい)式墳墓にこの形式のものがみられる。〔高山高雄〕

トーレ［Sékou Touré］(1922～) ギニアの政治家。独立運動指導者。1956年アフリカ労働総同盟を結成，世界労連副議長に選ばれた。1952年，ギニア民主党(PDG，アフリカ民主連合の支部)の書記長となり，1958年10月独立とともに初代首相となった。1961年1月大統領に就任，民主主義の徹底と植民地主義の一掃に尽くした。1961年度レーニン平和賞を受賞。

ドレイエル［Carl Theodor Dreyer］(1889～1968) デンマークの映画監督。1920年最初の作品《大統領》を発表。独特な視角が画面に緊張感を与え，その世界は一種神秘的な霊感に満たされている。代表作に《裁かれるジャンヌダルク》《怒りの日々》など。ベルイマン・ゴダールらに影響を与えた。

どれいおうちょう【奴隷王朝】 インドの最初のイスラム王朝(1206～1290)。インドを支配した，アフガニスタンのゴール朝の部将アイバクが独立し，ベンガルやビハールのヒンズー諸王朝を併合して確立した。アイバクをはじめ他の有力な王に宮廷奴隷の出身者が多かったのでこの名でよばれる。

どれいかいがん【奴隷海岸】 アフリカ大陸，ギニア湾北岸の西部をいう。近世に，アメリカ大陸へ黒人が奴隷として，この地方の海岸から送られたことからこの名が生じた。

どれいかいほうせんげん【奴隷解放宣言】 アメリカ大統領リンカーンが南北戦争中に発した宣言。1862年9月22日予告的宣言に続き，翌年1月1日最後的奴隷解放宣言を布告した。しかし，これは連邦軍最高司会官の戦時権限による布告であり，憲法的根拠をもたなかったので，アメリカ合衆国に対する反乱地域にのみ適用され，分界線諸州と北軍の占領地域には及ばなかったので，実際的効果はなかった。しかし，宣言は北部を団結させ外国の南部支援を阻止し，南北戦争は名実ともに奴隷解放の戦いとなった。戦後1865年12月18日発効した憲法修正第13条によりこの宣言は法律化された。〔折井一彦〕

トレオニン［threonine］ $CH_3CH(OH)CH(NH_2)COOH$ 必須(ひっす)アミノ酸の一。タンパク質の構成アミノ酸として広く分布しているが，その含量は通常わずかである。鶏卵・スキムミルク・カゼインには4～5％程度含まれている。4個の立体異性体があるが，天然に存在しまた成長促進効果をもつものはL-型である。

ドレーク［Francis Drake］(1540ごろ～1596) イギリスの航海者。1570年エリザベス1世からスペイン商船を襲撃・略奪する特許状を得てスペインの海上制覇権(せいはけん)に挑戦(ちょうせん)。1577年5隻の船隊を指揮してマゼランに次いで世界周航に出て，1580年その壮挙を果たして帰国。1581年ナイトに叙せられ，翌年プリマス市長。さらに1588年スペインの無敵艦隊をカレーで撃破。のち，西インドへの遠征途上で病死した。

トレーサー［tracer］ 追跡子ともいう。同位元素が互いに同じ化学的性質をもつことを利用した，ある元素の行動を追跡するために用いられる放射性同位元素。医学・農学・工学・理学などに広範囲に利用される。医学的には，たとえば放射性のヨード131を非放射性ヨードに混入したものを人体に害を与えない程度に服用させ，体外から放射線の検出をし，ヨードの体内における行動を調べ，甲状腺(せん)の機能障害の診断を行なう。同様に血液の循環，食塩の体内での吸収のようすなどを知ることができる。農学面では，トレーサーを肥料の中に混ぜ，その肥料が茎や葉などに吸収されるようすや，いつどのような肥料を施すのが効果的であるかということなどを調べる。工学的には自動車のエンジンの材料にトレーサーを混入しておき，エンジンの消耗の割合を調べる場合などに利用される。このほかにも土木事業のための河川の水の動きを知るためや，石油のパイプライン輸送のときの目じるしなどにも利用される。〔加藤敏郎〕

トレジアコフスキー［Vasilii Kirillovich Trediakovskii］(1703～1769) ロシアの詩人。ソルボンヌ大学に学ぶ。《新略ロシア詩作法》などでロシア詩にはじめて抑揚法を取り入れ，ロシア詩の発展に重要な役割を果たしたが，実作には見るべきものなく，認められずに悲運のうちに没した。

トレーシングペーパー［tracing paper］ 原図を透写するのに使う透明度の高い紙。単にトレス紙ともいう。高級なものは靭皮(じんぴ)繊維を主原料とするが，通常はさらし化学パルプを原料とし，一般の紙の場合より叩解(こうかい)を強めて(粘状叩解にする)つくる。なお透明度を向上させるために特殊な加工を施したものもある。

トレス(海峡)［Torres］ オーストラリア北部，ヨーク岬(みさき)半島とニューギニア島との間にある海峡。水深が浅く，小島が多い。日本人漁夫の基地であった木曜島もここにある。

トレーズ［Maurice Thorez］(1900～1964) フランスの政治家。父は炭坑夫。小学校卒業と同時に炭坑労働者となり，第1次世界大戦後労働組合運動にはいる。1920年フランス共産党創立に参加，1930年書記長となり，その後人民戦線の結成に努力，1936年人民戦線政府の樹立に成功して，共産党は閣外からこれに協力した。第2次世界大戦中はナチスに対する抵抗運動を指導，1943年からフランス解放までモスクワにとどまった。1944年12月帰国し，1947年まで副首相をつとめた。主著に《人民の子》がある。〔喜多迅鷹〕

ドレスデン［Dresden］ ドイツ民主共和国南東部，ザクセン地方にある都市。人口50万9,000(1976年推)。ベルリンの南約160kmに位置し，エルベ川の河港でもある。多くの美術品をもつ美術館，バロックやロココ建築の芸術の町として有名であったが，第2次世界大戦の空襲でほとんど破壊された。光学器械・ガラス器などを産し，小彫像で有名なドレスデン陶器は，マイセンで生産されている。古くはスラブ人の集落があったが，1485年以後ザクセン侯国の首都となり，17世紀末から18世紀にかけてはフリードリッヒ・アウグスト1世・同2世のもとに文化芸術の中心として栄えた。〔梶川勇作〕

ドレッジャー ⇨浚渫船(しゅんせつせん)

ドレッド-スコットはんけつ【ドレッド-スコット判決】 アメリカ，ミズーリ州の黒人奴隷ドレッド-スコットが起こした訴訟に対して，1857年3月6日最高裁判所が下した判決。スコットは，主人に連れられて自由州イリノイ・自由准州ウィスコンシンなどに居住したことを理由に，自由を得るための訴訟を起こしたが，最高裁は①スコットは奴隷でありミズーリ州市民ではないから起訴権を有しない，②連邦議会は奴隷制廃止権をもたないから，准州における奴隷制廃止の法律は違憲・無効である，と判決した。これは1820年のミズーリ協定を無視し，准州における奴隷制を容認するものであるとして，北部奴隷制廃止論者の猛反対を受け，南北戦争後，憲法修正により効力を失った。〔折井一彦〕

トレド［Toledo］ スペイン中央部，首都マドリードの南南西64kmにあり，タホ川に沿う都市。古くから刀剣の生産で名高く，現在は小形兵器の産も多い。紀元前193年ローマ帝国に征服され，ローマ領スペインの首都であった。紀元534～712年には西ゴート王国の首都となり，その後ムーア人の支配のもとで，刀剣生産が盛んになり，アラビア文化の中心として栄えたが，1085年カ

スチリアのアルフォンソ6世によってイスパニア人の手にもどった。教会や神学校など13世紀以降の建物が残っており，観光都市となっている。〔梶川勇作〕

トレードマーク ⇨商標

トレニア ［*Torenia*］ 双子葉植物・ゴマノハグサ科の一属。インドから中国にかけて分布する一年草で，約20種が知られる。花形が美しいので，よく庭などに栽植される。そのうちハナウリクサ（トレニアという場合，普通は本種をいう）は草たけ30cmほどで基部から多数の枝を出す。茎は方形でなめらか。葉は長さ4～5cmの心状卵形で鈍鋸歯(どんきょし)があり，1cm余りの柄で対生する。8～9月，茎の上部の葉腋(ようえき)および茎頂に3cmほどの花を総状につける。花筒の内側は淡菫青(たんきんせい)色，外側は黄色で，上側に2浅裂片，下側に青色紋のある3浅裂片がある。ヒメトレニアはインド原産で高さ15～20cm。8～9月，葉腋に花冠の大きさ約4cmの暗紫色花を1～2個つける。〔加藤僖重〕

トレネ ［Charles Trenet］（1913～ ） フランスのシャンソン歌手・作詞家・作曲家。ナルボンヌの生まれ。15歳ごろから，地方新聞にいくつかの詩を発表した。1930年パリへ出，やがてピアニストのジョニー-エスと知り会い，1933年〈シャルルとジョニー〉という二重唱を組んでデビュー。1936年入営し，兵役中につくった《喜びあり》が，1937年カジノ-ド-パリのレビューで，シュバリエ*によって歌われ，名を知られた。同年マルセイユでソロ歌手としてデビューし，1938年，パリで大成功を収め，《ブン》で同年度のACCディスク大賞を受賞，名声を確立した。《詩人の魂》《街角(まちかど)》《ラ-メール》など，名作が多い。1959年・1969年に来日。〔永田文夫〕

ドレフュスじけん ［ドレフュス事件］ 1894年フランス第三共和政下に起こったスパイ疑獄事件。ユダヤ系アルフレッド-ドレフュス砲兵大尉（1859～1935）がドイツのスパイの嫌疑(けんぎ)で逮捕された。決定的な証拠がなかったにもかかわらず，陸軍はドレフュスがユダヤ人であるという理由だけで，非公開の軍法会議で終身刑を下し，



トレド 町の全景と町を流れるタホ川。かわいた高原の町には緑が少ない。古いイスラムの建築も多く残っている



トレニア

南アメリカのギアナ沖の悪魔島に送った。その後，無実を信じて再審を要求するドレフュス派と軍部支持派とが対立，これに共和派・反共和派の対立も加わり世論は沸騰した。この間，一時軍部・右翼・反ユダヤ人同盟・カトリックの保守的国粋運動などの勢力が共和派を危機におとしいれたが，1898年1月ゾラの〈私は告発する〉に始まる共和派の反撃は社会主義者も参加してしだいに高まり，ドレフュスは再審により1906年無罪となり軍籍に復した。〔喜多迅鷹〕

トレベリアン ［George Macaulay Trevelyan］（1876～1962） イギリスの歴史家。ケンブリッジ大学にはいりアクトンの影響を受けた。1927年ケンブリッジ大学教授となる。彼は20世紀初めごろイギリスの歴史学界に広まった歴史を科学とする見方に反対し，歴史と文学とを結びつけることを主張するとともに，みずからの著作も文学的に叙述して広く読まれた。著書には《スチュアート王朝下のイギリス》《イギリス史》《イギリス社会史》など。〔兼岩正夫〕

トレポネーマ ［treponema］ 微生物のスピロヘータ目の一科。ボレリア・レプトスピラ・トレポネーマの3属が含まれ，一般に病原性を有するが，口腔(こうこう)内から非病原性のものが見いだされている。熱帯地方にはヒトの皮膚病を起こすいくつかのものが知られるが，最も有名なものは1905年に発見された梅毒の病原体トレポネマ-パリズムである。これはふつう性交などの直接接触によって伝染し，ヒト以外ではウサギ・サルに病原性を示す。梅毒の初期病巣の組織液または穿刺液(せんしえき)を暗視野顕微鏡で検鏡すれば，輝きながら運動しているのが見られる。血清学的にはワッセルマン反応など数種の試験法が診断に用いられ，螢光(けいこう)抗体法や血球凝集反応も開発されている。➔梅毒

トレモロ ［tremolo］ 主として弦楽器で同じ高さの音を弓の向きを変えながらすばやく反復すること。同じ弓で延ばすよりも動きが感じられ，また大きな音が出るだけでなく，クレッシェンドやデクレッシェンドも行ないやすい。17世紀の初めから使われており，モンテベルディは《タンクレディとクロリンダの闘(たたか)い》で興奮状態を表わすのに使い，前古典派からロマン派までの管弦楽では常套(じょうとう)的な方法になっている。二つの音の間でもトレモロといわれ，またピアノでも行なわれる。声楽でもバロック時代は弦楽器のように行なわれたが，今日ではビブラートの意味で使われることが多い。〔徳丸吉彦〕

トレーラー ［trailer］ トラクター*・自動車などに牽引(けんいん)される車両。荷物を運搬するトレーラーは，連結方法からセミトレーラーとフルトレーラーに分けられる。セミトレーラーは，後車軸だけをもち，前半部の荷重は連結器を介してトラクターの後車軸にかかる構造のものである。フル





トレーラー （左）セミトレーラー（海上コンテナー用）（右）マンモス-トレーラー（世界最大の500tトレーラー）長さ62m 自重250t

トレーラーは前後に車軸をもち，積み荷の全重量を受ける構造になっている。このような連結車両はトラクターとトレーラーが相互に交換できること，全長が長いにもかかわらず最小回転半径が比較的小さいこと，大量輸送が可能なことなどの利点がある。最近では1台のトラクターで2台以上のトレーラーを牽引するものも現われた。一方乗用車で牽引するトレーラーには，ハウストレーラーがある。〔成田武男〕

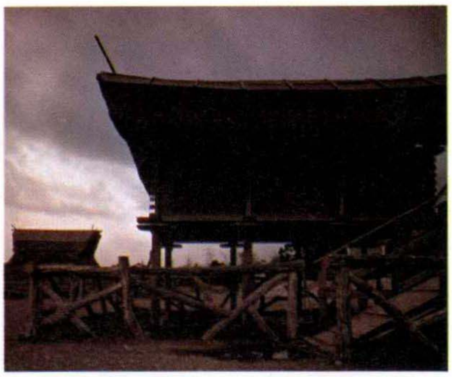
トレルチ ［Ernst Troeltsch］（1865～1923） ドイツのプロテスタント神学者・歴史哲学者。ベルリンの生まれ。ハイデルベルク大学神学教授・ベルリン大学哲学教授などを歴任。研究は神学・哲学・歴史に及んでいるが，それらを貫く主題は，相対的な歴史の流れにおいて，歴史を越えた文化価値がいかにして保持されるかという点にある。そして，歴史とは，ギリシア文化とかドイツ文化とかいった完全に自立的・個別的な全体からなるもので，それ以前の諸要素の単なる総合によっては説明されえないという。主著《歴史主義とその諸問題》(1921)。〔飯塚勝久〕

トレンチコート ［trench coat］ 第1次世界大戦中，イギリス陸軍が塹壕(ざんごう)（英語でトレンチという）で防水用として着用したものが一般化したレインコートの一種。打ち合わせはダブルが原則で，背中はケープ-バックとよばれるあて布がついて二重になり，前身ごろとえりは重ね合わせ，ボタンで留めて，雨水を防ぐ。ウエストにはベルトを締める。最近は合いコート・晴雨兼用コートとして日常着用される。

トレント ［Trento］ イタリア北東部，ベローナの北72kmにある都市。人口85,300（1967年推）。オーストリアと結ぶブレンナー峠への道路に沿う交通の要地で，陶磁器・絹・電動機などの工業が盛んである。紀元前4世紀ケルト族が建て，アウグストゥス時代には城砦(じょうさい)となった。6世紀にロンバルジア領，8世紀にはフランク王国に属し，16世紀以降はオーストリア領になった。19世紀にイタリア民族統一運動の拠点となり，第1次世界大戦後サン-ジェルマン条約*によってイタリアに割譲された。〔梶川勇作〕

トレントン ［Trenton］ アメリカ合衆国，ニュージャージー州の州都。人口10万1,000(1975年推)。デラウェア川水運の航路の終点にあり，鉄鋼・亜鉛・ゴム・陶器などの工業が発達している。1679年創設の都市で，州立の博物館がある。

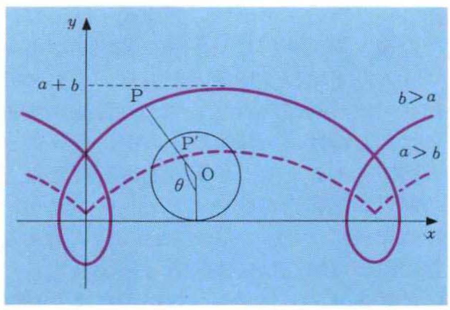
どろ 【泥】 岩石の微細な砕屑(さいせつ)と水との混合物。粒径1/200mm以下のセキエイ・チョウ石・ウンモ片などのほかに，岩石の化学的風化によってできた粘土鉱物や，二酸化ケイ素・酸化鉄などのゲルを含む。腐植などの有機物や微生物・単細胞動植物の遺骸(いがい)を含むことも多い。どろは風・



登呂遺跡 復元された集落



瀞 峡 瀞八丁をさかのぼる観光船。峡谷の垂直な谷壁は，そのまま落ち込んで深いよどみをつくり，濃紺色の水をたたえる



トロコイド

波・流水の影響が及ばない湖沼・内湾・大陸棚(たいりくだな)斜面にも堆積(たいせき)するが，特に大量にたまっているのは深海底である。黒海底のように，溶存酸素に乏しい環境で堆積したどろは，有機物や硫化鉄が多く，黒色を呈する。大洋底のものは水酸化鉄に富み，赤色を呈する。なお，デイ岩やケツ岩は，地質時代のどろが固結したものである。〔堀福太郎〕

トロイカ ［troika］ 3を意味するロシア語で，転じてロシアや北ヨーロッパで用いられた3頭立ての乗用馬車または馬そりのこと。ウマは3頭並列で，中央のウマに引き具をつけ，両側のウマが補助して引く。

とろいせき 【登呂遺跡】 静岡市の南東にあり，弥生(やよい)時代中期の遺跡。1943年(昭和18)工場建設の工事中に発見された。1947年から1950年までに本格的な発掘調査を行ない，現在は水田跡・森林跡・井戸・住居跡などが復元されている。正方形の水田地制，用水路の板，棒くいをはじめ，弥生式土器・木製農耕器具・鉄製刃物など古代農村生活を研究する上の好資料が数多く出土し，1952年文化財保護委員会から特別史跡の指定を受けた。記念館や復元家屋を訪れる人が多い。〔菊池万雄〕

ドロイゼン ［Johann Gustav Droysen］（1808～1884） ドイツの歴史家。従軍牧師の子として生まれ，ベルリン大学に学んで，1836年からベルリン大学で古代史を教えた。1840年キール大学に移ってからプロイセンの強大さを主張する政治的な立場をとった。1843年《ヘレニズムの歴史》ではヘレニズムを独自の価値をもつ文化として探究した最初の編述として有名。1851年イエナ大学に移って主著《プロイセン政策史》を刊行し，〈プロイセン学派〉の代表作とされる。《歴史学》ではヘーゲル的観念論に基づいて，政治家と歴史家の一致を主張した。〔兼岩正夫〕

どろえのぐ 【泥絵の具】 ①胡粉(ごふん)を混ぜた絵の具。泥状で色彩不透明なもの。②各種の土からとった絵の具で，水干絵の具ともいう。岩絵の具に比べ，粒子が微細で水にとくと泥状になる。黄土・代赭(たいしゃ)・弁柄・紫土などがある。

どろきょう 【瀞峡】 熊野(くまの)川の支流北山川が和歌山・三重・奈良の県境を流れるところにつくる峡谷。下流から下瀞・上瀞・奥瀞に分かれ，下瀞は和歌山県熊野川町付近の約1.2kmの区間で，峡谷美に最もすぐれ，瀞八丁の名で特別名勝に指定されている。瀞八丁は北山川が中生層の砂岩を嵌入(かんにゅう)・蛇行(だこう)して，両岸に20～50mに及ぶ懸崖(けんがい)をつくったもので，水は深青色の深い淵(ふち)をなし，深さは20mにも及ぶ。上流部に上瀞が約2km，奥瀞が約20kmと続き，浅い川底から岩礁が露出し，激流が岩をかむ豪壮な渓谷美(けいこくび)が見られる。奥瀞は北山峡ともよばれるが，最近池原・坂本(ともに奈良県)などにダムが建設されたため，ほとんど水没した。吉野(よしの)熊野国立公園*の区域内にあり，観光客を運ぶジェット船が熊野川河口の新宮市から上瀞まで通じる。〔味沢成吉〕

トロコイド ［trochoid］ 円Oが一直線l上をすべらないでころがるとき，この円の半径またはその延長上の定点Pが描く軌跡*。円の半径をa，OP＝bとし，OPがlに垂直な位置にあるときの円と直線lとの接点を原点にとって，直線lをx軸，円の回転角θをパラメーターにとれば，トロコイドの方程式は

$$x=a\theta-b\sin\theta \qquad y=a-b\cos\theta$$

となる。$a>b$であるか，$a<b$であるかによって見かけの違った曲線になるが，$a=b$のときはサイクロイド*となる。〔菊池兵一〕

トロコフォラ [trochophora] トロコフォア・担輪子ともいう。環形動物・軟体動物の原腸期に続く時期の幼生をいう。球形・卵形・こま形・鈴形などを示し，腹面の中央に口が開き，これから食道・胃・腸を通って体の後端に肛門(こうもん)が開口する。体のまわりには繊毛の並んだ環状のもの(繊毛環)が数列あり，これと体長全面の繊毛の運動によって海水中を運動する。軟体動物の腹足類と二枚貝類では，続いてベリジャー幼生となる。環形動物では肛門に近い部分が分裂増殖してしだいに体が延長し，ロベーン幼生とよばれるものになり，変態して底生生活をするようになる。〔蒲原春一〕

トローチざい [トローチ剤] 飲み込まずに，唾液(だえき)によって口の中で徐々にこわれてとけるように製した薬剤。湿性錠剤ともいわれ，広義の錠剤に属する。口腔(こうこう)・咽頭(いんとう)の炎症や気管支疾患などに適用されるほか，抗生物質・ホルモン・催眠薬・鎮静薬などを口中粘膜を通して吸収させ薬効を現わす目的にも応用される。不快な臭みのある医薬品には不適当である。

トロツキー [Leon Trotskii] (1879～1940) ロシアの社会主義者。ユダヤ人。1917年の十月革命*直前にボリシェビキに入党。党中央委員・政治局員などをつとめる。プロレタリアート単独の革命を主張して農民層との連帯に反対し，一国社会主義を否定して世界革命を主張した。1929年にスターリンによって国外追放され，追放後に第4インターナショナルを結成し，ソ連共産党とコミンテルンとの闘争に力を注いだ。彼の思想は直接革命の動力とはならなかったが，各国に影響を与えた。著書《文学と革命》《わが生涯(しょうがい)》《永久革命論》《ロシア革命史》など。➔トロツキズム 〔仲村計美〕

トロツキズム [trotskyism] トロツキー*によって主張された革命論。主として永久革命論*と世界革命*から構成されている。トロツキーはロシア革命後その成功のかぎは，ロシア革命をヨーロッパ革命に転化する以外にないと主張し，レーニン・スターリンの一国社会主義*革命論と対立した。これは各国における革命の客観的条件を無視し，軍事革命の輸出を主張する極左的なものであった。今日，トロツキズムが極左冒険主義の代名詞として用いられるのはこのためである。〔西尾孝司〕

ドローネー [Robert Delaunay] (1885～1941) オルフィスム*を創始したフランスの画家。1910年の《エッフェル塔》はキュービスム的手法ではあるが，構成的空間的諸問題の個性的な解決を示している。1910～1911年には〈同時主義〉によるダイナミックな運動表現を志し，《窓》の連作を描いた1912年には色彩が中心問題であった。フランスにおける抽象芸術の先駆者とされている。



トロツキー



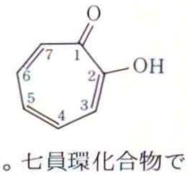
ドローネー《プリズム》1910

どろのき [泥木] 双子葉植物・ヤナギ科。デロともいう。本州中部以北の深山の谷沿いに自生する落葉高木。高さ20m，直径1m以上に達する。樹皮は灰色で浅く裂ける。葉は2～4.5cmの柄で互生し，広楕円(こうだえん)形で長さ7～9cm，幅3～6cm，細かい鋸歯(きょし)があり，革質で両面に光沢がある。表面は濃緑色，裏はほとんど白色で脈がはっきりと見える。雌雄異株で，4～5月ごろ葉の出るまえに尾状花序をつける。雄花穂は長さ3～8cmで暗紅色，雌花穂は長さ3～5cmであるが果期には20cmになる。果実は蒴果(さくか)で長さ1cmの球状卵形，6月ごろに熟して4裂し，白い毛のある小さな種子を出す。材はげた，マッチの軸木，経木，パルプなどに用いられる。

どろばち [泥蜂] こん虫類・膜翅(まくし)目・スズメバチ科のドロバチ類の総称。同科のスズメバチ類やアシナガバチ類によく似るが，トックリバチ類とともに大顎(おおあご)が小刀状である点で異なり，またトックリバチ類とは腹部第2節が幅広い点で区別できる。体は太く短く，体長はふつう10～20mm，黒色の地に黄・橙黄(とうおう)・赤かっ色などの斑紋(はんもん)をもつ種類が多い。スズメバチ類やアシナガバチ類のような社会生活は行なわず，孤独性で，タケやイネ科植物などの茎の中や木材の穴などを利用してどろで巣をつくる。いわゆる狩人蜂(かりゅうどばち)に含まれ，幼虫の食物として，おもに鱗翅(りんし)類・ハムシ・ハバチ類などの幼虫を狩る。全世界に多数の種が知られ，日本には約10種が分布する。

トロピカル [tropical] 平織りの梳毛(そもう)織物の一。夏服用。原意は熱帯ふう(トロピカル)服地で，転じて単にトロピカルという。軽く通気性がある。羊毛が中心であるが，レーヨン・アセテート・合成繊維も用いられ，多く無地染めとするが，霜降り・縞(しま)もある。背広・スーツなどに使用。

トロポロン [tropolone] 2-オキシ・トロポンのこと。融点50～51℃の無色針状結晶。数種の極限構造式をとることが可能で，共鳴エネルギーは30 kcalでベンゼン(41 kcal)に匹敵する。七員環化合物であるが芳香族化合物の性質を示す。化学的にはフェノールに類似し，アゾカップリング・ニトロ化・ハロゲン化の反応を容易に起こす。その誘導体にはヒノキチオール(4-イソプロピル-トロポン)，ツヤプリシンなどが知られるが，前者はタイワンヒノキ・アスナロ・青森産ヒバなどに鉄錯塩(ヒノキチン)として含まれる。



〔石戸良治・荒木洋之助〕

ドロマイト [dolomite] ハクウン石・クカイ石ともいう。マグネシウムの原料鉱物。$(Ca, Mg)CO_3$ 劈開*(へきかい)は(1011)に完全。硬度は3.5～4，比重2.8～3.0でもろい。ガラス・真珠光沢を示し白・赤白・緑白・灰色などである。条痕(じょうこん)は白。石灰岩地域に産する。

トロヤ [Troya] 古代小アジアの遺跡。現在のヒサリック丘。エーゲ海岸より6.5km北方のヘレスポントス(ダーダネルス)海峡に近く，ヨーロッパとアジアを結ぶ海陸両路の交差点に位する長径300m，平地上30mに足らぬ小さな丘で，スカマンデル川流域の要害の地点を占めている。トロヤの富強はこの平野の農牧と奥地の銀と，特にさきの交通路による交易による。シュリーマン*は1870～1890年の間発掘し，ここに9層(市)の遺跡を見いだした。彼の死後，1893年と1894年にドイツの考古学者デルプフェルトが発掘を継続し，さらに1932～1938年にアメリカのシンシナチ大学の発掘によって補充された。第1～第5市は初期青銅器時代，第6市は後期青銅器時代，第7A市と第7B市は後期青銅器時代の残存に属する。

第1市はすでに直径40mくらいの堅固な城壁をもち，その内にある支配者の居館(12.8m×5.4m)はポーチ・前室と炉のある主室(メガロン)からなるメガロン型の初期の建物である。銅が知られ，石と骨が道具や武器に使用されている。人面の浮彫のある石柱は原始芸術をこえた程度に達している。土器は豊富に製作され，その様式からレスボス島・リムノス島その他のエーゲ海域との密接な交渉が裏書きされる。第2市になると，その規模は飛躍的に発展する。城壁は拡大され($7,850m^2$)，楼門内の広場に面

してメガロン型の宮殿が四つ並び，最大のものは10.2m ×31m もある。第2市の隆盛は，黄金製の冠や耳飾り・首飾り・留め針・装飾用円板・杯，銀製容器，青銅製の武器・容器，宝石を使った笏(しゃく)や剣のつかや装飾用おのなどの豪華で精巧な出土品によって立証され，シュリーマンはこれらを〈プリアモスの財宝〉と命名した。製陶にはろくろと陶用窯が使われて薄手になった。第2市はＢＣ2000年ごろ西北方面からの民族の来襲によって破壊され焼かれた。続く第3～第5市は，城壁もない貧しい住居跡があるにすぎない。第6市はＢＣ1500年ごろ再建され，城壁内の面積は第2市の2倍以上となり，城外に墓地があった。城内の建築はやはりメガロン型で財宝はないが，ミニュアス陶器，初期ミケーネ陶器が出土した。第6市はＢＣ1300年ごろ地震のために破壊されたが，すぐに再興されたのが第7Ａ市である。これは，1～2世代存続しただけで紀元前13世紀半ばに破壊された。大火災の情況と家屋内や街路に見いだされた人骨から，この市がトロヤ戦争によって滅亡したものと推定されている。住民の一部はのがれ，まもなく再建されたのが第7Ｂ市であるが，その文化は低下した。第7Ｂ市が紀元前12世紀末まで続いたのち，約4世紀間放棄され，ギリシア人が植民を行なって第8市を建てた。第9市はヘレニズム時代からローマ時代の都市イリオンで，4世紀まで存続したのち荒廃に帰した。〔秀村欣二〕

トロヤぐんしょうわくせい **【トロヤ群小惑星】** 太陽と木星を結ぶ線分を一辺とする正三角形の頂点付近にある小惑星の一群。木星とほぼ同じ速さで太陽のまわりを公転している。1906年のアキレス588(発見番号)以来現在まで15個発見されていて，すべてトロヤ戦争における勇士の名まえがつけられている。トロヤ群小惑星の運動は三体問題における正三角形解に対応している。しかし，つねに正三角形の頂点にあるのではなく，その頂点を中心に振動し，周期はおよそ100～200年である。 〔木下　宙〕

トロヤせんそう **【トロヤ戦争】** ホメロスの叙事詩などに伝えられるギリシア人がトロヤを攻めおとしいれた戦争。トロヤ王プリアモスの子パリスがスパルタ王メネラオスの妃ヘレネを誘拐(ゆうかい)してトロヤに連れ帰ったことから，メネラオスの兄でミケーネ王アガメムノンは全ギリシアの諸王にヘレネの奪還と懲罰の軍を起こすことを提唱した。これに応じてアキレウス・ディオメデス・オデュッセウス・アイアス・パトロクロス・ネストルらの勇将・知将と数万の将兵がトロヤに向かって船出した。トロヤ側には老王プリアモスに代わって全軍を率いる長男ヘクトルをはじめ，パリス・サルペドン・アイネアスらとその軍勢のほか，近隣諸国からの援軍が集まり，ギリシア軍を迎え撃った。この戦いにはオリン



トロヤ　ホメロスの叙事詩《イリアス》の物語で知られる胸壁の遺構



トロリーバス　大阪を走ったトロリーバス



トローリング　レジャーとして，日本でも普及しはじめた

ポスの神々も双方に分かれて干渉し，戦況は一進一退するが，ついに10年めにギリシア軍はオデュッセウスの木馬の計略によってトロヤを破り，戦争は終わった。トロヤ戦争を伝説から史実に引きもどしたのはシュリーマンである。トロヤ落城をＢＣ1182年またはその前後とする伝承も生かされ，ミケーネ時代のギリシア人の略奪的な海外進出がトロヤ戦争の伝説の核心にあると思われる。➔イリアス 〔秀村欣二〕

トロリーバス ［trolley bus］ 架空線から送電を受け，電動機を動力として走る無軌道電車。構造は電車よりバスに近く，直流600Ｖ,100～140馬力程度の電動機が前後車軸の中間あるいは後車軸近くの床下に取り付けられる。屋根には集電装置のトロリーポールが備えられ，架線との接触部はＵ字形断面のものが採用されている。路面電車に比較し，①レールが不要で建設費が安い，②架線から左右に偏位でき，歩道に接近しての乗降が可能，③車輪が空気タイヤであるため騒音が少なく乗りごこちがよい，などの長所があるが，④運転席が前方のみであるから折り返し場所に制限を受ける，⑤2本の架線を必要(路面電車のレールに該当する)とし都市の美観をそこなう，などの欠点がある。また，バスと比較すると①維持費が安い，②静かな運転ができる，③電動機は構造が簡単で故障が少ないなど，電車としての利点をもつ一方，④建設費が高い，⑤運転路線の制限を受けるなどの欠点もある。 〔成田武男〕

トローリング ［trolling］ 引きなわづりのこと。外洋で船を走らせながらつり糸を繰り出し，これを引き回して漁獲する方法。引きなわの数を増すために，船の両側から長さの異なる竹ざおを張り出し，その先端に糸を結びつける。カツオ・マグロ・カジキ・ブリなどの大形魚が主対象で，えさは擬餌(ぎじ)が多く用いられる。スピード感に富むので，特に北アメリカ・オーストラリアなどで，レジャーとして盛んに行なわれている。 〔石野　誠〕

トロールぎょぎょう **【トロール漁業】** 底引き網漁業の一種で，引き綱につけた網を一隻の漁船で引き回し，海底にすむ魚類を捕える漁法。漁業法規上では，スクリューを備える船舶によって前述の漁法を用いる漁業で，東シナ海・黄海を漁場とする以西トロール漁業以外の漁業をいう。網は，オッターボード(網口開口板)がつけられている。17世紀ごろイギリスで発達したが，オッターボードを使うようになったのは19世紀後半で，その後船舶の動力化が進むとともに，飛躍的に発展した。

日本へは1905年(明治38)に導入され，1908年に最初の国産トロール漁船がつくられた。しかし，沿岸漁業との競合から1911年に操業区域制限が行なわれ，東シナ海・黄海に漁場を求めるようになった。1917年(大正6)には取り締まり規則が制定され，許可数70隻以下，200トン以上(航続力2,000海里以上)となったため，沿岸域から完全に締め出されるとともに，大規模経営化へと質的転換が行なわれた。その後，機船底引き網漁業も発達してきたため，その保護の目的もあって，前述の70隻のわく外で他の海域(南シナ海・ベーリング海など)への出漁が認められた。

第2次世界大戦後はトロール漁船の数も急激に増加し，1952年(昭和27)からは本格的な遠洋トロールも開始された。漁船の性能もより高度化され，1954年には1,500トンの船尾式トロール船(網の投揚作業を船尾で行なう方式)が建造されるなどして，積極的な遠洋漁業の資源開発，海外市場の開拓に力が注がれるようになった。近年はベーリング海はもちろん，ニュージーラン

ド・アフリカ・北西大西洋・南アメリカの大陸棚(たいりくだな)を漁場とし，北洋ではスケソウダラ，その他の漁場ではメルルーサ・イカなどを漁獲している。　〔石野　誠〕

トロールぎょせん　【トロール漁船】 ⇨漁船　⇨前項

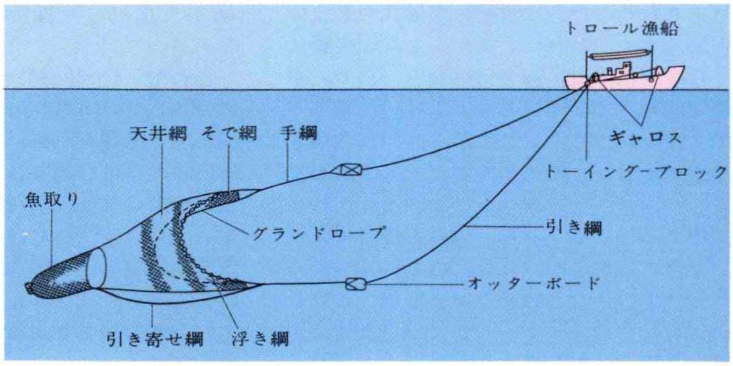
とろろあおい　【黄蜀葵】 双子葉植物・アオイ科。中国原産の一年草。高さ1～2mになり，まばらに毛がはえる。葉は長柄を有し，5～9深裂して長さ5～30cm，各裂片は細長い披針(ひしん)形であらい鋸歯(きょし)がある。8～9月，茎の上部の葉腋(ようえき)に直径10～20cmの黄色五弁花をつける。おしべは癒合(ゆごう)して管をなし，その中央を花柱が突き抜けている。花柱の先は紫色で5裂する。朝咲いて夕方にはしぼむ。果実は蒴果(さくか)で，長さ5～8cmの長楕円(ちょうだえん)形で5稜(りょう)があり，かたい白毛が密生して，中に多数の種子を入れる。根に含まれる粘液物質は和紙製造用ののりに使われる。よく似たオクラ*の若い果実はスープやシチューに入れて食する。〔加藤僖重〕

とろろこんぶ　【とろろ昆布】 とろろこんぶとよばれるものには2種がある。①コンブ科の海草の一種で，葉は細長く1～5m，幅7～12cm，薄く柔らかで，淡黄色を呈し，粘質に富んでいる。②食品名で市販されているもの。マコンブ・リシリコンブからつくったもので，表面を削ったものを黒とろろ，中心部を削ったものを白とろろとよんでいる。

とろろじる　【薯蕷汁】 ヤマイモをすりおろし，卵と煮出し汁を加えて伸ばしたもの，麦とろといって麦飯にかけるか，冷やし吸い物にして食べる。材料はヤマトイモ・ナガイモ・ツクネイモなども使われ，煮出し汁はしょうゆに塩・みりん少々を加え，吸い物より濃い味をつける。わんに盛り，薬味に青ノリ・ネギなどを加える。なお，東北地方ではみそ仕立ても行なわれる。

トロワイヤ　[Henri Troyat]　(1911～　) フランスの小説家。ロシアのモスクワ生まれ。処女作《ほの明り》《蜘蛛(くも)》をはじめ，代表作《この世のある限り》三部作など，19世紀リアリズムを継承する作品を書き，物語性に富む作風によって多くの読者を得た。ほかに評論《ドストエフスキー》《プーシキン》など。

ドローン　[drone]　音楽用語。〈うなり音〉を意味する。楽器の名称としては低音管だけの単純なバッグパイプ*をさし，楽器の部分名としてはもっと複雑なバッグパイプの指穴なしの低音管をさす。音楽理論用語としては，多声性音楽で旋律的な他声部を持続音でささえる基本的声部をさす。この持続音は普通は低音で，しかも最低音であることが多い。また純粋のドローンは曲の演奏中終始響いているもので，東洋音楽にさまざまな形で活用されており，インドのタンブーラ*，トルコのサズなどが代表的楽器である。　〔山口　修〕



トロール漁業　オッター-トロール網


トロロアオイ　オクラとは葉の切れ込みで区別できる


トロンヘイム　町の中央広場。露天のマーケットが開かれている。中央にはこの町の創設者の像が立っている

トロント　[Toronto]　カナダ，オンタリオ湖の北西端に臨む市でオンタリオ州の州都。人口71万3,000，大トロント274万1,000(1974年推)で，カナダ第2の大都市。1793年創設の町で，地名はインディアン語の〈会合の場所〉の意。五大湖地方に通ずる最短最良の陸路の起点で，オンタリオ半島の豊かな農業地域を後背地とし，ローレンシア台地の鉱産地域にも近く，さらにナイアガラ滝の豊富な水力を利用できる恵まれた位置にある。繊維・電気器具・農業機械などの工業が発達し，自動車生産は全国の約70%を占める。またカナダ第1の家畜屠殺(とさつ)施設や1877年創立のトロント大学がある。　〔相村大彬〕

トロンビン　[thrombin]　血液凝固に関する酵素で，血漿(けっしょう)中のフィブリノーゲンを不溶性のフィブリンに変化させる。血液中では不活性のプロトロンビンとして存在し，トロンボプラスチン・カルシウムの作用を受けて活性トロンビンに変化する。アルブミンに属するタンパク質で分子量は約20万～45万である。血液凝固に際してトロンビンの作用機序の詳細はなお不明であるが，フィブリノーゲン分子のうち，α鎖の$\mathrm{Arg}^{16}-\mathrm{Gly}^{17}$，$\beta$鎖の$\mathrm{Arg}^{14}-\mathrm{Gly}^{15}$を切断して，2種のフィブノペプタイドA・Bを遊離することが知られている。トロンビンは血中の抗トロンビン・ヘパリンなどによって失活する。　〔三好和夫〕

トロンプルイユ　[Trompe L'oeil]　だまし絵。絵画で対象物を描くのに，迫真的にそのものに似せて徹底的に細かく，表面の質感や凹凸(おうとつ)の感じを写して，実物がそこにあるように思わせる表現法。18世紀の静物画などにもこのような表現はあったが，一般には現代のシュルレアリスム*の一つの手法とされている。非合理の幻想の中に，この手法が散りばめられて見る者に妙な実感を与える。

トロンヘイム　[Trondheim]　ノルウェー西岸の都市。人口13万4,000(1975年)。首都オスロに次ぎ，南西のベルゲンとほぼ同じ人口を有する。トロンヘイム-フィヨルドの奥に位置し，不凍の貿易港をもち，魚類・銅鉱・木材などを，おもにイギリスに輸出している。商業・機械工業・造船などが主要な産業。997年オラフ1世の建設に起源を有し，1380年までノルウェーの首都であった。その後も1908年まで国王の戴冠(たいかん)式は11世紀に建造されたこの地の大寺院で行なわれていた。第2次世界大戦中はドイツに占領され，Uボートの基地となったため，連合国軍の攻撃を受けた。　〔梶川勇作〕

トロンボーン　[trombone]　金管楽器の一。元来はイタリア語でトランペット(トロンバ)の大きなものを意味し，同種の楽器であった。15世紀に，管長を増減するため今日の楽器のように管の一部をすべらせるスライド装置がつくられると，自然倍音に限られたトランペットと違って広い表現力が

与えられたため，16世紀以来儀式や教会の音楽でよく使われた。また，当時の楽器は今日のような音の強さがなかったため，木管楽器やバイオリンともよく合った響きを出すことができた。したがって，宗教音楽を別にすれば，管弦楽の中にこの楽器が定着したのはトランペットよりおそく，19世紀中ごろである。なお，19世紀後半に3個のピストンをもつバルブ式のものもつくられたが，音色などの面であまり用いられない。今日では，テノールからバスまでの音域の楽器が，管弦楽・コンチェルト・ジャズで広範に使われている。　〔徳丸吉彦〕

ドロンワーク ［drawn-work］ ししゅう*の一。原意は〈糸抜き〉。地布の糸を何本か抜き，抜き残しの糸をいろいろに結んで透かし模様をつくる。たて糸またはよこ糸を抜く場合と，両方を格子(こうし)に抜く場合とがある。抜き残しの糸をそのまま生かすのが特徴である。ハンカチーフ・テーブルクロス・服飾品などに用いられる。

とわずがたり 【とはずがたり】 鎌倉期の日記文学。作者は源雅忠(まさただ)の娘で，後深草天皇*に仕えて二条とよばれた人。日記の前半は，彼女の宮廷生活における男性への愛憎や，はなやかな行事の追想からなり，後半は出家して諸国遍歴の記録となる。特異な体験の告白として注目される。

とわだ 【十和田(市)】 青森県南東部の市。人口58,000。もと三本木原の原野であったが，1855年(安政2)，新渡戸(にとべ)稲造の祖父伝(つとう)によって開拓が行なわれ，付近の台地の開発によって三本木町が誕生した。1955年(昭和30)三本木町を中心に周辺1町1村を合併し，三本木市として市制を施行，1956年に十和田市と改称。市域は三本木原台地の中心部にあり，南方を奥入瀬(おいらせ)川が東流する。市街は碁盤目状に直交する町割りをもつ開拓植民都市の典型である。産業三大別人口比は33：20：47。集約農業で酪農が行なわれ，ダイズ・ジャガイモの産も多い。国道4号線(陸羽街道)・45号線・102号線が通じ，十和田観光電鉄によって東北本線三沢駅と結ばれる。十和田湖*の東の玄関口として，バスで奥入瀬渓流(けいりゅう)に沿って湖畔へ出るコースは利用者が多い。

とわだ 【十和田】 秋田県鹿角(かづの)市に合体した旧町名。米代川(よねしろがわ)に小坂川が注ぐ地域を占め，1955年(昭和30)に毛馬内(けまない)町と錦木(にしきぎ)村とが合併して十和田町となり，1972年(昭和47)花輪町・尾去沢(おさりざわ)町・八幡平(はちまんたい)村と鹿角市合体市制施行。中心地区毛馬内は，1608年(慶長13)に城下町として興った。花輪線十和田南駅があり，大湯温泉を経て十和田湖へ通ずる。

とわだおおか 【十和田大蚊】 こん虫類双翅(そうし)目・カ科。日本産のカ類中最大で，体長13mmほど。体は黒色で緑色ないし青藍(せいらん)色の光沢があり，白色の斑紋(はんもん)がある。口吻(こうふん)は黒色で，前半部は細くて大きく下方に曲がる。日本全土に分布するが，本州中部以西では山地帯のみに見られ，成虫は7～8月ごろに出現する。昼飛性で花に集まり，吸血はしない。幼虫は樹幹の穴や倒木などのたまり水中に生活し，他のカ類の幼虫を捕食する益虫である。



トロンボーン

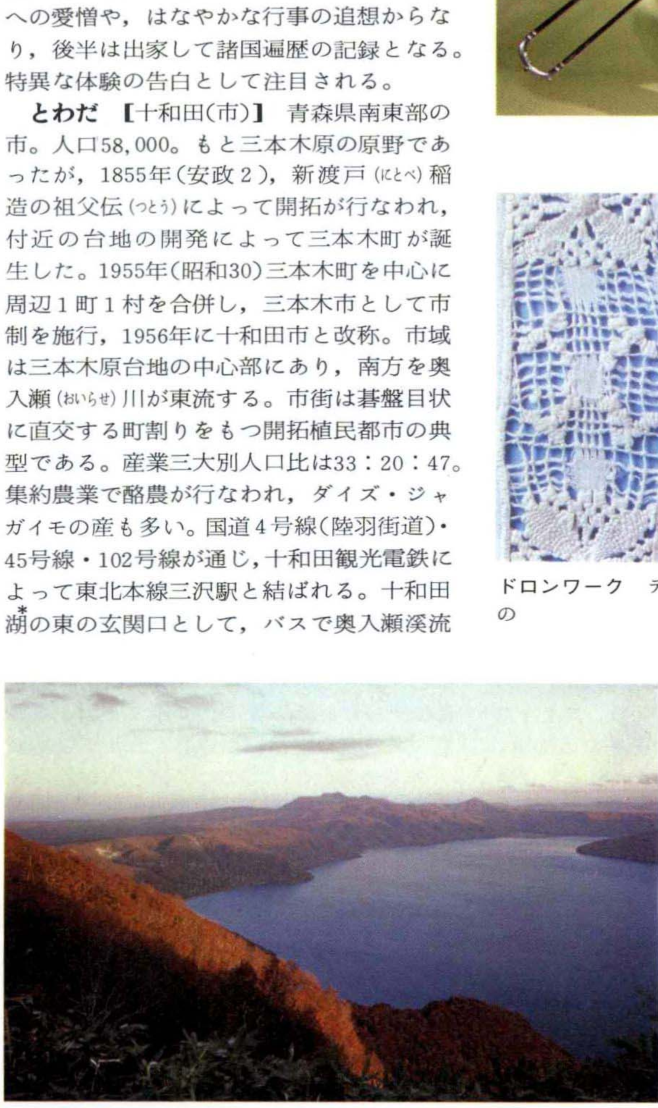


ドロンワーク　テーブルクロスに用いられたもの

とわだかわげら 【十和田積翅】 こん虫類・カワゲラ目・トワダカワゲラ科。1科1属1種で，カワゲラ類中最も原始的な種と考えられる。翅(はね)はなく，体は長さ14～23mm，濃かっ色で，前胸背板は頭部より幅広く四角張る。腹部は細長い円筒形。触角は赤かっ色で長く，約40節からなる。秋田県十和田湖畔ではじめて採集されたのでこの名があるが，北海道・本州中部以北および朝鮮北部に分布し，本州中部では海抜1,000m以上の山地帯に限って産する。幼虫は，山間の渓流(けいりゅう)の石の間で生活し，外形は成虫とほとんど変わらない。成虫は夏から秋に出現する。

とわだこ 【十和田湖】 青森・秋田県境にあり，十和田八幡平(はちまんたい)国立公園*に属する湖。面積60km²，湖面高度400m，最大水深326.8m。水は東部の子ノ口(ねのくち)から出て奥入瀬(おいらせ)川となり，三本木原台地を過ぎて太平洋に注ぐ。湖岸線はおおむね単調だが，南部に御倉・中山の2半島が突出し，間に中湖をいだく。成因はカルデラ式火山の火口湖で，中湖は中央火口丘内にできた火口湖，両半島はその火口壁のなごりと考えられる。四周はカツラ・カエデ・ナナカマドなどの樹林が広く，新緑と紅葉の時期には観光客が最も多い。湖はかつて魚影を見なかったが，いまはヒメマスの産地で，この養殖をめぐる和井内貞行(さだゆき)の苦心談は広く知られる。　〔長津一郎〕

とわだはちまんたいこくりつこうえん 【十和田八幡平国立公園】 青森・秋田・岩手の3県にまたがり，十和田湖を中心に，北部の八甲田山(1,585m)一帯と，八幡平(1,614m)，南部の駒ケ岳(こまがたけ)(1,637m)，東部の岩手山(2,041m)などを含む，面積833km²の地域で，1936年(昭和11)に指定された十和田国立公園に，1956年八幡平地区が追加されたものである。十和田湖(60km²)は火口湖で，変化に富む湖岸と濃藍(のうらん)色の湖水が美しい。子ノ口(ねのくち)から流れ出る湖水は銚子(ちょうし)大滝をはじめ，数多くの滝の間を縫って奥入瀬(おいらせ)の渓流美(けいりゅうび)をつくっている。八甲田山は円錐(えんすい)形の火山で美しい山容を示し，高山植物も多い。近くに酸カ湯(すかゆ)温泉がある。八幡平は高度1,000m以上の広大な高原で，オオシラビソの樹海が広がり，駒ケ岳頂上付近の高山植物群は天然記念物に指定されている。弘前(ひろさき)市と十和田市を結ぶ国道102号線が公園内を横断している。→次ページ(地図)　〔木村東一郎〕



十和田八幡平国立公園
秋の十和田湖。北側の御鼻部山付近から望んだ湖面の東部で，右側に御倉半島の先端が見えている

トワルドフスキー　[Aleksandr Frifonovich Tvardovski]（1910～1971）ソ連の詩人。処女詩集《社会主義への道》，長詩《ムラビア国》で農業集団化を歌い，叙事詩《ワシーリー-チョールキン》では戦争期の典型的人間像を描いた。ほかに《遠い遠いかなた》など。

トン　[ton]

1質量の単位。記号t。①メートル法のトン：通常，単にトンという場合にはこれをさし，1,000kgにあたる。メートルトン・グラムトンということもある。②イギリストン：ヤード-ポンド法の2,240ポンドで，1,016.05kgにあたる。ロングトンともいう。③アメリカトン：ヤード-ポンド法の2,000ポンドで，907.18kgにあたる。ショートトンともいう。

2船舶の大きさを表わすのに用いられる単位。商船のトン数は，課税の目的から15世紀初期にイギリスではじめて定められたという。当時は船に積みうる酒だるの数で船の大きさを表わしたが，この酒だるは容積が252ガロン（42.32立方フィート）でこれに酒を満たすと2,240ポンド（1,016kg）となるのが標準であった。現在船の大きさを表わすには次表のように，重さで表わす場合と，容積で表わす場合とがあるが，いずれもトンが用いられるので複雑で紛らわしい。

船の重量を表わすもの	排水トン数
船の容積を表わすもの	総トン数・純トン数・パナマ運河トン数・スエズ運河トン数
積みうる貨物の重量を表わすもの	載貨重量トン数
積みうる貨物の容積を表わすもの	載貨容積トン数

〔飯島幸人〕

ドン（川）　[Don]　ソ連南西部，ロシア平原の川。中央ロシア丘陵のツーラ市のすぐ南に発し，南流してロストフの近くでアゾフ海に注ぐ。全長1,970km。冬季約4か月にわたる凍結を除けば，ほぼ全流路が航行可能で，ボルゴグラードの近くでボルガ川と全長101kmのボルガ-ドン運河で連絡している。この運河はピョートル1世のころから計画されたが成功せず，ソビエト政府の第3次五か年計画により着工されて，1952年に完成した。この運河には，総延長758kmの幹線灌漑（かんがい）運河が付属しており，沿岸の75万ヘクタールを灌漑している。

とんあ　【頓阿】（1289～1372）南北朝末期の歌人。本名は二階堂貞宗（さだむね）。武家に生まれ，24歳で出家したと伝える。早くから二条為世*（ためよ）に歌を学び，二条派の〈和歌四天王〉に数えられ，1363年（正平18・貞治2）には，二条為明が《新拾遺和歌集》撰進（せんしん）の中途で死んだあとを受けてこれを完成させた。歌風は独創性には乏しく平淡。家集《草庵集（そうあんしゅう）》や歌学書《井蛙抄（せいあしょう）》《愚問賢註》などがある。



十和田八幡平国立公園

トンガ（諸島）　[Tonga, Friendly]　別名フレンドリー諸島。南太平洋中のフィジー諸島東方にある約180の小島からなり，火山島成因のサンゴ礁である。総面積694km²。イギリスの保護下にトンガ王国を形成していたが，1970年独立。人口10万（1979年推）。最大の島は南部のトンガタプで，人口の約半分が住み，島の北部に首都ヌクアロハがある。ほかにハッパイ・ババウが主要な島となっている。原住民はポリネシア人で，ココヤシ・タロイモなどを栽培する小規模な農業と漁業を営み，キリスト教を信仰する。コプラ・バナナが主要産物で，輸出の大半を占める。1616年オランダ人の航海者が，1643年A.タスマンが，1773年と1777年とにJ.クックが渡来し，1900年からイギリスの保護国になった。　〔大崎　晃〕

トンガ（海溝）　[Tonga]　南太平洋，ポリネシアのトンガ諸島の南にある海溝（かいこう）。最深9,184m。トンガ諸島からケルマデック諸島に至る海嶺の東側を海溝が並走し，北にあるものをトンガ海溝，南をケルマデック海溝（最深点8,427m）とよぶ。ケルマデック海溝は南半球の最深点である。

ドン-カルロス　シラー*の戯曲（1787）。スペインの王子ドン-カルロスの悲劇的生涯（しょうがい）を扱った史劇。王室の複雑な事情，父子の対立，オランダ独立の機運などをからませ，継母への恋におぼれたカルロスが父に反抗しながらも，その恋を清算して英雄に成長する過程を描く。ポーザ侯という副主人公が主張する〈思想の自由〉がこの作品の主題といえる。

ドン-キホーテ　セルバンテス*の小説。正しくは《才知あふるる郷士ドン-キホーテ-デ-ラ-マンチャ》。前編は1605年，後編は1615年に出版された。騎士道小説を読み過ぎて発狂した郷士が，世の悪を正すために騎士となって遍歴するが，彼の理想と現実との衝突から次々にこっけいな場面が生じるもの。物語はこのような場面の並列的連続であるが，《ドン-キホーテ》の核心は，ドン-キホーテと従者のサンチョ-パンサという二つの性格の創造にある。思い姫ドゥルシネーアに対する絶対的忠誠に基づく，ドン-キホーテの理想主義とサンチョの物質的な現実主義は対照的ではあるがけっして固定的ではなく，互いに補い合い，影響し合う人間性の両面を表わしており，時間と空間を超越してあらゆる人の心に訴える普遍性を得ている。　〔牛島信明〕

トンキン　[Tonkin]　ベトナムの北部を占め，その中心地域をなす部分の呼称。中華人民共和国の雲南省やラオスとの国境は高い山地で限られ，東はトンキン湾に臨む。ソンコイ川・ソンボー川など多くの河川が流れ，下流に広大なトンキン-デルタを形成している。デルタは，日本の関東平野の約2倍の面積をもち，肥沃（ひよく）で古くから水田化されて，この地方の主産業である米作の基盤となり，ベトナム民族の郷土となってきた。地下資源では亜鉛・スズ・タングステンなどを産する。ベトナムの首都ハノイもここにあり，現在も東南アジアでは最も人口密度の高い地域の一つである。古くは中国の一部であり，1801年には安南に併合されたが，フランス勢力の浸透に伴い，1884年フランスの保護領となった。第2次世界大戦後はベトナム民主共和国独立の拠点となった。　〔別技篤彦〕

トンキンわん　【トンキン湾】中国とベトナム社会主義共和国との国境付近の湾。東は中国の雷州半島および海南島に囲まれ，北には広西チワン族自治区，西はベトナムのトンキン地方があり，北西方からソンコイ川が注いでいる。東西約500km，南北約250km，西側の沿岸は出入に富み，小島が多い。サバ・タイ・アジ・エビ・海藻（かいそう）類など，水産資源は豊富で，中国人による沖合い漁業，ベトナム人の沿岸漁業が営ま

れている。主要港にハイフォン・ホンガイ・北海などがある。〔千田　稔〕

どんぐり　【団栗】　ブナ科のカシ・クヌギ・ナラなどの果実の俗称。堅果で，球・楕円(だえん)・卵形などを呈し，外側はなめらかでかたく，総包片が癒合(ゆごう)してわん状となった殻斗(かくと)に包まれる。

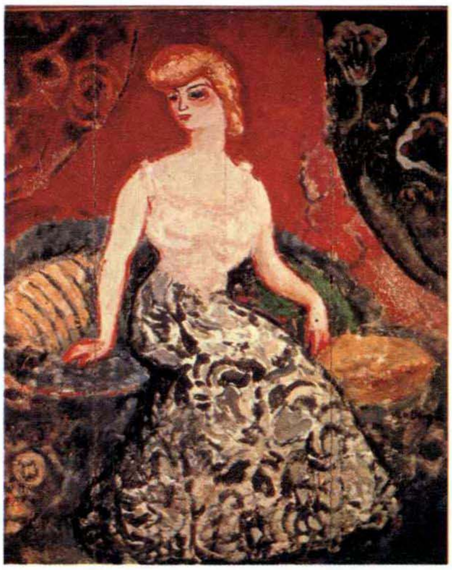
ドンゲン　［Kees Van Dongen］(1877～1968)　フランスに帰化したオランダの画家で，いわゆるエコール-ド-パリの画家のひとり。1897年パリに出，フォービスム*に熱烈に呼応する。第1次世界大戦後は肖像画家としてパリの社交界に出入りし，非常に細長いプロポーションの独自な人物（特に貴婦人)をつくり出した。橋派*にも属し，感覚主義とともに一種の表現主義的傾向を示した。

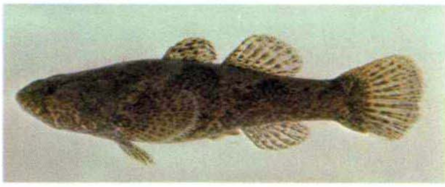
どんこ　【鈍甲】　硬骨魚類・カワアナゴ科。体長10～18cmほどの淡水魚で，琵琶湖(びわこ)でドロボウ・チチムコ，長崎でドンボなどといい，地方名の多い魚である。頭部は縦扁(じゅうへん)し，後方に向かうにしたがって側扁する。日本・アジア大陸東部・台湾・インドネシアなどに分布し，浅い池，沼，細流に生息して，小魚や小動物を食べる。産卵期は4～6月。煮つけなどにして美味だが，産額は少ない。

とんこう　【敦煌】　トンホワン　中国，甘粛省西北端の小都市。地理的には乾燥した中央アジアの一角を占める。紀元前2世紀末，漢の武帝のとき，漢人の西域経営の最先端として敦煌郡となり，それ以来中国と西方とを結ぶ交通路の門戸として重要な役割を果たした。現在，敦煌に残る大規模な仏教石窟(せっくつ)（敦煌千仏洞(せんぶつどう)）は中国本土にさきがけて開削されたもので，中国の仏教石窟，美術の隆盛に大きな影響を与えたと考えられる。敦煌石窟の年代は，キジル千仏洞*などの西方の影響の著しい北魏窟(ほくぎくつ)，最も数の多い隋(ずい)・唐窟，修復を主とした五代・宋(そう)・元窟にわたり，敦煌文物研究所の確認した壁画・塑像のある窟は486窟に及ぶ。石窟はもろい礫岩(れきがん)で崩壊したものも多いが，壁画・塑像の保存は比較的よく，仏教芸術の豊かな宝庫である。1907年，A.スタイン*が敦煌の石室の一つに膨大な量の写経・仏画・文書類が秘蔵されているのを発見して以来，敦煌の学術的価値は不動のものとなり，それらの研究は〈敦煌学〉の名で今日に及んでいる。〔小谷仲男〕

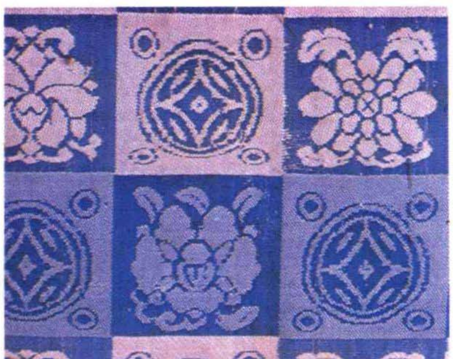
トンコリ　アイヌの弦鳴楽器。樺太(からふと)アイヌ語の名称で，北海道アイヌ間ではカまたはカーとよばれる。3～6弦のものもあったらしいが，5弦が普通である。トドマツ・アザラシの皮を材料とする。

とんコレラ　【豚コレラ】　ウイルスによるブタ特有の急性伝染病。日本各地に毎年のように発生し，伝播(でんぱ)力が強く大流行をきたして養豚界に大被害を与えている。


ドンゲン《パリジェンヌ》


ドンコ


トンコリ


緞　子《遠州緞子裂》(部分)

症状は複雑でわずか数時間で死亡するものもある。通常は41～42℃の高熱が続いて全身衰弱，悪臭のある血液・粘液の混入した下痢をし，7～10日で多くは死ぬ。急性型では死亡率が非常に高い。免疫血清・予防液がある。

ドン-ジュアン　モリエール*の散文喜劇(1665)。5幕。妻を捨てて浮気の旅に出たドン-ジュアンが，かつて殺した騎士の石像に連れられて地獄へ向かうまでの，放蕩(ほうとう)生活を描く。主人公は無信仰の放蕩家で，宗教的偽善を攻撃した作品である。スペインのドン-ジュアン(ドン-ファン*)伝説に取材したもので，ほかにバイロン*・A.トルストイ*らの作品がある。

ドン-ジョバンニ　モーツァルト*作曲の2幕のオペラ。台本はドン-ファン伝説によってダ-ポンテが書き，初演は1787年10月プラーハで行なわれた。登場人物はドン-ジョバンニ(バリトン)・レポレロ(バリトン)・ドンナ-アンナ(ソプラノ)・ドンナ-エルビラ(ソプラノ)・ツェリーナ(ソプラノ)などで，恋の冒険者の最後の1日をみごとに描いたものである。曲中の〈カタログの歌〉〈シャンペンの歌〉などは独立して歌われることも多い。〔向坂正久〕

どんす　【緞子】　地を経(たて)五枚繻子(しゅす)とし，文様は地緯(じぬき)で，地の裏組織である緯五枚繻子に織り出した先染紋織物。地質が柔らかく，光沢もあり，文様が異組織であるためきわめて明確となる。経緯共色のこともあるが，緯の色を変えていっそう文様をはっきりさせることが多い。わが国には中世に中国から船載され，後世に名物裂(めいぶつぎれ)とよばれて珍重された裂類の中には，基本的な五枚繻子組織のほかに六枚変(かわり)繻子組織や五枚綾(あや)組織によって文あるいは地を織り出したものもある。わが国での製織は天正年間(1573～1591)，明(みん)の織法を学んで始まったといわれる。江戸時代を通じて，小袖(こそで)・帯・鎧(よろい)下着・夜具地・羽織裏地・袈裟(けさ)などに広く利用され，経緯を織り加えた二重緞子なども織られるに至った。現在では表具あるいは茶器の仕服，袱紗(ふくさ)などに使われているほか，近年は経を生の五枚繻子，緯を縮緬糸(ちりめんいと)として緯五枚繻子組織で文を織り出し，製織後精練して文を皺立(しぼだち)させた後染(あとぞめ)用白生地である緞子縮緬も緞子と称され，振袖や訪問着などに用いられている。〔北村哲郎〕

ドンス-スコトゥス　⇨ドゥンス-スコトゥス

とんぜい　【とん税】　外国貿易に従事する船舶が開港へ入港する際に課せられる国税。これは外国貿易船がその港湾施設の利用その他一般的便宜を受けることに対する応益負担としての税である。とん税の課税標準は，入港した外国貿易船の純トン数であり，その税率は，開港へ入港するごとに納付する場合には，1トンごとに16円，一つの開港に1年分を一時に納付する場合には，同じく48円である。ただ，外国貿易船

が海難その他航行上の支障が生じて入港する場合，検疫のみの一時入港する場合，避難のため一時出港し，その理由の消滅後直ちに同一の開港に入港する場合などは，課税されない。また開港所在地の市町村に財源を譲与するために設けられたのは特別とん税といわれ，徴収に関してはとん税の場合と同様であるが，税率については純トン数１トンごとに20円（一時に納付する場合は60円）となっている。〔西野義彦〕

とんそうきょく【遁走曲】⇨フーガ

どんぞこ【どん底】ゴーリキー*の戯曲。４幕。大都会の片すみの木賃宿に集まった浮浪者の人間模様を描く。作者の思想は，政治的変革を不可能として慰めを説く哲学と，人間の尊厳を信じるがゆえに，不合理で非人間的な社会の変革を説く哲学との葛藤(かっとう)の中に浮き彫りにされる。世界演劇史上の古典的作品。

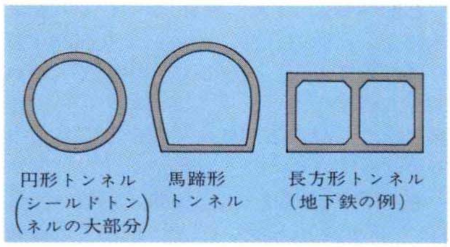
とんだばやし【富田林(市)】大阪府南東部の市。人口97,000。戦国時代，興正寺の寺内町として発達し，明治後期以後は大阪・堺(さかい)両市の住宅地となった。1950年(昭和25)市制施行。市域は大和(やまと)川の支流石川に沿い，石川河谷平野の中心部に位置する。産業三大別人口比は５：34：61。近郊農業が盛んで，野菜類のほかミカン・ナシ・ブドウなどの果樹が栽培される。竹すだれ・繊維などの軽工業が行なわれ，住宅地の開発が進んで，日本住宅公団の金剛ニュータウンがある。近畿(きんき)日本鉄道長野線・国道170号線・富田林街道が通じる。西方の羽曳野(はびきの)丘陵にはＰＬ教団大本庁があり，信仰客を集める。

どんたろう【鈍太郎】狂言の曲名。夫婦狂言。下京に妻を，上京に愛人をもった鈍太郎(シテ)が，訴訟のことがあって西国に下ったが，首尾よくいって３年ぶりに帰京する。まず下京の本妻を尋ねると，３年間にただの１度も音信がなかったので，るすを待ち兼ねて棒使いを夫にもったとの返事。腹を立てながら上京へ駆けつけると，〈みめよしの心よし〉のはずの愛人も，同様になぎなた使いを夫と定めたというつれない返事。すっかり落胆した鈍太郎は隔夜(１晩ずつ神社・仏閣を泊まり歩いて修行すること)をし，女どもの行く末をみてやろうと出家する。朝になって後悔した下京の女が上京を尋ね，ふたりして男をよびもどそうと相談し，念仏を唱えながら出てきた鈍太郎と交渉する。ふたりの女にくどかれてすっかりごきげんになった鈍太郎は，女たちの手車を所望し，囃物(はやしもの)をはやさせながらはいる。

女の手車に乗るあたりの軽やかなリズム感が一つの見所になるのだが，妻妾(さいしょう)を登場させるこの作品は，演出のしかたによってはいやみだけが残り，あと味の悪さを感じさせることがある。枯淡の芸の持ち主に向いた狂言といえよう。〔片桐 登〕



鈍太郎 上京の女と下京の女の和解ができ，僧形のシテがふたりの手車に乗ろうとするところ。シテは善竹忠一郎。左は上京の女で茂山千五郎。右は下京の女で善竹圭五郎が演じている



トンネル

どんちょう【緞帳】劇場における幕*の一種。左右に開閉する引き幕に対し，上下に開閉するものである。江戸時代の歌舞伎(かぶき)では，大劇場はけっして緞帳を用いず，逆に〈宮地芝居〉などの小芝居*では引き幕を許されず緞帳を用いたため，そうした小芝居のことを〈緞帳芝居〉とよんでけいべつした。近代劇はすべて緞帳を用いるので，このことばの特殊なニュアンスはなくなった。

どんつく 日本舞踊・常磐津節(ときわずぶし)の曲名。本名題《神楽諷雲井曲毬(かぐらうたくもいのきょくまり)》。1846年(弘化３)初演。〈どんつく〉は大道芸である太神楽*の太夫(たゆう)の相手をする道化役で，その陽気でこっけいな味を風俗舞踊に仕立てた作品。

とんでんせい【屯田制】中国で，軍隊の食糧確保のため，国家が兵士や農民に国有地を耕作さす一種の土地制度。普通耕作者が兵士の場合は軍屯といい，兵士が戦闘員・耕作員を兼ねる場合と，戦闘員と屯田耕作者(田卒)とがいちおう区別されている場合とがある。屯田の祖のようにいわれる漢の趙充国屯田は前者である。また応募農民に耕作さすものは民屯という。屯田制度は秦(しん)・漢以来歴代王朝が採用し，その後南北朝・隋(ずい)・唐・宋(そう)と続いたが特に大きな意義はない。明(みん)になると，商人の経営する私的な屯田(商屯)のできたことが注目される。〔米田賢次郎〕

とんでんへい【屯田兵】明治初年北海道の警備・開拓にあたった兵士。明治政府が開拓次官黒田清隆*(きよたか)の建議で，1874年(明治７)屯田兵例則を公布し，東北諸藩の士族を徴募，翌年札幌(さっぽろ)郊外の琴似村に家族とも208戸，965人が入地したのが最初。ロシアに対する北辺防備，北海道の原野開墾と治安維持，士族授産が目的であった。募兵はその後も行なわれ，1877年西南戦争に出征。1890年以後ロシアの極東進出が積極化したのに備えて陸軍省の所管に移し，さらに増員して全道要地に配置した。耕地・家屋・食糧・農具・種子など手厚い官給があったが，兵士はきびしい軍事訓練を受けつつ家族とともに広漠(こうばく)たる荒野の開墾耕作に従った。管理にあたっていた屯田事務局は，開拓使廃止後独立して屯田兵本部(のち司令部)になったが，1896年第７師団の設置に伴いこれに編入，1900年募兵を停止した。初期募兵以来7,337戸，家族を含めて40,000人に近い屯田兵が37か村に入植し，苦難の多かった北海道開拓に果たした貢献は大きい。〔高崎徳次〕

どんどやき【どんど焼き】⇨左義長

トンネル［tunnel］山岳を貫いたり，平地では地下を掘ったりして，ほぼ水平につくった通路。鉄道・道路，発電水力や灌漑(かんがい)用の水路，上水道・下水道・鉱石運搬路，電力や通信線の管理などの目的のためにつくられる。トンネルの歴史は古く，横穴式住居がはじめと考えられている。その後水路用または交通路用がつくられるようになり，18世紀の蒸気機関車の発明による交通革命以後に盛んになった。さらに最近では，都市の機能を満足せしめるため，都市内でのトンネルすなわち地下構造物の構築が要望され，そのためトンネル工法としてシールド工法*や沈埋工法*の開発，またその補助工法として圧気工法*，地下水の湧出(ゆうしゅつ)防止，圧気の抜けるのを防止するためにボーリング孔や切り羽からセメント・粘土・水ガラス・高分子材料などを注入する薬品注入などが開発された。

トンネル断面の形はトンネルに作用する岩圧や土圧からは円形またはそれに近い形としての馬蹄(ばてい)形が多く，特殊の例としては開削工法による地下鉄のような長方形断面のものがある。〔村上博智〕

トンネルくっしんき【トンネル掘進機】トンネルを能率的に掘るための機械化掘削機。坑道掘進機ともいう。一様な安定した地山の場合には人力が省けて有効な方法なので近時用いられるようになった。この機械は前面の掘削機とそのあとに続くずり出し装置がその主要部分をなしている。この機械はトンネル内の側面に足を圧着させ，トンネル内面との摩擦力によってトンネルの切り羽面に掘削機を押しつけながら掘削機を回転させて切端面の岩または土を削り取る。掘削機には岩質に適した刃形が用い

られ，掘削と並行してずりはベルトコンベヤーで後方へ送られトンネル外に搬出される。〔村上博智〕

トンネルこうか　**［**トンネル効果**］**　量子力学*的現象の一。古典力学では，あるエネルギーをもった粒子がそれよりも大きなポテンシャルの壁を乗り越えられないが，量子力学では，粒子の波動性のために少量ではあるがポテンシャルの壁を通り抜けることができる。原子核の α 崩壊*などがこの効果を用いて説明されている。

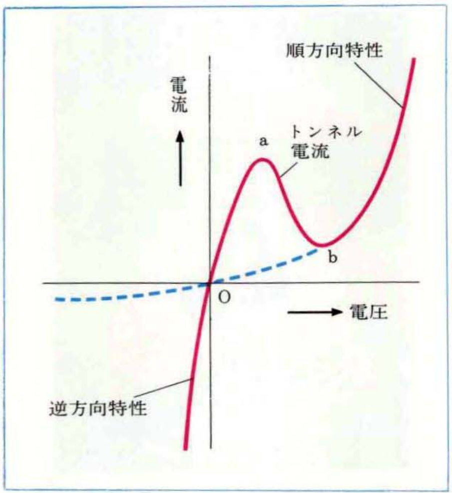
トンネルさいばい　**［**トンネル栽培**］**　野菜の栽培法の一。露地栽培の場合，冬から春の低温の期間，ビニルやポリエチレンのフィルムをトンネル状にかけて保温栽培する。一般にトンネル栽培をすると生育が進むので早く収穫することができ初春のニンジン・レタス・ホーレンソウなどはこれによるものが多い。またキュウリ・トマトを早熟栽培より早く畑に植え出し，早く出荷することがあるが，これを特にトンネル早熟栽培という。〔松本正雄〕

トンネル-ダイオード　［tunnel diode］PN接合ダイオードの一(→ダイオード)。順方向特性のほかに，トンネル効果*によって起こる負性抵抗特性をもつものをいう。不純物を多量に含んだPN接合は，図の実線のような電流-電圧特性をもつようになり，a-b部に負性抵抗が現われる。この特性は，量子力学*でいうトンネル効果に起因するもので，発見者江崎玲於奈(れおな)の名をとってエサキ-ダイオードともよばれている。この負性抵抗特性を利用してマイクロ波の発振・増幅を行なうことができるばかりでなく，高速のコンピューターの論理素子を構成することも可能である。〔伊藤糾次〕

ドンバス　⇨ドネツ炭田

ドン-ファン　［Don Juan］　ファウスト*と同様，ヨーロッパにおける伝説上の人物。1630年スペインの作家ティルソ-デ-モリーナの戯曲《セビリアの色事師と石の招客》によってはじめて文学上に定着した。ひとりの女に満足できず，次々に女を誘惑しては捨てていく刹那(せつな)的享楽主義者ドン-ファンが，ひとりの女の父親をも殺して復讐(ふくしゅう)を受けるというもので，今日では〈女たらし〉の代名詞のように使われている。その後，モリエールの《ドン-ジュアン*》をはじめ，モーツァルト・バイロンら多くの作家に扱われ，世界文芸上の一大性格として生き続けている。〔牛島信明〕

トンブクツー　［Tombouctou］　アフリカ西部，マリ共和国のほぼ中央にある都市。砂漠(さばく)を流れるニジェール川上流に臨み，古くから北アフリカ諸国の隊商がひんぱんに往来した所で，サハラ砂漠における隊商貿易の一大中心として発展してきた。第2次世界大戦後，草原を開発する目的から，フランスによってニジェール川にダムが建設された。人口8,900(1961)。



トンネル-ダイオード　トンネル-ダイオードの特性(実線)と普通のダイオードの特性(破線)との比較

とんべつこ　**［**頓別湖**］**　クッチャロ湖ともいう。北海道北部，オホーツク海海岸近くに位置する湖。面積14km²。中央でくびれて，大沼と小沼と分けてよばれている。水深は浅く，最深点が3mぐらいで，頓別川で排水してオホーツク海に注ぐ。

とんぼ　**［**蜻蛉**］**　こん虫類・蜻蛉(せいれい)目(トンボ目)の総称。成虫・幼虫ともに肉食性。成虫は完全な飛翔(ひしょう)こん虫で，2対の翅(はね)は広く大きく，けっして腹背上に重ねて折りたたまれることはない。半変態を行なう。成虫は大形ないし中形で，体は著しく細長い。現生の最大種は体長150mm，最小種では20mm内外。雌雄の大きさはほとんど差がない。頭部は胸部よりも幅広く，可動性，口器は咀嚼(そしゃく)式で強大な大顎(おおあご)をもち，触角は退化して微毛状となり，単眼は3個，複眼はきわめて発達して頭部の大部分を占める。前胸は小さく可動性，中・後胸は癒合(ゆごう)し大きな塊状となって翅胸(しきょう)とよばれ，その背板と腹板は縮小し，側板だけが著しく発達している。脚は胸部の前方に移り，歩行には適さない。翅はきわめて発達して胸部の後方に位置し，前・後翅はほとんど同形。翅は静止時は水平に左右に開かれるかまたは垂直に閉じられるものが多い。翅脈はよく発達して網状。腹部は10節からなって細長く，背板は筒形に近く，腹板は非常に小さい。雄の生殖器の開口部は腹部第9節腹板にあるが，交尾器は第2・3節腹板にあり，雌の生殖孔は腹部第8・9節両腹板の間にある。雌の産卵管はよく発達するか，または単純な生殖弁に変化している。

つねに卵生で，卵は水中(ごくまれに水上)の植物体の組織内や水底に産下される。孵化(ふか)後は，きわめて短い前幼虫期を経て真の幼虫となる。幼虫は〈やご〉とよばれ，よく発達した捕獲仮面(下唇(かしん))によって小動物を捕食する。幼虫の水中での呼吸は，直腸気管鰓(きかんさい)あるいは3個の尾鰓と体皮・直腸壁などで行なう。脚を用いて歩行し，体と尾鰓を振って泳ぎ，不均翅類では直腸内より水を急激に噴出して前進する。幼虫の生活場所は種で一定し，河川や渓流(けいりゅう)のような流水を好むもの，池沼などのたまり水を好むものなど，変化に富む。水底生活をする種は，体が扁平(へんぺい)で暗かっ色をおびたものが多いが，水草中に生活する種では緑色をおびるものが多い。幼虫は10～15回の脱皮を経て成熟し，羽化する。羽化は，一般に夜半から早朝にかけて，水中から出て近くの植物などに止まって行なわれる。羽化直後の成虫は，体が柔らかく色彩も淡いが，成熟するにつれて体皮は硬化し，鮮明な体色に変わる。

日本に産する代表的なトンボ類

亜目	科	おもな種類
均翅亜目	イトトンボ科	ホソミイトトンボ・キイトトンボ・ベニイトトンボ・アジアイトトンボ・アオモンイトトンボ・クロイトトンボ
	モノサシトンボ科	グンバイイトトンボ・モノサシトンボ
	アオイトトンボ科	オツネントンボ・アオイトトンボ
	ヤマイトトンボ科	トゲオトンボ
	ハナダカトンボ科	ハナダカトンボ
	カワトンボ科	アオハダトンボ・ハグロトンボ・カワトンボ・ミヤマカワトンボ
ムカシトンボ亜目	ムカシトンボ科	ムカシトンボ
不均翅亜目	ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ
	サナエトンボ科	ミヤマサナエ・ヤマサナエ・キイロサナエ・ダビドサナエ・ホンサナエ・アオサナエ・オナガサナエ・ウチワヤンマ
	ヤンマ科	ギンヤンマ・クロスジギンヤンマ・カトリヤンマ・オニヤンマ
	エゾトンボ科	トラフトンボ・エゾトンボ・タカネトンボ
	ヤマトンボ科	コヤマトンボ・キイロヤマトンボ
	トンボ科	シオカラトンボ・ハッチョウトンボ・ショウジョウトンボ・ナツアカネ・コシアキトンボ・チョウトンボ

未熟な個体は，雌雄とも1か月内外を摂食のために相当の距離を水辺から離れるが，成熟すると再び水域にもどる。成熟した雄は，水域でいわゆるなわ張りをつくって雌の飛来を待つことが多い。摂食活動は主として昼間行なわれるが，明方や夕方を好む種類も多い。交尾は飛翔中に行なわれ，まず雄が雌の頭部を(不均翅類)，あるいは前胸部を(均翅類)尾部の付属器でつかみ，第9腹節から精子を第2・3節(副性器ともいう)に移す(交尾前に移してあることも多い)。雌は腹部を曲げて，生殖孔をそこに接触させ，雌雄が環状となり(多くの場合このときは静止する)精子の受授を行なう。産卵は，雌が単独で行なうものと雌雄連結したまま行なうものがある。日本産のトンボ類は，1年に1回出現するものが多いが，1世代に2～3年かそれ以上(長いもので7～8年)経過すると考えられるものがある。

トンボ類は，すでに古生代の石炭紀には出現していた原始的な群で，現生の他のこん虫群とは直接的な系統関係はなく，すでに絶滅した古網翅目に由来するものと考えられている。全世界から約5,000種が知られ，特に熱帯地方に種類が多い。3亜目約20科に分類されている。日本は比較的種類が豊富で，3亜目15科に属する約150種が分布している。日本に産する代表的な種は表に示した。〔鈴木邦雄〕

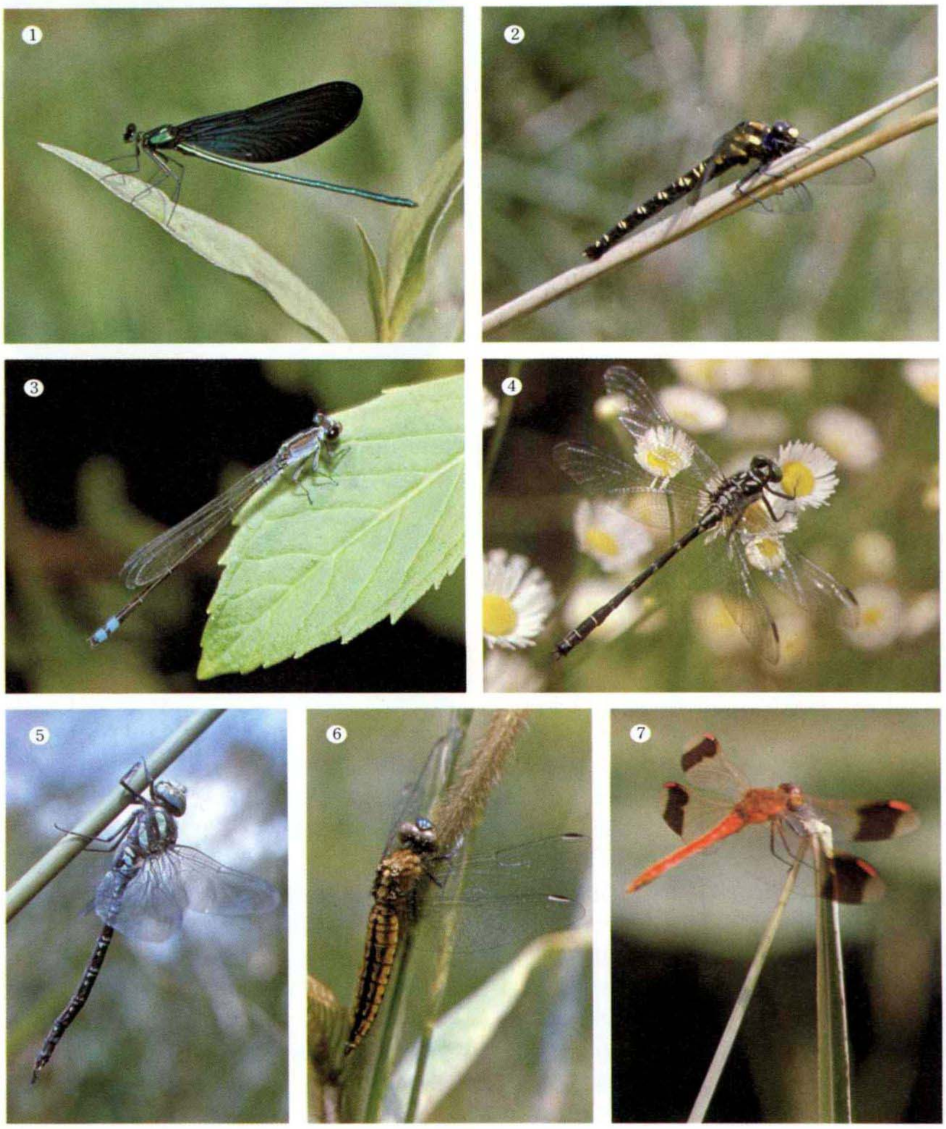
ドン-ボスコかい【ドン-ボスコ会】1859年，イタリアの司祭ドン-ボスコ(1815～1888)によって設立された修道会。一般にサレジオ会の名で知られる。イタリアを中心に特に青少年教育・貧困者援助活動で発展し，現在，世界71か国で活躍している。日本には1926年(大正15)布教された。

トンミサンボータ［Thon mi sambhota］生没年不明。7世紀前半のチベット人。トルファン王ソンツェンガンポの命でインドにおもむき，インドの文字にならってチベット文字を作成した。これによってはじめてチベット人自身の文字文化をもつようになった。

どんむせん【曇無讖】(385～433) Dharma-kṣema(ダルマークシェーマ)の音訳で，〈どんむしん〉とも読む。北涼時代にインドから中国に渡来して活躍した訳経僧。呪術(じゅじゅつ)的な霊験を現わし，国王の政治顧問の役割をも果たしたが，それがかえって疑惑をも生み暗殺されたと伝えられる。彼の訳経上の功績は大乗の《涅槃(ねはん)経》《菩薩(ぼさつ)地持経》《金光明経》などの翻訳である。中でも《涅槃経》の翻訳には異常なまでの情熱をもち，欠品(けっぽん)を求めて帰国したほどである。この翻訳は中国の涅槃*宗の形成に大きな影響を与えた。〔岡部和雄〕

どんらん【曇鸞】(476～542) 中国，南北朝時代の僧。中国浄土教の初祖。雁門(がんもん)(山西省)の人。はじめ《中論》《百論》《十二門論》《大智度論(だいちどろん)》の四論の研究者であったが，健康を害し不老長寿の方法を体得するために，ある道士を訪れた帰りに，菩提流支(ぼだいるし)から《観無量寿経》を授けられて浄土教に帰依したという。その著《往生論註》2巻はバスバンドゥ(世親)の《浄土論》の思想をナーガールジュナ(龍樹)の思想で解釈し，空の思想で浄土教を教義的に裏づけた書として重要。〔佐藤成順〕

ト ン ボ



ト ン ボ ①アオハダトンボ(カワトンボ科) ②ムカシヤンマ(ムカシヤンマ科) ③クロイトトンボ(イトトンボ科) ④ダビドサナエ(サナエトンボ科) ⑤オオルリボシヤンマ(ヤンマ科) ⑥ハラビロトンボの雌(トンボ科) ⑦ミヤマアカネ(トンボ科)

どんりゅう【呑龍】(1556～1623) 江戸初期の浄土宗の僧。号は源蓮社然誉大阿(げんれんじゃねんよだいあ)。武蔵(むさし)(埼玉県)の生まれ。14歳で出家し，増上寺第12代観智国師(かんちこくし)存応(ぞんのう)の教えを受けた。のち郷里に帰り，林西寺に住して各地を教化した。1613年(慶長18)徳川家康(いえやす)の命により，上野(こうずけ)(群馬県)太田(おおた)の大光院開山となる。彼は特に貧困者の子女の養育に尽くした。後世〈子育て呑龍〉とあがめられ，現在でも民間の信仰が盛んである。〔広川堯敏〕

トンレサップ(湖)［Tonle Sap］インドシナ半島南部，カンボジアにあり，同名の川が流出してメコン川に合流する。雨期と乾期では湖水面積が大きく異なり，雨期の面積約10,000km²が，乾期は約3,000km²に減る。水深も乾期と雨期では10m以上も異なり，メコン川下流の水量を調節する役割を果たしている。淡水魚の漁獲が豊富。北部にアンコールワットの遺跡がある。

な

ナイアガラ(滝) ［Niagara］ アメリカ合衆国ニューヨーク州西部とカナダのオンタリオ州南部の国境を流れるナイアガラ川にかかる滝。川中にあるゴート島(合衆国領)によってカナダ滝とアメリカ滝に二分される。カナダ滝は幅917m，高さ48mで，蹄鉄滝(ていてつだき)ともいわれる。アメリカ滝(正式には合衆国滝という)は幅323m，高さ51mである。周辺一帯は公園になっており，ゴート島には岸から三つの橋がかけられている。また，滝壺(たきつぼ)のところから自然にできた洞穴(どうけつ)にエレベーターが設けられており，観光客はその中にはいることができる。滝は夜間もネオンに照らし出され，みごとな光景を展開している。水量は毎秒2.7万t，1881年以来水力発電も行なわれている。〔大石堪山〕

ないえん 【内縁】 婚姻*の意思をもって同棲(どうせい)し，社会一般からも夫婦と認められる実質を備えながらも，法律上の婚姻の手続きである届け出を欠くため，法律上は婚姻と認められない婚姻関係をいう。内縁は，当初無効な婚姻予約としてなんらの婚姻効果をも認められなかったが，1915年(大正4)になって大審院*連合部は，内縁は将来適法な婚姻をする契約で，適法で有効な契約であるとし，内縁の妻を保護する画期的な判例とした。その後，内縁の法的効果はしだいに認められるようになり，社会保障関係諸立法においては，内縁を婚姻に準ずるものとして保護している(労働基本法79条・労働基準法施行規則42条・健康保険法49条・労働者災害保障法16条2項)。しかし，親族関係の創設的効力は認められず，相続権も認められていない。また，内縁関係に生まれた子は嫡出子*とならないし，氏の変更もない。内縁の解消にあたっても財産分与の請求権が確定されていない。もっとも相続は，相続人のない場合に遺産の分与の請求ができ(民法958条3項)，また借家権に関しても，相続人がない場合にはその権利を承継できるようになった(借家法7条2項)。〔黒木三郎〕

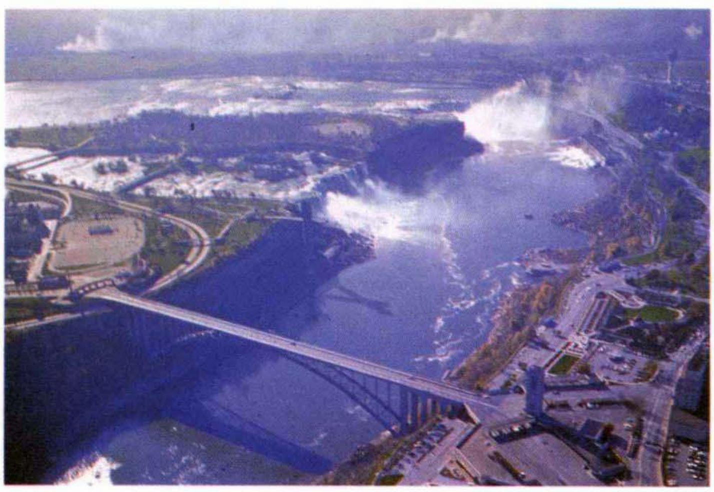
ないか 【内科】 臨床医学の一分科。脳神経系・呼吸循環器系・消化器系・泌尿器系・内分泌代謝系，および血液・運動器・結合織，その他これに付随する内臓各器官，あるいは全身にわたる機能障害によってひき起こされる病気を取り扱い，外科的手術以外の方法で，特に薬物療法*・食餌(しょくじ)療法*によって治療しようとするもの。このようなものを対象とする学問を内科学という。内科学の多岐にわたる発展のため最近はこれまで内科一般として扱われてきた分野も，臨床的に細分化・専門化される傾向にある。〔佐野隆志〕

ないかく 【内角】 多角形の隣合う2辺が多角形の内部につくる角。n角形のn個の内角の和は$(2n-4)$直角で，正n角形の一つの内角の大きさは$\left(2-\frac{4}{n}\right)$直角である。

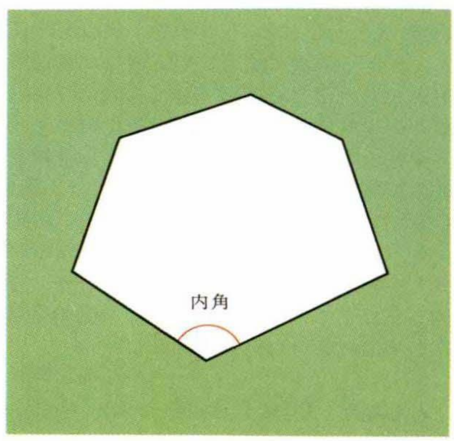
ないかく 【内閣】 内閣は，本来これが形成されたイギリスの史的事情から，首相を中心として組織され，連帯して国会*に責任を負う合議体であり，みずから行政権の最高機関であるとともに，立法権と行政権との協力を媒介しているものを意味した。しかし今日ではふつう，主要な国家の国政機構において，行政権の最高機関をさす語として使われている。

現代主要国家の執行権・行政権の制度は，イギリス・西ドイツ・イタリア・日本などの議院内閣制*，アメリカ・フランス型の大統領制*，およびソ連その他人民民主主義諸国のソビエト制ないし人民議会制・幹部会制に分けられる。

〔イギリス〕イギリスの内閣は，議会で多数を占める政党*(原則として一政党)の指導者たちによって組織され，議会の信任の続くかぎり存立するものとされる。現実の政治では，この多数党を基盤とすることによって，また多数党の指導者が首相以下の大臣たることによって，法律案の提出，議会の議事日程の決定，外交問題の処理，軍隊



ナイアガラ滝
白い水しぶきをあげるナイアガラ滝。中央のゴート島をはさんで左がアメリカ滝，右がカナダ滝で，カナダ側には展望塔が立っている



内　角

歴代内閣一覧

注）臨時兼任・臨時代理は省く

総理大臣	所属		任期	総理大臣	所属		任期
伊藤博文 1	文官		1885. 12. 22～1888. 4. 30	近衛文麿 1	文官		1937. 6. 4～1939. 1. 5
黒田清隆	陸軍		1888. 4. 30～1889. 10. 25	平沼騏一郎	文官		1939. 1. 5～1939. 8. 30
山県有朋 1	陸軍		1889. 12. 24～1891. 5. 6	阿部信行	陸軍		1939. 8. 30～1940. 1. 16
松方正義 1	文官		1891. 5. 6～1892. 8. 8	米内光政	海軍		1940. 1. 16～1940. 7. 22
伊藤博文 2	文官		1892. 8. 8～1896. 8. 31	近衛文麿 2	文官		1940. 7. 22～1941. 7. 18
松方正義 2	文官		1896. 9. 18～1898. 1. 12	近衛文麿 3	文官		1941. 7. 18～1941. 10. 18
伊藤博文 3	文官		1898. 1. 12～1898. 6. 30	東条英機	陸軍		1941. 10. 18～1944. 7. 22
大隈重信 1	文官	憲政党	1898. 6. 30～1898. 11. 8	小磯国昭	陸軍		1944. 7. 22～1945. 4. 7
山県有朋 2	陸軍		1898. 11. 8～1900. 10. 19	鈴木貫太郎	海軍		1945. 4. 7～1945. 8. 17
伊藤博文 4	文官	立憲政友会	1900. 10. 19～1901. 5. 10	東久邇稔彦	皇族		1945. 8. 17～1945. 10. 9
桂太郎 1	陸軍		1901. 6. 2～1906. 1. 7	幣原喜重郎	文官		1945. 10. 9～1946. 5. 22
西園寺公望 1	文官		1906. 1. 7～1908. 7. 14	吉田茂 1	文官	自由党	1946. 5. 22～1947. 5. 24
桂太郎 2	陸軍		1908. 7. 14～1911. 8. 30	片山哲		日本社会党	1947. 5. 24～1948. 3. 10
西園寺公望 2	文官		1911. 8. 30～1912. 12. 21	芦田均		民主党	1948. 3. 10～1948. 10. 15
桂太郎 3	陸軍		1912. 12. 21～1913. 2. 20	吉田茂 2		自由党	1948. 10. 15～1949. 2. 16
山本権兵衛 1	海軍		1913. 2. 20～1914. 4. 16	吉田茂 3		自由党	1949. 2. 16～1952. 10. 30
大隈重信 2	文官		1914. 4. 16～1916. 10. 9	吉田茂 4		自由党	1952. 10. 30～1953. 5. 21
寺内正毅	陸軍		1916. 10. 9～1918. 9. 29	吉田茂 5		自由党	1953. 5. 21～1954. 12. 10
原敬	文官	立憲政友会	1918. 9. 29～1921. 11. 4	鳩山一郎 1		日本民主党	1954. 12. 10～1955. 3. 19
高橋是清	文官		1921. 11. 13～1922. 6. 12	鳩山一郎 2		日本民主党	1955. 3. 19～1955. 11. 22
加藤友三郎	海軍		1922. 6. 12～1923. 8. 25	鳩山一郎 3		日本民主党	1955. 11. 22～1956. 12. 23
山本権兵衛 2	海軍		1923. 9. 2～1924. 1. 7	石橋湛山		自由民主党	1956. 12. 23～1957. 2. 25
清浦奎吾	文官		1924. 1. 7～1924. 6. 11	岸信介 1		自由民主党	1957. 2. 25～1958. 6. 12
加藤高明 1	文官	憲政会 立憲政友会 革新倶楽部	1924. 6. 11～1925. 8. 2	岸信介 2		自由民主党	1958. 6. 12～1960. 7. 19
加藤高明 2	文官	憲政会	1925. 8. 2～1926. 1. 28	池田勇人 1		自由民主党	1960. 7. 19～1960. 12. 8
若槻礼次郎 1	文官	憲政会	1926. 1. 30～1927. 4. 20	池田勇人 2		自由民主党	1960. 12. 8～1963. 12. 9
田中義一	陸軍	立憲政友会	1927. 4. 20～1929. 7. 2	池田勇人 3		自由民主党	1963. 12. 9～1964. 11. 9
浜口雄幸	文官	立憲民政党	1929. 7. 2～1931. 4. 14	佐藤栄作 1		自由民主党	1964. 11. 9～1967. 2. 17
若槻礼次郎 2	文官	立憲民政党	1931. 4. 14～1931. 12. 13	佐藤栄作 2		自由民主党	1967. 2. 17～1970. 1. 14
犬養毅	文官	立憲政友会	1931. 12. 13～1932. 5. 16	佐藤栄作 3		自由民主党	1970. 1. 14～1972. 7. 6
斎藤実	海軍		1932. 5. 26～1934. 7. 8	田中角栄 1		自由民主党	1972. 7. 7～1972. 12. 22
岡田啓介	海軍		1934. 7. 8～1936. 3. 9	田中角栄 2		自由民主党	1972. 12. 22～1974. 12. 9
広田弘毅	文官		1936. 3. 9～1937. 2. 2	三木武夫		自由民主党	1974. 12. 9～1976. 12. 24
林銑十郎	陸軍		1937. 2. 2～1937. 6. 4	福田赳夫		自由民主党	1976. 12. 24～**1978. 12. 7**

の指揮，財政その他いっさいの施策の立案・執行，行政各部の監督など，国政の主要な領域において，内閣はつねに指導的役割を演じている。内閣について，イギリスの憲法的原則は，①政治的主権者である選挙民(国民)の意思・動向につねに細心の考慮を払い，反対党に対しては十分に批判・討議の機会を与えて，その主張に耳を傾ける寛容をもつこと，②自己の施策に対しては深い責任感をもち，公約の完全な実行，また重要な政策を新たに実行するときは，できるかぎり国民の意思を問うために進んで下院を解散し，総選挙に訴えて新たな信任を国民から得るよう努力すること，③万一総選挙において破れた場合は，ただちに総辞職することなどである。内閣は，首相を中心として，約17～18名の大臣によって組織される。各省をはじめ主要な行政官庁の長官を兼ねた大臣のほか，いわゆる無任所大臣も加えられ，これらの大臣の会議がいわゆる閣議であり，閣議に出席する大臣たちを総称して内閣といっている。イギリスでは，日本やフランスの場合と違って，このほか閣議に出席しない大臣が，ほぼ80～85名ぐらい任命される。主要な行政各部を所管するが，内閣の連帯責任はこれらの大臣にも及ぶ。前者がキャビネットとよばれるのに対し，後者はミニストリーとよばれる。行政事務の拡大は，現代国家の必然的傾向だが，特に主要産業の国有化，国家による社会保障・福祉活動の増大はイギリスにおいて著しく，これらに応じて，多くの内閣委員会が構成されるため，イギリス内閣は閣議みずからがすべての行政事務の根本を定めるとか，直接指揮監督するとかよりも，これら委員会の指揮・調整を主とする傾向にある。

〔フランス〕フランスの内閣制度も，第四共和制までは議院内閣制に数えられるが，ドゴール*大統領のもとでの憲法改正(1958)以後は，むしろアメリカ型に近くなった。ここでは，大統領は首相を任命し，閣議を統裁し，実質上内閣は首相よりも大統領の支配するもので，しかも大統領は国民議会*を解散する権限，重要議案を国民投票*に付する権限をもっている。新憲法制定以後，それまでの大臣会議は政府とよばれ，国会に対して連帯責任を負う。この点がアメリカの場合と異なるが，内閣が大統領の補佐機関的な点ではアメリカのそれと同じである。議会は，政府を不信任案によって倒すことができる。

〔西ドイツ〕1949年のドイツ連邦共和国基本法(ボン憲法)では，首相(宰相といわれる)は，大統領の提案に基づいて連邦議会で選出され，大統領によって任命され，4年間はその職を保つ。議会が政府に対し不信任を表明する場合には，宰相の後継者を選挙したうえで大統領に宰相解任の請求をする。イギリスとは違って，不信任案による内閣打倒は容易ではない。宰相の権限は大きく，合議体としての内閣というよりは，むしろ宰相の指導する行政機関といえよう。また大臣は，イギリスと違って，議員でない者が多い。したがって多数党で構成されている議会の力は弱く，宰相の独裁的傾向が強くなる。

〔アメリカ〕行政権は大統領に属し，大統領は独任制機関であって，フランス・西ドイツにおける首相のように，閣議を通して職権を行なうのではない。アメリカの内閣は各省長官および主要な大統領の機関の長官が参加し，毎週定期的に会議を開き，各機関相互の調整や政策立案など，重要な役割を果たしているが，それはあくまでも大統領に助言する機関であるにとどまる。内閣はなんら法的な地位も権限ももたない。またアメリカ憲法の権力分立制(→三権分立)は，大統領はじめ各省長官が議員であることを禁じ，議会に出席し発言することも認めていないので(長官は議会の公聴会

で公述する場合だけ直接議会で発言できる），議会に対する内閣の連帯責任は最初から問題とならず，個々の長官が大統領に対してその責任を負うのであって，合議体としての政治的責任制は存在しない。同時に大統領は，議会を解散することもできないし，予算・法律案の提案権もなく，立法・行政についても，単に教書を通じて希望を述べるか，立法上の停止的拒否権を行使するにとどまる。条約の締結については，上院の助言と同意とを要する。しかしながら全国民による公選という背景，任期の存続，また政党の支持，それになによりも積極国家・福祉国家の機能の増大に伴う行政権の拡大は，その行政権を一身に表現する大統領の実際上の地位を高め，また国際政治におけるアメリカの支配的役割が，大統領の統帥権・行政協定締結権，その他一般外交処理権をいっそう強力に発揮せしめ，その指導的役割を大きいものにしている。

【ソ連】ソ連における国民代表機関は，最高会議であり，国権の最高機関であるとともに唯一の立法機関とされ，これに対して最高の執行・処分機関は，閣僚会議である。閣僚会議は各省大臣によって構成され，最高会議が専任し，閣僚会議は最高会議に対して責めに任じ，これに報告する義務を負う。このほか，ソビエト制では，欧米議会制にみられない最高会議の幹部会がある。それは最高会議によって選出され，これに対して責任を負い，最高会議の閉会中は，代わって職権を行なう。したがってまた閣僚会議に対しても監督権をもち，閣僚会議の命令および決定で，憲法や法律に違反するものを調整もしくは変更できる。幹部会はまた布令を公布する。そのほか外国の大公使を授受し，官吏を任命する。この幹部会は，〈合議体の大統領〉であるといわれ，幹部会の議長は他国の大統領とも比べられるが，あらゆる領域にわたって相当広大な権限をもっている。実際の行政権の上で，閣僚会議と幹部会の，いずれが有力であるかは明らかではないが，憲法制度としては，諸国の内閣に対応するものは閣僚会議であり，ただソビエト制の特質として，最高会議幹部会がつねに国権の最高機関である地位から，これを監督する体制であると解してよいであろう。

【日本】1885年（明治18）に，旧来の太政官（だじょうかん）制を廃止して創設された日本の内閣制は，ドイツ・プロイセン型の内閣制を範としたものであり，残存する絶対主義的君権の統治の官府，天皇による任命，天皇に対する責任を原則とするものであった。明治年間（1868～1911）資本主義の発達，政党政治の展開によって一時イギリス型の内閣に近づいたが，満州事変以後これがおさえられた。今日の日本の内閣制は日本国憲法の制定とともに，ほぼイギリス型の議院内閣制が確立されたといえる。〔鈴木安蔵〕

ないかくかんぼう【内閣官房】内閣に置かれる補助機関。閣議の重要事項，内閣の庶務，行政各部の施策に関する総合調整などをおもな業務とする。内閣官房長官を長とし，内閣参事官・審議官・調査官などが置かれる。長官は内閣の政務に参画する特別職で，国会議員・国務大臣を兼ねることができる。

ないかくそうりだいじん【内閣総理大臣】総理大臣・首相などと通称される。内閣を代表する首長であり，行政各部を指揮監督する権限を有し，みずからも総理府の長である国務大臣。内閣総理大臣は，文民である国会議員の中から，国会の議決によって指名され，これに基づいて天皇が任命する。日本国憲法のもとではその権限はきわめて大きい。すなわち内閣の代表者として議案を国会へ提出し，一般国務と外交の報告をし，行政各部を指揮監督し，法律と政令に連署する。また憲法上，内閣の首長として，国務大臣の任免権を有し，閣議を主宰し，自衛隊の最高指揮監督権を有する。また国と地方との関係では，国を代表し，行政権を代表する。明治憲法時代では〈同輩中の首席〉といわれた地位とは異なって，現在の日本においては，強大な権限を集中的に保持している。〔影山日出哉〕

ないかん【内官】⇨外官

ナイキ［nike］アメリカの地対空誘導弾。アジャックスとハーキュリーズなどがある。アジャックスは日本の自衛隊も使用しているが，最大速度マッハ2.2で旧式化が著しい。ハーキュリーズはアジャックスのブースターを4基まとめたもので核弾頭装備も可能，マッハ4。アメリカ本土や沖縄に配置され，日本でも製造されている。双方とも無線誘導方式。

ないごう【内合】内惑星（水星・金星）が，太陽・惑星・地球の順に一直線上に並ぶ現象。このとき内惑星は地球から最も近く，太陽光を受けない暗い部分を向ける。内惑星の軌道面と黄道面の交点付近で内合が起これば，内惑星が太陽面を通過する現象がみられる。➔外合

ないこうどうぶつ【内肛動物】⇨曲形動物

ないこくかんぎょうはくらんかい【内国勧業博覧会】明治政府が殖産興業政策の一環として開催した博覧会。1877年（明治10）東京上野公園で第1回を開き，1902年大盛況を示した大阪の第5回博覧会で終了した。明治期の近代産業育成に大きな役割を果たした。

ないこくみんたいぐう【内国民待遇】税金・契約・裁判・財産権，および法人への参加などの事業活動に関して，外国人に自国民と平等・無差別の待遇を与えること。自国民待遇ともいう。通商航海条約などでこの待遇が定められ，これについて規定した条項を内国民待遇条款という。➔最恵国待遇

ないし【内侍】令制（りょうせい）の後宮十二司の一つである内侍司（ないしのつかさ）の女官。尚侍（ないしのかみ）・典侍（ないしのすけ）・掌侍（ないしのじょう）をいい，のちもっぱら掌侍のことをいった。令制では，掌侍は奏請・伝宣すなわち詔勅・奏言の取り次ぎを聴されなかったが，尚侍・典侍で天子の枕席（ちんせき）に侍する者が多くなると奏請・伝宣を行ない，内侍宣を出すようになった。

ないじ【内耳】側頭骨の中にある複雑な管状の器官で，聴覚器の主要部である蝸牛（かぎゅう）と，平衡感覚に関係する前庭器官を含む。骨迷路と膜迷路からなり，骨迷路の中にそれと同じ形をした膜迷路があって，両者の間の広い腔（こう）は外リンパで満たされている。蝸牛は長さ約3cmの骨の管が，2.5回ほど巻いてかたつむりの殻（から）のような形をしている。その内部が蝸牛らせん管で，内腔は前庭階と鼓室階に分かれて蝸牛孔で交通し，前庭階は前庭窓，鼓室階は蝸牛窓を介して中耳と境している。蝸牛管は膜迷路の一部で，前庭階と鼓室階の間にあるらせん状の細い管であり，中に内リンパを満たしている。断面はほぼ三角形をしており，その下壁となる部分（蝸牛底）の壁にあるコルチ器官が，ほんとうの意味での音受容器である。

膜迷路の中で平衡感覚に関係する前庭器官は，球形嚢（のう）・卵形嚢および半規管からなっている。球形嚢と卵形嚢は骨迷路の前庭の中に，また半規管は骨半規管の中にある。これら膜迷路の内腔は内リンパで満たされている。球形嚢と卵形嚢の内壁の一部は，平衡斑（はん）とよばれる肥厚部をなし，平衡斑の表面には，平衡砂膜とよばれるゼラチン様物質でできた膜がおおいかぶさり，この膜の中に平衡砂とよぶ炭酸石灰とリン酸石灰を含んだ小さな粒が多数存在する。平衡斑は頭の位置と直進運動の加速度を感じるものである。平衡砂は内リンパより比重が大きいためつねに平衡斑に圧力を加えている。そのため，頭が傾いたり直進運動をすると圧力の方向に変化を生じ，前庭神経に求心性刺激を発生させる。半規管は頭の回転運動を感知する。➔耳

〔幡井勉・橋本長〕

ナイジェリア（連邦共和国）［Federal Republic of Nigeria］アフリカ西部，ギニア湾に臨む独立国。面積は92万3,768 km²でギニア湾岸諸国中，最大の国土を有している。人口7,460万（1979年推）。首都ラゴス。

【自然・住民】ギニア湾岸は沼沢地が多く，無人のマングローブ林地帯で，その内側には熱帯の密林，さらにその奥には広大な熱帯草原が展開する。地形的にも内陸に向かうとともに低い高原に移行し，最北部のニジェール共和国との国境付近では砂漠（さばく）になる。国土の中西部をニジェール川が南

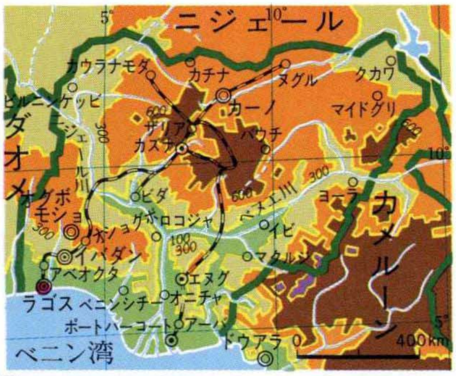
流し，ベヌエ川と合流してギニア湾に注ぐ。住民はニグロ系部族のハウサ族（1,357万），イボ族（777万），ヨルバ族（1,290万）などの3部族が最も多く，その他約250の部族，ヨーロッパ系住民とからなり，アフリカで6,000万をこえる人口を有する国は，ナイジェリアだけである。

〔産業・経済〕大動脈をなすニジェール川は乾雨期の水位差が大きいため，農業にも交通にもあまり恩恵を与えていない。主産業は農業で，落花生は重要な農産品であり，カカオはガーナに次ぐ産地である。その他，やし油・綿・木材・天然ゴムが生産されている。量は多くないが，スズ・石炭・石油などの産もある。イバダンはこの国最大の人口を有し，産物の集散地として発展し，首都ラゴスはその外港として開け，農産物を輸出している。

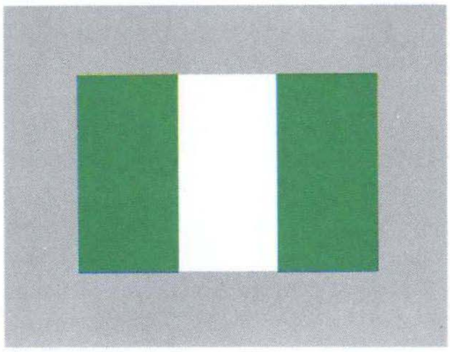
〔歴史・政治〕今日の国土が一つの政治単位となったのは，1914年イギリスがここの植民地と保護領をまとめて統治しはじめてからである。しかし部族間の対立が激しく，特にハウサは北部，イボは東部，ヨルバは西部の地区でそれぞれ勢力をもち，1960年にイギリス連邦内の共和国として独立して，1963年連邦制をとった。部族間の対立は独立後も続き，州制の改編に反対したイボ族は，1967年東部州をビアフラ共和国として独立宣言を一方的に行ない，そのため内戦となったが，ビアフラ共和国（東部州）住民が飢餓状態に追い込まれて1970年降伏した。〔小栗　宏〕

ないじえん　【内耳炎】　内耳*に炎症の起こった状態。ときには致命的となる場合もある。病理学的変化の状態により，漿液（しょうえき）性内耳炎（非化膿（かのう）性）と化膿性内耳炎に分けられるが，この間の移行型や，組織病変の性状による分類，および炎症が起こっている部位別による分類もある。一般に音の感受性機能障害である感音性難聴（→難聴）が起こり，高度の場合はつんぼとなる。中耳*腔（こう）に卵円窓・正円窓という連絡口があるため，中耳炎*からの炎症の波及が原因となって発症する場合が最も多いが，ときには中耳炎のための骨病変や外傷によって，中耳と迷路間の瘻孔（ろうこう）からの直接感染によっても起こる。回転性の平衡感覚*障害として眩暈（めまい）が必発し，嘔気（おうき）・嘔吐も伴い，病変が高度のものほど激しい。さらに眼球が無意識に律動的に動く眼球振盪（しんとう）という症状など，いくつかの平衡障害症状も現われる。治療は，症状の軽い場合は強力な化学療法で治癒（ちゆ）するが，重篤な場合や髄膜炎を併発している場合は，内耳摘出術が必要である。〔笠原行喜〕

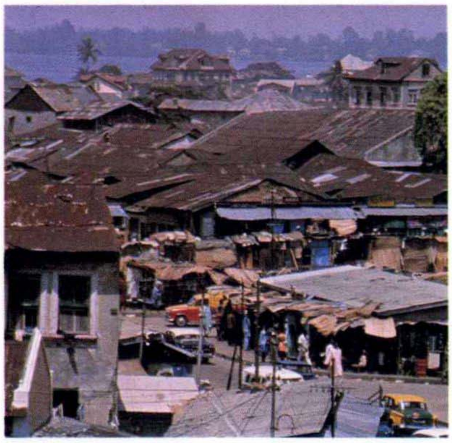
ないしきょう　【内視鏡】　身体の開口部に直接金属管を挿入（そうにゅう）して，内部を観察するための器具。先端に小電球がついている。現在，食道・胃・腸管などの消化器をはじめ，気管などの疾患や子宮頸癌（けいがん）の診断に用いられている。胃の内視鏡としては胃カメラ*やガストロファイバーカメラがある。近年これにさらに胃生検*用の装置が取り付けられたものがあり，ますますその適用範囲は広がっている。内視鏡にはそのほか，気管支鏡・膣鏡（ちつきょう）・膀胱鏡（ぼうこうきょう）・腹腔鏡（ふくこうきょう）などがあり，さらに食道・大腸・気管支用などのファイバースコープ*がある。〔佐野隆志〕



300万人以上の都市　回 100～300万人の都市　◎50～100万人の都市　◎ 10～50万人の都市　⊙5～10万人の都市　○5万人未満の都市　●首府　#油田



ナイジェリアの国旗　1959年，公募作品2,870点中から選ばれたもので，当時22歳のロンドン大学留学生アキンクンミのデザイン。緑は農産物の豊かさ，白は平和を表わす



ナイジェリア　首都ラゴスの裏町。都心部の近代化は進んでいるが，原住民の多い裏町には朽ちたトタン屋根の貧しい家が多い

ないしゅうだん・がいしゅうだん　【内集団・外集団】　アメリカの社会学者サムナー*によって提唱された集団概念。内集団は，類似性の認知または同類意識によって個人がみずからをそれと同一視している集団で，〈われわれ集団〉ともいう。外集団は，個人がそれに所属感をもたず，〈他人〉または〈彼ら〉として対象化して感じる集団で，〈他人集団〉〈彼ら集団〉ともよばれる。したがって両集団に対する個人の態度は，内集団に対しては愛着・忠誠として示されるが，外集団に対しては敵意・侮蔑（ぶべつ），ときには無関心・好意などの広範な態度として現われる。両者は同一状況において相関的に生じる場合が多く，集団偏見や社会的差別の源泉となりうることは，経営者と労働組合の間における互いの敵対意識，ナチスのユダヤ人に対する排斥的な態度などの例によくうかがわれる。〔藤見純子〕

ないしゅっけつ　【内出血】　血液が体外に流出する外出血に対する語で，外傷や血液・血管などの病気によって，組織内または体腔（たいこう）内に非解放性の出血を起こすこと。動脈からの内出血は搏動（はくどう）性で多くは皮下や臓器内に血腫*（けっしゅ）をつくり，出血も多量であるが，静脈から皮下組織への内出血は自然に止血する場合が多い。原疾患の症状のほか，血圧降下・虚脱・冷や汗などの症状ももち，治療は止血をしたり，安静にして吸収を待つことが重要である。なお，血腫をつくった場合や，脳や腎臓（じんぞう）などの重要臓器に毛細血管や極小血管からにじみ出るような場合は，手術を必要とすることもある。〔佐野隆志〕

ないしょく　【内職】　主婦・老人などの世帯主以外の家族が，世帯の本業とは別に家計補助のために家事のあいまに家内労働に従事すること。現実には広義に解釈され，その範囲も広い。一般には，世帯主が家内において専門的に労働に従事していることを専業，世帯主が専業のあいまに労働に従事することを副業というのに対し，世帯主以外の家族が自宅で従事する出来高払い*の賃仕事を内職とよんでいる。一般には雇用労働者とは認められず，労働基準法その他の労働保護立法の対象とならない。現在，全国でおよそ150万人，東京都で50万人が内職をしているといわれている。〔斎藤昌男〕

ないじん　【内陣】　神社の殿内や仏寺の堂内において，御霊代（みたましろ）や本尊を安置する部分の空間をいい，その外の空間を外陣という。

ないしんしょ　【内申書】　上級学校進学あるいは転学などのために，出身校から進学校・転学校に提出する報告書の総称。調査書・報告書・成績証明書など形式は一定しないが，いずれも〈指導要録〉を基礎にした学業成績・身体状況・日常行動などが記載されている。入学試験準備から起こる弊害を防ぐために，選抜資料として重視しようという傾向がある。

ないすいめんぎょぎょう　**【内水面漁業】**　湖・沼・河川などで営まれる漁業。一般に規模は小さく，霞ケ浦(かすみがうら)の風打た瀬網(→打た瀬網)や魞(えり)漁業，石狩川のサケ漁業などのほか，ウナギやマス養殖漁業などがそのおもなものである。1年のうち一定日数以上採捕や養殖に従事する者で，内水面漁業協同組合も組織され，漁業権も保有している。

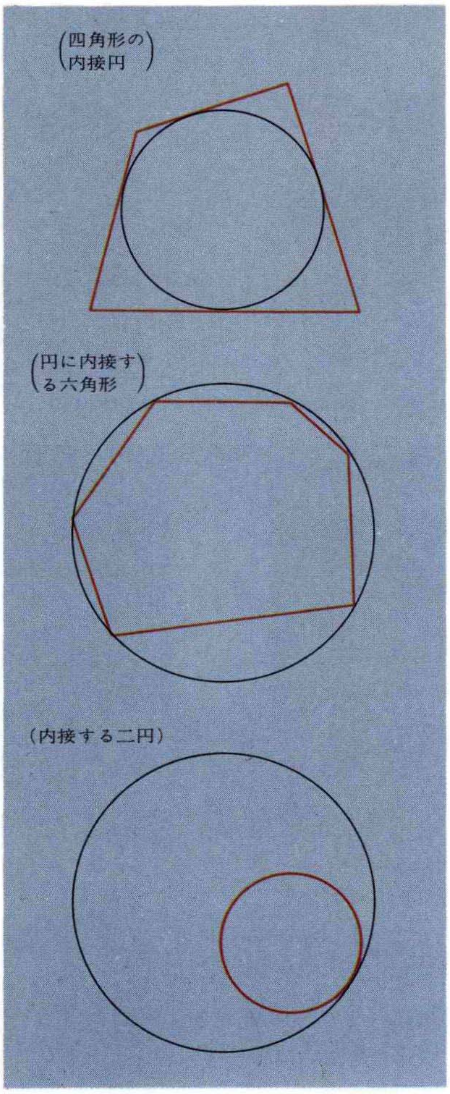
ないせつ　**【内接】**　多角形のすべての辺に接する円が存在するとき，その円は多角形に内接するといい，その円を内接円という。また，ある多角形の各頂点が一つの円の円周上にあるとき，その多角形は円に内接するという。さらに，一つの円が他の円の内部にあって，1点だけを共有するとき，この二つの円は内接するという。多面体に内接する球，球に内接する多面体，二つの球の内接についても，同様に定義される。

ないぞう　**【内臓】**　体腔(たいこう)内に収められている諸器官の総称。消化呼吸系と泌尿生殖系を主体とし，いわゆる内臓学では心臓・脾臓(ひぞう)は血管系，脳は神経系として区別している。漿膜(しょうまく)に包まれて多くは間膜で懸垂し，胃や腸などのように内部に腔をつくる中空性器官と，肝臓や腎臓などのように充実している実質性器官とに分類される。

ナイター　野球の夜間試合。わが国でつくられたことばで，英語ではナイト-ゲームという。アメリカではじめてナイト-ゲームが行なわれたのは1880年で，大リーグ最初のナイト-ゲームは，1935年5月25日シンシナチのクロスレー球場で，シンシナチ-レッズとフィラデルフィア-フィリーズとで行なわれた。わが国のプロ野球では，1948年(昭和23)8月17日横浜ゲーリッグ球場で行なわれた読売ジャイアンツ対中日ドラゴンスの試合が最初である。　〔鈴木美嶺〕

ないだいじん　**【内大臣】**　令外官(りょうげのかん)。太政(だじょう)大臣・左右大臣に次ぐ重職。内府ともいう。669年(天智8)藤原鎌足(かまたり)が死の直前に内大臣となったのが最初。777年(宝亀8)藤原良継が任ぜられてより断続的に任命されたことがあり，989年(永祚1)藤原道隆(みちたか)以降常置の職となった。明治時代以降は宮中にあって天皇を補佐する官とされ，大正時代以降は元老の比重の減少に伴い役割を増大し，昭和時代にはいって天皇の重要な諮問機関となったが，第2次世界大戦後廃止された。〔黛　弘道〕

ないたがし　**【名板貸】**　第三者に自分の氏名または商号を使って営業することを許諾すること。世間によく知られている商号をもって現に営業している者が，他人にその商号を使って同一の営業をすることを許したり，営業免許をもっている者が，無免許者に名義を貸す場合などに用いられる。このような場合，取引の相手方が名義貸付者(名板貸人)を営業主と誤信して取引することも起こりうるので，この取引を行なった第三者の信頼を保護するため，名板貸人は，その取引によって生じた債務については，営業者(名義を借りた者)と連帯して債務の弁済をしなければならないことになっている(商法23条)。　〔松本治雄〕



内　接



ナイター　野球ファンにとって真夏の夜のオアシスであるナイター。伝統的な巨人-阪神戦に沸く，287万燭光を誇る後楽園球場の観衆

ナイチンゲール　[nightingale]　鳥類・ヒタキ科。鳴き声が美しく，ヨーロッパでは非常に親しまれている小鳥。カルパート山脈の西側のヨーロッパ大陸にはナイチンゲールが，東側の東経90°付近までは非常に近縁のスラッシュ-ナイチンゲールが分布する。大きさはシジュウカラより一まわり大形。両種とも非常にじみな羽色で，背面はかっ色，下面は淡かっ色で，前種では尾が栗色(くりいろ)，後種はかっ色。平地の低木林ややぶに生息し，美しい声で日中も夜もさえずる。　〔安部直哉〕

ナイチンゲール　[Florence Nightingale]　(1820〜1910)　イギリスの看護婦。ドイツで看護学を修め，ロンドン・パリなどの病院に勤務した。1854年にクリミア戦争が起こると，現地の野戦病院長として敵味方の分け隔てなく傷病者を看護し，その精神は国際赤十字社に引き継がれた。看護学校を設立するとともに，衛生思想の普及などに尽くし，著書《看護のために》は看護法や看護婦養成の手引きとして各国語に訳されている。　〔松下京子〕

ナイト　⇨騎士

ナイドゥ　[Sarojini Naidu]　(1879〜1949)　インドの女流詩人・社会運動家・政治家。ベンガルのバラモンの家に生まれ，イギリスの大学に学び，英語およびベンガル語の詩作が多い。社会・宗教・教育・婦人問題に関心が深く，1925年インド国民会議の議長となり，ガンジーとともに政治に活躍した。

ないとうこなん　**【内藤湖南】**　(1866〜1934)　東洋史学者。本名虎次郎(とらじろう)。湖南は号。秋田県出身。県立秋田師範学校卒業後，上京して，雑誌《日本人》《亜細亜(あじあ)》の編集に従事，のち《大阪朝日新聞》の記者として活躍した。1899年(明治32)中国に渡って中国研究に力を注ぎ，1907年京都大学に東洋史学講座が開設されたとき招かれて教授となった。中国発展史に独自の見解をもち内藤史学といわれた。著書に《中国近世史》《支那(しな)史学史》などがある。　〔岸野淳子〕

ないとうじょうそう　**【内藤丈草】**　⇨丈草

ないとうめいせつ　**【内藤鳴雪】**　(1847〜1926)　俳人。本名素行(もとゆき)。江戸の生まれ。正岡子規に俳句を学び，和漢の古典に通じて，作風は古典的で高雅平明であった。子規没後は，新傾向俳句に対して保守的態度を守り，日本派の長老として活躍。《鳴雪句集》《鳴雪俳句集》《鳴雪俳話》などがある。

ナイトロジェン-マスタード　[nitrogen mustard]　$CH_3N(CH_2CH_2Cl)_2$，2,2′-ジクロル-N-メチルジエチルアミンの別名。第2次世界大戦中に開発された毒ガス。ジエタノールアミンのN-メチル置換体を塩化チオニルで塩素化すると得られる。イペリットに似ているが，やや緩和で持続的であ

る。突然変異誘導作用があるので戦後は薬剤として用いられ，また細胞分裂を抑制する作用からリンパ肉腫(にくしゅ)・リンパ肉芽腫・白血病などの治療にも用いられるようになった。　〔石戸良治・荒木洋之助〕

ないねんきかん　【内燃機関】　熱機関*の一種。機関の内部で燃料の燃焼によって生じた高温・高圧のガスを，直接ピストンやタービンに作動させて仕事を得る機械。広義にはガスタービン*やジェット機関も含むが，普通には往復動機関*とロータリー機関*をいう。

燃料の点火方式によって，火花点火機関*とディーゼル機関*とに分けられる。前者は燃料と空気の混合気を，電気火花などによって点火燃焼させる方式であり，後者は圧縮した空気の熱によって燃料を自己着火させる方式である。また焼き玉機関*はその中間である。燃料の種類によって，ガス機関*，ガソリン機関*，石油機関*，軽・重油機関などに分けることもある。同時に2種の燃料を用いるものにガスディーゼル機関がある。これは，天然ガスあるいは他の石油ガスを空気といっしょに吸入して圧縮することではガス機関と同じであるが，点火はシリンダー内に少量噴射した軽油または重油の圧縮着火によって行なうので，ディーゼル機関の一種である。このほか，比較的広い範囲の燃料を使用しうるヘッセルマン機関*もある。

作動原理の上では4サイクル機関と2サイクル機関に分けられる。①4サイクル機関：ピストンの4行程(1行程はピストンの上死点から下死点へ，またはその逆の運動)で1サイクルを行なう機関で，クランク軸の2回転が1サイクルとなり，この間に1回爆発する。シリンダーヘッドは吸気弁と排気弁をもち，吸気行程で吸気弁を開き，これを通して空気または燃料混合気を吸入する。次いでピストンは上昇してガスを圧縮し(圧縮行程)，上死点において点火燃焼させる。次いで燃焼ガスは膨張してピストンを下方に押して仕事をし(膨張または仕事行程)，排気行程でピストンは上昇して排気弁を通してシリンダー内の燃焼ガスを外に押し出し，再び吸気行程に移る。②2サイクル機関：これを2行程で行なう機関で，クランク軸1回転で1サイクルをなし，1回爆発する。シリンダーの側面に掃排気のポートがある。膨張行程の終わりにピストンが下がって排気ポートを開くと，燃焼ガスはポートを通して外に排出され，さらに掃気ポートが開かれると予圧された空気がこのポートを通してシリンダー内に送られ，ピストンが下死点を過ぎ上昇行程に移って両方のポートを閉じるまで，新しい空気がはいり，燃焼ガスを追い出す掃気作用が行なわれる。2サイクル機関は短時間に吸排気を行なうので，吸気が十分に行なわれない欠点はあるが，弁をもたず構造が簡単であり，同じ回転速度ならば4サイクル機関の約1.7倍の出力を出すことが可能である。しかし，ガソリン機関では掃気のときシリンダーに送られた混合気の一部が排気に通り抜けるので，燃料消費量が多くなり小形機関にしか向かない。ディーゼル機関ではこの欠点がないので大形機関に多く用いられている。　〔斎藤　孟〕

ないねんりょくはつでん　【内燃力発電】　内燃機関*で発電機を回転させて発電する方式。用いられる内燃機関には使用燃料により，ディーゼル機関・ガス機関・ガソリン機関・石油機関などがある。内燃力発電の長所は，始動あるいは全負荷までの時間が短く(数十分)，小出力でも総合効率が高く，設備が単純で建設費が少ないなどであり，欠点は出力が小さく大容量発電には適さない，燃料が流体燃料に限られる，自己始動できず別の始動装置を必要とするなどである。ディーゼル機関を用いた発電方式は出力数1,000kW以下に多く，非常用電源や予備電源として広く用いられている。ガス機関を用いた発電方式は出力数10MW以下に多い。　〔田村康男〕

ないはいよう　【内胚葉】　後生動物*が発生初期につくる胚葉の一。外胚葉*に対して最も内側または下方にある。ふつう，原腸を形成することによって外胚葉から分かれてでき，おもに消化管の主要な部分を形成し，脊椎(せきつい)動物では消化管の付属物である肝臓・膵臓(すいぞう)などや，胸腺(きょうせん)・甲状腺などをつくる。

ないはんそく　【内反足】　足の裏が内側を向くような位置で拘縮した状態。70％以上が先天性で，男児に多い。足が柔らかい生後3か月以内では，整形外科による早期治療が行なわれ，ギプス固定と矯正(きょうせい)マッサージのくり返しが有効である。年長児は手術によって矯正する。なお，外傷性・麻痺(まひ)性・瘢痕(はんこん)性などの内反足もある。

ないひ　【内皮】　保護鞘(ほごしょう)ともいう。シダ植物には茎・葉・根にあり，高等植物では根に多く見られ茎・葉にはまれである。基本組織の中にある鞘状の組織で，横断面で見ると，皮層の最内層に1列の細胞が規則正しく並んで中心柱を包んでいるもので，他の組織との区別が容易である。放射方向に扁平(へんぺい)な柔細胞ででき，細胞壁はときには内面に著しく肥厚して木化したカスパリー点がある。そのところどころには柔細胞のままの通過細胞がある。多量の貯蔵デンプンを含んでいることがあり，これをデンプン鞘というが，葉緑体が含まれているものもある。　〔高島文三〕

ないぶエネルギー　【内部エネルギー】　力学的に平衡状態にある物体のエネルギー。静止した物体であっても，その物体を構成する原子・分子は不規則な運動をし，互いに引力や斥力を及ぼし合っている。こうした原子・分子の微子的運動，あるいは引力や斥力などに基づいて物体がもつエネルギーである。熱力学の第1法則によれば，内部エネルギーは一つの状態量で，その変化は物体の圧力や温度などの状態変化の過程には無関係で，変化のはじめと終わりの熱力学における状態によってのみ決まり，さらに物体が等方的で一様な場合には，その物体の温度・体積・圧力のうちいずれか二つの状態変数によって指定される。物体が外界から熱をもらったり仕事をされる場合，内部エネルギーの変化$\varDelta U$は，外界から受ける熱量Qと仕事Wの和となる。$\varDelta U=W+JQ$（Jは熱の仕事当量）　〔中野藤生〕

ないぶかんさ　【内部監査】　企業規模の大規模化に伴い，経営管理者が経営活動のすべてを監督掌握することが困難になった場合に採用される，第三者による統制の手段。第三者には，企業内部のものと企業外部のものとがあり，企業外部のものを外部監査*という。内部監査は，会計記録や会計処理の正確性の検証手段ないしは財産の保全手段としての防衛的機能ばかりでなく，経営内の諸管理・諸統制の適否，業務執行，環境の良否など経営能率向上のための建設的機能をも合わせて発揮し，経営管理者に対してその結果を検証・評定・助言・勧告する。根本原理は指導性と批判性にあり，現在は，基本方針や長期計画などの検討，つまり計画の用具としての機能も内部監査の機能に包含される傾向に進みつつある。

〔山桝忠恕〕

ないぶきせい　【内部寄生】　⇨寄生

ないぶりゅうほ　【内部留保】　企業が利益の一部を内部に留保・蓄積すること。普通は，各年度の純利益から税金・配当金および役員賞与金などの企業外に流出する部分を差し引いた残余が法定準備金や任意積立金の形で内部に留保・蓄積されることになる。このようにして蓄積された利益部分は自己資本を形成し，経営基盤の強化に役だつ。今日，一般に，利益の社外流出を制限して内部留保を手厚く扱うことは企業の財務政策上好ましいものと考えられている。それは①配当や利子負担を必要としない資本を利用することができる，②配当の平均化・安定化に役だつ，③将来の偶発的な損失に備えるなどの理由による。〔清水　晶〕

ないぶん　【内分】　線分AB上に1点Cをとり，AC：CB＝m：nとなるようにしたとき，点Cは線分ABをm：nに内分するといい，点Cを内分点という。また，1点Cが線分ABの延長上にあってAB：BC＝m：nのとき，点Cは線分ABをm：nに外分するといい，点Cを外分点という。

数直線上にとった2点をA(x_1)，B(x_2)とすれば，線分ABをm：nに内分する点C(x)は，$x=\frac{nx_1+mx_2}{m+n}$で表わされ，特にm：n＝1：1すなわちC(x)が線分ABの中点のときは$x=\frac{1}{2}(x_1+x_2)$である。同様

に線分ABを外分する点C(x)は
$x=\frac{-nx_1+mx_2}{m-n}$で表わされる。線分ABを1：1に外分するような点は存在しないが，無限に遠いところにあるとみる場合もある。〔菊池兵一〕

ないぶんぴつ【内分泌】 外分泌*に対する語で，ある組織で作り出されたそれぞれ特異な物質を，導管を通らずに直接血液やリンパ(体液)内に分泌すること。1859年フランスの生理学者C.ベルナールによって提唱された。現在では，ふつう腺(せん)について いわれ，内分泌を行なう腺を内分泌腺*，その内分泌物をホルモン*という。

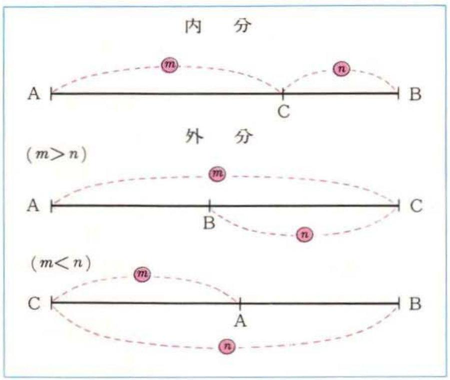
ないぶんぴつせん【内分泌腺】 内分泌*を行なう腺。導管がなく，分泌物(ホルモン*)が腺細胞から直接に血液またはリンパの中へ送り出される。ヒトの内分泌腺には，脳下垂体*・甲状腺*・上皮小体*・腎(じん)上体(副腎)・卵巣*・精巣*・胎盤*，および膵臓(すいぞう)のランゲルハンス島*がある。そのほか内分泌腺と考えられるものに，松果体*，消化管の粘膜細胞，視床下部などがある。

ないむしょう【内務省】 第2次世界大戦前の中央行政官庁。1873年(明治6)設置され，その業務は警察・地方行政全般の管理をはじめ，社寺・戸籍にまで及んだ。初代内務卿(ないむきょう)は大久保利通*(としみち)。1885年の内閣制度実施後も内閣の1省として置かれ，中央集権的官僚機構の中核をなした。初代大臣は山県有朋*(やまがたありとも)。1887年に造神宮使庁を置いて国家神道(しんとう)政策を推進し，大正時代には社会局を設けて社会運動の弾圧を強化した。1928年(昭和3)特別高等警察*制度の実施によって社会運動への弾圧はその頂点に達した。しかし，第2次世界大戦後まもなく特高制度は占領軍により廃止され，1947年内務省も廃止された。〔応和邦昭〕

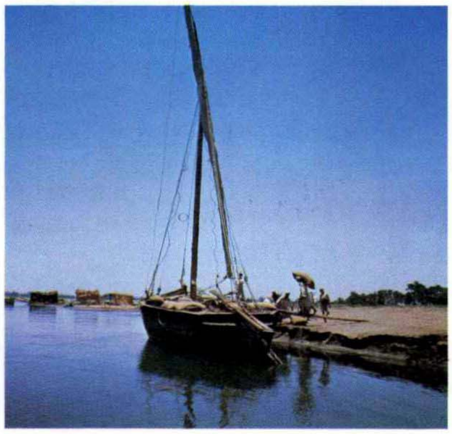
ナイメーヘン［Nijmegen］ ニーメゲンともいう。オランダ東部，ドイツ国境近くのアルンヘム南方17kmにある都市。人口14万8,000（1974年)。ライン川の支流ワール川に沿い，近くにはマース川への運河もあり，重要な河港となっている。紡織・精糖・皮革・陶磁器などの工業がある。1184年自由都市となり，ハンザ同盟の一員であった。1679年第3次オランダ戦争終結時のナイメーヘンの和約*が締結された。13世紀に建造された教会や16世紀創立のラテン語学校がある。〔梶川勇作〕

ナイメーヘンのわやく【ナイメーヘンの和約】 オランダ戦争*の結果，1679年フランスとオランダ間で結ばれた条約。これによってオランダは被占領地域を回復し，フランスの定めた高率の関税の引き下げに成功した。一方フランスは，スペイン領フランシュコンテとフランドル南部の数都市を獲得した。

ないようしょうめいゆうびん【内容証明郵便】 1910年(明治43)11月創設。郵便物の内容である文書について，何年何月何日にいかなる内容のものを，だれからだれにあてて差し出したかということを，差し出し人が作成した謄本*によって証明する郵便制度。→郵便



内　分


ナイル川　アラブ連合のルクソールの近くを流れるナイル川。このあたりは流れも穏やかで，物資の輸送には大きな帆船が使われている

ないらんざい【内乱罪】 政治組織の基本的制度の破壊や領土の分離など，国家の基本的組織を不法に破壊することを目的として暴動を起こす罪。ここでいう暴動とは，多数人が結合して暴行・脅迫を行なうなど，一地方の平穏を害する程度のものをいう。首謀者は死刑または無期禁錮(きんこ)，謀議に参与した者または群衆を指揮した者は無期または3年以上の禁錮，付和随行するなど暴動に参加した者は3年以下の禁錮(刑法77条)。内乱の予備・陰謀をした者は1年以上10年以下の禁錮(刑法78条)，兵器・資金・糧食を提供するなどの方法で，内乱またはその予備・陰謀を助けた者は7年以下の禁錮(刑法79条)に処せられる。なお，内乱の予備・陰謀・幇助(ほうじょ)の罪について，暴動前に自首した場合は刑が免除される(刑法80条)。〔井上公耳〕

ナイル(川)［Nile］ アフリカ大陸北東部の大河。同大陸の最長の川で，世界で第3位とされるが，源流をも含めると世界の最長である。源流であるカゲラ川(ビクトリア湖に注ぐ)まで含めると全長6,698km，ビクトリア湖からは5,570kmである。流域面積300万7,000km²。スーダンのハルツームで合流する二つの支流，青ナイルと白ナイルからなり，アラブ連合の南部を大きなS字形を描いて北流する。ハルツームからアスワンまでの間で290mも高度を減じ，その間に六つの急流部があり，川幅も最大で32kmある。河口から172kmの地点にあるカイロ付近から巨大なデルタを形成し，川はダミエッタとロゼッタの二大支流に分かれて地中海にはいる。8月末から9月にかけての洪水(こうずい)時には，水量は渇水期である4月の約16倍になる。その水量の調節は，五つのダムによってなされている。最初に水力発電の行なわれたオーエン-フォールズ-ダムは，ナイル水系の重要貯水池の役割をもつビクトリア湖からビクトリアナイル川に流れる水を調節し，ハルツームの南約40kmにある白ナイルのジェベル-オーリア-ダムは長さ480kmの貯水池で，水は2月から5月の間にこれらの貯水池から放流される。青ナイルのセナー-ダムもハルツームの南320kmにあって同様の役割を果たし，アラブ連合にあるアスワン-ダム*は水量が特に低水位のときに調節し，同国の灌漑(かんがい)網にとって重要な役割を果たしている。アスワン-ダムの上流7kmの地点には，1969年末全工事が完成した有名なアスワン-ハイ-ダムがある。このダムは長さ3.6km，高さ111mで，人造湖はスーダン国内にまで及び長さ500km，幅平均10kmでナセル湖とよばれている。貯水量は1,570億tで，アスワン-ダムの32倍に相当する。アラブ連合では，このナイル川によって1日に約10億tの灌漑用水を得て全耕地の5分の4を潤し，また210万kWの発電を行なっている。ナイル河谷は古来肥沃(ひよく)で古代王朝を出現させたが，その源流部については長い間まったく神秘のベールに閉ざされていた。1770年に至ってはじめて青ナイルの源流地帯がジェームス-ブルースによって探検された。ビクトリア湖がナイルの重要な源だとヨーロッパ人にわかったのは，1858年のジョン-スピークの探検によってである。アルバート湖は1864年にサミュエル-ベーカーに，エドワード湖は1877年ヘンリー-スタンリー*によってヨーロッパ人に知らされた。その他の地域も19世紀から20世紀にかけて，イギリス・アメリカ合衆国およびイタリアの探検隊によって踏査され，しだいにその全姿が知られるに至った。〔大石堪山〕

ナイルわに【ナイル鰐】 爬虫(はちゅう)類・ワニ科・クロコダイル亜科。アフリカの北西部を除く大部分とマダガスカル島に広く分布し，淡水のほか汽水や海水にもすむ。全長7mに達し，性質は凶暴で，水辺に近づく哺乳(ほにゅう)類を水中に引き入れて食べ，人畜をも襲う。古代エジプトでは神として崇拝された。

ナイロビ ［Nairobi］ アフリカ東部，ケニア共和国の首都。人口74万(1976)。ほぼ赤道直下にあるが，海抜約1,670mの高原のため，年平均気温も約17℃前後でしのぎやすい。アフリカ東部有数の商工業都市で，食品加工・製紙・繊維・薬品・機械修理などの工場がある。商業の大半はインド人に支配されている。郊外に，面積100km²を有する1946年開設のナイロビ自然動物園があり，野生動物の放し飼いで世界的に有名である。 〔小栗　宏〕

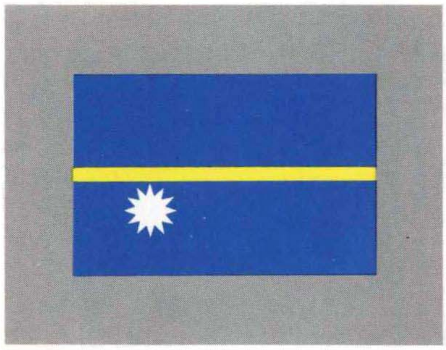
ナイロン ［nylon］ 合成高分子ポリアミド系の総称。一般には繊維をいう。1938年アメリカのデュポン社が工業化を発表した最初の合成繊維で6,6-ナイロンといわれた。翌年日本でも製造方法を発表した。6-ナイロンである。その後世界各国が種々のナイロンを発明工業化したが，すべてポリアミド系である。**〈製法〉** 6,6-ナイロンは石炭・石油から得るベンゾールから石炭酸をつくり，種々の化学反応工程を経てアジピン酸を，さらにこれからヘキサメチレンジアミンをつくり，この両者を結合してアミド化合物とし，重合させてナイロン塩をつくる。これを加熱溶融して細孔から押し出して固めて繊維とし(溶融紡糸という)，低温で4～5倍の長さに引き伸ばし，加熱固定してフィラメント(連続繊維)をつくる。ステープル(短繊維)はこれを所要の長さに切断したものである。わが国などで生産している6-ナイロンは，同様に石炭酸を直接原料として各種の工程を経てカプロラクタムをつくり，これからナイロン塩をつくって溶融紡糸により繊維とする。このほかにも種々のナイロンがつくられている。**〈性質〉** ふつう円形の断面をもち，軽く(比重1.14)，強く延びがあり，摩耗に耐え，弾力に富み，化学薬品には一般に抵抗力が大で，染色もあまり困難でなく，虫やかびに侵されず，電気絶縁性が大である。高熱では軟化し溶融する。熱可塑性がある。**〈用途〉** 以上の性質を利用し，耐久力を要する各種織物・編み物などおよび装飾的な婦人服・礼服などに用いられる。衣料以外に，機械的材料・化学工業用材料・屋外用材料・水中用材料・日用品類など，広い用途が開発されている。 〔小川安朗〕

ないわくせい ［内惑星］ 地球より内側の軌道を公転する惑星。水星と金星をさす。外惑星*と違って，内惑星は太陽からある一定の角度以上離れて見えることはない。太陽・地球・内惑星の位置関係によって，内合*・外合*・最大離隔*などの現象を生じ，それぞれ新月・満月・半月に相当する位相の変化を見せる。

ナウマン ［Edmund Naumann］ (1854～1927) ドイツの地質学者。マイセンに生まれ，ミュンヘン大学に学ぶ。1875年(明治8)来日し東京開成学校(現東京大学)で地質学を教えた。1877年東京帝国大学の初代地質学教授。1879年帝国地質調査所を設立し地質図作成などを指揮した。〈フォッサ-マグナ*〉を名づけさらに中央構造線*を設定し，のちの日本の地質構造論の基礎をなした。北海道白亜紀化石の発見(1880)，日本産旧象化石の研究(1881)などの業績がある。1885年帰国。 〔野間三郎〕



ナイロビ 市の中心部。市内には古いモスクと近代建築が隣接して立つ。自動車の交通量が多く，駐車にも困るほどである



ナウル 1968年制定。青は太平洋，黄色は赤道を表わしている。中央左下の12稜星は国家を構成する12の部族とそれらが団結して国家の発展に努めようとする意志を表わしている。星が黄色の帯の下にあるのは，国土が赤道のやや南にある位置関係を示している

ナウマンぞう ［ナウマン象］ 新生代第四紀洪積(こうせき)世のゾウ。哺乳(ほにゅう)類に属し，上あごの2本の牙(きば)はほとんどまっすぐに口もとから左右に突出する。臼歯(きゅうし)の表面に13～16列のひだがあり，これがすり減ると細長いひし形状になる。インド・中国・日本に生存したゾウで，日本では北海道から宮古島まで諸々の洪積層からの産出が知られているが，瀬戸内海の海底からもしばしば発見される。

ナウル(共和国) ［Republic of Nauru］ 太平洋のほぼ中央，赤道直下に位置する島国。面積21km²。人口6,057(1976年調)。サンゴ環礁の発達した円形の島で，オセアニアにおけるリン鉱の大産地である。1888年ドイツの植民地となり，1920年にはイギリスの委任統治領，第2次世界大戦後はイギリス・オーストラリア・ニュージーランド3国の共同信託統治領となり，1968年独立した。リン鉱開発もこの3国の手で行なわれ，年々100万tをこえる原鉱をオーストラリアとニュージーランドに輸出している。 〔小栗　宏〕

なえ ［苗］ 移植栽培で用いられる幼植物。ふつう作物の移植栽培では比較的短期間に育成されるが，果樹類，工芸作物中一部のものなどは，かなり長期にわたって育成される場合がある。苗の移植に適する時期は，おおむね炭水化物の蓄積が多いとき，すなわち，炭素/窒素率が大きいときが発根力が大で活着が良好であるとされる。苗移植による栽培の利点は，純正種の選択が容易であり，移植後の生育の斉一(せいいつ)さにあるが，一方移植の労力がばかにできず，各種の移植機械の開発が進められている。 〔金木良三〕

なえぐされびょう ［苗腐れ病］ イネの病気。水温が低温のとき，播種(はしゅ)した稲もみに乳白色，綿毛状菌糸を生じるもので，腐敗して発芽しない。幼苗に発病すると芽が曲がり，黄化・枯死する。予防法は無傷の種もみを種子消毒して用い，保温折衷苗しろなどにして保温を図る。

なえどこ ［苗床］ 移植栽培において苗を育てる小区画の地。苗床を必要とする理由は，①断根による生理的効果をねらう，②種子が小粒で直播(ちょくはん)栽培が困難である，③初期の生育が悪く特別の管理が必要である，④土地の集約的な利用を図る，⑤在圃(ざいほ)期間を長くするため，不良環境，特に低温時に保温して育苗をする，⑥種子のむだを省くなどがあげられる。苗床には冷床と温床とがある。温床は醸熱材料として新鮮厩肥(きゅうひ)・落葉・稲わらなどを用いるほか，温床線(ニクロム線)を用いることも多い。冷床は直接肥土上に種子をまく。苗床設置の場所は，①管理に便利で，②日あたりがよく，③給排水の便がよいところが選ばれる。水稲栽培における苗床は苗しろ，樹木用では苗木床などという。苗床の適用作物はナス・キュウリ・トマト・ハクサイ・レタス・キャベツ・タバコ・ナタネなどである。 〔金木良三〕

なえばさん ［苗場山］ 長野・新潟の県境にある楯状(たてじょう)火山。標高2,145m。山頂部は周囲約4kmの溶岩台地の平坦面(へいたんめん)で，湿地が点在する。山名はこの湿原が苗代田(なわしろだ)のように見えるのに由来する。山頂には神社や山小屋などがありスキーの好適地となっている。上信越高原国立公園に含まれる。

なおえつ ［直江津］ 上越市の北部地区。古くは南西部の五智(ごち)に越後(えちご)の国府・国分寺が置かれ，北陸道の宿駅であった。中世以降は今町湊(いままちみなと)とよばれ，上杉(うえすぎ)氏春日(かすが)山城下の外港，江戸時代には高田藩の外港となり，荒川河口に西回り航路の千石船が出入して栄えたが，高田藩の政策上入港貨物いっさいの商業権

は高田の問屋に握られていた。1954年(昭和29)市制を施行したが,1971年高田市と合併して上越市となった。日本海に臨み，高田平野の北東端，荒川と支流保倉川下流の沖積地(ちゅうせきち)上に位置する。日本一といわれる東隣の中頸城(なかくびき)郡大潟(おおがた)町の頸城ガス田を控え，重要港湾指定の直江津港の改修工事も進み，信越化学・日本ステンレス・日曹(にっそう)製銅・三菱(みつびし)化成などの大工場が立ち並ぶ臨海工業地帯が発達している。北陸本線・国道８号線が海岸部を走り，信越本線・国道18号線(北国街道)がほぼ直角に南へ延び，この二つのルートの接点となり，また佐渡島の小木港との間を佐渡汽船のフェリーボートが３時間で結ぶ。国道253号線が東方の十日町方面へ通じ，北陸自動車道も現在着工中である。上杉(うえすぎ)謙信ゆかりの御館(おたて)跡，府中八幡宮(はちまんぐう)，親鸞上人(しんらんしょうにん)上陸の地などの史跡に富み，かつて名古ノ浦とよばれた海浜は海水浴客を集める。直江津地区の人口は45,000。➔上越市
〔浅井得一〕

なおきさんじゅうご【直木三十五】(1891～1934) 小説家。大阪市の生まれ。本名植村宗一。早稲田(わせだ)大学英文科中退。美術記者・出版業，その他の職を経て雑誌《苦楽》の編集に従事。のち映画事業にも着手したが失敗，文筆専業となり，1926年(昭和１)第１次《大衆文芸》の創刊同人に加わる。実証性の強い時代小説を数多く書いて，一時代を画した。代表作は《南国太平記》。1935年設立の直木賞はその文学歴を記念するもの。〔真鍋元之〕

なおきしょう【直木賞】 文学賞。1935年(昭和10)，直木三十五を記念し，大衆文学の新進作家に贈る目的で設定された。財団法人日本文学振興会の主催。芥川(あくたがわ)賞と並ぶ二大文学賞で，年２回の授賞。今日までの代表的受賞者は，川口松太郎・海音寺潮五郎・井伏鱒二(ますじ)・村上元三・富田常雄・今日出海(ひでみ)・檀一雄(だんかずお)・源氏鶏太・柴田錬三郎(しばたれんざぶろう)・藤原審爾(しんじ)・有馬頼義(ありまよりちか)・梅崎春生(はるお)・戸川幸夫(ゆきお)・新田(にった)次郎・今東光・平岩弓枝・司馬遼太郎(りょうたろう)・池波正太郎・黒岩重吾・水上勉(みなかみつとむ)・杉森久英(すぎもりひさひで)・山口瞳(ひとみ)・安藤鶴夫(つるお)・永井路子(ながいみちこ)・五木寛之(ひろゆき)・野坂昭如(あきゆき)ら。〔金子　博〕

なおしま【直島(町)】 香川県香川郡の町。人口5,300。岡山県玉野市の対岸にある直島を中心に，27の島々からなる。直島は1917年(大正６)現在の三菱(みつびし)金属鉱業の銅の製錬所が置かれて以来，工場・住宅・商店街ができ，工業の島となった。また，ハマチ・真珠の養殖も行なわれ，南部は瀬戸内海国立公園に属し，観光開発も進んでいる。

なおびのみたま【直毘霊】 本居宣長(もとおりのりなが)の著書。１巻。1771年(明和８)。《古事記伝》の総論中の〈道ト云(い)フコトノ論〉を独立させたもの。師の賀茂真淵(かものまぶち)の著書《国意考》の説の不足を補い，特に古来日本に備わる〈神ノ道〉を宣揚した。アマテラスオオミカミと天皇を中心に，神々および人間と世界を説き，純粋無垢(むく)な日本の道としての〈神ノ道〉を強調，そのため儒学者の痛憤を買い，世に直毘霊論争を起こした。〔小笠原春夫〕



永井荷風

なおらい【直会】 祭典の終わりに，神饌(しんせん)・神酒などをもって行なう饗膳(きょうぜん)のこと。直会には二つの意味があり，一つは神人共食の古義から，神への供物をいただき，その恩頼(みたまのふゆ)を拝戴(はいたい)する意，もう一つは解斎饗膳で，祭典中の潔斎をゆるめて平常に復する意である。

なか【那珂(町)】 茨城県北東部，那珂郡の町。人口38,000。水戸(みと)・勝田・常陸太田(ひたちおおた)の各市や東海村に囲まれており，久慈川と那珂川にはさまれている。1955年(昭和30)菅谷(すがや)町ほか６村が合併して成立した。耕地の３分の２が台地上の畑，３分の１が台地周辺や川の流域の水田という農村地帯で，畑作物は麦類・サツマイモ・ナンキンマメ・タバコなどである。スギ苗の特産があり，ブタ・ニワトリの飼育も盛んである。まわりの工業都市への通勤者も多い。水郡線に沿い，上菅谷駅から常陸太田へ支線が出ている。茨城女子短期大学がある。

ながい【長井(市)】 山形県南部の市。人口34,000。伊達(だて)藩の重臣片倉氏の城下町で，江戸時代には米沢(よねざわ)上杉(うえすぎ)藩の陣屋が置かれ，最上(もがみ)川の船着場としてにぎわった。1954年(昭和29)市制施行。米沢盆地北西部，最上川中流の段丘崖(だんきゅうがい)上に位置する。産業三大別人口比は29：33：38。平地部には単作水田地帯が開け，養蚕業も盛んで，200年近くの伝統をもつ長井紬(つむぎ)を産する。また，グンゼの製糸工場や東京電気の電解コンデンサー工場など，近代工業が興っている。赤湯(南陽市)から長井線が通じ，国道287号線に沿う。あやめ公園・つつじ公園・はぎ公園などの行楽地に富み〈花の長井〉の称がある。

ながいかふう【永井荷風】(1879～1959) 小説家・随筆家。本名壮吉。別号断腸亭主人など。東京の生まれ。東京外国語学校清(しん)語科に入学し，ゾラの影響下に《地獄の花》《夢の女》を書いて文壇に登場，前期自然主義の一翼を形成。1903年(明治36)より1908年にかけて米仏に遊び，帰朝後《あめりか物語》《ふらんす物語》を発表。続く《深川の唄(うた)》《監獄署の裏》《新帰朝者日記》などとともに，その清新な叙情と耽美(たんび)主義的作風により文名を高めた。やがて大逆事件を契機に文学者の無力を痛感，江戸芸術への哀惜を強め，自身を江戸戯作者に擬し，《腕くらべ》《おかめ笹(ざさ)》などの花柳小説の創作に沈潜。1920年(大正９)には東京麻布に偏奇館を新築，1945年(昭和20)の罹災(りさい)まで居住，世間と交渉を絶った。一時幕末文人伝《下谷叢話(そうわ)》など随筆を多く執筆した。昭和期に入るや，女給や私娼(ししょう)などの風俗世界に取材して，《つゆのあとさき》《ひかげの花》《濹東綺譚(ぼくとうきたん)》などの名作を発表。第２次世界大戦中は執筆を禁止されたが，ひそかに書きためられた《浮沈》《踊子》《問はず語り》などの作品は，1946年にいっせいに発表され，注目を浴びた。《罹災(りさい)日録》《荷風日暦》《断腸亭日乗》などの日記は，日記文学史上の傑作とされ，同時代の文明批評・風俗資料として高く評価されている。〔小泉浩一郎〕

ながいけんし【永井建子】(1865～1940) 軍楽隊の指揮者・作曲家。広島県の生まれ。若くして陸軍軍楽隊に入隊し，フランス人のルルーに師事してからフランスに留学し，帰国後戸山学校で指導し，また隊長として軍楽隊の水準を上げるのに功績があった。その作品《元寇(げんこう)》《雪の進軍》が親しまれている。

ながいずみ【長泉(町)】 静岡県駿東(すんとう)郡の町。人口31,000。沼津市・三島市などに接する。かつて御殿場線沿いの農村であったが，近年，東レの工場が進出したのを契機に，繊維・機械・自動車部品などの工場が建設され，住宅化も急速に進んだ。

ながいたつお【永井龍男】(1904～　) 小説家。東京の生まれ。19歳のとき菊池寛に認められ短編《黒い御飯》で文壇に登場。のち文芸春秋社にはいり，1946年(昭和21)まで勤務。その間同人誌《青銅時代》《山繭》《文学》に参加。ユーモアとペーソスをもって市井の諸相を洗練された筆致で描く短編小説の名手として知られる。代表作に《朝霧》《風ふたたび》，短編集《一個その他》など。

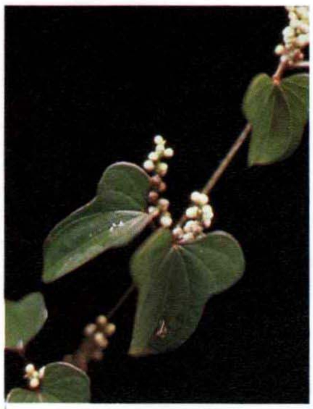
ながいながよし【長井長義】(1845～1929) 薬学者，日本の実験有機化学の開拓者。徳島の生まれ。1869年(明治２)大学東校(現東京大学)に学んだ。1871年ドイツへ留学，ベルリンでA.W.ホフマンに師事して有機化学を専攻。当地でバニリン・コニフェリン・アミンの合成などを行なった。1884年帰国し東京衛生試験所長となった。また大日本製薬会社の顧問となる。1887年日本薬学会会頭。1886年アメリカへ渡り，漢方薬麻黄の成分エフェドリンを発見し，のちペオノー

ル・マトリンなどを発見し種々の漢方薬の分析および新薬の合成を手がけた。のち1893年東大薬学科教授となり30年間在職。薬化学教育・薬事行政・女子教育・日独文化交流などに寄与した。　〔山下愛子〕

なかいまさかず　【中井正一】(1900～1952)　美学者。広島県の生まれ。1925年(大正14)京都帝国大学哲学科卒。カント・コーヘン・カッシーラー・ハイデッガー・ベッカーの美学を研究。1930年若い美学者たちと《美・批評》を創刊(1935年《世界文化》と改題)。1937年治安維持法違反により《世界文化》の主要メンバーとともに検挙される。1944年尾道(おのみち)へ疎開し，文化啓蒙(けいもう)運動に尽力。1948年国立国会図書館副館長に就任。突然の病死のため，その美学体系は未完成であるが，《美学入門》(1951)は中井美学の頂点を示す。師深田康算の学問を継承し，師をこえて集団の美学を開拓，さらに日本文学の研究に沈潜して，〈離脱の精神〉を媒介とする独創的な転換期の美学を形成する途上にあった。著書《近代美の研究》《日本の美》《美学的空間》《美と集団の論理》。　〔中川　誠〕

ながいも　【薯蕷】　単子葉植物・ヤマノイモ科。中国原産，普通は畑地に栽培されるつる性植物で，ときに林などに野生化している。ヤマノイモに似るが，葉柄や茎が紫色をおびるので区別できる。茎には稜(りょう)があり，強靭(きょうじん)で長く伸びる。葉は対生または輪生し，三角状卵形で先がとがる。葉腋(ようえき)に円形のむかごをつける。雌雄異株で，7～8月ごろ葉腋に穂状花序をつける。雌花序は葉腋に1個つき，葉よりも長く，まばらに白色の小花をつける。雄花序は葉よりも短い。果実は3翅(し)をもつ蒴果(さくか)で，円形の薄い翅(はね)のある種子をつける。根はひげ根で，その一つが肥大し，長さは1m以上になり，年々新旧交代をする。いもの形により数品種があり，細長いものにナガイモ(長薯)・イチネンイモ(一年薯)・トックリイモ(徳利薯)，塊形のものにヤマトイモ(大和薯)・イセイモ(伊勢薯)，扇形のものにイチョウイモ(銀杏薯)・ツクネイモ(仏掌薯)などがある。いもはすりおろしたり煮て食用にする。むかごも食用になる。ナガイモ・ヤマノイモのいもを乾燥させたものを山薬・薯蕷(しょよ)といい，滋養強壮薬および止瀉薬(ししゃやく)に用いる。　〔横井朝子〕

ながいりゅうたろう　【永井柳太郎】(1881～1944)　政党政治家。石川県生まれ。早稲田(わせだ)大学卒業，オックスフォード大学留学，帰国後早大教授となる。憲政会・立憲民政党の進歩派として衆議院議員に当選8回，日中戦争が起こって政党政治が消滅すると，主張を東亜新秩序論・国民再組織論へ転換した。1932年(昭和7)斎藤内閣の拓務相，1937年第1次近衛(このえ)内閣の逓信相，1939年阿部(あべ)内閣の逓信兼鉄道相として入閣した。1940年民政党の即時解散を唱えて脱党。大政翼賛会にも政党出身者として協力した。　〔岸野淳子〕



花



むかごは落下前に発根する

ナガイモ



ナガウニ

なかうた　【中唄】　日本伝統音楽の楽式構造に関する用語。特に地歌と箏曲(そうきょく)の中の手事物形式で，楽器の伴奏のつく歌の部分と楽器だけの手事の部分を交替させるとき，前唄～手事～中唄～手事～後唄(あとうた)のように手事にはさまれた部分をさす。

ながうた　【長唄】　三味線(しゃみせん)音楽のジャンルの一。一般には歌い物に属し，歌舞伎(かぶき)と結びついて江戸を中心に発展してきたもので，今日では演奏者や聴衆の数が最も多い。元禄(げんろく)年間(1688～1703)には地歌の一種として長歌とよばれ，《無間の鐘(宵(よい)は街(まち))》のように三下がりのメリヤス物が歌われた。しかし，18世紀中ごろになると，直接・間接に一中節や豊後節(ぶんごぶし)系浄瑠璃(じょうるり)の影響を受け，歌詞・構成・旋律法などの面で，江戸の長唄として他とは異なる様式が融合されてきた。すなわち，歌の部分に浄瑠璃的な語りが加わり，三味線はパターンが定まるだけでなく，細かな動きによる技巧性が強まった。調弦も過去の三下がりを中心に，本調子や二上がりが大幅に食い込んでいった。《吉原雀(よしわらすずめ)》《隈取安宅松(くまどりあたかのまつ)》などがこの時代の代表作である。18世紀後半からの約100年間が長唄の作曲・演奏の盛期で，囃子(はやし)と深い関係をつくり，《越後獅子(えちごじし)》をはじめとして歌舞伎舞踊のために多くの作品がつくられた。また，常磐津節(ときわずぶし)・清元節などとの掛け合いが劇場で行なわれる一方，演劇と無関係にもっぱら鑑賞のためだけのお座敷長唄が生まれた。この代表作が《吾妻八景(あずまはっけい)》《秋色種(あきのいろくさ)》である。明治時代以後は，江戸時代のものと大差ない様式で新作が発表されてきたが，最近は三味線だけの独奏曲など，新しく大胆な試みも行なわれている。

長唄は，音楽的には諸流派の融合という面をもちながら，固有な音の理想像も形成した。細棹(ほそざお)の三味線，高い響き，すばやい動きと微妙な調整に応じられる小さめな撥(ばち)，また皮に撥をあてて奏するために生まれる撥音などである。左手も〈はじき〉を含めて細かな動きを愛用する。替手(かえで)や上調子も盛んで，それらを伴った合方(あいかた)も多く，そのためか，音程は奏者の好みや微妙なずれをあまり使わない。なお，現在では楽譜の普及などの点で，三味線音楽の中では最も進んでいる。　〔徳丸吉彦〕

ながうに　【長海胆】　棘皮(きょくひ)動物・ウニ類・ナガウニ科。殻(かく)は少し楕円(だえん)形で，長径6cmほど。棘はかなり強大で，緑かっ色を呈するが，先端は白色となる。下面の囲口部は大きく，殻の半分以上を占める。囲口部の膜には多数の小骨板があるが，叉棘(しゃきょく)をささえるものは少ない。熱帯・亜熱帯性のもので，沖縄・奄美(あまみ)諸島のサンゴ礁では最も普通に見られ，紀伊(きい)半島・四国・九州の太平洋岸でも見られる。

なかえちょうみん　【中江兆民】(1847～1901)　明治の思想家・政治家。土佐藩下級士族の家に生まれる。漢学やフランス語を学び，1871年(明治4)フランスに留学。1874年帰国後仏学塾(ふつがくじゅく)を開いてフランス思想を教授し，自由民権運動左派の理論的指導者となった。1882年《政理叢談(そうだん)》を発刊し，またルソーの《社会契約論》を訳した《民約訳解》を発表した。1887年保安条例により東京を追われ大阪に移り，翌年《東雲(しののめ)新聞》を発行して専制政府を批判した。1890年第1回衆議院議員に当選したが，土佐派の背信行為に憤慨して翌年辞職した。著書《三酔人経綸(けいりん)問答》，遺稿《一年有半》などが有名。　〔岸野淳子〕

なかえとうじゅ　【中江藤樹】(1608～

1648）江戸初期の儒学者。日本陽明学の祖。名は原，字(あざな)は惟命(これなが)，藤樹は号。近江(おうみ)(滋賀県)の人。17歳で《四書大全》を読破し，朱子学に精通。27歳で藩を辞して帰郷した。37歳のとき王陽明の著書を読み，《大学》《中庸》を中心に格物致知の論を独自に展開した。その思想は武家に限らず庶民にも受け入れられ，〈近江聖人〉とよばれた。主著《翁(おきな)問答》《鑑草(かがみぐさ)》《大学解》《中庸解》。門弟に熊沢蕃山(くまざわばんざん)がある。

ながおか【長岡(市)】新潟県中部の市。人口17万5,000。古くから三国街道・北陸街道・信濃(しなの)街道の交わる交通の要地で，江戸時代は牧野氏七万四千石の城下町，信濃川水運の中心として栄えた。明治中期以後東山油田の開発によって製油業が発展し，伝統ある卸売業も活況を呈した。1906年(明治39)市制施行。新潟平野の西部，信濃川中流にまたがり，第2次世界大戦中，県下唯一の空襲によって市街地は壊滅したが，戦後急速に復興した。産業三大別人口比は11：33：56。平野部には水田が開け，機械器具・製紙・金属・紡績などの工業が発達し，最近は信濃川西岸の天然ガス田の開発により化学工業も興っている。特産のニシキゴイは東京・大阪方面へ出荷される。1963年(昭和38)〈無雪都市〉を宣言して積雪研究会をつくり，消雪パイプを道路に埋め込み，井戸水を流して雪をとかすなど，雪害防止のくふうを進めている。新潟大学工学部・県農業試験所・積雪科学博物館などがあり，東方には，新潟平野や信濃川を一望する悠久山(ゆうきゅうざん)公園がある。信越本線・上越線の分岐点(市内の宮内駅)で，国道8号線と17号線も市域中心部で分かれる。現在工事中の北陸自動車道と関越自動車道は，信濃川の左岸で会合の予定。〔浅井得一〕

ながおかきょう【長岡京(市)】京都府南西部の市。人口69,000。1972年(昭和47)長岡町が改称して市制施行。大阪と京都を結ぶ東海道本線・東海道新幹線・京阪神(けいはんしん)急行電鉄京都線などのほか，名神高速道路・国道171号線などが通過する。このため工場・住宅の進出が著しい。産業三大別人口比は3：41：56。

ながおかげとら【長尾景虎】⇨上杉(うえすぎ)謙信

なかおかしんたろう【中岡慎太郎】(1838～1867) 尊王攘夷(じょうい)運動・討幕運動の指導者。名は道正。土佐藩士。大庄屋(おおじょうや)の家に生まれ，1861年(文久1)武市瑞山(たけちずいざん)の勤王党に参加。1863年藩が尊攘派を弾圧するに及び，脱藩して周防(すおう)(山口県)三田尻(みたじり)に走り，尊攘派浪士の指導者となった。その後素朴(そぼく)な攘夷主義から脱却して討幕運動を進めるため，薩摩(さつま)・長州両藩の軍事提携(薩長同盟)に尽力し，また大宰府(だざいふ)滞在中の三条実美(さねとみ)と在京の岩倉具視(ともみ)と



ナガカメムシ　ジュウジナガカメムシ

を和協させた。さらに1867年(慶応3)には陸援隊を組織して討幕の実現を期したが，同年京都で坂本龍馬(りょうま)とともに暗殺された。〔高崎徳次〕

ながおかはんたろう【長岡半太郎】(1865～1950) 物理学者。肥前(長崎県)大村の生まれ。東京帝国大学を卒業し同大学助教授，1893年(明治26)ドイツへ留学し，帰朝後教授となった。1917年(大正6)理化学研究所(理研)の創立とともに主任研究員を兼ね，また1931年(昭和6)大阪帝国大学の創設にあたり初代総長をつとめた。磁気・地球物理学，磁気ひずみ，岩石の弾性，重力測定などその研究分野は広範囲にわたった。また光の回折理論・電磁誘導の問題など数理物理学方面の研究も行ない，楕円函数(だえんかんすう)および積分表の編纂(へんさん)などを手がけ，1903年に提出した原子模型の理論が特に有名であり，原子スペクトルの微細構造に関する実験的研究もある。1937年第1回文化勲章を受賞。〔藤村　淳〕

なかおとざん【中尾都山】(1876～1956) 尺八都山流の祖。大阪の生まれ。演奏家・作曲家として活躍し，また流派の組織を近代化し，さらに楽譜の公刊によっても広く影響を与えた。➔都山流

なかがいにん【仲買人】商品の売り手・買い手両者間に売買契約を結ばせることによって手数料を収得する卸売商。仲買人は取り扱い商品についての所有権をもたず，商品それ自体を物理的に取り扱うこともない。仲買人は，商品が季節的なものであったり生産者が小規模で市場が分散しているような場合などに利用され，農産物や生鮮食料品などの取引の場に存在する。

ながかめむし【長亀虫】こん虫類・半翅(はんし)目・ナガカメムシ科の総称。体は長楕円(ちょうだえん)形で，小形の種が多い。触角は4節で，ふつう複眼は大きく突出し，口吻(こうふん)は4節からなる。脚は短く，前脚はときに他の小こん虫などを捕えるのに適した捕獲脚となっている。翅(はね)はふつうよく発達しているが，短翅型を生ずる種類もある。他のカメムシ類と同様に悪臭を出す。多くの種は食植物性で，植物上に生活して吸汁(きゅうじゅう)するため，害虫も少なくない。しかし，地上や植物の根ぎわなどに生活する種類や，他の小こん虫を捕食する肉食性の種類もある。大きな科で，全世界から2,000種以上が知られ，多くの群に分けられている。日本に分布する代表的な種類には，ダイズ・アズキなどの害虫メダカナガカメムシ，クワの害虫オオメダカナガカメムシ，九州から台湾まで分布するサトウキビの害虫カンショコバネナガカメムシ，イネにつくホソナガカメムシなどがある。〔鈴木邦雄〕

なかがわ【那珂川】栃木県北東部山地に発し，茨城県鹿島灘(かしまなだ)で太平洋に注ぐ川。流程125km。中流地域は有名なタバコの産地で，その中心地である烏山(からすやま)町・茂木(もてぎ)町(栃木県)などもこの水系に臨んでいる。鉄道開通以前は河口の那珂湊(なかみなと)から上流への水運に利用された。

なかがわ【中川】利根(とね)川の分流。かつて東京都東部を通り，江戸川と隅田(すみだ)川の間の低湿地を蛇行(だこう)しつつ東京湾に注いでいたが，荒川放水路の開通で本流の下流は荒川放水路と交差するようになり(旧中川)，新たに荒川放水路の東側を平行に流れて海に注ぐ流路を開削し(中川)，さらに葛飾(かつしか)区高砂(たかさご)町付近から江戸川河口に至る流路も開削(新中川)した。上流は古利根川とよばれ，河道改修前の利根川の本流であった。沿岸には工場が多い。

なかがわ【那賀川】四国山地東部に発し，紀伊(きい)水道に注ぐ川。流程125km。流域一帯は雨量が多く，那賀川総合開発特定地域に指定され，上中流では発電と林業，下流では工業の開発が進められている。

なかがわかずまさ【中川一政】(1893～　) 洋画家。東京の生まれ。錦城(きんじょう)中学校卒業後，1915年(大正4)岸田劉生(りゅうせい)・木村荘八らと草土社を結成。のち二科展で二科賞を得たが，1922年春陽会の創立に参加，豪放な筆致と大胆な色調で気骨ある東洋精神を表現した。

なかがわよいち【中河与一】(1897～　) 小説家。香川県の生まれ。早稲田(わせだ)大学英文科中退。新感覚派の機関誌《文芸時代》に加わって《氷(こお)る舞踏場》などを発表。〈形式主義芸術論〉を唱えてプロレタリア文学の側と激しい論争を起こし，また《非合理の美学》を書き，注目された。おもな作品に《天の夕顔》《探美の夜》などがある。

なかかんすけ【中勘助】(1885～1965) 小説家・詩人。東京の生まれ。東京大学国文科卒。夏目漱石(そうせき)に教えを受け，特異な個性で文壇と距離を保ち，近代的苦悩の抑制のうえに孤高清澄な内面性を追求した。幼少時から自我の覚醒(かくせい)までを描いた処女作《銀の匙(さじ)》は漱石に激賞され，のち《提婆達多(でばだった)》《犬》などでは愛と煩悩(ぼんのう)を探り，《孔子》《白鳥の話》へ童話的作風に進む。《しづかな流》などのすぐれた随筆，詩集《琅玕(ろうかん)》がある。

ながぎ【長着】和服の一種。身たけが肩から足首まである長い衣服の意で，農漁

村などの労働着の短着(腰からひざまでの身たけ)に対していう。一般には着物(狭義)とよび，季節による種類のひとえ*(単衣)・あわせ(袷)・綿入れといえば，長着をさす。
【歴史】中世からは庶民の衣生活もしだいに豊かになり，平安時代と違って日常着にそで*をつけ，身たけも長くなった。また，左右の前身ごろの重なりを深くするためにおくみ*をつけるようになって，長着の形が整った。近世初期までは公家(くげ)・武家の礼装では下着であったが，武士ははかまをつけずに，長着を着流しにしたりするようになった。江戸時代は絹の綿入れ長着を小そで*，あわせ長着をあわせ小そで，もめんの綿入れを布子(ぬのこ)，絹のひとえ仕立てをひとえ，麻のひとえを帷子*(かたびら)，湯上がりに着るもめんのひとえをゆかた*とよんだ。室町時代以後男物では，熨斗目(のしめ)小そでが，江戸中期には黒五つ紋付の染め抜きが礼装用となり，今日に続いている。女物は種々の染織物が使われ，そでたけの長短によって振りそで*・留めそで*などともよぶ。また，被衣*(かつぎ)はひとえ長着，腰巻*きは毛抜き仕立てのあわせ長着，打掛*(うちかけ)は綿入れ長着である。そして，冬の防寒には綿入れ長着を下着として2～3枚重ね，夏の盛装にはひとえ重ねといって，表着のひとえや帷子に白下着を重ねて仕立てて着用したが，今日ではこれらの重ねは紋服以外にはすたれてきた。なお，長着の形・寸法・用布は男物・女物・子ども物によって異なる。➔和裁 ➔和服 〔堀越すみ〕

ながくてのたたかい 【長久手の戦い】 ⇨小牧・長久手の戦い

ながくぼせきすい 【長久保赤水】(1717～1801) 江戸時代中期の地理学者。名は玄珠，字(あざな)は子玉，赤水と号し，通称源五兵衛(げんごへえ)。常陸(ひたち)(茨城県)多賀郡赤浜村の農家に生まれる。地理・地誌を研究し，1774年(安永3)《日本輿地(よち)路程全図》を完成。これはわが国ではじめて経緯度を施した日本地図として明治に至るまで広く使われた。このほか《地球万国全山海輿地全図説》(1785年ごろ)や著書《東奥紀行》《安南漂流記》《長崎紀行》などがある。

なかぐりばん 【中ぐり盤】 穴を精密な寸法にくり広げる作業をする工作機械。主軸または主軸に取り付けた中ぐり棒にバイト*を固定して，これを回転させながら穴の中へ送り込んで穴あけ作業をする。ほかにリーマ仕上げ・面削り・フライス*削りなどの作業も行なうことができる。主軸は水平位置の横形が普通である。なお特に精度の高い加工をするものに精密中ぐり盤・ジグ*中ぐり盤などがある。

なかご 【中子】 鋳物の中空部分や孔の部分，あるいは深い凹部(おうぶ)を形成するために，鋳型の本体とは別につくった砂型。これを鋳型の本体にはめ込み，ふたをかぶせて1個の鋳型が完成する。





長　着　① 女のかさね　歌川国貞画　② 女のひとえ(左)とゆかた(右)　鈴木春信画　③ 男のかさね　鳥居清長画

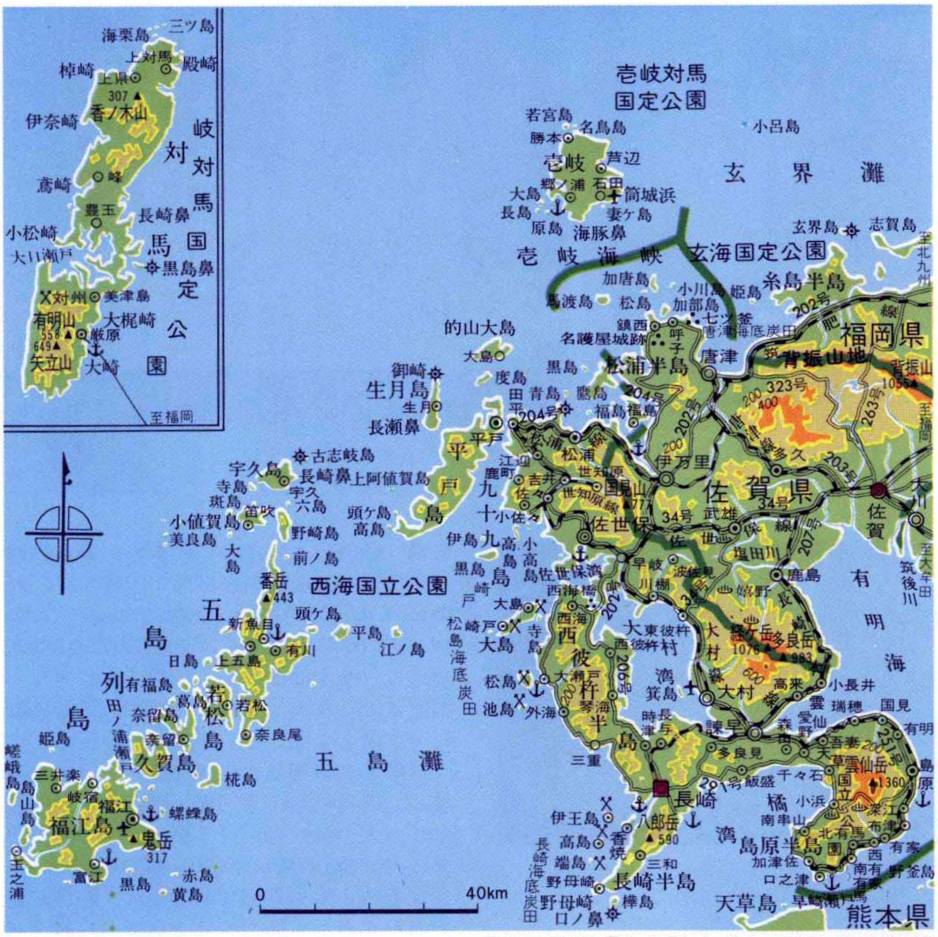



ナガコガネグモ
下は卵嚢

ながこがねぐも 【長黄金蛛】 蛛形(ちゅけい)類・真正クモ目類・コガネグモ科。腹部に黒と黄の横の細いしま模様が多数あるクモで，夏の終わりから秋にかけて成熟する。体長は雌では20～25mm，雄では10mmほど。路傍・あぜなどの比較的低いところに円網を張る。円網の中央には隠れおびという特別の白い糸がつけられているが，成長とともに，薄膜状，列をなしたジグザグ，1列のジグザグと形が変わる。初秋にかっ色のつぼ状の卵嚢(らんのう)をつくり，網の近くにつるす。敵が近づくか体に触れると網を揺する習性がある。ヨーロッパから日本にかけて広く分布し，しばしばジョロウグモと称されるが，真のジョロウグモはまったく別の種類である。 〔八木沼健夫〕

なかざ 【中座】 大阪道頓堀(どうとんぼり)の劇場。1661年(寛文1)の創立という。江戸時代には中の芝居といい，角(かど)の芝居，大西の芝居と並ぶ大劇場だった。1872年(明治5)，中座と改称。第2次世界大戦で焼失したが，戦後再建されて今日に至った。昔の劇場の様式を残している。

ながさき 【長崎(県)】 九州地方北西部の県。県域の大半は海に囲まれ，東は佐賀県と接する。肥前の西半部と壱岐(いき)・対島(つしま)の全域を占め，面積4,105km²，人口159万5,000。人口密度は1km²あたり389人である。県木はツバキ，県鳥はオシドリ，県獣はキュウシュウジカ。県庁のある長崎以下8市と9郡(70町1村)に分かれる。
【自然】主要部は九州西部の一大半島を形成し，五島列島・平戸島・壱岐島・対馬をはじめ大小631の島々(うち528は無人島)を含み，島の総面積は県域の約45％を占める。北は壱岐・対馬を経て朝鮮海峡，西は五島列島から東シナ海，南は天草灘(あまくさなだ)を隔てて天草諸島(熊本県)と相対し，東は佐賀県に接する。北部に北松浦半島が突出し，西方海上に平戸島・九十九(つくも)島など，多くの島々が浮かぶ。南部には島原・西彼杵(にしそのぎ)の両半島が東西に分かれて橘(たちばな)湾を囲み，西彼杵半島の基部から長崎半島が南へ突出する。島原半島には雲仙(うんぜん)岳(1,360m)を中心とする雲仙火山群がそびえ，佐賀県境には経ケ岳(1,076m)・多良岳(983m)があり，いずれも白山火山帯に属する。その他は一般に低い丘陵性山地で，長崎地方や平戸島・五島列島などの火山は高さが600mにも満たない。北松浦半島一帯には第三紀層の丘陵性山地が発達し，かつては西彼杵半島西方の離島地域とともに県の二大炭田地帯を形成していた。大きな河川はなく，平野は海岸部に散在し，総面積を合わせても県域の10％に達しない。本明(ほんみょう)川下流に県下最大の諫早(いさはや)平野があり，有明海沿岸まで水田地帯が広がる。海岸線は延長3,699kmに及び，全国最長で，79市町村のうち海に面しないのは3町しかない。火山のすそ野を除き，大半が沈水海岸で，多数の半島と島，岬(みさき)と湾・入り江などによって屈曲に富む。西部海域は五島列島を中心とする西海国立公園，南部の雲仙火山群は特別名勝，また南方の天草諸島と合わせて雲仙天草国立公園，北部の壱岐・対馬両島付近は壱岐対馬国定公園に指定されている。気候は対馬海流の影



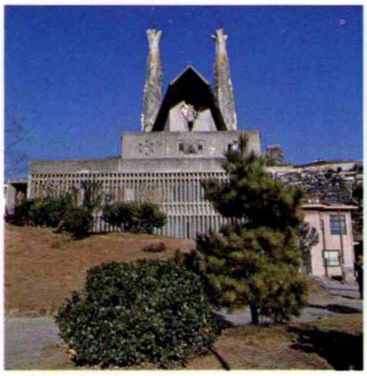
100万人以上の市　30〜100万人の市　10〜30万人の市　5〜10万人の市
5万人未満の市　町名　村名　字名　地方庁所在地　油田　商港　漁港

長崎県

響を受けて一般に温暖で，雨量の多い海洋性気候を呈する。年平均気温は16℃前後，冬季でもほとんど降雪はみられない。五島列島や島原・長崎両半島などの海岸部には霜も降りず，ビロウ・アコウなどの亜熱帯植物が自生する。年降水量は2,000mmをこえ，夏季の降雨が多く，台風や梅雨期後半の集中豪雨による災害がしばしばみられる。冬季は雨は少ないが，北寄りの風が強く，晴天日数は少ない。

〔産業・経済〕産業三大別人口比は19:25:56。農業・水産業などを主産業とし，近代工業は造船業以外にめぼしいものがなく，最近は炭鉱の不況と観光サービス業の進展が目だっている。県民所得は年間1人あたり111万5,000円で，全国でも第37位の低位である(1977)。《農林水産業》耕地面積は739km²で県域の約18%を占め，全国平均の14.8%を上回るが，耕地のほぼ50%は15°以上の傾斜地で，機械化も遅れ，約82万戸の農家の兼業農家率は82%に達する。水田は耕地の約42%にすぎず，一毛作が多く，反あたり収量が少なく，米の平年収量は10万2,000tで，県民の需要の半ばも満たすことができない。有明海の干拓は昔から行なわれており，諫早湾の干拓計画もあるが，最近は米の減反政策のために，農業用地のほか工業用地や水資源開発のための淡水湖の造成というような方向に，計画を変更しようとしている。傾斜地の段々畑では裸麦・小麦などの麦類や，サツマイモ・ジャガイモなどがつくられ，サツマイモは食用のほかデンプンやアルコールにも加工される。果樹では，大村湾沿岸のミカン・ザボン，茂木(長崎市内)周辺のビワが名高く，ミカンは最近栽培面積も増加して年産25万1,000t余を産する。かつての主産業であった養蚕は島原半島を中心に各地で行なわれたが，最近は衰退した。肉牛の飼育頭数は74,000頭で，古くから平戸牛・小値賀(おじか)牛・五島牛などの和牛が知られ，小形の対馬牛は島内の物資の運搬にも使われる。近年はブタ・ニワトリの飼育も県下各地で盛んである。林野面積は2,379km²で，気候条件は樹木の生育に適しているが，地味が肥えておらず，山も浅いために林業はあまりふるわない。西彼杵半島や多良岳・雲仙火山群の周辺山地にスギ・マツ・ヒノキの産出が多く，五島列島をはじめ県下各地にクヌギ・カシ・クス・ナラなどの産出があるが，他県から移入するほうが多い。特産としては西彼杵半島や対馬のシイタケ，五島列島のツバキの実などがある。水産業は，対馬海流の流れる大陸棚(たいりくだな)の広い漁場と多くの天然の良港に恵まれて，きわめて盛んであり，年間漁獲量は69万3,000tに達し，北海道・東京に次ぎ全国第3位を占める(1975)。漁船は五島列島から朝鮮海峡，さらに東シナ海や黄海へも出漁し，イワシ・アジ・サバ・タイ・グチ・タチウオ・サメなどを漁獲する。定置網のブリ，一本づりのイカの産も多い。漁獲物はおもに長崎・佐世保の両港に水揚げされ，阪神(はんしん)地方や京浜地方へ冷蔵貨車によって運ばれる。大村湾や対馬・五島その他の内湾では真珠の養殖が行なわれ，1975年の真珠浜揚げ量は約9tで，三重県(約9t)とともに全国一である(第52次農林省統計表にはこれ以上の詳しい数字をあげてない)。特産にはサンゴやべっこう細工があり，からすみ・するめなども移輸出される。《鉱工業》地下資源は石炭が主であったが，国の石炭合理化政策によって次次と閉山し，わが国ではほとんど唯一の強粘結炭の産地であった北松炭田(佐世保炭田)も1974年に採掘をやめ，わずかに残っている西彼杵炭田でも，軍艦島(ぐんかんじま)の名で世界的に有名であった端島*(はしま)炭田が，1974年に閉山し，1977年現在では松島と高島の2炭田が操業しているのみで，その産出高は170万t(1975)であるが，年々減少している。石炭のほかの鉱産物としては対馬の対州鉱山が，鉛と亜鉛・銀で全国有数の産出高を誇っていたが，1973年に閉山，そのあとにイタイイタイ病の原因となるカドミウム公害を残して，問題となっている。なお，福江島に五島鉱山があって，蠟石(ろうせき)を産し，全国産出高の大部分を占めている。発電所は九州電力の大村(出力22万kW)・相ノ浦(18万kW)の2火力発電所があり，県下の需要を満たすほか，北九州工業地帯へ送電している。水力発電は有力河川がないためにほとんどふるわない。近代工業は，造船業を中心とする機械工業，金属工業などがおもなもので，長崎市には三菱重工長崎造船所をはじめ，電気・製鋼などの大工場があり，佐世保市には佐世保重工造船所がある。臨海工業地帯の造成計画も最近進められ，長崎港外沿岸に造成する長崎外港や，大村湾工業地帯・松川臨海工業地帯がある。その他の工場の規模は一般に小さく，工場数の78%までが従業員9人以下の小工場で，極端な対比を示している。機械・金属工業は長崎・佐世保両市を中心に中小工場が多く，食料品工業では長崎市でイワシ・ミカンのかんづめ製造，県北部や離島部で水産加工，島原半島ではデンプン・アルコールなどの農産加工がある。

〔交通・都市〕山がちの地形のために，陸上交通の発達は遅れているが，長崎本線とその支線佐世保線・大村線・松浦線などが県下の主要動脈である。松浦線には石炭積み出しのための世知原(せちばる)線・臼ノ浦(うすのうら)線・柚木(ゆのき)線などの支線があったが，すべて廃止されてしまった。南部には私鉄島原鉄道が諫早から島原半島を東へ回り，島原を経て加津佐に達しており，半島





長崎市　(左)市内の史跡の一。1596年の二十六聖人の殉教跡に立つ記念館。国鉄長崎駅の北側の丘上にある　(右)東側上空から見た市の中心部と長崎港。右手の浦上川河口に突き出るのが魚市場で，対岸の巨船の停泊するところが造船所

の農耕地帯をつなぐ重要な役割を果たしている。国道は鳥栖(とす)(佐賀県)から大村・諫早を経て長崎へ達する34号線，武雄(たけお)(佐賀県)から佐世保へ通ずる35号線，島原から島原雲仙道路(有料道路)を経て小浜・諫早へ通ずる57号線が幹線道路である。そのほか長崎から佐世保へ至る206号線，佐世保から松浦・唐津(からつ)(佐賀県)方面へ通ずる204号線，島原半島を一周する251号線があり，長崎バイパス(有料道路)が34号線と206号線を直線的に結ぶ。206号線には西彼杵半島北部の針尾瀬戸に有料道路の西海橋が架橋されており，平戸瀬戸の架橋も204号線の延長として，平戸大橋(有料)が1976年に完成した。バス路線は，これらの道路を利用して鉄道のない山間部までよく開け，長崎～諫早～雲仙～島原の国際観光路線をはじめ，佐世保線と大村線を結ぶ国鉄バス嬉野(うれしの)線，島原半島を横断する私営バス，長崎と佐世保・雲仙を結ぶ公・私営バスなどがある。離島が多いために海上交通は長崎・佐世保を中心に古くからよく開け，長崎と五島列島の福江間に定期航路が通じ，壱岐の郷ノ浦港，対馬の厳原(いずはら)港には，博多(はかた)中心の航路が通じている。航空路は，1975年に開港した日本最初の海上空港である長崎空港(大村市)を基地として，東京・大阪・名古屋および九州内の鹿児島・対馬・福江へ定期便が出ている。長崎空港は大村湾に浮かぶ箕島(みしま)を削り，周辺を埋め立てて造成したもので，2,500mの滑走路によってジェット機の発着が可能になり，全日空と東亜国内航空の東京までの定期便は，大村空港からＹＳ11で東京まで２時間50分かかっていたのが，新空港からはジェット機で，１時間40分に短縮された。本土とは橋で連絡している。なお，1975年には対馬空港も上島の美津島町に開港，長崎県内の離島には五島(福江)・壱岐とともに３つの空港ができたことになる。旧長崎空港(大村市)は，もともと海上自衛隊のもので，現在も引き続き海上自衛隊が使用している。都市は海岸部に発達し，長崎は県南の中心，佐世保は県北の中心となる。島原・大村・平戸・福江・諫早・厳原はそれぞれ城下町として古い歴史をもち，佐世保は明治中期の海軍鎮守府の設置により，松浦は昭和初期の佐世保炭田の開発によって開けた。そのうち福江・平戸・松浦は1953年の町村合併促進法施行以後の新市である。また長崎市・西彼杵半島・五島列島・平戸島などには異国的なふんい気をもつキリシタン部落があり，中でも平戸の生月島には古い風習を伝える農業集落がある。

【歴史】中国・朝鮮・南方諸地域と近いため，古くから大陸や東南アジアとの文化交流が多かった。特に壱岐・対馬は古代から朝鮮との関係が深く，壱岐には三韓(さんかん)征伐の際に神功(じんぐう)皇后が仲哀天皇のうぶ湯につかったといわれる温泉が残る。鎌倉時代には，元寇(げんこう)に際して，壱岐・対馬両島が元・高麗(こうらい)連合軍の侵攻をまっ先に受けた。五島列島は遣唐使の派遣に際しては日本における最後の寄港地となり，室町時代後期には大陸沿岸を侵略した倭寇(わこう)の根拠地となった。平戸は，1550年(天文19)にポルトガル船が入港して以来，貿易港として開け，西国諸大名が西洋との交易を求めたために，キリスト教をはじめ海外文化が伝わった。その後キリスト教伝道の中心は長崎に移り，1573年(天正１)領主大村純忠(すみただ)が長崎をポルトガルの宗教団体イエズス会に寄付して，長崎は一時植民地化した。1582年，大友宗麟(そうりん)・有馬晴信(ありまはるのぶ)・大村純忠の３キリシタン大名が伊東(いとう)マンショらの少年使節をローマ教皇のもとへ派遣したこと(天正遣欧使節)もよく知られる。しかし1587年，豊臣秀吉(とよとみひでよし)はキリスト教を禁止して長崎をポルトガルから没収し，以後は江戸時代まで引き続いて各地でキリシタンの迫害が行なわれた。1596年(慶長１)長崎で処刑されたキリシタンの遺跡は，いまも二十六聖人殉教の地として残っている。江戸時代には長崎は幕府の直轄地として奉行所(ぶぎょうしょ)が置かれ，1639年(寛永16)の鎖国令以後は平戸のオランダ商館も出島に移され，長崎は幕末までわが国唯一の開港場として対外貿易を行なった。長崎以外は５藩に分かれ，松倉氏が島原，大村氏が大村，松浦氏が平戸，五島氏が福江，宗氏が厳原をそれぞれ領したが，松倉重政(しげまさ)のキリシタン弾圧などを導火線として1637年に島原の乱が起こり，乱後は松平氏が島原を統治した。長崎代官末次平蔵が南洋各地に末次船とよばれる朱印船を派遣して貿易を行なったり，末次船の船頭である浜田弥兵衛(やひょうえ)が台湾のオランダ人の根拠地を襲撃したりしたのもこのころである。江戸中期以後はヨーロッパの近代文化が長崎にいちはやく流入し，特に蘭学(らんがく)が盛んとなったために，幕末にかけて全国から遊学する者が集まり，県人の中からもオランダ人について砲術を学んで一派をなした高島秋帆や日本の活字印刷の創始者本木昌造(しょうぞう)，写真術の上野彦馬(ひこま)，《江湖新聞》の発行者福池桜痴などの人材が輩出した。1871年(明治４)の廃藩置県によって，対馬の厳原藩を除く４藩がそのまま県となり，次いで幕府直轄地の長崎を合わせて長崎県となった。1872年対馬が合併され，その後一時佐賀県と合併したが，1883年これを分離し，1893年壱岐を合わせて現在の県域が確定した。〔浅井得一〕

ながさき　【長崎(市)】　長崎県南部，県庁のある市。人口44万3,000。もと深江ノ浦とよばれ，現地名は鎌倉時代に長崎氏が築城したことにちなむ。1571年(元亀２)ポルトガル商船の入港以来，大村・平戸などの六丁(現在の万才町)が形成されて今日の都市の基盤となった。その後大村純忠(すみただ)が領主となり，一時はイエズス会に寄進されてキリシタン領となったが，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の禁教令によって没収された。江戸時代には幕府直轄領として代官所が置かれ，1636年(寛永13)鎖国政策によって出島に居留地が設けられた。その後は中国とオランダのみを相手とする日本唯一の貿易港として，外国文化導入の門戸をなした。明治以後は日本のアジア大陸への前進基地となり，中国の上海(シャンハイ)との対岸貿易が盛んで，造船業その他の重工業が発達した。1889年(明治22)市制施行。第２次世界大戦末期の1945年(昭和20)８月９日，アメリカ空軍によって北部に原子爆弾が投下され，死者と負傷者はそれぞれ70,000をこえ，市街地の約３分の１が壊滅した。戦後は復興が順調に進み，1949年長崎国際文化都市建設法が施行され，最近では重工業と観光を中心に戦前以上に繁栄している。市域は西彼杵(にしそのぎ)半島と長崎半島に囲まれた長崎湾東岸にあり，丘陵性の山地が海岸付近まで迫り，石畳の坂道が山腹にまで通じて，〈坂の町〉の名がある。万才町は官公庁・銀行・商社が集まるビジネスセンターで，出島近くの浜町一帯が市内随一の繁華街となる。また新地は日本における華僑(かきょう)の発祥地で，いまも中華料理店などが並ぶ

中華街が形成され，中国人は長崎では〈阿茶(あちゃ)さん〉とよばれて，すっかり土地の中にとけこんでいる。産業三大別人口比は6：29：65。長崎湾西岸にある三菱(みつびし)重工長崎造船所は，かつて68,200トンの巨大戦艦武蔵(むさし)を建造したことがあり，東洋一の規模と世界一の造船量を誇り，周辺には電機・製鋼の大工場もあって臨海工業地帯を形成する。周縁山地ではミカン・ザボン・ビワなどの果樹栽培が盛んで，長崎半島東岸の茂木はビワの産地として名高い。長崎港はわが国有数の商港・漁港で，遠洋・沿岸漁業の基地となり，年間水揚げ高は19万t(1974)に達し，全国第10位を占める。最近は香焼水道の埋め立てによる外港の建設が進み，50,000トン級の大形船が接岸できる岸壁がつくられて，外国貿易の基地，国際観光のターミナルポートとしての発展が期待されている。長崎大学・長崎造船大学をはじめ，文教施設が多い。長崎本線の終点で，国道34号線・57号線・206号線・251号線が集まり，五島列島や天草諸島へは定期航路が通じ，茂木港と天草の富岡港の間にはフェリーボートが就航する。豊富な史跡とすぐれた風光に恵まれて日本有数の観光地となり，また古くから天主教の一大中心地であった伝統がいまも生きて，日本におけるカトリック教の代表的都市となり，国宝の大浦天主堂をはじめ大教会が多く，原爆で破壊した浦上天主堂も復興し，西坂公園には二十六聖人殉教地跡もある。活水(いけみず)女子短期大学をはじめカトリック系の学園も多い。観光の対象となるものはきわめて多彩で，出島のオランダ商館跡・唐人屋敷跡，稲佐の国際墓地・丸山遊郭跡・グラバー邸・シーボルト邸跡・諏訪(すわ)神社，中国ふうの寺として名高い崇福寺(国宝)，日本最古の石造橋眼鏡橋(めがねばし)，原爆落下中心地の国際平和公園と文化会館，ロープウエーがあって市街を一望できる稲佐岳(332m)，大水族館など数えきれないほどである。年中行事の伝統のあるものは6月上旬の〈ペーロン競漕(きょうそう)〉や諏訪神社の〈おくんち〉(10月7～9日)など，中国の影響を受けたものが多い。〔浅井得一〕

ながさきあげは　【長崎鳳蝶】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・アゲハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ110～125mm。大形で，日本に分布するものは他のアゲハ類にみられるような尾状突起はない。翅は，雄では黒色で前後翅とも外方に青色の鱗粉を散布する。雌の前翅は淡黒色で，基部に三角形の赤色の斑紋(はんもん)がある，後翅は前翅より色が濃く，中央に春型では3～4個，夏型では5～6個の長い白色斑をもつ。春型は好んでツツジに集まり，夏型は湿地・汚水に群がる。幼虫は柑橘(かんきつ)類を食べ，さなぎで越冬する。4～10月に年4～5回出現する。九州・四国では平地から低山地にかけて比較的普通にみられ，本州でも年々北上



ナガサキアゲハ(雄)

の傾向が認められている。なお，国外では台湾・中国・マレー・インドなどに広く分布し，雌の後翅は変化に富み，台湾以南では尾状突起をもつものともたないものとがある。〔多々内修〕

ながさきかいしょ　【長崎会所】　江戸時代，長崎貿易を独占していた商人の団体およびその建物。最初は糸割符仲間の五箇所(江戸・大阪・京都・堺(さかい)・長崎)会所と称したが，数度の変遷を経たのち，1698年(元禄11)長崎会所となった。以後長崎奉行(ぶぎょう)監督の下に貿易および長崎における金銀いっさいの出納を管理し，すべての商品の貿易権を独占するようになった。収益から長崎市民への分配金，町役人の俸給(ほうきゅう)などを差し引いた残余は運上として幕府に上納された。幕末，長崎貿易の沈滞とともに衰えた。〔高崎徳次〕

ながさきぞうせんじょ　【長崎造船所】　幕末・明治の代表的造船所。1861年(文久1)オランダ人ハルデス指導のもとに江戸幕府が建設した長崎製鉄所がその前身。工部省直轄から，1882年(明治15)岩崎弥太郎(やたろう)に貸与され，1887年低評価で払い下げられ，三菱(みつびし)長崎造船所となり，今日の三菱重工業の基礎となった。

ながさきは　【長崎派】　江戸時代に，長崎の地で外国絵画の直接的な影響を受けて活躍した画家たちの総称。まとまった流派活動はみられないが，外来美術の普及と定着に尽くした功績は大きい。源流をなす外国絵画によって，唐絵目利(からえめきき)職を中心として合理的な西洋画法を学習した洋風画派，清(しん)の沈南蘋(ちんなんぴん)の写生画風を伝える南蘋派，清の伊孚九(いふきゅう)・江稼圃(こうかほ)らに教えられた南画派に三大別される。主要な画家として洋画派の川原慶賀・若杉五十八(わかすぎいそはち)，南蘋派の熊斐(ゆうひ)・僧鶴亭(かくてい)，南画派の釧(くしろ)雲泉・僧鉄翁・木下逸雲らがあげられる。

ながさきぶぎょう　【長崎奉行】　江戸幕府の職名。遠国奉行の一。1588年(天正16)豊臣秀吉(とよとみひでよし)が長崎を直轄領として鍋島(なべしま)直茂を代官に任じ，次いで1592年(文禄1)寺沢広高を代官に任じた。江戸幕府もこれを継承して1603年(慶長8)小笠原(おがさわら)為宗(一庵(いちあん))を任じ，以後旗本(はたもと)の職として幕末まで常置された。長崎の市政，司法・警察，貿易事務の監督，対外警備などにあたった。

ながさきぼうえき　【長崎貿易】　江戸時代，鎖国以後開国まで長崎港をただ一つの窓口として行なわれていた対外制限貿易。相手国はオランダ・清(しん)国に限られ，輸入品は長崎会所で一括購入し，入札で一定商人に売却した。輸出品は会所の指定商人に納入させて外船に交付し決済した。貿易額は鎖国後年々増加したので，1685年(貞享2)・1688年(元禄1)の2度にわたって幕府は貿易を制限し，1715年(正徳5)には海舶互市新例を発して，貿易量を定めた。輸入品ははじめ糸割符商法が踏襲されて生糸だったが，その後薬種・書物・絹織物なども加えられた。輸出品は銅で一時長崎貿易銭を鋳造したが，1697年から俵物を輸出することにし，しだいにその輸出が増加して幕末に至った。オランダ人は出島のオランダ商館を，清国人は唐人屋敷を中心として貿易にあたった。〔高崎徳次〕

ながさきほんせん　【長崎本線】　鳥栖(とす)～長崎港間の国鉄路線。営業キロ数133.2。ただし長崎～長崎港間1.1kmは旅客扱いは現在していない。1891(明治24)～1934年(昭和9)開業。鹿児島本線より分岐して港湾都市長崎に至る九州の幹線鉄道の一つで，九州鉄道により建設された当時は，早岐(はいき)・大村経由であったが，1934年有明海岸を走る新線が開通して，現在はこのルートによっている。1972年喜々津～浦上間の急勾配(こうばい)区間を改善するため，東長崎経由の新線にルートの変更が予定される。

なかざとかいざん　【中里介山】　(1885～1944)　小説家。東京都西多摩郡の生まれ。本名弥之助(やのすけ)。小学校高等科卒業後，小学校の代用教員などを経て，キリスト教的社会主義の洗礼を受け，平民主義に傾き，日露戦争時に反戦詩人としてデビューした。やがて都新聞社にはいり，新聞小説に手を染めた。特に1913年(大正2)から同紙に掲載した長編《大菩薩峠(だいぼさつとうげ)》は，虚無的な剣客机龍之助(りゅうのすけ)をはじめとする群像を通して，人間の宿業を描いた全18冊41巻の未完の大長編である。しかし彼のねらいは大衆文学にはなく，むしろ思想的な小説の模索にあった。聖徳(しょうとく)太子を主人公とした《夢殿》にはその片鱗(へんりん)がうかがわれる。一方，隣人之友社を興して独自な出版活動を行ない，西隣塾(じゅく)を開いて農本主義的な子弟教育にもあたったが，第2次世界大戦中日本文学報国会に加入することを拒み，その反骨を示した。〔尾崎秀樹〕

なかざわどうに　【中沢道二】　(1725～1803)　江戸中期の心学者。名は義通(よしみち)，通称は亀屋久兵衛(かめやきゅうべえ)，道二は号。京都西陣の機屋に生まれる。手島堵庵(とあん)について心学を修めた。1779年(安永8)堵庵の命を受けて江戸に下り，心学を

講じた。1791年(寛政3)外神田相生(あいおい)町に参前舎を開いて心学普及にあたる一方，関東一円から中部・関西の諸国にまで巡講を行なった。著書《道二翁道話》。

ながさわろせつ　【長沢蘆雪】(1754～1799)　江戸時代の画家。名は魚，字(あざな)は氷計。通称は主計・政勝(まさかつ)。丹波(京都府)篠山(ささやま)藩・山城(京都府)淀(よど)藩の家臣であった。画は円山(まるやま)応挙*に学んだが，一門のうちでも特にすぐれ，奔放な筆致と誇張した歪曲(わいきょく)化の覇気(はき)が強いために独自の装飾画風をもたらした。応挙に破門されたと伝わる。

ながし　【流し】　近世邦楽の用語で，旋律に段落をつけるパターンの一種。同じ高さの音を最初はゆっくり，しだいに速めながら多少音量を落として奏して終わるもの。音高は，いわゆる核音など，構造上で重要なものに限られる。なお，流しの名称が使われなくても，同じようなリズム型は奈良時代の音楽から使われている。

ながしあみ　【流し網】　刺し網*漁具の一種。海面近くに刺し網を展開させ，いかりやロープでそれらを固着することなく，自由に波間に漂わせたまま使用する。したがって，海流や潮汐流(ちょうせきりゅう)に制約されることもなく，魚群を追ってどのような海域にも出漁できるので，遠洋漁業*の漁法として重要である。北洋サケ－マス漁業の漁法では流し網が主体をなす。

ながしののたたかい　【長篠の戦い】　1575年(天正3)武田勝頼*(たけだかつより)の軍が三河(みかわ)(愛知県)設楽原(しだらがはら)で織田信長*(のぶなが)・徳川家康*(いえやす)の連合軍に大敗した合戦。勝頼は将軍足利義昭(あしかがよしあき)の招致により25,000の軍を率いて西上し，家康に属する長篠城(城主奥平信昌(のぶまさ))を包囲した。長篠城の救援に向かった連合軍72,000は，鉄砲3,000挺(ちょう)をもって装備した信長の足軽鉄砲隊を主力に，馬防柵(さく)を設けて準備し，精鋭を誇る武田軍の騎馬隊を馬防柵ではばみ，3隊に分けた鉄砲隊の交互のいっせい射撃で武田軍を壊滅させた。以後武田氏は衰退し，1582年滅亡。鉄砲の偉力を示したことで，わが国の合戦史上画期的な事件であった。〔高崎徳次〕

ながしびな　【流し雛】　⇨雛祭り

なかじま　【中島】　愛媛県松山市の北西方，瀬戸内海にある島。温泉郡に属し，付属の島とともに中島町を形成。面積22km²，人口約1万。ウンシュウミカンやイヨカンの栽培が盛んで，東岸の大浦に大規模な選果場がある。瀬戸内海国立公園に属する。

ながしま　【長島】　岡山県の南東端，邑久(おく)郡邑久町に属する島。面積3.6km²。1930年(昭和5)に国立癩(らい)療養所が設立され，現在は長島愛生園と邑久光明園に，3,000の患者が療養生活を送っている。小川文子の《小島の春》の舞台としても名高い。

ながしま　【長島】　鹿児島県北西部にあり，出水(いずみ)郡に属する島。面積90.2km²。人口15,000。西の長島，東の東(あずま)の2町からなるが，東町は北方の伊唐(いから)島・獅子(しし)島を含む。本土の阿久根(あくね)市とは，幅500mの黒ノ瀬戸で相対し，北西には長島海峡を隔てて天草下島があり，北西のリアス式海岸が雲仙(うんぜん)天草国立公園の区域内にはいっている。大部分が火山岩の山地で，最高は矢岳(402m)。住民の80%は農民で，畑作を主とし，サツマイモ・タバコ・ミカン・エンドウをつくり，ブタを飼っている。ワカメやノリの養殖も行なわれる。阿久根・米ノ津(出水市)・水俣(みなまた)(熊本県)や，天草各港に定期航路が開け，また黒ノ瀬戸に架橋工事が進んでいる。〔浅井得一〕



長篠の戦い　《長篠合戦図屛風》(部分)　徳川美術館蔵

ながしま　【長島(町)】　三重県桑名郡の町。人口12,000。県の東部に位置し，町域は愛知県と境を接し，木曾(きそ)川と長良(ながら)川との三角州上にあり，輪中*をなす。古くは長島一揆(いっき)として知られる一向一揆の拠点であった。水郷県立自然公園の中心で長島温泉がある。関西本線・近畿(きんき)日本鉄道名古屋線・国道1号線・名四国道が通過する。

なかじまあつし　【中島敦】(1909～1942)　小説家。東京の生まれ。東京大学国文科卒。中国古典・近代英文学に親しみ，それに取材した作品が多い。1941年(昭和16)教職を辞してパラオ南洋庁に勤めたが，翌年ぜんそく悪化のために帰国。その直前《文学界*》に発表された《古譚(こたん)》(山月記・文字禍の2編)や《光と風と夢》が好評を受け，作家生活を志すも同年12月に死去。《李陵(りりょう)》など多くは没後に発表された。

なかじまうたしと　【中島雅楽之都】(1896～　)　箏曲家(そうきょくか)。京都の生まれ。生田流の演奏家として出発したが，正派邦楽会として自派を発展させ，総合的な箏曲の研究と教育をめざして正派音楽院を開き，また雑誌《楽道》を発行している。作曲家としては，新日本音楽の運動に属する作品が多い。

なかじましょうえん　【中島湘烟】(1863～1901)　婦人運動の先覚者。旧姓岸田。名は俊子(としこ)。湘烟は号。京都の生まれ。才女の誉れ高く18歳のとき皇后つきの女官をつとめたが，1年で辞し，1882年(明治15)以後は自由民権運動*に身を投じ男女同権を唱えた。1885年自由党副総理中島信行*(のぶゆき)と結婚，政治運動から身を引いた。著書に《同胞姉妹に告ぐ》がある。

なかじまちくへい　【中島知久平】(1884～1949)　実業家・政治家。中島飛行機(株)の創業者。群馬県出身。海軍機関学校を卒業後，欧米に留学，飛行機製造を学んで帰国。1917年(大正6)大尉で退官後すぐに初の民間飛行機製作所である中島飛行機を設立して，軍用機生産に着手，やがて有数の軍需会社に発展させ中島コンツェルンの基礎を築いた。1930年(昭和5)政界にはいり，第1次近衛(このえ)内閣鉄道相，政友会総裁，東久邇(ひがしくに)内閣軍需相などをつとめた。第2次世界大戦後はA級戦犯容疑で逮捕され，1947年釈放された。〔片岡一郎〕

なかじまのぶゆき　【中島信行】(1846～1899)　政治家。土佐藩出身。1868年(明治1)新政府に登用され，兵庫県判事，神奈川県令などを歴任，1876年元老院議官となる。1881年自由党結成にあたり同党副総理となり，翌年大阪で立憲政党を組織して，その総理に就任した。1890年第1回衆議院議員選挙に当選し，初代衆議院議長をつとめ，1892年イタリア駐在公使，のち貴族院議員となった。

なかじまりきぞう　【中島力造】(1858～1918)　倫理学者。京都府の生まれ。同志社英学校に学ぶ。1877年(明治10)アメリカに留学，1888年エール大学を卒業して哲学博士となり，同校哲学史講師となる。1889年ドイツ・イギリスに学び，1890年帰国。1892年東京帝国大学教授となり倫理学を担当。西洋哲学全般の広い学識をもち，ミル・スペンサーの哲学が支配していた講壇に，T.H.グリーンの倫理学を通してカント哲学を紹介。1891～1892年に《カント氏批評哲学》を《哲学雑誌》に発表するなど，カント研究を率先して奨励。社会的自我としての人格の実現を説く理想主義者であった。著書《輓近(ばんきん)の倫理学》《列伝体西洋哲学小史》《現今の哲学問題》その他多数。〔中川　誠〕

ながじゅばん　【長襦袢】　身たけが肩から足首近くまであるじゅばん*で，腰までの半じゅばんに対していう。はだじゅばんの上，長着*の下に重ねて着るもので，しゃれに着る下着*の一種。江戸時代後期から男物は長着の着流しに着用し，女物は晴れ着に

広く着られるようになった。おくみがなく，前身幅を広くし，えりを前すそまでつける。広そでで，男物は人形，女物は振り八つがあき，そでたけは長着とほぼ同じである。ひとえ仕立てとあわせ仕立てがあり，江戸末期から男物も女物もはでな色・柄を用い，しゃれた絵羽模様染めもある。特に女物には緋色(ひいろ)が多く，明治・大正まで続いたが，現代は白・ピンクなどの薄色無地が多い。〔堀越すみ〕

なかじょう【中条(町)】新潟県北蒲原(きたかんばら)郡の町。人口30,000。胎内川下流域に開ける。羽越本線が通り，市場町として発達してきた。近年，海岸に天然ガス田が開発され，これを原料とする化学工場が集中し，新興の化学工業都市に脱皮した。

ながしんくいむし【長心喰虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ナガシンクイムシ科の総称。体は細長い円筒形で，体長は2mm内外の小形種から15mmに達する大形種まである。体色は黒色・黒かっ色・赤かっ色・黄かっ色などのものが多く，斑紋(はんもん)のある種はほとんどない。頭部は下口式で背面からは見えない。触角は10～11節で，末端3節は著しく肥大する。脚は短い。背面は平滑のものから彫刻のあるものまである。幼虫はコガネムシ類の幼虫に似て，内側に湾曲している。頭部は小さく，目を欠き，胸部はよく発達している。多くの種は，枯れ木に穴をあけて食害するため，建築材や家具の害虫が多い。また，生きた枝を食害するもの，穀類を加害するもの，酒だるやコルクなどにつく種類もあり，ときに電話線のケーブルや鉛管に穴をあけて大害を与えることもある。全世界から約400種が知られ，熱帯地方に種類が多い。日本には，穀類の害虫コナナガシンクイ，タケやその製品の害虫チビタケナガシンクイムシ，カキ・クワ・カシワなどに穴をあけるフタトゲナガシンクイムシなど8種類が分布している。〔鈴木邦雄〕

ながす【長洲(町)】熊本県玉名郡の町。有明海に臨む。人口17,000。1957年(昭和32)周辺2村を合併した。中心の長洲は砂州上に発達した港町で，対岸の島原との間にフェリーボートが通じている。鹿児島本線が通じ，有明臨海工業地帯として埋め立て造成が盛んである。キンギョ・ノリなどの養殖でも知られる。

ながすくじら【長須鯨】哺乳(ほにゅう)類・クジラ目・ナガスクジラ科。中形のヒゲクジラ類で，体長20mほど。背面は黒く，腹面は白い。両半球に広く分布するが，熱帯では少ない。オキアミ・カラヌスなどの小甲殻(しょうこうかく)類を主食とする。→クジラ

なかせんだいのらん【中先代の乱】1335年(建武2)北条(ほうじょう)時行(高時の子)が鎌倉幕府復活を図って一時鎌倉を占領した戦乱。鎌倉幕府滅亡後，建武中興政府が人心を失ったのに乗じて，北条氏残党が起こした反乱のうち最も大きなもの。時行は諏訪頼重(すわよりしげ)の後援を得て，途中足利直義(あしかがただよし)を破り，鎌倉に攻め入ったが，その報に接した足利尊氏(たかうじ)は勅許を得ずに兵を率いて鎌倉へ進撃し，時行の軍を破ってこれを奪還した。頼重らは自殺し，時行は逃走した。ここに尊氏・直義兄弟は建武中興政府に明らかに反旗を翻した。当時高時を先代，尊氏を後代，時行を中先代と称したのでこの名がある。〔高崎徳次〕

なかせんどう【中山道】五街道の一。中仙道とも書き，木曾(きそ)街道・木曾路とも称した。江戸日本橋を起点とし，板橋・大宮・熊谷(くまがや)・軽井沢・下諏訪(しもすわ)などの宿駅を経由，木曾山中を通って美濃(みの)(岐阜県)さらに近江(おうみ)(滋賀県)にはいり，草津宿において東海道に合流した。その間行程129里(約507km)，ふつう板橋宿～守山宿間の67次をさすが，守山からさらに草津・大津を経て京都にはいるまでをさしていう場合もある。参勤交代の通行に用いた大名家は約30家。一般には北陸・信濃(しなの)と江戸間の交通に利用された。難所が少なく，往来も比較的疎であり，東海道の裏街道としての役割を果たした。なお，碓氷(うすい)と木曾福島に関所が設けられた。

ナガぞく【ナガ族】インドのアッサム州ナガ丘陵と北ビルマのチンドウィン川上流地域に住む一種族。モンゴロイド系に属し，チベット-ビルマ語を話す。アンガミ・アオ・コニャック・ロータ・レングマ・セマなどの諸支族に分かれている。大部分が焼き畑農業を営むが，アンガミとセマは丘陵斜面を利用して棚田(たなだ)耕作を行なう。世襲の族長を有し，数多くの奴隷をもつもの(セマ)や，長老会議と選ばれた族長をもつもの(アンガミとロータ)などがある。以前は首狩り族として知られ，敵の首を得た者は地位を高め，かつその村に豊饒(ほうじょう)と繁栄をもたらすとされた。ビルマのナガ族は隣人のシャン族・カチン族などに同化された。宗教はシャーマニズム的性格が強い。ナガ丘陵に住む者は約35万～40万人である。〔佐々木宏幹〕

なかぞなえ【中備】日本建築様式で，和様の柱間構成に用いられる間斗束や蟇股(かえるまた)などの総称。和様は原則として組み物を柱上にだけ配置し，柱と柱の間には配置しないで，それに代わる柱間の支持材として中備が生まれた。はじめの構造的役割よりも，意匠的役割がしだいに濃くなり，特に中世以降は装飾性の濃いものになった。

ながそねこてつ【長曾禰虎徹】(?～1678) 江戸初期の刀鍛冶(かじ)。もとは越前(えちぜん)(福井県)の甲冑師(かっちゅうし)ともいわれるが，1656年(明暦2)ごろ江戸に出て刀鍛冶に転じたと推定される。その師は和泉守兼重(いずみのかみかねしげ)とするのが定説で，作刀は1677年(延宝5)に終わっている。作風は，甲冑師時代から鋼の鍛錬に巧みであったためか，明るくさえた地金のよさで知られている。その作刀はよく切れることで人気を博した。

なかたきんしん【永田錦心】(1885～1927) 薩摩琵琶(さつまびわ)の演奏家・作曲家。東京の生まれ。最初は画家として出発したが，19歳で琵琶を学び，翌年には宗家から錦心の号を与えられた。錦心の始めた錦心流の薩摩琵琶は大正から昭和にかけて最も盛んな派の一つであり，この派から鶴田(つるた)錦史が出て，現代音楽でも活躍している。

なかだち【仲立ち】他人間の法律行為(契約など)の媒介を引き受けること。いわゆるブローカーである。仲立ちをする法律行為が，商行為のときは商法上の仲立ち人，商行為以外の法律行為のときは民事仲立ち人の2種類がある。前者には商品・証券の売買など，後者には不動産業者・結婚相談所などがある。

ながたひでお【長田秀雄】(1885～1949) 詩人・劇作家。東京の生まれ。はじめ《明星》〈パンの会〉に加わり，次いで木下杢太郎(もくたろう)・北原白秋らと《屋上庭園》を刊行，自由劇場の創立とともに新劇運動に参加，《歓楽の鬼》で劇作家の地位を確立した。長編史劇《大仏開眼》が代表作とされ，ほかに多数の戯曲がある。

ながたみきひこ【長田幹彦】(1887～1964) 小説家。東京の生まれ。早稲田(わせだ)大学英文科卒。兄長田秀雄(ひでお)の影響で《スバル》に寄稿，《澪(みお)》《零落》などで耽美(たんび)的な叙情作家として認められた。《霧》《自殺者の手記》などで一時は谷崎潤一郎と並称されたが，《祇園(ぎおん)夜話》などの遊蕩(ゆうとう)もの以後，通俗小説に転じた。また《祇園小唄(こうた)》など歌謡の作詞家としても著名。

なかつ【中津(市)】大分県北端の市。人口63,000。1588年(天正16)黒田孝高(よしたか)が築城し，江戸時代には小笠原(おがさわら)氏を経て奥平氏十万石の城下町として栄えた。明治時代の先覚者福沢諭吉のゆかりの地としても知られる。1929年(昭和4)市制施行。周防灘(すおうなだ)に臨み，山国川と犬丸川のつくる中津平野中央部の沖積地(ちゅうせきち)上に位置する。産業三大別人口比は19：25：56。周辺部は県下有数の米作地帯で，背後の台地では養蚕も行なわれるが，最近では繊維・鉄鋼などの近代工業が興っている。日豊本線に沿い，国道10号線・212号線が通じ，近隣都市と結ぶ大分交通のバスの起点で，耶馬日田英彦山(やばひたえひこさん)国定公園の中心をなす耶馬溪(やばけい)の探勝基地となる。市域内には福沢諭吉の旧宅，中津城跡，池大雅の書面が残る大雅堂(自性寺奥書院)などがあり，三保地区北原の原田神社境内で演じられる人形芝居は鎌倉時代以来の古い伝統で名高い。

なかつかいっぺきろう【中塚一碧楼】(1887～1946) 俳人。岡山県の生まれ。早

稲田(わせだ)大学商科中退。河東碧梧桐*(かわひがしへきごとう)選の新聞《日本》の俳人欄に投句，しだいに注目され，新傾向俳句*の中心俳人として活躍。1915年(大正４)には《海紅*》の創刊に参加，のちに主宰し，のちには伝統的東洋的精神の平明清澄な作風を示した。句集に《はかぐら》など。

なかつかさしょう 【中務省】 律令(りつりょう)官制における八省の一。詔勅文案の審署，上表の受納，国史の監修，女王・女官の名帳・考叙・位記，戸籍・租調帳，僧尼の名籍などをつかさどるほか，天皇に侍従し献替(献言)する重要な職務があり，八省の中では一段格の高い官庁であった。卿(けい)・輔(ふ)・丞(じょう)・録の四等官のほかに，侍従・内舎人(うどねり)・内記・監物(けんもつ)・主鈴など天皇の近侍や出納関係の諸役人がこれに所属し，被管には中宮職(ちゅうぐうしき)・左右大舎人(おおとねり)・図書(ずしょ)・内蔵・縫殿・陰陽(おんよう)の諸寮，画工(えだくみ)・内薬・内礼の諸司があった。➔律令制〔黛　弘道〕

なかつかさのないしにっき 【中務内侍日記】 鎌倉後期の日記文学。作者は藤原永経(ながつね)の娘で，中務内侍とよばれた人。伏見天皇の皇太子時代の1280年(弘安３)から1292年(正応５)までに経験した宮廷生活での身辺の記録を内容とし，病身であった人のしめやかな感傷にあふれている。

ながつかたかし 【長塚節】 (1879～1915) 歌人・小説家。茨城県の生まれ。水戸(みと)中学校中退。1901年(明治34)正岡子規*の門にはいり，短歌・写生文などを学び，子規没後は伊藤左千夫*(いとうさちお)らと《馬酔木*(あしび)》《アララギ*》によった。客観的な子規の写生の方法を受け継いだ歌風で，主情的な左千夫と対立し，一時は論争もあった。のち1909年から約２年半，短歌から遠ざかって小説に力を注ぎ，《芋掘り》《おふさ》などの短編や長編《土*》を発表。また，1912年の《病中雑詠》あたりから歌壇に復帰，透徹した冴(さ)えと品位の歌境をめざした。絶唱《鍼(はり)の如(ごと)く》231首はそれを代表する。〔三浦　仁〕

なかつがわ 【中津川(市)】 岐阜県南東部の市。人口53,000。木曾谷(きそだに)の出入り口にあたり，古くから中山道(なかせんどう)の宿場町として栄え，1951年(昭和26)に合併した木曾川北岸の苗木町は江戸時代は遠山氏一万石の小城下町であった。1900年(明治33)中央本線の開通後商工業が発展し，1952年市制施行。木曾川中流流域の中津川盆地と，支流の中津川・阿木(あぎ)川が深い谷を刻む広大な背後山地を占める。産業三大別人口比は18：41：41。木曾谷の木材を集散して木工業や紙・パルプ工業が発達し，繊維や電気機器の大工場もあって近代工業の発展がめざましい。中央本線と国道19号線が東西に通じ，北の付知町へは私鉄北恵那(きたえな)鉄道，東方の馬籠(まごめ)峠(長野県)へは旧中山道沿いに濃飛バスが走る。市街

長塚　節



の南東方を中央自動車道(辰野－飯田－小牧間開通)が通じ，中津川インターチェンジがある。南東端の長野県境に恵那山*(2,190m)がそびえ，また付近にはキャンプ地の根ノ上高原，スケート場の保古ノ湖があって胞(えな)山県立自然公園に含まれ，西郊は恵那峡を中心とする恵那峡県立自然公園の区域内に属する。北郊の川上村(恵那郡)には250年の伝統をもつ恵那文楽が，無形文化財に指定されている。〔浅井得一〕

なかつぎぼうえき 【仲継ぎ貿易】 自国に営業の本拠をもつ貿易業者が，需要国と供給国との間に立って，物品売買の仲継ぎをする貿易形態の総称。両国の取引が直接に行なわれず，第三国商人を通して間接に行なわれるとき，これに２種類ある。①わが国の，極東ソ連産毛皮をアメリカへ仲継ぎする行為にみられるように，仲継ぎ物資が仲継国であるわが国を通る場合で，仲介貿易と通過貿易との利益があげられる。②仲継国の取り扱い貨物が，供給国から需要国に直送される場合で，売買の仲介手数料だけが仲継国の収益となる。わが国では，為替(かわせ)管理の関係上，後者を仲介貿易とよんでいる。〔上坂酉三〕

ながと 【長門】 旧日本海軍の戦艦。第１次世界大戦後の海軍の増強計画である八八艦隊計画の戦艦８隻のうちの一番艦。1920年(大正９)に完成。基準排水量32,720トン，速力26.5ノット。世界ではじめて40cm砲８門を搭載(とうさい)。ワシントン条約で他の艦の建造が中止されたため，〈大和(やまと)〉の竣工(しゅんこう)まで同型艦〈陸奥(むつ)〉とともに日本海軍の最主力艦として君臨した。第２次世界大戦にも生き残り，アメリカ軍に接収されてビキニの原爆実験の標的艦として処分された。なお〈陸奥〉は大戦中の1943年(昭和18)６月８日，広島湾で原因不明の爆沈を遂げたが，1971年その引き上げが試みられた。〔藤井冬木〕

ながと 【長門(国)】 山口県西北部の旧国名。長州。山陽道*に属する。大化改新以前は穴門・阿武(あむ)の２国造(くにのみやつこ)の治下にあったが，大化改新後これをあわせて長門とした。もと厚狭(あつさ)・豊浦(とよら)・美禰(みね)・大津・阿武の５郡。現在は萩(はぎ)・下関(しものせき)・宇部(うべ)・小野田・美禰・長門の６市と同上５郡からなる。関門海峡に臨む要衝として天智(てんち)天皇が築城して唐・新羅(しらぎ)の侵入に備えたこともあり，平氏滅亡後は佐々木・天野・二階堂の諸氏が守護*となった。のち北条(ほうじょう)氏一門が代々長門探題*として派遣された。室町時代には厚東氏を経て大内氏が守護となり，戦国末期まで権勢をふるったが，その滅亡後は安芸(あき)(広島県)の毛利元就*(もとなり)がこれを支配した。関ケ原の役後孫の輝元(てるもと)は減封されて萩に移り，長門・周防*(すおう)の２国を保ち，子孫世襲して明治維新に及んだ。1871年(明治４)山口(幕末，萩より山口に移ったため長門の大部分が周防の山口県にあわせられた)・清末・豊浦(長門)・岩国の諸県と併合して山口県となり，今日に至っている。〔黛　弘道〕

ながと 【長門(市)】 山口県北部の市。人口28,000。古くは深川(ふかわ)郷とよばれ，日本海岸有数の漁港仙崎(せんざき)と市場町の正明市ほか２村が合併して1954年(昭和29)市制施行。北は日本海に面し，背後に中国山地が迫り，仙崎水道を隔てた対岸の青海(おうみ)島*も市域内に含む。産業三大別人口比は26：20：54。仙崎は外海県立水産試験場・漁業用無線局などの海洋関係の施設が多く，古来北浦地方の漁業や海運の中心地で，第２次世界大戦後は一時大陸方面からの引き揚げ者の上陸港として使われた。1965年北長門海岸国定公園の中心をなす青海島との間に青海大橋が開通した。南の山間部に湯本温泉と萩(はぎ)焼深川窯の所在地三ノ瀬(そうのせ)があり，さらに南西方の木屋川上流沿いには俵山温泉がある。山陰本線と国道191号線が海岸部を東西に走り，美禰(みね)線と国道316号線がそれと直角に南下して山陽本線および国道２号線と結んでいる。

なかどおり 【中通り】 ⇨福島県

なかどおりしま 【中通島】 長崎県，五島列島の北部の島。十字形をなしており，北に南松浦郡新魚目(しんうおのめ)町，東に有川町，西に上五島町と若松町の一部，南に奈良尾(ならお)町がある。面積168km²，若松町の一部を除いた４町の人口の合計は32,000で，人口の流出が激しく，なかでも奈良尾町の1970～75年の－29.5％は，県下の市町村中第４位の減少率である。良湾に恵まれ，アジ・サバ・ブリ・イカの漁獲が多く，ハマチを養殖している。また傾斜地の畑にサツマイモをつくり，ウシ・ブタを飼う。海岸は湾入の多い沈水海岸で風光にすぐれ，西海国立公園の区域内に含まれている。〔浅井得一〕

ながとたんだい 【長門探題】 鎌倉幕府*の職名。中国探題ともいう。1276年(建治２)長門(山口県)守護として派遣した北条宗頼(ほうじょうむねより)の権能を増大してモンゴル防衛体制を強化したのが最初で，以後北条氏一門が任ぜられ，やがて周防(すおう)(山口県)守護*も兼任するようになった。御家人*に対する強力な指揮統率権のほか，現地裁判権の一部も認められた。1333年(元弘３・正慶

2）北条時直のとき官軍に下り消滅した。

なかとみし【中臣氏】 アメノコヤネノミコト*の後裔(こうえい)と伝える神別*氏。古くから大和(やまと)朝廷に仕え，忌部(いんべ)氏(→斎部氏)とともに神事をつかさどったが，後世この氏から藤原氏*が出て政界に活躍するようになると，忌部氏をおさえて神祇(じんぎ)の世界を支配することとなり，その本宗は大中臣と称した。伊勢(いせ)神宮*・春日(かすが)大社*・鹿島(かしま)神宮*などの社家はいずれも中臣氏であった。

なかとみのかまたり【中臣鎌足】 ⇨藤原鎌足

ながとみほ【長門美保】 (1911〜) ソプラノ歌手。福岡県の生まれ。1945年(昭和20)長門美保歌劇団を創設し，《ミカド》や《魔弾の射手》の日本での初演を行なった。また，日本の歌曲創作のために，他の歌手と〈コンセールf〉という組織を，また一般的な普及のために〈コンセール-アミ〉をつくって活動している。

ながとろ【長瀞】 埼玉県秩父(ちちぶ)郡野上町にある景勝地。荒川の中流の峡谷。長瀞系結晶片岩が，岩畳とよばれる平坦(へいたん)な露岩や，断層によって生じた秩父赤壁といわれる垂直な岩はだなどをつくり，上長瀞にある自然科学博物館を含めて，地学研究の宝庫となっている。

ながなきどり【長鳴鶏】 長く鳴くニワトリの総称で，トウテンコウ*のほかに，トウマル(唐丸)・コエヨシ(声良)などが含まれる。トウマルは黒色で，顔面も黒みをおび，雄は3.0kg，雌2.8kg。コエヨシはシャモに似るが尾羽はよく発達し，体重は雄4.1kg，雌3.4kg。両種とも15秒内外鳴き続けるが，音声はトウテンコウよりも太い。

ながにし【長辛螺】 軟体動物・腹足類・イトマキボラ科。長紡錘形の巻き貝で，殻高(かくこう)14cm，殻径4.5cm。螺塔(らとう)は高くなり，螺層は10階で，各層は丸くふくらむ。殻表は白色であるが黄色のビロード殻皮でおおわれる。螺肋(らろく)が全面にあり，上方の螺層では縦肋が明らかである。



ナガニシ

殻口は卵形で，細く長い水管溝(すいかんこう)が下方へ長く延びる。軟体は赤みをおび，肉は苦辛くてまずい。北海道南部から九州の浅海の細砂底に普通にみられる。卵嚢(らんのう)は革質で淡黄色の細い軍配形で，サカサホオズキといって玩具(がんぐ)にされる。殻は貝細工の材料にする。〔波部忠重〕

なかにしとしお【中西利雄】 (1900〜1948) 水彩画家。東京の生まれ。東京美術学校卒業ののち研究科に籍を置き，1928〜1930年ヨーロッパに滞在。帰国後は帝展に出品，特選も得たが，1936年(昭和11)新制作派協会の創立会員となり，ただひとりの水彩画家として活躍。明快な色調と新鮮な感覚により水彩画の新生面を開いた。

なかの【中野(市)】 長野県北東部の市。人口40,000。江戸時代は幕府の直轄領で陣屋が置かれ，幕末から明治初年にかけて北信地方の政治の中心地となった。1954年(昭和29)中野町が周辺8村と合併して市制施行。長野盆地北部，志賀高原から流出する夜間瀬川扇状地上に位置し，東は山ノ内温泉郷，西は千曲(ちくま)川中流東岸に接する。産業三大別人口比は37：26：37。北信地方のブナ材を集散し，製材木工業が盛んで，コリヤナギ細工の特産があり，ビニル細工も行なわれる。付近はわが国有数のホップ栽培地で，ホップを乾燥貯蔵する東洋一の施設をもつ。長野市から長野電鉄が通じ，東方の湯田中と北方の木島へ走る電車の分岐点となる。

なかの【中野(区)】 東京都の中西部にある23特別区の一。人口33万0,000。北は練馬(ねりま)，東は新宿，南は渋谷(しぶや)，西は杉並(すぎなみ)の各区と接する。1932年(昭和7)東京の市域拡張に伴い，豊多摩(とよたま)郡の野方・中野の2町が合併して区制を施行，1947年特別区に指定された。面積15.7km^2。武蔵野(むさしの)台地の一部をなす淀橋(よどばし)台上にあり，北部を妙正寺川，南部を神田川が貫流して，台地に谷を刻む。江戸時代はおもに畑作地帯であったが，明治以後人口がしだいに増加し，明治中期に国電中央線が中央部を東西に貫き，1923年(大正12)の関東大震災を機として，中野・東中野両駅を中心に沿線地区に住宅地帯が急速に発展した。中央線の南側には青梅(おうめ)街道と地下鉄池袋線(池袋－銀座－新宿－荻窪(おぎくぼ)の本線のほか，中野坂上－方南町の支線あり)，北側には地下鉄東西線(西船橋〔千葉県〕大手町－高田馬場－中野)・西武鉄道新宿線が走り，新宿を中心とする放射線状の交通網が形成されている。地下鉄東西線は平日朝夕は総武線津田沼まで，国電と相互直通運転をして，通勤者の便をはかっている。またこれと交わる環状道路には東から西へかけて山手通り(環状6号線)・中野通り・環状7号線などがあって，区域内を南北に走る。江戸市民の信仰を集めた新井薬師(あらいやくし)や明治時代の哲学者井上円了の建てた哲学堂(いま東京都立公園)が北東部にある。中野刑務所・国立療養所中野病院など，明治末から大正中期にかけて設けられた都市周辺施設はいまも住宅地の中心部に取り残されており，住民の要望による刑務所移転問題が起きている。〔浅井得一〕

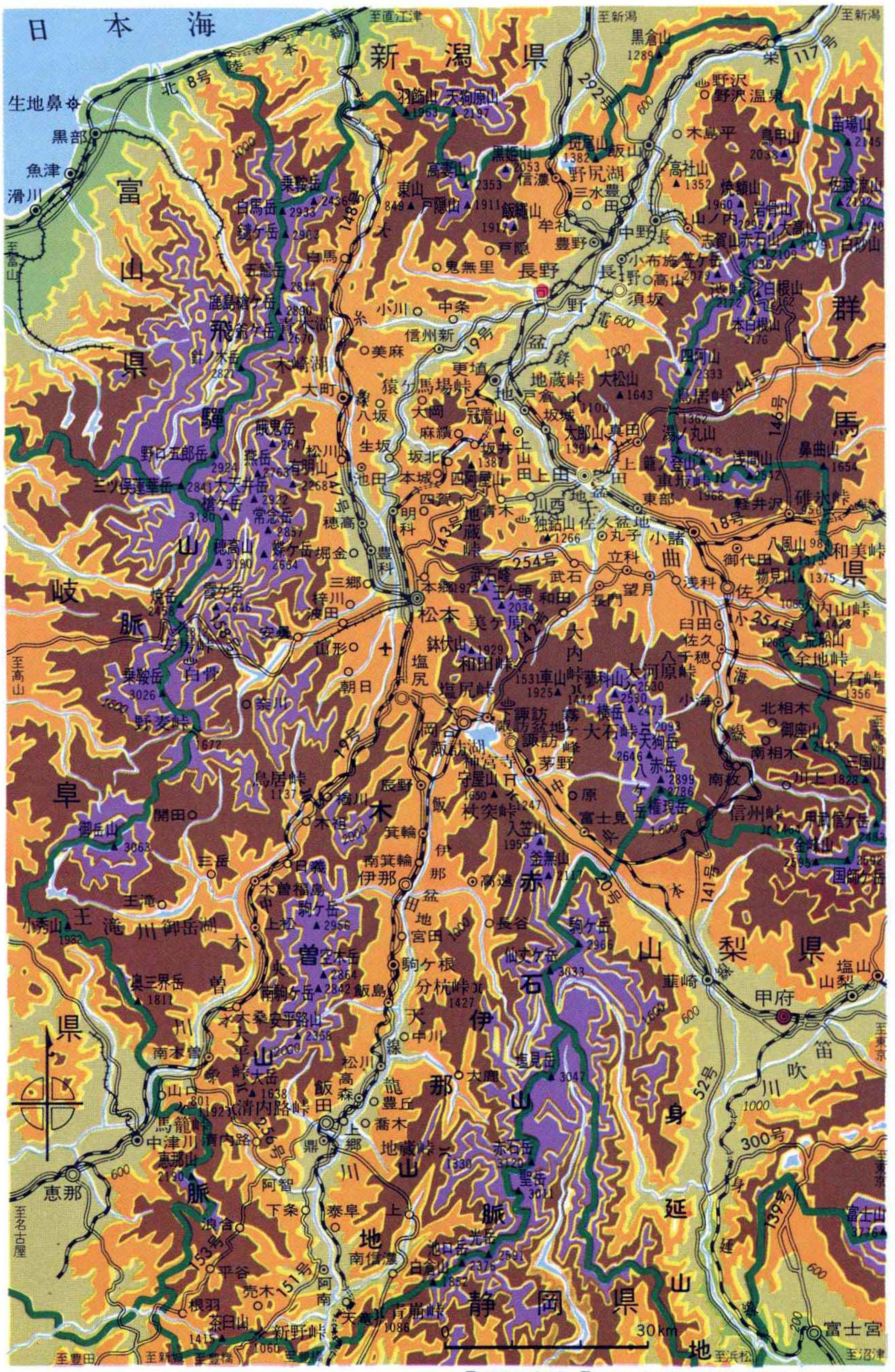
ながの【長野(県)】 中部地方東部，日本列島のほぼ中央部を占める内陸県。北は新潟，西は富山・岐阜，南は愛知・静岡・山梨，東は関東地方の埼玉・群馬の8県に接する。信濃(しなの)の全域を占め，面積は13,582km^2，北海道・岩手・福島に次ぎ全国都道府県中第4位の大県で，人口は208万3,000，人口密度は1km^2あたり153人である。県花はリンドウ，県木はシラカバ，県鳥はライチョウ，県獣はカモシカ。県庁のある長野以下17市と16郡(38町67村)に分かれる。

【自然】日本の屋根とよばれる中央高地の大半を占め，山間部に散在する長野・上田・佐久・松本・諏訪(すわ)・伊那(いな)の6盆地と木曾谷(きそだに)が主要居住地域となる。県域は南北の延長が200km余に達し，東西の最も幅広い部分に比べても約2倍の長さをもつ細長い形で，中央部をフォッサ-マグナ*の西縁にあたる糸魚川(いといがわ)-静岡構造線がほぼ南北に縦断する。この構造線の西側には飛驒(ひだ)山脈・木曾山脈・赤石山脈などの



中西利雄 《パリの裏街》
1930 ブリヂストン美術館蔵

高峻(こうしゅん)な晩壮年期の山地が南北に平行して走り，〈日本アルプス*〉と総称される。富山・岐阜の両県境を走る飛驒山脈は北アルプスの名で知られ，穂高岳(3,190m)・槍ケ岳(やりがたけ)(3,180m)など，3,000m級の高峰が連なり，南部には乗鞍(のりくら)火山帯が重なって，焼岳(2,458m)・乗鞍岳(3,026m)・御嶽(おんたけ)山(3,063m)などの火山が噴出する。乗鞍岳から北の立山・白馬岳へかけて中部山岳国立公園に指定されている。飛驒山脈の南東方を走る木曾山脈は中央アルプスとよばれ，駒ケ岳(こまがたけ)(通称木曾駒，2,956m)を主峰とする高さ2,000m級の山地で，西側は断層崖(だんそうがい)が多い。木曾山脈の東方を走る赤石山脈は南アルプスとよばれ，東は糸魚川-静岡構造線により，西は伊那山地東側の中央構造線でくぎられた楔形(くさびがた)の山地である。山梨・静岡両県境には駒ケ岳(通称甲斐駒(かいこま)，2,966m)・仙丈ケ岳(せんじょうがたけ)(3,033m)・白根山(通称北岳，3,192m)，赤石岳(3,120m)などの高峰が連なり，南アルプス国立公園に指定されている。赤石山脈の北の延長線上には八ケ岳連峰(最高の赤岳は2,899m)や蓼科(たてしな)山(2,530m)・霧ケ峰(1,925m)などの火山群があり，八ケ岳のすそ野は，東は関東山地，南西は赤石山脈と接する。その北西方には高さ1,000～2,000mの筑摩(ちくま)山地が南北に縦走し，南部の美ケ原は高さ2,000m前後の火山溶岩台地で，西麓(せいろく)には美ケ原温泉郷がある。八ケ岳や美ケ原の周辺部は温泉や避暑地・スキー場の適地が多く，八ケ岳中信高原国定公園に指定されている。北東部の群馬・新潟両県境付近には那須(なす)火山帯に属する浅間山(2,542m)をはじめ，四阿(あずまや)山(2,333m)・白根山(通称草津白根，2,162m)・岩菅(いわすげ)山(2,295m)など，多くの火山がほぼ南北に連なり，わが国でも火山密度が最も高い地域である。これら火山の山腹には志賀高原や菅平(すがだいら)などの高原地帯が開け，シラカバ・カラマツなどの混交した疎林や草原が牧歌的な景観を呈し，山麓には山ノ内温泉郷など多くの温泉がある。その北西方には，長野盆地を隔てて富士火山帯に属する妙高火山群の戸隠山(1,911m)・飯縄(いいづな)山(1,917m)・黒姫山(2,053m)などがあり，あわせて上信越高原国立公園を形成する。県域を流れるおもな河川は，これらの山地を分水嶺(ぶんすいれい)として，太平洋側へ流れる木曾川・天龍(てんりゅう)川，日本海側へ流れる千曲(ちくま)川とその支流犀(さい)川などがある。木曾川は，飛驒山脈南西部の鉢盛(はちもり)山(2,446m)に源を発して南流し，北は鳥居峠から南は岐阜県境に近い馬籠(まごめ)峠までの間に木曾谷*を形成する。天龍川は県域ほぼ中央部の諏訪盆地にある断層湖諏訪湖に発して南流し，流域に河岸段丘の発達した伊那盆地をつくって静岡県へはいる。伊那盆地南部の天龍峡は天龍奥三河(おくみかわ)国定公園の一中心である。千曲川は山梨県境の甲武信ケ岳(こぶしがたけ)(2,483m)に源を発してほぼ北西へ流れて佐久・上田・長野の諸盆地を形成し，新潟県にはいって信濃川となる。犀川は槍ケ岳に源を発する上流部の梓(あずさ)川や高瀬川の水を集めて松本盆地を形成したのち，筑摩山地を横切り，長野盆地の川中島で千曲川と合流する。これらの河川はいずれも水量の豊かな急流で，流域に多くのダムや発電所が建設され，日本最大の電源地帯となっている。気候は地形と同様複雑な様相を呈する。長野・大町両市を結ぶ線の北側は裏日本式気候，南側は表日本式気候に大別され，飛驒山脈や飯山盆地はわが国有数の豪雪地帯であるが，海から離れるにつれて内陸乾燥型となり，長野盆地から佐久盆地へかけては年降水量が1,000mm以下で，わが国では北海道のオホーツク海沿岸に次いで雨の少ない地域である。火山のすそ野や山間の段丘面はいわゆる高冷地で，夏季も気温が低く，浅間山南麓の軽井沢の最低気温は1月および2月の－4.4℃，最高は8月の20.6℃で，わが国でも最高級の避暑地とな



長野県

り，最近は冬もスケート客でにぎわう。伊那盆地や木曾谷南部は気候が温暖で，冬季の積雪も少ないが，周辺山地は高度が増すにしたがって気温が下がり，積雪量が増加する。

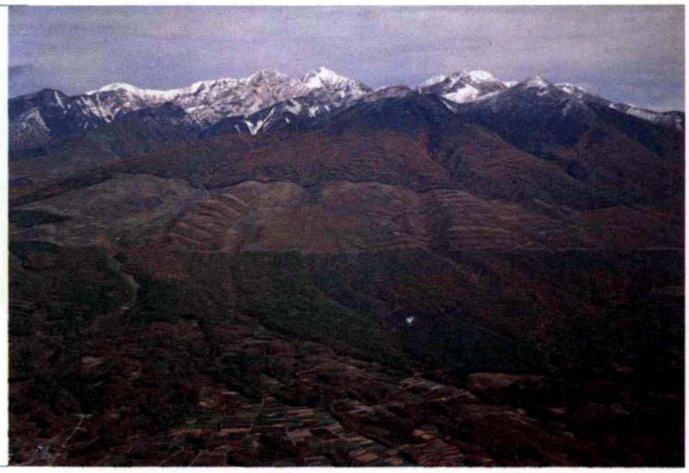
〔産業・経済〕産業三大別人口比は19:36:45。農業が主産業であるが，近年工業化が進展し，また山や高原のすぐれた景観や多数の温泉などに恵まれて，観光産業も発達している。県民所得の変動が激しく，1977年(昭和52)には1人あたり123万9,000円で，全国第19位であるが，1967年には17位，1969年には35位であった。**《農林水産業》**山がちの地形のため，耕地面積は1,555km²で，県域の11.4%を占めるにすぎない。水田率は52%で耕地の半ばをようやくこすにすぎないが，米の平年収量は32万9,000tに達し，10アールあたりの収量はつねに500kgをこえ，全国で500kgをこえるのはほかに東北地方の青森・秋田・山形の3県と最近土地改良事業などによって〈新佐賀段階〉とよばれる米の増産に成功した九州の佐賀県があるだけである。畑作の中心はリンゴ・ナシ・モモ・ブドウなどの果樹と高冷地野菜である。〈信州リンゴ〉の名で知られるリンゴは長野盆地が主産地であるが，最近はやや低調で，1969年までは毎年ほとんど31万tという安定した収穫があったのが，1970年には24万t，1977年には20万tと減産しつつある。日本ナシは伊那盆地を主産地とし，1977年の収穫量は42,000tで全国第6位であった。高冷地野菜は，菅平・浅間山麓・野辺(のべ)山・八ケ岳山麓などで集中的に栽培され，キャベツ・レタス・セロリーなどの産が多く，その70%を京浜地方や関西市場へ出荷する。特にレタス・セロリーなどの西洋野菜の生産は日本一で，セロリーは1970年には全国の46%を占める1万4,700tの収穫をあげている。ソバ・繭(まゆ)など，かつての代表的な農作物は衰退して，特に桑畑面積は全盛期の4分の1に減少している。畜産業は酪農の発達につれて乳用牛が増加し，飼育頭数51,000は全国第7位で，バター・チーズなどの乳製品もつくられる。また長野県はわが国有数の林業県で，1975年の素材生産量は100万m³で，全国第8位を占める。林野面積は102万ヘクタールで県域の74%を占め，木曾谷は日本三大美林の一つをなすヒノキの産地として名高く，サワラ・コウヤマキ・ネズコ(クロベ)・アスナロを合わせた〈木曾の五木〉が主要樹種である。また，海抜1,500m以上の高地では，モミ・トウヒ・ツガ・チョウセンマツ・シラビソなどが多く，〈木曾の新五木〉とよばれる。素材の大半は製材用で，木炭の生産はかつては50,000tもあったが，最近は減少する一方で，1975年には1,300tしかなかった。内陸県のため水産業はおもに養殖にたよっており，佐久盆地のコイの水田養殖は古い伝統をもち，最近は農業用水を利用した専門の養殖池もつくられている。山岳地帯を流れる清流を利用したニジマスの養殖も行なわれ，特に犀川流域が盛んで，アメリカへも輸出される。諏訪湖ではワカサギの稚魚が放流されるほか，コイ・ハヤ・ウナギ・フナなどの産がある。**《鉱工業》**地下資源はマンガン・イオウをはじめ，鉄鉱石・ケイ石・ロウ石・天然ガスなどを産するが，鉱山の経営規模はいずれも小さい。伊那郡辰野(たつの)町川島に日本有数のマンガン鉱山があり，イオウは群馬県境に近い火山地域で産出されていたが，最近は回収イオウに押されてすべて閉山してしまった。水力発電はきわめて盛んで，日本有数の電源県となり，総発電量は全国の約15%を占め，そのうち80%までが県外，特に中京・阪神(はんしん)・京浜の各工業地帯に送電される。犀川上流の梓川には，1969年にそのころとしてはわが国最大，現在でも第4位の62.3万kWの出力をもつ安曇(あずみ)ダムが完成し，続いて1970年には同じく梓川に奈川渡(ながわど)・水殿・稲核の三つのダムを合わせて出力90万kWの発電所が完成したが，それよりも下流の松本盆地で犀川に合流する高瀬川には，高瀬と七倉の二つのダムで合わせて出力132万kWという規模をもつ新高瀬川発電所が工事中である(ダムは1976年，発電所は1978年完成の予定)。工業は繊維・食料品・木工関係などの軽工業が主体であったが，1960年ごろから金属機械工業が急速に発達している。1974年の工業製品年間出荷額は1兆7,967億円で，全国で第21位を占める。明治初期から昭和初期にかけては生糸の製造が盛んで，製糸工場は岡谷(おかや)・須坂を中心として県下各地に分布し，1933年の最盛期には器械製糸工場数775に達したが，1962年には37工場に減少し，その後引き続き衰退しており，それでも1972年まではかろうじて全国一の生糸生産量を維持していたが，1973年から福島・群馬両県に追い抜かれ，1975年の生産量は2,535tで，福島県(2,812t)・群馬県(2,668t)に次いで全国第3位となっている。食品関係では〈信州みそ〉と寒天の製造が盛んで，清酒醸造も各地で行なわれる。木材・木工製品も木曾谷付近を中心につくられ，1970年の年間生産高は675億円(全国第10位)に達した。金属機械工業の発展は，第2次世界大戦中に諏訪・岡谷地区に都会地の工場群が疎開したのに始まり，抵抗器やコンデンサーなどの通信用機器，時計やカメラなどの精密機械，自動車部品などの輸送用機器の製造工業が発達し，1963年には松本・諏訪地区が新産業都市に指定された。1975年の出荷額は，光学機械器具(1,038億円)・時計(1,006億円)・電気機械器具(4,073億円)である。最近は長野市から小諸(こもろ)市にかけての千曲川中流流域に各種産業機械の部品工場が進出し，今後の発展が期待されている。また長野市には印刷・製本工場が多い。伝統的な家内工業による特産には蜂(はち)の子・コリヤナギ・あけび細工・アンズ・エノキダケ・チョウセンニンジン・凍り豆腐・上田紬(つむぎ)・山繭紬・野沢菜・穂高ワサビなどがある。

〔交通・都市〕陸上交通では，古くは東山道が木曾谷から御坂(みさか)峠を越え，伊那谷を北上して信濃国府のあった松本盆地にはいり，保福寺峠を越え，上田盆地から碓氷(うすい)峠を経て関東地方へはいったと推定される。江戸時代には中山道(なかせんどう)が五街道の一つとして重視され，長野・上田を経てきた北国街道と追分で合し，篠ノ井(しののい)を経てきた北国西街道と洗馬(せば)で合するというように，各盆地での街道と結ばれながら県域を横断していた。鉄道の発達は他府県と比べておそく，1893年(明治26)表日本と裏日本を結ぶ信越本線が開通したのをはじめ表日本側には中央本線・飯田線・中央西線，裏日本側には飯山線・大糸線があり，主として南北方向を結ぶ。道路は，信越線に沿う国道18号線，塩尻(しおじり)から東京へ通ずる20号線，長野から名古屋へ通ずる19号線が主要道で，これらを相互に結ぶ二次的道路が峠を越えて連絡する。諏訪・飯田などを経て県域を東西に横断する中央自動車道路は，8,500mという道路トンネルでは世界第2の長さをもつ恵那山トンネル(岐阜県境)が1975年に開通し，1977年現在で長野県内の開通部分は，辰野(仮ランプ)ー伊北ー伊那ー駒ケ根(こまがね)ー松川ー飯田の各インターチェンジをへて恵那トンネルに至るルートとなり，それから岐阜県内をへて，愛知県小牧で東名・名神両高速道路と連絡しているので，県南の交通は非常に便利になった。山ノ内温泉郷から志賀高原を経て草津温泉(群馬県)へ通ずる志賀草津道路(有料道路)が1970年に開通したほか，県内の有料道路としては，菅平(すがだいら)・霧ケ峰・蓼科(たてしな)・大町・戸隠(とがくし)・乗鞍スカイライン・三才山トンネルなどがあるほか，乗鞍スーパー林道をはじめいくつかの有料林道もある。松本に第3種空港があるが，現在定期便は運航されていない。集落の分布状況によって，県域は北信・東信・南信・中信の4地域に大別される。北信には長野・須坂・中野・飯山・更埴(こうしょく)の5市と6郡，東信には上田・小諸・佐久の3市と3郡，南信には岡谷・飯田・諏訪・伊那・駒ケ根・茅野(ちの)の6市と3郡，中信には松本・大町・塩尻の3市と4郡が属する。各地の中心都市のうち，長野は善光寺の門前町，北国街道の宿場町として発達した歴史をもち，1966年市域内に編入された松代(まつしろ)は江戸時代真田(さなだ)氏十万石の城下町であった。そのほか，松本は松平氏六万石，上田は松平氏五万三千石，伊那(高遠)は内藤氏三万三千石，諏訪(高島)は諏訪氏三万石，飯田は堀(ほり)氏二万石，飯山は本多氏二万石，佐久(岩村田)は内藤氏一万五千石，小諸は牧野氏一万五千石，

須坂は堀氏一万石のそれぞれ旧城下町で，このような小藩の分立が，現在でも県民感情の一致を妨げているように考えられる。諏訪湖西岸の岡谷は昭和初期の製糸業の発達によって，1936年平野村から一飛びに市制を施行した全国でも例のない市で，東信の高原地域にある軽井沢町はわが国の代表的な避暑地，中信の山岳地帯にある上高地は北アルプスの登山基地として広く知られる。1953年の町村合併促進法施行以後の新市は，須坂・小諸・伊那・駒ケ根・中野・大町・飯山・茅野・塩尻・更埴・佐久の11市である。

【歴史】古くは〈科野(しなの)〉と書き，8世紀初期に信濃と改められた。先史時代の遺跡が多く，諏訪市の茶臼(ちゃうす)山で無土器文化の遺跡が発見されており，塩尻市の平出(ひらいで)，茅野市の尖石(とがりいし)には古代住居跡がある。4～5世紀ごろには大和(やまと)朝廷の勢力が延びて諏訪・安曇(あずみ)などの豪族が勢力をふるった。702年(大宝2)には岐蘇路(きそじ)が開かれ，京都との交通が盛んになった。奈良時代初期には木曾谷を除く現在の県域が信濃国となり，上田盆地に国府が置かれ，開発は奥地まで進み，蝦夷(えぞ)に備えるため，越後(えちご)との国境に柵(き)が築かれた。奈良中期に国府は松本盆地に移り，北信の国分寺とともに文化の中心となり，大陸からの帰化人が多く移住して農耕・養蚕などの新しい技術を伝えたが，他地方との交易は険しい山を越える500近い峠を通じて行なわれたために不利な条件にあった。平安中期以降は源氏系の武士が各地で勢力をふるい，1180年(治承4)には源義仲(よしなか)が木曾で挙兵して平氏の軍を破り，1183年(寿永2)京都を攻略した。鎌倉時代には小笠原(おがさわら)氏が守護となったが，南北朝時代以来合戦が絶えず，戦国時代には甲斐の武田(たけだ)信玄が諏訪氏などを滅ぼして信濃を平定し，1553年(天文22)以来，越後の上杉(うえすぎ)謙信と川中島で数度の合戦を交えた。江戸時代には多くの小藩が分立し，幕府直轄の天領や善光寺をはじめとする社寺領も介在して複雑な統治下にあった。江戸時代には諏訪湖の干拓，扇状地や火山すそ野の新田開発などが行なわれ，その間木曾谷の信濃への所属も確定した。こうして，江戸初期の各藩の産米石高は50万石であったが，幕末には70万石に増加し，中期以降は養蚕も盛んになった。1869年，各地の天領や社寺領は南部が伊那県，北部が中野県となり，1871年中野県は長野県と改称，廃藩置県によって各藩を県とした高島県などの12県が置かれた。同年さらにこれら14県を廃して，東信と北信を合わせた長野県，中信・南信と飛驒の国を合わせた筑摩県が発足した。1876年飛驒を除く筑摩県全域が長野県に編入され，現在の県域が確定した。　〔浅井得一〕

ながの【長野(市)】 長野県北東部，県庁のある市。人口32万0,000。奈良時代以来の名刹(めいさつ)善光寺の門前町で，江戸時代には北国街道の宿場町となり，元禄(げんろく)期以降は参詣(さんけい)客を迎えて門前の定期市が発展。1871年(明治4)長野県庁が置かれ，1888年信越本線が開通して駅と善光寺を結ぶ集落を中心に市街地が形成され，1897年市制施行。1966年(昭和41)周辺の篠ノ井(しののい)市・松代(まつしろ)町・川中島町などを編入して，市域を拡大した。市域は信濃(しなの)川の上流にあたる千曲(ちくま)川と犀(さい)川がつくる長野盆地*の中心部を占め，犀川に合流する裾花(すそばな)川東岸の扇状地上に市街地が発達する。長野駅前から善光寺に至る沿道には商店街が立ち並ぶが，西部の県庁付近に官庁街があり，商業中心地は県庁と市役所を東西に結んで北国街道と交差する昭和通り周辺に移った。産業三大別人口比は16：28：56で消費都市的性格が強いが，近郊には水田やリンゴ園が多く，善光寺裏手一帯の山腹は県下で最も古いリンゴ栽培地である。南西に信越本線と篠ノ井線が分岐する篠ノ井駅があり，その東側を並行して走る国道18号線沿いに紡績・機械・金属など，近代工場の進出が目だち，印刷製本工業は県下第1で，その中には第2次世界大戦中に東京から移転してそのまま残ったものも多い。名古屋から塩尻(しおじり)・松本の両市を経て北上する国道19号線は市域西部で18号線と合する。信州大学工学部・教育学部のほか三つの短期大学があり，松本市と並んで県の教育の中心をなしている。南東部の松代は江戸時代には真田(さなだ)氏十万石の城下町で，第2次世界大戦末期の1944年に大本営の疎開予定地として地下壕(ちかごう)が掘られたが，いまそれを利用した地震観測所があり，1965年以降の松代付近を震源地とする群発地震の観測にはこうつごうであった。千曲川と犀川の合流点付近は川中島の古戦場である。北東郊の山ノ内温泉郷や志賀高原へは長野電鉄の電車・バスが，北西郊の戸隠・飯縄(いいづな)の両高原へは有料道路戸隠バードラインが通ずる。



長野県 茅野市東方上空から見た初冬の八ケ岳連峰。正面手前に西岳，その左へ主峰赤岳．横岳．硫黄岳と並び，また右へ権現岳・編笠山などの高峰が続く。本州の中央高地を占める長野県にふさわしい山岳美を展開している

なかのうみ【中海】 〈なかうみ〉ともいう。島根・鳥取両県にまたがる潟湖(せきこ)。面積101.7km²，水深17.1m。弓ケ浜の北端，中江瀬戸を通じて美保湾から海水が出入し，この部分がいちばん深い。西の宍道湖(しんじこ)の水が大橋川となって馬潟(まかた)瀬戸に注ぎ，河口松江湖から隠岐(おき)諸島へ定期航路が通じている。湖中に大根島・小大根島(江島)の2島があり，魚介類が豊富である。境港市・米子(よなご)市(鳥取県)，安来市(島根県)などがある。

なかのしげはる【中野重治】（1902～1979） 小説家・詩人・評論家。福井県の生まれ。東京大学独文科在学中にマルクス主義文学の研究会にはいり，また，堀辰雄*(ほりたつお)らと《驢馬*(ろば)》を創刊して詩と詩論を発表。1927年(昭和2)日本プロレタリア芸術連盟に参加，その分裂後もとどまって，ナップ*の結成後はその機関誌《戦旗*》の編集に従事した。1931年日本共産党に入党，翌年検挙されて2年余り入獄，転向して，一連の転向小説を書いた。第2次世界大戦後はいちはやく民主主義文学者の結集を図り，新日本文学会(→新日本文学)を興し，日本共産党に再入党，参議院議員になったこともある。代表作は小説《歌のわかれ》《むらぎも》《甲乙丙丁》のほか《中野重治詩集》。

なかのしま【中之島】 大阪市北区にあり，堂島と並ぶ大阪の経済・文化の中心地。淀(よど)川が天神橋付近で北の堂島川と南の土佐堀(とさぼり)川に分かれ，河口付近で合して安治(あじ)川となる間の細長い砂州の島なのでこの名がある。1697年(元禄10)堂島に米市場が置かれて以来各藩の蔵屋敷が立ち並び，〈天下の台所〉とよばれた商都大阪の中心的機能を果たしてきた。中央に大阪市役所があり，東半は1891年(明治24)開設された中之島公園で，中央公会堂・府立図書館・豊国神社などが立ち並び，花壇・噴水・池・運動場などの施設がある。西半は日本銀行支店・朝日新聞社・新大阪ホテル・国際貿易会館が集まるビジネスセンターで，大阪大学文学部・大阪大学付属病院もある。

なかのしまきんいち【中能島欣一】（1904～　） 箏曲家(そうきょくか)。東京の生まれ。

幼時から山田流箏曲のほか，長唄(ながうた)など他の近世邦楽も学び，1928年(昭和３)に中能島派の家元となる。昭和の初めから，箏や三味線(しゃみせん)のために多くの作品を発表しているが，それらは最近の《波濤(はとう)》(太棹(ふとざお)三味線の独奏曲)に至るまで，伝統邦楽のもっている音楽構造に根ざしたものである。現在，東京芸術大学教授，芸術院会員，重要無形文化財保持者。

なかのじょう　【中之条(町)】　群馬県北西部，吾妻(あがつま)郡の町で，郡の行政・経済・文化の中心をなす。人口21,000。吾妻川の北岸の段丘上に位置し，吾妻線が通じている。溪口(けいこう)集落として発達し，１・６の日に市が開かれ，繭・生糸・木炭が取引された。現在は商業のほか，製材や製糸工業が行なわれ，また町域内に四万(しま)温泉や沢渡(さわたり)温泉があって，湯治・観光の客を集める。四万温泉の日向見(ひなたみ)薬師堂は重要文化財である。

なかのせいごう　【中野正剛】　(1886～1943)　政治家。福岡県出身。早稲田(わせだ)大学卒業。《東京日日新聞》《東京朝日新聞》の記者を経て，1920年(大正９)以後衆議院議員当選８回，革新倶楽部(クラブ)・憲政会・立憲民政党に属し，1932年(昭和７)国民同盟を結成，さらにファシズムの台頭に即して東方会を組織して大政翼賛会に協力したが，1942年東条英機(ひでき)の翼賛選挙と対立，1943年《朝日新聞》に掲載した〈戦時宰相論〉で東条首相を怒らせ，倒閣運動容疑で逮捕され，釈放後自殺した。　〔岸野淳子〕

ながのはら　【長野原(町)】　群馬県北西部，吾妻(あがつま)郡の町。吾妻川上流の長野原盆地の中心で，市場町として発達した。吾妻線に沿い，上信越高原国立公園の玄関口となっている。浅間山麓(さんろく)に近い北軽井沢は，法政大学村を中心とした避暑地であるが，付近には開拓集落も多く，また浅間牧場やオートレース場がある。人口7,500。

ながのぼんち　【長野盆地】　善光寺平ともいう。長野県北部の千曲(ちくま)川に沿って南西から北東に広がる細長い盆地。東側は四阿(あずまや)山(2,333m)・白根(しらね)山(2,162m)・岩菅(いわすげ)山(2,295m)などの火山群によって限られ，これらの山に源をもつ百々(とど)川・松川・夜間瀬川などが，盆地を西流して千曲川に合流している。これらの川は山麓(さんろく)部に扇状地をつくり，このため山麓線は出入が多く，扇状地上に須坂(すざか)市・小布施(おぶせ)町・中野市などの集落が発達している。西側は筑摩(ちくま)山地北部から妙高火山群に続く山々によって限られ，これらの山々から流出する裾花(すそばな)川・鳥居川などが，犀(さい)川とともに山麓に扇状地をつくっている。盆地は信州リンゴ栽培の中心地で，おもに東側の山麓や扇状地に栽培されており，盆地南部は工業が増加しているが，北部はおもに農業が行なわれている。盆地南端にあたる姨捨(おばすて)山の階段状の水田は〈田毎(たごと)の月〉として有名である。盆地の中心は県庁所在地の長野市で，信越本線をはじめ篠ノ井(しののい)線・飯山(いいやま)線，長野電鉄などが通じている。千曲川と犀川の合流点近くには川中島古戦場が，長野市には善光寺があり，盆地の東側は上山田・戸倉・山田・山ノ内・野沢などの温泉が豊富で，また菅平(すがだいら)・志賀高原・妙高高原などのキャンプ場・スキー場に恵まれ，四季を問わず訪れる人人が多い。　〔味沢成吉〕



中原中也

ながはま　【長浜(市)】　滋賀県北東部の市。人口55,000。古くは今浜とよばれて早くから開け，室町末期に上坂氏の居館が置かれ，のち一時は豊臣秀吉(とよとみひでよし)が修築して在城したが，江戸初期に廃されてからは北陸街道沿いの活気ある商業町となった。1943年(昭和18)市制施行。琵琶湖(びわこ)北東岸に注ぐ姉川扇状地の末端に位置し，産業三大別人口比は12：43：45。湖北地方の商工業の中心地で，古くから浜縮緬(ちりめん)・近江(おうみ)かや・ビロード・別珍・鼻緒などの特産が知られる。最近では繊維・合成樹脂・機械・合板などの大工場が多く，近畿(きんき)圏都市開発内陸工業地域に指定されている。北陸本線・国道８号線が通じ，琵琶湖観光の北の基地となる。秀吉の居城跡はサクラの名所豊公園となっている。

なかはままんじろう　【中浜万次郎】　(1827～1898)　ジョン万次郎ともいう。土佐(高知県)幡多(はた)郡中ノ浜の漁夫。1842年(天保13)出漁中に漂流し，アメリカの捕鯨船に救助されてアメリカへ渡り，英語・航海術・測量術などの教育を受けて，1851年に帰国。土佐藩・幕府に仕え，海外事情を紹介，アメリカで受けた知識を伝えた。1869年(明治２)開成学校英語教授となった。

なかはらちゅうや　【中原中也】　(1907～1937)　詩人。山口県の生まれ。神童といわれ早くから文学に熱中し，山口中学を落第して立命館中学に転じた。このころ友人と歌集《末黒野(すぐろの)》を出し，また高橋新吉の《ダダイスト新吉の詩》に感激，ダダふうの詩を書きはじめた。やがて富永(とみなが)太郎・小林秀雄(ひでお)らを知り，その影響下にランボーやベルレーヌに傾倒した。1929年(昭和４)大岡昇平・河上(かわかみ)徹太郎らと《白痴群》を創刊，そのほか《歴程》《四季》などに作品を発表。近代の倦怠(けんたい)や虚無，生の不安を，自嘲(じちょう)的なおどけたリズムや幻視のイメージに託し，特異な詩風をなした。詩集《山羊(やぎ)の歌》《在(あ)りし日の歌》，訳詩集《ランボオ詩集》など。

なかぶさおんせん　【中房温泉】　長野県南安曇(みなみあずみ)郡穂高町にある温泉。泉温43～96℃，泉質は塩化水素泉・単純泉で，胃腸病・皮膚病・リウマチなどにきくといわれる。北アルプス燕岳(つばくろだけ)の山麓(さんろく)標高1,460mに位置する。白滝の湯，滝の湯，薬師の湯，御座の湯，燕の湯などがある。燕岳から槍ケ岳(やりがたけ)への縦走コースの起点である。交通は大糸線有明駅からバスの便がある。

なかま　【中間(市)】　福岡県北部の市。人口49,000。もと水田農村であったが，明治中期以降筑豊(ちくほう)炭田北部の新手・中鶴(なかつる)両炭鉱の開鉱や筑豊興業鉄道(いまの筑豊本線)の開通以来，炭鉱都市として発展した。1958年(昭和33)市制施行。市域中央を遠賀(おんが)川が北流し，西半は直方平野に属する沖積地(ちゅうせきち)，東半は低い丘陵地である。産業三大別人口比は２：49：49。平野部に水田が広がり，丘陵地は炭鉱地帯で，北東は北九州市八幡(やわた)区に接する。近年は石炭不況の影響を受けて炭鉱は全部閉山しており，かつての活気はみられない。しかし，北九州市に近いので，最近はその衛星都市化し，通勤者も多く，1965年には34,000に減少(1960～65年の減少率－20.4％)，1970年にもほとんどそのまま(1965～70年の減少率－0.1％)であった人口も，1975年には1960年をやや上回るようになった(1970～75年の増加率27.9％)。市域中央部の中間駅で筑豊本線から香月線を分岐し，東部を私鉄筑豊電鉄がほぼ南北に走る。門司(もじ)～小倉の北九州道路(有料道路)の延長工事が行なわれている。

なかみかどてんのう　【中御門天皇】(1701～1737)　江戸中期の天皇。名は慶仁(やすひと)。東山天皇の第５皇子。母は藤原賀子。1710年(宝永７)皇位につき，在位26年。1735年(享保20)桜町天皇に譲位後は太上天皇の尊号を受け，仙洞(せんとう)御所に没した。陵墓は京都市東山区今熊野にある月輪陵。

なかみがわひこじろう　【中上川彦次郎】(1854～1901)　実業家。政商三井を近代化し三井財閥にまで成長させた中心人物。中津藩(大分県)出身。慶応義塾(ぎじゅく)大学卒業後イギリスへ留学，井上馨(いのうえかおる)の知遇を受け，工部省・外務省に勤務したが，明治14年の政変で退官，母が福沢諭吉の姉であることから，時事新報社創立に参加した。次いで1882年(明治15)山陽鉄道社長に就任，1891年井上馨の斡旋(あっせん)により三井銀行理事となり，銀行経営の整理改革に手腕を発揮すると同時に，工業化推進に積極的に取り組み，三池炭鉱をはじめ九州・北海道の諸炭鉱，王子製紙・鐘淵(かねがふち)

紡績・芝浦製作所などを傘下(さんか)に収め，三井財閥の産業資本化に寄与した。

なかみなと【那珂湊(市)】 茨城県中東部の市。人口34,000。江戸時代には仲湊と書かれ，江戸と北関東・東北を結ぶ物資の中継港として繁栄し，また水戸(みと)藩の海防上の要地であった。1954年(昭和29)に市制を施行。鹿島灘(かしまなだ)に注ぐ那珂川河口北岸にあり，産業三大別人口比は15：34：51。那珂湊港は造船・冷凍・機械修理・無線などの施設が整う茨城県第1の漁港で，近海・遠洋漁業の基地となっている。水府タバコの生産も江戸末期以来盛んで，1905年(明治38)にたばこ工場が設置された。常磐(じょうばん)線勝田駅と私鉄茨城交通湊線で結ばれ，国道245号線が東海村を経て日立市へ通ずる。那珂川河口付近には有料道路の海門橋が架橋され，南隣の大洗町へ通ずる。海岸一帯は大洗県立公園に含まれ，阿字ケ浦(あじがうら)は海水浴客でにぎわう。

なかむら【中村(市)】 高知県南西部の市。応仁(おうにん)の乱を避けて京都から下った一条教房(のりふさ)が開いた町で，以来幡多(はた)地方の政治・経済・文化の中心地となり，〈土佐京都〉の名がある。1954年(昭和29)市制施行。人口36,000。市域は四万十(しまんと)川が支流の中筋川や後(うしろ)川と合流してつくる東西に細長い中村平野の中心部を占め，産業三大別人口比は27：17：56。平野部は湿田地帯で米作はあまりふるわず，しばしば水害を受ける。四万十川上流山地の木材を集散し，コリヤナギの特産がある。土讃(どさん)本線の窪川(くぼかわ)から分かれる中村線の終点で，また国道56号線が通じ，バス路線は南方の土佐清水(とさしみず)や西方の宿毛(すくも)まで延び，足摺(あしずり)国定公園の観光基地となる。

なかむらうたえもん【中村歌右衛門】 歌舞伎(かぶき)俳優。現在6世。屋号は3世まで加賀屋，4世以後は成駒屋(なりこまや)。

[1]初世(1714～1791) 加賀(石川県)金沢の医師の子。上方で敵役の名手とされた。

[2]3世(1778～1838) 初世の子。上方から江戸にかけ，立ち役・かたき役・舞踊など広い芸域にわたって名人といわれた。金沢龍玉(りゅうぎょく)の名で脚本も執筆。

[3]4世(1798～1852) 幕末の江戸で活躍。特に舞踊を得意とした。

[4]5世(1865～1940) 4世中村芝翫(しかん)の養子。女方でいて，明治末から昭和まで長く劇界を統率した名優。気品ある美貌(びぼう)で，〈先代萩(せんだいはぎ)〉の政岡(まさおか)，〈廿四孝(にじゅうしこう)〉の八重垣(やえがき)姫など時代物を得意とし，また《桐一葉(きりひとは)》の淀君(よどぎみ)など新史劇の役も開拓した。長男が5世中村福助，二男が現6世歌右衛門，長男の子が現7世芝翫。

[5]6世(1917～) 当代を代表する女方。日本芸術院会員。〔松井俊諭〕

なかむらがくりょう【中村岳陵】 (1890～1969) 日本画家。静岡県の生まれ。土佐派の川辺御楯(みたて)につき，東京美術学校卒業。長く院展同人であったが，1950年(昭和25)脱退して日展に移る。古土佐の画風に近代的表現を加えた。1961年四天王寺壁画により毎日芸術大賞・朝日文化賞を受賞。



中村岳陵《雪晴れ》

なかむらかんえもん【中村翫右衛門】 歌舞伎(かぶき)俳優。現在2世。屋号成駒屋(なりこまや)。2世(1901～)は初世(1851～1919)の子で，5世中村歌右衛門の門下。1931年(昭和6)，河原崎(かわらざき)長十郎と〈前進座〉を創立，その統率者として今日に至る。細密な技巧派の俳優。

なかむらかんざぶろう【中村勘三郎】 歌舞伎(かぶき)俳優。代々江戸中村座の座元をつとめ，俳優も兼ねた。明治以後中絶していた名を現17世が復活。

[1]初世(1598～1658) 江戸歌舞伎の元祖とされる。はじめ京都で狂言を学び，〈猿若(さるわか)〉の芸をはじめ，江戸に出て猿若座(のちの中村座)を創設。別名を猿若勘三郎。

[2]17世(1909～) 3世中村歌六の四男。芸域広く，技巧にすぐれた俳優。屋号中村屋。

なかむらがんじろう【中村鴈治郎】 歌舞伎(かぶき)俳優。現在2世。屋号成駒屋。

[1]初世(1860～1935) 3世中村翫雀(かんじゃく)の子で，明治から大正・昭和に及ぶ関西劇壇の第一人者。和事の〈紙屋治兵衛(じへえ)〉〈梅川忠兵衛〉などを得意とした。

[2]2世(1902～) 初世の二男。父の芸風を継ぐ和事のほか，女方や老役(ふけやく)も兼ねる。重要無形文化財保持者。長男が2世中村扇雀。〔松井俊諭〕

なかむらきちえもん【中村吉右衛門】 歌舞伎(かぶき)俳優。現在2世。屋号播磨屋。

初世(1886～1954)は3世中村歌六の長男。青年時代は二長町市村座で6世尾上(おのえ)菊五郎と人気を競い，壮年以後も昭和期を代表する俳優として活躍した。時代物を得意とし，熊谷(くまがい)・盛綱などがあたり芸。日本芸術院会員。文化勲章を受けた。長女の婿が8世松本幸四郎で，その二男が2世を相続している。〔松井俊諭〕

なかむらきちぞう【中村吉蔵】 (1877～1941) 劇作家・演劇研究家。島根県の生まれ。号は春雨。東京専門学校在学中に《大阪毎日新聞》の懸賞小説に《無花果(いちじく)》が当選，文名があがった。1906年(明治39)渡米して演劇を学び，帰朝後，文芸協会・芸術座に参加，近代劇の確立に尽くし，わが国近代社会劇の祖とされる。のちにはおもに新国劇のために史劇を書いた。作品に《牧師の家》《剃刀》《井伊大老の死》など。

なかむらくさたお【中村草田男】 (1901～) 俳人。愛媛県の人，生まれは中国。本名清一郎。東京大学独文科から国文科に転じ，高浜虚子に師事，《ホトトギス》に参加。伝統の〈花鳥諷詠(ふうえい)〉にあきたらず，またモダニズムをも批判，俳句における人生追究をめざし，人間探究派と称された。のち《万緑》を創刊・主宰，思想性・社会性と詩的要素の統一を志向している。句集に《長子》《万緑》《銀河依然》など。

なかむらけんきち【中村憲吉】 (1889～1934) 歌人。広島県の生まれ。東京大学法科卒。一時大阪毎日新聞社に勤めたが，おおむね家業の酒造業に従事。早く伊藤左千夫(いとうさちお)の門にはいり《アララギ》の中心歌人として活躍。島木赤彦(あかひこ)との合著《馬鈴薯(ばれいしょ)の花》で浪漫的傾向を，《林泉集》で官能的・頽唐(たいとう)的歌風を示したが，《しがらみ》以後は観照的な態度を深め沈静・平淡におもむいた。

なかむらざ【中村座】 歌舞伎(かぶき)劇場，江戸三座の一。はじめ猿若座(さるわかざ)といい，1624年(寛永1)初世猿若勘三郎が幕府の許可を得て，江戸中橋(現在の日本橋通2丁目付近)に創立したといわれている。1632年に禰宜(ねぎ)町に，1651年(慶安4)に堺町(さかいまち)に移転を命ぜられ，以後天保(てんぽう)の改革によって猿若町に移されるまで堺町にあった。そのため〈堺町〉は中村座の別称となった。座元(太夫(たゆう)元)は代々の中村勘三郎が世襲，途中休座した時は〈控櫓(ひかえやぐら)〉の都座が代わって興行した。

1893年(明治26)まで名称が残った。

なかむらそうてつ 【中村宗哲】 京都の塗師(ぬし)の家系。千家十職の一。初代(1617〜1695)は名を玄弼(げんひつ)，漆翁・勇斎・方寸斎などと号し，俳諧(はいかい)や点茶を好み，藤村庸軒と交わったと伝わる。2代は元哲といい早世した。3代(1699〜1776)は汲斎(きゅうさい)，漆桶(しつよう)汲斎の名をもって世に知られ，その作は中村家代々のうちで最も世に賞翫(しょうがん)された。以下，4代深斎，5代豹斎(ひょうさい)，6代蝶斎(ちょうさい)と続き，現在は14代である。

なかむらつね 【中村彝】 (1887〜1924) 洋画家。水戸(みと)の生まれ。陸軍幼年学校に入学したが，病気のため中退。洋画を志して白馬会・太平洋画会などの研究所に学ぶ。結核とたたかいつつレンブラント・ルノアールの感化のもとに秀作を生み，文展・帝展で受賞を重ね，1922年(大正11)帝展審査員となる。代表作《エロシェンコの像》は著名である。

なかむらときぞう 【中村時蔵】 歌舞伎(かぶき)俳優。4世まで。屋号播磨屋(はりまや)。

1 初世(1849〜1919) 晩年に3世中村歌六を襲名，老役(ふけやく)を得意とした。

2 3世(1895〜1959) 初世の二男。若いときから兄初世中村吉右衛門(きちえもん)の女房役をつとめ，晩年は女方として最高位に上った。二男(1927〜1962)が4世を継ぎ，美貌の若女方として注目されたが，急死。

なかむらとみじゅうろう 【中村富十郎】 歌舞伎(かぶき)俳優。4世まであり，代々上方の女方として知られた。屋号天王寺屋。

1 初世(1719〜1786) 初世芳沢(よしざわ)あやめの三男。〈娘道成寺〉を大成した名女方。

2 4世(1908〜1960) 2世坂東彦十郎(ばんどうひこじゅうろう)の三男。新歌舞伎の女方にすぐれた。

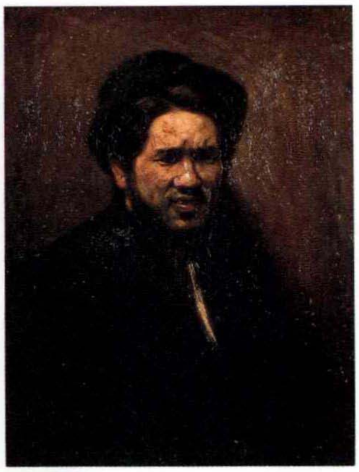
なかむらなかぞう 【中村仲蔵】 歌舞伎(かぶき)俳優。4世まで。屋号舞鶴屋(まいづるや)。

1 初世(1736〜1790) 下級俳優から出世した名優。立ち役・かたき役にすぐれ，舞踊も志賀山流を継ぎ，非凡の芸を示した。〈忠臣蔵〉の定九郎の新演出を創始。

2 4世(1809〜1886) 明治初期，かたき役・老役(ふけやく)で知られた名人。文筆の才もあり，自叙伝《手前味噌(てまえみそ)》は有名。

なかむらふせつ 【中村不折】 (1866〜1943) 洋画家。江戸の生まれ。少年時代南画を学び，のち十一字会研究所にはいり小山正太郎・浅井忠につく。1901(明治34)〜1905年フランスに滞在，おもにローランスに師事し，アカデミックな画風をわが国に伝えた。1907年文展創設とともに審査員にあげられ，1918年(大正7)帝国美術院会員になる。書道にも造詣(ぞうけい)が深かった。

なかむらまさなお 【中村正直】 (1832〜1891) 漢学者・啓蒙(けいもう)学者。号は敬宇。東京に生まれる。昌平黌(しょうへいこう)で漢学を，桂川甫周(かつらがわほしゅう)に蘭学(らんがく)を学ぶ。のち学問所教授方出役などを経て，1866年(慶応2)幕府の留学生取り締まりとして，イギリスに渡り，1868年(明治1)帰国し，静岡学問所教授となる。1871年スマイルズの《西国立志編》，1872年ミルの《自由之理》を翻訳出版した。1873年西周(あまね)らと明六社を興して活躍。1881年東京大学教授，1890年東京女子高等師範学校校長をつとめ，同年貴族院議員に勅選された。



中村　彝《帽子を被れる自画像》1909 ブリヂストン美術館蔵



ナガメ

なかむらみつお 【中村光夫】 (1911〜　) 評論家。東京下谷(したや)の生まれ。本名木庭(こば)一郎。東京大学仏文科卒。小林秀雄(ひでお)らに推され《文学界》に《ギィ・ド・モウパッサン》《二葉亭(ふたばてい)四迷論》などを発表。のちフランスに留学。第2次世界大戦後は丹羽(にわ)文雄と近代リアリズム論争，広津和郎(かずお)とカミュ論争を戦わせ，それぞれ《風俗小説論》《異邦人論》などに結実した。また《谷崎潤一郎論》《志賀直哉(なおや)論》などのすぐれた作家論をなし，ほかに小説《わが性の白書》，戯曲《人と狼(おおかみ)》《パリ繁昌記(はんじょうき)》などがある。　〔三浦　仁〕

なかむらむらお 【中村武羅夫】 (1886〜1949) 小説家。北海道生まれ。小学校卒業後，教員生活を経て《新潮》の編集に従事，編集者として活躍するかたわら，種々な雑誌に長編を連載。《人生》《獣人》《地霊》などが代表作。またプロレタリア文学を排し《誰(だれ)だ？　花園を荒す者は！》などの評論を書いた。

ながめ 【菜亀虫】 こん虫類・半翅(はんし)目・カメムシ科。体長6.5〜9.5mm。藍色(あいいろ)をおびた黒色の地に顕著な橙色(とうしょく)条斑(じょうはん)があり，寒地産の個体では条斑の赤みが強い。腹面は橙色ないし淡黄色で，各節に黒色紋がある。卵はつぼ状で淡橙黄色を呈し，黒かっ色の輪紋が肩部にある。幼虫は頭部と胸部が黒色，腹部は橙色〜淡黄色で各節の中央部と両側部に斑紋がある。成虫・幼虫ともにダイコンやハクサイその他のアブラナ科作物を吸汁(きゅうじゅう)し，大害を与える。日本全土および中国に分布する。年に2世代を経過し，成虫で越冬する。越冬成虫は5〜6月ごろ現われ，寄主植物の葉裏や茎などに産卵する。卵は数日で孵化(ふか)する。幼虫は約1か月で老熟し，6〜7月に新成虫が出現して，同様の経過を経て9〜10月に2化期の成虫が現われる。近縁のヒメナガメは，背面の橙色の条斑がより複雑で，特に半翅鞘の前縁中央部に分離した黒紋がある点で容易に区別できる。本州中部から熱帯アジアにかけて分布。アブラナ科植物を加害し，しばしば前種と混生している。　〔鈴木邦雄〕

ながもち 【長持】 ふたのある長方形のキリの箱で，衣類・夜具・調度品を入れるのに用いた。長さ5尺(約1.52m)，幅・高さ2尺(約60cm)ほどが標準である。運搬には長持ち棹(ざお)を差して前後からかつぐ。室町時代ごろから用いられ，江戸時代には運搬の効率から車をつけた車長持ちがつくられた。大正にはいるまでは嫁入り道具の一つとされ，嫁入り行列に長持ちをかつぐ人が歌った長持ち唄(うた)は，民謡として各地に伝わっている。

ながやのおう 【長屋王】 (684？〜729) 高市皇子(たけちのおうじ)の長男。母は天智(てんち)天皇の娘御名部(みなべ)皇女(元明天皇の姉)。721年(養老5)藤原不比等(ふひと)のあとをうけて政権を握ったが，藤原氏の進出をおさえて皇族の勢力を維持しようとしたため，藤原氏との対立を深め，729年(天平1)密告により陰謀の疑いをかけられて聖武(しょうむ)天皇から死を命じられた。陰謀の事実はなかったようで，藤原氏におとしいれられたものらしい。　〔黛　弘道〕

なかやまぎしゅう 【中山義秀】 (1900〜1969) 小説家。福島県の生まれ。早稲田(わせだ)大学英文科卒。中学校教師を約9年間勤め，《早稲田文学》《行動》などに作品を発表したが，妻と死別，長い苦節のあと《厚物咲(あつものざき)》で芥川賞(あくたがわしょう)を受賞した。その後，短編《碑(いしぶみ)》《山師》，長編《美しき囮(おとり)》などを発表。第2次世界大戦中は報道班員として南方に派遣されたが，それが《テニヤンの末日》に結実した。ほかに《酒屋》《魔谷》のほか，歴史小説《咲庵(しょうあん)》など。　〔三浦　仁〕

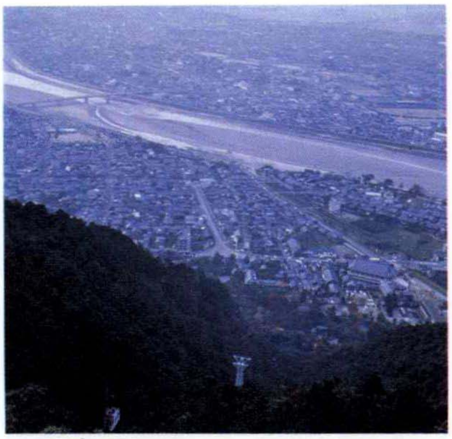
なかやましんぺい 【中山晋平】 (1887〜1952) 作曲家。長野県の生まれ。東京音

楽学校を卒業し，島村抱月の作詞によった《カチューシャの唄*(うた)》で成功して以来，新民謡とよばれた《波浮(はぶ)の港》や《東京音頭(おんど)》のほか，童謡や歌謡曲に多くの作品を残した。前者では，《証城寺の狸囃子(たぬきばやし)》《あの町この町》，後者では《船頭小唄*》《東京行進曲》が有名で，和洋折衷による歌いやすさをもっている。

なかやまただみつ【中山忠光】（1845〜1864） 幕末の尊王攘夷(じょうい)派の公卿(くぎょう)。権大納言中山忠能(ただやす)の第３子。1858年(安政５)侍従として出仕したが，尊王攘夷運動*に宮中より呼応して活動した。1863年(文久３)官位を返上して京都を脱出し，下関(しものせき)の外国船砲撃に参加した。次いで同年８月，吉村寅太郎(よしむらとらたろう)らと大和(やまと)(奈良県)五条で挙兵して天誅組(てんちゅうぐみ)の乱*を起こしたが，敗れて長崎に脱出した。しかし翌年長州藩の恭順派によって暗殺された。〔高崎徳次〕

なかやまみき【中山みき】（1798〜1887） 天理教の教祖。大和(やまと)(奈良県)山辺郡の生まれ。生家は地主で名字帯刀を許された豪農であった。13歳のとき地主の中山善兵衛(ぜんべえ)にとついだ。1838年(天保９)41歳のとき，天理王命(てんりおうのみこと)がみきに天下って神がかりになり，徹底した無際限の施しの生活が始まり，貧乏のどん底に落ちて掘っ建て小屋に住んだ。神がかりから24年めの1862年(文久２)に信者第１号が誕生し，それから２年めに，天理教史上画期的な意味をもつ大工の飯降伊蔵(いぶりいぞう)と地主の山中忠七が入信した。以後，信者は講組織によって急速に増大し，東京・静岡・四国などに及んだ。明治にはいるとみきは〈おふでさき〉〈みかぐらうた〉など和歌の形を借りた教義をつくり，また《泥海(どろみ)こふき》という人間創造説話が編纂(へんさん)された。しかし，この教義は天皇制に抵触したため，みきは1875(明治８)〜1887年の間に18回の取り調べを受け，投獄・罰金などに処されたが，非妥協のまま没した。

なかやもん【長屋門】 長屋と門とが結合したもの。近世初頭に形成された大名屋敷は，邸内に多数の家臣をむね続きの長屋(連続住宅)に住まわせ，警護の任にあたらせたが，その長屋の一部は屋敷の外周を兼ねてつくられたため，邸内への出入りの門が長屋と合体してつくられることになり，武家屋敷特有の門の形式となった。中央の両開き扉(とびら)と，左右またはいずれか一方のくぐりの扉，出入りを監視する番所，監視用の出窓の格子(こうし)窓などからなり，扉の数，番所の数，出窓の屋根の形式などから，家格に応じて細かい形式上の制限が生まれた。大名ばかりでなく，旗本(はたもと)や大名の重臣など，用人・仲間などを召しかかえる格式のある武家一般の門としても営まれ，簡略化された形式のものが生まれたが，そうした格式へのあこがれから，禁令のゆるんだ江戸時代末には，豪農の邸宅などでも営むものが少なくなかった。〔渡辺保忠〕



長　良　川　岐阜市内を流れる長良川。橋は長良橋で，鵜飼いはこの橋の付近で行なわれる。写真は金華山の山頂にある岐阜城から望んだもの

ながよせんさい【長与専斎】（1838〜1902） 肥前(長崎県)大村の生まれ。1854年(安政１)大阪の緒方洪庵(こうあん)の適塾(てきじゅく)にはいり蘭学(らんがく)を修めた。1861年(文久１)長崎に遊学，精得館にはいってポンペに師事した。1864年(元治１)帰郷して大村藩侍医となり，再び長崎におもむきボードイン・マンスフェルトらに学んだ。1868年(明治１)長崎医学校長を経て1871年東京に出て文部省出仕となり，同年10月ヨーロッパ・アメリカの医学教育・医事行政を視察。1873年帰国，文部省医務局長となり種痘法の制定，輸入薬品の検査，コレラその他の伝染病の検疫，上水道・下水道の改良など衛生事業に貢献した。

ながよよしろう【長与善郎】（1888〜1961） 小説家・劇作家。東京麻布(あざぶ)の生まれ。東京大学英文科中退。早く武者小路実篤*(さねあつ)の作品に親しみ，のち《白樺*(しらかば)》に作品を発表。長編小説《盲目の川》《彼等(かれら)の運命》に続いて戯曲《項羽と劉邦(りゅうほう)》によって認められた。激しい情熱，正義感・天才主義を特色としたが，代表作《青銅の基督*(キリスト)》に続く長編《竹沢先生と云(い)ふ人》以後は，調和的な明るい人格を理想とし，東洋的心境に傾いた。晩年は《その夜》《最澄と空海》や精神史の書《わが心の遍歴》などで，衰えを知らぬ創作力をみせ，評論も数多い。〔三浦　仁〕

ながらがわ【長良川】 岐阜県北部，飛騨(ひだ)山地南部に発して南流し，濃尾平野に出て岐阜市北部を過ぎ南に向かって伊勢(いせ)湾に注ぐ川。流程約120km。下流は木曾(きそ)川・揖斐(いび)川が東西から迫り，氾濫(はんらん)の絶え間がなかったが，1892年(明治25)以来分流工事が完成して洪水禍(こうずいか)は減少した。合流点から河口までは輪中*が発達している。なお，この川で行なわれる鵜飼(うかい)いは1,000年の歴史をもち有名。

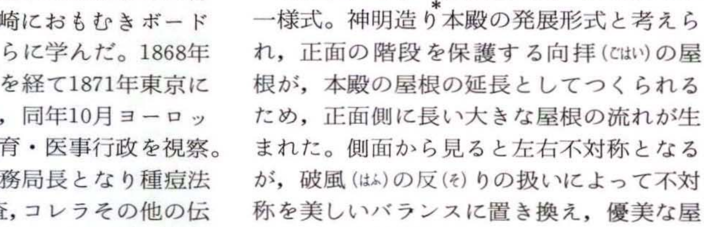
ナーガールジュナ［Nāgārjuna］ 漢名は龍樹(りゅうじゅ)。３世紀の人。インド大乗仏教の代表的学僧で《般若経(はんにゃきょう)》の思想を哲学的に大成した。南インドのバラモンの出身で，小乗仏教を学んだが，これにあきたらず，マハーナーガ菩薩(ぼさつ)から大乗経典を授かり，これを体系化して中観・空観哲学を形成した。代表作に《中論*》があり，他に《大智度論*(だいちどろん)》《十住毘婆沙論(びばしゃろん)》などの著書がある。彼を祖師とする学派を中観派といい，中国・日本では八宗(すべての宗)の祖師と仰がれている。

ながれづくり【流れ造り】 神社建築*の一様式。神明造り*本殿の発展形式と考えられ，正面の階段を保護する向拝(ごはい)の屋根が，本殿の屋根の延長としてつくられるため，正面側に長い大きな屋根の流れが生まれた。側面から見ると左右不対称となるが，破風(はふ)の反(そ)りの扱いによって不対称を美しいバランスに置き換え，優美な屋根の流れを強調するところから流れ造りの名でよばれる。

ながれぼし【流れ星】 ⇨流星

ながれやま【流山(市)】 千葉県北西部の市。北は野田，東は柏(かしわ)，南は松戸の各市と接し，西は江戸川を隔てて埼玉県に対する。江戸時代は江戸川水運の河港として栄え，江戸中期以降みりんの製造業が発達した。1967年(昭和42)市制施行。人口104,000。市域の西部は江戸川東岸の低地，東部は下総(しもうさ)台地北西端を占める。産業三大別人口比は６：37：57。低地は坂川排水路による土地改良が進んで水田地帯となり，

流れ造り



台地上ではダイズ・ネギ・カブ・ホウレンソウなどの近郊野菜が栽培される。最近は東京の衛星都市的性格が強まり，緑が多く公害のない住宅都市の建設が進み，人口も1965〜1970年間に44％，1970〜75年間に46.8％増加している。常磐(じょうばん)線馬橋(まばし)駅と流山鉄道で結ばれ，また武蔵野(むさしの)線の南流山駅がある。

ながわどダム　【奈川渡ダム】　長野県安曇(あずみ)郡安曇村にあり，信濃(しなの)川水系の梓(あずさ)川に，1969年(昭和44)に完成したアーチ式ダム。高さ155m，総貯水量1億2,300万m^3で，水力発電を目的として東京電力が建設した。安曇発電所の最大出力は62万3,000kWである。

なぎ　【梛・竹柏】　裸子植物・マキ科。暖地の山地に自生する常緑高木で，庭園樹として寺や神社などにも植えられる。高さ20m，直径60cmに達する。葉は対生し，楕円(だえん)形で長さ4〜6cm，幅1.7〜2cm，厚くて光沢がある。脈は平行脈であるが主脈がない。雌雄異株。5〜6月黄白色で円柱形の雄花穂と葉腋(ようえき)に緑色の雌花をつける。果実は直径10〜15mmの球形。材は家具などに利用される。

なぎ　【凪】　海風と陸風(→海陸風)の交替時に一時風の吹かない静かな状態。日出および日没の2時間前の2回あり，前者を朝凪，後者を夕凪という。わが国では，瀬戸内海地方は夏の朝凪・夕凪には暑さがきびしいので知られている。

なぎいかだ　【梛筏】　単子葉植物・ユリ科。イギリス南部・ヨーロッパ・北アフリカ原産の耐寒性常緑小低木。庭園に栽培したり，いけ花の材料とされる。根茎は黄色多肉で多数の節がある。地上部は暗緑色で多数束生して高さ20〜70cmになり，多く分枝する。真の葉は小鱗片(りんぺん)状になって互生し，その葉腋(ようえき)に枝の変形した葉状枝がつく。葉状枝は革質で，1〜2cmの卵形で先がとがる。雌雄異体で，夏に葉状枝の上面の中脈上に短柄をもつ緑色小花をつける。果実は球形で径1cmほどの漿果(しょうか)で，赤熟する。　〔横井朝子〕

なきうさぎ　【啼兎】　哺乳(ほにゅう)類・ウサギ目・ナキウサギ科の総称。体はモルモットに似て，頭胴長11〜18cm，耳は短く長さ1.3〜1.6cm，尾はない。学術上貴重な類で，北アメリカとアジアに1属14種ほどが現生し日本には北海道に1亜種エゾナキウサギがある。昼夜とも活動し，岩の間を巧みに走り回り，群で生活する。かん高い声で〈キョッ，キョッ〉とよく鳴く。冬眠することなく，秋にはカラマツの幼樹・キイチゴ・ハナゴケなどを岩の下にたくわえ，これを食べて越冬する。　〔今泉吉典〕

なきおんな　【泣き女】　葬儀のとき，儀礼的にあるいは頼まれて泣くために参加し，葬礼の儀礼的価値を高めようとする女。雇い泣きの習俗は，朝鮮・中国でも顕著であ



ナ　ギ　果実は10月ごろに熟して粉をふく



ナギイカダ



ナキウサギ
エゾナキウサギ

り，また日本では伊豆(いず)諸島・瀬戸内海沿岸・五島列島・東南九州沿岸・沖縄諸島および北陸沿岸に点在している。謝礼を与えて泣き女を雇う習俗は，葬式全般に血族以外の者が参加するのと同じ経過を経て流行したものとみられる。泣き女の古風な形は，肉親が儀礼として泣くもので，その本源は魂呼び*と同じく，涕泣(ていきゅう)して儀礼によって，死者をよみがえらせようとする呪術(じゅじゅつ)であったと考えられる。

なぎなた　【薙刀】　手矛(てほこ)の変化した武器で，長刀とも書く。《本朝世紀》の1146年の条に初見，源平合戦に普及して，おもに足軽・僧兵の用具となった。室町時代に最も多く用いられ，近接戦には柄の長さだけ刀より有利であった。しかし，16世紀半ば鉄砲による集団戦に変わると，実戦における利用度が落ちてもっぱら婦人の護身用武器となった。刀身・鞘(さや)・鐔(つば)・柄・石突(いしづき)からなる。刀身はふつう2尺(約60.6cm)から3尺だが，5尺に及ぶ大薙刀もある。柄は3尺5寸から6尺ぐらい。刀身に近い部分を，銅の細い薄板で螺旋(らせん)に巻いたのを蛭巻(ひるまき)という。鐔はふつう食出(はみだし)鐔といい，わずかに柄から盛り上がっている程度。なお，柄が刀身よりも短く，鐔のある長巻や，鉈(なた)に長柄をつけた形の〈筑紫(つくし)薙刀〉というのもあった。流派として，直心影流・天道流・鈴鹿(すずか)流などがある。　〔稲垣史生〕

ナギブ　［Muhammad Nagib］（1902〜）アラブ連合共和国の軍人・政治家。スーダンのハルツームの生まれ。陸軍士官学校卒業後カイロのファド1世大学で学んだ。1948年パレスチナ戦争では旅団長となったが，政治の腐敗に批判的となり，1952年青年将校を中心とするクーデターを起こし，首相・革命委員長となり王制を廃止した。翌1953年初代大統領となったが，翌年ナセル*に追われた。

なきりゅう　【鳴龍】　建物の構造などが原因になり，音の反射によって独特の残響が聞こえるが，特に天井に龍の図が描かれている場合など，これを鳴龍とよんだ。日光東照宮境内薬師堂の天井画が名高い。この狩野永真の龍は建物とともに1961年(昭和36)の火災で消失，その後復元された。

ナクシェ-ルスタム　［Naqshe-Rustam］イランのファールス州にあるアケメネス朝*ペルシア帝国の王墓遺跡。ペルセポリス*の北北西約6kmの断崖(だんがい)にあり，ダレイオス1世以下4王の墓を納める。いずれも断崖に掘り込まれ，十字形の独特なタイプを示している。ダレイオス1世の墓(高さ22.5m)のみ，墓碑を有し，付近には，シャープール1世がローマ皇帝を捕虜にした際の戦勝記念図を含む，ササン朝時代の諸王の岩壁浮き彫り8面と，2基の拝火壇がある。→ダレイオス1世(図)　〔佐藤　進〕

ナグプール　［Nagpur］　インド共和国中部，マハラシュトラ州の都市。人口86万6,076(1972年)。国土中央に位置し，ボンベイとカルカッタ，ニューデリーとマドラスを結ぶ鉄道や航空路など，交通の結節点となっている。シタバルジーの古い城塞(じょうさい)を中心に発達し，繊維など各種の手工業が栄えている。ナグプール大学がある。

なげいれ　【抛げ入れ】　生け花様式の一。形式にとらわれず，自然のままの姿に生けた花をいう。立花*のように形式に拘束されることのない自由な花である。16世紀以後茶の湯の流行とともに茶花*と結びついて，草庵(そうあん)ふうのわび茶*にふさわしい花として茶席に飾られ，1684年(貞享1)には《抛入花伝書》のような伝書が出版された。一木・一草の自然に備わった美しさを自由に表現しうるため，一般に歓迎されたが，他方〈法がない〉というように形式ばらず自由なため，かえって床の間にふさわしくないというそしりを免れなかった。のちになげ入れと立花の型とが結びついて，天・地・人の三角形式の生花の誕生を促したように，他

の様式の花を創出する*花型の一つともなっている。→生け花 〔大井ミノブ〕

なげがね【投銀】 抛銀とも書く。江戸初期，日本の商人が海外貿易船に貸し付けた資金。当時来朝したポルトガル商人は，オランダ人に澳門(マカオ)港を封鎖されて貿易不振となったため，船舶・積み荷を担保に日本の商人から高利で資金を借り受けた。その投資には，必ず*丁銀が用いられたので，これを投銀と称した。貸し付けの相手はポルトガル人のほか中国商人や朱印*船主にも及び，利率は3割5分から最高11割で，元利回収の危険度に応じて決定された。代表的な投資者は博多(はかた)の島井家・末次家などの金融業者で，その約束証文である投銀証文が30数通現存している。〔高崎徳次〕

なげし【長押】 和風建築で柱から柱へ水平に取り付ける化粧材。鴨居(かもい)の上端の内法(うちのり)なげし，あり壁の下に柱の上部を押えるようにつけたあり壁なげし，天井まわりの縁の下場の天井なげし，窓下の腰なげし，柱の根もとの地なげしなどがある。材料は柱と同材で良質のものが選ばれ，茶室などの小座敷には丸太・面皮などが用いられる。

なご【名子】 封建社会における隷属農民の一。*下人・被官・わき者などと同様に半奴隷的に使役され，*名主(みょうしゅ)・小領主に隷属したが，中世末期には小作人として自立する者もあった。名称はさまざまであるが，近世初期には全国的に名子制度が広くみられ，家族ぐるみで地主や*本百姓に隷属して耕地・住居・山林などを借り受け，要求があればいつでも労務に従った。村落経済の発達とともにしだいに本百姓化して解放されていったが，旧南部藩の名子制度のように，第2次世界大戦後の*農地改革まで存続したところもあった。〔高崎徳次〕

なご【名護(市)】 沖縄本島中西部の市。琉球(りゅうきゅう)王国当時から島北の入り口にあたる要地として開け，1923年(大正12)町制，1970年(昭和45)市制施行。人口47,000。名護湾に面する山紫水明の町で，東に名護岳(345m)を背負い，北西に本部(もとぶ)半島の嘉津宇岳(かつうだけ)(451m)，南西に恩納岳(おんなだけ)(363m)などのなだらかな山並みが望まれる。名護断層崖(だんそうがい)の下を流れる屋部川流域以外は山地が海に迫り，背後に階段耕作のキビ畑が連なる。中心市街は名護湾頭の砂浜に沿い，国頭(くにがみ)地方の交通の中心地となっている。東方背後の小丘には〈なんぐすく〉とよばれる名護城跡があり，名護湾の眺望(ちょうぼう)がすぐれる屈曲の多い海岸線は〈名護七曲り〉とよぶ景勝地である。産業三大別人口比は18：21：61。

なこうど【仲人】 婿方・嫁方双方の家を仲介して婚姻を成立させる役目の人。現在では媒酌(ばいしゃく)人ともいう。わが国の仲人の発生は*嫁入り婚が行なわれた中・近世以降で，村外婚の発達により婚姻は家を中心とするようになり，配偶者を求めるにもそれなりの知見をもった仲介人の必要を生じてきた。仲人と新夫婦との交際は生涯(しょうがい)続き，日常的な互助・協同の関係は深い。*若者組の発達している地方では，配偶者は当人どうしで求め合うのが通例なところから，仲人の役割は形式的である。現在では婚姻形式の多様性とあいまって仲人の機能も地域によって異なり，仲人は婿方・嫁方の親族の代表者がなる例もみられ，また〈橋かけ仲人〉と〈頼まれ仲人〉との二段階制をとる地方もある。〔山路勝彦〕

なごし【夏越】 旧暦6月晦日(みそか)に行なわれる祓(はらい)(→大祓)の行事で，夏越節供・輪越(わごし)祭りなどともよばれる。神社における夏越神事としては，一般に茅(ち)の輪(→蘇民(そみん)将来)くぐりが行なわれている。民間の行事としては，中国・九州地方にかけて牛馬を水辺に連れ出して遊ばせる習慣があるが，これは農家にとってたいせつな牛馬に祓いをする理由からであろう。また地方によって井戸さらえをしたり，水神の祭りの行事がある。*盂蘭盆会(うらぼんえ)を控えて，心身を清浄にする必要に発すると考えられる。〔直江広治〕

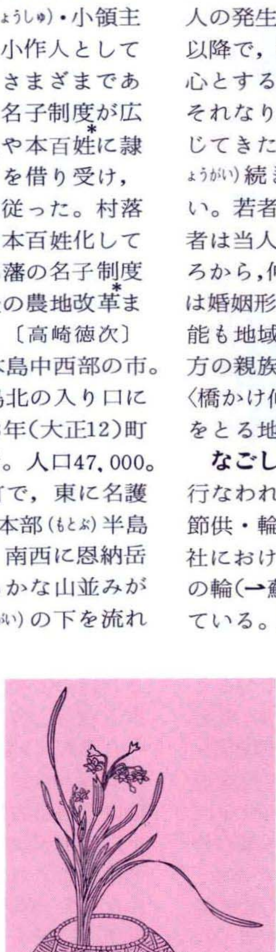
なこそ【勿来】 福島県いわき市の一地区。県立公園。古く蝦夷(えぞ)の南下を防ぐ目的で，〈来る勿(なか)れ〉の意をこめて設けたという勿来の関跡といわれる地を中心に，丘陵上に源義家(よしいえ)の歌碑や展望台，勿来美術館なども整備されている。

なごや【名古屋】 ニワトリの品種。明治の初期に，名古屋地方の地鶏(じどり)に*コーチン種などを交配したもので，かつては名古屋コーチンという名でよばれていた。以後改良が進められ脚毛がなくなり，産卵能力も向上して現在の名古屋種が形成された。就巣性が強く，仮母として他の品種の孵化(ふか)に用いられる。バフ色で脚は鉛色，体重は雄3.0kg，雌2.4kg。年間産卵数約150個。

なごや【名古屋(市)】 愛知県北西部，県庁のある市。東京・大阪・横浜に次ぐ日本第4の大都市。古くは那古野，のち名護屋とも書かれ，東京と京都の中間に位置するので，中京とも通称される。16世紀初め今川氏親(うじちか)が柳の丸城を築いたが，1614年(慶長19)徳川家康が名古屋城を築いてその子義直(よしなお)を封じて以来，御三家の一つ尾張徳川氏六十一万九千石の城下町と



名古屋市 南方上空から見た市の中心部。テレビ塔の立つ100m道路(久屋大通り)の突きあたりは県庁・市役所などの官庁街。手前の道路は若宮大通り





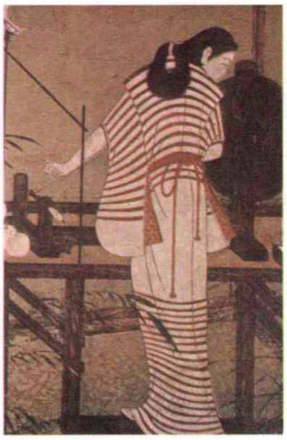
抛げ入れ (左)スイセンの抛げ入れ《抛入華之園》1766 (右)《金平本》に描かれた花 江戸時代



名古屋市

して栄え，〈尾張名古屋は城でもつ〉と歌われた壮大な城は，江戸時代を通じて東海道の要衝となった。明治維新後県庁所在地となり，1889年(明治22)市制施行，1907年熱田(あつた)神宮の宿場町・門前町であった熱田を合併し，その後も数次にわたって市域を拡大した。第2次世界大戦の戦災で市街地の約30％を失ったが，戦後他の都市にさきがけて復興計画に着手し，100m道路・50m道路などの主要街路網を整備し，市内の寺や墓地を郊外へ移すなど，積極的な都市計画を実施して近代都市に生まれ変わった。人口208万4,000。南は伊勢(いせ)湾に臨み，東は高さ60～80mの東山丘陵，中央は高さ10～15mの熱田洪積(こうせき)台地，西は庄内(しょうない)川の沖積(ちゅうせき)低地を占める。市街地には用途地域制が敷かれ，中央台地上の官庁・商業地区には市のシンボルの名古屋城や県庁・市役所，100m道路にまたがるテレビ塔，繁華街広小路通りなどがある。東部丘陵上の住宅地区・文教地区には公園緑地・学校などが設置され，動・植物園や児童遊園地をもつ東山公園，織田信長(のぶなが)をはじめ歴史上の人物の墓が多いので〈墓の公園〉ともよばれている平和公園などがある。南部は名古屋港を中心とする臨海工業地帯で，中京工業地帯の核心をなし，特殊鋼・石油化学・造船などの工場が集まる。沿岸のゼロメートル地帯は干拓新田地で，1959年(昭和34)の伊勢湾台風では高潮による大きな被害を受けた。北部の内陸地区は中小企業の経営による工場が多い。産業三大別人口比は1：37：62。昔から絹・綿業・陶磁器・木材などの生産や取引が盛んで，明治以降紡織機・時計・機械などの近代工業が興り，さらに綿・毛・化織の繊維工業・鉄鋼・自動車・航空機・車両・肥料などの重化学工業も発達し，現在の出荷額は，自動車及び同部品・電炉鋼・発電機及び電動機・菓子類・合板・民生用電機の順となっている。なかでも，菓子は名古屋の名産で〈菓子の都〉といわれ，工場数約1,300，菓子の名称は2,300種もあるといわれる。またパチンコの発祥地といわれ，それには合板の生産と金属加工の歴史が関係している。しかし工業の発展に伴い，市内各地ですでに光化学スモッグなどの公害が発生し，1971年に市がおもな工場と公害防止協定を結んだ。商業活動も活発で，卸・小売業ともに中京経済圏の中心的機能を果たし，丸の内2丁目(長者町・本町通り)に繊維問屋街が立地し，栄町・広小路通りから名古屋駅前にかけては小売商店街が連なり，デパートや専門店が集まる。南部の名古屋港は横浜・神戸に次ぐわが国第3の外国貿易港（重要港湾）で，自動車・鉄鋼・陶磁器・自動二輪車などを輸出し，羊毛・綿花・木材・石炭などを輸入しており，1975年の貿易額は輸出入合わせて2兆4,630億円(全国の7.3％)であった。名古屋大学・名古屋工業大学・愛知教育大学をはじめ，大学14，短大23を数え，徳川美術館・文化会館・市立科学館・県立体育館などの文教施設が多い。東海道本線・東海道新幹線・中央本線・関西本線や私鉄名古屋鉄道・近畿(きんき)日本鉄道などが集まり，国道1号線・19号線・22号線・41号線・154号線が通ずる。北方15kmの小牧市は名古屋の玄関口となり，名古屋空港や東名・名神高速道路，中央自動車道（長野県辰野まで開通）のインターチェンジがある。名古屋空港からは全日空の札幌(さっぽろ)・東京・八丈島・南紀白浜・松山・福岡・長崎・大分・熊本・宮崎，東亜国内航空の仙台・長崎の定期便があり，1977年10月からは協定によって，韓国ソウルとの日本航空と大韓航空による相互乗り入れが実現する予定である。地下鉄は市営で，1965年に2号線の栄町～市役所間(1.3km)が開業して以来，2号線の延長のほか，1号線・3号線の工事も進み，1977年3月に3号線の一部(伏見一八事間，8km)が開通，これにより名古屋市営地下鉄は営業キロ46.1kmとなった。3号線は将来名古屋鉄道豊田線と相互乗り入れを行なう予定である。市電は1974年3月に全部廃止された。年中行事には愛知県の生んだ3名の英傑織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の遺徳をしのび，市の発展を祈願する〈名古屋祭〉(10月10～16日)がある。特産物は七宝焼・きしめんなど。〔浅井得一〕

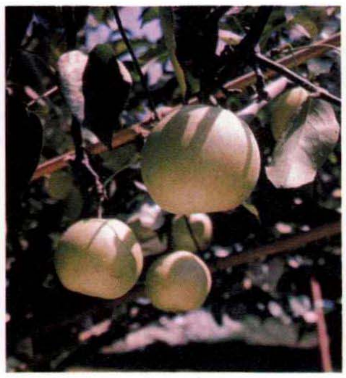
なごや【名護屋】 佐賀県北西部，壱岐



名護屋帯
《機織図屏風》
熱海美術館蔵



長十郎



二十世紀



ナシの花(早生赤)

ナ　シ

(いき)海峡に面する漁業集落で，行政上は東松浦郡鎮西町に属する。名護屋港は東松浦半島の溺(おぼ)れ谷に臨み，呼子湾頭の加部島が天然の防波堤となる良港で，東方の呼子とともに玄界灘(げんかいなだ)漁業の中心基地となり，ブリの一本づりやイワシ漁が行なわれる。周辺一帯は玄海国定公園に属しており，西方台地上には1591年(天正19)に豊臣秀吉(とよとみひでよし)が朝鮮の役の拠点として築いた名護屋城跡がある。当時の雄大な規模は大阪城と並び称され，石がきや土塁が特別史跡に指定されている。〔浅井得一〕

なごやおび　【名古屋帯】 女帯の一種。お太鼓の部分を表裏同布で幅約30cmの腹合わせとし，胴に巻く部分を半幅の15cmとする。帯地は幅36cm，たけ430cmで，帯しんを入れて仕立てる。大正末期に名古屋で始まったのでこの名があり，軽く安価で，締めると丸帯に見え広く普及した。はじめ九寸名古屋帯だけであったが，戦後は袋名古屋帯(かがり名古屋・八寸名古屋)がつくられた。

なごやおび　【名護屋帯】 女帯の一種。丸打ち・平打ちの組みひもで両端にふさがついている帯。肥前(佐賀県)の名護屋でつくられた。多くは女子が小袖(こそで)の上に2～5回巻いて締めたが，男子にも用いられた。江戸時代前期まで流行した。

なごやさんざ　【名古屋山三】 出雲(いずも)の阿国(おくに)とともに歌舞伎(かぶき)の始祖になぞらえられている伝説上の人物。山三郎ともいう。豊臣(とよとみ)の家臣名古屋庄兵衛(しょうべえ)の七男で，蒲生氏郷(がもううじさと)の小姓として愛されたといわれる。氏郷の没後阿国の愛人となり阿国歌舞伎の演出家・役者を兼ねたという。歌舞伎《伊達競一対編笠(だてくらべついのあみがさ)》鞘当(さやあて)で知られる。

なごやじけん　【名古屋事件】 1884年(明治17)に起こった名古屋自由党員の激化事件。公道協会(名古屋地方自由党員の組織)の奥宮健之(たけゆき)・富田勘兵衛(かんべえ)らが中心となって政府転覆を計画し，決起資金の調達と称して数度にわたり役場・豪農・豪商を襲い，巡回中の巡査を殺害した。飯田(いいだ)事件の発覚に関連して奥宮ら20余名は逮捕され，1892年富田は死刑，奥宮は無期懲役に処せられた。

なごやじょう　【名古屋城】 名古屋市中区にある代表的な近世城郭。平城。柳城・金鯱(きんこ)城などの別称がある。1521年(大永1)駿河(するが)(静岡県)の今川氏親(うじちか)がこの地に柳の丸(那古野(なごや)城)を築き，その子氏豊の居城にしたのに始まる。1532年(天文1)織田信秀(のぶひで)の居城となり，のち廃城。現在残っている名古屋城は，1609年(慶長14)徳川家康(いえやす)が築城に着手し，1614年完成したもの。1615年(元和1)第9子義直(よしなお)が入城して以来明治維新まで尾張徳川氏が居城した。本丸・二の丸・三の丸・西丸・御深井丸からなり，5層6階の大天守は大棟(おおむね)に金の鯱(しゃち)をつける。第2次世界大戦で大半を焼失したが，1959年(昭和34)鉄筋コンクリートで天守が復元され，多くの重要文化財を陳列して観光客を集めている。〔高崎徳次〕

なごやだいがく　【名古屋大学】 国立大学。1871年(明治4)，旧名古屋藩評定所・元町役所などの設備を用い，仮医学校として発足。1920年(大正9)愛知医科大学となり，1931年(昭和6)国立の名古屋医大に，1939年医学部のほか理工学部を加えて帝国大学となった。1949年，付属医学専門部・第八高等学校・名古屋経済専門学校・岡崎高等師範学校を合併，新制大学となる。現在，文・経・教育・理・工・法・医・農の8学部と大学院研究科をもつ。本部は名古屋市千種(ちくさ)区下老町。

なごやてつどう　【名古屋鉄道】 名古屋市を中心として，愛知県一円ならびに岐阜県西南部に地方鉄道・軌道・バスなどの路線網を経営する企業。1894年(明治27)設立の愛知馬車鉄道，のちの名古屋電気鉄道を母体として発達し，名古屋鉄道・名岐鉄道などの名称の時代を経て，1935年(昭和10)愛知電気鉄道を合併して現社名となった。以後1944年までに愛知県と岐阜県西南部に所在する私鉄の大部分を統合してほぼ現在の路線規模を完成した。豊橋(とよはし)～新名古屋～新岐阜を結ぶ名古屋本線をはじめとして，三河(みかわ)・常滑(とこなめ)・河和線・犬山線・尾西線などの電気鉄軌道524.5kmを営業する。営業キロ数では日本第2位の私鉄。

ナサ　［NASA］ ⇨航空宇宙局

ナサコム　［NASACOM］ インドネシア前大統領スカルノが提唱した政治理念。民族主義・宗教・共産主義のかしら文字をとったもので，それら三位(さんみ)一体の政治体制を意味する。反封建主義・反帝国主義を旗じるしに，1959年以降国民党・ナフダトールーウラマ党・共産党を中心に，10政党が統一戦線を結成して出発したが，1965年〈九・三〇事件〉(スハルト将軍ら軍部によるクーデター)後共産党が徹底的に弾圧されて崩解，スカルノも失脚しナサコムも崩解した。

ナザレ　［Nazareth］ ナザレスともいう。イスラエル北部，ガリラヤ高地の南端の都市。人口39,100(1965年推)。紙巻きたばこ工場，鉱泉飲料，石材の切り出しが主産業である。《新約聖書》にキリストの少年期の故郷として記されている。

ナザレは　［ナザレ派］ 19世紀初期のドイツロマン派の画家の一派。1809年オーベルベック(1789～1869)とプフォル(1788～1812)が当時の古典主義的風潮に反対して，ウィーンで聖ルカ組合を創設，翌1810年ともにローマに移り，ピンチオの丘の聖イシドロの廃寺に住んで，修道士のようなきびしい生活を営みながら，新しい絵画理想の実現をめざした。このグループには，やがてコルネリウス(1783～1867)やシャドーら多数の画家が合流したが，オーベルベックを指導者として幾人かがカトリックに改宗，ジョットからペルジーノ，ことにアンジェリコなど前期ルネサンスの敬虔(けいけん)な宗教画に深く傾倒するに至った。中世的な共同制作の実験として，彼らがローマのカーサーバルトルディやカーサーマッシモの壁画を描いたことは有名である。この情熱的で宗教的観念にとらわれた一派は，当時の古典派陣営から嘲笑(ちょうしょう)的に〈ナザレ派〉とよばれたが，その理念はイギリスに伝わり，ラファエル前派などに影響を与えた。〔富山秀男〕

なし　【梨】 双子葉植物・バラ科。果樹として各地で栽培される落葉高木。種々の品種があるが，原木はヤマナシと考えられ

ている。小枝の先がとげになることが多い。短枝には多数の葉が集まってつき，長枝は互生する。葉は有柄の卵形ないし倒卵形で長さ7～12cm，縁に鋸歯(きょし)がある。花は径3～5cmの白色五弁花で，短枝の先に5～10花集まってつく。　〔加藤倡重〕

【品種】和ナシ・洋ナシ・中国ナシに大別される。和ナシには長十郎・二十世紀・幸水・八雲・新水などがある。長十郎は中生種で，いわゆる赤ナシの代表品種。1895年(明治28)ごろ神奈川県で当真長十郎によって発見された。果形はやや扁円(へんえん)，肉質はいくぶんかたいが，多汁(たじゅう)で甘味多く，品質は中，樹性強健である。二十世紀は中生種で，青ナシの代表品種。1877年前，千葉県で松戸覚之助によって発見された。果形は円形で整い，甘味多く多汁で，品質極上。黒斑病(こくはんびょう)に弱いため，夏季に乾燥する地を選び，殺菌剤の散布を多くする。果実にはろう引き紙の二度掛けがふつう。幸水は，農林省園芸試験場で梶浦(かじうら)実らにより菊水と早生幸蔵をかけ合わせて育生された新品種。8月中～下旬に収穫される。中間色で大きさ中，やや扁円。甘味多く多汁で特有の風味があり，品質極上。洋ナシにはバートレッド・ラフランス・プレスコース・好本号・セニョールデスペランなどがある。バートレッドは山形県で多く栽培され，80%はかんづめ原料とされる。本種の枝変わりに，幼果が小豆(あずき)色で追熟して朱赤色となるマックスレッドがある。ラフランスは小果で外観はさえないが，品質極上。洋ナシは，収穫直後でなく，追熟してかおりが出るから，果肉が舌の上でとけるようになってから食べる。中国ナシではヤーリー・ライヤンツーリーが著名。

【栽培】和ナシの栽培は古く，《日本書紀》に記載がある。栽培地としては京都が古く，新潟・群馬に栽培技術が早く発達した。現在の主産地は鳥取・福島・埼玉・千葉・茨城などの各県で，全国の栽培面積は19,000ヘクタール。和ナシは成熟期に台風の近づく関係上，古くからさくづくりが普通である。剪定(せんてい)は，最近では副主枝の間隔を広くとり，そこに配置した側枝上の結果枝に実をならせる方法が行なわれる。施肥は10年生で10アールあたり窒素15kg，リン酸9kg，カリ12kg程度。一般に自家不結実性で授粉品種の混植を要し，人工授粉の必要な場合もある。病害には赤星病・黒星病・黒斑病，害虫ではカイガラムシ類・アブラムシ類・ダニ類・シンクイムシ類がある。

ナジ　[Nagy Imre]　(1896～1958)　ハンガリーの政治家。1918年共産党入党，1944年臨時政府に農相として参加。1953年首相となったが，1955年右翼偏向のため解任。1956年ハンガリー動乱*で首相に再選されたが，反革命として1958年6月処刑された。

なしぐんばいむし　【梨軍配虫】　こん虫類・半翅(はんし)目・グンバイムシ科。体は長さ3mmほどで扁平(へんぺい)，背面から見ると軍配形。体は黒色，頭部は小さくかっ色，背面からは複眼のみが突出して見え，触角は黄色で細長い。前胸背はかっ色ないし黒色で，中央部は嚢状(のうじょう)突起となり，両側は大きく翼状に張り出している。半翅鞘(はんししょう)は大きく，たたんだときはややX字状の黒色紋が顕著となる。卵は0.5mm内外のまが玉状，乳白色でのちに淡黄色となる。幼虫は，腹部背面と体側部に多数のいぼ状突起をもち，はじめ無色でのちにしだいに淡かっ色をおびてくる。日本全土と朝鮮・中国に分布，サクラ・ナシ・リンゴ・ウメ・モモなどに寄生し吸汁する害虫。年2～4世代を経過して，成虫態で越冬する。

なしのあぶらむし　【梨蚜虫】　こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・アブラムシ科。無翅胎生雌虫は，体長1～2mm，全体鮮緑色～黄緑色。有翅胎生雌虫は，黄緑色で頭胸部は黒色，翅(はね)は透明で大きい。卵は楕円(だえん)形で暗緑色。日本のほか朝鮮・中国に分布するナシの害虫で，1年に10数世代を経過する。幼虫・成虫ともにナシの葉，特に新葉から吸汁(きゅうじゅう)加害する。初夏の候の加害が最も激しく，盛夏以後は他の木に移り，10～11月ごろ再びナシにもどって産卵し，越冬する。

なしのはだに　【梨葉蜱】　こん虫類・ダニ目・ハダニ科。雌成虫は体長0.6mm内外で楕円(だえん)形。雄成虫は体長0.3mm内外で紡錘(ぼうすい)形。いずれも4対の脚をもち，体は暗紅色。ナシやリンゴなどの葉に寄生し，吸汁(きゅうじゅう)加害する。春から秋にかけて10数回発生をくり返し，冬は卵態で越す。加害のはなはだしいときは，葉はかすり状になって黄変し，さらに落葉し，そのため果実の収量も悪くなる。寒冷地に多く発生する。

なしまるかいがらむし　【梨円介殻虫】　こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・マルカイガラムシ科。サンホーゼカイガラムシともいう。雌成虫は無翅無脚で，背面に扁平(へんぺい)円形で直径2mm内外の灰色の介殻をかぶる。雄成虫は体長0.7mm内外で1対の翅(はね)をもち，翅を広げた長さ1.2mm内外。1齢幼虫は長径0.2mm内外の楕円(だえん)形で橙黄(とうおう)色，触角・吸収口・脚があり寄主植物上を移動する。2齢になると1か所に定着して円形の介殻を形成する。雌幼虫の介殻は成虫のものと同形同色，雄幼虫の介殻は夏から秋のものは楕円形で暗灰色，越冬するものは円形で異色。日本全土のほか，ユーラシア大陸および北アメリカ大陸に広く分布する。ナシ・リンゴ・サクラ・モモ・スモモ・ウメ・アンズなどの樹皮や果実に寄生する害虫で，1年に3世代を経過する。

ナショナリズム　⇒278ページ

ナショナル-インタレスト　[national-interest]　国益とか国家的利益と訳される。それぞれの国家は階級*を越えた全国民に共通する利益をもっているとするもので，国家の対外的関係において主張される利益である。その場合，ナショナル-インタレストは国の外交路線の根幹となるべきであるとされている。しかし，ナショナル-インタレストという名のもとに行なわれた事実をみると，それを追求する国家ならびに政府の性格によって必ずしも前述どおりではない。

ナショナル-リーグ　[National League]　アメリカのプロ野球連盟の一。アメリカン-リーグ*とともにメジャー-リーグ*を構成している。1876年，シカゴ・セントルイス・ボストン・シンシナチ・ハートフォード・ニューヨーク・ルイビル・フィラデルフィアの8都市のチームで結成された。1900年代にはいって，名監督ジョン-マグロウに率いられたニューヨーク-ジャイアンツが猛威をふるい，新生のアメリカン-リーグを寄せつけなかった。しかし，1920年代にニューヨーク-ヤンキースが強力となるにつれて，アメリカン-リーグの新興の勢いに押されるようになり，1958年にはニューヨークのジャイアンツとドジャースは球団経営の行きづまりを打開するために，それぞれサンフランシスコ・ロサンゼルスに新天地を求めたりした。1962年，アメリカン-リーグより1年遅れて10球団制となり，1969年には12球団制となった。優勝回数がいちばん多いのはジャイアンツ(18回)である。1969年現在の所属球団は次のとおり。アトランタ-ブレーブス・シカゴ-カブス・シンシナチ-レッズ・ヒューストン-アストロズ・ロサンゼルス-ドジャース・モントリオール-エキスポズ・ニューヨーク-メッツ・フィラデルフィア-フィリーズ・ピッツバーグ-パイレーツ・セントルイス-カーディナルス・サンジエゴ-パドレス・サンフランシスコ-ジャイアンツ。　〔鈴木美嶺〕

なしろ　【名代】　大化(645～649)前代，天皇・后妃・皇子のために設けられた私有の部*。人名や宮号などを冠してよばれるのが普通であるが，必ずしも個人の私有ないし世襲ではなく，宮廷全体に属するものもあったらしい。すなわち，后妃らのための某部，次いで某舎人部(とねりべ)，さらに私部(きさいべ)と発展し，しだいに個人から特定の地位に付随するものへと変化したようである。子代*との別は必ずしも明らかではない。

なす　【茄】　双子葉植物・ナス科。畑で栽培される一年草。茎は直生して側枝を盛んに出し，高さ60～100cm。短いとげを有するものが多い。葉は互生で，長い葉柄をもち，葉身は長楕円(ちょうだえん)形のものが多い。節間に花冠が5浅裂した淡紫色花をつける。果実は品種により多様で，形は球形から細長円筒形まであり，色も白・緑・紫などがある。インドの原産といわれ，中国・東部アジア・北アフリカで古くから栽培されたが，欧米での利用は地中海沿岸やアメリカ南部を除けばあまり盛んでない。わが国では10世紀ごろから利用され，品種も多く，



真黒



黒龍



ナスの花

ナ　ス

地方により特徴のある品種が土着している。山形・秋田の小形つけ物用の民田，関東地方の真黒，東北地方の南部長，新潟の丸形煮ナス用の巾着(きんちゃく)，九州の焼きナス用の博多(はかた)長などは有名。近年，果皮の柔らかい大丸形のブラックビューティーなども肉料理用に使われるようになった。一般には春早くまいて，初夏から初秋にかけて収穫するが，早生品を用いての早出し栽培も盛んである。　〔松本正雄〕

ナス科は合弁花植物亜綱の中の一科で，約2,000種がおもに熱帯に分布し，日本には15種がある。木または草で，葉は互生し，托葉(たくよう)はない。花冠は5裂し，放射相称。おしべは5本で，子房は2室が普通であるが，3～5室のこともある。がく片は花後に残存し，ホウズキ属のように大きく生長することもある。果実は蒴果(さくか)または液果で，種子は多数。チョウセンアサガオ属のようにアルカロイドを含む有毒植物，トマトのような食用植物のほか，観賞植物もある。　〔加藤僖重〕

なす　【那須(町)】　栃木県北東部，那須郡の町で，福島県に接する。人口27,000。1954年(昭和29)芦野(あしの)町と那須・伊王野の2村が合併して成立，面積は372km² で，県内の市町村中では塩谷(しおのや)郡栗山(くりやま)村に次いで大きい。北西に那須岳および那須温泉郷*があり，これに続く那須野原はよく開拓されて，畑作が主であるが，水田もあり，酪農も行なわれている。東北本線の黒田原駅付近に中心集落がある。その南東の芦野は，中世には芦野氏の城下町，近世は奥州街道の宿場町であったが，いまは鉄道や国道4号線からはずれさびれている。

なすおんせんきょう　【那須温泉郷】　栃木県北部，那須岳の山麓(さんろく)に散在する温泉群。湯本・弁天・北・大丸・三斗小屋・高雄・板室・新那須・八幡(やわた)・旭(あさひ)などがある。標高1,000mをこす地点にあり，夏季学校やゴルフ場・スキー場などの施設がある。東北本線黒磯(くろいそ)駅からバスの便がある。

なすかざんたい　【那須火山帯】　北海道の利尻(りしり)島から渡島(おしま)半島，奥羽山脈を経て，中部地方北部に至る火山帯。羊蹄(ようてい)山・有珠(うす)山・恐山・岩手山・蔵王(ざおう)山・磐梯(ばんだい)山・那須岳・男体山・赤城(あかぎ)山・浅間山などが含まれる。

なすこん　【茄子紺】　色名。ナスのような紺色*。暗い灰紫。本来，紺色はやや赤みを含むが，さらにその赤みを強くしたような色で，鉄紺よりも赤みが多く，紫紺よりは赤みが少ない。日本工業規格(JIS)慣用色名〈ナス紺〉は，色相7.5P，明度2.5，彩度2.5の色と規定されている。➔色

なすだけ　【那須岳】　栃木県北部，福島県境近くにある成層複式火山。最高峰の茶臼岳(ちゃうすだけ)(1,917m)・朝日岳(1,903m)・三本槍岳(さんぼんやりだけ)(1,915m)などの火山



那須岳　山腹の硫気孔から白い噴煙をあげる主峰茶臼岳。山はだは荒れているが，可憐な高山植物も咲いている



ナズナ

の複合体で，茶臼岳山頂部には直径約100m，深さ60mの火口がある。山腹から山麓(さんろく)にかけて那須温泉郷がある。那須湯本から有料道路那須ボルケーノハイウエーが通じ，また空中ケーブルの設備がある。また南東麓の那須野原は，高原別荘地として開発されている。

なずな　【薺】　双子葉植物・アブラナ科。春の七草の一つで，野原や道ばたに普通の越年草。根出葉は大根の葉を小さくしたような形で，まばらに毛がはえており，車状に出て地面に接する。茎の高さは10～50cmになり，茎葉は無柄で茎を抱く。3～5月，茎頂に直径5mmの白色四弁花を総状につける。花後，1cmほどの柄がある長さ3～8mmの三角形の平たい果実をつけるが，この形が三味線(しゃみせん)のばちに似ているところからペンペングサの別名がある。若葉はひたし物・あえ物・油いためなどにして食べられる。

なすの　【那須野・奈須野】　日本伝統音楽の曲名。山田流箏曲(そうきょく)のものは山田検校(けんぎょう)が1807年(文化4)に作曲した中許しの曲。栃木県那須野に伝わる伝説を題材とした能の《殺生石》によっている。ほかに富本節・一中節(宇治派)・長唄(ながうた)(《三国妖狐(ようこ)物語》下の巻の別名)がある。

なすのがはらだいち　【那須野原台地】　栃木県北部，那須岳の南方に広がる台地で，那珂(なか)川とその支流箒(ほうき)川・蛇尾(さび)川などの扇状地によって形成されたもの。標高は600～130mで，地下水面が深く水の乏しい地域である。江戸時代初期から開拓がはいり，1880年(明治13)本格的な開拓が始まった。

なすのよいち　【那須余一】　生没年不詳。平安末期の武将。下野(しもつけ)(栃木県)那須郡を本拠地とした。資高(すけたか)の11男。名は宗隆(むねたか)，のちに資隆。源平合戦で源義経(よしつね)に従い，1185年(文治1)屋島の戦い*のとき，平家方が舟の上に立てた扇の的を射て，源平両軍の喝采(かっさい)を受けたという話は有名。

なぜ　【名瀬(市)】　鹿児島県，奄美(あまみ)大島の北東部，大島支庁のある市。江戸時代に薩摩(さつま)藩の代官所が置かれ，奄美諸島統治の中心地として開けた。第2次世界大戦後アメリカの軍政下にはいったが，1953年(昭和28)復帰。戦災後も2回にわたって市街を焼失したが，復興特別措置法によって，奄美諸島唯一の貿易港名瀬港の港湾設備や都市計画が進んだ結果，いまでは戦前以上に繁栄している。1946年市制施行。人口48,000。東シナ海に面し，北に湯(おぼ)れ谷の名瀬港があり，東南西の三方は急崖(きゅうがい)の山地に囲まれており，海岸部の小平野に市街地が発達しているが，最近は埋め立てや宅地造成が盛んに行なわれている。亜熱帯気候で，年平均気温21.2℃，年降水量3,039mm，ガジュマル・ブッソウゲ・

➔279ページ

ナショナリズム

［nationalism］

【ナショナリズムということば】欧米ではほぼ同一のことばが用いられているが(英－nationalism，独－Nationalismus，仏－nationalisme)，日本では人により，場合により，あるいは民族主義，あるいは国家主義，また国民主義などさまざまな訳語が使用され，近来は本項の見だしのように欧米語の原語の発音をかたかなで表記したナショナリズムという語を用いることが多い。ナショナリズムの概念中には民族主義・国家主義・国民主義という訳語がそれぞれ表示する内容が含まれており，したがってこれらの訳語は誤訳ではないが，しかし一つの訳語だけでは概念内容が狭くなり，一面的にもなる。そこで，いろいろなニュアンスをはらんだ語感をもつナショナリズムという表記がしだいに用いられてきたのであろう。

しかし，このようなナショナリズムの訳語の不統一や混乱は翻訳者の罪ではなく，実はナショナリズムの本質や実態それ自体が含んでいるあいまい性・弾力性・複雑性・多様性の反映なのである。ナショナリズムは，その出現する時代や地域をことにするにつれてきわめて多岐多様にわたる現われ方をしてきたし，また，するものであって，若干の例をあげれば，ナチス-ドイツの〈世界新秩序〉のイデオロギー(思想)や政策，孫文やガンジー，また第2次世界大戦後のアジア・アフリカのナショナリズム，ユダヤ人のシオニズム*，あるいはチェコ問題にみられるソ連の大国主義など，いずれもナショナリズムの具現である。

【ナショナリズムの定義】前述のようにナショナリズムの訳語の不統一や混乱は，ナショナリズムの概念規定の困難さ，またそこからくるナショナリズムという概念のあいまい性・多様性の反映であるから，ナショナリズムとはなにか，という概念を規定し，あるいは定義を下すこと自体が困難でもあり，危険でもある。しかしそういう危険や誤りをあえて恐れずに定義を下すとすれば，ナショナリズムとは一つのネーション(言語・領土・文化・経済生活などの共通性に基づいて歴史的に形成された強固な人間の共同体，民族共同体)が，その主体的契機である共通の意識(ふつう民族意識とよばれる)ないし意志に基づいて結束・統一し，国際社会ないし他のすべてのネーション集団に対して自己を主張・確立しながら，自ネーションの発展・繁栄を志向するイデオロギー，また運動，あるいは，そのネーションの中に形成された国家(民族国家)の内外政策(特に対外政策，つまり他国家，他のネーションに対する政策)のことである，ということができよう。

参考までに，ナショナリズムについての若干の代表的な定義を以下に紹介する。①J. S. ミル*の見解：人種・祖先の同一性，言語・宗教・地理的境界の共通性，特に政治的先例の同一性(同一の歴史や回想など)などから生じた共通の独自の感情，いわゆる民族感情で結ばれた，それぞれのネーション内部の人々の相互間の協力，②イギリス王立国際問題研究所の見解：さまざまのネーション(個人がそのメンバーであるような民族，たとえば世界じゅうに分散したユダヤ人なども含めて)が自己の特性についてもっている意識，自ネーションの強大化・自由・繁栄を欲する願望，③マルクス主義の見解：民族問題についてのブルジョアジーの思想と政策，国内では自階級の利益を全人民の利益の上に置くとともに，民族という名称を独占して自階級こそ自民族の代表であるかのようにふるまい，国外では自民族(実際には自階級)の利益を他民族の利益の上に置き，できれば他民族を圧迫・収奪搾取するという民族利己主義・ブルジョア-ナショナリズム。

【ナショナリズムの歴史】ナショナリズムの発生・発展の歴史については，多くの学者によって時代区分が試みられている。たとえば，イギリスの著名な国際政治学者E. H. カーはこれを四つの時期に区分し，第1期：中世ヨーロッパの崩壊からフランス革命，ないしナポレオンの失脚(1814)まで，第2期：ナポレオン戦争から普仏戦争(1870)ないし第1次世界大戦勃発(ぼっぱつ)時(1914)まで，第3期：第1次世界大戦から第2次世界大戦まで(1914～1945)，第4期：第2次世界大戦以後，としている。また，スターリンは次の三つの時期，すなわち第1期：西欧における封建制度の解体と資本主義の発展の時期(17世紀ごろから1871年まで)，第2期：独占資本主義の確立の時期，帝国主義列強による世界の分割の完了と，その結果アジア・アフリカ・ラテン-アメリカに広がった植民地主義支配に対する植民地・従属諸国の被圧迫諸民族のナショナリズムの台頭の時期(1871～1917)，第3期：第1次世界大戦とロシア革命(1917)の影響で，植民地・従属諸国のナショナリズムが高揚し，しかもそれがロシア革命の勝利と結合して，プロレタリア革命*の構成要素となった時期，に区分している。

いずれにしても，近代ナショナリズムが封建制度の崩壊と資本主義の成長・発展に伴って発生・発展したことについては，ほとんどの論者の意見が一致している。そこで以下わたくしなりの時期区分に従ってナショナリズムの歴史を簡単にふり返ってみよう。第1期(中世末期から19世紀の70年代まで)：ヨーロッパでは資本主義の成長とともに中世末期から民族意識が醸成されつつあったが，19世紀前後になるとそれがナショナリズムという政治的な思想および運動として表面化しはじめた。この思想や運動は封建制国家・経済や領土の封鎖性の打破と広範な国民国家(民族国家)の形成をめざしており，その典型がフランス革命である。特にフランス革命に対する周辺の絶対主義諸国家からの干渉は，フランスの市民の間に愛国心と国民主権の原則の結合をもたらし，ナショナリズムに活力を与えた。イタリアの統一と民族国家の形成もこれに類する。だが資本主義が最も早く成長したイギリスでは国家的統一がつとに達成され，強大な海軍力をもつ島国であったためにナショナリズムという特殊な思想や運動はかえって開花しなかった。いずれにせよ，この時期には，主として大陸ヨーロッパの資本主義の先進諸国でナショナリズムが高揚し，単一の民族国家の形成がみられたのである。だが，同じころ，東部，中南部ヨーロッパのロシア・オーストリア・ハンガリーなどでは中央集権国家が諸民族の形成以前に成立しており，この多民族国家〈帝国〉内部では支配権を握った大民族が他の中小民族を抑圧していた。そこでこれらの被抑圧民族の間には民族的抑圧に反発・抵抗し，それぞれの民族主権の擁護，〈帝国〉からの離脱による民族国家の樹立をめざすナショナリズムの思想や運動が興った。第2期(19世紀の70年代から第1次世界大戦とロシア革命まで)：この時期には資本主義が独占資本主義に転化し，イギリス・フランス・ロシアさらには，一歩遅れてアメリカ・イタリア・日本などが帝国主義列強として対外膨張政策を行ない，互いに抗争しつつ，世界の領土的分割を完了するが，その際，これら帝国主義列強の支配層はナショナル-インタレスト(民族的ないし国家的利害)を強調，国民の愛国心をしきりにかり立てた。その結果，帝国主義列強間の対立が激化，ついに第1次世界大戦が勃発するが，その際，元来は〈祖国をもたず〉，プロレタリア国際主義に徹していたはずの西欧の労働者階級と，その政党がプロレタリア国際主義を逸脱して〈愛国心〉に促され，帝国主義戦争に賛同したことはナショナリズムのもつ非合理的な魔力と，ダイナミズムの大きさを示唆するものであろう。

他方，この時期には，帝国主義列強のアジア・中東・アフリカなどへの侵略と，植民地主義的な抑圧・収奪に対して被侵略・被抑圧諸国人民の間に新しいタイプのナショナリズムが台頭しはじめた。その端緒はすでに19世紀中葉のインドのセポイの反乱(1857～1859)，中国の太平天国の乱(1850～1864)，また別の意味で日本の明治維新(18

68)などにみられたが,20世紀にはいるとペルシア(現在のイラン)革命(1905～1911),トルコの革命(1908～1909),中国の辛亥(しんがい)革命(1911～1912)などがあいついで起こった。これらは主として植民地や従属国の新興ブルジョア階級や知識人によって指導され,反植民地主義と民族独立,封建制度の打破と民主主義制度の確立,近代的な主権国家の確立をめざすもので,そのような内容の思想や運動を含む新しいタイプのナショナリズムであった。これを植民地の民族主義・民族運動,あるいは植民地ナショナリズムとよぶ。第3期(第1次世界大戦末期,特にロシア革命から第2次世界大戦まで):この時期には一方ではアメリカ大統領ウィルソンの唱道した民族自決(national self-determination)の原理が,他方ではロシア革命の影響がナショナリズムの高揚に大きな刺激を与えた。前者についていえば,敗戦の結果解体したオーストリア-ハンガリー帝国の廃墟(はいきょ)の上に,民族自決主義に基づいて東・中南ヨーロッパにいくつかの新しい民族国家が形成された。しかし,これらは事実上イギリス・フランスなど戦勝した帝国主義列強の衛星国・従属国であった。一方,ウィルソンの民族自決実現とロシア革命および新生ソ連邦の民族政策の影響のもとで,中国・朝鮮・インド・ベトナム・イラン・トルコ・エジプト・モロッコ・チュニジアなどアジアから中東・北アフリカにかけて多くの植民地・従属国で植民地ナショナリズムがいっせいに高揚し,その後曲折はあったが第2次世界大戦まで継続した。これらの植民地ナショナリズムは,やがて各地域にコミンテルン(→インターナショナル)の支部として共産党が結成されるに伴い,民族運動の指導権が従来の民族ブルジョアジーやブルジョア民族主義者の手から共産党・労働者階級の手に移りはじめる傾向を示し(特に中国など),そこでは植民地ナショナリズムが実質上労働者階級が指導する反帝国主義・反封建主義の新しい民族,民主革命という性格をもつに至った。他方,1929年以降の世界経済恐慌が深刻化する中で,帝国主義列強はそれぞれ経済ブロックをつくって抗争し,また経済の軍事化,軍拡を促進したが,とりわけ海外の資源・市場・勢力範囲などに恵まれなかった日本・ドイツ・イタリア3国はそれぞれ対外侵略戦争に乗り出し,またそのため国内政治経済体制の軍国主義化・ファシズム化を強化した。この過程ではウルトラ-ナショナリズム*(超国家主義・超民族主義)すなわち狂信的な自民族の民族的優越観・使命観,排外主義*の思想や運動が展開された。ナチス-ドイツのドイツ民族最優越主義・反共主義(反ボルシェビズム)・反ユダヤ主義(反セミチズム)などがそれであり,また日本の絶対主義ファシズムの〈八紘(はっこう)一宇〉,〈大東亜共栄圏〉などがそれである。第4期(1945年以後):第2次世界大戦の結果,日本・ドイツ・イタリアのファシズム国家が敗北するとともに,ウルトラ-ナショナリズムも崩壊したが,かつての帝国主義列強の中で,唯一の強大国として残ったアメリカは,その後資本主義世界における指導的な超国家(super state)として社会主義圏の指導的な超国家ソ連と対抗する一方,他方では西欧諸国や日本を従え,また,アジア・アフリカ・ラテン-アメリカに支配の手を広げる中で,一種の新しいウルトラ-ナショナリズム,または大国主義を唱道,さらにそのような外交・軍事・経済政策を展開するに至った。反共・反ソ・反中国・反民族解放・世界支配と対外侵略・干渉などがその主要な特色である。他方,第2次世界大戦後のナショナリズムの最大の高揚の場はアジア・アフリカ・ラテン-アメリカであって,民族運動の高揚の波は第1波(主としてアジア,1945～1950),第2波(主として中東・北アフリカ,1952～1958),第3波(主として黒人アフリカ,すなわちサハラ砂漠(さばく)以南のアフリカ,1957～1960年代初期),第4波(主としてラテン-アメリカおよびアジア・中東・黒人アフリカにおける新たな高揚,1959～現在)というように,いくつかの波をなして展開されてきている。これらの植民地ナショナリズムの高揚はその規模・深さにおいて未曾有(みぞう)のものであり,その勝利の結果,前世紀以来の植民地体制はほとんど崩壊し帝国主義列強の植民地帝国は姿を消し100か国にものぼる新興国家が出現した。アジア・アフリカ・ラテン-アメリカのナショナリズムは反帝国主義・反新旧植民地主義という共通の性格をもち,かつ相互間の連帯(たとえば1955年のバンドン会議で確立されたバンドン十原則,あるいはパン-アラブ主義やパン-アフリカ主義に基づく結果など)を特色としている。もう一つ注目しなければならないのは,第2次世界大戦後,東ヨーロッパ・アジアなどにあいついで社会主義国が生まれ社会主義陣営が出現したが,最古参でかつ最強のソ連の対外姿勢,特に他の社会主義国に対する態度や政策の中に,俗に大国主義とよばれる自国優越主義・利己主義・指導者意識が現われるようになったことである。これは中ソ対立やチェコ問題・ポーランド問題などに際して表面化した。これも一種のナショナリズムであって,資本主義以前の時代から何世紀にもわたってつちかわれたナショナリズムのあしき遺産は社会主義になったからといって容易に消滅しないことを示している。同様なことはやはり大国である中国についてもある程度みられる。

〔ナショナリズムの類型〕以上のようなナショナリズムの発展の歴史をふり返ってみると,そこにはいくつかの類型が出現し消長していることがわかる。ナショナリズムという場合にはこれらすべてを含むわけで,それゆえ,はじめに述べたようにナショナリズムの定義が困難なのである。ところで,従来多くの学者がナショナリズムの類型化を行なっており,たとえばアメリカの歴史家J.H.ヘイズ(1882～　)はおもにイデオロギー的観点から発生時代順に,①人道主義的ナショナリズム(フランスのジャン-ジャック-ルソー,イギリスのヘンリー-セント-ジョン-ボリングブルック,ドイツのヨハン-ゴットフリート-フォン-ヘルダーの3人の啓蒙(けいもう)主義哲学者の思想),②ジャコバン-ナショナリズム(民主主義的だが狂信的・軍国主義的・愛国的),③伝統的ナショナリズム(保守的・民族的),④自由主義的ナショナリズム(②と③を折衷した形態),⑤全体的ナショナリズム(国家的利益追求を第一義的に考え,国家の政策を最優先させる,国家主義的・帝国主義的・軍国主義的)に分類している。

また,ナショナリズムの台頭の時期と地域を考慮して,①先進国型(イギリス・フランス・アメリカなど),②中進国型(ドイツ・イタリア・日本など遅れて帝国主義国となった国々の国家主義的な〈上からの〉ナショナリズム),③後進国型(東欧・バルカン諸国のようなヨーロッパの弱小諸民族のナショナリズム),④反帝・反植民地主義型(アジア・アフリカなどのナショナリズム。しばしば帝国主義への反抗,貧困への反抗,西欧への人種的反抗という三重の抵抗の意識と行動を内包するものとされる)(オーストラリアの政治学者M.マクマホン-ボールの説),という分類も行なわれている。しかし,これらの諸類型の全体を通じて共通なものとして,①民族的伝統(言語・文化・風習・歴史など),②民族的利益,③民族的使命など各ネーションを過去・現在・未来にわたって結びつける三つの要素があることにむしろ注目すべきであろう。〔岡倉古志郎〕

ソテツなどの亜熱帯植物が自生する。産業三大別人口比は3:45:52。特産の大島紬(つむぎ)の主産地として知られ,サトウキビの栽培も盛んで,バナナ・パパイア・パイナップルなども産する。名瀬港は,鹿児島や阪神(はんしん)地方,沖縄と定期航路で結ばれ,北郊の笠利(かさり)町の奄美大島空港から全日空の沖縄・鹿児島,東亜国内航空の大阪・鹿児島・沖永良部(おきのえらぶ)・徳之島・喜界島・与論島へ定期便が就航する。〔浅井得一〕

ナセル［Gamal Abdel Nasser］(19

18～1970）　アラブ連合共和国の軍人・政治家。カイロ士官学校・陸大卒。第2次世界大戦末期にエジプト軍隊内に革命的な思想の自由将校団を結成した。1948～1949年のパレスチナ戦争に従軍，その後国内の革命的気運を背景に，*ナギブ将軍の片腕として1952年のクーデターを指導した。ファルーク王を廃し，翌年共和制が実現すると副首相となり，1954年，旧勢力に妥協的なナギブ大統領を追放して首相となった。1956年6月国民投票で大統領となる。同年7月スエズ運河国有化を宣言，イギリス・フランスの侵入を受けてスエズ*動乱となったが，結局干渉排除に成功した。以後国内改革と建設を推進，アラブ民族主義・反イスラエル・非同盟政策の中心人物となった。1958～1961年の間，シリアと合邦したアラブ連合の大統領となり，1967年イスラエルとの中東戦争に敗北し，アラブ諸国の統一に労苦しつつ死んだ。〔喜多迅鷹〕

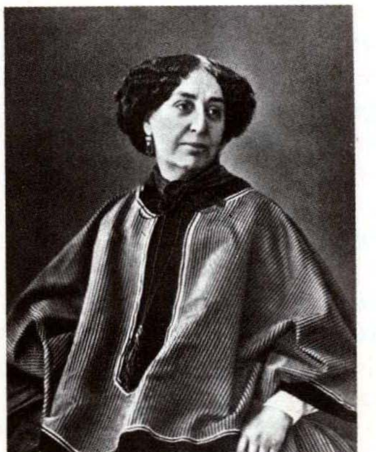
なぞ　**【謎】**　言語*遊戯の一。古来，世界的に行なわれている。問いに対して，あらかじめ予定した一定の解答を要求するもの，頓知(とんち)即妙の奇抜な解答を要求するものなど，その形式はきわめて多い。〈謎〉ということばは，問いかけに際して〈…は，な(何)ぞ〉といったところから起こったといわれている。わが国でも〈謎〉の歴史は古く，《万葉集》の用字法などにも見られ，和歌の贈答や短連歌のやりとりなどにも多く例が見受けられる。平安貴族の言語遊戯として栄えていたことは，〈謎々物語〉(《拾遺和歌集》)，〈謎々合わせ〉(《枕草子(まくらのそうし)》)，〈謎々〉(《顕綱集(あきつなしゅう)》)などの語が散見するところからも察せられる。中世にも盛んに行なわれ，〈二つ文字(こ)牛の角文字(ひ)すぐな文字(し)ゆがみ文字(く)とぞ君はおぼゆる〉(《徒然草(つれづれぐさ)》)などは有名。近世には，*雑俳などの興隆でいよいよ盛んになり，語呂(ごろ)解き・意味解き・文字解きの奇を競った。現在でも，テレビ・ラジオの娯楽物・クイズなどに盛んに用いられている。〔鈴木一雄〕

なそり　**【納曾利】**　日本の雅楽の曲名。〈納蘇利〉とも書く。朝鮮に由来する右方の高麗楽(こまがく)を代表する舞楽で，新楽・小曲に分類される。普通より全音高い高麗壱越(いちこつ)調，4分の4拍子に相当する唐(から)拍子を使う。舞人2人は帽子と龍面(りゅうめん)をつけ，戯れるように舞う。1人で舞うときは〈落蹲(らくそん)〉という。この舞はいわゆる走り物に属する。左方の《陵王》に対する答舞で，この二つは〈番(つがい)舞〉である。

ナゾル　［Vladimir Nazor］（1876～1949）　ユーゴスラビアのクロアチアの作家・詩人。叙事詩・寓話(ぐうわ)・伝説を得意とし，自由へのあこがれを作品によって表明した。代表作に詩集《クロアチアの王たち》，小説《牧夫ロダ》がある。第2次世界大戦中は抗独パルチザン部隊に参加し，その経験をもとに書かれた作品もいくつかある。



ナセル



ナダール　ジョルジュ-サンド像　1866

なだ　**【灘】**　兵庫県南東部，尼崎(あまがさき)市と西宮(にしのみや)市の間を流れる武庫川じりから神戸(こうべ)市の生田川じりにかけて，約20kmにわたる大阪湾北岸の臨海地区。地名は出入りや島のないなだらかな地形にちなむといわれる。江戸時代から〈灘五郷(なだごごう)〉とよばれる酒造地として知られ，今津郷・西宮郷は西宮市，東郷(魚崎など)・中郷(御影(みかげ)など)・西郷(大石など)は神戸市に属する。西宮はすでに15世紀のころから酒の産地として知られ，18世紀になるとそれがしだいに西にひろがって，現在の灘五郷におよんだ。1840年(天保11)には東郷の山邑(やまむら)太郎左衛門によって酒造に適する良質の硬水宮水(みやみず)が発見され，六甲山麓(さんろく)の水車動力による原料米の精白，丹波からの杜氏(とうじ)の参加などによって，先進地の伊丹(いたみ)や池田をしのいで酒造業が発展し，1930年代には全国の清酒生産高の80～90%を占める最盛期を迎えた。現在は神戸市内のみで年産約22万klで全国総生産の約14%にすぎないが，〈灘の生一本〉として定評のある特級酒・一級酒だけは約54%近くがつくられている。〔浅井得一〕

なたねあぶら　**【菜種油】**　アブラナなどの種子から圧搾法または浸出法で採取される半乾性油。ヨウ素価94～106，おもな脂肪酸は，エルカ酸50%，オレイン酸32%，リノール酸15%など。主として食用油に用いられるが，頭髪油・人造ゴム・せっけん・潤滑油など多方面に利用される。

なたまめ　**【刀豆・鉈豆】**　双子葉植物・マメ科。熱帯アジア原産のつる性一年草で，畑に栽培される。葉は互生し，3小葉からなる羽状複葉で，全縁，各小葉は卵形で長さ8～15cm。花期は8月で，葉腋(ようえき)から長い柄を出し，薄桃色で長さ3～3.5cmの5弁の蝶形(ちょうけい)花を総状につける。豆果は長さ25～30cm，幅5cmほどで，10～15個の薄紅色の種子を入れる。花や種子の白い品種をシロナタマメという。若い莢(さや)は食用にされ，福神づけなどに入れられる。

ナタール　［Natal］　ブラジル北東岸にある都市で，リオグランデ-ド-ノルテ州の州都。人口25万0,787(1970年)。沿岸航路と鉄道の基点として，交通の要衝をなす。綿花・砂糖・塩などを集散し，サトウキビ栽培の一中心地でもあり，製糖工場がある。1599年にポルトガル人によって建設され，17世紀にはオランダに一時占領された。

ナタール　［Natal］　南アフリカ共和国東部のインド洋岸の州。面積86,960km²　人口297万9,900(1960)。州都ピーターマリッツバーグ。白人は少なく，約220万は原住のバンツー族である。ドラケンスバーグ山脈の南斜面を占め，亜熱帯気候下にあるが，山地や海岸地域はしのぎよい。開発は進んでおり，海岸平地はサトウキビ・トウモロコシ・果実・野菜など各種の農産物を産し，山地では林業も盛んである。石炭をはじめ豊富な鉱産物にも恵まれ，鉄鋼・金属・化学・石油・農産加工などの工業もダーバンを中心として発達している。1837年にブール人がナタール共和国を建設したが，その後イギリス領とされ，1910年南アフリカ連邦の成立とともに，その一州になった。〔小栗　宏〕

ナダール　［Nadar］（1820～1910）　フランスの写真家。本名ガスパール-フェリックス-トゥールナション。劇作家から転じてパリに写真館を開き肖像写真，ことに19世紀後半に活躍した多くの芸術家たち，*マネ・ベルナール・*サンド・*リスト・*デュマらをモデルにしたすぐれたポートレートを数多く残した。その特色は，当時流行の小道具類をいっさい使用せずに，簡素なバックを用い被写体のポーズに細心の注意を払って，ごく自然な姿態の中に鮮烈な個性を浮かび上がらせるものであった。彼はまた，気球を建造してパリ上空から市街の空中撮影を行ない，あるいはアーク燈を使用してパリの地下墓地を撮影するなどの先駆的な仕事も残している。〔平野　久〕

なだれ　**【雪崩】**　山の斜面の積雪が大量にすべり落ちる現象。傾斜が30～50°ぐらいより急な斜面で起こる。成因その他により，次のように分類される。①なだれの発生の形による分類：小雪塊の落下などがきっかけとなって1か所から扇形に起こる点発生と雪層の状態が降雨や気温の上昇など

の気象条件の急変のために，かなり広い範囲にわたってすべり落ちる面発生とがある。②なだれ層の雪質による分類：一般に湿りけの少ない新雪が古い積雪の上をすべり落ちる新雪のなだれと，日射や気温の上昇で湿った雪となった古い積雪のなだれとがある。③すべり面の位置による分類：すべり面が地面である全層なだれと，古い積雪面が低温で凍り，その上に新雪がある場合や降雨や気温の急昇などの場合に起こりやすい表層なだれとがある。地方によっていろいろのよび名があり，表層なだれは〈あわ〉〈あい〉〈わぼう〉，また全層なだれは〈地こすり〉〈なで〉といわれる。　〔曲田光夫〕

なちかつうら　【那智勝浦(町)】　和歌山県の南東部，東牟婁(ひがしむろ)郡にある町。熊野灘(くまのなだ)に臨む。人口23,000。1955年(昭和30)那智・勝浦・色川・宇久井の2町2村が合併，その後1町1村が加わった。那智は熊野三山の一つ熊野那智大社や那智滝(なちのたき)・青岸渡寺がある信仰の地で，勝浦はすぐれた景観と温泉で知られ，マグロ・カツオの遠洋漁業の根拠地でもある。紀勢(きせい)本線・国道42号線が通ずる。

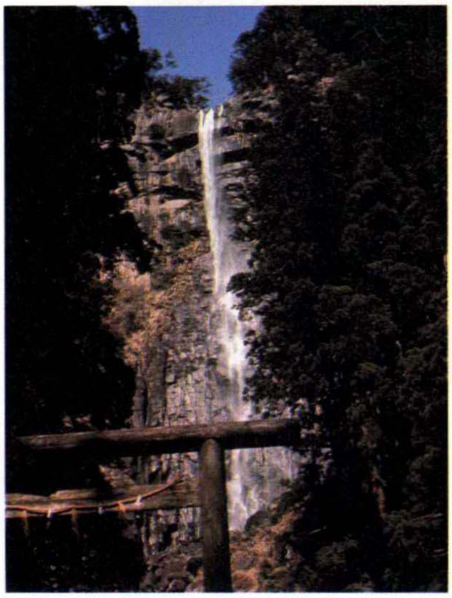
なちぐろ　【那智黒】　和歌山・三重・奈良の3県の県境地域，北山川の中流に沿って分布する中生層の緻密(ちみつ)な黒色ケツ岩の石材名。ふつうのケツ岩よりは岩石の砕屑(さいせつ)が少なく，より微細な潜晶質の粘土鉱物とセキエイとからなる。光沢のある黒さが美しいので，黒の碁石として最良のものとされている。また古来，すずり石などの工芸品原料に使用され，水石としても珍重される。昔は試金石として用いられた。

なちさん　【那智山】　和歌山県南東部，那智川上流の烏帽子(えぼし)山(909m)・妙法山(750m)などの総称。熊野三山の一つ熊野那智大社，西国巡礼第1の札所青岸渡寺があり，古く熊野信仰の中心となってきた。また名瀑(めいばく)那智滝(なちのたき)があり，吉野(よしの)熊野国立公園の一部になっている。

ナチス　［Nazis］　正式には〈国家社会主義ドイツ労働者党〉といい，ナチスは蔑称(べっしょう)，略称はNSDAP。1919年，ドイツ労働者党として発足し，1920年，25か条綱領を発表して以来，この党名を用いた。ナチスは，ベルサイユ条約反対，ユダヤ人排斥など国粋主義と社会主義的要求とを織り混ぜた主張を掲げ，1923年にはミュンヘン一揆(いっき)を行なったが失敗した。その後党勢は停滞していたが，1929年の世界恐慌によってドイツが深刻な影響を受けると，ヤング案への反対をはじめ，没落した小市民や農民の不満を巧みに利用して党勢を拡張し，1932年には第1党に躍進した。このころには軍部や大資本の支持も積極的となり，1933年ヒトラー内閣が成立し，議会に全権委任法を可決させて一党独裁を実現した。ナチスは，親衛隊(S. S.)，突撃隊(S. A.)，秘密警察(ゲシュタポ)などの組織を通じて支配権を強化し，批判者やユダヤ人を強制収容所に入れ，対外的には国際連盟の脱退，ベルサイユ条約の破棄など強硬な態度をとり，第2次世界大戦をひき起こす原因をつくった。　〔松　俊夫〕

なちのたき　【那智滝】　和歌山県南東部の那智山中にある滝。東牟婁(ひがしむろ)郡那智勝浦町に属する。那智山に発する那智川は山地から急に低地に流入するため，短い流路が大きな落差となり，那智四十八滝とよばれるほど多くの滝をつくっているが，その中で最も下手にあたる火成岩と第三紀層との接触点にかかる滝(大滝)をいう。高さ133m，幅12mで，熊野(くまの)那智大社の神体とされている。付近はヒノキ・スギの原生林におおわれて自然美にすぐれ，吉野(よしの)熊野国立公園の一部をなしている。

なつ　【夏】　1年を四季に分けたとき，第2の季節。天文学上では夏至(げし)(6月21日ごろ)から秋分(9月23日ごろ)までをいい，二十四気では立夏(5月6日ごろ)から立秋(8月8日ごろ)の前日までをいうが，気象学上では6～8月を夏としている。5月になると，若葉に陽光の降り注ぐ日が多くなる。これを五月(さつき)晴れといい，初夏の訪れを感じる。昔は，このころ夏のみそぎが行なわれた。しかし，6月上旬～7月上旬は梅雨の候となり，五月雨(さみだれ)が続いて，夏の感じはいったん中断されるが，これは日本が北方のオホーツク海高気圧と南東の小笠原(おがさわら)高気圧の谷間となるためである。7月中旬を過ぎると一気に盛夏となり，入道雲(積乱雲)が出て雷雨が襲う。8月上旬になると土用波が立ち，中旬から晩夏となり，しばしば台風が襲ってくる。日本の夏は南方洋上の高気圧圏内にはいるので，南風が吹き，きわめて高温多湿となってしのぎにくいが，一方このために稲作を中心とした農耕が発達した。夏は，夏祭り・盆などの祭礼が行なわれ，またアサガオを咲かせ，すだれを掛けて風鈴をつり，ゆかたで盆踊りを楽しむなどして暑さをしのぐが，これらは民衆の知恵が生んだすぐれた風物詩といえよう。なお，南半球では半年ずれて，12～2月が夏である。

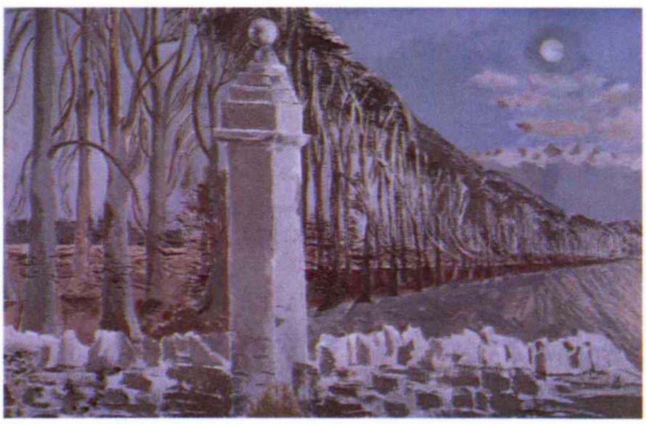


那智滝　那智四十八滝の一ノ滝で，古来山伏の行場として神聖視されてきた。付近一帯の常緑広葉樹の原生林は天然記念物に指定されている。手前は熊野那智神社の鳥居

なつぐみ　【木半夏・夏胡頽子】　双子葉植物・グミ科。山野に普通に見られる落葉小高木で，高さ4mに達する。若枝・葉裏・花などに白色とかっ色の鱗片(りんぺん)がある。葉は長楕円(ちょうだえん)形で長さ3～10cm，幅2～5cm，表面に星状毛がついているがのちに落ちる。4～5月，葉腋(ようえき)に白色から黄色に変わる花を1～3個ずつ下垂する。がく筒の先が4裂し，子房部でくびれる。果実は広楕円形の石果で長さ1.5cm，2.5～5cmの細い柄でぶらさがる。7～8月に赤熟し，食べられる。

なづけおや　【名付け親】　命名を縁として生じた仮親。子どもが虚弱であるとか，生まれても次々と死んでしまうとか，親の厄年(やくどし)に生まれたとかの場合に，拾い親または養い親などの仮親を立て，同時に名付け親も兼ねてもらうことが多い。

ナッシュ　［Paul Nash］　(1889～1946)



ナッシュ《柱と月》テート-ギャラリー



ナツズイセン　花時には葉がない

イギリスの画家。はじめ建築家を志したが，絵画に転向してスレード美術学校を卒業。第1次世界大戦には前線に従軍し，公認戦争美術家に任命されている。作品はシュルレアリスティックな戦争記録画が多い。

なつずいせん　【夏水仙】　単子葉植物・ヒガンバナ科。本州中部以北の山地に自生し，観賞用として庭園に栽培される多年草。鱗茎(りんけい)は径8cm内外のラッキョウ形。葉は淡緑色，広線形鈍頭で，長さ30cmほど，春に群がって出て夏に枯れる。7～8月ごろ高さ60cmほどの花茎を伸ばし，深紅色で長さ8～10cmのらっぱ状の花を4～8個散形花序につける。和名は夏に咲き，葉がスイセンに似るのによる。➔前ページ(写真)

なっせん　【捺染】　印捺その他の方法によって，模様を布地に染色する操作。プリントという。捺染操作によって，手捺染・機械捺染の区別がある。①手捺染：手工で捺染する方式で，最も簡単には木片などに模様を刻印して染料・顔料をつけて印捺する木版捺染，天然の木の葉などに色素をつけて布に押しつけて染色する方法などがある。型紙捺染*は広く最近までも行なわれている手捺染の方式で，強靭(きょうじん)な渋紙に模様を切り抜いて，布の上に置き，白のり・色のりをもって布面にその模様をつけて染める。小紋染・中型染などはこの方式である。スクリーン捺染は織り目のあらいスクリーンに防染模様の型を置いて型紙捺染と同じ要領で色のりを布面につける方式のプリントである。②機械捺染：銅ローラーの表面に模様を刻印し，色のり・白のりをつけて布面に連続的に印捺する方法で，ローラーの数を多くすると多色捺染ができる。

技法としては白のりを印捺して全体を染色し，模様の領分を染めない防染法，染色地に色抜き剤を含むのりをつけて色を抜く抜き染め法などがある。　〔小川安朗〕

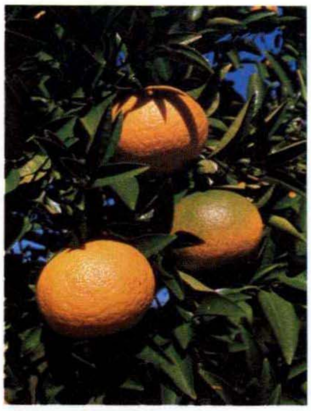
ナッソー　［Nassau］　西インド諸島，バハマ諸島にあるニュープロビデンス島の都市。人口86,000(1966)。政治の中心地で，美しい風光と温暖な気候に恵まれ，アメリカ合衆国・カナダからの観光客が訪れる。

ナッツ　［nuts］　かたい殻(から)に包まれた食用の果実(堅果類)・種子の総称。一般に水分が少なく，脂肪・タンパク質に富み，カロリーは高い。独特の風味と舌ざわりが好まれ，そのまま食べたり，いって塩味をつけて食べたりするほか，菓子や料理の材料に用いられる。ほとんどは外国産で，おもなものにアーモンド*・ブラジルナッツ(三角形の殻を割って白い種子を食べる)・ココナッツ(→ココヤシ)・カシューナッツ(まが玉形)などがある。日本で産するものに，ラッカセイ・クルミ・クリ・ギンナンやカヤ・アサの実，スイカの種子などがある。

なつつばき　【夏椿】　双子葉植物・ツバキ科。シャラノキ・サラノキともいう。山地にはえる常緑高木で，高さ15mに達する。



夏祭浪花鑑　〈長町裏〉の段祭囃子の中で行なわれる団七(中村勘三郎)の義平次(実川延若)殺しは，色彩美と様式美で見せる典型的な殺し場の一。　歌舞伎の舞台から



ナツミカン

樹皮は赤かっ色で薄くはがれる。葉は互生し，長さ4～10cmの楕円(だえん)形で，先は短くとがり，縁に細かい鋸歯(きょし)がある。6～7月，葉腋(ようえき)に直径6～7cmのツバキによく似た白色五弁花をつける。庭木として栽培され，材は床柱などに用いられる。

なっとう　【納豆】　ダイズを煮て，発酵させた食品。西域から中国を経て日本に伝来した。鎌倉時代に禅の渡来後発達したらしく，現在も京都名物である天龍寺(てんりゅうじ)納豆・大徳寺納豆・一休納豆などは，そのなごりである。室町時代には唐(から)納豆とよばれ，江戸時代には浜納豆*がつくられた。これらは煮たダイズに食塩を加え，こうじ菌を繁殖させてつくったもので，現在のいわゆる糸引き納豆とは異なる。糸引き納豆は，煮たダイズを新しいわらづとに入れ，約40℃に保った室でわらに自然に付着した枯草菌の変種である納豆菌を繁殖させてつくった。しかし，不潔になりやすいので，最近では純粋培養した納豆菌を使い，消毒した経木に包んで発酵させる。一般にからし・しょうゆを入れてかき混ぜ，好みによって卵黄・ネギ・青ノリなどを加えて食べる。また，納豆じるや納豆もちなどとしても食用される。　〔佐藤友太郎〕

なつどまりはんとう　【夏泊半島】　青森県中央部，陸奥(むつ)湾に突出する半島。東津軽郡平内町に属する。先端は夏泊崎で，約200m沖合いに丘陵性の大島がある。半島は奥羽山脈の延長で大部分第三紀層からなり，丘陵性の山地が海に迫り，平地に乏しく，半島基部東岸の小湊(こみなと)の浅所海岸は冬季のハクチョウの渡来地で特別天然記念物に指定されている。岬(みさき)付近には海水浴場やキャンプ場があり，西岸には浅虫温泉もあって，半島一帯は浅虫夏泊県立自然公園に指定されている。〔味沢成吉〕

なつどり　【夏鳥】　ある地域に見られる鳥のうち，春から夏にかけてだけその地域に出現し，その地域で繁殖する種類をいう。問題にする地域の広さによって，同一種が夏鳥とよばれたりよばれなかったりする。

ナップ　［NAPE］　芸術運動の組織の略称とその機関誌名で，全日本無産者芸術連盟(のちに全日本無産者芸術団体協議会)のエスペラント名のかしら文字による。マルクス主義的芸術運動体であるナップは，はじめ《戦旗*》を機関誌としたが，運動の発展に伴って1928年(昭和3)末に各専門部が独立し，日本プロレタリア作家同盟・日本プロレタリア美術家同盟などに改組され，その協議体の機関誌として雑誌《ナップ》が誕生した。1930年9月～1931年11月，全16冊を刊行。これを中心に新しいプロレタリア芸術運動が展開され，蔵原惟人*(これひと)・宮本顕治*・中野重治*(しげはる)・小林多喜二*・村山知義(ともよし)ら，多くの評論家・小説家が作品発表の場とした。　〔金子　博〕

なつまつりなにわかがみ　【夏祭浪花鑑】　義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。9段の世話物。三好松洛(しょうらく)・並木千柳(宗輔*(そうすけ))・竹田小出雲(いずも)らの合作。1745年(延享2)竹本座初演。実在したとされる侠客(きょうかく)団七の実話および団七を題材にした先行作品をもとに脚色されたもの。団七九郎兵衛(くろべえ)・釣船三婦(つりふねのさぶ)・一寸徳兵衛らと侠気に富むその妻たちの話を中心にした男達物(おとこだてもの)としてすぐれた作品。9段という長編世話物の初の作品で，これによって世話物が時代物と対等の立場に立つようになった。主として3段目〈住吉(すみよし)神社〉，6段目〈三婦内〉，7段目〈長町裏〉が今日上演される。　〔前田慎一〕

なつみかん　【夏蜜柑】　双子葉植物・ミカン科。ナツカン(夏柑)・ナツダイダイ(夏橙)ともいう。暖地に栽培される常緑樹，高さ3～5mに達する。葉は長さ10～12cmの長楕円(ちょうだえん)形で互生する。2～3月，葉腋(ようえき)に白色五弁花をつけ，4～6月大きな平たい球形の果実をつける。果面は淡黄色で光沢があり，室は10～11個，各室に1～2個の種子がある。酸味は強いが果汁(かじゅう)が多く，生食のほかにママレードや砂糖づけにされる。ザボンと台湾原産のコトウカン(虎頭柑)の雑種あるいはユズとダイダイの雑種といわれる。なお，俗に甘夏といわれるのは，大分で発見された川野夏柑のことで，これからさらに良質の系統

が発見されつつある。幼果時期にヒ酸鉛を散布すると，酸が減って甘く感じ，熟期も早まる。この処理を施した果実をネオナツミカンという。

なつめ【棗】 ⇨茶道

なつめ【棗】 双子葉植物・クロウメモドキ科。人家に栽培されている落葉高木で，高さ10mに達する。枝に対生するとげが出ることがある。葉は卵形で互生し，長さ2～5cm，3本の主脈があり，小さい鋸歯(きょし)がある。6～7月，葉のつけ根に淡黄色の小花が集まって咲く。花はがく片5，花弁5，おしべ5，めしべ1からなる。果実は長さ1～2.5cmの楕円(だえん)形で，果肉は厚く，中に種子が1個ある。9～10月黄かっ色に熟し，食べられる。果実を大棗(たいそう)といい，漢方では緩和・強壮・利水薬として多くの処方に用いられる。

ナツメグ［nutmeg］ ニクズク*の種子の胚乳(はいにゅう)を乾燥したもの。強い香気と風味をもち，おもにカスタード-プディングなどの菓子や甘味料理の香辛料にする。なお，種子を包む肉質の皮をメースといい，粉末にして魚・肉の詰め物やソースの香辛料として用いる。

なつめそうせき【夏目漱石】（1867～1916） 小説家。森鷗外*(おうがい)と並び日本近代を代表する作家。本名金之助。江戸牛込喜久井町に名主の子として生まれた。一時は里子や養子に出され，母の早逝(そうせい)にあうなど不幸な幼少時を送った。第一高等中学から東京大学英文科に1890年(明治23)に入学。学生時代を通しての友人に同級の正岡子規*があり，俳句など文学的な影響を受けた。卒後，大学院在学中に東京高師の教師となるが，突如やめて四国の松山中学に赴任し，次いで熊本の五高教授となる。このとき，中根鏡子と結婚。1900年にロンドンに留学，その2年余は孤独の中で勉学・思索にふけるが，日本人が英文学者となるむなしさを感じ，作家への傾斜を深めた。1903年に帰国，一高教授・東大講師をつとめる。たまたま高浜虚子*に勧められて，《吾輩(わがはい)は猫(ねこ)である*》第1回を《ホトトギス*》に載せ，注目を集め，その後はやつぎばやに作品を発表，一躍文名を高めた。《吾輩は猫である》の風刺と文明批評，《倫敦塔(ロンドンとう)》《カーライル博物館》の暗いロマンチシズム，《坊っちゃん*》の痛快な善悪感，《草枕*(くさまくら)》の俳諧(はいかい)的美学など，漱石は実に多様多彩な才能を示す。それは，年来の鬱屈(うっくつ)した暗い内面を文学表現によって解放しようとする切迫した情熱の結果でもあった。

彼はそのころ，〈死ぬか生きるか，命のやり取りするような維新の志士のごとき精神で文学をやってみたい〉と述べたが，1907年には文学にかけるとしていっさいの教職を辞し東京朝日新聞に入社，《虞美人草(ぐびじんそう)》で我執の美女の破滅を絢爛(けんらん)たる筆致で，《三四郎》で〈無意識の偽善者〉の美禰子(みねこ)といなか出の学生三四郎との心理の動きを，平明な文体で描いて，さらに幅広い創作力を示した。

しかしその後，漱石は彼にとっての根源的な課題であるエゴイズムに主題を集約し，リアリズムを鋭くしていった。《それから*》《門》などの〈自然〉の愛を貫くために世を捨てた〈高等遊民〉の苦悩，《行人》の人間へかける橋を見失った学者の孤独，《こゝろ*》の自殺して我執の罪を消そうとする明治人の運命などがそれである。漱石は次いで，《道草》で自己の過去を見つめなおして，さらに深いリアリズムを把握(はあく)し，《明暗》の小市民のエゴイズムの葛藤(かっとう)を本格的近代心理小説の手法で描くに至る。彼は，《明暗》を中絶にしたまま胃潰瘍(いかいよう)で没したが，その一連の苦闘と成果は国民的大作家の名にふさわしく，その作はいまも広く読まれ続けている。〔西垣　勤〕





ナツメ
(左)花
(右)果実



夏目漱石

なつめやし【棗椰子】 単子葉植物・ヤシ科。インド西部・チグリス-ユーフラテス川流域原産の常緑高木。エジプトで有史以前から栽培されている。幹は高さ20～30mで，自然ではときに束生するが，栽培の場合は側枝を除くので単生である。葉は茎頂に叢生(そうせい)し，羽状複葉で長さ3m内外，硬質で灰白色をおびる。雌雄異株で，葉腋(ようえき)に多数分枝した花弁をつけ，ろう質の白花をつける。果実は2.5～7cmの長楕円(ちょうだえん)形で，未熟果は緑色で熟すと黄赤色になる。果肉は甘くて栄養価も高く，ナツメに似た香があり，生食や，ゼリー・ジャムに利用される。また，幹の先を切って出る樹液からやし酒をつくる。

なでしこ【撫子】 双子葉植物・ナデシコ科。秋の七草の一つとして古くから知られている多年草。カワラナデシコの別名で，ヤマトナデシコともいう。山野や川原に自生し，高さ0.5～1m。全体が粉白緑色で，節は多少ふくらむ。葉は長さ3～8cm，幅0.4～1cmの披針(ひしん)形で，対生し，基部は癒合(ゆごう)して筒状となる。6～11月，枝頂に直径4～6cmの淡紅色五弁花をつけ，花弁は先が細かく裂ける。がくは筒状で長さ3～4cm，先が5裂し，基部には3枚の包葉がある。おしべ10本，花柱は2本。よく似た種が多数あるが，タカネナデシコは高山にはえてたけが低い。シナノナデシコは淡紅色の花が茎頂に多数集まって咲き，長野・山梨県に分布する。ハマナデシコは海岸性の種類で，ヒゲナデシコはヨーロッパ原産の栽培種である。セキチクは中国原産の種で濃紅色花をつけ，この一変種に全









ナデシコ　①カワラナデシコ　②シナノナデシコ　③白花タカネナデシコ　④ヒゲナデシコ

体が小形のトコナツがあり，はち植えなどにして観賞される。

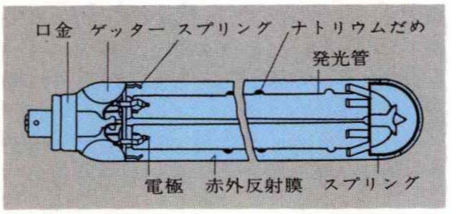
ナデシコ科は世界に約2,000種，日本には67種が分布する。主として草本で，葉は単葉で互生し，花は両性花で放射相称。ナデシコ亜科とハコベ亜科に分けられるが，前者にはセンノウ・マンテマ・フシグロセンノウ・ガンピなど美花が多く，よく庭に植えられる。後者はハコベ・ツメクサ・ミミナグサなど路傍の雑草が多い。〔加藤僖重〕

ナトー ［NATO］ ⇨北大西洋条約機構

なとり 【名取】 日本の伝統的な技芸・武芸とりわけ邦楽・日本舞踊で，師匠からわざを認められて芸名を与えられること，また芸名を与えられた人のこと。江戸時代に生まれ，家元制度の維持と流派の運用に重要な役割を果たしている。➤家元

なとり 【名取(市)】 宮城県中部の市。人口49,000。陸羽街道の宿場町で，名取川河口の閖上(ゆりあげ)は漁港として栄え，また仙台(せんだい)の外港であった。1958年(昭和33)市制施行。1970～1975年の人口増加率は14％で，宮城県の11市中2位である。地名はアイヌ語で湿地を意味するヌタトリにちなむという。太平洋に注ぐ名取川下流の扇状地と海岸寄りの氾濫原(はんらんげん)上に位置し，西部の高館(たかだて)・愛(めで)島の丘陵部に沿って市街地が開け，北は仙台市と接する。産業三大別人口比は22：27：51。周辺農村部では米をはじめ野菜・花卉(かき)が多くつくられ，閖上港は1960年に新港と魚市場が完成し，沿岸底引き漁業の基地として年間3億円の水揚げがある。近年は仙台南縁工業地帯が発展し，サッポロビール・久保田鉄工・三共製薬などの工場があいついで進出し，愛島丘陵には住宅団地も建設されている。東北本線・国道4号線・仙台バイパスが市街中央部を南北に走る。関東以北では最大の雷神山古墳(前方後円墳)がある。

ナトリウム ［sodium］ 周期律表第Ⅰ族に属するアルカリ金属元素の一。記号Na，原子番号11，原子量22,9898。1807年デービーが水酸化ナトリウムの溶融電解により，はじめて金属を得た。地球上にはカルシウムに次いで6番めに多量に存在する。岩石の主要成分で，塩化物として岩塩や海水中に多量に存在するほか，炭酸塩・硫酸塩・硝酸塩としても産出するが，反応性が大なので遊離状態では存在しない。銀白色の柔らかい金属。融点97.7℃，沸点892℃，比重0.971(20℃)。電気的には陽性のきわめて強い1価の金属で，空気中ではすみやかに酸化して光沢を失う。湿気および二酸化炭素により炭酸ナトリウムの被膜をつくる。常温では自然発火することはないが，融点以上に加熱すると黄色の炎を上げて燃焼し，過酸化ナトリウムとなる。水とは激しく反応して水素を発生し，水酸化ナトリウムを生成する。メタノール・エタノールとも激しく反応して水素を発生し，メチラート・



ナトリウム燈 低圧ナトリウム燈の構造

エチラートを生成する。水素中で加熱すると水素化ナトリウムとなり，シュウ素・ヨウ素とも激しく反応するが，フッ素や常温下の乾燥した塩素とは反応しない。多くの金属酸化物や塩を還元して金属を遊離する。二酸化ケイ素・ガラス・磁器なども高温では侵されるが，石油系炭化水素とは反応しないので，燈油などの中に貯蔵する。融点が低く，熱中性子吸収断面積が小さいので原子炉の冷却剤として用いられ，またその脱水性を利用して実験室などで有機溶剤の乾燥剤に用いられる。そのほか，アマルガムとして還元剤に用いられ，さらに合金・触媒などの用途もある。 〔古屋　弘〕

ナトリウムとう 【ナトリウム燈】 ナトリウム蒸気中の放電による発光を利用したランプ。589×10^{-9}m の黄赤色(D線)だけを放射し，発光効率は最も高く，135Wで159ルーメン/Wに及ぶ。封入蒸気圧は点燈時4/1000mmHg(水銀柱ミリメートル)の低圧で，これは約270℃に相当する。このため，発光管はナトリウムに侵されない特殊なガラスでつくられ，かつ保温対策が種々講ぜられ，最近では外管内面に酸化スズの赤外線反射膜をつけた高効率形ができている。黄赤の単色光が霧中をよく透過し，かつ物の凹凸(おうとつ)がよくわかるので，高速道路トンネルや放射性同位元素取り扱い室の照明に賞用されている。なお，高圧ナトリウム燈では，透光性のアルミナ磁器を発光管とし，封入蒸気圧を点燈時200mmHg程度に高めた結果，D線の吸収と広がり作用によって連続スペクトルが増加して金白色を呈し，色の見え方も高圧水銀燈よりやや改善され，かつ400Wで110ルーメン/Wの高効率が得られるので，明るさ本位の広場・道路，建物の外郭照明に好適で，また野球場などではメタルハライド燈(金属ハロゲン化合物を封入した白色光の分光分布をもつ放電燈)との混光照明で効果的な白色光となる。 〔伊東　孝〕

なとりがわ 【名取川】 宮城県西部，奥羽山脈に発して，宮城県中央部を東流し，仙台(せんだい)市東南方で太平洋に注ぐ川。流程48km。山間部には峡谷が多く，上流に二口峡，中流の秋保(あきう)温泉付近に磊々峡(らいらいきょう)がある。平野部に出て，仙台市を流れる広瀬川と合流し，付近一帯は地味肥沃(ひよく)な所となっている。

なとりようのすけ 【名取洋之助】 (1910～1962) 写真家。東京の生まれ。わが国に正統的な報道写真を導入，定着させた先駆者のひとり。1928年(昭和3)ドイツへ留学，ミュンヘン美術工芸学校を経て，ウルシュタイン社の契約カメラマンとなり，報道グラフ誌の作り方を学んで帰国。1933年に木村伊兵衛(いへえ)・伊奈信男(いなのぶお)・原弘(ひろし)らと日本工房を設立，わが国最初の報道写真展を開いた。翌年には，第2次の日本工房から対外国策グラフ雑誌《NIPPON》を出版するとともに，土門拳(けん)・亀倉(かめくら)雄策らを育成している。第2次世界大戦後はグラフ紙《週刊サンニュース》の編集者として後進を育成し，また1950年から1958年までは〈岩波写真文庫〉の編集主幹として，写真を芸術ではなく伝達のための視覚言語であるという主張のすぐれた実践を示した。著作に《写真の読み方》《麦積山石窟(せっくつ)》《ロマネスク》などがある。 〔平野　久〕

ナトルプ ［Paul Natorp］ (1854～1924) ドイツの哲学者・教育学者。デュッセルドルフの生まれ。コーエンと並んで新カント派の一つマールブルク派の代表者。マールブルク大学教授。カントの批判的・先験的方法の立場からプラトンの研究や精密科学(数学・物理学など)の基礎づけの問題に取り組み，多くの業績をあげた。ペスタロッチの思想の哲学的基礎づけをもくろみ，社会教育学を樹立した。主著《精密科学の論理的基礎》《一般心理学》。 〔寺中平治〕

ナナ ゾラの小説(1880)。ゾラの前作《居酒屋》の主人公ジェルベーズの娘ナナの物語で，ナナが成人して女優となり，同時に高等娼婦(しょうふ)として男性遍歴する過程を，第2帝政時代の退廃した社会を背景に赤裸々に描く。〈ルーゴン-マッカール叢書(そうしょ)〉の1巻で，破滅に至るナナの一生が自然主義の手法で描写される。

なないろとうがらし 【七色唐辛子】 七味唐辛子ともいい，古くから広く使われている香辛料。トウガラシにクロゴマ，アサの実，粉サンショウ，陳皮，ケシの実，アオノリまたはシソの実を混ぜ合わせたもの。トウガラシの混合割合によって，大辛・中辛・小辛がある。

ななお 【七尾(市)】 石川県北部の市。人口50,000。古くは香島津または所口とよばれ，能登(のと)国府の所在地で，日本海航路の寄港地として栄えた。明治中期に七尾線が開通して開港場となり，大陸貿易が盛んになったが，第2次世界大戦後は貿易はあまりふるわない。1939年(昭和14)市制施行。能登半島中央部，七尾湾南岸に位置し，能登島と相対する。産業三大別人口比は15：29：56。セメント工業やかまぼこ・ちくわなどの食品工業が行なわれ，北西部の和倉地区で採掘される珪藻(けいそう)土を利用して〈能登こんろ〉がつくられる。また特産に七尾上布がある。七尾線に沿い，国道159号線・160号線・249号線が集まる。和倉温泉があって能登半島国定公園の観光基地とな

り，南東方には七尾城跡がある。

ななおせん【七尾線】 津幡(つばた)～輪島間の国鉄路線。営業キロ数107.9，ほかに貨物支線1本(2.1km)がある。1898～1935年(明治31～昭和10)開業。北陸本線から分岐して能登(のと)半島を南北に縦断する鉄道で，七尾鉄道会社により建設された当時は七尾止まりであったが，大正末期以降輪島まで延長された。

ななかまど【花楸樹】 双子葉植物・バラ科。山地に自生する落葉高木で，高さ5～10mになる。葉は枝先に集まってつき，4～7対の小葉からなる羽状複葉で，小葉は長さ3～7cm，縁に低いが鋭い鋸歯(きょし)がある。秋に紅葉する。5～7月，枝先に直径6～8mmの白色五弁花を多数つける。果実は球形で，10～11月に赤熟する。庭木として植えられ，いけ花などに用いられる。

ななくさ【七草】 正月*7日の朝，7種の青菜を入れてつくる七草粥(ななくさがゆ)を食べて祝う行事。《枕草子(まくらのそうし)》に〈七日の若菜〉とみえている。江戸時代には，〈七種(ななくさ)之御祝儀〉と称して五節供の一つに数えられ，将軍以下が七草粥を食べ，諸大名が参賀した。民間では，粥に入れる青菜の種類やその際の唱え言に地方的な特色がある。一般には，春の七草*とよばれるセリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベ・ホトケノザ・スズナ・スズシロを用いるが，ニンジン・ゴボウ・ダイコン・クリなどを加える地方もある。現行の七草行事では七草をまな板の上に載せ，包丁とすりこぎで調子をとりながら〈唐土の鳥と日本の鳥と渡らぬさきに，なに草はやす，七草はやす，ストトントントン〉などと唱え言する。この粥を食べると万病を免れると伝える。〔直江広治〕

ななこおり【斜子織】 魚子・道子・七子とも書く。経緯糸とも2本またはそれ以上の本数を引きそろえて平組織とした平織の変化組織。経糸(たていと)・緯糸(ぬきいと)を2本ずつ，あるいは3本ずつというように，同じ本数を引きそろえて組織する場合を正則斜子織といい，経糸を緯糸の引きそろえ本数の倍ほどにして組織するものを不規則斜子織という。生織(きおり)と練織(ねりおり)があるが，練織物は布面が柔らかく光沢があり，特殊な風合いがある。一般に，この組織では経糸どうし・緯糸どうしが寄り合い，織目にすきまができるので，夏向きの衣料に利用され，羽織・着尺・帯地などにされてきたが，現在では帯地に利用されるくらいである。なお，綿糸を用いたものは綿斜子という。オックスフォード*はその代表的な広幅生地である。なお，通常の平組織と混合して文様を織り出したものを飾り(重ね)斜子織という。〔北村哲郎〕

ななこまち【七小町】 地歌・箏曲(そうきょく)の曲名。いわゆる京物の手事物に含まれる曲で，19世紀初め光崎検校(みつざきけんぎょう)が三弦のために作曲，のちに八重崎検校が



ナナカマド



ナナフシ　(左)ナナフシ　(右)ヤスマツトビナナフシ(トビナナフシ科)

箏のパートをつくった。歌詞は小野小町の七つのエピソードを扱っている。調弦法や速度法に変化がある。

ななふし【竹節虫】 こん虫類・直翅(ちょくし)目・ナナフシムシ科。体長70～100mm，体・触角・脚とも著しく細長い。全体緑色ないし黄緑色の保護色で，静止しているときは，前脚を伸ばして一見生木の小枝に似ていて発見しにくい。ナナフシムシ類の中で最も普通に見られるもので，本州中南部・四国・九州に分布する。卵で越冬し，4月ごろ孵化(ふか)して7～8月ごろ成虫となる。クマイチゴ・コナラなどの葉上にいて，その葉を食する。ナナフシムシ類は，全世界から2,000種以上が知られ，大部分は熱帯地方に産する。5科に分類され，日本にはナナフシムシ科のほかトビナナフシムシ科・コブナナフシムシ科の3科に属する約10種が分布する。残りの2科のうちコノハムシ*科は擬態の好例として有名。いずれも大形で細長く，ときには脚や胸腹部が葉状を呈する種類もあり無翅のものと有翅のものがある。卵は植物の種子のような形状をしており，地上に散布される。すべて夜行性である。日本産のものでは本種のほかトゲナナフシ・トビナナフシ*・オオナナフシなどが代表的種類である。〔鈴木邦雄〕

ななほしてんとう【七星瓢虫】 こん虫類鞘翅(しょうし)目・テントウムシ科。体長8mm内外，体は黒色で円形。鞘翅は橙黄(とうおう)色で，両翅で計7個の黒色紋があり，前縁角および翅基部の会合線近くに各1個の淡黄色紋がある。年数回発生し，成虫で越冬する。幼虫・成虫ともに各種アブラムシ類やカイガラムシなどを捕食する益虫である。最も普通に見られるテントウムシで，原種はヨーロッパからアジアにかけて広く分布する。日本全土・朝鮮・中国・インドなどに分布するものは鞘翅の黒紋が大きく，別亜種に属する。➔テントウムシ

なにわのみやこ【難波京】 難波(大阪の旧称)に置かれた古代の都。難波都・難波埼とも書く。応神天皇が大隅宮(おおすみのみや)を造営して行幸したのが最初で，のち仁徳(にんとく)天皇の高津宮(たかつのみや)，欽明(きんめい)天皇の祝津宮(いわいつのみや)，孝徳天皇の長柄豊碕宮(ながらとよさきのみや)が置かれた。679年(天武7)天武天皇は難波に城壁を築いて遷都を企てたが実現せず，その後744年(天平16)聖武(しょうむ)天皇が一時難波京を置いた。近年，発掘調査の結果，高津宮・長柄豊碕宮・難波京は現在の大阪市東区法円坂町付近にあったことが判明した。〔黛　弘道〕

なぬかざめ【七日鮫】 軟骨魚類・トラザメ科。体は扁平(へんぺい)で，尾部は細い。腹部が大きく，ぶよぶよした感じで，空気を吸い込んで腹を大きくふくらませることができる特異なサメである。鰓孔(さいこう)は各側に5個。目は左右に細長く，目の後方にある噴水孔は小さい。歯はきわめて小さく，3尖頭(せんとう)がある。第一背びれは胸びれよりも小さく，腹びれ起部よりもやや後方で始まる。第2背びれは第1背びれよりやや小さく，臀(しり)びれと対在する。中部以南の沿岸域に多く，比較的深い所で多獲される。卵生で，大きな卵殻(らんかく)は装飾品として珍重される。産業的には重要でないが，かまぼこの原料にされる。〔谷内　透〕

なぬし【名主】 江戸時代の村方三役*の一。中世の名主*(みょうしゅ)に起源をもつ。関西では多く庄屋(しょうや)とよばれ，藩によっては肝煎(きもいり)・乙名(おとな)などとよばれた。江戸初期には土豪やゆいしょある者が代官*から任命され，世襲が多かったが，中期以後は一代限りであった。村の長としての権限は大きく，郡代・代官・奉行(ぶぎょう)の下で，年貢(ねんぐ)の取り立て，山林・原野などの管理のほか，村政一般をつかさどった。

なは【那覇(市)】 沖縄本島南西部，沖縄県庁の所在する市。人口29万8,000。琉球王国時代には首都首里の外港であったが，1879年(明治12)に沖縄の廃藩置県が本土に遅れて実施され，那覇に沖縄県庁が設置されてから，首里に代わる沖縄の中心都市となった。1921年(大正10)市制施行。第2次世界大戦末期に日米両軍の激戦地となって廃墟(はいきょ)と化したが，戦後アメリカ軍に接収されて復興が進み，1946年(昭和21)市制を復活し，1949年，軍・民両政府が知念地区から転入した。1950年みなと村，1954年に首里市・小禄(おろく)村，1957年真和志市を合併して市域を拡張している。市域の大半は隆起サンゴ礁の上に位置し，かつては

市の場末だった壺屋(つぼや)・牧志とそれに続く旧真和志市の地区とが新しい中心となり，いまでは戦前の那覇のおもかげはない。そこから県庁や市役所・裁判所などが集まる官庁センターまでは，国際大通りが通じて，デパート・専門店・映画館の集まる繁華街となっている。国際大通りと交わる平和通りは，小店が密集する市民の買い物町である。産業三大別人口比は 2：20：78で，ほとんど完全な消費都市である。市の最大の経済的基盤は，1972年の復帰後も軍事基地としての機能で，商店や飲食店もアメリカ兵に依存するものが多い。那覇・泊の両港の港湾設備もよく整い，住宅地となった首里地区には琉球大学が置かれている。もと海軍の小禄飛行場はアメリカ軍に接収後，那覇国際空港となり，東京・名古屋・大阪・福岡・熊本・鹿児島・奄美(あまみ)大島・台北・香港(ホンコン)・マニラ・ハワイなどのほか県内の各離島に定期航空便がある。崇元(そうげん)寺跡・波上宮(なみのうえぐう)・首里城跡・園比屋武御嶽(そのひやんうたき)・守礼之門・博物館，第2次世界大戦の戦跡など史跡名所に富み，観光都市としての機能も大きい。年中行事としては龍(りゅう)をかたどった船体のクリ舟が競漕(きょうそう)する爬龍船(はりゅうせん)またはハリーとよばれる行事があり，泊港で旧暦5月4日に行なわれる。泡盛(あわもり)・つぼ・紅型(びんがた)・漆器・織物・パナマ帽・パイナップル・バナナなど特産物も豊富である。　〔浅井得一〕

ナバホぞく　【ナバホ族】　アメリカ合衆国南西部に居住するアサバスカン語族のインディアン。外来文化を吸収・発展させるのがうまく，かつては狩猟民だったが，先住者プエブロ族*から織物・儀礼などを学び，スペイン人からウマ・ヒツジの飼育，銀細工などを習った。インディアンの中で最もよく近代化に適応し，教育や生活水準向上への志向が強い。

ナパームだん　【ナパーム弾】　航空機によって低高度から投下される焼夷弾(しょういだん)の一種。第2次世界大戦中アメリカが開発したもので，ゼリー状の油脂を弾体に詰め，白リン点火器によって起爆すると3,000℃の高温で燃焼する。ジャングルに潜んだ敵や強固な陣地を攻撃するのに用いられ，多人数の殺傷を目的とする非人道的な兵器。

ナバラおうこく　【ナバラ王国】　中世，イベリア半島東北部の王国。9世紀半ばフランク王国より独立し，10世紀王国を形成して，国土回復運動*の一拠点となった。11～12世紀に一時アラゴン王国*に併合されたが，のち独立を回復した。フランス王家と関係が深く，フランソア1世*の姉マルグリットはナバラ王アンリに嫁している。スペイン側領地は1512年スペインに占領され，フランス側領地はナバラ王アンリのブルボン朝創始によりフランスと合体した。今日に至るまでバスク地方として，両国内で地方的特色を残している。　〔大野慎一郎〕



ナ　ベ　カ

なばり　【名張(市)】　三重県中西部の市。人口43,000。江戸時代は藤堂氏の一族がいた小城下町で，1954年(昭和29)市制施行。上野盆地の南西端に位置し，名張川が北流する西側は大和(やまと)高原で奈良県と接し，南には高見山地が迫る。市街地には武家屋敷などが残り，かつての城下町のおもかげをとどめる。産業三大別人口比は18：33：49。平地部は伊賀(いが)米の産地として古くから知られ，製材・農機具などの工場もあるが，経営規模は小さい。山間部では養蚕業が盛んである。近畿(きんき)日本鉄道大阪・山田線，国道165号線が通じ，最近は南部の桔梗ケ丘(ききょうがおか)丘陵に広大な宅地造成が行なわれるなど大阪・名古屋の近郊住宅都市的な性格を整えつつある。名張川の上流部は丈六川と青蓮寺(しょうれんじ)川に分かれ，それぞれ赤目ノ滝*・香落渓*(こおちだに)の奇勝をつくり，赤目一志峡県立自然公園に指定されている。

ナバリノのたたかい　【ナバリノの戦い】　ギリシアの独立を事実上保障した海戦。ギリシア独立戦争中の1827年6月24日，イギリス・ロシア・フランスの3国代表はロンドンの会談で，トルコ政府にギリシアの自治を認めさせることにした。トルコとの交渉に3国の艦隊を派遣したが交渉は妥結せず，10月20日艦隊はナバリノ湾でトルコ-エジプト艦隊を全滅させた。

ナビは　【ナビ派】　19世紀の末に，セリュジエ(1864～1927)・ベルナール*・ドニ*・ボナール*・マイヨール*ら，一群の青年画家によってつくられた反印象主義のグループ。基本的にはブルターニュ地方のポンタバンに滞在中のゴーガン*の作品や作画思想から触発された面が強く，1889年には集団を形成し，印象派*の色彩分割とは逆の平面的な色面の強調，太い輪郭線の使用による単純化した画面構成などを追求した。これにはゴーガンの総合主義の主張はもちろん，日本の浮世絵*やシャバンヌ*・ルドン*あたりからの影響もあり，当時の文壇の動きと関連する美術上の象徴主義*の現われとみなすこともできる。ナビ(nabis)とは予言者を意味するヘブライ語で，詩人カザリスによって命名されたもの。この一派の画風は必然的に装飾的・観念的傾向を強くうかがわせたが，やがて各画家それぞれ独自の方向に進んだため，グループとしての運動は数年間で自然解消した。　〔富山秀男〕

ナプキン　［napkin］　食卓に備え，食事時に口や指先をふき，食べこぼしのよごれを防ぐ布。紙製もある。ヨーロッパでは，フォークが一般化する17世紀ごろまで手づかみで食事をしたので，1種類の料理が終わるたびに水で手を洗い，布(またはパンきれ)でぬぐう習慣があった。中世にはテーブルクロスで手をふき，やがて16世紀には今日のようなナプキンが使われたとみられる。大きさは55，60，67.5cm平方が標準。紙ナプキンは日本で考案されたといわれ，1900年刊行の《アメリカ商品辞典》には，上等品は日本のクレープ-ペーパー製のものとしるされている。　〔船石清香〕

ナフサ　［naphtha］　原油の常圧蒸留で得られる沸点約30～200℃の留分。粗製直留ガソリン*に該当する。製油操作では通常軽質ナフサ(約30～100℃)と重質ナフサ(約90～200℃)に分留される。わが国では軽質ナフサの大部分は，高温熱分解によりエチレン・プロピレンなどの石油化学工業*原料の製造に，一部は精製して自動車用ガソリン配合材(軽質直留ガソリン)とする。また重質ナフサの大部分は，リフォーミング*して改質ガソリン*を製造する。〔原　伸宜〕

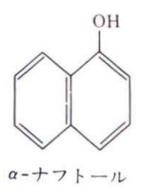
ナフタ　［NAFTA］　⇨北大西洋自由貿易地域

ナフタリン　［naphthalene］　石炭乾留副産物として得られるほか，石油中にも少量存在する，白色ないし無色の光沢あるうろこ状結晶。融点80.3℃，沸点218.0℃。特有の臭気があり，常温で昇華する。水には不溶だがエタノール・エーテルにはとける。染料・殺虫剤・殺菌剤・爆薬・酸化防止剤などの原料として，また各種有機化合物の原料として使われるほか，そのままで防臭剤・防虫剤として使われる。

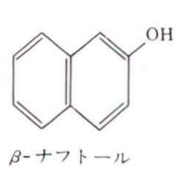


ナフテンけいたんかすいそ　【ナフテン系炭化水素】　環式飽和炭化水素の総称。シクロパラフィンともいう。一般式C_nH_{2n}　性質はメタン系炭化水素(パラフィン)に類似。ふつう炭素数3～8のものが知られるが，石油中には5と6のもののみ含まれる。一般には安定でアンチノック性が高いのでガソリン成分としては好ましいが，潤滑油成分としてはパラフィンに劣る。シクロペンタン・シクロヘキサンなどがある。

ナフトール　［naphthol］　ナフタリンの水素原子の一つが水酸基で置換されたもので，2種の異性体がある。①α-ナフトール：無色柱状結晶，融点96.1℃，昇華性がある。



α-ナフトール



β-ナフトール

染料の合成原料として重要。②β-ナフトール：無色ないし淡黄色の板状結晶，融点122℃，昇華性がある。合成ゴムの酸化防止剤，染料合成の中間体，香料の製造原料，防腐剤として重要。両方とも光により変色するので注意を要する。

ナフトールせんりょう　【ナフトール染料】 ⇨アゾイック染料

なべか　硬骨魚類・イソギンポ科。体長6cmほどの沿岸性の岩礁魚。函館(はこだて)以南，長崎まで分布し，南日本の磯(いそ)や潮だまりに多い。細長い帯状の魚で，雄には背びれ基底に沿ってコバルト色の小点がある。春さき，潮だまりの中などにあるヘビガイの殻(から)の中にオレンジ色の卵を生む。観賞価値は高く，水族館などでも飼育される。

なべしまし　【鍋島氏】 少弐氏*の一族とも，藤原氏*の出ともいわれる。肥前(佐賀県)の守護代龍造寺(りゅうぞうじ)氏の家臣であったが，直茂のとき主家龍造寺政家(まさいえ)の跡を継いで佐賀城主となった。子勝茂のとき龍造寺高房が死ぬと，その家を統合して三十七万七千余石を領し，名実ともに佐賀藩*(肥前藩)主となり，以来世襲して廃藩に至った。光茂(みつしげ)のとき，徳川氏から松平姓を与えられ，以後慣例となった。支藩に小城(おぎ)(勝茂の長子元茂を祖とし，七万三千石余)・蓮池(はすのいけ)(勝茂の三男直澄を祖とし，五万二千石余)・鹿島(かしま)(勝茂の九男直朝を祖とし，二万石余)がある。

なべしまそうどう　【鍋島騒動】 江戸時代，佐賀藩(肥前藩)鍋島氏*にまつわる化け猫(ねこ)騒動の伝説。鍋島氏に領土を奪われた龍造寺政家(りゅうぞうじまさいえ)の子高房(たかふさ)は，鍋島直茂を恨んで22歳で自殺し，その子季明(すえあき)は幕府に龍造寺家の回復を図ったが果たさなかったという経過から，鍋島勝茂・光茂(みつしげ)の2代にわたって怪異が現われたというもので，佐賀藩主に殺された龍造寺家の盲目の若君の怨念(おんねん)を宿したネコが，神通力を得て鍋島家にたたりをして家中が騒動し，これを藩士の小森半平太が退治するという内容である。江戸末期に歌舞伎(かぶき)《百猫伝手綱染分(ひゃくみょうでんたづなのそめわけ)》《嵯峨奥妖猫奇談(さがのおくようみょうきだん)》や実録本《佐賀怪猫伝》，講談《鍋島の猫》などによって有名となった。　〔岡山泰四〕

なべしまはん　【鍋島藩】 ⇨佐賀藩

なべしまやき　【鍋島焼】 ⇨色鍋島

なべづる　【鍋鶴】 鳥類・ツル科。翼長50cm前後で，ツルとしては小形。全体に灰色で，額には黒と赤のまだらがあるが，頭頸(とうけい)部は白色。シベリア東部・ウスリー地方・モンゴルなどで繁殖し，鹿児島県阿久根(あくね)市，山口県熊毛町に多数渡来し，越冬する。

なべな　【続断・山芹菜】 双子葉植物・マツムシソウ科。山野に自生する越年草で，高さ1m以上になり，全草に小さなとげが多数ある。葉は2～3回羽状に裂ける羽状複葉で，各裂片は楕円(だえん)形。8～9月，茎頂および葉腋(ようえき)に頭状花序を出し，紅紫色の小花をつける。ヨーロッパ原産のチーゼルはオニナベナともいい，全縁または細鋸歯(さいきょし)のある単葉で，対生し，基部は癒合(ゆごう)する。頭状花はナベナより大きく，包葉はとげ状になって花を囲む。乾燥した頭状花をらしゃの毛をさかだてるのに用いるので，ラシャカキグサともいわれる。

なべぶたむし　【鍋蓋虫】 こん虫類・半翅(はんし)目・ナベブタムシ科。体長6mm内外，体は扁平(へんぺい)な円形で，なべのふたに似ていることからこの名が生まれた。体色はふつう黄かっ色の地に黒かっ色の斑紋(はんもん)があるが，ときに頭部を除き一様に黒かっ色になった個体もある。翅(はね)は退化しているが，まれに完全な半翅鞘(しょう)をもつ個体が見られる。口吻(こうふん)は基部が太く，著しく細長い。脚および体の腹面は一様に黄かっ色。前翅の跗節(ふせつ)は3節で，腿節(たいせつ)は太く短い。後跗節には長毛がはえ，遊泳用となる。本州・四国・九州に分布，山地の渓流(けいりゅう)などの砂中に生活し，ほかの小形水生動物を捕食する。しばしば群生することがある。ナベブタムシ科は，日本では本種のほか，トゲナベブタムシ・カワムラナベブタムシの2種類のみが産する。また近縁のコバンムシ*科に包含して扱う研究者もある。



ナベヅル



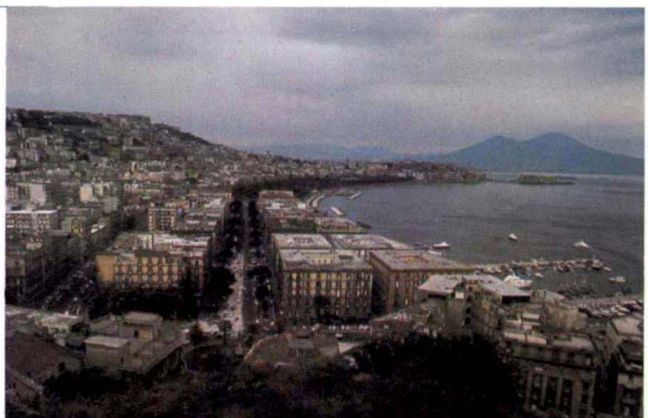
ナベナ

なべわり　【鍋破】 単子葉植物・ビャクブ科。関東以西の山林や暗い湿地にはえる多年草。毒草。根茎は横走し，多節で太い根を出す。茎は根茎の先に単生し，分枝せず，高さ30～50cmになる。葉は茎頂近くに数枚が短柄で互生し，狭卵形で先がとがり，長さ6～15cm，縁は細かくちぢれる。晩春に葉腋(ようえき)から4cm内外の細長い花柄を伸ばし，黄緑色の花が1個下垂する。花弁は卵形で平開し，4枚のうち1枚は少し大きく約1cmほどになる。和名は舐(な)め割りの意で，葉を舐めると舌が割れることによるという。　〔横井朝子〕

ナボコフ　[Vladimir Nabokov]（1899～1977）アメリカの小説家・詩人。ロシア生まれ。ケンブリッジ大学を卒業後，ドイツ・フランスに住み，ロシア語で創作を発表。1940年アメリカに移住し，性的に早熟な少女を描いた《ロリータ》で一躍有名になった。ほかに《賜物》《絶望》などの小説，詩集があり，複雑なアイロニーと亡命の苦悩とを芸術的に高度に洗練した作風をもつ。

ナホトカ　[Nakhodka] ソ連，沿海州にある港湾都市。人口12万7,000(1976)。ウラジオストク東方に位置，シベリア鉄道支線の終点にあたる。第2次世界大戦後，貿易港および漁港として発展し，造船・水産加工などの工業もある。1947年以降に日本人のシベリア引き揚げ基地として知られたが，1964年極東貿易事務所が設けられ，対日貿易の拠点となっている。1961年横浜との間

ナポリ　ナポリ湾に面して広がる典型的な地中海都市ナポリの概観。湾には埠頭が突き出し，船が行きかっている。遠景の山はベスビオ火山





ナポレオン1世 1804年ノートルダムに教皇ピウス7世を招きながらみずからの手で帝冠をつけ，そののちジョゼフィーヌに冠を与えた　ダビッド《ナポレオンの戴冠》　ベルサイユ宮殿蔵

にソ連の定期船が就航している。

ナポリ　［Napoli］　イタリア南部，ローマの南東190kmのチレニア海に面する港湾都市。人口122万4,000(1975)。ローマ・ミラノに次ぐイタリア第3の都市である。カプリ島を南に配し，市街は静かなナポリ湾の沿岸から階段状の丘陵の斜面に広がり，世界三大美港の一つといわれる。東方に活火山ベスビオを望む観光地で，古い市街のサンタ-ルチアは民謡でよく知られている。17～18世紀建造のバロック式の教会が多く残っているが，第2次世界大戦で大きな被害を受けた。また，デル-オーボ・サン-エルモなどの中世の古城や，ドリア・イオニア・コリント3様式をあわせもつ1600年建造の王宮，ポンペイなど古代ローマの遺物で有名な国立博物館など，観光客を魅了する記念物が多い。港からは，マカロニ・織物・オリーブ油・かんづめなどを輸出する。古代ギリシア時代にはネアポリスとよばれた植民地で，BC326年にローマ帝国領となった。12世紀から15世紀末までナポリ王国の首都として栄えたが，のち，スペイン・オーストリアの支配下に置かれ，1860年ガリバルジーによって解放され，イタリアに加わった。➔前ページ(写真)〔梶川勇作〕

ナポリおうこく　【ナポリ王国】　⇨両シチリア王国

ナポリがくは　【ナポリ楽派】　おもに18世紀にナポリを中心に活動した作曲家たちの総称。おもな活動分野はオペラである。この楽派の創設者A.スカルラッティ*は，レシタチーボとアリアの様式を明確にし，ダ-カーポ形式をアリア作曲の常套(じょうとう)手段にするとともに，急～緩～急のイタリアふう序曲のスタイルを確立した。次代のペルゴレージ*・ヨメルリ(1714～1774)・ハッセ(1699～1783)では，早くもダ-カーポ-アリアの多様化がみられ，様式の他国への普及と同時にグルックら古典派作曲家との関連が見いだされる。一方，18世紀の中ごろには，インテルメッツォや喜劇ふうのオペラからオペラ-ブッファ*が誕生し，これまでのオペラ-セリアに代わって主流を占めた。さらにオペラ-ブッファはパイジェルロ(1740～1816)・チマローザ*ら18世紀後半の作曲家によって完成され，黄金時代を築いた。彼らは単にアリアや序曲の形式的完成といった技法的な面だけではなく，その国際的な活動によって各国のオペラ運動を刺激し，そこからウィーン古典派や，各国の国民様式をもったオペラが発展していった点でも重要である。〔吉田泰輔〕

ナポレオン［Napoléon］フランスの皇帝。

1 1世 Napoléon Bonaparte (1769～1821)　在位1804～1814/15年。コルシカ島の小貴族の家に生まれた。軍人となり，青年将校としてフランス革命を迎え，1793年12月ツーロンで，1795年10月パリで，反革命勢力を鎮圧して頭角を現わした。1795年3月貴族の未亡人で年長のジョゼフィーヌ*と結婚。総裁政府に重用され，1796～1797年オーストリア軍に勝利を得，1798～1799年エジプト遠征，1799年10月本国に帰り，進行中の反政府改憲工作に荷担し，ブリュメール18日(1799年11月9日)のクーデターを行なった。その結果成立した執政政府の第一執政として実権を握り，軍事独裁を強化して左右両勢力をおさえつつ，金融・経済・行政・宗教・教育上の諸政策や民法典(ナポレオン法典)の編集などによって革命の成果を育成し，また対外戦争を有利に導いた。国民の支持のもとに1802年終身執政，1804年皇帝となり，ここに第一帝政*が始まった。

再開された諸国との戦争では1805～1809年アウステルリッツ・イエナ・フリートラント・ワグラムなどでオーストリア・プロイセン・ロシアに戦勝し，オランダ・ベルギー・イタリア・ドイツ・ポーランド方面を支配下に置き，いわゆるナポレオン帝国を形成した。1809年不妊のジョゼフィーヌを離婚し，1810年オーストリア帝室ハプスブルク家のマリー-ルイズと結婚して，翌年1子をもうけた(ローマ王，またナポレオン2世，1832年病没)。しかし宿敵イギリスに対しては1805年トラファルガルの海戦*に敗れ，1806～1807年大陸封鎖令*によって経済封鎖をめざしたが，これはイギリス経済に依存するヨーロッパ諸国をも苦しめた。

一方イベリア半島への出兵は1808年からスペイン人の民族的抵抗を受け(半島戦争)，また1812年ロシア遠征はフランス軍の退却となった。これをおりにイギリス・オーストリア・プロイセン・ロシアは同盟して解放戦争を起こし，1813年ライプチヒの戦いでフランス軍は敗れ，1814年3月パリ陥落，4月皇帝は退位し，エルバ島に移された。しかし，1815年3月本国に帰還して帝位に復し，帝政の自由主義化をめざしたが，1815年6月ワーテルローの戦い*に敗れて百日天下は終わり，セント-ヘレナ島に流された。ここで1821年51歳で病死。1840年遺体は故国に運ばれた。

彼は世界史上，最大の軍事的天才のひとりであるが，その個人的野心のために多数の人命が犠牲となった。政治家としてはフランス革命の成果を保障し安定させて，ブルジョア支配体制を発展させたが，一方では議会制民主主義を抑圧した。彼は征服地にも革命の成果を伝えた面もあったが，その支配は各地に民族主義を覚醒(かくせい)させた。また彼は特に死後フランス革命の精華を体現した存在とみられ，対外的勝利の追憶とあいまって，ナポレオン崇拝を伝説的なまでにフランス国民の中に存続させることとなった。

2 3世 Charles Louis Napoléon Bonaparte (1808～1873)　在位1852～1870年。ナポレオン1世の弟ルイの子。1836年および1840年，七月王政を倒そうと試みて失敗した。1848年12月第二共和政下の大統領選挙にナポレオン1世の栄光を背景に当選，1851年クーデターで大統領の権限を強化し，翌年皇帝となって専制的な第二帝政*を始めた。一方，積極的な経済・社会諸政策を進め，パリの大改装を行ない，クリミア戦争の勝利などで国際的地位を高め，アジア・アフリカ方面に植民地を経営し，幕末の日本とも交流した。1853年スペインの貴族の息女ウジェニー-モンティーホと結婚し，宮廷生活もはなやかであった。しかし帝政末期，反対勢力の台頭によって自由主義化をしいられ，メキシコ遠征など対外政策にも失敗し，1870年ドイツ統一問題をめぐるプロイセンとの戦争に敗北，捕虜となり，帝政は終わった。1871年イギリスに亡命し，その地で病没。《ナポレオン的観念》《貧困の絶滅》などの著書がある。〔山上正太郎〕

ナポレオンせんそう　【ナポレオン戦争】　1799～1815年間，ナポレオン1世*が執政政府の第一執政となってから没落するまでに行なった戦争の総称。おもな戦争としては，1800年のアルプス越え後のマレンゴの戦い*，1805年のトラファルガルの海戦*およびアウステルリッツの戦い*，1806年のイエナの戦い*，1807年のリスボン占領，1808～1814年

の半島戦争(スペイン人の民族解放戦争に敗退),1809年のワグラムの戦い，1812年のモスクワ遠征,1813～1814年の解放戦争*,1815年のワーテルローの戦い*などがあるが，その基本にはイギリスの大陸市場独占打破のための対英戦略がある。近代的国民軍を基礎とする最初の近代的戦術とされるが，この戦争は各国に革命の原理を伝え，ナショナリズムを刺激した。〔喜多迅鷹〕

ナポレオンほうてん　**【ナポレオン法典】**　1804～1811年，ナポレオン監督下に制定された民法典をはじめとする民事訴訟法・商法・刑法・刑事訴訟法の五法典。ハンムラビ法典・ユスチニアヌス法典とともに三大法典といわれる。アンシャン-レジーム*時代には北部ではゲルマン法，南部ではローマ法に基づく慣習法が一般に行なわれていたため，フランス革命の初期以来，その不統一をなくすために法典作成を試みたが不成功に終わった。1800年ナポレオンの監督下に改めて起草，みずから審議会の議長となって審議し,1804年民法典が完成した(1807年〈ナポレオン法典〉と改称，第一・第二帝政期を除いては単に〈民法典〉とよばれた)。個人主義・自由主義を基本とし，個人の所有権の不可侵を強調し，フランス革命の性格を反映している。日本を含めて各国に影響を及ぼした。フランスではその後部分改正を経て効力をもっている。〔喜多迅鷹〕

なまえ　**【名前】**　人の名まえは姓名・氏名といわれ，現代では姓氏と名の組み合わせで示されるのが普通である。日本・朝鮮・中国・ハンガリーでは〈家の名，個人の名〉の順序に置かれるが,インド-ヨーロッパ語族の諸国では反対に〈ファーストネーム・ファミリーネーム〉の順に置かれる。姓氏は日本では古代豪族の姓(かばね)以来の変遷の歴史をもち，江戸時代には普通の庶民は姓を許されなかったが，明治時代になって全国民が姓を名のることに定められた。現在は生まれながらに父母の姓を名のり，結婚すれば夫婦ともに夫あるいは妻の姓のどちらかを名のり，離婚した場合はもとの姓にもどることができる。名は個人の出生後にまもなく親が命名して届け出る。名を統計的に調査すると時代の好尚(こうしょう)などを反映して一定の傾向や変化がうかがわれる。戸籍に登録される本名のほかに，号・芸名・ペンネーム・醜名(しこな)や,通称・あだ名・よび名などをもつ場合もある。第2次世界大戦後は，名まえに使える漢字は当用漢字*と人名漢字*の範囲内に制限された。ただし，1字1字の読み方は自由であり，日本人が他の日本人の名まえを正しく読めないことも珍しくない。〔西尾寅弥〕

なまけぐま　**【懶熊】**　哺乳(ほにゅう)類・食肉目・クマ科。頭胴長1.5m，体重100kgほどで，体毛は長く，ふつう黒色。鼻づらが長く突き出ており，くちびるはよく動かすことができる。インド・セイロン島の比較



ナマケグマ



ナマケモノ　フタユビナマケモノ



ナマコ　テツイロナマコ



ナマズ

的乾燥した地域を好み，こん虫や果実を食べ，特にシロアリは好物。冬眠はしない。

なまけもの　**【樹懶】**　哺乳(ほにゅう)類・貧歯目・ナマケモノ科。手足は長く，後ろ足の指は3本，前足の指は2～3本で，大きな曲がったつめをもつ。尾は痕跡(こんせき)的でほとんどなく，歯にはエナメル質がない。つめで枝にさかさにぶら下がり，もっぱら樹上で生活し，木の葉や花を食べる。前足の指が3本で，首の骨が9個ある(哺乳類はふつう7個)ミユビナマケモノは南アメリカのジャングルに広く分布し，頭胴長50cmほど。前足の指が2本のフタユビナマケモノが中央アメリカ・南アメリカにすむ。

なまこ　**【海鼠】**　棘皮(きょくひ)動物・ナマコ綱の総称。棘皮動物のうちでも多少左右相称を示す。体軸を水平にして生活し，背腹が区別できる円筒形をなす。口は前端に，肛門(こうもん)は後端上部に開く。口のまわりに管足の変化した触手があり，触手の形は大きい分類の指標として用いられる。一般に，皮膚・触手・管足などに顕微鏡的な小骨片を埋在し，骨片も分類の重要な標徴となるが，深海産の美麗種として有名なユメナマコのように骨片をまったくもたない種もある。ナマコ類はすべて海産で，砂泥底(さでいてい)もしくは岩礁上に生息し，陸上・陸水には知られない。多くはどろを飲み込んで，泥中の有機物残渣(ざんさ)を食する。ナマコ類の大部分はアウリクラリアとよばれる浮遊幼生期をもつ。オルドビス紀に出現し，現在種は約1,100。マナマコ・キンコなどは食用としてよく知られる。腸の塩辛はこのわたといい，肉の乾燥品をいりこ*という。

なまゴム　**【生ゴム】**　パラゴムノキで代表されるゴムノキから分泌する乳液(ラテックス)を酸などで凝固させたもの。実際のゴム*は，生ゴムをイオウで加硫*したものである。常温では淡黄色透明な，大きい弾性をもったかたまり。低温(－10℃)でかたくなり，40℃以上では伸ばしても元にもどらなくなり，150℃以上では粘着性を示す。生ゴムの組成は天然ゴム*の種類，作り方によって違うが,大部分がゴム炭化水素で，ほかに，非ゴム成分5～10%を含んでいる。ゴム炭化水素は$(C_5H_8)_n$の組成をもち，イソプレンが数千から数十万つながってできた無数の高分子鎖からなりたっている。これらが不特定にからみ合って生ゴムを形づくっていると考えられる。〔池田朔次〕

なまコンクリート　**【生コンクリート】**
⇨レディーミクストコンクリート

なます　**【鱠・膾】**　生の魚介類を細切りにして野菜をあしらい，合わせ酢*であえた料理。わが国最古の料理法。昔は本膳(ほんぜん)その他の献立に必ず供された。中国では2,000年以上もまえに細切り肉を意味する膾(かい)という字があり，魚介・肉類を用いて料理をつくったが，これを日本でなますとよんだ。のちに魚が多く用いられて鱠となり，膾は野菜のみのなますを意味するようになった。多くの種類があったが，今日では沖なます(➡たたき)・氷頭(ひず)なます(サケの頭の軟骨を用いる)・ぬたなます・柿(かき)なますやダイコン・ニンジンのなますがつくられ，各種の合わせ酢が用いられる。

なまず　**【鯰】**　硬骨魚類・ナマズ科。淡水魚で，日本のほとんど全土，台湾・朝鮮およびアジア大陸の東部に広く分布する。

流れのゆるやかな川や沼の砂泥底(さでいてい)にすみ，水面に水草の繁茂した所に多く，夜間・濁水時に魚・カエル・エビなどの小動物をあさる。産卵期は5～6月ごろ。幼魚は口辺に6本のひげがあるが，成長すると4本になる。うろこはない。体長50cmほどになり，かば焼き・煮物などで食される。

なまはげ【生剝】旧暦1月15日の夜，秋田県男鹿(おが)半島の村々で行なわれる行事。3～5人ずつ組みになった青年たちが恐ろしい鬼の面をかぶり蓑(みの)を着て，木の刃物を持ち，奇声をあげながら家々を訪れる。家の主人は羽織袴(はかま)の正装で迎え，酒肴(しゅこう)やもちなどで丁重にもてなし，なまはげも神だなに礼拝し，祝言を述べる。なまはげの本来の姿は小正月の訪問者として祝福神的性格をもつものであったが，異形の扮装(ふんそう)という点から，しだいに恐れられる存在に変化してきたものと考えられる。なまはげという名称は，〈なもみ〉(炉にあたっているとできる火だこをはぎ取るという意味)から出たものとされ，火だこができるようななまけ者を懲らしめに来るように考えられている。〔直江広治〕

なまむぎじけん【生麦事件】江戸末期，薩摩(さつま)藩士による外人殺傷事件。1862年(文久2)騎乗のままのイギリス人4名が，生麦(横浜市鶴見(つるみ)区)で，江戸から帰国途上の島津久光(ひさみつ)の大名行列を横切ったことを理由に，藩士奈良原喜左衛門(きざえもん)らによって斬殺(ざんさつ)(1名)・負傷(2名)させられた。幕府はイギリス側の要求に応じて10万ポンドの償金を支払ったが，尊王攘夷(じょうい)運動の高揚期にあった薩摩藩は，犯人の死刑と償金の請求を拒否した。このため翌年薩英戦争が起こり，戦後薩摩藩はイギリスに25,000ポンドの償金を支払い，犯人の処罰を約して(実際は不履行)事件は決着した。

なまり【鉛】周期律表第Ⅳ族の炭素族元素の一。記号Pb，原子番号82，元子量207.2。太古から知られていた元素の一つで，東洋でも青銅器時代の記録に現われており，密陀僧(みつだそう)PbO，鉛丹Pb_3O_4，鉛白$PbCO_3Pb(OH)_2$などの形で古くから顔料・医薬品として使われた。天然には主として硫化鉱物として存在し，鉛鉱としてはホウエン鉱・ハクエン鉱などがある。これらを空気を流通しながら500～600℃に加熱して一部を酸化鉛・硫酸鉛に変え，さらに空気を断って加熱すると鉛を遊離する。また硫化鉱物を鉄と加熱するときにも生成する。蒼白(そうはく)色の柔らかい金属で，融点327.5℃，沸点1,753℃，比重11.34，硬度1.5。空気中では比較的すみやかにさびて鉛色を呈するが，これは内部を保護する。空気中で加熱して酸化すると，まず酸化鉛となり，次いで四三酸化鉛となる。鉛は融点が低く，柔らかく，密度が大で，耐食性が強いなどの性質により，金属材料として種々の用途がある。化学装置の内張り，めっき用電極，



なまはげ　大きな包丁をさげた鬼が，〈泣く子はいないか〉などとわめくので，子どもたちは恐れて逃げ隠れる。秋田県男鹿市

蓄電池およびX線などの放射線の遮蔽材(しゃへいざい)などに使用され，合金として活字合金・可融合金・ハンダ・ケーブル被覆管などに使われる。酸化物・炭酸塩などは顔料として重要。なお，鉛あるいはその化合物は毒性があるので注意を要する(→鉛中毒)。〔古屋　弘〕

なまりこう【鉛鉱】鉛の原鉱石。おもな鉱石鉱物としてはホウエン鉱PbS，ハクエン鉱$PbCO_3$などである。ホウエン鉱は高熱交代鉱床・熱水鉱床に産し，亜鉛の鉱石であるセンアエン鉱と共生するのが一般である。ホウエン鉱中には鉛の原子の一部を置換して多少の銀を含有し，鉛の副産物として銀を産する。ハクエン鉱はホウエン鉱が地表で酸化作用を受けて生じた二次的な鉱物で，鉛鉱床の露頭部に存在する。わが国では，岐阜県神岡鉱山，北海道豊羽鉱山，宮城県細倉鉱山，長崎県対州鉱山などで産する。〔今井秀喜〕

なまりちくでんち【鉛蓄電池】⇨蓄電池

なまりちゅうどく【鉛中毒】鉛または鉛化合物による急性・慢性の中毒。鉛毒ともいう。鉛化合物はおしろい・塗料・顔料・活字・蓄電池・ガラス・ガソリンなどに含まれているので，その吸収によって中毒を起こすことが多い。急性中毒はまれであるが，嘔気(おうき)・嘔吐・血便・頭痛・黄疸(おうだん)・四肢麻痺(ししまひ)・胃腸炎・腎炎(じんえん)などを起こす。慢性の場合は，循環系・神経系・消化器系が侵され，顔面蒼白(そうはく)(鉛顔貌(がんぼう))・貧血・金属性脈・血圧上昇・嘔気・便秘・腹痛(鉛疝痛(せんつう))・蛋白(たんぱく)尿・血尿・躁狂(そうきょう)・ゆううつときにはてんかん・橈骨(とうこつ)神経麻痺(鉛麻痺)・筋萎縮(きんいしゅく)・関節痛(鉛痛風)などが現われる。心不全・尿毒症などを生じて死亡することもあるが，中毒死体では胃炎，大腸の炎症・灰色被苔(ひたい)・硫化鉛沈着，萎縮腎・心臓肥大・動脈硬化などがみられる。治療はカルシウムの投与などである。〔青木利彦〕

なみ【波】⇨波動

なみあげは　⇨アゲハチョウ

なみおか【浪岡(町)】青森県南津軽郡にある町。黒石市の北に接する。人口22,000。中心集落は奥州街道から松前街道の分岐点に街村状に形成される。青森平野から津軽平野への出口にあたる関門として発達した。南朝の北畠顕信(きたばたけあきのぶ)の子の親能(ちかよし)が居城を築いて波岡氏を称した所である。奥羽本線が通る。

なみかわそうすけ【濤川惣助】(1847～1910)　明治期の七宝(しっぽう)技術者。千葉県旭(あさひ)町の生まれ。1879年(明治12)ごろから，オランダ技法を受けて七宝技術を復活した梶(かじ)常吉(1803～1883)の弟子(でし)の塚本(つかもと)貝助を招いて，七宝の焼成を始めた。その後1887年ごろに従来の貫入七宝や有線七宝と異なる無線七宝を発明し，さらに暈染(うんぜん)の発色も可能にしたことで世界的に知られる。

なみきごへい【並木五瓶】(1747～1808)　江戸中期の歌舞伎(かぶき)作者。大阪に生まれ，並木正三の門にはいり，上方劇壇の第一人者となった。1794年(寛政6)江戸に下り，桐座(きりざ)・都座・中村座の立て作者として100余編の作を残した。時代物・世話物いずれにもすぐれ，構想・脚色が合理的・写実的であるのが特徴。代表作は《天満宮菜種御供(ごくう)》《金門五三桐》《韓人漢文手管始(かんじんかんもんてくだのはじまり)》《五大力恋緘(ごだいりきこいのふうじめ)》《隅田春妓女容性(すみだのはるげいしゃかたぎ)》など。2世・3世があるが有名でない。

なみきしょうぞう【並木正三】(1730～1773)　江戸中期の歌舞伎(かぶき)作者。上方での第一人者であった。はじめ浄瑠璃(じょうるり)作者だったため，その手法を歌舞伎に導入し，雄大な規模と構想，複雑な筋立てに特徴がある。1758年(宝暦8)に，《三十石艠始(さんじっこくよふねのはじまり)》で，素朴(そぼく)ながらはじめて回り舞台を使ったほか，せり上げ・せり下げなど舞台機構に新生面を開いた功績は大きい。代表作は《けいせい天羽衣》《宿無団七時雨傘(やどなしだんしちしぐれのからかさ)》《桑名屋徳蔵入舟物語》など。2世は作劇術の《戯財録》の著者として知られる。〔服部幸雄〕

なみきそうすけ【並木宗輔】(1695～1751)　浄瑠璃(じょうるり)作者。僧籍にあったが，30歳ごろ還俗(げんぞく)し西沢一風門にはいり，豊竹座(とよたけざ)の作者となった。のち千柳を称し竹本座に移ったが，晩年再び豊竹座にもどり宗輔となった。一時歌舞伎(かぶき)作者ともなったが再び浄瑠璃に転じた。合作に《菅原伝授手習鑑(すがわらでんじゅてならいかがみ)》《義経(よしつね)千本桜》《仮名手本忠臣蔵》《源平布引滝》など，ほかに《一谷嫩(いちのたにふたば)軍記》などの傑作があり，筋立ての巧みさに特性がある。〔前田慎一〕

なみすう【並み数】⇨代表値

なみだ【涙】角膜や結膜の表面を潤す透明な液体。陸生の脊椎(せきつい)動物にみられ，大部分は上眼瞼(がんけん)の裏側にある涙腺(るいせん)から分泌される。成分はほとんど

が水であるが，わずかに塩分・タンパク質・糖類・脂肪などを含む。また，リゾチームという酵素が存在して，殺菌作用を行なう。覚醒(かくせい)時にはたえず分泌されて眼球表面を洗浄し，眼球が運動する際に潤滑油の役目をするほか，血管が分布していない角膜に養分を運ぶとともにその老廃物を受け取る。涙を分泌する中枢は延髄にあり，成人での1日の分泌量はおよそ1mlほどであるが，刺激や激しい情緒などによって促進される。分泌された涙は，目がしらのところにある涙点から，涙小管を通って鼻腔(びこう)に流れ込む。〔平野修助〕

なみはば【並幅】⇨反物

なみまがしわがい【波間柏貝】軟体動物・二枚貝類・ナミマガシワガイ科。殻長(かくちょう)3.5cm，殻高3cm，殻幅0.4cmほどで，左殻は薄くてわずかにふくらみ，白・黄・かっ色などで真珠光沢がある。殻表は付着している地物の形を写し，それが平滑なときは平滑に，あらい場合にはあらくなる。右殻は扁平(へんぺい)で非常に薄く，白色で足糸の出る穴がある。石灰質の足糸で地物に付着する。北海道南部から東南アジアまでの潮間帯より水深10mまでにすみ，養殖ガキなどに付着して害を与えることがある。

ナミュール［Namur］ベルギー南部，ブリュッセル南東方約55km，ミューズ川沿いの都市。人口33,000(1966)。鉄道・道路の結節地で，フランスからベルギーへの入り口にあたる。皮革・製粉・刃物・機械などの工業がある。第1次世界大戦中の1914年8月下旬，城塞(じょうさい)に立てこもるドイツ軍と連合軍との激戦地として名高い。

なむあみだぶつ【南無阿弥陀仏】もと梵語(ぼんご)で，南無と阿弥陀と仏の3語が連結した語。〈阿弥陀仏に帰命する〉の意。仏名を唱える場合，南無の語を題して唱えるのが一般形式であって，〈南無釈迦牟尼仏(しゃかむにぶつ)〉〈南無大日如来〉などと同種の用法である。これを特に重要視するのは浄土真宗で，極楽浄土に現在する仏の名であるとする。また，これを口に唱えて名号*(みょうごう)あるいは六字名号とよぶ。真宗信者はこれを唱えることを称名*(しょうみょう)念仏といい，これを書いたものを本尊とする。〔山折哲雄〕

なむみょうほうれんげきょう【南無妙法蓮華経】《法華経*(ほけきょう)》の鳩摩羅什(くまらじゅう)による漢訳を《妙法蓮華経》といい，この経典に南無すなわち帰依・信受するの意味。題目*ともいう。日蓮(にちれん)は〈妙法蓮華経〉の5字は一経の文心であって，その中に万法を含んでいるとの立場から，本尊たる大曼荼羅(だいまんだら)の中央に〈南無妙法蓮華経〉の7字を大書した。そして，唱題を，《法華経》の〈寿量品(じゅりょうほん)〉に現われる本仏を開発して成仏を得る時機相応の実践正行であるとみなした。〔塚本啓祥〕

なむら 浮き魚の集群している状態。なぐら・なぶらともいう。魚種が異なると群



ナミマガシワガイ　殻表は付着したもののはだを写す

色も異なり，〈赤み〉〈白む〉などは遊泳層の深さ，あるいは産卵状態(放精行動)を示すことばである。〈ナギ〉は魚の遊泳層の浅い場合をいい，〈ワキ〉とか〈ハネ〉は魚群の行動を示す。海鳥群のついた〈なむら〉は〈鳥持ち〉とよばれる。

なめくじ【蛞蝓】軟体動物・腹足類・ナメクジ科。体長6cm，体幅1cmほどの細長いいもむし状で殻(から)を欠き，カタツムリが殻の部分を失った状態である。体表の背面には網目状のしわがあり，粘液で湿っている。腹面は平滑で，粘液を出してその上をゆるやかにはう。体色は淡かっ色から青灰色で小黒斑(しょうこくはん)があり，前端から後端にかけて通常2～3条の暗かっ色帯が走る。腹面は黄白色。頭部には大小2対の触角があり，大触角の先端に目がある。右側の大触角の後方に空気の出入する気孔があり，その側に肛門(こうもん)がある。雌雄同体で，高温多湿のころに朽ち木や落葉の下に白い丸い卵を約50個産む。1年ほどで成熟し，産卵すると死ぬ個体が多い。日本全土のほかアジア大陸にも分布する。夜行性で，台所などの暗湿の所にすみ，夜間にはい出して食をあさるほか，菜園・花壇などに多数が発生して加害することがある。昼間は通常物陰で休む。ナメクジに塩を振りかけるととけるというのは，浸透圧によって体内の水分が外に出て体が縮むためである。駆除はホルムアルデヒドで誘引して行なうとよい。近縁種のヤマナメクジは体長10cmをこえる大形種で，山地にすむ。また，近年は灰黄色で暗色斑のあるヨーロッパ原産のコラウナメクジ(キイロナメクジ)が台所や庭園に普通に見られる。これは体長7cmほどになり，頭に薄い殻を入れたかさ形の外套膜(がいとうまく)をかぶる。〔波部忠重〕

なめくじうお【蛞蝓魚】⇨頭索類

なめこ【滑子】日本特産の食用きのこ。秋，東北地方のブナやトチの枯れた幹や枝に発生する。かさは茶かっ色で，はじめ半球形，成長すると扁平(へんぺい)となり，径3～8cmとなる。表面は粘液でおおわれる。ひだ・胞子ともに茶かっ色。かんづめ・びんづめとしてすぐれており，原木栽培が行なわれてきたが，最近は福島県下で広葉樹のおがくずを培地とする箱栽培が行なわれるようになり，生ナメコの消費が著しく増大してきた。

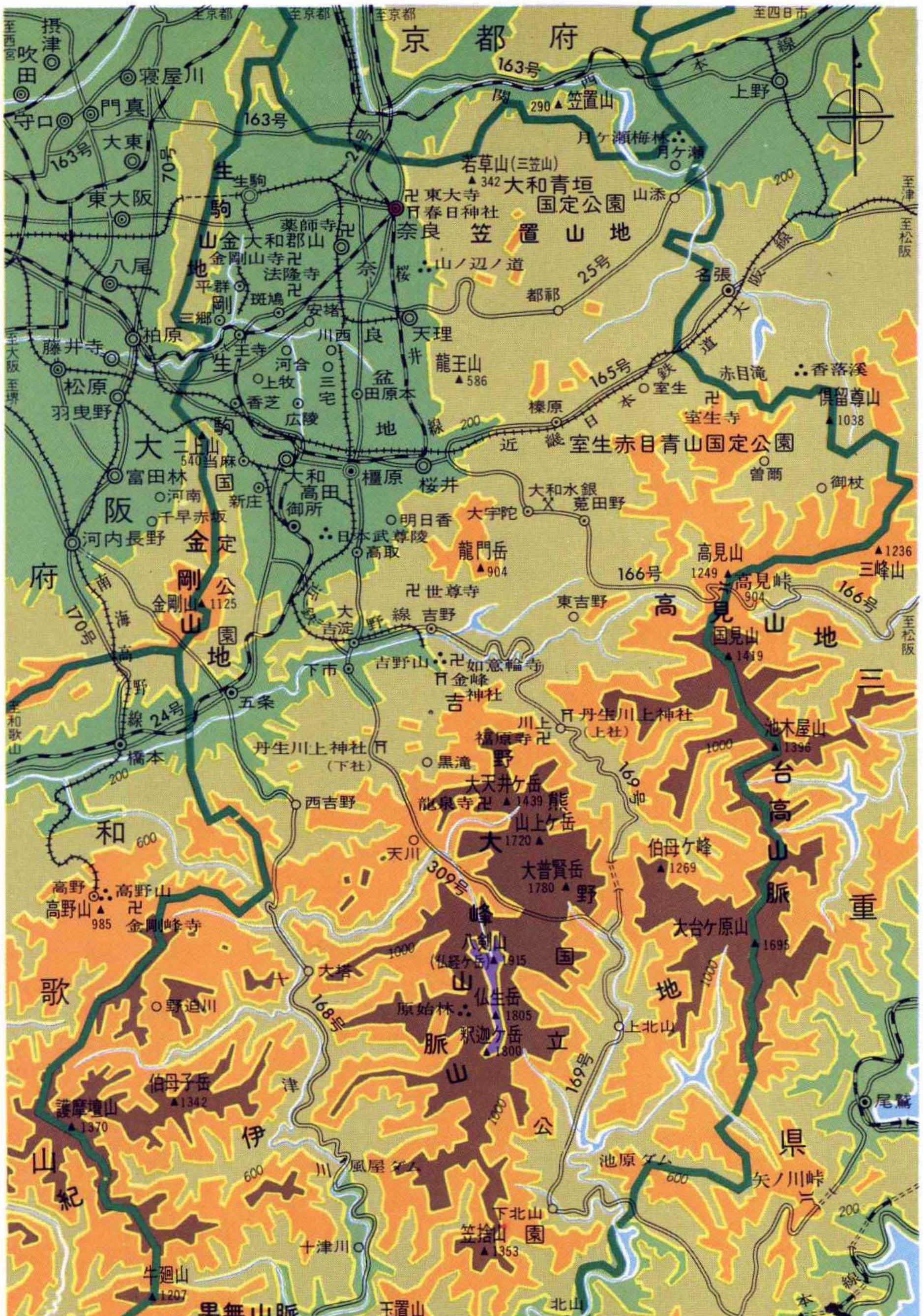
なめし【鞣】動物の皮*を化学的処理で革に変える工程。不要部分を除去された皮は，なめし剤で処理し，腐敗や硬化を防止して耐水性・耐熱性をもった革にする。なめし剤は，皮タンパク質コラーゲンとの化学反応による改質と，コラーゲン繊維間への物理的なもぐり込みによる改質との両方があり，古くからクロム塩や天然の植物タンニンが用いられている。それぞれクロムなめし・タンニンなめしなどとよばれ，その他にも種類が多い。特に近年，合成有機なめし剤がしだいに重要になりつつある。

なめみそ【嘗味噌】酒のさかなや副食物として，そのまま食べるみそ。みそは本来なめものとしてつくられたといわれ，古く平安時代に法論(ほろ)みそ(刺激性の香辛料を入れたなめみそ)の記録がある。次の2種類がある。①発酵(醸造)なめみそ：最初からなめみそ用に発酵させたもの。ひしお*・もろみ・径山寺(きんざんじ)みそ・かつおみそなど。②混成なめみそ：普通のみそに肉・魚・野菜・香料などを混ぜてとろ火で練り上げ，砂糖・みりんなどを加えて調味したもの。たいみそ・とりみそ・ごまみそ・しぐれみそ・山椒(さんしょう)みそ・ふきみそ・鉄火みそ(ダイズ・ゴボウ・ニンジンをいため，赤みそに混ぜる)など。〔塩川ふみ〕

なめりかわ【滑川(市)】富山県中北部の市。人口31,000。古くからの漁業地で，江戸時代には加賀前田藩の治下にあった。1954年(昭和29)市制施行。富山湾東岸に臨み，富山平野の東部，早月川下流の新旧扇状地上に位置し，海岸部は侵食が著しい。産業三大別人口比は19：36：45。明治以後売薬製造が発達し，その行商に従事する者が多い。最近は繊維・電気機器などの大工場が進出し，富山市東縁の臨海工業地帯を形成する。北陸本線・国道8号線が海岸部を走り，富山地方鉄道が富山・魚津などの近郊都市間を結ぶ。

なやしゅうらく【納屋集落】漁村の新開集落のこと。その典型が千葉県の九十九里浜地方にみられる。台地のふもとの村と別に海べに漁具を納め作業なども行なう納屋をつくったものが，のちに漁民が移り住むようになって形成された集落である。

なやもの【納屋物】江戸時代，民間商人の手を経て売買された問屋商品。蔵物*に対していわれ，納屋に収蔵されたのでこの称がある。農民の手になる米・油・塩・木材・青物・肥料などが，生産地の荷主から荷積問屋・荷受問屋・問屋・仲買・小売を経由して販売された。蔵屋敷*をもたない大名・旗本(はたもと)・社寺の領米も扱われ，納屋物の配給・送付には荷主の見計らいや問屋の注文に応じて送り出す送り込み法と，問屋側が生産地に行って仕入れる買い出し



奈良県

法などがあった。〔高崎徳次〕

なよせちょう 【名寄帳】 中世・近世の土地台帳の一種。中世では*荘園(しょうえん)全体の*検注の結果を記した検注帳と並んで，荘園領主が名主職所有農民の名まえ別に田畑の種類・面積・*公事(くじ)の数量を注記した名寄帳がつくられたが，太閤(たいこう)*検地以後は*検地の結果を一村ごとにまとめた検地帳に基づいて，耕地所有者別に反別・*石高などを一筆ごとにまとめた名寄帳がつくられた。これは年貢(ねんぐ)小割りの際の基本台帳となった。〔岡山泰四〕

なよろ 【名寄(市)】 北海道北部，名寄*盆地の中心部にある市。人口35,000。1900年(明治33)に集団開拓が始まり，1903年に旭川(あさひかわ)と結ぶ鉄道が開通して以来町づくりが進み，1956年(昭和31)に市制を施行。名寄盆地の北部と天塩(てしお)川河谷の平坦(へいたん)地を占め，東西を北見山地の縁辺部と天塩山地が画する。市街地は北海道特有の条丁制による区画割りで，駅前通りと国道40号線の交差点を中心に路線式商店街が発達する。産業三大別人口比は12：20：68。名寄盆地の盆地末は水田地帯で，北部の智恵文(ちえぶん)の平地ではジャガイモなどの畑作が行なわれ，酪農も発達している。最近製紙・乳業・製材木工などの軽工業の伸びが著しく，厚生省の薬草試験所がある。*名寄本線・宗谷(そうや)本線・深名線が集まり，国道40号線と239号線が分かれる。

なよろほんせん 【名寄本線】 名寄～遠軽間および中湧別(なかゆうべつ)～湧別間の国鉄路線。営業キロ数はそれぞれ138.1，4.9。1915(大正４)～1921年開業。宗谷(そうや)本線名寄から分かれて北見山地を東進，名寄盆地とオホーツク海沿岸地方を結ぶ北海道の準幹線鉄道。

なよろぼんち 【名寄盆地】 北海道北部，天塩(てしお)川上流部の士別市から名寄市・美深町にわたって形成されている狭長な盆地。幅は東西約10km，南北の長さは約80km。東は北見山地に，西は天塩山地に続く丘陵をなし，出入の多い山麓(さんろく)線をつくっている。盆地の北部は美深盆地ともよばれ，南部を狭義の名寄盆地とよぶことがある。盆地床は士別市東西の丘陵でくびれ，北の名寄市街から天塩川上流の上士別方面に発達した天塩川流域の平坦(へいたん)面と，南の剣淵(けんぶち)川流域の平坦面とに分けられ，盆地床には泥炭(でいたん)地もみられる。米作の北限界に近く，冷害を受けることが多い。ジャガイモ・テンサイ・ダイズなども産する。盆地の中心は名寄市。〔味沢成吉〕

なら 【楢】 双子葉植物・ブナ科の落葉高木で，総包(殻斗(かくと))の外面に鱗片(りんぺん)が密生している仲間の総称。常緑で，殻斗の外面の鱗片がくっついて数層の横輪となる*カシ類と区別される。コナラ・ミズナラ・クヌギなどがあり，薪炭・家具・まくら木・たる材やげたの歯，シイタケの原木などに用いられる。

なら 【奈良(県)】 近畿(きんき)地方中央部の内陸県。北は京都府，東は三重県，南は和歌山県，西は大阪府と接する。大和(やまと)の全域を占め，面積3,692km²，人口119万1,000。1km²あたりの人口密度は323人。大阪府に隣接する県として，いわゆるドーナッツ化現象に伴い，大阪府からの人口の流入が激しく，1970～75年の人口増加率は，15.8％で，近畿地方では第１，全国でも東京都周辺の埼玉・千葉・神奈川の３県に次いで第４位である。県花はナラヤエザクラ，県木はスギ，県鳥はコマドリ。県庁のある奈良以下の９市と８郡(20町18村)に分かれる。

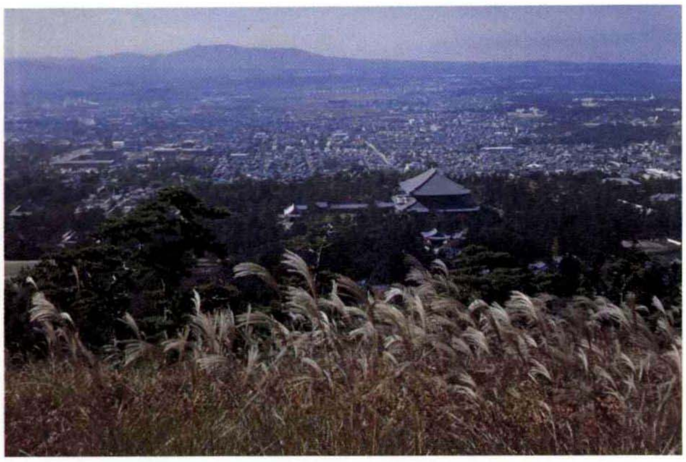
〔自然〕紀伊(きい)半島の中心部を占め，吉野(よしの)川が*中央構造線に沿って県域のほぼ中央を西流し，南部と北部の地形を分ける。北部は近畿中央低地帯の一部で，さらに西の平野部と東の高原部に分かれ，南部

には紀伊山地が広がる。平野部は奈良盆地と周辺の山地や丘陵部からなり，奈良盆地は東西約15km，南北約30kmの楕円(だえん)形の陥没台地で，南東から初瀬(はせ)川・寺川・飛鳥(あすか)川・曽我(そが)川・葛城(かつらぎ)川が流れ込み，北から佐保川・龍田(たつた)川が流入する。これらの河川はいずれも天井川*でしばしば低地に水害をもたらし，南西部で合流して大和川となって西流する。大阪府境には生駒(いこま)・金剛の両山地が南北に走り，周辺一帯は金剛生駒国定公園に指定され，両山地の間に大和川の谷がある。盆地北部には低い笠置(かさぎ)山地があって京都府との境をなし，南部は耳成(みみなし)山(140m)・畝傍(うねび)山(199m)・天香久(あまのかぐ)山(148m)のいわゆる大和三山が三角形に立ち並ぶ飛鳥地方で，古代飛鳥文化の中心地であった。笠置山地は高さ300m前後の断層山地で，奈良市東方の若草山(三笠山，342m)，京都府境の笠置山(290m)，三重県境に近い月ケ瀬の梅林などが含まれ大和青垣国定公園に指定されている。盆地南東方の宇陀山地は高さ500m前後の山地で，丘陵部や宇陀川によってつくられた小盆地によって複雑な地形を呈し，三重県にかけて室生(むろう)赤目青山国定公園に指定されている。南部の紀伊山地は東の三重県境に大台ケ原山(1,695m)を主峰とする台高山脈，中央に〈大和アルプス〉とよばれる大峰山脈，西に伯母子岳(おばこだけ)(1,342m)を主峰とする伯母子山地がある。大峰山脈には近畿地方の最高峰八剣山(仏経ケ岳・八経ケ岳ともいう，1,915m)をはじめ，釈迦ケ岳(しゃかがたけ)(1,800m)・山上ケ岳(1,720m)などの高山が連なり，東を吉野川と北山川の谷に，西を十津(とつ)川の谷に囲まれ，南北に走って近畿地方の屋根をなす。大峰山脈や大台ケ原山周辺部，吉野川南岸の吉野山(455m)一帯は吉野熊野(くまの)国立公園，南西部の和歌山県境付近の山地は高野龍神(こうやりゅうじん)国定公園に指定されている。紀伊山地に源流をもつ河川はいずれも深い谷を刻み，吉野川は西流して紀ノ川と名を変えて和歌山市付近で大阪湾に注ぎ，北山川・十津川は南流して合流し，熊野川となって熊野灘(くまのなだ)に注ぐ。気候は一般に内陸性気候の特徴を示し，南部と北部で大きな地域較差がみられる。奈良盆地は気候が温暖で，雨が少なく，奈良市は年平均気温14.3℃，年降水量1,418mmであるが，気温は最高の8月が26.3℃，最低の1月が3.2℃を記録し，年較差が大きい。紀伊山地は冷涼性気候で，大台ケ原山付近は年平均6℃という高山性気候を示し，また吉野川・十津川・北山川などの上流部は年間降水量が4,000mmに達する全国有数の多雨地帯である。



奈良県　春の吉野山。満開のサクラのこずえ越しに蔵王堂を望む。サクラはふもとから咲き始めてしだいに山上に及び，遠近からの観桜客でにぎわう

【産業・経済】 産業三大別人口比は9：35：56で，農業は奈良盆地，林業は紀伊山地で古くから盛んであったが，近代工業の発達は遅れている。1977年(昭和52)の県民所得は年間1人あたり118万7,000円で，全国都道府県中27位である。**《農林水産業》**農家戸数は約52,000戸で，県下戸数の約36％を占め，兼業農家率は88％と全国平均の87％をやや上回る。耕地面積は約33,000ヘクタール，水田率は75％。奈良盆地は集約的な米作地帯で，碁盤目状に仕切られた耕地や集落の配置や大きさ，名称などに古代の条里制のおもかげをとどめ，灌漑(かんがい)用水の不足を補うため池が多く，またこの地域独特の大和棟(やまとむね)をもつ農家も各地に見られる。米の平年収量は79,000t(1974)，かつては麦・ナタネなどの裏作が行なわれていたが，いまはほとんど見られず，秋から冬にかけてハクサイ・キャベツ・ネギ，冬から春にかけてホウレンソウ・トマトなどの栽培が盛んで，しだいに近郊農業化している。スイカは明治時代から米やハクサイの輪作として，5月から8月にかけて水田地帯でつくられ，〈大和スイカ〉の名が知られ，1960年には23,000tもの収穫があったが，しだいに減少して，1975年には7,000tと1/3以下になっている。奈良盆地北部では冬春イチゴが多く栽培され，1975年の収穫量は12,000tで，全国第3位である。ミカン・ブドウ・日本ナシ・モモ・ウメ・カキ(全国第3位)などの果樹も多く，北部の大和高原では，品質のすぐれた〈大和茶〉が古くから栽培されている。畜産業はあまりふるわないが，宇陀山地の山間部で乳牛が飼われ，葛城山や生駒山麓(さんろく)に酪農地帯が形成されている。林野面積は28万8,000ヘクタールで県域の78％を占め，素材生産量は72万m^3(1975)に達する全国有数の林業県である。森林の87％が民有林で，樹種はスギ・ヒノキをはじめブナ・カシ・モミ・シイ・ツガが多い。吉野川流域は人工林を主とする〈吉野スギ〉の産地として知られる。内陸県のため水産業は発達していないが，吉野川にアユの特産があり，またため池や水田を利用したキンギョやコイの養殖が盛んで，ともに大和郡山(こおりやま)市がその中心であり，なかでもキンギョの養殖は江戸時代からの歴史をもち，1960年代には全国の60％を占めたこともあり，1975年には41％に下がったが，全国一であることは変わりがない。最近は観賞用のニシキゴイの養殖が盛んになり，1975年には2,565万尾に達し，その約1/2は大和郡山市の産で，これも新潟県をしのいで全国一である。**《鉱工業》**地下資源は，大和水銀鉱山で水銀の産出が多いほかは，硫化鉄鉱・マンガン・耐火粘土などいずれも経営規模は小さい。大和水銀鉱山は宇陀郡菟田野(うたの)町を中心に鉱床が広がり1971年には全国で2位を保ったこともあったが，現在は産出高が減っている。南部山岳地帯は豊かな水量をもつ電源地帯で，1951年に国土総合開発法により，吉野熊野特定地域に指定され，発電事業と森林資源の開発を主要目標として，北山川上流の池原ダム(最大出力35万kW)をはじめ多くのダムや発電所が建設されている。工業は繊維工業(衣服その他の繊維製品を含む)を第1とし，木材，木製品(家具等を含む)・電気機械器具・一般機械器具工業がこれに次ぎ，1974年の工業製品の年間出荷額は7,390億円で，全国で第30位を占める。繊維工業は奈良・大和高田両市に集中しており，奈良市を中心とする〈大和かや〉は，天平(てんぴょう)時代からの歴史をもつといわれ，全国一の生産を誇り，中国などへ輸出したこともあったが，最近は除虫剤の進歩のためかやの需要が減り，まったく斜陽化している。大和高田市ではメリヤス及びメリヤス製くつしたなどの生産が盛んで，ゴム製品やボタンなどの特産もあり，また1896年(明治29)に大和紡績として創設され，その後いろいろの変遷をへて，現在はユニチカが経営している紡績工場がある。桜井・五条の両市をはじめ，吉野郡下市・大淀(おおよど)・吉野の各町では紀伊山地の木材を集散し，製材工場は500余を数え，みがき丸太・竹材・割りばしなどの特産がある。最近，近畿圏整備法が定められたのを機として，近代工業のたちおくれをとりもどすために，奈良盆地に工業地帯の建設が計画され，各種工場の誘致が進んでいる。伝統的な家内工業としては，売薬製造・筆・墨・一刀彫・



奈 良 市　若草山から東大寺の大仏殿，奈良市街を望む。遠く奈良盆地の北部が開け，その向こうに生駒山がそびえる

赤膚焼・漆器・竹製品(茶筅(ちゃせん)などの茶道具)などの特産があり，奈良市周辺の奈良づけ，桜井市周辺の三輪そうめん，金剛山地や大和高原の高野豆腐などの食品製造も知られる

〔交通・都市〕陸上交通は，奈良盆地を中心に東・北・西の３方向に道路が古くから開け，現在では京阪神(けいはんしん)地方に至る国鉄・私鉄の鉄道やバス路線がよく発達している。紀伊山地は最近まで未開発であったが，ダム・発電所の工事用道路や森林資源開発の林道などが開設されて，しだいに開けつつある。国鉄の路線は1892年(明治25)奈良～大阪の両都市間に鉄道が通じて現在の関西本線に発展し，その後京都市へ奈良線，王寺町へ桜井線，和歌山市へは紀ノ川沿いに和歌山線が通じている。私鉄は1914年(大正３)に現在の近畿日本鉄道奈良線が上本町を起点として大阪市内と奈良市を結んだのに始まり，そのほか近畿日本鉄道の大阪・山田線，南大阪・吉野線，京都線，橿原(かしはら)線，生駒線などが奈良県内を縦横に結び，名阪特急，奈良特急，京都・奈良・難波(なんば)特急，伊勢・志摩特急，湯の山特急などの特急電車が，県内を走り，大和八木駅(橿原市内)がそのいくつかの連接点となっている。盆地内の古道として有名なのは，〈山ノ辺ノ道〉で，大和高原のふもとに沿って，奈良市から南へ天理市の石上(いそのかみ)，桜井市の巻向(まきむく)・三輪に通じた日本最古の道といわれ，その南半はよく昔の面影が残り，今もたどることができる部分がある。このほか，京都・大阪・堺(さかい)・和歌山・伊勢(いせ)・名古屋方面へ通ずる道路も峠越え，または川沿いに古くから発達し，いまは国鉄や奈良交通バス路線に利用されている。奈良市北方の奈良丘陵を越える奈良街道は，奈良坂を経て京都に達する国道24号線となり，24号線はさらに南に延びて五条市から吉野川沿いに和歌山市へ達している。国道25号線(名阪国道)は四日市(三重県)を起点として，天理市から斑鳩(いかるが)町・王寺町を経て大阪へ向かい，165号線は大阪から大和高田市や桜井市を経て津市へ向かう。古代から近世へかけて，大和川が生駒・金剛両山地の間に谷を刻んで大阪平野へはいる水路は，大阪や瀬戸内地方と飛鳥・奈良地方を結ぶ重要交通路であったが，谷沿いの街道はいまは自動車交通に利用されている。高速道路の発達もめざましく，生駒山北部に阪奈(はんな)道路が開通し，奈良～大阪両市を自動車で30分で結んだのをはじめ，松原市(大阪府)を起点とする西名阪自動車道路は天理市に達して国道25号線と接続する。奈良市では若草山・春日(かすが)山・高円(たかまど)山を巡る奈良奥山ドライブウェイが通じ，紀伊山地にも大台ケ原有料道路や森林開発公団林道などの有料道路が最近発達している。紀伊山地を南北に縦断する交通路としては，国道168号線が大和高田市を起点として五条市から十津川渓谷(けいこく)沿いに和歌山県南端の新宮市へ通じており，国鉄や奈良交通・熊野交通などの長距離バスが走っている。主要都市は奈良盆地に集まり，奈良は日本の古都として国際文化観光都市となり，大和郡山は江戸時代の城下町，大和高田は宿場町として栄えた。また，神武天皇陵や橿原神宮の所在地橿原，天理教の聖地天理などは宗教的色彩が強く，桜井は交通の要地，五条は林業，御所(ごせ)は大和売薬の中心地として，それぞれ伝統的な特色をもっている。これらの都市は近年は近畿圏整備法の制定に伴い，京阪神地方の延長部として，そのつながりを深めている。北東の高原部や南部の紀伊山地には集落が少ない。中でも紀伊山地の南斜面と十津川流域は，古くから〈十津川郷〉とよばれ，日本の代表的な僻地(へきち)として知られる。なお，大和郡山・天理・橿原・桜井・五条・御所の6市は1942年町村合併促進法施行後に成立した新市，生駒は1971年に生まれたいわゆる〈三万人市〉である。

〔歴史〕日本で最も古くから開けた地域で，奈良盆地には南東の山麓部に縄文(じょうもん)遺跡，大和川の沖積地(ちゅうせきち)には弥生(やよい)遺跡が多くみられる。奈良盆地南部の飛鳥地方は大和朝廷の発祥地となり，仏教の伝来以来法隆寺をはじめ多くの寺院が建立(こんりゅう)されて古代文化の中心地となった。７世紀半ばの大化改新から律令(りつりょう)国家体制の整備した藤原京の時期を経て，元明天皇の710年(和銅３)，盆地北部に平城京がつくられ，桓武(かんむ)天皇の長岡京遷都まで７代，74年間にわたって日本の首都となり，東大寺・興福寺・西大寺・唐招提(とうしょうだい)寺・薬師寺や藤原氏の氏神の春日大社などが建立され，唐風文化の影響を受けた白鳳(はくほう)・天平文化が栄えた。遷都後政治の中心的機能は失われたが，東大寺・興福寺・春日大社などは人々の信仰を集め，かつての平城京左京外坊の地はその門前町となって南都とよばれた。これらの寺社はその後公家(くげ)や武家の庇護(ひご)によって広大な荘園(しょうえん)を所有し，平安末期に中央の摂関政治が乱れると，僧兵をかかえて朝廷や院に強訴をくり返し，源氏や平氏の争いにも介入したため，1180年(治承４)平重衡(しげひら)によって東大・興福の両寺が攻略され，同時に市街地の大半が焼失した。鎌倉時代には幕府の保護政策によって社寺が復興し，市街地も整備され，室町初期には奈良市周辺人口は10,000と推定されている。その間，南北朝時代には後醍醐(ごだいご)天皇が足利(あしかが)氏の圧迫を避けて1336年(延元１・建武３)吉野に行宮を設け，以来50余年吉野地方が南朝方の拠点となった。南北朝の合一後は畠山(はたけやま)氏が代々守護として大和を領したが，その後，大小の豪族，国家勢力が離合しながら戦乱が続いた。戦国時代には織田信長(のぶなが)の畿内制覇(せいは)によって筒井氏が一時大和地方を領したが，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の全国統一後は，弟の秀長が封じられて大和郡山に築城した。江戸時代には郡山藩はいくたびか領主が交替して，柳沢氏十五万一千石が明治維新を迎えた。その他幕末には高取・小泉・芝村・柳本・柳生(やぎゅう)の６藩があったが，いずれも一～二万石の小藩であった。幕府は一般民家の租税を減免するなどして古都の復興を図り，奈良には手工業者や商人も移住して人口も増加し，全国から参拝・遊山(ゆさん)の客も多く集まって奈良みやげとして知られる特産物がつくられた。明治初期に奈良府が置かれたほか，前記７藩に加えて田原本(たわらもと)の平野氏も藩列に加わったが，1871年の廃藩置県によって奈良県に統合された。奈良県は1876年に堺県に合併され，1881年には堺とともに大阪府に編入されたが，1887年再び独立して現在の県域がほぼ確定した。　〔浅井得一〕

なら　**【奈良(市)】**　奈良県北部，県庁のある市。人口28万2,000。古代には南の飛鳥(あすか)地方から北の山城地方へ通ずる交通の要地として開け，710年(和銅３)平城京が建設されてから，74年間日本の首都として〈咲く花の匂(にお)うがごとく〉栄えた。長岡京へ遷都後は一時田園化したが，平城京当時建てられた東大寺・興福寺・春日(かすが)

大社などが朝廷や藤原氏の信仰の対象となり，〈南都〉とよばれる門前町が発達した。平安末期には平重衡(しげひら)に攻められて町の大半を焼失したが，鎌倉幕府の保護政策によって復興し，室町時代に現在の市街地の基礎がほぼ完成した。江戸時代には〈奈良詣(まい)り〉の流行につれて，奈良街道沿いに旅人宿が立ち並ぶ一方，墨・筆・一刀彫などの手工業が発達した。明治維新後，排仏毀釈(きしゃく)のために打撃を受けたが，1,200年余の歴史と多くの文化財をもつ古都として京都と並ぶ日本の代表的な国際文化観光都市となっている。1898年(明治31)市制施行。奈良盆地*の北端部を占め，北は奈良山丘陵，東は大和(やまと)高原，西は西ノ京丘陵にまたがる。中心市街は国鉄奈良駅前から東へ走る三条大路周辺で，その沿道や大路と直交する餅飯殿(もちいどの)通り，東向通りなどには旅館・商店街などが立ち並ぶ。三条大路の北側には興福寺や県庁・奈良女子大学があり，南側には猿沢池(さるさわのいけ)・市役所などがある。東部は総面積5.3km²の奈良公園を中心とする観光地区で，三条大路の延長上には万葉植物園・春日大社があり，北側には奈良国立博物館*や東大寺の大仏殿・正倉院・二月堂・三月堂などがあり，南側には浅茅ケ原(あさじがはら)・新薬師寺・白毫(びゃくごう)寺などがある。公園の外縁部には北から南へかけて若草山(通称三笠山(みかさ)山)・春日山・高円(たかまど)山などの丘陵性山地が連なり，ナギ・アセビなどの珍しい樹種を含む春日山原始林は特別天然記念物に指定され，ルーミスシジミ*とよばれる珍しいチョウ(天然記念物)も生息する。奈良駅の西方は特別史跡の平城宮跡で，現在その発掘が進み，1970年(昭和45)平城宮資料館が建てられ，将来は大極殿・朱雀(すざく)大路などを復元した遺跡博物館が建設される予定である。西ノ京丘陵東麓(とうろく)には法華(ほっけ)寺・唐招提(とうしょうだい)寺・薬師寺などの古寺が多く，丘陵内にも秋篠(あきしの)寺・西大寺などの古寺やため池を利用したあやめ池遊園地がある。奈良山丘陵には住宅地やドリームランドなどの行楽地があり，またウワナベ・コナベの大前方後円墳や，元明・元正・聖武(しょうむ)の3天皇や光明皇后などの陵墓が多い。産業三大別人口比は5：28：67。観光が主産業となり，奈良墨・筆・赤膚焼・うちわ・一刀彫・奈良づけ・シカの角細工などの特産があり，みやげ物として売られている。南部の奈良盆地は条里制のなごりをとどめる水田地帯で，大和スイカなどの果菜栽培も行なわれる。最近は大阪などへの通勤者が増加して，宅地化が進み，人口増加率は1965～70年30%，1970～75年24%に達し，農家の経営も副業化する傾向がみられる。関西本線・奈良線・桜井線が集まり，近畿(きんき)日本鉄道奈良線は大阪の上本町駅へ30分で達する特急を走らせる。国道24号線と奈良バイパスが市域を南北に縦貫し，阪奈道路(有料道路)が西の大東市(大阪府)から延びている。東部には新若草山・春日奥山・高円山の三つのコースをもつ奈良奥山ドライブウェイ(有料道路)がある。年中行事は1月15日の〈若草山焼き〉，2月20日～3月15日の二月堂の〈お水取り〉から始まって，10月中旬の土・日曜の〈シカの角切り〉なども加えて，きわめて多彩に繰り広げられ，年間観光客数は約1,000万人を数え，また日本を訪れる外人客の半数近くは奈良市へ来ると推定されている。〔浅井得一〕


奈良人形　森川杜園《牛若と熊坂》東京国立博物館蔵

ならえんてん　【那羅延天】 インド神話の神。梵語(ぼんご) Nārāyaṇa(ナーラーヤナ)の音写で，〈人生本〉などと訳される。元来インド神話の宇宙創造に関連のある神で，聖典に毘紐天(びしぬてん)(ビシュヌ)の権化といわれる。仏教では梵天*(ブラフマン)の異名，毘紐天の別名とされ，また大力を有するところから，金剛力士・堅固力士と称される。のちに密迹(みつじゃく)金剛とともに二王尊とよばれて，寺院の門に安置する風を生じた。胎蔵界曼荼羅(まんだら)では外金剛部の西門に列し，怪鳥伽楼羅(かるら)(→金翅鳥(こんじちょう))に乗っている。〔北条賢三〕

ならこくりつはくぶつかん　【奈良国立博物館】 1895年(明治28)帝国奈良博物館として奈良公園のもと興福寺境内に開館，1900年奈良帝室博物館と改称。1947年(昭和22)文部省管轄下に国立博物館奈良分館となり，1950年文化財保護委員会の管轄下にはいったが，同年8月奈良国立博物館として新発足，常設展の展観は仏教美術を中心として日本各地の遺品が展示されている。

ならじだい　【奈良時代】 ⇨次ページ

ならしの　【習志野(市)】 千葉県北西部の市。人口12万1,000。明治初期以来，陸軍演習場習志野原の所在地で知られ，騎兵旅団・鉄道連隊などが設置された。第2次世界大戦後は，住宅・学園都市として発展している。1954年(昭和29)印旛(いんば)郡津田沼町が千葉市幕張町の一部を編入して習志野市として市制施行。面積は15km²余で県下最小の市である。市域は下総(しもうさ)台地の東部に位置し，産業三大別人口比は2：34：64。〈星雲状の都市〉とよばれるように中核地がなく，総武線津田沼駅は船橋市域にあり，京成電鉄の谷津(やつ)遊園・津田沼・大久保・実籾(みもみ)などの各駅の駅前商店街と周辺の住宅街が分散しており，その中間に畑作地が広がる。第2次世界大戦後，演習地にはここを本拠とする千葉工業大学のほか東邦大学・日本大学・順天堂大学などのそれぞれの分校が設置されたが，最近は陸上自衛隊も駐屯(ちゅうとん)し，演習地が復活しつつある。海岸部には国道14号線(千葉街道)が走り，かつては街村型の漁村でアサクサノリや貝の浅海養殖が行なわれたが，京葉港建設による埋め立てによって，消滅してしまった。内陸部には東金街道沿いに習志野工業団地が造成されている。1965～1970年の人口増加率は55%で，きわめて高かったが，1970～75年には18%とだいぶ鈍くなっている。〔浅井得一〕

ならじょしだいがく　【奈良女子大学】 国立大学。1908年(明治41)国立の奈良女子高等師範学校として設立され，女子師範・高等女学校教諭，幼稚園保母の養成にあたってきたが，1949年新制大学に移行，文・理・家政の3学部と幼稚園教員養成課程・大学院をもつ大学となり，現在に至っている。本部は奈良県奈良市北魚尾西町。

ならたけ　【楢茸】 担子菌類・シメジ科。春から秋に樹木の切り株や枯れ木に多数群生するきのこで，食べられる。かさの径3～11cmで，はじめ半球形，のちまんじゅう形となり，その後扁平(へんぺい)となる。表面は淡かっ色，中央部は濃色で細かいささくれができる。茎の高さは4～10cm，太さ0.5～1cm，上部に白色のつばがある。なお，本種の菌糸には発光性がある。

ならづけ　【奈良漬け】 野菜類の粕(かす)づけ。本来はシロウリなどのウリ類の粕づけをいう。古くから銘酒の産地奈良で良質の酒粕を使ってつくったので，この名がある。肉質のかたく締まったウリを塩で下づけし中づけののち，新しい熟成酒粕に砂糖・みりん・しょうちゅう・塩などで本づけする。べっこう色で歯切れのよいものが好まれる。

ならにんぎょう　【奈良人形】 豪快なざっくりとした刀の切れ味を生かして，それに彩色を施した人形。大まかな面取りを思いきって誇張し，利用した点にこの人形の特徴がある。奈良の春日(かすが)大社の祭礼に用いる島台や田楽法師の笛役の笠(かさ)に飾る人形にならってつくったものといわれている。春日大社の檜物師(まげものし)岡野平右衛門(へいえもん)(松寿)が寛永年間(1624～1643)に始め，文化ごろ(1804～1817)九代目松寿が出て名作をものしてから広く知られるようになったと伝えている。幕末に森川杜園(とえん)が出て名作を残し，この人形の名声をいっそう高めた。現在の奈良の一刀彫はこのあとを継ぐものである。遺品には立雛(たちびな)や尉(じょう)に姥(うば)などもあるが，能

→297ページ

奈良時代

710年(和銅3)都が藤原京から平城京に移ってから，784年(延暦3)長岡京に遷都するまでの70余年間をさす。天皇でいえば，元明・元正・聖武(しょうむ)・孝謙・淳仁(じゅんにん)・称徳・光仁の7代がこれにあたり，〈七代七十余年〉とよびならわしている。美術史の上では，この時代を天平時代という。

〔政治の推移〕政治的には律令(りつりょう)制*が完成し，これが比較的よく行なわれた時代であったが，一たび政界に目を向けると，そこでは皇族と貴族，あるいは貴族相互の，さらには貴族と僧侶(そうりょ)の政権争奪戦が展開され，ときには天皇をも渦中(かちゅう)に巻き込むような陰謀事件の続発した悽惨(せいさん)な時代であった。701年(大宝1)制定の大宝律令*によって，大化改新*以来の宿願である律令国家は名実ともに完成したが，それは数年ならずして破綻(はたん)を現わした。706年(慶雲3)律令の大幅な手なおしが試みられたが，右大臣藤原不比等*(ふひと)は平城遷都を推進し，これを機とする律令政治の建てなおしを企図した。710年の平城遷都以降不比等が政界の牛耳をとったのは，その政治的手腕に加えて，橘(たちばな)三千代*が元明・元正両女帝の信任を得て後宮に勢威を張ったこと，文武天皇の夫人宮子，聖武天皇の皇太子妃(のち皇后)光明子がいずれも彼の娘であったことなどの理由による。718年(養老2)養老律令*を編纂(へんさん)したのも，さきの大宝律令が，刑部(おさかべ)親王総裁のもとにつくられたものであったことにあきたらなかったためである。720年不比等が没すると，翌年に長屋王*(ながやのおう)が政権を握った。王は皇族の勢力を代表し，新興貴族藤原氏と対立する立場にあり，その政治もかなり保守的であったが，729年(天平1)不比等の4子におとしいれられ，聖武天皇から死を命じられて没落した。皇族の政治上の地位はここで大幅に低下した。

長屋王の失脚後，政権は再び藤原氏の手に帰し，次いで光明子が聖武天皇の皇后に立てられた。以後藤原氏の権勢はまったくゆるぎないものに思われたが，737年九州から伝わった疱瘡(ほうそう)が都に大流行し，藤原氏の4人の兄弟があいついで死亡したため，この政権はあっけなく消滅した。このあと政権をとった光明皇后の異父兄橘諸兄*(もろえ)は，中国帰りの僧玄昉*(げんぼう)・吉備真備*(きびのまきび)を重用したため貴族の不満を買い，740年には大宰府*(だざいふ)で藤原広嗣*(ひろつぐ)の反乱が勃発(ぼっぱつ)した。これに驚いた聖武天皇は都を脱出して伊勢(いせ)(三重県)におもむき，乱の鎮定後も平城京へ帰らず，山背(やましろ)の恭仁(くに)京，紫香楽(しがらき)京，難波(なにわ)京と転々居を変え，その間741年には国分寺*建立(こんりゅう)の詔を，次いで743年には東大寺*の大仏造立の詔を発し，国家の安泰と人民の幸福を仏の力によって招きたいとの考えを明らかにした。このような国家的大事業によって人心の統一を図ろうとしたのであろうが，大仏造営事業などはばくだいな出費を要し，かえって財政を圧迫し，貴族間の対立を激化させ，諸兄政権を窮地におとしいれた。

天平末期から急速に台頭した藤原仲麻呂*(なかまろ)は，叔母(おば)光明皇后から愛され，特に聖武が病弱のため娘孝謙に譲位した749年(天平感宝1・天平勝宝1)以降，光明皇太后が孝謙の後見人として政治をとるようになったため，その家政機関紫微中台の長官となって皇太后を補佐し，やがて事実上の政権担当者となった。758年(天平宝字2)仲麻呂は，みずからの推す大炊王(おおいのおおきみ)を立てて淳仁天皇とした。仲麻呂は天皇から恵美(えみ)押勝の氏名を賜わり，太師(太政(だじょう)大臣)・従(じゅ)一位の官位を得て権勢を誇ったが，760年皇太后の死とともにその権勢にも動揺を生じた。まもなく天皇が孝謙上皇と対立して，政権を奪われたことは仲麻呂の前途を脅かした。764年仲麻呂は上皇側近の僧道鏡*を除くことを名目に，にわかに兵を起こしたが，上皇には正統の君主という権威があったのに対し，天皇は傍系出身だったため，仲麻呂の側には貴族・官僚の一般的支持がなく，そのため仲麻呂はあっけなく誅伐(ちゅうばつ)され，淳仁天皇も廃されて淡路(兵庫県)へ流された。ここに仲麻呂政権は崩壊した。

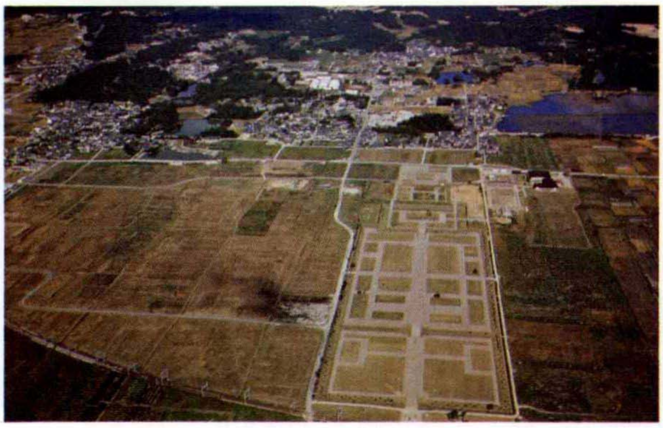
孝謙上皇は乱後直ちに重祚(ちょうそ)して称徳天皇となったが，道鏡をますます寵愛(ちょうあい)して大臣禅師とし，次いで太政大臣禅師に任じ，766年にはついに法王の位を授け，その待遇を上皇に準じた。ここにおいて道鏡は，腹心の部下である僧侶や兄弟・一族・縁故者らを重用して僧侶政権を樹立したが，仏教・僧侶中心の政治に対する貴族階級の反感は強かった。宇佐八幡(うさはちまん)神託事件(→宇佐神宮)で，和気清麻呂*が道鏡の即位を妨げたのもその現われであろう。道鏡政権は770年(宝亀1)女帝の死とともに倒れ，彼自身は下野(しもつけ)(栃木県)の薬師寺に流された。藤原永手・百川(ももかわ)らに擁立された光仁天皇*がそのあとを受け，ここに再び藤原氏が政権の座につくこととなった。光仁・桓武(かんむ)と2代にわたって僧侶政治の弊害を除き，律令政治の再建に努めたが，桓武天皇は平城京が諸大寺と離れないかぎり所期の目的は達せられないとして，784年都を山背国乙訓(おとくに)郡長岡村(現在の京都府乙訓郡長岡町・向日(むこう)町にまたがる地域)へ移すことにした。こうして奈良時代はその幕を閉じ，やがて794年平安遷都とともに平安時代*が始まるのである。

〔社会〕この時代の社会は，天皇・皇族・貴族・官人ら支配階級と，公民すなわち一般農民と賤民(せんみん)の被支配階級とからなっていた。天皇は支配階級の頂点に立ち，貴族らを統轄する反面，貴族層から制約されるところもあり，両者の関係はその時々で多少とも異なって，絶対専制君主の性格は天皇によって顕著であったり，かなり希薄であったりする。皇族はこの時代の前半には政治上にもかなりの発言権を有したが，729年の長屋王の変以後は大幅に後退したことは先述のとおりである。また，貴族階級はいずれも大化(645～649)前代の豪族の後裔(こうえい)であり，大化前代の私地・私民に代わるべきものを位階*・官職に伴う俸禄(ほうろく)の形で給与されたほか，身分的にも特権を保証されたため，いわゆる支配階級はこの時代の前後を通じて，まったく不変であった。当時の公民というのは，国民の大多数を占める農民と多少の技術民を含むもので，これも大化前代の各種私民(皇室の名代*・子代*，豪族の部曲*(かきべ)，朝廷所属の品部*(ともべ))の系統を引くものであった。賤民は，陵戸(墓守)・官戸・公奴婢(こうぬひ)(官有)と家人(けにん)・私奴婢(私有)の5種類があり，これを五色の賤といったが，その数は総人口の1割未満であり，その生産活動はたいしたものではなかった。以上のうち，支配階級と賤民は無税であるが，公民は納税の義務を負わされた。各種の税のうち，土地税である租(→租・庸・調)は，収穫稲の3％を納めるもので，わりに軽かったが，労働税がかなり重かった。これは成年男子を中心にしたもので，調・庸・雑徭*(ぞうよう)・兵役など種類も多かった。

律令制のもとでは全国を畿内(きない)・七道(→五畿七道)の計8ブロックに大別した。それぞれは数国あるいは10数国からなり，各国内をいくつかの郡に，郡内をいくつかの里に分け，それぞれ国司*・郡司*・里長をおいて行政にあたらせたが，中央集権*の実をあげるために国司は中央から派遣され，郡司・里長は在地の豪族から選任し，国司の郡司・里長に対する優越を法律で保証した。地方行政の最末端の単位である里は50戸をもって構成されたが，この戸は郷戸(ごうこ)といって平均20余人，多いものでは100人をこえることから，これが現実の生活の単位とは考えにくい。そこで郷戸内にいくつか含まれる房戸が最小の生活単位となったと推定されるが，なお郷戸が日常生活とまったくかかわりのない法律上の擬制戸であるかどうかは明らかではなく，古来の生活共同体のなごりとする説もある。

〔経済〕律令政府の財源はもっぱら公民の納める租税に依存している。口分田*のほか，1戸につき一定額の宅地・園地が与えられる代わりに，公民は納税の義務を遂行し，

政府の出挙(すいこ)に応じたり，義倉のアワを醸出(きょしゅつ)したり，重い負担に苦しまなければならなかった。農民が天災や飢饉(ききん)で疲弊したりすると，必然的に政府の収入に響いてくる。そこで政府は農民の救恤(きゅうじゅつ)に力を入れるとともに，田地の再開発や開墾を奨励しなければならなくなった。723年三世一身法を発布したことは，期限付きであるにせよ田地私有を認めたことであり，ましてや743年の墾田永代私有法によって開墾した田地の私有が全面的に認められたことは，律令国家の土地国有主義の大原則が放棄されたことを意味する。こうして律令制は土地制度の面からもくずれはじめたのである。



平城京跡

政府の経済政策の一つに和同開珎(わどうかいほう)以下各種の貨幣の鋳造・発行がある。政府はその流通を促すために蓄銭叙位令を発布し，また調の銭納などを行なっているが，なかなか普及せず，奈良時代の後半をまたなければならなかった。いたずらに中国の制度を模倣したものの，当時の日本にはまだそれだけの条件がなかったためである。

【文化】奈良時代の文化すなわち天平文化は天皇を筆頭とする貴族階級の生み出した文化であることは，前後の時代と変わらないが，前代の飛鳥(あすか)・白鳳(はくほう)文化に比べればはるかに成熟しているし，平安文化に比較すればなお古代的健康さを保っているといえる。天平文化は中国盛唐の文化の強い影響を受けており，それは702年以降数次にわたる遣唐使派遣の成果でもあった。当時の唐は世界的大帝国であり，その都長安は世界文化の一大中心地として繁栄を誇っていたから，天平文化もまた国際的・世界的色彩の濃厚なものとなった。天平文化の国際的・世界的性格は正倉院に伝わる宝物によってもよく知られるが，それはすなわち唐文化にみられる性格を受容したからにほかならない。なお，天平文化のもう一つの，そして重要な特色として，仏教を逸することはできない。この時代の政治に対して仏教が大きな影響を与えたことはすでに述べたとおりであるが，文化面での影響も決して僅少(きんしょう)ではなかった。特に聖武天皇が仏教に鎮護国家の祈りを込めて国分寺や大仏の造営を発願したことは，仏教美術の長足の進歩を促した。造寺・造仏が政治の一部，あるいは政治そのものとすら考えられたのである。それゆえ，当代の僧侶は，いわば国家の安全を祈るための国家公務員であり，彼らは寺院内での生活を保障されて祈禱(きとう)と研究に励むことが期待され，反面民間への布教を厳禁された。南都六宗とよばれる諸宗派も後世のそれとは異なり，教団というより教理研究団体といったほうが適切なものであった。そして，あくまでも支配階級のための，人民支配の一手段としての宗教というところに奈良仏教の一特色があり，そのためにそれは著しく呪術(じゅじゅつ)的性格の濃いものとなった。

文化の面では，なお《古事記》《日本書紀》などの歴史書，《風土記(ふどき)》のような地誌の編集も，旺盛(おうせい)な国家意識に裏づけられた政治的かつ文化的な国家事業として忘れることはできない。それらの編集事業に必要なのは漢字・漢詩文さらには中国思想などについての理解と知識であるが，現存最古の漢詩集である《懐風藻(かいふうそう)》は，奈良時代貴族の教養の一端を示すものとして注目される。そこにみられる作詩の技法や修辞には未熟な点も多く，平安初期には比べるべくもないが，未熟な中にかえって当代貴族の中国文化に対するひたむきな情熱を感じ取ることができる。一方，固有の文学としての和歌では《万葉集》をあげなければならない。万葉の歌の中で奈良時代に属するものは，大伴旅人(おおとものたびと)・山上憶良(やまのうえのおくら)らを中心とする神亀(じんき)・天平初年(720～730年ごろ)，大伴家持(やかもち)を中心とする天平・天平勝宝・天平宝字の間(730～750年代)の2期で，この時代は大化前後から白鳳にかけての萌芽(ほうが)期・発展期を経たのちの和歌の爛熟(らんじゅく)期ともいうべき時期に相当する。なお，《万葉集》に採録された東歌(あずまうた)・防人歌(さきもりうた)は，当代庶民の生活感情の吐露として傾聴に値するばかりでなく，庶民生活資料としても重要である。

以上述べたように，奈良時代の文化は各方面において見るべきものがあったが，その多くは支配者による，支配者のための文化であり，それは必ずしも庶民生活を潤す類のものではなかった。少なくとも物質面では庶民はけっして恵まれなかった。東大寺の大仏が造営される一方で，縄文(じょうもん)時代以来まったく変わりばえのない竪穴(たてあな)住居が庶民住宅として全国各地に営まれている事実は，奈良時代の文化の偏在を証明している。いいかえれば，支配階級と被支配階級の文化格差が，支配階級である天皇・貴族・官僚の全国支配の実現を保証するものであり，この格差の解消は支配権力の喪失につながることを意味していた。だからこそ，当代の支配階級は遣唐使を送って熱心に中国文化を摂取し，格差の拡大と，それによる権力の強化・安定を求めたのである。➔天平時代　〔黛　弘道〕

に取材したものが最も多く，すぐれた作品がみられる。　〔北村哲郎〕

ならばやしちんざん【楢林鎮山】(1648～1711)　江戸時代の医者。名は時敏(ときとし)，通称は新五兵衛(しんごべえ)。長崎の生まれ。幼少時よりオランダ語を学んだ。通詞のかたわらオランダ商館医師ホッフマンに外科学を学ぶ。1692年(元禄5)通詞を辞して開業。楢林流外科の祖として多くの門人を集めた。フランス医師A.パレーの外科学書のオランダ語訳を精読，その要旨を《紅毛外科宗伝》として著わした。

ならぶっきょう【奈良仏教】　奈良時代の仏教に対する呼称。6世紀にわが国に受容された仏教は，聖徳(しょうとく)太子の仏教興隆の意志を受け継いだ歴代天皇によって保護・奨励されて，普及していった。奈良時代にはいると，いわゆる南都六宗が成立し，仏教の学問的研究が進んだ。この場合の〈宗〉は，今日一般に考えられるような信仰を同じくするものの集団ではなく，特定の教説を研究する僧侶(そうりょ)の集団で，いわば学派というべきものであった。僧侶もひとりでいくつかの宗について学ぶことが多く，寺院にしても特定の宗に属することはなかった。これら諸宗は中国の隋(ずい)から唐代にかけて成立したもので，それを大陸の僧侶や日本の留学僧がもたらした。それに伴って，おびただしい経典やその注釈書・解説書の類が輸入され，わが国の仏教研究に大きな力となった。中でも，戒律を伝えるためにさまざまな苦難を乗り越えて渡来した鑑真(がんじん)は有名である。これら六宗の

ほかに，密教・浄土教・禅宗・天台宗なども伝えられ，当時すでに仏教のほとんどすべての教説・経典がわが国へ輸入されていた。政府も僧侶が学問に専心するよう奨励したため，仏教は幅広く研究されるようになったが，それも単に経典類の解説や知的理解にとどまり，のちの鎌倉仏教*にみられるような自己の体験に立った独創的な信念や思想を形成するまでには至らなかった。

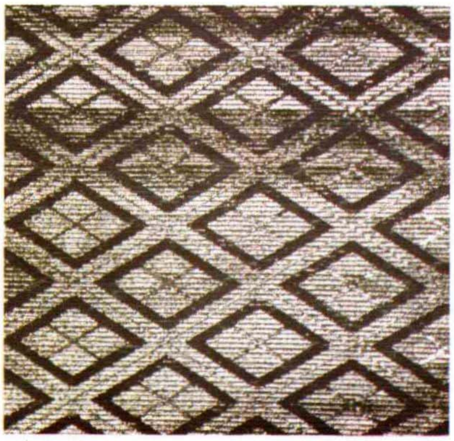
奈良仏教は国家仏教としての性格が濃く，当時僧尼は唐の制度（道僧格）にならって制定された僧尼令（そうにりょう）（大宝律令中の一）によって活動がきびしく規制されていたが，他方では仏教は鎮護国家の教えとして天皇の帰依を受けていた。特に聖武天皇はみずから〈三宝の奴（やっこ）〉と称し，741年（天平13）には社会不安の除去，いっさいの疾病（しっぺい）や災害の消滅を祈願させるため，詔勅によって国ごとに国分寺*と国分尼寺を，さらに総国分寺として東大寺*を建てた。東大寺には特に理想的統一国家の建設を念願して大仏（盧舎那仏（るしゃなぶつ））を造立したが，この大仏を安置している金堂（大仏殿）は世界における最大の木造建築であった。しかし，仏教が国家に保護・奨励されたことが仏教の世俗化，さらには腐敗を招いた。寺院が経済的に豊かになるにしたがって僧尼の堕落が目だち，あるいは道鏡らのように，政治に関係して政界に波乱を投ずる者が現われた。また，南都六宗による仏教の研究も単なる寺院内での研究にとどまり，社会的には呪術（じゅじゅつ）的な祈禱（きとう）仏教としての役割を果たしたにすぎなかった。このような仏教界の行きづまりを反省，新しい仏教運動を成立したのが，平安時代の天台・真言の二宗である。　〔奈良博順〕

ならぼんち　【奈良盆地】　奈良県北西部の盆地。東西約16km，南北約30kmの地溝（ちこう）盆地で，大和（やまと）盆地ともいう。東は春日（かすが）山断層崖（だんそうがい），西は生駒（いこま）・金剛両山地の東麓（とうろく）の断層崖によって限られ，北は奈良丘陵によって京都盆地と境される。盆地底は海抜40～80mで，かつては海湾・湖沼をなし，その後，周囲の山地から流入する諸河川の堆積（たいせき）作用により沖積（ちゅうせき）平野が形成されたもので，西部には馬見丘陵，南部には大和三山がある。各河川は山麓に扇状地を形成し，中央部で大和川に合流する。気候は内陸性で降水量が少なく，盆地には多くのため池がつくられている。昔から，国中（くになか）とよばれる古代文化の栄えた地域で，条里制遺構や史跡がいたるところに見られる。県庁所在地の奈良市をはじめ，天理・桜井・大和郡山・大和高田・橿原（かしはら）の諸都市があり，奈良県の人口の大半が集まっている。

ならやもざえもん　【奈良屋茂左衛門】　（1695～1725）　江戸中期の豪商。本姓神田。江戸深川の材木商で，通称奈良茂。二代目茂左衛門は初代が日光東照宮*の修営で積んだ資産40万両に任せて遊郭・芝居などで豪遊し，吉原（よしわら）遊郭の名妓（めいぎ）玉菊を愛するなど紀国屋文左衛門*（紀文）とその驕奢（きょうしゃ）を並称された。



ナーランダ



業平菱文　能《井筒》の紀有常女が着ける長絹の部分

ナーランダ　［Nālanda］　インド中部ビハール州の首都パトナの南東88kmにある古代インドの仏教大学ナーランダ寺の遺跡。伝説によると，起源はアショカ*王の時代にまでさかのぼるが，考古学的発掘の結果は5世紀の初めごろで，グプタ朝の王により創建されたものとする玄奘*（げんじょう）の説を裏づける。玄奘はここに滞在して仏教学を学んだが，当時10,000人の僧侶（そうりょ）が住していたといい，広大な遺跡は隆盛のあとをしのばせる。　〔佐藤良純〕

なりきぜめ　【成木責め】　年頭における予祝儀礼の一。果樹に刃物で少し傷をつけて豊かな実りを約束させるまじないで，小正月（→正月）15日に行なわれ，木責め・木祭り・木おどしなどともいう。モモ・ナシ・アンズにも試みられるが，主としてカキの木に行なわれる。ふつう，年男が鋸（のこぎり）や鉈（なた）を持って果樹に向かい，〈なるかならぬか，ならねばきるぞ〉と唱えながら樹皮に少し傷をつける。陰の者（通例子ども）が〈なります，なります〉と答えながらその傷口にあずき粥（がゆ）を塗る。最近では子どもが参加せず，おとなだけでやる土地もあり，またおとなの手を離れて，子どもの遊戯となってしまった地方も少なくない。　〔直江広治〕

なりた　【成田（市）】　千葉県中北部の市。人口67,000。10世紀前半に新勝寺（成田山）が創立され，江戸中期以降江戸出開帳や市川団十郎が演じた《不動尊霊験（れいげん）記》などによってその名を知られ，江戸や近在の人々の信仰を集めて門前町が成立した。明治中期には東京から成田鉄道（いまの京成電鉄成田線）が通じ，いまは全国から年間数百万の参拝客を集める。1954年（昭和29）市制施行。市域は下総（しもうさ）台地のほぼ中央部を占め，市街地はいまも参拝路に沿って飲食店・みやげ物店・旅館などが立ち並ぶ街村状の景観を呈している。産業三大別人口比は22：20：58。農業はサツマイモ・ナンキンマメ・ハクサイなどの畑作が盛んで，最近はスイカ・トマトなどの生産も増加している。南東端の三里塚（さんりづか）御料牧場あとは新東京国際空港の中心部となり，空港そのものの工事は1973年度に完成したが，燃料輸送パイプラインその他に住民の反対があって，開港が大幅に遅れ，1977年末までには開港の見通しがようやく立って，現在試験飛行中である。世界でも都心から最も遠い空港なので，京葉道路の宮野木（千葉市内）から分かれて成田市までの新空港自動車道はすでに開通し，成田市－新東京空港の国道295号線（有料道路）や，京成電鉄の成田空港駅（地下）も完成しているが，かんじんの成田新幹線はまだ工事のめどがついていない。空港が開港すれば成田市周辺は空港関係者の移住や関連産業の進出などのために人口の増加が必至とみられている。西部の印旛沼（いんばぬま）に面して義民佐倉惣五郎*（そうごろう）を祭る宗吾（そうご）霊堂がある。　〔浅井得一〕

なりたさん　【成田山】　⇨新勝寺

なりたためぞう　【成田為三】　（1893～1945）　作曲家。秋田県の生まれ。東京音楽学校在学中に《浜辺（はまべ）の歌》を発表。雑誌《赤い鳥》の童謡運動に参加し，《歌を忘れたカナリヤ》《お山の大将》などの作品を発表した。ドイツに留学し，帰国後は和声法や対位法の教科書を著わし，音楽理論教育にも貢献した。

なりひらびしもん　【業平菱文】　ひし形の中に，平行して引かれた3本の斜線の間に，それぞれ四ツ目菱を配したもので，有職（ゆうそく）文の三重襷（みえだすき）文（→襷文）に類似している。公家（くげ）の直衣（のうし）の文様として用いられたところから，王朝の代表的人物である在原（ありわら）業平の名をとって近世につけられた俗称である。

なりもの　【鳴物】　歌舞伎（かぶき）などの演劇のための音楽など（たとえば長唄（ながうた））で三味線（しゃみせん）以外の楽器群をさす。小鼓・大鼓・太鼓・鉦鼓（しょうこ）などの打楽器

を中心に，篠笛(しのぶえ)・能管などの管楽器が加わる合奏。囃子(はやし)とほぼ同義語であるが，能では囃子といって鳴物とはいわない。

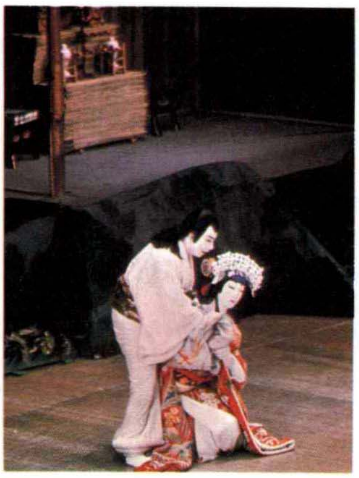
なるかみふどうきたやまざくら【雷神不動北山桜】 歌舞伎(かぶき)十八番の一。《鳴神》《毛抜》《不動》の典型的な荒事劇三つを含む。《鳴神》と《不動》はすでに元禄(げんろく)時代(1688～1703)に初世市川団十郎が演じた中に原型があったが，これに《毛抜》を加えて集成したもの。津打半十郎・安田蛙文(あぶん)・中田万助の合作。1742年(寛保2)大阪大西芝居で2世市川団十郎が初演した。筋は，鳴神上人(しょうにん)が龍神(りゅうじん)を滝壺(たきつぼ)に封じこめ，みずから北山の岩屋に閉じこもって雨を降らせない。朝命を受けた雲の絶間姫は色仕掛けで上人を迷わせ，ついに滝のしめなわを切って雨を降らせるというもの。現在ではそれぞれ独立した一幕として演じるが，1967年(昭和42)国立劇場で通しの形が復活した。

ナルキッソス［Narkissos］ ギリシア神話の美青年。河神ケピソスとニンフのレイリオペの子。彼が自分を慕うニンフのエコーの愛を冷たく退けたので，エコーはやつれはて，その声だけが残った。アプロディテは彼のしうちを怒り，彼が泉に映った自分自身の影を愛するようにした。彼は片時も泉のそばを離れず，絶望して死に，泉のほとりには彼の代わりに1本のスイセン(ナルキッソス)が発見されたという。

なるごおんせん【鳴子温泉】 宮城県玉造郡鳴子町にある温泉。泉温70～100℃，泉質は重曹泉(じゅうそうせん)・含芒硝(ぼうしょう)硫化水素泉・酸性ミョウバン泉・芒硝苦味泉・弱食塩泉・イオウ泉・炭酸泉など種類が多い。腺病質(せんびょうしつ)・皮膚病・性病・慢性婦人病・リウマチなどにきくといわれる。歴史は古く835年(承和3)鳥谷ケ森(とやがもり)山が地うなりして温泉を噴出したと伝えられる。玉造温泉郷の中心地で，河原湯(かわらゆ)・新河原湯・湯元・車湯・元車湯・多賀ノ湯・新多賀ノ湯・田中湯などがある。毎年8月7日から3日間温泉祭りが行なわれ，付近には温泉神社・鳴子峡・鳴子温泉スキー場などがある。こけしが有名。交通は陸羽東線鳴子駅下車が便利。〔木村東一郎〕

なるこゆり【鳴子百合】 単子葉植物・ユリ科。低山・山林内に自生する多年草。根茎は横走して分枝し，多肉で節がある。茎は高さ50cm～1mになり，円柱状無毛で斜上する。葉は無柄で茎の上半に2列に互生し，披針(ひしん)形で先がとがる。5～6月ごろ葉腋(ようえき)から花柄を伸ばし，3～8個の花が下垂する。花は筒形で先が6裂し，白色で上端は緑色をおびる。果実は球形の漿果(しょうか)で，藍黒色に熟し，径1cm内外。

ナルシシズム［narcissism］ ナルシズムともいい，自己愛と訳される。ギリシア神話の美青年ナルキッソスに由来する語で，ドイツの精神科医ネッケによって，性倒錯者の自己愛についてはじめて用いられた。のちフロイトは，リビドー論的に自分自身(自我)にリビドーの向けられた状態をナルシシズムとよんだ。人間は，胎内では完全なナルシシズムの状態にあり，出生後成長とともに外界の対象へとリビドーを向けていくが，このような原始的なナルシシズムを一次的ナルシシズム，自我から離れて対象に向きを変えたリビドー(対象愛)が，外界の対象を失って再び自我にもどった状態を二次的ナルシシズムとよんだ。特にこの理論は，精神分裂病における自閉の精神分析的な解釈に用いられた。最近では，ナルシシズムを健康な自己愛と病的な自己愛に区別し，健康な自己愛は自己価値の同義語をも意味するようになっている。〔小此木啓吾〕



雷神不動北山桜 雲の絶間姫(坂東玉三郎)の誘惑に負けて道徳堅固な上人(市川海老蔵)もついに姫の懐(ふところ)に手を入れる



ナルコユリ

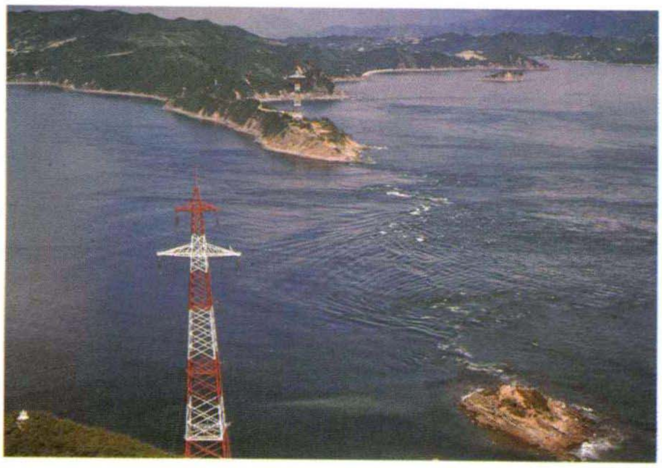
なるしまりゅうほく【成島柳北】(1837～1884) 漢詩人・随筆家。江戸の生まれ。本名惟弘(これひろ)。徳川家定・家茂(いえもち)の侍講として仕えたが，3年間の閉門処分を受け，この間に福沢諭吉らと交わり英学を学んだ。その後，外国奉行(ぶぎょう)や会計副総裁に昇任し，維新とともに下野，朝野新聞社長として筆をふるい，《花月新誌》を創刊した。漢文随筆集《柳橋新誌》で知られる。

なるせがわ【鳴瀬川】 宮城県北西部，奥羽山脈に発し，東流して仙台(せんだい)平野に出てから南下して石巻(いしのまき)湾に注ぐ川。流程約100km。上流で多田川，下流で吉田(よしだ)川が合流し，仙台平野の灌漑(かんがい)用水を供給する。河口の野蒜(のびる)町は航路の要衝として栄えたが，運搬された土砂に港を埋め立てられて衰えた。

なるせみきお【成瀬巳喜男】(1901～1969) 映画監督。東京の生まれ。松竹蒲田(かまた)撮影所で監督としてデビュー。主として叙情的な小市民の日常を描いて才能を示し，日本の社会・家の問題に取り組む。代表作は《妻よ薔薇(ばら)のように》《おかあさん》《めし》《あにいもうと》，そして人間の運命のきびしさを描いた《浮雲》など。

なると【鳴門(市)】 徳島県北東端の市。人口64,000。中心市街の撫養(むや)は《土佐日記》にその名が見られる古い港町で，16世紀末に蜂須賀家政(はちすかいえまさ)が撫養塩田を開いてから製塩業の中心となり，明治以後はにがりを利用した製薬工業などが起こった。現在は塩田はすべて廃止され，イオン交換膜法による製塩工場がある。江戸後期以降の，たび製造業も名高い。1947年(昭和22)板野郡鳴門・撫養・瀬戸の3町とほかの1村が合併して市制を施行。市域は鳴門海峡に面し，吉野(よしの)川の三角州上に発達し，産業三大別人口比は18：35：47。農業・水産業が盛んで，たくあん・レンコン・鳴

鳴門海峡 手前は四国側の鳴門市鳴門公園の孫崎，対岸は淡路島の門崎。遠景右奥に観潮船の出る福良港がある



門ワカメ・サクラダイなどの特産があるが，内海(うちのうみ)の真珠養殖は最近不振である。本土と四国を結ぶ交通の要地にあたり，鳴門線が通じ，フェリーボートが淡路島の福良(ふくら)との間を就航する。また本州四国架橋の一環としての鳴門海峡をまたぐ大鳴門橋が，1976年に着工した。沿岸部は瀬戸内海国立公園に属し，〈鳴門のうず潮〉の壮大な景観はその一中心をなす。

なるとかいきょう 【鳴門海峡】 兵庫県淡路島と徳島県鳴門市との間の海峡。瀬戸内海南東部の口をなし，紀伊(きい)水道に連なる。普通には，淡路島門崎(とざき)と鳴門市大毛島孫崎との間の幅1,350mの海峡をさし，これを大鳴門ともよんでいる。四国本土と大毛島・高島・島田島との間は小鳴門といい，大毛島・本陸間は小鳴門橋で結ばれている。大鳴門は，また中央の中瀬によって徳島側を狭義の大鳴門または大落とし，淡路側を小鳴門または小落としといい，内海と外洋との干満の差の大きいことからくる急潮，浅瀬に生じるうずまきの豪壮さで知られ，春に観潮船が就航する。海峡の南北では大潮時に約1.4mの落差ができ約10ノットに及ぶ潮流が生じる。大毛島北部の鳴門山(99m)に観潮台がある。鳴門ワカメの産地でサクラダイの特産がある。➔前ページ(写真)

ナルバのたたかい 【ナルバの戦い】 1700年，バルト海をめぐる北方戦争*での最初の合戦。当時18歳のスウェーデン王カール12世*は，わずか8,000の軍勢で，ナルバ河口付近に侵入したロシアの35,000の軍を，ふぶきの中を襲って大勝した。ロシア皇帝ピョートル1世は国境防備のため不在で，ロシア軍は3分の1の兵を失ったという。

ナルビク ［Narvik］ ノルウェー北部，オフォートフィヨルドの奥にある港市。港は北極圏にあって冬季でも凍らず，スウェーデンの鉄鉱産地キルナ・エリバレと鉄道で結ばれ，北西ヨーロッパ方面への鉄鉱石の積み出し港である。第2次世界大戦中1940年ドイツ軍に占領され，これを奪い返そうとする英仏軍との間に激戦が行なわれた。

なれずし 【熟鮓】 ⇨すし

ナロードニキ ［narodniki］ 1860年代にロシアに生まれた革命者集団。1890年代まではロシアにおける革命運動の主流をなし，初期の代表的人物にはプレハノフがいる。革命的民主主義者であったゲルツェンや無政府主義者バクーニン*の影響が大きかった。ナロードニキ主義は，ロシアにおける資本主義が未発達の段階において，マルクス主義*が輸入される以前の一種の社会主義革命思想であったが，ロシアに残存していた村落共同体〈ミール〉を将来の社会主義社会の母体として，農民を革命運動の主体とすることができ，ブ-ナロード(人民の中へ)をスローガンに農民を革命運動へ組織しようとした。ナロードニキには学生や青年インテリが多く，プロレタリアートを社会



ナワシロイチゴ

主義革命の主体と考えず，ロシアにおける資本主義発達の可能性を否定し，半封建制から直ちに社会主義革命が可能であると考えた点において空想的であり，小市民的ラジカリストであったといえる。彼らの空想性・小市民性はその一部が個人テロによって革命の活路を切り開こうとしたことによく現われている。〔西尾孝司〕

なわ 【縄】 イネのわらやアサその他の植物繊維をより合わせてつくったひも。わら縄・あさ縄・しゅろ縄・ひのき縄などがあり，より合わせ方，材料，縄の打ち方などによってそれぞれ種類が異なる。元来は，物を縛ったりつないだりする道具であるが，日本人の慣習の中には縄に意味をもたせて，湯灌(ゆかん)をする人の縄帯にしたり，注連縄*(しめなわ)にしたり，また，自分の領域を定める概念を縄張りといったり，縄とびをして遊ぶなど，縄に対する意味は広い。〔渡辺欣雄〕

なわしろ 【苗代】 水稲の苗を育成する苗床。普通苗代と保護苗代に大別される。普通苗代はさらに水苗代・陸苗代(畑苗代と乾田苗代)および水陸折衷苗代に分けられる。これらの苗代を温床油紙・ビニルなどで保温したものが保護苗代で，保温折衷苗代・畑ビニル苗代などとよばれる。保温材は直掛けする場合には，10～14日で除被する。トンネル形式の場合には，育苗終了時まで被覆のまま必要に応じてすそ端をあけたてする。保護苗代には，以上のほか温床苗代(東北地方)・冷床苗代(北海道)などがある。また播種(はしゅ)面(床)が平らなものは平床，揚げたものは揚床とよばれ，たんざく状のはたんざく苗代とよばれる。苗代面積は播種密度にもよるが，10アールあたり30～40m²ぐらいである。〔金木良三〕

なわしろいちご 【苗代苺】 双子葉植物・バラ科。平地の野原や林床に普通にみられる落葉性低木。全体にまばらにかぎ形のとげがはえ，若枝や葉裏が白色。葉は3出複葉まれに5出複葉で，各小葉は長さ2～5cmの円形で，全体に細かい針毛がある。5～7月，1年枝の先に小さな桃色五弁花をつける。花弁は長さ5～7mmで，がく片よりも短い。果実は石果で赤熟し，細かい毛がはえる。

なわしろぐみ 【苗代胡頽子】 双子葉植物・グミ科。暖地の山野に普通の常緑低木。高さ2～3mになる。若い枝にはかっ色の鱗片(りんぺん)が密生する。短枝が鋭いとげになることが多い。葉は長楕円(ちょうだえん)で厚く，縁は波形に縮み，裏面には灰白色の鱗片と少数のかっ色の鱗片がある。10～11月，葉腋(ようえき)から白色花を1～3個ずつ下垂し，がく筒の先が4裂する。果実は楕円形で長さ1.5cm，翌年の4～6月に赤熟し，食べられる。庭木として用いられる。

なわながとし 【名和長年】 (？～1336) 南北朝時代の武将。伯耆(ほうき)(鳥取県)名和の豪族。通称長田又五郎。1333年(元弘3・正慶2)後醍醐(ごだいご)天皇*が隠岐(おき)(島根県)から脱出したとき，天皇を船上山に迎えて挙兵し，続いて京都へ進撃して六波羅(ろくはら)探題*の攻略に加わった。その功により左衛門尉(さえもんのじょう)に任ぜられ，長年の名を賜わり，伯耆・因幡(いなば)(鳥取県)2国の守護となった。1334年(建武1)建武中興*政府が成立すると，記録所・武者所の職員となり，伯耆守となった。1336年(延元1・建武3)足利尊氏*(あしかがたかうじ)が九州から東上するに及び，一族とともにこれを迎撃したが，京都三条で敗死した。〔高崎徳次〕

なわばり 【縄張り】 テリトリーともいい，動物が，その競争者が侵入したときに防衛する地域。魚類・爬虫(はちゅう)類・哺乳(ほにゅう)類・社会性こん虫などに多くみられ，特に鳥類では顕著である。なわ張りは他種の個体に対しても成立するが，種内の密度調節機構の一つとしての意味が強く，鳥などでは繁殖期に同種個体間に強く成立することなどから，食物関係・繁殖関係がその成立の原因であると考えられている。

なんあせんそう 【南阿戦争】 ⇨ボーア戦争

なんえつ 【南越】 中国，紀元前3世紀末，秦(しん)末の混乱期に中国人の趙佗*(ちょうだ)が現在の広東(カントン)・広西両省とベトナム北部を領有した国。都は番禺(ばんぐ)。漢の武帝*の討伐により，BC111年に滅んだ。

なんか 【軟貨】 鋳貨を硬貨*というのに対して紙幣*をさす場合もあるが，国際通貨では金と交換できない通貨，または外国貨幣と自由な交換ができない通貨をさし，国際取引上弱い立場にあるものをさす。

なんが 【南画】 ⇨南宗画

なんかいききないほうでん 【南海寄帰内法伝】 略して〈南海寄帰伝〉ともいう。中国，唐代の義浄*の著作。4巻。インドに渡った義浄はナーランダ寺などで研究を積み，帰途，スマトラ島のシュリービジャヤにおいて本書を完成した。各地の仏教事情の見聞記であるが，彼の関心の的であった戒律，教団の規律などの記述は詳細をきわめている。7世紀のインド・東南アジアを知るうえで貴重な文献である。

なんかいでんきてつどう 【南海電気鉄

道】 大阪難波(なんば)に発し，堺(さかい)・泉大津などの泉南や和歌山県北部に至る南海本線，および高野線を主幹とする鉄道とバスを経営する私鉄企業。電気鉄道の営業キロ数は208.4。1895年(明治28)設立の南海鉄道が難波～和歌山間を開業し，1898年に日本最古の都市鉄道(馬車鉄道を除く)である阪堺鉄道を合併したのに始まる。1922年(大正11)汐見橋(しおみばし)～高野下間に営業権を保有していた大阪高野鉄道(当初高野鉄道，のち高野登山鉄道)を合併，さらに同系列の高野山電鉄による高野下～極楽橋間および鋼索線の開業によりほぼ現在の路線規模となった。1944年(昭和19)交通調整によって一時近畿(きんき)日本鉄道の一部とされたが，1947年分離した。〔青木栄一〕

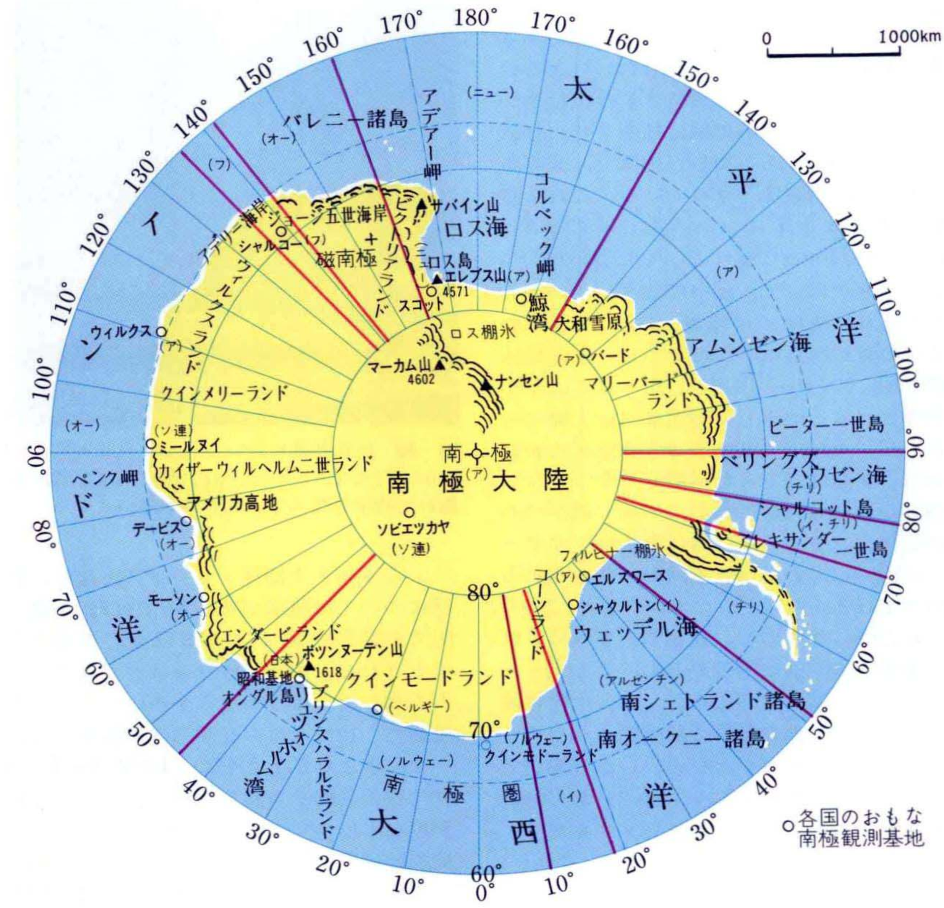
なんかいどう 【南海道】 律令(りつりょう)時代の五畿(ごき)七道*の一。紀伊(きい)(和歌山県)・淡路(兵庫県)・阿波(あわ)(徳島県)・讃岐(さぬき)(香川県)・伊予(愛媛県)・土佐(高知県)の6国がこれに属する。

なんがく 【南学】 広義には，中国の南北朝時代(5～6世紀ごろ)の南朝で興った朱子学を中心とする学風で，陽明学と対比される。狭義には，わが国の土佐(高知県)で興った朱子学をさし，海南学ともいう。戦国末期，周防(すおう)(山口県)の禅僧，南村梅軒が土佐に至り，国主の保護のもとに主として僧侶(そうりょ)の間に朱子学を広めた。梅軒の門下に学んだ谷時中*は朱子学を仏教から独立させ，南学の発展に努めた。小倉三省・野中兼山・山崎闇斎*(あんさい)らは時中門下である。三省門下の谷一斎，さらには一斎に学んだ大高坂芝山らに継承され，文運未開の土佐にあって藩政に適合した実践的教説を展開した。〔田上光治〕

なんがくえじょう 【南岳懐譲】 (677～744) 中国，唐代の禅僧。15歳のとき荆州(けいしゅう)玉泉寺で出家。その後，慧能*(えのう)に師事すること8年，その法を継いで湖南省南岳の般若(はんにゃ)寺に住して，独自の禅風を広めた。後世この法系を南岳下と称し，青原行思*の法系(青原下)とともに南宗禅の二大潮流とされた。弟子(でし)に馬祖道一*があり，この系統から臨済宗・潙仰宗(いぎょうしゅう)が起こり，青原下には石頭希遷が現われ，この系統から曹洞宗(そうとうしゅう)・雲門宗・法眼宗(ほうげんしゅう)が生まれた。〔岡部和雄〕

なんかさいばい 【軟化栽培】 野菜の栽培で葉や茎の一部に光線をあてないようにして，葉緑素の発現を防ぎ白く仕上げる栽培法。軟化栽培の方法にはいろいろあるが，土寄せを深くする，深溝(しんこう)に植える，穴倉に入れるなどが普通である。その代表的なものは根深ネギ・ミツバ・アスパラガス・ウドなどで，軟化したものは一般に柔らかく，あくがないとされる。

ナンガ-パルバット(山) ［Nanga Parbat］ インド北部，ジャンム-カシミール地方にあるパンジャブ-ヒマラヤ山脈の高峰。世界第7位の山で，高度8,125m。インダス川の源流をはさんで，北東約200kmの地点に世界第2位の高峰K_2(8,611m)がある。ヒマラヤ山脈の主脈から離れて独立峰を形成している。きわめて険しい山として知られ，ヒマラヤ登山史上何度も悲劇をくり返し，〈魔の山〉といわれている。1895年，イギリス隊が最初の登山隊を派遣して3名を失って以来，1932年のドイツ・オーストリア隊が10名，1937年のドイツ隊が16名，1950年のイギリス隊が2名を失っている。1953年，ドイツ・オーストリア隊が初登頂に成功した。山名はサンスクリット語で〈裸の山〉の意。〔大石堪山〕



南　極

なんかびょう 【軟化病】 カイコの病気の一。空頭性軟化病・縮小病・卒倒病・糞(ふん)詰まり病などで，いずれも，死体が黒変軟化するので軟化病と総称する。このうち卒倒病は卒倒病菌によるが，その他については明確な結論は得られていない。ただし伝染性のものは病原体がウイルスであろうと考えられている。防除には蚕室や蚕具の消毒が有効。

なんかん 【南漢】 中国，五代十国中の一国(909～971)。劉隠(りゅういん)・龑(えん)・玢(しょう)・晟(せい)・鋹(ちょう)の5世。広東(カントン)・広西両省の南半を領有し，首都は広州。祖先はアラビア人ともいわれる。始祖劉隠は唐末の混乱に乗じ，広州刺史であった父劉謙を継いで独立した。南海貿易の利潤や苛斂誅求(かれんちゅうきゅう)により王室は豊かで，中原王朝とも交渉をもったが，971年宋(そう)の太祖に降伏した。劉鋹の荒淫(こういん)は有名。

なんきぶんこ 【南葵文庫】 1902年(明治35)旧紀伊(きい)藩主徳川頼倫(よりみち)が，東京麻布(あざぶ)飯倉(いいくら)町の自邸内に創設した図書館。紀伊徳川家に伝襲された国史・国文関係の図書に，頼倫が集めたものを加え，その数約10万冊に及んだが，関東大震災後，1924年(大正13)東京大学に寄贈された。なお，1925年旧南葵文庫建築物を使用して設けられた南葵音楽文庫は，イギリスに留学した頼倫の長子頼貞(よりさだ)がもたらしたカミングス文庫を中心に，内外の楽譜・楽書を加えたもので，音楽文化に貢献した。

なんきょく 【南極】 地球の自転軸の南端である90°Sの地点。しかし，一般にはこの南極点を含む大陸と，その沿海である南極海(南極洋・南氷洋)をさすことが多い。

【自然】地表が氷におおわれているため，海岸線の不明部分が多く，南極大陸の正確な面積はいまだわからないが，推定では1,165万～1,400万km^2といわれる。70°S以南はほとんど陸地であるが，大西洋側からウェッデル海，太平洋側からロス海が，内陸に深く入り込んでいる。構造上はこの両

海を結ぶ線で，東部南極陸塊と西部南極陸塊とに区分される。南極最大の地域である東部地域は，大きな楯状地(たてじょうち)とその上に重なるようにして形成された卓状地からなるとされ，西部地域は褶曲(しゅうきょく)構造や火山活動もある新しい地塊で，太平洋火山帯と結ぶ陸塊とされている。これら陸地の95％は氷床におおわれ，その厚さは1,500～2,400mに達する。また谷の部分には谷氷河があって，海中に流入しているものもあり，海岸には氷棚(こおりだな)とよばれる氷の盤が海面に浮かんでいる。氷の総体積は約2,500万km^3に及び，かりにこの氷が全部とけると地球上の海面は54m上昇するという。大陸内部は年じゅう高気圧におおわれ，気温は夏でも月平均0℃をこえない。内陸からは南極海に向かって強い風がつねに吹き出しているが，特に冬季はブリザード(雪あらし)とよばれる強風が吹き荒れる。降水量は多くないが，つねに雪の形で降り，空から降ったものと，強風で吹き飛ばされた積雪との区別は困難である。このようにきびしい自然条件下にあるため，生物は陸上ではコケや地衣類のほか菌類・バクテリアが生きているにすぎない。しかし海辺ではペンギン・カモメ・ウミツバメなど各種の鳥類がおり，海中にはエビ・オキアミ・アザラシ・クジラのほかカイメン・クラゲ・ヒトデなど種類が多い。

〔探検〕はじめて南極大陸を直接探検したのはイギリスの探検家ジェームス-クラーク-ロスで，1839年以後ロス海を中心にその周辺陸地を探検している。以来，各国の探検隊がこの大陸を訪れ，1909年にイギリスの探検家シャクルトンが磁南極を発見すると，南極点への到達競争が繰り開げられ，多くの探検家が最初の到達家になろうと競った。1911年11月14日アムンゼンが最初の極点到達を果たしたが，彼と極点到達を争ったスコットは1か月後の12月18日に極点に達し，帰途全員が死ぬという悲劇的な最期を遂げた。翌1912年(明治45)，日本の白瀬矗(のぶ)は日本人探検隊を率いて大陸に到達し，大和(やまと)雪原を発見した。また1928年オーストラリアの探検隊は，グレアムランドが島であることを発見し，以後，飛行機利用の探検が盛んになり，1929年11月29日バードが初の極点上空飛行をした。その後も多くの探検隊がこの大陸に研究のメスを加えていったが，各国はしだいにその領土問題に関心をもつようになった。このため，第3回国際地球観測年の観測基地を南極に設置することになったのを機会に，南極条約*が結ばれた。この後各国は分担によって大陸に基地を建設し，調査探検が継続されるようになった。日本もリュツォホルム湾奥に昭和基地を建設して観測調査を行なっている。〔小栗　宏〕

なんきょくかい　**【南極海】**　南極大陸を取り巻く海域。南氷洋・南極洋などともいう。太平洋・大西洋・インド洋と接し，範囲については諸説があるが，1958年南極に関する国際会議では60°S以南の海域をさすとされた。大陸にはウェッデル海・ロス海をはじめ，大小の湾入が多い。クジラの宝庫で，12～3月の夏季には捕鯨場となる。



南　極　昭和基地に近いリュツォホルム湾上に浮かぶ巨大なテーブル氷山。湾内には定着氷を離れて流氷となっているものも多い

なんきょくじょうやく　**【南極条約】**　1959年12月に締結された南極*の領土権や平和利用などについて定めた条約。アメリカの提唱によりワシントンで開かれた南極会議の結果，アメリカ・ソ連・日本を含む参加12か国全員が調印した。南極での領土紛争を休止させ，南極の平和利用についての国際協力の基礎を定めたものとして重要である。条約は，南極における各国の領土権を条約の期間中(30年)凍結させ，平和的利用と科学的調査の自由を保障し，軍事的利用の禁止，核爆発と放射性廃棄物の処分の禁止などについて定めている。〔広部和也〕

ナンキン　**【南京】**　中国東部，江蘇(こうそ)省の省都。直轄市で揚子江南岸に位置する。人口140万(1972推)。省南西部にあり，東は紫金山，南は雨花台，西は清涼山の諸丘陵に囲まれ，北は揚子江に臨む。市街には護城河・秦淮河(しんわいが)などが流れ，周辺に玄武湖・莫愁湖(ばくしゅうこ)が散在する。戦国時代に楚(そ)の金陵邑(きんりょうゆう)，漢代には丹陽郡秣陵(まつりょう)県の一部であったが，211年呉の孫権が郡治を移して建業と改称し，229年国都とし，これを機会に発展した。晋(しん)代には楊州治と丹陽郡治を置いて建康と称し，318年都と定めた。以後，宋(そう)・斉(せい)・梁(りょう)・陳と引き続いて南朝の国都となり，隆盛をきわめた。589年，隋(ずい)は陳を滅ぼして江寧県と称し，唐は金陵・白下県と称したが，のちに上元と改め，昇州・江寧郡の治所とした。唐末，金陵府を立てて，上元県から江寧県を分置して府治となし，この制は清朝(しんちょう)まで続いた。1356年，明(みん)の洪武帝(こうぶてい)はここを都として応天府と改め，1368年明朝を建てるとともに南京と称し，のち京師とした。1421年，再び南京と改め，1441年，正式に都を北京に移して陪都とした。清朝になると，これを江寧府と称し，江蘇省の政治の中心となり，産業・文化もこれに伴って発展した。1853年太平天国軍が占領して天京と称し，以後12年間にわたって支配したため，荒廃した。なお，1842年には南京条約*が結ばれ，1858年の天津(てんしん)条約*によって開港した。1911年，辛亥(しんがい)革命の際は革命軍が占領し，翌年，中華民国臨時政府を建て，1927年には蔣介石(しょうかいせき)が北伐の途上で国民政府を組織して中華民国の国都とした。民国ははじめ，南京特別市としたが，翌年，首都特別市と改称して近代的都市建設を行なった。1937年日中戦争に際して日本軍に占領され，第2次世界大戦後国民政府が復帰したが，1949年には人民解放軍が支配するに至った。

市街は北西から南東にかけて細長く連なっており，周囲34kmの大城壁に囲まれている。城内の商業区は新街口を中心としており，城外北方の下関は水陸交通の要地で，南京大橋の架橋以前は，対岸の浦口とともに，津浦(しんぽ)(天津～浦口)・扈寧(こねい)(上海(シャンハイ)～南京)両幹線鉄道と連絡し，また寧蕪(ねいぶ)鉄道(南京～蕪湖)，揚子江水運とも連絡する交通の要地であった。市付近の揚子江は水深約10mで，年間を通じて汽船の航行・停泊が可能である。さらに，上海・杭州(こうしゅう)・蕪湖方面へ向かう自動車道路もあり，華中における交通の中心になっている。伝統工業の絹織物業が盛んで，特に南京繻子(しゅす)は古くから有名であったが，これまで消費都市的性格が強かった。しかし，近年，工業の建設が急速に行なわれ，化学・機械・鉄鋼・食品加工などの工場が設けられ，江蘇省の工業の中心地となっている。洪武帝を祭る孝陵や明の故宮，六朝(りくちょう)以来の古い名刹(めいさつ)や孫文の墓中山陵，風光のすぐれた玄武湖・清涼山・雨花台など古跡名勝に富む歴史的な都市で，中国科学院分院や博物館・図書館・天文台・気象台など，研究・文化施設も多い。〔船越昭生〕

ナンキンじけん　**【南京事件】**

①1927年3月24日，アメリカ・イギリスの軍艦が南京を砲撃した事件。中国革命の波が高まる中で，北伐*軍が南京に迫ったため，北方軍閥軍は退却する際に居留民を略奪し，それを口実に揚子江停泊中のアメリカ・イギリス艦が南京城内を砲撃した。蔣介石(しょうかいせき)の上海(シャンハイ)クーデター(同年4月)を機にアメリカ・イギリスは態度を軟化し，南京政府と協定するに至った。

②1937年(昭和12)12月12日南京に入城した日本軍が，無抵抗な市民に対して行なった暴行・略奪・虐殺事件。翌年2月まで続き，虐殺者42,000人，家屋の略奪・放火12,000戸に及んだ。のちに極東国際軍事裁判で，時の中支方面軍司令官松井石根(いわね)は

そのため絞首刑に処された。〔応和邦昭〕

ナンキンじょうやく【南京条約】1842年阿片(あへん)戦争*の結果，清(しん)とイギリスとの間で締結された講和条約。江寧条約ともいう。おもな内容は，①香港(ホンコン)をイギリスに割譲，②広州・廈門(アモイ)・福州・寧波・上海(シャンハイ)の5港開港，③清国が没収したあへん代金と戦費の賠償，④行商独占の廃止，⑤清国・イギリス両国官吏の対等交渉権などであるが，戦争の原因となったあへん貿易については触れられず黙認された。翌1843年，イギリスは5港通商章程および虎門寨(こもんさい)追加条約により，領事裁判権，最恵国待遇などを補足した。

ナンキンねずみ【南京鼠】哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・ネズミ科。ハツカネズミ*の畜養品種で，原産地は中国。体は白，白と黒，白と茶などがふつう。生物学・医学の実験用または子どもの愛玩(あいがん)用とされる。性質はおとなしく，よく子を生む。

ナンキンまめ【南京豆】双子葉植物・マメ科の一年生草本。ラッカセイともいう。茎はあまり太くなく，側枝を多く出し，草たけ15～30cm。2対の小葉をもつ羽状複葉をつける。葉は小卵形で，初夏葉腋(ようえき)に黄色の小さな蝶(ちょう)形花を単生または2～3個つける。開花後花梗(かこう)が急速に伸びて地中にはいり，地中で子房が太って結莢(けっきょう)する。莢(さや)は木質でかたく，2～5粒の種子をもつ。小粒種と大粒種がある。タンパク質や脂肪が多く，いり豆にしたり，菓子や食品油の原料になる。

ナンキンむし【南京虫】⇨トコジラミ

なんぐうじんじゃ【南宮神社】岐阜県不破(ふわ)郡垂井(たるい)町にある。祭神は金山彦命(かなやまひこのみこと)。もと仲山金山彦神社と称された。関ケ原鎮護の神として歴代の天皇・武将の尊崇を受け，関ケ原の役後の1642年(寛永19)，徳川家光(いえみつ)が南宮造りといわれる現社殿を造営した。例祭は5月5日，11月8日。

なんけ【南家】藤原不比等(ふひと)の長男武智麻呂*(むちまろ)とその後裔(こうえい)をさすことば。武智麻呂の家が，北家*とよばれた弟房前(ふささき)の家の南にあったのでこの名でよばれ，奈良中期から平安初期まではかなりの勢力をもった。のちしだいに衰え，中央で有力なものは現われなかったが，武家では工藤・二階堂・曾我の諸氏が出た。

なんこう【軟鋼】炭素含有量0.12～0.25％の範囲の鋼。低炭素鋼ともいう。鋼線・薄鋼板・造船ボイラ厚鋼板・鋼帯・鋼管・条鋼・リベットなどと用途が広く，建築・土木用にも使われる。

なんこうざい【軟膏剤】容易に皮膚に塗布できるポマード様の外用製剤。医薬品を基剤とよく混ぜ合わせて製し，直接患部に塗布して用いる。基剤としては油性のもののほか，高分子化合物・界面活性剤など乳剤性・親水性のものも広く用いられている。治療上では皮膚表面の殺菌・防腐を目的とするほか，皮膚を通じて医薬品を吸収させるため，または皮膚を保護するためにも応用される。俗に塗り薬というのは主として軟膏剤をさす。



ナンキンマメ

なんこく【南国(市)】高知県中南部の市。人口45,000。中心市街の後免は江戸初期，野中兼山がつくった市場町で，当時住民に諸税を免じたので御免とよばれ，のち後免となった。1959年(昭和34)長岡郡の香長・野田・岡豊(おこう)の3村と，香美郡岩村・介良(けら)村のそれぞれ1部を合併して市制施行。高知平野東部，物部(ものべ)川下流の扇状地上に位置し，西を流れる国分川上流部には河岸段丘が発達し，傾斜のゆるい山麓(さんろく)地が広がる。海岸線には西は浦戸湾に，東は手結(てい)港まで延びる高さ10m余の砂丘列が見られる。産業三大別人口比は29：27：44。平野部には米の二期作で知られる水田地帯が広がり，ピーマンなどの園芸作物やタバコの栽培が盛んである。高知大学農学部・県立農業試験場があり，農機具製造も行なわれている。土讃(どさん)本線・国道55号線が通じ，物部川河口西岸に高知空港がある。後免駅の西方500mにある篠原(しのはら)は天然記念物チョウビケイの飼育地として知られる。

なんこつ【軟骨】軟骨細胞とこれを囲む基質よりなるやや透明な灰白色の支持器官。基質の性質によって，硝子軟骨(肋(ろく)軟骨・鼻軟骨・喉頭(いんとう)軟骨・関節軟骨など)・弾性軟骨(耳介軟骨)・繊維軟骨(椎間(ついかん)軟骨・恥骨軟骨・関節軟骨など)の3種に分けられる。軟骨の作用としては，骨端の摩擦の防止(骨間の軟骨)，弾力の保持(気管・耳の軟骨)，運動(肋軟骨・恥骨軟骨)などがあげられる。➔骨

なんこつぎょるい【軟骨魚類】分類上は有顎(ゆうがく)魚類(顎口類)の一綱で，板鰓(ばんさい)亜綱(サメ・エイ類)と全頭亜綱(ギンザメ類)よりなる。全世界に600種以上が生息すると推定される。少数の例外を除けば，ほとんどの種類は海水または汽水域で生活する。

地球上に出現したのは上デボン紀であるが，その源はシルリア紀までさかのぼることができると考えられる。絶対年代ではおよそ3億年から3億5,000万年ほどまえである。淡水域で生活していたと推定される古生代の軟骨魚は，原始的な硬骨魚類*よりその出現が遅れている。この点で，軟骨魚は最も原始的な魚類ではなく，むしろ硬骨魚を祖先としてその後に特殊化が進み，骨格が退化して軟骨性になったのだとする考えもある。しかし，一般には最も原始的な魚類だとする考えが支配的である。いずれにしても，原始的な軟骨魚はのちに海水生活に移行し，海水中で一連の進化が生じたものであろう。その後，石炭紀にはさらに分化が進んだが，二畳紀になると古生代型生物が衰滅する一般的な傾向と並行して，原始的な古生代型の軟骨魚が多数絶滅していった。中世代になると再び分化が進んで多数の種が生まれ，特にジュラ紀には最も軟骨魚類の多様化が進み，この時代にほぼ現生種の原型ができあがったものと考えられる。なお，軟骨類の中では，化石学上サメが最も古く，エイ類はジュラ紀にサメから分化したものであろうとされる。また，ギンザメ類は化石としてはジュラ紀に出現するが，その先祖はデボン紀までさかのぼれるだろうといわれる。

次のような特徴がある。両顎は発達し，骨質歯がある，少なくとも胚期(はいき)には楯鱗(じゅんりん)におおわれる。骨格は軟骨性であるが，多少石灰化したものもある。胸びれと腹びれ，そしてそれをささえる肢帯(したい)がある。頭蓋骨(とうがいこつ)には縫合がなく，原頭蓋または軟骨性頭蓋とよばれる。口は，多くの種で頭部腹面に開く。サメ・エイ類では有作用歯が数列あるが，ギンザメ類では相互に癒合(ゆごう)して歯板を形成する。口の前方に1対の外鼻孔があり，鼻腔(びこう)は口腔と通じない。目はよく発達する。少なくとも胚期には一種の鰓裂である噴水孔が目の後方にある。えらはサメやエイ類では片鰓で，5～7対の鰓裂が独立して外通する。ギンザメ類では全鰓で，4対のえらと鰓裂は鰓蓋皮褶(ひしゅう)におおわれているので，外には共通の一外鰓孔で通じている。雄には腹びれの後縁にその変形物である軟骨性の交尾器(把握器(はかくき))がある。尾びれは歪尾(わいび)かまたはその変形。うきぶくろと肺を欠く。胃はよく発達して，噴門部と幽門部に区別される。腸には軟骨魚類特有の螺旋弁(らせんべん)がある。直腸にはふつう直腸腺(せん)がある。肝臓はよく発達して大きい。脺臓(すいぞう)は定形性で，腸の始部に開口する。心臓にはふつうよく発達した心臓球があるが，動脈球はない。雌雄ともに泌尿生殖系で，雄はウォルフ管，雌にはミュラー管が発達する。

大きさは，ジンベイザメのように20mに達するものから，ツラナガコビトザメのように15cmで成熟するものまでさまざまである。ほとんどの種類は熱帯から温帯にかけての暖海にすむが，寒帯で生活するオンデ

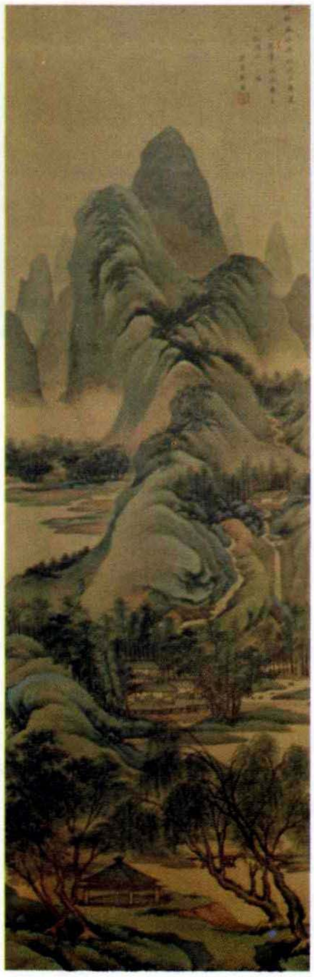
ンザメなどもある。生活域は，サメ類では沿岸性(ドチザメなど)・外洋性(ヨシキリザメなど)・表層性(アオザメなど)・深海性(ツラナガコビトザメなど)・底生(オオセなど)と多様であるが，エイ類やギンザメ類では大半は底生で，不活発である。繁殖方法はいずれも交尾によって体内受精をするが，卵生(ネコザメ・トラザメ・ガンギエイ類・ギンザメ類)・卵胎生(多くのサメ・エイ類)・胎生(メジロザメ・シュモクザメ)などいろいろである。また1回に生まれる子の数は2尾(オナガザメ)から数十尾までの範囲にあるが，他の魚類のように多産ではない。

おもにプランクトンを食べるもの(ジンベイザメ・ウバザメ)，貝類や甲殻(こうかく)類のようなかたいものを食べるもの(ネコザメ・エイ類)，魚類や頭足類を食べるもの(アオザメ)などがあるが，イタチザメのようにあきかんや紙まで食べるものもある。

種類数のわりには産業的に重要なものはなく，おもにかまぼこ・はんぺんなどの練り製品の原料になる。しかし，エイ類は乾燥して酒のさかなとして利用され，サメの肉もさしみやゆがいて食用とされたりする。皮膚は粗雑なのでやすりにも使用される。ひれはふかのひれとして中華料理の材料になる。肝臓は昔はビタミンAの原料として利用されたが，現在では一部の種類のものが化粧品として用いられているだけである。また，大形のサメはトローリング*の対象となる。〔谷内　透〕

ナンシー　［Nancy］　フランス北東部，ロレーヌ地方にある工業都市。人口12万3,400(1968)。パリ東方約280km，ミューズ川に沿う。ブドウ栽培の盛んなモーゼル丘陵の端にあり，鉄鋼業・重化学工業，衣服・くつなどの工業が盛んである。商工業は第1次世界大戦後この地方がドイツからフランスに返還されたのち特に発達した。マルヌ-ライン運河によってドイツとの交通も便利である。市街はかつてロレーヌ公が住んだ古城を中心に発達し，18世紀の建築がフランスで最も多く残り，1572年創立の大学や有名な林学の専門学校などがある。

なんしきやきゅう　**【軟式野球】**　ゴム製



南 宗 画　呉派の正統を継ぐ四王呉惲のひとり王鑑の《倣三趙山水図》 上海博物館蔵

ボールを使う野球。第2次世界大戦前の少年野球の普及とともに一般大衆に発展した日本独自のスポーツ。愛好者の範囲が広いことから，体力に応じた使用球があるところに特徴がある。ルールは硬式野球に準ずる。1919年(大正8)，それまで使用されていたテニスボール・スポンジボールの欠陥を正し，鈴鹿(すずか)栄によって現在使用されているボールが考案され，以後大衆スポーツとして急激な発展を遂げ，1946年(昭和21)全国を統轄する全日本軟式野球連盟が発足し，日本体育協会に加盟した。同年第1回全日本軟式野球大会が16チームの参加によって京都で開催され，1948年には同大会に天皇賜杯が下賜された。また国民体育大会には第1回大会から参加している。1957年に高松宮杯，1965年に常陸(ひたち)宮杯(準硬式)がそれぞれ下賜され，主たる大会行事となった。組織団体としてはほかに全日本実業団野球連盟・全日本大学軟式野球連盟などがある。大衆に愛される軟式野球の底辺の広さは現在ではスポーツ界最大といっても過言ではない。球種はL号・A号・B号・C号の4種，このうちL号は硬式と同じ直径72mmで1969年から採用(デッドボールも適用)され，これに伴ってD号(直径65mm)が廃止された。〔布施政郎〕

軟式野球の球種

区　別	使用球	規　格					
		直　径	重　さ	反発力	縫い目の高さ	縫い目の数	凸面の数
一　般	L　号(軟式)	72mm	136g	90cm	0.9mm	104	300
	B　号(準硬式)	72mm	142.5g	60cm	0.9mm	104	300
高　校	L　号	72mm	136g	90cm	0.9mm	104	300
年少者	A　号(軟式)	70mm	135g	90cm	0.9mm	100	300
	C　号(軟式)	68mm	127.5g	75cm	0.9mm	96	292

なんじゃもんじゃごけ　**【なんじゃもんじゃ苔】**　苔(たい)類の一目(ナンジャモンジャゴケ目)あるいは独立の綱を構成すると考えられる最も原始的なコケ植物。1953年(昭和28)以来白馬岳・立山で発見され，その後カナダの太平洋岸，ボルネオ，シッキムのヒマラヤからも知られた。体は直立する1cmほどの茎と不規則に輪生する葉からなる。葉は1層の細胞層からなる枝状で，一列細胞の中軸のまわりにある。地下部には仮根がなく，菌類が共生している。不規則な葉序，葉の構造，コケでは既知最少の染色体数(n＝4)などがこの類の原始性を示している。生殖器官は未知。

なんしゅうが　**【南宗画】**　北宗画*に対する中国絵画の画風概念で，明(みん)の文人画家董其昌(とうきしょう)らによって確立された。中国には六朝(りくちょう)以来宮廷の画院を中心とする院体的な画風と，在野の文人画家たちが主として受け継いだ柔軟で滋潤な画風とがあった。後者は唐の王維*，五代～宋(そう)の荆浩(けいこう)・関同・董源*・巨然*らを祖とするもので，江南の煙靄(えんあい)と光の微妙な調子を没骨*(もっこつ)による行草体の筆墨法でとらえるところに特徴がある。南宋の米芾*(べいふつ)，元末の四大家(王蒙*(おうもう)・倪瓚*(げいさん)・呉鎮*・黄公望*)らがこれを大成し，明の沈石田・董其昌・文徴明のころには，董其昌の〈尚南貶北(しょうなんへんぼく)論〉も出て北宗画を圧倒し，明末清(しん)初の四王呉惲(うん)(王時敏*・王翬*(おうき)・王鑑*・王原祁*(げんき)・呉歴*・惲南田*)以降水墨画のほとんどが士夫文人の南宗画で占められることになった。文人画*というのは士夫文人階層が描いたことに重きを置く言い方で，画風概念ではないが，文人画の画風は南宗画的なものが多い。また，南宗画を描く文人の出身地は多く江南で，景物も江南の風土に基づくが，北宗画の画風によって江南の景物を描くこともあり，必ずしも内容による規定はできない。わが国では，鎌倉室町以降北宗画を中心に摂取してきたので，南宗画風の影響は比較的目だたず，阿弥(あみ)派などにみられるだけであった。しかし，江

戸時代に至って明清の南宗画風を学んだわが国独自の文人画が現われ，これを特に南画とよんで中国の南宗画と区別している。〔中島純司〕

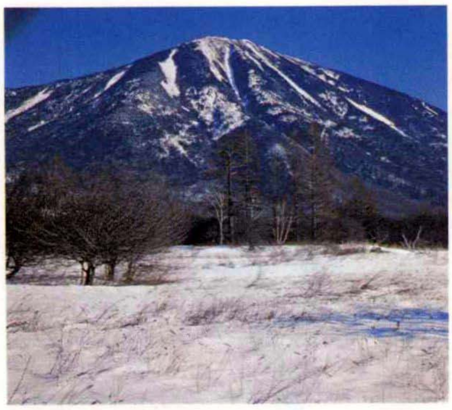
なんしょう　【南詔】 中国の唐代，いまの雲南省大理付近を中心に創建された王国。640年から902年まで存続した。チベット・ビルマ族系の烏蛮種（うばんしゅ）は，6詔に分かれて割拠した。南詔は，初代の独羅（どくら）（細奴羅）以来唐に入貢し，4代皮羅閣のとき他の5詔を併合，大理盆地を支配した。さらに吐*蕃（とばん）の南下をも阻止したので，唐朝から雲南王に封ぜられた（738）。雲南東部の昆明（こんめい）盆地にいた崇道一族も滅ぼし，ほぼ雲南全域をその領域とした。しかし，第5代の閣羅鳳（かくらほう）は唐朝に離反した。やがて第6代異牟尋（いぼうじん）は再び唐と結んで吐蕃勢力を排除した。唐文化の摂取に努め，仏教を勧め，国力の充実を図った。以後，唐・吐蕃の弱体化に伴い，西は上部ビルマ，南は交州，北は四川へ進出した。しかし，9世紀末に至って主権は権臣の鄭買嗣（ていばいし）によって奪われ（702），没落した。〔船越昭生〕

なんしょう　【南昌】 ナンチャン　中国東南部，江西省の省都。人口50万（1972推）。贛江（かんこう）下流東岸に位置し，浙贛（せっかん）・南潯（なんじん）両鉄道が連絡しており，鄱陽湖（はようこ）を経て揚子江と結ぶ。米・茶・チョマ・磁器などを集散し，省経済の最大の中心地となっている。紡織・機械・製糸などの工業が盛んである。鉄・タングステン・石炭などを産出する。1927年8月1日周恩来・朱徳らの八一起義の発生の地であり，中華人民共和国ではこの日を建軍節とし，祝日にしている。〔船越昭生〕

なんじょうぶんゆう　【南条文雄】（1849～1927）真宗大谷派の学僧。岐阜県大垣（おおがき）の生まれ。1876年（明治9）本願寺留学生としてオックスフォード大学に留学し，マックス・ミューラーやマクドーネルについて梵（ぼん）文学を修めた。1883年同大学出版局から《大蔵経目録》1巻を刊行し，翌年帰国して東京帝国大学で梵文学と近代仏教学をわが国ではじめて講じた。1914年（大正3）大谷大学学長。

なんしんろん　【南進論】 日本の海外進出を台湾・中国南部・東南アジアに向けようとする主張。北進論と対立する。19世紀末，田口卯*吉（うきち）・志賀重*昻（しげたか）らが唱えた。日清（にっしん）・日露両戦争後の日本の政策はその主張の方向に向かい，南方資源開発の名目で北守南進を開始した。第1次世界大戦勃発（ぼっぱつ）とともに本格化し，やがて欧米列国の利害と衝突したが，日本はなお大東亜共栄*圏樹立を主張して太平洋戦争をひき起こした。〔応和邦昭〕

なんすい　【軟水】 カルシウムやマグネシウムなどの塩類含有量の比較的少ない水。硬水の対語。水100mlの中に酸化カルシウムとして1mg（酸化マグネシウムの場合は0.715mg）を含むときの水の硬度を1度とし，通常10度以下を軟水という。



男 体 山　冬の戦場ヶ原と男体山。幼年期のコニーデ式の山体には，放射状谷〈なぎ〉が発達し，美しい雪模様をつくっている

なんせい　【南斉】 中国，南朝の一王朝。国号は斉，北斉と区別して南斉とよぶ。479年に蕭道*成（しょうどうせい）が建国。蕭道成と子の蕭賾（しょうさく）の治世15年は国内が比較的安定したが，その後は宗室内の争いのため政治は乱脈をきわめ，502年梁（りょう）の武帝，蕭衍（しょうえん）に禅*譲した。宗室の竟陵王（きょうりょうおう）蕭子良のもとで南斉の仏教文化が栄え，蕭衍や沈約（しんやく）が幕下にあった。

なんせいげかん　【軟性下疳】 軟性下疳菌（デュクレー桿菌（かんきん））の感染によって起こる性*病の一。軟性下疳菌は1889年イタリアの皮膚科医A.デュクレーが発見してから著明となった。性交によって感染し，感染後2～3日の潜伏期を経て，男性では包皮・包皮小体や陰茎の冠状溝（こう），女性では膣口（ちつこう）・尿道・陰唇（いんしん）などに米粒大の紅色の丘疹（きゅうしん）を生じ，水疱（すいほう）・膿疱（のうほう）化し，中心が自潰（じかい）して潰瘍（かいよう）を形成する。次いで2～3週間後に鼠径（そけい）リンパ節が腫脹（しゅちょう）してくるが，硬性下*疳とは異なり，潰瘍周辺に浸潤がなく柔らかで，圧痛がある。診断には軟性下疳菌のワクチンによる伊東反応が役だち，治療には局所を石炭酸などで腐食後ヨードホルムを散布する。サルファ剤の内服は著効がある。〔大田黒和生〕

なんせいしょとう　【南西諸島】 九州から台湾の間に，約800kmにわたって分布する弧状列島。ほぼ中央にあたる北緯27°を境にして，北の鹿児島県薩南（さつなん）諸*島と，南の沖縄県琉球（りゅうきゅう）諸*島に分けられる。東に太平洋，西に東シナ海を分け，台風の通路にあたるため，毎年のようにその時期には被害が大きい。なお南西諸島のことを琉球列島ということもある。

なんぜんじ　【南禅寺】 京都市左京区南禅寺福地町にある臨済宗南禅寺派の大本山。1291年（正応4）開山に東福寺無関普門を迎え，亀山（かめやま）上皇のもと禅林寺離宮を賜わって，寺に改めた。1334年（建武1）以来京都の五山の首位を誇り，禅林の隆盛に大きな役割を果たした。応仁（おうにん）の乱後は荒廃していたが，豊臣（とよとみ）・徳川両家の援助によって復興。現在の大方丈は桃山時代の建築で，1611年（慶長16）御所から旧殿を賜わって建てたもの，庭園も小堀（こぼり）遠州の作庭と伝えられている。墨跡・絵画・工芸にすぐれた文化財が多い。

なんそうさとみはっけんでん　【南総里見八犬伝】 滝沢馬*琴作の読*本。全98巻，106冊。1814（文化11）～1842年（天保13）刊。仁・義・礼・智（ち）・信・忠・孝・悌（てい）の8徳目を象徴する8人の剣士が勇名をとどろかす物語。この8人の姓にいずれも〈犬〉の字が冠せられ，八犬士と称せられる。規模の雄大さ，華麗な文体で，伝奇小説の白眉（はくび）とされ，勧善懲悪・因果応報の思想は武士世界の理念を象徴している。

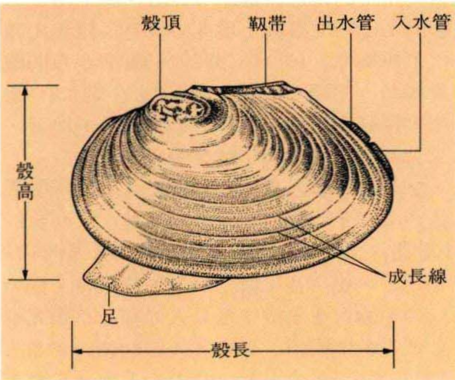
なんたいさん　【男体山】 二荒（ふたら）山または日光山ともいう。日光火山群の主峰。標高2,484m。成層火山で，頂上には径400m，深さ200mの火口がある。山体は放射状の谷の侵食が進んでいるが，秀麗雄大である。西麓（せいろく）の戦場ヶ原と南の中禅寺湖は男体山の火山噴出物によって浅い湖がせき止められて生じたもの。古く8世紀ごろから山岳仏教の信仰の道場として開かれ，山頂には二荒山神社奥宮がある。

なんたいどうぶつ　【軟体動物】 動物分類学上の一門で，いわゆる貝類とイカ・タコ類を合わせた動物群。基本的な体形は左右相称で，頭・内臓・足の3部に大別され，殻（から）で背面から体をおおう。頭には1対の触角と目があり，足は広く，足裏は平らではうのに適している。内臓は殻の下にある外套（がいとう）でおおわれ，外套と内臓との間の外套腔（がいとうこう）は後方に開き，ここにえらがある。口は前端にあり，口球には歯舌がある。腸管は心臓を貫き肛門（こうもん）は後端にある。心臓は一心室，二心耳で，血管でえらと連なる。血液はヘモシアニンを含んで青色をおびる。囲心腔・生殖腺（せいしょくせん）・腎臓（じんぞう）は体腔で連なる。雌雄異体であるが，類によって体制が多少異なり，次の7類に分ける。

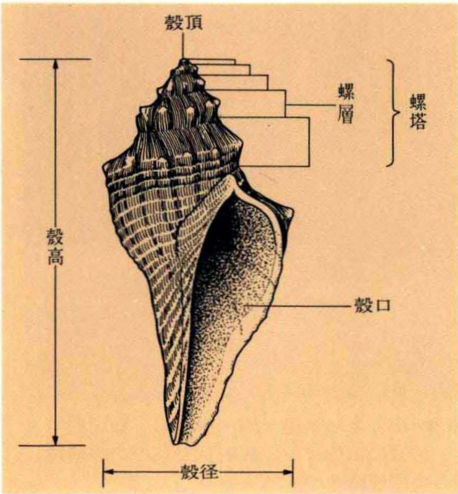
①無板類（カセミミズ類）：腹溝（ふくこう）類ともいう。体は細長くイモムシ状。殻はなく，外套でおおわれ，体はクチクラ層からなり，多数の骨片がある。前端上に口があるが，目や触角はない。肛門は後部にあり，腹面には前後に走る細溝があって，これは足にあたる部分であるが，はうことはできない。現生200種で，日本産15種。

②多板類（ヒザラガイ類）：体は楕円（だえん）形で，背上に前後に重なって並ぶ8枚の殻があるが，ケムシヒザラガイなど殻が小さく離れたものや，オオバンヒザラガイなど外套膜の中に埋もれた類もある。8枚の殻のまわりを巡って肉帯があり，この上に小鱗

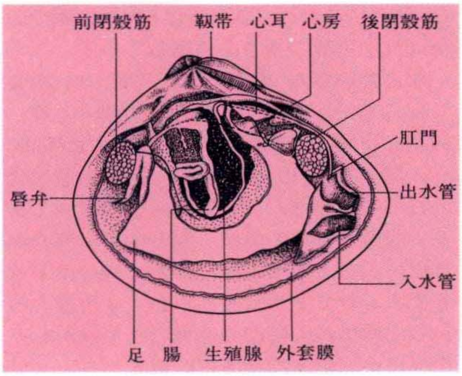
軟体動物

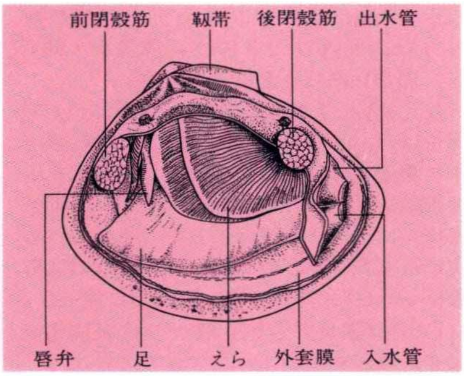


二枚貝



巻貝





体制図

(しょうりん)や小棘(しょうきょく)が密生する。腹面に広い平らな足があり，その前に頭があるが，目や触角を欠く。口は前端にあり，肛門は体の後端に開く。外套腔には多くのえらがある。神経形ははしご形。現生1,000種で，日本産100種。

③単板類(ネオピリナ類)：殻は笠(かさ)形で，軟体の頭には明らかな触角や目を欠き，口は前端にあり，肛門は体の後端にある。足は大きく，足裏は平らで丸い。外套腔には5～6対のえらがある。8対の収足筋が両側に並ぶ。神経ははしご形で，10対の神経連合がある。現生10種。

④腹足類(巻き貝類)：殻は通常は巻き，殻頂から殻口のほうへ太くなるが笠形のこともあり，また退化して欠くこともある。軟体をその中に収めるが，頭には口のほかに1対の目と触角がある。体は前後に90°ねじれて，外套腔は前方に開き，その中にえらがある。肛門は殻口に開く。体内の神経もねじれて交差しているが，ねじれがもどった類もある。足は大きく，後方背面に殻口をふさぐふたがある。足裏は平らで広く，はうのに適する。海・淡水・陸に広く生息する。現生85,000種で，日本産5,000種。

⑤掘足類(ツノガイ類)：殻は細長い管状で，殻頂から殻口のほうへゆるやかに太くなり，また弓状に背方へ曲がる。多くは白色で，殻表は平滑または，稜(りょう)や肋(ろく)が縦走することもある。殻口は円形または多角形。軟体は頭に触角も目もなく，口は突き出る。また細い糸状の頭糸があり，これで食物をあさる。足は楔状(くさびじょう)で砂泥(さでい)を掘るに適する。現生500種で，日本産70種。

⑥二枚貝類(斧足(おのあし)類)：2枚の殻で軟体の左右を背方から囲む。殻頂は背方にあり，殻は背縁の靭帯(じんたい)で結ばれる。軟体は頭を欠き，口のまわりに唇弁(しんべん)が2対ある。前後に閉殻筋が発達し，外套膜と内臓嚢(のう)との間は外套腔でえらがある。体の後方には上下2本の出入口管があるが，原始的な類では発達しない。足は筋肉質で斧形を呈し，砂を掘るに適するが，原始的な類では足裏ができ，また足糸を出して地物に付着する。淡水と海水にすみ，現生25,000種，日本産1,500種。

⑦頭足類(イカ・タコ類)：胴・頭・足の順に3部からなり，胴部は鐘状の肉質の外套で内臓部をおおい，その間の外套腔にえらがある。イカ類には胴の先端部にひれがある。外套の中にイカ類には甲があるが，原始的なオウムガイやアンモナイトは巻き殻に胴部を入れている。腹側に漏斗があり，ここから墨汁(ぼくじゅう)を出す。頭の両側に目がある。足には8本の腕が出て，イカ類ではさらに1対の触腕がある。その基部の中央に口があり，この中に俗にからすとんびという顎板(がくばん)がある。肉食。現生600種，日本産150種。　〔波部忠重〕

ナンダコット(山)　[Nanda Kot]　インドのウッタル-プラデシュ地方北部，ヒマラヤ山脈中央部にある高峰。高度6,867m。山群の最高峰ナンダデビ山(7,817m)の南東に位置し，ガンジス川の支流ゴグラ川はここに源を発する。1936年(昭和11)わが国初のヒマラヤ遠征隊である立教大学山岳隊(堀田弥一(ほったやいち)隊長以下5名)全員により初登頂に成功。山名はサンスクリット語で〈ナンダの女神の砦(とりで)〉を意味する。

ナンダちょう　【ナンダ朝】　北東インドのマガダ地方を支配したインド都市国家時代の王朝の一。紀元前5～紀元前4世紀末ごろまで栄えた。のちマウリア朝の祖チャンドラグプタ*によって滅ぼされた。

なんだん　【南淡(町)】　兵庫県三原郡の町。淡路島の南端にあり，1955年(昭和30)福良(ふくら)町などを中心に2町4村が合併してできた。人口23,000。福良は鳴門(なると)海峡をはさむ対岸の鳴門市(徳島県)との間にフェリーボートが通じ，鳴門観潮の基地となっている。温暖な気候に恵まれ，早咲きの草花や果樹が栽培される。なお1976年7月から南淡町門崎と対岸の鳴門市大毛(おおげ)島，すなわち鳴門海峡の最も狭い部分に，道路鉄道併用橋の大鳴門橋(中央支間長876mの吊橋)を建設中で，1982年度に完成の予定である。

なんちゅう　【南中】　天体が日周運動することによって子午線を通過すること。正中・子午線通過ともいう。その天体の赤経*は南中するときの地方恒星時*に等しい。太陽の南中時刻は真太陽時*の正午にあたる。

なんちょう　【難聴】　聴力が低下または消失している状態。外耳から中耳までの伝音器に障害のあるものを伝音性難聴，内耳の蝸牛(かぎゅう)や中枢部などの障害によるものを感音性難聴といい，両者の混合している場合を混合性難聴という。伝音性難聴には，耳硬化症・外耳道閉鎖症などの先天性のもの，児童に多い耳管カタルや中耳炎*による鼓膜穿孔(せんこう)などの後天性のものがある。補聴器*の効果がよい。感音性難聴には，先天性のものとしてつんぼ(聾(ろう))や先天性梅毒によるもの，後天性には内耳炎*などによる内耳障害，薬物(ストレプトマイシンなど)の副作用やその中毒，あるいはビタミン欠乏症による神経難聴，騒音のひどい職場でみられる職業性難聴，老人性難聴などがある。難聴が一方の耳だけで他方の聴力が正常である場合，日常生活にはほとんど支障がないが，幼時の言語修得以前に両方の耳に障害が現われた場合には，重症者ではことばを覚えることができず，おし(啞(あ))となる。

なんちょう　【南朝】　吉野(よしの)(奈良県)によって京都の北朝*と対立を続けた大覚寺

統の王朝。吉野朝ともいう。1336年(延元1・建武3)足利尊氏(あしかがたかうじ)が入京して持明院統の北朝を擁するに及び，大覚寺統の後醍醐(ごだいご)天皇は京都から吉野へ走ってその正統を主張し，ここに南北両朝が対立した。南朝方は京都を回復しようとして足利氏の幕府軍と各地で戦ったがふるわず，吉野の皇居では後醍醐・後村上・長慶・後亀山(ごかめやま)の4代の天皇が代わった。その間南朝が支配したのは近畿(きんき)南部とごく一部の地方に限られ，皇居も戦局により吉野から賀名生(あのう)・住吉(すみよし)など諸所に移ったこともあった。南朝不振のうちに1392年(元中9・明徳3)南北朝合一の和議が成立，後亀山天皇は京都へ帰還して北朝の後小松天皇に譲位し，南朝は消滅した。

なんてん【南天】双子葉植物・メギ科。中国原産の常緑低木で，高さ2m前後になり，庭木として用いられる。茎は叢生(そうせい)して直立する。葉は枝先に集まってつき，長さ25～50cmの3回羽状複葉で，小葉柄に関節がある。冬季に紅葉する。6月ごろ茎の先に円錐(えんすい)花序をつけ，直径約6mmの白色六弁花を多数つける。がく片多数，花弁6，おしべ6，葯(やく)は濃黄色。果実は球形の液果で直径6～8mmあり，11月から翌年1月に赤熟し，中に2個の種子を入れる。多数の園芸品種がある。果実を干したものを南天実といい，鎮咳薬(ちんがいやく)として用いられる。

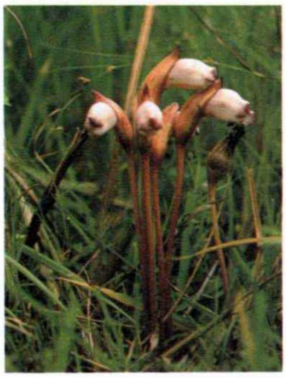
ナント［Nantes］フランス西部，ロアール川河口から55km上流に位置する都市。人口25万9,000(1968)。ロアール川下流域の商工業の中心地で，食品加工・造船・石油精製などの工業がある。外港サン-ナゼールと結んで外国貿易が盛んであり，木材・石油などを輸入し，機械類・小麦粉を輸出する。市街はいくつかの砂州上に発達し，14世紀建造のブルターニュ公の古城や15世紀建造のサン-ピエール寺院が残っている。ガリア時代から栄えた。1793年革命派によって約9,000人の大虐殺が行なわれた。第2次世界大戦中は地下抵抗運動の拠点となり，激しい戦災を受けた。1598年のナントの勅令の発布地として有名。〔梶川勇作〕

なんどいろ【納戸色】色名。暗い青色をいうが，この色の示す幅は広く，近時はおもにやや緑みをおびた，鈍い青色をいっている。納戸色は，藍(あい)染めによって染め出された色であり，納戸のたれ幕などに多用されたための名称といわれている。江戸時代に生じた色名と思われ，その後期には〈いき〉な色として人々に好まれ，大いに流行した。この色を基調とした色の種類は多く，たとえば桔梗納戸(ききょうなんど)・藤納戸(ふじなんど)・鉄納戸・藍納戸・納戸茶・納戸鼠(なんどねずみ)などがある。なお，納戸色は御納戸(おなんど)色ともよばれ，納戸茶を御納戸茶とよぶこともある。日本工業規格(JIS)慣用色名〈ナンド色〉は，色相4.0B，明度4.0，





ナンテン
(上)花 (下)実



ナンバンギセル



がく先が丸いオオナンバンギセル

ナンバンギセル

彩度6.0の色と規定されている。

なんとう【南唐】中国，五代十国の一。937年，呉の実力者徐温の養子李昪(りべん)が呉の禅譲を受けて建てた。都は金陵(いまの南京(ナンキン))。工芸・絵画・詞が栄え，南唐文化とよばれる。975年宋(そう)に併合。

ナントのちょくれい［ナントの勅令］1598年，フランスのアンリ4世が発した新教徒宥和(ゆうわ)の勅令。ある制度のもとで，新教徒にも信仰と礼拝の自由を許可した。その結果半世紀にわたったユグノー戦争はいちおう終結した。その後ルイ14世が1685年廃止，新教徒の多数は海外に亡命した。

なんとほくれい【南都北嶺】南都(南京)は奈良をさし，平安京を北京というのに対する。のちに奈良の興福寺を意味するようになった。北嶺は延暦(えんりゃく)寺をさす。ともに10世紀末から僧兵をたくわえてしばしば強訴を行なった。

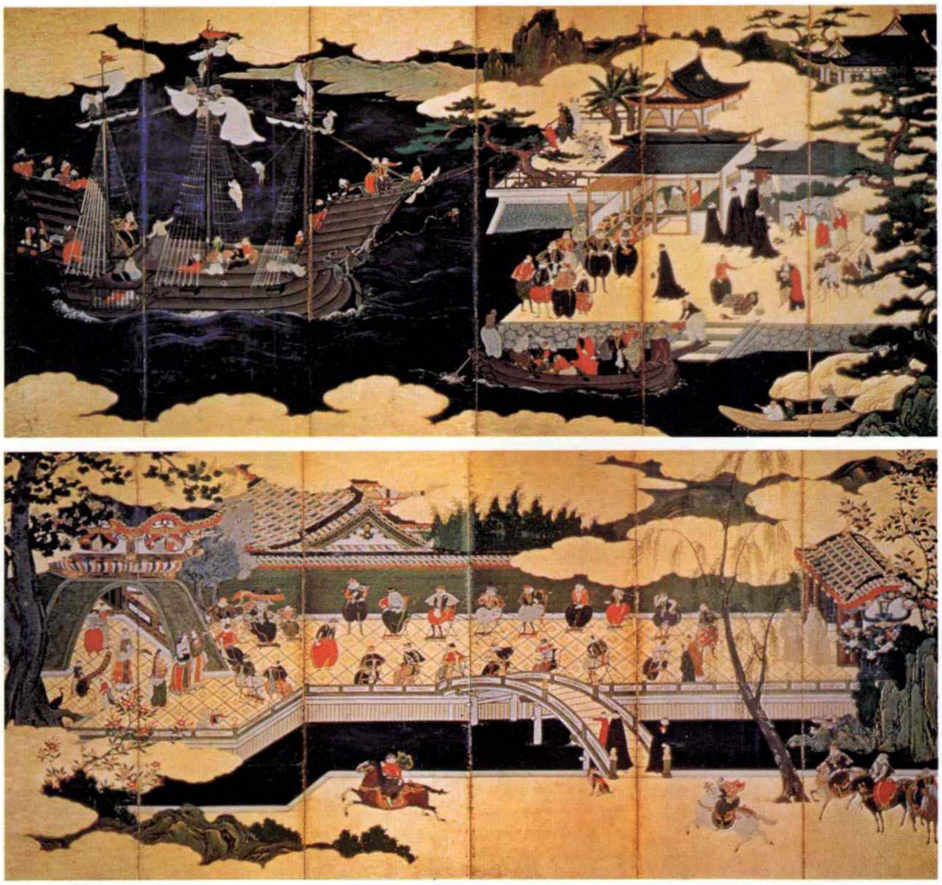
なんとろくしゅう【南都六宗】奈良時代の仏教の宗派。三論宗・成実宗・法相宗・倶舎宗(くしゃしゅう)・律宗・華厳宗(けごんしゅう)をいう。当時の宗派は今日の宗派と異なり学派に近い性格のもので，一つの寺院に種々の宗派の僧が同居し，ひとりの僧がいくつかの宗派を兼学することも普通であった。南都六宗の代表的な研究道場は法隆寺と東大寺であった。六宗のうち三論宗は奈良時代以前が全盛期で，奈良時代末期には衰えた。成実宗は三論宗に付属し，倶舎宗は法相宗に付属して研究された。〔佐藤成順〕

なんねい【南寧】ナンニン 中国南部，広西チワン族自治区南部の都市。人口約40万(推定)。西江上流の鬱江(うっこう)北岸にあり，湘桂(しょうけい)鉄道に沿う水陸交通の要衝にあたる。珠江上流地域の農産物の集散地として発達し，自治区の政治・経済およびベトナム貿易の中心となっている。近代工業は未発達で搾油など小規模な手工業が行なわれている。広西大学がある。

なんば【難波】大阪市の南部，南区の道頓堀(どうとんぼり)川以南から浪速(なにわ)区北部にわたる地区。1884年(明治17)南海電鉄難波駅の設置後に急速に発達し，道頓堀や千日前との間に商店街が立ち並び，専売局のたばこ工場が建てられた。1932年(昭和7)難波駅の改築に際してデパートの高島屋が進出し，地下鉄や御堂筋(みどうすじ)の広い街路が通じて戎(えびす)橋筋は〈南〉の中心繁華街となった。戦災で焼失したたばこ工場跡は，プロ野球の大阪球場となっている。難波駅は南海電鉄本線と高野線の起点で，南北方向の地下鉄四つ橋線・御堂筋線と東西方向の地下鉄千日前線が交わり，近鉄奈良線の起点近鉄難波駅(地下)もある総合駅となっている。関西本線の起点湊町(みなとまち)駅もその南西方にある。〔浅井得一〕

なんばんぎせる【南蛮煙管】双子葉植物・ハマウツボ科。オモイグサともいう。主としてススキまれにミョウガの根に寄生する一年草。葉緑素がなく，全草黄かっ色。茎はほとんどなく，7～9月高さ15～20cmの花茎を伸ばし，その先端に長さ3～5cmの紅紫色の花を横向きにつける。花冠の先は5浅裂し，がく片は長さ2～3cmの舟形で先がとがる。蒴果(さくか)は長さ約1.5cmの球形で，黒熟する。近縁種のヒメナンバンギセルは小形でスゲの根に寄生し，オオナンバンギセルはヒカゲスゲに寄生し，がく片の先が丸い。

なんばんじ【南蛮寺】16世紀後半の日本におけるキリシタン布教所の俗称。吉利支丹(キリシタン)寺・伴天連(バテレン)寺などともいう。建物はほとんど和風で，仏寺をそのまま利用したものある。中でも1560年(永禄



南蛮屏風　サントリー美術館蔵　(上)右隻　(下)左隻

3)建造の京都南蛮寺は有名。同寺はのち改築し,西洋ふうを加えた2階建てとなり,《洛中(らくちゅう)洛外名所図扇面》にそのようすが描かれている。

なんばんづけ【南蛮漬け】揚げた小魚・肉類をネギ・トウガラシを混ぜたつけじるにつけた料理。つけじるは煮出しじるにみりん・しょうゆ・酢を合わせる。古書に〈南蛮づけは酢・古酒・塩を煮立てさまして,アユその他の川魚,小イワシ・ショウガ・クラゲその他いろいろつける〉とある。

なんばんびじゅつ【南蛮美術】桃山時代に流行した西洋ふう美術の総称。1549年(天文18)のザビエル来朝以後,キリスト教布教のために来日する宣教師たちによって西洋の文化・風俗が非常な勢いで移植され,それに触発されて従来にない新鮮な美術の分野が開拓されたことによる。作品の多くは,江戸時代の徹底的なキリスト教禁制によって失われ,わずかに隠し伝えられた比較的小形な絵画や工芸品によって,往時の盛況がしのばれるにすぎない。その最盛期は16世紀末から17世紀初頭に求められ,寛永年間(1624～1643)以降の禁教政策の厳格な実施によって終焉(しゅうえん)する。絵画においては,1583年(天正11)来日のジョバンニ－ニコラオによるセミナリオ(教会付属学校)での西洋画法教授が端緒となり,本格的な技術を習得した日本人洋画家が誕生する。《マリア十五玄義図》や《フランシスコ－ザビエル像》などの宗教画のほかに,《泰西王侯騎馬図》や《洋人奏楽図》など鑑賞本位の世俗画を屏風(びょうぶ)形式によって描くなど多彩な展開を見せるが,中央画壇にさしたる影響を及ぼすことなく終わった。個人作家としては信方(のぶかた)の名が知られる《婦女弾琴図》《日教聖人像》などの小品が残る。工芸においては,南蛮趣味の流行に促されて,西洋ふうの意匠による漆器・陶器・金工品などがつくられた。漆器では《葡萄蒔絵聖餅箱(ぶどうまきえせいへいばこ)》に代表されるキリスト教関係の器具や,《南蛮人蒔絵曲彔(きょくろく)》《南蛮人蒔絵鞍(くら)》など欧風文様の異国的デザインになる作例がある。陶器では,織部陶*(おりべとう)が西洋の事物や文様を好んで絵付けに用いた。金工では,ローマ字を透かしたり象嵌(ぞうがん)する〈法安鐔(ほうあんつば)〉やキリスト教の紋章と〈1577〉の西暦が陽刻された〈南蛮鐘〉などに南蛮趣味流行の反映が認められる。　〔小林　忠〕

なんばんびょうぶ【南蛮屏風】南蛮美術*の風俗画の一分野で,西洋人の来航の情景を主題とした屏風絵。図様によって3種に大別される。①向かって左隻に日本の港にはいる南蛮船を描き,右隻に南蛮寺へ向かう南蛮人の行列を描くもので,宮内庁本をはじめ遺品の数は最も多い。②神戸(こうべ)市立南蛮美術館本に代表されるタイプで,左隻に外国の港を出帆する南蛮船,右隻に日本における入港と南蛮寺への行列が描かれる。③左隻に外国における南蛮人の生活や風俗を描き,右隻は②と同じ入港と行列の図となるもので,代表作としてサントリー美術館本が知られる。いずれも紙本・金地濃彩画という当代風俗画の技法や様式に従うもので,西洋画法による作例は見いだせない。　〔小林　忠〕

なんばんぼうえき【南蛮貿易】中世末期から近世初期にかけて来航した西洋人との間で行なわれた貿易。1543年(天文12)ポルトガル船の種子島(たねがしま)漂着を契機にポルトガル船が九州諸港に来航し,特に肥前(長崎県)平戸・豊後(ぶんご)(大分県)府内(現在の大分)が利用され,1571年(元亀2)には長崎が開港し,やがてオランダ・スペイン・イギリスとも通商関係にはいった。ルソン・澳門(マカオ)・シャム(タイ)・安南その他の南方諸地域と交通し,朱印船*貿易の盛時を現出した。輸出品は金・銀・銅・イオウなど,輸入品は鉄砲・火薬・生糸・香料・らしゃ・雑貨などであった。鎖国*とともに途絶。➔長崎貿易　〔高崎徳次〕

なんばん・ほくてき【南蛮・北狄】⇨夷狄(いてき)

なんぴょうよう【南氷洋】⇨南極海

なんぶ【南部】青森県の東半分,すなわち西半分の津軽*を除いた地方から岩手県の北部および中部にかけた地方で,南の境は北上川の支流和賀川の付近である。江戸時代には南部氏の領地であった。

なんぶはん【南部藩】江戸時代,陸中(ほぼ現在の岩手県)を領有した藩。盛岡藩ともいう。藩主南部氏。外様(とざま)大名*。初代光行(みつゆき)のとき,甲斐(かい)(山梨県)南部荘(しょう)を領有して南部氏を称していたが,源頼朝(よりとも)の奥州征伐*に従って功を立て,三戸(さんのへ)に住して以来陸中一帯に勢力を伸ばした。信直(のぶなお)のとき,豊臣秀吉(とよとみひでよし)に帰順して本領を安堵(あんど)され,次いで九戸政実を平定して加増され,十万石となった。その子利直(としなお)は,1597年(慶長2)盛岡に築城して移り,関ケ原の役に徳川氏に属して所領を安堵された。1808年(文化5)松前(北海道)警備のため加増されて二十万石となったが,戊辰(ぼしん)戦争に際して奥羽越列藩同盟*に加わったため刈田郡白石十三万石に減封された。まもなく旧封に帰ったが,廃藩置県で岩手県となった。支藩に八戸(利直の7男直房(なおふさ)を祖とし,二万石)・七戸(利直の孫政信(まさのぶ)を祖とし,一万石)藩があった。

なんぷびょう【軟腐病】おもに野菜類に発生する病気。病原細菌は宿主植物・雑草の根圏,被害植物の残渣(ざんさ)に生息し,土壌(どじょう)中の有機物から栄養を摂取して腐生的に永存する典型的な土壌伝染病菌である。茎・葉の傷口,水孔,こん虫の食害部などから侵入し,おもに柔組織を侵して水浸状とし,のちにかっ色の病斑(びょうはん)を生じ,最後には組織が軟化・腐敗して悪臭を発す

る。ハクサイ・ダイコン・トマト・ニンジン・ネギ・タバコ・ジャガイモ・コンニャクその他，多くの植物を侵す。気温・地温が高い時期に，低湿地に多く発生し，また貯蔵・輸送中にも腐敗がまんえんすることがある。防除法は輪作，土壌消毒，排水の改善，キスジノミムシなどの害虫の駆除，播種(はしゅ)期の変更による被害の回避など。

なんぺい【南平】ナンピン　中国，福建省閩江(びんこう)中流の都市。閩江水運の中心をなし，また浙江(せっこう)・江西両省方面へ連絡する商業都市として活況を呈している。閩江上流で産するスギ・タケなどの林産物や紙・茶などを集散する。付近から銅・鉛・スズなどが産出される。

なんぽ【南浦】ナムポ　朝鮮，平安南道の西南部に位置する大同江河口の工業都市で，平壌(へいじょう)の西南にある。寒村であったが，天然の良港で，1897年に平壌の外港として開港してから発展し，日清(にっしん)戦争には日本艦隊の根拠地となり，鎮南浦と称した。1945年現在名に改称。大同江流域をはじめ，平安南道・同北道，黄海南道・同北道を後背地にもち，古くから農水産物の集散地として，精米・製粉業などが盛んであった。近年は，銅・金・銀の大規模な製錬所をはじめ，造船・ガラス・電極などの工場が多く，平南重工業地帯の重要な一翼をになっている。整備された港湾施設があり，10,000トン岸壁もある。付近はリンゴの名産地で，ほかに紙・葉タバコなどを輸出。黄海の干拓事業も進んでいる。

なんぽうぶっきょう【南方仏教】紀元前4世紀，インドでブッダによって開かれた仏教は，時代を経るにしたがってアジア諸地域に伝わった。このうち中央アジア・チベット・中国・朝鮮・日本に伝わるものを北方仏教あるいは大乗仏教などとよぶのに対し，セイロン・ビルマ・タイ・ラオス・カンボジアなどに伝わるものを南方仏教，あるいは小乗仏教，上座部仏教などとよぶ。歴史的にみた場合，多少の例外はあるが，南方仏教の聖典用語はパーリ語で書かれ，経蔵・律蔵・論蔵およびそれらの注釈書は南伝大蔵経(→大蔵経)として現存しており，一部派の文献としては最大の量を誇っている。南方仏教では，経典に記された教理を伝統にしたがって忠実に伝承していくことに努力が払われ，注釈書のほとんどは語句の解釈に終始し，新しい教理・思想の発展はみられない。しかし，古い伝統を正しく伝え，保持してきたという点ではおおいに評価されるべきである。修行・実践の面では，厳重に戒律を守るところにその特色がみられる。パーリ律蔵には比丘(びく)227戒，比丘尼(びくに)311戒が定められ，月に2回すなわち満月と新月の日に布薩*(ふさつ)と名づけられる自己反省の日が設けられ，罪を告白懺悔(さんげ)する集まりをもつ。僧侶(そうりょ)の妻帯は禁ぜられており，在家の信者も定められた戒律を厳格に守っている。地域的にみると，セイロン仏教は紀元前3世紀にアショカ王の王子マヒンダがこの地に仏教を伝えたのに始まる。5世紀にはインドからブッダゴーシャが来島して経・律・論の三蔵の注釈書をパーリ語で記し，南方上座部仏教教理の基礎が築かれた。のちに大寺派などに分裂するが12世紀には統一され，16世紀以降西欧諸国の支配を受けたにもかかわらず国民の仏教信仰に変化はなく現代に及んでいる。ビルマに仏教が伝わったのは，伝説によればアショカ王の時代とされるが，上座部仏教が確立されたのは11世紀ビルマ族の最初の王アノウラタの時代である。王はセイロンに僧侶を派遣して経典を請来せしめたが，国内でのパーリ語の著作活動も盛んで，多くの注釈書・文法書が書かれている。現在，仏教は国教と同様に扱われ，国民のほとんどが仏教徒である。タイに仏教が伝来したのもアショカ王の時代と伝えられるが，14世紀に興ったアユタヤ朝はセイロンに学僧を送り，仏像・大寺院などを造立して，その興隆に努めた。その他，カンボジアには12世紀造立のアンコール-ワット*，ジャワには8世紀建立(こんりゅう)のボロブドゥール*の仏教遺跡があり，南方仏教隆盛のあとをしのばせる。〔佐藤良純〕

なんぽうろく【南方録】茶書の一。南坊録ともいう。全7巻。利休の高弟南坊宗啓が，利休から習得・見聞した茶道の秘事を筆録した書といわれる。第1～第6巻は利休存生当時の記述で，第7巻は利休から聴聞した茶道の逸話などを〈滅後の1巻〉と名づけて補足したものである。なお，南坊流茶道の開祖と称する立花実山の補足にかかる第8・9巻を加え，全9巻とするものも伝わっているが，全巻を通じて立花実山が補足編集した形跡が多い。〔桑田忠親〕

なんぼくせんそう【南北戦争】1861～1865年，アメリカ合衆国北部と南部との戦争。一般には内乱の語をこれにあてるが，南部は連邦を脱退し，新国家アメリカ連合*として独立したとみる南部人は諸州間の戦争とよぶ。農業中心の貴族主義的南部と商業的北部とは，建国当初から利害の対立をみせていたが，北部は1812年戦争*以後急速に工業化を進め，南部は1793年綿繰機の発明により奴隷制に立脚する綿花栽培を西部に拡大して綿王国を形成し，関税・奴隷制などをめぐる対立が深まりつつあった。しかし，19世紀前半は西部が南部と共通利害に立つことが多く，数度の国家的危機もミズーリ協定*，妥協の関税(1833)，1850年の妥協などにより南部優勢のうちに切り抜けていた。しかし，1830年代から急速に拡大した奴隷制廃止運動はこの対立を道徳的・非妥協的なものと変え，1850年代のカンザス-ネブラスカ法*・ドレッド-スコット判決*などで北部と南部の政治的均衡は破れた。特に1854年の共和党*結成は，北東部と西部の連合を意味し，1860年リンカーン*の大統領当選を契機に，連邦内の少数派に転落した南部11州は合衆国を脱退，アメリカ連合を結成して独立を宣言した。

1861年4月12日，合衆国軍守備隊のたてこもるチャールストン港サムター砦(とりで)に対して，南軍が砲撃を開始して南北戦争が始まった。リー*将軍やストーンウォール-ジャクソンらのすぐれた軍人を擁する南軍は，開戦当初優勢に立ち，ブルーランの戦い(1861年7月)に北軍を敗走させた。しかし，戦闘が長期に及び，経済力・天然資源・人口などで南部にまさる北部は，南部海岸線を封鎖して劣勢を挽回(ばんかい)し，アンチータムの戦い(1862年9月)，ゲチスバーグの戦い*などで南軍の北上を阻止した。また，リンカーンはこの間に〈奴隷解放宣言*〉を発表し，北部の人道主義的戦争目的を世界に知らせ，南部に好意的なイギリスや，メキシコ・ドミニカへの干渉を企てるフランス・スペインを牽制(けんせい)し，北部の結束を強化した。西部で南軍を制圧していたグラント*将軍は，1864年3月北軍総司令官に任命されると，積極的な攻撃で北方から南部の首都リッチモンドに迫った。グラントの後任の西部方面軍司令官シャーマン将軍は，南部の鉄道の中心地チャタヌーガからアトランタ・サバンナ・コロンビア・ローレーなどと，南部中央部を焦土行軍して南方からリッチモンドに迫った。1865年4月9日，リー将軍はバージニア州アポマトックスでグラントに降伏し，ここに死者約65万人を数え，最初の〈近代的総力戦〉といわれる南北戦争は終結した。

南北戦争はアメリカ社会に重要な影響を与えた。①北部の勝利により連邦維持に成功し，州の連邦脱退も可とする南部州権論が否定され，北部と南部の憲法解釈上の論争にいちおうの終止符を打った。②奴隷解放宣言・憲法修正第13条(1865)により黒人奴隷が解放され，市民権を獲得した。③この結果南部経済をささえてきた大プランテーション制度が崩壊し，これに代わってシェアクロッパー制度が登場した。④戦争による経済拡大と共和党の経済政策(1862年モリル関税法・太平洋鉄道法，1863年国立銀行法など)の結果，戦後アメリカ北部の産業資本主義が急速に拡大した。⑤自営農地法制定(1862)・大陸横断鉄道完成(1869)などにより西部開発が促進され，西部が北部・南部と対等のセクション*として確立された。⑥北東部産業資本家と西部農民の連合による共和党長期政権が維持され，全国的な政治から後退した南部民主党は，ソリッド-サウス(堅固な南部)を形成した。しかし，解放黒人への人種差別，ビジネス本位の政治，鉄道をはじめとする独占企業の発生，これに対する西部農民の不満と労働者の生活改善の要求，反ビジネスの形をとる新しい州権論の主張などが戦後アメリカ社会の問題



南北朝時代
笠置山の戦い
《笠置寺縁起》
笠置寺蔵

として残った。このような社会的な大変化をもたらした南北戦争を，アメリカ独立戦争と比較して第２次アメリカ革命ということもある。〔折井一彦〕

なんぼくちょうじだい　**【南北朝時代】**
厳密には1336年(延元１・建武３)から1392年(元中９・明徳３)の南朝と北朝が対立した期間をいうが，一般には，その直前の建武中興期の３年間を含めていう。1335年，建武中興政府にそむいた足利尊氏(あしかがたかうじ)は，1336年九州から上洛(じょうらく)して，持明院統の光明天皇を擁立したのに対し，大覚寺統の後醍醐(ごだいご)天皇は，京都から吉野(よしの)(奈良県)へ走って皇位の正統を主張したため，ここに南北両朝の対立が生じた。南朝方では，初期の合戦で新田義貞(にったよしさだ)らの諸将を失い，また北畠親房(きたばたけちかふさ)らの東国経略も失敗し，さらに後醍醐天皇の死去によって形勢は悪化した。一方北朝方でも，尊氏の弟足利直義(ただよし)と幕府の執事高師直(もろなお)との対立，さらに尊氏・直義兄弟の不和などの内争があいつぎ，南北朝の抗争は複雑な様相を呈した。また各地の武士勢力は南北両軍のいずれかにくみして，その所領や立場を有利にしようとしたため，動乱は全国的に波及することとなった。

当時惣領(そうりょう)制がしだいにくずれていく中で，荘園(しょうえん)領主の支配から脱しようとする中小名主の動き，下層農民の独立化が目だって，生産・貢納関係が夫役制から地代制へ移ろうとしていた。惣領制支配と夫役制とから解放された農民の間には新しい農業生産が開かれ，ここに旧来の荘園経済は急速に崩壊することとなった。こうした情勢に対応して，守護勢力は在地の武士・農民をその支配下に組み入れ，大名領国の形成を図った(→守護大名)。室町幕府は半済(はんぜい)・守護請などを通じて守護・地方武士に利権を与えたため，ここに室町幕府を中心とする封建的政権が樹立された。南朝方は後醍醐天皇に続いて後村上・長慶・後亀山(ごかめやま)の諸天皇が代わったが，その勢力地は吉野を中心とする畿南(きなん)地方に局限されてふるわず，南朝唯一の地方勢力となった懐良(かねなが)親王の軍も，九州探題の攻撃に圧せられて南朝方はまったく劣勢となり，1392年ついに南北朝合一の和議が成立した。

文化面では連歌・田楽・猿楽(さるがく)など庶民的な文芸や芸能が上下の階層を通じて流行し，またこの時代の波乱に富んだ歴史は，《太平記》によって壮大・華麗に文学化された。なお，《梅松論》は足利方の立場から内乱の過程を記したものである。→南朝→北朝　〔高崎徳次〕

なんぼくちょうじだい　**【南北朝時代】**
南朝(420〜589)と北朝(386〜581)の時代。南朝は建康(いまの南京(ナンキン))に都した宋(そう)・南斉(なんせい)・梁(りょう)・陳の４王朝を，北朝はこれに対応して華北に成立した北魏(ほくぎ)(後期には東魏と西魏とに分裂)・北斉・周の諸王朝をさす。唐初の歴史家李延寿(りえんじゅ)は，南朝の歴史を《南史》に，北朝の歴史を《北史》にまとめたとき，《北史》に隋(ずい)(581〜618)を加えていたが，いまでは隋は唐とともに統一帝国の時代として隋・唐と併称し，分裂時代としての南北朝に含まないのが普通である。五胡(ごこ)十六国の大混乱期を収拾して439年に華北を統一した北魏は，鮮卑族拓跋(たくばつ)部が建てた国で，孝文帝(471〜499)は均田制を施行し，都を洛陽(らくよう)に移し，中国的貴族制を採用して北方民族の漢化を促進したが，北辺鎮撫(ちんぶ)に残された北族系軍団の不満が523年に六鎮の乱となって爆発し，それらの軍団を率いる高歓と宇文泰が東西に割拠して，東魏と西魏に分裂する。西魏を受けた北周は府兵制度によって軍団を整備し，やがて東魏を受けた北斉を滅ぼして華北を再統一するが，内部から台頭した楊堅(ようけん)(→文帝)にとって代わられ，これが隋王朝を建てる。これに対して南朝では，３〜４世紀に華北から江南に避難した漢人貴族が，文化の維持・発達に努めていたが，宋・南斉ともに武人が建設した王朝である。また，貨幣経済が急速に発展し，文化的にも北朝よりはるかに進んで，梁の武帝の黄金時代を生んだが，548年の侯景の乱を契機として大混乱に陥り，陳がわずかに余命を保ったが，589年に隋の大軍によって併呑(へいどん)された。〔川勝義雄〕

なんぼくちょうせいじゅんもんだい　**【南北朝正閏問題】**
南朝と北朝のいずれを正統と認めるかについての論争。古くは北畠親房(きたばたけちかふさ)が《神皇正統記》で南朝の正統を主張し，江戸時代には倫理的批判の立場から南朝正統論が唱えられた。一方，南北朝合一以来北朝系の皇統が続いている事実から反対論もあったが，1911年(明治44)国定教科書教師用の記述中に南北朝の対等を認めている点が議会で問題となり，第２次桂(かつら)内閣は南朝正統を閣議で決定した。文部省教科書編集官喜田貞吉(さだきち)を休職処分とし，教科書を改訂して事態を収拾した。〔高崎徳次〕

なんぼくちょうびじゅつ　**【南北朝美術】**
南北朝時代の美術。美術の様式区分としては，南北朝様式が確認されているわけではなく，従来は鎌倉末もしくは室町初期の様式として扱われてきた。事実，各分野にわたって過渡的な様式を示すが，初期水墨画のように他の時代とかなり違った独自の様相をもつ分野もある。

〈絵画〉鎌倉末の絵巻物は1300年前後に頂点に達し，以後南北朝時代を通じて衰退していくが，合戦絵巻の系統に《後三年合戦絵巻》，宗教絵巻としては《慕帰絵詞(ぼきえことば)》などが出，宋画(そうが)の描法を摂取した水墨の画中画もあり，室町時代に土佐派が成立して行く過程としても興味深い。一方で，御伽草子(おとぎぞうし)系絵巻が台頭し，《足引絵巻》《是害坊絵詞》などが出て応永(1394〜1427)以後の盛行に先がけた。肖像画は鎌倉末の似絵(にせえ)の様式が豪信の《花園天皇像》などで完成したが，やがて禅僧の頂相(ちんぞう)がいわゆる漢画の勃興(ぼっこう)に伴って盛んにつくられ，《大燈国師像》《夢窓国師像》などが残された。その後水墨画が台頭し，元と日本とで禅僧の行き来も盛んであったから，入元して水墨道釈画を学ぶ禅僧も多く，可翁・黙庵霊淵・鉄舟らが，中国のそれに劣らない筆意を見せた。可翁の《寒山図》や黙庵の《布袋図(ほていず)》は水墨画史上室町以降の詩画軸中心の山水画風と異なった独自の禅宗画といえる。また，良全・周位らの画僧があり，室町初期の明兆(みんちょう)ら東福寺系の画家共通の画風をもつ一派をなし，応永詩画軸へと橋渡ししている。

〈彫刻〉仏像彫刻が慶派(運慶を代表とする一派)の様式を硬化させて衰退した反面，肖像彫刻や頂相の塑像にも14世紀後半から佳作が生まれた。

〈工芸〉宋元美術の影響下に堆朱(ついしゅ)などの模倣も行なわれ，根来塗(ねごろぬり)など民衆の手になるものも少しずつ興ってきた。また，戦乱の時代を反映して甲冑(かっちゅう)武具に見るべきものを残し，合理性と機能美

→312ページ

南北問題

この語は，1959年11月イギリスのロイド銀行頭取オリバー-フランクスがはじめて用いたもので，このことは第２次世界大戦後，特に1950年代を通じて注目を浴びてきた低開発国問題，その開発・発展の問題が新しい視角から取り上げなおされ，全世界的によりいっそう重要視されたことを意味している。すなわち，低開発国ないし発展途上国の開発・発展の問題が，低開発国だけの問題としてではなく，工業化された富裕な北側先進国と貧しい南側低開発国との対比において，その絶対的格差およびその格差の増大に着目し，全世界的に特に北側の責任の認識において把握(はあく)されたことにその意義が求められよう。さらに従来の東西問題との関連で南北問題が論じられ，両者が複雑にからみあっているとともに，1950年代の東西問題に代わって，1960年代以降最も重要な国際問題となっている。

南北問題登場の背景・理由としては，大別して次の三つがあげられる。第１は，1960年当時，東西の平和共存政策による低開発国に対する両陣営からの働きかけ・援助競争が激化し，南側の低開発国をどちらの陣営に確保するかが，東西問題のゆくえを決める一つのかぎとなり，東西どちらの国国も真剣に低開発国問題に取り組み，積極的なアプローチが行なわれたことである。第２は，西側先進諸国は1950年代においては自由化ないし地域統合化による先進国市場の相互解放・分かち合いにより，発展が順調に行なわれてきたが，それが限界に近づきつつあり，今後の発展のためには低開発国市場を第三市場として重視せざるをえなくなったことである。低開発国が直接的には南北貿易拡大の，広くは世界市場拡大のための対象として注目されはじめ，いわゆる〈第三市場〉〈世界経済の拡張的均衡〉が再検討されだしたのである。第３は，これら低開発諸国がいちおう第２次世界大戦後政治的独立を達成し，国際連合その他の国際機関においても大きな投票権を獲得し，ある程度の団結を示し，先進国側に働きかける力をもったことである。その反面，低開発国の多くは工業化が達成されていず，みずからの経済発展についてその成果を期待できず，将来に対する強い不安感をもち，その局面打開のために先進国側へ強く要求を打ち出し，国際的にそれを無視できなくなったことである。なお，なぜ経済発展・経済的独立の実現・達成が困難であったかの理由については種々なる見解・要因が存在しており，過去の植民地支配の影響，低開発国自体の制度的・社会的・地理的要因，開発戦略・開発政策体系の基本的方向，国際経済環境などがあげられているが，一義的な評価・結論は下しがたい。

【南北問題の展開】南北問題を具体的に表わす動きとして，国連における〈開発の10年〉の構想と国連貿易開発会議*(UNCTAD)の開催・常設化があげられる。前者は1961年12月，第16回総会で1960年代を〈開発の10年〉と決議し，国際協調のもとに開発協力を進めていくとする合意の成立である。1960年代10年間の主要経済目標は，南の開発途上国が最低年経済成長率５％となるような条件をつくりだすことであるとし，先進国・低開発国が協力して南北問題，南北の発展格差解消の問題に取り組んできたのである。さらに国連のこの開発目標は，国際貿易と援助に対して直接関連をもっていることが全世界的に受け入れられ，低開発国の発展を促進し，これを阻害しないような国際経済環境をつくりだし，南北問題解決のための国際協力を組織化しようとして，1964年に第１回国連貿易開発会議が開催され，国連貿易開発理事会*(TDB)その他の機構も整備された。この第１回会議には，事務局長プレビッシュの報告書《新しい貿易政策を求めて》が提出された。これは，従来の世界経済の運営原則である〈自由・多角・無差別・互恵〉が基本的に先進国に有利に，低開発国に不利になる不平等化要因として作用してきたとする批判・挑戦(ちょうせん)を打ち出し，新しい原則として〈組織化・差別・一方的〉を要求している。さらにこれまでの援助中心の〈貿易よりも援助を〉のアプローチに代わって，〈援助よりも貿易を〉〈貿易も援助も〉の主張が行なわれ，国際的局面における発展の最大の阻害要因となっている対外不均衡を除去するための具体的な政策措置を要請している。それらは，輸出増大・安定化のための一次産品に対する市場開放と受け入れの保証，国際商品協定の拡充，補償ないし補足融資，製品・半製品に対する市場開放と特恵供与，低開発国間地域統合，先進国国民総生産(GNP)１％の援助などであるが，一部商品についての国際商品協定*の締結，EC*・日本・ノルウェーなど一部の国による特恵供与などを除き，その要請はまだ現実化されていない。

【現状】1960年代の低開発国における年率５％の経済成長率達成の目標は，南側発展途上国において平均5.5％の経済成長がなされ，北側先進国の平均4.8％を上回っている。しかし，絶対的発展水準からみても，１人あたりGNPは北側の2,500ドル強に対して南側は200ドルと大きな格差が存在する。また1960年代の成長成果と，南側が真の発展指標として重視する１人あたりGNPの成長率でみれば，南側の高い人口増加率(1960年代北側の1.1に対し2.5)に割り引きされて３％と北側の3.7％に及ばず，絶対的増加額からみても南側６ドル対北側90ドル強と著しい格差が存在する。さらに貿易面でも北側との対比において相対的な伸び悩みがみられ，その格差は増大し，依然として大幅な国際収支赤字に苦悩し，また数百億ドルをこえる多額の債務累積問題をかかえているのが現状である。

したがって，1970年代を迎えて南北問題はいっそう深刻化するのではないかとする国際的認識が強く，国連では1970年10月の創立25周年記念総会においてこの1970年代を〈第２次国連開発の10年〉と決議し，そのための〈国際開発戦略〉を採択し，国際的協調によってさらにいっそう南側発展途上国の経済社会開発を進めようとし，そのための目標・戦略・手段について合意に達している。具体的には，1970年代の目標は南側全体の経済成長率を６％，１人あたりGNP成長を3.5％に高めることであり，1970年代後半にはそれ以上の水準に加速化するように努力することになっている。部門的にいえば，農業部門では４％，工業部門では８％，輸出では７％強の成長率が目標とされ，所得と財産のよりよい配分や雇用・教育・保健・住宅などについても質的・量的な方向づけが与えられている。

政策措置を含む開発戦略については，まずその主体として発展途上国の国内的手段と措置が重視され，発展の前提として制度的・政治的・社会的改革の必要性が強調されている。次に，国際的措置としては国際貿易上の措置が特に重視され，海外民間投資(特に直接投資)の演ずる役割についての再評価がなされ，援助については先進国GNP１％援助，そのうちの７割を政府開発援助で供与し，その条件を緩和していくこと，また技術援助，教育の研究開発援助の重視などが強調されている。

【今後の展望】現段階においてさらに新しい問題提起がなされつつある。まず第１は，南北問題の意味・内容とその解決方向について根本的な問いなおしが生じていることである。それは，経済発展および低開発ないし発展途上国という概念自体が，時間と空間において相対的なものか絶対的なものかということである。発展を規定するなんらかの絶対的基準(たとえば１人あたり所得500ドル)があり，それに達しない国を発展途上国とよび，その水準に達することによって南北問題は解決したといえるのか，あるいは空間的に他と比較して１国が種々の基準からみて劣っていると考えられる場合，つねに南北問題は存在し続けるのであろうか。現在では，南北間の発展格差に着目しての後者の意味が強くなってきている。しかし，南側発展途上国は資本主義先進国と社会主義諸国を除く残余のグループとして定義され，種々なる国々の集合体であり，

1人あたりGNP1,000ドルをこえる統計上最富裕の国(クウェートなど)から，100ドル以下の国まであらゆるレベルの国があり，1960年代に達成した成長率でみても，10%をしのぐ国からほとんど成長がみられなかった国まで雑多である。特に重要なのは，最近南側内部における発展格差問題が深刻化し，国連では後発発展途上国(1人あたりGNP100ドル未満，文盲率80%以上，GNPに占める工業生産の割合10%以下)の25か国を規定し，これらに対して特別な配慮・取り扱いを行なうことになっている。

もう一つの重要な問題提起として，有限な地球を強調し，現在のような急速な人口増加・経済成長を続けていけば，100年以内に地球の人口扶養力の絶対的限界に到達し，南側発展途上国は全体として現在の北側の発展水準に達することすら不可能であるとする予測であり，いますべきは人口増加・経済成長の抑制をおいてほかにないとする警告である。もちろん技術革新その他による有限な地球の拡大もあろうが，こうした長期的展望に立っての南北問題・経済発展問題の再検討が必要であろう。

第2として，南北問題への基本的理念，すなわちなぜ南北発展格差の解消に世界的に特に北側先進国の責任の認識に取り組まねばならないのかの問いなおしがなされている。特に最近では，国連に対して世界銀行が《ピアソン報告*》などで，世界共同体理念を主張しており，各国は狭い国益の視点を修正して，各国間の相互依存関係を深める方向に向かって，より広い世界的視野・理念をもつことが求められている。

最後にわが国の立場としては，特にアジアを中心に南側発展途上国との関係が地域的・歴史的にも密接であり，しかもGNP自由世界第2位，多額の外貨準備，輸出黒字をかかえているなどの点から，今後はいまいっそう積極的に南北問題に取り組み，開発協力の実行を図っていくことが急務とされている。〔深海博明〕

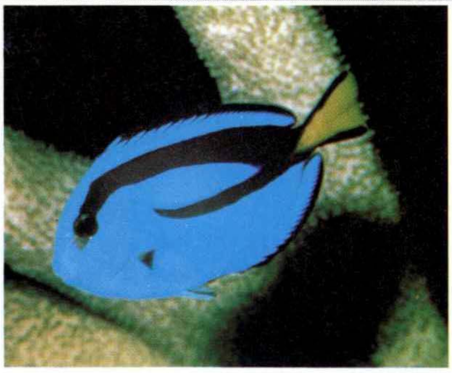
が再び生かされた。

《建築》鎌倉末から北朝の足利(あしかが)政権にかけて，京都・鎌倉に大寺院が建立(こんりゅう)され，五山制度が確立し，禅宗様の単一化と地方伝播(でんぱ)が行なわれた。大徳寺*・天龍(てんりゅう)寺*・相国寺*などが開創されたが，現存遺品には永保寺開山堂・安楽寺八角三重塔など禅宗様のほか，観心寺金堂のような和様に禅宗様・大仏様を折衷したものもある。庭園では，西芳寺庭園が造営されて以後盛行する禅寺庭園の規範となった。〔中島純司〕

なんぼくもんだい【南北問題】 ⇨前ページ

なんぽじょうみょう【南浦紹明】(1235～1308) 鎌倉時代の臨済宗の僧。臨済宗大応派の祖。おくり名を大応国師という。駿河(するが)(静岡県)の人。円爾(えんに)弁円*の甥(おい)にあたる。はじめ浄弁について教宗を学び，のちに蘭渓道隆(らんけいどうりゅう)の門に投じた。さらに宋(そう)に渡って8年間諸山を歴訪し，ついに虚堂智愚(きどうちぐ)の法を継いで帰国し，筑前(ちくぜん)(福岡県)の興徳寺・崇福(そうふく)寺に住して九州地方にその禅風を広めた。1304年(嘉元2)京都に上り，亀山(かめやま)上皇のために禅を説き，万寿寺に住した。その後，比叡山(ひえいざん)と対立して鎌倉に下り，北条貞時(ほうじょうさだとき)の帰依を受け建長寺*にはいった。その禅風は宋朝ふうの純粋禅であった。〔岡部和雄〕

なんよう【南陽(市)】 山形県南東部の市。人口37,000。古くは北条郷(ほうじょうごう)とよばれた地域で，赤湯温泉をもつ赤湯町と，熊野(くまの)神社の門前町の宮内町，和郷村の2町1村が1967年(昭和42)に合併して市制を施行。市域は米沢(よねざわ)盆地の北部，吉野(よしの)川の溪口(けいこう)扇状地付近に開け，北東は上山(かみのやま)市，西は長井市と接する。産業三大別人口比は31：29：40。農業が主産業で，米やブドウの生産が多く，宮内には繊維・電気機器工業も発達する。奥羽本線と長井線の分岐点で，国道13号線と113号線も分かれる。



ナンヨウハギ

なんよう【南陽】 山口県都濃(つの)郡の旧町名。徳山市の西の沿岸部の富田(とんだ)・福川の2町，それに北方の飛び地の和田村が1955年(昭和30)合併して南陽町と名称変更，1970年(昭和45)市制施行。新南陽市となる。仙(せん)島や黒髪島の一部などを含む。沿岸部には山陽本線・国道2号線が通じ，東洋曹達(ソーダ)などの化学工場が並んで，徳山石油化学コンビナートの西部をなす。

なんよう【南陽】 ナンヤン 中国，河南省南西部の都市。開封の南西約100km，白河の西岸にある。22年，劉秀(りゅうしゅう)(後漢・光武帝)はここで挙兵して後漢を建国し，以後河南省南部の要地として重視された。白河水運の終点で，また開封から光化に通ずる道路や，西安から信陽に通ずる道路の交点にあたる交通の要衝である。京広鉄道の開通以前は，漢口と華北を結ぶ物資交流の経由地として栄えたが，1904年鉄道開通後は衰微した。付近一帯で産する小麦・トウモロコシ・コウリャンなどを集散し，特産物に絹織物や石細工，ししゅうなどがある。諸葛孔明(しょかつこうめい)の臥龍岡(がりゅうこう)などの旧跡がある。〔船越昭生〕

なんようしょとう【南洋諸島】 西太平洋，南北は赤道から北緯22°，東西は東経130°から175°までの範囲にまたがる島々をいう。面積2,150km²。人口90,000(1966)。マリアナ諸島*・カロリン諸島*・マーシャル諸島*などからなる。1919年以降日本の委任統治領となり，第2次世界大戦では島の多くが激戦地となった。現在は，アメリカ合衆国の信託統治領で，統治機関がグアム島に置かれている。

なんようにほんまち【南洋日本町】 近世初期，海外に進出した日本人が南洋の各地に形成した居留地。南洋日本人町・日本人町・日本町ともいう。南蛮貿易*が盛んになるに伴い，貿易商人・浪人およびキリシタン*禁圧で追われた信徒らが南洋各地に渡航し，そこに定住して日本人中心の集団部落を形成した。日本人町は朱印船*貿易に至便な海岸または河岸の港町に営まれ，治外法権が認められた。安南のフェフォとツーラン，カンボジアのプノンペンとポネアルー，タイのアユチャ(シャムの旧都)，ルソンのマニラ城外ディラオとサンミゲル，ビルマのアラカンの8か所に建設されたことが知られている。鎖国*後日本から人員・物資の補給が絶たれてからはしだいに衰退し，18世紀初頭にはほとんどが消滅した。シャムの高官となった山田長政*(ながまさ)は著名〔高崎徳次〕

なんようはぎ【南洋剝】 硬骨魚類・ニザダイ科。体長30cmほどの海産魚。美しい魚で，成長してもその色は変わらない。また腹びれ軟条が3本であるのが著しい特徴である。高知県以南，東インド諸島・インド洋の熱帯部に分布し，太平洋熱帯部ではパラオ諸島・ニューブリテン島・ギルバート諸島から知られている。近年，沖縄方面から飼育用に多く輸入されている。観賞価値は高いが，背びれのとげにさされると痛い。

なんりょう【南涼】 中国，五胡(ごこ)十六国*の一。鮮卑*族の禿髪烏孤(とくはつうこ)が，397年甘粛省の姑蔵(こぞう)に拠(よ)って建てた国。414年西秦(せいしん)に滅ぼされた。

に

にあがり【二上がり】三味線(しゃみせん)の基本的な調弦法の一。低い弦(第一弦)から完全5度，完全4度の間隔になる。用例は古くからあるが，長唄(ながうた)の《安宅松(あたかのまつ)》《五郎時致(ときむね)》などでは，ひなびた性格や陽気な感じを出す箇所で使われて，こうした使い方が目だつが，しんみりした箇所でも用いられる。

にあがりしんない【二上がり新内】江戸後期に流行した俗曲の一。歌詞は〈悪止めせずともそこ離せ，明日(あす)という日が無いじゃなし，止めるそなたの心より，帰るこの身が，エ，マ，どんなにどんなに辛(つら)かろう〉のように七五・七五・七五・七七・五の型をもっている。三味線(しゃみせん)は二上がりの調弦を使うが，ゆっくりしたテンポ，高い音域での歌い出し，悲しげなふんい気をもっている。このために新内の節ではないが，二上がり新内とよばれるのであろう。

ニアサ(湖) [Nyasa] マラウィ湖ともいう。アフリカ東部，アフリカ地溝帯(ちこうたい)の南部に位置する湖。湖面は海抜463m，最大水深706m。面積30,000km²。湖水はザンベジ川に流れる。タンザニア・マラウィ・ポルトガル領モザンビークの国境をなす。

ニアサランド ⇨マラウィ

ニアメー [Niamey] アフリカ北西部，ニジェール共和国の首都。人口13万300(1975)。西部の国境近くを南流するニジェール川に臨むオアシスに位置する。また，付近はこの国最大の商品作物で輸出の約70%を占めるラッカセイの産地で取引の中心をなす。北アフリカへ向かう隊商の基地。

にいがた【新潟(県)】中部地方の北東端，裏日本のほぼ中央部にある県。北は日本海に面して，沖合いの佐渡島・粟(あわ)島を含み，北は山形，東は福島，南は群馬，南西は長野，西は富山の各県と接する。越後(えちご)・佐渡両国の全域を占め，面積は12,111km²で，全国都道府県中第5位の広さをもち，人口は244万9,000，人口密度は1km²あたり202人。県花はチューリップ，県木はユキツバキ，県鳥はトキ。県庁のある新潟以下20市と16郡(54町38村)に分かれる。

【自然】県域は日本海に沿って南西から北東に細長く伸び，南西部は上越，中央部は中越，北東部は下越とよばれる。地形上は，県境山地・中央丘陵地・海岸低地に大別され，県民のおもな居住地域は海岸平野や，山地と丘陵地の間にはさまれた山間盆地群である。越後山脈は山形・福島両県境に飯豊(いいで)山(2,105m)など2,000m以上の高峰を連ねて南へ走り，飯豊山地一帯は磐梯(ばんだい)朝日国立公園に指定されている。福島・群馬・長野3県との県境に谷川岳(1,963m)を中心とする三国山脈が走り，那須(なす)火山帯と重なって燧ケ岳(ひうちがたけ)(2,346m)・苗場山(2,145m)などの火山が噴出する。燧ケ岳山麓(さんろく)の尾瀬ケ原一帯は日光国立公園の一部に，谷川岳・苗場山の一帯は西方の富士火山帯に属する妙高山(2,446m)・焼山(2,400m)などの妙高火山群とともに上信越高原国立公園の一部に指定されている。南西端の富山県境付近には，フォッサマグナ*を境として，飛騨(ひだ)山脈の北端が日本海沿岸まで延び，親不知(おやしらず)の断崖(だんがい)をつくる。これらの山地の前面は新生代の第三紀丘陵群が連なり，北部に西山・東山・魚沼・八石などの地塁山地列，西部に東頸城(ひがしくびき)・西頸城傾動地塊山地があり，総面積は県域の70%を占める。いずれもケツ岩と砂岩の互層からなり，越後油田の母体を構成するとともに，豪雪の影響を受けて地すべり現象がみられる。県域を流れる河川は大小合わせて38あり，すべて県境山地から向斜谷の方向に流出し，十日町・六日町・栃尾(とちお)・村松・関川・三面(みおもて)などの山間盆地列をつくる。主要河川は，福島県から北流する阿賀野(あがの)川，長野県から北東流する信濃(しなの)川，妙高火山群から北流する荒川，飛騨山脈中の白馬岳(長野県)から北東流する姫川などである。阿賀野川・信濃川両川の下流沖積地(ちゅうせきち)には広い新潟平野が日本海沿いに細長く延び，荒川下流には高田平野がある。姫川は糸魚川(いといがわ)-静岡構造線に沿って県域西端付近を南北に縦断する。海岸線は一般に出入りが乏しく，長い砂丘列が連なるが，北端の海府浦付近は〈笹川(ささがわ)流れ〉とよばれる断層海岸の景勝で名高い。海岸線から近海にかけては石油や天然ガスが豊富に埋蔵されており，新潟市周辺には波浪侵食や天然ガスの採取による地盤沈下がみられる。海上には新潟市の西方約30〜40kmに佐渡島，海府浦西方約20kmに粟島が浮かぶ。佐渡島はわが国第4の大島(北方領土を含む。択捉(えとろふ)・国後(くなしり)・沖縄・佐渡の順)で，海岸段丘に囲まれた岩石海岸の風景が美しく，対岸の弥彦(やひこ)山(638m)周辺一帯とともに佐渡弥彦国定公園に指定されている。気候は裏日本式気候で，冬季は大陸からの高気圧と不連続線の影響で北西季節風が吹き荒れ，全国一の豪雪地帯となる。積雪量は県境の山間部で4m前後，丘陵部で2〜3m，平野部で1〜2mに達し，高田平野中央部の上越市高田地区にも3.8m(1945)の記録がある。気温はかなり高く，新潟市の年平均気温は13.0℃，1月は1.8℃，8月は25.9℃を記録し，年降水量は1,850mmである。春から夏にかけてフェーン*現象がみられ，南の太平洋岸から県境山地を越えて吹きおりる風のために山間部の雪が急にとけてなだれがしばしば起こり，各河川の水量が増加する。信濃川下流部は古くから洪水(こうずい)の被害が大きかったが，1923年(大正12)新信濃川(大河津分水)が完成してから，洪水がほとんどなくなった。梅雨期が終わると晴天の日が続き，気温も高まって稲作に適した気候になる。

【産業・経済】産業三大別人口比は17:36:47で，主産業は農業であったが，最近は原油・天然ガス採掘や，水力電気の開発による近代工業に逆転した。県民所得は年間1人当り120.6万円で，全国第26位である(1977年度)。《農林水産業》農家人口は86万で，総人口の36%を占め，同じ北陸の富山(34%)・石川(29%)・福井(34%)の諸県よりも比率が高いが，秋田(44%)や鹿児島(38%)などの東北・南九州諸県より低く，南隣の長野県(44%)にも及ばない。1971(昭和46)〜1976年の農業人口の減少率は22%で，全国的にみて高いほうである。さらに17万6,000戸の農家のうち，兼業農家が16万6,000戸に達し，その比率は94%で，全国最高である。耕地面積は2,194km²で，北海道に次



新 潟 県

100万人以上の市　30～100万人の市　10～30万人の市　5～10万人の市
5万人未満の市　町名　村名　字名　地方庁所在地　油田　商港　漁港

いで広く，水田単作の早場米地帯で，水田率87.6％，米の平年収量83.7万tは北海道の93.6万t(1976)に及ばず，かつては全国一であったが，北海道に追い抜かれた。そして米の移出量も全国一を誇っていたが，最近のように米が量よりも質の時代にはいると，新潟米は秋田米などにかなわなくなって，しだいに移出も減り，1974年には26.4万tで，秋田・北海道・青森に次いで第4位であった。いっぽう最近における全国的な米の生産過剰と，それに対して1970年から実施された政府による生産調整は，米の単作地帯である新潟県の県民に大きな不安を与え，1970年の生産調整達成率が全国で139％であったのに対して，新潟県は78％と低く，1976年には米の生産調整政策に対する造反として福島潟事件(→豊栄〔市〕)などが起きている。結局米作にたよらざるをえない新潟県としては，〈安くてうまい新潟米〉をつくるよりほかはなく，県では1970年に〈新潟米生産推進運動〉を発足させている。米作の中心地は新潟平野である。低湿な地形と冬季の積雪のため裏作は少なく，また農作物が風水害や病害を受けることが多い。畑作は海岸の砂丘地帯でスイカやダイコンがつくられ，山沿いの斜面段丘でダイズ・ジャガイモ・ナシ・モモなどの栽培が行なわれる。下越の蒲原(かんばら)地区の砂丘地帯を中心としてチューリップの栽培が盛んで，153ヘクタールの耕地で年間5,800万の球根がつくられ，京浜・阪神(はんしん)の都会地へ送られるほか，アメリカ合衆国へ輸出される。北部の村上市は日本の茶栽培の北限にあたり，砂質土壌(どじょう)と積雪のため，独特の風味を呈する。養蚕業は高田平野周辺で行なわれ，農家の副業となる。畜産業はブタ25万1,000頭，肉用牛28,000頭，乳用牛19,000頭，ニワトリ388万羽が飼育されているが(1976)，全国的にみて低調で，とくに乳用牛が少なく，ニワトリの増加が目だっているが，これは主として富山県からの業者の進出によるものである。林業は素材生産量50万m³(1975)であまりふるわず，山間部の農家が木材を自給的に利用しているにすぎない。山の斜面を階段状に植林して雪害を防ぐ計画が進んでいる。水産業は沿岸漁業が主で，遠浅の海岸が多いために水揚げ量は少ない。内水面漁業では小千谷(おぢや)・長岡を中心とするニシキゴイの養殖(1975年には1,764万尾で奈良県に次いで全国第2位)，三面川のサケなどの特産がある。

〈鉱工業〉 地下資源としては石油と天然ガスの産出が多く，いずれも全国一である。石油採掘の歴史は古く，昭和初年ごろから東山・新津・頸城の油田が開発され，一時は秋田県に追い抜かれたこともあったが，いまはまた頸城・南阿賀・東新潟・中条・松崎などの油田地帯で年間55万kl(1975)，全国の77％を産する。しかし国際的水準からみれば，その量は問題にならない。天然ガスは，新潟市を中心に直江津・柏崎(かしわざき)や佐渡島の国中平野に多く，産出量18.9億m³(1975)，全国の78％を産し，パイプラインで東京へも送られている。そのほかの地下資源としては，上越や下越の各地に豊富に分布する石灰石があるが，上越の親不知海岸で採掘され，電気化学工業青梅(おうみ)工場で，セメント・カーバイド，明星(みょうじょう)セメント糸魚川工場でセメントの原料となっているほかは，ほとんど未開発である。江戸時代からの歴史をもつ佐渡金山は，細細と採掘を続けている状態で，下越の赤谷(あかたに)鉄山は，釜石・八茎(やぐき)(福島県)に次いで，わが国第3の産出高をあげている

が，その量は問題にならない。また中頸城郡妙高高原町関川その他に，少量のウラン鉱床があり，採掘されている。水力発電は信濃川・阿賀野川両水系が中心で，全国有数の電源県となり，86の発電所で最大出力計118万kWの発電量をもっているが，現在では全国的な傾向に従って火主水従となり，20か所計127万kWの火力発電所の方が優位に立っている。東京電力が柏崎市とその北隣の刈羽（かりわ）郡刈羽町にまたがって，最大出力800万kWという世界最大級の原子力発電所をつくる計画をもっているが，住民との話し合いがまだついていない。東北電力も西蒲原郡巻町に400万kW級の原子力発電所建設の計画中である。工業は，繊維・一般機械器具・食料品・金属製品・鉄鋼・化学・石油，石炭製品などの諸工業の順で，工業製品年間出荷額は1兆9,009億円（1974）で全国第18位を占める。近代工業では，新潟・柏崎両市の化学・紡績・機械・精油，西頸城郡青梅（おうみ）町の電気化学，上越市直江津地区の製鋼などがおもなもので，最近は国道17号線沿いの小出（こいで）・六日町・塩沢へ電機部品工場の進出が目だっている。新潟市を中心に新津・新発田・白根の４市と６町11村を含む地域は1963年新産業都市に指定され，1969年に新潟東工業港が開港して鉄鋼・石油・機械・造船関係のコンビナートの建設が進んでいる。湿潤気候を利用した伝統的な機業から発展した繊維工業の年間出荷額は1969年に1,307億円に達し，米の政府買い上げ額1,210億円をはじめて上回った。1974年の出荷額は2,210億円である。小千谷の縮，十日町の絹織物，加茂の羽二重，塩沢の御召（おめし）などの機業生産は古くから名高く，五泉市のニット製品，栃尾・見附両市の合成繊維織物も最近生産が増加してきている。主としてアメリカ合衆国に輸出している燕（つばめ）市のナイフ・フォーク・スプーンは全国生産の95％，その他の洋食器と調理用具は85％を占めるが，合衆国政府の輸入規制のために苦況に陥っている。また，三条市の金物の生産も名高い。加茂市にキリを材料とするたんすの特産がある。



新潟県　新津市小合のチューリップ畑。赤・白・黄色と目にしみるようなあざやかな色彩を繰り広げる。チューリップは年間約3,500万球を出荷し，全国生産の40％を占めている

【交通・都市】３方を嶮峻（けんしゅん）な山地に囲まれて，交通の発達は遅れたが，北陸街道が畿内（きない）から通じ，中世以前は琵琶湖（びわこ）西岸を，近世以降は東岸を経て，県域では親不知～直江津～柏崎～新潟の経路をとっていた。江戸時代には江戸と佐渡を結ぶ北国街道が開かれ，中山道（なかせんどう）の信濃追分から北上して，長野・高田を経て直江津で北陸街道と合流し，三国街道は中山道の高崎から分かれて三国峠越えで長岡に達していた。明治以後，鉄道や道路の開発が進み，1931年上越線が高崎から長岡まで開通し，1947年に電化されて東日本との連絡網が完成した。現在の上越線は東京～新潟間を約５時間で結んでおり，上越新幹線も建設中である。直江津で合する信越本線・北陸本線は東京や阪神地方と結ぶ主要路線で，北陸本線は1969年に複線電化工事が完成した。東北方面には羽越本線・磐越（ばんえつ）西線が走り，飯山線・越後線・白新線・米坂（よねさか）線は，越後交通（バス）・蒲原鉄道（電車）・新潟交通（電車・バス）とともに県域各地を結ぶ。道路交通では，旧街道沿いに数本の国道が通じており，新潟市を中心に国道17号線が三国峠下の三国トンネルを貫通して東京へ，７号線・８号線が北の青森，南の京都へ延び，直江津から南下して高崎へ通ずる18号線とともにバス・トラックなどの主要道路となる。そのほか，日本海沿いに新潟・柏崎を結ぶ116号線，柏崎と会津若松を結ぶ252号線，直江津と六日町を結ぶ253号線なども県下各都市の連絡に役だっている。大佐渡スカイライン・弥彦山スカイライン・越後七浦シーサイドライン・奥只見電源開発道路などの観光道路も最近発達しており，北陸自動車道・関越自動車道も工事中である。海上交通は新潟・直江津の両港が中心で，江戸時代には西回り航路による米の輸送などが盛んであったが，現在は北海道や北九州の各港と物資の移出入を行なっており，新潟東工業港の完成によって今後の発展がさらに期待される。佐渡と結ぶ航路は新潟～両津，直江津～小木の二つのフェリーボートの定期便があり，それぞれ２時間20分と２時間30分で連絡し，また新潟～両津の高速水中翼船（ジェットフォイル）は55分で本土と佐渡を結んでいる。佐渡（小木）～能登（珠洲（すず））のフェリーボートも就航している。新潟空港からは東京・大阪・札幌（さっぽろ）への定期便があり，佐渡（両津）へも25分で連絡している。また1973年から新潟～ハバロフスク間の定期便が，日本航空とソ連アエロフロート機との相互乗り入れによって実現している。主要都市は，県庁のある新潟市，経済都市の長岡市，工業都市の柏崎市，旧城下町の高田と新興の工業都市直江津の合併した上越市などで，その他は城下町や宿場町に起源をもつ都市が多く，機業地帯・油田地帯・穀倉地帯の中心として発展している。都市の大半は新潟平野に集まり，高田平野や十日町盆地などの山間盆地にも集落が多いが，県境山地に近づくにしたがって人口が希薄になる。海岸地帯には石置き板屋根の街村状集落が目だち，売薬・行商・大工その他の出かせぎが多く，農村地帯には積雪と関係のある中門づくりの民家が見られる。南魚沼郡の中心都市六日町や弥彦山東麓の弥彦温泉郷（西蒲原郡弥彦村）は国民保養温泉地に指定されて観光開発が進んでいる。小千谷・加茂・十日町・見附・村上・燕・栃尾・糸魚川・新井・五泉・両津・白根は1953年町村合併促進法の施行以来の新市である。

【歴史】古くは越（こし）の一部で，上代には先住民族越蝦夷（こしえぞ），大陸から渡来したとされる粛慎（みしはせ）人，高麗（こうらい）人の居住地となっていた。５～６世紀ごろ大和（やまと）朝廷の勢力が延びるにつれて，蝦夷は北へ移住し，647（大化３）～648年には北部に渟足柵（ぬたりのき）・磐舟柵（いわふねのき）が設けられ，蝦夷経営の前哨（ぜんしょう）基地となった。天武天皇のころには越前・越中・越後の３国に分かれ，702年（大宝２）には越後の国府が直江津に置かれ，佐渡は743年（天平15）に同国へ編入されたが，752年（天平勝宝４）にまた分離し，その後両国の領域が一定した。佐渡の金，越後の石油はすでに開発されて中央にも運ばれており，大化の改新以後は交通路もしだいに整備された。しかし中央から遠く離れ，三方を山に囲まれた地形のために平安時代以降江戸時代に至るまで，遠流の地として利用された。中世以降は城氏や源義仲（よしなか）が勢力をふるい，室町時代には守護の佐々木・名越・上杉（うえすぎ）の各氏が越後を，大仏（おさらぎ）氏が佐渡を統治したが，戦国末期には春日（かすが）山に本城を置く上杉謙信の支配下にはいった。やがて豊臣秀吉（とよとみひでよし）が天下を統一すると，1597年（慶長２）に堀（ほり）・溝口（みぞぐち）・村上の各氏に統治させた。江戸時代にはいると幕府は分割統治策をとって大小11藩のほか直轄地を多く設けた。おもな藩には高田・長岡・新発田・村上の４藩があり，幕末には榊原（さかきばら）氏が高田藩十五万石，牧野氏が長岡藩七万四千石，溝口氏が新発田藩

五万石，内藤氏が村上藩五万石を領していた。また佐渡は相川金山を控えて全島が幕府の天領となり，巨額の金の産出は幕府の重要財源となった。産業も著しく進んで，農民の積極的な新田開発によって新潟平野は全国有数の米産地となり，信濃川水運や西回り航路によって江戸・大阪へ積み出され，特産としては越後縮や米山の当帰，弥彦山の黄蓮(おうれん)などの生薬が知られる。明治時代にはいると1871年の廃藩置県によって，越後は新潟・柏崎・相川の各県が置かれたが，1873年に新潟県に統合され，1886年福島県から東蒲原郡を移管して現在の県域が確定した。〔浅井得一〕

にいがた【新潟(市)】 新潟県北西部，県庁のある市。人口44万5,000。古くから日本海沿岸の重要港で，江戸時代には信濃(しなの)川水運と西回り海運による米の移出入で栄え，幕末には日米修好通商条約*によって五大開港場の一つに指定された。明治以後は県庁が置かれて政治・経済・文化の中心となり，新潟港は日本海側唯一の特定重要港湾として中国東北や北朝鮮との大陸貿易が盛んであった。1964年(昭和39)6月の地震で，約30,000戸の家屋が被害を受けたが，1年足らずで復興した。1889年(明治22)市制施行。市域は新潟平野*の西部，信濃川の河口に沿って東新潟・西新潟に分かれ，その間を結ぶ万代橋は市のシンボルとして市民に親しまれる。東新潟には新潟駅のある沼垂(ぬったり)地区を中心として，化学・鉄鋼・造船・機械・肥料・製紙・紡績・製油などの工場が多く，最近は金融・商業地区としても発展している。西新潟には新潟港周辺の臨海工業地区および官庁街があり，海岸の砂丘地帯には新潟大学本部や住宅地がある。新潟港は第2次世界大戦以後は石炭の移入，鉱産物・肥料・わら工品などの移出で，北海道や九州との関係を深めている。最近信濃川の流砂のために港湾が浅くなったので，1969年から北方の阿賀野(あがの)川河口北岸の砂丘地帯に新潟東工業港を造成している。同港は日本海側最大の掘り込み港で，将来は10万トン級のタンカーも入港ができる予定で，ソ連との対岸貿易による発展が期待されている。産業三大別人口比は5：28：67。周辺の新潟平野は日本有数の穀倉地帯で，単作水田地域が開け，海岸の砂丘地帯にはナシ・チューリップの栽培が盛んである。1963年に周辺の新津(にいつ)・新発田(しばた)・白根の3市と6町11村を含めて新潟新産業都市に指定され，周辺部に産出する天然ガスを利用した重化学工業が急速に発展しているが，天然ガス採取と波浪侵食による地盤沈下が大きな問題となっている。信越本線の起点で，白新・越後(えちご)の両線が分岐し，国道17号線が東京と直結するほか，7号線・8号線・49号線・113号線・116号線が青森・京都・平・山形・柏崎(かしわざき)の各市と結ぶ。新潟空港からは東京・大阪・札幌(さっぽろ)・佐渡，ソ連のハバロフスクへ定期便が通ずる。〔浅井得一〕

にいがたじしん【新潟地震】 1964年(昭和39)6月16日新潟県を襲ったマグニチュード7.7の大地震。震源地は日本海粟(あわ)島の南10kmの地点。被害の中心地新潟市では地盤は沈下し，家屋約6,700戸が全半壊した。また石油タンク90基が15日間燃え続け，付近の民家約280戸を焼いた。民間の被害額は約2,000億円といわれる。



新潟市　市の中心部と信濃川。橋は河下(遠景)から万代橋，八千代橋，昭和大橋，国鉄越後線の鉄橋の順

にいがたにっぽう【新潟日報】 新潟市で発行されている地方新聞。第2次世界大戦時の新聞統合により，《新潟日日新聞》《新潟県中央新聞》《上越新聞》3紙が合併し，1942年(昭和17)11月1日発行された。発行部数朝刊で約38万3,000(1980)。

にいがたへいや【新潟平野】 越後(えちご)平野とも，蒲原(かんばら)平野ともいう。新潟県中央部，日本海に面した南北約100km，東西の幅25kmにも及ぶ紡錘状の沖積(ちゅうせき)平野。北は葡萄(ぶどう)山地に，南は東山・西山などの丘陵に限られ，平野南部は信濃(しなの)川，中部は阿賀野(あがの)川，北部は加治川・荒川・三面川などの堆積(たいせき)作用で形成され，海岸線に沿って新旧数列の砂丘が伸び，砂丘裏側には鳥屋野潟(とやのがた)をはじめ多くの潟湖(せきこ)が散在する。平野は主として低湿な三角州で占められているが，山麓(さんろく)にはこれらの河川により扇状地が形成されている。近世以来，低湿地の干拓が進み，越後米の産地として有名である。最近流砂の移動による海岸線の後退や新潟市一帯の地盤沈下が発生し，その対策が考えられている。平野には県庁所在地の新潟市をはじめ10市が集まっている。

にいかっぷぼくじょう【新冠牧場】 北海道日高支庁，静内郡静内町の西部地区にある牧場。1872年(明治5)北海道開拓使次官黒田清隆(きよたか)が静内川中流の広い段丘面を利用して種畜牧場を開発し，日高馬の改良が進められた。のち帝室御料牧場となり，第2次世界大戦後は農林省所管の種畜牧場として種牛馬の飼育研究，牧草の育種試験などが行なわれている。御園(みその)地区に事務所をもち，構内のサクラ並み木が花見客を集める。

にいざ【新座(市)】 埼玉県南東部の市。人口11万5,000。この付近は8世紀に新羅(しらぎ)人が移り住み，新羅郡が置かれたところで，それが新座(にいくら)郡となり，新座の地名が興った。中心集落部の大和田は江戸時代は川越街道に沿う宿場町で，周辺部は野火止(のびどめ)用水の開通後新田集落として開けた。1970年(昭和45)市制施行。市域は武蔵野(むさしの)台地の北東部，柳瀬(やなせ)・黒目の両川にはさまれた平坦(へいたん)部に位置し，南は東京都に接する。産業三大別人口比は3：41：56。米作のほか，水車を利用した伝統的な伸銅工業が行なわれていたが，第2次世界大戦後は各種の近代工場も増加し，住宅地化も進んだ。1965～1970年の人口増加率は110.7％，1970～75年のそれは40.3％に達する。東武鉄道東上線・国道254号線(川越街道)が通じ，関越自動車道の所沢インターチェンジに近い。周囲に野火止用水を巡らした平林寺には松平信綱(のぶつな)をはじめその一族の墓がある。

にいじま【新島】 伊豆(いず)諸島中の一



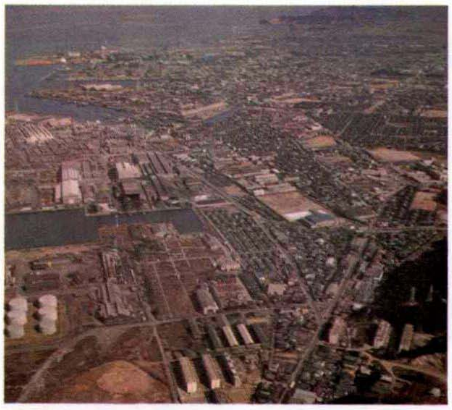
新潟平野　信濃川下流付近の新潟平野。遠景は新潟市。直線状に区画された水田が広がり，灌水・排水施設もゆきとどいている。遠くに信濃川の蛇行流路が見える

島で，大島の南南西50kmの海上にあり，南西方の式根島とともに東京都大島支庁新島本村を形成している。面積22.6km²。人口3,700。火山島で，北部に宮塚(みやつか)山(429m)，南部には大峰(301m)と向山(283m)があり，中央部に平地があって，その西海岸の前浜に中心集落の本村，北端に近く若郷の部落がある。前浜と東海岸の羽伏浦は，伊豆諸島では珍しいセキエイ粗面岩の白い単調な砂浜である。江戸時代には流人の島で，長栄寺の共同墓地をはじめ流人に関する史跡が多い。南西部の間々下海岸には温泉もあり，式根島をも含めて，全島が富士箱根伊豆国立公園の区域内にはいっている。わずかな耕地があり，また伊豆諸島では最も多くのブタを飼っているが，生活は漁業を主とし，ムロアジやクサヤモロでつくるくさやの干物は，伊豆諸島の中でも最高の品質である。最近は観光客が多く，民宿が急増している。向山付近から切り出される抗火石(白色の流紋岩)は，石材として加工が容易なため，民家からブタ小屋にまで利用され，また大量に移出されている。南部の羽端(はばた)地区には，防衛庁のミサイル基地がある。本村の南に黒根港があり，東京および下田への定期航路が開ける。羽端には，1955年(昭和30)に完成した日本で2番めにできた無人燈台がある。また1970年には全国でも珍しい村営飛行場が完成した。
〔浅井得一〕

にいじまじょう 【新島襄】 (1843～1890) 明治時代の教育者。同志社の創立者。江戸の生まれ。安中藩士の子弟として蘭学(らんがく)を学び，海軍訓練所に入所。1864年(元治1)国外へ脱出，渡米中キリスト教に入信し，アーモスト大学・アンドバ神学校などを卒業。その後岩倉全権大使渡米の際，随行して欧米の学事を視察した。1874年(明治7)キリスト教主義の大学設立を決意して帰国。官界の迎えを固辞し，京都府顧問山本覚馬，宣教師デービスの協力を得て，1875年11月同志社英学校(同志社大学の前身)を創設。初志のキリスト教主義総合大学設立を訴え，資金募集に努力しながら大磯(おおいそ)で病死した。〔赤司政雄〕

にいたかやま 【新高山】 ⇨玉山

にいちスト 【二・一スト】 第2次世界大戦後のわが国における最大の政治的労働闘争。敗戦によるインフレと食糧難がその極に達していた1947年(昭和22)，全官公庁労働組合(全官公)・全日本産業別労働組合会議(産別)・日本労働組合総同盟(総同盟)などで組織された全国労働組合共同闘争委員会(全闘)は，2月1日を期して吉田(よしだ)内閣打倒・民主人民政府樹立をスローガンに全国400万人に及ぶゼネスト*を決行しようとした。すでに前年末以来，労働陣営から，第1次吉田内閣に対し最低賃金制の確立など共同要求が提出されていたが，ここに日本社会党・日本共産党を含めた倒閣実



新居浜市　西側上空から見た新居浜市と新居浜港。埋め立て地に化学・機械・金属の大工場が立ち並び，その背後に従業員住宅地が広がる

行委員会も設けられて，吉田内閣は重大な危機に追い込まれた。しかしゼネストは決行直前の1月31日，連合国最高司令官マッカーサーによってゼネスト禁止が命令され，わが国の労働運動は大打撃を受けた。賃金の倍増，労働協約締結，全国労働組合連絡協議会(446万)結成などの成果もあったが，この事件を契機に，それまでの方針をめぐって労働運動内部に対立と分裂の傾向が生じた。〔高崎徳次〕

にいつ 【新津(市)】 新潟県北東部の市。人口63,000。古くから阿賀野(あがの)川の河港として開け，鎌倉時代には新津氏の城下町，江戸時代には六斎市の開かれる市場町であった。明治初期以来新津油田が開発され，大正中期には信越本線・羽越本線・磐越(ばんえつ)西線が集まり，機関庫・国鉄工場などをもつ鉄道の町として発展した。1951年(昭和26)市制施行。市域は新潟平野*の東部，信濃(しなの)川と阿賀野川にはさまれた東山丘陵の北端に位置する。産業三大別人口比は16：28：56。平野部の米や野菜類を集散し，信濃川筋の小合・荻川(おぎかわ)地区ではチューリップの特産がある。明治末に日本一の産量を誇った新津油田は，最近は老朽化して年産10,000klにも及ばない。新潟新産業都市に含まれ，ガラス・農機具などの工場が多く，最近は新潟市のベッドタウン化が進んでいる。

にいなめさい 【新嘗祭】〈しんじょうさい〉ともいう。秋の収穫期にあたり新穀を神に供え感謝の念をささげる祭り。農耕生活を基盤とした日本民族にとって，春の祈年祭*とともに重要な信仰的意味をもっていた。古くは宮中から民間に至るまで広く行なわれ，現在でも宮中では毎年11月23日から24日にかけて行なわれ，天皇は神嘉殿(しんかでん)において新穀を神々に供え，天皇自身も共食する。第2次世界大戦前は全国の神社で11月23日に国家的神事として行なわれていたが，戦後は制度的に廃止され，各神社で自主的にこの祭儀を行なっている。
〔土岐昌訓〕

にいにいぜみ 【にいにい蟬】 こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・セミ科。体長20～25mmで，同翅端まで32～40mm。体は細かい淡黄色毛でおおわれる。頭部と前胸部は主として暗緑色(死後は黄変することが多い)に黒色の斑紋(はんもん)がある。前胸背は側方に扁平(へんぺい)に突出し，側縁は角張る。中胸背は黒色で，中央に暗緑色のW状紋がある。前翅は無色の地に暗かっ色および灰かっ色の雲状紋があり，翅脈は暗黄緑色。後翅は外縁部が幅広く無色で，中央部は黒色。日本全土のほか，台湾・中国，アジアの熱帯地方に広く分布する。梅雨あけのころから出現し，9月初旬まで鳴き声が聞かれる。鳴き声は弱く，〈チィー……〉で始まって〈ジー……〉という連続音で終わる。コセミ・チイチイゼミなど地方によって種々の俗称がある。九州の南端部から奄美(あまみ)大島に分布するものは別亜種のツチダニイニイである。沖縄諸島と宮古諸島に近似種のミヤコニイニイが，奄美諸島と沖縄諸島にクロイワニイニイが，八重山諸島にはヤエヤマニイニイが産する。いずれも形態的にも鳴き声も似ているので区別がむずかしい。また，対馬(つしま)と朝鮮には秋に出現し，腹部に長毛のはえたチョウセンケナガニイニイが分布している。〔鈴木邦雄〕

にいはま 【新居浜(市)】 愛媛県東北部の市。人口13万5,000。元禄(げんろく)年間(1688～1703)以来，大阪の住友家所有の別子銅山の銅の積み出し港となり，明治初期惣開(そうびらき)に洋式精錬所が創設されて以来，近代工業が発展し，四国一の工業都市となった。1937年(昭和12)市制施行。市域は，北は瀬戸内海燧灘(ひうちなだ)に面し，西は西条市と接し，国領川流域に開けた東新平野の中心に位置する。産業三大別人口比は5：44：51。港湾施設の整った良港をもち，東予新産業都市の中核を占め，金属・機械・化学などの大工場があり，住友系のコンビナートを形成する。1973年に別子銅山が閉山したが，新居浜市はすでに銅山から離れた工業都市となっているので，その影響はあまりないものと考えられる。予讃(よさん)本線・国道11号線が通じ，新居浜港は船舶の出入が多い。

にいみ 【新見(市)】 岡山県北西部の市。人口29,000。中世に備中(びっちゅう)国新見庄(しょう)の上市・三日市(みっかいち)を中心に栄え，江戸時代には関氏一万八千石の陣屋が置かれた。1954年(昭和29)市制施行。中国山地と吉備(きび)高原にまたがる広大な市域を占め，中心市街は高梁(たかはし)川上流に沿う新見盆地の中心に位置する。産業三大別人口比は28：31：41。南部一帯は石灰岩の台地で，典型的なカルスト地形を示し，正田地区の小野田セメント工場を中心に窯業地帯が形成される。北部の千屋地区では〈千屋牛〉の放牧が盛んである。伯備線・姫新(きしん)線・芸備線・国道180号線・182号線が集まる。西部に阿哲峡(あてつきょう)，南部に井倉

洞(いくらどう)・羅生門(らしょうもん)・満奇洞(まきのあな)などの鍾乳洞(しょうにゅうどう)群があり，伯備線井倉駅から満奇洞へ観光バスが通ずる。

にいみなんきち【新美南吉】(1913～1943) 児童文学作家。愛知県の生まれ。本名正八。中学時代から児童文学を志し，卒業後《赤い鳥*》に《ごんぎつね》などを投稿して掲載された。東京外国語学校在学中は，詩・小説・童謡などの修業に専念し，1936年(昭和11)卒業後，喀血(かっけつ)して郷里に帰り，教鞭(きょうべん)を取りつつ創作活動を続けた。彼の作品は，少年の心理・感情の起伏を追ったものと，民話ふうのものに大別され，前者には《川》《屁(へ)》，後者には《和太郎さんと牛》《花の木村と盗人たち》などがある。南吉の活躍した時代は虚構性を排した〈生活童話〉が主流を占めていたが，彼は物語性に富み，人間の善意とペーソスにあふれる作品を書いて，児童文学界にユニークな位置を占めている。〔向川幹雄〕

にいんせい【二院制】 議会*が選出方法と権限をことにする二つの議院で構成される制度。欧米諸国の上院・下院，日本の参議院・衆議院などがこれである。この制度はイギリスで最初に貴族・高僧が，次いで市民や下級騎士・僧侶(そうりょ)が，国王の諮問機関として国政にあずかったという事情から生まれたが，王朝フランス，明治日本などでは，等しく国民代表の権限を抑制する目的で行なわれた。今日では，二院制は民主化され，貴族対庶民という構成はほとんどみられない。二院制の意義は一院だけでは議決が性急になりがちだから第二院を置いて熟慮・修正を加えさせることにあるとされている。しかし連邦国家や多民族国家などを除いては，公選によらない上院はとかく下院に現われた国民の主張を，保守的な立場から抑制しがちであるので，近年は各国とも，上院の権限を，単に一時的な拒否権に限ったり，上院議員も公選にしたりする傾向をみせている。〔鈴木安蔵〕

ニエプス［Joseph Nicéphore Niepce］(1765～1833) フランスの写真術研究家。暗箱を発明し，1826年感光性のある瀝青(れきせい)を使用して一種の凹版(おうはん)をつくり，今日の写真製版の基礎を築いた。1829年ダゲール*と共同研究の契約を結び，2人で写真術の改良を試みたが4年後に彼は没した。のち彼の甥(おい)のニエプス-ド-サン-ビクトルがそれを発展させ，映像をガラス板上に定着させることに成功した。

ニェムツォバー［Božena Němcová］(1820～1862) チェコスロバキアの女流作家。チェコ文学における新しいリアリズム散文の創始者として知られ，長編《おばあさん》は古典として，いまなお多数の愛読者をもっている。このほか，民話をテーマにした多くの童話・中編小説などがあるが，一方生涯(しょうがい)民族解放運動の不屈の戦士として過ごしたことでも知られる。



ニオイスミレ



二月革命 バリケードを築いて正規軍と戦うパリの国民軍・小市民・労働者

にお【鳰】 ⇨カイツブリ

においすみれ【匂菫】 双子葉植物・スミレ科。ヨーロッパ原産の多年草で，観賞用に栽培される。地下茎から匐枝(ふくし)を出して繁殖する。葉は卵円形で細毛がはえ，縁に鈍鋸歯(どんきょし)がある。3～5月，紫色の花をつける。かおりが非常に強く，香料をとるのに利用される。

におう【仁王】 仏法を守護するため寺院の門などに安置される1対の金剛力士。〈二王〉とも書く。一般に上半身は裸形のものが多く，忿怒(ふんぬ)相で表わされる。向かって右が口を開き，左が口を閉じ，両者をもって阿吽*(あうん)を表わすとされる。

ニオブ［niobium］ 周期律表第V族の金属元素。記号Nb，原子番号41，原子量92.9064。ニオビウムともいう。天然にはタンタル石・コルンブ石・フェルグソン石などにタンタルとともに産出する。灰白色の金属で，展延性に富み，ガスを吸蔵する性質がある。耐熱・耐食合金の添加物などに利用される。

ニオベ［Niobe］ ギリシア神話の女性。タンタロスの娘。7男7女(6男6女とも10男10女ともいう)の子宝に恵まれた。アポロンとアルテミスの2人しか子どものないレトに子どもの数を自慢したため，レトは怒って2人の子にニオベの子どもたちを殺させた。ニオベは悲しみのあまり石に化し，その石からはたえず涙が流れたという。

ニカイアこうかいぎ【ニカイア公会議】 ニカイア(いまのトルコのイスニク)で開かれた公会議。2回あり，第1回ニカイア公会議は325年コンスタンチヌス大帝によって召集され，アリウス派*が異端とされ，〈ニカイア信条〉が採択された。正統信仰の規範の確立という点で画期的である。第2回ニカイア公会議は787年ビザンチン女帝イレネが要請し，教皇ハドリアヌス1世の賛同のもとに開かれ，聖堂内の聖画像が復活された。東西両教会がともに認める最後の公会議である。〔石井忠厚〕

にがうり【苦瓜】 ⇨ツルレイシ

にかかい【二科会】 美術団体。1914年(大正3)10月創立。前年10月，文展洋画部内に起こった新旧2科に分けて鑑別すべしとの運動が当局に入れられなかったため，運動の中心となった石井柏亭(はくてい)・田辺至・津田青楓(せいふう)・梅原龍三郎(りゅうざぶろう)・柳敬助・山下新太郎・小杉未醒(こすぎみせい)・有島生馬(いくま)・斎藤豊作・坂本繁二郎・湯浅一郎らが文展を離れ，上野竹之台陳列館に二科美術展覧会を開き，在野団体として発足をみた。以後新傾向の作家を積極的に包容し，大正・昭和初期の洋画壇をリードした。安井曾太郎(そうたろう)・熊谷守一・中川紀元・小出楢重(ならしげ)・古賀春江・児島(こじま)善三郎・里見勝蔵・東郷青児・曾宮一念・国吉康雄(くによしやすお)・硲伊之助(はざまいのすけ)・藤田嗣治(つぐじ)ら洋画壇を代表する優秀作家を多数生んだ。1919年藤川勇造が入会して彫刻部が置かれたが，1930年(昭和5)児島・里見らが退会して独立美術協会を創立。1936年には石井・山下・有島・安井らが分かれて一水会を創立した。第2次世界大戦中の1944年解散したが，戦後の1945年9月東郷青児を中心に再建され，工芸部・理論部を設けた。1951年漫画部・商業美術部を，1953年写真部を設けるなど活動分野を広げ，毎年9月公募展を開催する。〔匠　秀夫〕

にがき【苦木】 双子葉植物・ニガキ科。雑木林に自生する落葉高木で，高さ10mに達する。茎や葉をかむときわめて苦い。冬芽は赤かっ色の毛でおおわれる。葉は互生する大形の羽状複葉で，長さ20～30cm，4～6対の小葉をもつ。各小葉は倒卵形で，縁に細かい鋸歯(きょし)がある。雌雄異株で，5～6月葉腋(ようえき)から円錐(えんすい)花序を出す。各花は直径5～6mmの黄緑花で，がく片・花弁ともに4～5枚。雄花には4～5本のおしべと退化しためしべ，雌花には4～5本に裂けためしべと退化したおしべがある。果実は長さ6～7cmの楕円(だえん)形で，青緑色に熟し，1～4個ずつ固まってつく。木部を乾燥したものは苦木といわれ，苦味健胃薬として用いられる。〔加藤僖重〕

にがくさ【苦草】 双子葉植物・シソ科。山野の湿った所に自生する多年草。根茎より長い伏枝を出す。茎は高さ30～40cmで直立する。葉は長さ5～10cm，幅2～3.5cmの卵状楕円(だえん)形ないし広披針(こうひしん)形で，長さ1～2cmの葉柄で互生する。7～8月，茎頂に長さ3～10cmの花穂に淡紫

色の花をつける。

にがつかくめい　【二月革命】

[1]1848年２月，パリに第二共和政*を成立させた革命。上層ブルジョアジーの寡頭支配となった七月王政*は，フランス資本主義の発展とともにしだいにその基礎が弱体化し，1846年から特に深刻化した経済的・社会的危機にも適切に対応する力を失っていた。中小ブルジョアジー・労働者は社会主義者を中心として各地で〈改革宴会*〉を組織し選挙法改革を要求していたが，1848年２月22日政府はパリにおける改革宴会を禁止したため，革命が勃発(ぼっぱつ)，市街戦ののち，24日ルイ-フィリップは退位し，次いで臨時政府が成立，27日正式に共和政(第二共和政)を樹立した。その結果，〈労働権〉の承認，労働者対策委員会，国立作業場の設立，普通選挙制などが実現した。そのため1848年は〈諸民族の春〉といわれ，その影響は全ヨーロッパに及び，各地に市民革命・民族運動を呼び起こした。　〔喜多迅鷹〕

[2]三月革命ともいう。1917年３月(ロシア暦２月)，ツァーリズムを倒したロシアの第２次ブルジョア民主主義革命のこと。

にがつどう　【二月堂】　⇨東大寺

にがな　【苦菜】　双子葉植物・キク科。山野に普通にみられる多年草で，茎や葉を切ると白い乳液が出る。高さ30cmほど。根出葉には長い柄があり，茎葉は基部で茎を抱く。５～７月，ふつう５個の舌状花からなる径1.5cmほどの黄色頭花をつける。近縁のタカネニガナは高山または亜高山の陽地にはえ，高さ10cmほどで，８～10個の舌状花からなる黄色頭花をつける。

にがびゃくどうず　【二河白道図】　〈二河白道変〉ともいう。中国，唐代の僧善導*の《観経疏(かんぎょうしょ)散善義》に説かれる二河白道のたとえに基づいて，その内容を図絵にまとめたもの。構図は必ずしも一様でないが，その基本は貪欲(とんよく)(むさぼり)と瞋恚(しんい)(いかり)に迷う衆生の姿を荒れ狂う水と火の二河にたとえ，そのような衆生の心に芽ばえた願往生心を西方浄土に通ずる白道にたとえ，またブッダの教示と阿弥陀(あみだ)の願意をかたく信じてひたすら浄土往生を願うありさまを白道を歩む旅人にたとえて描き，浄土信仰が築かれていく心理過程を巧みに図解して表現している。おそらく，浄土信仰を策励する目的と，その指針を端的に示す必要から生まれたものであろう。このような図写が流行したのは，法然*が《撰択集(せんちゃくしゅう)》にこのたとえを引用して以来，鎌倉以降のことである。右京区嵯峨(さが)の清凉寺や京都府乙訓(おとくに)郡長岡(ながおか)町の光明寺など各所に浄土教芸術としてもすぐれた古図を残している。なお，浄土宗では今日でも伝法作法の際にこの図を採用している。　〔大谷旭雄〕

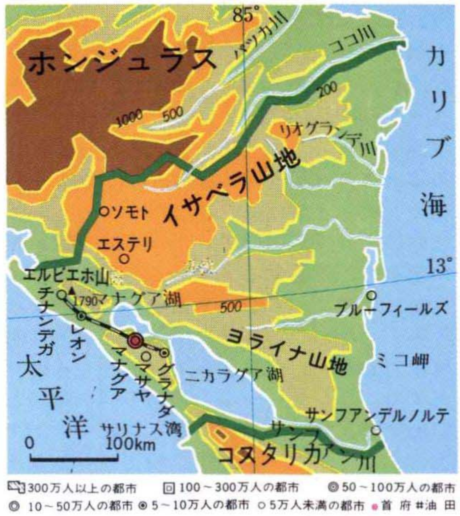
にかめいが　【二化螟蛾】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・メイガ科。体長９～13mm。翅(はね)を広げた長さ23～27mm。前翅は黄かっ色または暗かっ色で，外縁部に黒点列がある。後翅は白色。成虫はふつう５～７月と８～９月の年２回の発生で，これが名まえの由来となっているが，東北・北海道では年１回，四国高地では年３回の所があり，台湾では５～６回出現する。卵は１mm内外の平たい楕円(だえん)形で，葉先や葉鞘(ようしょう)に40～60個の卵塊として産卵される。幼虫はイネノズイムシまたはニカメイチュウといわれるイネの大害虫で，分散して茎に食い込み加害する。ニカメイチュウが発生した水田では，初期には茎が黄かっ色に変わり(流れ葉)，折れたり倒れたりする。また穂の下部を食われると，穂は実らずに白穂となる。老熟幼虫は体長20mm内外となり，淡かっ色で５本のかっ色の線が走る。蛹化(ようか)は，茎に円形または半月形の穴をあけてから簡単な繭をつくって行なわれる。第２化の幼虫は，わらや切り株の中で越冬する。イネのほか，トウモロコシ・サトウキビ・アワ・ヒエ・マコモなどにも加害する。日本全土のほか，台湾・中国・朝鮮・マライ半島・フィリピン・インド・セイロン・エジプト・スペイン・ハワイなどに広く分布する。本種の防除には，採卵捕殺，誘蛾燈の使用，BHC・パラチオンなどの農薬散布が行なわれ，近年はその被害が激減している。また，農薬散布の悪影響から最近では，ズイムシアカタマゴバチや，ズイムシクロタマゴバチなどの天敵利用が再認識されてきている。なお，本種に似てイネに加害し，年３回発生するものにサンカメイガ*がある。



ニガナ



ニガヨモギ





ニカラグア　首都マナグアの繁華街。狭い道路は，車や人の往来で雑踏している。住民には白人とインディオの混血が多い

にかめいちゅう　【二化螟虫】　⇨ニカメイガ

にがよもぎ　【苦艾】　双子葉植物・キク科，ヨーロッパないしアジア原産の多年草で，薬草として栽培されるヨモギの仲間。葉は２～３回羽状に裂け，７～８月に多数の淡黄色の小頭状花をつける。乾燥させた葉から精油をとるが，これで味つけしたリキュール酒をアブサン*という。全草に苦味があり，胃薬に用いられる。

ニカラグア(共和国)　［República de Nicaragua］　中央アメリカの共和国。国土は，西は太平洋，東はカリブ海に面し，北はホンジュラス，南はコスタリカに接している。面積は13万km²で中央アメリカ諸国中最も大きく，人口は270万(1979年推)。首都マナグア。

【自然・住民】国土は，大別して三つに分けられる。中央部の分水嶺(ぶんすいれい)山地は大西洋側に広い斜面をもち，北東貿易風を受けて雨が多く，カリブ海岸平野は分水嶺山地から発した河川の流域平野である。また太平洋岸のフォンセカ湾から，マナグア湖・ニカラグア湖・サンフアン川を経てカリブ海に達する低地は，パナマ運河と並んで，ニカラグア運河の候補地となったことがあ

り，ここに堆積(たいせき)した火山性土壌(どじょう)は肥沃(ひよく)で，この国最大の耕作地帯を形成し，人口の90%がこの低地，特にニカラグア湖周辺に住んでいる。住民はスペイン系ヨーロッパ人とインディオとの混血であるメスチソが約70%を占め，ほかに黒人とインディオがいる。公用語はスペイン語。

【産業・経済】中央アメリカ諸国中最も人口希薄で，貿易額も少ない。耕地は国土の5%に満たず，これをやや上回る草原では牧畜が行なわれる。特に国土の東半分は密林におおわれ，開拓されているところはバナナのプランテーションのある海岸地域と鉱山集落だけである。しかし首都マナグア市のあるマナグア湖周辺，およびニカラグア湖の湖岸から周辺の山腹にかけては開拓が進んでおり，マナグア市の南西部はコーヒー栽培の中心，ニカラグア湖東部は牧牛地域として知られている。コーヒー，ウシおよび牛皮はこの国の最大の輸出品である。

【歴史・政治】16世紀にここを征服したスペイン人は，この国をメキシコにあるヌエバエスパニア副王領の一部に加えた。19世紀にはいりラテンアメリカ諸国の独立があいついだとき，この国も約300年にわたったスペインの支配から脱し，グアテマラ・エルサルバドル・ホンジュラスとともに中米連邦共和国を組織して独立し，次いで1838年連邦共和国の解体とともに単独で独立国となった。政体は任期6年の大統領を元首とする共和制で，議会は二院制。現在の憲法は1950年に制定された。〔小栗　宏〕

ニカラグア(湖) ［Nicaragua］ 中央アメリカ，ニカラグア共和国の南部にある湖。面積8,000km²。水深70m，湖面は海抜32m。湖水はサンファン川となって東流し，カリブ海に注ぐ。湖中に約300の島々が点在し，最大のオメテペ島には高さ約1,500mの火山がある。

にがり 【苦汁】 海水や鹹水(かんすい)から食塩を採取した残りの母液。多量の塩化カリウム・塩化マグネシウムなどを含む。硫酸マグネシウム・炭酸マグネシウムなどのマグネシウム塩類の原料となるほか，豆腐の製造や運動場のほこり止めなどに用いる。

にかわ 【膠】 低品質のゼラチン。接着剤として古くから用いられてきた。動物や魚の皮や骨を熱水で抽出し，濃縮後冷却して凝固させたもの。淡黄かっ色～暗かっ色のガラス状の固体で，少量の水を加えて加温するとどろどろした液になり，冷却すると固まる。木材・紙・布などの接着剤として良好であるが，ボンド・アラルダイトなどの合成樹脂接着剤には及ばない。

にがわせしんようじょう 【荷為替信用状】 荷為替手形*につけられた銀行発行の信用状。輸入者(買い手)の取引銀行が，輸出者(売り手)または輸出地の銀行に対して，その輸入取引に関し輸入者の信用を保証した書状で，商業信用状の代表的なものである。この信用状に基づいて振り出された荷為替手形に対しては，信用状の発行銀行が手形上の責任を負うことを確認するので，この信用状がつけば，その手形は買い手の引き受け(支払いの承諾)だけで担保が解かれ，船積み書類*(荷物)が引き渡される。これに反し，信用状がつかないと，期限(3か月内外)がきて手形金を支払うまで，荷物の引き渡しは行なわれない。貿易用の信用状には，その有効期限まで発行銀行は取り消しも変更もできない取り消し不能信用状と，期限内でも特殊事情があれば取り消しのできる条件つきの取り消し可能信用状とがある。〔上坂酉三〕

にがわせてがた 【荷為替手形】 物品の売り手が，その輸送荷物を担保として振り出す為替手形*。船荷証券*や荷物引き換え証などが添付される。荷物が書類の形式で担保につくので荷付き手形ともいう。貿易取引では，1枚の荷為替手形の働きで，売り手の代金取り立ても，買い手の代金支払いも関連的に行なわれる。買い付けた荷物が手形の担保となっているので，手形が不渡りとなっても，荷物を処分して代金の回収ができ，また多くの場合，買い手側銀行の発行した信用状*に保護されて手形決済に不安はない。また信用状のないものには，輸出手形保険という国営保険の制度があるので，これで損害を補うこともできる。〔上坂酉三〕

にきかい 【二紀会】 美術団体。1947年(昭和22)5月創立。1944年に解散した二科会は，第2次世界大戦終了後直ちに再結成されたが，旧二科会の会員の黒田重太郎・栗原(くりはら)信・田村孝之介・中川紀元・鍋井克之(なべいかつゆき)・正宗(まさむね)得三郎・宮本三郎・横井礼市らは参加せず，旧二科会の活動を第1期とし戦後第2の紀元をつくる趣旨を会名に選び，1947年9月東京都美術館に第1回展を開催し，その後毎年秋に公募展を開き，現在に至る。洋画・彫刻の2部からなる。〔匠　秀夫〕

にきかい 【二期会】 オペラを研究，発表する団体。1952年(昭和27)に東京芸術大学音楽学部および旧東京音楽学校の出身者を中心に柴田(しばた)睦陸を委員長として組織された。以後20年間に数々のオペラの名作を紹介し，日本の創作オペラにも貢献した。

にきさく 【二期作】 同一作物を年に2回くり返し栽培すること。特にイネについていう場合が多く，この場合一期作は極早生の早熟性品種を用い，7月中・下旬に刈り取り，二期作めは7月下旬に田植えする。二期作めの品種は稲熱病に強い，感光性の高い品種を用いて出穂期が遅れぬようにする。日本では，高知・宮崎両県などの暖地で行なわれている。

ニキシュ ［Arthur Nikisch］ (1855～1922) ドイツの指揮者。ハンガリーの生まれ。ウィーン音楽院を卒業。1878年ライプチヒ歌劇場の副指揮者となり，1882年同歌劇場の正指揮者となる。1889年ボストン交響楽団，1893年ブダペスト王立歌劇場の指揮者としだいにその地位を高め，1895年よりベルリン-フィルハーモニー交響楽団の指揮者となった。客観的・理知的な指揮の先駆者といわれている。

ニキーチン ［Ivan Savvich Nikitin］ (1824～1861) ロシアの詩人。地方の商人の家に生まれ，商人で終始した。詩はネクラーソフ*の影響を受け，農民や下層民の生活を同情的に描いた。叙事詩《富農》では，ある農夫が貧窮に陥り仲間の農夫の小作人に落ちぶれていく過程が語られている。

にきび 【面皰】 尋常性痤瘡(ざそう)の俗称。毛囊(もうのう)に一致してできる丘疹(きゅうしん)と膿疱(のうほう)をいうが，ときには非化膿性のものをもいう。顔，特に額・ほおに多く，胸や背部の中心部にもできる。思春期に始まり25歳ごろに軽快するのが普通であるが，適当な治療をしないといつまでも治癒(ちゆ)しないこともあり，40歳近くになってできる人もある。性腺(せいせん)や副腎(ふくじん)皮質から分泌される男性ホルモン*の刺激で皮脂腺(ひしせん)が肥大・分泌増進し，そこに化膿菌*が関与して症状を悪化させる。そのほか胃腸障害や便秘による自家中毒も原因に数えられる。症状はまず毛囊に皮脂と角質が詰まって黄白色の脂肪の塊(面皰(めんぽう))を生じ，これを中心に周囲の皮膚が高まって赤い丘疹を生ずる。これが化膿疱となり，そのあとが小さな瘢痕(はんこん)となる。早めに治療して瘢痕を残さないことがたいせつである。せっけんでよく洗顔し，化粧品は油性のものを避け，刺激物や糖分の多い菓子類を控える。便秘や胃腸障害があればまずその治療を行ない，イオウのはいった外用液を塗布するとよい。➔痤瘡〔田嶋公子〕

にぎみたま・あらみたま 【和魂・荒魂】 神の活動を霊魂の働きとみ，静的な働きを和魂，動的な働きを荒魂とよんだ。《日本書紀》によれば，神功(じんぐう)皇后が征韓(せいかん)の際にスミノエノカミから〈和魂は王身(みついで)に従いて寿命(みいのち)を守らむ，荒魂は先鋒(さき)として師船(みいくさのふね)を導かむ〉と教えられたという。

にくいろ 【肉色】 色名。〈にくしょく〉ともいい，日本人の肉体のような色。黄みをおびた，ごく薄い赤色。〈肉〉といっても肉そのものではなく，皮膚のような色と解してよく，黄みのピンクぐらいと考えてよい。古くは〈肉〉を〈しし〉といったためか，肉色は〈ししいろ〉とよばれていた。

にくがそしき 【肉芽組織】 皮下の傷跡などに肉様に盛り上がってくる鮮紅色の新生組織。盛んに増生しつつある若い結合組織*の別名。組織学的には毛細血管に富む幼若な結合組織(主として繊維芽細胞)で，日時の経過に伴って繊維化し，硬度を増して瘢痕(はんこん)組織となる。広義には創傷治癒

(ちゅ)面に際してだけでなく，組織の再生不十分な場合，あるいは慢性炎症・腫瘍(しゅよう)などの場合にもみられ，生体の目的に合うように欠損部を補うために増殖する。肉の若い芽という意味から肉芽という。〔小坂井守〕

にくしつるい【肉質類】 原生動物・肉質虫超綱。単細胞生物で，一般に顕微鏡的な大きさである。流動的で変形しうる原形質からなり，その一部が突出して偽足をつくり，その形態によって根足虫綱と軸足虫綱に分類される。根足虫綱には，偽足が棍棒(こんぼう)状や葉状を呈するアミーバなどの変形虫類と，偽足が針状もしくは糸状になる糸状根足虫類，偽足が網目状になる有孔虫類が含まれる。これら根足虫類の偽足は，運動や摂餌(せつじ)に使われる器官である。軸足虫綱には，放散虫類と太陽虫類が含まれ，これらの偽足は軟弱で，糸状あるいは内部にややかたい軸をもった軸足などの状態となり，伸縮する以外の運動は行なわず，一般に水中に浮遊するのに役だっている。変形虫類および太陽虫類の大部分は淡水産で，一般に分布は広く，汎(はん)世界的な分布をするものが多い。また，有孔虫類や放散虫類などは，大部分海産である。生殖は，主として無性的な分裂による。〔向井　宏〕

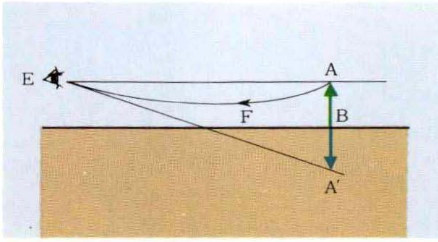
にくしゅ【肉腫】 非上皮性悪性腫瘍(しゅよう)の総称。上皮性悪性腫瘍の癌*(がん)と比べて，一般的に灰白色を呈して柔らかく，発育が破壊的で浸潤性である。転移は主として血行によって行なわれ，リンパ道を介するものは癌と異なってまれである。癌が老年者に多いのに比べて，肉腫は一般に若年者に多い。まったく未分化な肉腫(未分化肉腫など)と，一定の非上皮性組織に類似した構造を示す肉腫(繊維肉腫・脂肪肉腫・骨肉腫*・筋肉腫など)に分類される。

にくずく【肉荳蔲】 双子葉植物・ニクズク科。モロッコ原産の常緑高木で，高さ20mに達する。葉は革質の楕円(だえん)形で，長さ10cmほど，芳香がある。雌雄異株で，葉腋(ようえき)に鐘状で黄白色の三弁花をつける。果実は長さ5cm内外の卵状球形の漿果(しょうか)で，表面には細い毛があり，橙黄(とうおう)色に熟し，二つに裂ける。毎年，4・7・11月の3回収穫できる。種子は3cmぐらいで，まわりに赤い仮種皮があり，強い芳香性をもつ。また仁(ほとんど胚乳(はいにゅう))はナツメグ*とよばれ，ミリスチン・ムスカートカンフォールなど種々の香味を有し，薬用・調理用とされる。〔加藤僖重〕

ニクソン［Richard Milhous Nixon］(1913～　) アメリカの政治家，第37代大統領(在任1969～1974)。ホイッティア大学・デューク大学で法律を学び，弁護士となった。1946年，カリフォルニア州から共和党の下院議員に当選し，1950年上院議員となった。1952年アイゼンハワーの副大統領に選出され，1959年ソ連訪問の際にはフルシチョフ首相と有名な〈台所論争〉を展開した。1960年の大統領選挙では民主党のケネディに敗れ，1962年カリフォルニア州知事選挙にも敗れ，政治生命を絶たれたと思われたが，1968年カムバックして大統領に当選。〈法と秩序〉のスローガンで中産階級の支持を得，対外干渉の縮小，財政の健全化，政府機能の縮小に努力。1972年2月世界の注目を集めて中国を訪問，米・中共同声明を発表した。1974年8月ウォーターゲート事件の責任を問われ辞任。〔折井一彦〕



ニクソン



逃げ水

にくばなれ【肉離れ】 筋肉または筋繊維の断裂の俗称。外傷や収縮運動によって上肢(じょうし)・下肢の筋肉が切れて突発的な痛みを伴う。下腿(かたい)の場合はアキレス腱*(けん)断裂とまちがえることもある。直接に外力が加わらないのにスポーツや仕事中に起こり，しばらく痛みが続くが，軽度のものは安静と消炎剤の使用でしだいによくなる。重症の場合は手術で縫合する。

ニグロ ⇨次項

ニグロイド［Negroid］ 暗かっ色または黒色の皮膚，毬状毛(きゅうじょうもう)で，幅広く平たい鼻(広鼻)と通常厚い粘膜唇(ねんまくしん)を特徴とする人種*。身体形質は非常に多様である。この大分類に含まれる人種には次のようなものがある。①アフリカ黒色人種：森林ニグロは西アフリカの森林・草原に分布，長頭，高身長，黒い皮膚，広鼻である。ギニア亜人種は，身長166cmほどで，皮膚の色が淡く，著しく広鼻である。コンゴ亜人種は，身長低く(160～165cm)，中頭(78～80)，体毛が発達する。色は黒く突顎(とつがく)。②ネグリロ人種：カメルーンから大湖地方に分布する採集狩猟民で低身長(150cm)，黄かっ色の皮膚，毬状毛，目はかっ色で，中頭(79)である。③コイサン人種：アンゴラ南部，カラハリ砂漠(さばく)周辺に分布する。黄色っぽい皮膚に髪は黒くちぢれ，女性ではステアトピギーがある。ブッシュマンは低身長(151～157cm)，中頭(75～77)，ホッテントットは中身長(161cm)，長頭(72～73)である。④ドラビダ人種：デカン高原に分布する。中鼻で，厚いくちびる，ちぢれ毛，中頭(76)をもち，中身長(162cm)である。⑤ネグリト人種：オセアニアピグミーで，アンダマン島，マライ半島，フィリピン群島，ニューギニアに分布する。著しい低身長で，皮膚の色はチョコレート色から黒色，極端なちぢれ毛で，体毛も薄い。短頭ないし中頭，突顎で，くちびるも比較的厚く，広鼻。オーストラロイドとして独立の人種群を設ける場合もある。⑥メラネシア人種：ニューギニア・ビスマルク諸島・ソロモン群島・ニューヘブリデス島・ニューカレドニア・フィジー諸島に分布し，中身長(160～165cm)，長頭，突顎，くちびるが厚く，広鼻で，皮膚の色は，赤かっ色から黒色にわたる。毛はちぢれている。〔鈴木　尚〕

ニクロムせん【ニクロム線】 ニッケル60～90%，クロム12～20%の二元合金を土台とする合金。電気抵抗が大きく，おもに電熱線・抵抗線などに使われる。高温でも軟化せず，耐酸・耐アルカリ性が強く，諸種のガスにも侵されにくい。また，高温加熱後も脆化(ぜいか)せず，強度が大きく，加工も容易である。ニクロム線には，約1,100℃までの使用に耐える第1種と，900℃以下に用いられる第2種とがある。

ニケ［Nike］ ギリシア神話の女神。ヘシオドスによればステュクス(冥府(めいふ)の川で神々の誓約を監視する)の娘。はじめは戦争の勝利の象徴であったが，やがて戦争だけでなく，芸術を含めたすべての競技の勝利がこの神に祈願され，勝利，卓越した技量，女の美などをたたえる神とされた。ペルシア戦争後一般に広まり，美術などでは有翼の女神として描かれた。ローマ神話ではビクトリアにあたり，元老院内にその祭壇が祭られていた。〔左中庸博〕

にげみず【逃げ水】 蜃気楼(しんきろう)の一種。晴天の日に裸地・砂地・道路面などに，遠くから見ると水たまりがあるように見える。地物がさかさまに映って見えることもある。強い日射により裸地・砂地・道路面に接する気層は50℃以上にも上昇して，地上1m内外のところでの上下の空気は温度・密度の著しく異なった気層となる。光線の屈折の法則により，図に示すように目の位置にあたるE点では遠方の地物ABのA点からの光線は$\overrightarrow{AE}$のように直進する光線と曲線AFEのごとく屈折し曲がった経路を通り，あたかも地面で反射されてくるように見え，A点はAとA′の二つに見えABは倒立する。水平の天空からの光線も同じ理由で地面が鏡のような作用をする。自然の景観で鏡のような作用をするものは水面であるから，天空の映像を水たまりと誤認することにな

る。〔小沢　正〕

にげんきん【二弦琴】 長さ約1mの板に2本の弦を張った琴。江戸後期から大正時代にかけて用いられた。2種あって，古いものは八雲琴といい，独特の曲をもっている。新しいのは東流(あずまりゅう)二弦琴といって，明治初期に俗曲をレパートリーにして藤舎蘆船(とうしゃろせん)が多少形を大きくするなど改良を加えたもの。

にげんろん【二元論】 一元論*に対立するもので，実在は相対立する二つの原理によって説明されるという考え。宗教では善と悪，神と被造物，光とやみなどの形で古くからみられる。ギリシア哲学では形相と質料という形でプラトン・アリストテレスにみられるが，これは中世に受け継がれ，キリスト教の影響を受けて霊と肉，善と悪の二元論の形をとる。近代哲学においては，思惟(しい)を属性とする精神と延長を属性とする肉体の二元論を説くデカルト，物自体と現象，先験的形式と感覚的素材を対立させるカントに代表される。二元論の難点は相対立する二つの原理をいかにして関係づけるかにあるが，アリストテレスやプロチノスは発展という形で関係づけようとし，スピノザは唯一の実体である神の異なった表現とみなそうとした。〔玉井　治〕

にごい【似鯉】 硬骨魚類・コイ科。全長60cmに達する淡水魚で，平野部の湖沼や河川にすみ，汽水域にも下る。北海道を除く日本のほぼ全土に分布するが，四国の太平洋岸および九州の南部には産しない。底層近くを泳ぎ，4～6月ごろ産卵する。底生の小動物を食べる。春に美味で，さしみ・てんぷらにされる。

にこうじけん【尼港事件】 日本のシベリア出兵*中に起こった紛争事件。1920年(大正9)2月日本軍はニコライエフスク(尼港)でパルチザン*に降伏し，撤退の協定を結んだ。しかし，一方的に協定を破棄して奇襲を試み，惨敗して残兵・居留民122名が捕えられた。5月日本の援軍派遣を知ったパルチザンは捕虜全員を殺害して撤退し，日本はこれを機に反ソ宣伝を展開するとともに，北樺太(きたからふと)(サハリン)を保障占領した。賠償も要求したが，逆に非を追及され，1925年要求を撤回した。〔応和邦昭〕

にこうていり【二項定理】 二項式の累乗の展開を示す式。$(a+b)^2$，$(a+b)^3$ の展開式は，それぞれ$a^2+2ab+b^2$，$a^3+3a^2b+3ab^2+b^3$で示され，一般に二項式のn乗の展開式は，

$$(a+b)^n={}_nC_0a^nb^0+{}_nC_1a^{n-1}b^1+\cdots\cdots+{}_nC_ka^{n-k}b^k+\cdots\cdots+{}_nC_na^0b^n=\sum_{k=0}^{n}{}_nC_ka^{n-k}b^k$$

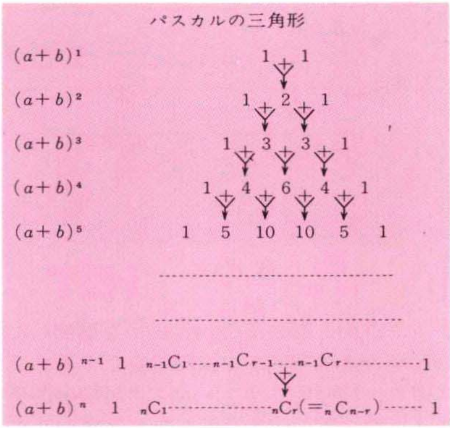
となる。これを二項定理という。ここで，${}_nC_k$はn個の異なったものからk個をとる組み合わせの数で，

$${}_nC_k=n(n-1)(n-2)\cdots\cdots(n-k+1)/k!$$

を表わし，これを二項係数という。



ニゴイ



二項定理

この定理は，14世紀ごろ中国で知られていたが，係数の間の関係を明らかにしたのはパスカル*で，その関係を利用して，nの値を1ずつ大きくしたときの二項係数を次次に求めることができる。このような二項係数を表にしたものをパスカルの三角形という。この場合に，もとになっている係数間の関係は，${}_nC_r={}_nC_{n-r}$と${}_nC_r={}_{n-1}C_r+{}_{n-1}C_{r-1}$である。第1の関係から，表の数値が左右対称であることがわかり，第2の関係からある段の数値はすぐ上の段のそれをはさむ位置にある2数の和になっていることがわかる。パスカルの三角形を利用すると，たとえば$(a+b)^5$を展開したときの係数はその上から5段めを見て，

$$(a+b)^5=a^5+5a^4b+10a^3b^2+10a^2b^3+5ab^4+b^5$$

が得られる。

二項定理は，指数が実数の場合に一般化することができる。すなわち，αを任意の実数として${}_\alpha C_0=1$，${}_\alpha C_k=\alpha(\alpha-1)(\alpha-2)\cdots\cdots(\alpha-k+1)/k!$とすれば，

$$(1+x)^\alpha=1+{}_\alpha C_1x+{}_\alpha C_2x^2+\cdots\cdots+{}_\alpha C_nx^n+R_{n+1}$$

ただし，$R_{n+1}={}_\alpha C_{n+1}(1+\theta x)^{\alpha-n-1}x^{n+1}$となる。特に，$|x|<1$のときは$\sum_{k=0}^{\infty}{}_\alpha C_kx^k$と無限級数に展開できる。たとえば，

$$\left(1+\frac{1}{3}\right)^{\frac{1}{2}}=1+\frac{1}{2}\left(\frac{1}{3}\right)-\frac{1}{8}\left(\frac{1}{3}\right)^2+\frac{1}{16}\left(\frac{1}{3}\right)^3-\cdots\cdots$$

である。〔菊池兵一〕

にこうぶんぷ【二項分布】 独立試行を何回かくり返す場合，ある事象がどのくらいの確率*で起こるかを示す確率の分布。5枚の銅貨を投げて，表の数Xを調べるとする。このXの取りうる値は0，1，2，3，4，5のどれかで，その一つの値rに対し$X=r$となる確率p_rは下の表のようになる。

r	0	1	2	3	4	5
p_r	$\frac{1}{32}$	$\frac{5}{32}$	$\frac{10}{32}$	$\frac{10}{32}$	$\frac{5}{32}$	$\frac{1}{32}$

このように，変数Xの取りうる値の集合と，その値をとる確率の組を，Xの確率分布という。特に，取りうる値が0からnまで整数であって，$X=r$となる確率$P(X=r)$が，

$$P(X=r)={}_nC_rp^rq^{n-r}\quad r=0,1,2,\cdots n$$

(ただし，$0<p<1$，$q=1-p$，${}_nC_r$は二項係数)

であるとき，これを二項分布という。

たとえば，独立にn回くり返して事象Aを観察したときのAの起こる回数Xは二項分布にしたがう。n人に対し，ある意見についてその賛否を調べたとき，賛成者数Xも二項分布にしたがうと考えられる。

上記の二項分布の平均はnp，分散はnpqである。二項分布はnpがある程度大きい値であれば，平均np，分散npqの正規分布とみなしうるので，正規分布の数表を用いて処理することができる。〔小西勇雄〕

にこごり【煮凝】 煮凍とも書く。魚などの煮しるが寒さのために凍って固まったもの，または味つけした魚肉類を煮てさまし，煮しるとともに固まらせた料理。後者は流しものの一種。材料のもつにかわ質(タンパク質のコラーゲン)によって固まるが，寒天やゼラチンを加えて流し固めることも多い。アナゴ・カレイ・ヒラメ・ホシザメ・コチ・ハゼなどが用いられる。

ニコシア［Nicosia］ キプロス共和国の首都。人口12万(1975年推)。キレニア山脈とトロドス山脈の間に横たわるメサオリア平野の中央部北寄りに位置し，北のキレニア，東のファマグスタ，南のナルナカの各海港を結ぶ幹線道路の中心をなし，商工業の中心である。古代から，東西文化の接点であり，支配者の交替がくり返された。古い城壁の内側にさらにベネチア人の築いた城壁が巡らされているが，紡織・食品加工などの軽工業の発展で，いまの市街はそれを越えて拡大している。〔今井留吉〕

ニコチン［nicotine］ タバコの葉に含まれるアルカロイドの一種。ほぼ無色の油状の液体で，不快臭をもつ。水溶液は弱アルカリ性を示し，酸化するとニコチン酸*になる。毒性が強く，中枢神経・末梢(まっしょう)神経を興奮させ，腸や血管を収縮させる。喫煙やたばこ工場の粉塵(ふんじん)の吸入でニコチン中毒を起こす。➔ニコチン剤

ニコチンアミドアデニンジヌクレオチド ⇨NAD

ニコチンアミドアデニンジヌクレオチドりんさん［ニコチンアミドアデニンジヌクレ

レオチド燐酸】 ⇨NADP

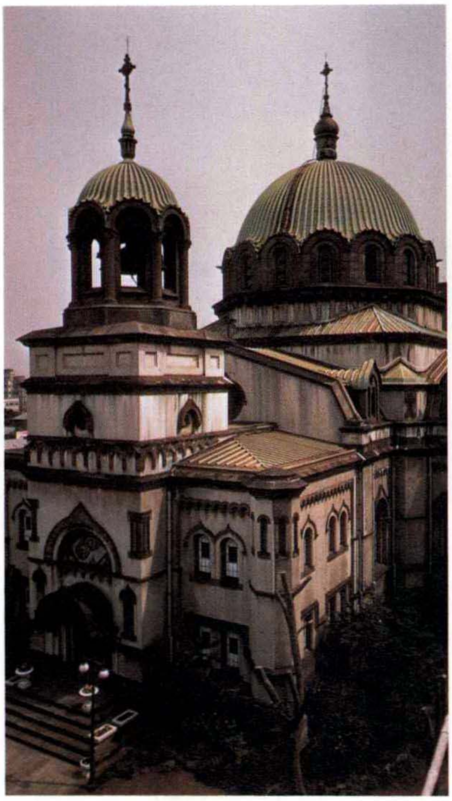
ニコチンざい 【ニコチン剤】 ニコチン*を主成分とする殺虫剤。かなり古くからたばこ粉あるいはたばこの水抽出物として使用されていたが，現在ではほとんど硫酸ニコチンとして使用されている。硫酸ニコチンは今世紀初期にわが国に導入され園芸害虫の駆除になくてはならないものであった。適用害虫はアブラムシ類・スリップス類・ハバチ類・シンクイムシ類など。

ニコチンさん 【ニコチン酸】 ニコチン酸アミド*と同じく風土病ペラグラの予防因子として，米ぬか・肝臓エキスなどから分離された水溶性ビタミン。白色の結晶で，融点234～237°C。現在は合成法によって製造されている。生体内ではニコチン酸アミドの形で重要な反応に関与しているが，生理作用としては血管を拡張させたり血行をよくしたりする。また細動脈弛緩(しかん)作用もあり，頭痛・頭重感にも効果がある。1日50～100mgを投与するが，皮膚紅潮・発汗・吐きけなど一過性の副作用を示すことがある。 〔谷村顕雄〕

ニコチンさんアミド 【ニコチン酸アミド】 トウモロコシを主食とする地方の風土病ペラグラ予防因子として発見された水溶性ビタミン。白色の結晶で，合成法によって製造される。生体内ではタンパク質と結合し，NAD*・NADP*となって生体の酸化還元反応に関与している。ペラグラ治療・狭心症・頭痛・しもやけなどに1日50～200mgを投与する。➔前項

ニコチンちゅうどく 【ニコチン中毒】 主として過度の喫煙やたばこ工場の粉塵(ふんじん)吸引などによって起こる急性・慢性の中毒。タバコの葉に含まれるニコチン*は猛毒で，作用は強く速効性である。皮膚・口腔(こうこう)粘膜から吸収され，すみやかに中毒作用を起こし，自律神経節の接合点を侵して両自律神経を興奮させ，しだいに麻痺(まひ)を起こす。多量に吸収されると死に至る。1～4mgで急性中毒症状を現わし，0.16～0.6gで致死量といわれている。急性中毒は，頭痛・悪心(おしん)・嘔吐(おうと)・視力障害・循環不全・痙攣(けいれん)などが起こる。慢性中毒では，かなりの量でも耐えられるが，気管支炎・偏頭痛・血圧上昇を招き習慣性を生じる。なお，死体では消化管系統に充血がみられる。 〔朝倉　了〕

ニコバル(諸島) ［Nicobar］ インド洋，ベンガル湾の南東，スマトラ島の北西に位置する19の島からなる群島で，総面積1,638km²。主要な島は大ニコバル・小ニコバル・カーニコバルである。雨量は多いが，川は大ニコバル島にしかない。産業はココヤシを主とし，林業を行なう。住民はビルマ人とマライ人の混血で，インドシナのモンクメール語系のことばを話す。18～19世紀にオーストリア・デンマーク・イギリス・フランスの植民地となり，1869年からイギリスの植民下に置かれ，第2次世界大戦中は日本軍が占領し，戦後インド領となった。現在アンダマン諸島とともにインド共和国の直轄地となっている。 〔大崎　晃〕



ニコライ堂

にこよん ⇨日雇い労働者

ニコライ ［Nikolai］ ロシア皇帝。

①1世 Pavlovich Romanov（1796～1855） 在位1825～1855年。デカブリスト*の反乱を鎮圧しアレクサンドル1世*の跡を継いだ。治世は資本主義発展と農奴制崩壊の時期にあたり，貴族およびインテリゲンチアの革命運動がようやく高揚していたが，ニコライ1世は地主・農奴主の権力を守り，革命と自由思想に反対して軍事・警察の独裁体制を打ち立てた。1826年5月農奴制堅持を宣言し，同年〈皇帝官房第三部〉(国家保安秘密警察)を設け，作家・学者を弾圧，検閲を強化した。1830～1840年代に行なわれたいくつかの改革は，体制を部分的に手直しして農奴制の危機を切り抜けようとし，同時に発展しつつあるブルジョアジーに対しても若干譲歩したものである。外交上では1830年フランス・ベルギーの革命運動に武力介入し，ポーランド・ハンガリーの民族運動を弾圧するなど，〈ヨーロッパの憲兵〉の役割を果たし，〈東方政策〉によってイギリス・フランス・オーストリアと対立した。1855年2月クリミア戦争*中に病死。

②2世 Aleksandrovich Romanov（1868～1918） 在位1894～1917年。帝政ロシア最後の皇帝。アレクサンドル3世の長子。1891年皇太子時代に来日して大津事件に会う。1895年ゼムストボ*と都市代表を前にした演説で，専制の護持を言明，その陳情を退けた。1905年1月9日の血の日曜日*事件はロシア革命の発端となり，革命運動の高揚に対して〈十月宣言〉を発して，革命の回避に成功すると，その後は宣言に盛られた市民的権利を無視して過酷な弾圧を加えた。外交上では帝国主義的な対外政策を遂行し，諸外国の民族解放運動を弾圧した。第1次世界大戦に際しては最高軍司令官となり，全軍の指揮をとったが，軍事的無能によって危機を招き，ドイツとの単独講和を図ったが，二月革命*によって1917年3月ついに退位。1918年7月17日，チェコ軍のエカテリンブルグ進撃に際して家族とともに射殺された。 〔山県弘志〕

ニコライ ［Otto Nicolai］（1810～1849） ドイツの作曲家・指揮者。ベルリンで音楽を学んだのち，オルガン奏者としてローマにおもむき，さらにウィーンやベルリンの宮廷歌劇場楽長を歴任，また現在のウィーン-フィルハーモニー管弦楽団の前身であるフィルハルモニッシェ-コンツェルテを創設して，ベートーベンの交響曲をはじめ数多くの作品のすぐれた演奏を行なった。彼自身の作品には，多くのオペラ・宗教的作品・交響曲・室内楽などがあるが，中でもシェークスピアの喜劇に基づく歌劇《ウィンザーの陽気な女房たち》がよく知られる。 〔寺田兼文〕

ニコライ ［Nikolai］（1836～1912） 本名，イオアン-ディミトロビッチ-カサトキン。ギリシア正教会宣教師・大主教。ペトログラード神学校に学び，ゴローニン*の《日本幽囚記》に感銘，日本伝道を志す。1861年(文久1)函館(はこだて)のロシア領事館付き司祭として来日。いったん帰国したが1871年(明治4)再び来日し，翌年東京に出て伝道を開始，日本ハリストス正教会の開祖として業績を残した。また，ニコライ堂*は彼の努力によって建てられたものである。

ニコライエフスク ［Nikolaevsk-na-Amure］ 正式には，ニコラエフスク-ナ-アムーレ。ソ連の極東，ハバロフスク地方の港湾都市でアムール川河口から約80km上流にある。人口31,000(1959年推)。造船・水産加工などの工業があり，金・毛皮・水産物の集散地。1850年にできた港町で，南西方のハバロフスクが発展するまで，ソ連極東地方の要港であった。革命後の1920年3月，シベリア出兵*した日本軍が一時市を占領し，このため尼港事件*が起こった。

ニコライどう 【ニコライ堂】 東京神田駿河台(するがだい)にある日本ハリストス正教会の教会堂。1891年(明治24)完成時の大主教ニコライの名にちなむ。建物の最初の設計図案はロシア人のスチュルポフ，設計監督はこの案に基づいて詳細をコンドル*が行ない，当初の案の修正があったといわれる。そのためか，平面などおおよその構成はギ



ニコルソン《卓上の静物》
アバジーン美術館蔵

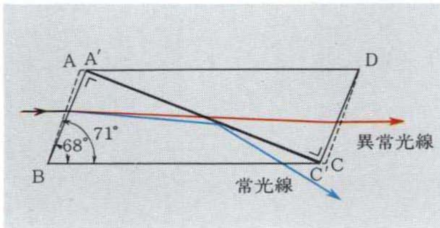
リシア十字形のビザンチンふうであるが，部分的にイタリア・イギリスの様式が混じる。工事は長郷泰輔(たいすけ)が請け負った。現在の堂は，関東大震災で四周の壁以外は焼け落ちたあとの，岡田信一郎*による復活の姿である。この再建は1929年(昭和4)に完成したが，当初のドームの底は八角，鐘楼は尖塔(せんとう)だったのが，ドームは円形で高さが変えられ，鐘楼は尖塔ではない。

ニコラウス(5世) [Nicolaus] (1397〜1455) ルネサンス初期のローマ教皇。在位1447〜1455年。イタリアのサルツァナの生まれ。バーゼル公会議後の混乱を収拾し，フリードリヒ3世を神聖ローマ皇帝として最後の戴冠式を行なった。また，学芸を保護・奨励し，バチカン図書館を創設した。

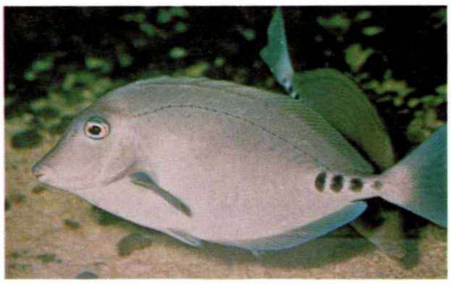
ニコラウス-クサヌス [Nicolaus Cusanus] (1401〜1464) ドイツの神秘思想家・教会政治家。理知は有限者を知りえても無限者を直観的にしかとらえないことの自覚をドクタ-イグノランチア(無知の知)とよび，まず絶対者は最大と最小，可能性と現実性とを合わせもつ反対の一致であることを幾何学的に例証した。さらに最善世界説・宇宙無限説を唱え，近代的個体観を説いてブルーノ・ライプニッツらに大きな影響を与えた。

ニコル [William Nicol] (1768〜1851) イギリスの物理学者。エジンバラ大学教授。1828年ニコルのプリズム*(ニコルともいう)を発明，光学実験の進歩に寄与した。また岩石・鉱物の薄片の作成方法を開発し，顕微鏡岩石学の基礎を築いた。

ニコルソン [Ben Nicholson] (1894〜) イギリスの画家。ロンドン・ミラノ・パサディナなどで絵画を学ぶ。初期の作品にはキュービスム*の影響が認められる。1930年以後モンドリアンから刺激を受け抽象画へ向かう。1933〜1934年パリのグループ展〈抽象-創造〉に参加。純粋な色彩で幾何学的に構成された作品は静的・構築的要素が支配的である。のちには再び具象性へ回帰し，抽象の経験を生かした新たな具象的表現をめざした。〔松本芳夫〕



ニコルのプリズム



ニ ザ ダ イ

ニコルのプリズム 方解石の複屈折を利用した直線偏光を得るための装置の一。偏光ニコルまたは単にニコルともいう。ニコル*が1828年にはじめてつくった。自然劈開(へきかい)面をもち十分な長さの方解石結晶(図)では，面AB，CDはAD，BCと71°をなしているが，これを削ってみがき68°にする。さらにこれを面A′C′に沿って二つに切り，カナダバルサムで再びはり合わせる。バルサムの屈折率は，常光線のそれより小さいが異常光線のそれより大きい。したがって光線がBC′にほぼ平行にはいると，常光線はバルサム面で全反射され，異常光線のみ結晶を通過する。これは直線偏光である。

にサイクルきかん [2サイクル機関] ⇨内燃機関

にざだい 硬骨魚類・ニザダイ科。全長40cmほどになる沿岸性の岩礁魚で，幼魚は潮だまりの中にもはいる。千葉県小湊(こみなと)以南，沖縄・台湾にまで分布している。神奈川県三崎(三浦市)でサンノジ・サンノジダイとよばれる。これは尾柄に黒色の点が3個(普通は4〜5個)あるためである。方言には上記のほかに〈ハゲ〉とつく名が多いが，これはこの魚を食べるときに皮をはぐためである。美味だが産額は少ない。

ニザーミー [Ilyās bin Yūsuf Nizāmī] (1140〜1202) ペルシアの詩人。ガンジャ(現在ソ連のキーロババード)の生まれ。神秘主義に傾倒して清貧の生涯(しょうがい)を送った。代表作《五宝》(または《五部作》)は，マスナビー詩形という文体で書かれた叙事詩で，流麗優雅な文体と幻想的内容により，ペルシア文学に新機軸を打ち出した。

ニザーム-アル-ムルク [Nizam al-Mulk] (1017ごろ〜1092) 西アジア，セルジュク朝*の宰相で，著述家。アルプ-アルスラン*・マリク-シャーの2代に仕えた。彼はペルシアの制度にならって国内制度を整え，トルコ人部将の俸給(ほうきゅう)として土地分封制(イクタ制*)を取り入れるなどして国家の安定を図った。ジャラール暦とよばれる暦法の改正も行なっている。また，学問・文芸の保護・奨励に努め，バグダッドをはじめ各地にニザーミア学院を設立。政治の指針を《国家統治の書》に書き残した。

にさんかいおう [二酸化硫黄] ⇨亜硫酸ガス

にさんかけいそ [二酸化珪素] SiO_2 無水ケイ酸・シリカともいう。天然にはセキエイ・水晶・玉髄・瑪瑙(めのう)・ケイ砂・クリストバル石などとして産する。純粋なものは無色透明な固体。SiO_4の四面体が酸素を共有して三次元的に連なった巨大分子構造をもつ。温度・圧力により結晶形が変化するが，とけたものは冷却しても晶出せず準安定ガラス状態(セキエイガラス)にとどまる。アルカリと溶融すると可溶性のケイ酸塩となる。フッ化水素酸には侵されやすい。ケイ酸塩ガラス・ケイ素化合物などの原料となる。〔竹下三吉〕

にさんかちっそ [二酸化窒素] NO_2 赤かっ色の気体。一部重合して無色の四二酸化窒素N_2O_4となり，両者の平衡混合物として存在する。固体はN_2O_4からなり無色，27℃でNO_2は20%，150℃ではNO_2だけとなる。150℃以上で，酸化窒素NOと酸素に解離しはじめ，650℃で完全に分解する。二酸化窒素は硝酸鉛・硝酸銅の固体を熱すると発生する。強い酸化剤で，カリウム・リン・炭素・イオウを燃焼させる。冷水またはアルカリ水溶液にとけ，亜硝酸か硝酸またはそれらの塩となる。〔竹下三吉〕

にさんかマンガン [二酸化マンガン] MnO_2 灰黒色の粉末または正方晶系の結晶，比重5.026。水にはとけないが塩酸にはとける。天然にはナンマンガン鉱として産出する。還元性物質には酸化剤として働き，強い酸化剤には逆に酸化される。高温で分解して酸素を発生する。高純度物質を得るには低級二酸化マンガンに苛性(かせい)ソー

ダを加えて加熱焼成後，希硫酸で処理するか，マンガン塩の溶液を電解酸化する。酸化剤・マンガン塩原料のほか，乾電池用，マッチ・ガラス・染料などの製造に用いられる。〔鈴木　篁〕

にじ　【虹】 太陽と反対側に降水のある場合，日光が空気中に浮遊する無数の水滴にあたってできる現象。太陽からの平行光線が水滴にあたれば，図-1のようにその表面で屈折して一部は水滴中にはいり，水滴の内部で反射したのち再び空気中に出る。この際水滴を出た光線は一般に平行でなく，そのような光線は距離の自乗に逆比例してその強さを減衰し，水滴より遠距離にある人には見えないほどに弱くなる。ところが水滴のある点に入射する光線は反射と屈折とを経て空気中に出るとき，再び平行光線となる。平行光線は遠方に進んでもほとんどその強さを減じないため，遠方の人にも強く見える。これがにじである。

幾何学的には図-2のように単色の平行光線束が水滴に入射し，その内部で1回反射したのち水滴外に出る場合を考えると，ふれの角δは$\delta=(i-r)+(\pi-2r)+(i-r)=2(i-r)+(\pi-2r)$の関係がある。この光線束が水滴を出て再び平行光線となるためにはふれの角δが極大あるいは極小になる必要がある。ふれの角度δは太陽光線の入射角i，屈折率nとに関係する。また，日光は種々の色よりなる光線で，入射角iは色により異なる。それらの関係は次表に示す。

光	n	i	r	δ	$\pi-\delta$
赤	1.329	59° 39′	40° 30′	137° 18′	42° 42′
紫	1.344	58° 46′	39° 31′	139° 28′	40° 32′

さらに図-3でEを観察者とすればSR，SVなどを太陽から水滴にあたる光線とし，EMをSRに平行な直線とすれば，EMと42° 42′の角をなす方向にある水滴Rは上述した理由により目に強い赤色の光を送り，またEMと40° 32′の角をなす方向にある水滴Vは強い紫色の光を送る。EMを軸としてERあるいはEVを回転してできる円錐(えんすい)上にある水滴を考えると，これらの水滴より観察者にくる光線は上記のふれの角度をなす。そのため，赤色は42° 42′，紫色は40° 32′の角半径の弧状をなして太陽と反対の側に見える。また橙(だいだい)・黄・緑・青色などの光線が，水滴に入射し反射・屈折して平行光線として出る方向は，赤と紫との間にあるため，7色の光線のスペクトルと同じ順序に配列した弧状の色帯のにじを生ずる。また，太陽からの光線が図-4のように水滴内で2回反射し，ABCDEFの経過をたどって空気中に出る場合にもにじができる。このにじを第2のにじとよび色の順序は第1のにじの逆となり，赤色は49° 46′，紫色は53° 46′の角半径の弧状をなす。また，光は反射するごとにその強さを減ずるので第2のにじは第1のにじよりも弱い。

虹



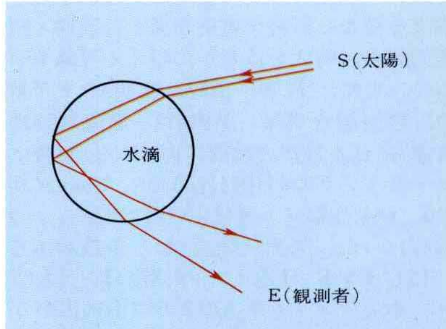


図-1　水滴による分散

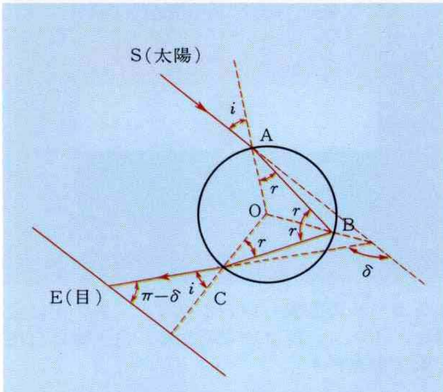


図-2　水滴内の1回の反射

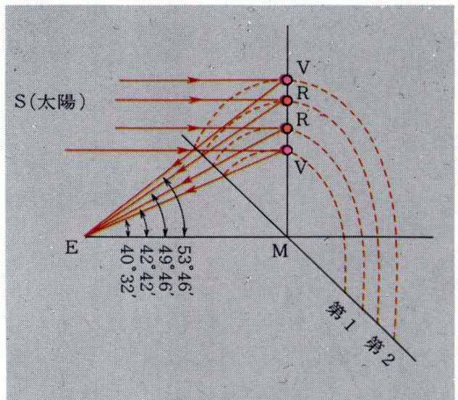


図-3　第1および第2のにじ

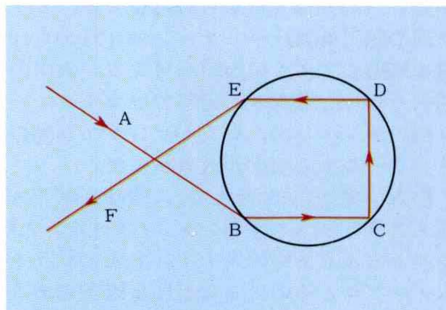


図-4　水滴内の2回の反射

〔小沢　正〕

にしアジアおんがく　【西アジア音楽】 アフガニスタン以西のいわゆる中近東の音楽。広義には北アフリカの音楽をも含める。ほぼ全域がイスラム教文化圏にはいり，アラビア音楽理論と結びついたさまざまな芸術音楽と，芸術音楽と相互に影響し合う多様な民俗音楽とがある。民俗音楽の大部分は声楽中心で，伴奏に使われるのは手拍子，枠(わく)太鼓タンバリン(ドゥフ・タール・ベンダイルなど)が最も多く，舞踊・結婚式と結びついている。芸術音楽は現在，イランのペルシア系，エジプト中心のアラブ系，北アフリカのアンダルシア系，トルコ近辺のトルコ系の4系統が認められる。芸術音楽の基盤になっているのはマカーム*とよばれる旋律法理論で，緻密(ちみつ)な音高理論は，おもにリュート系のウード*を使って考案され，ケマンチェ*・タール・サントゥール*・カーヌーン*で演奏され，中立3度などの微小音程を特徴としてもっている。リズム型はダルブ・イカアト・ドゥルブとよばれるリズム理論によって数が規定されている。〔山口　修〕

にしあまね　【西周】 (1829〜1897)　哲学者。石見(いわみ)(島根県)津和野藩医の家に生まれる。幼年から儒学を学び，1853年(嘉永6)藩命で江戸に出てオランダ語・算術を学んだが，翌年脱藩，さらに英語を手塚(てづか)律蔵に学ぶ。1857年蕃所調所(ばんしょしらべしょ)教授手伝並(てつだいなみ)。1862年(文久2)幕府初の留学生として榎本武揚(えのもとたけあき)らとともにオランダに向かい，フィセリングに法学・経済学を学ぶかたわら，哲学その他の知識を幅広く吸収，カントの永遠平和論・コントの実証哲学に触れた。1865年(慶応1)帰国，1866年幕府直参となり，開成所教授職。1867年イギリス議会の三権分立制について将軍徳川慶喜(よしのぶ)の諮問を受けた。1868年(明治1)徳川家の沼津兵学校頭取。1870年新政府に命ぜられ兵部省に出仕，以後山県有朋*(やまがたありとも)の顧問として近代軍政の制度・イデオロギーの確立に参画。1870年私塾(しじゅく)育英舎を開き，《百学連環》を講義。1874年明六社を結成，1879年東京学士会院会員となり，七期会長

に選ばれた。元老院議官，貴族院議員，男爵。《明六雑誌*》《東京学士会院雑誌》などに啓蒙(けいもう)学者として哲学を中心に多数の論文を発表。百科全書的知識と合理的・組織的思考，時代をはるかに越える見識を有した。また，〈哲学〉〈主観〉〈客観〉など多数の哲学用語を考案。著書《百一新論》《致知啓蒙》は日本最初の論理学書である。訳書にフィセリングの《万国公法》J. S. ミルの《利学》，おもな論文・遺稿に《生性箚記(とうき)》《尚白(しょうはく)箚記》《知説》など多数がある。

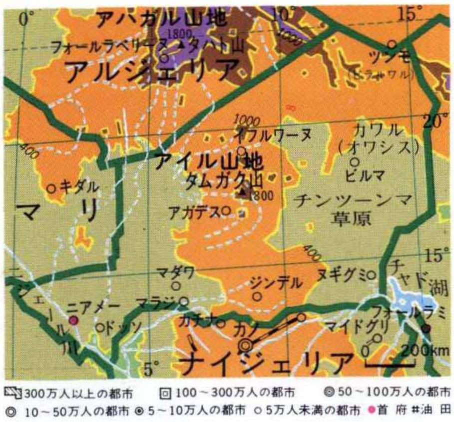
にしインド 【西インド(諸島)】 西大西洋，中央アメリカ東方のカリブ海に広がる群島。面積約40,000km²。西インドの名は，1492年にコロンブスがサンサルバドル島(バハマ諸島)を発見したとき，西回り航路でインドに到達したと錯覚したことに由来する。ジャマイカ・キューバ・ヒスパニオラ・プエルトリコからなる大アンチル諸島と，リーワード諸島・ウィンドワード諸島・トリニダード-トバゴ・バルバドスおよびベネズエラ沿岸の小アンチル諸島などが含まれる。

この諸島はロッキー・アンデス両山脈をつなぐカリブアンデス(メキシコのユカタン半島からベネズエラ北岸まで弧状に張り出す)山系に属し，多くは火山島で，サンゴ礁も発達し，良港の多くが旧火口である。地域差はあるが全般にヨーロッパ人に住みやすい気候で，特に冬季の北東貿易風の影響が強い。雨期は6月から12月までで，カリブ海の熱帯低気圧ハリケーンは8月から10月に来襲して多くの被害を与える。火山の噴火もしばしばあり，近年ではマルチニック島のモンペレ山，セントビンセント島のサフレール山の噴火が大きかった。

総人口は約1,500万人で，人種はイギリス人・フランス人・オランダ人・スペイン人・ポルトガル人・中国人・インド人・マライ人・ニグロとその混血など種々雑多である。はじめてヨーロッパ人が渡来した当時は，原住民にアラワク人とカリブ人がおり，アラワク人はその後絶滅したが，カリブ人は抵抗を続け，いまも小島には純血のカリブ人が残存している。16世紀からスペインの奴隷貿易が始まり，17世紀にはオランダやイギリスもアフリカ会社をつくって奴隷貿易を営み利益をあげた。奴隷貿易は19世紀にはすたれたが，代わってこの地方の農園労働者としてインド人と中国人が移住してきた。主産業は農業でサトウキビ・タバコ・コーヒー・バナナ・パイナップルなどを産する。〔大崎　晃〕

にしインドがいしゃ 【西インド会社】

①オランダでオランダ独立戦争中，東インド会社*にならって1621年設立された。オランダの毛織物市場の開拓を目的としたが，アメリカ大陸沿岸，西インド諸島，アフリカ沿岸諸島の航海・貿易を独占し，連邦議会の代行機関としての権限を与えられ，スペイン勢力打倒の機関と化した。スペイン支配下のブラジルを開発，北アメリカのニューネザーランド植民地にニューアムステルダム市を建設した。しかし1648年ウェストファリア条約*でスペインと和平が成立して以来事業が不振となり，1664年第2次オランダ・イギリス戦争が起こるに及んでイギリスの手中に落ちて，1674年解散した。その後一時再建されたが1790年解散した。





ニジェールの国旗　1959年制定。中央の円は太陽を，オレンジ色は独立革命を，白と緑は自由と繁栄を表わす



ニジェール　首都ニアメーのマーケット。肉・野菜・穀類から日用雑貨まで，なんでも売られている。人々の容貌・服装も変化に富んでいる

②フランスでルイ14世時代の1664年，コルベール*が従来の諸特権会社を改組して設立した。貿易独占権を与えられ，西インド諸島の砂糖独占を企てたが，イギリスとの競争に勝てず，膨大な負債を負って失敗し，そのため西インドでの自由貿易を認めた。1719年シナ・セネガルの2会社を合併してインド会社と改称した。〔喜多迅鷹〕

にしうらおんせん 【西浦温泉】 愛知県蒲郡(がまごおり)市にある温泉。泉温22℃で加熱し，泉質は単純緑礬泉(りょくばんせん)で，皮膚病・婦人病などにきくといわれる。渥美(あつみ)湾に突出した御前崎に開発された新しい鉱泉。海の展望がよい。交通は名古屋鉄道西浦駅からバスの便がある。

ニジェール(共和国) [Republic of Niger, République du Niger] アフリカ大陸北西部，サハラ砂漠(さばく)の南部にある共和国。国土西部を南流するニジェール川にちなんで国名とした。南部は同じくニジェール川の名にちなんだナイジェリアに接し，西はマリ・オートボルタ，北はアルジェリア・リビア，東はチャドに接する。面積126万7,000km²。人口531万(1979年推)。首都ニアメー。

【自然・住民】ニジェール川が西部国境付近を流れ，流域に臨む首都ニアメー付近はこの国最大の緑地をなしている。しかしここを除いては，高原状の起伏の少ない砂漠で，北部ではやや高く，最高点のタムガク山は標高1,800mである。住民は，ナイジェリアとの国境近くに定住するハウサ族と中北部の遊牧民ツアレグ族が主で，この両部族間には最近まで闘争が絶えなかった。イスラム教徒が多く，公用語はフランス語だが，各部族語も用いられる。

【産業・経済】主産業は牧畜と，ニジェール川低地で行なわれるラッカセイの栽培である。首都ニアメーはラッカセイ取引の中心で，北アフリカから来る隊商の基地になっている。また，ウシ・ヒツジ・ヤギ・ラクダの畜産も重要であり，ウラン・スズの鉱産もあるが，工業は未発達である。

【歴史・政治】中世にはイスラム文化の影響を受けた王国がニアメー付近で栄え，北アフリカとの貿易の拠点として，大きな勢力をもっていた。しかし，19世紀末にフランスが進出し，1904年からフランス領西アフリカの一部とされた。1958年フランス共同体内の共和国となり，1960年8月独立した。元首は大統領で，国会は一院制(議席50)，任期5年。政党はニジェール進歩党の一党制。〔小栗　宏〕

ニジェール(川) [Niger] 西アフリカにあるアフリカ第3の大河。長さ4,160km。流域面積約209万2,000km²。ギニアの東部ロマ山地に源を発し，北東に流れてマリ共和国を貫き，トンブクツー近くで東に向きを変える。やがて南東に向かい，ニジェールを経てナイジェリアにはいり，カメルーンから西流するベヌエ川と合流したのち，約130kmの巨大なデルタをつくりながらギニア湾にはいる。デルタは海岸線だけでも320kmの長さがある。乾期と雨期で水量の変動が激しい。

にしお 【西尾(市)】 愛知県中南部の

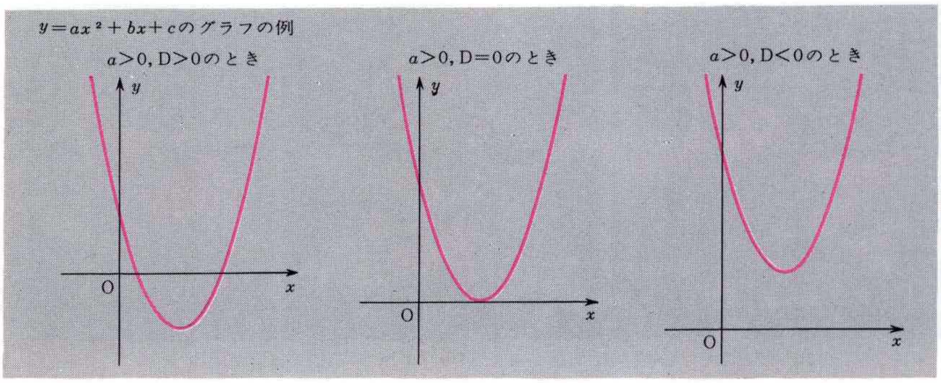
市。人口86,000。江戸時代は松平氏六万石の城下町で，岡崎・吉田(よしだ)(いまの豊橋(とよはし)市)と並ぶ三河(みかわ)の3都の一つとして繁栄し，矢作(やはぎ)川河口の平坂港を利用して，商圏は西三河全域から知多半島へ及んだ。1953年(昭和28)市制施行。矢作川下流東岸，岡崎平野南部に位置し，南西部は知多湾に面する。産業三大別人口比は15：49：36。三河木綿(もめん)の伝統を受け継ぐ綿織物機業地帯で，金属・機械などの近代工業も発展している。西方の稲荷(いなり)山一帯の洪積(こうせき)台地には宇治から導入した茶が栽培され，〈西尾茶〉とよばれる碾茶(ひきちゃ)の生産は全国の65％を占める。近郊は日本有数の多角的農業地域で，花卉(かき)をはじめナシ・苗木などを産する。名古屋鉄道西尾線・国道247号線が通ずる。

にしおすえひろ【西尾末広】(1891～　)政治家。香川県出身。旋盤工として各鉄工場を転々とするうちに，労働運動にはいり，友愛会*，次いで日本労働総同盟*で各種の労働争議に関与した。1916年(大正5)社会民衆党*の創立に加わり，1928年(昭和3)第1回普通選挙で同党から立候補して当選。その後当選の回を重ねたが，1938年社会大衆党*を代表して行なった国家総動員法の賛成演説で，その言辞が問題となって衆議院議員を除名された。1945年日本社会党*結成の中心となり，翌年同党の書記長，1947年成立した片山哲内閣の国務大臣・官房長官。次いで芦田均(あしだひとし)内閣の副総理となって縦横の手腕をふるった。昭和電工*事件に連座して失脚したが，1952年右派社会党に復党，1958年昭和電工事件の無罪が確定した。1959年党内左派の攻撃を受けて脱党し，翌年同志とともに民主社会党*を結成，初代委員長となった。1962年委員長を辞任して政界を引退。〔高崎徳次〕

にしかわじょけん【西川如見】(1648～1724)　江戸時代中期の天文学者・地理学者。名は忠英，号は如見・求林斎。長崎の商家の生まれ。儒学・暦学・天文学などを学んだ。当時長崎に伝わった古い南蛮天文学および中国伝来の天文暦算書を広く研究，《華夷(かい)通商考*》をはじめ多くの地理天文の書を著わした。このほか《町人嚢(ぶくろ)》《長崎夜話草》など風俗についての著作も多い。晩年は幕府に召され，将軍吉宗の諮問に応じて天文学上の意見を述べた。

にしかわすけのぶ【西川祐信】(1671～1751)　江戸中期の浮世絵師。京都に活躍し，自得斎・文華堂と号した。墨摺(すみずり)絵本に優美な画境を開拓し，また肉筆画も得意とした。代表作に《百人女郎品定(しなさだめ)》があり，画論に《画法彩色法》がある。鈴木春信*(はるのぶ)をはじめ江戸の浮世絵師に与えた影響は大きい。

にしかわりゅう【西川流】日本舞踊の流派の一。西川扇蔵(仙蔵(せんぞう))(？～1756)を開祖とするが，2世扇蔵が振り付け師として活躍，流儀を確立した。振り付け師の系脈で，藤間流とは縁が深く，藤間勘助が4世を継いで全盛期を迎えた。現在10世扇蔵が宗家を継いでいるが，4世の門弟であった初世西川鯉三郎(こいざぶろう)が名古屋西川流を樹立し，7世の門弟が正派西川流を興したので，現在3派に分かれている。



二次関数



西川祐信《時計美人図》東京国立博物館蔵

にじかんすう【二次関数】変数の二次式として表わされる関数。二次関数は一般に，

$$y=ax^2+bx+c\ (a,b,c\text{は定数},\ a\neq 0)$$

と表わされる。これのグラフは，y軸に平行な軸$x=-\dfrac{b}{2a}$をもつ放物線で，軸と放物線の交点，すなわち頂点は$\left(-\dfrac{b}{2a}, -\dfrac{b^2-4ac}{4a}\right)$である。$a>0$のときは下に凸(とつ)な放物線，$a<0$のときは上に凸な放物線となる。また，二次関数$y=ax^2+bx+c$のグラフは，

$D=b^2-4ac>0$のときx軸と2点で交わり，
$D=b^2-4ac=0$のときx軸と接し，
$D=b^2-4ac<0$のときx軸とは出会わない。

〔杉岡司馬〕

にしき【錦】種々の色糸を使って文様を織り出したはなやかな織物の総称。〈にしき〉は丹・白・黄の読みからくるといわれる。組織や糸使い・糸質・意匠などの違いから多くの種類があり，綴錦(つづれにしき)・経錦(たてにしき)・緯錦(よこにしき)・倭錦(やまとにしき)・暈繝錦(うんげんにしき)・糸錦・蝦夷錦(えぞにしき)・唐錦*(からにしき)・繻珍錦(しゅちんにしき)・厚板錦・黄緞錦(おうどんにしき)などはその代表的なものである。女帯地・能装束・法衣・打掛などの装飾織物に使用されることが多い。

錦の創始は中国先秦(せんしん)時代と考えられる。紀元前4世紀ごろの墓から錦の断片が発見され，当時の土偶には錦らしい彩絹(いろぎぬ)が飾られている。また，中国からシルクロードを通っての東西の交流の中で，漢代錦はローマに達してもいる。わが国における錦の歴史は3世紀に始まると思われ，《魏志倭人伝(ぎしわじんでん)》にはわが国の錦として異文雑錦と雑錦のあったことが記されているが，これらは中国ふうの経錦ではなかったという。その後，朝鮮・中国からの技術者の来朝によって錦の製織技術は進み，日本人の手でそれが行なわれたのは711年(和銅4)である。翌年には伊勢(いせ)(三重県)以下21国で製織が始められた。平安時代の錦の遺品は少ない。ただ，平安文学に散見される錦は，いずれも朝鮮産であり，褥(しとね)や畳の縁飾りに用いられていた。鎌倉時代においても前代と同様で遺品は少ない。南北朝時代から室町時代に至って，身分の高下を問わず華奢(きゃしゃ)のふうがみなぎり，錦の需要は大きくなった。また，このころまでは，錦を含めた高級織物は京都が中心であったが，戦乱をのがれて織工たちは各地に散った。桃山時代以降におい



ニシキウツギ　(左)ニシキウツギ　(中)ハコネウツギ　(右)タニウツギ

て，見落とせないのは唐織などの隆盛である。江戸時代中期には，足利(あしかが)・桐生(きりゅう)などにも錦の製織法が伝えられた。

にしきうつぎ　【錦空木】　双子葉植物・スイカズラ科。山地にはえる落葉低木で，高さ2～3m。葉は対生し，長さ6～10cmの長卵形ないし楕円(だえん)形で先がとがり，縁に鋸歯(きょし)がある。表面はほとんど無毛で，裏面脈上に曲がった毛がある。5～6月，枝先と葉腋(ようえき)に漏斗状花を2～3個ずつつける。花色ははじめは白色，のち紅色に変化する。庭木に用いられる。ハコネウツギは本種によく似るが海に近いところにはえ，葉の表面につやがあること，花冠筒部の上半が急に太くなる点で異なる。また，タニウツギは花色がはじめから紅色で，葉裏に毛が多いことで区別できる。

にしきえ　【錦絵】　浮世絵*の一形式で，1765年(明和2)鈴木春信*(はるのぶ)によって創始された多色摺(ずり)木版画をいう。浮世絵版画の技術的な展開としては最終段階に属するもので，版摺による合理的な彩色がはじめて可能になった。多数の色版を重ねてあやなす美麗な印象から〈錦絵〉の呼称を与えられ，〈吾妻(あづま)錦絵〉ともよばれた。紙質は奉書紙が採用され，その裁断法によって，大判・中判・細判など一定の判式が定まっている。　〔小林　忠〕

にしきがわ　【錦川】　岩国川ともいう。山口県東部中国山地に発し，山間部を南流して下流で東へ転じ，広島湾西部に注ぐ川。流程126km。河口に発達した三角州に岩国市がある。流域一帯を含む山口県東南部は，錦川総合開発特定地域に指定され，開発が進められている。

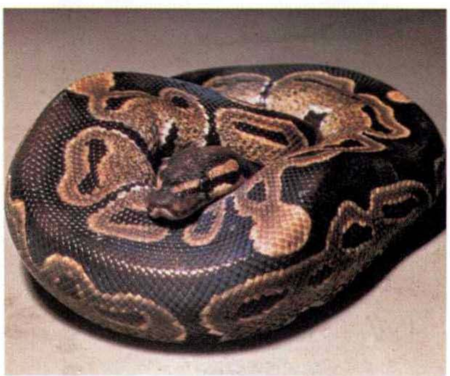
にしきぎ　【錦木】　双子葉植物・ニシキギ科。山野に自生する落葉低木で，高さ1.5～2.5m。枝に2～4列のコルク質の翼がある。葉は枝と同じように対立し，楕円(だえん)形ないし倒卵形で長さ2～6cm，縁に細かい鋸歯(きょし)がある。秋に紅葉する。5～6月，葉腋(ようえき)に2～3個の小さな花からなる集散花序をつける。花は淡緑黄色の四弁花で，直径6mmほど。果実は蒴果(さくか)で1～2室に分かれ，長さ6～8mm，紫かっ色に熟して縦に割れ　朱色の仮種皮に包まれた種子を下げる。



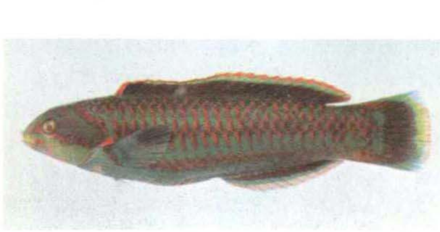
ニシキギ　果実は割れて赤かっ色の仮種皮に包まれた種子を出す



ニシキソウ



ニシキヘビ



ニシキベラ

にしきじそ　【錦紫蘇】　⇨コレウス

にしきそう　【錦草】　双子葉植物・トウダイグサ科。畑や道ばたにはえる一年草。茎は紅色で地面をはい，多数の枝を出し，切ると白色の乳液が出る。葉は対生し，長さ6～10mmの長楕円(ちょうだえん)形で，細鋸歯(さいきょし)がある。8～10月，葉腋(ようえき)の鐘形の小総包の中に桃紫色の花をつける。雌雄異花。果実は卵形で無毛である。本種によく似たコニシキソウはアメリカ原産の一年草で，葉面に紫色の斑紋(はんもん)があり，また果実に毛があるなどで区別できる。

にしきぶんりゅう　【錦文流】　生没年未詳。浮世草子*・浄瑠璃*(じょうるり)の作者。俳号錦頂子。西鶴*(さいかく)門下の俳人で，大阪でとりわけ浄瑠璃作者として聞こえた。作品に，浮世草子《風流今兼好(いまけんぎょう)》《本朝七百家記》。浄瑠璃《高名大福帳》《西行法師墨染桜》などがある。

にしきへび　【錦蛇】　爬虫(はちゅう)類・オウダ科。パイソンとよばれる大形のヘビの一群で，メキシコにただ1種が産する以外は，マダガスカル島を除くアフリカおよびアジア南部・オーストラリアに分布する。ヘビ類で最大のアミメニシキヘビ(10m)をはじめとして，インドニシキヘビ(6m)・アフリカニシキヘビ(7.5m)などの大形種のほか，西アフリカやニューギニアに産する全長1m足らずの小形種も含まれる。ボア*類とは前上顎骨(じょうがくこつ)に多くの小形の歯があることで区別される。大半が卵性で，100個を産卵し，孵化(ふか)に9か月を要するものがある。　〔松井孝爾〕

にしきべら　硬骨魚類・ベラ科。体長15cm以上に達する海産魚。中部日本以南，東インド諸国までに分布する沿岸性の岩礁魚で，潮だまりの中にも普通にはいる。体色がどぎつく，水族館などで観賞用としては喜ばれるが，食用としての価値はない。いそづりの対象魚。

にじきょくせん　【二次曲線】　xy平面上で，x，yの二次方程式

$$ax^2+2hxy+by^2+2fx+2gy+c=0$$

が表わす図形の総称。二次曲線は円錐(えんすい)曲線*・直線・点などを含んでいて，所与の方程式がどの図形を表わすかは，座標変換によって変わらない次の3個の式(これを不変式という)の値を調べることによって判定される。

$$\gamma=a+b,\quad \delta=\begin{vmatrix}a & h\\ h & b\end{vmatrix},\quad \Delta=\begin{vmatrix}a & h & f\\ h & b & g\\ f & g & c\end{vmatrix}$$

δは図形の中心がどうなっているかを判別するのに用いられる。すなわち，$\delta\neq0$のときは中心が一つ存在し，その図形を有心二次曲線という。$\delta=0$のときは中心は存在しないか無数に存在し，その図形を無心二次曲線という。Δは二次曲線の判別式といい，$\Delta\neq0$のときは円錐曲線，$\Delta=0$の

ときはそれ以外の図形を表わす。

不変式を用いて，二次曲線を分類すると，次表のようになる。

	$\delta>0$	$\delta<0$	$\delta=0$
$\Delta\neq0$	$\gamma\Delta<0$　実楕円	双曲線	放物線
	$\gamma\Delta>0$　虚楕円		
$\Delta=0$	点楕円（虚の相交2直線）	実の相交2直線	実または虚の平行2直線

にじきょくめん【二次曲面】 楕円(だえん)面*$\left(\frac{x^2}{a^2}+\frac{y^2}{b^2}+\frac{z^2}{c^2}=1\right)$，双曲放物面*$\left(\frac{x^2}{a^2}-\frac{y^2}{b^2}=z\right)$などのように，空間内の$xyz$座標軸について，$x$，$y$，$z$の二次方程式

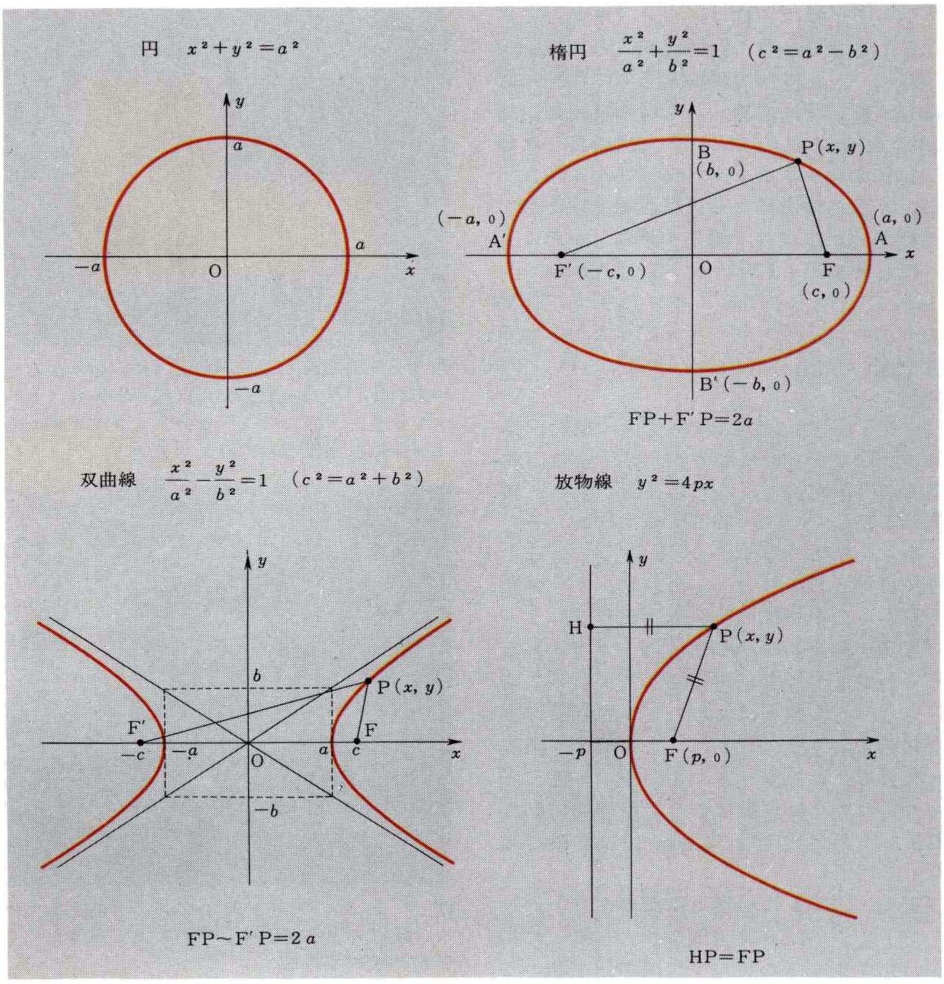
$$ax^2+by^2+cz^2+2fyz+2gzx+2hxy+2lx+2my+2nz+d=0$$

が表わす図形の総称。これらの方程式が具体的にどんな曲面を表わすかは，座標変換をすることによって調べられるが，次の2個の行列式の値によって，下のようにおおまかに分類することができる。

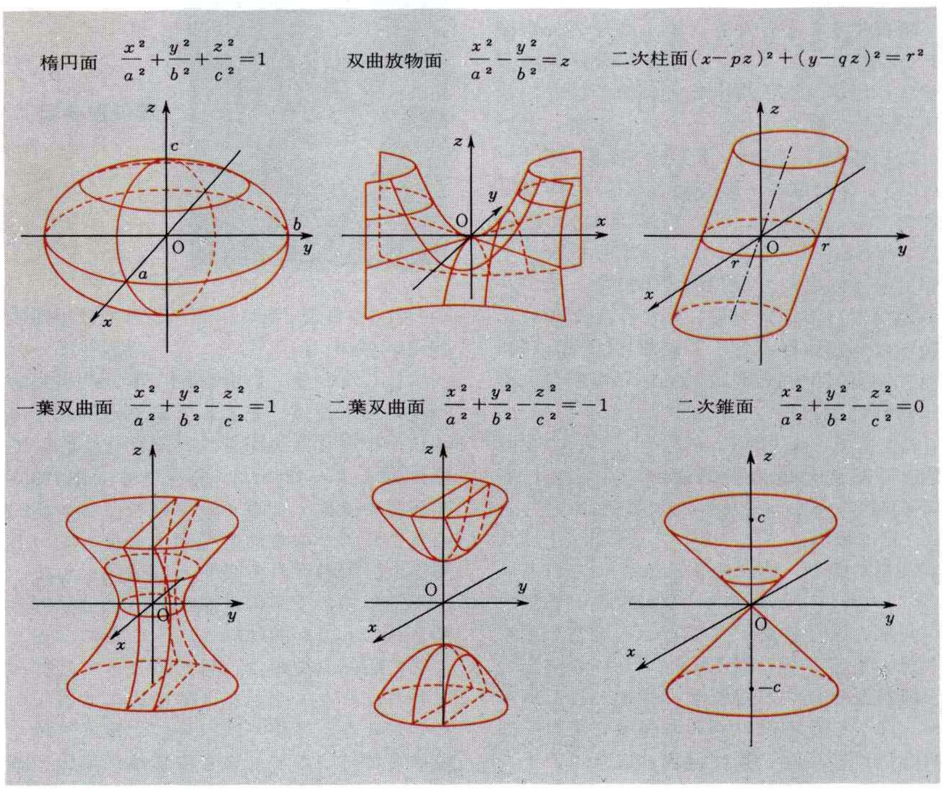
$$\Delta=\begin{vmatrix} a & h & g \\ h & b & f \\ g & f & c \end{vmatrix},\quad D=\begin{vmatrix} a & h & g & l \\ h & b & f & m \\ g & f & c & n \\ l & m & n & b \end{vmatrix}$$

①$\Delta\neq0$のときは，ただ1個の中心をもつ二次曲面となり，実または虚の楕円(だえん)面，一葉または二葉双曲面，実または虚の二次錐面(すいめん)（導線が円錐曲線になっている錐面）である。②$\Delta=0$のときは，$D\neq0$ならば中心をもたない二次曲面となり，楕円放物面または双曲放物面である。また，$D=0$ならば，実または虚の二次柱面（導線が円錐曲線になっている柱面），実または虚の2平面である。　〔菊池兵一〕

にしゴートおうこく【西ゴート王国】 東ゲルマン人の一派である西ゴート族の建てた国(418～711)。410年アラリック*に率いられてローマ市を攻略した西ゴート族は，のちガリアへ進みアタウルフ王の下でトロサ(今日のツールーズ)を都にアクィタニア地方に西ゴート王国を建てた。西ゴート族は，ローマの地主から土地の3分の2を贈られてこの地に定着し，エウリクス王(466～484)の時代にゲルマン国家中で最強の国となった。彼の発布した《エウリクス法典》は最初のゲルマン法である。しかしアラリック2世(484～507)はブイエの戦い(507)でフランク王国のクロービスのため敗死した。その後西ゴート王国の中心はイベリア半島に移り，トレドを都とするスペインの西ゴート王国となった。レッカレッド王(586～601)のときアリウス派からカトリックに改宗。この国の教会はローマの支配から半ば独立しており，教会会議は国政を動かすほど強力であり，また文化も発展してセビリアのイシドルス*のような学者が出た。しかし，711年北アフリカから侵入したイ



二次曲線



二次曲面

スラム軍に滅ぼされた。　〔兼岩正夫〕

にしざきりゅう　【西崎流】 日本舞踊の流派の一。正派西川流の家元西川喜洲に師事し，新舞踊に活躍した初世西崎緑が，1948年(昭和23)に創立した。初世の没した1957年に家元を争って田村町派と銀座派に分裂，さらに銀座派から正派西崎流緑樹会・西崎新流が生まれ，現在4派に分かれる。

にしサモア　【西サモア】［Western Samoa］ 南太平洋ポリネシア，サモア諸島のうちウポル島・サバイー島などからなる独立国。面積2,842km²。人口160,000(1979年推)。

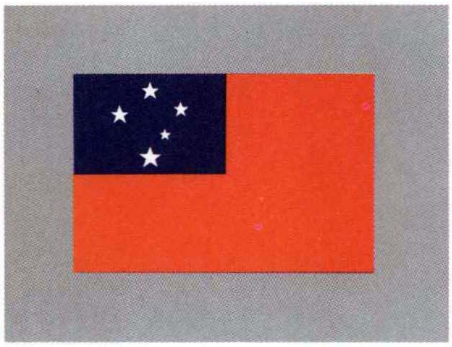
【自然・住民】国土はすべて火山島で，島の周囲はサンゴ礁に取り巻かれている。熱帯海洋性の気候で，つねに海風が吹き，暑熱はきびしくない。毎日午後にはスコールがあり，年降水量は2,000mm程度である。住民は端正な風貌(ふうぼう)をもち，サモア語を話し，公用語には英語も使用する。

【産業・経済】かつて住民は，タロイモなどを栽培する焼き畑耕作をしていたが，ヨーロッパ人の農園に雇われてから商品作物を栽培するようになり，ことに第2次世界大戦後はココヤシ・カカオの栽培が盛んとなり，カカオは良質なことで世界的に知られる。首都アピア港は集荷・輸出の中心になっている。

【歴史・政治】この島々はかつてフィージーやトンガのように王国をつくっていたが，1847年イギリスがアピアに領事館を開いてからアメリカ・ドイツなどが進出して，1889年その3国が共同管理した。のち3国間の協定で，東部はアメリカ，西部はドイツが領有することとなり，第1次世界大戦後ドイツ領はニュージーランドの委任統治領となったが，第2次世界大戦後の1961年共和国として独立した。　〔小栗　宏〕

にしざわいっぷう　【西沢一風】(1665～1731)　浮世草子*・浄瑠璃*(じょうるり)の作者。大阪で本屋を営む。井原西鶴*(さいかく)の没後，八文字屋本*に至るまでの一時期を代表する浮世草子作者で，軍記物語*の翻案，モデル小説など，新趣向を凝らした作品が多い。後年は浄瑠璃作家として活躍。代表作は《新色五巻書》《御前義経記》《乱脛三本鑓(みだれはぎさんぼんやり)》など。

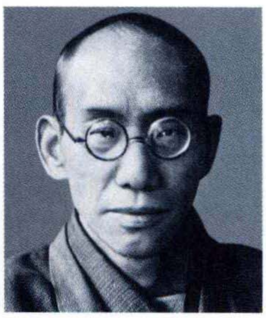
にしじん　【西陣】 京都市上京区の北西地区。南北に走る大宮通りが中心で，商店・問屋・会社・銀行などが両側に立ち並び，北は鞍馬口(くらまぐち)通り，南は一条通り，東は新町通り，西は四本通りに画される。応仁(おうにん)の乱(1467～1477)の際山名宗全が西軍の陣屋を築いたことから地名が起こった。平安時代の織部司(おりべつかさ)の技術の伝統を受け継いだ西陣織*の産地として知られ，江戸中期以降は幕府の保護を受けて高級織物地の生産が特に盛んとなり，いまも御召(おめし)・帯地・着尺・ネクタイ地などを主体に独自の市場を確保している。織屋は約2,800を数え，室町方面へかけては絹織物問屋が多い。　〔浅井得一〕



西サモアの国旗　1962年制定。独立以前から用いられていた。左上部の星は南十字星で，オーストラリア・ニュージーランド・ブラジルの南半球諸国に共通したデザインである



西サモア　ウポル島のアピア市にある西サモア政府の国会議事堂。円形の建て方はサモア特有の様式である



西田幾多郎

にしじんおり　【西陣織】 第2次世界大戦前ごろまでは，主として京都市西陣を中心にその周辺で製織された織物を総称して西陣織とよんでいた。現在では出機(でばた)が丹後や滋賀・兵庫・岐阜県をはじめ約20府県に及ぶかなりの広範囲にわたっている関係上，製織される場所とは関係なしに，西陣機業の各工業組合規定の証紙・検印の押されたものが西陣織ということになる。

その製品の種類は，時代によって変わっており，ことに明治以後の変化には著しいものがある。江戸時代以来，今日まで織り続けられているおもなものには，帯地・御召(おめし)・金襴(きんらん)・錦(にしき)・綴(つづれ)などがある。豪華な花嫁衣装の打掛地，僧侶(そうりょ)の法衣地，神官の装束裂地(きれじ)，能装束の服地，袱紗(ふくさ)，書画を表装する表具裂など特殊な用途のものも多い。織物技術からいえば，有職織物や綴・金襴・唐織(からおり)・紋紗(もんしゃ)・緞子(どんす)などは，西陣の独壇場といえよう。したがって，西陣織を狭義に解し，西陣だけで生産されているものと限れば，以上のような品種があげられるであろう。

現在，西陣では，帯・着尺・ネクタイ地・マフラー地・ショール地・パラソル地・カーテン地・いす張り地・壁張り地・織りネーム・旗・幕・緞帳・ビロード・金襴・リボン・広幅洋服地から，寝具類の裂地まで多くの品種を生産している。原糸からいっても，絹・毛・合化繊・綿・麻およびそれらの交織などがある。　〔北村哲郎〕

にしそのぎはんとう　【西彼杵半島】 長崎県西彼杵郡に属し，長崎市の北西方に約45kmにわたって突出した半島。西の角力灘(すもうなだ)沿岸は外海(そとめ)とよばれ，海食崖(かいしょくがい)が発達しておもに岩石海岸をなし，海岸の平地には神浦(こうのうら)・三重などの漁業基地がある。東の大村湾岸は内海とよばれ，沈水海岸で溺(おぼ)れ谷*が発達し，真珠の養殖が盛んである。半島はおもに結晶片岩からなる400m前後の丘陵性山地で，北部は200m前後の玄武岩台地からなっている。分水嶺(ぶんすいれい)が南北に走り，河川は東西に流れている。北部の大村湾口の針尾瀬戸には西海橋が架設され，道路も整備され，半島一帯の開発が進められている。海岸付近一帯は自然美に富み，西彼杵半島県立自然公園に指定されている。〔味沢成吉〕

にしだきたろう　【西田幾多郎】(1870～1945)　哲学者。石川県河北郡の生まれ。第四高等学校を中退，東京帝国大学哲学科選科を卒業。旧制山口高校・第四高等学校・学習院教授を経て1910年(明治43)京都帝国大学助教授，さらには教授(1913～1928)となる。完結した内容をもつ著作は処女作《善の研究》(1911)のみであり，その後の著作はすべて論文集である。《善の研究》の純粋経験の立場は，《自覚に於(お)ける直観と反省》(1917)に至ってフィヒテの〈事行〉の思想を受けて絶対自由の意志の立場に達した。さらに《意識の問題》(1920)，《芸術と道徳》(1923)を経て，《働くものから見るものへ》(1927)の後半においてアリストテレスの基体(ヒュポケイメノン)にヒントを得て〈場所〉の考えに至った。〈場所〉は左右田(そうだ)喜一郎がはじめて〈西田哲学〉と命名した独創的思想である。〈場所〉は行為的直観の立場を意味し，あるもの，働くもののすべてを〈みずから無にして自己の中に自己の影を映すもの(真の無の場所)〉の影と見るのである。西洋の有の哲学の主語的論理に対し，さらに根本的に有を有としてなりたたせる無の場所の述語論理が明らかにされ，それは〈非連続の連続の世界〉の弁証法として展開さ

れた。《一般者の自覚的体系》(1930),《無の自覚的限定》(1932),《哲学の根本問題》(1933),《同続編》(1934)がその巨大な展開である。ことに《同続編》の論文〈弁証法的一般者としての世界〉は画期的到達点であり,〈場所〉は〈弁証法的一般者〉として歴史的実在の世界と考えられ,行為的直観,絶対矛盾の自己同一として論理化された。純粋経験の世界は行為的直観の世界,ポイエシス(制作)の世界と考えられるようになった。《哲学論文集第一～第七》(1935～1946)は〈弁証法的一般者〉の立場の根本原理の定式化・基礎づけの遂行,およびこれに立脚する哲学上の各特殊問題(理論哲学・実践哲学・認識論・科学哲学)への省察である。〈場所的論理と宗教的世界観〉は西田哲学の頂点を示す。西田哲学は現実の世界の論理であるが,それは個体(私・汝(なんじ))の世界の論理をも意味した。西田哲学は個体を最後まで問い続けた。個体をささえるものが絶対無の場所であり,無の場所は宗教の世界である。場所の論理は個体の論理,宗教的世界の論理であった。《全集》全19巻がある。
〔中川　誠〕

にしちゅうごくさんちこくていこうえん【西中国山地国定公園】 広島・島根・山口の3県にまたがる中国山地の西南端を占める面積285km²の地域。1969年(昭和44)国定公園に指定された。一帯は冠山山地とよばれ,恐羅漢(おそらかん)山(1,346m)・冠山(1,339m)・寂地山(1,234m)・深入山(1,153m)など中国山地特有のなだらかな山容の峰々が連なる。山麓(さんろく)には三段峡・匹見峡・寂地峡・深谷峡などの渓谷(けいこく)が点在し,また三段滝・天狗岩(てんぐいわ)など滝と岩の奇勝も見られる。標高1,000m以上の山頂にはブナの群落があり,渓谷にはキシツツジ・シャクナゲの群落が見られる。
〔木村東一郎〕

にじでんち【二次電池】 ⇨電池

にしドイツ【西ドイツ】 ⇨ドイツ連邦共和国

にしなさんこ【仁科三湖】 ⇨大町(市)

にしなよしお【仁科芳雄】 (1890～1951) 物理学者。岡山県の生まれ。東京帝国大学電気工学科卒業後,理化学研究所(理研)にはいった。1921年(大正10)イギリスに渡りケンブリッジのキャベンディッシュ研究所でラザフォードに師事。翌年ゲッチンゲン大学に学んだのち,コペンハーゲンでボーアの量子力学の研究に加わった。この間O.クラインとともに編み出したコンプトン効果*の断面積の公式(クライン・仁科の公式)は有名。1928年(昭和3)に帰国して理研に仁科研究室を設け,わが国の理論物理学,原子核・宇宙線などの研究の中心として多くの優秀な研究者を育成,理研の黄金時代を築いた。1937年アンダーソン*とは独立にミュー中間子を発見。また彼のもとで完成された23トン(1937),200トン(1944)


仁科芳雄

のサイクロトロンはいずれも当時有数のもので日本の核物理学を世界第一級のものに高めたが,戦後アメリカ軍により破棄された。その後理研が苦難の時期を迎えた中で,1946年同所長をつとめ,1948年特殊法人理化学研究所と改組して社長となりその再建に尽力した。このほか科学の国際交流に大きな役割を果たし,またペニシリンの国産化,放射性アイソトープの輸入などに努力した。1946年に文化勲章を受賞。
〔藤村　淳〕

ニジニタギル [Nizhni Tagil] ソ連,スベルドロフスク州の鉱工業都市で,ウラル山脈中部東麓(とうろく)のオビ川支流,タギル河畔にある。人口39万6,000(1976)。ウラル工業地帯の一部をなし,鉄鉱・冶金(やきん)・車両・プラスチックなどの工業が盛んである。1725年に起源をもつ都市で,鉱工業都市として栄えてきたが,特に,第2次世界大戦中からの発展が著しい。

にしにほんしんぶん【西日本新聞】 福岡市を中心とする九州地方の代表的地方紙。第2次世界大戦中の新聞統合により,《福岡日日新聞》《九州日報》が合併し,1942年(昭和17)8月10日創刊。本社は福岡市。発行部数朝刊約66万,夕刊約23万(1980)。なお西日本新聞社より《西日本スポーツ》(1954年創刊)が発行されている。

にしにほんてつどう【西日本鉄道】 福岡県全域にわたって,地方鉄道・軌道・バスなどの路線網を経営する私鉄企業。1908年(明治41)設立の九州電気軌道を中心として,1942年(昭和17)交通調整により福博電車・九州鉄道など県内の全私鉄を合併,現社名に変更し,今日に及ぶ。福岡～大牟田(おおむた)を結ぶ大牟田線をはじめ,宮地岳線・北九州市内線・福岡市内線など電気軌道190.0kmを営業。

にしのうちがみ【西の内紙】 和紙の一。もと常陸(ひたち)(茨城県)久慈郡西野内を中心に抄製(しょうせい)されたのでこの名がある。コウゾの繊維に米のりを加え,溜漉(ためずき)する。厚く,強靭(きょうじん)で,古くは傘(かさ)紙・包み紙などに用いられた。明治以後,選挙用紙に指定され,栃木県那須(なす)郡烏山(からすやま)町などでもつくられたが,いまは需要が少ない。

にしのおもて【西之表(市)】 鹿児島県,種子(たねが)島北部の市。人口24,000。鎌倉時代から種子島氏の居城地となり,江戸時代には種子島氏は島津氏の勢力下にはいった。第2次世界大戦末期に戦災で市街地を全焼したが,その後復興して1958年(昭和33)市制施行。市域には島の行政上の中心の熊毛(くまげ)支庁のほか,官公庁・金融機関・事務所などが集まる。産業三大別人口比は48:12:40。農業が主産業で,サトウキビ・サツマイモなどを栽培し,精糖や乳製品の工場もある。特産のオランダエンドウは広く全国各地に移出される。西方の馬毛(まげ)島を中心にトビウオ漁も盛んである。鹿児島と定期航路・航空路をもつ西之表港と安納飛行場は島の玄関口となり,また島内バス交通の起点として全島の観光基地の役割を果たしている。

にじのまつばら【虹ノ松原】 佐賀県唐津(からつ)市の市街地の東方から福岡県境近くの浜崎に至る砂州上の松原。天然記念物。唐津湾の沿岸流と北西風が形成した弧状の砂州上に,かつて唐津藩主が防風・防潮・防砂のため植林したものという。海水浴場などがある。

にしのみや【西宮(市)】 兵庫県南東部の市。人口39万6,000。中世以来戎(えびす)神社(いまの西宮神社)の鳥居前町として発展し,近世には京都からの山陽道(西国街道)と大阪からの中国街道が交わる宿駅であった。江戸時代には,灘(なだ)五郷の西宮郷・今津郷が清酒づくりの産地として栄え,最近では近代工業が発達している。1925年(大正14)市制施行。市域は大阪湾に臨み,六甲山南麓(なんろく),武庫川下流の西宮低地に位置する。産業三大別人口比は1:32:67。神戸(こうべ)・大阪の中間にはさまれて阪神(はんしん)工業地帯の一部を形成し,〈灘の生一本〉で名高い清酒づくりのほか,食料品・機械・化学・金属製品などの工業が発達する。東海道本線・京阪神急行・阪神電鉄など,国鉄や社線の各路線に沿い,国道2号線が通じ,名神高速道路の西の起点となる。阪神地方の住宅衛星都市的な性格も強く,住宅団地や高級住宅が多く,関西学院大学・神戸女学院大学などの教育機関もある。甲子園や西宮の野球場・香炉園・甲子園パークなどのレクリエーション施設のほか,甲山蓬萊峡(かぶとやまほうらいきょう)の名勝,山間の武田尾温泉などがあり,市街地背後の山地は瀬戸内海国立公園の六甲地区に含まれる。年中行事には,福の神として親しまれている西宮神社の〈十日戎〉(1月9～11日)があり,100万人をこえる参拝者でにぎわう。特産は清酒・竹製品。
〔浅井得一〕

にしパキスタン【西パキスタン】 ⇨バングラデシュ

にしはらしゃっかん【西原借款】 寺内正毅(まさたけ)内閣が北京(ペキン)軍閥政府段祺瑞*(きずい)に供与した借款。1916年(大正5)から1918年にかけて34件が結ばれ,供与は

1917年から開始された。寺内の私設公使西原亀三(かめぞう)が交渉にあたったのでこの名がある。国民党と抗争中の段祺瑞を援助して中国に対する日本の主導権を確立するのがねらいで，日本興業・台湾・朝鮮などの各銀行が引き受け，総額は8件1億4,500万円にも上った。年8分前後の高利のため中国側の非難を浴び，アメリカの提唱した新四国借款団(日・米・英・仏)の成立，さらにワシントン会議によって中絶した。また貸し付けた大部分は回収不能となり，日本国内でも非難を受けた。〔応和邦昭〕

にしびわじま【西枇杷島(町)】愛知県西春日井(にしかすがい)郡にある町。名古屋市北西部に隣接する。人口18,000。1914年(慶長19)の開設といわれるゆいしょある野菜市場があり，町はこの市場とともに発展してきたが，1958年(昭和33)に名古屋市西区に，枇杷島青果市場という名のまま移転した。東海道本線，名古屋鉄道犬山線・津島線，国道22号線などが通じ，住宅，繊維・機械・食品などの工場の進出と，名古屋市街の延長が著しい。

にしフランクおうこく【西フランク王国】843～987年まで続いた王国。フランク王国はベルダン条約・メルセン条約によって3分され，その一つにだいたい今日のフランスにあたる地域に西フランク王国が成立した。初代国王はカール2世で，この王のころは文化もある程度発達したが，ノルマン人の侵入に苦しめられ，885～886年にはパリも包囲された。このころ東フランク国王カール3世が西フランクの王を兼ねていたが，西フランクでは貴族の勢力が強く王権はふるわなかった。987年ルードウィヒ5世が死ぬとカロリング朝は断絶し，ユーグ-カペーが王位についてカペー朝が誕生した。これがフランス史のはじめである。

にしベンガル【西ベンガル】インド共和国北東部のガンジス川三角州の西部を占める州。面積88,000km²。人口3,492万(1961)。主都カルカッタ。農業地帯として知られ，その生産量は，米ではインド第2位，ジュートではインドの50%を占めて第1位であり，また北部はアッサム州に次ぐ茶の生産地となっている。カルカッタを中心にゴム・金属・機械・繊維などの工業が盛んである。

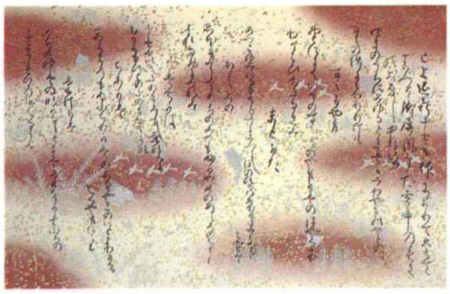
にじほうていしき【二次方程式】$3x^2-5x-2=0$のように，ある1個の変数(未知数)について二次式となる等式で示された方程式。変数のとる値のうち，この等式を成立させるものをこの方程式の解または根といい，すべての解の集合を見いだすことを方程式を解くといい，二次方程式は一般に2個の根をもつ。

二次方程式の解法には，①因数分解による方法，②根の公式を用いる方法の二つがある。たとえば，上記の二次方程式の左辺を因数分解すると，$(x-2)(3x+1)=0$となるから，解の集合は$\left\{2, -\frac{1}{3}\right\}$である。また，一般の二次方程式$ax^2+bx+c=0$の根の公式は$x=\frac{1}{2a}(-b\pm\sqrt{b^2-4ac})$である。これを利用すると，上記の二次方程式の解は$x=\frac{1}{6}(5\pm\sqrt{25+24})=\frac{1}{6}(5\pm7)=2, -\frac{1}{3}$となる。

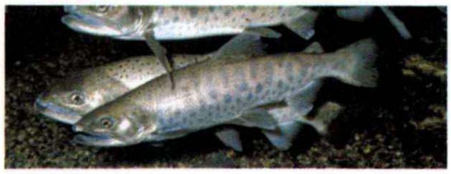
実係数の二次方程式$ax^2+bx+c=0$の根は，根の公式から明らかなように，b^2-4acが正，0，負であるにしたがって，異なった二実根・重根・虚根となることがわかる。それで，$D=b^2-4ac$を上の二次方程式の判別式という。また，二次方程式の2根をα，βとするとき，2根の和$\alpha+\beta$，積$\alpha\beta$は，いずれも二次方程式の係数を用いて，次のように表わされる。

$$\alpha+\beta=-\frac{b}{a},\quad \alpha\beta=\frac{c}{a}$$

これを，二次方程式の根と係数の関係という。〔菊池兵一〕



西本願寺本三十六人集《躬恒集》えんじでぼかした雲を描き，金・銀の砂子・切り箔をまき，銀泥で草・鳥を描いている。料紙が華麗であり，書は巧妙である。西本願寺蔵



ニジマス

にしほんがんじ【西本願寺】⇨本願寺

にしほんがんじほんさんじゅうろくにんしゅう【西本願寺本三十六人集】粘葉(でっちょう)(料紙を二つ折りにして重ね合わせ，それぞれの紙の折り目の外側にのりをつけ，それに表紙をつけたもの)の冊子39帖(じょう)。三十六歌仙(かせん)の各家集を集成した選歌集を《三十六人集》というが，その写本のうち古筆として最も尊重されるのがこれである。32帖は藤原(ふじわら)時代の書写，《兼輔集(かねすけしゅう)》は鎌倉時代の補写，《人麻呂集(ひとまろしゅう)》2帖と《業平集(なりひらしゅう)》《小町集》は江戸時代の補写，《貫之集(つらゆきしゅう)》《伊勢集(いせしゅう)》は昭和の補写である。《貫之集下》《伊勢集》の断簡は《石山切》，《順集(したがうしゅう)》の断簡は《糟(かす)色紙》《岡寺(おかでら)切》，《人麻呂集》の断簡は《室町切》，《業平集》の断簡は《尾形切》といわれている。料紙は厚様・薄様・色紙・墨流・打曇・飛雲紙・唐紙(からかみ)・蠟箋(ろうせん)・宿紙など，金・銀の切り箔(はく)・砂子・野毛をまき，金泥(きんでい)・銀泥・顔料で下絵や文様を描き，さらに料紙を切ったり破ったり，薄様を重ねたりして継ぐなど，優美華麗で変化に富む。書写年代は12世紀の初めごろ。筆者は20人だが，藤原定信(さだのぶ)以外は明らかでない。用筆は巧妙にして変化が多い。1549年(天文18)本願寺の証如(光教)が後奈良天皇から拝領した。国宝。〔春名好重〕

にじます【虹鱒】硬骨魚類・サケ科。アメリカ北太平洋岸の河川が原産地で，1877年(明治10)に移殖が試みられ，現在ではほぼ日本全土の冷水域に移殖されて，いたるところで池中養殖が行なわれている。体側に紫紅色の一縦帯があることからこの名があり，英名もレインボウ-トラウトとよばれる。普通は一生を淡水域で過ごすいわゆる河川型(陸封型)であるが，これの降海型はスチールヘッド-トラウトとよばれ，北洋のサケ・マス漁業ではショマとよんでいる。河川型は体長60cmほどであるが，降海型では体長1mをこす。人工受精によって繁殖させるが，採卵期は早いところで10月末日からで翌年の3月ごろまで行なわれる。ニジマスはマス類としては比較的高温に耐えうるが水温はふつう10～20℃がよい。天然での餌料(じりょう)はこん虫類の成幼虫や小魚などであるが，養殖種は幼魚から成魚まで人工配合餌料で飼育されている。卵での輸送も簡単なため，卵で養殖種苗として販売される。食用としても重要で，フライ・塩焼きにする。〔安田富士夫〕

にしまわりかいうん【西回り海運】西回り航路ともいう。東回り海運とともに近世における主要な本州沿岸航路で，日本海沿岸から下関(しものせき)海峡を通過し，瀬戸内海を経て大阪に至る航路をさす。古くは，東北・北陸の産米は海路敦賀(つるが)・小浜に運ばれ，それより一部は琵琶湖(びわこ)の水運を利用し，ほかは陸上輸送で畿内(きない)に運ばれた。これには多くの手数や費用を要したため，1638年(寛永15)ごろからは加賀藩(金沢藩)により西回り海運が開かれ，その藩米が海路大阪に直送された。のちしだいに北に開発され，越後(えちご)・庄内(しょうない)地方(新潟・山形県)にまで延びた。1672年(寛文12)河村瑞賢(かわむらずいけん)によって改良が加えられてからはますます盛んとなり，貨物も米のほか諸物資が輸送されるようになった。なお，この航路に従事する船は北前船とよばれた。〔高崎徳次〕

にしむらしげき【西村茂樹】(1828～1902) 明治の道徳思想家・教育者。佐倉藩士の家に生まれ，漢学・儒学・洋学・兵法を修め，佐野・佐倉両藩の年寄役，印旛(いんば)県権参事(ごんのさんじ)をつとめた。1872年(明治5)上京し家塾(かじゅく)を開く。1873年森有礼(ありのり)の依頼で明六社の創設に参加し，文部省編書課長に就任。1880年文部省

《小学修身訓》(儒教主義による代表的修身教科書)を編纂(へんさん)。その後,宮中顧問官や華族女学校長を歴任した。終始,儒教主義的徳育の強化を主張し,その普及発達に努めた。1876年道徳の振興を目標とする東京修身学社(日本弘道会(こうどうかい)の前身)を結成した。〔赤司政雄〕

にしむらどうにん【西村道仁】 室町末期から桃山時代にかけての釜師(かまし)。名は国次(くにつぐ)。京都三条の釜座に住んだ。茶人武野紹鷗(たけのじょうおう)好みの,芦屋釜(あしやがま)の長所をとった釜をつくったという。弟子(でし)に辻(つじ)与次郎がいる。

にしやますいしょう【西山翠嶂】(1879〜1958) 日本画家。京都の生まれ。京都市立絵画専門学校卒業。竹内栖鳳(せいほう)の高弟で,師の画風を継ぎ,柔らかな情感ある作風で知られた。帝国美術院会員,京都絵画専門学校長になり,1957年(昭和32)文化勲章を受けた。

にしやまそういん【西山宗因】 ⇨宗因

にじゅういちだいしゅう【二十一代集】 勅撰(ちょくせん)和歌集の総称。〈八代集〉と〈十三代集〉を合わせたもの。

にじゅうけつごう【二重結合】 化学結合において,分子内の2個の原子が互いに二つの原子価によって表わされるような結合。構造式では2本の線＝または4個の点で表わされる。この二つの結合は等価ではなく,一方が結合軸を対称軸とする電子分布をもつσ電子による結合(σ結合)であり,他方はこれと垂直の方向に広がるπ電子の重なり合いによる結合(π結合)である。2重結合の原子間距離は,1.2×10^{-8}cm程度で,一般に単結合より短く,3重結合より長い。有機化合物のあるものにおいては,二重結合は反応性に富み,この箇所で付加反応などが起こる場合が多い。〔三輪誠・清水正幸〕

にじゅうこうぞう【二重構造】 一国内に近代的産業と前近代的産業が並存し,それらの間に著しい生産性格差および賃金格差が成立している状態をいう。1957年(昭和32)の《経済白書》に取り上げられ,一般化したことばである。二重構造の特徴は規模別賃金格差,就業構造における小規模集中,膨大な潜在失業者の存在,寡占的集中などの現象にみられる。規模別賃金格差は規模別生産性格差に対応しており,その格差の著しさは日本独自のもので,企業規模の大小順に急角度に悪化する。この場合,規模別賃金格差は急傾斜をなしてはいるが,あくまでも連続的であるという意味で,二重構造を〈傾斜構造〉とよぶこともある。また就業構造においては,日本では小規模企業への就業の集中度が圧倒的に高く,中規模企業の比重は最も低くなっており,そのうえ,前近代的就業形態(自営業主と家族従業者)の比重が高い。そして相対的に生産性の低い農業および中小企業・零細企業に多数の



二十四の瞳　大石先生と12人の教え子を表わした小豆島の碑《平和の群像》

構造的潜在失業が吸収されている。さらに,大銀行を中心とする系列融資による資本集中が,規模別生産性格差を拡大する。以上のような二重構造の存在は,大企業が中小企業を景気変動のクッションとして利用することを可能にし,低賃金労働力および大企業中心の資本集中機構の存在も含めて,高度成長の大きな推進力となった。しかし近年労働力不足と賃金の上昇,物価の上昇が顕著になって,低生産性部門の近代化が緊急の課題となっている。〔加藤　寛〕

にじゅうしき【二十四気】 二十四節気・二十四節,また単に節気ともいう。太陽が1か年かかって見かけ上1回りする黄道を24等分し,その各点に太陽が来たときを,立春・雨水などの季節的な事項をもって名づけたもの。太陰太陽暦では,ときどき閏月(うるうづき)を入れることによって,暦と実際の季節との狂いを調節してきたが,それでもずれが生じて農業などに種々の不便をきたした。それで,中国では古くから二十四気を考え出して,暦の不備を補った。ただし,二十四気の区分は中国の中央部あたりの季節的特徴によっているため,日本の季節とはややずれたものが多い。

	名　称	太陽黄経	時 期(中央標準時)
春	立　春	315°	2月4日または5日
	雨　水	330°	2月19日または20日
	啓　蟄	345°	3月5日または6日
	春　分	0°	3月21日
	清　明	15°	4月5日
	穀　雨	30°	4月20日または21日
夏	立　夏	45°	5月5日または6日
	小　満	60°	5月21日または22日
	芒　種	75°	6月6日
	夏　至	90°	6月21日または22日
	小　暑	105°	7月7日または8日
	大　暑	120°	7月23日または24日
秋	立　秋	135°	8月7日または8日
	処　暑	150°	8月23日または24日
	白　露	165°	9月8日
	秋　分	180°	9月23日または24日
	寒　露	195°	10月8日または9日
	霜　降	210°	10月23日または24日
冬	立　冬	225°	11月7日または8日
	小　雪	240°	11月22日または23日
	大　雪	255°	12月7日または8日
	冬　至	270°	12月21日または22日
	小　寒	285°	1月5日または6日
	大　寒	300°	1月20日または21日

また,日本では二十四気のほかに,季節のめやすとするものとして雑節(節分・八十八夜・入梅・二百十日など)がつくられている。

にじゅうしくみといや【二十四組問屋】 江戸時代,大阪における代表的積み荷問屋の組合。菱垣(ひがき)回船によって大阪から江戸へ輸送する商品の買い継ぎにあたった。1694年(元禄7)結成され,はじめ10組であったが,のち増加して24組となった。大阪から江戸への積み荷の独占権を握り,それを買い入れる江戸の十組問屋と回船の積み荷の種類や,海上輸送によって生ずる損害の負担を協定した。積み荷とした商品は綿・油・紙・海産物をはじめ各種の雑貨にわたったが,樽(たる)回船が輸送する酒は取り扱うことができなかった。1841年(天保12)天保(てんぽう)の改革による株仲間解散令で解散したが,1851年(嘉永4)再興し,幕末に至った。

にじゅうしこう【二十四孝】 中国,元の郭居敬(かくきょけい)の著。1巻。中国の古来の24人の孝子の伝記に詩を付した通俗教訓書で,中国でも日本でも普及し,日本ではこれにちなんだ井原西鶴(さいかく)の《本朝二十不孝》などの作品もある。ただし,この書に説く孝は,寒中親のためにコイを求めて氷上に寝たという類のもので,当時儒教の教えが形骸(けいがい)化していたさまをうかがうことができる。

にじゅうしし【二十四史】 ⇨正史

にじゅうしとりばが【二十四鳥羽蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・ニジュウシトリバガ科の総称およびそのうちの一種。体長6mmほどで,翅(はね)を広げた長さ16mm内外。翅は黄かっ色で,やや帯状をなした暗かっ色の斑紋(はんもん)があり,前後翅とも6本に分枝し,各枝の末端は黒色。成虫は6〜8月に出現し,そのまま越冬する。幼虫はスイカズラの花を食べる。本州・四国・九州のほか,インドに分布する。

ニジュウシトリバガ科は,小形のガで,前後翅とも翅脈を軸にして6本の枝に分かれ,そのおのおのに長い羽毛状の縁毛がある。口吻(こうふん)はよく発達し,糸状の触角がある。幼虫は5対の腹脚があり,植物のつぼみや新芽などに食い入る。トリバガ科よりむしろメイガ科に近縁なものと考えられている。〔多々内修〕

にじゅうしのひとみ【二十四の瞳】 壺井(つぼい)栄の小説。1952年(昭和27)刊行。瀬戸内海の小豆(しょうど)島の岬(みさき)の分教場に赴任した大石先生と12人の教え子とが,愛情に満ちた人間関係を展開する物語で,昭和初期から第2次世界大戦後に至る島の生活がその舞台になっている。映画化もされ,広く大衆に親しまれた。

にじゅうじんかく【二重人格】 自我意識の障害の一種で,一人物の中に非常に異

なった二つの性格がきわだって現われること。それが三つ，四つの場合は，多重人格という。二重人格には，同時的二重人格と継時的二重人格とがある。前者はキツネや神様が乗り移ったとみずから感じ，同時に自分自身の存在をも意識している場合で，本人は本来の自分とキツネや神様の行動とを別別に演ずる。巫子(みこ)の神がかり状態はその典型である。後者は自己の意識下の欲望と密接に関連した人格への転換が起こる場合で，たとえば俳優になりたいという願望を抑圧した内気な少女が，心因性もうろう状態(➝意識障害)に陥ったとき俳優のような身ぶり・話し方をするなどがそれである。〔松田健身〕

にじゅうていこく　【二重帝国】　オーストリア-ハンガリー帝国(1867〜1918)のこと。プロイセン-オーストリア戦争に敗れたオーストリアは，1867年，国家秩序再建のため領内異民族(主としてスラブ系)への対抗策としてハンガリーのマジャール人と妥協し，ハンガリー王国の自治を承認してオーストリア皇帝がハンガリー王を兼ねることとした。両国は，外交・軍事および一部の財政を除き，別個の政府と議会をもつ二重帝国であったが，第1次世界大戦に敗れて，消滅した。〔松　俊夫〕

にじゅうねんもくとのかいげんじょう　【二十年目睹之怪現状】　中国，清(しん)末の政治小説。4巻108回。1903〜1909年刊行。作者は呉沃堯(ごよくぎょう)(1867〜1910)。呉沃堯は，清末のすぐれたジャーナリストで文芸雑誌を主宰，保守的立場に立って当時の腐敗堕落した世相を批判する小説を次々に発表した。この小説は九死一生という主人公が，商業に従事しつつ20年間旅を続け，その間に見聞した挿話(そうわ)を連ねていくという構成になっている。《官場現形記*》とともに清末に多く出た社会批判の小説中の佳作として知られている。〔今村与志雄〕

にじゅうばし　【二重橋】　皇居正門の鉄橋の通称。現在皇居正門には二つの橋があって，外側の橋を〈正門石橋〉，内側の橋を〈正門鉄橋〉とそれぞれ正式に名称するが，二重橋の名称は後者の正門鉄橋に由来する。鉄橋は江戸時代では擬宝珠(ぎぼし)・高欄(らん)つきの木橋で，濠(ほり)が深かったために，当時の工法として，まず水面に近い部分の石がきの脚部から対岸の石がきの脚部へ橋をかけ，その橋を土台にしてさらにその上に橋をかけていた。このため横からながめると二重に橋が渡っているため通称二重橋といわれていた。1888年(明治21)皇居の造営に際して木橋から鉄橋にかけ替え，さらに1964年(昭和39)現在の鉄橋にかけ替えられた。鉄橋となってからは二重の橋ではなくなったが，かつての通称が踏襲された。平常時は一般の人は通行できないが，1月2日の参賀，4月29日の天皇誕生日には開放される。〔小林亥助〕

にじゅうはっしゅく　【二十八宿】　古代中国において天の赤道・黄道付近に考えられた28個の小星座をいう。月の軌道は黄道と約5°8′しか傾いていないので，月は黄道の付近を約28日(正確には27.321661日＝恒星月*)の周期で1周し，28宿は月のその1日行程に相当して選ばれている。

にじゅうぼいん　【二重母音】　ある母音の口の構えから他の母音の口の構えへ移っていくことによって発音される母音。たとえばイギリス英語には次の二重母音がある。[ei](bay 湾)，[ai](eye 目)，[ɔi](boy 少年)，[ou](boat ボート)，[əu](town 町)，[iə](beer ビール)，[εə](air 空気)，[uə](poor 貧乏な)。二重母音は二つの母音の位置の間の漸進的な移行を特色としていて，単なる二つの母音の連続とは異なる。日本語のue(上)，ao(青)などは単なる母音の連続であって二重母音ではない。しかし，kai(貝)などの場合の[ai]は二重母音的に発音されることが多い。〔上村幸雄〕

にじゅうまわし　【二重回し】　⇨インバネス

にじゅうやほしてんとう　【二十八星瓢虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・テントウムシ科。体はほぼ半球形で長さ約6㎜，赤かっ色ないし黄かっ色を呈する。前胸背板に3個，鞘翅に左右14個ずつの黒色の斑紋(はんもん)がある。関東地方以西，東海・近畿(きんき)・山陽地方の主として平野部や海沿いの地帯から四国・九州の中央山地を除いた地帯および沖縄・中国などに分布し，幼虫・成虫ともにナス・トマト・ホオズキ・ジャガイモなどのナス科植物やウリ類・マメ類を食害する。1年に2〜3回発生をくり返し，第1化の成虫は6月ごろから出現する。冬は成虫態で越す。近縁のオオニジュウヤホシテントウは日本全土に分布するが，おもに山地帯に多く，同じくナス科植物を加害する。前種に比べて，やや大形であること，体を側面から見ると背面が高く三角形に近いこと，鞘翅の肩部が張っていること，鞘翅の末端が長いこと，鞘翅の斑紋がはるかに大きいなどの点で区別できる。このほか，オオニジュウヤホシテントウに似るがアザミ類を食べるコブオオニジュウヤホシテントウがあり，これは鞘翅の会合部にある黒紋が著しく大きいことで区別できる。〔鈴木邦雄〕

にじゅうろくせいじん　【二十六聖人】　豊臣秀吉(とよとみひでよし)のキリシタン*迫害によって殉教した26人のキリスト教宣教師および信徒。1587年(天正15)秀吉はキリスト教を禁止したが，その後キリスト教の伝道は西欧諸国の侵略手段であるとの考えをいだき，1596年(慶長1)フランシスコ会士ペドロ・バプチスタら同会士6名，日本イエズス会員3名，その他日本人信徒17人計26名を捕えて長崎に護送し，翌年磔刑(たっけい)に処した。これは日本最初の大殉教事件であった。1862年(文久2)殉教者26名は聖ローマ教皇により聖人に列せられた。➔大浦天守堂〔高崎徳次〕

にじょうき　【二畳紀】　地質時代のうちの古生代を6分した最後の時代。石炭紀のあと，中生代三畳紀のまえ。ペルム紀ともいう。約2億8,000万年前から約2億3,000万年前までの約5,000万年の期間を代表する。古生代に特有な生物が著しく衰退し，中生代に繁栄した部類の先駆者が出現した。石炭紀後期に栄えはじめたフズリナ類(ボウスイチュウ)は二畳紀，特に中期に大発展し，石炭紀のに比べて大形となり，内部構造も複雑になったが，二畳紀末に四射サンゴ類や床板サンゴ類とともに絶滅した。腕足類もしだいに衰微し，古生代を特色づける三葉虫類も二畳紀にはいると勢力を失い，同紀末に姿を消した。節足動物の広翼類(ウミサソリ)も二畳紀末に滅亡した。魚類では淡水生の棘鮫(きょっこう)類や深海生の魚切類が，両生類では堅頭類が栄えた。原始爬虫(はちゅう)類もすでに生存していた。陸上植物では二畳紀中に大変革があり，この時期を境として古植代と中植代に区分される。石炭紀に著しく繁栄した鱗木(りんぼく)・封印木が絶滅し，二畳紀後半になると裸子植物が急激に優勢になった。南半球のゴンドワナ大陸*にグロッソプテリスを代表者とするシダ類が繁茂した。

気候は全般的に温暖であったが，氷河がゴンドワナ大陸に発達し，テチス海*や環太平洋地域の地向斜*に石灰岩・輝緑凝灰岩・粘板岩・砂岩が堆積(たいせき)した。二畳紀前期では各地に石灰岩が発達した。ヨーロッパやアジアは石炭紀に引き続いて二畳紀にもバリスカン変動を受け，ヨーロッパ中，西部ではバリスカン山脈やアルモリカン山脈がますます隆起した。北アメリカではアパラチア変動の最終段階の変動があり，アパラチア山脈が形成された。本紀後期になるとテチス海地域以外は陸化し，乾燥気候下で広大な砂漠(さばく)が生じた。〔田中啓策〕

にじょうさん　【二上山】　大阪府と奈良県の境にある山。金剛山地の北部に位置する二上火山群の主峰をなす。第三紀に噴出した古い鐘状の火山で雄岳(540m)・雌岳(474m)2峰からなり，侵食が著しく進んでいる。南麓(なんろく)に当麻(たいま)寺があるほか，付近には史跡も多い。

にじょうじょう　【二条城】　京都市中京区にある城。1602〜1603年(慶長7〜8)にかけて徳川家康(いえやす)が上洛(じょうらく)時の居館，京都鎮守の目的をもって創建。1884年(明治17)二条離宮となり，1939年(昭和14)京都市に下賜され現在一般に公開されている。本丸は火災で焼失したが，二の丸御殿(6棟)は国宝，二の丸庭園は特別名勝に指定されている。徳川家康と豊臣秀頼(とよとみひでより)との会見，徳川家光(いえみつ)の将軍宣下，

後水尾(ごみずのお)天皇の行幸,大政奉還の上表などが行なわれた。安土桃山時代に発達した殿舎建築の遺構を残し貴重である。

にじょうためよ 【二条為世】(1250～1338) 鎌倉末期・南北朝初期の歌人。為氏の長子。伝統的立場を守る二条派の統率者として,大覚寺統の後宇多天皇・後醍醐(ごだいご)天皇の信任を受け,《新後撰(しんごせん)和歌集》《続(しょく)千載和歌集》などの勅撰集を撰した。歌論書《和歌庭訓(ていきん)》がある。

にじょうてんのう 【二条天皇】(1143～1165) 在位1158～1165年。名は守仁(もりひと)。後白河(ごしらかわ)天皇の第1皇子。母は大納言藤原経実(つねざね)の娘で,左大臣源有仁の猶子となった懿子(いし)。保元(ほうげん)の乱後,後白河天皇は二条天皇に位を譲って院政を行なったが,朝廷内部では藤原経宗(つねむね)(懿子の兄弟)・惟方(これかた)らの天皇親政派が後白河院や院政派と対抗した。平治の乱で一時黒戸御所に幽閉されたが,平清盛の帰京後,清盛の六波羅(ろくはら)邸に脱出した。陵墓は京都の香隆寺陵。

にじょうは 【二条派】 中世和歌の流派。為家(ためいえ)の没後,御子左(みこひだり)家は二条・京極・冷泉(れいぜい)の3家に分立,為氏・為世以下の二条家がその主流を占めた。二条派とは,二条家歴代の歌人たちを中核に,傍流・門下などを含めて称したが,その歌風は,伝統主義的・古典主義的傾向が強く新鮮さには欠けていた。しかし,《玉葉和歌集》《風雅和歌集》を京極派に譲ったほかはすべての勅撰集(ちょくせんしゅう)をこの派が撰進するなど,中世を通じての和歌の枢軸となった。

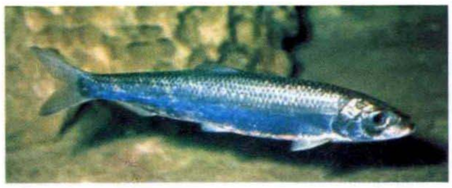
にじょうよしもと 【二条良基】(1320～1388) 歌人・連歌作者。藤原氏。後普光園院と号した。関白左大臣道平の子として,はじめ後醍醐(ごだいご)天皇に,のち北朝の6代の天皇に歴仕し,関白・太政(だじょう)大臣・摂政に至った。また,文化面の指導者であって,和歌を二条派の頓阿(とんあ)に学んだほか,有職(ゆうそく)故実や蹴鞠(しゅうきく)・鷹(たか)狩りなどにも通じていた。特に連歌を救済(ぐさい)に学び,その協力を得て《菟玖波集(つくばしゅう)》を編纂(へんさん)し,〈連歌新式〉を制定して,連歌を和歌と並ぶ文芸にまで高めた業績がある。著書は《連理秘抄》《筑波(つくば)問答》《石山百韻》《近来風体抄》などのほか,紀行文・芸道書などがある。〔奥野純一〕

にじりぐち 【躙口】 ⇨庭園

にしローマていこく 【西ローマ帝国】 テオドシウス帝の没後,ローマ帝国が東西に分裂した際,テオドシウスの次子ホノリウスが継承し,395～476年まで続いた西の国。経済的にはコロヌス制を受け継ぎ,政治的にはゲルマン民族の侵入期にあたり,帝権はきわめて弱く,ゲルマン出身のローマ軍将軍が政治の実権を握っていて不安定であった。そのうえ,王統世襲制を守ったため未成年・無能力の皇帝が続いて混乱を強めた。476年ゲルマン人傭兵(ようへい)隊長オドアケルによって皇帝ロムルス-アウグストゥルスが廃位され西ローマ帝国は滅んだ。のちカール大帝が,ローマ教皇から西ローマ皇帝の帝冠を受けたので,形式上西ローマ帝国は復活し,神聖ローマ帝国の成立まで続いた。〔高山高雄〕



二 条 城　二の丸御殿



ニ シ ン

にしわき 【西脇(市)】 兵庫県ほぼ中央部の市。人口39,000。江戸時代から播州(ばんしゅう)織の特産で知られ,1952年(昭和27)市制施行。市域のほぼ中心にあたる加古川線比延(ひえ)駅の北約1.5kmの地点で135°Eと35°Nの経緯線が交差するので,それを示す石標が立っている。産業三大別人口比は5:52:43。加古川の豊富な工業用水を利用して,綿・スフ織物工業が発達し,先染(さきぞめ)綿布の生産は全国の85%を占め,その大半はアメリカ合衆国をはじめ東南アジア・アフリカ諸国に輸出される。そのため全国的にも女子人口が多いので知られ,1975年には女100について男89となっている。付近は酒造米の産地で,モモ・ブドウなどが栽培される。加古川線・鍛冶屋(かじや)線・国道175号線が通じる。なお,東隣の今田町は古くから陶業地として知られ,その製品は立杭(たちくい)焼あるいは丹波焼の名で珍重される。

にしわきじゅんざぶろう 【西脇順三郎】(1894～1982) 詩人・英文学者。新潟県の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学理財科卒業。オックスフォード大学中退。イギリス留学中にシュルレアリスムなどの新しい芸術思潮に接して帰国。母校の教授をつとめるかたわら,《詩と詩論》などに寄稿し,この詩誌の指導的役割を果たした。第2次世界大戦中は筆を断ったが戦後に詩作を再開し,詩集《旅人かへらず》を刊行。1951年(昭和26)村野四郎らと《GALA》を創刊した。イギリスで出版した英文の処女詩集《Spectrum》をはじめ,評論《超現実主義詩論》《シュルレアリスム文学論》,詩集《Ambarvalia》《近代の寓話(ぐうわ)》《豊饒(ほうじょう)の女神》などがある。〔江種満子〕

にしん 【鰊】 硬骨魚類・ニシン科。全長30cm以上に達する海産魚。北海道・東北地方でカド・カドイワシなどという。このほか漁師が漁期に魚の生理状態に応じてハナグロニシン・ハナジロニシン・アブラニシン・ハルニシンなどとよんでいる。北日本から北アメリカ西側に分布し,日本の水産上重要魚種の一つで,かつては北海道周辺では産卵のため回遊してきたニシンの精子のため,海が白くなったといわれるほどであったが,近年漁獲高は激減し,北海道西岸の産卵場で漁獲されるのが主であとはわずかに沖取りがあるのみである。身欠きにしんなどにされ,食用としての価値は大きい。卵塊は数の子といわれている。なお,英名でにしんをヘリングというが,大西洋にすむヘリングとは腹びれ前方の稜鱗(りょうりん)に隆起線のないことで区別される。〔安田富士夫〕

ニジンスキー [Vaslav Nijinsky] (1890～1950) ロシアの舞踊家・振り付け師。キエフの生まれ。1908年ペテルブルグ帝室舞踊学校卒業。1909年ディアギレフのバレエ-リュス(ロシアバレエ団)に参加,第1男性舞踊手に抜擢(ばってき)された。以後1919年発狂して引退するまで,おもにバレエ-リュスの一員として活躍,男性舞踊に新生面を開き,不世出の名手とうたわれた。特にその超人的跳躍技は伝説的なものとさえなっている。おもな振り付け作品《牧神の午後》《春の祭典》《遊戯》など。〔高橋孝一〕

にしんほう 【二進法】 数を表わす方法の一つで,2になるごとにまとめて,上の位に一つ繰り上げていく記数法。二進法によれば,どんな数でも,0と1という二つの数字だけで表わすことができる。たとえば,十進法の1,2,3,4は,二進法では1,10,11,100となる。また,十進法の11は,$11=1\cdot2^3+0\cdot2^2+1\cdot2^1+1\cdot2^0$だから,二進法では1011となる。

```
2 )11
2 ) 5……1
2 ) 2……1
    1……0
```

コンピューターでは,電流が流れるか(1),流れないか(0)という二つの状態を利用し,数を二進法で表わし,さまざまな計算をする。〔杉岡司馬〕

ニス ⇨ワニス

ニース [Nice] フランス南東部,イタリア国境に近い地中海沿岸の観光都市。人口32万2,400(1968)。温和な気候とコートダジュールの美しい海岸で知られ,ヨーロッパ各地から保養客が訪れる。またマリチーム-アルプスへの登山基地でもある。19世

紀初期につくられたイギリス通り，マセナ宮殿，毎年４月に開かれるカーニバルなどが有名で，オリーブ油と切り花の産出も多い。紀元前４世紀，フェニキア人の植民都市として興り，のちローマ領・サラセン領を経て，1388年以降，長くイタリアのサボイ家の支配が続いたが，1860年にフランス領となった。　〔梶川勇作〕

ニスタットじょうやく　**［ニスタット条約］**　1721年，北方戦争終了のため，ロシアとスウェーデン間に結ばれた講和条約。平和交渉は1718年に開始されたが，カール12世の死によって中断された。その間にスウェーデンは，ロシアの強大化を恐れる列強と講和し，対ロシア戦争に全力を注いだが，スウェーデンの形勢不利のうちに，スウェーデン領フィンランドでこの条約が締結された。その内容は，ロシアが占領中のフィンランドの大部分を返還し，スウェーデンは，リボニア・エストニア・イングリアなどをロシアに与えるというものである。この結果バルト海貿易を独占し，北ヨーロッパに君臨していたスウェーデンはその地位をロシアに奪われた。　〔山県弘志〕

にせアカシア　⇨アカシア　⇨ハリエンジュ

にせい　**［二世］**　移住民として外国に居住した〈一世〉を両親または片親として出生し，その地の市民権を得た者。日系二世はハワイ諸島に多く，総人口の３分の１(約20万)を占めているといわれる。明治・大正時代，一世が移住して，おもにサトウキビの栽培に従事していたが，二世以降は商工業部門に進出している者が多く，中でもイノウエは知られる。なお，第２次世界大戦前の日系二世は，出生届けを提出する際，国籍について日本領事館に成人に達するまでは日本国籍を保留する旨の届けをしない場合，自動的にアメリカの国籍となり，二重国籍者として問題となった。

にせえ　**［似絵］**　大和絵(やまとえ)の肖像画。鎌倉初期から盛んとなり，当時の偉人崇拝や写実主義の傾向を反映して流行した。従来の肖像画が故人や架空の人物を描出したのに対し，原則として実像を忠実に写生したものである。藤原隆信(たかのぶ)がその先駆者とみられ，その子信実(のぶざね)，鎌倉末期の豪信などが名手として知られている。遺品には伝信実《後鳥羽院(ごとばいん)御影》，豪信《花園天皇御影》などがある。

にせがねつくり　**［贋金つくり］**　ジイドの長編小説(1926)。私生児ベルナールが贋金でない本物の人生を誠実に求める過程が，主要な物語である。しかし，物語の展開は，さらに多くの主題をかかえて多元的構造をなしており，また作中人物のひとりが〈贋金つくり〉という小説を書いており，さらにジイド自身が《贋金つくりの日記》を発表して，この小説の創作方法を論ずるなど，多元化された小説世界がめざされている。



ニース　海水浴客の日光浴でにぎわうニースの海岸。海に沿うプロムナードには，新旧とりどりのホテル・アパート・レストランが並ぶ



似絵　伝藤原信実《後鳥羽院御影》水無瀬神宮蔵

19世紀的リアリズムでは描ききれない20世紀世界にふさわしい小説を模索した作品として，その後の小説家・芸術家に深い影響を及ぼした。　〔池田公麿〕

ニセコアンヌプリ　北海道の半島部北部の成層火山。標高1,309m。ニセコ火山群の東端に位置し，函館(はこだて)本線をはさんで羊蹄(ようてい)山と相対する。古くからスキー場として知られ，付近にニセコ・昆布などの温泉があり，交通の便がよい。ニセコ積丹小樽(しゃこたんおたる)海岸国定公園に含まれる。

ニセコしゃこたんおたるかいがんこくていこうえん　**［ニセコ積丹小樽海岸国定公園］**　北海道のニセコアンヌプリ(1,309m)・イワオヌプリ(1,118m)・チセヌプリ(1,135m)・目国内岳(めくんないだけ)(1,203m)・雷電山(1,212m)などの山岳地と，積丹半島の神恵内(かむえない)付近から神威岬(みさき)・積丹岬・高島岬に至る海岸線を含む面積193km²の地域で，1963年(昭和38)に指定された。山麓(さんろく)にはニセコ温泉郷がある。積丹半島の海岸線は日本海の荒波に削られた勇壮な海崖(かいがい)をなし，西の川原の絶壁にかかるシシャモナイ滝などの景勝地，フゴッペ洞窟(どうくつ)・ストンサークルなどの重要文化財がある。　〔木村東一郎〕

にせむらさきいなかげんじ　**［偐紫田舎源氏］**　合巻。38編。柳亭種彦(りゅうていたねひこ)作。1815～1842年(文化12～天保13)刊。《源氏物語》の舞台を足利(あしかが)時代に移して将軍家にまつわるお家騒動や政争の物語に仕立てた草双紙で，人物も光源氏を足利光氏(みつうじ)，桐壺(きりつぼ)更衣を花桐御前などと変えている。28年間にわたって書き継がれたが，徳川将軍の私生活を風刺したとの評判が立って筆禍騒ぎが起こり作者が病死したため，未完に終わった。長編合巻の代表。　〔渡辺守邦〕

にだいせいとうせい　**［二大政党制］**　政党政治の一形態で，二つの安定した勢力を有する政党が交互に単独で政権を担当するもの。多党制・少党分立制と対比される。これは制度というよりも政治上のある特定の状態を示すことばといってよい。たとえばイギリスの労働党と保守党，アメリカの民主党と共和党，かつての日本における立憲政友会と立憲民政党などがそれである。二大政党制は政情が比較的安定する，選挙民の選択が容易であるなどの利点がある。二大政党制の成立にはその両者にそれほど異質な利害の対立のないことが前提で，アメリカの巨大政党もその点で階級的利害の同質性の上に存続している。　〔溝口　潔〕

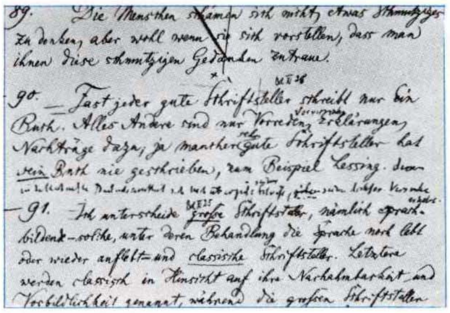
ニーダム　［Joseph Needham］(1900～　)イギリスの発生学者・生化学者・科学史家。ロンドンに生まれ，ケンブリッジ大学を卒業。発生学と生化学を結びつける先駆的研究を行ない，1926年ニワトリ胚(はい)の含窒素排泄(はいせつ)物が胚発生過程で変動することを発見。1934年形成体の誘導物質のステロール説を主張した。1964年(昭和39)来日。著書《懐疑的生物学者》《形態形成の生化学》《中国における科学と文化》など。

にちいん　**［日印］**　(1264～1328)　鎌倉時代の僧。越後(えちご)(新潟県)の人。姓は朝倉，摩訶一阿闍梨(まかいちあじゃり)と称した。８歳で石瀬の天台宗青龍(せいりゅう)寺の智観に師事し，のちに志して鎌倉・奈良・比叡(ひえい)山に遊学したが，1294年(永仁２)に比企谷(ひきがやつ)で日朗の教えを受けて日蓮宗(にちれんしゅう)に改宗し，日印と号した。帰郷して青蓮華(しょうれんげ)寺を創建し，鎌倉に上り諸宗と対論して功績があった。1320年(元応２)に日朗が入寂するや，鎌倉名越に庵(いおり)を結んで喪に服し，のちにこれを本圀(ほんこく)寺と称した。　〔塚本啓祥〕

ニーチェ　［Friedrich Wilhelm Nietzsche］(1844～1900)　ドイツの哲学者・詩人。ライプチヒ近郊レッケンの牧師の家に生まれる。プフォルタ学院さらにボン大学で哲学・古典文献学・神学を修め，１年後に師リッチュルを慕ってライプチヒ大学に転じて古典文献学に専念し，新進文献学者としての地位を得た。ショーペンハウアーの著作に出会い，R.ワーグナーと面識を得たのもこのころである。1869年，25歳でスイスのバーゼル大学教授となった。当時トリ

プシェンに住んでいたワーグナー夫妻と親交を結び，その音楽の宣伝の意味も含めて処女作《悲劇の誕生》を書いた。この作は従来のアポロ的清朗さを基調とするギリシア観に対して，その文明の底にディオニュソス的行動を見いだし，悲劇をその衝動の造形による昇華とみたものである。1873～1876年，《反時代的考察》と題する一連の文章を発表。それ以来ワーグナーとも別れ，ロマン主義の思想を脱して，1878年《人間的な，あまりに人間的な》を出版，実証主義といわれる時期にはいった。しかし1876年以来強度の偏頭痛と胃弱に悩み，1879年バーゼル大学を退職，以後は3,000フランの年金によって生活した。1881年《曙光(しょこう)》脱稿後，スイスのシルスマリアに遊び〈永劫(えいごう)回帰*〉の思想に襲われた。1882年，ルー-サロメと会い失恋，1882年2月〈神の死〉以後のニヒリズムの超克を主題とした詩劇《ツァラトゥストラかく語りき*》を書きはじめた。1885年これを完成し，以後散文的主著《権力への意志》を企図，草稿をたくわえた。その間1889年まで《善悪の彼岸》《道徳の系譜》《アンチ-クリスト》《この人を見よ》などを発表した。1889年トリノで発狂，以後母と妹にみとられながら，ワイマールで没。その思想はキリスト教的，ヨーロッパ的価値解釈の帰結である〈ヨーロッパのニヒリズム〉をいかにして超克するかという点にあった。〈神の死〉はその前提，〈永劫回帰〉はその帰結，〈運命愛〉はその超克である。さらに世界を支配する形而上学(けいじじょうがく)的本質としての〈力への意志〉と，その力を体現してニヒリズムの時代に能動的に生きる理想的人間像である〈超人*〉の思想がその主柱とされるが，それらの論理的整合性についてはさまざまな解釈があって一定しない。
〔豊福英利〕

にちえいどうめい　【日英同盟】　1902年(明治35)1月，日本とイギリスの間で結ばれた軍事義務を伴う同盟。義和団の乱*以後，イギリスは，満州・朝鮮・中国への進出を強めたロシアに対抗して，極東における権益を確保するため，1901年日英間の交渉を始め，翌年これを締結した。本同盟は，両国の権益保護のために相互援助を約したもので，締約国の一方が他の1国と戦争を行なった場合，他方は中立を守り，一方が2国以上と戦争を行なった場合，他方は参戦義務を負うと定められ，期間は5年であった。1904年日露戦争*が勃発(ぼっぱつ)したため，翌年第1次改訂が行なわれ，ロシアの報復に備えてインドまで適用範囲を拡大した。期間も10年となり，イギリスは朝鮮に対する日本の保護権を承認した。しかし，アメリカの中国進出に対抗して，日本がロシアと日露協約*(1907)に締結し，イギリスもイギリス-ロシア協商*(1907)を成立させるにつれて，同盟の対象は対ドイツに代わり，日本はイギリス・アメリカと対立する傾向を示した。


89. Die Menschen schämen sich nicht, etwas Schmutziges zu denken, aber wohl wenn sie sich vorstellen, dass man ihnen diese schmutzigen Gedanken zutraue.
90. Fast jeder gute Schriftsteller schreibt nur ein Buch. Alles Andere sind nur Vorreden, Erklärungen, Nachträge dazu; ja mancher gute Schriftsteller hat sein Buch nie geschrieben, zum Beispiel Lessing.
91. Ich unterscheide grosse Schriftsteller, nämlich sprachbildende, solche, unter deren Behandlung die Sprache noch lebt oder wieder auflebt, und classische Schriftsteller. Letztere werden classisch in Hinsicht auf ihre Nachahmbarkeit und Vorbildlichkeit genannt, während die grossen Schriftsteller

ニーチェ　《人間的な，あまりに人間的な》の草稿



日南海岸国定公園　宮崎市から日南市へ向かう国道220号線の堀切峠付近の景観。砂岩・ケツ岩の互層がしま状の海食地形をつくり，波をかむ

1911年第2次改訂が行なわれ，日米戦争の場合，イギリスは日本を援助する義務を免れることが決められた。第1次世界大戦の終結は日英同盟の存在意義を少なくし，ついに1921年(大正10)四か国条約*の発効に伴い，1922年8月廃棄された。〔原田政洸〕

にちこうさ　【日較差】　⇨較差

にちじょうげんごがくは　【日常言語学派】　現代イギリス哲学の中心を占め，日常言語の意味や用法を分析し明確化する立場。しかしまとまった形の学派ではない。このような考え方はイギリスに伝統的なもので，ムーア*はその代表的な存在。また，ウィトゲンシュタイン*の〈言語の意味はその用法にある〉という思想も，この立場に立つものである。さらに身心二元論の問題を行動主義の立場から解決しようとしたライルや，混乱した言語の用法を正すというところから〈治療的分析〉を主張するストローソンらの哲学もこれにあたる。〔寺中平治〕

にちどくいさんごくどうめい　【日独伊三国同盟】　日本・ドイツ・イタリア3国で調印した〈日本国・ドイツ国およびイタリア国間三国条約〉に基づいた一種の軍事同盟。1940年(昭和15)9月ベルリンで調印。条約のおもな点は，ヨーロッパおよびアジアでのドイツ・イタリア・日本による新秩序建設と指導的地位の承認(第1，2条)，日中戦争*・ヨーロッパ戦争に加わっていない外国の攻撃を受けた場合の相互援助(第3条)，ソ連との関係不変更の規定(第5条)などである。また，ドイツが日ソ関係改善の仲介を約した秘密文書がある。本同盟により日本の対アメリカ・イギリス関係は悪化し，太平洋戦争*に突入することとなった。
〔原田政洸〕

にちどくいぼうきょうきょうてい　【日独伊防共協定】　第2次世界大戦前，インターナショナル*およびソ連に対抗するため，日本・ドイツ・イタリアの間で締結された協定。1937年(昭和12)11月ローマで調印。前年日本とドイツの間で締結された〈共産主義インターナショナルに対する協定〉(日独防共協定)にイタリアが参加したもので，〈秘密付属協定〉(ソ連を仮想敵国とする)を含み，インターナショナルに関する情報交換・防衛協力および3か国官憲の協力などを内容とする。ファシズム*による枢軸結成の端緒となり，1939年ハンガリー・スペイン・満州国が新たに参加した。1940年日独伊三国同盟*へ発展。〔原田政洸〕

にちなん　【日南(市)】　宮崎県南東端の市。人口54,000。中心市街の飫肥(おび)は江戸時代伊東(いとう)氏五万一千石の城下町で，1950年(昭和25)南那珂(みなみなか)郡の吾田(あがた)・油津の2町と合併して市制を施行，1955年細田町を編入した。日向灘(ひゅうがなだ)に面し，北部は海抜700m内外の鵜戸(うど)山地が海に迫って宮崎平野と接し，広渡川下流沖積地(ちゅうせきち)に市街地が開ける。産業三大別人口比は22：25：53。周辺山地は飫肥スギの産地で，吾田にはパルプ製材工場があり，船材として海外にまで送られる。油津は県下有数の良港で，飫肥スギの積み出し港，カツオ・マグロ漁業の基地である。農業も盛んで，促成野菜とミカンを産する。日南線に沿い，国道220号線・222号線が集まる。鵜戸神宮のある鵜戸崎を含む海岸一帯は，亜熱帯植物の繁茂する景勝地で，日南海岸国定公園*の中心をなす。特産はかつお節・和紙など。

にちなんかいがんこくていこうえん　【日南海岸国定公園】　宮崎・鹿児島の2県にまたがり，青島・鵜戸崎(うどざき)・大島・幸島・都井岬に至る海岸と，志布志湾西岸の一部を含む地域。面積46km²。1955年(昭和30)指定された。海岸線は変化に富み，海食崖(かいしょくがい)や海食洞(かいしょくどう)などもみられ，鵜戸神宮は面積700km²に及ぶ大洞窟(だいどうくつ)の中にある。青島・枇榔(びろう)島は亜熱帯性植物の群落地で，ビロウが茂り南国的な風景が見られる。また，都井岬付近はソテツが自生し，野生馬の生息地として知られ，幸島には野生のサルがおり，いずれも天然記念物に指定されている。
〔木村東一郎〕

にちにちそう　【日日草】　双子葉植物・キョウチクトウ科。西インド原産の一年草。高さ25～30cm。葉は長さ5～7cm，幅2.5～3.5cmの卵状楕円(だえん)形で質柔らかく光沢があり，対生する。8～9月，茎頂および葉腋(ようえき)に長い筒のある径1.5～2cmの花

冠で先が5裂する淡紅白花，まれに白色花をつける。切り花用として栽培される。

にちはら 【日原(町)】 島根県鹿足(かのあし)郡の町。人口5,700。県西部，高津川の流域にある。国有林が広がり営林署があって，おもな産業は製材業・チップ工業などであるが，林業は伸び悩んでいる。近年，養蚕も盛んになってきている。山口線が通じている。

にちべいあんぜんほしょうじょうやく 【日米安全保障条約】 対日講和条約*実施後のアメリカ軍の日本駐留を定めた条約。1951年(昭和26)9月サンフランシスコで調印，1952年4月対日講和条約と同時に発効。対日講和条約は，日本国が国際連合憲章第2条の義務を受諾することを定めると同時に，日本国が国際連合憲章第51条の自衛権を有し，集団的安全保障の取り決めを自発的に締結しうる主旨を規定して，占領軍撤退後の外国軍隊の駐留を妨げないとしている。日米安全保障条約は，むしろ，実質的にはこの対日講和条約締結の前提となっているといっても過言ではなく，日米安全保障条約を受け入れずして，対日講和条約を締結することは日本にとって不可能であった。この条約は将来の太平洋地域の安全保障体制(太平洋防衛同盟)の整うべきことを予想したアメリカの世界政策におけるアジア反共体制の一環として成立したものである。条約は前文と本文5か条からなり，アメリカにその陸海空軍の〈日本国内およびその付近に配備する権利〉を認め，引き続き駐留軍として日本にとどまることとした。アメリカ駐留軍が出動するのは，①極東における国際の平和と安全維持に寄与するために必要のある場合，②外部の国による教唆または干渉によってひき起こされた日本国における大規模の内乱および騒擾(そうじょう)を鎮圧するために，日本政府の明示の要請のある場合，③外部からの武力攻撃に対する日本国の安全に寄与するために必要な場合である。日本は第三国に基地・駐兵などの権利を与えてはならないとされ，駐留軍の配備を規律する条件は日米行政協定*に規定される。条約は直接，日本の再軍備の義務を規定してはいないが，その前文に日本の防衛能力の漸増を期待する旨の表現があり，また，将来日本区域における国際の平和と安全を維持する国際連合の措置，またはこれに代わるその他の安全保障措置ができることを予想しており，その意味では暫定措置であった。

その後，日本の自衛力の増強と国際連合への加入などによって，事情が変化し，条約は片務的で日本の自主性を欠いているとの批判が強くなったため，日本はアメリカに改定を申し入れ，1958年10月から改定交渉にはいった。この改定交渉については，国内が二分して賛否を争い，野党や日本労働組合総評議(総評)，その他の文化団体・



ニチニチソウ

宗教団体・婦人団体などが日本とアメリカの軍事的結びつきをいっそう強くするものだとして反対し，〈安保条約改定阻止国民会議〉を結成して，反対運動を展開した。政府および自由民主党は，種々の形でこれに対抗したが，結局，1960年1月ワシントンで新しい安全保障条約が調印され，同年6月23日発効した。なお，新条約の成立にあたって，抜き打ち採決を強行する暴挙によって国会の承認を得たが，そのため岸信介(のぶすけ)内閣は総辞職した(→安保闘争)。

新条約は，正式には，〈日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力および安全保障条約〉といい，交換公文3，合意された議事録，往復書簡が付属している。前文と本文10か条からなり，政府は，旧条約に比べて，次の5点で改定されたとしている。①国際連合との関係が明確にされたこと，②アメリカの日本防衛義務が明確にされたこと，③事前協議の制度が取り入れられたこと，④日本とアメリカの政治・経済上の協力について規定していること，⑤期限が設定されていること。なお，1970年6月にいちおうの期限がきたとき，安全保障の基本路線についてどのような道を選ぶかが問題となり，再び賛否をめぐる種々の主張がなされたが，結局政府は，1970年6月に自動延長をさせた。〔広部和也〕

にちべいかぎょぎょうじょうやく 【日米加漁業条約】 ⇨北太平洋公海漁業条約

にちべいぎょうせいきょうてい 【日米行政協定】 日米安全保障条約*第3条の規定により，日本駐留のアメリカ軍の地位や配備条件について定めた協定。1952年(昭和27)2月28日調印，同年4月28日日米安全保障条約と同時に発効。前文と29か条からなり，内容は，①基地施設と区域の提供，②経費の分担，③軍関係の免税その他の特権，④裁判権，⑤アメリカ軍とその家族の安全確保に関する日本の義務，⑥協定の実施に関する協議と日米合同委員会の設置などであるが，1960年6月日米安全保障条約の改定に伴って，新たに行政協定が締結された。正式には，〈日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力および安全保障条約第6条に基づく施設および区域並びに日本国における合衆国軍隊の地位に関する協定〉。新協定におけるおもな改正点は，①日本側からアメリカ軍に退去を求めるときの条件，②アメリカ軍人を税関検査の対象とすること，③施設外でのアメリカ軍の権利制限，④防衛分担金の削除などである。〔広部和也〕

にちべいげんしりょくきょうてい 【日米原子力協定】 ⇨原子力協定

にちべいしゅうこうつうしょうじょうやく 【日米修好通商条約】 1858年(安政5)6月，日本とアメリカの間で調印された条約。安政の五か国条約*，または安政の仮条約とよばれる一連の条約の一。アメリカ総領事ハリス*と，日本側全権下田奉行(ぶぎょう)井上(いのうえ)清直*，目付岩瀬忠震*(ただなり)との間で，1857年12月から翌年1月にかけて審議し，条約14条，貿易章程7則を議了した。1860年(万延1)ワシントンで批准書を交換。勅許なしに大老井伊直弼*(いいなおすけ)が調印し，次いで，オランダ・ロシア・イギリス・フランスなどとも締結した。勅許を得ないで調印したため〈仮条約〉とよばれるが，1865年(慶応1)，イギリス・フランス・オランダ・アメリカ連合艦隊の武力によって勅許となった。おもな内容は，①公使・領事の交換，②日米和親条約*で開港されていた下田・函館(はこだて)に加えて，神奈川・長崎・新潟・兵庫の開港と江戸・大阪の開市，③自由貿易の制定，④同種同量による貨幣交換，⑤領事裁判権，⑥外人居留地・遊歩区域の設定，⑦居留アメリカ人の信教の自由，などである。また貿易章程では関税自主権が否定されているなど，本条約は不平等条約であり，条約改正*はその後の日本の大きな外交課題の一つとなった。〔原田政洸〕

にちべいそうごぼうえいえんじょきょうてい 【日米相互防衛援助協定】 1954年(昭和29)3月調印，同年5月発効した日本国とアメリカ合衆国との間の相互防衛援助協定。アメリカの相互安全保障法(MSA)援助を内容とするため，MSA協定ともいわれる。この協定と同時に〈農産物の購入に関する日本国とアメリカ合衆国との間の協定〉，〈経済的措置に関する協定〉〈投資の保障に関する協定〉が締結されており，これらを含めてMSA協定とよぶこともある。MSAは，被援助国に対して自国ならびに自由世界の防衛力強化の義務，およびバトル法*(対共産圏輸出禁止法)の適用という二つの条件がつくため，憲法第9条との関係で違憲の疑いがあること，内政干渉のおそれがあること，防衛費がふえることなどの点で問題となった。〔広部和也〕

にちべいつうしょうこうかいじょうやく 【日米通商航海条約】 日本・アメリカ間の経済通商問題について規定した条約。1953年(昭和28)4月2日東京で調印，同年10月30日発効。1940年前条約(1911年調印)がアメリカの廃棄通告で失効して以来のもので，日本が第2次世界大戦後結んだ対日講和条約*・日米安全保障条約*に次いで重要な条約

である。前文と本文25か条，議定書15項目からなる。対日講和条約(12条C)に規定される最恵国待遇*および内国民待遇*の原則を一般的な基礎として，入国，資本および技術の交流，身体・財産の保護，営利活動，財産権の取得，為替(かわせ)管理，関税および業務規制，海運・船舶などを規定している。〔広部和也〕

にちべいわしんじょうやく 【日米和親条約】 1854年(嘉永7)3月江戸幕府がアメリカの使節ペリー*と締結した条約。神奈川条約ともいう。日本が鎖国*を破った最初の条約で,12条からなる。おもな内容は，①下田・函館(はこだて)へのアメリカ船寄港と物資買い入れの承認，②下田に領事駐在，③最恵国待遇*条款などで，アメリカ船の物資補給が目的であった。1857年(安政4)の下田条約*を経て，日米修好通商条約*に吸収された。

にちみんぼうえき 【日明貿易】 室町時代に行なわれた日本と中国との貿易。倭寇*(わこう)の密貿易にかねてから着目していた室町幕府は，財源獲得の一助として明との貿易に踏み切り，1401年(応永8)，はじめて足利義満(あしかがよしみつ)が明に使者を送った。これは日本国王から明への朝貢形式であったが,1404年明使が義満に永楽の勘合符(渡航許可証)をもたらしてからは，いわゆる勘合貿易*となった。

にちれん 【日蓮】 (1222～1282) 鎌倉時代の僧。日蓮宗の祖。安房(あわ)(千葉県)長狭(ながさ)郡東条郷(現在の小湊(こみなと))に貫名次郎重忠の子として生まれた。12歳で清澄寺の道善房に師事し，16歳のとき同師のもとで出家して名を蓮長と改めた。しかし，当時の天台密教や念仏宗のあり方に疑念をもち，虚空蔵菩薩(こくうぞうぼさつ)に日本第一の知者たらんことを祈願して，鎌倉・京都・比叡(ひえい)山・三井・奈良・高野山などに遊学して諸宗の教学を習得した。その結果，天台法華宗(ほっけしゅう)の優位を確信し，1253年(建長5)に32歳で《法華経*(ほけきょう)》の題目*をはじめて唱えて立教開宗の宣言をなし，日蓮と号した。清澄寺の持仏堂で自己の体得した法華信仰を説いたため，寺衆ならびに地頭東条景信(かげのぶ)の反感を買い，追われて鎌倉におもむいた。鎌倉では名越松葉谷(まつばがやつ)の草庵(そうあん)に住し，小町の辻(つじ)でいわゆる辻説法をして浄土宗・禅宗・律宗などを破した。そのころ天変地異が続き，国内は飢饉(ききん)に見舞われ,流行病が蔓延(まんえん)した。日蓮は，その原因を国民の信仰の誤りに対する天の戒めであるとして，1260年(文応1)に《立正安国論*》を著わして北条時頼(ほうじょうときより)に献じた。幕府はこれを黙殺したが,官僚的な諸大寺の謀略によって草庵は焼き打ちされ，日蓮は下総(しもうさ)中山(千葉県)に難を避けた。翌年再び鎌倉に帰ったが，捕われて伊豆(いず)(静岡県)に流された。配所において《四恩抄》《教機時国鈔(じこくしょう)》などを著わした。許されて鎌倉に帰った日蓮は，故郷の病母を訪れたが，小松原で地頭東条景信の襲撃にあった。1268年(文永5)に蒙古(もうこ)の使者が来朝して世情騒然となるや，日蓮は《立正安国論》の予言が的中したことを確信し，公開の場で諸宗と対決することを求めた。ここに至って諸大寺の陰謀は激化し，1271年仏法に託して政道を乱すとの罪名で逮捕され佐渡(新潟県)に流された。途中鎌倉龍口(たつのくち)において処刑されようとしたが死を免れた。受難は弟子(でし)や門徒にまで及び，脱落する者も出てきた。そこで《開目鈔*》《本尊鈔》を著わして，日蓮教学の基礎を確立した。1274年に赦免されて鎌倉に帰った日蓮は，3度めの国難を訴えたがいれられず，身延山(山梨県)に隠退した。身延山9か年の滞在中は，《撰時鈔*(せんじしょう)》《報恩鈔》などを著わして，もっぱら後継者の育成と信徒の指導にあたった。その間に熱原法難によって信徒の多くが処刑される事件もあったが，彼の教導によって苦境を切り抜けた。1282年(弘安5)に病気治癒(ちゆ)のため身延山を去って武蔵(むさし)国池上(東京都)の宗仲の館に着いたが，長途の旅のため病状は悪化し，弟子の中から日昭・日朗ら6老僧を選んで後事を委嘱したのち，61歳の生涯(しょうがい)を閉じた。〔塚本啓祥〕



日　蓮　《日蓮上人画像》 妙法華寺蔵

にちれんしゅう 【日蓮宗】 鎌倉時代に興った仏教の一派。日蓮*を宗祖とし，《法華経*(ほけきょう)》に依拠する。日本13宗の一つで，古くは法華宗(ほっけしゅう)・仏立宗などと称したが，天台法華宗と区別して日蓮法華宗といい，のちに単に日蓮宗と称するに至った。天台大師智顗(ちぎ)の教学を基礎とするが，天台の〈理〉に対して日蓮の〈事〉，すなわち実践面を重んじるところに特色がある。比叡(ひえい)山・奈良・高野山などの遊学を終えて故郷の安房(あわ)(千葉県)に帰った日蓮が，1253年(建長5)に安房の清澄寺ではじめて《法華経》の題目*を唱えたときを立教開宗の年とする。1282年(弘安5)に日蓮が池上で入寂するにあたって，後事を本弟子(でし)と定めた日昭*・日朗*・日興・日向・日頂・日持の6老僧に委嘱した。それによって身延山久遠寺*の守塔に輪番のおきてが定められたが，地頭の波木井実長(さねなが)の外護の下に甲斐(かい)(山梨県)・駿河(するが)(静岡県)地区を教化した日興と,迫害にさらされ困難を冒して鎌倉(神奈川)地区に布教した日昭・日朗らとの間には，布教の態度におのずから相違があった。また,温和で寛容的な日向が実長の請によって身延山に常住するにおよんで，厳格な祖法遵守の立場をとる日興とは化道の方法で意見が対立した。かくして日興は身延山を去り5長老と別れ，駿河の富士山麓(さんろく)に大石(たいせき)寺*，重須(おもす)(静岡県)に本門寺を創建して弟子の育成を図った。これを富士門流(→日蓮正宗)という。そこで，5長老もそれぞれの本拠によって弟子を養成して布教した。6老僧の上首である日昭は，身延守塔の輪番を終えてのち，鎌倉の浜土に法華寺を創建して住した。これを浜門流という。日朗は身延守塔の輪番のあと，鎌倉の比企谷(ひきがやつ)に妙本寺を創建し，池上(東京都)の本門寺*を兼務した。これを比企谷門流という。日向は身延山久遠寺第2世の法統を継ぎ，のちに弟子の日進を第3世としたため，その後祖廟(そびょう)はこの門流の守護するところとなった。これを身延門流(または茂原門流)という。日頂は下総(しもうさ)真間(千葉県)の弘法(ぐほう)寺によった。これを中山門流という。日持は海外への伝道を志して，奥羽を経て松前(北海道)に至り，さらに遠く靺鞨(まっかつ)の地にはいったと伝えられる。また，日蓮の門下には6老僧のほかに中老といわれる長老(12～18人)があった。13世紀末に日朗門下の日像が京都に布教して(四条門流)以来，門流勢力は京都に集中する傾向を示し，新たに日什(にちじゅう)・日静(にちじょう)の門流が興った。しかし，京都の門流は14世紀後半に比叡山と衝突して地方に難を避けたため，門流に分派の傾向がみられた。日隆・日陣の門流が独立したのはこのころである。15世紀中葉，応仁(おうにん)の乱後は，日真の門流の独立がある。また，日蓮宗には元来，不受不施といって僧侶(そうりょ)・信徒の信仰生活を規定する信条があったが，17世紀初頭にこれを祖師の本義とした日奥によって独立の派が形成された。これを不受不施派*という。その後各派は多くの法難を受けながら各地に伝道して今日に至っている。〔塚本啓祥〕

にちれんしょうしゅう 【日蓮正宗】 日蓮*を宗祖とし，日興を派祖として，駿河(するが)(静岡県)富士郡上野の大石(たいせき)寺*に本山を置く日蓮宗の一派。古くは富士門流・興門派・大石寺派とも称した。日興(1246～1333)は甲斐(かい)(山梨県)大井庄(しょう)に生まれ，姓は橘(たちばな)，白蓮と号した。8歳で岩本(静岡県)の実相寺で出家し，天台を



日露戦争　対馬海峡における海戦

学んだが，1259年(正元１)に日蓮が同寺の経蔵にこもって〈一切経〉を閲読するのに会い，その学徳を慕って弟子(でし)となった。その後，鎌倉(神奈川県)・伊豆(いず)(静岡県)・佐渡(新潟県)と，日蓮に従って文書の手助けをした。日蓮の入寂に際して6老僧のひとりに選ばれ，本門戒壇の建立(こんりゅう)と身延山別当の委嘱を受けたと伝えられる。身延山に輪番で守塔したが，のちに地頭の波木井実長(さねなが)と不和を生じ，1290年(正応３)大石寺を創建した。その後大石寺を高弟の日目に譲り，みずからは重須(おもす)(静岡県)に本門寺を創建して住した。富士で布教すること40余年，88歳で入寂した。日興の門下に日目・日華・日秀・日禅・日仙(にっせん)・日乗の６長老があった。1872年(明治５)に日蓮宗興門派と称し，1899年本門宗と改め，その翌年独立して日蓮宗富士派といい，さらに1913年(大正２)に日蓮正宗と称した。ために，他の重須本門寺は1941年(昭和16)に日蓮宗と合同した。また，日蓮正宗の在家信者による外郭団体は今日，創価学会*と名づけられている。〔塚本啓祥〕

にちろう【日朗】（1243～1320） 鎌倉時代の日蓮宗(にちれんしゅう)の僧。下総(しもうさ)(千葉県)能手(一説能戸)の人。幼くして伯父(おじ)日昭*とともに日蓮*の門にはいり，日昭について天台の三大部を学んだ。1264年(文永１)に日蓮とともに小松原の難にあい，さらに1271年の龍口(たつのくち)の法難に際しては日蓮に殉じることを請うたが，日心らとともに鎌倉(神奈川県)長谷(はせ)の土牢(つちろう)に投ぜられた。また日蓮の佐渡(新潟県)の流罪中に数回往復し，1274年には赦免状を届けた。６老僧のひとりに数えられ，日蓮の死後身延山守塔の輪番を終えて，鎌倉比企谷(ひきがやつ)妙本寺・池上本門寺*を創建した。68歳(一説に75または76歳)で入寂。〔塚本啓祥〕

にちろきょうやく【日露協約】 日露戦争*後，日本とロシアとの間で４次にわたって結ばれた秘密条款を含む協約。日本はポーツマス条約*の成果を明らかにする目的で，ロシアは極東における自国勢力を安定させる目的で締結した。①第１次協約：1907年(明治40)７月30日調印。ロシアの北海での特殊利益および外蒙古(もうこ)での勢力，日本の南満での特殊利益を相互に承認した。②第２次協約：1910年７月４日調印。アメリカ・イギリスの満州鉄道計画とアメリカの満州鉄道中立案に対して，満州の現状維持と両国の鉄道権益確保を約した。③第３次協約：1912年７月８日調印。辛亥(しんがい)革命*とそれによる極東における列強の勢力分野が変化する危機，外蒙古の独立などに対応して，両国の勢力範囲を内外蒙古の境界まで延長し，内蒙古の利益範囲の分割を約した。④第４次協約：1916年(大正５)７月３日調印。両国は敵意のある第３国の中国進出を阻止することを約した。ロシア革命*により消滅。〔原田政洸〕

にちろせんそう【日露戦争】 1904～1905年(明治37～38)にかけて，日本とロシアの間で行なわれた戦争。20世紀初頭の極東をめぐる国際政治は中国分割をもって始まったが，ロシアの進出は著しく，シベリア鉄道の建設を手始めに遼東(りょうとう)半島を租借し，北清(ほくしん)事変*の際の満州駐留軍の撤兵も実行せず，満州の一元的支配と朝鮮への進出の態勢を示した。これは日本の同地域への進出意図と衝突するものであったので，日本はロシアを警戒するイギリスと1902年に日英同盟*を結んで対抗した。1903年３月ロシア軍が鴨緑江岸(おうりょっこうがん)に出没するに至り，桂(かつら)太郎*内閣は戦備を整えるとともにロシアとの交渉を開始した。しかし両者の主張は平行線をたどり，1904年２月国交が断絶し，旅順港のロシア艦隊に対する日本軍の奇襲をもって戦争が開始された。

陸軍は第１軍を朝鮮西部に上陸させて北進し，同年５月鴨緑江岸でロシア軍を破って満州に侵入，さらに同月第２軍は遼東半島に上陸，６月には大山巌*(いわお)を司令官とする満州軍総司令部が設置され，日本軍の総兵力は15師団に達した。かくして同年８月の遼陽会戦をはじめ，10月の沙河(しゃか)会戦，翌年１月の黒溝台会戦など両軍の大規模な衝突がくり返された。日本軍は火器において劣りいずれも苦戦したが，最後には勝利を得た。また乃木希典*(のぎまれすけ)の指揮する第３軍も苦しい戦闘ののち，1905年１月旅順を攻略した。このころロシアではツァー政府への不満が高まって，１月22日には血の日曜日*が現出するに至り，その鎮圧が急迫した問題となった。他方日本も軍事的・財政的に戦争遂行能力の限界に達していた。同年３月日露両軍は30万前後の大軍を奉天付近に結集し，日露戦争最大の決戦を行なった。日本軍は死傷者70,000を出し，ロシア軍を後退させて奉天を占領した。ロシアは劣勢を挽回(ばんかい)するためバルチック艦隊を極東に回航，同年５月東郷平八郎*指揮下の日本海軍は，対馬(つしま)沖にこれを迎撃して大破した。しかし余力を失った日本は，アメリカ大統領ルーズベルト*に講和の斡旋(あっせん)を依頼，他方ロシアも打ち続く敗戦に軍が士気を喪失し，また国内における革命情勢の急迫があって講和の必要に迫られた。公債応募などで日本を援助したアメリカ・イギリス両国は日本の勝利が満州独占に進むことを恐れ，またロシアを金融的に援助したフランスも，ロシアの極東への軍事的深入りを不利とし，３・４月の間にアメリカ・フランス両国は日本・ロシア両国に講和を勧告した。その結果同年８月にアメリカのポーツマスで講和会議が開かれ，日本からは外相小村寿太郎，ロシアからは前蔵相ウィッテが全権として出席した。日本側の講和条件である韓(かん)国の自由処分，一定期限内におけるロシア軍隊の満州撤退，遼東半島租借権および旅順～長春間鉄道の譲渡は認められたが，賠償と樺太(からふと)(現在のサハリン)割譲の2問題をめぐる交渉は難航し，結局南樺太の割譲で妥結，同年９月５日ポーツマス条約*が締結された。この戦争によって，日本は資本主義の一段の成長を実現し，また朝鮮を一元的に支配する基盤を確立することとなった。〔応和邦昭〕

にっかつ【にっかつ(株)】 日本の代表的映画会社の一。大手四社中，最も歴史が長い。1912年(大正１)，M.パテ・吉沢(よしざわ)商店・福宝堂・横田商会が合併し，日本活動写真(株)*として創立された。無声映画*時代は終始業界を主導，尾上(おのえ)松之助*主演の映画と，《カチューシャ》などの新派劇の映画化が成功を収めた。しかし，トーキー化*にたちおくれたためしだいに松竹やP.C.L.(東宝の前身)に追い抜かれ，社内も派閥抗争に明け暮れた。その間も内田吐夢*・田坂具隆(ともたか)らの監督による多くの名作を残したが，ついに1936年(昭和11)に松竹*の配下にはいった。さらに第２次世界大戦中は製作部門を大映に吸収されて，配給・興行だけの会社となった。戦後，独立し社名を日活と改めたが製作はできず，ホテル経営やレジャー産業を手がけて切り抜けた。1953年，多摩川に撮影所をつくって映画製作を再開したが，松竹・東宝・大映・新東宝・東映*による五社協定によって製作スタッフ・俳優を制限され，既成のスターにたよらない独自の路線の開拓を迫ら

れた。しかし，《警察日記》《女中っ子》などの作品が成功を収め，さらに石原裕次郎や小林旭(あきら)など青春スターを育て，戦後世代向きの新しい青春映画や活劇をつくって社運を回復した。1960年代もその路線を踏襲したが，その後半からは映画界全般の不況もあって経営不振に陥り，撮影所を手離し，大映とともにダイニチ映配という配給会社を設立したが，さらに経営不振を深めている。1978年9月，社名を日活から「にっかつ」へ変更。資本金54億円，年間営業収入69億円，従業員数176名(1980年7月)。

にっかへいわじょうやく 【日華平和条約】 第2次世界大戦を終結させるために日本と中華民国(国民政府)の間で締結された条約。1952年(昭和27)4月28日台北で調印，同年8月5日発効。サンフランシスコ会議には，中国について国民政府と中華人民共和国政府のいずれを代表として招請するかで，アメリカとイギリスの意見が一致しなかったため，両政府とも招請されなかったが，吉田(よしだ)茂首相はダレス特使あての書簡(1951年12月24日づけ)で，日本はアメリカ側の要請を受け入れて，国民政府を選んだ。前文と本文14か条，議定書，2交換公文，往復書簡からなり，対日講和条約(サンフランシスコ講和条約)の諸原則をだいたいそのまま取り入れているが，適用範囲については，〈現在国民政府の支配下にあり，または今後はいるすべての領域〉と限定して，いちおう国民政府支配下の台湾を対象とする形となっている。〔広部和也〕

にっかんかいだん 【日韓会談】 日本と大韓民国(韓国)の間で正式の国交を開くための会談。1951年(昭和26)10月予備交渉を開始してから，1965年6月妥結するまで断続的に第7次会談(第1次会談は1952年2月)まで行なわれた。会談の発端は，1951年10月GHQが日本政府に対して在日朝鮮人の国籍問題について韓国政府と会談を行なうことを要請したことであった。これは，アメリカのアジア政策の一環であると同時に，対日講和条約の発効を半年後に控えて，在日朝鮮人の発効後の処遇問題や，同条約中の日本と韓国との間の諸関係について，発効以前に合意に達しておこうという意図であった。李承晩(りしょうばん)の排日主義，韓国におけるクーデターの発生，在日朝鮮人の朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)帰還問題などが起こるたびに中断された。この間，日韓両国の間に現実に横たわっている懸案問題の解決，日本経済の韓国進出の強い要求，極東政策の一環として日韓調整・提携を推進しようとするアメリカの意図が会談促進の要因として作用し，日本と韓国間の過去の特殊な関係，日本の朝鮮蔑視(べっし)，韓国国民の反日感情，李ラインや竹島にみられる国家利益の衝突などはマイナスの要因として働いた。結局，1965年6月日韓基本条約，漁業・法的地位などの関係協定，議定書などに調印された(→日韓条約)。しかし，なお，日韓会議で解決されずそのままになっているものとして，北朝鮮との関係，在日北朝鮮系朝鮮人の地位，竹島問題などがあり，日韓関係の複雑さを示している。〔広部和也〕

にっかんぎていしょ 【日韓議定書】 日本と韓国の間で締結された協約。1904年(明治37)2月23日京城(ソウル)で調印。日露戦争を有利に遂行するため，韓国の政治・経済・軍事を日本の影響下に置く目的で結ばれた。おもな内容は，①韓国政府は日本政府の施設改善に関する忠告を受け入れること(日本の内政干渉・発言権の承認)，②日本による韓国の独立・領土保全の保障，③韓国が第三国による侵害または内乱のため危険となった場合，日本が臨機の措置をとるための十分な便宜を与え，また軍事上の要地を臨機収用できることなどである。この議定書により，日本は韓国を事実上の保護国とした。→日韓併合 〔原田政洸〕

にっかんきょうやく 【日韓協約】 ⇒日韓併合

にっかんじょうやく 【日韓条約】 日本・大韓民国間の一般的国交関係および漁業・経済などの付属問題に関して規定した条約。1965年(昭和40)6月調印。日韓基本条約のほか，漁業協定，請求権・経済協力関係協定，法的地位協定，文化財関係協定の4協定と付属文書からなるが，最も重要なのは日韓基本条約である。日韓基本条約は，正式には〈日本国と大韓民国との間の基本関係に関する条約〉といい，前文と本文7か条からなる。そのおもな内容は，①両国間に外交・領事関係を開設し，外交使節の交換を行なう，②1910年8月22日以前の条約・協定は無効とする，③大韓民国政府は，国際連合総会決議第195号(3項)に規定されるとおり，朝鮮における唯一の合法的政府であること，④両国は国際連合憲章の原則を尊重すること，⑤通商貿易協定および航空協定の締結のための交渉をなるべくすみやかに開始することなどである。〔広部和也〕

にっかんへいごう 【日韓併合】 韓国併合ともいう。1910年(明治43)8月22日締結。日清(しん)戦争によって清国を，日露戦争によってロシアを退け，朝鮮に対する支配的地位を決定的にした日本は，1904年2月23日，日韓議定書を締結して特権を得た。さらに，同年8月22日の第1次日韓協約で，韓国政府顧問に日本政府の推薦する日本人および外国人の任用を約させ，1905年11月17日の第2次日韓協約(日韓保護協約)では韓国の外交権を接収して，韓国統監府を設置し，韓国を保護国とした。次いで1907年7月の第3次日韓協約で，朝鮮支配に関するいっさいの権限を掌握した日本は，翌年，東洋拓殖会社，1909年には韓国銀行を創立して経済的支配をも進めた。こうした日本の植民地政策に反対して朝鮮各地で反日武力闘争(義兵運動)が起こったが，日本はこれを徹底的に弾圧し，ついに〈日韓併合ニ関スル条約〉で完全に韓国を植民地とし，以後朝鮮総督府による直接支配を第2次世界大戦の終了まで続けた。〔原田政洸〕

にっきぶんがく 【日記文学】 広義には，日記の中で文学的なものをすべて含むが，特に平安時代に開花したかな文芸としての日記文学，およびその後継作品である鎌倉時代のかな日記に限定して用いられることが多い。わが国の日記は，はじめ漢文で書かれ，すでに奈良時代以前から存在したが，平安時代にはいるといよいよ盛んに書かれるようになった。内記日記・外記日記は官庁日誌であり，殿上日記は宮廷日誌である。ともに平安時代を通じて，公的記録として重きをなした。男性貴族は，こぞって家々の漢文日記を整え，《貞信公記》《九暦》《御堂(みどう)関白記》《権記》《小右記》など大量の記録が残されている。しかし，これをかな書きにして文芸性を豊かに示したのは，紀貫之(きのつらゆき)の《土佐日記》であり，ここに自照的・内省的な新文芸としての日記文学が誕生した。続く藤原道綱母の《蜻蛉(かげろう)日記》は，女流日記のさきがけとして，家庭生活の不安・破綻(はたん)を21年間にわたってしるしたが，この自伝ふうな回想記録は，その深刻な体験と苦悩の表現とによって，大きい反響を呼び起こした。11世紀には女流文学がいっせいに開花したが，日記文学にも多様な個性の出現がみられる。高貴な皇子との恋愛をひとすじに描く《和泉式部(いずみしきぶ)日記》，公私両面の生活を内省し孤高の精神を持す《紫式部日記》，物語愛読と信仰との人生を回想する《更級(さらしな)日記》，天皇の死を写して哀惜と献身の心をにじませる《讃岐典侍(さぬきのすけ)日記》などがそれらの代表である。鎌倉時代にもこの伝統が引き継がれ，《建春門院中納言日記》《十六夜(いざよい)日記》《弁内侍(べんのないし)日記》《中務内侍(なかつかさのないし)日記》などのほか，《とはずがたり》がある。広く文学性を有する日記という立場に立てば，漢文日記でも日記文学になるが，江戸時代の芭蕉(ばしょう)・一茶らの俳文にすぐれたものがあり，近代の文学者の多くは，夏目漱石(そうせき)・森鷗外(おうがい)をはじめ大量の日記をもっている。しかし，近代の概念における日記の文学性は，すでに平安時代のそれとは異質である。狭義の日記文学では，私的世界を事実に基づいてしるす点には古今の別はないにしても，多く，それを構成的・統一的に描く点に特色があり，回想記録的性質が強く，毎日の日記の積み重ねのままではなかった。〔鈴木一雄〕

西洋文学史においても日記文学は，多様な内容をもち，大別すれば，ある時代の社会生活を記述して一種の記録文学ともなっているものと，芸術家・思想家の内面の記述を通じて，その人間の創造と思索の経過

を読み取れるものとがある。前者の代表的作品には，イギリスのピープス・ボズウェル，フランスのユゴー・ゴンクール・ルナールらの日記があり，17～19世紀の社会の貴重な文献となっている。後者の代表例としては，スイスの哲学者アミエルの《日記》が徹底した自己省察の書として著名で，ほかにもダ-ビンチ・ドラクロワら画家，ゲーテ・スタンダール・ロラン・リルケら文学者の日記が，創造と自己認識の深みへと降りていく芸術家の内面を，余すところなく伝えている。また，カロッサの《ルーマニア日記》やナチスの強制収容所の体験を記したユダヤ人少女アンネ-フランクの《アンネの日記》などは，人間と社会の関係を描き出したすぐれた作品となっている。〔田島　修〕

にっきょうそ　【日教組】　日本教職員組合の略称。第２次世界大戦直後の教職員の組織化を背景に，1947年(昭和22)奈良県橿原(かしはら)市で結成された。全国官公私立の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学に勤務する教員・養護教員・事務職員・用務員など60万人をこえる人々によって組織され，日本労働組合総評議会に加盟している有力単産である。結成以来，①教育という重大な職責を全うするために教師の賃金や労働条件の向上をはかる，②教育の民主化と研究の自由を獲得する，③平和と自由を愛する民主国家を建設する，の３点をめざして，独自の教育研究活動を毎年続け，その教育研究全国集会は，毎年各地で開催されている。また，平和運動推進のために掲げられた，〈再び教え子を戦場に送るな〉のスローガンは有名である。なお，日本高等学校教職員組合(略称は日高教)は，1951年３月に成立した全国高教組協議会を母体に，1956年に群馬・石川・島根の３県の組織を加えて日教組から分離，独立したもの。

にっけい　【肉桂】　双子葉植物・クスノキ科。インドシナ・中国原産の常緑高木。徳川時代に中国から日本に伝来した。高さ10ｍに達し，折るとよいかおりがする。小枝は緑色で，葉は互生し，卵状楕円(だえん)形で長さ８～15cm，３本の主脈がある。５～６月，若枝の上方の葉腋(ようえき)から花梗(かこう)を出し，小さい六弁花をつける。果実は楕円形の液果で，長さ1.5cmほど。11～12月，青黒色に熟して中に種子を１個入れる。幹や根の皮を桂皮といい，桂皮アルデヒドを含むので芳香・甘味・辛味があり，菓子や料理の香味料に用いられる。細根は〈ニッキ〉といい，駄菓子(だがし)にされる。近縁種でセイロン島原産のものの桂皮は品質がすぐれ，シナモンとよばれ香辛料とされる。また，インドシナ地方原産の近縁種のものはキャッシャーとよんでいる。

にっけいれん　【日経連】　⇨日本経営者団体連盟


ニッケイ　セイロン島原産のセイロンニッケイ

ニッケル　［nickel］　周期律表第Ⅷ族，鉄族に属する金属元素。記号Ni，原子番号28，原子量58.71。1751年に，スウェーデンのクロンステットが発見した。おもな鉱物は，コウヒニッケル鉱・アンチモンニッケル鉱・リュウヒニッケル鉱など。製錬は，鉱石を硫化物に替え，空気を送って酸化物とし，炭素で還元して粗ニッケルとする。純ニッケルは，粗ニッケルを一酸化炭素と反応させてニッケルカルボニルの蒸気とし，これを150～200℃で熱分解して得る。銀白色，比重8.845(25℃)，融点1,455℃，沸点約3,000℃，展延性に富む金属で，強磁性がある。空気や湿気などには鉄より安定であるが，新しい粉末状ニッケルは活性が大きく，空気中で発火することもある。常温では希塩酸・希硫酸などにはとけにくいが，加熱すれば水素を発生して徐々にとける。濃硫酸には不動態となってとけないが，硝酸にはよく溶解する。アルカリに対してもきわめて抵抗性が強い。還元性は鉄・コバルトより弱い。コバルトに似て第一化合物が安定で，また錯化合物をつくりやすい。化学的性質は銅に似ている。銅・鉄・コバルトなどと合金をつくり，耐食性・耐熱性に富んだすぐれた金属材料として利用される。〔古屋　弘〕

ニッケル-カドミウムでんち　【ニッケル-カドミウム電池】　アルカリ蓄電池(→蓄電池)の一種。水酸化第二ニッケル$Ni(OH)_3$を用いた陽極およびカドミウム(粉末)を用いた陰極をもち，アルカリ水溶液(たとえば水酸化カリウムKOH)を電解液として用いる。普通の鉛蓄電池と違って，じょうぶで取り扱いが簡単，寿命が長く短時間で充電できるなどの長所があるが，その反面，材料費が高く高価である。構造によって，開放型と密閉型の二つに分類され，前者は飛行機・自動車などの大形機械，後者は携帯用テレビ・ラジオ・電気かみそり・ストロボフラッシュなどの小形機器の電源に用いられる。〔堀内和夫〕

ニッケルこう　【ニッケル鋼】　ニッケルを添加した合金鋼。鋼はニッケル添加により強度・靭性(じんせい)を増し，同時に焼き入れ性が改良される。一般には，炭素0.3～0.4％，ニッケル２～３％含有のものが用いられる。またニッケルとクロムを加えたニッケル-クロム鋼は焼き入れ硬化性・強靭性を著しく増大する。この場合クロム添加量はニッケルの３分の１程度がふつう。これらの合金はその特性である耐食性・耐摩耗性・高温耐酸化性などを利用して，はだ焼き鋼・ステンレス鋼・耐熱鋼として広く用いられている。特にニッケル-クロム鋼は大形鍛練材として著名。〔長谷川正義〕

ニッケルごうきん　【ニッケル合金】　ニッケルを主体にした合金。大別するとモネルメタル(Ｒモネルメタル・Ｋモネルメタル)などのニッケル-銅合金，ナイモニック・インコネルＸなどのニッケル-クロム合金，ニッケル-鉄-クロム合金，ニッケル-鉄-クロム-モリブデン合金の各系があり，これらにさらに種々の元素を加えて各種用途の合金が開発されている。耐食性合金としてのハステロイ・イリウムなどはその代表的例である。これら合金の用途は耐食材料・耐熱材料・電磁気材料，その他特殊用途材など広範囲に及ぶ。〔長谷川正義〕

にっこう　【日興】　⇨日蓮正宗

にっこう　【日光(市)】　栃木県西部の市。人口24,000。奈良時代末期に勝道上人が輪王(りんのう)寺・二荒山(ふたらさん)神社を開き，江戸時代は日光東照宮*の門前町で，多くの史跡や山水のすぐれた風光に恵まれて行楽客を集め，明治以後もわが国の代表的な国際観光都市として発展している。1954年(昭和29)市制施行。市名は二荒を音読して〈日光〉の字をあてたといわれる。市域は大谷(だいや)川沿いの中心市街地から群馬県境の金精峠や白根山(2,578ｍ)山頂まで東西に長く延び，大半が日光国立公園*の区域に含まれる。産業三大別人口比は４：36：60。〈口日光〉とよばれる大谷川流域の主要部には，北岸の女峰山(2,464ｍ)山麓(さんろく)に二荒山神社・輪王寺・日光東照宮・大猷廟(だいゆうびょう)など多くの社寺がある。これらの門前町として神橋から東に商業地区の東町，住宅地区の西町が古くから発達しており，いまは物産店・旅館・別荘などの密集地区である。北岸と中宮祠(ちゅうぐうじ)の間にある清滝は明治後期から発展した工業地区で，古河(ふるかわ)電工の日光電気精銅所があり，足尾銅山から細尾峠を越えて運ばれた粗銅を製練していたが，1973年に足尾銅山が閉山したのちも，他の地域からの鉱石の製練によって存続している。華厳滝(けごんのたき)から西方の地域は〈奥日光〉とよばれ，中禅寺湖・湯ノ湖などの湖沼や男体山・白根山などの山々，戦場ケ原・湯元温泉などの行楽地に富み，日光国立公園の中心部をなす。国鉄や東武鉄道の日光線が通じ，国道119号線・120号線・122号線が集まる。120号線には中禅寺湖畔に達するいろは坂や金精峠に有料道路が通じ，観光の主要ルートとなる。また馬返～明智平(あけちだいら)間にはケーブルカーが通ずる。いろいろな年中行事が行なわれるが，中でも輪王寺の〈強飯式〉(５月２日)などが名高い。〔浅井得一〕



ニッコウキスゲ

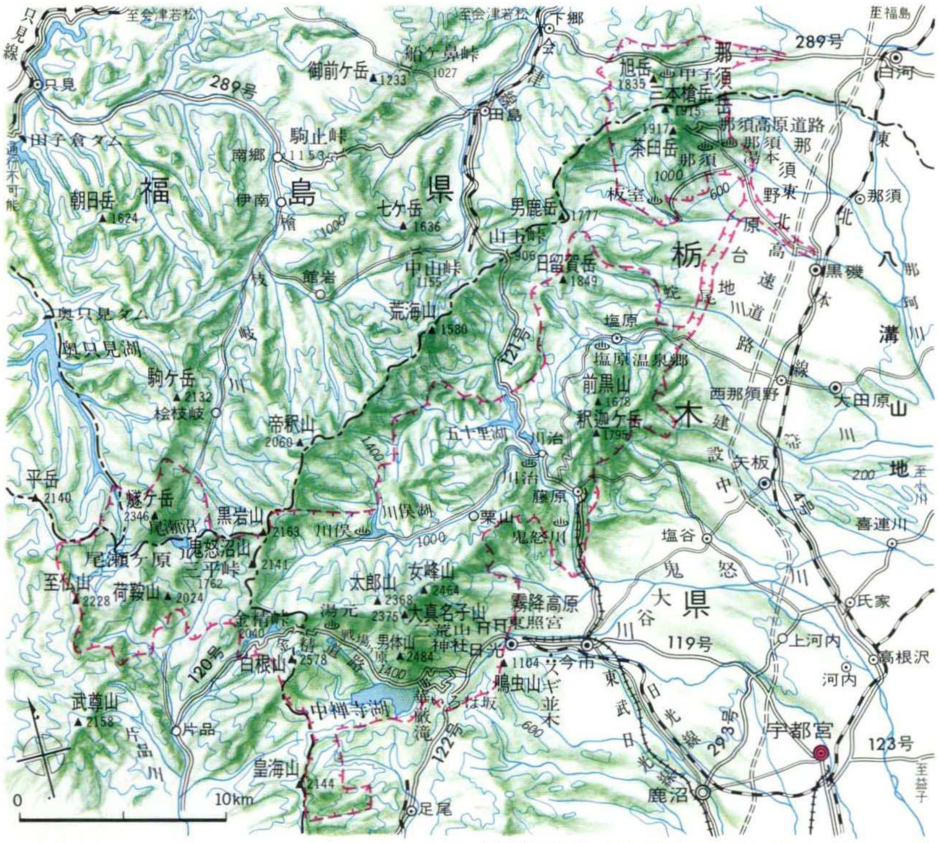
にっこうかいどう　【日光街道】　五街道*の一。日光道中ともいう。江戸日本橋を起点とし，千住(せんじゅ)・草加・栗橋(くりはし)・小山・宇都宮・徳次郎(上・中・下の3宿)・今市などを経由して日光に至る23宿。そのうち千住～宇都宮間17宿は奥州街道と重複していた。沿道にはスギ並み木が植えられ，一里塚*(づか)を置き，別道として壬生(みぶ)街道と御成(おなり)街道があった。

にっこうきすげ　【日光黄萱】　単子葉植物・ユリ科。ゼンテイカともいう。本州中部以北の高山の草原に群生する多年草。地下茎は短く，多数の根を出し，ところどころが肥厚する。葉は根生し，線形で長さ60～70cmになる。7月に葉心から60～80cmの花茎を伸ばし，茎頂に総状花序に数花をつける。花は濃橙黄(とうおう)色で長さ8～10cm，基部の2cmぐらいは筒状で，先は6裂する。花は午前中に開き，夕方にしぼむ。果実は2～2.5cmの楕円(だえん)形の蒴果(さくか)で，3浅裂する。種子は5mmほどの卵円形で，黒色光沢を有する。

にっこうきょう　【日高教】　⇨日教組

にっこうこくりつこうえん　【日光国立公園】　栃木・群馬・新潟・福島の4県にまたがり，日光一帯と，尾瀬地方，鬼怒川(きぬがわ)・塩原・那須(なす)の温泉郷などを含む国立公園。面積1,406km²。1934年(昭和9)に指定された。山岳・湖沼・渓谷(けいこく)・温泉・植物などと，東照宮・輪王(りんのう)寺などの建築物も備えた公園として名高い。日光火山群に属する茶臼岳(ちゃうすだけ)(1,917m)はいまも噴煙を上げ，山麓(さんろく)には広大な那須野原が広がる。日本最大の堰止湖(せきとめこ)の中禅寺湖，湿原植物・水生植物の宝庫として名高い尾瀬沼などの湖沼も多い。奥日光・塩原・那須など有名な温泉が多く，奥鬼怒温泉郷にある湯沢噴泉塔は天然記念物に指定されている。東京から国鉄日光線・東北本線・東武鉄道日光線，国道120号線・122号線・119号線・4号線などが通じて交通の便がよく，四季を通じて訪れる観光客が多い。　〔木村東一郎〕

にっこうしょうどく　【日光消毒】　日光にさらして微生物を死滅させる消毒法。日光に約1％含まれる紫外線がおもな役割を果たすが，熱や乾燥など細菌に不利な物理的条件が組み合わさって効果を発揮する。煮沸や加熱による滅菌では変性してしまうものの消毒に適するが，表面のみが消毒されるので効果は限定される。



日光国立公園



日光国立公園　紅葉に飾られた秋の第一いろは坂。この辺の林相はクリ帯からブナ帯へ変わる遷移相で，イヌブナ・シナノキなどが多い。滝は方等滝



日光東照宮　陽明門

にっこうとうしょうぐう　【日光東照宮】　栃木県日光市山内にある東照大権現としての徳川家康(いえやす)を祭る神社。1616年(元和2)2代将軍徳川秀忠(ひでただ)は家康の遺命によりその遺骸(いがい)を久能山東照宮*に葬ったが，翌年天海*の進言で日光奥院の宝塔に改葬し，朝廷から贈られた〈東照大権現〉の神号を掲げた。3代将軍家光(いえみつ)の代になって大規模な社殿の増改築が行なわれ，1636年(寛永13)竣工(しゅんこう)，現在の社殿となった。その建築物は徳川氏盛時の

威力と財力を如実に示し，豪華さ・壮大さにおいて比類に絶するものである。権現造りの社殿をはじめとする諸建築はすべて精巧な彫刻で飾られ，銅板葺(ぶき)の屋根，極彩色の漆塗りなど，江戸時代における霊廟(れいびょう)建築の遺例である。家康の命日である４月14日(最近は５月17日)の例祭日にはしばしば将軍の日光社参があり，朝廷からは恒例として日光例幣使が派遣され，明治政府もその神社制度でこれを別格官幣社に列した。本殿・拝殿・石之間と正面・背面の唐門(からもん)，陽明門，東西回廊および社宝の銘助真・銘国宗の太刀(たち)各一振りが国宝に指定されている。〔高崎徳次〕

にっこうぼさつ　【日光菩薩】　菩薩の一。ふつう薬師如来の左わきに侍し，右に侍する月光(がっこう)菩薩と対をなす。多くの菩薩の中で最も上首とされる。薬師三尊の脇侍(きょうじ)として古来盛んに造像が行なわれ，特に東大寺法華堂の塑造，薬師寺金堂の銅造は名高く，国宝。なお真言密教では，曼荼羅(まんだら)の中の一尊として描かれる。

にっこうゆもとおんせん　【日光湯元温泉】　栃木県日光市にある温泉。泉温55～76℃，泉質は含硫化水素石膏(せっこう)性苦味泉で，皮膚病・リウマチなどにきくといわれる。戦場ケ原の北部，湯ノ湖の北岸に位置し，標高1,500 mの高所にあり，関東屈指の温泉で知られる。日光国立公園内にあって，冬はスキー・スケート，夏はキャンプ・避暑などに訪れる客が多く，国民温泉にも指定されている。国鉄日光線日光駅・東武鉄道日光線東武日光駅からバスの便がある。

にっこうよく　【日光浴】　皮膚をはじめからだ全体の健康を増進させる目的で，直射日光にあてること。日光中の紫外線は，皮下脂肪中のコレステリンを変化させてビタミンDとする作用があり，また一方血液の循環をよくし，物質代謝を増進させ，食欲を増し，血液造成作用を亢進(こうしん)させる。ビタミンDが十分生産されれば，くる病は予防され，かつ免疫が高まって，伝染病や感冒・肺炎などにかかりにくくなる。

乳児の日光浴　身体部分と時間(分)

	足	下腿	上腿	腹	胸	背
第１日	5					
2	10	5				
3	15	10	5			
4	20	15	10	5		
5	25	20	15	10	5	
6	30	25	20	15	10	5
7	30	30	25	15	15	10
8	30	30	30	15	15	15
第９日以後	腹位15分，背位15分，場合によってはさらに延長して，各30分ずつまでとする。					



日光菩薩
東大寺法華堂蔵



日周運動
中心の明るい星が北極星

乳児や虚弱児は生後１か月から始めると効果が高い。これは生後２～５か月がくる病が最も多いからである。はじめは身体の一部，足先から始め，しだいに全身に及ぼすのがよい。時間も短時間から徐々に増していく。あまり急に全身を長時間日光にあてると，刺激が強すぎて皮膚の炎症を起こすことがある。日光浴の進め方は表のような順序で行なう。時刻は紫外線の強い10～15時がよい。最近大気汚染のために都会などでは紫外線が減少しているので，場所によっては表の時間の約２倍を必要とする。〔宇留野勝正〕

にっさんじどうしゃ　【日産自動車(株)】　トヨタ自動車工業と並ぶわが国の大手総合自動車メーカー。1976年の生産台数は230万4,000台で世界第４位。1933年(昭和８)に自動車製造(株)として設立され，翌年日産自動車(株)と改称される。1944年日産重工業(株)となり軍需生産に協力，1949年現社名に復帰した。第２次世界大戦前すでにダットサンで量産体制の道を開き，戦後は一時労働組合の大争議で苦況に陥ったが，1959年ブルーバードを発表して以来急速な発展を遂げた。1966年にプリンス自動車を合併，1968年には富士重工業と提携関係を結んだ。乗用車の生産はワイドセレクション体制により，チェリー・サニー・ブルーバード・スカイライン・ローレル・セドリック・フェアレディなど豊富な車種を擁している。海外進出にも積極的で海外工場を10数か国にもち，特にアメリカ市場への進出は年を追ってふえている。本社東京，工場は追浜・座間・横浜(神奈川県)・村山・三鷹(みたか)(東京都)・吉原(よしわら)(静岡県)など。資本金791億1,300万円，年間売上高２兆7,388億6,800万円，従業員数59,335(1980年９月)。

にっしゃ　【日射】　表面温度約6,000°Kといわれる太陽からの放射エネルギー。太陽と地球が平均距離にあるとき，大気外で太陽光線に直角に面した１ cm²の面積の受ける日射量(太陽定数)は約1.94cal/分であるが，大気中にはいってくると水蒸気・オゾン・炭酸ガス・酸素・塵埃(じんあい)・水滴などによる吸収・散乱によって地上に到達する日射量は減衰する。また，地上に到達する日射量は太陽高度により異なる。地球上の高緯度では日射量は低緯度より少ない。また，日射は地面で一部反射される。一般に裸地・砂面・森林・草原などの反射率はあまり大きくなく数パーセントから30％程度であるが，雪原・氷原の反射率は40％から80％以上にも達する。地面での反射の問題を含め日射量の多寡は気象現象，気候上きわめて重要である。同時に植物・動物の地理的分布，人間の生活，健康にも密接な関係をもつ。〔小沢　正〕

にっしゃびょう　【日射病】　日光の直射を長時間受けたり，温熱環境中で激しい労働をしたときに起こる一連の症状。俗に暑気あたりという。原因は，体内に熱が鬱滞(うったい)し，体液が酸性に傾くためと考えられている。したがって，高温・多湿・換気不全の外的条件に発汗の少ないこと(汗腺(かんせん)機能不全)や肥満体などの内的条件が加わって起こるとされている。前駆症状としてはまず，倦怠(けんたい)感・疲労感・口渇が起こり，次いで不安感・悪心(おしん)・頭痛・めまい・嘔吐(おうと)を認めるようになる。このような時期が長く続くと，顔面紅潮・皮膚乾燥・発熱・けいれん・意識消失が起こる。前駆症状が起こった場合は，涼冷所で安静にし，冷たい水分を十分摂取する。すでに発病した場合は，衣服をゆるめ，頭部を高くして安静にし，冷水を飲ませたり灌腸(かんちょう)を行なう。また必要によりリンゲル液その他の電解質溶液を静脈内に点滴注射をするとよい。〔佐野隆志〕

にっしゅううんどう　【日周運動】　１日を周期として回転する運動，特に地球の自転によって天球が天の両極を中心に回転する運動。この結果，恒星はお互いの位置を変えずに天の両極を中心とする円運動を行ない，東から西へ移動していく。天球が１回転するに要する時間が１恒星日で，23時間56分40.9秒である。

にっしょう　【日昭】　(1221～1323)　鎌倉時代の日蓮宗(にちれんしゅう)の僧。下総(しもうさ)(千葉県)能手の人。姓は印東，字(あざな)は成弁という。15歳のとき天台宗の寺で出家し，比叡(ひえい)山(京都府・滋賀県)に遊学したが，1253年(建長５)日蓮のうわさを聞い

て鎌倉(神奈川県)におもむき弟子(でし)となった。1282年(弘安5)師の入寂に際して6老僧の首座となり，寂後のことを委嘱された。身延山守塔の輪番を終えてのち，1284年に鎌倉の浜土に法華(ほっけ)寺を創建し，1295年(永仁3)京都開教を奨励，1299年(正安1)比叡山の尊海の招きを受けて上洛(じょうらく)し，尊海の弟子智祐(ちゆう)(日祐)を門下に入れた。103歳(一説に88歳)で入寂。

にっしょうけん 【日照権】 住宅における日照および通風を確保する権利。学説・判例によって認められている権利概念ではあるが，日照権という固有の権利はなく，本質的には人格権に吸収されるものと考えられる。住宅における日照・通風の確保は，快適で健康な生活の享受のために必要で欠かせない利益であるから，可能なかぎり法的保護が与えられなければならないとするのが判例の立場である。しかし，日光・通風をはじめ，騒音・震動・煤煙(ばいえん)・臭気などによる生活の妨害を含めて，それらの妨害が，社会通念上，一般の忍耐の限度をこえるときはじめて不法行為を構成すると考えられている。そして，その限度の判定は，加害行為の態様，これに対する社会的評価，加害者の意図，当該場所の地域性，侵害の程度，損害回避の可能性などの事情を広く比較検討して決定されなければならない。したがって，これらの諸事情を比較考慮しても，なお社会通念上忍耐の限度をこえたと認められる日照・通風の妨害があった場合は，被害者は，不法行為による損害賠償を請求することができる。またそれに伴って妨害排除の請求権，妨害予防の請求権も認められると解されている。

〔黒木三郎〕

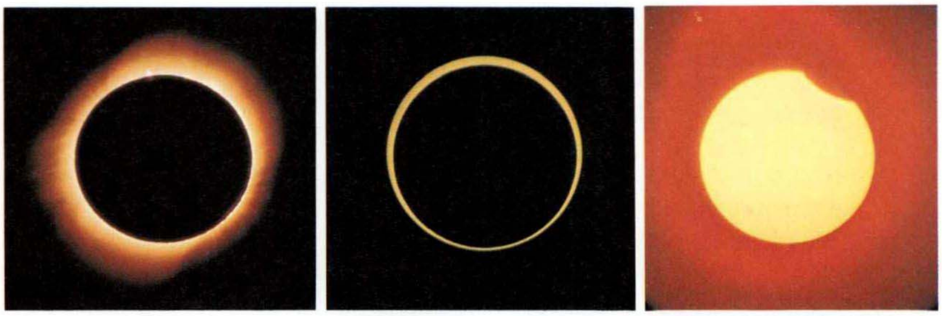
にっしょうじ 【日照時】 太陽が雲などにさえぎられることなく照った時間のこと。したがって1日じゅう雨天・雪，あるいは曇りで全然太陽が照らない日は日照時零(ゼロ)である。また，日照時数と太陽の日出時から日没時までの時間(可照時)との比を日照率という。この値が1に近いほど天気がよかったことのめやすになる。日照時は保健衛生・建築設計，植物の生育その他日常生活に関連が深い。

にっしょく 【日食】 月が地球と太陽の間にきて，太陽面の全部または一部を隠す現象。地球が月の本影*の中にはいって，太陽面全部が見えなくなるときを皆既日食，半影*の中にはいり，太陽面の一部が見えないときを部分日食，図のAの部分に地球がはいり，太陽面の中心が隠されその縁のみが見える場合を金環食*という。

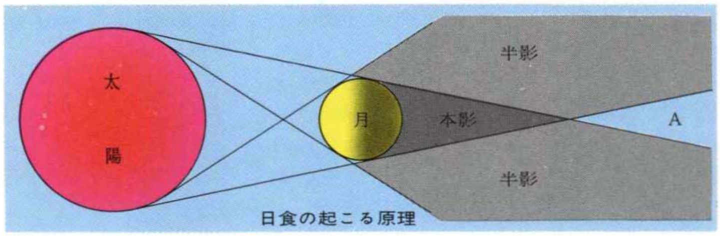
本影の長さは，太陽と月の距離によって決まる。太陽・月ともに楕円(だえん)運動しているので，本影の長さは最大で38万600km，最小で36万8,000kmである。一方，月の中心と地球表面間の距離は，39万9,100kmと35万6,900kmの間にある。皆既日食・金環食が起こるのは，本影の長さの最大が月の中心と地球表面間の距離の最小より長く，また本影の長さの最小が月の中心と地球表面間の距離の最大より長いためである。

地球表面での本影の大きさは，地球と月，地球と太陽間の距離によって異なるが，最大直径は約270kmである。影が地表に斜めに落ちるときには，影の形は楕円となる。また影の地表上での移動速度は，月と太陽の運動速度と地球の自転速度によって異なる。本影は西から東へ移動し，地球も同じ方向に自転しているので，影の移動速度は赤道でいちばんおそく，高緯度ほど早い。したがって，皆既日食の継続時間が最も長くなるのは，月が地球に近づき，太陽が地球から最も離れ，しかも赤道地方で皆既日食が起こるときである。しかし，このときでさえ，皆既日食の継続時間は9分40秒にしか達しない。

日食は上に述べたように，地球・月と太陽が一直線に並んだとき，すなわち新月のときに起こる。地球の軌道と月の軌道は約5°9′傾いているので，新月のとき必ず日食が起こるとは限らない。したがって，日食が起こるためには，太陽が黄道と白道の交点付近にきたとき新月とならなければならない。このようなことは1年に最低2回起こるので，日食は1年に最低2回，地球上のどこかで見ることができる。日食の起こる周期としてサロス周期*がある。〔木下　宙〕



日　食
(左)皆既日食
(中)金環日食
(右)部分日食



にっしん 【日親】 (1407〜1488) 室町中期の日蓮宗(にちれんしゅう)の僧。上総(かずさ)(千葉県)の人。幼くして兄日国とともに生地の妙宣寺の日英に師事し，師の寂後に中山(千葉県)法華経(ほけきょう)寺の日暹(にっせん)のもとで出家した。1425年(応永32)19歳で西海総導師職となり，肥前(佐賀県)光勝寺にとどまったが，翌年中山に帰って日祐(にちゆう)の廟(びょう)に詣(もう)でて弘法(ぐほう)の大願を立てた。のち京都に至り，1427年(応永34)天台宗金仙(きんせん)寺を改宗させて一乗寺と号し，1436年(永享8)綾小路東洞院(あやのこうじひがしのとういん)に本法寺を創建した。1439年に《立正治国論》を著わして将軍足利義教(あしかがよしのり)に献じ，法難を受けた。82歳で入寂。

にっしんしゅうこうじょうき 【日清修好条規】 日清間の最初の対等条約。1871年(明治4)天津(てんしん)で調印。1873年発効。正式名は〈大日本国大清国修好条規並通商章程各海関税則〉。おもな内容は，最恵国待遇*を認めないこと，領事裁判権を認めたこと，海関税率を最低のものとすることなどである。日清戦争により消滅。

にっしんせんそう 【日清戦争】 1894(明治27)〜1895年にかけて日本と清国の間で行なわれた戦争。明治政府は維新直後から朝鮮への進出を意図していたが，1875年に日本軍艦が朝鮮の江華島付近で砲撃された事件を契機に日鮮修好条規*を締結，清国と朝鮮との宗属関係を否定して朝鮮を独立国と認め，同時に政治的・経済的進出を開始した。そのため朝鮮に対し宗主権を主張する清国と対立することとなった。壬午(じんご)の変(→京城事件)で朝鮮は閔氏(びんし)が立って親清政策を強化した。1884年日本の武力を背景とした親日派のクーデター(甲申の変)が起こったが，清軍に鎮圧された。一方，このような情勢に対し日本国内では対清強硬論が高まっていった。1894年2月農民蜂起(ほうき)に端を発した東学党の乱*が南朝鮮全体に波及する勢いを示したため，閔政府は清国に援助を依頼した。これに対して日本も，1885年に締結された天津(てんしん)条約*の両国同時派兵の条項をたてに，6月10日朝鮮に出兵し，軍事力による内政干渉を行なった。ここに日清両国の対立は決定的なものとなり，両軍が京城・牙山(がざん)間に集結した。ロシア・イギリスなどが調停に乗り出したが不成功に終わり，7月25日豊島沖での清国船隊への攻撃をもって戦争が開始され，8月1日日本は宣戦を布告した。6月5日東京に設置されていた大本

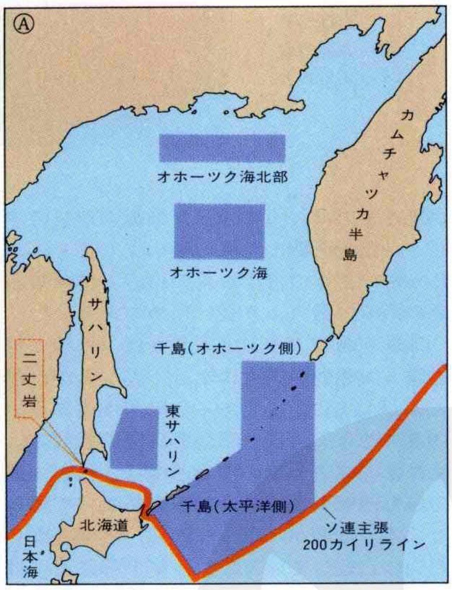
営*は9月広島に移され，10月同地で開かれた臨時議会は，臨時軍事費を満場一致で可決した。この間に日本軍は9月平壌(へいじょう)を占領，黄海海戦*に勝って制海権を握り，10月には清国軍を撃破し，さらに翌月，鴨緑江(おうりょっこう)を渡って遼東(りょうとう)半島に進攻し，旅順・大連を制圧，翌1895年2月には山東半島の威海衛を攻略して清国北洋艦隊を全滅させ，さらに3月，澎湖(ほうこ)島・台湾に進撃を開始してこれを占領した。清国は講和を申し入れ，3月20日下関(しものせき)(山口県)で日本全権伊藤博文(いとうひろぶみ)首相・陸奥宗光(むつむねみつ)外相と清国全権李鴻章(りこうしょう)との間で講和会議が開始され，同月30日休戦条約を締結，さらに4月17日講和条約(下関条約*)が調印された。そのおもな内容は，清国は朝鮮の独立を承認し，遼東半島・台湾・澎湖島を日本に割譲すること，軍費賠償金2億両(約3億円)を支払うこと，長沙(ちょうさ)・重慶・蘇州(そしゅう)・杭州(こうしゅう)を開市・開港することであった。しかし同月23日ロシア・ドイツ・フランスの3国は，日本の遼東半島領有に反対して清国への還付を要求し(三国干渉*)，5月10日日本はこれを受諾，講和条約は発効した。日本はこの戦争で2億円余の軍費を使い，陸軍軍人24万人，雇用人夫10万人，海軍軍艦48隻を動員した。しかしはじめて植民地として台湾を獲得，また戦時利得や賠償金など大きな利益を得たことは，日本における産業資本主義の急速な成長・確立に大きな役割を演じた。他方この戦争で弱体ぶりを露呈した清国は，やがてヨーロッパ列強の侵略，分割競争の対象となるに至った。〔応和邦昭〕

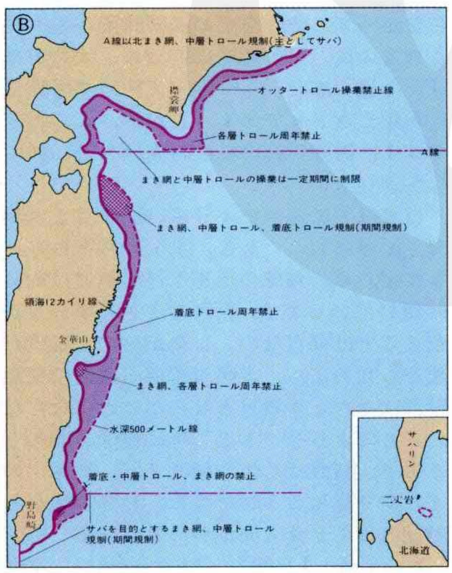
にっしんつうしょうこうかいじょうやく【日清通商航海条約】 下関条約*第6条の規定に基づいて，日本と清国の間で締結された条約。1896年(明治29)7月21日北京(ペキン)で調印。修好条規・通商章程・海関税則からなる。清国がヨーロッパ各国と締結した諸条約を基礎としたもので，日本に有利な一方的不平等条約であった。なお，1903年10月8日には，奉天・大東溝(だいとうこう)の開放などを含む追加通商航海条約(正しくは〈日清両国間追加通商航海条約〉)が調印されたが，1926年(大正15)7月国民政府は本条約の廃棄を通告し，1929年(昭和4)1月廃棄された。〔原田政沇〕

にっせんしゅうこうじょうき【日鮮修好条規】 1876年(明治9)2月26日，江華島事件*の処理について日本と韓(かん)国の間で締結された条約。正しくは〈大日本国大朝鮮国修好条規〉といい，日韓修好条規・江華条約ともいう。おもな内容は，①朝鮮を独立国として承認し，清(しん)国との宗属関係を否認，②釜山(プサン)など3港の開港による通商貿易，③在鮮日本人に対する日本の一方的な領事裁判権の承認などである。また付属貿易協定で，日本は無関税特権を獲得した。この条約は，朝鮮にとって最初の開国条約であり不平等条約であった。



日清戦争　南山の夜襲　小林清親画　明治村蔵





日ソ漁業協定
(上)ソ連が提案した七つの操業区域
(下)日本側が規制した対ソ主要操業規制図

にっそうぼうえき【日宋貿易】 宋時代の中国と日本との間に行なわれた貿易。10世紀末ごろは限られた宋船が博多(はかた)に来航して貿易をしていたにすぎないが，12世紀後半に平清盛が大輪田の泊*を築造して日宋貿易に積極的な態度をとると，今度は日本の商船の渡航が多くなり，逆に宋が渡航を制限するようになった。日本の輸出品は金・水銀・イオウ・刀剣・漆器・扇など，輸入品は宋銭をはじめ典籍・香料・薬品・織物・陶器などで，特に宋銭は日本国内の貨幣流通に重要な役割を果たした。

にっソぎょぎょうきょうてい【日ソ漁業協定】 日本とソ連邦との間に締結される漁業協定。この呼称の協定はないが，「日ソ漁業暫定協定」および「ソ日漁業暫定協定」とを含み，ともに1977年12月末まで有効な協定であるが，この内容を受けついだ長期協定が結ばれるものと予測されている。「日ソ漁業暫定協定」は，ソ連邦の地先沖合の漁業専管水域で，日本の漁船が操業するうえでの諸規制を定めたものであり，「ソ日漁業暫定協定」は，日本沿岸地先沖で行なうソ連漁船の漁業活動にかかわる諸規制を内容としたものである。その基調となる精神は，ともにそれぞれの地先沖合での伝統的な漁業の実績を尊重し，両国の漁業の分野における互恵的協力を発展させようとするものである。捕獲可能量はそれぞれの地先沿岸国が定め，両者の合意に基づく漁業の継続が認められている。二つの暫定協定で特に注目されたのは，北方四島周辺水域の取り扱いであったが，けっきょく「本協定は相互関係の諸問題に関する両国の立場と見解を損なわない」として合意に達したことである。日ソ漁業暫定協定では，スケトウダラ，イカ，イカナゴ，カレイ，メヌケ，マダラ，コマイ，ホッケ，サンマ，タコ，カニ，ズワイガニ，ツブに関して漁場と漁獲量が，またソ日協定ではマイワシ，サバ，スケトウダラ，イトヒキダラ，サンマ，イカナゴがその対象とされた。両協定にかかわる海域を別図に示してある。A図は日ソの，B図はソ日協定に関するものである。なお，これらの協定にかかわる法的な責任は，それぞれの国の法律に従うものとされている。〔石野　誠〕

にっソちゅうりつじょうやく【日ソ中立条約】 1941年(昭和16)4月外相松岡洋右*(ようすけ)とスターリン*がモスクワで調印した条約。同年4月25日発効。両国は平和な友好関係を維持し，相互に領土の保全・不可侵を尊重すること，締結国の一方が第三国からの軍事行動の対象となった場合，他方の締結国は全期間中立*を守ることなどを定めた。これによって，第2次世界大戦において日ソ両国はともに正面作戦をとることをのがれた。しかし大戦の最終段階でソ連は第3条の規定に基づいて，1945年4月5日，本条約の廃棄を通告，1年後の失効期限を待たず8月9日日本に宣戦した。〔広部和也〕

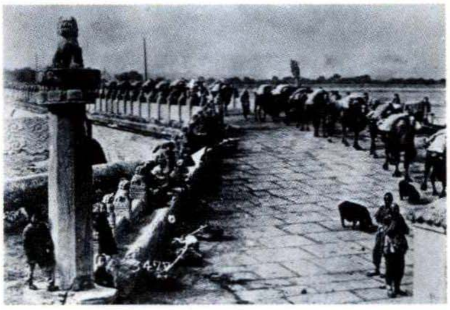
にっソつうしょうじょうやく【日ソ通

商条約】 貿易関係の発展を促進するために日本とソ連の間で締結された条約。1957年(昭和32)12月6日調印，1958年5月9日発効。正式名〈日本国とソビエト社会主義共和国連邦との間の通商に関する条約〉。第2次世界大戦前後を通じて日ソ間に結ばれた最初の通商条約である。本文15か条と付属書からなり，最恵国待遇，関税および課徴金，第三国に対する輸出入品，船舶，通商代表部の設置，法人，仲裁裁判などについて規定している。また，それまでの物物交換方式貿易がポンドによる現金決済方式となった。他の通商航海条約と比べると，出入国，資本の交流，財産の保護，営利活動についての規定がないのが特徴である。

にったよしさだ 【新田義貞】 (1301～1338) 鎌倉末期・南北朝時代の武将。祖の源義国以来上野(こうずけ)(群馬県)新田郡の豪族。通称小太郎。元弘(げんこう)の乱では幕府方の武将として楠木正成(くすのきまさしげ)と千早城で戦ったが，1333年(元弘3・正慶2)後醍醐(ごだいご)天皇の倒幕運動に応じて反旗を翻し，鎌倉を攻略して北条(ほうじょう)氏一族を滅ぼした。建武中興政府からは上野・越後(えちご)(新潟県)・播磨(はりま)(兵庫県)を知行国として与えられ，また武者所頭人に任ぜられて，同じ源氏の名流である足利尊氏(あしかがたかうじ)と対抗した。1335年(建武2)尊氏が反逆するに及び，官軍を率いて尊氏追討に向かったが，箱根竹ノ下で大敗し，翌年尊氏が九州から東上した際にも，兵庫(神戸(こうべ)市)で防いだがまた敗れた。その後南朝方の首将として恒良(つねなが)親王を奉じて北陸経略に従い，金崎(かねがさき)城(福井県)によったが，落城。1338年(延元3・暦応1)藤島の戦いで戦死した。 〔高崎徳次〕

ニッチェ [niche] 彫像・花びんなどを置くために，壁をえぐってつくったへこみ。通常その平面と頂部は半円形である。

にっちゅうおぼえがきぼうえききょうてい 【日中覚書貿易協定】 日本・中華人民共和国間の貿易に関する取り決め。両国間には正式な外交関係がないため，民間協定として結ばれているにすぎない。両国の貿易は友好商社方式・総合貿易方式の2本建てで行なわれているが，日中覚書貿易は総合貿易方式の新しい呼称である。1952年(昭和27)6月第1次貿易協定調印以来，順調に発展を続けたが，1958年3月第4次貿易協定に至ってこれが調印されないまま中断されていた。しかし1962年11月高碕(たかさき)達之助と廖承志(りょうしょうし)の間で日中総合貿易に関する覚書が調印されて再開した。この総合貿易方式は，廖・高碕の両代表者名のかしら文字をとってLT貿易ともいわれ，5か年にわたる長期総合バーター取引(→求償貿易)を規定し，年間平均輸出入総額(約1億80万ドル)とおもな輸出入品目を定めた。1967年12月LT貿易の期限が切れたのち，1968年3月協定更新が妥結して〈日中貿易に関する覚書〉が調印された。協定の期限も1年ごとに改める方式となり，呼称も日中覚書貿易となった。日中間の困難な政治関係を反映して，貿易問題に先だって政治問題も討議され，会談コミュニケが発表される形になっている。 〔広部和也〕





日中戦争 (上)事件後の蘆溝橋(1938年5月) (下)日本軍南京入城 中支方面派遣軍松井最高指揮官の入場式(1937年12月17日)

にっちゅうぎょぎょうきょうてい 【日中漁業協定】 1955年(昭和30)黄海と東シナ海での漁業に関して，日本の日中漁業協議会と中華人民共和国(中国)の中国漁業協会との間で締結された民間協定。底引き船の制限，緊急避難，資料の交換，漁業禁止区域などについて定めている。この協定によって日本は中国沿岸寄りの操業が制限されたが，黄海で安全操業ができるようになった。1958年の長崎国旗事件(長崎の切手展で一青年が中国国旗を引きずり降ろしたことに対して，北京(ペキン)政府が岸政府に抗議声明を発表した事件)で一時廃棄されたが，1963年と1965年にそれぞれ有効期間2か年の新協定が結ばれた。しかし，中国側の主張で資源保護のための操業規則が強化され，1967年と1968年に1年間の暫定延長，1969年には6か月の暫定延長，さらに1970年2年間の延長が中国側から通告された。

にっちゅうせんそう 【日中戦争】 1937年(昭和12)7月7日，蘆溝橋(ろこうきょう)事件をきっかけとして始まった中国との全面戦争。宣戦布告が行なわれないまま続けられた戦争で，当時日本では支那(しな)事変とよび，今日では日華事変ともよばれる。日本側は，はじめこの戦争の長期化を考えていなかったが，中国の抵抗にあって戦線は急速に拡大していき，日露戦争以後はじめて大本営を設置したり，1938年4月には国家総動員法を発動するなど全面戦争化した。やがて1941年に対米英戦争が開始されると同時に，太平洋戦争，第2次世界大戦の一部を構成することになる。

日本は満州事変以後積極的に中国本土へ侵略の手を伸ばし，華北地域の中国からの分離，同地域の一元的支配をめざした。当時中国では国民政府と共産党の内戦が行なわれていたが，日本の侵略が進むにつれて抗日意識が高まり，蒋介石(しょうかいせき)は1936年12月の西安事件後，内戦の停止を宣言するとともに共産党の抗日救国の呼びかけを受け入れ，国共合作による武装抗日の方針が決定されるに至った。日本政府はこれを屈服させようとして，蘆溝橋での現地停戦協定の成立にもかかわらず，1937年7月11日内地師団の派遣を決定し，同月28日総攻撃を開始，北京(ペキン)・天津(てんしん)一帯を占領した。さらに〈速戦即決〉の方針をとって，上海(シャンハイ)での衝突を機に4個師団を増派したため，戦火は華中地域へと拡大していった。しかし中国の抵抗は強く，日本は次次に大軍を投入することを余儀なくされ，同年12月13日南京(ナンキン)を占領して講和の動きを期待したが，国民政府は重慶に移って抗戦を続け，戦争の短期収束は不可能となっていた。1938年1月近衛文麿(このえふみまろ)首相は〈国民政府を相手にせず〉と声明して和平の道を閉ざした。戦争開始とともに日本では経済の軍事的編成・拡大が図られ，生産財の生産は，1938年には1930年の3倍に達した。しかし，膨大な臨時軍事費の支出が続く中で，統制経済の実施と戦時体制の強化が必至となった。他方，思想・政治面での統制も問題にされ，1937年9月から国民精神総動員運動が，翌1938年5月には隣組制度が始められた。言論・思想の取り締まりの強化のうちに無産運動は弾圧され，自由主義者でさえ圧迫された。日本軍の進攻は続けられ，1938年5月徐州，同年10月広東(カントン)・武漢を占領，中国の工業地帯を手中に収めたが，すでに従前の戦時動員計画をはるかに上回る兵力を投入していて以後は都市と鉄道，いわゆる点と線を確保するにとどまることになった。しかし武漢陥落後，国民党内の一部に敗北主義が強まり，国民党副総裁汪兆銘(おうちょうめい)は日本の和平工作に呼応し，1940年3月重慶を脱出して南京に政権を樹立した。このころから戦局の主導権は共産党の八路軍が握り，徹底したゲリラ戦で日本軍を脅かした。国民政府軍もアメリカ・イギリスなどの援助を受けて抗戦を続けた。この抗戦に対し，日本軍は中国沿岸封鎖をねらって，1939年海南島・南寧を占領した。同年9月ヨーロッパで第2次世界大戦が勃発(ぼっぱつ)した。ドイツの優勢に刺激された日本は，1940年9月に日独伊(にちどくい)三国同盟を結び，同年北部仏印に進駐，しだいにアメリカ・イギリスとの対立を深め，1941年12月太平洋戦争に突入することとなった。中国大陸では

重慶進攻作戦が計画され，また大規模な掃蕩戦(そうとうせん)がくり返された。しかし，日本軍のとった〈焼き尽くせ，殺し尽くせ，奪い尽くせ〉の三光戦術は，かえって中国側の戦意の高揚を生んだ。1942年8月から1943年2月にかけてのガダルカナルの戦闘を転機として太平洋戦争の局面は大きく変わった。重慶進攻作戦は放棄され，60万の日本陸軍が中国大陸にくぎづけにされたまま，1945年8月のポツダム宣言*を受諾，戦争は終結した。〔応和邦昭〕

にっちろく【日知録】中国，清(しん)の顧炎武*の著。1695年刊行。32巻。内容は，平生の読書研究の間に得たところを随時小さくまとめて記録したもので，経学・史学から地理・風俗に至る15項目に分類されている。政治・風俗などに対する深くすぐれた考察が示されていること，手堅く証拠に基づいて論述し空談がないことなど，後世の学術に強い影響を与えた。

にってん【日展】美術団体。その歴史は，1907年(明治40)開設されたわが国最初の官展である文展(文部省美術展覧会)にさかのぼる。1919年(大正8)の帝展(帝国美術院美術展)，1935年(昭和10)の新文展を経て，第2次世界大戦後1946年3月の日展(日本美術展覧会)として再発足した。しかし，この日展は不参加団体が多かったので改組と民主化が試みられ，1949年第5回展から日本芸術院と日展運営会の共同主催となって，純然たる官展ではなくなった。その後，1958年から芸術院を離れ社団法人日展という民間団体として毎年秋に公募展を開催する。なお半ば官展的な色彩が強い。日本画・洋画・彫刻・工芸・書の5科からなる。

ニットウエア［knitwear］本来は編み物でつくられた衣類の総称で，セーターをはじめはだ着・帽子・手袋・くつした・マフラーなどを含むが，普通は編み物の外衣のみをさす。編み方には手編みと機械編みがあり，またジャージー*などを裁断して特殊ミシンで縫製したものもある。ニットウエアは伸縮性・保温性に富み，軽くてしわになりにくいなど，衣類としての最良の条件を備えている。はじめはスポーツ着や防寒用の日常着などであったが，社会生活のスピード化・合理化が進むにつれてその機能性が好まれ，儀礼服以外の旅行着・通勤着・町着・家庭着とあらゆる服種に登場し，広く愛用されるようになった。〔小池千枝〕

ニッパやし【ニッパ椰子】単子葉植物・ヤシ科。セイロン・インドからフィリピン・オーストラリアなどの太平洋諸島に広く分布し，河口や江湾の周囲に自生する。幹は泥水(でいすい)中に横走して分枝する。葉は幹から直立して多数叢生(そうせい)し，3〜9mに達する羽状葉で，先は優美に弓状に湾曲する。小葉は披針(ひしん)形で，長さ60〜90cm。雌雄同株で，幹から約1mの花茎を伸ばし，肉穂花序を直立する。雌花は肉穂



新渡戸稲造

花序の側枝につき，雄花は頂生する。果実は，核果が多数集まり，20〜30cmの人頭大になっている。果実は食用とし，葉は屋根をふいたりかご・ござ・帽子などを編む。花茎からとる乳液を飲用にし，また砂糖をとる。

ニップール［Nippur］バビロニアの中央部にあるメソポタミアの古都。BC2500〜BC2000年ごろのシュメール時代やアッカド時代には，最高神のエンリル*を祭る聖地であった。神殿・付属図書館などが，19世紀末に発掘され，宗教・文学・法律などに関するシュメール語の粘土書板が発見された。

にっぽうほんせん【日豊本線】小倉〜大分〜鹿児島間の国鉄路線。営業キロ数462.7。ほかに貨物支線2本(6.6km)がある。1895〜1932年(明治28〜昭和7)開業。鹿児島本線小倉から九州東海岸を南北に縦貫する幹線鉄道で，中津・別府・大分・延岡・宮崎・都城(みやこのじょう)などの都市を結ぶ。いわゆる九州東縦貫線。小倉〜幸崎間が電化(交流)されている。

にっぽじしょ【日葡辞書】日本語をポルトガル語で解説した辞書。1603年(慶長8)イエズス会宣教師数名による共編。収録語約30,000語。宣教師たちが日本語を学ぶために用いたもので，ポルトガル式のローマ字で日本語の見出しをつけ，ポルトガル語で解説してある。特に日常語には用例や，その使用の場を示すなど使用の便を考えている。また，当時の標準語である京都語のほかに九州地方の方言についての記述もあり，室町末期の日本語の状態(特に発音)を知るために欠くことのできない好資料。

ニッポニテス［*Nipponites*］菊石類の一属で，中生代白亜紀後期の示準化石*。1904年(明治37)北海道天塩(てしお)地方の白亜紀層からはじめて発見されたが，形態が一般に菊石類とはきわめて異なり，一種独特の巻き方をするので奇形とみなされた。しかし，その後各地方の白亜紀層から発見されるものを産出層準を考慮して研究した結果，菊石類が絶滅するに先だって現われた特別進化した型のアンモナイト*であることが判明した。〔神戸信和〕

にっぽん【日本】⇨にほん

にとうるい【二糖類】2分子の単糖類*がグリコシド結合した糖類をいい，加水分解により2個の単糖を生じる。単糖類の結合のしかたにより，還元性のあるものと非還元性のものに分けられる。前者には乳糖・マルトース，後者にはショ糖・トレハロースなどがある。

にとべいなぞう【新渡戸稲造】(1862〜1933) 教育者。南部藩士として盛岡に生まれる。東京外国語学校を経て，1877年(明治10)札幌(さっぽろ)農学校にはいる。クラークの去ったあとであったが，二期生として内村鑑三*(かんぞう)と同級になり，ともにメソジスト教会宣教師ハリスによって受洗。同校卒業後アメリカ・ドイツに留学し，農業経営学を学ぶ。札幌農学校教授・東京大学教授・東京女子大学長・国際連盟事務局次長を歴任，特に第一高等学校長として学生に大きな影響を与えた。クェーカーとしてのすぐれた人格をもち，国際平和に献身し，太平洋のかけ橋たらんと志す国際人として活躍。英文著書《武士道》による日本紹介や文明批評など多彩な活動を続けた。自己の属するフレンド教会をこえて，広くキリスト教界のために尽くした。講演旅行中カナダで客死。〔堀越知巳〕

にとものがたり【二都物語】ディケンズ*の長編小説(1859)。フランス革命期のパリ・ロンドンの2都市を舞台に，18年もの間獄中にあった医師，革命政府によって死刑を宣告される貴族など，多彩な人物の行動を描く。混乱した社会の動向が巧みに描写され，一種の歴史小説ともなっている。

ニトリル［nitrile］シアン基−C≡Nを含む化合物RCNの総称。カルボン酸から，あるいは逆にカルボン酸に誘導することができるため，カルボン酸の誘導体として扱われ，加水分解して得られるカルボン酸に関連づけて命名される。たとえば酢酸(アセティックアシッド)を生成するものはアセトニトリルとよばれる。分子内に反応性の大きいシアン基をもつので，各種の反応を受けやすく各種有機化合物の合成上非常に重要である。低位のものは無色の液体で特有の臭気があり，高位のものは結晶となる。

ニトリルゴム 合成ゴムの一。ニトリル−ブタジエンゴム・NBR・ブナNともよばれる。ブタジエン*とアクリロニトリルの乳化重合*による共重合*体で，アクリロニトリルの含量が20〜40％のものがつくられる。SBRや天然ゴムと同様イオウで加硫*され，加硫ゴムは耐油性が特にすぐれ，耐摩耗性・耐熱性・ガス不透過性もすぐれている。ネオプレンとともに耐油性の特殊目的合成ゴムとして広く使われている。

ニトロかごうぶつ【ニトロ化合物】ニトロ基−NO_2をもつ化合物。広義には窒素原子にニトロ基が結合しているニトロアミン(N-ニトロ化合物)や，酸素原子にニトロ基が結合している硝酸エステル(O-ニトロ化合物)を含めるが，普通は炭素原子にニトロ基が結合している化合物(C-ニトロ化合物)をさす。C-ニトロ化合物には芳香族ニトロ化合物と脂肪族ニトロ化合物がある。

前者は淡黄色で特有の芳香をもち，ニトロ基が一つのものは液体が低融点の固体，二つ以上のものは結晶である。還元によりアミノ化合物・アゾキシ化合物・アゾ化合物・ヒドラゾ化合物に変換できるため合成化学上重要であり，染料合成の中間体でもある。また火薬・酸化剤などにも使われる。また後者は，無色，芳香のある液体で，溶剤やロケット燃料として用いられる。なお芳香族炭化水素のニトロ化は，硫酸と硝酸の混合物を使うことが多いが，硝酸単独か硝酸と酢酸，硝酸塩と硫酸，酸化窒素，有機硝酸エステルなども使われる。これらの場合，反応論的にはニトロニウムイオンNO_2^+が攻撃試薬であると考えられている。また反応条件を変えることによって導入されるニトロ基の数を調節できる。脂肪族炭化水素のニトロ化は硝酸蒸気を用いて高温気相反応で行なう。〔石戸良治・荒木洋之助〕

ニトログリセリン［nitroglycerine］グリセリンの三硝酸エステル。

$$\begin{array}{l} CH_2ONO_2 \\ | \\ CHONO_2 \\ | \\ CH_2ONO_2 \end{array}$$

無水グリセリンを硝酸と硫酸の混合物で処理してつくられる。非常に爆発しやすくその威力も大きいことから，安全を図るため製造装置にもいろいろ特殊な考慮がなされている。無色透明な油状液体。冷却すると固体になる。安定形は融点13.5℃，不安定形は2.0℃。ニトロセルロースを約10%量加えたものはコロイド状でダイナマイトの基剤であり，より多量に加えると無煙火薬ができる。このほか種々の添加剤により各種の火薬・爆薬・燃料がつくられる。〔石戸良治・荒木洋之助〕

ニトロセルロース［nitrocellulose］セルロースの硝酸エステルで，硝化綿・硝酸セルロースともいう。硝酸エステル化の程度により数種のニトロセルロースがある。その程度は窒素含量の百分率で表わし，完全にニトロ化された場合は14.1%になり，爆発的に燃える。セルロイドやラッカーの原料，火薬用の添加剤などに使われる。またコロジオンあるいはひまし油を添加した弾性コロジオンとして医薬製剤にも用いる。

ニトロベンゼン［nitrobenzene］$C_6H_5-NO_2$ ベンゼンをニトロ化して得られる，特有の香気をもつかすかに黄色をおびた透明な液体。融点5.7℃，沸点210.9℃。還元するとニトロソベンゼン，N-フェニルヒドロキシルアミンを経てアニリンになる。工業的にアニリンを製造する原料として重要であり，また染料の中間体合成に使われる。

ににぎのみこと【瓊瓊杵尊】日本神話の神。父神はアメノオシホミミノミコト，母神はタカミムスビノカミの娘のトヨアキツヒメノミコト。アマテラスオオミカミの孫にあたり，天孫ともいう。アマテラスオオミカミの命により，大八洲(おおやしま)国の主として日向(宮崎県)の高千穂に天下り，コノハナサクヤ姫*と結婚した。アマテラスオオミカミはニニギノミコトに三種の神器*を授けて形代(かたしろ)とし，ミコトの子孫に受け継がれた。ニニギノミコトの名義は稲穂の豊饒(ほうじょう)にちなむといわれ，降臨神話は大嘗(だいじょう)祭*の由来を物語っていると考えられる。〔宮井義雄〕



ニネベ　アッシリア最盛期の首府で，楔形文字で書かれた粘土板文書やレリーフが多く出土した。遠くにモスルの町が見える



二宮尊徳《二宮尊徳画像》尊徳記念館蔵

ににろくじけん【二・二六事件】1936年(昭和11) 2月26日東京で起きた陸軍の皇道派*青年将校による反乱事件。陸軍内部の急進派である皇道派は，1936年初めの第1師団満州派遣の発表を機に，決起して国家を改造しようと計画した。北一輝*の影響を受けた村中孝次・磯部(いそべ)浅一・安藤輝三ら青年将校20数名は，第1師団の歩兵第1・第3連隊，近衛(このえ)第3連隊などから約1,400名の兵士を動員し，26日早朝首相官邸・警視庁などを襲撃，内大臣斎藤実(まこと)・蔵相高橋是清(これきよ)・教育総監渡辺錠太郎(わたなべじょうたろう)を殺害，侍従長鈴木貫太郎を負傷させた。そして国会議事堂・首相官邸をはじめ麹町(こうじまち)区一帯を占拠し，陸相川島義之(よしゆき)を通じ国家改造を迫った。当初事態を静観していた陸軍首脳は，27日戒厳令を敷き，29日決起部隊を反乱軍とよんで鎮圧を開始した。事件後陸軍首脳は，国民の非難をそらすため，参加した青年将校15名と北一輝らに軍法会議で死刑を判決，粛軍の名のもとに陸軍内部から皇道派を一掃した。以後統制派*が陸軍の実権を握って，政治的発言権を強化し，日本はしだいに戦時体制に向かった。〔応和邦昭〕

ににんわんきゅう【二人椀久】長唄(ながうた)の曲名。本名題《其面影(そのおもかげ)二人椀久》。大阪の富豪椀屋久兵衛(きゅうべえ)(久右衛門)の狂気の彷徨(ほうこう)を扱ったいわゆる〈椀久物〉の代表曲で，遊女松山が椀久と似た姿で登場する舞踊曲である。作曲錦屋金蔵，作詞は不詳。1774年(安永3)初演。主要な旋律は一中節《椀久道行》から得て，さらに説経ふうの三味線(しゃみせん)の手法，能《筒井筒》の部分借用などのために懐古的な気分に満ちた曲である。〔山口　修〕

ニネベ［Nineveh］チグリス川に面しモスルの対岸にあるアッシリアの古都。サルゴン2世の子センナケリブ*がアッシリア帝国の都として創建した(紀元前7世紀初め)。帝国末期のアッシュールバニパル*王が宮殿や城壁などを建設，特に宮殿の獅子(しし)狩りの浮き彫りは有名である。BC612年，メディアと新バビロニアの連合軍のため破壊された。19世紀半ばイギリスのレアードが発掘し，楔形(くさびがた)文字の粘土板が多く出土した。その資料によってアッシリア学の基礎が固まった。〔高山高雄〕

にねんそう【二年草】一年草・多年草に対する語で，植物の生存期間を示し，葉をつけたまま越冬して，開花・結実後は一年草同様に枯死する植物。本来は，マツヨイグサの仲間のように，発芽してから2回越冬したあとに花をつける植物をいう。しかし，ダイコン・ヒメジョオン・アレチノギクなどのように，一度越冬して翌春花をつけて枯死する越年草を含めることが多い。二年生植物は，春から夏にかけて開花する長日植物が普通である。

にのくちむら【新口村】⇨恋飛脚大和往来(こいのたよりやまとおうらい)　⇨冥途(めいど)の飛脚

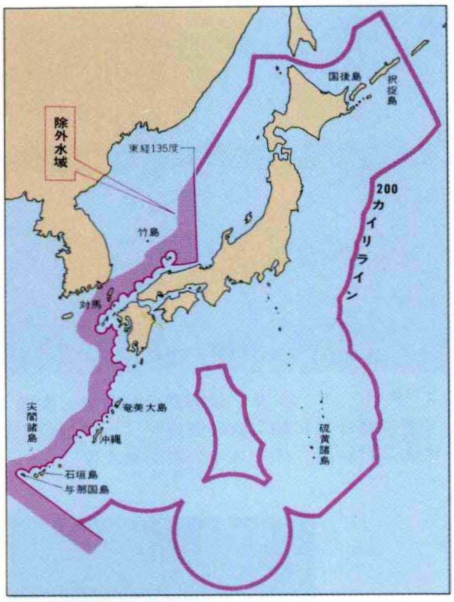
にのみやそんとく【二宮尊徳】(1787～1856) 江戸末期の農村指導者。通称金次郎。相模(さがみ)(神奈川県)足柄上郡東栢山(ひがしかやま)村の貧農の生まれ。早く両親に死別し，苦学力行しつつ生家の復興に努力。28歳で小田原藩の改革に従事して以後経世済民の事業に奮闘し，下野(しもつけ)(栃木県)・常陸(ひたち)(茨城県)など隣接諸藩の農村復興，日光東照宮領の再興などに功績があった。神・儒・仏の思想を混合し，実践道徳による殖産を説いて報徳宗の開祖となった。

ニーバー［Reinhold Niebuhr］(1892～1971) アメリカの神学者。ミズーリ州ライトシティーの生まれ。エール大学で神学を学ぶ。デトロイトの福音教会牧師を経て，ニューヨークのユニオン神学校の宗教哲学助教授，キリスト教社会倫理の教授，また副学長となる。現代アメリカの宗教改革神学の復興者として，ヨーロッパのバルト*に比肩される。改革派プロテスタンチズムからくる社会意識と，現代資本主義社会がもたらす問題意識とを結合させ，宗教改革の信仰を社会的次元で現代に再適応させよう

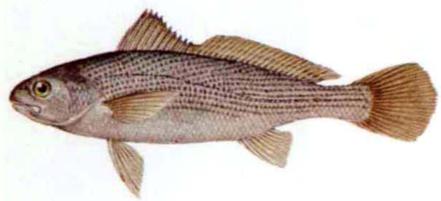
とする。その思想は，組織的神学という形をとらず，人間・歴史・社会の分析を通して動的に提示され，一貫して近代キリスト教・自由主義・マルクス主義の誤りや浅薄さを批判した。主著《信仰と歴史》。〔堀越知巳〕

にびいろ【鈍色】 色名。〈にぶいろ〉ともいい，略して〈にぶ・にび〉ということがある。ごくわずかに青みをおびた灰色。黒橡(くろつるばみ)色すなわち紺黒色を薄くしたような色であるが，一般には黒色を淡くしたような色と考えられている。平安時代に生じた色名で，おもに喪のときの服装の色に用いられた。特に，鈍色の薄い色を薄鈍，青みの強い鈍色を青鈍とよぶ。なお，鈍色を〈どんじき〉と読むときは，色名とは関係なく僧衣を意味する。〔武井邦彦〕

にひゃくかいりもんだい【二百海里問題】 ラテンアメリカの一部では，以前から領海二百海里を主張していたが，アフリカ諸国でも近年その動きがみられた。これとは別に，アメリカ，メキシコ，アイスランドなどでは二百海里の漁業専管水域設定の動きや，大陸棚(だな)上の鉱物資源の沿岸国支配の主張があった。いっぽう，第3次国連海洋法会議第2期会期のカラカス会議(1974年6月)以降，領海十二海里拡大，排他的経済水域二百海里案が提案され，審議を重ねていく過程で，内陸国の反対などもあり，国際的同意は得られないままに，世界の大勢がその実現に向きつつある情勢にあった。1975年にアイスランドが，1976年にメキシコおよびアメリカが，まず漁業専管水域(二百海里)設定に踏みきったのを皮切りに，漁業国であるソ連邦がこれにつぎ，わが国でも対抗上その措置をとらざるを得なくなった。すなわち1977年「漁業水域に関する暫定措置法」すなわち二百海里漁業水域法をわが国でも制定した。国連国際法第3次会議は，その後も会期を重ねてはいるが，妥結には至っていない。会議で提案された非公式単一交渉草案に盛られた内容は，世界の大国の実質的実践の前に，その効力を得たといっても過言ではない。わが国ではこの二百海里法と同時に，「領海十二海里法」をも制定，長い間支持してきた領海三海里説を放棄した。しかしながら，対韓国，対中国との外交上，領海十二海里は適用するが，図に示すような漁業専管水域適用除外水域を設定，隣国との国際友好に努めている。このような専管水域の設定は，ヨーロッパ共同体でも実施しており，他の諸国も近い将来相次いで設定する動向にある。排他的な二百海里漁業専管水域内の生物資源は，その沿岸国に帰属し，沿岸国に余剰を生じた場合にのみ，相手国に漁獲を許可するというのが，法のねらいとするところである。これに基づき，日ソ漁業暫定協定，ソ日暫定協定が定められたし，アメリカ沿岸の漁獲量の割り当てを，実績を持つわが国漁業者に対して行なうのも，この法に基づく処置である。



二百海里問題
日本の200海里漁業水域



ニ　ベ

海洋生物を除く資源のうち，石油や天然ガスなどの化石燃料の開発は，すでに大陸棚上で進められているし，他の鉱物資源に対する開発も遠からずなされるであろう。群島国家の領海や排他的経済水域の線引き，複雑な位置関係を持つ国家間の合意，海岸に面していない内陸国の主張，二百海里水域内に対する内陸国の排他的権利に伴う義務(たとえば海洋汚染の防除など)など，未解決のままのことが多い。〔石野　誠〕

にひゃくとおか【二百十日】 雑節の一。立春から210日めの日をいい，太陽暦の9月1日ごろにあたる。台風襲来の多い日とされるが，統計的にはあまりなくむしろ9月の後半のほうが多く，しばしば大きな災害を及ぼす。しかし，二百十日ごろは晩稲(おくて)の開花期にあたり，特に農家では台風による災害に気を配る。台風シーズンを控えて一つの季節的な警告として，このような雑節が生じたものであろう。➔二十四気

ニヒリズム［nihilismus］ 生の無意味さ，むなしさの感情を基盤にもつ思想。虚無主義ともいう。ヤコービーがフィヒテにあてた書簡で，はじめて用いられた。究極的真理の不可知なことを主張する理論的ニヒリズム，社会的・倫理的価値や規範の妥当性や拘束性を否定する実践的ニヒリズム，さらに既成の社会的・政治的権威および社会的秩序とそのイデオロギーを否定する政治的ニヒリズムがある。歴史的には，すでに古代ギリシアのゴルギアス*，古代中国の道家や原始仏教にもみられるが，一般的になったのは，1862年ツルゲーネフが《父と子》でバザーロフに政治的ニヒリズムの一典型を示してからである。ニヒリズムを今日的意味で問題にしたのはニーチェ*である。彼は主著《権力への意志》で，ニヒリズムを〈至高の価値が価値を喪失すること，なんのためにに対する答えが欠けていること〉と定義し，ニヒリズムを単に生存の意味の喪失だけでなく，キリスト教的世界解釈とソクラテス以来の理性第一主義とによる歴史的必然性としてとらえた。現代でも実存主義の哲学者によってニヒリズムはさまざまな解釈と対決が行なわれている。〔豊福英利〕

ニーブール［Barthold Georg Niebuhr］(1776～1831) ドイツの歴史家。コペンハーゲンの生まれ。父カールステン-ニーブール(1733～1815)は近東の旅行家として著名。キール大学に学ぶ。1810年ベルリン大学でローマ史の講義をはじめ，1823年ボン大学教授となった。彼は，農民をローマの力の源と考え，ローマが拡大して商工業が発展してからはその堕落衰退の時期とみなした。それまでの伝説的なローマ初期の歴史に対して，厳密な史料批判による科学的なローマ史研究を創始した。著書《ローマ史》全3巻がある。〔兼岩正夫〕

にべ【鮸】 硬骨魚類・ニベ科。全長90cmに達する海産魚。静岡県・高知県などではグチという。体は長楕円(ちょうだえん)形でやや側扁(そくへん)する。背びれは長く，体中央部付近にくぼみがある。うきぶくろとそのまわりの筋肉によって発音する。日本では松島湾，富山湾以南，長崎まで分布。底生性で，底引き網で多量に漁獲され，塩焼きにして食するほか，かまぼこの原料になる。

ニーベルンゲンのうた【ニーベルンゲンの歌】 中世ドイツ最大の民族的英雄叙事詩(1195？～1210？)。作者不明。5～6世紀ごろの民族大移動時代に由来するジークフリートとブリュンヒルデの伝説に，ブルグンド族滅亡の物語を結びつけたもので，2部39章からなる。外見はキリスト教的・宮廷的であるが，主人公が忠誠・信義・貞節を貫いて悲劇的終末に至る筋の運びは，ゲルマン的・異教的な印象を与える。奔放雄大な構想力，緊密で迫力のある構成，素朴(そぼく)簡潔な性格描写など，世界文学の傑作とされている。〔市村　仁〕

ニーベルンゲンのゆびわ【ニーベルンゲンの指環】 ワーグナー*作曲の4部からなる楽劇。多くの神話と伝説をもとに，ワーグナー自身が作詞した。10幕35場からなる大作で，上演には4晩を要する。4部作の連続上演はワーグナーのために建てたバイロイトの祝祭歌劇場で1876年8月にハンス-

リヒターの指揮で行なわれた。第1部《ラインの黄金》，第2部《ワルキューレ》，第3部《ジークフリート》，第4部《神々のたそがれ》。

にぼし【煮干し】 魚介類を煮て乾燥した食品。おもにイワシ(カタクチイワシ・マイワシなど)の幼魚を原料とし，カルシウムに富み，出しじるをとるのに用いる。このほか，つくだ煮用にイカナゴ，中国料理用にアワビ・ナマコ・エビ・貝柱やフカのひれなどのものがある。

にほん【日本】 日本新聞ともいう。《東京電報》を前身として，1889年(明治22)陸羯南*(くがかつなん)が三浦梧楼*(ごろう)・谷干城*らの資金援助を得て創刊。福本日南*・三宅雪嶺*(みやけせつれい)・長谷川(はせがわ)如是閑*らの論客・記者を集めて，藩閥政治*・欧化主義*・条約改正*を批判し，国民に基礎を置いて立憲君主制の完成を目的とする国民主義を主張した。日清(にっしん)戦争後陸が病気で倒れてから不振となり，のち立憲政友会系の商業新聞となった。1914年(大正3)廃刊。

にほん【日本】 アジア大陸の東端にあり，日本海を隔てて北海道・本州・四国・九州の四大島と，その付属の約3,000の島からなる国で，このほぼ北東から南西に連なる島列を日本列島*とよんでいる。面積は37万2,312km²，北方領土*を加えれば37万7,535km²。人口は1975年によれば1億1,194万で，1km²の人口密度は300人であるが，北方領土を加えれば297人で，総理府統計局の1975年国勢調査報告では，この数字を採用している。世界の約400分の1の国土に，約36分の1の人口を収容しており，国土の80%が山地であることを考えると，実質的には世界一の人口密度をもつ国である。1975年の調査による耕地面積は557万2,000ヘクタール(田317万1,000ヘクタール，畑240万2,000ヘクタール)で，耕地1km²あたりの人口密度は2,009人で，国土の約4分の1が海面下にある低地国オランダの652人や，最高点が海抜162mにすぎないデンマークの172人などに比すれば，これもほかに例がないほど高いといわなければならない。気候は温帯に属し，ケッペン*の分類にしたがえば，北海道の全域と，本州の北東部および中部の山地が冷帯多雨気候で，そのほかは温帯多雨気候となっており，梅雨や台風などによる大雨，あるいは火山活動や地震などによる災害の多い国といってよい。また第2次世界大戦後の日本は，北海道にいるわずか一万数千人のアイヌ系住民や推定約10万人の帰化朝鮮人を除けば，日本人という単一民族の国家であって，これも世界にあまり例がない。

歴史的にみれば，日本は文字に記録されるようになってからでも，およそ2,000年の歴史をもち，まわりの朝鮮・中国・インドなどの諸文化を取り入れながら独自の文化を築いてきた。近世になって，近隣のアジア諸国があいついで欧米の植民地と化した中で，200余年に及ぶ徳川幕府の鎖国政策と，明治維新という偉業の達成によって，ひとり独立を保ってきた。明治以後の日本は，狭い国土と貧しい資源という悪条件のために，まわりの諸地域へ生存の道を見いだそうと図り，まず台湾と南樺太(みなみからふと)(現，サハリン)，さらに朝鮮をその支配下に置くことに成功した。しかし，なおも勢力を拡大しようとして，1931年に始まった満州事変は，日中戦争から太平洋戦争へとエスカレートし，東南アジアの全域を一時的に占領したが，イギリス・アメリカをはじめとするほとんど世界じゅうの国を敵としなければならないことになって，1945年に連合国に無条件降伏した。

戦後の日本は，国土の荒廃と精神的な打撃からようやく立ち直り，経済的にみごとな復興を成し遂げた。しかし，日本の好むと好まざるとにかかわらず，アジアにおける日本の立場は資本主義諸国，特にアメリカ合衆国の政策に同調せざるを得ず，朝鮮戦争やベトナム戦争においても，日本の国土はアメリカの軍事基地としての役割を受け持たされてきた。戦後引き続きアメリカの施政下に置かれていた沖縄は，再び日本の一県として復帰したが，沖縄のアメリカの軍事基地としての任務には根本的な変化はなく，したがって完全な復帰とはいいがたい。また1970年の日米繊維交渉の決裂をきっかけとして，日本とアメリカとは経済的対立時代にはいり，特に1971年のアメリカの中国接近の動きやドル防衛のための金交換停止は，日本にアメリカに対する大きな不信感をいだかせ，1972年のニクソン大統領訪中の結果の中国との共同声明は，台湾問題に関して日本を置き去りにするような印象を与えた。しかし日本は，1972年9月日中国交正常化達成で中国と合意，共同声明を発表，1973年にはいって，相互に大使を交換，この点でアメリカに一歩先だった。1974年にはアメリカのフォード大統領が現役大統領として初めて来日，1975年には天皇・皇后が訪米，日米関係は一時に比べて好転し，1977年にカーター大統領が就任，現在の日本とアメリカの間の大きな懸案は，日本側の出超による貿易の格差と二百海里漁業専管水域設定にからむ漁業問題であるが，後者については1977年2月に日米漁業協定が成立した。しかし漁獲量や操業条件については，毎年協議しなければならない。また1973年アメリカ軍がベトナムから完全に撤退，その後の東南アジアの自由主義諸国の防衛については，日本にも責任を負わせようとするアメリカ側の動きがある。

日本はアジアをはじめ世界の各地に最近めざましい経済的な進出を遂げているが，これに対する各国民の警戒心は強くなる一方で，日本人をエコノミック-アニマルとよぶような現象も生じている。1976年にはいって，EC諸国の対日攻勢もしだいに激しくなってきた。

一方国内においては，敗戦のためにほとんど壊滅した工業が，国民の努力と朝鮮戦争という客観的な条件によって，戦前にまさる発展を遂げ，繊維を主とした軽工業国から重化学工業国へと転換し，鉄鋼・船舶・自動車・化学・繊維などが輸出されて，外貨を獲得している。しかし，原料の大部分を輸入に依存し，欧米先進国の技術を導入しなければならないなどの弱点があり，工場の無計画で急激な増加によって起こった公害問題の解決も，国民の健康と福祉を守るために，ゆるがせにすることができない。農業の方面では，最近の米の増産にはめざましいものがあり，米はむしろ余って困っている状態で，食糧事情は好転しているように見え，また，1955年には74%であった国民のデンプン食率が，1975年には52%となって，しだいに欧米の水準に近づきつつあり，これは経済的な成長につれて，いままで比較的ぜいたくとみられていた肉類や乳製品を多くとるようになったためで，デンプン食率のこのような急激な低下は，世界的にも珍しいこととされている。けれども肉類をはじめとして食糧の輸入が年々増加し，食糧の自給率が1960年代には90%であったのが，1970年代には80%を割るようになり，1975年には75%となった。1980年代にはイギリスを追い越して世界一の食糧輸入国になることが予想され，食糧事情の前途は必ずしも楽観できない。

食糧と関係の深い人口については，厚生省人口問題研究所では，1975年の国勢調査をもとにして，日本の将来人口が2050年には1億4,001万に達すると推計しており，これは1964年に推計した2005年には1億2,169万となって極限に達し，それからは減少しはじめて，2015年には1億1,901万になるとしたのと，大幅に異なっており，こうなった場合の食糧の補給が果たして可能かどうか，これは世界的な食糧事情と合わせて考えなければならない問題である。また年齢別人口においても，1975年には0～14歳の年少人口が24.3%，15～64歳の生産年齢人口が67.8%，65歳以上の老年人口が7.9%であったのに対して，2020年には19.2%，62.0%，18.8%となり，人口の著しい老齢化が予想されている。しかし，これはこの年が極限であって，2025年には，それぞれ19.4%，62.5%，18.1%となるとされている。いずれにせよ，少数の働く者が，多数の老人を養わなければならない時代のくることは必至である。また，国内における思想の対立も，年々激化しつつあって，最近はとくに新左翼系の相手を選ばない爆破事件が続出，日本赤軍と称する一派は海外においてもゲリラ活動をしており，思想的にも日本の前途は多難というべきであろう。

〔浅井得一〕

にほんアルプス 【日本アルプス】 中部地方のほぼ中央部に雁行(がんこう)状に並ぶ飛驒(ひだ)山脈(北アルプス)・木曾(きそ)山脈(中央アルプス)・赤石山脈(南アルプス)の総称。わが国最高の山岳地域を形成し，日本の3,000m級の高山は富士山を除いてすべてここに集まる。最高点は赤石山脈白根山の北岳3,192mである。〈日本アルプス〉の名称は，1881年イギリス人鉱山技師ウィリアム-ゴーランドが飛驒山脈につけたのがはじまりで，のちに小島烏水(うすい)が名著《日本アルプス》でその範囲を木曾・赤石の両山脈に拡大し，北・中央・南の三つに区分した。地形は急峻(きゅうしゅん)で壮年期の高山性の山容を示し，山頂付近に氷食地形を残しているものも少なくない。一般に降水量は多く，山腹や渓谷(けいこく)は豊かな樹林におおわれ，高山植物も豊富である。黒部(くろべ)・高瀬・梓(あずさ)・野呂(のろ)・大井川などが深い谷を刻み，電源地帯としても重要である。北アルプスと南アルプスの大部分は，それぞれ中部山岳国立公園・南アルプス国立公園に指定されているが，近年，過度な観光開発で貴重な自然が破壊され，その対策が望まれている。〔高野　繁〕

にほんいくえいかい 【日本育英会】 わが国の奨学制度をになっている各種育英事業団体のうち最大の事業団体。1944年(昭和19)大日本育英会として創設され，1953年日本育英会に改組。事業費は大部分政府の貸付金でまかなっている。また，その奨学の種別には，高校奨学・高校特別奨学・大学奨学・大学特別奨学・大学院奨学などがある。なお，奨学制度は，優秀な学生や生徒で，学資に恵まれない者を経済的に援助する制度で，その起源は，1868年(明治1)にさかのぼるが，当時は，郷党の人材育成を目的とする出身地別のものであった。昭和にはいってからは，出身地に関係なく英才を伸ばすという方向に発展し，第2次世界大戦後は，母子家庭の子弟の教育費援助という社会事業的な面も受け持つようになっている。➔育英制度〔原　豊〕

にほんいしかい 【日本医師会】 開業医を中心とする統一医師団体。1916年(大正5)創立の大日本医師会が発展的に解消して，1923年日本医師会となり，これが第2次世界大戦の終結を契機として，1947年(昭和22)社団法人日本医師会として再編成された。おもな事業は，社会保険に関する事項，福祉関係の事項，学術に関する事項，医学研究および教育の改善，渉外広報の強化などで，これらの事業を通して医学・医術の高揚と会員の福祉の増進に努め，国民の健康の維持・増進を図ろうとするものである。➔医療制度〔佐野隆志〕

にほんいたガラス 【日本板硝子(株)】 業界2位の板ガラス専業メーカー。旭(あさひ)硝子*に次ぎ，わが国板ガラス生産の35%を占める。アメリカの板ガラスメーカーから特許権の出資を受けて，1918年(大正7)に日米板硝子の名で設立され，1920年に九州若松で生産を開始，1931年(昭和6)現社名に改称。その後，1936年四日市工場を，1949年舞鶴(まいづる)工場を，1964年千葉工場を建設し，4工場による総合生産体制を確立した。自動車用安全ガラスをつくる日本安全硝子，ガラス繊維をつくる日本硝子繊維をはじめ，各務(かがみ)クリスタル製作所・イソライト工業・筒中プラスチック工業などの子会社がある。本社大阪。資本金120億円，年間売上高1,333億3,500万円，従業員数3,773(1980年9月)。

にほんえいが 【日本映画】 映画が日本に渡ってきたのは1896年(明治29)，日本で最初に映画がつくられたのは1899年である。以来，日本は世界で最も活発に映画製作の行なわれる国の一つとなり，製作本数からいえば，ほぼアメリカ・インドに次いで世界第3位，ときには第1位に位置したこともある。しかし国民全体が年間に映画を見る回数の点では，日本は世界において中程度で，特に高くはない。

日本の映画製作は，その草創期から東京・京都を二大中心地として行なわれ，東京ではおもに現代劇が，京都では時代劇映画*がつくられてきた。京都の場合，古い建物など時代劇映画のロケーションに適した地であったからである。日本の映画製作の一つの特徴は，初期から現在まで，大会社中心に製作が行なわれる傾向が強く，しかも製作を行なう大会社が作品の配給・興業にも独占的な力を握っていることである。したがって映画会社首脳部の権力は絶大であり，彼らの企画・路線に沿って，ほぼ映画のあり方が決定されていく傾向が強い。東宝*・松竹*・大映・日活*・東映などの各社がそれである。そして，映画事業の繁栄期には，それらの会社も，映画作家の自由な映画づくりを認める余裕があり，そこから多くの傑作が生まれたが，映画産業が不振になるとその余裕もなくなり，これらの大会社から良心的な作品はなかなか生まれにくくなる。そこで良心的な映画作家の多くは大会社から独立して自力で映画づくりを始めるが，映画興行界が大会社の独占支配下にある状況においては，独立した作家の仕事が経済的な成功を勝ちとることは非常に困難であり，そこに日本映画の直面する大きな問題点があるといえよう。

日本映画はさまざまな分野で数多くの傑作を生んできた。1910年代ごろまでは講談本をそのまま歌舞伎(かぶき)的演技で映画化した時代劇とか，新派悲劇の引き写しのような作品が大衆の人気を集めたが，1920年(大正10)前後から若い映画人の間に芸術的自覚が起こり，実験的な映画製作も試みられるようになった。1920年代の後半(大正末期から昭和初期にかけて)には，社会の不景気と，他のジャンルでの左翼的・反抗的な芸術運動の刺激もあって，時代劇映画の中に貧しい者，しいたげられた者の反逆精神を盛り込むことが行なわれ，日本映画の芸術的開花がそこにみられた。マキノ正博(まさひろ)の《浪人街》，伊藤大輔*(いとうだいすけ)の《忠次旅日記》などである。この傾向は現代劇にも移り，メロドラマ的な物語の中にプロレタリア意識を盛り込んだ作品も多くつくられ，〈傾向映画〉とよばれるに至った。内田吐夢*の《生ける人形》はその先駆的作品である。

1930年(昭和5)ごろになると，左翼運動に対する弾圧がきびしくなり，資本主義的な産業である映画からは，左翼的な作品は急速に影を潜めた。そのころ，そうした作品に代わって登場したのは，小津安二郎*の《生まれてはみたけれど》，五所平之助*の《伊豆の踊子》，山中貞雄*(さだお)の《人情紙風船》といった作品であり，ここにはユーモアとペーソスと詠嘆とが描かれた。日本映画はこれらの作品において，芸術的には一頂点をきわめたといえ，それらは今日なお第一級の作品としての価値をもっている。こうして1930年代後半は日本映画史上の一つの黄金時代となった。溝口(みぞぐち)健二*・島津保次郎*(やすじろう)・内田吐夢・田坂具隆(ともたか)・伊丹(いたみ)万作*・豊田(とよだ)四郎・熊谷久虎(くまがいひさとら)・衣笠(きぬがさ)貞之助*らの監督が，その才能をみごとに開花させ，大戦争に突入する直前の時期の民衆の哀歓をあざやかにフィルムに定着したのである。

1937年に中国への侵略戦争が本格化して以来，日本映画はしだいに国家統制のわくの中に組み込まれ，ついには完全に軍部の宣伝機関に堕してしまい，多くの戦争宣伝映画がつくられた。

1945年の敗戦から1949年まで，日本映画はアメリカ占領軍の監督下に置かれた。アメリカ軍は1948年の東宝争議には映画界の労働運動の弾圧のため戦車まで出動させ，また左翼映画人を映画界から追放した。敗戦直後の映画界は，こうした状況のもとで，戦争中とはうって変わり，いわば民主主義宣伝の映画をつくらされたのであるが，その中から黒沢明*の《わが青春に悔なし》，木下恵介*(けいすけ)の《大曾根(おおそね)家の朝》などの秀作が生まれ，今井正*・吉村(よしむら)公三郎*らの活躍が始まる。1951年のベニス国際映画祭で黒沢明の《羅生門*(らしょうもん)》がグランプリを得てから，日本映画の価値は国際的に認められた。黒沢明と溝口健二の名が世界的なものとなり，続いて市川崑*(こん)・新藤兼人*(しんどうかねと)・小林正樹*(まさき)・小津安二郎らの作品が認められた。また1951年には，国産の色彩映画*の第1作である木下恵介の《カルメン故郷に帰る》がつくられた。1950年代は，戦後日本映画の隆盛期で，溝口健二《西鶴(さいかく)一代女》，成瀬巳喜男*(みきお)《浮雲》，内田吐夢《血槍富士(ちやりふじ)》，今井正《真昼の暗黒》，稲垣浩*(いながきひろし)《無法松

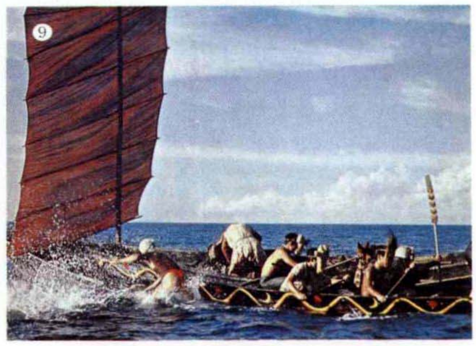




















日本映画

①《赤西蛎太》(伊丹万作監督, 1936) 時代劇映画の中に現代的感覚を盛り込んだ作品
②《人情紙風船》(山中貞雄監督, 1937) 庶民生活の悲哀をほろにがく描いた時代劇映画
③《大曾根家の朝》(木下恵介監督, 1946) ある一家の戦争体験を通して民主主義を模索
④《生きる》(黒沢明監督, 1952) 定年間近い公務員の生きる姿を理想主義的に歌った作品
⑤《雨月物語》(溝口健二監督, 1953) 戦国時代を舞台に幽幻の美を描き海外でも認められた
⑥《東京物語》(小津安二郎監督, 1953) 小市民の家族関係を独自な映画世界に定着させた
⑦《裸の島》(新藤兼人監督, 1960) 孤島に住む夫婦の生活の中に人間と自然のたたかいを描写
⑧《飼育》(大島渚監督, 1961) 地方寒村を舞台に戦争が人間に与える傷を鋭く掘り下げた作品
⑨《神々の深き欲望》(今村昌平監督, 1968) 南海の島の人間関係を通して日本人の原形を追求
⑩《真剣勝負》(内田吐夢監督,1971) 宮本武蔵のたたかう姿の中に人間の生の姿を探る時代劇映画

の一生》, 市川崑《野火》など, すぐれた作家と作品が続出した。

1950年代後半から1960年代にかけて, 日本映画は大きな世代交替期を経験した。増村保造・今村昌平(しょうへい)・羽仁(はに)進・大島渚(なぎさ)・吉田喜重・浦山桐郎(きりろう)・篠田正浩(しのだまさひろ)らの新しい映画作家の輩出によって, 日本映画の思想と方法は一気に革新されたのである。特に今村昌平の《にっぽん昆虫記(こんちゅうき)》などによる日本人の原型を探る試み, 羽仁進の《不良少年》などによる記録映画*的な実在感の探求, 大島渚の《愛と希望の街(まち)》などによる強烈な社会批判はめざましいものがある。一方, このころに日本映画界は全体として企業的繁栄の絶頂期にあったが, テレビの普及やその他の娯楽の隆盛に伴って, 以後経営的には急激な下降線をたどり, 映画観客人口の激減や映画館数の減少となって現われた。それに伴って大会社による作品は低俗化の傾向をたどり, 野心的な監督の多くは大手の映画会社を離れて自力で映画製作の努力に向かうこととなった。こうした状況の中から, 既成の映画づくりと映画思想を乗り越える模索が若い映画作家の手によってなされ, 自主製作・自主上映による映画運動が生まれつつあり, 小川紳介(しんすけ)ら新しい作家も生まれつつある。また, 1960年代後半からは, 極端な低コストによるエロチックな劇映画の製作が多く行なわれ, その製作本数は大手の会社の作品総数をこえるに至っている。〔佐藤忠男〕

にほんえいたいぐら 【日本永代蔵】 江戸前期の浮世草子*。井原西鶴*(さいかく)作。6巻6冊, 30の短編を収める。1688年(元禄1)刊。副題に〈大福新長者教〉とある。各編は京都・江戸・大阪の3都を中心とした大商人たちの致富談・失敗談で, 激しい経済競争に生きる人間の姿を浮き彫りにしている。独特の文体と写実主義的態度に特色があり, 西鶴の町人物*を代表する作品。

にほんえんげき 【日本演劇】 わが国に発生しあるいは輸入されて発達した演劇・芸能で, その種類はきわめて多様である。わが国は地理的条件から外来文化の影響を

日本音楽

ここでは，まず江戸時代までの日本音楽を概観し，次にそれに付随する問題として伝承の方法を考え，最後に，もはや日本人の音楽行動に不可欠なものとなった西洋音楽を扱う。

【歴史的な概念】 埴輪(はにわ)の中には，楽器の演奏を写したものがあり，また，《風土記(ふどき)》にはすでに音楽ということばが現われている。また《古事記》や《日本書紀》，あるいは《魏志倭人伝(ぎしわじんでん)》などからも，日本人がすでに音楽活動をしていたことを推定することができる。西洋の場合と異なり，日本では成立時期の早いものが，次の時期のものにとって代わられることがなく，並存してきたため，1,000年以上もまえに成立したものが，現在でも演奏されている。このことは楽譜をもとに復元する手間がいらないことを意味するが，同時にどんなものであれ，現行の演奏が一つの証拠になるために，ある時期にどんな変容を受けていても，発生当時の状態や，のちの各時代の状態などが別個に，そして明確に意識されることを妨げている。

たとえば，宮中で演奏される御神楽(みかぐら)，あるいは宮廷音楽であった雅楽，仏教音楽の声明(しょうみょう)など，古代に生まれたものが現在でも演奏され，それぞれ儀式や祈りの場において不可欠な要因として重要な機能を果たしている。雅楽ですでに篳篥(ひちりき)という旋律楽器を中心にしたヘテロフォニー的な合奏が経験され，規則的な拍によって構成されるリズムが経験された。

声明は声による旋律パターンによる構成法と節回しの微妙さによって，また，この音楽理論によって，以後の声楽を中心にした日本音楽の歴史に強い影響を与えることになる。

声明と深い関係をもって生まれてきたのが琵琶(びわ)の音楽で，その代表が平曲である。ここでも，楽器と声の双方に限られた数の旋律パターンによる構成が認められる。中世のもう一つの重要なジャンルは能である。能では，舞台で演じられるところから，音楽とことばが劇的な構造だけでなく，舞踊や舞台構造に結びつけられる。したがって，音楽的な要素はそれだけまとまった文法をもっているようにみえても，全体における機能によっても規定されている。

江戸時代に文楽(人形浄瑠璃(にんぎょうじょうるり))や歌舞伎(かぶき)と結びついて発展した三味線(しゃみせん)音楽も，独自の音楽的文法をもっているようにみえながら，少し巨視的にながめると，音楽外の要因，たとえば劇や舞踊の初めとか終わりといった構成上の位置，登場人物の種類，そこで表現される心理などにしたがって，使われるパターンとその組み合わせ，あるいは呈示の方法などが規定されている。各種の浄瑠璃や長唄(ながうた)が下座音楽の場合に典型となるように，多かれ少なかれ上のような規定を受けている。しかし，宗教音楽であった尺八音楽や，劇場と関係なしに盲人によって職業的に行なわれていた箏曲(そうきょく)は音楽外的な規定が弱い。しかし，規定の強弱が直ちに音楽的な要素の強さ・弱さに対応するのではないことは重要である。

【伝承と新しいパターン】 しばしば日本音楽ではジャンルごとおよび流派ごとの独立性が強く，相互の関係がないといわれてきた。しかし，その歴史をみるかぎり，音楽の基本構造を前代から受け取ることが多いだけでなく，同じ時代の他のジャンルから特殊なパターンを借用することも多い。たとえば，義太夫節(ぎだゆうぶし)は平曲をはじめとする先行芸能を用いるだけでなく，巡礼歌や木遣(きや)り歌を用いる。同じことは長唄・常磐津節(ときわずぶし)などにもいえる。

また日本音楽では，西洋音楽のようにすべてのジャンルに共通する便利な記譜法を発展させることがなかった。多くはパターンとして認められている旋律型を，それを構成する各音によってではなく，その名称を記すことによって伝えるものである。したがって，そのパターンの正確な演奏法は直接師匠から教えられねばならず，また一方，新しいパターンをつくった場合に楽譜だけで伝えることもできなかった。江戸時代においてさえ，楽譜の出版が箏曲のしろうと弟子(でし)(盲人ではない)のためのものが中心であったことは，楽譜が曲の伝授の際の補助的な手段にすぎなかったことを意味している。

また，楽譜の役割が小さいことは，ジャンルによって微小な音程への好みが決まっていたことにも対応する。西洋の楽譜でもテンポや音量の微妙な変化や平均律からはずれた音程の好みなどはうまく記譜されていないが，日本では大きな音楽語法の革新をしない代わり，こうした細かな特徴が流派やジャンルの形成の要素になっている。世襲的な家元制度は江戸時代以降各流派における音楽伝承を管理する機能を果たしてきたが，豊後節(ぶんごぶし)から生まれた常磐津節から富本節や清元節が次々に独立し，一派をなすこともできたのである。そして，新しい派が古い派と交替するのではなく，新旧両派が並存しうる点が日本音楽の特徴の一つでもあった。

なお，伝統的な日本音楽の教授・学習法は，限られたレパートリーを細部にわたるまで師匠から弟子が習うというものであるため，西洋音楽の場合に比べて，弟子の師匠に対する依存度が強い。また，たいていはひとりの人間が一つのジャンル(または流派)の音楽を習うため，〈日本音楽〉というとらえ方はもちろん，江戸時代の音楽あるいは三味線音楽についても全体的な様式の把握(はあく)ができない。

明治以降，宮城道雄・中尾都山らに代表される新日本音楽の運動が現われて，西洋

受けるのがおそく，7世紀ごろからアジア大陸の音楽・舞踊が伝来した。そのはじめは，中央アジアに起源をもつ伎楽(ぎがく)で，この仮面黙劇を聖徳太子(しょうとくたいし)は仏教政策の一環として保護した。さらに，舞楽と散楽があいついで伝来した。仮面舞踏劇の一種である舞楽は朝鮮(三韓(さんかん))・中国(唐)をはじめ東南アジアや南方の諸国から渡来して宮廷演劇として発達，散楽はのちに猿楽(さるがく)となったが，幻術・奇術・軽業(かるわざ)などを含む大衆的芸能であった。これらの芸能は日本固有の芸能に大きな影響を及ぼし，神楽(かぐら)や東遊(あずまあそび)・倭舞(やまとまい)などの郷土芸能を定着させた。9世紀ごろになると舞楽はしだいに日本的なものになり，わが国の芸術家の作品も創作され，宮廷や大社寺には現在までその伝統が保たれている。一方猿楽はその多くが民間芸能として発達したが，12世紀ごろからその音楽舞踊的要素が独立して能となり，その劇的要素が狂言となったらしい。寺院の芸能として発達した延年や農耕儀礼田楽なども猿楽能・狂言の成立に影響した。近世になると散楽の一つであった人形つかいが，戦国末期に輸入された三味線(しゃみせん)と結合し，やはり戦国期に発生した浄瑠璃(じょうるり)とも結びついて，人形つかい・太夫(たゆう)・三味線弾(ひ)きの三者が一体となる人形浄瑠璃劇が発生し，江戸中期には近松門左衛門(もんざえもん)や竹本義太夫が出てその黄金時代を迎えている。一方，民俗芸能の念仏踊(ねんぶつおどり)に源をもち能・狂言の影響を大きく受けて生成した歌舞伎は17世紀末に第1次の完成をみ，次いで人形浄瑠璃を取り込んだ18世紀後半に第2の完成期を迎え，19世紀にはいって爛熟(らんじゅく)の極に達した。明治以降は西欧文化の波に洗われて表面的な歌舞伎改良は企てられたものの，根本的な変革には至らなかった。他方明治中期になると，自由民権思想の鼓吹を目的として新派劇が発生，さらにヨーロッパ自然主義文学などが輸入されると，ヨーロッパの近代劇運動の影響のもとに新劇が生まれ，既成演劇に対抗して新劇運動が展開された。これは明治維新後も演劇界の主流であった歌舞伎を否定する立場から起こったものであるが，戦争の影響などのため伸び悩んだ。第2次世界大戦後は歌舞伎・新劇

音楽の影響によりながらも，音楽語法の革新が試みられた。第2次世界大戦後は，モデルを西洋古典音楽に求めるのでなく，国際的な現代音楽に触発されたり，日本伝統音楽に固有なものを強調することによって現代邦楽とよばれるジャンルが生まれている。前者は諸井(もろい)誠*・武満徹*・広瀬量平らに代表され，後者は中能島欣一*(なかのしまきんいち)・杵屋(きねや)正邦らに代表される。また，こうした新作のために，演奏家が元来の所属ジャンルをこえて集まった〈日本音楽集団〉のようなグループ，箏曲と尺八による〈邦楽四人の会〉なども活動を行なっている。

【日本における西洋音楽】明治時代に西洋音楽が日本に伝えられ，公的な教育でも専門教育でも，政府は西洋音楽の消化に積極的に協力したため，約1世紀の間に，音楽といえば，まず西洋音楽を示すような状況が生まれた。正規の大学で教える音楽は，東京芸術大学邦楽科を除けばすべてが西洋音楽であり，NHKと民間放送を問わず，ラジオでもテレビでも，西洋音楽の放送時間のほうが邦楽のそれに比べて圧倒的に多い。また，西洋音楽の影響は大衆音楽の領域にも現われて，西洋音楽の影響なしには成立しえなかった歌謡曲*という新しいジャンルを生んだほか，比較的若い世代の間にロックやジャズに対する強い好みと，それに対する演奏力をも与えることになった。



江戸時代には多くの曲種が家元制度の確立とあいまって発展し，町民の間では三味線音楽などが盛んに行なわれた　喜多川歌麿《常磐津の稽古》　東京国立博物館蔵

西洋音楽の演奏に関しては，すでに大きな管弦楽団が東京に六つ，大阪に一つ，京都に一つあり，定期的な活動を行ない，中にはアジアやヨーロッパ，アメリカに演奏旅行を行なっているものもある。演奏家では，指揮・ピアノ・バイオリン・チェロ・声楽などの領域で，国際コンクールに入賞する者が多くなり，外国の歌劇場や管弦楽団などにはいるほか，独奏者として広く活躍している者も多い。

西洋音楽の様式を中心にした作曲は国際的な水準に達しているが，国際的に高く評価されるまでには，演奏の場合よりも時間を要している。その歴史は19世紀後半に始まり，この時期の代表者は滝廉太郎*である。それ以後，大正の終わりまでを次の時期とすれば，この時期は山田耕筰*(こうさく)によって代表されよう。昭和の初めから第2次世界大戦敗戦までの時期では，印象主義音楽とそれに続く新古典主義の作風が紹介されて，そのころいくつかの音楽学校で開かれた作曲科の制度とあいまって，日本における西洋音楽理論と体系的な作曲教育の普及を可能にした。この時期では，清瀬保二(やすじ)・諸井三郎・橋本国彦(くにひこ)・池内友次郎の活動が重要である。

第2次世界大戦後は，入野義郎*・柴田南雄(しばたみなお)らが12音技法ですぐれた作品を書き，また，黛敏郎*(まゆずみとしろう)がミュージック-コンクレート・電子音楽・偶然性の音楽などの領域で日本における先駆者として活動し続けた。また松平頼則*・諸井誠も早くから新しい様式を消化し，国際的に高い評価を得た。清水脩(おさむ)・間宮芳生*(みちお)・林光らは，日本語の処理の巧みさも含めて，民族的な色彩をもつすぐれた作品を書き，一方，別宮(べっく)貞雄・矢代(やしろ)秋雄・三善晃*(みよしあきら)らは西洋音楽の伝統につながる響きによって高く評価されている。さらに松下真一・武満徹・湯浅譲二・一柳慧(とし)・高橋悠治(ゆうじ)らは，その作曲法によって，またその作曲態度によって，最も前衛的なグループに属するといえよう。最近では，これらの作曲家の作品は，国の内外で出版され，レコードも数多く発表されている。〔徳丸吉彦〕

ともに活況を呈し，その他新国劇*・軽演劇*・ミュージカル*なども盛んに上演されている。〔前田慎一〕

にほんオリンピックいいんかい　【日本オリンピック委員会】略称JOC。オリンピック憲章*に基づいて構成された日本の国内オリンピック委員会*(NOC)で，日本体育協会*内の一機構。事業には，①国際オリンピック委員会*(IOC)の事業に，日本を代表して参加する。②国内のオリンピック運動を推進し，オリンピック-マークなどを管理する。③夏季・冬季のオリンピック競技大会に，日本を代表する選手・役員を選定して選手団を編成し，参加させる。④アジア競技大会*の事業に日本を代表し，選手団を参加させる。⑤ユニバーシアード*の日本における事業を統轄する。⑥以上の各競技大会に派遣すべき選手の強化を図るなどがある。

にほんかい　【日本海】日本列島・朝鮮半島・シベリア沿海州に囲まれたアジア大陸東縁の沿海。面積100万km²。平均水深1,350 m，水温0.9℃，塩分34.1‰。間宮海峡・宗谷(そうや)海峡でオホーツク海へ，津軽海峡・関門海峡で太平洋へ，朝鮮海峡と対馬(つしま)海峡で東シナ海へそれぞれ通じている。大陸棚(たいりくだな)は，間宮海峡・朝鮮海峡その他わずかの部分を除いてきわめて狭い。海底は北部は単純だが，南部はやや複雑で，バンク(浅堆)・海底谷・島などがある。バンクのうち大和堆(やまとたい)(水深430 m)は日本海の中央にあり，隠岐(おき)諸島からここまで約400kmにわたって浅い海が延びているので，大陸棚の先端とも考えられる。海底谷はサハリン(樺太(からふと))と北海道西岸，富山湾に発達し，中でも近年発見された富山湾の海底谷は現在世界で最も長い海底谷とされ，日本海中央付近まで約700 kmにわたって延びている。

海流については，未知の部分が多いが，日本列島に沿って北上する黒潮の分流である対馬海流と，間宮海峡から沿海州・北朝鮮に沿って南下するリマン海流があり，対馬海流は，日本の日本海沿岸地方の全域にわたって気候に大きな影響を及ぼしている。対馬海流が暖流であるため日本海沿岸地方の冬の気温は比較的高く，そこに吹きつける寒冷な北西季節風は，この地方を世界的な多雪地帯にしている。潮の干満差は小さ

く，20cm前後で，沿海州沿岸では冬季に海面が凍結する。漁業は盛んで，タイ・ブリ・タラ・ニシンなど寒暖両流の魚が多量に漁獲され種類も豊富である。特に朝鮮半島南部から日本列島沿いには好漁場が多い。日本海固有の生物として，ツルアラメ・ホタルイカがあげられる。〔長津一郎〕

にほんかいかいせん【日本海海戦】1905年(明治38)5月27日から翌日にかけて行なわれた日露戦争*中最大の海戦。ロシアは旅順港を封鎖されて太平洋艦隊の戦力を喪失したため，バルチック艦隊をヨーロッパからウラジオストックに回航させたが，日本海軍は，連合艦隊司令長官東郷平八郎*の指揮のもと，旗艦三笠(みかさ)以下108隻をもってこれを対馬(つしま)沖の日本海で捕え，壊滅的打撃を与えて制海権を得た。この海戦の結果は，のちの日本海軍の大艦巨砲主義に拍車をかけることとなった。〔応和邦昭〕

にほんかいかしょうし【日本開化小史】古代から江戸末期に至る日本文明史の概説書。田口卯吉(うきち)の著。1877年(明治10)から1882年にかけて全6巻が出版された。日本史学における最初の体系的書物と評価され，史的方法論に一大革新をもたらした。

にほんかいこう【日本海溝】日本列島の東側を南北に走る海溝。北は，北海道の襟裳岬(えりもみさき)南東方から南は千葉県犬吠埼(いぬぼうざき)の東方に至る。延長約600km。最深点は犬吠埼東方の8,539m。

にほんがいし【日本外史】漢文体の歴史書。22巻。頼山陽著。山陽が脱藩の罪で閉居中に執筆し数度にわたる修正を加えて1827年(文政10)刊行した。源平2氏から徳川氏に至る武家13氏の興亡盛衰を各家別に述べ，尊王賤覇(せんぱ)の思想に基づいて諸氏の名分を明らかにしたもの。体裁は《史記》にならっている。必ずしも史実に忠実ではないが，一貫して王政復古の大義を強調する態度，熱気をおびた論述，文章の流麗さなどにより，幕末以後広く愛読された。

にほんかいはつぎんこう【日本開発銀行】日本経済の再建と産業の開発のために，長期資金を供給することを目的として設立された政府金融機関。第2次世界大戦後の経済復興に必要な資金を供給していた復興金融金庫*が1949年(昭和24)にドッジ-ラインのインフレーション終息政策のために廃止され，その代わりとして1951年設立された。資金は政府からの出資金と借入金が主であり，融資先は市中銀行ベースにのらないが重要産業である電力・石炭・海運などが主であった。最近では国際競争力強化・地域開発・都市再開発のための融資が重点的に行なわれている。〔速水　保〕

にほんかいようしょうねんだん【日本海洋少年団】11～18歳までの少年少女を対象に，海洋訓練を施し，海に親しみ，鍛えることを目的とする団体。1924年(大正13)東京海洋少年団に始まり，大日本海洋少年団(1945年解散)を経て，1952年(昭和27)日本海洋少年団となった。団員数約30,000。

にほんかいりゅう【日本海流】⇨黒潮

にほんがくしいん【日本学士院】学術上の功績が顕著な科学者を優遇し，学術の発達に寄与するために必要な事業を行なうことを目的としている機関。会員の定数は150名(人文科学70，自然科学80)で，終身制をとり，一定の年金を支給される。会員の選定は日本学士院が行なう。事業の一つとして，特にすぐれた論文・著書その他の研究業績に対して授賞(学士院賞・恩賜賞)を行なっている。起源は1879年(明治12)文部大臣の管理下に東京学士会院を設けたことにある。1906年帝国学士院，第2次世界大戦後，日本学士院と改称し，日本学術会議に付置されたが，1955年(昭和30)第20回総会で分離独立を決めた。〔赤司政雄〕

にほんがくじゅつかいぎ【日本学術会議】日本学術会議法により設置された日本の科学者の内外に対する代表機関。学術の発達を図り，科学を行政・産業および国民生活一般へ反映させることを目的としている。そのため，政府の諮問に応ずるとともに，独自に政府へ勧告することができる。規定による有資格者の専門別の選挙で7部各30名を選び，会議を構成する。

にほんがっきせいぞう【日本楽器製造(株)】世界最大の楽器メーカー。1897年(明治30)設立。商標の〈ヤマハ〉は国産第1号のオルガンを生み出した山葉寅楠(とらくす)の名にちなんだもの。設立以来技術開発に努め，ピアノの生産は年間14万台に達し世界第1位，国内市場の67%，輸出の70%を占めている。また，オルガン・エレクトーン(電子オルガン)ともに世界一の生産を誇る。輸出に特に力を入れ，〈ヤマハ音楽教室〉は国内だけでなく海外にも進出し，全米に1,000の音楽教室が設けられているのをはじめ，タイ・シンガポールなど東南アジアにも普及している。最近ではエレクトーンの伸びが著しく，また，楽器以外にスポーツ用品(スキー・モーターボート・オートバイなど)の部門に進出するなど，経営の多角化に努めている。本社静岡県浜松，工場は浜松・天龍(てんりゅう)・西山・掛川など。資本金65億6,400万円，年間売上高3,038億2,300万円，従業員数15,592(1980年4月)。

にほんがっこうあんぜんかい【日本学校安全会】学校安全の普及・充実と，児童・生徒の傷病などの際の医療費・見舞い金の支給を事業目的としている法人。

にほんかんこうちょうろうどうくみあいきょうぎかい【日本官公庁労働組合協議会】略称は官公労。1949年(昭和24)12月結成。地域人民闘争か国会闘争かをめぐって対立していた全官公庁労働組合協議会(全官公)内で，刷新同志会系(民同派)の日本教職員組合(日教組*)・全逓信従業員組合*(全逓従)などが，全官公を脱退して結成した国家公務員・地方公務員・公共企業体職員の労働組合連合体。第2次世界大戦後，1946年官公庁労働者は全官公を組織し，二・一スト*に至る労働運動の中核的役割を果たしたが，日本共産党指導部に反対する民同派が勢力を拡大して官公労が結成されるに及び，1950年解体した。官公労は日本労働組合総評会議*(総評)に加盟，のち民間労組との共闘などの方針を打ち出したが，1958年解散して傘下(さんか)組合(240万)は総評へ加盟した。〔河合研一〕

にほんきいん【日本棋院】囲碁棋士の団体。1924年(大正13)，棋界の大同団結を呼びかけた大倉喜七郎の尽力によって発足。途中，棋正社を結成した雁金(かりがね)準一や関西棋院*によった橋本宇太郎らの脱退はあったが，現在に至っている。国内・国外への囲碁の普及を図るほか，段位の認定，棋士の養成，大手合(おおてあい)(公式戦)・各種棋戦の運営などを行ない，機関誌を発行している。所属する棋士は坂田栄男・高川格・石田秀芳・林海峰，木谷一門をはじめ総数約300名。本院東京市ケ谷。〔影山利郎〕

にほんきばち【日本樹蜂】こん虫類・膜翅(まくし)目・キバチ科。体長28～38mm。雌は黒かっ色の地に黄かっ色の斑紋(はんもん)があり，産卵鞘(さんらんしょう)は赤かっ色ないし黒かっ色，翅(はね)は透明で濃黄色をおび，外縁は細く暗色を呈し，翅脈と縁紋は黄かっ色，脚は大部分黄かっ色で基節のみ黒かっ色。雄は小形で，全体ほとんど黄かっ色，腹部末端と後脚の脛節(けいせつ)は黒かっ色。日本全土に分布し，成虫は8月ごろ出現する。幼虫はマツ・スギ・モミなどの材部に穿孔(せんこう)して食害する。

にほんきょうさんとう【日本共産党】1922年(大正11)7月，コミンテルン(→インターナショナル)の指導と援助により，堺利彦*(さかいとしひこ)・山川均*(ひとし)・荒畑寒村*・徳田球一*らを中心に結成した共産主義*政党。同年11月のコミンテルン第4回大会で日本支部として承認された。第2次世界大戦前は，時期によって異なるが，天皇制*廃止・ブルジョア民主主義革命の遂行，侵略戦争反対などの方針に基づいて非合法活動を行なったが，1923年6月党員に対する一斉(いっせい)検挙(第1次共産党事件)により，翌年3月山川均らは共産主義組織を時期尚早(しょうそう)として解党を決議した。しかし，コミンテルンはこれを承認せず，1926年12月徳田球一・荒畑寒村らは再建大会を開き，1927年(昭和2)新たに〈日本に関するテーゼ〉(27年テーゼ)を採択し，以後工場労働者を基礎とする組織拡大を行なった。1928年の第1回普通総選挙で，機関紙《赤旗*》を発行して大衆活動を展開したが，同年および翌年にかけて大弾圧を受けた(→三・一五事件→四・一六事件)。1932年には〈日本の情勢と日本共産党の任務に関するテーゼ〉(32年テーゼ)を採択したが，国家権力によるたび

重なる弾圧や党内の分派闘争，さらに1933年6月獄中から佐野学・鍋山貞親(なべやまさだちか)らが転向声明を出すに及んで，以後，第2次世界大戦が終わるまで組織的活動はほとんど不可能となった。1945年10月釈放された徳田球一・志賀義雄(よしお)らを中心に合法政党として再建し，翌年には中国で日本人民解放連盟を指導して日本軍隊に対する反戦活動を行なっていた野坂参三(さんぞう)が帰国し，以後党内で大きな役割を果たした。1950年にはコミンフォルムから占領下の平和革命方針を批判されて党内分裂が起こり，さらにレッド-パージで労働運動の主導権を失い，1955年の第6回全国協議会(六全協)でそれまでの戦略・戦術を極左冒険主義として自己批判し，以後反帝・反独占の人民民主主義革命をめざし，1960年の安保闘争以後，党勢を拡大してきた。〔原田政洸〕

にほんきょうどうしょうけん【日本共同証券】 株式の需給調整，資本市場の安定と育成を目的として設立された株式買い上げ機関。1964年(昭和39)1月に都市銀行・日本興業銀行・日本長期信用銀行・四大証券などの共同出資によって設立された。高度経済成長の反動としての国際収支の悪化とそれに伴う金融引き締めを背景として，1964～1965年の証券不況期に市場に投げ出された株式約1,900億円を買い入れ，値下がりによる株式市場の混乱を防いだ。その後市場の立ち直りとともに1965年12月から手持ち株式の放出を始め，1969年中ごろには保有株は約500億円に減少した。一方，値上がり差による利益は150億円にのぼり，1971年2月日本共同証券財団として再出発した。

にほんきりゃく【日本紀略】〈日本紀類〉〈編年紀略〉ともいう。神代から後一条天皇までを記した漢文編年体の歴史書。34巻，著者・成立年代ともに未詳。神代の部分は《日本書紀》の転載。神武天皇から光孝天皇までは《六国史(りっこくし)》の抄略。宇多天皇以後は各種公私の記録を編集したもので，前半は《六国史》の欠を補うもの，後半も当時に関する貴重な史料である。

にほんぎんこう【日本銀行】 1882年(明治15)日本銀行条例により創設されたわが国唯一の中央銀行。1884年に兌換(だかん)銀行条令が発布され，1885年にわが国最初の兌換銀行券が発行された。発券制度として保証準備屈伸制限法を採用，1897年に金本位制度を採用したが，昭和年代にはいると管理通貨制度に移行し，これに伴い兌換制度は廃された。1942年(昭和17)には最高発行額屈伸制限法が採用され今日に至っている。《組織》 特殊法人であるがその内容は半官半民的なもので，資本金1億円のうち5,500万円は政府出資である。また，出資者に対する配当は年5分以内に制限されている。《業務》 ①発券銀行としての役割：日本銀行券を発行し，事実上わが国の発券業務を独占している。②銀行の銀行としての役割：日本銀行に預けられた市中金融機関の預金は，これらの機関の手形交換じりの決済に用いられ，また準備預金制度における預金準備としての意味をもっている。また貸し出し面では，手形の再割引と手形・国債・債券を担保とする貸し付けを行ない，さらにこれらの貸し付け利率を変化させて通貨価値の安定を図る公定歩合政策を実施する。しかし現在では，市中金融機関からの債券の買い入れ(公開市場操作の一種)によって現金通貨を供給する場合が多い。③政府の銀行：政府の国庫金の出納事務や国債に関する事務を通して，政府の財政支出と密接な関係をもっている(政府預金は日本銀行に集中されている)。➔中央銀行 〔速水　保〕



日本銀行 本店(東京都中央区日本橋)は明治期の代表的建築物(1890年着工，1896年完工)。設計監督は辰野金吾

にほんぎんこうけん【日本銀行券】 日本銀行が発行するわが国における唯一の銀行券。現在では政府紙幣は発行されていないので，唯一の紙幣でもある。1884年(明治17)の兌換(だかん)条令によって翌年から発行された兌換銀行券が最初であるが，当時は銀本位制であったため日本銀行兌換銀券と称した。1897年金本位制の採用に伴って日本銀行兌換券と称したが，1942年(昭和17)の日本銀行法により金本位制度は廃止されたので，以後は単に日本銀行券と称するようになった。したがって現在は不換銀行券であり，発券制度は最高発行額制限法の適用を受けている。〔速水　保〕

にほんぎんこうせいさくいいんかい【日本銀行政策委員会】 1949年(昭和24)に設けられた日本銀行の最高意思決定機関。日本銀行の主要な金融政策はすべてこの委員会の決定に従って行なわれる。委員は日本銀行総裁のほか，大蔵省・経済企画庁・都市銀行・地方銀行・商工業・農林業の代表各1名の計7名である。

にほんきんだいぶんがくかん【日本近代文学館】 明治以降の日本近代文学関係資料を収集・保存し，一般の利用に供することを目的に設立された文学専門図書館。高見順・伊藤(いとう)整・稲垣(いながき)達郎・小田切進らは日本の近代文学資料の散逸を防ぎ，かつこれを保存し活用するために，1963年(昭和38)財団法人日本近代文学館を創設した。当時は国立国会図書館支部の上野図書館内に〈文庫〉を開設し，1966年には東京都目黒区駒場(こまば)公園内に地上3階，地下2階，計約1km²の新館が完成した。現在図書90,000冊(上野図書館内にある児童文学文庫2,000冊を含む)，雑誌3,500点11万冊のほか，作家の遺稿など特殊資料15,000点を所蔵している。同館は満18歳以上の人々を対象に有料で閲覧，調査相談，研究室利用，資料の複写などの便宜を図っている。そのほか，講演会・文学講座・展覧会・出版活動などにも利用されている。なお1968年同じ敷地内に東京都近代文学博物館が開設され，展覧会その他の活動を行なっている。

にほんけいえいしゃだんたいれんめい【日本経営者団体連盟】 略称日経連。地域別・業種別に結集した経営者団体の全国的組織である。1947年(昭和22)，関東経営者協会を中核に経営者団体連合会が結成され，これがのちの日経連の母体となった。この連合会はその後，地域別および業種別に各団体の整備を進め，さらに組織の強化をねらって，1948年4月，日本経営者団体連盟と改称，現在に至っている。最近では，地方8ブロックのほかに，各府県別の団体も組織されている。おもな活動は，労働運動に対する資本家側の対策の指導で，発足以来，この問題に重点を置いて活動してきた。また，政府・国会に対し，労働政策・賃金政策に関する建言を行なうなど政治的にも強い影響力を有している。〔原　豊〕

にほんけいきんぞく【日本軽金属(株)】 アルミ地金生産量で業界首位を占める会社。1939年(昭和14)3月資本金1億円で設立，1952年にカナダのアルキャン-アルミニウムと資本提携(50%)している。工場は清水(しみず)・蒲原(かんばら)(静岡県)のほか，新潟・苫小牧(とまこまい)などにある。関係会社には日軽アルミのほか清水共同発電などおもなものは5社ある。資本金183億2,100万円，年間売上高2,652億8,500万円，従業員数6,643(1980年10月)。

にほんけいざいしんぶん【日本経済新聞】 経済記事主力の日刊紙。1876年(明治9)三井物産社長益田孝(ますだたかし)が《中外物価新報》として創刊。のち《中外商業新報》と改称し，第2次世界大戦中の新聞統合により，1942年(昭和17)11月1日《日刊工業新聞》《経済時事新報》を吸収合併して発足した《日本産業経済》を経て，1946年3月現在名に改題した。1972年現在，資本金8億，東京・大阪に本社，福岡に西部支社，札幌(さっぽろ)に札幌支社があり，同一題号のもとに印刷・発行されている。発行部数朝刊約181万，夕刊約116万(1980)。〔須藤泰秀〕

にほんげいじゅついん【日本芸術院】 通称は芸術院。功績著しい芸術家を優遇するための栄誉機関。1907年(明治40)の文部省美術展審査委員会が母体で，帝国美術院・帝国芸術院を経て，1947年(昭和22)現在名となった。文部省に付置され，第一部(美

➔359ページ

日本語

日本国の国語で，日本民族が昔から使ってきた言語。現在，日本国内に住む1億の日本人が使っている。科学理論や哲学思想の記述にも耐えうる文化的な言語で，ますます発展途上にある健康な言語である。第2次世界大戦前には台湾・朝鮮その他の海外にも普及し，現在でも移民の多かったハワイ・アメリカ・ブラジルなどでは第二の言語として多少行なわれている。

【他国語との関係】日本語は他に同系語をもたない孤立語*として扱われる。沖縄諸島・奄美(あまみ)諸島の言語である琉球(りゅうきゅう)語は，以前は日本語の姉妹語として扱われていたが，今日では日本語の一方言とみるほうが適当とされている。古代の高句麗(こうくり)の言語は，数詞などに日本語に非常に近いものがあるようで，日本語の同系語とみられるが，詳細は不明である。

現在国外の言語で最も似ているものは朝鮮語*で，次はアルタイ語族である。これらとは文法体系がそっくりで，かつ母音調和*の現象がみられることが注目されるが，基本語に類似のものがほとんどなく，音韻体系も大きくちがうので同系という証明はできていない。ハンガリー語・フィンランド語などを含むウラル語族とは文法においてもさらにちがう。ビルマ・チベットなどの諸言語はそれに次いで近い点があるが，これは文法体系にさらに相違点があり，ますます同系とはいいがたい。ポリネシア語派とは音韻体系が似ているが，文法体系があまりにもちがいすぎる。アイヌ語*とは，文法のちがいが顕著で，さらに音韻もちがう。

日本語と東南アジアの諸言語は同系語とはみなされないが，類似の点もいろいろある。複雑な尊敬表現をもつこと，数えられるものによって数詞をちがえること，開音節組織で高低アクセントをもつことなどがそれであり，人称の区別のないことなどもそれに準ずる。これは，同系語でこそないが，その影響を受けたことを示すものであろう。

しかし，日本語への影響という点では，上代の中国語*が最も大きく，漢字*という文字の輸入により言語生活に大きな革命をきたし，それからかたかな・ひらがなも生まれた。語彙(ごい)も漢語から学び，〈忠義〉〈信義〉のような概念をはじめ，〈胃〉〈腸〉のような生理学用語，〈金〉〈銀〉などの金属の名称，〈律令(りつりょう)〉〈憲法〉のような社会生活に関する用語などを取り入れた。明治期に，欧米文化を輸入した際にも，これらをもとにして新語をつくりえたことは，結果として欧米語の侵入を食い止めた。もと〈トオアマリヒトツ〉といった冗長なよび方を，中国語の〈十一〉のような数詞によって，簡潔なよび方に変えた。また音韻組織も多少変わり，文法的な言い表わしにも新しい言い方が混じった。なお，明治以降おもに輸入された英語*その他の欧米語は，日本語にとって中国語に比べると比較にならぬほど力が弱いが，国際交流がますます盛んになる今後は，さらに多量にはいってくるであろう。

一方，日本語が他国語に与えた影響は非常に少なく，アイヌ語を滅亡させかけている例のほかには，朝鮮語・中国語に漢字を媒介とした和製漢語の例があるにすぎない。

【日本語の特色】日本語を音韻の面からながめると，まず一つ一つの音節が1子音＋1母音という単純な構成を原則としていることが注目される。この点，最も似た言語はポリネシア語派で，代表的開音節語の一つである。ただし，中国語の間接的な影響からはねる音・つめる音・引く音という世界にまれにみる音節を生じた。音素*の種類，音節の構成が少ないところから，世界の言語の中でも著しく音節の種類が少ないものになっている。このために，これほど文字に書きやすい言語も少ないが，そのかわり同音語*が多い。アクセント*は高低により，その高低の変化は主として音節と音節間で行なわれる。

日本語の語彙は，固有のもののほかに多くの漢語・洋語をもち，外来語の多い言語の一つである。漢語は，新語をつくる力が強いが，同音語が多いので聞いてわかりにくいという問題を含む。形からいうと，一つの意味単位は2音節を基準とするので，一語は多音節で，ことに漢語において4音節の単語が多い。

固有の日本語では，〈しぐれ〉〈さみだれ〉〈おぼろ〉〈かすみ〉，〈咲く〉〈散る〉〈春めく〉，〈かつお〉〈まぐろ〉のような天候・植物・魚などに関係した語が多い。なお，季節感と結びついた語は詩的な連想を伴い，俳句という世界最小の詩形式を生む要因となっている。肉体方面の語彙の発達は遅れ，現在でも〈足〉は〈foot〉と〈leg〉の両方を表わし，胃から出るものも肺から出るものも同じ〈吐く〉という動詞で表わすようにその傾向が続いている。心理方面は細かく分化した語彙を有し，〈気がね〉〈気おくれ〉〈気づまり〉など他の言語に訳しにくい微妙な意味をもつ語が多い。擬声語*は多くの言語にあるが，日本語には〈きらきら〉〈ざらざら〉のような擬態語*が多く，さらに〈いらいら〉〈くたくた〉のような擬情語に及ぶ。また擬声語・擬態語ともに豊かな語形変化をする。〈ころっ〉〈ころり〉〈ころころ〉〈ころん〉〈ころりころり〉などがその例である。

日本語を文法の面からみると，まず名詞は，ヨーロッパ語におけるような性の区別をもたず，格の変化は助詞*とよばれる後置詞のちがいによって明確に表わす。数の変化，人称によるものもない。一方，有情物と非情物のちがいは重要で，動詞〈ある〉と〈いる〉の区別はこれに対応し，また非情物を主語にするときは受動態や使役態を用いず，古くは他動詞を用いることもなかった。そのちがいは数詞に明瞭(めいりょう)に現われ，〈一つ〉〈二つ〉は非情物にのみ用いられる。有情物をさらに人間(ひとり・ふたり)とそれ以外の動物(1匹・2匹)とに区別し，非情物は形によって平たいもの(1枚・2枚)，細く長いもの(1本・2本)などと使い分ける。

欧米語の代名詞*にあたる語彙は，普通の名詞と文法的なちがいはなく，一人称・二人称の代名詞は数が多く，三人称代名詞は発達しなかった。指示代名詞は〈これ〉〈それ〉〈あれ〉の三元で，不定代名詞〈だれ〉〈どれ〉の類は，疑問・不定のほかに〈だれも〉〈どれらも〉のような総括的用法がある。

動詞は，活用とよばれる語尾の変化によって種々の意味のちがいを表わす。変化は画一ではないが，ヨーロッパ語などに比べればはるかに規則的である。そのちがいは，古い時代にはテンスやムードのようなものを表わしたが，現代では中止法や連体法などの機能のちがいを表わす。連体法は終止法と同じ形で，ときに文脈が不明になる恨みがある。中止法の存在は，他のアルタイ語族に似る。多くの言語にあるような人称による変化はなく，そのかわりに敬譲による変化があり，ときには〈行く〉〈いらっしゃい〉〈まいる〉のような別の語彙によって表わされることもある。アスペクトやボイスなどのちがいは，古くは他の語をつけて表わしたが，現代語では動詞に融合してしまった。これらは相互に重なって，それを組み合わすことによって，〈いかせられなかった〉のような使役態・受動態・否定態・以前過去態というような複雑な意味を表わすこともある。テンスの変化は，現代語ではヨーロッパ語に比べると簡単で，以前と非以前の二つしかない。語尾で表わしきれない部分は〈書いている〉〈書いてしまう〉のような補助動詞を添えて表わす。〈一てくれる〉〈一てやる〉〈一てもらう〉の類は，他の言語にあまりみない複雑な受給関係のちがいを表わす。自動詞と他動詞は，〈見る～見える〉〈並ぶ～並べる〉のような変化形式のちがいによって表わされ，差異は明確である。ただし，他動詞といっても必ずしも目的語をとって表現されなくてもいい。

形容詞には〈一い〉〈一な〉の2種類あり，〈一い〉の形のものが本来のものであるが，これはコプラを使わず非分析的なために発達が止まっており，現在伸びつつあるのは〈一な〉の形のものである。ヨーロッパ語に

おけるような比較級の変化はない。
副詞的な語では，連体的なものと連用的なものとの差異が形に明確に現われる。助詞は名詞のあとのほか，動詞や形容詞のあとにつけて用いられ，これらのあるものは，副詞・接続詞の役を兼ねる。助詞のうち，単純な主格を表わす〈が〉，題目を表わす〈は〉の存在は，きわめて個性的で外国人にとって学びにくい。コプラには語形変化をする〈だ〉という専門の語があり，これはしばしば，〈雨だ(＝雨が降る)〉〈ぼくはウナギだ(＝ぼくはウナギを食う)〉のように動詞の部分に代用される。〈だ〉の一種に〈のだ〉という形があるが，これはそうなる事情を表わす語で，日常の会話にはきわめて多く用いられる。〈か〉〈よ〉〈ね〉などの助詞は，話し手の種々の主観を表わすのに文末に多く用いられ，文に色彩を添える。
語句を並べる順序には，まず，名詞や動詞のような自立する語は前に，助詞の類はあとにという大鉄則がある。これは絶対に逆にはならない。次に，名詞や動詞，あるいはそれに助詞のついた形相互の間では，修飾する語，補足する語は，修飾される語，補足される語の前に立つ。このように，一つの文の中心動詞句は文の最後に立ち，多くの補足語・修飾語がその前に立つという構成となり，この点，朝鮮・アルタイ語族，およびヒンディー語などとまったく同じである。
動詞句が最後に来るため，しばしば一つのセンテンスがなにを言いだすか終わりまで来ないと判断がつかないことがあり，能率を妨げる。ただし，〈東京都千代田区丸ノ内〉のようなあて名や，〈昭和47年4月30日〉のような日付の場合は，広いほうから狭いほうに進むので，きわめて合理的である。
〔種類〕外国人の批評によれば，日本語は多言語の集合のようなものだという。たしかに文体に〈である体〉と〈です・ます体〉の区別があり，男女のことばははっきりちがい，身分・職業によってもかなりの変化があり，さらに方言のちがいが激しい。口語と文語の対立もあるが，文語は第2次世界大戦後大いに影を薄くした。文語はだいたい平安時代の口語であるが，文語にも修文法という〈です・ます体〉にあたる文体がある。候文体(そうろうぶんたい)がこれで，鎌倉時代の日本語を手本としたものである。
日本語の方言では，東日本方言と西日本方言の対立が著名である。〈いる↔おる〉〈しない↔せん〉〈買った↔買(こ)うた〉〈白くなる↔白うなる〉などのような文法的な相違がその例であるが，それに対する全国共通語というものがあって，その普及は著しく，全国どこの人でも共通語*は理解でき，また共通語に近いことばを使うことができる。この共通語は東京方言に近い。➔方言
〔金田一春彦〕

術・工芸・建築)・第二部(文芸・評論)・第三部(音楽・演劇・舞踊)に分かれる。芸術に関する重要事項について文部大臣に建議するほか，恩賜賞*・日本芸術院賞(1924年創設)の授賞を行なう。会員はそれぞれの部会の推薦により文部大臣が任命し，終身制で年金が支給される。

にほんけん 【日本犬】 古来から日本に土着しているイヌ。祖先はもともとこの島国に存在したものか，大陸や他の島から移住民とともに渡来したものか，不明である。
現存の日本犬は大形(秋田犬)・中形(北海道犬・甲斐(かい)犬・紀州犬・四国犬など)・小形(柴犬)の3タイプがあるが，大きさを除けばいずれも立ち耳・巻き尾で中ぐらいの長さの被毛を備えている。新石器時代の縄紋式(じょうもんしき)文化のころの遺跡から，中形と小形の遺骨がたくさん発見されており，中には埋葬したと思われるものもあるので，このころから人間に飼われていたと思われる。また，この時代につくられた土偶によって，立ち耳・巻き尾であったことがわかる。形態学的に，小形日本犬はフィリピン・タイ・スマトラなどに分布している南方系のパリアイヌに類似し，中形日本犬は朝鮮半島のイヌに近い。また北海道のアイヌ犬は本州の中形日本犬と同一で変わらない。大形犬がつくられたのは近世からであるが，秋田犬には北方犬のおもかげが認められる。日本犬の特性は，獣猟犬として非常に勇猛で，また未知の人に慣れ親しまないので有能な番犬となり，姿態は素朴(そぼく)である。〔大野淳一〕

にほんこうかん 【日本鋼管(株)】 大手鉄鋼メーカー。1912年(明治45)民間の製鉄会社の先駆として創立。1940年(昭和15)には鶴見(つるみ)製鉄造船を合併。鋼板・鋼管・鋼材などの鉄鋼部門と同時に，橋梁(きょうりょう)・鉄骨などの重工部門，大形タンカー建造を主とする造船部門を兼営し，事業規模を拡大している。1971年4月に広島県福山市に世界最初の年産1,200万tの第4高炉を完成，船舶部門でも三重県津市に15万重量トン以上の超大形船建造の造船所を完成した。本社東京，工場はほかに鉄鋼部門として京浜(神奈川県川崎市)・富山(富山県新湊(しんみなと)市)・新潟，重工・船舶部門として鶴見(神奈川県横浜市)・清水(しみず)(静岡県清水市)がある。資本金1,478億8,400万円，年間売上高1兆3,114億4,700万円，従業員数33,832(1980年9月)。

にほんこうき 【日本後紀】 《六国史*(りっこくし)》の一。《続日本紀*(しょくにほんぎ)》のあとをうけて，792年(延暦11)から833年(天長10)までをしるした漢文編年体の史書。40巻。819年(弘仁10)嵯峨(さが)天皇の命により編纂(へんさん)を開始，数度の中絶の後，840年(承和7)藤原緒嗣(おつぐ)らによって選進，現存10巻。その欠を補う鴨祐之(かもすけゆき)の《日本逸史》(1692年成立。40巻)がある。

にほんこうくう 【日本航空(株)】 略称JAL。わが国最大の航空会社。わが国唯一の国際定期航空輸送会社。1951年(昭和26)国内航空運送事業令の施行により資本金1億円でスタートしたが，1953年，国策として国際線完成のため〈日本航空株式会社法〉が制定され，政府出資の半官半民の新会社に衣がえした。1954年2月東京～サンフランシスコ線が開設され，それ以降，ホノルル・ニューヨーク・パリなど世界各地90か所に支店・営業所を開設，1967年3月，世界一周線を完成した。IATA(国際航空運送協会)加盟約100社のうち，営業規模は6位にある。大量輸送時代の先端を行く400人乗りジャンボジェット機，超音速機の導入など，積極的経営策をとっている。一方，国内の幹線航空路にも運航しており，国内線のシェアは70％に近い。資本金627億6,700万円，年間営業収入5,684億5,800万円，従業員数21,733(1980年9月)。

にほんこくけんぽう 【日本国憲法】 日本の現在の成文憲法典。1946年(昭和21)11月3日公布，1947年5月3日施行。日本国憲法は，大日本帝国憲法*(明治憲法)に代わって制定されたものである。
〔制定の経過〕第2次世界大戦でポツダム宣言を受諾して降伏したわが国は，基本的人権尊重，平和主義に基づく責任政治の確立，国家主義・軍国主義の排除などを国際的義務として要請され，それはまた悲惨な戦争の犠牲となった国民大衆の要求でもあったから，明治憲法の改正は，戦後の日本にとって最大の課題の一つであった。すでに敗戦直後から，この立場に立って憲法改正・新憲法制定をめざす運動が展開されたが，高野岩三郎・室伏高信(たかのぶ)・杉森(すぎもり)孝次郎・森戸辰男(たつお)・岩淵(いわぶち)辰雄・鈴木安蔵らの憲法研究会は，早くも1945年末に，国民主権，象徴天皇制の憲法草案を発表，また高野岩三郎は，大統領制の共和国日本を構想する草案を発表した。日本共産党も人民共和国の草案をつくり，その他日本社会党や保守系の諸政党，さらに尾崎行雄・海野晋吉(うんのしんきち)・岩波茂雄・稲田正次らの人々，さらに日本弁護士会などもそれぞれ独自の草案を出して，憲法改正は，広く国民の間に取り上げられた。政府も内閣に憲法問題調査会を置き，宮沢俊義(としよし)・河村又介(かわむらまたすけ)・清宮四郎らの学者を松本烝治(じょうじ)国務大臣の下に集めた。他方内大臣府においては，いちは

やく近衛文麿(このえふみまろ)の下に佐々木惣一(そういち)らが御用掛に任じられ，諮問に応じて明治憲法改正の必要があると答申した。

政府は，いちおう改正案を作成したが，それは連合国最高司令官から他の草案に比べ最も保守的で，改正の実がないときびしく批判され，かえってマッカーサー草案といわれる参考案を示される結果となった。政府は，ほかにとるべき方法もなく，この案を多少手直しして公表した。この改正案は第90臨時議会(5月16日)に上呈され，前後3か月の討論のすえ，いくつかの重要な修正がなされて公布された。

【基本原則】日本国憲法は，次のような基本原則からなる。これによって，日本はようやく，最初イギリスで発足し，18世紀末におけるアメリカの独立やフランス革命によって確立され，その後ヨーロッパであいついで導入された憲法国家の理念に達したのである。

日本国憲法は，明治憲法における天皇主権を廃して，国民主権の原理を確定した。そしてそれは，天皇主権の名において少数の者が政治を私した過去の体制を排して，〈諸国民との協和による成果〉すなわち諸国民との友好，〈わが国全土にわたって自由のもたらす恵沢を確保〉すなわち基本的人権*の尊重，また〈政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすること〉すなわち絶対平和主義などを貫くためのものである(前文)。

【天皇】国民主権の原理の上に，なお天皇の存在を認めたが，これは他国の立憲元首制の場合よりもはるかに民主的なもので，天皇はいっさいの国政上の権限をもたず，国の象徴，国民統合の象徴として，単に形式的な，装飾的な公的活動(国事行為)をなすにとどめたのである。憲法制度としては，イギリスの女王よりも，さらに民主化された君主制である(第1章)。

【戦争の放棄】いっさいの戦争行為を放棄し，陸海空軍はもちろんのこと，正規の軍隊ではなくとも，軍事行動をなしうるような，戦争に役だつような戦力はすべて保持しないことを定めた。侵略戦争，征服のための武力行使を禁じた憲法規定は，1791年のフランス革命憲法以来けっして少なくないのであるが，すべての戦争行為を放棄し，あらゆる軍事力をもたないとした憲法は，わが憲法がはじめてであり，当時官民を問わず広く歓迎された。第2次世界大戦によって民族の破滅を体験しただけに，憲法のこの絶対非武装平和主義は，まさに戦後の日本の民主的再建，豊かな国民生活への出発点と認められたのである。ただしその後，この憲法のもとでも，侵略阻止の戦争はなしうるし，したがって自衛のための軍隊・軍備はもてるという解釈が，歴代の政府とこれをささえる保守多数党によって主張され，今日では世界有数の軍隊(自衛隊*)が存在している(第2章)。

【基本的人権】基本的人権の保障についても，明治憲法とは正反対にきわめて徹底した規定を設けた。過去における警察の人権蹂躙(じゅうりん)に顧み，人身の自由や裁判の公正について，他国の憲法にみられないほど詳細な規定があるのも特色となっている。思想・宗教・学問・言論その他すべての表現の自由，男女の平等，法の下におけるすべての国民の平等など，フランス革命の人権宣言などに示された国民の基本権は，ほぼ全面的に保障された。さらに国民大衆が〈健康で文化的な最低限度の生活を営む権利〉が明記されたのをはじめ，社会権あるいは生存権的基本権といわれる条項も加えられている。この点では，多少不十分な点も認められるが，しかし国政のうえで十分に努力すれば，社会的諸問題にも少なからず対処しうる憲法である(第3章)。

【男女の平等】戦前のような男女の不平等は否定され，結婚などをはじめ，選挙権・被選挙権，教育・職業などについても男女の平等が保障された(第3章)。

【国会と裁判所】日本国憲法は，主権者である国民の代表機関として，国会の権限を強くし，内閣は国会に基礎を置き，国会に対して責任を負うものとした。したがって立法はもちろん，条約の締結，財政などについても，国会が決定権をもっている。裁判については，被告の立場を尊重し，憲法の趣旨によって公正な公開裁判を行なうことを定め，また，国や地方公共団体の活動によって国民が被害を受けたときは，国民が行政訴訟によってこれに対抗できるよう，裁判の範囲を広くしている。のみならず，法律や行政活動が憲法に違反するものと判断されたときは，裁判所はこれらを無効とする権限をもつこととなった(法令審査権・違憲立法審査権*)。裁判所の民主化を確保する方法としては，適正を欠く裁判官に対して弾劾裁判を行なうこと，また最高裁判所の裁判官に対して国民審査*を行なうことが定められた(第4章・第5章・第6章)。

【地方自治】国民が日常生活を送る地域での民主主義を確立するために，地方自治を憲法上の原則として，知事や市町村長は住民の公選によって決定する(第8章)。

【憲法の改正】憲法改正も，当然に国民自身の権利である。憲法は時代の必要によって改正されてよいが，改正は軽々しく行なわれるべきではないから，普通の法律と違い，衆議院・参議院のそれぞれにおいて総議員の3分の2以上の多数で改正原案を可決し，それをさらに国民投票に付して決定することとした(第9章)。

【国際的信義】日本国憲法は，当然に日本が完全な独立国家であることを前提としているし，前文においても，〈自国のことのみに専念して他国を無視してはならない〉〈自国の主権を維持し，他国と対等関係に立つ〉ところの〈国際社会において，名誉ある地位を占める〉べきであると宣言している。このような立場は，かつての軍国主義日本においてみられたように，条約を破ったり他国を軍事力で威圧するような態度を反省して生まれたものであり，この理念のもとに条約や国際法規はこれを誠実に守るよう定められている(第10章)。

日本国憲法が施行されてからすでに20年余り経過した。この間憲法の規定が必ずしも十分に実現されず，事項によっては著しく無視されているという批判もある。今後さらに憲法に対する国民の認識を深め，また憲法の完全な実施を図るためには，国民のいっそうの努力が必要である。憲法は，特に天皇はじめすべての国家機関に所属する者に対して，この憲法を尊重し擁護する義務を課しているが(99条)，それを実行させるためにも国民全体が憲法の意義を理解し，国政を監視することが必要であろう。　〔鈴木安蔵〕

にほんこくゆうてつどう　【日本国有鉄道】　略称国鉄。日本の国有鉄道とそれに付随する連絡船や自動車などによる輸送事業を行なう公共企業体*。日本の鉄道運輸の基幹をなす。1920年(大正9)以来，鉄道省が管轄してきたが，1949年(昭和24)日本国有鉄道法によって運輸省から分離して公法人となった。資本金は全額政府出資により，予算について国会の監督を受ける。また，その業務運営を指導・統制するために経営委員会が置かれ，投資・運賃・事業などの面で運輸大臣の監督を受ける。国鉄を統轄し代表する総裁は内閣が，副総裁・理事は運輸大臣がそれぞれ任命する。ただし，現在の国鉄の経営状態は，独立性と民主的・合理的・能率的運営とをめざす公共企業体としてはその使命を十分達成しているとはいいがたく，また膨大な赤字をかかえて毎年のように行なわれる運賃値上げは，運賃原則(運賃は原価を償う程度であること，公正妥当であること，物価の安定に寄与すること)に十分沿ったものとはいいがたく問題が多い。1971年現在の営業キロ数は，鉄道20,890.4，航路205，旅客自動車運送15,703。　〔寺尾方孝〕

にほんこくゆうてつどうろうどうくみあい　【日本国有鉄道労働組合】　略称国労。1947年(昭和22)6月結成。わが国最大の単産(単位産業別組合)で日本労働組合総評議会*の中核的組合として，また官公庁労働者組合の基幹として第2次世界大戦後の労働運動の中で指導的役割を果たしてきた。1951年機関車乗務員の国鉄機関車労組(現在の国鉄動力車労働組合)を分離，1957年新国鉄労働組合連合(新国労)が分裂結成されて，以後各地で分裂脱退があいついだ。公共企業体等労働関係法*の制定により争議権を奪われ，その運動は致命的な制約を受けているが，遵法闘争・休暇戦術などを駆使

して活発な運動を展開している。加盟組合員数約25万3,000(1978)。本部は東京。

にほんざる 【日本猿】 ⇨368ページ

にほんさんだいじつろく 【日本三代実録】《六国史*(りっこくし)》の一。《日本文徳天皇実録*》に次ぐ漢文編年体の史書。略して〈三代実録〉ともいう。50巻。858年(天安2)から887年(仁和3)まで,清和・陽成(ようぜい)・光孝3代の天皇の時代を扱ったもの。892年(寛平4)宇多天皇の命により編纂(へんさん)を始め,901年(延喜1)醍醐(だいご)天皇のとき完成奏上した。編者ははじめ源能有(よしあり)ら,完成時は藤原時平ら。

にほんじっしんぶんるいほう 【日本十進分類法】 わが国の代表的図書分類表で,〈NDC〉と略称する。1929年(昭和4)初版,1961年新訂第7版を発行し,多くの図書館で使用している。図書を内容により0(総記),1(哲学),2(歴史),3(社会科学),4(自然科学),5(工学・技術),6(産業),7(芸術),8(語学),9(文学)の10類に大別し,以下これらを逐次十進法の原理により細分化する。たとえば5(工学・技術)→59(家事)→599(育児)→599.2(衣服・おむつ)のような方法である。なお,図書の分類には十進分類法のほかに図書をその形式で分類する助記表と相関索引とがある。

にほんしてつろうどうくみあいそうれんごうかい 【日本私鉄労働組合総連合会】 略称は私鉄総連。1947年(昭和22)民営のバス・鉄道などの労働組合がその連合体として結成。同年の全国労働組合連絡協議会*(全労連)の結成に参加したが,1949年脱退した。日本官公庁労働組合協議会*(官公労)系の強い日本労働組合総評議会*(総評)の中で,春闘における賃上げ相場を形成する重要な役割を果たす民間主力組合の一つとなっている。組合員数約20万5,000名(1978)。

にほんしほんしゅぎろんそう 【日本資本主義論争】 日本の資本主義の構造的特質の規定に関する論争で,特に第2次世界大戦前のそれをいう。日本資本主義の構造分析が革命の実践的課題として取り上げられるようになったことを背景として展開されたもので,1922年(大正11)日本共産党の結成にあたって示された〈22年テーゼ草案〉と,その精密的展開といわれる〈27年テーゼ〉〈32年テーゼ〉における日本資本主義の特質規定がその出発点であった。その主たる論争点は,日本資本主義の構造的基底としての地主的土地所有の本質が封建的性格のものかどうかに置かれ,それに付随して高率現物小作料は封建地代*か競争地代か,また天皇制の性格規定と,明治維新をどう評価するか,そしてまたそれらを規定するためのマニュファクチュア論争(幕末の経済が厳密な意味のマニュファクチュア段階か,問屋制商業資本段階かをめぐる論争)など多岐にわたった。日本資本主義の構造的特質として封建遺制を重視する立場からは,天皇制打倒すなわち,ブルジョア革命ののちにプロレタリア革命という2段階革命論が,封建遺制を事実上無視する立場からは,プロレタリア革命の一段階革命論が主張された。前者の流れをくむものが《日本資本主義発達史講座》(1932〜1933)に結集して〈講座派〉または〈封建派〉といわれ,野呂(のろ)栄太郎・山田盛太郎・平野義太郎・服部(はっとり)之総らで,後者は《労農》誌上でその論を展開したので〈労農派〉とよばれ,山川均(ひとし)・櫛田(くしだ)民蔵・向坂(さきさか)逸郎・大森義太郎らである。この論争は軍部ファシズムの強化と日中戦争の進行の中で,1936年の〈講座派〉系論客の総検挙,1938年〈労農派〉系論客の一斉(いっせい)検挙という弾圧を受け,その幕を降ろした。

第2次世界大戦後農地改革*が行なわれ,これによって天皇制の基盤といわれた地主制が消滅し,〈労農派〉理論が事実の論理によって否定されたことを意味するといわれた。そして,その後は戦後日本資本主義の対米従属関係などをめぐる新たな論争が起こった。〔常盤政治〕

にほんしゃかいとう 【日本社会党】

①日本最初の合法的な社会主義*政党。第1次西園寺公望*(きんもち)内閣によって結党が許可された日本平民党(西川光二郎・樋口(ひぐち)伝ら)と日本社会党(堺利彦*(さかいとしひこ)・深尾韶ら)が,1906年(明治39)2月合同して結成。党員約200名で,機関紙《光》《平民新聞*》を発行。翌年の第2回大会で,アナルコ-サンジカリズム*を主張する幸徳秋水*と,議会主義*を主張する田添鉄二らが激しく対立した。これを機に同年2月政府に結社禁止を命ぜられて解散した。

②第2次世界大戦後の社会民主主義*政党。1945年(昭和20)11月日本労働組合総同盟*(総同盟)を基盤に,戦前の無産政党各派が合同して結成。1947年4月の総選挙で143議席を獲得して第1党となり,日本民主党・国民協同党とともに片山哲*連立内閣を成立させたが,公約した社会主義的政策を実現できず,片山・西尾末広*らの党内右派に対する党内左派の批判により倒閣した。続いて芦田均*(あしだひとし)内閣にも参加したが,国民の支持を失い,1949年1月の総選挙では47議席に減少した。1951年10月対日講和条約*への批准の賛否をめぐって左右両派社会党に分裂。平和四原則(全面講和・中立堅持・軍事基地反対・再軍備反対)を掲げた左派社会党は,左傾化した日本労働組合総評議会*(総評)と結びついてしだいに議席を増加していったが,右派社会党の議席は伸び悩んだ。1955年10月両派の統一が実現し,翌年の総選挙で憲法改正阻止に必要な3分の1の議席を確保したが,1960年の日米安全保障条約*改定をめぐって左右両派の対立が再び激化し,右派の一部が離党して民主社会党*を結成した。〔原田政洸〕

にほんしゅ 【日本酒】 蒸した米に麴(こうじ)と水を加えて発酵させたものを濾過(ろか)した酒。日本古来の醸造酒で,清酒ともいう。一般にそのまま飲用するか暖めて飲むが,近来夏季用に冷やして飲む冷用酒もある。また,日本料理の調味料としても用いられる。全国に産するが,兵庫県灘(なだ)地方,京都府伏見地方,福島県会津地方,秋田県・広島県・福岡県などが著名な産地。

【醸造法】まず蒸し米と麴と水を少量仕込み,酵母を加えて繁殖させる。これを酒母といい,酒母が熟成したらさらに蒸し米・麴・水を添加して増量し,約13倍にして20〜30日間発酵させる。添加増量はふつう3回とし,その順により,初添え・仲添え・留め添えとよぶ。発酵の終わったもろみを圧搾すると濁った酒液がとれる。これを静置したのち濾過したものが新酒で,普通はこれを50〜60℃に加熱殺菌して貯蔵し,びんづめにして市販される。なお,最近では従来の醸造法と異なり,醸造の終わりごろアルコール・ブドウ糖・水あめなどを加えて増量し,従来の3倍量の酒を得る方法が広く行なわれている。これを三倍増醸造酒または三増酒とよぶ。

【成分】貯蔵タンク内ではアルコール分18度以上,三増酒では19〜20度もあるが,酒税法の関係で15〜16度にして出荷する。規格級別では,特級16度以上,一級15.5〜16度,二級15度以上に分かれ,エキス分3〜7%,有機類0.15%内外である。エキス分の多い酒を甘口,少ないものを辛口とよび,第2次世界大戦後は,甘口が多くつくられる。→酒〔住江金之〕

にほんじゅうけつきゅうちゅう 【日本住血吸虫】 扁形(へんけい)動物・吸虫綱・ジュウケツキュウチュウ科の寄生虫。日本・中国・台湾・フィリピンなどに分布する。成虫はヒトその他の哺乳(ほにゅう)類の血管内,特に門脈に寄生し,日本住血吸虫症を起こす。雌は体長16〜22mmの糸状で,体のほぼ中央に卵巣があり,子宮内に50〜300個の卵をもつ。雄は体長10〜20mmで後体部が鞘状(しょうじょう)の抱雌管となり,この中に雌を抱き込んでいる。虫卵は楕円(だえん)形でふた(蓋)がなく,大きさは70〜100×50〜70μ。雌は腸壁の小静脈内に産卵し,卵は血管壁が破れた際に腸管内に出て,糞便(ふんべん)とともに体外へ排出される。この卵は水中で孵化(ふか)してミラシジウム幼生となり,中間宿主であるカタヤマガイ*(ミヤイリガイ)の体内に侵入してスポロシスト幼生となる。約2か月後には数百個体のセルカリア幼生となって水中に泳ぎ出し,水中でヒト・イヌ・ウシ・ノネズミなど終宿主の皮膚を通して体内にはいり,約1か月で成虫となる。

日本住血吸虫症は,急性期には発熱・下痢・粘血便・貧血などを起こし,やがて慢性期になると高度の貧血や著しい肝臓障害,腹水などの症状を現わす。日本ではカタヤマガイの分布が局在しており,山梨県甲府

盆地，広島県片山盆地，九州の筑後(ちくご)川下流域などに多く発生する。予防には，流行地では水田や小川にはいらないようにするとともに，カタヤマガイの撲滅(ぼくめつ)，ノネズミの駆除，家畜類の感染防御などが重要である。現在では甲府盆地での予防対策が着々成果をあげつつある。治療にはアンチモン剤が主として用いられている。
〔山本　久〕

にほんじゅうたくこうだん 【日本住宅公団】 大都市およびその周辺の住宅事情を緩和するため，大量の住宅を比較的低廉に供給する目的で設けられた公団*。1955年(昭和30)日本住宅公団法により設立され，政府の出資金と国からの借入金，国の保証をもつ民間からの借入金(債券)によって，土地の購入・宅地の建造を行ない，分譲・賃貸を行なう。建設大臣が監督し，総裁を任命する。

にほんじゆうとう 【日本自由党】

[1]1945年(昭和20)11月旧立憲政友会を中心に結成した保守政党。総裁鳩山(はとやま)一郎*，幹事長河野(こうの)一郎。1946年4月の総選挙で第1党となり，鳩山内閣実現に着手したが，鳩山・河野が公職追放されたため，吉田(よしだ)茂*を総裁とし，日本進歩党*と提携して第1次吉田内閣を成立させた。1947年4月の総選挙では日本社会党*に次いで第2党となったが，1948年3月解党，幣原(しではら)喜重郎*・斎藤隆夫(たかお)ら日本民主党脱党者とともに民主自由党*を結成した。1950年3月党名を自由党と変更，次いで1953年3月自由党分党派が結成された。

[2]1953年12月反吉田強硬派8名が結成した保守系小政党。前述の自由党分党派のうち鳩山一郎らの大部分は自由党に復党したが，これに反対する三木武吉・河野一郎らは残留して日本自由党を結成した。総裁三木武吉。1954年11月解党ののち，日本改進党・自由党反吉田派とともに日本民主党*を結成した。〔原田政洸〕

にほんしょうぎれんめい 【日本将棋連盟】 わが国唯一の専門将棋棋士の団体。1924年(大正13)創立の東京将棋連盟がのちに日本将棋連盟を名のり，1936年(昭和11)将棋大成会と改称，1948年現称に復帰した。将棋の普及・発展を図るなどを目的として結成された。専門棋士約80名が属し，各種の棋戦を行なっている。

にほんしょうこうかいぎしょ 【日本商工会議所】 日本の各地区の商工会議所を会員とする全国的な連合体。商工会議所法(1953年制定)に基づく。日本商工会議所はまた，国際商業会議所*の有力なメンバーでもある。その目的は，各地区の商工業の改善と発展を推進し，それを総合して，わが国の福祉と繁栄を図ることにある。おもな取り扱い業務には，内外業者の取引の斡旋(あっせん)，商工業に関する各種の技能や資格などの検定，貿易振興および経営に関する指導や相談などがある。〔原　豊〕

にほんしょき 【日本書紀】 奈良時代の歴史書。720年(養老4)成立。〈日本紀〉ともよばれ，わが国最初の正史として，また《六国史(りっこくし)》のはじめとして名高い。歴史書といっても，多く神話・伝説・説話を含み，特に巻3以下の紀年は推古天皇9年辛酉(かのととり)(601)から1260年さかのぼった辛酉の年(BC660)を神武天皇の即位元年と定め，以下を編年体のわくにはめようとしているので，年代に大きなずれを生じており，史料としては厳密な批判を必要とする。

《続(しょく)日本紀*》によると，元正天皇の養老4年5月に，舎人(とねり)親王が勅を奉じて編集を終え，紀30巻・系図1巻を奉ったことがわかるが，編集をはじめた時期やその過程については明らかでなく，《日本書紀》の天武10年(682)の条にある川島皇子らに《帝紀》と上古の諸事の記定を命じられたとする記事をその開始とみる説と，《続日本紀》の和銅7年(714)の条の紀清人(きのきよひと)・三宅藤麻呂(みやけのふじまろ)に国史を選ばせたとする記事をその開始とみる説とがある。また，《古事記*》の選録との関係にも種々説があるが，天武天皇の修史事業が基礎になっていることにはまちがいないと思われる。舎人親王のもとで，多くの学者たちによって，《帝紀》《旧辞》など多くの公私の記録が集められ，編集が行なわれたものであるが，その編集・執筆に《古事記》の選者太安麻呂(おおのやすまろ)が参加したかどうかは明らかでない。

巻1・巻2は神代上下。国初からの神話を紀伝体に近い形で編集し，巻3以下は，神武天皇から持統天皇までを編年体で記述している。文章は純粋の漢文体であるが，歌謡は万葉がなで記している。

《日本書紀》は《古事記》と違って，多くの資料を集め，朝鮮の史書にまで手を広げており，国号を冠している点などからみて対外的な意図が察せられ，資料の扱いも厳正で〈一書曰(あるふみにいわく)〉〈一云(いつにいう)〉など諸資料の違いを併置する方法をとっている。文章が純粋の漢文体であるのも《古事記》と異なる点で，古言・古意の保存よりも文飾に力をつくし，中国の経典類などの模倣・撮綴がうかがわれる。《古事記》の国民向けに対して，対外向け正史といった感が強いのである。《日本書紀》はまた，《古事記》が推古天皇までで終わり，しかも神話中心で，歴代になってから簡略なのに比し，正史として内容が豊富であり，歴史的な記述に詳しく，推古以後7代，持統天皇までを収めている。政治上・社会上の実際のできごとを精細にしるしているのである。以上の諸点から，一般に《日本書紀》は，《古事記》の文学性に対して，歴史性に特色がみられるが，神話の異伝を併記していること，《古事記》にまとめられる以前の神話を知る手がかりとなること，ちりばめられている128首の歌謡が《古事記》《風土記*(ふどき)》内の歌謡とともに古代歌謡研究の第1資料となっていること，純粋の漢文体で書かれていて中国文学の比較研究に資していることなどの点で，上代文学研究の対象としても貴重な書である。〔鈴木一雄〕

にほんじょしだいがく 【日本女子大学】 私立大学。1901年(明治34)成瀬仁蔵*により設立された。わが国の国情にふさわしい女子高等教育の機関として〈信念徹底〉〈自発創造〉〈共同奉仕〉の教育綱領を掲げ，私立の女子専門学校として発足した。1948年(昭和23)新制大学に移行，翌年通信教育部を設置。現在，家政・文学部と付属幼稚園，小・中・高等学校などが置かれている。本部は東京都文京区目白台2丁目8番。

にほんじん 【日本人】 ⇒日本民族

にほんじん 【日本人】 評論雑誌。1888年(明治21)4月～1913年(大正2)9月刊行，1907年以後は《日本及(および)日本人》と改題。三宅雪嶺(みやけせつれい)・志賀重昂(しげたか)・杉浦重剛(すぎうらしげたけ)らの政教社*の機関誌。翌年創刊の新聞《日本*》と主張を同じくし，文化の無批判な模倣を排し，日本固有の真善美を尊重し，四民平等を基礎とする国家主義を主張した。単なる保守反動主義でなく，日本美術・文芸の再発見など文学史上への貢献も大きかった。〔堀井謙一〕

にほんしんぶんきょうかい 【日本新聞協会】 1946年(昭和21)7月日刊新聞・通信・放送会社が自主的に創立した社団法人。新聞・通信・放送の倫理水準を向上し，共通の利益を擁護することを目的として，新聞・通信・放送に関する調査研究，会報および資料の発行などの事業を行なっている。161社が加入している(1969)。

にほんしんぽとう 【日本進歩党】 1945年(昭和20)11月旧立憲民政党系・旧中島知久平*派政友会系を中心に結成した保守政党。総裁町田忠治。幣原(しではら)喜重郎*内閣に松村謙三(けんぞう)ら3名を入閣させた。1946年1月町田以下の幹部が公職追放されたが，4月の衆議院議員選挙で94議席を獲得して第2党となり，第1次吉田(よしだ)茂*内閣には幣原喜重郎以下4名の閣僚を送った。民主化に伴う大衆運動の高揚，経済危機に直面して翼賛政治会的体質の変化をしいられ，1947年3月解党して，無所属・諸派とともに日本民主党*を結成した。〔原田政洸〕

にほんしんわ 【日本神話】 一般に〈日本神話〉といわれているものは，《古事記*》《日本書紀*》の〈神代巻〉に物語られている〈記紀神話〉をさす。《古事記》《日本書紀》がまとめられた8世紀初頭は，大和(やまと)朝廷が中央・地方の諸豪族に対して支配権を確立し，古代天皇制の基盤を固めていくときにあたっており，これら2書もそうした政治情勢と結びついて編纂(へんさん)されており，〈記紀神話〉もきわめて政治性が強い。

日本神話においては，系譜的に縦に連なる神々が12代あり，その間に天地開闢(かいびゃく)から国生み神話，国譲り神話，天孫降

日　本



陸高と
水深（m）
1000 km以上
500
100
0
200
1000
2000
4000
6000
8000 以下
1 : 7,200,000
0 1000 2000 3000 400km
伊豆諸島
三宅島
御蔵島
八丈島
青ケ島
ベヨネース列岩
明神礁
須美寿島
鳥島
婦婦岩
伊豆小笠原海溝
ラマポ海淵
小笠原諸島
聟島
嫁島
弟島
兄島
父島
母島
乳房山 463
西之島
硫黄列島
北硫黄島
硫黄島
南硫黄島
北大東島
南大東島
沖大東島
南西諸島
大隅諸島
西之表
種子島
屋久島
宮之浦岳 1935
口永良部島
吐噶喇列島
口之島
中之島
諏訪瀬島
臥蛇島
悪石島
小宝島
宝島
横当島
奄美諸島
奄美大島
名瀬
湯湾岳 694
喜界島
徳之島
沖永良部島
与論島
沖縄諸島
伊是名島
与那覇岳 498
名護
九州山地
四国山地
紀伊山地
筑紫山地
鹿児島
開聞岳 924
薩摩半島
大隅半島
都井岬
宮崎
韓国岳 1700
人吉
水俣
熊本
阿蘇山 1592
九重山 1788
祖母山 1758
国見山 1739
大分
別府
由布岳 1584
佐伯
日向灘
豊後水道
佐賀
長崎
雲仙岳 1360
多良岳 983
佐世保
平戸
唐津
福岡
北九州
英彦山 1200
下関
関門海峡
宇部
山口
徳山
岩国
広島
冠山 1339
萩
長門
響灘
玄界灘
壱岐
対馬
厳原
対馬海峡
五島列島
福江
天草諸島
甑列島
男女群島
宇治諸島
草垣島
黒島
竹島
阿久根
国東半島
佐田岬半島
佐田岬
宿毛
宇和島
中村
四万十川
足摺岬
土佐清水
大洲
松山
石鎚山 1981
高縄山 986
新居浜
丸亀
高松
徳島
剣山 1955
高知
土佐湾
室戸
室戸岬
内海
呉
大島
福山
岡山
小豆島
淡路島
鳴門
神戸
大阪
奈良
紀伊水道
和歌山
紀伊半島
田辺
串本
潮岬
新宮
熊野川
熊野灘
大台ケ原山 1695
八剣山 1915
伊勢
志摩半島
渥美半島
遠州灘
浜松
伊豆半島
石廊崎
御前崎
130°
132°
134°
136°
138°
140°
142°
144°
146°
24°
26°
28°
30°
32°
34°


ソビエト連邦
中華人民共和国
朝鮮民主主義人民共和国
大韓民国
日本海
オホーツク海
太平洋
日本海溝
千島・カムチャツカ海溝
サハリン(樺太)
宗谷海峡
宗谷岬
稚内
礼文島
利尻島
天塩川
天塩山地
北見山地
焼尻島
天売島
武蔵堆
留萌
暑寒別岳
旭川
石狩岳
十勝岳
大雪山
網走
サロマ湖
湧別川
常呂川
知床岬
硫黄山
斜里岳
屈斜路湖
雌阿寒岳
雄阿寒岳
根室
根室半島
根室海峡
納沙布岬
釧路
十勝川
帯広
日高山脈
夕張山地
幌尻岳
芦別岳
札幌
小樽
支笏湖
洞爺湖
羊蹄山
積丹半島
積丹岬
石狩川
室蘭
内浦湾
駒ケ岳
函館
恵山岬
津軽海峡
浦河
襟裳岬
狩場山
奥尻島
江差
渡島半島
大島
松前
小島
白神岬
下北半島
恐山
尻屋崎
津軽半島
陸奥湾
青森
八甲田山
岩木山
小川原湖
八戸
十和田湖
米代川
寒風山
男鹿半島
八郎潟
干拓地
大館
秋田
雄物川
奥羽山脈
北上山地
北上川
久慈
三陸海岸
宮古
早池峰山
盛岡
岩手山
鳥海山
出羽山地
飛島
酒田
最上川
一関
気仙沼
石巻
牡鹿半島
金華山
仙台
仙台湾
月山
朝日岳
蔵王山
山形
阿武隈川
佐渡
両津
新潟
信濃川
阿賀野川
飯豊山
磐梯山
福島
猪苗代湖
阿武隈山地
いわき
越後山脈
三国山脈
長岡
柏崎
米山
上越
帝釈山
那須岳
男体山
八溝山
白根山
浅間山
長野
能登半島
輪島
珠洲岬
七尾
富山湾
黒部川
神通川
富山
白馬岳
立山
高岡
金沢
手取川
白山
両白山地
飛驒山脈
乗鞍岳
穂高岳
御嶽山
松本
諏訪
関東山地
木曽山脈
赤石山脈
甲府
八王子
富士山
箱根山
沼津
横浜
東京
東京湾
浦和
熊谷
前橋
宇都宮
水戸
日立
鹿島灘
筑波山
霞ケ浦
利根川
潮来
犬吠埼
銚子
房総半島
九十九里浜
千葉
清澄山
相模湾
伊吹山地
岐阜
名古屋
岡崎
静岡
敦賀
福井
九頭竜川
若狭湾
舞鶴
福知山
京都
琵琶湖
丹後半島
鳥取
須賀山
大山
津山
那岐山
中国山地
島根半島
宍道湖
松江
江川
江津
隠岐諸島
島前
島後
竹島
ウルルン(鬱陵)島
トドン 道洞
大和堆
ウラジオストク
ピョートル大帝湾
ナホトカ
スーチャン
ウスリースク
ハンカ 興凱湖
スパッスクダルニー
アルセーニエフ
オリガ
シホテアリン山脈
テルネイ
アムダ
ヴィソーカヤ山
オーブラチナヤ山
ハルビン 爾浜
松花江
長白山脈
ペクト 白頭山
ケーマ 高原
チョンチン 清津
キルチュ 吉州
キムチェク 金策
ハムフン 咸興
フンナム 興南
ウォンサン 元山
ソウル
ウルチン 蔚珍
アントン 安東
テグ 大邱
テジョン 大田
ポハン 浦項
キョンチュ 慶州
ウルサン 蔚山
プサン 釜山
チョンジュ 全州
光州
順天
晋州
トマン 豆満江
ホンチュン 琿春
ナチン 羅津
国後島(クナシリ)
択捉島(エトロフ)
色丹島(シコタン)
歯舞諸島(ハボマイ)
単冠山
爺々岳(チャチャ)

臨，日向(ひゅうが)三代の事跡が時間的に歴史の形態をとって継起する。それらは，究極的には天皇の権威の根源を示すという意図のもとに構想されているが，それらを構成する個々の神々に関する話はりっぱに神話の資格を備えており，構想の意図は個々の神話を時間的に操作配列して意匠を加えた点にあると思われる。こうした関係を十分に検討して科学的に処理すれば，素朴(そぼく)な神話の原型が現われてくる。

《古事記》によれば，天地の初めのとき高天原*(たかまがはら)に生まれた神は，アメノミナカヌシノカミ*・タカミムスビノカミ*・カミムスビノカミ*のいわゆる造化三神で，すべて独身で姿は目に見えなかった。次いで国稚(わか)く漂えるとき，葦牙(あしかび)のようなものによってウマシアシカビヒコジノカミが，さらにアメノトコダチノカミが生まれた。以上の5神は天神(あまつかみ)の中でも特別な神として別天神(ことあまつかみ)とよばれる。次にクニノトコタチノカミからイザナギノカミ(→イザナギノミコト)・イザナミノカミ(→イザナミノミコト)まで，大地の形成過程を具象化したと思われる12柱の神々が出現した。この神々を神世七代という。この最後の男神イザナギノカミと女神イザナミノカミによって国生みが行なわれ(→国生み神話)，さらに2神は海・川・山・木・草などの諸神を生んだが，最後に火の神カグツチノカミ*を生んだため，女神は死ぬ。男神は女神を慕い，黄泉国(よもつくに)を訪れて連れ帰ろうとするが，禁を破ったために失敗して逃げ帰る。そして筑紫(つくし)の日向で禊祓(みそぎはら)いし，左目・右目・鼻を洗ったところ，それぞれアマテラスオオミカミ*・ツキヨミノミコト*・スサノオノミコト*が生まれた。しかし，この神々の生誕については《古事記》と《日本書紀》とでは大きな相違を示している。

次いでアマテラスオオミカミとスサノオノミコトとの対立・抗争が語られる。スサノオノミコトは高天原(たかまがはら)で畔放(あはなち)・溝埋(みぞうめ)などの罪(→天津罪・国津罪)を犯したため，アマテラスオオミカミは天岩戸*(あめのいわと)にこもり，天上・地上ともに暗黒となった。諸神は計略をめぐらし，岩戸前で祭儀を行ない，アメノウズメノミコト*に神がかりさせてアマテラスオオミカミをいざない出したので，天地は再び明るくなった。この天岩戸前の神事は鎮魂祭の由来を物語っていると解されている(→高天原系神話)。

スサノオノミコトは高天原を追われ，出雲(いずも)(島根県)簸川(ひのかわ)に天下り，クシナダヒメ*を助けて八岐大蛇*(やまたのおろち)を退治し，その尾から得た天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)をアマテラスオオミカミに献じた。

スサノオノミコトとクシナダヒメの6代めの子孫がオオクニヌシノカミ*である。オオクニヌシノカミは兄弟である八十神(やそがみ)らの迫害をのがれて根国(ねのくに)におもむき，スサノオノミコトの娘スセリヒメを妻とし，のちスサノオノミコトから得た生大刀(いくたち)・生弓矢および天詔琴(あめののりごと)によって八十神を征服して大国主となり，スクナヒコナノカミ*の助けを得て国造りを行なった(→出雲系神話)。

次いで《古事記》では突然，〈豊葦原瑞穂国(とよあしはらみずほのくに)はわが子アメノオシホミミノミコトが支配すべき国である〉というアマテラスオオミカミの神勅が下る。アマテラスオオミカミはタケミカヅチノカミを出雲につかわしてオオクニヌシノカミに国譲りをさせる(→国譲り神話)。平定された葦原中国(あしはらのなかつくに)にはアメノオシホミミノミコトの子ニニギノミコト*が三種神器*(さんしゅのしんき)を奉じて日向の高千穂峰に天下り，コノハナサクヤヒメ*を妃として高千穂宮にとどまった。この天孫降臨*の神話は大嘗祭*(だいじょうさい)の由来を物語ると解される。ニニギノミコトとコノハナサクヤヒメとの間に生まれた3子の中にホデリノミコトとホオリノミコト(ホホデミノミコトともいう)とがあり，ホオリノミコトはワタツミノカミの娘トヨタマヒメ*と結婚して，ホデリノミコトを臣従させた(→海幸・山幸)。ホオリノミコトとトヨタマヒメの間に生まれたのがウガヤフキアエズノミコト*で，のちにトヨタマヒメの妹タマヨリヒメ*を妃としてカムヤマトイワレヒコノミコト(→神武天皇)ら4子を生んだ。いわゆる日本神話はここで終わるが，ここにおいて神代と人代は連続する。なお，ニニギノミコト・ホオリノミコト・ウガヤフキアエズノミコトの日向三代の神話を筑紫系神話ともいう。
〔宮井義雄〕

にほんすいさん 【日本水産(株)】 わが国の代表的水産会社。遠洋トロール・捕鯨・漁業を中心とし，水産物の加工販売，肥料・飼料の製造加工販売，海運業も兼営する。1911年(明治44)創業の田村汽船漁業部が前身。1937年(昭和12)諸会社が合併して，日本水産となった。その後，1943年の水産統制令によって統制会社となり，1945年水産統制令の廃止で社名は日本水産にもどった。近年，水産業界の不振の中にあって，日本水産は早くから体質改善策を進め，陸上加工部門・海運部門に進出して業績をあげている。集団指導制で経営の組織化が進んでいるのも特色。船舶の充実，特にトロール船の大形化に積極的で20,000トン級の北洋総合工船を建造した。本社東京。資本金100億円，年間売上金4,079億円，従業員数4,839(1980年9月)。

にほんすもうきょうかい 【日本相撲協会】 大相撲(職業相撲)の団体。本部は東京都台東区浅草蔵前。1889年(明治22)江戸時代からの相撲会所制を東京角力(すもう)協会と改め，1925年財団法人組織となった。1927年(昭和2)大阪角力協会と合併して大日本相撲協会を設立，第2次世界大戦後は日本相撲協会と改称した。年寄・力士・行司・呼び出し・床山らによって構成され，年寄(評議員)によって2年ごとに協会運営にあたる理事・監事が選ばれる。事業として年間6回の本場所興行，力士・行司の養成，相撲博物館の維持運営などがある。

にほんせいさんせいほんぶ 【日本生産性本部】 1955年(昭和30)2月，アメリカ国際協力局の援助により，わが国の生産性向上を促進するために，経営者・労働者・学識経験者の三者構成のもとに設立された財団法人。朝鮮動乱の終了後，日本経済は不安定な特需から独立するために，根本的な競争力を育成する必要に迫られ，1952年以降，生産技術面において先進諸国に対する立ち遅れを回復し，生産性を向上させる目的で近代化投資を積極的に行なうようになった。生産性本部はこのような経済状況を反映して設立されたもので，労働生産性向上に関する教育・情報提供・出版・調査などの業務を主として行なっている。なお，労働者組織としては全日本労働総同盟*(同盟)が加入し，日本労働組合総評議会*(総評)は加入していない。 〔原　豊〕

にほんせいめいほけん 【日本生命保険(相)】 わが国最大の生命保険会社。1889年(明治22)有限責任会社として創業し，1891年株式会社に改組。さらに1947年(昭和22)相互会社として新発足した。第2次世界大戦後保険事業の混乱を立て直すために努力し，現在保険契約高はわが国生命保険業界総契約高の21%を占める。保険は〈人と紙の事業〉をモットーに社員77,300人のマンモスグループをつくり，新しいアイデアによる契約開拓に取り組み，年々著しい伸びを示している。本社大阪，支社数118，支部数1,719。保有契約高112兆6,515億円，総資産5兆3,808億円(1980年3月)。

にほんせきじゅうじしゃ 【日本赤十字社】 ⇨赤十字

にほんせきゆ 【日本石油(株)】 わが国最大の石油会社。石油製品の販売が主で全国に流通網・販売網を張り巡らし，市場占拠率は20%。創業は1888年(明治21)でわが国石油業界で最も歴史が古い。1949年(昭和24)にアメリカのカルテックス社と受託販売契約を結び，共同出資により日本石油精製を設立，カルテックス(原油供給)——日本石油精製(精製)——日本石油(販売)という一貫体制を確立している。また興亜石油の製品も販売しており，さらに日本石油化学・日本石油瓦斯(ガス)・日本鋪道(ほどう)・日石不動産・日本加工油・日本石油洗剤・東京タンカー・日石商事・日本石油基地など，いわゆる日石グループを構成して，関連事業部門にも活躍している。子会社日本石油開発が石油資源開発に乗り出し，九州・東シナ海を探査中。製油所は新潟・秋田，日本石油精製の4製油所(根岸・横浜・下松・室蘭(むろらん))

→371ページ

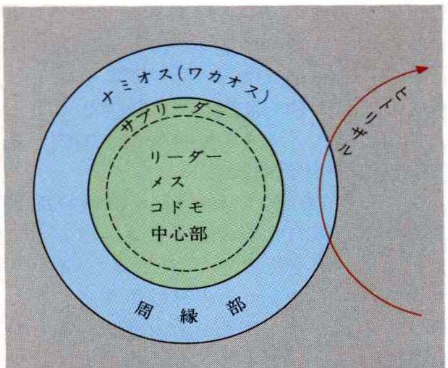
日 本 猿

哺乳(ほにゅう)類・オナガザル科・マカク属。日本に分布するサルで，成獣の顔やしりが赤く，尾は10cm以内。一般にサル類の顔色は黒色か肌色(はだいろ)で，世界のサル類の中でニホンザルのようにまっかな顔としりをもったサルはない。南は屋久島から，北は世界のサル類の生息北限である青森県下北半島まですむ。屋久島にすむものはヤクザル（ヤクニホンザル）とよばれて亜種として扱われており，体は少し小ぶりで，毛は内地産のものに比して灰色がかり，手足が少し短い。ニホンザルは保護獣として捕獲が禁止されており，全国には30,000～40,000頭生息するが，茨城県と長崎県にはすんでいない。群れの大きさは通常30～80頭で，自然状態では100頭をこす群れは少ない。大分県高崎山の群れはA群が870頭（1972年）であるが，これはまれな例であり，おそらく世界のサルの中で最大の群れであろう。

メスは2歳半から3歳でメンスがあり，早いものは4歳で子どもを産み，7～8歳で壮年に達する。乳歯は6か月ではえそろうが，第三大臼歯(きゅうし)（知恵歯）がはえるのは6～7歳。寿命は20～30歳であるが，40歳まで生きた例がある。体重は，新生児で400～500g，オトナオスで平均13kg，メスで10kg。最高はオスの23kg。子どもは年に1頭，まれに双子を産む。性交期は群れによって違うが，9月から3月までの間の4か月間である。つまり，小豆(しょうど)島の群れの性交期は9～12月，宮崎県幸島では12～3月の4か月間といったぐあいである。出産期は4月から9月までの間の4か月間。群れによって，性交期や出産期が違う理由は不明である。オス・メスの出産性比は116：100である。子どもを毎年産むことは少なく，平均2年に1子出産する。妊娠期間は180日である。

【生活】ニホンザルの群れは，山の中をあてどもなく移動しているのではなく，行動する範囲は決まっている。これを行動域という。行動域の広さは2～12km²であり，群れはこの中を一定のリズムをもって移動する。サルのよく通る道は決まっており，このためサルがすんでいる山にはサル道がきれいについている。ニホンザルはいつも木に登っていると一般に考えられているが，実際は地上6，樹上4の割合で，地上生活のほうが多い。行動域の中には，遊び場・休憩場・採食場・泊まり場などが決まっている。泊まり場は急な斜面のこんもりと茂った森とかがけが多いが，まれに岩穴を利用する。泊まり場は通常はいくつかもち，季節によって使い分ける。

主食はイチゴ・アケビ・クリといった果実と若葉であるが雑食性で，間(はざま)直之助によると比叡(ひえい)山の群れで370余種の植物を食べることがわかっている。こん虫や幼虫，特にセミ・バッタ・甲虫類を好み，貝や小鳥を食べる群れもある。雪の深い冬には，木の皮や冬芽を食べる。



ニホンザルの群れの社会構造　中心部と周縁という同心円状の二重構造をもっている

【社会】群れが隣合ってすんでいるときは，群れは自分の行動域をなわ張り*として守り，隣の群れと対立して，その境界で戦うことがある。このときはワカモノどうしが戦うことが多く，リーダーやメスが戦うことはめったにない。戦いといっても，血を流す格闘はしないで，引けば押す，押せば引くといった駆け引きや，声で威嚇し合うことが多い。

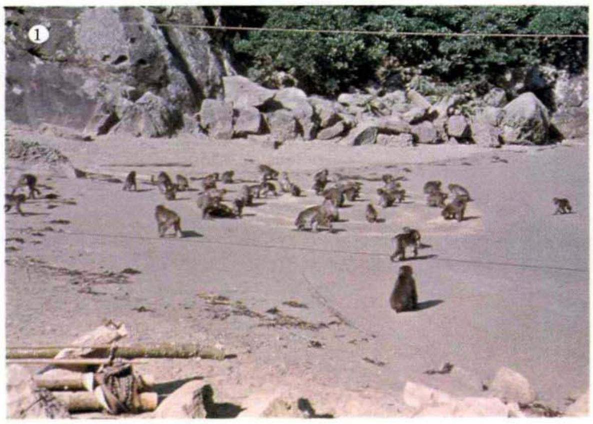
ニホンザルの社会には，ヒトリザル（孤猿，ソリタリ）がいるが，これは必ず青年期以上のオスで，メスはいない。彼らはただ1頭で山の中で生活しているが，性交期にはしばしば群れの周辺に現われてメスと関係をもつ。中には群れにはいりこんで，群れのメンバーになる者もいる。群れがいくつも隣合ってすんでいる場合は，ヒトリザルは出身の群れにもどらないで，他の群れにはいりこむ場合が多い。ニホンザルの群れは排他的・閉鎖的なので近親婚が継続し，遺伝子の交流が行なわれない。ヒトリザルは，群れと群れをつなぐ唯一のパイプで，群れ間の遺伝子の交流に大きな役割を果たしている。ヒトリザルは社会的に疎外された個体だとか，異常心理の対象としてとらえられるむきがあるが，そうではなくて，ニホンザルのオスの正常な生活様式の一つである。

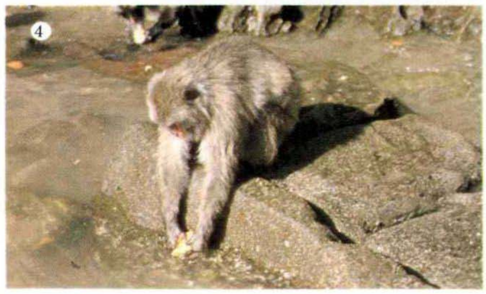
群れはポピュレーション（個体群）が増大すると分裂する。えづけされた群れでは，群れの大きさが150～200頭になったときに分裂することが多い。高崎山の群れは600頭をこえてから分裂したが，これは例外である。えづけされない自然群では100頭まででで分裂するようである。分裂の原因はいくつかあるが，分裂現象からニホンザルの群れ社会を維持する社会構造や秩序系の限界が200頭までだということが推測できる。群れは一定の行動域をもっているが，この中で生産される食物量は一定しているので，群れのポピュレーションが増大すると，サルは食糧に不足をきたす。こういう見方からすると，群れの分裂は食物を十分にとるために適当なポピュレーションを維持するための調節機構だともいえる。ニホンザルの群れがふえていくのは，もっぱら群れの分裂によるものである。

ニホンザル自然群の社会構造は，1953年伊谷純一郎によって高崎山の群れで明らかにされた。群れは中心部と周縁部という二つの社会的層からなりたっている。中心部はリーダーとメス・コドモ・アカンボからなりたち，周縁部はナミオスとよばれる青年期以上のオスからなりたっている。この同心円状の二重構造は，群れによって違っている。二重構造が明確で，ナミオスが中心部にはいることが許されないきびしい社会構造をもった群れがある。1961年までの高崎山の群れはこの典型であった。一方，小豆島の寒霞渓(かんかけい)の群れで代表される群れでは，中心部と周縁部の境界がはっきりせず，ナミオスたちは平気で中心部へはいってくる。リーダーもメスもおこらないでそれを許している。社会構造が群れによって異なる原因は，リーダーや伝統・環境などに関係しており，一様ではない。動物の社会に社会構造があること，そしてそれが群れによって相違があることを発見したのは，動物社会学における日本の学者の大きな功績の一つといえる。

【リーダー】ニホンザルの群れには，リーダーがいて群れを統率している。リーダーは，群れの誘導，警戒，外敵の防衛などにあたる。サブリーダーはリーダーを補佐し，その位置は群れによって異なり，きびしい社会構造の群れでは周縁部に位置し，ルーズな社会構造の群れでは中心部に位置づけされる。リーダーは危険が迫ると〈クヮン〉という警戒音を発し，群れのサルはその声を聞くと一散に逃げる。リーダーはあとに残り，イヌなどが襲うと勇敢にたち向かっていく。

リーダーは群れのサルの動向をたえず注意し，回りに気を配っている。リーダーはまた，よく示威行動をし，しっぽをぴんと立てていることはリーダーのシンボルとしてよく知られているが，いつもそうしているとはかぎらない。激しく木をゆすったり，突如群れの中を走ったり，メスにかみついたり，肩をいからして群れの中を歩くなど，すべてリーダーの示威行動である。群れに緊張を与え，リーダーであることを誇示するために，リーダーはしばしばこの種の示威行動を行なうが，これらは精悍(せいかん)で英雄型のリーダーによく見られ，寛大でお



①中心からボスザル，アカンボ・メス，ナミオスの同心円状の社会構造が見られる
②マウンティング
③威嚇するリーダー(幸島のカミナリ)
④いもを洗う幸島のサル
⑤温泉につかりながらグルーミングをする地獄谷のサル
⑥ハトムギを食べる
⑦アカンボグループをつくって遊ぶ
⑧グルーミング
⑨アカンボの握力は強く，母ザルにしがみつく
⑩暑い日には泳ぐことがある








っとりしたリーダーにはあまり見られない。

リーダーの重要な役割は取り締まり行動である。サルの社会では，よくいざこざが起こり，中心部に侵入してきたワカモノを懲らしめて外へ追い出し，メスやコドモのけんかを取り締まる。にらみすえたり，威嚇の声だけで取り締まることもあれば，騒ぎが大きいと突き飛ばしたり，かみついたりして騒ぎを鎮める。しかし，かみついても歯を立てて傷つけることはめったにない。リーダーは的確に騒ぎの原因を知っていて，その原因になった個体に制裁を加える。公平な判断，敏速で果断な行動はリーダーとしての重要な資格である。

リーダーの数は1～6頭だが，2～3頭のことが多い。リーダーには原則としてオトナオスがなるが，オトナオスがいないときには，メスのリーダーが一時的に出現することがある。リーダーになる資格は，体力だけではない。幸島のリーダーは老齢のため行動も鈍くなり，眼が見えなくなったが，死ぬまでリーダーの地位を保っていた。リーダーの地位を保つには，群れのメンバー，特にメスたちの信頼と支持が必要である。知能もすぐれている必要があり，単なる腕力の強さだけではなれない。

リーダーの最後は，突然失踪(しっそう)することが最も多い。リーダーは下の者からの圧力をつねに有形無形に受けており，リーダーの地位を維持するにはよほどの実力者でなければだめである。リーダーの力が少しでも衰えると，下位の者から攻撃されたり，あるいは順位が下がることがある。そうすると，リーダーはいさぎよく群れから離脱してヒトリザルになり，どこともなく姿をくらましてしまう。そして再び群れにもどることはまれである。群れのメンバーにみとられながら，群れの中で死んだのは幸島の2頭のリーダーだけのようである。ニホンザル社会の秩序には三つの柱がある。その一つはリーダー制である。群れの社会秩序の統合がどの程度になされているかは，リーダーの資質に負うところがたいへん大きい。

〔順位制〕 ニホンザルの個体の間には優位劣位の順位がついており，順位関係はニホンザルに集団を秩序づける最も基本的な社会関係である。順位に基づいた秩序系を順位制といい，リーダー制とともにニホンザル社会を統合する基礎をなす。順位は，サルだけではなくこん虫にもみられる。しかし，ニホンザルの順位は鳥や他の哺乳類よりも複雑な内容をもち，基礎順位と依存順位という構造がみられる。

基礎順位は，2頭のサルが1対1の場で決められる順位をさし，いわば個体の実力で決まる順位である。これは，2頭の間に

ピーナツやミカンを投げると，順位の高い個体がそれを先にとることから知ることができる。これは順位テストとよばれる。順位テストを試みてみると気がつくことであるが，しばしばコドモが自分より順位の高いオトナメスを攻撃して優位な行動をとることがある。これは，母親や姉などに依存して，一時的に自分より基礎順位の高い個体に対して優位行動をとっているのである。このように，Aがだれかに依存して自分より基礎順位の高い個体Bに対して優位な行動をとった場合，AはBよりも高い依存順位をもったという。依存順位行動はサルたちの社会関係の上ではたいへん重要である。メスガシラという，メスの中では順位がいちばんで強い権力をもった特別のステータス(社会的地位)のメスがいるが，この地位はリーダーに依存することによって獲得したものである。メスガシラはトップリーダーに依存して，2番リーダーよりも依存順位が高い。

順位を守るために，いくつかのマナーが発達している。マウンティング(背乗り行動)は，優位な個体が劣位の個体のしりに乗る行動で，順位の確認のためにするものである。マウンティングは，その他相手を許容したり，示威や緊張の解消にも使われる。グルーミング，いわゆるノミとりとよばれる行動は，ふけやシラミ(サルにノミはつかない)などをとるので衛生のためにも役だっているが，お互いの親愛の情を表わす行動としてより重要である。したがって，グルーミングは親子・兄弟や性関係をもったオスとメスの間で最も多く見られる。グルーミングは，おべっかや相手にとりいるための行動としても使われ，マウンティングとともに重要な社会行動である。

【血縁関係】ニホンザルの母と子は，たいへん仲がよい。休憩するときはたいてい母子がより集まり，仲よくグルーミングをし合っている。祖母—母—娘—子といった4代にわたるサルがより集まって，仲のよい大きなグループをつくる。母ザルは子をたいへん注意深く育てる。アカンボは生後20日ごろからひとり歩きを始めるが，母ザルは自分の回りで行動させて遠くへ行くのを許さない。アカンボが死ぬと，母ザルは死体をしっかり抱き，ミイラになるまで離さずに持っている。3か月もたつと，アカンボは母親から離れて，アカンボグループをつくって遊びはじめる。2歳を越すと，しだいに母親から離れて同年齢グループをつくって遊ぶ。このころ，お互いの間に基礎順位が決定する。子どもは母親に強く依存しているから，順位が上位の母親をもつ子は母親をバックにしていばり，高い依存順位をもつ。それがしだいに子どもの基礎順位となって定着するのである。このため，同年齢の子たちの順位は，母親の順位とみごとに平行している。つまり上位の母親の子はつねに高い順位を獲得するが，低い順位の母親の子は，みんな低い順位しか得ることができないことになる。したがって，順位の高い家系と低い家系とができ上がり，個体間に順位があるだけではなくて，家系の間に順位があることになる。幸島の群れでは，エバ家というのが最も有力な家系であるが，メスガシラは3代続いてこの家系から出ている。このように，血縁関係に基づく社会秩序を血縁制という。

メスは，大きくなっても中心部に残るから，母—子関係を中心にしたがっちりしたグループができ上がる。しかし，オスは3歳ごろから周縁部と中心部を往復するようになり，4歳半になると周縁部へ移ってしまい，母親との関係が薄れていく。オスは周縁部のナミオスになると，自分自身の力であらためて自分のステータスを獲得していかねばならない。だからオスでは，青年期にもう一度順位の決めなおしが行なわれる。

母子・兄弟の関係は，メスにおいては一生続く。オスは周縁部へ移り，その多くはヒトリザルとなって群れを出ていくので，母親との接触は少ない。しかし，母子の間の記憶はなくなることはなく，母子関係も一生続くものが多いようである。

【文化】1953年(昭和28)，幸島の群れで1歳半のメスザルが，いもについた砂を水で洗って食べることを発明した。この行動は，母親，兄弟，遊び仲間を通じて伝播(でんぱ)し，1962年には全体の73％のサルがいも洗いをするようになった。1958年ごろからは，この行動の伝播は母親から子に伝えられ，新しく生まれてくる子はすべていも洗いを習得するようになった。

ある社会の中でつくり出され，個人に分有され，社会によって伝承される生活様式を文化とよぶならば，幸島のサルのいも洗い行動は，明らかに文化的行動といってよいものである。文化は人間に独特のもので，動物にはまったくないとされていたが，ニホンザル社会で文化現象が発見され，世界の学界の注目を浴びた。いも洗いに似た行動に麦洗いがある。砂浜にまかれた麦を1粒ずつ食べるのは，能率も悪いし砂が混ざっていてまずい。そこで麦と砂をいっしょにかき集め，手で運んで水の中へ投げ入れてから食べることを発明したのである。水に洗われて麦はたいへん食べやすくなる。この行動も1頭のサルが発明し，群れのサルに伝わっていき，文化として群れに定着した。また，幸島のサルは，1958年までけっして水にはいらなかったが，1959年に1頭のサルが海にはいるようになり，いまでは全員が海へはいるようになった。コドモたちは，夏の暑い日には海に飛び込んだりもぐったりして，水遊びに興ずるようになっている。こうして，水にはいる行動は，幸島の群れの文化となった。

長野県地獄谷のサルが温泉へはいる行動や，犬山市大平山のサルがたき火にあたる行動も，同じように文化的行動といえるが，このような行動を始めるのは，必ずコドモである。そして，幸島では年寄ったサルは保守的で，ついに新しい行動を身につけなかった。水にはいるといった容易な行動も，リーダーたちはけっしてしなかったのである。

食性にも文化現象がみられる。カキやクリはたいていのサルは好物だが，石川県白山のカムリの群れはどちらも食べない。ところが隣のタイコの群れは大好きである。カムリの群れには，カキやクリを食べるという伝統的習慣がないのである。なにを食べるかといったことも群れの文化であって，これらはアカンボのときから学んでいくのである。食習慣が文化だということは一見奇異に聞こえるが，日本人がナマコを好むのに欧米人は食べないということなどは民族の文化によるものであることから類推すると，サルの文化の内容も理解しやすいであろう。

【コミュニケーション】ニホンザルの音声は37種あり，アカンボの声や細かいニュアンスを区別すると70〜80種になる。ニホンザルは〈キャッ・キャッ〉と鳴くといわれているが，これは悲鳴で，ニホンザルの代表的な声とはいいがたい。山の中でよく聞くのは，〈ホイー，ホウ〉という鳥に似た透明な声だが，これはお互いに呼び交わす声である。〈ガ・ガ・ガー〉は攻撃・怒り・牽制(けんせい)を現わし，〈クァン，カン〉は警戒のための鋭い声である。音声を分類すると，グルーピングに関するもの(10)，外敵への警声(6)，リーダーとフォロワーに関するもの(7)，順位に関する声(4)，性に関する声(4)，アカンボの代表的な声(6)である。ニホンザルは以上の音声を自由に使ってお互いにコミュニケーションを行なっている。しかし，これは言語とはいえず，シグナルの段階に止まるものである。シンボルとしての機能はもっていないからである。

音声のほかに，行動によるコミュニケーションがあり，音声伝達よりも，行動伝達のほうが複雑で発達しているのではないかと思われる。表情もかなり豊かで，怒り・恐怖・喜び・困惑などを読みとることができる。しかし，チンパンジーにみられるような笑いの表情はない。その他，しっぽの動きや行動によるコミュニケーションも豊富である。順位の項であげたマウンティングやグルーミングはシンボリックな色彩をもち，内容的に音声伝達より高度なレベルにあるといえる。〔河合雅雄〕

をもつ。本社東京。資本金335億円，年間売上高2兆7,133億8,500万円，従業員数2,960(1980年9月)。

にほんせんしゅきょうかい【日本船主協会】 日本の船主が集まってつくっている全国単一の社団法人。1947年(昭和22)に設立された。会員は253社(1972年2月)，本部は東京，阪神(はんしん)(神戸(こうべ))・南部(北九州)に事務局がある。海運業に関する調査・研究，事業活動の促進を目的とする。

にほんせんばいこうしゃ【日本専売公社】 たばこ・塩の国家的専売事業を行なう公法上の法人。日本国有鉄道・日本電信電話公社とともに公共企業体の一。1949年(昭和24)大蔵省専売局から独立した。資金は政府の全額出資で，役員として総裁・副総裁・理事・監事を置き，事業計画・資金計画などについては内閣の決定を必要とし，大蔵大臣の監督を受ける。現在専売公社はもっぱら国庫収入への寄与を目的としており，公共企業体の使命である公益性と能率性に乏しいため，私営化が望まれている。なお,従来公社が扱ってきた樟脳(しょうのう)の専売事業は1962年解除された。〔寺尾方孝〕

にほんたいいくきょうかい【日本体育協会】 スポーツを振興し国民の体力の向上とスポーツ精神の涵養(かんよう)とに資することを目標として，37競技団体と地方体育協会などで構成されている団体。1911年(明治44)，オリンピックに参加するため，嘉納(かのう)治五郎が中心となって，東京帝国大学・東京高等師範学校・早稲田(わせだ)大学・慶応義塾(ぎじゅく)大学・明治大学・第一高等学校の有志が集まって創設され，はじめは大日本体育協会と称した。1925年(大正14)に競技団体を中心にした組織に改組され，さらに1942年(昭和17)には総理大臣を会長とする政府の外郭団体となり，名称も大日本体育会となったが，第2次世界大戦後これまでの規約を再び改めて，日本体育協会(略称体協)と改称し，アマチュア-スポーツ団体の姿にもどった。現在は東京都渋谷(しぶや)区神南町25に置かれ,体協内には日本オリンピック委員会・国民体育大会委員会など14の常設委員会があって，加盟競技団体・地方体協から各1人の評議員が出て，会長・専務理事・理事を選出し運営にあたっている。おもな事業は，オリンピックなどへの選手派遣，国民体育大会の開催，各種競技選手の強化，スポーツ少年団の育成，施設と資材の研究・調査など。〔浮田裕之〕

にほんだいがく【日本大学】 私立大学。1889年(明治22)，山田顕義によって設立された日本法律学校が，1920年(大正9)大学令による大学となり，1949年(昭和24)新制大学となった。現在，わが国最大の総合大学として，11学部，大学院10研究科，大学専攻科2科をはじめ，通信教育部4学部，短期大学部10科のほか，科学技術・原子力・精神文化・総合科学・教育制度・国土開発・国際の各研究所，25の付属高校などを擁している。本部は東京都千代田区西神田。

にほんたいしゅうとう【日本大衆党】 1928年(昭和3)12月日本労農党を中心に日本農民党・無産大衆党・中部民衆党・九州民憲党など7党が合同して結成した無産政党。党内紛糾が絶えず，1929年5月に右派の平野力三，左派の鈴木茂三郎・黒田寿男(ひさお)らを除名し，同年6月委員長麻生(あそう)久，書記長河野(こうの)密を選出。失業反対・借家人運動などを指導した。1930年7月全国民衆党などと合同全国大衆党へ発展した。

にほんだいら【日本平】 静岡県清水(しみず)市の南西に位置する有渡山を中心とする県立公園。広がる茶畑，三保ノ松原，清水港，駿河(するが)湾の上に望む富士など，日本の代表的風景を展望する地として知られる。展望台・ロープウエーなどの施設もととのい，静岡市・清水市からバスの便もよい。

にほんたんこうろうどうくみあい【日本炭鉱労働組合】 略称炭労。日本労働組合総評議会(総評)に加盟する炭鉱労働者の全国組織。1947年(昭和22)創立の炭鉱労働組合全国協議会(炭協)を前身として，1950年結成された。石炭産業の斜陽に伴う合理化・人員整理をめぐって，1952年の長期スト，1953年の三井鉱山労組連合会ストとあいついで闘争を展開し，1960年には組合員20万を擁したが，1959〜1960年の三池闘争後しだいに勢力を減少した。1978年現在組合員数約18,000。〔木元錦哉〕

にほんちゅうおうひょうじゅんじ【日本中央標準時】 日本標準時，または中央標準時ともいう。明石(あかし)市(兵庫県)の付近を通る東経135°の地方平均太陽時のこと。日本中央標準時はグリニッジ標準時より9時間進んでいる。1886年(明治19)の勅令によって1888年1月1日から実施今日に至る。

日本中央標準時は東経135°の子午線をもとにして決まるので，12時に平均太陽が南中するのは東経135°上だけであり，明石より西では平均太陽の南中は12時よりあと，東では12時よりまえである。たとえば，平均太陽が長崎市(長崎県)を南中するのは中央標準時12時20分，根室市(北海道)を南中するのは11時18分である。〔木下　宙〕

にほんちゅうしょうきぎょうだんたいれんめい【日本中小企業団体連盟】 略称日中連。日本の中小企業の代表的指導団体。第2次世界大戦の商工協同組合中央会が，戦後ＧＨＱの占領政策により解体，1948年(昭和23)3月日本中小企業連盟という代行機関を創設，1952年それを現在の名称に改め，大企業との利害不一致を理由に，当時所属していた経済団体連合会から脱退した。組織は，府県別・業種別，そして中小企業の会社・個人・協同組合などの各グループに分かれている。現在，日本中小企業政治連盟(1956年結成)と中小企業の勢力を二分する。〔原　豊〕

にほんちょさくけんきょうぎかい【日本著作権協議会】 1949年(昭和24)6月，著作権の所有者と使用者の協議機関として設立された社団法人。著作権と著作権使用者の権利の確立擁護，著作権所有者と著作権使用者の関係の調整などを目的としており，著作権台帳の発行などを行なう。会員のほか一般人の相談に応じたり，紛争の処理にあたっている。

にほんつううん【日本通運(株)】 わが国最大の運送会社。自動車・航空・海運・倉庫などを総合して一貫輸送体制を確立し，国内貨物輸送の60%を扱う総合流通企業。江戸時代の飛脚問屋を前身に，1872年(明治5)創業，その後内国通運・国際通運と社名を変え，1937年(昭和12)日本通運株式会社法の制定で特殊会社の日本通運となり，第2次世界大戦中は輸送業者の一体化に努め，戦後は同法の廃止で，純民間企業として再出発した。それとともに観光業務部門を拡大，さらに海外事業にも進出し，アメリカ日通などを設立して，アメリカ最大の運送業者ＵＣＤＣ(ユニバーサル-カーローディング-アンド-ディストリビューティング)と業務提携し，国際輸送の元受け業務を始めた。荷造り包装・荷役・保管などの分野での近代化・合理化を図る一方，貨物輸送のコンテナ化にいちはやく着手するなど，流通革命のにない手となって物的流通の推進に努めている。資本金489億1,900万円，年間営業収入6,707億8,200万円，従業員数59,984(1980年9月)。

にほんテリア【日本テリア】 明治から大正にかけて関西でできた小形愛玩(あいがん)犬。被毛は非常に短く，1mm内外。祖先は短毛のフォックス-テリアで，形態も酷似している。体高は28〜33cmくらい。→イヌ

にほんテレビほうそうもう【日本テレビ放送網(株)】 略称ＮＴＶ。わが国テレビ放送の草分けである民間放送会社。1952年(昭和27)，わが国初のテレビ放送免許を得て正力松太郎が創設。1953年から放送を開始し，1959年カラーテレビ放送を本格的に始めた。現在，完全カラー化を目標に設備投資を進めている。また，北九州ＵＨＦ局が認可されて，全国ネットが完備されることになり，民放テレビ界の第一人者として他の民放各社をしのぐ規模を誇っている。資本金45億1,000万円，年間営業収入940億400万円，従業員数1,240(1980年9月)。

にほんでんき【日本電気(株)】 わが国通信・電子機器の最大のメーカー。ＮＥＣのマークで知られる。1899年(明治32)創業以来各種通信機器を製造，1943年(昭和18)住友通信工業と改称したが，1945年再び現社名に復した。第2次世界大戦後いちはやくマイクロ波分野にも進出，通信機の技術革新のリーダーとしての地位を築いた。1951年わが国最初のマイクロウエーブ装置を完成，1958年国産のコンピューター商品第

1号をつくり，コンピューター時代の先端を切った。現在，国産コンピューター生産のトップを占めるほか，データ通信機器などの電子機器部門に力を注ぎ，エレクトロニクス総合メーカーとして発展している。海外での活動も活発でメキシコ・ペルー・クウェート・台湾・オーストラリアなどの宇宙中継地上局の施設を完成した。本社東京，主力工場は東京三田・川崎・府中など。資本金482億6,900万円，年間売上高7,197億7,300万円，従業員数33,436(1980年9月)。

にほんでんしんでんわこうしゃ　【日本電信電話公社】 略称電電公社。国内の電気通信事業を一手に経営する公共企業体*。電信は1870年(明治3)，電話は1889年に官営事業として出発したが，1952年(昭和27)日本電信電話公社法に基づき公共企業体として再発足した。それ以来3次にわたる五か年計画で電話の増設につとめ，人口あたり10%の普及率に達した。組織には事業計画の立案・決定・管理の責任を負う経営委員会，執行機関として総裁・理事などが置かれる。全国に電気通信局(全国11か所)，電気通信部(東京・大阪を除く各道府県)などの地方部局がある。なお，1953年国際通信部が分離して国際通信電話株式会社が設立され，国際電信電話・放送中継などの業務を扱っている。〔寺尾方孝〕

にほんとう　【日本刀】 ⇨刀剣

にほんどうろこうだん　【日本道路公団】 日本全国の有料高速道路および一般の有料道路を建設し，合理的・能率的に経営する目的で創設された公団*。公法上の特殊法人。1956年(昭和31)設立。全額政府出資であるが，それは道路債券や国際復興開発銀行などからの借入金でまかなわれる。現在，名神・東名両高速道路をはじめ，箱根新道・関門トンネルなど一般の有料道路が営業中である。中央高速・九州高速なども建設中。

にほんのうえん　【日本脳炎】 夏季脳炎ともいう。主として7～9月の夏季に流行するウイルス性の疾患で，法定伝染病の一。ヒトのほか，ブタ・ヤギ・ヒツジ・イヌなどにもみられ，特にブタの場合はヒトの感染源をなすものとみられる。種々のカが媒介するといわれるが，ウイルスに感染しても必ずしも発症するとはかぎらない。ヒトに発症する際はウイルスの毒性が高い場合か，過労など個体の条件も大きく作用する。脳*には広範な炎症性変化が見られ，おもに灰白質および髄膜に充血・出血・細胞浸潤が認められる。通常は2日程度の頭痛・めまいなどの前駆症状を経て，比較的急激に，発熱・頭痛・全身倦怠(けんたい)・嘔吐(おうと)・痙攣(けいれん)・髄膜刺激症状が現われ，その間譫妄(せんもう)・不穏・幻覚などの精神症状を伴った種々の意識障害が続く。極期が過ぎると意識障害は徐々に回復し，諸症状も軽快して治癒(ちゆ)に向かうが，重症の場合には死亡率が高く，約30%くらいと推定される。回復期にはいると，障害の程度によって種々の神経衰弱症候群，性格変化，コルサコフ症候群*，不随意運動，眼筋麻痺(まひ)，運動麻痺などの巣症状を発現し，後遺症を残す。パーキンソン症候群(→パーキンソン病)がかなり遅れて出現することもあるが，比較的まれである。軽症の場合は夏かぜ程度で治癒し，髄液の変化，または精神症状のみが現われる不全型も少なくない。その他のウイルス性脳炎との区別は，血中の抗ウイルス抗体の証明による。予防にはワクチン*接種が有効である。発症した場合は特効薬はなく，対症療法*が行なわれる。〔宿谷幸治郎〕

にほんのうえんウイルス　【日本脳炎ウイルス】 アルボウイルスに属し，球状で直径約40mμ，RNAを遺伝子としてもっている。極東地域に分布し，1935年(昭和10)，谷口・笠原(かさはら)らによって分離された。いろいろな培養細胞で増殖させることができる。感受性のある動物は多く，特にウマ・ウシは自然感染して脳炎を起こすことがある。また，ブタは高い感受性を示し，妊娠中に感染すると母体には一般に特別な影響を与えないが，ウイルスが胎児に移行して死に至らせる。予防にはホルマリン不活化ワクチンが用いられる。

にほんのうみんくみあい　【日本農民組合】 略称，日農。わが国最初の農民組合。1922年(大正11)4月に賀川豊彦*(かがわとよひこ)らが中心となって，1918年米騒動以降の小作争議の展開の中で創設された。1925年には支部508，組合員数約50,000に達したが，その後分裂して全国農民組合*が結成された。第2次世界大戦後の1946年(昭和21)2月新しい日農の創立大会が開かれたが，共産党系と社会党系との対立が激化し，のち全農・日農主体性派・日農統一派・日農新農村建設派などに分裂。1958年全日本農民組合連合会*に再統合された。〔応和邦昭〕

にほんのうりんきかく　【日本農林規格】 ⇨JAS

にほんは　【日本派】 新聞《日本》俳壇を発表機関とした俳句流派。子規派・根岸派ともいう。低俗化した俳句の革新を志した正岡子規*は写実主義を主張し，1897年(明治30)に雑誌《ホトトギス*》を創刊，翌年《新俳句》を発行するなど自派の俳句の鼓吹に努めた。その後写生俳句は俳壇の中心となり，大正・昭和に至っている。作家に高浜虚子*・河東碧梧桐*(かわひがしへきごとう)らがいる。

にほんばし　【日本橋】 東京都中央区，日本橋川にかかる橋の名で，広義にはその周辺地区をさし，1947年(昭和22)に京橋区と合併して中央区をつくるまでは日本橋区として独立していた。日本橋は，徳川家康(いえやす)が将軍に任じられた1603年(慶長8)に架橋され，日本を代表する橋という意味から命名されて，五街道をはじめとする諸街道の里程の起点となった。現在のコンクリート造りの橋は，1911年(明治44)にかけ替えられたもので，そのとき橋の中央に道路元標がつくられた。現在は橋の上を高速道路4号線が直交している。道路元標は交通量の増加とともに，じゃまもの扱いにされ，1971年9月建設省の手で撤去されたが，代わりにはめ込み式の新しい元標がつくられている。周辺地区は，中央区の北半で，江戸時代から町人町として繁栄し，いまも日本の代表的な商業地区である。日本橋通りから室町にかけては，三越・東急・高島屋などのデパートや老舗(しにせ)の小売店が集まり，室町の西は日本銀行を中心とする銀行街を形成する。東部には証券会社の集まる兜(かぶと)町や繊維・雑貨の問屋街である堀留町・横山町などがある。〔浅井得一〕

にほんびじゅついん　【日本美術院】 美術団体。毎年9月に公募される展覧会は院展と称され，日本画のみによっている。1898年(明治31)3月，東京美術学校長を退いた岡倉天心*を盟主とし，進退をともにした橋本雅邦を主幹に，横山大観・下村観山・菱田(ひしだ)春草ら26名を正員として同年7月結成。新日本画の開発をめざし，同年10月第1回展を開き，以後毎年春秋2回東京で展覧会を開催。下谷(したや)谷中(東京)に研究所を設置して後進の養成に努め，機関誌《日本美術》を発行し，美術の普及にも努めた。その後，1906年12月東京の研究所を撤廃し，同人4名は天心と茨城県五浦に退いて研鑽(けんさん)に専念した。1913年(大正2)9月天心の病没を期として，院の再興が期され，翌年9月谷中上三崎南町に院舎を起こし，10月日本橋三越に再興院展の第1回展を開いた。横山大観・下村観山・木村武山・安田靫彦(ゆきひこ)・今村紫紅が発足時の同人であり，洋画部・彫刻部をも設けた。1920年洋画部，1951年(昭和26)彫刻部は解消。小林古径(こけい)・前田青邨(せいそん)・速水(はやみ)御舟・富田溪仙(けいせん)・小川芋銭(うせん)・川端龍子(かわばたりゅうし)らの優秀作家を多数輩出させ，近代日本画壇をつねにリードしてきた。〔匠　秀夫〕

にほんフィルハーモニーこうきょうがくだん　【日本フィルハーモニー交響楽団】 NHK交響楽団・読売日本交響楽団とともに日本の代表的なオーケストラ。1956年(昭和31)に創立。常任指揮者は渡辺暁雄(1956～1968)，小沢征爾(せいじ)(1968～)がつとめ，楽団員はおよそ90名。1964年には大規模なアメリカ演奏旅行を行ない称賛を博した。1972年7月二つのオーケストラに分裂。

にほんぶっきょう　【日本仏教】 日本へ仏教が公に伝わったのは，538年(宣化3)で，百済(くだら)の聖明王が仏像・経典および僧をわが国へ贈ったのに始まるとされる。その後，仏教は日本人の生活にさまざまな影響を与えてきたが，その歴史は大きく3期に分けられる。

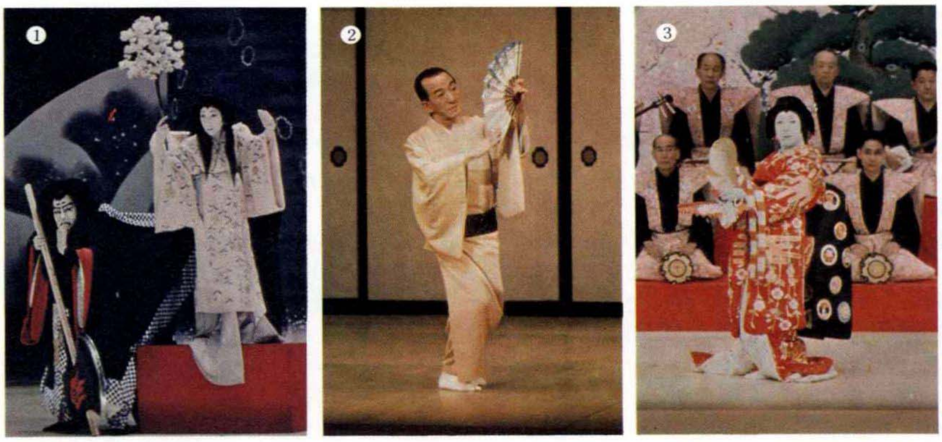
〔第1期〕仏教の伝来から平安時代に至る

古代仏教といわれる時期で，いわば仏教の受容時代である。当初，仏教の受容をめぐって有力な豪族の間に争いも生じたが，しだいに朝廷をはじめ，上層階級に浸透していった。特に仏像などがもっている美的・情緒的ふんい気のゆえに，儒教より普及しやすかったが，その理解の程度はきわめて低いものであった。このような状態の中で，仏教を深く研究し，その思想を政治理念の根底にすえようとしたのが聖徳太子(しょうとくたいし)である。太子の著作とされる《三経義疏(さんぎょうぎしょ)》には太子独自の解釈が示され，仏教理解の深さを知ることができる。しかし，仏教がわが国に本格的に受容されるようになったのは，奈良時代における南都六宗の成立以後である。これらの宗派は学問研究を目的とする学派という性格が強く，仏教の知的理解が重んぜられ，独自の思索を展開するまでには至らなかった。また，現実面においては，国家仏教として鎮護国家や病災害の消滅を祈願する呪術(じゅじゅつ)的行為を中心としていた。

この傾向は平安時代の真言・天台二宗にも受け継がれ，最澄や空海は大陸に学び，新しい仏教に接しつつ，すぐれた思考力をもって仏教の諸思想を統一し，総合的な思想体系をうち出したが，他方では呪術性の強い加持祈禱(かじきとう)が重んぜられていた。

〔第2期〕鎌倉新仏教の成立に始まり，中世・近世を含む時代である。古代仏教は，そのよりどころとしていた律令(りつりょう)体制の崩壊とともに，行きづまっていった。その混乱の中から，法然・親鸞(しんらん)・道元・日蓮(にちれん)らに代表される鎌倉仏教が成立した。彼らはほぼ同じ時代，同じ場所(比叡(ひえい)山)で仏教を学び，法然と親鸞が〈念仏〉，道元が〈禅〉，日蓮が〈唱題〉と，ともに単純化された道を選んだ点において共通している。このような仏教の単純化は，従来の学問的仏教に対して実践的仏教の誕生を意味すると同時に，仏教の民衆化を促進した。彼らはそれまでの僧侶(そうりょ)たちと異なり，大陸から受容した仏教を知的に理解するだけでは満足せず，当時の社会的苦悩を背景に，いかに生くべきかを求めて仏教と取り組んだ。その意味で鎌倉仏教は，はじめて日本人の体験と思索の中から生まれた仏教であるといえよう。

その後，わが国の仏教は鎌倉仏教の諸宗派を中心に展開し，日本人の生活文化に大きな役割を果たしたが，成立当初の新鮮さはしだいに失われていった。特に江戸幕府は封建体制の中に仏教を組み入れ，これを保護するとともに寺院や僧侶の勢力を支配・統制し，幕府の政策を遂行するためにこれを利用した。また他方においては仏教の学問研究を奨励したため，諸宗で教理の研究が活発になったが，一部において活気のある議論がなされたものの，訓詁(くんこ)学的な方向におもむくものが多かった。



日本舞踊　①歌舞伎舞踊の中の代表的大曲《積恋雪関扉》 古風な扮装と衣装の大伴黒主(8世松本幸四郎)(左)と墨染桜の精(6世中村歌右衛門)　②座敷芸のおもかげを残す上方舞の《いざや》(楳茂都陸平)　③《京鹿子娘道成寺》のはなやかな舞台面。後方の出囃子をしている長唄囃子連中と，白拍子花子(7世尾上梅幸)

〔第3期〕明治維新から今日に至るまで，一般社会の近代化への歩みにつれて，仏教界においても，不徹底ではあったが，近代化への努力がなされた時代である。江戸幕府の支配下にあって，比較的安泰を保っていた仏教も，文明開化の波に無関係でいることはできず，危機意識と革新への意欲とが混じり合って，新しい動きを起こした。この危機意識は廃仏毀釈(はいぶつきしゃく)を代表とする国粋主義の台頭などに対する護教運動から出発したものが多く，各教団の復興とともに消えていった。このことは，仏教の復興運動が，当時の民族意識と護教精神との結合の中から発生したものにすぎないことを示している。もちろん，社会の急速な変化に応じて近代化への試みもある程度進められた。島地黙雷の政教分離運動，福田行誡(ぎょうかい)や釈雲照の復古主義，清沢満之(まんし)の精神主義，渡辺海旭(わたなべかいきょく)・高島米峰らの〈新仏教〉運動などがそのおもなものであるが，いずれも不徹底で，仏教界の近代化を進めるにはあまり大きな力とはなりえなかった。しかし，これらの動きの中で注目しなければならないのは，近代的仏教学の成立で，これによって仏教が客観的・科学的に研究されるようになった。従来の伝統的な仏教研究が，多くの場合各宗派の教理体系の確立とその高揚，教団における宗教儀礼の研究などに力点をおいて，客観的真理の追究や学問的な批判精神の確立には関心を示さなかったのに対し，西洋近代の学問に影響された新しい仏教研究は，仏教自体に新しい思想や信仰，現代に適応した仏教の解説を可能にした。しかし，このような仏教研究の新しい姿も，単に学問研究の領域内にとどまり，新しい仏教運動や仏教団体の形成にまで至っていない。この点が仏教界の今後に残された大きな課題である。〔奈良博順〕

にほんぶどうかん　【日本武道館】　第18回オリンピック東京大会を機会に，1964年(昭和39)皇居北の丸公園内(東京都千代田区代官町)に，わが国の伝統的武道の殿堂として建設された建物。外観は法隆寺夢殿をかたどった正八角形で，地下2階，地上3階，高さ42mの雄大なもの。収容人員は約15,000人(うち固定席約10,600)。現在，柔道・剣道その他の催し物のほか，各種の武道教室が開かれている。

にほんぶよう　【日本舞踊】　邦舞ともいう。西洋舞踊と，その亜流による創作舞踊に対して用いることば。広義では，わが国に古代から現代までにできた神楽(かぐら)・伎楽(ぎがく)・舞楽・能・民俗舞踊ほか，すべての舞踊をさす。しかし一般には，江戸時代に生まれた歌舞伎(かぶき)舞踊と上方舞，それらを基礎にした新舞踊に限っていう。

〔沿革〕17世紀の初め，出雲(いずも)の阿国(おくに)の創始した〈かぶき踊り〉に始まる。歌舞伎は当初，踊りが主だったが，のちに演劇的発展を遂げ，舞踊は歌舞伎に包含されて，ともに発達した。それを歌舞伎舞踊と称し，長唄(ながうた)・常磐津節(ときわずぶし)・清元節・義太夫節(ぎだゆうぶし)などの江戸時代にできた音楽を使い，先行の舞踊の要素をとり入れて集大成した。また19世紀にはいって，京阪(けいはん)に地唄をおもに伴奏とし，劇場とは比較的縁の薄い舞踊が生まれた。上方舞・京舞・地歌舞といわれ，歌舞伎舞踊とともに，現在の日本舞踊の中の古典舞踊となっている。明治時代になっても，歌舞伎舞踊の内容はそれほど変化がなかったが，1904年(明治37)坪内逍遙(しょうよう)の《新楽劇論》を契機に新舞踊運動が興り，西洋舞踊の影響を受けた新しい舞踊の上演が盛んになった。それを新舞踊または新作舞踊と称し，現在の日本舞踊の中で重要な位置を占めている。

踊り手は，江戸時代から明治時代までは歌舞伎俳優が主だったが，大正時代以後，専門舞踊家の地位が確立した。第2次世界大戦後は，俳優の舞踊は古典のくり返しが

→377ページ

日本文学

〔日本文学の特色〕日本は，現代文明国のどれよりも古い文化の伝統を，均質的な人種性によって維持してきた。そして宗教的・科学的であるよりも芸術的な国民性と，温帯の島国にしかない季節ごとの自然の変化によって，自然に強い親近性をもつ芸術的感覚を育てた。日本文学の基調は，西洋人からシンプル・プレーン・ナチュラル・モデレートなどと評されるが，だいたいにおいて現実的で，観念的な深刻さや神秘性にほど遠く，日常の素朴（そぼく）な生活体験に密着する傾向が強い。さらに，日本語のきわめて単純な音節組織とアクセントの貧弱，韻律性の弱さなどが，和歌*・俳句*といった短詩形をみごとに結実させた。長詩形には成功をみせない代わりに，10世紀にすでに散文物語を発達せしめた。近世(江戸時代)に至るまでは，和歌が表だった芸術様式の随一で，物語類は正統の文芸と考えられず，作者も自作に署名することはなかった。江戸時代以後は俳諧（はいかい）が和歌から派生した。散文小説が文芸の中心となったのは明治以後であるが，今日でも短歌や俳句をつくる人の数はきわめて多く，国民の広い文学的素質を証明している。

〔古代文学〕政治の中心の所在によって，大和（やまと）時代文学と平安文学とによって前・後期が画される。大和時代の日本は，大陸の進んだ文化を摂取するのに熱心だった。固有の文字をもたないところから漢字で文学を表現した。純文学の作品としては，《古事記*》《日本書紀*》の歌謡，《万葉集*》の長歌・短歌・旋頭歌（せどうか），漢詩文集《懐風藻*（かいふうそう）》などによって代表される。記紀歌謡*は口承された作者不明のものである。《万葉集》にも作者不明の作品が多いが，わかっている作者としては天皇・皇后から乞食（こじき）・遊女に至る一大国民歌集で，柿本人麿*（かきのもとのひとまろ）をはじめ，山上憶良*（やまのうえのおくら）・大伴旅人*（おおとものたびと）・山部（やまべ）赤人*・高橋虫麻呂（むしまろ）・大伴家持*（やかもち）など個性の強い大歌人が数えられる。いずれにせよ西欧諸文明国の叙情詩が12世紀をさかのぼりえないのに対し，8世紀にこの一大叙情歌集をもち得たことは日本文学の誇りである。和歌の形式はこの時期に定着したが，長歌・旋頭歌は《万葉集》を絶頂とし，後は衰退した。

平安時代は貴族文化の時代で，藤原（ふじわら）氏が権力を独占し，文化をにない享受したのは貴族階級であって，中流以下はあずからない。地域的にも狭い京都とその周辺に限られた。9世紀から10世紀の初めにかけては，前代に続き大陸文化の摂取時代であり，固有の文化は影を潜めた。漢詩文の制作は男子の教養として時代を通じてすたらず，《白氏文集*（はくしもんじゅう）》《文選*（もんぜん）》は聖典のような扱いを受けた。9世紀中ごろには漢字の草体，あるいは略体としての平がな・片かなが用いられ，前者は特に女性文化の創造のうえに大きい影響を与えた。10世紀初頭の《古今和歌集*》の勅撰（ちょくせん）とともに日本固有の新文化創造の機運が起こった。この歌集は江戸時代までの和歌の典範となったもので，在原業平（ありわらのなりひら）らの六歌仙*（ろっかせん）時代から，選者の紀貫之*（つらゆき）らの時代までを含む。《万葉集》の雄勁（ゆうけい）で直線的なのに対し，観念的・曲線的で，優雅・流暢（りゅうちょう）である。かなは歌のみでなく，貫之の《土佐日記*》に用いられたのをはじめ，10世紀以降散文の物語・日記・紀行類が続出した。《伊勢（いせ）物語*》に始まる歌物語，《竹取物語*》を筆頭とするつくり物語の2系統は，《宇津保物語*》《落窪（おちくぼ）物語*》を経て，平安期物語の大分水嶺（ぶんすいれい）というべき紫式部の《源氏物語*》を生んだ。貴族生活の理念とした物の哀れを具体化した最高の秀作であり，以後の物語に及ぼした影響も圧倒的である。一方，ノンフィクションの日記・随筆類にも《蜻蛉（かげろう）日記*》《和泉（いずみ）式部日記*》《更級（さらしな）日記*》などがあるが，清少納言の随筆《枕草子*（まくらのそうし）》を随一とする。11世紀後半にはいり，藤原氏が退勢にはいるとともに，貴族文化も下り坂になり，彼らの理想とした哀れやみやびにも暗い陰が落ちる。この時期に，《栄花物語*》《大鏡*》の歴史物語，《今昔物語*》などの説話集が生まれ，後者には，はじめて武士や庶民の生活が大写しに出てくることが注意される。同じく庶民の生活感情は《梁塵（りょうじん）秘抄*》に集められた歌謡にうかがわれる。

〔中世文学〕前期は鎌倉，後期は室町時代であるが，この時期には貴族が没落して政権は武士に帰した。しかし彼らの知能は低く，鎌倉時代の文化は依然として貴族，貴族の脱落者，僧でもなければ俗でもない隠逸者および僧侶（そうりょ）によってになわれる。室町時代にはいると，武家や京都の五山を代表とする禅僧社会が登場し，末期には民間や身分の低い僧侶がわずかに維持するいわゆる下克上の現象が現われた。古代以来仏教が渡来し，平安期には仏教が思想文化の基調となったが，この時代に興った新仏教は，前代の貴族仏教に対して庶民のための法を説き，積極的な新精神を鼓舞した。この新仏教は武士精神の広がりと相伴って，神仏中心より人間中心の社会に移行する原因をなした。前期の貴族文学としては《新古今和歌集*》に藤原俊成*（としなり）・定家*（さだいえ）および西行*らの名手が結集し，古典和歌の最後の光彩を放った。別に万葉調を生かした《金槐（きんかい）和歌集*》の源実朝（さねとも）も特記すべきである。随筆には鴨（かも）長明の《方丈記*》と，兼好の《徒然草*（つれづれぐさ）》が典型的な隠者文学としてあげられる。以上は前代にも存在した諸様式であるが，この時代を代表する新様式の一に軍記物語*がある。壮大な悲劇的事件であった保元・平治の乱を主題とした《保元物語*》《平治物語*》に始まり，《平家物語*》に大成したが，《平家物語》は平曲として琵琶（びわ）に合わせて語られ，広い範囲の読者や聞き手をもつことになった。下って南北朝の争乱を材にした《太平記*》，英雄伝記物語として義経（よしつね）伝説を集成した《義経記*（ぎけいき）》，曾我（そが）兄弟のあだ討ちの《曾我物語*》があり，ともに後代に大きな影響を残した。中世第2の新様式は劇文学としての能*・狂言*である。能の起源は平安時代にあるが，歌舞と物まねの総合による能を完成したのは，観阿弥*（かんあみ）・世阿弥*の父子である。特に世阿弥は足利（あしかが）幕府の最盛期たる北山時代を背景に，幽玄を最高原理として，作者・能役者・能楽謡の三面に才能を発揮した。能に伴う狂言は室町時代の日常生活や世相にふれ，庶民の立場からの明るい笑いを大名・僧・山伏らに浴びせている。新様式の第3は連歌*である。初めは庶民や武士たちのすさみであったが，二条良基（よしもと）の選した《菟玖波集*（つくばしゅう）》が勅撰に準ぜられ，また方則ができて連歌道を樹立した。そののち心敬*が出て枯淡・閑寂の境地を志し，最後に宗祇*（そうぎ）が連歌を全国に広げた。その門人肖柏（しょうはく）・宗長とともに編んだ《水無瀬（みなせ）三吟百韻*》は連歌の模範とされる。以上の本連歌に対して，滑稽（こっけい）を主とする俳諧の連歌が，山崎宗鑑の《犬筑波集*》に始まった。新様式の第4は御伽（おとぎ）草子*と称する短編小説で，文章の中に絵をはさみ，低級だが庶民に親しまれ，近世の仮名草子*を生む過渡的地位に立った。

〔近世文学〕近世は士農工商の階級制度の固定した封建社会だが，太平が久しく続き，教育も比較的行き渡ったため，文化享受者は前代よりはるかに広くなった。徳川幕府は儒教をもって支配階級たる武士の思想的背景としたが，この感化は町人にも及び，義理の理念を植えつけた。新文芸創造に積極的に参加したのは武士ではなく町人である。近世文学前期は京阪（けいはん）を中心とした上方文学*で，元禄（げんろく）時代を絶頂とする。後期は文化の中心が江戸に移動し，世に江戸文学*の時代と称される。最も早く近世を表現した文芸は俳諧で，町人精神の自由はつらつたる新傾向は談林俳諧*の俳風を開いた。ここから出て，中国の杜甫（とほ）の詩，西行の歌，宗祇の連歌などの伝統に詩趣を見いだし，さび・しをりの理念をうち立てたのが芭蕉（ばしょう）であって，その《猿蓑（さるみの）》を絶頂とする《俳諧七部集*》は秀作

を集めて古今に独歩する。次に散文では，通俗的な教訓を主とする仮名草子に始まったが，町人を対象とするしんの近世小説，浮世草子は西鶴(さいかく)によって創始され，金と色とにうごく人生の諸相を鋭く観察し，解剖した《好色一代男》《世間胸算用》はそれぞれ好色物・町人物の代表作であるが，長編の形式はとりながら，実は短編の集成とみるべきである。彼ののちには江島其磧(きせき)が出て八文字屋本に世相を映し，西鶴の衣鉢(いはつ)をつごうとしたが，型が目だってとうてい西鶴には及ばない。俳諧の芭蕉，小説の西鶴に比すべき元禄の三幅対は，劇詩というべき浄瑠璃(じょうるり)における近松門左衛門(もんざえもん)である。浄瑠璃は中世後期から語られたが，新しく渡来した三味線(しゃみせん)を伴奏とし，人形をもこれに伴わせて舞わせた人形浄瑠璃は，初めは江戸で流行した。やがて竹本義太夫(ぎだゆう)が出て作者の近松と手を握り，ここに浄瑠璃の完成をみた。彼の主題としたのは義理と人情との葛藤(かっとう)であるが，人を恍惚(こうこつ)夢幻の境地に誘い込む叙事詩人としては前後に比類がない。《心中天の網島》《冥土(めいど)の飛脚》などがその傑作である。彼はまた歌舞伎(かぶき)脚本の作者としてもすぐれていた。近松に次いで紀海音があり，やがて人形の構造や舞台装置の進歩，演出上のくふうが発達して竹田出雲(いずも)の活躍期にはいり，人形芝居は全盛期に達した。しかし浄瑠璃作品としては人間性や真実性が脚色のために犠牲にされる傾向が強くなった。《菅原伝授手習鑑(すがわらでんじゅてならいかがみ)》《仮名手本忠臣蔵》などは出雲を中心とした合作で，全浄瑠璃中の代表的作品である。出雲のあとには近松半二がいる。歌舞伎の盛行はむしろ後期の江戸文学に属するが，そのはじまりは慶長年間(1596～1614)に出雲の阿国(おくに)が京都に出て技芸を見せてからで，その名のように歌舞を主とするものであった。元禄期には上方に坂田藤十郎(とうじゅうろう)，江戸に市川団十郎が出て，前者は世話もの，後者は荒事を得意とした。やがて浄瑠璃の院本は歌舞伎の脚本とほとんど共通するようになったが，前期の終わりごろは人形劇の全盛期で，歌舞伎は一時完全に圧倒された。

後期は文化・文芸の中心が江戸に移ったが，この時期には封建社会の矛盾が歩を進め，武士対町人の勢力交替，武士階級の自壊作用は時を追って深刻となる。町人は封建治下の重圧によって前期のはつらつたる精神を失い，強い生活意欲を欠いた。そうして現実からの逃避を笑いと遊びに求めた結果，軽妙・辛辣(しんらつ)なうがちによって世相人情の機微を皮相な視野からつくにとどまった。この期は理論的・学問的・教化的傾向が庶民の間に流れた。荻生徂徠(おぎゅうそらい)が修辞の学を唱えたのがこの勢いを助長し，風流の文人を出すとともに，中国の小説の研究・翻訳が盛んに行なわれた。徂徠に応じるように，国学にも賀茂真淵(まぶち)・本居宣長(もとおりのりなが)らが出て復古思想を力説するに至った。この時代の新様式は，黄表紙・洒落本(しゃれぼん)・川柳・狂歌・狂詩・狂文などの軽文学で，淡泊・洒脱で，茶気のある江戸気性を反映している。黄表紙は絵と文章を組んで時事のあてこすりとナンセンスをねらいとし，洒落本は遊里を世界に，男女の会話を主として廓(くるわ)内外の生活を写したもので，両者を兼ねて代表する作家は山東京伝である。川柳・狂歌・狂詩・狂文は結局，黄表紙・洒落本と同じ土壌(どじょう)に根ざした変わり色の花であった。これらの諸様式が江戸を中心に発達したのに対し，全国にわたって行なわれたがしだいに平板卑俗に陥って元禄期の面目を失っていた俳諧は蕪村(ぶそん)を中心として復興の気運をみた。これは徂徠や真淵の復古運動と並行して，元禄の蕉風俳諧に帰るのを理想とした。芭蕉時代に比べて句境が広く，小説的・人事的・古典的な色彩に富んでいる。蕪村没後の異色俳人としては一茶がある。俳諧は文化・文政のころ職業俳人が都鄙(とひ)に満ち，大衆の間に行なわれたことは空前であったが，その一面俗化して月並俳諧におちた。浄瑠璃はこの期にはいって発展の極に達したが，この間あれどもなきがごとしといわれていた歌舞伎界は，浄瑠璃のあらゆる要素を摂取して新しい展開を示した。作者に桜田治助・並木五瓶(ごへい)らが出て江戸歌舞伎を確立したが，そのあとに出て個性の強い作劇術により世話狂言を大成したのが鶴屋(つるや)南北で，代表作には《東海道四谷(よつや)怪談》がある。奔放に怪奇と悪の跳梁(ちょうりょう)を許し，血みどろな悪夢と荒唐な笑いによるデカダンスの芸術を創造した。南北のあとには河竹黙阿弥(もくあみ)が出て幕末から明治にかけての最後の名歌舞伎作者となった。この期の小説のうち最も早く現われたのは読本で，上方に建部綾足(たけべのあやたり)・上田秋成らが先頭し，特に秋成の短編集《雨月物語》は中国の怪異小説を翻案したものが多いが，独自の感覚によって鬼気迫る迫真性をおび，独得の風格がある。続いて江戸に平賀源内が出て滑稽本の祖となった。読本は寛政以後勧懲主義が高唱されると，主として近古時代に資料を求め，忠孝の観念や武士道の精神を旨としたが，その代表作家は滝沢(たきざわ)馬琴である。《椿説弓張月(ちんせつゆみはりづき)》《南総里見八犬伝》などの大作により精力的な業績をあげた。読本と合わせ見るべきものに，婦人や児童を対象とし，絵によって筋の発展を説明した合巻がある。これは柳亭種彦(りゅうていたねひこ)の《偐紫田舎源氏(にせむらさきいなかげんじ)》を代表作とする。また，当代の世相人情を写した現代小説としては人情本と滑稽本をあげねばならない。人情本は男女の痴情を写すことを目的とし，為永(ためなが)春水の《春色梅児誉美(うめごよみ)》が最も評判が高く，固苦しい読本にあいた読者を喜ばせた。滑稽本は日常平凡の生活を材料とし，庶民の言語動作をありのままに写しつつ，自然に生じる笑いをめがけた。式亭三馬の《浮世床》《浮世風呂(ぶろ)》はその種のものである。十返舎一九の《道中膝栗毛(ひざくりげ)》となると，軽妙で自然なこっけいより，構えたくすぐりや誇張からきた笑いが強くなる。これら江戸末期の諸様式のうち，読本は近代文学における大衆文学の原型であり，人情本は近代小説の根底をなす形式を定めた。

〔近代文学〕明治維新によって新しい市民社会の幕があげられた。封建体制が崩壊したのち，明治の新時代は，政治においては民主主義の方向をめがけ，思想的には自由主義に向かって発展し，経済上には資本主義の成長に沿って進んだ。維新以後の文化の特色としては急速に西洋文明を吸収し，昨日までの旧体制から脱皮をはかった結果，東アジアにおける最初の立憲政治を施行し，人民参政の実現をみたことにある。その進展が早足であったため，半封建的な諸性質は随所に残存し，形式上の近代化は実質的な近代化を十分に伴いえなかった。文芸の上にもそのあとが見える。しかし，階級が撤廃され，教育が普及したため，文芸・文化をになうブルジョアジーの層はあつくなった。ことにジャーナリズムの普及によって，文芸が生活の資となるとともに人生における文芸の意義や作家の位置が向上し，前代の戯作(げさく)とは面目をことにする自覚が高まった。そうした新しい文芸観をはっきりうち立てたのが，坪内逍遙(しょうよう)の《小説神髄》であり，以後文芸の諸ジャンルの中で小説を中心とすること，小説は世態人情の写実を主眼とするという方針が示された。二葉亭四迷の《浮雲》は近代小説の最も早い見本を提示した。明治20年代をおおう尾崎紅葉中心の硯友社(けんゆうしゃ)系の写実小説とそれと対照的で理想をうたう幸田露伴とは，ともに西鶴を宗としてなお真の写実に遠いものがあったが，そのあとに出た樋口(ひぐち)一葉・泉鏡花らには，人間心理の観察や，浪漫的な反抗にみるべきものがある。しかし小説界は国木田独歩を先達として，日露戦争直後に起こった自然主義の文学運動によって，近代的散文精神を確立することができた。自然主義は大陸特にフランスの自然主義からの感化のもとに生まれたもので，評論の島村抱月，小説の島崎藤村・田山花袋・徳田秋声・岩野泡鳴(ほうめい)・正宗(まさむね)白鳥らによって実現された。それは真を目標として，小説から在来

のきれいごとと小説らしさを捨て去り，あるがままの事実を客観的に諦視（ていし）しようとした。その意味で起こるべくして起こった運動であるが，あまりにも客観偏重の平板・単調さと，無理想・無道徳の虚無的な境地とは，作家にも読者にも長い安住の地ではなかった。しかし，芸術家として真の生活とは自己の探究にほかならないとの信念が，以後の文芸を貫く本流となった。作家生活の幅の狭さが，作家自身の身辺雑事を描くにもっぱらならしめ，この種のものこそ純文学であるとの論を生んだのも，その結果といえよう。自然主義に対して，初めから批判的だったのは森鷗外（おうがい）で，彼はドイツ美学によって美を実感からきびしく区別する立場を堅守したが，1905年（明治38）から創作界に出た夏目漱石（そうせき）も，文学にモラルを求めて，人間本来のエゴイズムの追究を主題とし，晩年には則天去私の芸術理想を樹立するに至った。漱石の影響のもとに巣立った雑誌《白樺（しらかば）》の作家群，武者小路実篤（さねあつ）・志賀直哉（なおや）・有島武郎（たけお）らは，人生に理想と光明を求めて，反自然主義・理想主義の道を歩んだ。同じく反自然主義でも，永井（ながい）荷風を先頭とする耽美（たんび）派からは，谷崎潤一郎・佐藤春夫（はるお）らが官能的な芸術を開拓した。そのほか芥川龍之介（あくたがわりゅうのすけ）は人生における逆説的な真理の発見をめがけ，宇野浩二（こうじ）・葛西（かさい）善蔵らはあるいは説話体の浮世話に，あるいは破滅型の私小説作家として独自の境地を開いた。注目すべきは第1次世界大戦中の日本資本主義の発展に伴うジャーナリズムの隆盛で，読者人口の増加は大衆の嗜好（しこう）にこたえる大衆文学を生み，長谷川（はせがわ）伸・大仏（おさらぎ）次郎・吉川（よしかわ）英治らの作家群が輩出した。一方文学の社会化も進み，菊池寛が始めた《文藝春秋》は，明治中期以後の歴史をもつ《中央公論》や，第1次世界大戦後に創刊された《改造》などとともに，文芸欄をも含む総合雑誌として成長した。同時にまた階級間の対立が強まった結果として，被圧迫階級の幸福と利益を守ることを目的とするプロレタリア文学が盛んになり，1925年（大正14）以後の数年間は，彼らのいわゆるブルジョア文学と対抗する勢いとなった。この理論家に蔵原惟人（これひと）・青野季吉（すえきち）ら，作家に葉山嘉樹（よしき）・小林多喜二・宮本百合子（ゆりこ）・中野重治（しげはる）らがあり，芸術派の横光利一・川端康成（かわばたやすなり）・井伏鱒二（ますじ）・堀辰雄（ほりたつお）ら，評論家小林秀雄（ひでお）らと対抗した。しかし国内ファシズムの強力な圧迫は左翼文学をおしつぶして，その作家たちの自由を奪い，やがて日中戦争，第2次世界大戦へと突入して，無慚（むざん）な敗北をなめるまでは文学活動はしだいに自由を失い，生気のないものになっていった。国策に添おうとした御用文学にはみるべきものなく，戦時下の自虐的な敗北感から出発した丹羽（にわ）文雄・高見順・太宰治（だざいおさむ）・林芙美子（ふみこ）らにわずかにみるべきものがあった。1945年（昭和20）の敗戦後は，戦時中の反動として執筆を停止されていた左翼作家や自由主義作家の活動が目だった。明治維新の約束した民主・自由の理想は敗戦によって曲がりなりにも実現をみ，天皇制からの自由，表現の自由が獲得され，ようやく欧米なみの市民社会が成立した。以後戦後文学とよばれる新作家と新傾向の作品が多く出た。野間宏（ひろし）・椎名麟三（しいなりんぞう）・武田泰淳（たけだたいじゅん）・大岡昇平・三島由紀夫・安部公房らである。敗戦後の著しい現象として，マスコミの著しい発展があり，新聞や月刊誌の在来の発表機関以外に週刊誌のおびただしい出現があり，中間小説・娯楽文学の流行をみた。結果としてそれは多量のマスプロ作家を生産し，文学の通俗化を勢いづけた。以上は主として散文・小説を中心にみてきたが，詩歌においても，近代以前にない新体の詩が西洋詩の影響のもとに登場した。《新体詩抄》は翻訳詩を中心とするが，その第一声である。つづいて，北村透谷・島崎藤村らの浪漫詩が出たが，ことに藤村の《若菜集》は近代詩の礎石を置いた注目すべき業績である。土井晩翠（ばんすい）・薄田泣菫（すすきだきゅうきん）・蒲原（かんばら）有明・与謝野（よさの）鉄幹らは浪漫象徴の詩風を進展せしめたが，それらはおおむね文語定型詩であった。自然主義運動の形式，伝統の破壊は詩壇にも及び，口語自由詩の発生をみた。明治末期に出た北原白秋・三木露風はなお多く文語にたよったが，高村光太郎を先頭に，萩原朔太郎（はぎわらさくたろう）・室生犀星（さいせい）・千家元麿らによって，口語による自由詩ははじめての芸術的完成をみせた。1923年ごろからは小説におけるプロレタリア文学の勃興（ぼっこう）と並行して，ダダやアナーキズムおよび社会主義思想に立つ詩風がおこり，中野重治がすぐれた仕事をのこした。一方，西欧のシュルレアリスムの詩風の影響下に，手法上の新風を企図した散文詩運動や，人工的な針金細工に似た知性詩が盛んになった。堀口大学・西脇（にしわき）順三郎・北川冬彦（ふゆひこ）らがそれぞれの志向を代表し，三好（みよし）達治はここから抜け出して伝統的詩風に帰り，多く文語詩をつくった。彼を中心とする雑誌《四季》の詩風は第2次世界大戦下にふさわしく古典的叙情詩を中心としたが，中原中也（ちゅうや）・立原道造らもここに関係した。敗戦後は荒廃した現実に密着して現代の苦悩と批判を詩によって歌う傾向が強力となった。次に伝統的詩型としての短歌と俳句は，維新後一時沈滞していたが，新時代の新しい精神を新しい材料，新しいことばで表わしたいという希望は，この方面にも現われ，短歌は落合直文（なおぶみ）の浅香社創設となり，この門から与謝野鉄幹・尾上柴舟（おのえさいしゅう）らが出た。とりわけ，与謝野の活躍はめざましく，妻に天才晶子（あきこ）を得たこともあって，その主宰する詩歌雑誌《明星》は明治詩歌壇の代表的存在になった。窪田空穂（くぼたうつぼ）・木下杢太郎（きのしたもくたろう）・北原白秋・吉井勇（いさむ）・石川啄木（たくぼく）らはこの誌の出身である。《明星》は都市的で浪漫的な歌風をひらいたが，それに対立して正岡子規が万葉調の復活をめざして根岸短歌会を興し，伊藤（いとう）左千夫・長塚節（ながつかたかし）らを育てた。《明星》から出た啄木は明治末年，短歌を詩に解消したような独自の境域を開き，また吉井勇と白秋はそれぞれ耽美的歌風を開拓した。子規系は全歌人を《アララギ》に結集し，左千夫・節のほか，斎藤茂吉・島木赤彦（あかひこ）・中村憲吉・釈迢空（しゃくちょうくう）（折口信夫（しのぶ））・土屋文明らがここによった。《アララギ》は大正・昭和の歌壇の中心的存在となったが，白秋は《多磨》によってこれに対抗した。その他自然主義歌人として歌われた若山牧水・前田夕暮，短歌に芭蕉の俳諧の手法を摂取しようとした太田水穂らがある。短歌に対して俳句は子規ひとりの力によって近代化が行なわれ，《ホトトギス》によって写生中心の新風を唱道した。子規の門下に河東碧梧桐（かわひがしへきごとう）・高浜虚子があり，大正期には虚子門から村上鬼城・飯田蛇笏（いいだだこつ）・水原秋桜子・山口誓子らが出た。しかし昭和期にはいると秋桜子は虚子の客観写生にあきたらずとして《馬酔木（あしび）》により，誓子も一時ここに身を置いた。彼らのあと中村草田男（くさたお）・加藤楸邨（しゅうそん）・石田波郷らがあって，戦中・戦後の俳壇に活気を添えた。最後に演劇について一言すれば，明治時代は江戸時代からの歌舞伎が，黙阿弥の活躍で最後の輝きを見せたが，近代演劇とは関係がない。自然主義の運動とともに，イプセンその他の翻訳劇を主として，島村抱月の文芸協会・芸術座，小山内薫（おさないかおる）の自由劇場などの試演が行なわれ，それがよび水となって，久保田万太郎・菊池寛・山本有三（ゆうぞう）・真山青果らの新作品がつくられた。小山内薫による築地小劇場開設は新劇運動に有力な刺激を与え，左翼演劇も上演される機会を得たが，やがて弾圧についえた。この傾向の作家に三好十郎・久保栄があり，芸術派の作家に岸田国士（くにお）・真船豊がある。戦後には伝統特に民話を生かすことに苦心した木下順二が現われ，また三島由紀夫も注目すべき劇作を示した。しかし一般に演劇は小説に比べてかなり遅れており，近代文学における位置はとうてい小説に及ばない。　〔吉田精一〕

多く，中心は専門舞踊家に移った。

【構成と要素】歌舞伎舞踊には，オキ・出・クドキ・踊り地・チラシの基本的な5段組織がある。また，歌舞伎から出たため，舞踊劇と純舞踊に分けられるが，両者を明確に区別することはできない。上方舞には純舞踊的なものが多く，新舞踊は劇的・純舞踊的なもののほか，舞踊詩的のものなどが含まれている。

日本舞踊の表現の基礎に，〈舞*〉〈踊り*〉〈振り*〉がある。はっきり分けられないが，原則的には，舞は能の技法から出た精神的内容をもった動き，踊りは民俗芸能の影響を受けた躍動的な動き，振りは歌舞伎と同じような意味のあるしぐさに区別することができる。しかし表現法の数が多く，混合し，応用化されているので，これらを明確に分けるのはむずかしい。上方舞は舞の要素が強く，新舞踊では，3要素から飛躍した表現法も試みられている。

【種類】現存する歌舞伎舞踊の演目は，初演の時とは振り付けが異なるものも含めて300曲以上あり，題材によって三番叟(さんばそう)物・道成寺物・石橋(しゃっきょう)物・浅間物・丹前物・草摺引(くさずりびき)物・蜘蛛(くも)物・道行物・松風物・曾我(そが)物・山姥(やまんば)物・狂乱物・祭礼物などがある。また成立過程によって，顔見世(かおみせ)物・変化物*・松羽目物・御祝儀物などに分類される。題材では謡曲に取材したものが多く，曾我物・道行物・顔見世物は，歌舞伎の慣習から生じたものである。変化物は1曲ごとに独立して伝えられ，江戸市民の生活や風俗の描写などで数多くの流行曲を生んでいる。御祝儀物はほかの曲のように，劇場で初演されたのではなく，曲ができたのちに振り付けられたもので，衣装をつけず，素で踊るのを原則とする。上方舞も衣装をつけないのが本来の方式である。

【流派】能・狂言・日本音楽など，他の古典芸能と同じく，日本舞踊にも流派が存在する。舞踊が歌舞伎の一部として確立するにつれて，振り付けをする振付師から生じたものや，舞踊を得意とする俳優から出たものなどから流派が起こった。前者に，志賀山流*・西川流*・藤間流*・市山流・花柳*(はなやぎ)流などがあり，後者に，中村流・坂東流*などがある。さらに明治時代からの若柳流*，新舞踊からの藤蔭流・五条流・西崎流*などがあり，上方には山村流・楳茂都(うめもと)流・吉村(よしむら)流・京舞井上流などもある。江戸時代に西川流から花柳流が分かれたように，その後も流派の分派を生じたが，第2次世界大戦後はことにその傾向が著しく，毎年諸流派が増大しつつある。これは，能・茶道・花道の世界のように家元制度はあるが，必ずしもそれが確立していないこともあって，多くは経済的理由により流派がふえている。〔戸部銀作〕

にほんプロレタリアさっかどうめい【日本プロレタリア作家同盟】マルクス主義文学運動の組織。略称ナルプ。1928年(昭和3)ナップ*改組の際に，文学部が独立して結成され，ナップ加盟の中心団体として活動した。のちナップがコップへと発展的に解消したので，新たに文学サークルを組織するため1931年機関紙《文学新聞》を，翌年機関誌《プロレタリア文学》を創刊。同年3月，国際革命作家同盟に正式に加盟した。しかし，政府の弾圧が激化したため1933年機関誌廃刊，翌年組織も解体した。

にほんぶんげいかきょうかい【日本文芸家協会】文芸家の団体。文化に参与し，文芸家の職能を擁護確立することを目的として，1926年(大正15)菊池寛*の提唱によって創立。一時日本文学報国会に吸収されたが，第2次世界大戦後1945年(昭和20)12月再建した。著作権*の擁護，著作収入の条件改善，新人の育成，代表作選集や《文芸年鑑》などを編纂(へんさん)・発行している。会員766人(1972)。

にほんぼうえきしんこうかい【日本貿易振興会】⇨ジェトロ

にほんほうそうきょうかい【日本放送協会】⇨NHK

にほんまつ【二本松(市)】福島県中北部の市。人口34,000。南北朝時代に奥州探題畠山(はたけやま)高国が築城し，江戸時代は丹羽(にわ)氏十万石の城下町，陸羽街道の宿場町として栄えた。1958年(昭和33)市制施行。市域は阿武隈(あぶくま)川中流に沿う山間低地にあり，城山(345m)の南方で東西に延びる丘陵に2分される。産業三大別人口比は29：30：41。中通りの商業地区の一中心で，製糸・メリヤス・木工などの工業も行なわれ，清酒の特産がある。東北本線・国道4号線に沿い，東北自動車道のインターチェンジがある。西郊の安達太良山麓に国民温泉の岳温泉があり，丹羽氏の居城霞ケ城(かすみがじょう)跡・安達ケ原などの名所史跡がある。

にほんみんしゅとう【日本民主党】

[1]1947年(昭和22)3月日本進歩党*を中心に結成した政党。総裁は芦田均*(あしだひとし)。修正資本主義を掲げて4月の総選挙で123議席を獲得して第3党となった。社会党・国民協同党と連立して片山哲*内閣に7閣僚を送ったが，この間炭鉱国家管理問題で幣原(しではら)喜重郎*らが脱党した。1948年3月芦田均内閣を実現させたが，昭和電工事件で総辞職。1949年党内対立が激化し，翌年犬養(いぬかい)健らの連立派は民主自由党と合同して自由党(→日本自由党)を結成し，野党派は国民協同党と合同して国民民主党を結成した。

[2]1954年12月反吉田(よしだ)派の改進党*・日本自由党*・自由党反吉田派が合同して結成した政党。総裁鳩山(はとやま)一郎*。左右両派社会党の協力で第5次吉田茂内閣を倒し，第1次鳩山内閣を樹立した。1955年2月の総選挙で185議席を獲得して第1党となり，第2次鳩山内閣を組織。同年11月自由党と合同して自由民主党*を結成。〔原田政洸〕

にほんみんぞく【日本民族】日本列島に日本民族と称すべきものが成立したのは，ほぼ古代国家成立と時を同じくしてであったと考えられる。つまり，民族とは，言語と文化を共通にもち，一定の地域において永続的に共同生活を営み，歴史的運命をともにし，かつ祖先を同じくする，あるいは同系統に属すると考えて〈われわれ〉の意識をもっている集団のことであって，このような集団の成立はしばしば政治的統合によって促進されるからである。したがって，古墳時代以前には日本にいくつかの民族・種族が並び存していたのが，古代国家の形成発展にともなって統一され，単一の日本民族にまとめられたと考えられる。民族は歴史的所産であり，つねに発展し変化していく。古墳時代以後も帰化人の同化があり，また近くは北海道のアイヌ*の日本人化の過程も日本民族の生成の過程が長く続いてきたことを示している。日本民族の成立にあたっては，いくつかの民族あるいは種族文化複合体が参与していたと考えられる。考古学的には，日本には旧石器時代ないし先土器時代から人類が住んでおり，それに続いて数千年に及ぶ縄文(じょうもん)文化の展開があった。縄文時代から弥生(やよい)時代にかけては，一方ではかなりの文化の地域差と時代差があり，いくつもの種族文化複合体の並存やさまざまの文化とそのにない手の渡来を考えさせるが，他方では日本列島の大部分をおおうかなりの文化的等質性ないし類似も存在していた。このような広い地域にかけての等質性の存在は，古墳時代における強力な政治的統合のもとに日本民族が成立するために有利な基盤を提供していたといえよう。

日本民族文化の形成に参与したおもな種族文化複合体として，今日民族学的に想定できるものは主として弥生式文化以後のものであるが，縄文前期以降にさかのぼる可能性があるものとしてはイモ類やアワなどの焼き畑耕作と狩猟に基づく複合体があり，華南から東南アジアにかけての古い栽培民文化に結びつくものであろう。弥生式文化のおもな構成要素である水稲耕作と発達した漁労に基づく文化複合体は，中国東南部海岸地方の呉越の文化や南鮮の文化と関連が深く，かつ古墳時代にはいって，朝鮮半島経由で，多分にアルタイ系の牧畜民文化的要素をもった種族文化複合が日本にはいったものと考えられる。〔大林太良〕

人種学の立場からみた日本人は，中身長，黄色い皮膚色，黒い直毛，かっ色の目，蒙古皺襞(もうこすうへき)などの特徴からみて，特殊化の少ないモンゴロイド*に属することはまちがいない。

日本人の人種構成は，①アイヌ，②満州-蒙古形の種族，③マレー-蒙古形の種族か

らなる複合人種だとしたベルツやジーボルトを経て，松村瞭は日本人の身体計測による地方差を明らかにし，日本人全体としては中～低身長・短頭形であって，東部シベリア・南中国のモンゴロイドとしての特殊化の少ない人種と近縁関係にあるとした。

環境によって左右されない血液型から判断すると，おもな構成種族は，A型遺伝子頻度(ひんど)の高い西方渡来のトウラン民族とB型遺伝子頻度の高いモンゴロイドが北方から，O型遺伝子頻度が高い南方種族が南方から加わって，現在の日本人の血液型頻度を構成すると古畑種基は述べている。これに対して小畑基次は，身体計測値から，アイヌを祖型として朝鮮系のものが加わり，混血の程度から地域差が生じたとする。

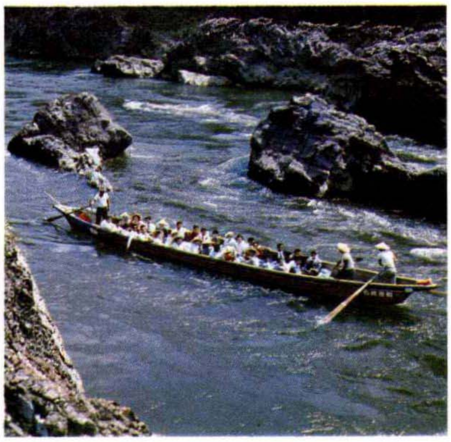
これらは，現代日本人の形態的・遺伝的特徴を周辺種族のそれと比較して類推しているのであるが，化石人骨に基づく日本人の歴史的な成立については，現代日本人のまえに先住民がいたとする説と，発見される化石人骨は単系であり，時代によって他人種との接触が起こったとする非先住民説とに大別される。これら諸説の対立の起こる原因は，歴史的に明らかにたどれる古墳時代人より以前の弥生時代人・縄文時代人の頭骨ならびに四肢骨(ししこつ)の計測値の間に大きなギャップがあるからである。アイヌ人のユーカラ伝承に基づく坪井正五郎のコロポックル先住民説は問題外としても，小金井良精のアイヌ先住民説や，石器時代人骨と古墳時代人骨を収集・比較して，石器時代人は日本の先住民でなく，現代日本人に続くとする清野謙次の非先住民説などがある。長谷部言人・鈴木尚も，頭骨の計測値に基づき，縄文時代人と古墳時代人の間の大きなギャップは内因性定向進化や環境適応などで十分説明できるとしている。現在この説が広く支持されているが，アイヌ先住民説も無視するわけにはいかない。

さらに，三ケ日(みっかび)人*・牛川人*・明石(あかし)原人*・葛生(くずう)人*などの洪積世(こうせきせい)人が縄文時代人といかなる関係にあるのか，あるいは日本列島に人類が渡来あるいは発生したのはいつなのかといった日本人の曙(あけぼの)については，まだ十分に解明されていない。〔鈴木　尚〕

にほんもんとくてんのうじつろく　【日本文徳天皇実録】《六国史*(りっこくし)》の一。《続日本後紀*(しょくにほんこうき)》に次ぐ漢文編年体の勅撰(ちょくせん)史書。10巻。850年(嘉祥3)から858年(天安2)に至る文徳天皇*一代の正史。871年(貞観13)清和天皇*の命により藤原基経*(もとつね)らが編纂(へんさん)し，879年(元慶3)に完成奏上した。名に実録と称するが，体裁は先行の国史と変わりはない。

にほんやっきょくほう　【日本薬局方】⇨薬局方

にほんゆうせん　【日本郵船(株)】　わが国の代表的船会社。1870年(明治3)岩崎弥太郎(やたろう)が設立した九十九(つくも)商会が前身。1885年に共同運輸を合併し，郵便汽船三菱(みつびし)として発足，明治政府の保護を受けて発展した。1896年にはヨーロッパ・アメリカ航路を開設，わが国海運界の海外進出に先鞭(せんべん)をつけ，NYKラインとして早くから海外に名を知られた。1964年(昭和39)には海運再編成で三菱海運を合併。営業は海外定期航路が中心で，現在ヨーロッパ・アメリカ・カナダ・中近東・オーストラリア・中南米の各定期航路のほか，世界一周航路などがある。また，貨物輸送のコンテナ化に関して最も積極的で，三菱グループの援助をバックに実績を上げ，コンテナ時代のリーダーとしての地位を固めつつある。本社東京，海外支店・事務所をロンドン・ニューヨークなど32か所にもつ。資本金396億5,600万円，年間営業収入4,542億2,400万円，従業員数3,478(1980年9月)。



日本ライン　水かさを増した清流を下る日本ラインの遊覧船。太田と坂祝の中間にある夫婦岩付近

にほんゆしゅつにゅうぎんこう　【日本輸出入銀行】　一般の金融機関が行なう輸出入ならびに海外投資金融を補完し奨励する目的の政府金融機関。1950年(昭和25)日本輸出銀行として発足，1952年日本輸出入銀行に改組された。資金は政府の全額出資金と借入金とによる。資金運用面にはプラント輸出*のための貸し付け，海外投資金融・輸入金融などで，長期低利の金融を行なう。

にほんライン　【日本ライン】　木曾(きそ)川とその支流飛騨(ひだ)川の合流点付近から下流犬山市付近までの約11kmの峡谷。その清冽(せいれつ)で豊富な水，雄大な山容，古城犬山城などは，ドイツのライン川に似ているとして志賀重昂(しげたか)によって名づけられた。岐阜県美濃(みの)加茂市の太田(おおた)を起点とし，犬山市を終点とする日本ライン下りの船旅は特に有名。

にほんりょういき　【日本霊異記】　わが国最古の仏教説話集。3巻。延暦(えんりゃく)・弘仁(こうにん)年間(782～823)薬師寺の僧景戒の選著。正式には《日本国現報善悪霊異記》。雄略天皇から嵯峨(さが)天皇ころまでの説話116編をほぼ年代順に配列し，仏の霊験を説いて仏法を勧めようとしたもの。奈良・平安初期の仏教・政治・社会に関する貴重な資料となる。中国の《冥報記(めいほうき)》《般若験記(はんにゃげんき)》の影響をうけ，また後世の《三宝絵詞(さんぼうえことば)》《今昔物語集*》など多くの説話集に影響を与えた。〔黛　弘道〕

にほんれいぞう　【日本冷蔵(株)】　わが国最大の冷凍食品会社。1942年(昭和17)水産統制令に基づいて日本水産ほか15社の出資により帝国水産が設立され，1945年水産統制令の廃止に伴い，日本冷蔵と改称された。おもな事業内容は製氷・冷蔵・凍結などの事業と，水産物・農畜産物の加工・販売などである。全国大消費地・主要漁港・中継地などに冷凍工場・食品工場・加工工場を配置，また内外に強力な子会社を擁して，新しい流通形態コールドチェーンの形成に努めている。本社東京，支社は札幌(さっぽろ)・仙台(せんだい)・名古屋・大阪・福島など。全国に222の工場をもつ。資本金111億8,300万円，年間売上高2,417億5,600万円，従業員数2,833(1980年7月)。

にほんれっとう　【日本列島】　環太平洋造山帯*の一部にあたり，太平洋の西側に北東から南西の方向に弧状に並ぶ列島で，古くから花綵(かさい・はなづな)列島などとよばれてきた。花綵とは花を糸で連ねて装飾用としたもので，*ハワイのレイを想像すればよい。日本列島は，アリューシャン列島から千島列島と続いてきて，北海道・本州・四国・九州の四大島を主とする列島で，琉球(りゅうきゅう)列島を経て台湾に及ぶ。しかし，地形および地質構造的に見れば，北のサハリン(樺太(からふと))や千島列島，南の琉球列島および太平洋上を南に延びる伊豆(いず)諸島とマリアナ諸島をも加えて，日本列島と総称してもよく，必ずしも日本の領土の範囲内に限る必要はない。そしてこの広義の日本列島は，それぞれ弧状をなしたサハリン弧・千島弧・東北日本弧・西南日本弧・琉球弧・七島マリアナ弧などのいくつかの集団に分けることができ，サハリン弧には北海道をも含める。サハリンと北海道を一つにするのは，ウルム氷期(第四紀氷河時代の最後の氷期で，53,000～10,000年前)には，海面は現在より130mも低かったから，この両島は陸続きであったばかりでなく，アジア大陸ともつながっていたからである。また津軽海峡は存在していたが，本州・四国・九州も一続きの島であった。

現在の日本列島が，かつてはアジア大陸の一部であり，それが大陸から離れて太平洋側に移動し，大陸との間に日本海や朝鮮海峡ができたことについてはまず異論がないが，その移動の時期やメカニズムについては地球物理学者と地質学者の間にかなり見解の相違がある。1972年1月金沢大学で開かれた〈太平洋北西縁地域に関する地質と地球物理〉に関するシンポジウムにおいて

も，従来の日本列島のおいたちの歴史を古生代にさかのぼらせるという地形学者または地球物理学者側の通説に対して，地質学者側から現在の日本列島を形成した島弧運動は非常に新しく，800万～700万年前すなわち新生代第三紀の末期に近いころから起こったとする新説さえも出されているのである。

いま一般にいわれているところにしたがえば，わが国には古生代の地層がよく発達しているところから，日本列島の最初の土台がつくられたのは古生代の中期（約４億年前）から末期（約２億年前）であるといえる。中期の地層の分布はまばらであるが，石灰岩の中にはサンヨウチュウ*などの海生の節足動物の化石を含んでいる。古生代後期の地層はいわゆる秩父(ちちぶ)古生層であって，分布は日本全体にわたっており，化石も豊富で，最も多いのはボウスイチュウ*であるが，サンヨウチュウも出ており，植物では石灰藻*(せっかいそう)がある。これらはすべて海生の生物であるが，北上山地ではリンボクやシダ類などの陸生植物の化石も，わずかではあるが発見されている。このような古生層の岩石や化石のようすから判断して，日本列島の地域の大部分は海底に沈んでいて，地向斜*をなしていたが，ときに隆起して陸地になった部分もあったことがわかる。

古生代の末期からは激しい造山運動が起こり，火山活動も加わって大きな山脈や広い陸地が形成され，中生代にはいった。中生代にはまだ日本海はなく，アジア大陸と陸続きであったと考えられ，これは日本列島の内側に分布している中生層がおもに陸成層で，アジア大陸の中生層が陸成層であるのとよく一致している。しかし，わが国に広く分布する中生代の地層には，海成層もあるところから，この時代には造陸運動が何回かくり返されて，そのたびに海進や海退があったことがわかる。そうして日本列島の骨組みがだいたいこの時代につくられたが，そのころの古い山地として残っているのが，本州の中央高地の飛驒(ひだ)山脈・木曾(きそ)山脈・赤石山脈などのいわゆる日本アルプスとよばれる高峻な山々である。

新生代の第三紀にも，海成層と陸成層があり，陸成層の化石の中にはラクダ・キリン・サイ・ゾウなどの祖先にあたる哺乳(ほにゅう)動物の化石が出ている。また現在は絶滅しているデスモスチルスというバクに似た海生哺乳類の化石も，北海道や本州の各地から発見され，これは北太平洋沿岸地域に分布していたものであるが，わが国の化石は特に保存がよいので，世界的に貴重なものとされている。第三期の前期には，北海道や北九州のほかはだいたい陸地になっていたが，後期になって大規模な海進があり，山地の高い部分を除いて，すべて水没してしまった。そして第三紀の終わりに大きな造山運動が起こって，日高山脈・奥羽山脈・越後(えちご)山脈などができ，日本列島の輪郭や陸地の起伏が，だいたい現在のようすに近くなった。

第四紀の洪積世(こうせきせい)の地層は，おもに陸成層で，ナウマンゾウ*をはじめゾウ類の化石の多いのが特色である。このころの日本列島はまだ一続きの陸地であり，朝鮮半島ともつながっていたと考えられている。日本の火山の多くは，洪積世になって噴出したものであり，また世界的に気候の寒冷な氷河時代であったから，日本アルプスや日高山脈には，小規模な氷河の跡が残っている。日本列島が大陸から完全に離れたのは，前述したようにウルム氷期の終わり近くであって，いまからおよそ20,000年ぐらいまえではないかと考えられている。なお第三紀の後期以降の造山運動については，緑色凝灰岩*の存在に注意しなければならない。北海道南西部，本州の日本海側およびフォッサ-マグナ*周辺の第三紀層の下部には，陸上または浅海に堆積(たいせき)した火山噴出物と考えられる緑色凝灰岩が広く分布し，その他の地域にはこれがないので，日本を緑色凝灰岩地域と非緑色凝灰岩地域の二つに分けることができる。このため，第三紀の後期以降の造山運動を緑色凝灰岩変動とよぶことがあり，緑色凝灰岩地域はいまもその変動が続いて，地盤の安定を欠いているのに対し，非緑色凝灰岩地域は，より地盤の安定した地域ということができる。

〔浅井得一〕

にほんろうどうきょうかい　**【日本労働協会】**　1958年（昭和33）日本労働協会法に基づいて設立された特殊法人。基金は全額政府出資で，労働問題に関する研究，資料の整備，出版・放送・講座の開設，労働教育活動に対する援助などの事業を行なう。〈広く労働者および使用者ならびに国民一般の労働問題に関する理解と良識をつちかう〉ことを目的としているが，事実上は労働大臣の役員任命権などを通じて，政府の労働政策を具体化する一つの機関である。

にほんろうどうくみあいかいぎ　**【日本労働組合会議】**　略称は日労会議。①1932年（昭和７）資本主義・共産主義・ファシズム反対の三反主義をスローガンに，日本労働倶楽部(クラブ)を改組して結成した右派・中間派組合の協議体。日本労働総同盟*・全国労働組合同盟（→日本労働組合同盟）・全日本海員組合*など11団体，約30万人が加盟。右派の戦線統一を進め，1938年皇国海員同盟とともに日本労働国策協会を結成して産業報国運動へ走った。1940年解散。②1946年全日本産業別労働組合会議*（産別）・日本労働組合総同盟*（総同盟）に加盟しなかった中立系組合が結成した協議体。大阪中心の208組合，約15万人が加盟したが，組合運動全体では大きな役割を果たせず，1949年全日本労働組合連盟に所属し，発展的に解消された。

〔河合研一〕

にほんろうどうくみあいぜんこくきょうぎかい　**【日本労働組合全国協議会】**　略称は全協。1928年（昭和３）日本労働組合協議会解散後，同年12月その再建を図って結成された戦闘的労働組合の全国組織。プロフィンテルン*加盟。結成と同時に解散を命ぜられて非公然活動をよぎなくされ，幹部交替・分派闘争もあいついだ。日本共産党の指導下で，川崎武装メーデー（1930），失業者運動（1931），東京地下鉄争議（1932）などを指導したが，きびしい弾圧によって1934年ごろ壊滅した。

〔河合研一〕

にほんろうどうくみあいぜんこくひょうぎかい　**【日本労働組合全国評議会】**　略称は全評。1934年（昭和９）労働組合運動の右傾化に不満な労働組合が〈階級闘争主義による統一〉をスローガンに結成した合法左翼労働組合。議長加藤勘十。反ファッショ統一戦線の結成を目標に活動し，社会大衆党・日本労働組合会議*との統一をはかったが失敗した。1937年３月日本無産党結成を推進，同年12月人民戦線事件*で指導者が検挙されるに及んで解散。

〔河合研一〕

にほんろうどうくみあいそうどうめい　**【日本労働組合総同盟】**　略称は総同盟。1946年（昭和21）日本労働総同盟*の後身として結成された反共的組合を中心とする労働組合の全国組織。同年８月以降全日本産業別労働組合会議*（産別）と並んで二大全国組織の一つとなった。1947年の二・一スト*以後産別と対立を深め，1948年全国労働組合連絡協議会*（全労連）から脱退。この間左派がしだいに実権を握るようになり，1950年日本労働組合総評議会*（総評）の結成に参加，同年11月産業別組織整理を唱えて組織を解散した。しかし，右派はこれに反対して総評を脱退し，1951年６月総同盟を再建した。1954年全国繊維産業労働組合同盟*（全繊同盟），全日本海員組合*などとともに全日本労働組合会議*（全労会議）を結成して左派労働組合運動の中心となったが，1964年11月全労会議とともに解散し，全日本労働総同盟*（同盟）を結成した。

〔河合研一〕

にほんろうどうくみあいそうひょうぎかい　**【日本労働組合総評議会】**　略称は総評。1950年（昭和25）７月反共と組合民主主義を旗印に，全日本産業別労働組合会議*（産別）・民主化同盟（民同）・日本労働組合総同盟*（総同盟）左派，日本国有鉄道（国鉄）をはじめとする官公庁労働組合の民同派が結集して組織された労働組合中央組織。結成当初は国際自由労働組合連盟*（国際自由労連）の方向に歩み，政府や使用者側とも協調的であったが，1951年の第２回大会で左派が主導権を握り，平和四原則（全面講和・中立堅持・軍事基地反対・再軍備反対）を決議した。しかしこの四原則をめぐって，1954年右派が脱退（→全日本労働組合会議），以後日本社会党との関係を強化し，同盟と並ぶ二大組織となっている。加盟単産（産業別

単一組合)50，組合員468万8,421(1978)。

にほんろうどうくみあいどうめい　【日本労働組合同盟】　略称は組合同盟。1926年(大正15)日本労働総同盟*(総同盟)の右傾化に不満をもつ一部の指導者と日本労農党*が合わせて結成した労働組合。これによって右派の総同盟，左派の日本労働組合評議会*，中間派の組合同盟の三派鼎立(ていりつ)となった。なお，1930年(昭和5)組合同盟は，労働組合全国同盟と合同して全国労働組合同盟(全労)を結成した。全労は政治的には全国大衆党*を支持する当時最大の組織(組合員42,000)となったが，しだいに右傾して，1936年総同盟と再び合同した。〔河合研一〕

にほんろうどうくみあいひょうぎかい　【日本労働組合評議会】　略称は評議会。1925年(大正14)日本労働総同盟*右派と対立して除名された25組合が中心となり，32組合13,000人によって結成された戦闘的労働組合の全国組織。委員長野田律太。日本共産党の指導下で，共同印刷争議(1926)，日本楽器争議(1926)，小樽(おたる)海陸仲士争議(1927)などを指導した。1928年三・一五事件*で弾圧され，同年4月解散させられた。

にほんろうどうそうどうめい　【日本労働総同盟】　略称は総同盟。労働者の相互扶助と労資の協調を基調とした友愛会*の後身。友愛会は第1次世界大戦後しだいに労働組合としての性格を強め，1919年(大正8)大日本労働総同盟友愛会と改め，さらに1921年日本労働総同盟と改称し，翌1922年革命的綱領を採択して労働組合運動の中心となった。しかし1925年西尾末広*・松岡駒吉*(こまきち)らの右派が台頭し，左派の追い出しを強行したため分裂。以後は一貫して右派が指導部を掌握した。1936年(昭和11)全国労働組合同盟と合同して全日本労働総同盟*と改称，1940年自発的解散を決議して大日本産業報国会*に吸収された。

にほんろうのうとう　【日本労農党】　1926年(大正15)12月に結成された合法の中間派無産政党。同年労働農民党から脱退した右派が安部磯雄(あべいそお)を中心に社会民衆党を結成したのに対し，中間派は三輪寿壮を書記長として日本労農党を組織し，観念左翼・反動右翼に対抗し階級運動の正道を歩むことを唱えた。結党後，対支非干渉・全国労農大会などの運動を展開したが十分な成果は得られず，1928年(昭和3)に小政党と合併し日本大衆党*となった。

にほんろうまんは　【日本浪曼派】　文学雑誌。1935年(昭和10)3月創刊，1938年3月終刊。プロレタリア文学運動の壊滅による文学界の暗い空気を一掃し日本文学を建てなおそうと，新しい浪曼主義を志向して始められた。主要同人は亀井(かめい)勝一郎*・保田(やすだ)与重郎*・神保光太郎・中谷孝雄(たかお)・太宰(だざい)治*らである。この雑誌は，《人民文庫*》による高見順*らの散文精神や不安の文学・行動的ヒューマニズムなど当時の他の文芸思潮と対立しながら，ドイツ-ロマン派を研究し，それまで閑却されてきた日本の古典・古美術に関心を深めて，〈日本精神〉の復活を主張した。それはのちにファシズムと結びつき，ことに雑誌廃刊後の保田らは林房雄(ふさお)と結んで，〈新日本文化の会〉や〈大東塾(じゅく)〉などに加わった。

にまいがいるい　【二枚貝類】　体の左右に2枚の殻(から)があるためこの名があるが，軟体の足がおの形であるので斧足(ふそく・おのあし)類ともいう。2枚の殻は背で靭帯(じんたい)によって結ばれ，これで殻を開く。また，背縁にかみ合わせの歯がある。軟体はおの形の足のほか，後方に2本の出入水管があり，また前後に閉殻(へいかく)筋があってこれで殻を閉じる。➔軟体動物

にまいめ　【二枚目】　俳優の役柄の一。女性に好かれるような美男子の役，また，これを得意とする俳優をさす。江戸時代の歌舞伎(かぶき)の番付で，この役柄の俳優名は書き出しから二枚目に置かれる慣習があったために由来する。現在では広く芸能用語として使用され，さらに日常生活でも使われている。

ニーム　［Nîmes］　フランス南部，マルセイユ北西方95kmにある都市。人口12万(1968)。アウグストゥスによって建設され，ローマ帝国有数の都市として栄えた。16世紀にはプロテスタントの拠点となったが，ナントの勅令*以後衰退した。フランスで古代ローマ時代の遺跡の最も多いところとして知られ，ことに1世紀に建てられたといわれる円形劇場はほとんど原形をとどめ，20,000の観客を収容できる。産業は絹・綿のくつしたやカーペット，くつの製造のほか金属工業などがある。〔梶川勇作〕

にもうさく　【二毛作】　⇨多毛作

にやく　【荷役】　鉄道貨車・船舶などによる貨物の輸送において，倉庫と貨車・船舶の間における貨物の積み込み・積みかえ・陸上げ・仕分け・倉入れ・倉移しなどのいっさいの現場作業をいう。その作業の場所によって港湾荷役・河川荷役・陸上荷役などの別がある。また港湾荷役にも，本船荷役と接続荷役の別がある。わが国の荷役専業者には，港運業(内水路の運送)と通運業(鉄道輸送など)とがある。

にやくきかい　【荷役機械】　倉庫・工場や車両・船舶などにおいて，荷物の上げ降ろし，移動作業に用いる機械の総称。荷物の種類や作業条件によって，きわめて多くの種類がある。用途上からは，鉄道用・船舶用・建設用・倉庫用・鉱山用などに分けられるが，一般には機構・作用から次のように大別される。①クレーン*類:荷物の持ち上げ，移動に使う，②コンベヤー*類:ベルトコンベヤーなど,荷物を連続して運ぶ，③その他:運搬車類・船舶荷役機械類など。運搬車では近年フォークリフト-トラックやトラック-クレーンなども多く使われる。また，船舶用では従来からあるデリック(ブームの先端から索具によって荷物をつり上げ，索具の操作で移動させるもの)が最も一般的である。〔茂在寅男〕

ニューアイルランド(島)　［New Ireland］　南西太平洋，ニューギニアの東北方にあるビスマーク諸島第2の島で，面積8,617km²。オーストラリアの信託統治領。高温多雨で森林におおわれ，ココヤシのプランテーションがある。原住民のメラネシア人は文化程度が低く，原始的な儀式を残していて民族学者の興味をひいている。1884年からドイツの植民地であったが，第1次世界大戦中の1914年にオーストラリアが占領し，その信託統治地となった。主要都市カビング。

ニューアーク　［Newark］　アメリカ合衆国，ニュージャージー州北東端に位置し，ニューヨーク市に接続する同州最大の都市。人口38万2,417(1970)。パサイク川に沿った工業都市で，食品・化学・金属製品・衣服などの工業が盛んである。大ニューヨーク都市地域に属し東部のニューヨーク市とはハドソン川の底を走る地下鉄で結ばれている。鉄道・道路・航空路の中心地である。

ニューイングランド　［New England］　アメリカ合衆国北東部,大西洋岸のメーン・ニューハンプシャー・バーモント・マサチューセッツ・ロードアイランド・コネチカットの6州の総称。面積37万3,600km²，人口1,184万8,000(1970)。合衆国発祥の地で，メーン・バーモントの2州以外は建国時の13州に属する。アメリカ合衆国人を一般に〈ヤンキー〉とよぶが，これは元来イギリスから渡来したニューイングランド人を指したものである。アパラチア山脈の北東部にあたり平地は少ないが，温和な気候と美しい風景に恵まれ，人口密度は高い。酪農が盛んで，繊維・精密機械・光学機械などの伝統工業を特色とする。1583年と1605年にH.ギルバートがはじめてここを探検し，1614〜1616年J.スミスによってニューイングランドと命名された。1620年メーフラワー号の清教徒がマサチューセッツのプリマウスに最初の入植地を建設，1643年にマサチューセッツベイ・プリマウス・コネチカット・ニューヘブンの植民地はニューイングランド連盟を結成したが，これがアメリカにおける最初の連盟体となった。〔相村大彬〕

にゅうえき　【乳液】　乳状の化粧水*で，基礎化粧料の一種。クリーム*と一般化粧水の中間タイプで，クリームよりも油性成分の割合が小さい。脂肪性用と荒れ性用とがあり,後者はアーモンド油・ラノリン油を含むので，脂肪分が多い。化粧下や手足の手入れにも用いられる。

にゅうかざい　【乳化剤】　エマルジョン*の製造を容易にし，かつこれを安定に保つために加える物質。一般に，2種類の液体が安定なエマルジョンを形成するためには，

第3の物質(乳化剤)が必要である。表面活性の物質で，分子の一方が有極性の基，他方が無極性の基であるようなものは一般に乳化剤の作用をする。油を水中に分散させるには，オレイン酸ナトリウム・アルカリせっけん・ゼラチン・サポニンなどが用いられ，水を油中に分散するにはオレイン酸カルシウム・重金属せっけん・ラノリンなどが用いられる。〔水野俊彦〕

にゅうかじゅうごう【乳化重合】付加重合*における重合方法の一。エマルジョン重合ともいう。水に不溶性の液状の単量体を重合させるときに，工業的によく用いられる方法。乳化剤にせっけんや表面活性剤などを用いてこの単量体を水に分散させた状態で，水溶性の重合開始剤で重合反応を行なわせる。重合反応は分散した個々の単量体微粒子内でのみ進行するので，生成重合体はやはり微粉が水に分散した乳化状態で得られる。この方法では，重合によって発生する熱が媒体の水に分散されるので，重合系の温度調節が容易であるという利点がある。SBR・NBRその他，典型的な合成ゴム*の製造にこの方法が最もよく利用され，その他，ペースト用ポリ塩化ビニル・ポリ酢酸ビニル塗料・接着剤などをつくるのに用いられている。→重合 →プラスチック*

にゅうがん【乳癌】乳腺*(にゅうせん)組織に発生する癌*。発生頻度(ひんど)は，女性において胃・子宮・肝胆道に次いで第4位を占め，好発年齢は40～50歳代，60～70歳代がこれに次ぐ。乳房の外上郭に発生することが最も多く，内下郭には少ない。両側の乳腺に発生することはまれである。未産寡婦，流早産の反覆，母乳授乳制限など内分泌環境の異常が密接に関係するとされ，また乳腺炎*に罹患(りかん)した患者に発生することも少なくない。乳腺症*からの悪性化は6％前後とされている。一般に若年者・妊産婦の乳癌は発育が速く，またきわめてまれに男子にも発生する。症状は乳房中に腫瘤(しゅりゅう)ができ，痛みはないが，比較的限局性でかたい。リンパ行性に腋窩(えきか)に移りやすく，晩期には血行性に骨・肺・肝などに転移をみる。治療は，手術療法が行なわれるが，根治手術施行率は70～80％である。腫瘍(しゅよう)を含む乳腺を皮膚・皮下組織・大小胸筋とともに広範に切除し，同時に同側の腋窩のリンパ管とリンパ節を切除する腋窩郭清術が必要である。手術後の再発予防として放射線照射が行なわれる。〔三島好雄〕

にゅうぎょう【乳業】牛乳の加工・乳製品の生産を行なう事業。乳加工の歴史はきわめて古いが，長い間家内製造であり，バター・チーズなどの本格的な工場生産は1890年以降，練乳は19世紀末，粉乳は20世紀にはいってからである。わが国の場合，外国からの移植産業であるため，当初から大資本によって始められ，現在の食品工業の中では格段に大きい資本規模をもつ。工場も巨大で，総集乳量の3分の2以上を明治乳業・森永(もりなが)乳業・雪印乳業の大手3社で確保し，市場占有率は世界一である。なお，原料乳の約60％が飲用牛乳に，約15％ずつが粉乳・バターに，練乳・チーズに約3％ずつが用いられる。〔森田琢磨〕

にゅうざい【乳剤】脂肪・脂肪油・水に不溶性の医薬品などを乳化剤*を用いて水中に微細均等に分散した乳状の液剤。内用剤には不快な臭味のある医薬品を飲みやすくし，さらに消化吸収をよくする目的で用いられ，外用剤では皮膚疾患用薬剤・化粧品などに応用される。殺虫剤にも広く活用されているが，この場合の乳剤とは，前記のものと異なり澄明な液剤で，水に滴加して薄めるとはじめて乳状となり，用時に水で乳状液にして使用する剤形のものである。また外用剤には油中に水の小粒子を分散させた形の乳剤もある。〔江本龍雄〕

にゅうさつ【入札】売買契約締結の一方法。単数の売り手に対して買い手が複数，あるいは，単数の買い手に対して売り手が複数のときに行なわれる。これらは，いずれも複数者の側に競争が存在するので，前者にあっては，売り手は複数の買い手のうちで最も高い価格をつけた買い手に売り渡すことになり(入札売)，後者にあっては，買い手は最も低い価格をつけた売り手から買い入れることになる(入札買)。なお，この入札売買では，売買価格の申し出が文書でなされる点に特徴がある。したがって，方法は公開であるが，競争相手が申し出た価格はそれが公開されるまで知ることができず，いったん申し出た価格を途中で変更あるいは撤回することもできない。わが国の会計法では各省各庁の締結する契約は入札をもって行なうことが規定されている。〔清水 晶〕

にゅうさん【乳酸】$CH_3CHOH\text{-}COOH$ α-オキシプロピオン酸のこと。普通は無色無臭の粘り気のある液体で，強い酸味を呈する。一般に乳酸菌*による発酵で生成し，酸敗した牛乳(ヨーグルト)やつけ物など酸味を有する食品に多く含まれている。微生物の乳酸発酵により生成する乳酸はふつうD-型またはDL-型(ラセミ体)である。ラセミ体はD-型がラセマーゼ作用によってできたものと考えられる。乳酸はまた哺乳(ほにゅう)類の筋肉・血液・尿中にも見いだされ，特に筋肉が激しく活動した直後には大量に生成する。激しい運動のため筋肉に酸素欠乏の状態を生じると，呼吸によるグリコゲンの完全分解ができなくなり，解糖*系で生じたピルビン酸が酵素的還元をうけて乳酸に変化する。この乳酸はL-型で，筋肉乳酸ともいう。筋肉が休息して酸化的回復を得られると，蓄積した乳酸は筋肉からすみやかに拡散し，血液にはいって肝臓に運ばれ，ここでグリコゲンに再合成される。乳酸は工業的にはデンプン・ブドウ糖・糖蜜(とうみつ)などの発酵により得られる。多くの用途があり，羊毛の媒染剤，飲料の酸味剤，種々の溶剤として利用される。〔南川隆雄〕

にゅうさんきん【乳酸菌】糖を発酵して乳酸*をつくる菌。このうちおもに乳酸のみを生成する菌をホモ乳酸菌，乳酸以外にほかの酸も生成するものをヘテロ乳酸菌という。球菌のものと桿菌(かんきん)のものとがある。一般に発酵によるエネルギーで生活し，嫌気(けんき)性・耐酸性が強く，グラム染色陽性である。多くの乳酸菌は動物の腸に寄生したり植物体に付着して生活している。酪農品・つけ物の製造に利用される。

にゅうさんきんいんりょう【乳酸菌飲料】乳汁(にゅうじゅう)中の乳糖を乳酸菌で発酵させ，生成した乳酸を原料にしてつくった飲料。食品衛生法上では乳性飲料の発酵乳に属する。発酵した乳酸をそのまま使うカード(凝乳)状のヨーグルトや液状にしたヤクルト形態のものは，いずれも乳酸生菌のまま飲用するため整腸作用などの生理的効果がある。一方乳酸発酵後のカードを均一化し，糖やフレーバーを添加してびんづめし殺菌したものを希釈して清涼飲料として飲用するカルピス形態のものがある。この種の飲料はかなり古くからソ連・モンゴル人民共和国・トルコなどにあり，これらは牛乳のほかに，ウマ・ヒツジ・ラクダの乳を使ったものもありケフィア・クミスなどの名で滋養飲料として住民に飲用されていた。〔斎藤 進〕

にゅうさんはっこう【乳酸発酵】微生物(乳酸菌・くものすかびなど)や筋肉の行なうエネルギー獲得のための生化学反応で，主として糖類(ブドウ糖)から種々の酵素によって乳酸(α-ハイドロキシプロピオン酸 CH_3・CHOH・COOH)を生ずるものの総称。しかし，乳酸は不斉(ふせい)炭素を1個もっているため，L，Dおよびラセミの3型があり，各生物により生ずる乳酸もこの三つの場合がある。また発酵の過程も異なり，無酸素(嫌気(けんき))状態で進行するものや酸素を必要とする(好気)ものなどがある。おもな生物の例についてこれらの区別を示すと次のようになる。動物の筋肉(嫌気性，L-乳酸)，くものすかび(好気性，L-乳酸)，ラクトバチルス－ラクチス(嫌気性，L-乳酸)，ペディオコッカス菌(通性嫌気性，ラセミ乳酸)，ラクトバチルス－カゼイ(嫌気性，D-乳酸)。乳酸発酵によって生ずるエネルギーは小さく，筋肉の運動で生じた乳酸は好気的酸化で発生する大量のエネルギーの一部を使って相当量は再びブドウ糖に再生されグリコゲンとして貯蔵される。細菌の乳酸発酵は，乳酸飲料・つけ物類・酒類の醸造などに利用される。〔白土志郎〕

にゅうし【乳歯】哺乳(ほにゅう)動物の歯は同じ場所に同じような形の歯が2回はえ

るのが原則で，そのうち初めにはえる歯を乳歯という。ヒトでは上顎(じょうがく)・下顎の両側に各５本（切歯２，犬歯１，臼(きゅう)歯２）ずつ合計20本ある。乳歯がはえはじめるのはふつう生後６～７か月ごろからで，前のほうから始まって奥のほうへとはえそろっていく。はえ終わるのは２～３歳ごろである。➔永久歯 ➔歯

にゅうじ 【乳児】 出生後12か月までの子どもをいう。そのうち特に出生後４週間までを新生児*といっている。

【発育】身体の発育は出生後間もない間は非常にすみやかで，その後しだいにゆるやかになっていくが，それでも幼児*や学童*よりははるかに早い。体重は最初の６か月は１日20～30g，７～12か月では10～20gずつ増加し，12か月では出生時の約３倍になる。身長・胸囲・頭囲などの発育値は表に示すとおりである。生後６～７か月から歯がはえはじめ，下中切歯から始まって生後12か月では下２本上４本ぐらいになるのが普通である。運動機能の発達は生後３か月で首がすわり，腹ばいで肩と胸をもち上げ，７か月ごろからひとりですわれるようになり，12か月ではひとりで立ち上がり，まもなく歩きはじめる。これらは骨格・筋肉・神経の発達に伴って，しだいに平衡がとれるようになるからである。感覚器も出生後２～３か月では母親の表情やおもちゃの色や音を認識するだけであるが，やがて精神活動や情緒が発達し，周囲のものを認識し，興味をもちはじめ，６か月ごろから驚いたり，恐れたり，人見知りをしたりするようになる。あるいはさらに積極的に人との接触を求めるようにもなる。しかしことばの発達は，12か月ごろでようやくウマウマ・パンパンなど２音を続けた２～３のことばを発する程度である。

【生理】乳児の心臓は体に比べて機能が不完全であるから，脈搏数(みゃくはくすう)は多く１分間120～140ある。呼吸器も構造的にまだ不完全で，胸郭は丸くふくれた形で，呼吸筋も弱い。それで肺の換気機能が悪く，その結果呼吸数も多く１分間30～45である。すわったり，立ったり，歩いたりするようになると胸郭も発達して，呼吸機能も能率がよくなり，呼吸数もしだいに成人の数に近づく。消化器の特徴として乳児期の前半は歯がなく，乳首を吸うのに都合よくできている。口腔(こうこう)・胃腸の消化腺(しょうかせん)からは主として乳汁(にゅうじゅう)の消化に役だつ酵素が分泌され，デンプンの消化酵素などは，それを少しずつ与えるようになってはじめて多く分泌されるようになる。尿の排泄(はいせつ)は，乳汁などの水分を多量にとるために，回数が多く，成分や色は薄い。１日の回数は10～20回に及び，量は300～500mlである。便は摂取する食物によってかなり違い，母乳栄養児は柔らかく黄色みがあり酸臭のある便を１日２～５回，15～25g排泄する。人工栄養児では比較的かたい，薄黄色の腐敗臭のある便を１日１～２回，30～40g排泄する。この両者の違いは乳汁の成分の相違によるものである。母乳栄養児の腸中にはビフィズス菌（乳酸菌の一種）が多く増殖しているが，人工栄養児では少なく，大腸菌が多い。母乳栄養児では健康児でもしばしば緑色便を出すが，これはビフィズス菌のためにつくられた乳酸のために便が酸性に傾き，便中のビリルビンが酸化されて緑色のビリベルジンに変わりやすいからである。人工栄養児の便のかたいのは，牛乳や粉乳中にタンパク質やカルシウム・マグネシウムなどの無機質が多く，それらが結合してかたくなるためである。乳児の睡眠時間は長く，１～６か月児では15～18時間，７～12か月児では13～15時間である。

【栄養】生後６か月までは主として乳汁で，その中では母乳が最も適当である。母乳が得られないときはもらい乳をするか，乳母*(うば)を捜し，それらも得られないときは人工栄養*とする。母乳が一部不足のときは混合栄養*とする。生後３か月ごろからは，果汁・スープなどを与えて離乳の準備をはじめ，５か月ごろからはかゆや野菜のつぶしたものなどを与え，本格的な離乳をはじめる。そして生後11～12か月では乳汁は一部で，離乳食が大部分を占めるようにまで進める。

【養護】乳児は幼児以上と違い，家庭内でベッドに寝かされていることが多い。朝起きると哺乳(ほにゅう)，その後３～４時間ごとに乳汁や離乳食を与え，その間に午前中は日光浴*・乳児体操*，午後は入浴などをさせる。乳児期前半の６か月はほとんどベッドに寝かせておくが，後半ではときどきおすわりやささえ立ちをさせて運動の練習をさせる。最近はいすや歩行器などの育児家具がいろいろ市販されているので，これらを適当に利用して保育することが望ましい。しかしこれらは乳児の事故予防には有効であるが，あまりに型にはめた保育になりすぎるとホスピタリズム*症状を起こすので，ある程度は直接母の手をかけてやるべきである。７～８か月になれば，腰掛け形便器を使って排尿・排便の訓練もはじめる。

【病気とその予防】生後６か月過ぎると先天性免疫が切れ，インフルエンザ・はしか・日本脳炎・ジフテリア・急性灰白髄炎などにかかりやすくなる。乳児の死亡で最も多いのは先天性の疾患による新生児のそれであるが，その後は肺炎・下痢性疾患・はしか・インフルエンザなどの伝染病によるものが多くなる。それらの病気の予防には，予防接種を受け，さらにつねに栄養に気をつけて体力をつけることである。乳児の病気は急に重くなることが多いので，早期受診と早期治療がたいせつ。〔宇留野勝正〕

にゅうじいん 【乳児院】 乳児*を入院させて養育することを目的とする児童福祉施設。原則として健康な乳児を家庭で保育できない場合，母が死亡した，結核や精神病などの病気である，両親が離婚して母が働いているなどの理由で，母自身あるいは父その他の家族では保育ができない場合に入院させる。職員は医師・看護婦・栄養士および書記で，看護婦の数はだいたい乳児２人につき１人以上とされる。乳児院のうち乳児10人未満を入所させるものを乳児預かり所といい，設備は乳児養育の専用室（１室9.91m²以上），乳児１人につき1.65m²以上，また看護婦３人以上，嘱託医の必要なことなどが決められている。〔宇留野勝正〕

にゅうじえいようしょうがい 【乳児栄養障害】 生体の栄養は，栄養の摂取，消化吸収作用，中間代謝の３機能によって保持されるが，それらの機能が冒されて栄養状態に破綻(はたん)をきたして病的状態となった状態を栄養障害という。乳児では以上の３機能が元来未熟であるため障害をうけやすい。乳児の栄養障害は以上の機能のどれがおもに冒されるか，またその続く期間によって，いろいろに分類される。最も多く用いられている分類は次のようである。①急性栄養障害：急性下痢を主症状とするもので，単一症候性および多発症候性下痢症に分けられ，一時的に消化作用や代謝機能

乳児の身体発育値（平均値）　　厚生省　1970年（昭和45）調査

月齢	身長(cm) 男	身長(cm) 女	体重(kg) 男	体重(kg) 女	胸囲(cm) 男	胸囲(cm) 女	頭囲(cm) 男	頭囲(cm) 女
出生時	50.2	49.7	3.2	3.1	32.8	32.6	33.5	33.1
1～2か月	56.1	54.9	5.0	4.6	38.4	37.4	37.6	36.7
2～3	60.1	58.5	6.1	5.6	41.2	40.0	39.8	38.8
3～4	63.0	61.3	6.9	6.4	42.9	41.6	41.4	40.2
4～5	65.1	63.5	7.4	6.9	43.7	42.5	42.3	41.2
5～6	66.7	65.2	7.8	7.3	44.2	43.1	43.1	42.0
6～7	68.2	66.6	8.2	7.7	44.7	43.6	43.9	42.7
7～8	69.5	67.9	8.5	8.0	45.2	44.1	44.5	43.4
8～9	70.7	69.1	8.7	8.2	45.6	44.5	45.1	43.9
9～10	71.9	70.4	9.0	8.5	45.9	44.9	45.6	44.4
10～11	73.1	71.8	9.2	8.7	46.3	45.2	45.9	44.9
11～12	74.2	73.0	9.3	8.9	46.6	45.5	46.2	45.2

が冒されるものをいう。②慢性栄養障害：発育停止や体重減少を主症状とするもので，栄養失調症とその強度な消耗症とに分けられる。栄養不足・慢性下痢・代謝障害などが発生原因とされる。〔宇留野勝正〕

にゅうじげりしょう【乳児下痢症】⇨消化不良

にゅうじたいそう【乳児体操】乳児の運動機能の発達を促し，健康を増進するために行なわせる体操。50年前，ドイツでノイマン・ノイローデによって肺炎予防の目的で始められた。これは十分に運動する乳児は肺に鬱血(うっけつ)がないので気管支肺炎を起こすことが少ないという経験による。その後フランスのマルライン・ジーグルは，乳児の運動機能を発達させるような原理を取り入れて，その線に沿った体操を研究した。現在はこれを基本としている。

【体操のさせ方】いろいろあるが，基本型は次のとおりである。①上肢(じょうし)の運動(腕の屈伸，腕の胸上交差)，②下肢の運動(脚の屈伸，脚の股(また)関節での開閉運動)，③胸腹筋の運動(腹ばいにして両手を床から離す運動，次に腹ばいの姿勢で腰部をもって空中遊泳させる形の運動)，④背筋の運動(あおむけにして前同様に腰を持ち空中背泳の形の運動)，⑤座位から起立への練習運動(あおむけにした乳児の両腕を引いて，座位まで起き上がらせ，さらに手を引いて起立させる)などである。以上の各運動を2～4回ずつくり返し，全時間で10～15分間行なう。乳児体操は生後3か月ごろから，上下肢の運動からはじめ，しだいに運動の種類を増すようにする。運動不足になりがちな環境の乳児に施すとよい。肥満児の予防や治療にも効果がある。

にゅうしゃかく【入射角】⇨屈折

にゅうじょうぜい【入場税】興行場などへ入場する際に課せられる国税。入場税が課せられる場所は次のとおりである。①映画・演劇・演芸・音楽・スポーツ・見せ物などを多人数に見せ，あるいは聞かせる場所。②競馬場・競輪場・小型自動車競走場・モーターボート競走場。入場税の税率は入場料金の10％，免税点は1人1回30円である。入場税の実際の支払い者は入場者であるが，納税義務はその興行場などの経営者または主催者にある。経営者は毎月分の入場料金の総額および入場税額を記載した申告書を翌月末日までに所轄税務署に提出し，同日までにその税額を納付する。入場券は原則として官製である。

にゅうせいひん【乳製品】牛乳を主原料として製造される食品の総称。種類はきわめて多いが，次のように大別される。①保存用に加工して飲用するもの(練乳・粉乳や脱脂乳・発酵乳・乳酸菌飲料など)，②乳中の脂肪・タンパク質などを分離・加工したもの(チーズ・バター・クリームなど)。このうちチーズ・バターは数千年の歴史をもち，練乳・粉乳は近代産業の産物といえる。近年の日本人の食生活において，牛乳や乳製品は，その消費量もしだいに増加し，良質タンパク質摂取の面から重要視されているが，欧米に比較すると1人あたり消費量は著しく少ない。➔牛乳〔佐藤友太郎〕



ニューオーリンズ　市の中心部とミシシッピ川。港市にふさわしく，河畔には埠頭・倉庫・工場などが並んでいる

にゅうせん【乳腺】哺乳(ほにゅう)動物特有の腺。もともと汗腺の変化したもので，雌雄ともにあるが雄では痕跡(こんせき)的である。雌では性的成熟，さらに妊娠によって著しく発達し，分娩(ぶんべん)後は乳汁(にゅうじゅう)を分泌して新生児を哺育する。最も原始的な卵生の哺乳動物であるカモノハシでは，乳腺は多数集まって平らな皮膚面に開口し，ハリモグラでは開口部の皮膚が少しくぼんで左右1対の乳嚢(にゅうのう)を形成する。その他の哺乳動物では，乳腺の開口部に乳頭とよぶ新生児の哺乳に適した突起物がある。ヒトの乳腺は乳房の主要素をなすもので，15～20の腺葉からなり，これらは脂肪組織と結合組織とでできた支帯でしきられ，乳頭を中心に放射状に配列している。各腺葉からは各1本の導管が出て，乳頭の先に別に開口している。乳房を押して乳汁のふき出るようすを見ると，乳頭の先にたくさんのあながあいていることがわかる。乳腺の発育と泌乳は，脳下垂体からのホルモンと雌性ホルモンによって支配されている。〔幡井勉・橋本長〕

にゅうぜん【入善(町)】富山県下新川(しもにいかわ)郡にある町。人口29,000。黒部川右岸の扇状地を占める。1953年(昭和28)入善町を中心に1町7村が合併して発足した。早場米の産地で，秋落ち防止のため流水客土が実施されている。海岸線は侵食が著しいことでも有名。北陸本線が通じる。

にゅうせんえん【乳腺炎】乳腺に起こる炎症。化膿(かのう)菌の感染による急性化膿性乳腺炎と乳汁(にゅうじゅう)排出が十分で乳汁が鬱滞(うったい)して起こる鬱滞性乳腺炎が最も多く，ともに産褥(さんじょく)期にみられる。乳腺の緊張腫大(しゅだい)，局所の熱感，発赤，疼痛(とうつう)，発熱などの炎症症状を呈するが，後者は症状が軽い。治療は早期には湿布，吸乳などを，また膿瘍(のうよう)に対しては化学療法・穿刺(せんし)排膿切開などが行なわれる。まれなものとして，チフスなどの回復期にみられるものや結核性のものがある。

にゅうせんしょう【乳腺症】マストパチーともいう。乳腺に境界不明の大小多数の硬結が現われ，その中に境界がやや鮮明でさまざまの大きさの腫瘤(しゅりゅう)がみられる状態。腫瘤が皮膚や胸郭と癒着(ゆちゃく)したり，腋窩(えきか)リンパ節がはれたりすることはない。月経の終期に発生することが多いが，30歳代にみることもあり，慢性刺激状態とも退行性変化ともいわれるが，本態はまだ一定しない。6％前後が癌(がん)になるといわれ，疑わしいものでは試験切除が必要である。➔乳癌〔三島好雄〕

にゅうとう【乳糖】二糖類の一種でラクトースともいう。加水分解によりブドウ糖とガラクトースを生じる。おもに哺乳(ほにゅう)類の乳の中に存在し，人乳には6.7％，牛乳には4.5％程度含まれている。またチーズ製造中の副産物として大量に得られる。乳糖には1水和物のα型と無水物のβ型があり，β型のほうがわずかながら甘味が強い。

にゅうどう【入道】仏の悟りの境地にはいること。また，仏門にはいり悟りへの道に努力精進すること，あるいは，そのような人をいう。日本では純粋の出家者ではなく，おもに三位以上の位階をもつ皇族や公卿(くぎょう)が俗世の生活を送りながら仏門に帰依し剃髪(ていはつ)した場合の敬称にも用いられた。藤原道長にはじまるという。女性の場合は尼入道という。

にゅうどうぐも【入道雲】非常に発達した積乱雲のこと。積乱雲の発達の最盛期には，雲の高さは10,000mから13,000mにも達し，その巨大な積乱雲の中で，もくもくしたいくつかの塔状をなした雲があり，きわめて強い上昇気流があることを示している。そのような雲を称して入道雲と俗にいわれているが雲の学名ではない。

にゅうないすずめ【入内雀】鳥類・ハ

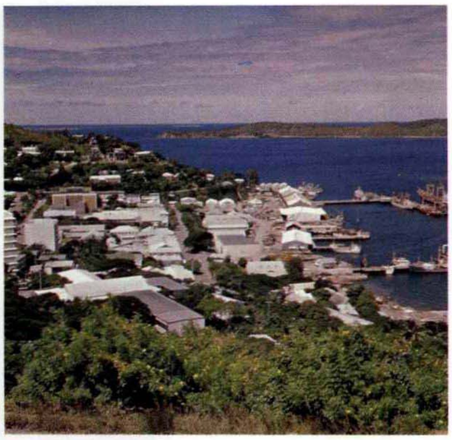
タオリドリ科。全長約14cmの小鳥。スズメによく似るが，上面はスズメよりも赤みをおび，顔に黒色斑(こくしょくはん)がない。雌はのどの黒色部も欠く。ヒマラヤから中国・日本にかけて分布する。日本では中部以北の山地と北海道で繁殖しているが，スズメと同一場所では見られない。冬は本州以南の平地で見られる。

ニューオーリンズ［New Orleans］ アメリカ合衆国，ルイジアナ州南東部にある州最大の港湾，商工業都市。ミシシッピ川河口から170km上流の左岸に発達し，人口51万3,000，大ニューオーリンズ104万6,000(1973)。古くから商港として発達し，輸出入額はニューヨークに次ぎ合衆国第2位であり，綿の輸出港，バナナの輸入港として有名。工業は農産物加工を主とし，精糖・サイザルアサ加工などが行なわれ，ほかには化学・造船などの工業もある。1718年フランス人によって建設され，1764年にスペイン領，1803年アメリカ合衆国領となった。スペイン・フランスの植民時代の遺跡も残っており，市内にはフランス系住民のフランス地区がある。また，市内には河面以下の低地が多く，洪水(こうずい)にさらされることが多い。かつては黒人奴隷の供給市場があった所で，ジャズの誕生地としても名高い。→前ページ(写真)〔相村大彬〕

ニューカッスル［Newcastle upon Tyne］ イギリス，イングランド北東部，リーズの北130kmにある工業都市。正式にはニューカッスル-アポン-タイン。人口29万7,000(1974)。北海に注ぐタイン川の河口から13km上流にある河港で，石炭の積み出しと造船・製粉などのほか，鉄鋼・機関車・兵器などの工業が盛ん。またイングランドとスコットランドを結ぶ交通の要地でもある。ローマ時代には要塞(ようさい)が置かれ，古くはモンクチェスターとよばれたが，1080年ノルマンジー侯ウィリアムのむすこロバートがここに城を築いてから現在の名となった。1177年建造の古城，中世に建造された公会堂・寺院・学校が残っている。石炭の積み出しは13世紀に始まり，17世紀以降盛んになった。17～19世紀にはガラス工業が有名であったが，現在では衰退している。

ニューカッスル［New Castle］ オーストラリア，ニューサウスウェールズ州の港市。人口35万4,630(1972)。太平洋に注ぐハンター川河口に臨み，後背地に豊富な出炭量をもつ炭田を控え，工業都市として発展している。鉄鋼・化学繊維・農畜産加工などの工業のほか各種の化学工業が盛んで，この国第3の貿易額をもつ貿易港でもある。

ニューカッスルびょう【ニューカッスル病】 ウイルスによるニワトリその他の家禽(かきん)の急性伝染病。高熱・食欲不振・呼吸困難などの兆候を示し，下痢を伴う。また頭を振り，異常運動をするなどの神経症状を呈し，ついには起立不能となって死亡する。病鶏の卵には多量の病毒を含むが，発病と同時に産卵は止まる。治療は困難であるが予防液がある。家畜法定伝染病に指定されている。



ニューギニア島 オーストラリア領の主都ポートモレスビーの景観。濃い緑の中に白い瀟洒な住宅と近代的ビルが立ち，港には外国船が着岸している

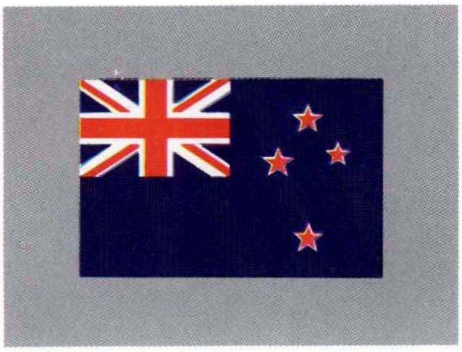
ニューカム［Simon Newcomb］(1835～1909) アメリカの天文学者。カナダの生まれ。1853年ハーバード大学に学び，1861年海軍大学の数学教授，1884年よりジョンズ-ホプキンズ大学教授を兼任。アメリカの天体暦編纂(へんさん)の基礎を確立するため，天文常数を決定し，各惑星の運動理論を完成。このほか月の運動の研究による大実験項の発見，光速度測定の実験などがある。アメリカ天文学会を創設，また多くの天文学啓蒙(けいもう)書を著わした。〔根本順吉〕

ニューカレドニア(島)［New Caledonia, Nouvelle Calédonie］ フランス名ヌーベルカレドニエ島。南西太平洋，メラネシアにある大島で，面積15,996km²。主都はヌメア。政治上は付近のローヤルチー・ウォリー・フツナ・パイン・フオン・チェスターフィールド・ウォールポール・ベレツブの島々とともにフランスの管理下にある。高い山と広い谷があり，海岸にはサンゴ礁が発達する。南東貿易風地帯にあり，亜熱帯気候で雨が少なく草地が多い。ココヤシ・コーヒーノキ・ワタなどのプランテーションがあり，ほかにバナナ・キャッサバ・トウモロコシ・パイナップル・タバコ・果樹・小麦・米などを産し，ウシ・ヒツジの放牧場も多い。鉱産物は豊富で，ニッケル・クローム・マンガン・コバルト・鉛・金・銀・石炭・鉄鉱石を産し，特にニッケルとクロームは，世界産額の7分の1を占める。住民の多くはメラネシア人で，ほかにヨーロッパ人も住み，インドネシア人とベトナム人は鉱山で働いている。

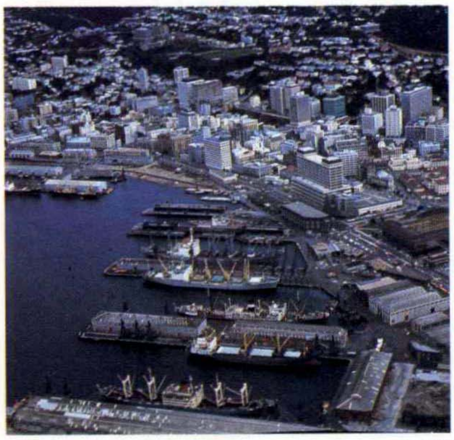
1768年フランスの航海者L. A. ブーゲンビルが発見し，1774年にはイギリスの航海者J. クックが上陸，スコットランドのカレドニア地方の海岸に似ているところからこの名をつけた。1853年からフランス領となり，第2次世界大戦中，フランスがドイツに降伏したあとも抵抗を続け，1942年から大戦終了までアメリカ合衆国軍の南太平洋軍総司令部が置かれた。〔大崎 晃〕

ニューギニア(島)［New Guinea, Papua］ 別名パプア島。南西太平洋，オーストラリア大陸の北方にある世界第2の大島で，面積78万4,836km²。行政上三つに分かれ，西部(西イリアン)はインドネシア領で，ショーテン・ヤーペン・ラジャ・アンパート・サラワチの沿岸諸島を含み，面積39万1,616km²。東北部はオーストラリアの信託統治領で，ニューアイルランド・ニューブリテン・ブーゲンビルとブカ(ソロモン諸島)の諸島とともに，面積23万9,940km²。東南部はオーストラリア領パプアで，トロブリアンド・ウッドラーク・デントレカストーズ・ルイシアードの諸島を含み，面積23万3,593km²。オーストラリアの信託統治地とオーストラリア領パプアは，1973年，オーストラリアの自治領となり，1975年9月に独立，パプア・ニューギニアとして，イギリス連邦に加盟した。人口308万(1979推)。首都ポートモレスビー。

【自然・住民】 オーストラリア大陸とはアラフラ海とトーレス海峡で隔てられる。島を東西に貫いて山脈が走り，ナッサウ山脈・オラニエ山脈・ビスマーク山脈・オーンスタンリー山脈などがある。最高峰はナッサウ山脈のスカルノ峰(カルステンス山)で，標高5,029m。オーンスタンリー山脈は，第2次世界大戦中，開戦以来進撃を続けた日本軍がはじめてストップさせられた所として知られ，赤道のすぐ南にあるが高所では万年雪がある。島の中央部では，山脈の間の広い低湿地帯を，フライ・ジゲール・スピク・マンベラモ・キコリ・ラムなどの河川が流れ，フライ川は，河口から800km上流まではしけで遡行(そこう)できる。季節の変化はほとんどなく，気候は高温多雨で，雨量は季節風のために非常に多く特に山地に多い。このため，植物も低地の熱帯性の密林から，山地中腹の松類とコケ類，高所の高山植物群と変化に富む。海岸にはマングローブの林と湿地帯が多い。生物にも特色があり，爬虫(はちゅう)類ではワニ・トカゲ・毒ヘビなどの種類が多く，哺乳(ほにゅう)類では，カンガルー・アリクイ・大コウモリ・ムササビなどがいる。鳥類では，オウム・ヒクイドリ・極楽鳥などが有名である。極楽鳥の羽根は，かつて原住民の儀式や祭りの装飾に用いられたが，今日では保護鳥となっている。サンゴ礁の浅海では，魚類と貝類の種類が多い。住民はメラネシア系で，高地の小ネグリトイド人，海岸のネグロイド人の特徴をもつメラネシア人，それにパプア人の3種族があり，タロイモ・ヤムイモ・サツマイモ・サゴヤシ・バナナ・魚などを食料にしている。ほかに，マライ人・中国人・ヨーロッパ人が少数居住している。



ニュージーランドの国旗 1901年制定。星は南十字星を表わし，左上部にユニオンジャックを掲げてイギリス連邦に所属していることを示している。星の縁が白いのは，かつてこの旗の星の部分に赤い文字〈NZ〉が書かれていたとき以来のものである



ニュージーランド 首都ウェリントンの中心部と港。近代的なビル街の背後の丘には，美しい緑に包まれた住宅地が広がる



ニュージーランド

〔歴史・産業〕ニューギニアの名は，1545年に北岸を探検したユニゴ-オルト-デレテが，西アフリカのギニア湾岸に似ているとして名づけた。1526年G.メネズはここをイラ-ド-パプア(パプア人の島)とよんだ。1714年オランダは土侯と結び，東経141°以西の支配権を得たが，その後ほとんど開発の努力をしていなかった。第2次世界大戦後オランダは，西部ニューギニアの帰属を住民の意志に任せることを提案し，行政・経済の面で住民を支援し，インドネシアから切り離そうとした。だが1961年以来インドネシアと争って失敗し，1969年の住民投票によってインドネシア編入が決まった。現在西イリアンの主都はスカルナプラで，石油・コプラ・ニクズク・樹脂・貝・ワニ皮を輸出している。

東経141°以東の地は，1870年にドイツのハンブルクのコットフロイ会社が市場として開拓した。1884年東北部はドイツが領有し農園や道路をつくった。しかし，第1次世界大戦中の1914年オーストラリアに占領されて委任統治地になり，1946年オーストラリアの信託統治地に移管された。南東部は1884年にイギリス領となり，のちオーストラリアに譲られ，オーストラリア領パプアになった。両地域は1975年独立し，首都はポートモレスビーでゴムノキ・ココヤシのプランテーションがあり，コプラ・ココア・コーヒー・茶・ゴム・マニラ麻・サイザルアサなどを輸出する。　〔大崎　晃〕

ニューコメン〔Thomas Newcomen〕(1663〜1729)　イギリスの発明家。1710年ごろ，セーバリの蒸気圧揚水機を改良し，ボイラーが機関から分離された蒸気大気圧機関を発明した。これは蒸気力を利用した世界最初の実用的蒸気機関で，ワット*の発明が現われるまで，炭鉱や鉱山の揚水・通風などに広く使用された。

ニューサウスウェールズ(州)〔New South Wales〕オーストラリア大陸南東部に位置する州。面積80万1,432km²。人口469万6,000(1972)。面積は南に接するビクトリア州に次いで小さいが，人口は大陸の全人口の3分の1以上を占め，政治・経済・産業・文化の中心地域となっている。州の東部はオーストラリア-アルプスなどを含む大分水嶺(ぶんすいれい)山脈が海岸に並行に走り，西部はマレー川・ダーリング川の流域平野が広く展開している。この地域はオセアニア大陸開拓の基礎が築かれた所で，現在でも土地利用は大陸中で最も集約的である。山地の南部は高峻(こうしゅん)であるが，全体として高原状で，農牧地となっており，多数の乳牛が飼育されている。山地の東斜

面は雨量が多く，用材として有用なユーカリがおい茂る。シドニー北方のニューカッスル炭田は大陸第1の埋蔵量を誇り，生産量は大陸全体のほぼ90%を占める。西部のマレー・ダーリング川流域平野は雨量が少ないが，川からの灌漑(かんがい)用水を得て小麦の栽培が行なわれ，大陸第1の小麦産地となっている。またここはヒツジの飼育も盛んである。太平洋岸にある港市シドニーは，ビクトリア州のメルボルンとともに，この国の2大貿易港の一つで，州都でもある。高原上にある連邦の首都キャンベラは連邦政府の直轄地で，かつてシドニーとメルボルンが首都の地を争ったために，両市の中間点に計画的に建設されたものである。〔小栗　宏〕

ニュージャージー(州)［New Jersey］アメリカ合衆国北東部，大西洋岸の州。面積19,500km²。人口732万5,000(1973)。州都トレントン。独立宣言13州の一つで，州名は1664年にヨーク公がイギリス海峡のジャージー島の名をつけることを許可したことによる。人口密度は，全国で最も高く，また鉄道・道路など交通網の密度も高い。農地と森林が全土の71%を占め，野菜・くだもの・家禽(かきん)・酪農などの近郊農業が発達しており，単位面積当たりの農業収入は全国第1位である。工業生産額は全国第7位で，特に化学工業は全国一の生産額を誇る。衣服・器械・電気機械・食品・繊維・印刷・輸送機関などの工業も盛ん。主要都市，ニューアーク・ジャージーシチー・パターソン・カムデン。〔相村大彬〕

ニュージーランド［New Zealand］南太平洋にあるイギリス連邦所属の自治国。総面積26万8,675km²，人口は310万(1979年推)。首都ウェリントン。

【自然・住民】国土は北島(11万4,295km²)・南島(15万525km²)・スチュアート島(1,735km²)・チャタム島(963km²)などからなり，南北2島間はクック海峡で分かれるが，地体構造上は一体のもので，環太平洋造山帯の一部であるニュージーランドアルプスが北東から南西に走る。南島の南アルプスは3,000m以上の高峰をもつ山地で，主峰クック山(3,764m)は氷河の上にそびえて，高所にはカール*が見られ，海岸にはフィヨルド*が発達している。山地は東に向かって緩傾斜し，東海岸にはカンタベリー平野をはじめ，平地が点在する。北島は火山地形に富み，高度も低く，全体に丘陵性で中央に広がる火山性高原の上に最高峰ルアペフ山(2,798m)がそびえている。火山や温泉が多く，著名な温泉観光地として世界に知られている。

気候は，北島のオークランド半島が地中海性の気候を示すほかは，偏西風の影響下にあるため西岸海洋性の気候を示す。気温は北島の北部で年平均15℃，南島の南部で10℃で温和であり，雨量も1年を通じて平均している。

住民は原住民のポリネシア系のマオリ族が，12世紀から14世紀にかけてポリネシアから来住したといわれ，北島に多く居住する。今日では住民の90%以上をイギリス系の白人が占め，年々減少しつつあるマオリ族は，政府の保護を受けている。

【産業・経済】主産業は牧畜と農業であるが，牧畜は農業をしのぎ，牧場は1,240万ヘクタールに及ぶ。ヒツジは4,000万頭を数え，その約60%が北島で飼育され，乳牛は約200万頭で南北両島に広く分布している。農産物は小麦が主であるが，土地があまり肥沃(ひよく)でなく保護が必要なため，北西ヨーロッパのような混合農業の方式をとっている。鉱業は石炭・鉄・金・水銀・マンガン・タングステン・イオウ・石綿・スズ・白金・リンなど種類は多いが産出量が少なく，工業振興の隘路(あいろ)となっている。貿易面では輸出の85%が畜産物で，輸入の大部分は農畜産加工品を除く工業製品が占める。

【歴史・政治】1642年オランダ人タスマンが発見したが彼は上陸せず，その後イギリス人クックが上陸して内陸を探検し，以来オーストラリア経由で来島する者が増加した。1840年に開発会社が設立され，同年正式にイギリスの領有が宣言された。当初は北島の開発に重点が置かれたが，19世紀後半の金鉱発見が南島開発の契機をつくった。1907年本国から自治を認められ，今日に至っている。この国は他の島々にみられる流刑者による開発の歴史はなく，これが移住者の子孫の誇りとなっている。

現在，イギリス本国から任命された総督のもとに議会と内閣があり，議会は一院制で議員は任期3年。恵まれた社会福祉制度をもつ国として知られる。→前ページ(地図・写真・国旗)〔小栗　宏〕

ニュース［news］最近のできごとがマス-メディアを通じて人々に伝達されるもの。ニュースは環境の変化を知ろうとする人間の知的欲求から生まれたもので，この欲求を想定してそのニュースの価値を決める評価基準がニュースバリューである。ブライヤーが〈最良のニュースとは最多数の人人が最大の関心をもつものである〉といったように，その基礎は読者または聴取者における一般関心の吸収度の多寡にある。さらに，ニュースバリューは一般に有名な，あるいは受け手がすでに知って愛着をもっているもの，事件が発展していくもの，異常なもの，性に関するもの，突発的なものなどにあり，ビッグニュースは少なくともこれらをいくつか兼ね備えたものである。しかし，上記のような要素をもつ事件が起こっても，そのままではニュースにならない。すなわちニュースと事件とはけっして同一ではなく，〈事件に対して読者あるいは聴取者の心に訴える細工を施したもの〉がニュースだといえよう。〔松沢　勝〕

ニューズ-ウイーク［News-week］アメリカの週刊誌。1933年イギリス人T.マーチンによって創刊されたが，1937年よりM.ミューアが主宰し，最近ではわが国にも市場を伸ばしている。《タイム》(タイム-ライフ社発行の週刊誌。1923年創刊)の編集方針に範をとって基礎固めに成功し，内容的には共和党色の強い《タイム》に反して，民主党的色彩が濃い。平易な文章と野心的なキャンペーン特集，また署名入りの記事などを特色としている。いわゆるマス-マガジンの崩壊現象の中で，ニュース週刊誌としても改めて編集理念なり編集感覚が問いなおされている現況にある。発行部数約354万(1971)。〔前納弘武〕

ニュースえいが［ニュース映画］報道のために製作・上映される記録映画*。記録映画は本来的に報道性をもっているから，ニュース映画の概念はほぼ記録映画の概念に重なり，リュミエール兄弟*のつくった最初の映画もすでに広義のニュース映画であったということができる。しかし常識的には，劇場で定期的・継続的に上映されるものがニュース映画の一般的な形である。1909年，フランスのパテがはじめてニュース映画をつくって劇場に流した。日本では，1924年(大正13)に大阪毎日新聞社がつくった〈キネマ-ニュース〉が最初のもので，その後おもに大新聞社と映画会社の手によって製作・配給されて普及した。テレビが現われるまでは唯一の動く映像による報道媒体であったから，劇映画同様に大衆化し，都市にはニュースを専門に上映する〈ニュース館〉さえあった。第2次世界大戦中の戦時体制下には，政府のきびしい検閲が加えられ，また政策宣伝のための媒体として利用された。しかし，テレビが現われると，速報性の面で劣る劇場用ニュース映画は急速に人気を失った。〔波多野哲朗〕

ニューズ-オブ-ザ-ワールド［News of the World］世界最大の発行部数を有するイギリスの日曜新聞。1843年創刊。主としてロンドン・マンチェスターの労働者を対象としている。内容的には大衆の通俗的な関心におもねたセンセーショナルな紙面構成が多く，典型的な大衆新聞である。1969年オーストラリアの新聞王R.マードック*に買収され，今日に至っている。発行部数約469万(1980)。

ニュー-ステーツマン［New Statesman］イギリスの週刊誌。1913年ウェッブ夫妻の創刊。政治的には労働党左派系の傾向にある。K.マーチン編集長のもとで，鋭い評論には定評があり，読者層は知識人層が多く，ヨーロッパ各国にもかなりの影響力をもっている。発行部数約90,000(1971)。

ニュータウン［newtown］既成の都市*から離れて新たにつくられた都市のこと。都市に人口や工業が集中し，既成の都市域に収容しきれなくなったり，都市内部の環

境が悪化して，居住に適さなくなったり，あるいは都市内部に保存を要する歴史的建造物が多数あって市内の改造ができにくいときなどに都市周辺に建設される。ニュータウンには官庁都市・工業都市もあるが，一般には住宅都市をさす。母都市に対するニュータウンの位置関係は，惑星に対する衛星のそれに似ているので，衛星都市とよぶこともある。またニュータウンの居住者の大半が母都市への通勤者である場合は，ベッドタウンともよばれる。

ニュータウンの最も長い歴史をもっている国はイギリスである。ヨーロッパ諸国の中で最初に産業革命を達成し，工業による都市の環境悪化を早くから体験したイギリスに，ニュータウンの前身である田園都市をつくる運動が起こった。1902年エベネザー-ハワードは，《明日(あす)の田園都市》という書を著わし，都市と田園との長所を兼ね備えた田園都市を提唱した。それがこの運動のはじまりである。田園都市の特徴は，①都市の周辺を広い農地で取り囲むこと，②人口は30,000人程度の小規模なものとし，人口密度を低くおさえること，③工業を積極的に誘致し，自立できる都市とすること，④土地を公有とし，地代を田園都市の経営に役立てることなどである。1903年には第1田園都市株式会社が設立され，ロンドンから50km離れた所に最初の田園都市レッチワースが建設された。さらに1920年には第2の田園都市ウエルウィンがロンドンの郊外32kmの所に開発された。

本来，田園都市は旧都市の労働者階級の住む不良居住地区の住民を救済し，旧都市から独立した理想のコミュニティーを建設することが目的であったが，その建設には多額の費用を要し，結果的に労働者階級とは無縁なものとなってしまった。そしてロンドンへの人口集中が，ロンドン周辺へのスプロールをひき起こし，田園都市もスプロールにのみこまれて，独立性が失われ，変質してしまった。そこでロンドンへの絶えざる人口流入を防止するため，工業を全国各地へ分散させようとする計画が1940年にバーロウ委員会によって提出された。さらに1944年にはアーバン-クロンビーによる大ロンドン計画が発表された。大ロンドン計画というのは，ロンドンの既成市街地の人口増加を制限し，余剰人口は市街地を取り巻く緑地帯(グリーンベルト*)の外側に人口60,000人程度の規模のニュータウンをいくつか配し，このニュータウンで吸収しようというものである。1945年には工業配置法が，1946年には新都市法が制定され，前記の提案は国の政策として実践段階へ移されていった。こうしてハワードの唱えた田園都市の思想は，第2次世界大戦後，大ロンドン計画の一部として実現したニュータウンに受け継がれていった。ロンドンの中心部から半径30マイルの円内に，スチブニッジ・バジルトン・クローリー・ハロー・ハットフィールド・ヘンメル・ヘムステッド・ウェルウィンの8都市が新都市として指定され，1961年までに22万8,000人が新都市に定着した。ニュータウンは既成の工業に依存して立地するか，または新しい工業を誘致して，新都市での就労機会を多くつくり，母都市から自立することをめざす。新都市内に工場があれば，母都市への通勤人口が減り，主婦にも就職の機会が与えられて，ベッドタウン化が避けられるからである。ニュータウンでは主要交通路は都市内を通さず，住宅地の環境を保つように配慮されている。また，学校・教会・図書館・病院などの公共施設をはじめ，ショッピングセンター・スポーツ施設・娯楽施設などが配置され，便利でアーバニティの高い町づくりがめざされる(→アーバン-デザイン)。

イギリスに次いでニュータウン建設の盛んな国はスウェーデンとアメリカである。スウェーデンではベリングビイ・ハッセルビイ・ファルスタなどの新都市が有名である。アメリカではニューヨーク郊外15マイルの所に1928年に市が開発したラドバーンがあるが，人と車の動線が交差しないような平面計画がなされ，ラドバーン方式としてその後多くのニュータウンでこの手法が採用されている。また，1935年ごろからグリーンベルト(ワシントン郊外)・グリーンヒル(シンシナチ郊外)・グリーンデール(ミルウォーキー郊外)など次々とニュータウンが建設されている。グリーンタウンをはじめアメリカのニュータウンは，自由な曲線道路を基本とし，自動車のスケールに合わせた配置計画が多い。自動車を前提条件とした分散型のニュータウンの例として，デュビット-タウンが有名である。

日本でも，昭和初期にハワードの田園都市運動の影響を受けて，私鉄沿線で住宅地開発が行なわれた。東横線の田園調布もその一例である。第2次世界大戦後は，戦災による住宅の焼失，引き揚げ者の帰還，都市への人口集中により，住宅不足が深刻になったことに対処するため，1955年(昭和30)に鳩山(はとやま)内閣の住宅政策として日本住宅公団*が設立され，住宅の大量供給が始まり，都市近郊に住宅団地が建設されるようになった。昭和30年代後半からは地価の高騰により都市近郊に住宅用地を求めることが困難になる一方，都心部の環境が悪化したこと，大量輸送機関が発達したことなどによって，住宅団地は都心から20〜50kmも離れた所に建設されるようになった。その規模も1,000戸程度の小規模なものに代わって，数万戸を擁する都市的規模のものとなり，ニュータウンとよぶにふさわしいものとなった。住宅団地の入居者は都心へ通勤するホワイトカラー*が大半を占め，母都市への依存度がきわめて高い。そこでは都市が住機能しかもたないためにベッドタウンともよばれる。イギリスでは職住近接の原理に従い，ニュータウン内での就業を重要視しているのと対照的である。しかし昭和40年代になって，人口30万〜40万人の大規模なニュータウンが建設されはじめ，大学・業務など住宅以外の機能ももち，自立性のある総合的な都市にしようとする動きが出てきた。

現在建設中または計画中の大規模なニュータウンとしては，東京周辺に多摩ニュータウン(計画人口40万人)・多摩田園都市(同40万人)・港北ニュータウン(同22万人)・千葉ニュータウン(同36万人)・成田ニュータウン(同60,000人)・筑波(つくば)研究学園都市(同12万人)などがある。大阪周辺には，千里ニュータウン(計画人口15万人)・泉北ニュータウン(同18万8,000人)，名古屋周辺には，高蔵寺ニュータウン(同68,000人)などがある。事業主体は日本住宅公団のほか地方公共団体(都・府・県)が主であるが，多摩田園都市のように民間の私鉄会社の手によるものもある。第2次世界大戦後，都市内の再開発はいっこうに進まず，都市計画の実績としてはニュータウンがほとんどすべてなので，計画的都市の実験という観点からニュータウンは大いに評価されるべきである。 〔竹内泰夫〕

ニュー-ディール [New Deal] アメリカ合衆国のF.D.ルーズベルト*大統領が，1929年以来の大恐慌克服のため実施した社会・経済政策の総称。世界恐慌*からの回復，国民生活の救済，国家の経済体制の改革の三つがその中心。1933年3月ルーズベルトは特別議会で，〈最初の100日間〉に18の緊急重要法案を成立させた。そのおもなものは，①政府の銀行統制を拡大した緊急銀行救済法・グラス-スティーガル銀行法，②公正な株取引を規定した証券法・証券取引法(1934)，③テネシー川流域の総合開発を定めたTVA*，④企業の調整と経済活動の促進をはかる全国産業復興法*(NIRA)，⑤農業生産の制限による農産物の価格上昇を期待した農業調整法，⑥雇用拡大のため公共事業を起こす民間資源保全隊・連邦緊急救済法などである。これらの目的は高物価・高賃金による国民の購買力の増加と景気の回復であったが，大企業・大農に有利な点が多く，期待された効果はあげられなかった。1935年農業調整法・全国産業復興法は最高裁判所で違憲判決を下されるに及んで，1935年労働者の諸権利を規定したワグナー法(全国労働関係法)，アメリカ史上最初の社会保障法，1936年天然資源保存のための土地保存・国内耕地割当法，1938年第2次農業調整法，最低賃金・最高労働時間を規定した公正労働基準法が制定された。経済は1936年までにかなり回復したが，1937年〈恐慌の中の恐慌〉といわれる景気後退にみまわれ，第2次世界大戦の開始により景気の回復で救われた。

ニュー-ディールはアメリカの伝統的自由放任経済・個人主義が放棄され，計画経済に基づく修正資本主義への道が開かれたことである。経済のみならず，市民生活への連邦政府の介入が強化され，司法・立法・行政の三権のうち，大統領の行政権が拡大・強化された。また，TVAや政府機関が数多く設置され，それに伴い官僚の数も急増，いわゆる官僚国家が登場し，ルーズベルト連合が結成され，民主党長期政権の基盤が築かれた。労働運動も急速に発展，アメリカ労働総同盟(AFL)に対抗して1935年産業別組合組織委員会(CIO)が結成された。これらはすべてニュー-ディール政策の成果として生まれたものである。〔折井一彦〕

ニューデリー ［New Delhi］ インド共和国の首都。デリー*(オールドデリー)と合わせて連邦政府のデリー特別区をなしている。1931年デリーの南郊に建設された新都市で，東はジャムナ川，西はリッジとよばれる小丘陵にはさまれている。放射線・環状線などの計画的街路をもち，幹線街路としては，大統領官邸を中心に東西に走るラージパット(キングスウエー)，それと直交して南北に走るジャーンパット(クィーンズウエー)などがあり，クィーンズウエーの北端は円形のコンノート広場に連なる。市街には，中央官庁・国会議事堂・外国公館をはじめ近代的なビルが立ち並び，雑然としたオールドデリーとは対照的な景観を見せている。人口30万2,000(1972)。〔別技篤彦〕



ニューデリー 市の中心部にあるコンノート広場。円形の広場で，右手は緑濃い小公園となり，これを囲んで商店・事務所・劇場などが並ぶ

ニュートリノ ［neutrino］ 素粒子*の一。中性微子ともいう。原子核*がβ線を放射していわゆるβ崩壊を行なったとき，崩壊前の原子核のエネルギーは崩壊後の原子核のエネルギーと放出電子のエネルギーの和より大きいことが知られていたが，1931年パウリはエネルギー保存の法則*がなり立つためには，きわめて質量の小さい中性粒子ニュートリノが観測をのがれて電子とともに放出されているのであろうと考えニュートリノ仮説を提唱した。しかしニュートリノは安定な粒子であるうえ，たいへん微弱な相互作用しか行なわないためその存在の直接の立証は容易でなく，ようやく1953年になってレインズとコワンの実験により確認された。現在，二種類のニュートリノν_e，ν_μおよびそれらの反粒子*$\bar{\nu}_e$，$\bar{\nu}_\mu$の存在が知られている。ともにスピン*は$\frac{1}{2}$，質量は0とみなされる。ニュートリノは光速度で飛行し，透過力は非常に大きくその進行方向に対して，ν_eとν_μは左ねじのかたよりを示し，$\bar{\nu}_e$と$\bar{\nu}_\mu$は右ねじのかたよりをもつ。〔大貫義郎〕

ニュートロン ⇨中性子

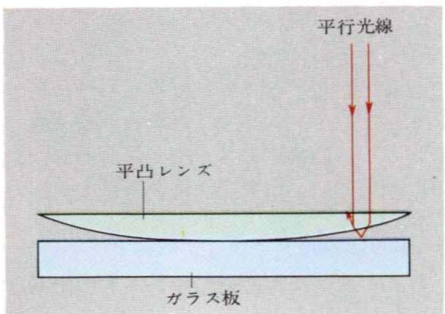
ニュートン ⇨力

ニュートン ［Isaac Newton］ (1642～1727) イギリスの物理学者・数学者・天文学者。近代科学の祖といわれる。イングランド東部のリンカーン州のウールズソープの生まれ。1661年ケンブリッジ大学のトリニティ-カレッジにはいり，バローに師事，ユークリッド・デカルトなどの数学書やケプラーの《屈折光学》に啓発された。1665年バチェラーの学位を得たが，ペストの流行のため一時大学を離れて故郷で思索しのちに三大発見とよばれた光のスペクトル分析，万有引力の法則，微積分法などをはじめ，偉大な業績の着想は大部分この間に芽ばえたといわれる。有名なリンゴの逸話もこの時期のものとされる。1667年大学にもどって光学研究をはじめ，プリズムによる光の屈折実験に没頭の末，1668年反射望遠鏡を製作。翌年バローの後任としてケンブリッジ大学のルカス教授職についた。1672年反射望遠鏡の業績により，王立学会(ロイヤル-ソサイアティ)の会員におされた。その後光の分散の問題を手がけ，光線が固有の屈折率をもつことを唱えた。さらににじ・薄膜の色などを論じてニュートン環を発見，また光の本性を明らかにするなど，光学の発展に大いに寄与した。これらはのちに《光と色の新理論》《光学》《光学講義》などにまとめられた。次いで天体運動の研究をはじめ，これを力学の法則から説明しようと試み，1685年に月の運動の研究から万有引力の法則に達した。これは遊星，木星の衛星，潮汐(ちょうせき)現象などへの適用によってその普遍妥当性が確かめられ，1687年《自然哲学の数学的諸原理(プリンキピア*)》に総括され，この中で彼は運動の法則を明確に定式化し，いわゆるニュートン力学の体系化を行なった。数学においては，1665年の二項定理の研究から無限級数へと進み，さらに運動法則の展開のために微積分法をうちたて，数学史上にも大きな功績を残した。この研究成果は《流率法と無限級数》にまとめられた。ニュートン力学は原子論的・因果的世界観を基礎とするが，さらに力学的自然観として18世紀の科学界・思想界にも大きな影響をもたらした。

晩年は科学上の研究から離れ，その整理作業や年代記の作成，社会的活動などに費やされ，1689年国会開設に際し，大学選出の国会議員となった。1699年造幣局長官に任ぜられ貨幣制度の確立に尽力，また神学の研究にも関心を向けた。1703年王立学会会長。1765年ナイトの爵位を授与された。終生結婚せずロンドン郊外に没し，ウエストミンスター寺院に葬られた。〔藤村　淳〕

ニュートン





ニュートン環

ニュートンかん ［ニュートン環］ 平凸(へいとつ)レンズと平面ガラスとによって得られる同心円状の干渉じま。曲率半径の非常に大きい平凸レンズを平面ガラス板上に置き，上方からほぼ平行の単色光で照らすと，レンズと平面との間の薄い空気層の上下面での反射による干渉現象が生じ，反射または透過光で観測すると，レンズと平面の接点を中心とした多くの円形の明暗の環(多色光の場合色のついた環)が見られる。これはフックが最初に観察したが，ニュートンが定量的に研究したのでニュートン環とよばれる。レンズ面の曲率半径をR，光の波長をλとすると，反射光での暗い環の半径は$\sqrt{m\lambda R}$(m：整数)で与えられる。レンズの曲率検査などに利用される。〔吉原邦夫〕

ニュートンしきぼうえんきょう ［ニュートン式望遠鏡］ 天体観測に用いられる反射望遠鏡*の一。対物鏡の焦点の手前に小さな補助の平面鏡をおいて，対物鏡の焦点を鏡筒の外に導き，そこで写真を撮影したり，接眼鏡で観測する。口径30cm以下の反射望遠鏡はほとんどこの形式であり，また大口径の反射望遠鏡でも微光の天体の写真を撮影するときにはこの方式を用いる。

ニューハンプシャー(州) ［New Hampshire］ アメリカ合衆国，北東部の州。面

積23,300km^2，人口80万8,000(1974)。州都コンコード。ニューイングランド6州の一つで，独立宣言13州の一つ。州名は1629年にイングランドのハンプシャーにちなんで命名されたもの。北部はカナダのケベック州に接し，ワシントン山(1,918m)を中心に山地が多く，けしきの美しい数多くの氷河湖，森林，スキー場など，観光資源に富んでいる。農業生産の5分の4は酪農・家禽(かきん)で占められる。水力資源に富み，工業が主産業で，特に製靴業(せいかぎょう)が有名である。ほかに電気機械・繊維工業などが盛ん。またカコウ岩の石材や，ウンモ・銅・鉛などの鉱業もある。ダートマス大学・ニューハンプシャー大学がある。主要都市，マンチェスター・ナッシュア・コンコード。

ニューファンドランド(州) [Newfoundland] カナダ，東端部の州。面積38万3,300km^2，人口52万2,000(1971)。州都セントジョンズ。ニューファンドランド島と本土のラブラドル地方からなり，1949年3月31日，カナダ第10番めの最も新しい州となった。ラブラドル地方はニューファンドランドの植民地として開拓された所であるが，ケベック州との境界紛争が続いたため，1927年，イギリス枢密院の裁定によって現在の境界線に決定された。漁業は伝統的に盛んで，付近の海域はグランド-バンクを中心に世界四大漁場の一つをなす。森林と湖沼が多く，パルプ・紙・木材などの林産物の生産は第2次世界大戦後，水産業を抜いて第1位に躍進した。また最近では銅・鉄鉱などの鉱産資源の開発も進んでいる。

ニューブランズウィック(州) [New Brunswick] カナダ，東南部のセントローレンス湾南岸の州。面積72,000km^2，人口63万4,557(1971)。州都フレデリクトン。1784年7月，カナダ連邦の州となった。森林が全土の80%を占め，パルプ・製材・製紙などの工業が盛んである。

ニュー-フリーダム [New Freedom] 1912年アメリカ大統領選挙の際，民主党候補ウィルソン*が発表した政綱。自由な市民は後見人を必要とせずとのジェファソン的な観念に立ち，中小企業による自由競争がアメリカ発展の創造力であるとした。そして，自由競争破壊者としてのトラスト，その他独占企業を社会から排除し，利己的特権階級から政府を国民の手へ奪回し，国民の代表からなる議会の立法を通じて経済的・社会的改革を遂行すると説き，従来の商工業偏重に対して農業の重視を唱えた。T.ルーズベルト*の〈ニュー-ナショナリズム〉に対峙(たいじ)する政治構想であったが，ウィルソンの大統領就任後の政策から判断するかぎり，その差はほとんどない。

ニューブリテン(島) [New Britain] 南太平洋，ニューギニアの東方にあるビスマーク諸島中第1の大島で面積37,668km^2，オーストラリア信託統治領。大きな火山島で，最高峰ウラワン山は2,264mあり，活火山も多く温泉もある。高温多雨で森林におおわれ，海岸にサンゴ礁が発達している。コーヒー・銅・金・鉄鉱石・石炭を産する。原住民のメラネシア人の文化程度は低い。1884年からドイツの植民地となり，ニューポメラニア島とよばれたが，第1次世界大戦中の1914年にオーストラリアが占領し，現在の島名に変えた。ラバウルには，第2次世界大戦中の1942～1944年日本海軍の飛行場があった。〔大崎　晃〕

ニュー-フロンティア [New Frontier] アメリカ合衆国のJ.F.ケネディ*大統領が1960年選挙の際発表し，以後彼の国内政策を総称するようになったスローガン。F.D.ルーズベルト*のニュー-ディール*政策の精神を受け継ぎ，政府の強力な権限行使により公共利益の拡大，国力の強化，社会の進歩を実現しようとするもの。しかし世界恐慌への緊急対策であるニュー-ディールと異なり，ニュー-フロンティア政策は目標を10年先においた長期総合計画であった。具体的には，①人口，②生存，③教育，④住宅・都市郊外，⑤科学・宇宙空間，⑥オートメーション，⑦余暇などの重要分野での発展を期し，ケネディは景気回復と経済成長・老人医療・連邦の教育援助・住宅建設などの法案を議会に送付したが，議会の反対で彼の構想は〈通商拡大法〉(1962)以外ほとんど実現されなかった。〔折井一彦〕

ニューヘブリジーズ(諸島) [New Hebrides, Nouvelles Hébrides] フランス名ヌーベルセブリード諸島。南西太平洋，オーストラリアの北東方にあり，1980年，バヌアツ共和国として独立した。面積14,706km^2。首都ビラ。火山島で活火山もあり，海岸にサンゴ礁が発達している。主要な島はエスピリトサント島・マレクラ島・エパト島住民はほとんどメラネシア人で，ヤシの枝と貝でつくった海図を使用して航海する。ココナツ・コーヒー・ココア・木材・真珠母貝を産する。1887年以降イギリスとフランス両国の共同統治下にあった。

ニューヘブン [New Haven] アメリカ合衆国，コネチカット州のロングアイランド湾に臨む港湾都市。人口12万7,000(1975)。並み木道と美しい公園のある都市として知られる。弾薬・金属器・機械などの工業が盛んである。1638年，ロンドンから清教徒がこの地に移住して開発した。1701年創立のエール大学がある。

ニューマン [John Henry Newman] (1801～1890) イギリスの宗教思想家。ロンドンの生まれ。オックスフォード大学に学び，1828年イギリス国教会牧師となる。1833年オックスフォード運動*に参加したが，1845年カトリックに改宗。《キリスト教教義の発展に関する試論》でカトリック神学者としての地位を確立した。ローマで司教となり，帰国してバーミンガムにオラトリオ会を設立。さらにアイルランドでカトリック経営のダブリン大学総長となる。《大学の理念》はこのときの連続講演集。1879年枢機卿(すうきけい)となる。ほかに自伝《アポロギア》がある。〔石井忠厚〕

ニューメキシコ(州) [New Mexico] アメリカ合衆国，南西部にある州。メキシコと接する。面積31万5,000km^2，人口112万2,000(1974)。州都サンタフェ。1912年にアメリカ合衆国47番めの州となる。州名はメキシコのスペイン人がリオグランデ川の北部と西部の地域をこのようによんでいたことによる。古くはスペインの植民地で1812年メキシコ領となり，1848年アメリカ合衆国に割譲され，1850年に領州，1863年アリゾナ地方から分離された。ロッキー山脈の南端部を占める乾燥地域で，年降水量も400mm以下である。インディアンとスペイン人の文化遺跡が多い。土地の34%以上が連邦政府の所有に属し，インディアンの大保留地が四つもある。州中央部を南下するリオグランデ川の貯水池により，灌漑(かんがい)農業が発達し，全穀物生産の80%を綿花・干し草・トウモロコシで占める。またウシ・ヒツジの畜産収入は全農家収入の3分の2に及ぶ。鉱業は全産業中第1位で，特にウラニウム・カリの産出は全国第1位。銅・マンガン・鉛・亜鉛・金・銀・石油・天然ガスなども豊富である。州南部のメキシコ国境近くにはカールズバッド-カバーンズ国立公園があり，世界最大といわれる鍾乳洞(しょうにゅうどう)がある。主要都市，アルバカルケ・サンタフェ。〔相村大彬〕

ニューヨーク(州) [New York] アメリカ合衆国，大西洋岸北東部の州。面積12万4,000km^2。人口1,811万1,000(1974)。州都オールバニ。独立宣言13州の一。州名は1664年探検隊を送ってここを占領したヨーク(ジェームズ2世*)公の名にちなむもので，古くはニューアムステルダムとよばれた。アメリカ合衆国第1の工業州で，南東端にはニューヨーク市を中心とする巨大都市群，北西端にはエリー・オンタリオ両湖を結ぶ重工業都市バッファローがある。大西洋岸と五大湖地方とはハドソン川・エリー運河で結ばれる。人口は1964年までは合衆国で最も多かったが，1965年以後はカリフォルニア州に次いで第2位である。工業は事業所の数・従業員数・生産額・取引額など，いずれも全国一で，衣服業，印刷・出版業，製紙・紙製品業，雑貨業などの生産額は全国第1位。全国の生産高のうち写真用具は69%，新聞雑誌は54%，書籍は39%，皮手袋は50%，衣服数は31%を占めている。また交通・貿易の中心地域でもあり，ニューヨーク国際空港(ケネディ空港)は外国旅客の54%と，外国貿易品の64%を取り扱う世界最大の空港である。またニューヨーク港は全国貿易額の35.6%(1967)を占める。農業も盛んで，クローバーなどの牧草，アイ

スクリームの生産は全国一，リンゴはワシントン州に，ブドウはカリフォルニア州に，ミルクはウィスコンシン州に次いでそれぞれ全国第2位であり，野菜・くだものなどの生産高も高い。主要都市，ニューヨーク・バッファロー・ロチェスター・シラキュース・ヨークタウン。　〔相村大彬〕

ニューヨーク(市)　[New York]　アメリカ合衆国の北東部，ハドソン川の河口にある，東京・ロンドンと並ぶ世界の三大都市の一。面積950km²，人口764万7,000(1973)。大ニューヨーク市すなわち，ニューヨークと周囲の衛星都市を合わせたメトロポリタン地域の人口は1,157万2,000(1973)。

市街はハドソン川とイースト川にはさまれたマンハッタン島を中心として，その北の本土，南東のロングアイランド，南西のスターテン島に広がり，マンハッタン・ブロンクス・ブルックリン・クイーンズ・リッチモンドの5区に分かれている。この付近の地表は洪積世(こうせきせい)に大陸氷河によって削られたために，きわめて平坦(へいたん)で，またかたい結晶片麻岩類からなっているので高層ビルの建築が容易である。ほぼ北緯41°に位置しているので，冬は寒さがきびしく雪も多いが，夏は高温で，日射病による犠牲者が出る。年平均気温は12.6℃，年降水量は1,123mm。

【住民】市民の人種構成はきわめて複雑で，〈人種のるつぼ〉であるといってもよい。ヨーロッパからの移民がまず上陸するのはニューヨークであって，この点からアメリカの町ではなく，ヨーロッパの町であるという人もある。かれらのうちで最も多いのはイタリア系(85万)で，ドイツ系・アイルランド系も多く，イギリス系は少ない。しかし数の上で圧倒的なのは，おもにロシア・ポーランド・ドイツなどからはいってきたユダヤ人であって，約200万といわれ，New YorkではなくJew Yorkであるとさえいわれている。次いで南部から流入してきた約170万の黒人，第2次世界大戦後急増して80万に達したプエルトリコ人が，ユダヤ人とともに人種差別の対象となって，いろいろ問題をひき起こしている。

【産業・経済】世界の経済の中心であり，ニューヨーク連邦準備銀行やニューヨーク証券取引所は，世界経済に対して大きな支配力をもっている。また，全国の工業生産額の約1割を占める第1の工業都市であり，衣料品工業(特に婦人服)をはじめとして食品加工・化学(薬品・石油・ゴム)・電気機械・印刷・出版などの工業が盛んである。

【交通】ハドソン川を利用したニューヨーク港は，入り口のバリティ島に自由の女神像があるので名高いが，どろの堆積(たいせき)の少ない自然の良港で，深くて川幅も広いために，200km上流のオールバニまで海洋汽船がさかのぼることができる。ニューヨーク港の貨物取り扱い高は，年間1億5,000



ニューヨーク市　高層建築の林立するマンハッタン区の俯瞰。手前にイースト川が流れ，クィーンズボロ橋がかかる。遠景はハドソン川で，河畔には埠頭が並ぶ



ニュルンベルク　第2次世界大戦でゆいしょある建物を多く失ったが，町にはまだ古い中世のおもかげが残っている

万tに達して世界一である。またニューヨーク国際空港(ケネディ空港)は世界の航空路の一大中心であり，空港はこのほかラガーディア空港とニューアーク空港・テターボロ空港(ニュージャージー州)がある。鉄道はグランドセントラル駅とペンシルベニア駅が中心で，サンフランシスコやロサンゼルスへの直通列車が出ている。1969年ニューヨーク～ワシントン間に超高速鉄道が開通したが，これは日本の東海道新幹線の成功に刺激されたものである。市内の交通は市営の地下鉄，市営・私営のバスによっており，高速道路もよく発達しているが，朝夕のラッシュアワーの自家用車による交通麻痺(まひ)，駐車難は，地下鉄の老朽化とともに大きな問題となっている。マンハッタンと他の4区や，ハドソン川の対岸のニュージャージー州とは，いくつもの海底トンネルや橋で結ばれている。

【文化】ニューヨークはアメリカの文化的中心でもある。音楽ではカーネギーホール，演劇ではメトロポリタンオペラハウスのような世界的な殿堂があり，絵画では前衛派の活躍が目だっている。アメリカ最大のメトロポリタン美術館・ニューヨーク美術館や，規模の大きな自然科学博物館などをはじめ，美術館・博物館などが多い。またアメリカの代表的な新聞ニューヨークタイムズ*が発行され，放送局では民営のNBC・CBS・ABCが大きい。大学には1756年創立のコロンビア大学や，カトリック系のフォーダム大学のほか，ニューヨーク大学，13万人の学生を擁するニューヨーク市立大学などがある。

【市街】市の中心は商業地域であるマンハッタン区で，他の4区はおもに住宅地域・工業地域となっている。ブルックリン区には名高い海水浴場コニーアイランドがある。マンハッタンは歴史の古い南部のダウンタウンを除いて，碁盤目状の整然とした街路をもっていて，南北の道をアベニュー(街)，東西の道をストリート(丁目)とよんでいる。斜めの道としてはブロードウエーが1本あるだけである。ダウンタウンには，金融街として知られるウォール街，フルトン魚市場，30,000の中国人が住むチャイナタウンやイタリア人の町リトルイタリー，芸術家やヒッピー族の集まるグリニッジビレッジなどがある。

中部のミッドタウンには，かつては世界最高，現在は世界第3位のエンパイアステートビル(102階，381m)，高級商店街の5番街，盛り場のタイムズスクエア，16の近代的なビルからなるロックフェラーセンター，国連本部などがある。北部のアップタウンはおもに住宅区域で，ニューヨーク最大のセントラルパークがあるが，公園の北部には黒人やプエルトリコ人の居住区であるハーレムが広がっている。

【歴史】1625年にオランダ西インド会社が，マンハッタン島の南部にニューアムステルダムという商業区を建設したのにはじまる。1664年にイギリス艦隊がここを占領し，ヨーク公(ジェームズ2世*)の名をとってニューヨークと改名し，アメリカ合衆国が独立して1785年から5年間は首都であった。1790年の人口はわずか33,000であったが，1825年ハドソン川と五大湖を結ぶエリー運河が開通してからは発展し，1898年ブルックリン郡やクイーンズ郡などを加えて現在の

ニューヨークが生まれた。現在のニューヨークは，巨大都市としてその内部が行きづまりの状態にあり，治安状態もきわめて悪く，北のボストン，南のフィラデルフィア・ワシントンなどを加えて巨大都市圏を構成する長期計画が立てられている。〔浅井得一〕

ニューヨークきんだいびじゅつかん【ニューヨーク近代美術館】 1929年，公衆の近代・現代美術の鑑賞と理解を助けることを目的として創設されたニューヨークの私立美術館。中庭に彫刻展示場をもつ，53番街にある現在の建物は1939年新設，増築されたもの。所蔵品は20,000点に及び，モネの《水蓮(すいれん)》，ルソーの《夢》，ピカソの《ゲルニカ》(寄託品)など近代美術の先駆者や20世紀絵画・彫刻の巨匠の主要作のほか，素描・版画・工芸・建築・デザイン・写真，映画と視覚芸術などの総ジャンルにわたる。所蔵品の陳列と同時に企画展を行ない，国内外の巡回展も活発である。〔藤井久栄〕

ニューヨーク-シチー-バレエだん【ニューヨーク-シチー-バレエ団】 アメリカのバレエ団。カースチンの舞踊学校(1933)，バレエキャラバン(1941)，バレエ協会(1946)などを経て，1948年カースチン，バランチン*らを中心に結成された。アメリカン-バレエ-シアター*と並ぶ二大バレエ団の一つで，《檻(おり)》《ウェスタン-シンフォニー》《ファンファール》《インタープレイ》などの作品によってアメリカ独自のバレエ誕生に大きく貢献した。1958年来日。〔高橋孝一〕

ニューヨーク-タイムズ［New York Times］ 現代アメリカの代表的日刊紙。1851年H. J. レイモンドが友人の銀行家2人とともに発刊。最初は《ニューヨーク-デイリー-タイムズ》であったが，1857年からデイリーをとり，〈世界で最もよい，最も安い新聞〉をモットーに良心的で公正な新聞づくりに専念し，中間的で客観的・保守的な新聞たることを目的とした。1893年恐慌によって破産にひんしたとき，A. S. オックスが買収し，現代アメリカの最有力紙としての基礎を形造った。1971年6月ベトナム秘密文書の暴露を契機に，〈言論の自由〉の問題で政府と対決して勝訴したことは，アメリカのリベラリズムを象徴する歴史的な事件といってよい。発行部数は朝刊約84万(1980)。

ニューヨーク-フィルハーモニーこうきょうがくだん【ニューヨーク-フィルハーモニー交響楽団】 アメリカの代表的なオーケストラ。1842年に創立され，その後ナショナル交響楽団・市立交響楽協会・ニューヨーク交響楽協会などを次々と合併し，アメリカ最大のオーケストラに成長した。常任指揮者は置かない時期もあったが，1906年からサフォノフ・マーラー・ストランスキー・メンゲルベルク・トスカニーニ・バルビローリ・ロジンスキー・ワルター・ミトロプーロス・バーンスタイン・ブーレーズと続いている。1961・1970年に来日。

ニュー-リパブリック［New Republic］ アメリカの週刊誌。《ネーション*》とともに〈思想的週刊誌〉としての市場を分け合っている。1917年創刊以来，政治・経済の評論が中心。発行部数約30,000前後で《ネーション》とほぼ同数である。

ニュルンベルク［Nürnberg］ 西ドイツ南東部，ババリア地方にある商工業都市。人口49万9,000(1975)。ミュンヘンの北145km，マイン川の支流ペーグニッツ川に沿い，古くからおもちゃとホップで有名で，また1945年まではドイツの航空機・船艦のエンジンの50%を生産していた。現在も機械・時計・電気器具などの工業が盛んである。1050年都市としての勅許を得，1219年自由市となり，15～16世紀にはイタリアの諸都市とドイツを結ぶ拠点として，ドイツ文化の中心であった。三十年戦争*後は一時衰えたが，1835年ドイツ最初の鉄道がフェルトとの間に通じ，工業都市として再び重要となった。第2次世界大戦まではドイツルネサンス期の多くの建造物の残る美しい町であったが，戦争で市街の75%が破壊された。1933年以後ナチス党の大会が毎年開催された所で，1945～1946年には，第2次世界大戦のドイツ戦犯に対する国際裁判(ニュルンベルク裁判)が行なわれた。〔梶川勇作〕

ニュルンベルクのめいかしゅ【ニュルンベルクの名歌手】 ワーグナー*が作詞・作曲した3幕のオペラ(楽劇とよぶこともある)。初演は1868年6月ハンス-フォン-ビューローの指揮でミュンヘンで行なわれた。実在の人物ハンス-ザックス(1494～1576)を登場させて，ドイツ中世のマイスタージンガーの歌合戦(かっせん)を中心に，当時のドイツ楽壇を風刺した作品で，ワーグナーには異色の喜劇性をもつ。

ニュー-レフト［new left］ 既成の左翼*のわく組みを破って新しい左翼のあり方と世界革命*とを追求する左翼勢力。新左翼ともいう。学生・知識人を中心として全世界的な運動となっているが，国によってその性格や形態はさまざまである。日本では，第2次世界大戦後の民主主義体制の中で，一定の役割を果たしてきた共産党・社会党などの議会主義的戦略・戦術，およびその綱領にあきたらないグループが，安保闘争*以降形成したいわゆる反代々木系の学生運動を中心とする勢力を意味する。なお，狭義には平和共存路線を否定するイギリスの《ニュー-レフト-レビュー》(1960年創刊)に集まる人々をさす。

ニューロン ⇨神経単位

にょい【如意】 僧具。意のごとくなすという語意から，もと僧侶(そうりょ)が背中などのかゆいところをかくために使用した実用具である。その後，儀式などに僧侶の威儀を整える持ち物となった。しかし，用途については，会式などの際の備忘用の手板であったとする説もある。正倉院の《犀角(さいかく)黄金珠玉荘如意》など古式のものは，爪頭(そうとう)が小さく，実用期の祖形をとどめているが，平安時代にはこの部分が雲形の大きなものに変化し，この形式が後世まで持続する。この種の例には，興福寺維摩(ゆいま)会に講師の持ち物として伝授された如意や，法隆寺献納宝物中の《金銅唐草毛彫(からくさけぼり)如意》などがある。〔河田 貞〕

にょいりんかんのん【如意輪観音】 観音*の一。梵語(ぼんご)Cintāmanicakra-avalokiteśvara(チンターマニチャクラ-アバローキテーシュバラ)の訳。手に如意宝珠と法輪をもち，その功徳をもって人々の苦を救い心願を成就させるといわれる。形像は2臂(ひ)のほかに，4・6・8・10・12などの臂をもつものもあり，古くから崇拝された。セイロン・ジャワに2臂の尊像が現存し，敦煌(とんこう)千仏洞(せんぶつどう)に6臂の画像がある。わが国でも605年(推古13)聖徳太子による造像以来盛んに信仰され，多数の古像が現存する。2臂像では中宮寺・岡寺・東大寺，6臂像では室生寺・観心寺・醍醐(だいご)寺などの像が著名。〔北条賢三〕

にょいりんじ【如意輪寺】 奈良県吉野(よしの)郡吉野にある浄土宗の寺。山号は塔尾(とうのお)山。1348年(正平3・貞和4)楠木正行(くすのきまさつら)が四条畷(しじょうなわて)で高師直(こうのもろなお)と対陣の際一族将士の名を過去帳に記し，梓弓(あずさゆみ)の歌を堂のとびらに残した話は著名である。寺内には後醍醐(ごだいご)天皇の影像を厨子(ずし)に安置し，そのほか尊像，茶台など天皇ゆかりの品を残している。堂の後ろに後醍醐天皇の塔尾陵がある。

にょいん【女院】 〈にょういん〉ともいう。天皇の母・准母・三后・女御・内親王などに授けられた尊号。その称号は大内裏の門の名称によるものが最も多く，その他地名によるもの，以前あった門院号に新・後の文字を冠するものもあった。一条天皇の母藤原詮子(せんし)が出家したときに東三条院を称したのに始まり，孝明天皇の母新待賢門院雅子に終わる。すべて上皇に準ずる待遇を受けた。

にょう【尿】 排出器官でつくられ，体外へ排出される液体。成分は大部分が水分で，少量の尿素・クレアチニン・無機塩類などを含む。鳥類・爬虫(はちゅう)類・こん虫類では尿素の代わりに尿酸，硬骨魚類ではアンモニアが多い。尿の役割は，不要・有害な物質の排出，体液の浸透圧の調節，体内の酸・塩基の平衡を保とうとする働きなど，生命の維持に重要なものである。一般に脊椎(せきつい)動物のうちでも肉食動物の尿は酸性で透明であり，草食動物の尿はアルカリ性で濁っている。尿量は水分の摂取量や発汗などによっても左右される。腎臓(じんぞう)の糸球体で濾過(ろか)される原尿は，ヒトで1日170 l にもなるが，尿細管を通る間

にその99%は再吸収されるとともに，尿素・クレアチニンなどの排出を受け，１日の排出量は1.2～1.5 l である。

尿をアルカリ性下に放置すると尿酸アンモニウム・リン酸カルシウムなどの結晶を，酸性下に放置すると尿酸・尿酸水素ナトリウムなどの結晶を析出する。これらの沈渣が腎盂(じんう)や膀胱(ぼうこう)中で生じるのが尿結石である。尿中にタンパク質・糖などが検出される場合は病的であり，異常尿は病気発生の最初の症状として現われることが多い。その代表的なものがタンパク尿と糖尿であり，いずれも検尿によって発見される。そのほか，異常尿の場合の成分には，シスチン(シスチン尿症)・ホモゲンチジン酸(アルカプトン尿症)・脂質(乳糜(にゅうび)尿)・アセトン体(ケトン尿症)・ヘモグロビン(ヘモグロビン尿)・ビリルビン(ビリルビン尿)・膿球(のうきゅう)(膿尿)・赤血球(血尿)・細菌(細菌尿)などがある。〔平野修助〕

にょうかん 【尿管】 輸尿管ともいう。尿を腎臓(じんぞう)から膀胱(ぼうこう)まで導く細長い円柱状の管。左右１対。平均日本人男子では左24.6cm，右27.2cm，女子では左27.5cm，右26.0cm，腎盂(じんう)に始まり，左右の膀胱底に開口する。内部より粘膜，筋層および外層の繊維膜よりなり，筋層は１分間に1～4回蠕動(ぜんどう)して尿の輸送を助ける。

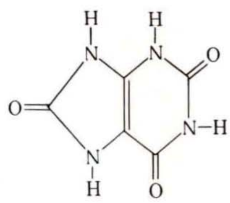
にょうかんけっせき 【尿管結石】 腎(じん)結石*が尿管に落ち込んだもの。おもに骨盤部および膀胱(ぼうこう)壁内などの尿管下部に発生する。特有な症状として放射性疼痛(とうつう)・腎尿管疝痛(せんつう)があり，尿管粘膜が傷つけられるため血尿となることがある。診断にはＸ線学的に尿管走行部に一致した結石が認められる。治療は，膀胱内への自然降下を待って，尿管鎮痙(ちんけい)剤あるいは逆に蠕動(ぜんどう)促進剤を投与する。また特殊な尿管カテーテルなどを用いて結石を引き出す。

にょうけっせき 【尿結石】 尿石・尿路結石ともいう。尿路(腎臓(じんぞう)・尿管・膀胱(ぼうこう)・尿道)に発生する結石*の総称。上部尿路の結石は，腎結石*と尿管結石に区別される。尿管結石の大部分は腎臓に発生し，それが下降して大きくなるのが普通である。下部尿路の結石は，膀胱結石*と尿道結石に区別されるが，大部分は膀胱結石で，尿道結石は上部尿路の結石または膀胱結石が尿道につかえた二次的なものである。病因については諸説があるが，尿の停滞，細菌の感染，尿路の異物(膿塊(のうかい)・凝血など)，またはビタミンＡ欠乏症・上皮小体機能亢進症(こうしんしょう)などの物質代謝障害が原因となることは明らかになった。年齢的には20～30歳代に多い。疼痛(とうつう)・血尿*を主症状とするが，各種レントゲン診断法や膀胱鏡*によって診断を行ない，結石の性状によって結石の下降，自然排出などを行なう。

にょうご 【女御】 〈にょご〉ともいう。天皇の侍妾(じしょう)の一つで，中宮*に次ぐ高位の女官。桓武(かんむ)朝(781～806)に始まり，後世は多く摂関家(→摂家)の子女をもって女御とし，その中より皇后を冊立する例となり，またしばしば皇后を立てない天皇もあったため，女御の地位はやがて皇后と大差ないものとなった。上皇・皇太子の侍妾をも女御と称した。いずれも明治に至りその称を廃した。

にょうさいかん 【尿細管】 糸球体(→腎(じん)小体)で濾過(ろか)された糸球体仮尿を輸送しながら，選択的にその成分を吸収し，あるいは新たに分泌することによって完成尿を生成する微小な管。起始部は，糸球体囊(のう)の尿管極で，ここで濾過された仮尿が糸球体頸(けい)を通り，主部・伝達部・中間部を経て結合部にはいり，集合して乳頭孔より小腎杯へと導かれて完成尿となる。なお，広義には腎小体およびそれに付属する腎細管の総称として，ネフロン(腎単位)と同意味に使われることもある。➔腎臓

にょうさん 【尿酸】 2，6，8-トリオキシプリン。タンパク質代謝によって生ずるアンモニアは有毒であり，鳥類・爬虫(はちゅう)類・こん虫類では窒素代謝の最終生成物として尿酸を排泄(はいせつ)する。



尿酸形成は生息環境と深い関係にあり，胚(はい)の時代を陸上で殻(から)の中に閉じ込められて長く過ごす上記の動物ではアンモニアを不溶性の尿酸に変えて排出することはつごうがよい。ヒトの場合には，痛風患者の尿に多量の尿酸が排泄され，また人体での尿酸の異常な蓄積がこの病因と考えられている。

にょうそ 【尿素】 $CO(NH_2)_2$ カルバミドともいい，炭酸のジアミドに相当する。1773年に尿中より分離され，1828年Ｗ.ウェーラー*によりシアン酸アンモニウムから合成された。これは有機物の生体外合成の最初の例として知られる。動物界にかなり広く存在しており，ヒトを含め哺乳(ほにゅう)類・両生類の生体，軟骨魚類などが，窒素代謝の最終産物として排出する。尿素は，尿酸の場合と同じようにアンモニアの無毒化として合成されるものと考えられ，ヒトでは，オルニチン回路を経て肝臓で合成され，ふつう１日に約30gが尿中に排出される。海産の軟骨魚類では，血液中の尿素の濃度が高く，血液の浸透圧調節に関係している。工業的には，アンモニアと炭酸ガスから直接高温・高圧で合成する。無色の柱状の結晶。融点135℃。水・アルコールには容易にとけるがエーテルにはほとんどとけない。熱によってアンモニア・ビウレット・シアヌール酸などに分解する。希酸・希アルカリとの加熱でアンモニアと炭酸ガスを発生し，また酵素ウレアーゼの作用で加水分解し，アンモニアと炭酸に分解する。用途は肥料および尿素樹脂の原料のほか利尿剤などの医薬品その他に用いる。〔大岡二郎〕

【尿素肥料】 尿素を主体とする化学肥料で，硫安とともに生産量の多い重要な窒素肥料である。窒素含有量は46%で最も高く，価格が低廉で大きな欠点をもたないため施用法によっては非常に優良な肥料である。化学的にも生理的にもほぼ中性で，土壌(どじょう)中で炭酸アンモニアになる。〔早瀬達郎〕

にょうそじゅし 【尿素樹脂】 ⇨ユリア樹脂

にょうどう 【尿道】 膀胱(ぼうこう)内の尿*を体外に排出する管。男性では輸精道も兼ね18～20cm，膀胱下端に始まり陰茎内を通過して亀頭(きとう)先端に開口する。女性では約３～４cm，膀胱前下端より起こり膣口(ちつこう)の前方で膣前庭に開口する。尿道壁の構造は，男性では内側より粘膜および筋層からなり，海綿体部では外層は消失して内層も薄く散在性となる。女性では粘膜・筋層および外膜の３層からなり，ことに外膜は結合組織で膣との間に固い尿道膣中隔を形成している。〔藤井和明〕

にょうどうえん 【尿道炎】 尿道に起こる炎症。淋菌(りんきん)性と非淋菌性とに大別されるが，ほとんどが前者である。症状的に急性と慢性に，罹患(りかん)した部位によって前部尿道炎と後部尿道炎に分けられる。淋菌性尿道炎は性交渉を通じて淋菌によって感染するもので，感染後３～５日の潜伏期を経て尿道感染が起こる。急性淋菌性後部尿道炎では潜伏期のあと，尿道の瘙痒(そうよう)感，疼痛(とうつう)，外尿道口の軽度発赤があり，次いで膿汁(のうじゅう)がたえず分泌され，排尿時に局部に激痛がある。この時治療を怠ったり不摂生をすると炎症が後部尿道に波及し，頻尿(ひんにょう)・排尿終末痛および血尿などの膀胱頸部炎(ぼうこうけいぶえん)の症状が加わる。淋菌がリットル腺(せん)および前立腺などの深部組織に侵入すると，慢性淋菌性尿道炎となる。急性から慢性への移行は徐々で，その時期を示すことはできないが，慢性では急性よりも症状は軽くなり，日中尿は清透であるのに，早朝第１回尿のみが混濁したり，外尿道口からの分泌物が排出したりする。いずれもペニシリンを主体とする化学療法が行なわれ，慢性になれば尿道洗浄などの局所療法の併用も行なわれる。非淋菌性尿道炎は症状が軽度で，化学療法や局所の洗浄療法で治癒(ちゆ)する。

にょうどくしょう 【尿毒症】 腎(じん)機能不全のため，尿成分(尿素・インジカンなど)が血中に蓄積されて起こる中毒性の症状。従来のドイツ学派では慢性(真性または高窒素血性)・急性(子癇(しかん)性)・仮性の３群に大別したが，アメリカ学派では後二者を合わせて高血圧脳症として区別している。成因については現在でもなお不明な点を残している。①慢性尿毒症：発生病

因として，脱水・ショックなどで腎血流量が減じた場合(前腎性尿毒症)と，慢性腎炎，悪性の腎硬化症，重篤な急性腎炎や腎盂炎(じんうえん)などのために，残余窒素が蓄積する場合とがある。症状として口渇(こうかつ)があり，乏尿であるにもかかわらず低張尿・等張尿で，食欲不振・頭重・無力感・脱力感を訴え，傾眠・悪心(おしん)・嘔吐(おうと)・呼吸困難・痙攣(けいれん)などをきたす。血液には残余窒素・キサントプロテインなどの増量がみられる。前腎性尿毒症の死亡率は高い。②高血圧性脳症：前駆症状として，頭痛・嘔吐・血圧亢進(こうしん)・尿量減少がみられ，発作時の症状としては，てんかん様発作・瞳孔(どうこう)散大・対光反射消失・尿失禁・病的反射などが現われ，一般に血圧は亢進する。慢性尿毒症よりも予後はよい。〔藤井和明〕

にょうへい【尿閉】 膀胱(ぼうこう)まで尿が送られてきているにもかかわらず，体外に排尿されない状態。完全尿閉と不完全尿閉に分けられる。①完全尿閉：膀胱からまったく排尿しえない場合で，尿道狭窄(きょうさく)・前立腺(ぜんりつせん)肥大症・膀胱内凝血・尿結石・脊髄(せきずい)損傷などが原因となって強く尿意を催し，膀胱部に圧痛がある。治療は，尿道カテーテル(→カテーテル)で排尿を行ない，これが不可能な場合は膀胱穿刺(せんし)を行なう。まれに，先天的な尿道の欠損を有している場合があるが，発見しだい，膀胱瘻(ろう)設置術(下腹部より直接管を入れ排尿する手術)を行なう。②不完全尿閉：不完全ながら排尿は可能だが，尿の一部が膀胱に残留する場合で，一般に慢性的に経過し，前立腺肥大症・尿道狭窄・脊髄損傷などが原因となり，放置しておくと尿毒症になるおそれがある。治療は，経過によって原疾患の根治療法を施す。

にょうぼう【女房】 原義は女官のへや，転じて禁中・院中に曹司(そうじ)を与えられて局(つぼね)住まいをする高等な女官の称。上臈(じょうろう)・中臈・下臈に大別され，平安末期にはさらに細分された。後世，婦人のことを女房といい，さらには人の妻を女房というが，いずれも敬称より出たものであり，ついには自分の妻の卑称ともなった。女房には他の摂関家(→摂家)などの諸家に仕える者もあった。禁中の上臈は尚侍(しょうじ)，大臣の娘や孫など，小上臈は公卿(くぎょう)の娘や孫，中臈は殿上人の娘など，下臈は摂関家の家司，蔵人(くろうど)(→蔵人所)などの娘をもってこれにあてた。〔黛　弘道〕

にょうぼうことば【女房詞】 室町時代から，天皇や上皇の御所に仕える女房たちが使いはじめた特殊なことば。しだいに優雅なことばと認められて，将軍家の女性たちも用いるようになり，江戸時代には民間にも流布した。単語の第一音節だけを取り，その下に〈もじ(文字)〉をつけた，いわゆる文字詞はその代表的なもの。すもじ(すし)・



ニ　ラ

かもじ(髪の毛)・しゃもじ・そもじ(そなた)・お目もじ・おなか・おひや・きなこ・青物・こうこう(香の物)・おいしい，のようなもので，現代語にも数多く残っている。

にょうほうしょう【尿崩症】 抗利尿ホルモンの不足ないし欠乏のため尿量が異常に増加する疾患。抗利尿ホルモンは視床(→脳)下部でつくられ，脳下垂体後葉にたくわえられてから血中に放出される。このため視床下部から脳下垂体付近にかけての腫瘍(しゅよう)・炎症・外傷などによって尿崩症となるが，原因不明のものもある。尿量は1日10l以上になることもあり，のどがかわくため多量の水を飲み，尿は低比重となる。また水制限をしても正常者のように高比重尿とはならない。治療は，抗利尿ホルモンの注射が有効である。〔安沢龍徳〕

にょうまく【尿膜】 脊椎(せきつい)動物のうちで羊膜類(爬虫(はちゅう)類・鳥類・哺乳(ほにゅう)類をいう)が発生する途中でつくる胚膜(はいまく)の一種で，胚体の後腹方にある内臓葉(側板の内葉)がふくれてできたもの。これはしだいに漿膜(しょうまく)と羊膜の間にある胚体外体腔中に広がり，薄い尿嚢(にょうのう)をつくって，消化管と尿嚢柄とよばれる細い柄で連絡する。最初は排出器官として働くが，鳥類・爬虫類では漿膜といっしょになって卵殻(らんかく)の下に広がり，血管網が発達して呼吸器官の働きをするようになる。哺乳類の尿膜は血管が絨毛膜(じゅうもうまく)の絨毛の下にはいって，胎盤を形成するのに役だつようになる。〔蒲原春一〕

によどがわ【仁淀川】 四国の最高峰石鎚(いしづち)山に発し，南西流して久万(くま)高原を過ぎ，東流して四国山地を横切り高知平野に出て土佐湾に注ぐ。流程132km。上流の山間部には美しい峡谷が多く，中でも支流面河(おもご)川流域の面河渓(おもごけい)は有名で，探勝客が多い。また支流黒川の河床にある八釜(やがま)の甌穴(おうけつ)群は特別天然記念物に指定されている。中流は電源開発が行なわれて20の発電所があり，また，上流は古くからコウゾ・ミツマタの産地として知られ，和紙を産する。〔長津一郎〕

にょにんきんせい【女人禁制】 修行の妨げとなることが多いため，女性が修行道場や聖域にはいることを禁止すること。最澄は比叡(ひえい)山を開くにあたって女人結界(→結界)を定め，女子の登山を禁じたが，のち高野山や大峰山，御岳などもこれにならい，大峰山ではいまなお厳守されている。その思想的背景は《法華経(ほけきょう)提婆達多品(だいばだったほん)》にある女身の五障が一般に信じられていたためであり，参詣(さんけい)の女人は結界の地に設けられた女人堂で礼拝した。なお，仏教とは別に，日本固有の神祭でも，不浄をいむ風習から女人を遠ざけることが広く行なわれた。〔玉山成元〕

にょらい【如来】 ブッダの十ある呼び名の一。梵語(ぼんご)tathāgata(タターガタ)の訳。これをタター(如実に)-ガタ(去る)と解すると〈如去〉，タター-アーガタ(来る)と解すると〈如来〉となるが，如実知見という仏教の考え方によれば，いずれにしても，あるがままの真理を悟った者という意味である。ブッダが悟りを開きはじめて5人の弟子に会ったとき，今後わたしをゴータマと姓で呼ばずに如来と呼べと言ったという。

によんディー【2・4-D】 除草剤の一。最初植物ホルモン剤として製造されたが，のちに濃度を高くすると殺草作用のあることがわかり，除草剤として使用された。わが国には第2次世界大戦後導入され，急速に普及した。白色の結晶で実用上，人畜や魚介類には無害。ソーダ塩・ジメチルアミン塩・エチルエステルなどの製剤がある。選択性があり広葉雑草にはすぐれた殺草効果を示すが，イネ科植物には無効であるため水田に用いられた。除草機構は植物の生長点などの分裂組織に特異的に働いて異常成長をひき起こし，植物を枯死させるといわれる。適用植物はコナギ・アゼナ・ミゾハコベ・ヤナギタデ・オモダカなど。

にら【韮】 単子葉植物・ユリ科。古くから栽培されている多年草。地下に細長い鱗茎(りんけい)があり，その下部が根茎となって長く伸びる。葉は鱗茎から数枚出て，葉身は線形で長さ20～40cmになり，独特の臭気がある。8月ごろに30～50cmの花茎を伸ばし，20～40個の白色小花を散形花序につける。果実は倒心形の蒴果(さくか)で，8～10月に結実する。葉を食用にするが，刈り取るとすぐにはえてくるので，年に数回採集することができる。

にらいかない 奄美(あまみ)諸島・沖縄諸島で，古くから海のかなたや海底・地底にあると想定されている楽土。イネをはじめとする五穀の種子や火はここから人間世界にもたらされたと伝承されている。来世観・他界観とも深く関連し，死後に霊魂がおもむくところとも信じられ，年ごとにそこから神々が人間界を訪れて祝福を与えるという来訪神信仰とも結びつき，また農耕儀礼とも関連している。なお，八重山諸島では〈あかまた〉〈くろまた〉とよばれる来訪神信仰があり，この神々は地の底や洞穴などか

ら仮装・仮面して出現し，家々を回って豊穣(ほうじょう)を祝福すると信ぜられている。

にらさき【韮崎(市)】 山梨県北西部の市。人口27,000。甲斐源氏(かいげんじ)を祖先にもつ武田(たけだ)氏の発祥地として知られ，武田勝頼(かつより)はここに新府城を築いた。江戸時代は信州往還や駿信(すんしん)・佐久の諸街道が交わる宿場町として栄え，いまも〈馬つなぎ石〉などが残っている。1954年(昭和29)市制施行。甲府盆地北西部，釜無(かまなし)川と塩川の合流点付近に位置し，西は南アルプスの鳳凰(ほうおう)山から東は茅ケ岳(かやがたけ)山麓(さんろく)までを含む。産業三大別人口比は34：28：38。釜無川・塩川の流域に水田地域が開け，茅ケ岳の火山裾野(すその)は畑地が多く，桑園が広く分布する。ブドウ・モモ・ナシなどの果樹やハクサイ・トマト・キュウリなどの栽培も盛んである。市街地には繊維・電気機器・醸造などの工場があり，その他の工場誘致も進んでいる。中央本線が通じ，国道20号線・52号線・141号線が集まる。坂井遺跡・新府城跡・穴観音・七里岩などの名所史跡に富み，鳳凰山東麓には東洋一といわれるシラカバ林があり，スズランの名所甘利山とともに多くの観光客を集める。南アルプス・秩父多摩(ちちぶたま)両国立公園の玄関口となる。

にらやま【韮山(町)】 静岡県田方郡にある町。伊豆(いず)半島北部を流れる狩野川(かのがわ)流域にある。人口16,000。町の西部は水田地帯で，東部は多賀火山の斜面で，近年ゴルフ場・遊園地などが開かれている。中世には北条(ほうじょう)氏の領地で，願成就院に時政(ときまさ)の墓があり，近世には韮山代官江川太郎左衛門(たろうざえもん)がここで製鉄を試みた。その反射炉はいまも保存されている。ビニルハウスによるイチゴ栽培が盛んである。伊豆箱根鉄道修善寺線が通る。

にりつはいはん【二律背反】 相互に矛盾・対立する二つの命題が同等の権利で主張されること。エレア派のゼノンにすでにこの考えがみられるが，有名になったのはカント*以後である。彼は，理性が無制約者を考えようと努力するとき，必然的に巻き込まれる矛盾を二律背反とよび，①世界は時間上の初めや空間の限界があるか，②世界は単純な部分からなるか，③自然には自然法則のほかに自由の因果性があるか，④世界には端的に必然的な存在者があるかの4種の命題に定立(肯定)と反定立(否定)をあげた。そのうち，①②は世界はわれわれに課せられている理念であるのに，与えられたものと考えるから定立・反定立ともに誤りであり，③④は定立を物自体*，反定立を現象の世界に関する議論と考えればともに真であるとした。彼は実践理性および判断力にも二律背反を提出している。〔中川　誠〕

にりゅうかたんそ【二硫化炭素】 CS_2 赤熱した炭素の上にイオウの蒸気を通じてつくる。純粋なものは無色で一種の香気を



ニリンソウ



ニールセン《モニュマン》



ニワウメ



ニワゼキショウ



ニワトコ

もつ。融点－111.6℃，沸点46.25℃，比重1.27，蒸発熱85cal/g,誘電率2.64，屈折率1.63，固体は正方晶系の結晶で揮発しやすい。点火すると青い炎を上げて燃え，二酸化炭素と二酸化イオウになる。水にほとんどとけないがアルコール・エーテル・ベンゼンとはよく混合する。強酸化剤によりイオウを遊離する。イオウ・リン・ヨウ素・樹脂などのよい溶媒である。四塩化炭素・ビスコースの原料。蒸気は有毒で殺虫剤となる。〔竹下三吉〕

にりんそう【二輪草】 双子葉植物・キンポウゲ科。山地の林床のやや陰地に群生する多年草。茶色で比較的太い根茎の先から，数枚の根出葉を出す。根出葉はトリカブト*の若葉に似て長さ10～20cm，柄があり，丸い刻みがある。3～5月，根茎から高さ15～20cmの1～2本の花茎を出し，3枚の無柄の総包葉をつけ，直径約2cmの白色花を通常2個，まれに1個または3個つける。花は5～8枚の白色のがく片，多数のおしべ，多数のめしべからなり，花弁はない。東北地方では，若葉を浸し物にして食べる。近縁種のサンリンソウは本種に似るが，葉先はとがり，総包葉に柄があるので区別できる。イチリンソウは根出葉が1枚，総包葉は切れ込みの多い大きな葉で3枚あり，花は1個である。〔加藤僖重〕

ニル-アドミラリ［nil admirari］ プルタルコスによれば，ピタゴラスは哲学することによって，この利益すなわち〈何ものにも驚かないこと〉を獲得したといわれる。これを，のちにローマの詩人ホラチウスがラテン語に訳したのが，このことばである。外界の力に支配されないで生きようとする個人倫理の特質を表わしている。

ニルガイ［nilgai］ 哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・ウシ科。レイヨウ*の一種で，肩高1.35ｍ,前肢(ぜんし)のほうが後肢よりも長いので背が傾いている。首にはたてがみがあり，ウマに似るのでウマシカともいわれる。インドの木がまばらな平原に小さな群をなして生活する。

ニールセン［Kai Nielsen］ (1882～1924) デンマークの彫刻家。自然主義に基づきながら激情的なモチーフをもつ女性像に独特の官能的な美を表現した。代表作《エバの創造》《レダ》。

にれ【楡】 双子葉植物・ニレ科。通常はハルニレのことを単にニレというが，ニレの仲間は世界に約20種，日本にはハルニレ・アキニレ・オヒョウの3種がある。すべてが落葉高木で，樹皮がじょうぶなため繊維として用いられる。ハルニレは葉が長さ5～8cmの卵形ないし楕円(だえん)形で先がとがり，縁に重鋸歯(じゅうきょし)がある。早春，葉に先だって前年の枝に淡黄色の小さな四弁花を咲かせる。果実は長さ1～1.5cmの軍配形で，材はかたいので建材・家具材に利用される。アキニレは葉が長さ2～5cmの倒卵形で先はあまりとがらず，縁に小さな鋸歯がある。秋，葉腋(ようえき)に小さな花が多数集まって咲く。果実は長さ1cm前後の楕円形である。またオヒョウの葉はふつう先が3浅裂する独特の形をしている。

にわうめ【庭梅】 双子葉植物・バラ科。中国原産の落葉低木で庭木に用いられ，高

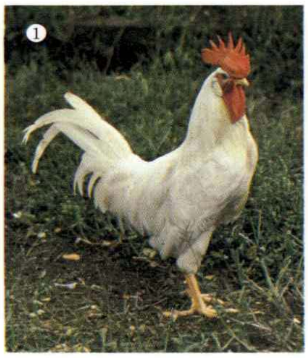
さ1～2mになる。枝は細長く灰色。葉は互生し，卵形ないし卵状披針(ひしん)形で，縁に細かい重鋸歯(じゅうきょし)があり，先は鋭くとがる。4月，葉よりも先にあるいは同時に，淡紅色の五弁花を1～3輪ずつつける。花は直径10～13mmで，がく片5，花弁5，おしべ多数，めしべ1。果実は直径1cmの球形で，6～7月暗紅紫色に熟す。

にわうるし　【庭漆】　双子葉植物・ニガキ科。シンジュ(神樹)ともいう。街路樹・庭木に用いられる中国原産の落葉高木で，高さ10m，太さ50cmに達する。葉は互生し，大形の羽状複葉で長さ40～90cm，13～25枚の小葉よりなる。各小葉は長卵形ないし卵状披針(ひしん)形で長さ8～10cm,小葉の下部に1～2個の蜜腺(みつせん)がある。7～8月，枝先に大きな円錐(えんすい)花序をつけ，緑白色の小さな五弁花を多数つける。果実は長さ4～5cmで，薄い翼があり，中央に種子が1個ある。9～10月かっ色に熟す。

にわか　【俄】　俄狂言の略。洒落(しゃれ)・滑稽(こっけい)を主とする一種の茶番狂言。仁輪加とも書く。遊里などで行なわれたのがはじまりで，江戸時代には，江戸・京都・大阪などで祭礼のとき盛んに行なわれ，中でも明和・天明年間(1764～1788)吉原(よしわら)の九郎助稲荷(いなり)の祭礼に行なわれた吉原俄は知られる。はじめは素人(しろうと)だけが演じていたが，しだいに専門の俄師を生むようになり,天保(てんぽう)年間(1830～1843)には，大阪で小屋がけで興行するようになった。明治末期には鶴屋(つるや)団十郎という俄師が上京して人気を博したが，その後衰え，現在では松竹新喜劇にその一端が伝わっているにすぎない。　〔佐藤　薫〕

にわしどり　【庭師鳥】　鳥類・ニワシドリ科の総称。オーストラリアとニューギニアに17種が生息する。大きさはツグミ大ないしカラス大。ネコドリ類2種とニワシドリ類15種からなる。前者は雌雄同色で，繁殖習性は特に変わったところはない。後者は一般に雌雄2型で，雄は美しく，次のような特異な繁殖習性をもつ。テリトリーをもった雄は枯れ葉を集めて地上に敷き，踊り場をつくって踊り，雌をひきつける種類や，枝を使って特殊な建築物をつくりあげ，小石・花・甲虫類の翅(はね)などを集めてきて飾り，この建築物を雌に示してつがい関係を結ぶ種類などがある。雌は別の所の樹上に営巣する。一般に一夫多妻性である。この建築物は種によりいろいろな段階のものがあり，建築物と雄のディスプレー行動の研究は生物進化に関するたいそう意義のある貢献をしている。　〔安部直哉〕

にわぜきしょう　【庭石菖】　単子葉植物・アヤメ科。北アメリカ東部原産の多年草で，明治の中ごろに渡来し，いまでは野原や道ばたに野生化している。根はひげ根が多数束生する。葉は長さ4～8cmの線形で，縁に小さい歯がある。茎は扁平(へんぺい)。5～6月ごろに茎頂の長短2枚の包の間からひも状の花柄を伸ばし，2～5個の花を散形花序につける。花色は紫色または淡紫色で，紫色の条があり，基部は黄色。果実は球形の蒴果(さくか)で径3～4mm，かっ紫色で光沢に富む。種子は小さく多数つく。







ニワトリ　①白色レグホーン　②シャモ　③土佐地鶏　④トウマル　⑤コエヨシ







ニワハンミョウ　ミヤマハンミョウ

にわとこ　【接骨木】　双子葉植物・スイカズラ科。山野に自生する落葉低木で，高さ3～5mになる。葉は対生する羽状複葉で5～7枚の小葉からなり，長さ12～30cm。各小葉は長楕円(ちょうだえん)形で長さ4～12cm，縁に細かい鋸歯(きょし)がある。3～4月，新芽が伸びる際に円錐(えんすい)花序をつくり，直径3～4mmの白色花を多数つける。花冠は5深裂して，おしべ5，めしべ1。果実は4mmほどの球形の液果で，6～7月に赤熟する。枝の髄が太く，切りやすいので，顕微鏡実験で切片をつくるのに用いる。

にわとり　【鶏】　鳥類・キジ科。東南アジアに生息するヤケイから改良されたものといわれる。ニワトリの品種はその飼育する目的から卵用種・卵肉兼用種・肉用種・愛玩(あいがん)用種に分けられており，また，その品種が改良された地域によって，主としてヨーロッパで改良された地中海原産種と，アジアで改良されたアジア原産種とに分ける方法もある。一般に地中海原産のものは卵殻(らんかく)が白色で就巣性がないのに対し，アジア原産のものは卵殻が茶かっ色で就巣性がある。卵用種として現在までに日本で飼われてきたものにはレグホーン・ミノルカ・ハンバーグ・ポーリッシュなどがあり，卵肉兼用種としてはプリマスロック・ロードアイランドレッド・ニューハンプシャー・ワイアンドット・オーピントン・サセックス・ナゴヤ(名古屋)・ミカワ(三河)など，肉用種にはブラマ・コーチン・シャモ・コーニッシュなどがあげられる。日本で特に発達しているのは次に述べる愛玩用種で，その多くのものは天然記念物となっている。ナガナキドリとしてはトウテンコウ(東天紅)・コエヨシ(声好)・トウマル(唐丸)があり，この3品種を総称して三鳴鶏とよんでいる。チョウビケイ(長尾鶏)は日本特産の品種であるが,長尾性はショウコク(小国)・トウテンコウなどにも認められる。そのほか，地鶏(じどり)といって日本各地でそれぞれその特色を保っている在来鶏やウコッケイ(烏骨鶏)，さらにその羽色や体型で多くの内種に分けられているチャボ・バンタムなどがあげられる。鶏卵の重量は母鶏の体重の約30分の1で30～70gほど。雛(ひな)は21日めに孵化(ふか)し，その後150～200日前後で卵を産みはじめ，1年間の産卵数は80～250個内外(365個産卵するものもある)で，多くは午前8～10時ごろに産卵する。また秋には換羽といって羽が抜け換わるのが普通(チョウビケイは換羽しない)である。最近，狭い土地に多くを飼育するために，ケージの中に収容する方法が普及し，交配

には人工授精を広く応用するようになった。

にわはんみょう【庭斑蝥】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ハンミョウ科。体長15〜18mmで，体色は変化に富み一定しないが，暗緑色と暗銅色の2型が多い。体の腹面は緑色ないし青紫色で光沢がある。鞘翅には，基本型では外縁に沿って肩部に1点紋，翅底の近くに斜紋，中央に電光形紋，翅端にコンマ状紋の計4個の黄白色紋があるが，斑紋は個体による変異が著しく，約20の型に分けられている。日本全土のほか，済州島・朝鮮に分布しており，平地や低山地の草原や路傍に多い。近縁の種にコニワハンミョウ・ミヤマハンミョウ・アイヌハンミョウなどがあるが，いずれも斑紋が酷似していて識別が困難である。➛前ページ(写真)

にわふみお【丹羽文雄】　(1904〜　)　小説家。三重県の寺門の家の生まれ。早稲田(わせだ)大学国文科卒。1932年(昭和7)生母の情痴と流転の生活を描いた《鮎(あゆ)》で文壇に登場。以後も生母や愛人をモデルにした作品が多い。風俗描写を背景に愛欲を描くのを得意とするが，しだいに宗教性・社会性を深めている。代表作は《厭(いや)がらせの年齢》《蛇(へび)と鳩(はと)》《顔》など。

にんいそうさ【任意捜査】　捜査機関(司法警察職員*・検察官*)が，強制手段を用いないで行なう捜査方法。内偵(ないてい)，聞き込み，尾行，任意出頭による取り調べ，警察官の職務質問などがこれにあたる。現行刑事訴訟法は，任意捜査を原則とし強制捜査*を例外としている。

にんいつみたてきん【任意積立金】　法律の定めにしたがって計上される積立金(法定積立金)以外に，企業が定款の規定または株主総会の決議にしたがって任意に設定する積立金をいう。配当平均積立金・偶発債務積立金・事業拡張積立金・退職給与積立金などがある。

にんいほうき【任意法規】　⇨強行法規

にんか【認可】　法律上の行為に同意を与え，その行為に効力を生じさせる行政処分*をいう。学校法人など法人の認可，起債の許可などがその例である。認可の代わりに許可という語を同じ意味で用いる場合もあるが，本来の〈許可〉は，一般に禁止されている行為を特定の場合解除することを意味し，許可を要する行為を許可なしに行なうと処罰されるが，その行為自体は無効とならない。これに対して〈認可〉を必要とする行為を認可を得ないで行なった場合は，処罰はされないが，その行為は無効となる。

にんがい【仁海】　(951ごろ〜1046)　平安中期の真言宗の僧。和泉(いずみ)(大阪府)の人。7歳で高野山に登り出家した。諸山に修行遊学し，京都醍醐(だいご)の小野に曼荼羅(まんだら)寺(いまの随心院)を創建して密教を宣揚，集まる学徒1,000人に及んだという。東寺の長者，東大寺の別当などを歴任し，僧正の位を受けて小野僧正とよばれた。また勅命によりしばしば請雨祈願を修法し，霊験顕著であったので俗に〈雨僧正〉ともいわれた。著作は170余部に及ぶ。〔平井宥慶〕

にんぎょ【人魚】　上半身が人体，下半身が魚体の空想上の動物。古くから世界の諸民族の間にさまざまな伝説が語られているが，古代オリエントではダゴン・オアネスなど男女の人魚形の水神が崇拝されており，このあたりが原発生地ではないかと思われる。ヨーロッパの人魚はきわめて美人で，片手に鏡を持ってその長い髪をくしけずっており，歌がうまく，これに魅せられて船乗りが近寄ると水中にひき込まれるといわれ，この種の伝説ではライン川のローレライ伝説は有名である。日本でも《和名抄》に〈人魚，魚身人面の者也〉と記され，また《扶桑略記》《古今著聞集》など文献に表われている。人魚は，ジュゴン*・マナティー*などの海中類の動物を見ての発想といわれる。

にんぎょう【人形】　主として，人や動物の形姿を形どったもの。用途・性格などから，①信仰や呪(まじな)いに基づくもの(→人形(ひとがた))，②子どもたちの遊びに伴うもの，③愛玩(あいがん)・観賞に資するものに大別されるが，今日では日常生活の座右にあって，多くは③の目的に供されている。

人形が信仰や呪いの対象として生まれ，発達してきたことは世界共通で，その歴史は非常に古い。原始の時代において，人々は生命の神秘にとらわれ，精霊や神への素朴(そぼく)な祈りや願いをもったことはいうまでもない。これらが時として文様に表現されたり，人体を基礎とした彫像に表現されてきた。この彫像は祖先の像であったり，豊穣(ほうじょう)や安産の神像であったり，悪魔を追い払う像であったりした。ヨーロッパにおける旧石器時代オーリニャック文化期の遺跡からは，地母神としてつくられた女性裸像が発見されている。そのためか，人形は当初はもてあそぶ性質のものではなかった。その裏づけとして，たとえば，ヨーロッパの有史以前の子どもの墓からは，玩具は発見されていても，人形は見つからないという報告がなされている。しかし，西アフリカのアシャンティ王国のアクアバとよばれる月の女神(めがみ)の像のように，不妊の婦人に司祭から妊娠の護符として授けられ，目的がかなうと，子どもを育てる練習を兼ねた人形として女児に渡されるという例もある。このように，その目的が果たされればそれを子どもに与えるということから，遊びのための人形の製作となったと考えられている。〔北村哲郎〕

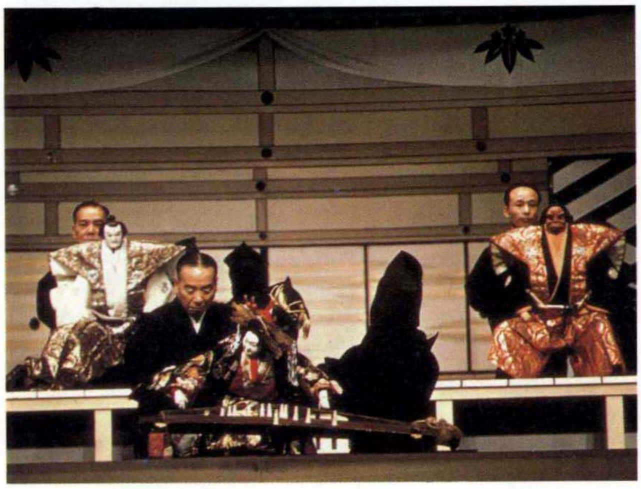
にんぎょういし【人形石】　ウランの原料鉱物の一。$CaU(PO_4)_2 \cdot nH_2O$ $(n=1〜2)$　黒色の非常に細かい微結晶で，結晶学的データはない。鳥取県人形峠より産出する新鉱物で，人形石なる名称を与えられた。放射能を有する。

にんぎょうげき【人形劇】　紙・木・布・皮などの素材を用いてつくられた人形によって演じられる劇。人形のあやつり方によって指つかい・手つかい・棒つかい・糸あやつり(マリオネット)などの別があるが，一般には影絵や写し絵も含めていうことが多い。その特徴は，人形の造形とあやつりの技術の芸術的統一に豊かな想像力が加わって，さまざまなドラマの世界を創造することにある。起源は古く，中国・インド・古代オリエントにおける呪術(じゅじゅつ)的・宗教的な行事と結びついたごく単純な形式のものから始まった。その後ヨーロッパでは，主としてキリスト劇，伝説などに材をとったものが多く上演され(たとえばファウスト伝説*は人形劇によって全ドイツに行き渡った)，たえず民衆の生活と密接につながって発展・衰退の歴史をくり返した。この間，イギリスのパンチとジュディ，フランスのギニョール(日本では一般に指つかい人形の意味に使われることが多い)，ドイツのカスペル，ロシアのペトルーシュカのようなそれぞれの国の代表的な人形劇の主人公たちが生まれた。19世紀末から20世紀にかけては，既成のリアリズム劇・風俗劇を打破しようと試みたジャリ*・アポリネール*・ブレヒト*らの芸術家たちが人形劇の表現力に注目した。今日では東ヨーロッパ，特にチェコスロバキア・ポーランドで盛んである。〔田島　修〕

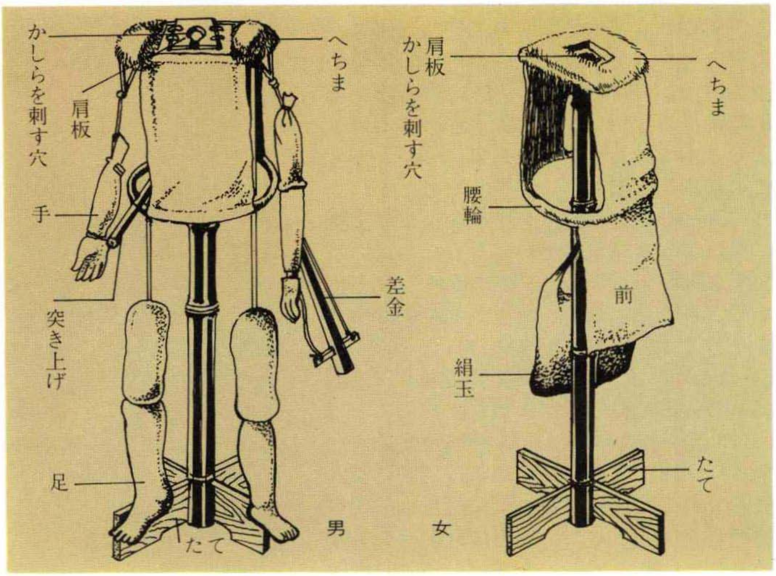
日本には古代からあやつり人形の簡単なものがあったが，芝居らしいものになったのは平安時代11世紀中ごろである。これは，傀儡子(かいらいし・くぐつまわし)とよばれる人形づかいによって祭礼などに演じられた。室町時代には，〈てくぐつ〉〈えびすまわし〉〈ほとけまわし〉などという人形づかいが，手つかい人形と首からつりさげた箱の中で動かす小人形を用いて能や幸若舞を演じた。江戸時代には，〈夷舁(えびすかき)〉から発達した人形浄瑠璃(じょうるり)が起こり，やがてこれは世界に類のない高度の人形劇を完成した。そのほか，糸で上からつるした人形をあやつる糸あやつり芝居や，仕掛けで動かす絡繰(からくり)芝居もあった。明治以後は西洋から糸あやつりや指人形がはいってきて，主として児童教育や文化運動に結びついて盛んとなり，数十の小劇団が起こった。現在，その代表的なものに人形劇団プーク，ひとみ座などがある。なお，伝統の糸あやつりは結城(ゆうき)一座・竹田人形座の2劇団が残っていて，子ども向きの活躍も始めた。からくり芝居は民俗芸能にわずかに残るだけである。➛次項〔角田一郎〕

にんぎょうじょうるり【人形浄瑠璃】　浄瑠璃*にあわせて人形が演ずる芝居。浄瑠璃操(あやつり)・操浄瑠璃芝居などともいわれるが，現在では唯一の専門劇場である文楽座に由来して文楽とよばれることもある。義太夫節*(ぎだゆうぶし)以前の古浄瑠璃*によるものと義太夫節によるものとに二大別される。

人形浄瑠璃



文楽の舞台 《壇浦兜軍記》琴責めの段
阿古屋姫をあやつる人形使いの主づかいは桐竹紋十郎



人形の胴











文楽のかしら ①文七 かしらの中の座頭役。時代物では，強い意志を秘めた中年の武将役，世話物では実役に使われる ②老け女形(《恋女房染分手綱》の重の井)としまの役に使われ，ゆかしい実方の性根をもつ ③傾城 女郎・芸者役。つやっぽさと哀れさを備えている ④子役 ⑤三枚目 滑稽味を漂わせ，太鼓持・町人役などに使われる

前者では指先人形•突っ込み人形(一人づかい)•糸あやつり(一人または二人づかい)であり，後者では，初世竹本義太夫*が義太夫節を創設して以来，浄瑠璃の本流となったもので,太棹(ふとざお)の三味線(しゃみせん)を使い，人形は原則として三人づかいである。つまり，〈主づかい〉が人形の頭と右手をつかい，左手を〈左づかい〉，足を〈足づかい〉が操作する。文楽では，〈足づかい〉は中腰で働くが，これを助けまた人形を大きく見せるために，〈主づかい〉は役がらに応じて17～50cmぐらいのげたをはく。げたや〈足づかい〉を隠すため，舞台の最前部に手すりと称する勾欄(こうらん)が設けられている。大夫(たゆう)と三味線ひきは，舞台の右端(上手)に設けられた床に着座し，*芝居は開幕とともに三味線の音から進行する。

【歴史】 あやつり人形の歴史はきわめて古く，アジア大陸から渡来の漂泊民が人形を舞わせて神を慰めたのがはじまりともいわれる。奈良時代のころには，これが一つの民俗となり，やがて人形つかいは社寺のほとりに定住して傀儡子*(かいらいし•くぐつまわし)とよばれるようになった。そのうち今日に伝わる最も大きな集団は，摂津(兵庫県)西宮の夷(えびす)神社(西宮神社)のそばにあった一団である。源順(したごう)の《倭名類聚抄(わみょうるいじゅうしょう)》には〈でくつかいくぐつ〉と記されているが，〈でく〉は〈でこ〉で出雲(いずも)族の土偶をさし，〈くぐつ〉は海洋民族の代名詞とも考えられる。この集団は神社の行事に従うとともに，竹細工や海産物を売買し，かたわら人形をつかいながら諸国を遊芸したという。やがて，傀儡子の人形劇は庶民の娯楽となり，能・狂言に劣らず流行した。それには，親鸞(しんらん)が布教の方便として指先人形をつかい，地獄・極楽などをわかりやすく説明した功績も見のがせない。一方，15世紀中ごろ，東海道筋の盲人の語り物として始まったのが浄瑠璃である。その後浄瑠璃は，永禄(えいろく)年間(1558～1569)に琉球(りゅうきゅう)から渡来した三味線を伴奏楽器として，曲節ともに画期的な飛躍を遂げ新しい民衆音楽となった。

江戸時代のはじめ，慶長年間(1596～1614)にこれを人形芝居に合わせたのが，西宮の〈夷舁(えびすかき)〉という人形つかいの引田淡路掾(ひきたあわじのじょう)と，京都の目貫屋(めぬきや)長三郎という浄瑠璃語りであったという。このようにして，京都に源を発した人形浄瑠璃芝居は，やがて杉山丹後掾(すぎやまたんごのじょう)，薩摩(さつま)浄雲らによって江戸に伝えられ，さらに大阪をはじめとする各地に流行した。江戸では，浄雲門下の桜井丹波少掾とその子和泉(いずみ)大夫によって金平浄瑠璃*が生まれるなど，諸派がしだいに分離・発展した。一方京阪(けいはん)地方でも，京都に伊勢島宮内(いせじまくない)•宇治加賀掾，大阪に井上播磨掾(はりまのじょう)らの名人が輩出し，それぞれ特異の語り口，異色の演出を行なって人気をよび，初期人形浄瑠璃は全盛時代を迎えた。しかし，このころはまだ盲人琵琶(びわ)の領域を出ず，人形の操作も稚拙であった。1684年(貞享1)播磨掾・加賀掾の影響を受けた竹本義太夫*が大阪道頓堀(どうとんぼり)に竹本座*を創設し，〈当流〉と称して古今の音節を取り入れ集大成した義太夫節を語り始めてから，浄瑠璃界に新風が吹き込まれた。彼は，名作者近松門左衛門*(もんざえもん)，三味線ひきの名人竹沢権右衛門(ごんえもん)，人形つかいの名手辰松八郎兵衛(たつまつはちろべえ)らの協力を得て，次々と意欲的な興

行を行なった。中でも時代物の《出世景清*(かげきよ)》と世話物の《曾根崎心中*(そねざきしんじゅう)》は大当たりをとった。ことに，それまで王朝物・武家物に限られていた芝居に，実際の事件をすぐに取り入れた《曾根崎心中》は竹本座の人気をいっそう高め，その後世話物は時代物とともに人形浄瑠璃をささえる2本の柱となった。人形のつかい方もこのころから出づかいが始められたが，まだ一人づかいであった。それが今日の文楽に見るような三人づかいになったのは，1734年(享保19)吉田(よしだ)文三郎が行なってからとされている。しかし，実際にはそれよりおよそ50年前の貞享(じょうきょう)年間(1684～1687)にすでに江戸孫四郎座で三人掛かりの人形の操作が行なわれていた。

1703年(元禄16)義太夫の門弟竹本釆女(うねめ)は，師匠に反旗をひるがえし，豊竹若太夫と改名して，竹本座の東に豊竹座*を興し，紀海音*を作者とした。両座は軒を連ねて互いに妍(けん)をきそい，名実ともに人形浄瑠璃の黄金時代をもたらし，歌舞伎(かぶき)を圧倒した。その後二座の攻防は約60年間続いたが，豊竹座・竹本座があいついで退転すると，ようやく歌舞伎の興隆につれて人形浄瑠璃の人気も下火となった。この間，竹田出雲*(いずも)・三好松洛(みよししょうらく)らの奮起によって，《菅原伝授手習鑑*(すがわらでんじゅてならいかがみ)》《義経(よしつね)千本桜*》《仮名手本忠臣蔵*》などを逐年上演し，あるいは近松半二*が《妹背山婦女庭訓*(いもせやまおんなていきん)》《新版歌祭文*》などを提供するなど，起死回生の妙薬を投入した。

幕末から明治維新にかけては諸芸がまったく沈滞した時期で，人形芝居も多分にもれなかった。この間，1790年代(寛政年間)淡路(あわじ)出身の植村文楽軒が，大阪の高津橋東詰にけいこ場をつくったのが，今日の文楽座の起源とされ，それからのち，1872年(明治5)大阪市西区松島に櫓(やぐら)を構えて文楽座と名乗ったのがはじめで，義太夫節の三人づかいの人形浄瑠璃芝居を文楽というのもこの文楽座創設者の文楽軒の名にちなんでのものである。その後には霊(ごりょう)社境内・稲荷(いなり)社内・西横堀・四ツ橋・道頓堀などと居を移し，現在では朝日座(1963年文楽座を改称)を本拠としている。

明治以後，文楽も時代の波を受け，たびたび集合離散のうきめを見たが，第2次世界大戦直後に起きた待遇改善問題によって2派に分かれ，組合派は1909年以来の経営者松竹と袂(たもと)を分けて自主公演に乗り出し，東京・大阪の東西三越劇場を中心にして活動した。以後約15年間，松竹系は因(ちなみ)会を，組合派は三和会を名のり，昔日の竹豊時代に劣らぬ激しい競演を展開したが，1963年(昭和38)財団法人文楽協会が設立され，両派は合同した。

人形浄瑠璃芝居と称するものは，国内各地にも類多く見られるが，多くは後継者不足のため，ほとんど壊滅寸前の状態にあり，ことに文楽と本家争いをした淡路人形*浄瑠璃は，いまではわずかに座名を残すのみで，祭日や縁日，地方からの要請によって，そのつど結集して公演に応ずる状態となっている。また阿波(あわ)人形浄瑠璃芝居も，いまはまったく影をひそめている。

〔人形の構造〕人形はかしら・肩板・胴・手・足の5部からなり，女性には原則として足をつけず，着物のすそさばきで足の感じを表わす。①かしら：観客の注目を集め，感情を率直に表現するのが人形のかしらである。昔，大夫は人形のかしらに見入って一曲中の人物の性根・役がらを会得したといわれる。かしらは頭・顔・頸(くび)の総括的な名称で，接続した胴串(どぐし)といわれる棒によって操作される。はじめ各浄瑠璃作品の人物に応じてかしらがつくられていたが，操芝居の形式化とともに類型化した。現在では，かしらの種類は40数種，さらに個々のかしらは，その動作によって，口の開くもの，まゆが上下するもの，目を閉じるものなどで数種に分類され，一役一首のものを加えると，その数は70余種にのぼる。②肩板：1枚の平板の中央に胴串をさし込む穴をあけ，両端にへちまを数枚重ねてつけ，肩の線を盛り上げる。女の色気を出すためには，特にくふうを凝らす。③胴：二つの竹の輪を1枚の布でつないだ簡単なもので，丸胴またはずん胴とよぶ。④手：両手とも手のひらが半開きになっているのが普通の形。特殊な手には，つかみ手，拍手など指の動くものがあり，それぞれ仕掛けがついている。特に左手につけられた棒は長く，これをさし金という。手は肩板の両端にひもで結びつけられる。⑤足：屈伸するものとしないものとがある。丸胴の下端に結びつけられている。女方は《加賀見山旧錦絵(こきょうのにしきえ)》のお初のようなものには足があるが，一般には，女性の美しさを表現するため，足がないのが普通である。

〔上演種目〕古浄瑠璃を含めて，昔から上演された外題は，数百種にのぼるが，そのときどきの好みに応じ，あるいは改作され，あるいは再び日の目を見ないものさえあった。現在上演されているものは，およそ170種くらいである。〔中西啓二郎〕

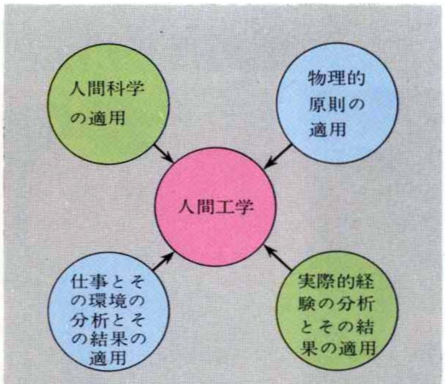


図-1 人間工学のアプローチの仕方

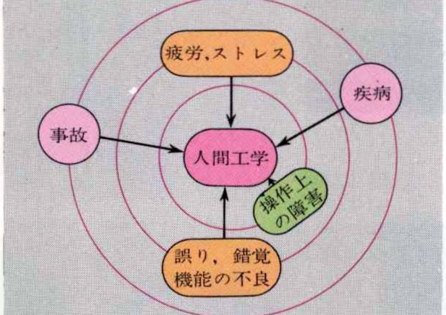


図-2 マイナスの面からの人間工学へのアプローチ(遠いものほど不適応現象が重い)

人 間 工 学

にんぎょうとうげ【人形峠】中国山地の鳥取・岡山の県境にあり標高735m。国道179号線がここを越え，津山～倉吉(くらよし)間の国鉄バスが通じている。1955年峠の切り通しのがけでウラン鉱の露頭が発見されて以来，東郷鉱山とあわせて人形峠鉱山は，わが国の代表的なウラン鉱山となった。

にんぎょうのいえ【人形の家】イプセン*の戯曲(1879)。3幕。銀行家ヘルマーの妻ノラは，自分が高利貸しから借財した事実をめぐって豹変(ひょうへん)する夫の態度から，夫の愛情の実態を知り，自分が夫の人形的存在にすぎなかったことを悟って，〈妻であり母親であるよりもまえに一個の人間として生きる〉義務があると叫んで家を出る，という筋。この戯曲は発表当時全ヨーロッパに大反響を巻き起こし，主人公ノラが新しい女の代名詞ともなって婦人解放運動の口火となったが，一方では結婚・家庭生活を破壊する書として非難も浴びた。また迫力ある劇的構成の点でも有名。〔鈴木徹郎〕

にんげんえいせい【人間衛星】人間の乗った人工衛星。衛星船ともいう。内部は酸素または空気を満たし適温に保つなど，地上に近い状態にしてあるが，危険の予想される場合はさらに宇宙服を用いる。

にんげんきげき【人間喜劇】バルザック*が，初期の通俗小説以外のすべての小説を総括して，1842～1847年に刊行した作品群の総合的題名。〈風俗研究〉〈哲学研究〉〈分析研究〉の3部よりなり，全91編，登場人物は2,000人に及ぶ。いわば小説による現代史の観があり，《従妹(いとこ)ベット*》などの長編小説が含まれる。

にんげんぎらい【人間嫌い】モリエール*の韻文喜劇(1666)。5幕。社交界の偽善を憎む青年アルセストが，正反対の性格のうわ気な未亡人セリメーヌに恋をし，その矛盾がさまざまなこっけいさを生むという性格喜劇の傑作。

にんげんこうがく【人間工学】人間―機械―環境の系に人間の特性を入れて系に組んでいくこと。ヨーロッパではアーゴノミクス(エルゴノミクス)，アメリカではヒ

ューマン-ファクターズ-エンジニアリングという。

機械文明が進んでくると，人間のために作られたはずの機械が人間を酷使していないかどうかを点検する必要が生じてきた。したがって，人間と機械との関係をはっきりさせ，人間一機械一環境系の合理性を高めて，人間の特性を取り入れた系を作り上げていく必要性が痛感されるようになった。人間のためのものとしては，人間の欲求する安全・快適・使いよさ・疲労軽減・経済性などの諸条件があげられ，それらの目的にかなう学問の分野として人間工学ができ上がってきた。そして人間工学は，その点では人間中心の機械文明をつくりあげていくうえでの重要な要素として各方面で応用されつつある。同時に環境問題，消費者からみた製品の使いよさ，快適さ，そして疲労軽減などの要素を検討するうえでの，生きた人間の諸特性がはっきりしてきつつある。

【人間工学の課題】①寸法のうえでの人間と機械との適合，②筋力-コントロール特性についての人間と機械との関係の合理性，特に最適伝達係数・伝達関数(出力)，③速度・時間についての人間一機械系，④人間と環境の関係づけと環境制御，⑤人間の入力となる外界・内界よりの情報の整備と伝達係数・伝達関数の問題，⑥人間一機械一環境系の最適稼働(かどう)条件(勤務条件・作業密度・休憩時間・拘束時間など)の時間要素の問題，⑦人間の機械・環境への適応性を高めるための教育と訓練の問題，⑧システムの点検の仕方と評価の方法，さらにはシステム構成の仕方などをあげることができる。これらの課題を別の面からみるならば，㋑製品と消費者との関係，㋺製造場面における人間工学，㋩生活面における人間工学の三つの面からみることが必要である。

【システム構成の原則】①システム構成のあり方：システムを構成していくうえでの原則としては，まず人間と機械との特性の比較から始め，その中から優秀な要素を取り上げてシステムを組み立てることを考えなければならない。ついで，人間に与えられた機能を両手両足のどこにどのように配分するかを考え，システムを直列につなぐか，並列につなぐかを決定していく過程をシミュレーションによって検討を進めていくことが必要である。特に人間には，機械の連鎖の中に直列に組み込むことはせず，連鎖の外に並列において指導者の役を果たさせることが必要である。二つのユニットの直列結合の組み合わせには，それぞれのユニットの信頼度をr_1，r_2とすると，そのシステム全体の信頼度R_sは$r_1 \times r_2$となり，並列結合の場合には$R_s = r_1 + r_2(1 - r_1)$となる。このことは，直列結合の場合には低いほうの信頼度よりも低くなること，並列結合の場合には高いほうの信頼度よりも高くなることを示している。一方においては，人間の信頼度は0％から100％の間を動揺しているものと考えなければならないので，主要な連鎖は信頼度の高く安定している機械でつなぎ，人間は並列において指導者の役を果たさせ，同時に人間を助けるために，科学的技術にのって支援するという形にすべきである。②機械のシステムと人間のシステム：最近，システムはきわめて巨大になりつつあるので，各ユニットの信頼性の向上と，手ぎわのよいシステム構成がさけばれていると同時に，テクノロジー-アセストメントの立場から，悪い面の可能性の点検を十分に行なって，その補いを事前に十分検討したうえでシステムを構成していくことを心がけなければならない。そして，システムの中にはいる人間も生体システムの一つの標本としてみることができるので，人間のシステムを十分分析して，機械のシステムとともにシステム間の適合性をはかるためにはどうすべきかも明確にしていくことが必要である。

【人間工学の将来の問題】人間と機械との関係はますます密接度を強め，人工臓器などを考えに入れると，〈人間の中の機械〉〈人間の一部としての機械〉という感じが強くなってくる。また，電子義手についてみると，機械を人間のある一部が動かすということにもなってくる。すなわち，人間と機械によって構成された人間-サイボーグの出現が現実の問題となってくる。〔大島正光〕

にんげんごせいろん　【人間悟性論】　イギリスの哲学者ロックの主著。1690年刊。4巻。第1巻ではわれわれにとって知識や観念は生得的なものではないこと，第2巻では観念は経験によってのみ可能であること，第3巻では言語は観念の外的記号であること，第4巻では知識が経験に基づく諸観念の結合にほかならないこと，そしてその結合を可能にするのは理性の直観能力であることを説いた。この考えはD.ヒュームを経てカントに大きな影響を与えた。なお，ライプニッツの《人間悟性新論》(1704年ごろ)は本書を逐条的に批判する形で，彼自身の認識論上の立場を明らかにしたもの。

にんけんてんのう　【仁賢天皇】　5世紀末ころの天皇。履中天皇の孫。市辺押磐(いちのべのおしわ)皇子の子。顕宗(けんぞう)天皇(弘計(おけ)王)の兄。名は億計(おけ)。父市辺押磐皇子が雄略天皇に殺されたため，一時兄弟で播磨(はりま)(兵庫県)に潜伏したが，清寧天皇に後嗣がなかったので，先に弟弘計王が即位し，次いで億計王が即位した。その子武烈天皇に至って仁徳天皇の皇統が絶え，代わって継体天皇が即位することとなる。陵墓は大阪府南河内郡にある埴生(はにゅう)坂本陵。

にんげんドック　【人間ドック】　健康の維持と疾患の早期発見を目的として，短期間入院または通院しながら健康状態について診察・精密検査を受けること。遠洋航海の船舶が一定期間ドック入りすることにたとえていう。わが国では，1954年(昭和29)ごろから始められ，おもに2週間の入院で尿・血液の一般的検査や，各種の血液化学的検査，心肺機能検査，内臓諸器官の形態的・機能的検査，造血機能検査などを行なうほか，食事や日常生活一般についての指導も行なっている。〔佐野隆志〕

にんげんのじょうけん　【人間の条件】　マルローの長編小説(1933)。1927年の上海(シャンハイ)クーデターを背景に，極限的な行動のうちに生の燃焼を求めるテロリスト陣，人間の連帯に生の意味を見いだそうとする理想主義者の清ら，絶望的な人間の運命に抗する人々の行動，生と死の緊張のドラマを描いたもの。作者の思想を端的に表現した代表作で，ゴンクール賞を受賞した。

にんこうてんのう　【仁孝天皇】　(1800〜1846)　光格天皇の第4皇子。母は東京極院藤原婧子(ただこ)。名は恵仁(あやひと)。1809年(文化6)立太子，1817年即位。1845年(弘化2)建春門外に学問所(のちの学習院)を創設しようとしたが，起工に先だって死去した。陵墓は京都市東山区にある後月輪陵。

にんしき　【認識】　最も広義には知識の意味で用いられる。哲学史上では，ドイツ神秘主義者たちは自然的・超自然的な真理の発見の意味に用いたが，ライプニッツ以来個別的な経験的・科学的真理の発見の意味に用いられる。カントは《純粋理性批判》で感性・悟性・理性が認識において果たす役割を考察し，感性が認識に素材(内容)を与え，悟性が規則(形式)を与え，理性が方向を与えるとした。認識は推論(思考)によって得られ，真理を目標とする。古来真理は主観と客観の一致と定義される。真理の標識は普遍性と必然性にある。西洋古代・中世は在(あ)るもの(実体)の認識に中心があり，近世は働くもの(主体)の立場から思考の構造，主観-客観の関係の認識に中心が置かれる。主体が主体の置かれた状況の中で，状況と主体とを全体的に徹底的に反省することによって，真の認識が得られる。現実の世界の矛盾構造，私と君，人間の自由の認識は，今日でも哲学の基本問題といえよう。➔認識論　〔中川　誠〕

にんしきろん　【認識論】　認識の本質と原理・起源・源泉・制約と前提・範囲・限界について究明する哲学の一部門。認識論は存在論の中核をなすが，また各認識論はそれぞれ独自の存在論を予想している。認識論(エアケントニスレーレ)の語は19世紀前半に生まれ，ことに19世紀後半より新カント派の台頭とともに盛んになった。自然科学の著しい進歩による科学と形而上(けいじじょう)学の緊張した関係は，哲学をして科学と形而上学との認識原理の反省に向かわせた。中世以来の理性と信仰の対立と宥和(ゆうわ)の問題が近世にはいってますます先鋭化し，神が〈生ける神〉でなく〈哲学者の神〉となり，ついには哲学が神なくしてすましう

るものとなり，〈諸科学の婢(はしため)〉となったとき，認識論が哲学の一分野として成立した。認識論は経験的心理学的認識論をロック*に，また先験的論理的認識論をカント*にそれぞれ先駆者として見いだすことができる。ロックの認識論の目的は〈人間の知識の起源・確実性，および範囲，ならびに信念・意見，および同意の根拠ならびに程度を研究すること〉であり，カントの認識批判は〈書物や体系の批判でなく，理性がいっさいの経験から独立に到達しようと努力しうるあらゆる認識に関しての理性能力一般の批判である。したがって形而上学一般の可能不可能の決定，および形而上学の源泉・範囲および限界の規定である。しかし，これらすべては原理からなされる〉という点にある。ロックは道徳・宗教の問題の論議が難問と行き詰まりに会ったことから，悟性の能力の吟味にはいった。カントはヒューム*に独断のねむりをさまされ，ヒュームの否定した因果関係*を再び肯定することによって自然科学を基礎づけ，同時に形而上学を確立した。アッシジの聖フランシスコの宗教的〈経験〉は，オッカム*・F.ベーコン*を経て，ロック・バークリ・ヒュームと受け継がれてイギリス経験論*を形成した。合理論的認識論はライプニッツ*・デカルト*にとどまらず，プラトン*にまでさかのぼる。真理の認識は理性による認識である。理性の世界と感性の世界はそれぞれ理性と感性によって認識される。その認識原理は〈等しきものは等しきものによって知られる〉ということであり，理性的認識は多くは直観的認識でもある。〔中川　誠〕

にんじゅつ【忍術】　戦国時代に行なわれた間諜術(かんちょうじゅつ)。《孫子用間篇(へん)》を原理とし，諜報・謀略・奇襲・後方攪乱(かくらん)などを目的とする。術者を忍者といい，忍びの者・間者・細作・透波(すっぱ)・乱波(らっぱ)・担猿(のきざる)・三つ者・饗談(きょうだん)などの別名がある。忍者には3階級あって，土豪以上の者を上忍，侍クラスを中忍，足軽クラスを下忍という。下忍の組頭が中忍であり，その上に上忍がいて統轄した。したがって，上忍は諜報・謀略など頭脳的忍術を使い，下忍は術技による偵察(ていさつ)・奇襲・後方攪乱に働いた。忍技の内容により，上忍の忍術を〈陽忍〉，下忍の忍術を〈陰忍〉といっている。源平時代に源義経(よしつね)の〈義経流〉，南北朝に楠木正成(くすのきまさしげ)の〈楠木流〉があったが，それらは諜報・謀略を主とするもので，いまだ兵法から分離していなかった。偵察や奇襲を目的に，忍術が独立した体術となったのは室町時代からである。応仁(おうにん)(1467〜1468)以来の乱世に生きるには，陽忍・陰忍ともに欠くことのできない戦争手段である。ここに忍術の需要が起こり，諸国に忍者が発生した。彼らは特徴的な忍技をくふうし，大名・武将の傭兵(ようへい)として偵察・奇襲など陰忍の面で活躍したが，中でも抜群の忍者は伊賀者(いがもの)・甲賀者であった。伊賀(三重県西部)・甲賀(滋賀県南部)の地は京都に近く，そのうえ山また山の隔離地帯なので，敗残兵が逃げ込んだり，それを追う軍隊の侵入もあった。そこで自衛上ゲリラ戦法が生まれ，起伏の多い地形に適合して急速に進歩した。表向き百姓である地侍が，その陰忍を身につけて忍者となり，土豪の服部(はっとり)・百地(ももち)氏が上忍として伊賀忍者を統轄した。服部氏はのちに出国して徳川氏に臣従し，代わりに藤林氏が勢力を張って，百地・藤林の両氏で600〜700人の忍者を支配していたといわれる。ところが1581年(天正9)織田信長(のぶなが)に抗戦，惨敗して多くの伊賀忍者が諸国へ散り，諸大名に召しかかえられる結果を招いた。前田家の伊賀五十人衆，福島家の伊賀忍者などはそれである。徳川家に仕えた服部氏は，たびたびの奇功があるが，中でも本能寺の変に際し，当時堺(さかい)にいた家康(いえやす)を護衛して，鹿伏兎(かぶと)の難所越えで無事居城岡崎まで送り届けた。家康はその功績に答え，200人の伊賀者を召しかかえて服部半蔵に統率させた。これが伊賀同心のはじまりであり，小田原征伐・関ケ原の戦い・大阪の陣に活躍した。一方，甲賀忍者は鎌倉時代以来，近江(おうみ)(滋賀県)の守護佐々木氏に従属したが，その衰亡とともに家康と結んだ。鹿伏兎越えに100人の甲賀者が参加し，また伏見籠城(ろうじょう)(関ケ原前哨戦(ぜんしょうせん))にも善戦して幕府の創業に尽くした。しかし，島原の乱に甲賀者10人の従軍を最後に，無用の術技として幕府にうとまれ，甲賀者は江戸城本丸と大手三門の番士，伊賀者は大奥の警備員として，江戸時代を終わった。

忍術は秘伝とされたので，《万川集海》(藤林保武)，《正忍記》(藤林正武)，《忍秘伝》(服部半蔵)など忍術書が出たのは，忍術が無用化した延宝(1673〜1680)ごろである。書中の忍術道具には，竹製の浮梯子(うきばしご)や救命袋にあたる〈長簑(ながみの)〉，げたに浮き袋をつけた〈水蜘蛛(みずぐも)〉や，どうころがしても一方の角が立つ鉄製の〈まき菱(びし)〉などがある。まき菱は逃げるとき後方へまき，追手の足を傷つけるのに効果的だが，水蜘蛛は今日の実験では水上を歩くに無効とされている。そのほか水中聴音器の〈聞金(ききがね)〉や，小形焼夷弾(しょういだん)の〈伝火〉などがある。忍者はこれらを時と目的により携行し，やみに紛れるにつごうのよい黒装束で活躍した。忍技では，女を敵の奥向きに仕えさせて情報をとる〈くの一〉，叛意(はんい)ある敵の家臣を利用する〈螢火(けいか)〉，敵に仕えて寝首をかく〈袋反(ふくろがえし)〉などがあるが，いずれも平凡な謀略手段にすぎず，潜入するとき犬にほえられたら用意のえさで懐柔せよとか，敷居に油をさして，音のしないように戸を開けよなど，常識的なものである。ただし敵に見つかったとき，地に伏して隠形(おんぎょう)の呪文(じゅもん)を唱え，印を結ぶのは心気を静めるとすることや，忍者が激しい練習により，9〜10尺(約2.7〜3m)の跳躍，40〜50尺(約12.1〜15.2m)の飛び降りも可能とするのは現実性がないでもない。第2次世界大戦中，軍部は忍術を謀略戦に取り入れようとしたが，ほとんど実効なくして終わった。〔稲垣史生〕

にんしょう【忍性】　(1217〜1303)　鎌倉時代末期の真言律宗の僧。号は良観。大和(やまと)(奈良県)磯城(しき)郡の人。1232年(貞永1)16歳で出家し，東大寺の戒壇院で受戒した。1239年(延応1)西大寺の叡尊*(えいぞん)に師事して戒学を修め，1245年(寛元3)叡尊より具足戒を受け，律宗復興に貢献。1261年(弘長1)鎌倉に下って戒律を広め，北条時頼(ほうじょうときより)・北条長時らの帰依を受けて光泉寺・極楽寺を開いた。以後鎌倉を中心に活躍。蒙古(もうこ)来襲の際は，降伏の呪法(じゅほう)を行なった。また幕命により祈雨を行ない，飢饉(ききん)には施粥(せがゆ)をして貧民を救済し，道路・橋梁(きょうりょう)を構築し，各地に悲田院・施薬院をつくるなど，その功績は数えきれない。死後，忍性菩薩(ぼさつ)号を送られた。〔玉山成元〕

にんしょうかん【認証官】　国の官吏で，その任免に天皇の認証が必要なもの。内閣総理大臣をはじめとする国務大臣・会計検査院検査官・人事院人事官・宮内庁長官・侍従長・最高裁判所裁判官・高等裁判所長官などがある。

にんじょうばなし【人情噺】　落語の一種。人物描写を中心とした噺で，高度の技術が必要とされる。《塩原多助一代記》《文七元結(もっとい)》のようにオチのない噺と，《芝浜》《鰍沢(かじかざわ)》《火事息子(むすこ)》のようにオチのある噺とがある。

にんじょうばなしぶんしちもっとい【人情噺文七元結】　歌舞伎(かぶき)の脚本名。三遊亭(さんゆうてい)円朝*の人情噺*を榎戸(えのと)賢治が脚色。通称〈文七元結〉。1902年(明治35)歌舞伎座初演。道楽者ながら江戸っ子かたぎの左官長兵衛(ちょうべえ)が，娘を売った金を与えて商家の手代文七の身投げを救う。その俠気(きょうき)に感激した文七の主人が娘をうけ出し，文七は娘と夫婦になって新くふうの元結を売り出すというもの。5世・6世の尾上(おのえ)菊五郎*が得意芸とした。

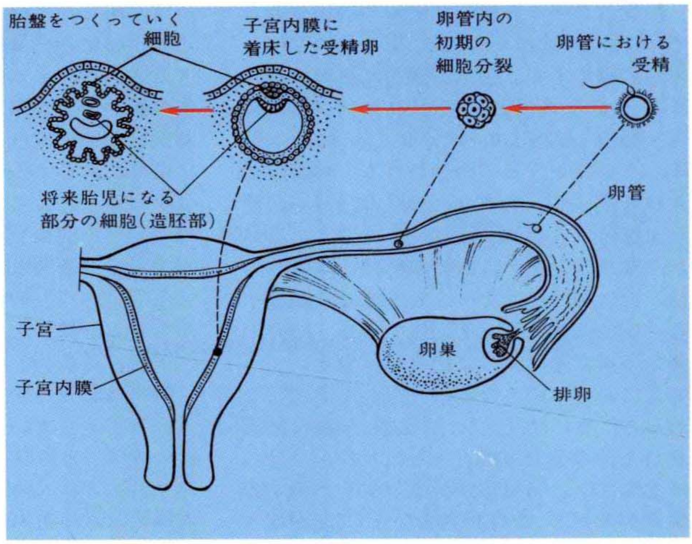
にんじょうぼん【人情本】　江戸後期の小説類の一種。洒落本*(しゃれぼん)に続き1818年(文政1)ごろから明治初年にかけて江戸で出版された。洒落本が遊里のみを対象としたのに対し，市中の一般青年男女や芸者を主人公として恋愛やそのもつれを描き，主として婦女子に愛読された。会話文と地の文を巧みに配分した情景・風俗の緻密(ちみつ)な表現は，近代以前の通俗小説の一極点を示している。十返舎一九*の《清談峰初花(せいだんみねのはつはな)》，曲山人の《仮名文章娘節用*(かなまじりむすめせつよう)》に始まり，為永(ためなが)春水の

《春色梅児誉美*(しゅんしょくうめごよみ)》に至って完成された。おもな作者になお鼻山人・松亭金水(しょうていきんすい)らがある。天保(てんぽう)の改革(1842)で春水が執筆を禁ぜられ，一時中絶したが，まもなく復活，明治初年の新聞続き物に引き継がれ，大衆小説の一源流となった。〔小池正胤〕

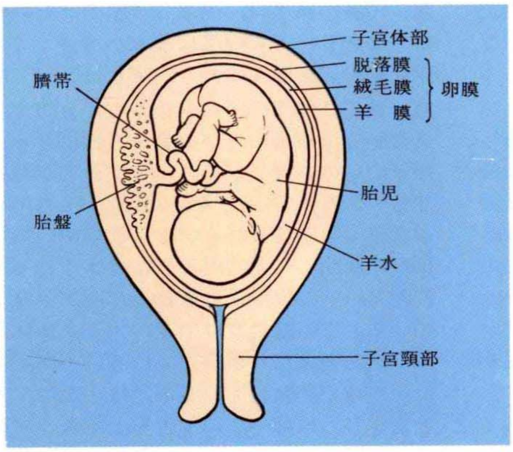
にんしん【妊娠】 受精卵が子宮内膜に着床して発生を続け，胎児となって出産するまでの状態。人間では約280日といわれるが，これは妊娠するまえの月経の第1日から分娩(ぶんべん)までの平均値で，4週を妊娠月数の1か月とすると10か月となる。成熟した婦人では，ほぼ1月に1回，卵巣の中の成熟した卵胞が破れて卵が排出される(排卵)。成熟した卵は直径約0.2mmで，人体では最大の細胞であり，肉眼でも見ることができる。この卵の中に精子が進入し，両者の核が合一するのが受精である。受精は卵管膨大部(卵管の先端近くで広くふくらんだ場所)で行なわれる。精子は全長約0.05mm，1回の射精液約3ml中に2億～3億含まれ，そのうち1個だけが受精する。精子は，1分間に約3mmの速度で動き，射精後，早いものは8時間くらいで卵管膨大部に達する。受精した卵は直ちに細胞分裂をくり返して細胞数を増加していく(分割)。受精卵は卵管の運動により，卵管の中を輸送されて子宮の中に達する。卵管の中で分割した受精卵は，内層と外層に分かれる。外層の細胞群は将来絨毛膜(じゅうもうまく)になる部分(栄養膜)であり，内層の細胞は造胚(ぞうはい)部といって将来胎児になる部分である。

排卵したあとの卵胞は黄体となり，卵胞ホルモン(エストロゲン)および黄体ホルモン(プロゲステロン)を分泌する。この二つのホルモンの作用によって子宮内膜は肥厚・潤軟化し(分泌期変化)，受精卵を受けいれるべき準備が整う。この分泌期変化をした子宮内膜の中に受精卵が進入し，定着する(着床)。受精卵が子宮内膜に着床した状態を受胎という。卵管膨大部で受精した卵が子宮内膜に着床するまで，5～7日を要する。着床する時期の受精卵は胞胚とよばれ，栄養膜から分泌される酵素トリプシンの作用によって子宮内膜に着床する。その後内膜は脱落膜変化を遂げ，胞胚は栄養膜からできた多数の絨毛によって脱落膜から栄養をとり，発育していく。胞胚の造胚部は細胞分裂をくり返し，胎児として形づくられていく。妊娠2か月までは外観上ほかの哺乳(ほにゅう)動物の胎児と区別がつかないので，胎芽とよばれる。2か月末以後は人間としての外観を示すようになるので胎児という。

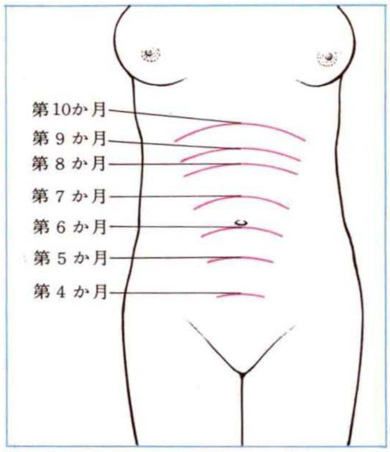
妊　娠



受精から受胎までの過程



胎児とその付属物



妊娠月数と子宮底の高さ

【妊娠月数と胎児】 妊娠1か月末での胎芽は頭部と長尾部があり，2か月末では尾部は短縮して頭部は著しく大きくなる。妊娠3か月末では尾部はまったく消失し，胎児としての外観が完成する。妊娠3か月末には外陰部が形成され，男女の区別がわかるようになる。4か月末には外陰部の男女の差異がはっきりする。一般に妊娠5か月末ごろから四肢(しし)運動が活発となり，母親は胎動として自覚するようになるが，胎動の自覚は個人差があり，初産婦と経産婦では違うので，時期は必ずしも一定ではない。胎動の始まるころから胎児の発育速度は増して，胎児の心音も聞こえるようになる。妊娠6か月末の胎児は眼瞼(がんけん)が開き，頭髪が発生しはじめ，皮膚は胎脂でおおわれる。妊娠7か月末になると皮膚にしわができ，男児では睾丸(こうがん)が陰嚢(いんのう)内に下降しはじめ，女児では小陰唇(いんしん)が大きく突出した状態になる。妊娠8か月末では老人のような顔をしており，生活力はまだ弱いが，適正に保育すれば子宮外生活が可能なことがある。妊娠9か月末になると，皮下脂肪が増加し，老人のような顔つきがしだいになおり，成熟児の徴候がそなわってくるが，手足のつめはまだ先端まで達していない。10か月末になると成熟児となる。成熟徴候は，身長約50cm，体重約3,000g，頭囲約34cm，頭髪3～4cmの長さで密生，肩幅約11cm，腰囲約27cm，皮膚は淡紅色，皮下脂肪組織の発育良好で，しわがない。つめは指の先端に達しているか，これをこえている。男子は睾丸が完全に陰嚢内に下降し，女児は大陰唇が十分に発達している。新生児は娩出直後に元気に泣き，四肢を活発に動かし，哺乳力強く，尿または胎便を排泄(はいせつ)する。体重2,500g以下の新生児を未熟児といい，他の部分の計測値も成熟児と比べて著しく小さい。体重3,800g以上の新生児は巨大児とよばれる。

脱落膜の中に着床した胞胚の表面の絨毛膜には，絨毛という多数の木の根のような突起がある。これが脱落膜の中に根を降ろし，妊娠初期ではこれを通して脱落膜から栄養を吸収する。胎児が発育するにつれて，着床部の脱落膜と，脱落膜に進入している絨毛(この進入部の絨毛のみがよく発達し，他の部分の絨毛は退化する)とから胎盤ができあがる。胎盤が完成する時期は妊娠4か月末である。この時期になると妊娠の安定期であり，流産の危険は比較的少なくなる。胎盤の完成後，胎児は羊水のはいった卵膜に包まれ，臍帯(せいたい)・胎盤を通して母体から積極的に養分を摂取することが可能となり，胎児の成長は安定し，またその発育速度は速くなる。胎盤・臍帯・卵膜・羊水が子宮の中の胎児の環境を構成する要素である。

胎盤は数多くの機能を備えた複雑な器官で，おもな機能は三つある。第1は胎児への栄養補給である。胎児が盛んに発育するために必要な多量の栄養分(タンパク質・脂質・糖質・無機塩類・水分など)の供給は母体から胎盤を介して行なわれる。胎盤の働きは非常に強力であり，胎児の発育に必要な栄養分は，母体を犠牲にしてでも，母体から奪う。たとえば血液の材料となる鉄分は，母体が貧血になっても母体から吸収する。機能の第2はガス交換である。胎児の酸素の需要量は成人に比べれば少ないが，発育に必要ないろいろの代謝が円滑に行なわれるためには，胎児の諸臓器・組織に酸素を与え，余分な炭酸ガスを取り除かなければならない。胎盤機能が低下すると胎児の酸素が不足し，窒息状態となって，命が危うくなる。第3の機能は，いろいろなホルモンの産生である。胎児が母体の子宮の中で安全に発育するためには，子宮が大きくならなければならない。胎児の住居である子宮を大きくさせるのは，胎盤でつくられる多量の卵胞ホルモン，黄体ホルモンである。

妊娠子宮の最大の容積は，妊娠前の500倍以上に達する。また，分娩の時期にならないのに子宮が収縮すると，子宮への母体からの血行が悪くなって，胎盤を介しての栄養分や酸素などの物質交換がよく行なわれなくなる。ときには胎盤が子宮壁からはがれて，出血し，流産や早産を起こすことがある。このような子宮の収縮をおさえて，妊娠を予定日まで維持させる作用をもっているのが，胎盤でつくられるプロゲステロンである。そのほかにもいろいろのホルモンが胎盤でつくられている。中でも絨毛性ゴナドトロピン*は重要である。このホルモンの妊娠の維持に果たす働きについては，いまだ明らかでないが，胎盤で多量につくられ，特に妊娠早期の胎盤から多量に産出される。このホルモンは成熟卵胞のある卵巣に働いて，排卵を誘発することができる。胎盤は分娩予定日ごろまでは，胎児の発育にほぼ比例して大きくなり，胎盤の機能が頂点に達したころに陣痛が起こる。大多数は予定日の前後2週間以内に分娩するが，予定日を2週間以上すぎても分娩にならないと(予定日超過)，胎盤機能は少しずつ悪くなる。妊娠10か月末の胎盤の直径は約15～20cm，重量400～500gである。

臍帯は胎児と胎盤をつなぐ命綱で，中には血管が走っている。この血管を介して胎盤の絨毛から吸収された栄養物や酸素は胎児に供給され，胎児中に生じた炭酸ガスや老廃物は母体血中に排泄される。卵膜は胎児を包んで保護している袋で，外層の脱落膜，中層の絨毛膜，内層の羊膜の3枚の膜からできている。中には羊水があり，この中に胎児が浮かんでおり，羊水は胎児・胎盤・臍帯に無用の圧力のかかるのを防ぐ。また胎児の成長および運動を自由にさせ，胎児の体の各部分がくっついて奇形が発生するのを防ぎ，胎児の運動(胎動)による母体子宮壁への圧迫を軽くする。妊娠中の胎児は軽く屈曲した姿勢をとり，全体として子宮腔(しきゅうこう)の形状に適合した卵円形をしている。妊娠前半期は胎児の大きさに比して羊水が多量なため胎児の位置は不安定で，たえず自己回転しているが，後半期になると安定し，ほぼ一定の位置をとるようになる。正常では児頭が母体の骨盤のほうに向かっている頭位をとる。

【妊娠による生理的変化】 妊卵の着床発育に伴い，母体にはいろいろな変化が現われる。これらの変化は性器のみならず，全身のほとんどすべての臓器や組織に認められる。変化の程度や発現の時期は部位により異なる。子宮体部では筋繊維が肥大・増殖し，子宮頸部(けいぶ)では組織が柔らかくなり充血して，子宮全体は弾力性のある柔らかさを示す。妊娠の初期には子宮の形はそれほど変わらないが，妊娠4か月ごろから，西洋ナシのような形がだんだん球状になってくる。妊娠月数が進むにつれて，子宮の大きさは骨盤腔内から腹腔内に上昇して，腹腔内を満たすようになる。乳房は胎盤から分泌される多量のホルモンによって乳腺(にゅうせん)の肥大増殖と皮下脂肪の増加が起こり，著しく大きくなる。また乳頭はやや大きくなって敏感になり，乳輪も拡大してくる。初産婦では乳房は緊張して半球状に突出するが，経産婦では弛緩(しかん)し，多少たれさがることが多い。乳頭や乳輪には色素が沈着して暗かっ色となり，乳腺は肥大と同時に分泌機能を開始する。妊娠の比較的早期から，乳頭から初乳とよばれる分泌物を圧出することができ，はじめは水様透明であるが，のちには灰白色粘稠(ねんちゅう)となり，淡黄の小塊を混ずるときもある。骨盤では，いくつかの骨を結ぶ関節の結合組織や靭帯(じんたい)がゆるくなる。

消化器系に起こる変化は，つわり*とよばれている機能的変化で，早朝空腹時に嘔気(おうき)・嘔吐を訴え，嗜好物(しこうぶつ)の変化も伴う。皮膚には黒かっ色の色素沈着が目だち，乳頭・乳輪のほかに腹壁正中線や外陰部にも現われる。後半期には目や口のまわりにも現われてくる。静脈の怒張や静脈瘤(りゅう)も現われる。特に下肢・陰唇・膣壁・肛門(こうもん)周囲に多くみられる。また下肢や外陰部に軽いむくみが現われる。妊娠後半期になると，妊娠子宮の急速な増大のために，腹壁が押し広げられ，下腹部に妊娠線とよばれる赤かっ色の縦の線が何本も生じてくる。皮下脂肪も増加し，特に乳房・大腿(だいたい)・臀部(でんぶ)・腹壁などにみられる。子宮・胎児およびその付属物の増大，皮下脂肪の増加，水分の蓄積などにより体重が増加する。体重は妊娠20週前後より，ある程度規則的に増加し，ふつう分娩直前の体重増加は約10kg以内である。〔木川源則〕

妊娠各月における胎児の発育と子宮の大きさ

妊娠月数		身長(cm)	体重(g)	胎児のおもな特徴	子宮の大きさ
	1			胎芽の時期。頭部と長い尾部がある	
初期	2	1.9		胎芽の時期。尾部が短縮し，頭部がはっきりしてくる	ガチョウの卵ぐらい
	3	7.6	24	外陰部が形成され，男女の区別が可能。胎児としての外観が完成する	にぎりこぶしぐらい
	4	16.1	70	外陰部の男女の差異がはっきりする。胎盤が完成する	子どもの頭ぐらい
中期	5	23.3	230	胎動が活発になる。心音も証明される	おとなの頭ぐらい
	6	30.6	620	眼瞼が開く。頭髪が発生しはじめる	子宮底の高さ18～20cm
	7	35.8	1 250	男児では睾丸下降，女児では小陰唇突出	子宮底の高さ21～24cm
後期	8	41.5	1 500	老人のようなしわの多い顔つき。胎外の生活はようやく可能になる	子宮底の高さ25～28cm
	9	46.0	2 200	老人のような顔つきがしだいになくなる。成熟児の徴候が備わってくる	子宮底の高さ28～30cm
	10	50.0	3 000	成熟徴候も完備する	子宮底の高さ32～33cm

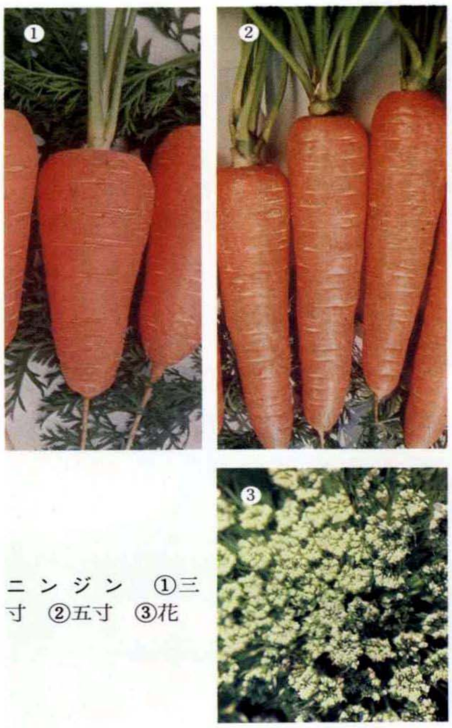
にんじん【人参】 双子葉植物・セリ科の越年草。茎は短く根出葉は葉柄長く，葉身は羽状葉で分裂が多い。初夏に抽薹(ちゅうだい)し，花茎は60～150cmに及び，きわめて小さな白色花を散形花序につける。果実は小形で細かいとげをもつ乾果である。根は円筒ないし円錐(えんすい)形で，径3～10cmくらいに肥大し長さはふつう10～50cmくらいである。根色は白や紫のものもあるが橙黄(とうおう)色が多い。中央アジアの原産といわれるが，ヨーロッパ全域からアジアにかけて分布する。栽培は古く，スペインで12世紀，オランダで14世紀，また東洋では中国を中心に16世紀ごろから栽培・利用された。わが国

には徳川時代に，主として九州地方に土着したが，現在の品種は明治以降導入された欧米の品種がもとになった。比較的冷涼な気候を好む。一般には初夏まいて冬収穫するが，暖地では秋まいて春，冷涼地では春まいて夏収穫するなどの方法もとられている。品種は，長い根で有名な国分，短い根の三寸や五寸など。煮食用として利用することが多いが，生食にも用いる。

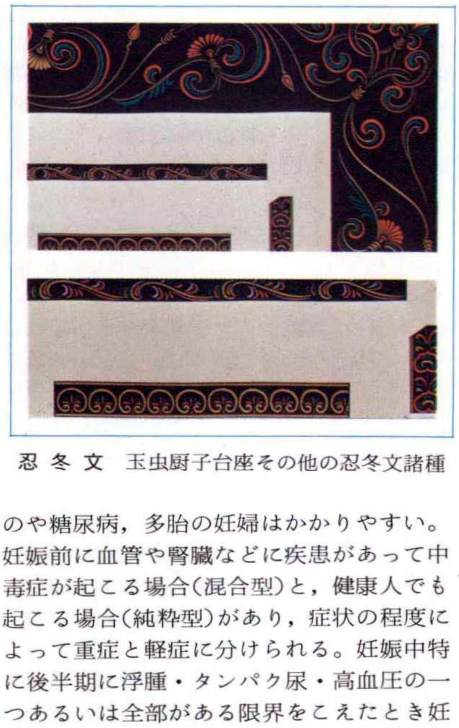
にんじん ルナール*の小説(1894)。〈にんじん〉とあだなでよばれる赤毛の少年が，複雑な家族関係の農家の中で育っていく姿を，ユーモアと風刺に富んだ簡潔な文章で描いたもの。作者自身の少年期に取材し，小市民的感情への批判がこめられている。のち戯曲化され，世界的に上演されている。

にんしんしんだんほう 【妊娠診断法】 妊娠をしているかどうかを早期に診断する方法。妊娠の診断は胎児心音の聴取あるいはX線による胎児骨格の記明により確定するが，妊娠のきわめて早期にはこれらの方法は適当でないので，妊婦の尿中に絨毛(じゅうもう)性ゴナドトロピン*の存在を証明することにより診断される。次の二つの方法がある。①生物学的妊娠診断法：絨毛性ゴナドトロピンが黄体刺激ホルモン*と同じような生物学的活性を有することを利用し，ウサギの雌に尿を注射して一定時間後にウサギの卵巣に出血や排卵があったかどうかを調べるフリードマンの方法，および雄ガエルを用いて尿中に現われる精子の有無によって判定する方法などがある。②免疫学的妊娠診断法：絨毛性ゴナドトロピンを異種動物に投与して得られた抗体と，尿中の絨毛性ゴナドトロピン(抗原)を反応させるという抗原抗体反応を利用して，試験管内で尿中に絨毛性ゴナドトロピンを証明する。生物学的方法・免疫学的方法はそれぞれ長所短所があり，目的に応じて利用されている。 〔木川源則〕

にんしんちゅうどくしょう 【妊娠中毒症】 妊娠後期，ふつう妊娠8か月以後に浮腫(ふしゅ)・高血圧・タンパク尿を主症状として起こる全身性の症候群。早期妊娠中毒症(つわり症候群)と区別して後期妊娠中毒症ともいう。妊娠中に起こる腎炎(じんえん)とよく似た疾患なので妊娠腎といわれることが多く，また症状だけから妊娠高血圧・妊娠浮腫ともよばれる。成因はいまだ明らかではないが，この疾患は妊婦にしか起こらず，分娩終了とともにすみやかに治癒(ちゆ)することが多いので，大きくなった子宮や胎児・胎盤の影響およびそれらによって起こる血管系・神経系の変化が原因で起こると考えられている。また，妊娠・分娩という負担に対する母体の適応性の失調も関係し，軽症のものまで含めると全妊婦の約1割が中毒症症状を起こす。特に農村婦人・労働婦人および寒冷地の婦人や高齢の妊婦に多い。妊娠以前から腎炎・本態性高血圧のあるものや糖尿病，多胎の妊婦はかかりやすい。妊娠前に血管や腎臓などに疾患があって中毒症が起こる場合(混合型)と，健康人でも起こる場合(純粋型)があり，症状の程度によって重症と軽症に分けられる。妊娠中特に後半期に浮腫・タンパク尿・高血圧の一つあるいは全部がある限界をこえたとき妊娠中毒症と診断される。妊産婦死亡の大きな原因であり，また中毒症になると早産になりやすく，未熟児の生まれることが多いので，胎児・新生児死亡が高い。中毒症の症状が出産後も長く続く(妊娠中毒症後遺症)ような人は次の妊娠時には，より早く，より重く中毒症が発生しやすいので注意を要する。中毒症になったら塩分を控えるが，水分は制限しすぎないほうがよく，特にかたよらない食事(高タンパク質)をとることが必要である。症状が起こった場合はすみやかに専門医の診察を受け，適切な治療を受けることが肝要である。 〔木川源則〕



ニンジン ①三寸 ②五寸 ③花



忍冬文 玉虫厨子台座その他の忍冬文諸種

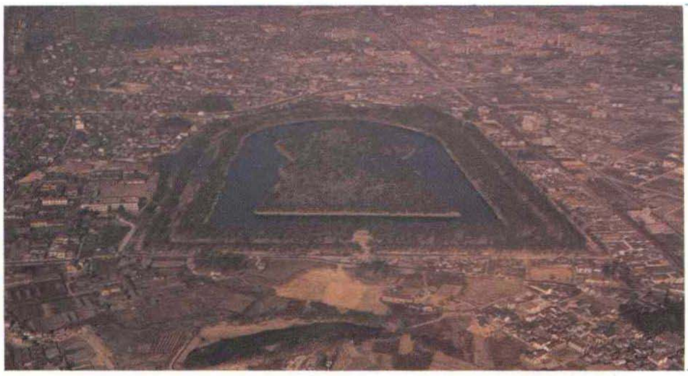
にんじんぼく 【人参木】 双子葉植物・クマツヅラ科。中国原産の落葉低木で高さ3m前後になり，庭などに植えられる。葉は3小葉または5小葉よりなる掌状複葉で，葉縁にあらい鋸歯(きょし)がある。葉・枝ともに対生する。7～8月，枝先の葉腋(ようえき)から20cm前後の円錐(えんすい)花序を出し，多数の淡紫色で小さな唇形花(しんけいか)をつける。果実は球形の核果で黒熟する。

にんそう 【人相】 ⇨観相術

にんそくよせば 【人足寄場】 1790年(寛政2)寛政の改革*で，江戸石川島(佃(つくだ)島)に設置された浮浪人のための収容所。正式には加役方人足寄場といい，今日の刑務所*の基礎となったもの。初代主任は長谷川平蔵宣以(はせがわへいぞうのぶため)。無宿者や刑期満了後も引取人のない者を強制的に収容し，紙すき・油絞りなどの技術習得をはかったり，賃金を払って普請人足として労働に従事させた。明治維新まで存続。なお同趣旨のものが常陸(ひたち)(茨城県)上郷村・箱館(はこだて)(函館)にもあった。 〔岡山泰四〕

にんち 【認知】 婚姻関係以外に生まれた子に対して，父または母が自分の子であると認める意思表示*をすること(民法779条)。しかし，棄児などのように分娩(ぶんべん)の事実が判明しない場合は別として，母子関係は出産の事実によって証明されるため，母の認知を法律上要求する必要はないとするのが通説である。認知は，戸籍法の定めるところにより届け出ることによって行なわれるが，遺言*によってもできる(民法781条)。認知は，父の自由な意思による任意認知と，子の側からの訴えによる強制認知とがある。任意認知は父の単独行為であるが，成年*の子を認知するにはその子の承諾を，胎児を認知するにはその母の承諾を得なければならない(民法782・783条1項)。また，死亡した子に対しても直系卑属がある場合にかぎって認知できるが，その直系卑属が成年であるときには，この者の承諾を得なければならない(民法783条2項)。強制認知は，父または母を相手方とし，子，その直系卑属またはこれらの者の法定代理人*が認知請求の訴えを提起して行なう。父または母が死亡したのちは検察官を相手方として認知請求の訴えを提起できる。ただし，認知の訴えは，父または母の死亡の日から3年経過したのちには提起できない(民法787条)。認知の効力が発生すれば，認知した父または母との間に出生*のときにさかのぼって親子関係を生ずるが，これがため第三者の取得した権利を害することはできない(民法784条)。もっとも，相続にまでそれを適用すると，父の死亡後にも認知を認めた実益が失われるので，民法は被認知者に他の相続人に対する価額の範囲内で支払請求権を認めている(民法910条)。 〔黒木三郎〕

にんどうもん 【忍冬文】 植物文様の一種。英語のハニーサクル(スイカズラ)やフ



仁徳天皇陵　周囲に円墳や前方後円墳の陪冢が散在する



仁和寺　金堂

ランス語のパルメット(扇形の葉をもつ小形のシュロ)にあたり,成因をことにする文様を一様の名称としている弊がある。この文様の発生は,クレタ島発掘のカマレス陶器の文様が原形ではないかとされている。また,エジプトのロータス(ハス)文様がギリシアにはいって完成したともいわれる。これらがアレクサンドロス大王の東征による文化の東漸により,中国を経てわが国に伝来したと考えられる。わが国における代表例は,玉虫厨子(ずし)に描かれているもので,一種の唐草(からくさ)ふうではあるが,線の扱いは流暢(りゅうちょう)で,野生のつる草がみごとに示されている。なお,同系の軒瓦(のきがわら)を飾る文様も,これと同様にスイカズラを文様化した感が深い。〔毛利　登〕

にんとくてんのう　【仁徳天皇】　生没年不詳。応神天皇の皇子。名は大鷦鷯命(おおさざぎのみこと)。《宋書(そうじょ)》に見える倭王(わおう)の讃(さん)にあたるといわれる。兄弟諸皇子を討ち,さらに弟菟道稚郎子(うじのわきいらつこ)皇子と皇位を譲りあったが,皇子の死によりやむなく即位したといわれる。しかし事実は皇位争いに勝って即位したのであろう。難波(なにわ)に宮を定め(→難波京),池堤を築き,農業を奨励したというが,3年の間,租税を免じた説話は事実ではあるまい。仁徳天皇陵はその規模の大きいことで有名である。

にんとくてんのうりょう　【仁徳天皇陵】　大阪府堺(さかい)市にある仁徳天皇の陵墓。正式名は百舌鳥耳原中陵(もずのみみはらのなかのみささぎ),俗に大山陵(だいせんりょう)ともよばれる。前方後円墳で,世界最大の古墳。面積11万950m²。長軸480m,後円部径245m(高さ35m),前方部幅305m(高さ33m)で,3重の濠(ごう)が巡らされている。1872年(明治5)前方部の竪穴(たてあな)式石室(→石室)が露出し,内部に長持形石棺・鍍金(ときん)武具・ガラス器などが置かれていることがわかった。埴輪(はにわ)なども多い。

にんなじ　【仁和寺】　京都市右京区御室(おむろ)大内町にある真言宗御室派の総本山。光孝天皇の遺志を継いで宇多天皇が886年(仁和2)に完成,のち宇多天皇は僧籍にはいって法皇となり,当寺に住したので御室御所とよばれた。その後,歴代の住職は皇族の法親王がなり,いくたの高僧が住して,真言宗の修法・学問の両面の発展につとめ,平安末には門跡寺院として栄えた。しかし,応仁(おうにん)の乱により甚大(じんだい)な被害を受け,寺運も傾いたが,江戸初期に徳川幕府によって再興,紫宸殿(ししんでん)・清涼殿を下賜された。明治維新に至って皇族出身の門跡が絶え,1887年(明治20)には伽藍(がらん)の一部は焼失したが,その後重ねて復興され,現在に至っている。建築・彫刻・絵画・工芸・書の各方面にわたって,国宝および重要文化財指定のものが多く,宝物館にその一部が公開陳列されている。また,境内のサクラは木の高さが低く,御室桜として一般に知られている。〔永井信一〕

にんにく　【葫・大蒜】　単子葉植物・ユリ科。西部アジア原産といわれる多年草で,古くから栽培されている。全草に強い臭気がある。鱗茎(りんけい)は大形の扁卵(へんらん)状球形で淡かっ紫色の乾膜質の鱗状葉でおおわれ,うちに5～6個の小鱗茎がある。小鱗茎は半卵弓形で,濃紫色条のある帯紫色の鱗葉でおおわれ,鱗茎のいちばん外側の葉鞘(ようしょう)が多肉化している。茎は高さ60cm～1mで直立し,中空で2～3枚の葉がまばらに互生する。葉は長く,幅の広い線形で,下部は鞘状になり茎を包む。ときに葉腋(ようえき)に珠芽をつける。夏,茎頂に散形花序をつけ,包はくちばし状で長さ20cmに達する。花は鐘状で緑白色。花間に径1cm以上になる珠芽をつけ,ときには全部が珠芽となる。また,包内に第2,第3の花序をつけることもある。英名をガーリックといい,ヨーロッパや中国で古くから栽培され,日本にも古く渡来した。鱗茎が生食・料理用・つけ物・調味料・薬用として広く用いられている。〔横井朝子〕

にんのうきょう　【仁王経】　仏教の経典。2巻。鳩摩羅什(くまらじゅう)訳《仁王般若(はんにゃ)波羅蜜経》と,不空訳《仁王護国般若波羅蜜経》とがあるが,ふつう前者をさし,《仁王般若経》とも略称する。ブッダが十六大国の王たちに,国土を守り,人民を安らかにするためには,この般若波羅蜜の法を信奉すべきであると説いたもの。すべての国の天災地変や凶作兵乱などの七難も,この経の講読によって滅し,七福が生じるとあるので,《法華経(ほけきょう)》《金光明経》とともに〈護国三部経〉とされ,仁王会が修せられたりした。中国選述の経典とされる。〔真野龍海〕

ニンフ　[Nymphe]　ギリシア神話で川・木・山などの精。歌舞を愛する若く美しい女性の姿で表現される。不死ではないが長命とされ,ふだんはやさしいがときおり恐ろしい性格を示す。また,予言などの神的な能力ももつとされた。木のニンフはドリアデス,泉・川・湖のニンフはナイアデス,山のニンフはオレアデス,海のニンフはネレイデス(オケアニデス)とよばれる。

ニンポー　【寧波】　中国,浙江(せっこう)省東部の都市。甬江(ようこう)下流にあり,唐代以来,貿易港として繁栄し,ことに日本との関係が深かった。旧名明州。1842年に開港したが,のち新しく建設され,急速に発展した上海(シャンハイ)に繁栄を奪われた。舟山列島への連絡地で,周辺の寧紹平野や舟山列島の産物を集散し,ことに茶・綿・魚類の移出が多い。付近一帯は,商才にたけ上海で活躍した寧波商人の故郷として知られる。南西60kmにある四明山は仏教の遺跡が多い。

にんみょうてんのう　【仁明天皇】　(810～850)　嵯峨(さが)天皇の皇子,母は皇后橘嘉智子(たちばなのかちこ)。823年(弘仁14)淳和(じゅんな)天皇の即位とともに皇太子となり,833年(天長10)即位,淳和の皇子恒貞(つねさだ)親王を皇太子としたが,842年(承和9)これを廃し,皇子道康親王(文徳天皇)を立てた(→承和の変)。在位中は唐文化の影響による儒教的徳治主義の政治が行なわれたが,その間藤原北家の勢力がしだいに強化されていった。陵墓は京都深草陵。〔黛　弘道〕

ぬ

ヌー　［gnu］　哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・ウシ科のレイヨウ*。体はがんじょうで頭が大きく，鼻づらに黒毛が密生する。頸にはたてがみがある。雌雄とも角があり，ヤギュウのような形を呈する。アフリカに分布し，次の2種がある。①オジロヌー：オジロワイルドビーストともいい，小形で肩高1.15mほど。尾が白い。国際保護動物。②オグロヌー：オグロワイルドビーストともいい，大形で肩高1.3mほど。尾が黒い。

ヌアクショット　［Nouakchott］　モーリタニアの首都。人口50,000(1975)。同国西部，大西洋岸の砂丘上にある。1958年に建設された新しい政治都市で，それ以前は小港にすぎなかった。政府諸機関が集まり，アラビアゴム・トウモロコシ・家畜などの取引が盛ん。なお近年，内陸で鉄鉱床が発見され，その積み出し港として注目されている。

ヌイイーじょうやく　**［ヌイイー条約］**　第1次世界大戦後の1919年11月27日パリ郊外，セーヌ川沿いのヌイイーで連合国とブルガリア間に締結された講和条約。①ブルガリア西部の4地方をユーゴスラビアに割譲，②ドブルジアをルーマニアに返還，③トラキア西部をギリシアに返還，④エーゲ海の港湾利用を保証，⑤陸軍兵力を20,000人に制限，海軍は禁止，⑥37年間に連合国に22億5,000万フランを賠償という内容であった。この結果，ブルガリアは人口600万の内陸国になり，経済的にも疲弊し，賠償額ものちには25％削減された。〔折井一彦〕

ぬえ　**［鵺・鵼］**　⇨トラツグミ

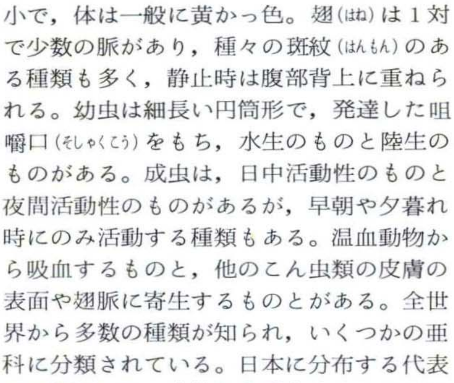
ぬか　**［糠］**　⇨米糠

ヌガー　［nougat］　キャンデー*の一種。もとはクルミでつくられたが，現在ではアーモンド・はちみつ・砂糖・クルミなどを使って固めてつくる。わが国で市販されているのは略式のもので，砂糖・水あめ・バターを煮つめ，あわだてた卵白またはゼラチンと香料を入れてつくる。

ぬかえび　**［糠蝦］**　甲殻(こうかく)類・十脚目・ヌマエビ科。体長25㎜内外の小形のエビ。体は透明で淡黄灰色ないし青かっ色を呈する。額角は長く水平に突出し，背面に約12個ほど，下縁に3～4個の棘(とげ)がある。第1・第2胸脚ははさみ状になっているが，物をはさむよりも，先端の剛毛束でどろ上の有機物をすくい取るのに適している。池・沼・湖の沿岸など，ゆるやかな淡水に生息し，水草などの間で生活する。本州中部以北に分布する。中部以南には近縁種のミナミヌカエビを産する。〔向井　宏〕

ぬかか　**［糠蚊］**　こん虫類・双翅(そうし)目・ヌカカ科の総称。体長0.5～5.0㎜と微小で，体は一般に黄かっ色。翅(はね)は1対で少数の脈があり，種々の斑紋(はんもん)のある種類も多く，静止時は腹部背上に重ねられる。幼虫は細長い円筒形で，発達した咀嚼口(そしゃくこう)をもち，水生のものと陸生のものがある。成虫は，日中活動性のものと夜間活動性のものがあるが，早朝や夕暮れ時にのみ活動する種類もある。温血動物から吸血するものと，他のこん虫類の皮膚の表面や翅脈に寄生するものとがある。全世界から多数の種類が知られ，いくつかの亜科に分類されている。日本に分布する代表的な種類には，人体から吸血するシロフヌカカやイソヌカカ，トンボ類の翅脈に寄生するトンボダニカなどがある。〔鈴木邦雄〕

ぬかたのおおきみ　**［額田王］**　奈良期の歌人。生没年不詳。鏡王の娘で，はじめ大海人皇子(おおあまのみこ)(天武天皇)に嫁して十市皇女(といちのひめみこ)を生み，のちに天智(てんち)天皇に召された。《万葉集*》には異伝も含めて13首を残すが，その歌調は高く清らかでしかも豊かさと強さとを備え，初期万葉を代表する女流歌人とされる。



ヌ　ー　オグロヌー

ぬかふくこめふく　**［糠福米福］**　昔話の一。姉の糠福は継子(ままこ)，妹の米福は実子。継母は姉には破れた袋，妹には新しい袋を持たせてクリ拾いにやる。姉はなかなかたまらず日が暮れて山婆(やまうば)の家に泊まり，山婆に親切にしたため宝箱をもらって帰る。ある日，継母は妹を連れて祭りに出かけ，姉には仕事を言いつけるが，姉はスズメや旅僧に手伝ってもらって仕事を果たし，宝箱から着物を出して祭りに行き，そこで長者のむすこに見そめられて嫁に迎えられるという筋のもの。同類の話としては，《お銀小銀》《継子と笛》《手無し娘》などがあり，この種の継子話は日本各地に広く分布している。〔山路勝彦〕

ぬかみそづけ　**［糠味噌漬け］**　わが国独特のつけ物*で，どぶづけともいう。米ぬか・食塩・水を混ぜて熟成させ，これに各種の野菜をつけ込んだもの。ぬか床は，つけだるに米ぬかと食塩水(ふつう8～10％の濃度)を入れて十分混ぜ，4～5日間毎日数回かき混ぜながら熟成させてつくる。芳香ある風味は，ぬかの中の糖化酵素やタンパク質分解酵素などによって生じた乳酸・アミノ酸などの有機酸エステルによってつくられる。このため，手入れとして毎日適度にかき混ぜて酸素を十分に供給し，好気性菌の繁殖を促すこと，野菜類から出る水をときどき除くこと，食塩・炒(い)りぬかを少量ずつ補うことが必要である。野菜は，ナス・キュウリ・キャベツ・ダイコン・カブ・ミョウガ・キョウナ・フキなど季節の新鮮なものをつける。〔塩川ふみ〕

ぬきなすうおう　**［貫名菘翁］**　(1778～1863)　江戸時代末期の書家。阿波(あわ)(徳島県)の人。〈幕末の三筆〉のひとり。名は苞(つと)，はじめ海客・海屋と号したが，70歳以後は菘翁と号した。京都に出て，儒学を講じ，また，南画をよくした。書は中国およびわが国の名筆を広く学び，努力を重ねて書風は何度も変わった。晩年の書は形にとらわれず，自然にして独特の風格があ

る。

ヌクレアーゼ [nuclease] 核酸*または核酸の構成成分を分解する酵素の総称。RNAを加水分解してヌクレオチドまたはポリヌクレオチドを生成する酵素をリボヌクレアーゼ，DNA*に対して同じように作用する酵素をデオキシリボヌクレアーゼ，ヌクレオチドに作用してヌクレオシドを生成する酵素をヌクレオチダーゼ，ヌクレオシドを塩基と糖とに分解する酵素をヌクレオシダーゼという。

ヌクレオチド [nucleotide] プリンまたはピリミジン塩基と糖が結合してできたヌクレオシドの糖部分が，リン酸エステルとなったもの。塩基と糖との組み合わせで数種のヌクレオチドができるが，これらがリン酸を介して重合したものが核酸である。ヌクレオチドは核酸の構成単位であるとともに，種々の補酵素や補酵素の一部として働いている場合も多い。

ぬけまいり 【抜け参り】 ⇨お陰参り

ヌシッチ [Branislav Nušić] (1864〜1938) ユーゴスラビアの劇作家。セルビアで最も人気があり，喜劇を中心にいろいろな種類の戯曲を書いた。その喜劇では，小市民性と官僚主義を嘲笑(ちょうしょう)し批判した。代表作は《引立て》《大臣夫人》《ミスタードラル》など。他に小説・旅行記がある。

ヌーシャテル [Neuchâtel] スイス北西部，ベルン西方43km，ヌーシャテル湖北岸の都市で，ヌーシャテル県の首都。人口35,000(1963)。ジュラ山脈のふもと，海抜430 mにあって風光に恵まれ，旧市街には12世紀建造の古城や寺院が残る。チョコレート・たばこ・時計などの生産が盛ん。1866年創立の大学のほか商業学校・博物館・図書館など教育・文化施設が多い。

ヌース [nous] ふつう〈理性〉と訳されるギリシア語で，ラテン語のインテレクトゥスにあたる。この語を哲学的意味で最初に用いた哲学者はアナクサゴラス*で，彼はこのヌースを世界に運動と秩序を与える原因であるとした。プラトン*やアリストテレス*では，感覚や感性的認識から明確に区別され，超感性的な知性的認識の能力として最高の認識能力を意味した。特にアリストテレスでは，世界における運動の究極的な原因として，みずからは不動でありながら他のいっさいを動かすものであり，それはみずからを思惟(しい)する思惟(思惟の思惟)，すなわち神とも考えられた。その後，新プラトン派*などでは，善一者たる神と一体化して，世界を形成する宇宙的原理としてのヌースが考えられている。〔本橋正義〕

ぬすびとはぎ 【盗人萩】 双子葉植物・マメ科。山野の陽地に自生する多年草で，高さ60〜90cm。葉は倒卵形の3小葉からなる複葉で互生する。葉の基部に小さな托葉(たくよう)が，小葉基部に小さな小托葉がある。葉の表に細かい伏毛が，裏面の脈上に細い



ヌタウナギ



ヌートリア

毛がある。7〜10月，葉腋(ようえき)から総状花序を出し，淡紅色の小さな蝶(ちょう)形花をつける。果実は平たく，半月を二つ連ねた形で，表面に短いかぎ形に曲がった毛が密生しており，熟すと衣服などについて種子の散布を助ける。

ぬた 【饅】 魚介類とネギまたはワケギやワカメを使った酢みそあえ*。室町時代の《大草家料理書》に，〈ぬたあえ鱠(なます)は酒粕(さけかす)をよくすり，ダイズ粉を入れて花かつおをすって混ぜ，魚に酢を掛けてあえる。ダイズ粉の代わりにケシかゴマを入れてもよい。粕と酢と酒であえる〉とあり，はじめは酒粕であえた。江戸時代にはアユ・フナ・サバ・イワシ・ボラ・タイなどが最も多く使われ，はじめは魚のみであったが，のちに野菜とあえるようになった。また，酒粕にからしを入れた〈からしぬた〉，エダマメをすって混ぜる〈青豆ぬた〉，青からしをまぜる〈青ぬたなます〉や酒粕にみそを入れたものなど種類が多く，供応にも日常にも多く用いられたようである。〔塩川ふみ〕

ぬたうなぎ 円口類・ヌタウナギ科。別名イソメクラ。東京ではメクラウナギという。全長60cmほどで，本州中部以南の各地沿岸および朝鮮南部の浅海にすむ。一見ウナギを思わせるが，あごがなく，目は皮下に埋もれて外から見えず，左右両側に6個の鰓孔(さいこう)がある。ひれは尾びれだけをもつ。夜間に活動し，刺し網などにかかった魚を攻撃するため，漁師から害魚とされている。夏に美味。よく似たものに，メクラウナギ科のメクラウナギ(オキメクラ)があり，全長50cmに達し，相模(さがみ)湾の深海から知られる。

ぬたりのき 【渟足柵】 大化改新直後，蝦夷*(えぞ)征討と蝦夷地開拓のため設置された柵*。647年(大化3)現在の新潟市沼垂(ぬったり)付近に設置。648年設置された磐舟(いわふね)柵*とともに日本海沿岸地方の最前線基地であった。708年(和銅1)出羽(山形県・秋田県)が設けられて出羽柵が置かれるに至り，廃止されたらしい。

ヌートリア [nutria] 哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・カプロミス科。頭胴長44cm，尾長35cmぐらい。背面は黒茶色で，腹面は淡い。アルゼンチン・チリなどに分布し，川・湖などに生息して泳ぎが巧み。日本では，毛皮が比較的良質なため第2次世界大戦前に輸入され，それが逃亡して各地で野生化している。

ヌードル [noodle] 洋風めん類の一種。小麦粉・サラダ油・鶏卵を材料として，わが国のひも皮めんのように幅広くつくったもの。イタリアで最初につくられた。

ぬのじ 【布地】 衣服用の織物の総称。各種の繊維を織ったり編んだりしたもので，単一の繊維を用いたものや混紡・交織したものなど，多くの種類があり，多く材質や織りがら・染めがらなどの名でよばれる。古くは麻類の織物を布といい，絹(帛(はく))と合わせて布帛といい，これが織物の総称であったが，その後もめんが一般化し，やがていろいろな種類が用いられるようになった。➔和服

ぬのびきさんち 【布引山地】 三重県西部，西側の上野盆地と東側の伊勢(いせ)平野とを分け，ほぼ南北に連なる山地。北は加太越(かぶとごえ)の鞍部(あんぶ)を経て鈴鹿(すずか)山脈に続き，南は紀伊山地に続く。山地はおもにカコウ岩からなり，高度は低く最高でも1,000 mを越えない。北の加太越付近を国鉄関西本線・国道25号線・名阪(めいはん)国道が通り，南の青山峠付近を近鉄大阪線・国道165号線が越えている。

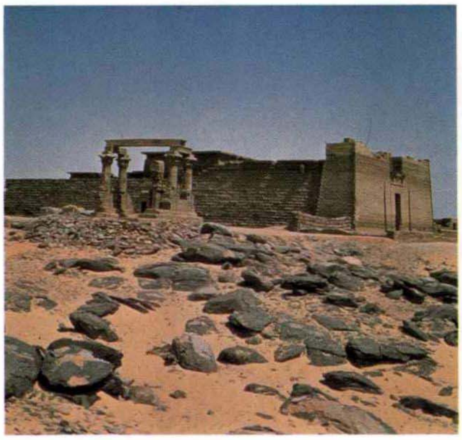
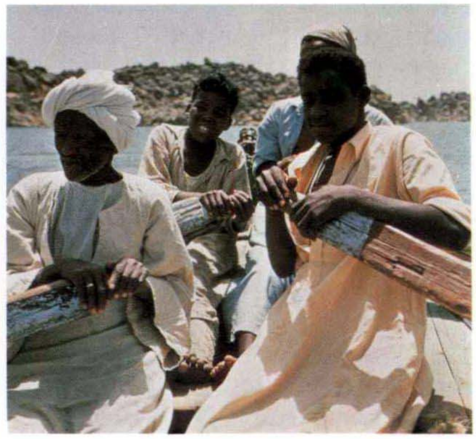
ぬひ 【奴婢】 古代社会の賤民*(せんみん)の一種。奴は男子，婢は女子。すでに2〜3世紀ころにみられるが，大和(やまと)朝廷の氏姓制度*下では，朝廷・氏族に隷属する家内奴隷で〈やっこ〉と称され，大化改新の際にも解放されず，律令(りつりょう)制*社会の最下位に位置づけられた。公(く)奴婢と私奴婢とに分かれ，公奴婢は政府が所有し，官田を耕作させたり雑役に駆使したりした。私奴婢は社寺・貴族・地方豪族など民間が所有し，農耕や手工業に従事させた。いずれも所有者の財産とみなされ，売買・譲与・質入れの対象となった。律*・令*では良民との通婚が禁じられたが，平安時代には奴婢の身分はしだいに解体し，荘園*(しょうえん)内の農奴さらに自作農として自立していった。しかし被支配階級の底部にはなお家事に専従する奴婢は残存し，中世以後も久しく人身売買の風は絶えなかった。〔高崎徳次〕

ヌビア [Nubia] ナイル川の中流，第一急流から第四急流までの地域をさす名称。第二急流までを下ヌビア(古代エジプト名ワワト)，その上流を上ヌビア(古代エジプト名カシュ)とよび，現在は下ヌビアがエジプト，上ヌビアがスーダンに帰属する。古代エジプト人は，黄金・黒檀(こくたん)・象牙(ぞうげ)などの産地として，内陸アフリカとの交易基地としてヌビアを重視し，古王国時代に中央集権が確立するとその領有を試みており，文化のエジプト化をもたらした。紀

元前８世紀にはナパタに独立王国が成立，一時全エジプトを支配した。３世紀にキリスト教がはいり，キリスト教文化が栄えるが，14世紀のマムルーク朝の征服以後はイスラム化する。1899年のエジプトとアングロ-エジプト-スーダンの分離によって分割され現在に至っている。人種的にはハム系を主体とし，セム・ネグロの血を混じ，長頭・細身，茶かっ色の皮膚を示す。言語はスーダン語群に属するともハム語に属するともいわれ，大きく四つの方言に分かれる。８世紀ごろ文字をもっていたらしいが，現在では文字はもたない。農業が主産業であるが，ナイル河畔の耕地に乏しいため，カイロ・アレキサンドリア・ハルツームなどの大都会への出かせぎが活発である。1970年７月に完成したアスワン-ハイ-ダムにより，下ヌビアの全部と第二急流の上流約150kmまでの上ヌビアは水没することになり，エジプト側のヌビア人約50,000人はアスワンの北約40kmのコム-オンボ付近に，スーダン側の約40,000人はアトバラ川流域のカスム-エッ-ギルバに，それぞれ両国政府によって移住させられた。〔屋形禎亮〕

ヌビア(砂漠)［Nubia］ スーダンの北東部，ナイル川と紅海岸の山地の間に広がる砂漠(さばく)。面積約27万2,000km²。表層は白亜紀の砂岩からなり，下層にはかたい結晶質のカコウ岩やケツ岩がある。水や植生はほとんどなく，人もほとんど住めない。ワジハルファはこの砂漠の北西端にあるオアシス都市で，ここから砂漠中央南部のアブハメドまで鉄道が通じている。なお，砂漠の一部は，アスワン-ハイ-ダム(→アスワン-ダム)によるナセル人造湖に水没した。〔大石堪山〕

ヌーベル-バーグ［nouvelle vague］ 1950年代末フランスに登場した若い映画作家の総称。1957年にある週刊紙がフランス映画の新傾向を〈新しい波(ヌーベル-バーグ)〉とよんで特集して以来の名称。第２次世界大戦直後のアンドレ-バザンやロジェ-レーナルトらの理論の流れをくみ，ジャック-ドニオル-バルクローズを中心とした批評誌《カイエ-デュ-シネマ》の批評家出身者で結成。ホークス・フォード*・ヒッチコック*らアメリカ映画の再評価を通じて，デュビビエ*・カルネ*らのふんい気中心のフランス映画刷新を志向した。ルノアール*・コクトー*らを尊敬，ブレッソン*やジャン-ピエール-メルビルらを支持した。《カイエ-デュ-シネマ》同人のクロード-シャブロールが相続した遺産をつぎこんだ《美しきセルジュ》が成功したので，それを資金としてトリュフォー・ローメル・リベット・ドミ・ゴダール*らを世に送った。彼らを狭義の〈ヌーベル-バーグ〉とよび，それ以前に個別に活躍していたレネ*・バルダ・マルケル・ルーシュ・マル・バディムらと区別することもある。プロデューサーとしてボールガールやボダール，カメラマンとしてクタール，スターとしてベルモンドらが育った点でも意義深い。また，この名称を日本の1960年代初頭の若い映画作家大島渚(なぎさ)・吉田(よしだ)喜重らにも使うことがある。〔蓮実重彦〕

ヌビア　アウグストゥスによって完成されたカラブシャ神殿　右はヌビア人



ヌマガエル

ぬまえび【沼蝦】 甲殻(こうかく)類・十脚目・ヌマエビ科。体長25～30mmの小形のエビで，北海道を除く日本各地および朝鮮半島に分布する。ヌカエビと同様，低地の川・沼・湖・池などの流れのゆるやかな淡水域に生息するが，分布域はやや広く，河川の上流や汽水域にもみられることがある。第１・第２胸脚ははさみ状で剛毛束をもつが，額角の棘(きょく)はヌカエビよりやや多い傾向にあり，眼上棘を１本有することで区別できる。体色はさまざまに変化するが，ヌカエビによく似る。〔向井　宏〕

ぬまがえる【沼蛙】 両生類・アカガエル科。体長４～６cmでツチガエルに似るが，背面の粒状突起が目だたない。本州の中部以西，台湾・東南アジアに分布し，平地の水田などにすむ。沖縄のものは形態に変異が多い。

ぬまがれい【沼鰈】 タカノハガレイ・カワガレイともいう。全長30cmほどのカレイ。分布は広く，霞ケ浦(かすみがうら)および福井県小浜以北，朝鮮・沿海州・オホーツク海・ベーリング海・アメリカ南カリフォルニアなどで，沿岸に接した河川・湖沼にも生息する。カレイでありながら目の位置は逆位で，体の左側にある。不味。

ぬまず【沼津】 ⇨ぬまづ

ぬまた【沼田(市)】 群馬県中北部の市。人口47,000。古くは渭田郷(ぬまたごう)とよばれ，鎌倉初期から沼田氏の所領となり，1532年(天文１)沼田城が築城された。江戸時代は真田(さなだ)・本多・黒田の各氏を経て，幕末には土岐氏三万五千石の城下町で，周辺部の繭や雑穀を集散する市場町として栄えた。1954年(昭和29)市制施行。市域は武尊(ほたか)山(2,158m)・赤城(あかぎ)山(1,828m)・子持山(1,296m)などに囲まれ，利根(とね)川とその支流片品川・薄根川などが合流する沼田盆地の主要部を占める。河岸段丘が発達し，東方の台地上に中心市街があり，道路の形や町名にかつての城下町のなごりをとどめる。西部低地には上越線の沼田駅と，国道17号線・120号線・145号線を利用するバスの発着所などがあり，市街地とは直線状の歩行道路とジグザグ状のバス道路で結ばれる。産業三大別人口比は22：28：50。商工業が盛んで，片品川上流山地のブナ・ナラなどを材料とする木工業や製糸業に特色がある。日光国立公園の観光中継基地となり，国道120号線は奥日光，これと分岐する沼田街道は尾瀬への観光ルートとなる。

ぬまづ【沼津】 ⇨伊賀越道中双六(いがごえどうちゅうすごろく)

ぬまづ【沼津(市)】 静岡県東部の市。人口20万6,000。古く鎌倉時代から京都と鎌倉を結ぶ交通の要地で，1479年(文明11)北条(ほうじょう)早雲が三枚橋城を築き，戦国時代を通じて北条・武田(たけだ)両氏の争奪の地となった。江戸時代は水野氏五万石の城下町，東海道の宿場町で，南の港寄りに集落が発展した。大政奉還後の1868年(慶応４)新設の駿府(すんぷ)藩領となり，旧幕臣900人が来住して沼津兵学校や付属病院などを開いて東京との文化交流が盛んとなり，明治以後は繊維・食料品などの近代工業が発達した。1923年(大正12)市制施行。狩野(かの)川の河口付近の市街を中心として，駿河(するが)湾沿岸に千本浜・原の砂丘帯と浮島ケ原の低湿地，北東に黄瀬川扇状地，南東に田方平野の一部があり，静浦山地に属する

香貫(かぬき)山(194m)・牛臥(うしぶせ)山(62m)や北の愛鷹(あしたか)，南の達磨(だるま)の両火山のすそ野部も市域内に含まれる。産業三大別人口比は6：39：55。第2次世界大戦中，北部の水田地帯2km²余を埋め立てて海軍工廠(こうしょう)・軍需工場などがつくられたが，戦後はその施設を利用して各種工場が誘致され，東の三島市，西の富士市とともに東駿河湾工業地域を形成する。市域には金属・機械をはじめ，製菓・水産加工・印刷・製紙などの大工場が多い。西浦はミカン，桃郷(ももさと)はモモの産地として知られる。東海道本線と御殿場線の分岐点で，国道1号線・246号線が通じ，南郊に東名高速道路のインターチェンジがある。沼津港は伊豆(いず)西海岸航路の基地で，カタクチイワシやサバの漁獲も多い。千本松原をはじめ，牛臥・静浦・三津(みと)・大瀬崎(おせざき)などの海岸景勝地があり，ビャクシンの原生林におおわれた大瀬の神池は天然記念物に指定されている。牛臥海岸には御用邸があったが，海水汚染などの環境変化のために廃止され，1971年に新設された下田市須崎の御用邸がこれに代わった。〔浅井得一〕

ぬまとらのお 【沼虎尾】 双子葉植物・サクラソウ科。原野の湿った陽地にみられる多年草。根茎から長い伏枝を出して繁殖する。茎は高さ40～70cm。葉の長さ4～7cm，幅1～1.5cmの卵状楕円(だえん)形で，細かい油点が多数みられる。6～8月，茎頂に長さ10～20cmの総状花序をつけ，多数の白色五弁花を密につける。本種とオカトラノオ*の雑種と考えられるものにイヌヌマトラノオがある。

ヌミディア [Numidia] 古代アフリカの地名。現在のアルジェリアの北部にあたる。遊牧民のヌミダエの名称に起因する。住民は騎馬戦術にたけ強力であったが，諸種族の政治的結合はゆるかった。紀元前2世紀前半のマシニッサ王のもとで遊牧を捨てて農業に向かい，都市生活がしだいに発展した。ローマ共和政の末期にポンペイウス*を支持して土着王朝を転覆し，ローマの属州となった。それ以後サハラの諸種族との奴隷貿易で発展したが，サハラ種族の侵入により滅んだ。〔弓削 達〕



ヌルデ

ヌーメア ⇨ニューカレドニア島

ぬりぐすり 【塗り薬】 ⇨軟膏(なんこう)剤

ぬるで 【白膠木】 双子葉植物・ウルシ科。野山に自生する落葉高木で，高さ5～7mに達する。小枝は太く，輪生し，切ると茶色がかった白色の樹脂がにじみ出る。葉は互生する羽状複葉で，7～13小葉からなり，枝先に集まってつく。小葉は長さ5～12cmの卵形で，あらい鋸歯(きょし)がある。葉の軸の両側には翼がある。葉の表面の脈はへこみ，白っぽい裏面に浮き出る。秋に紅葉する。雌雄異株で，8～9月，黄白色の五弁花で枝の先に円錐(えんすい)花序をつける。果実は紫赤色の直径約4mmの球形で，細かい毛を密生させる。よく熟したものは白い粉(酸性リンゴ酸カルシウム)をかぶり，なめると塩からい。葉にヌルデノミミフシ*が寄生してできる虫こぶを五倍子*という。

ぬるでのみみふし 【白膠木五倍子】 こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・ワタアブラムシ科。ヌルデシロアブラムシともいう。体長は，有翅型1.5mm内外，無翅型1.1mm内外。淡黄かっ色ないし暗緑色で，白色のロウ質の粉でおおわれる。ヌルデに寄生し，葉に凹凸(おうとつ)の多い大きい不整形の虫こぶ(五倍子*)を形成する。秋季に，虫こぶから出る有翅の胎生雌虫はオオバチョウチンゴケに移る。冬は幼虫態で越す。

ヌルハチ [Nurhaci] (1559～1626) 奴児哈赤・弩爾哈斉とも書く。中国，清朝(しんちょう)の初代皇帝。廟号(びょうごう)は太祖。姓は愛新覚羅(あいしんかくら)。建州女真の一族長の出身。1583年ごろ，中国東北地方のヘトアラ(興京)付近(遼寧(りょうねい)省)から興って，しだいに諸部族を併合し，30余年の間に東北地方の大半を征服した。1616年帝位につき，大金国(または後金国)と号し，年号を天命と定めた。1618年，明朝(みんちょう)に対し七大恨を告げて宣戦し，翌年サルホの戦い*に大勝し，その勢力を確立した。次いで瀋陽(しんよう)・遼陽(ともに遼寧省)を攻略して，1625年瀋陽に都したが，その翌年，寧遠城攻撃で受けた負傷によって死んだ。八旗制度・満州文字の制定などの治績は，清朝発展の基礎となっている。〔若松 寛〕

ヌルミ [Paavo Nurmi] (1897～1973) フィンランドの生んだ陸上競技長距離の世界的名選手。1920年・1924年・1928年のオリンピックに連続出場し，個人で1,500m・5,000m・10,000m・10,000mクロスカントリー-レースに6個，団体では10,000mクロスカントリー-レース，3,000mに3個と計9個の金メダルを獲得した。1921～1931年に14の世界記録をつくり，〈走る人間機械〉といわれた。

ぬれえん 【濡れ縁】 縁側の一種。家の外壁あるいは出入り口の外側に設けられ，雨ざらしにされているもの。雨ざらしにされるので，水はけをよくするために縁板を目透かしに張ることが多い。切り目縁・すのこ縁・竹縁などがある。低い手すりを設ける場合もある。

ね

ね　【根】　維管束植物の地下器官。茎に連なり，地中にあって，水分・養分の吸収と体を固定支持する役目を果たし，一部は養分の貯蔵などもする。葉をもたず，細胞には葉緑体がなく，節間の区別もなく，先端には根冠があり，皮層が厚く内皮に包まれていて，維管束は放射中心柱である。普通の根は主根・側根(支根)に分けられるが，裸子植物・双子葉植物では主根が発達し，単子葉植物では茎の基部からひげ根が多数でる。仮根は綿毛状で構造不完全であり，コケ植物，シダ植物の前葉体などに見られる。木本の根は多年生存するが，草本の根は１年で枯れるもの，２年で枯れるもの，タンポポのように地上部は枯れても根だけ多年残るものなどがある。根が変態したものに，気根(茎から出る不定根で，呼吸作用をする)・貯蔵根(各種物質の貯蔵に役だっている)・攀援(はんえん)根(付着根ともいう。攀援植物の茎に生ずる不定根で，付着作用をもつ)・寄生根(寄生植物の根で，宿主の体内に侵入して養分を吸収する)などがある。　〔高島文三〕

ねあせ　【寝汗】　盗汗ともいう。睡眠中にかく汗で，からだの衰弱の激しいとき，過労や悪夢に襲われたときなどにみられる。医学的には発熱性疾患の下熱期や，心臓衰弱などの際に認められ，結核の症状として従来から注目されている。予防には室内の空気を新鮮にし，寝具を軽くし，就寝前の水分摂取を制限する。寝汗がひどいときは，カンフル酸・アトロピンなどの制汗剤を用いることもある。

ネアンデルタールじん　【ネアンデルタール人】　⇨旧人

ねいかかいぞくじちく　【寧夏回族自治区】　中国，中北部にある民族自治区。旧寧夏省。甘粛省の東，内モンゴル自治区の南，陝西(せんせい)省の北西に位置する。面積17万km²余。人口216万(1972推)。1958年省級の民族自治区となり，２自治区轄市(銀川・石咀山(せきそさん))・11自治区轄県，１専区(５県を含む)に分かれた。行政の中心地は銀川(旧名寧夏)。トルコ系イスラム教徒と漢族との混血である東干(トンガン)民族を中心とする自治区である。黄河上流部の乾燥地域にあり，おもに牧畜と灌漑(かんがい)農業を行なっていたが，近年，鉄鉱・石油・石炭など鉱物資源が開発され，銀川付近では近代工業も行なわれている。中央をほぼ南北に包蘭(ほうらん)鉄道(包頭(パオトウ)～蘭州)が通過しており，これから京包鉄道・隴海(ろうかい)鉄道を経由して中国の中心部と連絡している。　〔船越昭生〕

ねいは　【寧波】　⇨ニンポー

ねいろ　【音色】　いろいろな音を聞いてそれぞれの音から心理的に受ける感じの違い。大きさ・高さとともに音の三要素ともいわれる。楽器などの発音体の出す音は，一般に単一振動数の純音ではなく，無数の純音の集まりである。このうち最も低い振動数(基本振動数)の音が基本音で，これ以外の振動数の音が上音である。上音のうち，その振動数が基本振動数の整数倍のものを倍音という。一定の周期をもった音はどんなに複雑なものでも多数の倍音に分解することができる(フーリエ解析)。これら多数の倍音間の周波数成分の相対的な大きさの関係(周波数スペクトル)を倍音構造というが，音色はこれと密接な関係をもつ。ただし，聴覚に関するオームの法則によれば，各倍音の成分の間で位相関係が違い，音の波形が違っても音色には差がない。

バイオリン・オルガン・フルートのように定常的な音を出す楽器については，音色はほとんど倍音構造によってのみ決まり，これが楽器の違いを示す。またこれらの楽器では音色は周波数の連続的・周期的変化，すなわち演奏の際に人為的につけられるビブラートによって著しく豊かになる。一方，ピアノ・ギター・太鼓などの打弦楽器・撥弦(はつげん)楽器・打楽器などでは，振動が急速に成長して最大値に達したのち，定常状態にならずに直ちに減衰する。この場合に発する音の構造は複雑であるが，その時間的な振幅の変化が音色を左右し，楽器音を識別する重要な要素にもなる。〔池谷和夫〕

ネ-ウィン　［Ne Win］　(1911～　)　ビルマの軍人・政治家。ラングーン大学卒業。第２次世界大戦の初期，日本で軍事訓練を受け，日本軍のビルマ進攻とともに，先遣隊を率いて帰国し，反英独立運動を展開した。戦後，ビルマ独立の父オン-サンのあとを継ぎ，主としてビルマ軍創設のことにあたった。1949年４月ウ-ヌー首相のもとで副首相兼内相兼国防相となり，1956年軍に復帰して最高司令官となったが，1958年10月クーデターでウ-ヌー内閣を倒し，暫定内閣を組織して首相兼国防相となった。1960年４月総選挙でウ-ヌー派に敗れて辞任。1962年３月再びクーデターを起こして政権を掌握し，革命評議会議長・首相・国防相・軍最高司令官・社会主義綱領党中央組織委員長などを兼ねている。　〔吹浦忠正〕

ネウマ　［neuma］　中世の単旋律の聖歌を記譜するために用いられる記号。元来は言語のアクセントを記すのに使用されていたが，音楽に転用されたものである。グレゴリオ聖歌をはじめ，ビザンツ聖歌・モザラベ聖歌の記譜に同種のものが使用されている。９世紀に書かれたものが現存するが，それ以降は，時代的にも地域的にもさまざまに変化を遂げた。ネウマ譜は，音の高低と演奏法とを示すものに大別され，前者はさらに１音のものと多数の音が結合したものとに分かれる。　〔吉田泰輔〕

ネオジム　［neodymium］　周期律表第Ⅲ族のランタニド系に属する希土類元素の一員。記号Nd，原子番号60，原子量144.24。1885年C.アウアーが単離した。淡黄白色で空気中では青みをおびた灰色となる。融点1024℃，比重6.9(20℃)。展延性があり，酸にとけ，空気中では徐々に酸化され被膜をつくる。

ねおだにだんそう　【根尾谷断層】　⇨濃尾地震

ネオトミズム　［Neo Thomism］　新トマス主義，あるいは単にトマス主義ともいわれ，ときには新スコラ哲学の名でもよばれる。19世紀後半になって，近代の合理主義に対する一般の不信から生の哲学などの非合理主義思想や唯物論思想が興ったが，この動きの中で，トマス-アクィナスの根本思想に立ち返り，これによって現代の諸問題を解明しようとする新しい動きが起こっ

た。これがネオトミズムといわれるもので，教皇レオ13世が回勅(1879)によってトマス研究によるキリスト教哲学の復興を勧めてからしだいに発展し，現代カトリック界で有力な運動となっている。この運動はフランス・ベルギー・ドイツ・イタリアなどを中心に発展し，第1次世界大戦前後には哲学界にも及んだ。おもな学者にメルシエ・マリタン・ジルソン*・グラープマンらがある。この思想は超越的絶対者である人格神を中心とする実在論の立場に立ち，人間は精神と肉体との結合体として理解され，個個の人格的生命の尊重が特に強調される。また人間は完全な活動によって幸福を得るという倫理思想を説く。しばしばトミストの大会を開いて討論を進めるほか現在約20数種の雑誌を発刊している。〔本橋正義〕

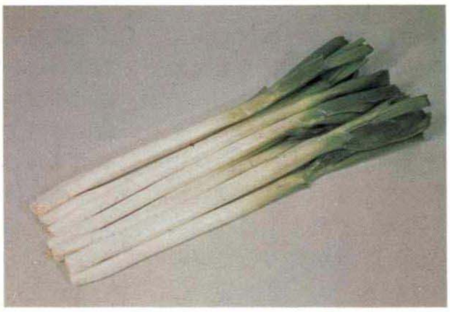
ネオプレン　[neoprene]　デュプレンともいう。アメリカのデュポン社が開発した合成ゴムの商品名。クロロプレン(2-クロル-1,3-ブタジエン)の重合*によって得られる耐油性にすぐれた重合体で，分子量は10万～30万といわれる。スチレンやアクリロニトリルの少量を共重合させたものを含めてネオプレンとよぶこともある。耐寒性・耐油性にすぐれたものなど種々の特徴をもつものがある。

ネオレアリスモ　[neorealismo]　第2次世界大戦後のイタリア映画*におけるリアリズムの系譜をいう。発端となったロッセリーニ*の《無防備都市》(1945)は，大戦末期のレジスタンス運動の渦中(かちゅう)でつくられた映画で，その映像は従来の劇映画になかった現実性と作家の意識とを同時に表現していた。この方法意識は同監督の《戦火のかなた》でより明確になり，ついでデ・シーカ*の《靴(くつ)みがき》や《自転車泥棒(どろぼう)》によってさらに発展され，世界的なものとなった。またサンティスの《平和に生きる》やザンパの《白い国境線》などは，主題面でこの方法を押し広げ，そのほか，ビスコンティ*の《揺れる大地》など，さまざまな個性を介して深められた。しかし1950年代後半になると対象を失った写実的方法は後退し，代わってアントニオーニ*の《さすらい》《情事》やフェリーニの《甘い生活》《8 $\frac{1}{2}$》など，記録的方法意識を主として人間の内面へと向ける作家・作品によって継承された。しかしフランスでは〈シネマ-ベリテ*〉派によってロッセリーニの写実的方法が評価・継承され，イタリアでもロージ・ポンテコルボらによって，その方法意識は保たれている。なお，イタリア現代文学の一部の作家シローネ・モラビア・レービらの作品をさして，ネオレアリスモともよぶ。

ネオン　[neon]　周期律表第0族の希ガス類元素の一。記号Ne，原子番号10，原子量20.179。1898年W.ラムゼーおよびM.W.トラバースらによって液体空気を分留して得られ，新しい元素という意味で命名さ



ネオンテトラ







ネ　ギ（上)黒昇（中)白千本(分蘖性品種)（下)花

れた。大気中の存在量は0.00182容量％。液体空気を低温で蒸発させ，最初の留分を液化し，さらに蒸発・液化をくり返して沸点の低いヘリウムとネオンを含むガスとする。これを液体水素で冷却すると，ネオンが固化して得られる。融点－248.67℃，沸点－245.9℃，密度0.9002g/l(0℃，1気圧)，液体の比重1.204(－245.9℃)。電子配列がいずれも対をなして安定化しているため，化学的には不活性である。ネオンランプやネオンサインに用いられる。〔古屋　弘〕

ネオンサイン　[neon sign]　ネオン・アルゴン・アルゴン-水銀・ヘリウムのいずれかを低圧で封入した2極グロー管をネオン管といい，その放電時の陽極柱(→気体放電)の部分を照明に利用したもの。光色はネオンが橙赤で，以下順に紫・青・白(赤紫をおびる)。装飾・広告などに用いられる。ガス圧は10～15mmHg，管の直径は8～25mm，1mあたり1,000Vぐらいの電圧を加える。この高電圧を得るのに高漏洩(ろうえい)変圧器(昇圧と電流制限の両作用を行なう)とよばれる特殊変圧器を使う。グロー放電管は負の電圧電流特性(電流が増すと放電管にかかる電圧は減少する)を有するので，漏洩磁束による大きなリアクタンス*を変圧器にもたせて安定した点燈を行なうためである。リアクタンスが大きいので，変圧器二次側(3,000～15,000V)を短絡しても規定電流の125％しか電流は流れない。〔田村康男〕

ネオンテトラ　[neon tetra]　硬骨魚類・カラシン科。淡水産熱帯魚で，全長4cmほど。原産地は南アメリカのアマゾン川上流で，小形の熱帯魚として最も美しいものの一。第2次世界大戦後日本に盛んに輸入されるようになり，現在では比較的簡単に繁殖が行なわれている。卵性で，卵は水温24℃で24時間で孵化(ふか)する。飼育の適温は21～23℃。硬水を好む。

ネオンランプ　[neon lamp]　小形ガラス球に，ネオン(10mmHg)またはアルゴンと電極を収めたグロー放電管の一。電極間隔は狭くしてあるため，陰極グローだけが生ずる。色は黄赤色。消費電力が少ないため低照度終夜燈・標示燈などに，また微電流で発光するため微電流の検出に使われる。

ねがけ　**[根掛け]**　女子の髪飾りの一。日本髪の髷(まげ)の根に飾る。主として中年以上の婦人が，細く裂いた籐(とう)や金・銀の糸を用いる。平元結・丈長(たけなが)(→元結)も根掛けに属する。幕末から明治にかけては，サンゴ・翡翠(ひすい)・ガラス・練り物などの丸い玉を連ねたものや，金属を透かし彫りにしたものが流行した。

ねぎ　**[葱]**　単子葉植物・ユリ科の多年生草本。茎はきわめて短く，葉は葉鞘(ようしょう)部と葉身部からなり2～10本に分蘖(ぶんけつ)する。葉鞘部は円筒で基部が少しふくらみ，葉身は先のとがった管状で緑色を呈する。春に抽薹(ちゅうだい)し，花茎の先に白い小さな花を散形花序につける。種子はタマネギによく似る。中国西部の原産といわれ，わが国では10世紀ごろから栽培されていた。寒さ暑さともに比較的強いので，各地で栽培され，品種も多く，関東の千住や黒昇，関西の九条・岩槻(いわつき)などの品種が有名である。また葉鞘の特に太くなる群馬県の下仁田(しもにた)や春花茎の上に花の代わりに細い葉のできるヤグラネギ，分蘖性品種の白千本なども知られている。土の深い関東の火山灰地帯では，土寄せをして葉鞘部を軟白にする栽培が行なわれ，これを根深ネギという。春まいて秋から冬にかけて収穫することが多いが，秋まいて翌秋収穫するものもある。また秋にまき，冬から春にか

けて若い苗を小ネギとして収穫する場合もある。小ネギは薬味・しるの身などに用い，その他のネギはなべ料理や煮食あるいは生食として利用する。　〔松本正雄〕

ねぎし　【根岸】 横浜市南部，中区と磯子(いそご)区にまたがる本牧(ほんもく)台地の南側斜面一帯の地。東京湾に南面する条件に恵まれ，明治以後外人の居住者が多く，台地上にあった競馬場は日本最初の近代施設を誇っていたが，第2次世界大戦後はアメリカ駐留軍家族の住宅地となった。最近は本牧岬(みさき)から富岡に至る根岸湾が約470m^2埋め立てられ，日本一の原油処理施設をもつ日本石油の精製工場を中心に臨海工業地帯が開けている。国電根岸線*・国道16号線が通じ，洋光台周辺には住宅団地の造成が進んでいる。　〔浅井得一〕

ねぎしせん　【根岸線】 横浜〜大船間の国鉄路線。営業キロ数22.1。1872〜1970年(明治5〜昭和45)開業。横浜市中心部および南部を経由して，横浜と大船を結ぶ建設工事線で，洋光台〜大船間は1973年全線開通した。根岸湾埋立工業地区の造成および三浦半島北部の住宅地化に伴って建設された。全線電化(直流)。

ねぎしたんかかい　【根岸短歌会】 短歌結社。正岡子規*が香取秀真*(ほずま)らと1899年(明治32)に始めたとされ，当時子規が東京市下谷区上根岸に住んでいたので根岸派とよばれ，伊藤左千夫*(いとうさちお)・長塚節*(ながつかたかし)らも加わり，写生を唱え，万葉輪講会をもった。当時の浪漫主義短歌全盛の中で着実に成長し，大正期にはアララギ派として歌壇の中心となった。子規の没後，左千夫を中心に短歌雑誌《馬酔木*(あしび)》《アララギ*》を刊行している。　〔堀井謙一〕

ねぎりこうじ　【根切り工事】 構造物の基礎や建物の地下室などをつくるために土を掘る工事。形式によって，つぼ掘り・布掘り，および総掘りなどに分類される。つぼ掘り・布掘りはそれぞれ独立基礎や布基礎をつくるとき，基礎と基礎をつなぐ梁(はり)の部分を掘るときに使う方法で，総掘りとは建物の地下室の場合のようにある範囲をほぼ平らに掘削することをいう。根切り工事は，人力による場合と機械による場合とがある。機械掘りでは，ブルドーザー・パワーショベルおよびクラムシェルなどが用いられる。根切りをする周囲が十分広ければ，斜面が安定する勾配(こうばい)をつけて掘る法付(のりつき)オープンカット方式がとれるが，敷地に余裕がない場合には土留め壁の矢板などを用いる。　〔村上博智〕

ねきりむし　【根切り虫】 農作物や庭園樹や果樹などの根部を食害するコガネムシ*類やヤガ*類の幼虫の俗称。

ねくいはむし　【根食金花虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ハムシ科の一種，あるいはネクイハムシ亜科に属する一群の総称。体長6.5mm内外で，背面は銅色光沢をおびた黒色，後脚の腿節(たいせつ)下面に1本の鋭い棘(とげ)と小歯がある。本州・四国・九州のほか台湾・朝鮮・中国・フィリピンなどに分布し，幼虫は水生でジュンサイ・スイレン・ガガブタなどの根部を食害する。ネクイハムシ類は，主として旧北区から多くの種が知られ，日本にも10数種が分布している。いずれも幼虫が水生で，水生植物の根部を食害する。イネなどにつくイネネクイハムシ*は稲作害虫として重要である。

ネクタイ　[necktie] 首やカラーのまわりに巻く幅の狭い帯状の布。略してタイともいう。はじめは現在のスカーフ*のような布で，クラバットとよばれていたが，19世紀になって細長い布を前にたらす形式になり，以後ネクタイと称された。クラバットは，17世紀後半パリに来たクロアチア人の将兵が，美しい絹布を首に巻いて蝶(ちょう)形に結んでいたものをルイ14世が取り入れてのち流行した。他に19世紀アスコットタイ・ボータイ(蝶ネクタイ)・フォアインハンド(幅タイ・普通のネクタイ)などがある。日本へは明治初年に導入された。結び方には種類が多い。　〔小池千枝〕

ネクラーソフ　[Nikolai Alekseevich Nekrasov] (1821〜1877)　ロシアの詩人。地方の小士族出身で，若くして首都ペテルブルグに出，窮迫した生活を送りながら詩作した。やがて《現代人》《祖国の記録》など進歩的雑誌の編集に従事し，有能な編集者として活躍。詩人としては，政治的急進主義者に属し，下級官吏や疲れ果てた労働者，悲惨な生活を送る農民の姿を，民謡の形式と民衆のことばとで描いた。代表作*の長編叙事詩《だれにロシアは住みよいか*》のほか，《赤鼻のモロース》《ロシアの婦人》(初題は《デカブリストの妻》)などがある。　〔藤家壮一〕

ネグリジェ　[négligé] 原義は〈あまり気に留めない〉〈無造作な〉の意味で，古くは儀式用を除いた服装を総称した。現在は気楽に着るへや着や寝巻に用いるゆるやかな衣服をいう。おもにワンピース形式で，前あきのものが多い。元来は，えりなし・半そでで，たけはひざまで，ウエストは絞らない形であったが，今日ではデザインも豊富になり，素材とともに優美な感覚のものが好まれる。

ネグリチュード　[Négritude] 1930年代半ばごろから，ともに汎(はん)アフリカ主義*を指導した政治家であり詩人でもあるレオポルド-セダール-サンゴール(セネガル共和国大統領)とエメ-セゼールによって使われはじめたことば。黒人を意味する接頭語ネグリと，状態を示す接尾語チュードを結びつけたもの。意味は〈黒人であること〉，すなわち主体的にいえば〈黒人精神〉ということになり，客観的にいえば〈黒人種の人々の条件〉ということになる。独立が政治的な同一化を拒否することであるのに対し，ネグリチュードは文化的な同一化を拒絶することである。このことばは使用する人によって種々の内容を含めて使用されるが，セゼールは，ネグリチュードは博物館の陳列品ではなく，解放のための有効な武器とならなければならないとしている。　〔喜多迅鷹〕

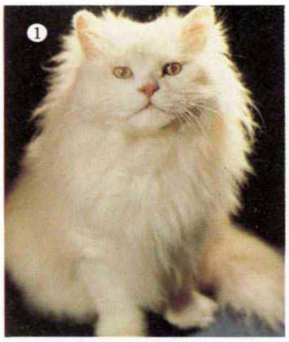
ネグリト　[Negrito] 東南アジアに住むネグロイドの一。スペイン語で矮小(わいしょう)黒人の意で，アンダマン島民，マライ半島のセマング族*，フィリピンのアエタ族*，ニューギニアのタピロ族などが該当する。男子の身長は150cm以下で，暗色の皮膚，巻き毛の髪，低鼻，厚唇(こうしん)などの身体的特徴をもつ。定住せず，狩猟，漁労，野生植物採集といった未開段階の経済生活を送る。

ネグロス(島)　[Negros] フィリピン諸島，セブ島の西にある島。面積13,011km^2。中央を山脈が走り，主峰カンラオン山は標高2,426 m，温泉が多い。北西岸にある主都バコールは〈砂糖の首都〉といわれ，砂糖の集散地であり輸出港である。他に，米・カカオ・木材・石炭・銅なども産出する。

ネーゲリ　[Karl Wilhelm von Nägeli] (1817〜1891)　スイスの植物学者。ジュネーブ大学などに学び，チューリヒ・フライブルク・ミュンヘン各大学の教授を歴任。その業績は解剖学・形態学・系統分類学などきわめて広範囲にわたるが，特にシュライデン*の影響を受けて顕微鏡学的に動植物の細胞を研究。原形質の構造単位としてミセル説を唱え，遺伝粒子のイディオプラズマ説を提唱した。また生物が内的な要因でしだいに高等化するという定向進化論を主張，ダーウィンの自然淘汰(とうた)説に反対した。このほか花粉や藻(そう)類の細胞分裂を観察するなど，すぐれた業績を残している。主著は《機械論的生理学的進化論》。　〔中村禎里〕

ねこ　【猫】 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・ネコ科。現在世界の各国の家庭で飼われているイエネコ(*Felis catus*)の総称。約5,000年前，現在もアフリカやアラビア地方に分布しているリビアネコを，古代エジプト人が飼いならしたもので，これがやがてヨーロッパに渡り，そこからしだいに世界各地に広まったとされている。この記録はエジプトの遺跡にある壁画やネコのミイラに照らしても明らかである。

【形態と生態】 哺乳類の中で最も肉食に適した動物であり，ネコ科に属するライオン・トラ・ヒョウ・チータなどの大形の食肉獣と同じような形態的特徴をそなえている。すなわち，非常に強い筋力，鋭い牙(きば)(犬歯)とつめ，柔らかい関節をもつなどである。身体はきわめてしなやかで，平衡感覚がすぐれており，あおむけにして低い所から落としても反転して必ず足から着地する。また身体が伸縮自在で，獲物を襲うときは，丸くうずくまった姿勢からばね仕掛けのよ









ネ　コ　①カッパーアイ－ホワイトペルシャ　②ブルーペルシャ　③シャムネコ　④アビシニア　⑤ヒマラヤン　⑥キジネコ　⑦三毛ネコ

うに一気に伸びる。攻撃用の武器に使うのは鋭い牙とつめである。牙は上下の顎(あご)にはえており，細く長く，前歯が小さいため相手に深く突き刺さる。口は上下に大きく開き，ほおが張り，咬筋(こうきん)が発達しているためかむ力はきわめて強い。つめは湾曲して先が鋭くとがり，ふだんはさやの中にしまい込まれているが，獲物に襲いかかるときは急に飛び出すようになっている。舌にはかぎ状の突起があってざらざらしているが，これは水を飲んだり骨についた肉をそぎ落とすのに適している。口のまわり，目の上，ほおには長い触毛(ひげ)がはえており，狭い所や草むらなどを探り歩くことを容易にしている。眼は身体に比して大きく，両眼が平面に並んで両眼視ができるようになっており，遠近感・立体感が確かになって獲物をねらうのに役だっている。瞳孔(どうこう)は光に対して鋭敏に反応し，網膜の上に映る明暗で対象の形を判断する。また，ほとんどまばたきをしない。動眼筋が発達していないため，つねに相手をじっと見る。目の動かない欠点は首をすばやく動かすことで補っている。臭覚は鈍いが，聴覚と視覚は鋭い。

元来は群居生活をせず，孤独で狩をする動物である。人間に飼われるようになっても，けっして人間の意のままにはならず，つねに孤独で自尊心が強く，利己的である。これは，ネコの飼育の歴史が浅く，まだ野性ネコの習性を多分に残しているためといわれている。雌ネコは生後6～12月で生殖ができるようになり，発情は1年じゅう断続的に訪れる。妊娠期間は63日で，平均4～5匹の子を産む。生後1週めで目があき，40日ぐらいで離乳する。雄ネコは1年で成熟する。平均寿命は，最近は医薬の進歩や食事の改善によって延びる傾向にあり，11～12年ぐらいである。

【品種】イエネコの歴史は，自然の本能のおもむくままに繁殖した結果であるが，19世紀後半にイギリスでこれに人工を加え，合理的な繁殖管理を確立してはじめて品種として固定した。以来約1世紀を通じて，欧米で改良固定されてきた品種を純血種ネコとよぶ。これはいわゆる血統書付きのネコで，わが国にも20,000匹ぐらいが飼われており，雑種ネコとははっきり区別されている。わが国には黒・茶・白の毛色の三毛ネコやキジネコ(俗にトラネコという)のように美しく性質のよいネコがいるが，まだこれを品種として固定する試みは成功していない。したがって純血種ネコはすべて外国系のものになる。そのおもな種類は次のようである。①ペルシャネコ：長毛種の代表で，体形は短肢短胴(たんしたんどう)で，頭が大きく尾が短い。毛色は16種ほど公認され，白・黒・ブルー・クリームなど一色のもの，目がグリーンのチンチラ・シルバー，黒・茶・クリームの三毛のトーティなどがある。②シャムネコ：短毛種の代表で，最も普及している種類である。体形は細く，長肢長胴で尾も長い。顔は楔形(くさびがた)で，目が青く，手・足・尾・顔・耳に色の濃い部分(ポイント)がある。ポイントの色合いにより，シールポイント・ブルーポイント・チョコレートポイント・ライラックポイントの4種に分かれるが，茶かっ色のシールポイントが最も多い。③アビシニア：短毛で，最もリビアネコに似ているといわれる。毛の1本1本が黒・茶・淡かっ色の三つの部分からなり，全体では茶かっ色で，背中に黒の部分が目だつ。④バーミーズ：短毛で黒かっ色，筋肉質でずんぐりしている。アメリカでシャムネコを土台にして創成した新種。⑤ヒマラヤン：長毛で，体形はペルシャ型，毛色はシャムのようなポイントをもち，目もシャムと同じように青。イギリス・アメリカ両国で30年前に同時に創成した新種。⑥バーマン：長毛でヒマラヤンに似るが，四趾(しし)が白い。フランスで50年の歴史のあるネコ。これらのほかにマンクス(無尾)・レックス(巻き毛)などの種類がある。

〔堤　一馬〕

ネコの名はネコ科の総称としても用いられる。上下の顎にそれぞれ3対の門歯，1対の犬歯，2～3対の前臼歯(きゅうし)，1対の臼歯があり，犬歯は長く鋭くとがり，牙として発達し，上顎の最後位の前臼歯と下顎の臼歯ははさみの刃のようになり，裂肉歯とよばれる。歯はこのように，獲物を倒し生肉を食べるのに適している。ふつう頭は丸く，胴はやや長く，手足も中ぐらいの長さで，かぎづめがある。チーターを除けば，かぎづめは引き込めることができ，捕食のときや攻撃のときにかぎづめを出す。尾は一般に長いが，オオヤマネコ類では耳にふさ状の長毛があり，尾は非常に短い。

ネコ科の動物はわれわれに最もよく知られる猛獣であるライオン・トラ・ヒョウ・ヤマネコ・オオヤマネコなどを含み，南北アメリカの大部分，ヨーロッパ・アジア・アフリカなど世界じゅうに広く分布するが，オーストラリア・ニュージーランド・南極・マダガスカルにはいない。また，クマやキツネなどが生息する北極圏にもいない。全世界におよそ50～60種があるが，日本には野生ではツシマヤマネコ・イリオモテヤマネコの2種が分布するだけである。

平地から高山の森林・草原・砂漠(さばく)・岩地などに広くすみ，行動圏も広い。もっ

ぱら生肉を食べ，生態系の上位を占めているため，自然のバランスをとるのに重要な役割を演じている。食肉目の裂脚亜目をイヌ科・イタチ科などと共に構成するネコ科は，さらにネコ亜科・ヒョウ亜科・チーター亜科に大別される。ネコ亜科にはイエネコ・ヨーロッパヤマネコ・オオヤマネコ・ゴールデンキャット・オセロット・ピューマなどが，ヒョウ亜科にはウンピョウ・ヒョウ・ジャガー・ユキヒョウ・トラ・ライオンなどが含まれる。チーター亜科はチーターだけからなる。〔今泉吉典〕

ねこいらず　【猫いらず】　⇨殺鼠(さっそ)剤

ねこざめ　【猫鮫】　軟骨魚類・ネコザメ科。約1億5,000万年前からほとんどその姿を変えていない原始的なサメ。吻端(ふんたん)が丸く，ネコに似ているところからこの名がある。体長は1mほどで，7条の暗色の横帯がある。両背びれの前に強大なとげをもち，臀(しり)びれがあることが著しい特徴である。両顎歯(がくし)が同形で，中央部に近づくにつれて歯は小さくなり，3～5個の尖頭(せんとう)があるが，側方の歯は大きくて臼歯(きゅうし)状をなす。この歯でかたい物をかみ砕くので，サザエワリの別名がある。日本中部以南の沿岸の海底に分布し，行動は不活発。卵生で，卵殻(らんかく)は15cmぐらいになる。おもにかまぼこの原料にされる。同属にシマネコザメがあるが，横帯が約35条あるので容易に区別できる。〔谷内　透〕

ねこじゃらし　【猫じゃらし】　⇨エノコログサ

ねこのめそう　【猫目草】　双子葉植物・ユキノシタ科。山地の湿った陰地に群生する多年草。茎は地面をはい，葉は長さ5～18mmの円形であらい鈍鋸歯(どんきょし)がある。4～5月，茎から高さ5～15cmの花茎を立て，その頂に淡黄色の花をつける。果実は蒴果(さくか)で，熟すと裂けて茶色の種子が出るが，その形がネコの目に似ることからこの名がある。ミヤマネコノメソウ・ヨゴレネコノメソウ・マルバネコノメ・ハナネコノメなどよく似た種類が多数ある。

ねこめいし　【猫目石】　特定の鉱物をさすのではなく，一般にネコの目のように見える宝石のこと。キャッツアイともいう。キンリョク石*の変種で，灰緑色のタンパク光を有するものは真正猫目石といわれ，結晶内部が微細な縞(しま)状構造になっているので特殊な光沢を表わす。セイロン*が主産地。セキエイ中にアスベスト*の繊維を混入し，青白い変彩を呈するものはセキエイ猫目石といわれ，インドのマラバー海岸が主産地である。その他，コランダム-キャッツアイ・エンスタタイト-キャッツアイなどがあり，人工的にも種々のものがつくられている。〔加藤敏郎〕

ねこやなぎ　【猫柳】　双子葉植物・ヤナギ科。カワヤナギ・エノコロヤナギともいう。野山の川沿いなどにはえる落葉低木で，



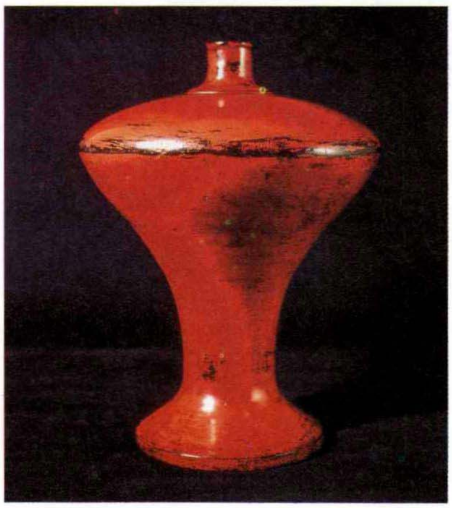
ネコザメ



ネコノメソウ
ミヤマネコノメソウ



ネコヤナギ



根来塗《瓶子》　サントリー美術館蔵

高さ2m内外。幹は下部から束生する。葉は互生し，長さ5～12cm，幅1.5～3cmの長楕円(ちょうだえん)形ないし線状長楕円形で，はじめは両面に絹毛があるが，のちに表面はほぼ無毛となり，裏は灰白色で軟毛が残る。雌雄異株で，3～4月，葉に先だって尾状花穂をつける。雄花穂は長さ3～4cm，雌花穂は2～5cmで子房に長い白毛がある。花序の黒いものをクロヤナギといい，庭木・生け花に用いる。

ねごろじ　【根来寺】　和歌山県那賀(なが)郡岩出町にある新義真言宗の総本山。大伝法院ともいう。1132年(長承1)鳥羽(とば)上皇の勅願により覚鑁*(かくばん)が高野山に大伝法院・密厳院を創建したのに始まる。上皇の院宣で覚鑁みずから大伝法院座主(ざす)となり，金剛峯寺(こんごうぶじ)座主を兼務することになるに及んで，金剛峯寺衆徒との間に軋轢(あつれき)を生じて争いが続いたため，1140年(保延6)覚鑁は僧徒とともに根来山に移り，のち1288年(正応1)頼瑜(らいゆ)が大伝法院・密厳院を現在地に移し，新義真言宗を独立させた。以来寺勢は拡大し，最盛時は2,700余院を数えて，その僧兵の活躍はめざましかったが，1585年(天正13)豊臣秀吉(とよとみひでよし)に攻められて焼亡した。1623年(元和9)徳川頼宣(よりのぶ)より寺領二百六十石を賜わって再興した。なお，現在は新義真言宗智山(ちざん)・豊山両派から独立した単立の寺院である。1515年(永正12)再建された多宝塔(大伝法院大塔)は国宝に，庭園は名勝に指定されている。〔杉坂靖子〕

ねごろぬり　【根来塗】　漆工の一。木胎の器物の表面に，朱漆や弁柄漆を塗ったもの，黒漆に朱漆，あるいは朱漆に黒漆を塗り重ねたもの，朱漆または弁柄漆と透漆(すきうるし)を塗り分けたものの3種がある。古く根来寺*で仏具・日用器などの漆器を大量に製造していたことからこの名があるといわれる。したがって，その歴史も覚鑁*(かくばん)がこの地に円明寺を建立(こんりゅう)した時期にさかのぼるが，1585年(天正13)豊臣秀吉(とよとみひでよし)の根来僧討伐により一山が焼亡しているから，根来寺にまつわる漆芸遺品は室町時代の作と考えられる。寿永2年(1183)の銘がある厳島(いつくしま)神社の〈朱漆飾太刀(かざりたち)箱〉(国宝)2合が最古の遺品で，東大寺二月堂の修二会(お水取り)に修行僧が使用した永仁6年(1298)銘の練行衆盤がこれに次ぐ。近年，そぼくながら深みのある色，日常具としての必然から生まれた堅牢(けんろう)な素地(きじ)と塗り，力強い形姿が賞翫(しょうがん)され，特に桃山時代以前のものは古根来と称して珍重されている。

〔河田　貞〕

ねざめのとこ　【寝覚ノ床】　長野県南西部，木曾(きそ)谷のほぼ中央にある溪谷(けいこく)。地名は浦島伝説にちなみ，龍宮(りゅうぐう)から帰った浦島太郎がこの地で玉手箱を開いて白髪の老人となり，驚いて長い間の仮眠から目ざめたという。木曾郡上松(あげまつ)町市街の南方約2kmの地点にあり，木曾川がクロウンモカコウ岩の柱状節理を侵食してできたもので，白く明るい垂直な岩壁と，紺碧(こんぺき)の水が美しいコントラストをなす。付近には木曾路の難所〈木曾ノ桟(かけはし)〉や小野ノ滝(たき)などの景勝地，民俗資料館・浦島堂・国民宿舎などの施設がある。国道19号線が東岸を走り，国鉄中央本線上松駅

からバスの便がある。　〔浅井得一〕

ねじ　【螺子】　円筒または円錐(えんすい)の表面にらせん状のみぞを切ったものの総称。らせん状の突起をねじ山，低い部分を谷底という。円筒の外面にねじ山をもつものが雄ねじで，内面にねじ山を持つものが雌ねじであり，ふつうこの両者を組み合わせて使う。となりあうねじ山において軸方向に相対応する２点間の距離をピッチという。またねじ山の条数によって１条ねじ・２条ねじなどといい，２条以上のねじを総称して多条ねじとよぶ。雄ねじと雌ねじを組み合わせたとき，ねじの１回転によってねじ山が動く距離をリードという。１条ねじではリードはピッチに等しく，２条ねじではリードはピッチの２倍である。またねじ山の断面の形状によって三角ねじ・角ねじ・台形ねじ・のこ歯ねじ・丸ねじなどと分類する。ねじの用途は主として締め付けと運動の伝達にある。三角ねじは角ねじに比べて摩擦が多いので主として締め付けに，角ねじ・台形ねじは運動の伝達に用いられる。またねじは斜面を円筒に巻き付けたものとも考えられるので，斜面の応用として重い物を持ち上げるのにも利用される。ねじジャッキなどはその例である。

締め付けに最も多く用いられるのがボルトとナットである。ボルトは丸棒に雄ねじを切ったもので，ふつうスパナで締め付けるための六角形の頭がついている。ナットもスパナで締め付けるために外形を六角形にした雌ねじである。またあらかじめねじを切った穴にねじ回しで締め付ける小ねじがあり，頭の部分にねじ回しの先を入れるための１本のあるいは十字形のみぞが切ってある。これは主として力のかからない部品の固定に用いる。さらに木材にねじ込む木ねじもある。これはねじの部分が円錐形でピッチがあらく，ねじ回しで木にねじこみやすい形状になっている。〔森田　鈞〕

ねじき　【捩木】　双子葉植物・ツツジ科。本州以南の山地にはえる落葉低木または小高木。高さ５ｍになり，幹はねじれる。新しい枝は赤色。葉は長さ６～10cmの卵形で鋸歯(きょし)はなく，先が急にとがる。６～７月，前年の枝の側芽に長さ５cmほどの総序花序を出し，花は１列に並んで下を向く。花軸には小包がある。花冠は白色の筒状つぼ形で長さ１cmほど，おしべ10，めしべ１がある。果実は直径３～４mmの球形の蒴果(さくか)で，９～10月にかっ色に熟す。生け花に用いる。

ねじばな　【捩花】　単子葉植物・ラン科。モジズリともいう。芝生(しばふ)，田のあぜ，野原などに自生する多年草。根は白色多肉の紡錘根が３～４個集まっている。葉は根生し，広線形で長さ５～20cm，基部はさや状になる。５～８月ごろに高さ10～30cmの円柱形の花茎を出し，先にねじれた穂状花序をつける。花は横向きに咲き，桃色の鐘状で平開しない。果実は楕円(だえん)形の蒴果(さくか)で，細毛がある。



ね　じ　①ボルト-ナット　②木ねじ　③小ねじ



ネ ジ キ



ネジバナ

ねじまわし　【螺子回し】　ドライバーともいう。小ねじや木ねじの頭部のみぞに先端を差し込んで回し，これを締め付ける工具。鋼製の棒に柄がついていて，棒の先端はねじの頭部のみぞの形に応じて，扁平(へんぺい)でとがったものや長方形のもの，十字形のものなどがある。また柄を固定し先端部だけを回転する構造のものもある。

ねじめ　【根占(町)】　鹿児島県肝属(きもつき)郡にある町。大隅(おおすみ)半島の鹿児島湾側に面する。人口8,900。近世には小根占と称し，琉球(りゅうきゅう)貿易で栄え，ミカン・ハゼなどが輸入された。現在は北方の大根占港とともに鹿児島湾口の要港をなす。ミカン栽培が盛んである。

ねしょうべん　【寝小便】　⇨夜尿症

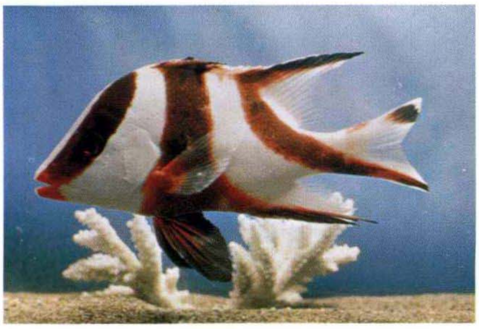
ねじりしけん　【捩り試験】　⇨材料試験

ねじればね　【撚翅】　こん虫類・撚翅(ねんし)目(ネジレバネ目)の総称。微小できわめて特殊化した形態の小さな群。すべて他のこん虫類に内部寄生するが，雄は羽化して短時間の自由生活を行なう。変態様式が複雑で，また体制が特殊化しているため，一般には独立した１目として扱われるが，その初期の幼虫の形態や雄の形態などから鞘翅(しょうし)目(甲虫類)に近縁の群と考えられ，研究者によって鞘翅目の１亜目として扱うことがある。雄成虫は体長1.5～4.0mm，体のキチン化が弱く，全体軟弱で，頭部はよく発達し，複眼は大きく，口器は退化して食物を摂取しない。前翅は痕跡(こんせき)的な棒状の器官となり，大きな後翅は薄い膜状で翅脈は著しく退化している。雌は終生内部寄生をするため，体の構造は非常に特殊化し，頭部と胸部が完全に癒合(ゆごう)して頭胸部をつくり，触角・複眼を欠き，口器は痕跡的，翅と脚も完全に退化している。過変態を行ない，幼虫はハチ類・カメムシ類・ヨコバイ類・ウンカ類・イナゴ類などの体内に寄生する。羽化した雄成虫は，寄主中にある雌を求めて交尾を行ない，やがて成熟した雌からは多数の幼虫が脱出する。第１齢幼虫は三爪(さんそう)幼虫とよばれ，微小であるが体は強くキチン化してよく歩行し，脚の末端に３本の爪がある。ハチ類に寄生するものでは，その寄主が花を訪れたときに親から脱出して花上に残り，他のハチが来たときにその体に付着してその巣へ運ばれ，そこで幼虫の体内に食入するものと考えられる。食入した幼虫は，すぐに脱皮して無脚のうじ状となり，寄生生活にはいる。数回脱皮を行なって成長し，寄主がハチの場合はそれがさなぎとなったころに老熟し，腹部の節間部に頭部を突き出し，雄はその位置でさなぎになり，次いで羽化する。寄主は，ネジレバネ類の寄生によって死ぬことはないが，ミツバチ類の雌では生殖器の発達が妨げられることが知られている。全世界に約300種が知られ，11の科に分類されている。日本に産する代表的な種には，スズバチやフタオビドロバチなどに寄生するスズバチネジレバネ，セジロウンカをはじめ各種のウンカ類に寄生するエダヒゲネジレバネ，ヨコバイ類に寄生するクシヒゲネジレバネなどがある。〔鈴木邦雄〕

ネス(湖)　［Ness］　イギリス，グレートブリテン島北部のスコットランドにある狭長な湖。東はマリ湾から西はロン湾に至る地峡部にある。面積56.4km²。水深230ｍ。全長約38.5kmで，幅は平均1,600ｍ。カレドニア運河により東西海岸の連絡路になっている。古くから伝説に富む湖で，現在も地質時代の恐龍(きょうりゅう)が生息しているといわれ，その目撃者も二，三にとどまらないため，アメリカ合衆国などから探検隊が訪れ，潜水調査を行なったが成果はあがらなかった。〔長津一郎〕

ねず　【杜松】　裸子植物・ヒノキ科。ネズミサシともいう。かわいた丘陵や山地に自生する常緑樹で，高さ３～10ｍ，直径20

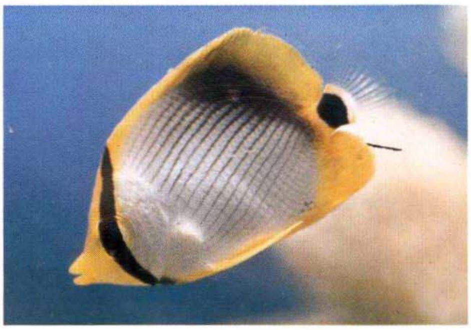
熱 帯 魚〈海水〉



センネンダイ



ナンヨウツバメウオ



アケボノチョウチョウウオ



ヤリカタギ



リボン－フィッシュ



レッド－エンゼル



コガネヤッコ



コバルトスズメ



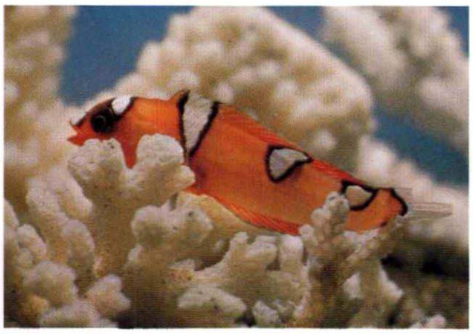
タテジマキンチャクダイ



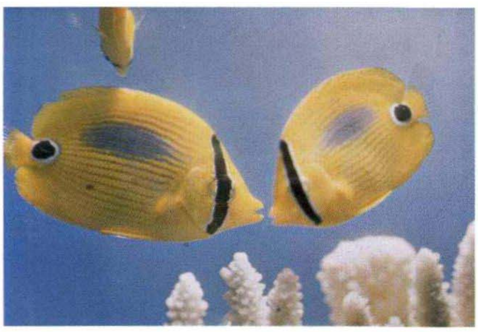
チリメンヤッコ



コンゴウハナダイ



ツユベラ



スミツキトノサマダイ



クイーンエンゼル



ミスジスズメ

熱帯魚〈淡水〉

➔420ページ熱帯魚参照


シルバー－ハッチェット


ブラックバンデッド－サン－フィッシュ


ノトブランキウス－タンサニー


バタフライ－フィッシュ


グラスキャット－フィッシュ


アフィオセミオン－バイビテータム


プラティ


アマゾン－エイ


ディスカス


マーブル－ハッチェット


スマトラ


リーフ－フィッシュ


ブルー－グラリス


キャリスタ－キャリスタ


パール－グーラミ

cm前後になる。樹皮は赤かっ色で，長く縦に裂けてはがれる。葉は3枚ずつが輪生し，針状で長さ12～25mm，幅1mmあり，先がとがっているので触れると痛い。雌雄異株。果実は直径7～9mmの球形で，前年の枝の葉のつけ根につく。庭木として用いられ，材は建築材，球果は利尿剤となるほか，ヨーロッパからサハリン(樺太(からふと))にかけて分布する同属のトショウの果実と同様に洋酒のジンの香味料にされる。海岸の砂丘にはえるハイネズはネズによく似るが，幹が地面をはうこと，球果が直径8～13mmとネズより大きいなどの違いがある。

ねずがせき　【鼠ケ関】 山形県最南端，日本海に面する地区で，念珠ケ関(ねずがせき)跡の所在地として知られ，行政上は西田川郡温海(あつみ)町に属する。庄内(しょうない)海浜県立自然公園の観光中心地の一つで，玄武岩からなる陸繋島(りくけいとう)の弁天島は風光がすぐれ，磯(いそ)づりや海水浴客でにぎわう。島と北部の寺坂の間に築かれた鼠ケ関港は避難港・漁港となる。古代の念珠ケ関は白河(しらかわ)・勿来(なこそ)とともに奥羽三関の一つで，日本海側の蝦夷(えぞ)経営の重要な関門であった。関所の位置はたびたび移動して，最後の関所は寺坂に置かれ，当時の役宅が羽越線・国道7号線の走る海岸線の東側に民家として残る。　〔浅井得一〕

ねずっぽ　硬骨魚類・ノドクサリ科(ネズッポ科)。ヌメリゴチともいう。本州および北海道にごく普通に分布する沿岸性底生魚で，砂泥(さでい)底を好む。全長20cmほどで，体は縦扁(じゅうへん)し，頭部は三角状。尾びれは長く，しりびれは全体が黒い。なお，ネズミゴチ(ノドクサリともいい，本州・北海道沿岸に最も普通にみられる)もネズッポとかヌメリゴチとよばれる。

ネストリウスは　【ネストリウス派】 キリスト教の一派。キリストの神的人格と人的人格は区別されるべきこと，聖マリアは〈キリストの母〉ではあるが〈神の母〉ではないことを主張したコンスタンチノープルの大司教ネストリウスのキリスト論を継承発展させた。エフェソス公会議(431)でネストリウスは破門され，カルケドン公会議(451)でネストリウス主義は排斥された。そのため同派はペルシアにのがれて教会を建設し，以来アラビア北部・インド・トルキスタン・モンゴル，さらに中国(→景教)にまで布教された。のちイスラム教徒の迫害のもとに衰微し，現在イラン・イラクに少数の信徒を有するにすぎない。〔石井忠厚〕

ネストル　[Nestor]　ギリシア神話のピュロスの王。ネレウスの子。トロヤ戦争*の際のギリシア軍の長老。《イリアス*》では，軍議やもめごとに助言を与え，賢明で経験豊かな尊敬すべき老人として描かれている。また，《オデュッセイア*》には，無事にトロヤから帰還し，ピュロスの居城で，父オデュッセウスの消息を求めに訪れている。

ネズバル　[Vitězslav Nezval]（1900～1958）　チェコスロバキアの今世紀最大の詩人。コミュニストであると同時にチェコにおけるシュルレアリストの旗がしらで，少年時代と夢をテーマに，多くの詩を書いた。代表作に詩集《パントマイム》《エジソン》《さようならとハンカチ》など。

ネーズビーのたたかい　【ネーズビーの戦い】 1645年，イギリス，ノーサンプトン郊外ネーズビーで行なわれたピューリタン革命*の戦い。優勢な議会派は，王党派と妥協しようとしたが，王党派は受け入れず，1645年第1次内乱が起こった。1646年フェアファックスとクロムウェル*の指揮する議会軍は国王チャールズ2世の国王軍と戦い，はじめ国王軍が優勢であったが，クロムウェルの奮戦により形勢を逆転し，議会派の勝利に終わり，ここにピューリタン革命が成立した。

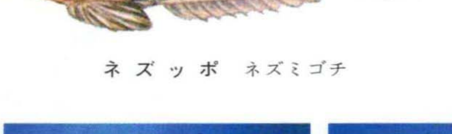
ねずみ　【鼠】 哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・ネズミ科の総称。上下の顎(あご)にそれぞれ1対の門歯と3対の臼歯(きゅうし)があり，犬歯・前臼歯はない。門歯は一生伸び続け，前面だけにかたいエナメル質があるため，使っても先は丸くならず，つねに鑿(のみ)のように鋭い。臼歯は一生伸び続けて根ができないものと，伸びるのが止まって根ができるものとがある。尾は毛がまばらにはえ，大部分が表皮性の角質でできた鱗(うろこ)でおおわれる。

齧歯類中で最も種類が多く，世界じゅうに分布するが，ニュージーランドと南極には生息しない。世界に1,700～2,000種が知られるが，日本には25種ほどしかいない。野生種のいない島などにもハツカネズミ・ドブネズミ・クマネズミといったいわゆるイエネズミが船などにより移入してふえ，人間に害を及ぼし，一つの島だけにしかいない貴重な原始的なネズミ類をも滅ぼしつつある。

平地から高山，荒れ地から田畑・草原・森林などあらゆる所で生活する。地下にトンネルを掘り，草や木の根・実などの植物質を食べる。年に数回出産し，1回に5～9子をうむ。

ハタネズミ類はふつう平地の田畑の周囲や湿地にすむが，ときに大増殖をして山地の造林地にはいりこみ，植林に大害を与えることもある。これによく似るがやや尾の長いヤチネズミ類は森林やその付近の草原・ササ原などに多いが，高山にまですむものもある。種類によってはハタネズミ類同様の害を及ぼすものもある。アカネズミ類は低地から山地の草原・森林にすむが，ハタネズミ類のような害を出すことは少なく，日本では最も個体数が多い。カヤネズミ類は湿地のアシやススキの草原に多く，夏はススキにのぼり葉を編んで，鳥のようにボール状の巣をつくる。この類も害を出すことはまずなく，イネに巣をつくることぐらいである。タビネズミ類は北半球の北部に分布し，種類によっては渡りをすることで有名である。　〔今泉吉典〕

ねずみいろ　【鼠色】 色名。灰色またはごくわずかに青みをおびた灰色。一般にねずみ色は灰色と同義に用いられるが，両者を区別して，赤みや黄みを含む淡い黒を灰色とし，青みを含む淡い黒をねずみ色とする説もある。しかし，日本工業規格(JIS)では，灰色を中性の純粋な無彩色の名称と



ネズッポ　ネズミゴチ



ドブネズミ



クマネズミ



ハツカネズミ



ハタネズミ



アカネズミ



カヤネズミ

ネズミ

しており，ねずみ色を慣用色名としている。慣用色名〈ねずみ色〉は色相N，明度5.5，彩度０の色と規定されている。

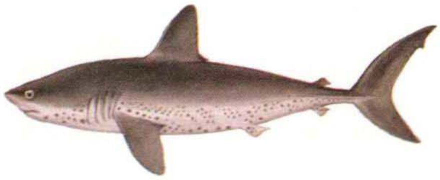
ねずみこぞうじろきち　**【鼠小僧次郎吉】**（1795～1832）　はじめ建具職人だったが，賭博（とばく）に身をもちくずして1822年（文政５）ごろからどろぼうを働いた。尾張家・一橋家・井伊掃部頭（いいかもんのかみ）の屋敷など，約10年間に100軒以上の大名屋敷に忍び込み，盗んだ金額は12,000両にも上った。大名屋敷の奥向きは男の警備がなく，被害があっても外聞をはばかって届け出もしなかったため，はいりやすく盗金も多かったのが大名邸荒らしの理由であった。1832年（天保３），浜町の松平宮内少輔（しょう）邸へ潜入して捕えられ，鈴ヶ森で獄門刑に処せられた。なお，芝居や講談で義賊とするのは根拠がない。〔稲垣史生〕

ねずみごち　⇨ネズッポ

ねずみざめ　**【鼠鮫】**　軟骨魚類・ネズミザメ科。モウカ・ラクダザメともいう。全長３mに達する。体は紡錘型で，尾柄部には第１次隆起線とその下に第２次隆起線があり，尾びれ後縁が半月形をなす。歯は三角形で，両側に小さな側尖頭（そくせんとう）がある。太平洋産と大西洋産は吻（ふん）の長さや腹部の斑紋（はんもん）の有無で区別される。サメとしては珍しく寒海性で，早春には伊豆（いず）半島近くまで南下するが，普通は三陸から北海道・千島・アリューシャン・アラスカ・カリフォルニアに分布している。表層性で，20～30尾の群をなし，背びれや尾びれを出して遊泳する。魚食性で，北洋のサケ・マスの害敵として知られる。卵胎生で，春先に４～５尾を産む。肉はサメとしては美味で，煮魚にされる。〔谷内　透〕

ねずみざん　**【鼠算】**　和算*における級数算法の一。《塵劫記*（じんこうき）》には〈正月におす・めす１組みの親ネズミが12匹の子を産み，２月にはこの親子とも各組みがまた12匹ずつの子を産む。このように，月に１度ずつ親も子も孫も月々12匹ずつ産むときは，12か月の間には何匹となるか〉の問題が記載されている。ここでは，産まれる子がおす・めすともに６匹ずつと仮定している。ネズミの数は７倍ずつ増えるので，計算は 2×7^{12}，すなわち27,682,574,402匹になる。ネズミの繁殖力の大きいことに着眼した問題であるが，第１日に１円，第２日に２円，……のように，前日の２倍ずつ毎日貯金していくときのある日の貯金額を求めるような問題にも転用され，等比数列の形で増加する現象をねずみ算的にふえるなどという。〔青柳雅計〕

ねずみせん　**【鼠銑】**　銑鉄*の一種で破面がねずみ色を呈するもの。溶銑の凝固するときの冷却速度がおそい場合に生じる。組織的にはパーライト地に黒鉛が片状に析出しているもので，ときとしてフェライトを含む。溶融して流動性がよく凝固時に収縮



ネズミザメ



ネズミモチ

が少なく，柔らかく加工性がよいので鋳物用として広く用いられる。

ねずみもち　**【鼠黐】**　双子葉植物・モクセイ科。タマツバキともいう。暖地の山野に自生する常緑低木で，高さ２～３m。生けがき・庭木に用いられる。葉は対生し，長さ４～７cmの楕円（だえん）形で基部が細まり，鋸歯（きょし）はなく，質は厚くて光沢がある。６月，若枝の先に長さ５～８cmの円錐（えんすい）花序をつける。花冠は白色で４裂し，長さ５～６mm，おしべ２，めしべ１がある。果実は長楕円形で，11月から翌年２月に黒熟する。果実は強壮薬に用いられる。近縁種のトウネズミモチは中国原産の種類で，ネズミモチより葉・花・果実が大形で，庭木として用いられる。

ネスラーしやく　**【ネスラー試薬】**　アンモニア・アンモニウム塩の検出や定量用に広く用いられる試薬。アンモニアを含む液にこれを加えると赤かっ色の沈殿を生じる。アンモニアが微量の場合は液が黄かっ色に変化する。ヨウ化カリウムとヨウ化水銀の水溶液に水酸化ナトリウム（または水酸化カリウム）を加え，不溶分を沈降させ除去した上澄み液で，ネスラー（1827～1905）によって創案された。

ねだ　**【根太】**　木造建築と床で大引きあるいは梁（はり）の上にあって床板をささえる横架材。受け材の上に35～50cm間隔に渡され，受け材の間隔が180cm程度のものまでに利用される。壁ぎわのものをきわ根太，コンクリートたたきの上に直接渡されるものをころばし根太という。

ねつ　**【熱】**　エネルギーの一形態。物体に吸収されて，その物体の温度を高め，あるいは相変化などの原因となる。熱の量を熱量とよび，通常純粋な水１gの温度を１気圧のもとで14.5℃から15.5℃まで上げるのに必要な熱量を１cal（栄養学ではその1,000倍）と定める。物体の温度と上がり方は，その物体の熱容量の違いによるが，熱容量の小さい物体ほど温度の上昇は大きい。古くは熱を一種の物質と考え，その要素である〈熱素〉の移動により熱現象を説明しようとした（熱素説）。この説は熱伝導などの熱の流動現象にきわめてうまく合致し，とりわけ熱量の保存には実感的な真実性をもっていたため，19世紀の熱の運動学的解釈が確立されるまで広く支持された。現在では，熱は分子・原子・電子の不規則な微視的運動による運動エネルギーと考えられ，さまざまな方法で他の形のエネルギーに変わりうるものであることが知られている。たとえば，熱機関によって機械的仕事をする力学的エネルギーに，また熱電気効果により電気エネルギーに変えられる。熱を発生するには機械的な方法（摩擦など），化学的方法（燃焼・発熱反応など），電気的な方法（電熱器など），原子核反応による方法（原子炉など）などがある。熱の移動のしかたには熱放射・熱伝導・対流がある。〔中野藤生〕

ねつうん　**【熱雲】**　火山の噴火現象の一種。火山砕屑流（さいせつりゅう）ともいい，火口から噴出した高温の岩塊・火山灰・ガスなどが一時に山腹の斜面を流れ下るものをさす。軽石だけからなるものは軽石流という。速度は時速数十キロ～100km以上に及び，温度は1,000℃以上に達し，破壊力が強い。1902年，マルチニーク島のプレー火山の爆発の際に発生した熱雲は，山体をころがるように落下し，火口から約８kmほど離れたサンピエールの町をわずか数分で飲み込み，30,000人近くの住民が全滅した。わが国でも1783年（天明３）浅間山が大噴火をしたときの熱雲が，大きな災害を起こしたことで知られている。〔平山　健〕

ねつエネルギー　**【熱エネルギー】**　熱*を特に他の形態のエネルギーと区別していうときのよび名。物体の保有する熱エネルギーは，微視的にみればその物体を組み立てている要素としての分子・原子・電子などの乱雑な運動の運動エネルギー*である。容器に閉じ込められた気体に例をとれば，一つ一つの気体分子は，絶対温度に比例する運動エネルギーをもって，容器内を四方八方に動き回っている。この個々の分子の運動エネルギーの総和が気体全体のもっている熱エネルギーである。蒸気機関などで熱エネルギーを仕事に変えるには，蒸気の分子がピストンに突きあたる力を利用する。このとき，分子はもっていた熱エネルギーを失い，ピストンを動かす。〔中野藤生〕

ねっか　**【熱河】**　⇨承徳

ねづかいちろう　**【根津嘉一郎】**　（1860～1940）　実業家。明治・大正・昭和における私鉄事業家。山梨県の生まれ。漢学者馬杉（ますぎ）雲外に師事，共愛社を創立して地方政界で活躍。36歳のときに証券業界にはいり，東京電燈常務を経て1904年（明治37）経

営不振に陥っていた東武鉄道の社長となり，その再建に成功。その後東京鉄道・南海鉄道など多くの会社に関係し，1929年(昭和4)国民新聞社社長に就任するなど，財界の巨頭として幅広く活躍した。のち私財を投じて武蔵(むさし)高校，根津美術館を創立した。　〔片岡一郎〕

ねつかがく　**【熱化学】**　熱力学を化学反応に応用し，熱現象と化学変化との相互関係を研究する化学で，物理化学の一部門。化学反応は熱の発生・吸収を伴い，反応の起こりやすさは反応熱と密接な関係をもつ。熱化学では反応熱・平衡定数・化学親和力，およびこれらの温度・圧力の関係などを扱う。

ねつかがくほうていしき　**【熱化学方程式】**　化学反応に伴う熱量の出入を表示した化学方程式。反応熱は反応物質1モルについての熱量値とし，発熱の場合を正，吸熱の場合を負で表わす。また反応熱は物質の状態に依存するので，反応物質の分子式にその状態を付記する。

C(ダイヤモンド)$+O_2=CO_2+94.45$ kcal …①

熱化学方程式は，適当に組み合わせて代数的に取り扱うことにより，未知の化学変化の反応熱を計算することができる。たとえば一酸化炭素と酸素から二酸化炭素になる反応熱は①の式と②の式を代数的に扱って③の式のように求められ，67.610kcal であることがわかる。

C(ダイヤモンド)$+\frac{1}{2}O_2=CO+26.840$ kcal ②

$CO+\frac{1}{2}O_2=CO_2+67.610$ kcal …… ③

〔竹下三吉〕

ねつかくはんのう　**【熱核反応】**　原子核に熱的にエネルギーを与えて起こさせる核反応。核反応に必要なエネルギーは，中性子の場合はクーロン力が働かないためほとんどゼロでよいが，荷電粒子の場合にはクーロン力による反発を乗り越えるエネルギーが必要である。このエネルギーを熱的に与えるとすれば非常な高温が必要であり，これは核反応の種類によって違うが，一般には10^7～10^8℃程度である。しかし，この反応は同時に多量のエネルギーを放出し，その発生エネルギーによる連鎖反応を期待できる。太陽その他の恒星のエネルギー，水素爆弾の爆発エネルギーなどはこのような反応によるものである。こうした重水素などの軽い原子核の核融合反応によるエネルギーを地上で制御可能な形で取り出そうとするのが熱核融合炉の構想である。これにはデューテリウムとトリチウムの混合プラズマ，デューテリウムプラズマなどを用いて各国で実験が行なわれているが，原子核をこのような高温で安定な状態に保つことがきわめて困難であるため，まだ実用段階には至っていない。しかし燃料となる重水素は海水中から容易に得られるため，将来のエネルギー源としては大きな期待がもたれている。➔核融合　〔加藤敏郎〕

ねつかくへいき　**【熱核兵器】**⇨水素爆弾

ねつかそせいじゅし　**【熱可塑性樹脂】**　加熱すると柔らかくなって変形し，加熱をやめて温度を下げるとそのままの形で再び固まってしまう合成樹脂。熱硬化性樹脂に対する名称。熱可塑性樹脂には，ポリエチレン・塩化ビニル樹脂・スチロール樹脂・アクリル樹脂などビニルポリマー系の合成樹脂のほとんどが含まれる。これらは化学構造的には，高分子鎖どうしを結びつける結合(架橋結合)をもたない，線状高分子鎖でなりたつ。一般に熱硬化性樹脂に比べて①射出成形・押し出し成形などで能率的な成形加工ができる，②成形のやりなおしができる，③透明なものやあざやかに着色したものができる，などの点ですぐれているが，耐熱性では劣るものが多い。➔プラスチック　➔熱硬化性樹脂　〔伊藤　卓〕

ねつがた　**【熱型】**　発熱の経過を時間的に追って作成したグラフ曲線の型。そこに現われた特徴から疾患名を診断する。代表的な熱型には，腸チフス・肺炎などにみられる稽留(けいりゅう)熱*，肺結核・敗血症などにみられる弛張(しちょう)熱(➔発熱)，マラリア・回帰熱などで発熱と平熱が1～2日おきにみられる間欠熱がある。

ネッカチーフ　[neckerchief]　ネック(首)とカーチーフ(ずきん)が結合しつまった語。首に巻く正方形の布でスカーフ*より小さいものをいう。アクセサリーや保温用に用い，頭にかぶることもある。素材は絹・ナイロン・ジョーゼット類の薄地が多いが，もめん・麻・薄地ウールなども使われる。

ねっかんかこう　**【熱間加工】**　金属の再結晶温度以上の温度における加工。再結晶温度より低温で行なう冷間加工の対語。加工工程により，厚板・形鋼・棒などをつくる熱間圧延，鍛造機により成形する熱間鍛造，押し出しにより棒・管・形鋼などをつくる熱間押し出しなどに分けられる。熱間加工により，金属は焼鈍されて軟化するため，加工度・加工速度を増すことができるが，反面寸法の正確さは期しがたい。

ねつきかん　**【熱機関】**　熱エネルギーを利用して他の機械を動かす原動機。燃焼によって生じた高温・高圧のガスを直接ピストンやタービンに作用させて仕事を得る内燃機関*と，発生した熱で一度他の流体(水や空気など)を加熱し，その流体をピストンやタービンに作用させて仕事を得る外燃機関とがある。一般に，内燃機関のほうが小形で効率がよく，ガソリン機関*・ディーゼル機関*・ガスタービン*など，交通機械の原動機として，また農工用の搬用機として広く使用される。外燃機関はボイラー*や熱交換器*などをもつので大形となり，熱効率はいくぶん低いが，出力が大きく燃料を選ばない。蒸気タービン*・蒸気機関*など水蒸気を利用したものが多く，発電所や船の原動機として広く使用される。〔斎藤　孟〕

ネックレス　[necklace]　首飾り。頸部(けいぶ)や胸もとを飾るアクセサリーの一種で，勲章にもこの形式のものが見られる。装身具の中で最も古くから愛用されたものと思われ，旧石器時代には石・木の実・貝殻(かいがら)や動物の牙(きば)・角などを用いていた。なお，男女ともにお守りともされており，現在も未開人の間では魔よけとして使用される。のち文化が進むにつれて装飾の意味が強くなり，古代エジプトの遺品には，宝石・ビーズ・陶器・金属などがある。古代ギリシアでは，エジプトほどには使用されなかった。ルネサンス時代になると，人間美を強調するために愛用され，この時代の絵画に多く見られる。以後，文明の発達とともに変遷し現在に至っている。

わが国でもネックレスが古代から用いられたことは，埴輪(はにわ)にも見られ，また古墳でも多く発見されている。翡翠(ひすい)・瑪瑙(めのう)などみがいた玉を糸で連ねて用いていたと思われる。のち長着*が発達した中世から江戸末期までは，はだを露出しなかったためその空白時代となったが，明治以降洋服が輸入されてから，社交場の必需品となり，現在では日常用・礼装用に大いに用いられている。材料は，金・銀・宝石・真珠・陶器・ガラス・木・革・木の実・プラスチックなど多様であり，形はチョーカーとよばれて首に密着するものから，胸に長くたれるものまで長短種々あり，またペンダント(鎖に宝石その他の飾りをつるす)・ロケット(絵・写真などの入れられるもの)などもある。　〔小池千枝〕

ネッケル　[Jacques Necker]　(1732～1804)　フランスの銀行家・政治家。スイスのジュネーブの生まれ。パリで銀行家として成功，巨富を築いた。1776年ルイ16世に抜擢(ばってき)されて財務長官となり，財政改革にあたった。1781年有名な〈財政報告書〉を作成公表したが，宮廷の反感を買い，アメリカ独立戦争に介入した失費の責めを問われて同年辞職。1788年再度財務長官となり，1789年5月中絶していた三部会*召集を決定したが罷免され，それがフランス革命勃発(ぼっぱつ)の口火となった。バスチーユ襲撃事件後同年7月11日三たび財務長官に復帰したが，難局に処する政治性を欠き，1790年引退した。文学者スタール夫人*は彼の娘である。　〔喜多迅鷹〕

ねつこうかせいじゅし　**【熱硬化性樹脂】**　常温では可塑性または粘稠(ねんちゅう)な液状であるが加熱すると不溶不融のかたい状態になり，温度を下げてももとにもどらない性質をもつ合成樹脂。熱可塑性樹脂に対する名称。加熱するまえは線状の高分子鎖からなっているが，加熱によって分子鎖の間で反応が起こり，分子と分子を互いに結びつける結合(架橋結合)ができて最終的には三次元構造の網状高分子*となるものである。フェノール樹脂(ベークライト)・ユリア樹

脂・ポリエステル樹脂・メラミン樹脂などが代表的な例。成形のときに加熱硬化させるのが普通で，成形方法は最も単純な圧縮成形法が多いが，これは能率的な方法とはいえない。また，成形のやりなおしができない，充塡(じゅうてん)剤や強化剤が配合されるので完全に透明なものが得られないなどの短所はあるが，一般に耐熱性のよい点が利点である。➔熱可塑性樹脂　〔伊藤　卓〕

ねつこうかんき　**【熱交換器】**　高温の流体と低温の流体とを固体壁の両側に接して通し，伝熱によって互いの熱を交換させ，高温流体の冷却または低温流体の加熱を行なう装置。種々の形式があり，シェル-アンド-チューブ型は，シェルの中に管群を収め，管群に一方の流体を，その外側に他方の流体を流す式のもの，二重管型は二重にした管の中と外に流体を流す方式のもので，流体を同方向に流した場合は並流型，反対方向に流した場合は向流型，直角方向に流した場合は直交流型という。コイル型はタンクの中にコイル状の管を収めた形式，うずまき型は板をうずまき形に巻き，1枚おきに各流体を流す形式，フィン(ひれ状のもの)付き型は，一方の流体を流す管にフィンをつけ伝熱面積を増した形式，蓄熱型は，一対の蓄熱器に高温・低温の流体をある時間をおいて交互に流す形式のものである。伝熱媒体となる流体には水・水蒸気・石油・水銀・煙道ガスなどがある。〔斎藤　孟〕

ねっしゃびょう　**【熱射病】**　体内の熱生成が高まって，熱放散が困難なときに起こる病気。暍病(えつびょう)ともいい，太陽の直射による日射病*とは区別される。人体では体温調節機能が発達しているので，生理的には著しい体温の変動をみないが，高温多湿の環境における労働の際，調節機能が限界をこえると熱射病となる。鬱熱(うつねつ)を起こし，不快・頭痛・目まい・あくび・精神不安などの前駆症状とともに多量の発汗をみ，のちにはこの発汗が止まって，突然意識障害を起こす。体温は39～43℃，ときには47℃となる。体温が高いほど，またうわごとを発する場合は予後不良である。治療は，安静にし，熱放散をはかるために冷気にあてたり，冷湿布や氷嚢(ひょうのう)を用いる。意識があるときは，ぶどう酒や茶などの興奮剤を飲ませ，必要に応じてビタミン剤や強心剤などを用いるが，回復は漸進的である。

ねつじょうソナタ　**【熱情ソナタ】**　ベートーベン*のピアノ-ソナタ第23番。へ短調，作品57。出版商アウグスト-クランツが〈アパッショナータ-ソナタ〉と名づけたことから，その名が起こり，日本では〈熱情ソナタ〉と訳されて一般化している。作曲されたのは1804～1805年で3楽章からなる。

ねつしょり　**【熱処理】**　材料を適当な速さで加熱・冷却することによって，組織・性質を変化させ，その特性を改良しようとする操作。金属材料の場合によく使われ，焼き入れ・焼きもどし・焼きなまし・焼きならしなどがある。非金属材料では，ガラスの強化などにこの操作が利用される。

ねっすい　**【熱水】**　地殻(ちかく)の中の割れ目や岩石の中のすきまに存在している水のうち，温度が周辺の一般地下温度よりも高いもの。ふつう大量の塩類(塩化ナトリウムが主)やガス(炭酸ガスが主)を溶解している。また，ケイ酸分SiO_2や種々の金属なども，地表水よりは多量に溶解されていることが多い。熱水の主体は，長い年月かかって地表から地殻の深いところまで浸透した水や，岩石とともに沈降した水が，その場所の温度にまで加熱されて上昇してきたものである。熱水は周囲より温度が高いので，通路さえあれば地表に向かって上昇するが，地表付近に達したとき，その地点の沸騰点より高温ならば，水蒸気となって噴出し，低温ならば温泉*になる。広い範囲にわたる不透水層によって通路がさえぎられると，その下に大量の熱がたくわえられる。したがってボーリングによって過熱蒸気が得られて地熱発電*に役だつ。

熱水はそれに接する岩石を変質させたり，また条件によってはみずから溶解して運んできた成分を沈殿させるので熱水鉱床*ができる。また熱水が生じるような温度や圧力のもとでは，いろいろな鉱物の結晶が比較的容易に大きく成長するので，鉱物の合成や結晶の育成に熱水法が利用される。

〔片山信夫〕

ねっすいこうしょう　**【熱水鉱床】**　マグマの活動に伴って放出される熱水*からの沈殿，あるいは交代作用*によって生成された鉱床。マグマが冷えて種々の鉱物が晶出していく過程の最終の段階では，残液は水溶液になる。熱水は種々の金属の塩化物・硫化物・フッ化物などを溶解・運搬する能力がある。このような熱水が，岩石の割れ目などにしみ込んで金属鉱物を晶出したり，周囲の岩石中の鉱物との間で化学反応を起こしたりして鉱脈などをつくる。また熱水中の物質が，通路にあたる岩石の一部を置き換えて交代鉱床をつくる。熱水が発生する地質環境に応じ，温度や圧力も異なり，鉱物の組み合わせや規模の違った鉱床ができる。金・銀・銅・鉛・亜鉛などの鉱床には，熱水鉱床に属する重要なものが多い。

〔堀福太郎〕

ネッスル　[Nestlé Alimentana S. A.]　世界的規模のスイス乳製品メーカー。1867年育児用乳製品メーカーとして設立され，現在は乳製品のほかチョコレート・インスタントコーヒー・紅茶・滋養食品・冷凍食品・かんづめなどを生産・販売している。競争の激しい乳製品界で毎年売上高を伸ばしているが，特に冷凍乾燥の可溶性コーヒー〈ネスカフェ〉は大幅に伸び，日本のインスタントコーヒー市場で70％のシェアを占めている。ヨーロッパ・南北アメリカを中心に世界約200か所に生産拠点をもつ。わが国では子会社のネッスル日本(1933年設立)が淡路島に乳製品工場，姫路にインスタントコーヒー工場をもっている。本社ブベー(スイス)。年間売上高23億3,000万ドル，従業員数91,000(1970)。

ねつせいけいれん　**【熱性痙攣】**　乳幼児*が高熱(約38.5℃以上)に伴って，痙攣を起こす場合をいう。生後6か月から4歳ぐらいまでの神経質な痙攣性体質の乳幼児に多くみられ，遺伝的傾向がある。4歳過ぎるとほとんど起こさなくなるが，少数のものでは熱を伴わなくても痙攣を起こすてんかん状態に移行するといわれる。痙攣時には鎮静薬・下熱薬を用いる。

ねっせん　**【熱線】**　⇒赤外線

ねったいうりん　**【熱帯雨林】**　熱帯雨林気候*に発生する密林。十分な熱と光と水に恵まれて樹林の成長が著しく早く，樹種がきわめて豊富である。アフリカのコンゴを中心とする地方と，南アメリカのアマゾン川流域地方に広く分布し，後者ではセルバとよばれ，樹枝が天蓋(てんがい)のようにおおっているので直射日光は到達せず，昼なお薄暗い。また，海岸や沼沢地の低湿地にはマングローブの密林がみられる。

ねったいうりんきこう　**【熱帯雨林気候】**　赤道を中心とする南北緯5～7°の間に分布する気候型。赤道に近く年じゅう上昇気流が盛んで，高温多雨であり，降水量は3,000㎜前後に達する。常夏(とこなつ)の状態が続き，気温の年較差は少ないが日較差は比較的大きく，夜は〈熱帯の冬〉といわれる。豊富な熱量と降水量に恵まれ，植物の生育がきわめて盛んで，密林(➔熱帯雨林)が発達する。ケッペン*の気候分類のAf気候に相当する。なお，この気候型を示す地域は，アフリカ中部のコンゴ川流域，東南アジアのマライ半島・インドネシア・ニューギニア，南アメリカのアマゾン川流域などである。

〔小栗　宏〕

ねったいぎょ　**【熱帯魚】**　赤道に近い熱帯から亜熱帯にかけて分布し生息している魚類をいうが，一般にはこれらの地域の川・沼など淡水にすむものをいい，海水産のものは，海水性熱帯魚または〈海の熱帯魚〉といって区別している。いずれにしても，キンギョ・コイなどとともにおもに観賞用に飼育され，そのために美しいことが要求されるが，珍しいものや変わった習性をもつもの，つまりは珍魚や奇魚なども含まれる。また，医学的な方面にも実験動物として用いられるが，これには特に世代交代の早い胎生魚(正確には卵胎生)が利用される。最近では日本脳炎・フィラリア・マラリアなどを媒介するカの撲滅(ぼくめつ)のために，ぼうふら退治として使われているものもある。また，食用魚としての利用も考えられ，繁殖力の著しい魚で，味がよく，比較的大形

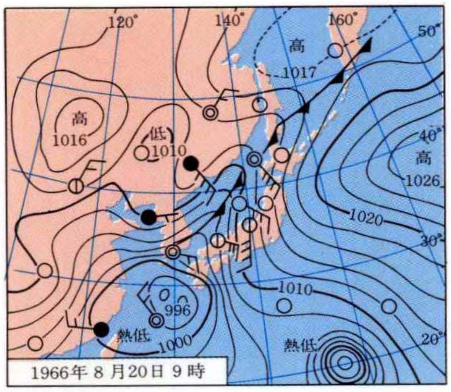
のものを用いて，温泉地帯の川や池に放流するなどの方法が研究されている。

日本に熱帯魚が渡来したのは大正の末ごろからであり，昭和初期には30～50種類であったが，近年には2,000種類近くにも達している。これは淡水産だけであって，海水産のものは観賞用のもので数百種類くらいである。淡水産で最もポピュラーなものは，グッピー・ネオンテトラ・エンゼルフィッシュ・キッシンググーラミなどがあげられ，海水産ではコバルトスズメ・フエヤッコ・クマノミ・チョウチョウウオ類などがあげられる。また淡水産では近年人工改良が進み，色彩・形態の両面にわたり著しい変化をみせている。南アメリカの胎生魚であるグッピーなどはその頂点であって，原種と比較するとその変化に驚くほどである。

【飼い方】淡水産の熱帯魚と海水産では相当の相違があるため，いちおう別々に述べる。淡水産のものでは，水槽(すいそう)の大きさとして最も一般化しているのが，幅60cm，奥行き30cm，高さ36cmのものであり，付属品としてサーモスタット(冬期の保温用)，フィルター(水の濾過(ろか))，エアポンプ(送気装置)，照明装置(螢光燈(けいこうとう))，水温計などがある。これらの規格はいずれも水槽の大きさに応じて定まっている。このほか，水底に敷く大磯砂(おおいそずな)(または普通の砂)，水草(100種前後がある)，水石などがある。水は水道水の場合には塩素が含まれて魚には危険なため，2～3日くみ置くか中和剤(ハイポ)を用いる。中和剤の量は熱帯魚店などでよく確認しなければならないが，だいたいのめやすとしては，前記の水槽用の水量で3×5mmの結晶で6粒前後が標準。水温は年間平均して25～26℃くらいが理想的であるが，±5～6℃の変化があってもさしつかえない。初歩の者は価格の安い種類から始めるとよいが，これはじょうぶでよくふえる魚が価格が安いという理由による。えさはイトミミズ・ミジンコ・赤ぼうふらなどの生き餌(え)と人工餌とがあるが，いずれの場合も絶対に与えすぎないのがこつで，与えすぎるといっぺんに水を悪くしてしまう。通常は1日1～2回で十分で，1回の餌量(じりょう)は10分間に食べきれる程度とする。

海水産のもので淡水産と異なる点をあげると，水槽はやや大形が望ましく，水は良質の天然海水または人工海水(薬品が市販されている)を用いる。水温は淡水産とほとんど同様で，25℃程度がよい。えさはアサリ・小エビ・魚肉などを好むが，これも1日1回与え，見ている前で食べきってしまって絶対に食い残しができぬ量とする。魚はなるべく小形のもので，入れすぎぬように注意し，フィルターは淡水産のものよりも強力なものを使用するのが望ましい。

→415ページ(写真)　〔牧野信司〕



熱帯低気圧

ねったいサバナきこう　【熱帯サバナ気候】　熱帯雨林気候*の外側の赤道を中心に南北緯23°付近まで分布する乾・雨季が明瞭(めいりょう)な気候をいう。森林密度がまばらで，草地が広く展開し，気温は高く，雨量は1,200mm前後で主として夏に集中する。太陽の回帰によって夏季には赤道前線，冬季には中緯度高圧帯から吹き出す貿易風帯の下に置かれ，乾・雨季が交代する。ケッペン*の気候分類によるAw気候に相当する。雨季の草原は牧牛に利用され，また土壌(どじょう)も農業に適するところが多く，ブラジル高原ではコーヒーの栽培地帯が広がっている。　〔小栗　宏〕

ねったいしまか　【熱帯縞蚊】　こん虫類・双翅(そうし)目，カ科。黒色で白色の斑紋(はんもん)がある。胸部背面には左右1対の外方へ湾曲した白線がある。近似種のヒトスジシマカには正中部に1本の白線があるので区別できる。全世界の熱帯・亜熱帯地方に広く分布し，黄熱病・デング熱を媒介するので知られる。日本では，天草諸島で記録があるほか，沖縄(おきなわ)・小笠原(おがさわら)諸島で繁殖している。

ねったいそうげん　【熱帯草原】　熱帯雨林*の外側に分布する草原地帯。アフリカのスーダン地方ではサバナといい，たけの高い草(多くはイネ科)が茂り，疎林や低木をところどころに交えている。雨季と乾季の区別が明瞭(めいりょう)で，草は暑い雨季に更新・繁茂するが，乾季には枯れる。ここでの特有の動物としてはシマウマ・キリン・ライオン・ハイエナなど。なお，南アメリカのブラジル内陸部ではカンポ*・リャノとよばれる。

ねったいちょう　【熱帯鳥】　鳥類・ネッタイチョウ科の総称。熱帯海域に生息する海鳥で，世界に3種がある。翼長30cmほどで，体部はほとんど白色で細かい黒色斑(はん)がある。尾羽の中央2枚は細く，非常に長い。もっぱら飛行生活をしているので，脚は短く弱い。水中に飛び込んで魚やイカなどを食う。島のがけの岩だなや岩の裂け目に集団営巣して繁殖する。わが国にはシラオネッタイチョウ・アカオネッタイチョウが硫黄(いおう)列島で繁殖する。台風のときには日本近海にも迷行する。

ねったいていきあつ　【熱帯低気圧】　熱帯地方に発生する低気圧*。このうち特に強力に発達して甚大な被害を与えるものとしては，太平洋南方で発生しアジア地域の太平洋沿岸諸国に襲来する台風*，ベンガル湾・インド洋に発生しインド洋沿岸諸国に被害をもたらすサイクロン*，カリブ海・メキシコ湾に発生しアメリカ合衆国東部・カリブ海・メキシコ湾沿岸諸国を襲うハリケーン*，オーストラリアでのウィリー-ウィリーズ*などがある。なお，熱帯低気圧と温帯低気圧との主要な差異は次表のとおりである。　〔小沢　正〕

性質＼種類	熱帯低気圧	温帯低気圧
等圧線の形	ほぼ円形	紡錘・楕円形
気圧傾度	大きい	比較的小さい
気温傾度	小さい	大きい
水平規模	比較的小さい	大きい
前線	元来は伴わない	つねに伴う
中心の目	多くはもつ	もたない
活動期	暖候期	四季

ねつちゅうせいし　【熱中性子】　原子の熱運動エネルギーと同程度のエネルギーをもつ中性子*。ウランなどの核燃料*は中性子を吸収して核分裂*を起こすが，一般に中性子を吸収する割合は中性子の速度がおそいほど大きい。ふつう原子炉*の中で核分裂によって生じる中性子のエネルギーは平均1MeV(eV：エレクトロンボルト)程度であるが，これを減速材を使って約0.025eVに下げて燃料に吸収されやすくする。これは減速材を構成する原子の熱運動エネルギー程度であるため，熱中性子という。このときの中性子の速度は20℃で約2,200m/秒である。→原子炉　〔加藤敏郎〕

ねつでんし　【熱電子】　真空あるいは不活性気体中で，金属や半導体を高温に加熱したときに表面から放出される電子。固体中の電子は熱運動をしているが，エネルギー状態は空間のエネルギー準位より低く，そのままでは外部に脱出することはない。しかし，固体中の電子になんらかの方法で十分なエネルギーを与えてやると，電子の放出が起きる。加熱も一つの方法であるが，光の照射や電子衝撃などの方法によってもエネルギーを与えることができる。　〔伊藤糾次〕

ねつでんしはつでん　【熱電子発電】　熱電変換装置の一。プラズマ*(または真空中)に二つの電極を向かい合わせて配置し，一方の電極(陰極)を高温に保ち，放射される熱電子を他の電極(陽極)に集めて発電する。出力電流を増すには電極間隔をできるだけ狭く，電子放出度の高い陰極材料を用い，陰極温度を高温に保つことが必要となる。

熱電子発電はまだ試作研究の段階にあるが，将来太陽熱・放射性同位元素・原子炉などを熱源として宇宙開発に用いることが考えられている。〔田村康男〕

ねつでんそし【熱電素子】⇨サーモエレメント

ねつでんたい【熱電堆】多数の熱電対*を直列に接続した装置。熱電対列ともいう。放射エネルギーの測定に用いられる。n個の熱電対を接続した場合，その熱起電力は1個の場合のn倍になるため，きわめて微少な温度差でも検出できる。用いられる金属は一般にはビスマスと銀・銅とコンスタンタンで，測定面側の接合点は白金黒などでいぶして放射線の吸収度を高めるようにしてある。

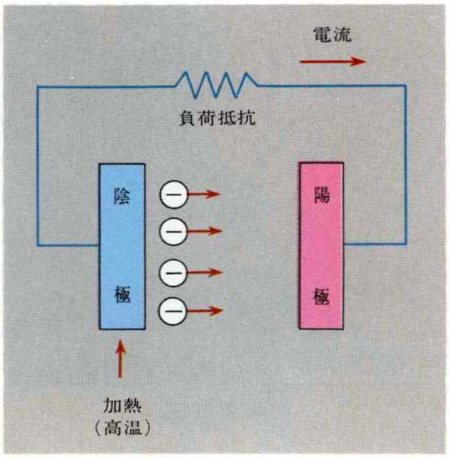
ねつでんつい【熱電対】ゼーベック効果*による熱起電力を利用するための2種の金属の組み合わせによる閉回路。熱電堆*(ねつでんたい)・熱電対温度計(→高温計)に用いられる。熱起電力は，使われる2種の金属の種類，および両接合部分の温度差によって決まるから，発生する熱起電力を測定すれば接点間の温度差を求めることができる。特に高温度および低温度の測定に重要である。日本工業規格(JIS)には，白金ロジウム-ロジウム・クロメル-アルメル・鉄-コンスタンタン・銅-コンスタンタンの4種が規定されている。〔堀内和夫〕

ねつでんどう【熱伝導】ある物質に温度の違いがあるとき，物質の中を高温の部分から低温の部分へ，温度差をなくすように熱が伝わる現象。熱の流れる方向と直角な単位断面積あたり，単位時間に流れる熱量Qは，温度差があまり大きくないときには，$Q=-\kappa dT/dl$で表わされる。dT/dlは温度勾配(こうばい)，κは熱伝導率とよばれ，その物質特有の量で熱の流れやすさを示し，単位はcal/cm・度・秒で表わされる。これは銅ではほぼ1，セキエイガラスは10^{-3}，有機液体は10^{-4}，気体は10^{-5}ぐらいである。熱伝導は微視的には，物質を構成している粒子(気体では分子，金属では伝導電子とフォノン，絶縁物ではフォノン)が，相互に衝突するなどの種々の原因により，保有する運動エネルギーを低温の部分へ伝達することに起因すると考えられる。〔中野藤生〕

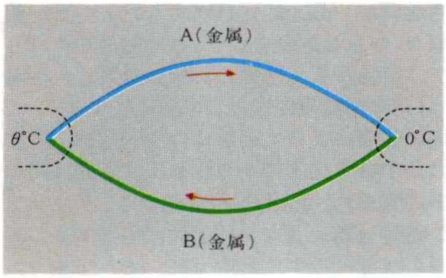
ねつでんどうりつ【熱伝導率】⇨熱伝導

ねつのしごととうりょう【熱の仕事当量】相等しいエネルギーの変化をもたらす力学的仕事の量と熱量との比。力学的な仕事は熱とつねに一定の割合で変わりうる。実測によれば，1 calの熱量は，仕事の単位に換算すると，ほぼ4.2ジュールに相当する。この量を熱の仕事当量という。熱の仕事当量は，1843年にジュールによってはじめて測定された。

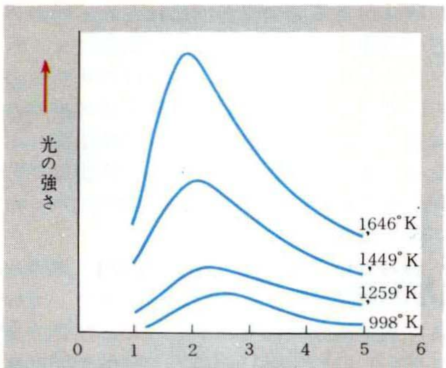
ネップ［NEP］新経済政策ともいう。1917年のロシア革命とその後の戦時共産主義の時期，ソ連は食糧の強制徴発，労働者の工場直接管理などを行なったが，経済は混乱・疲弊してしまったため，1921年から経済の回復，社会主義の建設のために実施された経済政策。余剰農産物の自由販売や，私的小企業を認めて市場機能を回復させ，農民や小生産者の生産意欲を高めようとしたもので，この結果1926〜1927年には農工業の生産は戦前以上の水準に回復した。〔加藤　寛〕



熱電子発電　原理図



熱電対　熱起電力は$V=a\theta+\frac{1}{2}b\theta^2$によって求められる。$a$, bは異種金属A，Bの種類によって決まる定数



熱放射

ねっぷうろ【熱風炉】高炉に熱風を送り込むために空気を予熱する炉。鉄管式と蓄熱式があるが，一般には後者が用いられる。これは内部に格子(こうし)積みれんがを備えた円筒形で，ガスを燃焼させてれんがに蓄熱し，次に空気を送りれんがの熱で空気を予熱して高炉に送り込む。ふつう高炉1基あたり2〜3基を要する。高炉へ熱風を送ることにより，炉内で消費されるコークスが少量となり，したがって灰分が減り，これを滓化(さいか)するための石灰石の必要量が少なくてすむため，装入鉄鉱石がふえ，出銑量の増大をもたらす。〔秋枝哲児〕

ねつふくしゃ【熱輻射】⇨熱放射

ねつへいこう【熱平衡】熱の交換が可能な二つの物質の間に熱の移動がなく，物質の相変化が現われない状態。温度の違う二つの物質を接触させておくと，高温の物質から低温の物質へ熱が流れて，時間が十分たてば双方の物質がやりとりする熱量は等しくなり，同じ温度になる。つまり，熱平衡に達する。また実験的に，物質Aと物質Bが熱平衡にあり，物質Bと物質Cも熱平衡にあれば，物質Aと物質Cも熱平衡にあることが確かめられている。外界と熱のやりとりをしない孤立系では，エントロピー*は熱平衡状態において極大になる。熱平衡状態でも，過飽和の蒸気のように不安定なものもある。こういう状態は外部のちょっとした刺激によって安定な状態になるが，この場合，エントロピーが極大ではあるが最大値にはなっていない。〔中野藤生〕

ねつほうしゃ【熱放射】熱輻射(ふくしゃ)・温度放射ともいう。物質を構成する原子が熱によって励起され，電磁波を放射する現象。放射は真空中でも起こり，放出エネルギーは放射物体が高温になるほど大きい。黒体放射の場合，その単位表面から単位時間に放出されるエネルギーSは，シュテファン-ボルツマンの法則により$S=\sigma T^4$(σ：シュテファン-ボルツマン定数)となる。また光のスペクトルは連続スペクトルである。熱放射される電磁波の波長は，放射物体の温度にのみ関係するが，いろいろな温度における光の波長とエネルギーの関係を図に示す。これによると，温度の増大とともにスペクトルの極大は短波長側に移動していく。物体の温度を上げていくとき，低温度では赤く光っているのが高温になるにつれて白色に光るようになるのはこのためである。図における光の強さ，すなわち振動数νの定常電磁波のエネルギーは，それまでの古典物理学だけでは説明できなかったが，1900年プランクにより光のエネルギーは連続的に存在するのではなく，その振動数に比例する一定量$h\nu$(h：プランク定数)の整数倍の値をとるとする考え方が提出され，定量的に説明された。プランクによるこのエネルギー量子の仮説は，量子論を発展させる基礎となった。〔中野藤生〕

ねつぼうちょうけいすう【熱膨張係数】⇨膨張

ねつぼうちょうりつ【熱膨張率】⇨膨張

ねつようりょう【熱容量】⇨比熱

ねつらい 【熱雷】 夏季の強い日射によって地面が過熱され，大気が不安定になるために生ずる上昇気流が原因で発生する雷雨の一種。特に盆地・山岳地帯など傾斜した地面に接する温暖多湿の空気が過熱されると，暖かくて軽い湿潤な空気となって上昇し，雲頂が10,000m以上にも達する雄大な積乱雲*となり，雲中の空気の上昇流は毎秒数メートル以上の上昇速度に達し，同時に湿潤な空気は急激に凝結して大粒の雨滴，雹(ひょう)となり，熱雷が発生する。

ねつりきがく 【熱力学】 熱現象に関する基礎的な理論体系。物質の熱的諸性質を原子や分子などの微視的粒子の性質から論ずるのではなく，物質を感覚で識別しうる程度の連続体として論じ，実験事実の積み重ねによって体系化させたものである。これは三つの法則からなり，それぞれ熱力学の第一・第二・第三法則とよばれる。

〔熱力学第一法則〕熱の本質がエネルギーの一形態であることをもとに確立され，熱現象を含めた場合のエネルギー保存則。19世紀の中ごろR.マイヤー・ジュール・ヘルムホルツらによって確立された。物質系が状態変化をするとき，その内部エネルギー*の変化はその熱力学における状態変化の過程には無関係に決まり，外界から受けた熱量と仕事の総和に等しい。このとき内部エネルギーは状態量であって，さらに，物質系が等方的で一様な場合には，その物質系の温度・体積・圧力のうちいずれか二つの状態変数によって指定される。

〔熱力学第二法則〕熱現象における変化は不可逆であることを表わす法則。クラウジウス・ケルビンらによって確立された。これは熱が高温から低温へ伝わる現象や，摩擦によって仕事が熱に代わる現象が不可逆であるという経験法則によっている。この法則の表現のしかたはどの現象を不可逆とみるかによっていろいろある。①クラウジウスの表現(1850):熱が移動したという現象のほか他になんらの変化を残さずに熱を低温から高温の物体に移す方法はない。②トムソンの表現(1851):熱源から得た熱をすべて仕事に変えるだけで，他になんらの変化をも残さないで操作する機関は存在しない。③プランクの表現(1879):重いものを持ち上げ，これに対して熱源を冷却すること以外にはなんらの作用をしないような，周期的に働く機関をつくることは不可能である。④数学的表現:断熱変化*ではエントロピー*はつねに減少することはない。以上であるが，これらは互いに一方を仮定すれば他方が導かれ互いに等価な表現である。

〔熱力学第三法則〕ネルンストによって確立されたためネルンストの熱定理(1906)ともいう。すべての物体のエントロピー*は絶対零度においてゼロになるという法則。

これらの法則の微視的な解釈(統計力学的解釈)はマクスウェル・ボルツマンらによって与えられ，ことに第三法則の意味は量子論により明確にされた(→統計力学，気体分子運動論)。またこれらの法則から導かれるいろいろな関係は化学・工学などに広く用いられている。 〔中野藤生〕



ネーデルラント楽派　初期ネーデルラント楽派の代表的な作曲家デュファイ(左)とバンショワ


ネナシカズラ

ねつりょう 【熱量】 物体の特定な状態変化に即して考えられる熱の量。単位は物体が一定の温度変化をするのに要する熱量をとり，通常カロリー(記号cal)を用いる。これは純粋な水1gを14.5℃から15.5℃まで高めるのに必要な熱量で，4,186ジュールに相当する。1,000calを1kcalといい，栄養学ではこれを単にカロリーといい，Calで表わす。

ねつりょうけい 【熱量計】 熱量をはかる装置。比熱・気化熱・融解熱・反応熱などをはかるのに用いられる。代表的には次の2種がある。①混合法によるもの:熱容量のわかっている物体に，未知の熱量を加えて起こった温度の変化を測定し，加えた熱量を知る。水熱量計・ボング熱量計などはこの方法による例である。②潜熱のわかっている相転移*を利用するもの:潜熱がわかっている物体に熱を加えて相転移を起こさせ，相転移した物質の量から加えた熱量を知る。氷熱量計・蒸気熱量計などはこの例である。 〔中野藤生〕

ねていとう 【根抵当】 当座貸越契約や交互計算取引などの継続的取引関係がある場合，将来生ずると予想される担保*のために，あらかじめ一定額の限度内で設定される抵当権*のこと。根抵当は法律の規定によるものではなく，古くからの慣行を判例が認めてきたものである。一般の抵当権との相違は，現実に債権*が発生するまえに発生し，抵当期間は債権が消滅しても抵当権が消滅しない点にあり，〈債務なければ担保なし〉という一般原則の例外をなす。したがって，担保物権*の付従性(担保物権は被担保債権の成立・存続・態様・消滅などにおいてこれと運命をともにすること)といかに調和させるかが問題となり，はたして根抵当は有効か否か争われてきたが，今日では判例・学説ともにその有効性を認めている。根抵当は担保とすべき限度額を定めてこれを登記*するとともに，根抵当である旨も登記しなければならない。根抵当権の効力は，期限の到来したとき，または継続的取引関係が終了したときに，その限度額の範囲内において弁済の優先権を主張できることにある。 〔黒木三郎〕

ネーデルラントがくは 【ネーデルラント楽派】 15〜16世紀に現在のベルギー・オランダを中心に活動した作曲家たちのグループ。しかし，その活動はネーデルラント地方を越えて行なわれ，またネーデルラント出身の作曲家も少ないので，最近の音楽史学ではむしろフランドル楽派として総括される傾向がある。➔フランドル楽派

ネーデルラントせんそう 【ネーデルラント戦争】 1667〜1668年，フランス国王ルイ14世*がネーデルラントに侵入して起こした戦争。スペイン王フェリペ4世の死後直系相続者がなかったので，ルイ14世は王妃マリア-テレジア(スペイン王女)の相続権を主張してネーデルラントに侵入した。当時オランダは交戦中であったイギリスと直ちに和睦(わぼく)し，スウェーデンと同盟してフランスを牽制(けんせい)した。その結果ルイ14世は占領地の大部分を放棄し，フランドルの一部を得て撤兵した。 〔喜多迅鷹〕

ねとり 【音取】 日本伝統音楽の用語。雅楽では，合奏を始めるまえに楽器の調子を調べる方法が定型化したもので，各楽器の音を出すこと。しかし，壱越調(いちこつちょう)・平調(ひょうじょう)というように調子ごとに楽器の出の順序や交替，旋律型などが決まっているので，今日では小楽曲のようにみなされている。また曲を始めるにあたって演奏者どうし，楽人と舞人，楽人と聞き手などの間でかわす儀礼的なあいさつの意味も含まれる。なお，能楽では，シテの登場を導くための特殊な演奏形態をさす。 〔山口　修〕

ねなしかずら 【根無葛】 双子葉植物・ヒルガオ科。野山にはえるつる性の一年生寄生植物。根は発芽時だけにあり，その後

は寄主植物にからみついて寄生根を出し，栄養分を奪って生長する。茎は黄赤色の針金状でよく分枝する。葉は退化して2㎜ぐらいのうろこ状。8～9月，花冠の長さ4㎜で，5浅裂する黄白色の小さな鐘状花を穂状につける。果実は長さ4㎜の卵状蒴果(さくか)で，熟すと横に割れる。近縁種にマメダオシがあり，マメ科植物やヤブカラシに寄生し，茎は細く赤みをおびる。果実は平たい球形で，種子は直径1.5㎜。両種とも種子を強壮薬に用いる。

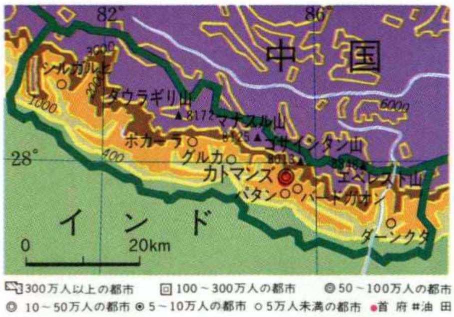
ネバ(川)　⇨ネワ川

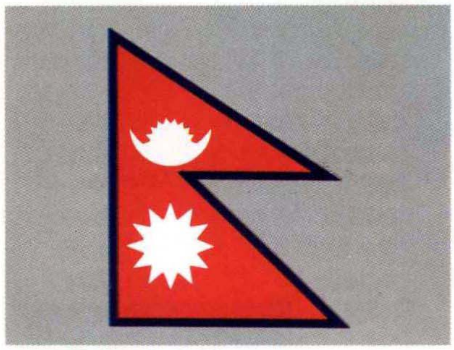
ネバダ(州)　[Nevada]　アメリカ合衆国西部，グレートベースン*(大盆地)を占める州。面積28万4,000km²，人口57万3,000(1974)。州都カーソンシチー。1864年10月31日にアメリカ合衆国36番めの州となる。州名は山の名から転化したもので，スペイン語で〈雪でおおわれた〉の意。グレートベースンは，東はロッキー山脈・ワサッチ山脈に接し，西はシエラネバダ山脈・カスケード山脈に境する非常に乾燥した地域である。人口はアメリカ合衆国でも少ない州の一。19世紀の後半に金・銀のラッシュで注目を浴び，現在は公認の賭博(とばく)場など高度に発達した娯楽とレクリエーション施設があり，離婚が容易にできる法律があるので有名。賭博場の収入は州の全収入の35%を占める。鉱産物は銅・鉛・亜鉛・水銀など。主要都市，ラスベガス。〔相村大彬〕

ネハーバンドのたたかい　【ネハーバンドの戦い】　614年，イスラム軍とササン朝ペルシア軍が，イランのネハーバンドで行なった決戦。この戦いに敗れたササン朝は滅亡し，一方イラン地方はしだいにイスラム化されるようになった。

ネパール　[Nepal]　インド北方，ヒマラヤ山脈中の王国。面積14万0,797km²，人口1,401万(1979年推計)。首都カトマンズ。

【自然・住民】北部は中国との国境をヒマラヤ山脈が東西に走り，世界最高峰のエベレスト山をはじめ8,000m以上の高峰が連なる。この南麓(なんろく)はいくつかの盆地が並ぶネパール谷で，首都カトマンズもここにあり，この国の文化の中心で，人口の密集地域となっている。ネパール谷の南にはヒマラヤの前山山脈である高さ2,000～2,500mのマハバーラト山脈が同じく東西に連なり，さらにその南麓に高さ100～200m程度のタライとよばれるヒンドスタン平原の一部が連なる。気候は亜熱帯的気候のタライから，温帯・冷温帯・亜寒帯，氷河をいただく寒帯へと，南から北へ行くにしたがって変化し，降水量も北へ行くほど少ない。住民も南から北へ，アーリア系のヒンズー教を信ずるインド系ネパール人から，モンゴル系でヒンズー教やラマ教を信ずるチベット系ネパール人へと変わっていき，それぞれが多くの部族に分かれていて，民族構成はきわめて複雑である。公用語はネパール語。





ネパールの国旗　1962年に制定され，憲法および付属書で作図法を定めている。月は王室を，太陽は宰相一家を表わし，両家の結びつきによる末長い繁栄の願いがこめられているという



ネパール　首都カトマンズの下町。建物が密集しており，広場では野菜の朝市が開かれている。木製の窓わくをもつ建物はこの地独特のもの

【歴史・政治】13～18世紀までモンゴル系のマアラ王朝が支配していたが，インドからアーリア系のグルカ族が侵入して全ネパールを統一，1769年に現在のグルカ王朝が成立した。しかし1816年イギリスの従属国となり，1846年イギリスの支援を受けて封建領主のラナ一族がクーデターによって実権を握ったが，1951年インドの支援によって王政が復活し，立憲君主制を敷いた。元首は国王。一院制の立法議会があった。1962年新憲法を制定，議会制を廃止，部落代表制を採用したが，立法権をもつ国王の権限が強い。対外的には最近インドから離れて，中国・ソ連への接近が目だつ。

【産業・経済】住民の90%以上が農業に従事し，タライでは米作が行なわれ，インドへ米を輸出している。ネパール谷では米のほか，小麦・トウモロコシ・ジャガイモ・シコクビエ(イネ科の一年生草本で，種子はおもに飼料にする)がつくられ，家畜では，ヤクのほか，ウシ・ウマ・ロバ・ラバ・ヤギ・ヒツジなどを飼う。工業は最近まで農産加工業だけであったが，中国・ソ連・アメリカ合衆国の援助によってセメントや木材などの工場が建設された。1975年から第5次5か年計画を実施中であるが，諸外国の援助にたよることが多い。貿易の90%はインドが相手であるが，つねに入超であり，ヒマラヤの観光と登山による外貨の獲得が国際収支の不足を補っている。

〔浅井得一〕

ネーバルおうどう　【ネーバル黄銅】　6-4黄銅の亜鉛1%をスズで置き換えて得られる銅60-亜鉛39-スズ1の合金。スズの添加は溶湯の流動性をよくし，かたさ・強さを増大するとともに耐食性を増す。耐海水性が大であるため，船舶用機械器具・コンデンサー管・コンデンサープレートなどに使用される。

ねはん　【涅槃】　仏教用語。梵語(ぼんご)nirvāṇa(ニルバーナ)の訳で，寂滅・滅度とも訳され，般涅槃(はつねはん)ともいう。ニルバーナとは火を吹き消したことをいい，ここから，すべての煩悩(ぼんのう)を消滅し，悟り*を完成した状態をいう。またブッダの死を入涅槃(にゅうねはん)・入滅という。アビダルマ*仏教では，涅槃は阿羅漢*(あらかん)の修行の最終目的とされ，有余依(うよえ)涅槃と無余依涅槃の2種が説かれる。前者は，煩悩がことごとく克服されたが，いまだ迷いの根源である肉体が残っている悟りをいう。後者は，煩悩のよりどころである肉体をも滅した完全な悟りをいう。大乗仏教では，涅槃は如来*(にょらい)の法身(→三身)であると考え，その特質として，永遠性(常)，絶対的な平安(楽)，空間的な無限性(我)，清浄性(浄)の四つが説かれる。また，大乗仏教の菩薩*(ぼさつ)の涅槃として，智恵(ちえ)と慈悲の心に基づいて，迷いと悟りの両者にとどまることなく，迷いの世界で活動する無住処涅槃が説かれる。ブッダ入滅の姿を図像化したものを涅槃図*，ブッダ入滅の日(2月15日)を追慕して行なう法会を涅槃会*という。

〔大南龍昇〕

ねはんえ　【涅槃会】　ブッダ*の入滅の日を記念して営まれる法会。北方仏教によれば，ブッダの入滅は2月15日とされるので，この日，涅槃図を掲げ，《仏遺教経(ぶつゆいきょうぎょう)》などを唱して法会を営む。南方仏教では，誕生・成道・入滅ともインド暦第2月の満月の日(陽暦で5月ごろ)とされ，この日，ウェーサカ*祭が催される。2月15日の涅槃会は中国で始まったものであろう。中国では梁(りょう)代以後行なわれ，これが日本にもたらされた。現在でも各宗で行なわれる。

〔岡部和雄〕

ねはんぎょう　【涅槃経】　仏教の経典。

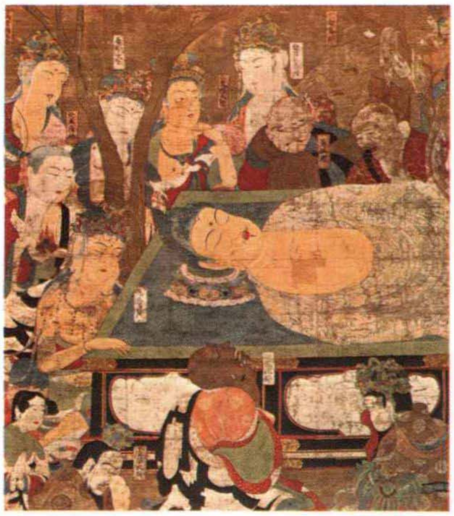
ブッダ入滅の際のようすやその教えを説いている。同類の経典が数種あるが，大別して5種の小乗の涅槃経と3種の大乗の涅槃経になる。前者はブッダの入滅の事実の記述を中心としたもので，法顕(ほっけん)訳の《大般(だいはつ)涅槃経》などがこれである。後者はブッダが入滅前に説いた教えを中心にしたもので，小乗涅槃経を発展させた内容をもち，曇無讖(どんむせん)訳の《大般涅槃経(北本涅槃)》や《南本涅槃経》である。またパーリ語の《大般涅槃経》もある。大乗の涅槃経の中心思想は，①如来はつねに実在する，②涅槃*(人間至高の理想)は永遠であり，苦しみがなく我執がなく，自由で清浄である，③生命あるものは，すべて仏になる可能性をもち，極悪人も仏になれる，という三つの教えにある。〔大南龍昇〕

ねはんしゅう【涅槃宗】《涅槃経*》を研究・講説する中国仏教の一学派。《涅槃経》は北涼の曇無讖*(どんむせん)によって漢訳されたが，その後江南の地で東晋(とうしん)の慧観(えかん)・慧厳が謝霊運らとともに再度訳出した。このために江南で《涅槃経》の研究が盛んになり，宋(そう)の慧静，斉(せい)の僧宗，梁(りょう)の宝亮(ほうりょう)・智蔵(ちぞう)らの涅槃学者が輩出し，注釈書も数多く著述された。宝亮の選述と伝わる《涅槃経集解》には，その時代までの代表的な涅槃学者の学説を収録してある。また慧観は頓漸五時教(とんぜんごじきょう)の教相判釈*を確立し，《涅槃経》を第五時常住教に配した。一方，華北でも，江南ほど盛んではなかったが，北魏(ほくぎ)の曇准，北斉の法上，隋(ずい)の慧遠*らによって《涅槃経》が講究された。南北朝時代に隆盛した涅槃学派も隋・唐代に至ると三論宗・天台宗・法相宗(ほっそうしゅう)・華厳宗(けごんしゅう)などの勢力におされて衰えた。日本では奈良時代に常修多羅宗(じょうしゅたらしゅう)として講究された。〔佐藤成順〕

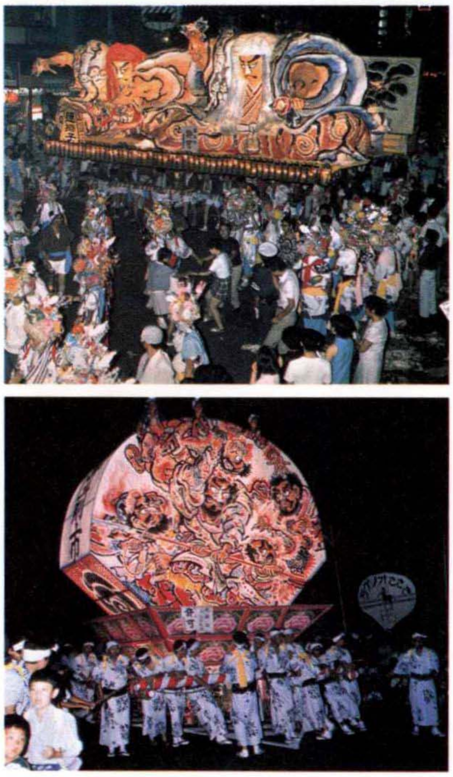
ねはんず【涅槃図】釈迦(しゃか)の臨終の情景を描いた図。横臥(おうが)する釈迦を囲んで多くの弟子(でし)や動物の悲嘆する光景を図し，天から下ってきた摩耶(まや)夫人の姿を添えるのが普通である。最古の遺品として，〈応徳三年銘〉の国宝《絹本著色仏涅槃図》(金剛峯寺(こんごうぶじ)蔵)の1幅が有名で，また諸寺に多くの作品を見ることもできる。なお彫刻では711年(和銅4)の法隆寺《塑像涅槃像》が最古の例である。

ネーピア［John Napier］(1550〜1617) イギリスの数学者。スコットランドのマーキストン城(現エジンバラ)の貴族の生まれ。占星術に通じ，対数*の発明者，小数記号の導入者として知られる。1614年《みごとな対数法則の記述》を発表。のちブリッグズと協力して10を底とする常用対数表を作成した。また，火器・戦車・潜水艦など種々の兵器を発明。また熱心な新教徒でローマ教会に激しく反抗した。

ねびきのまつ【根曳の松】箏曲(そうきょく)の曲名。元来は三橋勾当(こうとう)作曲，松本一翁作詞の上方の地歌であったものを，のちに峰崎勾当が箏曲用になおしたもので，今日では箏曲として高い評価を与えられている。伊勢の叙景で始まり，神楽・笛竹・琴など品のよい歌詞をもって春を祝うもの。



涅槃図《仏涅槃図》金剛峯寺蔵



ねぶた　津軽の夏の夜を色彩豊かなねぶたが20〜30台と連なるさまは豪華である。(上)青森の組みねぶた〈はねと〉と見物客とがいっしょに踊っている　(下)弘前の扇ねぶた　武者絵は葛飾派の流れをくむという

ネブカドネザル(2世)［Nebukadnezar］(?〜BC562) 新バビロニア王国第2代の王。在位BC604〜BC562年。バビロニアの最盛期をもたらした。初代ナボポラッサルの皇太子としてアッシリアを滅ぼし，即位後はシリア・パレスチナに進出，エジプト軍を破ってシリアを確保し，さらにBC586年にはエルサレムを占領，破壊し，ユダヤ人の大部分をバビロニアに強制移住させ(→バビロン捕囚)，ユダ王国を滅ぼした。こうしてオリエントの通商路であるシリア・パレスチナの確保には成功したが，両地方の反乱を援助したエジプトへの遠征には失敗した。長い治世の後半は内政に意を注ぎ，官制を整え，灌漑(かんがい)事業を整備拡充し，大規模な建築活動を営んだ。特に首都バビロンは，マルドゥク神殿，七層の聖塔ジッグラト(バベルの塔)，〈吊(つ)り庭園〉などが建造されて面目を一新した。また天文学など学芸を保護し，古い楔形文字(くさびがたもじ)粘土板を集め書写させて保存するなど，〈ルネサンス〉ともよばれる繁栄時代を現出し，バビロンは当時のオリエント世界の中心となった。〔屋形禎亮〕

ねぶた【佞武多】青森県津軽地方で，旧暦7月1〜7日(現在は8月3〜7日)に行なわれる行事。弘前(ひろさき)・青森の両市のものが特に有名で，弘前ではねぷたという。ねぶたは，木のわくや竹組み人形などに和紙を張り，絵を描いたり彩色したりしたものを，車に載せて内部に燈(ひ)をともし，笛・太鼓・鉦(かね)などではやしながらねり歩く。弘前では，おもに扇ねぶた(扇形のとうろうで，前面に武者絵，後面の窓絵(見送り絵)には決まって美人画を描き，それを引き子(子ども)たちが引き勇壮な囃(はやし)に掛け声を唱和しながら運行するもので，青森に比べて古い形をのこしている。青森では，おもに組みねぶた(割り竹で人形組みすることによりこの名があり，人形は歴史上の事件を中心に何人かの人物を構成するもの)で，それを花笠(はながさ)をかぶり仮装したはねと(踊り手)がにぎやかなはやしではね踊りながら運行する。ほかに飾りやちょうちんがわりにする小形の金魚ねぶたがある。ねぶたの最終日を〈七日日(なぬかび)〉〈流しこ〉といい，早朝，人目につかぬようにねぶたを水辺(川や海)に運んで洗い流して清め，人々も沐浴(もくよく)する。ねぶたは七夕*(たなばた)送りの民俗行事の一つであり，さまざまな災厄をねぶた(睡魔)によって代表したもので，祓(はら)いのための形代*(かたしろ)を流す行事が発達したものと考えられる。〔直江広治〕

ネプチューン［Neptune］古代ローマの神。ラテン名ネプトゥヌス。イタリアにおける本来の性格は不明であるが，水との関係が推測される。ローマ神話では海神で，ギリシア神話のポセイドン*と同一視される。

ネプツニウム［neptunium］周期律表第Ⅲ族のアクチニド元素の一。記号Np，原子番号93，原子量237.0482。1940年に発見され，海王星の名にちなんで命名された。人工放射性元素で，ウランの核反応によって得られるが，ウラン鉱石中にも微量存在

する。銀白色の金属で，融点640℃，比重α型20.45(25℃)，50℃で酸素・水素と反応する。

ネフド(砂漠) ［Nafud］ サウジアラビアの北部にある砂漠(さばく)。北西はヨルダン，北東はイラクにまで延びる。いまだに探検が全域に及んでいない。海抜高度は500〜1,000mで，一般に赤色の砂からなるバルハン型砂丘が連なり，部分的にワジ(涸(かれ)川)が見られる。降水量はきわめて少なく，植生もほとんどない。

ネブラスカ(州) ［Nebraska］ アメリカ合衆国中部，グレートプレーンズ*(大平原)にある州。面積19万8,000km²，人口154万3,000(1974)。州都リンカーン。1867年3月1日にアメリカ合衆国37番めの州となる。州名はオマハ-インディアン語で〈平たい〉の意で，プラット川をさしたもの。西部はロッキー山脈の山麓(さんろく)をなす台地で，草原には家畜の群れが見られ，東部の平地は東境のミシシッピ川にゆるく傾斜して，トウモロコシ・ライ麦などの栽培地になっている。農業が主産業で，その生産額の3分の2は牧畜生産が占めている。石油・天然ガスの生産も多いが，近年は低下の傾向にある。工業は精肉かんづめ・食品加工・化学肥料などの工業が近年盛んになった。主要都市オマハ・リンカーン。〔相村大彬〕

ネフローゼ ［Nephrose］ 腎臓症(じんぞうしょう)ともいう。腎臓の糸球体(→腎小体)・尿細管*の疾患。強度のむくみ，著名な蛋白(たんぱく)尿*がみられ，また血球中のタンパク質が減少し，コレステロール*の含有量が異常に高くなる。このような症状をネフローゼ症候群という。ジフテリア・腸チフス・細菌性肺炎などの急性伝染病，昇汞(しょうこう)その他の水銀剤，サルバルサンなどによる中毒の際，尿にタンパク質がみられる程度の軽いものを軽症急性ネフローゼといい，不適合血液の輸血，やけど・糖尿病・バセドー病・妊娠中毒症などの新陳代謝毒による症状の重いものを重症ネフローゼという。また，慢性感染症・慢性消耗性疾患に続いて肝臓や脾臓(ひぞう)が腫大(しゅだい)し，典型的な腎臓症の症候を呈するものを類殿粉腎という。さらに，慢性の経過をとり，しかも小児や若年者に多発するものをリポイド-ネフローゼという。近年この疾患の大部分は，糸球体腎炎に由来するといわれている。一般に絶対安静・食餌(しょくじ)療法のほか，利尿剤や副腎皮質ホルモン*の投与によって治療し，余病併発を予防することがたいせつである。〔佐藤恒久〕

ねまき 【寝巻】 寝間着(ねまき)・寝衣ともいう。夜寝るときに着る和服。古くは日常着から分化せず，日常着の下着で寝ていたが，公家(くげ)・上級武士階層から分化しはじめたと思われる。徳川綱吉(つなよし)所用のものは，長着のくけえりをおくみの褄先(つまさき)まで縫いつけた特殊な形をしており，香色(白茶色)で，表布は平絹，裏布は縮緬(ちりめん)を用い，真綿を厚く入れてある。表布はすべりがよく寝返りに適し，裏布はからだによく巻きつく地合いである。一般にはゆかた・丹前・どてらなどが使われ，近代も同様である。形は長着であるが，用布は分化して，ゆかた地・白格子(しろこうし)綿布・タオル・綿ネルのひとえやガーゼのあわせ仕立てなど，ミシン仕立ての既成品が使われる。男女ともに対たけで，女子用は元禄袖(げんろくそで)，男子用は筒袖で，帯は共布の幅5cm内外のひも状が多い。〔堀越すみ〕



ネミロビチ-ダンチェンコ



ネ ム ノ キ

ネマトーダ ⇒線虫類

ネミロビチ-ダンチェンコ ［Vladimir Ivanovich Nemirovich-Danchenko］(1858〜1943) ソ連の劇作家兼演出家。帝政ロシアの時代モスクワ大学在学中に18歳で劇評を書き，当時の沈滞した劇界に新風を送った。その後小説・戯曲などに筆をとったが，特に1890年代に書いた戯曲によって劇壇に不動の地位を築いた。1897年にはスタニスラフスキー*と出会い，翌年モスクワ芸術座*を創立，チェーホフ*・ゴーリキー*・イプセン*・ハウプトマン*らの作品を上演して，近代劇に新時代を開いた。ロシア革命*後もスタニスラフスキーとともにソ連の現代作家の作品，あるいはロシアの古典を，新しい演出によって紹介し，また，多くの若い俳優や演出家を育てた功績は大きい。

ねむのき 【合歓・夜合樹】 双子葉植物・マメ科。山野に普通にみられる落葉高木で，高さ10m前後になる。葉は偶数2回羽状複葉で長さ20〜30cm，5〜15対の羽片を対生させる。各羽片は16〜29対の小葉が対生する。小葉は無柄で長さ1cmほど，縁に毛がある。小葉は就眠運動を行ない，夜に閉じる。葉柄基部に円盤形の蜜腺(みつせん)が1対ある。6〜7月，小枝の先に淡紅色の花が多数集まって頭状につく。おしべは多数で花糸は4cmほどもあり，紅色で美しい。花は夕方開く。豆果は平たく，長さ7〜10cmで，中に10個余りのかっ色の平たい種子を入れる。庭木として植えられ，材は家具・箱材などに用いる。

ねむれるもりのびじょ 【眠れる森の美女】 チャイコフスキー*作曲の3幕のバレエ。フランスの童話作家ペロー*の童話からマリウス-プティパが台本をつくり，プティパの振り付けで1890年1月にペテルブルグのマリンスキー劇場で初演された。《白鳥の湖》《くるみ割り人形》とともにチャイコフスキーの三大バレエといわれる。演奏会用の組曲は次の5曲からなる。①序奏とリラの精，②アダージョ-パ-ダクション，③パ-ド-カラクテール，④パノラマ，⑤ワルツ。〔向坂正久〕

ねむろ 【根室(市)】 北海道東端の市。人口43,000。1869年(明治2)北海道開拓使役所の開設以来，花咲郡の行政の中心地となり，千島・知床(しれとこ)方面への航路が開かれると，物資の輸送基地，海産物の集散地として繁栄した。1957年(昭和32)根室郡根室町と和田村が合併して市制施行。1959年には花咲郡歯舞(はぼまい)村を編入した。地名はアイヌ語のニムオロ〈樹林〉の意にちなむ。市域はゆるやかな起伏の段丘性台地が広がる根室半島*全域を占める。中心集落のもと根室町は，根室港に面する北西岸中央部に格子(こうし)状の街路網をもち，段丘面に官庁・学校地区，海岸沿いに商工業地区があり，前面に浮かぶ弁天島と東側に突出したベニケムイ岬(みさき)の間に根室港をいだく。産業三大別人口比は31：23：46。水産業が盛んで，根室港はカニ漁業，南方の花咲港は北洋漁業の基地となり，歯舞地区では沿岸のコンブを採取する。水産加工業も発達し，カニのかんづめは海外に輸出される。根室本線・国道44号線(根釧(こんせん)国道)が通じ，航路は根室港が結氷するため，冬季は花咲港が中心となり，市街地と約5kmの産業道路で結ばれる。先端の納沙布(のさっぷ)岬は日本最東端にあたり，北方領土の歯舞諸島が珸瑤瑁(ごようまい)海峡を隔てて視野のうちにある。西方にはハクチョウの飛来で名高い風蓮湖(ふうれんこ)があり，周辺一帯は野付風蓮道立自然公園に指定されている。〔浅井得一〕

ねむろかいきょう 【根室海峡】 北海道東部，知床(しれとこ)半島と根室半島にはさまれた海域と，国後(くなしり)島との間の海峡。北は知床岬(みさき)と国後島ルルイ岬の間70km，南は納沙布(のさっぷ)岬と国後島ケラムイ崎の間35kmをそれぞれ湾口とし，北はオホーツク海，南は納沙布岬と水晶島との間の珸瑤瑁(ごようまい)海峡で太平洋に連なる。中央部は野付半島野付崎と国後島の間14kmにせばまり，この部分を野付水道とよぶ。野付水道では水深が最も浅く5〜10mで，大形船舶通航の

障害となる。南部の水深は20～30mであるが，北部の知床半島・国後島間は急深で2,400mに達する。冬はオホーツク海の影響で流氷群に閉ざされるが，夏には北部で羅臼(らうす)を基地とするスケトウダラ・スルメイカなどの漁獲がある。〔山口恵一郎〕

ねむろしちょう【根室支庁】 北海道の支庁の一。道の東端，根室海峡*に沿って南北に長く伸びる地区で，南は太平洋に面する。野付・標津(しべつ)・目梨(めなし)の3郡に分かれ，羅臼(らうす)・標津・中標津・別海の4町がある。面積3,002km^2，人口56,000。支庁舎所在地は根室市。管内には高さ100m内外の根釧(こんせん)台地が広がり，北部の知床(しれとこ)半島に千島火山帯に属する山岳部がある。内陸部では農林業，沿海部では漁業が基幹産業である。農業は酪農が主体で乳牛約32,000頭を飼育し，漁業は知床半島東岸の羅臼港を基地として，スルメイカ・スケトウダラ・カニ・サンマなどの水揚げが多く，コンブの採取も盛んである。近代工業は未発達で，製材工場や乳製品・水産かんづめなどの食料品工場がみられるにすぎない。北部に知床国立公園，南部に野付風蓮(ふうれん)道立自然公園がある。

ねむろはんとう【根室半島】 北海道最東端の半島で，根室市に属する。花咲半島ともよばれ，かつては納沙布(のさっぷ)半島ともいった。約40mの高位面と30m以下の低位面との台地からなり，河川や海岸に沿っては沖積地(ちゅうせきち)が発達し，温根沼・南部沼などの残留湖沼があり，湿地帯をなしている。海岸線は出入りが激しく，多くの岩礁が散在し，落石岬(みさき)・花咲岬・納沙布岬などが突出する。南岸近くにユルリ・モユルリなどの小島がある。半島は夏のガス(海霧)のために，一部で酪農が行なわれているのみで農業は不振である。海岸一帯は水産資源が豊かで，漁港としては北岸に根室港，南岸に歯舞(はぼまい)・花咲の2港がある。

ねむろほんせん【根室本線】 滝川～根室間の国鉄路線。営業キロ数446.8。ほかに釧路(くしろ)～浜釧路間など貨物支線3本(6.5km)がある。1900～1921年(明治33～大正10)開業。函館(はこだて)本線から分岐して帯広・釧路などの都市を結び，北海道東部を縦貫する幹線鉄道。日高山脈を横断して狩勝(かりかち)峠を越える落合～新得間の急勾配(こうばい)区間は，1966年(昭和41)新狩勝トンネル(5,790m)経由による別線に切り替えられた。

ネーメット［Németh Lázló］(1901～1975) ハンガリーの作家。小説・戯曲・評論・翻訳など多面的な活動を通じて，1930年代以後，ハンガリーの知識層に大きな影響を与えた。初期の代表作に小説《罪》があり，第2次世界大戦後は，《怖れ》《エーゲテー-エステル》などによって，今日のハンガリー文壇の第一人者の地位を確立した。

ねやがわ【寝屋川(市)】 大阪府北東部の市。人口25万4,000。開発の歴史は古く，縄文(じょうもん)式や弥生(やよい)式の土器が多く出土し，古墳も多く，仁徳(にんとく)天皇の茨田堤(まんだのつつみ)，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の文禄堤(ぶんろくつつみ)など，地域開発と関係の深い輪中形態もみられる。1951年(昭和26)市制施行。河内(かわち)平野の北部を占め，東の枚方(ひらかた)丘陵と西の淀(よど)川の沖積地(ちゅうせきち)に二分される。産業三大別人口比は1：41：58。かつては低地に水田・レンコン田が多かったが，1910年(明治43)京阪(けいはん)電鉄の開通後は大阪市東郊の住宅地として発展し，枚方丘陵西部には香里園などの高級住宅地帯がある。最近の人口増加は著しく，1965～1970年の増加率は82%，1970～75年のそれは22.9%である。紡績・工作機械・自転車などの近代工業も盛んで，国道1号線沿いに工場群が立ち並び，大阪東縁工業地帯として発展している。



根室半島　西側上空から望んだ半島の先端部。納沙布岬の向こうに，歯舞諸島の島々が見える。左手の近い島は水晶島



ネルー

ねやど【寝宿】 成年期に達した男女が，婚姻するまであるいはそれ以後も寝泊まりする共同の宿舎。西南日本の漁村に多く，嫁方にあるもの，婿方にあるもの，双方から独立した宿舎であるものがある。寝宿から生ずる婚姻は若者組*・娘組*など年齢集団*の創意が強く，家長権の関与が弱かったが，強力な父権を基礎とする家族制の確立する過程でしだいに衰微し，明治時代以降は出かせぎのための青年の他出，夜なべ仕事の衰退などでしだいに減少した。〔渡辺欣雄〕

ねりぬき【練緯】 経(たて)に生糸，緯に練糸を用いて，平組織に織り上げた絹織物。経を粗に，緯を密にして絹の光沢と柔軟さを求めた地風に特色がある。室町時代中期から江戸時代初期にかけて，最も需要が多く，応仁(おうにん)の乱後に，京都白雲村で機業を始めた人々は，練緯を主力に織っていたところから練緯家とよばれていた。遺品によっても，室町末，桃山期の縫箔(ぬいはく)や辻(つじ)ケ花染の小袖(こそで)にはほとんどすべて練緯が生地として用いられている。

ねりま【練馬(区)】 東京都23特別区の一つで北西部にあり，北は埼玉県，西は保谷(ほうや)市，東は板橋・豊島(としま)，南は杉並(すぎなみ)・中野の各区と接する。1947年(昭和22)板橋区の南西部が分離独立して成立。面積47km^2，人口55万3,000。人口密度は1km^2あたり11,766人。1965～1970年の人口増加数93,000，増加率は21%で23区中最大であったが，増加の勢いは23区全体の傾向に応じて，最近だいぶ鈍っており，1970～75年の増加率は6.0%で，足立(あだち)区の6.5%に次いで第2位に落ちている。武蔵野(むさしの)台地東部と縁辺にあり，中央部やや南寄りに石神井(しゃくじい)川が東西に延びる谷を刻み，流域に三宝寺池・石神井池がある。西部の台地上では近郊野菜やシバなどがつくられ，練馬ダイコンの原産地として知られる。北西部には白子川の谷が刻まれて水田地帯が残る。西武鉄道池袋線が中央部をほぼ東西に通じ，同新宿線は南部を走って，両線の沿線地区は池袋・新宿の後背住宅地域を形成。西武池袋線の江古田駅周辺には武蔵大学・武蔵野音楽大学・日本大学(芸術学部)があり，その他の地区にも学校施設が多い。西武池袋線の沿線には豊島園や石神井公園などの行楽地がある。区域中央部を目白通り，東端を環状7号線が南北に縦断し，北端を川越街道，南端を青梅(おうめ)街道が東西に走る。中央北部から板橋区にかけてアメリカ駐留軍の成増住宅地〈グラントハイツ〉があったが，1973年に返還が完了し，その跡は公園と住宅地となる予定で，公園はすでに工事中である。〔浅井得一〕

ネル ⇨フランネル

ネルー［Pandit Jawaharlar Nehru］(1889～1964) インドの政治家・思想家。

民族独立運動の指導者。アラハバードのバラモンの名家に生まれた。16歳でイギリスに留学し，帰国後ガンジー*に従い反英非協力運動に挺身(ていしん)，また国民会議派議長に選出された。第2次世界大戦後の1947年インド連邦の初代首相兼外相に就任し，1952年非同盟政策を展開し，1954年中国の周恩来首相と〈平和五原則〉を内外に声明し，国内的には社会主義型社会建設の構想を打ち出した。1964年5月ニューデリーで死去。著書に《父が子に語る世界史》《自叙伝》《インドの発見》などがある。〔山折哲雄〕

ネルソン [Horatio Nelson] (1758〜1805) イギリスの軍人。1770年に海軍に入り，1793年地中海域に勤務，1794年フランス革命戦争に従軍，戦傷で右眼を失明した。1797年セント-ビンセント沖海戦で殊勲をたて，その間戦闘で右腕を失う。1798年ナポレオンのエジプト遠征のフランス艦隊をアブキール湾の戦い*で破り，1803年地中海艦隊司令長官としてフランス艦隊を追い，1805年トラファルガルの海戦*でフランス・スペイン連合艦隊を撃滅したが，〈余は義務を果たせり〉の語を残して戦死した。〔松下京子〕



ネルソン ナショナル-ポートレート-ギャラリー蔵



ネロ

ネルダ [Jan Neruda] (1834〜1891) 19世紀後半のチェコスロバキア最大の詩人・散文作家・ジャーナリスト。プラハの小地区マラー-ストラナに生まれ，幼年からの経験で人間社会にさまざまな階層の存在することを知り，そこから民族的・民主的な社会観を育てた。数多くの新聞・雑誌を編集し，2,000をこえる短文を書いた。散文の代表作は短編集《マラー-ストラナ》で，小市民の生活を鋭くユーモラスに描いている。詩集では《宇宙詩集》《バラーダとロマンス》《金曜日の歌》などが代表作である。〔千野栄一〕

ネルダ [Pablo Neruda] (1904〜1973) チリの詩人・外交官。本名はネフタリ-リカルド-レイエス。〈近代派〉の影響下に出発し，感覚的な愛の告白《20の愛の詩と一つの絶望の歌》で独自の詩境を展開，《無限の人間の試み》から《地上の住処(すみか)》では自由奔放な語法と難解な詩句を用いる作風へと変わった。1944年共産党へ入党。《第三の住処》では社会性を強く示し，政治活動にも力を入れる一方，《基本的なオード》など詩作も続けている。1971年ノーベル文学賞受賞。〔牛島信明〕

ネルチンスクじょうやく [ネルチンスク条約] 1689年ロシアと清(しん)との間に結ばれた条約。17世紀中葉からロシアのシベリア経略が進み，アムール川流域で清朝の勢力と衝突したので，この条約によりアルグン川と外興安嶺(れい)(スタノボイ山脈)とをもって両国の国境と定めた。この結果ロシアはアムール川流域から撤退した。しかし，その後愛琿(あいぐん)条約*によりアムール川以北，北京(ペキン)条約*によりウスリー川以東がそれぞれロシア領となり，現在の国境線となった。〔若松　寛〕

ネルバ [Marcus Cocceius Nerva] (30〜98) ローマ皇帝。在位96〜98年。五賢帝の一人。ドミチアヌス帝が暗殺されたのち，元老院に推されて即位。人物温厚で，国費を投じて救貧制度を設け，水道橋を建設するなど善政を行なった。晩年養子のトラヤヌス*を後継者として行政・軍事の実権をゆだねた。

ネルバル [Gérard de Nerval] (1808〜1855) フランスの詩人・小説家。ゲーテの《ファウスト》の名訳によって文壇に出て，ロマン派の運動に参加。たび重なる発狂の合い間を縫って，幻想的・神秘的な作品を書いたが，ついに縊死(いし)した。小説《火の娘》《オーレリア》，詩集《幻想詩編》など，その真価はむしろ20世紀になって認められ，象徴主義*・シュルレアリスム*の詩人たちに深い影響を与えた。

ネルンスト [Hermann Walter Nernst] (1864〜1941) ドイツの物理化学者。ブリーセンの生まれ。チューリヒ・ベルリン各大学に学んだのち，ゲッチンゲン・ベルリン大学教授を歴任。1889年電離溶圧の考えを提唱，また溶解度積の概念を導入した。1906年絶対0度のエントロピーに関して熱定理をたて，物理化学の基礎を確立し，熱化学上に多くの業績を残した。1920年ノーベル化学賞を受賞。

ネロ [Nero Claudius Caesar Augustus Germanicus] (37〜68) 第5代のローマ皇帝。在位54〜68年。アウグストゥス*の娘で艶名(えんめい)の高かったユリアの孫娘アグリッピナを母とし，その最初の夫を父として生まれた。アグリッピナは，皇帝クラウディウスの姪(めい)であったが，叔父(おじ)と姪の結婚は法律で禁じられていたので，法律改正をしたうえで，クラウディウスの4人めの妃となった。その後彼女は連れ子のネロを帝位につけようとして，54年宴席で夫を毒殺し，翌日親衛隊に命じてネロを皇帝に推挙させた。ネロは即位後数年は，哲学者セネカ*や親衛隊長ブルスの意見をいれて政治に精を出し，解放奴隷を重用し売官の弊習をなくすなど善政を敷いた。ネロが母アグリッピナを遠ざけると彼女はクラウディウスと先妻メッサリナとの間のむすこブリタンクスに接近したので，ネロは暴虐の性格を現わしブリタンクスを毒殺した。53年ネロは同じくクラウディウスの先妻の娘オクタビアと結婚したが，さらに親友オトーの妻ポッパイアと結婚しようとし，母アグリッピナに反対されたため彼女を謀殺(59)，オクタビアをも殺害してポッパイアと結婚した(62)。こうした血生臭い家庭惨劇を重ねる一方，ネロはギリシアの体育・芸術に心酔して琴を手にして舞台に立って自作の詩を歌い，またデルフォイの競技にみずから参加するなどして，政治は人任せとなった。64年，ローマ市の大火に際して焼け跡を美しく復興させたが，そのためにかえって放火の疑いをかけられた。一説によるとこのとき放火の疑いを晴らすため，キリスト教徒を捕えて放火の罪を着せ，処刑したという。翌年，元老院議員ピソー派の陰謀が発覚し，セネカをはじめ多くの有名人がこれに連座して処刑された。このような恐怖政治が続いたため，ガリア・スペイン・ゲルマニアではそれぞれ出先の部将が軍隊によって皇帝に推挙され反乱を起こした。こうしてネロはすべての人に見捨てられ，ついに自殺した。〔弓削　達〕

ネロリゆ [ネロリ油] 橙花油ともいう。ミカン科に属するダイダイなどの新鮮な花を蒸留して得られる香油。主産地は南フランスとスペイン。無色で特有の苦味を有し，空気や日光によって変質されやすい。香水・オーデコロンなどの製造に広く用いられる。

ネワ(川) [Neva] ソ連北西部，レニングラード地方にある川。ネバ川ともいう。長さ74km，流域面積28万2,000km²。ラドガ湖のおもな排水河川の一つで，同湖西岸から西流し，レニングラード市を経て北海のフィンランド湾にはいる。レニングラードはこの川のデルタの最上流部に位置する。ボルガ川や白海とは運河で結ばれ，11月末から4月末までの凍結期間を除く7か月が航行可能。

ネワーイ [Mīr alī shīr Navōī] (1441〜1501) チムール朝の政治家。帝国末期の困難な時代に宰相として君主フサイン-バーイカラーを補佐した。そのかたわら，ウズベク語による《詩集(ディーワーン)》など

を著わし，ウズベク文学の祖となった。ほかに，ペルシア語による作品も多く残している。

ねんえきしつ　【粘液質】 ⇨気質

ねんえきすいしゅ　【粘液水腫】 ⇨甲状腺(こうじょうせん)機能低下症

ねんがゆうびん　【年賀郵便】 正式には年賀特別郵便とよばれる。年内の一定期間内(12月15日～12月28日)に差し出された年賀状に，原則として翌年1月1日付の通信日付印を押して(官製はがきの場合は省略することがある)，翌年1月1日の最先便から配達する。年賀状の沿革は，1873年(明治6)官製はがきが発行されたことにより，年頭のあいさつとしてはがきを利用する風潮がはじめで，1906年に現在のような取り扱い制度が規定された。その後年々年賀状の利用は増加の傾向をたどった。しかし，1940年(昭和15)から一時中断，1948年から復活された。特に1949年に発売されたお年玉つき年賀はがきは人気を呼び，以後その利用は増加の一途をたどっている。年賀特別郵便物とすることのできる郵便物は，年賀状とする通常はがき・盲人用点字郵便物などである。　〔高橋譲二〕

ねんかん　【年官】 ⇨年給

ねんかん　【年鑑】 逐年刊行物の一。1年間のできごと・傾向・記録などをまとめ，必要に応じて統計的データなどを用いてその1年を回顧・解説したもの。その内容からみて，①国内・国外のあらゆる分野を対象として収録した総合年鑑，②特定分野を対象とした専門年鑑，③1年間の統計的データを主とした年鑑，④百科事典の補遺として出版される年鑑，などに分かれる。外国ではイギリスの《ステーツマンズ-イアー-ブック》(1864年創刊)，アメリカの《ワールド-アルマナック》(1868年創刊)などが有名。このように年鑑は，さまざまな分野の新しいできごとをはじめ，多くの情報を得るのに役だつので，百科事典と併用するといっそう効果的である。なお，年鑑には書名に表示された年の前年を対象としたもの，その年の途中までを対象としたもの，その年の終わりまでを対象としたものなど，収録期間の異なるものがあるから使用上注意が必要である。　〔北島武彦〕

ねんかんるい　【粘管類】 ⇨トビムシ

ねんきぼうこう　【年季奉公】 一定の年限を定めて奉公する主従的な労働関係。年切奉公，出替奉公ともいう。中世の永代身売りや身分的な永代奉公・譜代奉公を起源とするもので，江戸時代に一般化した。初期の年季奉公には年季を限っての身売り奉公，小作料や借金を相殺するための居消質(いげしじち)奉公などが多かったが，やがてこれは給金前借形式の年季奉公へと発展した。商人や職人の従弟制度における年季奉公もあったが，これは技術習得などを目的とする特殊なものであった。何年か勤めたあと，主家の援助でのれん*分けによって独立の機会を得た例もある。中期以降には給金目あての奉公形式に発展して明治・大正期まで存続した。➔奉公

ねんきゅう　【年給】 平安時代から室町時代にかけて行なわれた売官の一種。毎年もしくは一定の周期で朝廷から任官者・叙位者を申請する権利を与えられた特定の個人(給主)が，任叙者の俸禄(ほうろく)，あるいは任料・叙料などを取って収入とする制度。すなわち任叙した某人は名のみを得て収入はない。官職を給することを年官，位階*を給することを年爵といった。年官の給主は天皇・上皇・皇族・公卿(くぎょう)などで，その対象は諸国の掾(じょう)・目(さかん)・史生などが多く，年爵は栄爵とよばれた従五位以下があてられ，上皇・女院などが給主となった。年官は春の除目*(じもく)に，年爵は秋の除目において任叙された。皇族の経済救済のために始まったこの制度は，売官・売位を促し，やがて綱紀の退廃，地方政治の荒廃の要因となった。

ねんきんせいど　【年金制度】 老齢・退職・廃疾あるいは家計支持者死亡によって所得の相当部分が永続的に喪失した場合，年金による所得保障を行なって生活の安定を図ることを目的とする社会保障*制度。私的年金制度と公的年金制度に分けられる。私的年金制度は，民間の私企業が年金支給の主体で，私企業自身あるいは私企業から委託を受けた信託会社・生命保険会社によって運営されるものである。公的年金制度は，国や地方自治体などのような公共機関が年金支給の主体で，国や地方自治体自身，あるいは法令によって設立された共済組合*によって運営されているものであり，被用者対象の厚生年金保険*・船員保険*，特殊職域にある公務員(国家・地方)・公共企業体および私立学校職員や農林および漁業団体職員などを対象とする各種共済組合，一般国民を対象とする国民年金*がある。これら年金制度の大部分は社会保険*方式によるもので，年金費用の一部分を加入者に負担させる拠出制によっているが，国民年金制度は例外的に福祉年金として無拠出制のしくみをとっている。制度上の問題としては，核家族化の進行や人口老齢化現象に伴い，老齢退職年金などの給付の充実が迫られており，また，それぞれ給付水準・給付条件が異なるため，その統合と体系的確立が望まれている。　〔松島　浄〕

ねんきんふくしじぎょうだん　【年金福祉事業団】 厚生年金保険や国民年金などの積立金の一部を借りて，各種の社会福祉施設の設置や整備のための資金を貸し付ける団体。1961年(昭和36)設立。貸し付けの対象は厚生年金や船員保険の適用される事業所の事業主・被保険者団体・事業団体・社会福祉法人などで，これらが住宅・病院・休養施設・老人ホームなどを建設する場合に貸し付けを受けることができる。

ねんきんほけん　【年金保険】 生命保険*で，保険金を受取人の生存するかぎり，一定期日ごとに分割払いするしくみの保険。したがってそれは生存保険の一種であるとされる。近年，人の平均寿命は延びる傾向にあるので，老年に達して退職したり仕事をやめたりした場合，余生の経済的保障を得るために年金保険を活用する人が増加しつつある。年金保険には個人が自分自身のために個別の年金保険に加入する個人年金，企業が退職者に対して年金を提供する企業年金*，国家が国民の老後の最低生活を保障するために実施する社会保険の一つとしての年金などの三つがある。前二者を私的年金保険といい，後者を公的年金保険という。わが国の社会保険としての公的年金保険には，被雇用者のためのものに厚生年金保険*・船員保険*・国家公務員共済組合・公共企業体職員等共済組合・地方公務員共済組合・私立学校教職員共済組合・農林漁業団体役職員共済組合など，一般国民を対象とするものに国民年金*制度がある。〔庭田範秋〕

ねんきんるい　【粘菌類】 ⇨変形菌類

ねんぐ　【年貢】 荘園*(しょうえん)領主・封建諸侯などがその領民から収取した農業生産物。年々の貢租を意味する。平安・鎌倉時代までは所当・乃貢(のうぐ)・乃米・土貢などともよばれ，一般に年貢とよばれるようになったのは室町時代からである。米納が中心であったが(➔斗代)，他の農産物の場合も多く，室町時代には貫高による銭納が行なわれた。公事*(くじ)とは区別して労役は含まれない。江戸時代には田は米納，畑は金納が原則となり，賦課率も定められ，幕藩体制維持の根幹として取り立ては厳重をきわめた。明治維新後，地租改正*とともに新制度に移行し，その後は小作料を俗称して年貢とよぶようになった。➔物成　〔高崎徳次〕

ねんぐん　【捻軍】 中国で，19世紀中ごろ，河南・安徽(あんき)・山東を中心として起きた農民暴動。捻匪(ねんぴ)ともいう。太平天国*・イスラム教徒・白蓮(びゃくれん)教徒と密接に連係して清(しん)軍を悩ませたが，曾国藩(そうこくはん)・李鴻章(りこうしょう)に敗れて東西に分裂。東捻は1866年に，西捻は1868年に滅んだ。

ねんけつたん　【粘結炭】 ⇨石炭

ねんごう　【年号】 ⇨紀元

ねんこうさ　【年較差】 ⇨較差

ねんこうじょれつがたちんぎん　【年功序列型賃金】 学歴別の初任給を基礎として，あとは勤続年数・年齢によって上昇していく賃金形態で，日本独特の制度である。生活費の増加，永年勤続による企業意識の高揚，熟練の定着などから広く行なわれてきたが，最近は技術革新の結果，職務給*・職能給*へ移行しつつある。

ねんざ　【捻挫】 関節が外力によって生理的関節運動の範囲以上に強制的に動かさ

れ，関節嚢(かんせつのう)・靱帯(じんたい)・血管などに損傷を起こした状態。関節面はもとにもどり，骨折*や脱臼*(だっきゅう)は起こらない。足・ひざ・指・肩・股関節(こかんせつ)に起こり，疼痛(とうつう)，関節の腫脹(しゅちょう)，血腫形成などの症状がある。治療は安静固定が最もたいせつで，はじめは冷湿布，少し経過したら温湿布を施す。消炎酵素剤を併用すると腫脹が早く消退する。〔山中英夫〕

ねんしゃ 【念写】 ソートグラフィーの訳語。写真乾板を露光することなく念力*でその上に文字や風景などを現出させる現象。わが国では，1910年(明治43)ごろ，心理学者福来友吉が発見，学会に論争を起こし，社会的にも大きな反響を呼んだ。当時，迷信を奨励するものであるとの批判が浴びせられ，のちのわが国の超心理学*の活動は抑制されることになった。類似した現象に露光したとき存在しなかった事物や人物が現像してみると映っている場合があるといわれ，これを心霊写真とよぶ。➔心霊現象 〔大谷宗司〕

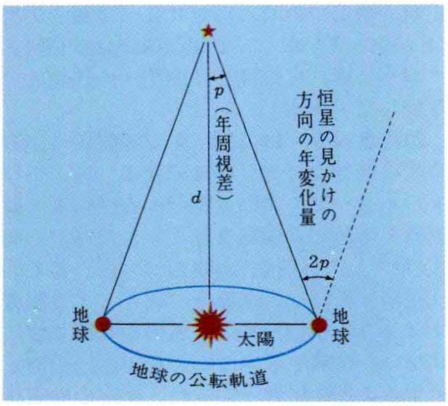
ねんしゃく 【年爵】 ⇨年給

ねんじゅうぎょうじ 【年中行事】 集団的なしきたりとして，毎年きまった暦日にくり返される伝承的行事。この語は，元来平安時代の宮廷において年々恒例として執り行なうべき儀式の日を定めた表をいったが，のちには行事そのものをさすようになり，しだいに民間にも広く用いられるようになった。

〔生活のリズムとしての年中行事〕 江戸時代に，節供*という語が民間に普及するまで用いられていた〈おりめ〉とか〈ときおり〉という呼称には，時の流れのリズム感がよく表現されている。年中行事が日本人のもつ時季の意識と深い関連をもって成立し，伝承されている点は注意を要する。このような時季意識を促し，体感させたものは，主として日本人を取り巻く自然の運行推移であり，そうした自然の動きに制約される農耕生活の推移であろう。わが国の農民の生活と社会は，古来最も主要な農耕であった稲作を中核として1年間の展相を示しているということができる。稲作はその生産過程が，時のリズム感をとりわけ鋭くさせる性質のものである。このようなリズムによって1年間がいくつかの節に分けられ，そうした節々が主要な年中行事を形成しているのである。

〔年中行事の構造〕 日本人の古風な考え方では，稲作は単なる技術の問題ではなく，多分に信仰的要素を含んだものであった。すなわち生産過程の折り目ごとに神を祭ることによって生産の順調を祈願したのである。したがって年中行事は，1年間の生産過程における折り目ごとに静かに忌みつつしみ，家ごとに神供(しんぐ)を設けて神を祭り，それを神・人ともにいただくことを中心として成立した行事であるといえる。年中行事が営まれる〈はれ〉の日は，心身を清浄に保つことが要件の一つであって，土をいじったり，下肥を扱うことは忌まれた。したがって，〈はれ〉の日は仕事を休む日になるわけであった。地方ごとに多少の違いはあるが，1年を通じて休み日の数は40〜50日にも及んでいる。そうした休み日の中には，はじめから休養・慰労の目的から設けられたものも含まれてはいるが，大部分は神事の日に由来するものと断定してよい。1年間における休み日の配列を調べてみると，その基本的なものが予祝祭・除疫祭・収穫祭というように，農耕の展開を基礎にしてその折り目に分布していることに気がつく。また，全国的に共通した傾向として，年中行事は3月3日・5月5日・7月7日・9月9日などのように，月の数と日の数を重ねた重日に営まれることが注意をひくが，重日を重んずる思想は中国文化の影響であって，それが日本民族の伝統的な行事に習合したものと解される。さらに，旧暦で各月の朔日(ついたち)・15日，7・8日，23・24日というのが共通している。これらの日は，月の形がふくらみだす〈つきたち〉の日や満月の日，上弦・下弦の日である。このうち朔日に行事が営まれるのは文字暦の知識が普及した結果であって，古来のものとは考えられない。暦の普及するまでは，民間では月の満ち欠けを標準に日を読んできたのである。したがって，行事のおもなものは，望の日(15日)，ついで上弦・下弦の日というように，月の形の印象の強い日を選んで営まれてきた。特に印象的な満月の日の行事に力を入れたことは，1月15日の小正月，7月15日の祖霊祭の例をみてもよくわかる。そうした行事を営む日は〈はれ〉の日であると同時に休み日でもあり，その律動的な配置は，いわば生活に一定のリズムを与え，単調な生活にはずみをつけてきたのである。そして，この農耕の推移に基づく生活のリズムが，村落生活の秩序をささえてきたのである。〔直江広治〕

ねんじゅうぎょうじえまき 【年中行事絵巻】 平安時代における宮中の儀式，民間の信仰的な行事など1年間の行事を描いた絵巻物。原本60巻は平安末期，後白河(ごしらかわ)天皇の勅命で藤原道長が描いたものであるが，内裏炎上の際に焼失。現在，1626年(寛永3)後水尾(ごみずのお)天皇が当時宮中に残っていた原本を住吉(すみよし)如慶に模させた模本17巻が伝わっている。



年 周 視 差

ねんしゅうしさ 【年周視差】 恒星*を太陽および地球から見たときの方向の差，つまり地球の公転半径を基線にした視差をいう。1838年はくちょう座61番星の年周視差が測定されたのが最初である。恒星の年周視差はきわめて小量で，現在知られている最大のものはケンタウルス座プロクシマ星の0.″760，上記のはくちょう座61番星は0.″293である。大部分の恒星は0.″1以下にすぎない。➔視差

ねんじゅも 【念珠藻】 藍藻(らんそう)類・ネンジュモ科・ネンジュモ属の総称。淡水の池水・止水や湿土上また汽水にもみられる。しばしば肉眼的な大きさの寒天質塊をつくり，その中に多数のよじれた糸状体を包む。糸状体は一列細胞で，異形細胞・休眠細胞を列の中にはさみ，数珠(じゅず)に似る。もとジュズモともよばれたが，緑藻類にも同じ名があるので，いまはこの名が使われている。多くの種類があるが，わが国ではアシツキノリ・イシクラゲ(カワタケ)が，中国ではハッサイ(髪菜)と称するこの属の一種が食用とされる。

ねんしょう 【燃焼】 一般には，物質と酸素とが結合して起こる化学反応のうち光と熱を発生するものをいうが，広義には生物体の内部などに起こるゆっくりした酸化をも含める。またその反応が伝わる速度が音波の伝わる速度よりも大きい場合をデトネーション(爆発)，小さい場合を燃焼とよんで区別することもある。

〔燃焼熱〕 物質が完全に燃焼する際に発生する熱量。通常，物質1gまたは1モルについて表わす。一般には燃焼に気体を発生するなどの力学的仕事が伴うので，これを定圧燃焼熱と定容燃焼熱に分ける。学問的には後者が用いられ，この測定にはボンベ熱量計が用いられる。ある化合物およびその成分元素の燃焼熱がわかれば，その化合物の生成熱が算出できる。〔寺沢誠司・竹下三吉〕

ねんしょうそうち 【燃焼装置】 一般には燃料を燃焼させるための装置で，しかも通常は連続的に燃焼させ加熱することを目的とした装置をいう。石炭やコークスなど固体燃料を使用するものでは，燃料を連続的に搬入し，火格子(ひごうし)の上に散布させるストーカー*を用い，燃焼をよくするとともに人力を節約する。微粉炭や重油など粉体あるいは液体の燃料を使用するものでは，燃料を微細な霧にして燃焼室に吹き込むためにバーナーを用いる。〔斎藤 孟〕

ねんしょうろうどうしゃ 【年少労働者】 保護年齢労働者(満18歳に満たない労働者)，

最低年齢労働者(満15歳に満たない労働者)に分けられる。成年労働者に比べて精神的・肉体的に成熟していないうえに，第2次世界大戦終結時までは酷使されたという歴史的経験から，日本国憲法は児童の酷使を禁止し(27条)，児童福祉法(→児童福祉)を制定してこれを保護している。さらに労働基準法は，年少労働者に対して教育・生命・生存を保障するため，未成年労働者の親権者・後見人が代わって労働契約を締結できないこと(58条)，賃金の代理受理の禁止(59条)，保護年齢労働者の労働時間の振り替えと延長および休日労働・時間外労働の禁止(60条)，深夜業の原則的禁止(62条)，危険有害業務・坑内労働の禁止(63,64条)など，また，行政官庁の許可がないかぎり，最低年齢労働者を使用できないこと(56条)などの規定を設けている。〔河合研一〕

ねんせい【粘性】流体の形を変えようとするときに働く流体内部の抵抗。運動している流体の中で，となりあう部分が異なる速度で動いているとき，速く動く部分は遅い部分を引きずり，おそい部分は速い部分を引き止めようとする。すなわち速度をならして一様にするような向きの接線応力を生ずる。いま流体が x 軸方向に流れ，その速度 u がこれと直角な方向に変化するとき，x 軸に平行な面に現われる接線応力 F は，$F=\mu\ du/dy$ となる。この μ は流体の種類と状態によって定まる数で，その流体の粘性係数(粘性率・粘度ともいう)といい，単位はポアズ(1ポアズ＝1g/cm・秒)を用いる。粘性係数の大きいものほど粘性は大きい。気体の粘性係数は，気体分子の平均自由行路(分子が互いに衝突することなく自由に動き回れる平均距離)と分子濃度および分子の平均速度の積に比例する。また気体の粘性は小さく，温度とともに増加し，圧力によってはほとんど変化しないが，液体では一般に温度を上げると減少し，圧力とともに増加する。〔大岡二郎〕

ねんせいまさつ【粘性摩擦】⇨摩擦

ねんだいき【年代記】歴史上の事件や事実を年代の順にしたがって記録した書物をいう。特に中世のヨーロッパで多く書かれ，歴史上の一つの様式となっている。古くは，紀元前2世紀，アテナイのアポロドロスがトロヤ戦争以来の史実をつづった《年代記》があり，またニカイア公会議の決議文を起草したエウセビオスも，4世紀に《年代記》を著わして古代の貴重な史料を残している。中世ヨーロッパでは，修道院においてまとめられた記録や，各国あるいは各地方によって多種多様な年代記がある。フランスのグレゴリウスの《フランク史》(6世紀)や，イギリスの七王国時代を扱った《アングロ-サクソン年代記》(10世紀)は比較的早い記録で，建国や戦争を描いている。十字軍に関する同時代史《コンスタンチノープル征服史》や，百年戦争についての貴重な記録であるフロアサールの《年代記》(14世紀)，あるいは13世紀後半から16世紀まで書き継がれた《フランス大年代記》，500年ごろから1500年ごろに至る長大な記録を収録したドイツの《モヌメンタ-ゲルマニアエ-ヒストリカ》(19世紀)など，年代記は数多い。中国にも編年体の書物は多くあるが，年代記という名称は用いられていない。代表的なものとしては，孔子が著わしたといわれる《春秋》や，宋(そう)代の司馬光の《資治通鑑(つがん)》などがある。〔桜木 庚〕



粘土板文書 楔形文字による書簡 テル-エル-アマルナ出土

ねんちゃくテープ【粘着テープ】セロハン・プラスチックフィルム・紙などの一方の面に圧感接着剤を塗布したもの。天然ゴムまたは合成ゴムに粘着性を付与する薬剤や軟化剤・老化防止剤などを配合した粘着剤を0.01〜0.05mm程度の厚さでテープに塗り，裏面にはこの粘着剤とベースのテープとが容易に剝離(はくり)できるような処理を施す。セロハンをベースとしたセロハンテープ，紙をベースとしたガムテープなどは主として包装や本類の修理などに，プラスチックフィルムをベースとしたビニルテープは電気工事用絶縁テープなどに用いられる。→接着剤〔伊藤 卓〕

ねんちゅうぎょうじ【年中行事】⇨ねんじゅうぎょうじ

ねんど【粘土】ふつうケイ素・アルミニウム・鉄・マグネシウム・アルカリ金属よりなる層状含水ケイ酸塩鉱物を主とし，2 μ 以下の微細な粒子の集合体をいう。可塑性または粘着性を有し，乾燥すると固まる。岩石または鉱物が風化・分解して生じた微細な粒子で，土壌(どじょう)の主成分でもある。組成鉱物によってカオリン粘土・セリサイト粘土・ベントナイト・リョクデイ石粘土・パイロフィライト粘土などに分けられる。また特殊な固有の性質によって，ボールクレー(可塑性粘土)・ボンドクレー(結合粘土)・チャイナクレー(カオリン)・フリントクレー・耐火粘土・酸性白土などに分けられる。地表に広く分布し，われわれの生活にも密接に結びついている。土壌学・コロイド化学・土質工学・石油工学・窯業工学などの分野で重要な研究材料となる。〔加藤敏郎〕

ねんどけい【粘度計】粘性流体の粘性係数 μ または動粘性係数 ν (μ/ρ, ρ：密度)を測定する装置。測定原理により，細管法・落体法・回転法・平板法・振動法などがある。最も広く利用されるのは細管法で，その原理は細い管内を流れる流体の流量と圧力差から μ を測定する。この型のオストワルド粘度計は水の粘度を標準としこれとの比較値を実測するもの。工業的にはこの型を応用したエングラー粘度計・レッドウッド粘度計などが用いられる。〔内田茂男〕

ねんどこうぶつ【粘土鉱物】粘土を構成している主要な鉱物。主としてアルミニウム・鉄・マグネシウム・アルカリの層状含水ケイ酸塩鉱物からなる。粘土鉱物およびそれに関係深い鉱物はふつう次のように大別されている。カオリン・ジャモン石系・リョクデイ石・ウンモ・ヒル石・モンモリロン石-サポナイト系・パイロフィライト・ダルク。地殻(ちかく)のもともとの構成成分である火成岩の造岩鉱物は，一般に地表では不安定であるので，セキエイ以外の他のすべての鉱物は徐々に変化して地表条件のもとでより安定な粘土鉱物類に変化する。〔片山信夫〕

ねんどばん【粘土板】古代オリエント時代にバビロニア地方で記録に用いられた文書(粘土板文書)である。〈瓦書〉〈陶土版〉などともいう。古代アッカド人・バビロニア人・アッシリア人は，粘土で平らな板または多角形の柱をつくり，その上に楔形(くさびがた)文字を彫り刻み，天日でかわかすかかまどで焼くかした。アッシリアの古都ニネベの図書館跡，またバビロン・スーサ・ニップールなどの古都から，1度に数万個の粘土板が発見されたことがある。この楔形文字は，長い間神秘の文字としてだれも解読することができなかったが，いまから100年ほど前にイギリスの士官ヘンリー-ローリンソンが，イランの西部，ベヒスタン地方で発見したダリウス大王の碑文からヒントを得て解読に成功した。〔庄司浅水〕

ねんどばんもんじょ【粘土板文書】粘板文書・泥板(でいばん)文書ともいう。先端のとがったアシの茎や，先端が断面三角形になった筆で，粘土板に絵文字や楔形(くさびがた)文字を刻みつけたもの。古代バビロニア地方で，もっぱら記録の手段として用いられた。その起源はBC3000年ごろまでさかのぼり，古代オリエント史の研究に貴重な資料となっている。

ネンニ［Pietro Nenni］(1891〜1980) 現代イタリアの政治家。ファシスト政権が生まれた際これに抵抗したが，1926年フランスに亡命。スペイン内乱のときにはイタリア義勇軍の指導者として参加した。第2次世界大戦でイタリアが降伏したのち社会党を組織して書記長となり，1947年までデ-ガスペリ内閣副首相・外相を歴任。1947年共産党と提携して党内右派を追放したが，ハンガリー動乱を契機に共産党と手を切り，キリスト教民主党との連立内閣にも参加し

た。1966年社会民主党と合同して統一社会党をつくり党首となった。なお1952年スターリン平和賞を受賞。〔大野慎一郎〕

ねんねこばんてん【ねんねこ半天】⇨子もり半天

ねんばんがん【粘板岩】スレートともいう。デイ岩*類が軽度の広域変成作用*を受けてできた変成岩*の一種。変晶の発達はまだ著しくないが，一般のデイ岩よりかたくなっていて，層理*に斜交する方向へ割れ目が発達しているのが特徴である。割れ目に沿って薄い板にはがせるものはスレートとして屋根がわらや張り石に用いられる。わが国では宮城県の登米(とよま)町から良質のスレートを産し，同じく雄勝町から産するものは雄勝スレートと称し，すずりに用いられる。〔片山信夫〕

ねんぶつ【念仏】本来はブッダを憶念(記憶)することを意味したが，一般に次の3種が用いられる。第1は憶念念仏で，心の中にブッダの身相・光明・威力・功徳などを記憶することをいう。第2は観念念仏で，仏の生身または法身(ほっしん)を観念することをいう。この場合，仏は仏身のことである。第3は称名念仏で，口に仏の名号を称えることをいう。浄土門では念仏の本質は称名念仏(→称名)にあるとされ，浄土真宗では〈南無阿弥陀仏*(なむあみだぶつ)〉の名号そのものをさして念仏という。〔山折哲雄〕

ねんぶつおどり【念仏踊り】民俗芸能の一。踊り念仏ともいい，空也上人(くうやしょうにん)・一遍上人らが始めたともいわれる。念仏や和讃(わさん)を唱え，太鼓・鉦(かね)などを打ち鳴らして踊る。元来は悪霊を静め退散させるために行なわれたが，現在では盆や仏事などに演ぜられ，民俗芸能化しているものが多く，平安末期の田楽*との習合が考えられる。豊年踊り・雨乞(ご)い踊り・花笠(はながさ)踊りとなって農耕儀礼と結びついたものもある。なお，近世の初め，出雲(いずも)の阿国*(おくに)が歌を交えて念仏踊りを踊ったのが歌舞伎(かぶき)のはじまりになったことは有名である。〔山路勝彦〕

ねんぶつだい【念仏鯛】硬骨魚類・テンジクダイ科。テンジクダイ*と混称する方言が多い。本州中部以南，中国・フィリピン方面に広く分布する沿岸性の中層魚で，体長10cmぐらいになる。体は側扁(そくへん)し，淡紅色をおび，体側前部に2条の黒かっ色線があり，尾柄基底部に黒色斑(はん)がある。いわゆるマウスブリーダーで，産卵期になると雄の口は著しく張り出し，この中に卵をくわえて保護する。食用にはならない。

ねんまく【粘膜】脊椎(せきつい)動物の体内上皮細胞の中で，外部に開口する消化管・気道・生殖輸管などの管や腔所(こうしょ)の上皮。粘液腺(ねんえきせん)などの分泌腺があって，粘液を分泌し，湿りけを保っている。

ねんりき【念力】生物が筋肉その他の物理的エネルギーを媒介しないと思われる条件下で，外界の対象に直接に物理的効果を及ぼすこと。J-B-ラインは，サイコロを用いて実験し，特定の目を出すよう念じて投げるとその目が出やすくなることを示し，これをPK(psychokinesis)と名づけた。PKにもESPと同じく〈位置効果〉のあること，被験者の心理的生理的条件が影響することが知られている。➔超心理学〔大谷宗司〕



念仏踊り　念仏・和讃を唱え，鉦・太鼓などを打ち鳴らして踊る。長野県佐久市西方寺



ネンブツダイ

ねんりょう【燃料】一般には空気あるいは酸素と共存させて燃焼し，熱・動力・光などを発生させることのできる安価で入手容易な物質をさすが，広義には核分裂反応によってエネルギーを発生するウラン235・プルトニウム239などのような核分裂性物質(核燃料・原子炉燃料)も含める。一般的な意味からは木材・石炭・天然ガス・石油，あるいはこれらから加工して得られる木炭・コークス・都市ガス・液化石油ガス・ガソリン・燈油などが代表的なもので，そのおもな成分元素は炭素と水素で，少量の酸素・窒素・イオウなどを含むことが多い。

人類の発展は燃料(火の利用)に負うところが非常に多く，燃料の歴史もそれに伴って古い。最初は枯れ草や枯れ木などであったが，その後しだいに動植物の油，木炭，地表に露出した石炭などが使用されだした。石炭が一般的に使用されだしたのは13世紀以後，石油は19世紀以後といわれ，特に石炭や石油が化学工業や機械工業などの発達により大量に使用・加工されだしたのは19世紀後半からである。石炭は過去100年以上，燃料の中心として使用されてきたが，1950年ごろから石油(天然ガス)の生産・使用が急増し，現在では石油が燃料および化学工業原料の主役の座を占めている。最近石油資源の量的不安や脱硫などが重要視されてきたが，他方核燃料の実際的利用も割合近いとみられている。〔寺沢誠司〕

ねんりょうでんち【燃料電池】燃料を酸化するときに生ずる化学エネルギーを，直接電気エネルギーに変える電池。還元剤として水素を，酸化剤として酸素を用いる酸水素燃料電池などがその代表的な例である。現在は，実用化への研究段階であるが，熱効果率が高いこと，軽量化の可能性があることなどの利点が考えられており，特に宇宙船の電源などへの利用が期待されている。

ねんりん【年輪】樹木の根・幹などにみられる同心円状の生長変化の層。樹木が肥大生長するときに，樹皮の内側の形成層の細胞が分裂して内部へ材をつくっていく。この活動は外界の環境，特に寒暖の変化に支配され，それにつれて細胞の大きさが異なり，年生育の初期には細胞膜の薄い大きな細胞，終期には細胞膜の厚い小さな細胞をつくる。1年間に形成された材の部分を一年輪といい，それぞれ早材(春材)部・晩材(夏材・秋材)部からなる。このため生育期の終わりには明瞭(めいりょう)な境界ができ，同心円が見られる。四季のはっきりしない熱帯地方では年輪の明瞭でないところもあるが，乾季・雨季による年輪ができる場合もある。〔川名　明〕

ねんれい【年齢】人の出生*の日より起算し，日をもって暦に従って計算した現在までの経過期間をいう。従来，年齢は数え年で表わしたが，現在ではこれを改めて満で数えなければならない(年齢計算ニ関スル法律・年齢のとなえ方に関する法律)。4月1日に生まれた者は，6回めの誕生日の前日，すなわち3月31日の満了で満6歳になるから，いわゆる早生まれとして入学することができる。

ねんれいざん【年齢算】⇨算術

ねんれいしゅうだん【年齢集団】一定の年齢に属する成員によって構成され，社会化の一過程として機能する集団。日本では，かつて村落共同体*においてみられた若者組*・娘組*・年寄組などがこれにあたる。年齢集団に所属する成員は，原則的には家格・地位・財産などとは無関係で，当該集団の規範にしたがって行動することが期待される。成員以外の者には閉鎖的な面をもつが，こうした行動様式が共同体の安定的存続に寄与してきた。しかし，伝統的共同体が変質しつつある今日では，新興宗教や労働組合の青年部のようなものが新しい形態の年齢集団として機能しているといえる。〔小林宏一〕

の

のあざみ【野薊】 双子葉植物・キク科。平地から山地にかけて自生する多年草。高さ50～100cmで，下方に白毛がある。根出葉は花時にも枯れず，長さ15～30cmで羽状中裂し，裂片は5～6対ある。縁に長さ2～3mmのかたいとげがある。アザミの仲間では最も早く咲き，5～7月に茎や枝先に管状花だけからなる径2～2.5cmの紅紫色の頭花をつける。鮮紅色・白色花のものをドイツアザミといい，園芸品化されたものである。総包は幅約2cmの扁球(へんきゅう)形で外片の背面が粘る。ノハラアザミはこれによく似るが，総包の外片が粘らないのですぐに区別できる。〔加藤僖重〕

ノアのはこぶね［ノアの箱舟］《旧約聖書 創世記》(6章14～16)にでてくる船で，ノアが神の命令でつくった船。長さ135m，幅22.5m，高さ13.5mと記される。神は堕落した人類を洪水(こうずい)で滅ぼすことにするが，ノアだけは神とともに歩む義人だったので救われる。彼は命じられるままに船をつくり，家族および一つがいずつの動物を乗せ，洪水の間漂い，アララット山*で水の退くのを待つ。この物語は《創世記》における神の救済と選びという主題をよく伝えるものである。〔松田 治〕

ノイエ-ザッハリヒカイト［Neue Sachlichkeit］〈新即物主義〉と訳される。1920年ごろからドイツに起こった反表現主義的前衛芸術運動。名称は，マンハイム美術館長ハルトラウプによる。主観的表出に没頭するあまり非合理的・幻想的傾向に陥っていた表現主義*に反対し，即物的・具体的な対象の把握(はあく)により，その実在感を取りもどそうとしたものである。その後，ナチスの台頭によって運動は消滅した。

美術では，有力な画家として，徹底した細部描写を通して社会主義的立場から社会の退廃面を突いたディックスやグロッス，幾何学的形態を基礎に植物を描いたカーノルトらがいる。〔松久勝利〕

音楽では，新古典主義的な傾向の一つとして生まれ，音楽に対して，主観性ではなく客観性を与え，また表出的な要素を制御しようとする立場である。特にヒンデミット*やワイル*の音楽がこの名でよばれるが，それらは明確な形式感と，骨組みがむき出しという特徴を備えている。また，アマチュアの演奏に向いた性格や消費的な性格をもった作品を〈実用音楽〉とよんで，意識的に作曲したのも，ヒンデミットのこの傾向と関係が深い。ここにも，演奏のしやすさや明確な構造に加えて，情緒の抑制が認められるからである。演奏に際しても，楽譜に忠実であることをモットーとして，奏者の主観が演奏に反映することをおさえるものも，新即物主義とよばれており，一時代の風潮であった。〔徳丸吉彦〕

文学では，主観的な自己表現を過度に押し出そうとした表現主義*の文学・芸術運動は，1920年代後半からその反動としてノイエ-ザッハリヒカイトの傾向を生み，これに取って代わられていく。ブレヒト*・カイザー*・ウェルフェル*ら，もともと表現主義の演劇・詩・小説においてすぐれた作品をつくり出した人々が，この派に変わっていった。ほかにレマルク*の小説《西部戦線異常なし*》も，この手法に基づく代表的作品であり，デーブリン*・ケストナー*ら小説家，ツックマイヤー*ら劇作家がいる。これらの作家の多くは，事実をありのままに描くという姿勢のため，のち1930年代にはナチ政権のもとに亡命を余儀なくさせられた。〔田島 修〕



ノアザミ



ノイバラ

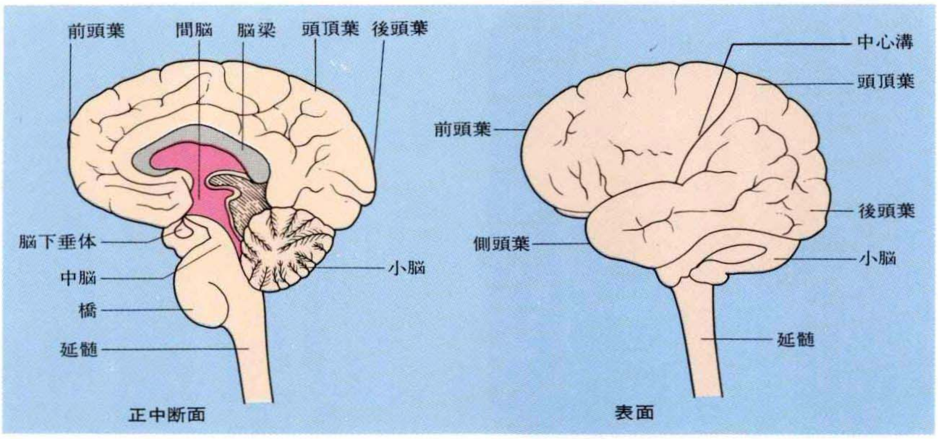
のいばら【野薔薇】 双子葉植物・バラ科。ノバラともいう。山野の陽地にはえる落葉低木。茎は高さ1～2mで，太いとげが多数ある。葉は2～3対の小葉からなる奇数羽状複葉で，互生する。各小葉は楕円(だえん)形で長さ2～4cm，縁に細かい鋸歯(きょし)があり，表面には光沢がなく，裏面は緑白色で脈上に軟毛がある。5～6月，枝先に直径2～3cmの白色ないし淡紅色の五弁花を10個以上つける。花弁は広倒卵形で先がへこむ。果実は偽果で，卵形，長さ6～8mmのがく筒が痩果(そうか)を包んだものである。これを干したものを営実といいフラボン配糖体を含み，下剤・利尿剤などに用いる。バラ属は100～200種よりなり，おもに北半球に分布している。日本にはノイバラをはじめとしてテリハノイバラ・ヤマテリハノイバラ・ヤマイバラ・モリイバラ・ハマナス・タカネバラ・オオタカネバラ・サンショウバラなどが分布する。〔加藤僖重〕

ノイマン［Johann Ludwig von Neumann］(1903～1957) アメリカの数学者。ハンガリーに生まれ，ベルリン大学などに学んだ。のちアメリカに渡り，1933年以降プリンストン高等研究所教授。はじめ数学基礎論・集合論を研究，その後ヒルベルト空間論を発展させ量子力学の数学的基礎づけを行なった。このほか連続幾何学・群論などについて研究。第2次世界大戦ごろよりゲームの理論や計算器に関する研究を行ない，新しい数理経済学の発展に貢献した。〔下平和夫〕

ノイローゼ ⇨神経症

ノイロン ⇨神経単位

ノイン-ウラ［Noin-Ula］ 北部モンゴリアで発見された紀元前後の匈奴(きょうど)

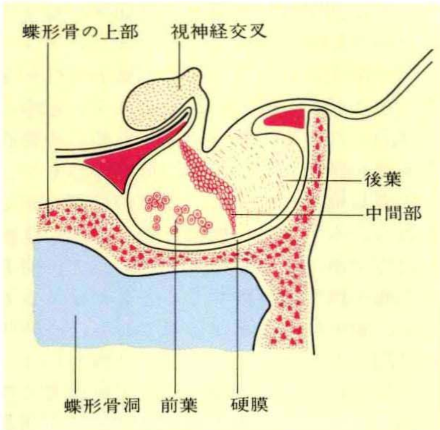


脳

の古墳遺跡。墓室が地下深く営まれて凍結していたため，埋葬品が驚くほどよく保存された。スキタイふうの動物文様をアプリケした毛氈(もうせん)，漢から贈られた絹織物や漆器，地中海やシリア産のししゅうなど，当時の匈奴が東西文化の交流に大きな役割を果たしていたことをよく示している。

のう【能】⇨436ページ

のう【脳】動物の神経系のうち中心的な部分。発生学的には外胚葉(はいよう)からできる神経管の一端がふくれたもので，その続きが脊髄*(せきずい)である。ヒトの脳重量は，1,300～1,400g，クジラでは2,000～3,000gといわれるが，脳の重さだけで知能の発達度はいえない。脳は大脳*と菱脳に大別され，前者はさらに大脳半球(終脳)・間脳・中脳に分けられ，後者も菱脳峡・橋・延髄・小脳に分けられるが，このほかの分類方法もある。大脳半球はヒトでは特に大きく，左右の半球の間は神経繊維束で結ばれている。表面には皺(しわ)や溝(みぞ)が見えるが，これらは胎児ではきわめて少なく，哺乳(ほにゅう)類でも下等なものは少ない。大脳の表面にある神経細胞の数は140億～160億あり，大脳の表層は神経細胞が集まり，これが灰色に見えるので灰白質(皮質)とよび，またその内部は神経繊維が多く白色に見えるので白質(髄質)とよぶ。脊髄とともに神経系の中枢で，いろいろの中枢が大脳の各部分にほぼ決まって存在する。間脳は生命保持に欠くことのできない部分で，食物の摂取，体温，視覚，触覚などの本能的な活動の調節に関係している。中脳は視覚と関係の深い部分で，眼球運動・瞳孔(どうこう)反射の中枢も存在し，魚類や鳥類では特に発達している。小脳は脳全体の重量の11%を占めて随意運動や体の平衡をつかさどり，精神活動には関係しない。魚類では，水の中での平衡を保つためにこれがよく発達して大きい。延髄には呼吸・循環などの中枢があり，生命保持に欠くことのできないものである。橋は延髄のすぐ上に位置し，多くの脳神経がここから出て大脳と小脳の連絡をしているが，中枢としては特殊なものはない。脳全体は脳膜によって包まれ，脳膜は外側から硬膜・くも膜・軟膜の3種に分けられる。この外側には頭蓋*(とうがい)があってこれを保護している。〔高野一雄〕



脳下垂体

のうあみ【能阿弥】(1397～1471) 室町時代の画家・連歌師。名は真能。号は春鴎斎(しゅんおうさい)。阿弥派*の祖で，真芸(芸阿弥)の父。足利義教(あしかがよしのり)から義政(よしまさ)にかけて将軍の同朋衆(どうぼうしゅう)・唐物奉行(からものぶぎょう)として仕え，美術品の鑑定・取り扱いなどの顧問役をつとめ，茶の湯・香道などの相談にあずかった。絵は周文*に習ったほか，宋元(そうげん)画とりわけ牧谿*(もっけい)に私淑し，平淡の趣ある独特の画風をつくった。《白衣観音図》などの遺作があり，《御物御画目録》を編纂(へんさん)，また《君台観左右帳記》の基礎をつくった。連歌は《竹林抄》《新選菟玖波集*(しんせんつくばしゅう)》などに収録されている。〔中島純司〕

のういっけつ【脳溢血】⇨脳出血

のういん【能因】(988～ ?) 平安中期の歌人。三十六歌仙*(かせん)のひとり。俗名を橘永愷(たちばなのながやす)といい，27歳前に出家。歌風は軽妙洒脱(しゃだつ)で，滋味深く，諸国遍歴の体験によった作歌が多い。《後拾遺和歌集*》に31首がとられ，ほかに家集《能因法師集》があり，《能因歌枕(うたまくら)》《玄々集》の編・著書がある。

のうえん【脳炎】脳の炎症性疾患の総称。多くはウイルスによるものであるが，ビタミン欠乏，感染症後のアレルギー性変化などによって起こるものもある。広範な脳病変のため，高熱・頭痛・意識障害・痙攣(けいれん)・眼筋麻痺(まひ)などの症状を呈し，運動麻痺・パーキンソニズム(→パーキンソン病)・精神症状などの後遺症を残すことが多い。ウイルス性のものに日本脳炎・ヘルペス脳炎(→ヘルペスウイルス)などがあり，そのほかインフルエンザ*・麻疹(ましん)(→はしか)・水疱瘡*(みずぼうそう)などの罹患(りかん)中に起こるもの，種痘・狂犬病の予防接種後に起こるもの，さらに脳膿瘍(のうのうよう)・脳腫瘍*(のうしゅよう)・梅毒*，寄生虫によるものなどがある。〔宿谷幸治郎〕

のうがく【農学】農業に関する科学。技術と生産経済にかかわる体系を追究する。農業はいわゆる，耕種・養畜および養蚕が主体であり，これらの技術体系ならびに加工について，また生産の経済性や農家経済などの影響について互いに並行して研究される。前者の系統では，作物学・園芸学・病虫害防除学・育種学・畜産学・農業土木学・農業気象学など，後者には農業経済学・農業評価学・農業簿記学・比較農業論などが属する。これらの学問を通して農業生産物の増大，安定した農家経営を計り，社会経済へ貢献することを目的とする。〔金木良三〕

のうがく【農楽】朝鮮半島の農村部で行なわれる楽舞の総称。地方により〈ノーガク〉〈ノンサンギ〉〈ツレー〉などともいう。起源は豊年祈願にあったらしいが，いまでは主として農村の人々の集団的娯楽となっている。チャング*・手鼓・銅鑼(どら)・鉦(かね)・太鼓・笛などの楽器をもって踊りながら行進したり，特に腕自慢の人が名人芸をみせたり，アクロバット的な踊りが演じられる。

のうかしん【膿痂疹】⇨とびひ

のうかすいたい【脳下垂体】下垂体ともいう。脳の中心部から垂下している小さい丸みをおびた器官。ヒトではダイズぐらいの大きさ(約0.6g)で，脊椎(せきつい)動物の内分泌腺*(ないぶんぴつせん)のうち最も重要なものである。組織学的にみると，前葉・後葉および中間部に分けられる。発生的には前葉は咽頭(いんとう)の粘膜上皮の一部が伸びたラトケ嚢(のう)から生じ，腺組織のような構造をもつが，後葉はこれとまったく異なり，間脳の一部が伸びてできたもので，神経のような組織である。分泌されるホルモンも前葉と後葉とではまったく異なり相互の関連はない。→次項〔幡井勉・橋本長〕

のうかすいたいホルモン【脳下垂体ホルモン】脳下垂体*から分泌されるホルモン。脳下垂体は前・中・後葉に分かれ，それぞれ働きの異なるホルモンを分泌する。前葉からは卵胞刺激ホルモン・黄体形成ホルモン・黄体刺激ホルモン・副腎(ふくじん)皮

質刺激ホルモン*・甲状腺(こうじょうせん)刺激ホルモン*・成長ホルモン*が分泌されるが，前三者をまとめて性腺刺激ホルモンともいう。これらはそれぞれ内分泌腺である性腺・副腎皮質・甲状腺などを刺激してホルモンの分泌を促すが，前葉自身もその作用を受けてホルモンの分泌が抑制される。それがひいては他の器官の分泌を抑制するという，内分泌の中枢のような働きをしている。中葉からは，メラニン細胞刺激ホルモンという，カエルなどの皮膚の色素細胞を広げて体色を黒くする働きをもったホルモンが分泌されるが，人体内における中葉ホルモンの働きについては，まだよくわかっていない。鳥類など中葉をもたないものでは，前葉がそれに代わる働きをもつといわれる。後葉からは血圧を上昇させるホルモン(バソプレッシン)や子宮収縮ホルモン(オキシトシン*)が分泌される。後葉ホルモンが不足すると，尿が非常に多くなる尿崩症*になる。脳下垂体を取り除くと，それぞれのホルモンの欠損によって，成長の停止，生殖腺・副腎皮質・甲状腺の機能低下などのほか，全般的な代謝の変化が起こる。〔平野修助〕

のうがた 【直方(市)】 福岡県北部の市。人口63,000。江戸時代には福岡黒田藩の分藩五万石の城下町であったが，1720年(享保5)藩主の本家相続によって廃城となった。明治中期以後は筑豊(ちくほう)炭田の開発に伴い，石炭輸送の基地，炭坑用の機械・器具の生産地，炭鉱地帯の商業中心地として発展した。1931年(昭和6)市制施行。中心市街は遠賀川と支流彦山(ひこさん)川の合流点付近の沖積地(ちゅうせきち)上に位置している。産業三大別人口比は6：35：59。石炭業合理化促進によって，1965年全炭鉱が閉山し，最近は機械工業中心の商工業都市への転換を図っており，北九州市への通勤者も増加している。筑豊本線から伊田(いだ)線を分岐し，国道200号線が通ずる。鹿毛馬(かげのま)地区には古代朝鮮の山城の伝統をひくといわれている神護石*(こうごいし)が発見されている。

のうかん 【能管】 能の横笛。能における唯一の旋律楽器。雅楽の龍笛(りゅうてき)(横笛)から変化したものといわれるが，管長と指孔の間隔がふぞろいであり，また，喉(のど)とよばれる短い管を管の内部(歌口と指孔の間)に入れるため，音高にきわだった特色がある。第1は楽器による絶対的な音高の違いであり，第2は倍音の間隔がオクターブではなくさまざまである点である。これらが，微妙な音の出しかたとともにパターン化した旋律を複雑にし，他にみられない独特の音響をつくっている。〔徳丸吉彦〕

のうきょう 【膿胸】 胸膜*腔(こう)に膿性浸出液が貯留する疾患。急性膿胸と慢性膿胸とに分けられる。急性膿胸は主として肺炎に続発し，特に小児にみられるが，抗生物質の出現後は激減している。慢性膿胸は急性期に気づかずに放置しておいたとか，不完全な治療を受けた場合にみられ，肺炎後または肺結核の治療がこじれたあとに始まることが多い。いずれも発熱・胸痛・呼吸困難などの症状を呈する。急性の場合は胸腔穿刺(せんし)やペニシリン・ストレプトマイシンなどの抗生物質の投与によって治療するが，慢性になると治療も長期にわたり，外科的に開胸排膿・胸膜剝皮(はくひ)を行なうこともある。〔森成 元〕

のうぎょう 【農業】 農業の農は生萌(なりわい)のことで，草木の生育を意味する。原始の農業は，野生植物を栽培，野獣を飼いならして，生活の資を得ることから始められ，自給自足の形であったが，今日では生産物の一部を金に換えて利益を得ることに変わってきた。したがって今日では農業は生産と経済の両面を有する。農業の定義は種々なされており，農学の祖といわれるテーアは〈植物性ならびに動物性の物質を生産して，ときにはその生産物をさらに加工して利益を収めたり，金銭を得ることを目的とする一つの生業である〉とし，ゴルツはこれに生産の手段をやや具体化して〈農業は土地に含まれる，ならびに土地の上で作用する自然力を利用して，経済的商品，特に食糧・嗜好品(しこうひん)・紡績工業を第1とする各種工業の原料を生産する生業である〉と述べた。その後クラフトは，動物生産と植物生産の関係を加味し，さらにベーリーは，後者を直接生産，前者を間接生産として，耕種養畜の概念をより明確にした。またサーニエは農業のもつ技術面を定義し，ジョンソンは技術と経済を結びつけて農業を定義した。わが国では横井時敬*(ときよし)が〈農業は，耕種，またはこれと養畜とを同時に用いて，金銭的営利をはかる生業である〉と定義している。

〔農業の起源〕 農業は，漁猟→遊牧→農耕，あるいは漁猟→農耕の順に始まったといわれ，わが国は後者に属する。人類が家畜飼育を始めたのは，20,000年以前とされ，これから牧畜が始まった。また農耕の起源は新石器時代といわれるが，これには諸説があり定説はない。しかし少なくとも新石器時代には食糧自給の手段が発生していたと考えられている。

〔世界農業の分布と現状〕 農業の分布は，農業生産指数および食糧の生産指数からいちおうの判断が可能である。世界の主要国の農業および食糧の生産指数を表-1に示した。これによると，概してヨーロッパ各国に比べてアジア各国における生産の伸びが著しい。これは，ヨーロッパ諸国では耕地面積と人口との間にあるバランスが生まれており，一方，アジア諸国では人口の増加に対する食糧生産の必需性を示しているといえる。さらに大陸別に主要作物の収穫面積・収穫量について見たのが表-2である。すなわち，麦類はヨーロッパ・北アメリカなどに多く，トウモロコシは北アメリカ・ヨーロッパ・アフリカなどが多い。米は圧倒的にアジアが多い。ジャガイモはヨーロッパ，砂糖は北アメリカとヨーロッパとがほぼ同じ，次いでアジアと南アメリカである。この表には見られないが，家畜はアメリカ，西ヨーロッパ諸国，ソ連に多い。ヨーロッパ諸国および北アメリカ・カナダなどが年間降雨量が少なく，そのため土質もアルカリ性に傾くことが，牧草やトウモロコシなど，また穀類では小麦などの麦類，ジャガイモなどの生産に適した理由であり，それに伴って主畜農業を主とした乾燥農業が発達した。それに対し，アジア各国は年間降雨量が多く，米を中心とした湿潤農業である主穀農業が進んだ。したがって西ヨーロッパおよび北アメリカでは肉食が，アジアでは菜食が中心となって，生活習慣などの相違の重要な原因の一つとなったとい

→440ページ

表-1 農業および食糧生産指数　1969～1971年平均＝100

国名	総合					食糧				
	1974	1975	1976	1977	1978	1974	1975	1976	1977	1978
世界計	**110**	**113**	**115**	**118**	**122**	**110**	**113**	**116**	**119**	**123**
デンマーク	110	100	100	108	112	110	100	100	108	112
フランス	113	108	107	108	116	113	108	107	108	116
西ドイツ	105	102	101	104	111	104	102	101	104	111
イタリア	106	107	105	106	107	106	107	105	106	107
オランダ	116	121	119	124	133	115	120	118	123	132
スウェーデン	122	109	115	116	120	122	109	115	116	120
イギリス	113	107	105	114	116	113	107	105	114	117
カナダ	97	107	117	120	122	97	108	120	121	124
アメリカ	107	113	117	122	122	107	114	118	122	124
ブラジル	123	123	124	136	132	123	128	141	147	139
インド	101	113	110	119	124	100	114	111	120	124
インドネシア	118	117	113	116	120	121	116	112	118	122
日本	**103**	**109**	**100**	**108**	**107**	**104**	**110**	**101**	**109**	**108**
韓国	113	122	130	139	140	111	121	128	137	139
フィリピン	119	130	144	146	147	119	129	143	146	147
オーストラリア	105	115	119	116	132	113	123	129	127	149

注) FAO，1978「Production Yearbook」による

能

独自の様式をもつわが国の伝統演劇の一。謡*と囃子*(はやし)と演技と舞が総合された一種の歌舞劇で，狂言と協力しつつ，同じ舞台で交互に上演される。明治以降は能と狂言を一括して能楽とよび，能の詞章部分，また声楽だけの演奏を謡曲という。

【歴史】能の前身である猿楽*(さるがく)は，奈良時代に大陸から輸入された散楽*を源とする芸能であった。賤民(せんみん)猿楽者が座を結ぶようになった鎌倉時代には，日本古来の芸能や仏教芸能を吸収しつつ成長し，こっけいな対話劇である狂言を形成したが，同時にまじめな内容をもつ〈猿楽の能〉をも演じるようになっていた。能とは，歌舞を伴い，劇的要素をもつ芸能の意味である。南北朝時代，大和(やまと)猿楽に属する結崎座(ゆうざきざ)に観阿弥*(かんあみ)とその子世阿弥*の二大天才が出て，猿楽の能は現代まで演じ継がれる作品のほとんどすべての理論と芸術性を獲得した。これには，将軍足利義満(あしかがよしみつ)の後援もまた見のがせない。今日の観世流*・宝生流*・金春流*・金剛流*の諸流は，それぞれ鎌倉時代あるいは室町時代以来の劇団である結崎・外山(とび)・円満井・坂戸の大和4座の流れである。なお，喜多流*は江戸初期に新しく加わった流儀である。したがって，今日に伝わる能の始祖は観阿弥であるということができる。彼は多くの劇的な作品を残し，能の音楽面にも革命を起こした。また，世阿弥は作家・理論家・俳優を兼ねた偉大な人物であったが，詩劇としての能とその理論を確立した。彼のめざした能の理想は，再生芸術として創作の道を閉ざした江戸時代にも絶えることなく受け継がれ，明治から昭和にかけての名人の輩出によって今日の能を実現したといってもよい。安土桃山時代には，みずから能を演じた豊臣秀吉(とよとみひでよし)の愛好もあり，能面や能装束の改善，技法の洗練に進歩があった。また，手猿楽とよばれるしろうと能の集団が流行し，キリシタンの布教にも能の形式が用いられたほどだったという。江戸時代には式楽(儀式用芸能)として幕府の体制に組み込まれ，能楽者は禄(ろく)を受けるようになった。そして能は古典芸能となり，武士道的鍛練と技法の洗練に努力が傾けられ，また家元制度と分業制度が確立された。こうして能は武士階級の専有物となったが，謡はこれとは別に町人の間にも流行し，テキストである謡本*の刊行は1,000種にも及んだ。なお，このように謡だけが独自に流行する形態は，今日にも強く受け継がれている。明治維新によって幕府・諸大名の保護を離れた能楽は大打撃を受けたが，その後の新興貴族の保護や名人たちの努力によって再び盛んとなり，明治から昭和にかけて芸術上の黄金時代を迎えた。第2次世界大戦後は海外へも進出して前衛的な演劇として高い評価を受け，西欧のリアリズム演劇に新たな影響を与えようとしている。国内でも大衆や青年層の支持を増して，制度や伝承の方法に危機をはらみながらも，催しの数では能楽史上最大の繁栄をみせている。能楽は重要無形文化財の総合指定を受け，現在約160名の保持者がいる。

【分業制度】能役者(能楽師)は，シテ方*・ワキ方*・囃子方・狂言方*の四つの専門に分かれ，他の役を代わること，兼業すること，他流に混じって同一舞台をつとめることができない。シテ*は能の中心であり，能面をかける特権をもち，男の役はもちろん，女・老人から神・鬼・精・亡霊などに扮(ふん)する。このシテおよびツレ*・子方*はシテ方から出る。斉唱団である地謡*もシテ方であり，シテ方の後見*は本来舞台監督の機能をもち，シテに事故のあったときには代わってその曲を舞い継ぐ責任がある。室町末期から専門化したワキ方は，ワキ*をつとめる。これはつねに現実の男性の役で，能面を用いず，舞を舞わない。ワキに従属する役であるワキヅレもワキ方から出る。狂言方は独立した狂言を演ずるほかに，間狂言*(あいきょうげん)では能の一役としても参加する。なお，シテ方・ワキ方・狂言方を総称して立方とよぶこともある。囃子方は楽器の演奏者で，笛方・小鼓方(こつづみかた)・大鼓方・太鼓方に分かれ，四拍子ともよばれる。なお，シテ方に対してワキ方・狂言方・囃子方を総称して三役という。これら各役はそれぞれに流派があり，それぞれが固有の演出題目と脚本と譜を伝えている。各役各流とも家元が統率するが，能の家元制度はきわめて強固で，演出権・興行権・免状発行権・人事権を独占する。能役者は世襲が多いが，現在では能楽養成会の組織があり，一般中学生からも後継者を募っており，東京芸術大学にも能楽科が設けられている。なお，第2次世界大戦後は女性の能楽師が公認され，女流能もふえつつある。

【作品と作者】各流が正式の演出題目としている現行曲は約240曲あるが，くり返し上演されるのは50～100曲程度である。そのうちには田楽*や近江(おうみ)猿楽系の古作もあるが，観阿弥から数えて5世代，約2世紀にわたる能役者によって創作されたものがほとんどである。観阿弥は《自然居士*(じねんこじ)》《卒都婆小町*(そとばこまち)》などの劇的表現にすぐれた能を書いた。世阿弥は《高砂*(たかさご)》《清経*(きよつね)》《井筒*》《班女*(はんじょ)》《融(とおる)》など，多くの名作を残し，序破急5段構成や回想形式による夢幻能の形式を完成させた。世阿弥の後輩にあたる宇治猿楽者の宮増には《放下僧》《小袖曾我*(こそでそが)》などの作がある。世阿弥の長男観世元雅*(もとまさ)は《隅田川*(すみだがわ)》《弱法師*(よろぼうし)》など，近代劇ふうの暗い能をつくった。世阿弥の娘婿である金春禅竹*は，世阿弥の夢幻能の系譜を受け継いだ人で，その作品では《定家》《雨月》などが知られる。世阿弥の甥(おい)の子である観世信光*(のぶみつ)は，のちにそのまま歌舞伎(かぶき)に移行された《安宅*(あたか)》《紅葉狩*(もみじがり)》《船弁慶*》などの大衆性を備えた能を残した。そうして，信光の子で《輪蔵》《正尊》の作者である観世長俊(ながとし)，禅竹の孫で《嵐山(あらしやま)》《一角仙人*(いっかくせんにん)》の作者金春禅鳳(ぜんぽう)で能の創作は事実上終わってしまう。豊臣秀吉がつくらせて自演した太閤能(たいこうのう)は純粋な創作活動とはいいがたく，江戸時代は賀茂真淵(まぶち)作ともいう《梅》を唯一の例外として，新たに作品を加えることはなかった。明治以降は高浜虚子に始まる新作能*の活動があるが，正規の演出題目に加えられた例はまれである。

【構成と種類】能はその構成から単式能と前ジテ・後ジテのある複式能とに分かれ，《烏帽子折(えぼしおり)》のように22場にも変化する曲も複式能の形に整理することができる。能を構成する単元は，次第・一セイ・着きセリフ・ロンギ・クセ・キリなど，約40種あり，それぞれが句数・旋律型・リズム型に定型を持っている。このため，能は様式性・類型性が強い。また，能は夢幻能と現在能に大別される。夢幻能はシテ独演主義の能で，ワキの役は傍観者の立場にある。代表的な作品に《田村*》《井筒》《融》などがあり，旅人(ワキ)の夢の中に亡霊が登場して昔を物語るという回想形式の能である。世阿弥の説いた序破急*5段構成をその夢幻能の代表作《井筒》でみると，以下のようになる。①序：ワキの旅僧が在原(ありわら)寺の廃墟(はいきょ)を訪れる導入部。②破の前段：里の女の姿を借りた在原業平(なりひら)の亡霊(前ジテ)が登場して，心境と秋の夜の情景をうたう。③破の中段：ワキがシテにことばをかけて交渉が始まり，最初の地謡(初同)が在原寺のようすを描写する。④破の後段:女は筒井筒の恋を物語る(主として地謡がうたう。観阿弥が先行芸能から導入した能の主要部分で，クセとよばれ，《井筒》のようにシテがじっとすわったままの居グセと，舞を舞う舞グセとがある)。やがて，地謡とシテの掛け合いの謡であるロンギで身分を明かし，女は消えうせる。ここでシテは橋懸(はしがかり)から退場して扮装を変える。これを中入りというが，この間に間狂言の里人が出て，所の伝説を語るのが普通である。⑤急：ありし日の姿で現われた後ジテが，追憶の舞(序之舞。なお，能の戯曲的頂点には純器楽演奏による舞が舞われるのが











①**高砂**　脇能は神の能で，前半は老人夫婦などの出るものが多い。これは《翁》のあとに演じられた正式の脇能で，囃子方が烏帽子をつけている。シテ老翁は梅若六郎　②**屋島**　二番目物は軍体で，後ジテは武人の霊が，いくさ物語を演じる。これは源義経の霊が弓流しの場面を形で示すもの。シテは梅若六郎　③**井筒**　三番目物は女性をシテとする幽玄な能。これは在原業平の男装束を着た女の霊が，井筒の前で昔を思うもの。シテは観世寿夫　④**隅田川**　四番目物の代表は狂女をシテとしたもの。わが子を尋ねる母が狂女となって，隅田川の船中でその死を聞く。シテは喜多実。後方に立っているのが物語をするワキ船頭　⑤**石橋**　五番目物では鬼や獣などが活発な動きをする。これは白頭の後ジテ親獅子に，赤頭の子獅子二頭がつく特殊演出。シテ金剛巌

原則)を舞ううちに暁の鐘が鳴り，僧の夢が破れるとともに幻となって１曲を終わる。一方，《自然居士》《安宅》など，現実の人間がシテとして舞台に登場する能を現在能というが，前半が現在能で後半が夢幻能となる曲や，中間的性格の能も多い。また，人間性を追究した能を劇能，ショーふうの能を風流能(ふりゅうのう)とよぶこともある。

【分類と曲の性格】世阿弥は《風姿花伝*》で能のジャンルを女・老人・直面(ひためん)・物狂い・法師・修羅(しゅら)・神・鬼・唐事(からごと)に分けたが，結局は三体とよぶ老体・女体・軍体に考えを集約している。その後脇能(わきのう)・修羅・女以外を雑とする４分類を経て，江戸時代には１日５番立ての演能形式に従って神・男・女・狂・鬼という５分類が一般化したが，１～３番立ての催しの多い現在でも，この分類によって曲の性格を考えるのが普通である。ただ，《翁*(おきな)》は１日の催しの最初に置かれる儀式用の曲で，まったく別格に扱われる。①脇能物：初番目物・神能ともいう。１日の能の初番に演じられる曲がら。《高砂》などの若い神，《老松》《白髭(しらひげ)》などの老体の神，《賀茂》などの荒ぶる神，《西王母》などの女神が登場して品格の高い舞を舞う。現行曲目は38番あるが，そのうちにはその祝福性によってここに分類される《鶴亀*(つるかめ)》を含む。なお，脇能物の後半だけを祝言能(しゅうげんのう)として１日の最後に演ずることもある。②修羅物：二番目物ともいう。脇能物の強さと，三番目物の情緒(じょうちょ)性の中間に位置する性格をもつ。多くは《平家物語》により，《清経》《敦盛(あつもり)》《実盛(さねもり)》など，修羅道に落ちた敗戦の武将の苦しみを主題とする。現行曲目に16番ある。なお，敗戦の苦を扱わない《田村*》《屋島*》《箙(えびら)》は勝ち修羅とよばれ，また女修羅に《巴(ともえ)》がある。③三番目物：鬘物(かずらもの)ともいう。現行曲目に39番ある。女性をシテとする能で，能の理想美である幽玄をもっぱら追求し，密度の高い舞を舞うのが特徴。《井筒》《野宮(ののみや)》など王朝の美女の霊，《杜若(かきつばた)》《芭蕉(ばしょう)》など草木の精，《熊野(ゆや)》など現世の美女が登場する。なお，《関寺小町*》《檜垣(ひがき)》《姨捨*(おばすて)》は三老女とよばれ，至奥の曲とされる。④四番目物：雑能ともいう。ほかに分類されないすべての曲を含む。《雨月》《三輪》などの準脇能物７番，《雲林院》《西行桜》などの準鬘物４番，《班女》《隅田川》《弱法師》などの狂乱物25番，《自然居士》などの遊狂物３番，《枕慈童(まくらじどう)》《邯鄲*(かんたん)》などの唐物(からもの)７番，《通小町*》《善知鳥(うとう)》などの執心物８番，《綾鼓(あやのつづみ)》《道成寺*》などの怨霊物(おんりょうもの)７番，《俊寛*》《景清*(かげきよ)》などの人情物９番，

《安宅》《小袖曾我》などの武人の現在物18番があり,劇的変化に富むので上演頻度(ひんど)が高い。⑤五番目物：切能(尾能)ともいう。1日の能の最後を飾る曲がら。現行曲目に51番ある。《小鍛冶(こかじ)》《鞍馬天狗*(くらまてんぐ)》《野守(のもり)》《紅葉狩》《船弁慶》《融》《山姥*(やまうば)》《石橋*(しゃっきょう)》《猩々(しょうじょう)》など。早いテンポとにぎやかな演出が特徴。なお,以上の分類は絶対的なものではなく,流儀および時代によって多少の異同があり,また略脇能・略三番目物という扱いで融通性のある曲も多い。

【能の理論】能の理論は世阿弥によって体系化され,その伝書は能の美学から戯曲論・音楽論・演技演出論・教育論・経営論までを含み，日本の生んだ最高の芸術論として評価されている。彼は，能の理想美を優雅な幽玄とし，それを舞台に実現するための〈花〉(観客をとらえる魅力の技法)を理論の中心として，観客との相対関係にある芸術のあり方を明確にとらえ，その論旨はきわめて合理的である。そして，幽玄の美を止揚し，自在の芸境である闌位(らんい)を経て妙位・妙花とよばれる言語を絶した無色・無味の芸位を最高としている。序破急の理論は彼の作能と演出に実践され，能の理想を舞歌二道すなわち舞踊・演劇的要素と音楽的要素の完全な融合に置いた。なお，金春禅竹の理論には，禅と歌道への接近がみられ，実践的な世阿弥に比べて哲学味が濃い。

【能の音楽】謡の発声法は舌を後ろに引き，のどぼとけを下に押し下げて発声し，女性の役でも特別なつくり声を使うことはない。地謡もハーモニーのある合唱ではなく，すべて斉唱である。謡の音階は西洋音楽でいう絶対音階の概念ではなくて演奏者の自由に任される要素が多く，囃子とのかねあいもそれぞれが個性を主張しあってしかも大きな調和をねらい，不即不離の偶然性のおもしろさに特徴がある。謡の発声法にはヨワ吟とツヨ吟の2種があるが，ヨワ吟は能の創成以来のもので，音階もツヨ吟に比べて細かく明確で，節扱いも変化がある。ツヨ吟は単調だが力強い表現に適しており，元禄(1688～1703)のころから明治初年にかけて音階が確立したものである。謡にはコトバとよばれる会話の部分があるが，これには一定の抑揚の型があり，広義の歌といってもよい。節のある部分は〈拍子合ワズ〉とよばれる自由リズムと〈拍子合〉とよばれる拍節リズムでうたわれるが，拍子合の部分の中心をなすリズムは七五調の12シラブルを8のリズムに割って変化を生む平ノリである。なお謡と囃子の拍節はすべて地拍子*という1句を8個の拍子に配分するリズムに支配されている。そのうち2字1拍の中ノリ(修羅ノリ)は躍動的な謡であり，1字1拍の大ノリはゆったりしたリズム感にあふれ，ともに曲の終結部に多く用いられる。能の囃子は笛・小鼓・大鼓・太鼓で構成されるが，曲によっては太鼓が参加しないものもある。打楽器は謡のリズムを規制し，笛は謡の旋律をいろどる。一セイ・次第などの登場楽，序之舞・中之舞・神楽(かぐら)・獅子(しし)などの舞の部分は純器楽部分である。〈ヤ〉〈ハ〉〈ヨイ〉といった打楽器奏者の掛け声は，間をはかるとともに緊張感を持続する気魄(きはく)の表現として生きている。世阿弥が能の本質を舞歌二道と規定しているのは，謡と囃子の音楽的リズムと舞踊あるいは演技のリズムとの調和と拮抗(きっこう)を能のおもしろさの根本に置くからにほかならない。先行芸能の曲舞*(くせまい)に学んで能の本質にリズムを強く導入したのは，観阿弥の功績とされている。なお，能全体のリズムの流れを〈ノリ〉(たとえば,ノリがよい，悪い)といい，謡・囃子・演技の緩急のぐあいやリズム・テンポを〈運ビ〉とよぶ。

【演出と演技】能の演出は江戸中期にほぼ固定した。特殊な演出は小書き*とよばれ，これもそれぞれの曲について制定されている。能の演出権は一座を率いるシテ方の棟梁(とうりょう)にあったが,明治以降はシテ方がそれぞれの専属の三役をもたず，またそれらに分業意識が強いので，演出は各自のくふうと様式性を守るための慣習によってばく然と行なわれているのが現状である。そして，一般には〈位〉とよばれる曲それぞれの概念が演出の基準となっている。位は曲の内容，扮する役の身分・性格，技法の難易によって定められ，演技・演奏のテンポやリズムを規制している。能は人間の動きを必要最小限の型として煮つめたが，それがかえって観客に無限のイメージをいだかせることを可能とした。能は幾何学的な演技の類型の積み重ねによって，大きなテーマを，あるいは人間の情念を純粋な形で舞台に造形することに成功したのである。能の型の単元は特殊なものを含めても250種程度である。そして，形の美しさだけをねらう純粋舞踊的な型と演劇的表現の型とは，抽象化の統一によって無理なく重なり合い，同じ型でも用い方によって種々の表現を可能としている。能は〈歩行の芸術〉といわれるが，演者の体全体が舞台の空間を移動し，空間を断ち切る動きがきわめて重要であり，それをささえるのは白たびに包まれた足の運びである。そして，まったく動かないところでも，演者の心は舞っているのである。このように，能の型の簡素な動きを豊富な表現に変えるのは演者の心の働きであり，内的な緊張感の持続にほかならない。

【舞台と装置】今日の能楽堂の形式は明治以降のものである。能舞台の様式はすでに安土桃山時代に完成をみたが，当時は野外に置かれ，観客は別の建物から鑑賞するのが普通であった。野天で観賞される薪能*(たきぎのう)は世阿弥以前からの古い伝統をひく神事である。なお，当時の勧進能*では円形劇場ふうに観客席をしつらえ，3,000人程度を収容したという。1965年(昭和40)6,000の観客を収容するアテネのコロセウムで能が上演されたのは，きわめて象徴的であった。能がこのように空間を支配してきたという事実は注目してよい。それは，能面のもつ強さ，抽象的な演技のもつ集約力，役と役の占める位置の緊密な構成によるものである。能は一般の演劇のような背景も装置も用いない。わずかに必要最小限の範囲で，作り物とよばれる簡素な大道具を舞台に持ち出して観客の幻想の働きを補助するが，それも極度に形象化されているのが普通である。➔能舞台　➔作り物

【面(おもて)と扮装】能面は単に仮装のための手段ではなく，能のすべてを支配する。その日の能の演出は，選ばれた能面によって決定されるといってよい。演者は能面の中に全精神をこめる。能の諸役の発散する力は，面をかける特権をもったシテに集中し，その力は能面を通して強く放射される。面をかけない現実の男の役の場合も直面(ひためん)とよばれるように，素顔を一種の能面として用い，顔面の表情は抑制される。重心を落とした体の構えや，足の美しさを強調するすり足による運びも，視野を犠牲にした能面の使用と別に考えることができない。手首だけの演技をせず，必ずひじと肩の動きを伴った直線運動，大きな円運動を基本とする腕の動き，体全体による感情表現の方法も同様である。能装束も能面と調和するように，直線的なかたいデザインである。様式化の進んだ能では，胸元にのぞくえりの色によってまで，演出が左右されるほどである。山形県の農民の手で受け継がれてきた黒川能*と五流の能とでは，能面のつけ方や装束の着方などに大きな違いがあるのをみても，時代とともに美的な進化を遂げてきたことがよくわかる。➔能面　➔能装束

【能と狂言】能と狂言は別々の演劇形態であると同時に，二つで一つの演劇ということもできる。その共存関係は南北朝時代あるいは室町時代以来のことである。能と狂言は，音楽劇とせりふ劇，貴族的と庶民的，悲劇性と喜劇性といったように，数々の対照的な性格をもつと同時に，型と舞と謡という共通の演技基盤をもっている。狂言は，能と並演される独立した本狂言のほかに，間狂言として能の中の一役を受け持つ。《翁》の三番叟(さんばそう)あるいは千歳の役は狂言方が演ずる。そして，かつては能の下風に立つものといった概念が一般的であった狂言も，第2次世界大戦後は日本演劇の源流としての位置が再認識されて，芸術的にも新

能の用語

序之舞　能の舞の中で最も密度の濃い，品格の高いもので，ゆったりしたテンポで舞われる。美女・老女・女神や草木の精，在原業平の霊などを舞う。笛を主にして大鼓・小鼓がはやし，太鼓が加わるとはなやかさを増す。老神の舞う〈真ノ序之舞〉は，さらに荘重な感じが強い。

中之舞　序之舞に比べて，テンポも中庸で情緒的な趣が濃い。現実の美女や恋に狂う狂女，天人の類，平敦盛などの若い貴公子の霊などが舞う。太鼓の加わるものと加わらぬものがある。なお，狂言の三段之舞はこれを模したものである。

破之舞　序之舞または中之舞のあと，1曲の終結部近くに舞われる短い舞である。《羽衣》《松風》など数種の曲にしかなく，前の舞がすんでから謡が1段あって，その後ややテンポを早めて舞われる。

急之舞　最もテンポが切迫した舞。急調の笛を主に大鼓・小鼓が激しくはやす。《道成寺》《紅葉狩》で鬼女の化身が正体を現わしかかる場面で舞われる。強い神などが舞う場合は太鼓が加わる。

早舞　貴人の霊や成仏した女の霊が舞う，さわやかで典雅な舞。太鼓が加わる。笛が他の舞より一調子高い盤渉(ばんしき)調で吹くのが特徴。別に庶民の男の亡霊が舞う太鼓なしの〈黄鐘(おうしき)早舞〉があるが，これは他の舞と同じ黄鐘調。

男舞　現実の男性(武人)が舞う爽快(そうかい)なテンポの早い舞。太鼓は加わらない。

神舞　《高砂》《養老》などの若い男神の舞う，気品高く，強く，早い舞。必ず太鼓が加わる。なお，序之舞・真ノ序之舞・破之舞・急之舞・早舞・男舞・神舞は基本の楽式がほぼ共通で，テンポと位だけを別にする。

神楽(かぐら)　女神や巫女(みこ)が幣をもって舞う，リズミカルで伸びやかなテンポの舞。太鼓が加わる。後半は扇に持ち替えて神舞の譜に接続するのが普通。狂言の神楽は笛と小鼓だけがはやし，能とは別個のもの。

楽　舞楽をかたどったエキゾチックな感じの強い舞。いかめしい神，仙人，唐人，楽人の妻などが舞う。太鼓は有無両様。リズミカルな独特の譜をもち，舞い手が足拍子を多く踏むのが特徴。狂言の楽はこれを簡略化したものである。

獅子(しし)　文殊菩薩(ぼさつ)の浄土に住む霊獣とされる獅子の舞で，《石橋》で舞われる。笛を主に大鼓・小鼓・太鼓がはやす。乱序という序奏に始まり，深山の静寂の表現である露の拍子を経て，豪快な獅子に移る。頭を激しく振り，両そでをぴんと張って舞うのが特徴。なお，《望月*(もちづき)》《内外詣*(うちともうで)》の獅子はこれを模して作中人物が舞うもの。

乱　《猩々*(しょうじょう)》の特殊演出である《乱》と，《鷺(さぎ)》とにある舞。笛を主に大鼓・小鼓・太鼓がはやす。赤一色の扮装で舞う前者は妖精(ようせい)の波上の酔舞であり，後者は鳥類の歓喜を白一色の扮装で舞う。両者は譜をことにするが，いずれも速度が微妙に変化するのを特徴とする。

羯鼓(かっこ)　腰に羯鼓をつけ，2本のばちで打ちつつ舞う。中世に流行した八撥(やつばち)という芸能を模したもので，遊芸人の類が舞う。笛を主に大鼓・小鼓がはやす。狂言の羯鼓は能とは別種で，笛だけではやす。

カケリ　動的な表現に用いる舞踊化された動作。修羅物では戦闘の興奮を，狂女物では物狂いの情緒の動揺を表わす。特殊なものに猟師が鳥を追う動作を写実的に演ずる《善知鳥》の例がある。大鼓・小鼓がはやし，笛が加わる。

イノリ　襲いかかる鬼女と僧(山伏)との舞踊化された闘争場面。太鼓・大鼓・小鼓が激しくはやし，笛が加わる。《葵上(あおいのうえ)》《道成寺》《黒塚》で演じられる。

イロエ　〈彩色〉とも書かれるように，一種の色どりの動作。大鼓・小鼓と笛の静かな囃子で舞台を一巡する。舞のウォーミングアップの場合と，舞の代用の場合と，余情の完成といった意味で用いる場合とがある。

立回　イロエと似て舞台を一巡するだけだが，子どもや敵を捜すとか，夜道を手さぐりで行くとかいった意味をもつ舞踊的動作。大鼓・小鼓がはやし，笛が加わる。さらに太鼓の加わることもある。

乱拍子　《道成寺》で演じられる特殊な舞。動きはきわめて少ないが緊迫感がみなぎる。小鼓が鋭い掛け声をかけて長い間をはかって打つのに合わせ，シテはつま先を動かし，舞台を三角形に回る。笛がときどき吹かれ，無気味さを添える。

舞働き　働きともいう。神・鬼・天狗(てんぐ)や猛将の霊などが演ずる舞踊化された豪快な動作。示威運動の場合と，相手に襲いかかる戦闘動作の場合とがある。笛を主に，大鼓・小鼓・太鼓がはやす。

下ニ居ル　下居ともいう。片ひざ(流儀と役により左右の別がある)を立ててすわること。能の登場人物はすべてこのすわり方だが，間狂言だけは正座する。

居立ツ　下居の型からかかとを上げてつま先立ち，やや中腰の姿勢になること。驚きや注意を表現するものであるが，次の型に移る準備動作であることも多い。

左右　舞の基本型の一。左方へ左手をやや高く出しながら幾足か出，次に右方へ右手を高く出しながら出るいなずま形の動作。形の美しさをねらう純粋舞踊の型で，特定の意味の表現ではない。

面ヲ切ル　能面を鋭角的に激しく動かすこと。1点から1点に切る場合と，左右に連続して切る場合とがある。急に物を見込む動作であり，示威とか威嚇(いかく)とか激怒を表現する型。

面ヲ使ウ　能面を左右に静かに動かす型。見回す動作であるが，虫の音を聞くとか，風の音の表現に用いて効果がある。

面ヲクモラス　能面を少しうつむかせ，嘆き・憂い・決意などを表現する技法。曇らせる程度の激しい場合を〈面ヲ伏セル〉といい，逆にややあおむけて喜びの感情を表現するのを〈面ヲ照ラス〉という。

仏倒し　枯れ木倒しともいう。仏像や枯れ木を倒すように，体をまっすぐにしたままあおむけに倒れる型。切り殺された役が演じ，切り戸口から退場する。能の戦闘場面にはほかに宙ガエリとか，空中で両足を水平に組んでそのまま落下する組ミ落トシとか，かなり激しい演技がある。

シオル　泣く型。手の指を伸ばしてそろえ，涙をおさえ，あるいは涙を隠すように斜めに顔の前に上げながら面を曇らせる。こうした具象的な演技も様式化され，全体の舞踊的統一を乱さないのが能の型の特徴である。さらに強い嘆きを表現する型〈双(もろ)ジオリ〉は両手でシオル。

ヒラク　能の基本動作の一。右手を胸の高さまで伸ばして出す型(シカケまたはサシ)から接続するのが普通。左・右・左と足を引きながら両手を広げる型。能ではこうした前進・後退の動きが重要で，縦に長い能舞台の空間が生かされている。

たな脚光を浴びつつある。➔狂言

〔能の催し〕能の催しには，歌舞伎のように1か月間興行といった風習はなく，常に1日限りである。これは，一番の能に精力を傾けるということのほか，仏教の一期一会(いちごいちえ)という考え方が根本にあるからである。そして，土・日曜日ばかりでなく，平日の夜の催しも多い。会員制をとるのが普通だが，臨時会員の制度もある。流儀の家元や有力者の催す月並能は鑑賞のためというよりは稽古能(けいこのう)としての性格が強いが，新聞社など第三者の催す観客本位の会も増加している。能と狂言の専門劇場である能楽堂は，東京の水道橋能楽堂・観世会館・梅若能楽学院・喜多能楽堂・矢来能楽堂，名古屋の熱田神宮能楽殿，京都の金剛能楽堂・京都観世会館，大阪の大阪能楽会館・大槻(おおつき)能楽堂，神戸(こうべ)の湊川(みなとがわ)能楽堂，奈良の金春能楽堂，金沢の金沢能楽堂，福岡の住吉(すみよし)能楽堂などが代表的である。第2次世界大戦後は，ホールや大劇場のステージでの演能も盛んで，薪能などの野外の催しも増加しつつある。〔増田正造〕

える。また，東南アジアなど開発途上国では急激な人口増加に伴い，食糧生産の急務も農耕地の拡大につながり，アフリカ・南アメリカとともに今後の農業の伸展が予想される。

この10年余りの穀類作付け面積は4,000万ha余りも拡大した。その大部分はアジア地域であり，穀類生産量も2倍以上となったが人口の増加率の大きいことと，生産の不安定とが重なり必ずしも需給を満たしていない。

〔日本農業の特色と将来性〕日本がアジアの東に位置し，四面海に囲まれ，夏から秋にかけて台風に襲われ，年間1,500～2,000㎜の降雨量を有することは，酸性母岩に起因する酸性土壌(どじょう)の多いことに拍車をかけ，塩基の溶脱がいっそう土壌を酸性化，特殊ともいえる土壌条件を生みだした。その上，急傾斜が多く，平坦地(へいたんち)で水利の便のある所はすべて水田として，水稲の生産に主力が置かれたのは，むしろ自然にしたがったともいえる。こうして2,000年余の昔から〈瑞穂(みずほ)の国〉として，湿潤農業に徹してきたことから，やむをえないことでもある。わが国への水稲の渡来は，弥生(やよい)時代(紀元前1世紀ごろ)より多くはさかのぼらない。また，渡来は揚子江南岸の江南地方の南方民族からとする説が有力である。九州に渡来した稲作が青森まで達したのは鎌倉時代(1190年ごろ)であり，江戸時代の終わりには北海道南部にはいった。収量の向上は明治にはいってからであり，反当たり収量が飛躍的に向上したのは，1955年(昭和30)以降である。大正時代から肥料の投入が増加し，第2次世界大戦後から育苗技術(特に早期育苗)が進み，農薬の進歩，品種の改良などとあいまって，1966年以降反当たり収量は毎年向上の一途をたどり，生産量は1,300万～1,400万tで安定するに至った。そのため1970年から減反政策が実施され，1,250万tの需要を満たすに足るだけの生産作付けが指導されるようになった。しかしながら需要量の大幅な衰退と食生活の変貌が米の消費を妨げ，米の生産調整は一層強化の方向をたどり，昭和55年度で減反実施面積は58万ha余りに及び，全水田面積の2割余りに相当する。水田の不作付けは耕地の潰廃を意味するところから，政府は他作物への転換を補助金を出して奨励している。転換作物としては，飼料作物の15万ha，大豆の10万ha(いずれも昭和55年度)，野菜の98,000haが主である。しかし国の財政も逼迫し，農政の見直しをせねばならぬ段階にきていることも事実である。自給力・率の向上をふまえて農政の一大転換が望まれる次第である。〔金木良三〕

のうぎょういいんかい【農業委員会】 1951年(昭和26)〈農業委員会等に関する法律〉によって農地委員会・農業調整委員会・農業改良委員会の3委員会の機能を統合して農地のある市町村に設置された機関。農業委員会の業務は，①農地法等に基づく農地・採草放牧地または薪炭林の利用関係の調整および自作農の創設維持，②土地改良法に基づく農地の交換分合，③農業および農村に関する振興計画の樹立および実施，④農業技術の改良，農作物の病虫害の防除その他農業生産の増進，農業経営の合理化および農民生活の改善に関すること，⑤農業および農民に関する事項についての啓蒙(けいもう)・宣伝，⑥農業および農地に関する事項について意見を公表，他の行政庁に建議し，また諮問に応じて答申することなどである。農業委員は，選挙による委員(10～40人)と市町村長の選任による委員からなり，非常勤で，任期は3年。〔高山隆三〕

のうぎょうかくめい【農業革命】 資本主義社会成立期に産業革命と併行して起こった農業の技術・経営などの急激な変革。最も典型的なのは18世紀イギリスで行なわれた農業技術の飛躍的発展と，大規模なエンクロージャー*による開放耕地制度から集約的な大農場への移行である。18世紀における穀物・食肉に対する需要の増大は進歩的農業家を刺激し，改良的輪作の導入，農

表-2　大陸別主要作物の収穫面積および収穫量

1978年，単位 面積：10万ha 収穫量：10万t

作物種類	世界計		アフリカ		北・中米		南米		アジア		ヨーロッパ		オセアニア	
	面積	収穫量	面積	収穫量	面積	収穫量	面積	収穫量	面積	収穫量	面積	収穫量	面積	収穫量
穀類計	7 535	15 808	732	723	984	3 370	375	621	3 346	6 036	708	2 499	154	265
うち，小麦	2 321	4 415	88	94	344	728	88	121	808	1 138	261	940	103	187
大麦	943	1 961	52	44	83	206	13	13	238	322	201	712	31	43
らい麦	164	324	0	0	7	13	3	2	19	26	56	147	0	0
えん麦	279	505	4	2	67	123	7	9	13	16	53	151	14	19
とうもろこし	1 178	3 630	212	278	381	1 962	163	268	279	544	116	484	1	4
米(もみ)	1 451	3 764	46	80	20	82	68	115	1 307	3 444	4	18	1	5
ばれいしょ	182	2 730	5	45	8	200	10	98	29	3 319	59	1 199	0	10
かんしょ	119	998	8	49	2	13	3	27	106	902	0	1	1	6
綿(リント)	…	130	…	11	…	31	…	10	…	49	…	2	…	0
大豆	529	802	3	2	260	509	92	128	162	150	3	5	1	1
たばこ	44	57	3	2	6	12	5	6	23	26	5	7	0	0
砂糖														
分密糖	…	910	…	61	…	195	…	127	…	207	…	197	…	32
非分密糖	…	142	…	1	…	2	…	12	…	127	…	—	…	—

FAO「Production Yearbook 1978」による

穀類計は，小麦・大麦・らい麦・えん麦・とうもろこし・あわ・ひえ・きび・もろこし・米(もみ)・そばの計である

耕機具の改良・発明，土壌(どじょう)改良，家畜の飼育法・品種の改良をもたらした。同時に合理的農業をめざすエンクロージャーも活発化し，18世紀後半には議会立法によるエンクロージャーが一般化し，荒れ地の農地への転換も大規模に進んだ。1793年農務局が設置され，アーサー＝ヤングの宣伝活動なども行なわれ，農業における資本主義の成立をみるに至った。これに伴い小農民の没落が強行された。〔板橋重夫〕

のうぎょうきかい【農業機械】 農用機械ならびに器具の総称。農業を営むうえに必要な機械・器具のいっさいを含み，小は鍬(くわ)・鎌(かま)から，大はトラクター・コンバイン・農用航空機などまで，きわめて種類および数も多い。使用する動力により，人手で使う人力用，家畜による畜力用，風力・水力・電力・熱力などによる動力用などに分けられる。また歴史的には，平安・鎌倉時代に完成して今日まで利用されている鍬のように古い伝統をもった農具もあれば，近代機械工業技術によってつくられたトラクター・コンバインなどの新しい機械もある。文化の向上とともに農産物の需要は量・質ともにますます増大・向上する。これに応じて農業はより多くの，よりよい，より安い生産を必要とし，そのための機具として近代農業における農業機械の使命はきわめて重い。一方よい製品を農業に提供する農業機械工業は単純な機械技術だけにとどまらず，機械・電気・化学工業などの技術を総合した近代工業の一つであり，その地位は各国とも年を追って高まりつつある。〔田原虎次〕

のうぎょうぎじゅつけんきゅうじょ【農業技術研究所】 農林省の所管の農業の総合的研究所。農事・畜産・園芸・茶業・開拓・加工などの各分野にわたって試験研究が行なわれる。一般にとりあげられる課題は，全国的共通問題，数地域にわたり比較を必要とする課題，研究経費上から一か所で行なわれることを妥当とする場合の試験研究などである。所在地は東京都北区西ヶ原にあり，分室が埼玉県鴻ノ巣(こうのす)，神奈川県平塚(ひらつか)市などにある。〔金木良三〕

のうぎょうきほんほう【農業基本法】 1955年(昭和30)以降の日本経済の著しい成長過程で，①農業と他産業との間の生産性と従事者の生活水準の格差拡大，②農産物の消費構造の変化，③他産業への労働力の移動などの問題が激化し，いわゆる農業の曲がり角として農政転換の必要が論議され，農業および農政の向かうべき道を示すことを目的に1956年に制定された法律。農政の目標を，農業の生産性と他産業の生産性との格差是正，農業従事者の生活向上に置き，目標達成の手段として，①農業生産の選択的拡大，②農業の生産性の向上および総生産の増大，③農業構造の改善，④農産物の流通の合理化，⑤農産物の価格の安定および農業所得の確保，⑥農業資材の生産・流通の合理化および価格の安定，⑦農業従事者の養成および就業の円滑化，⑧福祉の向上などの8項目を掲げ，これに必要な施策を国は総合的に講じなければならないことを本法で規定している。そして農業構造政策の方向として自立家族経営の育成と協業の助長の必要を明らかにしている。➔農業構造改善事業〔高山隆三〕

のうぎょうきょうこう【農業恐慌】 資本主義的経済恐慌*が農業部門で発現したもので，農産物の過剰生産，農産物の価格暴落，農業経営の破綻(はたん)，農民の転落と都市への逃亡などの現象を伴う。従来，農業恐慌についてはバルガ・リャシチェンコ・メンデリソンらの〈長期農業恐慌〉説が支配的で，歴史上発生した農業恐慌は19世紀末農業恐慌(1874〜1895)，1920〜1930年代農業恐慌(1920〜1940)というように20年間も続いたと考えられてきた。しかし，そうなると農業恐慌は，資本主義に〈現存する諸矛盾の一時的な暴力的解決〉であり，〈攪乱(かくらん)された均衡を瞬間的に建設する暴力的爆発である〉(マルクス)という恐慌の規定にそぐわないことになる。一般経済恐慌は通常約10年の周期をもって現われ，その持続期間はせいぜい2〜3年であるのに，農業部門でのみ恐慌が20年間も持続するとすれば，恐慌の名に値しないことになるからである。そこで農業恐慌も恐慌であり，一般経済恐慌の農業部門における発現であるかぎり周期的恐慌の一環として把握(はあく)すべきだとする説が，特にわが国における農業恐慌研究家によって推し進められている。これは農業恐慌の長期性を，地代の存在，農業生産期間の特質，小農民生産の存在などに根ざす産業循環の一周期内での長期性にすぎないとする見解で，農業恐慌を一般経済恐慌のうちに含めようとするものである。しかし，長期農業恐慌説の研究遺産を否定し去ることは行き過ぎで，これを資本主義世界体制の独占段階への移行過程ないし独占資本主義にかかわる構造問題としてとらえることが重要である。〈19世紀末農業恐慌〉といい，〈1920〜1930年代農業恐慌〉といい，まさに独占資本主義形成期，および全般的危機*ないし国家独占資本主義*成立期における構造変化の現象として現われているからである。〔常盤政治〕

のうぎょうきょうどうくみあい【農業協同組合】 農業協同組合法(1947年公布)によって設立運営されている農民の経済団体。農協と略称する。市町村にある単位農協(単協)と，郡・県・全国段階の農協連合会からなりたつ。前身は産業組合で，これは地主・商人も加入した農村の地域共同団体であったが，第2次世界大戦中，強制加入の統制団体である農業会となり，それが戦後農民を主体とした農協に改組・再編された。1910年(明治43)に公布された産業組合法が，半封建的なプロシアのライファイゼン組合系の原則を採用していたのに対し，農地改革後の〈農業生産力の増進と農民の経済的社会的地位の向上を図り，あわせて国民経済の発展を期する〉ことを目的とした農業協同組合法は，ロッチデール組合系の民主的な原則によっている。単位農協には総合農協と専門農協がある。総合農協は，信用(貯金と貸し付け)，販売・購買・利用(加工その他の施設など)，共済(保険)，生産・指導(営農・生活)などの諸事業を行ない，これは1950年(昭和25)に施行された農業協同組合合併助成法により合併が促進され，10年間で約半減し，現在では約6,000組合となっている。専門農協は養蚕・酪農・畜産・果樹野菜関係の事業を行ない，全国で約5,000ある。このほか非出資の農協が7,000組合ある。総合農協の事業量は1969年で販売2兆円，購買1兆円，貯金5兆円，共済(長期)9兆円で，農民の営農・生活に密接な関係をもっている。単協は県段階で約300の連合会を組織しているが，これは事業別専門組織となっており，信用農協連合会・経済農協連合会(販売と購買)・共済農協連合会，指導団体である県農協中央会のほか，畜産・養蚕・厚生などの連合会がある。さらに全国段階では全国販売農協連合会(全販連)と全国購買農協連合会(全購連)が合併した全国農協連合会，全国共済農協連合会・全国農協中央会(全農中)・全国新聞情報農協連合会のほか，全国養蚕連・厚生連・日本園芸連・全畜連・全酪連などがあるが，金融系統のみは，農林中央金庫法に基づき，政府と農林漁業団体の共同出資で設立された農林中央金庫となっている。これらの系統連合組織全体としては大きな経済力・政治力をもつが，同時に農民から遊離する傾向があり，農協民主化が今後の課題といえる。〔美土路達夫〕

のうぎょうきんゆう【農業金融】 農業を対象とする金融。農業は季節性と危険性が強いため長期の資金を必要とするので，一般金融機関の採算ベースに乗らないものが多い。このためわが国では，市町村単位の農業協同組合*，府県単位の信用農業協同組合連合会，それらの中枢機関である農林中央金庫*の3段階からなる組合系統金融が行なわれ，農家の預金の大部分はこの系統へ吸収される。しかし，その資金は農家への貸し付けに十分還元されず，余裕資金を系統外へ貸し出している現状で，系統金融は政府の補助による制度金融によってさらに補完される。制度金融のおもなものは，農林漁業金融公庫*による農林漁業経営構造改善資金，土地改良資金などの低利融資，政府の利子補給が行なわれる組合系統機関からの農業近代化資金の融資など。〔速水　保〕

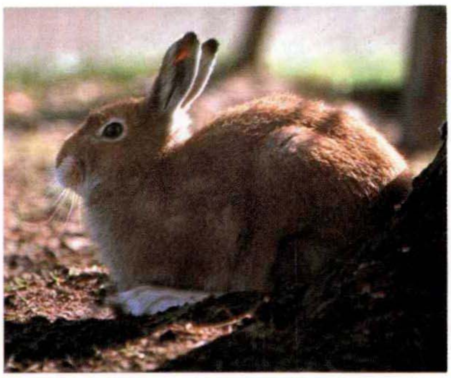
のうぎょうこうぞうかいぜんじぎょう【農業構造改善事業】 1961年(昭和36)に施行された農業基本法*に基づいて，農業と他

産業との生産性の格差を是正し，他産業従事者と農業従事者が均衡する生活を営めるよう，零細な自作農によって構成されるわが国の農業の構造改善を目的に行なわれる事業をいう。この事業は，全農村にわたり一定地域ごとに樹立された農業構造改善事業計画にしたがって実施されるのであるが，国は，市町村の計画の樹立および事業の実施に対して総合的助成を行なう。農業構造改善事業には①農地の区画整理・交換分合，農地・草地の造成改良，農道の新設改良などの土地基盤整備事業，②共同で一貫機械化作業を行なうのに必要な高性能の機械施設，共同生産施設や共同出荷所などを整備する農業近代化施設整備事業，③農地取得の円滑化，農用地の信託や管理に関する農業経営整備事業などがあり，国の補助率は農業構造改善地区ごとに年平均50％以内であるが，農業経営整備事業は３分の２以内の補助率である。補助残部分への融資としては農林漁業金融公庫から貸し付けが行なわれる。この事業が発足して10年間に，全国で2,219市町村，延べ3,026地域に4,000億円近い事業費が投入された。１事業地区の規模は補助がある場合には平均３億円にのぼる。しかし構造改善事業の基本的目標である零細農耕からの脱皮すなわち農業経営規模の拡大は高度経済成長による農業労働力の流出，土地価格の騰貴，米の過剰と農産物自由化の脅威などによって計画どおり進まず，1969年には第２次農業構造改善事業促進対策要綱が定められ，10年計画で規模の大きい生産性の高い農業経営の育成を改めて図るに至っている。〔高山隆三〕

のうぎょうさいがいほしょう　【農業災害補償】　わが国にかつてあった農業保険法と家畜保険法とを廃止・統合し，さらに整備を加えて制定した農業災害補償法(1947)に基づく制度で，農業者が自然災害によって受ける損害を塡補(てんぽ)する。農業経営の安定と生産力発展などを目的とし，主として自作農が災害によって小作農に転落するのを防止する政策である。

のうぎょうしけんじょう　【農業試験場】　地域における農業技術の研究，技術の改良普及のため都道府県単位で設けられる試験場。県知事の監督下に置かれる。県によって多少異なった形態があり，大阪・愛知・宮崎・長崎・大分などの府県は農業・園芸・畜産・加工などの分野が統合される総合試験場となっている。その他の府県では，独自の特色を生かして，農業試験場・園芸試験場・果樹試験場・茶業試験場などがそれぞれ別個に設置されている場合が多い。しかし，最近は施設の充実，人件費などの面から総合化への傾向が強い。　〔金木良三〕

のうぎょうセンサス　【農業センサス】　農業の国際比較に必要な統計を整備することを目的とする農業統計調査。経済統計に関する国際条約に基づき，FAO(国連食糧農業機関)が加盟各国に対し，10年に１回要請し行なわれる。わが国は1950年(昭和25)に参加，1960・1970年の世界農業センサスには林業を含めた農林業センサスが実施された。さらに年次の中間にも一度調査が行なわれる。1955年のものは臨時農業基本調査，1965年のものは中間農業センサスとよばれている。



ノウサギ



直　衣
《紫式部日記絵巻》(部分)
五島美術館蔵

のうぎょうそうこぎょうほう　【農業倉庫業法】　1917年中小農民の保護のために制定された法律。1914～1915年(大正３～４)の豊作と財政緊縮政策により米価が大暴落したため，政府は1915年米価調節調査会を設け，米価調節策を諮問し，〈農業倉庫の設置を奨励する〉一項目を含めた答申を得て制定された。農業倉庫業者の事業・資格・認可，農業倉庫証券の発行，行政官庁の取り締まり権限などについて規定している。

のうぎょうほけん　【農業保険】　農業生産に関して生ずる自然災害による損害を塡補(てんぽ)して，農業資源の確保と農業の保護助成を図ることを目的とする各種保険の総称。農作物の風水害，旱害(かんがい)，雨害，雹(ひょう)・霜害，虫害，森林火災，家畜の斃死(へいし)や疾病(しっぺい)，傷害と盗難，漁船の遭難などの事故に対する保険である。わが国では農業災害補償法に基づく農業災害補償制度が実質的な農業保険になっている。

のうぎょうもんだい　【農業問題】　⇨444ページ

のうけっせん　【脳血栓】　脳血管内の狭窄(きょうさく)部に，血液が鬱滞(うったい)して血栓を生じるために起こる血行遮断(しゃだん)症状。脳血管の動脈硬化・アテローム変性・梅毒性血管変化などによる。比較的急に卒中症状を起こすが，脳出血や脳塞栓(そくせん)のように突発することはない。多くの場合かなり以前から頭痛・めまい・不眠などの運動・知覚の異常が現われる。なお，脳塞栓と合わせて脳軟化症という。

のうこうぎんこう　【農工銀行】　1896年(明治29)の農工銀行法に基づき全国各府県に１行ずつ設立された特殊銀行。中小の生産者を対象とし，農業および工業の改良発達のために不動産抵当金融を行なう金融機関であったが，債券発行が不可能であったため日本勧業銀行(→第一勧業銀行)に従属し，しだいに合併吸収されていった。

のうさぎ　【野兎】　哺乳(ほにゅう)類・ウサギ目・ウサギ科。本州・四国・九州・佐渡島・隠岐(おき)に分布し，低地から亜高山までに多い。北海道に分布するエゾユキウサギに似るが，それよりも小さく頭胴長43～54cm，尾長３～４cm。体は茶色であるが，東北・北陸・山陰などのものは冬には全身白色となる。夜行性で，キリやカラマツなどの樹皮や草などを食べる。昼間は草やぶの中や岩陰などで寝て過ごす。山間の畑を荒らしたり，冬に樹木を食害することが多い。皮が非常に薄いので，毛皮はじょうぶでなく，下級品である。➔ユキウサギ
〔今泉吉典〕

のうさんぶつけんさ　【農産物検査】　農林畜産水産物およびこれから製造または加工されたものについて，その種類・銘柄ごとに品位・量目ならびに包装など，また代替性・保存性・運搬性および加工適性などを検査すること。この検査によって生産・使用・消費の合理化，あわせて農家経済の発展と公共の福祉の増進をはかる。従来行なわれていた農産物検査制度は食糧管理制度の一環としてであったが，1951年(昭和26)公布された農産物検査法には市場性をもった商品検査の制度が盛り込まれ，検査の字義以上に流通行政の内容を多く含むものとなっている。検査の対象は，輸入品も含めて米麦・雑穀・菜種・いも類・大小豆・小麦粉・わら工品など32品目で，本検査法に基づき，食糧事務所の職員である農産物検査官が行ない，検査結果については証明書を交付する。なお検査規格は農林大臣が定める。　〔金木良三〕

のうし　【直衣】　平安時代以来の公家(くげ)の平常服。その構成は衣冠と同じであるが衣冠の位袍(いほう)(位階を表わす袍)とは異なり，冬は表布に白の綾(あや)，裏布には二藍(ふたあい)または縹(はなだ)の綾(近世は平絹)，夏は二藍の穀紗(こめしゃ)で，下部には衣冠のように指貫(さしぬき)というくくり袴(ばかま)をはいた。頭には平時は烏帽子(えぼし)をかぶったが参内のような晴れのときには冠をかぶり(前者が烏帽子直衣で後者が冠直衣)，手には檜扇(ひおうぎ)を持ち浅沓(あさぐつ)をはいた。
〔河鰭実英〕

のうし【脳死】回復不能な脳の機能喪失。脳死の判定基準はまだ確立されていないが，現段階では，①外来の刺激に対して反応せず，昏睡(こんすい)状態で不動である，②呼吸の自然停止，③瞳孔(どうこう)散大・対光反射消失，④血圧の人工的維持不能，⑤筋肉弛緩(しかん)・皮膚蒼白(そうはく)，⑥脳波平坦(へいたん)化(静止)などが認められると脳死と判定される。従来，死といえば心臓搏動(はくどう)停止を意味していたが，近時，臓器移植，特に心臓移植の進展に伴って脳死が問題になっている。〔青木利彦〕

のうしゅ【嚢腫】良性の上皮性腫瘍(しゅよう)(→腫瘍)の一。腺管(せんかん)が高度に拡張し，内面をおおう腺腫細胞が増殖して分泌液を満たし，これが嚢状をなすもの。組織奇形である嚢胞とは区別される。内容は漿液(しょうえき)性・膠質(こうしつ)性・偽粘液性とさまざまである。卵巣に好発し，肝臓・腎臓(じんぞう)・乳腺などにもみられる。内容が感染を起こし，発赤腫脹すると，外科的治療が必要となる。

のうじゅうけつ【脳充血】脳の血管内を流れる血液量が増加するために起こる一過性の機能障害。通常〈のぼせ〉といわれ，重症では意識消失・痙攣(けいれん)を起こすこともある。動脈性のことが多く，過労・日射病・精神的興奮などで起こり，酒や血管拡張剤投与，ヒステリーなども原因となる。静脈性では上大静脈環流障害・静脈血栓(けっせん)・心不全や激しいせきなどによって起こり，顔面が潮紅，怒張する。原因を除去し，通常は安静にして上半身を高くし，頭部を冷やせば快復する。鎮静薬などを用いることもある。〔宿谷幸治郎〕

のうしゅくウラン【濃縮ウラン】ウラン235のウラン238に対する比率が天然の混合率をこえるウラン。天然のウランの中には質量数235のウランと質量数238のウランが混在するが，原子炉用の核燃料として使えるのはウラン235のみである。しかしこれは天然のウラン中にはわずか0.7％しか存在しないので，人工的にウラン235の混合比を高め，燃料としての効率をあげる。ウランのような質量数の大きい同位元素の分離濃縮はむずかしく，現在用いられている方法は気体拡散法で，これはガス分子の質量のわずかな差による移動速度の違いを利用する。ほかに遠心分離法もある。原子炉のうち，燃料として天然ウランを用いることができる炉は非均質炉に限られるが，濃縮ウランは濃縮度に応じていろいろな形式の炉に用いることができる。〔加藤敏郎〕

のうしゅっけつ【脳出血】脳溢血(のういっけつ)ともいう。主として脳実質内の細動脈の壊死(えし)と高血圧によって，脳内で多量の出血を起こす疾患。出血によって脳卒中とよばれる臨床症状を起こし，反対側に片麻痺(まひ)(半身不随)を出現する。→脳卒中

のうしゅよう【脳腫瘍】頭蓋腔(とうがいこう)内の腫瘍で，脳・脳膜・血管・神経から発生するすべての新生物，または頭蓋骨から内部に向かって発育する腫瘍を総称する。神経膠(こう)腫・髄膜腫・神経鞘(しょう)腫・下垂体腺(せん)腫(→下垂体腫瘍)・頭蓋咽頭(いんとう)腫・真珠腫(→中耳炎)・皮様嚢(のう)腫・転移腫・結核腫・梅毒腫・癌(がん)・血管腫・肉腫などがある。症状としては，頭痛・嘔吐(おうと)・鬱血(うっけつ)乳頭・視力障害・聴力障害・痙攣(けいれん)発作・精神障害などがある。さらに病巣症状として，前頭葉に発生した場合には思考障害を生じる。運動領に及ぶと，反対側の運動障害，深部腱(けん)反射亢進(こうしん)，ときには失語症，嗅覚(きゅうかく)異常が出現する。頭頂葉に発生した場合には，てんかん・知覚異常をきたし，失読症・失書症・眼球運動障害をみる。側頭葉に発生した場合には，聴覚障害・失語症を生じ，後頭葉の場合には，両側性同側半盲症を生じる。小脳に発生した場合(小脳性失調症)には，身体平衡・歩行が不確実となり，また回転性眩暈(げんうん)を伴う。第4脳室に発生した場合には，嘔吐・眩暈・体位変換時の頭痛などが現われる。松果腺に発生した場合(→松果腺腫)には性的早熟が，橋に発生した場合には聴神経障害が現われる。診断は一般症状・病巣症状・気脳写・脳室撮影・脳血管撮影・脳波検査・脳スキャニング法などによる。治療は，開頭術による腫瘍の剔出(てきしゅつ)，脳圧を減少させるための姑息(こそく)的手術などがあり，また放射線療法も行なわれる。〔玉城 巌〕



能装束 (左)狩衣指貫姿 能の男装束のうち，貴人の霊などを表わす。最も気品の高いもの。指貫はすそをくくりとめたはかまで，下に込み大口というものをつけて形を整える (右)唐織着流し姿 能の女装の最も代表的なもの。三番目物の前ジテなどに多い。草花などを織り出した唐織は，ここでは赤色を用いて若い女を表わす

のうしょうぞく【能装束】能に用いる扮装(ふんそう)の総称。演者が身につける能面以外のすべてをさし，烏帽子(えぼし)・冠・仮髪の類まで含む。有職(ゆうそく)の装束を舞台衣装として流用したものに，男の役や強い神，鬼などの着る狩衣(かりぎぬ)，貴人の指貫(さしぬき)・直衣(のうし)，男の平服である素袍(すおう)，官女の緋長袴(ひのながばかま)がある。有職の転化したものにごわごわした袴の大口，腰に結んで前にたらす腰帯，男女の役の用いる長絹などがある。強い役の着る法被(はっぴ)や側次(そばつぎ)は起源不明。能独自のデザインに女性の代表的な装束である豪華な唐織(からおり)，外衣に用いる直線裁ちの水衣，金銀の箔(はく)で模様をすり出した着付け用の摺箔(すりはく)，舞を舞う女性用の舞衣がある。材料はすべて絹。単(ひとえ)と袷(あわせ)，無地と模様，織り方の違いで変化があるが，能の装束の基本の形は上衣の下につける着付けの類6，上衣(小袖(こそで)の類)6，外衣(袍(ほう)の類)9，袴の類4程度で，烏帽子・仮髪などの付属物や着付け方，取り合わせのくふうで変化をみせる。能装束のデザインは幾何学的に明快であり，木彫りの能面や抽象化された演技とよく調和する。はき物は用いず，つねに白足袋(たび)で足の運びの美しさをきわだてる。能装束が今日見るように豪華になったのは桃山時代であるが，様式の完成は江戸中期とされ，様式化が進んだために装束の選び方でその能の演出が決まるほどになっている。能面と違って消耗品であるため，今日では催しの激増や能役者の体位の向上で補充に悩みが深く，また手のこんだ縫いや織りの技術，植物染料の褪色(たいしょく)の効果を現代に求めることはできにくい。アルミ箔を用いたり，化繊でつくったりする能装束は，能に質的な変化をもたらすだろう。〔増田正造〕

のうしょうむしょう【農商務省】1881年(明治14)に設置された農林・水産・商業・工業・鉱業などの中央行政官庁。明治維新以来農林・商工行政は大蔵・内務などの諸省に分割管理されていたが，西南戦争以後民間産業資本の保護育成が急務となる中で，松方正義(まさよし)・伊藤博文(いとうひろぶみ)などの意見に基づいて，整備統一のため設けられた。当初は農務・商務など8局と農商工上等会議が置かれていたが，内閣制度の確立とともに改革され，1885年工部省廃止後は10局となり，以後，商工行政の比重が増大して農林行政との分離が問題となり，1925年(大正14)農林省と商工省に分かれ，第2次世界大戦後商工省は通産省に代わった。〔応和邦昭〕

のうじれき【農事暦】農作業のめやすとするためつくられる暦。一般に各月を三

→446ページ

農業問題

資本主義経済の成立および発展過程に起こる農民層の動揺・没落にかかわる変動。近代資本主義経済が確立すると，農民経済を資本主義経済に従属させて支配する。その過程でこれまでの農民の経済生活が破壊され，一部は農企業者として発展し，他の大部分は労働階級に没落する。すなわち農民層の分解が進む。この意味で農業問題は資本主義経済にだけ起こる問題である。

近代資本主義経済は，一方には，他人の労働力の購入によって増殖する貨幣・生産手段・生活手段の所有者があり，他方には，みずからの労働力の販売者であり，したがって，労働の販売者である自由な労働者という二つの非常に異なった種類の商品所有者が，相対して接触するという事情において確立される。自由な労働者とは，生産手段から自由な労働者，すなわち奴隷・農奴のように彼ら自身が直接生産手段の一部としてあるのではなく，自営農民のように，生産手段が彼らに属するのでもない労働者を意味する。資本関係をつくり出す過程は，労働者を労働諸条件の所有から分離する過程であり，いわゆる本源的蓄積とよばれ，資本主義経済確立の前史をなすものである。具体的にいいかえると農民からの土地収奪がその基礎である。

ひとたび資本関係が創出されると，その発展に応じて，それに必要な追加労働力の需要を満たすために農民の労働者化が起こる。この過程は，資本主義経済発展の条件によって左右されるが，一般的には，世界史的に，生産手段の発達が低い段階で本源的蓄積の行なわれた国ほど，農民の労働者化は徹底的に行なわれ，また，生産手段の発達が高度であればあるほど，農民の労働者化が緩慢な過程をたどる。イギリスは前者の典型であり，東ヨーロッパ諸国および日本は後者の例に属する。資本主義経済が農民に及ぼす影響は，単にそれのみにとどまらず，農民を農民として存続させたまま，商品流通を通じてそれを資本関係に従属させる。それは，①労働市場(出かせぎ・パートタイマーなど)，②商品市場(生産手段・消費手段)，③金融市場(預金・貸し付け)，④加工用原料品市場(牛乳・肉類・鶏卵など)における農民収奪の形をとるが，これらのそれぞれが現代農業問題の中に占める比重はきわめて大きい。同時に資本主義経済の発達が農民内部における資本関係の成立を促すことも無視するわけにはいかない。すなわち，農企業成立の問題がこれである。

【日本における農業問題の歴史】 農業問題の出発点は明治維新後1873年(明治６)の地租改正である。地租改正によってつくりだされた地主的土地所有が1897～1907年の産業資本確立期を経て農民経済を支配した。1946年(昭和21)の農地改革は，地主的土地所有を解体して，自作農的土地所有に再編成したが，それは，日本帝国主義の崩壊の結果であり，これにより農業問題は新たな段階にはいる。その後，さらに1955年以後高度経済成長の過程で，いっそう深刻な展開を示す。

表-1　産業別就業者の変化

年次	農業		製造業	
	実数	構成比	実数	構成比
	千人	%	千人	%
1950	16 102	45.2	5 690	16.0
1955	14 855	42.8	6 968	17.8
1960	13 121	30.0	9 552	21.8
1965	10 867	29.8	11 687	24.5

資料・国勢調査

表-2　農家経済の貨幣化率

年次	農業収入	家計費
1952	61.0%	56.2%
1955	64.3	57.0
1957	62.6	61.6
1960	67.3	67.3
1962	75.8	74.7
1965	79.2	78.5

地租改正のねらいは，封建的領有制を解体して近代的統一国家に適応させるためであり，地主的土地所有の法認，貢租の金納化をおもな内容とした。地主的土地所有の法認は土地の個人所有権を確定するとともに，他面で，共同所有地・寺社有地など広大な面積の土地を国有地に編入し，土地兼併の道を開いた。貢租の金納化は土地の丈量・地価の算定を基礎に，旧来の封建的貢租の負担額を貨幣納入に改めたが，農民にはその負担が重課であるばかりでなく，農民経済の貨幣化が未熟な段階にあったため大量の農民を没落させた。しかし，当時の移植されたばかりの近代工業には，没落した農民をうけいれる労働市場は存在しなかったため，彼らは農村にとどまって小作農になる以外なかった。こうして地租改正は，旧来の小作関係を固定させ，さらにそれを拡大再生産した。その後，米価の騰貴に伴い地租負担が相対的に軽減され，日本的地主制を確立した。

日本資本主義は1894～1895年の日清(にっしん)戦争*以後，およそ10年ごとに戦争をくり返しながら，急速な発展を遂げた。しかし農業問題との関連でこれをみると，農村に滞留した相対的過剰人口を吸収する力をもたなかった。工業人口数はつねに農業人口数以下であった。1919年(大正８)以降，地主の収奪に抵抗する農民運動が全国的に広がったが，1924年に小作調停法を成立させただけで，農業問題の解決にはなんらの前進もなかった。第２次世界大戦後1946年の農地改革では，農地調整法の改正と自作農創設特別措置法によって，不在地主の貸付地の全部と，在村地主の貸付地のうち全国平均１町歩(9,917m²)(北海道は４町歩)の保有地を除いた全貸付地とを，２年間に政府が強制的に買収し，これを原則として従来の小作農に売り渡して自作地化をはかった。その面積は当初の計画では200万町歩(小作地の80%)であり，残る小作地に関しても，耕作権を強化する一方，小作料を金納とし，その金額は物納小作料を安い価格で換算することによって，小作料率を低くおさえた。農地改革の実施により，耕地総面積に対する小作地率は，1945年の45.9%に対し，1950年には9.4%と減少した。その実施過程における地主による土地取り上げ，あるいは，山林がその対象から除かれたなど，問題は残るものの，農地改革が日本農業にとって画期的な変革であったことは事実である。

農地改革後に新しい生産力の担当者となった自作農は，農業機械を導入し，防除薬剤および諸材料を利用し，土地改良，水利費を負担するなど,みずからの力では，肥料すら必要量を施しえなかった戦前の小作農民に比べて著しく生産者としての性格を強め，その結果，農業生産力はきわめて増大したが，農業問題は，逆にいっそう深刻化したといえる。それは，戦後再編された独占資本との対決であった。すなわち1947年の傾斜生産方式による重化学工業中心の経済再建であり，1949年のシャウプ勧告による税制改革であり，農産物の国際的過剰と価格の低落である。小麦・米の国際価格は1953年以後国際的な農業生産力の回復に伴い国内価格以下の水準に下落し，輸入農産物が国内の農産物価格を圧迫した。この関係を固定したのが1955年の日米余剰農産物協定(MSA協定)である。終戦直後の食糧が極度に不足した時期に，一時的に非農業者の所得水準を上回った農業所得水準は，朝鮮戦争の勃発(ぼっぱつ)を境にその地位が逆転し，1952年には農業者の所得水準が非農業者の55.4%に落ち込んだ。

1955年以降，日本資本主義の高度経済成長による開放体制への移行(1962年，日米ガット関税取り決め調印)という段階のもとに，農業問題は国家独占資本主義による農業の全面的支配という新しい局面を迎えた。すなわち，従来維持されてきた零細農業経営を排し，他産業との間の生産性の格差を是正し，貿易自由化に伴う世界市場での自由競争にたち打ちできることを目的と

する，農業基本法を根底とした一連の農業政策を背景に推し進められた農業近代化・合理化は，本源的蓄積の再版といわれるほど激しい勢いで農民層の分解，労働者化を促進させ，農業人口の流失，兼業農家の増大への重大な要因をつくった。農業問題の基本過程を示す農業労働力の流出の状況を表-1に示す。これによると1955年から10年間に農業就業者数は398万8,000人減少している。このような就業構造の変化は，農家所得の構成に深刻な変化を与えた。農家所得における農業所得と農外所得の構成比率は，1963年を境に後者が前者を上回り，1967年を例にとると農外所得が50.5%を占めている。また農外所得の74.7%が俸給(ほうきゅう)賃金であるから，いまや農民の大部分が半ばプロレタリアであるといえる。このような，農民の大部分が農民ないしはその構成員のまま労働者化している事実は，労働市場の不安定と農業所得水準の低さを，また同時に農業生産力の低水準を意味し，農業問題の重大化を示すものである。農村に滞留する相対的過剰人口の圧力は，巨大な低賃金労働者プールを形成し，一度は高度経済成長の役割を果たしたが，一定の限界をこえると農業賃金(家族労働力の評価を含めて)を騰貴させて農産物のコストアップを招く結果になった。

【農民層の分解】農業問題の現実は，農村市場がそれをきわめて具体的に示している。それを総括的に示す農家経済の貨幣化率によってみると，1965年農業収入および家計費ともに約80%に達している(表-2)。すなわち，かつては農民経済の重要な特徴であった農業生産と家計の直接の結びつきは，高度経済成長の段階で急速に解体が進んだ。農家経済の市場的側面を労働力・生産手段・生活手段および金融市場についてそれぞれの実態をみてみよう。

①労働力市場：農業労働力流出の統計的概要はまえに述べた。ここできわめて重要なことは，農村から流出した労働力が農業基幹労働力であり，かつそれが労働条件の劣悪な建設業・工場人夫・下請け作業などに投じられる点である。農村から都市へと渡り鳥のように往復する農民には従来の農業労働と異なり，農繁期と農閑期の別もなくなり，一年じゅう重労働にたえねばならず，各種の労働災害，健康の阻害，家庭の崩壊など深刻な社会問題となっている。

②生産手段・生活手段市場：農業経営費のうち主要費目をあげると飼料・農機具・肥料などの順となる。1967年度の〈農家経済調査〉による1農家平均の農業経営費を表-3に示す。この表に見られる飼料費の増大は畜産の発展に対応するが，その供給源は輸入農産物(トウモロコシ・グレン-ソルガム・ふすまなど)である。1967年の通関統計によると飼料の輸入は数量で731万5,000t，金額で37万9,000万ドルであり，総供給量の55.7%に達する。このように畜産が発達したとはいえ，実質的には日本農業がアメリカ農産物市場に組み込まれ，農民は飼料高と生産物安の矛盾に苦しみ抜くという結果を生じている。農林省は1962年以降，農業構造改善事業*による経営改善の一方法として畜産を積極的に指導したが，その結果は農民の負債が増加して苦境に追い込まれた実例が多い。農機具費の増大は，農業労働力の減少と農業構造改善事業の助成によるところが多いが，その増加の傾向は今後いっそう高まると予想される。こうして，農民が生産する価値の最大の搬出者は，かつての肥料資本から，一部に外国の農機具メーカーを含む農業機械資本に移り，農業構造改善事業を通じて，高額な農業機械のための支払いによる農民の〈機械貧乏〉は，よりいっそう推進されているといえる。さらに農民の生活面における機械化も急速に進んでいる。経済企画庁〈消費予測調査〉による主要耐久消費財の普及率を表-4に示す。一見して明らかなように農家と非農家の差はほとんどなくなりつつある。このような機械化の要因は農業所得増大の結果ではなく，むしろ農家経済が勤労収入に傾斜した結果であり，農民と労働者とが農家に同居していることを示すものである。こうしていまや農民も労働者と同様に生活手段の購買者になっている。

表-3　農業経営費 1 農家平均(全国)

項　目	農業経営費	農業現金支出	減価償却費	構成費
農業用雇用労賃	13.8千円	13.7千円	― 千円	3.8%
種苗・苗木および蚕種	13.2	8.6	4.7	3.7
動物	20.0	11.6	8.4	5.6
肥料	40.3	40.2	―	11.3
飼料	86.3	86.2	―	24.0
農業薬剤	16.5	16.4	―	4.6
諸材料・加工原料	18.1	17.9	―	5.0
光熱動力	11.9	11.9	―	3.3
農機具	78.3	12.0	66.2	21.8
農用建物	30.2	14.4	25.8	8.4
賃借料・料金	15.4	15.4	―	4.3
土地改良費・水料費	7.8	7.8	―	2.1
支払小作料	3.8	3.8	―	1.1
農業被服費	2.9	2.9	―	0.8
農業雑支出	1.0	1.0	―	0.2
合計	359.5	253.8	105.1	100.0

資料：農林省《農家経済調査》(1967年度)

表-4　主要耐久消費財の普及率(1962年2月)

機種	農家	非農家(全国)
テレビ	95.7%	94.5%
カラーテレビ	6.2	16.0
ステレオ	15.8	30.5
ピアノ	1.1	7.5
オートバイ・スクーター	50.3	19.7
乗用車	14.5	18.1
ライトバン	12.9	9.0
電気冷蔵庫	68.6	88.2
電気洗たく機	86.4	88.9
電気掃除機	37.5	69.5
ルームクーラー	0.4	5.9
応接セット	11.8	11.8

資料：経済企画庁〈消費者動向予測調査〉

③金融市場：この面でも農民は市場に深く組み込まれている。1967年の農家経済調査における1農家平均(全国)でみると，預貯金・売掛未収入金が121万9,000円，借入金・買掛未払金が27万円である。これは平均数値であり，各農家によるばらつきはかなり大きいと予想される。問題は預貯金と借入金の主要部分が農業協同組合と財政資金に集中している点にある。すなわち，預貯金の55%が農業協同組合へ，また借入金の70%が財政資金と農業協同組合資金からである。したがって，農民の資金および経済活動そのものが，農業協同組合を通じて金融資本の直接支配下にある。

高度経済成長下における農民は，現象的にははなやかな繁栄を示しているが，実質においては国家独占資本の支配下に組み込まれ，分解が深刻に進行している。大多数の農民が労働者化の道をたどっている。農業問題が全面的に爆発する条件はすでに十分成熟している。一方，農民の労働者化の他方の極にある自立農家，すなわち，富農層に関して，農林省は一定額以上の農業所得額，(1965年83万円，1966年92万円，1967年103万円)のある農家が10%前後あると発表しているが，この類型の農家がさらに増加して，点から面の構成に進む可能性についてはなお疑問が多い。すなわち，農産物価格の不安が，その成立条件を分解させているからである。〔奥谷松治〕

旬に分け，播種(はしゅ)準備・播種・移植・除草・中耕・薬剤散布・袋掛け・追肥・収穫などの作業を各作物ごとに記入，農家における作物栽培のめやすとする。

のうしんけい【脳神経】 脳の下面から左右1対ずつ出ている末梢(まっしょう)神経*で，おもに頭部・頸部(けいぶ)に分布する12対の神経をいう。運動・知覚または両者の混合神経であって，自律神経系*に対応させて体性神経系ともよばれる。また知覚神経は脊髄(せきずい)神経*と合わせて脳脊髄神経系とよばれることもある。①臭神経：脳の下面から出て鼻腔(びこう)内の臭部に至る神経で，臭覚を支配する。②視神経：眼窩(がんか)にはいり網膜に至る神経で，視覚を支配する。③動眼神経：眼球を動かす筋のうち五つの筋を支配する。④滑車神経：眼球を動かす筋の上斜筋のみを支配する。⑤三叉(さんさ)神経：頭・顔の皮膚，咀嚼筋(そしゃくきん)に広く分布し，頭・顔の皮膚知覚，舌の味覚や口腔・鼻腔の知覚，咀嚼運動を行なう。脳神経のうち最も太く，障害を生じると三叉神経痛*となる。⑥外転神経：目を動かす筋の外側直筋を支配する。⑦顔面神経：顔面筋に分布し，表情運動，味覚，涙や唾液(だえき)の分泌などに関係する。⑧内耳神経：内耳に分布し，聴覚に関係する部分と平衡覚に関係する部分とがある。⑨舌咽(ぜついん)神経：口腔・咽頭・耳下腺(じかせん)に分布し，嚥下(えんげ)・味覚などと唾液腺を支配する。⑩迷走神経：頸部・心臓・胃・食道・腸・気管などに広く分布し，これらの器官の運動を支配する。⑪副神経：喉頭(こうとう)・頸部の筋に分布し，胸鎖乳突筋・僧帽筋の運動に関係する。⑫舌下神経：純運動神経で，舌筋・舌骨下筋を支配する。なお，脳神経はヤツメウナギでは8対，魚類と両生類では10対，爬虫(はちゅう)類以上では12対となっている。〔高野一雄〕

のうしんけいげか【脳神経外科】 脳および神経系統を対象とする外科。対象となる疾患は先天性奇形・精神疾患・炎症・外傷・腫瘍*(しゅよう)・血管障害・水頭症・三叉(さんさ)神経痛*などきわめて広範囲であるが，一般に行なわれるのは頭部外傷*・脳腫瘍*・てんかん*などである。診断が確定したのちに手術が行なわれるが，脳手術は他の手術に比べ多くの特殊性をもち，脳の生理的な状態をくずさぬようにするため，手術中の脳の扱い方に細心の注意を要する。特に脳浮腫などを避け，絶対に出血させないこと，感染を避けること，さらに脳に鬱血(うっけつ)をきたさず呼吸道を十分に保つ体位で手術を行なうことなどが必要である。〔玉城　巌〕

のうしんとう【脳振盪】 頭部に激しい外力作用を受けた直後に起こる脳全体の機能障害。脳に著明な病理解剖学的変化はなく，症状は一過性で，原則として後遺症を残さない。大脳皮質の貧血，脳脊髄(のうせきずい)液の循環障害，脊髄の延長である延髄の障害などによって起こるといわれ，意識障害を呈して徐脈，嘔吐(おうと)などを伴い，呼吸は浅く速くなり，体温も下がるが，反射機能は保たれている。意識喪失は数秒から数分続くのがふつうであるが，数時間続くこともあり，受傷直前の記憶喪失を伴うこともある。交通外傷のかなりの部分を占める病態で，絶対安静が必要である。〔宿谷幸治郎〕



ノウゼンハレン

のうすいしゅ【脳水腫】 頭蓋腔(とうがいこう)内の髄液循環のため，髄液が鬱滞(うったい)をきたす病気。水頭症ともいう。乳幼児に多くみられる。髄液の脈絡膜叢(そう)からの分泌過多，くも膜下腔からの吸収障害，髄液の通過障害などによる。先天性の梅毒・トキソプラズマ症などと，後天性の脳腫瘍(のうしゅよう)・髄膜炎・脳炎などによるものとがある。症状は，一般に頭部の増大，泉門の拡大，運動機能・知能発達・身体発達などの遅延などをきたすが，重くなると不機嫌(ふきげん)・嘔吐(おうと)・嗜眠(しみん)・四肢(しし)強直・意識障害などの脳圧亢進(こうしん)症状をも示す。予後は不良なものが多く，感染や栄養障害のために死亡するものが多い。根本的治療はないが，ポリエチレン管で髄液を尿管などに導く手術をすることがある。〔宇留野勝正〕

のうせいしょうにまひ【脳性小児麻痺】 ⇨脳性麻痺

のうぜいちょちくくみあい【納税貯蓄組合】 納税資金の貯蓄を目的として個人または法人によって一定地域・職域・勤務先を単位として組織される組合。組合員の租税支払いが納税期に集中する負担を軽くし，租税徴収の手数を省き，租税の完納をはかるものであるが，組合の預貯金には租税優遇措置がとられ，国または地方公共団体から補助金が交付される。

のうせいまひ【脳性麻痺】 脳性小児麻痺ともいう。胎生期における感染，出産時における頭部損傷，出生後における脳炎*などによって起こる脳の障害。ことに運動麻痺を主とする状態をいう。特に脳炎性の場合は，突発的に発熱・けいれんを起こし，傾眠となって中枢性麻痺を残し，半身性のアテトーゼ*・舞踏病*などを随伴する。精神機能は正常のもの，痴呆(ちほう)を呈するもの，あるいは道徳的欠陥を現わすものなど種々である。言語障害*・てんかん*発作を起こすものもある。1か月以上続いた麻痺に対する治癒(ちゆ)の望みは少ないが，電気療法・練習療法・整形外科的療法などがある。➔小児麻痺〔宿谷幸治郎〕

のうせきずいえき【脳脊髄液】 髄液ともいう。脳脊髄をおおうくも膜下腔(かこう)や脳室を満たす無色透明の液。機械的衝撃からの保護，頭蓋(とうがい)腔内圧の調節，分解不用物質の除去など，中枢神経系の内部環境を保持している。通常は，弱アルカリ性で，60〜150mℓ存在し，横臥位(おうがい)で40〜150mm水柱が正常圧である。腰椎(ようつい)または後頭下穿刺(せんし)によって圧その他を検査したうえで採取され，これは神経疾患の診断にきわめて重要である。髄膜炎*では細胞が増加し，脳腫瘍*(しゅよう)では圧上昇し，ときには黄色調を呈する(キサントクロミーという)。梅毒ではワッセルマン反応*が陽転し，くも膜下出血では血性となる。〔宿谷幸治郎〕

のうぜんかずら【凌霄花】 双子葉植物・ノウゼンカズラ科。観賞植物として中国から伝わった落葉つる性植物。幹は太いつるとなって伸び，ところどころから吸根を出して他物に吸着してよじのぼる。葉は羽状複葉で，卵形であらい鋸歯(きょし)のある3〜7枚の小葉からなり，対生する。7〜8月，黄赤色の大きな美花をつける。花冠は漏斗状で先端が5裂する。

のうぜんはれん【凌霄葉蓮】 双子葉植物・ノウゼンハレン科。キンレンカともいい，園芸ではナスターチウムという。ペルー原産の一年草で，よく花壇に植えられる。茎はつる性で，直径約10cmの丸い楯(たて)状の葉を互生につける。7〜9月，葉腋(ようえき)から花梗(かこう)を伸ばし，直径約6cmの黄・赤・白色などの花をつける。花の後ろにがくが合体して伸びた距がある。

のうそくせん【脳塞栓】 脳栓塞ともいう。血栓*が剝離(はくり)して脳動脈に達し，血行を遮断(しゃだん)してしまう疾患。肺壊疽*(えそ)・肺腫瘍*(しゅよう)などが原因となることもまれにある。壮年男子に多く，一般にその末梢(まっしょう)流域の脳が軟化する。突然意識障害を起こすが，脳出血よりも持続時間は短く，片麻痺(まひ)(半身不随)も軽い。➔脳軟化症

のうそっちゅう【脳卒中】 急激に起こる血行性脳障害を意味し，脳の血行遮断(しゃだん)によって急性に意識消失・運動障害をきたす状態をさす。脳出血*・脳塞栓*(のうそくせん)・脳血栓*・脳脊髄膜*(のうせきずいまく)出血・高血圧性脳症などが原因で，普通50歳代に多くみられ，体質的には体格佳良で肥満し，頸(くび)が短く，胸郭が厚く，多血質の人に

多い。これを卒中体質とよんでいる。身体過動・飽食・飲酒，過激な精神感動などが誘因となり，前駆症状がまったくないこともあるが，めまい・頭痛・耳鳴り・不眠・言語渋滞・網膜出血・精神異常・知覚障害などの前兆をもって始まることが多い。ひとたび血管が破綻(はたん)すると，突然重篤な脳症状が現われる。この症状を総称して卒中発作という。多く見られる脳出血は側脳室の周囲に起こるもので，片麻痺*(まひ)(半身不随)を残すことがある。卒中を起こし，時を移さず死亡するものを電撃性卒中とよんでいるが，これは大出血・脳室出血・脳幹出血の場合に多い。意識をまったく消失して深い昏睡(こんすい)に陥り，その間嘔吐(おうと)・顔面充血・チェーン-ストーク型呼吸*を呈する。快復は数か月にわたるが，大部分の機能は復元されて一定の状態に安定する。麻痺した上下肢(じょうかし)は拘縮をきたす場合があり，これは上肢に強く下肢に弱く現われる。麻痺が長く続くと廃用性萎縮(いしゅく)をきたす。予後としては，昏睡が2～3日以上続き，長びく場合には死亡することが多い。頻脈(ひんみゃく)となり，呼吸が細小となって，体温が急激に下降および上昇し，痙攣(けいれん)・瞳孔(どうこう)散大などの症状が現われる。四肢の痙攣が反復持続したりするものは経過が悪い。予防としては，酒類やニコチンの乱用を慎しみ，梅毒・身体過労・精神過労に留意し，熱浴・冷浴などの動脈硬化・血管破綻をきたす誘因を避け，高血圧の治療を行なう。発作中の処置としては，安静を保ち，部屋を暗くして頭部に氷嚢を置き，つねに清潔に保つことである。患者を移動する時期は，少なくとも発作後1週間以上を経過してからがよい。発作後の療法としては，安静に心がけ，対症療法を行なう。刺激性の食餌(しょくじ)を少なくし，栄養に富み消化しやすいものを与える。なお，脳卒中発作後，後遺症として片麻痺・単麻痺・対麻痺を残した状態を一般に中気・中風といっている。〔宿谷幸治郎〕

のうそん【農村】 広義の農業(農耕・畜産業・養蚕業・林業など)に従事する人々が多数を占めている集落。人間の社会生活が，地域を一定して展開されるようになると，そこに集落社会が形成され，そこには生産方式の相違を基本的区分点として，都市*と村落に大別される。農村は，この村落の代表的な一形態としてしばしば都市と対比されるが，漁村も村落の一形態であることに留意すべきである。農村といってもそのあり方は，農業生産様式・土地所有形式などによって歴史的・地域的にそれぞれまったく異なった性格をもっている。すなわち，土地を生産手段とし，自然的諸条件に左右され，生産の共同を多少とも不可欠としていることなどにおいて，それなりに共通した特質がある。人口規模の小さいこと，移動性の低いこと，したがってそこには全人的・対面的・持続的な人々の接触・交渉が生まれること，さらに人々の生活様式の等質性や伝統的秩序への志向性がみられ，そしてそこから自己充足的・自律的・閉鎖的な社会が形造られる。こうした諸特徴は，従来都市*との対照において著しいものがあった。現在，資本主義の高度に発達したわが国においては，脱農・離村の増加や兼業の深化などによって，かつての農村の姿は大きな変動をみせている。

のうちかいかく【農地改革】 一般的には，第2次世界大戦後，連合国の対日占領政策の初期に，日本の経済民主化の一環として行なわれた土地改革。戦前まで日本の耕地の約半分は耕作農民の所有でなく，いわゆる地主的土地所有のもとに帰属しており，生産物の約半分を小作料として地主に収取されるといった状態にあった。こうした高額の現物小作料制度は農業生産力の発展を妨げてきたため，太平洋戦争への突入につれて国家権力によって内容的に修正されはしたが，基本的な関係としては，このような状態が敗戦時まで続いた。敗戦後の1945年11月には，早くも日本政府内部で農地改革の方針が固まり，〈農地調整法改正案〉(第1次農地改革)として提起されたが，同年12月9日の連合軍総司令部の〈農地改革についての覚え書き〉(農民解放指令)の線に沿ってより徹底した農地改革を断行するよう，対日理事会によって勧告された。これに基づいて1946年の〈自作農創設特別措置法〉と〈農地調整法再改正〉による第2次農地改革が行なわれた。不在地主の貸し付け地の全部と在村地主の保有地は平均1ヘクタールを限度として解体され，国家による買い上げを通じて直接耕作者の所有に移され，残存小作地の小作料は金納とされた。1950年ごろまでに改革事業がほぼ完了し，農地は原則として耕作者が所有するという〈自作農主義〉が法的にも成立して(1952年の〈農地法〉)，農業生産力の発展に寄与した。1955年以降の〈連年豊作〉といわれた稲作生産力の戦後の段階的発展はその具体的指標である。その結果，農業および農村の購買力が上昇し，国内市場の拡大としてその後の日本経済の高度成長の起動力の一つとなったといわれている。〔常盤政治〕

のうちほう【農地法】 第2次世界大戦以後，改正農地調整法(昭和21年法律42号)，自作農創設特別措置法(昭和21年法律43号)，自作農創設特別措置法および農地調整法の適用を受けるべき土地の譲渡に関する政令(昭和25年政令288号)を整理・統合して生まれた法律(昭和27年法律229号)。昭和25年法律56号として抜本的に改正。当初の目的は〈農地はその耕作者みずからが所有することを最も適当であると認めて，耕作者の農地の取得を促進し，その権利を保護し，その他土地の農業上の利用関係を調整し，もって耕作者の地位の安定と農業生産力の増進とを図ること〉にあるとされたが，改正法によってその利用関係の調整が追加された(農地法1条)。おもな内容は，①農地または採草放牧地について所有権*を移転し，または地上権*，永小作権*，質権*などの使用および収益を目的とする権利を設定し，もしくは移転する場合は，省令で定めるところにより，当事者が都道府県知事の許可または農業委員会の許可を受けなければならない(農地法3条)。②農地を農地以外のものにする者は，省令で定める手続きにしたがい，都道府県知事の許可または農林大臣の許可を受けなければならない(農地法4条)。③不在地主は認められず，在村地主も都道府県ごとに指定された面積以内でなければ認められない。認められる小作地は，平均北海道4ヘクタール，内地1ヘクタールである。これによって所有の認められない小作地および小作採草放牧地があるときは，農業委員会の認定により，本人が1か月以内に他の者に譲らなければ国がこれを買収し，小作人その他自作農たるに適当と認められた者へ売り渡すことができる。④農地または採草放牧地の賃貸借*は，その登記*がなくても引き渡しがあれば，物権*を取得した第三者に対抗できる(農地法18条)。農地または採草放牧地の賃貸借について期間の定めがある場合，その当事者が，その期間の満了の1か年前から6か月前までの間に，相手方に更新*しない旨の通知をしないときは，従前の賃貸借と同一条件で更新したものとみなされる(農地法19条)。農地または採草放牧地の賃貸借の当事者は，省令で定めるところにより，都道府県知事の許可を受けなければ賃貸借の解除，解約の申し入れ，合意による解約をし，または賃貸借の更新をしてはならない(農地法20条)。⑤農業委員会は，小作農の経営を安定させることを旨とし，省令で定める基準により，都道府県知事の許可を受けて農地ごとに小作料の最高額を定める(農地法21条)。小作料は農業委員会で定めた額をこえない範囲内で定額金納とする(農地法22条)。小作料の額が田にあっては収穫された米の価額の2割5分，畑にあっては収穫された主作物の1割5分をこえるときは，その割合に相当する額まで小作料の減額を請求できる(農地法24条)。⑥農地または採草放牧地の賃貸借契約については，当事者は書面により，その存続期間，小作料の額，および支払い条件その他についての内容を文書でもって明らかにし，その写しを農業委員会に提出することを要する(農地法25条)。⑦耕作の事業を行なう者が，自家用の薪炭・燃料・肥料・飼料または敷き料とするための草木の採取，または家畜の放牧のために使用・収益する権利を取得した場合は，農業委員会の承認を受け，立ち木または土地の所有者に利用権の設定に関する協議を求めることができる(農地法26条)。⑧国は自作農を創設

し，または自作農の経営を安定させるため，必要があれば農地とすることが適当な一定の土地を買収し，自作農たるに適当な者に売り渡すことができる(農地法44条)。⑨農地法による各種の処分をなすために，農業委員会が農地のある市町村ごとに置かれる。〔黒木三郎〕

のうど【農奴】 ヨーロッパの*荘園(しょうえん)における不自由農民をいう。荘園領主に身分的に隷属し移動の自由をもたなかった。彼らは託営地を耕作して自分と家族の生活をささえ，また領主から賦役と貢納を課せられていた。賦役はだいたい週に3日間領主のために働き，直営地における農耕を主とするがそのほかに雑役もあった。貢納は物納(生産物地代)と金納(貨幣地代)に分けられる。物納は農産物を主とするがその他多くの品物が含まれ，金納は貨幣経済の進展とともに広まった。さらに農奴は人頭税・結婚税・相続税など農奴身分を示す税をはじめ領主の水車場・醸造場などの使用を強制された。中世末荘園の崩壊とともに農奴は身分上の束縛を脱して自由農民となった。これを農奴解放という。〔兼岩正夫〕

のうど【濃度】 溶液の組成を表わす量。種々の表示法がある。溶質重量の溶液全重量に対する割合が重量分率で，その100倍が重量百分率である。同様にこれを体積比で表わしたものが体積分率・体積百分率，またモル数に着目した場合がモル分率・モル百分率である。濃度が単に〈%〉で表示されているとき，固体・液体の場合は重量比，気体の場合は体積比である。溶液1,000mlに含まれる溶質の量をグラム当量数で表わしたものが規定濃度，グラム分子数で表わしたものが体積モル濃度である。さらに溶液1,000gに含まれる溶質の量をグラム分子数で表わしたものが重量モル濃度である。非常に小さい濃度はppm(百万分率，μg/gまたはμg/ml)，ppb(十億分率)で表わす。1,000gの溶媒にとけている溶質をモル数で表わした濃度がモーラルである。これは氷点降下などの際に用いられる。〔竹下三吉〕

のうどうてきゆそう【能動的輸送】 原形質膜あるいは細胞層を通して物質が移動するとき，代謝エネルギーを用いて低濃度の領域から高濃度の領域へ物質が輸送されること。単純な拡散による受動的な透過性と異なり，濃度勾配(こうばい)に逆らって行なわれるもので，いろいろの機作が考えられている。一般にすべての生活細胞には多少ともこの能力がそなわっている。海藻(かいそう)が海水中から特定のイオンを選択吸収することや神経・筋肉でのカリウムイオンの吸収などがある。〔吉田精一〕

のうどかいほうれい【農奴解放令】 1861年ロシア皇帝*アレクサンドル2世によって，3月5日(ロシア暦)公布された農奴解放宣言とその諸条令の総称。ロシアの農奴制は，15世紀末から17世紀中葉にかけて発展・確立した。しかし19世紀前半に雇用労働による手工業が発達し，商品穀物への要求が増大すると，生産性の低い農奴制は生産力発展の障害になり，そのため農民への搾取が強化されたので，各地で農民暴動が激発し，しかも農奴制の後進性は*クリミア戦争の敗北によって暴露され，近代化を求めるブルジョアジーとブルジョア的地主などの要求もあって，アレクサンドル2世は改革に着手した。1857年1月改革案の作成は貴族だけで進められ，その結果農奴解放令は地主貴族階級の利益に沿うものとなった。すなわち農奴は人格的には解放されたが，封建的土地所有は廃止されず，農民は地主から居住地と分与地を買い取るかあるいはそれまでの間，賦役と年貢の義務を負った。こうして隷属的半農奴が大量に生み出され1917年の社会主義革命に至るまで事実上の農奴制が存続した。〔山県弘志〕



濃尾地震 根尾谷断層(岐阜県根尾村)
石がきは当時の断層面でおよそ6mある

のうなんかしょう【脳軟化症】 脳の血行の一部が遮断(しゃだん)されてその支配領域の脳の組織がこわれ，脳実質の軟化が起こる疾患。脳動脈硬化・梅毒・膠原(こうげん)病などの脳動脈血管壁の変化や，心臓弁膜症・心臓衰弱などのために左心耳に*血栓(けっせん)を生じ，これが剝離(はくり)して脳血管が閉塞(へいそく)されて起こる場合が多い。➔脳血栓 ➔脳塞栓

のうは【脳波】 脳細胞に生じる微弱な電位変動を，頭皮上から導いて増幅記録したもの。描いたものが波形を示すことから脳波といわれ，H.*ベルガーがヒトの脳波をはじめて記録することに成功したことから，ベルガーリズムともよばれる。脳波は年齢や意識水準によってほぼ決まった波形を示すが，病的な原因によっては特殊な波形を現わし，それらの診断などに利用される。正常な成人では，安静時には周波数10サイクル/秒付近のα波が主体であるが，精神活動時にはα波が抑制されて，周波数13～30サイクル/秒のβ波が主となる。このような状態にある脳波を覚醒(かくせい)形という。また，睡眠中や麻酔中には周波数1～8サイクル/秒の遅い波(δ波)が多くなる。これは物質代謝の低下したときによく現われる。さらに，特異な形をした紡錘群発もあり，δ波とともに睡眠形という。そのほか，興奮時や小児の脳波には，周波数4～8サイクル/秒の波が認められる場合があり，これをδ波とはまた区別してθ波とよぶ。病的な脳波には種々のものがあるが，てんかんの場合が最も典型的であり，大発作時には先端のとがった特異な大きな波が連続的に現われる。➔大脳 ➔脳〔平野修助〕

のうはい【囊胚】 原腸胚ともいい，後生動物の発生途上で胞胚に続く時期。胞胚期の胚は1層の細胞からできているが，囊胚は陥入などいくつかの形成によって原腸が形成されて内外2層となった胚である。ナメクジウオやヒトの胚などに典型的なものがみられ，上皮のような細胞が胚の表面に1層に並んだ中空の形となり，その植物極側のだいたい半分が陥入して内外2層となった半球形の胚である。他の大部分の動物では，囊胚の構造が年型的なものからいろいろな形に変わっている。全割をするものでも，両生類や肺魚類などでは，卵黄が植物極側に片寄っているので陥入が妨げられ，原腸は背側に片寄って形成される。〔蒲原春一〕

のうはいずいまく【脳背髄膜】 ⇨髄膜

のうばいどく【脳梅毒】 *髄膜や脳血管が*スピロヘータに冒されて起こる精神神経障害。ふつう，梅毒の第2期・第3期に現われ，感染後3年以内に発現する。一般には，精神症状よりも身体症状が主である。自覚症状としては，頭痛・頭重・めまい・不眠があり，他覚的には振顫(しんせん)(不随意的な，しかもリズミカルなからだの一部の振動)・痙攣(けいれん)・麻痺(まひ)・失語・失認・瞳孔(どうこう)異常・眼瞼(がんけん)下垂・顔面神経麻痺・発語障害などがある。治療としては，ペニシリンなどの抗生物質による駆梅療法・水銀軟膏(なんこう)塗擦療法・発熱療法などがある。➔梅毒〔岩井 寛〕

ノウハウ ⇨技術輸出

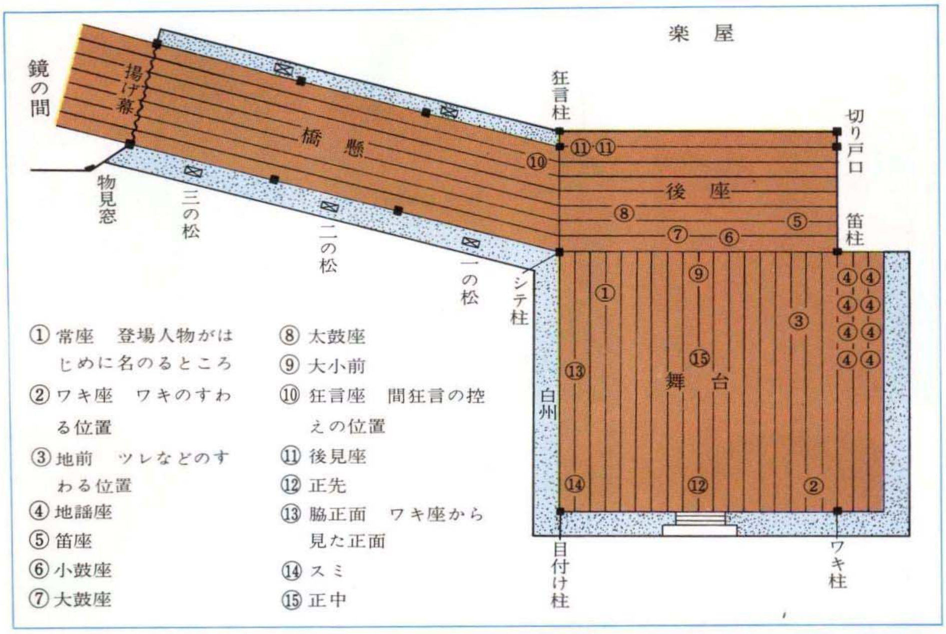
のうびじしん【濃尾地震】 1891年(明治24)10月28日午前6時38分に岐阜(ぎふ)・愛知両県にまたがる濃尾平野北方に発生した大地震。マグニチュード8.4，有感区域は仙台(せんだい)以北を除く全国各域，日本全土の60%に及んだ。地震の規模が最大級に及び，震央が陸地のまん中にあったこと，さらに火災が発生したことなどにより，美濃(みの)(岐阜県)・尾張(愛知県)地方では建物全壊14万2,177戸，半壊80,184戸，山くずれ10,000余箇所，死者7,273人，傷者17,175人の明治年間最大の災害を生じた。また，伊勢(いせ)湾北方から岐阜県根尾谷を通り，福井県から日本海に達する延長100km，上下の落差最大6m，水平のずれ最大2mに及ぶ根尾谷断層が出現した。これは日本で，測地学的方法により地殻(ちかく)変動が解決された最初の例で，以後地震のたびに水準測量がくり返されるようになった。さらに，この

際，地震と地磁気変化の関係についての最初の研究がなされた。なお余震は10年余り続いた。この地震は，日本の地震学を刺激する契機となり，翌年には，地震の研究，震災防止対策などの研究のため，震災予防調査会が設立され，関東大地震時に東京大学地震研究所ができるまで，世界の地震学の一つの中心になった。〔堀福太郎〕

のうびへいや【濃尾平野】 愛知・岐阜の両県にまたがる平野で，美濃(みの)・尾張両国にまたがっているのでこの名がある。東は尾張丘陵に，北は飛騨(ひだ)山地に，西は伊吹(いぶき)山地・養老山地に限られる。南は伊勢(いせ)湾に面した広大な沖積(ちゅうせき)平野で，これはかつて深くはいっていた古伊勢湾が，周囲の山地から流入する木曾(きそ)川・庄内(しょうない)川・長良(ながら)川・揖斐(いび)川などの堆積(たいせき)作用により埋め立てられたものである。東部には犬山市を扇頂とする犬山扇状地が形成され，東部から北部にかけて丘陵や山地に続いて段丘が分布し，各務原(かがみがはら)・犬山などの台地をなし，北の山地から流入する長良・揖斐両川は山麓(さんろく)に扇状地を形成し，平野はやや西に傾斜しているため，木曾・長良・揖斐の各河川は西部の養老断層崖(だんそうがい)に沿う低地を流下し伊勢湾に注いでいる。この低地には自然堤防が発達し，輪中(わじゅう)が形成され，水害を防いでいる。沿岸地域は現在でもデルタが形成され，干拓地域をなしている。県庁所在地である名古屋が平野の中心をなし，また中京工業地帯の主要部がここにある。〔味沢成吉〕

のうびょう【膿病】 ウイルスによるカイコの病気。体腔(たいこう)型多角体病ともいう。罹病(りびょう)すると皮膚が白く光り，環節間部が高くなり，皮膚が破れて乳白色の膿汁(のうじゅう)を出す。体内の細胞核には正六角形の透明な多角体が形成され，内部に多数のウイルスが存在する。経口的に伝染し，防除には蚕室や蚕具のホルマリン消毒が効果がある。

のうひんけつ【脳貧血】 貧血・失血・脱水・ショックなど脳の循環障害によって起こる一過性の意識障害。急性と慢性がある。急性では血管運動神経の痙攣(けいれん)による脳小動脈の収縮によるものが多く，慢性では悪性貧血や白血病*などの全身貧血症の部分的症候として起こる。顔面蒼白(そうはく)・四肢(しし)冷却・悪心(おしん)・嘔吐(おうと)・冷や汗・眼前暗黒などの症状を呈し，脈は小さく，血圧は下がり，重症の場合はかなり深い意識障害を呈するが，原則として後遺症を残さない。患者を仰臥(ぎょうが)させ，衣服をゆるめて頭部を低くし，顔に冷水を掛けたり，アンモニア・酢酸などをかがせたりして刺激を加え，意識が回復したのち，酒・コーヒーなどの興奮性飲料を寝たままで飲ませる。また必要に応じ輸血・輸液・カンフル注射を行なうとよい。〔宿谷幸治郎〕





能舞台 近代的な梅若能楽学院の舞台全景。観客席はいす席で，近代建築の天井の下に舞台の屋根が置かれている

のうふしょう【農夫症】 長い間農業に従事している農民に多く発生する共通の諸症状。独立した病気ではなく，肩こり・夜間頻尿(ひんにょう)・腰痛・頭痛・息切れや手足のしびれなどの症状をさし，特に東北地方の40〜50歳代の農民に多く，農繁期に増悪する。過重な筋肉労働，寒冷期作業，栄養不足からくる早老現象などとみられるが，根本的には神経痛・リウマチ・高血圧・心臓障害・腎臓(じんぞう)疾患に起因するともいわれる。農村における生活様式と密接に関連した疾患で，最近は農家の生活も向上し，農夫症も減る傾向にある。

のうぶたい【能舞台】 能*と狂言*を上演するための専用舞台。独特の様式をもつ。すべて檜(ひのき)でつくり，白木のままみがきあげる。京間3間(約6 m)の間口をもつ本舞台(単に舞台とも)の後方に囃子方(はやしかた)と後見の座である後座(あとざ)，右側に地謡のすわる地謡座があり，左手に長く橋懸(はしがかり)が延び，揚げ幕を隔てて鏡の間から楽屋へと接続する。観客席である見所は舞台を取り巻くように三方に設けられる。屋根をささえる本舞台の四本の柱は，左手奥からシテ柱・目付け柱・ワキ柱・笛柱とよばれる。目付け柱は視野の狭い能面をかけた演者の重要な目標となる。また，この4本の柱でくぎられていることが，逆に能の演技に広がりをもたせているので，相撲(すもう)の四本柱のように簡単にとりはずすことはできない。床は全体に弾力をもたせて張ってあり，床下には甕(かめ)を配置して足拍子*の音響効果をはかる。背後の鏡板には老松が描かれ，あらゆる能と狂言の背景となる。鏡板の右手のくぐり戸は切り戸口または臆病口(おくびょうぐち)とよばれ，地謡や後見の出入り口であるが，舞台で切られた役の退場などにも用いる。橋懸は演者と囃子方の出退場の通路であるが，だいじな演技の場所でもあり，本舞台とは別の空間として巧みに用いられ，演技の遠近感をきわだてる。室町時代には本舞台の真後についていたこともあるらしいが，山形県の黒川能*の伝えている能舞台は左右に二つの橋懸をもっている。点景の松は舞台の方から一の松・二の松・三の松とよばれ，演技の目標とされる。本舞台と橋懸の回りにはふつう白い小石を敷いた白洲(しらす)がある。今日見る舞台様式が完成したのは桃山時代で，京都西本願寺の北能舞台(国宝)は1581年(天正9)建



能　面　①中将　若い男を表わす面。《清経》《忠度》などの若武者の霊や，《融》《須磨源氏》などの貴公子の霊に用いる　②若女　若い女の面。観世流では面の最も代表的なものとして扱い，多くの三番目物に用いられる。他の女面に比して表情があたたかい　③大癋見　能におけるてんぐの面。口をきっと結び，鼻が大きい。《鞍馬天狗》《善界》など，五番目物に用いる　④童子　超自然的な少年の面。髪の毛描きなどに特徴がある。《菊慈童》のほか，《田村》《小鍛冶》などの前ジテ神霊の化身に用いる　⑤小尉　小牛尉ともいう。老人面のうちで最も品格の高いもの。《高砂》《老松》など，脇能の前ジテに用いる　⑥般若　女の鬼の面。金のはいった大きな目をして，角をはやしている。《道成寺》《葵上》《安達原》など，四・五番目物に用いる

造の現存最古のものである。当時，能舞台は独立した建物で，別棟から鑑賞された。能舞台の上にもう一つの屋根をかぶせて見所と一つの建物にした能楽堂は明治以降の形態であるが，観能の劇場としては問題がある。全国の都市に30近くの能楽堂があり，収容人員は300～700人程度である。多く流儀の家元や有力な派の経営によっている。近年はステージやホールなど，能楽堂を出た催しも増加しつつある。　〔増田正造〕

のうへい　【農兵】　江戸末期，農村より徴収した兵士。各藩の財政節減の目的から熊沢蕃山*(くまざわばんざん)らが武士土着論を唱えたが，ほとんど実現せず，むしろ農民を兵として武装させ，領内の治安および海辺防備にあてることが行なわれた。西洋式の集団戦法に移行しつつあった当時，門閥にとらわれない農兵は，統制ある隊の編成を可能にし，威力を発揮した。

のうへいぶし　【農兵節】　民謡の曲名。静岡県三島の民謡とされるが，江戸末期，横浜で外国貿易が行なわれはじめたころ，野毛山下で見られた軍事訓練を歌ったのがはじまりといわれ，《野毛節》の別名がある。のちに〈富士の白雪ノーエ〉の替え歌がつくられ，全国に広まった。

のうほう　【膿疱】　皮膚面から膨隆して内腔(ないこう)を有し，中に膿(うみ)がはいっている限局性の発疹*(はっしん)。漿液(しょうえき)性の内容を入れた水疱から膿疱に変ずる場合と，最初から膿がたまってできる場合とがあり，その多くは化膿菌の感染による。まわりが赤く，破れるとかさぶた*(痂皮(かひ))ができる。定形的なものにとびひ*がある。

のうほんしゅぎ　【農本主義】　立国の基礎として農業を重視する考え方。近世中期以後，商業高利貸し資本が農民経済を侵食し，それが領主経済の危機を招くに及び，農を本(もと)とし，商工をおさえることを趣旨とする農本主義が盛んに唱えられた。荻生徂徠*(おぎゅうそらい)の《政談》，山片蟠桃*(ばんとう)の《夢の代》にはその代表的な所説がみられる。近世にはいって明治政府は，資本主義育成のため半封建的な収奪を農民に課したので，農村は近代化から取り残され，経済的危機に瀕(ひん)した。それに対して松方正義*(まさよし)・井上馨*(かおる)は農本主義を掲げて，半封建的農業の維持擁護に努めた。特に昭和初期の農村恐慌のころから，日本のファシズム運動の思想的支柱となり，反資本主義・反社会主義の過激な政治行動をささえるイデオロギーとしての役割を果たした。
→ファシズム　〔高崎徳次〕

のうまくえん　【脳膜炎】　髄膜炎・脳脊髄膜炎ともいう。原因によって，化膿性髄膜炎*・流行性髄膜炎*・結核性髄膜炎*，漿液(しょうえき)性(無菌性)髄膜炎に分類される。

のうみしま　【能美島】　広島県，広島湾内にあるY字形の島で，北東の部分を江田島*，北西の部分を西能美島，南部を東能美島という。佐伯(さいき)郡沖美・能美・大柿(おおがき)の3町に分かれ，3町の面積70.3km^2，人口26,000。ミカン・野菜・花などを栽培し，カキの養殖を行なっている。カコウ岩の切り出しや，煮干しいわしの製造なども盛ん。広島・呉両市などへの通勤者も多い。

のうみんぶんがく　【農民文学】　文芸用語。農村の自然や人事，農民の生活の社会的実態などを描いた文学作品をさす。自然主義作家の諸作品，真山青果*の《南小泉村》などに始まり，長塚節*(たかし)の《土*》に最初の結実をみる。大正期，中村星湖*らが〈農民文芸会〉(機関誌《農民》)を結成，重農主義の立場から農村・農民に人間的な関心を示す。他方，プロレタリア文学*運動の一環として問題にされ，階級的視点から扱った小林多喜二*《不在地主》や久保栄*《火山灰地》などもある。なお，戦時下には国策に順応して農民文芸懇談会が結成され，農民文学の盛行をみた。しかし，伊藤永之介*(いとうえいのすけ)《梟(ふくろう)》，和田伝*《沃土(よくど)》を除いては，佳作は少ない。第2次世界大戦後は，伊藤永之介らが日本農民文学会を結成した。　〔堀井謙一〕

のうめん　【能面】　能*に用いる仮面。〈おもて〉ともいう。檜(ひのき)を材料に顔料で彩色してつくる。伎楽面*(ぎがくめん)・舞楽面*に比べて薄く小形で，わずかに顔面をおおうに足る大きさである。瞬間表情の面と，長い時間の使用や心理表現に適した中間表情の面とがある。観阿弥*(かんあみ)・世阿弥*の活躍した能の大成期に，名工の輩出によって原始能面から芸術的な効果をもつものへと飛躍し，桃山時代に様式の完成を見た。江戸時代には面工も世襲となり，古面の模作期にはいるが，幕府直属の出目家が名高い。創作期の能面は，能の家で本面としてだいじに伝えられている。能面の種類は約200種あるが基本型は約50種で，舞台でふつう用いられるのは100種ほどである。①翁面：白式尉(はくしきじょう)・黒式尉。能面以前の形式を残す。②老人の面：笑尉(わらいじょう)・小尉・舞尉・悪尉。③女面：小面・孫次郎・若女・増・曲見(しゃくみ)・姥(うば)・老女・泥眼(でいがん)・痩女(やせおんな)。一見無表情の面が多いが，実は舞台での豊かな感情表現に適する。④男面：喝食(かっしき)・童子・十六・中将・邯鄲男(かんたんおとこ)・平太(へいだ)・怪士(あやかし)・

痩男。⑤異形の面：大癋見(おおべしみ)・小癋見・大飛出(おおとびで)・小飛出・顰(しかみ)・獅子口(ししぐち)・般若(はんにゃ)。超人的存在に用いる。⑥畜類面：野干。⑦仏体面：天神・不動・釈迦(しゃか)。⑧一曲専用の面：頼政(よりまさ)・弱法師(よろぼうし)・蝉丸(せみまる)・景清(かげきよ)・俊寛・山姥(やまんば)。能面を掛けるのはシテ方の特権で，ワキが能面を用いることはない。扮装(ふんそう)をおえたシテは鏡の間で最後に能面をおしいただいてかけ，出を待つ。能面は能の表現の中心であり，現代でも神聖視されている。〔増田正造〕

のうやく　【農薬】 学問的定義はないが，農薬取締法には〈農作物を害する菌・線虫・ダニ・こん虫・ネズミその他の動植物またはウイルスの防除に用いられる殺菌剤・殺虫剤，その他の薬剤および農作物などの生理機能の増進または抑制に用いられる成長促進剤・発芽抑制剤その他の薬剤をいう〉とある。なお病害虫防除のための天敵も法律上からは農薬とみなす。今日では，肥料とともに農産物生産上欠くことのできない資材である。特に第2次世界大戦後の有機合成剤を中心とした農薬の出現は，各種農産物の安定化に大きな役割を果たした。しかし一方では，農薬の多用が残留毒性の問題，自然界の生態系の攪乱(かくらん)など，種種の問題をひき起こしたことも否定できない。したがって今後，農薬にはより低毒性で，特に人畜・魚介などに対し安全な，天敵に悪影響を与えない，いわゆる選択性の高いものであることが要求されると思われる。同時に農薬としての天敵類の利用も今後の大きな課題である。

農薬の歴史は古く，わが国では，約200年もまえにウンカ類の駆除にすぐれた技術(注油駆除法)が発見され，20年ほどまえまでこの技術の恩恵を受けていた。19世紀の後半になると，ヒ素・イオウ・銅・水銀などの無機化合物あるいは植物から抽出した殺虫成分が利用されはじめたが，第2次世界大戦後，有機合成剤が開発されて王座を占めるに至った。農薬の一般的な条件は，作用が強い，人畜毒性が低い，薬害がない，取り扱いが簡単である，品質が一定で変質しない，価格が安いなどであるが，今後はよりきびしくなることが予想される。

農薬の使用形態すなわち剤形には溶剤・乳剤・水和剤・粉剤・粒剤・油剤などがあり，その施用方法には噴霧・散粉・ミスト・薫蒸・灌注(かんちゅう)・浸漬(しんし)・塗布・毒餌(どくじ)・肥料混合などがある。なお最近では空中散布が盛んになり，微量散布・超微量散布などの新しい施用法が登場してきた。

農薬を使用目的によって分類すると，殺虫剤・殺菌剤・殺鼠(さっそ)剤・殺ダニ剤・殺線虫剤・除草剤・植物生長調整剤・補助剤などに分けられるが，害虫については誘引剤・忌避剤・不妊剤などがさらに加わる。

〈殺虫剤〉 消化中毒剤(毒剤)・接触剤・薫蒸剤・浸透殺虫剤などに分けられる。最近の有機合成剤の多くはこれらの作用を兼ね備え殺虫作用はそれらの総合的な効果とみられる。殺虫剤は化学構造上からは無機化合物，天然物由来の有機化合物，有機合成剤に分けられるが，有機合成剤はさらにエンドリンといった有機塩素化合物，ダイアジノン・スミチオンなどのような有機リン剤・カーバメート系化合物などに分けられる。殺虫剤の作用機作はまだ不明の点が多いが，有機リン剤などはこん虫のコリンエステラーゼ阻害により神経系を冒すものと理解され，ロテノンは一種の呼吸阻害剤であることが明らかにされている。

〈殺菌剤〉 植物を病菌の侵入から防ぐ保護的殺菌剤と病菌を直接殺滅する駆除殺菌剤に分けられ，前者にはボルドー液，後者にはブラストサイジン・カスガマイシンなどのような抗生物質の一部がある。有機合成殺菌剤の大部分は銅・水銀を主体としたものであるが，最近は抗生物質も出てきている。

〈除草剤，その他〉 最近の農業技術はすぐれた除草剤の出現によって大きく前進した。第2次世界大戦後，2，4-Dが輸入されてからこの方面の関心が高まり，現在では数十種の有機合成除草剤が使用されている。その他殺鼠剤・殺線虫剤・殺ダニ剤など優秀なものが次々に現われている。

農薬の総生産額は1950年に25億円といわれたが，1970年度には904億円に達している。〔深谷昌次〕

のうよう　【膿瘍】 化膿*性炎症が限局性に起こり，局所の組織が融解して膿汁(のうじゅう)を満たす空洞(くうどう)をつくった状態。膿皮症(おでき)が代表的である。細菌性の場合は，化膿菌による局所の急性炎症のため灼熱(しゃくねつ)を伴う熱性膿瘍と，結核菌によって冒される温度の低い寒性膿瘍とがある。一般に周囲が次々に冒されて大きくなり，皮下の結合組織まで進行して蜂巣(ほうそう)織炎*や敗血症*を起こすこともある。膿が出てしまわないとなおらない。〔小坂井守〕

のうようトラクター　【農用トラクター】 農作業に用いられる原動機。本来は作業機を牽引(けんいん)するためのものであるが，現在のトラクター*の多くは動力取出装置をもち，これによる作業機の駆動，従来の走行による作業機の駆動の二つの機能をもつ。また，トラクターと作業機との連結部の改良などにより，トラクターと作業機の関係が自動制御化されている。機能・形態などから幾多の種類に分類されるが，わが国で使われるトラクターは次のようである。①乗用ホイルトラクター：主として四輪トラクターで15～40馬力のディーゼルエンジンをもつ。耕起・砕土作業のほか，農作物の育生中の除草・中耕などの各種管理作業，収穫・運搬などを目的とする汎用(はんよう)形であるが，湛水(たんすい)作業にも適するものもある。②歩行用トラクター：操縦者が歩行しながら操縦する小形のトラクター。第2次世界大戦後急速に発達普及した。欧米の歩行形ガーデントラクターといわゆるティラー形トラクターおよびわが国で発達した耕耘機(こううんき)の特徴を兼ね備えた独特の構造・機能をもち，特に水田耕作に適している。③その他：クローラートラクター(キャタピラ型)が一部で使われている。また完全自動操縦などのまったく新しい型のものも開発されつつある。〔田原虎次〕

のうらんせいとく　【納蘭性徳】 (1654～1685) 中国清(しん)代の詩人。満州貴族の出身である。もとの名は成徳という。人がらが慎重で，世事を語るのを避け，内攻的であったから，詩や詞も社会や政治の問題に触れず，離別・愛情および個人的哀愁など叙情詩が多いが，模倣を避けて独創性に富む。詞にかけては清代屈指の作者である。《飲水詞》がある。

のうりつきゅう　【能率給】 労働者個人または集団の労働成果に応じて支払われる賃金。歩合給・業績給などともいう。一定時間内の出来高払*，一定作業量を完了するとき節約された時間に応じて支払われる割増賃金制，能率向上による一定期間内の増加利潤を追加賃金として支払う利潤分配制などがあるが，いずれも労働強化を招来しやすい。なお，使用者は監督労働を省略することができる。

のうりょくきゅう　【能力給】 個々の労働者の技能・経験・学識など，職務内容と直接関係のない労働能力を基準として算定される賃金。具体的な基準のほかに責任感・研究心などの抽象的基準によっても判定されるため，個人能力の査定評価が使用者の主観に偏しやすく，問題も多い。学歴給・経験給・勤続給・年齢給・技能給などはこれに属する。

のうりょくけんてい　【能力検定】 種畜選抜のための家畜の性能調査のこと。乳牛の泌乳能力検定，肉牛やブタの産肉能力検定，ニワトリの産卵能力検定などが代表的なもの。検定する家畜を一定の施設に収容して行なう場合(集合検定)と，それぞれの飼養農家で行なう場合(現場検定)とがある。能力検定の成績は，検定された家畜自身の選抜，あるいは親・兄弟の選抜などに利用される。家畜の品種改良上きわめて重要で，国・県または家畜登録協会のような公益団体などが中心になって，その普及・指導に努めている。〔阿部猛夫〕

のうりんぎょぎょうきんゆうこうこ　【農林漁業金融公庫】 農林漁業金融公庫法に基づき1953年(昭和28)設立された政府金融機関。農林漁業者に対し農林漁業の生産力の維持増進に必要な資金で，農林中央金庫*およびその他の一般金融機関が融資することが困難なものを融通する。資金源は政府からの出資金・借入金が主であるが，出資金は1966年打ち切られ，新しい資金源は資

金運用部資金・簡易保険資金・産業投資特別会計など政府からの借入金だけにたよることになった。土地改良資金・森林伐採調整資金・漁船改造資金などを貸し出すが，最近では農業構造改善事業*への融資が行なわれている。〔速水　保〕

のうりんしょう　【農林省】　農林・水産・畜産業を所掌する中央行政機関。農林大臣を長とし，その下に政務次官２人，事務次官１人が置かれている。おもな業務は農林・畜産・水産各業の改良発達の増進，各業種に従事する人々の福祉増進に関する事務などである。農商務省*を前身とし，1925年(大正14)商工省と農林省に分離し，第２次世界大戦中の1943年(昭和18)農商省に一元化されたが，1945年再び独立して農林省となった。組織は，内部部局として，大臣官房のほか，農林経営・農政・農地・畜産・蚕糸園芸の５局があり，付属機関として，農業試験場・農林水産技術会議など多くの研究所・試験場・検査所・審議会などがある。地方支分部局として，地方農政局・統計調査事務局があり，外局として食糧庁*・水産庁*・林野庁*がある。〔寺尾方孝〕

のうりんちゅうおうきんこ　【農林中央金庫】　農林漁業系統の組合関係の中枢的金融機関。1938年(昭和13)設立。資金源は政府および農業協同組合・森林組合・漁業協同組合・水産協同組合，ならびにその連合会などが出資を行なっており，またこれら団体の預金を受け入れ，農林債券を発行できることになっている。資金運用はこれら団体や関連産業への短期および長期の貸し付け，債券の買い入れ，コール-ローンなどである。〔速水　保〕

のうるし　【野漆】　⇨トウダイグサ

のうろうがん　【膿漏眼】　淋菌(りんきん)が感染して起こる激しい急性の結膜炎*。俗に風眼ともいう。潜伏期は１～４日。結膜*の高度の充血・浮腫(ふしゅ)・疼痛(とうつう)で始まり，眼瞼(がんけん)の腫脹(しゅちょう)とともに，最盛期には多量の膿性分泌物を排泄(はいせつ)する。重篤の場合には，角膜*に浸潤・潰瘍(かいよう)を併発して，穿孔(せんこう)による失明を招くことがある。治療はペニシリンその他の抗生物質の投与と点眼を行なう。新産児膿漏眼は，成人の場合よりも予後は良好であるが，産道からの感染を予防する



ノガン



ノキシノブ

目的で，クレーデ点眼*を行なう。現在では，母体の淋病の有無を問わず施行するように法制化されている。〔納富教雄〕

ノエシス・ノエマ　［noesis・noema］　両語ともに本来はギリシア語で，ノエシスはプラトンやアリストテレスなどにおいて真実在の認識または超感性的な理性的認識としての思惟(しい)を意味し，ノエマはノエシスによってとらえられたもの，すなわち思惟されたものを意味する。フッサールの現象学*においては特別な意味で用いられ，ノエシスは意識の機能的・作用的側面をさし，知覚・記憶・判断・感情・意欲などの作用があり，確信・疑惑・問い・否定などの性格をもつ。ノエマはこの作用によって思惟されたものを意味し，意識の内面における客観的側面をさす。ノエシスとノエマは，意識の最も具体的な相関者であり，ノエマの核心は対象*そのものを指示代表するノエマ的意味であり，ノエマ的対象自体とよばれる。ノエマは超越的実在でない点において内在的であり，意味的な存在とされる。〔本橋正義〕

のがみやえこ　【野上弥生子】　(1885～　)　小説家。大分県の生まれ。本名ヤエ。明治女学校卒。夫豊一郎の紹介で夏目漱石*(そうせき)の門にはいり，《ホトトギス*》に処女作《縁(えにし)》を発表，1922年(大正11)の《海神丸》が出世作となった。その多くの作品は透徹した理知とヒューマニズムを基調とし，視野も広い。大作《迷路》をはじめ，《真知子》《秀吉(ひでよし)と利休》などのほか，翻訳・紀行・評論などがある。

のがん　【野雁・鴇】　鳥類・ノガン科の総称およびそのうちの一種。ツル目に含まれ，ガンとは縁遠い。ユーラシア大陸の中緯度以南，オーストラリア・アフリカに22種が分布し，そのうち16種がアフリカに生息する。背たけ30cm前後のものから，アフリカオオノガンのように1.5m近いものまである。いずれも広々とした乾性草原や耕地などに生息し，神経質で人間をあまり近づけない。北方で繁殖するものは渡りをするが，ツルやガンのように高くは飛ばない。地上を走ったり歩いたりする習性が強く，脚は強く後趾(こうし)はない。わが国にはノガンとヒメノガンの２種がごくまれに渡来する。ノガンは背たけ１m強で，ユーラシア大陸中南部に分布する。一夫多妻性で，雄は頸部(けいぶ)の剛毛やのどにある空気袋および体羽の白・黒かっ色の模様を示して特殊なディスプレーをする。〔安部直哉〕

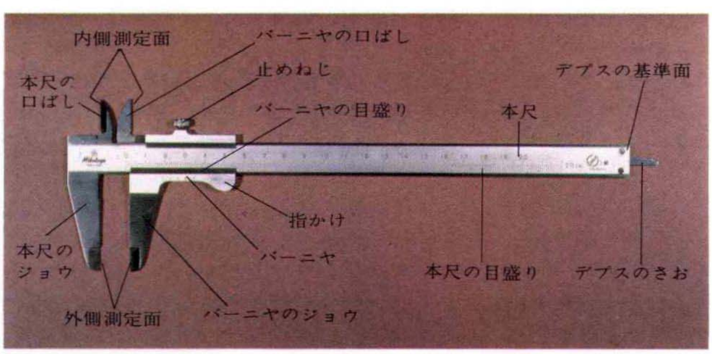
のかんぞう　⇨カンゾウ

のぎく　【野菊】　キク科の主としてコンギク属・ヨメナ属・キク属をさしていう語で，多数の種類が含まれる。おもなものに，ノコンギク・ヨメナ・ユウガギク・カントウヨメナ・ヤマシロギク・シラヤマギク・ハマギク・リュウノウギクなどがある。いずれも，野原・山・海岸などにごく普通に見られる種類で，しかも美しい花を咲かせるものである。

のきしのぶ　【軒忍】　シダ植物・ウラボシ科。山間の家々のひさしや日陰の樹幹，岩の上などに着生する常緑の多年生シダ。太さ２～３mmの根茎から，数葉がでる。葉は長さ10～30cm，幅0.5～２cmの単葉で，厚くて光沢があり，先がとがる。胞子嚢(ほうしのう)群は丸く，中央脈と縁の中間に並ぶ。

ノギス　被測定物を二つのつめの間にはさんで，その寸法を測定するための測定器。バーニヤキャリパー・スライドキャリパーなどともいう。一方のつめの動きをバーニヤ*目盛りによって最小1/20mmまたは1/50mmの値が読み取られるようになっている。外側の寸法ばかりでなく穴などの内側の寸法を測るためのくちばしがついており，また穴の深さなどを測る装置もついている。

のぎまれすけ　【乃木希典】　(1849～1912)　陸軍大将。東京の生まれ。長州藩出身。戊辰(ぼしん)戦争*に従軍し，明治維新後新政府の陸軍にはいった。1875年(明治８)小倉の歩兵第14連隊長心得となり，西南の



ノギス

役に参加。連隊長・旅団長，ドイツ留学を経て一時休職したが，日清(にっしん)戦争*で現役に復した。台湾総督を経て，日露戦争*には第3軍司令官として苦闘のすえ旅順を陥落させた。その際3子が戦死した。敵将ステッセル*との会見は有名。戦後学習院院長などをつとめ，明治天皇の御大葬の夜，静子夫人と殉死した。〔岸野淳子〕

ノクターン [nocturne] ロマン派のピアノ曲に与えられた名称の一。〈夜の曲〉という意味のとおり，分散和音的な伴奏で叙情的で柔軟な旋律を奏するものである。アイルランドの作曲家ジョン-フィールドが最初に書き，ショパンがそれを受け継いでいる。なお，ドビュッシーはこれを管弦楽曲の題名に用いた。古典派のノットゥルノも同じ意味であるが，これはセレナードと同様合奏曲に与えられた名称である。

のぐちうじょう 【野口雨情】(1882～1945) 詩人。茨城県の生まれ。本名英吉。東京専門学校(現早稲田(わせだ)大学)英文科中退。1905年(明治38)はじめての創作民謡集《枯草》を刊行。1907年相馬御風*・三木露風*らと早稲田詩社を結び，活躍。1919年(大正8)児童雑誌《金の船》(のち《金の星》に改題)の編集に参加，創作童謡を発表。このころから民謡・童謡詩人として知られ，国内各地をはじめ朝鮮・満州にまで講演・演奏旅行をして民謡・童謡の普及につとめた。

雨情は郷土そのものに詩精神を見いだした詩人で，土着のことばで農村の生活を歌って，北原白秋*・西条八十*(やそ)とともに近代童謡の確立者となった。《十五夜お月さん》《七つの子》《青い目の人形》などの童謡のほかに，中山晋平*(しんぺい)の曲で知られる《船頭小唄(こうた)》《波浮(はぶ)の港》などの民謡で親しまれ，《都会と田園》《砂上の夢》《童謡十講》などの著書もある。〔大藤幹夫〕

のぐちかねすけ 【野口兼資】(1879～1953) 能楽師。宝生流シテ方。前名，政吉。少年時代から先代宝生九郎のきびしい薫陶を受けた。ゴツゴツしたとぎれがちな難声難調であったが，高い品位と重量感にあふれた幽玄な芸風とをもって，晩年は能楽界最高の名人とたたえられた。芸術院会員。

のぐちしたがう 【野口遵】(1873～1944) 実業家。日窒コンツェルンの創始者。石川県出身。1896年(明治29)東京大学を卒業，1906年曾木(そぎ)電気を設立，水力利用のカーバイド製造に着手し，のちこれを日本窒素肥料と改称し社長に就任。外国の技術を積極的に取り入れ，フランク-カロー法による石灰窒素製造に成功，さらにカザーレ式アンモニア合成法を導入して硫安の製造に乗り出し，わが国の肥料工業を飛躍的に発展させた。昭和初頭には旭ベンベルグ絹糸を設立，ベンベルグ絹糸の製造に成功し，今日隆盛を誇るわが国化学工業の基礎を確立した。また事業家として朝鮮で電力開発につとめる一方，満州事変以後軍需会社としての一大コンツェルンを形成した。〔片岡一郎〕

のぐちひでよ 【野口英世】(1876～1928) 細菌学者。福島県翁島(おきなじま)(現猪苗代(いなわしろ)町)の生まれ。幼名清作。1896年(明治29)上京して高山歯科医学院の学僕(がくぼく)となった。翌年済生学舎にはいり，苦学のすえ医術開業試験に合格。高山歯学院講師，また順天堂医院助手を兼任。1898年伝染病研究所助手となり，細菌学の研究を始めた。1900年アメリカに渡り，フレキスナー博士の助手，次いでペンシルベニア大学・ロックフェラー医学研究所助手となって蛇毒(へびどく)の研究を続けた。1911年梅毒スピロヘータの純粋培養に成功。さらに，1913年(大正2)麻痺性痴呆(まひせいちほう)(進行麻痺*)・脊髄癆(せきずいろう)患者の脳標本よりスピロヘータを発見，これらの疾患が梅毒性のものであることを明らかにし一躍世界に名をなした。1928年(昭和3)黄熱病研究のためアフリカに渡ったが，研究さなかに同病に感染して急死した。しかし，今日ではこの研究はあまり評価されていない。このほかトラコーマ・オロヤ熱・破傷風などの研究も手がけた。1915年学士院恩賜賞を受賞，1923年帝国学士院会員となった。〔大鳥蘭三郎〕

のぐちよねじろう 【野口米次郎】(1875～1947) 詩人。愛知県の生まれ。ヨネ・ノグチともいう。慶応義塾(ぎじゅく)大学中退。アメリカ各地を放浪ののちロンドンに渡り，再びアメリカにもどる。その間に詩集などを刊行し，好評を得て帰朝，母校の教授に就任。日本・イギリス・アメリカの詩人の交流をはかり，日本文化の海外紹介に尽くした。また浮世絵の研究もある。詩集《Seen and Unseen》《From the Eastern Sea》《二重国籍者の詩》《表象抒情詩(じょじょうし)》《人生詩集》などがある。〔江種満子〕

のげし 【野芥子・苦菜】 双子葉植物・キク科。ハルノノゲシともいう。原野によく見られる越年草で，高さ60～100cm。全草に薄く白粉をおびる。葉は不規則で大きな鋸歯(きょし)があり，質は厚くしわが多い。アザミの葉に似るが，それより柔らかく痛くない。葉の基部は耳状で茎を抱く。茎や葉を切ると白い乳液が出る。4～5月，タンポポの花を小さくしたような舌状花からなる頭花をつける。オニノゲシはこれによく似るが，全体が大きく，葉にしわがなく，縁の鋸歯はとげ状でさわると痛い。アキノノゲシは葉が細長く深く裂け，9～10月にノゲシに似た花を咲かせる。〔加藤僖重〕

のこぎりえい 【鋸鱝】 軟骨魚類・ノコギリエイ科。全長8mほどで，吻(ふん)長2.5mにも達する巨大なエイ。全長の約3分の1を占める鋸状の巨大な吻をもち，また，鰓孔(さいこう)が腹面に開くという著しい特徴をもっている。この吻の両側に並ぶ鋸歯(きょし)は皮歯の変形物であるが，その役割は砂やどろからえさを掘り起こしたり，水面をたたいて魚群を追いつめたり，魚を殺したりすることだという。全世界の熱帯から温帯にかけて分布するが，日本近海にはあまり生息していない。ニカラグア湖には淡水性のノコギリエイもいる。卵胎生で，胎児が母体中にあるときは，その鋸歯は膜状のさやに包まれて母体を傷つけぬようになっているが，さやは誕生後すぐに脱落するといわれている。ほとんど食用にされていない。〔谷内 透〕

のこぎりかみきり 【鋸天牛】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・カミキリムシ科。体長23～48mm，体は光沢のある赤かっ色ないし黒かっ色。全体に強固で，頭部には前方に突出する強大な大顎(おおあご)がある。触角は12節の鋸歯(きょし)状で，雄では体長の約6分の5，雌では体長の約4分の2。前胸背板の前縁角と側縁中央部に鋭い棘状突起がある。鞘翅には2本の縦隆起線が走り，会合線の先端に小さい突起がある。日本全土のほか，朝鮮・中国・東シベリアに産し，成虫は5～8月に出現して，燈火にもよく飛来する。幼虫は，数種の針葉樹や広葉樹の枯材に穿孔(せんこう)する。近似種に触角が短いニセノコギリカミキリがあり，本州・四国・九州に分布する。➔カミキリムシ〔鈴木邦雄〕

のこぎりかめむし 【鋸亀虫】 こん虫類・半翅(はんし)目・ノコギリカメムシ科。体長13～16mm，体はほぼ一様に黒かっ色で紫赤色の光沢がある。前胸背の前縁角と側縁にとがった突起があり，腹部の側縁は顕著な鋸歯(きょし)状を呈する。本州以南，朝鮮・中国・台湾などに分布し，カラスウリに多く見られるが，カボチャやキュウリを加害することもある。幼虫期は4齢で，羽化後の成虫は8月末ごろに土中や石の下などに潜み，そのまま越冬して翌年夏再び現われる。

のこぎりくわがた 【鋸鍬形虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・クワガタムシ科。体長は雄36～71mm，雌24～30mm。体は黒かっ色ないし暗赤かっ色で，特に雄の鞘翅は赤みが強い。雄の大顎(おおあご)の形には変異がはなはだしく，体長の大きい個体ほど大顎も強大である。一般に大顎は頭部と胸部を合わせたよりも長く，基部で下方に大きく湾曲し，中央部で最も幅広く，数個の小歯がある。鞘翅は点刻を密布する。日本全土と朝鮮に分布し，成虫は7～8月に最も多く，平地や低山地のクヌギ・ニレ・ヤナギなどの樹液を好んで集まり，また燈火にもよく飛来する。八丈島と三宅(みやけ)島に産するものは別亜種とされるが，三宅島には両者が産するという。また，沖縄諸島には近縁のオキナワノコギリクワガタが産する。➔クワガタムシ〔鈴木邦雄〕

のこぎりざめ 【鋸鮫】 軟骨魚類・ノコギリザメ科。全長1.5mぐらいにしかならない小形のサメ。ふつうは5個の鰓孔(さいこ

う)が両側に並ぶが，南アフリカ産のものには体の両側に6個の鰓孔がある。吻(ふん)が扁平(へんぺい)で突出しており，その両側には鋭い鋸状の歯が並ぶが，鰓孔は体の側面につく。吻の中央部腹面には1対の長いひげがある。両顎歯(りょうがくし)は小さく，一つの尖頭(せんとう)をもつ。ノコギリエイ*と同様に砂やどろの中からえさとなる小動物を吻で掘り起こしたり，鋸歯のついた吻を左右に振り立てて，魚を突き刺し，これを食べるといわれる。日本各地の沿岸の海底で生活しているが，特に南日本に多い。卵胎生で，1産10尾ほど。かまぼこの原料とされる。〔谷内　透〕

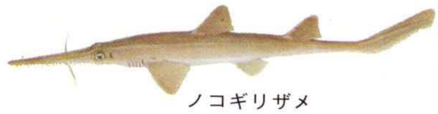
のこぎりそう　**【鋸草】**　双子葉植物・キク科。山地に自生する多年草。高さ50～80cmで，全体が毛におおわれる。葉は細長くて細かく深裂し，小さい鋸歯(きょし)がある。7～9月，直径7～9mmの頭花を散房状につける。舌状花は短くて5～7個と少なく，白色である。舌状花の小さいものをヤマノコギリソウといい，比較的高い山の草原にはえる。この仲間のセイヨウノコギリソウ・キバナノコギリソウ・ジャコウノコギリソウなどが庭に植えられている。

のこぎりやま　**【鋸山】**　千葉県房総半島南西部，浦賀水道に面してそびえる山で標高329m。第三紀層の凝灰岩からなり，鋸歯状の山容は東京湾を出入する船舶の好目標とされてきた。山頂に石切場があり石材が採取されている。ふもとには内房線浜金谷と三浦半島浦賀間にフェリーが通じ，浜金谷から山上まではロープウエーがあり，観光地・ハイキング地としてにぎわっている。

のごま　**【野駒】**　鳥類・ヒタキ科。ヒノマルともいう。全長14～15cm。雄ののどは美しい赤色で，雌では白色，他の部分は淡かっ色。北アジアで繁殖し，南アジアで越冬する。日本では北海道の平地から山地の低木の混ざる草原や荒れ地状の野原に普通に繁殖する夏鳥。雄は低木に止まり〈チィチュルチュルチュルル……〉と美しい声で続けてさえずる。

のこんぎく　**【野紺菊】**　双子葉植物・キク科。平地から山地の草原に自生する多年草で，地面の中に長い根茎を出して繁殖する。茎は高さ0.5～1mで，上部で枝分かれする。葉は互生し，長さ4～10cm，幅1～3cmであらい鋸歯(きょし)があり，表面がざらつく。8～10月，枝先に直径約3cmの青紫色の舌状花および黄色の筒状花からなる頭状花をつける。瘦果(そうか)には長さ4～6mmの冠毛がある。変異が大きく，ハマコンギクは海岸型，コンギクは色の濃い園芸種である。ヨメナ*に似るがヨメナには冠毛がほとんどない。

のさかさんぞう　**【野坂参三】**　(1892～　)　日本共産党*の指導者・政治家。山口県の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学在学中より友愛会*に加盟。書記長を経て，1919年(大正8)同会特派員としてイギリスに渡り，翌年イギリス共産党の創立と同時に入党。1922年国外に追放されて帰国し，日本共産党の創立に参画した。1931年(昭和6)日本共産党中央委員。第2次世界大戦中は中国の延安で日本人解放連盟を組織して反戦運動を展開，終戦とともに帰国した。1950年GHQ*の指示により追放されたため一時地下活動にはいったが，1955年合法活動に復帰し，日本共産党第一書記となった。1958年中央委員会議長，現在参議院議員。〔安達利夫〕



ノコギリザメ



ノコギリソウ



ノゴマ



ノコンギク

のざきかんのん　**【野崎観音】**　大阪府大東市野崎にある慈眼寺の俗称。曹洞(そうとう)宗。開山・創建年代ともに不明だが，平安時代，江口(大阪府東淀川区)の遊女が再興したと伝わる。戦国時代に一時焼失したが，江戸初期に再び復興され，以後，安産・縁結びに霊験があるとされ，広く信仰を集めている。5月の無縁経法会(ほうえ)には多くの参拝人でにぎわう。

のざきむら　**【野崎村】**　⇨新版歌祭文

ノサック　［Hans Erich Nossack］(1901～　)　ドイツの小説家。第2次世界大戦末期のハンブルク大空襲の衝撃的な体験から文学的出発を遂げた。戦中戦後の荒廃を描いた小説《死者へのたむけ》，短編集《死とのインタビュー》は，その記念碑的作品。その後，現実と神話，日常性と童話の織りなす世界を即物的な文体で描く方向へ進み，《おそくとも11月には》《弟》などの長編，《影の法廷》ほかを含む中編集《螺旋(らせん)》などがある。〔柳川成男〕

のさっぷみさき　**【納沙布岬】**　北海道東部，根室市に属し，根室半島の東端の岬で，珸瑶瑁(ごようまい)海峡を隔てて歯舞(はぼまい)諸島と相対している。海抜約20mの段丘上には1872年(明治5)に点燈した納沙布岬燈台があり，冬から春さきにかけて流氷が見られる。付近一帯は水産資源が豊かで，コンブの採取は日本・ソ連間の協定に基づいて行なわれている。晴れた日には，日本が北方領土として領有を主張している国後(くなしり)島が，北西方によく見える。〔味沢成吉〕

のざらしきこう　**【野ざらし紀行】**　芭蕉*(ばしょう)作。俳諧(はいかい)紀行文。別名《甲子(かっし)吟行》《芭蕉翁道の記》などともいう。1684年(貞享1)秋，深川の芭蕉庵(あん)を発足，俳諧師として独立後はじめて郷里伊賀(いが)(三重県)に帰省し，吉野(よしの)(奈良県)・名古屋・京都などを巡って，翌年夏帰庵するまでの句文をつづったもの。芭蕉俳文の第1作として，句文の配置は不均衡ながら，漢詩文の世界との交響からしだいに日本の風土の美にめざめてゆく過程がよく出ている。〔奥野純一〕

のざわおんせん　**【野沢温泉】**　長野県下高井郡野沢温泉村にある温泉。泉温40～89℃，泉質はイオウ泉・単純泉で，胃腸病・皮膚病・リウマチなどにきくといわれる。標高600mの高原にあり，千曲(ちくま)川を見おろす。温泉の歴史は古く，僧行基の発見と伝えられる。付近は県下でも雪の多いところで，スキーで名高い。温泉プール・噴湯・温泉神社などがある。交通は国鉄飯山(いいやま)線戸狩駅からバスの便がある。

のざわな　**【野沢菜】**　双子葉植物・アブラナ科の二年生草本。カブの仲間であるが，根はあまり太らず，葉が大きくなる。長野・新潟両県に栽培が多く，積雪地帯の重要な越冬野菜で，つけ物にして利用されることが多い。

のざわぼんちょう　**【野沢凡兆】**　⇨凡兆

のし　**【熨斗】**　のしあわびの略称。贈り物や引き出物に祝儀の意を表わして添えるもの。〈熨斗〉の字は〈火熨斗〉の流用である。

タバコなどの生産が盛んで，タバコはアメリカ合衆国第1位，ジャガイモはルイジアナ州に次ぎ，落花生はジョージア州に次いでそれぞれ第2位。その他ワタ・トウモロコシ・ダイズの生産も多い。ウンモの生産高は全国一である。アッシュビルには世界最大のレーヨン工場がある。観光収入も重要である。主要都市，シャーロット・グリーンズボロ・ローリー。〔相村大彬〕

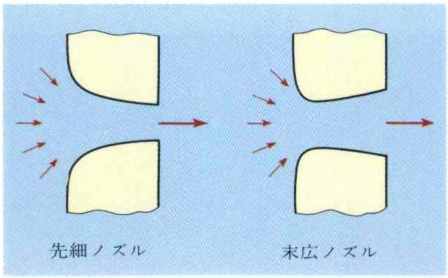
ノースクリフ ［Viscount Alfred Charles William Harmsworth Northcliffe］(1865～1922) イギリスの新聞王。アイルランドの生まれ。1888年，《アンサーズ-トゥ-コレスポンデンツ》を創刊，以後ジャーナリストとしての手腕を発揮，《イブニング-ニュース》を再建，さらに1896年弟ロザミアとともに労働者婦人層を対象に大衆日刊紙の祖といわれる《デーリー-メール》を創刊して大成功を収めた。その後日刊婦人紙《デーリー-ミラー》，日曜新聞《オブザーバー》を買収，さらには衰微していた伝統ある《タイムズ》の経営権を握るなど新聞界に君臨した。第1次世界大戦中，戦時特命全権大使としてアメリカに渡り，帰国後子爵を授けられ，翌年には排敵宣伝相になって最前線におもむき，傘下(さんか)の新聞を駆使してめざましい活躍をした。〔片岡一郎〕

ノースダコタ(州) ［North Dakota］ アメリカ合衆国中北部に位置し，カナダに接する州。面積18万km²，人口63万7,000(1974)。州都ビスマーク。1861年3月に現在のサウスダコタとモンタナ・ワイオミングの一部とともにダコタ領州を結成したが，その後分離し，1889年にサウスダコタとともに合衆国40番めの州となる。州名はインディアンのスー族語の〈友人〉の意。東部は穀物畑と広大な牧場の続いた地域で，西部の風景美に富んだ地域を含む荒れ地の景観とは著しい対照をなしている。主産業は農業と鉱業で，農地は全土の93%に及び，春小麦・ライ麦・大麦の生産は全国第1位。鉱産品は石油・天然ガスを主として産し，全生産額の80%を占める。その他，石炭・ウラニウムなどがある。工業は食品加工をおもに行なっている。主要都市はファーゴ・ビスマーク。〔相村大彬〕

のすり ［鵟］ 鳥類・ワシタカ科。全長50～60cmで，トビとほぼ同大。わが国ではトビに次いでよく見られる留鳥性のタカの一種である。北海道・本州・四国などのおもに低山帯で繁殖する。上面はかっ色，下面は白色ないし淡かっ色で，腹部にかっ色の太い横斑(おうはん)がある。全体に著しく白色のものから濃かっ色のものまで，個体変異に富む。山地の草原や樹高の低い植林地などでおもにネズミ類を捕えている。わが国にはこのほか，オオノスリとケアシノスリが少数冬鳥として渡来する。〔安部直哉〕



ノスリ



ノズル



野　点　湯島天神(東京)における2月の野点

ノズル ［nozzle］ 管の末端につけてそこから流体を放出する装置。管径を変化させ，流体の圧縮によるエネルギーを速度エネルギーに変えるのに用いる。液体や低速の気体を流す場合は，先細ノズルにより流れを加速する。消防用のノズルはその例。高速度の気流を発生させて音速より速くするときには，低速から音速までは管径を絞り，それから下流は広げる。これを末広ノズルあるいはラバールノズルといい，蒸気タービン・ジェットエンジンなどの噴出口として使われる。〔内田茂男〕

のせみょうけん ［能勢妙見］ 大阪府豊能(とよの)郡能勢町にある日蓮宗(にちれんしゅう)の寺。はじめ旧領主能勢家の先祖多田満仲が，妙見菩薩(ぼさつ)を鎮守として祭ったが，1028年(長元1)孫の頼国(よりくに)が大空寺城の護神として現在地に祭って以来知られるようになった。のち17世紀初め能勢頼次が日蓮宗に改め，江戸中期には多くの信者・講社の信仰を得た。現在の堂舎は明治のもの。

のぞりこ ［野反湖］ 群馬県北西部，三国山脈の八間山と弁天山の間の低地にある湖。かつて低湿地の中に周囲およそ4kmの野反池があって信濃(しなの)川の支流中津川に排水していたが，1956年(昭和31)にダムをつくって貯水池とし，東京電力の中津川発電所が利用している。海抜1,400mにあり，夏季には登山客でにぎわう。上信越高原国立公園に属する。

のだ ［野田(市)］ 千葉県北西端の市。人口92,000。江戸初期に興った濃口醤油(こくちしょうゆ)の製造業が明治以降機械化による大量生産が進み，1917年(大正6)醸造元6家が合併して野田醤油株式会社(いまのキッコーマン醤油)を設立して以来，販路を全国に伸ばした。1950年(昭和25)市制施行。下総(しもうさ)台地北西端と関東平野との接点にあり，西は江戸川，東は利根(とね)川にはさまれる。産業三大別人口比は11：42：47。しょうゆの醸造工場や和たるの製造工場が多く，人口の約65%が醤油関連工業に従事する単一業種の工業都市で，銚子(ちょうし)市とともに東日本の醤油醸造業の中心地となり，東南アジア・ハワイ・北アメリカへの輸出も盛んである。農村部では葉タバコ・野菜の産が多い。東武鉄道野田線・国道16号線が通じ，江戸川にかかる野田橋で埼玉県と，利根川にかかる芽吹(めふき)大橋で茨城県と結ばれる。サクラの名所清水公園や，大利根温泉などの観光地がある。

のだて ［野点］ 野外で茶をたてること。ふすべ茶の湯，柴火(しばひ)の茶，野がけなどともいう。松の木陰などのけしきを見たて，茶釜(ちゃがま)を枝につり，地面に毛氈(もうせん)などを敷き，主客の座を設ける。折敷(おしき)(四方に折り回した縁のある盆の一種)に茶箱*と柄杓(ひしゃく)などを置き合わせ，客が席につくと提物(さげもの)で菓子を勧め，松葉をかき集めて火箸(ひばし)で釜の下にさしくべ，扇でさっさとあおぎたてる。湯が沸くと，茶箱の中から茶器を取り出し，茶をたてて，客に勧める。季節や場所によって，くふうを凝らすところに妙味がある。〔桑田忠親〕

のだのさぎやま ［野田の鷺山］ 埼玉県大宮市東方の東武鉄道野田線七里駅付近の上野田代山地区をさす。国道両側の樹木や竹林が，毎年春の彼岸ごろから9月末ごろまで数千羽のサギの大群でにぎわった。かつて日光御成街道筋にあたったので幕府の命で保護が加えられたためである。特別天然記念物。しかし最近は，付近の水田の農薬散布によるえさの減少，自動車の排気ガス・騒音などのためほとんどサギが寄りつかなくなり，特別天然記念物の指定解除の気運もある。

ノーチラス ［Nautilus］ アメリカ海軍が1954年に建造した世界最初の原子力潜水艦。基準排水量3,750トン(水中)，全長98m，水中速力20ノット以上。過圧水冷却型原子炉1基をもち，約25万kmを燃料補給なしに行動できる。現在ではすでに旧式に属するが，一種の実験艦として原子力潜水艦の発

展に果たした役割は大きい。ノーチラスというのは，J.ベルヌ*の空想科学小説《海底20,000哩(マイル)》に出てくる潜水艦の名に由来する。〔藤井冬木〕

ノッキング [knocking] ノックともいう。内燃機関において金属性の物をたたくような高い音を伴う異常な燃焼。ガソリン機関においては，シリンダーが過熱したり，点火時期が早すぎたりすると生じやすい。また圧縮比の高い機関はノックしやすい。燃料によっても違い，ノックに対する抵抗性をアンチノック性*といい，それを数字で表わしたのがオクタン価*である。オクタン価が高い燃料ほどノックを生じにくい。ディーゼル機関のノッキングは始動直後のシリンダーが冷えているときに発生し，暖まってくれば消滅する。これはガソリン機関とは逆に圧縮比が低いものに起きやすく，燃料のアンチノック性はセタン価*によって示される。セタン価とオクタン価は逆の関係にある。〔斎藤　孟〕

ノックス [John Knox] (1513ごろ～1572) スコットランドの宗教改革者。ハディントンの富農の子。グラスゴー大学に学ぶ。一時フランス軍に捕われたが，釈放後イングランドへ渡る。旧教徒メアリ1世*の即位により迫害を避けてジュネーブにおもむき，カルバンを知る。1559年スコットランドに帰国し，〈スコットランド信条〉を作成して長老派*教会の設立に成功した。主著《スコットランド宗教改革史》。

ノックスビル [Knoxville] アメリカ合衆国，テネシー州東部の工業都市。人口18万3,000(1975)。テネシー川に臨み，水力発電による化学・アルミニウム工業が盛んである。また，付近の石炭・鉄鉱・鉛の鉱産地域を背景に自動車・繊維・皮革などの工業が発達し，大理石の生産も有名。テネシー州立大学があり，かつてはテネシー州の州都であった。

ノックダウンゆしゅつ 【ノックダウン輸出】 部分品または半成品をセットで輸出して，現地(輸入国)で完成品に組み立てて販売する輸出方式。わが国の東南アジア・中南米への自動車輸出に多い方式である。これは経済の発達途上国に対し技術輸出*の実績を上げるために，また完成品の輸出が，ひどく抑制されている国への輸出対策として効果がある。ただし，このためには，現地において組み立て能力や設備のあることを条件とする。現地の安い労働力を利用でき，部分品包装や部分品運送により運賃が安くなる。また工業技術の高い水準を，現地で直接に認めさせるにも役だつ。

のつけざき 【野付崎】 野付半島ともよぶ。北海道東部，根室海峡に突出した分岐砂嘴*(さし)。標津(しべつ)川河口付近を基部にしてかぎ状に長さ28kmにも及び，先端は大きく内に曲がっており，内側にはいくつもの突出部があって，野付湾をいだいている。標高は6m以下であるが，微細な高度差があり，低い湿地と高い草地が交互に続いて，しま模様をなしている。放牧地としてまた沿岸の漁業に利用され，番屋はあるが定住者はいない。最近多くの観光客が訪れる。〔味沢成吉〕

ノッチンガム [Nottingham] イギリス，イングランド中央部のトレント川に沿う工業都市。人口29万5,000(1973)。ダービーの東22kmにあり，かつてレースの製造で有名であったが，最近は織物・編み物生産，タバコなどの生産の中心地になっている。9世紀にデンマーク人によって建設されたのが起こりで，1155年勅許を得て自由都市となる。1642年にはチャールズ1世が，クロムウェルの国会に対して軍を起こした。ノルマン時代の城砦(じょうさい)は1674年に再建され，現在は博物館になっている。

ノット [knot] 船舶・航空機の速さを表わす単位。記号ktまたはkn。1ノットは，毎時1海里(1,852m)進む速さ。帆船時代にはひものついた扇形の板を船尾から海中に投げ入れ，船の進行とともにひもが自由に繰り出すようにしておき，砂時計で時間を測定しながら，一定の時間に繰り出されたひもの長さによって船の速力をはかった。このとき一定間隔にひもの結び目(ノット)をつくっておき，結び目のいくつ(何ノット)の速力というような言い方をしたことに由来する。〔飯島幸人〕

のっぺいじる 【濃餅汁】 実の多い野菜じるの一種。鳥肉・豚肉などを入れることもある。古くからある料理で，島根県・新潟県などの郷土料理としても残っている。サトイモ・ニンジン・シイタケ・こんにゃく・ダイコン・ゴボウ・油揚げなどを適宜に切り，煮出しじるで柔らかくなるまで煮て塩・しょうゆで調味し，水ときしたかたくり粉を加えて薄くとろみをつける。

のと 【能登(国)】 石川県の北半，能登半島の旧国名。能州。北陸道に属する。もと越前*(えちぜん)(福井県)に属したが，718年(養老2)羽咋(はくい)・能登・鳳至(ふげし)・珠洲(すず)の4郡をさいて能登とした。現在は七尾・輪島・羽咋・珠洲の4市と羽咋・鹿島(かしま)(この2郡を口郡と通称)・鳳至・珠洲(この2郡を奥郡と通称)の4郡。国府・国分寺はともに能登郡(現在の七尾市)。741年(天平13)越中(富山県)に合併。757年(天平宝字1)旧に復し能登とした。平安末期には平氏の知行国，鎌倉時代には長谷部信連(はせべのぶつら)・得田章通が有力地頭として勢力を二分したが，南北朝時代には諸豪族の消長盛衰目まぐるしく，14世紀末に畠山義深(はたけやまよしふか)を守護としてから子孫世襲し，15世紀に至って政情ようやく定まった。応仁*(おうにん)の乱後再び国内は乱れ，戦国末期に上杉(うえすぎ)謙信*ついで織田信長*(のぶなが)に服し，のち前田利家*(としいえ)の支配するところとなり，近世を通じて加賀前田氏百二万五千石の治下にあった。明治維新後，1871年(明治4)七尾県を置き，翌年これを新川・石川2県に分け，さらに1876年この2県を合わせて石川県とし(1883年富山県を分置)今日に至る。〔黛　弘道〕

のと 【能都(町)】 石川県鳳至(ふげし)郡にある港町。能登(のと)半島*北東部の内湾に面する。人口16,000。能登線の開通前は奥能登の物資集散地として栄えた。現在は県の水産試験場・水産高校・造船所などがあり，漁業が盛んである。

のとはんとう 【能登半島】 石川県の北西部にあり，日本海に突出した日本で最大の半島。大部分は第三紀層の低平な丘陵をなしているが，宝立(ほうりゅう)山・高洲(こうしゅう)山などの突出部が見られ，半島周辺部には海岸段丘が発達し，各河川の河口部には小規模な沖積(ちゅうせき)平野が形成されている。半島の富山湾側を内浦，日本海側を外浦とよび，内浦は九十九(つくも)湾・七尾湾などをはじめ静かな入り江が形成されているが，これと対照的に外浦の海岸は，能登金剛・猿山(さるやま)崎・曾々木(そそぎ)・禄剛(ろくごう)崎をはじめ海食による断崖(だんがい)が続き，奇岩怪石が散在し，雄大な岩石美を形成している。内浦・外浦ともに能登半島国定公園*に指定されている。また，史跡も多く，民俗学的にも特有の地域として注目を浴びており，多くの観光客が訪れる。半島の中心都市は外浦では輪島・羽咋(はくい)，内浦では七尾・珠洲(すず)など。〔味沢成吉〕

のとはんとうこくていこうえん 【能登半島国定公園】 石川・富山の2県にまたがり，内陸部の山地，能登半島沿岸の大部分と，半島北方の海上に浮かぶ舳倉(へくら)島・七ツ島などを含む面積97km^2の地域で，1968年(昭和43)に指定された。半島西部の外浦は日本海の波浪によって高さ100mにも及ぶ海食崖(かいしょくがい)が発達し，能登金剛・関野・皆月・曾々木(そそぎ)・高屋・禄鋼(ろくごう)崎などの名勝地がある。また東部の飯田湾，湾内に小島が点在する七尾湾，砂浜の氷見(ひみ)海岸，海女(あま)で知られる舳倉島および七尾城跡，平時忠の墓などの史跡もある。和倉・珠洲(すず)など温泉も多い。七尾線・能登線が通じ，国道249号線が半島を一周している。〔木村東一郎〕

のどぼとけ 【喉仏】 頸(くび)の前の部分で，およそ喉頭(こうとう)に相当する場所のうち最も突き出しているところ。甲状軟骨の高まりで，男性では青春期になるといっそう発達し，西洋では《アダムのリンゴ》などといわれる。

ノートルダムがくは 【ノートルダム楽派】 12世紀後半から13世紀前半にかけてパリのノートルダム寺院を中心に活動した音楽家のグループ。彼らは初期のオルガヌム*(多声楽)をさらに発展させた。その中心は2声のオルガヌムであり，さらにグレゴリオ聖歌*を定旋律とし，そのうえに自由な

装飾的旋律をもつもの，時代が下ると，3～4声のオルガヌム，クラウズラ，さらにグレゴリオ聖歌を定旋律としないコンドゥクトゥス*なども現われた。リズムには六つの基本になるリズム型がありその組み合わせによって楽曲が進行する。代表的作曲家は，レオニヌム・ペロティヌスらで，彼らが13世紀後半および14世紀の多声音楽に与えた影響ははかりしれない。〔吉田泰輔〕

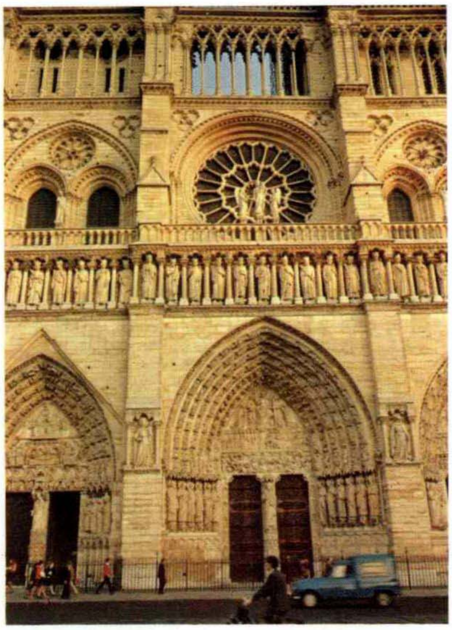
ノートル-ダム-ド-パリ ［Notre-Dame de Paris］ フランス-ゴシック建築を代表する寺院。左右に二つの塔を配し，戸口は正面に三つ並び，中央戸口の上方に，美しいステンドグラスで名高い大ばら窓がある。またゴシック建築に特徴的なフライングーバットレス(飛梁(とびはり))が顕著に認められ，全体として均衡のよくとれた堂々たる構築で，盛期ゴシックの典型例とされ，かつ同時にフランス中世文化を象徴してもいる。扉(とびら)上部に見られる浮彫や彫像群，内陣周囲の浮彫など，寺院内外を飾る彫刻にもすぐれたものが多い。

のとろこ 【能取湖】 北海道東部，網走(あばしり)市西方約5kmにある潟湖(せきこ)。面積58km²，最深点21.2m。北岸を西から延びる砂州*によってふさがれ，排水口はオホーツク海に連なる。砂州の能取原生花園と東岸の能取岬(みさき)は，網走国定公園の一部になっている。

のなかけんざん 【野中兼山】(1615～1663) 江戸初期の儒者。土佐藩の家老。名は止，字(あざな)は良継，兼山は号。南学*派の谷時中に朱子学*を学んだ。家老野中直継のあとを継いで2代藩主山内忠義に仕え，南学の精神をいかして藩政確立に尽力し，大規模な新田開発，河川港湾の整備，紙・茶・漆の専売制など積極的な産業振興政策を実施して財政的基礎を固めた。ただその方法が急進的過ぎたため，同僚の反感や庶民の恨みを買い，辞職して隠退した。《朱子語類》《小学》などを翻刻し，著書に《兼山遺草》《自省録》などがある。〔岡山泰四〕

のねずみ 【野鼠】 イエネズミ*に対して，山林・原野で生活するネズミ類の総称。世界じゅうに多くの種類があり，日本にはハタネズミ・ヤチネズミ・カゲネズミ・アカネズミ・カヤネズミなどの種類がある。

ノーノ ［Luigi Nono］(1924～) イタリアの作曲家。第2次大戦後の前衛音楽運動を指導し，シュトックハウゼン・ブーレーズとともに，前衛音楽の〈三羽烏〉のひとりに数えられている。ベネチアの旧家に生まれ，はじめは法律を専攻したが，1941年ベネチア音楽院の聴講生となり，作曲家の道を歩みはじめた。マデルナ・マリピエロ・シェルヘンに作曲を学び，1950年のダルムシュタットの〈国際夏季音楽講習〉で《変奏曲》を発表して一躍有名になった。以後ヨーロッパ各地の現代音楽祭で，《ポリフォニカ-モノディア-リトミカ》(1951)，《イルーカント-ソスペーソ》(1956)，《イントレランツァ》(1960)，《ヒロシマの橋の上で》(1962)などの問題作を次々に発表した。ノーノの作品は，ナチズムや原爆など現代の政治や社会の問題を題材とし，それをオーケストラと合唱で劇的に鋭く表現するものであり，その前衛的できびしい様式は高く評価されている。〔船山 隆〕



ノートル-ダム-ド-パリ (正面部分)



野々村仁清 《牡丹文水指》 東京国立博物館蔵



ノハナショウブ

ののむらにんせい 【野々村仁清】 江戸初期の京焼に優麗な大器・小器をのこした陶工。初代仁清は色絵陶器の完成者として知られるが，出自や履歴については明らかでない。文献には，本名清右衛門(せいえもん)，1649年(慶安2)丹波焼清右衛門きたると伝えられている。仁和(にんな)寺門前の御室焼(おむろやき)に轆轤(ろくろ)の名工として丹波から招聘(しょうへい)され，その技量を認められて仁和寺宮から〈仁〉を賜り，清右衛門の〈清〉と結んで仁清の印を拝領し，作品に仁清の捺印(なついん)および書印(かきいん)を付した。紀年銘をもつ基準作は，1657年(明暦3)作の《色絵輪宝羯磨文(かつまもん)水指(みずさし)》である。なお1695年(元禄8)には仁清も2代めになったとの記録がある。〔矢部良明〕

ノバスコシア(州) ［Nova Scotia］ カナダ東南端，ノバスコシア半島とケープブレトン島からなる州。面積55,000km²，人口78万9,000(1971)。州都ハリファックス。17世紀の初頭，フランス系移民によって開拓されアカジアとよばれたが，1713年のユトレヒト条約によってイギリスに移譲された。州名は〈新スコットランド〉の意。気候は，メキシコ湾流の影響から高緯度のわりには温和であるが，夏に霧が発生することなどから，農業には適さない。古い岩石からなる岩がちの地域で，海岸はリアス式海岸で良港湾が多く，付近の海域は好漁場で水産業が発達している。〔相村大彬〕

のはなしょうぶ 【野花菖蒲】 単子葉植物・アヤメ科。酸性の湿原や草原に自生する多年草で，ハナショウブ*の原種といわれる。根茎は横走して分岐する。葉は剣状で長さ30～60cm，2列に互生し，中肋(ちゅうろく)は太くて目だつ。花茎は高さ60～120cm，円柱状で直立し，2～3個の包葉があり，ときに分枝する。6～7月ごろ茎頂に赤紫色の1花をつける。外花被は楕円(だえん)形で下垂して中央は黄色，基部に長いつめがある。内花被は狭長楕円形で直立する。果実はかっ色硬質の蒴果(さくか)で，背面が裂けて赤かっ色扁平(へんぺい)の種子を多数出す。

ノバヤゼムリャ(島) ［Novaya Zemlya］ 北極海のバレンツ海とカラ海の間にあるソ連領の島。面積約83,000km²。南北二つの島からなり，北極グマ・キツネがすみ，近海にはアザラシ・セイウチ・クジラなどがいる。谷と平原のツンドラにのみ植物がみられる。冬は厳寒で強風が吹き，夏は近海の氷がとけて霧が深い。最初の渡島者はノルウェー人で10世紀のことであり，以後イギリス人・オランダ人・ロシア人の探検者が渡った。1760年ロシア人S.ロシニクは島一周の探検をした。1877年ロシア政府はサモエード人を移住させたが，人口は現在でも少ない。1930年代以後は，戦略的価値が高く評価されている。〔大崎 晃〕

のばら 【野薔薇】 ⇨ノイバラ

ノバーリス ［Novalis］(1772～1801) ドイツの詩人・小説家。本名フリードリヒー

フォン-ハルデンベルク。大学で法律と鉱山学を学び，官吏の職につく。23歳のとき13歳の少女ゾフィーと婚約，2年後に少女は死に，このことが作品に決定的な影響を与えた。シラー・シュレーゲル兄弟・ティークらの影響を受け，死と永遠の夜の世界へのあこがれをうたった叙情詩《夜の讃歌(さんか)》，自然を有機的統一とする小説《ザイスの学徒》，いっさいの精神活動を結合する統一の神秘を示そうとした小説《青い花》などがあり，初期ロマン派の代表的作家とされる。

ノビコフ-プリボイ ［Aleksei Silych Novikov-Priboi］（1877～1944） ソビエトの小説家。バルチック艦隊の水兵として日本海海戦に参加，捕虜となり創作を始めた。代表作《ツシマ(対馬)》は，体験と記録をもとに，日露戦争下のツァーリ政府の無力・退廃を描いて，戦争を批判した作品。

のびたき 【野鶲】 鳥類・ヒタキ科。全長13cmほど。雄の夏羽は頭・顔・背面は黒色，胸は栗色(くりいろ)，頸(けい)側部・翼上面・上尾筒に目だつ白斑(はくはん)があるが，野外では全体に黒色に見える。雄の冬羽は雌に似て，全体にかっ色に富む。アジア・アフリカ・ヨーロッパに広く分布し，日本では本州中部以北，北海道の平地から低山帯の草原に多数渡来し繁殖する夏鳥。

のびる 【野蒜】 単子葉植物・ユリ科。畑や路傍に自生する多年草。鱗茎(りんけい)は白色球形で径1～2cm，しばしば子鱗茎が白色糸状の柄で連結している。葉は茎の下部に2～3枚つき，長さ30cmくらいの狭線形で中空，断面は三角形で上面はへこむ。葉の下方はさや状になり，白色膜質で茎を抱く。茎は中実で直立し，高さ60cm～1mになり，淡緑色で白粉をふく。5～6月ごろ茎頂に散形花序に淡紅紫色の小花を多数つける。開花前の花序は2枚の膜質卵形の総包片に包まれる。花に混じって珠芽があるが，多くのものでは花が発達せずにすべてが珠芽となっている。ネギに似たかおりをもち，鱗茎と若葉は酢みそあえなどにして食用にされる。 〔横井時子〕

ノビレ ［Umberto Nobile］（1885～1978）イタリアの飛行船設計者・探検家・軍人。飛行船ノルゲ号を設計し，1926年アムンゼン・エルズワースとともに北極横断飛行に成功，この功により少将に昇進した。次いで1928年飛行船イタリア号で北極点に達したが，スピッツベルゲン北方の氷原に墜落，救出後事故の責任を問われソ連へおもむき飛行船を建造，第2次世界大戦後に帰国。

ノーフォーク ［Norfolk］ アメリカ合衆国バージニア州，チェサピーク湾頭西岸にある港湾都市。人口28万7,000(1975)。ジェームズ川の河口が沈降した自然の良港であるハンプトンローズに臨み，アパラチア炭田からの石炭の積み出し港として有名。石炭の取扱量は世界第1を誇る。

ノブゴロド ［Novgorod］ ソ連，ロシア共和国北西部のノブゴロド州の州都。人口17万2,000(1976)。イルメン湖の北端に近く，ボルホフ川に臨む河港都市であり，レニングラードへ通ずる鉄道・道路の要衝でもある。農産加工・家具・車両などの工業がある。ロシア最古の都市の一つとして知られ，《年代記》には859年の記述に現われている。12世紀までキエフ・ルーシの支配下にあったが，13～14世紀にはモスクワと勢力を競う政治・経済の中心で大ノブゴロドとよばれ，ハンザ同盟にも加わっていた。1478年イワン4世のとき，モスクワ公国に併合され，一地方都市になった。中世に建設された多数の寺院などを残し，博物館都市とよばれていたが，第2次世界大戦中，ドイツ軍の攻撃によりそれらの多くが破壊された。ソ連科学アカデミー歴史学研究所支部が置かれている。 〔斎藤晨二〕


ノビタキ


ノブドウ

のぶし 【野臥】 野伏とも書く。①平安時代以降，山や野に起き伏しして苦行し，修業した修験者(しゅげんじゃ)。山伏ともいう。②鎌倉時代末期以降に出現した内乱期に夜襲・潜伏攻撃などを行なう武装した農民集団。野武士とも書き，特に畿内(きない)(奈良県・大阪府・京都府)やその周辺にみられた。一定の主人をもたず，戦場では武具や馬の略奪などをするものの多かったことが《太平記》に記されている。守護大名の中には荘園(しょうえん)内の人夫を野臥として徴発し，追撃・夜撃に用いた。戦国時代になると全国的に現われ，大名も百姓を徴発して野臥に使用し，彼らを組織的な軍事力として戦闘に参加させた。 〔山路勝彦〕

のぶどう 【野葡萄】 双子葉植物・ブドウ科。山野に普通に見られる落葉つる性植物。茎は太い木質となる。葉と巻ひげが対生している。葉は長さ4～12cm，幅4～10cmの掌状で鋸歯(きょし)があり，3～5に浅裂ないし深裂し，基部は心臓形。裏面は淡緑色で脈の上に細い毛がある。7～8月，葉に対生して長い花柄が伸び，その上に淡緑色の5弁花を多数つける。果実は球形で直径6～10mm，熟すにしたがって白色から紫色，青色へと変化する。食べられない。

のぶときよし 【信時潔】（1887～1965） 作曲家。日本における西洋芸術音楽による作曲活動の先駆者。ドイツ留学後，1923年(大正12)から母校の東京音楽学校で教え，ドイツ的な音楽作法を定着させた。カンタータ《海道東征》のほか，歌曲にすぐれたものがある。《海ゆかば》は広く歌われた。

ノーブム-オルガヌム ［Novum Organum］ F.ベーコンの主著。〈新論理学〉とも訳される。1620年刊行。アリストテレスの《オルガノン》に対抗して名づけられた。四つのイドラ説で代表されるような既存の諸学に対する破壊的部分と自然の観察・実験による帰納法を提唱する建設的部分からなっている。

ノープリウス ［nauplius］ 甲殻(こうかく)類の幼生の一種。からだは扁平楕円(へんぺいだえん)形で，前胸部と腹部に分かれておらず，正中線の前方にノープリウス眼とよばれる目があり，その後方には口と消化管があるが肛門(こうもん)は開いていない。左右に第一触角と第二触角，大顎(おおあご)とよばれる付属肢(ふぞくし)が発達している。この時期続くのがメタノープリウス期の幼生であるが，種類によって発生状態はいろいろであり，ゾエア・メタゾエア・メガロパ・グラウコトエ・キプリスなどの幼生期を経て成体となる。

のべおか 【延岡(市)】 宮崎県北東部の市。人口140,000。江戸時代には，内藤氏七万石の城下町であった。1923年(大正12)日窒肥料(いまの旭化成(あさひかせい))の延岡工場が建設されて以来工業都市として発展した。第2次世界大戦中に市街の大半を焼失し，戦後もたびたび風水害を受けたが，復興が著しい。1933年(昭和8)市制施行。日向灘(ひゅうがなだ)に臨み，五ケ瀬川河口の三角州上に位置し，南方へは約10kmの砂浜海岸が延び，北西には行縢(むかばき)山地がある。産業三大別人口比は9：39：52。旭化成の化学・薬品・化学肥料などの各工場や，その関連工場が多く，人口の半分以上が従業員や関係者で占められる。1964年には南隣の日向市ほか1町5村を合わせて延岡新産業都市に指定された。南の土々呂(ととろ)，北の島野浦は県下有数の漁港で，イワシの水揚げが多く，沿岸部では真珠の養殖も行なわれる。周辺山地ではシイタケの栽培が盛んで，その他の林産物を集散する。日豊本線・国道10号線が海岸線を南北に通じ，高千穂線・国道218号線が西方の高千穂方向へ

走るが，高千穂線は将来さらに北西へ延びて高森線と結ばれる予定である。祖母傾山(そぼかたむきやま)国定公園の観光基地で，五ケ瀬川のアユのやな魚も名高い。〔浅井得一〕

のへじ　【野辺地(町)】　青森県上北郡の町。下北半島の基部を占め，野辺地湾に臨む。人口19,000。市街は洪積(こうせき)台地上にあって，台地下の海岸が港町となっている。江戸時代には八戸(はちのへ)港と並んで尾去沢(おさりざわ)の銅や，木材・豆類・水産物など南部藩領の産物が積み出された。東北本線の開通，青森港の発達につれて衰え，地方的な町となった。大湊(おおみなと)線はここで東北本線と接続する。また南東の七戸への南部縦貫鉄道も分岐している。

ノーベリウム　[nobelium]　周期律表第Ⅲ族，アクチニド元素の一。記号No,原子番号102,ノーベル物理学研究所のサイクロトロンで加速された$^{13}C^{-4}$イオンで,キュリウム244に衝撃してつくられた人工放射性元素。非常にわずかしか得られていないため，その性質はほとんど不明。

ノベール　[Jean-Georges Novérre]　(1727～1810)　フランスの振り付け者・舞踊家。1743年パリのオペラ-コミックでデビュー。歌・セリフを廃し，パントマイム*と踊りを中心に一貫した筋をもったバレエ-ダクシオン*(現在のバレエの原型)を完成し，バレエ史上一つのエポックを画した。《ガラテの気紛(きまぐ)れ》《オラース家の人々》などの作品のほか,理論書《ダンスとバレエについての手紙》がある。

ノーベル　[Alfred Bernhard Nobel]　(1833～1896)　スウェーデンの技術者・化学工業家。ダイナマイトの発明者でノーベル賞*提供者。技術家イマヌエルを父とし，ストックホルムに生まれる。クリミア戦争中，父を助けてロシア政府のために水雷と地雷を製造。その後アメリカに遊学して機械工学を学んだのちストックホルムに帰り，ニトログリセリンの研究から1867年ダイナマイトを発明，特許を得た。また雷管の発明により爆破作業の安全性を高めた。さらに1875年最初の無煙火薬バリスタイトを発明するなど,イギリスで129種の特許を獲得し，世界各地に15の爆薬工場を経営した。これによってノーベル家は欧州有数の富豪となった。彼は生涯(しょうがい)結婚せず,遺産3,200万クローネは科学の進歩と世界の平和を念願するその遺言によりノーベル賞の基金にあてられた。〔加藤邦興〕

ノーベルしょう　【ノーベル賞】　スウェーデンのアルフレッド-ノーベル*の遺産を基金とする，国際的に最も権威のある表彰。ノーベルは火薬の発明家で，ダイナマイトの発明とその企業化により，ばくだいな財産をのこしたが，自分の発明が戦争などに利用されることを恐れていた。1895年11月27日付の彼の遺言状により,遺産約3,200万クローネはスウェーデン科学アカデミーに



ノ ボ タ ン

寄贈され，さらにこれを基金に，〈その利子を年ごとに人類の最大幸福に貢献することに関与した者に分与〉するよう定められた。

これに基づいて設けられたノーベル財団から，物理学・化学・生理学および医学・文学・平和の5部門において，それぞれの選考機関が決定した最高の貢献者に賞金が与えられる。物理学賞・化学賞はスウェーデン科学アカデミー，生理学および医学賞はカロリン医学研究所,文学賞はスウェーデン・フランス・スペインの3アカデミー，平和賞はノルウェー国会によって選ばれたノルウェー-ノーベル委員会がそれぞれ選考する。1969年から新たに経済学賞が加えられたが，これはノーベル基金とは別に，1968年スウェーデン国立銀行の記念事業として制定され，スウェーデン科学アカデミーが選考することになっている。授賞はノーベルの死去した12月10日に毎年ストックホルムで行なわれ(平和賞はオスロで授賞される)，金メダル・賞状・賞金が与えられる。賞金は利子の変動などで年により多少金額が異なるが，1969年の賞金は37万5,000クローネ(75,000ドル)であった。また受賞者はその後6か月以内に，自己の受賞業績について〈ノーベル講演〉を行なわなければならない。最初の授賞は1901年ノーベルの死後5年を記念して実施された。日本の受賞者は物理学賞の湯川秀樹(ひでき)(1949)・朝永(ともなが)振一郎(1965)・江崎玲於奈(れおな)(1973),文学賞の川端康成(やすなり)(1968)，平和賞の佐藤栄作(1974)の5人。〔山崎俊雄〕

ノボカイン　⇒プロカイン

ノボクズネツク　[Novokuznetsk]　ソ連，西シベリアのケメロボ州の都市。1932～1961年の間スターリンスクとよばれた。人口530,000(1976)。トミ川の河口に臨み，鉄道の要衝にある。ソ連有数の冶金(やきん)工業都市でクズネツク工業地帯の一中心をなし，鉄鋼・アルミ・合金などのほか,化学・車両などの機械工業も盛んである。冶金専門学校がある。1618年トミ川右岸にロシアの要塞(ようさい)としてクズネツクがつくられ，1930年代左岸に工業区ノボクズネツクができて，両市が合併した。〔斎藤晨二〕

ノボシビルスク　[Novosibirsk]　ソ連，西シベリアのノボシビルスク州の州都。シベリア鉄道に沿い，オビ川に臨む河港都市で，西シベリアの経済・文化の中心をなしている。1925年まではノボニコライエフスクとよばれた。人口128万6,000(1976)。ソ連科学アカデミーのシベリア総支部があるほか，〈科学都市〉がつくられ，総合大学・研究所・図書館などがある。シベリア鉄道の建設に伴い1893年につくられた都市で，クズネツク炭田に近く交通の便に恵まれているため大工業都市に成長した。精密機械・計測器・水力タービン・化学・冶金(やきん)・建設資材・綿紡織・食品などの工業が行なわれ，近郊のオビ川には,40万kWの出力をもつ水力発電所がある。〔斎藤晨二〕

ノボシビルスク(諸島)　[Novosibirskiye]　ニューシベリア諸島ともいう。ソ連，ヤクート自治共和国北方の北極海にある無人の群島。総面積38,000km²。コテルニイ・ノバヤシビルの島々と多数の小島からなる。一部にツンドラがあるほかは氷におおわれ，象とマンモスのきばがみつかり，気候変化の研究上，貴重な資料となっている。諸島の発見者は1712年コザックのバフィンといわれ，島の名は1770～1773年に探検したリヤコフが名づけた。〔大崎　晃〕

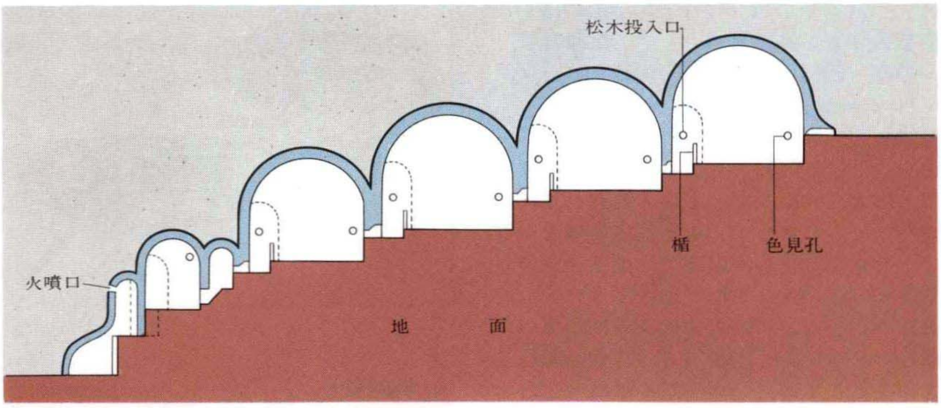
のぼたん　【野牡丹】　双子葉植物・ノボタン科。沖縄以南に分布する常緑低木。茎は高さ1～2mで多数の毛がある。葉は対生し，卵円形または披針(ひしん)形で鋸歯(きょし)はなく，3～11本の主脈がある。7～8月，葉腋(ようえき)に1個ずつ紫紅色の5弁の美花をつける。観賞用として温室で栽培される。

ノボトニー　[Antonin Novotny]　(1904～1975)　チェコスロバキアの政治家。1921年共産党入党，1930年からプラハの党地区委員会で活動し1935年モスクワにおけるコミンテルン第7回大会に出席した。第2次世界大戦中反ナチスの地下運動を行なったが捕えられ，1941～1945年の間強制収容所で過ごした。1945年プラハ地区委員会にもどり，1953年一時副首相，同年9月から第一書記。1957年から大統領となった。しかし経済問題の行きづまり，党と大衆との結合の弱まりなどの責任を問われ1968年解任された。〔山県弘志〕

のぼり　【幟】　細長い旗の上と横のへりに乳(ひもなどを通す小さな輪)をつけてさおに通したもの。これを昇り旗とよんだが，略して〈のぼり〉といい，近世になって幟の字をあてるようになった。旗は古くは軍陣の際に武士の標識として用いられたが，近世以降は祭礼のとき祭場に立てる幟として一般化した。それは祭りに際して，神降臨の標識として高いさおや柱の先端に，青々とした葉を結びつけることが行なわれていたところから，これと合体して幟が採用されたものと考えられる。幟の用途はしだいに多様化し，端午の節供*の鯉幟(こいのぼり)*や大漁祝いの幟，さらに芝居小屋や広告にも用いられるまでに変化した。〔直江広治〕

のぼりがま　【登窯】　丘陵の傾斜面に築

造された半連続窯で，陶磁器の焼成に古くから使われている。その起源は中国の福建省の徳化窯とみられ，わが国には江戸時代初期に朝鮮から輸入され，いろいろな形式に改良された。窯全体の傾斜の程度や焼成窯の形状によって，凡窯系・古窯系・京窯系・益子(ましこ)窯系に大別される。製品の種類や生産量によって特色があるが，全体的な構造は類似している。いちばん下の胴木間は他の室より小さく，品物は詰めない。まずここで燃料を燃し，ここでできた炎は後部の吸い込み口を通って一の間の前部から出て品物を加熱し，順次あとの室を熱し，最後の煙突から逃げる。次に，直接一の間の熱料投入口から燃料を補給してたき上げ，焼成が終了すると火止めする。そして次に二の間に移り，順次三の間，四の間へと移していく。登窯は長い経験によって合理的にできており，燃料の熱効率が高く，燃料費が節約されるが，温度分布が均一にならない欠点をもつ。〔大須賀望〕



登　窯　構造断面図

のぼりべつ　【登別(市)】　北海道南西部，太平洋岸にあり，もと胆振(いぶり)支庁，幌別(ほろべつ)郡にある1郡1町の町であったが，1970年(昭和45)市制施行。人口57,000。1299年(正安1)ごろ発見された温泉は今日までわが国有数の温泉地として繁栄している。登別はアイヌ語の〈ヌプルペツ(濁った川)〉のなまりである。室蘭(むろらん)を中心とする都市化が西方から進み，北海道曹達(ソーダ)の幌別工場をはじめ，化学工業・窯業・食料品工業など工業地帯が形成され，住宅街が海岸低地と斜面に延びる。室蘭本線・国道36号線が海岸線を並走し，バス交通も発達して，支笏洞爺(しこつとうや)国立公園の観光基地となる。産業三大別人口比は2：37：61。

のぼりべつおんせん　【登別温泉】　北海道，登別市にある温泉。泉温45～98℃，泉質は明礬(みょうばん)・酸性・食塩・単純・含硼酸(ほうさん)食塩・単純硫黄(いおう)硫化水素・芒硝(ぼうしょう)・硫黄泉などと種類が多く，胃腸病・貧血症・皮膚病・リウマチなどにきくといわれる。クスリサンベツ川をはさんで温泉街がある。支笏洞爺(しこつとうや)国立公園内にある北海道第1の温泉郷で，1858年(安政5)にはじめて温泉旅館を開いた滝本金蔵の名にちなむ第一滝本旅館には泉質別の浴槽(よくそう)を設備する東洋第1を誇る大浴場がある。各旅館でも種類別の内湯があり，病症に応じて入浴することができる。付近には旧噴火口跡の地獄谷・熊公園・四方嶺(れい)・倶多楽湖(くったらこ)・アイヌ民家・温泉科学館などの観光施設がある。室蘭(むろらん)本線登別駅からバスの便がある。〔木村東一郎〕


登別温泉　登別の最奥にある地獄谷。地獄谷は旧噴火口で，大小無数の硫気孔が開口し，火口底を流れる温泉水は川となって温泉街へはいる

のぼろぎく　【野襤褸菊】　双子葉植物・キク科。明治初年に渡来したヨーロッパ原産の一年草。平地の陽地にはえる。茎は高さ10～40cmで赤紫色をおびる。葉は長さ3～5cm，幅1～2.5cmで細長く，不規則に羽状分裂し，基部は茎を抱く。3～10月，黄色の筒状花からなる頭花をつける。総包は長さ6～8mmで上方がやや細い円柱形。近縁のボロギクはサワギクともいい，山の湿地に生える越年草で7～8月，舌状花および筒状花からなる頭花が多数集まってつく。


ノボロギク

のまおい　【野馬追い】　7月11～13日に行なわれる相馬の三妙見，すなわち福島県相馬市の中村神社，原町市の太田神社，相馬郡小高町の小高神社の3社合同の祭り。藩主相馬氏の祖平将門*(まさかど)が馬を放し，これを駆逐して武技を練ったのに由来すると伝えられる。12日が本祭りで，甲冑(かっちゅう)をつけたその地方の人々が騎馬武者になって原町市南部の雲雀ケ原(ひばりがはら)の祭場に集まる。ほら貝を合い図に，打ち上げられたのろしによって3社の神旗が落下すると，数百の騎馬武者がいっせいに馬を走らせ，神旗争いを数回くり返す。最近ではたくさんの観客が集まり，著名な観光行事の一つとなっている。〔直江広治〕

のまひろし　【野間宏】　(1915～　)　小説家。兵庫県神戸(こうべ)市の生まれ。京都帝国大学仏文科卒業。第三高等学校在学中に詩人竹内勝太郎*を知り，京都大学在学中は学生運動や労働運動の活動家と交流した。1945年(昭和20)敗戦と同時に《暗い絵》を執筆，いわゆる戦後文学の典型的特徴を示し，その後も独自の境地を開いた。《崩壊感覚》《真空地帯》《さいころの空》《わが塔はそこ

野馬追い　数百の騎馬武者がのろしで打ち上げた神旗を争って取る，勇荘な福島県相馬市の野馬追い


に立つ》《青年の環(わ)》などの小説のほか，多数の評論がある。〔江種満子〕

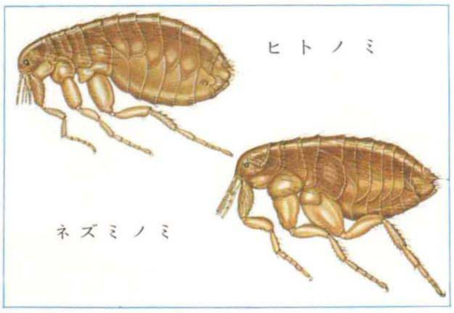
のみ【蚤】こん虫類・隠翅(いんし)目(ノミ目)の総称。微小なこん虫で，双翅目から分化して発展したといわれる。一般にかっ色で，体は側扁(そくへん)する。翅(はね)をまったく欠き，脚は3対ともよく発達して跳躍肢(ちょうやくし)となっている。完全変態を行ない，卵は白ないし乳白色で，宿主の巣付近や人家の床のすきまなどに産下される。幼虫はうじ形で，ごみの中の有機物を食べ，繭をつくって蛹化(ようか)する。成虫は雌雄ともに主として哺乳(ほにゅう)類を吸血する。ヒトノミ・ネコノミ・イヌノミ・ネズミノミなどがあるが，宿主の嗜好(しこう)性は厳密ではなく，ケオプスネズミノミは本来はネズミに寄生するがヒトをも吸血し，ペスト菌の伝播(でんぱ)者としてよく知られる。駆除には床下のごみなどを集めて焼却し，殺虫剤をまき，またネズミを駆除する。イヌ・ネコのノミの駆除には，小屋に殺虫剤をまき，毛の中に少量の粉剤を注意してすりこむとよい。〔鈴木　猛〕

のみのすくね【野見宿禰】アメノホヒノミコト14世の孫。《日本書紀》によると垂仁天皇七年天皇の命により出雲(いずも)(島根県)から召され，当時勇猛を誇った当麻蹶速*(たいまのけはや)と力を比べ(→相撲(すもう))，蹶速を踏み殺して蹶速の土地をもらったと記されている。また垂仁天皇の皇后の死に際し，殉死の悪風を埴輪(はにわ)によって代えることを献言し，その功により土師職(はじのつかさ)に任ぜられ，土師臣(はじおみ)と称し，天皇の喪葬にあずかるようになったと伝えられる。土師(はじ)の菅原(すがわら)・大江などの諸氏の祖といわれる。〔山路勝彦〕

のみのつづり【蚤綴】双子葉植物・ナデシコ科。畑・道端・野原・土手などの陽地に多い一年草。高さ10～20cmで，全体に細かい毛が下向きにはえる。葉は長さ3～6mmほどの広卵形で，先がとがる。3～6月，枝先や葉腋(ようえき)から花梗(かこう)を伸ばし，白色5弁花をつける。

のみのふすま【蚤衾】双子葉植物・ナデシコ科。畑や田のあぜなどによく見られる一年草。茎は高さ10～30cmで四角い枝を多数出す。葉は長さ1～2cmの広卵形で，対生する。3～8月，径6～8mmの白色花を茎頂および枝先につける。花弁は5枚であるが深く2裂するので10枚のように見える。

のみはむし【蚤金花虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ハムシ科・ノミハムシ亜科の総称。小形の甲虫で，体形は変化に富むが，後脚の腿節(たいせつ)が肥大し跳躍に適しているものが多く，トビハムシともいう。きわめて種類が多く，日本だけでも約200種が知られる。小形のため同定の困難なものが少なくないが，農業上の害虫として重要な種も含まれる。クワやダイズ・コウゾなどにつくクワノミハムシ，アブラナ科作物を加



ノ　ミ



ノミノフスマ

害するキスジノミハムシ・ナトビハムシ，ナス・ジャガイモなどにつくナストビハムシ，各種の花の花弁を食害するルリマルノミハムシなどは特に有名である。

ノーム［Nome］アメリカ合衆国，アラスカ州西部，シュアード半島南岸の港湾町で住民はエスキモーが多い。人口2,000(1960)。1898年のゴールドラッシュでできた町で，1900年には人口18,000を数えたが，現在はさびれて地方の一商業中心地にすぎない。気象観測所・軍事基地などがある。

のむぎとうげ【野麦峠】岐阜・長野の県境をなす。飛驒(ひだ)山脈の南部，乗鞍岳(のりくらだけ)の南麓(なんろく)を越える峠。標高1,672m。松本と高山を結ぶ交通路は，現在は乗鞍岳の北側の安房(あぼう)峠(1,812m)を通っているが，古くはここを越える野麦街道が本道で，越中・能登(のと)の塩や塩魚が飛驒を経由して信州に運ばれていた。また明治時代には，製糸工場の女工がここを越えて信州にはいった。

のむらきちさぶろう【野村吉三郎】(1877～1964) 海軍軍人。和歌山県の生まれ。海軍兵学校卒業。在外武官，ワシントン軍縮会議の随員，第3艦隊司令長官などを歴任，1937年(昭和12)退役して学習院院長となる。1939年阿部(あべ)内閣の外相をつとめ，同年駐米大使として日米開戦回避のために奔走した。第2次世界大戦後追放をうけたが，解除後日本ビクター社長，1954年参議院議員，自民党外交調査会会長などをつとめた。

のむらこどう【野村胡堂】(1882～1963) 小説家。岩手県の生まれ。本名長一(おさかず)。東京帝国大学法科中退。報知新聞社で長く新聞人として活躍。代表作《銭形平次捕物控*》は数百編の小説群からなるシリーズものでいまも愛読されている。ほかに《美男狩》など長編時代小説や《池田大助捕物日記》がある。また〈あらえびす〉の筆名による音楽評論でも著名。

のむらしょうけん【野村証券(株)】わが国最大の証券会社。1925年(大正14)野村銀行(現大和銀行)証券部から独立して資本金500万円で設立，1944年(昭和19)第一証券・久保田証券を合併，1946年本店を大阪から東京に移転した。株式・法人・海外各部門とも積極的に拡大の方針をとり，つねに証券業界のトップの座を独占している。顧客サービスにビデオ情報を出したり，他にさきがけてオンライン*化を図るなど新企画をあいついで発表，わが国でははじめての本格的シンクタンクとよばれる野村総合研究所をもつ。資本金732億4,400万円，年間営業収入2,240億円，従業員数8,036(1980年9月)。

のむらとくしち【野村徳七】(1878～1945) 野村財閥の形成者。大阪の生まれ。両替商の出身で，27歳のとき2代徳七を継ぎ弟実三郎と野村商店を創立，有価証券の仲買いに乗り出して，おりからの日露戦争後の好況の波に乗り巨利を得た。さらに第1次世界大戦中，再び株式相場で巨富を築いたが，戦後の反動を予想して個人経営から株式会社に切り替えた。1918年(大正7)野村銀行を創立，1926年には公社債の売買を銀行業務から分離して野村証券*を創設するなど，金融および証券を中心に財閥を築きあげた。〔片岡一郎〕

のむらまんぞう【野村万蔵】(1898～1978) 能楽師。和泉(いずみ)流狂言方。野村万蔵家6世。5世万造(万斎)の長男。東京生まれ。前名，万作。芸風は伝統を守りながら，歯切れよく近代的，しかも軽妙洒脱(しゃだつ)で，太郎冠者(かじゃ)物を得意とする。重要無形文化財個人指定。三宅藤九郎(1901～　)は実弟。

のむらもとに【野村望東尼】(1806～1867) 女流歌人。名はもと。福岡藩士浦野勝幸の三女。最初の結婚に破れ，のち同藩士野村貞貫と再婚した。大隈(おおくま)言道*について和歌・書を学ぶ。夫の死後剃髪(ていはつ)し，平尾村の山荘に住み，勤王の志士平野国臣(くにおみ)や高杉晋作(たかすぎしんさく)などをかくまった。福岡藩の大勢が勤王から佐幕に移ると，国家老はじめ勤王派は流刑その他の刑に処せられたが，彼女もそれに連座して玄界灘(げんかいなだ)の姫島に流された。2年後，長州藩の志士たちに助けられて長州におもむき，三田尻で没す。遺著に歌集《向陵集》や《上京日記》《姫島日記》などがある。

のもざき【野母崎】長崎県西彼杵(にしそのぎ)郡野母崎町に属する長崎半島(野母半島)先端の岬(みさき)。海食崖(かいしょくがい)がそそりたち，岩石海岸をなしているが，付近には祇園(ぎおん)山や弁天山などの陸繋島(りく

(けいとう)が見られ，この間の砂丘上には集落が発達し，パイナップル・バナナなども栽培されている。岬の南東方にある樺(かば)島には長さ1.5mにも達するオオウナギがすみ，天然記念物に指定されている。半島には史跡も多く，すぐれた自然美とあいまって，野母半島県立自然公園に指定されている。〔味沢成吉〕

ノモス［nomos］ 古代エジプトの地方行政単位セペト(州)のギリシア語訳で，プトレマイオス朝時代のよび名。聖刻文字(ヒエログリフ)では運河で仕切られた土地で表わされ，本来ナイルの治水こそ地方行政の最も重要な任務であったことを示している。起源は先王朝時代末期の部族国家に基づくといわれ，独自の標識と守護神をもち，政治・経済の単位として自立可能なため，ファラオ*の任命する州長官職はしばしば世襲され，中央権力が衰えると，独立国家のような姿を示している。ノモスの数は時代により多少の異同があるが，プトレマイオス朝には上エジプト22，下エジプト(デルタ)20であった。エジプト学ではこの時代のノモスの区分を他の時代についても用いるのが慣行である。〔屋形禎亮〕

ノモンハンじけん［ノモンハン事件］ 1939年(昭和14)5月2日，日本とソ連両軍が外蒙古(もうこ)人民共和国と満州との国境ノモンハン地区で衝突した事件。日中戦争*を進めていた日本は，このころ満州北部の国境紛争をめぐって大部隊を集結したのに対して，ソ連は外蒙古との相互援助条約に基づいて，当時最新鋭の機械化部隊を繰り出して交戦し，日本軍に大打撃を与えた。関東軍*の精鋭の敗北は，日本軍に近代的装備の劣勢を知らせた。まもなく独ソ不可侵条約*が締結され，9月15日停戦協定が結ばれた。〔応和邦昭〕

ノーランド［Kenneth Noland］(1924〜) アメリカの画家。パリでザッキンに学ぶ。1960年代の〈新抽象派〉とよばれる作家たちの旗手として，1964年のベネチアービエンナーレで脚光を浴びた。同心円，または平行線を基本的なパターンとする色面の構成は，きわめて厳密な法則性にのっとって構成されているが，なおかつ官能的な効果をかもすほどの輝きを特徴としている。

のり［糊］ 接着剤の一。物を張り合わせるほかに，洗たくの仕上げや織物仕上げなどにも用いられる。張り付け用には，しょうふ*・米粉・小麦粉・コーンスターチ*など，デンプン質を主成分としたのりに香料や防腐剤を加えたものが多く使用されるが，近年アラビアゴム・トラガントゴムなど樹液から採取したものも卓上のりとして普及している。また，洗たくの仕上げとよごれ防止などに用いられるのりには，上記でんぷんのりをはじめ，デキストリン・ゼラチン・カゼイン・ふのりなど，タンパク質を主成分としたものや，CMC・PVAなどの化学糊料(こりょう)がある。さらに繊維工業用ののりは，化学糊料と，小麦粉・ふのり・天然ゴムなどに分かれ，前者は，たて糸につけて製織性を高め，織物の強度・かたさ・光沢を増すなど，後者は染料や顔料を織物に固着させるなどとそれぞれ使用される。



乗合船 初春の隅田川の渡し船に乗り合わせたさまざまな職業の人が，それぞれの生活感情をにじませて見せる



ノリウツギ



乗鞍岳 遠くに北アルプスの峰々が一望できるなだらかな火口丘の連続する山頂部。前方にコロナ観測所が見える

のりあいぶね［乗合船］ 日本舞踊・常磐津節(ときわずぶし)の曲名。現行曲は1843年(天保14)初演の《魁香樹(かしらがき)いせ物語》を元にしたもので，本名題《乗合船恵方万歳》。初春の隅田(すみだ)川の渡し場を背景に，万歳・才造・白酒売り・大工・通人・女船頭・巫女(みこ)の7人を七福神に見立てた江戸の風俗描写曲。今日では時に応じて登場人物をふやし，巫女が芸者の役として演じることが多い。

のりうつぎ［糊空木］ 双子葉植物・ユキノシタ科。山地に普通の落葉低木で，高さ2〜4m。葉は長さ7〜15cmの卵形ないし楕円(だえん)形で鋸歯(きょし)があって先がとがり，対生するがときに3輪生となることがある。7〜8月，茎の先に円錐(えんすい)花序に多数の花をつける。装飾花は白色まれに淡紅色で，花弁のように見える大きながく片3〜5枚と退化したおしべおよびめしべがある。結実花は小さく，がく片5，花弁5，おしべ10，花柱3がある。果実は卵形で長さ4〜5mm。庭木として用いられる。樹皮からとれる粘液は，日本紙をすくときの糊料(こりょう)に用いられる。材はつえやこうもりがさの柄に用いられる。〔加藤僖重〕

のりくらかざんたい［乗鞍火山帯］ 中部地方の飛騨(ひだ)山脈に沿う火山帯。御嶽(おんたけ)火山帯ともいう。北から白馬岳・立山・焼岳・乗鞍岳・御嶽山などが並ぶ。境域は狭いが，3,000mをこえる標高の高い火山を含み，焼岳など現在活動中の火山もある。

のりくらだけ［乗鞍岳］ 北アルプス南部，長野・岐阜県境にほぼ南北に並ぶ十石岳・四ツ岳・大丹生岳(おおにゅうだけ)・恵比須岳(えびすだけ)・大黒岳・富士見岳・摩利支天岳などの火山群の総称。南にある一ノ池火山が主峰で，その外輪山の剣ケ峰(3,026m)が乗鞍岳の最高点である。摩利支天岳山頂にはコロナ観測所・宇宙線観測所がある。山頂の畳平(2,740m)まではバスで登ることができ，付近には郵便局・診療所・ホテルなどがある。一ノ池・五ノ池・鶴ケ池(つるがいけ)・亀ケ池(かめがいけ)など湖沼が多く，夏には登山者や観光客，冬にはスキー客が訪れる。中部山岳国立公園の一部になっている。〔高野 繁〕

ノリス［Frank Norris］(1870〜1902) アメリカの小説家。ゾラ*の自然主義をアメリカの風土に移植しようとして，遺伝と環境による決定論と叙情的な要素の交じった代表作《マクティーグ》のほか，《たこ》《バンドーバと獣》《小麦取引所》などの作品を書き，アメリカ自然主義文学の先駆となった。文学評論集《作家の責任》で，小説家は文体などかまわず真実を描く義務がある

と主張した。〔井上謙治〕

のりと【祝詞】神職が神前にて奏上することば。広義には祝詞・寿詞(よごと)・祓詞(はらえことば)などを総称する。美しい神秘的な字句をつづった言霊(ことだま)である。内容は祭りの趣旨に沿った神への感謝と祈念とが中心で，形式は《延喜式*》に記載された古代の〈祝詞〉にならっている。

のりひび【海苔篊】のり養殖*で，種苗を着生育成させる基材。ひびの名称は，海中に木やタケの枝を立てて魚を捕える昔の〈日々漁(ひびりょう)〉に由来するといわれる。種類には，垂直に立てるそだひびと水平に張るすだれひび・網ひびなどがあるが，多くは網ひびが用いられている。網ひびはヤシ・シュロなどのなわや合成繊維の撚糸(ねんし)などで編まれ，長さ18.18mまたは36.36m，幅1.21m，網目30cmが標準である。また，網ひびの設置法は，固定式・浮動式・浮き流し式などに区分される。〔三浦昭雄〕

のりものよい【乗り物酔い】列車・自動車・船・航空機などの動揺する乗り物に乗ったとき現われるめまい・吐きけ・嘔吐(おうと)・冷汗・顔面蒼白(そうはく)・あくびなどの



のりひび 河畔に設置された網ひび(徳島県吉野川)

自律神経症状。加速度病・動揺病などともいう。不慣れな身体動揺，各種の加速度変化がくり返されると，内耳*にある前庭神経・半規管*(三半規管)などが過度に刺激される状態が続き，その刺激が自律神経中枢を介すると起こることがある。視覚・臭覚(しゅうかく)も影響し，個人差，からだの状態にも



ノルウェー

よる。動揺に不慣れな人，無力性体質の人，さらに疲労，睡眠不足，過度の緊張状態にあるときなどに出現することが多い。予防としては，早めに鎮静薬を使用し，またなるべく動揺の少ない場所に乗ることも効果がある。その他精神的負担をとり除いたり，衣服の緊張をとくとよい。〔武藤暢夫〕

のりようしょく【海苔養殖】浅海にのりひび*を設置し，アマノリ類*の胞子を付着・発芽させて栽培すること。収穫したアマノリ(スサビノリ*・アサクサノリ*)はおもに乾燥して食用にされる。17世紀後半から江戸の海で自然発生的に起こった栽培法で，長く江戸漁民の独占的産業となり，明治時代以後他の地方へも普及した。今日では，全国各地で行なわれ，養殖漁場面積は約63万km^2，年間35～40億枚の干しのりが生産される。

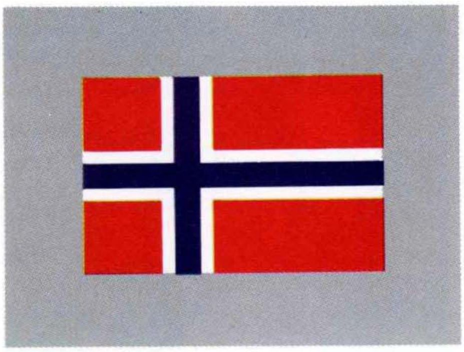
〔養殖漁場〕漁場は，最近まで内湾の三角州や干潟(ひがた)部とそれに続く水深10m程度までの浅海に限られていた。しかし，現在は後述の浮き流し式養殖によって，外海水域の水深20～30mのところでも利用されている。浅い漁場では，ひび網はふつうタケの支柱に結着され，潮汐(ちょうせき)の干満によって1日に数時間空気中に露出する。この方式を支柱柵(さく)という。支柱を設置できない深い漁場では，網に浮きをつけて常時水面に浮かせ，いかり綱で固定するか，鋼管パイルに係留する。これを浮き流し式という。

〔養殖順序〕ノリの種苗は，従来は天然のいわゆるたね場で自然に放出される胞子を着生・発芽させる天然採苗に依存していた。しかし今日では，あらかじめカキ殻(がら)などに糸状体を培養し，それによる胞子づけをする人工採苗法で種苗づくりをする。ノリの胞子は，網糸に付着するとすぐに発芽し，約1か月で2～4cmの幼芽に育つ。幼葉が育った網をたね網とよび，冷凍保存もでき，種苗として育成管理される。ノリの成長は，支柱柵では胞子づけ後40～60日で最大成長量に達し，浮き流し式ではさらに早い。収穫は10月下旬から翌年4月末まで続き，1枚の網から数回収穫できる。この摘採作業は動力による吸引式カッターなどの機械で行なわれ，のりすき・乾燥の工程もすべて機械化されている。〔三浦昭雄〕

ノルウェー(王国)〔Kingdom of Norway, Kongeriket Norge〕ヨーロッパ北部，スカンジナビア半島の西半を占める立憲王国。57°57′Nから71°11′Nにわたり出入の多い海岸線は2,720kmに及び，湾入や島を入れた海岸線の合計は25,600kmに達する。国境は北部でソ連・フィンランドに接し，そこからスカゲラック海峡まではスウェーデンと境を接して1,600kmに及ぶ。行政上はオスロとベルゲンの二特別市と18地区に分かれている。ほかにスバールバル諸島・ヤンマイエン島・ブーベ島などを海外

領土として北極海地方にもつ。面積32万4,219km^2，人口407万(1979年推)，首都オスロ。

【自然・住民】〈地形〉古生代カレドニア紀の褶曲(しゅうきょく)山脈が侵食されたあとに離水してできた準平原を大部分とし，南部海岸に氷河時代に形成された海成層の部分がある。準平原は氷食作用を受けて深い氷食谷を刻み，海岸ではそこに海水が進入して長く深いフィヨルド*と数千に及ぶ大小の島々を形成した。準平原の分水嶺(ぶんすいれい)はスカンジナビア山脈であるが，一般に平坦(へいたん)な高原性の山地である。山脈は，北部では最高所が2,000mにも達するが，南に向かうにつれて山脈の骨格は失われてしだいに幅が広くなり，ソグネフィヨルド付近には高山地塊が存在する。ここには，スネーヘッタ山(2,286m)・ガルヘピゲン山(2,468m)などの2,000mをこえる山がある。内陸氷河としては北極圏近くのスバルティッセン氷河(589km^2)，ノルウェー最大のヨーステダルスブレ氷河(768km^2)，唯一の海岸まで達しているエンガブレ氷河などが名高い。氷河が残した堆石丘(たいせききゅう)は，川をせき止めて内陸の台地上に無数の湖沼を形成している。多くの湖沼は水系に沿って長くて細く，また著しく深い。最大の湖はミエーサ湖で，広さは358km^{2}である。西流する河川は急流で短く，水力発電に利用される。グロンマ川は南流する最長の河川で，長さ640kmに達する。西海岸には多数のフィヨルドが発達し，中でもトロンヘイムフィヨルド・ソグネフィヨルド・ハルダンゲルフィヨルドなどは湾入が深い。〈気候〉全体として偏西風と暖流，および極気団前線による移動性低気圧の影響を受ける。気温は，特に北部では同緯度にある他の地域よりも温暖で，降雨は年間を通じてみられる。オスロでは最暖月7月の平均気温が15.8℃，最寒月2月の平均気温が−4.5℃，北端にあるトロムセの平均気温は，それぞれ10.9℃と−3.9℃である。10月になると気温は急に下がり，寒さは5月まで続く。外洋に近い海岸は大西洋海流のため1年じゅう凍らないが，フィヨルドの奥では冬季に結氷する。降水量は沿岸部に多く(1,000〜1,500mm)，多くは雪として降る。また低気圧がしばしば通過し，激しいあらしをもたらす。〈土壌(どじょう)・植生〉かつて氷河におおわれていた高地の表面はヒースや草地におおわれ，高地斜面や谷間では針葉樹やカバにおおわれている。土壌は多くが氷河の影響を受けており，わずかにオスロ・トロンヘイム付近に，石灰岩やケツ岩を基盤としてその上に腐植土を載せた沃地(よくち)がある。離水海岸では海成粘土が載り，肥沃である。高地とかつての氷河被覆地とで国土の72%を占め，農業適地はきわめて限られている。植生面では，海岸低地から内陸に向かって五つの自然植生帯がみられ



ノルウェーの国旗　1821年制定。デンマークの国旗に青十字を加えたもの。スウェーデンの支配下につくられ，市民革命のシンボルとされたために約50年間は使用を禁止されたが，独立とともに復活した





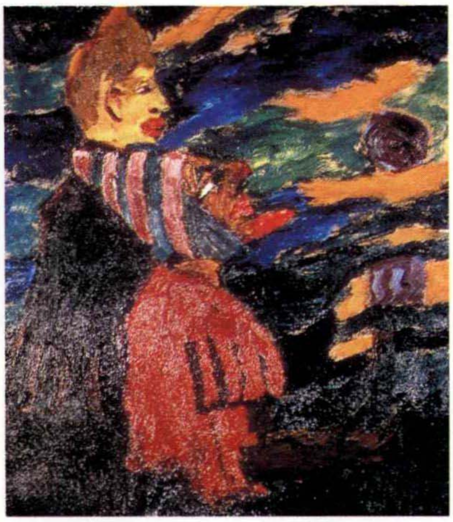
ノルウェー　(上)首都オスロの中心部である市庁舎(右の茶色い建築)とその前の船着き場の風景。新旧の建物がよく調和している
(下)フィヨルドから見上げる山頂には万年雪が輝き，その雪は氷河となって斜面を下っている。このような風景はノルウェー海沿岸に多く見られる

る。樹木がなく草地と低木の海岸，落葉樹の森林，針葉樹林帯，小さいカバノキとヤナギと多年生の草本，そして最も高地が草地とヒースと地衣類となっている。〈住民〉ノルウェー人は，長身・長頭・ブロンドのノルドタイプと，おそらくスカンジナビア半島にノルド人が居住したのちに南ヨーロッパから移住してきたと考えられる黒色の髪をもつアルペンタイプとからなる。このほか，北部には少数のラップ人とフィン人がいる。この国は19世紀中ごろからアングロアメリカ*に移民を出したが，現在ではカナダとアメリカ合衆国にノルウェー系人が約80万居住している。宗教はルーテル教会派が国教で，メソジスト・バプテスト・カトリックやユダヤ教・ギリシア正教などは王制の出現とともに法令で禁止されたが，ジェスイット派以外は黙認されている。

【産業・経済】1963〜1967年の国民総生産実質成長率は年平均5%で，西ヨーロッパ諸国ではイタリアに次いで高い。産業別国民所得額は工業28.4%，農林水産業9.7%(1966)であるが，農林水産業人口は総人口の2.6%なので生産性はかなり高い。〈農林水産業〉農地は国土の3%，森林は25%，不毛地は72%である。農作物の成育期間は，オスロでは140日だが，付近を暖流が流れるベルゲンでは200日である。牧畜は重要であり，一般に西部と内陸の谷で行なわれているが，近年は牧場が減少し，土地改良事業が進められている。農業面では機械の導入も進んでいるが，経営規模の小さな農家が多い。酪農組合は農家の分散居住のため発達が妨げられている。牛乳・牛肉・ジャガイモは自給できるが，穀物は自給できない。大麦・エンバクが主要作物で，小麦・ライ麦がこれに次ぐ。1939年以来チーズの生産は増加したが，バターは減少しマーガリンが増加している。林業では，森林の70%がマツ類・カバノキ・エゾマツの針葉樹で，木材の輸出は量的には少ないが，1960年にはパルプと新聞用紙ではカナダ・スウェーデン・フィンランド・アメリカ合衆国に次いで第5位の輸出国であった。保蔵量を減らさないように伐木しているが，過去の過伐の影響がいまなお大きい。水産業はつねに経済の重要な位置を占め，ノルウェー近海から北海・アイスランド沖・グリーンランド沖に至る広範囲の漁場で操業している。ニシンが漁獲高の4分の3を占め，次いでタラが多い。タラは干物や肝油として重要な輸出品である。捕鯨も重要漁業であったが，全盛は1930年代であった。〈鉱業〉十分な資源は水力発電のみであり，包蔵水力ではソ連を除くヨーロッパ諸国の中で首位にある。鉱石では銅が最も多く，ほかに亜鉛・鉛・ニッケル・モリブデン・チタニウムなどの産もある。石炭はスバールバル諸島にあり，水運の便のある夏季に運び出す。製鉄用コークスは輸入する。石油はエネルギー源の5分の1に達して，近年輸入が増加しており，オスロフィヨルドに大精油所がある。〈工業〉石炭や資本の不足から以前は木材工業以外はふるわなかったが，19世紀から水力発電が開発されて冶金(やきん)・化学工業が盛んとなり，輸出品の中に占める工業製品の割合は95%(1967)となった。オスロフィヨルド沿岸に約半分の企業が集中し，これに次いでトロンヘイム周辺がある。食品工業はこの国の重要産業で，従業

員数は全工業の12%，生産額は全工業生産額の19%を占める。魚類加工・乳製品・食肉・製粉・パンなどの業種があり，魚類と乳製品は輸出率も高い。魚類は魚油・フィッシュミール・塩蔵・冷凍・かんづめに加工され，船舶・アルミニウムに次ぎ輸出第3位である。製材・パルプ・製紙業は古い歴史をもち，全輸出額の15%を占めている。冶金・化学工業は豊富な電力を利用して20世紀になってから発達し，従業員数で冶金工業が6.5%，化学工業2.5%，生産額で冶金10%，化学6.9%を占める。冶金工業の中心はアルミニウムで，ほかに製鉄，銅の製練がある。化学工業は窒素肥料が中心で生産額の70%(1966)を輸出し，ほかに塗料・油脂などがある。機械工業は従業員数で30%,生産額で24%を占め，製品はおもに国内用であるが，建造高世界第5位(1966)の船舶および発電機・ラジオなどの電気器具の一部は輸出している。〈交通〉ノルウェーでは鉄道と道路のほかに沿岸航路が交通の重要な役割を果たしており，フェリーボートの定期コースが180もある。鉄道と主要道路は冬には雪かき施設が整えられている。1854年以来鉄道網は国鉄によって整えられ，総延長4,297km(1966)に達した。航空路ではスウェーデン・デンマークとの共同経営で1951年に開設したスカンジナビア航空(SAS)があり，オスロ・ベルゲン・スタバンゲル・クリスチャンサンなどに空港がある。海運業は盛んで，1874万トン(1967)の商船を有し世界第3位である。このうち自国の輸出入などに従事しているのは約10分の1程度で，他は外国海運業者と傭船(ようせん)契約を結んで収入をあげている。〈貿易〉国民1人あたりの貿易額や国民総生産額に対する貿易額の比(輸出21.7%，輸入34.3%，ともに1967年)は世界で最も高い。輸出品は魚介類・非鉄金属・船舶・紙類などで，相手国はイギリス・スウェーデン・西ドイツ・アメリカ・デンマークであり，うちEFTA(ヨーロッパ自由貿易連合)諸国の合計が47%(1967)である。輸入品は自動車・石油・鉄鋼・機械類・繊維製品などで，相手国はスウェーデン・イギリス・西ドイツ・日本・アメリカ・デンマーク，うちEFTA諸国が44.1%(1967)を占めている。貿易収支は慢性的赤字であるが，その分を海運収入で補充している。海運収入はノルウェーに必要な外貨の3分の1をまかなっている。

〔社会・文化〕〈生活水準〉生活水準は世界で最も高い国の一つで，しかも全体が平均化している。高額所得に対して強度の累進課税がなされる一方，低所得には社会保障が行き届いている。賃金と社会保障費の増加のため物価は年々上昇し，政府は住宅資金や営農資金の融資を行ない物価対策に苦慮している。社会保障制度は19世紀以来整備され，国民年金保険(70歳以上の老人に老齢年金，遺児に児童年金を支給)・健康保険(国民皆保険で公立病院は無料)・職業傷害保険・失業年金保険などがある。〈教育〉1959年の小学校法によって7歳から9年間が義務制と決められ，はじめの6年間は下級小学校，次の3年間は上級小学校に分かれる。小学校卒業者でさらに進学を希望するものは3年制の高等学校へ進み，最終試験に合格すると5～7年制の大学へ進学できる。また小学校卒業後，3年制の上級中等商業学校か上級中等職業学校へ進むコースもある。小学校は地方自治体，高等学校は国家の設立ですべて無償である。しかしキリスト教会による私立学校も少数ある。オスロとベルゲンに国立の総合大学があり，ほかに数校の単科大学と高等専門学校がある。〈文化〉ノルウェー近代文化の充実期は19世紀後半以後で，絵画の分野でムンク・ダールが国民的芸術を基礎にした独特の世界を打ち立てて名声を博した。オスロ・ベルゲン・トロンヘイムの美術館には各時代ごとの国民芸術を陳列してある。文学ではイプセン・ビョルンソン，音楽ではグリーグが最も有名である。スウェーデン人のノーベルから委託されたノーベル平和賞委員会が国会の一機関として置かれている。海洋探検家アムンゼン・ナンセンもこの国の生まれである。



ノルデ《浮浪者》ワルラフ-リヒャルツ美術館蔵

〔政治〕政体は立憲君主国で，元首は国王。国会は変則的な二院制で，普通選挙による150人の議員の互選によって，そのうち4分の1で上院を，残り4分の3で下院を構成する。任期4年。政党は，1935年以来ほとんど政権をとってきた労働党を第一党に，保守党・自由党・中央党・キリスト教民主党・共産党などがある。外交では，1954年すでに中華人民共和国を承認し，東ドイツと通商協定を結んでいる。第2次世界大戦中ナチス-ドイツに占領された体験から，国防の方針を集団安全保障に求めて，1949年にNATO(北大西洋条約機構)に加盟した。総兵力40,000を常置し，ほかに13万の国民軍を予備に編成している。オスロ郊外にNATOの北ヨーロッパ軍司令部がある。〔大崎　晃〕

ノルウェーご【ノルウェー語】⇨北欧語

ノルデ［Emil Nolde］(1867～1956) ドイツの画家・版画家。はじめ木彫を学んだが，のち画業に専念する。1905年ごろ，それまでの印象主義的作風から表現主義に転じ，1906年橋派*に加わった。のちに橋派を離れたが，深い感情や神秘主義において，ドイツ表現主義形成の中心であった。宗教的主題の作品が多いが，輝かしく強いコントラストの色彩において激しいデモーニッシュな感情を表現している。

ノルディック ⇨コーカソイド

ノルディックきょうぎ【ノルディック競技】スキー競技で，アルペン競技*に対して北欧の丘陵地帯に発達した種目をいい，次の3種からなる。①耐久競技：雪に閉ざされた山野を，スキーを歩行用具として自由に歩き回ることから発達したもの。②純ジャンプ*：空中を飛びたいという人間本能から発達したもの，③複合競技*：①と②を組み合わせたもの。なお，広い意味ではバイアスロン*もノルディック競技に含まれる。

ノルデンツェルド［Nils Adolf Erik Nordenskiöld］(1832～1901) スウェーデンの地理学者・探検家。1858年ストックホルム大学地質学教授・国立博物館鉱物部長。同年より1873年まで5回にわたりスピッツベルゲンを探検し地図の作成を行なった。1878年ユーラシア大陸地方航路を開き，シベリア北岸，ベーリング海峡を経て，帰路日本にも寄航した。このほか地質学・鉱物学・地理学などを研究し，特に古地図の研究や日本の書物の収集などが著名。1893年科学アカデミー会員。〔野間三郎〕

ノルビッド［Cyprian Kamil Norwid］(1821～1883) ポーランドの詩人・画家。哲学的で晦渋(かいじゅう)な詩風のため，同時代人からは黙殺され，貧窮のうちにイタリア・ドイツなどを転々とし，亡命地パリで死んだ。死後，その独創的で先駆的な新しい詩法が再評価され，現代詩に大きな影響を残した。代表作《プロメティディオン》《ショパンのピアノ》など。

ノルマンジー［Normandie］フランス，パリ盆地の北西方の地方。北西はイギリス海峡，南西はブルターニュ地方，北東はピカルジー地方に接する。マンシュ・オルヌ・カルバドス・ウール・セーヌ-マルチームの5県からなる。面積31,000km²。人口260万7,000(1962)。セーヌ川下流平野と200m内外の丘陵に分かれ，バター・チーズなどの生産が多く，りんご酒(カルバドス)も名高い。丘陵ではウマが飼育され，低品位の鉄鉱石が採掘される。ルーアン・エルブーフ・リールボン・ルビエでは繊維工業が盛んである。セーヌ川はルーアンとルアーブルの



ノルマンジー　ノルマンジー丘陵南側の農村風景。丘陵地はきれいに耕され，耕地の境界を示す木立ちが美しい模様を描き出している

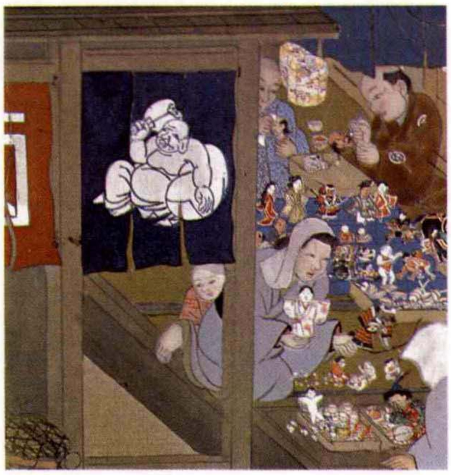


ノルマン征服　イギリスへ向かうノルマンジー公ウィリアムの船隊

工業地区を結ぶ大動脈となっており，イギリス海峡沿岸には海水浴場が多く，漁業も盛んである。911年バイキングの首領ロロはフランス王シャルル３世からこの地を与えられ，ノルマンジー公国を建てた。その後1450年にフランスにもどるまで，一時イギリス領であった。第２次世界大戦末期の1944年６月，ヨーロッパ大陸反攻の連合軍の大上陸作戦が行なわれた。　〔梶川勇作〕

ノルマンジーこうこく　【ノルマンジー公国】　911年ノルマン人の侵入に悩まされたフランス王シャルル３世は懐柔策をとり，ノルマン人の首領ロロにセーヌ川河口一帯を譲って建設された公国。以後多数のノルマン人が移住し，ルーアンを都として活発に商工業を行ない，独自の文化を発展させた。1066年，ノルマンジー公ウィリアム(→ウィリアム１世)によるノルマン征服以後，イギリス領となったが，フランスのフィリップ２世は1204年ジョン王からこれを奪って王権を強化した。百年戦争中1417年イギリスに占領されたが，ジャンヌ＝ダルクなどの助力によったシャルル７世は1450年フォルミニーの戦いで回復した。〔喜多迅鷹〕

ノルマンじん　【ノルマン人】　北方系ゲルマン人。スカンジナビア・デンマークを原住地とし，長身・白色・金髪・碧眼(へきがん)を特徴とする。狩猟・漁労を生業とし一夫多妻制であった。人口増加のため８世紀以降はカッパール船とよばれる船で民族移動をはじめ，いわゆるバイキングとして恐れられた。その移動は三方向に大別される。第１はスウェーデンのノルマン人が進出した東方で，９世紀にノブゴロド公国，10世紀にキエフ公国を建国し，さらに南下してビザンチン帝国にはいり商業に携わった。彼らは10世紀末までにスラブ化した。第２はノルウェーのノルマン人で，西へ進みスコットランド・アイルランド・アイスランド・グリーンランドなどに至り，1000年ごろには北アメリカ大陸に到達したが原住民に滅ぼされたという。第３はデンマークの



のれん　江戸初期の人形屋ののれん《都鄙図巻》住吉具慶筆　興福院蔵

ノルマン人で，大陸沿岸を西へ進んだ。これは大規模な移動で影響も大きかった。北フランスのノルマンジー地方を領有したり，イギリスのノルマン征服を行なったり，両シチリア王国を建設したりして，特異な文化を形成した。これらの第２次ゲルマン民族移動も，12世紀の両シチリア王国建設で終わった。　〔高山高雄〕

ノルマンせいふく　【ノルマン征服】　1066年，ノルマンジー公ウィリアムのイギリス征服をいう。エドワード懺悔(ざんげ)王は嗣子がなかったので，ノルマンジー亡命中恩になったウィリアムを寵愛(ちょうあい)し，彼に王位を譲る約束をした。しかし1066年，懺悔王が死ぬと土着貴族派のハロルドが即位したため，ウィリアムは王位継承権を主張し，ローマ教皇と神聖ローマ皇帝の承認を得て，同年９月イギリスに上陸，10月にはヘースチングズの戦いでハロルド軍を破り，彼を敗死させた。そして同年クリスマスに戴冠(たいかん)し，イングランド王ウィリアム１世として即位した。彼は，1071年までに北西部の一部を除きほぼイングランド全土を征服した。こうしてイギリスには，ノルマン的な騎士的奉仕による土地保有制度が移植され，さらに各地に国王直属の官吏が置かれ，中央の王権のきわめて強大な集権的封建国家が出現した。　〔松下京子〕

ノルマンちょう　【ノルマン朝】　1066～1154年間のイギリスの王朝。ノルマン征服によるウィリアム１世の即位に始まる。ウィリアム２世・ヘンリー１世と継承され，中央集権化が進んだ。ヘンリーの死後，その娘マチルダが王位継承者とされると，貴族間にマチルダ支持派とウィリアム１世の孫ブロア伯スチーブン支持派の２派が生じ，約20年間内紛が続いた。1153年両派に和解が成立し，1154年スチーブンの死により，マチルダの子ヘンリー２世が即位してノルマン朝は終わり，プランタジネット朝に代わった。　〔松下京子〕

ノルマントンごうじけん　【ノルマントン号事件】　明治時代，条約改正の国民運動を刺激した海難事件。1886年(明治19)イギリス貨物船ノルマントン号が和歌山県大島沖で難破した際，船長以下26乗組員のみがボートで脱出したが，日本人乗客23名は船中に遺棄され，全員水死した。領事裁判権の規定により，神戸(こうべ)のイギリス領事がこの事件を審議し，船長以下乗組員全員を無罪としたため，この処置に憤激した国民は，政府を通して兵庫県知事の名でイギリス領事館に告訴，同年12月船長は禁錮(きんこ)３月(乗組員全員は無罪)に処された。この事件で領事裁判権の撤廃を含む条約改正の運動がいっそう高まった。　〔高崎徳次〕

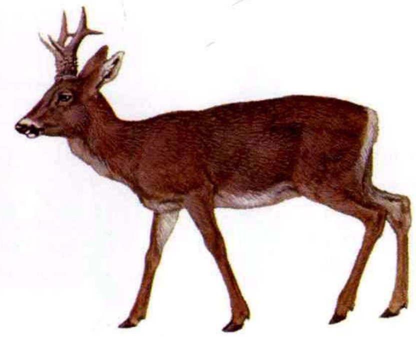
のれん　【暖簾】

1商店の入り口や軒先に下げた幕の一種。古くは帳(とばり)とよばれたもの。はじめは日よけ・目隠しが目的であったが，江戸時代から屋号，商標，取り扱い商品の形などを染め抜くようになり，看板・広告の目的としても広く使われた。素材はもめんで，色あせを防ぐため紺や茶染めが多く使われ，図がらを白く抜いた。やがて，のれんの新古は店の新古，さらに信用・格式を表わすようになり，年季奉公した使用人が独立するとき，主人の屋号を分けてもらうことをのれん分けといい，名誉とされた。最近では商店の宣伝用・装飾用のほか，一般住宅の室内装飾として広く使われ，布地のほかにプラスチック・木・糸・ひもなどの素材を用

いて，染色・ししゅう・レース編みなど各種の技法でつくられている。〔田村彰三〕

②屋号・商号を意味するが，会計学上ではある企業の収益力が一般の企業，特に同種企業の平均収益力に比べてそれを上回っているとき，その超過収益力の源泉をのれんまたは営業権という。一般に，のれんの実態を形成する超過収益力を生み出す原因としては，①事業所の立地条件に恵まれている，②商号や商標が広く知れわたっている，③経営者や従業員の人がらや技能がすぐれている，④営業上の秘伝や秘訣がある，⑤取引先や金融機関との間に特別有利な関係がある，⑥法律上・経済上なんらかの独占的利益を受けていることなどがあげられる。創立以来ある程度の年数を経過した企業においては，通常これらのうちいずれかの要素が存在し，そのため多少ともののれんが発生しているとみられる。しかし，会計学上これが資産として計上されるのは有償取得したときに限られ，自然発生ののれんは計上しないのが原則である(商法285条ノ七)。〔森川八洲男〕

のろ【獐】哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・シカ科。ノルともいう。頭胴長1.2m，尾長3cm，肩高75cmほど。夏毛は赤黄色，冬毛は灰かっ色。角は三つの枝があり，雄だけがもつ。小群で生活して朝夕に活動し，木の葉や草などを食べる。ヨーロッパから中国・朝鮮に分布する。



ノ　ロ

のろ【祝女】沖縄諸島および奄美(あまみ)諸島にみられる女の神職者。神事をつかさどる神女の最高神役をいい，火の神や御岳(うたき)の神を拝んで部落の平和や五穀豊穣(ほうじょう)・航海安全・災難防止などを祈る。沖縄では男の政治的・経済的・社会的役割の施行に際して，その姉妹がそれを霊的に守護するというおなり*神信仰が広範に行き渡っているが，そうした姉妹の霊的優越を基盤として，部落統治者の男性の姉妹がニーガン(根神)として宗教的な統治をしていた。沖縄の政治組織が整備されていた14世紀には，部落内にすでにあった神女組織を利用して，数部落を統轄する神女組織が整えられ，そこにのろの発生をみた。したがってのろは，首里王府を中心にした政治組織の確立の中で生成した村落の宗教的統治の一端をなすものである。16世紀尚真(しょうしん)王が中央集権制を確立し，それに呼応して宗教制度を統一したときに，王家の祭祀(さいし)をつかさどる聞得大君(きこえおおぎみ)を最高位に，その下に3人の大阿母志良礼(おおあむしられ)を置き，3地域の統轄を任せて，のろの支配にあたらせた。その中でのろは王府からの3職の辞令と曲玉(まがたま)・水晶玉の首飾りや神衣装・かんざし・扇などを授かり，その地位を保証され，また，のろくもい地などの田畑を所有する村落の宗教的統治者となった。その地位は世襲でそれに際しては必ず王府からの辞令を受けた。しかし現代においては，任命によらない独自ののろを中心とした神女組織が，在来の土着諸信仰と結合して，村落の諸神事を執行している。〔渡辺欣雄〕

のろえいたろう【野呂栄太郎】(1900～1934) 経済学者・社会運動家。北海道の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学卒業。京都大学の学連事*件に連座して拘引され，1929年(昭和4)四・一六事*件でも検挙された。その年プロレタリア科学研究所の創立に参加し，1930年唯物史観に立つ《日本資本主義発達史》を刊行して，理論活動を続けた。1932年共産党指導部が一斉(いっせい)検挙されたのち，その再建に努め，1933年非合法活動にはいって，中央委員会幹部として活躍したが，特別高等警察(特高)に逮捕され東京の品川警察署で獄死した。〔岸野淳子〕

のろかげよし【野呂景義】(1854～1923) 明治・大正期の製鉄研究者。尾張(愛知県)の生まれ。東京帝国大学で冶金(やきん)学を学び，1882年(明治15)同大学助教授。1885年ヨーロッパに留学，ロンドン大学などで機械・電気工学冶金工学を学んだ。1889年東京帝国大学教授となり，農商務省技師を兼任。1894年釜石(かまいし)鉱山製鉄所の操業に成功，日本近代製鉄業の基礎を確立した。1904年官営八幡(やわた)製鉄所の嘱託をつとめ，また日本鉄鋼協会を創立し，草創期日本鉄鋼界に大きく貢献した。〔加藤邦興〕

のろげんじょう【野呂元丈】(1693～1761) 江戸中期の医者・本草学者。名は実夫，通称源次，号は連山。伊勢(いせ)(三重県)の生まれ。京都に出て医学・本草学・儒学を学んだ。1720年(享保5)幕府医官となり，各地に広く植物を採集して本草学に貢献した。1739年(元文4)青木昆*陽(こんよう)とともにはじめてオランダ書を解読し，《阿蘭陀禽獣虫魚和解(おらんだきんじゅうちゅうぎょわげ)》《阿蘭陀本草和解》などを著わした。蘭学(らんがく)の先駆者のひとり。ほかに《仏足石碑考》などの著書がある。〔中村禎里〕

のんこう【嫩江】ネン川　中国，東北地方北部，松花江の大支流で，妹江ともいい，さらに原地ではノンムレンともいう。大興安嶺(だいこうあんれい)の北部に源を発して南下し，大賚(だいらい)から東に流れて松花江本流にはいる。流程およそ800km。流域は黒龍江(こくりゅうこう)省西部の穀倉地帯となっており，下流では夏季半年間は小汽船の航行ができ，11月から翌年3月までは凍結する。流域の主要都市はチチハル(斉斉哈爾)。

ノンプロやきゅう【ノンプロ野球】⇨社会人野球

は

は 【葉】 維管束植物の主要な器官の一。ふつう緑色で平たく，光合成を行ない，主として裏面にある気孔を通して活発にガス交換を行なう。葉は茎頂の生長点から分化したもので，そのつき方を葉序といい，一つの節から多数の葉が生じれば輪生，2枚なら対生，1枚なら互生とよばれる。草本でごく短い茎から四方に葉が出るものがあり，このような葉を根出葉とか根生葉という(タンポポ・オオバコ・スミレなど)。また，根出葉に対して地上茎につく葉を茎葉という。

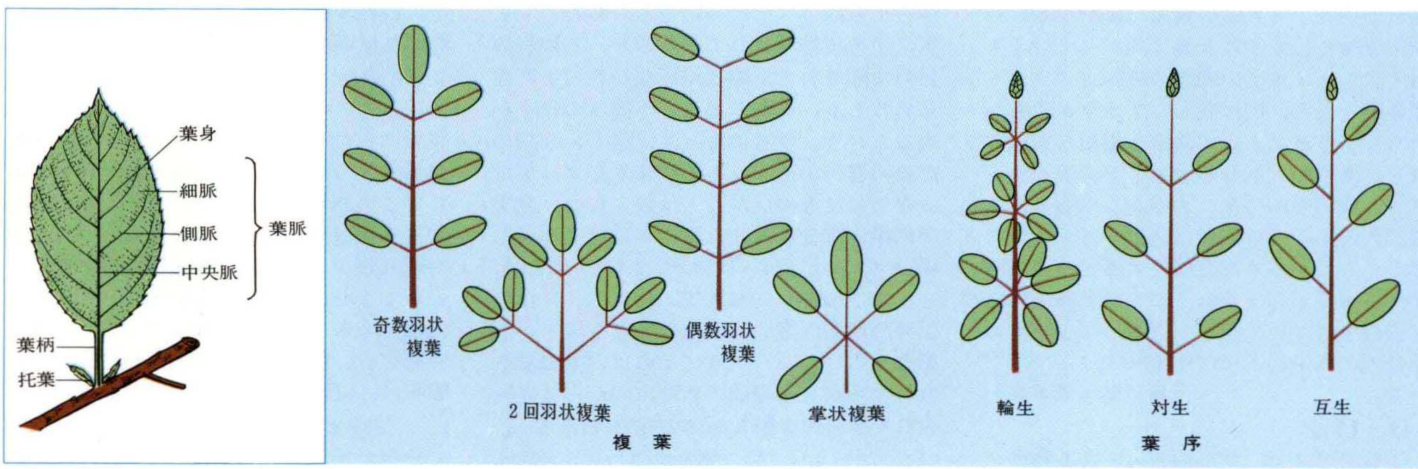
葉は葉身・葉柄・托葉(たくよう)などからなる。葉身の横断面をみると，表裏の表皮の間に葉緑体を備えた柵(さく)状組織・海綿状組織があり，その中に維管束(葉脈)が走っている。柵状組織と海綿状組織を合わせて葉肉といい，ここは同化作用を行なう主要部分であるため同化組織ともいう。葉が全体として1枚のときは単葉，2枚以上に分かれているが1本の葉柄で結びついている場合を複葉といい，個々の葉を小葉，小葉に柄があればそれを小葉柄，托葉があれば小托葉という。複数の小葉が1本の葉軸の左右に並んでつく複葉を羽状複葉といい，葉軸の先端に小葉がつけば奇数羽状複葉(ハリエンジュ・フジ・ヌルデ・ニワトコなど)，つかなければ偶数羽状複葉(ネムノキ・ハブソウ・サイカチなど)となる。葉軸の先端に小葉が放射状に並ぶものを掌状複葉(トチノキ・アケビ・ムベ・ウコギなど)という。ハギ・ダイズなどの葉は3枚の小葉からなるが，これは3出複葉とよばれ，最も簡単な奇数羽状複葉と考えられる。そのほか，この複葉が組み合わさった2回3出，3回3出，4回3出複葉など種々の形のものがある。

葉柄や複葉の中軸に葉身のような張り出しがある場合これを翼といい，ヌルデ・ミカン類・ミゾソバなどにみられる。葉柄のあるものとないものがあり，葉柄の基部が茎を抱いて耳状となる場合(ハルノノゲシ・ヤクシソウ)や鞘(さや)(葉鞘(ようしょう))になって茎を包む場合(セリ科・タデ科・イネ科)がある。マツやスギの葉のように針状になるものもある。

葉の中を走る維管束である葉脈には，太い中央脈とそれから分かれた側脈，さらに分かれた細脈などがあり，葉身が左右対称であることが多いので脈の配列は全体として羽状になり，このような脈を羽状脈という。単子葉類の多くは主脈と側脈とがほぼ平行に縦に通っているので平行脈という。

特殊な葉として，花を構成しているがく片・花弁・おしべ・心皮・子葉などがあり，花の近くの普通葉と色や形の異なる総包(セリ科・キク科)，退化して葉緑素をもたない鱗片葉(りんぺんよう)(アスパラガス・ナンバンギセル)，針状になった針葉(メギ・ハリエンジュ)，巻きひげ(スイートピー・スズメノエンドウ)，虫を捕える捕虫葉(モウセンゴケ・ハエジゴク)などがある。 〔加藤僖重〕

は 【歯】 脊椎(せきつい)動物の口腔(こうこう)内にあって，おもに食物を咀嚼(そしゃく)するための器官。動物によっては敵を攻撃する武器として働く。ヒトでは発声に際しても歯の有無によって大きく影響している。口腔内に現われている部分を歯冠，顎骨(がっこつ)内に釘植(ていしょく)されている部分を歯根，両者の移行部を歯頸(しけい)という。歯冠にはエナメル質*がかぶさり，歯根には外層に骨組織と同じセメント質がかぶさり，内部に象牙(ぞうげ)質*が歯髄腔を囲んで存在する。エナメル質・セメント質・象牙質は硬組織とよばれ，リン酸カルシウム・炭酸カルシウム・リン酸マグネシウム・フッ化カルシウムを含んでいる。中でもエナメル質が最もかたく，セキエイと同じぐらいで，95%の無機質を含む。歯髄腔は歯根の中を走る歯根管となり，歯根下端の根尖孔(こんせんこう)で歯の外とつながっている。歯髄腔に満たされる歯髄*は結合組織・血管・神経からなり，歯の発育・栄養・知覚をつかさどる。歯根は，哺乳(ほにゅう)類では歯槽(しそう)に植立し，結合組織繊維束が両者間を連結して歯を固定している。この歯根を取り囲む結



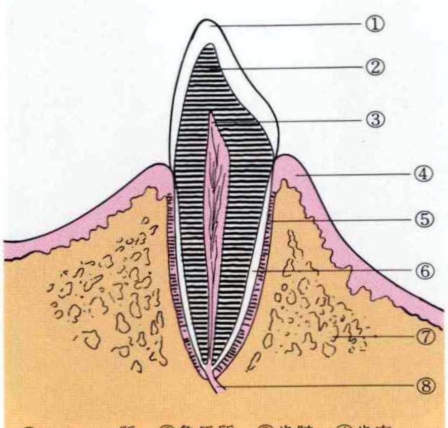
葉

合組織を歯根膜とよび，血管・リンパ管・神経がはいりこみ，この神経が歯の触覚をつかさどっている。このほか歯肉の繊維束も歯頸を輪状に取り囲んで歯を固定している。セメント質，歯槽壁の骨，歯根膜，歯肉を総称して歯周組織とよぶ。多くの哺乳類は，臼歯(きゅうし)だけは不換性であるが，他はすべて一生の間に1度抜けかわる。爬虫(はちゅう)類以下では，たびたびはえかわる多換性である。ヒトの歯は2回発生するので二生歯類といい，最初のものを乳歯*，これと交替するものを永久歯という。乳歯は生後9か月から3年ぐらいの間にはえそろい，6～10歳ぐらいの間に永久歯にはえかわる。乳歯は正中より外側に向かって上下顎左右各1本ずつの乳中切歯・乳側切歯・乳犬歯・第1乳臼歯・第2乳臼歯と合計20本はえる。永久歯も正中から奥に向かって上下顎左右各1本の第1切歯・第2切歯・犬歯・第1小臼歯・第2小臼歯・第1大臼歯・第2大臼歯・第3大臼歯に区別される。このうち，大臼歯は終生1度しかはえない。切歯は門歯あるいは前歯ともよばれ，のみ形を呈しておもに食物をかみ切る働きがある。犬歯は俗に糸切り歯ともよばれ，物をかみ切るのに適している。小臼歯は前臼歯ともよばれ，これから奥の歯では上端の咬合(こうごう)面に咬頭が発達し(小臼歯では2咬頭，大臼歯では4咬頭または5咬頭)，上下の歯が相互に咬合する。また，歯根の数もふえ，小臼歯では1根または2根，大臼歯では2根または3根をもつ。大臼歯のうち第1大臼歯は6歳ごろ萌出(ほうしゅつ)するので6歳臼歯，第2大臼歯は12歳臼歯，第3大臼歯は知歯または親知らずとよばれている。

歯の発生は胎生2か月の後半ごろから始まる。将来歯齦(しぎん)(歯ぐき)となる口腔の粘膜上皮が肥厚して顎の深部に落ち込み，乳歯の歯堤を形成する。ここにつり鐘状のエナメル器ができる。つり鐘状のくぼみの中は歯乳頭とよばれる結合組織で満たされ，エナメル器と共通の歯嚢(しのう)で取り囲まれる。歯嚢からはセメント質や歯周組織ができる。歯冠の先端のエナメル質と象牙質の境界で歯乳頭の表面の細胞が象牙芽細胞となり，象牙質を外に向かってつくり出す。エナメル器の内層の細胞はエナメル芽細胞となり，内に向かってエナメル質をつくる。これによって歯冠と歯根が形成される。歯根の大部分ができると歯嚢からセメント芽細胞が分化してセメント質をつくる。大臼歯もほぼ同様に発生する。乳歯のエナメル器がある程度成長するとその内側に代生歯堤が形成され，ここで乳歯と同様な過程を経て代生歯ができる。子どもでは顎骨内で乳歯の下に代生歯胚(はい)ができている。〔幡井勉・橋本長〕

ば【場】

①物理学用語。空間の各点である物理量が，その位置だけで定められるとき，このような物理量の分布している空間をいう。19世紀後半，場の概念は革命的な思想として物理学の中へ導入され，この概念は，力学的な場とは異なる新しい哲学的見解を物理学にもたらした。はじめ場は，磁気の作用する力を簡単に表わすために，電流の概念と，それによって力を受ける磁極の概念との間に中間的な概念として挿入(そうにゅう)された。ところが場の概念によれば，電磁気の現象が非常に簡単に説明できるので，場はある現象の記述に対して本質的なものとされるようになった。この立場は，多くの事実によって確証されている。場は電気・磁気あるいはその他の力が空間にある大きさと方向性をもって存在するとして記述される。電磁場を表現する〈マクスウェルの方程式〉によれば，力は電磁波として，光速で空間を伝播(でんぱ)する。これは力に遠隔作用があるとする力学の考えと根本的に違う点である。その際場が，すなわち空間がエネルギーをたくわえ，したがって電磁波はエネルギーの移動と考えるのである。つまり，場は，電磁気の現象を支配する本質的な存在である。〔堀内和夫〕



①エナメル質　②象牙質　③歯髄　④歯肉
⑤歯根膜　⑥セメント質　⑦歯槽骨　⑧根尖孔
(神経の出る孔)

歯　ヒトの歯の構造

②発生学用語。発生初期の過程で，生物体やその器官などの系がつくられていくとき，すでに編制されている系が，未編制の材料に働きかけて編制が行なわれると考えられるとき，そこに場という働きの存在があるという。学者によって，場という語の定義に違いがあり，その意味も必ずしもはっきりしたものばかりとは限らない。発生学に場の概念を取り入れた学者はソ連のA. G.グルビチ(1874～1954)やアメリカのP. A.バイス(1898～　)などで，特にバイスは再生芽の運命決定の研究についても場という概念を用いた。バイスによれば，〈場は編制された系から未編成の素材に向かって発せられる造形的な働きかけの総体である〉という。たとえば，目の発生に際して，水晶体のできるところには水晶体の場ができているので，場ができていさえすれば眼杯でなくても(普通は眼杯が水晶体を誘導する)肝臓片や腎臓(じんぞう)片でも，その場に入れれば水晶体をつくることができる。再生のとき，移植される場が尾の場であれば，肢(あし)の再生芽を移植しても尾ができることになる。〔蒲原春一〕

③心理学用語。ある現象または行動が起こる心理学的事態または空間を物理学における場になぞらえて場または心理学的場とよぶ。一般に，心理的現象または行動は一定の刺激に対してもつねに同じように対応するとは限らず，そのときどきの心の状態および時間的・空間的に近い他の刺激との間に生まれるダイナミックな関係などによって異なる対応を示す。したがって，ある現象または行動の生起を考える場合，直接の刺激のみならず，それを取り巻く心理的事態が総体的に明らかにされねばならない。ゲシュタルト心理学*が場の概念を心理学の領域に取り入れたのもこのような見地からである。初期の研究ではケーラー*によって知覚現象に関する知覚の場の問題として開拓され，その後，レビン*は人と環境のつくる場を取り上げたが，現在は，知覚・記憶・思考の問題はもとより行動理論にまで場の理論が取り入れられている。〔古崎　敬〕

はあり【羽蟻】 ⇨シロアリ

はい【灰】 ⇨草木灰

はい【肺】

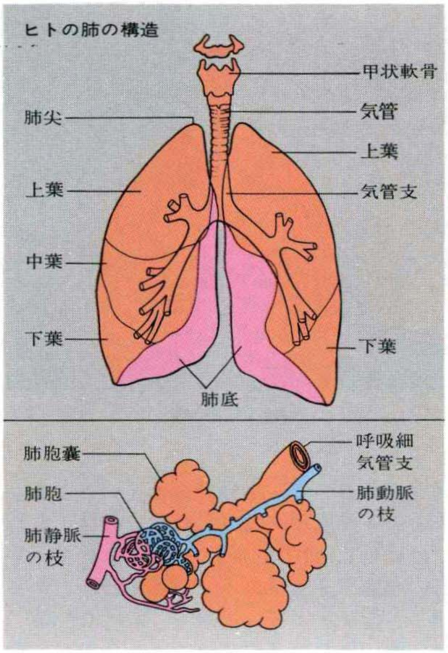
【ヒト】脊椎(せきつい)動物の外呼吸(ガス交換)をつかさどる呼吸器系の一。胸郭の中に収められ，全体として半円錐(はんえんすい)形。左右から心臓を抱くように1対あって，左肺は上・下の2葉に，右肺は上・中・下の3葉に分かれ，それぞれ上端を肺尖(はいせん)，下面を肺底とよぶ。全体として左の肺が右の肺より小さい。両肺の心臓に接して少しへこんだ部分に肺門があり，ここから肺静脈・肺動脈・気管支などが出入りしている。肺の表面と胸壁の内面は肋膜(ろくまく)(胸膜)におおわれ，その間(胸膜腔(きょうまくこう))に，肺と胸壁との摩擦を緩和するための滑液が満たされている。肺の実質は海綿状に空気を入れた多数の肺胞でなりたっている。肺胞の数は両肺で7～9億に達し，その大きさは直径0.1～0.2㎜ぐらいで薄い膜(呼吸上皮)でつくられた半袋状を呈する。体内に取り入れられた外気は気管・気管支・細気管支・呼吸細気管支と順次細く枝分かれしてこの肺胞に達する。これらの管を通る間に外気は暖められたり，塵埃(じんあい)などが取り除かれたりするが全部を取り除くことができないので，成人の肺はやや黒かっ色に見える。反対に幼児の肺は美しい紅色に見える。肺門から肺の内部にはいった肺動脈は，気管と同じように枝分かれをくり返して毛細血管となって肺胞のまわりに密に分布する。肺胞と毛細血管の壁はそれぞれきわめて薄いので，空気中の酸素がこの壁

を通過して血管の中にはいる。逆に血液中の炭酸ガスも二つの壁を通り抜けて肺胞内に出ていく。この現象をガス交換という。肺はみずから伸縮するのではなく，肋間筋・横隔膜などの運動で胸腔が広がるため肺の肺胞が広がり，逆に胸腔がせばまると肺胞にあった空気が外に押し出されるのである。前者が吸気で，後者が呼気である。この両者を合わせて呼吸*という。普通は意志によって呼吸を一時的に停止することもできるが，睡眠中などは延髄にある呼吸中枢によって制御されて，一定の間隔で呼吸ができるようになっている。胎児は母体の中にはいっているので肺を用いていない。出産時にはじめて外界の空気を取り入れ，肺を用いる呼吸に移行する。

〔動物〕 カエル・イモリなどの両生類が陸上生活をするときには，鰓(えら)に代わって肺が用いられるが，ハコネサンショウウオでは肺を欠いている。ヘビなどの爬虫(はちゅう)類では肺胞が分化しているが，片方の肺を欠いて単肺である。魚類ではうきぶくろ*が肺と相似の器官で，肺魚類などではうきぶくろで呼吸する。鳥類では肺壁がふくれて気嚢(きのう)となり，体重の減少に役だって飛行を楽にさせている。➔気管　➔気管支　〔高野一雄〕

はい　〔胚〕 胚子または幼胚ともいい，多細胞生物の発生する初期の過程でまだ独立して生活できないようなものをいう。動物の種類によって，胚の期間の長さやその間における変化のようすなどはさまざまであるが，一般に，卵割*が始まってから器官の原基が現われるまでの間を胚ということが多い。その間をさらに，桑実胚・胞胚・原腸胚(嚢胚(のうはい))などに分け，特にこれまでを初期胚ということがあり，これに対しそれ以後を後期胚と区別する。脊椎(せきつい)動物では，神経管ができるのにしたがって神経胚とよぶ時期ができる。特に胎生の動物では胚ということばを用いず胎児とよばれる。食物を自力でとることができるようになると，もはや胚とはよばない。胚を形成する細胞は一般に未分化であり，初期のものほど分化の程度が低いが，成体でも同じように未分化の細胞が存在することがあって，特に胚的細胞とよばれる。再生芽の細胞などがこれである。このように未分化であった胚の運命がしだいに決定され，形態の変化や形態の形成といったような胚にみられる現象は，発生学の重要な問題であり，単に形態だけにとどまらず，自然科学のあらゆる分野の応用で研究が進められている。

種子植物では種子中の発芽前の植物体をいい，胚珠の中で発生が進み，幼芽・子葉・胚軸・幼根が分化すると，しばらく休眠し，種皮に包まれて種子の中で発芽を待っている。藻類(そうるい)・菌類では受精も胚の発生も体外で行なわれるが，コケやシダ類では胚発生は頸卵器(けいらんき)の腹部で行なわれ，胚柄とよばれるもので母体に付着している。ふつう植物の場合は，有胚植物とよばれるコケ類以上の受精卵の生長と分化の過程で，胞子の場合と非常に異なるものに胚発生ということばを用いるが，広い意味ですべての植物の接合子からの生長・分化に対して，胚の発生ということばを用いることもある。〔蒲原春一〕



肺



バ　イ



バイアスロン　直径30cmの割れやすい材質でつくられた標的目がけて立射する　1970年度全日本冬季競技総合大会　札幌真駒内

ばい　〔蛽〕 軟体動物・腹足類・エゾバイ科。殻高(かくこう) 7 cm，殻径 4 cmほどの長卵形の巻き貝。螺塔(らとう)は高くなり，螺層は8階。殻表は平滑で，黄色の殻皮をかぶるが，通常はよごれてかっ色をおびる。その下は帯紫白色で紫かっ色の斑(はん)があり，縫合の下と殻底の斑列は大きい。殻口は卵形で紫白色，下端に広い水管溝(すいかんこう)がある。ふたはかっ色の革質で厚く，核は下端にある。北海道南部から九州および朝鮮・中国の潮間帯から水深20mの砂底にすむ。産卵期は5～8月で，卵嚢(らんのう)をアワホオズキといい，扁平(へんぺい)な四角な形をしたのが多数連なる。入り口の小さいかごに魚肉などを入れて海底に沈め，これを食べに集まりはいったのをとる。肉は黒かっ色でつくだ煮やかんづめにする。殻(から)は貝笛など貝細工の材料にする。江戸時代にはこの貝でつくったこまの遊戯が流行した。〔波部忠重〕

パイ　[pie] 小麦粉と固形脂肪を練り合わせ，そのまま，または詰め物などをして焼いたもの。料理・菓子に用いられる。パイの皮のつくり方には，ヨーロッパ式(折り込み)とアメリカ式(練り込み)がある。ヨーロッパ式は，小麦粉とバターが幾重にも層状となり，焼くと重ねた紙のようにはがすことができる。アメリカ式は，焼くと細かい小さい層になる。できた皮はさら形・アルメット形・リーフ形・コルネ形などのパイざらに入れ，天火で焼く。強い熱で短時間に焼くのがよいが，水分の多い詰め物をしたときは，最初を強火，皮が焼けてから火を弱めて中まで火が通るようにする。詰め物は菓子用の場合クリーム，果実またはその砂糖煮を用いる。菓子用パイはタルト*ともいい，アップルパイ・レモンパイ・クリームパイなどがある。料理用には牛肉・鶏肉・魚介類のホワイトソース煮などを詰め物に用い，しばしばプティ-パテとよばれる。〔泉　敬子〕

バイアスロン　[biathlon] スキーの距離競技とライフル射撃競技を組み合わせた複合競技。北欧で創案された競技で，冬季の狩猟のための日常活動がスポーツ化したものである。世界選手権大会は1958年以降毎年挙行されており，冬季オリンピック競技大会の種目としては，1960年(昭和35)第8回スクォバレー大会から正式に取り入れられた。日本選手は1962年の世界選手権大会から出場し，オリンピックには1968年の第10回グルノーブル大会から参加した。国内の全国大会は1963年以来実施されているが，銃を使用する関係から，参加者は自衛隊員が中心となっている。〔藤岡　端〕

バイアブランカ　[Bahía Blanca] アルゼンチン南東部，ブランカ湾に臨む港市で，パンパの中心をなす商工業都市。人口17万5,000(1970)。首都ブエノスアイレス以南では最大の都市で，同市とは鉄道で結ばれ，パンパ内部にも鉄道が延びる海陸交通の要

地である。港からは小麦などの穀物や食肉・羊毛などパンパの産物を輸出し，石油・機械などを輸入する。1828年要塞(ようさい)として建設され，イタリアからの移民が多く住むようになってから発展した。〔小栗　宏〕

ハイアライ　[jai alai]　スペインのバスク地方で発達したテニスに似た球技。主としてラテンアメリカ・ヨーロッパ・アジアの諸国で行なわれ，多くの場合公認のかけを伴う。セスター(約60cmの細長いかごのようなもの)を片手に結びつけ，これを使ってペロタ(ボール)を壁に投げつけ，相手側がこれを受け止める競技である。ペロタは直径２インチ(5.08cm)で，飛ぶ速さは時速250kmにも達するという。コートは三方を壁とし，長さ160フィート(約48.80m)，高さ・幅ともに35フィート(約10.67m)を標準とする。ゲームはシングルス・ダブルスで行ない，１ゲームに６～８人が参加，ポイントを失った者が次と交替し，規定のポイントを得た者が勝者となる。試合はサービスから始められ，観客席から見て右側の壁の定められた高さ以上にペロタを打ちつけ，相手ははね返ってくるペロタを２度バウンドする以前にセスターで受け止め，サービスと同じ壁に打ち返す。壁の規定された面にペロタがあたらないとき，はね返ったペロタがコート外に落ちたとき，ペロタを２バウンド前に捕えられなかったときには，相手のポイントとなる。〔藤岡　端〕

はいいかごうぶつ　【配位化合物】　狭義には錯体*と同意語として用いられ，次のように分類される。①ウェルナー型錯体，②非ウェルナー型錯体(金属カルボニルおよび有機金属化合物)。①は金属・炭素間結合を含まないすべての錯体，およびシアン錯体を含む。②は金属・炭素間結合を少なくとも一つはもっている化合物を含む。金属カルボニルは，その構造・反応性，特に触媒作用の面から新しい研究分野を形成している。広義には二つ以上のイオンまたは分子が付加してできる化合物はすべて含む。したがって，$NH_3 \to BF_3$，$C_5H_5N \to O$のように配位結合は含むが錯体としては扱わない化合物，および$C_6H_6 \to I_2$のような，配位結合を含まない化合物までもはいる。➔配位結合　➔有機金属化合物　〔三輪　誠〕

はいいけつごう　【配位結合】　一つの結合に関与する２個の原子価電子が，一方の原子からのみ提供されて生じる共有結合。たとえば，

$NH_3 + BF_3 \to N_3N : BF_3$

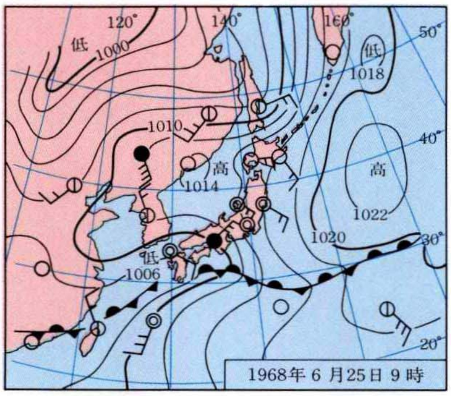
```
   H    F           H F
H:N:x + B:F → H:N:B:F
   H    F           H F
```

において，窒素Nとホウ素Bとの間の共有結合にあずかる２個の電子(孤立電子対)は窒素から提供されている。この結合は錯体*をはじめとして多くの化合物中に存在し，イオン結合と共有結合の重なったものとも考えられるので，半極性結合ということもある。➔配位化合物〔三輪誠・清水正幸〕

はいいし　【配位子】　錯体*において，中心の金属原子またはイオンに結合している原子・分子・イオン。最も一般的な配位子は一原子または多原子陰イオン(Cl^-，CN^-，NCS^-など)および中性の極性分子(H_2O，NH_3，CO，O_2など)で，配位できる原子は，炭素・酸素・ハロゲン・リン・ヒ素・イオウなどである。また，不飽和炭化水素やそのラジカルも違った形の配位子となりうる。二つ以上の配位可能な原子を含む分子またはイオンを多座配位子，一つを含むものを単座(一座)配位子という。〔三輪誠・清水正幸〕

はいいろぐま　【灰色熊】　哺乳(ほにゅう)類・食肉目・クマ科。ヒグマの一亜種で，体は巨大で，強大なつめをもち，北アメリカ北部に分布し，開けた地方に多い。アラスカ南岸のコディアック島のものはクマ類中最大で，頭胴長2.7m，体重675kg以上に達する。性質は荒い。アメリカ-インディアンの間では，本種のつめの首飾りが勇者のシンボルとされた。

ばいう　【梅雨】　わが国で６月上旬から７月上旬にかけてみられる雨期。〈つゆ〉ともいう。この時期の日本付近における地上の気圧配置は，図に示すようにオホーツク海付近に寒冷・湿潤な高気圧があって，この高気圧から発した寒冷・湿潤な気流が日本列島をおおい，一方南方海上には温暖・湿潤な太平洋高気圧からの気流があって，この二つの気流の間に不連続面が形成される。この不連続面が地上に接する線を梅雨前線*とよぶ。梅雨前線は日本の太平洋岸に沿い東西に走る。梅雨期間中は，強い雨が降ったり，湿度の多い陰鬱(いんうつ)な曇天の日が続いたりする。ときには集中豪雨*の災害を招く。約１か月間このような梅雨の天候が続くが，所によっては梅雨期間中の降水量がその年の降水量の約３分の１にも達することもある。



梅　雨　前　線

【成因】　５～６月ごろのオホーツク海域は海氷が浮遊する冷水海域になっていて，この海域の海面に接する大気も寒冷となり，大気下層には冷たくて重い高気圧が形成され，この高気圧と日本の南方の太平洋高気圧との間に梅雨前線を形成する。この前線上に低気圧が進行してきたり，前線自体の活動(大気の上昇運動)が活発になったりすると梅雨が起こるといわれている。また，高度約5,000mから8,000mに及ぶヒマラヤ山系の影響によって，カムチャツカ半島東方にこのころトラフ*が形成され，その西側のオホーツク海周辺にリッジ*が形成される。このリッジがオホーツク海付近に高気圧を形成するという見方もあるが，現在のところこの両者が組み合わさって形成されると考えるべきであろう。梅雨で特に恐ろしいのは，梅雨前線付近の集中豪雨であり，日本の気象災害のうちで台風*の災害と並ぶ大被害をもたらすものである。〔小沢　正〕

ハイウエー　[highway]　自動車交通のための公共の道路を意味する一般的なことばであるが，普通は道幅が広く，舗装などの道路構造が整備されていて，かなりの速度で自動車が走行できる道路をさす。すなわち高速道路*や地方の道路でも優秀なものを一般にハイウエーとよんでいる。したがって街路はこれに含まれない。

ばいうぜんせん　【梅雨前線】　梅雨*の期間，地上天気図上でオホーツク海付近に発生する気圧からの寒冷な気流と，日本南方の温暖多湿な太平洋高気圧からの気流との境に形成され，おもに本州の太平洋岸に沿い東西に走る前線。梅雨前線が日本付近に停滞している間は天気が悪く，前線付近は雨天が続き，ときには前線上に集中豪雨*が発生し，気象災害を起こすことがある。

はいえい　【背泳】　⇨水泳

ハイエク　[Friedrich August von Hayek]（1899～　）オーストリアの経済学者。ウィーンの生まれ，ウィーン大学で法学と経済学を学び，特にミーゼス*の門下生としてオーストリア学派*の学問的素養を身につけた。1921年から1926年まで官吏として働き，1927年にはオーストリア景気研究所長となり，1929年にはウィーン大学講師を兼務した。1931年ロンドン大学の招きによって渡英し，同大学の特別講義を担当，次いでロンドン大学の正教授となり，オーストリア学派の理論がこの地に伝えられ，それを基にヒックス*・ロビンズ*・ラーナー・カルドア*らによってロンドン学派が形成された。1950年アメリカのシカゴ大学に移りオーストリア学派の理論が継承された。主著《価格と生産》《集産主義と計画経済の理論》《資本の純粋理論》《隷従への道》《個人主義と経済秩序》など。〔林　達〕

はいえそ　【肺壊疽】　⇨肺化膿症(かのうしょう)

ハイエナ　[hyaena]　哺乳(ほにゅう)類・食肉目・ハイエナ科。アジア南西部とアフリカ北部・東部のシマハイエナ，アフリカ南部のカッショクハイエナ，アフリカ東部・南部のブチハイエナの３種がある。外形はイヌに似るが，ジャコウネコ科に近縁。前

足は後ろ足よりずっと長いので肩が上がっている。あごと歯は強力で，大きな骨をもかみ砕く。夜行性で群れで生活し，多くはライオンの食べ残しをあさるが，群れで動物を襲うこともある。

バイエル　[Farbenfabriken Bayer A. G.]　西ドイツ最大の化学工業メーカー。1863年ルール地方南部に合成染料会社として設立，1870年アリザリン染料の工業化に着手，その後写真材料・硫酸・硝酸・アスピリン・無機顔料・ソーダ製品・合成ゴムなどの研究成果を工業化して事業を多角的に発展させた。1904年染料に関する利益共同体としてバイエル・BASF・アグファの3社連合が形成され，1916年ヘキスト・カッセツラなど染料メーカー8社からなる〈ドイツ染料利益共同体〉が結成され，1924年これらを統括する持ち株会社としてイーゲー-ファルベン*が設立された。第2次世界大戦後イーゲー-ファルベンの解体に伴い，その資産の32％を引き継いで復活。工業薬品・プラスチック・塗料などの一般化学品(50％)，染料・合成繊維(30％)，医薬品・農薬(20％)などを生産。傘下(さんか)に写真フィルムメーカーのアグファ社，石油化学会社のエルデルヘミー社など子会社多数をもつ。年間売上高25億ドル(1970)。

バイエル　[Ferdinand Beyer]　(1803～1863)　ドイツの作曲家。クベルフルトの生まれ。作品にはピアノ曲・室内楽曲などがあり，また編曲も数多い。わが国では，ピアノの初心者のための教則本《ピアノ奏法入門》の作者として有名。

バイエル　[Adolf van Baeyer]　(1835～1917)　ドイツの有機化学者。ベルリンの生まれ。ブンゼン*・ケクレ*に学んだ。ストラスブール大学・ミュンヘン大学教授。1880年色素インジゴ*を合成，その構造を決定しドイツ染料工業の基礎を確立した。また光合成の基礎的研究や環式炭化水素の安定度について〈バイエルの張力説〉を提出。このほか有機色素・ヒドロ芳香族化合物の研究など，有機合成化学に多くの業績を残した。1905年ノーベル化学賞を受賞。〔山下愛子〕

バイエルン　[Bayern]　西ドイツ南部の州。英語名はババリア。面積70,550km²，人口1,033万4,000(1968)。州都ミュンヘン。西ドイツ各州のうち面積はいちばん広く，人口密度は最も少ない。北東から南西に走る高原によって，北西部のマイン川流域と南東部のドナウ川流域に分かれているが，両川は運河で結ばれている。海抜高度はマイン川流域の一部を除いて一般に高く，気候は比較的寒冷で，雨量は地域差が大きい。ライ麦・大麦・小麦・ジャガイモの生産が多いが，小農がほとんどで，農業人口も多い。北西部ではブドウの栽培，南部ではウシの放牧や酪農が盛んである。工業はミュンヘン・ニュルンベルク・フュルト・アウクスブルク・ウュルツブルクなどの主要都市





ハイエナ　(上)ブチハイエナ　(下)シマハイエナ

に集中し，特にミュンヘンを中心とするビールは世界的に有名である。古くはケルト人が居住し，BC15年にローマ領となったが，788年カール1世に征服された。1180年から第1次世界大戦後の1918年まではウィッテルスバッハ家領となり，ワイマール共和国のもとでも独自の憲法と議会があったが，ヒトラーの政権が成立するに及んでこの独立性は失われ，代わってナチ勢力の中心地となった。住民の71％はカトリック教徒である。〔梶川勇作〕

はいえん　【肺炎】　一定の病原体によって原発性・続発性に肺間質・肺胞に生ずる肺の炎症。かつては肺炎双球菌*による大葉性肺炎(肺葉が一つまたは二つ以上冒されるもの)をさしていたが，最近では化学療法の発達で細菌による肺炎は減少し，代わってマイコプラスマ*・ウイルス*・真正菌類*による肺炎が増加している。二次的な肺炎として，沈降性肺炎(嚥下(えんげ)性肺炎)・術後肺炎などがある。症状ははじめは感冒などの軽い呼吸器症状の場合もあるが，多くは突然に始まり，悪寒(おかん)・発熱・胸痛・咳(せき)・喀痰(かくたん)，ときには呼吸困難・不安などを認める。治療は，安静・栄養・水分補給に留意し，高熱・胸痛・咳に対する鎮痛・下熱薬や鎮咳(ちんがい)薬の投与，また根治療法として化学療法，抗生物質の投与が必要である。〔佐野隆志〕

ばいえん　【煤煙】　工場・事業場などの施設から，燃料などの燃焼によって排出されるもので，すすその他の粉塵(ふんじん)，亜硫酸ガス・無水硫酸などからなり，単に黒煙などの可視的なものだけでなく，これに伴うガスも含めていう。産業の発達に伴う大気汚染*源の一つであり，1962年(昭和37)に制定された〈煤煙の排出の規制等に関する法律〉(いわゆる煤煙規制法)によって規制される。この法律は，事業活動に伴って発生する煤煙などの処理を適切に行ない，大気汚染による公衆衛生上の危害を防止しながら，産業の発達を図ることを目的とし，政令によって指定された地域に適用される。煤煙の防止手段としては，完全燃焼や除塵装置の設備，良質の燃料・原料の使用などがあるが，目に見えない浮遊粉塵やイオウ酸化物については，現状ではまだまだ汚染度が高い。〔金子義徳〕

はいえんそうきゅうきん　【肺炎双球菌】　肺炎球菌ともいい，1884年急性肺炎の原因菌として発見された。0.5～1.25 μの大きさで，代表的な双球菌である。グラム陽性のランセット型球菌が扁平(へんぺい)端で接着して双球状をなすか，ときに短い連鎖をつくる。べん毛も胞子をつくらないが，動物体内や条件のよい培地では特有の糖の組成をもつ莢膜(きょうまく)をつくり，その免疫学的特性によって多くの型に分けられる。好気性または通性嫌気性(けんきせい)菌で，血液寒天培地上に円形の集落をつくる。マウスの腹腔(ふくこう)内に注射すると敗血症で死ぬので，この方法で検査することもある。〔和気　朗〕

バイオニクス　[bionics]　1960年に生まれた新しい語で，日本語では生体工学と訳されている。J. E. ケートは〈生物学的原則と物理学的原則とを融合することによって技術の新しい開発をめざすもの〉と定義づけている。これは生体の中から工学的に活用されるものを，工学的研究から引き出していくことを意味している。しかし最近では，生体内の機能ばかりでなく，生体と環境とをいっしょにして扱われるように広く概念づけられてきている。〔松本忠夫〕

バイオリン　[violin]　ヨーロッパの代表的な擦弦楽器。約400年前に北イタリアで当時使われていたレベックやリラ-ダ-ブラッチォなどの楽器を融合してつくられ，今日まで基本的な構造は変わっていない。胴の表板とその裏側につけられた細長い棒，駒(こま)の振動を裏板に伝える小さな柱，音を外に伝えるf字形の穴などが音響的に重要であるが，さまざまな研究にもかかわらず，17～18世紀のイタリアのアマーティ・ストラディバリ・グァルネリらの作品をこえたものは製作されていない。バイオリンの弓の動かし方は音楽的な表現を決定するうえにきわめて重要で，弓で弦を押す圧力，弓の速さ，弓を弦の上に置く位置などが音量と音色をかなり決定する。左手は音程を決めるだけでなく，ビブラートによって音色を決める。また，ハーモニックスといって，高い倍音が出るように左手で操作したり，2本以上の弦を押えて和音をつくることもある。調弦は下からG(ト)，D(ニ)，A(イ)，E(ホ)の5度が原則であるが，スコルダトゥーラ(変則調弦)といった特殊な音程をつくることもバロック時代から現代まで行なわれている。バイオリンの製作は，バロックの弦楽器中心の合奏曲を生み，以後，





バイオリン
各部の名称

オーケストラの中心として活躍させることになるが，一方，バイオリン奏者によって名人芸も追求された。今日では，ビオラ・チェロ・コントラバスなどのバイオリン属の他の楽器を含めて学ぶ者の数が減少し欧米に限らず日本でも将来が心配されている。〔徳丸吉彦〕

はいが　【俳画】　俳諧(はいかい)的情趣を簡略な筆致で端的に表現した絵の総称。多くは図上に俳句がかな書きされ，中国の文人画が理想とした詩書画の一致を，日本的に実現しようとしたものである。俳画をよくした画家としては，英一蝶(はなぶさいっちょう)・彭城(さかき)百川・与謝蕪村(よさぶそん)らがいる。

はいかい　【俳諧】　⇨俳句

はいかいしちぶしゅう　【俳諧七部集】　芭蕉(ばしょう)の撰集(せんしゅう)のうち，《冬の日》《春の日》《曠野(あらの)》《ひさご》《猿蓑(さるみの)》《炭俵》《続猿蓑》の7部集をさす。芭蕉の作風の変遷を示す重要な撰集を集め，俳諧修業の規範としようとする目的で，享保(きょうほう)末年より柳居によって選定・刊行されたもの。安永期(1772〜1780)以降大いに流布し，《其角(きかく)七部集》《蕪村(ぶそん)七部集》などの類書の流行を生んだ。

ばいかいへんすう　【媒介変数】　いくつかの変数の間の関数関係を定めるために他の変数を用いるとき，その変数をいう。助変数・パラメーターともいう。$x=f(t)$，$y=g(t)$が，同じ定義域をもつ関係ならば，tのある値に対して定まるxの値に，同じtの値に対して定まるyの値を対応させることにより，xからyへの対応が定まる。すなわち，yはxの関数であると考えられる。このとき，tを媒介変数という。たとえば，楕円(だえん)$\frac{x^2}{a^2}+\frac{y^2}{b^2}=1$（$a>b>0$）は，$\theta$を媒介変数として，$x=a\cos\theta$，$y=b\sin\theta$（$0\leqq\theta\leqq2\pi$）と表わされる。〔青柳雅計〕

ばいかうつぎ　【梅花空木】　双子葉植物・ユキノシタ科。北海道を除く各地の山林に自生する日本特産の落葉低木。高さ2m内外で，二またに分枝する。葉は有柄で対生し，長さ5〜7cmの長楕円(ちょうだえん)形で縁



俳　画　与謝蕪村が海内無双と自負して，芭蕉の《奥の細道》全文を書写し，絵を挿入した《奥之細道図巻》(部分)



バイカウツギ

に荒い鋸歯(きょし)があり，先はとがる。6〜7月ごろ，枝頂に総状花序をつけ，5〜6個の白花を開く。がく片・花弁ともに4枚で，ウメに似る。

ばいかたなおろしほう　【売価棚卸法】　棚卸品の評価方法の一。商品棚卸を行なうにあたり，いちいち期末棚卸商品について原価を算定することが煩雑な場合に利用される。これは期首商品棚卸残高と当期仕入高につき値入額を求め，期末商品棚卸高は全部売価で計上し，これをさきに求めた値入額のパーセンテージで換算して原価に改める。売価棚卸法の利点としては，①現品棚卸が簡単かつ正確なものとなること，②帳簿による継続棚卸をすることもでき，商品計画の立案を容易にすることなどがあげられる。➔棚卸〔清水　晶〕

はいかつりょう　【肺活量】　深呼吸によって力いっぱい吸い込んだ空気を吐き出しうる最大量。1回の呼吸における換気量の最大値を示すものである。安静時の1呼吸で出入りする空気量(呼吸気)は，ふつう400〜500mlであるが，肺活量は成人男子で3,000〜4,000ml，成人女子で2,000〜3,000mlほどになる。肺には，息を吐き出したあとに1,000〜1,800mlの空気が残っており，これを残気という。なお，肺活量大小は年齢・身長・体位によって異なる。肺活量は，臨床医学的には呼吸器疾患患者の換気能力測定の検査項目の一つになっている。この測定に用いられる肺活量計には，回転式と円筒式とがある。〔平野修助〕

はいかのうしょう　【肺化膿症】　肺の化膿性炎症。肺の組織が局所的に死滅・崩壊して膿瘍(のうかい)(膿瘍(のうよう))を形成し，ときには内容が排泄(はいせつ)されて空洞(くうどう)を形成する。従来は臨床的に化膿菌が原因となり呼気に腐敗臭のないものを肺膿瘍，腐敗菌によって腐敗臭を伴うものを肺壊疽(えそ)として区別した。その発病の様式から病原菌が気管内を通って肺内にはいるものを気管支性肺化膿症とよび，上気道感染症，抜歯後，扁桃腺(へんとうせん)の手術後，催眠薬の中毒，昏睡(こんすい)，髄膜炎などにみられる。また，肺炎・肺癌(はいがん)などの経過中に起こるものを続発性肺化膿症，細菌が血流中にはいって肺で化膿巣をつくるものを血行性肺化膿症，肝膿瘍のような腹腔(ふくこう)内化膿巣から連続的に波及してくるものを波及性肺化膿症，外傷によるものを外傷性肺化膿症とよんでいる。症状は，発熱，胸痛，胸部不快感，咳(せき)や大量の膿性喀痰(かくたん)の排泄などを認める。近年は，大量の抗生物質の投与，外科的肺手術で90%以上が治癒(ちゆ)し，適正な化学療法・肺切除術でその治癒率は100%といわれるに至った。しかし，高齢者における診断・治療は必ずしも容易でなく，特に肺癌との鑑別が困難である。膿胸・大喀血・真菌症の合併をみることもある。〔佐野隆志〕

はいがまい　【胚芽米】　外皮はほとんど除くが，胚芽を多く残した精白米。胚芽付着率(粒数百分比)は，ビタミンB_1の必要量から考えると80%が望ましいが，胚芽の大きい米ならば約60%でよい。白米・半つき米より栄養価が高く，ビタミンB_1の含量は100gあたり約250mg。最近は強化米がつくられるので，需要は減少している。

バイカル(湖)　［Baikal］　ソ連，シベリ

ア中南部にあるユーラシア大陸最大の淡水湖。面積31,500km²。南北方向に細長く，長さ約650km，幅30～70kmで，湖岸線の延長は2,200kmに達し，また最深点1,742mの世界最深の湖である。水面の海抜高度が455mなので，海水下1,200m以上の深さを有している。また透明度も40.5m（1911年観測）と大きく，かつては日本の摩周湖の41.6m（1931年観測）に次ぎ世界第2位であったが，近年摩周湖の透明度が30m前後に低下したことから，現在では世界一透明度の高い湖になっている。第三紀の中ごろに断層による地溝（ちこう）にできたもので，周囲は急傾斜になっている。湖の大半はブリヤート自治共和国に属し，モンゴル人民共和国から流出するセレンガ川など約300の河川が注いでいる。湖水は南西部からアンガラ川となって流れ出し，エニセイク付近でエニセイ川に合流して北極海に注ぐ。湖中にオルホン島など約30の島がある。水温は，夏に中央部で表面が9～12℃，深層で3.2℃，11月から4月ごろまで結氷し，氷の厚さは最大130cmほどになり，そりが湖上交通に用いられる。湖によって付近の気候は著しく緩和され，シベリアの他の地方より冬は温和で，夏は冷涼である。船舶の航行可能期間は7～8か月間で，セレンガ川を通じてモンゴル人民共和国との間に舟運の便がある。湖名は，ブリヤート語で〈魚の豊かな湖〉の意で，オームリなどサケ・マス類の漁業が行なわれるが，約1,800種の動植物がみられ，このうち約4分の3は固有種である。西南岸のアンガラ川沿岸はバイカル工業地帯として発展途上にあり，イルクーツクはその中心都市となっている。〔長津一郎〕



バイカル湖　湖の南西岸，アンガラ川の流出地点にあるリストビアンカ港。桟橋には貨客船が停泊し，木材も集積されている

はいがん【肺癌】　気管支粘膜上皮に発生する癌。肺に発生する原発性肺癌と，他の臓器から肺に血行性・リンパ行性・浸潤性に転移する転移性肺癌とがある。原発性肺癌の原因についてはまだ決定的なものはないが，放射性物質やクロム・ニッケル・アスベストなどの化学物質と職業癌との関連，結核の石灰化巣，慢性の肺感染症，ホルモン，遺伝的素因などが論じられており，最近ではタール・ガソリン排気・たばことの関連が大きな問題となっている。原発性肺癌の肺外転移は，脳転移が最も多く30～40％を占め，次いで副腎（ふくじん）・骨・肝臓などである。転移性肺癌の原発部位は，乳腺（にゅうせん）・腎臓・副腎・甲状腺などが多く，舌・喉頭（こうとう）・唾液腺（だえきせん）の腫瘍（しゅよう），絨毛（じゅうもう）上皮腫はほとんど100％近く肺に転移するといわれる。咳（せき）・喀痰（かくたん）・呼吸困難・肋間（ろっかん）神経痛様症状・喀血・貧血，ときには発熱などの一般呼吸器症状を呈する。治療は対症療法をしながら外科的に切除する方法，放射線照射，制癌薬投与，ホルモン療法などがある。発生部位，発育速度，転移の有無によって予後は異なるが，経過は一般に潜在期間が長く，症状が出てからは比較的短い。なお，生存期間は半数近くは6か月以内，大部分は1年以内といわれている。➔癌〔佐野隆志〕

はいきしゅ【肺気腫】　肺が過剰に膨張した状態が長く続き，その結果肺の末梢（まっしょう）組織が伸展・萎縮（いしゅく）して弾力性が失われ，血液の循環障害，換気不全などを起こしている病的状態をいい，通常は慢性肺気腫をさしていう。ウイルス感染症・慢性上気道感染症・喫煙・大気汚染などが原因となり，また先天性素因も問題とされているが，まだ十分な解明はなされていない。症状は運動時に息切れが起こり，進行するにつれて，呼吸困難・頭痛・不眠・チアノーゼ*などが現われる。治療としては，慢性気管支炎に対する対策，感染防止，禁煙などに留意し，気管支拡張剤・喀痰排泄（かくたんはいせつ）促進剤（結痰剤）・副腎（ふくじん）皮質合成ステロイド剤などの投与，さらには間欠的陽圧呼吸療法・人工気腹療法などを行なう。〔佐野隆志〕

ばいきゃくるい【倍脚類】　節足動物の一綱で，ヤスデ類ともいう。➔ヤスデ

はいきゅうちゅう【肺吸虫】　扁形（へんけい）動物・吸虫綱に属する寄生虫。肺臓ジストマともいう。独立種として認められているものは6種をこすが，ヒトに寄生するのはウエステルマン肺吸虫で，狭義の肺吸虫は，ふつうこの種をさす。成虫は体長7～15mm，厚さ3.5～5.5mm，体幅5mm前後で背面が膨隆し，コーヒー豆のような形である。アジア各地に広く見られるほか，アフリカ・エクアドルなどにも分布する。成虫は肺に虫嚢（ちゅうのう）をつくって生活する。卵は黄金色でふたがあり，宿主の喀痰（かくたん）とともに排出されるほか，糞便（ふんべん）中にも見られる。最初の幼生ミラシジウムは水中で第1中間宿主のカワニナ*に侵入し，その体内で変態してスポロシスト→レディア→娘レディア→セルカリア幼生となる。第2中間宿主はモクズガニやサワガニ*で，セルカリアはそのえらや筋肉内などでメタセルカリアとなる。このようなカニなどを食べることによってヒトに感染する。幼虫は宿主体内を移行して肺に寄生するが，ときに心嚢・中枢神経系・皮下などに迷入する。多数の肺吸虫が寄生すると，せき・血痰などの症状を起こし，ときには喀血するため，しばしば肺結核と誤られる。重要臓器に迷入寄生した場合には死亡することもある。治療剤は現在ではビチオノールが特効薬として用いられる。予防にはモクズガニの食用禁止が効果的であるが，糞便の合理的処理，家畜などの感染防止および集団検診・駆虫などが重要である。〔山本　久〕

はいぎょ【肺魚】　硬骨魚類のうち，乾期になると泥中（でいちゅう）で肺と同じような機能のあるうきぶくろで呼吸する一群。現在種として，中央アフリカにプロトプテルス，南アメリカにレピドシレン，オーストラリアにネオセラトダスの3種が知られている。体長はともに約1mほどに達する。ネオセラトダスは乾期になって水が干上がると，地表で空気呼吸をするが，前2者は泥中に粘液で壁をつくり，その中で乾期を過ごす。化石はデボン紀に出現し，二畳紀末にかけて著しく分化した。

バイキング　⇨ノルマン人

バイキングりょうり【バイキング料理】　8～11世紀ごろ，北ヨーロッパの海に出没したバイキングの名をとった北欧ふうの料理をいう。ニシンの酢づけ，サケの冷製や薫製，ウナギのゼリー巻き，イセエビやカニのカクテル，カモの冷製，トナカイのロースト，ローストビーフ，独特のレバーペースト，シチュー，サラダ，チーズ，デンマークふうの菓子など数十種類の料理を豪華に盛りつけて一卓に並べ，各自が好きなだけ取り分けて食べる。わが国では1958年（昭和33）東京の帝国ホテルでインペリアル-バイキングと称して北欧スカンジナビアふうの料理をビュッフェ形式にし，一定料金で食べほうだいとしたのがはじまり。現在では北欧料理と限らず，一般にビュッフェ形式にした料理を一定料金で自由に食べさせるという意味に用いられている。〔泉　敬子〕

はいきんりょく【背筋力】　直立したままで前方に傾けた上体を起こすときに出しうる最大の力。握力*とともに，筋力測定によく用いられる。背筋力計によって，前屈位から上方に物を持ち上げることのできる重さではかられ，平均値としては，青年男子で140～150kg，女子で80～85kgである。

はいく【俳句】　⇨次ページ

はいぐうし【配偶子】　動物や植物のからだでつくられる細胞の一種で，特に合体や接合をして新しい個体をつくる生殖細胞をいう。配偶子は大きさ・形・運動性などによっていろいろと区別される。原生動物が合体するとき，1個体が分裂しないでそのまま配偶子となる現象をホロガミーとい

➔477ページ

俳　句

文芸形態の一。原則として季語を有し，5・7・5の17音を定型とする短詩。季語をもたないものを無季俳句とよび，定型からはずれたものを破調という。

【名称】俳句という名称が17音短詩型の名称として一般化するようになったのは近代以後のことで，江戸時代には〈俳諧(はいかい)の句〉の略称として発句・連句を通じときたま用いられたにすぎない。その最も早い使用例は1663年(寛文3)の《尾蠅集(びようしゅう)》に見える。近代にはいると，1877年(明治10)前後から諸雑誌に発句をさして俳句とよぶ傾向が見えはじめるが，特に正岡(まさおか)子規は文学革新の対象として発句を取り上げ，これを連句から切り離した個の文学としての自覚のもとに俳句とよんだ。子規がはじめて俳句の名称を用いたのは1888年だが，当初は俳句・発句の名称を併用しており，完全に俳句の名称に統一するようになるのは1897年ごろからで，これが今日の俳句の名称の起こりである。

【俳句前史】俳句の歴史のまえには俳諧の歴史があり，さらにそのまえには連歌の歴史がある。俳句の特性の多くはそれらの前史の中で形成されてきた。

連歌は，5・7・5の長句と7・7の短句とを交互に付け連ねて1巻を完成する合作文芸で，その巻頭の句を，発端の句という意味で，発句という。連歌を構成する各句は，和歌の上の句・下の句とは違って，それぞれ独立性をもつことが必要とされたが，特に発句は巻頭の句として，〈たけ高く幽玄に〉，つまり1巻を統率するにふさわしい句がらの大きさと，1巻の変化を導き出す余情の深さとを備えるべきことが要請された。発句に詩としての独立をもたらす大前提となったものは，そうした連歌における特別な要請であったといってよい。川柳はこれとは違って，連句中の平句(ひらく)から出たもので，両者の品格の相違もここに由来する。

合作文芸である連歌の巻頭の句としての発句にはまた，一座へのあいさつとして，必ずその時節，その場の景物を取り上げてよみこむべきことが要請された。これが季語の起源である。季語は単に季節を指示するにとどまらず，その景物の最も本質的な情感をとらえるものとして，和歌・連歌・俳諧にわたる長い歴史の中で詩情の厚みを加え，作者と読者との詩的共鳴をよびさます基本的媒体となった。近代俳句の一部に無季俳句が提唱されたのも，季語の因襲化を排し，無季感の世界にまでその領域を広げようとした結果であって，季語そのものを否定しようとしたものではない。

他方，発句はわずか17音の極度に圧縮された短詩型をもって，〈たけ高く幽玄に〉という巻頭句としての要請にこたえるため，切れ字による独特の表現技法を発達させた。切れ字は文字どおり句を切るための措辞で，句を切断することによって，その屈折した不完全な表現を補完しようとする読者の想像を誘発し，表現ゼロの空間において無限の余情を喚起しようとするものである。その表現はつねに二重・三重の響きを伴っている。切れ字は発句表現の生命をなすものとして，連歌・俳諧においては秘事に扱われて18切れ字説などを生んだが，芭蕉(ばしょう)は〈切れ字に用いる時は48字みな切れ字なり〉と喝破(かっぱ)した。近代俳句では伝統的な切れ字の使用を意識的に避ける傾向もあるが，その精神はこの芭蕉の考え方に添っている。

俳諧は，伝統的な和歌・連歌の正統性に対する異端の文学として誕生したもので，俳諧という文字が示すように，その詩的特質は滑稽(こっけい)すなわち〈おかしみ〉にある。したがって俳諧の発句にもまた当然笑いの性格が加わった。笑いは，これまで正統として公認されてきたものを否定し去る新しい精神と，物事を斜めから見ることによって正面から見すえるのとは違った価値を発見しようとする自由な姿勢に由来する。戦国乱世の刹那(せつな)的享楽主義を背景として誕生した俳諧の笑いは，文化的伝統をもたない武士や庶民の心をとらえ，新興文芸としてめざましい展開を遂げたが，貞門俳諧・談林俳諧期まではその笑いはなお，だじゃれ的なことばの遊びの域を出なかった。

この小さな異端の詩の可能性の追求にすべてをかけ，これを人生的な象徴詩にまで高めたのは芭蕉である。笑いは，芭蕉にあっては，自然と人生の極点をたえず新しい目でとらえなおそうとする心の問題となり，その隠微な笑いの奥には詩心を同じくする連衆(俳諧の仲間)たちへの呼びかけを含む。

芭蕉没後の俳諧は，詩心を置き去りにしていたずらな笑いを求め，新奇と低俗に流れたが，その後16世紀後半，蕉風の復古をめざした中興期を迎える。その中から出た蕪村(ぶそん)は，自然と人生の閑寂境に深まった芭蕉とはまた別に，画人としての目と豊かな文化的教養をもって，洒脱(しゃだつ)な笑いに基づく写実的で豊麗な幻想の美を繰り広げた。

中興期以後の俳諧は，蕪村とは対照的に生活に密着するゆがんだ笑いに特異な個性を発揮した一茶を除いては，雪月花のながめに託して機知的なひねりをもてあそぶ陳腐な風流趣味に堕し，さらに明治にはいっては文明開化の風潮の中でその存在理由を主張すべく，これに道学的教訓臭をも加えて，詩としての生命を失った。

【俳句の新生】子規は，発句につきまとうこうした旧弊な風流趣味や道学臭を退け，西欧的文学観に基づいてこれを個人の感情を表現する短詩として新生させるべく，連句から切り離して名称も俳句とよび変えるとともに，西欧の絵画論に学んだ写生の理論を導入し，ここに近代俳句の路線を決定した。

子規の写生説は，白紙の自己を現実に直面させて実景をありのままに写生すべきことを力説した初期の主張に始まり，蕪村の句の絵画性の推重を経て，晩年には表現の客観性を強調して空想による発想をも肯定するに至っている。この子規における徹底した客観写生の方向を発展させたのが河東碧梧桐(かわひがしへきごとう)であり，またその浪漫的・主情的傾向を継承したのが高浜虚子である。前者は新聞《日本》により，後者は雑誌《ホトトギス》によって，近代俳句の二大潮流を導いた。

碧梧桐は，当時の自然主義文学思潮の影響下に，近代的自我に裏づけられた個性的実感の詠出を唱道して新傾向俳句運動を積極的に展開し，これに同調した荻原井泉水(おぎわらせいせんすい)・中塚一碧楼(なかつかいっぺきろう)らはさらに碧梧桐を乗り越えて，季語や定型にとらわれることなく，感動のリズムにしたがって自由に表現すべきことを提唱し，自由律俳句運動を展開した。しかし，これらはいずれも句境に行きづまりを呈し，プロレタリア俳句や口語俳句の先駆としての役割を果たしながらも，ついに俳壇の主流となることなく，大正末期までにその生命を終わった。

新傾向に対し伝統派としての立場をとった虚子は17音定型と季語を尊重し，いわゆる〈花鳥諷詠(ふうえい)〉説を唱えて広く俳人大衆を包容し，近代俳句の主流に立った。虚子に学んだ水原秋桜子は，《ホトトギス》の客観写生の瑣末(さまつ)化に反発し，新しい叙情の回復をめざして同派を離脱，近代的事象の即物的把握(はあく)と知的構成によって，俳句の変革を志す山口誓子と並んで新興俳句運動を展開する。人間の生き方を作句の根本に考える点で，《ホトトギス》系の中村草田男(くさたお)とともに，人間探求派とよばれた石田波郷・加藤楸邨(しゅうそん)らは，この秋桜子の門から出た人々である。

第2次世界大戦後の俳句界は，1946年(昭和21)に発表されたフランス文学者桑原武夫(たけお)の〈第二芸術論―現代俳句について〉を契機として，伝統と新興とを問わず，俳句とはなんぞや，俳句ははたして近代文学たりうるかといった根本課題と取り組み，さまざまな実作と理論を試みて今日に至っており，子規以前の俳諧の歴史にあらためて問いなおす必要に迫られている。

〔尾形　仂〕

い，このような配偶子は大きさも形も違いがない同型配偶子であり，ホロガメートとよばれる。これに対しメロガミーとよばれる現象は，合体する配偶子が分裂によって生じ，普通の個体よりも非常に小さい場合で，このような配偶子はメロガメートという。同型配偶子に対して異型配偶子といわれるものは，合体する配偶子の間になんらかの区別のあるときで，これの発達したものが後生動物の場合のように，一方が精子，他方が卵とよばれる。〔蒲原春一〕

はいぐうしゃこうじょ【配偶者控除】⇨扶養控除

はいけっかく【肺結核】⇨結核

はいけつしょう【敗血症】種々の細菌の感染によって体内に病巣が形成され，そこから病原菌が血液中に侵入して起こる全身感染症。病原細菌の種類，侵入部位，毒力などによって病状は異なる。連鎖球菌・ブドウ球菌によるものが多く，原病巣としては，化膿(かのう)した傷，産褥(さんじょく)子宮，中耳炎，むし歯，癤(せつ)など種々ある。一般的症状は，悪寒戦慄(おかんせんりつ)を伴う高熱，多量の発汗，心悸亢進(しんきこうしん)，呼吸促迫，四肢痛(ししつう)などで，皮膚蒼白(そうはく)，チアノーゼを呈し，種々の発疹(はっしん)や出血斑(はん)をみることもある。病原菌の侵入部位の除去，サルファ剤や各種の抗生物質によって治療するが，最近では耐性菌の出現によって難治のものがふえてきた。

はいげつてい【拝月亭】中国，元代に南方で発達した南戯という戯曲の一。作者は施恵という説がある。関漢卿(かんかんけい)の雑劇《閨怨(けいえん)佳人拝月亭》の影響を受けたところが多い。読書人の蔣世隆(しょうせいりゅう)・蔣瑞蓮(しょうずいれん)の兄妹と兵部尚書(しょうしょ)の娘の王瑞蘭(おうずいらん)，左丞(さじょう)の子の陀満興福(とまんこうふく)の4人が悲喜こもごも離合を重ねる曲折を経て2組みの夫婦が誕生するという筋で，蔣世隆と王瑞蘭の恋愛が中心となっている。《琵琶記(びわき)》と並んで南戯の二大傑作。〔今村与志雄〕

ハイジ ⇨アルプスの山の少女

ばいしつ【媒質】波動を伝えるもの。たとえば空気中を伝わる音波の媒質は空気であり，水面の波の媒質は水である。光や電波などの電磁波は真空中でも伝わるが，その媒質は空間である。かつては，エーテルと名づけられた特殊な弾性体が空間を満たしており，その弾性によって電磁波が伝えられるとする考え方があったが，現在は否定されている。なお，空間のある場所から離れた場所になんらかの作用が伝わる場合に，その仲立ちをする物質または空間を媒質ということがある。

バイジット［baycid］殺虫剤の一。1959年バイエル社によって創製された低毒性有機リン剤。熱や光線による影響が少ない。蒸気圧が低く，化学的にも物理的にも安定しているため残効性が高く，パラチオン剤に代わる農薬として広く普及している。ニカメイチュウ・カラバエ・ツマグロヨコバイ・カメムシ類・シンクイムシ類・アオムシ・アブラムシ類などに効果がある。

はいしゃ【背斜】⇨褶曲(しゅうきょく)

バイシャ ⇨カースト

はいしゅ【胚珠】種子植物の雌蕊(しずい)(めしべ)の子房内に生じ，あとに種子となる器官。胚嚢(はいのう)およびそれを包む珠心と2層の珠皮からなるが，裸子植物では心皮内に包まれず裸出している。珠孔という小さな穴があいており，花粉管はこの穴を通って珠心に到達する。被子植物では花粉管の中の雄性核は2個あるが，1個は珠心の中の卵細胞と，もう1個の雄性核は極核と受精する。このような現象を重複受精という。胚珠の胎座についている部分を珠柄というが，珠孔と珠柄の位置関係から①直生胚珠(珠孔が珠柄と正反対にあるもの)，②湾生胚珠(珠孔が珠柄の直角の位置にあるもの)，③倒生胚珠(珠孔が珠柄と同じ側にあるもの)に分けられる。〔加藤僖重〕

はいしゅつ【排出】排泄(はいせつ)ともいう。生物が代謝産物の不用な物質や有害な物質を体外に出すこと。タンパク質などに由来の含窒素化合物の処理がおもで，腎臓(じんぞう)などの排出器により，尿などとして排出される。

はいしゅつき【排出器】排出をつかさどる器官。排泄器(はいせつき)ともいう。動物はそれぞれの種によって構造や名称は異なるが，排出器を有している。脊椎(せきつい)動物の腎臓(じんぞう)，軟体動物のボヤヌス器，こん虫類のマルピーギ管，クモ類の脚基腺(きゃくきせん)，甲殻(こうかく)類の小顎腺(しょうがくせん)・触角腺，棘皮(きょくひ)動物の変形細胞，頭足類の腎嚢(じんのう)，環形動物の腎管，扁形(へんけい)動物の原腎管などがある。また，下等な水生動物では特別な排出器はないが，原生動物は収縮胞で，海綿動物・腔腸(こうちょう)動物は体表で排出する。哺乳(ほにゅう)類の汗腺や魚類のえらなども排出の働きをする。

はいしゅよう【肺腫瘍】肺に生じた腫瘍の総称。増殖力が弱くて生体への悪影響が少ない良性腫瘍と，増殖力が著しくて生体にはなはだしく悪影響を及ぼす悪性腫瘍とがある。良性腫瘍は比較的少なく，臨床症状を示さないことがあり，組織学的には，類皮嚢胞(るいひのうほう)・腺腫(せんしゅ)・繊維腫・脂肪腫・軟骨腫・骨腫・血管腫などに分類されている。悪性腫瘍としては肺癌(はいがん)が最も多く，肺肉腫はまれである。肺肉腫は小児・若年者にみられ，転位を起こしやすく，完全に摘出しなければ予後は絶対に不良である。〔佐野隆志〕

ばいしゅん【売春】実利を得る目的で不特定の相手と性交すること。売色・売笑・売淫(ばいいん)などともいう。古くは，古代ローマのベスタ神殿の聖女にみられ，宗教的行事と密接な関係をもつ接待売春などがある。日本では，熊野(くまの)三山などの御山巫子(みやまみこ)が各地を遍歴しながら売春を行なった。その後，《万葉集》にみられる遊行婦女(浮かれ女(め))や平安時代の白拍子，さらに鎌倉幕府による管理売春の統制などを経て，宿駅や門前町に売春婦が増加し，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の京都島原(遊郭)の設立によって公娼(こうしょう)の出現に至った。江戸時代では，徳川家康(いえやす)が吉原(よしわら)に公娼を置いてから各所に遊郭が生まれたが，一方夜鷹(よたか)・辻君(つじぎみ)・比丘尼(びくに)・湯女(ゆな)・船饅頭(ふなまんじゅう)などの私娼も発生した。明治以降になると，ようやく取り締まりの動きも出はじめ，1872年(明治5)娼妓(しょうぎ)解放令，1946年(昭和21)GHQによる公娼廃止指令を経て，廃娼運動は盛り上がり，1957年売春防止法が施行された。

はいじゅんかん【肺循環】血液が心臓から肺を経て，再び心臓にもどる間の循環経路。体循環を大循環とよぶのに対し，小循環ともよばれる。ヒトでは心臓の右心室から肺動脈が1本出て，しばらくして2本に分かれ，左右の肺に向かって走っている。肺門から内部にはいり，細い肺毛細血管網となって肺胞壁を介して炭酸ガスを放出し，呼吸によって得られた酸素を受け取り，酸素を多量に含んだ動脈血となって肺静脈から左心房にもどってくる。肺循環に要する時間はふつう3～4秒で，体循環がほぼ1分必要なことと比べると非常に短い。なお，両生類以下では体循環と肺循環の区別はない。〔高野一雄〕

ばいしゅんぼうしほう【売春防止法】売春行為を防止する法律。1956年(昭和31)5月公布。翌年施行。本法では売春を〈対償を受け，または受ける約束で，不特定の相手方と性交すること〉とし(2条)，その助長行為に対する罰則，売春婦に対する補導処分(婦人補導院の設置)，売春を行なうおそれのある女子に対する保護厚生措置などを規定し，また，売春を目的とする勧誘・周旋・対償収受・前貸し・場所提供などの処罰を定めているが，売春行為自体およびその相手となることに対する処罰規定はない。その立証が困難であるため秘密売春が跡を断たず，ざる法との指摘もある。〔井上公耳〕

はいしょ【肺書】⇨書肺

ばいしょう【焙焼】鉱石の性質を改善するため，適当な温度に加熱して化学変化を起こさせる処理法。酸化焙焼・硫酸化焙焼・塩化焙焼などがある。化合水・炭酸塩の分解，イオウ・ヒ素などの揮発性不純物の除去などを目的とするが，同時に磁力選鉱の前処理としての磁化，湿式製練の準備などの目的を兼ねることが多い。

はいしょううんどう【廃娼運動】売春廃止をめざした社会運動。1872年(明治5)娼妓解放令が出されたが，公娼制度は貸座

敷の名称で依然として存続した。やがて自由民権運動*期にはいり，人権思想・婦人解放論の影響で廃娼論が台頭。1900年娼妓の自由廃業を援助したアメリカ人宣教師モルフィの提訴が名古屋地方裁判所で勝訴したのを機に，山室軍平らの救世軍*，新聞のキャンペーンによって廃娼運動は全国的に発展した。しかし一方自由廃業は認めながらも，大審院は前借金の返済を命じたため，公娼制度はかえって強化されることとなった。1901年安部磯雄*(あべいそお)らによって廓清会が結成され，その後大正デモクラシー*の影響もあって，15県で廃娼が実現した。しかしこれらは公娼の私娼化にすぎなかった。なお，1926年(昭和1)には廓清会とキリスト教婦人矯風(きょうふう)会が合併して廃娼連盟が結成された。1946年GHQ*は公娼制度の廃止を指令したがこれを黙認したため，政府は必要悪の名のもとに赤線区域*を設定してその温存を図った。しかし，婦人議員の国会進出，婦人団体の根強い運動によって，1956年売春防止法*が成立し，1957年公娼制度はついに全廃した。〔高崎徳次〕

ばいしょうせきにんほけん【賠償責任保険】 損害賠償責任保険ともいう。個人または企業が，他人を死亡させたり，その身体に傷害を与えたり，あるいは他人の物または財を，滅失・毀損(きそん)・汚損などさせたりした場合に負担すべき法律上の損害賠償責任を保険するもの。つまり一定の損害賠償をするべき法的責任を負ったときにこうむる損害を塡補(てんぽ)する保険である。この保険は加害者側の経済的破綻(はたん)を救う目的で作成された保険であるが，被害者が加害者に対し賠償請求を行なっても，加害者にその賠償額を満足させるだけの経済的資力がないときは，被害者の賠償請求は実現しない。このようなとき被害者を救うための保険としてもこの保険は効力をもつ。〔庭田範秋〕

はいじょうみゃく【肺静脈】 ⇨静脈

ばいしょうろ【焙焼炉】 金属の硫化物・ヒ化物などからなる鉱石類を溶融点以下の高温に熱して，鉱石中に含まれている不純物としてのイオウやヒ素を酸化物として気化除去させることを主たる目的とする炉。焙焼鉱石や用途によってさまざまな型のものがあるが，回転炉・反射炉・多段床炉・流動層炉などに類別される。回転炉は燃料として固体燃料あるいはガスを用い，十分な空気を供給しながら素材を焼く。反射炉は，燃焼室と加熱室とで構成され，燃焼室で生じた熱流を加熱室の天井にぶつけ，その反射熱で装入原料を加熱する。多段床炉は，炉床が多段に分けられ，上部から装入された鉱石は攪拌(かくはん)されながら下降し，各段で加熱状態を調整する。流動層炉は，下方から空気とガスを吹き上げ，粉鉱石を沸騰液体のように流動させながら焙焼する。〔秋枝哲児〕

ばいしょうろん【梅松論】 南北朝時代の歴史物語。1349年(正平4・貞和5)ごろの成立。北野の毘沙門(びしゃもん)堂で，参詣人(さんけいにん)を前にして，老僧が自己の見聞を語るという形式をとり，鎌倉幕府の治績から説き起こして，元弘(げんこう)の乱*・建武中興*を経て新田義貞(にったよしさだ)の金ケ崎城落城までを史実に沿ってしるしている。政権を掌握した足利尊氏(あしかがたかうじ)の繁栄を祝うなどの点から作者は足利氏と関係のある知識人と推定される。

はいしんじゅん【肺浸潤】 胸部X線写真上，肺野に形・境界の比較的不規則・均等な薄い陰影を認めた場合，あるいは柔らかい小斑点(しょうはんてん)状陰影の集合を認めた場合，これをX線学的に肺浸潤とよぶことがある。原因はいろいろなものが含まれるが，一般には肺結核(→結核)の初期に肺門部の変化(リンパ腺腫脹(せんしゅちょう))が認められず，おもに第1肋間腔(ろっかんこう)，ないしは鎖骨の下部付近に前述のような陰影が出現する場合をいうことが多い。このような結核菌*感染による肺浸潤では，治療を加えずにおくと病巣は進展し，半数近くは空洞*(くうどう)を形成するといわれている。このほか原発性非定型肺炎(異型肺炎・マイコプラスマ肺炎)にみられる一過性肺浸潤とよばれるものや，野兎病*(やとびょう)のときにみられるツラレミア肺浸潤とよばれるものなどがある。なお肺浸潤ということばは，現在正式病名としては使われていない。〔佐野隆志〕

ばいしんせい【陪審制】 裁判官とは別に，国民の中から選出されたしろうとの陪審員が，被告人の起訴*または審判を行なう裁判制度。刑事裁判に国民を関与させて官憲の独善を排し，民主的な裁判を行なうことを目的とする。刑事事件について，陪審員が起訴を行なうものを起訴陪審または大陪審といい(イギリスでは1933年廃止)，民事・刑事事件について審判を行なうものを審理陪審または小陪審という。英米法系の諸国に発達したもので，陪審による裁判の場合には，裁判官は訴訟*の進行や法律上の指示を与えることはできるが，犯罪事実の認定は陪審員の評議によって決定される。わが国では1923年(大正12)に陪審法が制定されたが，陪審を辞退する被告人が多く，あまり成果があがらないまま，1943年(昭和18)廃止された。なお，第2次世界大戦後できた検察審査会制度は，起訴陪審を修正して採用したものといえる。〔井上公耳〕

はいすいとう【配水塔】 使用水量の時間的変化に応じて配水量や配水圧を調整するために，地上に高く築造した塔状の構造物。配水塔の有効容量は配水池に準ずべきであるが，実際には大容量のものをつくることはまれで，塔の総水深は20m程度を限度としている。また配水量や配水圧を調整するため高い支台の上にタンクを設けたものは高架タンクといい，高架タンクの水深は3～6mを基準としている。配水塔・高架タンクは，鉄筋コンクリート造・プレストレストコンクリート造，または鋼製で，覆蓋(ふくがい)を設けて雨水の侵入その他外部からの汚染を防止できるようになっている。なお配水塔・高架タンクは高さ8m以上になると工作物とみなされ，建築基準法の適用を受ける。〔武田登作〕

はいすいりょう【排水量】 船が水に浮いている状態で，船体が排除した水の重量。これをトンで表わして船の重量とし，排水トン数という。イギリス式では2,240ポンド，メートル式では1,000kgが1トン。貨物を積むと排水量が変わるので，満載喫水に相当するものをさす。軍艦の大きさを表わすのに用い，商船では一般に総トン数*か載貨重量トン数*を用いる。➜トン

ばいすうひれいのほうそく【倍数比例の法則】 1803年にドルトン*によって見いだされた法則。2種の元素が二つ以上の化合物をつくる場合，一方の元素の一定量と化合する他方の元素の質量の比は，簡単な整数比になるというもの。たとえば炭化水素C_2H_2，C_2H_4，C_2H_6，CH_4において炭素12gと化合する水素の量は，順に1，2，3，4gで1：2：3：4の整数比をなしている。これからドルトンの原子仮説が生まれた。

ハイゼ［Paul Heyse］(1830～1914) ドイツの小説家。ベルリンの生まれ。多才な文章家であったが，主として短編小説の分野で成功を収めた。作品は耽美(たんび)的傾向が強く，そのために時代の社会関係を的確にとらえたり，リアルに描くことはできなかった。根元的な愛情の秘密を描いた処女作《ララビアータ》は傑作で，たちまち彼の名声を高めた。長編小説・戯曲・翻訳などにも活躍し，1910年ドイツの作家で最初のノーベル文学賞を受賞した。〔横溝政八郎〕

はいせつ【排泄】 ⇨排出

ばいせんせんりょう【媒染染料】 繊維に対して直接染着する能力をもたず，媒染剤の仲介によりはじめて染着する染料の総称。アリザリンがその代表。化学構造的には染料分子の適当な位置に隣接して2個の水酸基をもつのが特徴で，これが媒染剤(クロム・アルミニウム・鉄・銅・スズ・カルシウムなどの水溶性塩類)と繊維上で作用して不溶性の金属錯塩(レーキ)を形成して染着する。アリザリンをアルミニウムで媒染したトルコ赤が有名である。媒染染料は堅牢(けんろう)度が高く，また媒染剤の金属の種類によって色調を異にするなどの特長があるが，染色操作に熟練を要することなどや染色の容易な合成染料が多数出現したため，現在では実用的価値はない。〔稲田正作〕

ハイゼンベルク［Werner Karl Heisenberg］(1901～1976) ドイツの理論物理学者。ミュンヘン大学でゾンマーフェルト*に師事，のち，ゲッチンゲン大学，コペンハー

ゲンのボーア*のもとで研究をした。ライプチヒ大学・ベルリン大学教授，マクス-プランク研究所長を経てゲッチンゲン大学教授。量子力学*の建設者のひとりで，特に行列力学の建設や不確定性関係の提唱などで知られる。また，パウリ*とともに場の量子論を発表し(1929)，原子核が陽子と中性子からなることを述べ(1932)，さらに，強磁性の理論，宇宙線の分析，場の理論の限界など，多くの問題に指導的役割を演じている。最近では非線型理論の提唱が知られている。多くのすぐれた研究者を育て，啓蒙(けいもう)書も多い。1932年ノーベル物理学賞を受賞。
〔藤村　淳〕

はいぞう　【肺臓】 ⇨肺

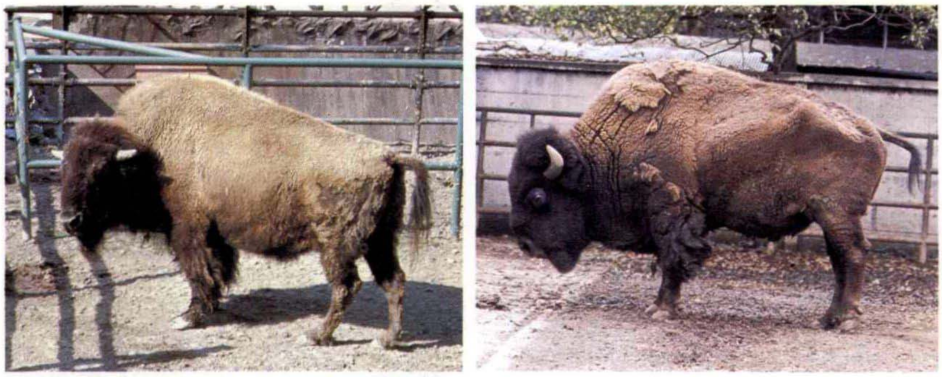
はいぞうジストマ　【肺臓ジストマ】 ⇨肺吸虫

バイソン　[bison]　哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・ウシ科。ヨーロッパバイソンとアメリカバイソン(バッファロー)が含まれる。前半身に長毛があり，尾の先にも長毛がある。頭は短くて幅が広く，角のつけ根と目が近い。角は雌雄ともにあるが小さい。ヨーロッパバイソンは大形で，肩高1.8mほど，体は茶色。昔は北ヨーロッパからカフカスまでの森林に広く分布していたが，現在ではポーランドのビーロビーザ森林などに少数が残存するのみである。アメリカバイソンは，肩高1.7mほどで，体は黒茶色。北アメリカの平原に群をなしてすむ。もとはたくさんいたが，その後乱獲のため減少し，一時絶滅を心配された。〔今泉吉典〕

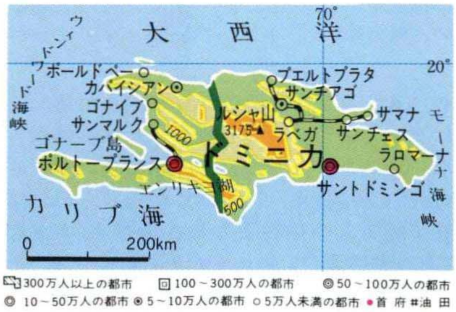
はいたか　【鷂】　鳥類・ワシタカ科。全体の羽色はツミ*に似るがより大形で，ハイタカの雄とツミの雌がほぼ同大である。雄は上面灰紺色，下面はかっ色。雌は雄に似るが一般に雄より大きい。アジア北部からヨーロッパにかけて広く分布し，日本では北海道と本州の平地から低山帯の森林で繁殖し，おもに森林内で小鳥類を狩る。

はいたつしょうめい　【配達証明】　郵便物を配達，または交付した事実を証明する制度。1892年(明治25)，郵便物が受取人に配達されたかどうか差出人が知りたいが，その通知を受取人からは期待できない場合，また郵便物が受取人に配達されたことの証明が必要な場合などに利用される。取り扱いは，書留郵便物に限られ，表面の見やすいところに〈配達証明〉と記載しなければならない。また，郵便物を差し出したあとでも，差し出しの日から6か月以内ならば配達証明とすることができる。この制度を利用する際は配達証明料を支払わねばならない。
〔高橋譲二〕

ばいたらようほん　【貝多羅葉本】　インド・セイロン・ビルマ・パキスタンなどで，古くから経典用に用いられた本。シュロ科に属するタラジュの葉をかわかし，一定の大きさに切り，その上にきりのようなもので文字を刻み，その切り口に墨汁(ぼくじゅう)を埋めるか，あるいは筆で直接に書くかする。大きさは幅6cm，長さ45～60cm，上下に表紙として木板・金・銀・銅板をあて，両端に穴をあけ，糸を通して数十葉をたばね，散乱を防ぐとともに，翻読の便を図っている。
〔庄司浅水〕



バイソン　(左)ヨーロッパバイソン　(右)アメリカバイソン





ハイチの国旗　1805年，旧宗主国フランスの三色旗から白人追放の意をこめて白を抜いた旗を制定したが，1964年憲法改正を機に青を黒人を表わす黒に置き換えて現在のものとなった。紋章にはフランス革命で有名な〈自由の帽子〉と〈団結は力なり〉の国標を書いたリボンなどが描かれている



ハイチ　首都ポルトープランスの海岸付近の漁民。住民の大部分は黒人で，白人との混血はわずかである

ハイチ(共和国)　[Republic of Haiti, Républica d'Haiti]　西インド諸島中，大アンチル諸島に連なるヒスパニオラ島の西部約3分の1を占める共和国。島の東部はドミニカ共和国で，西はウィンドワード海峡を隔てて北西にキューバ，西にジャマイカがある。面積27,750km²。人口501万(1979年推)。首都ポルトープランス。

【自然・住民】国土は山がちで平地に恵まれず，ほぼ東西に断続した小さな山脈が走り，その間に断層谷による盆地がある。地形は，北部の高原とその延長である北部半島，南部のクルドサック低地および西に突き出た南部半島に分けられ，南北の半島の間にゴナーブ湾が入り込んでいる。気候はサバナ気候に属し，年じゅう高温であるが，山地は比較的涼しい。降水量は，特に北東貿易風の影響を受ける風上の北海岸部では1,500～2,000mmに達するが，風下の南海岸や内部山地は少ない。住民は黒人が95%を占めており，これはスペインとフランスの植民時代の黒人移入策のなごりである。その他は黒人と白人との混血で，純粋の白人はわずかに2,000人程度である。住民は約88%が農村に居住している。公用語は南北アメリカで唯一のフランス語で，カトリックが国教になっている。

【産業・経済】主産業は農業で，農家人口は全人口の約90%を占めている。自給作物としてキャッサバ・ヤムイモ・サツマイモ・トウモロコシ・ヒエなどをつくり，輸出作物としてはコーヒー・サイザルアサ・サトウキビなどを栽培している。特にコーヒーは輸出総額の約40%を占め，最大の輸出物となっている。ほかに麻糸・砂糖・ラム酒などの農産加工工業もあり，また織物・せっけんなどの工業もみられるが，いずれもまだ盛んではない。鉱業では，ボーキサイトがあるが，外国資本による生産であり，経済全体がアメリカ合衆国に大きく依存し

ている。鉄道は未発達で，自動車が主要な交通手段になっている。

〔歴史・政治〕1492年にコロンブスによって発見され，ピスパニオラ島は長い間スペイン領であった。1697年島の西半がフランスに譲渡され，同時に農場経営のためにアフリカから黒人の奴隷が導入された。1793年奴隷制が廃止され，さらにフランス革命の影響もあって独立運動が高まり，1804年独立を宣言し，共和国となった。しかし，独立後も内乱が続いたため，1915～1934年の間はアメリカ合衆国の軍政下にあった。現在，1950年制定，1964年改正の憲法により終身制の大統領と一院制の立法府をもっているが，政情は不安定で，生活水準もラテンアメリカの中では低い。〔小栗　宏〕

パイちゅうかんし　【π中間子】　中間子*の一。パイオンともよばれ，単に中間子ということもある。π^+，π^0，π^-の3種が存在する。1935年(昭和10)湯川秀樹(ひでき)によってその存在が予言された。核子*(陽子*・中性子*)と強い相互作用を行ない，原子核*を構成するために必要な核子間の強い結合力を生み出す役目をする。π^+・π^-の質量は電子質量の約273倍，π^0は電子質量の約264倍。π^+の反粒子はπ^-，π^0の反粒子はそれ自身である。π^+，π^-はそれぞれ平均寿命*2.6×10^{-8}秒でμ^+，ν_μ，μ^-，$\bar{\nu}_\mu$に崩壊する。π^0は平均寿命は0.9×10^{-16}秒で2個の光子*に崩壊する。〔大貫義郎〕

ばいちょう　【陪冢】　大規模な古墳*の周囲にある小形古墳。〈ばいづか〉ともいう。殉死した従者や近親者の墓として考えられてきたが，副葬品*だけを埋納した設備とも，主墳の祭場とも考えられる。代表的な陪冢は仁徳(にんとく)天皇陵にみられる。➔仁徳天皇陵(写真)

ハイデッガー　〔Martin Heidegger〕(1889～1976)　ドイツの哲学者。ドイツのメスキスの生まれ。マールブルク大学・フライブルク大学教授。はじめリッケルト*の指導を受け新カント主義を奉じたが，のちフッサール*に師事して現象学の立場に立った。1927年主著《存在と時間*》を公刊。この書によって彼は認識論の盛んだった当時のドイツ哲学界に存在論的傾向を復活させ，その後のヨーロッパ哲学の動向に大きな影響を及ぼした。翌年フライブルク大学にもどり，1933年には同大学総長に就任。ナチズムに対する共感を表明したために第2次世界大戦後公職を追われたが，1952年教壇に復帰した。ヤスパースなきあと，名実ともにドイツを代表する最大の哲学者である。彼の哲学の主題は，〈存在者〉と区別された〈存在〉を新たに問いなおすことにある。彼によれば，従来のヨーロッパ哲学は，存在のあらゆる定義にすでに含まれる〈ある〉ということの意味を十分問うことなく，存在論の名のもとに結局は〈存在者〉を，とりわけ意識的存在者である人間を問題にしてきた。それゆえ，真の存在論の地平を開くためには，いままでの存在論史を解体しなければならないのである。こうした問題意識のもとに，《存在と時間》は，あらかじめなんらかの存在了解をもつ存在者である現存在*(人間存在)の実存論的分析から始められている。この点で彼は実存哲学者とされるが，彼の本来の意図はあくまで存在の探求にある。第2次世界大戦後刊行された諸著作には，現象学的・実存論的接近という方法はとられていない。著書に《カントと形而上(けいじじょう)学の問題》《森の道》《ヘルダーリンの詩の解明》など。〔飯塚勝久〕



ハイデルベルク　ネッカー川を行く観光船と古い橋アルト－ブリュッケ。対岸の丘の上に中世の古城が見える。ドイツでも美しい都市の一つ

ハイデラバード　〔Hyderabad〕　インド共和国中南部，アンドラ－プラデシュ州の州都。人口160万7,000(1971)。デカン高原上の海抜540 mの高さにあり，ムシ川河岸に位置する古い城下町である。1589年に建設の起源をもち，第2次世界大戦前はインド最大の藩王国の首都であった。交通・商業の中心で，綿花・穀物の集散をなし，織物・たばこなどの工場がある。イスラム系藩王国の中心であったため市内には多くのイスラム寺院が残っている。ムシ川北岸は，官庁・学校・研究機関・住宅が並ぶ新市域で，オスマニア大学もこの市域にある。パキスタンの同名都市と区別してハイデラバード－デカンともいう。〔別技篤彦〕

ハイデラバード　〔Hyderabad〕　パキスタン南部，インダス川下流の都市。人口62万8,000(1972)。首都カラチの北東約150kmに位置する。市の起源はきわめて古いが，18世紀にアミール－カーンが築城してから発展した。シンド地方の小麦・ワタの集散地として古くから知られ，近年は紡織をはじめ各種の工業も発達している。近郊には1954年に完成した灌漑(かんがい)用のグラム－ムハンマッド－ダムがある。

ハイデルベルク　〔Heidelberg〕　西ドイツ南部，ライン川の支流ネッカー川に臨む古都。人口12万9,000(1975)。マンハイムの南東17kmに位置し，1386年創立という西ドイツ最古のハイデルベルク大学*がある。付近はブドウの栽培が盛んで，ぶどう酒生産が多い。12世紀末に起源をもち，1225年，神聖ローマ帝国領となり，1720年まで皇帝選挙侯の居住地であった。またプロテスタントの拠点でもあったが，三十年戦争以後没落した。1907年南東10kmのマウアー村から先史時代の人類化石が発掘され，ハイデルベルク人*と名づけられた。〔梶川勇作〕

ハイデルベルクじん　【ハイデルベルク人】　1907年ハイデルベルクに近いマウアーの砂層から発見された化石人類*の下顎骨(かがくこつ)。類人猿(るいじんえん)の下顎骨に類似したがんじょうな形で人間に近い歯がついている。歯隙(しげき)はなく，ネアンデルタールの祖先とする説もある。ピテカントロプス*・シナントロプス(北京(ペキン)原人*)に対比されるヨーロッパ最古の人類化石である。生息した時代は，中期洪積(こうせき)世である。

ハイデルベルクだいがく　【ハイデルベルク大学】　ドイツ共和国のハイデルベルクにあるドイツ最古の大学。1386年ループレヒト1世によりパリ大学にならって設立された。以後，ドイツにおける人文主義の拠点として，宗教改革時代には新教神学の中心的存在として盛んになったが，三十年戦争*のため一時閉鎖，19世紀になって名声を回復した。戯曲《アルト－ハイデルベルク》の舞台としても知られている。1969年それまでの神・医・法・哲・自然科学の5学部は16の新学部に再編され，さらに専門別に小区分された。付属図書館は古代ゲルマンの資料で世界的に有名である。

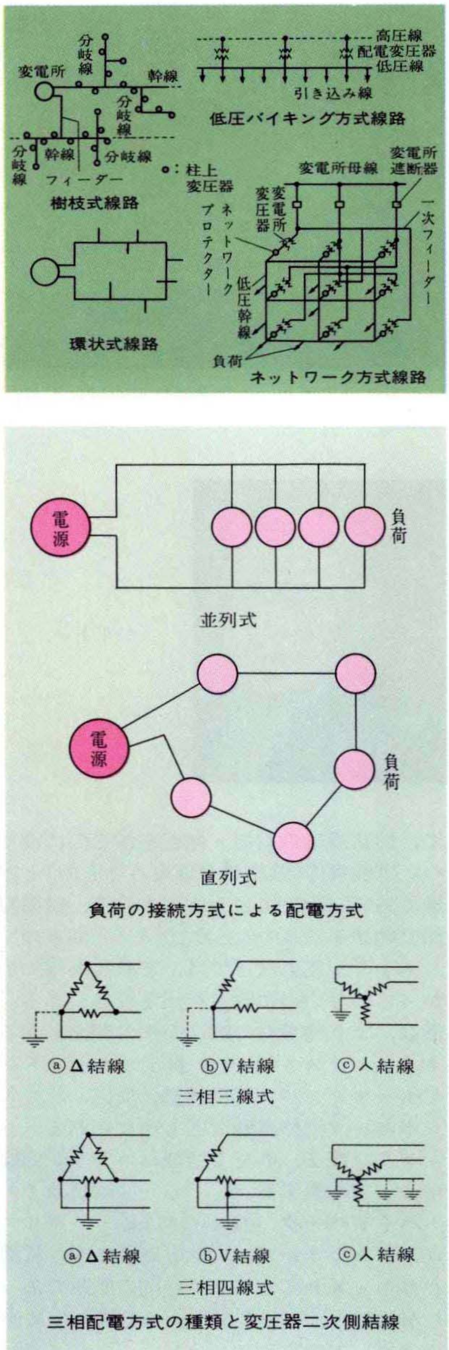
はいでん　【配電】　電力を必要な場所で需要家に分配すること。配電変電所から需要家引き込み口までの部分が配電の対象である。配電線には架空式と地中式があり，環境に合わせて選択される。配電線路の種類には，①フィーダー，②幹線，③分岐線または支線などがあり，①は配電変電所から引き出される高圧配電線のうち最初の分岐点または配電変圧器設置点までの部分，②はフィーダー以降の主要部分，③は幹線から分岐する部分をいう。配電系統の形は樹枝式・環状式(ループ式)・低圧バンキング方式・ネットワーク方式に大別され，樹枝式は簡単ではあるが信頼度・電圧変動・電力損失の点では他に劣り，環状式からネットワーク方式に近づくほど電圧変動・電力損失は少なく信頼度は高くなるが，複雑となり建設費が高くなる。需要家への供給方式は負荷の種類により電燈線(単相)と動力線(三相)に区別され，供給電圧により低圧・高圧および特別高圧供給に区別され，需給契約方法により従量供給と定額供給に区別される。配電では確実不断の電力供給をすることが要求されるので，停電防止のため配電系統の改善，保護機器の取り付けなど適切な信頼度向上のための対策を立て，また電圧変動が許容範囲をこえないように電圧制御を行なうことが必要である。

わが国の配電電圧の区分は，低圧：直流750V以下，交流600V以下，高圧：低圧の限度をこえ，7,000V以下，特別高圧：7,000Vをこえるもの，となっており，配電系統の標準電圧は，低圧では公称電圧100，200，100/200，400，230/400V(後二者は60Hz系ではそれぞれ440，254/440V)があり，高圧および特別高圧では公称電圧3,330，6,600，11,000，22,000，33,000Vがあるが，それぞれは一次および二次配電線の電圧でもある。わが国の一次配電線の電圧は大部分6,600Vで，一部に11,400V($\sqrt{3}$×6,600V三相四線式)がある。二次配電線は100，200Vであるが，ビルディング・工場などには400Vが用いられている。ヨーロッパやアメリカではわが国より高い配電電圧を使用している。

〔配電方式〕配電方式を電流の性質より分類すると，交流式と直流式，負荷の接続方式によると並列式(定電B方式)と直列式(定電流式)に分けられる。現在，大部分が定電圧交流式である。交流式では相数により単相式・二相式・三相式があり，線数で二線式・三線式・四線式などに分けられる。単相式には二線式と三線式がある。二相式には90°の位相差のある二相交流を用いた三線式・四線式・五線式があるが，ほとんど使用されていない。三相式には三線式・四線式・六線式・七線式などがあるが，後二者は使われていない。わが国では，高圧線は三相三線式か単相二線式が多く，低圧線は100V単相二線式，動力用200V三相三線式，電燈動力共用の三相四線式が多い。〔田村康男〕

はいでんばん　【配電盤】　回路および機器の状態を明確に知り，適当な操作や保護をするための，計測および制御の装置。発電所*・変電所*では高電圧で大電力を取り扱い，設備してある機器は大形で，広範囲にわたって配置されている。そこで，制御に必要な測定量を電気量(低電圧・小電流)に変換して，1か所に集め，各種計器・継電器・制御スイッチなどを備えた配電盤により，機器の監視や操作，あるいは電力系統の運用操作を行なう。配電盤には垂直盤とベンチボードとがある。〔田村康男〕

バイト　先端に切刃を付けた棒状の金属切削用の工具。旋盤・中ぐり盤・平削り盤などの工作機械で金属を加工するときに用いられる。工具鋼・高速度鋼を材料として一体につくられたものもあるが，刃先(チップ)だけを高速度鋼・超硬合金・セラミック・サーメットなどでつくり，鋼製の柄に取り付けて用いるものが多い。特別なものにはダイヤモンドバイトがある。バイトには，その形や用途によって荒削り用バイト・仕上げ用バイト・剣バイト・曲がりバイト・片刃バイト・穴ぐりバイト・突き切りバイトなどがあり，また刃先が特別な輪郭をもった総形バイト，柄にばねの働きをもたせ



配　電

たヘールバイトなどがある。〔稲田重男〕

はいとう　【配当】　会社が出資者にその出資に応じて利益を分配すること。配当は利益の分配であるから，配当にあてることのできる利益の存在することがその要件となる。特に物的会社(有限会社・株式会社)においては，債権者保護のための資本維持の要請から配当規制が加えられ，いわゆるたこ配当*は禁止されている。配当は通常現金で行なわれる(現金配当)が，わが国では新しく発行する株式をもってする配当(株式配当*)が認められている。このほか，アメリカでは，現金以外の財産による現物配当，一種の支払い手形によるスクリップ配当および社債配当などが見受けられる。一般に，企業は株価を維持したり，信用を確保したりするために安定配当政策をとる傾向にある。好況時に配当平均積立金を設定し，不況時にはそれを取りくずして配当にあて，その平均化をはかろうとするのはその端的な現われである。〔森川八洲男〕

はいとうたい　【配糖体】　糖がその還元基を通じて他の化合物と脱水縮合してできた物質の総称で，グリコシドともいう。加水分解によって生じる糖以外の部分をアグリコンと称するが，糖と糖とが結合したもの，すなわち少糖類・多糖類も広義の配糖体とみなすこともある。通常，配糖体は糖の部分の違いにより，グルコシド(ブドウ糖)・ガラクトシド(ガラクトース)・リボシド(リボース)などとよばれる。配糖体は自然界には特に植物成分として広く見いだされるが，そのうちグルコシドが多く，ガラクトシドがこれに次ぐ。糖の還元基とアグリコンの水酸基から水がとれてできた配糖体のO-グリコシドが，最も普遍的に存在する。たとえば，植物色素のアントシアニン(アントシアニジン配糖体)，リンゴの根に多量に含まれるフロリジン(フロレチン-2-β-D-グルコシド)，針葉樹に多いコニフェリン(コニフェリルアルコール-4-D-グルコシド)など，多種のO-グリコシドが植物から見いだされている。このほか，化合物のチオール基(-SH)やアミノ酸(-NH_2)が糖の還元基と縮合した配糖体も種々知られており，それぞれS-グリコシド，N-グリコシドとよばれる。クロガラシ油に含まれるシニグリンは前者の代表的なものである。また，核酸をはじめとするヌクレオチド*類を構成するヌクレオシド部分は，ピリミジン・プリンのN-リボシド(またはN-デオキシリボシド)とみなすことができる。ほかに，糖とアグリコンの炭素どうしが直接結合したC-グリコシドも天然に知られており，これにはアロエにあるバルバロイン，マンゴーにあるマンギフェリン，大麦などに含まれるオリエンチンなどがある。〔南川隆雄〕

はいどうみゃく　【肺動脈】　⇨動脈

はいとうれい　【廃刀令】　⇨帯刀禁止令

ばいどく　【梅毒】　トレポネーマ-パリズムとよばれるスピロヘータ*の感染によって起こる性病*の一。癩*(らい)・結核*とともに三大慢性伝染病の一つに数えられ，性病予防法(昭和23年7月15日法律167号)が適用される。先天梅毒と後天梅毒に分けられる。

〔先天梅毒〕妊娠中に母親から胎児に感染したもので，重症の場合は流産・死産，やや軽い場合は早産となり，満期出産した場合でも梅毒特有の症状が現われる。症状は，だいたい後天梅毒に類似するが，血行感染のため初期硬結をつくらない。発現時期によって，胎児梅毒・乳児梅毒(生後2～3か月までに発病)・幼児梅毒(2～4歳ごろ発病)・晩発性先天梅毒(8～12歳ころはじめて症状が現われるもの)に分けられ，皮膚

だけでなく，骨・歯・内臓・目・耳にも病変を生じる。

【後天梅毒】おもに梅毒患者との性交・接吻(せっぷん)などによるが，まれには衣服・喫煙具・食器・輸血などによっても感染する。感染後の一般経過は第1～第4期に分けられる。第1期：病原体が体内に侵入して約3週間後，侵入箇所(おもに陰部の皮膚や粘膜)に初期硬結とよばれるエンドウ豆大のしこりを生じ，やがて表面に浅い潰瘍(かいよう)ができる(→硬性下疳(げかん))。付近のリンパ腺(せん)がはれる(→よこね)がこれはまもなく治癒(ちゆ)する。感染時から約6週間までは梅毒血清反応が陰性なので血清陰性期，以後血清反応陽性の時期を血清陽性期とよんでいる。第2期：感染時から約3か月後，頭痛・倦怠(けんたい)・微熱・リウマチ様疼痛(とうつう)・食欲不振・貧血などの全身症状，全身リンパ腺の腫大(しゅだい)，次いで皮膚・粘膜に第2期梅毒疹(ばいどくしん)(梅毒性ばら疹，梅毒性丘疹，扁平(へんぺい)コンジローマ，膿疱(のうほう)性梅毒など)を生ずる。これらは治療しなくても，自然に消えるが，約3年間再発をくり返す。共通した特徴は，色調が銅紅色あるいはハム様の赤さで浸潤が強く，かゆみも痛みもない。梅毒性ばら疹は第2期の初期に胸腹部の側方に現われる小指爪甲(そうこう)大の紅斑(こうはん)。梅毒性丘疹はばら疹に2～3週間遅れて，顔・うなじ・胸・腹・陰部などに現われる丘疹で，さまざまの形をとるが，数週間で消える。扁平コンジローマは，肛囲(こうい)・外陰・腋窩(えきか)などにエンドウ豆大までの扁平隆起性浸潤を生じ，じくじくして著しい数のスピロヘータが存在し，接触すると容易に伝染するので危険である。膿疱性梅毒は，さらに遅れて膿疱を多発するもので，病勢が強く栄養状態の悪い場合に生じ，白斑，色素沈着，脱毛，つめの変化なども起こる。第3期：感染後3年以上経過して現われる。ゴム様のかたさで銅紅色の結節(ゴム腫という)を生じ，中心に噴火口状の深い潰瘍ができる。また，皮膚だけでなく，骨・関節・筋肉・神経など，あらゆるところを侵す。口蓋(こうがい)が破壊されたり鼻がつぶれることもある。第4期：10年くらいたって脳や脊髄(せきずい)に病変を生じたものをいう。麻痺(まひ)性痴呆(ちほう)や脊髄癆(せきずいろう)となり，脳脊髄液*の変化も高度に現われる。その他，皮膚に発疹を生じないもの，あるいは発疹のない時期のものを潜伏梅毒とよんでいるが，よく調べると血管・神経・内臓などに病変を発見することもある。輸血で感染した場合は，病原体がいきなり全身にばらまかれるためすぐに第2期症状が生じる。

梅毒に感染したおそれのある場合は，すみやかに皮膚科医や性病科医の診察を受けること。梅毒血清反応は梅毒の有無を検査するもので，感染初期の血清陰性期を除いて，梅毒感染の有無・軽重を知るのに役だつ。定性反応(感染の有無をみるもの)と定量反応(反応の強さをみるもので，駆梅療法の効果を知るのに必要)がある。従来のワッセルマン反応*などでは，まれに梅毒にかかっていないのに陽性に出ることがある。最近，より特異性の高い方法の開発が進み，ネルソンテスト(TPI)，抗ライター株トレポネーマタンパク質補体結合反応，螢光トレポネーマ抗体試験なども行なわれる。ペニシリン療法，中でも合成ペニシリン内服によって治療する。〔田嶋公子〕



ハイドロフォイル　水中翼船に取り付けられたもの



ハイドン

ハイドパーク［Hyde Park］イギリス，ロンドンのウェストエンド地区にある公園。もとウェストミンスター寺院の所領であったが，のちヘンリー8世によって狩り場に使用され，王政復古時代にチャールズ2世によって公園として一般公開された。公園の北東端には大理石のアーチ門があり，付近は屋外集会場として有名である。面積約1,700km²。1851年，最初の万国博覧会が開かれた。

ハイドロサルファイト［hydrosulfite］正しくは亜二チオン酸塩といい，ヒドロ亜硫酸塩・次亜硫酸塩ともよばれる。金属をアルコール中につるして二酸化イオウを通じると得られる。一般に無色の結晶。無水物は安定で，吸湿性はないが水にとけやすい。2価の金属塩水溶液は特に還元性が強く，種々の金属塩水溶液と反応し，イオウと金属の遊離や，硫化物の沈殿が生じる。空気中で亜硫酸塩に変わりやすい。酸素吸収剤・漂白剤，染料の合成などに用いられる。

ハイドロフォイル［hydrofoil］水中翼。ハイドロベインともいう。平面またはわずかな曲面をもつ物体で，水中を進行させるとき，水からその面に反力を生ずるように設計された翼。これを利用したものに水中翼船*・潜水艦の水中舵(かじ)，あるいは船体動揺防止のためのフィン-スタビライザー(安定ひれ)などがある。なお，水中翼船(ハイドロフォイル-ボート)を略してハイドロフォイルともいう。

ハイドン［Franz Joseph Haydn］(1732～1809)　オーストリアの作曲家。18世紀後半のウィーン古典派の代表的人物のひとり。オーストリア東部のローラウで車大工の子として生まれた。8歳でウィーンの聖シュテファン大聖堂少年聖歌隊員となり，児童ソプラノ独唱者としてすぐれた才能を示したが，18歳のとき変声のため合唱団を去った。その後約10年間定職もなく，独学を続けながら放浪生活を送ったが，偶然知り合った詩人メタスタージオを通じて当時有名なオペラ作曲家ポルポラの知己を得，その推薦によって貴族の間で作曲家として知られるようになった。1759年にはボヘミアのモルツィン伯の楽団の楽長に就任し，最初の交響曲を作曲する。この楽団が財政上の理由で解散したのち，1761年アイゼンシュタットのエステルハージ侯の副楽長となり，のち楽長となって約30年仕えたが，この間に侯爵のために100曲近い交響曲をはじめ，数多くの作品を書いた。1780年代には彼の作品はヨーロッパの多くの都市で演奏されるようになり，その名声は広まった。またこのころ，若いモーツァルト*に出会い，互いに影響を受け合った。1790年に侯爵家の楽団が解散して自由の身になると，彼は2度にわたってロンドンに演奏旅行を行ない，大成功を収めた。このロンドン旅行中にヘンデルのオラトリオに啓発され，晩年はオラトリオやミサなどの宗教音楽の作曲に励んだ。

彼の作品は驚くべき数に上り，今日でもその全貌(ぜんぼう)は明らかでない。その中でも最も重要なジャンルは，器楽とりわけ交響曲と弦楽四重奏曲である。彼はいわゆる古典派交響曲の形式の基礎を確立したという点で，音楽史上重要な位置にある。彼によって器楽形式としてのソナタ形式が確立され，特に彼自身が〈新しい特別な方法で〉作曲したと述べた《ロシア四重奏曲》(1781)以後，ソナタ形式の重要な原理である主題の動機の展開法が楽曲構成の基本原理として用いられるようになった。この原理はモーツァルト・ベートーベンによってさらに豊かに発展させられる。主要作品に《驚愕(きょうがく)交響曲》《時計交響曲》《太鼓連打》を含む106曲の交響曲，20曲以上の協奏曲，40曲以上のディベルティメント，70曲以上の弦楽四重奏曲，《天地創造》《四季》を含む4曲のオラトリオ，50曲以上のピアノ-ソナタ，24曲のオペラなどがある。〔寺田兼文〕

パイナップル [pine apple] 単子葉植物・パイナップル科。熱帯アメリカ原産の多年草で，アメリカでは古くから栽培され，新大陸発見後に旧大陸に紹介されてから急速に世界各地で栽培されるようになった。高さ50〜120cmで，短茎のまわりに剣状の葉が多数叢生(そうせい)する。葉は革質で光沢があり，長さ60〜120cm，ときに赤色をおび，裏面は白粉を吹く。縁辺に鋸歯(きょし)を有するものとないものとがある。花は松かさ状の大形花序をなして茎頂につく。花は淡紫藍(たんしらん)色でらせん状に配列する。外花被・内花被ともに3枚。果実は集合果で，長さ15〜20cmの楕円(だえん)形，表面にあるらせん状に配列した六角形の小丘(ピップ)が1個の果実にあたる。花のあった所は細く深く落ち込んで花目といわれる。果実の食用にする部分は，花軸・子房・花托(かたく)・包葉の基部などが融合したところで，芳香を有し，多汁(たじゅう)である。果実が熟するころ，花序の頂部や基部から数本の新茎が生ずる。種子は黒かっ色で5mmほど。まわりのかたい部分としんを除いて輪切りにして生食のほか，かんづめにする。栽培は気温の変化の少ない排水の良い所が適し，24〜27℃が適温。側芽や冠芽でふやし，種子のあることがわかってからは交配による品種改良も行なわれている。未熟のものには毒素があり，食べると下痢を起こす。〔横井朝子〕


パイナップル

はいにゅう 【胚乳】 胚*とともに種子を構成する組織。デンプン・タンパク質・脂肪など豊富な栄養分をもち，発芽の際に胚は胚乳の栄養分を利用して生長する。裸子植物のものは一次胚乳とよばれ，胚嚢(はいのう)内の1個の核が盛んに分裂して数百個の核となってから細胞膜が一時にでき，多細胞の胚乳組織となったもので，核相は単相(n)である。被子植物では第2雄性核(n)が極核(2n)と結合してできた3nの核に由来し，二次胚乳とよばれる。以上のものは胚嚢内で生ずるので内乳というが，それに対して胚嚢以外の組織，たとえば珠心組織が発達して養分をたくわえるような場合(スイレン科・コショウ科・ナデシコ科など)を外乳という。〔加藤僖重〕

はいにんざい 【背任罪】 他人のためにその事務を処理する者が，自己もしくは第三者の利益を図り，または本人に損害を加える目的をもって，その任務にそむいた行為をし，本人に財産上の損害を加える罪。5年以下の懲役または50,000円以下の罰金(刑法247条)。〈他人のためにその事務を処理する者〉とは，他人との委託・信託関係に基づいて財産的利益を含む事務処理をすることをいう。この場合の事務処理とは，一定の注意をもって誠実に事務を処理すべきことを意味し，その委託関係は，契約・身分・法令・慣習のいずれでもよく，義務なしに他人のために事務管理をする者をも含むというのが判例である。〈その任務にそむく行為〉とは，委託・信託関係に違反する行為をいい，商取引上の一般通念で具体的に判断する以外に方法はない。〈財産上の損害〉は，積極的損害と消極的損害を含み，財産全体を経済的見地から判断して，財産的価値の減少と認められる場合を意味する。〔井上公耳〕


ハイネ

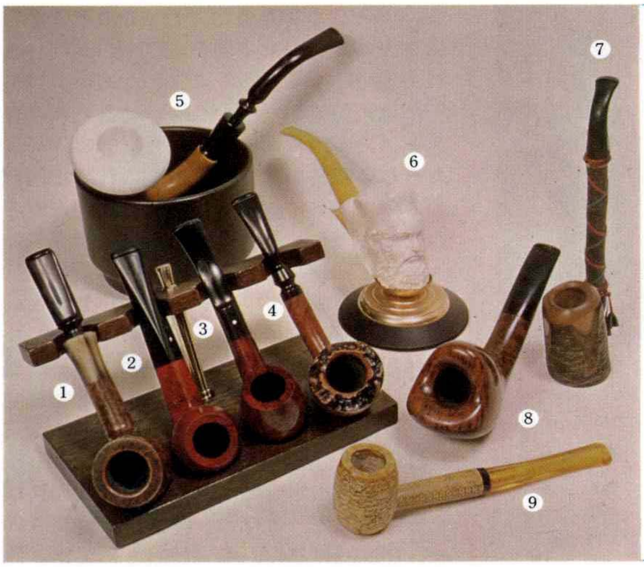
ハイネ [Heinrich Heine] (1797〜1856) ドイツの詩人。ジュッセルドルフに生まれたが，生誕の年さえ今日なお論議されているような，なぞに満ちた生活を，ドイツとフランスの両国で送った。両親ともにユダヤ系で，父は布地商。1816年富豪の叔父(おじ)の銀行で働き，従姉妹(いとこ)に対する恋情から次々に詩を書いた。1819年からベルリンの各大学で，法律を修めながら新進詩人として名をあげる。同時に自由思想・革命精神を強調する散文を執筆。1827年《歌の本*》を出版し全ヨーロッパに名声を広めた。同年イギリスへ，翌年イタリアへ旅行し，1830年ヘルゴラント島滞在中，フランスの七月革命の報に接して人類解放の戦士を志した。1831年フランスへ自発的に亡命，ドイツの封建的支配権力に対決する文筆活動を展開し，フランス人に祖国ドイツの真実を知らせるため，《ロマン派》《ドイツ宗教・哲学史考》などを書いた。1835年ドイツ連邦議会は，ハイネのあらゆる著作活動に対する弾圧を決議し，そのためハイネは純芸術の小説《フローレンス夜話》を書いた。1841年マティルドと結婚。長詩《アッタ-トロル》，叙情詩集《新詩集》，長詩《ドイツ冬物語》を次々に発表。後者は，1844年におけるマルクスとの親交の間につくられた革命的名作である。1848年二月革命*が起こると，フランス政府から扶助金を受けていたことが暴露し，ハイネは〈フランスの傭兵(ようへい)〉という非難を浴びた。このときから，世を去るまでの8年間を，文字どおり〈しとねの墓穴〉に横たわることになるが，1851年には大詩集《ロマンツェーロ》を病床で書きあげ，多大な反響をよんだ。彼の作品にみられる叙情の美しさと批判の鋭さは無類のもので，ドイツ民衆の解放を願い，愛と自由に生きたその生涯(しょうがい)は，世界的詩人として独自の光芒(こうぼう)を放っている。〔井上正蔵〕

はいねず ⇨ネズ

はいのう 【胚嚢】 種子植物の雌性配偶体で，めしべの胚珠の内部にあって卵細胞を含むもの。➔胚珠

はいのき 【灰の木】 双子葉植物・ハイノキ科。本州中部以西から九州の暖地にはえる常緑高木。幹は大きいものでは高さ10m，径30cmに達し，幹・枝ともに黒かっ色をおびる。葉は有柄で互生し，長さ3〜7cmの長卵形で低い鋸歯(きょし)があり，革質で先は尾状にとがる。5月ごろ前年枝のつけねに10数個の白花を総状花序につける。花は径1cm内外で平開し，花弁は5枚で楕円(だえん)形，果実は卵形で紫黒色に熟す。和名は枝や葉の灰からあくを取ることによる。

ばいばい 【売買】 当事者の一方(売り主)が，ある財産権*を相手方に移転し，相手方(買い主)が，これに代金を支払うことを内容とする契約*(民法555条)。有償契約・双務契約の典型であるところから，売買の規定は他の有償契約に準用される(民法559条)。売買の効力は，売り主が財産権(特定・現存することを要しないし，必ずしも売り主に属することも要しない)を買い主に移転したことで発する。具体的には所有権*そのものを買い主に移転させ，対抗要件*を要するときにはこれを備えることに応じ，権利証その他いっさいの付属証拠書類があればこれを引き渡す。さらに，売り主は買い主に対して担保責任を負わねばならない(民法561〜572条)。他方，買い主は代金支払い義務を負う。支払いが遅れたときには，目的物を受け取った日から利息を計算し，代金とともに支払わなければならない(民法575条)。もっとも割賦売買の場合は，代金の支払い方法について特別な規定が設けられている。売買の種類としては，売買契約の成立と同時に目的物と代金とを直接交換し合う現実売買のほか，契約締結の方法による特殊な売買として見本売買(見本によって売買の目的物の性質を定めておく売買)，試味売買(試験売買ともいわれ，目的物が買い主の意にかなえば買うという条件で行なわれる売買)，割賦払約款付売買(代金を月賦や年賦で定期的に支払うことを約する売買)，継続的供給契約(新聞・牛乳・ガス・水道などのように，一定または不定期間，当事者の一方が一定の種類・品質を有するものを継続的に供給し，相手方がこれに代金を支払うことを約する契約)などがある。また代



パ イ プ
①④ポールハンセン
②③ダンヒル
⑤メルシャン
⑥ラースイバルソン
⑦チェリーパイプ
⑧キャラバシー
⑨コーンパイプ

金の定め方からは，自由売買・競争売買(競売・入札)の区別がある。〔黒木三郎〕

はいばん【胚盤】

1脊椎(せきつい)動物の発生初期の一部域につけられた名称。鳥類・爬虫(はちゅう)類・軟骨魚類では，端黄卵という卵黄量が多く，しかも植物極側にかたよって存在している卵で，卵分割も部分割といって，卵黄の少ない動物極の一部分だけに限られることになる。この卵黄の少ない卵核を中心とした部分を胚盤という。その後，この部分が卵割して多数の細胞に分かれ胚盤葉とよばれる。

2イネ科植物に特有な胚に見られる器官。胚乳に接した部分にでき，発芽の際に胚乳分解分質を吸収するのに関係するもので，胚の中では最も大きい体積をもっている。〔蒲原春一〕

パイパン【拍板】 中国音楽，特に京劇の伴奏に使われる打奏の体鳴楽器。固くて薄い板を打ち合わせる。拍子木のようなもの。朝鮮に伝わったものが唱劇(パンソリ)で，日本に伝わったものが〈びんざさら〉〈はくはん〉として郷土芸能で使われている。

はいはんじしょう【排反事象】 ⇨確率

はいはんちけん【廃藩置県】 1871年(明治4)7月江戸幕府以来の藩*を廃し，地方行政上の区分として府県を置いた政治政策。明治新政府は中央集権的な近代国家形成のため，1869年版籍奉還*を推進したが，なお旧藩主を知藩事とする藩体制はくずれなかった。ここに岩倉具視(ともみ)・大久保利通(としみち)らの廃藩の主張が強まり，政府は改革に乗り出した。1871年1月大久保は西郷隆盛(たかもり)・木戸孝允(たかよし)とともに高知で板垣(いたがき)退助と協議し，廃藩のための薩長土3藩の協力と，暴動に備えての親兵の徴集を取り決めた。かくて3藩の親兵10,000を東京に集結した政府は，7月14日廃藩置県の詔書を発布。これにより261藩が廃止され，全国に3府302県が設置された。これらの府県には政府任命の府県知事が置かれ，わが国の統一国家としての形態は完成した。〔応和邦昭〕

ハイビスカス ⇨ブッソウゲ

パイプ［pipe］ 喫煙用具の一。ふつう，洋風の刻みたばこを詰めて用いる。古くから喫煙の風習があったアメリカ-インディアンの間には古墳時代から石製のパイプが用いられていたらしい。新大陸の発見とともに喫煙の風習がヨーロッパにもたらされると，パイプもそれに伴って世界各地に普及した。東洋の煙管*(きせる)もパイプの一種と考えられている。パイプの材料は，地域に応じて金属・粘土・木・竹・象牙(ぞうげ)・琥珀(こはく)・骨・海泡石(かいほうせき)・ガラスなどから，トウモロコシの茎，キャラッシ(ヒョウタンの一種)，巻き貝などに至るまで，多種多様のものが用いられている。また，時代によって材料の変遷がみられ，たとえばエリザベス朝の時代には粘土製のクレーパイプが流行したが，可塑性に富む反面，こわれやすく焦げやすいなどの欠点があるためしだいに衰え，現在最も普及しているのは木製のものである。木製パイプの王座を占めているブライアは，地中海沿岸・フランス・イタリア・スペインなどに産するエリカ-アルボレアの根を用いたもので木目が美しく，堅牢(けんろう)で焦げにくいなどの長所をもつ。中でもコルシカ島やイタリアのレグホーン(リボルノ)産のものは良質とされる。ほかに，ビラン・ツバキ・ツゲ・サクラ・シラカバなども木製パイプの主要な材料である。パイプのメーカーではイギリスのダンヒル・ローウィ・キャラタン・スリービーなどが知られる。なお，パイプの型や装飾も地域によって変化に富む。台湾南部の高砂族が雁首(がんくび)に浮き彫りや飾り金具や貝がら象嵌(ぞうがん)を施した精巧なものを用い，ボルネオやニューギニアの原住民が，唐草(からくさ)文様や幾何学的文様を刻んだり，シベリアの原住民やベーリング海沿岸のエスキモーなどが海上の狩猟や犬ぞりの図などを刻んだものを用いるのはその1例である。

ハイファ［Haifa］ イスラエル西北岸，地中海に臨む港市。人口22万7,000(1975)。トルコやヨーロッパ諸国への重要な連絡港で，軍港でもある。また鉄道の要点で，鉄道総局が置かれている。この国最大の工業都市で，ダイヤモンド加工・紡績・肥料・セメント・せっけん製造などの工業が盛んである。イラクのモスール油田とパイプラインで結ばれる石油ターミナルに製油所があるが，隣接アラブ諸国との政情悪化に伴い，現在送油が中断されているため，別途輸入した原料を処理している。〔今井留吉〕

ハイファイ［Hi-Fi］ high fidelity sound reproduction(高忠実度音響再生)の略語。1945年ごろから使われ始めたもので，明確な定義はない。円板レコードに録音する際に，また電気蓄音器で再生する際に，できるだけ原音に似るように録音し，再生することを意味する。その後，Hi-Fiなる語は一般に高性能で美しい音を再生できる電気蓄音器・ステレオ・テープレコーダー・ラジオ受信機などの形容詞として使用されるようになった。〔伊藤　毅〕

はいふうすえつむはな【誹風末摘花】 ⇨末摘花

はいふうやなぎだる【誹風柳多留】 ⇨柳多留

ハイフェッツ［Jascha Heifetz］(1901～　) アメリカのバイオリン奏者。ロシアの生まれのユダヤ人。ペテルブルグ音楽院で名教師アウアーに師事し，1913年，12歳のときニキッシュ指揮のベルリン-フィルハーモニー管弦楽団と共演し，天才少年として騒がれた。1917年の十月革命をのがれてニューヨークに移住，カーネギー-ホールでデビュー。以後第一級のバイオリン奏者として君臨したが，60歳ごろから室内楽に転じた。1923・1931・1954年に来日。〔向坂正久〕

パイプオルガン ⇨オルガン

ハイフォン［Haiphong］ ベトナム社会主義共和国の北東部，トンキン湾岸の港市。人口36万9,000(1964)。ソンコイ川の支流クアカム川の右岸にあり，海岸から約25kmさかのぼったトンキンデルタに位置する。港は20世紀初頭のフランス領時代に築造され，満潮時には10,000トン級の船も入港できる。トンキンデルタの門戸として古来有名であり，第2次世界大戦後はセメント・紡績・造船・車両などの工場も建設された。首都ハノイと鉄道で結ばれている。

はいぶきほう【灰吹法】 多量の銀を含む鉛(貴鉛)から銀を分離抽出する冶金(やきん)法。貴鉛を加熱溶融し，空気または酸素を接触させると，鉛は酸化鉛となり銀が残留する。以前は骨灰でつくった炉床を用い，これに酸化鉛を吸収させたのでこの名があるが，いまは粘土・砂・セメントなどを用い，

酸化鉛は生成につれて流し去るのが普通。

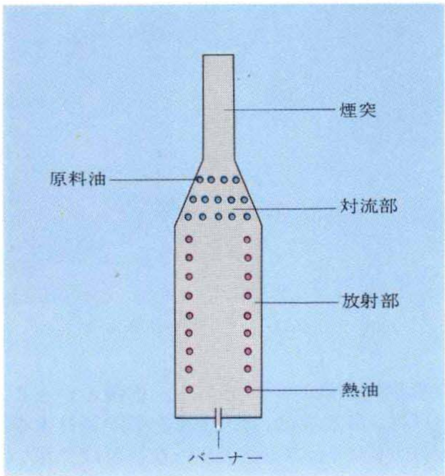
パイプスチル [pipe still] 管式加熱炉ともいう。原油の常圧蒸留・残渣油の減圧蒸留など，多くの石油精製操作において，原料油を連続的に加熱蒸発させるための加熱炉。直立円筒形または函(はこ)形の炉の中に，コイル状に配置したパイプ中に原料油を高流速で通し，下部から重油バーナーで加熱する構造をもつ。蒸留操作では，パイプスチールから出た熱油および油蒸気は精留塔に導かれ，ここで各留分に連続的に分別される。古い形式のものは函型であるが，最近の装置はほとんど直立円筒型で，図のように原料油は上部からはいって対流熱で予熱されたのち，円筒壁部で輻射熱(ふくしゃねつ)を受け，所要温度まで加熱される。 〔原　伸宜〕

はいぶつきしゃく 【廃仏毀釈】 仏教排斥の運動。江戸時代，神道(しんとう)・儒教の興隆につれて仏教排斥の気運が生じていたが，幕末には水戸(みと)学や平田派の国学の思想が王政復古と結びつき，神道国教の主張が強まった。1868年(慶応4)3月祭政一致・神祇(じんぎ)官再興が布告され，これを機に廃仏毀釈の全国的な運動が起こった。しかし廃仏反対の民衆の動きが高まり，1875年信教自由の保護の通達が各宗に出され，廃仏毀釈運動は下火となった。➔神仏分離

ハイブリッドけいさんき 【ハイブリッド計算機】 ディジタル計算機(コンピューター)とアナログ計算機とを組み合わせ，両者の長所を結合して演算する計算機システム。ディジタル計算機は，論理演算・判断・記憶要素として動作し，また複雑な関数発生器の役目を果たすとともに，アナログ計算機の動作を順序づけて制御し，くり返し演算，パラメーター変更，動作確認検査などのアナログ計算機に対する親装置の役割を受け持つ。一方，アナログ計算機は積分動作を主とする高速度の演算要素としての役割を分担する。したがって，両計算機の結合装置は，①A-D変換器・D-A変換器のように，両者の信号を直接結合する部分(➔変調)，②ディジタル計算機からアナログ計算機への命令および制御の受け渡し部分(演算の進行を制御するほか，演算ブロックの接続変更も含まれる)，③アナログ計算機の演算結合のディジタル計算機への報告回路などを組み合わせたものになる。

ハイブリッド計算機は，各種シミュレーター，各種制御系の解析，偏微分方程式の解法，極値問題，固有値問題，積分方程式などの求解などに使用されることが多い。 〔小原啓義〕

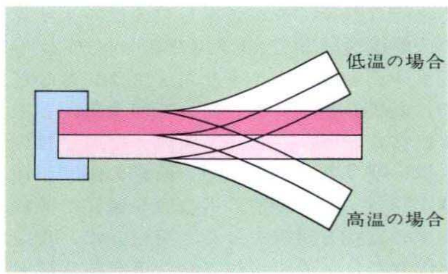
はいぶん 【俳文】 文章のスタイルの一。《去来抄》に〈俳諧(はいかい)を以(もつ)て文を書かば俳諧文なり〉とあり，広く俳諧の精神をもって書かれた文章をいう。貞門の俳文には元隣の《宝蔵》，談林には西鶴(さいかく)の諸作があるなど，俳諧の精神のあり方によって内容もさまざまであるが，芭蕉によれば，風雅の心を忘れず，はっきりしたねらいをもち，漢語などを用いてもなだらかな表現を心がけ，卑俗な素材を扱っても対象への情愛がなくてはならないとされている。去来にあてた1690年(元禄3)の書簡で芭蕉ははじめて〈俳文〉の語を〈実文〉と対比して用いたが，芭蕉と門人たちによって俳文は高い文芸性を得たものといえる。蕉門の作品は許六の《風俗文選》や支考の《本朝文鑑》などに収められ，以後のものに北華の《風俗文選拾遺》，也有(やゆう)の《鶉衣(うずらごろも)》，《蕪村文集》，一茶の《おらが春》などがある。 〔奥野博史〕



パイプスチル

ハイマツ
果実





バイメタル

はいぶんいんぷ 【佩文韻府】 中国，清(しん)の張玉書らが康熙帝(こうきてい)の命によって編した辞典。1711年(康熙50)刊行。当初106巻，のち乾隆(けんりゅう)時代(1735〜1795)に444巻に増補された。親字を〈東〉から〈洽(こう)〉に至る106韻の順序に配列し，まず親字について字音・字義を注したあと，2字・3字・4字の熟語や成語(慣用語)について，その出典と用例とを示してある(例：東→南東→首陽東→宿西食東のように，親字を下に含む熟語・成語をあげる)。詩や文章をつくる人が適当なことばを選び出すのに利用したほか，成語や故事の出所を検索するためにも用いられ，日本でも復刻されている。 〔藤堂明保〕

ばいぶんしゃ 【売文社】 大正初期，堺利彦(さかいとしひこ)が経営した文章の代筆，翻訳などを業とした集団。大逆事件後，社会主義者への弾圧が強まったいわゆる〈冬の時代〉に，同志の生活費維持のために創立された。大杉(おおすぎ)栄・荒畑寒村，のち高畠素之(たかばたけもとゆき)・山川均(ひとし)らも参加した。1914年(大正3)機関紙《へちまの花》を発行，翌年これを改造して月刊誌《新社会》としたが，これは1919年高畠らの国家社会主義者の手に渡った。 〔高崎徳次〕

ハイペロン [hyperon] 素粒子のうち，Λ粒子・Σ粒子・Ξ粒子・Ω粒子の総称で，重核子ともよぶ。K中間子とともに第2次世界大戦後発見された素粒子の代表的なもので，いずれも強い相互作用を行ない，スピンはΩ粒子の$3/2$を除きいずれも$1/2$，重粒子数N_Bは1である。核子と異なり，これらの粒子のハイパーチャージ(➔素粒子)は0または負である。Σ^0が光子を放出してきわめて短い平均寿命でΛ粒子に崩壊する以外は，約10^{-10}秒の平均寿命で，$\Sigma^{\pm}$とΛ粒子はおもに核子とπ中間子に，Ξ粒子はおもにΛ粒子とπ中間子に，Ω粒子はおもにΛ粒子とK^-中間子に崩壊する。

ハイポ ⇨チオ硫酸ナトリウム

はいほう 【肺胞】 ⇨肺 ⇨呼吸

ハイボール ⇨カクテル

はいまつ 【這松】 裸子植物・マツ科。本州中北部以北の高山帯にはえる常緑低木。高さ約1mで幹や枝は地面をはう。葉は長さ3〜7cmで5本束生する。雌雄同株で，雄花は新しい枝の中間部分に，雌花は枝の先につく。球果は長さ約5cmの黒紫色卵形で種子には翼がない。本州で生育している地帯を特にハイマツ帯とよぶことがあり，高山帯と同義語に用いられる。

バイメタル [bimetal] 熱膨張係数の異なる2種類の金属または合金を適当な方法で接着した板状の金属製品。恒温装置などの調整作用を行なう。温度変化があると，熱膨張係数の違いにより片方が他方よりも伸びて一方へ曲がる。その働きを利用してスイッチを切ったり入れたりする。一般に，低膨張側にアンバー(鉄-ニッケル合金)，高温用にマンガン-銅-ニッケル合金・黄銅・鉄-ニッケル-クロム合金などを用いる。温度調節装置・電流制限器(ブレーカー)・自動開閉器など広範囲に利用。〔田村康男〕

ばいも 【貝母】 単子葉植物・ユリ科。アミガサユリともいう。中国原産の薬用植物で，観賞用に栽培される多年草。鱗茎(り

んけい)は球形で，肥厚した白色の2枚の鱗片からなる。茎は単生し，高さ30～80cm。葉は3～4枚が不規則な輪状につき，広線形で先がとがり，長さ15cm内外。茎頂の葉はうず状に巻く。3～4月ごろ上部の葉の葉腋(ようえき)に短柄のある1～2個の6弁の鐘状花を下垂する。外面には緑色の縞(しま)があり，内面には紫色の網状の斑紋(はんもん)がある。果実は六角形の蒴果(さくか)で6個の広い翼があり，種子には円形の翼がある。根茎を薬用とし，去痰(きょたん)・鎮咳(ちんがい)の効果がある。　〔横井朝子〕

はいもんリンパせんけっかく【肺門リンパ腺結核】 肺門部にあるリンパ腺に腫脹(しゅちょう)がみられるもの。肺が結核菌の感染を受けてから比較的早い時期に起こる。小児に多いが，成人にもみられ，不機嫌(ふきげん)・食欲不振・全身倦怠(けんたい)・皮膚蒼白(そうはく)・咳(せき)などの結核の一般症状を示し，38℃前後の発熱が続く。診断は胸部X線検査により容易に確定される。一般に肺門部リンパ腺陰影が増大し，その周囲に瀰漫(びまん)性陰影が認められるが，肺癌(はいがん)の初期，珪肺(けいはい)などとの見きわめが重要である。合併症として肋膜炎(ろくまくえん)(胸膜炎)を伴うことが多いが，予後は一般に良好である。治療は抗結核剤の投与。　〔佐野隆志〕

ハイヤー ⇨タクシー

バイヤー [Herbert Bayer] (1900～　) オーストリア生まれのグラフィックーデザイナー・造形教育家。バウハウスでカンジンスキーに指導を受けて，みずからもバウハウスの教師となり，新しい造形教育にあたった。その造形活動は非常に多岐にわたるが，機能性と経済性を追究し，大文字の使用を廃し，小文字のみを使用したタイポグラフィと地図の研究はすぐれたものである。また1925年に発表し，1928年に修正した新字体ユニバーサルは，垂直・水平・円の三要素からなっていた。バウハウス退職後はベルリンで仕事を続けたが，ナチスの台頭により1937年余儀なくアメリカに渡った。特に1950年以来の〈西洋人の偉大な知恵〉という広告キャンペーンは高く評価されている。　〔武井邦彦〕

ハイヤぶし【ハイヤ節】 民謡の曲名。《ハンヤ節》(鹿児島県・新潟県)，《アエヤ節》(山形県)，《アイヤ節》(青森県・岩手県)，また長崎県の田助港に発祥したと推定されるので《田助節》などともいう。船の往来により各地の港町に伝播(でんぱ)し，一種の〈騒ぎ歌〉あるいは〈座敷歌〉として酒席で歌われてきた。三味線(しゃみせん)は二上がりで明るく軽快な速度で伴奏する。各節の後につけるハヤシことば，ハヤシ歌が土地ごとに特徴をもっている。　〔山口　修〕

はいゆう【俳優】 役者ともいう。演劇・映画などで，ドラマの中の人物に扮(ふん)して演技をする人。観客・戯曲とともに演劇



ハイラックス　ロックハイラックス

の基本的要素の一つである。俳優ということばは，日本では，すでに《古事記》《日本書紀》の中に〈わざおぎ〉ということばで見いだされるが，職業的俳優の登場は，室町時代に能が大成されてのちのことといわれる。この能役者をはじめとして，江戸時代に発生した歌舞伎(かぶき)の役者，明治時代以後西洋近代劇の輸入によって生まれた新劇俳優などがあり，さらに映画・テレビの発達・普及で映画俳優・テレビ俳優も誕生した。

西洋ではおよそ紀元前5世紀のギリシア演劇においてすでに俳優が現われている。しかし，中世のヨーロッパ演劇は素人によって演ぜられる宗教劇が中心であったため，職業俳優の伝統は軽業師(かるわざし)や奇術師・吟遊詩人ら旅回りの芸能人に受け継がれた。本格的な職業俳優が登場したのはルネサンスの演劇復興期で，イタリアのコメディアーデラルテをはじめイギリス・フランスなどで，劇場の建設とあいまって職業劇団も生まれた。　〔工藤隆・白川宣力〕

はいゆうざ【俳優座】 新劇の劇団。1944年(昭和19)俳優術の再検討を通じて演劇本来の表現を獲得することを目的に，青山杉作(すぎさく)・千田是也(これや)・東野英治郎・小沢栄(栄太郎)・東山千栄子(ちえこ)・岸輝子(てるこ)ら10人を同人として発足。千田是也の《近代俳優術》に体系化された演劇論を支柱として多くの注目すべき舞台を残している。1949年には俳優座養成所を開設，新しい演劇人の組織的育成に努め，1954年には東京六本木に俳優座劇場を開場して，活動の拠点を定めた。真船豊・岸田国士(くにお)・田中千禾夫(ちかお)らの創作劇の上演，ブレヒト劇の系統的上演などがおもな舞台である。　〔工藤　隆〕

はいよう【胚葉】 多細胞動物が発生の初期に卵割を続けていくと多数の細胞(割球)の集まりとなり，それが層状に並んで中心に空所のできる時期(胞胚)となる。次に表層の細胞の一部が内方に陥入・移動して，いわゆる形態形成運動を行ない，原腸期となって内外2層の細胞に分けられる。さらに，動物の種類によって新たな1層が加わり，ここで3層の細胞層をもつこととなる。このような層をそれぞれ，内・外・中の胚葉とよび，一定の器官を形成する原基となることが知られている。しかし，そのような運命は必ずしも絶対的なものと考えられないようになり，胚葉という名称も単に記載的な一時の呼び名として用いられている。　〔蒲原春一〕

ばいよう【貝葉】 ⇨貝多羅葉本(ばいたらようほん)

ばいよう【培養】 微生物や多細胞生物から取り出した器官・組織・細胞に，栄養を含む液体・気体や温度など生活に好適な化学的・物理的諸条件を与えて，生活機能を長時間維持させることをいい，細菌培養・細胞培養・組織培養・器官培養などに区別される。生きている細胞の外部では増殖することができないウイルスを培養するには，ウイルスが寄生する細胞を培養して，それにウイルスを感染させる。器官培養においてはその器官の生活機能が維持されればよい場合が多いが，骨や神経などは成長発育を示し，分化の過程もみることができる。組織培養では一般に細胞の分裂増殖が行なわれ，それが限界に達すると維持される。細胞培養は，容器の表面に付着した細胞が増加していく場合と，液体に浮遊しつつ増殖して濃度をましていく場合とがある。細菌培養では，栄養物を含む液体に適当濃度の寒天やゼラチンを加えて固形化し，その表面や内部に細菌を発育させる場合と，液体に浮遊させながら培養する場合とがある。また細胞や細菌を液体培養する場合には，静置して培養する場合と，容器を振盪(しんとう)したり回転したりして培養する場合とある。特に酸素が問題となる場合には，酸素が存在していたほうがよい好気的培養と，酸素が存在していてはならない嫌気的(けんきてき)培養とがあり，それぞれ特殊な方法が考案されている。動物細胞の培養には，気体相の中の酸素と炭酸ガスの比率を一定にすることが有効であることが多い。

人工培地をつくる材料は，主として窒素源・炭素源・発育素物質・無機塩類および前記の固形化材料である。もっとも一般的な培地としてはカゼインや肉を酵素で消化してつくったペプトンが用いられるが，使用目的に応じて純粋なアミノ酸やアンモニウム塩・亜硝酸塩・硝酸塩・各種ビタミンを加える。それぞれの細菌が発育するに必要な最少限の種類の物質を含む培地を最小(ミニマム)培地とよぶ。また，ある細菌はある種の物質によって発育を阻止されるが，別の種の細菌は阻止されないことを利用して，多くの種類の細菌が混在している材料から一定の細菌だけを分離する分離培地や，鑑別(診断)用培地も考案されている。このほか，培養のためには培地中の水素イオン濃度を適当にすることも重要である。なお培地は使用前に適当な方法で滅菌してから用いる。　〔和気　朗〕

ハイラックス [hyrax] 哺乳(ほにゅう)類・イワダヌキ目・ハイラックス科の総称。イワダヌキともいう。頭胴長45cmほどで，尾

はなく，外形はモルモットに似る。体は灰白色ないしかっ色。東アフリカ・シリア・アラビアなどに分布し，岩場や原野にすんで植物の葉・茎・根やこん虫などの動物質を食べる。ロックハイラックス・ケープハイラックスなどの種類がある。

ハイラル【海拉爾】中国，内モンゴル自治区北東部の都市。人口約56,000(1957)。ハイラル川の左岸にあり，浜州(ひんしゅう)鉄道が通じている。草原にあり，牧畜地帯の一中心で，畜産品や工業製品・食糧など諸物資を集散し，最近は肉類・牛乳加工，皮革・毛皮工業も発達している。旧名はフルン。

はいらん【排卵】卵巣の成熟卵胞が破れて卵を排出する現象。脳の視床下部の刺激によって脳下垂体前葉から卵胞刺激ホルモンが分泌され，その結果卵胞が成熟すると，卵胞から分泌する卵胞ホルモンがさらに視床下部を刺激して前葉から大量の黄体化ホルモンを放出させ，その結果排卵がおこると考えられている。人間ではふつうだいたい1か月に1回，1個の卵が排出される。この卵が受精しない結果起こるのが月経である。

ばいりつ【倍率】ある物体が光学系によって相似な像を生じるとき，物体と像の大きさの比をいう。通常はレンズ系のような回転対称光学系における横倍率・縦倍率・角倍率をさす。横倍率は光軸に垂直な方向の長さの比，縦倍率は光軸に平行な方向の長さの比をいう。また軸上の一点Pを通って光軸とθの角をなす直線が，Pの像点P′を通って光軸とθ'の角をなす直線に写像されるとき，$\tan\theta'/\tan\theta$を角倍率という。単に倍率といえば普通は横倍率をさす。

はいりほう【背理法】帰謬(きびゅう)法・間接証明ともいう。ある命題(P)の真を証明しようとする場合，まずPを偽であると仮定する。すなわちPの矛盾命題(非P)を真であると仮定する。この仮定を前提として，そこから妥当な推論によって，偽であることを認められているか，前提と矛盾するか，もしくは自己矛盾であるかのいずれかの結論を導き出す。妥当な推論において結論が偽であれば，前提も偽でなければならない。こうして，前提命題(非P)が偽であることから，もとの命題(P)が真であることを証明する。〔石倉恒之〕

パイルおりもの【パイル織物】添毛織物ともいう。地糸に別の糸を織り込んで表面に切り立て，または輪奈(わな)にした織物類の総称。ビロード・コーデュロイ・別珍・モケット・シール・タオル地など。コーデュロイ・別珍などはよこ糸のパイル糸を切ったもので，よこビロードという。ビロード・シールなどは，たて糸のパイル糸を用い，たてビロードという。タオル地はパイルを切らずに輪奈をつくってある。パイルを切ったパイル織物は，摩擦に強く，耐久的であり，保温性に富む。輪奈のパイルをもつタオル地は吸水性・含水性が大。〔小川安朗〕



バイロン

ハイレ-セラシエ(1世)[Heile Selassie]（1892〜1975）エチオピア皇帝。フランス人宣教師の教育を受け，1910年ハラル地方知事となり，ザオジトー女王の顧問となる。1916年皇位継承者となり，1924年にはエチオピアの奴隷廃止を宣言した。1930年ザオジトー女王の死去により即位。1936年ムッソリーニのイタリア軍の侵攻(→エチオピア戦争)を受けてイギリスに亡命し，イギリスのエチオピア解放で復位し，1960年12月外国滞在中にクーデターが起こったが帰国してこれを鎮圧した。1963年5月アフリカ諸国首脳会議議長。同年10月アルジェリア・モロッコ間の紛争を調停したが，1969年ナイジェリア・ビアフラ間の紛争の調停は失敗した。1974年軍部の革新運動によって廃位。〔吹浦忠正〕

ばいろ【陪臚】日本の雅楽の曲名。別名《陪臚破陣楽》。左方(唐楽)に属し，管弦では只(ただ)拍子，舞楽では夜多羅(やたら)拍子で奏される。調子は平調(ひょうじょう)。右方の舞人4人が《太平楽》の答舞として舞う。

バイロイトおんがくさい【バイロイト音楽祭】西ドイツ南東部，バイエルン州の都市バイロイトで，ワーグナーを記念して開かれる音楽祭。ワーグナーが自分の楽劇上演のために，バイエルン国王ルードウィヒ2世の援助のもとに建てたバイロイト祝祭劇場で毎年行なわれる。同劇場は1872年に着工，1876年に完成し，楽劇《ニーベルンゲンの指環》でこけら落としが行なわれた。以後第1次・第2次世界大戦で中止した時期もあるが，ワーグナーの孫ウォルフガング-ワーグナーが主催して，毎年大きな話題を集めている。〔向坂正久〕

パイロセラム ⇨結晶化ガラス

パイロット［pilot］

1 航空機の操縦士。わが国では，運輸省の技能試験に合格すると，資格を取得できる。資格は業務内容によって，自家用・事業用・上級事業用・定期運送用の4種類に分かれ，認可された種類以外の航空機を操縦することはできない。わが国における民間機の操縦訓練は，運輸省所管の航空大学校および各地の飛行クラブなどで行なっており，自家用の免許を取得するまでには，これらの施設で最少限35時間以上の操縦訓練を必要とする。また，事業用・上級事業用・定期運送用の免許を取得するには，それぞれ200時間・700時間・1,200時間を越える操縦士経験が必要である。〔中口　博〕

2 水先案内人。➔水先案内

パイロットプラント［pilot plant］大規模な装置を要する工業で実際の工場建設に先だち，小規模ながら実際の生産状況に近い装置をつくって，各種の条件下における生産効率などを試験すること。特に化学工業のように高価で大規模な装置を必要とするものでは，諸試験を経て操業化されるのが普通で，操業後の危険負担を少なくするのに役だつ。

パイロでんき【パイロ電気】⇨ピロ電気

はいろん【俳論】俳諧(はいかい)を対象とした文芸論。先行の歌論・連歌論同様，実作者による論述を主とする。室町後期の俳人荒木田守武(もりたけ)の《飛梅千句》跋(ばつ)ではじめて俳諧の意義づけがなされ，その後貞門俳諧の式目上の整備，惟中(いちゅう)の寓言論(ぐうげんろん)による談林俳諧の理論化を経て，鬼貫(おにつら)の〈誠の俳諧〉説，芭蕉の俳論に至って本質論として高い内容を備えるに至った。芭蕉の俳論は〈風雅の誠〉〈不易流行〉説を中心に〈さび〉〈しおり〉〈ほそみ〉などの風調論，〈匂付(におい づけ)〉〈移り〉などの付合論，表現・把握論(はあくろん)としての本情論よりなり，《笈(おい)の小文》《幻住庵記(あんき)》《柴門の辞》などの著作や去来の《去来抄》《旅寝論》，許六の《俳諧問答》《宇陀法師》，土芳の《三冊子(さんぞうし)》などにうかがわれるほか，支考の《続五論》《俳諧十論》などに独特の体系化がなされた。安永・天明期(1772〜1788)にはいって俳論は第2の開花をみせ，闌更(らんこう)の《有の儘(まま)》，白雄の《加佐里那止(かざりなし)》などのほかに，《春泥(しゅんでい)句集》序にみられる蕪村の離俗論の新しい主張が注目されるが，以後は季語集など実作書の充実がみられたのみ。正岡(まさおか)子規・高浜虚子・河東碧梧桐(かわひがしへきごとう)・乙字らの近代俳論にその地位を譲った。〔奥野純一〕

バイロン［George Gordon Byron］（1788〜1824）イギリスの詩人。貴族の家に生まれ，近衛(このえ)隊の軍人の父に早く死別し，6代めバイロン卿(きょう)となる。生まれつきびっこだったが，美貌(びぼう)と情熱的な詩をもって社交界の寵児(ちょうじ)となり，また醜聞のためヨーロッパ大陸へのがれるなど波瀾(はらん)に富んだ放浪的生活を送る。最後はギリシア独立軍に参加して病死。初め風刺詩人として出発し，シェリー・キーツらとともにイギリス-ロマン主義を代表する詩人となった。文名を一躍高めた《チャイルド-ハロルドの遍歴》《ドン-ジュアン》などの物語詩・叙事詩のほか，美しい叙情詩がある。〔星野恒彦〕

ハインツ［Henry John Heinz Co.］アメリカの大手食品加工メーカー。1869年

創立。野菜・果実の加工がおもで，特にトマトケチャップが有名。そのほかスープ・海産品などを製造。製品は無着色・防腐剤ぬきが特色である。また販売機を使って売る施設向け製品にも力を入れ，国内の売り上げの20%を占めている。国外ではカナダ・イギリス・メキシコ・オーストラリアなど多くの国に子会社をもち，幼児食品・スープ・ケチャップなどの新製品を多数発表，売り上げを伸ばしている。わが国では日魯(にちろ)漁業(株)と合弁で日魯ハインツ(株)を設立，トマトジュース・トマトケチャップ・幼児食品などを生産・販売している。本社ピッツバーグ。年間売上高７億9,000万ドル(1969)。

パイント ［pint］ ヤード-ポンド法の体積または容量の単位。1/2クォートつまり1/8ガロンをいう。イギリスとアメリカ合衆国では単位の大きさが異なり，１パイントはそれぞれ0.568 *l*(イギリス)，0.473 *l*(アメリカ，液量)，0.550 *l*(アメリカ，乾量)に相当する。

ハインリヒ ［Heinrich］ 中世ドイツの国王。

1 １世(876～936) ザクセン朝初代の国王(捕鳥王)。在位919～936年。オットー１世の父。戴冠(たいかん)は拒否したが，事実上皇帝のはじめとされる。城塞(じょうさい)を強化してマジャール人・デーン人などを破り，帝国の防衛に努めた。

2 ２世(973～1024) ザクセン朝最後の神聖ローマ皇帝(聖者王)。在位1002～1024年。イタリアに３度遠征したほか，ポーランド王ボレスラウを討伐。国内では教会や聖職者を保護し，1146年聖者に列せられた。

3 ３世(1017～1056) ザリエル朝出身の神聖ローマ皇帝(黒王)。在位1039～1056年。ベーメン・ハンガリーを討ち，国内諸侯をおさえて中世ドイツの最盛期をもたらした。また教会の改革に意を用い，はじめてドイツ人司教をクレメンス２世として教皇に立て，みずからも戴冠を受けた。

4 ４世(1050～1106) ザリエル朝出身の神聖ローマ皇帝。在位1056～1106年。父ハインリヒ３世の死により６歳で即位したため諸侯勢力の伸張を招いたが，親政(1065)後，王権の回復に努め，都市に自治権を与えて市民層の支持を受けた。教皇グレゴリウス７世と聖職叙任権闘争で対立し，1076年ウォルムスの宗教会議で教皇の廃位を宣言したが，教皇から破門され，諸侯も離反したため，王はやむなく北イタリアのカノッサにおもむいて教皇に謝罪した(→カノッサの屈辱)。しかし王は帰国後，離反した諸侯を討ち，ローマから教皇を追い，新たにクレメンス３世を教皇に立てて帝冠を受けた。王は晩年，子のハインリヒ５世らの反乱に悩まされ，捕えられて退位した。

5 ５世(1081～1125) ザリエル朝最後の王，神聖ローマ皇帝。在位1106～1125年。



ハウゼ

父ハインリヒ４世にそむいて即位。教皇を圧迫して聖職任命権を皇帝の手中に収めたが，1122年ウォルムス協約を結んで教皇と妥協し，聖職任命権問題をいちおう解決した。

6 ６世(1165～1197) シュタウフェン王家出身の神聖ローマ皇帝。在位1190～1197年。フリードリヒ１世(バルバロッサ)の子。シチリア王女と結婚して南部イタリアとシチリアの相続権を主張し，これらの地を征服して王となった。ドイツの選挙王制を世襲王制に改めようとしたが失敗し，ビザンチン帝国への遠征の途次，メッシナで没した。〔松 俊夫〕

ハインリヒししこう 【ハインリヒ獅子公】(1129～1195) ドイツのザクセン公・バイエルン公。神聖ローマ皇帝フリードリヒ１世の軍に従って勇名をはせ，獅子公とよばれた。ミュンヘン・リューベックなどの都市を建設し，ドイツ人の東方植民に大きな役割を果たしたが，のちフリードリヒ１世と不和となって1180年追放され，晩年は引退した。

パウエル ［Cecil Frank Powell］(1903～1969) イギリスの物理学者。キャベンディッシュ研究所を経て，のちブリストル大学教授。1936年ごろから原子核乾板による核子散乱の研究を行ない，やがて宇宙線粒子の観測に移り，すぐれた乾板による宇宙線研究を開拓，その組織化を指導した。アンデス・ピレネー・アルプスなどの高地での観測を続け，1947年２種の中間子(πおよびμ)の存在を発見した。また，その後彼のグループはいくつかの重い中間子の発見と解明に活躍している。1950年ノーベル物理学賞受賞。〔藤村 淳〕

ハウエルズ ［William Dean Howells］(1837～1920) アメリカの小説家・批評家。19世紀後半，意識的にリアリズムに接近した先覚者で，社会的背景のもとに倫理的問題を描いた。小説《サイラス-ラパムの向上》や，評論集《批評と虚構》などがある。

ハウサご 【ハウサ語】 ⇨アフリカ諸語

ハウサぞく 【ハウサ族】 サハラ砂漠(さばく)の東南部，チャド湖の西，ナイジェリア北部に住むハム(クシ)語族系の大部族で人口500万。サハラの交易で栄え早くからイスラム化して，北ナイジェリアのカノなど数個の王国をつくった。現在でもハウサ語はこの地方の諸部族間にまたがる共通語で，法律・政治・経済・交易・宗教・文学など広く用いられている。農民の間ではイスラム化せず伝統的な呪術(じゅじゅつ)を信仰する者も多い。

パウサニアス ［Pausanias］ 生没年不詳。２世紀後半のギリシアの旅行家・地理学者。リディアの人。パレスチナ・エジプト・イタリア・ローマを旅行したが，特にギリシアに興味をもち《ギリシア地誌》を書いた。ギリシア各地の重要都市の歴史・地理的条件・神話・宗教的迷信，また産物・社会生活などについて述べたものである。

パウストフスキー ［Konstantin Georgievich Paustovskii］(1892～1968) ソビエトの小説家。アレクサンドル-グリーンとともにソビエト文学のロマン的傾向を代表する。ジャーナリストののち創作に転じ，《ロマンチストたち》《カラ-ブガズ》で名声を得た。名文家で，異国的なものや自然の美を叙情味豊かに描き，ロシア各地を舞台にあらゆる階層・年齢にわたる人物を，多くの小説・紀行・回想の中に取り上げた。

ハウゼ ［Alfred Hause］(1921～) ドイツの音楽家。ウェストファーレンの生まれ。ワイマール音楽院でバイオリンと音楽理論を学び，1948年に自己の楽団を結成，タンゴをおもに取り上げて人気を高めた。現在ハンブルク市の国営北ドイツ放送局専属オーケストラの指揮者で，いわゆるコンチネンタル-タンゴを演奏してヨーロッパのタンゴ楽団として最も高い評価をうけている。1965年以来３回来日。

はうた 【端唄】 日本伝統音楽の曲種名。地歌の一種としての〈上方端歌〉は，《雪》《黒髪》《小簾(こす)の戸》などに代表されるように比較的短く，つくられた当時当世的な印象を与えた種類である。一方，ふつう端唄という場合には〈江戸端唄〉をさす。これは江戸中期に始まり，どの派にも属さないような小さな唄で，内容的にも，色気や洒脱(しゃだつ)な世界を軽く扱ったものである。江戸末期になると，うた沢が流派としてかたまり，さらにのちに小唄も独立したジャンルを形成しようとするが，それらの母胎になったのが，この端唄である。したがって曲目としては，端唄はうた沢にも小唄にも共通するものを多くもっている。端唄は他の二つと違い家元制度によらずに伝承されているが，音楽的な特徴ははっきりもっている。テンポについては，節を細かくまた長く延ばすうた沢よりは速く，しかし，小唄ほど速くさらっといくわけではない。三味線(しゃみせん)と唄の関係も，唄本位のうた沢よりは三味線が重要であるが，小唄ほど三味線が引っ張っていくわけではない。代表的な曲に《夜桜》《夕暮》《桜見よとて》などがあり，また，江戸端唄的な性格をもつ上方の歌としては，《忘れ唱歌》や《十日戎(えびす)》などがある。下座でもよく使われる《京の四季》は，上方の端歌としても江戸的な端唄としても扱われる。〔徳丸吉彦〕

バウハウス ［Bauhaus］ ドイツのワイマールに，1919年ワイマール社会民主主義政府のバックアップでグロピウスが〈建築を中心とする総合芸術を実現〉するために設立した造形の学校。その指導理念は，それまでの社会通念では別個のものであったアートとクラフトを一つの建築に総合しようとするものであった。グロピウスは〈新しい建築にアートとデザインにおけるすべてのトレーニングを統合し，すべての創造的エネルギーを協同させる〉ことをその教育原理とした。その教育システムは，①石・木材・金属・粘土・ガラス・織物などいろいろな材質のワークショップによるクラフト課程，②自然の研究，材料分析，技術的な構成と表現，スペースとカラーとコンポジションの研究によるフォルム課程であり，①②の課程を学習する基礎教育として，材料がもっている法則と可能性を学生自身に発見させるために材料体験によって各自の創造性を引き出し，研究させるのがバウハウスの教育の中核であり特性であった。指導者にクレー・カンジンスキー・イッテンらが迎えられ，のちにM. ナギが参加した。学生の多くは敗戦の絶望からバウハウス宣言に光を求めたドイツの若い世代であり，彼らは〈軍服のままであったり，素足やサンダルばきであったり，あごひげが長かったり〉した。1923年にその成果と研究を出版と展覧会で発表，世界的なセンセーションを起こした。ワイマールの政権を把握(はあく)したファシストは翌年バウハウスを圧迫し，1925年に閉鎖。しかし，デッサウの社会民主主義政府の後援を受けたグロピウスの設計でバウハウス-デッサウの新校舎が建設された。母校出身のバイヤー・ヨゼフ-アルベルスらが教授陣に参加，ワイマールにおけるバウハウスの理念と教育内容を高度に発展させた。特に写真・印刷美術・広告デザインに新領域を開拓し，そのすぐれた造形理論をもって教育にあたったM. ナギの足跡は大きかった。1928年グロピウスは引退し，ナギはアメリカに渡った。1933年ヒトラーのファシズム政権によってバウハウスは解散を命ぜられ，3代めの校長ミース-ファン-デル-ローエらがベルリンで再建を企画したが，第2次世界大戦の勃発(ぼっぱつ)で壊滅した。しかし，ナギは1937年シカゴにニュー-バウハウスを，デッサウのバウハウス出身のマックス-ビルは1955年ドイツのウルムにニュー-ジャーマン-バウハウスをそれぞれ建設。往年のバウハウス精神を継承して〈増大する機械文明を人間化する〉理念のもとにユニークな活動を続けている。〔伊藤幸作〕

バウフ ［Bruno Bauch］(1877〜1942) ドイツの哲学者。新カント派のバーデン学派に属する。カント学者として客観主義的立場からカントの認識論を解釈し，リッケルトとは違った独自の思想を展開した。また倫理学を人間の行為の価値に関する学問であるとし，普遍的に妥当とされる欲求や行為が倫理的には価値があると述べた。主著《真理・価値および現実》。


ハウプトマン

ハウプトマン ［Gerhart Hauptmann］(1862〜1946) ドイツの劇作家・小説家。ブレスラウの美術学校・イエナ大学に学んだが，その後自然主義の洗礼を受け，1889年戯曲《日の出前》でデビュー，たちまち自然主義の代表作家となった。続いて群衆劇《織匠》，喜劇《海狸(ビーバー)の毛皮》などの名作を発表。その後《ハンネレの昇天》《沈鐘》などロマン主義的・夢幻詩的傾向の作品も書いたが，後年《馭者(ぎょしゃ)ヘンシェル》《鼠(ねずみ)》などによって再び自然主義的作品に復帰している。小説では《キリスト狂クビント》《ゾアーナの異教徒》などが有名。晩年には古典の世界に近づき，ギリシアや古典に取材した最後の大作《アトレウス一族四部作》を書き残し，ナチス時代のファシズムに対する抵抗を示した。1912年ノーベル文学賞受賞。〔横溝政八郎〕

バウマイスター ［Willi Baumeister］(1889〜1955) ドイツの抽象画家。ドイツ表現主義の運動とはかかわりをもたず，むしろシュレンマー・オザンファン・レジェ・ル-コルビュジエらの構成主義的・新造形主義的芸術家の仲間に加わった。1919年にはじめて抽象画を描く。1937年ごろからその画面に種々の記号や生物の形が現われるが，これらの形態はシュメールの象形文字やアステカの彫刻，さらには，クレーやミロの芸術を想起させるものがある。


バウマイスター 《ブロックス-バーグ》 1952

バウムガルテン ［Alexander Gottlieb Baumgarten］(1714〜1762) ドイツの哲学者。ベルリンの生まれ。いわゆるライプニッツ-ウォルフ学派の最大の哲学者で，ドイツ美学の創始者。1735年ハレ大学講師，のちフランクフルト大学教授。彼によってはじめて美の包括的研究としての学問すなわち美学が，哲学体系の中に位置づけられた。認識を上級(悟性的)と下級(感性的)とに分け，前者の学を論理学，後者の学を美学・感性論とする。その他哲学の体系化および哲学用語のドイツ語化に努めた。カントは彼の《形而上(けいじじょう)学》を重んじて初期にはこれをその講義の基礎に用いた。主著《形而上学》《美学》《哲学的倫理学》。〔豊福英利〕

バウムクーヘン ［Baumkuchen］ ドイツの有名な菓子。バウムは木，クーヘンは菓子の意味で，切り口が木の年輪のように見えるところからの名称。バター・砂糖・卵・小麦粉・コンスターチなどを材料として種をつくり，棒に種をかけながら焼き，表面がきつね色になったら新しい種をかけ，こうした操作を数十回くり返してつくる。本式の食べ方はさらの上で薄く刻み，ホイップクリーム(生クリームをあわだてたもの)を十分にかけて混ぜ合わせながら食べる。〔泉　敬子〕

ハウラ ［Howrah］ インド共和国東部，西ベンガル州の都市。人口73万8,000(1971)。ガンジス川の支流フーグリ川をはさんでカルカッタの対岸に位置する。両市はハウラ-ブリッジでつながれ，橋の西にあるハウラ駅は，インド各地への鉄道の起点となっている。ジュート・綿織物・車両工場などがあり，1787年につくられた植物園は有名。

パウリ ［Wolfgang Pauli］(1900〜1958) スイスの理論物理学者。ウィーンの生まれ。ミュンヘン大学に学び，コペンハーゲンでボーアの指導を受けた。プリンストン大学高等研究所客員教授，チューリヒ工科大学の教授。相対性理論の研究に従事

し，ハイゼンベルク*らとともに量子論の体系化に功績があり，現代の理論物理学の開拓者のひとりといえる。原子構造についてスピン*の概念を導入し，パウリの排他原理*を発表した。場の量子論の展開，中間子論への貢献など業績は多い。1945年ノーベル物理学賞受賞。〔藤村 淳〕

パウリのはいたげんり【パウリの排他原理】 半整数のスピン*をもつ二つ以上の同種類の粒子は同時に同じ状態(同じ位置や同じスピンの状態など)をとることはできない，という量子力学*に特有な原理。異常ゼーマン効果*の説明の際に，1925年，電子(スピン½)に関してパウリ*が発見したもので，元素の周期律表*などがこの原理に基づいてはじめて理解された。この原理は，のちに電子だけではなく，半整数のスピンをもつすべての粒子に適用されることがわかり，原子・原子核・素粒子物理学において重要な役割を演じている。〔高林武彦〕

パウル［Hermann Paul］(1846～1921) ドイツのゲルマン語学者・言語学者。ベルリン・ライプチヒ両大学に学び，1877年フライブルク大学教授。1893年ミュンヘン大学教授。ジーフェルス・ブラウネ・オストホフらとともに〈青年文法学派〉の有力な構成員となった。著者に《ドイツ語辞典》《ドイツ文法》5巻などのほか，19世紀言語学の古典的名著といわれる《言語史原理》がある。この書において，個人の言語の観察の重要性，現代語を出発点とした言語の歴史的考察の重要性が，たえず具体的・実証的に示され，後世の言語研究に与えた影響はきわめて大きい。〔崎山 理〕

パウルソン［Gregor Paulsson］(1889～) スウェーデンの造形学者・デザイン運動指導者。その活動分野は，美学・美術史からプロダクト-デザイン・建築・都市社会学にまでわたるが，特にデザインに関する認識の深さ，グッド-デザイン*運動に関する卓越した思想が高く評価される。〈製品の選択が生活様式の選択である〉という考えのもとに，日常生活用品の形態と美的・社会的な機能を追究し続け，一般消費者に対するデザインの啓蒙(けいもう)に努力した。〔武井邦彦〕

パウロ［Paulus］(10ごろ～67) 初期キリスト教の伝道者。小アジア，キリキアのタルソスの生まれで，ローマの市民権をもつユダヤ人。エルサレムに出て律法学者ガマリエルに学ぶ。はじめキリスト教の熱烈な迫害者であったが，ダマスカスに向かう途中で復活のキリストの声に接し，突然の回心を体験，熱烈な伝道者となる。世界伝道を志し，3回にわたる大伝道旅行を企て，小アジア・ギリシアの諸都市を歴訪，迫害の中にあって各地に教会を形成していった。エルサレムの神殿でユダヤ人に捕われ，カイザリヤで2年の幽囚生活を過ごしたのち，ローマに送られた。その後のこと



ハ エ

は不明であるが，伝説では64年のネロ帝によるキリスト教大迫害の際に殉教したとされる。《新約聖書 使徒行伝》は同伴者ルカの手になるものと推定されるが，パウロの活動を知る上で重要である。彼の内面生活は《新約聖書》中の〈ロマ人への手紙〉〈コリント人への手紙 第1・第2〉〈ガラテヤ人への手紙〉〈ピリピ人への手紙〉〈コロサイ人への手紙〉〈テサロニケ人への手紙 第1・第2〉〈ピレモンへの手紙〉などの彼自身の書簡によって知ることができる。〔石井忠厚〕

パウンド［Roscoe Pound］(1870～1964) アメリカの法学者・弁護士・ネブラスカ州最高裁判所判事，ノース-ウェスタン・シカゴ・ハーバード・カリフォルニア各大学教授を歴任。1941～1947年スタンフォード大学名誉評議員。プラグマティズム*の法哲学を学問的基礎とし，法・法思想の分野で業績をあげた。《コモンローの精神》《法と道徳》《法律史観》などの著書がある。

パウンド［Ezra Pound］(1885～1972) アメリカの詩人・批評家。早くから語学にすぐれ，イギリス・フランス・イタリアに住んで，新しい技法と該博な知識を駆使，《仮面》《ヒュー-セルウィン-モーバリー》《キャントーズ》など多数の詩を発表した。特に新詩運動〈イマジズム*〉などを推進，T. S. エリオット*・ジョイス*ら同時代の文学者たちへ多大の影響を与えている。

はえ【蠅】 こん虫類・双翅(そうし)目のうち，カ・ガガンボ・ブユ・アブなどの類(いずれも直縫亜目に属する)を除いたものの総称。分類学上，狭義には，環縫亜目に属するものをさすが，環縫亜目にもショクガバエ科のようにハナアブ科とも別称される群がある。ハエとアブの区別は便宜的で，分類学的に明瞭(めいりょう)な群をさすわけではない(アブは，狭義には，直縫亜目のアブ科に属するものをいう)。さらに，直縫亜目の一部にもタマバエ・オドリバエ・アシナガバエなどハエの名称をもつものがあるが，それらが一般のハエ類よりも前述のカやガガンボ・ブユなどの類に近縁な群であることはもちろんである。また，双翅目の上級分類群(亜目や科・属など)の分類は，研究者によって異説が多数ある。ここでは，最も一般的な，双翅目を直縫亜目と環縫亜目に二大別する方式に従い，狭義のハエ類すなわち環縫亜目について述べる。

きわめて多数の種が知られ，生活様式も変化に富む。ショウジョウバエ科のように，遺伝学の好材料として用いられ，種々の角度から研究されている群もあるが，大部分の群については，あまり詳細な研究が行なわれていない。形態も著しく多様で，種々の特殊化した構造がみられる。頭部は，ほぼ半球形で，複眼はよく発達して大きく，雄では左右が互いに接し，雌では離れている。口器は，突出して吻状(ふんじょう)となり，口吻吸部とよばれ，なめたり吸収するのに適しており，その末端部は大きく広がって柔らかい唇弁(しんべん)を形成する。唇弁は，楕円(だえん)形の葉片で，平常時は小さいが，摂食時には体液が充満して拡張する。前翅は発達して大きく，後翅は退化して平均棍(こん)となっている。前翅の翅脈は，各科・各群に特有で，分類学上重要な特徴とされる。また，翅(はね)の基部後縁には3個の小片があり，その大小によって有弁翅類と無弁翅類に大別され，衛生上重要なハエ類はおもに前者に属している。雄の腹部末端にあって交尾に使用される部分を特に尾節といい，分類学上の特徴として重要視される。雌の腹部末端は，産卵管を形成するが，その形状は産卵の様式に応じて著しく変化している。気門は，胸部に2対，腹部に8対存在する。完全変態を行ない，大半の群は卵生であるが，ニクバエ科のものは卵胎生で，母虫の体内で孵化(ふか)し，1齢幼虫で産下される。また，サシバエ科のツェツェバエのように，全幼虫期間を母虫の体内で保育されるものもある。幼虫は，通常2回の脱皮を行ない，3齢の老熟幼虫では脱皮せず，体皮がそのまま厚化して囲蛹(いよう)となる。蛹期は，数日～10数日で，成虫は，羽化後数日で交尾を行ない，その後数日以内に産卵する。

これまでしばしば用いた直縫・環縫という語は，羽化の際の蛹殻(ようかく)の割れ方によるもので，直縫類では胸部の背面中央が縦あるいはT字形に割れ，環縫類では囲蛹の胸部が環状に割れる(ただし，少数の例外がある)。幼虫は，大半のものが土中，植物組織内，動物の体内，水中，種々の腐敗物中などの湿気の多い場所に生活し，真の胸脚が退化した無脚のうじ状で，その生活環境に応じて，体に擬脚や突起物をもつものが少なくない。ハエ類には，人類と密接な関係をもっているものが少なくなく，ほとんどは衛生上の害虫である。ツェツェバエをはじめとするサシバエ類は，人畜から直接吸血し，日本にも種類が多く，ウシ・ウ

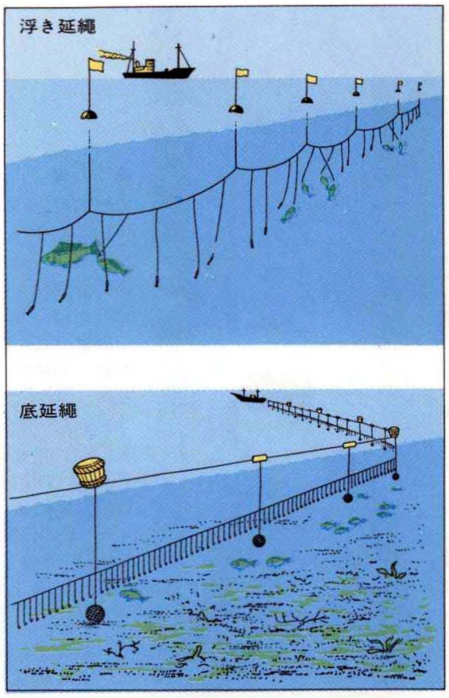
マ・ヒツジなどから吸血する。ウマバエ(ウマバエ科)は，幼虫がウマ科の胃に寄生し，まれにはイヌやヒトにも寄生するという。ウシバエ(ウシバエ科)は，幼虫がウシやウマ，まれにヒトの皮下に寄生する。ヒツジバエ(ヒツジバエ科)は，幼虫がヒツジの鼻腔(びこう)内の粘膜に付着して生活することでよく知られ，まれにヒトにも寄生し，頭内腔や結膜などから発見されている。また，オーストラリアでは，キンバエ類の幼虫が，ヒツジの体表に多数寄生し，皮下組織深く侵入して大きな被害を与える。また，人類の生活環境下で生活しているイエバエ類やクロバエ・ニクバエなどの類は，糞尿(ふんにょう)や諸種の汚物に集まってこれを食べるため，チフス・コレラ・赤痢・小児麻痺(まひ)(ポリオ*)・結核など各種の病原体が機械的に伝搬される。また，ヤドリバエ科のもののように，鱗翅(りんし)目(チョウやガの類)の幼虫などに寄生する益虫も少数ある。双翅目は，こん虫類の中でも大きな群で，環縫亜目だけでも約100科に属する数万種が知られ，将来研究が進めばさらに多数の種が発見されることと思われる。〔鈴木邦雄〕

はえじごく　**【蝿地獄】**　双子葉植物・モウセンゴケ科。ハエトリソウともいう。北アメリカ東南部原産の多年草。葉は根出し，長さ3.5～10cmの広披針(こうひしん)形で，表面に赤色の腺粒(せんりゅう)が多数あり，左右に3本ずつの感覚毛が立ち，縁はくしの歯のようにとげが並び，葉が閉じたときに組み合わされる。葉身に小さな虫が止まると主脈を中心に二つに折りたたまれ，腺粒から消化液と酸が分泌され，2～3時間でとかされて吸収される。5～7月，高さ15～30cmの花茎を伸ばし，5～10個の径1.5cmの白色五弁花をつける。➔食虫植物

バエズ　［Joan Baez］（1941～　）アメリカのフォークソング歌手。〈フォークの女王〉とよばれる。ニューヨークの生まれ。ボストンで歌いはじめ，1959年ニューポート歌謡祭で一躍有名になった。平和運動家としても活躍している。1967年来日。

はえどくそう　**【蝿毒草】**　双子葉植物・ハエドクソウ科。平地から丘陵地の林床にはえる多年草。茎は高さ30～70cm，四角柱で有毛。葉は長さ7～10cm，幅4～7cmの卵形または三角状広卵形で，対生する。6～8月，茎や枝先に長さ10～20cmの花穂を伸ばし，淡紫色の唇形(しんけい)状の小さな花を多数つける。果実はイノコヅチ*の果実に似る。葉が狭く長楕円(ちょうだえん)形の種類をナガバハエドクソウという。

はえとりぐも　**【蝿取蜘蛛・蝿虎】**　蛛形(ちゅけい)類・真正クモ類・ハエトリグモ科の総称。外国ではジャンプグモとよんでいる。網を張らない小形の徘徊(はいかい)性のクモで，体はずんぐりとしていてやや扁平(へんぺい)，歩脚は太く短い。後脚はよく発達しジャンプしてハエなどを捕えるのが得意。8眼中



延　縄

4眼は頭の前方に並び，そのうちの2眼は巨大でヘッドライトのようである。クモの視覚については疑問があるがこの2眼ははっきり像を結ぶらしい。種類は多く，日本からは約80種が知られている。屋内ではアダンソンハエトリグモ(黒い体と白い触肢(しょくし)が目だつ)，チャスジハエトリ(体に黒かっ色の2縦条がある)などが普通に見られ，へい・壁・庭木の樹幹などには灰色のシラヒゲハエトリが見られる。また，アリそっくりのアリグモも含まれる。

〔八木沼健夫〕

はえなわ　**【延縄】**　つり漁具の一種。1本の幹縄につり針をつけた多数の枝縄を結びつけたもの。一定時間海中に設置しておき，あとで引き上げて多数の魚を捕獲するもので，効率がよい。海中の上層で使うものを浮き延縄といい，マグロ延縄が代表的なもので，数kmに及ぶ幹縄を使う。操業の際は，1個の浮きから次の浮きまでを1セットとし，1セットごとに鉢(はち)に収納するが，最近のマグロ延縄では幹縄を分離せず，揚縄機で操作し，枝縄だけを取りはずす方式が多い。また底層で使うものを底延縄といい，延縄を沈子で固定する。タラ延縄が代表的なもの。

【延縄漁業】延縄を主漁具として営まれる漁業。マグロ延縄，サケ-マス延縄，タラ延縄などがあるが，マグロ延縄が最も規模が大きく盛んで，現在わが国で漁獲されるマグロ・カジキ類のほとんどはこの方法によるものである。年間漁獲高では，遠洋マグロ25万1,300t，近海・母船式マグロ89,700t，サケ・マス13,700t，タイ2,200t，その他10万7,800t(1970)。〔石野　誠〕

ばえん　**【馬遠】**　中国，南宋(なんそう)の画家。光宗～寧宗(12世紀末～13世紀初)朝の画院待詔。字(あざな)は欽山(きんざん)。河中の人で，代々画院に仕えた馬氏一族のひとり。李唐*(りとう)を師とし，山水・人物・花鳥いずれも巧みであった。特に山水は夏珪*(かけい)とともに南宋院体を代表する。自然の一部を切り取った余白の多い象徴的な構成で，辺角の景と評され，また一角半辺・馬一角などと称された。焦墨による的確な鉤勒描(こうろくびょう)と李唐以来の斧劈皴(ふへきしゅん)(➔皴法)，また人物などにおける撅頭描(けっとうびょう)に特徴がある。室町時代の水墨画の形成に与えた影響は大きい。〔中島純司〕

パオ　**【包】**　ユルトともゲルともいう。モンゴル人など遊牧民族の居住するフェルトの天幕。固定式と移動式の2種がある。構造は，一般に壁面が円筒形，頂が円錐(えんすい)形になっていて，頂に煙出しとあかり取りを兼ねた口がある。木の棒を組み合わせて側壁と天井骨を組み立て，これに扉(とびら)をはめこみ，その外側をフェルトでおおう。

バオダイ　［Bao-dai］（1914～　）ベトナム阮朝(げんちょう)第13代の皇帝。保大とも書く。1925年パリに留学中即位し，第2次世界大戦中はベトナムにあって日本軍の保護を受けた。戦後直ちに退位して，ホー＝チミン*の政治顧問，ベトナム人民共和国議員となったが，まもなく香港(ホンコン)に亡命した。1949年3月，フランスと協定を結んで，南ベトナムにバオダイ政権を樹立して，フランス連合内の自治を与えられた。しかし，パリにとどまったままベトナムに帰らなかったので，1955年，国民投票によって首席を廃せられた。〔船越昭生〕

パオツ　**【包子】**　中国料理の点心*の一種。中に肉またはあんを入れたまんじゅう。日本では中華まんじゅうという。中国の饅頭(マントウ)には中身を入れないが，包子はこれに中身がはいったもので，肉まんじゅう(肉包子(ローパオツ))とあんまんじゅう(豆沙包子(トウサパオツ))に大別される。肉まんじゅうの中身は，豚ひき肉・ネギ・シイタケなどを混ぜて塩・しょうゆ・ごま油で調味したものを使い，あんまんじゅうは，あずきあんにクルミ・アーモンドなどを加えて，ゴマ・ラードを混ぜたものを入れる。皮は小麦粉(強力粉)にイーストを混ぜて発酵させ，蒸してつくる。〔曾根喜和子〕

パオトウ　**【包頭】**　中国，内モンゴル自治区西部の都市。人口約30万。同自治区最大の都市で，京包・包蘭(ほうらん)両鉄道と黄河水運との連絡地にあたる交通の要地である。農畜産物の集散地で，製糖・毛織・皮革・建材などの工業が行なわれていたが，中華人民共和国成立後は付近で産する豊富な鉄鉱・石炭をもとに，大規模な製鉄・製鋼業が行なわれている。

バオバブ　［baobab］　双子葉植物・パン



羽　織
①陣羽織（江戸初期）伊達政宗所用　仙台博物館蔵　②町人のしまの羽織（江戸中期）石川豊信画　③黒紋付き羽織（明治初期）④書生羽織（明治中期）《東姿》より　⑤黒羽織（明治中期）豊原国周画

ヤ科。熱帯アフリカのサバナ地帯にはえる落葉高木で，特異な樹形をし，樹齢は数千年になるという。幹は非常に太く大きくなり，径10mにも達する。熱帯性の植物には珍しく乾期には落葉する。葉は長柄で互生する掌状複葉で，5～7枚の小葉をつける。小葉は長さ8～13cmの長楕円(ちょうだえん)形で，先がとがり，裏面に軟毛がはえる。葉腋(ようえき)から長柄を伸ばして大形の白色花を単生する。花は径15cmほどで，おしべは紫色をおびる。果実は長さ15～30cmのキュウリ形で長柄で下垂する。〔横井朝子〕

はおり【羽織】 和服の長着の上に，はなち着にする衣服。身たけは短く，わきにまちがつき，えり肩明きから前身ごろの幅を裁ち落として垂直につけた長方形のえりを前身の表で折り返し，胸の乳の位置につけた乳布(ちぬの)にひもを通して結ぶ。えりは，後ろえり肩明きでは幅二つ折りにして着る。前身ごろのすそをわきから斜めにし，えり付けのほうで2～4cm下げる。女物はそでが長着と同じで身八つ口は小さく，まちの上部の幅は2cm内外。男物はそでたけ全部をそで付けとして人形がなく，まちの上部は剣先のようにとがる。男女ともに夏は単(ひとえ)羽織，冬は袷(あわせ)羽織とするが，冬もウールなどは肩すべりをつけて単仕立てにすることが多い。防寒用に綿入れ羽織もあったが，現在はすたれている。羽織の寸法は，長着を基礎として定める。

男物の礼装は黒の紋付羽織と袴(はかま)で，正装には黒(冬は羽二重，夏は平絽(ひらろ))五つ紋付染め抜き羽織，略礼装には無地(冬はお召・綾糸織(あやいとおり)，夏はお召絽・紗(しゃ)などの先染め物)の三つ紋(または一つ紋)縫紋，なお略しては無地に近い柄物で紋をつけない。女物は正装には着用せず，略礼装用として黒(冬は縮緬(ちりめん)・紋綸子(もんりんず)，夏は絽・絽縮緬・紗・紋紗など)三つ紋付染め抜き，黒に一つ紋(または三つ紋)縫紋，色紋綸子に一つ縫紋，紋なしの黒や色の無地の順に略装となる。総じて袷羽織にはしなやかな生地がよく，夏の単羽織は張りのあるものが涼しくみえる。

〔歴史〕16世紀ごろ，戦国大名などは衣服にも南蛮文化を取り入れ，自由で創作的なものを着用した。羽織もその一つで，最初はよろいの上や日常に着る防寒着として，胴服・陣胴服ともよばれた。はじめの形は，身たけもひざ下までの長いもの，短いものや，小袖(こそで)と同じそで・おくみ・広えりがつき，くけひもを縫いつけて胸で結んだものなどがあった。またそでもおくみもないものやまちがないものは，背縫いに馬乗りをあけた。これが後世の背割り羽織・ぶっさき羽織である。さらに，洋ふうを取り入れてえりを表前身に折り返すものもでき，羽織の特色であるえりに共布(胴服は別布)を使うようになり，現在の形に固定した。安土桃山時代から五つ紋付きも着られはじめ，江戸中期には黒紋付きが好まれて広く着用された。後期には，馬乗り袴と合わせて正装となり，明治以後も続いた。女性には江戸後期から一部で用いられたが，礼装とはされなかった。しかし，明治以後は略礼装として黒三つ紋付きが広く用いられるようになった。

〔種類〕江戸時代では，陣羽織・火事羽織(→火事装束)・蝙蝠(こうもり)羽織(身たけが短い)・そでなし羽織・革(かわ)羽織があり，江戸末期には三才羽織，明治時代には書生羽織(男女ともに身たけが長い)がある。羽織の身たけは，江戸初期から現在まで，長短数回の変遷があった。→和服　→和裁
〔堀越すみ〕

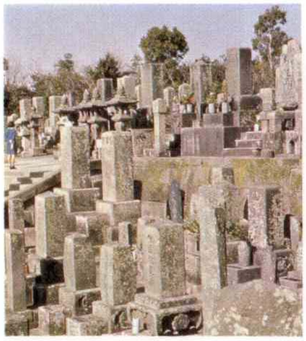
はか【墓】 墓の用途は，遺骸や遺骨を埋めることと，以後の祭りをすることの二つに大別することができる。現在多くの墓は，これを一つの場所で兼ね備えている。しかし葬地と祭地の機能・位置や葬法・墳墓の形式や名称などによって墓の意味は一定していない。

古墳時代以前には遺骨の尊重，死者・死霊の祭祀(さいし)などの希薄から，死者に関する記念物を設けることがなく，簡単なものは地面に浅い穴を掘り，死体をじかに埋めたものであった。しかし古墳時代にはいると，社会の階級制度が確立し，その古墳には，円墳・方墳・前方後円墳・前方後方墳・上円下方墳などの巨大な墳墓が発達した。やがて大化改新から奈良時代以後は遺骸を火葬にし，骨を骨つぼに入れ墓に納める形式がしだいに普及した。平安時代の末期から石塔・石碑を立てるふうが生じ，中世には，宝塔・層塔・五輪塔・宝篋印塔(ほうきょういんとう)・卒塔婆(そとば)などが多くみられ，江戸時代には，衝立(ついたて)形の石碑，笠(かさ)付き石碑などの石碑類が普及し，墓標形式のものへと変化する。しかし民間で石塔・石碑などを用いるのは近世以降で，地方によっては依然として葬地に単に石を置くだけのところがあっていまもみられる。

墓の名称は各地により異なり，遺骸埋葬地に対する観念を想起させる。の・のべ・やまなどの埋葬場所を示す名，死出山・ほふりざきなど葬地であることを示す名，あしだに・あしのさわなどのあしき場所を示す名，やんとれ・やんたころなどの忌みきらう場所を示す名などがつけられており，それに対して墓という語は，後世の区画地の意であることがうかがわれる。なお，墓の形式には葬地と祭地とを合わせた単墓制と，葬地と祭地とを分離した両墓制(詣(まい)り墓)とがあり，今日では単墓制が支配的である。しかし，近畿(きんき)を中心に関東や四国東部，山陰・北陸などの一部には両墓制がいまでも分布している。→葬制
〔渡辺欣雄〕

キリスト教では古くから墓を飾ることが行なわれ，14～15世紀には墓造美術といわれるジャンルを形成した。今日では，カトリック地域はややはでで，イタリアのように故人の影像を飾る例もあるが，全体的には簡素化されつつあり，静かな樹林や広大な芝生を墓地にあて，故人の名・生没年・事績などを記した石板あるいは十字架と短い碑文が立てられる。イスラム教では，れんがを漆喰(しっくい)で固めた長方形の墓穴に埋葬され，その上に《コーラン》の1節と故人の名・没年・業績などを刻んだシャヒド

(石柱)が立てられる。ヒンズー教では火葬ののち骨灰は川に流されるので，墓は営まれない。自然民族の間では地域や部族によって固有の墓がつくられる。オセアニアでは，一般に埋葬地の土を盛って花をさして飾るだけで，墓標は用いられない。しかし，タヒチ島やサモア諸島などでは一般に土を平坦(へいたん)におおって四周に石を並べるだけで，土を盛ることは高い身分の人に限られている。アフリカ大陸南部のブッシュマンは埋葬した上に石や低木を積むが，これは死者の霊を恐れて土中に保つためである。〔斎藤高夫〕

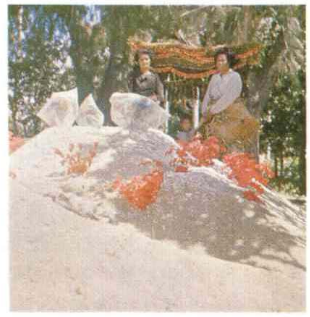

日本の角石塔墓


キリシタンの墓


沖縄の亀甲墓


アメリカ，アーリントン国立墓地


ルーマニアの農村の墓標


トンガの土盛りの墓

墓

パーカー ［Charlie Parker］(1920～1955) アメリカのジャズ-アルトサックス奏者。カンザスシチーの生まれ。1937年ジェイ-マクシャン楽団に加わり，カンザス-ブルースの伝統を強く受けた演奏をした。1940年代の初めニューヨークに進出し，ビーバップ*を創始。1944年以降はグループを結成して，ガレスピー*やM. デービス*らとコンビを組んで活躍し，そのナイーブで天才的な演奏はその後のジャズに大きな影響を与えてきた。麻薬と酒のため34歳で没。〔岩浪洋三〕

はかい 【破壊】 材料に加えられた力が，材料の構成要素(分子・結晶など)間の結合力より大きくなったとき，要素が分離して材料が二つ以上の部分に分かれる現象。現実の材料では内部に種々の微小な欠陥が存在するため，理論的な要素間の結合力よりはるかに小さい力で破壊することが確かめられている。破壊はその形式から，延性破壊・脆性(ぜいせい)破壊・疲れ破壊などに分かれる。

材料に大きな静的荷重を加えたとき，ある程度の永久変形を生じたのちに破壊する現象を延性破壊という。破壊後の材料の長さは破壊前のものに比較してかなりの伸びを示す。ガラス・チョークなどは大きな荷重を加えたとき，ほとんど変形せずに破壊する。そのため破壊部分を合わせれば外形的には破壊前の形状と一致する。このような破壊形式を脆性破壊という。軟鋼などのように常温において延性を示す材料でも，温度をある程度低下させると著しい脆性を示し，脆性破壊をする。この破壊形式を低温脆性破壊という。低温における材料の脆性化によって，一般に静的荷重に対する強さは増すが，衝撃的な力に対してはごく小さい力でも破壊してしまう。また，材料にその静的破壊応力よりずっと小さい応力を変動して与えると，変動をある数くり返したのち突然材料に亀裂(きれつ)が生じ，その亀裂が進展して破壊することがある。この現象を疲れ破壊という。疲れ破壊はほとんど材料の外形的変形や様相の変化を伴わず突然発生するため，建造物などの設計に際しては実験結果に即して十分研究する必要がある。〔森田　鈞〕


バカガイ

はかい 【破戒】 島崎藤村*の長編小説。1906年(明治39)自費出版。部落出身という小学校教員瀬川丑松(うしまつ)の心の恐れと社会的偏見の壁を描く。丑松がその心の秘密を生徒たちに告白するところに，藤村自身の新生への願望をこめた作品。作者最初の長編で，日本の自然主義*文学運動の起点をなす。

はかいかつどうぼうしほう 【破壊活動防止法】 略称破防法。1952年(昭和27)施行された法律。暴力主義的破壊活動を行なった団体に対する規制措置を定め，暴力主義的破壊活動に関する刑罰規定を補整して，公共の安全の確保に寄与するために定められた。内乱，内乱の予備，およびその陰謀・幇助(ほうじょ)，外患の誘致・援助，およびその予備・陰謀，これらの行為の教唆・扇動，政治目的による放火・電車転覆などの行為を暴力的破壊活動と規定し，これらの行為について公安調査庁*の調査，当該団体の弁明を行ない，公安調査庁長官の処分請求に基づいて，公安審査委員会は必要な手続きを経て，団体の解散を含む規制ならびに罰則措置を決定することができる。この法律の制定にあたっては，第2次世界大戦前の治安立法である治安維持法*の復活であり，憲法で定める基本的人権*の侵害のおそれがあるとして強力な反対意見と反対運動があった。このため国民の自由と権利を不当に制限してはならないこと，拡張解釈してはならないことが条文中に挿入(そうにゅう)された。これまで実際に適用されたことはないが，1968年から学生運動の激化に対してはその適用が検討されはじめている。〔寺尾方孝〕

ばかがい 【馬鹿貝】 軟体動物・二枚貝類・バカガイ科。卵三角形で，殻長(かくちょう)8.5cm，殻高6.5cm，殻幅4cmに達する。殻(から)はやや薄質。殻頂部はふくらみ，殻表は平滑で，成長すると成長脈が明らかになり，黄色の殻皮をかぶって殻頂から黄かっ色の放射帯が出る。軟体は朱色で，それが殻の間から出ていると，ばかが舌を出しているようなのでこの名がある。むき身を青柳(あおやぎ)というが，これはもと上総(千葉県)青柳村で多くとれたことによる。乾物を桜貝，足を細く引き伸ばしたものは姫貝という。産卵期は主として5～7月。3年で6.6cm，5年で9.7cmほどになる。採取期は12月から翌年の4月。〔波部忠重〕

はがくれ 【葉隠】 江戸中期の武士道の倫理書。11巻。1710年(宝永7)佐賀藩士田代陣基(たしろつらもと)が，藩主の死後隠遁(いんとん)していた山本常朝(つねとも)を尋ね，その座談を以後7年間にわたって筆録したもの。常朝自身の教訓を収める1～2巻が本書の中心で，主家への多年に及ぶ忠誠の念と奉公の体験から，〈武士道といふは死ぬ事と見付けたり〉〈武士道に於(おい)ては死狂ひなり〉

など武士道における純一な実践と行動の哲学を説いた。また元禄(げんろく)・宝永期(1688～1710)の華美な風潮に対して痛烈な批判を浴びせると同時に，〈忍ぶ恋〉に恋愛の理想を見，〈人間一生誠(まこと)にわずかの事なり。好いた事をして暮すべきなり〉〈世界は皆からくり人形なり〉など独自の処世観・人生観を述べている。　〔小田　博〕

はかせ【博士】 律令(りつりょう)制において教育をつかさどった官職名。令制では中央の大学寮*に明経(みょうぎょう)博士・音博士・書博士・算博士(のち明法・文章(もんじょう)を新設)，陰陽(おんよう)寮に陰陽博士・暦博士・天文博士・漏刻博士，典薬寮に医博士・針博士・呪禁(じゅごん)博士・按摩(あんま)博士が置かれ，それぞれ学生を教授した。大宰府(だざいふ)には大宰博士，諸国には国博士*が置かれた。

はかた【博多】 福岡県福岡市の東部地区で，市街中央を流れる那賀(なか)川以東をさす。博多湾に面する博多港は，古くは那津(なのつ)とよばれて大宰府(だざいふ)の外港となり，遣唐使船がここから出航した。室町時代には朝鮮・中国との貿易で栄え，日本三津(さんしん)の一つに数えられた。戦国時代には兵火にかかって一時廃墟(はいきょ)となったが，豊臣秀吉(とよとみひでよし)が天下統一後，直接支配して町人の町をつくり上げた。1601年(慶長6)黒田長政(ながまさ)が西隣の福岡地区に城下町を建設して以来，江戸時代を通じてその外港・商工業地として発展した。1880年(明治13)福岡と合体して福岡区となり，1889年市制を施行。東中洲(ひがしなかす)・川端(かわばた)などの繁華街があり，呉服町から東中洲へかけては福岡市のメーンストリートにあたる。行政上の地名はすべて福岡に統一されたが，南東部にある鹿児島本線や新幹線の駅名は博多駅で，博多港・博多人形*・博多織*などの呼称もそのまま残り，年中行事の〈博多どんたく*〉や7月10～15日の〈博多山笠(やまがさ)〉も名高い。➔福岡市　〔浅井得一〕

はかたおり【博多織】 広義には，福岡県福岡市博多およびその周辺で生産される織物の総称であるが，一般的には，その中で独特の風合い・風趣をもつ絹織物の帯地をさす。狭義の博多織の地合の特徴は，経糸(たていと)が緯糸(ぬきいと)をすっかり包んでしまったような状態となり，表面には経糸ばかりが出ていて，横畝(よこうね)がきわだって見えることである。練糸を使った平織物ではあるが，経糸の張りを強くし，それに太い緯糸を強くたたき込むように織入れるので，地合がかたく，しっかりしている。練織物であるうえに，経糸が密なので絹の光沢が非常によい。柄は，地経糸とは別の紋経糸(絵経糸)によって浮文に織出される。

以上のことから，博多織は，横畝のあるかたい地合で，縦に柄が織出されたもので，絹の美しい艶(つや)があり，独特の絹ずれの音さえするという特色をもった織物であるということができる。経糸が緯糸をくるみ込んでいるため，布面は表裏同じ状態になる。柄は紋経糸によって織出され，表と裏とで地と文との現われ方は反対になり，柄それ自体は同じようになる。表裏ほとんど同じ状態に織上げられ，地質がしっかりしているので，単帯(ひとえおび)として重用されているのである。

現在，博多織といわれているものは，必ずしも博多で産するものと限らず，産地や使用原糸の糸質にかかわらず，博多織としての特色を備えた織物そのものをさすといってよいであろう。博多織の女帯の生産が盛んになったのは，明治以降である。今日の博多男帯には，表裏色を変えた昼夜博多，縞柄(しまがら)の筋入博多，独鈷(どっこ)入博多などがある。女帯は，ほとんどが縞か献上である。　〔北村哲郎〕



博多織　献上博多織帯部分　東京国立博物館蔵



博多人形　西沢童宝玩具研究所蔵

はかたこじょろうなみまくら【博多小女郎浪枕】 義太夫節*(ぎだゆうぶし)の曲名。3段の世話物。近松門左衛門*(もんざえもん)作。1718年(享保3)竹本座*初演。通称《毛剃(けぞり)》。同年抜荷(密貿易)の海賊の一団が捕えられ，鼻をそがれてさらされたうえ追放になった事件を題材としたもの。京の商人小松屋惣七(そうしち)と愛人の博多小女郎が海賊船に乗り合わせたことから起こった運命の変転を描いた浄瑠璃(じょうるり)で，姦通物(かんつうもの)や心中物の多い近松の世話物としては異色。1837年(天保8)歌舞伎(かぶき)化されて以来，海賊の首領毛剃九右衛門中心の芝居となっている。　〔前田慎一〕

はかたどんたく【博多どんたく】 福岡県福岡市で5月3～5日にかけて行なわれる祭礼。古くは松囃子(まつばやし)とよんで正月15日に行なわれたが，1949年(昭和24)以後現在の日取りになり，博多三大祭りの一つに数えられる。元来は室町時代に上流層で行なわれた正月の祝儀芸能で，博多の町民が年頭に藩主や旦那(だんな)の家へ練り込んで祝言を述べたことに起源する。現在でも古例にのっとった福神・大黒・恵比須(えびす)・稚児(ちご)などの仮装行列が登場し，古風な唱えごとをする一方，軽快なにわか*，博多節*の新しい芸能なども交えて，全市をあげてのにぎわいを見せる。　〔直江広治〕

はかたにんぎょう【博多人形】 福岡市博多でつくられる土人形。写実的であり，技巧が細かいうえに彩色も美しく，時代に応じた題材を多く扱っている点に特色がある。そのため全国の土人形の中で，現在最も製作も盛んであり著名である。創始は慶長年間(1596～1614)に瓦(かわら)職人正木宗七という人が，瓦の粘土で人形をつくり，藩主黒田長政(ながまさ)に献じたのに始まるという。しかし，その繁栄をみたのは幕末から明治にかけてのことで，ことに明治時代にすぐれた指導者や製作者を得て著しい発達をみ，今日の基礎を固め，博多の郷土産業として，大きな位置を占めるようになった。　〔北村哲郎〕

はかたぶし【博多節】 福岡県の民謡。山口県に由来する歌が明治初期に伝わり，新しい歌詞と編曲された旋律で歌われるようになった。三味線(しゃみせん)・尺八などの伴奏による《正調博多節》と〈ドッコイショ〉〈ハイ今晩は〉のハヤシことばのはいる《ドッコイショ》とがある。

はがため【歯固め】 元日もしくは6月1日に長寿を祝する意味でかたいもち・クリ・干しがき・あめなどを食べること。元日にかたいもちを食べる風は《枕草子(まくらのそうし)》にも〈齢を延ぶる歯固の具〉と記されている。正月歯固めの習慣は各地にあり，大分県速見郡などでは正月20日のことを〈歯固めの日〉とよび，鏡餅*(かがみもち)を開いて食べる。また東北地方では正月のもちをとっておいて6月1日(➔氷室(ひむろ)節会)にあられやかきもちにして食べることを歯固めとよび歯の根が固まるとか，からだがじょうぶになるといっている。これら各地の習慣は正月の食物が呪力(じゅりょく)をもつという信仰にささえられた行事と考えられている。　〔直江広治〕

はがちざき【波勝崎】 静岡県賀茂(かも)郡南伊豆(みなみいず)町に属し，伊豆半島南西端に突出した岬(みさき)。おもに安山岩からな

り，海食により高さ260mにも及ぶ断崖(だんがい)をなし，海岸には奇岩・怪石や岩礁が散在する。岬付近を波勝海岸といい，海上には洞門(どうもん)をもつ千貫門などの奇景が見られ，富士箱根伊豆国立公園の一部をなす。また，野生のサルの餌(え)付けでも知られ，観光客の興味を引いている。松崎・子浦などから遊覧船が出ており，バスの便もある。〔味沢成吉〕

はがつお【歯鰹】 硬骨魚類・サバ科。キツネガツオともいう。太平洋の熱帯部に広く分布するが，南日本にも産し，体長1mほどになる。あごにやや強い歯があるためこの名がある。体の上部に数本の縦縞(じま)が走るのが特徴で，美味ではないが食用になる。

バガテル [bagatelle] 〈つまらぬもの〉を意味するイタリア語に由来する楽曲。18世紀初めにクープランがハープシコード小品に使ってから，しばらくは舞曲や歌などの小曲集の標題に用いられたが，ベートーベン以後，2部あるいは3部形式の短い器楽曲(ほとんどピアノ独奏曲)の題として用いられた。ベートーベンの作品33・119，バルトークのピアノ曲，ドボルザークの合奏曲，ウェーベルンの弦楽四重奏曲が有名。

ばかなえびょう【馬鹿苗病】 イネの，おもに苗の病気。発病した苗は淡黄緑色となり，節間が伸びて草たけは2倍ほどに徒長する。根の発育は悪く，分蘖(ぶんけつ)も少ない。本田では田植え後1か月ほどで苗と同じ病状が現われ，また，しばしば上位の節から多数の長いひげ根を発根する。葉鞘(ようしょう)・節に淡紅白色のかびを生じ，分生胞子と子嚢殻(しのうかく)(子嚢胞子を内生する越年器官)を形成する。イネの開花期に分生胞子が飛んで籾(もみ)に侵入し，分生胞子の形で付着して保菌種子となる。予防法は無病種子の採種と種子消毒，発病苗・被害わらの焼却・除去などである。なお，本病菌の代謝産物中から植物ホルモンとして有名なジベレリンが見いだされる。〔渡辺　実〕

パガニーニ [Niccolo Paganini] (1782〜1840) イタリアのバイオリン奏者・作曲家。ジェノバの生まれ。19世紀の代表的な技巧にすぐれた演奏家のひとり。その生涯(しょうがい)について多くの伝説めいた逸話が伝えられているが，不明な点が多い。音楽好きの父からバイオリンの手ほどきを受けたのち，サン-ロレンツォ大聖堂の楽長ジャコモ-コスタとジェノバの劇場指揮者セルベットに師事。1793年に最初の公開演奏を行ない，成功をおさめた。1795年父親に連れられてパルラにおもむき，当時名声を博していたバイオリン奏者ロルラのもとに入門し，またギレッティに作曲を学んだ。1797年高度な演奏技術を身につけてジェノバに帰り，1799年から北イタリアの諸都市を手はじめに演奏旅行に出て，各地で大成功をおさめ富と名声をほしいままにし，そのはなやかな生活は多くの伝説的逸話を生み出した。1801年から4年間は演奏活動をまったく行なわなかったが，1805年から再び演奏会に姿を現わし，またナポレオンの妹に招かれてルッカの宮廷オペラ指揮者を3年間勤めた。1828年から外国へ演奏旅行を行ない各地でもてはやされた。帰国後健康の衰えをみせ，演奏活動もほとんど行なえず，58歳で没した。彼は自己の演奏技術を他人に秘密にして教えなかったため，彼の奏法がどのようなものであったかは推定の域を出ない。しかし，彼がそれまでとはまったく異なった新しいバイオリン奏法を開拓して，それを自在に駆使し，当時としては考えられなかったような名人芸を披露(ひろう)したことは明らかである。彼の作品では，このような技巧が十分に生かされており，中でも《24の奇想曲》，バイオリン協奏曲が有名。〔寺田兼文〕



パガニーニ

はがね【鋼】 鉄に炭素が0.02〜1.7重量%含まれた合金。炭素鋼*と合金鋼*に分けられる。化学成分と熱処理によって，その性質を広い範囲に変化させることができるので，最も重要な材料である。

バガバット-ギーター [Bhagavad-gītā] 古代インドの宗教・哲学の詩。サンスクリット語で書かれた大叙事詩《マハーバーラタ*》の一部分で約700節からなる。作者不詳。原型は紀元前2世紀ごろの成立とみられる。主人公アルジュナ王子とその御者クリシュナ(実はビシュヌ神の権化)の対話の形式を借りて，結果に執着することなく自己の義務を遂行すべきことを説き，またビシュヌ神に対する信愛を強調している。ヒンズー教徒にとっては，キリスト教の〈聖書〉に相当する重要な書である。〔前田専学〕

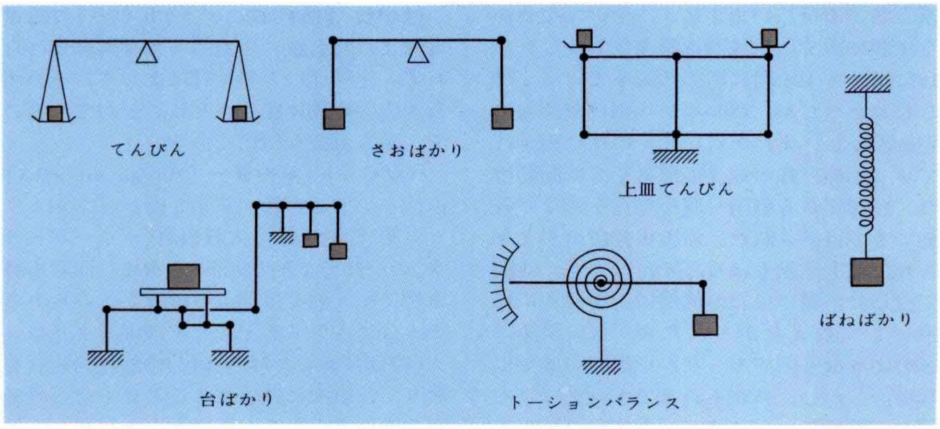
ばかばやし【馬鹿囃子】 江戸の祭り囃子*の一。別名《葛西(かさい)囃子》《和歌囃子》《若囃子》など。里神楽(さとかぐら)の変形として江戸中期に行なわれはじめ，将軍の御用祭である山王祭*・神田祭*にとりいれられて有名になった。これはさらに〈江戸囃子〉として関東一帯にも影響を及ぼした。曲目は《正殿(昇殿)》《鎌倉》《屋台》で，前2曲は神楽*からの変形借用である。ひょっとこの面をつけて舞うので〈馬鹿〉の名があるといわれている。〔山口　修〕

はかびょう【破瓜病】 ⇨精神分裂病

はかま【袴】 腰から下にはく和服で，両足を分けて包む形のもの。男子は古代から近世初期まで，上下二部式の服装なので，その下半身着として不可欠であった。飛鳥(あすか)・奈良時代に，朝廷を中心に隋(ずい)・唐の衣服を取り入れて，はだ着用の褌(はかま)



袴（①〜⑥男，⑦⑧女，①〜③上杉神社蔵）①指貫（葛袴）②表袴 ③赤大口 ④大紋の長袴 近世 ⑤平袴 近世末期 ⑥山袴(ふんごみ) 明治時代 ⑦長袴 近世末期 ⑧行燈袴 明治時代



は か り　各種はかりの原理

(後世の大口)と表袴(うえのはかま)とが礼服*(らいふく)・朝服*(後世は束帯*)にはかれ，江戸末期まで公家(くげ)に用いられた。庶民は中世まで短衣(襖*(あお))と白麻などのひざ下までのくくり口のはかまを着用したが，中世後期には長着(小そで*)が発達し，近世にははかまはすたれた。また，公家には直衣*(のうし)の下に指貫*(さしぬき)もはかれ，武士は狩衣*(かりぎぬ)・直垂*(ひたたれ)などに指貫をはいたが，近世からはすそをくくらずに長袴となり，直垂・大紋・素襖*(すおう)などにはいて礼装となった。江戸時代，武士は乗馬の際に馬乗り袴(襠高(まちだか)袴)，歩行には平袴(半袴)をはき，襠高袴は明治以降五つ紋付きの羽織とともに礼装となった。なお，近世初期に南蛮ふうを取り入れ，武士・庶民に革(かわ)袴・たっつけなど山袴の類がはかれ，今日でも農村の男女に用いられる。女子では，古代の公家に緋(ひ)の長袴や足首までの切り袴(袿袴(けいこ)のはかま)が使われ，江戸末期まで続いたが，一般には普及せず，明治中期から昭和10年ごろまで，えび茶色の行燈(あんどん)袴(襠なし)が通学用に広く使われた。
→和服　〔堀越すみ〕

はかまのう　【袴能】　能の略式演奏の一。登場者のすべてが，面や装束をつけず，紋服・袴だけで演ずる能。おもに夏の暑い期間だけに行なわれてきたが，能舞台の冷房装置設置が一般化したので，最近は上演減少の傾向にある。演者の稽古(けいこ)の成果が本式の演能以上にきわだち，技術の巧拙がはっきりするといわれる。

はがやいち　【芳賀矢一】　(1867～1927)　国文学者。福井県の生まれ。東京帝国大学国文学科卒業。東京帝国大学教授・国学院大学学長。国語調査委員・東宮職・宮内省御用掛などを歴任。江戸以来の国学の基礎の上に西洋の文献学の方法を取り入れ，新しく日本文献学を提唱した。また，国学と文学との密接な関係を強調し，史的展開の研究を進め，文学史観の樹立に努めた。著書《国文学史十講》ほか。

パーカライジング　[parkerizing]　化学的方法により金属の表面に無機質の薄い皮膜をつくって金属を被覆する方法(化成処理)の一。よく用いられるのは鉄鋼のリン酸塩法で，これは，リン酸マンガン・リン酸亜鉛などを主成分とする処理浴を50～100℃に加熱し，これに鉄鋼を浸してリン酸鉄の皮膜を生じさせる。この皮膜は塗装の下地，電気絶縁，耐摩耗，塑性加工の潤滑などの目的に用いられる。

はかり　【秤】　物体の質量または重量を測定する装置。原理と目的によって分類すると，次のようなものがあげられる。①てこの原理で，分銅とつりあいを保つことによってはかる形式。㋑左右の腕の長さが等しい天秤(てんびん)。㋺平行四辺形のリンクを利用した上皿(うわざら)天秤。㋩一定の分銅を用い腕の長さを調節してはかるさおばかり。㊁品物の数をはかる計数ばかり。㋭振り子とカムを組み合わせた振り子式はかり。㋬大きな物や重量物をはかる台ばかり。②ばねのたわみによってはかる形式。㋑ばねのねじれを利用したトーションバランス。㋺ばねの張力を利用したばねはかり。③浮力・圧力を用いたはかり。㋑物体を液体の浮力や圧力とつり合わせるようにした浮子(うきこ)はかり。㋺重さを液体の圧力に変えて測る圧力式はかり。④特殊なはかり。㋑荷重で変形する物体に電気抵抗を張りつけ，変形による電気抵抗の変化から重さをはかるひずみ計はかり。㋺重さを光学的に表示する光学式はかり。㋩電磁的な力と重さとをつり合わせる電磁式はかり。㊁コンベヤーで運ばれる品物の重さを自動的にはかるコンベヤースケール。㋭品物の重さを自動的に選ぶ選別ばかり。㋬包装を同時に行なう自動包装ばかり。㋣品物の重さと金額を同時に表示する料金ばかりなどがそれぞれの目的にしたがって使用されている。

なお，商用のはかりに対して工業用のはかりは一般に秤量が大きく，連続的に計測したり動いているものを計測することが多い。　〔今淳治郎〕

〔歴史〕現在までに発掘された最古のはかりはエジプトの天秤で，BC5000年ごろのものといわれ，同じく発掘された分銅から当時の天秤で最も精巧なものの感量は0.1g程度であったと考えられる。発明者は古代エジプト人であるとされているがシュメール人あるいは古代ペルシア人であるとする説も有力である。商用はかりとして多用されたローマばかりあるいはロマーナという棒ばかりが発明されたのはBC200年ごろとされ，これはてこに目盛りをつけ，てこがつり合う位置におもりの作用点を移動させ，おもりの位置の目盛りから品物の目方を知るもので，今日でも行商などに用いられている。その後，17世紀に上皿ばかりが考案され，18世紀にはてこを組み合わせて載せ台をささえ，荷物を積んだままの荷車をも容易にはかれるはかりが発明された。ばねや振り子を用いて自動的につり合わせ，指針によって目方を指示する指示ばかりは17～18世紀に発明実用化された。コンベヤースケールなど品物の移動中に計量する自動ばかりの発明実用化は今世紀にはいってからである。わが国ではかりが使われはじめた年代は明らかでないが，6世紀ごろ崇峻(すしゅん)天皇の代に上毛野久比が中国の呉からもたらしたといわれ，これは棒ばかりであったと思われる。その後室町時代には天秤が用いられていたことがうかがえるがその由来は明らかでない。

〔検定〕はかりは計量による取引の公正を期するため古くから公的な規制を受けていたが，現在でも取引や証明に使用されるものは，原則としてくるいや構造などにつき国または都道府県が行なう検定に合格したものでなければならない。それらは使用中にも定期的に検査が行なわれ，これにも合格することが必要である。　〔高橋照二〕

ばかん　【馬韓】　百済*(くだら)の前身で，古代朝鮮南部における部族国家群の一。3世紀末成立の《魏志(ぎし)韓伝》によれば，当時南鮮地方には数十万の韓族が居住し，韓族は馬韓・辰韓(しんかん)・弁韓(三韓)に分かれ，そのうち馬韓はいまの京畿(けいき)道・忠清南北道・全羅(ぜんら)南北道を占める53の部族国家から成立していたという。4世紀はじめ，三韓各国は前後してそれぞれ部族国家群の統一を完成するが，そのうち馬韓諸国は統一して百済となった。なお，百済南部はのち日本に占領されて任那*(みまな)の一部になったといわれる。　〔黛　弘道〕

パガンちょう　【パガン朝】　ビルマのイラワジ川中流のパガンを本拠として，11世紀中ごろから13世紀後半まで存続した王朝。アノーラータが創建した王朝で，ビルマ最初の統一国家といわれる。領域はイラワジ川を中心として，北および東はバーモ付近まで，西はアッサムの東部，南はテナセリムまでを包含した。仏教を基礎とした専制国家で，灌漑(かんがい)・水利に力を注ぎ，またビルマ語がはじめてタライン文字でしるされたことで有名。仏教は，はじめタライン系の小乗仏教であったが，のちにセイロ

ン仏教に変化し，今日これがビルマ仏教の主流となっている。さらに，パガン朝は造寺王朝ともいわれるほど，多くの壮麗な寺院建築を残した。第12代ナラティハパテ王のとき，入貢督促に派遣された中国の元の使者を殺して元軍の侵入を受け，ナサウンジャンの戦いに敗れ，パガンも占領されたので，元に下って臣服した。しかし，ほどなく王朝は臣下のシャン族ティハトゥによって簒奪(さんだつ)されて滅亡した。中国文献には〈蒲甘〉または〈緬(めん)〉と記される。〔船越昭生〕

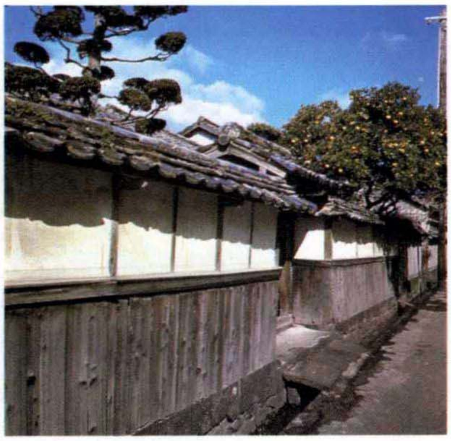
はぎ【萩】 双子葉植物・マメ科・ハギ属のうち，ヤマハギ*・マルバハギ*のほかミヤギノハギ・キハギ・ニッコウシラハギ・シロバナハギなど高さ1～2mで美しい花の種の総称。秋の七草の一つとして親しまれるものは，ヤマハギやマルバハギと考えられる。





ハ ギ (左)ミヤギノハギとシラハギ (中)マルバハギ (右)ナンテンハギ

はぎ【萩(市)】 山口県北部の市。人口53,000。1600年(慶長5)毛利輝元(てるもと)が指月山上に築城して以来の城下町で，江戸時代には三十六万九千石の所領を支配し，幕末に藩庁が山口へ移るまでの260年間，周防(すおう)・長門(ながと)2国の中心都市であった。1932年(昭和7)市制施行。市域は日本海に注ぐ阿武(あぶ)川河口の三角州上に位置し，三方を中国山地北西端の山々に囲まれる。産業三大別人口比は25：20：55。山地の斜面にはナツミカンが盛んに栽培されており，これは明治維新後萩に残った旧藩士が生活の手段としてはじめたもので，市中の武家屋敷跡の古い土べいの間からナツミカンが実っているけしきは，萩の象徴とされている。萩港は近海漁業の基地として水揚げが多く，市域ではかまぼこなどの水産加工をはじめ，製材・木工・造船などの諸工業も行なわれる。海岸線を山陰本線・国道191号線が通じ，262号線は南下して中国山地を横切り，瀬戸内海沿岸の防府(ほうふ)市へ通ずる。萩城跡(指月公園)・明倫館跡・反射炉・東光寺・松下村塾*(しょうかそんじゅく)・松陰神社のほか，木戸孝充(たかよし)・伊藤博文(いとうひろぶみ)の旧宅など，明治維新にちなむ遺跡が多く，町並みも古い城下町のおもかげをよく伝える。北東部の大井は開発の歴史が古く，大井古墳がある。沖合いの見島には日本唯一の純粋和牛見島牛が飼育され，阿武地方特産の無角牛(混血牛)とともに天然記念物に指定されている。笠(かさ)山・六島などの玄武岩の火山地形や，天然記念物コウライタチバナの自生地明神池などの観光地に恵まれ，北長門海岸国定公園の中心部を占めている。〔浅井得一〕



萩 市 城下町のおもかげを残す萩市の旧武家屋敷の町並み。色づいたナツミカンの木が塀の外まで枝を伸ばしている

バギオ［Baguio］ フィリピンのルソン島北部の都市。人口100,000(1975年)。マニラの北方約250kmのコルジレラ山脈南部，海抜約1,500mの高原に位置する保養地である。20世紀初頭，アメリカ合衆国の植民時代に在島アメリカ人の避暑地として，アメリカ人D.H.バーナムの設計により計画的に建設された都市で，第2次世界大戦前には政府機関が夏期にここへ移っていたこともある。中部ルソンの平地とバギオ高原とを結ぶケノン道路は，日本人の手で完成したものである。〔別技篤彦〕

はきけ【吐き気】 いまにも吐きたいという特有の不快な状態。悪心(おしん)・嘔気(おうき)ともいう。延髄にある自律神経のうちの嘔吐中枢に軽い刺激が加わるために生じ，ふつう嘔吐の前ぶれとして起こるが，続いて嘔吐が起こるとはかぎらない。咽頭腔(いんとうこう)・舌・胃粘膜などが刺激に対して過敏になっているときなどに起こりやすい。極度に神経質な人の場合，悪臭を感じたときや，不快なものを見たり連想しただけでも起こり，妊娠初期や乗り物酔いなどの際にも現われる。症状として，顔面蒼白(そうはく)，脈搏(みゃくはく)数の増加，冷汗などがある。治療には，原因を除去することが最もよいが，応急療法としては鎮吐薬の服用などがあり，暗示療法が有効な場合もある。〔平野修助〕

はぎしり【歯ぎしり】 上下の歯を強くすり合わせたときに起こる音で，睡眠中のように意識しないでいるときに生じることが多い。軽い場合は歯に対する影響はほとんどないが，これが習慣になると，つねに異常な咬合力(こうごうりょく)が加わるため，歯の摩耗ばかりでなく歯根膜や歯槽骨(しそうこつ)などの歯をささえている歯周組織が傷ついて，歯の動揺や歯槽膿漏症(のうろうしょう)などの原因になったり，あごの関節の障害をひき起こしたりする。原因としては，かみ合わせに不均衡な場所がある場合に無意識にその歯をかみ合わせるために起こるが，疲労していたり過度の精神的な緊張や欲求不満の現われとしても生じる。治療としては，咬合調整をはかるほか，拳闘(けんとう)の選手が用いるマウスピースのような咬合板を夜だけ入れたり，自己暗示療法を試みる。〔成田令博〕

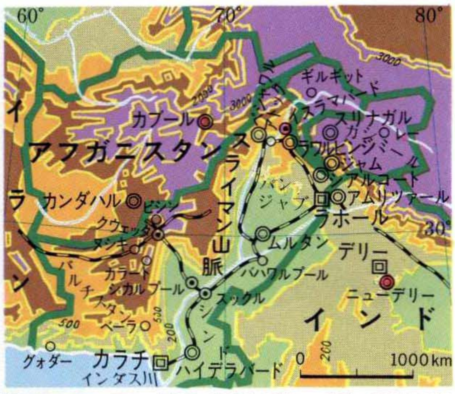
パキスタン［Pakistan］ 正式名称はパキスタンイスラム共和国。1947年にイギリス領インドが独立した際に，インド共和国(1950年まではインド連邦)とともに生まれた連邦共和国。翌1948年にはセイロン(1972年からスリランカ)が独立したが，これらはそれぞれイスラム教・ヒンズー教・仏教という宗教をもとにした分離独立である。1971年東パキスタンがバングラデシュとして独立したが，東パキスタン分離前の面積は94万7,695km²，人口1億1,418万(1970年推)で，人口ではインドネシアに次ぎ世界第6の大国であった。現在の面積は80万3,900km²，人口7,984万(1979年推)。1km²あたりの人口密度は99人。首都イスラマバード。

もとの国土は東西に分かれ，その間にインド共和国の領土がはさまり，いちばん近いところをとっても直線距離で1,500km近くもあり，政治地理学的にいうエクスクラーフェン国(領土の一部が他国の領土で中断されている国)の典型となっていた。西パキスタンと東パキスタンの面積の比率は85：15であるが，人口の比率は逆に46：54と東パキスタンのほうが多い。人種的には西パキスタンの北西部がインド-アーリア型，南部がドラビダ型，東パキスタンの北部はモンゴロイド型，南部がインド-アーリア型であって，言語は西パキスタンがウルドゥー語*，東パキスタンがベンガル語を憲法上の国語とし，そのほか文化や食事などの日常生活において，ほとんど共通点はなく，ただ宗教的にイスラム教徒の分布の多い地域であるという点だけで一つの国となった

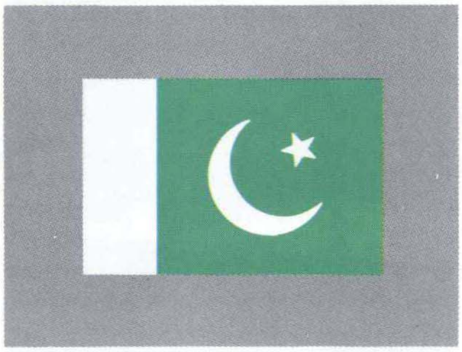
ために，建国当初からいろいろと問題があった。特に政治的には西パキスタンが支配的であるのに，経済的には東パキスタンの主産物であるコウマ(黄麻)とその製品が輸出額の43％(1968)を占め，それに加えて紅茶の輸出もあるのに対して，西パキスタンの主産物である綿花とその製品は41％というように，東パキスタンにたよることが大きく，これが東パキスタンの主力をなしているインド-アーリア系のベルガル人の不満を招いて，ついに1971年のバングラデシュ*の独立となった。

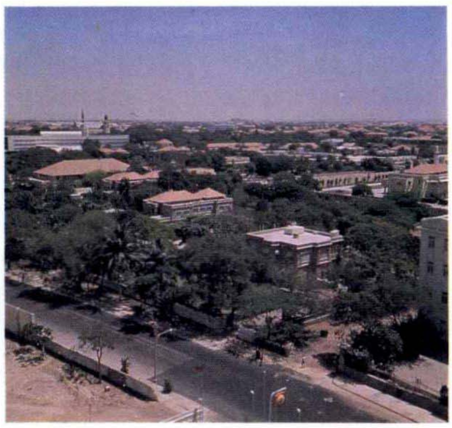
〔政治・外交〕1947年8月15日に，現在のインド共和国とともにイギリス連邦内の自治領になり，パキスタンと称し，首都をカラチに置いた。パキスタンとは〈神聖な土地〉の意である。イギリス領インドにおいて，イスラム教徒だけの国をつくろうという〈パキスタン計画〉は第2次世界大戦前からあり，その主唱者は初代パキスタン総督となったジンナ*である。1956年に憲法を制定，大統領制のパキスタンイスラム共和国として出発したが，1958年陸軍総司令官アユブ-カーン*が無血クーデターによって政権を握り，憲法を廃止，首相制をやめてアメリカ合衆国式の大統領制をとり，みずからが大統領となった。1960年首都をラワルピンジに移したが，1967年その北郊のイスラマバードを新首都に定めた。アユブ-カーンの独裁的な軍政や地主階級による経済的支配体制については，しだいに国民の間に不満が高まり，1968年11月から学生・知識人・労働者らによって，各地に反政府暴動が起こり，1969年3月アユブ-カーンは辞任して，代わってやはり軍部からヤヒアーカーン将軍が大統領に就任した。しかし，1971年憲法草案づくりをめぐって東西パキスタンの対立が激化，東パキスタンの内戦となり，インド軍の介入によって西パキスタンが敗北すると，1971年12月，人民党党首ブットが大統領に就任した。

アユブ-カーンは憲法を廃止したが，議会制度に代わるものとして，基本的民主制度というものをしき，町村単位で選出された選挙人が議員を選ぶ国民議会があったが，それは与党のパキスタンイスラム教徒連盟がつねに絶対多数を占めるようにしくまれていた。アユブ-カーンが辞任し，1970年12月，直接投票による制憲議会選挙が行なわれ，東パキスタンのラーマンを総裁とするアワミ連盟が313議席中167議席を占め，西パキスタンの人民党は82議席で，敗北を喫した。アワミとはウルドゥー語で，〈人民〉の意である。ラーマンはこれに力を得て，憲法の草案に大幅な東パキスタンの自治権拡大を要求し，ヤヒアーカーン大統領・ブット人民党首と衝突，1971年3月大統領はアワミ連盟を非合法化し，ラーマン総裁を逮捕して弾圧しようとしたが，地下のアワミ連盟指導者がバングラデシュの独立を



300万人以上の都市　回100～300万人の都市　◎50～100万人の都市　◎10～50万人の都市　⊙5～10万人の都市　○5万人未満の都市　●首府　#油田


パキスタンの国旗　1947年制定。イギリス植民地時代の，全インド回教徒連盟旗をもととし，非回教徒に対する寛容と協力のしるしとして白をつけ加えたもの。なお，白は平和をも意味し，緑は繁栄，月は進歩，星は光明と知識のシンボルである


パキスタン　この国最大の都市カラチの住宅地区。緑の木立ちに囲まれて，赤いスレート屋根の住宅が点在する。学校や教会も見える

宣言，内戦に発展し，東パキスタン駐屯(ちゅうとん)のパキスタン政府軍によって追われた難民1,000万人が，インド側に逃げ込んだため，インドが〈難民の負担よりも戦争のほうが安くつく〉として，軍隊を東パキスタンに入れ，パキスタン政府軍を制圧，12月17日ヤヒアーカーン大統領はインド側の提案する停戦を受諾，ここにいわゆる〈印パ戦争〉は事実上終わった。ブット新大統領は戦後処理を進めるとともに，1973年責任内閣制の新憲法を制定，チョードリ-ファザル-エラヒを大統領に選び，自らは首相に就任した。しかし莫大な戦費や，輸出の主力であったコウマとその製品の喪失は，経済的に大きないたでで，労働運動が激化，それに加えて北西辺境州の分離運動もあり，ブット政権の立場は苦しく，1977年3月の総選挙で与党の人民党は形のうえでは大勝したが，野党のパキスタン民族連合(PNA)は選挙に不正があったとして再選挙を要求，ブット首相はそれを受け入れたが，7月に軍部がクーデターを起こしてブット政権を倒し，10月に再総選挙を行なうことになった。なおブット政権は外交的には，中国・ソ連・アメリカ合衆国との〈等距離外交〉の方針をとり，1974年にはアラブ諸国の仲介でバングラデシュを承認，1976年にはインドとも外交関係を再開している。

〔地方行政〕東西パキスタンの2州に分かれていたが，1970年から5州制となり，東パキスタン州はそのままで，西パキスタン州が，パンジャブ(ラホール)・シンド(カラチ)・バルチスタン(クエッタ)・北西辺境(ペシャワル)の4州(かっこ内は州都)に分かれた。しかし，北西辺境州やバルチスタン州などの北西部からアフガニスタン東部の山岳地帯にかけて住む遊牧民族のパターン族は，もともとアフガニスタンの主要民族であるアフガン族と同族であり，古くからアフガニスタンとインドの国境を無視して自由に往来していた。1947年のパキスタン建国の際も，パキスタンにはいるのをいやがって独立国家形成を試み，いまも民族自決を要求して中央政府の威令に従わぬことが多く，パキスタンの悩みの一つとなっている。パターン族の総数は900万とも1,300万ともいい，みずからはパクトゥーンまたはパシュトゥーンと称し，その独立運動を〈パクトニスタン運動〉といい，アフガニスタンがこれを支援してパキスタンと対立し，1960年ごろからパキスタンとアフガニスタンとの間にときに武力衝突も起こしていたが，1976年になって首脳が相互訪問，敵対宣伝の中心を決めるなど，関係が改善されつつある。

〔産業・経済〕パキスタンの西部と北部は山がちであるが，東部から南部にかけては，インダス川の本支流の流域であって，いわゆるパンジャブ(五河地方)の広い平野が開けている。しかし，雨が少ないために大半は砂漠(さばく)になっており，農耕地は多くはないが，一部は灌漑(かんがい)がよく行き届いていて，コムギをはじめとする農業が行なわれており，ワタやサトウキビの生産も多い。1869年のスエズ運河開通後は，パンジャブをも含めてインドのコムギと綿花の輸出市場が広くなったが，コムギのほうは新大陸*産のものに圧倒されたのと，人口の増加のために輸出がとまったばかりでなく，むしろ不足してパキスタンもインドも逆にコムギの輸入国となった。しかし，綿花や

綿糸・綿織物はいまもパキスタンの主要輸出品となっている。また，輸出用の高級米の生産も最近盛んで，米は輸出品の中で金額で首位を占めている。パンジャブは独立によってサトレジ川を境として西はパキスタン，東はインドに分かれ，インダス川の本支流の水はパキスタンとインドで分けあっているが，パキスタン側の水利をつかさどっているラホールに近い2施設がインド側にはいっており，大雨になればパキスタン側に洪水(こうずい)を起こすほどの水をよこし，かんばつになると1滴も配水しないというようなことがあって，パキスタンの灌漑の大きな癌(がん)となるとともに，インドに対する不信のもととなっている。

1955年から，第1次・第2次・第3次の五か年計画を実施し，1970月7月から第4次五か年計画にはいったが，1971年の東パキスタンの内戦とそれに続くバングラデシュの独立で，計画がくずれ，1年ごとの年次計画によって，経済の再建を図っている。五か年計画の目標は，国の工業化と東西パキスタンの格差の是正，文化的な方面では識字率19%(1961)という文盲の一掃であった。工業化のためには，パキスタン産業開発公社(PIDC)をつくり，まず政府が工場を建設し，軌道に乗ると民間に払い下げるという日本の明治政府の方式にならい，綿・ジュート・製紙・化学・セメント・肥料・工作機械・ディーゼルエンジンなどの工場や製鉄所・造船所などが建設され，農産加工品などの輸出がしだいに増加し，輸入も消費財の輸入ばかりでなく，工業用原料や資本財の輸入が増加して，五か年計画はある程度成功をおさめていた。しかし，このような開発は，外国援助にたよることが多く，アメリカ合衆国・世界銀行・第二世界銀行・西ドイツ・日本・カナダ・ソ連・中国などからの贈与や借款を受け，最近はそれが開発資金の50%を越えていた。1971年3月の東パキスタン内戦以来，西側の援助国は援助を停止し，中国はブット大統領の訪問により少額ながらも援助を約束したが，しかし，これまでパキスタンの国際収支や財政の赤字の大部分を補ってきたのはアメリカ合衆国や世界銀行を中心とする西側の債権国会議のメンバーであったから，パキスタンの困窮は目に余るものがあった。しかし西側の債権国会議は，1973年から援助を再開，開発計画は1976〜77年予算で，約90%が外国援助に頼っているという状態である。なお日本側の援助は，主として東パキスタンに向けられていた。➔バングラデシュ　〔浅井得一〕

はぎだいみょう　【萩大名】　狂言の題名。長年在京の大名(シテ)が退屈しのぎに遊山(ゆさん)を思いたち，太郎冠者(かじゃ)に相談し，下京のさる名庭のハギを見物に行くことにする。しかし，その庭を見る者は和歌をよむ例になっているというので，冠者は聞き覚えの〈七重八重九重とこそ思ひしに十重咲き出る萩の花かな〉という歌を教える。大名がなかなか覚えないので，扇の骨の数や〈萩の花〉を脛(はぎ)・鼻によそえることにして出かける。庭に着くと，大名はウメの古木を茶の挽木(ひきぎ)にするの，庭石を火打ち石にするのと失言を重ね，さて歌をよむ段になると，かねての策もむなしく，〈七本八本〉などという始末。やっと4句めまではたどりつくが，あきれた冠者は逃げ，あわてた大名は，末句を〈太郎冠者が向こう脛(ずね)〉と結んで面目をつぶすというもの。

大名狂言。和歌一首を覚えられない大名とは，狂言の誇張だが，そこにかえって，いなか大名のおうようさと素朴(そぼく)さを感じさせるのどかさがある。大名のせりふによって，京の秋の感じをみごとに描き出している。　〔片桐　登〕



ハキダメギク

はきだめぎく　【掃溜菊】　双子葉植物・キク科。北アメリカ原産の一年草。都市のあき地や路傍などにみられる。全草柔らかく，高さ10〜40cm。葉は卵形で鋸歯(きょし)があり対生する。5〜6月，茎頂や枝先に直径5mmほどの小さな頭状花をつけ，小さな舌状花が5個で3裂する。果実には長い冠毛がある。本種によく似たコゴメギクには冠毛がない。

はぎのらん　【萩の乱】　1876年(明治9)10月，山口県萩で起こった旧長州藩士族の反乱。前参議・兵部大輔(たゆう)の前原一誠*は，同郷の木戸孝允*(たかよし)と対立して退官帰郷し，長州の不平士族約150名とともに，神風連の乱*・秋月の乱*などに呼応して反政府ののろしをあげた。政府軍はこれを鎮圧，前原は捕えられ死刑に処せられた。

はきもの　【履き物】　足部に着装する服物の総称。次のように大別される。①鼻緒はきもの類：足を載せる台部に鼻緒を装置したもの(げた類・ぞうり類)。②被甲はきもの類：台部に被甲部を造作したもの(わらぐつ類・たび類)。③補助はきもの類：他のはきものに付随し，足の保護・防寒などの目的に使用されるもの(爪掛(つまがけ)類・踵当(かかとあて)類)。④特殊はきもの類：泥土(でいど)・氷雪上の歩行など特殊な場合に使用されるもの(板橇(いたぞり)・輪樏(わかんじき))。なお，材料としては稲わら・木材・皮革・布帛(ふはく)を単独で，またこれらを混用するなどさまざまがある。　〔合田　濤〕

はぎやき　【萩焼】　山口県萩市に桃山時代に興った窯芸。領主毛利輝元(てるもと)が文禄(ぶんろく)・慶長の役に際して，かの地から連れ帰った李勺光(りしゃっこう)と弟の李敬によって開窯した。輝元が萩に築城したのは1604年(慶長9)で，萩焼の創始はそれ以後と考えられ，おおむね朝鮮陶を反映した作風を示している。遺例は茶陶が多く，特に茶碗(ちゃわん)に優作を残し，高麗(こうらい)茶碗の井戸・熊川(こもがい)・御本などに近く，唐津(からつ)焼ともすこぶる相似する例もある。とりわけ釉膚(くすりはだ)に柔らかみがあって珍重されるが，重厚な趣に欠けるものが多い。

はきりばち　【葉切蜂】　こん虫類・膜翅(まくし)目・ハキリバチ科の総称。全体毛におおわれ，体形はミツバチに似るが，一般に強大で暗色のものが多い。体長3.5mm内外の小形種から27mm内外の大形種まで変化に富むが，10〜15mmの種類が多い。習性は種によって著しく変化に富み，特に営巣習性は興味深い。ハキリバチ属のものでは，枯れ木に穴をあけたり，樹木のカミキリムシ類の幼虫が食入した穴や壁のすきまおよび土中などに営巣する。巣はバラその他の葉を強大な大顎(おおあご)で半円形に切り取り，びん状の小室を順次10〜12個つくり，そこに花蜜(みつ)と花粉とからなる糊状(こじょう)物質を貯蔵し，各室に1卵ずつ産下する。バラハキリバチ・キヌゲハキリバチなどがその代表的な種である。しかしハキリバチ属のものでもオオハキリバチのように葉を切り取らず，樹脂を利用して営巣する種類もある。そのほか，カタツムリのあき殻(から)中に営巣するマイマイツツハナバチ，オオハキリバチの巣に寄生するハラアカハキリヤドリやトガリハナバチのような特異な習性をもつものがある。また，マメコバチのように東北地方でリンゴの花粉媒介に利用されている種類もある。〔鈴木邦雄〕

はぎりばん　【歯切り盤】　歯車*をつくるための工作機械。歯形を削り出す方法には総形工具を用いる方法，型板にならって削る方法などもあるが，普通の歯切り盤はつくろうとする歯車とちょうどかみ合うような形をした工具と工作物との間に相対運動をさせて，歯の形を削り出す創成法によるものが多い。しかし具体的には，各社がそれぞれ独特の方法を採用しているので，歯切り盤の種類は非常に多い。おもなものをあげると，平歯車・はすば歯車などをつくるためにはラック形またはピニオン形の工具を用いる歯車形削り盤，ホブを用いるホブ盤などがあり，またかさ歯車をつくるものにはすぐはかさ歯車歯切り盤・曲がりばかさ歯車歯切り盤などがある。これらのほかに歯形の仕上げをしたり，歯のかどを丸めたりするための歯車研削盤・歯車ラップ



萩原朔太郎

盤・歯車シェービング盤・歯車面取り盤などもある。〔稲田重男〕

はぎわらきょうじろう　**【萩原恭次郎】**(1899～1938)　詩人。群馬県の生まれ。前橋中学卒。はじめ萩原朔太郎*(さくたろう)らの影響を受けたが，しだいに無政府主義的傾向を濃くし，1923年(大正12)小野十三郎*らと詩誌《赤と黒》を創刊，ダダイスム的な詩を発表。1927年(昭和2)には雑誌《文芸解放》を創刊したが，翌年に帰郷，生活に密着した詩を書いた。詩集《死刑宣告》《断片》のほか，詩論などがある。

はぎわらさくたろう　**【萩原朔太郎】**(1886～1942)　詩人。群馬県の生まれ。中学時代から短歌をつくり，与謝野晶子(よさのあきこ)の影響を受けた。熊本の第五高等学校や岡山の第六高等学校に入学したが，いずれも中退。1913年(大正2)北原白秋*主宰の文芸誌《朱欒*(ザンボア)》に詩を発表，室生犀星*(むろうさいせい)を知り交友を深めた。1916年犀星と詩誌《感情*》を創刊，繊細憂鬱(ゆううつ)な近代的感情と鋭敏異常な感覚とを象徴的・幻想的にうたう清新な詩風を創始した。その成果をまとめた処女詩集《月に吠(ほ)える*》は，口語を自由に駆使し，独自なリズムとイメージによって人間の内面を表現。さらにその詩風は，倦怠(けんたい)と退廃を官能的にうたった第二詩集《青猫*(あおねこ)》の特異なスタイルを生み，口語自由詩の完成者として不動の位置を築いた。1925年妻子とともに上京するが，妻との離別などで生活は荒廃し，晩年の詩集《氷島》には，漂泊者・敗残者の虚無感が痛恨をこめた文語調で表白され，評論集《日本への回帰》では，日本的伝統に帰る傾向を示している。ほかに，最初期の詩と郷土望景詩を含む詩集《純情小曲集*》，評論集《詩の原理》，アフォリズム*集《虚妄(きょもう)の正義》など。〔木村幸雄〕

ぱきん　**【巴金】**　パーチン　(1905～　)中国の現代作家。本名は李芾甘(りふつかん)。巴金というのは，巴枯寧(バクーニン)と克魯泡特金(クロポトキン)を合わせた筆名という。これでわかるとおり，早くからアナーキズム的傾向があり，1923年家を捨てて南京(ナンキン)に出，次に上海(シャンハイ)に移り，革命運動に参加した。1926年フランスに渡り，パリ留学中に中編小説《滅亡》(1929)を書いて世に知られ，作家生活にはいった。代表作《家》(1933)をはじめ，多くの小説を書いて青年男女の好評を博し，魯迅*(ろじん)の知遇を得た。戦争中は奥地にあって日中戦争*中は小市民生活の苦悩を《憩園》《寒夜》などの作品に描いた。中華人民共和国の成立後は老大家のひとりとしておもに後進の指導にあたっており，作家活動はほとんどみられない。



ハーグ国会議事堂の建物。13世紀のホーラント伯爵の宮殿であった。隣接して市立博物館や国際司法裁判所などの建物がある





バク　(上)アメリカバク　(下)マレーバク

パーキン　[William Henry Perkin](1838～1907)　イギリスの有機化学者。ロンドンの生まれ。王立化学大学でA. W. ホフマン*に学んだ。1856年キニーネを合成する際に，偶然美しい紫色の色素を発見しこれを〈モーブ〉と命名，最初のアニリン染料合成に成功して工業化し，人造染料工業の先駆をなした。その後，ベンズアルデヒドなど芳香族アルデヒドに酸無水物を反応させて，芳香族不飽和酸を生じるパーキンの反応を発見，これによりはじめて植物性香料クマリンを合成した。1874年以降は化合物の構造と磁場旋光との関係など，基礎理論の研究を行なった。〔山下愛子〕

パーキンソン　[Cyril Northecote Parkinson]　(1909～　)　イギリスの歴史家・経営学者。著書《パーキンソンの法則》(1957)で一躍有名になった彼は，その中でイギリスの官僚組織をめぐる多くの実例をあげながら，〈役人の数は，なすべき仕事の軽重，ときにはその有無にかかわらず，一定の割合で増加する〉という命題を立てた。官僚組織の自己増殖的傾向が顕著にみられる現代社会において，機知にあふれたこの指摘は一種の文明批判としてうけとられ，世界各国で広く読まれている。〔小林宏一〕

パーキンソンびょう　**【パーキンソン病】**四肢(しし)の振顫(しんせん)(筋肉の不随意なリズムのある振動)，筋硬直などを主症状とする大脳の変性疾患。多くは初老期以後に発症し，遺伝性の神経性素因と関係があると考えられている。治療には薬物療法・外科的療法を行なう。ウィルソン病，マンガンなどの重金属中毒，動脈硬化，大脳基底核の障害などの場合も同様の症状を呈するが，これらはパーキンソニスムとして区別している。パーキンソニスムの症状は，手指の振顫，筋硬直が片側または両側に出現し，特異な前屈姿勢，不随意性運動障害があり，そのほか仮面様顔貌(がんぼう)，発語異常などとともに，流涎(りゅうせん)，発汗異常，脂膏(しこう)を塗ったような光沢をおびた膏顔，瞳孔(どうこう)異常などの植物神経の障害が認められる。治療としては，アトロピン系の合成薬剤が用いられ，近来，定位脳手術も試みられている。なお，イギリスの医師J. パーキンソンがはじめて報告(1817)したのでこのようによばれている。〔岩井　寛〕

ハーグ　[The Hague, Den Haag]　オランダ西部，アムステルダムの南西約50km，北海沿岸近くにある都市。人口57万6,000(1968)。ヨーロッパで最も美しい都市の一つとされ，またオランダ第3の都市である。王宮・国会・政府諸機関や外国公館などがあり，オランダの事実上の首都である(法的な首都はアムステルダム)。13世紀，ホラント公の狩猟場があり館(やかた)が置かれたのが起源で，地名もそれに由来する。1250年ウィリアム公によって王宮が築かれ，14～15世紀にこれを中心に市街が発達した。18世紀以後，国際外交上の重要都市となり，1899年・1907年の国際平和会議が開かれた。

1899年以来国際仲裁裁判所が，1922年からは国際司法裁判所が置かれ，アンドリュー・カーネギーが寄贈した美しい平和宮殿で国連のもとに仕事をしている。〔梶川勇作〕

ばく【獏】 哺乳(ほにゅう)類・奇蹄(きてい)目・バク科の総称。原始的な有蹄類で，前足に４本，後ろ足には３本の指がある。足は短く，体はずんぐりしており，尾は短い。鼻はゾウと同じく上唇と鼻がいっしょに伸びたものだが，はるかに短い。性質はおとなしく，敵に追われると水中へ逃げる。草食性で水辺の草類を好む。アメリカバクは南アメリカに分布し，頭胴長1.9m，肩高１mほど，体は黒茶色。東南アジアに分布するマレーバクは大形で，頭胴長2.4m，肩高１mほど，体の前半と四肢(しし)は黒かっ色で，後半身は白色。〔今泉吉典〕

なお，中国・日本では目はサイ，鼻はゾウ足はトラ，尾はウシに似た想像上の動物をいい，その形をかくと邪気を避けるとされ，また夢を食うとして初夢を見るために枕の下に敷く宝船の帆にこの字が書かれた。

バーク ⇨帆船

バーク［Edmund Burke］(1729～1797) イギリスの政治家・評論家。ダブリンの生まれ。同地の大学を卒業後，ロンドンで法律その他を学ぶ。1756年《自然的社会の擁護》を発表して名を知られる。1765年ホイッグ党*のロッキンガム首相の秘書となり，翌年下院議員。特にジョージ３世の専制政治とアメリカ植民地に対する課税に反対し，アイルランド問題に取り組み，その雄弁と識見で知られた。《フランス革命についての省察》(1790)では革命の過激化を批判し，保守的立場を明らかにした。〔松下京子〕

バクー［Baku］ソ連，アゼルバイジャン共和国の主都。人口85万2,000(1976)。カスピ海西岸のアプシェロン半島の南側にある鉱工業都市で，港湾をもち，鉄道・航路・空路の要地となっている。有名なバクー油田があり，石油化学，石油関係の機械工業(精油設備・ボーリング)，さらに造船・建設資材・綿毛織物・食品加工などの工業が行なわれている。また絨緞(じゅうたん)・民芸品などの手工業も盛んである。パイプラインは黒海沿岸のバツーミ，ドネツ炭田まで延びている。アプシェロン半島の丘陵に広がる市街は，ソ連でも最も美しい都市の一つとされ，油田地帯の諸都市間には電車が通じている。強風に悩まされるため緑地帯がつくられ，国立大学・石油研究施設などもある。５世紀に起源をもつ都市で，古くはアラブ・トルコ・イランなどの支配を受けたが，1806年にロシア領となり，19世紀末イギリスなどの資本によって，大規模な石油開発が行なわれてから急速に発達した。20世紀初めまで世界一の産油量を誇ったが，従来の油井はしだいに枯渇したため，最近では深層や海底に新油田が開発されている。しかし，ソ連の石油生産におけるバクーの比重は低下し，現在は全ソビエトの石油産額の10％程度であり，ボルガ－ウラル油田(第２バクー)に石油生産の中心の座を譲っている。〔斎藤晨二〕

パーク［Robert Ezra Park］(1864～1944) アメリカの社会学者。客観性を志向するアメリカ社会学の伝統を築いたひとり。人間生態学を提唱して人間関係研究に新たな概念と方法論を提示し，都市社会，パーソナリティー，群衆・公衆の集合行動，人種問題など，広範な領域に卓越した業績を残した。中でも，都市を組織された人々の伝統・慣習・態度・感情など，いわば人間性の所産とみる立場は，以後の都市研究の道標として高く評価されている。《人間行為の原理》《人間生態学》などの著書がある。

はくあいしゃ【博愛社】 日本赤十字社の前身。1877年(明治10)５月佐野常民*・大給恒(おぎゅうゆずる)らが西南戦争における両軍の傷病兵を救うため組織した医療団体。西南戦争後も存続して医療活動に努め，1886年には博愛社病院を設立。同年国際赤十字条約に調印，翌年日本赤十字社と改称した。

はくあき【白亜紀】 地質時代のうちの中生代を３分した最後の時代。ジュラ紀のあと，新生代第三紀のまえ。約１億3,500万年前から約6,500万年前までの約7,000万年の期間を代表する。白亜紀の名称は，ヨーロッパのこの時代の地層に特徴的な白亜(チョーク)に由来する。白亜は遠洋性生物の遺骸(いがい)による炭酸石灰質の微粒からなり，有孔虫殻(かく)やカイメンの針などを含む。白亜紀の地層の標準地域はフランス・イギリスである。

アンモナイトが前紀のジュラ紀に引き続いて著しく栄え，巨大なものや異常な巻き方のものなどが少なくない。同じく頭足類のベレムナイト(矢石)類も発達した。二枚貝ではイノセラムスや三角貝が代表的である。特異な形態をもつ厚歯二枚貝は大形有孔虫(オルビトリナ・オルビトイデス)などとともに暖かい地域の沿岸浅海地帯に特徴的であった。爬虫(はちゅう)類がジュラ紀に引き続いて繁栄し，中でも恐龍(きょうりゅう)の仲間が多種多様の形態と，しばしば巨大な体軀(たいく)をもって陸上にも海中にも跋扈(ばっこ)した。キョウリュウ類はアンモナイトやイノセラムスとともにこの紀の末に絶滅した。魚類では，硬骨魚類の真骨類が勢力を得，哺乳(ほにゅう)類は，胎盤がなく小形で，目だった存在ではなかった。陸上植物は，白亜紀中ごろに大変革を経て，それ以前の中植代と以後の新植代に区分される。白亜紀前期では裸子植物のソテツ類などが繁茂したが，後期になると新生代を特徴づける被子植物の双子葉植物が優勢になった。

白亜紀は大規模な海進が行なわれた時代であるが，この紀の末ないし直後に世界的規模の海退があった。環太平洋地域では，白亜紀中に著しい造山運動や火成活動が起こった。日本のジュラ紀後期から白亜紀にわたるいわゆる佐川造山または広島変動(これに対応する中国の燕山(えんざん)運動)，北アメリカ西部のジュラ紀後期～白亜紀初期のネバダ変動，白亜紀中・後期のサンタ－ルチア変動，白亜紀末のララミード変動などが代表的である。テチス海*は地向斜*状態にあり，ここでは新生代にはいってから完成されたアルプス造山運動*が白亜紀に顕著になりはじめた。ヨーロッパの大部分や大西洋岸地域は，白亜紀には著しい地殻変動を受けず，比較的静穏で，浅海成の石灰質岩が広く堆積(たいせき)した。なお，アメリカ合衆国・メキシコ・アルゼンチン・エジプトなどの重要油田の石油は白亜紀の地層から産出する。〔田中啓策〕

はくい【羽咋(市)】 石川県能登(のと)半島の基部西岸の市。人口30,000。古くから開けた土地で，もと能登一ノ宮であった気多(けた)神社*があり，江戸時代には高級麻織物の産地であった。1958年(昭和33)市制施行。日本海に臨み，邑知潟地溝帯(おうちがたちこうたい)の平坦(へいたん)な低地上に位置し，北部には砂丘や丘陵地が多い。産業三大別人口比は17：39：44。農業と機業が主産業で，低地には豊かな単作水田地帯が広がり，砂丘や丘陵地ではタバコが栽培される。伝統の機業を受け継いで広幅絹織物の生産が盛んであり，農家の副業として織物生産が行なわれる。七尾線に沿い，国道159号線・249号線が通ずる。半島東岸の氷見(ひみ)市(富山県)へ通じる羽氷線が建設中である。

はくい・しゅくせい【伯夷・叔斉】 中国，BC1100年ごろの賢人兄弟。殷(いん)末の孤竹国の公子。父は三男の叔斉を愛し位を継がせるつもりであった。父の死後，叔斉は位を長兄の伯夷に譲ろうとしたが，伯夷は父の命を重んじて受けず国外に亡命し，叔斉も位を捨てて国を去ったので次兄が即位した。ふたりは周の文王*の徳を慕い，そのもとに行ったが，文王はすでになく，武王が立って殷の紂王(ちゅうおう)を討とうとしていた。ふたりは〈父を葬らぬうちに戦うのは孝でなく，臣(武王)が君(紂王)を討つのは仁でない〉といさめたが聞かれなかったので，節義を重んじて周の禄米を受けず，首陽山で餓死した。司馬遷*は《史記*》列伝の第１編に伯夷列伝を置き，〈すぐれた人間を忘却から救うことが歴史を書く一つの目的である〉と論じた。司馬遷の歴史哲学の原点に伯夷・叔斉の生き方があったことは疑いない。ただそれによって天道の存在を説こうとしたのか，不存在を説こうとしたのか，議論は分かれている。〔勝村哲也〕

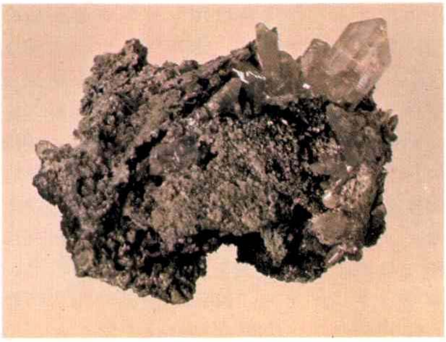
はくいん【白隠】(1685～1768) 江戸中期の臨済宗の僧。臨済宗中興の祖。諱(いみな)は慧鶴(えかく)，号は鵠林(こくりん)。諡号(しごう)は神機独妙禅師・正宗国師。駿河(するが)(静岡県)の人。15歳のとき松蔭(しょういん)寺で得度し，次いで沼津の大聖寺息道に侍した。

20歳のとき美濃(みの)(岐阜県)瑞雲(ずいうん)寺で馬翁に師事し,《禅関策進》に啓発されて参禅に努めた。24歳で越後(えちご)(新潟県)高田英巌(えいがん)寺の性徹のもとで大悟したが,さらに正受老人に会いに信濃(しなの)(長野県)飯山(いいやま)に行った。正受の禅風はきびしかったが,白隠は悟徹し,正受の法を継いだ。その後も諸山を遊行し,東海・山陽・京洛(きょうらく)で法を説き,1717年(享保2)妙心寺の第一座となった。しかし名利(めいさつ)に住持することを好まず,終生地方の貧乏寺で農民に慕われて暮らした。弟子(でし)に遂翁・東嶺(とうれい)・峨山(がさん)ら多数がおり,その禅風は一代を風靡(ふうび)し,いまもその法系は盛んである。著書に《語録》《槐安国語(かいあんこくご)》《荊叢毒蘂(けいそうどくずい)》《夜船閑話》《遠羅天釜(おらてがま)》《息耕録開筵普説(そっこうろくかいえんふせつ)》などがあり,《壁生草(いつまでぐさ)》は自叙伝である。〔石井修道〕

パグウォッシュかいぎ【パグウォッシュ会議】 世界各国の科学者が,軍縮*・平和問題を討議するため,毎年1～2回開催する国際平和会議。正式名称は〈科学と国際問題に関する会議〉。1955年のアインシュタイン*とラッセル*による核兵器絶滅声明に基づいて,1957年第1回会議がカナダのパグウォッシュで開かれた。アメリカ・ソ連・イギリス・日本など10か国の科学者が参加して,原水爆実験の中止を要請した。以後世界各地で開催されているが,一貫してパグウォッシュ会議といわれる。〔広部和也〕

はくうんぼく【白雲木】 双子葉植物・エゴノキ科。山林に自生する落葉高木で,時に庭木として植えられる。高さ5～10mになり,樹皮はかっ色で,表皮が部分的に剝脱(はくだつ)する。若枝には星状毛が密生するが,のちに脱落する。葉は有柄で互生し,ほぼ円形で径8～20cm,縁に小鋸歯(しょうきょし)があり,上面は緑色,下面は細毛が密生して白色,先はとがる。5～6月ごろ新枝の先に長さ10～20cmの大形の総状花序に多数の白花を下垂する。花は長柄を有し,がくは杯状で,花被は5深裂して外側に星状毛が密生し,多数のおしべがある。果実は外側に細毛の密生する倒卵形で,穂をなして下垂し,内にかっ色の1種子がある。材は黄白色を呈し緻密(ちみつ)で,器具材や薪炭材としても用いられる。

はくえんこう【白鉛鉱】 鉛の原料鉱石。$PbCO_3$ 斜方晶系,擬六方対称の六連双晶がしばしば見いだされる。硬度3～3.5,比重6.46～6.55。もろく,金剛光沢を有し,無色・白色・灰色などで透明なものと不透明なものとがある。鉛鉱床の酸化帯に産する。



ハクエン鉱

はくか【白化】 植物で,葉緑素の形成がなんらかの原因でおさえられると,緑色を欠いてカロチノイドだけの色調になり,普通は黄白色を呈する。葉緑素の形成に必要な要素,たとえば葉緑素の構成元素であるマグネシウムや,葉緑素の生合成系に必要な鉄やマンガンが欠乏すると起こる。また,葉緑素の形成に関与する遺伝因子の一つが変異によって失われても起こる。白化植物はそれ自体光合成を行なうことができないので,種子中の貯蔵物質を使える間だけしか生育することができない。

他方,動物における白化現象は,目や皮膚や毛髪などに色素をもたない異常現象をいい,遺伝的に色素の形成が欠如していることに起因する。シロウサギやシロネズミは一般に見られる白化であり,ヒトの場合にも白子といわれる遺伝的な病症がしばしばみられる。➔白子　〔南川隆雄〕

ばくが【麦蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・キバガ科。体長5～6mm,翅(はね)を広げた長さ11～16mm。黄かっ色の小形のガで,翅は細くてとがり内外両縁に長毛がある。前翅の外縁に近い部分と基部に暗かっ色紋があり,後翅は灰色を呈する。年2～5回の発生で,第1化は5～6月に出現し出穂中の麦粒に産卵する。孵化(ふか)した幼虫はすぐに麦粒内に食い入り,収穫とともに倉庫や納屋にはいって繁殖し,貯蔵中の大麦・小麦などの麦類に大きな害を与える。終齢幼虫は10mm内外に達し,頭部は淡いかっ色,胴部は乳白色で細い毛がまばらにはえる。ムギ以外に東南アジアではイネにも害を与えており,トウモロコシ・アワ・ヒエ・ソバにも加害する。防除としては完全乾燥や倉庫内でのクロルピクリン*薫蒸などがある。幼虫で越冬し,全世界に分布。〔多々内修〕

ばくが【麦芽】 オオムギ*の種子に温度と水分を与えて発芽させたもの。発芽の際に酵素*(特にアミラーゼ*)が強くなるのを利用して,水あめ製造やビール*の醸造に用いる。芽の長さによって次の二つに分けられる。①長麦芽：水あめ・酵素剤のように,おもに酵素を利用する場合に使う。②短麦芽：ビール醸造のように,酵素とデンプンを同時に利用する場合に使う。ビールでは麦芽を乾燥したのち,多少炒(い)って芳香を生じさせるが,麦芽のプロテアーゼはオオムギのタンパク質を分離して芳醇(ほうじゅん)味を与え,あわを長持ちさせる効果をもつ。なお,ほかにコムギ・トウモロコシなどの麦芽もつくられる。〔佐藤友太郎〕

ばくがとう【麦芽糖】 マルトースともいう。糊化(こか)したデンプン*に麦芽*またはジアスターゼ*を作用させて生成した二糖類*。天然の物にはあまり多量に存在しないが,麦芽の中に多いのでこの名がある。麦芽あめの甘味の本体で,砂糖に比べて甘味は半分以下であるが,人体に対する同化力は強く,滋養糖として用いられる。

はくきょい【白居易】 (772～846) 中国,唐代の詩人。白楽天ともいう。800年,進士*に及第して官界に入り,政治の腐敗や民衆の苦しみに目を向け,社会批判の意を詩に表現した。忌憚(きたん)のない言論が当局の忌諱(きい)に触れ,815年江州司馬に左遷された。それを契機として道教や仏教への傾斜が深まり,詩風も閑適な境地を静かに詠ずるものに変わった。のち都に帰り,また地方長官として杭州(こうしゅう)・蘇州(そしゅう)などに赴任,治績をあげた。その詩は親友の元稹(げんしん)とともに元白体とよばれ,平明通俗的で,当時,非常に流行した。中でも《長恨歌》《琵琶行(びわこう)》などが有名で,当時,その名声は新羅(しらぎ)や日本にまで伝わった。詩文集に《白氏文集》がある。中国唐代中期の代表的詩人であり,日本文学に与えた影響も大きい。〔今村与志雄〕

はくげい【白鯨】 メルビル*の小説(1851)。語源部・文献部と題する序章,135章の本文および結語からなる雄大な海の叙事詩で,ホーソン*にささげられている。物語はモービー-ディックとよばれる巨大で神秘的な力をもつ白鯨に片脚を奪われたエーハブ船長が,復讐(ふくしゅう)の一念でこれを追跡し,南太平洋で巡り会うが,3日間の死闘の後ピークォド号もろとも海の藻屑(もくず)と消えてしまうというもの。これを唯一の生き残り水夫イシマイルが語るという簡単な筋立てだが,シェークスピアに匹敵する文学を創造しようという,作者のすさまじいまでの闘魂が結実して,単なる捕鯨物語ではなく,偉大なる混沌(こんとん)の中に,さまざまな寓意(ぐうい)を含む陰影ふかい作品となっている。〔山本　晶〕

ばくげき【爆撃】 航空機に搭載(とうさい)した爆弾を目標物に投下し破壊する行動で,航空作戦*における対地攻撃の重要手段。

〔戦術爆撃〕 おもに地上および海上部隊の作戦を支援して行なわれる爆撃。第1次世界大戦後しだいに進歩し,1930年代には世界各地の局地戦に参加し高速小形機による地上攻撃の効果を証明した。第2次世界大戦以後地上攻撃機の性能がさらに向上し,機関銃・機関砲のほか爆弾200～1,000kgあるいは5インチロケット弾8～24本を積載するようになり,特にロケット弾は装甲部隊の重大脅威となった。したがって,地上掃射・ロケット攻撃・爆弾投下およびナパーム弾投下の威力は地上作戦の遂行に不可欠のものとなった。この傾向は朝鮮戦争(1950～1953)でさらに強化された。そこで,戦術空軍は砲兵部隊・機甲部隊と協力して遠

距離の目標を捕捉し強力な火力を集中する。爆撃の方法は，一発必中主義から火網捕捉主義による編隊密集方式に変化した。しかし近時，防御砲火や戦闘機火力が強化されて編隊密集投下方式は困難になったので，戦闘爆撃機では超低空爆撃法による戦機の爆撃が主になり，戦術爆撃機はレーダー照準器を使用する高々度精密爆撃法をとっている。

〔戦略爆撃〕敵本土の軍事・産業・交通・経済などの根源を破壊し，国民の戦意を失わせて戦争継続を不可能にしようとする遠距離爆撃。本格的な戦略爆撃を実施したのはアメリカである。第2次世界大戦前Ｂ17，Ｂ24などの戦略爆撃機を完成し，戦時中にはＢ29を量産して，対日本・対ドイツ戦略爆撃を実施した。日本本土空襲では約16万ｔの投弾量で死傷者約67万人，被災人口875万人，焼失家屋236万戸。朝鮮戦争では投弾量49.5万ｔという激しさであった。現在，戦略空軍をもつのはアメリカ・ソ連・イギリスなどであり，大形・中形爆撃機および大陸間弾道弾とこれらに協力する偵察機(ていさつき)・給油機・戦闘機・輸送機などの部隊で編成されている。　〔森田　哲〕

ばくげきき【爆撃機】 爆弾を敵の目標に投下して破壊する飛行機。第1次世界大戦の初期，偵察(ていさつ)におもむいた飛行機が敵に向かって石やれんがを投げつけたのがはじまりであるが，やがて砲弾を改造した爆弾を投下するようになり，まもなく爆撃専門の機体がつくられるようになった。また，戦場爆撃用の小形機と後方の拠点を爆撃する大形機に用途も分かれ，大戦末期には盛んに活躍した。ドイツのゴータＧ.9，フランスのファルマンＦ.60，イギリスのハンドレーページＯ-400などが有名。1930年ごろまではいずれも複葉固定脚で羽布ばりであったが，その後金属性単葉となり，エンジンも3発ないし4発のものが現われた。また，大形機が水平爆撃専門であったのに対して，小形機は急降下による精密爆撃法を採用して地上銃撃も行なうようになり，攻撃機として新しい機種を形成するようになった。1935年にアメリカ陸軍が採用したＢ17は，金属性単葉引き込み脚の近代的な構造とすぐれた搭載(とうさい)量・火力などから〈空飛ぶ要塞(ようさい)〉とよばれ，第2次世界大戦に活躍したが，大戦末期にはＢ29が現われ，これと核兵器の組み合わせで，爆撃機は一躍戦争を決定する最も重要な戦略兵器となった。戦後も新しいジェット爆撃機が次々と開発されて空軍の花形となっていたが，1960年ごろからはICBMなどの長距離ミサイルの実用化によって戦略的意義が薄れつつある。　〔藤井冬木〕



爆撃機 第2次世界大戦中の爆撃機ユンカース88K（ドイツ）



ボーイングＢ29スーパーフォートレス（アメリカ）



箔検電器





ハクサイ
（上）湘南2号
（下）千石　いずれも1代雑種

はくげきほう【迫撃砲】 花火筒のような砲身から羽根つきの弾丸を打ち出す軽火砲。第1次世界大戦中ドイツ軍によってはじめて使用され，以後急速に各国で採用された。砲身を大迎角に固定し，弾丸を砲口から入れると，底部の撃針により発射される。射程は短いが発射速度が速く，大落角で弾着するので，陣地や掩蔽物(えんぺいぶつ)の後ろを攻撃するのに適している。口径55〜120mm，射程3,000〜6,000m。小形・軽量で取り扱いも簡単なわりには威力が大きく，歩兵戦には有効な兵器。なお，アメリカでは核弾頭つきのものも開発している。

はくけんでんき【箔検電器】 2枚の金属箔を用いて，物体の電気の有無を検出する装置。2枚のアルミニウム箔または金箔を，よい絶縁物でささえられた金属棒の先端に下げ，これをガラスびんの中に納めたものである。ガラスびんは空気の流れの影響を防ぐためで，絶縁物には水晶・コハク・イオウ・パラフィンなどを用いる。また，金属棒の上部は金属盤になっている。たとえば，正に帯電した物体を金属盤に近づけると，静電誘導によって金属盤表面に負の電荷が生じ，金属箔は正に帯電するから，静電的反発力により箔が開く。また，帯電体を金属盤に接触させると，帯電体の電荷が金属棒を通って2枚の箔を帯電させ，箔は開く。あらかじめ，箔にわずかの正電荷を与えて少し開かせておくと，帯電体を近づけたとき，その電位が箔の電位より高いとさらに開き，低いと開きが減るが，一度閉じて開くので，これから帯電体の正負を判定することができる。箔の質量がきわめて小さいから，箔の反応に時間遅れがなく，静電容量の小さいことがすぐれている。Ｘ線・β線などをあてると電荷を失い，箔の開きが減少するから注意する必要がある。逆に，放射線の気体の電離作用を利用して，その強さを測定することもできる。感度の調節を可能にしたり，定量的な測定を可能にしたり，あるいは箔の材料を改良したりして，便利なものがいろいろとできている。　〔堀内和夫〕

はくさい【白菜】 双子葉植物・アブラナ科の越年生草本。茎は短く，根出葉が多く出て，葉肋(ようろく)は幅が広く，葉身も楕円(だえん)形で幅広く大きい。葉が巻く性質をもった種類を結球ハクサイ，巻き方のゆるい種類を半結球ハクサイあるいは非結球ハクサイとよぶ。春に抽薹(ちゅうだい)開花し，花・莢(さや)や種子はカブなどに似ている。アジア原産で，特に中国でよく発達し，利



ハクサンイチゲ



白山国立公園 夏の白山山頂付近。正面はなだらかな山容をもつ大汝峰。手前は旧火山で，そのくぼ地には大小の池や湿地が散在する

用も進んだ。わが国には明治以降導入され，これをもとに盛んに品種改良が行なわれて多数の品種が成立した。結球ハクサイでは芝罘(チーフー)・加賀・野崎などが知られていたが，近年は病気に強い品種が重要視され，またそれらを親にした一代雑種が用いられることが多い。またハクサイとキャベツの長所を備えたハクランという雑種もつくられている。半結球ハクサイでは山東・花心などの品種が有名。朝鮮で改良されてキムチ*の材料に使われる朝鮮ハクサイも半結球ハクサイに属する。冷涼な気候を好むので，平地では夏の終わりにまいて晩秋から冬にかけて収穫するが，高冷地など冷涼な所では初夏にまき，夏から秋にかけて収穫する。また，暖地で春まきの品種を用いて初春にまき4～5月に出荷する方法もある。なべ料理の材料やつけ物としての利用が多く，キャベツとともに需要の多い葉菜の一つである。　〔松本正雄〕



白山国立公園

はくさん　【白山】 中央高地の西部，石川県と岐阜県との境にまたがるドーム形の火山。富士山・立山とともにわが国三霊山の一つで，古くから信仰登山の山として知られる。山頂は御前ヶ峰(2,702m)・剣ヶ峰(2,660m)・大汝峰(おおなんじみね)(2,680m)の3峰に分かれ，翠ケ池(みどりがいけ)・千蛇ケ池(せんじゃがいけ)などの旧火口湖や弥陀ケ原(みだがはら)の溶岩高原が開け，白山神社がある。山頂からの眺望(ちょうぼう)は雄大で，北アルプスや中央アルプス・南アルプスの高峰が望まれる。登山道は緩傾斜の石川県側に多い。高山植物・野鳥などが多く，生物の分布上から貴重な山で，1962年(昭和37)白山国立公園*に指定された。　〔高野　繁〕

はくさんいちげ　【白山一華】 双子葉植物・キンポウゲ科。高山の半湿地に群生する多年草。茎は短いが太い。根出葉は3出複葉で，各小葉は細かく裂ける。4～6月，高さ20cmの花茎を伸ばし，細かく裂けた包葉の上にさらに花柄を数個伸ばし，径2cmほどの白色花をつける。花弁はないが，5枚のがく片は花弁状で純白，多数のおしべとめしべがある。



ハクサンチドリ



ハクサンフウロ

はくさんかざんたい　【白山火山帯】 中部地方北西部から山陰地方を経て北九州に至る火山帯。大山(だいせん)火山帯ともいう。おもな火山に白山*・大山・三瓶(さんべ)山・鶴見岳・由布岳・九重山・雲仙岳(うんぜんだけ)・多良岳(たらだけ)などがある。この火山帯を東西に分け，西の大山以西を大山火山帯，東を狭義の白山火山帯とよぶことがある。

はくさんこくりつこうえん　【白山国立公園】 富山・石川・福井・岐阜の4県にまたがり，白山*(2,702m)を中心として笈ケ岳(おいずるがだけ)(1,841m)・大日岳(1,709m)を含むおよそ474km²の地域で，1962年(昭和37)に指定された。標高2,000m内外の連峰が南北に延びる山岳公園。御前ケ峰(2,702m)の北部には翠ケ池(みどりがいけ)などの火口湖があり，千蛇ケ池(せんじゃがいけ)は夏でも氷雪に閉ざされた湖として名高い。山麓(さんろく)で暖帯，山頂で亜寒帯の植物の垂直分布がみられ，頂上一帯は美しい高山植物の大群落がある。山麓には中宮・岩間・白山などの温泉もあり，岩間噴泉塔は天然記念物に指定されている。　〔木村東一郎〕

はくさんこざくら　【白山小桜】 双子葉植物・サクラソウ科。ナンキンコザクラともいう。本州中北部の高山帯に生育する多年草。全体が多肉質で無毛。葉は長さ3～5cmの倒卵形で，鋭鋸歯(えいきょし)がある。7～8月，高さ5～15cmの花茎を伸ばし，直径3cmの桃紅色五弁花を数花散形につける。

はくさんしゃくなげ　【白山石南】 双子葉植物・ツツジ科。ビランジュともいう。本州中部から北海道の亜高山帯に分布する常緑低木。高さ1～3m。葉は有柄で互生し，長さ6～15cmの長楕円(ちょうだえん)形で，先端も基部も丸く，革質で，上面は深緑色，下面は淡白色で毛はない。夏，枝先に5～10個の白色ないし淡紅色花をつける。花冠は漏斗(じょうご)状で5深裂し，径3～4cmで，内面の上部に淡緑色の斑点がある。本種の八重咲きのものをネモトシャクナゲという。

はくさんちどり　【白山千鳥】 単子葉植物・ラン科。高山の草地に自生する多年草。地下茎や根は肉質。茎は単生し，高さ20～40cmで稜(りょう)がある。葉は7～15cmの倒披針(とうひしん)形で，4～5枚がまばらに互生し，基部は茎を包む。6～8月ごろに茎頂に10数花を総状花序につける。小花は赤紫色で，花被片は5枚。包葉は針形で花被よりも長い。唇弁(しんべん)は先が3浅裂して濃紅紫色の斑点(はんてん)があり，基部には長い距がある。葉に紫色の斑点のあるものや，唇弁の切れ込み方に変異が多い。

はくさんふうろ　【白山風露】 双子葉植物・フウロソウ科。本州の中部・北部の高山にみられる多年草で，高さ10～20cm。全草に下向きの細かい毛がある。葉は5～7深裂し，各裂片はさらに切れ込む。表面には薄く伏毛があり，裏面には脈上だけにある。7～8月，茎頂および枝先にゲンノシ

ョウコに似た径2.5～3cmの淡紅色の五弁花を2個つける。

はくし【博士】 学位の名称。1953年(昭和28)文部省令の学位規則によれば,博士の学位は〈独創的研究によって新領域を開拓し,学術水準を高め,文化の進展に寄与するとともに,専攻の学問分野について研究を指導する能力を有する者に授与する〉ものである。授与要件は,大学院に5年以上(医学・歯学は4年以上)在学して所定の単位(50単位以上)を修得し,その大学院(博士課程)が行なう博士論文の審査と試験に合格することである。大学院に在学しなかった場合,大学院が行なう博士論文の審査と試験に合格し,前者と同等以上の学力を有することである。博士の学位を受けた者は,その日から1年以内にその論文を印刷して公表する義務がある。博士の学位には文学・教育学・神学・社会学・法学・政治学・経済学・商学・経営学・理学・医学・歯学・薬学・工学・農学・獣医学・水産学・保健学の18種があり,その名称を用いるときは,学位を授与した大学名を付記しなければならない。

はくじ【白磁】 白色土または牙(げ)白色土で成形した素地(きじ)に,透明な白釉(はくゆう)をかけて,1,300℃前後の高火度で焼成した硬陶の一種。中国では,六朝(りくちょう)の古越州窯の製品のうちに,素地がかなり白く,青磁釉の青みが淡い,白磁の祖型ともいえる例がまれにあり,青磁から発展して徐々に成熟したようである。また,隋(ずい)代には,明らかに白磁が陶磁の一領域を築いたことが文献から知られる。唐代には,とりわけ刑州窯の白磁が名高かった。白磁の隆盛は宋(そう)代にはいってさらに著しい。河北省に定窯,江西省に景徳鎮(けいとくちん)窯などの白磁の名窯が生まれ,宋磁の一翼をになった。唐代に青みをおびた青白磁を焼いた景徳鎮窯は,元代には無色透明の白磁釉を完成し,青花や五彩の装飾がはなやかにはえる素地をつくりあげ,文字どおり明(みん)・清(しん)の絵付磁器の基盤をつくった。

朝鮮の白磁は高麗(こうらい)時代に焼かれているが,遺品はわずかで本格的に生産されるのは李(り)朝時代にはいってからである。わが国では,江戸初期の1616年(元和2)に,朝鮮から帰化した陶工李参平によって,有田(→伊万里(いまり)焼)でその焼造が始まったと伝える。　〔矢部良明〕

はくしいにんじょう【白紙委任状】 委任状に委任事項または代理人(受任者)の氏名を記入しないで白紙にしておき,のちに一定の人に補充させるものをいう。委任事項を白紙にした場合,委任された者が委任以上のことを記入したときは越権となるが,契約の相手方に任せる法律行為は表見代理となる(民法110条)。代理人の氏名を白紙にする委任状には,株主総会に出席して議決権を行使することを内容とするもの,記名株式の譲渡に伴う名義書き換えなどに利用するものなどが一般に行なわれる。また,一定の法律関係から生ずる紛争解決のため,当事者の一方が自分を代理すべき者を白紙とし,その決定を相手方の選択に任す委任状もある。たとえば,借家契約において,後日紛争が生じたときに自己に有利な和解を図るため,家主が借家人からその代理人の選任をあらかじめ自分に委任させる場合などに利用されることがあるが,無効となる場合が多い。　〔黒木三郎〕

はくしもんじゅう【白氏文集】 中国,唐代の詩人白居易の詩文集。今本71巻。《白氏長慶集》ともいい,日本では古くから《文選》とともに愛読され,《文集》ともいった。

バークシャー ⇨ブタ

バークシャー［Berkshire］ イギリス,イングランドのロンドン西方にある州。面積1,878km²,人口50万4,000(1961)。北の境をテムズ川が流れ,中南部は白亜紀の丘陵からなり,バークシャー種として知られるブタをはじめ牧畜が盛ん。第2次世界大戦を契機に工業が発達し,州都レジングには航空機工場がある。遺跡が各地にあり,ことにウインザー城は名高い。

はくじゃでん【白蛇伝】 中国,浙江(せっこう)省杭州(こうしゅう)の西湖の雷峰塔の縁起に関する民間説話。古く西湖には青魚と白蛇との妖怪(ようかい)がいて,塔を建ててこれを鎮圧したという。明(みん)末ごろ,金山の法海和尚(おしょう)が白蛇の精〈白娘子〉をしずめるといういまの形になったものらしい。古い形は宋(そう)代の話本の《西湖三怪記》にみえるが,三言の一つ《警世通言》に収める《白娘子永鎮雷峰塔》や清(しん)代,康熙(こうき)・乾隆(けんりゅう)のころにつくられた戯曲《白蛇伝》は完成した形を示している。弾詞《白蛇伝弾詞》もある。日本の江戸時代,上田秋成の《雨月物語》に《蛇性の婬(いん)》があるが,これは《西湖佳話》の白蛇伝の翻案である。　〔今村与志雄〕

はくしょ【白書】 日本国内およびこれに関連する各国の政治・経済・社会など各方面の現状を,国民に広く知らせるため年1回行政機関が発行する政府刊行物。国会に提出する官庁の報告書と,国民一般に対するものとがある。現在政府が正式に認めるものが全部で24種発行されている。1949年(昭和24)に出された《経済実相報告》が日本における白書の最初のもので,翌1950年から《経済白書》と題されるようになった。〈白書〉のよび名はイギリス政府が議会に提出する報告書の表紙に白い紙を用いたことに由来する。現在発行されている白書は次のとおり。**〈総理府〉**青少年白書・原子力白書・独占白書・観光白書。**〈経済企画庁〉**経済白書・国民生活白書・世界経済白書。**〈科学技術庁〉**科学技術白書。**〈法務省〉**犯罪白書。**〈外務省〉**外交白書。**〈文部省〉**教育白書。**〈厚生省〉**厚生白書。**〈通産省〉**通商白書・中小企業白書。**〈運輸省〉**海運白書・海上保安白書・運輸白書。**〈農林省〉**農業白書・林業白書・漁業白書。**〈労働省〉**労働白書。**〈建設省〉**建設白書。**〈自治省〉**消防白書・地方財政白書。　〔寺尾方孝〕

はくしょくじんしゅ【白色人種】 ⇨コーカソイド

はくしょくわいせい【白色矮星】 白くて小さな星の意味で,シリウスの伴星のような高密度の恒星をいう。シリウスの伴星は,質量が太陽の1.06倍なのに対し,半径が太陽の0.016倍つまり地球の約2倍にすぎず,平均密度は1cm³について400kg,マッチの大きさが約1tに相当する。星の色が青・白・黄・赤であって高密度のものが発見されているが,すべて白色矮星とよぶ習慣になっている。水素の吸収線が弱く,水素の含有量が少ない。これは熱源である水素をほとんど失ったもの,つまり恒星の終末の状態と考えられる。〔日江井栄二郎〕

パークス［Harry Smith Parkes］(1828～1885) イギリスの外交官。1841年清(しん)国に渡り,阿片(あへん)戦争に参加。1856年アロー号事件では捕虜となった。1865年駐日公使となり,フランス公使ロッシュと対立して,薩摩(さつま)・長州両藩と親交を結んで,討幕運動を支援した。

はくすうき【白崇禧】(1893～1966) 中国広西派軍閥の頭目。広西省桂林(けいりん)県の人。字(あざな)は健生。1926年国民革命軍総司令部参謀長となり,翌年の四・一二反共クーデターを指導した。ときとして蔣介石(しょうかいせき)と対立して広西に引退したこともあったが,国民政府の要職を歴任し,中華人民共和国成立後は台湾にのがれた。

はくすきのえのたたかい【白村江の戦い】 〈はくそんこうのたたかい〉ともいう。663年(天智2),朝鮮の白村江(忠清南道の錦江(きんこう)河口付近)で行なわれた日本・百済(くだら)連合軍と唐・新羅(しらぎ)連合軍との水上決戦。660年(斉明6)百済は唐・新羅に攻められて滅亡に瀕(ひん)し,日本の救援によってかろうじて国を維持していたが,663年8月の27・28の両日,両勢力は百済の王城に近い白村江で最後の決戦を展開した。27日まず日本水軍が唐水軍に敗れ,翌日再度激突したが挾撃(きょうげき)にあって瞬時に壊滅して無数の溺死(できし)者を出したという。そのため百済王余豊は高句麗(こうくり)にのがれ,王弟以下貴族ら多数は日本に亡命・帰化し,百済は消滅した。それとともに,過去数世紀にわたってつちかってきた日本の朝鮮半島における勢力は,根底からくずれ去った。668年高句麗が唐・新羅に攻め滅ぼされ,次いで新羅が唐を半島から駆逐して,676年ついに念願の半島統一を達成することとなった。　〔鰭　弘道〕

ハクスリー［Thomas Henry Huxley］(1825～1895) イギリスの動物学者。ロンドンの生まれ。ロンドンのチャールズ-クロ

ス病院で医学を学んだ。1846年海軍軍医としてオーストラリア近海を巡航，その間海産動物，特にクダクラゲについて研究した。のちロンドン王立外科医学校教授(1863)などを経て，1880年王立学会会長。比較解剖学の研究では腔腸(こうちょう)動物の内外両層と高等動物の内胚葉(はいよう)・外胚葉の相同を示し，オーケンやゲーテ*の頭骨脊椎骨(せきついこつ)説の誤りを指摘。またダーウィン*と親しく交わり，彼の進化論の熱烈な支持者としてその普及に努める一方，よき批判者でもあった。このほか形態学・生理学の分野で広く研究し，1863年人類の動物起源についてはじめて明言。さらに生命の起源についても近代的見解を発表した(1871)。主著《自然界における人間の位置》《進化と倫理》《科学と文化》など。なお，進化学者で，UNESCO事務局長であったジュリアン-ソレル-ハクスリーは孫。〔中村禎里〕

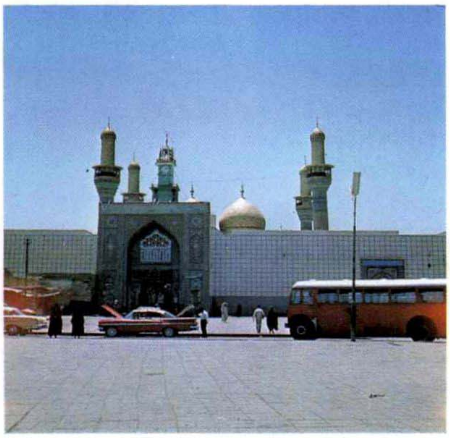
ハクスリー [Aldous Huxley] (1894～1963) イギリスの小説家・批評家。科学者の名門の家に生まれ，少年時代に眼病をわずらい，科学をあきらめて文学を選んだ。博識を武器として知的な風刺小説に本領を発揮し，初期の《クローム-イエロー》《文反古》などで第1次世界大戦後の上流社会の退廃を戯画化し，《恋愛対位法*》《ガザに盲(めし)いて》では知識人の心的状況を斬新(ざんしん)な手法で切断してみせた。また科学技術革命後の未来図を予測した《すばらしい新世界》など，多産な小説家である。批評の分野においても鋭利な洞察力(どうさつりょく)を示し，現代文明と現代文学を語るとき欠かせない論客であるが，特にロレンス*の最も早い理解者であった。晩年は，ユング*やイエイツ*のように，西欧文化の脱出口を東洋思想に求めんとした。旺盛(おうせい)な知的摂取欲をもつ現代人の典型として著名である。〔沢村 灌〕

はくせい【剝製】 動物標本の一。哺乳(ほにゅう)類・鳥類・爬虫(はちゅう)類・魚類などの動物をなるべく生きているときの形・色などを保存するため，おもに皮を乾燥して内部に詰め物をして形を整える。本剝製と仮剝製があり，前者は生きているときの姿をそのままに再現するため，骨の代わりに針金などで形を整え，綿・おがくずなどの詰め物をした上に，なめした皮をかぶせる方法で，学校の教材・展示・装飾などに用いられる。最近では，プラスチック・石膏(せっこう)などを芯(しん)とする方法が用いられるようになってきた。仮剝製は分類学者などが行なう方法で，保管をおもな目的とするため，生きているときの形を再現する必要はなく，芯に円筒状の詰め物をしてあるだけである。〔蒲原春一〕

ばくせきざんせっくつ【麦積山石窟】 中国，甘粛省天水県の東南にある仏教石窟。麦積山は，そのかっこうが農家で麦を積み上げた形に似ているのでこの名がついた。



A. ハクスリー



バグダット 北郊カズマインにあるゴールデン-モスク。二つの大きな黄金のドームと4本の尖塔が青空に輝いている

岩質は荒い礫岩(れきがん)なので，石窟の化粧や尊像は泥土(でいど)製で，敦煌*(とんこう)石窟と同じ特色をもつ。石窟数は92あまりでほかに磨崖仏(まがいぶつ)・石刻があり，塑像としては北魏(ほくぎ)のすぐれた作品が多く，これを修復した宋(そう)・明(みん)代の遺品も珍重される。〔小谷仲男〕

はくせん【白癬】 白癬菌(かびに似た糸状菌の一種)により発生する皮膚病。小胞子菌・表皮菌によるものも含むこともある。臨床的分類としては，表層上皮に浅く寄生して病変を生ずる表在性白癬と，深く毛嚢(もうのう)を冒す深在性白癬に分類される。表在性白癬の中に，頭部白癬(しらくも*)・顔面白癬(はたけ*)・小水疱(すいほう)性斑状(はんじょう)白癬(ぜにたむし)・頑(がん)癬(いんきんたむし*)・汗胞状白癬(みずむし*)・爪甲(そうこう)白癬*などがあり，深在性白癬の中にはツェルズース禿瘡(とくそう)・白癬性毛瘡などがある。またどこかに白癬があるとき，そのアレルギー性皮疹(ひしん)(白癬疹)を発生することもある。治療法は，抗白癬剤(水銀製剤)の外用療法，抗生物質のグリセオフルビンの内用，化膿(かのう)したものにはリゾール浴や湿布，頑癬や深部白癬には場合によってレントゲン照射を行なう。〔辻本恵子〕

バグダット [Baghdad] イラク共和国の首都。人口149万1,000(1975)。同国の中央部，チグリス川の左岸に位置する。BC2000年ごろすでにバグダットの名は記録に表われ，8世紀にアッバス朝の首都と定められてから繁栄し，9世紀には人口200万の世界最大の都市となった。しかし1258年，モンゴルの襲来で破壊されてからは衰微し，のちトルコ領となってからは一地方都市となった。1921年ハシム家のファイサルが国王となってイラク王国が生まれると，その首都となった。三重の城壁をもつ円形都市で，イラクの教育・文化・宗教・商業の中心である。石油精製のほか，絨緞(じゅうたん)などの伝統織物や皮革・金銀細工などの手工業が盛ん。古くは隊商交易路の要地であり，現在もバスラなどと結ぶ国内線やシリア・トルコと結ぶ国際線鉄道の起点，さらには道路・航空路の一中心となっている。〔今井留吉〕

バグダットじょうやく【バグダット条約】 ⇨中央条約機構

ばくだん【爆弾】 航空機から地上・海上・海中・空中の目標に向かって投下する爆発弾。第1次世界大戦中に敵の陣地などを破壊するために用いたのが最初で，航空機の最も重要な攻撃兵器。種類は非常に多く，人畜殺傷用の破片爆弾，堅固な建造物や艦船の装甲を打ち抜く徹甲爆弾，これらに時限信管をつけた時限爆弾，水圧信管をつけた対潜爆弾，艦船攻撃やダム破壊用の反跳爆弾，火災を起こさせる焼夷弾(しょういだん)・ナパーム弾，細菌や毒ガスを散布する化学爆弾，核分裂・核融合反応の核爆弾などがある。使用目的や搭載(とうさい)する飛行機の能力に応じていろいろの重量のものがあり，小は30kgから大は10tに達する。ふつう，先端から信管・起爆薬・炸薬(さくやく)の順に詰められ，弾体の尾部には弾道を安定させるためにひれがつけられている。〔藤井冬木〕

はくち【白痴】 ドストエフスキー*の長編小説(1868)。白痴とよばれるほど純粋な魂をもつムイシキン公爵を主人公に，誇りと屈辱，驕慢(きょうまん)と謙遜(けんそん)が絶えず入れ替わる美女ナスターシャ-フィリッポブナに対するムイシキンと，暗い異端的な愛の男ロゴージンの求愛を描き，ナスターシャの死，ムイシキンの発狂で終わる物語。極度の純粋さの破滅が緩急の激しい展開の中に描かれ，清澄な叙情性が流れる傑作。

ばくちく【爆竹】 中国で古くから用いられてきた音響花火の一。一般にはパオチャン(炮仗)とよばれている。黒色火薬を紙筒に詰め，筒頭に短い綿紙でつくられた導火線がついていて，ダイナマイトを小形にしたような形である。すでに宋(そう)代には紙筒に火薬を詰めた物が現われているが，それ以前には青竹をたいて，その破裂を効果としたが，さらに竹を切ってイオウを入れるなどして改良が加えられた。爆竹は祭日などの祝儀に用いられ，その爆発音によって悪霊を追い払うという意味をもっている。爆竹の種類には単一・少数連続・漸次連続・多数連続などがある。〔渡部欣雄〕

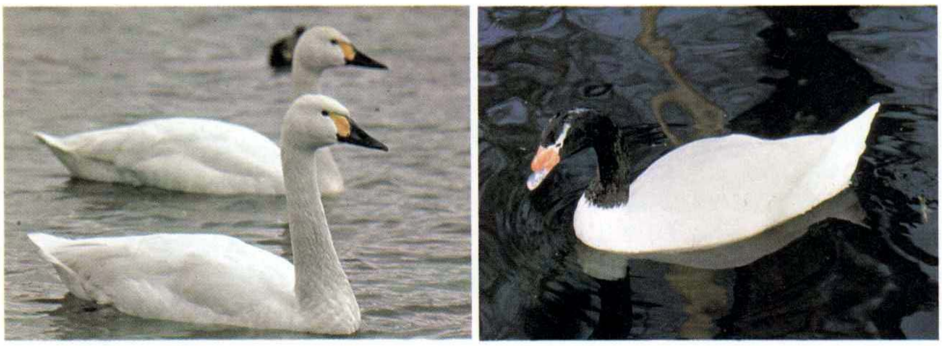
ばくちのき　【博打の木】 双子葉植物・バラ科。関東以西の暖地にはえる常緑高木。高さ12～18mとなり，樹皮はかっ色で部分的にたえず剝落(はくらく)し，落ち跡は紅黄色になる。葉は長さ10～20cmの長楕円(ちょうだえん)形で鋭い鋸歯(きょし)があり，先はとがる。葉柄の上部に1対の腺(せん)がある。秋，葉腋(ようえき)に総状花序をつけ，白色の小花を密生する。花は短柄のある五弁花で，おしべは多数で花弁よりも長い。果実は翌夏に結実し，ゆがんだ楕円形で紫黒色に熟す。材は緻密(ちみつ)でかたく重いので，マホガニーの代用にされる。和名は樹皮がはがれるのを博打で負けて裸になるのにたとえた名。

はくちゅう　【白柱】 日本の雅楽の曲名。左方(唐楽)に属し，盤渉(ばんしき)調，早八拍子で奏される。別名《徳貫子》《児女子》。葬儀のときに演奏される。

はくちょう　【白鳥】 鳥類・ガンカモ科に属するハクチョウ族の鳥の総称。世界に7種があり，いずれも最大級の水鳥である。このうちの5種(学者によっては3種とされる)は北半球の高緯度地域で繁殖し，冬季には多少とも南方に渡りをする。いずれも純白である。ほかにオーストラリアとタスマニアに生息するコクチョウ*，白鳥類中いちばん小形で，南アメリカ大陸南部に分布するクロエリハクチョウがある。クロエリハクチョウはくちばしの基部に赤いこぶ状突起があり，頸部(けいぶ)は黒色，他の部分は白色の美しい鳥である。わが国で越冬するハクチョウ類はオオハクチョウとハクチョウで，その大部分は前種である。渡来地として，北海道の濤沸湖(とうふつこ)をはじめとする網走(あばしり)地方の海岸の湖沼や海域，根室地方の風蓮湖(ふうれんこ)付近，釧路(くしろ)地方の厚岸(あっけし)湾，青森県の大湊(おおみなと)湾，山形県の最上(もがみ)川，新潟県の瓢湖(ひょうこ)，島根県の中海(なかのうみ)・宍道湖(しんじこ)などがあり，各地の愛好家や小中学生によって保護活動が盛んである。このほか，ユーラシア大陸の中緯度地方で繁殖するコブハクチョウは飼育しやすく，各地の公園などにみられる。➔オオハクチョウ　➔コブハクチョウ　〔浦本昌紀・安部直哉〕

はくちょう　【白張】 白丁とも書く。麻布を白粉でかためた狩衣*(かりぎぬ)で，白袍(はう)・白袴(しろばかま)・宛帯(あておび)からなる。装束としては，これに平礼烏帽子(へいらいえぼし)をかぶり，素足にわらじかぞうりをはく。平安時代には宮中の小舎人(こどねり)も着たが，のちに公家(くげ)や武家の傘持(かさもち)・沓持(くつもち)・車副(くるまぞい)などが着用し，やがて白張は雑用係りの官名になった。

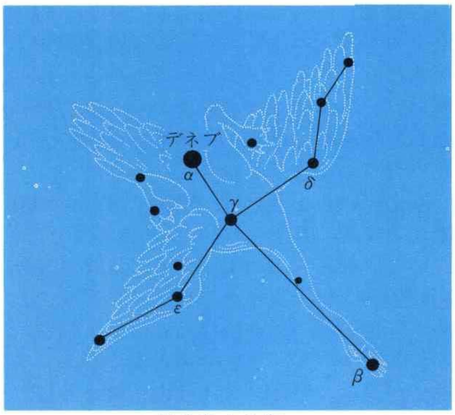
はくちょうげ　【白丁花】 双子葉植物・アカネ科。台湾・中国・インドシナ原産の常緑低木で，茎の高さ1m前後になる。庭木・いけがきなどに栽培される。葉は長さ2cmほどの狭楕円(きょうだえん)形で，通常は葉の縁が白い。5～7月，葉腋(ようえき)に直径



ハクチョウ　(左)ハクチョウ　(右)クロエリハクチョウ



ハクチョウゲ



はくちょう座



白鳥の湖　レニングラード-バレエ団

0.8～1cmの白色ないし淡紅色の漏斗(じょうご)状の花をつける。花冠は5裂し内面に細毛がある。花柱は2岐する。シチョウゲは本種によく似るが花柱が5岐する別属の種類である。

はくちょうざ　【白鳥座】 秋の夕方，天頂付近にかかる星座。こと座*とわし座*にはさまれ，北天の銀河の中に目だって明るい星が十字形に並んでいるのが目印。α星デネブがハクチョウの尾にあたり，くちばしにあたるβ星アルビレオは美しい二重星である。南十字星に対して北十字ともよばれる。

はくちょうしょじょせつわ　【白鳥処女説話】 ⇨羽衣説話

はくちょうそう　【白蝶草】 双子葉植物・アカバナ科。ヤマモモソウともいう。北アメリカ原産の多年草で，観賞用によく植栽される。茎は細く直立して1mほどになり，無柄で披針(ひしん)形の葉を密に互生につける。6～8月，茎頂や枝先に穂をなして径2cmほどの白色四弁花をつける。おしべは8本，花柱は1本。果実は紡錘状の蒴果(さくか)で，細毛がある。

はくちょうのうた　【白鳥の歌】 シューベルト*の歌曲集。作曲者の死の年の1828年8月に書かれた13曲と10月に書かれた1曲からなる。〈白鳥の歌〉の標題は翌年にハズリンガーが出版するとき，白鳥は死ぬまえに鳴くというたとえからつけられたもの。《美しき水車小屋の娘*》《冬の旅*》とともに三大歌曲集とよばれるが，前の二つと異なり，連作歌曲ではない。

はくちょうのみずうみ　【白鳥の湖】 チャイコフスキー*作曲の4幕のバレエ。1875年にボリショイ劇場の支配人ベキチェフの依頼で，ドイツの伝説《白鳥の湖》をテーマに作曲した。台本はベキチェフとゲルツァーがあたり，1876年に完成した。1877年の初演は失敗したが，チャイコフスキーの死後，1895年ペテルブルグのマリンスキー劇場で全曲が再演されて大成功を収め，以後バレエの古典となっている。6曲からなる管弦楽用組曲も名高い。　〔向坂正久〕

はくていじょう　【白帝城】 中国，四川省東部，奉節県の東5km，揚子江北岸の白帝山麓(さんろく)にある古城。前漢末，公孫述がこの地の井戸から白龍を得たことにちなんで白帝と称し，城を白帝城と名づけたといわれる。三国時代，蜀(しょく)が呉の侵入を迎え撃った激戦地として名高く，また唐代の詩人李白(りはく)が〈早発白帝城〉とその詩にうたっている景勝地。

はくてっこう　【白鉄鉱】　硫酸の原料鉱石。FeS_2　鉄を含むので，焼きかすは製鉄原料に利用される。斜方晶系，硬度6～6.5，比重4.61～4.90，しんちゅう光沢で不透明。新鮮な破面はスズのような白さを示し，条痕(じょうこん)は黒。化学成分はオウテッ鉱と同じであるが，結晶形の異なるいわゆる同質二形の関係にある。オウテッ鉱よりも酸化しやすく，大気中で溶解して硫酸を生ずる。

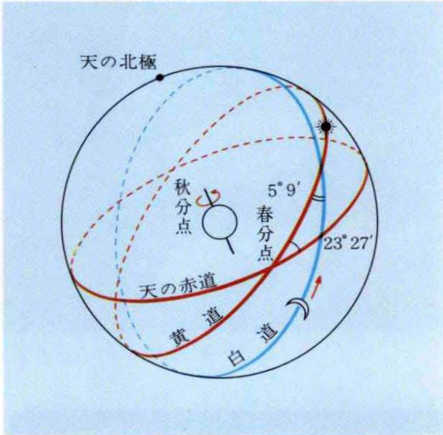
バクテリア　⇨細菌

バクテリオファージ　［bacteriophage］　細菌を宿主とするウイルスで，細菌ウイルスともよばれ，単にファージともいう。➔ウイルス

はくとう　【白陶】　中国の殷(いん)代につくられた白色硬質の陶器。河南省安陽の殷墟(いんきょ)などで多数発掘される。良質の陶土(カオリン)を材料とし，高熱で焼かれた。青銅器と同じ器形や文様をもち，青銅器と並んで儀礼のために用いられたものである。

はくどう　【白銅】　ニッケル含量10～30％の銅-ニッケル合金。キュプロニッケルともいう。ニッケル20％以上のものはニッケルとほとんど同じ白色を呈する。加工性・耐食性や高温の機械的特性がよく，貨幣(75/25)・復水管(70/30・80/20)などをはじめ，化学工業方面の使用が多い。

はくどう　【白道】　地球のまわりを公転している月の軌道を，天球上に投影した大円。すなわち天球上で月が動く道筋。白道は黄道と平均5°9′の角で交わり，その交点は黄道上を西に動き，約18.6年の周期で黄道を1周する。



白　道

はくとうさん　【白頭山】　ペクトゥサン　朝鮮第1の高山で，両江道北東部，中国との国境をなす長白山脈の最高峰。標高2,744m。中国の呼称は長白山。第三紀末の火山活動によって鐘状の山体を形成し，のち中央部が陥没してそこに周囲20kmのカルデラ湖，天池ができた。山体はアルカリ性粗面岩が主であるが，山腹には軽石が白色をなして堆積(たいせき)し，これが白頭山という名の由来となっている。2,000m以下の緩傾斜面はチョウセンマツ・カラマツ・エゾマツ・ヤマナラシ・トラシラベ・マンシュウカラマツなどの密林で，豊かな林産資源となっている。朝鮮民主主義人民共和国成立後，恵山に連絡するため，三池淵(さんちえん)まで林業鉄道が開設された。古来，朝鮮では檀君(だんくん)の神話，中国では清(しん)朝の祖，愛親覚羅(あいしんかくら)の生地として尊崇を集めた山であり，近くは白頭山の南数十キロメートルにある普天堡(ふてんぽ)が1937年に金日成のパルチザンが蜂起(ほうき)したところとして，人民共和国発祥の聖地とされている。　〔矢守一彦〕

はくとき　【白兎記】　中国，元代の南戯という戯曲の代表作。作者不詳。五代の漢の高祖劉知遠(りゅうちえん)が困窮していたとき，農家の娘の李三娘(りさんじょう)を妻とする。夫婦は別れ別れになって，その間16年，李三娘は苦労をなめ，子は父の手もとで育つ。子が狩りで白兎を追った際母の李三娘と出会い，それがもとで夫婦は再会するという筋。宋(そう)代の話本《五代史平話》と金代の語り物《劉知遠》諸宮調の系統を受け継ぎ，民話的要素が濃い。　〔今村与志雄〕

バクトリア　［Bactria］　アフガニスタンの北部，バルフを中心とした地域。地中海・インド・中国から来る交通路の結節点にあたり，ギリシア人のバクトリア王国や，ガンダーラ美術を残したクシャン朝の拠点として栄えた。中国の史書では〈大夏〉とよんで当時のようすを伝えている。

はくないしょう　【白内障】　水晶体が混濁する疾患。俗に〈白そこひ〉〈うみそこひ〉という。なんらかの原因で水晶体に混濁が起こると，射入光量の不足や屈折異常のため，視力の低下や飛蚊症(ひぶんしょう)・複視などの障害をみる。これらの自覚症状は，大部分が停止性である先天性白内障よりは，進行性である後天性白内障に著明である。混濁が瞳孔(どうこう)領全域に広がると，ついには失明する。大部分の先天性白内障は，遺伝的素因によるものか，また三日はしか(風疹)にかかった母体から発生するが，生後しばらくは発見されない。後天性白内障には，最も多くみられる老人性白内障のほか，打撲(だぼく)や穿孔(せんこう)によって起こる外傷性白内障，酸・アルカリ・エルゴチンなどの化学物質によって起こる中毒性白内障，糖尿病や副甲状腺(ふくこうじょうせん)異常によって起こる内分泌代謝障害性白内障，X線・ラジウムなどによって起こる放射線白内障，あるいは虹彩炎(こうさいえん)・網膜炎・網膜色素変性などの眼内病変から二次的に続発する併発白内障などがあり，それら進行状況に応じて，初発白内障・未熟白内障・成熟白内障・過熟白内障に分けられている。治療は，手術療法を除いてはまだ的確な方法がない。点眼・注射・内服などはいずれも進行をある程度防止するにすぎない。手術としては水晶体摘出術のほか，最近では超音波による水晶体吸引術も行なわれるようになった。　〔納富教雄〕

バクーニン　［Mikhail Aleksandrovich Bakunin］　(1814～1876)　ロシアの社会思想家。貴族の出身。一時軍隊に勤めたがやがて辞職し，モスクワでヘーゲル哲学を学ぶ。1840年ベルリンに行き革命思想をいだく。プルードンやマルクスと交わり，1848年2月のドイツ革命に活躍したが逮捕され，シベリア流刑となった。流刑地を脱走して日本を経てロンドンに渡り，のち第1インターナショナルに参加した。彼は神と国家とは人間を奴隷にするとして無神論と無政府主義とを主張し，そこに自由な人間像を描いた。そのため，第1インターナショナルではマルクスと対立した。彼の思想はのちナロードニキの理論に大きな影響を与えた。主著《神と国家》《国家と無政府主義》。　〔仲村計美〕

はくねつでんきゅう　【白熱電球】　⇨電球

はくばかい　【白馬会】　美術団体。1896年(明治29)6月創立。黒田清輝・久米桂一郎(くめけいいちろう)を中心に自由な心情で明るい外光主義の画風を伸ばそうとして明治美術会から独立し，同年10月第1回展を上野公園五号館に開催。以後毎年秋に展覧会を行ない，明治美術会，のちに太平洋画会と対抗しつつ明治の洋画界の主流として発展した。はじめ山本芳翠(ほうすい)・岩村透(とおる)・藤島武二(たけじ)・岡田三郎助・和田英作・長原孝太郎らが参加，1899年から赤坂溜池(ためいけ)に洋画研究所を設け，後進の養成にも努めたが，1911年解散。翌年同会の中堅作家によって光風会がつくられた。　〔匠　秀夫〕

はくばじ　【白馬寺】　中国最初の仏教寺院。後漢の明(みん)帝が西域から来た迦葉摩騰(かしょうまとう)・竺法蘭(じくほうらん)の2僧のために洛陽(らくよう)に建立(こんりゅう)したといわれる。ここで2僧は《四十二章経》を訳出し，仏教が中国にはじめて伝わったとするが，明帝の建立には疑問がある。しかし，三国時代以後白馬寺は仏教初伝の寺として重んじられ，同名の寺が全国各地に建てられた。

ばくはつ　【爆発】　一般的には爆音を伴うような激しい燃焼をいう。広義には，急激な圧力の発生または解放の結果として，音響を発して激しく破裂したり膨張したりする現象をいい，物理的変化と化学的変化を伴う。たとえば，高圧水素容器の破裂は水素圧力が解放される物理的爆発であるが，解放された水素が空気と混合して爆発(燃焼)するのは化学的変化である。この際前者を一次爆発，後者を二次爆発とよぶ。燃焼学では爆燃(燃焼)と爆轟(ばくごう)(デトネーション)とに区分し，前者は爆発性媒体中を伝わる火炎の伝播(でんぱ)速度が音波の速度よりも小さい場合，後者は火炎伝播速度が音速よりも大きい場合をさす。爆轟で

は伝播する火炎面先端に衝撃波が生じ，激しい破壊作用を生ずる原因となる。爆燃では火炎面付近にわずかな圧力上昇が起こるだけで，その圧力はすぐに波面の前後へ逃げる。なお化学的爆発のうち，空気あるいは酸素と共存しない状態での分解反応が爆発的に進行するものを分解爆発という。アセチレン・酸化エチレン・銀アセチリドなどがその例で，たとえばアセチレンは圧力が高いときは空気がなくてもそれ自体が分解爆発する。〔寺沢誠司〕

ばくはつせいけい【爆発成形】 高圧水圧または爆薬などを用い，衝撃的に加工を行なう成形法。ミサイルや航空機部品のような特殊材料の成形をおもな目的として開発されたが，最近では普通の金属の型鍛造・押し出し・粉末成形にも使用されている。熱間加工の場合，従来と比較して精度の高い製品が得られ，またこの方法によるとチタン・モリブデン・高速度鋼も加工することができる。

ばくはつはんい【爆発範囲】 可燃性気体が空気と混合した場合に，点火によって燃焼または爆発を起こす混合割合。普通は混合物中の可燃気体の体積パーセントで表わす。気体の種類によって相違があり，水素・アセチレンなどは特にその範囲が広く，空気中に漏れたときは爆発の危険性が大きい。爆発範囲の例を表に示す。

水素	4.0〜75.0%
アセチレン	2.5〜81.0
一酸化炭素	12.5〜74.0
メタン	5.0〜15.0

プロパン	2.1〜9.5%
アンモニア	15.0〜28.0
エーテル蒸気	1.9〜48.0
アルコール蒸気	4.3〜19.0

ばくはつぶつとりしまりばっそく【爆発物取締罰則】 治安を妨げまたは人の身体・財産を害する目的をもって行なう爆発物の使用，その未遂，またはその使用に供すべき器具の製造・輸入・所持・注文などを処罰する法律。1884年(明治17)太政官(だじょうかん)布告で制定(1908年・1918年に一部改正)。〈爆発物〉とは，急速に進行する化学反応により，多量の熱とガスが発生し，急激に容積が増大するとともに爆鳴・火炎および破壊作用が伴う物質の総称で，その代表は火薬である。爆発物を使用した者および人にこれを使用させた者は，死刑または無期もしくは7年以上の懲役または禁錮(きんこ)(1条)，使用未遂も罰せられ，無期もしくは5年以上の懲役または禁錮(2条)，製造・輸入・所持・注文した者は，3年以上10年以下の懲役または禁錮(3条)などの刑が定められている。〔井上公耳〕

はくはん【白斑】 太陽の縁近くに見える白い斑点。白斑は黒点を取り囲んでいるが，黒点が消失したあとまでも見え，数十ガウス程度の磁場がある。白斑は光球における現象であるが，彩層でこれに相当するところにはプラージュが見られる。



ハクビシン

はくばんしょう【白板症】 口腔(こうこう)粘膜上皮の細胞が角化肥厚して，粘膜表面の部分が白くなって板状の隆起をつくったもの。口腔粘膜白斑(はくはん)症ともいう。粘膜がかたくなるため表面はざらざらになり，ひびがはいったようにもなる。痛痒(つうよう)はなく，ほおの粘膜に多く発生するが，舌・くちびる・口蓋(こうがい)・歯肉などにもでき，中年以上の男子に多く発病する。原因ははっきりはわかっていないが，前癌(ぜんがん)状態となることがある。喫煙の過度，強いアルコール，虫歯・入れ歯などの刺激を取り去り，口腔を清掃するほかには適切な治療法はないが，手術やアイソトープなどの放射線療法も有効な治療法である。このほか，外陰部・尿路などに起こることもある。〔菊池　進〕

ばくはんたいせい【幕藩体制】 江戸時代の政治支配体制。中央統一政権である江戸幕府が，地方諸大名の領国の統治組織を承認して藩を構成させ，これを支配するという機構である。こうした支配機構は，室町末期から戦国時代を経て，織田・豊臣(とよとみ)両氏が最初の統一政権として行なった城下町の建設，楽市・楽座の制，太閤(たいこう)検地，刀狩りなどの政策とともに，戦国大名の統一によって，しだいに形成されていった。徳川政権が統一政権として合法化されたのは，関ケ原の役後3年め，江戸幕府の開設によってであり，これにより政権は天皇から委任されたという名分を得た。次いで幕府は諸大名の改易・転封をしきりに行ない，その直轄地を拡大し，大名に対する統制力を強化した。また一般家臣団の俸禄(ほうろく)制の樹立，本百姓を中心とする村落制度の成立，鎖国制の完成などによって政権をゆるぎないものとした。かくして将軍は全国の土地三千万石のうち，約七百万石の天領のほか，交通の要地，金・銀山，重要都市の直轄などによる強力な経済力・軍事力によって，実質的に最高権力者となった。江戸時代の藩は，時期によって異なるが，250から280くらいあり，各藩主(大名)はその領内では独立した政治・経済・徴税などの諸権利を有し，家臣団を統率した。幕府はこれら諸藩にさまざまな身分格式をつけ，武家諸法度(はっと)によって統制を加え，参勤交代・軍役などを課した。また，公家(くげ)・社寺・旗本(はたもと)にも禁中並公家諸法度・旗本法度などによって制限を加え，一般人民は武士の下に農・工・商などの職業による階級が決められ，自由にその職業を変えることが禁じられた(→士農工商)。このような社会秩序の完成は，寛文年間(1661〜1672)ころであったが，社会の安定と生産力の向上は，しだいに農民を商品生産者に転化させ，それが自給自足をたてまえとする農民の経済をくずした。さらに，諸藩の都市生活による支出の膨張は藩財政を窮乏させるとともに，これを農民の負担に課したため，農民の窮乏はますますはなはだしくなった。18世紀にはいってから幕藩体制が激しく動揺してくると，幕府・諸藩はたびたび政治の改革を実施して，財政難の打開，農民の統制につとめた。しかし，幕末の開国貿易による日本経済への衝撃，異常な物価騰貴による下級武士・民衆の窮乏，洋学者たちによる封建制の批判，尊王論(→尊王思想)による朝廷の権威の再認識などから，ついに討幕運動・大政奉還・王政復古となり，江戸幕府は崩壊して，強固を誇った幕藩体制も解体した。〔岡山泰四〕

はくはんびょう【白斑病】 ハクサイ類に被害の多い植物の病気。葉に内部が灰白色の直径数ミリメートルないし2cmの円形または多角形の病斑を多数生じ，葉がしおれて黄変・枯死する。病原菌の菌糸は病葉について越年し，翌年分生胞子を生じて空気伝染する。晩秋の多雨，連作，肥料の不足などで発生することが多い。輪作，被害葉の除去，均衡を保った十分な施肥によって発生を予防し，発病したらジネブ剤を葉の裏面に散布する。〔渡辺　実〕

はくびしん【白鼻心】 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・ジャコウネコ科。頭胴長48〜76cm，尾長37〜63cm。体色はきつね色・黒かっ色などいろいろあり，ふつう額から鼻の上面が白い。東南アジアから台湾・日本まで分布するが，日本のものは真の野生かどうかよくわかっていない。動物を主食とし，果実なども食べる。

はくびせん【伯備線】 倉敷(岡山県)〜伯耆大山(ほうきだいせん)(鳥取県)間の国鉄路線。営業キロ数139.6。1919〜1928年(大正8〜昭和3)開業。山陽・山陰地方を結ぶ陰陽連絡鉄道の一つで，高梁(たかはし)川と日野川の流域を沿線とし，谷田峠付近で中国山地を横断する。高梁・新見などの都市を結ぶ。

はくひょう【白票】 ふつう，国会の本会議における議案の採決にあたって，賛成の意思を表わすために投ずる票をいう。反対の意思表示は青票。ただし，地方議会においては，白票は棄権票とみなされ，かつ出席者数に算入される慣習がある。

はくびょうが 【白描画】 墨の描線のみで描かれた絵。あるいはこれにわずかに淡彩を加えたもの。墨のみで描かれても，水墨画のようにぼかしを用いたものは白描とはいわない。中国唐代の呉道玄らによって完成され，日本でも〈作絵(つくりえ)〉と対照的に，描線の美しさをもって盛んに用いられた。代表作として《鳥獣戯画》《枕草子(まくらのそうし)絵巻》《豊明絵(とよのあかりえ)》などの遺品がある。➔絵巻物

ばくふ 【幕府】 中世・近世の武家政治の政庁。元来は，中国で出征中の将軍の幕営をいい，日本では近衛府(このえふ)の唐名とされた。源頼朝(よりとも)が鎌倉に武家政権を樹立し，1190年(建久1)右近衛(うこんえ)大将に任ぜられると，その居館は幕府とよばれた。さらに1192年頼朝が征夷(せいい)大将軍になると，近衛大将の官とは関係なく武家政治の首長の居館を幕府とよぶようになった。足利(あしかが)氏の京都の館，徳川氏の江戸城も幕府とよばれたが，江戸後期には一般に武家政権ないし将軍を首長とする軍事政権を意味する概念として用いられるようになった。〔高崎徳次〕

ばくふせん 【瀑布線】 いくつかの川がほぼ並行して流れて滝が山麓(さんろく)線上に一列に並ぶ場合をいい，また，滝線ともいう。滝の水力は水車や発電に利用されて工業が起こり，そこに発達した都市を瀑布線都市または滝線都市という。アメリカ合衆国のアパラチア山脈東側の山麓線には北東から西南にかけて瀑布線が形成されており，初期移民たちはそこに瀑布線都市を発達させた。のちこの瀑布線上には，北からフィラデルフィア・ボルチモア・ワシントン・リッチモンド・アトランタ・コロンバス・モントゴメリーなどの多くの都市が発達した。なお日本では，大阪府の生駒(いこま)山脈西麓の瀑布線に，かつて水車による製薬・製粉などの工業が発達していた。

〔佐藤甚次郎〕

はくぶつがく 【博物学】 動物学・植物学・地質学・鉱物学の総称で，広義には動物・植物・鉱物など自然物の種類・分布・性質・生態などを取り扱う学問。自然に関する学問の中で最も古いものの一つである。しかし，現在ではそれぞれの学問の発達が著しくなって独立・分化しているため，総称することがなくなり，博物学という語はほとんど用いられなくなっている。

はくぶつかん 【博物館】 人文および自然に関する資料の収集・保管・調査研究を行ない，それを展示して公衆の利用に供する社会教育機関。世界最初の博物館といわれるエジプトのムーセイオン(ミューズの殿堂)を語源とする。明治初期，田中芳男(よしお)がミュージアムに博物館の語をあてた。ヨーロッパでは，王侯・富豪・教会の財宝を中心として開設された例が多く，収蔵品もさまざまであった。一般に公開され，資料も科学的に整理保存され，機能的にも整備されたのは19世紀以降である。日本にも，古く正倉院のように社寺の宝物殿や貴族・大名の私的コレクションはあったが，1871年(明治4)文部省に博物館局が設置され，東京湯島の旧聖堂大成殿を博物館としたのが近代的博物館の最初である。その後1950年(昭和25)文化財保護法，1951年博物館法が制定され，日本の博物館制度は確立した。1969年現在，日本の博物館総数は登録博物館148館を含めて973館である。

【目的と機能】 前述のような目的を果たすため，館内では案内・解説・講演などを行ない，目録・図書を出版し，館外では資料の貸し出し・移動博物館・巡回展などを行なう。博物館には，これらの機能を果たすために図書室・講堂・保存庫などの付属施設があり，専門職員(学芸員)が置かれている。

【種類】 収蔵資料の内容から総合博物館と専門博物館の2種がある。後者には歴史・考古学・民俗・遺跡・美術・科学・産業の各博物館，動物園・植物園・水族館・野外博物館などがある。また，設立者・管理者の別によって国立・公立・私立に分類され，対象とする利用者によって成人・児童・学校などの区分がある。博物館の多くはこの3種を総合して呼称されている。

〔藤井久栄〕

はくぶつし 【博物誌】

1 プリニウス(大)の唯一の現存作品。37巻。一種の百科全書で，宇宙形状誌・地理・人類学・動物学・植物学・農事・植物薬法・動物薬法，鉱物とその用法などについて書かれている。学問的・文学的評価は必ずしも高くないが，ほかに求められない貴重な古代資料も数多い。

2 ルナールの随想集(1894)。さまざまな動植物の生態を観察，それを簡潔でしゃれた文体で活写した小品集。文学的・感情的な粉飾を極度に排した文章は，写実主義の一極限を示すものとされる。なお,《博物誌》という同名の著作は，18世紀フランスの文人ビュフォンにもある。

はくぶんかん 【博文館】 1887年(明治20)大橋佐平によって設立された出版社。出版活動の企業化へ第一歩を踏みだした出版社として，明治期ジャーナリズムの代表的位置にあった。同年6月《日本大家論集》をもって創業し，種々の雑誌出版を試みたが，1895年《太陽》《少年世界》《文芸倶楽部(クラブ)》の3誌に整理して読者層を固めた。出版文化史上〈博文館時代〉といわれる一時期を画したが，やがて実業之日本社・講談社などの新興出版社にその地位を奪われた。

〔前納弘武〕

ハーグへいわかいぎ 【ハーグ平和会議】 ロシア皇帝ニコライ2世の提唱によって2度にわたってオランダのハーグで開催された国際平和会議。軍縮と国際紛争の平和的処理を目的とした。第1回は，1899年5月26か国が参加して開かれたが，国際紛争の平和処理と陸戦・海戦法規に関する3条約，および毒ガス・ダムダム弾の使用，軽気球からの投射物の禁止に関する3宣言を採択したにとどまった。第2回は，日露戦争直後の1907年6月，44か国が集まって開かれ，戦闘法規など13の条約を採択，常設国際司法裁判所の設置が提唱され，のち，これが国際連盟の補助機関となった。軍縮そのものには実りが少なかったが，その精神は大きな意義を有し，以後軍縮会議に継承された。➔軍縮 〔広部和也〕

はくほうじだい 【白鳳時代】 白鳳は当代の正史《日本書紀》にはみえないから，正式年号ではないが，8世紀の正史《続日本紀(しょくにほんぎ)》にみえ，孝徳天皇の時代あるいは天武天皇の時代の年号として用いられた。そこで白鳳時代といえば，およそ大化改新(645)から平城遷都(710)までの60余年間をさすことになっている。政治史の面では，大化改新・壬申(じんしん)の乱(672)をはさんで，天智(てんち)・天武両天皇の時代の政治などによって律令(りつりょう)政治の基礎が築かれた時期であり，天皇を頂点とする新しい国家体制が整い，近江(おうみ)令・飛鳥浄御原(あすかのきよみはら)律令も制定され，国力上昇の顕著な時代であった。文化の面でも，これを反映して清新の気のあふれる健康的な文化が発展した。中国初唐の影響が特に美術の面に著しく，漢詩文も天智天皇時代以降大いに流行し，国文学の方面にも柿本人麿(かきのもとのひとまろ)が出て和歌史の最高峰となるなど，文化の各方面に活気がみなぎった。天武天皇時代における仏教の興隆，神祇(じんぎ)制度の整備も宗教の国家統制の面から注目される。以上，この時代の文化を前の飛鳥文化，のちの天平(てんぴょう)文化に対して白鳳文化とよぶ。〔黛 弘道〕

はくぼく 【白墨】 黒板に書くとき用いる筆記具。焼き石膏(せっこう)で製する従来のものと，炭酸カルシウムを粘結してつくるもの(ダストレスチョーク)との2種がある。焼き石膏を原料とするものは，その粉末を水でこね，型に入れて自然凝結させてから抜き取り，自然乾燥する。炭酸カルシウムを原料とするものは，これに粘着剤を混入し，圧力をかけて穴から押し出し，一次乾燥ののち一定の長さに切ってから二次乾燥して仕上げる。これのほうが焼き石膏を原料とするものよりも比重が大きく粒子が小さいので，粉末の飛び散り方が少ない。単に白墨またはチョークといえば白色のものをさし，着色したものは色チョークという。色の種類は，国内市販品ではふつう赤・青・黄・緑・紫・茶色の6種である。

はくぼく 【白樸】 (1226～？) 中国，元代の劇作家。父の白華は金王朝の詩人。金滅亡のとき，父の友人の詩人元好問について山東に行った。元王朝に仕えず，雑劇

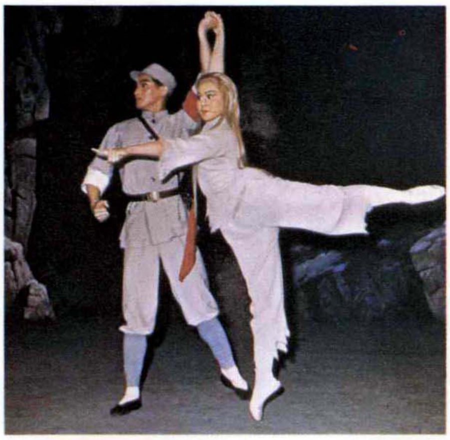
や詞*や散曲をつくって生涯(しょうがい)を送った。雑劇を16種つくったというが，完全な形で残っているのは《墻頭馬上(しょうとうばじょう)》《梧桐雨(ごどうう)》《東墻記》の3種で，中でも《梧桐雨》(正しくは《唐明皇秋夜梧桐雨》)は，唐の玄宗*と楊貴妃*(ようきひ)の愛情悲劇を脚色した作品として有名。関漢卿(かんかんけい)とともに元雑劇を代表する作者のひとりである。〔今村与志雄〕

ハーグみっしじけん 【ハーグ密使事件】 1905年(明治38)第2次日韓(にっかん)協約(→日韓併合)で日本に外交権を奪われた韓国が，1907年6月韓国皇帝の全権委任状をもった密使をハーグの第2回万国平和会議に派遣し，会議に主権回復を訴えた事件。会議がこれを採択しなかったのを機に，日本はこの事件を追及し，7月武力威嚇のもとに光武帝を廃し，太子拓を即位させて第3次日韓協約を締結した。この協約によって韓国の内政権は韓国統監伊藤博文(いとうひろぶみ)の監督下に置かれ，韓国の軍隊は解散させられた。〔高崎徳次〕

はくめい 【薄明】 日出前および日没後約1時間くらいの薄明るい期間。これは上層大気中の浮遊微粒子が，太陽光線を反射，または散乱するためである。通常は，太陽が地平線下6～8°まで没し，戸外で新聞の大きな活字が読める程度までの明るさをさす。これは日没後30分ぐらいである。さらに太陽が沈み地平線下12～18°程度になると，空は暗くなって6等星まで見えるようになる。また，太陽高度が地平線下18°になるまでの時間を天文薄明という。天文薄明の続く時間は，緯度や季節によって異なる。日本では約1時間半程度である。日出前も同様であるが，空気中にある微粒子の数が，夕方のほうが多いために薄明現象も顕著である。〔相原正彦〕

ばくめいき 【爆鳴気】 水素2容と酸素1容との混合ガス。酸水素爆鳴気ともいう。点火したり光をあてたりすると激しく爆発して水を生じ，多量の熱を出す。なお，塩素と水素との当量混合ガスも光をあてると激しく反応して爆音を発する。これは塩素爆鳴気とよばれる。

はくもうじょ 【白毛女】 中国，現代のオペラ。1944年4月，延安で初演。賀敬之(がけいし)・丁毅(ていき)ら延安の魯迅(ろじん)芸術学院のメンバーによる集団創作。はじめは6幕物，数回の改訂を経て5幕10場となった。1950年には映画化された。喜児(シーアル)という貧農の娘が父親の借金の抵当として悪い地主の黄世仁(ホワンシーレン)に女中がわりに使われる。ある夜地主に手ごめにされて妊娠する。彼女には大春(ターチュン)という許婚者がいたが，地主にさからって村を追われ，解放軍を求めて去る。喜児は地主の虐待からのがれ，山奥にはいり，洞窟(どうくつ)にひとり住み，子どもを産む。3年の歳月が流れ，日光にあたらぬ生活を続ける彼女の頭髪は白くなり，村には白髪の仙女(せんにょ)がいるといううわさが広まった。日中戦争が始まり，解放軍が村へ来た。土地改革が行なわれ，彼女は洞窟から救出され，恋人の大春と再会し，悪い地主は罰を受けるというもの。このオペラを改作したバレエもある。〔今村与志雄〕



白毛女 革命現代バレエ。白毛女(喜児)は恋仲の大春(解放軍兵士)と再会し，地主黄世仁の罪悪をあばいた。日本の松山バレエ団が1955年はじめてバレエ化し，1958年に中国で上演，影響を与えた

はくもくれん 【白木蘭】 双子葉植物・モクレン科。中国原産の落葉高木で，日本へは古く渡来し，観賞用に庭などに植えられる。高さ5mほどになり，よく分枝する。葉は短柄で，互生し，長さ10cm内外の倒卵形で全縁，鈍頭で革質。3～4月ごろ枝先に大形の芳香をもつ白花をつける。つぼみは有毛の大形の包に包まれる。がくは3枚，花弁は6枚あり，がくと花弁が同形同大で，広鐘状に開き，おしべ・めしべともに多数。花の外面が淡紅紫色をおび，内面白色の変種をサラサレンゲという。

はくや 【白夜】 高緯度地方で，夕方や朝方に薄明*が長時間続く状態。これは太陽が地平線にほぼ平行に動き，そのため，日出前・日没後にも太陽高度がなかなか低くならないためである。北半球では夏至(げし)のころ，南半球では冬至のころ極圏の少し南では1晩じゅう薄明るい。それは，太陽が沈んでも地平線から数度にしかならないためである。

ばくやく 【爆薬】 起爆薬・爆破薬・炸薬(さくやく)など，狭義の火薬より燃焼速度の大きいもの。わが国では火薬類取締法で火薬と区別している。→火薬

はくよう 【白楊】 双子葉植物・ポプラ科。ウラジロハコヤナギともいう。ヨーロッパ原産で，世界各地に栽植される落葉高木。樹形は，不定芽が著しく発達して草ぼうきのような形になる。ポプラに似るが，葉の裏面が雪白色なことで区別できる。葉は広卵円形で，縁は波状にちぢれ，葉柄は扁平(へんぺい)で風に振れやすい。早春，葉に先だって尾状花穂(かすい)を下垂する。材は軽くて割れやすく弾力に富み，細工物や彫刻に用いられ，またパルプ材や炭用にもする。

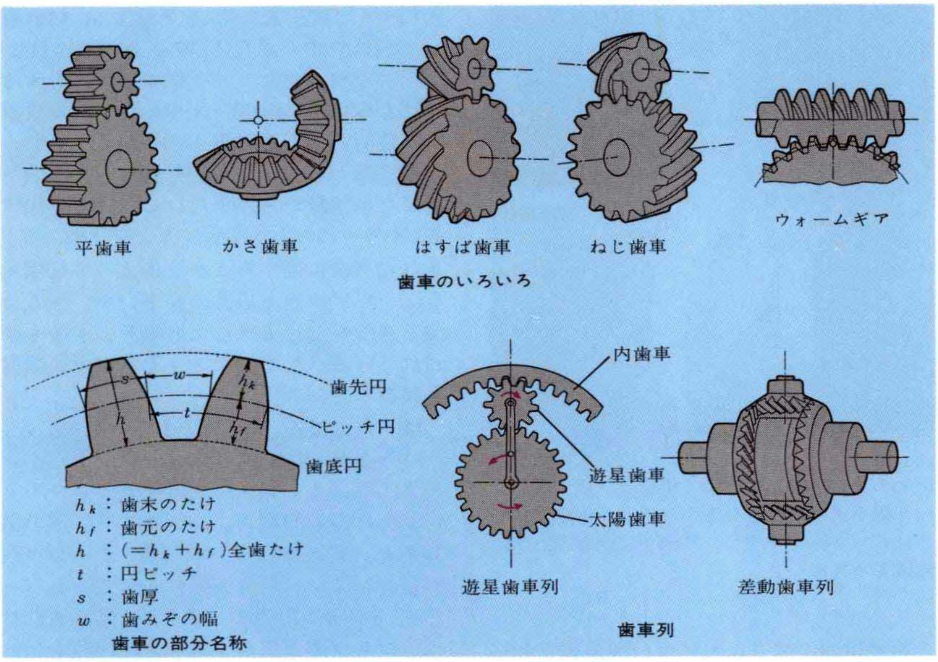
ばくらい 【爆雷】 水中の潜水艦を攻撃する兵器。第1次世界大戦中から使われ，対潜兵器としては最も古典的なもの。飛行機または艦艇から投下ないし火薬で射出する。100～150kgの炸薬(さくやく)を詰め，調定された深度に達すると水圧によって起爆する。一般に円筒形のものが多いが，最近は沈下速度を上げるために涙滴形のものも使われている。なお，アメリカ海軍は核爆雷も保有している。

はくらくてん 【白楽天】 ⇨白居易

バークラ-ダム ［Bhakra Dam］ インド北西部，インダス川支流のサトレジ川上流にある多目的ダム。コンクリート式の重力ダム。高さ226m。1946年着工，1963年完成した。インド総合開発の一つであるバークラ-ナンガル計画の一部として建設された。パンジャブ州とラジャスタン州の洪水(こうずい)防止・灌漑(かんがい)などに多大の貢献をしている。

はくらんかい 【博覧会】 産業の振興，産物販路の拡大，文化の普及または交流のため開かれる展示機関。開催国(地)名，開催の規模，出品物の種類，開催趣旨などにより，さまざまな名称がつけられる。海外では，1756年ロンドンで開かれた勧業博覧会が形態の整ったものの最初とされ，国内では，1877年(明治10)東京で第1回の内国勧業博覧会*が開催された。以来5年めごとに第5回まで開催されたが，以後は全国博覧会は開催されず，地方博覧会が年を追って盛んとなった。地方博覧会としては，1879年横浜で一県の共進会が開かれたのを最初とし，1922年(大正11)東京府主催の平和記念博覧会は規模の点で画期的なものであった。→万国博覧会〔高崎徳次〕

バークリー ［George Berkeley］ (1685～1753) イギリスの哲学者。アイルランドの生まれ。ダブリンのトリニティ-カレッジに学ぶ。卒業後も同校にとどまり，1709年《視覚新論》，1710年《人知の原理》，1713年《ハイロナスとフィロナウスとの三つの対話》を書いた。ロンドンに出，大陸を旅行し，1724年デリーの副主教。バーミューダ島に福音伝道を目的とする大学の建設を計画したが失敗。1734年以来アイルランドのクロインの主教。1752年オックスフォードに退き，同地で没。彼の立場は徹底した唯心論で，物質の実在性を否定し，精神のみが実在すると考える。物質は〈観念〉に過ぎず，〈観念〉である以上それは精神に知覚されてはじめて存在する。しかし外界は人間精神の主観的意図のままにはならないから，ここで精神とは永遠で無限な〈神〉にほかならない。ゆえにいっさいは〈神〉にささえられてのみ存在するとする。〔石井忠厚〕



歯　車

バークリー ［Berkeley］ アメリカ合衆国カリフォルニア州中西部，サンフランシスコ湾に臨む住宅・大学都市。人口11万1,600(1973)。サンフランシスコの衛星都市の一つで，同市とはベイ-ブリッジで結ばれる。背後の丘陵斜面一帯は住宅地で，公園が多く，ここから望む湾内やゴールデンゲート-ブリッジのけしきはすばらしい。カリフォルニア大学が1872年にここに移転し，以後発展した。塗料・薬品・自動車などの工業もある。

バークリウム ［berkelium］ 周期律表第Ⅲ族，アクチニド元素の一。記号Bk 原子番号97。アメリカ合衆国カリフォルニア州バークリーのカリフォルニア大学で，アメリシウム^{241}Amにサイクロトロンで加速したヘリウムイオンを作用させてつくった人工放射性元素。半減期290日。バークリーの地名にちなんで命名された。

ハーグリーブズ ［James Hargreaves］ (？～1778) イギリスの紡績機械発明家。羊毛繊維の梳(そ)整機を改良し，1764年ごろ紡錘を数個取り付けたいわゆるジェニー紡績機を発明，これが産業革命の発端となった。これは紡績工程における〈伸し〉と〈撚(よ)り〉の作業をひとりの労働者が同時に行なうものであったので，機械普及による失業を恐れた紡糸工に家と機械を破壊されノッチンガムに移住。その後1770年特許権を取得し，広く同機を普及させた。 〔加藤邦興〕

ばくりゅうしゅ 【麦粒腫】 まつげの毛嚢(もうのう)(毛包)にある脂腺(しせん)(ツァイス腺)や汗腺(モル腺)，またはまぶたの内側の瞼板腺(けんばんせん)に発生する急性化膿(かのう)性炎症。俗に〈ものもらい〉という。上記周辺部の発赤腫脹(しゅちょう)，高度の疼痛(とうつう)をもって始まり，多くは数日後化膿し，しばしば皮膚面・結膜面に黄色の膿点がみられる。重篤な場合は，眼瞼全域を冒し，眼瞼蜂巣織(ほうそうしき)炎や，眼瞼膿瘍(のうよう)を起こすことがある。原因は，黄色ブドウ球菌・連鎖球菌による侵襲感染であるが，手指による感染や疲労・睡眠不足が誘因になることもあり，再発をくり返すことが多い。治療は温罨法(おんあんぽう)，サルファ剤や抗生物質の塗布または内服。〔納富教雄〕

はくりゅうせき 【白榴石】 造岩鉱物の一。准長石類に属する。$KAl(SiO_3)_2$ 低温では偽等軸晶系であるが，600℃付近の転移点よりも高温では等軸晶系。比重2.45～2.50，硬度5.5～6，屈折率1.51，劈開*(へきかい)不完全，無色または白色，半透明，ふつう偏稜(へんりょう)二十四面体の結晶形を示す。カリが比較的多く，ケイ酸が比較的少ない，いわゆるアルカリ岩中に産し，非常に変質しやすい。カリ肥料の原料として利用される。日本には産出しない。 〔加藤敏郎〕

ばくりょう 【幕僚】 軍の組織の司令部・本部において指揮官を直接・間接に補佐する特定の幹部。部隊を指揮する権限はもたない。一般には参謀あるいはスタッフともいう。幕僚は，ふつう幕僚長・幕僚副長・一般(調整)幕僚・特別幕僚・幕僚幹事・専属幕僚などに区分するが，編制は部隊により異なる。最近は統合部隊のための統合幕僚が重視されるようになった。一般幕僚というのは，一定の幕僚組織における幕僚業務の指導・監督をするもので，ふつう人事・情報・作戦・兵站(へいたん)の各幕僚(旧日本軍ではこれを参謀と称した)であるが，監理・渉外の幕僚を設けることもある。特別幕僚は，担任業務を専門的に処理する一群の幕僚である。ときに指揮官で特別幕僚を兼任する者もあるが，両者は元来別個のものである。 〔森田　哲〕

はくりん 【白燐】 ⇨黄燐

はぐるま 【歯車】 軸に取り付けた円板や円錐(えんすい)の表面に等間隔の突起をつけ，それを互いにかみ合わせて二つの軸の間に回転運動を伝えるようにしたもの。その突起を歯車の歯という。また歯車のかみ合い運動を扱うために仮想される各歯車に固定され互いに接触する曲面をピッチ面といい，これを軸に直角に切断した切り口をピッチ円という。この切り口の上の歯の曲線を歯形曲線という。したがって，互いにかみ合う二つの歯形曲線は，互いにすべりあうがピッチ円はすべらず，互いにころがりあう。

〔歯形〕 歯形曲線は，一定の回転比で回転を伝えるために特殊な曲線を用いなければならない。現在用いられている歯形曲線には，インボリュート(伸開線*)とサイクロイドがある。動力伝達用の歯車では，ほとんど全部がインボリュートが用いられる。これはサイクロイドに比べて，①強度が大きい，②軸間距離が正規の位置からずれても回転比は変わらない，③精密な工作がしやすい，などの理由による。サイクロイドは，その曲線を修正したものが時計用歯車などに用いられている。なお，ピン歯車とよばれるものは，サイクロイド歯車の特別な場合である。

ピッチ円上において，となりあう歯の対応する点の間の距離をピッチ円に沿ってはかった長さを円ピッチまたは単にピッチという。互いにかみ合う歯車は円ピッチが等しくなければならない。ピッチ円の直径を歯数で割った値をモジュールといい，歯の寸法はこのモジュールを基準にして表わす。互いにかみ合う歯車のモジュールは等しい。さらに，モジュールをm，円ピッチをt，円周率をπとすれば，$t=\pi m$の関係がなりたつ。また，歯車の回転数は歯数に反比例する。

〔種類〕 平行な2軸の間に回転を伝えるときは歯車のピッチ面は円筒面となる。ピッチ面と歯面との交線を歯筋というが，歯筋が歯車の軸に平行なものを平歯車といい，歯車の中では最も多く使われる。歯筋が軸に対して斜めにねじれている歯車をはすば歯車という。はすば歯車は平歯車に比べて回転がなめらかで静かである。互いにかみ合う二つのはすば歯車の歯筋は，ねじれ角が等しくねじれの方向は反対である。しかし，歯筋が斜めになっているため，軸方向に推力が作用する。これを打ち消すために，歯幅の中央でねじれの方向を反対にしたやまば歯車がある。また，歯車の半径が無限大になったものに相当し，ピッチ面が平面の歯車をラックという。これは回転運動を直線運動に変えるために用いられる。

2軸が交わる位置にある場合に使用する

歯車ではピッチ面は円錐面である。このときの歯車をかさ歯車という。このうち歯筋が円錐の頂点に向かうものをすぐばかさ歯車，そうでないものを曲がりばかさ歯車という。ピッチ円錐面の頂角が180°になったかさ歯車を冠歯車と名づける。また，2軸が直角な場合で二つのかさ歯車のピッチ円錐面の頂角が90°で同形のものをマイタギアという。2軸が平行でもなく交わりもしないで食い違っている場合にはねじ歯車が用いられる。これはピッチ面が円筒面であり，一つだけ取り出して見るとはすば歯車と同じである。ただ組み合わせて回転を伝えるときの軸の位置がはすば歯車と異なる。同じく食い違い軸の間に使われるのにウォームギアがある。これはねじ状をした歯車のウォームと，これにかみ合うウォームホイールとからなっている。ウォームは一条にすることができるので，回転比を大きく落とすことができる。このほか食い違い軸の間に使われるものとして，曲がりばかさ歯車に似た形をしたハイポイドギアがある。

〔歯車列〕数組みの歯車を順にかみ合わせ，回転数を増減させる歯車の組み合わせを歯車列という。また最初に回転を与える歯車を駆動歯車，それによって回転させられる歯車を被動歯車という。被動歯車と駆動歯車の回転数の比を速比といい，かみ合いごとの駆動歯車の歯数の積と被動歯車の歯数の積との比で表わされる。一般の歯車列では，歯車の中心の位置が固定されていることが多い。これに対してかみ合う一組みの歯車のうち，一方が他方の歯車軸を中心として公転する歯車列を遊星歯車列という。このとき中心の歯車を太陽歯車，公転する歯車を遊星歯車という。また，太陽歯車にも回転を与えると，遊星歯車はこの回転の影響を受けて複雑な運動をする。このような歯車列を差動歯車列という。〔森田　鈞〕

はぐるま　**【歯車】**　芥川龍之介*(あくたがわりゅうのすけ)の短編小説。死後の1927年(昭和2)10月に発表された。特定の筋はなく，死と絶望のイメージが交錯する中に，狂気におびえ半透明の歯車の幻覚にとらわれる主人公の病的な心象風景を描いている。のち自殺を選んだ作者自身の孤独と絶望を，怪奇な幻想の中にみごとに描いた作品。

はくろ　**【白露】**　二十四気*の一。陽暦の9月8日ごろにあたる。太陽黄経は165°で，秋気を感じるようになる。このころ，秋の長雨が始まる。白露とは，陰気がしだいに重なり，露が集まって白いの意。

はくろうびょう　**【白蠟病】**　手の動脈に障害が起こって，発作的に指が蒼白(そうはく)となる職業病*の一。チェーンソー(電動鋸(のこぎり))・リベットハンマー(鋲(びょう)打ち機)などの工具の振動を長期にわたって手に受けた結果，血管運動神経に障害をきたし，動脈が収縮して血流を妨げることに原因する。突然指が蒼白となり，疼痛(とうつう)・チアノーゼ*・しびれを伴うが，数分から数十分で赤くなって快復する。これが進行すると手首・肘(ひじ)・肩の関節部障害，筋肉痛，手の感覚鈍麻などをきたすようになる。血管拡張剤などで治療する。〔佐野隆志〕

はぐろさん　**【羽黒山】**　山形県北部，鶴岡(つるおか)市の東方にあり，月山*・湯殿山*とともに出羽三山*の一。月山の北のすそ野が庄内(しょうない)平野に臨む所に位置する。標高419m。古来修験道の中心道場として名高く，山頂に羽黒神社(三山合祭殿)がある。ふもとの羽黒町手向(とうげ)は門前町で宿坊があり，両側に樹齢300～500年のうっそうとしたスギの並み木のある2,446段(1.7km)の石段で神社に至る。山内には，重要文化財の五重塔・黄金堂などがある。有料道路羽黒山ドライブウエーが通ずる。〔高野　繁〕

はくロシア　**【白ロシア(共和国)】**　Belorussiya　ソビエト連邦を構成する共和国の一。ヨーロッパ-ロシアの西部にあり，西はポーランドと接する。面積207万6,000km^2。人口934万(1975)。首都ミンスク。

〈自然・住民〉全般に平地だが，氷河時代に形成されたうね状の丘陵や湖沼などが広がり，針葉樹を主とする森林が国土の3分の1をおおっている。河川は氷堆(ひょうたい)石丘の白ロシア丘陵を分水嶺(ぶんすいれい)とし，黒海に注ぐドニエプル川とその支流プリピャチ川が南へ，バルト海に注ぐ西ドビナ川とネマン川が北流している。ソ連では温和な気候に属するが，東部へいくほど大陸性になる。年降水量は550～650mmで雨は夏に多い。住民の81.1％が白ロシア人で，ほかにロシア人8.2％，ポーランド人6.7％，ユダヤ人1.9％などがいる。白ロシアの〈白〉は14世紀ごろ，タタールにもリトアニアにも属さなかった一部の地方の〈自由の民〉の意といわれている。

〈産業・経済〉農業はアマ・ジャガイモ・テンサイ・ライ麦などの栽培が多く，牧畜ではウシ・ブタの飼育が盛んである。鉱業は泥炭(でいたん)の産出が多く，発電に使われ，岩塩も産する。工業は，自動車・トラクターなどの機械，木材・パルプ，繊維，食品加工などが主都ミンスクとその東部で行なわれている。ポーランド・バルト海沿岸・ウクライナなどを結ぶドニエプル川を中心とする河川交通をはじめ鉄道・道路がよく発達している。

〈政治・歴史〉ロシア人・ウクライナ人と同じ東スラブ族の白ロシア人は，タタール・リトアニア・ポーランドなどに次々と支配されたが，18世紀にロシア領となった。1919年白ロシア共和国となり，1922年ソ連に加入した。第2次世界大戦ではドイツ軍の占領下に置かれ，大きな被害を受けた。戦後，ロシア・ウクライナとともにソ連邦とは別に国連に代表を送っている。

〔斎藤晨二〕

はくロシアじん　**【白ロシア人】**　スラブ族*の一。今日では白ロシア共和国(主都ミンスク)をつくってソ連邦に加盟している。人口約800万。白ロシアの名は，13～14世紀リトアニア諸侯の支配に屈したものを〈黒ロシア〉とよんだのに対するもので，〈白〉には白ロシア語で〈自由・独立〉の意味がある。

はぐろとんぼ　**【鉄漿蜻蛉・翅黒蜻蛉】**　こん虫類・トンボ目・カワトンボ科。腹長47～50mm，後翅(こうし)長48～52mm。体の地色は黒色で，わずかに金属光沢がある。雄は腹部背面が金属緑色であるが雌では黒かっ色。翅(はね)の前半部は前縁と後縁がほぼ平行。雌の翅は全体黒色で，後翅裏面の脈はかっ色みがかる。本州以南屋久島までと朝鮮・中国に分布する。成虫は早いものは5月ごろから出現し，10月ごろまで見られ，平地の用水溝(こう)などに多い。近似のアオハダトンボは，腹長45mm内外，後翅長37～40mm，体は金属緑色で，雄は青みをおび，雌は銅色がかる。雄の翅は青緑色の反射が強く，また雌の翅は淡かっ色。本州から九州に分布し，丘陵地や低山地の流水に多く，5月下旬から7月上旬ごろまで見られる。ミヤマカワトンボは大形で腹長53～62mm，後翅長42～50mm，体は淡かっ色で，背面には金属緑色の斑紋(はんもん)があり，雄の腹部背面は青緑色。翅は，雌は一様に赤かっ色，雄では濃色。日本全土に分布する日本特産種で，地域変異はほとんどなく，成虫は低山地の渓流(けいりゅう)上を飛行して，好んで河中の岩石上に静止する。

〔鈴木邦雄〕

はくわ　**【白話】**　語体文ともいう。中国の口語文で，日本で漢文とよぶ伝統的な文章語が文言文とよばれるのに対し，話しことばを写したもの。名称の起こりは〈明白なること話しのごとし〉，あるいは芝居の〈せりふのことば〉(説白)からくるといわれる。白話の歴史は古く，宋(そう)・元にさかのぼる。これは旧白話とよばれるが，《水滸伝*(すいこでん)》《三国志演義*》などはこの旧白話で書かれた著名な小説である。現在われわれの見る中国語は，一部の例外を除けば，ほぼ完全に現代白話文で書かれている。

〔白話文運動〕中国の言文一致運動。白話文の歴史は古いが，長らく文章の大勢を占めていたのは文言文であった。1916年，北京(ペキン)に蔡元培*(さいげんばい)を中心とする国語研究会が成立してのち，文体改革運動が興り，文学革命*とあいまって，反封建運動の一翼として発展した。雑誌《新青年*》を中心に進められたが，胡適*(こてき)らの白話文学の提唱に応じて，1918年から新式標点符号を採用した完全な白話文で文章がつづられるようになった。この運動は当時の旧派文人の激しい反対にあったが，1920年から小学校の〈国文〉が〈国語〉に改められ，しだいに言文一致の成果をあげた。

〔大河内康憲〕



ハゲイトウ



ハゲコウ　マラブーハゲコウ

はげ　【禿】　⇨脱毛症

はげいとう　【葉鶏頭】　双子葉植物・ヒユ科。インドから熱帯アジアにかけて原産する一年草。茎は太く，高さ1.5mに達し，密に披針(ひしん)形・卵形・線形などの葉を互生につける。葉に紅色・黄色・淡緑色などの斑紋(はんもん)があって非常に美しく，古くから観葉植物として庭に植えられた。特にカリが飛んでくる晩秋に紅葉するところから，雁来紅(がんらいこう)とよばれた。7～10月，各葉腋(ようえき)にがく片3枚，おしべ3本，めしべ1本からなる淡緑色の小花を密につける。

はげこう　【禿鶴】　鳥類・コウノトリ科。コウノトリ類のうち，顔・頭部の羽毛がなくはげている類の総称。アフリカハゲコウ・オオハゲコウなどがあり，死肉を好んで食う。顔・頭部に羽毛がないので，死体からつくバクテリアが日光で消毒されるという。

はげたか　【禿鷹】　⇨ハゲワシ

ばけもの　【化け物】　⇨妖怪(ようかい)

はげわし　【禿鷲】　鳥類・ワシタカ科・ハゲワシ亜科の鳥の総称およびそのうちの一種をいう。ハゲタカともいわれるが，これは俗称である。コンドル*のように，顔・頭部あるいは頸部(けいぶ)にも羽毛がなく，皮膚は裸出している。アフリカ・ヨーロッパ南部・インド・中国にかけて14種が分布する。中形ないし大形のワシタカで，翼開長1.5～3.5m，体重1.5～7.0kg。この類は一般に自分で狩りはせず，空高く帆翔(はんしょう)して上空から死体を探索して，おもに大形獣類の死肉を食う。死肉にとりついている鳥や他の鳥の動きを目あてに次々と集まり，大形獣を骨だけ残してまたたく間に食い尽くす。アフリカにすむ森林性のヤシハゲワシは，アブラヤシの実を主食としている例外種である。このうちの一種のハゲワシはチベット・中国・朝鮮北部に分布し，わが国にはごくまれに迷行する。
〔浦本昌紀・安部直哉〕





ハゲワシ　(上)シロエリハゲワシ(アフリカ産)　(下)ベンガルハゲワシ(インド産)



筥崎宮　楼門。楼上に亀山上皇の宸筆〈敵国降伏〉の額がある

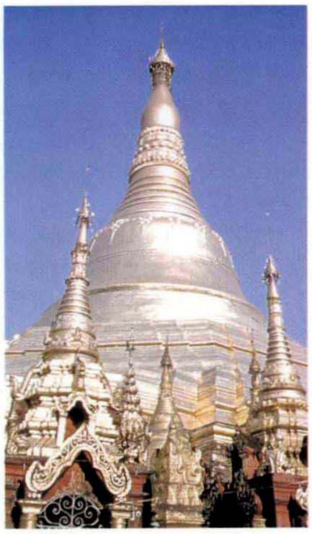
ハーゲン-ポアズイユのほうそく　【ハーゲン-ポアズイユの法則】　毛細管内を流れる粘性流体に関する法則。単に〈ポアズイユの法則〉ともいう。ハーゲンとポアズイユにより互いに独立に実験的に見いだされた。毛細管を通して一定量の流体が流出するための時間は，管の長さに比例し，両端の圧力差に反比例し，管の直径の4乗に反比例するというもの。理論的には，粘性流体の運動方程式を適用して，半径 a，長さ l の円管の両端に圧力差 p_1-p_2 を加えるとき，粘性係数 μ の流体が単位時間に流出する容積流量は $(\pi a^4/8\mu)\cdot(p_1-p_2)/l$ で与えられる。
〔内田茂男〕

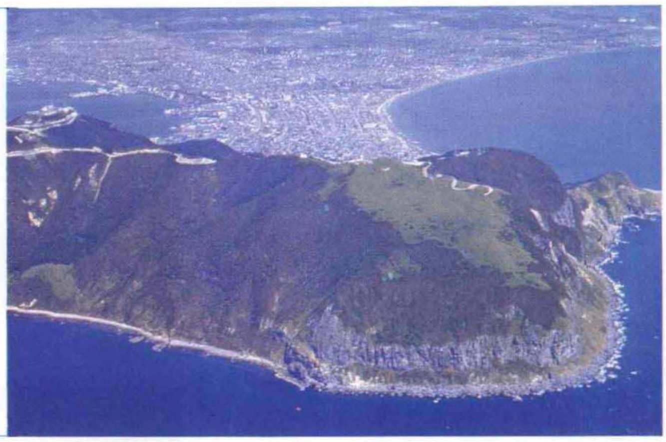
はごいた　【羽子板】　羽根つき*の用具。起源については，これで節分の鬼打ちに用いたとか，カを食うカゲロウに似せてつくられた羽子(羽根)を打つことによって子どもがカに食われないようにする呪的(じゅてき)な目的から生じたなどの説がある。室町時代の文献では〈胡鬼板(こぎいた)〉と記され，元来は邪鬼を退散させる呪物であったと思われ，小正月の左義長*に焼かれた。今日の形式になったのは室町時代末期以降であるが，初めは泥(どろ)絵の具類で描いたものや絵草紙をはったものがつくられた。文化・文政(1804～1829)以後は当時流行の押し絵を用い，色彩的に派手な装飾用のものも生じた。なお浅草寺*では年の暮れに羽子板市が催され，現今の浅草風物詩の一つにもなっている。
〔山路勝彦〕

はこざきぐう　【筥崎宮】　福岡県福岡市箱崎にある神社。祭神は応神天皇・神功(じんぐう)皇后・玉依姫命(たまよりひめのみこと)。創祀(そうし)の年代は明らかでないが，昔，紅白の旗各4流が天空より舞い降りてこの地にとどまり，それを応神天皇の神霊であるとして社殿を起こしたと伝えられる。古くは八幡大菩薩(はちまんだいぼさつ)筥崎宮と称した。社殿の西は玄界灘(げんかいなだ)に面し，元寇(げんこう)などの外敵降伏の神として信仰されてきた。現在の本殿と拝殿は1546年(天文15)，楼門は1594年(文禄3)の造営でいずれも重要文化財。9月15日が例祭であるが，正月3日に行なわれる玉取祭は，神事の遺風を受け継ぐもので，箱崎・馬出(まいだし)両地区の村人が油を塗った一かかえの丸い木の玉を奪い合い，それを得た村に豊作が約束されるという。
〔佐野文哉〕

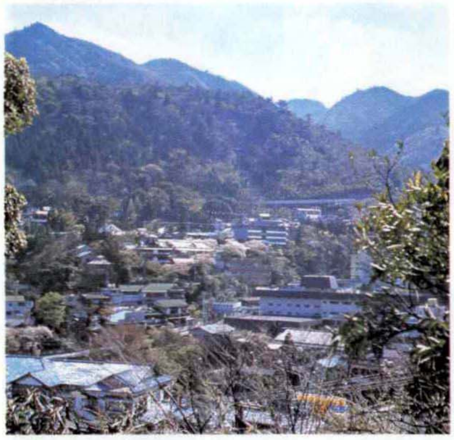
はこせこ　【箱迫】　女子装身具の一種。筥迫とも書く。箱迫の起源は江戸時代の武家の女子が用いた紙入れで，素材は革・絹・羅紗(らしゃ)などでつくった。紙のほか化粧用具・薬・小銭なども入れていた。19世紀後半になると懐中鏡を挿入(そうにゅう)するようになり，鏡の紐座(ちゅうざ)に鎖をつけ，懐中からたれ下げるようになった。現在でも花嫁の婚礼衣装の装身具，七・五・三などのアクセサリーとして用いられている。

パゴダ　[pagoda]　東洋諸地域に見られる仏塔・仏教寺院。ビルマのパゴダは特に有名で，形はインドのストゥーパ*，セイロンのダゴバの系統を受け継ぎ，鉢(はち)を伏せた形の基壇の上にほぼ円錐(えんすい)状の尖塔(せんとう)を立て，金箔(きんぱく)をおしたものも多い。ビルマ語では，パヤーまたはゼーディとよばれ，ブッダおよびその弟子(でし)たちの舎利*や衣服などを蔵するもの，仏教経典・仏像などを蔵するものなどがある。
〔佐藤良純〕


パゴダ ビルマの首都ラングーンにあるシェーダゴンーパゴダ


函館市 函館山とその向こうに広がる市街。市街地の左側は函館港で青函連絡船の埠頭が見える。函館山の右に突き出る急崖は立待崎

はこだて 【函館(市)】 北海道南西部，渡島(おしま)半島南端の市。人口31万7,000。室町時代から和人が定住していた古い歴史をもち，江戸末期まで箱館と書いた。江戸時代から商業と漁業が盛んで1858年(安政５)日米修好通商条約による日本最初の開港場の一つとなり，箱館戦争を経て明治以後は青函(せいかん)連絡船の発着する北海道の表玄関となり，北海漁業の基地として発展した。1922年(大正11)市制施行。津軽海峡に面する函館平野の南部と背後山地を含み，中心市街は陸繋島(りくけいとう)の函館山から北東へ弓形に連なる砂州上に開け，函館山東麓(とうろく)の旧市街地は直交状道路で町割りを形成する。産業三大別人口比は４：25：71。函館駅に近い十字街・大門付近が中心繁華街で，銀行・デパート・商店などが集まる。商圏はかつては全道を支配していたが，いまは物資中継的な役割に変わっている。函館港は北洋漁業の基地として名高く，出漁の際は独航船でうずまる。港の周辺部には造船工場やセメント工場，北洋漁業と関連する製罐(せいかん)・製氷工場などが集まり，最近は北方に石油・化学肥料などの工場も立ち並び，道南臨海工業地帯の造成が進んでいる。青函連絡船で青森と結ばれ，函館本線・江差線や国道５号線・227号線・228号線の起点となり，将来は稚内(わっかない)へ達する北海道縦貫自動車道の起点ともなる予定である。しかし，現在工事中の青函トンネルが開通すると，本州との連絡港としての役割は大幅に縮小されることが予想される。函館空港からは東京や道内諸都市を結ぶ定期便が発着し，最近ジェット機の離着陸ができるように再開発が行なわれている。函館山にはロープウエーが通じて，山頂から下北・津軽の両半島を遠望でき，函館湾を見おろす夜景は日本一といわれる。北東部の五稜郭*(ごりょうかく)は特別史跡に指定され，湯ノ川温泉郷，トラピスチヌス女子修道院・ハリトリス正教会，石川啄木(たくぼく)の歌碑がある立待崎などの名勝史跡に富む。〔浅井得一〕


箱根町 温泉郷箱根を代表する湯本の町並み。近代的なホテルが目だつ。温泉はこれより早川の上流に沿って塔ノ沢・大平台・強羅へと続く

はこだてせんそう 【箱館戦争】 五稜郭(ごりょうかく)の戦いともいう。明治維新のとき箱館五稜郭の要塞(ようさい)攻防をめぐって旧幕軍と官軍との間で行なわれた戦い。一連の戊辰(ぼしん)戦争*中最終の戦いとなった。1868年(慶応４)８月旧幕臣，海軍副総裁榎本武揚(えのもとたけあき)らは，王政復古*や官軍の江戸占領を不満とし艦船８隻を率いて江戸湾から脱走。銚子(ちょうし)(千葉県)沖で暴風雨に会って一部の兵員・艦船を失ったが，仙台(せんだい)(宮城県)で東北戦争の敗兵を収容し，北進して蝦夷地(えぞち)(北海道)に上陸した。11月箱館五稜郭を占領して根拠地とし，福山・江差を攻略して蝦夷地から官軍を一掃した。次いで共和政府を樹立し，榎本が総裁として選出された。共和政府は，箱館駐在の各国領事と外交交渉を開始し，将来徳川家の一族を迎え旧幕府関係者の更生事業として，蝦夷地を開拓することを内外に声明した。その兵力は2,500余名，陸軍教官ら10名のフランス兵を含んでいた。新政府は征討軍を青森に集結したが，降雪氷結期のため出撃は雪解けを待つことになった。翌年３月，旧幕艦〈回天〉は大胆にも官軍の甲鉄艦を奪取するため宮古(岩手県)港を奇襲したが撃退された。４月，官軍の攻撃は開始され，五稜郭要塞を本営とする旧幕軍と海陸にわたる激戦がかわされたが，５月にはいって旧幕軍は艦船のすべてを失い，力尽きて降伏。新政府の国内統一はここに完成した。〔高崎徳次〕

はこだてぶぎょう 【箱館奉行】 江戸幕府の職名。遠国奉行*の一。箱館に駐在して蝦夷(えぞ)地*の行政をつかさどった。1802年(享和２)羽田正養・戸川安倫(やすみち)を蝦夷奉行に任じたのが始まりで，同年箱館奉行と改称した。1807年(文化４)松前氏の西蝦夷地が幕府の直轄領となったため，箱館奉行を廃して松前に移し，松前奉行と改称した。1822年(文政５)蝦夷地を松前氏に還付するとともに廃止したが，1854年(安政１)日米和親条約締結に伴い，箱館の開港となり，箱館奉行を再置した。老中支配で，禄高(ろくだか)二千石，役料1,500俵，定員は２～３名。〔岡山泰四〕

はこだてほんせん 【函館本線】 北海道の函館～旭川(あさひかわ)間および支線６本よりなる国鉄路線。営業キロ数425.1，および支線53.3キロがある。1880～1904年(明治13～37)開業。北海道を縦貫する幹線鉄道で，渡島(おしま)半島を縦貫し，小樽(おたる)・札幌(さっぽろ)などの重要都市を連ねているが，羊蹄山麓(ようていさんろく)を通過する長万部(おしゃまんべ)～余市間は急勾配(こうばい)区間のため，函館～札幌間に走る特急・急行列車の多くは室蘭(むろらん)本線・千歳(ちとせ)線経由で運転されている。小樽～岩見沢は幌内鉄道の一部として北海道で最初に開業した鉄道である。小樽～旭川が電化(交流)されている。〔青木栄一〕

はこね 【箱根(町)】 神奈川県南西部，足柄下郡に属する町。人口19,000。町域は箱根火山のカルデラ全体を占め，全域が富士箱根伊豆(いず)国立公園に含まれている。関所のある宿場町であった旧箱根町が，1954年(昭和29)に元箱根・芦ノ湯(あしのゆ)の２村と，1956年に湯本町および温泉・宮城野(みやぎの)・仙石原(せんごくはら)の３村と合併して成立した。箱根山*の外輪山と中央火口丘，火口原と火口原湖・火口瀬などの変化に富む地形とすぐれた風光に恵まれ，温泉も豊

富で，歴史上の遺跡も多く，日本の代表的な観光地・保養地として，国際的にもよく知られ，四季を通じ観光客が多い。第3次産業人口が75％を占める特異な人口構成をもっている。

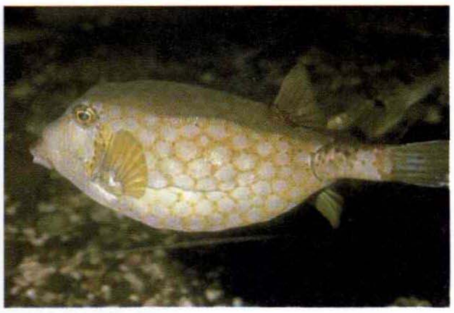
はこねうつぎ　【箱根空木】 ⇨ニシキウツギ

はこねおんせんきょう　【箱根温泉郷】　神奈川県足柄下郡箱根町にある温泉群。富士箱根伊豆（いず）国立公園に含まれる。古くは箱根七湯といわれ，湯本・塔ノ沢・堂ヶ島・底倉・木賀・姥子（うばこ）・芦（あし）ノ湯などが知られていた。現在はこのほかに大平台・宮ノ下・二ノ平・強羅（ごうら）・小涌谷（こわきだに）・湯ノ花・仙石原（せんごくはら）・早雲山・下湯・元箱根などが加わっている。富士火山帯に属する箱根火山の中にあり，大涌谷・小涌谷は現在もイオウ蒸気が噴出し，火山活動のなごりをとどめている。泉温は25～99℃でかなりの差があり，泉質は単純温泉・食塩泉・イオウ泉・ミョウバン泉・含石膏（せっこう）イオウ泉などである。会社の寮や保養所の多いところ，観光客でにぎわう行楽地など，場所によってそれぞれ特質がある。交通は小田原から箱根登山鉄道とバスの便がある。　〔木村東一郎〕

はこねさんしょううお　【箱根山椒魚】　両生類・サンショウウオ科。わが国の本州・四国に固有のサンショウウオで，海抜1,000m以上の高地にすむが，本州北部では低地にも分布する。体長15cmほどで，体背面に橙黄（とうおう）色の斑紋（はんもん）があるが色彩には変異がある。5～8月に山地の急流に多数の雌雄が集まり，5～7個の大形卵のはいった円筒形の卵塊を産む。

はこねじんじゃ　【箱根神社】　神奈川県足柄下郡箱根町の芦（あし）ノ湖畔にある。祭神は彦火々出見尊（ひこほほでみのみこと）・瓊々杵尊（ににぎのみこと）・木花開耶姫命（このはなさくやひめのみこと）の3神に，大国主命（おおくにぬしのみこと）・少彦名命（すくなひこなのみこと）・櫛御毛奴命（くしみけぬのみこと）・大山祇命（おおやまずみのみこと）・橘姫命（たちばなひめのみこと）を配祀（はいし）する。創祀は神功（じんぐう）皇后の代に武内宿禰（たけのうちのすくね）によるとも，757年（天平宝字1）に僧万巻（ばんかん）の創建とも，また僧万月の草創ともいわれる。東海道の要衝にあるため，鎌倉時代以降は特に武家の尊崇あつく，伊豆（いず）山神社*とともに将軍による二所詣（もうで）も行なわれた。社宝に万巻上人（しょうにん）木像・刀剣類・《箱根権現絵巻》などがある。例祭は8月1日，前夜には湖水祭が行なわれる。〔佐野文哉〕

はこねやま　【箱根山】　神奈川県南西隅（なんせいぐう）から静岡県にまたがって広がる複式（三重式）火山。東から反時計回りに塔ノ峰・明星ヶ丘・明神ヶ丘・金時山・乙女（おとめ）峠・長尾峠・三国山・箱根峠・大観山・白銀（しろがね）山を結ぶ外輪山と，神山・駒ヶ岳（こまがたけ）など七つの中央火口丘とからなる。このうち神山は1,438mで最高峰。外輪山



ハコフグ



ハコベ



羽　衣　天女が羽衣を着て天へ帰ろうとするところ。右にマツの作り物が見え，天女は美しい天冠をかぶっている。シテは後藤得三

と中央火口丘群との間には火口原の仙石原（せんごくはら）と火口原湖の芦（あし）ノ湖がある。富士山と伊豆（いず）山地との間をふさいで位置しているため，古来交通の障害となり，箱根越えの交通路はいくたびかの変遷を重ねてきた。特に箱根峠は旧東海道随一の要衝で，江戸時代には峠を下った芦ノ湖畔に関所が設けられていたが，今日では国道1号線から分かれて湯本から須雲（すくも）川の谷を登るバイパス箱根新道と外輪山の尾根伝いに走る芦ノ湖スカイラインおよび十国峠に至る道路などの十字路になっている。なお，箱根の温泉はカルデラ内に集中している。　〔高野　繁〕

はこねようすい　【箱根用水】　静岡県裾野（すその）市深良（ふから）にある灌漑（かんがい）用水。深良用水ともいう。芦（あし）ノ湖の水を約1.3kmのトンネルで導水し，途中で約530haを灌漑して黄瀬川に落としている。1663年（寛文3）現地の農民が，名主大庭源之丞（おおばげんのじょう），箱根神社別当，江戸浅草の友野与右衛門（よえもん）らを動かして幕府の許可を得，1666年着工，1670年に完成したもので，総工費7,335両，延べ人員83万3,500人を要したと記録されている。現在では灌漑用水として利用するほか，落差を利用して発電も行なっている。　〔竹内淳彦〕

パゴパゴ　［Pago pago］　南太平洋，サモア諸島のアメリカ合衆国が領有する東サモア，ツツイラ島にある都市。人口1,500（1966）。東サモア統治の中心地で，海軍の行政担当官が駐在している。パゴパゴ港は古い噴火口に水をたたえた湾内にあり，アメリカ合衆国海軍の軍港になっている。モームの小説《雨》の舞台でもある。

はこふぐ　【箱河豚】　硬骨魚類・ハコフグ科。体長45cmに達する。北海道以南の沿岸域に分布し，ハコフグ科中で最も普通に見られる。体は名のように箱形でかたい甲におおわれる。近似種のクロハコフグは有毒であるが，本種は無毒で，食用とする地方もある。本科にはウミスズメ・コンゴウフグ・イトマキフグなどが含まれる。

はこべ　【繁縷】　双子葉植物・ナデシコ科。畑や道ばたにごく普通の一年草で，北半球に広く分布している。よく枝分かれし，茎や枝の一面だけに毛がある。葉は広卵形で長さ2～3cm，先はとがり，小さな柄で対生する。茎の上方の一方の葉腋（ようえき）に白色花をつける。花弁は5枚であるが，それぞれ2深裂しているので10枚のように見える。おしべは8～10本，めしべは花柱3本。春の七草の一つで，若葉を摘んでひたしものなどにして食べられる。コハコベは本種によく似るが，全草小形で，より乾燥地に多く，おしべは5本前後である。ウシハコベは全体が大ぶりで，茎・葉柄など赤色をおび，花柱は5本ある。〔加藤僖重〕

はこやなぎ　【箱柳・白楊】 ⇨ヤマナラシ

パーコレーター　［percolator］　濾過器（ろかき）の意味であるが，普通には漉（こ）し器のついたコーヒー沸かし器をいう。ポットに水を入れて湯を沸かし，中の漉し器つきのバスケットに入れたコーヒー粉を煮てパイプから浸出させるしくみになっている。使用が簡便で，色もよく出るが，他の方法に比べて味は落ちるとされる。ガスこんろ・電熱器の上にかけて使うものと，底に発熱体を取り付けた電気自動式のものとがある。アルマイト製・陶磁製・耐熱ガラス製もある。　〔山本喜男〕

はごろも　【羽衣】

1能の曲名。作者不明。三番目物。駿河（するが）（静岡県）の三保の松原で，白龍（はくりょう）という漁夫が，マツの枝に美しい衣が掛かっているのを見てとって帰ろうとすると，天女が現われ，〈それは天（あま）の羽衣といって人間の持つべきものではない〉と言う。白龍が返さずにいると，天女は羽衣がなくては天に帰れぬので悲しむが，結局白龍から

羽衣を受け取り，天人の舞を地上に伝え残して去って行く。シテは天女，ワキは白龍。白龍にはワキツレが2人つく。有名な羽衣伝説*を脚色したもの。〔長尾一雄〕

2日本舞踊・長唄(ながうた)・一中節・常磐津節(ときわずぶし)の曲名。能の〈羽衣〉に基づいた作品で，三保の松原で天人が漁夫から羽衣を返してもらい，舞を舞いながら昇天していくという内容。1898年(明治31)初演の《羽衣》は新古演劇十種*の一つで，長唄・常磐津節掛け合いで天人の舞を宙乗りの演出で見せた。人気曲の常磐津節《松の羽衣》はこれを常磐津節だけに整理したもの。

はごろもせつわ【羽衣説話】世界的に広く分布する説話で，ヨーロッパでは一般に白鳥処女説話とよばれる。基本的なモチーフは，①天女が白鳥の姿で地上に降りてきて，羽衣を脱いで水浴する，②男が羽衣の一つを隠す，③羽衣を隠された天女は男の妻となり，子を生む，④のちに羽衣を探し出し，これを着て天へ飛び去るものである。このタイプの説話を日本では羽衣説話とよび，広く各地に分布する一方，古くから文献にも記録され，また伝説*としても各地に伝えられている。三保の松原を舞台とする羽衣説話は，謡曲《羽衣》でよく知られている。《丹後国風土記》の逸文に，天女が和奈佐老夫(わなさのおきな)の養女になる話が記されているのも一つの変型であり，《竹取物語》もまた同じ系列と考えられる。伝説としては，天女が羽衣をかけたという羽衣松や羽衣石などの伝説は各地にあり，また，天女が地上に残した一子がその地の豪族の始祖になったとする伝承も各地にある。白鳥説話が世界に広く分布している理由はまだ判明しないが，要点の一つは，すぐれた霊魂が鳥の姿を借りて去来するという信仰にあったものと考えられる。〔直江広治〕

はさいたい【破砕帯】構造線*の一種で，岩石・地層が破砕されている地帯。不規則な割れ目の集合で，ある方向をもち，幅もほぼ一定である。多くは断層運動によって加わる圧力で生じる。破砕帯には角礫(かくれき)状の岩石片や粒状化した岩石・粘土などが生じていることが多く，ときには圧砕岩を生じ，鉱物が再結晶していることもある。

はさき【波崎(町)】茨城県の南東端の町で，鹿島(かしま)郡に属する。人口35,000。利根(とね)川河口の漁港で，千葉県の銚子(ちょうし)市と銚子大橋によって結ばれている。水産加工業のほか，〈波崎千両〉とよばれる正月のいけ花用のセンリョウ，漁家の婦女の副業として始まった籐(とう)細工などの特産がある。北部は鹿島臨海工業地帯の一部で，近年鉄鋼や石油化学の工場が建設されている。

パサジーナ［Pasadena］パサデナともよぶ。アメリカ合衆国カリフォルニア州，ロサンゼルス市北東郊外の住宅・観光保養都市。人口10万9,000(1973)。サンガブリエル山地のふもとにあり，周辺にはオレンジの果樹園を控え，豪壮な邸宅が並んでいる。カリフォルニア工科大学(1891年創立)・マウント-ウィルソン観測所・ハンチントン実験所などがある。1890年以来毎年1月1日に開かれるバラ祭りは世界的に有名である。



バサーリ《バッカント》ウフィツィ美術館蔵

はざましげとみ【間重富】(1756～1816) 江戸中期の天文暦学者。大阪の生まれ。通称十一屋五郎兵衛(ごろべえ)，長涯(ちょうがい)と号した。家業の質屋を営んだ。早くから天文に関心をもち，長じて麻田剛立*(ごうりゅう)に師事して天文暦数を学んだ。望遠鏡など各種の観測器の改良に努めた。寛政・文化の幕府改暦事業には推挙されて大任を果たし，のち大阪にあって天文方御用をつとめた。

はさみ【波佐見(町)】長崎県東彼杵(ひがしそのぎ)郡に属し，県の中部，川棚(かわたな)川の上流盆地にある町。人口16,000。1956年(昭和31)上波佐見町と下波佐見村が合併して発足。北は佐賀県有田町と接し，大村藩の保護によって発達した陶器の町で，家庭用食器を主とする波佐見焼で知られる。

はさみじょうかかくさ【鋏状価格差】
⇨シェーレ

はさみむし【蠼螋】こん虫類・革翅(かくし)目・ハサミムシ科の一種または革翅目の総称。体長23mmほど，体はくり色で脚は黄色。翅(はね)は完全に退化している。腹端に太く短いはさみがあり，雄では左右不相称でかぎ状に内側に湾曲しているが，雌ではほとんど直線状で末端がやや曲がる。石の下や種々の腐敗した植物質の下などに生活する。母虫は産卵後，卵が孵化(ふか)するまで保護する習性がある。日本全国をはじめ，世界のほとんど全地域に分布する。

革翅目は以前は直翅目の一亜目として扱われたが，近年は独立の目として扱われることが多い。全世界から約1,000種類が知られ，一般に6科に分類される。頭部は三角形ないし五角形状で，発達した咀嚼(そしゃく)型口器をもつ。胸部は前・中・後の3節が明瞭(めいりょう)に認められる。前翅は革質化し，甲虫類(鞘翅(しょうし)目)と同様な鞘翅となっており，一般に小さい。後翅は完全に発達しているものでは半円形で大きく，膜質で，前縁部の基半は革質となる。しかし，ハサミムシのように完全に退化していて無翅の種も多く，また同一種に有翅型と無翅型の生ずる種もある。腹部は多少扁平(へんぺい)で細長く，体の他の部分とほぼ等長。腹端には，この類特有の対になったかたいキチン質のはさみがある。その形状は種によって変化に富み，雄のはさみが体長の3分の2に達するような種類もある。石などの下や地面の浅い溝(みぞ)の中などに生活するものが多く，一般に肉食性で他のこん虫類を捕食するが，植物質を好む種類もある。日本に産する代表的な種類には，ハサミムシのほかオオハサミムシ・チビハサミムシ・クロハサミムシ・コブハサミムシ・クギヌキハサミムシなどがある。〔鈴木邦雄〕

バサーリ［Giorgio Vasari］(1511～1574) イタリアの画家・建築家。早くからフィレンツェに出て，多方面の人文主義的教養を受けたが，ミケランジェロから学ぶところが多かった。画家としては凡庸と評されるが，建築家としては重要な諸作を残した。

はさん【破産】破産法による手続き。債務者が経済的に破綻(はたん)して，債務の支払いが不能となった場合，債務者の財産を換価し，債権者にその債権額に応じて公平に配当するもの。債務者の財産状態が悪化した場合，債務者が特定の債権者にのみ弁済することを許したのでは，他の債権者は弁済をうけられなくなる。その不公平を防止するために行なわれる。破産原因がある場合には，債権者または債務者の申し立てにより，裁判所が破産宣告を行なう。破産原因とは，債務の支払いが一般的に不能な状態にあることである。債務者が株式会社などの場合には，単なる債務超過も破産原因となる。破産宣告がなされると，破産者の財産は破産財団*となり，裁判所の選任する破産管財人*の管理処分の下に置かれる。破産宣告までに生じた破産者に対する債権

を破産債権といい，裁判所は債権者の届け出に基づき債権表を作成する。争いのある債権は債権確定訴訟により確定される。破産管財人は破産財団を換価し，配当表に基づいて債権者に配当し，そのむね債権者集会に報告する。債権者集会が終了すると裁判所は破産終結決定を下す。なお，破産者に属さない財産が破産財団とされた場合は，権利者はこれを取りもどすことができ(取戻権(とりもどしけん))，また抵当権者・質権者・特別先取特権者らは，破産手続きによらずに担保の目的物から優先的に弁済をうけることができる(別除権)。破産管財人は破産宣告前に破産者が破産債権者を害することを知ってなした行為の効力を否認し，破産財団を回復することができる(否認権)。なお，破産宣告をうけた破産者が，弁済などについて一定の条件を出して破産の廃止を申し出て，これが債権者集会で可決され，裁判所に認可されると破産が停止される。これを強制和議という。また，破産宣告がなされると，破産者は財産の管理処分権を失うだけでなく，居住地・通信の制限などが加えられ，また弁護士・後見人などになる資格を喪失する。〔松本治雄〕

はさんかんざいにん【破産管財人】 破産宣告があったときに，裁判所から選任(1人または2人以上)されて破産財団*の管理・処分の権限を与えられた者(破産法157条以下)。破産財団を換価して配当表を作成し，売得金を債権者に配当するなど破産手続きにおける中核的任務をもつ。破産管財人が財産を管理・処分するにあたっては，その内容に応じて裁判所の許可，債権者集会の決議，監査委員の同意などの監督を受ける。→破産〔松本治雄〕

はさんざいだん【破産財団】 破産者が破産宣告の時点において有するいっさいの財産，および差し押えることができるものを総称する。破産財団に属す財産は，破産者の処分権を離れ破産管財人*の管理下に置かれ，破産手続きによって換価され，債権者に配当される。破産宣告後に破産者が取得した財産(新得財産という)は，破産財団には属さず，自由財産として，破産者が任意に処分できる。→破産

はし【橋】 道路・鉄道などの交通路や，水路・管路などの施設が，河川・海峡・低地・市街などの障害となるものを越えるためにつくられる高架構造物。橋が果たすべき役割は，それがささえるべき通路の機能を安全確実に維持することにある。

〔歴史〕原始時代の人間は，流水の上に倒れかかった樹木，谷間を横断しているフジづるやツタの類などを橋として利用したものであろう。やがて必要に応じてこれらの施設をつくり，渡りやすいように改良していったのが橋のはじまりと考えられる。原始橋梁(きょうりょう)は天然の材料しか使わないので，材料の性質を有利に生かすような構造形式が定まっており，樹幹を使った桁橋*(けたばし)，ツタの類を使ったつり橋*および石を使ったアーチ橋の3種類がこれに相当する。これらのうち，後世まで残ったのは石造アーチで，現在でもローマ時代のいくつかのアーチ橋*は実用に耐える。わが国で史実に残る最古の橋は，仁徳(にんとく)天皇時代の摂津猪甘津(せっついかいのつ)(大阪市)の橋といわれ，古橋の多くは木造であったため現存するものが少ないが，猿橋*(さるはし)や錦帯橋*(きんたいきょう)はその古い構造様式を伝承したものである。近代橋梁は，まず木造トラスの発達から始まり，19世紀にはいって鉄材(鋳鉄や錬鉄)が広く使われはじめてから急速に進歩し，ついに鋼の出現によって今日みるような橋梁の基礎が築かれたのである。一方，石材に代わるコンクリートが橋梁構成材料として用いられ，鋼とともに互いに他の欠点を補う形で進歩し，鉄筋コンクリート・プレストレストコンクリートによる巨大な橋がつくられるようになった。現在の技術は，これらの材料を駆使して1,500mをひとまたぎする長大橋の計画も夢ではなくなった。

〔種類〕橋の分類は，およそ次のようになる。①架橋を必要とさせた原因によって：河川橋・陸橋*・架道橋*など。②橋上の通路・施設によって：道路橋*・鉄道橋*・水路橋・管路橋・歩道橋など。③主たる構成材料によって：木橋・石工橋・コンクリート橋・鉄筋コンクリート橋・プレストレストコンクリート橋・鋼橋など。④構造形式によって：桁橋・アーチ橋・つり橋など。このほか桁とアーチとの複合した構造なども多い。⑤橋体の平面形状によって：直橋・斜橋・曲線橋など。⑥通路の位置によって：上路橋・中路橋・下路橋・多層橋などである。なお，橋体が動くものを可動橋*，動かないものを固定橋という。

これらは，架橋の動機，架設地点の状況，工期の関係などから必要に迫られて案出されたものである。交通機関の重量増加および高速化に伴って，従来架設不能と思われた潮流の速い海峡や，深い軟弱地盤の場所などにも架橋が要求され，架橋技術はまた新しい構想を必要としている。これらに対処してゆくには，材料・構造力学・架設法など多方面にわたる研究の成果が生かされなければならない。

〔橋ができるまで〕標準的な例について略述する。道路計画などに伴って架橋の必要が生ずると，まずその地点に関して必要な資料，すなわち，地形・地質・気象条件・地震，河川の状況などの自然条件，交通状況や経済効果などの社会条件などの資料を集める。必要に応じて測量，ボーリング試験，各種調査なども実施する。次にこれらの資料を用いて，使用材料・構造形式・架設方法を検討する。この際いくつかの案について比較検討するのが普通で，それと同時に概略の工費も算出され最も経済的なものが採用される。次いで詳細設計が所定の設計示方書に準拠して行なわれ，それから施工にとりかかることになる。以上の各段階にわたる作業は一般に分業で行なわれ，調査や設計はコンサルタント会社が，施工は橋梁の専門メーカーをはじめ，橋種によって各種の施工会社が行なう。企業者は多くの場合，官公庁・公社・公団などの公的機関であり，予算の処置をするとともに上述の各段階を通じて作業の監督，比較結果の判定，調整，竣工(しゅんこう)の認定ならびに竣工後の維持管理を行なう。最近は，一般道路のほかに有料の高速道路がつくられているが，これと同様に渡橋料金をとる有料橋もかなりつくられている。〔堀井健一郎〕

ハーシー ［John Hersey］(1914～) アメリカの小説家。中国で生まれた。シンクレア-ルイス*の秘書などをつとめたのち，第2次世界大戦の従軍記者となり，その体験をもとにした小説が多い。出世作《アダノの鐘》のほか，広島の原爆投下を描いた《ヒロシマ》などが有名。

バシー(海峡) ［Bashi］ 台湾とルソン島の間はバタン諸島と，バブヤン諸島によって三つの海峡に分かれるが，その最北のものをいう。東は太平洋，西は南シナ海へ通じ，幅約150km。

ハシェク ［Jaroslav Hašek］(1883～1923) チェコスロバキアの作家。プラハの商業高校を卒業後銀行につとめたが長続きせず，社会不安が高まるとともに外国などを旅行して回り，のちの短編のかてとなる見聞を広めた。第1次世界大戦ではオーストリア軍に召集されたがロシア軍の捕虜となり，やがて赤軍に身を投じてロシア革命*に参加，大戦終了の後帰国した。戦争前からユーモアと風刺に富む短編をいくつか発表していたが，彼の名を一躍有名にしたのは，その死により未完に終わった《兵士シュベイクの冒険*》(1923)である。主人公シュベイクが一種独特な抵抗のシンボルとなったこの作品は，広く愛好されたが，作品の評価，さらに作家としてのハシェクの評価は人によりかなり異なっている。〔千野栄一〕

パジェス ［Léon Pagés］(1814～1886) フランスの外交官で，日本研究家。1847～1851年フランス公使館付として清(しん)国駐在中に日本の歴史に関心をもち，《帝国史》の著述を進めた。《帝国史》(未刊)のうち，その第3巻にあたる部分がわが国に伝えられる《日本切支丹(キリシタン)宗門史》である。ほかに《日仏辞典》《日本書誌》《日本二十六聖人殉教記》など多くの著書がある。

ハーシェル ［Sir Frederick William Herschel］(1738～1822) イギリスの天文学者。ドイツのハノーバーの生まれ。早くから音楽教育を受けて若いときは楽師として生活した。1757年イギリスに渡り，音楽

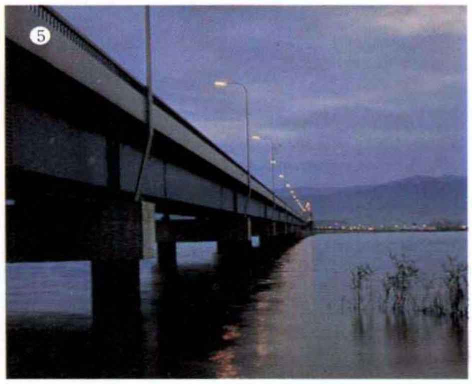
橋

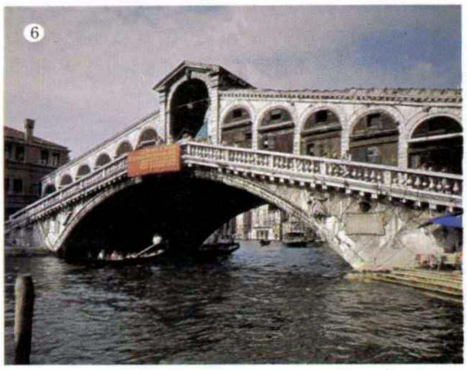






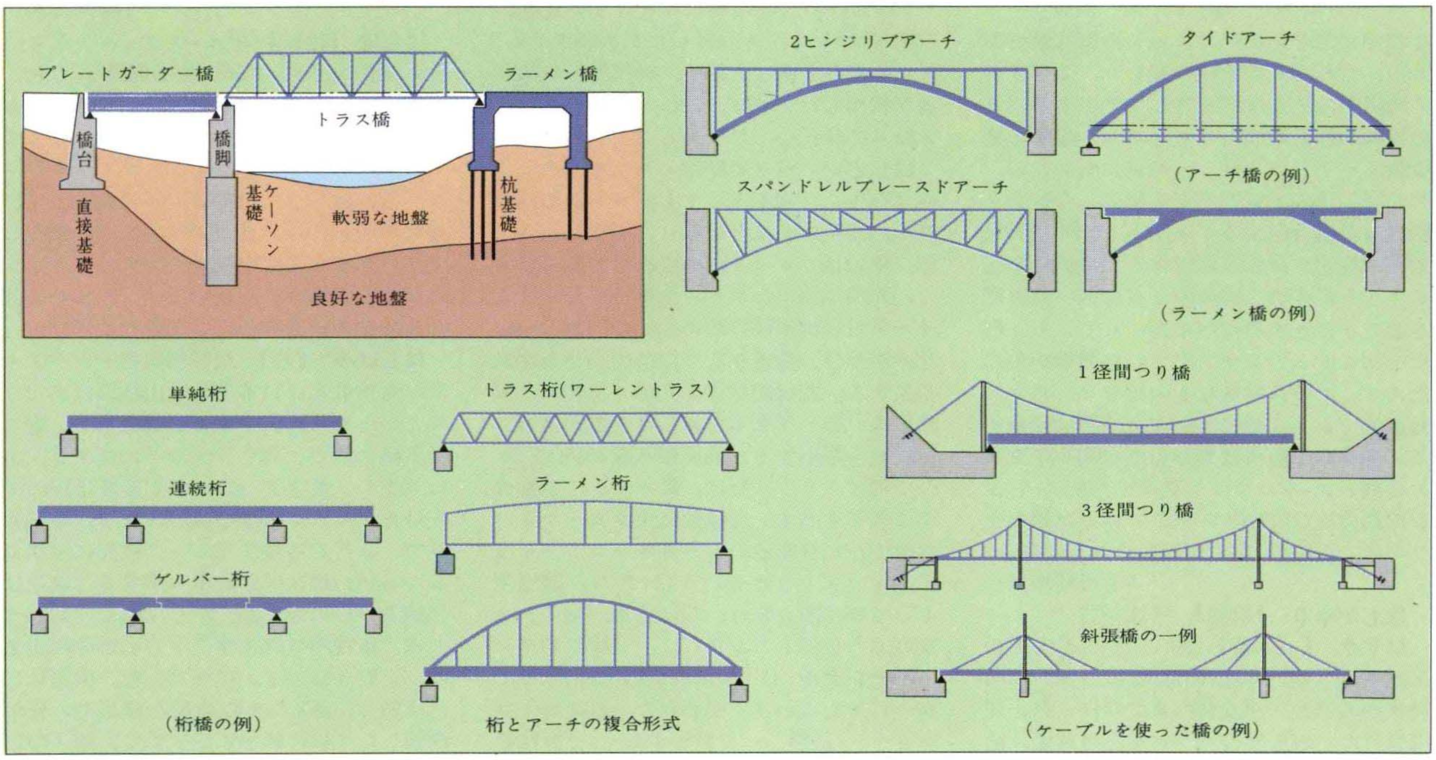








①つり橋(ブルックリン橋，アメリカ合衆国，ニューヨーク，最大径間487m，完成1883)
②鋼アーチ橋(シドニーハーバーブリッジ，オーストラリア，シドニー，503m，1932)
③斜長橋(尾道大橋，広島県，215m，1968)
④連続トラス橋(天門橋，熊本県，300m，1966)
⑤鋼床板箱桁橋(琵琶湖大橋，滋賀県，140m，1964)
⑥石造アーチ橋(リアルト階廊橋，イタリア，ベネチア，1592)
⑦はね橋(オランダ，アムステルダム)



の教授・演奏をするかたわら，数学・天文学・光学を研究した。1774年はじめて自作の反射望遠鏡を製作して以来，その製作数430になったといわれる。1781年天王星を発見したことは最も重要で，これをきっかけに天文学に専心，翌年国王付の天文官となった。以後天王星の衛星2個(1787)，土星の衛星2個(1789)を発見。晩年には銀河系の構造を研究し，恒星の固有運動から太陽系の空間運動を明らかにした。このほか多数の二重星や星団・星雲を発見。妹のカロリン(1750〜1848)は彼のよき助手として，8個の彗星(すいせい)を発見している。なお子のジョン(1792〜1871)も天文学者で，父の遺業を継ぎ4,000個の二重星の発見など恒星天文学をさらに発展させた。南アフリカの喜望峰に天文台をたて(1834)，南天観測を行なったほか，《星雲・星団総目録》(1864)を著わし，天体写真術にも貢献した。王立学会・王立天文学会会長(1838)を歴任。
〔根本　進〕

はしか 麻疹(ましん)ともいう。麻疹ウイルスの感染によって起こる伝染病。最もかかりやすいのは2〜8歳の小児で，春と秋に多い。ウイルスは飛沫(ひまつ)感染・空気感染などによって呼吸器から感染する。一度かかればほとんど終生免疫が得られるが，まれに再感染もする。潜伏期は9〜11日。発病は発熱・くさめ・せきなどや目の結膜炎などの感冒様症状で始まるが，頬粘膜(きょうねんまく)の臼歯(きゅうし)に対する付近にコプリック斑(はん)(周囲が赤く中央が青白い小さな斑点)が現われるのが特徴である。熱は2〜3日でいったん下熱するが，その後1〜2日で再び上昇し，38〜40℃に達し，同時に発疹*が始まる。発疹は耳の後部や頸部(けいぶ)から始まり，顔，胸，腹，四肢(しし)としだいに広がっていく。はじめ鮮紅色であるが，だんだん暗赤色に変わり，2〜3日で暗黒色の色素沈着を残して消退する。その後ぬか様の落屑(らくせつ)をみる。普通は発疹後4〜7日で下熱し，快復に向かうが，その間に下痢・気管支炎・肺炎・中耳炎・脳炎などを合併することがある。特に乳児栄養不良児や身体衰弱時などでは肺炎を起こすことが多い。肺炎のような重い合併症を起こすことを俗に内攻といっている。内攻を起こすといままで出ていた発疹が急に消える。治療は特殊なものはなく，おもに対症的であり，特に合併症の予防に注意する。発病の予防には受動免疫(麻疹経過者の血清・γ-グロブリン製剤の注射)，および能動免疫(不活化ワクチンおよび弱毒生ワクチンの注射)などが行なわれている。
〔宇留野勝正〕

はしがかり【橋懸】 ⇨能舞台

はじき【土師器】 弥生(やよい)式土器の系譜をひく赤かっ色の素焼き土器*。古墳時代から奈良・平安時代まで製作され，使用された。成形にはロクロを使用せず，粘



ハシバミ　ツノハシバミ

土紐(ひも)を巻き上げてつくり，焼成にも大規模な窯(かま)を用いることはなかった。土師器は概して装飾が少なく，その器形は，煮たき・貯蔵・供膳(きょうぜん)など，用途に応じて多種多様だが，須恵器*(すえき)の出現に伴い，貯蔵用・供膳用土器の一部は，堅緻(けんち)な須恵器に代わった。〔坪井清足〕

はしけ【艀】 港内・内海・河川で貨物の運搬や積み込み・積み降ろしに用いられる小形船。バージ(ある地点と他の地点との間を運搬する)とライター(本船に横づけして貨物を積み降ろす)の2種があるが，今日では両者を区別しないことが多い。いずれも船体は木製や鋼製で幅広く，だるま船*と団平船(和船)が多く用いられ，機関を備えて自航するものと，曳(ひ)き船に引かれるものとがある。また，貨物の種類により，オイルバージ・ウォーターバージ・石炭艀などとよぶものもある。〔飯島幸人〕

はしごじょうこうぶんし【梯子状高分子】 ⇨ラダーポリマー

はじし【土師氏】 大化(645〜649)前代，土器*製作を業とした土師部を支配した伴造(とものみやつこ)の氏。出雲臣(いずものおみ)の族で野見宿禰(すくね)の裔(えい)という。土器の一種埴輪*(はにわ)をも製作したため賤視(せんし)されることもあったので，後世改姓を願う者が続出した。菅原(すがわら)・秋篠(あきしの)・大枝らの諸氏がこれである。

はしどい 双子葉植物・モクセイ科。山林に自生し，庭木としても植えられる落葉高木。高さ10mほどになり，樹皮は灰かっ色。葉は長さ4〜8cmの広卵形で基部は丸く，先端は急にとがり，全縁で，互生する。6〜7月，前年枝の端に大形の円錐(えんすい)花序をつけ，芳香をもつ白色の小花を多数密生する。花は漏斗状で先は4深裂し，平開する。おしべ2本とめしべ1本があり，花冠から超出する。果実は木質の蒴果(さくか)で熟すと2片に裂け，扁平(へんぺい)で翼のある種子を出す。近縁種に東南ヨーロッパ原産で花が紅紫色のムラサキハシドイ(ライラック・リラともいう)があり，観賞用として庭に植えられ，花は芳香が強く，八重咲きや色変わりが多い。〔横井朝子〕

バージナル［virginal(英)］ 主として16〜17世紀にかけて使われた小形のハープシコード*。鍵盤(けんばん)数が少なく，それに対応する弦も一組みなので，音域・音量・音色に大形ハープシコードのような変化がない。しかし，古いものは机の上にのるほど小さかったため，家庭で愛好された。1600年前後には，イギリスでバード・ブル・ギボンズらのすぐれた作曲家がこの楽器の性能をいかした舞曲・変奏曲・幻想曲など，数多く書いている。〔徳丸吉彦〕

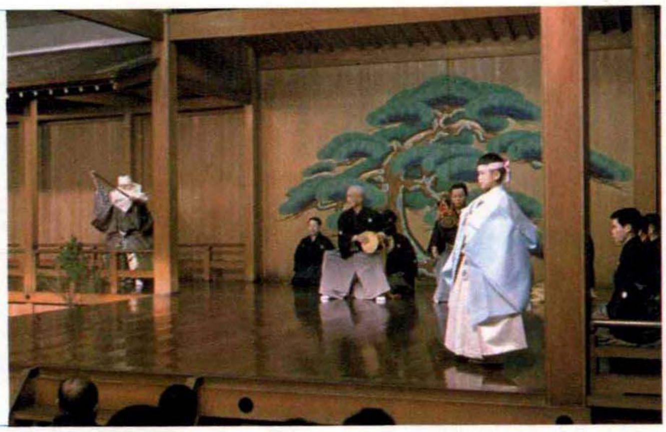
バージニア(州)［Virginia］ アメリカ合衆国東部，大西洋岸に面する州。面積10万6,000km²，人口490万8,000(1974)。州都リッチモンド。独立宣言時の13州の一つで，州名は1584年の探検を準備したウォルター-ローリ卿(きょう)がイギリスの〈未婚女王(バージン-クイーン)〉とよばれたエリザベス1世にちなんで命名したもの。東部は海岸平野，中部はピーモンド台地，西部はブルーリッジ山脈とアパラチア山脈および両山脈にはさまれた中央低地からなる。農業は州経済の主要産業で，ジャガイモ・リンゴ・タバコなどを生産し，それぞれ合衆国における生産の3，4，5位を占めている。鉱産物では石炭が主要資源である。工業は多様で，化学・食品加工・繊維・衣料・たばこ・機械・造船などが盛ん。植民地時代の遺産に富んでおり，また有名な政治家を多数輩出し，合衆国の歴代大統領のうちワシントン・ジェファソン・モンロー・マジソン・タイラー・ハリソン・テイラー・ウィルソンの8人がこの州の出身である。独立運動と独立憲法作成の際には主導的な役割を演じた。南北戦争の直前，1861年4月に連邦政府から脱退し，リッチモンドは南部連盟諸州の首都となったが，1870年1月26日連邦政府に再加盟した。主要都市はアーリントン・リッチモンド・ポーツマス。
〔相村大彬〕

はしは【橋派】 デル-ブリュッケともいう。1905年にドレスデンで結成されたドイツ表現主義画家のグループ。キルヒナーを主唱者として，ノルデ・シュミット-ロットルフ・ペヒシュタイン・ヘッケル・ミューラーらが属した。中世のギルド的な工房の態様を理想とし，共同のアトリエで制作したが，作風は後期印象派の画家たちやムンクに強く影響され，さらにアフリカその他の未開美術からも多くの影響を受けた。

はしばみ【榛】 双子葉植物・カバノキ科。落葉低木。日本全土の山林の日あたりのよいところに自生する落葉低木で，庭にも栽植される。高さ5mほどに達する。葉は互生し，長さ8〜15cmほどのほぼ円形で，先はとがり，基部は心臓形になる。雌雄異花で，3月ごろ葉に先立って枝先に尾状で黄かっ色の雄花穂が数本下垂する。雄花は包鱗(ほうりん)に包まれ，がくはなく，おしべ8本。雌花序は雄花序の下方に鱗片に包まれて上向きにつき，花柱は紅色。果実は10月に熟し，径1.5cmの球形の堅果で，先が深裂した2枚の総包に包まれる。種子の仁



ハシビロガモ



橋弁慶　弁慶が五条の橋に来かかるところ。シテは平富信義。手前は牛若丸で，少年が演じている

は食用になる。近縁種のツノハシバミは雌花序が雄花序よりも上につき，総包は筒状で先がくちばし状となって短毛に包まれる。ヨーロッパではハシバミの仲間を栽培し，種子の仁をヘーゼルナッツなどといって食用にする。〔横井朝子〕

はしひめ【橋姫】橋のほとりに祭られる女神。中世の文献にもしるされて特に有名なのは山城(京都府)宇治の橋姫伝説で，《古今和歌集》にも〈さむしろに衣かたしき今宵(こよい)もや我をまつらむ宇治の橋姫〉と出ている。橋姫は嫉妬(しっと)深い神とされ，安産と幼児の成長を祈る一方，嫁入り行列が渡ることを忌む橋が各地にあった。橋姫の信仰は，境の神(→道祖神)の信仰に通じるとともに，水*神信仰ともつながっている。

はしびろがも【嘴広鴨】鳥類・ガンカモ科。くちばしが特に長大で，幅も広くへら状，側部に食物をふるい分けるくし状突起がよく発達している。雄は顔頭部が緑色，胸は白色，腹部は栗色(くりいろ)，上背面はかっ色。雌は全体にかっ色。翼に広い白色部がある。北海道で少数が繁殖し，多数のものがシベリアから渡来し，越冬する。

パシフィック-リーグ　⇒プロ野球

はしべんけい【橋弁慶】

1能の曲名。日吉佐阿弥(生没・伝不明)の作ともいう。四番目物。京都五条の天神へ丑刻(うしのとき)参*りを続ける弁*慶，満願の日に，五条の橋で人を切る少年がいると聞いて出かけると，女姿をした牛若丸に会い，退治しようとするが反対に負かされて牛若の家来となるというもの。シテは弁慶。ワキはなく，牛若は子方がつとめ，ほかに弁慶の家来をシテツレがつとめる。間狂言(あいきょうげん)に五条の橋から逃げて来た男の寸劇が演じられる。有名な牛若伝説の脚色であるが，牛若が悪者として描かれるのが本曲の特色。牛若がその非行を母にたしなめられる〈笛の巻〉を前半に演ずることもある。〔長尾一雄〕

2日本舞踊・長唄(ながうた)・義太夫節(ぎだゆうぶし)・一中節・河東節(かとうぶし)などの曲名。いずれも能《橋弁慶》に基づく作品で，弁慶が牛若丸の武術に降参し主従となるさまを描く。1868年(明治1)作曲の長唄や人形浄瑠璃(じょうるり)《鬼一法眼三略*巻(きいちほうげんさんりゃくのまき)》五段目の義太夫節が有名である。



橋本雅邦《白雲紅樹図》1890　東京芸術大学蔵

はしま【羽島(市)】岐阜県南西部の市。人口57,000。古くから羽島郡の機業の中心地で，レーヨン・スフ織物を生産した竹鼻(たけがはな)町を中心に，周辺9村が合併して1954年(昭和29)市制施行。1964年東海道新幹線の岐阜羽島駅が開設されて，いわゆる〈政治駅〉として注目のまととなった。濃尾平野中部，木曾(きそ)川西岸の氾濫原(はんらんげん)の自然堤防上に位置し，南部の駅周辺に市街地が形成されつつある。産業三大別人口比は12：54：34。在来機業を受け継いで第2次世界大戦後は毛織物工業が発達し，周辺農村部には水田地帯が広がり，最近は酪農や養鶏が行なわれる。名神高速道路・大垣(おおがき)羽島道路(有料道路)が通ずる。

はしま【端島】長崎県長崎半島の西岸から約4km離れた海上にある面積0.064km²の小島で，西彼杵(にしそのぎ)郡高島町に属する。北東の高島とともに海底炭田の島で，明治初年以来採掘が行なわれ，三菱(みつびし)高島炭礦(たんこう)(株)の経営により年産30万tの石炭を出して約5,000人の従業員が住んでいたが，1974年(昭和49)に閉山した。遠景が軍艦のように見えるので〈軍艦島〉ともよばれる。

はしもと【橋本(市)】和歌山県北東端の市。人口36,000。古くから紀ノ川水運の河港で，江戸時代には大和(やまと)街道・高野街道が交わり，高野山参拝の宿場町としてにぎわった。1955年(昭和30)市制施行。紀ノ川北岸に沿う橋本駅付近に市街地が発達し，周辺には洪積(こうせき)台地が広がる。産業三大別人口比は17：32：51。農林業を主産業とし，台地斜面を利用してフユウガキをはじめ，ミカン・ブドウ・ナシなどの果樹栽培が盛んである。製材・繊維などの工業も行なわれる。高野豆腐の特産があり，またつりざおのほか，海外へも輸出されている洋がさの柄やステッキなどの竹根工芸品を産する。和歌山線と国道24号線が大和街道沿いに東西に通じ，南海電鉄高野線・国道170号線が高野街道沿いに南北に通じる。最近は高野線を利用した大阪方面への通勤者が増加し，大阪の住宅衛星都市的な性格を強めている。

はしもとがほう【橋本雅邦】(1835～1908)日本画家。江戸の生まれ。川越藩御抱(おかかえ)絵師橋本晴園の子。狩野(かのう)勝川院雅信(まさのぶ)に学び，同門の狩野芳*崖(ほうがい)と親交。フェノロサ・岡倉天心に協力し，1890年(明治23)東京美術学校教授となり，1898年日本美術*院を創立，主幹となる。狩野*派の伝統様式の中に新鮮な作風を樹立。明治画壇の巨匠として，横山大観・菱田(ひしだ)春草・下村観山・川合玉堂ら多くの俊秀を育てた。〔匠　秀夫〕

はしもとかんせつ【橋本関雪】(1883～1944)日本画家。兵庫県神戸(こうべ)市の生まれ。竹内栖鳳(せいほう)に学び，中国・日本の古名画を研究して四条*派と南画風に写実性を加えた独自の画境を開拓した。帝展審査員を経て，1934年(昭和9)帝室技芸員，翌年帝国芸術院会員となる。

はしもときんごろう【橋本欣五郎】(1890～1957) 陸軍軍人。岡山県の生まれ。陸軍大学校卒業後，トルコ駐在武官を経て参謀本部ロシア班長。1930年(昭和５)陸軍省・参謀本部少壮将校らの急進的国家改造運動の結社である桜会を結成し，1931年の三月事件*・十月事件*の中心人物となった。1936年大日本青年党を組織し，1940年大日本赤誠会と改組，ファシズム運動を推進した。日中戦争では砲兵連隊長として活躍し，1944年衆議院議員。極東国際軍事裁判で終身禁錮刑に処せられ，仮釈放後病没。　〔千野境子〕

はしもとさない【橋本左内】(1834～1859) 幕末の志士。福井藩士。名は弘道，号は景岳。1849年(嘉永２)大阪に出て緒方洪庵*(おがたこうあん)に医学・洋学を，1854年(安政１)江戸におもむいて杉田(すぎた)玄白*に蘭学(らんがく)・医学を学び，藤田東湖*・西郷隆盛*(たかもり)らと交遊して政治的識見を深めた。藩主松平慶永(よしなが)に認められて御書院番・藩校明道館学監に抜擢(ばってき)され，1857年の藩政改革には由利公正*(ゆりきみまさ)らとともに中心的役割を果たした。将軍継嗣問題*が起こると，主命を帯びて一橋慶喜(よしのぶ)(徳川慶喜)擁立をはかり，公卿(くぎょう)・諸藩士の間を遊説して活躍したが，安政の大獄*で捕えられ，斬罪(ざんざい)に処された。　〔高崎徳次〕

はしもとしんきち【橋本進吉】(1882～1945) 国語学者。福井県の生まれ。東京帝国大学言語学科卒業。東京帝国大学教授。日本語の歴史的研究の開拓者で，特に音韻史の研究に力を注ぎ，上代特殊かなづかいを発見して，上代の文献の研究に関する各分野に不動の基礎を築いた。また言語の音声的側面の特徴を重視した〈形態〉に基づいて文節をもととする文法の体系をたて，その後の文法研究者に一つの指針を示した。研究対象に対する態度は，きわめて慎重かつ厳正で，そこに築かれた業績は，国語学の各分野において模範とされる。著書《橋本進吉博士著作集》12冊，《古本節用集の研究》(上田万年(かずとし)と共著)など。〔寒河江実〕

ばしゃ【馬車】 馬に引かせる車の総称。使用目的から乗用馬車・鉄道馬車*・荷馬車などがあり，車の形態から二輪，四輪に分類される。また，引かせるウマの数によって二頭立て・四頭立て・八頭立てなどの別がある。馬車の歴史は古く，すでに4,000年以上もまえに古代オリエントで二輪の馬車が発明され，また中国では紀元前14世紀の殷(いん)代の遺跡から数多くの馬車が発見されている。特に戦闘用の馬車の出現は早く，古代オリエントや中国の周から春秋戦国時代まで盛んに使われていたが，紀元前８世紀ごろ騎馬民が興って車戦から騎馬戦へと戦法が変わると戦車としての馬車はすたれ，一方王侯・貴族が儀礼用に乗用馬車を使用するようになった。17世紀後半には動揺をなくすため鋼(はがね)のばねをとりつけるくふうがなされ，18世紀には一般の乗り物としても利用されるようになった。19世紀初頭にはイギリスで鉄道馬車がつくられたが，汽車の発明とともにしだいに衰退し，乗用馬車は現在では宮廷の儀礼用馬車・観光用馬車として利用されている。





馬　車　(上)明治天皇乗用の馬車〈６頭引き儀装車〉 明治神宮蔵　(下)イギリス王室儀典用馬車

日本で馬車が登場したのは文久年間(1861～1863)である。外国公使が横浜～江戸間を往来したのがはじめで，文明開化の波とともに皇室・上流階級では乗用馬車として利用した。一方庶民の間では1869年(明治２)に乗り合い馬車が横浜～東京間に開通し，1877年には東京では80両以上が運行したという。また，荷馬車も盛んに使用されたが，電車・自動車の発達とともにしだいに衰退していった。　〔山路勝彦〕

パシャ［pasha］ トルコやエジプトなどで使用された最高の名誉的称号。オスマン帝国では高級官僚，軍人などに与えられ，一種の特権階級を示す称号であった。トルコ共和国の成立後，他の特権的称号とともに廃止された。

はじゃく【羽尺】 羽尺地の略。成人用の羽織*に仕立てる反物*(並み幅でたけ９～10ｍ)。羽二重・縮緬(ちりめん)・綸子(りんず)・平絽(ひらろ)・紗*(しゃ)・絽縮緬の白生地を後染(あとぞめ)にしたもので，ほかにお召絽・紋紗など先染のものもある。第２次世界大戦後はそでたけ・羽織たけが男女ともに短くなり，半反(並み幅，たけ６ｍ内外)のものが茶羽織地として好まれたが，のち中羽織地(並み幅，たけ８ｍ内外)が大いに普及し，現今ではこれを羽尺地という場合さえある。なお，女物の袷(あわせ)絵羽織地や無地紋綸子には，たけ９ｍの羽尺地が用いられる。　〔堀越すみ〕

ばしゃくいっき【馬借一揆】 室町時代，馬借が主体となってひき起こした土一揆*。ウマを利用して物資を輸送した馬借は，同時に農業や商品販売にも従事していたため，徳政*や新関撤廃を要求してしばしば土一揆に参加した。またつねに街道を通行しているため，都市と農村との情勢をつかみやすく，しかも機動力を有していたので，土一揆の規模は大きくなりやすかった。1418年(応永25)近江(おうみ)(滋賀県)大津の馬借数千人が米売買のことから八坂神社(祇園(ぎおん)社)に乱入，1426年には坂本の馬借数百人が京都に乱入して北野神社・八坂神社を占拠した。1428年(正長１)の徳政一揆，1485年(文明17)の山城国一揆*などにも馬借は先頭に立って活躍した。

パジャマ［pajamas］ 上衣とズボンを組み合わせた寝巻きの一種。ピジャマともいう。本来はインドやペルシアで用いられるゆったりした長ズボンの名。19世紀後半ごろより現在の形の寝室服となった。上衣は前あきのものが多く，ズボンはウエストにゴムを入れたものが多い。いずれもゆったりと仕立てる。素材は綿ネル・ブロード・パイル・ナイロンなど，実用・衛生両面から洗たくに耐えるものがよく，無地・しま・こうし・プリントなどが自由に使われている。　〔小池千枝〕

ばしゃろん【婆沙論】 正しくは〈阿毘達磨大毘婆沙論(あびだつまだいびばしゃろん)〉。２世紀ごろ北西インドのカシミール地方で編集された小乗仏教*の一部派，説一切有部の論書。漢訳に唐の玄奘*(げんじょう)の訳など２種類が現存する。説一切有部には６編の論書と発智論(はっちろん)が伝えられるが，《婆沙論》は発智論の注釈書で，この部派の教義を詳細に説明するとともに，仏教の他の部派の説についても解説している点，この時代の仏教研究の好資料である。　〔佐藤良純〕

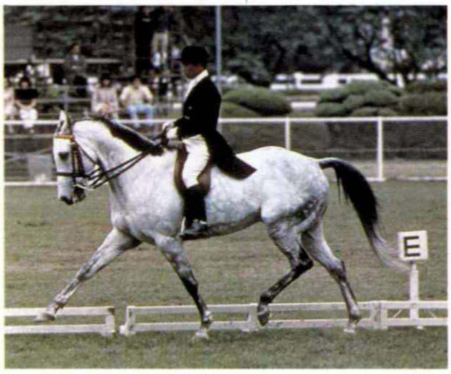
はしゅ【播種】 農作物の種子をまくこと。撒播(さっぱ)(散播)・条播・点播の３方式がある。撒播は，圃場(ほじょう)全面に種子をまく方法で，水稲の苗代，牧草・緑肥あるいは被覆作物に用いられる。条播は，圃場に作条を切って播種する。このときの播幅は鍬(くわ)幅(10～12cm)あるいは30cmくらい(広幅まき)である。ひも状に１列に種子をまく〈すじまき〉も条播の一種である。点播は，比較的大粒の種子をまくときに用いられる方法で，一定の距離を置いて数粒ずつまく。ダイズ・アズキ・トウモロコシなどに用いられる。　〔金木良三〕

ばじゅつ【馬術】 馬を乗りこなす術。かつては武術の一種として重視されたが，近代にはスポーツとして行なわれている。馬術の歴史は古く，ギリシアのクセノポン*に馬術書がある。

〈歴史〉 馬術は，〈手綱・足の操作，騎座体重の移動によって，落ち着いた態度で，自由に，気品をもってあやつる〉ものとされ，数多くの消長をたどりながら発達してきた。近代馬術は16世紀半ばごろイタリアを中心に起こり，フランス・イギリスなど西ヨーロッパの貴族や上流階級の間に普及発達したが，一部の富裕階級の趣味としての乗馬からしだいに近代スポーツとしての馬術へと発展し，1912年(大正１)に世界の馬術を統括する団体として，国際馬術連盟(FEI)がパリで創立された。オリンピックには1921年の第５回ストックホルム大会から正式種目となった。

日本では，平安時代以降，特に鎌倉・室町時代に武技・戦技に欠かすことのできない素養として武士階級に重視されて発達し，小笠原(おがさわら)・大坪・佐々木などの諸流派が生まれたが，いまでは古式馬術として，神社の例祭などの行事として伝えられる。1861年(文久１)ヨーロッパの近代馬術が輸入され，1922年(大正11)に日本乗馬協会が創設されて，競技馬術を統括した。オリンピックには第９回アムステルダム大会(1928)に遊佐(ゆさ)幸平らが初参加，第10回ロサンゼルス大会(1932)では大障害飛越に西竹一中尉が優勝している。第２次世界大戦後は軍用馬がなくなったため，競技用の優良馬も乏しく，国際的水準には及ばないが，年々日本馬術連盟を中心に馬術の振興がはかられている。

〈競技の概要〉 競技は，馬場・障害飛越・総合の３種に大別される。①馬場馬術競技：長さ60m，幅20mの長方形の馬場内で，馬の調教と騎乗技術を競う。手綱・足の操作，騎座体重の移動などにより，馬に各種歩度(常足(なみあし)・速足・駆足)で回転・後退・停止・発進・パッサージュ(運歩をできるだけつめ，弾力をつけた速度)・ピャッフェ(短縮速歩で行なう足踏み)・踏歩変換などの演技を行なわせる。騎手の姿勢，演技の正確さ，人馬の平衡状態などが採点される。②障害飛越競技：800～1,000mのコースに設けられた高さ1.3～1.6mの障害物16～20個を駆け足で飛び越え，スピードと飛越の正確さを競う。障害には，れんが・土べい・水ぼり・竹がき・いけがきなどがある。競技は減点法で，過失(障害物落下・転倒・拒止・逃避・落馬・反抗)の程度によって減点し，また失格(経路違反・拒止・逃避の数，規定時間の超過)の規定によって減点し，それぞれその少ないものが勝ちとなる。なお，この競技の特殊種目として高飛び(単一高度障害物飛越)と幅飛びとがある。③総合馬術競技：〈３日競技〉ともいわれ，第１日は調教審査とよばれる馬場馬術。第２日は野外の不整地や道路を走らせ，障害を越えさせて耐久力をみる野外騎乗。第３日は馬場内の障害飛越で余力を審査し，３日間の総合成績を競う。〔伊東春雄〕





馬　術　(上)馬場馬術　自然歩法を基本とし，芸術的な躍動を加味する　(下)障害飛越　騎手が乗馬を巧みに誘導して障害を飛越する　東日本馬術大会　1970　馬事公苑



バショウ



芭　蕉

ばしょう【芭蕉】 単子葉植物・バショウ科。中国原産の半耐寒性の多年草で，観賞用に植えられる。根茎は大きく塊状で，次の代の根茎を側生する。茎は葉の基部の葉鞘(ようしょう)がかたく巻いた偽茎で，高さ５m内外，径約20cmになる。葉面は左長楕円(だえん)形で，長さ２m，幅50cmほど，草質で，中肋(ちゅうろく)は裏面に著しく突出し，平行支脈が多数走って，その方向に裂けやすい。夏に50cm内外の円柱形の花茎を伸ばし，大形の穂状花序を下垂する。花序の各節には，黄かっ色大形の葉状の包がつく。各包腋(ほうえき)に15個くらいの小花が２列につく。雌雄同株で，花序の上方は雄花，下方は雌花である。花は黄白色の筒状で，２枚の唇形(しんけい)の花被からなる。上唇弁は長さ５cmほど，外花被３枚と内花被２枚が合一したもので，先が５浅裂する。下唇弁は３cm内外で卵形，基部が袋状になって多量の蜜をためる。雄花ではおしべが花被より長く突出する。包葉は間花とともに脱落する。まれに結実し，果実は暗緑色のバナナ状で，長さ７cmほど。種子は小形で黒色。葉に利尿作用，根に解熱効果があるとして，民間で用いられる。この仲間には包が紅色で美しく観賞用にするヒメバショウ，繊維をとって芭蕉布を織るイトバショウ，マニラアサ(マニライトバショウ)などがある。〔横井朝子〕

ばしょう【芭蕉】(1644～1694) 江戸前期の俳人。蕉風俳諧*(はいかい)の大成者。本名松尾宗房(むねふさ)，幼名金作，通称甚七郎。俳号は宗房，次いで桃青・芭蕉と改めた。伊賀(いが)上野(三重県上野市)の下級武士の家に生まれ，13歳で父に死別，侍大将藤堂新七郎家の嗣子良忠(俳号蟬吟(せんぎん)，北村季吟門)の近習となり，その縁で貞門俳諧に親しむようになった。23歳の時主君の死にあって武士を捨て，29歳の正月，郷里の天満宮に句合せ《貝おほひ》を奉納，いよいよ俳人として立つべき決意を固めて江戸に下った。江戸では談林派(→談林俳諧)の新進俳人たちと交わり，延宝(1673～1680)の末には独立して宗匠となり，其角*・嵐雪*(らんせつ)らの俊秀を擁して一派を形成し，俳壇的地位を固めた。江戸の大火で深川の芭蕉庵(あん)を焼かれ，甲斐(かい)(山梨県)に避難したが，再び江戸に帰り，一門の《虚栗*(みなしぐり)》を刊行，漢詩文調の摂取によって談林の卑俗性を克服し，蕉風とよばれる新しい俳風を宣示した。芭蕉40歳の年である。貞享(じょうきょう)(1684～1687)から元禄(げんろく)(1688～1703)にかけてしばしば旅に出たが，《野ざらし紀行*》《笈(おい)の小文*》の旅を経て，《奥の細道*》に至る数次の旅行を通して，いよいよ自然と人生に深く思いをひそめ，やがて《猿蓑*(さるみの)》において，自然との交感の中に人生を象徴するという，蕉風の最も円熟した境地を示した。しかもなお歩みをやめず，さらに新しい俳境を求めて，いっ

さいの作為を排し，平淡な表現のうちによく対象の実相をとらえ，そこにほのぼのとしたユーモアをたたえた，晩年の〈軽み*〉の作風に到達した。芭蕉はこれを上方の門人に説くべく，1694年に最後の旅に出発し，その旅の途次ついに大阪で病没した。51歳。また彼はその生涯(しょうがい)を通じて1か所にとどまることなく，つねに新しい境地を追求してやまなかった。自然の深奥，人生の寂寥所(せきりょうしょ)にひそむ閑寂美をとらえたその作風は，〈さび*〉の俳諧とよばれるが，その作品のもつ深さは，元禄の一見はなやかな世相の奥を凝視して，自然と人生の真実に徹しようとしたきびしい実践によってもたらされたものである。その俳論は《去来抄》《三冊子》などによって知ることができる。 〔丸山一彦〕

はじょうねつ【波状熱】 ⇨ブルセラ症

ばしょうふ【芭蕉布】 イトバショウの茎から取った繊維を経緯糸とした沖縄・奄美(あまみ)特産の織物。繊維がかたいので，これで仕立てた衣服は，さらっとして，はだにつかないので涼しく，夏の衣料に適している。したがって，沖縄や奄美では階級・男女の別なく広く愛好されてきた。無地・縞(しま)・格子(こうし)・絣(かすり)などが主として自家用に織られてきたが，第2次世界大戦前には着尺*として，本土でも若干市販されていた。大戦によってその生産は少なくなったが，沖縄では近年伝統織物として復興されつつある。 〔北村哲郎〕

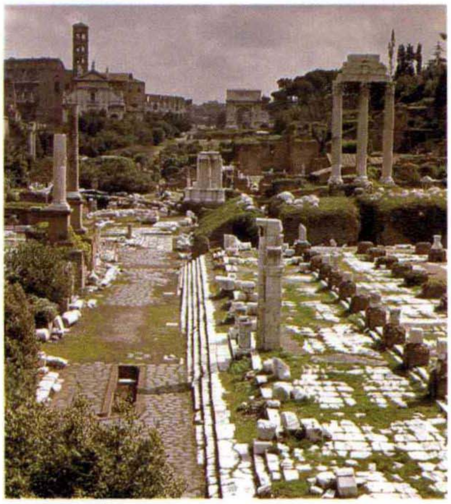
はしょうふう【破傷風】 傷口から体内にはいった破傷風菌*の毒素によって起こる病気。潜伏期は受傷後2～14日。神経系統が冒され，開口不能，顔面筋の強直，病状が進行すれば背筋の痙攣(けいれん)(後弓反張)などが光・音・接触その他のわずかな刺激で誘発される。意識は明瞭(めいりょう)であるが，痙攣時には疼痛(とうつう)を伴い，全身痙攣時には著しい発汗を伴う。肺炎を併発しやすく，呼吸筋が強直して死に至ることも多い。予後は一般に重篤である。特に土砂で汚染した場合は，挫傷(ざしょう)を消毒することが予防として重要であり，ワクチンが有効である。治療は抗毒素血清(破傷風トキソイド)および対症療法。

はしょうふうきん【破傷風菌】 クロストリジウム属の偏性嫌気(けんき)性菌で，グラム陽性。ふつう，土の中やよごれた古くぎ，枯れ木などに付着し，皮膚や粘膜の傷口からからだの中にはいる。培着したものは2～5μ×0.5μほどの大きさで，両端鈍円な細長い桿状(かんじょう)を呈し，一端に胞子をつくる。菌の増殖に伴って毒素を産出する。いずれの糖類も分解せず，インドール反応は陽性である。➔前項

ばしょく【馬謖】 (190～228) 中国，三国時代の蜀(しょく)の武将。湖北省の襄陽(じょうよう)郡宜城県の出身。劉備*(りゅうび)に仕え諸葛孔明*(しょかつこうめい)に重用された。228年祁山(きざん)の戦いに敗れたため，孔明が軍律に照らしてこれを斬(き)った。〈泣いて馬謖を斬る〉の故事で有名。



芭蕉布 芭蕉布絣上衣部分 東京国立博物館蔵



バジリカ ジュリアのバジリカ跡(右下方) ローマの古代遺跡



走り高とび ベリーロール 1970年度夏季ユニバーシアード-トリノ大会

はじらみ【羽虱】 こん虫類・食毛目(ハジラミ目)の総称。無翅(むし)の微小なこん虫で，体長0.5～8mmほど。体は扁平(へんぺい)で，淡かっ色ないし濃かっ色の種が多い。頭部は三角形または台形状で，咀嚼(そしゃく)型の口器をもつ。胸部は一般に前・後の2節に分かれ，腹部は楕円(だえん)形ないし細長く通常9節からなる。多くの種は鳥類に寄生するが，少数の種は哺乳(ほにゅう)類に寄生し，前者では羽毛を，後者では毛や皮膚の脱落片などを食べ，シラミ類のように吸血することはない。不完全変態をし，卵は長楕円形で宿主の羽や毛に産付され，すみやかに孵化(ふか)する。幼虫は羽毛や毛などを食べて成長し，数回脱皮して成虫となる。幼虫は，成虫と形態や習性上異なるところはないが，生殖器の発達とキチン化の強さによって区別できる。ハジラミ類はシラミ類ほど宿主特異性が強くないが，一般には各種の鳥がそれぞれ特有のハジラミの寄生を受けていると考えられる。鳥類や哺乳類がハジラミ類の寄生を受けると，ハジラミの寄主体表での移動による刺激で，寄主は精神的障害を受けて食欲が衰えたり，夜間の睡眠が妨げられたりしてしだいに衰弱する。全世界から約2,700種が知られ，日本にもそのうち約250種が知られ，ふつう3亜目10科ほどに分けられることが多い。日本には7科が産し，代表的な種類は，ニワトリオオハジラミ・ニワトリハジラミ・ニワトリナガハジラミ(いずれもニワトリに寄生)，ハトナガハジラミ(ハト類)，カモハジラミ・アヒルナガハジラミ(カモ類)，ウマハジラミ(ウマ)・ネコハジラミ(ネコ)・イヌハジラミ(イヌ)など。 〔鈴木邦雄〕

バジリカ［basilica］ 裁判所および商業取引所として建設されたローマ時代の公共建設。フォルム(公共広場)に面して建てられ，長方形平面の内部に1列または2列の列柱が外周を取り巻き，中央の天井の高いネイブ(身廊)と，周囲の天井の低いアイル(側廊)とからなり，長方形の短辺の側に裁判官席が設けられた。ローマ市民にとって，集会場として親しみがあったところから，キリスト教が公認されて，教徒の集会場として教会堂が建設されたとき，その原形として利用され，バジリカ式教会堂が生まれた。➔長形会堂 〔渡辺保忠〕

はしりたかとび【走り高とび】 フィールド競技(➔陸上競技)の一。ハイ-ジャンプともいう。助走のスピードを利用して任意の地点で踏み切り，バーをとび越して，その高さを競う。おもなとび方には，正面とび(はさみとび)・ウェスタンロール(ロールオーバー)・ベリーロールのほか，フォスベリー(1968年の第19回オリンピック-メキシコ大会の優勝者)が始めた背面とび(フォスベリー-フロップ)などがある。おもなルールとして，①片足で踏み切る，②同じ高さを3回失敗(ファール)すると失格，③バーを落としたり，体の一部が支柱の面からピット(砂場)に触れると，1回の試技に数えられる，などがある。助走路は18m以上が望ましく，支柱の間隔は3.66～4.02m，バーは長さ3.64～4mの金属または木製で，切り口は三角形か円形。 〔伊東春雄〕

はしりどころ【走野老】 双子葉植物・ナス科。山地の谷間に自生する多年草で，有毒植物。根茎は大きな塊状となって横走



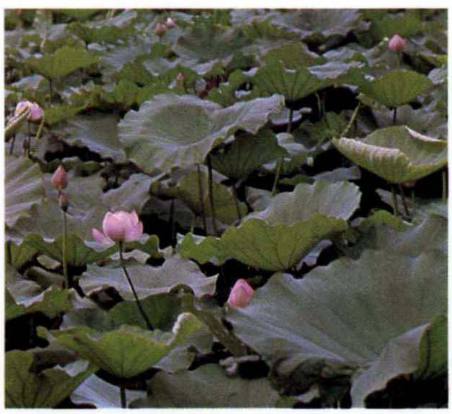
ハシリドコロ



走り幅とび スピードとばねを最高度に発揮する



ハ ス



ハ ス

する。茎は高さ30～60cmに達する。葉は互生し，長さ10～20cm，幅3～7cmの長楕円(ちょうだえん)形で全縁。4～5月，径2cmほどの鐘形で，先端が5浅裂する紫黄色花をつける。根茎を乾燥させたものをロート根といい，局方生薬で劇薬。葉はロート葉といい，ともにヒヨスチアミン・スコポラミンなどのアルカロイドを含み，ヒヨスチアミンはアトロピン*に変化しやすい。ロート根はロートエキスの材料や硫酸アトロピンの製造原料にされる。ロートエキスは同じく劇薬で，鎮痛・鎮痙薬(ちんけいやく)として胃病などに用いられる。なお，ハシリドコロの名は，根茎がヤマノイモ科のトコロに似て，食べると含まれるアルカロイドのために走り狂うということに由来する。

はしりはばとび【走り幅とび】陸上競技，跳躍種目の一。ブロードジャンプともいう。助走から助走路と同一平面に埋められた踏み切り板の上を片足で踏み切り，前方の砂場(幅2.5m以上，長さ9m以上)に着地した跳躍距離を競う。助走の距離に制限はないが助走路は45m以上が望ましい。とび方のおもなものとして，空中で走るような形のはさみとび(シザースジャンプ)，胸をそらせてその反動でとぶ反(そ)りとびの2種がある。跳躍の距離は，四肢(しし)以外のからだのどの部分でも砂場に触れたうち，踏み切り線に近い印跡から踏み切り線までを直角に計測する。試技は3回で，上位6名はさらに3回行なって順位を決定。〔伊東春雄〕

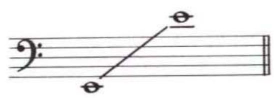
はしれウサギ【走れウサギ】アプダイク*の小説(1960)。都会の平凡な一サラリーマンがマイホーム主義的な日常生活にいや気がさし，家庭と妻を捨てて遁走(とんそう)し，一度は子どもの死で家庭にもどるが，再び逃げだしてゆくという物語。現代アメリカの不安と空虚さの中に，実存的な生を追求した作品。口語を利用し，現在形で終始する流れるような文体は逃亡という主題にふさわしい。

バージン(諸島)［Virgin］西インド諸島，小アンチル諸島中のリーワード諸島にある群島。1494年，第2回航海でコロンブスが渡来したときに命名した。総面積495km²。約100の小島からなり，イギリス領とアメリカ合衆国領に分かれる。イギリス領はトートラ・バージン・ゴーダ・アネガダの島々があり，トートラ島のロードタウンに政庁がある。合衆国領は，セントトーマス・セントクローズ・セントジョンの島々からなり，セントトーマス島のシャーロッテアメリが政庁所在地である。貿易風帯に位置し気候は割合に温和で，年2回の乾季と雨季がある。ワタ・タバコ・ココナツを産する。1672年オランダの西インド会社が植民地を建設してサトウキビのプランテーションを開き，やがて諸島全体がオランダ領になった。現在のイギリス領の島々は1666年にオランダから譲られたもの，合衆国領の島々は1917年にオランダから買収したものである。〔大崎 晃〕

はす【鰣】硬骨魚類・コイ科。ケタ・ケタバスなどともいう。体長30cmに達する淡水魚。琵琶湖(びわこ)～淀(よど)川水系，福井県三方湖およびこれに注ぐ河川に分布するが，近年移殖によって他の地方にも見うけられることがある。両顎(りょうがく)が〈へ〉の字に曲がって大きく，コアユなどの小魚やこん虫を食べる。産卵期は6～8月ごろで，砂礫底(されきてい)に産卵する。塩焼きなどにして食用にされる。

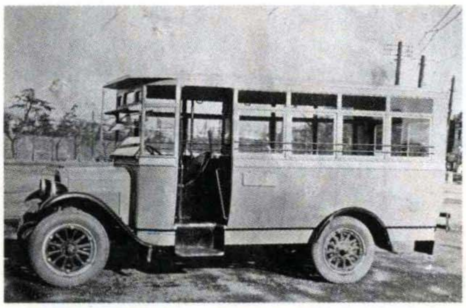
はす【蓮】双子葉植物・スイレン科。池や水田に植栽する多年草。節ごとにくびれた白色の長い地下茎があり，分枝しながら繁殖する。葉は径30～70cmの大形楯状(たてじょう)で，ところどころにとげのある長さ1～2mの葉柄で水上に突き出る。花期は7～9月で，節部から太い花茎を直立させ，先端に芳香のある大きな美花を1個つける。花は白または淡紅色。がく片は4～5枚，花弁は25枚，おしべ多数，めしべは約40個で花床にうずまっている。果実はかたい木質の堅果で，暗黒色に熟す。種子の寿命は長く，500～2,000年間も発芽力を失わないといわれている。根茎は蓮根(れんこん)とよばれ，食用に供される重要作物で，古くから栽培された。蓮根の節が短くてくびれが著しく，食べると〈サクサク〉としない種類はシナバスで，明治初期に中国からはいった。また花は古くから観賞され，仏教美術とも結びついて仏具・仏画・仏像にもよく描かれた。古代エジプトでも，ハスの花をめでたという。〔加藤僖重〕

バス 男声の最も低い音域。ふつう下の譜の範囲である。転じて，作曲の場合の最低声部，楽器の最低音域をもつものにも使用される。

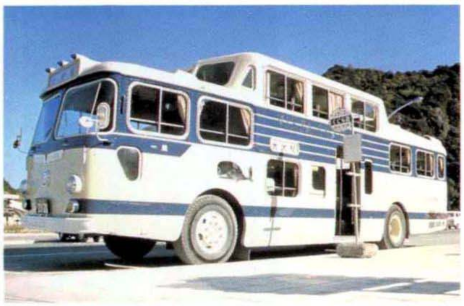


バス［bus］一度に大量の人員を輸送する目的でつくられた自動車。19世紀末にそれまでの乗り合い馬車に代わって蒸気自動車のバスがつくられ，次いでガソリン-エンジンのモーターバスが出現して，それ以後急速に普及した。鉄道に比べて設備費も少なくすみ，運転コストも低いことから，鉄道と並ぶ重要な交通機関となり，近年多くの都市部では市内電車をしのぐほどに発達している。特に最近では，時速100km前後の高速で，リクライニングシートや冷暖房装置をつけて居住性をよくした中・長距離バスの定期路線も多く設けられるようになった。日本では，保有台数19万台，年間輸送人員118億人(鉄道164億人)で総輸送人員の29％を占めている(1970)。

【種類】動力からは，ガソリン機関*・ディーゼル機関*に分けられ，ほかにモーターもあるが，最近は経済性と大形化の傾向からディーゼル機関のものが多い。用途別からは，市街地用・通学用・観光用などに分けられ，運転席の形状からはボンネット形・キャブオーバー形(ボンネットの突出がなく，運転席が車体の最前部にある)・2階形な



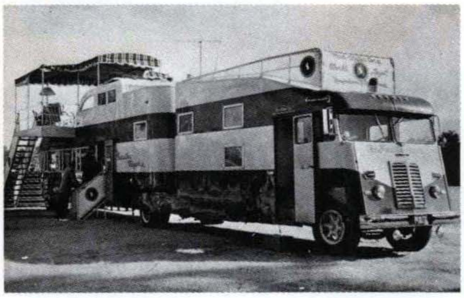
初期の東京市営バス(1928)　写真提供交通博物館



吉野熊野国立公園を走る国産のバス



ロンドンの２階バス

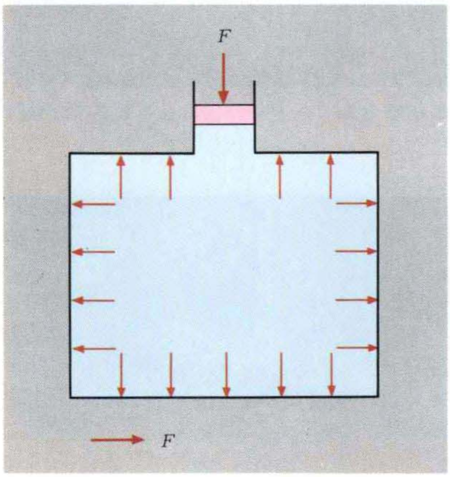


アメリカのホテルバス　写真提供交通博物館

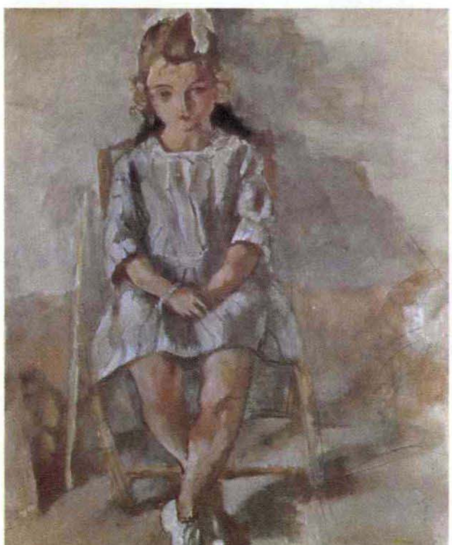
バ　ス



パ ス カ ル



パスカルの原理



パ ス キ ン 《少女》 シカゴ美術研究所蔵

どがあるが，最近はキャブオーバー形が大半を占め，このためエンジンも後部か床下に置かれている。なお，乗車人員30人以下のマイクロバスもある。　〔成田武男〕

パス ⇨パラアミノサリチル酸

パス [pass] ２本の足がコンパスのように開閉できるようになっており，足の先端を工作物にあてて調節し，その開きを尺度にあてて寸法をはかる器具。キャリパスともいう。外側の寸法をはかる外パスと，穴の内径などをはかる内パスとがある。

パース [Charles Sanders Peirce] (1839～1914) アメリカの哲学者。マサチューセッツ州ケンブリッジの生まれ。ハーバード大学を卒業，合衆国沿岸測量部に勤務する一方，主として数学および論理学に関する数多くの哲学論文を発表した。中でも，〈ものの概念はそのものが実際にどのような結果を生むかを考えてみることによってはっきりさせることができる〉というプラグマチズム*の原理を述べた《われわれの観念を明晰(めいせき)にする方法》や，認識における科学的方法の優位を説いた《信念の固め方》などは，のちのアメリカ哲学の動向に決定的な影響を与えた。これらの論文は当時，ごく限られた人々によってしか評価されなかった。彼が不遇のうちに没してのち，《パース論文集》が編纂(へんさん)され，その業績の全貌(ぜんぼう)が明らかになり，特にその記号論は現代の記号論理学の形成に大きい役割を果たした。　〔石倉恒之〕

はすい 【破水】 胎児を入れている卵膜が破れて羊水がでること。ふつうの分娩では，陣痛が起こり，子宮口が全開大してから起こる。陣痛の始まるまえに破水するのを前期破水といい，骨盤位・双胎・羊水過多症・高年初産婦などに起こりやすい。陣痛が起きてから子宮が全開大するまでに破水するのを早期破水という。前期破水が起きても，普通は24時間以内に，陣痛がくるが，早めに専門医の診察を受けることが必要である。

バズーカほう 【バズーカ砲】 対戦車用のロケット弾発射兵器。第２次世界大戦中にはじめて使われた。弾丸に推進力があるため，砲身は無反動となり，構造は軽量・簡易である。所要人員は基本的には２人であるが，１人でも運搬・操作が可能。装甲の貫徹力は大きいが命中精度が低く，実用射程は300m以内とされている。日本の61式自走無反動砲のように，これを主兵装とした戦闘車両もつくられている。

パスカル [Blaise Pascal] (1623～1662) フランスの数学者・物理学者・哲学者。南フランス，クレルモンの生まれ。税務裁判所長で数学者の父エチエンヌの手で教育され，幼時よりユークリッドの定理のいくつかを独力で発見するなど，天才ぶりを発揮。16歳で《円錐(えんすい)曲線論》を書き，19歳で計算機を考案。以後，トリチェリの真空に関する追実験，流体の平衡に関して〈パスカルの原理*〉を発見，また整数論・確率論・積分法の諸問題を考察，多くの功績を残した。しかし，彼は〈幾何学的精神〉だけでは満足できず，一時社交界に出入りして，〈繊細な精神〉を発見。人間が矛盾的存在であることを自覚し，その自覚の深化とともに，矛盾の解決は信仰以外にないとして1654年〈決定的回心〉を経験，〈イエスの神〉に対する信仰を告白。ジャンセニストの修道院ポール-ロワイヤルの客員となる。彼の宗教思想は《プロバンシアル書簡》，遺稿《パンセ*》によって知られる。　〔石井忠厚〕

パスカルのげんり 【パスカルの原理】 1653年パスカル*によって発見された原理。パスカルの法則ともいう。密閉した容器の中に満たした液体または気体の一部の圧力を増すと，容器内のすべての点の圧力が同じ大きさだけ増す現象。水圧機はこの原理を応用して小さい力を大きい力に変える装置である。

パスキン [Jules Dincas Pascin] (1885～1930) ブルガリア生まれの画家。ウィーン・ミュンヘンで学んだのち，1905年パリへ出て一連のすぐれたさし絵を発表。1914年アメリカに渡り，1921年第１次世界

大戦後再びパリにもどる。さし絵や版画とともに情感のある女性裸体像を好んで描く。放浪・奇行が多く，パリで自殺を遂げた。

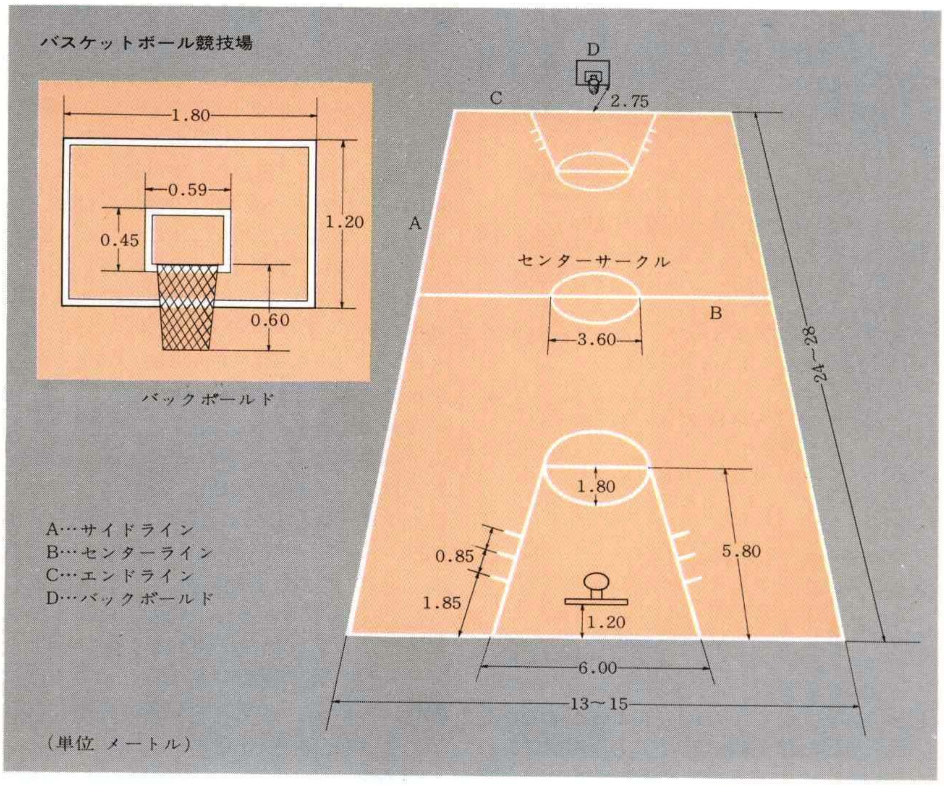
バスクじん　**［**バスク人**］**　フランスとスペイン国境のピレネー山脈の原住民で，人口は約72万人。自称はエウスカルドゥナク，スペイン名はバスコス。インド-ゲルマン語以前の独自の言語を保存し，農耕や漁労によって生活し，周囲の諸民族の影響をあまり受けていない。ラヤという鉄製踏み鋤(すき)を用い，長子相続を行なう。

バスケットボール　［basket-ball］　団体球技の一種で，籠球(ろうきゅう)ともいう。1チーム5人ずつのプレーヤーがボールをバスケットの中に入れ合う競技。アメリカン-フットボール*のように，激しい運動量，スピード・スリルがあり，しかも技術・体力・トレーニングを必要とする。

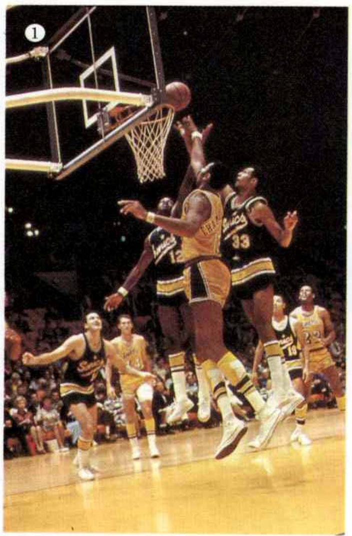
〈沿革〉 1891年，アメリカのマサチューセッツ州スプリングフィールドのYMCA体育学校の指導者ネイスミスが創案したもので，初めはサッカー*のボールを使い，コート両端の高さ4.26mで底のあるバスケットに入れ合うだけの競技で，1チーム最大50人もいた。プレーがスピード化し，またコートの大きさが決まるにつれて，1チームのプレーヤーも9人，7人としだいに減り，現在の5人となって，創案時代にはなかったバックボールドがつけられるようになった。ボールも専用のものが用いられるようになり，皮または合成皮革で周囲が75〜78cm，重さ600〜650g，弾力は1.8mのところからかたい床に落として1.2〜1.8mの高さにはずむもの，といった細かい規定がある。

また，スピードはいっそう要求され，長身者が相手側バスケットに近い制限区域内で長く止まらないよう〈3秒ルール〉やボールを持ったチームが早くシュートするよう〈30秒ルール〉が設けられている。世界に散在するYMCAのスポーツプログラムに採用されたこと，ネイスミスのもとに世界各国から集まった学生が母国に持ち帰って熱心に普及に努めたことなどが大きな力になって，バスケットボールは広く世界のスポーツとなった。特にアメリカでは，野球・アメリカン-フットボールと並んでプロスポーツとなっているほか，ソ連・イタリア・メキシコの各国でも最も盛んなスポーツとなっている。1936年(昭和11)からオリンピック種目となり，世界選手権大会・アジア選手権大会も行なわれている。

日本では，1908年(明治41)に大森兵蔵がスプリングフィールドから帰国し，バレーボールとともに紹介したのがはじめであるが，広く普及したのは1914年(大正3)にアメリカから来日したブラウンが，東京・大阪・横浜・神戸(こうべ)にできたYMCAで指導奨励してからである。1921年には第1回全日本選手権大会が行なわれ，1930年に大日本バスケットボール協会が誕生した。



バスケットボール







①シュート 迫力あるアメリカ-プロチームの攻防(レーカーズ対ソニックス戦)
②ドリブル
③フリースロー

このころは，アジアの先進国フィリピンや中国に追いつくことが目標とされたが，まもなく極東選手権大会で優勝する力をつけ，1936年の第11回オリンピック-ベルリン大会では3回戦まで進出している。第2次世界大戦後はいちはやく日本バスケットボール協会を再建し，1950年ごろから国際交流を復活して，1964年の第18回オリンピック東京大会では10位の成績をあげ，1965年のアジア選手権大会では男子が初優勝した。

〈競技方法〉 国内外とも，1957年から採用された国際ルールで行なわれることが多い。試合時間は，前半20分，ハーフタイム10分，後半20分で，選手は何回でも交代することができる。得点は普通のスローインが2点，フリースローが1点で，時間内に得点の多いほうが勝ちとなる。同点の場合は，5分ごとの延長戦を行なって決める。反則には，体が触れ合って起きるパーソナルファールと，コーチや手続きのまちがいによるテクニカルファールの2種類がある。記録されるのを〈ファール〉といい，記録されないものを〈バイオレーション〉とよんでいる。作戦や選手を休ませるため，前後半とも各2回，各1分間のタイムをとることができる。

攻撃には，相手の防ぐ態勢が整わないうちに攻めこむ速攻法，パスやドリブル(球を地面にはずませながら前進すること)を

使ってじっくり攻めるセットオフェンスがあり，防御には相手を決めて1対1で守る対外防御(マンツーマン-ディフェンス)や，守る地域を5分単位で分担して防ぐ地域防御(ゾーン-ディフェンス)がある。〔伊東春雄〕

バスケットボールの用語

アウト-オブ-バウンズ　ボールまたは選手がコート外に出ること。相手チームのボールになる。
アンダーハンド-ショット　ボールを両手(片手)でもった下からの投球。
インターフェア　妨害。
オーバーヘッド-ショット　頭上から行なうシュートのこと。
カット-イン　相手をいなして切り込むこと。
シュート　バスケットにボールを投げること。
スクリメージ　練習試合。
タップ-ショット　バスケットに指先ではたいて，ボールを投げること。
ダブル-ドリブル　反則の一種で，1人の選手が一度ドリブルをしたあと，再びドリブルをすること。
ピボット-プレー　プレーヤーがその場で片足を軸にして回転したり，方向転換するプレー。
フェイント　相手を惑わす動作。
ルーズ-ボール　両チームどちらにも属さないときのボール。

バスコ-ダ-ガマ　[Vasco da Gama]　(1469ごろ～1524)　ポルトガルの航海者。インド総督。東インド新航路を開発するためポルトガル王マヌエル1世の命を受けて，3隻の船隊でリスボンを出航し，ベルデ岬(みさき)諸島から大西洋を南下し，喜望峰を回ってアフリカ東海岸各地へ寄港し，メリンディからインド洋を横断し1498年5月カリカットに到着してこれを完成した。その後，彼は1502年20隻の船隊をもってインド航海を行ない，途中アフリカ東海岸のソファラ・モザンビクに商館を置き，カリカットに到着し，各地に砲火の威力を示してコーチン・カンナノールなどに独占貿易の拠点を築いた。1503年末帰国して伯爵に叙せられ，故国に自適の生活を送っていたが，1524年マラバル海岸の不穏な情勢をしずめるためインド総督として現地におもむき，任を果たしてインドのコーチンに没した。

パスコリ　[Giovanni Pascoli]　(1855～1912)　イタリアの詩人。父親のなぞの死と田園生活の影響で，その詩は自然をうたいながら，いつもその中に死の観念がしのびこんでいる。ボローニャ大学在学中に社会主義運動に参加して投獄されたこともある。のち，カルドゥッチ*の後任として母校のイタリア文学の教授となった。《ミユリカエ》《新小詩歌集》《カステル-ベッキオの歌》などの詩のほか，ダンテ研究の《暗色のミネルバ》などの評論もある。

はすだ　【蓮田(市)】　埼玉県東部，東北本線に沿う市。1972年(昭和47)南埼玉郡蓮田町が単独で市制施行。〈3万人市特例法〉の最後の市で，かろうじて期限に間に合った。人口4万5,000。元荒川両岸の台地上に市域が広がり，田より畑がやや多く，野菜・日本ナシを産する。大宮市の北東隣にあって，最近工場や住宅の進出が著しく人口が急増し，1970～75年の人口増加率は22.3％である。産業三大別人口比は12：40：48。

パスタざい　【パスタ剤】　泥膏(でいこう)ともいう。粉末とした比較的多量の医薬品を，基剤(脂肪・脂肪油・ワセリン・ロウ・グリセリン・水などの混合物)に加えてよく練り合わせて製した粘稠(ねんちゅう)な外用剤。医薬品を多量に入れてあることと，粘稠である点で軟膏剤*と異なる。収斂(しゅうれん)・鎮痛などの目的で皮膚などに用いられる。

バスチーユ　[Bastille]　14世紀パリ東部サン-タントアーヌ郊外に建てられた城塞(じょうさい)で，17世紀以後には政治犯を収容した牢獄(ろうごく)として絶対王権の象徴となっていた。1789年7月14日，サン-タントアーヌ街の貧困労働者を中心とする市民が襲撃，占領し，フランス革命の発端となった。本来は〈城塞〉の意味。

パスツール　[Lauis Pasteur]　(1822～1895)　フランスの生化学者・微生物学者。ドールの皮なめし職人の家の生まれ。パリのエコール-ノルマルに学んだ。卒業後ストラスブール・リール各大学の教授を経て，1867年パリ大学教授，さらにパスツール研究所長(1881)。在学中から結晶の問題に興味をもち，1848年酒石酸の分子不斉(ふせい)を発見した。1857年以降発酵の研究においてその原因が微生物であることを確証，微生物の自然発生説を否認した。また，発酵・腐敗とある種の病気が共通の原因によるとする当時の考えにヒントを得て，動物・人間についての微生物病因説を提唱。1880年ニワトリコレラの研究から，その予防法としてはじめてワクチン法を創出した。さらに家畜の炭疽(たんそ)病(1881)および狂犬病(1885)の予防と治療にワクチン法を適用。このほかカイコの微粒子病の予防法やぶどう酒の防腐法を発見するなど，多くの重要な研究を行なった。近代微生物学の祖とされている。〔中村禎里〕

パステル　[pastel]　絵画材料。クレヨン*のように蠟分(ろうぶん)はなく，粉末顔料に少量の粘着剤と白粘土を入れて棒状に固めたもので，クレヨンよりチョークに近い感じである。絵を描き上げてのち，定着液でとめねばならない。18世紀ごろから使われるようになったが，柔らかい優雅な色彩が好まれて，近代にはいってドガ・ルノアールらに好んで用いられた。

パステルナーク　[Boris Leonidovich Pasternak]　(1890～1960)　ソビエトの詩人。モスクワの生まれ。画家の父と音楽家の母のもとに，ヨーロッパ文化の教養も深い家庭に育った。1922年象徴主義*の流れをくむ詩集《わが姉妹はいのち》で名声を得て，その後も多くの詩集を発表。個性的叙情性をロシア革命後も失わなかったが，一時期沈黙し，おもに翻訳に従事した。イタリアで出版された唯一の長編小説《ドクトル-ジバゴ》で1958年ノーベル文学賞を授けられたが，国内で反ソ的と論難され，賞を辞退した。〔川端香男里〕

ハースト　[William Randolph Hearst]　(1863～1951)　アメリカの新聞王。カリフォルニアの鉱山王の子として生まれ，ハーバード大学中退。《サンフランシスコ-イグザミナー》の経営を手始めに，1895年にはニューヨークの《モーニング-ジャーナル》を買収し，センセーショナルなニュース報道を主眼に写真・大見出しではでな紙面をつくり，またニュース取材網を拡大するなどして一躍新聞界の寵児(ちょうじ)となった。さらにピュリッツァー*の《ワールド》と激烈な販売競争を展開し，ついにはイエロージャーナリズム*を完成させた。なおアメリカ-スペイン戦争*の口火役を演じた〈開戦必至〉の号外は後世〈戦争を作った新聞〉として伝説化している。そのほかニューディール政策に対する強硬意見など，そのセンセーショナリズムは新聞王にふさわしいものであった。最盛期には日刊紙26(シェアは13.6％)，日曜新聞17(24％)，雑誌社13，放送局8，映画会社2，通信社1の超マスコミ王国を築いた。その後政界に転じたが成功しなかった。〔片岡一郎〕

パストラーレ　[pastorale]　牧人の音楽を模した声楽曲・器楽曲。イタリアの牧人(パストーレ)がクリスマスに町に来て笛を吹いたことに由来し，クリスマス音楽としての性格をもつ。バロック時代に多くつくられ，リズムはシチリアーノ*と同じで，旋律は3度で平行して動くほか，同じ音が低音で延ばされるのが特徴である。バッハの《クリスマス-オラトリオ》やヘンデルの《メサイア》にも，この形を使ったシンフォニアが置かれている。〔徳丸吉彦〕

パストランド　⇨レソト王国

パスパ　[hPhags-pa]　(1235～1280)　ラマ教サキャパ派の法王。八思巴とも書く。僧名ロートェゲンツェン。チベット語でパクパ(聖者)とよばれる。サキャパ派門主の家がらに生まれ，青年時代からフビライ汗の信任を得，1260年フビライ汗がモンゴル皇帝位につくとともに初代帝師に任ぜられた。チベットの宗教・行政両権とモンゴル帝国内の全仏教教団の統師権を与えられて，チベットにおけるサキャパ派法王朝支配時代を確立した。元朝を舞台とした文化史上の業績も大きく，帝師としてチンキムに彼の著《彰所知論》を講じて思想的影響を与えたり，チュキ-オェセルと共同でモンゴル国字パスパ文字を制定したり，ネパール人アニゴを都に伴ってパゴダ*様式建築や工芸を伝えたりした。〔金子良太〕

バスバンドゥ ［Vasubandhu］ 世親あるいは天親とも訳される。5世紀ごろインドで活躍した大乗仏教の思想家。北インド，ガンダーラの出身。はじめ説一切有部に部派仏教を学び，特に経量部の立場からアビダルマ*の学説をまとめて《倶舎論*(くしゃろん)》を著わした。のちに実兄アサンガ*(無着)の勧めにより大乗仏教を学び，《唯識三十頌*(じゅ)》《中辺分別論》《仏性論》などの哲学書を著わし，初期の瑜伽唯識(ゆがゆいしき)思想の形成に努めた。また《浄土論》を著わし，浄土教と唯識思想のかかわりを説いた。

パスポート ⇨ 旅券

はずみぐるま ［はずみ車］ 機械の回転軸の角速度の変動をできるだけ少なくするために，回転軸に取り付ける慣性モーメント*の大きい車。機械に与えられたトルク(回転力)が仕事をするトルクより大きければ，機械の回転軸の角速度は増大し，その反対の場合は減少する。ある時間内の与えられたトルクと仕事のトルクとの平均が等しく過不足のないときでも，各瞬間における両トルクが等しくなければ角速度は変動する。軸にはずみ車を付けると，与えられたトルクが過剰のときはエネルギーとしてこれを蓄積して角速度が大きくなるのを防ぎ，与えられたトルクが過小のときはたくわえたエネルギーを放出して角速度が小さくなるのを防ぐなど，角速度の変動を少なくする。

バスラ ［Basra］ イラク共和国南東部の港市。人口42万(1968)。7世紀に建設起源をもち，ペルシア湾に臨む港として古来から栄えてきた。チグリス川・ユーフラテス川が合流してつくるシャッフル-アラブ川河口から120km上流右岸にあり，石油を除くイラクの輸出の90%はここから積み出される。バスラ石油会社の製油所があり，首都バクダットと結ぶ鉄道の要地で空港もある。

ハズリット ［William Hazlitt］ (1778～1830) イギリスの随筆家・批評家。牧師の家に生まれ，最初絵の修業をしたがしだいに文学に目を向け，雑誌への寄稿や講演旅行で活躍，ロマン主義批評家の指導的立場に立った。《シェークスピア劇の諸人物》などの演劇論集や英国詩人論集がその代表作で，ほかに《円卓》などの随筆集には鋭い感受性と幅広い教養が示されている。

バスーン ［bassoon］ ファゴットともいう。ダブルリードの木管楽器。オーボエ属の中での低音楽器。ルネサンスのドゥルツィアンを先駆とするが，管長が長いため，二つに折ってつないでいるのが特徴である。音域は3オクターブをこえ，低音域だけでなく，高い音域の表現力にもすぐれている。なお，1オクターブ低いタブル-バスーン(コントラ-ファゴット)もある。バスーンはバロック時代に，通奏低音の楽器として活用されただけでなく，コンチェルトの独奏楽器として，ビバルディのような作曲家によっても使用された。古典派音楽以降は，モーツァルトやウェーバーのコンチェルトだけでなく，管弦楽・木管五重奏における不可欠な楽器となり，しだいに安定した技法が確立され，ストラビンスキーの管弦楽曲にみられるように高い役割が与えられている。 〔徳丸吉彦〕


バスバンドゥ 運慶作《木造無著菩薩世親菩薩立像》より〈世親菩薩立像〉 興福寺北円堂蔵


バスーン (左)バスーン (右)ダブル-バスーン


ハ ゼ マハゼ


長谷川等伯 《松林図》六曲一双屏風部分 東京国立博物館蔵

はぜ ［鯊］ 一般にはハゼ形の魚の総称に使われるが，マハゼの略称としても使われる。マハゼはハゼ科に属し，北海道以南，九州および朝鮮まで分布し，内湾から河口の汽水域に生息する。底生魚で砂泥底(さでいてい)を好み，冬季泥中に穴を掘って産卵し，親がこれを保護する。ハゼ類中では大きくなるほうで，全長30cmに達する。秋季，松島湾・東京湾・浜名湖・伊勢(いせ)湾などで遊漁の好対象とされる。ハゼ科にはこのほかムツゴロウ*・チチブ*・ドロメ・キヌバリ*・ヨシノボリなどが含まれる。てんぷら・甘露煮・南蛮づけなどにして食べられる。

はせがわかずお ［長谷川一夫］ (1908～) 映画俳優。京都に生まれ，幼少より中村鴈治郎(がんじろう)に師事，林長二郎という芸名で歌舞伎(かぶき)役者となった。1927年(昭和2)松竹*に入社，《稚児(ちご)の剣法》でデビュー。トーキー以降，《雪之丞変化(ゆきのじょうへんげ)》などの時代劇映画で美男スターとしての地位を確立した。1937年に東宝*に移って本名の長谷川を名のり，《鶴八(つるはち)鶴次郎》などに出演。第2次世界大戦後も《源氏物語》《地獄門》などに出演し，一貫して美男役を演じてスターとしての長い生命を保っている。 〔波多野哲朗〕

はせがわしぐれ ［長谷川時雨］ (1879～1941) 劇作家・小説家。本名康子(やすこ)。東京の生まれ。戯曲《桜吹雪(さくらふぶき)》で劇作家としての地位を確立。尾上(おのえ)菊五郎らと提携し新舞踊運動を試み，その後三上於菟吉*(おときち)と結婚。1928年(昭和3)《女人芸術》を創刊し，女流作家の地位向上にも努め，林芙美子*(ふみこ)らを育てた。作品はほかに戯曲《氷の雨》《暗夜》，小説《名婦伝》など。

はせがわしん ［長谷川伸］ (1884～1963) 劇作家・小説家。横浜市の生まれ。小学校の2年までしか学歴はなく，幼少年時代を辛苦のうちに過ごし，都新聞社に入社。社会部記者として活躍しつつ小説を書きはじめ，《夜もすがら検校(けんぎょう)》で認められ，以後文筆に専念した。1939年(昭和14)第3次《大衆文芸》を発刊・主宰。その間，《瞼(まぶた)の母》《一本刀土俵入》《沓掛(くつかけ)時次郎》など戯曲の名作を発表した。作品は庶民に密着したものが多く，特に〈股旅物(またたびもの)〉に新境地を開いて人情作家とよばれたが，後年は《日本敵(かたき)討ち異相》など史伝的な読物を多く書いた。ほかに《相楽(さがら)総三とその同志》《日本捕虜志》など。

はせがわとうはく ［長谷川等伯］ (1539～1610) 安土桃山時代の画家。長谷川派*の祖。能登(のと)(石川県)の生まれ。名は又四郎帯刀(たてわき)。画を雪舟系の等春に学び信春

と号して郷里に活躍したが，30歳代の初めごろ上京して等伯と改め，牧谿*(もっけい)ら宋元(そうげん)画家の画績を学んで狩野(かのう)派に対抗しうる独自の画風を形成した。遺作は水墨画・着色画の両様にわたって多いが，前者の《松林図屏風(びょうぶ)》，後者の智積院(ちしゃくいん)障壁画は，ことに名作として名高い。晩年雪舟5代を自称して長谷川一門を統率し，画壇に重きをなした。子に久蔵・宗宅・左近(さこん)・宗也(そうや)らがおり，いずれも画家として活躍した。日本の絵画論として最も古い《等伯画説》が残されている。

はせがわにょぜかん 【長谷川如是閑】 (1875～1969) 評論家・ジャーナリスト。東京の生まれ。本名万次郎。東京法学院(中央大学の前身)卒業。新聞《日本*》，雑誌《日本及日本人》(→日本人)の記者を経て，1908年(明治41)大阪朝日新聞社に移る。その間，全国中等学校(現在は高等学校)野球大会を発案した。1918年(大正7)米騒動*の際の事件(白虹(はっこう)筆禍事件)で社会部長として引責退社。翌年大山郁夫*(いくお)らと雑誌《我等(われら)》(1930年《批判》と改題，1934年廃刊)を創刊して民主主義思想の鼓吹に力を注いだ。著書に《ある心の自叙伝》《日本的性格》など多数がある。1947年(昭和22)芸術院会員，翌年文化勲章受賞，1951年には第1回文化功労者に指定された。〔高崎徳次〕

はせがわは 【長谷川派】 桃山期から江戸初期にかけて活躍した絵画の流派の一。長谷川等伯*を始祖とし，その子久蔵(1568～1593)，宗宅(？～1611)，左近(さこん)・宗也(そうや)(1590～1667)らの名が知られている。等伯によって一時狩野(かのう)派の牙城(がじょう)に肉迫する勢力となったが，期待の久蔵が早世して後継者を失ったため，等伯没後は急速に衰微したらしい。この派の特色は，鋭く平行に走る皴法*(しゅんぽう)に現われ，一門の共同制作になるものと考えられる作例に，智積院(ちしゃくいん)・醍醐(だいご)寺三宝院・禅林寺などの障壁画群がある。〔小林 忠〕

パーセク ［parsec］ 天文学で用いられる距離の単位。1パーセクは年周視差*が1秒に相当する距離を表わし，3.09×10^{13}km，または3.02光年にあたる。年周視差がp秒の天体の距離は$1/p$パーセクとなる。パーセクは，光年とともに恒星・星雲など太陽系外の天体の距離を示すのに使われる。

はせくらつねなが 【支倉常長】 (1571～1622) 江戸初期の仙台(せんだい)藩士。六右衛門(ろくえもん)と称した。1613年(慶長18)藩主伊達政宗(だてまさむね)の命により遣欧使節*としてフランシスコ会士ルイス-ソテロとともに日本を出発，翌年ノビスパン(メキシコ)に着き，次いでスペインのマドリッドに到着。ここで受洗し，ドン-フィリッペ-フランシスコと称した。1615年(元和1)ローマに至り，教皇パウロ5世に謁見，ローマ市の市民権を与えられたが，目的とした奥州司教区の創設，通商の交渉は不成功に終わった。



ハ ゼ ノ キ

1620年帰着したが，国内はすでにキリシタン*の禁教下にあり，不遇のうちに病死した。

はせでら 【長谷寺】 奈良県桜井市初瀬(はせ)町にある真言宗豊山(ぶざん)派の総本山。西国三十三所第八番札所。もと泊瀬寺・初瀬寺とも書いた。686年(朱鳥1)天武天皇の勅願で道明上人(しょうにん)が創建，《銅板法華(ほっけ)説相図》を千仏多宝仏塔に納め，727年(神亀4)聖武(しょうむ)天皇のとき徳道上人が伽藍(がらん)を建立(こんりゅう)，霊木を彫って十一面観音像を安置したのが現在の長谷寺の創立である。平安時代には観音霊場として栄え，江戸時代には多くの学僧が参集し，密教その他諸宗の学問道場として聞こえた。現在山中にある舞台造りの本堂は，1650年(慶安3)の再建で，静寂な初瀬山の中腹に堂塔が散在し，春はボタンの名所として知られている。白鳳(はくほう)時代の《銅板法華説相図》《法華経》(28巻)(ともに国宝)をはじめ，貴重な文化財が多い。〔永井信一〕

バセドーびょう 【バセドー病】 甲状腺(こうじょうせん)機能亢進症(こうしんしょう)(甲状腺ホルモン*の分泌過剰によって起こる病的状態)の代表的な疾患。1840年ドイツの医者バセドーが発表したことからこの名があるが，イギリス・アメリカなどではグレーブス病という。甲状腺腫(しゅ)・眼球突出・動悸(どうき)の三大症状を示す。病因としては，体液異常説・中枢神経障害説・感染説・遺伝説・ストレス説など，古くから幾多の説がある。1956年LATS(long-acting thyroid stimulator)という物質が発見されて以来，この物質が甲状腺ホルモンの分泌を促し，血中の甲状腺ホルモン濃度を増すとされているが，詳細については不明な点が多い。前記三大症状のほか，食欲があるにもかかわらず体重が減少する，手指がふるえる，発汗・微熱，そのほか寒いときには身体の調子はよいが夏の暑さには弱いなどの症状がみられる。診断は，基礎代謝率の上昇，血清タンパク結合ヨード(PBI)値の上昇，血清チロキシン値の上昇などが参考となる。治療法としては，抗甲状腺剤療法・手術療法・放射性ヨード療法があり，年齢，甲状腺腫の大きさ，機能亢進状態，合併症などにより決められる。〔斎藤 浩〕

はぜのき 【櫨】 双子葉植物・ウルシ科。関東南部以西の暖地に自生する落葉高木で，木蠟(もくろう)をとるため栽培される。高さ10mほどに達する。葉は9～15枚の小葉からなる奇数羽状複葉。小葉は5～8cmの卵状披針(ひしん)形で全縁，先はとがり無毛で，紅葉が美しい。雌雄異株。5～6月ごろ枝先の葉腋(ようえき)に長さ15cm内外の円錐(えんすい)花序をつけ，黄緑色の小花を多数密生する。小花は5弁で，雄花は子房が退化している。雌花は両生花。果実は淡黄色の核果で光沢があり，扁平(へんぺい)な円形で径約1cm。果実は多量の脂肪を含み，木蠟が得られる。よく似たものにヤマハゼがあるが，葉や若葉に毛があるので区別できる。ハゼノキ・ヤマハゼノキともに触れるとかぶれることがある。〔横井朝子〕

パセリー ［parsley］ 双子葉植物・セリ科。オランダゼリともいう。地中海地域原産の二年草。茎はほぼ60cm。葉はニンジンに似てやや小さく，濃い緑色で先は細かく切れる。花は2年めの株につき茎の上部に直径2mmほどの淡黄緑色花が多数集まる。葉は美しく，特有の芳香があるので，生食や揚げ物としての利用が多い。ヨーロッパでの栽培の歴史は古いが，わが国で利用が進んだのは明治以降である。

パーセル ［Henry Purcell］ (1659ごろ～1695) イギリスの作曲家。王室礼拝堂の少年聖歌隊員をつとめたのち，1677年には王室弦楽団の常任作曲家，1679年ウェストミンスター寺院のオルガン奏者，さらに1682年には王室礼拝堂付オルガン奏者に就任し，宮廷を中心として活躍した。作品には一時代前の厳格な模倣対位法様式で書かれたファンタジアや通奏低音付きのトリオ-ソナタなどの器楽曲，あるいはイギリス国教会の数多くのアンセム(英語で歌われる礼拝用合唱曲)，王室の種々の祝典のためのオード(頌歌(しょうか))などがあるが，特に彼が晩年に力を注いだ劇場用作品(49編)が重要。中でも，友人の経営する女子高等学校の生徒用に書かれた，彼の唯一のオペラ《ディドとエネアス》は，パーセルの最高の傑作としてよく知られている。彼はイタリア音楽やフランス音楽の諸要素と若いときに学んだエリザベス朝時代のポリフォニー様式とを融合同化して，イギリス音楽に新しいいぶきをもたらすとともに，この新音楽によって独特の完成された個人様式を確立している。〔寺田兼文〕

バーゼル ［Basel］ スイス北部，ドイツとフランスとの国境に位置する同国第2の都市。人口19万6,000(1975)。ライン河岸にあってスイス唯一の貿易港をもち，また鉄道交通の要地でもある。この国有数の工業都市で，化学・金属製品・食品・絹織物の工業が盛ん。市街はライン川によって，商業・文化地区をなす左岸の大バーゼルと，

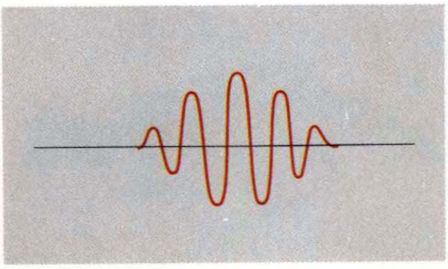
工業地区である右岸の小バーゼルに分かれる。古代ローマ人によって興り，11世紀に自治都市となり，1501年スイス連邦に加入した。中世にはヨーロッパ有数の文芸の中心地となり，1406年ローマ法王ピウス2世の創立になるスイスで最も古い大学がある。国際決済銀行が置かれている。

ばせんざん【馬占山】（1884〜1950） 中国，馬賊出身の軍人。河北省豊潤県の人。字(あざな)は秀芳。東北軍閥に属し，満州事変*に際して日本軍に敗れ，一度は妥協した。のち反満抗日軍を組織して北満に転戦し，敗れてソ連にのがれた。1933年帰国後，包頭(パオトウ)方面で日本軍と戦い，抗日戦の英雄となった。解放後も大陸にとどまり，1950年に北京(ペキン)で病没。

はそく【波束】 ある時刻における波形が，空間の限られた範囲だけに存在する波のかたまり。それぞれ適当な振幅をもつ無数の異なる波長の正弦波を重ね合わせたものと考えることができる。構成要素となる正弦波の速さ v が波長と無関係ならば，波束は形をくずさずに速さ v で進む。しかし v が波長によって異なる場合には，波束は時間がたつとくずれてしまう。この場合に波の形があまりくずれない範囲で波束の進む速さを群速度という。波束の中心部を近似的に一つの正弦波と考えたときの波長を λ，位相速度を v とすると，群速度 v_g は

$v_g = v - \lambda \dfrac{dv}{d\lambda}$ によって与えられる。

〔有山正孝〕



波　束

ばそとう【馬祖島】 マーツー島 中国，福建省の福州市の東方沖合い27kmの東シナ海上にある小島で，現在，金門島*とともに台湾政府(中華民国)の軍事基地となっている。面積約10km²。馬祖山ともいい，まわりの海面は水深が深く波が静かなので，福州へ入港するジャンク(中国型帆船)の暴風のときの避難泊地となっていた。

ばそどういつ【馬祖道一】（709〜788） 中国，唐代の禅僧。俗姓馬氏。四川省漢州の人。諡号(しごう)は大寂禅師。19歳で具足戒を受け，南岳懐譲*(なんがくえじょう)の法を継いだ。のち江西省洪州(こうしゅう)を中心に大いに禅風を挙揚したので，その派を洪州宗ともいい，湖南省で活躍した石頭希遷とともに〈江西の馬祖，湖南の石頭〉と併称された。門人800人の中で，百丈懐海*は特に有名。

パーソナリティー［personality］ いわゆる〈ひとがら〉〈ひととなり〉のこと。人格と訳されることが多いが，人格という語感に伴うような価値的な意味を含まず，より客観的な記述語として用いられる。性格*・気質・体格，または行動のしかた，表現のしかたなど種々の側面からの見方があり，その定義も学派によって多様である。性格とほぼ同じ意味に用いることもあるが，性格が多分に情意的側面にみられる個人差をさす概念であるのに対し，パーソナリティーは総体としての個体の独自性と，行動のしかたをさす。たとえば〈彼は短慮なところはあるが快活で人づきあいがよい〉などと描写される。パーソナリティーに関する理論は種々あるが，①W.マクドゥガルの本能ないし生得的動向の説，②幼児期の経験や精神内界のあり方を重要視するフロイトら精神分析学派の説，③ユング*やニューカムらの文化的背景，すなわち地域社会やそこにおける個人の役割・地位を重視する説，④種々の学説を統合して定義しなおしたオールポート*の説などが代表的。〔馬場礼子〕

パーソナリティーけんさ【パーソナリティー検査】 パーソナリティー*の種々の側面を観察・測定・評価し，個人的性格の特徴をとらえようとする心理学的方法の総称。人格検査ともいう。19世紀から開発され，今世紀，特にアメリカにおいて急速に発達した。測定の対象となるパーソナリティーの側面は，大別して，①知的能力，②特殊技能，職業への適性，③性格*・情緒性・社会的態度・精神内界の構造などに分けられ，検査法もそれぞれに対応して，①知能検査*・学力検査，②特殊技能検査・適性検査*，③狭義のパーソナリティー検査などがあり，いわゆる性格検査は③に属する。この性格検査を方法上から分類すると，①質問紙法：質問とそれに対する簡単な答え(はい・いいえ，賛成・反対など)を用意しておき，被験者にチェックさせる方法。短時間に，集団的に施行でき，評定が簡便なのが利点。しかし，被験者が正直にチェックすることを前提とする点に限界がある。②評定尺度法：質問事項に対する答えを何段階かのカテゴリーに区分しておき(たとえば〈非常によい〉から〈非常に悪い〉までの7段階)，その尺度上に自己評定をプロットさせる。利点・限界は①とほぼ同様。③投影法：どのようにでも判断できるあいまいな刺激を与えて，被験者に自由に反応や選択を行なわせ，その反応のしかたから人格の諸側面をとらえる方法。被験者の意図的操作を排除でき，より多角的により深く人格をとらえられる利点があるが，評定手続きが複雑で，評定者に熟練を要し，数値的に処理しにくく①②のような簡便さに欠ける。現在，わが国で用いられている投影法検査には，ロールシャッハ-テスト*・TAT*・ワルテッグ法・描画法テスト*などがある。〔馬場礼子〕

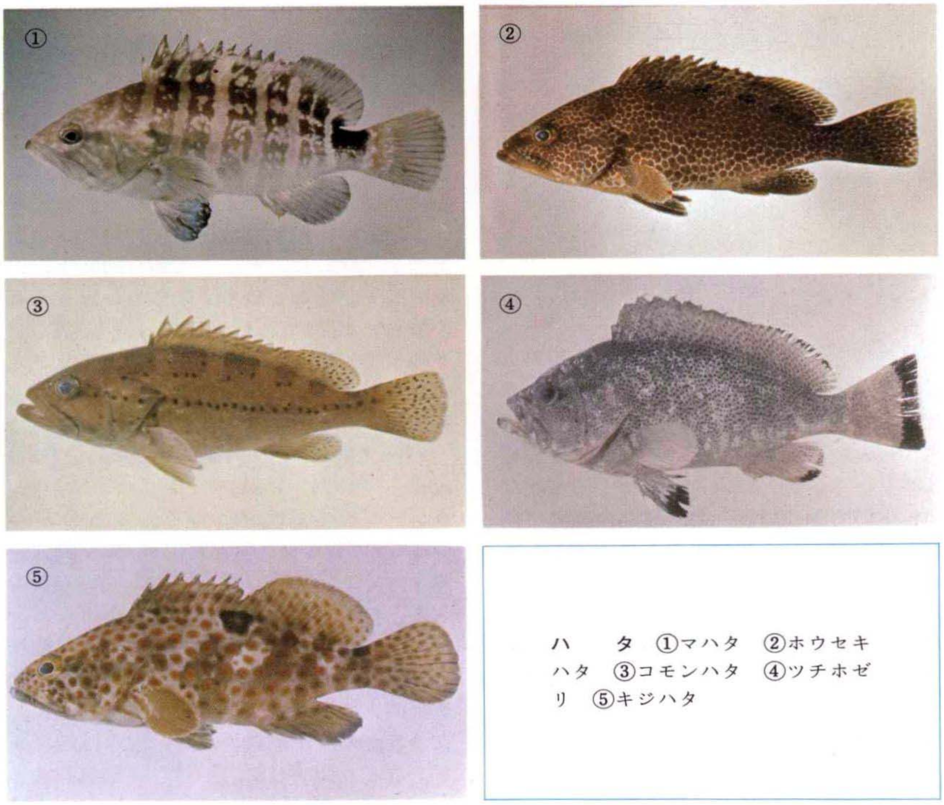
バーゾフ［Ivan Vazov］（1850〜1921） ブルガリアの小説家。父母は富裕な商人であったが，ブルガリアが長年トルコの支配下に置かれていたため，早くから民族意識に目ざめ，ロシア語を学びベリンスキー*などを耽読(たんどく)していた。20歳のとき，革命家で作家のカラベェーロフや革命詩人ボテフ*に会い，民族解放運動に加わり，亡命生活を体験した。そのころから約50年，小説・詩・戯曲など数多くの作品を書き人々の蒙(もう)を開いた。代表作の長編小説《くびきの下で》は，トルコに対するブルガリア人の抵抗をテーマとしたもの。各国語に訳され，ブルガリア文学を国際的水準に高めた。

パーソンズ［Charles Algernon Parsons］（1854〜1931） イギリスの技術者。ロンドンの生まれ。ケンブリッジのセント-ジョン-カレッジに学んだ。1884年反動式蒸気タービン(パーソンズ-タービン)の特許を取得，1891年はじめて復水器付きタービンを完成した。1897年2,400馬力の世界最初の蒸気タービン船タービニア号を建造，船舶機関としてタービンの実用化を図った。このほか軸流圧縮機の製作，歯車減速タービンなども発明した。〔加藤邦興〕

パーソンズ［Talcott Parsons］（1902〜 ） R.マートン*と並ぶアメリカの理論社会学者。社会的な行為主体の相互作用とその行為を制御する価値体系の解明によって，社会の機能と構造とを分析する，いわゆる〈構造・機能分析〉に基づく社会学理論を築き上げた。M.ウェーバー*らのヨーロッパ社会学思想を大胆に摂取したこの学説は，政治学その他の学問領域に大きな理論的影響を与えた。主著《社会的行為の構造》(1937)，《社会体系》(1951)。〔小林宏一〕

はた【羽太】 硬骨魚類・スズキ科・ハタ亜科の総称であるが，ときにはマハタの略称にも使われる。ハタ類は，日本からはマハタ・クエ・アカハタ・アオハタ・キジハタ・ツチホゼリ・モヨウハタ・ノミノクチなど約30種が知られている。岩礁域を好み，南に行くにつれて種類は多くなる。大形になり，1mをこすものも少なくない。食用になるが，有毒魚も少なくない。→次ページ(写真)

はた【旗】 さおに布や紙をかけ，標識のようにしたもの。軍旗・国旗や漁業の大漁旗，信号用の手旗などがある。旗については《日本書紀》にもみえ，また，奈良時代には儀仗(ぎじょう)・軍用ともに用いるようになったことが《令義解(りょうのぎげ)》に記されている。古くから朝廷の公事・仏事・神事などに用いられた旗は現在でも固有の民間習俗に使われている。佐賀県三養基(みやき)郡の綾部八幡(あやべはちまん)神社では7月15日に神木に竹ざおで旗を揚げ，彼岸の中日(→彼岸会)のあくる日に旗降ろしをする神事があるが，祭りのときに村境などに旗を立てる習俗は各地にみられる。そのほか，岩手県などで



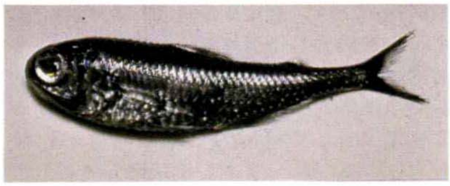
ハ　タ ①マハタ　②ホウセキハタ ③コモンハタ　④ツチホゼリ ⑤キジハタ

は盆に，普通の家では燈籠(とうろう)のさおにスギの青葉をつけるが，寺では白旗を揚げるといい，ところによってはこの旗を神の依代(よりしろ)としての招き旗とよんでいる。
➔幟(のぼり)　〔山路勝彦〕

バター　[butter]　乳製品*の一種。牛乳から脂肪を分離してクリーム*をつくり，これを攪拌(かくはん)して練り上げたもの。歴史はきわめて古く，約3,500年前からつくられていたという。主成分は牛乳の脂肪で，少量のタンパク質と各種脂溶性ビタミンを含み，栄養価は高い。種類は，加塩と無塩，発酵と無発酵などの組み合わせによっていくつかに分かれるが，わが国で市販されるのはほとんどが加塩・無発酵のものである。〔製法〕次の工程でつくる。①クリームの分離：クリーム分離機で牛乳の脂肪分を分離する。適当な脂肪含量は35～45%。②殺菌*：瞬間殺菌が望ましく，80℃で20～60秒加熱する。③発酵：培養しておいた乳酸菌(スターター)をクリームの5～10%加えて発酵させ，酸を生成させて強い香気をつける。わが国の市販品では，貯蔵性の上から発酵はほとんど行なわれない。④チャーニング(攪拌)：クリームを攪拌・動揺させて，クリーム中の脂肪球を集めて結合させ，バター粒を形成させる。冬15℃，夏12℃が適温で，この操作により水中湯滴型のエマルジョン*が油中水滴型に変化する。⑤水洗：バター粒がバターミルク(母液)と分かれ，チャーニングが完結すると，バターミルクを流出させ，残ったバター粒の洗浄を行なってバターを硬化させる。⑥加塩：保存性と風味をよくするために加塩(製品中約2%)する。⑦ワーキング(練圧)：水洗して得られたバター粒から過剰な水分を除き，食塩を完全に解かして分布を均一にするとともに，適当なかたまりとする。これを型詰め・包装して商品化する。〔佐藤友太郎〕



ハタオリドリ
バヤウィーバー
インド・インドネシア・マレーシアなどに分布し，雄が巣をつくって雌をさそう



ハダカイワシ

はだいろ　【肌色・膚色】　色名。人間のはだのような色。淡い黄赤色。日本工業規格(JIS)慣用色名〈膚色〉は，色相5.0YR，明度8.0，彩度5.0の色と規定されている。

はたおりどり　【機織鳥】　鳥類・ハタオリドリ科の総称。広く旧世界に5亜科，約140種が分布するが，その中心はアフリカである。いずれも種子食に適応したがっしりした円錐(えんすい)形のくちばしをもち，ほとんどのものがスズメ大である。単独営巣するもの，集団営巣するものがあるが，いずれの種でも巣はカップ形ではなく，出入り口は側面にあるか下方に筒状に突き出たもので，全体としては球形ないし長い袋形のものである。疎林・サバナ・草原や高山の草つきの岩場などにすむ。オニハタオリドリ亜科2種，ハタオリドリ亜科約90種，スカリーウィーバー亜科2種，スズメハタオリドリ亜科8種，スズメ亜科37種に分類されている。〔安部直哉〕

はだかいわし　【裸鰯】　硬骨魚類・ハダカイワシ科。相模(さがみ)湾およびその付近でかなり大量に魚獲される深海魚で，全長20cmほどになる。体は淡黒色で，離脱しやすいうろこでおおわれ，下顎(かがく)と目の周囲および体側に発光器がある。昼夜によって垂直移動を行ない，夜間は海表近くにまで現われる。総菜用のほか，はんぺんの材料にもする。なお，ハダカイワシは多くは深海性のこの仲間約30種の総称としても使われる。

はだかまつり　【裸祭り】　裸形で参加する祭り。全国各地の神社の神事として行なわれている。各地の裸祭りは変化に富みながらも，いくつかの共通点が認められる。①年初行事として新たな年の初めにあたって，その年の豊作・幸福を祈願する趣旨のものが多い。その際，なにかを奪い合う形のものでは，取り合いに勝つことによって，神の意向が自分のほうに傾き，幸運を獲得できるもののように信じていた点が知られる。②9月から11月にかけて行なわれる裸祭りとしては，神との共食に中心が置かれ，それは収穫祭としての意味をもつと同時に，きたるべき年の豊作に対する願望がこめられている点がうかがえる。③夏越し(➔夏越祭り)や川祭りなどの夏祭りに結びついた裸祭りで，神輿*(みこし)をかついで川や海に飛び込み激しくもみあう光景が目につく。疫病よけあるいは無病息災を祈って水浴する習慣も各地に多く，これら各地の裸祭りに通じたその根底には，神に接するためには，身心の汚れを祓(はら)い落とした裸体が望ましいとする信仰が存在し，裸体は神に奉仕するための晴れの姿態であったと考えられる。有名な裸祭りとしては岡山県西大寺，福岡県筥崎宮*(はこざきぐう)などがある。
〔直江広治〕

はだかむぎ　【裸麦】　⇨大麦

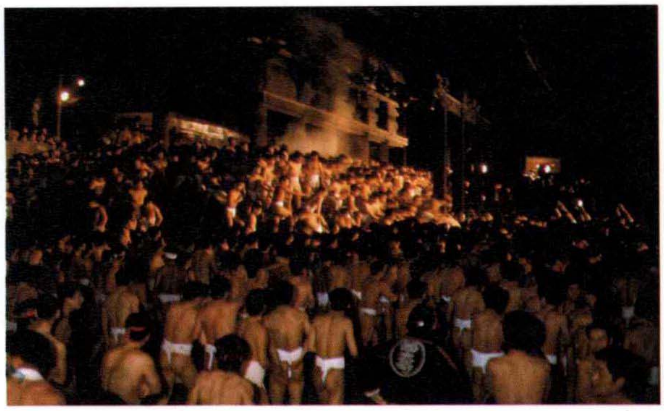
バタクぞく　【バタク族】　スマトラ中央北部の山地，トバ湖地方に住む旧マライ系の一種族。人口約120万。3分の1はイスラム教徒で，80,000人はキリスト教徒。ダイリ・パクパク・カロ・トバの諸族がある。インド文化の影響を受ける。米・トウモロ

コシを主食とし，鞍形(くらがた)の屋根をもつ*高床式住居に住み，父系外婚氏族が重要で，首長制が発達している。近年まで食人の習俗をもっていた。

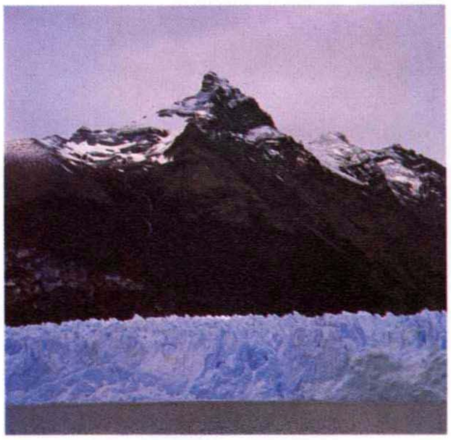
はたけ おもに児童の顔面に発生する円形の皮疹(ひしん)。顔面単純性粃糠疹(ひこうしん)ともいう。はっきりしないがだいたい輪郭のわかる薄く粉をふいたような淡い色素脱失面を生ずる。以前は顔面白癬(はくせん)・糸状菌性顔面湿疹ともよばれたが，鱗屑(りんせつ)から糸状菌(→かび)を証明できないことから，今日では*白癬ではないと考えられている。原因は不明。治療にはビタミンB_2の内服，ホウ酸軟膏(なんこう)・副腎(ふくじん)皮質ホルモン軟膏の外用が行なわれるが，おとなになるまでに自然に治癒(ちゆ)することが多い。〔辻本恵子〕

はたけ【畑】〈はた〉ともいう。広義には湛水(たんすい)機能をもたない農地をいい，普通畑・焼き畑・切り替え畑・牧草畑などに分けられる。狭義には水田・樹園地・草地以外の農地をいう。統計上では耕地は田と畑に大別され，畑は普通畑・樹園地・牧草地に分けられる。普通畑は，一般作物・蔬菜(そさい)などを作付けする畑をいう。焼き畑は，開墾の一方法で，焼き畑開墾でできた畑をいう。伐木・刈り払い・火入れの順で開畑される切り替え畑は，新開墾地あるいは地力の弱い土地で，一定期間休閑して地力の回復を待ち，作付けする畑をいう。牧草畑とはいわゆる牧草地で，牧草が専用的に栽植される農地をいう。なお，古くは耕地を陸田と水田に分けた。陸田は畠(はたけ)(白田といい，畠はこれの合字という)のことで，アワ・ヒエ・キビなどが陸田栽培され，粟田(あわふ)・豆田(まめふ)といった。畑は〈焼き畠〉すなわち火田のことで，畑は火田の合字といわれる。〔金木良三〕

はたけやまし【畠山氏】 ①平安末期より武蔵秩父(むさしちちぶ)(埼玉県)に土着した豪族。桓武(かんむ)平氏。高望(たかもち)王の子である村岡良文(よしふみ)の子孫。重能(しげよし)のとき同国畠山荘(しょう)の荘司となって畠山氏を称した。その子重忠(しげただ)は源頼朝(よりとも)に従って戦功を立て有力な御家人となったが，*北条時政(ほうじょうときまさ)のために滅ぼされた。一族に葛西(かさい)・河越(かわごえ)・高山・江戸・小山田の諸氏がある。②足利(あしかが)氏の一支族。清和源氏。重忠の妻は北条時政の娘であったが，重忠の死後足利義純(よしずみ)と再婚，そのため義純は畠山氏の旧領を与えられて，畠山氏を称した。のち国清が*足利尊氏(たかうじ)の幕府創立の際戦功をあげ，弟の義深(よしふか)とともに諸国の*守護に任ぜられた。義深の子基国のとき将軍*足利義満に従って*明徳の乱・*応永の乱に武功を立て，数か国の守護職を兼ね，1399年(応永6)には*管領に任ぜられた。その子の満家，孫の持国も管領に任ぜられ，畠山氏は斯波(しば)・細川両氏とともに三管領の一つとなった。しかしのち政長・義就(よしなり)の家督相続争いが*応仁(おうにん)の乱の一因となり，以後しだいに没落した。子孫は豊臣(とよとみ)・徳川両氏に仕え，江戸時代には*高家となった。〔高崎徳次〕



裸祭り 斎戒沐浴した裸体の信者が激しく神木を奪いあう 岡山県西大寺



パタゴニア 50°S付近のアルゼンチノ湖に入るモレーノ氷河。背後は氷食によって刻まれたパタゴニア-アンデスの山々(西パタゴニア)

はたけやましげただ【畠山重忠】(1164～1205) 鎌倉時代の武将。武蔵(むさし)(埼玉県)畠山荘司(しょうじ)重能(しげよし)の第2子。母は三浦義明(よしあき)の娘。荘司次郎と称した。1180年(治承4)*源頼朝(よりとも)挙兵の際は，在京中の父が平氏に抑留されたため平氏側に立ったが，その後頼朝に従い，*源義仲(よしなか)追討・平氏追討，さらに1189年(文治5)奥州征伐に戦功があった。頼朝の信頼も厚く，嗣子頼家の補佐を託されたが，1205年(元久2)北条(ほうじょう)氏に謀反(むほん)の疑いを受け，*北条義時の軍に武蔵二俣(ふたまた)川に攻められて一族とともに戦死した。〔高崎徳次〕

はたご【旅籠】 江戸時代，街道に設けられた庶民の旅宿。*本陣・脇(わき)本陣が公用旅行者の宿泊施設であったのに対する。多くは農家の兼業であったが，*東海道の宿場では専業の旅宿が発達した。初期には，*木賃宿が多かったが，貨幣経済の発達・交通量の増大に伴って食事・寝具・ふろなどを用意してその規模も大きくなり，文化・文政年間(1804～1829)には飯盛り女(旅人の給仕や雑役に使われて売春を行なった)を置くようになった。風紀を乱すことも多かったので，幕府はしばしばこれを取り締まった。〔高崎徳次〕

パタゴニア［Patagonia］ 南アメリカ大陸南端のほぼ40°S以南の地域で，アルゼンチンのコロラド川以南からマゼラン海峡までをいう。一般的にはアンデス山脈以東をいうが，山脈以西も含めるときは，西パタゴニア(チリ領)・東パタゴニア(アルゼンチン領)という。西パタゴニアは多雨で，アンデス山脈が急傾斜して太平洋側に迫り，多くのフィヨルドをつくり，氷陸地帯が広がる。東パタゴニアは，アルゼンチンの総面積の5分の1を占めるが，偏西風の風下にあたるため年降水量が250mmというほとんどが半砂漠(はんさばく)の台地で，きわめて乾燥している。ここでは灌漑(かんがい)による農業も一部にみられるが，唯一の産業は牧羊で，牧草の発育不良のために北部のパンパ平原の10倍以上もの土地を必要とするが，それでもアルゼンチン羊肉の4分の1，羊毛の2分の1を産している。〔大石堪山〕

はたざお【旗竿・南芥菜】 双子葉植物・アブラナ科。野原や路傍などの陽地に自生する一年草。高さ0.5～1mで，下部から少数の枝を出す。茎葉は長さ3～9cmの披針(ひしん)形で，基部は茎を抱き，互生する。4～6月，径約1cmの白色四弁花をつける。果実は長さ4～7cmの長角果で，花軸に沿って直立する。種子には翼がない。近縁のヤマハタザオは葉の両面に毛があり，種子に狭い翼が出る。

はたさはちろう【秦佐八郎】(1873～1938) 微生物学者。本姓は山根，のち秦家の養子となる。島根県に生まれ，第三高等中学校で医学を修める。1898年(明治31)東京へ出て伝染病研究所の助手となり，*北里柴三郎(しばさぶろう)のもとでペスト菌を研究。1907年ドイツに留学を命ぜられ，ベルリンのコッホ研究所にはいってワッセルマンに師事し，免疫学を研究。さらにフランクフルト-アム-マインの国立実験療法研究所で*エールリヒとともにスピロヘータ病の化学療法の研究に没頭。1910年梅毒に有効なサルバルサン(606号)を発見した。同年帰国して

北里研究所にはいり，1920年(大正９)慶応義塾(ぎじゅく)大学医学部教授として細菌学講座を担当。1933年帝国学士院会員に選ばれた。〔大鳥蘭三郎〕

はたし【秦氏】古代において漢(あや)氏*と並ぶ有力帰化系民族。秦(しん)の始皇帝の後裔(こうえい)と自称する弓月君*(ゆづきのきみ)の子孫というが，実際は楽浪郡*滅亡後その遺民が南鮮を経て５世紀ごろ日本に渡来したものであろう。機織りの技術を伝えたほか，大和(やまと)朝廷の財政管理の実務にもあずかったが，一方，同族が各地に分散居住して，それぞれにばくだいな財産を築き上げた。一族中のおもな者は当初造(みやつこ)姓，天武天皇のとき連(むらじ)から忌寸(いみき)，８世紀末には宿禰(すくね)に上る者も出た。〔黛　弘道〕

はだじゅばん【肌襦袢】はだに着る上半身着。はだつけ・はだ着・汗取りなどともいう。はじめはそでなしで，おくみ・広えりがつき，身たけは半身衣や長めのものがあったが，のちにおくみがなくなり，えり幅も細くすそまでつくように変わり，身たけは半身衣に固定した。用布は，上級武士では絹も用いられたが，多くは麻布で，江戸後期にはもめんが使われはじめ，色は茜(あかね)・紅などの赤色染めが用いられた。また，江戸時代のなごりとして，明治の末まで乳児には鬱金(うこん)染めのもめんが使われた。しかし，明治以後は衛生思想と欧米ふうを取り入れて，晒(さらし)もめんが広く使われ，今日に続いている。一方，軍服や洋服のはだ着用シャツを和服の下にも着るようになり，男子用はすたれてきた。➔じゅばん〔堀越すみ〕

パタスモンキー［patas monkey］哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オナガザル科。アフリカのサバナから半砂漠(さばく)状の荒地にすむサルで，30～100頭の群れをつくる。パタスは土語で〈赤〉の意。体は赤かっ色で，頭胴長・尾長はともに60cm。四肢(しし)は長くスマートで，動作は敏捷(びんしょう)，よく走る。雑食。声は少ないが，表情や行動による伝達が発達している。実験動物として重要。

パターソン［Paterson］アメリカ合衆国，ニュージャージー州北東部の工業都市で，ニューヨークの衛星都市。人口14万3,000(1973)。絹・羊毛・化繊などの繊維工業，さらに鋳物・電気製品などの製造が盛んである。滝線都市(➔瀑布(ばくふ)線)の一つで，パセイク川の滝による水力発電を動力に利用している。1679年にオランダ人が建設した植民地が都市の起源。

はたたてだい【旗立鯛】硬骨魚類・チョウチョウウオ科。体長15cmほどで，中部日本以南の沿岸域に生息し，岸壁などに群生することがある。この仲間のうち最も北にまで分布するもので，南日本以南ではミナミハタタテダイ・ツノハタタテダイ・シマハタタテダイなどが知られている。美しいので水族館などで珍重される。



パタスモンキー



ハタタテダイ



ハタハタ

はたなぎダム【畑薙ダム】静岡市田代(たしろ)にあり，1962年(昭和37)大井川の本流に完成した二つの水力発電用ダム。中部電力の建設になる。第１ダムは有効貯水量8,000万m³，高さ125mで，これに続く第１発電所はダム揚水式で認可出力は13万7,000kW，第２ダムは有効貯水量360万m³，高さ69mで，第２発電所はダム水路式で認可出力は85,000kWである。ダム形式は，両者とも中空重力式ダム。

はだに【葉蜱】蛛形(ちゅうけい)類・ダニ目・ハダニ科の総称。俗にアカダニということがある。植物に寄生し，葉上に生活する種類が多い。体長0.5mm未満の微小種が多い。体は楕円(だえん)形で，小さい頭部と肥大した胴部からなり，４対の細長い歩脚がある。胴部は，背面に多数の長い剛毛がはえ，間溝(かんこう)によって狭い前体部と広い後体部とに仕切られている。植物の葉裏に群生して，吸汁(きゅうじゅう)加害し，特に雨量の少ない夏季に加害が激しい。ナシノハダニ・リンゴハダニ・ミカンハダニ・ナミハダニ・クローバハダニなどが代表的な種類である。

はたねずみ【畑鼠】哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・ネズミ科。頭胴長11cm，尾長４cmほどのノネズミで，体背面は灰黄赤色，下面は灰白色。本州・佐渡島・九州に分布し，低地の草原に多い。ときに大増殖し，カラマツ・ヒノキなどの密林地に大害を与える。本土のノネズミ中で最も著しい害を与える。➔ネズミ

はだの【秦野(市)】神奈川県西部の市。人口11万7,000。古くから矢倉沢街道の宿場町として開け，江戸時代には定期市も開かれて十日市場ともよばれた。1955年(昭和30)市制施行。市域の南半は秦野盆地南東部，水無川の扇状地一帯に広がり，北半は丹沢山地に属し，丹沢大山国定公園の区域内にある。産業三大別人口比は８：43：49。タバコやラッカセイの栽培が盛んで，専売公社のたばこ工場やたばこ試験所がある。園芸・酪農などの近郊農業が興り，ミカン・メロンの栽培が脚光を浴びている。盆地中央部には近代工場の進出も目だっている。1927年小田急電鉄小田原線が通じて以来東京と直結し，最近は道路の整備も進んで，東京の衛星住宅都市として発展し，人口も増加している。国道246号線が中央部，東名高速道路が南東端を東西に通ずる。関東大震災によって生じた震生湖や，鶴巻(つるまき)温泉などの観光地があり，丹沢表尾根コースの玄関口にあたる。

はたのせいいち【波多野精一】(1877～1950) 宗教哲学者。長野県の生まれ。東京大学哲学科卒業後，東京専門学校(のちの早稲田(わせだ)大学)講師・教授，東京大学講師を経て，1917(大正６)～1939(昭和14)年の間京都大学教授。のち玉川大学教授・学長。カント哲学から出発したが，のちに《宗教哲学》(1935)，《宗教哲学序論》(1940)，《時と永遠》(1943)の三部作によって波多野宗教哲学とよばれる独創的な体系をつくりあげた。ほかに《西洋哲学史要》《基督(キリスト)教の起源》《スピノザ研究》などがある。

はたはた【鰰】硬骨魚類・ハタハタ科。地方によってカミナリウオ・シマアジ・オキアジなどとよばれる。日本海，北日本の太平洋側，千島列島に分布し，体長20cmあまりになる。11月中旬，産卵のために秋田県沿岸の浅い所へ回遊し，海草などに卵を産みつける。稚魚は５月中旬に沖合いへ去る。産卵期のころ漁獲され，肉は骨離れがよく美味で，煮付け・塩焼きなどにする。秋田県の名物のしょっつる*は有名。また，卵は〈ぶりこ〉といって賞味される。

バタビア ⇨ジャカルタ

バーターぼうえき【バーター貿易】⇨求償貿易

はたもと【旗本】江戸時代，将軍直属の家臣団のうち，領地一万石以下，御目見*(おめみえ)以上の家格をもつ者。江戸に居住して幕府の番役につくが，三千石以上で非役の者を寄合(よりあい)，以下で非役の者を小普請(こぶしん)と称した。1722年(享保７)の調査ではその総数約5,200名，そのうち百石以上

五百石以下の者が60％あった。俗に〈旗本八万騎〉といわれるが，これは必ずしも誇張ではなく，その家臣や御家人*を加えるとほぼ80,000に達し，これが幕府の軍事的基礎をなした。またその知行地の総額は約三百万石前後に及び，関東・東海の諸国をはじめ各地に散在した。三千石以上のところでは陣屋*を置いたが，大部分は支配権を幕府の代官*にゆだね，年貢(ねんぐ)だけを収納した。なお，旗本という語の一般的な意味は，戦陣において主君のある所に旗印が立てられ，その旗のもとにいる家臣，すなわち主君の親衛隊の称である。〔岡山泰四〕

はたもとやっこ　【旗本奴】　江戸初期，旗本*の中で文治的風潮に反抗して無頼化した分子。町奴*とともに〈歌舞伎者(かぶきもの)〉〈六方〉とよばれた。大小神祇(じんぎ)組・白柄(しらつか)組・六法組などがある。月代(さかやき)をそらずに長く伸ばして，長い両刀をかんぬきに差したり，人目を引く異様な服装をしていた。またつねに徒党を組んで江戸市中を闊歩(かっぽ)し，しばしば町奴と衝突して流血事件をひき起こした。1657年(明暦3)町奴の首領である幡随院長兵衛*(ばんずいんちょうべえ)を惨殺した旗本奴の首領水野十郎左衛門(じゅうろうざえもん)は有名。〔高崎徳次〕

はだやきこう　【肌焼き鋼】　表面に浸炭処理した鋼。浸炭鋼ともいう。加熱した低炭素鋼の表面に炭素を拡散させて，表面層のみ高炭素としたのち，焼き入れする。焼き入れ部分は高硬度で耐摩耗性にすぐれ，かつ内部は靭性(じんせい)に富む低炭素鋼の状態を保つため，歯車・軸受け・ローラーなどに広く用いられる。

はたらき　【働】　能および長唄(ながうた)の囃子(はやし)の手法用語。能・狂言では〈働〉または〈立回り〉の舞に対する器楽伴奏を〈働事〉といい，長唄では，能から借用して，三味線(しゃみせん)も加わり，怨霊(おんりょう)・化身などの荒れ事のための〈舞働〉がある。

バターン(半島)　[Bataan]　フィリピンのルソン島中部，マニラ湾の西側にある半島。長さ50km，幅30kmの山地性の半島で，北から南に突出し，湾と南シナ海とを境している。最高点はバターン山(標高1,410m)。東側を除く大部分が熱帯性密林におおわれているため，住民は東側に集中している。マニラの防衛線として軍事上古くから重視され，スペイン領有時代に要塞(ようさい)が築かれた。のち，フィリピンを領有したアメリカ合衆国も，半島南端のコレヒドール島とともに要塞を強化した。第2次世界大戦では，日本軍のマニラ攻略時の激戦地となり，1942年4月降伏したコレヒドール島の捕虜(アメリカ合衆国・フィリピン軍)の移送にあたって炎天下を長途歩かせた〈死の行進〉は有名で，戦後の東京裁判で追及された。〔長津一郎〕

パターン　⇨型紙

パダン　[Padang]　インドネシア，スマトラ島西岸中部の西スマトラにある港市。人口14万3,000。スマトラで最も古くから開けた商業都市で，人口密度の高いパダン高原への門戸をなし，1680年以来オランダ東インド会社の基地とされた。ゴム・コーヒー・コプラなどを積み出し，付近にはオンビリン炭田もある。パダン高原へはここから鉄道が通っている。

ハーダンガーワーク　[Hardanger work]　ししゅう*の一技法。ノルウェーのハルダンゲル地方で発達したので，この名がある。地布の糸を格子(こうし)に抜き，抜き残しの糸を隠すししゅうと，その間にできる空間とで幾何学的な模様をつくり出す。テーブルクロス・カーテン・服飾品に用いられる。

はたんきょう　【巴旦杏】　本来はバラ科の落葉高木のアーモンド*をいう。日本でハタンキョウもしくはバタンキョウといって生食しているのは，スモモ*の1品種のトガリスモモのことである。

パターンにんしき　[パターン認識]　機械によって文字・図形・言語・音声などを認識させること。人間の特有の能力であった計算が，コンピューター*によって人間以上にはるかに速く正確かつ経済的に行なうことが実証され，パターン認識をコンピューターに行なわせる多くの研究が試みられてきた。しかし，ある程度のことはできても積極的な結果は得られなかった。その結果，人間の知的活動のうち，計算することとパターン認識とは同一の範疇(はんちゅう)に属さないものと考えられ，機械はパターン認識が特に不得手であることがわかった。

しかし，文字の記録を機械が読みうるようになると，コンピューターにはキーパンチャーなどの手数を経ずにプログラムやデータ(伝票・調査表なども含まれる)を直接入力できることになる。また，郵便物のあて先，伝票や小切手類，製造部品や貨車などの分類選別，定期券・入場券の検査など，人間の不得手な仕事がすべて機械化される。この目的のため識別しやすい形態の特別な文字(たとえばMICR EBB，OCR-Aなど)が開発され広く利用されている。活字による印刷文字の認識は算用数字に限るなら比較的容易であるが，手書き文字の認識は簡単な文字でもきわめて困難であり，郵政省で郵便番号の識別(読み取り率は90％ぐらい)に実用されているにすぎない。

文字以外の図形の認識では，たとえば，心電図を読み取って病名を定めたり，指紋の分類照合など多くの重要な問題がある。また，音声の認識による発声者の識別は，個人の確認方法の重要な手段であり，音声から音韻を自動的に抽出認識できるならば音声波形がコードすなわち機械のことばになることを意味し情報処理システムに耳に相当する機能を与えたことになる。しかし，いずれもその研究が始まったばかりである。

機械によるパターン認識の過程は，対象を機械へ取り入れるピックアップ，入力パターンの規格化，識別のための特徴パラメーターの抽出，識別ルールの適用，判定などが順序正しく行なわれる。パターン認識には，あらかじめ定められた方法・基準により認識する機械のほか，いろいろな試行を経て基準や方法を改良していく学習機構をもった装置(たとえばパーセプトロン)が用いられている。〔小原啓義〕

はち　【蜂】　こん虫類・膜翅(まくし)目のうちアリ類を除く総称で，膜翅目の大部分を占める。体の大きさは種々で，体長わずかに0.2mm内外の微小種から50mmに達する大形種まであり，コマユバチ*類には産卵管だけで150mmにも達する種が知られる。色彩には変化が多く，体は一般に円筒形。口器は咀嚼(そしゃく)型であるが，掘る・切る・かく・吸う・なめるなどに適応した変化を生じているものも多い。2対の膜状の翅(はね)があり，後翅は前翅よりも小さく，前縁の中央後方に小さいかぎ状の棘列(きょくれつ)があり，前翅後縁の中央付近のひだにひっかけて前後翅を連動させるが，棘の数が2～3本のものやまったく欠いている種類もある。多くの種では前翅に縁紋がある。翅脈は非常に特殊化して，大部分が減少したり癒合(ゆごう)したりして，ごく少数となっている。脚はふつうよく発達していて細長く，種類によっていろいろに適応した構造をもっている。

下等なキバチ*類やハバチ*類など広腰亜目を除き，腹部は基部で強くくびれている。しかし，実際は腹部第1節は後胸と癒合して前伸腹節を形成し，くびれている部分は腹部第2節で腹柄とよばれる。広腰亜目のものでは，第2節も幅広い。膜翅目の雌の産卵管は非常に特殊化した構造となり，産卵以外に樹木に穴をあける，他のこん虫やクモ類を刺し毒液を注入して麻痺(まひ)させる，外敵からの防御や攻撃に用いるなど種種の目的に使われ，それに応じた多様な適応的構造をしている。

完全変態を行なう。卵は一般に長卵形で，しばしば一端に種々な長さと形をした1本の小管があり，表面は平滑で，一般に彫刻はない。幼虫は，広腰亜目のものでは，形態的に鱗翅(りんし)目の幼虫に似ており，寄生植物上に絹糸の巣をつくるものもあり，多くは円筒状で発達した強い咀嚼型口器をもっている。樹木に穿孔(せんこう)する種では，無脚のうじ状のものが多い。細腰亜目の幼虫は，その生活環境の多様さや種々の段階の社会性の発達によって著しく多様であるが，一般に外部器官が退化した無脚のうじ状のものが多い。さなぎは裸蛹(らよう)で，繭をつくるものが多い。

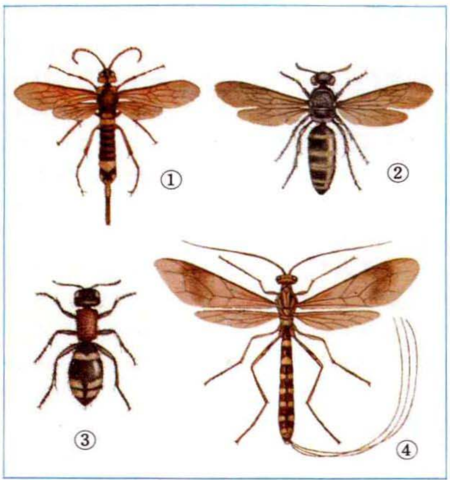
ハチ類は，全世界から今日までに10数万種類が知られ，その習性，特に他のこん虫類への寄生生活などを考えると，既知種の数倍もの未発見・未記載種が残っていること

は確実で，おそらくこん虫類中最大の群であろう。こん虫相の調査が最もよく行なわれているイギリスでの最近の調査結果によると，鞘翅(しょうし)目(甲虫類)こん虫4,000種未満に達し膜翅目は5,000種以上が判明している。すなわち，2種の甲虫に対して約3種類のハチがいることになる。このことから推定すると，今日までに全世界から発見された甲虫類は約30万種であるから，まだ少なくとも30万種以上の未発見のハチ類がいることになる。このように大きい群であるため，ハチ類の生活様式は千差万別で，こん虫類の中で最も興味深い研究対象となっている。

膜翅目は，原始的な広腰亜目と高等な細腰亜目の2群に大別され，その下に多くの上科と科が置かれている。科以上の上級分類や類縁・系統関係については研究者によって異見が多く，一部の群を除いて詳細な研究がなされておらず，不明な点がきわめて多い。以下，群を追って日本産の代表的なハチ類の生活様式を述べる。

広腰亜目に属するものは，大部分が食植物性である。キバチ科のものは樹木の枝幹中に産卵し，幼虫が木質部を食べる。クキバチ科のものは，植物の新梢(しんしょう)に幼虫が食入する。クキバチ科に近縁のヤドリキバチ科のものは，材中の甲虫類の幼虫に寄生するという。ヒラタハバチ科・ハバチ科・ミフシハバチ科・コンボウハバチ科・マツハバチ科などは，いずれも幼虫が各種の植物の葉を食害し，農林業上の害虫も多く，ナシミハバチのように幼虫がナシの果実内部を食害するものもある。

細腰亜目のものは，群によって食性も変化に富む。カギバラバチ科は，葉縁にばくだいな数の卵を産付し，それが葉とともに鱗翅類やハバチ科の幼虫に食べられ，それらのこん虫に寄生している他の寄生バチの幼虫に二重寄生する。ヒメバチ*科は，きわめて種類が多いがいずれも他のこん虫類の幼虫やさなぎに内部あるいは外部寄生し，害虫防除上天敵として重要な役割を果たしているものが多い。コマユバチ*科も種類が多く，各種のこん虫の幼虫・さなぎ・成虫に寄生し，やはり農林業上の天敵として重要な種類が多い。ミズバチ科は，産卵時に水中に潜入してトビケラ類の幼虫に産卵する。ヤセバチ科は，ゴキブリ類の卵に，セダカヤセバチ科は樹木に食入するこん虫類の幼虫に，コンボウヤセバチ科はおもにミツバチ上科(ミツバチ科・ハキリバチ科・コハナバチ科など)の幼虫にそれぞれ寄生する。タマバチ科は，植物体に虫癭(ちゅうえい)(虫こぶ)をつくって中で幼虫が生育し，世代交代をする。タマバチ科の中で，クリタマバチ*は雌のみで繁殖してクリの新梢に虫癭をつくり，クリに大害を与える。コバチ上科のものには食植物性のものと寄生性のものとがあるが，前者はオナガコバチ科やカタビ



ハ　チ　①ニホンキバチ(体長約30mm，マツ・スギなどを加害する)　②ヒメハラナガツチバチ(体長約20mm，幼虫はマメコガネなどの幼虫に寄生)　③ミカドアリバチ(体長約14mm，幼虫はトラマルハナバチの幼虫に寄生)　④オオホシオナガバチ(体長30～40mm，幼虫はニホンキバチの幼虫に寄生)

ロコバチ科に見られるにすぎず，大半は寄生性であり，ホソハネヤドリコバチ科・タマゴヤドリコバチ科・ナガコバチ科などはいずれも各種こん虫の卵に，ヒメコバチ科・アシブトコバチ科・マルハラコバチ科・トビコバチ科などは各種こん虫の幼虫にそれぞれ寄生し，特にトビコバチ科には重要天敵を多数含み，中でもルビーロウカイガラムシの防除に成功したルビーアカヤドリコバチは有名である。そのほか，コバチ上科には，カイガラムシ類に寄生するクロツヤコバチ科，カイガラムシ類やコナジラミ類・アブラムシ類に寄生するツヤコバチ科，アリ類の巣中に寄生するアリヤドリコバチ科などがある。クロバチ上科も，多数の重要天敵を含み，特に各種こん虫類やクモ類の卵に寄生するクロタマゴバチ科には重要な種類が多い。このほか，甲虫類の幼虫に寄生するシリボソクロバチ科，クサカゲロウ類に寄生するクシヒゲクロバチ科，双翅目などに寄生するヒゲナガクロバチ科，カイガラムシ類や双翅目の幼虫に寄生するハラビロヤドリコバチ科などが含まれる。アリガタバチ上科のものも大部分が寄生生活を行ない，カマバチ科はウンカ類やヨコバイ類を鎌(かま)状の前脚で捕えて産卵し，セイボウ科は主としてドロバチ類やハキリバチ類などの巣に寄生し，アリガタバチ科は鱗翅目や甲虫類の幼虫に寄生する。ツチバチ上科のものも主として寄生性で，ツチバチ科とコツチバチ科はおもにコガネムシ科甲虫の幼虫を狩ってこれに産卵し，アリバチ科は土中に営巣する狩人蜂(かりゅうどばち)類やミツバチ上科の幼虫に寄生し，ミコバチ科はやはりミツバチ上科のハキリバチ類などの幼虫に寄生する。このツチバチ上科には，サイパン島のサトウキビの大害虫マリアナスジコガネの駆除に成功したヒメハラナガツチバチ(ツチバチ科)や，アメリカ合衆国でマメコガネの防除のために日本や朝鮮から輸入されたコツチバチ類などの天敵による生物的防除の成功例がある。ベッコウバチ科のものは，主としてクモ類を狩って巣に運んで幼虫の食物とする代表的な狩人蜂である。スズメバチ科には単独生活するものと社会生活を営むものがあり，ドロバチ類やトックリバチ類は前者に，スズメバチ類やアシナガバチ類は後者に属する。ドロバチ類やトックリバチ類は，主として鱗翅目やハムシ科甲虫の幼虫を狩って幼虫の食物とする。単独性のものは泥土(でいど)を利用して幼虫室をつくるが，社会性のものはパルプを利用した巣をつくる。ジガバチ科も代表的な狩人蜂で，クモ類や各種のこん虫類の幼虫や成虫を狩るが，その生活習性には種々の段階のものがみられて興味深い。ミツバチ上科のものは単独生活をするものが大半であるが，ミツバチ科のように高度な社会生活を営むものや，コハナバチ科やヒメハナバチ科の一部のように原始的な社会生活を営むものなど種々の段階のものがみられる。また，寄生性のものもあり，これを除くすべて幼虫の食物は花蜜(かみつ)と花粉で，この上科のものは大部分が訪花性であり，花粉媒介こん虫として重要な役割を果たしている。〔鈴木邦雄〕

バチ ⇨イトメ

ばち【撥・桴】

1弦楽器で，手にもって弦をはじく道具。〈撥〉と書く。琵琶(びわ)・三味線(しゃみせん)の撥が代表的で，さまざまな大きさや形態が音色や音楽様式との関連でつくられている。

2打楽器を打つ棒。〈桴〉の字を使う。ティンパニの桴のように棒の先端にフェルトや布を巻いたものや，小太鼓や雅楽の羯鼓(かっこ)，能の太鼓の桴のように木だけのものがある。

はちいちせんげん【八・一宣言】 中国共産党が1935年8月1日づけで発した抗日救国宣言。正式の名称は〈抗日救国のために全同胞に告げる書〉といい，中国ソビエト政府・中国共産党中央の署名で出され，抗日のために，統一された国防政府の樹立，抗日連合軍の組織などを訴えたもの。これは国際的な反ファシズム統一戦線の中国版の結成を呼びかけたもので，おそらくコミンテルン第7回大会の中国共産党代表陳紹禹(ちんしょうう)らの手になるものであろう。同年12月の中国共産党中央政治局会議では，反日戦線における共産党の指導権の確立を中軸とする民族統一戦線戦術の総路線が打ち出された。〔狭間直樹〕

バチェラー［John Batchelor］(1854～1944) イギリスの宣教師。ロンドン近郊の生まれ。東洋での教育事業を志し，香港(ホンコン)で神学・中国語を研究中，マラリアにかかり，1877年(明治10)療養のため来日。

函館(はこだて)でアイヌ研究とキリスト教伝道に生涯(しょうがい)をささげ，アイヌ語辞典を編集，また聖書のアイヌ語訳などを完成した。

はちおうじ【八王子(市)】 東京都南西部の市。人口37万3,000。中世には北条氏の居城があり，江戸時代は幕府直轄地で千人同心が置かれ，甲州街道の宿場町，市場町として繁栄した。また周辺の養蚕地帯を控えて古くから〈八王子織物〉とよばれる絹織物の産地として名高く，関東五大機業地の一つに数えられていた。1917年(大正６)都下で最初に市制施行。第２次世界大戦中に市街の97％を戦災で焼失したが，その後の復興は著しく，周辺町村をしばしば合併して，面積 189 km²という都下で最大の市域を占める。北は加住丘陵，南は多摩丘陵に囲まれた八王子盆地の中心部を占め，西部の神奈川県境を浅川が流れる。産業三大別人口比は２：39：59。在来の機業を受け継いだ繊維工業が発達し，最近は毛織物や化学繊維の生産に力が注がれている。農業は近郊野菜の栽培が主で，特産の高倉ダイコンは練馬ダイコンに代わって東京市場へ出荷される。ブドウやモモが栽培され，水田の裏作としてイチゴもつくられている。乳牛の飼育も盛んである。甲州街道に沿う中心部の商店街は隣接の山梨・神奈川・埼玉各県にかけての商圏をもっている。中央本線・八高線・横浜線が通じ，国道16号線・20号線・129号線が集まり，中央自動車道路のインターチェンジがある。近郊には明治ノ森高尾国定公園・滝山都立自然公園・サマーランド・多摩動物公園・野猿(やえん)峠などがあり，都民のレクリエーションコースとなっている。また最近創価大学・帝京大学をはじめ，広いキャンパスを求めて大学などの進出が目だっている。〔浅井得一〕

はちおうのらん【八王の乱】 中国，西晋(せいしん)末の内乱。司馬炎*の死後，暗愚な恵帝が即位したので，武帝の皇后楊(よう)氏一族と恵帝の皇后の賈(か)氏一族が権力を争い，これに司馬氏の有力な８王が加わって，291年内乱に発展した。306年懐帝の即位で終わったこの乱の間に８王は，匈奴(きょうど)・鮮卑の軍事力を利用したので，劉淵*(りゅうえん)らを指導者とする五胡(ごこ)の中国侵入を招いた。

はちかずき【鉢かづき】 お伽(とぎ)草子。年代不詳。母の臨終のとき頭に鉢をかぶせられた姫が，継母にいじめられて苦労を重ねたすえ，宰相に思われて妻となり，兄たちとの嫁比べの日に頭の鉢がとれて中から宝物が出る。姫の美しさとその宝物とで宰相は出世し，栄華をきわめるという内容。《落窪(おちくぼ)物語*》《住吉(すみよし)物語*》の系統を引き，シンデレラ型の継子物に観音信仰が結びついてできた説話で，江戸時代にもてはやされた。

はちがつじゅうはちにちのせいへん【八月十八日の政変】 文久三年八月十八日の政変ともいう。1863年(文久３)会津・薩摩(さつま)両藩を中心とする公武合体*派が長州藩を中心とする尊王攘夷(そんのうじょうい)派の勢力を京都から一掃した政変。文久年間にはいると，長州藩を主流とする急進派志士は，三条実美*(さねとみ)ら少壮公卿(くぎょう)と気脈を通じて京都にめざましく政治進出したため，孝明天皇はやむなく攘夷親征の詔を出さざるをえなくなった。これに対して公武合体派の薩摩藩は，松平容保*(かたもり)らと画策して同年８月18日早朝，両藩兵が宮門警固にあたる中で，公武合体派の公卿のみを参加させ，過激な攘夷は天皇の本意ではないと朝議を一変させた。その結果，長州藩は御所警衛の任を解かれて京都を追われ，三条実美ら七卿は長州藩兵とともに長州(山口県)へのがれた(→七卿落ち)。〔高崎徳次〕



バチカン市国 サンピエトロ寺院から見おろすバチカン広場。中央に十字架を戴く尖塔が立つ。広場を出ると，もうローマ市内である



バチカンの国旗 1825年制定。黄色と白は，1808年以来教皇庁の衛兵の帽章に用いられていた色といわれる。かぎは新約聖書マタイ伝16章の〈あなたはペテロである。そして，わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。……わたしはあなたに天国のかぎを授けよう〉に由来する。かぎの上に法王冠が描かれ，三つの輪が現世・霊界・煉獄を，また法王の司祭権・司牧権・教導権を表わしている

バチカン(市国)［Vatican］ イタリアの首都ローマ市の北西隅(ぐう)，バチカン丘陵上にあり，面積0.44km²，人口約1,000人の世界最小の独立国。全世界のカトリック教会の中心である教皇庁の所在地。

1929年，イタリア首相ムッソリーニとローマ教皇庁との間に締結されたラテラノ条約によって生まれたもので，この条約によって，教皇にカトリック布教の拠点としてバチカン地域での主権が認められた。カトリック教徒の総本山であるサンピエトロ寺院やバチカン宮殿・美術館・絵画館，システィナ礼拝堂*などの著名な建築物が多く，訪れる観光客が多い。市国民は直接・間接に教皇庁と関係しており，約130人の枢機卿(すうきけい)と市民権をもつ約500人の聖職者，および残り約半分が教皇庁各施設の勤務者である。教皇は元首で，国の立法・行政・司法の全権を有し，世界各国とも大公使を交換している。通貨の発行権もある。現教皇はヨハネ・パウロ２世。〔梶川勇作〕

バチカンかいぎ【バチカン会議】 バチカンで開かれた宗教会議。

1 1869年，教皇ピウス９世のもとで開かれた第20回公会議。近代のさまざまな合理主義的・唯物論的・無神論的反キリスト教思想を排斥し，教皇首位権・教皇不可謬(ふかびゅう)性が信仰箇条および教理として確認された。

2 1962～1965年，教皇ヨハネス23世およびパウルス６世のもとで開かれた宗教会議。世界平和・教会合同などのほか，〈支配する教会〉から〈仕える教会〉へと画期的な教会刷新の姿勢が打ち出された。

バチカンびじゅつかん【バチカン美術館】 ローマのバチカン宮殿内にある美術館。教皇と教皇庁が使用する部分を除き，大小1,400余のへやの大半を占め，システィナ礼拝堂*，ピオ・クレメンティノの両美術館をはじめ，いくつかの礼拝堂・美術館・絵画館・聖遺物館・図書館などからなる。収蔵品はギリシア・ローマの彫刻，エトルリア美術・エジプト美術・キリスト教美術などから中世・ルネサンス期の絵画にわたる。とりわけ，ミケランジェロ《最後の審判》，ラファエロ《アテネの学徒》のほか，アンジェリコ*・ペルジーノ*・ボッティチェリ*・カラバッジョ*・ジョット*ら巨匠の傑作で有名。〔藤井久栄〕

はちく【淡竹】 単子葉植物・イネ科。中国原産のタケで，広く栽培され，山林に自生するものもある。地下茎は長く横走し，よく繁殖して竹林となる。稈(かん)は直立し

て高さ10m内外，径10cmにもなり，よく分枝して枝先に4～5枚ずつ葉をつける。葉は披針(ひしん)形で淡緑色，洋紙質で下面はやや白色。たけのこは美味。変種に茎が2年から黒みをおびてくるクロチクがある。

はちくい【蜂喰】 鳥類・ハチクイ科の総称。アフリカ・アジア・オーストラリアの熱帯と温帯に24種が分布する。森林や野原に生息し，こん虫類を食べ，特に空中でこん虫を捕える。ハチ類の成虫を好んで食うのでこの名がある。温帯で繁殖するものは冬季熱帯地方に渡りをするものがある。翼は先がとがって長めで，体も細めで飛行に適応した体つきをしており，くちばしは細くとがり少し上に凸形(とつがた)に湾曲する。数種の例外を除き，尾の中央羽は細長く伸びている。雌雄同色で，緑・青・赤・黄色などあざやかな羽色をしている。どの種も太い黒色過眼線がある。集団性でがけの土壁に穴を掘って営巣する。〔安部直哉〕

はちくま【蜂角鷹】 鳥類・ワシタカ科。トビより少し小形。上面は濃かっ色，下面は白色地にかっ色の縦斑(じゅうはん)があり，顔の大部分は灰かっ色で，のどにはかっ色線がある。クロスズメバチの巣を掘ってさなぎや幼虫を食う習性がある。夏鳥として本州・北海道の平地・低山帯の森林で繁殖する。

はちくらげ【鉢水母】 腔腸(こうちょう)動物・鉢クラゲ綱。一般に大形の形態が複雑なクラゲで，海産。かさは円盤状や円錐(えんすい)状をなし，ふつう8本以上の触手がある。生殖巣が内胚葉(ないはいよう)性で胃の内壁につくられる点で，ヒドロクラゲ類と異なる。大きく次の5類に分けられる。①十文字クラゲ類(ジュウモンジクラゲなど)，②立方クラゲ類(アンドンクラゲなど)，③冠クラゲ類(エフィラクラゲなど)，④根口クラゲ類(エビクラゲ・ビゼンクラゲ・タコクラゲなど)，⑤旗口クラゲ類(ミズクラゲ・アカクラゲ・ユウレイクラゲなど)。鉢クラゲ類は大形種が多いため，古くからその生活史などがよく研究されている。受精した卵は全卵割を行なう。卵は陥入後プラヌラという幼形になって浮遊遊泳し，他物に付着したのちポリプ形となる。その後成長して水平方向に多くのくびれを生じ，ストロビラとなる。ストロビラはさらに発達し，上方からくびれごとにエフィラという幼生を遊離させていく。この過程は無性生殖である。エフィラは直径1～2mmで，メテフィラ期を経て成長・成熟して成体となる。このように鉢クラゲ類は有性世代と無性世代をくり返し，世代交代を行なう。鉢クラゲ類の多くは，プランクトン中の小形甲殻(こうかく)類や小魚を食う。一方，そのかさの下にはいくつかの特有なエビや小魚がおり，共生するといわれてきたが，共生かどうかについては疑問が多い。天敵はあまり知られていないが，魚類のマンボウはクラゲを主食とする。大形のビゼンクラゲ・エチゼンクラゲなどは，古くから食用としてよく知られ，またアカクラゲ・アンドンクラゲ・アマクサクラゲなどには，激しい刺胞毒があって人体に炎症を起こさせる。〔向井 宏〕

パーチクルボード［particle board］木材の小削片を不規則に配し，フェノールやユリア系の接着材で熱圧成形した板(樹脂含浸率は重量で10～20％)。繊維板*と似たところがあるが，パーチクルボードは繊維板と違って水を用いず，接着材で固めるので乾式繊維板ともよばれる。以前は削片板・チップボードともいわれた。バードボードより厚手の板が多い。繊維板と同様強さの方向性はなく，強く，防腐性防虫性にすぐれる。湿気による伸縮はやや大きい。ユリア系接着材を用いたものは耐水性に劣るが，安価でよく使われる。壁・天井・家具・床材などに利用される。〔堀井健一郎〕



ハ チ ク イ



八丈島　島の西岸，大賀郷西見付近のフリージア畑。暖かい気候を利用して草花栽培が盛んである。畑の向うに見える山は八丈小島

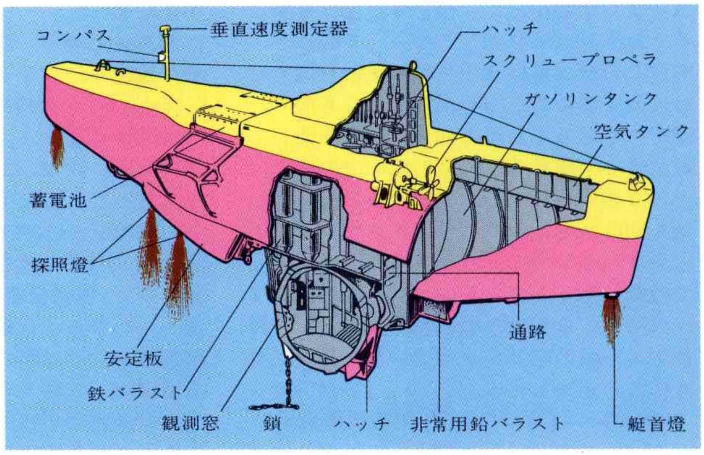
はちこうせん【八高線】 八王子～倉賀野(高崎市)間の国鉄路線。営業キロ数92.0。1931(昭和6)～1934年開業。関東山地東麓(とうろく)の飯能市・寄居町・藤岡市などを連ねる。

はちじかんろうどうせい【八時間労働制】 使用者が労働者に労働させることのできる労働時間を1日8時間，週48時間に制限する制度。1919年ILO*条約(1号)で原則が確立されたが，日本はこの条約から除外例とされ，第2次世界大戦後労働基準法*によってはじめて制度化された。しかし，常時30人未満の商店や理容業・旅館などの接客業では，1日9時間，週54時間の労働をさせてもよいなどの例外が認められている。

はちじゅうはちや【八十八夜】 雑節の一。立春の日から数えて88日めをいい，太陽暦の5月2日ごろにあたる。4月も中旬を過ぎると天気はわりあい安定し，初夏の感じになるが，このころのよく晴れて穏やかな日の明け方，気温が著しく下がり，霜が降りてクワ・果樹など農作物に大きな被害を与えるが，これが晩霜(おそじも)である。この晩霜もこれ以後はほとんど降りなくなるので，このころ種まきなど農事を始める風習がある。苗しろづくりが始まり，水口(みなくち)祭り(苗しろに焼き米を供える祭り)などの農耕儀礼が催される。➔二十四気

はちじょうじま【八丈島】 伊豆(いず)諸島*南部にあり，東京の南方290kmの海上にある火山島。八丈小島とともに，東京都八丈支庁八丈町に属する。面積69.1km²で，七島のうちで大島に次いで大きく，人口は10,000(1980)。北西に二重式火山の西山(八丈富士)(854m)，南東に古い多重式火山で地形の複雑な東山(三原山)(701m)があり，この間のなだらかな傾斜地と平地に島民の大半が集中している大賀郷と三根の両部落や空港がある。西山は1606年(慶長11)に最後の噴火の記録がある新しい火山で，水に乏しいが，東山は水が豊富で発電・灌漑(かんがい)にも利用され，北西のふもとには伊豆諸島唯一の水田があり，また簡易水道がよく普及している。気候は，亜熱帯性で高温多雨であり，年平均気温は18.1℃(8月26.6℃，1・2月10.2℃)，年平均降水量は3,284mmである。台風の通路にあたるため，民家はほとんど平家建てで，屋根を低くして石がきを巡らし，ツバキなどを防風のために植えている。島の80％は森林で，シイ・ツバキ・タブ・サカキなどが繁茂している。

島名は，特産の黄八丈*に由来すると考えられる。江戸時代の初期から流刑地とされ，1606年に流された宇喜多秀家*(ひでいえ)をはじめ，おもに政治犯が流され，中期以降は政



バチスカーフ
FNRS 3 号の構造

治犯以外の者も送られた。また，鎮西八郎為朝(ためとも)にまつわる伝説も多い。

島の経済をささえているのは，主として気候・風土を利用した観葉植物や切り花の園芸農業と観光である。豊かな南国情緒や流人などの史跡，特産の黄八丈工場や名物の牛角力(うしずもう)，雄大な八丈富士の景観などをめざして，近年観光客が急増している。テングサの採集や沿岸・近海の漁業も行なわれているが，大形漁船を欠くためにふるわない。なお，かつて島内の各戸にあった穀物貯蔵用の高倉は奄美(あまみ)大島や登呂(とろ)遺跡の高倉と同じ形式で，家格によって違う柱の数やいろいろな形のねずみ返しなどが独特であったが，現在では数少なくなった。島内には町営のバスがあり，自動車の普及率も著しく高い。東京・名古屋からの定期航空便のほか，東京からの定期航路がある。西岸に八重根，東岸に定期旅客船が接岸できる神湊(かみなと)(底土港を含む)の2港があり，ほかに洞輪沢(ぼらわざわ)・藍ケ江(あいがえ)の小漁港がある。〔浅井得一〕

はちすかころく【蜂須賀小六】(1526～1588) 安土桃山時代の武将。本名正勝，小六は幼名。代々尾張(おわり)(愛知県)蜂須賀村の土豪として，斎藤道三*・織田信秀(のぶひで)に仕えたともいわれ，のち豊臣秀吉(とよとみひでよし)に属してその信任を得た。美濃(みの)(岐阜県)墨股(すのまた)城の構築を手始めに，中国征伐*・四国征伐*に戦功を立てた。なお，1585年(天正13)子の家政(いえまさ)は，秀吉から阿波(あわ)(徳島県)一国を与えられた。

バチスカーフ［batyscaphe］ フランス海軍が1953年に建造した深海潜水艇ＦＮＲＳ３号の通称で，ギリシア語のbathus(深い)とskaphos(船)からつくられた名。現在は，他の類似した深海調査用潜水艇もすべてこの名でよばれる。1948年スイスのアウグスト-ピカール*は，フランス海軍とベルギー国立科学研究財団の援助で建造したＦＮＲＳ２号(１号は気球)で，1,380ｍの無人潜航に成功した。1960年にアウグストの子ジャックはアメリカ海軍のウォルシュ大尉とともに父の設計したトリエステ号(イタリア製)に乗って，チャレンジャー海淵*(かいえん)で10,916ｍに潜航して深度記録をつくった。

これらの潜水艇の船体は薄鋼板製のタンクからなり，これに満たしたガソリンの浮力で下部の観測・操作室(特殊鋼製)をつる。タンクには下から海水を注入し，深くなるにつれてガソリンが圧縮されて浮力が減るしくみになっており，沈降・浮上はこの浮力に対して鉄のバラスト(散弾)を放出して調節する。なお，日本では海上保安庁所属の〈しんかい〉があるが，潜航水深は約600ｍである。〔飯島幸人〕

はちすかまさかつ【蜂須賀正勝】⇨蜂須賀小六

バチスタ［Fulgencio Batista］(1901～) キューバの独裁者・大統領。在任19


ハチドリ　スパークリング-バイオレットイア

40～1944年，1954～1958年。はじめ軍医であったが，1933年マチャド政権に対する革命に参加して急速に台頭し，同年中には事実上の支配者となった。アメリカの保護のもとにアメリカ系の独占資本と結び，民衆を弾圧して独裁を続けたが，政治腐敗もたび重なって人気はなかった。1956年以降のカストロ*の革命運動と戦って敗れ，1959年1月1日，ドミニカに亡命した。

はちだいさんじん【八大山人】⇨朱耷(しゅとう)

はちだいしゅう【八代集】 平安期から鎌倉初期にかけて撰定(せんてい)された8部の勅撰和歌集の総称。すなわち，《古今和歌集*》《後撰和歌集*》《拾遺和歌集*》《後拾遺和歌集*》《金葉和歌集*》《詞花和歌集*》《千載和歌集*》《新古今和歌集*》をさす。〈代〉とは撰集を下命した天皇または上皇の御代(みよ)の意で，適宜〈七代集〉とか〈十代集〉とかの称も用いられ，和歌史の区分を意識して〈八代集〉を一括するようになったのは，かなり後代のことであろう。勅撰集の秀作はほとんどこれに含まれる。〔佐藤恒太郎〕

はちだんのしらべ【八段の調】 箏曲(そうきょく)の曲名。〈八段〉ともよばれる段物。同じ長さの八つの部分に分かれ，全体として，変奏曲的な性格をもっている。17世紀半ばの八橋検校(けんぎょう)の作といわれるが，音楽構造的には，《六段の調*》への類似性や技法から，少なくとも八橋時代の古曲である可能性が強い。平調子による八段に，雲井調子による替え手をつけて合奏することも多い。

はちどり【蜂鳥】 鳥類・ハチドリ科の総称。ハミングバードともいう。ラテンアメリカを中心に，60°Ｎのアラスカから南アメリカ大陸全域にかけて320種が分布する。名のように花から花へと蜜(みつ)を吸いまわるハチ類のような動作で，まったく自由に前後左右に飛行し，花の前で空中停止して蜜を吸う。花蜜と小こん虫類を主食としている。この特殊な飛行行動時の翼動は非常に速く，ある種で測定した結果は停止飛行時で1秒間に55回，水平移動時で75回で，〈ブーン〉という翼動音が聞かれ，繁殖期のディスプレー時には200回にも達したという。日中はこのような運動を続けているので，一般鳥類に比べてエネルギー代謝も非常に高い。ある種では夜間は冬眠のような状態で休息し，エネルギー代謝は低下して，体温は日中の半分以下で外気温とほぼ同温の18℃に低下していたという。大きさは最大のもので全長20cm，大部分のものはより小形で，最小のものは全長5cm，体重2gという小ささである。一般に雌雄異色で，雄は緑色を主調に青・紺・赤色などで，陽光の向きにより非常に美しく輝く。くちばしは蜜を吸うのに適応して針状に細長く，舌の先端は管状である。繁殖期になると雄は空中で雌をひきつけるディスプレー飛行をし，空中で交尾する。一夫多妻性のものが多く，ほとんどのものは巣作り・育雛(いくすう)を雌だけが行なう。〔浦本昌紀・安部直哉〕

はちのき【鉢木】 能の曲名。作者不明。四番目物。《増鏡》《太平記》などにみえる最明寺(北条時頼*(ほうじょうときより))回国伝説に基づく。上野(こうずけ)(群馬県)の佐野で雪にあった旅の僧が，とある家に泊まる。主人ははち植えのウメ・サクラ・マツを切って燃し，旅僧に暖をとらせる。この主人は佐野源左衛門(げんざえもん)常世が一族に領地を横領されて落ちぶれた生活をしている姿であった。常世はウマと武具だけはもっていて，

鎌倉幕府に事が起こったときにははせ参じると言う。僧は早朝ここを立って帰るが，実はこの僧は執権北条時頼が民情を探るために姿を変えて諸国を巡っていたもので，鎌倉にもどると全国の武士に命令を発して鎌倉へ呼び集める。常世も雪の夜のことばどおり参集したので，時頼はその失った領地を回復させ，さらにウメ・サクラ・マツにちなむ3か所の土地を与え，常世は喜んで故郷へ帰るというもの。シテは常世，ワキは時頼。ほかに常世の妻をシテツレ，鎌倉での時頼の家臣をワキツレが，その従者を狂言方がつとめる。〔長尾一雄〕

はちのへ【八戸(市)】青森県南東端の市。人口23万7,000。江戸時代は南部氏支藩二万石の城下町であったが，近代都市としての発展は新しく1929年(昭和4)市制施行。市域は太平洋へ注ぐ馬淵(まべち)川と新井田(にいだ)川の河口付近の沖積地(ちゅうせきち)とそれに続く北上山地東縁の丘陵地を占める。産業三大別人口比は12：28：60。馬淵川下流に水田地帯が開け，北部の太平洋岸ではウマの放牧，砂鉄の採取が行なわれる。最近同地区に肥料・セメント・鉄鋼・金属などの工場群が集まり，臨海工業地帯が形成されている。1964年三沢・十和田の2市と4町2村を合わせて八戸新産業都市に指定され，最大出力15万kWの東北電力火力発電所も完成した。重要港湾に指定された八戸港の整備も進み，北方の北沼には国際貿易港をめざして第2工業港が建設中である。周辺に北海道南東海域から三陸沖へかけての好漁場を控えて，水産業も盛んで，東部の鮫(さめ)は特定第3種漁港に指定され，イカ・サバ・サンマ・マグロなどの漁獲が多く，年間水揚げ量は50万t(1974)でわが国第2であり，盛んに京浜方面へ出荷される。するめなどの加工も盛んで，食料品工業の基礎となる。市街地西端の八戸駅(旧名尻内(しりうち)駅)は東北本線・八戸線の分岐点で，市の玄関口となっている。国道45号線・104号線が集まる北部の45号線沿いに八戸空港があるが，現在定期便はない。鮫地区にある蕪(かぶ)島は小さな陸繋島(りくけいとう)で，ウミネコの繁殖地として名高く，蕪島から南東方の大久喜まで約8kmの海岸線は種差海岸県立公園に指定され，太平牧場・鮫角燈台・淀ノ松原(よどのまつばら)などの景勝地に富む。年中行事の〈えんぶり〉(2月17～20日)は豊作を祈る田植え踊りが行なわれ，無形文化財に指定されている。〔浅井得一〕

はちはちかんたい【八八艦隊】新鋭戦艦8隻，巡洋艦8隻を主力とし，これに相応する補助艦艇を加えて組織しようとした，日本海軍の艦隊建造計画。日露戦争後の大艦巨砲主義時代，列国海軍軍備拡張競争に応ずるため，1907年(明治40)この構想を立て，以来この実現に努力したが，財政難のため実現できなかった。そして，1922年(大正11)ワシントン海軍軍縮条約により建艦を中止した。

はちぶしゅう【八部衆】仏法を守る異様な風貌(ふうぼう)をもった8種の鬼神。天龍(てんりゅう)八部衆の略称。その個々は古くインド神話に登場する。①天(デーバ)は超人的能力をもつ天衆。②龍(ナーガ)は人間の顔をもちヘビに似た生物。③夜叉(やしゃ)(ヤクシャ)は獰猛(どうもう)で人を悩ます鬼神。④乾闥婆(けんだつば)は香を食物とする音楽神。⑤阿修羅(あしゅら)。⑥迦楼羅(かるら)は龍を食べ鳥類の王といわれる。金翅鳥(こんじちょう)のこと。⑦緊那羅(きんなら)は半人半獣で帝釈天(たいしゃくてん)の音楽神。人非人ともいう。⑧摩睺羅伽(まごらが)は地獄にすむ大蛇(だいじゃ)で，大腹行という。また，別に四天王の従者をも八部衆という。〔大南龍昇〕

はちふしゅぎ【八不主義】中国の文学革命のとき，胡適(こてき)が提唱した文体改革のための8か条の要件のこと。はじめ，8か条のうち2・4・6・7・8の5か条が〈不〉の字で始まる否定文であった。①内容のあることを言え，②古人を模倣するな，③文法を重んじろ，④無病の呻吟(しんぎん)をするな，⑤常套語(じょうとうご)を避けよ，⑥故事成語にたよるな，⑦対句にとらわれるな，⑧俗語・俗字を避けるな(《文学改良芻議(すうぎ)》に発表)がそれである。のち，①を〈内容のない文章を書くな〉，③を〈文法に合わぬ文章をつくるな〉，⑤を〈常套語を使うな〉と〈不〉で始まる否定文に改め(《建設的文学革命論》に発表)，八不主義と称した。〔今村与志雄〕

はちまん【八幡(町)】岐阜県郡上(ぐじょう)郡に属し，県の中央部，長良(ながら)川上流の谷にあり，越美南線が通ずる。人口19,000。古くから交通の要地で，城下町として発達した。1954年(昭和29)周辺4村を合併して町域を広げた。製材・製紙が盛んである。盆踊りは〈郡上踊〉としてひろく知られ，江戸時代に藩民の融和を図るため奨励されたといわれ，全国から訪れる観光客が多い。

はちまんしんこう【八幡信仰】八幡神への信仰で，大分県の宇佐八幡宮を母体として，全国的に最も普及している。奈良(なら)の東大寺の大仏建立(こんりゅう)の際，宇佐八幡大神が託宣を下したという伝承から，神仏習合の先駆となった。さらに平安前期，八幡神が京都の石清水(いわしみず)に勧請され王城鎮護の神(→石清水八幡宮)とあがめられ，伊勢(いせ)神宮とともに二所宗廟(そうびょう)と称せられた。のちに源頼朝(よりとも)が鶴ケ岡(つるがおか)八幡宮を創建し，八幡神を幕府の守護神として以後，武神として武家社会で広く信仰された。〔中西正幸〕

はちまんたい【八幡平】秋田・岩手県境にまたがる火山。標高1,614mの頂上付近は低平な溶岩台地で，そのくぼみに八幡沼など多くの湖沼や湿原がある。標高約900mを境として，高所は混交林や湿原植物群落があり，低所はブナ・ミズナラなどの落葉広葉樹林におおわれる。近年は林道・バス道路，有料の八幡平道路などが整備され，周辺に温泉も多いので訪れる人が多い。十和田八幡平国立公園の一部となっている。

はちまんたろうよしいえ【八幡太郎義家】⇨源義家

はちまんづくり【八幡造り】⇨神社建築

はちまんまつりよみやのにぎわい【八幡祭小望月賑】歌舞伎(かぶき)の脚本名。通称《縮屋新助(ちぢみやしんすけ)》。河竹黙阿弥(かわたけもくあみ)作。1860年(万延1)中村座初演。文化年間の八幡祭の夜に永代橋(えいたいばし)が落ちた事件を背景に，深川芸者殺しの実話を脚色した世話物。実直ないなか者の縮屋新助が深川芸者美代吉(みよきち)にほれて財産を注ぎ込むが，恋人に捨てられた美代吉(みよきち)がやけ酒に酔って愛想づかしをしたため，怒りに狂って彼女を殺すという筋。〔松井俊諭〕

はちみつ【蜂蜜】⇨ミツバチ

はちみつが【蜂蜜蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・ハチミツガ科。翅(はね)を広げた長さ20～40mm。前翅は赤かっ色で，斜めに暗かっ色の2本の点列が走り，後翅は暗かっ色。年1～2回の発生で，さなぎで越冬し，翌春羽化した成虫はミツバチの巣箱内に白色の卵塊を産みつける。孵化(ふか)した幼虫は蜜蠟(みつろう)内にはいりこみ，筒状の巣をつくって食害する。巣内で白色の繭をつくり，その中で蛹化(ようか)する。全世界に分布し，養蜂(ようほう)の害虫として知られる。〔多々内修〕

パーチメント［parchment］ヒツジやヤギの皮を石灰で処理してつくった書写材料。中世，海外では紙が紹介されるまで，書写の材料として重く用いられた。パーチメントは強くて耐久力に富み，パピルスのように破れる心配もなく，表面に光沢があって細密画で飾る彩飾写本をつくるのに適していた。難点は非常に高価なことだった。パーチメントは紀元前2世紀ごろ，ペルガモンの王ユーメネス2世が発明したといわれ，その地名をとり〈ペルガメンツム〉とよばれた。子ウシの皮でつくられたものを〈ベラム〉とよび，主として表紙に用いられた。〔庄司浅水〕

パーチメントし【パーチメント紙】⇨硫酸紙

はちもんじやぼん【八文字屋本】江戸中期の浮世草子の一種。主として京都の八文字屋から出版されたためこの名がある。西鶴(さいかく)の没後，1701年(元禄14)江島其磧(きせき)が出版主の八文字屋自笑の名で《傾城色三味線(けいせいいろじゃみせん)》を刊行したのに始まり，《風流曲三味線》《傾城禁短気》など多くの作品が出された。のち其磧の名で書かれた《世間子息気質(むすこかたぎ)》《世間娘気質》などは気質物ともよばれた。作者は自笑・其磧のほか月尋堂・西沢一風らが有名であ

る。西鶴の亜流的な作品が多かったが，気質物などにはこっけいな主題・表現も多く，娯楽的読み物としてより大衆性をもつようになった。自笑の没後(1745)急速に衰えた。〔小池正胤〕

ハチャトゥリアン [Aram Il'ich Khachaturyan]（1904～1978） ソ連の作曲家。コーカサス生まれのアルメニア人。19歳のときモスクワに出て，グネシン音楽学校に入学し，チェロと作曲を学んだ。1929年にモスクワ音楽院に入学，ミヤスコフスキーに作曲を師事した。1939年音楽院を卒業し，1939年オイストラフ*のために作曲した《バイオリン協奏曲》によってスターリン賞を獲得，ソ連の作曲界に広く認められた。以後，バレエ音楽《ガイーヌ*》《交響曲第2番》《チェロ協奏曲》などの傑作を次々に発表した。彼の作風は，現代ソ連の社会主義リアリズム*の路線に忠実なもので，全音階的な旋律，明確な構成，19世紀的な和声法などをもっている。ソ連の伝統的な民族音楽も積極的に取り入れられ，中央アジアやアルメニアの民謡を素材に，激しいリズムをもつ生命力あふれる作品を書いている。〔船山　隆〕

はちゅうるい 【爬虫類】 脊椎(せきつい)動物の一綱。現生種は世界に約6,000種が知られる。有羊膜動物では最も下等であるが，変温動物のうちでは最も進んだ体制をもつ。体表は原則として全面が角質のうろこでおおわれるが，これは魚類のものと異なり，表皮が厚くなってかたく角質化したもので，成長に伴って古いものは脱皮によって剝脱(はくだつ)される。カメ*やワニ*では真皮中に皮骨を生じ，表皮とあいまって甲や鱗板(りんばん)を形成する。皮膚は，両生類*と異なり皮腺(ひせん)に乏しいが色素細胞に富み，トカゲ*類では体色を変えるものが少なくない。骨格は両生類よりもさらに硬骨化し，ほとんどのものの椎骨は前凹(ぜんおう)形。頭骨はほとんど硬骨からなって堅固で，ただ1個の後頭顆(こうとうか)で頸椎(けいつい)と関節している。原則として発達した尾と五趾(ごし)式の四肢(しし)をもつが，四肢が二次的に退化したり，まったく欠くものもある。心臓の心耳は2分し，心室はふつう不完全な隔壁で区別されており，動脈弓は左右とも発達している。大半は陸生だが，一部のものは生涯(しょうがい)を海で過ごし，いずれも終生肺で呼吸し，えらを生じることはない。消化管と尿道とは総排泄孔(そうはいせつこう)に開き，ムカシトカゲ以外の雄には1個または1対の外部生殖器がある。体内受精を行ない，多くは卵生で卵を産むが，有鱗目には卵胎生のものがあり，卵は輸卵管内で発育して子の形で生まれる。胚(はい)には羊膜がある。

5亜綱16目に分類されるが，現生種は2亜綱4目に過ぎず，カメ・トカゲ・ヘビ・ムカシトカゲおよびワニのグループに大別される。このうちムカシトカゲは中生代の初期のころからほとんど変化せず，いわば〈生きている化石〉というべき存在で，カメ・ワニも同様に原則的には祖先型から大きな変化は遂げていない。変温動物である爬虫類の大半は熱帯および亜熱帯に分布し，陸上から水中まで至るところに生息していたが，高山地帯や高緯度の寒冷地方にも分布が及んでいる。大形種は体長10mに達するが，大部分は中形または小形。

爬虫類の祖先は古生代の末期に両生類から分かれ出たもので，卵殻(らんかく)・羊膜をもち，尿酸を尿嚢(にょうのう)内に結晶として析出する代謝機構をもつことによって陸上に産卵が可能となり，完全に水から離れた生活を学んで，中生代にはすばらしい発展を遂げた。これがいわゆる爬虫類全盛時代であり，陸・空・海にわたって大小さまざまな爬虫類が他の生物を圧倒し，巨大な恐龍(きょうりゅう)類が出現した。しかし新生代にはいると急激に衰え，大部分のものは絶滅した。魚類・両生類を経て進化を遂げた爬虫類は，また，鳥類・哺乳(ほにゅう)類を生む母体ともなった。化石として，かつての全盛時代の姿を再現する多種多様な恐龍とともに，現生の爬虫類を抜きにしては，生物の進化を論じることはできない。

爬虫類には危険なものは少ないが，大形ワニおよび300種ほどの毒ヘビと2種の毒トカゲは人畜にも危険である。しかし，カメやトカゲなどはペットとして飼育されるほか，ネズミ類を捕食する有益な種類も少なくない。また，食用・民間薬用されるほか，近年では医学用や生理実験に用いられている。〔松井孝爾〕

はちょう 【波長】 ⇨波動

はちろうがた 【八郎潟】 秋田県中央で日本海に突出する男鹿(おが)半島の頸部(けいぶ)にあり，2条の砂州に囲まれた潟。かつては面積221km²，最深点4.7m，水面高度約0mのわが国第2の大湖であった。しかし1957年(昭和32)から着工された国営の干拓事業は8年の歳月と370億円の工費をかけて，潟の内部の約160km²と周辺部の約16km²を干拓した。旧水面は，東西の承水路と南部の調整池を残して，往時の5分の1に縮小した。1966年には全国から選抜された57戸が入植して南秋田郡大潟(おおがた)村が発足，1972年までには1,600戸の入植が予定されていたが，近年の米作過剰による政府の米作地減反政策で計画の実施があやぶまれている。〔長津一郎〕

はちろぐん 【八路軍】 抗日戦争で活躍した中国共産党指導下の国民革命軍第八路軍の略称。広義には全国の中国共産党系部隊をいう。1937年日中事変勃発(ぼっぱつ)後，第2次国共合作の結果，従来の紅軍*が国民政府軍事委員会の指揮下にはいり名称を上記のように変更した。総司令は朱徳*で，当初兵力40,000～50,000を数えた。戦後の国共内戦の際，1947年に人民解放軍に改編された。

ばつ 【閥】 地縁・血縁・出身校など同一の社会的条件を具備した者がつくる集合体。擬制的同胞意識が強く，封鎖的・排他的性格をもち，その集団内の私的利害にきわめて敏感な反応を示す。代表的なものとして学閥・閨閥*(けいばつ)・財閥*・軍閥*などがあり，近代化の遅れた日本では，封建時代の残滓(ざんし)として，現在なお隠然たる力を有している。

はついくだんかいせつ 【発育段階説】 ⇨段階発育論

はつうま 【初午】 2月最初の午の日に行なわれる稲荷(いなり)神社の祭日。稲荷信仰*の中心は京都市の伏見稲荷神社で，崇敬者800万人と称され，2月初午の祭日が特に重んぜられている。現在各地の屋敷神も圧倒的に稲荷が多く，2月初午に〈正一位稲荷大明神〉と書いた赤い幟*(のぼり)を立て，赤飯・油揚げを供えて祭っている。稲荷は元来〈稲なりの神〉すなわち農耕神として発生したものであるが，のちには商工業の神，漁業神という性格も加えていった。今日では都市の近代的なデパートの屋上にも稲荷が祭られるまでに普及した。旧暦2月は農耕にとりかかる時期であり，作神としての稲荷を祭るのにふさわしく，初午という日どりが，十干十二支*の〈午〉を〈うま〉と読ませて農耕に働くウマにあてたところに意味がある。〔直江広治〕

はつおん 【撥音】 〈はねる音〉ともいう。日本語の音素の一つで，かな文字で〈ん・ン〉で書き表わされる音。息を鼻に通し1拍の長さを保つことによって発音する有声音*で，母音のあとに現われ，ふつう単語のはじめにはこない。次にくる音に引きずられて発音の位置が違い，たとえば〈p〉〈b〉〈m〉の前では〈m〉となり，〈t〉〈d〉〈n〉の前では〈n〉になる。また，語末と〈k〉〈g〉の前で〈ŋ〉(英語のngの音)に，母音・半母音の前では鼻にかかった母音性の音になる。ローマ字ではナ行の子音と同じく〈n〉で書き表わすが，母音・半母音の前ではナ行との混同を避けて〈tan'i(単位)〉と〈tani(谷)〉のように書き分ける。ヘボン式ローマ字では〈pompu(ポンプ)〉のように〈p〉〈b〉〈m〉の前では〈m〉で書く。〔上村幸雄〕

はつおんき 【発音器】 動物が能動的に音を出すために分化した器官。哺乳(ほにゅう)類・鳥類・こん虫類でよく発達している。発音のためのエネルギーは筋肉の収縮によるものが大部分で，多くの場合は異種または同種の個体間で警戒・おどし・誘引などに役だっている。哺乳類では喉頭(こうとう)に，気管に直角に張られた1対の膜(声帯)があり，この振動によって発音するが，特にヒトの場合には発声という。哺乳類や鳥類の発音器は，付属の共鳴器とともに構造が複雑となり，音色や音の高低など変化が多い。カエルの雄にはのどのところにふくれた鳴

嚢(めいのう)をもつ種類があり，大きな声を出すことができる。こん虫の発音はキリギリス・コオロギなどのように，雄の前翅(ぜんし)にあるやすり板と摩擦片をこすり合わせて発音する種類や，セミのように鼓膜とよばれる薄い膜を筋肉によって振動させるものなどが代表的である。〔蒲原春一〕

はつおんぎょ【発音魚】音を発する魚をいい，発音は歯・うきぶくろその他の部分で行なう。日本産のもので26科32属44種が知られている。

これらは発音の方法・生態学的意義とによって，次のように分けられる。発音の方法により分類すると，次の三つに分けられる。①摩擦音：体のかたい部分，主としてひれをすり合わせて発音するもので，ギギ・ゴンズイ・イトヨ・マツカサウオ・マアジ・カイワリ・ヒイラギなどにみられる。②呼吸音：呼吸に伴って一種の発音をするもので，コイ・フナ・キンギョ・ウナギ・ドジョウなどにみられる。③うきぶくろとこれに付随する筋肉の音：この種の例は非常に多く，ニベ・キグチ・ハタンポ・シマイサキ・イシダイ・カムルチー・ホウボウ・カナドなどが含まれる。

次にこれらの発音を生態的にみると，警戒音あるいは威嚇音・認識音・信号音の3種が考えられる。ギギなどが巨大なひれで発する摩擦音は一種の警戒とも威嚇とも考えられるし，グチ・ニベなどのうきぶくろを利用して発する音は同種の魚が互いに存在を知るための音で，認識音と考えられる。このような音を発するものは群れをつくる魚に多い。ハタンポ・シマイサキ・イシダイなどにみられる発音は，両種間の危険信号とも思われるもので，イシダイがシマイサキの発音により危険を知るなどという例もある。〔安田富士夫〕

はっか【八卦】⇨易

はっか【薄荷】双子葉植物・シソ科。やや湿った地に自生する多年草で，高さ20〜40cm。長い伏枝を伸ばして繁殖する。葉は長さ2.5〜5cm，幅1〜2cmの楕円(だえん)形で鋸歯(きょし)があり，裏面には腺点(せんてん)があって，長さ3〜10cmの葉柄で互生する。8〜10月，葉腋(ようえき)に花冠の長さ4〜5mmの淡紫色四弁花が集まって咲く。全草に強い芳香があり，はっか油(主成分はメントール*)の原料として古くから栽培され，香料・清涼剤・化粧品・歯みがき粉・健胃薬などに用いられる。セイヨウハッカは英名をペパーミントというヨーロッパ原産の多年草で，茎頂に花穂をつける。日本でも栽培され，たまに野生化している。〔加藤僖重〕



ハッカ

はっか【客家】中国の広東(カントン)省に居住する民族*。推定人口は約1,500万。言語的には広東語*と類縁的であるが，起源については諸説が分かれ，華北の漢民族が南方に移住したものとする説もあり，漢民族と文化的に類似している点も少なくない。彼らは一般に文化程度が高く，普通は農業を主とし，祖先の祭祀(さいし)を行なう。客家は，土着民からは外来の客人として区別され，その歴史は土着民との抗争の歴史であるといってもよい。〔山路勝彦〕

はつが【発芽】成熟した植物種子が適当な外的環境のもとで生長を始めること。発芽には温度や外気条件のほか，水分が不可欠である。吸水によって種皮を通して胚(はい)に湿りけが与えられ，子葉などの貯蔵器官では，デンプンなどの貯蔵物質の分解が始まって生長に必要な栄養を用意し，同時に細胞の原形質が活性化して分裂を始める。この発芽初期の機構はまだ不明のことが多い。適当な外的条件が与えられれば，直ちに発芽する種子が多いが，中にはいわゆる休眠を経ることにより，はじめて発芽するものもある。休眠の様式にはいろいろあるが，いずれの場合も発芽に適した季節の訪れを待つための内在的な能力といえる。乾燥状態で保存される種子の発芽能力は，一般に数年ないし10数年と考えてよいが，中にはきわめて長い寿命のものもあり，たとえば，どろの中に数百年埋まっていたハスの種子が，発芽能力を保っていたことがよく知られている。〔南川隆雄〕

はっかい【白海】ソ連北西部，北極海の一部であるバレンツ海の南に続く海域で，カニン半島とコラ半島にはさまれた入り江。長さ600km，幅50〜120km，平均深度89m，面積は約90,000km²。北ドビナなどの川が流れ込んでいる。カスピ海・黒海・バルト海と通ずるが，11月〜5月の6か月間は海面の大部分が凍結する。漁業が盛んで，ニシン・サケ・タラのほかにアザラシなどの海獣も多い。ドビナ湾に臨むアルハンゲリスクは，木材の輸出港であるとともに，漁業基地になっている。〔長津一郎〕

はつかいち【廿日市(町)】広島県佐伯(さえき)郡の町。人口40,000。広島湾西岸にあり，古くは市場町として，近世には西国大名の宿駅として栄えた。山陽本線・国道2号線が通るほか，広島電鉄が広島市へ通じ，東隣の五日市町とともに広島市のベッドタウン化が進んでおり，木工業・食品工業が盛んである。

ばっかく【麦角】ライムギの子房に発生した麦角菌の菌核(菌糸の集まった塊)。麦角菌は子嚢菌(しのうきん)類に属し，イネ科植物，特にライムギの穂に寄生する。菌核が地上に落ちて越冬し，翌年ムギの開花期に子嚢を出て子房を冒し，再び麦角をつくる。麦角は紡錘形，長さ10〜45mm，径2.5〜5mmで縦みぞと横の裂け目がある。灰紫色ないし黒紫色で特異なにおいがある。麦角アルカロイドを含み，麦角流エキスとして子宮収縮剤・止血剤として用いる。麦角流エキスは麦角を脱脂後，エタノールと塩酸で抽出し，流エキス剤としたもので赤かっ色で澄明な液体で特異臭がある。麦角アルカロイドには10数種のアルカロイドが存在するが，エルゴタミン群・エルゴトキシン群・エルゴメトリン群に三大別され，種類によって薬理作用を異にするが，共通な性質としては，子宮，特に妊娠子宮を収縮させる。現在では麦角からマレイン酸エルゴメトリン・酒石酸エルゴタミンなどとして取り出され，治療に用いられる場合が多い。なお，幻覚剤ＬＳＤ*は麦角アルカロイドからつくられる。〔鈴木郁生・中館正弘〕

はっかごうきん【発火合金】摩擦により火花を発生しやすい合金の総称。セリウムまたはセリウムを主成分とするメッシュメタルと鉄，あるいはこれにコバルト・マグネシウムなどを添加したものが多い。ライター・安全燈などの点火に使用される。

はつがしけん【発芽試験】種子の発芽能力を検定すること。種々の発芽器が用いられる。リーベンベルヒの発芽器，スタイナー・エンテルなどの発芽器などがある。簡単にはペトリざらに数枚の濾紙(ろし)を敷き，これに水湿を与え，供試種子を並べる。発芽試験中の温度は発芽適温よりやや低めがよい。発芽締切日数は種子の種類により異なる。発芽勢・発芽歩合・硬実歩合などを調査する。

バッカス ⇨ディオニュソス

はつかだいこん【二十日大根】双子葉植物・アブラナ科の一年生草本。ダイコンの一種で，ヨーロッパで発達した。多くの品種があるが，ダイコンのうちでは最も小形で，根も長円錐(ちょうえんすい)から球形のものまであり，色も白・紅・紫など多様である。早生で，年じゅういつでも種子をまくことができ，だいたい20〜30日ぐらいで収穫する。わが国では赤丸形の品種が多いので赤カブともいう。

はっかてん【発火点】着火源を与えないで物質を空気中で加熱するとき，発火または爆発を起こす最低温度。発火温度ともいう。発火点は気体・液体および固体物質について測定されるが，加熱する容器の形状・材質・表面状態・加熱速度などによって影響を受け，また固体ではその形状によ



ハッカン



バッキンガム宮殿　衛兵の交替は観光客だけでなく市民からも最も親しまれている

ってもかなり違い，物質特有な定数ではない。しかし，相対的な値として実用上の参考になることが多く，ガスタービン・ロケットなどの応用ならびに火災・爆発などの防止上重要である。〔寺沢誠司〕

はつかねずみ　【二十日鼠】　哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・ネズミ科。頭胴長5.8～10.3cm,尾長4.8～10.2cmのネズミで，体上面は茶灰色をおびた茶ないし黒色，下面は白ないし灰色。野生種は西アフリカ・ソビエト南部などに分布するといわれる。住家性のものはほとんど世界じゅうに分布し，ドブネズミ・クマネズミとともに俗にイエネズミといわれる。多くの亜種に分けられ，ヨーロッパ原産のヨウシュハツカネズミの畜養品種はニシキネズミとよばれ，茶灰・コルク・ベージュ・黒・白色などの毛色のものがあり，マウスともよばれる。また，中国産のハツカネズミから生じたとされるナンキンネズミ・マイネズミ(コマネズミ)も本種の畜養品種。➔ネズミ〔今泉吉典〕

はっかん　【白鷴】　鳥類・キジ科。中国南部原産で，キジより一まわり大形。雄は黒色の冠羽があり，下面は黒色，尾は長く，背から尾にかけて白色で美しい。雌はじみなかっ色。よく産卵するので古くから愛玩(あいがん)飼育されている。

はっかん　【発汗】　汗腺*(かんせん)から汗を分泌する現象。ヒトの場合，温度性発汗と精神性発汗とがある。前者は，外界の温度の上昇によって，ふつう手のひらと足の裏を除いた全皮膚面に起こり，その蒸発熱によって体温調節をする。この発汗は，高温にさらされてから20分ほどの潜伏期を経て起こる。後者は，精神的興奮や感情的刺激などが原因となって，手のひら，足の裏，わきの下などに起こる。哺乳(ほにゅう)類のうちでも，ヤギ・ウサギは発汗せず，ウマ・ロバなどはほとんど全身から発汗する。また，イヌ・ネコ・ウシなどは，からだのごく一部からのみ発汗する。➔汗〔平野修助〕

はつがんぶっしつ　【発癌物質】　⇒癌

はっき　【八旗】　中国，清朝(しんちょう)権力の根源となった満州族固有の軍事的・行政的組織。八旗とは，正黄・鑲(じょう)黄・正白・鑲白・正紅・鑲紅・正藍(らん)・鑲藍旗を旗印とする8個の集団をいう。成人男子300人からなるニルを基本単位とし，5ニルで1ジャラン，5ジャランで1グサ(旗)を編成した。太祖ヌルハチの創始にかかり，太宗期にモンゴル・漢軍の八旗も成立した。入関後は，北京(ペキン)駐在の禁旅八旗と外省駐留の駐防八旗に大別された。所属の将兵を旗人*という。〔若松　寛〕

はっきん　【白金】　周期律表第Ⅷ族，白金族元素の一。記号Pt，原子番号78，原子量195.09。16世紀に南アメリカの沖積層(ちゅうせきそう)から砂状で発見され，小さい銀という意味でプラチナとよばれた。他の白金族元素と合金をつくる。銀白色の結晶。融点1,770℃，沸点3,804℃，比重21.4。銀よりややかたく，展延性に富む。化学的にきわめて安定で，塩酸・硝酸・硫酸などにはとけないが，王水には可溶。空気中では安定で，高温に加熱しても変化しない。原子価は2価と4価で塩化第一白金と塩化第二白金が存在する。後者は白金を王水に溶解したときに生成される。〔古屋　弘〕

【産状・用途】一般には自然白金または他の白金属相互の合金として存在し，比重選鉱で砂白金として採取，製練する。また，硫化物・ヒ化物として，ニッケル・銅・金鉱などに伴って産出し，それらの金属製練の副産物としても回収される。世界の白金生産は，ソ連・南アフリカ・カナダがその大部分を占めている。その価格は需給関係から変動が相当激しい。日本での生産はわずかで，急激に伸びている工業的需要の大部分を輸入に頼っている。昔から貴金属として装身具などに用いられてきたが，近年，化学工業用(石油精製用触媒)・電子工業用などの工業的消費が急激に増加した。触媒(白金網・白金海綿・白金石綿など)，電気接点・発熱体・熱電対・化学繊維紡糸用ノズル・光学ガラス融解用るつぼ・理化学用・医療用・歯科用・燃料電池用電極など広範囲に利用される。〔藤瀬直正〕

日本の白金生産量　単位kg

年　度	生産量
1975	188.6
1976	270.8
1977	302.9
1978	316.5
1979	377.7
1980	384.6

鉱山資源統計年報　1981年

ばっきん　【罰金】　私人または法人から一定額の金銭を国家が取り上げる刑罰。財産刑*の一種。懲役*・禁錮*(きんこ)より軽く，拘留*より重い。刑法は，その金額は原則として20円以上としているが(15条)，第2次世界大戦後の貨幣価値の著しい下落に応じる措置として，1948年(昭和23)罰金等臨時措置法を制定。これによって罰金の最低額を当分1,000円以上とし，刑法各本条に定められている罰金の額もそれぞれ50倍に引き上げた。しかし，1972年2月法務省はさらにその額を引き上げる改正案を発表している。なお，罰金を完納できない者は，1日以上2年以下の期間，労役場に留置される(刑法18条1項)。〔井上公耳〕

バッキンガムきゅうでん　【バッキンガム宮殿】　ロンドンのウェストミンスター区セント-ジェームズ公園の西端にあるイギリス王室の宮殿。1703年バッキンガム公J.シェフィールドの館(やかた)として建てられ，1762年ジョージ3世に買い取られて王室所有となった。1825年ナッシュらにより大改築され，ビクトリア女王のときから国王常住の宮殿となった。1913年に東正面が改築された。毎日，午前11時半ごろ行なわれる衛兵の交替はロンドン名物として有名。

はっきんぞくげんそ　【白金族元素】　周期律表第Ⅷ族に属する元素のうち，ルテニウムRu，ロジウムRh，パラジウムPd，オスミニウムOs，イリジウムIr，白金Ptの六つの貴金属元素の総称。すべて希元素で，共通な性質として美しい銀白色を呈し，融点が高く，酸化・腐食しにくい。化学的にはIr，Ru，Rh，Pt，Os，Pdの順に安定である。

{
  "filename": "NDA0MzkwOTguemlw",
  "filename_decoded": "40439098.zip",
  "filesize": 358511524,
  "md5": "df63e66d23c33e156c53212b8b36d153",
  "header_md5": "748a9e064dfb11902a1c60c4491e0087",
  "sha1": "d9d5d85d77fbaeec846e0fc962b3463d4d07b45a",
  "sha256": "b71d04c98a041e59c8f9028bfcc5f1e68072472e59bb12375fd1aff7455cdc9c",
  "crc32": 4254209758,
  "zip_password": "",
  "uncompressed_size": 364995494,
  "pdg_dir_name": "",
  "pdg_main_pages_found": 542,
  "pdg_main_pages_max": 543,
  "total_pages": 546,
  "total_pixels": 2857712432,
  "pdg_status_json": {
    "id": 110,
    "action": "convert",
    "params": {},
    "result_code": 200,
    "result_value": {
      "image_stats": "03: 9\r\naa: 100\r\n",
      "result_text": "\u8f6c\u6362\u5b8c\u6bd5\u3002",
      "conversion_time": "00:00:00",
      "image_count": "109/109",
      "dpi": "300 / 429 / 303"
    },
    "status": 2,
    "created": 1714681927,
    "updated": 1714681940
  },
  "filenames_to_pdgconvert": [
    "000001.pdg",
    "000009.pdg",
    "000012.pdg",
    "000018.pdg",
    "000023.pdg",
    "000026.pdg",
    "000032.pdg",
    "000034.pdg",
    "000042.pdg",
    "000045.pdg",
    "000046.pdg",
    "000056.pdg",
    "000058.pdg",
    "000062.pdg",
    "000067.pdg",
    "000068.pdg",
    "000071.pdg",
    "000073.pdg",
    "000084.pdg",
    "000087.pdg",
    "000095.pdg",
    "000096.pdg",
    "000102.pdg",
    "000106.pdg",
    "000116.pdg",
    "000117.pdg",
    "000120.pdg",
    "000128.pdg",
    "000136.pdg",
    "000139.pdg",